

開講科目名 Course	多様な言語の世界 / The World of Multilingualism
時間割コード Course Code	10000
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	金村 久美
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	金村 久美 (経済学部)
授業の目標	<p>・知識・理解の領域</p> <p>1) 本学留学生の母国の言語の概要を知る。</p> <p>2) 本学留学生と挨拶し、親しみを表すことができる程度の、簡単な語彙やフレーズを知る。</p> <p>3) 本学留学生の母国の地理、気候、歴史、文化についての最も基本的な知識を知る。</p> <p>・技能の領域</p> <p>1) この授業で扱う言語の文字を目にしたたり、音を聞いて、何語か同定することができる。</p> <p>2) 発音の全体像をつかみ、知っている言葉を聞き取ることができ、簡単な語彙やフレーズをネイティブに通じる発音で言うことができる。</p> <p>3) あいさつ、自己紹介、数字、その他、親しみを表す表現を使ってみることができる。</p> <p>・態度・志向性の領域</p> <p>1) 日本の周辺国の一つである、留学生の母国に親しみをもち、友好的な態度を示すことができる。</p>
授業の概要	<p>1) 表記・発音：本学留学生の母国の言語（2024年度の学習言語は授業第1週目に説明する）の表記と発音について学び、文字を見たり、会話を聞いて何語かわかる程度に練習する。また、いくつかの代表的な文字の書き方を覚え、書けるように練習する。</p> <p>2) 会話：本科目で学ぶ3言語の母語話者と知り合い、親しみを表すための語彙や表現を覚え、話しかける練習をする。あいさつ、名前の呼び方、「～人ですか」、「～語がわかりますか」、「元気ですか」、「ありがとう」「ごめんなさい」などの表現を言い、実際に留学生と会話をする。</p> <p>3) 基礎知識：本科目で学ぶ3つの国についての基礎知識（地理、気候、文化、宗教など）を学ぶ。</p> <p>【この科目を履修する学生の条件】</p> <p>この科目の履修を希望する学生は、次のことを行えることを条件とする。</p> <p>1) この科目を履修したい学生は、SAやクラスメイトと質問などのやりとりを行わなければならない。その際には、積極的に発言し、相手の話に耳を傾ける態度が必要である。これに同意できない学生には、履修を認めない。</p> <p>2) この科目では、留学生のSAが先生役となり、プレゼンテーションを行い、そこから学ぶ。留学生はプロの先生ではなく参加学生と同じ学生であるので、完璧な準備やプレゼンテーションを求めない。参加学生には、留学生のSAのプレゼンテーションが完璧でなくても協力し、クラスメイト全員がお互いに学びあう環境作りに協力しなければならない。これに同意できない学生には、履修を認めない。</p> <p>3) この科目では、参加学生同士がビデオ課題を作成したり、質問やコメントをしたりするために、授業時間外の交流活動が行われる。そのため、授業時間外にこのような時間を割く必要がある。これに参加できない学生は、単位を取得できない。</p> <p>4) この科目に参加する学生には、異なる国や文化を尊重し、違う習慣や考え方を持つ人から学ぶ姿勢が必要である。この姿勢がない学生は、単位を取得できない。</p>

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業期間中に、各言語の会話のビデオ課題を提出する。評価：計30%</li> <li>・毎週の授業にて、クイズ(前回の授業の復習)を提出する。評価：30%</li> <li>・毎回の授業でのコメント及び質問の提出：40%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	他の言語や文化を尊重しない態度を表す学生は、教員の判断で失格にすることがあります。
授業計画	1週目 オリエンテーション、SAの紹介、予備知識(地理?場所、首都、言語の名前)、会話(あいさつ1の1) 2週目 基礎知識1、表記・発音1、会話1の2(あいさつ) 3週目 基礎知識2、表記・発音2、会話1の3(あいさつ) 4週目 基礎知識3、表記・発音3、会話2の1(~人ですか) 5週目 基礎知識4、表記・発音4、会話2の2(~人ですか) 6週目 基礎知識5、表記・発音5、会話2の3(~人ですか) 7週目 基礎知識6、表記・発音6、会話3の1(名前は?) 8週目 基礎知識7、表記・発音7、会話3の2(名前は?) 9週目 基礎知識8、表記・発音8、会話3の3(名前は?) 10週目 基礎知識9、表記・発音9、会話4の1(~語わかる?) 11週目 基礎知識10、表記・発音10、会話4の2(~語わかる?) 12週目 基礎知識11、表記・発音11、会話4の3(~語わかる?) 13週目 基礎知識12、表記・発音12、会話5の1(元気?) 14週目 基礎知識13、表記・発音13、会話5の2(元気?) 15週目 基礎知識14、表記・発音14、会話5の3(元気?)、課題提出
テキスト	授業内で指示する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の内容に関するコメントを記入してオンライン上で提出し、SAがそれに答えるという双方向の活動が含まれる。受講生には、講義の内容をよく聞きもっと知りたいと思うことについて質問を考えることが求められる。</li> <li>・授業内で学んだ言語を実際に使用して話したビデオ課題を作成して提出することが必須である。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内で質問に対応する。
フィードバックの方法	Googleクラスルームを使用し、教員はコメントに対してフィードバックを毎週返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	復習のためのクイズや課題・コメント作成のため、毎週最低30分の復習が必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 7.課題発見力

開講科目名 Course	文学と現代 / Literature in the Modern Age
時間割コード Course Code	10010
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	香川 由紀子
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	香川 由紀子 (法学部)
授業の目標	本授業では、文学を通して現代社会の諸相や問題を捉え、意見を述べることを目標としています。とりわけ、今「多様性」という言葉が注目されていますが、それが文学ではどのように扱われているか(あるいは扱われていないのか)をたどり、自分自身で捉えなおし、クラスメイトと意見を交わすことを目指します。
授業の概要	主に1980年代以降の日本文学作品(小説(児童文学を含む)、短歌など)を講読し、そこに描かれる現代社会の諸相について、特徴、経緯、理由などを考えます。日本独自の現象であるのか、他言語で表現しうるかなどについても検討します。授業はディスカッションを含みます。作者の意図や歴史的・社会的背景について「正解」は何かを求めるのではなく、作品に現われる様々なできごとを自分の体験と照らし合わせたり、前後の時代や他の文化に考えを巡らせたりして問題を身近に引き寄せて作品を読み、自分の考えをクラスメイトと分かち合って整理することを目指します。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンパリングを参照すること。
評価方法	授業参加度 20% コメントシート 40% 課題 40%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席率が70%(11回)に満たない場合、出席登録に不正があった場合は失格となります。
授業計画	1. オリエンテーション: 授業の概要、現代文学とテーマについて 2. 吉本ばなな(1) 3. 吉本ばなな(2)、コメントシートの書き方について 4. 児童文学 江國香織 5. 児童文学 その他 6. 短歌 俵万智(1) 7. 短歌 俵万智(2)、課題(授業中に実施し提出) 8. 中間振り返り、まとめ、補足 9. 宇佐美りん(1) 10. 宇佐美りん(2) 11. 課題(授業中に実施し提出)、推理小説 歌野晶午(1) 12. 推理小説 歌野晶午(2) 13. 羽田圭介(1) 14. 羽田圭介(2) 15. 振り返りとまとめ  受講者の状況によって変更することがあります。

テキスト	教科書は使用しません。適宜、資料を配布します。 ただし、課題のために読んでおく作品は授業内で指示しますので、各自入手して講読してください。
参考書	授業で適宜紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループまたはクラスでディスカッションを行い、意見をまとめて発表します。 積極的に発言してください。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後またはコメントシートへの回答で対応します。
フィードバックの方法	次の授業での口頭によるフィードバック、または課題にコメントをつけて返却をします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	日ごろから社会問題について関心を持ち、授業で扱う文学作品を読んだり、テーマに関連する事項について調べたりしておいてください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	文学と現代 / Literature in the Modern Age
時間割コード Course Code	10011
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	香川 由紀子
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	香川 由紀子 (法学部)
授業の目標	本授業では、文学を通して現代社会の諸相や問題を捉え、意見を述べることを目標としています。とりわけ、今「多様性」という言葉が注目されていますが、それが文学ではどのように扱われているか(あるいは扱われていないのか)をたどり、自分自身で捉えなおし、クラスメイトと意見を交わすことを目指します。
授業の概要	主に1980年代以降の日本文学作品(小説(児童文学を含む)、短歌など)を講読し、そこに描かれる現代社会の諸相について、特徴、経緯、理由などを考えます。日本独自の現象であるのか、他言語で表現しうるかなどについても検討します。授業はディスカッションを含みます。作者の意図や歴史的・社会的背景について「正解」は何かを求めるのではなく、作品に現われる様々なできごとを自分の体験と照らし合わせたり、前後の時代や他の文化に考えを巡らせたりして問題を身近に引き寄せて作品を読み、自分の考えをクラスメイトと分かち合って整理することを目指します。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンパリングを参照すること。
評価方法	授業参加度 20% コメントシート 40% 課題 40%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席率が70%(11回)に満たない場合、出席登録に不正があった場合は失格となります。
授業計画	1. オリエンテーション: 授業の概要、現代文学とテーマについて 2. 吉本ばなな(1) 3. 吉本ばなな(2)、コメントシートの書き方について 4. 児童文学 江國香織 5. 児童文学 その他 6. 短歌 俵万智(1) 7. 短歌 俵万智(2)、課題(授業中に実施し提出) 8. 中間振り返り、まとめ、補足 9. 宇佐美りん(1) 10. 宇佐美りん(2) 11. 課題(授業中に実施し提出)、推理小説 歌野晶午(1) 12. 推理小説 歌野晶午(2) 13. 羽田圭介(1) 14. 羽田圭介(2) 15. 振り返りとまとめ  受講者の状況によって変更することがあります。

テキスト	教科書は使用しません。適宜、資料を配布します。 ただし、課題のために読んでおく作品は授業内で指示しますので、各自入手して講読してください。
参考書	授業で適宜紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループまたはクラスでディスカッションを行い、意見をまとめて発表します。 積極的に発言してください。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後またはコメントシートへの回答で対応します。
フィードバックの方法	次の授業での口頭によるフィードバック、または課題にコメントをつけて返却をします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	日ごろから社会問題について関心を持ち、授業で扱う文学作品を読んだり、テーマに関連する事項について調べたりしておいてください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	文学と現代 / Literature in the Modern Age
時間割コード Course Code	10012
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	香川 由紀子
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	香川 由紀子 (法学部)
授業の目標	本授業では、文学を通して現代社会の諸相や問題を捉え、意見を述べることを目標としています。とりわけ、今「多様性」という言葉が注目されていますが、それが文学ではどのように扱われているか(あるいは扱われていないのか)をたどり、自分自身で捉えなおし、クラスメイトと意見を交わすことを目指します。
授業の概要	主に1980年代以降の日本文学作品(小説(児童文学を含む)、短歌など)を講読し、そこに描かれる現代社会の諸相について、特徴、経緯、理由などを考えます。日本独自の現象であるのか、他言語で表現しうるかなどについても検討します。授業はディスカッションを含みます。作者の意図や歴史的・社会的背景について「正解」は何かを求めるのではなく、作品に現われる様々なできごとを自分の体験と照らし合わせたり、前後の時代や他の文化に考えを巡らせたりして問題を身近に引き寄せて作品を読み、自分の考えをクラスメイトと分かち合って整理することを目指します。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンパリングを参照すること。
評価方法	授業参加度 20% コメントシート 40% 課題 40%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席率が70%(11回)に満たない場合、出席登録に不正があった場合は失格となります。
授業計画	1. オリエンテーション: 授業の概要、現代文学とテーマについて 2. 吉本ばなな(1) 3. 吉本ばなな(2)、コメントシートの書き方について 4. 児童文学 江國香織 5. 児童文学 その他 6. 短歌 俵万智(1) 7. 短歌 俵万智(2)、課題(授業中に実施し提出) 8. 中間振り返り、まとめ、補足 9. 宇佐美りん(1) 10. 宇佐美りん(2) 11. 課題(授業中に実施し提出)、推理小説 歌野晶午(1) 12. 推理小説 歌野晶午(2) 13. 羽田圭介(1) 14. 羽田圭介(2) 15. 振り返りとまとめ  受講者の状況によって変更することがあります。

テキスト	教科書は使用しません。適宜、資料を配布します。 ただし、課題のために読んでおく作品は授業内で指示しますので、各自入手して講読してください。
参考書	授業で適宜紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループまたはクラスでディスカッションを行い、意見をまとめて発表します。 積極的に発言してください。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後またはコメントシートへの回答で対応します。
フィードバックの方法	次の授業での口頭によるフィードバック、または課題にコメントをつけて返却をします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	日ごろから社会問題について関心を持ち、授業で扱う文学作品を読んだり、テーマに関連する事項について調べたりしておいてください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	アジアの中の思想 / Thoughts in Asia
時間割コード Course Code	10020
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	李 彩華
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 彩華 (経営学部)
授業の目標	<p>日本を軸に据えながら、アジア、なかでも特に東アジアの歴史の中で培われた様々な思想を広く学習・理解してゆくことをこの授業の目標とします。</p> <p>社会科学としての思想は、哲学や歴史・文学・政治学といった学問と広く関連しています。この講義は、思想を対話・メッセージ、総合的な学知としてとらえ、特に思想の結びつき、価値観の相互の影響という思想連鎖の視点から、アジア、とりわけ東アジアの様々な思想について学習していきます。多様な思想及びその連鎖について学ぶことにより、自らの認識を相対化し思考の幅を広げることがめざします。</p> <p>知識・理解の領域 アジアの中の思想を、アジア、特に東アジア各国の関係性の中で理解することができる。</p> <p>思考判断の領域 アジアにおける多様な思想を自分の中に取り込んで考えることにより、自らの認識を相対化し思考の幅を広げることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 アジアの中の思想のつながりをとらえ直すことにより、アジアに関わる今日的な問題について、よりグローバルな視点から展望することができる。</p>
授業の概要	<p>本講義では、まずインドの仏教と中国の儒教、西洋のキリスト教思想のアジア、特に東アジアへの展開の様相を概説します。そのうえで近世と幕末期に目を転じ、日本・中国と朝鮮との間で、相互に影響しあいながら繰り広げられた様々な革新思想の足跡を辿ってゆきます。さらに近代の思想として、自由、平等、民権、平和、日本とアジアといったモチーフをベースに説き明かされた様々な言説に触れてみたいと思います。こうした過去の思想との対話を通して、皆さんとともに「今日」を考える何らかのヒントをつかむことができればと考えています。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題提出・授業態度・期末試験などにより、総合的に成績評価します。</li> <li>・不定期的に課題を課し、課題・授業態度50%、期末試験50%で総合的に評価します。</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として、欠席が6回を超えた場合は失格(X)となります。</li> </ul>

授業計画	第1回 導入：思想と「思想空間」としての東アジア（ガイダンスを含む） 第2回 儒教・儒学と東アジア 第3回 仏教の東アジアへの展開と影響 第4回 東アジアにおけるキリスト教思想の受容 第5回 幕末期における東アジアの思想連鎖 第6回 幕末期における東アジアの維新革命思想 第7回 啓蒙思想家・福沢諭吉 第8回 福沢諭吉の啓蒙思想と東アジア 第9回 中江兆民の思想と東アジア 第10回 日本の初期社会主義思想とアジア 第11回 内村鑑三の非戦論とアジア 第12回 明治中後期のアジア主義とアジア諸国からの反応 第13回 岡倉天心のアジア主義とインド 第14回 孫文・南方熊楠・宮崎滔天 第15回 大正デモクラシーと中国・朝鮮
テキスト	
参考書	初級 菊地章太『儒教・仏教・道教/東アジアの思想空間』講談社2015年 中級 山室信一『アジアの思想史脈』人文書院2017年 上級 溝口雄三他編『（アジアから考える）【1】交錯するアジア』東京大学出版会1993年
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・授業の後やメールなどで対応します。
フィードバックの方法	・提出した課題について、授業中で講評するといった方法でフィードバックします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・配布した資料および自分のレベルにあった参考書をよく読んで予習・復習してもらいます。一回の講義につき、4時間程度をかけて予習・復習してもらいます。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	アジアの中の思想 / Thoughts in Asia
時間割コード Course Code	10021
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	李 彩華
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 彩華 (経営学部)
授業の目標	<p>日本を軸に据えながら、アジア、なかでも特に東アジアの歴史の中で培われた様々な思想を広く学習・理解してゆくことをこの授業の目標とします。</p> <p>社会科学としての思想は、哲学や歴史・文学・政治学といった学問と広く関連しています。この講義は、思想を対話・メッセージ、総合的な学知としてとらえ、特に思想の結びつき、価値観の相互の影響という思想連鎖の視点から、アジア、とりわけ東アジアの様々な思想について学習していきます。多様な思想及びその連鎖について学ぶことにより、自らの認識を相対化し思考の幅を広げることがめざします。</p> <p>知識・理解の領域 アジアの中の思想を、アジア、特に東アジア各国の関係性の中で理解することができる。</p> <p>思考判断の領域 アジアにおける多様な思想を自分の中に取り込んで考えることにより、自らの認識を相対化し思考の幅を広げることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 アジアの中の思想のつながりをとらえ直すことにより、アジアに関わる今日的な問題について、よりグローバルな視点から展望することができる。</p>
授業の概要	<p>本講義では、まずインドの仏教と中国の儒教、西洋のキリスト教思想のアジア、特に東アジアへの展開の様相を概説します。そのうえで近世と幕末期に目を転じ、日本・中国と朝鮮との間で、相互に影響しあいながら繰り広げられた様々な革新思想の足跡を辿ってゆきます。さらに近代の思想として、自由、平等、民権、平和、日本とアジアといったモチーフをベースに説き明かされた様々な言説に触れてみたいと思います。こうした過去の思想との対話を通して、皆さんとともに「今日」を考える何らかのヒントをつかむことができればと考えています。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンパリングを参照すること。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題提出・授業態度・期末試験などにより、総合的に成績評価します。</li> <li>・不定期的に課題を課し、課題・授業態度50%、期末試験50%で総合的に評価します。</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として、欠席が6回を超えた場合は失格(X)となります。</li> </ul>

授業計画	第1回 導入：思想と「思想空間」としての東アジア（ガイダンスを含む） 第2回 儒教・儒学と東アジア 第3回 仏教の東アジアへの展開と影響 第4回 東アジアにおけるキリスト教思想の受容 第5回 幕末期における東アジアの思想連鎖 第6回 幕末期における東アジアの維新革命思想 第7回 啓蒙思想家・福沢諭吉 第8回 福沢諭吉の啓蒙思想と東アジア 第9回 中江兆民の思想と東アジア 第10回 日本の初期社会主義思想とアジア 第11回 内村鑑三の非戦論とアジア 第12回 明治中後期のアジア主義とアジア諸国からの反応 第13回 岡倉天心のアジア主義とインド 第14回 孫文・南方熊楠・宮崎滔天 第15回 大正デモクラシーと中国・朝鮮
テキスト	
参考書	初級 菊地章太『儒教・仏教・道教/東アジアの思想空間』講談社2015年 中級 山室信一『アジアの思想史脈』人文書院2017年 上級 溝口雄三他編『（アジアから考える）【1】交錯するアジア』東京大学出版会1993年
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・授業の後やメールなどで対応します。
フィードバックの方法	・提出した課題について、授業中で講評するといった方法でフィードバックします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・配布した資料および自分のレベルにあった参考書をよく読んで予習・復習してもらいます。一回の講義につき、4時間程度をかけて予習・復習してもらいます。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	アートと現代社会 / Art in contemporary Society
時間割コード Course Code	10030
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	小西 信之
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小西 信之 (法学部)
授業の目標	現代アートとは何かについて理解する。 現代アートに対して自分の考えを持てるようになる。
授業の概要	世界と日本の近代から現代までのアートについて、その歴史と現況について学ぶ。 そのことを通じて、アートに対する認識を深め、知識と感性を高めてもらうため、多くのアーティストやその作品を紹介していく。
評価方法	参加態度50%。「レポート」50%。 注意事項；レポートのほとんどがいわゆる「コピペ」である場合、評価対象とならないので注意されたい。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・出席回数が8回に満たない場合
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	教員作成のパワーポイント。
参考書	『カラー版 20世紀の美術』『現代アート事典』（美術出版社） 西村清和『現代アートの哲学』（産業図書）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後に対応します。
フィードバックの方法	授業中に対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業で知って関心を持ったアーティストがいたら、後でインターネットで調べるなどして復習しましょう。また見るべき展覧会が開催される時はお知らせしますので、見に行きアートについての知見を深めましょう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス。 アートとは何か？そして現代アートとは何か？		
2	トピック1：「アート・ワールド」について。 高度資本主義社会の中のアートについて。		
3	現代アートの歴史I 写真、印象派、キュビズム、フォーヴィスム		
4	現代アートの歴史II 表現主義、ダダ、シュルレアリスム		
5	現代アートの歴史III 抽象絵画、抽象表現主義		
6	現代アートの歴史IV ポップ・アート、ミニマル・アート		
7	現代アートの歴史V コンセプチュアル・アート、アースワーク、インスタレーション		
8	日本の現代アートの歴史1 明治・大正・昭和(戦前)の美術		
9	日本の現代アートの歴史2 昭和(戦中・戦後)の美術		
10	日本の現代アートの歴史3 昭和後期・平成以降の美術		
11	日本の現代アートの歴史4 漫画、アニメーションはアートなのか？		
12	現代アートの歴史VI フェミニズム・アート、ポスト・モダニズム		
13	現代アートの歴史VII 文化多元主義、ニューフォトグラフィー、ポスト植民地主義		
14	現代アートの歴史VIII 1990年代のアート、リレーショナル・アート		
15	現代アートの歴史IX 政治とアート。アーティストはどのように社会と関わるか？		

開講科目名 Course	アートと現代社会 / Art in contemporary Society
時間割コード Course Code	10031
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	小西 信之
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小西 信之 (法学部)
授業の目標	現代アートとは何かについて理解する。 現代アートに対して自分の考えを持てるようになる。
授業の概要	世界と日本の現代アートについて、その現況と歴史について学ぶ。 そのことを通じて、アートに対する認識を深め、感性を高めてもらうため、多くのアーティストやその作品を紹介していく。
評価方法	参加態度50%。「レポート」50%。 注意事項；レポートのほとんどがいわゆる「コピペ」である場合、評価対象とならないので注意されたい。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	教員作成のパワーポイント。
参考書	『カラー版 20世紀の美術』『現代アート事典』（美術出版社）『Art Since 1900 図鑑1900年以降の芸術』（東京書籍）西村清和『現代アートの哲学』（産業図書）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	対面の場合、授業後に対応します。
フィードバックの方法	対面の場合、授業後に対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業で知って関心を持ったアーティストがいたら、後でインターネットで調べるなどして復習しましょう。また見るべき展覧会が開催される時はお知らせしますので、見に行きアートについての知見を深めましょう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス。 アートとは何か?そして現代アートとは		
2	トピック1:「アート・ワールド」について。 高度資本主義社会の中のアートについて		
3	現代アートの歴史I 写真、印象派、キュビズム、フォーヴィ		
4	現代アートの歴史II 表現主義、ダダ、シュルレアリスム		
5	現代アートの歴史III 抽象絵画、抽象表現主義		
6	現代アートの歴史IV ポップ・アート、ミニマル・アート		
7	現代アートの歴史V コンセプチュアル・アート、アースワーク、インスタレーション		
8	日本の現代アートの歴史1 明治・大正・昭和(戦前)の美術		
9	日本の現代アートの歴史2 昭和(戦中・戦後)の美術		
10	日本の現代アートの歴史3 昭和後期・平成以降の美術		
11	日本の現代アートの歴史4 漫画、アニメーションはアートなのか?		
12	現代アートの歴史VI フェミニズム・アート、ポスト・モダン		
13	現代アートの歴史VII 文化多元主義、ニューフォトグラフィー、ポスト植民地主義		
14	現代アートの歴史VIII 1990年代のアート、リレーショナル・		
15	現代アートの歴史IX 政治とアート。アーティストはどのように社会と関わるか?		



開講科目名 Course	犬山学入門 / Introduction to Inuyama Regions
時間割コード Course Code	10040
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	中村 真咲
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 真咲 (経営学部)
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域の自然・歴史・産業を学び、地域を総合的に理解する。</li> <li>2. 犬山文化圏の歴史的役割とその現代的意義を理解する。</li> <li>3. 講義と課題を通して、対話する力、考える力、考えを表現する力を身につける。</li> </ol>
授業の概要	<p>本講義では、名古屋経済大学の所在する犬山市と周辺地域の地理的特性、歴史的展開、産業の特徴などを学ぶことにより、地域を総合的に理解する経験を積む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 犬山学研究センターの支援を受けて、地質学・地理学・歴史地理学・歴史学・地域経済の側面から犬山について考えていく。</li> <li>2. 文献やインターネットのツールを使って、地域について調べるための方法を学ぶ。</li> <li>3. 犬山の特徴と魅力について、自分の考えを他者に説明できるようになる。</li> </ol>
評価方法	<p>授業における課題と期末レポートの提出により、総合的に成績評価します。 授業への参加などの学習態度（毎回の課題）は75点、期末レポートの成績を25点という割合で成績を判定します。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合には、失格とします。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>第1回．はじめに～犬山の魅力とは～</li> <li>第2回．古墳時代の犬山</li> <li>第3回．中世の犬山</li> <li>第4回．犬山城主・成瀬氏</li> <li>第5回．幕末の犬山</li> <li>第6回．犬山城</li> <li>第7回．入鹿池</li> <li>第8回．尾張古窯・犬山焼</li> <li>第9回．犬山商人</li> <li>第10回．犬山・尾北の産業</li> <li>第11回．犬山と名鉄</li> <li>第12回．犬山城下町の再生</li> <li>第13回．犬山の文化財保護の現状と課題</li> <li>第14回．犬山の文化的景観</li> <li>第15回．犬山の課題</li> </ol>
テキスト	とくに定めなし

参考書	犬山市都市整備部『よみがえれ城下町ー犬山城下町再生への取り組み』（風媒社、2006年） 犬山市歴史まちづくり課『犬山市史 通史編（上）』（犬山市、平成9年） 犬山市歴史まちづくり課『犬山市史 通史編（下）』（犬山市、平成7年） 丸山和成『写真アルバム 犬山・江南・大口・扶桑の今昔』（風媒社、2020年） 溝口常俊『古地図で楽しむ尾張』（風媒社、2017年）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・授業後に対応 ・メールで随時対応 (masaki.n@nagoya-ku.ac.jp)
フィードバックの方法	期末報告に対するフィードバックは、授業のなかで行うとともに、必要に応じてコメントや助言をメールでも行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の授業では、翌週の授業内容に関わる参考文献の該当箇所を指示するので、翌週までに各自で予習します。 その参考文献を読んだ前提で、次回の授業を行いますので、予習は必須です。 また、授業で配布した資料を家で読み、復習します。 これらの予習・復習（計60時間）を行うことが、期末レポートの準備につながります。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 15.陸の豊かさを守ろう 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	地理学 I (地誌を含む。) / Geography I
時間割コード Course Code	10050
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	森田 実
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	森田 実 (経済学部)
授業の目標	<p>【地理学(地誌学)の理解】</p> <p>読図・作図を通して、世界のさまざまな地域の特色や、地域区分の手法や意味について学び、その背景にある自然的・社会的要因について説明することができるようになる。</p> <p>知識・理解の領域</p> <p>読図：世界各地の自然・社会環境について説明することができる。</p> <p>作図：様々なスケールで発生している問題について、その要因も含めて説明することができる。</p> <p>思考判断の領域</p> <p>読図：各地域の共通点や相違点を考察するための、空間的思考を身につけることができる。</p> <p>態度・志向性の領域</p> <p>読図：空間的思考を前提に、世界各地の問題を自ら設定して調べることができる。</p> <p>技能の領域</p> <p>作図：地域の特徴を主題とした地図を描くことができる。</p>
授業の概要	<p>授業形態</p> <p>講義を中心に授業を進める。地域の特色や地球的課題についての基本的事項を理解する。さらに、これらの地域的特色や地球的課題の背景にある自然的・社会的要因について理解する。また、地域または地球的課題について各自がテーマを設定し、そのテーマについての調査結果をレポートとして提出する。</p> <p>関連事項</p> <p>本講義は「地域」をキーワードとした学びを深めるための基礎的な知識と技能を習得する科目として位置づけられる。なお、GISや経済地理学を学ぶ上での関連科目であり、当該科目を履修する予定のある者は、履修しておくことが望ましい。</p>
評価方法	レポート(授業期間中に2回:提出必須): 40% 期末試験: 60%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義で指示のあった課題に取り組まない者、無断欠席4回以上の者は失格とする。</li> <li>・代理出席などの不正な出席が確認された場合、不正が1回であっても失格とする。</li> <li>・講義開始後25分を越えての入室は認めない。授業態度等で講義の妨げになると判断した場合、退出させることがある。</li> </ul>
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	必要に応じて資料(プリント)配布する。
参考書	<p>参考図書: 「ジオ・パルNEO」(2012)海青社。「詳細資料地理の研究」(2010)帝国書院。「フィールド映像術」古今書院(2015)。「フィールド写真術」古今書院(2016)。「情報科教育法 改訂2版」オーム社(2009)。</p> <p>その他、参考図書・文献については適宜紹介する。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問は授業後、もしくはメール(morita-m@nagoya-ku.ac.jp)にて対応する。
フィードバックの方法	履修生全員が内容を共有できるように取りまとめて授業中に発表する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・街並み観察会やジオツアーへ参加することを推奨する。 ・授業ごとに紹介する文献やウェブサイト、新聞記事等を題材に、各回につき予習(2時間)と復習(2時間)すること。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	11.住み続けられるまちづくりを 13.気候変動に具体的な対策を 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス 地理学への招待	講義全体の内容、授業の進め方など。書籍や新聞、雑誌、テレビなどにおいて、「地理」がいかにして利用、分析、表現されているかを観察・考察することを求める。	
2	地理学を学ぶ前に(1) 地理学のイメージ	なぜ地理学を学ぶのかを講義	
3	地理学を学ぶ前に(2) 基礎としての地理学の概要	系統地理学と地誌学について講義	
4	地理学とは 地理学の枠組み、歴史	地理学の誕生から発展に至る過程について講義	
5	地球の自然環境 地域区分1	地形・気候について講義	
6	地域区分2	植生・土壌・水について講義	
7	資源と産業 地域区分1	世界の農業地域について講義	
8	地域区分2	エネルギー資源、工業地域について講義	
9	世界の諸地域 東アジア	様々な地域区分、中国と周辺地域について講義	
10	その他アジア	東南アジア、南アジア、中央アジア、西アジアの自然と国々について講義	
11	アフリカ	自然と国々について講義	
12	ヨーロッパ	ヨーロッパ、ロシアの自然と国々について講義	
13	北アメリカ	アメリカ、カナダについて講義	
14	ラテンアメリカ他	中央、南アメリカ、オセアニアについて講義	
15	地理学の今日的意義	レポートに関する質疑、ディスカッション(総括・全体質疑)	

開講科目名 Course	地理学II / Geography II
時間割コード Course Code	10060
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 正之
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 正之 (経済学部)
授業の目標	<p>【地理学と地図利用手法の理解】</p> <p>世界のさまざまな地域の特色や、地域区分の表現、分析手法として地図の利用手法および、作成手法を理解し、地理的事象の分析ができるようになる。</p> <p>知識・理解の領域 球面を平面化する方法について、説明することができる。 日本の代表的な地図および地図データを利用するための知識を習得する。</p> <p>思考判断の領域 地図から地域の特色とその要因を見つけ出すことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 地図化することの有用性を理解し、統計資料等の地図化を試みる。</p> <p>技能の領域 地形図からさまざまな地理情報を読み取る手法を身につけることができる。</p> <p>なお、本講義はGISや経済地理学、地域政策を学ぶ上での基礎知識習得科目に位置づけられるため、上記科目を履修する予定のある者は、履修しておくことが望ましい。</p>
授業の概要	<p>授業形態</p> <p>講義は、対面での読図（地形図の加工・編集）を基本とする。 地形図への色鉛筆での着彩など、細かなworkが必須である。丁寧な取組が求められる。 読図を通して、様々なスケールでの地図化の原理や地図の正しい利用手法を学ぶ。さらに、断面図をつくる、水系図をつくる、面積を求めるなど、地形図から地理情報を読み取ることのできる、地理的思考の基本を身につける。</p>
評価方法	<p>【必須】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読図作業が、講義へのリアクションの前提である（単に聴講するだけでは単位取得できない）。</li> <li>・講義のなかで求める作業や課題の作成（リアクションペーパー（40%）、中間レポート（30%）、最終レポート（30%））で評価する。ただしレポートの未提出が1回でもあれば不合格とする。</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地形図を用意しない者、読図作業をしない者、無断欠席3回以上の者は失格とする。なお、欠席した場合も次の講義で課題を提出すること。「欠席届」の提出は無効である。講義開始後25分を越えての入室は認めない。講義の妨げになると判断した場合、退出させることがある。</li> </ul>
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	<p>地形図を各自購入するのが受講の前提（必要な図幅は講義時に説明するが、国土地理院「2万5千分の1地形図『犬山』図幅」を予定している）。</p> <p>毎回の講義内容に応じて内容を記載した資料がテキストとなる。</p>

参考書	参考図書：「ジオ・パルNEO」（2012）海青社。「地理学演習帳」（2010）古今書院。「フィールド映像術」古今書院（2015）。「フィールド写真術」古今書院（2016）。「情報科教育法 改訂2版」オーム社（2009）。その他、参考図書・文献については適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	実際に、地形図を使った読図作業を実施する。読図という演習作業(work)が基本となる。読図のために鉛筆、色鉛筆（赤、緑、青、黄色）、定規が必要となる。その他必要なものは、講義時に説明する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	内容についての質問は授業後およびオフィスアワーで受け付ける。大学のgooleアカウント利用が必須。mailとclassroomも必要に応じて使用する。
フィードバックの方法	大学のgooleアカウント利用が必須。mailとclassroomを使用する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義ではリアクションについて補足を行う。それを踏まえた読図作業が必須である。講義時間以上の、復習（読図）時間を確保し、レポートとしての提出が不可欠である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	地球と地図 地図の歴史	各回、講義内容を記載したプリントを使用する。	
2		位置情報の現在	
3		地物の間引き	
4		立体の平面化	
5	読図の基本 地図の作り方と地図情報の基礎	授業で、2万5千分の1の地形図を使用する。詳細については授業で説明するが、地形図は各自用意すること。地図記号、等高線の判読。判読のために鉛筆、色鉛筆(赤、緑、黄色)が必要となるため、各自用意すること。	
6	地形図の読図	地形を読み取る1 基本情報を確認する	
7		地形を読み取る2 尾根と谷を読む	
8		農業的土地利用を読み取る1	
9	土地利用2	農業的土地利用を読み取る2 面積を求める	
10		地図のつくり方	
11		水系網の表記と意味	
12		地形図から歴史を読み取る	
13		分布図、等値線図	
14		統計、空中写真を活用する	
15	判読結果の解説	判読した地図情報をまとめて解説する	



開講科目名 Course	心の科学I / Psychology I
時間割コード Course Code	10070
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	野副 紫をん
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	野副 紫をん (経済学部)
授業の目標	<p>「心理学」は「心の科学」と言われる。「心理学」というと特殊なものと思われるかもしれないが、実は普通の何気ない生活の中に心理学の理論が多数活かされている。本講義では、身近な生活の中から心理学的なトピックスを取り上げ、社会の中で「人間の心理」がどのように活用されているかについて理解を深めるとともに、心理テスト等を用いて自分自身の心と体について探究し、自己の内面について理解を深めることを目標とする。</p> <p>学習成果 知識・理解の領域～日常の社会的な事柄を心理学的な視点から考える枠組みを持てる。自分の内面に触れ、自己理解を深めることができる。 技能の領域～心の病気について理解し、心の健康に役立つ方法を習得できる。 態度・志向性の領域～人間の心の多様性に気づき、“心”について日頃から関心を持つことができる。</p>
授業の概要	<p>例えば公衆の場で見かける貼り紙、営業マンのテクニクなど、普段、身の周りにある題材を使って、それが心理学のどのような知見に基づいたものであるのかを学習する。また、心理テストやワーク等、心理学の手法を用いて自分の内面をふり返り、自己理解を深める。</p> <p>講義に加え各種ワークを取り入れる予定である。</p> <p>また、原則として毎回、学習した内容について小レポートを提出してもらう。</p> <p>後期に開講される「心の科学2」とは、取り挙げるトピックが異なる。このため、「心の科学1」「心の科学2」いずれかのみを受講も可能であるが、両講義を受講することで、人間の“心”についてさらに理解を深めることができる。</p> <p>この科目の位置づけについては、<a href="#">本学HPのナンバリング</a>を参照すること。</p>
評価方法	<p>1. 授業によく出席し、まじめな態度で講義・ワークに取り組むこと(20%)。</p> <p>2. 小レポート(60%)および最終レポート(20%)に自分の考えを明確に記述できること。学んだことをそのまま書くのではなく、特に自分の「感じたこと」や「考えたこと」を「自分の言葉」で書くことが求められる。</p> <p>第1回目の授業で評価の詳細を述べるため、必ず出席すること。</p> <p>また、ワークに取り組まない、私語、スマートフォンの使用、授業時間内の退室等の受講態度について問題がある場合は、減点もしくは失格とする場合もあるので注意すること。</p> <p>また、遠隔授業の場合、配布された資料を視聴せずに課題のみ提出していることが確認された場合は、減点する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>欠席が5回以上の場合には原則失格(遅刻は3回で欠席1回とする)。</p> <p>また、他者のレポートを代行して作成した場合や写して提出した場合、あるいは他者に自分のレポートをコピーさせた場合等、不正行為が認められた時は失格とする。</p>

授業計画	<p>1 回目：初回ガイダンス・“こころ”とは？</p> <p>2 回目：楽しいキャンパスライフを送ろう：大学生活マップ</p> <p>3 回目：席順に表れる人の心：パーソナルスペース・対人距離</p> <p>4 回目：「この線、同じ長さなの!？」：視覚の不思議</p> <p>5 回目：好きなのに、ケンカになるのはなぜ？：恋愛を読む心理学</p> <p>6 回目：人はなぜ権威に弱いのか？：制服の威力・他者への服従</p> <p>7 回目：「私でなくても誰かが...」：集団の心理・同調行動</p> <p>8 回目：説得のテクニック：交渉のコツ・ランチョンテクニック</p> <p>9 回目：価格設定で客の心をつかむ：セールスに活かす心理学</p> <p>10 回目：お酒とうまくつき合おう：アルコールパッチテスト</p> <p>11 回目：心のかげ“うつ病”を知る（1）：うつ病と躁うつ病</p> <p>12 回目：心のかげ“うつ病”を知る（2）：うつ病の実際</p> <p>13 回目：自己理解を深める（1）：性格のタイプ</p> <p>14 回目：自己理解を深める（2）：自分と向き合うワーク</p> <p>15 回目：まとめと振り返り・最終レポート</p>
テキスト	<p>使用しない。</p> <p>適宜、プリントを配布する。</p>
参考書	参考文献は講義の中で紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	アルコールパッチテスト、心理テスト（向性検査）、セルフモニタリング・ワーク等、実習を多数取り入れ、その結果を自ら分析してレポートにまとめる。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	公認心理師及び臨床心理士の資格を有し心理治療の経験を持つ教員が、授業の中で一般的によく見られる精神疾患やセルフモニタリング等，学生の心身健康に関する知識や対処法を教授し，学生のメンタルヘルスの維持増進に寄与する。
質問への対応方法	授業中、もしくは授業後に随時、質問を受け付ける。
フィードバックの方法	授業内で課したレポートや質問に対して、翌週、コメントを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回、当該回の授業テーマに関する課題を課し、レポートを作成させる（復習2時間）。また、同様に次回の授業テーマに関する課題を課し、予習に取り組みさせる（予習2時間）。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	心の科学I / Psychology I
時間割コード Course Code	10071
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	家接 哲次
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	7 2 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	家接 哲次 (教育保育学科)
授業の目標	<p>心理学は、人間の「こころ」を探求する学問である。心理学は、近年目覚ましい発展をとげ、その研究分野も大きな広がりを見せてきている。一方、一般社会も複雑化の一途をたどり、「こころ」に対する関心が急激に高まってきているといえる。このような社会背景にある中で、心理学を学ぶことは非常に重要になってきている。心理学の分野でも、近年特に注目を浴びているのが臨床心理学である。この臨床心理学とは、「こころ」の問題に対する理解と援助を扱うものである。そこで本講では、主に臨床心理学的視点から「こころ」の理解を進める予定である。</p> <p>【知識・理解の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心の科学についての知識を獲得する</li> </ul> <p>【態度・志向性の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心理学についての関心をもつ</li> <li>・心理学の知識を利用して、自他を理解する</li> </ul>
授業の概要	<p>1．授業の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 様々な心理学の概念を解説する</li> <li>2) 心理テストで理解を深める</li> <li>3) 日常生活での応用を理解する</li> </ol> <p>2．予習復習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 予習：シラバスをみて、その日のキーワードについて調べてくる</li> <li>2) 復習：習った内容を深めるため、図書館等で関連の文献を探し、それを読む</li> </ol> <p>* 質問には随時対応する。</p>
評価方法	<p>期末試験で下記の点について評価する(100%)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 心理学について関心をもち、正しく理解ができている (関心・理解)</li> <li>2) 理解したことを正確に表現できる (表現)</li> <li>3) 日常生活で適切に応用する準備ができている (応用・表現)</li> </ol>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席数が多い場合(6回以上)は失格となることがある。

授業計画	<p>1. ガイダンス：授業方針、心理学の諸領域</p> <p>2. 学習心理学1：知能とEQ（キーワード：知能、家庭環境、知能検査、EQ）</p> <p>3. 学習心理学2：記憶（キーワード：記銘、保持、再生、感覚記憶、短期記憶、長期記憶、意味記憶、エピソード記憶）</p> <p>4. 学習心理学3：学習理論（キーワード：古典的条件づけ、道具的条件づけ、観察学習、試行錯誤学習、洞察学習、学習性無力感、原因帰属、動機づけ）</p> <p>5. 社会心理学1：人との出会い（キーワード：親和欲求、自己呈示、ステレオタイプ、ハロー効果、論理的過誤、時間的拡張、ピグマリオン効果）</p> <p>6. 社会心理学2：人と人の関わり方（キーワード：攻撃性、攻撃本能説、攻撃学習説、敵意帰属バイアス、援助行動、傍観者効果）</p> <p>7. 社会心理学3：集団（キーワード：集団凝集性、規範、社会的促進、社会的抑制、社会的手抜き、集団思考、リーダーシップ）</p> <p>8. 性格心理学：性格（キーワード：類型論、特性論、質問紙法、作業検査法、投影法）</p> <p>9. 発達心理学1：心の発達（キーワード：初期体験、刻印づけ、愛着、ベビースキーマ、ピアジェの発達段階説）</p> <p>10. 発達心理学2：自己意識の発達（キーワード：自己意識、自我、公的自己意識、私的自己意識、自己注目、自己没入）</p> <p>11. 発達心理学3：青年期の問題（キーワード：発達課題、基本的信頼感、自我同一性、モラトリアム、同一性拡散）</p> <p>12. 臨床心理学1：自己理解（キーワード：心理テスト、心の健康）</p> <p>13. 臨床心理学2：無意識（キーワード：精神分析、防衛機制、分析心理学、個性化）</p> <p>14. 臨床心理学3：ストレス（キーワード：ストレッサー、ストレス反応、タイプA性格、ピーク・パフォーマンス・ストレス・レベル）</p> <p>15. まとめ</p>
テキスト	なし
参考書	適宜紹介する
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業の中で基本的に対応するが、授業前後でも対応可能である。
フィードバックの方法	必要に応じて、口頭またはメール等でフィードバックを実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業中に提示する参考図書を読むこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	2. 情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	4. 感情制御力

開講科目名 Course	心の科学II / Psychology II
時間割コード Course Code	10080
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	野副 紫をん
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	野副 紫をん (経済学部)
授業の目標	<p>「心理学」は「心の科学」と言われる。「心理学」というと特殊なものと思われるかもしれないが、実は普通の何気ない生活の中に心理学の理論が多数活かされている。本講義では、身近な生活の中から心理学的なトピックスを取り上げ、社会の中で「人間の心理」がどのように活用されているかについて理解を深めるとともに、心理テスト等を用いて自分自身の心と体について探究し、自己の内面について理解を深めることを目標とする。</p> <p>学習成果 知識・理解の領域～日常の社会的な事柄を心理学的な視点から考える枠組みを持てる。自分の内面に触れ、自己理解を深めることができる。 技能の領域～心の病気について理解し、心の健康に役立つ方法を習得できる。 態度・志向性の領域～人間の心の多様性に気づき、“心”について日頃から関心を持つことができる。</p>
授業の概要	<p>例えば公衆の場で見かける貼り紙、営業マンのテクニクなど、普段、身の周りにある題材を使って、それが心理学のどのような知見に基づいたものであるのかを学習する。また、心理テストやワーク等、心理学の手法を用いて自分の内面をふり返り、自己理解を深める。</p> <p>講義に加え各種ワークを取り入れる予定である。</p> <p>また、原則として毎回、学習した内容について小レポートを提出してもらう。</p> <p>前期に「心の科学1」が開講されるが、素材とするトピックが異なるだけで、「心の科学1」を受講していないと理解できないということではない。1か2いずれかのみを受講も可能であるが、両講義を受講することで、人間の“心”についてさらに理解を深めることができる。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>1．授業によく出席し、まじめな態度で講義・ワークに取り組むこと（20％）。</p> <p>2．小レポート（60％）および最終レポート（20％）に自分の考えを明確に記述できること。学んだことをそのまま書くのではなく、特に自分の「感じたこと」や「考えたこと」を「自分の言葉」で書くことが求められる。</p> <p>第1回目の授業で評価の詳細を述べるため、必ず出席すること。</p> <p>また、ワークに取り組まない、私語、スマートフォンの使用、授業時間内の退室等の受講態度等について問題がある場合は、減点もしくは失格とする場合もあるので注意すること。</p> <p>また、遠隔授業の場合、配布された資料を視聴せずに課題のみ提出していることが確認された場合は、減点する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>欠席が5回以上の場合には原則失格（遅刻は3回で欠席1回とする）。</p> <p>また、他者のレポートを代行して作成した場合や写して提出した場合、あるいは他者に自分のレポートをコピーさせた場合等、不正行為が認められた時は失格とする。</p>

授業計画	<p>1回目：初回ガイダンス・“こころ”とは？</p> <p>2回目：人に好かれるには？：対人魅力・印象形成</p> <p>3回目：ほめて伸ばす：ビッグマリオン効果</p> <p>4回目：初めてなのに、前に見た気がするのはなぜ？：記憶の不思議</p> <p>5回目：上司や同僚と仲よくやるには？：職場で活かす心理学</p> <p>6回目：セールストークで顧客をつかむ：販売に活かす心理学</p> <p>7回目：仕草から人の心を読む：ノンバーバル・コミュニケーション</p> <p>8回目：なぜパチンコはやめられないのか？：強化の理論</p> <p>9回目：人はなぜストーカーになるのか？：恋愛トラブルの心理を読む</p> <p>10回目：ネットはどうして炎上するのか？：ネット中傷の心理</p> <p>11回目：ストレスと上手につき合おう：ストレスチェック・リラクゼーション法</p> <p>12回目：あなたは大丈夫？：身近な心の病気</p> <p>13回目：自己理解を深める（1）：心理テスト（エゴグラム）</p> <p>14回目：自己理解を深める（2）：自分でできる心の健康法</p> <p>15回目：まとめと振り返り・最終レポート</p>
テキスト	<p>使用しない。</p> <p>適宜、プリントを配布する。</p>
参考書	参考文献は講義の中で紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	インターネット依存度テスト、ストレスマネジメント法、心理テスト（エゴグラム）、自律訓練法等、実習を多数取り入れ、その結果を自ら分析してレポートにまとめる。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	公認心理師及び臨床心理士の資格を有し心理治療の経験を持つ教員が、授業の中で一般的によく見られる精神疾患やストレスマネジメント等、学生の心身健康に関する知識や対処法を教授し、学生のメンタルヘルスの維持増進に寄与する。
質問への対応方法	授業中、もしくは授業後に随時、質問を受け付ける。
フィードバックの方法	授業内で課したレポートや質問に対して、翌週、コメントを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回、当該回の授業テーマに関する課題を課し、レポートを作成させる（復習2時間）。また、同様に次回の授業テーマに関する課題を課し、予習に取り組みさせる（予習2時間）。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	日本の文化と社会 / Japanese Culture and Society
時間割コード Course Code	10090
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	四辻 秀紀
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	四辻 秀紀 (経営学部)
授業の目標	日本人が育んできた美意識に内在する本質について、変革期の時世粧を通じて考え、理解すること。 日本の歴史の中で培われてきた文化諸相において、大きく変革を遂げていった三つの時代について理解を深めること。
授業の概要	日本の歴史の中で培われてきた文化諸相において、大きく変革を遂げていった三つの時代について理解を深めること。
評価方法	レポートが50%、授業参加への意欲度が50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合。
授業計画	1 概説 2 仏教の伝来と寺院 3 天平の美術 4 空海と密教寺院 5 末法の時代 弥勒信仰・浄土教信仰・法華経信仰 6 造寺造仏と風流・過差 7 写経の盛行と風流・過差・美麗 8 王朝の生活と風流 9 鎌倉時代の信仰と美術 8 婆娑羅の時代 唐物数寄と茶寄合 9 室町将軍家のコレクション 10 花道・香道・茶の湯の文化 11 戦国武将たちの美意識 12 桃山から江戸時代へ 金と銀が湧き出た時代 13 かぶく美の時代—近世初期の美意識 1 14 かぶく美の時代—近世初期の美意識 2 15 まとめ
テキスト	必要に応じて資料を配信します。
参考書	授業の中で随時紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	この科目は、徳川美術館で学芸員の経験を有する教員が、日本の歴史の中で培われてきた文化諸相を通覧し、内在する伝統と変遷を探究する「実務経験のある教員による授業科目」です。
質問への対応方法	随時、メール対応。
フィードバックの方法	翌週に返却。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習・復習は全体で60時間の学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力



開講科目名 Course	日本の文化と社会 / Japanese Culture and Society
時間割コード Course Code	10091
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	四辻 秀紀
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	四辻 秀紀 (経営学部)
授業の目標	日本人が育んできた美意識に内在する本質について、変革期の時世粧を通じて考え、理解すること。 日本の歴史の中で培われてきた文化諸相において、大きく変革を遂げていった三つの時代について理解を深めること。
授業の概要	日本の歴史の中で培われてきた文化諸相において、大きく変革を遂げていった三つの時代について理解を深めること。
評価方法	レポートが50%、授業参加への意欲度が50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合。
授業計画	1 概説 2 仏教の伝来と寺院 3 天平の美術 4 空海と密教寺院 5 末法の時代 弥勒信仰・浄土教信仰・法華経信仰 6 造寺造仏と風流・過差 7 写経の盛行と風流・過差・美麗 8 王朝の生活と風流 9 鎌倉時代の信仰と美術 8 婆娑羅の時代 唐物数寄と茶寄合 9 室町將軍家のコレクション 10 花道・香道・茶の湯の文化 11 戦国武将たちの美意識 12 桃山から江戸時代へ 金と銀が湧き出た時代 13 かぶく美の時代—近世初期の美意識 1 14 かぶく美の時代—近世初期の美意識 2 15 まとめ
テキスト	必要に応じて資料を配信します。
参考書	授業の中で随時紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	この科目は、徳川美術館で学芸員の経験を有する教員が、日本の歴史の中で培われてきた文化諸相を通覧し、内在する伝統と変遷を探究する「実務経験のある教員による授業科目」です。
質問への対応方法	随時、メール対応。
フィードバックの方法	翌週に返却。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習・復習は全体で60時間の学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	地域創生と文化遺産 / Cultural Heritage and Regional Revitalization
時間割コード Course Code	10100
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	赤塚 次郎
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	赤塚 次郎 (法学部)
授業の目標	名古屋経済大学が存在する犬山・小牧地域には数多くの有形無形の文化遺産が存在し、その多様性は当地域の特色であり、またその特色をいかした街づくりが積極的に行われています。そこには一般の文化財の枠を超えて、さまざまな関連性の総体が、何となくその場の雰囲気を作っている場合が多いようです。 本授業では地域に残るこうした多様な文化遺産を具体的に学びながら、特色ある地域の街づくり・地域創生の柱を「文化遺産」と考え、文献資料を交えて地域の伝承や残されてきた文化財との関係を総合的に理解する「文化遺産学」を学びます。 また街づくりの具体的なヒントや現代社会の出来事を的確にとらえる力を身につけることができます。
授業の概要	文化遺産を活用した地域創生・街づくりに生かす活動を 1) 文化遺産学の基礎講座、日本を中心とする文化遺産(日本遺産・世界遺産を含む)をはじめ、地域にのこる有形無形の文化財について学ぶことができます。 2) 犬山・小牧地域の具体的な事例などを利用し、文化遺産を文化資源として広く地域社会で活用してもらうための機会と場を考えていきます。
評価方法	主に各授業内での課題解答の集計により実施。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	第1～3回：日本の世界遺産と日本遺産の概要 第4～9回：桃太郎伝承・日本100名城・妖怪・狛犬・街道など、身近な文化遺産を通じて街づくりとその歴史を考える。 第10～15回：無形文化財や伝統的な街並みから地域の歴史・観光、その街づくりの具体例を学ぶ。
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業単位での回答用紙に記載
フィードバックの方法	次の授業等にてまとめて回答

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	なるべく次の授業の内容等を簡潔にテキスト化 提示した情報内で事前にHP等を確認
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	地域創生と文化遺産 / Cultural Heritage and Regional Revitalization
時間割コード Course Code	10101
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	赤塚 次郎
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	赤塚 次郎 (法学部)
授業の目標	名古屋経済大学が存在する犬山・小牧地域には数多くの有形無形の文化遺産が存在し、その多様性は当地域の特色であり、またその特色をいかした街づくりが積極的に行われています。そこには一般の文化財の枠を超えて、さまざまな関連性の総体が、何となくその場の雰囲気を作っている場合が多いようです。 本授業では地域に残るこうした多様な文化遺産を具体的に学びながら、特色ある地域の街づくり・地域創生の柱を「文化遺産」と考え、文献資料を交えて地域の伝承や残されてきた文化財との関係を総合的に理解する「文化遺産学」を学びます。 また街づくりの具体的なヒントや現代社会の出来事を的確にとらえる力を身につけることができます。
授業の概要	文化遺産を活用した地域創生・街づくりに生かす活動を 1) 文化遺産学の基礎講座、日本を中心とする文化遺産(日本遺産・世界遺産を含む)をはじめ、地域にのこる有形無形の文化財について学ぶことができます。 2) 犬山・小牧地域の具体的な事例などを利用し、文化遺産を文化資源として広く地域社会で活用してもらうための機会と場を考えていきます。
評価方法	主に各授業内での課題解答の集計により実施。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	第1～3回：日本の世界遺産と日本遺産の概要 第4～9回：桃太郎伝承・日本100名城・妖怪・狛犬・街道など、身近な文化遺産を通じて街づくりとその歴史を考える。 第10～15回：無形文化財や伝統的な街並みから地域の歴史・観光、その街づくりの具体例を学ぶ。
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業単位での回答用紙に記載
フィードバックの方法	次の授業等にてまとめて回答

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	なるべく次の授業の内容等を簡潔にテキスト化 提示した情報内で事前にHP等を確認
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	ジェンダーと現代社会 / Gender and Contemporary Society
時間割コード Course Code	10110
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	石河 敦子
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	石河 敦子 (法学部)
授業の目標	ジェンダーが社会的文化的構造物であることを知るため、ジェンダー構築の歴史を学ぶとともに、それが現在の社会構造にどのように組み込まれ、問題を生じさせているのかを具体例を通して考えます。そして、社会や自分自身に潜むジェンダー問題を考察し、その是正のあり方を模索します。 ・知識・理解の領域 ジェンダー・セクシュアリティに関する知識の理解ができる。 ・技能の領域 情報・知識を論理的に分析し、表現できる。 ・態度・志向性の領域 社会・家族の一員としての意識を持ち、自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。
授業の概要	この授業は、現代的なジェンダー概念が成立するまでの歴史とジェンダーやセクシュアリティに関する現在のさまざまな問題について考えます。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	小レポート 60% 期末レポート 40%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回未満の場合、失格になります。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照すること。
テキスト	加藤秀一『はじめてのジェンダー論』有斐閣ストゥディア, 2017
参考書	ジェンダーで学ぶ社会学〔全訂新版〕伊藤公雄 / 牟田和恵 [編] (世界思想社) 教養のためのセクシュアリティ・スタディーズ 風間孝 / 河口和也 / 守如子 / 赤枝香奈子 [著] (法律文化社) 内閣府『男女共同参画白書』 その他適宜授業内で紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループディスカッションを行う
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問はメールにて対応します。
フィードバックの方法	毎回提出される小レポートのいくつかを共有し、コメントします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業1回につき、準備学習2時間、復習2時間が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 7.課題発見力



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ジェンダー論への導入	テキスト「はじめに」 1時間の予習と3時間の復習を課す	
2	ジェンダー概念を理解する	テキスト「第1章」 2時間の予習と2時間の復習を課す	
3	性の多様性(1)ジェンダー・アイデンティティ	テキスト「第2章」 2時間の予習と2時間の復習を課す	
4	性の多様性(2)性自認と性的指向	テキスト「第3章」 2時間の予習と2時間の復習を課す	
5	結婚	テキスト「第4章」 2時間の予習と2時間の復習を課す	
6	性差の語られ方	テキスト「第5章」 2時間の予習と2時間の復習を課す	
7	DVDで演劇鑑賞、大学生の身近なジェンダーをふりかえる	テキスト「第6章」 2時間の予習と2時間の復習を課す	
8	教育とメディア	テキスト「第7章」 2時間の予習と2時間の復習を課す	
9	恋愛と性行動	テキスト「第8章」 2時間の予習と2時間の復習を課す	
10	リプロダクティブ・ヘルス&ライツ	テキスト「第13章」 2時間の予習と2時間の復習を課す	
11	平和と国際法	テキスト「第9章」 2時間の予習と2時間の復習を課す	
12	平和と日本の法制度	テキスト「第10章」 2時間の予習と2時間の復習を課す	
13	職業とキャリア	テキスト「第11章」 2時間の予習と2時間の復習を課す	
14	ワーク・ライフ・バランス、男性学	テキスト「第12章」 2時間の予習と2時間の復習を課す	
15	まとめ	現代社会のジェンダー問題について学習したことを総括的にふりかえる 1時間の予習と3時間の復習を課す	

開講科目名 Course	人間社会と文化形成 / Cultural Anthropology
時間割コード Course Code	10120
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	長澤 壮平
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	長澤 壮平 (法学部)
授業の目標	<p>暮らしの中で当たり前になっているさまざまな文化について、学術的視点から考察する。私たちが生きる現代日本の文化は、温帯の山岳的地勢、民主主義、産業文明といった限定的な条件のうえに形成されたものにすぎない。さまざまな文化形成のありようを考察することで、公正な視点から文化一般を理解し、さらには結局のところ人間にとって何が大切であり、よりよい世界はいかにして可能か探求する思考を身につけることができる。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な文化の成り立ちや意義を深く理解することができる。</li> <li>・多様な文化についての情報を知ることができる。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当たり前として認識されている文化を考えるうえでの、理論的思考法を身につけることができる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理論的に文化形成を学ぶことで、文化がはらむ諸問題に対して真剣に向き合う態度を身につけることができる。</li> </ul> <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化の多様性を学ぶことで、他の文化や文化形成の歴史について関心意欲をもつことができる。</li> </ul>
授業の概要	<p>人間はその社会的いとなみのなかでさまざまな文化を形成してきた。それらは風土や自然環境のなかで生き抜いていくうえで形成されたもの、信念や創造力にもとづいて形成されたもの、政治経済や科学技術といった文明状況のなかで形成されたものなど、きわめて重層的である。人間の幸福に寄与する文化もあれば、ストレスや危害を加える矛盾に満ちた文化もある。また、今日、環境破壊につながっている文化や、持続可能性に寄与する文化について考える重要性が高まっている。本講義では以上のような文化の重層的で多様なありようについて考察し、現代文明を生き抜くうえでのヒントを探っていく。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	コメントペーパー80% 最終レポート20%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「社会」と「文化」の定義</li> <li>2. 労働と交換 文化生成の基盤を考える</li> <li>3. 利己と利他 協力・貢献・寄付の文化</li> <li>4. 階層と「民族」 構造化された差別の文化</li> <li>5. 宗教文化1 キリスト教文化圏</li> <li>6. 宗教文化2 日本の宗教意識</li> <li>7. ポピュラー音楽文化</li> <li>8. 伝統的精神文化と現代映像文化</li> <li>9. 戦前から戦後へ 「イエ」の放棄と未来への希望</li> <li>10. 葬送文化の衰退</li> <li>11. 「美」がつくる文化</li> <li>12. 儀礼文化を考える</li> <li>13. 結婚文化の変容</li> <li>14. 構築される「至高」の祝祭</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応します。
フィードバックの方法	翌週の講義で取り上げ、議論のテーマとする場合がある。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義の内容に即したテキストを各自選択し、2時間の予習と2時間の復習を課す
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<ol style="list-style-type: none"> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> </ol>
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	政治の世界 / The World of Politics
時間割コード Course Code	10130
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	高橋 勝也
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高橋 勝也 (法学部)
授業の目標	1 政治への興味・関心を高め、ニュース(時事問題)に親しみ、自ら理解できるようにする。 2 「政治」と「政治学」を理解し、現代社会の諸課題について、どのような解決方法が望ましいかを考察できるようにする。 3 人間社会における対立と合意形成について考察できるようにする。
授業の概要	「政治」とは、人間社会の意見や利害の対立を調整して、秩序を維持していこうとすることである。よって、「政治学」とは、人々がより幸せで満足のいく生活を送るためにはどのような政治が行われるべきか、研究する学問になる。知識の吸収だけでは、どのような政治が行われるべきかを考察できない。議論を中心とした探究活動を活発に行う。
評価方法	レポート(100%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	第1回：政治とは何か？ 第2回：選挙、投票の意義 第3回：「投票率向上」の探究 第4回：「原子力発電」の探究 第5回：「アフターマティブ・アクション」の探究 第6回：「グローバル化と反グローバル化」の探究 第7回：「日本とアメリカの外交戦略」の探究 第8回：「サマータイム」の探究 第9回：「同性婚」の探究 第10回：「ベーシック・インカム」の探究 第11回：「職業選択の自由、居住の自由」の探究 第12回：「生命倫理」の探究 第13回：「司法取引」の探究 第14回：「サマータイム」の探究 第15回：現代社会の諸課題とどのように向き合うか？
テキスト	『恋ではなく愛で学ぶ政治と経済』高橋勝也(清水書院)
参考書	『ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編』(毎日新聞出版)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	イマキクを活用した議論を毎時間、取り入れます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	毎時間、質問対応の時間を設定する。 オフィスアワー以外の時間帯でも、研究室にて受け付ける。
フィードバックの方法	毎時間、15分間程度フィードバックの時間を設定して、リアクションペーパーの提出により担当教員が状況を把握する。 次の時間の対面による指導の他、メール、グーグルクラスルームを活用してフィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	現代社会における諸課題を把握しておく必要があるため、マスコミュニケーションツールを活用して、ニュースに触れておく。（予習：合計30時間） 現代社会における諸課題と向き合い、解決に向けて方策について検討する。（復習&授業準備：合計30時間）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 5. ジェンダー平等を実現しよう 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナースhipで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6. 行動持続力 7. 課題発見力 9. 実践力

開講科目名 Course	政治の世界 / The World of Politics
時間割コード Course Code	10131
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	水谷 仁
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水谷 仁 (法学部)
授業の目標	政治は私たち自身と密接な関りをもたざるをえないものです。そのため、この授業を通して、政治についての基礎的な知識や様々な考え方を身につけ、政治に関して主体的に考え、自ら行動できるようになることを目標とします。
授業の概要	この授業では、「政治とは何か」「政治はどのように行われるのか」「政治を行う手段にはどのようなものがあるのか」「どのような政治が行われるべきなのか」「政治が行われるうえで、どのような手段が用いられてはならないのか」「どのような政治は行われてはならないのか」など、政治の世界と切っては切れない問題について、概念・理論・制度・歴史などから丁寧に説明していきます。 この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。
評価方法	期末レポート(100%)で評価します。ただし、受講態度によって加点or減点を行います。特に、授業妨害に当たる行為(私語、飲食など)は大幅な減点となるので十分注意してください。授業の進め方については初回ガイダンスで説明するので注意してください。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 ガイダンス：なぜいま政治を学ぶのか 第2回 権力：政治権力と権力分立 第3回 政治過程：政治システムと選挙 第4回 執政制度：議院内閣制と大統領制 第5回 二つの政府：中央政府と地方政府 第6回 政党：政党の機能と政党システム 第7回 官僚制：官僚制の特徴と逆機能 第8回 国家：主権国家と国民国家・ナショナリズム 第9回 ガバメントからガバナンスへ：福祉国家からローカル・ガバナンスへ 第10回 ポピュリズム：適切な国民の政治参加に向けて 第11回 支配の正統性：正統性のタイプと見直し 第12回 「行政国家」の歴史的事例(1)：ヒトラーの政権掌握 第13回 「行政国家」の歴史的事例(2)：ナチス・ドイツの政治・行政 第14回 「行政国家」の歴史的事例(3)：「行政国家」による悲劇 第15回 まとめ 受講生の興味・関心や社会情勢の変化によって、上記の授業計画は一部変更になることがあります。
テキスト	レジュメを配布します。

参考書	<p>授業全体を通して関係するもの（個別のものは適宜紹介します）  （個別のテーマの参考文献については、各回の授業で紹介しします。）  佐々木毅『政治学講義』（東京大学出版会、2005年）  久米郁男・川出良枝・古城住子・田中愛治・真淵勝『政治学』（有斐閣、2010年）  永井史男・水島治郎・品田裕編『政治学入門』（ミネルヴァ書房、2019年）  田村哲樹・近藤康史・堀江孝司『政治学』（勤草書房、2020年）  杉田敦『政治的思考』（岩波書店、2013年）  新川敏光・大西裕・大矢根聡・田村哲樹『政治学』（有斐閣、2017年）  吉野篤編『政治学〔第2版〕』（弘文堂、2018年）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問やコメントは、授業後もしくはオフィスアワーに受け付けます。
フィードバックの方法	受け付けた質問やコメントは、次回以降の授業でフィードバックします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習（1時間）・復習（1時間）として、毎日新聞を読んだりニュースを見たりする時間を取ると、授業内容がとてもよく定着します。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10. 人や国の不平等をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力

開講科目名 Course	歴史との対話 / Dialogue with History
時間割コード Course Code	10140
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	水谷 仁
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水谷 仁 (法学部)
授業の目標	歴史とは、単なる過去に起こった出来事のことではなく、「過去と現在の対話」(E. H. カー『歴史とは何か』)です。ただし、一口に「歴史」といっても、様々な切り口があることはたしかです。そこでこの授業では、人間が生きていくうえで避けて通ることのできない政治という営みに着目して、歴史との対話を試みます。私たちもその一部である歴史との対話を通して、私たちの過去・現在・未来を考えていくことが、この授業の目的です。
授業の概要	この授業は「政治思想史」という学問を通して歴史との対話を行います。具体的には、「政治思想史」の講義を行います。政治思想史とは、「政治とは何か」「政治は何のためのものか」「政治はどのように行われるべきなのか」といった政治をめぐる様々な問いについて、過去の思想家たちが考えていたことを学ぶ学問です。 政治は、私たちの生存、日常生活、人生、そして生きるということと、否が応にも関係せざるをえないものです。この授業では、こうした政治と私たちの生との関係について、過去の思想家たちの思想と彼らが生きた時代の政治状況とを結びつけながら学んでいきます。過去の思想家の考えは、ときには古臭いものや当然のものに感じることもあるかもしれませんが、しかし彼らの政治思想は、そのほとんどが、彼らの置かれた歴史的な状況下で、彼ら自身が生きていく中で直面した問題との命がけの格闘から生み出されてきたものです。彼らの政治思想から、時代や地域を超え、現代の日本で生きる私たち自身が直面する問題を乗り越え、生き抜いていくためのヒントを学び取っていきましょう。 今年度は、特に近現代以降の政治思想を中心的に取り扱います。 この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照してください。
評価方法	期末レポート(100%)で評価します。ただし、受講態度によって加点or減点を行います。特に、授業妨害に当たる行為(私語、飲食など)は大幅な減点となるので十分注意してください。授業の進め方については初回ガイダンスで説明するので注意してください。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。



授業計画	<p>第1回 ガイダンス：政治思想史を通じた歴史との対話</p> <p>第2回 古代の政治思想（古代ギリシャの民主主義）</p> <p>第3回 古代の政治思想（古代ローマの共和主義）</p> <p>第4回 近代の政治思想（マキアヴェリ）</p> <p>第5回 近現代の政治思想（マルクスI）</p> <p>第6回 近現代の政治思想（マルクスII）</p> <p>第7回 近現代の政治思想（ヴェーバーI）</p> <p>第8回 近現代の政治思想（ヴェーバーII）</p> <p>第9回 現代の政治思想（シュミットI）</p> <p>第10回 現代の政治思想（シュミットII）</p> <p>第11回 現代の政治思想（レーヴィットI）</p> <p>第12回 現代の政治思想（レーヴィットII）</p> <p>第13回 現代の政治思想（アーレントI）</p> <p>第14回 現代の政治思想（アーレントII）</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>受講生の興味・関心によって、上記の授業計画は一部変更になることがあります。</p>
テキスト	レジュメを配布します。
参考書	<p>授業全体を通して関係するもの（個別のものは適宜紹介します）</p> <p>小笠原弘親他『政治思想史』（有斐閣、1987年）</p> <p>中谷猛他『概説西洋政治思想史』（ミネルヴァ書房、1994年）</p> <p>佐々木毅他『西洋政治思想史』（北樹出版、1995年）</p> <p>藤原保信他『西洋政治思想史 1 2』（新評論、1995、1996年）</p> <p>宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013年）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問やコメントは、授業後もしくはオフィスアワーに受け付けます。
フィードバックの方法	受け付けた質問やコメントは、次回以降の授業でフィードバックします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	参考書の該当箇所を読んで予習（1時間）し、授業中の説明と参考文献を基に授業内容を自分で説明できるように復習（1時間）すると、内容理解が非常に深まります。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう</p> <p>3.すべての人に健康と福祉を</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>16.平和と公正をすべての人に</p> <p>17.パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>2.情報分析力</p> <p>3.課題発見力</p> <p>4.構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>1.親和力</p> <p>2.協同力</p> <p>4.感情制御力</p> <p>6.行動持続力</p> <p>7.課題発見力</p> <p>9.実践力</p>

開講科目名 Course	歴史との対話 / Dialogue with History
時間割コード Course Code	10141
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	水谷 仁
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水谷 仁 (法学部)
授業の目標	歴史とは、単なる過去に起こった出来事のことではなく、「過去と現在の対話」(E. H. カー『歴史とは何か』)です。ただし、一口に「歴史」といっても、様々な切り口があることはたしかです。そこでこの授業では、人間が生きていくうえで避けて通ることのできない政治という営みに着目して、歴史との対話を試みます。私たちもその一部である歴史との対話を通して、私たちの過去・現在・未来を考えていくことが、この授業の目的です。
授業の概要	この授業は「政治思想史」という学問を通して歴史との対話を行います。具体的には、「政治思想史」の講義を行います。政治思想史とは、「政治とは何か」「政治は何のためのものか」「政治はどのように行われるべきなのか」といった政治をめぐる様々な問いについて、過去の思想家たちが考えていたことを学ぶ学問です。 政治は、私たちの生存、日常生活、人生、そして生きるということと、否が応にも関係せざるをえないものです。この授業では、こうした政治と私たちの生との関係について、過去の思想家たちの思想と彼らが生きた時代の政治状況とを結びつけながら学んでいきます。過去の思想家の考えは、ときには古臭いものや当然のものに感じることもあるかもしれませんが、しかし彼らの政治思想は、そのほとんどが、彼らの置かれた歴史的な状況下で、彼ら自身が生きていく中で直面した問題との命がけの格闘から生み出されてきたものです。彼らの政治思想から、時代や地域を超え、現代の日本で生きる私たち自身が直面する問題を乗り越え、生き抜いていくためのヒントを学び取っていきましょう。 今年度は、特に近現代以降の政治思想を中心的に取り扱います。 この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照してください。
評価方法	期末レポート(100%)で評価します。ただし、受講態度によって加点or減点を行います。特に、授業妨害に当たる行為(私語、飲食など)は大幅な減点となるので十分注意してください。授業の進め方については初回ガイダンスで説明するので注意してください。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第1回 ガイダンス：政治思想史を通した歴史との対話</p> <p>第2回 古代の政治思想（古代ギリシャの民主主義）</p> <p>第3回 古代の政治思想（古代ローマの共和主義）</p> <p>第4回 近代の政治思想（マキアヴェリ）</p> <p>第5回 近現代の政治思想（マルクスⅠ）</p> <p>第6回 近現代の政治思想（マルクスⅡ）</p> <p>第7回 近現代の政治思想（ヴェーバーⅠ）</p> <p>第8回 近現代の政治思想（ヴェーバーⅡ）</p> <p>第9回 現代の政治思想（シュミットⅠ）</p> <p>第10回 現代の政治思想（シュミットⅡ）</p> <p>第11回 現代の政治思想（レーヴィットⅠ）</p> <p>第12回 現代の政治思想（レーヴィットⅡ）</p> <p>第13回 現代の政治思想（アーレントⅠ）</p> <p>第14回 現代の政治思想（アーレントⅡ）</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>受講生の興味・関心によって、上記の授業計画は一部変更になることがあります。</p>
テキスト	レジュメを配布します。
参考書	<p>授業全体を通して関係するもの（個別のものは適宜紹介します）</p> <p>小笠原弘親他『政治思想史』（有斐閣、1987年）</p> <p>中谷猛他『概説西洋政治思想史』（ミネルヴァ書房、1994年）</p> <p>佐々木毅他『西洋政治思想史』（北樹出版、1995年）</p> <p>藤原保信他『西洋政治思想史 1 2』（新評論、1995、1996年）</p> <p>宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013年）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問やコメントは、授業後もしくはオフィスアワーに受け付けます。
フィードバックの方法	受け付けた質問やコメントは、次回以降の授業でフィードバックします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	参考書の該当箇所を読んで予習（1時間）し、授業中の説明と参考文献を基に授業内容を自分で説明できるように復習（1時間）すると、内容理解が非常に深まります。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう</p> <p>3.すべての人に健康と福祉を</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>16.平和と公正をすべての人に</p> <p>17.パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>2.情報分析力</p> <p>3.課題発見力</p> <p>4.構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>1.親和力</p> <p>2.協同力</p> <p>3.統率力</p> <p>4.感情制御力</p> <p>6.行動持続力</p> <p>7.課題発見力</p> <p>8.計画立案力</p>

開講科目名 Course	情報と社会行動の科学 / Informatics and the Science of Social Behaviors
時間割コード Course Code	10150
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	大谷 尚
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大谷 尚 (教育保育学科)
授業の目標	<p>社会の急速な情報化によって、人々の行動が変わってきているだけでなく、人々の価値観や社会的な規範も徐々に変化し続けている。またそこには、さまざまな問題や課題が生じている。この授業では、まず情報技術の基礎について学ぶ。つづいて社会の情報化のさまざまな事例について学びながら、それらが社会とそこでの人々の行動に与える影響について理解する。これらを通して、情報化社会の人間の行動について理解する。またこの理解をとおして、将来の一層の情報化によって生じる問題や課題を予測するとともに、それに対応するための考え方の基礎を獲得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報技術の基礎について理解し説明できる。</li> <li>・情報化による人々の行動や社会の変化の具体的な例について理解し説明できる。</li> <li>・情報化のもたらす問題や課題について理解し説明できる。</li> <li>・情報化社会における非情報技術の意義について理解し説明できる。</li> <li>・今後の社会の情報化によって生じる可能性のあることについて自分で予測し考え説明することができる。</li> </ul>
授業の概要	<p>他に比べるもののないほどの情報技術の急速な発展について理解する。文字情報や音声情報の記録の仕組みについて理解する。そのような情報技術が人々の生活に与える影響について事例を通して理解する。また情報技術が引き起こす問題とそれへの社会の対応について理解する。情報技術に囲まれた社会において、非情報技術にどのような意義があるかを理解する。これらを各回のトピックとし、授業者は各回のトピックに応じた具体的な事例を紹介する。その際、映像資料などを用いるように努める。受講者はそれに関連する自身の体験等について、受講者同士少人数で、または隣席の受講者と情報交換し、その問題や課題を検討した上で、それを他の受講者全体に紹介する。これらを通して、各回のトピックについての理解を得、それを深める。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参加（発言や討論）つまり授業という「学習協同体」の学習目標の達成への貢献度、課題提出、期末試験により総合的に行う（授業とは受講者と授業者とで構成する「学習協同体」である。受講者と授業者の全員に、この学習協同体の学習目標達成に貢献する責任があり、その責任を積極的に果たす姿勢が求められる。その意志の無い者は受講してはならない。）</li> <li>・出席と授業という学習協同体への貢献度（学習態度・姿勢（毎回の課題を含む））を60%、期末試験を40%とする。</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全授業回数の3分の1を超えて欠席した場合（合計6回欠席した場合）は失格となる。</li> <li>・出席不正（教室に居ないのに居ると見せかけることや、トイレに行くと言って教室を出て帰って来ないなど）を行った受講者はその時点で失格とする。</li> </ul>

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーションとイントロダクション：今のパソコンは受講者が生まれた頃のパソコンと比べて何倍高性能なのか？他に比べるものがないほどの情報技術の急速な発展について理解する。</li> <li>2. USBメモリー1個に新聞何日分が入るのか？文字情報の記録の仕組みを理解する。</li> <li>3. 音声や音楽はスマホの中でデータとしてどのように記録されているのか？音声情報の記録の仕組みを理解する。</li> <li>4. ケータイ・スマホは若者に何を与え若者から何を奪うのか？若者の暮らしへの携帯情報端末の影響を考える。</li> <li>5. コンパガチャはどうして違法とされたのか？ソーシャルゲームの原理的・社会的問題を検討し理解する。</li> <li>6. 仮想通貨のお金を現金でやりとりできるのか？ゲームマネーのリアルマネートレードの問題を考える。</li> <li>7. インターネットは人権にとって敵か味方か？インターネットによる人権侵害と人権擁護について考える。</li> <li>8. ネットで誰かを誹謗中傷した者はどう特定されるのか？投稿者の特定のためのプロバイダ責任制限法の意義を理解する。</li> <li>9. 企業はなぜ就活生の裏アカ特定をしようとするのか？ネット上の多重人格的行為の危険性について理解する。</li> <li>10. カーシェアはどんな仕組みで借りられ何をもちたらすのか？非対面でのカーシェアを可能にするIIOT(Internet of Thingsの時代)を理解する。</li> <li>11. 最新の情報テクノロジーは今後の社会をどう変えるか？スーパーコンピュータ、ビッグデータ、AI、量子コンピュータなどが社会に与える影響を理解する。</li> <li>12. Society 5.0の時代におけるSociety 4.0までの古いメディアの意義は何か？Society 4.0までのメディアの意義を考える。</li> <li>13. ペルーのボラ族の伝統的通信手段である「マンガワレ」という太鼓がスマホより優れている点は何か？「非」情報メディアに固有の機能を考える。</li> <li>14. 中国チベット自治区の巡回映画隊は何を運んでいるのか？人と社会にとっての「非」情報メディアと人がそれを運ぶの意義を考える。</li> <li>15. 情報化は社会をどう変えていくのか？授業全体を振り返り受講者が全体から得たものを確認する。</li> </ol>
テキスト	
参考書	・必要に応じて授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業者の発問に対する受講者の発言や受講者同士の対話・話し合いとその発表に基づく討論を行う。</li> <li>・従って、積極的に発言する意志の無い者は受講しないこと。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	・2010-2012の3年度に渡る名古屋大学教育学部附属中・高等学校長としての実務経験を、本授業の学校教育に関する内容に反映させる。
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・随時対応</li> <li>・メール対応</li> </ul>
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の課題に対するフィードバックは授業のなかで行う。</li> <li>・必要に応じてコメントや助言をメールでも行う。</li> </ul>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・準備学習として、シラバスに示された各回のトピックについて図書、雑誌、インターネット等で調べ、予備知識と疑問を持って授業に参加すること。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.情報収集力</li> <li>2.情報分析力</li> <li>3.課題発見力</li> <li>4.構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	情報と社会行動の科学 / Informatics and the Science of Social Behaviors
時間割コード Course Code	10151
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	大谷 尚
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大谷 尚 (教育保育学科)
授業の目標	<p>社会の急速な情報化によって、人々の行動が変わってきているだけでなく、人々の価値観や社会的な規範も徐々に変化し続けている。またそこには、さまざまな問題や課題が生じている。この授業では、まず情報技術の基礎について学ぶ。つづいて社会の情報化のさまざまな事例について学びながら、それらが社会とそこでの人々の行動に与える影響について理解する。これらを通して、情報化社会の人間の行動について理解する。またこの理解をとおして、将来の一層の情報化によって生じる問題や課題を予測するとともに、それに対応するための考え方の基礎を獲得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報技術の基礎について理解し説明できる。</li> <li>・情報化による人々の行動や社会の変化の具体的な例について理解し説明できる。</li> <li>・情報化のもたらす問題や課題について理解し説明できる。</li> <li>・情報化社会における非情報技術の意義について理解し説明できる。</li> <li>・今後の社会の情報化によって生じる可能性のあることについて自分で予測し考え説明することができる。</li> </ul>
授業の概要	<p>他に比べるもののないほどの情報技術の急速な発展について理解する。文字情報や音声情報の記録の仕組みについて理解する。そのような情報技術が人々の生活に与える影響について事例を通して理解する。また情報技術が引き起こす問題とそれへの社会の対応について理解する。情報技術に囲まれた社会において、非情報技術にどのような意義があるかを理解する。これらを各回のトピックとし、授業者は各回のトピックに応じた具体的な事例を紹介する。その際、映像資料などを用いるように努める。受講者はそれに関連する自身の体験等について、受講者同士少人数で、または隣席の受講者と情報交換し、その問題や課題を検討した上で、それを他の受講者全体に紹介する。これらを通して、各回のトピックについての理解を得、それを深める。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参加（発言や討論）つまり授業という「学習協同体」の学習目標の達成への貢献度、課題提出、期末試験により総合的に行う（授業とは受講者と授業者とで構成する「学習協同体」である。受講者と授業者の全員に、この学習協同体の学習目標達成に貢献する責任があり、その責任を積極的に果たす姿勢が求められる。その意志の無い者は受講してはならない。）</li> <li>・出席と授業という学習協同体への貢献度（学習態度・姿勢（毎回の課題を含む））を60%、期末試験を40%とする。</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全授業回数数の3分の1を超えて欠席した場合（合計6回欠席した場合）は失格となる。</li> <li>・出席不正（教室に居ないのに居ると見せかけることや、トイレに行くと言って教室を出て帰って来ないなど）を行った受講者はその時点で失格とする。</li> </ul>

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーションとイントロダクション：今のパソコンは受講者が生まれた頃のパソコンと比べて何倍高性能なのか？ 他に比べるものがないほどの情報技術の急速な発展について理解する。</li> <li>2. USBメモリー1個に新聞何日分が入るのか？ 文字情報の記録の仕組みを理解する。</li> <li>3. 音声や音楽はスマホの中でデータとしてどのように記録されているのか？ 音声情報の記録の仕組みを理解する。</li> <li>4. ケータイ・スマホは若者に何を与え若者から何を奪うのか？ 若者の暮らしへの携帯情報端末の影響を考える。</li> <li>5. コンパガチャはどうして違法とされたのか？ ソーシャルゲームの原理的・社会的問題を検討し理解する。</li> <li>6. 仮想通貨のお金を現金でやりとりできるのか？ ゲームマネーのリアルマネートレードの問題を考える。</li> <li>7. インターネットは人権にとって敵か味方か？ インターネットによる人権侵害と人権擁護について考える。</li> <li>8. ネットで誰かを誹謗中傷した者はどう特定されるのか？ 投稿者の特定のためのプロバイダ責任制限法の意義を理解する。</li> <li>9. 企業はなぜ就活生の裏アカ特定をしようとするのか？ ネット上の多重人格的行為の危険性について理解する。</li> <li>10. カーシェアはどんな仕組みで借りられ何をもたらすのか？ 非対面でのカーシェアを可能にするIIOT(Internet of Thingsの時代)を理解する。</li> <li>11. 最新の情報テクノロジーは今後の社会をどう変えるか？ スーパーコンピュータ、ビッグデータ、AI、量子コンピュータなどが社会に与える影響を理解する。</li> <li>12. Society 5.0の時代における Society 4.0までの古いメディアの意義は何か？ Society 4.0までのメディアの意義を考える。</li> <li>13. ペルーのボラ族の伝統的通信手段である「マンガワレ」という太鼓がスマホより優れている点は何か？ 「非」情報メディアに固有の機能を考える。</li> <li>14. 中国チベット自治区の巡回映画隊は何を運んでいるのか？ 人と社会にとっての「非」情報メディアと人がそれを運ぶの意義を考える。</li> <li>15. 情報化は社会をどう変えていくのか？ 授業全体を振り返り受講者が全体から得たものを確認する。</li> </ol>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業者の発問に対する受講者の発言や受講者同士の対話・話し合いとその発表に基づく討論を行う。</li> <li>・ 従って、積極的に発言する意志の無い者は受講しないこと。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	・ 2010-2012の3年度に渡る名古屋大学教育学部附属中・高等学校長としての実務経験を、本授業の学校教育に関する内容に反映させる。
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 随時対応</li> <li>・ メール対応</li> </ul>
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎回の課題に対するフィードバックは授業のなかで行う。</li> <li>・ 必要に応じてコメントや助言をメールでも行う。</li> </ul>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・ 準備学習として、シラバスに示された各回のトピックについて図書、雑誌、インターネット等で調べ、予備知識と疑問を持って授業に参加すること。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	17. パートナースHIPで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力

開講科目名 Course	情報と社会行動の科学 / Informatics and the Science of Social Behaviors
時間割コード Course Code	10152
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	大谷 尚
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	6 5 B大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大谷 尚 (教育保育学科)
授業の目標	<p>社会の急速な情報化によって、人々の行動が変わってきているだけでなく、人々の価値観や社会的な規範も徐々に変化し続けている。またそこには、さまざまな問題や課題が生じている。この授業では、まず情報技術の基礎について学ぶ。つづいて社会の情報化のさまざまな事例について学びながら、それらが社会とそこでの人々の行動に与える影響について理解する。これらを通して、情報化社会の人間の行動について理解する。またこの理解をとおして、将来の一層の情報化によって生じる問題や課題を予測するとともに、それに対応するための考え方の基礎を獲得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報技術の基礎について理解し説明できる。</li> <li>・情報化による人々の行動や社会の変化の具体的な例について理解し説明できる。</li> <li>・情報化のもたらす問題や課題について理解し説明できる。</li> <li>・情報化社会における非情報技術の意義について理解し説明できる。</li> <li>・今後の社会の情報化によって生じる可能性のあることについて自分で予測し考え説明することができる。</li> </ul>
授業の概要	<p>他に比べるもののないほどの情報技術の急速な発展について理解する。文字情報や音声情報の記録の仕組みについて理解する。そのような情報技術が人々の生活に与える影響について事例を通して理解する。また情報技術が引き起こす問題とそれへの社会の対応について理解する。情報技術に囲まれた社会において、非情報技術にどのような意義があるかを理解する。これらを各回のトピックとし、授業者は各回のトピックに応じた具体的な事例を紹介する。その際、映像資料などを用いるように努める。受講者はそれに関連する自身の体験等について、受講者同士少人数で、または隣席の受講者と情報交換し、その問題や課題を検討した上で、それを他の受講者全体に紹介する。これらを通して、各回のトピックについての理解を得、それを深める。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参加（発言や討論）つまり授業という「学習協団体」の学習目標の達成への貢献度、課題提出、期末試験により総合的に行う（授業とは受講者と授業者とで構成する「学習協団体」である。受講者と授業者の全員に、この学習協団体の学習目標達成に貢献する責任があり、その責任を積極的に果たす姿勢が求められる。その意志の無い者は受講してはならない。）</li> <li>・出席と授業という学習協団体への貢献度（学習態度・姿勢（毎回の課題を含む））を60%、期末試験を40%とする。</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全授業回数数の3分の1を超えて欠席した場合（合計6回欠席した場合）は失格となる。</li> <li>・出席不正（教室に居ないのに居ると見せかけることや、トイレに行くと言って教室を出て帰って来ないなど）を行った受講者はその時点で失格とする。</li> </ul>



授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーションとイントロダクション：今のパソコンは受講者が生まれた頃のパソコンと比べて何倍高性能なのか？ 他に比べるものがないほどの情報技術の急速な発展について理解する。</li> <li>2. USBメモリー1個に新聞何日分が入るのか？ 文字情報の記録の仕組みを理解する。</li> <li>3. 音声や音楽はスマホの中でデータとしてどのように記録されているのか？ 音声情報の記録の仕組みを理解する。</li> <li>4. ケータイ・スマホは若者に何を与え若者から何を奪うのか？ 若者の暮らしへの携帯情報端末の影響を考える。</li> <li>5. コンパガチャはどうして違法とされたのか？ ソーシャルゲームの原理的・社会的問題を検討し理解する。</li> <li>6. 仮想通貨のお金を現金でやりとりできるのか？ ゲームマネーのリアルマネートレードの問題を考える。</li> <li>7. インターネットは人権にとって敵か味方か？ インターネットによる人権侵害と人権擁護について考える。</li> <li>8. ネットで誰かを誹謗中傷した者はどう特定されるのか？ 投稿者の特定のためのプロバイダ責任制限法の意義を理解する。</li> <li>9. 企業はなぜ就活生の裏アカ特定をしようとするのか？ ネット上の多重人格的行為の危険性について理解する。</li> <li>10. カーシェアはどんな仕組みで借りられ何をもたらすのか？ 非対面でのカーシェアを可能にするIIOT(Internet of Thingsの時代)を理解する。</li> <li>11. 最新の情報テクノロジーは今後の社会をどう変えるか？ スーパーコンピュータ、ビッグデータ、AI、量子コンピュータなどが社会に与える影響を理解する。</li> <li>12. Society 5.0の時代における Society 4.0までの古いメディアの意義は何か？ Society 4.0までのメディアの意義を考える。</li> <li>13. ペルーのボラ族の伝統的通信手段である「マンガワレ」という太鼓がスマホより優れている点は何か？ 「非」情報メディアに固有の機能を考える。</li> <li>14. 中国チベット自治区の巡回映画隊は何を運んでいるのか？ 人と社会にとっての「非」情報メディアと人がそれを運ぶの意義を考える。</li> <li>15. 情報化は社会をどう変えていくのか？ 授業全体を振り返り受講者が全体から得たものを確認する。</li> </ol>
テキスト	
参考書	・必要に応じて授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業者の発問に対する受講者の発言や受講者同士の対話・話し合いとその発表に基づく討論を行う。</li> <li>・従って、積極的に発言する意志の無い者は受講しないこと。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業者の発問に対する受講者の発言や受講者同士の対話・話し合いとその発表に基づく討論を行う。</li> <li>・従って、積極的に発言する意志の無い者は受講しないこと。</li> </ul>
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・随時対応</li> <li>・メール対応</li> </ul>
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の課題に対するフィードバックは授業のなかで行う。</li> <li>・必要に応じてコメントや助言をメールでも行う。</li> </ul>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・準備学習として、シラバスに示された各回のトピックについて図書、雑誌、インターネット等で調べ、予備知識と疑問を持って授業に参加すること。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.情報収集力</li> <li>2.情報分析力</li> <li>3.課題発見力</li> <li>4.構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	情報と社会行動の科学 / Informatics and the Science of Social Behaviors
時間割コード Course Code	10153
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	大谷 尚
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	6 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大谷 尚 (教育保育学科)
授業の目標	<p>社会の急速な情報化によって、人々の行動が変わってきているだけでなく、人々の価値観や社会的な規範も徐々に変化し続けている。またそこには、さまざまな問題や課題が生じている。この授業では、まず情報技術の基礎について学ぶ。つづいて社会の情報化のさまざまな事例について学びながら、それらが社会とそこでの人々の行動に与える影響について理解する。これらを通して、情報化社会の人間の行動について理解する。またこの理解をとおして、将来の一層の情報化によって生じる問題や課題を予測するとともに、それに対応するための考え方の基礎を獲得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報技術の基礎について理解し説明できる。</li> <li>・ 情報化による人々の行動や社会の変化の具体的な例について理解し説明できる。</li> <li>・ 情報化のもたらす問題や課題について理解し説明できる。</li> <li>・ 情報化社会における非情報技術の意義について理解し説明できる。</li> <li>・ 今後の社会の情報化によって生じる可能性のあることについて自分で予測し考え説明することができる。</li> </ul>
授業の概要	<p>他に比べるもののないほどの情報技術の急速な発展について理解する。文字情報や音声情報の記録の仕組みについて理解する。そのような情報技術が人々の生活に与える影響について事例を通して理解する。また情報技術が引き起こす問題とそれへの社会の対応について理解する。情報技術に囲まれた社会において、非情報技術にどのような意義があるかを理解する。これらを各回のトピックとし、授業者は各回のトピックに応じた具体的な事例を紹介する。その際、映像資料などを用いるように努める。受講者はそれに関連する自身の体験等について、受講者同士少人数で、または隣席の受講者と情報交換し、その問題や課題を検討した上で、それを他の受講者全体に紹介する。これらを通して、各回のトピックについての理解を得、それを深める。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業参加（発言や討論）つまり授業という「学習協同体」の学習目標の達成への貢献度、課題提出、期末試験により総合的に行う（授業とは受講者と授業者とで構成する「学習協同体」である。受講者と授業者の全員に、この学習協同体の学習目標達成に貢献する責任があり、その責任を積極的に果たす姿勢が求められる。その意志の無い者は受講してはならない。）</li> <li>・ 出席と授業という学習協同体への貢献度（学習態度・姿勢（毎回の課題を含む））を60%、期末試験を40%とする。</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全授業回数数の3分の1を超えて欠席した場合（合計6回欠席した場合）は失格となる。</li> <li>・ 出席不正（教室に居ないのに居ると見せかけることや、トイレに行くと言って教室を出て帰って来ないなど）を行った受講者はその時点で失格とする。</li> </ul>

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーションとイントロダクション：今のパソコンは受講者が生まれた頃のパソコンと比べて何倍高性能なのか？ 他に比べるものがないほどの情報技術の急速な発展について理解する。</li> <li>2. USBメモリー1個に新聞何日分が入るのか？ 文字情報の記録の仕組みを理解する。</li> <li>3. 音声や音楽はスマホの中でデータとしてどのように記録されているのか？ 音声情報の記録の仕組みを理解する。</li> <li>4. ケータイ・スマホは若者に何を与え若者から何を奪うのか？ 若者の暮らしへの携帯情報端末の影響を考える。</li> <li>5. コンパガチャはどうして違法とされたのか？ ソーシャルゲームの原理的・社会的問題を検討し理解する。</li> <li>6. 仮想通貨のお金を現金でやりとりできるのか？ ゲームマネーのリアルマネートレードの問題を考える。</li> <li>7. インターネットは人権にとって敵か味方か？ インターネットによる人権侵害と人権擁護について考える。</li> <li>8. ネットで誰かを誹謗中傷した者はどう特定されるのか？ 投稿者の特定のためのプロバイダ責任制限法の意義を理解する。</li> <li>9. 企業はなぜ就活生の裏アカ特定をしようとするのか？ ネット上の多重人格的行為の危険性について理解する。</li> <li>10. カーシェアはどんな仕組みで借りられ何をもたらすのか？ 非対面でのカーシェアを可能にするIIOT(Internet of Thingsの時代)を理解する。</li> <li>11. 最新の情報テクノロジーは今後の社会をどう変えるか？ スーパーコンピュータ、ビッグデータ、AI、量子コンピュータなどが社会に与える影響を理解する。</li> <li>12. Society 5.0の時代における Society 4.0までの古いメディアの意義は何か？ Society 4.0までのメディアの意義を考える。</li> <li>13. ペルーのボラ族の伝統的通信手段である「マンガワレ」という太鼓がスマホより優れている点は何か？ 「非」情報メディアに固有の機能を考える。</li> <li>14. 中国チベット自治区の巡回映画隊は何を運んでいるのか？ 人と社会にとっての「非」情報メディアと人がそれを運ぶの意義を考える。</li> <li>15. 情報化は社会をどう変えていくのか？ 授業全体を振り返り受講者が全体から得たものを確認する。</li> </ol>
テキスト	
参考書	・必要に応じて授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・授業者の発問に対する受講者の発言や受講者同士の対話・話し合いとその発表に基づく討論を行う。 ・従って、積極的に発言する意志の無い者は受講しないこと。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	・2010-2012の3年度に渡る名古屋大学教育学部附属中・高等学校長としての実務経験を、本授業の学校教育に関する内容に反映させる。
質問への対応方法	・随時対応 ・メール対応
フィードバックの方法	・毎回の課題に対するフィードバックは授業のなかで行う。 ・必要に応じてコメントや助言をメールでも行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・準備学習として、シラバスに示された各回のトピックについて図書、雑誌、インターネット等で調べ、予備知識と疑問を持って授業に参加すること。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	17. パートナースhipで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力

開講科目名 Course	日本史 / Japanese History
時間割コード Course Code	10160
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	中村 真咲
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 真咲 (経営学部)
授業の目標	1. 歴史を学ぶ意味を理解する。 2. 歴史教育の意義を理解する。 3. 日本史の論点を理解する。 4. 対話する力、考える力、考えを表現する力を身につける。
授業の概要	1. 日本史の流れと時代ごとの論点を理解する。 2. 文献を使って日本史に必要な事項を調べるための方法を学ぶ。 3. 日本史を外国史との比較から特徴を理解する比較史の視点を学ぶ。 4. 日本史について自分の考えを他者に説明できるようになる。
評価方法	授業における課題提出と期末試験により、総合的に成績評価します。 授業への参加などの学習態度 (毎回の課題) は75点、期末レポートの結果は25点という割合で成績を判定します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合には、失格とします。
授業計画	第1回．歴史を学ぶ意味、感染症の歴史から考える 第2回．日本の古代国家 第3回．律令国家の光と影 第4回．摂関政治の時代 第5回．武士の時代 第6回．鎌倉幕府 第7回．南北朝の動乱 第8回．南北朝の統一から応仁の乱へ 第9回．戦国時代 第10回．織豊政権 第11回．江戸幕府 第12回．江戸時代の社会と文化 第13回．江戸幕府の動揺 第14回．幕末・維新 第15回．日本近代史の論点
テキスト	とくに定めない
参考書	木村茂光他編『大学でまなぶ日本の歴史』（吉川弘文館、2016年） 外園豊基他編『概論 日本歴史』（吉川弘文館、2000年） 阿部謹也『日本人の歴史意識』（岩波書店、2004年）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業後に対応</li> <li>・ メールで随時対応 ( masaki . n@nagoya-ku . ac . jp )</li> </ul>
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックは、授業のなかで行うとともに、必要に応じてコメントや助言をメールでも行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>各回の授業では、翌週の授業内容に関わる参考文献の該当箇所を指示するので、翌週までに各自で予習します。</p> <p>その参考文献を読んだ前提で、次回の授業を行いますので、予習は必須です。</p> <p>また、授業で配布した資料を家で読み、復習します。</p> <p>これらの予習・復習（計60時間）を行うことが、期末レポートの準備につながります。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>1. 貧困をなくそう</p> <p>10. 人や国の不平等をなくそう</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11. 住み続けられるまちづくりを</p> <p>16. 平和と公正をすべての人に</p>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	日本史 / Japanese History
時間割コード Course Code	10161
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	中村 真咲
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 真咲 (経営学部)
授業の目標	1. 歴史を学ぶ意味を理解する。 2. 歴史教育の意義を理解する。 3. 日本史の論点を理解する。 4. 対話する力、考える力、考えを表現する力を身につける。
授業の概要	1. 日本史の流れと時代ごとの論点を理解する。 2. 文献を使って日本史に必要な事項を調べるための方法を学ぶ。 3. 日本史を外国史との比較から特徴を理解する比較史の視点を学ぶ。 4. 日本史について自分の考えを他者に説明できるようになる。
評価方法	授業における課題提出と期末試験により、総合的に成績評価します。 授業への参加などの学習態度 (毎回の課題) は75点、期末レポートの結果は25点という割合で成績を判定します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合には、失格とします。
授業計画	第1回．歴史を学ぶ意味、感染症の歴史から考える 第2回．日本の古代国家 第3回．律令国家の光と影 第4回．摂関政治の時代 第5回．武士の時代 第6回．鎌倉幕府 第7回．南北朝の動乱 第8回．南北朝の統一から応仁の乱へ 第9回．戦国時代 第10回．織豊政権 第11回．江戸幕府 第12回．江戸時代の社会と文化 第13回．江戸幕府の動揺 第14回．幕末・維新 第15回．日本近代史の論点
テキスト	とくに定めない
参考書	木村茂光他編『大学でまなぶ日本の歴史』（吉川弘文館、2016年） 外園豊基他編『概論 日本歴史』（吉川弘文館、2000年） 阿部謹也『日本人の歴史意識』（岩波書店、2004年）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業後に対応</li> <li>・ メールで随時対応 ( masaki . n@nagoya-ku. ac. jp )</li> </ul>
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックは、授業のなかで行うとともに、必要に応じてコメントや助言をメールでも行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>各回の授業では、翌週の授業内容に関わる参考文献の該当箇所を指示するので、翌週までに各自で予習します。</p> <p>その参考文献を読んだ前提で、次回の授業を行いますので、予習は必須です。</p> <p>また、授業で配布した資料を家で読み、復習します。</p> <p>これらの予習・復習（計60時間）を行うことが、期末レポートの準備につながります。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>1. 貧困をなくそう</p> <p>10. 人や国の不平等をなくそう</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11. 住み続けられるまちづくりを</p> <p>16. 平和と公正をすべての人に</p>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	西洋史 / Western History
時間割コード Course Code	10170
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	水谷 仁
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水谷 仁 (法学部)
授業の目標	この授業では、「西洋」という地域の歴史を学びます。私たちは現在、「東洋」という地域の日本という国に住み、毎日生活しています。しかし、私たちの生きている現在の「東洋」で馴染みの深い仕組みや考え方の中には、「西洋」という地域で生まれたり、発達したりしたものが少なくありません。そのため、現在私たちが生き、そしてこれからも生きていく「東洋」という地域を考えていくために、「西洋」という地域の歴史についての基礎的な知識を確実に修得し、その中から様々な重要性や問題点を考えていくことを、この授業の目標とします。
授業の概要	古代・中世・近世・近代・近現代・現代という流れで、「西洋」の歴史を学びます。その際、ある歴史的な出来事がなぜ・どのように起きたのか、その出来事にはどのような特徴があるのか、その後の出来事をどのように方向づけていったのかといった点に注目して詳しく解説していきます。さらに、「西洋」の歴史には、人類にとって「良い」と言えることも、「悪い」と言えることも、さらにはどちらとも言い切れないこともたくさんありました。「西洋」の歴史を、理想的なモデルとしてではなく、いろいろな出来事が複雑に絡み合った人類における多様な歴史の一つとして学び、考えていきましょう。
評価方法	期末レポート(100%)で評価します。ただし、受講態度によって加点or減点を行います。特に、授業妨害に当たる行為(私語、飲食など)は大幅な減点となるので十分注意してください。授業の進め方については初回ガイダンスで説明するので注意してください。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 ガイダンス：なぜいま西洋史を学ぶのか 第2回 古代：古代ギリシャ 第3回 古代：古代ローマ 第4回 中世：キリスト教 第5回 中世：封建社会 第6回 近世：主権国家・絶対王政 第7回 近代：産業革命と資本主義 第8回 近代：市民革命と国民国家 第9回 近代：ヨーロッパの内と外 第10回 近現代：第一次世界大戦 第11回 近現代：戦間期 第12回 近現代：第二次世界大戦 第13回 現代：冷戦期 第14回 現代：ヨーロッパの今 第15回 まとめ 受講生の興味・関心によって、上記の授業計画は一部変更になることがあります。
テキスト	



参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問やコメントは、授業後もしくはオフィスアワーに受け付けます。
フィードバックの方法	受け付けた質問やコメントは、次回以降の授業でフィードバックして他の受講生と共有することがあります。 (フィードバックする場合は匿名で行います。)
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	参考書の該当箇所を読んで予習(1時間)し、授業中の説明と参考文献を基に授業内容を自分で説明できるように復習(1時間)すると、内容理解が非常に深まります。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 2.飢餓をゼロに 3.すべての人に健康と福祉を 6.安全な水とトイレを世界中に 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力

開講科目名 Course	アジア史 / Asian History
時間割コード Course Code	10180
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	李 彩華
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 彩華 (経営学部)、中村 真咲 (経営学部)
授業の目標	(1) 東アジアの歴史に関する基本的な知識を学ぶ。 (2) 東アジア各国・地域に共通する特徴と差異について学ぶ。 (3) 現在の東アジアが直面する課題を歴史的な視点から理解し、説明できるようになる。
授業の概要	この授業では、東アジアの歴史について近現代史を中心に学びます。 まず総論で東アジア各国・地域に共通する特徴と差異について学び、その後で地域別の歴史（中国、朝鮮・韓国、モンゴル）について学んでいきます。とりわけ、東アジアの伝統的な知・制度の体系と西欧の近代思想・制度・科学技術の衝突、東アジアの知識人の思想と行動、植民地化と独立・革命、現在の東アジアが直面する課題の歴史的な意味について理解を深め、受講者が自分なりの考えを説明できるようになるための基本的な知識を提供します。 この授業を学ぶことにより、現在の東アジアがどのような歴史を経て成立したのか、東アジア各国・地域に共通する特徴と差異とは何か、現在の東アジアが直面する課題を歴史的な視点から理解することなどをめざします。
評価方法	不定期に課題を課し、課題50%、期末レポートの内容50%で総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合には、失格とします。
授業計画	第1回 東アジア (1) 東アジアとは何か (ガイダンスを含む) 第2回 東アジア (2) 前近代の中国・朝鮮 第3回 東アジア (3) 西洋列強の東アジア侵略と不平等条約 第4回 東アジア (4) 東アジアの「近代化」の開始 第5回 東アジア (5) 東アジアと帝国主義 第6回 東アジア (6) 第一次世界大戦期と東アジア 第7回 東アジア (7) 第二次世界大戦と東アジア 第8回 東アジア (8) 戦後冷戦体制の形成と東アジア 第9回 東アジア (9) 東アジアにおける冷戦体制の変容 第10回 東アジア (10) 冷戦体制崩壊後の東アジア 第11回 内陸アジア (1) 遊牧帝国の盛衰 第12回 内陸アジア (2) 清朝とロシア帝国 第13回 内陸アジア (3) モンゴルの自治と革命 第14回 内陸アジア (4) 第二次世界大戦とモンゴルの独立承認 第15回 内陸アジア (5) モンゴルの民主化・市場経済化
テキスト	必要に応じて授業中に配布する。

参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 濱下武志ほか編『中国の歴史 東アジアの周辺から考える』有斐閣2015年</li> <li>2. 上原一慶ほか著『東アジア近現代史』有斐閣Sシリーズ、2015年新版</li> <li>3. 田中明彦・川島真編『20世紀の東アジア史』東京大学出版会2020年版</li> <li>4. 小松久男編『中央ユーラシア史（新版世界各国史）』（山川出版社、2000年）</li> <li>5. 間野英二ほか編『内陸アジア（地域からの世界史6）』（朝日新聞社、1992年）</li> <li>6. 小松久男・荒川正晴・岡洋樹『中央ユーラシア史研究入門』（山川出版社、2018年）</li> <li>7. 小松久男『近代中央アジアの群像～革命の世代の軌跡～』（＜世界史リブレット＞、山川出版社、2018年）</li> <li>8. 田中克彦『草原の革命家たち～モンゴル独立への道～（増補改訂版）』（＜中公新書＞、中央公論新社、1990年）</li> </ol>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業後に対応</li> <li>・ メールで随時対応（李：ayain814@nagoya-ku.ac.jp 中村：masaki.n@nagoya-ku.ac.jp）</li> </ul>
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックは、授業のなかで行うとともに、必要に応じてコメントや助言をメールでも行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>各回の授業では、翌週の授業内容に関わる参考文献の該当箇所を指示するので、翌週までに各自で予習します。</p> <p>その参考文献を読んだ前提で、次回の授業を行いますので、予習は必須です。</p> <p>また、授業で配布した資料を家で読み、復習します。</p> <p>これらの予習・復習（計60時間）を行うことが、期末レポートの準備につながります。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> <li>15. 陸の豊かさを守ろう</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> <li>17. パートナリーシップで目標を達成しよう</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	アジア史 / Asian History I
時間割コード Course Code	10181
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	李 彩華
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 彩華 (経営学部)、中村 真咲 (経営学部)
授業の目標	(1) 東アジアの歴史に関する基本的な知識を学ぶ。 (2) 東アジア各国・地域に共通する特徴と差異について学ぶ。 (3) 現在の東アジアが直面する課題を歴史的な視点から理解し、説明できるようになる。
授業の概要	この授業では、東アジアの歴史について近現代史を中心に学びます。 まず総論で東アジア各国・地域に共通する特徴と差異について学び、その後で地域別の歴史(中国、朝鮮・韓国、モンゴル)について学んでいきます。とりわけ、東アジアの伝統的な知・制度の体系と西欧の近代思想・制度・科学技術の衝突、東アジアの知識人の思想と行動、植民地化と独立・革命、現在の東アジアが直面する課題の歴史的な意味について理解を深め、受講者が自分なりの考えを説明できるようになるための基本的な知識を提供します。 この授業を学ぶことにより、現在の東アジアがどのような歴史を経て成立したのか、東アジア各国・地域に共通する特徴と差異とは何か、現在の東アジアが直面する課題を歴史的な視点から理解することなどをめざします。
評価方法	不定期に課題を課し、課題50%、期末レポートの内容50%で総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合には、失格とします。
授業計画	第1回 東アジア(1) 東アジアとは何か(ガイダンスを含む) 第2回 東アジア(2) 前近代の中国・朝鮮 第3回 東アジア(3) 西洋列強の東アジア侵略と不平等条約 第4回 東アジア(4) 東アジアの「近代化」の開始 第5回 東アジア(5) 東アジアと帝国主義 第6回 東アジア(6) 第一次世界大戦期と東アジア 第7回 東アジア(7) 第二次世界大戦と東アジア 第8回 東アジア(8) 戦後冷戦体制の形成と東アジア 第9回 東アジア(9) 東アジアにおける冷戦体制の変容 第10回 東アジア(10) 冷戦体制崩壊後の東アジア 第11回 内陸アジア(1) 遊牧帝国の盛衰 第12回 内陸アジア(2) 清朝とロシア帝国 第13回 内陸アジア(3) モンゴルの自治と革命 第14回 内陸アジア(4) 第二次世界大戦とモンゴルの独立承認 第15回 内陸アジア(5) モンゴルの民主化・市場経済化
テキスト	必要に応じて授業中に配布する。

参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 濱下武志ほか編『中国の歴史 東アジアの周辺から考える』有斐閣2015年</li> <li>2. 上原一慶ほか著『東アジア近現代史』有斐閣Sシリーズ、2015年新版</li> <li>3. 田中明彦・川島真編『20世紀の東アジア史』東京大学出版会2020年版</li> <li>4. 小松久男編『中央ユーラシア史（新版世界各国史）』（山川出版社、2000年）</li> <li>5. 間野英二ほか編『内陸アジア（地域からの世界史6）』（朝日新聞社、1992年）</li> <li>6. 小松久男・荒川正晴・岡洋樹『中央ユーラシア史研究入門』（山川出版社、2018年）</li> <li>7. 小松久男『近代中央アジアの群像～革命の世代の軌跡～』（＜世界史リブレット＞、山川出版社、2018年）</li> <li>8. 田中克彦『草原の革命家たち～モンゴル独立への道～（増補改訂版）』（＜中公新書＞、中央公論新社、1990年）</li> </ol>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業後に対応</li> <li>・ メールで随時対応（李：ayain814@nagoya-ku.ac.jp      中村：masaki.n@nagoya-ku.ac.jp）</li> </ul>
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックは、授業のなかで行うとともに、必要に応じてコメントや助言をメールでも行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>各回の授業では、翌週の授業内容に関わる参考文献の該当箇所を指示するので、翌週までに各自で予習します。</p> <p>その参考文献を読んだ前提で、次回の授業を行いますので、予習は必須です。</p> <p>また、授業で配布した資料を家で読み、復習します。</p> <p>これらの予習・復習（計60時間）を行うことが、期末レポートの準備につながります。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> <li>15. 陸の豊かさを守ろう</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> <li>17. パートナリーシップで目標を達成しよう</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	アジア史 / Asian History II
時間割コード Course Code	10182
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	傘谷 祐之
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	傘谷 祐之(経営学部)、櫻井 雅俊(経営学部)
授業の目標	(1)東南アジアの歴史に関する基本的な知識を学ぶ。 (2)東南アジア各国の多様性・共通性について学ぶ。 (3)現在の東南アジアが直面する課題を歴史的な視点から理解し、説明できるようになる。
授業の概要	この授業では、東南アジアの歴史について、近現代史を中心に学びます。第1回の授業で東南アジアの各国の多様性・共通性について簡単に学んだのち、第2回から第8回では主として東南アジアの大陸部諸国を、第9回から第15回では主として島嶼部諸国を取り上げ、その歴史を学んでいきます。この授業を学ぶことにより、現在の東南アジアがどのような歴史を経て成立したのか、東南アジア各国の多様性・共通性とは何か、現在の東南アジアが直面する課題とは何かを歴史的な視点から理解することをめざします。
評価方法	(大陸部) 授業後の課題 25%・レポート25% (島嶼部) 授業中の小テスト 50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 導入・東南アジアの多様性と共通性 第2回 (大陸部1) 近世以前の東南アジア：外部文明の受容を手がかりに 第3回 (大陸部2) 近世国家群と西洋諸国の進出 第4回 (大陸部3) 植民地支配下の東南アジア 第5回 (大陸部4) 植民地支配への対応：ナショナリズムの形成 第6回 (大陸部5) 日本と東南アジア：大東亜共栄圏の目指したもの 第7回 (大陸部6) 東西冷戦と「熱戦」：インドシナ戦争を中心に 第8回 (大陸部7) 冷戦の終焉とインドシナ3国の「体制移行」 第9回 (島嶼部1) 「交易の時代」とマレー世界の形成 第10回 (島嶼部2) 英の自由貿易帝国と近代国家建設1 第11回 (島嶼部3) 近代国家建設2・植民地支配と国民主義運動 第12回 (島嶼部4) 米の登場とフィリピン革命 第13回 (島嶼部5) 脱植民地化と戦後賠償問題 第14回 (島嶼部6) 冷戦と開発独裁1 第15回 (島嶼部7) 開発独裁2・冷戦の終焉と民主化
テキスト	授業の際に資料を配布します。

参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古田元夫編著『東南アジアの歴史』（放送大学教育振興会、2018年）。</li> <li>・今井昭夫編集代表・東京外国語大学東南アジア課程編『東南アジアを知るための50章』（明石書店、2014年）。</li> <li>・白石隆『海の帝国：アジアをどう考えるか』（中央公論新社、2000年）。</li> <li>・増原ほか『はじめての東南アジア政治』（有斐閣ストゥディア、2018年）。</li> <li>・清水・田村・横山編著『東南アジア現代政治入門』（ミネルヴァ書房、改訂版、2018年）。</li> <li>・ユーク・テルトレ著、鳥取絹子訳『地図で見る東南アジアハンドブック』（原書房、2018年）。</li> <li>・川北稔・桃木至朗監修『最新世界史図説タペストリー 20訂版』（帝国書院、2022年）。</li> </ul>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業に関する質問は、(1)授業後、(2)電子メール（kasaya-y@nagoya-ku.ac.jp、または、sakuraim@nagoya-ku.ac.jp）、(3)Google Classroomなどで受け付けます。
フィードバックの方法	課題等に対するフィードバックは、翌週の授業で行う他、Google Classroomも利用します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の授業で、授業内容に関わる参考文献を紹介します。翌週以降の授業内容に関わる部分については、翌週までに各自で予習してください。それ以外の部分については、期末レポートまでに各自で復習してください。授業で配布した資料も、復習に活用してください。また、各回の授業後に、課題（小テスト・小レポートなど）を課す場合があります。これらの予習・復習（計60時間）を行うことが、期末レポートの準備につながります。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> </ul>
SDGs 17の目標（11～17）	<ul style="list-style-type: none"> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> <li>17. パートナリーシップで目標を達成しよう</li> </ul>
PROGリテラシーの要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> </ul>
PROGコンピテンシーの要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>7. 課題発見力</li> </ul>

開講科目名 Course	アジア史 / Asian History III
時間割コード Course Code	10183
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	中村 真咲
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 真咲 (経営学部)
授業の目標	(1) 中央アジア・西アジア・南アジアの歴史に関する基本的な知識を学ぶ。 (2) 中央アジア・西アジア・南アジア各国・地域に共通する特徴と差異について学ぶ。 (3) 現在の中央アジア・西アジア・南アジアが直面する課題を歴史的な視点から理解し、説明できるようになる。
授業の概要	この授業では、中央アジア・西アジア・南アジアの歴史について近現代史を中心に学びます。 まず総論で中央アジア・西アジア・南アジア各国・地域に共通する特徴と差異について学び、その後で地域別の歴史(ウズベキスタン、カザフスタン、キルギスタン、トルコ、インド、パキスタン、アフガニスタンなど)について学んでいきます。とりわけ、中央アジア・西アジア・南アジアの伝統的な知・制度の体系と西欧の近代思想・制度・科学技術の衝突、中央アジア・西アジア・南アジアの知識人の思想と行動、植民地化と独立・革命、現在の中央アジア・西アジア・南アジアが直面する課題の歴史的な意味について理解を深め、受講者が自分なりの考えを説明できるようになるための基本的な知識を提供します。 この授業を学ぶことにより、現在の中央アジア・南アジアがどのような歴史を経て成立したのか、中央アジア・南アジア各国・地域に共通する特徴と差異とは何か、現在直面する課題を歴史的な視点から理解することなどをめざします。
評価方法	各回の課題75%、期末レポートの内容25%で総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合には、失格とします。



授業計画	第1回 イントロダクション(1) 中央アジア・西アジア・南アジアとは何か 第2回 中央アジア(1) 遊牧帝国・オアシス国家の興亡 第3回 中央アジア(2) ポスト・モンゴル期の中央ユーラシア 第4回 中央アジア(3) ロシア革命と中央ユーラシア 第5回 中央アジア(4) 革命の時代の中央アジア 第6回 中央アジア(5) 中央アジア諸国の独立 第7回 西アジア(1) オスマン・トルコ帝国の興亡とトルコ立憲革命 第8回 西アジア(2) 第二次世界大戦後のトルコ 第9回 西アジア(3) エルドアンの時代 第10回 西アジア(4) アラブ反乱と中東問題の起源 第11回 南アジア(1) ムガル帝国の創設 第12回 南アジア(2) ムガル帝国の発展 第13回 南アジア(3) 東インド会社の世紀 第14回 南アジア(4) インド民族運動の始まり 第15回 南アジア(5) インドの独立と分離
テキスト	必要に応じて授業中に配布する。
参考書	1. 羽田正『東インド会社とアジアの海』(講談社、2017年) 2. 辛島昇編『南アジア史』(山川出版社、2004年) 3. 辛島昇『インド史 南アジアの歴史と文化』(角川書店、2021年) 4. 小松久男編『中央ユーラシア史(新版世界各国史)』(山川出版社、2000年) 5. 小松久男ほか編『中央ユーラシア史研究入門』(山川出版社、2018年) 6. 宇山智彦他編『現代中央アジア:政治・経済・社会』(日本評論社、2018年) 7. 永田雄三『西アジア史2 イラン・トルコ』(<世界各国史9>山川出版社、2002年) 8. 新井政美『トルコ近現代史』(みすず書房、2001年)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・授業後に対応 ・メールで随時対応(masaki.n@nagoya-ku.ac.jp)
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックは、授業のなかで行うとともに、必要に応じてコメントや助言をメールでも行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の授業では、翌週の授業内容に関わる参考文献の該当箇所を指示するので、翌週までに各自で予習します。 その参考文献を読んだ前提で、次回の授業を行いますので、予習は必須です。 また、授業で配布した資料を家で読み、復習します。 これらの予習・復習(計60時間)を行うことが、期末レポートの準備につながります。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	15. 陸の豊かさも守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	世界の中のアジア / Introduction to Asian Studies
時間割コード Course Code	10190
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 邦彦
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 邦彦 (経済学部)
授業の目標	<p>政治、経済、社会、文化など、様々な側面からアジアの国々について学ぶ。アジアに関する基本的な知識や情報を習得することで、アジア地域に対する理解を深める。さらに、日本とアジア各国の違いを理解することで、日本がアジアとの共生を図るためには何が必要か、自分なりの意見を持つことができるようになる。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>政治、経済、社会、文化などの分野からアジア地域の概観を把握できる。</li> <li>アジア各国の政治、経済、社会に関する特徴を理解できる。</li> </ul> <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アジアに関する知識が増し、日本とアジア諸国の関係に対する関心が高まる。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>統計を調査し、それに基づいて説明し、自らの考えを述べるスキルを身につける。</li> </ul>
授業の概要	<p>アジアは日本にとって重要な地域であり、多くの日本企業が進出している。アジアの理解を深めるには、各国や地域の状況を詳しく学ぶことが欠かせない。この講義では、政治や経済などの観点からアジア全体を俯瞰し、その後、北東アジア（中国、香港、韓国、台湾）、東南アジア（シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナムなど）、南アジア（インドなど）の特徴をわかりやすく解説する（授業の進行や受講者の関心に応じて、シラバス内容が変更される場合もある）。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>テスト、レポート等 80%</li> <li>参加姿勢(受講態度や発言・質問等) 20%</li> </ul> <p>・評価方法の詳細は、初回の授業で説明する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席が多いと、「失格」になる可能性がある。

授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 アジアの政治 第3回 アジアの経済 第4回 アジアの社会 第5回 アジアの文化 第6回 中国・香港 第7回 韓国・台湾 第8回 シンガポール、マレーシア 第9回 インドネシア、フィリピン 第10回 タイ、ミャンマー 第11回 ベトナム、カンボジア、ラオス 第12回 インド 第13回 パキスタン、バングラデシュ 第14回 アジアと日本 第15回 まとめ
テキスト	指定しない。
参考書	遠藤環・伊藤亜聖・大泉啓一郎・後藤健太編(2018)『現代アジア経済論』有斐閣ブックス。 今井昭夫編(2005)『東南アジアを知るための50章』明石書店。 渡辺利夫編(2009)『アジア経済読本(第4版)』東洋経済新報社。 その他授業で随時紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	随時対応。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業前に参考書などの該当箇所をチェックし、予備知識を得たうえで授業に臨み、授業後は各回の主要なポイントは最低限押さえるように復習に力を入れる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	交通と社会 / Transportation and Society
時間割コード Course Code	10200
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	伊藤 博司
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	伊藤 博司 (経済学部)
授業の目標	<p>我々の誰もが日常生活の中で直面し、或いは生涯に亘って暮らしの中にある、現代日本の生活基盤でもある“交通”について、その本質に戻って考察・検討し、それぞれ自分の意見を述べられるようにする。</p> <p>○知識・理解の領域...交通経済学の基本的な考え方や交通に関する基礎知識を身に付けることが出来る。</p> <p>○思考判断の領域...様々な情報から必要なものを選び、自らの知見と照らして物事を考える訓練が出来る。</p> <p>○関心意欲の領域...交通は与えられるものではなく我々が自ら作り上げて行くものである、という積極的な認識を得ることが出来る。</p>
授業の概要	<p>我が国は少子高齢化・人口減少・経済的停滞という避け難い新しい時代を迎えており、これまで「利用者」「受益者」として接してきた“交通”について、我々自身が“交通主体”としてどのように考え、行動して良好なモビリティを確保・維持して行くのか、自らが考えるためのきっかけを作る授業とする。</p> <p>従って“正解”や“結果”を求めるものではなく、受講者自らが当事者として主体的に考えることを重視する。</p> <p>そして、授業時に提供した素材(教材)に基づいてひとり一人が自ら考えることを目指しており、そのような意味で大学教育の入口として新入生・低学年(1・2年生)を主たる受講対象としたい。</p> <p>この科目の位置付けについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>基本的には期末試験の成績により評価を行うが、授業への参加姿勢(授業内での質疑や意見開陳、コメントなどの提出内容ほか)、受講態度などを一定程度重視したい。</p> <p>出席回数による加点・減点を行わないが、授業内での提出物(ワークシート・コメントなど)の記述内容などについては、最終評価の際にある程度考慮する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	詳細は「授業計画詳細情報」を参照のこと。
テキスト	テキストは使用しないが、各授業の1週間前を目途にgoogle classroomで「教科書」を告知するので、それに基づいて予習を行うことを前提とする。授業の際には、講師が作成したレジュメ(作業シート)や資料集などを適宜配布する。配布する資料集は、統計資料や新聞の連載記事コピー(初回授業時に配布)などで構成し、これらを授業時の検討材料(教材)とする。
参考書	参考文献などは授業内で適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	担当教員は、本学教員着任以前に大手私鉄企業に勤務し、かつてその企画部門で約10年間程度に亘り交通政策の調査・企画を担当した。この経験に基づいた授業内容とする予定である。
質問への対応方法	質問があれば、授業内または授業前後の時間帯に個別に対応する。
フィードバックの方法	提出されたワークシート・コメントなどの内容については、点検検討を行った上で、授業内で受講生全体に対して解説・論評を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の授業の1週間前を目途に、google classroomにより「教科書(各回8ページ程度)」と「資料(各回2～6ページ程度)」を告知するので、これらをよく読解して概要を理解してから授業に臨むことを受講生に期待したい。 各回の授業に先立って、それに対応する「教科書」と「資料」を精読理解し関連情報などをチェックするなど、授業に対して積極的に対応するには、正味の授業時間の2倍程度の時間を要するものと考えられる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11～17)	11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任 13.気候変動に具体的な対策を 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	「交通」に関する基本的な考え方(1) イントロダクション	日本経済新聞「やさしい経済学」平成30年6月連載『人口減少時代の公共交通』により、現状を認識する。 さらに、講師自身の“交通体験”に基づいた問題提起を行う。	
2	「交通」に関する基本的な考え方(2) 交通市場について	交通経済学の基本的な考え方について知見を深め、「市場の失敗」について理解する。	
3	「交通」に関する基本的な考え方(3) 「運賃」について	代表的な運賃学説を紹介するとともに、現代日本の運賃決定の仕組みを理解する。 混雑料金、ピークロードプライシングについて理解する。	
4	「交通」に関する基本的な考え方(4) 交通政策について	事業者間競争の事例などを紹介するとともに、交通政策の必要性を考える。	
5	「交通」に関する基本的な考え方(5) 補助及び交通社会資本整備	公共交通事業の収益性についてどのように考えるべきか考え、公共交通の維持方針を考える。	
6	交通の諸様相 自動車交通・道路交通 について	国民生活上の道路交通の重要性、“物流”の重要性について再認識する。	
7	日本の鉄道(1) 明治維新から明治末期まで(官設鉄道の時代)	文明開化と鉄道の導入、官設鉄道と民設鉄道、鉄道の国有化について理解する。 事例として、官設鉄道と民設鉄道の破滅的競争について触れる。	
8	日本の鉄道(2) 大正期から第2次大戦後の復興期・高度成長期まで(国有鉄道の時代)	近代日本の発展と全国鉄道網形成について理解する。 ビジネスモデルとしての新幹線について考える。	
9	日本の鉄道(3) 国鉄改革・分割民営化とJRの設立(JRの時代)	国鉄の経営破たんの原因について考える。 JRによる鉄道の再生と、3島問題など残された課題について考える。	
10	日本の私鉄企業について(1) 大都市近郊大手私鉄の発展	代表的大手私鉄企業の事例として、阪急電鉄・東急電鉄についてその創設と実態を見て、私鉄経営モデルについて考える。	
11	日本の私鉄企業について(2) 地方型私鉄の苦闘(名鉄の事例など)	地方型私鉄の集合体としての名古屋鉄道を事例に、地方鉄道のあるべき姿や関連事業について考える。また、名古屋鉄道の事業展開と、特色ある文化・レジャー事業についてその実態を見る。	
12	現代日本の交通(1) 国土幹線交通 について	新幹線対航空の競合や、新幹線網の拡大・充実と、それらが果たしてきた役割、リニア中央新幹線について考える。	
13	現代日本の交通(2) 大都市圏の交通 について	人口増加・過密社会の終焉を間近にして、次の時代のモビリティを考える。 新交通システムの開発と展開について(地元の話として桃花台線の廃止を含む)考える。	
14	現代日本の交通(3) 地方都市圏・地域 社会の交通について	この地域でのローカル交通(旧国鉄地方交通線や近鉄・名鉄のローカル線)の維持について、また近年のLRTやBRTについて考える。	
15	新しい社会と交通 ...全15講のまとめと「交通」のあり方 について	“交通”に関して次の時代に希望を見出すには? まちづくりと共に新しい交通を考える。	

開講科目名 Course	交通と社会 / Transportation and Society
時間割コード Course Code	10201
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	伊藤 博司
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	伊藤 博司 (経済学部)
授業の目標	<p>我々の誰もが日常生活の中で直面し、或いは生涯に亘って暮らしの中にある、現代日本の生活基盤でもある“交通”について、その本質に戻って考察・検討し、それぞれ自分の意見を述べられるようにする。</p> <p>○知識・理解の領域 = 交通経済学の基本的な考え方や交通に関する知識を身に付けることが出来る。</p> <p>○思考判断の領域 = 様々な情報から必要なものを選び、自らの知見と照らして物事を考える訓練ができる。</p> <p>○関心意欲の領域 = 交通は与えられるものではなく、我々は自ら創り上げていくものである、という積極的な認識を得ることが出来る。</p> <p>“交通”という日常的な素材を使って、我々の社会の在り方、将来像を考えて行く授業とする。</p>
授業の概要	<p>我が国は少子高齢化・人口減少・経済的停滞という避け難い新しい時代を迎えており、これまで「利用者」「受益者」として接して来た“交通”について、我々自身が“交通主体”としてどのように考え、行動して良好なモビリティを確保・維持していくのか、自ら考えるためのきっかけを作る授業とする。</p> <p>従って“正解”や“結果”を求めるものではなく、受講者自らが当事者として主体的に考えることを重視する。</p> <p>そして、授業時に提供した素材(教材)に基づいてひとり一人が自ら考えることを目指しており、そのような意味で大学教育の入口として新入生・低学年(1・2年生)を主たる受講対象としたい。</p>
評価方法	<p>基本的には期末試験の成績により評価を行うが、授業への参加姿勢(授業内での質疑応答や意見陳述、コメントなどの提出内容ほか)、受講態度などを一定程度重視したい。</p> <p>出席回数による加点・減点を行わないが、授業内での提出物(ワークシート・コメントなど)の記述内容などについては、最終評価の際にある程度考慮する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	詳細は「授業改革詳細情報」による。
テキスト	テキストは使用しないが、各授業の1週間前を目途にGoogle Classroomで講師作成の「教科書」を告知するので、これに基づいて予習を行うことを受講の前提とする。授業の際には、講師が作成したレジュメ(作業シート)や資料集などを適宜配布する。配布する資料集は、統計資料や新聞記事のコピーなどで構成し、これらを授業内での検討材料(教材)とする。
参考書	参考文献などは授業内で適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	担当教員は、本学教員着任以前に大手私鉄企業に勤務し、その企画部門で約10年間に亘り交通政策の調査・企画業務を担当した。この経験に基づいた授業内容とする予定である。
質問への対応方法	質問などがあれば、授業内または授業前後の時間帯に個別に対応する。
フィードバックの方法	提出されたワークシート・コメントなどの内容については、点検検討を行った上で、授業内で受講生全体に対して解説・論評を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回授業の1週間前を目途に、Google Classroomにより「教科書(各回8ページ程度)」と「資料(各回2~6ページ程度)」を告知するので、これらをよく読解して概要を理解してから授業に臨むことを受講生に期待したい。各回の授業に先立って、それに対応する「教科書」と「資料」を精読理解して関連情報などをチェックするなど、授業に対して積極的に対応するには、正味の授業時間の2倍程度の予習時間を要するものと考えられる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11~17)	11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任 13.気候変動に具体的な対策を 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力



開講科目名 Course	イスラーム入門 / Introduction to Islam
時間割コード Course Code	10210
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	ウミリデノブ アリシエル
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ウミリデノブ アリシエル (法学部)、島田 弦 (法学部)、クレシ サラ好美 (法学部)
授業の目標	(1) イスラームについての基礎知識を得る (2) ムスリム (イスラーム信徒) の多様な生き方を知る (3) イスラームに対する誤解や偏見を持つ日本人に向けて、その誤解や偏見の問題点を指摘できるようになる
授業の概要	ムスリム (イスラーム信徒) は世界に20億人いると推計されます。グローバル化が進む現代、日本にいてもムスリムと出会う機会はますます増えていくでしょう。しかしながら、メディアが報道する一部のムスリムのイメージが先行して、イスラームについてたくさんの誤解や偏見を抱く日本人が多いのも現状です。 そこでこの授業では、映像資料や具体的なデータを用いて、そうした誤解や偏見をひとつずつ検証していきます。第1回目の授業時に抱いていたイスラームのイメージが、15回目の授業時にどれだけ変化するか、楽しみにしててください。
評価方法	参加姿勢 : 75% ( 毎回の課題の取り組み姿勢、5点 × 15回 ) 発表 : 10% ( 第13 ~ 14回でのグループ発表の内容、10点 ) 期末レポート : 15% ( レポートの内容、15点 )
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	第1回 基礎知識 ~ ムスリムってどんな人たち？ 第2回 誤解を解く (1) ~ ムスリムは厳しいルールに縛られている？ 第3回 誤解を解く (2) ~ ムスリムの女性はかわいいそう？ 第4回 誤解を解く (3) ~ ムスリムは過激で危険？ 第5回 理解を深める (1) ~ イスラーム金融では利息はなぜ禁止なのか？ 第6回 理解を深める (2) ~ イスラーム法とはクルアーンのこと？ 第7回 理解を深める (3) ~ ハラルマークのないものを食べてもいい？ 第8回 理解を深める (4) ~ 遺体は火葬にするか土葬にするか？ 第9回 理解を深める (5) ~ 一番大事なのはお母さん？ 第10回 ムスリムの多様性 (1) ~ 東南アジアで一番ムスリムが多い国はどこ？ 第11回 ムスリムの多様性 (2) ~ 中央アジアのムスリムはどのように結婚相手を選ぶのか？ 第12回 ムスリムの多様性 (3) ~ 日本のムスリムはどんな問題を抱えている？ 第13回 グループ発表 (1) 第14回 グループ発表 (2) 第15回 まとめ

テキスト	毎回の配布資料
参考書	長沢栄治監修 / 嶺崎寛子編著 『イスラーム・ジェンダー・スタディーズ第7巻 日本に暮らすムスリム』 (明石書店、2024年)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	第1～9回のテーマのうちひとつについて、関心が同じ学生同士でグループを作り、イスラームに対する誤解や偏見を持つ日本人に向けて、その誤解や偏見を解くためのプレゼンテーションを行ってもらいます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	名古屋のムスリム・コミュニティにおける30年余の参与観察の経験を活かし、現代に生きるムスリムの事例を取り上げます。また多くの教育機関・自治体・諸団体の要請に応えて行ってきた講演で提示してきた映像資料や具体的なデータを共有します。
質問への対応方法	メール対応 qureshi-y@nagoya-ku.ac.jp
フィードバックの方法	各回の課題に対するフィードバックは、次回の授業の中で行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習は不要ですが、授業後に配布資料を参考に復習することを期待します。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1～10)	10. 人や国の不平等をなくそう 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標 (11～17)	16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 7. 課題発見力

開講科目名 Course	生活の中の科学 / Science in Everyday Life
時間割コード Course Code	10230
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	井上 晋一郎
科目区分 Course Group	共通科目群 科学と自然
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	野間 健太郎 (法学部)、井上 晋一郎 (法学部)、永井 啓祐 (法学部)、水谷 彩美 (法学部)、田畑 亮 (法学部)
授業の目標	<p>我々が生活していく上で密接に関係している科学的な現象について学び、主に生物学と化学の理解を深めることを目指す。</p> <p>知識・理解の領域 生物の基本的な生命活動の営み、生物を構成する物質、植物科学、育種学、脳科学、について広く学ぶことができる。また、科学がどのように現代の我々の生活に結びついているのか 理解し、農業・遺伝子検査・臨床応用への貢献を説明できる。</p> <p>技能の領域 身近な科学的現象について、専門書、事典、雑誌などを調べ、さらに理解を深めたい場合は本講義の講師を通じて専門家の意見を聞き、内容をより理解することができる。</p> <p>関心意欲の領域 本講義をもとに、身近な科学的現象についてさらに興味や疑問をもち、自分で調べることができるようになる。また、興味を持ち続けることができる。</p>
授業の概要	<p>地球上に暮らす私たちの生活は、非常に多くの科学的な現象にあふれている。ところが、普段はこれらの現象の仕組みや意味にはあまり目を向けずに暮らしていることが多いのではないだろうか。そもそも、人が生命活動を営むこととは、どういうことなのか？ 人その他の生物との違いは何なのか？ 人はどのように自分たちの生活を良くしてきたのか？ このような疑問に対してこの講義では、5人の講師による生物学や化学に関連した身近な 話題や近年の科学の進歩について解説することで、科学に対する理解をより深めていきたい。この講義は、授業計画の通り、以下の構成で進める。</p> <p>第1部では、この講義の導入と、近年話題となっている新型コロナウイルスや再生医療について学ぶ。第2部では、人類と農耕について、栽培植物の進化や新しい技術を組み込んだ育種に焦点を当てて、植物育種学や遺伝子組換え作物についての理解を深める。第3部では、人間誰もが持つ脳について学ぶ。これほど身近であるにも関わらず謎にまつまれた脳について、その仕組みを概説するとともに、最新の研究動向についても触れる。第4部では、生物の活動を支えるホルモンについて概説する。また、科学が我々の生活にどのように応用されているのか、遺伝子検査・臨床応用・ワイン作りを例に学ぶ。さらに第5部では、植物がどのように土壌から栄養を吸収し、利用しているのか学ぶ。また、植物のミネラル吸収を調節する仕組みについて学び、生物の環境に対する巧みな栄養獲得戦略について理解を深める。</p>
評価方法	担当教員ごとに小テストや小レポートなどの課題を課し、その結果により成績を評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	第1回 遺伝情報の発現と新型コロナウイルスに関して 第2回 ゲノム情報と再生医療について 第3回 世界の食糧不足を救った緑の革命 第4回 遺伝子で収量を増やす 第5回 気候変動と農業 第6回 意外と身近な遺伝子組換え作物 第7回 脳がつくりだす世界 第8回 脳を理解するとは 第9回 壊れゆく脳 第10回 遺伝子検査や臨床応用 第11回 様々なホルモン 第12回 ワインの歴史と製造方法 第13回 植物のミネラル吸収 第14回 植物のミネラル吸収とペプチドホルモン 第15回 植物のペプチドホルモン
テキスト	特に用いない。
参考書	適宜指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	講義中に、学生自らPCやスマートフォンなどで重要事項を検索するなど、アクティブ・ラーニングの時間を設けている。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	オフィスアワーにおいて対応する。
フィードバックの方法	各講義の内容への質問は、講義中や講義後に対面・メールで受け付け、回答する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各講義で配布する講義資料をもとに各自復習してもらおうとともに、内容を発展させる図書を紹介し、予備的な学習を推奨する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
SDGs 17の目標(11~17)	13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力 8. 計画立案力

開講科目名 Course	生命の科学 / Bioscience
時間割コード Course Code	10240
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	寺前 洋生
科目区分 Course Group	共通科目群 科学と自然
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	寺前 洋生 (管理栄養学科)
授業の目標	生命を理解するためには、なぜ地球上に生命が存在するかや、生物の特性を科学的に理解する必要がある。本科目では生命科学の基礎概念を理解するとともに、科学的根拠に基づいた考察力を育成する。
授業の概要	生命科学の広範囲な基礎概念をヒトを中心に説明を展開する。、現代社会における科学的関心事について適宜トピックとして挙げて解説する。生命科学について 分子レベルのしくみから環境とのかわりまでをヒトとの関係のもとで理解することを目的とする。 生命活動に貢献する科学的事例について、実社会における例とその諸問題について解説する。 講義内容についての質問は、講義中に随時対応する。 本授業は、対面による授業で実施する。
評価方法	成績評価は、授業回ごとに指示する提出課題(90%)と学習態度(10%)に基づいておこなう。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が授業回の2/3に満たない場合
授業計画	第1回 授業ガイダンスと生命科学への導入 (ミクロとマクロ) 第2回 細胞 (1) 第3回 細胞 (2) 第4回 細胞 (3) 第5回 脳と行動 (1) 第6回 脳と行動 (2) 第7回 脳と行動 (3) 第8回 脳と行動 (4) 第9回 生理機能 (1) 第10回 生理機能 (2) 第11回 生理機能 (3) 第12回 生理機能 (4) 第13回 生態系 (1) 第14回 生態系 (2) 第15回 生態系 (3)
テキスト	使用しない

参考書	Essential細胞生物学(原書第5版)、中村桂子(翻訳)、松原謙一(翻訳)、榊佳之(翻訳)、水島昇(翻訳)、南江堂、 ISBN-13 : 978-4524226825
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内で課題作成の演習を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学生への質問に対して、授業中は随時対応する。時間外においては、オフィスアワー、メールなどで対応する。
フィードバックの方法	授業内で、必要に応じてアドバイする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習：授業範囲の内容を事前調査する。(1.5時間) 復習：授業内容や考察をまとめる。(1.5時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	統計学入門 / Introduction to Statistics
時間割コード Course Code	10250
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3
主担当教員 Main Instructor	岡田 朋子
科目区分 Course Group	共通科目群 科学と自然
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岡田 朋子 (経営学部)
授業の目標	<p>エクセルの操作を通じて初歩的な統計学の概念を理解し、簡単なデータ分析ができるようになることを目的とする。</p> <p>知識・理解の領域 平均値などの基本的な統計量の意味を理解する。</p> <p>技能の領域 PC操作に慣れ、表計算ソフトを使いこなせるようにする。</p> <p>態度・志向性の領域 データ・AI活用領域の広がり（生産、消費、文化活動など）を知り、「データ分析ができる」、「データ活用ができる」人材が社会に必要であるという認識をもつ。</p> <p>思考判断の領域 データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方を身につけ、根拠のたしかかな事実にもとづき統計学的に正しく推論することができる能力をもつ。</p> <p>関心意欲の領域 統計学の基礎を習得し、自分でデータ解析をおこなう意欲をもつ。</p>
授業の概要	<p>対象とする受講生は、数学や統計学の知識をもっていない、そして、エクセルの使用に慣れていない初心者とする。</p> <p>受講条件は、教科書と「本学が指定する要件をみたすパソコン」を講義に持参することである。</p> <p>エクセルの作業によって授業を進めていく。 自分のペースで作業を進めることができる。不明点があれば、個別対応も可能。 予備知識のない初心者でも十分理解できる内容であり、エクセルに数字を入力することからはじめる。 はじめてデータサイエンスを学習する際の最初の授業として無理がないように、やさしい内容をゆっくり学習していく予定である。</p> <p>課題の作成は授業中に指導、対話しながらおこなう。 受講生の知識や理解度を毎回確認して、それに応じて授業内容を合わせる予定である。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業中にエクセルで作成した課題などを提出し、その評価の合計で総合評価する。

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと
テキスト	エクセルで学習するデータサイエンスの基礎（統計学演習15講） 岡田朋子 著 ISBN：9784764906815（近代科学社）
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	エクセルを使ってグラフを作成したり，データ分析を行ったりなどの実習をおこなう．
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中におこなう．
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の内容についての予習や復習をそれぞれ2時間おこなうこと．
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	2. 情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	社会におけるデータ・AI利活用, データ駆動型社会, Society5.0	授業内容の具体的な説明と準備. 社会で起きている変化を知り, 数理・データサイエンス・AIやデータを起点としたものの見方を学ぶことの意義を理解する. データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)やデータ・AI利活用における最新動向(ビジネスモデル、テクノロジー)を知る.	
2	代表値(平均値), データの並べ替え, ランキング	(下記の内容はすべてエクセルを使って学習する) 計算式を入力することによって, たし算, ひき算, かけ算, わり算をおこなう. データを大きさの順に並べ替える. データの合計をデータの個数で割ることによって平均値を求める. 平均値を関数で求める.	
3	代表値(中央値, 最頻値), 代表値の性質の違い	データを大きさの順に並べ替え, 真ん中の値を求める. 最も頻繁に現れるデータを求める.	
4	データの範囲, データの抽出	最大値と最小値を除いて平均値を求める. 最大値から最小値を引いて範囲を求める. ピボットテーブルを使って集計する.	
5	データのばらつき(分散, 標準偏差, 偏差値), データ解析ツール, データ表現(棒グラフ)	データ分布のばらつきの大きさをひとつの数値で表すにはどうすればいいのかを考える.	
6	データの比較(条件をそろえた比較)	それぞれ分布の様子が異なるデータの集合間のデータどうしを比較する.	
7	データの種類(量的変数, 質的変数), データ可視化(2軸グラフ, 関係性の可視化)	データ分析の進め方, 仮説検証サイクルを考える. データの種類分けをする. エクセルで折れ線グラフ, 散布図を作成する.	
8	データ表現(折れ線グラフ, 散布図), 相関と因果(相関係数, 疑似相関)	散布図を見て直線的な関係を確認し, その強さをひとつの数値で表す.	
9	単回帰分析, 人間の知的活動を起点としたものの見方, データ解析と推論	散布図を見て直線的な関係を確認し, 因果関係を想定する. 結果を予測する. データサイエンス活用事例(仮説検証, 知識発見, 原因究明, 計画策定, 判断支援, 活動代替など)を知る.	
10	データ解析(最適化, シミュレーション), 教師あり学習による予測	予測利益が最大になるような価格はいくらになるかを求める.	
11	時系列データ, データ可視化, データ解析(パターン発見)	時間の経過順に並んだデータの周期的な動きを折れ線グラフで確認する. 期間を移動させながら平均をとり, データの動きをなめらかにする.	
12	移動平均, 季節調整	季節に影響されないデータの動きを確認する.	
13	データの分布(ヒストグラム), 不適切なグラフ表現, 優れた可視化事例の紹介	データを小区間ごとに分けて, その小区間に入っているデータの個数を数える. ヒストグラムを作成する.	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
14	データベース, データの集計 (和, 平均), データの図表表現 (チャート化)	ピボットテーブルでクロス集計をおこなう.	
15	データクレンジング (外れ値, 異常値, 欠損値の処理)	大きく外れている極端な値を見つける.	

開講科目名 Course	統計学入門 / Introduction to Statistics
時間割コード Course Code	10251
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3
主担当教員 Main Instructor	岡田 朋子
科目区分 Course Group	共通科目群 科学と自然
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岡田 朋子 (経営学部)
授業の目標	<p>エクセルの操作を通じて初歩的な統計学の概念を理解し、簡単なデータ分析ができるようになることを目的とする。</p> <p>知識・理解の領域 平均値などの基本的な統計量の意味を理解する。</p> <p>技能の領域 PC操作に慣れ、表計算ソフトを使いこなせるようにする。</p> <p>態度・志向性の領域 データ・AI活用領域の広がり（生産、消費、文化活動など）を知り、「データ分析ができる」、「データ活用ができる」人材が社会に必要であるという認識をもつ。</p> <p>思考判断の領域 データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方を身につけ、根拠のたしかかな事実にもとづき統計学的に正しく推論することができる能力をもつ。</p> <p>関心意欲の領域 統計学の基礎を習得し、自分でデータ解析をおこなう意欲をもつ。</p>
授業の概要	<p>対象とする受講生は、数学や統計学の知識をもっていない、そして、エクセルの使用に慣れていない初心者とする。</p> <p>受講条件は、教科書と「本学が指定する要件をみたすパソコン」を講義に持参することである。</p> <p>エクセルの作業によって授業を進めていく。 自分のペースで作業を進めることができる。不明点があれば、個別対応も可能。 予備知識のない初心者でも十分理解できる内容であり、エクセルに数字を入力することからはじめる。 はじめてデータサイエンスを学習する際の最初の授業として無理がないように、やさしい内容をゆっくり学習していく予定である。</p> <p>課題の作成は授業中に指導、対話しながらおこなう。 受講生の知識や理解度を毎回確認して、それに応じて授業内容を合わせる予定である。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業中にエクセルで作成した課題などを提出し、その評価の合計で総合評価する。

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと
テキスト	エクセルで学習するデータサイエンスの基礎（統計学演習15講） 岡田朋子 著 ISBN：9784764906815（近代科学社）
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	エクセルを使ってグラフを作成したり，データ分析を行ったりなどの実習をおこなう．
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中におこなう．
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の内容についての予習や復習をそれぞれ2時間おこなうこと．
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	2. 情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	社会におけるデータ・AI利活用, データ駆動型社会, Society5.0	授業内容の具体的な説明と準備. 社会で起きている変化を知り, 数理・データサイエンス・AIやデータを起点としたものの見方を学ぶことの意義を理解する. データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)やデータ・AI利活用における最新動向(ビジネスモデル、テクノロジー)を知る.	
2	代表値(平均値), データの並べ替え, ランキング	(下記の内容はすべてエクセルを使って学習する) 計算式を入力することによって, たし算, ひき算, かけ算, わり算をおこなう. データを大きさの順に並べ替える. データの合計をデータの個数で割ることによって平均値を求める. 平均値を関数で求める.	
3	代表値(中央値, 最頻値), 代表値の性質の違い	データを大きさの順に並べ替え, 真ん中の値を求める. 最も頻繁に現れるデータを求める.	
4	データの範囲, データの抽出	最大値と最小値を除いて平均値を求める. 最大値から最小値を引いて範囲を求める. ピボットテーブルを使って集計する.	
5	データのばらつき(分散, 標準偏差, 偏差値), データ解析ツール, データ表現(棒グラフ)	データ分布のばらつきの大きさをひとつの数値で表すにはどうすればいいのかを考える.	
6	データの比較(条件をそろえた比較)	それぞれ分布の様子が異なるデータの集合間のデータどうしを比較する.	
7	データの種類(量的変数, 質的変数), データ可視化(2軸グラフ, 関係性の可視化)	データ分析の進め方, 仮説検証サイクルを考える. データの種類分けをする. エクセルで折れ線グラフ, 散布図を作成する.	
8	データ表現(折れ線グラフ, 散布図), 相関と因果(相関係数, 疑似相関)	散布図を見て直線的な関係を確認し, その強さをひとつの数値で表す.	
9	単回帰分析, 人間の知的活動を起点としたものの見方, データ解析と推論	散布図を見て直線的な関係を確認し, 因果関係を想定する. 結果を予測する. データサイエンス活用事例(仮説検証, 知識発見, 原因究明, 計画策定, 判断支援, 活動代替など)を知る.	
10	データ解析(最適化, シミュレーション), 教師あり学習による予測	予測利益が最大になるような価格はいくらになるかを求める.	
11	時系列データ, データ可視化, データ解析(パターン発見)	時間の経過順に並んだデータの周期的な動きを折れ線グラフで確認する. 期間を移動させながら平均をとり, データの動きをなめらかにする.	
12	移動平均, 季節調整	季節に影響されないデータの動きを確認する.	
13	データの分布(ヒストグラム), 不適切なグラフ表現, 優れた可視化事例の紹介	データを小区間ごとに分けて, その小区間に入っているデータの個数を数える. ヒストグラムを作成する.	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
14	データベース, データの集計 (和, 平均), データの図表表現 (チャート化)	ピボットテーブルでクロス集計をおこなう.	
15	データクレンジング (外れ値, 異常値, 欠損値の処理)	大きく外れている極端な値を見つける.	

開講科目名 Course	数学入門 / Introduction to Mathematics
時間割コード Course Code	10260
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	岡田 朋子
科目区分 Course Group	共通科目群 科学と自然
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岡田 朋子 (経営学部)
授業の目標	<p>演習やエクセルの操作を通じて基本的な数学の概念を理解することを目的とする。</p> <p>知識・理解の領域 微分、積分などの基本的な数学の概念を理解する。</p> <p>技能の領域 PC操作に慣れ、表計算ソフトを使いこなせるようにする。</p> <p>態度・志向性の領域 データ・AI活用領域の広がり（生産、消費、文化活動など）を知り、「データ分析ができる」、「データ活用ができる」人材が社会に必要であるという認識をもつ。</p> <p>思考判断の領域 データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方を身につけ、根拠のたしかかな事実にもとづき論理的に正しく推論することができる能力をもつ。</p> <p>関心意欲の領域 数学の基礎を習得し、それをデータサイエンスに応用する意欲をもつ。</p>
授業の概要	<p>対象とする受講生は、数学や統計学の知識をもっていない、そして、エクセルの使用に慣れていない初心者とする。 受講条件は、「本学が指定する要件をみたすパソコン」を講義に持参することである。</p> <p>データ・AI利活用に必要な数学の基礎を学ぶ。 演習やエクセルの作業によって授業を進めていく。 不明点があれば、個別対応も可能。 予備知識のない初心者でも十分理解できる内容であり、エクセルに数字を入力することからはじめる。 数学が苦手な学生が受講しても無理がないように、やさしい内容をゆっくり学習していく予定である。</p> <p>課題の作成は授業中に指導、対話しながらおこなう。 受講生の知識や理解度を毎回確認して、それに応じて授業内容を合わせる予定である。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業中に作成した課題などを提出し、その評価の合計で総合評価する。

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	エクセルを使ってグラフを作成したり，計算を行ったりなどの実習をおこなう．
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中におこなう．
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の内容についての予習や復習をそれぞれ2時間おこなうこと．
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	順列, 組み合わせ	授業内容の具体的な説明と準備. 順列 組み合わせ 漸化式をつくる エクセルでの演習	
2	集合, ベン図	集合 ベン図 集合の演算 エクセルでの演習	
3	確率	確率の意味 条件付き確率 エクセルでの演習	
4	代表値	平均値 中央値 最頻値 エクセルでの演習	
5	分散, 標準偏差	分散 標準偏差 エクセルでの演習	
6	相関	共分散 相関係数 相関関係と因果関係 エクセルでの演習	
7	ベクトルと行列, ベクトルの演算	ベクトルと行列 ベクトルの和とスカラー倍 ベクトルの内積 エクセルでの演習	
8	行列の演算	行列の和とスカラー倍 行列の積 エクセルでの演習	
9	多項式関数	多項式関数とは 1次関数のグラフ 2次関数のグラフ エクセルでの演習	
10	指数関数	指数の意味 指数関数のグラフ エクセルでの演習	
11	対数関数	対数の意味 対数関数のグラフ エクセルでの演習	
12	微分係数	関数の極限 関数の傾きと微分の関係 エクセルでの演習	
13	1変数関数の微分法	導関数 関数の増減とグラフ エクセルでの演習	
14	1変数関数の積分法	不定積分 積分と面積の関係 定積分 エクセルでの演習	
15	まとめ	まとめの演習	

開講科目名 Course	科学と人間社会Ⅰ / Science and Human Society I
時間割コード Course Code	10270
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	田村 ユカ
科目区分 Course Group	共通科目群 文理ハイブリッド
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	田村 ユカ (法学部)
授業の目標	<p>科学の意味、科学の方法論、科学史、科学の人間社会での使われ方を理解し、その知識を活用して科学的な内容が含まれている新聞や雑誌などの記事あるいはテレビ、ラジオやインターネットなどのニュースを正確に把握できるようになる。</p> <p>知識・理解の領域</p> <p>科学の本質や科学の方法論、科学的な視点を理解する</p> <p>技能の領域</p> <p>日々情報として知らされる世界のモノとコトを客観的に、科学的に理解できるようになる</p> <p>態度・志向性の領域</p> <p>似非科学や妄想を廃し、科学的（客観的）な考え方や科学技術を全ての人間の幸福につながるように適用できるようになる。</p>
授業の概要	<p>現代社会においてはものごとを科学的に理解し、科学的に将来予測をすることが尊重されている。しかし科学の本質や科学的方法論を理解している人間は決して多くはない。また科学から生み出された科学技術が全ての人間を幸福にしているわけではない。</p> <p>この講義では、まずそもそも科学とは何か、科学的方法論とはどのような論理なのかを、科学史をたどったり、哲学的考察を概観したりして確認する。そして基礎科学（生物学、地球科学、化学、物理学など）や応用科学（農学、医学、工学など）が人間社会に何をもたらしているのかを知る。そして科学は人間社会において本来どのようにあるべきか、人間の幸福のためにどのように科学技術を使うべきなのかを考察する。</p>
評価方法	定期テスト100%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合
授業計画	<p>第1回：ガイダンス。科学史1：古代から近世までの科学の進歩と重要な科学的知見。</p> <p>第2回：科学史2：近代における科学のあり方と重要な科学的知見</p> <p>第3回：科学の意味および科学的方法論について</p> <p>第4回：進化論が人間社会におよぼした影響</p> <p>第5回：地球の生物多様性を守る科学1：持続可能な開発</p> <p>第6回：地球の生物多様性を守る科学2：絶滅危惧種の保護</p> <p>第7回：地球の生物多様性を守る科学3：外来種対策</p> <p>第8回：遺伝学が人間社会におよぼした影響</p> <p>第9回：分子生物学と遺伝子工学</p> <p>第10回：地震、気象の観測、予知、防災</p> <p>第11回：農学の進歩が人間社会にもたらしたもの</p> <p>第12回：医学の進歩が人間社会にもたらしたもの</p> <p>第13回：工学、情報工学、科学技術の進歩が人間社会にもたらしたもの</p> <p>第14回：地球温暖化の科学</p> <p>第15回：核物理学が生み出した熱核兵器と原子力発電</p>

テキスト	
参考書	授業で紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内容に関する質問は授業後の時間、あるいはe-mailで対応する。
フィードバックの方法	授業内容に関するフィードバックは授業後の時間、あるいはe-mailで対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習は必要ありません。復習としては、第1回～14回の授業後には配布資料を読み直してください。また科学的な内容の新聞や雑誌などの記事あるいはテレビ、ラジオやインターネットなどのニュースに積極的に触れ、自分の考えをまとめるようにしてください。第15回の授業の後には定期テストへの対策の勉強をしてください。復習時間としては授業期間中に2単位取得のため合計60時間を充ててください。目安は授業1回あたり（1週間あたり）およそ4時間です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	2. 飢餓をゼロに 4. 質の高い教育をみんなに 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさも守ろう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力

開講科目名 Course	科学と人間社会II / Science and Human Society II
時間割コード Course Code	10280
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	高橋 裕平
科目区分 Course Group	共通科目群 文理ハイブリッド
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高橋 裕平(法学部)、野口 道代(法学部)
授業の目標	地質・鉱物・環境について学び、それらと人間社会とのかかわりを理解し説明できるようになる。 1.知識・理解の領域 ・資源の地域的な偏りは地質の違いによることを理解する。 2.技術の能力 ・資源調査のための地質学の体系と資源開発に伴う環境負荷を理解する。 3.態度・志向性の領域 ・資源開発とそれに伴う環境問題から、科学と人間社会を考える。
授業の概要	地学の基礎を知った上で、鉱物資源と環境問題にからめて科学と人間社会を以下の章立てで論じる。 第1回 資源と地質, 第2回 資源と経済, 第3回 地球の歴史, 第4回 地球の仲間, 第5回 日本の地質, 第6回 地学史, 第7回 地形図, 第8回 地質図, 第9回 岩石と鉱物, 第10回 資源各論(その1), 第11回 資源各論(その2), 第12回 2030持続可能な社会へ-SDGs, 第13回 石炭と環境, 第14回 南極(その1), 第15回 南極(その2) なお、この科目の位置づけについては本学HPのナンバリングを参照する。
評価方法	評価ポイントの比重。 ・随時小レポートを課す。そのレポートの内容(50%)。 ・発言などの授業への取り組み態度(50%) 遠隔となった場合、出欠確認、小レポート提出、発言をグーグルフォーム利用で代替する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席(特別欠席を含む)が半分に満たない場合 小レポート提出が全くない場合

授業計画	<p>第1回 資源と地質 a. 鉱物資源のかたより(その1), b. 元素の復習, c. 地質序論</p> <p>第2回 資源と経済 a. 資源のかたより(その2), b. 鉱物資源と経済, c. 鉱物資源の動向</p> <p>第3回 地球の歴史 a. 相対年代, b. 地質時代区分, c. 放射年代</p> <p>第4回 地球の仲間 a. 惑星, b. 月と隕石, c. 地球の運動</p> <p>第5回 日本の地質 a. 日本の地質, b. 日本の鉱物資源, c. 日本の鉱山例</p> <p>第6回 地学史 a. ギリシャ時代と中世ヨーロッパ, b. 地質学の近代化, c. グローバルテクトニクスの導入</p> <p>第7回 地形図 a. 国土の基本-地形図, b. 測量とその応用, c. 測量技術の進展</p> <p>第8回 地質図 a. 地質学黎明期(れいめいき), b. 日本の地質図, c. 地質図の書き方と読み方</p> <p>第9回 岩石と鉱物 a. 主な鉱物, b. 岩石の分類, c. 偏光顕微鏡</p> <p>第10回 資源各論(その1) a. 金, b. 白金, c. 銅</p> <p>第11回 資源各論(その2) a. 花こう岩とは, b. 花こう岩系列, c. タングステンとモリブデン鉱床</p> <p>第12回 2030持続可能な社会へ-SDGs a. 持続可能な開発目標(SDGs), b. 地方におけるSDGsの推進, c. 海洋プラスチックごみ問題</p> <p>第13回 石炭と環境 a. 石炭生産と二酸化炭素, b. 地球温暖化, c. 二酸化炭素地中貯留</p> <p>第14回 南極(その1南極探検前史) a. 未知の南方大陸, b. 大航海時代, c. クックの航海</p> <p>第15回 南極(その2南極の資源と環境) a. 南極概略, b. 南極点をめざして, c. 日本の南極観測</p>
テキスト	なし。資料を用意する。
参考書	<p>・WIKIBooks 高等学校理科/地学基礎、その中で特に「移り変わる地球」に目を通しておくと良い。そのサイトは次の通り。  <a href="https://ja.wikibooks.org/wiki/%E9%AB%98%E7%AD%89%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E7%90%86%E7%A7%91/%E5%9C%B0%E5%AD%A6%E5%9F%BA%E7%A4%8E/%E7%A7%BB%E3%82%8A%E5%A4%89%E3%82%8F%E3%82%8B%E5%9C%B0%E7%90%83">https://ja.wikibooks.org/wiki/%E9%AB%98%E7%AD%89%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E7%90%86%E7%A7%91/%E5%9C%B0%E5%AD%A6%E5%9F%BA%E7%A4%8E/%E7%A7%BB%E3%82%8A%E5%A4%89%E3%82%8F%E3%82%8B%E5%9C%B0%E7%90%83</a></p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>岩石・鉱物試料の実物観察。 地形図や地質図に関する作図実習。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	地質調査所技官, 南極地域観測隊隊員, JICA専門家(地質学)の経験を授業に反映する。
質問への対応方法	授業の中で対応する。遠隔となった場合, グーグルクラスルームで対応する。
フィードバックの方法	授業の中で対応する。遠隔となった場合, グーグルクラスルームで対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>毎回の授業について内容を深める資料のウェブサイトを設ける。 予習: 参考資料サイトを参照し, さらにサイト中の問いを解く。 復習: 関連動画を見る。参考文献(e-Bookを含む)を読む。質問や感想に対するフィードバックを参照し理解を深める。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<p>1. 貧困をなくそう 4. 質の高い教育をみんなに 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標(11~17)	<p>13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力 2. 情報分析力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>3. 統率力 6. 行動持続力</p>

開講科目名 Course	科学と人間社会II / Science and Human Society II
時間割コード Course Code	10281
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	高橋 裕平
科目区分 Course Group	共通科目群 文理ハイブリッド
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高橋 裕平 (法学部)、野口 道代 (法学部)
授業の目標	地質・鉱物・環境について学び、それらと人間社会とのかかわりを理解し説明できるようになる。 1. 知識・理解の領域 ・資源の地域的な偏りは地質の違いによることを理解する。 2. 技術の能力 ・資源調査のための地質学の体系と資源開発に伴う環境負荷を理解する。 3. 態度・志向性の領域 ・資源開発とそれに伴う環境問題から、科学と人間社会を考える。
授業の概要	地学の基礎を知った上で、鉱物資源と環境問題にからめて科学と人間社会を以下の章立てで論じる。 第1回 資源と地質, 第2回 資源と経済, 第3回 地球の歴史, 第4回 地球の仲間, 第5回 日本の地質, 第6回 地学史, 第7回 地形図, 第8回 地質図, 第9回 岩石と鉱物, 第10回 資源各論(その1), 第11回 資源各論(その2), 第12回 2030持続可能な社会へ-SDGs, 第13回 石炭と環境, 第14回 南極(その1), 第15回 南極(その2) なお、この科目の位置づけについては本学HPのナンバリングを参照する。
評価方法	評価ポイントの比重。 ・随時小レポートを課す。そのレポートの内容(50%)。 ・発言などの授業への取り組み態度(50%) 遠隔となった場合、出欠確認、小レポート提出、発言をグーグルフォーム利用で代替する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席(特別欠席を含む)が半分に満たない場合 小レポート提出が全くない場合

授業計画	<p>第1回 資源と地質 a. 鉱物資源のかたより(その1), b. 元素の復習, c. 地質序論</p> <p>第2回 資源と経済 a. 資源のかたより(その2), b. 鉱物資源と経済, c. 鉱物資源の動向</p> <p>第3回 地球の歴史 a. 相対年代, b. 地質時代区分, c. 放射年代</p> <p>第4回 地球の仲間 a. 惑星, b. 月と隕石, c. 地球の運動</p> <p>第5回 日本の地質 a. 日本の地質, b. 日本の鉱物資源, c. 日本の鉱山例</p> <p>第6回 地学史 a. ギリシャ時代と中世ヨーロッパ, b. 地質学の近代化, c. グローバルテクトニクスの導入</p> <p>第7回 地形図 a. 国土の基本-地形図, b. 測量とその応用, c. 測量技術の進展</p> <p>第8回 地質図 a. 地質学黎明期(れいめいき), b. 日本の地質図, c. 地質図の書き方と読み方</p> <p>第9回 岩石と鉱物 a. 主な鉱物, b. 岩石の分類, c. 偏光顕微鏡</p> <p>第10回 資源各論(その1) a. 金, b. 白金, c. 銅</p> <p>第11回 資源各論(その2) a. 花こう岩とは, b. 花こう岩系列, c. タングステンとモリブデン鉱床</p> <p>第12回 2030持続可能な社会へ-SDGs a. 持続可能な開発目標(SDGs), b. 地方におけるSDGsの推進, c. 海洋プラスチックごみ問題</p> <p>第13回 石炭と環境 a. 石炭生産と二酸化炭素, b. 地球温暖化, c. 二酸化炭素地中貯留</p> <p>第14回 南極(その1南極探検前史) a. 未知の南方大陸, b. 大航海時代, c. クックの航海</p> <p>第15回 南極(その2南極の資源と環境) a. 南極概略, b. 南極点をめざして, c. 日本の南極観測</p>
テキスト	なし。資料を用意する。
参考書	<p>・WIKIBooks 高等学校理科/地学基礎、その中で特に「移り変わる地球」に目を通しておくと良い。そのサイトは次の通り。  <a href="https://ja.wikibooks.org/wiki/%E9%AB%98%E7%AD%89%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E7%90%86%E7%A7%91/%E5%9C%B0%E5%AD%A6%E5%9F%BA%E7%A4%8E/%E7%A7%BB%E3%82%8A%E5%A4%89%E3%82%8F%E3%82%8B%E5%9C%B0%E7%90%83">https://ja.wikibooks.org/wiki/%E9%AB%98%E7%AD%89%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E7%90%86%E7%A7%91/%E5%9C%B0%E5%AD%A6%E5%9F%BA%E7%A4%8E/%E7%A7%BB%E3%82%8A%E5%A4%89%E3%82%8F%E3%82%8B%E5%9C%B0%E7%90%83</a></p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	岩石・鉱物試料の実物観察。 地形図や地質図に関する作図実習。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	地質調査所技官, 南極地域観測隊隊員, JICA専門家(地質学)の経験を授業に反映する。
質問への対応方法	授業の中で対応する。遠隔となった場合, グーグルクラスルームで対応する。
フィードバックの方法	授業の中で対応する。遠隔となった場合, グーグルクラスルームで対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業について内容を深める資料のウェブサイトを設ける。 予習: 参考資料サイトを参照し, さらにサイト中の問いを解く。 復習: 関連動画を見る。参考文献(e-Bookを含む)を読む。質問や感想に対するフィードバックを参照し理解を深める。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	1. 貧困をなくそう 4. 質の高い教育をみんなに 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11~17)	13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	3. 統率力 6. 行動持続力

開講科目名 Course	科学と人間社会III / Science and Human Society III
時間割コード Course Code	10290
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	高野 智
科目区分 Course Group	共通科目群 文理ハイブリッド
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高野 智 (法学部)
授業の目標	<p>人類の進化の歴史を知ることで、自分自身も含めて人間を客観的に見る視点を養うことを目指します。現在、繁栄の極みに見える人間といえども、生物学的に見れば哺乳類の中の霊長類というグループの1種に過ぎません。体のつくりも行動も社会のあり方も、霊長類の進化の歴史を色濃く反映しています。これまでに科学が解明してきた人類進化の道のりを学ぶことは、人間をより深く理解することにつながり、将来の人間社会がどうあるべきかを考える基礎となるでしょう。</p> <p>知識・理解の領域 人類や人間社会の由来を知る。</p> <p>思考・判断の領域 人間社会の事象に対して客観的立場から冷静に考える。</p> <p>関心・意欲の領域 科学的な観点をもつことへの関心・意欲を深める。</p> <p>態度・志向性の領域 人間社会の事象に対する客観的な態度・志向性を身に付ける</p> <p>技能の領域 人間に関する非科学的な情報に対して疑問をもつ力をつける。</p> <p>体験探究の領域 高校までのカリキュラムでは学習しない人類進化について、間接的な体験を通じて知る。</p>
授業の概要	<p>この授業では、生物学的な観点から人類の成り立ちを研究する人類学の立場から、人類の進化の歴史について学びます。人類学は、科学的な立場から自然界の中に人類を位置づけ、人の本性を明らかにしようとする学問です。進化の仕組みを学ぶことから始め、霊長類の誕生からホモ・サピエンスにまで至る歴史を知り、現代社会の成り立ちを考えていきます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業で取り上げるトピックごとに小課題を課す。小課題の記述内容と提出状況を総合し、期末試験の成績と合わせて評定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小課題の記述内容50%</li> <li>・期末試験50%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席回数が10回に満たない場合</li> </ul>



授業計画	第1回 人類学とは 第2回 生き物の進化とは 第3回 進化の仕組み 第4回 生物と環境 第5回 生き物の繁殖戦略 第6回 進化の歴史を復元する 第7回 霊長類の進化(1) 霊長類とは 第8回 霊長類の進化(2) 類人猿の進化 第9回 人類の進化(1) 人類の誕生 第10回 人類の進化(2) 環境変動と人類進化 第11回 人類の進化(3) 原人の出アフリカ 第12回 人類の進化(4) ホモ・サビエンスの拡散 第13回 日本人の起源 第14回 農業の発達と文明の発達 第15回 人間活動と環境問題
テキスト	指定しない
参考書	公益財団法人日本モンキーセンター編『霊長類図鑑 サルを知るとはヒトを知ること』京都通信社 中山一夫・市石博(編)『つい誰かに教えたい人類学63の大疑問』講談社 更科功『残酷な進化論』NHK出版新書 その他、講義中に指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	個別の質問については授業後に対応する。授業の進行上、重要と思われる事柄については授業中の質問も妨げない。
フィードバックの方法	各回の小課題や感想については、翌週以降の授業において主だった記述を取り上げるものとする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の授業の最後に次回の授業のテーマを提示するので、60分以上の時間をかけて調べ学習をおこなうものとする。また、各回の授業後に復習をおこなうのは当然のことであり、その到達度は期末試験において判定される。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	環境共生の探究I / Environment and SocietyI
時間割コード Course Code	10300
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	郡 麻里
科目区分 Course Group	共通科目群 文理ハイブリッド
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	郡 麻里 (経営学部)
授業の目標	<p>日常生活において、私たちは何らかの形で環境に負荷を与えている。今まで無意識に行ってきた選択 (商品の購入・消費活動・行動) を振り返り、Life Cycle Assessmentの概念で責任ある生産と消費について考えてみる。</p> <p>具体的には、日々購入したり口にしたりする水や食品、衣類が、どのような過程で生産され、どのような手段で運搬、使用され、処分されるのか、すべての調達工程について環境問題と関連付けて考えてみよう。</p>
授業の概要	<p>日々耳にする災害や事故について、なぜそうなったのか、原因について考え、予防・軽減の手段や回避対策を環境問題として考えてみる。このように、常に疑問を持ち、今一度考えてみる姿勢をクリティカルな思考と呼ぶ。私たちが知らず知らずのうちに生態系に負荷を与え、そのしわ寄せが生物の絶滅や疫病の蔓延、食糧危機、公害、気候危機や災害となって表れることに気づく時が来た。2030年までわずかしかなが、生物多様性の損失を止め、反転させるための緊急の行動が要請されている。</p> <p>本コースでは、地域や世界で起きている環境問題を知り、複数の情報源から原因や対策を追究し、自ら調べる姿勢を身に着ける。さらに、地域の資源や自然を持続的に活用する手段やアイデアに触れ、生物多様性や生態系の健全性を維持し再生させる技法と持続可能な自然共生社会の実現方法を学ぶ。</p>
評価方法	数週間ごとに出される課題等の提出物：50%、 期末レポート：40%、 質問やディスカッションへの積極的な参加：10%
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	やむをえず欠席等する際は事前に理由を連絡すること。

授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 日常生活での環境問題とSDGsによる解決策を考える</p> <p>第3回 Remote responsibilityとは何か</p> <p>第4回 食料自給率の低下の原因と対策</p> <p>第5回 Carbon footprintとは何か</p> <p>第6回 化石燃料に依存したグローバル化社会から脱炭素社会へ</p> <p>第7回 再生可能エネルギーの重要性と循環的資源利用</p> <p>第8回 グリーン・インフラとは何か</p> <p>第9回 自然環境保全は災害リスク軽減に貢献する</p> <p>第10回 生物多様性保全は感染症リスク軽減に貢献する</p> <p>第11回 人獣共通感染症の拡大と大量生産・大量消費の経済の関係</p> <p>第12回 持続可能な地域循環経済と自然共生社会</p> <p>第13回 戦争による環境破壊</p> <p>第14回 自然環境との共生・ネイチャーポジティブとは</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>* 内容や順番は変更になる可能性がある。</p>
テキスト	特になし。毎回参考文献を紹介する。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	担当教員は環境省など国の委託事業や補助事業を担当した経験があるため、それらを活かし、現在の国の生物多様性保全戦略や気候変動への対策・方針について紹介する。
質問への対応方法	授業の後や電子メール等で対応する。
フィードバックの方法	授業の後や電子メール等で対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習復習を各1時間ほどすることを勧める。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<p>2. 飢餓をゼロに</p> <p>3. すべての人に健康と福祉を</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>6. 安全な水とトイレを世界中に</p> <p>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>
SDGs 17の目標(11~17)	<p>11. 住み続けられるまちづくりを</p> <p>12. つくる責任つかう責任</p> <p>13. 気候変動に具体的な対策を</p> <p>14. 海の豊かさを守ろう</p> <p>15. 陸の豊かさを守ろう</p> <p>16. 平和と公正をすべての人に</p>
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力

開講科目名 Course	環境共生の探究II / Environment and SocietyII
時間割コード Course Code	10310
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	郡 麻里
科目区分 Course Group	共通科目群 文理ハイブリッド
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	郡 麻里 (経営学部)
授業の目標	<p>地域の自然や資源の利用を通して、草刈りや野焼き、放牧といった自然への適度な働きかけが、地域固有の生態系を作り出している実情を知る。特に、棚田周辺には半自然草地や半自然の湿地である水田、用水路、ため池が存在しており、地域の希少な生き物たちの棲み処となっている。また、棚田周辺には石垣や竹林など多様な空間が維持されており、稲作といった人々の営みが地域の景観の多様性や環境保全の機能発揮にも貢献していることを理解する。</p> <p>一方で、少子高齢化や食料自給率の低迷により、農地や竹林は放置されてきた。自然は放置するのではなく、適度に利用し維持することが、結果的に地域固有の生態系や地域独自の生き物を育む基盤となっていることを学ぶ。</p> <p>地産地消による持続可能な社会経済の構築と循環が、地域の生態系の健全さの維持にも貢献していることを学び、今後の自然資源の利用のあり方について考える力を養う。</p> <p>知識・理解の領域 健全な生態系の基礎的知識を習得できる。また、人間による過度な資源利用によって、どのような環境問題がについて理解することができる。</p> <p>技能の領域 現在の里山の現状と気候変動とのかかわりについて、科学的な視点で客観的にデータを分析することができる。</p> <p>態度・指向性の領域 持続可能な自然資源の利用のあり方について、地球環境と地域環境の両側面から考えることができるようになる。</p> <p>関心意欲の領域 環境問題を自分の生活に結びつけて考えることができるようになる。</p>
授業の概要	<p>人間の生活は、生物多様性の恩恵によって成り立っている。一方、人間活動や政治の変化によって各地の自然環境が破壊されてきた。特に陸域生態系は、人間の生命活動や経済活動によって大きく改変されてきた。そのため、今、生物多様性の損失を止め、反転させるための緊急の行動が要請されている。</p> <p>本講義では、コンクリート社会から抜け出し、自然基盤を生活に再び取り入れ、地域の自然資源をうまく利活用するグリーン・インフラの概念、生態系に基づいた防災・減災 (eco-DRR) について学び、地域の生態系や生物多様性の保全が、固有の文化の形成と維持に欠かせないことをその仕組みとともに学ぶ。</p> <p>本講義では、自然と人間活動との関係性について、日常生活の様々な事例を取り上げながら学び、自然環境の把握手法や環境問題の解決策について考える。</p>
評価方法	<p>授業の提出物、宿題課題等：50%</p> <p>期末レポート：40%</p> <p>積極的な質問や意見共有：10%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席4回以上は失格とする。

授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 なぜ生物多様性を守らなくてはならないのか 第3回 里山の生き物と地域住民の暮らし 第4回 河川環境の変遷 第5回 地域の植生の特徴と遷移 第6回 薪炭林と原木シタケ栽培 第7回 ため池の手入れと栄養塩の流域レベルでの循環 第8回 手入れの行き届かない里山にナラ枯れ発生 第9回 シカとイノシシの急増と感染症の拡大 第10回 シカに食われる森林 第11回 自然災害の激甚化と気候変動問題にNbSとグリーンインフラの概念を 第12回 原子力政策と放射性廃棄物問題 第13回 生態系サービス・森の恵みの有効活用 第14回 バイオチャーを利用した持続可能な地域資源活用と脱炭素技術 第15回 健全な生態系と生物多様性の保全は人類の存続に不可欠
テキスト	なし。必要に応じて資料を配布する。
参考書	人と生態系のダイナミクス 1 農地・草地の歴史と未来。宮下 直、西廣 淳、朝倉書店   (2019/7/16) 人と生態系のダイナミクス3 都市生態系の歴史と未来。飯田 晶子、曾我 昌史、土屋 一彬  朝倉 書店 (2020/9/28) 保全生態学の技法 調査・研究・実践マニュアル。鷲谷 いづみ、西廣 淳 他  東京大学出版会 (2010/3/1)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問は授業後、もしくはメールにて対応する
フィードバックの方法	履修生全員が内容を共有できるように取りまとめて、授業中に発表する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業で紹介する文献等による予習と復習が必要である。 60時間程度の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	1. 貧困をなくそう 2. 飢餓をゼロに 4. 質の高い教育をみんなに 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標 (11~17)	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう 17. パートナリーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	2. 情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力

開講科目名 Course	生命と倫理 / Bioethics
時間割コード Course Code	10320
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	久保田 進一
科目区分 Course Group	共通科目群 文理ハイブリッド
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	久保田 進一 (経済学部)
授業の目標	<p>生命倫理が問題とする事柄を紹介し、人間と生命を理解する。生命倫理に関する基本的な知識を身につけることができる。生命に関する様々な倫理的立場の考えを理解できる。生命と人格への尊厳を持ち、社会への関わりについて、自分で考えることができるようにする。</p> <p>知識・理解の領域 異文化の知識と価値を理解する。</p> <p>技能の領域 情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。</p> <p>態度・志向性の領域 自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。</p>
授業の概要	<p>生命倫理学とは人間の生と死を研究対象とする学問である。科学 技術の発展に伴い、医療技術も高度化しており、様々な問題が発生してきている。そこで、生命倫理学は、これまでの価値観ではなく、様々な議論をなすことによって、これからの価値観が「どうあるべき」なのかを考察している。そして、われわれはどのような社会を目指していくべきなのかを考えていく学問である。各自、生命倫理に関する問題について理解し、考えてもらいたい。</p>
評価方法	定期試験 ( 1 0 0 % )
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が 1 0 回に満たない場合、欠格とする。
授業計画	<p>第1回 生命倫理とは？</p> <p>第2回 生命の倫理的問題へのアプローチ ( 義務論・功利主義・徳倫理 )</p> <p>第3回 トロツク問題について、どう考えるのか？</p> <p>第4回 障害新生児の選択的治療中止・優生学・パーソン論</p> <p>第5回 人工妊娠中絶・生殖補助医療</p> <p>第6回 出生前診断・着床前診断</p> <p>第7回 安楽死と死ぬ権利</p> <p>第8回 移植医療と脳死</p> <p>第9回 テクノロジーと人間改造</p> <p>第10回 脳神経科学の発展とニューロエシックス</p> <p>第11回 遺伝子技術</p> <p>第12回 不老不死と人間社会</p> <p>第13回 社会的共通資本としての医療制度の危機</p> <p>第14回 動物の権利</p> <p>第15回 高齢者の医療と介護</p>
テキスト	テキストは使用しない。講義資料を配布する。

参考書	今井道夫 『生命倫理学入門』 産業図書 レオン・R・カス 『治療を超えて』 青木書店 森下直貴編 『生命と科学技術の倫理学』 丸善出版
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・授業終了後に対応 ・メール対応 (pxk06600@nifty.com)
フィードバックの方法	メールで質問を受けた場合は、メールで対応する。 次回の授業前に、前回の授業について復習を兼ねて、学生に質問や意見を聞いて、対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	日頃から生命倫理に関するニュースや新聞記事などの情報を取得し、問題意識を持つこと。 授業中に紹介した文献について、理解して自分なりの考えをまとめておくこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	全学ゼミナール / Interdepartmental Seminar
時間割コード Course Code	10321
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	ウミリデノブ アリシエル
科目区分 Course Group	共通科目群 全学ゼミナール
教室 Classroom	3 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ウミリデノブ アリシエル (法学部)
授業の目標	日本とウズベキスタンを比較する上で、それぞれの国の異なる点とその背景を理解する。  現代社会の諸問題を解決しようとする姿勢や態度を育成する。
授業の概要	日本と逆に毎年60万人ペースで人口が増えている、中央アジアの二重大陸国のウズベキスタン。2016年9月に政権が30年ぶりに変わった以降、この国で何がどう変わっているだろうか。さらに、ウズベキスタンの民主主義への歩みと経済発展が地域の諸国にどのような影響を与えるだろうか。多くのウズベク人留学生は、自国の政治や経済のことを勉強せず日本に留学してしまっていることを背景に、この授業では日本の政治体制と経済システムと比較しながら、ウズベキスタンの政治体制と経済事情に関する基本的知識を身につくことを目指す。  授業への参加条件：ウズベク語を理解し、読書できること
評価方法	プレゼンテーション 100%  3回以上無断欠席で失格とする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：ウズベキスタンという国の誕生（旧ソ連時代） 第3回：1991～2016年までのウズベキスタン 第4回：Mirziyoyev政権の誕生と改革政策（2016年～） 第5回：ウズベキスタンの経済システム 第6回：ウズベキスタン政治体制：大統領府と内閣の関係 第7回：自由選挙とウズベキスタンの議会（Oliy Majlis） 第8回：ウズベキスタンの司法府は独立なのか。 第9回：ウズベキスタンの外交政策 第10回：日本とウズベキスタンの関係（経済、政治、文化）  第11回～第15回：他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動（プレゼンテーション）
テキスト	帯谷 知可編『ウズベキスタンを知るための60章』明石書店（2018）  :
参考書	特になし。



アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	議論とプレゼンテーションを多く、取り入れます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	毎時間、質問対応の時間を設定する。 オフィスアワー以外の時間帯でも、研究室にて受け付ける。
フィードバックの方法	次の時間の対面による指導の他、メール、グーグルクラスルームを活用してフィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	現代社会における諸課題を把握しておく必要があるため、日本とウズベキスタンに特化したマスコミュニケーションツールを活用して、ニュースに触れておく。（予習：合計30時間） 現代社会における諸課題と向き合い、解決に向けて方策について検討し、プレゼンテーションを行う。（復習&授業準備：合計30時間）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力

開講科目名 Course	(日)基礎力養成I(A) / Basic academic skills training I
時間割コード Course Code	11000
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	人見 浩司
科目区分 Course Group	共通科目群 キャリア
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	人見 浩司(経済学部)、PSES(他大学)
授業の目標	基礎数学講義では、数学的な論理的思考能力、問題処理能力、計算スキルの基本事項を復習し、より確かな基礎学力を身につけていきます。将来の公務員試験、就職試験に備えた数学、国語の基盤となる基礎学力をつくることを目標とします。
授業の概要	講義において、まずは必須となる基本事項を整理し、その基本知識を活用して実際に問題を解くプロセスを演習によって繰り返し学習することにより数学の基本を身につけていきます。本講義ではとりわけ数的推理の問題を解く上での基本事項を習熟させ、問題への対応力を高めていきます。公務員試験、就職試験において最も比重の高い数学分野の問題ですが、文系学生にとっては苦手意識の高い分野でもあります。本講義を通じて、問題の解法の基本パターンを効率よく理解し、数学的思考能力を高めていきます。
評価方法	受講態度20% 定期試験80%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	6回以上欠席した場合は失格とします。
授業計画	第 1 週 講座の主旨説明と流れのガイダンス、学力診断テスト 第 2 週 分数・少数・累乗計算 第 3 週 1次方程式・不等式 第 4 週 連立方程式 第 5 週 平方根 第 6 週 2次方程式 第 7 週 約数と倍数 第 8 週 比と割合 第 9 週 比と割合 第 10 週 損益算 第 11 週 濃度算 第 12 週 N進法 第 13 週 仕事算・水槽算 第 14 週 漢字、同音異義語、同訓異義語 第 15 週 対義語、類義語、四字熟語、ことわざ、慣用句
テキスト	基礎学力養成プログラム BASIC 1,500円(税別)
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メール対応 ( pses@pses.co.jp )
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	受講した講義の復習1時間 翌週の講義の予習 1時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 ( 1 ~ 10 )	
SDGs 17の目標 ( 11 ~ 17 )	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(日)基礎力養成I(B) / Basic academic skills training I
時間割コード Course Code	11001
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	中村 真咲
科目区分 Course Group	共通科目群 キャリア
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 真咲 (経営学部)、P S E S (他大学)
授業の目標	基礎数学講義では、数学的な論理的思考能力、問題処理能力、計算スキルの基本事項を復習し、より確かな基礎学力を身につけていきます。将来の公務員試験、就職試験に備えた数学、国語の基盤となる基礎学力をつくることを目標とします。
授業の概要	講義において、まずは必須となる基本事項を整理し、その基本知識を活用して実際に問題を解くプロセスを演習によって繰り返し学習することにより数学の基本を身につけていきます。本講義ではとりわけ数的推理の問題を解く上での基本事項を習熟させ、問題への対応力を高めていきます。公務員試験、就職試験において最も比重の高い数学分野の問題ですが、文系学生にとっては苦手意識の高い分野でもあります。本講義を通じて、問題の解法の基本パターンを効率よく理解し、数学的思考能力を高めていきます。
評価方法	受講態度20% 定期試験80%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	6回以上欠席した場合は失格とします。
授業計画	第 1 週 講座の主旨説明と流れのガイダンス、学力診断テスト 第 2 週 分数・少数・累乗計算 第 3 週 1次方程式・不等式 第 4 週 連立方程式 第 5 週 平方根 第 6 週 2次方程式 第 7 週 約数と倍数 第 8 週 比と割合 第 9 週 比と割合 第 10 週 損益算 第 11 週 濃度算 第 12 週 N進法 第 13 週 仕事算・水槽算 第 14 週 漢字、同音異義語、同訓異義語 第 15 週 対義語、類義語、四字熟語、ことわざ、慣用句
テキスト	基礎学力養成プログラム BASIC 1,500円 (税別)
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メール対応 ( pses@pses.co.jp )
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	受講した講義の復習1時間 翌週の講義の予習 1時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 ( 1 ~ 10 )	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標 ( 11 ~ 17 )	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(日)基礎力養成I(C) / Basic academic skills training I
時間割コード Course Code	11002
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	太田 和徳
科目区分 Course Group	共通科目群 キャリア
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 和徳 (管理栄養学科)、P S E S (他大学)
授業の目標	基礎数学講義では、数学的な論理的思考能力、問題処理能力、計算スキルの基本事項を復習し、より確かな基礎学力を身につけていきます。将来の公務員試験、就職試験に備えた数学、国語の基盤となる基礎学力をつくることを目標とします。
授業の概要	講義において、まずは必須となる基本事項を整理し、その基本知識を活用して実際に問題を解くプロセスを演習によって繰り返し学習することにより数学の基本を身につけていきます。本講義ではとりわけ数的推理の問題を解く上での基本事項を習熟させ、問題への対応力を高めていきます。公務員試験、就職試験において最も比重の高い数学分野の問題ですが、文系学生にとっては苦手意識の高い分野でもあります。本講義を通じて、問題の解法の基本パターンを効率よく理解し、数学的思考能力を高めていきます。
評価方法	受講態度20% 定期試験80%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	6回以上欠席した場合は失格とします。
授業計画	第 1 週 講座の主旨説明と流れのガイダンス、学力診断テスト 第 2 週 分数・少数・累乗計算 第 3 週 1次方程式・不等式 第 4 週 連立方程式 第 5 週 平方根 第 6 週 2次方程式 第 7 週 約数と倍数 第 8 週 比と割合 第 9 週 比と割合 第 10 週 損益算 第 11 週 濃度算 第 12 週 N進法 第 13 週 仕事算・水槽算 第 14 週 漢字、同音異義語、同訓異義語 第 15 週 対義語、類義語、四字熟語、ことわざ、慣用句
テキスト	基礎学力養成プログラム BASIC 1,500円 (税別)
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メール対応 ( pses@pses.co.jp )
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	受講した講義の復習1時間 翌週の講義の予習 1時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 ( 1 ~ 10 )	
SDGs 17の目標 ( 11 ~ 17 )	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(日)基礎力養成II(A) / Basic academic skills training II
時間割コード Course Code	11010
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	人見 浩司
科目区分 Course Group	共通科目群 キャリア
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	人見 浩司(経済学部)、PSES(他大学)
授業の目標	数学、算数の基礎力の補完と文章読解の基礎力習得
授業の概要	大学生活はもとより、今後の就職活動あるいは社会生活を営む上で必要とされる基礎学力の補完に狙いを置いた講義を実施していく。非言語分野においては基礎的な計算問題、数学的思考力が問われる基本的な問題を演算・演習を交えて習得していく。また、言語分野では、問題演習を通して文章読解の基礎力を養い、その後の公務員対策、就職試験対策にスムーズに移行できるよう指導していく。
評価方法	受講態度20% 定期試験80%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	6回以上欠席した場合は失格とします。
授業計画	第 1 週 講座の主旨説明と流れのガイダンス、学力診断テスト、速さの問題 第 2 週 1週目の続き 第 3 週 鶴亀算 第 4 週 順列・組み合わせ 第 5 週 確率 第 6 週 数列 第 7 週 集合 第 8 週 図表の読み取り 第 9 週 推論 1 第 10 週 推論 2 第 11 週 推論 3 第 12 週 命題と論理 第 13 週 文法、敬語、文学史 第 14 週 要旨把握・内容把握 第 15 週 空欄補充、文章整序
テキスト	基礎学力養成プログラム BASIC 1,500円(税別) (日)基礎力養成I(A)(前期)と同じテキストですので再購入は不要です。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない



担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メール対応 ( pses@pses.co.jp )
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	受講した講義の復習1時間 翌週の講義の予習 1時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 ( 1 ~ 10 )	
SDGs 17の目標 ( 11 ~ 17 )	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(日)基礎力養成II(B) / Basic academic skills training II
時間割コード Course Code	11011
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	荒鹿 善之
科目区分 Course Group	共通科目群 キャリア
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒鹿 善之(経営学部)、PSES(他大学)
授業の目標	数学、算数の基礎力の補完と文章読解の基礎力習得
授業の概要	大学生活はもとより、今後の就職活動あるいは社会生活を営む上で必要とされる基礎学力の補完に狙いを置いた講義を実施していく。非言語分野においては基礎的な計算問題、数学的思考力が問われる基本的な問題を演算・演習を交えて習得していく。また、言語分野では、問題演習を通して文章読解の基礎力を養い、その後の公務員対策、就職試験対策にスムーズに移行できるよう指導していく。
評価方法	受講態度20% 定期試験80%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	6回以上欠席した場合は失格とします。
授業計画	第 1 週 講座の主旨説明と流れのガイダンス、学力診断テスト、速さの問題 第 2 週 1週目の続き 第 3 週 鶴亀算 第 4 週 順列・組み合わせ 第 5 週 確率 第 6 週 数列 第 7 週 集合 第 8 週 図表の読み取り 第 9 週 推論 1 第 10 週 推論 2 第 11 週 推論 3 第 12 週 命題と論理 第 13 週 文法、敬語、文学史 第 14 週 要旨把握・内容把握 第 15 週 空欄補充、文章整序
テキスト	基礎学力養成プログラム BASIC 1,500円(税別) (日)基礎力養成I(B)(前期)と同じテキストですので再購入は不要です。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メール対応 ( pses@pses.co.jp )
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	受講した講義の復習1時間 翌週の講義の予習 1時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 ( 1 ~ 10 )	
SDGs 17の目標 ( 11 ~ 17 )	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(日)基礎力養成II(C) / Basic academic skills training II
時間割コード Course Code	11012
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	宮本 雅史
科目区分 Course Group	共通科目群 キャリア
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	宮本 雅史 (法学部)、PSES (他大学)
授業の目標	数学、算数の基礎力の補完と文章読解の基礎力習得
授業の概要	大学生活はもとより、今後の就職活動あるいは社会生活を営む上で必要とされる基礎学力の補完に狙いを置いた講義を実施していく。非言語分野においては基礎的な計算問題、数学的思考力が問われる基本的な問題を演算・演習を交えて習得していく。また、言語分野では、問題演習を通して文章読解の基礎力を養い、その後の公務員対策、就職試験対策にスムーズに移行できるよう指導していく。
評価方法	受講態度20% 定期試験80%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	6回以上欠席した場合は失格とします。

授業計画	第 1 週 講座の主旨説明と流れのガイダンス、学力診断テスト、速さの問題 第 2 週 1週目の続き 第 3 週 鶴亀算 第 4 週 順列・組み合わせ 第 5 週 確率 第 6 週 数列 第 7 週 集合 第 8 週 図表の読み取り 第 9 週 推論 1 第 10 週 推論 2 第 11 週 推論 3 第 12 週 命題と論理 第 13 週 文法、敬語、文学史 第 14 週 要旨把握・内容把握 第 15 週 空欄補充、文章整序 第 1 週 講座の主旨説明と流れのガイダンス、学力診断テスト、速さの問題 第 2 週 1週目の続き 第 3 週 鶴亀算 第 4 週 順列・組み合わせ 第 5 週 確率 第 6 週 数列 第 7 週 集合 第 8 週 図表の読み取り 第 9 週 推論 1 第 10 週 推論 2 第 11 週 推論 3 第 12 週 命題と論理 第 13 週 文法、敬語、文学史 第 14 週 要旨把握・内容把握 第 15 週 空欄補充、文書整序
テキスト	基礎学力養成プログラム BASIC 1,500円（税別） （日）基礎力養成I(C)（前期）と同じテキストですので再購入は不要です。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メール対応（pses@pses.co.jp）
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	受講した講義の復習1時間 翌週の講義の予習 1時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(日)公務員・就職試験基礎力養成 (SPI含む) / Basic Skills Training for Civil Service Examination and Employment Examination I
時間割コード Course Code	11020
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	奥田 沙織
科目区分 Course Group	共通科目群 キャリア
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	奥田 沙織 (経済学部)、P S E S (他大学)
授業の目標	各種公務員採用試験及び教員採用試験に出題される一般知識分野の出題事項とそのレベルの確認を行い、一般知識分野の基礎力を養う。また、公務員志望者のみならず民間企業への就職を志望する学生の就職支援を行い、基礎学力アップを図ることを目的とする。
授業の概要	公務員試験及び教員採用試験に出題される一般知識分野のうち社会科学、人文科学、自然科学について講義をする。頻出テーマの基本知識をわかりやすく整理していき、各項目の仕組みの基本を理解させていく。
評価方法	定期試験 100%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	第 1 週 講座の主旨説明と流れのガイダンス、日本国憲法(総論)、基本的人権(総論)、基本的人権(各論) 第 2 週 実力確認テスト、1週目の続き 第 3 週 選挙制度と政党、世界の政治体制 第 4 週 国際連合、金融政策・日本銀行 第 5 週 物価の変動、予算・租税 第 6 週 社会集団・自己防衛機制、日本の貿易 第 7 週 朝鮮半島問題、消費税 第 8 週 オリンピックと国際博覧会、古代 第 9 週 中世、近世 第 10 週 中国王朝史、農業 第 11 週 鉱工業、西洋思想 第 12 週 電気回路、酸化還元反応 第 13 週 化学反応式 第 14 週 細胞組織、遺伝 第 15 週 地球の内部構造とプレート、岩石と火山
テキスト	公務員試験一般知識過去問特講 vol.3 2,500円 (税別)
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メール対応 ( pses@pses.co.jp )
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	受講した講義の復習1時間 翌週の講義の予習 1時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 ( 1 ~ 10 )	
SDGs 17の目標 ( 11 ~ 17 )	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(日)公務員・就職試験基礎力養成 (SPI含む) / Basic Skills Training for Civil Service Examination and Employment Examination II
時間割コード Course Code	11030
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	謝 芸甜
科目区分 Course Group	共通科目群 キャリア
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	謝 芸甜 (法学部)、P S E S (他大学)
授業の目標	各種公務員採用試験に出題される一般知能分野の出題事項とそのレベルの確認を行い、一般知能分野の基礎力を養う。また、公務員志望者のみならず民間企業への就職を志望する学生の就職支援を行い、基礎学力アップを図ることを目的とする。
授業の概要	公務員試験において、出題ウエイトの高い「一般知能」分野の数的推理、資料解釈の基本的な解法をマスターしていく。問題を解く上での基本的な数学上の確認事項を整理しつつ、問題解法のポイントを理解させ、基本的な問題に関して確実に解答へと導くことのできる基礎力を身に付けていく。また類似問題に応用できるような問題への対応能力が養われるよう講義していく。
評価方法	定期試験 100%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	第 1 週 講座の主旨説明と流れのガイダンス、約数・倍数、割り算と余り 第 2 週 実力確認テスト、1週目の続き 第 3 週 数列、N進法 第 4 週 場合の数と順列、組み合わせ 第 5 週 確率 第 6 週 旅人算、速度 第 7 週 流水算、通過算 第 8 週 原価・定価・売価、比 第 9 週 濃度算 第 10 週 仕事算 第 11 週 3 角形の性質、平面図形の面積 第 12 週 円の性質、立体図形 第 13 週 その他の問題 第 14 週 割合、構成比 第 15 週 指数、増減率
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	



質問への対応方法	メール対応 ( pses@pses.co.jp )
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	受講した講義の復習1時間 翌週の講義の予習 1時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 ( 1 ~ 10 )	
SDGs 17の目標 ( 11 ~ 17 )	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(日)公務員・就職試験基礎力養成 (SPI含む) / Basic Skills Training for Civil Service Examination and Employment Examination III
時間割コード Course Code	11040
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	関谷 みのぶ
科目区分 Course Group	共通科目群 キャリア
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	関谷 みのぶ(教育保育学科)、PSES(他大学)
授業の目標	各種公務員採用試験及び教員採用試験に出題される一般知識分野の出題事項とそのレベルの確認を行い、一般知識分野の基礎力を養う。また、公務員志望者のみならず民間企業への就職を志望する学生の就職支援を行い、基礎学力アップを図ることを目的とする。
授業の概要	公務員試験及び教員採用試験に出題される一般知識分野の社会科学、人文科学、自然科学について講義する。社会科学については三権分立や財政といった基本を把握させつつ、頻出テーマの基本知識をわかりやすく整理していく。自然科学は、テーマ別に頻出項目を整理し、基本知識の拡充をはかっていく。また自然科学については、物理、化学等の頻出の重要事項を効率よく講義し、理解を深めていく。
評価方法	定期試験 100%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	第 1 週 講座の主旨説明と流れのガイダンス、三権分立、国会、内閣 第 2 週 実力確認テスト、1週目の続き 第 3 週 財政政策、日本経済史 第 4 週 国際経済、世界経済の事情・貿易体制 第 5 週 労働事情、少子高齢化・人口問題 第 6 週 世界遺産、科学技術 第 7 週 世界の諸事情、日本の諸事情 第 8 週 近世 2 第 9 週 近代 1、近代 2 第 10 週 近代史 第 11 週 地形、気候、文学・音楽・芸術 第 12 週 波動、熱と原子 第 13 週 物質の特徴、酸と塩基 第 14 週 恒常性、進化論、物質循環 第 15 週 地球の運動と太陽系
テキスト	公務員試験一般知識過去問特講 vol.3 2,500円(税別) 公務員・就職試験基礎力養成Iと同じテキストですので再購入は不要です。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メール対応 ( pses@pscs.co.jp )
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	受講した講義の復習1時間 翌週の講義の予習 1時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 ( 1 ~ 10 )	
SDGs 17の目標 ( 11 ~ 17 )	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(日)公務員・就職試験基礎力養成 (SPI含む) / Basic Skills Training for Civil Service Examination and Employment Examination IV
時間割コード Course Code	11050
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	前田 真男
科目区分 Course Group	共通科目群 キャリア
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	前田 真男 (管理栄養学科)、P S E S (他大学)
授業の目標	各種公務員採用試験に出題される一般知能分野の出題事項とそのレベルの確認を行い、一般知能分野の基礎力を養う。また、公務員志望者のみならず民間企業への就職を志望する学生の就職支援を行い、基礎学力アップを図ることを目的とする。
授業の概要	公務員試験において、出題ウエイトの高い「一般知能」分野の判断推理、空間把握の基本的な解法をマスターしていく。判断推理においては問題を解くために、数学的、論理的思考を使って正答へ繋げていくプロセスを把握しつつ、問題解法のポイントを押さえて基本的な問題を確実に正答できる基礎力を身に付けていく。空間把握では、問題の形式に慣れ、問題を解くための着眼点を養い基礎問題から類似問題への対応力を身に付けていくよう講義する。
評価方法	定期試験 100%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	第 1 週 講座の主旨説明と流れのガイダンス、集合、集合の要素と最大・最小 第 2 週 実力確認テスト、1週目の続き 第 3 週 命題と論理 第 4 週 順位・順序 第 5 週 試合 第 6 週 所属の類推、嘘と真実からの類推 第 7 週 数値の類推 第 8 週 曜日の問題、位置と方向 第 9 週 操作、計量、暗号 第 10 週 円すい・円柱の切り口、多面体の切り口 第 11 週 正 6 面体の展開図、サイコロの展開図 第 12 週 正 4 面体・正 8 面体の展開図、正 1 2 面体、正 2 0 面体 第 13 週 積木、投影図 第 14 週 軌跡、分割と合成、図形の個数 第 15 週 折り紙、直線で分けられる平面、位相
テキスト	公務員試験対策テキスト 一般知能 Vol.1 2,000円 (税別) 公務員・就職試験基礎力養成IIと同じテキストですので再購入は不要です。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メール対応 ( pses@pses.co.jp )
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	受講した講義の復習1時間 翌週の講義の予習 1時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 ( 1 ~ 10 )	
SDGs 17の目標 ( 11 ~ 17 )	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(日)公務員・就職試験対策 (SPI含む) / Preparation for Civil Service Examination and Employment Examination I
時間割コード Course Code	11060
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	荒鹿 善之
科目区分 Course Group	共通科目群 キャリア
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒鹿 善之(経営学部)、PSES(他大学)
授業の目標	各種公務員採用試験に出題される一般知能分野の過去問題の問題演習を行い、一般知能分野の解答力を養う。また、公務員志望者のみならず民間企業への就職を志望する学生の就職支援を行い、基礎学力アップを図ることを目的とする。
授業の概要	公務員試験において、出題ウエイトの高い「一般知能」分野の得点力向上を目的として、過去問題を使用した演習授業を行っていく。公務員・就職試験基礎力養成で学習した内容の確認を行い、問題解法のポイントを理解させ、過去問題レベルを確実に解答へ導くことのできる実践力を身に付けていく。
評価方法	定期試験 100%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	第 1 週 講座の主旨説明と流れのガイダンス、速度、旅人算 第 2 週 実力確認テスト、1週目の続き 第 3 週 通過算、流水算 第 4 週 原価・定価・売価、比 第 5 週 濃度算、仕事算 第 6 週 順位・順序、試合 第 7 週 所属の類推 第 8 週 嘘と真実からの類推 第 9 週 数値の類推 第 10 週 立方体の展開図 (4面体、6面体、8面体) 第 11 週 軌跡 第 12 週 割合 第 13 週 構成比 第 14 週 現代文 第 15 週 英文
テキスト	公務員試験対策問題集 一般知能 Vol. 2 2,000円(税別)
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メール対応 ( pses@pses.co.jp )
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	受講した講義の復習1時間 翌週の講義の予習 1時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 ( 1 ~ 10 )	
SDGs 17の目標 ( 11 ~ 17 )	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(日)公務員・就職試験対策 (SPI含む) / Preparation for Civil Service Examination and Employment Examination II
時間割コード Course Code	11070
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	趙 民秀
科目区分 Course Group	共通科目群 キャリア
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	趙 民秀 (法学部)、P S E S (他大学)
授業の目標	各種公務員採用試験に出題される一般知識分野の過去問題の問題演習を行い、一般知識分野の解答力を養う。また、公務員志望者のみならず民間企業への就職を志望する学生の就職支援を行い、基礎学力アップを図ることを目的とする。
授業の概要	公務員試験において、出題分野が広範にわたる「一般知識」分野の得点力向上を目的として、重要単元に絞った授業を行っていく。学習ポイントを理解させ、過去問題レベルを確実に解答へ導くことのできる実践力を身に付けていく。
評価方法	定期試験 100%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	第 1 週 講座の主旨説明と流れのガイダンス、裁判所、地方自治、需要と供給 第 2 週 実力確認テスト、1週目の続き 第 3 週 消費者の行動、市場と株式会社 第 4 週 経済の指標、環境問題、世界の政治 第 5 週 世界の経済、日本の政治 第 6 週 現代(戦後?)、文化史 第 7 週 外交史、西洋史 1 第 8 週 西洋史 2、人口・宗教・貿易 第 9 週 アジア・アフリカ、ヨーロッパ 第 10 週 南北アメリカ・オセアニア、東洋思想 第 11 週 方程式と不等式、関数 第 12 週 力のつり合い、物体の運動 第 13 週 エネルギーと運動量、有機化学 第 14 週 代謝・酵素、大気 第 15 週 天気と気象、地球の構造
テキスト	公務員試験一般知識過去問特講 vol.3 2,500円 (税別) 2年次、公務員・就職試験基礎力養成I、IIIと同じテキストですので再購入は不要です。。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない



担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メール対応 ( pses@pses.co.jp )
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	受講した講義の復習1時 翌週の講義の予習 1時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 ( 1 ~ 10 )	
SDGs 17の目標 ( 11 ~ 17 )	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	情報リテラシー(済1) / Information literacy
時間割コード Course Code	11300
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	櫻井 由香
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	櫻井 由香 (経済学部)
授業の目標	ワープロ (Word) を使ったビジネス文書作成、表計算ソフト (Excel) によるデータ処理やデータサイエンスの基本、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) でスライドの作成技術を身につける。また、AIの活用についての基礎を学ぶ。 各自のノートパソコンを無線LANに接続し、メールの設定やOfficeソフトのインストールをおこない、レポートや卒業論文を作成する準備をおこなう。 ネットワーク社会で現実に行われている犯罪を例にとりながら情報倫理とセキュリティについて学習し、インターネットに関わりの深い法律やモラル、ELSIおよびセキュリティ技術を習得する。
授業の概要	各自が「本学が指定する要件をみたくパソコン」を講義に持参し、それを使って実習をおこなう。情報処理の基礎科目として初心者向けの実習をおこない、情報活用能力の土台となる知識と技術を習得するとともに、情報化社会におけるルールやモラル、およびセキュリティを理解することを目的とする。実習はOfficeツールによる文書作成、表計算、スライド作成の他、ノートパソコンによる電子メールの送受信など、毎回課題を与える。 また、データサイエンスおよびAIについて、実例を見ながらその活用方法と留意事項を学ぶ。
評価方法	課題の提出状況で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各自のパソコンにOfficeソフトをインストールし、課題を作成する。 授業前に次回の範囲を予習し、授業中は課題を作成するという反転授業をおこなう。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中に、または、Teamsで対応する。
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中におこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習をおこなう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	

PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス：授業の準備 データを守る上での留意事項	授業全体の進め方について説明する。 学内無線LANへ接続する。Microsoft 365 へサインインしてOutlookとTeamsの使い 方を学ぶ。Officeアプリのインストール をおこなう。 インターネットを利用する上で必要とな る情報モラルや、情報倫理、情報セキュ リティ(機密性、完全性、可用性)につ いて学習する。	
2	表計算	表計算ソフトExcelのワークシートにデー タを入力する方法を学ぶ。簡単な縦横集 計とセルの書式設定、数式の入力につ いて学習する。四則演算、表示桁数、SUM関 数、オートフィル、絶対参照(割合)に ついて学習する。	
3	表計算	統計関数(AVERAGE関数、MAX関数、MIN関 数)の活用について学習する。表の整形 についても学ぶ。	
4	表計算	論理関数(COUNT関数、COUNTA関数、IF関 数、IFS関数、AND関数、OR関数)の活用 について学ぶ。	
5	表計算	数え上げの関数(COUNTA関数、COUNT関数 、COUNTIF関数)と条件付きの統計処理を おこなう関数(COUNTIFS関数、SUMIF関数 、AVERAGEIF関数)の活用について学習す る。	
6	表計算	数値の丸めをおこなう関数(ROUND関数 、ROUNDUP関数、ROUNDDOWN関数、INT関数 )の活用について学ぶ。データの並べ替 えについても学ぶ。	
7	表計算	条件付き書式の使い方について学ぶ。棒 グラフ、円グラフ、折れ線グラフ、散布 図、ヒートマップなど、グラフの作成に ついて学習する。	
8	表計算	検索関数(VLOOKUP関数)の活用につ いて学ぶ。また、IF関数、IFERROR関数を使 ったエラー回避の方法についても学ぶ。	
9	ワープロ実習 社会で起きている変化	タッチタイピングの基本について学習す る。また、Wordによる文書の作成と整形 の基本を習得する。 ビッグデータ、IoT、AI、ロボットとは何 かについて学習する。データを起点とし たものの見方、人間の知的活動を起点と したものの見方とは何かを考える。	
10	ワープロ実習 社会で活用されているデータ	レイアウトを変更する。2段組みの文章を 作成する。ヘッダー、フッターの挿入・ 編集方法や、文末脚注やページ番号の挿 入方法についても学ぶ。 データ元の種類、データの所有者につ いて学習する。構造化データと非構造化デ ータの違いを知る。	
11	ワープロ実習 データ・AIの活用領域	段落番号と脚注の付け方について学習す る。Word文書にExcelで作成した表やグラ フを挿入する演習もおこなう。 データ・AIが、研究開発、調達、製造、 物流、販売、マーケティング、サービス のどのような場面にどのように活用され ているのかを知る。	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	ワープロ実習 データ・AI活用のための技術	テキストボックスや基本図形などWordに標準で用意されているオブジェクトの貼り付けをおこなう。数式エディタも利用する。文書内へ表を挿入し、セルの結合や削除などの操作を学習する。 データ可視化などのデータの1次分析の例を知る。データ活用のための技術の例を学習する。	
13	ワープロ実習 データ・AI活用の現場	検索、置換、文章校正の機能を学習する。また、コメントの挿入や変更履歴の記録の仕方についても学ぶ。 データサイエンスのサイクルの例として映画製作、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例を学ぶ。データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているかを知る。	
14	スライド作成 データ・AI活用の最新動向	スライド作成ソフトPowerPointの基本操作を学ぶ。スライドにテキストと図表を挿入する。スライドにアニメーションや画面切り替え効果を設定する方法を学ぶ。 AI等を活用した新しいビジネスモデルを調べる。	
15	スライド作成 データ・AIを扱う上での留意事項	スライドショーの実行とプレゼンテーションの方法について学習する。 ELSI、データ倫理(データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)やデータサイエンス・AIで起こりうる論点について学ぶ。	

開講科目名 Course	情報リテラシー(済2) / Information literacy
時間割コード Course Code	11301
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	神邊 篤史
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	7 2 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	神邊 篤史 (経営学部)
授業の目標	ワープロ (Word) を使ったビジネス文書作成、表計算ソフト (Excel) によるデータ処理やデータサイエンスの基本、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) でスライドの作成技術を身につける。また、AIの活用についての基礎を学ぶ。 各自のノートパソコンを無線LANに接続し、メールの設定やOfficeソフトのインストールをおこない、レポートや卒業論文を作成する準備をおこなう。 ネットワーク社会で現実に行われている犯罪を例にとりながら情報倫理とセキュリティについて学習し、インターネットに関わりの深い法律やモラル、ELSIおよびセキュリティ技術を習得する。
授業の概要	各自が「本学が指定する要件をみたくパソコン」を講義に持参し、それを使って実習をおこなう。情報処理の基礎科目として初心者向けの実習をおこない、情報活用能力の土台となる知識と技術を習得するとともに、情報化社会におけるルールやモラル、およびセキュリティを理解することを目的とする。実習はOfficeツールによる文書作成、表計算、スライド作成の他、ノートパソコンによる電子メールの送受信など、毎回課題を与える。 また、データサイエンスおよびAIについて、実例を見ながらその活用方法と留意事項を学ぶ。
評価方法	課題の提出状況で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各自のパソコンにOfficeソフトをインストールし、課題を作成する。 授業前に次回の範囲を予習し、授業中は課題を作成するという反転授業をおこなう。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中に、または、Teamsで対応する。
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中におこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習をおこなう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	

PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス：授業の準備 データを守る上での留意事項	授業全体の進め方について説明する。 学内無線LANへ接続する。Microsoft 365 へサインインしてOutlookとTeamsの使い 方を学ぶ。Officeアプリのインストール をおこなう。 インターネットを利用する上で必要とな る情報モラルや、情報倫理、情報セキュ リティ(機密性、完全性、可用性)につ いて学習する。	
2	表計算	表計算ソフトExcelのワークシートにデー タを入力する方法を学ぶ。簡単な縦横集 計とセルの書式設定、数式の入力につ いて学習する。四則演算、表示桁数、SUM関 数、オートフィル、絶対参照(割合)に ついて学習する。	
3	表計算	統計関数(AVERAGE関数、MAX関数、MIN関 数)の活用について学習する。表の整形 についても学ぶ。	
4	表計算	論理関数(COUNT関数、COUNTA関数、IF関 数、IFS関数、AND関数、OR関数)の活用 について学ぶ。	
5	表計算	数え上げの関数(COUNTA関数、COUNT関数 、COUNTIF関数)と条件付きの統計処理を おこなう関数(COUNTIFS関数、SUMIF関数 、AVERAGEIF関数)の活用について学習す る。	
6	表計算	数値の丸めをおこなう関数(ROUND関数 、ROUNDUP関数、ROUNDDOWN関数、INT関数 )の活用について学ぶ。データの並べ替 えについても学ぶ。	
7	表計算	条件付き書式の使い方について学ぶ。棒 グラフ、円グラフ、折れ線グラフ、散布 図、ヒートマップなど、グラフの作成に ついて学習する。	
8	表計算	検索関数(VLOOKUP関数)の活用につ いて学ぶ。また、IF関数、IFERROR関数を使 ったエラー回避の方法についても学ぶ。	
9	ワープロ実習 社会で起きている変化	タッチタイピングの基本について学習す る。また、Wordによる文書の作成と整形 の基本を習得する。 ビッグデータ、IoT、AI、ロボットとは何 かについて学習する。データを起点とし たものの見方、人間の知的活動を起点と したものの見方とは何かを考える。	
10	ワープロ実習 社会で活用されているデータ	レイアウトを変更する。2段組みの文章を 作成する。ヘッダー、フッターの挿入・ 編集方法や、文末脚注やページ番号の挿 入方法についても学ぶ。 データ元の種類、データの所有者につ いて学習する。構造化データと非構造化デ ータの違いを知る。	
11	ワープロ実習 データ・AIの活用領域	段落番号と脚注の付け方について学習す る。Word文書にExcelで作成した表やグラ フを挿入する演習もおこなう。 データ・AIが、研究開発、調達、製造、 物流、販売、マーケティング、サービス のどのような場面にどのように活用され ているのかを知る。	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	ワープロ実習 データ・AI活用のための技術	テキストボックスや基本図形などWordに標準で用意されているオブジェクトの貼り付けをおこなう。数式エディタも利用する。文書内へ表を挿入し、セルの結合や削除などの操作を学習する。 データ可視化などのデータの1次分析の例を知る。データ活用のための技術の例を学習する。	
13	ワープロ実習 データ・AI活用の現場	検索、置換、文章校正の機能を学習する。また、コメントの挿入や変更履歴の記録の仕方についても学ぶ。 データサイエンスのサイクルの例として映画製作、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例を学ぶ。データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているかを知る。	
14	スライド作成 データ・AI活用の最新動向	スライド作成ソフトPowerPointの基本操作を学ぶ。スライドにテキストと図表を挿入する。スライドにアニメーションや画面切り替え効果を設定する方法を学ぶ。 AI等を活用した新しいビジネスモデルを調べる。	
15	スライド作成 データ・AIを扱う上での留意事項	スライドショーの実行とプレゼンテーションの方法について学習する。 ELSI、データ倫理(データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)やデータサイエンス・AIで起こりうる論点について学ぶ。	

開講科目名 Course	情報リテラシー(営1) / Information literacy
時間割コード Course Code	11302
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	櫻井 由香
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	櫻井 由香 (経済学部)
授業の目標	ワープロ (Word) を使ったビジネス文書作成、表計算ソフト (Excel) によるデータ処理やデータサイエンスの基本、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) でスライドの作成技術を身につける。また、AIの活用についての基礎を学ぶ。 各自のノートパソコンを無線LANに接続し、メールの設定やOfficeソフトのインストールをおこない、レポートや卒業論文を作成する準備をおこなう。 ネットワーク社会で現実に行われている犯罪を例にとりながら情報倫理とセキュリティについて学習し、インターネットに関わりの深い法律やモラル、ELSIおよびセキュリティ技術を習得する。
授業の概要	各自が「本学が指定する要件をみたくパソコン」を講義に持参し、それを使って実習をおこなう。情報処理の基礎科目として初心者向けの実習をおこない、情報活用能力の土台となる知識と技術を習得するとともに、情報化社会におけるルールやモラル、およびセキュリティを理解することを目的とする。実習はOfficeツールによる文書作成、表計算、スライド作成の他、ノートパソコンによる電子メールの送受信など、毎回課題を与える。 また、データサイエンスおよびAIについて、実例を見ながらその活用方法と留意事項を学ぶ。
評価方法	課題の提出状況で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各自のパソコンにOfficeソフトをインストールし、課題を作成する。 授業前に次回の範囲を予習し、授業中は課題を作成するという反転授業をおこなう。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中に、または、Teamsで対応する。
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中におこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習をおこなう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	

PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス：授業の準備 データを守る上での留意事項	授業全体の進め方について説明する。 学内無線LANへ接続する。Microsoft 365へサインインしてOutlookとTeamsの使い方を学ぶ。Officeアプリのインストールをおこなう。 インターネットを利用する上で必要となる情報モラルや、情報倫理、情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性)について学習する。	
2	表計算	表計算ソフトExcelのワークシートにデータを入力する方法を学ぶ。簡単な縦横集計とセルの書式設定、数式の入力について学習する。四則演算、表示桁数、SUM関数、オートフィル、絶対参照(割合)について学習する。	
3	表計算	統計関数(AVERAGE関数、MAX関数、MIN関数)の活用について学習する。表の整形についても学ぶ。	
4	表計算	論理関数(COUNT関数、COUNTA関数、IF関数、IFS関数、AND関数、OR関数)の活用について学ぶ。	
5	表計算	数え上げの関数(COUNTA関数、COUNT関数、COUNTIF関数)と条件付きの統計処理をおこなう関数(COUNTIFS関数、SUMIF関数、AVERAGEIF関数)の活用について学習する。	
6	表計算	数値の丸めをおこなう関数(ROUND関数、ROUNDUP関数、ROUNDDOWN関数、INT関数)の活用について学ぶ。データの並べ替えについても学ぶ。	
7	表計算	条件付き書式の使い方について学ぶ。棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフ、散布図、ヒートマップなど、グラフの作成について学習する。	
8	表計算	検索関数(VLOOKUP関数)の活用について学ぶ。また、IF関数、IFERROR関数を使ったエラー回避の方法についても学ぶ。	
9	ワープロ実習 社会で起きている変化	タッチタイピングの基本について学習する。また、Wordによる文書の作成と整形の基本を習得する。 ビッグデータ、IoT、AI、ロボットとは何かについて学習する。データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方とは何かを考える。	
10	ワープロ実習 社会で活用されているデータ	レイアウトを変更する。2段組みの文章を作成する。ヘッダー、フッターの挿入・編集方法や、文末脚注やページ番号の挿入方法についても学ぶ。 データ元の種類、データの所有者について学習する。構造化データと非構造化データの違いを知る。	
11	ワープロ実習 データ・AIの活用領域	段落番号と脚注の付け方について学習する。Word文書にExcelで作成した表やグラフを挿入する演習もおこなう。 データ・AIが、研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスのどのような場面にどのように活用されているのかを知る。	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	ワープロ実習 データ・AI活用のための技術	テキストボックスや基本図形などWordに標準で用意されているオブジェクトの貼り付けをおこなう。数式エディタも利用する。文書内へ表を挿入し、セルの結合や削除などの操作を学習する。 データ可視化などのデータの1次分析の例を知る。データ活用のための技術の例を学習する。	
13	ワープロ実習 データ・AI活用の現場	検索、置換、文章校正の機能を学習する。また、コメントの挿入や変更履歴の記録の仕方についても学ぶ。 データサイエンスのサイクルの例として映画製作、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例を学ぶ。データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているかを知る。	
14	スライド作成 データ・AI活用の最新動向	スライド作成ソフトPowerPointの基本操作を学ぶ。スライドにテキストと図表を挿入する。スライドにアニメーションや画面切り替え効果を設定する方法を学ぶ。 AI等を活用した新しいビジネスモデルを調べる。	
15	スライド作成 データ・AIを扱う上での留意事項	スライドショーの実行とプレゼンテーションの方法について学習する。 ELSI、データ倫理(データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)やデータサイエンス・AIで起こりうる論点について学ぶ。	

開講科目名 Course	情報リテラシー(営2) / Information literacy
時間割コード Course Code	11303
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	岡田 朋子
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岡田 朋子 (経営学部)
授業の目標	ワープロ (Word) を使ったビジネス文書作成、表計算ソフト (Excel) によるデータ処理やデータサイエンスの基本、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) でスライドの作成技術を身につける。また、AIの活用についての基礎を学ぶ。 各自のノートパソコンを無線LANに接続し、メールの設定やOfficeソフトのインストールをおこない、レポートや卒業論文を作成する準備をおこなう。 ネットワーク社会で現実に行われている犯罪を例にとりながら情報倫理とセキュリティについて学習し、インターネットに関わりの深い法律やモラル、ELSIおよびセキュリティ技術を習得する。
授業の概要	各自が「本学が指定する要件をみたくパソコン」を講義に持参し、それを使って実習をおこなう。情報処理の基礎科目として初心者向けの実習をおこない、情報活用能力の土台となる知識と技術を習得するとともに、情報化社会におけるルールやモラル、およびセキュリティを理解することを目的とする。実習はOfficeツールによる文書作成、表計算、スライド作成の他、ノートパソコンによる電子メールの送受信など、毎回課題を与える。 また、データサイエンスおよびAIについて、実例を見ながらその活用方法と留意事項を学ぶ。
評価方法	課題の提出状況で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各自のパソコンにOfficeソフトをインストールし、課題を作成する。 授業前に次回の範囲を予習し、授業中は課題を作成するという反転授業をおこなう。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中に、または、Teamsで対応する。
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中におこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習をおこなう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	

PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス：授業の準備 データを守る上での留意事項	授業全体の進め方について説明する。 学内無線LANへ接続する。Microsoft 365 へサインインしてOutlookとTeamsの使い 方を学ぶ。Officeアプリのインストール をおこなう。 インターネットを利用する上で必要とな る情報モラルや、情報倫理、情報セキュ リティ(機密性、完全性、可用性)につ いて学習する。	
2	表計算	表計算ソフトExcelのワークシートにデー タを入力する方法を学ぶ。簡単な縦横集 計とセルの書式設定、数式の入力につ いて学習する。四則演算、表示桁数、SUM関 数、オートフィル、絶対参照(割合)に ついて学習する。	
3	表計算	統計関数(AVERAGE関数、MAX関数、MIN関 数)の活用について学習する。表の整形 についても学ぶ。	
4	表計算	論理関数(COUNT関数、COUNTA関数、IF関 数、IFS関数、AND関数、OR関数)の活用 について学ぶ。	
5	表計算	数え上げの関数(COUNTA関数、COUNT関数 、COUNTIF関数)と条件付きの統計処理を おこなう関数(COUNTIFS関数、SUMIF関数 、AVERAGEIF関数)の活用について学習す る。	
6	表計算	数値の丸めをおこなう関数(ROUND関数 、ROUNDUP関数、ROUNDDOWN関数、INT関数 )の活用について学ぶ。データの並べ替 えについても学ぶ。	
7	表計算	条件付き書式の使い方について学ぶ。棒 グラフ、円グラフ、折れ線グラフ、散布 図、ヒートマップなど、グラフの作成に ついて学習する。	
8	表計算	検索関数(VLOOKUP関数)の活用につ いて学ぶ。また、IF関数、IFERROR関数を使 ったエラー回避の方法についても学ぶ。	
9	ワープロ実習 社会で起きている変化	タッチタイピングの基本について学習す る。また、Wordによる文書の作成と整形 の基本を習得する。 ビッグデータ、IoT、AI、ロボットとは何 かについて学習する。データを起点とし たものの見方、人間の知的活動を起点と したものの見方とは何かを考える。	
10	ワープロ実習 社会で活用されているデータ	レイアウトを変更する。2段組みの文章を 作成する。ヘッダー、フッターの挿入・ 編集方法や、文末脚注やページ番号の挿 入方法についても学ぶ。 データ元の種類、データの所有者につ いて学習する。構造化データと非構造化デ ータの違いを知る。	
11	ワープロ実習 データ・AIの活用領域	段落番号と脚注の付け方について学習す る。Word文書にExcelで作成した表やグラ フを挿入する演習もおこなう。 データ・AIが、研究開発、調達、製造、 物流、販売、マーケティング、サービス のどのような場面にどのように活用され ているのかを知る。	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	ワープロ実習 データ・AI活用のための技術	テキストボックスや基本図形などWordに標準で用意されているオブジェクトの貼り付けをおこなう。数式エディタも利用する。文書内へ表を挿入し、セルの結合や削除などの操作を学習する。 データ可視化などのデータの1次分析の例を知る。データ活用のための技術の例を学習する。	
13	ワープロ実習 データ・AI活用の現場	検索、置換、文章校正の機能を学習する。また、コメントの挿入や変更履歴の記録の仕方についても学ぶ。 データサイエンスのサイクルの例として映画製作、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例を学ぶ。データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているかを知る。	
14	スライド作成 データ・AI活用の最新動向	スライド作成ソフトPowerPointの基本操作を学ぶ。スライドにテキストと図表を挿入する。スライドにアニメーションや画面切り替え効果を設定する方法を学ぶ。 AI等を活用した新しいビジネスモデルを調べる。	
15	スライド作成 データ・AIを扱う上での留意事項	スライドショーの実行とプレゼンテーションの方法について学習する。 ELSI、データ倫理(データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)やデータサイエンス・AIで起こりうる論点について学ぶ。	

開講科目名 Course	情報リテラシー(法1) / Information literacy
時間割コード Course Code	11304
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	櫻井 由香
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	櫻井 由香 (経済学部)
授業の目標	ワープロ (Word) を使ったビジネス文書作成、表計算ソフト (Excel) によるデータ処理やデータサイエンスの基本、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) でスライドの作成技術を身につける。また、AIの活用についての基礎を学ぶ。 各自のノートパソコンを無線LANに接続し、メールの設定やOfficeソフトのインストールをおこない、レポートや卒業論文を作成する準備をおこなう。 ネットワーク社会で現実に行われている犯罪を例にとりながら情報倫理とセキュリティについて学習し、インターネットに関わりの深い法律やモラル、ELSIおよびセキュリティ技術を習得する。
授業の概要	各自が「本学が指定する要件をみたくパソコン」を講義に持参し、それを使って実習をおこなう。情報処理の基礎科目として初心者向けの実習をおこない、情報活用能力の土台となる知識と技術を習得するとともに、情報化社会におけるルールやモラル、およびセキュリティを理解することを目的とする。実習はOfficeツールによる文書作成、表計算、スライド作成の他、ノートパソコンによる電子メールの送受信など、毎回課題を与える。 また、データサイエンスおよびAIについて、実例を見ながらその活用方法と留意事項を学ぶ。
評価方法	課題の提出状況で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各自のパソコンにOfficeソフトをインストールし、課題を作成する。 授業前に次回の範囲を予習し、授業中は課題を作成するという反転授業をおこなう。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中に、または、Teamsで対応する。
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中におこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習をおこなう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	

PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス：授業の準備 データを守る上での留意事項	授業全体の進め方について説明する。 学内無線LANへ接続する。Microsoft 365へサインインしてOutlookとTeamsの使い方を学ぶ。Officeアプリのインストールをおこなう。 インターネットを利用する上で必要となる情報モラルや、情報倫理、情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性)について学習する。	
2	表計算	表計算ソフトExcelのワークシートにデータを入力する方法を学ぶ。簡単な縦横集計とセルの書式設定、数式の入力について学習する。四則演算、表示桁数、SUM関数、オートフィル、絶対参照(割合)について学習する。	
3	表計算	統計関数(AVERAGE関数、MAX関数、MIN関数)の活用について学習する。表の整形についても学ぶ。	
4	表計算	論理関数(COUNT関数、COUNTA関数、IF関数、IFS関数、AND関数、OR関数)の活用について学ぶ。	
5	表計算	数え上げの関数(COUNTA関数、COUNT関数、COUNTIF関数)と条件付きの統計処理をおこなう関数(COUNTIFS関数、SUMIF関数、AVERAGEIF関数)の活用について学習する。	
6	表計算	数値の丸めをおこなう関数(ROUND関数、ROUNDUP関数、ROUNDDOWN関数、INT関数)の活用について学ぶ。データの並べ替えについても学ぶ。	
7	表計算	条件付き書式の使い方について学ぶ。棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフ、散布図、ヒートマップなど、グラフの作成について学習する。	
8	表計算	検索関数(VLOOKUP関数)の活用について学ぶ。また、IF関数、IFERROR関数を使ったエラー回避の方法についても学ぶ。	
9	ワープロ実習 社会で起きている変化	タッチタイピングの基本について学習する。また、Wordによる文書の作成と整形の基本を習得する。 ビッグデータ、IoT、AI、ロボットとは何かについて学習する。データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方とは何かを考える。	
10	ワープロ実習 社会で活用されているデータ	レイアウトを変更する。2段組みの文章を作成する。ヘッダー、フッターの挿入・編集方法や、文末脚注やページ番号の挿入方法についても学ぶ。 データ元の種類、データの所有者について学習する。構造化データと非構造化データの違いを知る。	
11	ワープロ実習 データ・AIの活用領域	段落番号と脚注の付け方について学習する。Word文書にExcelで作成した表やグラフを挿入する演習もおこなう。 データ・AIが、研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスのどのような場面にどのように活用されているのかを知る。	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	ワープロ実習 データ・AI活用のための技術	テキストボックスや基本図形などWordに標準で用意されているオブジェクトの貼り付けをおこなう。数式エディタも利用する。文書内へ表を挿入し、セルの結合や削除などの操作を学習する。 データ可視化などのデータの1次分析の例を知る。データ活用のための技術の例を学習する。	
13	ワープロ実習 データ・AI活用の現場	検索、置換、文章校正の機能を学習する。また、コメントの挿入や変更履歴の記録の仕方についても学ぶ。 データサイエンスのサイクルの例として映画製作、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例を学ぶ。データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているかを知る。	
14	スライド作成 データ・AI活用の最新動向	スライド作成ソフトPowerPointの基本操作を学ぶ。スライドにテキストと図表を挿入する。スライドにアニメーションや画面切り替え効果を設定する方法を学ぶ。 AI等を活用した新しいビジネスモデルを調べる。	
15	スライド作成 データ・AIを扱う上での留意事項	スライドショーの実行とプレゼンテーションの方法について学習する。 ELSI、データ倫理(データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)やデータサイエンス・AIで起こりうる論点について学ぶ。	

開講科目名 Course	情報リテラシー(法2) / Information literacy
時間割コード Course Code	11305
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	岡田 朋子
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岡田 朋子 (経営学部)
授業の目標	ワープロ (Word) を使ったビジネス文書作成、表計算ソフト (Excel) によるデータ処理やデータサイエンスの基本、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) でスライドの作成技術を身につける。また、AIの活用についての基礎を学ぶ。 各自のノートパソコンを無線LANに接続し、メールの設定やOfficeソフトのインストールをおこない、レポートや卒業論文を作成する準備をおこなう。 ネットワーク社会で現実に行われている犯罪を例にとりながら情報倫理とセキュリティについて学習し、インターネットに関わりの深い法律やモラル、ELSIおよびセキュリティ技術を習得する。
授業の概要	各自が「本学が指定する要件をみたくパソコン」を講義に持参し、それを使って実習をおこなう。情報処理の基礎科目として初心者向けの実習をおこない、情報活用能力の土台となる知識と技術を習得するとともに、情報化社会におけるルールやモラル、およびセキュリティを理解することを目的とする。実習はOfficeツールによる文書作成、表計算、スライド作成の他、ノートパソコンによる電子メールの送受信など、毎回課題を与える。 また、データサイエンスおよびAIについて、実例を見ながらその活用方法と留意事項を学ぶ。
評価方法	課題の提出状況で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各自のパソコンにOfficeソフトをインストールし、課題を作成する。 授業前に次回の範囲を予習し、授業中は課題を作成するという反転授業をおこなう。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中に、または、Teamsで対応する。
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中におこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習をおこなう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	

PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス：授業の準備 データを守る上での留意事項	授業全体の進め方について説明する。 学内無線LANへ接続する。Microsoft 365へサインインしてOutlookとTeamsの使い方を学ぶ。Officeアプリのインストールをおこなう。 インターネットを利用する上で必要となる情報モラルや、情報倫理、情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性)について学習する。	
2	表計算	表計算ソフトExcelのワークシートにデータを入力する方法を学ぶ。簡単な縦横集計とセルの書式設定、数式の入力について学習する。四則演算、表示桁数、SUM関数、オートフィル、絶対参照(割合)について学習する。	
3	表計算	統計関数(AVERAGE関数、MAX関数、MIN関数)の活用について学習する。表の整形についても学ぶ。	
4	表計算	論理関数(COUNT関数、COUNTA関数、IF関数、IFS関数、AND関数、OR関数)の活用について学ぶ。	
5	表計算	数え上げの関数(COUNTA関数、COUNT関数、COUNTIF関数)と条件付きの統計処理をおこなう関数(COUNTIFS関数、SUMIF関数、AVERAGEIF関数)の活用について学習する。	
6	表計算	数値の丸めをおこなう関数(ROUND関数、ROUNDUP関数、ROUNDDOWN関数、INT関数)の活用について学ぶ。データの並べ替えについても学ぶ。	
7	表計算	条件付き書式の使い方について学ぶ。棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフ、散布図、ヒートマップなど、グラフの作成について学習する。	
8	表計算	検索関数(VLOOKUP関数)の活用について学ぶ。また、IF関数、IFERROR関数を使ったエラー回避の方法についても学ぶ。	
9	ワープロ実習 社会で起きている変化	タッチタイピングの基本について学習する。また、Wordによる文書の作成と整形の基本を習得する。 ビッグデータ、IoT、AI、ロボットとは何かについて学習する。データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方とは何かを考える。	
10	ワープロ実習 社会で活用されているデータ	レイアウトを変更する。2段組みの文章を作成する。ヘッダー、フッターの挿入・編集方法や、文末脚注やページ番号の挿入方法についても学ぶ。 データ元の種類、データの所有者について学習する。構造化データと非構造化データの違いを知る。	
11	ワープロ実習 データ・AIの活用領域	段落番号と脚注の付け方について学習する。Word文書にExcelで作成した表やグラフを挿入する演習もおこなう。 データ・AIが、研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスのどのような場面にどのように活用されているのかを知る。	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	ワープロ実習 データ・AI活用のための技術	テキストボックスや基本図形などWordに標準で用意されているオブジェクトの貼り付けをおこなう。数式エディタも利用する。文書内へ表を挿入し、セルの結合や削除などの操作を学習する。 データ可視化などのデータの1次分析の例を知る。データ活用のための技術の例を学習する。	
13	ワープロ実習 データ・AI活用の現場	検索、置換、文章校正の機能を学習する。また、コメントの挿入や変更履歴の記録の仕方についても学ぶ。 データサイエンスのサイクルの例として映画製作、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例を学ぶ。データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているかを知る。	
14	スライド作成 データ・AI活用の最新動向	スライド作成ソフトPowerPointの基本操作を学ぶ。スライドにテキストと図表を挿入する。スライドにアニメーションや画面切り替え効果を設定する方法を学ぶ。 AI等を活用した新しいビジネスモデルを調べる。	
15	スライド作成 データ・AIを扱う上での留意事項	スライドショーの実行とプレゼンテーションの方法について学習する。 ELSI、データ倫理(データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)やデータサイエンス・AIで起こりうる論点について学ぶ。	

開講科目名 Course	情報リテラシー(教) / Information literacy
時間割コード Course Code	11306
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	櫻井 由香
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	櫻井 由香 (経済学部)
授業の目標	ワープロ (Word) を使ったビジネス文書作成、表計算ソフト (Excel) によるデータ処理やデータサイエンスの基本、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) でスライドの作成技術を身につける。また、AIの活用についての基礎を学ぶ。 各自のノートパソコンを無線LANに接続し、メールの設定やOfficeソフトのインストールをおこない、レポートや卒業論文を作成する準備をおこなう。 ネットワーク社会で現実に行われている犯罪を例にとりながら情報倫理とセキュリティについて学習し、インターネットに関わりの深い法律やモラル、ELSIおよびセキュリティ技術を習得する。
授業の概要	各自が「本学が指定する要件をみたくパソコン」を講義に持参し、それを使って実習をおこなう。情報処理の基礎科目として初心者向けの実習をおこない、情報活用能力の土台となる知識と技術を習得するとともに、情報化社会におけるルールやモラル、およびセキュリティを理解することを目的とする。実習はOfficeツールによる文書作成、表計算、スライド作成の他、ノートパソコンによる電子メールの送受信など、毎回課題を与える。 また、データサイエンスおよびAIについて、実例を見ながらその活用方法と留意事項を学ぶ。
評価方法	課題の提出状況で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各自のパソコンにOfficeソフトをインストールし、課題を作成する。 授業前に次回の範囲を予習し、授業中は課題を作成するという反転授業をおこなう。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中に、または、Teamsで対応する。
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中におこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習をおこなう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	

PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス：授業の準備 データを守る上での留意事項	授業全体の進め方について説明する。 学内無線LANへ接続する。Microsoft 365 へサインインしてOutlookとTeamsの使い 方を学ぶ。Officeアプリのインストール をおこなう。 インターネットを利用する上で必要とな る情報モラルや、情報倫理、情報セキュ リティ(機密性、完全性、可用性)につ いて学習する。	
2	表計算	表計算ソフトExcelのワークシートにデー タを入力する方法を学ぶ。簡単な縦横集 計とセルの書式設定、数式の入力につ いて学習する。四則演算、表示桁数、SUM関 数、オートフィル、絶対参照(割合)に ついて学習する。	
3	表計算	統計関数(AVERAGE関数、MAX関数、MIN関 数)の活用について学習する。表の整形 についても学ぶ。	
4	表計算	論理関数(COUNT関数、COUNTA関数、IF関 数、IFS関数、AND関数、OR関数)の活用 について学ぶ。	
5	表計算	数え上げの関数(COUNTA関数、COUNT関数 、COUNTIF関数)と条件付きの統計処理を おこなう関数(COUNTIFS関数、SUMIF関数 、AVERAGEIF関数)の活用について学習す る。	
6	表計算	数値の丸めをおこなう関数(ROUND関数 、ROUNDUP関数、ROUNDDOWN関数、INT関数 )の活用について学ぶ。データの並べ替 えについても学ぶ。	
7	表計算	条件付き書式の使い方について学ぶ。棒 グラフ、円グラフ、折れ線グラフ、散布 図、ヒートマップなど、グラフの作成に ついて学習する。	
8	表計算	検索関数(VLOOKUP関数)の活用につ いて学ぶ。また、IF関数、IFERROR関数を使 ったエラー回避の方法についても学ぶ。	
9	ワープロ実習 社会で起きている変化	タッチタイピングの基本について学習す る。また、Wordによる文書の作成と整形 の基本を習得する。 ビッグデータ、IoT、AI、ロボットとは何 かについて学習する。データを起点とし たものの見方、人間の知的活動を起点と したものの見方とは何かを考える。	
10	ワープロ実習 社会で活用されているデータ	レイアウトを変更する。2段組みの文章を 作成する。ヘッダー、フッターの挿入・ 編集方法や、文末脚注やページ番号の挿 入方法についても学ぶ。 データ元の種類、データの所有者につ いて学習する。構造化データと非構造化デ ータの違いを知る。	
11	ワープロ実習 データ・AIの活用領域	段落番号と脚注の付け方について学習す る。Word文書にExcelで作成した表やグラ フを挿入する演習もおこなう。 データ・AIが、研究開発、調達、製造、 物流、販売、マーケティング、サービス のどのような場面にどのように活用され ているのかを知る。	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	ワープロ実習 データ・AI活用のための技術	テキストボックスや基本図形などWordに標準で用意されているオブジェクトの貼り付けをおこなう。数式エディタも利用する。文書内へ表を挿入し、セルの結合や削除などの操作を学習する。 データ可視化などのデータの1次分析の例を知る。データ活用のための技術の例を学習する。	
13	ワープロ実習 データ・AI活用の現場	検索、置換、文章校正の機能を学習する。また、コメントの挿入や変更履歴の記録の仕方についても学ぶ。 データサイエンスのサイクルの例として映画製作、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例を学ぶ。データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているかを知る。	
14	スライド作成 データ・AI活用の最新動向	スライド作成ソフトPowerPointの基本操作を学ぶ。スライドにテキストと図表を挿入する。スライドにアニメーションや画面切り替え効果を設定する方法を学ぶ。 AI等を活用した新しいビジネスモデルを調べる。	
15	スライド作成 データ・AIを扱う上での留意事項	スライドショーの実行とプレゼンテーションの方法について学習する。 ELSI、データ倫理(データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)やデータサイエンス・AIで起こりうる論点について学ぶ。	

開講科目名 Course	情報リテラシー(管) / Information literacy
時間割コード Course Code	11307
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	宇梶 郁
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	宇梶 郁 (経営学部)
授業の目標	ワープロ (Word) を使ったビジネス文書作成、表計算ソフト (Excel) によるデータ処理やデータサイエンスの基本、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) でスライドの作成技術を身につける。また、AIの活用についての基礎を学ぶ。 各自のノートパソコンを無線LANに接続し、メールの設定やOfficeソフトのインストールをおこない、レポートや卒業論文を作成する準備をおこなう。 ネットワーク社会で現実に行われている犯罪を例にとりながら情報倫理とセキュリティについて学習し、インターネットに関わりの深い法律やモラル、ELSIおよびセキュリティ技術を習得する。
授業の概要	各自が「本学が指定する要件をみたくパソコン」を講義に持参し、それを使って実習をおこなう。情報処理の基礎科目として初心者向けの実習をおこない、情報活用能力の土台となる知識と技術を習得するとともに、情報化社会におけるルールやモラル、およびセキュリティを理解することを目的とする。実習はOfficeツールによる文書作成、表計算、スライド作成の他、ノートパソコンによる電子メールの送受信など、毎回課題を与える。 また、データサイエンスおよびAIについて、実例を見ながらその活用方法と留意事項を学ぶ。
評価方法	課題の提出状況で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各自のパソコンにOfficeソフトをインストールし、課題を作成する。 授業前に次回の範囲を予習し、授業中は課題を作成するという反転授業をおこなう。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中に、または、Teamsで対応する。
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中におこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習をおこなう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	

PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス：授業の準備 データを守る上での留意事項	授業全体の進め方について説明する。 学内無線LANへ接続する。Microsoft 365 へサインインしてOutlookとTeamsの使い 方を学ぶ。Officeアプリのインストール をおこなう。 インターネットを利用する上で必要とな る情報モラルや、情報倫理、情報セキュ リティ(機密性、完全性、可用性)につ いて学習する。	
2	表計算	表計算ソフトExcelのワークシートにデー タを入力する方法を学ぶ。簡単な縦横集 計とセルの書式設定、数式の入力につ いて学習する。四則演算、表示桁数、SUM関 数、オートフィル、絶対参照(割合)に ついて学習する。	
3	表計算	統計関数(AVERAGE関数、MAX関数、MIN関 数)の活用について学習する。表の整形 についても学ぶ。	
4	表計算	論理関数(COUNT関数、COUNTA関数、IF関 数、IFS関数、AND関数、OR関数)の活用 について学ぶ。	
5	表計算	数え上げの関数(COUNTA関数、COUNT関数 、COUNTIF関数)と条件付きの統計処理を おこなう関数(COUNTIFS関数、SUMIF関数 、AVERAGEIF関数)の活用について学習す る。	
6	表計算	数値の丸めをおこなう関数(ROUND関数 、ROUNDUP関数、ROUNDDOWN関数、INT関数 )の活用について学ぶ。データの並べ替 えについても学ぶ。	
7	表計算	条件付き書式の使い方について学ぶ。棒 グラフ、円グラフ、折れ線グラフ、散布 図、ヒートマップなど、グラフの作成に ついて学習する。	
8	表計算	検索関数(VLOOKUP関数)の活用につ いて学ぶ。また、IF関数、IFERROR関数を使 ったエラー回避の方法についても学ぶ。	
9	ワープロ実習 社会で起きている変化	タッチタイピングの基本について学習す る。また、Wordによる文書の作成と整形 の基本を習得する。 ビッグデータ、IoT、AI、ロボットとは何 かについて学習する。データを起点とし たものの見方、人間の知的活動を起点と したものの見方とは何かを考える。	
10	ワープロ実習 社会で活用されているデータ	レイアウトを変更する。2段組みの文章を 作成する。ヘッダー、フッターの挿入・ 編集方法や、文末脚注やページ番号の挿 入方法についても学ぶ。 データ元の種類、データの所有者につ いて学習する。構造化データと非構造化デ ータの違いを知る。	
11	ワープロ実習 データ・AIの活用領域	段落番号と脚注の付け方について学習す る。Word文書にExcelで作成した表やグラ フを挿入する演習もおこなう。 データ・AIが、研究開発、調達、製造、 物流、販売、マーケティング、サービス のどのような場面にどのように活用され ているのかを知る。	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	ワープロ実習 データ・AI活用のための技術	テキストボックスや基本図形などWordに標準で用意されているオブジェクトの貼り付けをおこなう。数式エディタも利用する。文書内へ表を挿入し、セルの結合や削除などの操作を学習する。 データ可視化などのデータの1次分析の例を知る。データ活用のための技術の例を学習する。	
13	ワープロ実習 データ・AI活用の現場	検索、置換、文章校正の機能を学習する。また、コメントの挿入や変更履歴の記録の仕方についても学ぶ。 データサイエンスのサイクルの例として映画製作、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例を学ぶ。データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているかを知る。	
14	スライド作成 データ・AI活用の最新動向	スライド作成ソフトPowerPointの基本操作を学ぶ。スライドにテキストと図表を挿入する。スライドにアニメーションや画面切り替え効果を設定する方法を学ぶ。 AI等を活用した新しいビジネスモデルを調べる。	
15	スライド作成 データ・AIを扱う上での留意事項	スライドショーの実行とプレゼンテーションの方法について学習する。 ELSI、データ倫理(データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)やデータサイエンス・AIで起こりうる論点について学ぶ。	

開講科目名 Course	情報リテラシー(再1) / Information literacy
時間割コード Course Code	11308
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3
主担当教員 Main Instructor	岡田 朋子
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岡田 朋子 (経営学部)
授業の目標	ワープロ (Word) を使ったビジネス文書作成、表計算ソフト (Excel) によるデータ処理やデータサイエンスの基本、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) でスライドの作成技術を身につける。また、AIの活用についての基礎を学ぶ。 各自のノートパソコンを無線LANに接続し、メールの設定やOfficeソフトのインストールをおこない、レポートや卒業論文を作成する準備をおこなう。 ネットワーク社会で現実に行われている犯罪を例にとりながら情報倫理とセキュリティについて学習し、インターネットに関わりの深い法律やモラル、ELSIおよびセキュリティ技術を習得する。
授業の概要	各自が「本学が指定する要件をみたくパソコン」を講義に持参し、それを使って実習をおこなう。情報処理の基礎科目として初心者向けの実習をおこない、情報活用能力の土台となる知識と技術を習得するとともに、情報化社会におけるルールやモラル、およびセキュリティを理解することを目的とする。実習はOfficeツールによる文書作成、表計算、スライド作成の他、ノートパソコンによる電子メールの送受信など、毎回課題を与える。 また、データサイエンスおよびAIについて、実例を見ながらその活用方法と留意事項を学ぶ。
評価方法	課題の提出状況で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各自のパソコンにOfficeソフトをインストールし、課題を作成する。 授業前に次回の範囲を予習し、授業中は課題を作成するという反転授業をおこなう。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中に、または、Teamsで対応する。
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中におこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習をおこなう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	

PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス：授業の準備 データを守る上での留意事項	授業全体の進め方について説明する。 学内無線LANへ接続する。Microsoft 365へサインインしてOutlookとTeamsの使い方を学ぶ。Officeアプリのインストールをおこなう。 インターネットを利用する上で必要となる情報モラルや、情報倫理、情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性)について学習する。	
2	表計算	表計算ソフトExcelのワークシートにデータを入力する方法を学ぶ。簡単な縦横集計とセルの書式設定、数式の入力について学習する。四則演算、表示桁数、SUM関数、オートフィル、絶対参照(割合)について学習する。	
3	表計算	統計関数(AVERAGE関数、MAX関数、MIN関数)の活用について学習する。表の整形についても学ぶ。	
4	表計算	論理関数(COUNT関数、COUNTA関数、IF関数、IFS関数、AND関数、OR関数)の活用について学ぶ。	
5	表計算	数え上げの関数(COUNTA関数、COUNT関数、COUNTIF関数)と条件付きの統計処理をおこなう関数(COUNTIFS関数、SUMIF関数、AVERAGEIF関数)の活用について学習する。	
6	表計算	数値の丸めをおこなう関数(ROUND関数、ROUNDUP関数、ROUNDDOWN関数、INT関数)の活用について学ぶ。データの並べ替えについても学ぶ。	
7	表計算	条件付き書式の使い方について学ぶ。棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフ、散布図、ヒートマップなど、グラフの作成について学習する。	
8	表計算	検索関数(VLOOKUP関数)の活用について学ぶ。また、IF関数、IFERROR関数を使ったエラー回避の方法についても学ぶ。	
9	ワープロ実習 社会で起きている変化	タッチタイピングの基本について学習する。また、Wordによる文書の作成と整形の基本を習得する。 ビッグデータ、IoT、AI、ロボットとは何かについて学習する。データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方とは何かを考える。	
10	ワープロ実習 社会で活用されているデータ	レイアウトを変更する。2段組みの文章を作成する。ヘッダー、フッターの挿入・編集方法や、文末脚注やページ番号の挿入方法についても学ぶ。 データ元の種類、データの所有者について学習する。構造化データと非構造化データの違いを知る。	
11	ワープロ実習 データ・AIの活用領域	段落番号と脚注の付け方について学習する。Word文書にExcelで作成した表やグラフを挿入する演習もおこなう。 データ・AIが、研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスのどのような場面にどのように活用されているのかを知る。	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	ワープロ実習 データ・AI活用のための技術	テキストボックスや基本図形などWordに標準で用意されているオブジェクトの貼り付けをおこなう。数式エディタも利用する。文書内へ表を挿入し、セルの結合や削除などの操作を学習する。 データ可視化などのデータの1次分析の例を知る。データ活用のための技術の例を学習する。	
13	ワープロ実習 データ・AI活用の現場	検索、置換、文章校正の機能を学習する。また、コメントの挿入や変更履歴の記録の仕方についても学ぶ。 データサイエンスのサイクルの例として映画製作、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例を学ぶ。データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているかを知る。	
14	スライド作成 データ・AI活用の最新動向	スライド作成ソフトPowerPointの基本操作を学ぶ。スライドにテキストと図表を挿入する。スライドにアニメーションや画面切り替え効果を設定する方法を学ぶ。 AI等を活用した新しいビジネスモデルを調べる。	
15	スライド作成 データ・AIを扱う上での留意事項	スライドショーの実行とプレゼンテーションの方法について学習する。 ELSI、データ倫理(データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)やデータサイエンス・AIで起こりうる論点について学ぶ。	

開講科目名 Course	情報リテラシー(再2) / Information literacy
時間割コード Course Code	11309
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3
主担当教員 Main Instructor	宇梶 郁
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	宇梶 郁 (経営学部)
授業の目標	ワープロ (Word) を使ったビジネス文書作成、表計算ソフト (Excel) によるデータ処理やデータサイエンスの基本、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) でスライドの作成技術を身につける。また、AIの活用についての基礎を学ぶ。 各自のノートパソコンを無線LANに接続し、メールの設定やOfficeソフトのインストールをおこない、レポートや卒業論文を作成する準備をおこなう。 ネットワーク社会で現実に行われている犯罪を例にとりながら情報倫理とセキュリティについて学習し、インターネットに関わりの深い法律やモラル、ELSIおよびセキュリティ技術を習得する。
授業の概要	各自が「本学が指定する要件をみたくパソコン」を講義に持参し、それを使って実習をおこなう。情報処理の基礎科目として初心者向けの実習をおこない、情報活用能力の土台となる知識と技術を習得するとともに、情報化社会におけるルールやモラル、およびセキュリティを理解することを目的とする。実習はOfficeツールによる文書作成、表計算、スライド作成の他、ノートパソコンによる電子メールの送受信など、毎回課題を与える。 また、データサイエンスおよびAIについて、実例を見ながらその活用方法と留意事項を学ぶ。
評価方法	課題の提出状況で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各自のパソコンにOfficeソフトをインストールし、課題を作成する。 授業前に次回の範囲を予習し、授業中は課題を作成するという反転授業をおこなう。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中に、または、Teamsで対応する。
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中におこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習をおこなう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	

PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス：授業の準備 データを守る上での留意事項	授業全体の進め方について説明する。 学内無線LANへ接続する。Microsoft 365へサインインしてOutlookとTeamsの使い方を学ぶ。Officeアプリのインストールをおこなう。 インターネットを利用する上で必要となる情報モラルや、情報倫理、情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性)について学習する。	
2	表計算	表計算ソフトExcelのワークシートにデータを入力する方法を学ぶ。簡単な縦横集計とセルの書式設定、数式の入力について学習する。四則演算、表示桁数、SUM関数、オートフィル、絶対参照(割合)について学習する。	
3	表計算	統計関数(AVERAGE関数、MAX関数、MIN関数)の活用について学習する。表の整形についても学ぶ。	
4	表計算	論理関数(COUNT関数、COUNTA関数、IF関数、IFS関数、AND関数、OR関数)の活用について学ぶ。	
5	表計算	数え上げの関数(COUNTA関数、COUNT関数、COUNTIF関数)と条件付きの統計処理をおこなう関数(COUNTIFS関数、SUMIF関数、AVERAGEIF関数)の活用について学習する。	
6	表計算	数値の丸めをおこなう関数(ROUND関数、ROUNDUP関数、ROUNDDOWN関数、INT関数)の活用について学ぶ。データの並べ替えについても学ぶ。	
7	表計算	条件付き書式の使い方について学ぶ。棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフ、散布図、ヒートマップなど、グラフの作成について学習する。	
8	表計算	検索関数(VLOOKUP関数)の活用について学ぶ。また、IF関数、IFERROR関数を使ったエラー回避の方法についても学ぶ。	
9	ワープロ実習 社会で起きている変化	タッチタイピングの基本について学習する。また、Wordによる文書の作成と整形の基本を習得する。 ビッグデータ、IoT、AI、ロボットとは何かについて学習する。データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方とは何かを考える。	
10	ワープロ実習 社会で活用されているデータ	レイアウトを変更する。2段組みの文章を作成する。ヘッダー、フッターの挿入・編集方法や、文末脚注やページ番号の挿入方法についても学ぶ。 データ元の種類、データの所有者について学習する。構造化データと非構造化データの違いを知る。	
11	ワープロ実習 データ・AIの活用領域	段落番号と脚注の付け方について学習する。Word文書にExcelで作成した表やグラフを挿入する演習もおこなう。 データ・AIが、研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスのどのような場面にどのように活用されているのかを知る。	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	ワープロ実習 データ・AI活用のための技術	テキストボックスや基本図形などWordに標準で用意されているオブジェクトの貼り付けをおこなう。数式エディタも利用する。文書内へ表を挿入し、セルの結合や削除などの操作を学習する。 データ可視化などのデータの1次分析の例を知る。データ活用のための技術の例を学習する。	
13	ワープロ実習 データ・AI活用の現場	検索、置換、文章校正の機能を学習する。また、コメントの挿入や変更履歴の記録の仕方についても学ぶ。 データサイエンスのサイクルの例として映画製作、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例を学ぶ。データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているかを知る。	
14	スライド作成 データ・AI活用の最新動向	スライド作成ソフトPowerPointの基本操作を学ぶ。スライドにテキストと図表を挿入する。スライドにアニメーションや画面切り替え効果を設定する方法を学ぶ。 AI等を活用した新しいビジネスモデルを調べる。	
15	スライド作成 データ・AIを扱う上での留意事項	スライドショーの実行とプレゼンテーションの方法について学習する。 ELSI、データ倫理(データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)やデータサイエンス・AIで起こりうる論点について学ぶ。	

開講科目名 Course	情報リテラシー(再3) / Information literacy
時間割コード Course Code	11310
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3
主担当教員 Main Instructor	櫻井 由香
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	櫻井 由香 (経済学部)
授業の目標	ワープロ (Word) を使ったビジネス文書作成、表計算ソフト (Excel) によるデータ処理やデータサイエンスの基本、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) でスライドの作成技術を身につける。また、AIの活用についての基礎を学ぶ。 各自のノートパソコンを無線LANに接続し、メールの設定やOfficeソフトのインストールをおこない、レポートや卒業論文を作成する準備をおこなう。 ネットワーク社会で現実に行われている犯罪を例にとりながら情報倫理とセキュリティについて学習し、インターネットに関わりの深い法律やモラル、ELSIおよびセキュリティ技術を習得する。
授業の概要	各自が「本学が指定する要件をみたくパソコン」を講義に持参し、それを使って実習をおこなう。情報処理の基礎科目として初心者向けの実習をおこない、情報活用能力の土台となる知識と技術を習得するとともに、情報化社会におけるルールやモラル、およびセキュリティを理解することを目的とする。実習はOfficeツールによる文書作成、表計算、スライド作成の他、ノートパソコンによる電子メールの送受信など、毎回課題を与える。 また、データサイエンスおよびAIについて、実例を見ながらその活用方法と留意事項を学ぶ。
評価方法	課題の提出状況で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各自のパソコンにOfficeソフトをインストールし、課題を作成する。 授業前に次回の範囲を予習し、授業中は課題を作成するという反転授業をおこなう。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中に、または、Teamsで対応する。
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中におこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習をおこなう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	

PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス：授業の準備 データを守る上での留意事項	授業全体の進め方について説明する。 学内無線LANへ接続する。Microsoft 365へサインインしてOutlookとTeamsの使い方を学ぶ。Officeアプリのインストールをおこなう。 インターネットを利用する上で必要となる情報モラルや、情報倫理、情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性)について学習する。	
2	表計算	表計算ソフトExcelのワークシートにデータを入力する方法を学ぶ。簡単な縦横集計とセルの書式設定、数式の入力について学習する。四則演算、表示桁数、SUM関数、オートフィル、絶対参照(割合)について学習する。	
3	表計算	統計関数(AVERAGE関数、MAX関数、MIN関数)の活用について学習する。表の整形についても学ぶ。	
4	表計算	論理関数(COUNT関数、COUNTA関数、IF関数、IFS関数、AND関数、OR関数)の活用について学ぶ。	
5	表計算	数え上げの関数(COUNTA関数、COUNT関数、COUNTIF関数)と条件付きの統計処理をおこなう関数(COUNTIFS関数、SUMIF関数、AVERAGEIF関数)の活用について学習する。	
6	表計算	数値の丸めをおこなう関数(ROUND関数、ROUNDUP関数、ROUNDDOWN関数、INT関数)の活用について学ぶ。データの並べ替えについても学ぶ。	
7	表計算	条件付き書式の使い方について学ぶ。棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフ、散布図、ヒートマップなど、グラフの作成について学習する。	
8	表計算	検索関数(VLOOKUP関数)の活用について学ぶ。また、IF関数、IFERROR関数を使ったエラー回避の方法についても学ぶ。	
9	ワープロ実習 社会で起きている変化	タッチタイピングの基本について学習する。また、Wordによる文書の作成と整形の基本を習得する。 ビッグデータ、IoT、AI、ロボットとは何かについて学習する。データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方とは何かを考える。	
10	ワープロ実習 社会で活用されているデータ	レイアウトを変更する。2段組みの文章を作成する。ヘッダー、フッターの挿入・編集方法や、文末脚注やページ番号の挿入方法についても学ぶ。 データ元の種類、データの所有者について学習する。構造化データと非構造化データの違いを知る。	
11	ワープロ実習 データ・AIの活用領域	段落番号と脚注の付け方について学習する。Word文書にExcelで作成した表やグラフを挿入する演習もおこなう。 データ・AIが、研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスのどのような場面にどのように活用されているのかを知る。	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	ワープロ実習 データ・AI活用のための技術	テキストボックスや基本図形などWordに標準で用意されているオブジェクトの貼り付けをおこなう。数式エディタも利用する。文書内へ表を挿入し、セルの結合や削除などの操作を学習する。 データ可視化などのデータの1次分析の例を知る。データ活用のための技術の例を学習する。	
13	ワープロ実習 データ・AI活用の現場	検索、置換、文章校正の機能を学習する。また、コメントの挿入や変更履歴の記録の仕方についても学ぶ。 データサイエンスのサイクルの例として映画製作、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例を学ぶ。データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているかを知る。	
14	スライド作成 データ・AI活用の最新動向	スライド作成ソフトPowerPointの基本操作を学ぶ。スライドにテキストと図表を挿入する。スライドにアニメーションや画面切り替え効果を設定する方法を学ぶ。 AI等を活用した新しいビジネスモデルを調べる。	
15	スライド作成 データ・AIを扱う上での留意事項	スライドショーの実行とプレゼンテーションの方法について学習する。 ELSI、データ倫理(データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)やデータサイエンス・AIで起こりうる論点について学ぶ。	

開講科目名 Course	情報(Word)(1) / ICT-MS Word
時間割コード Course Code	11400
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	柴田 良一
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	情報実習室A
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	柴田 良一 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Microsoft Office Specialist (以下、MOSと略す) Word 2019の資格を取得する。</li> <li>・ ワープロソフトのグローバル・スタンダードといえる Microsoft Word の基礎的な操作技能・知識を修得する。</li> </ul> <p>2. 学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生、社会人に求められる情報処理能力の基本を身につける。</li> <li>・ MOS資格を取得し、就活に活用する。</li> </ul>
授業の概要	<p>1. 授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選択必修科目のなかの1科目である。</li> <li>・ 「本学が指定する要件をみたすパソコン (Windows)」を授業に持参する。</li> <li>・ 自分のテキストを購入して授業に臨む。著作権のある模擬問題を自分のパソコンにインストールするため、各自テキストを購入することが必要である。</li> <li>・ 予習と復習による反復練習を繰り返しおこなうことが重要である。</li> </ul> <p>2. MOS受験について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験日程については後日通知する。</li> <li>・ 学内試験会場での入学後2年以内の初回のMOS受験に限り、受験料6,000円 (+消費税) を大学が負担する。のちの受験料は自己負担となる。</li> </ul> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>1. この科目の単位修得には、MOS Word 2019に合格することが必要である。</p> <p>2. 欠席回数が6以上の場合は失格 (X評価) とする。ただし、MOS Word 2019合格までの欠席回数が5以下である場合はその限りではない。</p> <p>3. MOS Word 2019に合格した場合、その点数は成績評価の一基準であり、受講状況等を加味して総合的に評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文字列操作 1 -IME操作、辞書、外字、記号、異字体、難読文字入力</li> <li>2. 文字列操作 2 -コピー、移動、文字書式、文字装飾、検索、置換</li> <li>3. 文書操作 1 -ページレイアウト設定、印刷、差し込印刷</li> <li>4. 文書操作 2 -セクション区切り、複数書式の混在</li> <li>5. 文書操作 3 -長文編集、脚注、索引、目次</li> <li>6. 文書操作 4 -テンプレート利用、データベース操作、文書保護</li> <li>7. 段落操作 1 -スタイル利用</li> <li>8. 段落操作 2 -段落書式、インデント、タブの利用</li> <li>9. 表の使用 1 -行列操作、計算式</li> <li>10. 表の使用 2 -表書式設定、改ページ、改行設定</li> <li>11. 図とグラフの操作 1 ?表データからのグラフ作成、Excelデータ操作</li> <li>12. 図とグラフの操作 2 -オブジェクトの描画、編集と補助機能操作</li> <li>13. 図とグラフの操作 3 -図の挿入、レイアウト操作</li> <li>14. ホームページの作成 1 -統一デザインの設定</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
テキスト	『よくわかるマスター-MOS Word 365&2019対策テキスト&問題集』
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中に対応する。また、メールなどでも対応する。
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中におこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習をおこなう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	情報(Word)(2) / ICT-MS Word
時間割コード Course Code	11401
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	宇梶 郁
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	宇梶 郁 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Microsoft Office Specialist (以下、MOSと略す) Word 2019の資格を取得する。</li> <li>・ ワープロソフトのグローバル・スタンダードといえる Microsoft Word の基礎的な操作技能・知識を修得する。</li> </ul> <p>2. 学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生、社会人に求められる情報処理能力の基本を身につける。</li> <li>・ MOS資格を取得し、就活に活用する。</li> </ul>
授業の概要	<p>1. 授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選択必修科目のなかの1科目である。</li> <li>・ 「本学が指定する要件をみたすパソコン (Windows)」を授業に持参する。</li> <li>・ 自分のテキストを購入して授業に臨む。著作権のある模擬問題を自分のパソコンにインストールするため、各自テキストを購入することが必要である。</li> <li>・ 予習と復習による反復練習を繰り返しおこなうことが重要である。</li> </ul> <p>2. MOS受験について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験日程については後日通知する。</li> <li>・ 学内試験会場での入学後2年以内の初回のMOS受験に限り、受験料6,000円 (+消費税) を大学が負担する。のちの受験料は自己負担となる。</li> </ul> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>1. この科目の単位修得には、MOS Word 2019に合格することが必要である。</p> <p>2. 欠席回数が6以上の場合は失格 (X評価) とする。ただし、MOS Word 2019合格までの欠席回数が5以下である場合はその限りではない。</p> <p>3. MOS Word 2019に合格した場合、その点数は成績評価の一基準であり、受講状況等を加味して総合的に評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし



授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文字列操作 1 -IME操作、辞書、外字、記号、異字体、難読文字入力</li> <li>2. 文字列操作 2 -コピー、移動、文字書式、文字装飾、検索、置換</li> <li>3. 文書操作 1 -ページレイアウト設定、印刷、差し込印刷</li> <li>4. 文書操作 2 -セクション区切り、複数書式の混在</li> <li>5. 文書操作 3 -長文編集、脚注、索引、目次</li> <li>6. 文書操作 4 -テンプレート利用、データベース操作、文書保護</li> <li>7. 段落操作 1 -スタイル利用</li> <li>8. 段落操作 2 -段落書式、インデント、タブの利用</li> <li>9. 表の使用 1 -行列操作、計算式</li> <li>10. 表の使用 2 -表書式設定、改ページ、改行設定</li> <li>11. 図とグラフの操作 1 ?表データからのグラフ作成、Excelデータ操作</li> <li>12. 図とグラフの操作 2 -オブジェクトの描画、編集と補助機能操作</li> <li>13. 図とグラフの操作 3 -図の挿入、レイアウト操作</li> <li>14. ホームページの作成 1 -統一デザインの設定</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
テキスト	『よくわかるマスター-MOS Word 365&2019対策テキスト&問題集』
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中に対応する。また、メールなどでも対応する。
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中におこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習をおこなう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	情報入門 / Introduction to information technology
時間割コード Course Code	11410
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	櫻井 由香
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	櫻井 由香 (経済学部)
授業の目標	<p>1. 教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Microsoft Office Specialist (以下、MOSと略す) Word 2019の資格を取得する。</li> <li>・ ワープロソフトのグローバル・スタンダードといえる Microsoft Word の基礎的な操作技能・知識を修得する。</li> </ul> <p>2. 学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生、社会人に求められる情報処理能力の基本を身につける。</li> <li>・ MOS資格を取得し、就活に活用する。</li> </ul>
授業の概要	<p>1. 授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「本学が指定する要件をみたすパソコン (Windows)」を授業に持参する。</li> <li>・ 自分のテキストを購入して授業に臨む。著作権のある模擬問題を自分のパソコンにインストールするため、各自テキストを購入することが必要である。</li> <li>・ 予習と復習による反復練習を繰り返しおこなうことが重要である。</li> </ul> <p>2. MOS受験について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験日程については後日通知する。</li> <li>・ 学内試験会場での入学後2年以内の初回のMOS受験に限り、受験料6,000円 (+消費税) を大学が負担する。のちの受験料は自己負担となる。</li> </ul> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>1. 欠席回数が6以上の場合は失格 (X評価) とする。ただし、MOS Word 2019合格までの欠席回数が5以下である場合はその限りではない。</p> <p>2. MOS Word 2019の試験結果は成績評価の一基準であり、受講状況等を加味して総合的に評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文字列操作 1 -IME操作、辞書、外字、記号、異字体、難読文字入力</li> <li>2. 文字列操作 2 -コピー、移動、文字書式、文字装飾、検索、置換</li> <li>3. 文書操作 1 -ページレイアウト設定、印刷、差し込印刷</li> <li>4. 文書操作 2 -セクション区切り、複数書式の混在</li> <li>5. 文書操作 3 -長文編集、脚注、索引、目次</li> <li>6. 文書操作 4 -テンプレート利用、データベース操作、文書保護</li> <li>7. 段落操作 1 -スタイル利用</li> <li>8. 段落操作 2 -段落書式、インデント、タブの利用</li> <li>9. 表の使用 1 -行列操作、計算式</li> <li>10. 表の使用 2 -表書式設定、改ページ、改行設定</li> <li>11. 図とグラフの操作 1 ?表データからのグラフ作成、Excelデータ操作</li> <li>12. 図とグラフの操作 2 -オブジェクトの描画、編集と補助機能操作</li> <li>13. 図とグラフの操作 3 -図の挿入、レイアウト操作</li> <li>14. ホームページの作成 1 -統一デザインの設定</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
テキスト	『よくわかるマスター-MOS Word 365&2019対策テキスト&問題集』
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中に対応する。また、メールなどでも対応する。
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中におこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習をおこなう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	情報(Word)(済1) / ICT-MS Word
時間割コード Course Code	11450
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	櫻井 由香
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	櫻井 由香 (経済学部)
授業の目標	<p>1. 教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Microsoft Office Specialist (以下、MOSと略す) Word 2019の資格を取得する。</li> <li>・ ワープロソフトのグローバル・スタンダードといえる Microsoft Word の基礎的な操作技能・知識を修得する。</li> </ul> <p>2. 学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生、社会人に求められる情報処理能力の基本を身につける。</li> <li>・ MOS資格を取得し、就活に活用する。</li> </ul>
授業の概要	<p>1. 授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選択必修科目のなかの1科目である。</li> <li>・ 「本学が指定する要件をみたすパソコン (Windows)」を授業に持参する。</li> <li>・ 自分のテキストを購入して授業に臨む。著作権のある模擬問題を自分のパソコンにインストールするため、各自テキストを購入することが必要である。</li> <li>・ 予習と復習による反復練習を繰り返しおこなうことが重要である。</li> </ul> <p>2. MOS受験について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験日程については後日通知する。</li> <li>・ 学内試験会場での入学後2年以内の初回のMOS受験に限り、受験料6,000円 (+消費税) を大学が負担する。のちの受験料は自己負担となる。</li> </ul> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>1. この科目の単位修得には、MOS Word 2019に合格することが必要である。</p> <p>2. 欠席回数が6以上の場合は失格 (X評価) とする。ただし、MOS Word 2019合格までの欠席回数が5以下である場合はその限りではない。</p> <p>3. MOS Word 2019に合格した場合、その点数は成績評価の一基準であり、受講状況等を加味して総合的に評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文字列操作 1 -IME操作、辞書、外字、記号、異字体、難読文字入力</li> <li>2. 文字列操作 2 -コピー、移動、文字書式、文字装飾、検索、置換</li> <li>3. 文書操作 1 -ページレイアウト設定、印刷、差し込印刷</li> <li>4. 文書操作 2 -セクション区切り、複数書式の混在</li> <li>5. 文書操作 3 -長文編集、脚注、索引、目次</li> <li>6. 文書操作 4 -テンプレート利用、データベース操作、文書保護</li> <li>7. 段落操作 1 -スタイル利用</li> <li>8. 段落操作 2 -段落書式、インデント、タブの利用</li> <li>9. 表の使用 1 -行列操作、計算式</li> <li>10. 表の使用 2 -表書式設定、改ページ、改行設定</li> <li>11. 図とグラフの操作 1 ?表データからのグラフ作成、Excelデータ操作</li> <li>12. 図とグラフの操作 2 -オブジェクトの描画、編集と補助機能操作</li> <li>13. 図とグラフの操作 3 -図の挿入、レイアウト操作</li> <li>14. ホームページの作成 1 -統一デザインの設定</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
テキスト	『よくわかるマスター-MOS Word 365&2019対策テキスト&問題集』
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中に対応する。また、メールなどでも対応する。
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中におこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習をおこなう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	情報(Word)(済2) / ICT-MS Word
時間割コード Course Code	11451
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	神邊 篤史
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	7 2 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	神邊 篤史 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Microsoft Office Specialist (以下、MOSと略す) Word 2019の資格を取得する。</li> <li>・ ワープロソフトのグローバル・スタンダードといえる Microsoft Word の基礎的な操作技能・知識を修得する。</li> </ul> <p>2. 学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生、社会人に求められる情報処理能力の基本を身につける。</li> <li>・ MOS資格を取得し、就活に活用する。</li> </ul>
授業の概要	<p>1. 授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選択必修科目のなかの1科目である。</li> <li>・ 「本学が指定する要件をみたすパソコン (Windows)」を授業に持参する。</li> <li>・ 自分のテキストを購入して授業に臨む。著作権のある模擬問題を自分のパソコンにインストールするため、各自テキストを購入することが必要である。</li> <li>・ 予習と復習による反復練習を繰り返しおこなうことが重要である。</li> </ul> <p>2. MOS受験について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験日程については後日通知する。</li> <li>・ 学内試験会場での入学後2年以内の初回のMOS受験に限り、受験料6,000円 (+消費税) を大学が負担する。のちの受験料は自己負担となる。</li> </ul> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>1. この科目の単位修得には、MOS Word 2019に合格することが必要である。</p> <p>2. 欠席回数が6以上の場合は失格 (X評価) とする。ただし、MOS Word 2019合格までの欠席回数が5以下である場合はその限りではない。</p> <p>3. MOS Word 2019に合格した場合、その点数は成績評価の一基準であり、受講状況等を加味して総合的に評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文字列操作 1 -IME操作、辞書、外字、記号、異字体、難読文字入力</li> <li>2. 文字列操作 2 -コピー、移動、文字書式、文字装飾、検索、置換</li> <li>3. 文書操作 1 -ページレイアウト設定、印刷、差し込印刷</li> <li>4. 文書操作 2 -セクション区切り、複数書式の混在</li> <li>5. 文書操作 3 -長文編集、脚注、索引、目次</li> <li>6. 文書操作 4 -テンプレート利用、データベース操作、文書保護</li> <li>7. 段落操作 1 -スタイル利用</li> <li>8. 段落操作 2 -段落書式、インデント、タブの利用</li> <li>9. 表の使用 1 -行列操作、計算式</li> <li>10. 表の使用 2 -表書式設定、改ページ、改行設定</li> <li>11. 図とグラフの操作 1 ?表データからのグラフ作成、Excelデータ操作</li> <li>12. 図とグラフの操作 2 -オブジェクトの描画、編集と補助機能操作</li> <li>13. 図とグラフの操作 3 -図の挿入、レイアウト操作</li> <li>14. ホームページの作成 1 -統一デザインの設定</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
テキスト	『よくわかるマスター-MOS Word 365&2019対策テキスト&問題集』
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中に対応する。また、メールなどでも対応する。
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中におこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習をおこなう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	情報(Word)(営1) / ICT-MS Word
時間割コード Course Code	11452
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	櫻井 由香
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	櫻井 由香 (経済学部)
授業の目標	<p>1. 教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Microsoft Office Specialist (以下、MOSと略す) Word 2019の資格を取得する。</li> <li>・ ワープロソフトのグローバル・スタンダードといえる Microsoft Word の基礎的な操作技能・知識を修得する。</li> </ul> <p>2. 学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生、社会人に求められる情報処理能力の基本を身につける。</li> <li>・ MOS資格を取得し、就活に活用する。</li> </ul>
授業の概要	<p>1. 授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選択必修科目のなかの1科目である。</li> <li>・ 「本学が指定する要件をみたすパソコン (Windows)」を授業に持参する。</li> <li>・ 自分のテキストを購入して授業に臨む。著作権のある模擬問題を自分のパソコンにインストールするため、各自テキストを購入することが必要である。</li> <li>・ 予習と復習による反復練習を繰り返しおこなうことが重要である。</li> </ul> <p>2. MOS受験について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験日程については後日通知する。</li> <li>・ 学内試験会場での入学後2年以内の初回のMOS受験に限り、受験料6,000円 (+消費税)を大学が負担する。のちの受験料は自己負担となる。</li> </ul> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>1. この科目の単位修得には、MOS Word 2019に合格することが必要である。</p> <p>2. 欠席回数が6以上の場合は失格 (X評価)とする。ただし、MOS Word 2019合格までの欠席回数が5以下である場合はその限りではない。</p> <p>3. MOS Word 2019に合格した場合、その点数は成績評価の一基準であり、受講状況等を加味して総合的に評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし



授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文字列操作 1 -IME操作、辞書、外字、記号、異字体、難読文字入力</li> <li>2. 文字列操作 2 -コピー、移動、文字書式、文字装飾、検索、置換</li> <li>3. 文書操作 1 -ページレイアウト設定、印刷、差し込印刷</li> <li>4. 文書操作 2 -セクション区切り、複数書式の混在</li> <li>5. 文書操作 3 -長文編集、脚注、索引、目次</li> <li>6. 文書操作 4 -テンプレート利用、データベース操作、文書保護</li> <li>7. 段落操作 1 -スタイル利用</li> <li>8. 段落操作 2 -段落書式、インデント、タブの利用</li> <li>9. 表の使用 1 -行列操作、計算式</li> <li>10. 表の使用 2 -表書式設定、改ページ、改行設定</li> <li>11. 図とグラフの操作 1 ?表データからのグラフ作成、Excelデータ操作</li> <li>12. 図とグラフの操作 2 -オブジェクトの描画、編集と補助機能操作</li> <li>13. 図とグラフの操作 3 -図の挿入、レイアウト操作</li> <li>14. ホームページの作成 1 -統一デザインの設定</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
テキスト	『よくわかるマスター-MOS Word 365&2019対策テキスト&問題集』
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中に対応する。また、メールなどでも対応する。
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中におこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習をおこなう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	情報(Word)(営2) / ICT-MS Word
時間割コード Course Code	11453
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	宇梶 郁
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	7 2 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	宇梶 郁 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Microsoft Office Specialist (以下、MOSと略す) Word 2019の資格を取得する。</li> <li>・ ワープロソフトのグローバル・スタンダードといえる Microsoft Word の基礎的な操作技能・知識を修得する。</li> </ul> <p>2. 学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生、社会人に求められる情報処理能力の基本を身につける。</li> <li>・ MOS資格を取得し、就活に活用する。</li> </ul>
授業の概要	<p>1. 授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選択必修科目のなかの1科目である。</li> <li>・ 「本学が指定する要件をみたすパソコン (Windows)」を授業に持参する。</li> <li>・ 自分のテキストを購入して授業に臨む。著作権のある模擬問題を自分のパソコンにインストールするため、各自テキストを購入することが必要である。</li> <li>・ 予習と復習による反復練習を繰り返しおこなうことが重要である。</li> </ul> <p>2. MOS受験について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験日程については後日通知する。</li> <li>・ 学内試験会場での入学後2年以内の初回のMOS受験に限り、受験料6,000円 (+消費税) を大学が負担する。のちの受験料は自己負担となる。</li> </ul> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>1. この科目の単位修得には、MOS Word 2019に合格することが必要である。</p> <p>2. 欠席回数が6以上の場合は失格 (X評価) とする。ただし、MOS Word 2019合格までの欠席回数が5以下である場合はその限りではない。</p> <p>3. MOS Word 2019に合格した場合、その点数は成績評価の一基準であり、受講状況等を加味して総合的に評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文字列操作 1 -IME操作、辞書、外字、記号、異字体、難読文字入力</li> <li>2. 文字列操作 2 -コピー、移動、文字書式、文字装飾、検索、置換</li> <li>3. 文書操作 1 -ページレイアウト設定、印刷、差し込印刷</li> <li>4. 文書操作 2 -セクション区切り、複数書式の混在</li> <li>5. 文書操作 3 -長文編集、脚注、索引、目次</li> <li>6. 文書操作 4 -テンプレート利用、データベース操作、文書保護</li> <li>7. 段落操作 1 -スタイル利用</li> <li>8. 段落操作 2 -段落書式、インデント、タブの利用</li> <li>9. 表の使用 1 -行列操作、計算式</li> <li>10. 表の使用 2 -表書式設定、改ページ、改行設定</li> <li>11. 図とグラフの操作 1 ?表データからのグラフ作成、Excelデータ操作</li> <li>12. 図とグラフの操作 2 -オブジェクトの描画、編集と補助機能操作</li> <li>13. 図とグラフの操作 3 -図の挿入、レイアウト操作</li> <li>14. ホームページの作成 1 -統一デザインの設定</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
テキスト	『よくわかるマスター-MOS Word 365&2019対策テキスト&問題集』
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中に対応する。また、メールなどでも対応する。
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中におこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習をおこなう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	情報(Word)(法1) / ICT-MS Word
時間割コード Course Code	11454
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	櫻井 由香
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	櫻井 由香 (経済学部)
授業の目標	<p>1. 教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Microsoft Office Specialist (以下、MOSと略す) Word 2019の資格を取得する。</li> <li>・ ワープロソフトのグローバル・スタンダードといえる Microsoft Word の基礎的な操作技能・知識を修得する。</li> </ul> <p>2. 学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生、社会人に求められる情報処理能力の基本を身につける。</li> <li>・ MOS資格を取得し、就活に活用する。</li> </ul>
授業の概要	<p>1. 授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選択必修科目のなかの1科目である。</li> <li>・ 「本学が指定する要件をみたすパソコン (Windows)」を授業に持参する。</li> <li>・ 自分のテキストを購入して授業に臨む。著作権のある模擬問題を自分のパソコンにインストールするため、各自テキストを購入することが必要である。</li> <li>・ 予習と復習による反復練習を繰り返しおこなうことが重要である。</li> </ul> <p>2. MOS受験について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験日程については後日通知する。</li> <li>・ 校内試験会場での入学後2年以内の初回のMOS受験に限り、受験料6,000円 (+消費税) を大学が負担する。のちの受験料は自己負担となる。</li> </ul> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>1. この科目の単位修得には、MOS Word 2019に合格することが必要である。</p> <p>2. 欠席回数が6以上の場合は失格 (X評価) とする。ただし、MOS Word 2019合格までの欠席回数が5以下である場合はその限りではない。</p> <p>3. MOS Word 2019に合格した場合、その点数は成績評価の一基準であり、受講状況等を加味して総合的に評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文字列操作 1 -IME操作、辞書、外字、記号、異字体、難読文字入力</li> <li>2. 文字列操作 2 -コピー、移動、文字書式、文字装飾、検索、置換</li> <li>3. 文書操作 1 -ページレイアウト設定、印刷、差し込印刷</li> <li>4. 文書操作 2 -セクション区切り、複数書式の混在</li> <li>5. 文書操作 3 -長文編集、脚注、索引、目次</li> <li>6. 文書操作 4 -テンプレート利用、データベース操作、文書保護</li> <li>7. 段落操作 1 -スタイル利用</li> <li>8. 段落操作 2 -段落書式、インデント、タブの利用</li> <li>9. 表の使用 1 -行列操作、計算式</li> <li>10. 表の使用 2 -表書式設定、改ページ、改行設定</li> <li>11. 図とグラフの操作 1 ?表データからのグラフ作成、Excelデータ操作</li> <li>12. 図とグラフの操作 2 -オブジェクトの描画、編集と補助機能操作</li> <li>13. 図とグラフの操作 3 -図の挿入、レイアウト操作</li> <li>14. ホームページの作成 1 -統一デザインの設定</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
テキスト	『よくわかるマスター-MOS Word 365&2019対策テキスト&問題集』
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中に対応する。また、メールなどでも対応する。
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中におこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習をおこなう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	情報(Word)(法2) / ICT-MS Word
時間割コード Course Code	11455
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	宇梶 郁
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	7 2 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	宇梶 郁 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Microsoft Office Specialist (以下、MOSと略す) Word 2019の資格を取得する。</li> <li>・ ワープロソフトのグローバル・スタンダードといえる Microsoft Word の基礎的な操作技能・知識を修得する。</li> </ul> <p>2. 学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生、社会人に求められる情報処理能力の基本を身につける。</li> <li>・ MOS資格を取得し、就活に活用する。</li> </ul>
授業の概要	<p>1. 授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選択必修科目のなかの1科目である。</li> <li>・ 「本学が指定する要件をみたすパソコン (Windows)」を授業に持参する。</li> <li>・ 自分のテキストを購入して授業に臨む。著作権のある模擬問題を自分のパソコンにインストールするため、各自テキストを購入することが必要である。</li> <li>・ 予習と復習による反復練習を繰り返しおこなうことが重要である。</li> </ul> <p>2. MOS受験について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験日程については後日通知する。</li> <li>・ 学内試験会場での入学後2年以内の初回のMOS受験に限り、受験料6,000円 (+消費税) を大学が負担する。のちの受験料は自己負担となる。</li> </ul> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>1. この科目の単位修得には、MOS Word 2019に合格することが必要である。</p> <p>2. 欠席回数が6以上の場合は失格 (X評価) とする。ただし、MOS Word 2019合格までの欠席回数が5以下である場合はその限りではない。</p> <p>3. MOS Word 2019に合格した場合、その点数は成績評価の一基準であり、受講状況等を加味して総合的に評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文字列操作 1 -IME操作、辞書、外字、記号、異字体、難読文字入力</li> <li>2. 文字列操作 2 -コピー、移動、文字書式、文字装飾、検索、置換</li> <li>3. 文書操作 1 -ページレイアウト設定、印刷、差し込印刷</li> <li>4. 文書操作 2 -セクション区切り、複数書式の混在</li> <li>5. 文書操作 3 -長文編集、脚注、索引、目次</li> <li>6. 文書操作 4 -テンプレート利用、データベース操作、文書保護</li> <li>7. 段落操作 1 -スタイル利用</li> <li>8. 段落操作 2 -段落書式、インデント、タブの利用</li> <li>9. 表の使用 1 -行列操作、計算式</li> <li>10. 表の使用 2 -表書式設定、改ページ、改行設定</li> <li>11. 図とグラフの操作 1 ?表データからのグラフ作成、Excelデータ操作</li> <li>12. 図とグラフの操作 2 -オブジェクトの描画、編集と補助機能操作</li> <li>13. 図とグラフの操作 3 -図の挿入、レイアウト操作</li> <li>14. ホームページの作成 1 -統一デザインの設定</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
テキスト	『よくわかるマスター-MOS Word 365&2019対策テキスト&問題集』
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中に対応する。また、メールなどでも対応する。
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中におこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習をおこなう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	情報(Word)(3) / ICT-MS Word
時間割コード Course Code	11470
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	櫻井 由香
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	櫻井 由香 (経済学部)
授業の目標	<p>1. 教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Microsoft Office Specialist (以下、MOSと略す) Word 2019の資格を取得する。</li> <li>・ ワープロソフトのグローバル・スタンダードといえる Microsoft Word の基礎的な操作技能・知識を修得する。</li> </ul> <p>2. 学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生、社会人に求められる情報処理能力の基本を身につける。</li> <li>・ MOS資格を取得し、就活に活用する。</li> </ul>
授業の概要	<p>1. 授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選択必修科目のなかの1科目である。</li> <li>・ 「本学が指定する要件をみたすパソコン (Windows)」を授業に持参する。</li> <li>・ 自分のテキストを購入して授業に臨む。著作権のある模擬問題を自分のパソコンにインストールするため、各自テキストを購入することが必要である。</li> <li>・ 予習と復習による反復練習を繰り返しおこなうことが重要である。</li> </ul> <p>2. MOS受験について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験日程については後日通知する。</li> <li>・ 学内試験会場での入学後2年以内の初回のMOS受験に限り、受験料6,000円 (+消費税) を大学が負担する。のちの受験料は自己負担となる。</li> </ul> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>1. この科目の単位修得には、MOS Word 2019に合格することが必要である。</p> <p>2. 欠席回数が6以上の場合は失格 (X評価) とする。ただし、MOS Word 2019合格までの欠席回数が5以下である場合はその限りではない。</p> <p>3. MOS Word 2019に合格した場合、その点数は成績評価の一基準であり、受講状況等を加味して総合的に評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし



授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文字列操作 1 -IME操作、辞書、外字、記号、異字体、難読文字入力</li> <li>2. 文字列操作 2 -コピー、移動、文字書式、文字装飾、検索、置換</li> <li>3. 文書操作 1 -ページレイアウト設定、印刷、差し込印刷</li> <li>4. 文書操作 2 -セクション区切り、複数書式の混在</li> <li>5. 文書操作 3 -長文編集、脚注、索引、目次</li> <li>6. 文書操作 4 -テンプレート利用、データベース操作、文書保護</li> <li>7. 段落操作 1 -スタイル利用</li> <li>8. 段落操作 2 -段落書式、インデント、タブの利用</li> <li>9. 表の使用 1 -行列操作、計算式</li> <li>10. 表の使用 2 -表書式設定、改ページ、改行設定</li> <li>11. 図とグラフの操作 1 ?表データからのグラフ作成、Excelデータ操作</li> <li>12. 図とグラフの操作 2 -オブジェクトの描画、編集と補助機能操作</li> <li>13. 図とグラフの操作 3 -図の挿入、レイアウト操作</li> <li>14. ホームページの作成 1 -統一デザインの設定</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
テキスト	『よくわかるマスター-MOS Word 365&2019対策テキスト&問題集』
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中に対応する。また、メールなどでも対応する。
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中におこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習をおこなう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	情報(Excel)(1) / ICT-MS Excel
時間割コード Course Code	11500
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	柴田 良一
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	情報実習室A
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	柴田 良一 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Microsoft Office Specialist (以下、MOSと略す) Excel 2019の資格を取得する。</li> <li>・ 表計算ソフトのグローバル・スタンダードといえる Microsoft Excel の基礎的な操作技能・知識を修得する。</li> </ul> <p>2. 学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生、社会人に求められる情報処理能力の基本を身につける。</li> <li>・ MOS資格を取得し、就活に活用する。</li> </ul>
授業の概要	<p>1. 授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選択必修科目のなかの1科目である。</li> <li>・ 「本学が指定する要件をみたすパソコン (Windows)」を授業に持参する。</li> <li>・ 自分のテキストを購入して授業に臨む。著作権のある模擬問題を自分のパソコンにインストールするため、各自テキストを購入することが必要である。</li> <li>・ 予習と復習による反復練習を繰り返しおこなうことが重要である。</li> </ul> <p>2. MOS受験について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験日程については後日通知する。</li> <li>・ 学内試験会場での入学後2年以内の初回のMOS受験に限り、受験料6,000円 (+消費税) を大学が負担する。のちの受験料は自己負担となる。</li> </ul> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>1. この科目の単位修得には、MOS Excel 2019に合格することが必要である。</p> <p>2. 欠席回数が6以上の場合は失格 (X評価) とする。ただし、MOS Excel 2019合格までの欠席回数が5以下である場合はその限りではない。</p> <p>3. MOS Excel 2019に合格した場合、その点数は成績評価の一基準であり、受講状況等を加味して総合的に評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 データとコンテンツの作成(1) 第3回 データとコンテンツの作成(2) 第4回 データとコンテンツの書式設定 第5回 ブックの管理(1) 第6回 ブックの管理(2) 第7回 データの分析(1) 第8回 データの分析(2)およびグループ作業 第9回 模擬検定試験1 第10回 模擬検定試験2 第11回 模擬検定試験3 第12回 模擬検定試験4 第13回 模擬検定試験5 第14回 模擬検定試験6 第15回 模擬検定試験1～6までのランダム問題取り組み
テキスト	『よくわかるマスター-MOS Excel 365&2019対策テキスト&問題集』(FOM出版)
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中に対応する。また、メールなどでも対応する。
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中におこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習をおこなう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	情報(Excel)(2) / ICT-MS Excel
時間割コード Course Code	11501
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	櫻井 由香
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	櫻井 由香 (経済学部)
授業の目標	<p>1. 教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Microsoft Office Specialist (以下、MOSと略す) Excel 2019の資格を取得する。</li> <li>・ 表計算ソフトのグローバル・スタンダードといえる Microsoft Excel の基礎的な操作技能・知識を修得する。</li> </ul> <p>2. 学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生、社会人に求められる情報処理能力の基本を身につける。</li> <li>・ MOS資格を取得し、就活に活用する。</li> </ul>
授業の概要	<p>1. 授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選択必修科目のなかの1科目である。</li> <li>・ 「本学が指定する要件をみたすパソコン (Windows)」を授業に持参する。</li> <li>・ 自分のテキストを購入して授業に臨む。著作権のある模擬問題を自分のパソコンにインストールするため、各自テキストを購入することが必要である。</li> <li>・ 予習と復習による反復練習を繰り返しおこなうことが重要である。</li> </ul> <p>2. MOS受験について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験日程については後日通知する。</li> <li>・ 学内試験会場での入学後2年以内の初回のMOS受験に限り、受験料6,000円 (+消費税) を大学が負担する。のちの受験料は自己負担となる。</li> </ul> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>1. この科目の単位修得には、MOS Excel 2019に合格することが必要である。</p> <p>2. 欠席回数が6以上の場合は失格 (X評価) とする。ただし、MOS Excel 2019合格までの欠席回数が5以下である場合はその限りではない。</p> <p>3. MOS Excel 2019に合格した場合、その点数は成績評価の一基準であり、受講状況等を加味して総合的に評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 データとコンテンツの作成(1) 第3回 データとコンテンツの作成(2) 第4回 データとコンテンツの書式設定 第5回 ブックの管理(1) 第6回 ブックの管理(2) 第7回 データの分析(1) 第8回 データの分析(2)およびグループ作業 第9回 模擬検定試験1 第10回 模擬検定試験2 第11回 模擬検定試験3 第12回 模擬検定試験4 第13回 模擬検定試験5 第14回 模擬検定試験6 第15回 模擬検定試験1～6までのランダム問題取り組み
テキスト	『よくわかるマスター-MOS Excel 365&2019対策テキスト&問題集』(FOM出版の最新版)
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中に対応する。また、メールなどでも対応する。
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中におこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習をおこなう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	情報(Excel)(3) / ICT-MS Excel
時間割コード Course Code	11550
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	村山 聡江
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	情報実習室A
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	村山 聡江 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Microsoft Office Specialist (以下、MOSと略す) Excel 2019の資格を取得する。</li> <li>・ 表計算ソフトのグローバル・スタンダードといえる Microsoft Excel の基礎的な操作技能・知識を修得する。</li> </ul> <p>2. 学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生、社会人に求められる情報処理能力の基本を身につける。</li> <li>・ MOS資格を取得し、就活に活用する。</li> </ul>
授業の概要	<p>1. 授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選択必修科目のなかの1科目である。</li> <li>・ 「本学が指定する要件をみたすパソコン (Windows)」を授業に持参する。</li> <li>・ 自分のテキストを購入して授業に臨む。著作権のある模擬問題を自分のパソコンにインストールするため、各自テキストを購入することが必要である。</li> <li>・ 予習と復習による反復練習を繰り返しおこなうことが重要である。</li> </ul> <p>2. MOS受験について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験日程については後日通知する。</li> <li>・ 学内試験会場での入学後2年以内の初回のMOS受験に限り、受験料6,000円 (+消費税) を大学が負担する。のちの受験料は自己負担となる。</li> </ul> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>1. この科目の単位修得には、MOS Excel 2019に合格することが必要である。</p> <p>2. 欠席回数が6以上の場合は失格 (X評価) とする。ただし、MOS Excel 2019合格までの欠席回数が5以下である場合はその限りではない。</p> <p>3. MOS Excel 2019に合格した場合、その点数は成績評価の一基準であり、受講状況等を加味して総合的に評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 データとコンテンツの作成(1) 第3回 データとコンテンツの作成(2) 第4回 データとコンテンツの書式設定 第5回 ブックの管理(1) 第6回 ブックの管理(2) 第7回 データの分析(1) 第8回 データの分析(2)およびグループ作業 第9回 模擬検定試験1 第10回 模擬検定試験2 第11回 模擬検定試験3 第12回 模擬検定試験4 第13回 模擬検定試験5 第14回 模擬検定試験6 第15回 模擬検定試験1～6までのランダム問題取り組み
テキスト	『よくわかるマスター-MOS Excel 365&2019対策テキスト&問題集』(FOM出版)
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中に対応する。また、メールなどでも対応する。
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中におこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習をおこなう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	情報(Excel)(4) / ICT-MS Excel
時間割コード Course Code	11551
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	村山 聡江
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	情報実習室A
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	村山 聡江 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Microsoft Office Specialist (以下、MOSと略す) Excel 2019の資格を取得する。</li> <li>・ 表計算ソフトのグローバル・スタンダードといえる Microsoft Excel の基礎的な操作技能・知識を修得する。</li> </ul> <p>2. 学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生、社会人に求められる情報処理能力の基本を身につける。</li> <li>・ MOS資格を取得し、就活に活用する。</li> </ul>
授業の概要	<p>1. 授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選択必修科目のなかの1科目である。</li> <li>・ 「本学が指定する要件をみたすパソコン (Windows)」を授業に持参する。</li> <li>・ 自分のテキストを購入して授業に臨む。著作権のある模擬問題を自分のパソコンにインストールするため、各自テキストを購入することが必要である。</li> <li>・ 予習と復習による反復練習を繰り返しおこなうことが重要である。</li> </ul> <p>2. MOS受験について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験日程については後日通知する。</li> <li>・ 校内試験会場での入学後2年以内の初回のMOS受験に限り、受験料6,000円 (+消費税) を大学が負担する。のちの受験料は自己負担となる。</li> </ul> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>1. この科目の単位修得には、MOS Excel 2019に合格することが必要である。</p> <p>2. 欠席回数が6以上の場合は失格 (X評価) とする。ただし、MOS Excel 2019合格までの欠席回数が5以下である場合はその限りではない。</p> <p>3. MOS Excel 2019に合格した場合、その点数は成績評価の一基準であり、受講状況等を加味して総合的に評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし



授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 データとコンテンツの作成(1) 第3回 データとコンテンツの作成(2) 第4回 データとコンテンツの書式設定 第5回 ブックの管理(1) 第6回 ブックの管理(2) 第7回 データの分析(1) 第8回 データの分析(2)およびグループ作業 第9回 模擬検定試験1 第10回 模擬検定試験2 第11回 模擬検定試験3 第12回 模擬検定試験4 第13回 模擬検定試験5 第14回 模擬検定試験6 第15回 模擬検定試験1～6までのランダム問題取り組み
テキスト	『よくわかるマスター-MOS Excel 365&2019対策テキスト&問題集』(FOM出版)
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中に対応する。また、メールなどでも対応する。
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中におこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習をおこなう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	情報基礎I / Information Processing I
時間割コード Course Code	11560
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	柴田 良一
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	柴田 良一 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Microsoft Office Specialist (以下、MOSと略す) Excel 2019の資格を取得する。</li> <li>・ 表計算ソフトのグローバル・スタンダードといえる Microsoft Excel の基礎的な操作技能・知識を修得する。</li> </ul> <p>2. 学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生、社会人に求められる情報処理能力の基本を身につける。</li> <li>・ MOS資格を取得し、就活に活用する。</li> </ul>
授業の概要	<p>1. 授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「本学が指定する要件をみたすパソコン (Windows)」を授業に持参する。</li> <li>・ 自分のテキストを購入して授業に臨む。著作権のある模擬問題を自分のパソコンにインストールするため、各自テキストを購入することが必要である。</li> <li>・ 予習と復習による反復練習を繰り返しおこなうことが重要である。</li> </ul> <p>2. MOS受験について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験日程については後日通知する。</li> <li>・ 学内試験会場での入学後2年以内の初回のMOS受験に限り、受験料6,000円 (+消費税) を大学が負担する。のちの受験料は自己負担となる。</li> </ul> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>1. この科目の単位修得には、MOS Excel 2019に合格することが必要である。</p> <p>2. 欠席回数が6以上の場合は失格 (X評価) とする。ただし、MOS Excel 2019合格までの欠席回数が5以下である場合はその限りではない。</p> <p>3. MOS Excel 2019に合格した場合、その点数は成績評価の一基準であり、受講状況等を加味して総合的に評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 データとコンテンツの作成(1) 第3回 データとコンテンツの作成(2) 第4回 データとコンテンツの書式設定 第5回 ブックの管理(1) 第6回 ブックの管理(2) 第7回 データの分析(1) 第8回 データの分析(2)およびグループ作業 第9回 模擬検定試験1 第10回 模擬検定試験2 第11回 模擬検定試験3 第12回 模擬検定試験4 第13回 模擬検定試験5 第14回 模擬検定試験6 第15回 模擬検定試験1～6までのランダム問題取り組み
テキスト	『よくわかるマスター-MOS Excel 365&2019対策テキスト&問題集』(FOM出版)
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中に対応する。また、メールなどでも対応する。
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中におこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習をおこなう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	情報(Power Point)(1) / ICT-MS Power Point
時間割コード Course Code	11600
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	櫻井 由香
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	櫻井 由香 (経済学部)
授業の目標	<p>1. 教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Microsoft Office Specialist (以下、MOSと略す) PowerPoint 2019の資格を取得する。</li> <li>・ プレゼンテーションソフトのグローバル・スタンダードといえる Microsoft PowerPoint の基礎的な操作技能・知識を修得する。</li> </ul> <p>2. 学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生、社会人に求められる情報処理能力の基本を身につける。</li> <li>・ MOS資格を取得し、就活に活用する。</li> </ul>
授業の概要	<p>1. 授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選択必修科目のなかの1科目である。</li> <li>・ 「本学が指定する要件をみたすパソコン (Windows)」を授業に持参する。</li> <li>・ 自分のテキストを購入して授業に臨む。著作権のある模擬問題を自分のパソコンにインストールするため、各自テキストを購入することが必要である。</li> <li>・ 予習と復習による反復練習を繰り返しおこなうことが重要である。</li> </ul> <p>2. MOS受験について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験日程については後日通知する。</li> <li>・ 校内試験会場での入学後2年以内の初回のMOS受験に限り、受験料6,000円 (+消費税)を大学が負担する。のちの受験料は自己負担となる。</li> </ul> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>1. この科目の単位修得には、MOS PowerPoint 2019に合格することが必要である。</p> <p>2. 欠席回数が6以上の場合は失格 (X評価)とする。ただし、MOS PowerPoint 2019合格までの欠席回数が5以下である場合はその限りではない。</p> <p>3. MOS PowerPoint 2019に合格した場合、その点数は成績評価の一基準であり、受講状況等を加味して総合的に評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. テンプレートの利用、テキストの挿入、編集</li> <li>2. 表、グラフ、図表の挿入、</li> <li>3. 図、図形、グラフィックの挿入、オブジェクトの挿入、編集</li> <li>4. テキストの書式設定</li> <li>5. 図、図形、グラフィックの書式設定</li> <li>6. スライドの書式設定</li> <li>7. アニメーションの一括設定、適用</li> <li>8. 画面切り替えの適用</li> <li>9. スライドテンプレートのカスタマイズ、マスターの使用</li> <li>10. 変更履歴の記録、変更の記録、プレゼンの比較と反映</li> <li>11. スライドショーの設定</li> <li>12. 配付資料、発表者ノートの表示、印刷</li> <li>13. 模擬試験1</li> <li>14. 模擬試験2</li> <li>15. MOS検定試験</li> </ol>
テキスト	『よくわかるマスター-MOS PowerPoint 365 & 2019対策テキスト&問題集』（FOM出版の最新版）
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中に対応する。また、メールなどでも対応する。
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中におこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習をおこなう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	情報(Power Point)(2) / ICT-MS Power Point
時間割コード Course Code	11650
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	櫻井 由香
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	櫻井 由香 (経済学部)
授業の目標	<p>1. 教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Microsoft Office Specialist (以下、MOSと略す) PowerPoint 2019の資格を取得する。</li> <li>・ プレゼンテーションソフトのグローバル・スタンダードといえる Microsoft PowerPoint の基礎的な操作技能・知識を修得する。</li> </ul> <p>2. 学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生、社会人に求められる情報処理能力の基本を身につける。</li> <li>・ MOS資格を取得し、就活に活用する。</li> </ul>
授業の概要	<p>1. 授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選択必修科目のなかの1科目である。</li> <li>・ 「本学が指定する要件をみたすパソコン (Windows)」を授業に持参する。</li> <li>・ 自分のテキストを購入して授業に臨む。著作権のある模擬問題を自分のパソコンにインストールするため、各自テキストを購入することが必要である。</li> <li>・ 予習と復習による反復練習を繰り返しおこなうことが重要である。</li> </ul> <p>2. MOS受験について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験日程については後日通知する。</li> <li>・ 学内試験会場での入学後2年以内の初回のMOS受験に限り、受験料6,000円 (+消費税) を大学が負担する。のちの受験料は自己負担となる。</li> </ul> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>1. この科目の単位修得には、MOS PowerPoint 2019に合格することが必要である。</p> <p>2. 欠席回数が6以上の場合は失格 (X評価) とする。ただし、MOS PowerPoint 2019合格までの欠席回数が5以下である場合はその限りではない。</p> <p>3. MOS PowerPoint 2019に合格した場合、その点数は成績評価の一基準であり、受講状況等を加味して総合的に評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. テンプレートの利用、テキストの挿入、編集</li> <li>2. 表、グラフ、図表の挿入、</li> <li>3. 図、図形、グラフィックの挿入、オブジェクトの挿入、編集</li> <li>4. テキストの書式設定</li> <li>5. 図、図形、グラフィックの書式設定</li> <li>6. スライドの書式設定</li> <li>7. アニメーションの一括設定、適用</li> <li>8. 画面切り替えの適用</li> <li>9. スライドテンプレートのカスタマイズ、マスターの使用</li> <li>10. 変更履歴の記録、変更の記録、プレゼンの比較と反映</li> <li>11. スライドショーの設定</li> <li>12. 配付資料、発表者ノートの表示、印刷</li> <li>13. 模擬試験1</li> <li>14. 模擬試験2</li> <li>15. MOS検定試験</li> </ol>
テキスト	『よくわかるマスター-MOS PowerPoint 365 & 2019対策テキスト&問題集』（FOM出版の最新版）
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中に対応する。また、メールなどでも対応する。
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中におこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習をおこなう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	ビジネス情報処理 I / Business Data Processing I
時間割コード Course Code	11700
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	岡田 朋子
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	情報実習室 B
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岡田 朋子 (経営学部)
授業の目標	<p>資格「ビジネス統計スペシャリスト」の「エクセル分析ベーシック」を取得することを目標とする。</p> <p>また、ビジネスの現場で様々なデータを活用するための基本的な知識を取得し、エクセルを使ったデータ分析ができるようになることをめざす。</p> <p>知識・理解の領域 外れ値の検出方法、度数分布表の作成方法、データの標準化や季節調整の仕方などを理解する。</p> <p>技能の領域 初歩的なデータ分析が一通り最低限できる。</p> <p>態度・志向性の領域 「データ分析ができる」、「データ活用ができる」人材が社会に必要であるという認識をもつ。</p> <p>思考判断の領域 根拠の確かな事実にもとづき統計学的に正しく推論することができる能力をもつ。</p> <p>関心意欲の領域 統計学の基礎理論を習得し、自分でデータ解析をおこなう意欲をもつ。</p>
授業の概要	<p>エクセルを使って、統計の基礎の学習からはじめる。 教科書にしたがい無理のない進度で進めていく。</p> <p>受講条件は、教科書を講義に持参することである。</p> <p>エクセルでグラフを作成したり、平均値、中央値、最頻値、分散や標準偏差などの統計量を求めたりする。 データの標準化、季節調整、ピボットテーブルによるデータの集計、回帰分析、ソルバーを使った最適化を学習し、自分でできるようになるまで繰り返し演習をおこなう。</p> <p>問題演習や課題の作成は授業中に指導、対話しながらおこなう。 受講生の知識や理解度を毎回確認して、それに応じて授業内容を合わせる予定である。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業中にエクセルで作成した課題などを毎回提出し、その評価の合計で総合評価する。



教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと
テキスト	エクセルで学習するデータサイエンスの基礎（統計学演習15講） 岡田朋子 著 ISBN：9784764906815（近代科学社）
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	エクセルを使ってグラフを作成したり，データ分析を行ったりなどの実践的な実習をおこなう。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中におこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の内容についての予習や復習をそれぞれ2時間おこなうこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	基本統計量	授業内容の具体的な説明と準備。 (下記の内容はすべてエクセルを使って学習する) 基本統計量について。 代表値とは。	
2	平均値, 中央値, 最頻値, 分散, 標準偏差, 平均偏差とは	平均値, 中央値, 最頻値, 分散, 標準偏差とは。 中央値を求める問題。 最頻値を求める問題。	
3	エクセルでの平均値, 中央値, 最頻値, レンジの求め方	平均値, 中央値, 最頻値, レンジを関数で求める。 代表値の性質の違い。 平均値が必ずしも実態を表していないとされる典型的な例として, 貯蓄額について平均値, 中央値, 最頻値を考察する。 平均値, 中央値, 最頻値がビジネスにおいて何の役に立つかを理解する。	
4	不偏分散, 不偏分散による標準偏差とは	データのばらつきを調べる。 不偏分散とは何か。分散と不偏分散を求める問題。 標準偏差の意味。 標準偏差と不偏分散による標準偏差を求める問題。 標準偏差がビジネスにおいて何の役に立つかを理解する。	
5	度数分布表とは	度数分布表の定義。 データにもとづいて, 階級値, 度数, 相対度数, 累積度数, 累積相対度数を求め, ひとつにまとめて度数分布表をつくる。	
6	ヒストグラムの作成方法	度数分布表を作る問題。 ヒストグラムの作成方法。 度数分布表をもとにしてヒストグラムを作成する問題。	
7	エクセルでの外れ値の検出方法	散布図において近似曲線を使って外れ値を検出する。 折れ線グラフに補助線を引き外れ値を検出する。	
8	データの加工, 標準化とは	データの標準化の定義。 標準化したデータを比較する。 標準化したデータの平均値は0, 標準偏差は1になる理由を考える。 標準化がビジネスのどのような場面で役立つのかを理解する。	
9	標準化の問題	分散, 不偏分散を求める問題。 各データの平均値と標準偏差, 各データから平均値をひいたデータの平均値と標準偏差, その各データを標準偏差でわったデータの平均値と標準偏差を求める問題。	
10	トリム平均とは, 移動平均とは	トリム平均とは何か。 トリム平均を求める問題。 移動平均を用いて時系列データの傾向を読み取る。	
11	季節調整とは	実データを用いて時系列データの季節調整をする。 季節調整の意味を理解する。	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	エクセルでのデータの集計方法, データの可視化, データ分析の進め方, 仮説検証サイクル	クロス集計表を作成する. グループごとに要約する. 変数を原因と結果という視点で区別する. 質的変数と量的変数を区別する. 量的変数と量的変数の関係を折れ線グラフや散布図から確認する. 2軸グラフを作成する. 複数の散布図を比較する.	
13	相関係数とは	散布図のタイプを考える. 相関係数を求める問題. 散布図, 相関係数と回帰直線の関係. 散布図の傾向と相関の大きさを対応づける. 疑似相関について理解する.	
14	最小二乗法, データ分析の進め方, 仮説検証サイクル エクセルでの回帰分析方法, 最適化方法	データ分析の実践. 回帰分析を使って直線関係を具体化する. R-2乗値を使って原因の説明力を検討する. シミュレーションにより原因を動かしたときの結果を検討し, 予測値を求める. ソルバーを使って最適化問題を解く.	
15	まとめ	社会での実例を題材に統計学的手法を活用する実践をおこなう. 今までのまとめ.	

開講科目名 Course	情報処理 / Information Processing I
時間割コード Course Code	11710
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	勝野 祐子
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	情報実習室 A
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	勝野 祐子 (経済学部)
授業の目標	これから社会人となる学生が備えておくべきITに関する基礎的な知識の習得を目指す。情報処理と合わせて学習することでITパスポート受験レベルの知識を全て網羅できる。受講後に是非ITパスポート試験にチャレンジしてほしい。
授業の概要	ITに関する基礎知識の証明となる国家試験「ITパスポート」レベルのストラテジ系、マネジメント系の知識の習得を目指す。 具体的には、新しい手法（アジャイルなど）の概要に関する知識をはじめ、経営全般（経営戦略、マーケティング、財務、法務など）の知識、プロジェクトマネジメントの知識の習得。 授業では、情報技術の基礎的な知識を証明できる国家試験「ITパスポート」レベルの知識を学習し、情報処理能力を高めることを目指す。
評価方法	・試験 60%、平常点（小テスト、受講態度）40% ・区切りごと小テストの提出。 ・授業開始から20分を過ぎた場合の出席は、欠席扱い。 ・毎回テキストを必ず持参すること。持参しない者は、著作権の観点から法律違反になる可能性があり入室を認めないことがある。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合
授業計画	第1回 授業の目標・概要説明など、オリエンテーション 第2回 ITパスポート試験について 第3回 企業活動 第4回 法務 第5回 経営戦略マネジメント 第6回 技術戦略マネジメント 第7回 ビジネスインダストリ 第8回 システム戦略、 第9回 システム企画 第10回 システム開発技術 第11回 ソフトウェア開発管理技術 第12回 プロジェクトマネジメント 第13回 サービスマネジメント 第14回 システム監査 第15回 まとめ
テキスト	よくわかるマスター 令和6-7年度版 ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集 (出版社：FOM出版)
参考書	

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	システム開発企業での豊富な経験をいかした、具体的な事例を挙げながらの理解しやすい授業の実施。
質問への対応方法	メール対応 (katsuno-y@nagoya-ku.ac.jp)
フィードバックの方法	小テストについては、章の区切りに随時実施、都度解説を行う。 期末試験は、成績評価をもってフィードバック。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習は、テキストの本文の熟読(1時間)。 復習は、テキストの本文の熟読、ならびに章ごとの問題練習、ITパスポート試験の過去問学習(2時間)。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	ビジネス情報処理II / Business Data Processing II
時間割コード Course Code	11750
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	宇梶 郁
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	情報実習室 A
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	宇梶 郁 (経営学部)
授業の目標	就職希望の学生が身に付けておくべき情報処理に関する基礎知識の習得を授業の目標とする。授業の成果を生かして、ITパスポート試験に挑戦してもらいたい。 <学習成果> 知識・理解の領域 企業活動と情報技術の関わりを理解する 技能の領域 情報技術をビジネスに活用する手法を理解する 情報技術を使って収集したデータをビジネス視点で分析する手法を理解する 態度・指向性の領域 企業活動における法制度を理解し、法令順守を意識付ける 思考判断の領域 情報技術を活用して、問題解決の糸口を見つけることができるようになる 関心意欲の領域 授業の成果として、ITパスポート試験に挑戦する
授業の概要	情報技術は社会の隅々まで深く浸透し、どのような業種・職種でも、情報技術と経営全般に関する総合的知識が不可欠である。そして、事務系・技術系、文系・理系を問わず、情報技術の知識を持ち合わせていなければ、企業の戦力にはなりえない。 授業では、情報技術の基礎的知識を証明できる国家試験「ITパスポート」レベルの知識を学習し、情報システムを扱うための情報処理能力を高めることを目指す。 本授業は対面授業で実施する。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	・試験 70%、平常点(レポート・受講態度) 30% * 毎回レポート提出。 * 授業開始から20分を過ぎての出席は欠席と扱う。 * テキストを購入して授業に必ず持参すること。授業にテキストを持参しなければ平常点に反映する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・出席回数が10回に満たない場合

授業計画	<p>詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。</p> <p>第1回 はじめに、ITパスポート試験とは  第2回 企業と法務  第3回 経営戦略  第4回 システム戦略  第5回 システム開発  第6回 システム管理  第7回 基礎理論  第8回 プログラミング  第9回 情報システム  第10回 ハードウェア  第11回 ソフトウェア  第12回 データベース  第13回 ネットワーク  第14回 セキュリティ  第15回 まとめ</p>
テキスト	「みんなが欲しかった！ ITパスポートの教科書&問題集 2024年度版」、TAC出版情報処理試験研究会著、TAC出版、2023年刊行、ISBN-9784300109380 (注意：昨年度のテキストとは異なります)
参考書	随時、指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	システム開発やシステム管理、プロジェクトマネジメントの実務経験がある教員が、情報技術や情報システムの実例や注意点を示すことで、理解を深めることができるよう配慮した授業を展開する。
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オフィスアワーで対応</li> <li>・ メール対応(ukaji-k@nagoya-ku.ac.jp)</li> </ul>
フィードバックの方法	毎回のレポートについては、全体講評を授業中に実施する。 期末試験については、成績評価をもってフィードバックとする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。</p> <p>予習では、テキスト本文の熟読を行うこと(1.5時間)。  復習では、テキスト本文および授業メモを熟読後、テキスト付属の問題集を解く。間違えた箇所はテキストや授業メモを確認すること(2.5時間)。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	はじめに, ITパスポート試験とは	授業の進め方や成績評価、準備学習について ITパスポート試験の概要	テキスト：なし 問題集：なし
2	企業と法務	企業活動の基礎とビジネスに関連する法令について	テキスト：P2-P69 問題集：P2-P39
3	経営戦略	経営戦略手法および技術戦略の立案、ビジネスでの情報技術の活用例について	テキスト：P70-P117 問題集：P40-P65
4	システム戦略	システム戦略やシステム企画について	テキスト：P118-P145 問題集：P66-P81
5	システム開発	システム開発手法について	テキスト：P146-P165 問題集：P82-P91
6	システム管理	プロジェクト管理手法やサービス管理手法とシステム監査や内部統制について	テキスト：P166-P197 問題集：P92-P113
7	基礎理論	コンピュータ内部での情報の取り扱いなどについて	テキスト：P198-P223 問題集：P114-P117
8	プログラミング	データ構造やアルゴリズム、プログラミング言語について	テキスト：P224-P259 問題集：P118-P121
9	情報システム	情報システムの概要や構成、評価指標について	テキスト：P260-P279 問題集：P122-P127
10	ハードウェア	コンピュータハードウェアの構成要素や役割について	テキスト：P280-P299 問題集：P128-P135
11	ソフトウェア	コンピュータソフトウェアの種類や役割について	テキスト：P300-P331 問題集：P136-P145
12	データベース	データベースやデータベース設計手法、DBMSについて	テキスト：P332-P353 問題集：P146-P151
13	ネットワーク	コンピュータネットワークの基本概念や通信プロトコルについて	テキスト：P354-P387 問題集：P152-P171
14	セキュリティ	サイバーセキュリティの脅威やリスクマネジメント等の対策手法について	テキスト：P388-P427 問題集：P172-P195
15	まとめ	第2回から第14回の要点整理	テキスト：なし 問題集：なし



開講科目名 Course	情報処理 / Information Processing II
時間割コード Course Code	11760
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	勝野 祐子
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	情報実習室 A
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	勝野 祐子 (経済学部)
授業の目標	これから社会人となる学生が備えておくべきITに関する基礎的な知識の習得を目指す。情報処理と合わせて学習することでITパスポート受験レベルの知識を全て網羅できる。受講後に是非ITパスポート試験にチャレンジしてほしい。
授業の概要	ITに関する基礎知識の証明となる国家試験「ITパスポート」レベルのストラテジ系、マネジメント系の知識の習得を目指す。 具体的には、新しい技術 (AI、ビッグデータ、IoT など) や新しい手法 (アジャイルなど) の概要に関する知識をはじめ、IT (セキュリティ、ネットワークなど) の知識の習得。 授業では、情報技術の基礎的知識を証明できる国家試験「ITパスポート」レベルの知識を学習し、情報処理能力を高めることを目指す。
評価方法	・試験 60%、平常点 (小テスト、受講態度) 40% ・区切りごとの小テストの提出。 ・授業開始から20分を過ぎた場合の出席は、欠席扱い。 ・テキストを必ず持参する。持参しない者は著作権の観点から、法律違反になる可能性があり入室を認められないことがある。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合
授業計画	第1回 授業の目標、概要説明などオリエンテーション 第2回 ITパスポート試験について 第3回 基礎理論 第4回 アルゴリズムとプログラミング 第5回 コンピュータ構成要素 第6回 システム構成要素 第7回 ソフトウェア 第8回 ハードウェア 第9回 情報デザイン 第10回 情報メディア 第11回 データベース 第12回 ネットワーク 第13回 セキュリティ 第14回 表計算 第15回 まとめ
テキスト	よくわかるマスター 令和6-7年度版 ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集 (出版社: FOM出版) 「情報処理」の受講者は同じテキストを使用するため購入不要。

参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	システム開発企業での豊富な経験を通じた具体的な事例を挙げながらの理解しやすい授業の実施。
質問への対応方法	メール対応 (katsuno-y@nagoya-ku.ac.jp)
フィードバックの方法	小テストについては、章の区切りに随時実施、都度解説を行う。 期末試験は、成績評価をもってフィードバック。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習は、テキストの本文の熟読(1時間)。 復習は、テキストの本文の熟読、ならびに章ごとの問題練習、ITパスポート試験の過去問学習(2時間)。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎英語I(A) / Fundamental English Grammar
時間割コード Course Code	12000
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	サーヴィッチ エイドリアン
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	サーヴィッチ エイドリアン (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 40% Midterm Review 30% Final Review 30%
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent more than five times without an appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.

授業計画	<p>1回 Unit 1: Subject verb agreement pg1</p> <p>2回 Unit2: Singular nouns and articles pg 5</p> <p>3回 Unit 3: Describing things with nouns and adjectives. pg 9</p> <p>4回 Unit4: Present simple and adverbs of frequency pg 13</p> <p>5回 Unit 5: Adverbial phrases of frequency + common verbs pg 17</p> <p>6回 Unit 6: Present continuous - describing actions happening now pg 21</p> <p>7回 Review unit 1-6</p> <p>8回 中間テスト</p> <p>9回 Unit 7: Past simple pg 25</p> <p>10回 Unit 8: Conjunctions -so, but, because pg 29</p> <p>11回Unit 9: Future forms - be going to vs will pg 33</p> <p>12回Unit 10: Modal verb can for ability and permission pg 37</p> <p>13回Unit 11: There is/There are and plurals pg 41</p> <p>14回Unit 12: "WH" questions pg 45</p> <p>15回: Review pg 49</p>
テキスト	<p>Get Started 1 ISBN 978-4-9909172-4-1 Nicholas Yaxley and Justin Fung Published by Stella Innovations</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Singular Plural / Nouns-Articles  Homework will be assigned by the instructor. Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Noun + Adjectives  Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	Present Simple / Adverbs of Frequency  Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Adverbial Phrases of Frequency + Common Verbs  Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Present Continuous - Describing Actions Happening Now  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review Unit 1 to 6  Homework will be assigned by the instructor.	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Past Simple  Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Conjunctions - so, but, because  Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Future Forms - be going to VS will  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	Unit 10	Modal Verb can for Ability and Permission  Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	There is / There are and Plurals  Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Wh- Questions  Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	基礎英語I(B) / Fundamental English Grammar
時間割コード Course Code	12001
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	ハールス ジョシュア
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ハールス ジョシュア (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 40% Midterm Review 30% Final Review 30%
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent more than five times without an appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.



授業計画	<p>1回 Unit 1: Subject verb agreement pg1</p> <p>2回 Unit2: Singular nouns and articles pg 5</p> <p>3回 Unit 3: Describing things with nouns and adjectives. pg 9</p> <p>4回 Unit4: Present simple and adverbs of frequency pg 13</p> <p>5回 Unit 5: Adverbial phrases of frequency + common verbs pg 17</p> <p>6回 Unit 6: Present continuous - describing actions happening now pg 21</p> <p>7回 Review unit 1-6</p> <p>8回 中間テスト</p> <p>9回 Unit 7: Past simple pg 25</p> <p>10回 Unit 8: Conjunctions -so, but, because pg 29</p> <p>11回Unit 9: Future forms - be going to vs will pg 33</p> <p>12回Unit 10: Modal verb can for ability and permission pg 37</p> <p>13回Unit 11: There is/There are and plurals pg 41</p> <p>14回Unit 12: "WH" questions pg 45</p> <p>15回: Review pg 49</p>
テキスト	<p>Get Started 1 ISBN 978-4-9909172-4-1 Nicholas Yaxley and Justin Fung Published by Stella Innovations</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標(1～10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11～17)	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Singular Plural / Nouns-Articles  Homework will be assigned by the instructor. Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Noun + Adjectives  Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	Present Simple / Adverbs of Frequency  Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Adverbial Phrases of Frequency + Common Verbs  Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Present Continuous - Describing Actions Happening Now  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review Unit 1 to 6  Homework will be assigned by the instructor.	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Past Simple  Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Conjunctions - so, but, because  Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Future Forms - be going to VS will  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	Unit 10	Modal Verb can for Ability and Permission  Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	There is / There are and Plurals  Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Wh- Questions  Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	基礎英語I(C) / Fundamental English Grammar
時間割コード Course Code	12002
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	ヴィグロウ サイモン
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ヴィグロウ サイモン (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 40% Midterm Review 30% Final Review 30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent more than five times without an appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.

授業計画	<p>1回 Unit 1: Subject verb agreement pg1</p> <p>2回 Unit2: Singular nouns and articles pg 5</p> <p>3回 Unit 3: Describing things with nouns and adjectives. pg 9</p> <p>4回 Unit4: Present simple and adverbs of frequency pg 13</p> <p>5回 Unit 5: Adverbial phrases of frequency + common verbs pg 17</p> <p>6回 Unit 6: Present continuous - describing actions happening now pg 21</p> <p>7回 Review unit 1-6</p> <p>8回 中間テスト</p> <p>9回 Unit 7: Past simple pg 25</p> <p>10回 Unit 8: Conjunctions -so, but, because pg 29</p> <p>11回Unit 9: Future forms - be going to vs will pg 33</p> <p>12回Unit 10: Modal verb can for ability and permission pg 37</p> <p>13回Unit 11: There is/There are and plurals pg 41</p> <p>14回Unit 12: "WH" questions pg 45</p> <p>15回: Review pg 49</p>
テキスト	<p>Get Started 1 ISBN 978-4-9909172-4-1 Nicholas Yaxley and Justin Fung Published by Stella Innovations</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Singular Plural / Nouns-Articles  Homework will be assigned by the instructor. Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Noun + Adjectives  Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	Present Simple / Adverbs of Frequency  Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Adverbial Phrases of Frequency + Common Verbs  Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Present Continuous - Describing Actions Happening Now  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review Unit 1 to 6  Homework will be assigned by the instructor.	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Past Simple  Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Conjunctions - so, but, because  Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Future Forms - be going to VS will  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	Unit 10	Modal Verb can for Ability and Permission  Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	There is / There are and Plurals  Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Wh- Questions  Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	基礎英語I(D) / Fundamental English Grammar
時間割コード Course Code	12003
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	ヘロン ジェイムズ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ヘロン ジェイムズ (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 40% Midterm Review 30% Final Review 30%
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent more than five times without an appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.

授業計画	<p>1回 Unit 1: Subject verb agreement pg1</p> <p>2回 Unit2: Singular nouns and articles pg 5</p> <p>3回 Unit 3: Describing things with nouns and adjectives. pg 9</p> <p>4回 Unit4: Present simple and adverbs of frequency pg 13</p> <p>5回 Unit 5: Adverbial phrases of frequency + common verbs pg 17</p> <p>6回 Unit 6: Present continuous - describing actions happening now pg 21</p> <p>7回 Review unit 1-6</p> <p>8回 中間テスト</p> <p>9回 Unit 7: Past simple pg 25</p> <p>10回 Unit 8: Conjunctions -so, but, because pg 29</p> <p>11回Unit 9: Future forms - be going to vs will pg 33</p> <p>12回Unit 10: Modal verb can for ability and permission pg 37</p> <p>13回Unit 11: There is/There are and plurals pg 41</p> <p>14回Unit 12: "WH" questions pg 45</p> <p>15回: Review pg 49</p>
テキスト	<p>Get Started 1 ISBN 978-4-9909172-4-1 Nicholas Yaxley and Justin Fung Published by Stella Innovations</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Singular Plural / Nouns-Articles  Homework will be assigned by the instructor. Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Noun + Adjectives  Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	Present Simple / Adverbs of Frequency  Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Adverbial Phrases of Frequency + Common Verbs  Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Present Continuous - Describing Actions Happening Now  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review Unit 1 to 6  Homework will be assigned by the instructor.	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Past Simple  Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Conjunctions - so, but, because  Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Future Forms - be going to VS will  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	Unit 10	Modal Verb can for Ability and Permission  Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	There is / There are and Plurals  Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Wh- Questions  Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	基礎英語I(E) / Fundamental English Grammar
時間割コード Course Code	12004
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	ヤクセリー ニコラス
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ヤクセリー ニコラス (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 40% Midterm Review 30% Final Review 30%
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent more than five times without an appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.

授業計画	<p>1回 Unit 1: Subject verb agreement pg1</p> <p>2回 Unit2: Singular nouns and articles pg 5</p> <p>3回 Unit 3: Describing things with nouns and adjectives. pg 9</p> <p>4回 Unit4: Present simple and adverbs of frequency pg 13</p> <p>5回 Unit 5: Adverbial phrases of frequency + common verbs pg 17</p> <p>6回 Unit 6: Present continuous - describing actions happening now pg 21</p> <p>7回 Review unit 1-6</p> <p>8回 中間テスト</p> <p>9回 Unit 7: Past simple pg 25</p> <p>10回 Unit 8: Conjunctions -so, but, because pg 29</p> <p>11回Unit 9: Future forms - be going to vs will pg 33</p> <p>12回Unit 10: Modal verb can for ability and permission pg 37</p> <p>13回Unit 11: There is/There are and plurals pg 41</p> <p>14回Unit 12: "WH" questions pg 45</p> <p>15回: Review pg 49</p>
テキスト	<p>Get Started 1 ISBN 978-4-9909172-4-1 Nicholas Yaxley and Justin Fung Published by Stella Innovations</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。



予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標(1～10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11～17)	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Singular Plural / Nouns-Articles  Homework will be assigned by the instructor. Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Noun + Adjectives  Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	Present Simple / Adverbs of Frequency  Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Adverbial Phrases of Frequency + Common Verbs  Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Present Continuous - Describing Actions Happening Now  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review Unit 1 to 6  Homework will be assigned by the instructor.	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Past Simple  Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Conjunctions - so, but, because  Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Future Forms - be going to VS will  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	Unit 10	Modal Verb can for Ability and Permission  Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	There is / There are and Plurals  Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Wh- Questions  Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	基礎英語I(F) / Fundamental English Grammar
時間割コード Course Code	12005
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	カンジアノ ジョバンニ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	3 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	カンジアノ ジョバンニ (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 40% Midterm Review 30% Final Review 30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent more than five times without an appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.

授業計画	<p>1回 Unit 1: Subject verb agreement pg1</p> <p>2回 Unit2: Singular nouns and articles pg 5</p> <p>3回 Unit 3: Describing things with nouns and adjectives. pg 9</p> <p>4回 Unit4: Present simple and adverbs of frequency pg 13</p> <p>5回 Unit 5: Adverbial phrases of frequency + common verbs pg 17</p> <p>6回 Unit 6: Present continuous - describing actions happening now pg 21</p> <p>7回 Review unit 1-6</p> <p>8回 中間テスト</p> <p>9回 Unit 7: Past simple pg 25</p> <p>10回 Unit 8: Conjunctions -so, but, because pg 29</p> <p>11回Unit 9: Future forms - be going to vs will pg 33</p> <p>12回Unit 10: Modal verb can for ability and permission pg 37</p> <p>13回Unit 11: There is/There are and plurals pg 41</p> <p>14回Unit 12: "WH" questions pg 45</p> <p>15回: Review pg 49</p>
テキスト	<p>Get Started 1 ISBN 978-4-9909172-4-1 Nicholas Yaxley and Justin Fung Published by Stella Innovations</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Singular Plural / Nouns-Articles  Homework will be assigned by the instructor. Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Noun + Adjectives  Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	Present Simple / Adverbs of Frequency  Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Adverbial Phrases of Frequency + Common Verbs  Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Present Continuous - Describing Actions Happening Now  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review Unit 1 to 6  Homework will be assigned by the instructor.	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Past Simple  Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Conjunctions - so, but, because  Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Future Forms - be going to VS will  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	Unit 10	Modal Verb can for Ability and Permission  Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	There is / There are and Plurals  Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Wh- Questions  Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review	



開講科目名 Course	基礎英語I(G) / Fundamental English Grammar
時間割コード Course Code	12006
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	カンジアノ ジョバンニ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	3 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	カンジアノ ジョバンニ (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 40% Midterm Review 30% Final Review 30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent more than five times without an appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.

授業計画	<p>1回 Unit 1: Subject verb agreement pg1</p> <p>2回 Unit2: Singular nouns and articles pg 5</p> <p>3回 Unit 3: Describing things with nouns and adjectives. pg 9</p> <p>4回 Unit4: Present simple and adverbs of frequency pg 13</p> <p>5回 Unit 5: Adverbial phrases of frequency + common verbs pg 17</p> <p>6回 Unit 6: Present continuous - describing actions happening now pg 21</p> <p>7回 Review unit 1-6</p> <p>8回 中間テスト</p> <p>9回 Unit 7: Past simple pg 25</p> <p>10回 Unit 8: Conjunctions -so, but, because pg 29</p> <p>11回Unit 9: Future forms - be going to vs will pg 33</p> <p>12回Unit 10: Modal verb can for ability and permission pg 37</p> <p>13回Unit 11: There is/There are and plurals pg 41</p> <p>14回Unit 12: "WH" questions pg 45</p> <p>15回: Review pg 49</p>
テキスト	<p>Get Started 1 ISBN 978-4-9909172-4-1 Nicholas Yaxley and Justin Fung Published by Stella Innovations</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標(1～10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11～17)	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Singular Plural / Nouns-Articles  Homework will be assigned by the instructor. Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Noun + Adjectives  Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	Present Simple / Adverbs of Frequency  Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Adverbial Phrases of Frequency + Common Verbs  Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Present Continuous - Describing Actions Happening Now  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review Unit 1 to 6  Homework will be assigned by the instructor.	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Past Simple  Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Conjunctions - so, but, because  Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Future Forms - be going to VS will  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	Unit 10	Modal Verb can for Ability and Permission  Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	There is / There are and Plurals  Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Wh- Questions  Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	基礎英語I(H) / Fundamental English Grammar
時間割コード Course Code	12007
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	ヤクセリー ニコラス
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ヤクセリー ニコラス (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 40% Midterm Review 30% Final Review 30%
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent more than five times without an appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.

授業計画	<p>1回 Unit 1: Subject verb agreement pg1</p> <p>2回 Unit2: Singular nouns and articles pg 5</p> <p>3回 Unit 3: Describing things with nouns and adjectives. pg 9</p> <p>4回 Unit4: Present simple and adverbs of frequency pg 13</p> <p>5回 Unit 5: Adverbial phrases of frequency + common verbs pg 17</p> <p>6回 Unit 6: Present continuous - describing actions happening now pg 21</p> <p>7回 Review unit 1-6</p> <p>8回 中間テスト</p> <p>9回 Unit 7: Past simple pg 25</p> <p>10回 Unit 8: Conjunctions -so, but, because pg 29</p> <p>11回Unit 9: Future forms - be going to vs will pg 33</p> <p>12回Unit 10: Modal verb can for ability and permission pg 37</p> <p>13回Unit 11: There is/There are and plurals pg 41</p> <p>14回Unit 12: "WH" questions pg 45</p> <p>15回: Review pg 49</p>
テキスト	<p>Get Started 1 ISBN 978-4-9909172-4-1 Nicholas Yaxley and Justin Fung Published by Stella Innovations</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標(1～10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11～17)	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Singular Plural / Nouns-Articles  Homework will be assigned by the instructor. Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Noun + Adjectives  Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	Present Simple / Adverbs of Frequency  Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Adverbial Phrases of Frequency + Common Verbs  Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Present Continuous - Describing Actions Happening Now  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review Unit 1 to 6  Homework will be assigned by the instructor.	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Past Simple  Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Conjunctions - so, but, because  Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Future Forms - be going to VS will  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	Unit 10	Modal Verb can for Ability and Permission  Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	There is / There are and Plurals  Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Wh- Questions  Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	基礎英語I(I) / Fundamental English Grammar
時間割コード Course Code	12008
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	ヴィグロウ サイモン
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ヴィグロウ サイモン (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 40% Midterm Review 30% Final Review 30%
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent more than five times without an appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.

授業計画	<p>1回 Unit 1: Subject verb agreement pg1</p> <p>2回 Unit2: Singular nouns and articles pg 5</p> <p>3回 Unit 3: Describing things with nouns and adjectives. pg 9</p> <p>4回 Unit4: Present simple and adverbs of frequency pg 13</p> <p>5回 Unit 5: Adverbial phrases of frequency + common verbs pg 17</p> <p>6回 Unit 6: Present continuous - describing actions happening now pg 21</p> <p>7回 Review unit 1-6</p> <p>8回 中間テスト</p> <p>9回 Unit 7: Past simple pg 25</p> <p>10回 Unit 8: Conjunctions -so, but, because pg 29</p> <p>11回Unit 9: Future forms - be going to vs will pg 33</p> <p>12回Unit 10: Modal verb can for ability and permission pg 37</p> <p>13回Unit 11: There is/There are and plurals pg 41</p> <p>14回Unit 12: "WH" questions pg 45</p> <p>15回: Review pg 49</p>
テキスト	<p>Get Started 1 ISBN 978-4-9909172-4-1 Nicholas Yaxley and Justin Fung Published by Stella Innovations</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Singular Plural / Nouns-Articles  Homework will be assigned by the instructor. Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Noun + Adjectives  Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	Present Simple / Adverbs of Frequency  Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Adverbial Phrases of Frequency + Common Verbs  Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Present Continuous - Describing Actions Happening Now  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review Unit 1 to 6  Homework will be assigned by the instructor.	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Past Simple  Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Conjunctions - so, but, because  Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Future Forms - be going to VS will  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	Unit 10	Modal Verb can for Ability and Permission  Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	There is / There are and Plurals  Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Wh- Questions  Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	基礎英語I(J) / Fundamental English Grammar
時間割コード Course Code	12009
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	ヘロン ジェイムズ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ヘロン ジェイムズ (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 40% Midterm Review 30% Final Review 30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent more than five times without an appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.



授業計画	<p>1回 Unit 1: Subject verb agreement pg1</p> <p>2回 Unit2: Singular nouns and articles pg 5</p> <p>3回 Unit 3: Describing things with nouns and adjectives. pg 9</p> <p>4回 Unit4: Present simple and adverbs of frequency pg 13</p> <p>5回 Unit 5: Adverbial phrases of frequency + common verbs pg 17</p> <p>6回 Unit 6: Present continuous - describing actions happening now pg 21</p> <p>7回 Review unit 1-6</p> <p>8回 中間テスト</p> <p>9回 Unit 7: Past simple pg 25</p> <p>10回 Unit 8: Conjunctions -so, but, because pg 29</p> <p>11回Unit 9: Future forms - be going to vs will pg 33</p> <p>12回Unit 10: Modal verb can for ability and permission pg 37</p> <p>13回Unit 11: There is/There are and plurals pg 41</p> <p>14回Unit 12: "WH" questions pg 45</p> <p>15回: Review pg 49</p>
テキスト	<p>Get Started 1 ISBN 978-4-9909172-4-1 Nicholas Yaxley and Justin Fung Published by Stella Innovations</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Singular Plural / Nouns-Articles  Homework will be assigned by the instructor. Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Noun + Adjectives  Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	Present Simple / Adverbs of Frequency  Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Adverbial Phrases of Frequency + Common Verbs  Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Present Continuous - Describing Actions Happening Now  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review Unit 1 to 6  Homework will be assigned by the instructor.	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Past Simple  Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Conjunctions - so, but, because  Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Future Forms - be going to VS will  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	Unit 10	Modal Verb can for Ability and Permission  Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	There is / There are and Plurals  Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Wh- Questions  Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	基礎英語I(K) / Fundamental English Grammar
時間割コード Course Code	12010
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	サーヴィッチ エイドリアン
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	サーヴィッチ エイドリアン (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 40% Midterm Review 30% Final Review 30%
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent more than five times without an appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.

授業計画	<p>1回 Unit 1: Subject verb agreement pg1</p> <p>2回 Unit2: Singular nouns and articles pg 5</p> <p>3回 Unit 3: Describing things with nouns and adjectives. pg 9</p> <p>4回 Unit4: Present simple and adverbs of frequency pg 13</p> <p>5回 Unit 5: Adverbial phrases of frequency + common verbs pg 17</p> <p>6回 Unit 6: Present continuous - describing actions happening now pg 21</p> <p>7回 Review unit 1-6</p> <p>8回 中間テスト</p> <p>9回 Unit 7: Past simple pg 25</p> <p>10回 Unit 8: Conjunctions -so, but, because pg 29</p> <p>11回Unit 9: Future forms - be going to vs will pg 33</p> <p>12回Unit 10: Modal verb can for ability and permission pg 37</p> <p>13回Unit 11: There is/There are and plurals pg 41</p> <p>14回Unit 12: "WH" questions pg 45</p> <p>15回: Review pg 49</p>
テキスト	<p>Get Started 1 ISBN 978-4-9909172-4-1 Nicholas Yaxley and Justin Fung Published by Stella Innovations</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標(1～10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11～17)	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Singular Plural / Nouns-Articles  Homework will be assigned by the instructor. Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Noun + Adjectives  Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	Present Simple / Adverbs of Frequency  Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Adverbial Phrases of Frequency + Common Verbs  Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Present Continuous - Describing Actions Happening Now  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review Unit 1 to 6  Homework will be assigned by the instructor.	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Past Simple  Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Conjunctions - so, but, because  Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Future Forms - be going to VS will  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	Unit 10	Modal Verb can for Ability and Permission  Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	There is / There are and Plurals  Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Wh- Questions  Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	基礎英語I(L) / Fundamental English Grammar
時間割コード Course Code	12011
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	ハールス ジョシュア
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ハールス ジョシュア (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 40% Midterm Review 30% Final Review 30%
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent more than five times without an appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.

授業計画	<p>1回 Unit 1: Subject verb agreement pg1</p> <p>2回 Unit2: Singular nouns and articles pg 5</p> <p>3回 Unit 3: Describing things with nouns and adjectives. pg 9</p> <p>4回 Unit4: Present simple and adverbs of frequency pg 13</p> <p>5回 Unit 5: Adverbial phrases of frequency + common verbs pg 17</p> <p>6回 Unit 6: Present continuous - describing actions happening now pg 21</p> <p>7回 Review unit 1-6</p> <p>8回 中間テスト</p> <p>9回 Unit 7: Past simple pg 25</p> <p>10回 Unit 8: Conjunctions -so, but, because pg 29</p> <p>11回Unit 9: Future forms - be going to vs will pg 33</p> <p>12回Unit 10: Modal verb can for ability and permission pg 37</p> <p>13回Unit 11: There is/There are and plurals pg 41</p> <p>14回Unit 12: "WH" questions pg 45</p> <p>15回: Review pg 49</p>
テキスト	<p>Get Started 1 ISBN 978-4-9909172-4-1 Nicholas Yaxley and Justin Fung Published by Stella Innovations</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標(1～10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11～17)	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Singular Plural / Nouns-Articles  Homework will be assigned by the instructor. Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Noun + Adjectives  Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	Present Simple / Adverbs of Frequency  Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Adverbial Phrases of Frequency + Common Verbs  Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Present Continuous - Describing Actions Happening Now  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review Unit 1 to 6  Homework will be assigned by the instructor.	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Past Simple  Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Conjunctions - so, but, because  Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Future Forms - be going to VS will  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	Unit 10	Modal Verb can for Ability and Permission  Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	There is / There are and Plurals  Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Wh- Questions  Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	基礎英語I(再)(1) / Fundamental English Grammar
時間割コード Course Code	12012
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	ハールス ジョシュア
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ハールス ジョシュア (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 40% Midterm Review 30% Final Review 30%
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent more than five times without an appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.

授業計画	<p>1回 Unit 1: Subject verb agreement pg1</p> <p>2回 Unit2: Singular nouns and articles pg 5</p> <p>3回 Unit 3: Describing things with nouns and adjectives. pg 9</p> <p>4回 Unit4: Present simple and adverbs of frequency pg 13</p> <p>5回 Unit 5: Adverbial phrases of frequency + common verbs pg 17</p> <p>6回 Unit 6: Present continuous - describing actions happening now pg 21</p> <p>7回 Review unit 1-6</p> <p>8回 中間テスト</p> <p>9回 Unit 7: Past simple pg 25</p> <p>10回 Unit 8: Conjunctions -so, but, because pg 29</p> <p>11回Unit 9: Future forms - be going to vs will pg 33</p> <p>12回Unit 10: Modal verb can for ability and permission pg 37</p> <p>13回Unit 11: There is/There are and plurals pg 41</p> <p>14回Unit 12: "WH" questions pg 45</p> <p>15回: Review pg 49</p>
テキスト	<p>Get Started 1 ISBN 978-4-9909172-4-1 Nicholas Yaxley and Justin Fung Published by Stella Innovations</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。



予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標(1～10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11～17)	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Singular Plural / Nouns-Articles  Homework will be assigned by the instructor. Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Noun + Adjectives  Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	Present Simple / Adverbs of Frequency  Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Adverbial Phrases of Frequency + Common Verbs  Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Present Continuous - Describing Actions Happening Now  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review Unit 1 to 6  Homework will be assigned by the instructor.	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Past Simple  Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Conjunctions - so, but, because  Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Future Forms - be going to VS will  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	Unit 10	Modal Verb can for Ability and Permission  Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	There is / There are and Plurals  Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Wh- Questions  Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	基礎英語I(再)(2) / Fundamental English Grammar
時間割コード Course Code	12013
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	サーヴィッチ エイドリアン
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	1 4 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	サーヴィッチ エイドリアン (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 40% Midterm Review 30% Final Review 30%
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent more than five times without an appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.

授業計画	<p>1回 Unit 1: Subject verb agreement pg1</p> <p>2回 Unit2: Singular nouns and articles pg 5</p> <p>3回 Unit 3: Describing things with nouns and adjectives. pg 9</p> <p>4回 Unit4: Present simple and adverbs of frequency pg 13</p> <p>5回 Unit 5: Adverbial phrases of frequency + common verbs pg 17</p> <p>6回 Unit 6: Present continuous - describing actions happening now pg 21</p> <p>7回 Review unit 1-6</p> <p>8回 中間テスト</p> <p>9回 Unit 7: Past simple pg 25</p> <p>10回 Unit 8: Conjunctions -so, but, because pg 29</p> <p>11回Unit 9: Future forms - be going to vs will pg 33</p> <p>12回Unit 10: Modal verb can for ability and permission pg 37</p> <p>13回Unit 11: There is/There are and plurals pg 41</p> <p>14回Unit 12: "WH" questions pg 45</p> <p>15回: Review pg 49</p>
テキスト	<p>Get Started 1 ISBN 978-4-9909172-4-1 Nicholas Yaxley and Justin Fung Published by Stella Innovations</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。

使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Singular Plural / Nouns-Articles  Homework will be assigned by the instructor. Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Noun + Adjectives  Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	Present Simple / Adverbs of Frequency  Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Adverbial Phrases of Frequency + Common Verbs  Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Present Continuous - Describing Actions Happening Now  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review Unit 1 to 6  Homework will be assigned by the instructor.	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Past Simple  Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Conjunctions - so, but, because  Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Future Forms - be going to VS will  Homework will be assigned by the instructor.  Homework will be assigned by the instructor.	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	Unit 10	Modal Verb can for Ability and Permission  Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	There is / There are and Plurals  Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Wh- Questions  Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review	



開講科目名 Course	基礎英語 (A) / Fundamental English GrammarII
時間割コード Course Code	12020
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	カンジアノ ジョバンニ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	カンジアノ ジョバンニ (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 40% Midterm Review 30% Final Review 30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent more than 5 times without an appropriate and documented reason will be unable to pass this course.

授業計画	1回 Unit 1: Comparatives 2回 Unit2: Superlatives 3回 Unit 3: Adjectives and Adverbs 4回 Unit4: Uncountable Nouns 5回 Unit 5: Modifying Adjectives and Nouns too/too much/ 6回 Unit 6: Present Perfect - experiences 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回 Unit7: Present Perfect - recent events and news 10回 Unit 8: Modals - have to, don't have to/ must/mustn't 11回 Unit 9: Used to [with conjunctions] 12回 Unit 10: Verbs with two objects 13回 Unit 11: First conditionals 14回 Unit 12: Modal verbs and adverbs of possibility 15回 Unit 13: Review
テキスト	Get Started 2 ISBN 978-4-9909172-5-8 Nicholas Yaxley and Justin Fung Published by Stella Innovations
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Comparatives  Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Superlatives  Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Adjectives and adverbs  Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	Uncountable nouns  Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Modifying Adjectives and nouns - too much  Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Present perfect: Experiences  Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Present perfect - recent events and news  Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Modals - Have to/Don't have not/Must/Mustn't  Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Used to (with conjunctions)  Homework will be assigned by the instructor.	
12	Unit 10	Verbs with 2 objects  Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	First Conditionals  Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Modal Verbs: Adverbs of Possibility  Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	基礎英語 (B) / Fundamental English GrammarII
時間割コード Course Code	12021
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	サーヴィッチ エイドリアン
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	サーヴィッチ エイドリアン (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 40% Midterm Review 30% Final Review 30%
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent more than 5 times without an appropriate and documented reason will be unable to pass this course.

授業計画	1回 Unit 1: Comparatives 2回 Unit2: Superlatives 3回 Unit 3: Adjectives and Adverbs 4回 Unit4: Uncountable Nouns 5回 Unit 5: Modifying Adjectives and Nouns too/too much/ 6回 Unit 6: Present Perfect - experiences 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回 Unit7: Present Perfect - recent events and news 10回 Unit 8: Modals - have to, don't have to/ must/mustn't 11回 Unit 9: Used to [with conjunctions] 12回 Unit 10: Verbs with two objects 13回 Unit 11: First conditionals 14回 Unit 12: Modal verbs and adverbs of possibility 15回 Unit 13: Review
テキスト	Get Started 2 ISBN 978-4-9909172-5-8 Nicholas Yaxley and Justin Fung Published by Stella Innovations
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Comparatives  Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Superlatives  Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Adjectives and adverbs  Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	Uncountable nouns  Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Modifying Adjectives and nouns - too much  Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Present perfect: Experiences  Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Present perfect - recent events and news  Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Modals - Have to/Don't have not/Must/Mustn't  Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Used to (with conjunctions)  Homework will be assigned by the instructor.	
12	Unit 10	Verbs with 2 objects  Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	First Conditionals  Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Modal Verbs: Adverbs of Possibility  Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	基礎英語 (C) / Fundamental English GrammarII
時間割コード Course Code	12022
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	ハールス ジョシュア
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ハールス ジョシュア (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 40% Midterm Review 30% Final Review 30%
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent more than 5 times without an appropriate and documented reason will be unable to pass this course.

授業計画	1回 Unit 1: Comparatives 2回 Unit2: Superlatives 3回 Unit 3: Adjectives and Adverbs 4回 Unit4: Uncountable Nouns 5回 Unit 5: Modifying Adjectives and Nouns too/too much/ 6回 Unit 6: Present Perfect - experiences 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回 Unit7: Present Perfect - recent events and news 10回 Unit 8: Modals - have to, don't have to/ must/mustn't 11回 Unit 9: Used to [with conjunctions] 12回 Unit 10: Verbs with two objects 13回 Unit 11: First conditionals 14回 Unit 12: Modal verbs and adverbs of possibility 15回 Unit 13: Review
テキスト	Get Started 2 ISBN 978-4-9909172-5-8 Nicholas Yaxley and Justin Fung Published by Stella Innovations
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Comparatives  Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Superlatives  Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Adjectives and adverbs  Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	Uncountable nouns  Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Modifying Adjectives and nouns - too much  Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Present perfect: Experiences  Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Present perfect - recent events and news  Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Modals - Have to/Don't have not/Must/Mustn't  Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Used to (with conjunctions)  Homework will be assigned by the instructor.	
12	Unit 10	Verbs with 2 objects  Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	First Conditionals  Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Modal Verbs: Adverbs of Possibility  Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	基礎英語 (D) / Fundamental English GrammarII
時間割コード Course Code	12023
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	ヘロン ジェイムズ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ヘロン ジェイムズ (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 40% Midterm Review 30% Final Review 30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent more than 5 times without an appropriate and documented reason will be unable to pass this course.

授業計画	1回 Unit 1: Comparatives 2回 Unit2: Superlatives 3回 Unit 3: Adjectives and Adverbs 4回 Unit4: Uncountable Nouns 5回 Unit 5: Modifying Adjectives and Nouns too/too much/ 6回 Unit 6: Present Perfect - experiences 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回 Unit7: Present Perfect - recent events and news 10回 Unit 8: Modals - have to, don't have to/ must/mustn't 11回 Unit 9: Used to [with conjunctions] 12回 Unit 10: Verbs with two objects 13回 Unit 11: First conditionals 14回 Unit 12: Modal verbs and adverbs of possibility 15回 Unit 13: Review
テキスト	Get Started 2 ISBN 978-4-9909172-5-8 Nicholas Yaxley and Justin Fung Published by Stella Innovations
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Comparatives  Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Superlatives  Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Adjectives and adverbs  Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	Uncountable nouns  Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Modifying Adjectives and nouns - too much  Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Present perfect: Experiences  Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Present perfect - recent events and news  Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Modals - Have to/Don't have not/Must/Mustn't  Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Used to (with conjunctions)  Homework will be assigned by the instructor.	
12	Unit 10	Verbs with 2 objects  Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	First Conditionals  Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Modal Verbs: Adverbs of Possibility  Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	基礎英語 (E) / Fundamental English GrammarII
時間割コード Course Code	12024
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	サーヴィッチ エイドリアン
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	サーヴィッチ エイドリアン (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 40% Midterm Review 30% Final Review 30%
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent more than 5 times without an appropriate and documented reason will be unable to pass this course.

授業計画	1回 Unit 1: Comparatives 2回 Unit2: Superlatives 3回 Unit 3: Adjectives and Adverbs 4回 Unit4: Uncountable Nouns 5回 Unit 5: Modifying Adjectives and Nouns too/too much/ 6回 Unit 6: Present Perfect - experiences 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回 Unit7: Present Perfect - recent events and news 10回 Unit 8: Modals - have to, don't have to/ must/mustn't 11回 Unit 9: Used to [with conjunctions] 12回 Unit 10: Verbs with two objects 13回 Unit 11: First conditionals 14回 Unit 12: Modal verbs and adverbs of possibility 15回 Unit 13: Review
テキスト	Get Started 2 ISBN 978-4-9909172-5-8 Nicholas Yaxley and Justin Fung Published by Stella Innovations
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Comparatives  Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Superlatives  Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Adjectives and adverbs  Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	Uncountable nouns  Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Modifying Adjectives and nouns - too much  Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Present perfect: Experiences  Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Present perfect - recent events and news  Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Modals - Have to/Don't have not/Must/Mustn't  Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Used to (with conjunctions)  Homework will be assigned by the instructor.	
12	Unit 10	Verbs with 2 objects  Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	First Conditionals  Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Modal Verbs: Adverbs of Possibility  Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	基礎英語 (F) / Fundamental English GrammarII
時間割コード Course Code	12025
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	ハールス ジョシュア
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ハールス ジョシュア (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 40% Midterm Review 30% Final Review 30%
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent more than 5 times without an appropriate and documented reason will be unable to pass this course.



授業計画	1回 Unit 1: Comparatives 2回 Unit2: Superlatives 3回 Unit 3: Adjectives and Adverbs 4回 Unit4: Uncountable Nouns 5回 Unit 5: Modifying Adjectives and Nouns too/too much/ 6回 Unit 6: Present Perfect - experiences 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回 Unit7: Present Perfect - recent events and news 10回 Unit 8: Modals - have to, don't have to/ must/mustn't 11回 Unit 9: Used to [with conjunctions] 12回 Unit 10: Verbs with two objects 13回 Unit 11: First conditionals 14回 Unit 12: Modal verbs and adverbs of possibility 15回 Unit 13: Review
テキスト	Get Started 2 ISBN 978-4-9909172-5-8 Nicholas Yaxley and Justin Fung Published by Stella Innovations
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Comparatives  Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Superlatives  Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Adjectives and adverbs  Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	Uncountable nouns  Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Modifying Adjectives and nouns - too much  Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Present perfect: Experiences  Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Present perfect - recent events and news  Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Modals - Have to/Don't have not/Must/Mustn't  Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Used to (with conjunctions)  Homework will be assigned by the instructor.	
12	Unit 10	Verbs with 2 objects  Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	First Conditionals  Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Modal Verbs: Adverbs of Possibility  Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	基礎英語 (G) / Fundamental English GrammarII
時間割コード Course Code	12026
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	ヘイズ アリアナ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ヘイズ アリアナ (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 40% Midterm Review 30% Final Review 30%
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent more than 5 times without an appropriate and documented reason will be unable to pass this course.

授業計画	1回 Unit 1: Comparatives 2回 Unit2: Superlatives 3回 Unit 3: Adjectives and Adverbs 4回 Unit4: Uncountable Nouns 5回 Unit 5: Modifying Adjectives and Nouns too/too much/ 6回 Unit 6: Present Perfect - experiences 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回 Unit7: Present Perfect - recent events and news 10回 Unit 8: Modals - have to, don't have to/ must/mustn't 11回 Unit 9: Used to [with conjunctions] 12回 Unit 10: Verbs with two objects 13回 Unit 11: First conditionals 14回 Unit 12: Modal verbs and adverbs of possibility 15回 Unit 13: Review
テキスト	Get Started 2 ISBN 978-4-9909172-5-8 Nicholas Yaxley and Justin Fung Published by Stella Innovations
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Comparatives  Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Superlatives  Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Adjectives and adverbs  Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	Uncountable nouns  Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Modifying Adjectives and nouns - too much  Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Present perfect: Experiences  Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Present perfect - recent events and news  Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Modals - Have to/Don't have not/Must/Mustn't  Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Used to (with conjunctions)  Homework will be assigned by the instructor.	
12	Unit 10	Verbs with 2 objects  Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	First Conditionals  Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Modal Verbs: Adverbs of Possibility  Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	基礎英語 (H) / Fundamental English GrammarII
時間割コード Course Code	12027
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	カンジアノ ジョバンニ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	カンジアノ ジョバンニ (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 40% Midterm Review 30% Final Review 30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent more than 5 times without an appropriate and documented reason will be unable to pass this course.

授業計画	1回 Unit 1: Comparatives 2回 Unit2: Superlatives 3回 Unit 3: Adjectives and Adverbs 4回 Unit4: Uncountable Nouns 5回 Unit 5: Modifying Adjectives and Nouns too/too much/ 6回 Unit 6: Present Perfect - experiences 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回 Unit7: Present Perfect - recent events and news 10回 Unit 8: Modals - have to, don't have to/ must/mustn't 11回 Unit 9: Used to [with conjunctions] 12回 Unit 10: Verbs with two objects 13回 Unit 11: First conditionals 14回 Unit 12: Modal verbs and adverbs of possibility 15回 Unit 13: Review
テキスト	Get Started 2 ISBN 978-4-9909172-5-8 Nicholas Yaxley and Justin Fung Published by Stella Innovations
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Comparatives  Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Superlatives  Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Adjectives and adverbs  Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	Uncountable nouns  Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Modifying Adjectives and nouns - too much  Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Present perfect: Experiences  Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Present perfect - recent events and news  Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Modals - Have to/Don't have not/Must/Mustn't  Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Used to (with conjunctions)  Homework will be assigned by the instructor.	
12	Unit 10	Verbs with 2 objects  Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	First Conditionals  Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Modal Verbs: Adverbs of Possibility  Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review	



開講科目名 Course	基礎英語 (I) / Fundamental English GrammarII
時間割コード Course Code	12028
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	ハールス ジョシュア
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ハールス ジョシュア (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 40% Midterm Review 30% Final Review 30%
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent more than 5 times without an appropriate and documented reason will be unable to pass this course.

授業計画	1回 Unit 1: Comparatives 2回 Unit2: Superlatives 3回 Unit 3: Adjectives and Adverbs 4回 Unit4: Uncountable Nouns 5回 Unit 5: Modifying Adjectives and Nouns too/too much/ 6回 Unit 6: Present Perfect - experiences 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回 Unit7: Present Perfect - recent events and news 10回 Unit 8: Modals - have to, don't have to/ must/mustn't 11回 Unit 9: Used to [with conjunctions] 12回 Unit 10: Verbs with two objects 13回 Unit 11: First conditionals 14回 Unit 12: Modal verbs and adverbs of possibility 15回 Unit 13: Review
テキスト	Get Started 2 ISBN 978-4-9909172-5-8 Nicholas Yaxley and Justin Fung Published by Stella Innovations
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Comparatives  Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Superlatives  Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Adjectives and adverbs  Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	Uncountable nouns  Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Modifying Adjectives and nouns - too much  Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Present perfect: Experiences  Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Present perfect - recent events and news  Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Modals - Have to/Don't have not/Must/Mustn't  Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Used to (with conjunctions)  Homework will be assigned by the instructor.	
12	Unit 10	Verbs with 2 objects  Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	First Conditionals  Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Modal Verbs: Adverbs of Possibility  Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	基礎英語 (J) / Fundamental English GrammarII
時間割コード Course Code	12029
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	サーヴィッチ エイドリアン
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	サーヴィッチ エイドリアン (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 40% Midterm Review 30% Final Review 30%
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent more than 5 times without an appropriate and documented reason will be unable to pass this course.

授業計画	1回 Unit 1: Comparatives 2回 Unit2: Superlatives 3回 Unit 3: Adjectives and Adverbs 4回 Unit4: Uncountable Nouns 5回 Unit 5: Modifying Adjectives and Nouns too/too much/ 6回 Unit 6: Present Perfect - experiences 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回 Unit7: Present Perfect - recent events and news 10回 Unit 8: Modals - have to, don't have to/ must/mustn't 11回 Unit 9: Used to [with conjunctions] 12回 Unit 10: Verbs with two objects 13回 Unit 11: First conditionals 14回 Unit 12: Modal verbs and adverbs of possibility 15回 Unit 13: Review
テキスト	Get Started 2 ISBN 978-4-9909172-5-8 Nicholas Yaxley and Justin Fung Published by Stella Innovations
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Comparatives  Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Superlatives  Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Adjectives and adverbs  Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	Uncountable nouns  Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Modifying Adjectives and nouns - too much  Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Present perfect: Experiences  Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Present perfect - recent events and news  Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Modals - Have to/Don't have not/Must/Mustn't  Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Used to (with conjunctions)  Homework will be assigned by the instructor.	
12	Unit 10	Verbs with 2 objects  Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	First Conditionals  Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Modal Verbs: Adverbs of Possibility  Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	基礎英語 (K) / Fundamental English GrammarII
時間割コード Course Code	12030
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	ヘロン ジェイムズ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ヘロン ジェイムズ (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 40% Midterm Review 30% Final Review 30%
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent more than 5 times without an appropriate and documented reason will be unable to pass this course.

授業計画	1回 Unit 1: Comparatives 2回 Unit2: Superlatives 3回 Unit 3: Adjectives and Adverbs 4回 Unit4: Uncountable Nouns 5回 Unit 5: Modifying Adjectives and Nouns too/too much/ 6回 Unit 6: Present Perfect - experiences 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回 Unit7: Present Perfect - recent events and news 10回 Unit 8: Modals - have to, don't have to/ must/mustn't 11回 Unit 9: Used to [with conjunctions] 12回 Unit 10: Verbs with two objects 13回 Unit 11: First conditionals 14回 Unit 12: Modal verbs and adverbs of possibility 15回 Unit 13: Review
テキスト	Get Started 2 ISBN 978-4-9909172-5-8 Nicholas Yaxley and Justin Fung Published by Stella Innovations
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Comparatives  Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Superlatives  Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Adjectives and adverbs  Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	Uncountable nouns  Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Modifying Adjectives and nouns - too much  Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Present perfect: Experiences  Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Present perfect - recent events and news  Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Modals - Have to/Don't have not/Must/Mustn't  Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Used to (with conjunctions)  Homework will be assigned by the instructor.	
12	Unit 10	Verbs with 2 objects  Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	First Conditionals  Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Modal Verbs: Adverbs of Possibility  Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	基礎英語 (L) / Fundamental English GrammarII
時間割コード Course Code	12031
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	カンジアノ ジョバンニ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	カンジアノ ジョバンニ (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 40% Midterm Review 30% Final Review 30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent more than 5 times without an appropriate and documented reason will be unable to pass this course.

授業計画	1回 Unit 1: Comparatives 2回 Unit2: Superlatives 3回 Unit 3: Adjectives and Adverbs 4回 Unit4: Uncountable Nouns 5回 Unit 5: Modifying Adjectives and Nouns too/too much/ 6回 Unit 6: Present Perfect - experiences 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回 Unit7: Present Perfect - recent events and news 10回 Unit 8: Modals - have to, don't have to/ must/mustn't 11回 Unit 9: Used to [with conjunctions] 12回 Unit 10: Verbs with two objects 13回 Unit 11: First conditionals 14回 Unit 12: Modal verbs and adverbs of possibility 15回 Unit 13: Review
テキスト	Get Started 2 ISBN 978-4-9909172-5-8 Nicholas Yaxley and Justin Fung Published by Stella Innovations
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Comparatives  Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Superlatives  Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Adjectives and adverbs  Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	Uncountable nouns  Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Modifying Adjectives and nouns - too much  Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Present perfect: Experiences  Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Present perfect - recent events and news  Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Modals - Have to/Don't have not/Must/Mustn't  Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Used to (with conjunctions)  Homework will be assigned by the instructor.	
12	Unit 10	Verbs with 2 objects  Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	First Conditionals  Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Modal Verbs: Adverbs of Possibility  Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	基礎英語 (再)(1) / Fundamental English GrammarII
時間割コード Course Code	12032
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	ハールス ジョシュア
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ハールス ジョシュア (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 40% Midterm Review 30% Final Review 30%
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent more than 5 times without an appropriate and documented reason will be unable to pass this course.

授業計画	1回 Unit 1: Comparatives 2回 Unit2: Superlatives 3回 Unit 3: Adjectives and Adverbs 4回 Unit4: Uncountable Nouns 5回 Unit 5: Modifying Adjectives and Nouns too/too much/ 6回 Unit 6: Present Perfect - experiences 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回 Unit7: Present Perfect - recent events and news 10回 Unit 8: Modals - have to, don't have to/ must/mustn't 11回 Unit 9: Used to [with conjunctions] 12回 Unit 10: Verbs with two objects 13回 Unit 11: First conditionals 14回 Unit 12: Modal verbs and adverbs of possibility 15回 Unit 13: Review
テキスト	Get Started 2 ISBN 978-4-9909172-5-8 Nicholas Yaxley and Justin Fung Published by Stella Innovations
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標 (1～10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標 (11～17)	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Comparatives  Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Superlatives  Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Adjectives and adverbs  Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	Uncountable nouns  Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Modifying Adjectives and nouns - too much  Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Present perfect: Experiences  Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Present perfect - recent events and news  Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Modals - Have to/Don't have not/Must/Mustn't  Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Used to (with conjunctions)  Homework will be assigned by the instructor.	
12	Unit 10	Verbs with 2 objects  Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	First Conditionals  Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Modal Verbs: Adverbs of Possibility  Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	基礎英語 (再)(2) / Fundamental English GrammarII
時間割コード Course Code	12033
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	ヘイズ アリアナ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ヘイズ アリアナ (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 40% Midterm Review 30% Final Review 30%
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent more than 5 times without an appropriate and documented reason will be unable to pass this course.



授業計画	1回 Unit 1: Comparatives 2回 Unit2: Superlatives 3回 Unit 3: Adjectives and Adverbs 4回 Unit4: Uncountable Nouns 5回 Unit 5: Modifying Adjectives and Nouns too/too much/ 6回 Unit 6: Present Perfect - experiences 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回 Unit7: Present Perfect - recent events and news 10回 Unit 8: Modals - have to, don't have to/ must/mustn't 11回 Unit 9: Used to [with conjunctions] 12回 Unit 10: Verbs with two objects 13回 Unit 11: First conditionals 14回 Unit 12: Modal verbs and adverbs of possibility 15回 Unit 13: Review
テキスト	Get Started 2 ISBN 978-4-9909172-5-8 Nicholas Yaxley and Justin Fung Published by Stella Innovations
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Comparatives  Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Superlatives  Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Adjectives and adverbs  Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	Uncountable nouns  Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Modifying Adjectives and nouns - too much  Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Present perfect: Experiences  Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Present perfect - recent events and news  Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Modals - Have to/Don't have not/Must/Mustn't  Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Used to (with conjunctions)  Homework will be assigned by the instructor.	
12	Unit 10	Verbs with 2 objects  Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	First Conditionals  Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Modal Verbs: Adverbs of Possibility  Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	基礎英語 (再)(3) / Fundamental English GrammarII
時間割コード Course Code	12034
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	サーヴィッチ エイドリアン
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	サーヴィッチ エイドリアン (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 30% Midterm Review 30% Final Review 40%
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent more than 5 times without an appropriate and documented reason will be unable to pass this course.

授業計画	<p>1 1回 Unit 1 Adjectives Part 1; Introduction to Comparatives</p> <p>Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>2 2回 Unit 2 Adjectives Part 2; Introduction to Superlatives</p> <p>Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>3 3回 Unit 3 Adjectives Part 3 - Appearance and Personality</p> <p>Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>4 4回 Unit 4 The Present Progressive</p> <p>Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>5 5回 Unit 5 too / not enough; too many / too much</p> <p>Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>6 6回 Unit 6 Modal Verbs for Advice and Obligation</p> <p>Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>7 7回 Review Review of Units 1 to 6</p> <p>8 8回 Review Midterm Review</p> <p>9 9回 Unit 7 Adverbial Clauses</p> <p>Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>10 10回 Unit 8 The Present Perfect</p> <p>Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>11 11回 Unit 9 The Past Continuous</p> <p>Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>12 12回 Unit 10 Defining Relative Clauses</p> <p>Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>13 13回 Unit 11 Zero and First Conditionals</p> <p>Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>14 14回 Unit 12 Adverbs of Possibility</p> <p>Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>15 15回 Review Review of Units 7 to 12</p>
テキスト	<p>Get Started 2 ISBN 978-4-9909172-5-8 Robert Colqui, Nicholas Yaxley and Carolina Katayama Published by Stella Innovations</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Adjectives Part 1 &#8211; Introduction to Comparatives  Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Adjectives Part 2 &#8211; Introduction to Superlatives  Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Adjectives Part 3 - Appearance and Personality  Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	The Present Progressive  Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	too / not enough; too many / too much  Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Modal Verbs for Advice and Obligation  Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Review	
9	Unit 7	Adverbial Clauses  Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	The Present Perfect  Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	The Past Continuous  Homework will be assigned by the instructor.	
12	Unit 10	Defining Relative Clauses  Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	Zero and First Conditionals  Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Adverbs of Possibility  Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review of Units 7 to 12	

開講科目名 Course	スキルアップ英語I(A) / Primary English I
時間割コード Course Code	12040
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	井土 康仁
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	井土 康仁 (経営学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」、「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、実用英語の標準的テストであるTOEICへの橋渡しとなるビジネス英語の入門演習を行います。毎回の授業で多様な演習を通じて、ビジネスで使われる英文を聞き取り、リーディング演習で語彙力と読解力を身につけることを目標とします。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 ビジネスにおける重要語彙が身につく、長めの会話やパッセージが聞き取れ、理解できるようになる。</p> <p>技能の領域 多様な状況における英会話やモノローグを聞きとり、理解することができ、単純な文の発話ができるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 ビジネスを想定して英語のリスニングやリーディングを楽しむ姿勢を培うことができる。状況に応じた英語を使いたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 実用的な英語の理解力、表現力を高めるために、その背景となる異文化についても知りたくなる。英語を聞いたり、読んだ内容に関連して自分で調べる姿勢が身につく。</p>
授業の概要	<p>この授業では、本格的なビジネス英語標準試験TOEICに基づく総合教材を使用して、ビジネスシチュエーションを想定した英語会話とパッセージのリスニングとリーディングに焦点をあてつつも、4技能をバランスよく学習します。</p> <p>授業は演習形式で、毎週半ユニットずつすすめ、授業前半はリスニング、後半はリーディングの問題を解いていきます。それぞれにどのような状況や目的で英語が話され、書かれているのかを想定しながら理解を深めることが求められます。1回の授業でたくさんのリスニング、リーディング演習をしますので、受講者には十分な準備と、授業への活発な参加が求められます。また英語の重要構文や表現、会話や英文の背景となる状況について詳しい解説をします。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業への参加姿勢と発表 20 %</p> <p>小テストおよび期末定期試験の結果 80 %</p> <p>(なお、授業の進行状況により、多少変更することがあります)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合

授業計画	毎回の授業で原則として半ユニットのリスニング、リーディングを学びます。重要な表現や構文については教員作成の資料を用いて詳しく解説します。 第1回 インTRODクシヨン 第2回 Travel 第3回 Dining Out 第4回 Media 第5回 Entertainment 第6回 Purchasing 第7回 Clients 第8回 Recruiting 第9回 Personnel 第10回 Advertising 第11回 Meetings 第12回 Finance 第13回 Offices 第14回 Daily Life 第15回 Sales and Marketing
テキスト	The High Road to the TOEIC Listening and Reading Test, 金星堂、ISBN 978-4-7647-4045-7
参考書	授業の中で適宜指定する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中および授業後、オフィスアワー、Eメール(ido-y@nagoya-ku.ac.jp)で対応します。
フィードバックの方法	小テスト、試験や提出課題は採点后すみやかに返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	原則として毎回の授業で半ユニットすすむので、リスニングとリーディングパートそれぞれで、2時間の予習と2時間の復習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力



開講科目名 Course	スキルアップ英語I(B) / Primary English I
時間割コード Course Code	12041
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	ナカシマ ロレイン マエ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ナカシマ ロレイン マエ (経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach. Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions interjections with a review and summary of all nine parts of speech in the last four units. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 40%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 30%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than 5 times without an appropriate reason and documentation will be unable to pass this course.</p>

授業計画	1回 Unit 1: WH- past questions 2回 Unit2: Prepositions of place 3回 Unit 3: 2nd conditionals 4回 Unit4: Modals - Requests / Offers / Invitations 5回 Unit 5: Modals for advice 6回 Unit 6: Present continuous (future) 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回Unit7: Defining relative clauses 10回Unit 8: Expressing purpose - “ to ” “ for ” 11回Unit 9: So/neither 12回Unit 10: Countables and uncountables 13回Unit 11: Object pronouns vs subject pronouns 14回Unit 12: Verbs followed by gerund or infinitive 15回Unit 13: Review
テキスト	Get Started 3 ISBN 987-4-9909172-6-5 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Robert Colqui, Nicholas Yaxley and Carolina Katayama
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	"WH" past questions	
2	Unit 2	Prepositions of place	
3	Unit 3	Second conditionals	
4	Unit 4	Modals- Requests/Offers/Invitations	
5	Unit 5	Modals for Advice	
6	Unit 6	Present Continuous (Future)	
7	Review	Review Units 1-6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Defining Relative Clauses	
10	Unit 8	Expressing purpose	
11	Unit 9	So/Neither	
12	Unit 10	Countables and Uncountables	
13	Unit 11	Object Pronouns vs Subject Pronouns	
14	Unit 12	Verbs followed by gerunds or infinitives	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	スキルアップ英語I(C) / Primary English I
時間割コード Course Code	12042
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	ヘロン ジェイムズ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ヘロン ジェイムズ (経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach. Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions interjections with a review and summary of all nine parts of speech in the last four units. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 40%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 30%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than 5 times without an appropriate reason and documentation will be unable to pass this course.</p>

授業計画	1回 Unit 1: WH- past questions 2回 Unit2: Prepositions of place 3回 Unit 3: 2nd conditionals 4回 Unit4: Modals - Requests / Offers / Invitations 5回 Unit 5: Modals for advice 6回 Unit 6: Present continuous (future) 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回Unit7: Defining relative clauses 10回Unit 8: Expressing purpose - “ to ” “ for ” 11回Unit 9: So/neither 12回Unit 10: Countables and uncountables 13回Unit 11: Object pronouns vs subject pronouns 14回Unit 12: Verbs followed by gerund or infinitive 15回Unit 13: Review
テキスト	Get Started 3 ISBN 987-4-9909172-6-5 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Nicholas Yaxley and Justin Fung
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	"WH" past questions	
2	Unit 2	Prepositions of place	
3	Unit 3	Second conditionals	
4	Unit 4	Modals- Requests/Offers/Invitations	
5	Unit 5	Modals for Advice	
6	Unit 6	Present Continuous (Future)	
7	Review	Review Units 1-6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Defining Relative Clauses	
10	Unit 8	Expressing purpose	
11	Unit 9	So/Neither	
12	Unit 10	Countables and Uncountables	
13	Unit 11	Object Pronouns vs Subject Pronouns	
14	Unit 12	Verbs followed by gerunds or infinitives	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	スキルアップ英語I(D) / Primary English I
時間割コード Course Code	12043
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	ハールス ジョシュア
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ハールス ジョシュア (経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach. Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions interjections with a review and summary of all nine parts of speech in the last four units. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 40%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 30%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than 5 times without an appropriate reason and documentation will be unable to pass this course.</p>

授業計画	1回 Unit 1: WH- past questions 2回 Unit2: Prepositions of place 3回 Unit 3: 2nd conditionals 4回 Unit4: Modals - Requests / Offers / Invitations 5回 Unit 5: Modals for advice 6回 Unit 6: Present continuous (future) 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回Unit7: Defining relative clauses 10回Unit 8: Expressing purpose - “ to ” “ for ” 11回Unit 9: So/neither 12回Unit 10: Countables and uncountables 13回Unit 11: Object pronouns vs subject pronouns 14回Unit 12: Verbs followed by gerund or infinitive 15回Unit 13: Review
テキスト	Get Started 3 ISBN 987-4-9909172-6-5 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Nicholas Yaxley and Justin Fung
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	"WH" past questions	
2	Unit 2	Prepositions of place	
3	Unit 3	Second conditionals	
4	Unit 4	Modals- Requests/Offers/Invitations	
5	Unit 5	Modals for Advice	
6	Unit 6	Present Continuous (Future)	
7	Review	Review Units 1-6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Defining Relative Clauses	
10	Unit 8	Expressing purpose	
11	Unit 9	So/Neither	
12	Unit 10	Countables and Uncountables	
13	Unit 11	Object Pronouns vs Subject Pronouns	
14	Unit 12	Verbs followed by gerunds or infinitives	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	スキルアップ英語I(E) / Primary English I
時間割コード Course Code	12044
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	サーヴィッチ エイドリアン
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	14D講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	サーヴィッチ エイドリアン (経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach. Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions interjections with a review and summary of all nine parts of speech in the last four units. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 40%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 30%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than 5 times without an appropriate reason and documentation will be unable to pass this course.</p>

授業計画	1回 Unit 1: WH- past questions 2回 Unit2: Prepositions of place 3回 Unit 3: 2nd conditionals 4回 Unit4: Modals - Requests / Offers / Invitations 5回 Unit 5: Modals for advice 6回 Unit 6: Present continuous (future) 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回Unit7: Defining relative clauses 10回Unit 8: Expressing purpose - “ to ” “ for ” 11回Unit 9: So/neither 12回Unit 10: Countables and uncountables 13回Unit 11: Object pronouns vs subject pronouns 14回Unit 12: Verbs followed by gerund or infinitive 15回Unit 13: Review
テキスト	Get Started 3 ISBN 987-4-9909172-6-5 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Nicholas Yaxley and Justin Fung
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	"WH" past questions	
2	Unit 2	Prepositions of place	
3	Unit 3	Second conditionals	
4	Unit 4	Modals- Requests/Offers/Invitations	
5	Unit 5	Modals for Advice	
6	Unit 6	Present Continuous (Future)	
7	Review	Review Units 1-6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Defining Relative Clauses	
10	Unit 8	Expressing purpose	
11	Unit 9	So/Neither	
12	Unit 10	Countables and Uncountables	
13	Unit 11	Object Pronouns vs Subject Pronouns	
14	Unit 12	Verbs followed by gerunds or infinitives	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	スキルアップ英語Ⅰ(F) / Primary English I
時間割コード Course Code	12045
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	カンジアノ ジョバンニ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	カンジアノ ジョバンニ (経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語Ⅰ」「基礎英語Ⅱ」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach. Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions interjections with a review and summary of all nine parts of speech in the last four units. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 40%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 30%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than 5 times without an appropriate reason and documentation will be unable to pass this course.</p>

授業計画	1回 Unit 1: WH- past questions 2回 Unit2: Prepositions of place 3回 Unit 3: 2nd conditionals 4回 Unit4: Modals - Requests / Offers / Invitations 5回 Unit 5: Modals for advice 6回 Unit 6: Present continuous (future) 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回Unit7: Defining relative clauses 10回Unit 8: Expressing purpose - “ to ” “ for ” 11回Unit 9: So/neither 12回Unit 10: Countables and uncountables 13回Unit 11: Object pronouns vs subject pronouns 14回Unit 12: Verbs followed by gerund or infinitive 15回Unit 13: Review
テキスト	Get Started 3 ISBN 987-4-9909172-6-5 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Nicholas Yaxley and Justin Fung
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	"WH" past questions	
2	Unit 2	Prepositions of place	
3	Unit 3	Second conditionals	
4	Unit 4	Modals- Requests/Offers/Invitations	
5	Unit 5	Modals for Advice	
6	Unit 6	Present Continuous (Future)	
7	Review	Review Units 1-6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Defining Relative Clauses	
10	Unit 8	Expressing purpose	
11	Unit 9	So/Neither	
12	Unit 10	Countables and Uncountables	
13	Unit 11	Object Pronouns vs Subject Pronouns	
14	Unit 12	Verbs followed by gerunds or infinitives	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	スキルアップ英語I(G) / Primary English I
時間割コード Course Code	12046
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	井土 康仁
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	井土 康仁 (経営学部)
授業の目標	<p>この授業では「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、リスニング、リーディングを中心に、4技能をバランスよく伸ばすことを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 日常レベルの語彙力と構文が理解できるようになる。英語会話や長文の流れを把握できるようになる。</p> <p>技能の領域 通常の速度の英会話を聞き取れるようになり、また長めのパッセージを大意をつかみながら理解できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 さまざまな文化に触れながら英語を学ぶことにより、学習を楽しむ姿勢を培うこい、英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>演習形式で授業で実施します。哲学や芸術を扱う総合教材を使用して、文法項目の復習とともに「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能をバランスよく向上させるような授業を行います。</p> <p>受講者を指名して答えさせる機会がありますので、活発な参加が求められます。テキストは英語だけでなく異文化についても学べるようになっていきますので、リスニングや動画を効果的に活用して予習・復習してください。</p> <p>授業前：音声教材をダウンロードして指定したページの演習は事前にやってくること。</p> <p>授業：リスニングを多用して実践的に演習を行いながら、背景となる自然や文化についても議論します。質問は随時受け付け、またディスカッションのトピックとすることもあります。</p> <p>授業後：構文や表現、その日に学習した内容について、しっかり復讐すること。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業への参加姿勢と発表 20 %          期末定期試験の結果 80 %          (なお、授業の進行状況により、多少変更することがあります)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合



授業計画	<p>この授業は毎回リスニングとリーディングを中心に演習形式で行います。指名して回答させる機会があるので、受講生は事前に必ず予習をして授業に臨んでください。トピックは現代社会のさまざまな現象について興味深いテーマを取り上げていますので、自らもインターネットで関連サイトの英語プログラムを聞いてください。</p> <p>第1回 イン트로ダクション  第2回 The Art of Persuasion (part 1)  第3回 The Art of Persuasion (part 2)  第4回 As the World Burns (part 1)  第5回 As the World Burns (part 2)  第6回 Ahead in the Polls (part 1)  第7回 Ahead in the Polls (part 2)  第8回 In the Beginning (part 1)  第9回 In the Beginning (part 2)  第10回 Cool as Ice (part 1)  第11回 Cool as Ice (part 2)  第12回 Rise of the Machines (part 1)  第13回 Rise of the Machines (part 2)  第14回 By the Sword (part 1)  第15回 By the Sword (part 2)</p>
テキスト	Rethinking the World、成美堂、ISBN978-4-7919-7272-2
参考書	授業の中で適宜指定する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中および授業後、オフィスアワー、Eメール(ido-y@nagoya-ku.ac.jp)で対応します。
フィードバックの方法	小テスト、試験や提出課題は採点后すみやかに返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	リスニングとリーディングについて、2時間の予習と2時間の復習を課す。予習、復習課題はGoogleクラスルームで指示します。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	スキルアップ英語I(H) / Primary English I
時間割コード Course Code	12047
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	サーヴィッチ エイドリアン
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	14D講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	サーヴィッチ エイドリアン (経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach. Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions interjections with a review and summary of all nine parts of speech in the last four units. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 40%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 30%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than 5 times without an appropriate reason and documentation will be unable to pass this course.</p>

授業計画	1回 Unit 1: WH- past questions 2回 Unit2: Prepositions of place 3回 Unit 3: 2nd conditionals 4回 Unit4: Modals - Requests / Offers / Invitations 5回 Unit 5: Modals for advice 6回 Unit 6: Present continuous (future) 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回Unit7: Defining relative clauses 10回Unit 8: Expressing purpose - “ to ” “ for ” 11回Unit 9: So/neither 12回Unit 10: Countables and uncountables 13回Unit 11: Object pronouns vs subject pronouns 14回Unit 12: Verbs followed by gerund or infinitive 15回Unit 13: Review
テキスト	Get Started 3 ISBN 987-4-9909172-6-5 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Nicholas Yaxley and Justin Fung
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	"WH" past questions	
2	Unit 2	Prepositions of place	
3	Unit 3	Second conditionals	
4	Unit 4	Modals- Requests/Offers/Invitations	
5	Unit 5	Modals for Advice	
6	Unit 6	Present Continuous (Future)	
7	Review	Review Units 1-6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Defining Relative Clauses	
10	Unit 8	Expressing purpose	
11	Unit 9	So/Neither	
12	Unit 10	Countables and Uncountables	
13	Unit 11	Object Pronouns vs Subject Pronouns	
14	Unit 12	Verbs followed by gerunds or infinitives	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	スキルアップ英語I(I) / Primary English I
時間割コード Course Code	12048
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	カンジアノ ジョバンニ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	カンジアノ ジョバンニ (経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach. Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions interjections with a review and summary of all nine parts of speech in the last four units. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 40%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 30%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than 5 times without an appropriate reason and documentation will be unable to pass this course.</p>

授業計画	1回 Unit 1: WH- past questions 2回 Unit2: Prepositions of place 3回 Unit 3: 2nd conditionals 4回 Unit4: Modals - Requests / Offers / Invitations 5回 Unit 5: Modals for advice 6回 Unit 6: Present continuous (future) 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回Unit7: Defining relative clauses 10回Unit 8: Expressing purpose - “ to ” “ for ” 11回Unit 9: So/neither 12回Unit 10: Countables and uncountables 13回Unit 11: Object pronouns vs subject pronouns 14回Unit 12: Verbs followed by gerund or infinitive 15回Unit 13: Review
テキスト	Get Started 3 ISBN 987-4-9909172-6-5 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Nicholas Yaxley and Justin Fung
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	"WH" past questions	
2	Unit 2	Prepositions of place	
3	Unit 3	Second conditionals	
4	Unit 4	Modals- Requests/Offers/Invitations	
5	Unit 5	Modals for Advice	
6	Unit 6	Present Continuous (Future)	
7	Review	Review Units 1-6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Defining Relative Clauses	
10	Unit 8	Expressing purpose	
11	Unit 9	So/Neither	
12	Unit 10	Countables and Uncountables	
13	Unit 11	Object Pronouns vs Subject Pronouns	
14	Unit 12	Verbs followed by gerunds or infinitives	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	スキルアップ英語I(J) / Primary English I
時間割コード Course Code	12049
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	ヘロン ジェイムズ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ヘロン ジェイムズ (経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。</p> <p>英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach. Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions interjections with a review and summary of all nine parts of speech in the last four units. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 40%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 30%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than 5 times without an appropriate reason and documentation will be unable to pass this course.</p>



授業計画	1回 Unit 1: WH- past questions 2回 Unit2: Prepositions of place 3回 Unit 3: 2nd conditionals 4回 Unit4: Modals - Requests / Offers / Invitations 5回 Unit 5: Modals for advice 6回 Unit 6: Present continuous (future) 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回Unit7: Defining relative clauses 10回Unit 8: Expressing purpose - “ to ” “ for ” 11回Unit 9: So/neither 12回Unit 10: Countables and uncountables 13回Unit 11: Object pronouns vs subject pronouns 14回Unit 12: Verbs followed by gerund or infinitive 15回Unit 13: Review
テキスト	Get Started 3 ISBN 987-4-9909172-6-5 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Nicholas Yaxley and Justin Fung
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	"WH" past questions	
2	Unit 2	Prepositions of place	
3	Unit 3	Second conditionals	
4	Unit 4	Modals- Requests/Offers/Invitations	
5	Unit 5	Modals for Advice	
6	Unit 6	Present Continuous (Future)	
7	Review	Review Units 1-6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Defining Relative Clauses	
10	Unit 8	Expressing purpose	
11	Unit 9	So/Neither	
12	Unit 10	Countables and Uncountables	
13	Unit 11	Object Pronouns vs Subject Pronouns	
14	Unit 12	Verbs followed by gerunds or infinitives	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	スキルアップ英語I(K) / Primary English I
時間割コード Course Code	12050
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	ハールス ジョシュア
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ハールス ジョシュア (経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach. Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions interjections with a review and summary of all nine parts of speech in the last four units. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 40%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 30%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than 5 times without an appropriate reason and documentation will be unable to pass this course.</p>

授業計画	1回 Unit 1: WH- past questions 2回 Unit2: Prepositions of place 3回 Unit 3: 2nd conditionals 4回 Unit4: Modals - Requests / Offers / Invitations 5回 Unit 5: Modals for advice 6回 Unit 6: Present continuous (future) 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回Unit7: Defining relative clauses 10回Unit 8: Expressing purpose - “ to ” “ for ” 11回Unit 9: So/neither 12回Unit 10: Countables and uncountables 13回Unit 11: Object pronouns vs subject pronouns 14回Unit 12: Verbs followed by gerund or infinitive 15回Unit 13: Review
テキスト	Get Started 3 ISBN 987-4-9909172-6-5 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Nicholas Yaxley and Justin Fung
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	"WH" past questions	
2	Unit 2	Prepositions of place	
3	Unit 3	Second conditionals	
4	Unit 4	Modals- Requests/Offers/Invitations	
5	Unit 5	Modals for Advice	
6	Unit 6	Present Continuous (Future)	
7	Review	Review Units 1-6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Defining Relative Clauses	
10	Unit 8	Expressing purpose	
11	Unit 9	So/Neither	
12	Unit 10	Countables and Uncountables	
13	Unit 11	Object Pronouns vs Subject Pronouns	
14	Unit 12	Verbs followed by gerunds or infinitives	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	スキルアップ英語I(L) / Primary English I
時間割コード Course Code	12051
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	ナカシマ ロレイン マエ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ナカシマ ロレイン マエ (経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach. Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions interjections with a review and summary of all nine parts of speech in the last four units. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 40%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 30%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than 5 times without an appropriate reason and documentation will be unable to pass this course.</p>

授業計画	1回 Unit 1: WH- past questions 2回 Unit2: Prepositions of place 3回 Unit 3: 2nd conditionals 4回 Unit4: Modals - Requests / Offers / Invitations 5回 Unit 5: Modals for advice 6回 Unit 6: Present continuous (future) 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回Unit7: Defining relative clauses 10回Unit 8: Expressing purpose - “ to ” “ for ” 11回Unit 9: So/neither 12回Unit 10: Countables and uncountables 13回Unit 11: Object pronouns vs subject pronouns 14回Unit 12: Verbs followed by gerund or infinitive 15回Unit 13: Review
テキスト	Get Started 3 ISBN 987-4-9909172-6-5 Nicholas Yaxley and Justin Fung Published by Stella Innovations Co., Ltd.
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	"WH" past questions	
2	Unit 2	Prepositions of place	
3	Unit 3	Second conditionals	
4	Unit 4	Modals- Requests/Offers/Invitations	
5	Unit 5	Modals for Advice	
6	Unit 6	Present Continuous (Future)	
7	Review	Review Units 1-6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Defining Relative Clauses	
10	Unit 8	Expressing purpose	
11	Unit 9	So/Neither	
12	Unit 10	Countables and Uncountables	
13	Unit 11	Object Pronouns vs Subject Pronouns	
14	Unit 12	Verbs followed by gerunds or infinitives	
15	Review	Review	



開講科目名 Course	スキルアップ英語I(再)(1) / Primary English I
時間割コード Course Code	12052
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	カンジアノ ジョバンニ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	カンジアノ ジョバンニ (経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach. Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions interjections with a review and summary of all nine parts of speech in the last four units. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 40%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 30%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than 5 times without an appropriate reason and documentation will be unable to pass this course.</p>

授業計画	1回 Unit 1: WH- past questions 2回 Unit2: Prepositions of place 3回 Unit 3: 2nd conditionals 4回 Unit4: Modals - Requests / Offers / Invitations 5回 Unit 5: Modals for advice 6回 Unit 6: Present continuous (future) 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回Unit7: Defining relative clauses 10回Unit 8: Expressing purpose - “ to ” “ for ” 11回Unit 9: So/neither 12回Unit 10: Countables and uncountables 13回Unit 11: Object pronouns vs subject pronouns 14回Unit 12: Verbs followed by gerund or infinitive 15回Unit 13: Review
テキスト	Get Started 3 ISBN 987-4-9909172-6-5 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Nicholas Yaxley and Justin Fung
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	"WH" past questions	
2	Unit 2	Prepositions of place	
3	Unit 3	Second conditionals	
4	Unit 4	Modals- Requests/Offers/Invitations	
5	Unit 5	Modals for Advice	
6	Unit 6	Present Continuous (Future)	
7	Review	Review Units 1-6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Defining Relative Clauses	
10	Unit 8	Expressing purpose	
11	Unit 9	So/Neither	
12	Unit 10	Countables and Uncountables	
13	Unit 11	Object Pronouns vs Subject Pronouns	
14	Unit 12	Verbs followed by gerunds or infinitives	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	スキルアップ英語I(再)(2) / Primary English I
時間割コード Course Code	12053
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	ナカシマ ロレイン マエ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ナカシマ ロレイン マエ (経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach. Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions interjections with a review and summary of all nine parts of speech in the last four units. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 40%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 30%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than 5 times without an appropriate reason and documentation will be unable to pass this course.</p>

授業計画	1回 Unit 1: WH- past questions 2回 Unit2: Prepositions of place 3回 Unit 3: 2nd conditionals 4回 Unit4: Modals - Requests / Offers / Invitations 5回 Unit 5: Modals for advice 6回 Unit 6: Present continuous (future) 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回Unit7: Defining relative clauses 10回Unit 8: Expressing purpose - “ to ” “ for ” 11回Unit 9: So/neither 12回Unit 10: Countables and uncountables 13回Unit 11: Object pronouns vs subject pronouns 14回Unit 12: Verbs followed by gerund or infinitive 15回Unit 13: Review
テキスト	Get Started 3 ISBN 987-4-9909172-6-5 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Nicholas Yaxley and Justin Fung
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	"WH" past questions	
2	Unit 2	Prepositions of place	
3	Unit 3	Second conditionals	
4	Unit 4	Modals- Requests/Offers/Invitations	
5	Unit 5	Modals for Advice	
6	Unit 6	Present Continuous (Future)	
7	Review	Review Units 1-6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Defining Relative Clauses	
10	Unit 8	Expressing purpose	
11	Unit 9	So/Neither	
12	Unit 10	Countables and Uncountables	
13	Unit 11	Object Pronouns vs Subject Pronouns	
14	Unit 12	Verbs followed by gerunds or infinitives	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	スキルアップ英語II(A) / Primary English II
時間割コード Course Code	12060
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	井土 康仁
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	7 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	井土 康仁 (経営学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」、「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、実用英語の標準的テストであるTOEICへの橋渡しとなるビジネス英語の入門演習を行います。毎回の授業で多様な演習を通じて、ビジネスで使われる英文を聞き取り、リーディング演習で語彙力と読解力を身につけることを目標とします。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 ビジネスにおける重要語彙が身につく、長めの会話やパッセージが聞き取れ、理解できるようになる。</p> <p>技能の領域 多様な状況における英会話やモノログを聞きとり、理解することができ、単純な文の発話ができるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 ビジネスを想定して英語のリスニングやリーディングを楽しむ姿勢を培うことができる。状況に応じた英語を使いたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 実用的な英語の理解力、表現力を高めるために、その背景となる異文化についても知りたくなる。英語を聞いたり、読んだ内容に関連して自分で調べる姿勢が身につく。</p>
授業の概要	<p>この授業では、本格的なビジネス英語標準試験TOEICに基づく総合教材を使用して、ビジネスシチュエーションを想定した英語会話とパッセージのリスニングとリーディングに焦点をあてつつも、4技能をバランスよく学習します。</p> <p>授業は演習形式で、毎週半ユニットずつすすめ、授業前半はリスニング、後半はリーディングの問題を解いていきます。それぞれにどのような状況や目的で英語が話され、書かれているのかを想定しながら理解を深めることが求められます。1回の授業でたくさんのリスニング、リーディング演習をしますので、受講者には十分な準備と、授業への活発な参加が求められます。また英語の重要構文や表現、会話や英文の背景となる状況について詳しい解説をします。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業への参加姿勢と発表 20 % 小テストおよび期末定期試験の結果 80 % (なお、授業の進行状況により、多少変更することがあります)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合

授業計画	毎回の授業で原則として半ユニットのリスニング、リーディングを学びます。重要な表現や構文については教員作成の資料を用いて詳しく解説します。 第1回 インTRODクシヨン 第2回 Restaurants 第3回 Offices 第4回 Daily Life 第5回 Personnel 第6回 Shopping 第7回 Finances 第8回 Transportation 第9回 Technology 第10回 Health 第11回 Travel 第12回 Business 第13回 Entertainment 第14回 Education 第15回 Housing
テキスト	A Communicative Approach to the TOEIC L&L Test, 成美堂、ISBN 978-4-7919-7269-2
参考書	授業の中で適宜指定する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中および授業後、オフィスアワー、Eメール(ido-y@nagoya-ku.ac.jp)で対応します。
フィードバックの方法	小テスト、試験や提出課題は採点后すみやかに返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	原則として毎回の授業で半ユニットすすむので、リスニングとリーディングパートそれぞれで、2時間の予習と2時間の復習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力



開講科目名 Course	スキルアップ英語II(B) / Primary English II
時間割コード Course Code	12061
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	ハールス ジョシュア
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ハールス ジョシュア (経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>Welcome to Skill up English!. This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach.</p> <p>Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions and more. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 40%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 30%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than five times without an appropriate reason or documentation will not be able to pass this course.</p>

授業計画	1回 Unit 1 Question tags 2回 Unit 2 Past continuous 3回 Unit 3 Past simple vs Present perfect 4回 Unit 4 Past perfect 5回 Unit 5 ed/ing adjectives 6回 Unit 6 Compound adjective with numbers 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回 Clauses of contrast 10回 Indirect speech 11回 Collocations with “get” 12回 Modals - reflections 13回 Passives 14回 Verb + preposition/collocations cont. 15回Unit 13: Review
テキスト	Get Started 4 ISBN 987-4-9909172-7-2 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Nicholas Yaxley and Justin Fung
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Question tags	
2	Unit 2	Past continuous	
3	Unit 3	Past simple vs present perfect	
4	Unit 4	Past perfect	
5	Unit 5	ED/ING adjectives	
6	Unit 6	Compound adjectives with numbers	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Clauses of contrast	
10	Unit 8	Indirect speech	
11	Unit 9	Collocations with GET	
12	Unit 10	Modals: Reflections	
13	Unit 11	Passives	
14	Unit 12	Verb + Prepositions/ collocations cont.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	スキルアップ英語II(C) / Primary English II
時間割コード Course Code	12062
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	サーヴィッチ エイドリアン
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	サーヴィッチ エイドリアン (経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>Welcome to Skill up English!. This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach.</p> <p>Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions and more. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 40%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 30%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than five times without an appropriate reason or documentation will not be able to pass this course.</p>

授業計画	1回 Unit 1 Question tags 2回 Unit 2 Past continuous 3回 Unit 3 Past simple vs Present perfect 4回 Unit 4 Past perfect 5回 Unit 5 ed/ing adjectives 6回 Unit 6 Compound adjective with numbers 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回 Clauses of contrast 10回 Indirect speech 11回 Collocations with “get” 12回 Modals - reflections 13回 Passives 14回 Verb + preposition/collocations cont. 15回Unit 13: Review
テキスト	Get Started 4 ISBN 987-4-9909172-7-2 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Nicholas Yaxley and Justin Fung
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Question tags	
2	Unit 2	Past continuous	
3	Unit 3	Past simple vs present perfect	
4	Unit 4	Past perfect	
5	Unit 5	ED/ING adjectives	
6	Unit 6	Compound adjectives with numbers	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Clauses of contrast	
10	Unit 8	Indirect speech	
11	Unit 9	Collocations with GET	
12	Unit 10	Modals: Reflections	
13	Unit 11	Passives	
14	Unit 12	Verb + Prepositions/ collocations cont.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	スキルアップ英語II(D) / Primary English II
時間割コード Course Code	12063
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	カンジアノ ジョバンニ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	カンジアノ ジョバンニ (経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>Welcome to Skill up English!. This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach.</p> <p>Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions and more. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 40%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 30%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than five times without an appropriate reason or documentation will not be able to pass this course.</p>

授業計画	1回 Unit 1 Question tags 2回 Unit 2 Past continuous 3回 Unit 3 Past simple vs Present perfect 4回 Unit 4 Past perfect 5回 Unit 5 ed/ing adjectives 6回 Unit 6 Compound adjective with numbers 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回 Clauses of contrast 10回 Indirect speech 11回 Collocations with “get” 12回 Modals - reflections 13回 Passives 14回 Verb + preposition/collocations cont. 15回Unit 13: Review
テキスト	Get Started 4 ISBN 987-4-9909172-7-2 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Nicholas Yaxley and Justin Fung
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Question tags	
2	Unit 2	Past continuous	
3	Unit 3	Past simple vs present perfect	
4	Unit 4	Past perfect	
5	Unit 5	ED/ING adjectives	
6	Unit 6	Compound adjectives with numbers	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Clauses of contrast	
10	Unit 8	Indirect speech	
11	Unit 9	Collocations with GET	
12	Unit 10	Modals: Reflections	
13	Unit 11	Passives	
14	Unit 12	Verb + Prepositions/ collocations cont.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	スキルアップ英語II(E) / Primary English II
時間割コード Course Code	12064
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	ヘロン ジェイムズ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ヘロン ジェイムズ (経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>Welcome to Skill up English!. This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach.</p> <p>Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions and more. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 40%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 30%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than five times without an appropriate reason or documentation will not be able to pass this course.</p>

授業計画	1回 Unit 1 Question tags 2回 Unit 2 Past continuous 3回 Unit 3 Past simple vs Present perfect 4回 Unit 4 Past perfect 5回 Unit 5 ed/ing adjectives 6回 Unit 6 Compound adjective with numbers 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回 Clauses of contrast 10回 Indirect speech 11回 Collocations with “get” 12回 Modals - reflections 13回 Passives 14回 Verb + preposition/collocations cont. 15回Unit 13: Review
テキスト	Get Started 4 ISBN 987-4-9909172-7-2 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Nicholas Yaxley and Justin Fung
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Question tags	
2	Unit 2	Past continuous	
3	Unit 3	Past simple vs present perfect	
4	Unit 4	Past perfect	
5	Unit 5	ED/ING adjectives	
6	Unit 6	Compound adjectives with numbers	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Clauses of contrast	
10	Unit 8	Indirect speech	
11	Unit 9	Collocations with GET	
12	Unit 10	Modals: Reflections	
13	Unit 11	Passives	
14	Unit 12	Verb + Prepositions/ collocations cont.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	スキルアップ英語II(F) / Primary English II
時間割コード Course Code	12065
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	ナカシマ ロレイン マエ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ナカシマ ロレイン マエ (経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>Welcome to Skill up English!. This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach.</p> <p>Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions and more. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 40%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 30%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than five times without an appropriate reason or documentation will not be able to pass this course.</p>

授業計画	1回 Unit 1 Question tags 2回 Unit 2 Past continuous 3回 Unit 3 Past simple vs Present perfect 4回 Unit 4 Past perfect 5回 Unit 5 ed/ing adjectives 6回 Unit 6 Compound adjective with numbers 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回 Clauses of contrast 10回 Indirect speech 11回 Collocations with “get” 12回 Modals - reflections 13回 Passives 14回 Verb + preposition/collocations cont. 15回Unit 13: Review
テキスト	Get Started 4 ISBN 987-4-9909172-7-2 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Nicholas Yaxley and Justin Fung
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Question tags	
2	Unit 2	Past continuous	
3	Unit 3	Past simple vs present perfect	
4	Unit 4	Past perfect	
5	Unit 5	ED/ING adjectives	
6	Unit 6	Compound adjectives with numbers	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Clauses of contrast	
10	Unit 8	Indirect speech	
11	Unit 9	Collocations with GET	
12	Unit 10	Modals: Reflections	
13	Unit 11	Passives	
14	Unit 12	Verb + Prepositions/ collocations cont.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	スキルアップ英語II(G) / Primary English II
時間割コード Course Code	12066
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	井土 康仁
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	13A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	井土 康仁 (経営学部)
授業の目標	<p>この授業では「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、リスニング、リーディングを中心に、4技能をバランスよく伸ばすことを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 日常レベルの語彙力と構文が理解できるようになる。英語会話や長文の流れを把握できるようになる。</p> <p>技能の領域 通常の速度の英会話を聞き取れるようになり、また長めのパッセージを大意をつかみながら理解できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 さまざまな文化に触れながら英語を学ぶことにより、学習を楽しむ姿勢を培うこい、英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>演習形式で授業で実施します。哲学や芸術を扱う総合教材を使用して、文法項目の復習とともに「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能をバランスよく向上させるような授業を行います。</p> <p>受講者を指名して答えさせる機会がありますので、活発な参加が求められます。テキストは英語だけでなく異文化についても学べるようになっていきますので、リスニングや動画を効果的に活用して予習・復習してください。</p> <p>授業前：音声教材をダウンロードして指定したページの演習は事前にやってくること。</p> <p>授業：リスニングを多用して実践的に演習を行いながら、背景となる自然や文化についても議論します。質問は随時受け付け、またディスカッションのトピックとすることもあります。</p> <p>授業後：構文や表現、その日に学習した内容について、しっかり復讐すること。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業への参加姿勢と発表 20 %          期末定期試験の結果 80 %          (なお、授業の進行状況により、多少変更することがあります)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合



授業計画	<p>この授業は毎回リスニングとリーディングを中心に演習形式で行います。指名して回答させる機会があるので、受講生は事前に必ず予習をして授業に臨んでください。トピックは現代社会のさまざまな現象について興味深いテーマを取り上げていますので、自らもインターネットで関連サイトの英語プログラムを聞いてください。</p> <p>第1回 イン트로ダクション  第2回 Staring into the Abyss (part 1)  第3回 Staring into the Abyss (part 2)  第4回 Cancel Culture (part 1)  第5回 Cancel Culture (part 2)  第6回 The Call of the Wild (part 1)  第7回 The Call of the Wild (part 2)  第8回 Democratic Ideals (part 1)  第9回 Democratic Ideals (part 2)  第10回 Condemned to be Free (part 1)  第11回 Condemned to be Free (part 2)  第12回 Nintendo Power (part 1)  第13回 Nintendo Power (part 2)  第14回 Ready for Launch (part 1)  第15回 Ready for Launch (part 2)</p>
テキスト	Rethinking the World、成美堂、ISBN978-4-7919-7272-2
参考書	授業の中で適宜指定する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中および授業後、オフィスアワー、Eメール(ido-y@nagoya-ku.ac.jp)で対応します。
フィードバックの方法	小テスト、試験や提出課題は採点后すみやかに返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	リスニングとリーディングについて、2時間の予習と2時間の復習を課す。予習、復習課題はGoogleクラスルームで指示します。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	スキルアップ英語II(H) / Primary English II
時間割コード Course Code	12067
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	ナカシマ ロレイン マエ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ナカシマ ロレイン マエ (経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>Welcome to Skill up English!. This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach.</p> <p>Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions and more. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 40%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 30%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than five times without an appropriate reason or documentation will not be able to pass this course.</p>

授業計画	1回 Unit 1 Question tags 2回 Unit 2 Past continuous 3回 Unit 3 Past simple vs Present perfect 4回 Unit 4 Past perfect 5回 Unit 5 ed/ing adjectives 6回 Unit 6 Compound adjective with numbers 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回 Clauses of contrast 10回 Indirect speech 11回 Collocations with “get” 12回 Modals - reflections 13回 Passives 14回 Verb + preposition/collocations cont. 15回Unit 13: Review
テキスト	Get Started 4 ISBN 987-4-9909172-7-2 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Nicholas Yaxley and Justin Fung
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Question tags	
2	Unit 2	Past continuous	
3	Unit 3	Past simple vs present perfect	
4	Unit 4	Past perfect	
5	Unit 5	ED/ING adjectives	
6	Unit 6	Compound adjectives with numbers	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Clauses of contrast	
10	Unit 8	Indirect speech	
11	Unit 9	Collocations with GET	
12	Unit 10	Modals: Reflections	
13	Unit 11	Passives	
14	Unit 12	Verb + Prepositions/ collocations cont.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	スキルアップ英語II(I) / Primary English II
時間割コード Course Code	12068
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	サーヴィッチ エイドリアン
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	サーヴィッチ エイドリアン (経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>Welcome to Skill up English!. This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach.</p> <p>Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions and more. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 40%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 30%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than five times without an appropriate reason or documentation will not be able to pass this course.</p>

授業計画	1回 Unit 1 Question tags 2回 Unit 2 Past continuous 3回 Unit 3 Past simple vs Present perfect 4回 Unit 4 Past perfect 5回 Unit 5 ed/ing adjectives 6回 Unit 6 Compound adjective with numbers 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回 Clauses of contrast 10回 Indirect speech 11回 Collocations with “get ” 12回 Modals - reflections 13回 Passives 14回 Verb + preposition/collocations cont. 15回Unit 13: Review
テキスト	Get Started 4 ISBN 987-4-9909172-7-2 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Nicholas Yaxley and Justin Fung
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Question tags	
2	Unit 2	Past continuous	
3	Unit 3	Past simple vs present perfect	
4	Unit 4	Past perfect	
5	Unit 5	ED/ING adjectives	
6	Unit 6	Compound adjectives with numbers	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Clauses of contrast	
10	Unit 8	Indirect speech	
11	Unit 9	Collocations with GET	
12	Unit 10	Modals: Reflections	
13	Unit 11	Passives	
14	Unit 12	Verb + Prepositions/ collocations cont.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	スキルアップ英語II(J) / Primary English II
時間割コード Course Code	12069
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	ハールス ジョシュア
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ハールス ジョシュア (経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>Welcome to Skill up English!. This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach.</p> <p>Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions interjections with a review and summary of all nine parts of speech in the last four units. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 40%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 30%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than five times without an appropriate reason or documentation will not be able to pass this course.</p>



授業計画	1回 Unit 1 Question tags 2回 Unit 2 Past continuous 3回 Unit 3 Past simple vs Present perfect 4回 Unit 4 Past perfect 5回 Unit 5 ed/ing adjectives 6回 Unit 6 Compound adjective with numbers 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回 Clauses of contrast 10回 Indirect speech 11回 Collocations with “get” 12回 Modals - reflections 13回 Passives 14回 Verb + preposition/collocations cont. 15回Unit 13: Review
テキスト	Get Started 4 ISBN 987-4-9909172-7-2 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Nicholas Yaxley and Justin Fung
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Question tags	
2	Unit 2	Past continuous	
3	Unit 3	Past simple vs present perfect	
4	Unit 4	Past perfect	
5	Unit 5	ED/ING adjectives	
6	Unit 6	Compound adjectives with numbers	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Clauses of contrast	
10	Unit 8	Indirect speech	
11	Unit 9	Collocations with GET	
12	Unit 10	Modals: Reflections	
13	Unit 11	Passives	
14	Unit 12	Verb + Prepositions/ collocations cont.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	スキルアップ英語II(K) / Primary English II
時間割コード Course Code	12070
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	ヘロン ジェイムズ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ヘロン ジェイムズ (経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>Welcome to Skill up English!. This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach.</p> <p>Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions and more. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 40%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 30%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than five times without an appropriate reason or documentation will not be able to pass this course.</p>

授業計画	1回 Unit 1 Question tags 2回 Unit 2 Past continuous 3回 Unit 3 Past simple vs Present perfect 4回 Unit 4 Past perfect 5回 Unit 5 ed/ing adjectives 6回 Unit 6 Compound adjective with numbers 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回 Clauses of contrast 10回 Indirect speech 11回 Collocations with “get ” 12回 Modals - reflections 13回 Passives 14回 Verb + preposition/collocations cont. 15回Unit 13: Review
テキスト	Get Started 4 ISBN 987-4-9909172-7-2 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Nicholas Yaxley and Justin Fung
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Question tags	
2	Unit 2	Past continuous	
3	Unit 3	Past simple vs present perfect	
4	Unit 4	Past perfect	
5	Unit 5	ED/ING adjectives	
6	Unit 6	Compound adjectives with numbers	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Clauses of contrast	
10	Unit 8	Indirect speech	
11	Unit 9	Collocations with GET	
12	Unit 10	Modals: Reflections	
13	Unit 11	Passives	
14	Unit 12	Verb + Prepositions/ collocations cont.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	スキルアップ英語II(L) / Primary English II
時間割コード Course Code	12071
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	カンジアノ ジョバンニ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	カンジアノ ジョバンニ (経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」、「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>Welcome to Skill up English!. This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach.</p> <p>Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions and more. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 40%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 30%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than five times without an appropriate reason or documentation will not be able to pass this course.</p>

授業計画	1回 Unit 1 Question tags 2回 Unit 2 Past continuous 3回 Unit 3 Past simple vs Present perfect 4回 Unit 4 Past perfect 5回 Unit 5 ed/ing adjectives 6回 Unit 6 Compound adjective with numbers 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回 Clauses of contrast 10回 Indirect speech 11回 Collocations with “get” 12回 Modals - reflections 13回 Passives 14回 Verb + preposition/collocations cont. 15回Unit 13: Review
テキスト	Get Started 4 ISBN 987-4-9909172-7-2 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Nicholas Yaxley and Justin Fung
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Question tags	
2	Unit 2	Past continuous	
3	Unit 3	Past simple vs present perfect	
4	Unit 4	Past perfect	
5	Unit 5	ED/ING adjectives	
6	Unit 6	Compound adjectives with numbers	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Clauses of contrast	
10	Unit 8	Indirect speech	
11	Unit 9	Collocations with GET	
12	Unit 10	Modals: Reflections	
13	Unit 11	Passives	
14	Unit 12	Verb + Prepositions/ collocations cont.	
15	Review	Review	



開講科目名 Course	スキルアップ英語II(再)(1) / Primary English II
時間割コード Course Code	12072
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	カンジアノ ジョバンニ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	カンジアノ ジョバンニ (経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>Welcome to Skill up English!. This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach.</p> <p>Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions and more. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 40%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 30%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than five times without an appropriate reason or documentation will not be able to pass this course.</p>

授業計画	1回 Unit 1 Question tags 2回 Unit 2 Past continuous 3回 Unit 3 Past simple vs Present perfect 4回 Unit 4 Past perfect 5回 Unit 5 ed/ing adjectives 6回 Unit 6 Compound adjective with numbers 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回 Clauses of contrast 10回 Indirect speech 11回 Collocations with “get” 12回 Modals - reflections 13回 Passives 14回 Verb + preposition/collocations cont. 15回Unit 13: Review
テキスト	Get Started 4 ISBN 987-4-9909172-7-2 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Nicholas Yaxley and Justin Fung
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Question tags	
2	Unit 2	Past continuous	
3	Unit 3	Past simple vs present perfect	
4	Unit 4	Past perfect	
5	Unit 5	ED/ING adjectives	
6	Unit 6	Compound adjectives with numbers	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Clauses of contrast	
10	Unit 8	Indirect speech	
11	Unit 9	Collocations with GET	
12	Unit 10	Modals: Reflections	
13	Unit 11	Passives	
14	Unit 12	Verb + Prepositions/ collocations cont.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	スキルアップ英語II(再)(2) / Primary English II
時間割コード Course Code	12073
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	ナカシマ ロレイン マエ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ナカシマ ロレイン マエ (経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>Welcome to Skill up English!. This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach.</p> <p>Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions and more. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 40%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 30%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than five times without an appropriate reason or documentation will not be able to pass this course.</p>

授業計画	1回 Unit 1 Question tags 2回 Unit 2 Past continuous 3回 Unit 3 Past simple vs Present perfect 4回 Unit 4 Past perfect 5回 Unit 5 ed/ing adjectives 6回 Unit 6 Compound adjective with numbers 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回 Clauses of contrast 10回 Indirect speech 11回 Collocations with “get” 12回 Modals - reflections 13回 Passives 14回 Verb + preposition/collocations cont. 15回Unit 13: Review
テキスト	Get Started 4 ISBN 987-4-9909172-7-2 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Nicholas Yaxley and Justin Fung
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Question tags	
2	Unit 2	Past continuous	
3	Unit 3	Past simple vs present perfect	
4	Unit 4	Past perfect	
5	Unit 5	ED/ING adjectives	
6	Unit 6	Compound adjectives with numbers	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Clauses of contrast	
10	Unit 8	Indirect speech	
11	Unit 9	Collocations with GET	
12	Unit 10	Modals: Reflections	
13	Unit 11	Passives	
14	Unit 12	Verb + Prepositions/ collocations cont.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	トピック対策英語I(1) / TOEIC Training I
時間割コード Course Code	12080
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	井土 康仁
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	井土 康仁 (経営学部)
授業の目標	<p>この授業では、ビジネスにおける英語コミュニケーション能力を測るTOEIC受験を目指す学生に本テストの形式や英語表現に慣れることを目標とします。ただTOEICのスコアをあげることのみが目的ではなく、実用英語の理解力を高めることで、国際的なビジネスの習慣に習熟することを目指します。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;</p> <p>知識・理解の領域 TOEICテストの形式に慣れ、実用英語の基礎語彙と基本構文が理解できる。 基礎必修語彙の範囲を理解する。</p> <p>思考判断の領域 文脈にふさわしい英語表現を判断できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語によるコミュニケーション力の必要性に気づくようになる。</p> <p>技能の領域 英語運用能力のうち、基礎的な聴解力と読解力が身につく。</p> <p>関心意欲の領域 TOEICのスコアアップを目指すとともに、ビジネスについて関心をもてる。 英語学習を継続する意欲がわく。</p>
授業の概要	<p>実用英語のリスニングと語彙・読解力を涵養するために、TOEICに対応する演習問題をたくさん解きます。とくに日常生活やビジネスにおいて異なる文脈にふさわしい英語表現を演習形式で学習します。</p> <p>指定テキストはTOEICテスト初心者を対象に本試験形式のPart 1 Part 7のすべてを扱っています。各ユニットはテーマをもち、3つのステップから構成されています。</p> <p>Step 1: 各Unitで学ぶべきビジネス関係語彙の発音、意味を学ぶ</p> <p>Step 2: トレーニングポイントでUnitのテーマに即した語法と文法を学ぶ</p> <p>Step 3: 実際のテストと同形式のリスニング&amp;リーディング問題</p> <p>授業では、ビジネス英語の重要語彙を音声と共に学び、前半はリスニング演習、後半はリーディング演習を行います。問題演習をしながら、聞き取りのポイント、表現・文法の重要事項、ビジネスの定型表現、文化的な背景などの解説をします。必要に応じてスクリプトを配布します。予習のために宿題を出し、学習成果を確認するため、復習テストを実施します。さらに英語を使って仕事をする状況を想定して理解できるようにします。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	授業への参加姿勢と発表 20 % 小テストおよび期末定期試験の結果 80 % (なお、授業の進行状況により、多少変更することがあります)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合
授業計画	毎回の授業で原則として半ユニットのリスニング、リーディングを学びます。重要な表現や構文については教員作成の資料を用いて詳しく解説します。 第1回 インTRODクシヨン 第2回 Shopping 第3回 Food 第4回 Health 第5回 Media 第6回 Daily Life 1 第7回 Daily Life 2 第8回 Travel 第9回 Office work 1 第10回 Office work 2 第11回 Meetings 第12回 Factories 第13回 Products 第14回 Technology 第15回 Job hunting
テキスト	Primary Practice for the TOEIC Listening and Reading Test, 三修社、ISBN 978-4-384-33466-1
参考書	授業の中で適宜指定する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中および授業後、オフィスアワー、Eメール(ido-y@nagoya-ku.ac.jp)で対応します。
フィードバックの方法	小テスト、試験や提出課題は採点后すみやかに返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	原則として毎回の授業で1ユニットすすむので、リスニングとリーディングパートそれぞれで、2時間の予習と2時間の復習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力



開講科目名 Course	トピック対策英語I(2) / TOEIC Training I
時間割コード Course Code	12081
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	井土 康仁
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	14D講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	井土 康仁 (経営学部)
授業の目標	<p>この授業では、ビジネスにおける英語コミュニケーション能力を測るTOEIC受験を目指す学生に本テストの形式や英語表現に慣れることを目標とします。ただTOEICのスコアをあげることのみが目的ではなく、実用英語の理解力を高めることで、国際的なビジネスの習慣に習熟することを目指します。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;</p> <p>知識・理解の領域 TOEICテストの形式に慣れ、実用英語の基礎語彙と基本構文が理解できる。 基礎必修語彙の範囲を理解する。</p> <p>思考判断の領域 文脈にふさわしい英語表現を判断できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語によるコミュニケーション力の必要性に気づくようになる。</p> <p>技能の領域 英語運用能力のうち、基礎的な聴解力と読解力が身につく。</p> <p>関心意欲の領域 TOEICのスコアアップを目指すとともに、ビジネスについて関心がもてる。 英語学習を継続する意欲がわく。</p>
授業の概要	<p>実用英語のリスニングと語彙・読解力を涵養するために、TOEICに対応する演習問題をたくさん解きます。とくに日常生活やビジネスにおいて異なる文脈にふさわしい英語表現を演習形式で学習します。</p> <p>指定テキストはTOEICテスト初心者を対象に本試験形式のPart 1 Part 7のすべてを扱っています。各ユニットはテーマをもち、3つのステップから構成されています。</p> <p>Step 1: 各Unitで学ぶべきビジネス関係語彙の発音、意味を学ぶ</p> <p>Step 2: トレーニングポイントでUnitのテーマに即した語法と文法を学ぶ</p> <p>Step 3: 実際のテストと同形式のリスニング&amp;リーディング問題</p> <p>授業では、ビジネス英語の重要語彙を音声と共に学び、前半はリスニング演習、後半はリーディング演習を行います。問題演習をしながら、聞き取りのポイント、表現・文法の重要事項、ビジネスの定型表現、文化的な背景などの解説をします。必要に応じてスクリプトを配布します。予習のために宿題を出し、学習成果を確認するため、復習テストを実施します。さらに英語を使って仕事をする状況を想定して理解できるようにします。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	授業への参加姿勢と発表 20 % 小テストおよび期末定期試験の結果 80 % (なお、授業の進行状況により、多少変更することがあります)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合
授業計画	毎回の授業で原則として半ユニットのリスニング、リーディングを学びます。重要な表現や構文については教員作成の資料を用いて詳しく解説します。 第1回 イン트로ダクション 第2回 Shopping 第3回 Food 第4回 Health 第5回 Media 第6回 Daily Life 1 第7回 Daily Life 2 第8回 Travel 第9回 Office work 1 第10回 Office work 2 第11回 Meetings 第12回 Factories 第13回 Products 第14回 Technology 第15回 Job hunting
テキスト	Primary Practice for the TOEIC Listening and Reading Test, 三修社、ISBN 978-4-384-33466-1
参考書	授業の中で適宜指定する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中および授業後、オフィスアワー、Eメール(ido-y@nagoya-ku.ac.jp)で対応します。
フィードバックの方法	小テスト、試験や提出課題は採点后すみやかに返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	原則として毎回の授業で1ユニットすすむので、リスニングとリーディングパートそれぞれで、2時間の予習と2時間の復習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	トピック対策英語II(1) / TOEIC Training II
時間割コード Course Code	12091
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	サーヴィッチ エイドリアン
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	14D講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	サーヴィッチ エイドリアン (経済学部)
授業の目標	<p>This course is designed to support beginner levels to improve their TOEIC score. This course is well-suited to individuals who are taking TOEIC for the first time. You will encounter and learn frequently used conversational phrases and review basic grammar structures.</p> <p>While these are essential for success on the TOEIC test, they also serve as an excellent base for building better communication skills in English.</p> <p>Therefore, this course will not only help you with TOEIC test preparation, but will improve your overall English language skills.</p> <p>本クラスは、初級者のTOEICスコアアップをサポートするコースであり、初めてTOEICを受験する学生にも最適な内容です。講義では、頻繁に使われる会話フレーズをたくさん学び、基本的な文法構造を再確認します。</p> <p>TOEICスコアを伸ばすために必要な基礎を学びながら、同時に英語でのコミュニケーション能力を高めていきます。本コースはTOEICテスト対策に役立つだけでなく、総合的な英語力の向上を目指します。</p>
授業の概要	<p>Lectures will present you with a variety of language tasks that will focus on listening, reading and speaking.</p> <p>You will also encounter important new words and phrases. You will be expected to keep a record or journal of these new words and phrases as instructed by the lecturer.</p> <p>This course will also include vocabulary quizzes, so it is important to keep your record of new vocabulary up-to-date. To enhance your communicative skills and encourage learner independence lectures will include pair work or group work. It is essential that you participate in these activities. You will be given homework from the textbook or possibly supplemental materials. This homework must be done before each class.</p> <p>講義では、リスニング、リーディング、スピーキングに重点を置いたさまざまな言語タスクが課されます。</p> <p>多くの新出単語やフレーズに触れ、これらの新しい単語やフレーズを自身で使えるものにするため、ノートを取り、記録、記憶することが大切です。</p> <p>このコースでは、語彙の小テストも行われますので、常に新しい語彙など習得に意欲的に取り組み、学習を持続することが重要です。</p> <p>コミュニケーション能力を高めるために、授業内ではペアワークやグループワークなどのアクティビティに参加することが重要です。</p> <p>教科書や補足資料から宿題が出されます。宿題は、次の授業までに必ず行ってください。</p>

評価方法	Grading Participation in Class Activities and Pair Work 30% Quizzes 15%% Mid Term Test 20% Final Test 35%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業への出席・遅刻が著しく多い、授業に積極的参加が見られないなどの事由においては、教員と面談、または学務課との相談の上、改善がない場合はクラスへの参加を拒否、または失格となる場合があります。

## 授業計画

- 1回 Unit 1 Part 1: Photographs 8 Be 動詞・現在進行形 音が消える！（同じ子音や似た子音が続く場合）Communicate：True or False?
- 2回 Unit 2 Part 2:  
Question – Response 16 疑問文 音が変わる！（[d], [t] + you）  
Communicate：High School Life and Now
- 3回 Unit 3 Part 3:  
Short Conversation 24 現在完了 音が変わる！（[k], [v], [n] + you）Communicate: Your Dream Amusement Park
- 4回 Unit 4 Part 4:  
Short Talks 31 接続詞（1）音がつながる！（[k], [p], [s], [t], [ch] + 母音）Communicate: A Manga Story
- 5回 Unit 5 Part 5:  
Incomplete Sentences 39 名詞の種類・主語と動詞の一致 音が弱くなる！（he, his, him）Communicate：Grammar Bee
- 6回 Unit 6 Part 6:  
Text Completion 48 不定詞・動名詞 音が弱くなる！（her）Communicate：Funny Stories
- 7回 Unit 7 Part 7:  
Reading Comprehension 59 分詞 音が変わる！（母音に挟まれた [t]）Communicate：My Place
- 8回 中間テスト
- 9回 Unit 8 Part 1:  
Photographs 70 受動態 音がつながる！（[r] + 母音）Communicate：Who Did It? Not Me!
- 10回 Unit 9 Part 2:  
Question – Response 79 動詞 音がつながる！（[n] + 母音）Communicate：Show and Tell
- 11回 Unit 10 Part  
3: Short Conversation 87 助動詞 音がつながる！（[m] + 母音）Communicate：Countdown!
- 12回 Unit 11 Part  
4: Short Talks 97 接続詞（2）音がつながる！（冠詞の a）Communicate：New Year's in Japan
- 13回 Unit 12 Part  
5: Incomplete Sentences 105 比較 音が変わる！（[t] + [l]）Communicate：Let's Boast a Little!
- 14回 Unit 13 Part  
6: Text Completion 114 仮定法 音がつながる！（[l] + 母音）Communicate：You're the Boss!
- 15回 Unit 14 Part  
7: Reading Comprehension 125 関係詞 読まない文字（黙字）Communicate

テキスト	TOEIC Test: Motivation 大学のためのTOEICテスト総合演習 山本 成代 ケリー キムラ 著 ISBN 9784523177364
参考書	必要に応じて、教師より適宜配布します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	TOEICスコアアップだけでなく、コミュニケーション能力を高めるために、授業内ではペアワークやグループワークなどのアクティビティが多く行われます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業ごとに、2時間の予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	2. 協同力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Class 1	Unit 1 Part 1: Photographs 8 Be 動詞 ・現在進行形 音が消える!(同じ子音や似た子音が続く場合) Communicate : True or False?	
2	Class 2	Unit 2 Part 2: Question - Response 16 疑問文 音が変わる! ([d], [t] + you) Communicate : High School Life and Now	
3	Class 3	Unit 3 Part 3: Short Conversation 24 現在完了 音が変わる! ([k], [v], [n] + you) Communicate: Your Dream Amusement Park	
4	Class 4	Unit 4 Part 4: Short Talks 31 接続詞(1) 音がつながる! ([k], [p], [s], [t], [ch] + 母音) Communicate: A Manga Story	
5	Class 5	Unit 5 Part 5: Incomplete Sentences 39 名詞の種類・主語と動詞の一致 音が弱くなる! (he, his, him) Communicate : Grammar Bee	
6	Class 6	Unit 6 Part 6: Text Completion 48 不定詞・動名詞 音が弱くなる! (her) Communicate : Funny Stories	
7	Class 7	Unit 7 Part 7: Reading Comprehension 59 分詞 音が変わる! (母音に挟まれた [t]) Communicate : My Place	
8	Class 8	Midterm Test	
9	Class 9	Unit 8 Part 1: Photographs 70 受動態 音がつながる! ([r] + 母音) Communicate : Who Did It? Not Me!	
10	Class 10	Unit 9 Part 2: Question - Response 79 動詞 音がつながる! ([n] + 母音) Communicate : Show and Tell	
11	Class 11	Unit 10 Part 3: Short Conversation 87 助動詞 音がつながる! ([m] + 母音) Communicate : Countdown!	
12	Class 12	Unit 11 Part 4: Short Talks 97 接続詞(2) 音がつながる! (冠詞の a) Communicate : New Year's in Japan	
13	Class 13	Unit 12 Part 5: Incomplete Sentences 105 比較 音が変わる! ([t] + [l]) Communicate : Let's Boast a Little!	
14	Class 14	Unit 13 Part 6: Text Completion 114 仮定法 音がつながる! ([l] + 母音) Communicate : You're the Boss!	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	Class 15	Unit 14 Part 7: Reading Comprehension 125 関係詞 読まない文字 (黙字) Communicate : Where in the World am I?	



開講科目名 Course	トピック対策英語II(2) / TOEIC Training II
時間割コード Course Code	12092
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	サーヴィッチ エイドリアン
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	サーヴィッチ エイドリアン (経済学部)
授業の目標	<p>This course is designed to support beginner levels to improve their TOEIC score. This course is well-suited to individuals who are taking TOEIC for the first time. You will encounter and learn frequently used conversational phrases and review basic grammar structures.</p> <p>While these are essential for success on the TOEIC test, they also serve as an excellent base for building better communication skills in English.</p> <p>Therefore, this course will not only help you with TOEIC test preparation, but will improve your overall English language skills.</p> <p>本クラスは、初級者のTOEICスコアアップをサポートするコースであり、初めてTOEICを受験する学生にも最適な内容です。講義では、頻繁に使われる会話フレーズをたくさん学び、基本的な文法構造を再確認します。</p> <p>TOEICスコアを伸ばすために必要な基礎を学びながら、同時に英語でのコミュニケーション能力を高めていきます。本コースはTOEICテスト対策に役立つだけでなく、総合的な英語力の向上を目指します。</p>
授業の概要	<p>Lectures will present you with a variety of language tasks that will focus on listening, reading and speaking.</p> <p>You will also encounter important new words and phrases. You will be expected to keep a record or journal of these new words and phrases as instructed by the lecturer.</p> <p>This course will also include vocabulary quizzes, so it is important to keep your record of new vocabulary up-to-date. To enhance your communicative skills and encourage learner independence lectures will include pair work or group work. It is essential that you participate in these activities. You will be given homework from the textbook or possibly supplemental materials. This homework must be done before each class.</p> <p>講義では、リスニング、リーディング、スピーキングに重点を置いたさまざまな言語タスクが課されます。</p> <p>多くの新出単語やフレーズに触れ、これらの新しい単語やフレーズを自身で使えるものにするため、ノートを取り、記録、記憶することが大切です。</p> <p>このコースでは、語彙の小テストも行われますので、常に新しい語彙など習得に意欲的に取り組み、学習を持続することが重要です。</p> <p>コミュニケーション能力を高めるために、授業内ではペアワークやグループワークなどのアクティビティに参加することが重要です。</p> <p>教科書や補足資料から宿題が出されます。宿題は、次の授業までに必ず行ってください。</p>

評価方法	Grading Participation in Class Activities and Pair Work 30% Quizzes 15% Mid Term Test 20% Final Test 35%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業への出席・遅刻が著しく多い、授業に積極的参加が見られないなどの事由においては、教員と面談、または学務課との相談の上、改善がない場合はクラスへの参加を拒否、または失格となる場合があります。

## 授業計画

- 1回 Unit 1 Part 1: Photographs 8 Be 動詞・現在進行形 音が消える！（同じ子音や似た子音が続く場合）Communicate：True or False?
- 2回 Unit 2 Part 2:  
Question – Response 16 疑問文 音が変わる！（[d], [t] + you）  
Communicate：High School Life and Now
- 3回 Unit 3 Part 3:  
Short Conversation 24 現在完了 音が変わる！（[k], [v], [n] + you）Communicate: Your Dream Amusement Park
- 4回 Unit 4 Part 4:  
Short Talks 31 接続詞（1）音がつながる！（[k], [p], [s], [t], [ch] + 母音）Communicate: A Manga Story
- 5回 Unit 5 Part 5:  
Incomplete Sentences 39 名詞の種類・主語と動詞の一致 音が弱くなる！（he, his, him）Communicate：Grammar Bee
- 6回 Unit 6 Part 6:  
Text Completion 48 不定詞・動名詞 音が弱くなる！（her）Communicate：Funny Stories
- 7回 Unit 7 Part 7:  
Reading Comprehension 59 分詞 音が変わる！（母音に挟まれた [t]）Communicate：My Place
- 8回 中間テスト
- 9回 Unit 8 Part 1:  
Photographs 70 受動態 音がつながる！（[r] + 母音）Communicate：Who Did It? Not Me!
- 10回 Unit 9 Part 2:  
Question – Response 79 動詞 音がつながる！（[n] + 母音）Communicate：Show and Tell
- 11回 Unit 10 Part  
3: Short Conversation 87 助動詞 音がつながる！（[m] + 母音）Communicate：Countdown!
- 12回 Unit 11 Part  
4: Short Talks 97 接続詞（2）音がつながる！（冠詞の a）Communicate：New Year's in Japan
- 13回 Unit 12 Part  
5: Incomplete Sentences 105 比較 音が変わる！（[t] + [l]）Communicate：Let's Boast a Little!
- 14回 Unit 13 Part  
6: Text Completion 114 仮定法 音がつながる！（[l] + 母音）Communicate：You're the Boss!
- 15回 Unit 14 Part  
7: Reading Comprehension 125 関係詞 読まない文字（黙字）Communicate

テキスト	TOEIC Test: Motivation 大学のためのTOEICテスト総合演習 山本 成代 ケリー キムラ 著 ISBN 9784523177364
参考書	必要に応じて、教師より適宜配布します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	TOEICスコアアップだけでなく、コミュニケーション能力を高めるために、授業内ではペアワークやグループワークなどのアクティビティが多く行われます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業ごとに、2時間の予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	2. 協同力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Class 1	Unit 1 Part 1: Photographs 8 Be 動詞 ・現在進行形 音が消える!(同じ子音や似た子音が続く場合) Communicate : True or False?	
2	Class 2	Unit 2 Part 2: Question - Response 16 疑問文 音が変わる! ([d], [t] + you) Communicate : High School Life and Now	
3	Class 3	Unit 3 Part 3: Short Conversation 24 現在完了 音が変わる! ([k], [v], [n] + you) Communicate: Your Dream Amusement Park	
4	Class 4	Unit 4 Part 4: Short Talks 31 接続詞(1) 音がつながる! ([k], [p], [s], [t], [ch] + 母音) Communicate: A Manga Story	
5	Class 5	Unit 5 Part 5: Incomplete Sentences 39 名詞の種類・主語と動詞の一致 音が弱くなる! (he, his, him) Communicate : Grammar Bee	
6	Class 6	Unit 6 Part 6: Text Completion 48 不定詞・動名詞 音が弱くなる! (her) Communicate : Funny Stories	
7	Class 7	Unit 7 Part 7: Reading Comprehension 59 分詞 音が変わる! (母音に挟まれた [t]) Communicate : My Place	
8	Class 8	Midterm Test	
9	Class 9	Unit 8 Part 1: Photographs 70 受動態 音がつながる! ([r] + 母音) Communicate : Who Did It? Not Me!	
10	Class 10	Unit 9 Part 2: Question - Response 79 動詞 音がつながる! ([n] + 母音) Communicate : Show and Tell	
11	Class 11	Unit 10 Part 3: Short Conversation 87 助動詞 音がつながる! ([m] + 母音) Communicate : Countdown!	
12	Class 12	Unit 11 Part 4: Short Talks 97 接続詞(2) 音がつながる! (冠詞の a) Communicate : New Year's in Japan	
13	Class 13	Unit 12 Part 5: Incomplete Sentences 105 比較 音が変わる! ([t] + [l]) Communicate : Let's Boast a Little!	
14	Class 14	Unit 13 Part 6: Text Completion 114 仮定法 音がつながる! ([l] + 母音) Communicate : You're the Boss!	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	Class 15	Unit 14 Part 7: Reading Comprehension 125 関係詞 読まない文字 (黙字) Communicate : Where in the World am I?	

開講科目名 Course	英語ライティング / English Writing
時間割コード Course Code	12100
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	井土 康仁
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	井土 康仁 (経営学部)
授業の目標	<p>この授業では、英語の重要事項をしっかりと復習しながら、身近なできごとについての説明や自分の意見を自然な英語で書けるようになることを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 英語の基本文型がわかり、英作文に応用できる。コミュニケーションに必要な英語表現に習熟できる。</p> <p>技能の領域 文法的に正しく、適切な語彙を使って英文が書けるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 自らの考えを伝えるための表現を工夫して、英語によるコミュニケーションを積極的にしたいと思えるようになる。</p> <p>関心意欲の領域 モデルのエッセイのリスニング、リーディングから伝えるための英語を書いてみることで、外国の文化や風習を調べ、状況にふさわしい英語を書きたいと思うようになる。</p>
授業の概要	<p>この授業では、ネイティブが書いた模範エッセイのリスニング、リーディングを学び、パラグラフライティングの効果的な作文技術を学びます。つぎに、英語の構文を復習しながら、たくさんの短い英文を書き、最終的には短い英文エッセイを書くことで、目的や状況にふさわしい英文を書く技術を身につけます。</p> <p>ライティングの課題は毎週提出されるので、次回の授業でかならず提出してください。授業で解答例を示すとともに、個別の提出課題を授業内で添削します。添削された部分は必ず見直すこと。必要な場合、添削箇所について個別指導をします。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業への参加姿勢と発表 20%</p> <p>毎回のライティング課題 30%</p> <p>期末テスト 50%</p> <p>(授業の進捗状況により、変更する場合があります)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合

授業計画	毎回の授業では、前半母国語話者による模範エッセイを通じて、目的別のエッセイの書き方を学びます。次に、英語構文の重要事項を復習したあと、短文の英作文演習を行います。またモデルエッセイのように、トピック文、3つのサポート文、結論から構成されるエッセイを書くことが求められます。 第1回 インTRODクシヨン 第2回 Self-Introduction 第3回 Apologies 第4回 Reports 第5回 Requests 第6回 Declining / Refusals 第7回 Proposals 第8回 Recommendations / Personal Statements 第9回 Opinions 第10回 Asking for Advice 第11回 Narrating Past Events 第12回 Gratitude 第13回 Cover Letters 第14回 Abstracts 第15回 Acknowledgements
テキスト	English Template Writing、金星堂、ISBN 978-4-7647-4202-4。
参考書	授業の中で適宜指定する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中および授業後、オフィスアワー、Eメール(ido-y@nagoya-ku.ac.jp)で対応します。
フィードバックの方法	小テスト、試験や提出課題は採点后すみやかに返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習としてモデルエッセイを事前に読んでくること、復習としてライティングの表現法と構文について見直し、課題として出される英文を書いてくること。それぞれで2時間の予習と2時間の復習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力



開講科目名 Course	英語リーディング(1) / English Reading
時間割コード Course Code	12120
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	井土 康仁
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	7 2 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	井土 康仁 (経営学部)
授業の目標	<p>この授業では、リーディングを通じて日本の著名な人物に関する英語に習熟することを目標とします。英語に慣れるために、基本的な語彙力と読解力を涵養して、論理的な英語を理解できるようになり、英文の単なる和訳ではなく、内容を理解して説明できるようになることを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 英語の基礎語彙と基本構文が理解できるようになる。</p> <p>技能の領域 リスニングの練習をすることにより、長めの英語のパスセージを聞き取り、要点を把握できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 日本の著名人に関するにテーマを絞った英文を聞いて読むために、主体的に英語を学ぶ態度が身につく。</p> <p>関心意欲の領域 受講生が関心の高い分野の英語のリーディング、リスニングを通じて、自らも問題意識を持ち、インターネットなどで調べる意欲が高まる。</p>
授業の概要	<p>この授業では、毎回ひとつのUnitをすすみ、そのUnitのテーマに沿って次の4つのステップで学習していきます。</p> <p>Step 1: 各Unitで学ぶべき基本語彙</p> <p>Step 2: ディクテーションなどリスニングの演習。</p> <p>Step 3: 日本の著名人に関するエッセイの読解</p> <p>Step 4: エッセイの内容理解に関するエクササイズ演習と解説</p> <p>授業では演習形式により、指名して発表させる場合があるのでかならず予習してきてください。この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業への参加姿勢と発表 20 %</p> <p>期末定期試験の結果 80 %</p> <p>(なお、授業の進行状況により、多少変更することがあります)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合

授業計画	<p>この授業では栄養・食育・健康における様々なトピックを扱いながら、リスニングを多用して科学分野の基礎語彙、構文、読解演習を行います。</p> <p>第1回 イン트로ダクション  第2回 Ichiro Suzuki  第3回 Shinya Yamanaka  第4回 Hiroyuki Itsuki  第5回 Eiichi Shibusawa  第6回 Momofuku Ando  第7回 Ikuo Hirayama  第8回 Chiune Sugiura  第9回 Kei Ogura  第10回 Osamu Tezuka  第11回 Yoshiaru Habu  第12回 Hiroki Kuroda  第13回 Tatsuya Nakadai  第14回 Toyoko Yamazaki  第15回 Hayato Ikeda</p> <p>授業では指名して演習問題や内容把握について受講生に答えさせることがあります。受講生は予習をして授業では積極的な姿勢で臨むことが求められます。</p>
テキスト	Fifteen English Biographies of Famous Japanese、南雲堂、ISBN 978-4-523-17858-3。
参考書	授業の中で適宜指定する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中および授業後、オフィスアワー、Eメール(ido-y@nagoya-ku.ac.jp)で対応します。
フィードバックの方法	試験や提出課題は採点后すみやかに返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	原則として毎回の授業で1ユニットすすむので、2時間の語彙、リスニング、リーディングの予習と、2時間の内容理解の復習を課す。予習、復習課題はGoogleクラスルームなどで指示する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	英語リーディング(再)(1) / English Reading
時間割コード Course Code	12122
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	井土 康仁
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	7 2 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	井土 康仁 (経営学部)
授業の目標	<p>この授業では、リーディングを通じて日本の著名な人物に関する英語に習熟することを目標とします。英語に慣れるために、基本的な語彙力と読解力を涵養して、論理的な英語を理解できるようになり、英文の単なる和訳ではなく、内容を理解して説明できるようになることを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 英語の基礎語彙と基本構文が理解できるようになる。</p> <p>技能の領域 リスニングの練習をすることにより、長めの英語のパスセージを聞き取り、要点を把握できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 日本の著名人に関するにテーマを絞った英文を聞いて読むために、主体的に英語を学ぶ態度が身につく。</p> <p>関心意欲の領域 受講生が関心の高い分野の英語のリーディング、リスニングを通じて、自らも問題意識を持ち、インターネットなどで調べる意欲が高まる。</p>
授業の概要	<p>この授業では、毎回ひとつのUnitをすすみ、そのUnitのテーマに沿って次の4つのステップで学習していきます。</p> <p>Step 1: 各Unitで学ぶべき基本語彙</p> <p>Step 2: ディクテーションなどリスニングの演習。</p> <p>Step 3: 日本の著名人に関するエッセイの読解</p> <p>Step 4: エッセイの内容理解に関するエクササイズ演習と解説</p> <p>授業では演習形式により、指名して発表させる場合があるのでかならず予習してきてください。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業への参加姿勢と発表 20 % 期末定期試験の結果 80 % (なお、授業の進行状況により、多少変更することがあります)</p>
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	出席回数が10回に満たない場合

授業計画	<p>この授業では栄養・食育・健康における様々なトピックを扱いながら、リスニングを多用して科学分野の基礎語彙、構文、読解演習を行います。</p> <p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 Ichiro Suzuki</p> <p>第3回 Shinya Yamanaka</p> <p>第4回 Hiroyuki Itsuki</p> <p>第5回 Eiichi Shibusawa</p> <p>第6回 Momofuku Ando</p> <p>第7回 Ikuo Hirayama</p> <p>第8回 Chiune Sugiura</p> <p>第9回 Kei Ogura</p> <p>第10回 Osamu Tezuka</p> <p>第11回 Yoshiaru Habu</p> <p>第12回 Hiroki Kuroda</p> <p>第13回 Tatsuya Nakadai</p> <p>第14回 Toyoko Yamazaki</p> <p>第15回 Hayato Ikeda</p> <p>授業では指名して演習問題や内容把握について受講生に答えさせることがあります。受講生は予習をして授業では積極的な姿勢で臨むことが求められます。</p>
テキスト	Fifteen English Biographies of Famous Japanese、南雲堂、ISBN 978-4-523-17858-3。
参考書	授業の中で適宜指定する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中および授業後、オフィスアワー、Eメール(ido-y@nagoya-ku.ac.jp)で対応します。
フィードバックの方法	試験や提出課題は採点后すみやかに返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	原則として毎回の授業で1ユニットすすむので、2時間の語彙、リスニング、リーディングの予習と、2時間の内容理解の復習を課す。予習、復習課題はGoogleクラスルームなどで指示する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	英語リーディング(2) / English Reading
時間割コード Course Code	12130
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	井土 康仁
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	井土 康仁 (経営学部)
授業の目標	<p>この授業では、リーディングを通じて日本の著名な人物に関する英語に習熟することを目標とします。英語に慣れるために、基本的な語彙力と読解力を涵養して、論理的な英語を理解できるようになり、英文の単なる和訳ではなく、内容を理解して説明できるようになることを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 英語の基礎語彙と基本構文が理解できるようになる。</p> <p>技能の領域 リスニングの練習をすることにより、長めの英語のパスセージを聞き取り、要点を把握できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 日本の著名人に関するにテーマを絞った英文を聞いて読むために、主体的に英語を学ぶ態度が身につく。</p> <p>関心意欲の領域 受講生が関心の高い分野の英語のリーディング、リスニングを通じて、自らも問題意識を持ち、インターネットなどで調べる意欲が高まる。</p>
授業の概要	<p>この授業では、毎回ひとつのUnitをすすみ、そのUnitのテーマに沿って次の4つのステップで学習していきます。</p> <p>Step 1: 各Unitで学ぶべき基本語彙</p> <p>Step 2: ディクテーションなどリスニングの演習。</p> <p>Step 3: 日本の著名人に関するエッセイの読解</p> <p>Step 4: エッセイの内容理解に関するエクササイズ演習と解説</p> <p>授業では演習形式により、指名して発表させる場合があるのでかならず予習してきてください。この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業への参加姿勢と発表 20 %</p> <p>期末定期試験の結果 80 %</p> <p>(なお、授業の進行状況により、多少変更することがあります)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合

授業計画	<p>この授業では栄養・食育・健康における様々なトピックを扱いながら、リスニングを多用して科学分野の基礎語彙、構文、読解演習を行います。</p> <p>第1回 イン트로ダクション  第2回 Ichiro Suzuki  第3回 Shinya Yamanaka  第4回 Hiroyuki Itsuki  第5回 Eiichi Shibusawa  第6回 Momofuku Ando  第7回 Ikuo Hirayama  第8回 Chiune Sugiura  第9回 Kei Ogura  第10回 Osamu Tezuka  第11回 Yoshiaru Habu  第12回 Hiroki Kuroda  第13回 Tatsuya Nakadai  第14回 Toyoko Yamazaki  第15回 Hayato Ikeda</p> <p>授業では指名して演習問題や内容把握について受講生に答えさせることがあります。受講生は予習をして授業では積極的な姿勢で臨むことが求められます。</p>
テキスト	Fifteen English Biographies of Famous Japanese、南雲堂、ISBN 978-4-523-17858-3。
参考書	授業の中で適宜指定する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中および授業後、オフィスアワー、Eメール(ido-y@nagoya-ku.ac.jp)で対応します。
フィードバックの方法	試験や提出課題は採点后すみやかに返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	原則として毎回の授業で1ユニットすすむので、2時間の語彙、リスニング、リーディングの予習と、2時間の内容理解の復習を課す。予習、復習課題はGoogleクラスルームなどで指示する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	英語リーディング(再)(2) / English Reading
時間割コード Course Code	12132
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	井土 康仁
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	井土 康仁 (経営学部)
授業の目標	<p>この授業では、リーディングを通じて日本の著名な人物に関する英語に習熟することを目標とします。英語に慣れるために、基本的な語彙力と読解力を涵養して、論理的な英語を理解できるようになり、英文の単なる和訳ではなく、内容を理解して説明できるようになることを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 英語の基礎語彙と基本構文が理解できるようになる。</p> <p>技能の領域 リスニングの練習をすることにより、長めの英語のパスセージを聞き取り、要点を把握できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 日本の著名人に関するにテーマを絞った英文を聞いて読むために、主体的に英語を学ぶ態度が身につく。</p> <p>関心意欲の領域 受講生が関心の高い分野の英語のリーディング、リスニングを通じて、自らも問題意識を持ち、インターネットなどで調べる意欲が高まる。</p>
授業の概要	<p>この授業では、毎回ひとつのUnitをすすみ、そのUnitのテーマに沿って次の4つのステップで学習していきます。</p> <p>Step 1: 各Unitで学ぶべき基本語彙</p> <p>Step 2: ディクテーションなどリスニングの演習。</p> <p>Step 3: 日本の著名人に関するエッセイの読解</p> <p>Step 4: エッセイの内容理解に関するエクササイズ演習と解説</p> <p>授業では演習形式により、指名して発表させる場合があるのでかならず予習してきてください。この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業への参加姿勢と発表 20 %</p> <p>期末定期試験の結果 80 %</p> <p>(なお、授業の進行状況により、多少変更することがあります)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合

授業計画	<p>この授業では栄養・食育・健康における様々なトピックを扱いながら、リスニングを多用して科学分野の基礎語彙、構文、読解演習を行います。</p> <p>第1回 イン트로ダクション  第2回 Ichiro Suzuki  第3回 Shinya Yamanaka  第4回 Hiroyuki Itsuki  第5回 Eiichi Shibusawa  第6回 Momofuku Ando  第7回 Ikuo Hirayama  第8回 Chiune Sugiura  第9回 Kei Ogura  第10回 Osamu Tezuka  第11回 Yoshiaru Habu  第12回 Hiroki Kuroda  第13回 Tatsuya Nakadai  第14回 Toyoko Yamazaki  第15回 Hayato Ikeda</p> <p>授業では指名して演習問題や内容把握について受講生に答えさせることがあります。受講生は予習をして授業では積極的な姿勢で臨むことが求められます。</p>
テキスト	Fifteen English Biographies of Famous Japanese、南雲堂、ISBN 978-4-523-17858-3。
参考書	授業の中で適宜指定する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中および授業後、オフィスアワー、Eメール(ido-y@nagoya-ku.ac.jp)で対応します。
フィードバックの方法	試験や提出課題は採点后すみやかに返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	原則として毎回の授業で1ユニットすすむので、2時間の語彙、リスニング、リーディングの予習と、2時間の内容理解の復習を課す。予習、復習課題はGoogleクラスルームなどで指示する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力



開講科目名 Course	英語リーディング(3) / English Reading
時間割コード Course Code	12140
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	井土 康仁
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	井土 康仁 (経営学部)
授業の目標	<p>この授業では、リーディングを通じて日本の著名な人物に関する英語に習熟することを目標とします。英語に慣れるために、基本的な語彙力と読解力を涵養して、論理的な英語を理解できるようになり、英文の単なる和訳ではなく、内容を理解して説明できるようになることを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 英語の基礎語彙と基本構文が理解できるようになる。</p> <p>技能の領域 リスニングの練習をすることにより、長めの英語のパスセージを聞き取り、要点を把握できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 日本の著名人に関するにテーマを絞った英文を聞いて読むために、主体的に英語を学ぶ態度が身につく。</p> <p>関心意欲の領域 受講生が関心の高い分野の英語のリーディング、リスニングを通じて、自らも問題意識を持ち、インターネットなどで調べる意欲が高まる。</p>
授業の概要	<p>この授業では、毎回ひとつのUnitをすすみ、そのUnitのテーマに沿って次の4つのステップで学習していきます。</p> <p>Step 1: 各Unitで学ぶべき基本語彙</p> <p>Step 2: ディクテーションなどリスニングの演習。</p> <p>Step 3: 日本の著名人に関するエッセイの読解</p> <p>Step 4: エッセイの内容理解に関するエクササイズ演習と解説</p> <p>授業では演習形式により、指名して発表させる場合があるのでかならず予習してきてください。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業への参加姿勢と発表 20 %</p> <p>期末定期試験の結果 80 %</p> <p>(なお、授業の進行状況により、多少変更することがあります)</p>
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	出席回数が10回に満たない場合

授業計画	<p>この授業では栄養・食育・健康における様々なトピックを扱いながら、リスニングを多用して科学分野の基礎語彙、構文、読解演習を行います。</p> <p>第1回 イン트로ダクション  第2回 Ichiro Suzuki  第3回 Shinya Yamanaka  第4回 Hiroyuki Itsuki  第5回 Eiichi Shibusawa  第6回 Momofuku Ando  第7回 Ikuo Hirayama  第8回 Chiune Sugiura  第9回 Kei Ogura  第10回 Osamu Tezuka  第11回 Yoshiaru Habu  第12回 Hiroki Kuroda  第13回 Tatsuya Nakadai  第14回 Toyoko Yamazaki  第15回 Hayato Ikeda</p> <p>授業では指名して演習問題や内容把握について受講生に答えさせることがあります。受講生は予習をして授業では積極的な姿勢で臨むことが求められます。</p>
テキスト	Fifteen English Biographies of Famous Japanese、南雲堂、ISBN 978-4-523-17858-3。
参考書	授業の中で適宜指定する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中および授業後、オフィスアワー、Eメール(ido-y@nagoya-ku.ac.jp)で対応します。
フィードバックの方法	試験や提出課題は採点后すみやかに返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	原則として毎回の授業で1ユニットすすむので、2時間の語彙、リスニング、リーディングの予習と、2時間の内容理解の復習を課す。予習、復習課題はGoogleクラスルームなどで指示する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	英語リーディング(再)(3) / English Reading
時間割コード Course Code	12142
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	井土 康仁
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	井土 康仁 (経営学部)
授業の目標	<p>この授業では、リーディングを通じて日本の著名な人物に関する英語に習熟することを目標とします。英語に慣れるために、基本的な語彙力と読解力を涵養して、論理的な英語を理解できるようになり、英文の単なる和訳ではなく、内容を理解して説明できるようになることを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 英語の基礎語彙と基本構文が理解できるようになる。</p> <p>技能の領域 リスニングの練習をすることにより、長めの英語のパスセージを聞き取り、要点を把握できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 日本の著名人に関するにテーマを絞った英文を聞いて読むために、主体的に英語を学ぶ態度が身につく。</p> <p>関心意欲の領域 受講生が関心の高い分野の英語のリーディング、リスニングを通じて、自らも問題意識を持ち、インターネットなどで調べる意欲が高まる。</p>
授業の概要	<p>この授業では、毎回ひとつのUnitをすすみ、そのUnitのテーマに沿って次の4つのステップで学習していきます。</p> <p>Step 1: 各Unitで学ぶべき基本語彙</p> <p>Step 2: ディクテーションなどリスニングの演習。</p> <p>Step 3: 日本の著名人に関するエッセイの読解</p> <p>Step 4: エッセイの内容理解に関するエクササイズ演習と解説</p> <p>授業では演習形式により、指名して発表させる場合があるのでかならず予習してきてください。この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業への参加姿勢と発表 20 %</p> <p>期末定期試験の結果 80 %</p> <p>(なお、授業の進行状況により、多少変更することがあります)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合

授業計画	<p>この授業では栄養・食育・健康における様々なトピックを扱いながら、リスニングを多用して科学分野の基礎語彙、構文、読解演習を行います。</p> <p>第1回 イン트로ダクション  第2回 Ichiro Suzuki  第3回 Shinya Yamanaka  第4回 Hiroyuki Itsuki  第5回 Eiichi Shibusawa  第6回 Momofuku Ando  第7回 Ikuo Hirayama  第8回 Chiune Sugiura  第9回 Kei Ogura  第10回 Osamu Tezuka  第11回 Yoshiaru Habu  第12回 Hiroki Kuroda  第13回 Tatsuya Nakadai  第14回 Toyoko Yamazaki  第15回 Hayato Ikeda</p> <p>授業では指名して演習問題や内容把握について受講生に答えさせることがあります。受講生は予習をして授業では積極的な姿勢で臨むことが求められます。</p>
テキスト	Fifteen English Biographies of Famous Japanese、南雲堂、ISBN 978-4-523-17858-3。
参考書	授業の中で適宜指定する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中および授業後、オフィスアワー、Eメール(ido-y@nagoya-ku.ac.jp)で対応します。
フィードバックの方法	試験や提出課題は採点后すみやかに返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	原則として毎回の授業で1ユニットすすむので、2時間の語彙、リスニング、リーディングの予習と、2時間の内容理解の復習を課す。予習、復習課題はGoogleクラスルームなどで指示する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	(管栄)英語リーディング / English Reading
時間割コード Course Code	12150
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	井土 康仁
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	1 4 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	井土 康仁 (経営学部)
授業の目標	<p>この授業では、リーディングを通じて栄養と健康に関する英語に習熟することを目標とします。科学的な英語に慣れるために、リスニングを多用して基本的な語彙力と読解力を涵養して、論理的な英語を理解できるようになり、英文の単なる和訳ではなく、内容を理解して説明できるようになることを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 主に栄養と健康に関する科学的な英語の基礎語彙と基本構文が理解できるようになる。</p> <p>技能の領域 リスニングを行うことにより、長めの英語のパスセージを聞き取り、要点を把握できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 栄養や健康にテーマを絞った英文を聞いて読むために、主体的に科学英語を学ぶ態度が身につく。</p> <p>関心意欲の領域 受講生が関心の高い分野の英語のリーディング、リスニングを通じて、自らも問題意識を持ち、インターネットなどで調べる意欲が高まる。</p>
授業の概要	<p>この授業では、毎回ひとつのUnitをすすみ、そのUnitのテーマに沿って次の4つのステップで学習していきます。</p> <p>Step 1: 各Unitで学ぶべき基本語彙</p> <p>Step 2: ディクテーションなどリスニングの演習。</p> <p>Step 3: 500語程度の栄養、食育、健康に関するエッセイの読解</p> <p>Step 4: エッセイの内容理解に関するエクササイズ演習と解説</p> <p>授業では演習形式により、指名して発表させる場合があるのでかならず予習してきてください。この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業への参加姿勢と発表 20 %</p> <p>期末定期試験の結果 80 %</p> <p>(なお、授業の進行状況により、多少変更することがあります)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合

授業計画	<p>この授業では栄養・食育・健康における様々なトピックを扱いながら、リスニングを多用して科学分野の基礎語彙、構文、読解演習を行います。</p> <p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 Nutrition for good health</p> <p>第3回 Carbohydrates</p> <p>第4回 Fats and proteins</p> <p>第5回 Vitamins and minerals</p> <p>第6回 The importance of balance</p> <p>第7回 Diets for different needs</p> <p>第8回 The dangers of an unbalanced diet</p> <p>第9回 Managing body weight</p> <p>第10回 Our food choices</p> <p>第11回 Eating disorders</p> <p>第12回 Foods that can make you sick</p> <p>第13回 Safe food preparation</p> <p>第14回 Water and other drinks</p> <p>第15回 The changing Japanese diet</p> <p>授業では指名して演習問題や内容把握について受講生に答えさせることがあります。受講生は予習をして授業では積極的な姿勢で臨むことが求められます。</p>
テキスト	Simply Nutrition、南雲堂、ISBN 978-4-523-17761-6。
参考書	授業の中で適宜指定する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中および授業後、オフィスアワー、Eメール(ido-y@nagoya-ku.ac.jp)で対応します。
フィードバックの方法	試験や提出課題は採点后すみやかに返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	原則として毎回の授業で1ユニットすすむので、2時間の語彙、リスニング、リーディングの予習と、2時間の内容理解の復習を課す。予習、復習課題はGoogleクラスルームで指示する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	12. つくる責任つかう責任 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	英語コミュニケーション(1) / English Communication
時間割コード Course Code	12160
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	クレイトン ロバート
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	クレイトン ロバート (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	The goal of this course is to improve your ability to communicate in English. このコースの目的は、英語によるコミュニケーション能力を向上させることです。 All classes will be completed in class and weekly activities will include listening, speaking, reading and writing skill practice. 対面授業の形態で毎週のアクティビティには、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングスキルの練習が含まれます。 Students are required to prepare before each class by studying the textbook. 生徒は各授業の前に教科書を勉強して準備する必要があります。 Students are encouraged to ask questions both during class and after class.[All classes are taught in English.] 生徒は授業中または授業後に質問をすることができます。
評価方法	Tests (50%) + attendance & participation (25%) + online homework (25%). テスト (50%)、出席・参加 (25%)、オンライン宿題 (25%)。 Arriving late and leaving early will be counted as 1/2 of 1 absence. 遅刻・早退は欠席の2分の1回分とします。 Students who are absent 5 or more times will not earn credit. 5回以上の欠席は失格とします。 Students who do not take the final exam will not earn credit. 期末試験を受けないと失格となります。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	Students must accomplish the minimum goal to obtain a passing grade C. C (合格) となるためには、到達目標を最低限達成することが必要である。

授業計画	<p>Week 01 : Course introduction and class registration - コース概要とクラス登録</p> <p>Week 02 : Unit 01 - Greeting - 挨拶</p> <p>Week 03 : Unit 02 - Personal information - 個人情報</p> <p>Week 04 : Unit 03 - Friends and family - 友人と家族</p> <p>Week 05 : TEST Units 01-03 - テスト ユニット1 - 3</p> <p>Week 06 : Unit 04 - Possessions - 所有物</p> <p>Week 07 : Unit 05 - Interests - 興味</p> <p>Week 08 : Unit 06 - Lifestyles - ライフスタイル</p> <p>Week 09 : TEST Units 04-06 - テスト ユニット4 - 6</p> <p>Week 10 : Unit 07 - Home - ホーム</p> <p>Week 11 : Unit 08 - Daily routines - 日課</p> <p>Week 12 : Unit 09 - Leisure - レジャー</p> <p>Week 13 : Unit 10 - Sports - スポーツ</p> <p>Week 14 : Unit 11 - Food - 食品</p> <p>Week 15 : Unit 12 - Vacations - 休暇</p> <p>試験 : TEST Units 07 - 12 - テスト ユニット 7 - 120</p>
テキスト	Breakthrough Plus 2nd Edition Intro SB - ブレークスルー・プラス セカンド イントロ ISBN 978-1-3800-0328-7
参考書	Handouts and access to Digital Student's Book and Student's Resource Center. 配布資料、Digital Student's BookとStudent's Resource Centerへのアクセス。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	Students are giving assignments which require thought and participation both in-class and at-home. 学生は、クラス内と自宅の両方で考え、参加する必要がある課題を出しています。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	Native English speaker who reflects cultural & social experiences. ネイティブスピーカーによる授業で、英会話を自分の持つ文化や社会経験を反映させながら指導することができる
質問への対応方法	Students are encouraged to ask questions anytime during class. 授業中はいつでも質問してください。 Students may contact the teacher directly by email. 皆さんは、メールで直接先生に連絡することができます。
フィードバックの方法	In-class tests are corrected during the same class. 授業中のテストは、同じ授業中に添削します。 Online homework grading is available immediately upon completion. 宿題の採点は、終了後すぐにオンライン上で行われます。 Students may redo online homework to improve their grades. 生徒はオンライン宿題をやり直し、成績を向上させることができます
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	Students should prepare for class, review and complete homework at least 2 hours a week outside of class. 授業以外の時間に週2時間以上、授業の予習、復習、宿題をこなすこと。
使用言語	英語
SDGs 17の目標(1~10)	<p>10. 人や国の不平等をなくそう</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>5. ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>8. 働きがいも経済成長も</p> <p>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標(11~17)	<p>11. 住み続けられるまちづくりを</p> <p>16. 平和と公正をすべての人に</p> <p>17. パートナリーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p> <p>4. 構想力</p>



PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>4. 感情制御力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>
----------------	--

開講科目名 Course	英語コミュニケーション(再)(1) / English Communication
時間割コード Course Code	12161
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	クレイトン ロバート
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	クレイトン ロバート (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	The goal of this course is to improve your ability to communicate in English. このコースの目的は、英語によるコミュニケーション能力を向上させることです。 All classes will be completed in class and weekly activities will include listening, speaking, reading and writing skill practice. 対面授業の形態で毎週のアクティビティには、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングスキルの練習が含まれます。 Students are required to prepare before each class by studying the textbook. 生徒は各授業の前に教科書を勉強して準備する必要があります。 Students are encouraged to ask questions both during class and after class.[All classes are taught in English.] 生徒は授業中または授業後に質問をすることができます。
評価方法	Tests (50%) + attendance & participation (25%) + online homework (25%). テスト (50%)、出席・参加 (25%)、オンライン宿題 (25%)。 Arriving late and leaving early will be counted as 1/2 of 1 absence. 遅刻・早退は欠席の2分の1回分とします。 Students who are absent 5 or more times will not earn credit. 5回以上の欠席は失格とします。 Students who do not take the final exam will not earn credit. 期末試験を受けないと失格となります。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	Students must accomplish the minimum goal to obtain a passing grade C. C (合格) となるためには、到達目標を最低限達成することが必要である。

授業計画	<p>Week 01 : Course introduction and class registration - コース概要とクラス登録</p> <p>Week 02 : Unit 01 - Greeting - 挨拶</p> <p>Week 03 : Unit 02 - Personal information - 個人情報</p> <p>Week 04 : Unit 03 - Friends and family - 友人と家族</p> <p>Week 05 : TEST Units 01-03 - テスト ユニット1 - 3</p> <p>Week 06 : Unit 04 - Possessions - 所有物</p> <p>Week 07 : Unit 05 - Interests - 興味</p> <p>Week 08 : Unit 06 - Lifestyles - ライフスタイル</p> <p>Week 09 : TEST Units 04-06 - テスト ユニット4 - 6</p> <p>Week 10 : Unit 07 - Home - ホーム</p> <p>Week 11 : Unit 08 - Daily routines - 日課</p> <p>Week 12 : Unit 09 - Leisure - レジャー</p> <p>Week 13 : Unit 10 - Sports - スポーツ</p> <p>Week 14 : Unit 11 - Food - 食品</p> <p>Week 15 : Unit 12 - Vacations - 休暇</p> <p>試験 : TEST Units 07 - 12 - テスト ユニット 7 - 120</p>
テキスト	Breakthrough Plus 2nd Edition Intro SB - ブレークスルー・プラス セカンド イントロ ISBN 978-1-3800-0328-7
参考書	Handouts and access to Digital Student's Book and Student's Resource Center. 配布資料、Digital Student's BookとStudent's Resource Centerへのアクセス。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	Students are giving assignments which require thought and participation both in-class and at-home. 学生は、クラス内と自宅の両方で考え、参加する必要がある課題を出しています。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	Native English speaker who reflects cultural & social experiences. ネイティブスピーカーによる授業で、英会話を自分の持つ文化や社会経験を反映させながら指導することができる
質問への対応方法	Students are encouraged to ask questions anytime during class. 授業中はいつでも質問してください。 Students may contact the teacher directly by email. 皆さんは、メールで直接先生に連絡することができます。
フィードバックの方法	In-class tests are corrected during the same class. 授業中のテストは、同じ授業中に添削します。 Online homework grading is available immediately upon completion. 宿題の採点は、終了後すぐにオンライン上で行われます。 Students may redo online homework to improve their grades. 生徒はオンライン宿題をやり直し、成績を向上させることができます
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	Students should prepare for class, review and complete homework at least 2 hours a week outside of class. 授業以外の時間に週2時間以上、授業の予習、復習、宿題をこなすこと。
使用言語	英語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11~17)	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力

PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>4. 感情制御力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>
----------------	--

開講科目名 Course	英語コミュニケーション(2) / English Communication
時間割コード Course Code	12170
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	クレイトン ロバート
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	クレイトン ロバート (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	The goal of this course is to improve your ability to communicate in English. このコースの目的は、英語によるコミュニケーション能力を向上させることです。 All classes will be completed in class and weekly activities will include listening, speaking, reading and writing skill practice. 対面授業の形態で毎週のアクティビティには、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングスキルの練習が含まれます。 Students are required to prepare before each class by studying the textbook. 生徒は各授業の前に教科書を勉強して準備する必要があります。 Students are encouraged to ask questions both during class and after class.[All classes are taught in English.] 生徒は授業中または授業後に質問をすることができます。
評価方法	Tests (50%) + attendance & participation (25%) + online homework (25%). テスト (50%)、出席・参加 (25%)、オンライン宿題 (25%)。 Arriving late and leaving early will be counted as 1/2 of 1 absence. 遅刻・早退は欠席の2分の1回分とします。 Students who are absent 5 or more times will not earn credit. 5回以上の欠席は失格とします。 Students who do not take the final exam will not earn credit. 期末試験を受けないと失格となります。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	Students must accomplish the minimum goal to obtain a passing grade C. C (合格) となるためには、到達目標を最低限達成することが必要である。

授業計画	<p>Week 01 : Course introduction and class registration - コース概要とクラス登録</p> <p>Week 02 : Unit 01 - Greeting - 挨拶</p> <p>Week 03 : Unit 02 - Personal information - 個人情報</p> <p>Week 04 : Unit 03 - Friends and family - 友人と家族</p> <p>Week 05 : TEST Units 01-03 - テスト ユニット1 - 3</p> <p>Week 06 : Unit 04 - Possessions - 所有物</p> <p>Week 07 : Unit 05 - Interests - 興味</p> <p>Week 08 : Unit 06 - Lifestyles - ライフスタイル</p> <p>Week 09 : TEST Units 04-06 - テスト ユニット4 - 6</p> <p>Week 10 : Unit 07 - Home - ホーム</p> <p>Week 11 : Unit 08 - Daily routines - 日課</p> <p>Week 12 : Unit 09 - Leisure - レジャー</p> <p>Week 13 : Unit 10 - Sports - スポーツ</p> <p>Week 14 : Unit 11 - Food - 食品</p> <p>Week 15 : Unit 12 - Vacations - 休暇</p> <p>試験 : TEST Units 07 - 12 - テスト ユニット 7 - 120</p>
テキスト	Breakthrough Plus 2nd Edition Intro SB - ブレークスルー・プラス セカンド イントロ ISBN 978-1-3800-0328-7
参考書	Handouts and access to Digital Student's Book and Student's Resource Center. 配布資料、Digital Student's BookとStudent's Resource Centerへのアクセス。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	Students are giving assignments which require thought and participation both in-class and at-home. 学生は、クラス内と自宅の両方で考え、参加する必要がある課題を出しています。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	Native English speaker who reflects cultural & social experiences. ネイティブスピーカーによる授業で、英会話を自分の持つ文化や社会経験を反映させながら指導することができる
質問への対応方法	Students are encouraged to ask questions anytime during class. 授業中はいつでも質問してください。 Students may contact the teacher directly by email. 皆さんは、メールで直接先生に連絡することができます。
フィードバックの方法	In-class tests are corrected during the same class. 授業中のテストは、同じ授業中に添削します。 Online homework grading is available immediately upon completion. 宿題の採点は、終了後すぐにオンライン上で行われます。 Students may redo online homework to improve their grades. 生徒はオンライン宿題をやり直し、成績を向上させることができます
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	Students should prepare for class, review and complete homework at least 2 hours a week outside of class. 授業以外の時間に週2時間以上、授業の予習、復習、宿題をこなすこと。
使用言語	英語
SDGs 17の目標 (1~10)	<p>10. 人や国の不平等をなくそう</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>5. ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>8. 働きがいも経済成長も</p> <p>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標 (11~17)	<p>11. 住み続けられるまちづくりを</p> <p>16. 平和と公正をすべての人に</p> <p>17. パートナリーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p> <p>4. 構想力</p>

PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>4. 感情制御力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>
----------------	--

開講科目名 Course	英語コミュニケーション(再)(2) / English Communication
時間割コード Course Code	12171
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	クレイトン ロバート
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	クレイトン ロバート (経済学部)
授業の目標	<p>日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。</p>
授業の概要	<p>The goal of this course is to improve your ability to communicate in English. このコースの目的は、英語によるコミュニケーション能力を向上させることです。 All classes will be completed in class and weekly activities will include listening, speaking, reading and writing skill practice. 対面授業の形態で毎週のアクティビティには、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングスキルの練習が含まれます。 Students are required to prepare before each class by studying the textbook. 生徒は各授業の前に教科書を勉強して準備する必要があります。 Students are encouraged to ask questions both during class and after class. [All classes are taught in English.] 生徒は授業中または授業後に質問をすることができます。</p>
評価方法	<p>Tests (50%) + attendance &amp; participation (25%) + online homework (25%). テスト (50%)、出席・参加 (25%)、オンライン宿題 (25%)。 Arriving late and leaving early will be counted as 1/2 of 1 absence. 遅刻・早退は欠席の2分の1回分とします。 Students who are absent 5 or more times will not earn credit. 5回以上の欠席は失格とします。 Students who do not take the final exam will not earn credit. 期末試験を受けないと失格となります。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	Students must accomplish the minimum goal to obtain a passing grade C. C (合格) となるためには、到達目標を最低限達成することが必要である。



授業計画	<p>Week 01 : Course introduction and class registration - コース概要とクラス登録</p> <p>Week 02 : Unit 01 - Greeting - 挨拶</p> <p>Week 03 : Unit 02 - Personal information - 個人情報</p> <p>Week 04 : Unit 03 - Friends and family - 友人と家族</p> <p>Week 05 : TEST Units 01-03 - テスト ユニット1 - 3</p> <p>Week 06 : Unit 04 - Possessions - 所有物</p> <p>Week 07 : Unit 05 - Interests - 興味</p> <p>Week 08 : Unit 06 - Lifestyles - ライフスタイル</p> <p>Week 09 : TEST Units 04-06 - テスト ユニット4 - 6</p> <p>Week 10 : Unit 07 - Home - ホーム</p> <p>Week 11 : Unit 08 - Daily routines - 日課</p> <p>Week 12 : Unit 09 - Leisure - レジャー</p> <p>Week 13 : Unit 10 - Sports - スポーツ</p> <p>Week 14 : Unit 11 - Food - 食品</p> <p>Week 15 : Unit 12 - Vacations - 休暇</p> <p>試験 : TEST Units 07 - 12 - テスト ユニット 7 - 120</p>
テキスト	Breakthrough Plus 2nd Edition Intro SB - ブレークスルー・プラス セカンド イントロ ISBN 978-1-3800-0328-7
参考書	Handouts and access to Digital Student's Book and Student's Resource Center. 配布資料、Digital Student's BookとStudent's Resource Centerへのアクセス。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	Students are giving assignments which require thought and participation both in-class and at-home. 学生は、クラス内と自宅の両方で考え、参加する必要がある課題を出しています。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	Native English speaker who reflects cultural & social experiences. ネイティブスピーカーによる授業で、英会話を自分の持つ文化や社会経験を反映させながら指導することができる
質問への対応方法	Students are encouraged to ask questions anytime during class. 授業中はいつでも質問してください。 Students may contact the teacher directly by email. 皆さんは、メールで直接先生に連絡することができます。
フィードバックの方法	In-class tests are corrected during the same class. 授業中のテストは、同じ授業中に添削します。 Online homework grading is available immediately upon completion. 宿題の採点は、終了後すぐにオンライン上で行われます。 Students may redo online homework to improve their grades. 生徒はオンライン宿題をやり直し、成績を向上させることができます
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	Students should prepare for class, review and complete homework at least 2 hours a week outside of class. 授業以外の時間に週2時間以上、授業の予習、復習、宿題をこなすこと。
使用言語	英語
SDGs 17の目標(1~10)	<p>10. 人や国の不平等をなくそう</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>5. ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>8. 働きがいも経済成長も</p> <p>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標(11~17)	<p>11. 住み続けられるまちづくりを</p> <p>16. 平和と公正をすべての人に</p> <p>17. パートナリーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p> <p>4. 構想力</p>

PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>4. 感情制御力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>
----------------	--

開講科目名 Course	英語コミュニケーション(3) / English Communication
時間割コード Course Code	12180
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	ハールス ジョシュア
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ハールス ジョシュア (経済学部)
授業の目標	<p>日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。</p>
授業の概要	<p>This course offers students a foundation course that aims to build-up your vocabulary on a variety of common topics, as well as introduces common grammar patterns and functions that will help you to practice and increase your confidence to express yourself in English. By focusing on self-expression you will soon discover where your gaps are in your vocabulary and grammar, and with support from your own research, your peers and your instructor, you will be able to fill those gaps and feel a sense of achievement and increase you motivation. Classes begin with an exploration of the vocabulary and sentence patterns, as well as practicing pronunciation and intonation patterns. Students will then make use of Q&amp;A / Survey type activities to have conversations with many class members. This repetition will allow for better language acquisition and allow students to get-to-know one another and make new friends and strengthen relationships.</p>
評価方法	<p>参加度 40%</p> <p>Midterm Test 30%</p> <p>Final Test 30%</p> <p>Group and individual feedback will be given.</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。</p> <p>2. 学務課との相談の上決定する。</p> <p>改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent from more than 5 classes without appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.</p>

授業計画	<p>1回 Learning a New Language "Target: Express your motivations, goal and opinions about learning English Vocabulary/Grammar Points: Country Adjectives, Adverbs of Frequency, Opinion Phrases"</p> <p>2回 Tell Me about Yourself "Target: Express your favorite things and why you like them Vocabulary/Grammar Points: Gerunds and Occupations"</p> <p>3回 Daily Routines "Target: Express your routines and daily activities Vocabulary/Grammar Points: Daily Activities and Adverbs of Frequency"</p> <p>4回 Food "Target: Express your eating habits Vocabulary/Grammar Points: Fruits and Vegetables"</p> <p>5回 Are you health conscious? "Target: Express your opinions about being healthy Vocabulary/Grammar Points: Expressions for Giving Advice"</p> <p>6回 Sickness "Target: Express your experiences with feeling sick Vocabulary/Grammar Points: Expressions to use when visiting the hospital, Present Perfect"</p> <p>7回 1st Review Quiz and Activity</p> <p>8回 Japan "Target: Express your feelings, stories and opinions about Japan Vocabulary/Grammar: Seasons and Numbers, Comparatives and Superlatives"</p> <p>9回 Hobbies and free time "Target: Express what you like to do in your free time Vocabulary/Grammar: Follow Up Questions"</p> <p>10回 Personality "Target: Express your character and tendencies about yourself and others Vocabulary/Grammar: Positive and Negative Adjectives "</p> <p>11回 Weather "Target: Express your feelings about different kinds of weather Vocabulary/Grammar: Weather Nouns and Adjectives"</p> <p>12回 Pets "Target: Express your animal likes and dislikes Vocabulary/Grammar: Nouns and Adjectives to Describe Animals, Expressions for Giving Opinions"</p> <p>13回 Chocolate "Target: Express your experiences and opinions about chocolate Vocabulary/Grammar: Review of Gerunds, Present Perfect and Adverbs of Frequency, Expressions for Giving Opinions"</p> <p>14回 Vacations "Target: Express your plans for your summer or spring vacation Vocabulary/Grammar: Future Forms"</p> <p>15回 2nd Review Quiz and Activity</p>
テキスト	<p>Get Talking by Ayumi Iwata ISBN: 978-4-9909172-3-4 出版社：株式会社ステライノベーションズ Stella Innovations Co., Ltd</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語

SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Learning a New Language	"Target: Express your motivations, goal and opinions about learning English Vocabulary/Grammar Points: Country Adjectives, Adverbs of Frequency, Opinion Phrases"	
2	Tell Me about Yourself	"Target: Express your favorite things and why you like them Vocabulary/Grammar Points: Gerunds and Occupations"	
3	Daily Routines	"Target: Express your routines and daily activities Vocabulary/Grammar Points: Daily Activities and Adverbs of Frequency"	
4	Food	"Target: Express your eating habits Vocabulary/Grammar Points: Fruits and Vegetables"	
5	Are you health conscious?	"Target: Express your opinions about being healthy Vocabulary/Grammar Points: Expressions for Giving Advice"	
6	Sickness	"Target: Express your experiences with feeling sick Vocabulary/Grammar Points: Expressions to use when visiting the hospital, Present Perfect"	
7	1st Review Quiz and Activity		
8	Japan	"Target: Express your feelings, stories and opinions about Japan Vocabulary/Grammar: Seasons and Numbers, Comparatives and Superlatives"	
9	Hobbies and free time	"Target: Express what you like to do in your free time Vocabulary/Grammar: Follow Up Questions"	
10	Personality	"Target: Express your character and tendencies about yourself and others Vocabulary/Grammar: Positive and Negative Adjectives "	
11	Weather	"Target: Express your feelings about different kinds of weather Vocabulary/Grammar: Weather Nouns and Adjectives"	
12	Pets	"Target: Express your animal likes and dislikes Vocabulary/Grammar: Nouns and Adjectives to Describe Animals, Expressions for Giving Opinions"	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
13	Chocolate	"Target: Express your experiences and opinions about chocolate Vocabulary/Grammar: Review of Gerunds, Present Perfect and Adverbs of Frequency, Expressions for Giving Opinions"	
14	Vacations	"Target: Express your plans for your summer or spring vacation Vocabulary/Grammar: Future Forms"	
15	2nd Review Quiz and Activity		

開講科目名 Course	英語コミュニケーション(再)(3) / English Communication
時間割コード Course Code	12181
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	ハールス ジョシュア
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ハールス ジョシュア (経済学部)
授業の目標	<p>日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。</p>
授業の概要	<p>This course offers students a foundation course that aims to build-up your vocabulary on a variety of common topics, as well as introduces common grammar patterns and functions that will help you to practice and increase your confidence to express yourself in English. By focusing on self-expression you will soon discover where your gaps are in your vocabulary and grammar, and with support from your own research, your peers and your instructor, you will be able to fill those gaps and feel a sense of achievement and increase you motivation. Classes begin with an exploration of the vocabulary and sentence patterns, as well as practicing pronunciation and intonation patterns. Students will then make use of Q&amp;A / Survey type activities to have conversations with many class members. This repetition will allow for better language acquisition and allow students to get-to-know one another and make new friends and strengthen relationships.</p>
評価方法	<p>参加度 40%</p> <p>Midterm Test 30%</p> <p>Final Test 30%</p> <p>Group and individual feedback will be given.</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1 . 教員と面談する。</p> <p>2 . 学務課との相談の上決定する。</p> <p>改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent from more than 5 classes without appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.</p>



授業計画	<p>1回 Learning a New Language "Target: Express your motivations, goal and opinions about learning English Vocabulary/Grammar Points: Country Adjectives, Adverbs of Frequency, Opinion Phrases"</p> <p>2回 Tell Me about Yourself "Target: Express your favorite things and why you like them Vocabulary/Grammar Points: Gerunds and Occupations"</p> <p>3回 Daily Routines "Target: Express your routines and daily activities Vocabulary/Grammar Points: Daily Activities and Adverbs of Frequency"</p> <p>4回 Food "Target: Express your eating habits Vocabulary/Grammar Points: Fruits and Vegetables"</p> <p>5回 Are you health conscious? "Target: Express your opinions about being healthy Vocabulary/Grammar Points: Expressions for Giving Advice"</p> <p>6回 Sickness "Target: Express your experiences with feeling sick Vocabulary/Grammar Points: Expressions to use when visiting the hospital, Present Perfect"</p> <p>7回 1st Review Quiz and Activity</p> <p>8回 Japan "Target: Express your feelings, stories and opinions about Japan Vocabulary/Grammar: Seasons and Numbers, Comparatives and Superlatives"</p> <p>9回 Hobbies and free time "Target: Express what you like to do in your free time Vocabulary/Grammar: Follow Up Questions"</p> <p>10回 Personality "Target: Express your character and tendencies about yourself and others Vocabulary/Grammar: Positive and Negative Adjectives "</p> <p>11回 Weather "Target: Express your feelings about different kinds of weather Vocabulary/Grammar: Weather Nouns and Adjectives"</p> <p>12回 Pets "Target: Express your animal likes and dislikes Vocabulary/Grammar: Nouns and Adjectives to Describe Animals, Expressions for Giving Opinions"</p> <p>13回 Chocolate "Target: Express your experiences and opinions about chocolate Vocabulary/Grammar: Review of Gerunds, Present Perfect and Adverbs of Frequency, Expressions for Giving Opinions"</p> <p>14回 Vacations "Target: Express your plans for your summer or spring vacation Vocabulary/Grammar: Future Forms"</p> <p>15回 2nd Review Quiz and Activity</p>
テキスト	<p>Get Talking by Ayumi Iwata ISBN: 978-4-9909172-3-4 出版社：株式会社ステライノベーションズ Stella Innovations Co., Ltd</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語

SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Learning a New Language	"Target: Express your motivations, goal and opinions about learning English Vocabulary/Grammar Points: Country Adjectives, Adverbs of Frequency, Opinion Phrases"	
2	Tell Me about Yourself	"Target: Express your favorite things and why you like them Vocabulary/Grammar Points: Gerunds and Occupations"	
3	Daily Routines	"Target: Express your routines and daily activities Vocabulary/Grammar Points: Daily Activities and Adverbs of Frequency"	
4	Food	"Target: Express your eating habits Vocabulary/Grammar Points: Fruits and Vegetables"	
5	Are you health conscious?	"Target: Express your opinions about being healthy Vocabulary/Grammar Points: Expressions for Giving Advice"	
6	Sickness	"Target: Express your experiences with feeling sick Vocabulary/Grammar Points: Expressions to use when visiting the hospital, Present Perfect"	
7	1st Review Quiz and Activity		
8	Japan	"Target: Express your feelings, stories and opinions about Japan Vocabulary/Grammar: Seasons and Numbers, Comparatives and Superlatives"	
9	Hobbies and free time	"Target: Express what you like to do in your free time Vocabulary/Grammar: Follow Up Questions"	
10	Personality	"Target: Express your character and tendencies about yourself and others Vocabulary/Grammar: Positive and Negative Adjectives "	
11	Weather	"Target: Express your feelings about different kinds of weather Vocabulary/Grammar: Weather Nouns and Adjectives"	
12	Pets	"Target: Express your animal likes and dislikes Vocabulary/Grammar: Nouns and Adjectives to Describe Animals, Expressions for Giving Opinions"	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
13	Chocolate	"Target: Express your experiences and opinions about chocolate Vocabulary/Grammar: Review of Gerunds, Present Perfect and Adverbs of Frequency, Expressions for Giving Opinions"	
14	Vacations	"Target: Express your plans for your summer or spring vacation Vocabulary/Grammar: Future Forms"	
15	2nd Review Quiz and Activity		

開講科目名 Course	英語コミュニケーション(4) / English Communication
時間割コード Course Code	12190
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	クレイトン ロバート
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	クレイトン ロバート (経済学部)
授業の目標	<p>日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。</p>
授業の概要	<p>The goal of this course is to improve your ability to communicate in English. このコースの目的は、英語によるコミュニケーション能力を向上させることです。 All classes will be completed in class and weekly activities will include listening, speaking, reading and writing skill practice. 対面授業の形態で毎週のアクティビティには、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングスキルの練習が含まれます。 Students are required to prepare before each class by studying the textbook. 生徒は各授業の前に教科書を勉強して準備する必要があります。 Students are encouraged to ask questions both during class and after class. [All classes are taught in English.] 生徒は授業中または授業後に質問をすることができます。</p>
評価方法	<p>Tests (50%) + attendance &amp; participation (25%) + online homework (25%). テスト (50%)、出席・参加 (25%)、オンライン宿題 (25%)。 Arriving late and leaving early will be counted as 1/2 of 1 absence. 遅刻・早退は欠席の2分の1回分とします。 Students who are absent 5 or more times will not earn credit. 5回以上の欠席は失格とします。 Students who do not take the final exam will not earn credit. 期末試験を受けないと失格となります。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	Students must accomplish the minimum goal to obtain a passing grade C. C (合格) となるためには、到達目標を最低限達成することが必要である。

授業計画	<p>Week 01 : Course introduction and class registration - コース概要とクラス登録</p> <p>Week 02 : Unit 01 - Greeting - 挨拶</p> <p>Week 03 : Unit 02 - Personal information - 個人情報</p> <p>Week 04 : Unit 03 - Friends and family - 友人と家族</p> <p>Week 05 : TEST Units 01-03 - テスト ユニット1 - 3</p> <p>Week 06 : Unit 04 - Possessions - 所有物</p> <p>Week 07 : Unit 05 - Interests - 興味</p> <p>Week 08 : Unit 06 - Lifestyles - ライフスタイル</p> <p>Week 09 : TEST Units 04-06 - テスト ユニット4 - 6</p> <p>Week 10 : Unit 07 - Home - ホーム</p> <p>Week 11 : Unit 08 - Daily routines - 日課</p> <p>Week 12 : Unit 09 - Leisure - レジャー</p> <p>Week 13 : Unit 10 - Sports - スポーツ</p> <p>Week 14 : Unit 11 - Food - 食品</p> <p>Week 15 : Unit 12 - Vacations - 休暇</p> <p>試験 : TEST Units 07 - 12 - テスト ユニット 7 - 120</p>
テキスト	Breakthrough Plus 2nd Edition Intro SB - ブレークスルー・プラス セカンド イントロ ISBN 978-1-3800-0328-7
参考書	Handouts and access to Digital Student's Book and Student's Resource Center. 配布資料、Digital Student's BookとStudent's Resource Centerへのアクセス。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	Students are giving assignments which require thought and participation both in-class and at-home. 学生は、クラス内と自宅の両方で考え、参加する必要がある課題を出しています。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	Native English speaker who reflects cultural & social experiences. ネイティブスピーカーによる授業で、英会話を自分の持つ文化や社会経験を反映させながら指導することができる
質問への対応方法	Students are encouraged to ask questions anytime during class. 授業中はいつでも質問してください。 Students may contact the teacher directly by email. 皆さんは、メールで直接先生に連絡することができます。
フィードバックの方法	In-class tests are corrected during the same class. 授業中のテストは、同じ授業中に添削します。 Online homework grading is available immediately upon completion. 宿題の採点は、終了後すぐにオンライン上で行われます。 Students may redo online homework to improve their grades. 生徒はオンライン宿題をやり直し、成績を向上させることができます
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	Students should prepare for class, review and complete homework at least 2 hours a week outside of class. 授業以外の時間に週2時間以上、授業の予習、復習、宿題をこなすこと。
使用言語	英語
SDGs 17の目標 (1~10)	<p>10. 人や国の不平等をなくそう</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>5. ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>8. 働きがいも経済成長も</p> <p>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標 (11~17)	<p>11. 住み続けられるまちづくりを</p> <p>16. 平和と公正をすべての人に</p> <p>17. パートナリシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p> <p>4. 構想力</p>

PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>4. 感情制御力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>
----------------	--

開講科目名 Course	英語コミュニケーション(再)(4) / English Communication
時間割コード Course Code	12191
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	クレイトン ロバート
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	クレイトン ロバート (経済学部)
授業の目標	<p>日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。</p>
授業の概要	<p>The goal of this course is to improve your ability to communicate in English. このコースの目的は、英語によるコミュニケーション能力を向上させることです。 All classes will be completed in class and weekly activities will include listening, speaking, reading and writing skill practice. 対面授業の形態で毎週のアクティビティには、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングスキルの練習が含まれます。 Students are required to prepare before each class by studying the textbook. 生徒は各授業の前に教科書を勉強して準備する必要があります。 Students are encouraged to ask questions both during class and after class. [All classes are taught in English.] 生徒は授業中または授業後に質問をすることができます。</p>
評価方法	<p>Tests (50%) + attendance &amp; participation (25%) + online homework (25%). テスト (50%)、出席・参加 (25%)、オンライン宿題 (25%)。 Arriving late and leaving early will be counted as 1/2 of 1 absence. 遅刻・早退は欠席の2分の1回分とします。 Students who are absent 5 or more times will not earn credit. 5回以上の欠席は失格とします。 Students who do not take the final exam will not earn credit. 期末試験を受けないと失格となります。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	Students must accomplish the minimum goal to obtain a passing grade C. C (合格) となるためには、到達目標を最低限達成することが必要である。



授業計画	<p>Week 01 : Course introduction and class registration - コース概要とクラス登録</p> <p>Week 02 : Unit 01 - Greeting - 挨拶</p> <p>Week 03 : Unit 02 - Personal information - 個人情報</p> <p>Week 04 : Unit 03 - Friends and family - 友人と家族</p> <p>Week 05 : TEST Units 01-03 - テスト ユニット1 - 3</p> <p>Week 06 : Unit 04 - Possessions - 所有物</p> <p>Week 07 : Unit 05 - Interests - 興味</p> <p>Week 08 : Unit 06 - Lifestyles - ライフスタイル</p> <p>Week 09 : TEST Units 04-06 - テスト ユニット4 - 6</p> <p>Week 10 : Unit 07 - Home - ホーム</p> <p>Week 11 : Unit 08 - Daily routines - 日課</p> <p>Week 12 : Unit 09 - Leisure - レジャー</p> <p>Week 13 : Unit 10 - Sports - スポーツ</p> <p>Week 14 : Unit 11 - Food - 食品</p> <p>Week 15 : Unit 12 - Vacations - 休暇</p> <p>試験 : TEST Units 07 - 12 - テスト ユニット 7 - 120</p>
テキスト	Breakthrough Plus 2nd Edition Intro SB - ブレークスルー・プラス セカンド イントロ ISBN 978-1-3800-0328-7
参考書	Handouts and access to Digital Student's Book and Student's Resource Center. 配布資料、Digital Student's BookとStudent's Resource Centerへのアクセス。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	Students are giving assignments which require thought and participation both in-class and at-home. 学生は、クラス内と自宅の両方で考え、参加する必要がある課題を出しています。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	Native English speaker who reflects cultural & social experiences. ネイティブスピーカーによる授業で、英会話を自分の持つ文化や社会経験を反映させながら指導することができる
質問への対応方法	Students are encouraged to ask questions anytime during class. 授業中はいつでも質問してください。 Students may contact the teacher directly by email. 皆さんは、メールで直接先生に連絡することができます。
フィードバックの方法	In-class tests are corrected during the same class. 授業中のテストは、同じ授業中に添削します。 Online homework grading is available immediately upon completion. 宿題の採点は、終了後すぐにオンライン上で行われます。 Students may redo online homework to improve their grades. 生徒はオンライン宿題をやり直し、成績を向上させることができます
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	Students should prepare for class, review and complete homework at least 2 hours a week outside of class. 授業以外の時間に週2時間以上、授業の予習、復習、宿題をこなすこと。
使用言語	英語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11~17)	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力

PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>4. 感情制御力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>
----------------	--

開講科目名 Course	英語コミュニケーション(5) / English Communication
時間割コード Course Code	12200
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	クレイトン ロバート
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	クレイトン ロバート (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	The goal of this course is to improve your ability to communicate in English. このコースの目的は、英語によるコミュニケーション能力を向上させることです。 All classes will be completed in class and weekly activities will include listening, speaking, reading and writing skill practice. 対面授業の形態で毎週のアクティビティには、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングスキルの練習が含まれます。 Students are required to prepare before each class by studying the textbook. 生徒は各授業の前に教科書を勉強して準備する必要があります。 Students are encouraged to ask questions both during class and after class.[All classes are taught in English.] 生徒は授業中または授業後に質問をすることができます。
評価方法	Tests (50%) + attendance & participation (25%) + online homework (25%). テスト (50%)、出席・参加 (25%)、オンライン宿題 (25%)。 Arriving late and leaving early will be counted as 1/2 of 1 absence. 遅刻・早退は欠席の2分の1回分とします。 Students who are absent 5 or more times will not earn credit. 5回以上の欠席は失格とします。 Students who do not take the final exam will not earn credit. 期末試験を受けないと失格となります。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	Students must accomplish the minimum goal to obtain a passing grade C. C (合格) となるためには、到達目標を最低限達成することが必要である。

授業計画	<p>Week 01 : Course introduction and class registration - コース概要とクラス登録</p> <p>Week 02 : Unit 01 - Greeting - 挨拶</p> <p>Week 03 : Unit 02 - Personal information - 個人情報</p> <p>Week 04 : Unit 03 - Friends and family - 友人と家族</p> <p>Week 05 : TEST Units 01-03 - テスト ユニット1 - 3</p> <p>Week 06 : Unit 04 - Possessions - 所有物</p> <p>Week 07 : Unit 05 - Interests - 興味</p> <p>Week 08 : Unit 06 - Lifestyles - ライフスタイル</p> <p>Week 09 : TEST Units 04-06 - テスト ユニット4 - 6</p> <p>Week 10 : Unit 07 - Home - ホーム</p> <p>Week 11 : Unit 08 - Daily routines - 日課</p> <p>Week 12 : Unit 09 - Leisure - レジャー</p> <p>Week 13 : Unit 10 - Sports - スポーツ</p> <p>Week 14 : Unit 11 - Food - 食品</p> <p>Week 15 : Unit 12 - Vacations - 休暇</p> <p>試験 : TEST Units 07 - 12 - テスト ユニット 7 - 120</p>
テキスト	Breakthrough Plus 2nd Edition Intro SB - ブレークスルー・プラス セカンド イントロ ISBN 978-1-3800-0328-7
参考書	Handouts and access to Digital Student's Book and Student's Resource Center. 配布資料、Digital Student's BookとStudent's Resource Centerへのアクセス。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	Students are giving assignments which require thought and participation both in-class and at-home. 学生は、クラス内と自宅の両方で考え、参加する必要がある課題を出しています。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	Native English speaker who reflects cultural & social experiences. ネイティブスピーカーによる授業で、英会話を自分の持つ文化や社会経験を反映させながら指導することができる
質問への対応方法	Students are encouraged to ask questions anytime during class. 授業中はいつでも質問してください。 Students may contact the teacher directly by email. 皆さんは、メールで直接先生に連絡することができます。
フィードバックの方法	In-class tests are corrected during the same class. 授業中のテストは、同じ授業中に添削します。 Online homework grading is available immediately upon completion. 宿題の採点は、終了後すぐにオンライン上で行われます。 Students may redo online homework to improve their grades. 生徒はオンライン宿題をやり直し、成績を向上させることができます
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	Students should prepare for class, review and complete homework at least 2 hours a week outside of class. 授業以外の時間に週2時間以上、授業の予習、復習、宿題をこなすこと。
使用言語	英語
SDGs 17の目標(1~10)	<p>10. 人や国の不平等をなくそう</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>5. ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>8. 働きがいも経済成長も</p> <p>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標(11~17)	<p>11. 住み続けられるまちづくりを</p> <p>16. 平和と公正をすべての人に</p> <p>17. パートナリシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p> <p>4. 構想力</p>

PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>4. 感情制御力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>
----------------	--

開講科目名 Course	英語コミュニケーション(再)(5) / English Communication
時間割コード Course Code	12201
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	クレイトン ロバート
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	クレイトン ロバート (経済学部)
授業の目標	<p>日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。</p>
授業の概要	<p>The goal of this course is to improve your ability to communicate in English. このコースの目的は、英語によるコミュニケーション能力を向上させることです。 All classes will be completed in class and weekly activities will include listening, speaking, reading and writing skill practice. 対面授業の形態で毎週のアクティビティには、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングスキルの練習が含まれます。 Students are required to prepare before each class by studying the textbook. 生徒は各授業の前に教科書を勉強して準備する必要があります。 Students are encouraged to ask questions both during class and after class. [All classes are taught in English.] 生徒は授業中または授業後に質問をすることができます。</p>
評価方法	<p>Tests (50%) + attendance &amp; participation (25%) + online homework (25%). テスト (50%)、出席・参加 (25%)、オンライン宿題 (25%)。 Arriving late and leaving early will be counted as 1/2 of 1 absence. 遅刻・早退は欠席の2分の1回分とします。 Students who are absent 5 or more times will not earn credit. 5回以上の欠席は失格とします。 Students who do not take the final exam will not earn credit. 期末試験を受けないと失格となります。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	Students must accomplish the minimum goal to obtain a passing grade C. C (合格) となるためには、到達目標を最低限達成することが必要である。

授業計画	<p>Week 01 : Course introduction and class registration - コース概要とクラス登録</p> <p>Week 02 : Unit 01 - Greeting - 挨拶</p> <p>Week 03 : Unit 02 - Personal information - 個人情報</p> <p>Week 04 : Unit 03 - Friends and family - 友人と家族</p> <p>Week 05 : TEST Units 01-03 - テスト ユニット1 - 3</p> <p>Week 06 : Unit 04 - Possessions - 所有物</p> <p>Week 07 : Unit 05 - Interests - 興味</p> <p>Week 08 : Unit 06 - Lifestyles - ライフスタイル</p> <p>Week 09 : TEST Units 04-06 - テスト ユニット4 - 6</p> <p>Week 10 : Unit 07 - Home - ホーム</p> <p>Week 11 : Unit 08 - Daily routines - 日課</p> <p>Week 12 : Unit 09 - Leisure - レジャー</p> <p>Week 13 : Unit 10 - Sports - スポーツ</p> <p>Week 14 : Unit 11 - Food - 食品</p> <p>Week 15 : Unit 12 - Vacations - 休暇</p> <p>試験 : TEST Units 07 - 12 - テスト ユニット 7 - 120</p>
テキスト	Breakthrough Plus 2nd Edition Intro SB - ブレークスルー・プラス セカンド イントロ ISBN 978-1-3800-0328-7
参考書	Handouts and access to Digital Student's Book and Student's Resource Center. 配布資料、Digital Student's BookとStudent's Resource Centerへのアクセス。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	Students are giving assignments which require thought and participation both in-class and at-home. 学生は、クラス内と自宅の両方で考え、参加する必要がある課題を出しています。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	Native English speaker who reflects cultural & social experiences. ネイティブスピーカーによる授業で、英会話を自分の持つ文化や社会経験を反映させながら指導することができる
質問への対応方法	Students are encouraged to ask questions anytime during class. 授業中はいつでも質問してください。 Students may contact the teacher directly by email. 皆さんは、メールで直接先生に連絡することができます。
フィードバックの方法	In-class tests are corrected during the same class. 授業中のテストは、同じ授業中に添削します。 Online homework grading is available immediately upon completion. 宿題の採点は、終了後すぐにオンライン上で行われます。 Students may redo online homework to improve their grades. 生徒はオンライン宿題をやり直し、成績を向上させることができます
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	Students should prepare for class, review and complete homework at least 2 hours a week outside of class. 授業以外の時間に週2時間以上、授業の予習、復習、宿題をこなすこと。
使用言語	英語
SDGs 17の目標 (1~10)	<p>10. 人や国の不平等をなくそう</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>5. ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>8. 働きがいも経済成長も</p> <p>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標 (11~17)	<p>11. 住み続けられるまちづくりを</p> <p>16. 平和と公正をすべての人に</p> <p>17. パートナリーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p> <p>4. 構想力</p>

PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>4. 感情制御力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>
----------------	--



開講科目名 Course	英語コミュニケーション(6) / English Communication
時間割コード Course Code	12210
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	ハールス ジョシュア
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ハールス ジョシュア (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students a foundation course that aims to build-up your vocabulary on a variety of common topics, as well as introduces common grammar patterns and functions that will help you to practice and increase your confidence to express yourself in English. By focusing on self-expression you will soon discover where your gaps are in your vocabulary and grammar, and with support from your own research, your peers and your instructor, you will be able to fill those gaps and feel a sense of achievement and increase you motivation. Classes begin with an exploration of the vocabulary and sentence patterns, as well as practicing pronunciation and intonation patterns. Students will then make use of Q&A / Survey type activities to have conversations with many class members. This repetition will allow for better language acquisition and allow students to get-to-know one another and make new friends and strengthen relationships.
評価方法	参加度 40% Midterm Test 30% Final Test 30%  Group and individual feedback will be given.
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent from more than 5 classes without appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.

授業計画	<p>1回 Learning a New Language "Target: Express your motivations, goal and opinions about learning English Vocabulary/Grammar Points: Country Adjectives, Adverbs of Frequency, Opinion Phrases"</p> <p>2回 Tell Me about Yourself "Target: Express your favorite things and why you like them Vocabulary/Grammar Points: Gerunds and Occupations"</p> <p>3回 Daily Routines "Target: Express your routines and daily activities Vocabulary/Grammar Points: Daily Activities and Adverbs of Frequency"</p> <p>4回 Food "Target: Express your eating habits Vocabulary/Grammar Points: Fruits and Vegetables"</p> <p>5回 Are you health conscious? "Target: Express your opinions about being healthy Vocabulary/Grammar Points: Expressions for Giving Advice"</p> <p>6回 Sickness "Target: Express your experiences with feeling sick Vocabulary/Grammar Points: Expressions to use when visiting the hospital, Present Perfect"</p> <p>7回 1st Review Quiz and Activity</p> <p>8回 Japan "Target: Express your feelings, stories and opinions about Japan Vocabulary/Grammar: Seasons and Numbers, Comparatives and Superlatives"</p> <p>9回 Hobbies and free time "Target: Express what you like to do in your free time Vocabulary/Grammar: Follow Up Questions"</p> <p>10回 Personality "Target: Express your character and tendencies about yourself and others Vocabulary/Grammar: Positive and Negative Adjectives "</p> <p>11回 Weather "Target: Express your feelings about different kinds of weather Vocabulary/Grammar: Weather Nouns and Adjectives"</p> <p>12回 Pets "Target: Express your animal likes and dislikes Vocabulary/Grammar: Nouns and Adjectives to Describe Animals, Expressions for Giving Opinions"</p> <p>13回 Chocolate "Target: Express your experiences and opinions about chocolate Vocabulary/Grammar: Review of Gerunds, Present Perfect and Adverbs of Frequency, Expressions for Giving Opinions"</p> <p>14回 Vacations "Target: Express your plans for your summer or spring vacation Vocabulary/Grammar: Future Forms"</p> <p>15回 2nd Review Quiz and Activity</p>
テキスト	<p>Get Talking by Ayumi Iwata ISBN: 978-4-9909172-3-4 出版社：株式会社ステライノベーションズ Stella Innovations Co., Ltd</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語

SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Learning a New Language	"Target: Express your motivations, goal and opinions about learning English Vocabulary/Grammar Points: Country Adjectives, Adverbs of Frequency, Opinion Phrases"	
2	Tell Me about Yourself	"Target: Express your favorite things and why you like them Vocabulary/Grammar Points: Gerunds and Occupations"	
3	Daily Routines	"Target: Express your routines and daily activities Vocabulary/Grammar Points: Daily Activities and Adverbs of Frequency"	
4	Food	"Target: Express your eating habits Vocabulary/Grammar Points: Fruits and Vegetables"	
5	Are you health conscious?	"Target: Express your opinions about being healthy Vocabulary/Grammar Points: Expressions for Giving Advice"	
6	Sickness	"Target: Express your experiences with feeling sick Vocabulary/Grammar Points: Expressions to use when visiting the hospital, Present Perfect"	
7	1st Review Quiz and Activity		
8	Japan	"Target: Express your feelings, stories and opinions about Japan Vocabulary/Grammar: Seasons and Numbers, Comparatives and Superlatives"	
9	Hobbies and free time	"Target: Express what you like to do in your free time Vocabulary/Grammar: Follow Up Questions"	
10	Personality	"Target: Express your character and tendencies about yourself and others Vocabulary/Grammar: Positive and Negative Adjectives "	
11	Weather	"Target: Express your feelings about different kinds of weather Vocabulary/Grammar: Weather Nouns and Adjectives"	
12	Pets	"Target: Express your animal likes and dislikes Vocabulary/Grammar: Nouns and Adjectives to Describe Animals, Expressions for Giving Opinions"	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
13	Chocolate	"Target: Express your experiences and opinions about chocolate Vocabulary/Grammar: Review of Gerunds, Present Perfect and Adverbs of Frequency, Expressions for Giving Opinions"	
14	Vacations	"Target: Express your plans for your summer or spring vacation Vocabulary/Grammar: Future Forms"	
15	2nd Review Quiz and Activity		

開講科目名 Course	英語コミュニケーション(再)(6) / English Communication
時間割コード Course Code	12211
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	ハールス ジョシュア
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ハールス ジョシュア (経済学部)
授業の目標	<p>日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。</p>
授業の概要	<p>This course offers students a foundation course that aims to build-up your vocabulary on a variety of common topics, as well as introduces common grammar patterns and functions that will help you to practice and increase your confidence to express yourself in English. By focusing on self-expression you will soon discover where your gaps are in your vocabulary and grammar, and with support from your own research, your peers and your instructor, you will be able to fill those gaps and feel a sense of achievement and increase you motivation. Classes begin with an exploration of the vocabulary and sentence patterns, as well as practicing pronunciation and intonation patterns. Students will then make use of Q&amp;A / Survey type activities to have conversations with many class members. This repetition will allow for better language acquisition and allow students to get-to-know one another and make new friends and strengthen relationships.</p>
評価方法	<p>参加度 40%</p> <p>Midterm Test 30%</p> <p>Final Test 30%</p> <p>Group and individual feedback will be given.</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1 . 教員と面談する。</p> <p>2 . 学務課との相談の上決定する。</p> <p>改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent from more than 5 classes without appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.</p>

授業計画	<p>1回 Learning a New Language "Target: Express your motivations, goal and opinions about learning English Vocabulary/Grammar Points: Country Adjectives, Adverbs of Frequency, Opinion Phrases"</p> <p>2回 Tell Me about Yourself "Target: Express your favorite things and why you like them Vocabulary/Grammar Points: Gerunds and Occupations"</p> <p>3回 Daily Routines "Target: Express your routines and daily activities Vocabulary/Grammar Points: Daily Activities and Adverbs of Frequency"</p> <p>4回 Food "Target: Express your eating habits Vocabulary/Grammar Points: Fruits and Vegetables"</p> <p>5回 Are you health conscious? "Target: Express your opinions about being healthy Vocabulary/Grammar Points: Expressions for Giving Advice"</p> <p>6回 Sickness "Target: Express your experiences with feeling sick Vocabulary/Grammar Points: Expressions to use when visiting the hospital, Present Perfect"</p> <p>7回 1st Review Quiz and Activity</p> <p>8回 Japan "Target: Express your feelings, stories and opinions about Japan Vocabulary/Grammar: Seasons and Numbers, Comparatives and Superlatives"</p> <p>9回 Hobbies and free time "Target: Express what you like to do in your free time Vocabulary/Grammar: Follow Up Questions"</p> <p>10回 Personality "Target: Express your character and tendencies about yourself and others Vocabulary/Grammar: Positive and Negative Adjectives "</p> <p>11回 Weather "Target: Express your feelings about different kinds of weather Vocabulary/Grammar: Weather Nouns and Adjectives"</p> <p>12回 Pets "Target: Express your animal likes and dislikes Vocabulary/Grammar: Nouns and Adjectives to Describe Animals, Expressions for Giving Opinions"</p> <p>13回 Chocolate "Target: Express your experiences and opinions about chocolate Vocabulary/Grammar: Review of Gerunds, Present Perfect and Adverbs of Frequency, Expressions for Giving Opinions"</p> <p>14回 Vacations "Target: Express your plans for your summer or spring vacation Vocabulary/Grammar: Future Forms"</p> <p>15回 2nd Review Quiz and Activity</p>
テキスト	<p>Get Talking by Ayumi Iwata ISBN: 978-4-9909172-3-4 出版社：株式会社ステライノベーションズ Stella Innovations Co., Ltd</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語

SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Learning a New Language	"Target: Express your motivations, goal and opinions about learning English Vocabulary/Grammar Points: Country Adjectives, Adverbs of Frequency, Opinion Phrases"	
2	Tell Me about Yourself	"Target: Express your favorite things and why you like them Vocabulary/Grammar Points: Gerunds and Occupations"	
3	Daily Routines	"Target: Express your routines and daily activities Vocabulary/Grammar Points: Daily Activities and Adverbs of Frequency"	
4	Food	"Target: Express your eating habits Vocabulary/Grammar Points: Fruits and Vegetables"	
5	Are you health conscious?	"Target: Express your opinions about being healthy Vocabulary/Grammar Points: Expressions for Giving Advice"	
6	Sickness	"Target: Express your experiences with feeling sick Vocabulary/Grammar Points: Expressions to use when visiting the hospital, Present Perfect"	
7	1st Review Quiz and Activity		
8	Japan	"Target: Express your feelings, stories and opinions about Japan Vocabulary/Grammar: Seasons and Numbers, Comparatives and Superlatives"	
9	Hobbies and free time	"Target: Express what you like to do in your free time Vocabulary/Grammar: Follow Up Questions"	
10	Personality	"Target: Express your character and tendencies about yourself and others Vocabulary/Grammar: Positive and Negative Adjectives "	
11	Weather	"Target: Express your feelings about different kinds of weather Vocabulary/Grammar: Weather Nouns and Adjectives"	
12	Pets	"Target: Express your animal likes and dislikes Vocabulary/Grammar: Nouns and Adjectives to Describe Animals, Expressions for Giving Opinions"	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
13	Chocolate	"Target: Express your experiences and opinions about chocolate Vocabulary/Grammar: Review of Gerunds, Present Perfect and Adverbs of Frequency, Expressions for Giving Opinions"	
14	Vacations	"Target: Express your plans for your summer or spring vacation Vocabulary/Grammar: Future Forms"	
15	2nd Review Quiz and Activity		

開講科目名 Course	(管栄)英語コミュニケーション(A) / English Communication
時間割コード Course Code	12240
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	サーヴィッチ エイドリアン
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	1 4 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	サーヴィッチ エイドリアン (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 40% Midterm Review 30% Final Review 30%
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent more than 5 times without an appropriate and documented reason will be unable to pass this course.

授業計画	1回 Unit 1: Comparatives 2回 Unit2: Superlatives 3回 Unit 3: Adjectives and Adverbs 4回 Unit4: Uncountable Nouns 5回 Unit 5: Modifying Adjectives and Nouns too/too much/ 6回 Unit 6: Present Perfect - experiences 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回 Unit7: Present Perfect - recent events and news 10回 Unit 8: Modals - have to, don't have to/ must/mustn't 11回 Unit 9: Used to [with conjunctions] 12回 Unit 10: Verbs with two objects 13回 Unit 11: First conditionals 14回 Unit 12: Modal verbs and adverbs of possibility 15回 Unit 13: Review
テキスト	Get Started 2 ISBN 978-4-9909172-5-8 Nicholas Yaxley and Justin Fung Published by Stella Innovations
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Comparatives  Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Superlatives  Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Adjectives and adverbs  Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	Uncountable nouns  Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Modifying Adjectives and nouns - too much  Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Present perfect: Experiences  Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Present perfect - recent events and news  Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Modals - Have to/Don't have not/Must/Mustn't  Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Used to (with conjunctions)  Homework will be assigned by the instructor.	
12	Unit 10	Verbs with 2 objects  Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	First Conditionals  Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Modal Verbs: Adverbs of Possibility  Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	(管栄)英語コミュニケーション(B) / English Communication
時間割コード Course Code	12241
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	ヤクセリー ニコラス
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	1 4 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ヤクセリー ニコラス (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 40% Midterm Review 30% Final Review 30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent more than 5 times without an appropriate and documented reason will be unable to pass this course.

授業計画	1回 Unit 1: Comparatives 2回 Unit2: Superlatives 3回 Unit 3: Adjectives and Adverbs 4回 Unit4: Uncountable Nouns 5回 Unit 5: Modifying Adjectives and Nouns too/too much/ 6回 Unit 6: Present Perfect - experiences 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回 Unit7: Present Perfect - recent events and news 10回 Unit 8: Modals - have to, don't have to/ must/mustn't 11回 Unit 9: Used to [with conjunctions] 12回 Unit 10: Verbs with two objects 13回 Unit 11: First conditionals 14回 Unit 12: Modal verbs and adverbs of possibility 15回 Unit 13: Review
テキスト	Get Started 2 ISBN 978-4-9909172-5-8 Nicholas Yaxley and Justin Fung Published by Stella Innovations
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Comparatives  Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Superlatives  Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Adjectives and adverbs  Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	Uncountable nouns  Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Modifying Adjectives and nouns - too much  Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Present perfect: Experiences  Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Present perfect - recent events and news  Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Modals - Have to/Don't have not/Must/Mustn't  Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Used to (with conjunctions)  Homework will be assigned by the instructor.	
12	Unit 10	Verbs with 2 objects  Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	First Conditionals  Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Modal Verbs: Adverbs of Possibility  Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review	



開講科目名 Course	(教保)英語コミュニケーション(A) / English Communication
時間割コード Course Code	12242
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	サーヴィッチ エイドリアン
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	1 4 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	サーヴィッチ エイドリアン (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 40% Midterm Review 30% Final Review 30%
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent more than 5 times without an appropriate and documented reason will be unable to pass this course.

授業計画	1回 Unit 1: Comparatives 2回 Unit2: Superlatives 3回 Unit 3: Adjectives and Adverbs 4回 Unit4: Uncountable Nouns 5回 Unit 5: Modifying Adjectives and Nouns too/too much/ 6回 Unit 6: Present Perfect - experiences 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回 Unit7: Present Perfect - recent events and news 10回 Unit 8: Modals - have to, don't have to/ must/mustn't 11回 Unit 9: Used to [with conjunctions] 12回 Unit 10: Verbs with two objects 13回 Unit 11: First conditionals 14回 Unit 12: Modal verbs and adverbs of possibility 15回 Unit 13: Review
テキスト	Get Started 2 ISBN 978-4-9909172-5-8 Nicholas Yaxley and Justin Fung Published by Stella Innovations
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Comparatives  Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Superlatives  Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Adjectives and adverbs  Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	Uncountable nouns  Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Modifying Adjectives and nouns - too much  Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Present perfect: Experiences  Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Present perfect - recent events and news  Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Modals - Have to/Don't have not/Must/Mustn't  Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Used to (with conjunctions)  Homework will be assigned by the instructor.	
12	Unit 10	Verbs with 2 objects  Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	First Conditionals  Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Modal Verbs: Adverbs of Possibility  Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	(教保)英語コミュニケーション(B) / English Communication
時間割コード Course Code	12243
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	ヤクセリー ニコラス
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	1 4 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ヤクセリー ニコラス(経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 40% Midterm Review 30% Final Review 30%
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。  Students absent more than 5 times without an appropriate and documented reason will be unable to pass this course.

授業計画	1回 Unit 1: Comparatives 2回 Unit2: Superlatives 3回 Unit 3: Adjectives and Adverbs 4回 Unit4: Uncountable Nouns 5回 Unit 5: Modifying Adjectives and Nouns too/too much/ 6回 Unit 6: Present Perfect - experiences 7回 Review unit 1-6 8回 中間テスト 9回 Unit7: Present Perfect - recent events and news 10回 Unit 8: Modals - have to, don't have to/ must/mustn't 11回 Unit 9: Used to [with conjunctions] 12回 Unit 10: Verbs with two objects 13回 Unit 11: First conditionals 14回 Unit 12: Modal verbs and adverbs of possibility 15回 Unit 13: Review
テキスト	Get Started 2 ISBN 978-4-9909172-5-8 Nicholas Yaxley and Justin Fung Published by Stella Innovations
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Comparatives  Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Superlatives  Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Adjectives and adverbs  Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	Uncountable nouns  Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Modifying Adjectives and nouns - too much  Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Present perfect: Experiences  Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Test	
9	Unit 7	Present perfect - recent events and news  Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Modals - Have to/Don't have not/Must/Mustn't  Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Used to (with conjunctions)  Homework will be assigned by the instructor.	
12	Unit 10	Verbs with 2 objects  Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	First Conditionals  Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Modal Verbs: Adverbs of Possibility  Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review	

開講科目名 Course	中国語入門 / Elementary Chinese I
時間割コード Course Code	12500
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	榊原 真理子
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	70A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	榊原 真理子 (経済学部)
授業の目標	<p>中国語らしい発音ができるようになること。 簡単な会話を覚えて自分で言えるようになること。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 中国語についての基本的な知識を身につける。 中国語の発音の基礎を身につける。 中国語の言葉の組み立て方について理解する。</p> <p>技能の領域 日本語にはない中国語独特の発音を意識して発音することができる。 中国語の言葉の組み立て方のルールに従って作文することができる。 習った会話文の全てを暗誦することができる。</p>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面授業。</li> <li>・中国語の学習をゼロからスタートします。日常で役立つ会話を覚えます。中国語は発音がもっとも大事です。日本語にない発音に気をつけて練習します。そして、文の組み立て方を学びながら、中国語の漢字表記を書いて練習します。</li> <li>・授業は最初に前回の復習をし、前半は発音練習、後半はプリントを使って書き取り練習をします。</li> <li>・プリントを提出してもらい、次回に返却します。</li> <li>・発音も書き取りも、一人一人を丁寧に指導することを心掛けます。</li> <li>・発音のテストを行います。</li> </ul>

評価方法	<p>・受講態度40%（参加度、プリントの状況、練習への取り組みを総合）、書き取りノート10%、テスト50%</p> <p>・4回以上欠席、または、2回連続欠席は失格とします。遅刻・早退は2回で1回欠席とみなします。</p> <p>成績の目安  AA：出席100%、書き取りノート100%達成、テスト正答率90%以上、発音テストで中国語独特の発音を意識しながら丁寧にうまく発音できる。  A：出席100%、書き取りノート100%達成、テスト正答率80%以上、発音テストでまずまず上手に発音できる。  B：欠席1回、書き取りノートある程度達成、テスト正答率70%以上、発音テストでまずまず上手に発音できる。  C：欠席2～3回、書き取りノートある程度達成、テスト正答率60～69%、発音テストでなんとか最後まで発音できる。  D：書き取りノートをほとんど達成していない、テスト正答率59%以下、発音テストできちんと発音できない。  X：欠席4回以上、または、連続2回欠席。  Z：テスト欠席。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	4回以上欠席、または、2回連続欠席は失格とします。 遅刻・早退は2回で1回欠席とみなします。
授業計画	第1回：ガイダンス、発音(1)声調、 第2回：発音(2)母音、ピンイン（中国語の発音記号）、会話(1)挨拶 第3回：発音(3)子音、会話(2)「あなたは～ですね」と褒める 第4回：発音(4)子音、会話と単語の復習 第5回：発音(5)軽声、会話(3)「私は～です」と説明する 第6回：発音(6)子音、会話(4)「どのくらい～ですか？」と質問する 第7回：発音(7)子音、会話(5)「これは～ですか？」と質問する 第8回：前半の復習 第9回：発音(8)子音、会話(6)「とても～だ！」と驚く 第10回：発音(9)子音、会話(7)「（程度・様子）は～です」と説明する 第11回：発音(10)子音、会話(8)「～しましょう」と誘う 第12回：後半の復習 第13回：テスト(1) 第14回：テスト(2) 第15回：今学期のまとめ
テキスト	なし
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問を受けたらその都度対応する。 メールでの質問は、メールまたは授業の前後に対応する。
フィードバックの方法	提出されたプリントについては翌週に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	まずはその週に勉強した内容についてしっかり復習すること。 毎日単語や会話文を声に出して読み、書いて練習してしっかり覚えること。 週に60時間の学習が必要。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	中国語入門 / Elementary Chinese I
時間割コード Course Code	12501
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	榊原 真理子
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	70A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	榊原 真理子 (経済学部)
授業の目標	<p>中国語らしい発音ができるようになること。 簡単な会話を覚えて自分で言えるようになること。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 中国語についての基本的な知識を身につける。 中国語の発音の基礎を身につける。 中国語の言葉の組み立て方について理解する。</p> <p>技能の領域 日本語にはない中国語独特の発音を意識して発音することができる。 中国語の言葉の組み立て方のルールに従って作文することができる。 習った会話文の全てを暗誦することができる。</p>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面授業。</li> <li>・中国語の学習をゼロからスタートします。日常で役立つ会話を覚えます。中国語は発音がもっとも大事です。日本語にない発音に気をつけて練習します。そして、文の組み立て方を学びながら、中国語の漢字表記を書いて練習します。</li> <li>・授業は最初に前回の復習をし、前半は発音練習、後半はプリントを使って書き取り練習をします。</li> <li>・プリントを提出してもらい、次回に返却します。</li> <li>・発音も書き取りも、一人一人を丁寧に指導することを心掛けます。</li> <li>・発音のテストを行います。</li> </ul>

評価方法	<p>・受講態度40%（参加度、プリントの状況、練習への取り組みを総合）、書き取りノート10%、テスト50%</p> <p>・4回以上欠席、または、2回連続欠席は失格とします。遅刻・早退は2回で1回欠席とみなします。</p> <p>成績の目安  AA：出席100%、書き取りノート100%達成、テスト正答率90%以上、発音テストで中国語独特の発音を意識しながら丁寧にうまく発音できる。  A：出席100%、書き取りノート100%達成、テスト正答率80%以上、発音テストでまずまず上手に発音できる。  B：欠席1回、書き取りノートある程度達成、テスト正答率70%以上、発音テストでまずまず上手に発音できる。  C：欠席2～3回、書き取りノートある程度達成、テスト正答率60～69%、発音テストでなんとか最後まで発音できる。  D：書き取りノートをほとんど達成していない、テスト正答率59%以下、発音テストできちんと発音できない。  X：欠席4回以上、または、連続2回欠席。  Z：テスト欠席。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	4回以上欠席、または、2回連続欠席は失格とします。 遅刻・早退は2回で1回欠席とみなします。
授業計画	第1回：ガイダンス、発音(1)声調、 第2回：発音(2)母音、ピンイン（中国語の発音記号）、会話(1)挨拶 第3回：発音(3)子音、会話(2)「あなたは～ですね」と褒める 第4回：発音(4)子音、会話と単語の復習 第5回：発音(5)軽声、会話(3)「私は～です」と説明する 第6回：発音(6)子音、会話(4)「どのくらい～ですか？」と質問する 第7回：発音(7)子音、会話(5)「これは～ですか？」と質問する 第8回：前半の復習 第9回：発音(8)子音、会話(6)「とても～だ！」と驚く 第10回：発音(9)子音、会話(7)「（程度・様子）は～です」と説明する 第11回：発音(10)子音、会話(8)「～しましょう」と誘う 第12回：後半の復習 第13回：テスト(1) 第14回：テスト(2) 第15回：今学期のまとめ
テキスト	なし
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問を受けたらその都度対応する。 メールでの質問は、メールまたは授業の前後に対応する。
フィードバックの方法	提出されたプリントについては翌週に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	まずはその週に勉強した内容についてしっかり復習すること。 毎日単語や会話文を声に出して読み、書いて練習してしっかり覚えること。 週に60時間の学習が必要。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	中国語入門 / Elementary Chinese I
時間割コード Course Code	12502
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	榊原 真理子
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	70A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	榊原 真理子 (経済学部)
授業の目標	<p>中国語らしい発音ができるようになること。 簡単な会話を覚えて自分で言えるようになること。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 中国語についての基本的な知識を身につける。 中国語の発音の基礎を身につける。 中国語の言葉の組み立て方について理解する。</p> <p>技能の領域 日本語にはない中国語独特の発音を意識して発音することができる。 中国語の言葉の組み立て方のルールに従って作文することができる。 習った会話文の全てを暗誦することができる。</p>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面授業。</li> <li>・中国語の学習をゼロからスタートします。日常で役立つ会話を覚えます。中国語は発音がもっとも大事です。日本語にない発音に気をつけて練習します。そして、文の組み立て方を学びながら、中国語の漢字表記を書いて練習します。</li> <li>・授業は最初に前回の復習をし、前半は発音練習、後半はプリントを使って書き取り練習をします。</li> <li>・プリントを提出してもらい、次回に返却します。</li> <li>・発音も書き取りも、一人一人を丁寧に指導することを心掛けます。</li> <li>・発音のテストを行います。</li> </ul>

評価方法	<p>・受講態度40%（参加度、プリントの状況、練習への取り組みを総合）、書き取りノート10%、テスト50%</p> <p>・4回以上欠席、または、2回連続欠席は失格とします。遅刻・早退は2回で1回欠席とみなします。</p> <p>成績の目安  AA：出席100%、書き取りノート100%達成、テスト正答率90%以上、発音テストで中国語独特の発音を意識しながら丁寧にうまく発音できる。  A：出席100%、書き取りノート100%達成、テスト正答率80%以上、発音テストでまずまず上手に発音できる。  B：欠席1回、書き取りノートある程度達成、テスト正答率70%以上、発音テストでまずまず上手に発音できる。  C：欠席2～3回、書き取りノートある程度達成、テスト正答率60～69%、発音テストでなんとか最後まで発音できる。  D：書き取りノートをほとんど達成していない、テスト正答率59%以下、発音テストできちんと発音できない。  X：欠席4回以上、または、連続2回欠席。  Z：テスト欠席。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	4回以上欠席、または、2回連続欠席は失格とします。 遅刻・早退は2回で1回欠席とみなします。
授業計画	第1回：ガイダンス、発音(1)声調、 第2回：発音(2)母音、ピンイン（中国語の発音記号）、会話(1)挨拶 第3回：発音(3)子音、会話(2)「あなたは～ですね」と褒める 第4回：発音(4)子音、会話と単語の復習 第5回：発音(5)軽声、会話(3)「私は～です」と説明する 第6回：発音(6)子音、会話(4)「どのくらい～ですか？」と質問する 第7回：発音(7)子音、会話(5)「これは～ですか？」と質問する 第8回：前半の復習 第9回：発音(8)子音、会話(6)「とても～だ！」と驚く 第10回：発音(9)子音、会話(7)「（程度・様子）は～です」と説明する 第11回：発音(10)子音、会話(8)「～しましょう」と誘う 第12回：後半の復習 第13回：テスト(1) 第14回：テスト(2) 第15回：今学期のまとめ
テキスト	なし
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問を受けたらその都度対応する。 メールでの質問は、メールまたは授業の前後に対応する。
フィードバックの方法	提出されたプリントについては翌週に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	まずはその週に勉強した内容についてしっかり復習すること。 毎日単語や会話文を声に出して読み、書いて練習してしっかり覚えること。 週に60時間の学習が必要。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	中国語入門 / Elementary Chinese I
時間割コード Course Code	12503
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	榊原 真理子
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	70A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	榊原 真理子 (経済学部)
授業の目標	<p>中国語らしい発音ができるようになること。 簡単な会話を覚えて自分で言えるようになること。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 中国語についての基本的な知識を身につける。 中国語の発音の基礎を身につける。 中国語の言葉の組み立て方について理解する。</p> <p>技能の領域 日本語にはない中国語独特の発音を意識して発音することができる。 中国語の言葉の組み立て方のルールに従って作文することができる。 習った会話文の全てを暗誦することができる。</p>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面授業。</li> <li>・中国語の学習をゼロからスタートします。日常で役立つ会話を覚えます。中国語は発音がもっとも大事です。日本語にない発音に気をつけて練習します。そして、文の組み立て方を学びながら、中国語の漢字表記を書いて練習します。</li> <li>・授業は最初に前回の復習をし、前半は発音練習、後半はプリントを使って書き取り練習をします。</li> <li>・プリントを提出してもらい、次回に返却します。</li> <li>・発音も書き取りも、一人一人を丁寧に指導することを心掛けます。</li> <li>・発音のテストを行います。</li> </ul>

評価方法	<p>・受講態度40%（参加度、プリントの状況、練習への取り組みを総合）、書き取りノート10%、テスト50%</p> <p>・4回以上欠席、または、2回連続欠席は失格とします。遅刻・早退は2回で1回欠席とみなします。</p> <p>成績の目安  AA：出席100%、書き取りノート100%達成、テスト正答率90%以上、発音テストで中国語独特の発音を意識しながら丁寧にうまく発音できる。  A：出席100%、書き取りノート100%達成、テスト正答率80%以上、発音テストでまずまず上手に発音できる。  B：欠席1回、書き取りノートある程度達成、テスト正答率70%以上、発音テストでまずまず上手に発音できる。  C：欠席2～3回、書き取りノートある程度達成、テスト正答率60～69%、発音テストでなんとか最後まで発音できる。  D：書き取りノートをほとんど達成していない、テスト正答率59%以下、発音テストできちんと発音できない。  X：欠席4回以上、または、連続2回欠席。  Z：テスト欠席。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	4回以上欠席、または、2回連続欠席は失格とします。 遅刻・早退は2回で1回欠席とみなします。
授業計画	第1回：ガイダンス、発音(1)声調、 第2回：発音(2)母音、ピンイン（中国語の発音記号）、会話(1)挨拶 第3回：発音(3)子音、会話(2)「あなたは～ですね」と褒める 第4回：発音(4)子音、会話と単語の復習 第5回：発音(5)軽声、会話(3)「私は～です」と説明する 第6回：発音(6)子音、会話(4)「どのくらい～ですか？」と質問する 第7回：発音(7)子音、会話(5)「これは～ですか？」と質問する 第8回：前半の復習 第9回：発音(8)子音、会話(6)「とても～だ！」と驚く 第10回：発音(9)子音、会話(7)「（程度・様子）は～です」と説明する 第11回：発音(10)子音、会話(8)「～しましょう」と誘う 第12回：後半の復習 第13回：テスト(1) 第14回：テスト(2) 第15回：今学期のまとめ
テキスト	なし
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問を受けたらその都度対応する。 メールでの質問は、メールまたは授業の前後に対応する。
フィードバックの方法	提出されたプリントについては翌週に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	まずはその週に勉強した内容についてしっかり復習すること。 毎日単語や会話文を声に出して読み、書いて練習してしっかり覚えること。 週に60時間の学習が必要。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	中国語入門 / Elementary Chinese I
時間割コード Course Code	12504
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	榊原 真理子
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	70A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	榊原 真理子 (経済学部)
授業の目標	<p>中国語らしい発音ができるようになること。 簡単な会話を覚えて自分で言えるようになること。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 中国語についての基本的な知識を身につける。 中国語の発音の基礎を身につける。 中国語の言葉の組み立て方について理解する。</p> <p>技能の領域 日本語にはない中国語独特の発音を意識して発音することができる。 中国語の言葉の組み立て方のルールに従って作文することができる。 習った会話文の全てを暗誦することができる。</p>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面授業。</li> <li>・中国語の学習をゼロからスタートします。日常で役立つ会話を覚えます。中国語は発音がもっとも大事です。日本語にない発音に気をつけて練習します。そして、文の組み立て方を学びながら、中国語の漢字表記を書いて練習します。</li> <li>・授業は最初に前回の復習をし、前半は発音練習、後半はプリントを使って書き取り練習をします。</li> <li>・プリントを提出してもらい、次回に返却します。</li> <li>・発音も書き取りも、一人一人を丁寧に指導することを心掛けます。</li> <li>・発音のテストを行います。</li> </ul>

評価方法	<p>・受講態度40%（参加度、プリントの状況、練習への取り組みを総合）、書き取りノート10%、テスト50%</p> <p>・4回以上欠席、または、2回連続欠席は失格とします。遅刻・早退は2回で1回欠席とみなします。</p> <p>成績の目安  AA：出席100%、書き取りノート100%達成、テスト正答率90%以上、発音テストで中国語独特の発音を意識しながら丁寧にうまく発音できる。  A：出席100%、書き取りノート100%達成、テスト正答率80%以上、発音テストでまずまず上手に発音できる。  B：欠席1回、書き取りノートある程度達成、テスト正答率70%以上、発音テストでまずまず上手に発音できる。  C：欠席2～3回、書き取りノートある程度達成、テスト正答率60～69%、発音テストでなんとか最後まで発音できる。  D：書き取りノートをほとんど達成していない、テスト正答率59%以下、発音テストできちんと発音できない。  X：欠席4回以上、または、連続2回欠席。  Z：テスト欠席。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	4回以上欠席、または、2回連続欠席は失格とします。 遅刻・早退は2回で1回欠席とみなします。
授業計画	第1回：ガイダンス、発音(1)声調、 第2回：発音(2)母音、ピンイン（中国語の発音記号）、会話(1)挨拶 第3回：発音(3)子音、会話(2)「あなたは～ですね」と褒める 第4回：発音(4)子音、会話と単語の復習 第5回：発音(5)軽声、会話(3)「私は～です」と説明する 第6回：発音(6)子音、会話(4)「どのくらい～ですか？」と質問する 第7回：発音(7)子音、会話(5)「これは～ですか？」と質問する 第8回：前半の復習 第9回：発音(8)子音、会話(6)「とても～だ！」と驚く 第10回：発音(9)子音、会話(7)「（程度・様子）は～です」と説明する 第11回：発音(10)子音、会話(8)「～しましょう」と誘う 第12回：後半の復習 第13回：テスト(1) 第14回：テスト(2) 第15回：今学期のまとめ
テキスト	なし
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問を受けたらその都度対応する。 メールでの質問は、メールまたは授業の前後に対応する。
フィードバックの方法	提出されたプリントについては翌週に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	まずはその週に勉強した内容についてしっかり復習すること。 毎日単語や会話文を声に出して読み、書いて練習してしっかり覚えること。 週に60時間の学習が必要。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	中国語入門 / Elementary Chinese I
時間割コード Course Code	12505
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	榊原 真理子
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	70A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	榊原 真理子 (経済学部)
授業の目標	<p>中国語らしい発音ができるようになること。 簡単な会話を覚えて自分で言えるようになること。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 中国語についての基本的な知識を身につける。 中国語の発音の基礎を身につける。 中国語の言葉の組み立て方について理解する。</p> <p>技能の領域 日本語にはない中国語独特の発音を意識して発音することができる。 中国語の言葉の組み立て方のルールに従って作文することができる。 習った会話文の全てを暗誦することができる。</p>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面授業。</li> <li>・中国語の学習をゼロからスタートします。日常で役立つ会話を覚えます。中国語は発音がもっとも大事です。日本語にない発音に気をつけて練習します。そして、文の組み立て方を学びながら、中国語の漢字表記を書いて練習します。</li> <li>・授業は最初に前回の復習をし、前半は発音練習、後半はプリントを使って書き取り練習をします。</li> <li>・プリントを提出してもらい、次回に返却します。</li> <li>・発音も書き取りも、一人一人を丁寧に指導することを心掛けます。</li> <li>・発音のテストを行います。</li> </ul>

評価方法	<p>・受講態度40%（参加度、プリントの状況、練習への取り組みを総合）、書き取りノート10%、テスト50%</p> <p>・4回以上欠席、または、2回連続欠席は失格とします。遅刻・早退は2回で1回欠席とみなします。</p> <p>成績の目安  AA：出席100%、書き取りノート100%達成、テスト正答率90%以上、発音テストで中国語独特の発音を意識しながら丁寧にうまく発音できる。  A：出席100%、書き取りノート100%達成、テスト正答率80%以上、発音テストでまずまず上手に発音できる。  B：欠席1回、書き取りノートある程度達成、テスト正答率70%以上、発音テストでまずまず上手に発音できる。  C：欠席2～3回、書き取りノートある程度達成、テスト正答率60～69%、発音テストでなんとか最後まで発音できる。  D：書き取りノートをほとんど達成していない、テスト正答率59%以下、発音テストできちんと発音できない。  X：欠席4回以上、または、連続2回欠席。  Z：テスト欠席。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	4回以上欠席、または、2回連続欠席は失格とします。 遅刻・早退は2回で1回欠席とみなします。
授業計画	第1回：ガイダンス、発音(1)声調、 第2回：発音(2)母音、ピンイン（中国語の発音記号）、会話(1)挨拶 第3回：発音(3)子音、会話(2)「あなたは～ですね」と褒める 第4回：発音(4)子音、会話と単語の復習 第5回：発音(5)軽声、会話(3)「私は～です」と説明する 第6回：発音(6)子音、会話(4)「どのくらい～ですか？」と質問する 第7回：発音(7)子音、会話(5)「これは～ですか？」と質問する 第8回：前半の復習 第9回：発音(8)子音、会話(6)「とても～だ！」と驚く 第10回：発音(9)子音、会話(7)「（程度・様子）は～です」と説明する 第11回：発音(10)子音、会話(8)「～しましょう」と誘う 第12回：後半の復習 第13回：テスト(1) 第14回：テスト(2) 第15回：今学期のまとめ
テキスト	なし
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問を受けたらその都度対応する。 メールでの質問は、メールまたは授業の前後に対応する。
フィードバックの方法	提出されたプリントについては翌週に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	まずはその週に勉強した内容についてしっかり復習すること。 毎日単語や会話文を声に出して読み、書いて練習してしっかり覚えること。 週に60時間の学習が必要。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	中国語入門 / Elementary Chinese I
時間割コード Course Code	12506
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	榊原 真理子
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	70A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	榊原 真理子 (経済学部)
授業の目標	<p>中国語らしい発音ができるようになること。 簡単な会話を覚えて自分で言えるようになること。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 中国語についての基本的な知識を身につける。 中国語の発音の基礎を身につける。 中国語の言葉の組み立て方について理解する。</p> <p>技能の領域 日本語にはない中国語独特の発音を意識して発音することができる。 中国語の言葉の組み立て方のルールに従って作文することができる。 習った会話文の全てを暗誦することができる。</p>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面授業。</li> <li>・中国語の学習をゼロからスタートします。日常で役立つ会話を覚えます。中国語は発音がもっとも大事です。日本語にない発音に気をつけて練習します。そして、文の組み立て方を学びながら、中国語の漢字表記を書いて練習します。</li> <li>・授業は最初に前回の復習をし、前半は発音練習、後半はプリントを使って書き取り練習をします。</li> <li>・プリントを提出してもらい、次回に返却します。</li> <li>・発音も書き取りも、一人一人を丁寧に指導することを心掛けます。</li> <li>・発音のテストを行います。</li> </ul>

評価方法	<p>・受講態度40%（参加度、プリントの状況、練習への取り組みを総合）、書き取りノート10%、テスト50%</p> <p>・4回以上欠席、または、2回連続欠席は失格とします。遅刻・早退は2回で1回欠席とみなします。</p> <p>成績の目安  AA：出席100%、書き取りノート100%達成、テスト正答率90%以上、発音テストで中国語独特の発音を意識しながら丁寧にうまく発音できる。  A：出席100%、書き取りノート100%達成、テスト正答率80%以上、発音テストでまずまず上手に発音できる。  B：欠席1回、書き取りノートある程度達成、テスト正答率70%以上、発音テストでまずまず上手に発音できる。  C：欠席2～3回、書き取りノートある程度達成、テスト正答率60～69%、発音テストでなんとか最後まで発音できる。  D：書き取りノートをほとんど達成していない、テスト正答率59%以下、発音テストできちんと発音できない。  X：欠席4回以上、または、連続2回欠席。  Z：テスト欠席。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	4回以上欠席、または、2回連続欠席は失格とします。 遅刻・早退は2回で1回欠席とみなします。
授業計画	第1回：ガイダンス、発音(1)声調、 第2回：発音(2)母音、ピンイン（中国語の発音記号）、会話(1)挨拶 第3回：発音(3)子音、会話(2)「あなたは～ですね」と褒める 第4回：発音(4)子音、会話と単語の復習 第5回：発音(5)軽声、会話(3)「私は～です」と説明する 第6回：発音(6)子音、会話(4)「どのくらい～ですか？」と質問する 第7回：発音(7)子音、会話(5)「これは～ですか？」と質問する 第8回：前半の復習 第9回：発音(8)子音、会話(6)「とても～だ！」と驚く 第10回：発音(9)子音、会話(7)「（程度・様子）は～です」と説明する 第11回：発音(10)子音、会話(8)「～しましょう」と誘う 第12回：後半の復習 第13回：テスト(1) 第14回：テスト(2) 第15回：今学期のまとめ
テキスト	なし
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問を受けたらその都度対応する。 メールでの質問は、メールまたは授業の前後に対応する。
フィードバックの方法	提出されたプリントについては翌週に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	まずはその週に勉強した内容についてしっかり復習すること。 毎日単語や会話文を声に出して読み、書いて練習してしっかり覚えること。 週に60時間の学習が必要。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	中国語入門 / Elementary Chinese I
時間割コード Course Code	12507
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	榊原 真理子
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	70A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	榊原 真理子 (経済学部)
授業の目標	<p>中国語らしい発音ができるようになること。 簡単な会話を覚えて自分で言えるようになること。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 中国語についての基本的な知識を身につける。 中国語の発音の基礎を身につける。 中国語の言葉の組み立て方について理解する。</p> <p>技能の領域 日本語にはない中国語独特の発音を意識して発音することができる。 中国語の言葉の組み立て方のルールに従って作文することができる。 習った会話文の全てを暗誦することができる。</p>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面授業。</li> <li>・中国語の学習をゼロからスタートします。日常で役立つ会話を覚えます。中国語は発音がもっとも大事です。日本語にない発音に気をつけて練習します。そして、文の組み立て方を学びながら、中国語の漢字表記を書いて練習します。</li> <li>・授業は最初に前回の復習をし、前半は発音練習、後半はプリントを使って書き取り練習をします。</li> <li>・プリントを提出してもらい、次回に返却します。</li> <li>・発音も書き取りも、一人一人を丁寧に指導することを心掛けます。</li> <li>・発音のテストを行います。</li> </ul>

評価方法	<p>・受講態度40%（参加度、プリントの状況、練習への取り組みを総合）、書き取りノート10%、テスト50%</p> <p>・4回以上欠席、または、2回連続欠席は失格とします。遅刻・早退は2回で1回欠席とみなします。</p> <p>成績の目安  AA：出席100%、書き取りノート100%達成、テスト正答率90%以上、発音テストで中国語独特の発音を意識しながら丁寧にうまく発音できる。  A：出席100%、書き取りノート100%達成、テスト正答率80%以上、発音テストでまずまず上手に発音できる。  B：欠席1回、書き取りノートある程度達成、テスト正答率70%以上、発音テストでまずまず上手に発音できる。  C：欠席2～3回、書き取りノートある程度達成、テスト正答率60～69%、発音テストでなんとか最後まで発音できる。  D：書き取りノートをほとんど達成していない、テスト正答率59%以下、発音テストできちんと発音できない。  X：欠席4回以上、または、連続2回欠席。  Z：テスト欠席。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	4回以上欠席、または、2回連続欠席は失格とします。 遅刻・早退は2回で1回欠席とみなします。
授業計画	第1回：ガイダンス、発音(1)声調、 第2回：発音(2)母音、ピンイン（中国語の発音記号）、会話(1)挨拶 第3回：発音(3)子音、会話(2)「あなたは～ですね」と褒める 第4回：発音(4)子音、会話と単語の復習 第5回：発音(5)軽声、会話(3)「私は～です」と説明する 第6回：発音(6)子音、会話(4)「どのくらい～ですか？」と質問する 第7回：発音(7)子音、会話(5)「これは～ですか？」と質問する 第8回：前半の復習 第9回：発音(8)子音、会話(6)「とても～だ！」と驚く 第10回：発音(9)子音、会話(7)「（程度・様子）は～です」と説明する 第11回：発音(10)子音、会話(8)「～しましょう」と誘う 第12回：後半の復習 第13回：テスト(1) 第14回：テスト(2) 第15回：今学期のまとめ
テキスト	なし
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問を受けたらその都度対応する。 メールでの質問は、メールまたは授業の前後に対応する。
フィードバックの方法	提出されたプリントについては翌週に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	まずはその週に勉強した内容についてしっかり復習すること。 毎日単語や会話文を声に出して読み、書いて練習してしっかり覚えること。 週に60時間の学習が必要。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	中国語初級 / Elementary Chinese II
時間割コード Course Code	12510
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	榊原 真理子
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	70A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	榊原 真理子 (経済学部)
授業の目標	<p>「中国語入門」に引き続いて行います。目標は同じです。「中国語らしい発音ができるようになるう、簡単な会話を覚えて言えるようになるう」です。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国語についての基本的な知識を身につける。</li> <li>・中国語の発音の基礎を身につける。</li> <li>・中国語の言葉の組み立て方について理解する。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語にはない中国語独特の発音を意識して発音することができる。</li> <li>・中国語の言葉の組み立て方のルールに従って作文することができる。</li> <li>・習った会話文の全てを暗誦することができる。</li> </ul>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面授業。</li> <li>・「中国語入門」の単位取得者が対象です。中国文化や中国語に関心があり、引き続き学びたい人の受講を歓迎します。入門の基礎の上に単語や構文の知識を増やし、より発音に慣れるよう練習します。</li> <li>・日常で役立つ会話を覚えます。中国語は発音がもっとも大事です。日本語にない発音に気をつけて練習します。そして、文の組み立て方を学びながら、漢字表記を書いて練習します。</li> <li>・授業は最初に前回の復習をし、前半は発音練習、後半はプリントを使って書き取り練習をします。</li> <li>・プリントを提出してもらい、次回に返却します。</li> <li>・発音も書き取りも、一人一人を丁寧に指導することを心掛けます。</li> <li>・発音のテストを行います。</li> </ul>

評価方法	<p>・受講態度40%（参加度、プリントの状況、練習への取り組みを総合）、書き取りノート10%、テスト50%</p> <p>・4回以上欠席、または、2回連続欠席は失格とします。遅刻・早退は2回で1回欠席とみなします。</p> <p>成績の目安  AA：出席100%、書き取りノート100%達成、テスト正答率90%以上、発音テストで中国語独特の発音を意識しながらていねいにうまく発音できる。  A：出席100%、書き取りノート100%達成、テスト正答率80%以上、発音テストでまずまず上手に発音できる。  B：欠席1回、書き取りノートある程度達成、テスト正答率70%以上、発音テストでまずまず上手に発音できる。  C：欠席2～3回、書き取りノートある程度達成、テスト正答率60～69%、発音テストでなんとか最後まで言うことができる。  D：書き取りノートをほとんど達成していない、テスト正答率59%以下、発音テストできちんと発音できない。  X：欠席4回以上、または、連続2回欠席。  Z：テスト欠席。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	4回以上欠席、または、2回連続欠席は失格とします。 遅刻・早退は2回で1回欠席とみなします。
授業計画	第1回：ガイダンス、発音復習、久しぶりに会ったときの挨拶 第2回：発音復習、「何をしていますか？」疑問文1 第3回：発音復習、「実に～だ！」程度の強調 第4回：発音復習、「仕方がないよ」諦めの表現 第5回：発音復習、「～してみる」動詞 第6回：発音復習、「これは何ですか？」疑問文2 第7回：発音復習、「誰のですか？」疑問文3 第8回：発音復習、「このグループはとて～です」副詞 第9回：発音復習、「土曜日に行きます」曜日の言い方 第10回：発音復習、「一人でいきますか？」疑問文4 第11回：発音復習、「きっと～でしょう？」推量 第12回：発音復習、「もうじき～になる」趨勢 第13回：テスト(1) 第14回：テスト(2) 第15回：今学期のまとめ
テキスト	なし
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問を受けたらその都度対応する。 メールでの質問は、メールまたは授業の前後に対応する。
フィードバックの方法	提出されたプリントについては翌週返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	発音、単語、文法などをしっかり覚えるために60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	中国語初級 / Elementary Chinese II
時間割コード Course Code	12511
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	榊原 真理子
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	70A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	榊原 真理子 (経済学部)
授業の目標	<p>「中国語入門」に引き続いて行います。目標は同じです。「中国語らしい発音ができるようになるう、簡単な会話を覚えて言えるようになるう」です。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国語についての基本的な知識を身につける。</li> <li>・中国語の発音の基礎を身につける。</li> <li>・中国語の言葉の組み立て方について理解する。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語にはない中国語独特の発音を意識して発音することができる。</li> <li>・中国語の言葉の組み立て方のルールに従って作文することができる。</li> <li>・習った会話文の全てを暗誦することができる。</li> </ul>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面授業。</li> <li>・「中国語入門」の単位取得者が対象です。中国文化や中国語に関心があり、引き続き学びたい人の受講を歓迎します。入門の基礎の上に単語や構文の知識を増やし、より発音に慣れるよう練習します。</li> <li>・日常で役立つ会話を覚えます。中国語は発音がもっとも大事です。日本語にない発音に気をつけて練習します。そして、文の組み立て方を学びながら、漢字表記を書いて練習します。</li> <li>・授業は最初に前回の復習をし、前半は発音練習、後半はプリントを使って書き取り練習をします。</li> <li>・プリントを提出してもらい、次回に返却します。</li> <li>・発音も書き取りも、一人一人を丁寧に指導することを心掛けます。</li> <li>・発音のテストを行います。</li> </ul>

評価方法	<p>・受講態度40%（参加度、プリントの状況、練習への取り組みを総合）、書き取りノート10%、テスト50%</p> <p>・4回以上欠席、または、2回連続欠席は失格とします。遅刻・早退は2回で1回欠席とみなします。</p> <p>成績の目安  AA：出席100%、書き取りノート100%達成、テスト正答率90%以上、発音テストで中国語独特の発音を意識しながらていねいにうまく発音できる。  A：出席100%、書き取りノート100%達成、テスト正答率80%以上、発音テストでまずまず上手に発音できる。  B：欠席1回、書き取りノートある程度達成、テスト正答率70%以上、発音テストでまずまず上手に発音できる。  C：欠席2～3回、書き取りノートある程度達成、テスト正答率60～69%、発音テストでなんとか最後まで言うことができる。  D：書き取りノートをほとんど達成していない、テスト正答率59%以下、発音テストできちんと発音できない。  X：欠席4回以上、または、連続2回欠席。  Z：テスト欠席。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	4回以上欠席、または、2回連続欠席は失格とします。 遅刻・早退は2回で1回欠席とみなします。
授業計画	第1回：ガイダンス、発音復習、久しぶりに会ったときの挨拶 第2回：発音復習、「何をしていますか？」疑問文1 第3回：発音復習、「実に～だ！」程度の強調 第4回：発音復習、「仕方がないよ」諦めの表現 第5回：発音復習、「～してみる」動詞 第6回：発音復習、「これは何ですか？」疑問文2 第7回：発音復習、「誰のですか？」疑問文3 第8回：発音復習、「このグループはとて～です」副詞 第9回：発音復習、「土曜日に行きます」曜日の言い方 第10回：発音復習、「一人でいきますか？」疑問文4 第11回：発音復習、「きっと～でしょう？」推量 第12回：発音復習、「もうじき～になる」趨勢 第13回：テスト(1) 第14回：テスト(2) 第15回：今学期のまとめ
テキスト	なし
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問を受けたらその都度対応する。 メールでの質問は、メールまたは授業の前後に対応する。
フィードバックの方法	提出されたプリントについては翌週返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	発音、単語、文法などをしっかり覚えるために60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	中国語中級 / Elementary Chinese III
時間割コード Course Code	12520
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	榊原 真理子
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	70A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	榊原 真理子 (経済学部)
授業の目標	<p>基本的に入門と初級と変わりありません。 中国語らしい発音を身につけ、さらに多くの表現を覚え、少しでもたくさんの中国語が自分の口から出るようにします。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域</p> <p>中国語についての基本的な知識を身につける。 中国語の発音の基礎を身につける。 中国語の言葉の組み立て方について理解する。</p> <p>技能の領域</p> <p>日本語にはない中国語独特の発音を意識して発音することができる。 中国語の言葉の組み立て方のルールに従って作文することができる。 習った会話文の全てを暗誦することができる。</p>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面授業。</li> <li>・「中国語初級」の単位取得者が対象です。中国文化や中国語に関心があり、引き続き学びたい人の受講を歓迎します。初級からレベルアップし、さらに様々な単語や構文を学び、表現の幅を広げます。</li> <li>・日常で役立つ会話を覚えます。中国語は発音がもっとも大事です。日本語にない発音に気をつけて練習します。そして、文の組み立て方を学びながら、漢字表記を書いて練習します。</li> <li>・授業は最初に前回の復習をし、前半は発音練習、後半はプリントを使って書き取り練習をします。</li> <li>・プリントを提出してもらい、次回に返却します。</li> <li>・発音も書き取りも、一人一人を丁寧に指導することを心掛けます。</li> <li>・発音のテストを行います。</li> </ul>

評価方法	<p>・受講態度40%（参加度、プリントの状況、練習への取り組みを総合）、書き取りノート10%、テスト50%</p> <p>・4回以上欠席、または、2回連続欠席は失格とします。遅刻・早退は2回で1回欠席とみなします。</p> <p>成績の目安  AA：出席100%、書き取りノート100%達成、テスト正答率90%以上、発音テストで中国語独特の発音を意識しながらていねいにうまく発音できる。  A：出席100%、書き取りノート100%達成、テスト正答率80%以上、発音テストでまずまず上手に発音できる。  B：欠席1回、書き取りノートある程度達成、テスト正答率70%以上、発音テストでまずまず上手に発音できる。  C：欠席2～3回、書き取りノートある程度達成、テスト正答率60～69%、発音テストでなんとか最後まで言うことができる。  D：書き取りノートをまったく達成していない、テスト正答率59%以下、発音テストできちんと発音できない。  X：欠席4回以上、または、連続2回欠席。  Z：テスト欠席。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	4回以上欠席、または、2回連続欠席は失格とします。 遅刻・早退は2回で1回欠席とみなします。
授業計画	第1回：ガイダンス、「どれが～ですか？」疑問文1 第2回：「辛いですか？」形容詞1 第3回：「～してみると、～です」動詞1と副詞1 第4回：「もう～しないことにします」意思否定 第5回：「～しないなら～しないでいいよ」勝手にしろという表現 第6回：「～はありますか？」疑問文2 第7回：「～がほしいです」助動詞 第8回：「～なら、それでいい」形容詞2 第9回：「全部で～元です」金額の言い方 第10回：「あまりに～だ！」程度の強調 第11回：「～させる」使役 第12回：発音と会話の復習 第13回：テスト(1) 第14回：テスト(2) 第15回：今学期のまとめ
テキスト	なし
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問を受けたらその都度対応する。 メールでの質問は、メールまたは授業の前後に対応する。
フィードバックの方法	提出されたプリントについては翌週に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	発音、単語、文章をしっかり理解し覚えるために、60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	スペイン語入門 / Introductory Spanish
時間割コード Course Code	12530
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	中川 智彦
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中川 智彦 (経済学部)
授業の目標	<p>スペイン語のあいさつ表現や好き嫌い・飲食など日常生活に関する基本的な表現を中心とする会話練習をとおして、初歩的な文法を身に付けながら、自信をもってスペイン語を話せるようになることを目標とする。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域            スペイン語のアルファベットと発音の関係を正確に理解することができる。            母語人口世界第三位〔3億人超(cf. 言語使用者数世界第4位の4億人超)〕のスペイン語を使用する国々〔公用語21の国と地域(cf. ほかに、アメリカ合衆国など多くの使用国あり)〕に共通する文化について理解が深まる。            日本とスペイン語圏との関わり、日系移民や在日ペルー人の存在について理解が深まる。</p> <p>思考判断の領域            混成文化を顕著に体現しているスペイン語圏に触れることで、異文化理解と文化的多様性について考えるきっかけを持つことができる。</p> <p>関心意欲の領域            スペインやラテンアメリカ諸国の多様な文化に関心を持つことができる。</p> <p>技能の領域            スペイン語で簡単なあいさつ、自己紹介ができる。</p> <p>態度・志向性の領域            スペイン語学習をとおして、英語の特異性を認識できることで、英語に対するコンプレックスを減らし、英語の学習意欲の向上につなげられる。            スペイン語を理解することで、在日ペルー人など身近なスペイン語話者とのコミュニケーションを図ることができる。</p>
授業の概要	<p>授業の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリジナル解説プリントに沿って、スペイン語の文字と発音の理路整然とした関係を解説する。</li> <li>2. オリジナルテキストの会話表現をとおして、初歩的な文法を段階的に習得する。</li> <li>3. オリジナルテキストの会話表現や応用表現の発音練習と、一人芝居・ロールプレイをとおして、スペイン語のリズムと音韻を習得する。</li> <li>4. オリジナルテキストで学習する短い表現をいくつか繋ぎ合わせることで、寸劇を作り、暗誦して、発表する。</li> </ol>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加姿勢(一人芝居・ロールプレイ・寸劇[講義冒頭の復習口頭テスト]への取り組み) 30%</li> <li>・中間テスト(一人芝居・ロールプレイ[=講義前半のまとめの口頭テスト]) 40%</li> <li>・期末テスト筆記試験 30%</li> </ul>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	初修外国語の習得・会話中心の授業という性格上、この授業の履修者は、15回の授業すべて無遅刻無欠席を目指すこと。したがって、「何回欠席できる」という発想をする学生は履修登録しないように。 失格基準： 初回から4回目までの授業を、2回以上欠席した[、または出席が3回以上ない]者、出席回数が授業回数の3分の2に満たない者、 中間テストを無断で欠席した者、 第6回授業までの出席率が6割未満の者。
授業計画	授業計画 第一回 インTRODクッションと、オリジナルテキスト(以下、OTとする。)表現1と表現2 1で、基本あいさつの練習+2と2 2で、フォーマルとインフォーマルな自己紹介の聞き方答え方の練習+GoogleClassroom登録作業 第二回 OT表現3と4、2 3と2 4で、フォーマルとインフォーマルな出身地の聞き方答え方の練習 第三回 OT表現5と2 5で、他己紹介の練習と指示詞+ 第四回 OT表現6と7、2 6と2 7で、勉強やアルバイトに関する表現の練習 第五回 OT表現8～10で、ポキャブラリーやスベルを増やす表現とお礼の練習 第六回 OT表現11と3 1で、日常的なあいさつの練習 第七回 中間テスト〔これまでの会話表現の実演(評価)〕 第八回 OT表現12と3 2で、居住地の聞き方答え方の練習 第九回 OT表現13と3 3で、大学の所在と交通手段の聞き方答え方の練習 第十回 OT表現14と3 4で、好き嫌いや趣味の伝え方の練習 第十一回 OT表現19と3 9で、時の経過の伝え方の練習と、数字の学習 第十二回 OT表現20と40で、誕生日の聞き方答え方の練習と、月や曜日の学習 第十三回 OT表現15と3 5で、飲食に関わる表現の練習 第十四回 OT表現16と3 6で、飲物に関わる表現の練習 第十五回 OT表現17と3 7で、食べ物に関わる表現の練習
テキスト	オリジナルテキスト『名古屋経済大学「スペイン語入門」EXPRESSIONES BASICAS 40』 テキストについては、GoogleClassroomの授業資料として掲示する。必ず、教員の指示にしたがって、各回に使用するUnitのpdfをダウンロード・プリントアウトするなどして、授業・自学自習時に手元に置いておけるようにすること。
参考書	『ポケットプログレッシブ 西和・和西辞典』小学館、または、『デイリーコンサイス 西和和辞典』三省堂。 本格的な辞典を希望する学生は、『現代スペイン語辞典』白水社、および、『クラウン和西辞典』三省堂。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業時間中随時、授業後は、GoogleClassroomまたはメールにて対応する。
フィードバックの方法	授業内での発音改良指導、即時講評、次回返却、または、学内向け授業支援システム等を通じて適宜行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	週に4時間(毎日35分)は予習・復習を行うこと。毎講義後4日間(合計約2時間半)は復習を中心として、当該講義時に練習した一人芝居の練習とポキャブラリーの定着を図り、翌週講義の3日前から(合計約1時間半)は次の講義予定範囲の単語調べや単語帳の作成を行いましょ。う。 万が一欠席してしまった回についても、授業計画、Classroomのストリームに掲示される指示や授業内容報告に従い、各自準備をして次の授業に出席すること。テキストについては、欠席した回のUnitのpdfをダウンロード・プリントアウトするなどして、自学自習をしていくこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	スペイン語入門 / Introductory Spanish
時間割コード Course Code	12531
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	中川 智彦
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中川 智彦 (経済学部)
授業の目標	<p>スペイン語のあいさつ表現や好き嫌い・飲食など日常生活に関する基本的な表現を中心とする会話練習をとおして、初歩的な文法を身に付けながら、自信をもってスペイン語を話せるようになることを目標とする。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域          スペイン語のアルファベットと発音の関係を正確に理解することができる。          母語人口世界第三位〔3億人超(cf. 言語使用者数世界第4位の4億人超)〕のスペイン語を使用する国々〔公用語21の国と地域(cf. ほかに、アメリカ合衆国など多くの使用国あり)〕に共通する文化について理解が深まる。          日本とスペイン語圏との関わり、日系移民や在日ペルー人の存在について理解が深まる。</p> <p>思考判断の領域          混成文化を顕著に体現しているスペイン語圏に触れることで、異文化理解と文化的多様性について考えるきっかけを持つことができる。</p> <p>関心意欲の領域          スペインやラテンアメリカ諸国の多様な文化に関心を持つことができる。</p> <p>技能の領域          スペイン語で簡単なあいさつ、自己紹介ができる。</p> <p>態度・志向性の領域          スペイン語学習をとおして、英語の特異性を認識できることで、英語に対するコンプレックスを減らし、英語の学習意欲の向上につなげられる。          スペイン語を理解することで、在日ペルー人など身近なスペイン語話者とのコミュニケーションを図ることができる。</p>
授業の概要	<p>授業の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリジナル解説プリントに沿って、スペイン語の文字と発音の理路整然とした関係を解説する。</li> <li>2. オリジナルテキストの会話表現をとおして、初歩的な文法を段階的に習得する。</li> <li>3. オリジナルテキストの会話表現や応用表現の発音練習と、一人芝居・ロールプレイをとおして、スペイン語のリズムと音韻を習得する。</li> <li>4. オリジナルテキストで学習する短い表現をいくつか繋ぎ合わせることで、寸劇を作り、暗誦して、発表する。</li> </ol>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加姿勢(一人芝居・ロールプレイ・寸劇[講義冒頭の復習口頭テスト]への取り組み) 30%</li> <li>・中間テスト(一人芝居・ロールプレイ[=講義前半のまとめの口頭テスト]) 40%</li> <li>・期末テスト筆記試験 30%</li> </ul>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	初修外国語の習得・会話中心の授業という性格上、この授業の履修者は、15回の授業すべて無遅刻無欠席を目指すこと。したがって、「何回欠席できる」という発想をする学生は履修登録しないように。 失格基準： 初回から4回目までの授業を、2回以上欠席した[、または出席が3回以上ない]者、出席回数が授業回数の3分の2に満たない者、 中間テストを無断で欠席した者、 第6回授業までの出席率が6割未満の者。
授業計画	授業計画 第一回 インTRODクッションと、オリジナルテキスト(以下、OTとする。)表現1と表現2 1で、基本あいさつの練習+2と2 2で、フォーマルとインフォーマルな自己紹介の聞き方答え方の練習+GoogleClassroom登録作業 第二回 OT表現3と4、2 3と2 4で、フォーマルとインフォーマルな出身地の聞き方答え方の練習 第三回 OT表現5と2 5で、他己紹介の練習と指示詞+ 第四回 OT表現6と7、2 6と2 7で、勉強やアルバイトに関する表現の練習 第五回 OT表現8～10で、ポキャブラリーやスベルを増やす表現とお礼の練習 第六回 OT表現11と3 1で、日常的なあいさつの練習 第七回 中間テスト〔これまでの会話表現の実演(評価)〕 第八回 OT表現12と3 2で、居住地の聞き方答え方の練習 第九回 OT表現13と3 3で、大学の所在と交通手段の聞き方答え方の練習 第十回 OT表現14と3 4で、好き嫌いや趣味の伝え方の練習 第十一回 OT表現19と3 9で、時の経過の伝え方の練習と、数字の学習 第十二回 OT表現20と40で、誕生日の聞き方答え方の練習と、月や曜日の学習 第十三回 OT表現15と3 5で、飲食に関わる表現の練習 第十四回 OT表現16と3 6で、飲物に関わる表現の練習 第十五回 OT表現17と3 7で、食べ物に関わる表現の練習
テキスト	オリジナルテキスト『名古屋経済大学「スペイン語入門」EXPRESIONES BASICAS 40』 テキストについては、GoogleClassroomの授業資料として掲示する。
参考書	『ポケットプログレッシブ 西和・和西辞典』小学館、または、『デイリーコンサイズ 西和和西辞典』三省堂。 本格的な辞典を希望する学生は、『現代スペイン語辞典』白水社、および、『クラウン和西辞典』三省堂。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業時間中随時、授業後は、GoogleClassroomまたはメールにて対応する。
フィードバックの方法	授業内での発音改良指導、即時講評、次回返却、または、学内向け授業支援システム等を通じて適宜行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	週に4時間(毎日35分)は予習・復習を行うこと。毎講義後4日間(合計約2時間半)は復習を中心として、当該講義時に練習した一人芝居の練習とポキャブラリーの定着を図り、翌週講義の3日前から(合計約1時間半)は次の講義予定範囲の単語調べや単語帳の作成を行きましょう。 万が一欠席してしまった回についても、授業計画、Classroomのストリームに掲示される指示や授業内容報告に従い、各自準備をして次の授業に出席すること。テキストについては、欠席した回のUnitのpdfをダウンロード・プリントアウトするなどして、自学自習をしていくこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	スペイン語入門 / Introductory Spanish
時間割コード Course Code	12532
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	中川 智彦
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中川 智彦 (経済学部)
授業の目標	<p>スペイン語のあいさつ表現や好き嫌い・飲食など日常生活に関する基本的な表現を中心とする会話練習をとおして、初歩的な文法を身に付けながら、自信をもってスペイン語を話せるようになることを目標とする。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域          スペイン語のアルファベットと発音の関係を正確に理解することができる。          母語人口世界第三位〔3億人超(cf. 言語使用者数世界第4位の4億人超)〕のスペイン語を使用する国々〔公用語21の国と地域(cf. ほかに、アメリカ合衆国など多くの使用国あり)〕に共通する文化について理解が深まる。          日本とスペイン語圏との関わり、日系移民や在日ペルー人の存在について理解が深まる。</p> <p>思考判断の領域          混成文化を顕著に体現しているスペイン語圏に触れることで、異文化理解と文化的多様性について考えるきっかけを持つことができる。</p> <p>関心意欲の領域          スペインやラテンアメリカ諸国の多様な文化に関心を持つことができる。</p> <p>技能の領域          スペイン語で簡単なあいさつ、自己紹介ができる。</p> <p>態度・志向性の領域          スペイン語学習をとおして、英語の特異性を認識できることで、英語に対するコンプレックスを減らし、英語の学習意欲の向上につなげられる。          スペイン語を理解することで、在日ペルー人など身近なスペイン語話者とのコミュニケーションを図ることができる。</p>
授業の概要	<p>授業の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリジナル解説プリントに沿って、スペイン語の文字と発音の理路整然とした関係を解説する。</li> <li>2. オリジナルテキストの会話表現をとおして、初歩的な文法を段階的に習得する。</li> <li>3. オリジナルテキストの会話表現や応用表現の発音練習と、一人芝居・ロールプレイをとおして、スペイン語のリズムと音韻を習得する。</li> <li>4. オリジナルテキストで学習する短い表現をいくつか繋ぎ合わせることで、寸劇を作り、暗誦して、発表する。</li> </ol>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加姿勢(一人芝居・ロールプレイ・寸劇[講義冒頭の復習口頭テスト]への取り組み) 30%</li> <li>・中間テスト(一人芝居・ロールプレイ[=講義前半のまとめの口頭テスト]) 40%</li> <li>・期末テスト筆記試験 30%</li> </ul>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	初修外国語の習得・会話中心の授業という性格上、この授業の履修者は、15回の授業すべて無遅刻無欠席を目指すこと。したがって、「何回欠席できる」という発想をする学生は履修登録しないように。 失格基準：初回から4回目までの授業を、2回以上欠席した[、または出席が3回以上ない]者、出席回数が授業回数の3分の2に満たない者、中間テストを無断で欠席した者、第6回授業までの出席率が6割未満の者。
授業計画	授業計画 第一回 イントロダクションと、オリジナルテキスト(以下、OTとする。)表現1と表現2 1で、基本あいさつの練習+2と2 2で、フォーマルとインフォーマルな自己紹介の聞き方答え方の練習+GoogleClassroom登録作業 第二回 OT表現3と4、2 3と2 4で、フォーマルとインフォーマルな出身地の聞き方答え方の練習 第三回 OT表現5と2 5で、他己紹介の練習と指示詞+ 第四回 OT表現6と7、2 6と2 7で、勉強やアルバイトに関する表現の練習 第五回 OT表現8～10で、ポキャブラリーやスベルを増やす表現とお礼の練習 第六回 OT表現11と3 1で、日常的なあいさつの練習 第七回 中間テスト〔これまでの会話表現の実演(評価)〕 第八回 OT表現1 2と3 2で、居住地の聞き方答え方の練習 第九回 OT表現1 3と3 3で、大学の所在と交通手段の聞き方答え方の練習 第十回 OT表現1 4と3 4で、好き嫌いや趣味の伝え方の練習 第十一回 OT表現1 9と3 9で、時の経過の伝え方の練習と、数字の学習 第十二回 OT表現2 0と4 0で、誕生日の聞き方答え方の練習と、月や曜日の学習 第十三回 OT表現1 5と3 5で、飲食に関わる表現の練習 第十四回 OT表現1 6と3 6で、飲物に関わる表現の練習 第十五回 OT表現1 7と3 7で、食べ物に関わる表現の練習
テキスト	オリジナルテキスト『名古屋経済大学「スペイン語入門」EXPRESIONES BASICAS 40』 テキストについては、GoogleClassroomの授業資料として掲示する。
参考書	『ポケットプログレッシブ 西和・和西辞典』小学館、または、『デイリーコンサイス 西和和西辞典』三省堂。 本格的な辞典を希望する学生は、『現代スペイン語辞典』白水社、および、『クラウン和西辞典』三省堂。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業時間中随時、授業後は、GoogleClassroomまたはメールにて対応する。
フィードバックの方法	授業内での発音改良指導、即時講評、次回返却、または、学内向け授業支援システム等を通じて適宜行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	週に4時間(毎日35分)は予習・復習を行うこと。毎講義後4日間(合計約2時間半)は復習を中心として、当該講義時に練習した一人芝居の練習とポキャブラリーの定着を図り、翌週講義の3日前から(合計約1時間半)は次の講義予定範囲の単語調べや単語帳の作成を行きましょう。 万が一欠席してしまった回についても、授業計画、Classroomのストリームに掲示される指示や授業内容報告に従い、各自準備をして次の授業に出席すること。テキストについては、欠席した回のUnitのpdfをダウンロード・プリントアウトするなどして、自学自習をしていくこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	スペイン語入門 / Introductory Spanish
時間割コード Course Code	12533
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	中川 智彦
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中川 智彦 (経済学部)
授業の目標	<p>スペイン語のあいさつ表現や好き嫌い・飲食など日常生活に関する基本的な表現を中心とする会話練習をとおして、初歩的な文法を身に付けながら、自信をもってスペイン語を話せるようになることを目標とする。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域          スペイン語のアルファベットと発音の関係を正確に理解することができる。          母語人口世界第三位〔3億人超(cf. 言語使用者数世界第4位の4億人超)〕のスペイン語を使用する国々〔公用語21の国と地域(cf. ほかに、アメリカ合衆国など多くの使用国あり)〕に共通する文化について理解が深まる。          日本とスペイン語圏との関わり、日系移民や在日ペルー人の存在について理解が深まる。</p> <p>思考判断の領域          混成文化を顕著に体現しているスペイン語圏に触れることで、異文化理解と文化的多様性について考えるきっかけを持つことができる。</p> <p>関心意欲の領域          スペインやラテンアメリカ諸国の多様な文化に関心を持つことができる。</p> <p>技能の領域          スペイン語で簡単なあいさつ、自己紹介ができる。</p> <p>態度・志向性の領域          スペイン語学習をとおして、英語の特異性を認識できることで、英語に対するコンプレックスを減らし、英語の学習意欲の向上につなげられる。          スペイン語を理解することで、在日ペルー人など身近なスペイン語話者とのコミュニケーションを図ることができる。</p>
授業の概要	<p>授業の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリジナル解説プリントに沿って、スペイン語の文字と発音の理路整然とした関係を解説する。</li> <li>2. オリジナルテキストの会話表現をとおして、初歩的な文法を段階的に習得する。</li> <li>3. オリジナルテキストの会話表現や応用表現の発音練習と、一人芝居・ロールプレイをとおして、スペイン語のリズムと音韻を習得する。</li> <li>4. オリジナルテキストで学習する短い表現をいくつか繋ぎ合わせることで、寸劇を作り、暗誦して、発表する。</li> </ol>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加姿勢(一人芝居・ロールプレイ・寸劇[講義冒頭の復習口頭テスト]への取り組み) 30%</li> <li>・中間テスト(一人芝居・ロールプレイ[=講義前半のまとめの口頭テスト]) 40%</li> <li>・期末テスト筆記試験 30%</li> </ul>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	初修外国語の習得・会話中心の授業という性格上、この授業の履修者は、15回の授業すべて無遅刻無欠席を目指すこと。したがって、「何回欠席できる」という発想をする学生は履修登録しないように。 失格基準：初回から4回目までの授業を、2回以上欠席した[、または出席が3回以上ない]者、出席回数が授業回数の3分の2に満たない者、中間テストを無断で欠席した者、第6回授業までの出席率が6割未満の者。
授業計画	授業計画 第一回 イントロダクションと、オリジナルテキスト(以下、OTとする。)表現1と表現2 1で、基本あいさつの練習+2と2 2で、フォーマルとインフォーマルな自己紹介の聞き方答え方の練習+GoogleClassroom登録作業 第二回 OT表現3と4、2 3と2 4で、フォーマルとインフォーマルな出身地の聞き方答え方の練習 第三回 OT表現5と2 5で、他己紹介の練習と指示詞+ 第四回 OT表現6と7、2 6と2 7で、勉強やアルバイトに関する表現の練習 第五回 OT表現8～10で、ポキャブラリーやスベルを増やす表現とお礼の練習 第六回 OT表現11と3 1で、日常的なあいさつの練習 第七回 中間テスト〔これまでの会話表現の実演(評価)〕 第八回 OT表現1 2と3 2で、居住地の聞き方答え方の練習 第九回 OT表現1 3と3 3で、大学の所在と交通手段の聞き方答え方の練習 第十回 OT表現1 4と3 4で、好き嫌いや趣味の伝え方の練習 第十一回 OT表現1 9と3 9で、時の経過の伝え方の練習と、数字の学習 第十二回 OT表現2 0と4 0で、誕生日の聞き方答え方の練習と、月や曜日の学習 第十三回 OT表現1 5と3 5で、飲食に関わる表現の練習 第十四回 OT表現1 6と3 6で、飲物に関わる表現の練習 第十五回 OT表現1 7と3 7で、食べ物に関わる表現の練習
テキスト	オリジナルテキスト『名古屋経済大学「スペイン語入門」EXPRESIONES BASICAS 40』 テキストについては、GoogleClassroomの授業資料として掲示する。
参考書	『ポケットプログレッシブ 西和・和西辞典』小学館、または、『デイリーコンサイズ 西和和西辞典』三省堂。 本格的な辞典を希望する学生は、『現代スペイン語辞典』白水社、および、『クラウン和西辞典』三省堂。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業時間中随時、授業後は、GoogleClassroomまたはメールにて対応する。
フィードバックの方法	授業内での発音改良指導、即時講評、次回返却、または、学内向け授業支援システム等を通じて適宜行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	週に4時間(毎日35分)は予習・復習を行うこと。毎講義後4日間(合計約2時間半)は復習を中心として、当該講義時に練習した一人芝居の練習とポキャブラリーの定着を図り、翌週講義の3日前から(合計約1時間半)は次の講義予定範囲の単語調べや単語帳の作成を行きましょう。 万が一欠席してしまった回についても、授業計画、Classroomのストリームに掲示される指示や授業内容報告に従い、各自準備をして次の授業に出席すること。テキストについては、欠席した回のUnitのpdfをダウンロード・プリントアウトするなどして、自学自習をしていくこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	ベトナム語入門 / Introductory Vietnamese
時間割コード Course Code	12540
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	金村 久美
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	14D講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	金村 久美 (経済学部)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識・理解の領域</li> <li>1) ベトナム語の表記と発音の対応を理解することができる。</li> <li>2) ベトナム人と知り合いになるに必要な簡単なやり取りに必要な文法と語彙を理解することができる。</li> <li>・技能の領域</li> <li>1) ベトナム語の1～数語から成る文を、意味を理解してもらえらる程度の正確さで読み上げることができる。</li> <li>2) ベトナム人と知り合いになるのに必要な簡単なやりとりを、意味を理解してもらえらる程度の正確さで行える。</li> <li>・態度・志向性の領域</li> <li>3) 日本の周辺国の一つであるベトナムの国・人・文化に対して親しみをもち、友好的な態度を示すことができる。</li> </ul>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) ベトナム語の表記と発音について学び、1～数語から成る文を表記のルールに沿ってある程度正しく読み上げられる程度に練習する。</li> <li>2) 身近なベトナム人学生と友達関係を築くための語彙・文法とやりとり (挨拶、名前・年を尋ねる、出身地 / 家を尋ねる、好き嫌いを尋ねる、言葉を教わる) を練習する。</li> <li>3) ベトナムについての基礎知識 (地理、気候、文化) を学ぶ。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業期間内に実施するビデオ課題 (2回予定) の評価 : 40%</li> <li>・試験週に実施する表記・発音テストの評価 : 30%</li> <li>・毎回の授業でのコメントの提出 : 30%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>1週目 オリエンテーション</p> <p>2週目 表記・発音1、会話1（あいさつ）、基礎知識1（ベトナム人の名前）</p> <p>3週目 表記・発音2、会話2（あいさつ）</p> <p>4週目 表記・発音3、会話3（名前・歳を尋ねる）</p> <p>5週目 表記・発音4、会話4（名前・歳を尋ねる）基礎知識2（地理と気候）</p> <p>6週目 表記・発音5、会話5（名前・歳を尋ねる）ビデオ課題1 締め切り</p> <p>7週目 表記・発音6、会話6（出身地・家を探ねる）</p> <p>8週目 表記・発音7、会話7（出身地・家を探ねる）基礎知識3（ベトナムの観光）</p> <p>9週目 表記・発音8、会話8（出身地・家を探ねる）</p> <p>10週目 表記・発音9、会話9（好き嫌いを尋ねる）</p> <p>11週目 表記・発音10、会話10（好き嫌いを尋ねる）基礎知識4（ベトナム料理）</p> <p>12週目 表記・発音11、会話11（好き嫌いを尋ねる）、</p> <p>13週目 表記・発音12、会話12（好き嫌いを尋ねる）、</p> <p>14週目 表記・発音13、会話（発音を教わる）、基礎知識5（日本とベトナム）</p> <p>15週目 表記・発音14、会話14（発音を教わる）ビデオ課題2 締め切り （試験週）表記・発音試験</p>
テキスト	「日本人のためのベトナム語の発音レベル1」（私家版、授業内で配布）
参考書	「旅の指さし会話帳11ベトナム第2版」情報センター出版局
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・ビデオ課題においては、実際にベトナム人と話してビデオを撮影する活動を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	Googleクラスルームを使用し、随時質問を受けつける。
フィードバックの方法	Googleクラスルームを使用し、毎週の課題やコメントにフィードバックを返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	コメント作成、課題の作成、クイズ回答のため、毎週30分以上の予習・復習が必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 9.実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1		オリエンテーション、基礎知識1(ベトナム人の名前)	
2		表記・発音1、会話(あいさつ)	
3		表記・発音2、会話(あいさつ)	
4		表記・発音3、会話(名前を言う)	
5		表記・発音4、会話(名前を言う、国を聞く)	
6		表記・発音5、会話(学生です)	
7		表記・発音6、会話(番地を言う、歳を聞く)ビデオ課題1	
8		表記・発音7、会話(番地を言う、歳を聞く、数字)	
9		表記・発音8、会話(買い物する)	
10		表記・発音9、会話(屋台で食べてみる)	
11		表記・発音10、会話(カフェで注文する)ビデオ課題2	
12		表記・発音11、会話(レストランで注文する)	
13		表記・発音12、会話(注文の追加の表現)	
14		表記・発音13、会話(復習・応用練習)	
15		発音試験	

開講科目名 Course	ベトナム語入門 / Introductory Vietnamese
時間割コード Course Code	12541
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	金村 久美
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	1 4 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	金村 久美 (経済学部)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識・理解の領域</li> <li>1) ベトナム語の表記と発音の対応を理解することができる。</li> <li>2) ベトナム人と知り合いになるに必要な簡単なやり取りに必要な文法と語彙を理解することができる。</li> <li>・技能の領域</li> <li>1) ベトナム語の1～数語から成る文を、意味を理解してもらえ程度の正確さで読み上げることができる。</li> <li>2) ベトナム人と知り合いになるのに必要な簡単なやりとりを、意味を理解してもらえ程度の正確さで行える。</li> <li>・態度・志向性の領域</li> <li>3) 日本の周辺国の一つであるベトナムの国・人・文化に対して親しみをもち、友好的な態度を示すことができる。</li> </ul>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) ベトナム語の表記と発音について学び、1～数語から成る文を表記のルールに沿ってある程度正しく読み上げられる程度に練習する。</li> <li>2) 身近なベトナム人学生と友達関係を築くための語彙・文法とやりとり (挨拶、名前・年を尋ねる、出身地 / 家を尋ねる、好き嫌いを尋ねる、言葉を教わる) を練習する。</li> <li>3) ベトナムについての基礎知識 (地理、気候、文化) を学ぶ。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業期間内に実施するビデオ課題 (2回予定) の評価 : 40%</li> <li>・試験週に実施する表記・発音テストの評価 : 30%</li> <li>・毎回の授業でのコメントの提出 : 30%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし



授業計画	<p>1週目 オリエンテーション</p> <p>2週目 表記・発音1、会話1（あいさつ）、基礎知識1（ベトナム人の名前）</p> <p>3週目 表記・発音2、会話2（あいさつ）</p> <p>4週目 表記・発音3、会話3（名前・歳を尋ねる）</p> <p>5週目 表記・発音4、会話4（名前・歳を尋ねる）基礎知識2（地理と気候）</p> <p>6週目 表記・発音5、会話5（名前・歳を尋ねる）ビデオ課題1 締め切り</p> <p>7週目 表記・発音6、会話6（出身地・家を探ねる）</p> <p>8週目 表記・発音7、会話7（出身地・家を探ねる）基礎知識3（ベトナムの観光）</p> <p>9週目 表記・発音8、会話8（出身地・家を探ねる）</p> <p>10週目 表記・発音9、会話9（好き嫌いを尋ねる）</p> <p>11週目 表記・発音10、会話10（好き嫌いを尋ねる）基礎知識4（ベトナム料理）</p> <p>12週目 表記・発音11、会話11（好き嫌いを尋ねる）、</p> <p>13週目 表記・発音12、会話12（好き嫌いを尋ねる）、</p> <p>14週目 表記・発音13、会話（発音を教わる）、基礎知識5（日本とベトナム）</p> <p>15週目 表記・発音14、会話14（発音を教わる）ビデオ課題2 締め切り （試験週）表記・発音試験</p>
テキスト	「日本人のためのベトナム語の発音レベル1」（私家版、授業内で配布）
参考書	「旅の指さし会話帳11ベトナム第2版」情報センター出版局
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・ビデオ課題においては、実際にベトナム人と話してビデオを撮影する活動を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	Googleクラスルームを使用し、随時質問を受けつける。
フィードバックの方法	Googleクラスルームを使用し、毎週の課題やコメントにフィードバックを返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	コメント作成、課題の作成、クイズ回答のため、毎週30分以上の予習・復習が必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 9.実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1		オリエンテーション、基礎知識1(ベトナム人の名前)	
2		表記・発音1、会話(あいさつ)	
3		表記・発音2、会話(あいさつ)	
4		表記・発音3、会話(名前を言う)	
5		表記・発音4、会話(名前を言う、国を聞く)	
6		表記・発音5、会話(学生です)	
7		表記・発音6、会話(番地を言う、歳を聞く)ビデオ課題1	
8		表記・発音7、会話(番地を言う、歳を聞く、数字)	
9		表記・発音8、会話(買い物する)	
10		表記・発音9、会話(屋台で食べてみる)	
11		表記・発音10、会話(カフェで注文する)ビデオ課題2	
12		表記・発音11、会話(レストランで注文する)	
13		表記・発音12、会話(注文の追加の表現)	
14		表記・発音13、会話(復習・応用練習)	
15		発音試験	

開講科目名 Course	ポルトガル語入門 / Introductory Portuguese
時間割コード Course Code	12550
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	久保園 村ノヅエキミ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	13B講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	久保園 村ノヅエキミ (経済学部)
授業の目標	<p>ブラジル・ポルトガル語の基本的な文法・会話を学習する中で、ブラジルやブラジル人に対して理解を深め、親近感を持てるようになることを目標とする。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 ポルトガル語の基本的な文法を理解することができる。 ブラジルの文化について理解が深まる。 在日ブラジル人の直面している問題について理解が深まる。</p> <p>思考判断の領域 多文化共生、在日外国人との関わり方について自分の考えを持つことができる。</p> <p>関心意欲の領域 ブラジル人に関する報道に関心を持つことができる。</p> <p>技能の領域 ポルトガル語で簡単なあいさつ、自己紹介ができる。</p> <p>態度・志向性の領域 ブラジル人と接する際に、その文化的背景に関する知識を持って臨める。 ポルトガル語を理解することで、ブラジル人とのコミュニケーションが円滑になる。</p>
授業の概要	<p>1. テキストに沿って文法事項の解説をする。</p> <p>2. 単語、文など発話を多くすることで、ポルトガル語のリズムを習得する。</p> <p>3. テキストの練習問題を解くことで、理解を整理する。</p> <p>4. 簡単な会話のシナリオを暗唱し、発表する。</p> <p>質問への対応方法 随時対応、又は授業後に対応します。 本授業は対面授業で行います。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考姿勢 30%</li> <li>・小テスト 30%</li> <li>・期末テスト 40%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	理由もなく6回欠席した場合。

授業計画	<p>第一回 ブラジルとポルトガル語          第二回 文字と発音          第三回 ブラジルの曲でポルトガル語を学ぼう「Fico assim sem voce」          第四回 ブラジルの曲でポルトガル語を学ぼう 発表          第五回 ser動詞の活用と用法 1          第六回 ser動詞の活用と用法 2          第七回 ser動詞の活用と用法 3          第八回 小テスト 1          第九回 ブラジル食文化の紹介          第十回 指示詞と所有詞 1          第十一回 指示詞と所有詞 2          第十二回 指示詞と所有詞 3          第十三回 小テスト 2          第十四回 異文化で学ぼう「私はカポエイラをするために生まれたのではない。送りこまれたのだ」          第十五回 総まとめ</p>
テキスト	<p>ブラジル人による生きたブラジルポルトガル語 初級          著者名 兼安シルビア典子          出版社 同学社</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	翌週返却。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>1 文法文字、発音、SER動詞の活用、指示詞、所有詞を学習する。          テキストP1からP34 20時間の予習と20時間の復習          2 ブラジルの曲 プリント配布。読み方、発音の練習 3時間の予習と10時間の復習          3 ブラジル文化 ブラジルの食文化とカポエイラについて 2時間の予習と5時間の復習</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ブラジルとポルトガル語 日本移民、日系社会	ブラジル社会やポルトガル語、日本のブラジル・コミュニティについての概説	
2	文字と発音 ポルトガル語の特殊文字、アクセント記号	英語にないポルトガル語の文字や発音記号、アクセント	
3	ブラジルの曲でポルトガル語を学ぼう「Fico assim sem voce」 リズム、聞き取り言葉	ブラジルの曲「Fico assim sem voce」の歌詞を通じて、意味をすること。	
4	ブラジルの歌を通じてポルトガル語を学ぼう「Fico assim sem voce」発表、リズム、発音	ブラジルの音楽を通じて、少しでもブラジルの文化を近くに感じるように。	
5	ser動詞の活用と用法1 自己紹介	ser動詞の様々な用法。名前、出身地、国籍、職業、既婚・未婚の別などの聞き方と答え方。英語にない特徴である名詞や形容詞の性別について理解する。	
6	ser動詞の活用と用法2 会話練習、暗唱	自己紹介をテーマとした会話の練習。会話文を暗唱し、基本的な表現を定着させる。日本語で作成した文をポルトガル語に訳したうえで、暗唱する。	
7	ser動詞の活用と用法3 暗唱発表	前の週に暗唱したものを発表する。	
8	小テスト ser動詞の理解度確認	ser動詞のまとめ。会話練習で暗唱した文の書きとりなど。	
9	ブラジル食文化を紹介 ブラジル料理、文化	ブラジル料理の紹介と試食体験	
10	指示詞と所有詞1 指示詞、所有詞	指示詞「この」「その」「あの」と所有詞「私の」「あなたの」「私たちの」の用法を学ぶ。	
11	指示詞と所有詞2 会話練習、暗唱	指示詞と所有詞を含んだ会話の練習。会話文を暗唱し、基本的な表現を定着させる。日本語で作成した文をポルトガル語に訳したうえで暗唱する。	
12	指示詞と所有詞3 暗唱	前の週に暗唱したものを発表する。	
13	小テスト 指示詞、所有詞の理解度確認	指示詞と所有詞のまとめ。会話練習で暗唱した文の書きとりなど。	
14	ビデオ学習「私はカポエイラをするために生まれたのではない。送りこまれたのだ」カポエイラの歴史	ドキュメンタリー映画を鑑賞し、人種差別主義について考える。またカポエイラの楽器、歌を体験する。	
15	総まとめ ser動詞、指示詞、所有詞	半年間の総まとめをする。	

開講科目名 Course	ポルトガル語入門 / Introductory Portuguese
時間割コード Course Code	12551
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	久保園 村ノヅエキミ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	13B講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	久保園 村ノヅエキミ (経済学部)
授業の目標	<p>ブラジル・ポルトガル語の基本的な文法・会話を学習する中で、ブラジルやブラジル人に対して理解を深め、親近感を持てるようになることを目標とする。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 ポルトガル語の基本的な文法を理解することができる。 ブラジルの文化について理解が深まる。 在日ブラジル人の直面している問題について理解が深まる。</p> <p>思考判断の領域 多文化共生、在日外国人との関わり方について自分の考えを持つことができる。</p> <p>関心意欲の領域 ブラジル人に関する報道に関心を持つことができる。</p> <p>技能の領域 ポルトガル語で簡単なあいさつ、自己紹介ができる。</p> <p>態度・志向性の領域 ブラジル人と接する際に、その文化的背景に関する知識を持って臨める。 ポルトガル語を理解することで、ブラジル人とのコミュニケーションが円滑になる。</p>
授業の概要	<p>テキストに沿って文法事項の解説をする。</p> <p>2. 単語、文など発話を多くすることで、ポルトガル語のリズムを習得する。</p> <p>3. テキストの練習問題を解くことで、理解を整理する。</p> <p>4. 簡単な会話のシナリオを暗唱し、発表する。</p> <p>質問への対応方法 随時対応、又は授業後に対応します。 本授業は対面授業で行います。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考姿勢 30%</li> <li>・小テスト 30%</li> <li>・期末テスト 40%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	理由もなく6回欠席した場合。

授業計画	<p>第一回 ブラジルとポルトガル語          第二回 文字と発音          第三回 ブラジルの曲でポルトガル語を学ぼう「Fico assim sem voce」          第四回 ブラジルの曲でポルトガル語を学ぼう 発表          第五回 ser動詞の活用と用法 1          第六回 ser動詞の活用と用法 2          第七回 ser動詞の活用と用法 3          第八回 小テスト 1          第九回 ブラジル食文化の紹介          第十回 指示詞と所有詞 1          第十一回 指示詞と所有詞 2          第十二回 指示詞と所有詞 3          第十三回 小テスト 2          第十四回 異文化で学ぼう「私はカポエイラをするために生まれたのではない。送りこまれたのだ」          第十五回 総まとめ</p>
テキスト	<p>ブラジル人による生きたブラジルポルトガル語 初級          著者名 兼安シルビア典子          出版社 同学社</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	該当しない
フィードバックの方法	翌週返却。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>1 文法 文字、発音、SER動詞の活用、指示詞、所有詞を学習する。          テキストP1からP34 20時間の予習と20時間の復習</p> <p>2 ブラジルの曲 プリント配布。読み方、発音の練習 3時間の予習と10時間の復習</p> <p>3 ブラジル文化 ブラジルの食文化とカポエイラについて 2時間の予習と5時間の復習</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ブラジルとポルトガル語 日本移民、日系社会	ブラジル社会やポルトガル語、日本のブラジル・コミュニティについての概説	
2	文字と発音 ポルトガル語の特殊文字、アクセント記号	英語にないポルトガル語の文字や発音記号、アクセントなどを学ぶ。綴りを見るだけで発音できるのを目標とする。	
3	ブラジルの曲でポルトガル語を学ぼう「Fico assim sem voce」 リズム、聞き取り言葉	ブラジルの曲「Fico assim sem voce」の歌詞を通じて、意味をすること。	
4	ブラジルの歌を通じてポルトガル語を学ぼう「Fico assim sem voce」発表、リズム、発音	ブラジルの音楽を通じて、少しでもブラジルの文化を近くに感じるように。	
5	ser動詞の活用と用法1 自己紹介	ser動詞の様々な用法。名前、出身地、国籍、職業、既婚・未婚の別などの聞き方と答え方。英語にない特徴である名詞や形容詞の性別について理解する。	
6	ser動詞の活用と用法2 会話練習、暗唱	自己紹介をテーマとした会話の練習。会話文を暗唱し、基本的な表現を定着させる。日本語で作成した文をポルトガル語に訳したうえで、暗唱する。	
7	ser動詞の活用と用法3 暗唱	前の週に暗唱したものを発表する。	
8	小テスト ser動詞の理解度確認	ser動詞のまとめ。会話練習で暗唱した文の書きとりなど。	
9	ブラジル食文化を紹介 ブラジル料理、文化	ブラジル料理の紹介と試食体験	
10	指示詞と所有詞1 指示詞、所有詞	指示詞「この」「その」「あの」と所有詞「私の」「あなたの」「私たちの」の用法を学ぶ。	
11	指示詞と所有詞2 会話練習、暗唱	指示詞と所有詞を含んだ会話の練習。会話文を暗唱し、基本的な表現を定着させる。日本語で作成した文をポルトガル語に訳したうえで暗唱する。	
12	指示詞と所有詞3 暗唱	前の週に暗唱したものを発表する。	
13	小テスト 指示詞、所有詞の理解度確認	指示詞と所有詞のまとめ。会話練習で暗唱した文の書きとりなど。	
14	ビデオ学習「私はカポエイラをするために生まれたのではない。送りこまれたのだ」カポエイラの歴史	ドキュメンタリー映画を鑑賞し、人種差別主義について考える。またカポエイラの楽器、歌を体験する。	
15	総まとめ ser動詞、指示詞、所有詞	半年間の総まとめをする。	



開講科目名 Course	ポルトガル語入門 / Introductory Portuguese
時間割コード Course Code	12552
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	久保園 村ノヅエキミ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	14C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	久保園 村ノヅエキミ (経済学部)
授業の目標	<p>ブラジル・ポルトガル語の基本的な文法・会話を学習する中で、ブラジルやブラジル人に対して理解を深め、親近感を持てるようになることを目標とする。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 ポルトガル語の基本的な文法を理解することができる。 ブラジルの文化について理解が深まる。 在日ブラジル人の直面している問題について理解が深まる。</p> <p>思考判断の領域 多文化共生、在日外国人との関わり方について自分の考えを持つことができる。</p> <p>関心意欲の領域 ブラジル人に関する報道に関心を持つことができる。</p> <p>技能の領域 ポルトガル語で簡単なあいさつ、自己紹介ができる。</p> <p>態度・志向性の領域 ブラジル人と接する際に、その文化的背景に関する知識を持って臨める。 ポルトガル語を理解することで、ブラジル人とのコミュニケーションが円滑になる。</p>
授業の概要	<p>テキストに沿って文法事項の解説をする。</p> <p>2. 単語、文など発話を多くすることで、ポルトガル語のリズムを習得する。</p> <p>3. テキストの練習問題を解くことで、理解を整理する。</p> <p>4. 簡単な会話のシナリオを暗唱し、発表する。</p> <p>質問への対応方法 随時対応、又は授業後に対応します。 本授業は対面授業で行います。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考姿勢 30%</li> <li>・小テスト 30%</li> <li>・期末テスト 40%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	理由もなく6回欠席した場合。

授業計画	<p>第一回 ブラジルとポルトガル語          第二回 文字と発音          第三回 ブラジルの曲でポルトガル語を学ぼう「Fico assim sem voce」          第四回 ブラジルの曲でポルトガル語を学ぼう 発表          第五回 ser動詞の活用と用法 1          第六回 ser動詞の活用と用法 2          第七回 ser動詞の活用と用法 3          第八回 小テスト 1          第九回 ブラジル食文化の紹介          第十回 指示詞と所有詞 1          第十一回 指示詞と所有詞 2          第十二回 指示詞と所有詞 3          第十三回 小テスト 2          第十四回 異文化で学ぼう「私はカポエイラをするために生まれたのではない。送りこまれたのだ」          第十五回 総まとめ</p>
テキスト	<p>ブラジル人による生きたブラジルポルトガル語 初級          著者名 兼安シルビア典子          出版社 同学社</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	翌週返却。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>1 文法 文字、発音、SER動詞の活用、指示詞、所有詞を学習する。          テキストP1からP34 20時間の予習と20時間の復習</p> <p>2 ブラジルの曲 プリント配布。読み方、発音の練習 3時間の予習と10時間の復習</p> <p>3 ブラジル文化 ブラジルの食文化とカポエイラについて 2時間の予習と5時間の復習</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ブラジルとポルトガル語 日本移民、日系社会	ブラジル社会やポルトガル語、日本のブラジル・コミュニティについての概説	
2	文字と発音 ポルトガル語の特殊文字、アクセント記号	英語にないポルトガル語の文字や発音記号、アクセントなどを学ぶ。綴りを見るだけで発音できるのを目標とする。	
3	ブラジルの曲でポルトガル語を学ぼう「Fico assim sem voce」 リズム、聞き取り言葉	ブラジルの曲「Fico assim sem voce」の歌詞を通じて、意味をすること。	
4	ブラジルの歌を通じてポルトガル語を学ぼう「Fico assim sem voce」発表、リズム、発音	ブラジルの音楽を通じて、少しでもブラジルの文化を近くに感じるように。	
5	ser動詞の活用と用法1 自己紹介	ser動詞の様々な用法。名前、出身地、国籍、職業、既婚・未婚の別などの聞き方と答え方。英語にない特徴である名詞や形容詞の性別について理解する。	
6	ser動詞の活用と用法2 会話練習、暗唱	自己紹介をテーマとした会話の練習。会話文を暗唱し、基本的な表現を定着させる。日本語で作成した文をポルトガル語に訳したうえで、暗唱する。	
7	ser動詞の活用と用法3 暗唱	前の週に暗唱したものを発表する。	
8	小テスト ser動詞の理解度確認	ser動詞のまとめ。会話練習で暗唱した文の書きとりなど。	
9	ブラジル食文化を紹介 ブラジル料理、文化	ブラジル料理の紹介と試食体験	
10	指示詞と所有詞1 指示詞、所有詞	指示詞「この」「その」「あの」と所有詞「私の」「あなたの」「私たちの」の用法を学ぶ。	
11	指示詞と所有詞2 会話練習、暗唱	指示詞と所有詞を含んだ会話の練習。会話文を暗唱し、基本的な表現を定着させる。日本語で作成した文をポルトガル語に訳したうえで暗唱する。	
12	指示詞と所有詞3 暗唱	前の週に暗唱したものを発表する。	
13	小テスト 指示詞、所有詞の理解度確認	指示詞と所有詞のまとめ。会話練習で暗唱した文の書きとりなど。	
14	ビデオ学習「私はカポエイラをするために生まれたのではない。送りこまれたのだ」カポエイラの歴史	ドキュメンタリー映画を鑑賞し、人種差別主義について考える。またカポエイラの楽器、歌を体験する。	
15	総まとめ ser動詞、指示詞、所有詞	半年間の総まとめをする。	

開講科目名 Course	ポルトガル語入門 / Introductory Portuguese
時間割コード Course Code	12553
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	久保園 村ノヅエキミ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	14C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	久保園 村ノヅエキミ (経済学部)
授業の目標	<p>ブラジル・ポルトガル語の基本的な文法・会話を学習する中で、ブラジルやブラジル人に対して理解を深め、親近感を持てるようになることを目標とする。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 ポルトガル語の基本的な文法を理解することができる。 ブラジルの文化について理解が深まる。 在日ブラジル人の直面している問題について理解が深まる。</p> <p>思考判断の領域 多文化共生、在日外国人との関わり方について自分の考えを持つことができる。</p> <p>関心意欲の領域 ブラジル人に関する報道に関心を持つことができる。</p> <p>技能の領域 ポルトガル語で簡単なあいさつ、自己紹介ができる。</p> <p>態度・志向性の領域 ブラジル人と接する際に、その文化的背景に関する知識を持って臨める。 ポルトガル語を理解することで、ブラジル人とのコミュニケーションが円滑になる。</p>
授業の概要	<p>テキストに沿って文法事項の解説をする。</p> <p>2. 単語、文など発話を多くすることで、ポルトガル語のリズムを習得する。</p> <p>3. テキストの練習問題を解くことで、理解を整理する。</p> <p>4. 簡単な会話のシナリオを暗唱し、発表する。</p> <p>質問への対応方法 随時対応、又は授業後に対応します。 本授業は対面授業で行います。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参考姿勢 30%</li> <li>・ 小テスト 30%</li> <li>・ 期末テスト 40%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	理由もなく6回欠席した場合。

授業計画	<p>第一回 ブラジルとポルトガル語          第二回 文字と発音          第三回 ブラジルの曲でポルトガル語を学ぼう「Fico assim sem voce」          第四回 ブラジルの曲でポルトガル語を学ぼう 発表          第五回 ser動詞の活用と用法 1          第六回 ser動詞の活用と用法 2          第七回 ser動詞の活用と用法 3          第八回 小テスト 1          第九回 ブラジル食文化の紹介          第十回 指示詞と所有詞 1          第十一回 指示詞と所有詞 2          第十二回 指示詞と所有詞 3          第十三回 小テスト 2          第十四回 異文化で学ぼう「私はカポエイラをするために生まれたのではない。送りこまれたのだ」          第十五回 総まとめ</p>
テキスト	<p>ブラジル人による生きたブラジルポルトガル語 初級          著者名 兼安シルビア典子          出版社 同学社</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	翌週返却。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>1 文法 文字、発音、SER動詞の活用、指示詞、所有詞を学習する。          テキストP1からP34 20時間の予習と20時間の復習</p> <p>2 ブラジルの曲 プリント配布。読み方、発音の練習 3時間の予習と10時間の復習</p> <p>3 ブラジル文化 ブラジルの食文化とカポエイラについて 2時間の予習と5時間の復習</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ブラジルとポルトガル語 日本移民、日系社会	ブラジル社会やポルトガル語、日本のブラジル・コミュニティについての概説	
2	文字と発音 ポルトガル語の特殊文字、アクセント記号	英語にないポルトガル語の文字や発音記号、アクセントなどを学ぶ。綴りを見るだけで発音できるのを目標とする。	
3	ブラジルの曲でポルトガル語を学ぼう「Fico assim sem voce」 リズム、聞き取り言葉	ブラジルの曲「Fico assim sem voce」の歌詞を通じて、意味をすること。	
4	ブラジルの歌を通じてポルトガル語を学ぼう「Fico assim sem voce」発表、リズム、発音	ブラジルの音楽を通じて、少しでもブラジルの文化を近くに感じるように。	
5	ser動詞の活用と用法1 自己紹介	ser動詞の様々な用法。名前、出身地、国籍、職業、既婚・未婚の別などの聞き方と答え方。英語にない特徴である名詞や形容詞の性別について理解する。	
6	ser動詞の活用と用法2 会話練習、暗唱	自己紹介をテーマとした会話の練習。会話文を暗唱し、基本的な表現を定着させる。日本語で作成した文をポルトガル語に訳したうえで、暗唱する。	
7	ser動詞の活用と用法3 暗唱	前の週に暗唱したものを発表する。	
8	小テスト ser動詞の理解度確認	ser動詞のまとめ。会話練習で暗唱した文の書きとりなど。	
9	ブラジル食文化を紹介 ブラジル料理、文化	ブラジル料理の紹介と試食体験	
10	指示詞と所有詞1 指示詞、所有詞	指示詞「この」「その」「あの」と所有詞「私の」「あなたの」「私たちの」の用法を学ぶ。	
11	指示詞と所有詞2 会話練習、暗唱	指示詞と所有詞を含んだ会話の練習。会話文を暗唱し、基本的な表現を定着させる。日本語で作成した文をポルトガル語に訳したうえで暗唱する。	
12	指示詞と所有詞3 暗唱	前の週に暗唱したものを発表する。	
13	小テスト 指示詞、所有詞の理解度確認	指示詞と所有詞のまとめ。会話練習で暗唱した文の書きとりなど。	
14	ビデオ学習「私はカポエイラをするために生まれたのではない。送りこまれたのだ」カポエイラの歴史	ドキュメンタリー映画を鑑賞し、人種差別主義について考える。またカポエイラの楽器、歌を体験する。	
15	総まとめ ser動詞、指示詞、所有詞	半年間の総まとめをする。	

開講科目名 Course	코리아語入門 / introductory Korean
時間割コード Course Code	12580
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	風間 千秋
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	風間 千秋 (経済学部)
授業の目標	<p>韓国の言葉と文化を知る。具体的には次のようです。</p> <p>(1-1) 文字の読み書きができる  (1-2) コリア語のしくみを理解する  (1-3) しくみを理解した上で、作文や発音でそれを実践できる  (2) 韓国の文化や社会を知り、自分自身の文化的背景について振り返る</p>
授業の概要	<p>暗記よりも、しくみを理解し実践できること、さらに応用できることを目標にしています。この授業は、文字をすべて覚えなくとも、調べることができれば理解できますが、文字のしくみと作文のルール、文字の一覧表の見方・使い方は理解し、慣れておかなければなりません。</p> <p>第2～10回の課題では、発音変化の実例等を示し、どのような条件下で何が起きているかを自ら見つけ、それを自分の言葉で説明する練習をします。また、その日に何を学んだかを自分の言葉で説明する練習もします。</p> <p>授業概要  (1) 文字のしくみ  (2) 発音変化  (3) 名詞・動詞・形容詞の作文  (4) 韓国の文化・社会への理解を深めながら作文演習</p> <p>授業形態  教室での対面授業です。座席指定。</p>
評価方法	<p>毎回の課題 = 70%  期末試験 (第15回授業で実施) = 30%</p> <p>毎回、授業の最後に課題(小テスト)を実施します。課題は授業終了時に提出、次回授業時に返却します。課題の提出がない場合は欠席となります。</p> <p>授業や課題に積極的に取り組んだか、理解しようと努めたかも評価対象です。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特別欠席以外の理由による欠席は、計4回で失格。  遅刻は2回で欠席1回分とします。</p> <p>授業中に緊急以外でスマートフォン、スマートウォッチ等の操作を行った場合は、退室または失格。授業開始時に着席していない場合は、タブレット認証が済んでいても遅刻とみなします。</p>

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 文字の基礎1</p> <p>第3回 文字の基礎2、発音変化1</p> <p>第4回 文字の基礎3、発音変化2、名詞のていねい形</p> <p>第5回 文字の基礎4</p> <p>第6回 文字の基礎5</p> <p>第7回 韓国の食文化</p> <p>第8回 発音変化3、助詞の使い方</p> <p>第9回 長文作文、疑問形</p> <p>第10回 韓国人の人生行事1、動詞・形容詞のていねい形</p> <p>第11回 韓国人の人生行事2、発音変化4</p> <p>第12回 韓国人の人生行事3、作文演習</p> <p>第13回 韓国の学生生活、作文演習</p> <p>第14回 韓国の年中行事、作文演習</p> <p>第15回 総復習、期末試験</p>
テキスト	<p>テキストはありません。授業はパワーポイントを使って進めます。</p> <p>毎回、その回で使用するプリントを配布します。</p> <p>第2回の授業で配布する文字の一覧表は、各自管理し、毎回持参すること。</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>質問は授業後、もしくはメールで受け付けます。提出物に記入しても構いません。</p> <p>メールアドレス：kazama-c@nue.ac.jp</p>
フィードバックの方法	<p>毎回の課題のフィードバック</p> <p>提出した課題は、次回授業時に返却します。</p> <p>授業のはじめに返却した課題の答え合わせを行います。</p> <p>あわせて、前回の授業内容の復習も行います。</p> <p>期末試験について</p> <p>期末試験は第15回授業時に実施します。</p> <p>授業の前半でこれまでの総復習を行い、後半の時間（約60分間）で期末試験を実施します。</p> <p>試験問題の出題形式は第14回の授業内で説明します。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>授業内容が理解できなかった場合は、必ずその回のうちに質問して、できるようになっておいてください。</p> <p>分からないままにしておくと、その後の授業が理解できなくなります。</p> <p>自宅学習の方法などを知りたい場合は、随時質問してください。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	코리아語入門 / introductory Korean
時間割コード Course Code	12581
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	風間 千秋
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	風間 千秋 (経済学部)
授業の目標	<p>韓国の言葉と文化を知る。具体的には次のようです。</p> <p>(1-1) 文字の読み書きができる  (1-2) コリア語のしくみを理解する  (1-3) しくみを理解した上で、作文や発音でそれを実践できる  (2) 韓国の文化や社会を知り、自分自身の文化的背景について振り返る</p>
授業の概要	<p>暗記よりも、しくみを理解し実践できること、さらに応用できることを目標にしています。この授業は、文字をすべて覚えなくとも、調べることができれば理解できますが、文字のしくみと作文のルール、文字の一覧表の見方・使い方は理解し、慣れておかなければなりません。</p> <p>第2～10回の課題では、発音変化の実例等を示し、どのような条件下で何が起きているかを自ら見つけ、それを自分の言葉で説明する練習をします。また、その日に何を学んだかを自分の言葉で説明する練習もします。</p> <p>授業概要  (1) 文字のしくみ  (2) 発音変化  (3) 名詞・動詞・形容詞の作文  (4) 韓国の文化・社会への理解を深めながら作文演習</p> <p>授業形態  教室での対面授業です。座席指定。</p>
評価方法	<p>毎回の課題 = 70%  期末試験 (第15回授業で実施) = 30%</p> <p>毎回、授業の最後に課題(小テスト)を実施します。課題は授業終了時に提出、次回授業時に返却します。課題の提出がない場合は欠席となります。</p> <p>授業や課題に積極的に取り組んだか、理解しようと努めたかも評価対象です。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特別欠席以外の理由による欠席は、計4回で失格。  遅刻は2回で欠席1回分とします。</p> <p>授業中に緊急以外でスマートフォン、スマートウォッチ等の操作を行った場合は、退室または失格。授業開始時に着席していない場合は、タブレット認証が済んでいても遅刻とみなします。</p>

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 文字の基礎1</p> <p>第3回 文字の基礎2、発音変化1</p> <p>第4回 文字の基礎3、発音変化2、名詞のていねい形</p> <p>第5回 文字の基礎4</p> <p>第6回 文字の基礎5</p> <p>第7回 韓国の食文化</p> <p>第8回 発音変化3、助詞の使い方</p> <p>第9回 長文作文、疑問形</p> <p>第10回 韓国人の人生行事1、動詞・形容詞のていねい形</p> <p>第11回 韓国人の人生行事2、発音変化4</p> <p>第12回 韓国人の人生行事3、作文演習</p> <p>第13回 韓国の学生生活、作文演習</p> <p>第14回 韓国の年中行事、作文演習</p> <p>第15回 総復習、期末試験</p>
テキスト	<p>テキストはありません。授業はパワーポイントを使って進めます。</p> <p>毎回、その回で使用するプリントを配布します。</p> <p>第2回の授業で配布する文字の一覧表は、各自管理し、毎回持参すること。</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>質問は授業後、もしくはメールで受け付けます。提出物に記入しても構いません。</p> <p>メールアドレス：kazama-c@nue.ac.jp</p>
フィードバックの方法	<p>毎回の課題のフィードバック</p> <p>提出した課題は、次回授業時に返却します。</p> <p>授業のはじめに返却した課題の答え合わせを行います。</p> <p>あわせて、前回の授業内容の復習も行います。</p> <p>期末試験について</p> <p>期末試験は第15回授業時に実施します。</p> <p>授業の前半でこれまでの総復習を行い、後半の時間（約60分間）で期末試験を実施します。</p> <p>試験問題の出題形式は第14回の授業内で説明します。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>授業内容が理解できなかった場合は、必ずその回のうちに質問して、できるようになっておいてください。</p> <p>分からないままにしておくと、その後の授業が理解できなくなります。</p> <p>自宅学習の方法などを知りたい場合は、随時質問してください。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	코리아語入門 / introductory Korean
時間割コード Course Code	12582
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	風間 千秋
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	風間 千秋 (経済学部)
授業の目標	<p>韓国の言葉と文化を知る。具体的には次のようです。</p> <p>(1-1) 文字の読み書きができる  (1-2) コリア語のしくみを理解する  (1-3) しくみを理解した上で、作文や発音でそれを実践できる  (2) 韓国の文化や社会を知り、自分自身の文化的背景について振り返る</p>
授業の概要	<p>暗記よりも、しくみを理解し実践できること、さらに応用できることを目標にしています。この授業は、文字をすべて覚えなくとも、調べることができれば理解できますが、文字のしくみと作文のルール、文字の一覧表の見方・使い方は理解し、慣れておかなければなりません。</p> <p>第2～10回の課題では、発音変化の実例等を示し、どのような条件下で何が起きているかを自ら見つけ、それを自分の言葉で説明する練習をします。また、その日に何を学んだかを自分の言葉で説明する練習もします。</p> <p>授業概要  (1) 文字のしくみ  (2) 発音変化  (3) 名詞・動詞・形容詞の作文  (4) 韓国の文化・社会への理解を深めながら作文演習</p> <p>授業形態  教室での対面授業です。座席指定。</p>
評価方法	<p>毎回の課題 = 70%  期末試験 (第15回授業で実施) = 30%</p> <p>毎回、授業の最後に課題(小テスト)を実施します。課題は授業終了時に提出、次回授業時に返却します。課題の提出がない場合は欠席となります。</p> <p>授業や課題に積極的に取り組んだか、理解しようと努めたかも評価対象です。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特別欠席以外の理由による欠席は、計4回で失格。  遅刻は2回で欠席1回分とします。</p> <p>授業中に緊急以外でスマートフォン、スマートウォッチ等の操作を行った場合は、退室または失格。授業開始時に着席していない場合は、タブレット認証が済んでいても遅刻とみなします。</p>

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 文字の基礎1</p> <p>第3回 文字の基礎2、発音変化1</p> <p>第4回 文字の基礎3、発音変化2、名詞のていねい形</p> <p>第5回 文字の基礎4</p> <p>第6回 文字の基礎5</p> <p>第7回 韓国の食文化</p> <p>第8回 発音変化3、助詞の使い方</p> <p>第9回 長文作文、疑問形</p> <p>第10回 韓国人の人生行事1、動詞・形容詞のていねい形</p> <p>第11回 韓国人の人生行事2、発音変化4</p> <p>第12回 韓国人の人生行事3、作文演習</p> <p>第13回 韓国の学生生活、作文演習</p> <p>第14回 韓国の年中行事、作文演習</p> <p>第15回 総復習、期末試験</p>
テキスト	<p>テキストはありません。授業はパワーポイントを使って進めます。</p> <p>毎回、その回で使用するプリントを配布します。</p> <p>第2回の授業で配布する文字の一覧表は、各自管理し、毎回持参すること。</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>質問は授業後、もしくはメールで受け付けます。提出物に記入しても構いません。</p> <p>メールアドレス：kazama-c@nue.ac.jp</p>
フィードバックの方法	<p>毎回の課題のフィードバック</p> <p>提出した課題は、次回授業時に返却します。</p> <p>授業のはじめに返却した課題の答え合わせを行います。</p> <p>あわせて、前回の授業内容の復習も行います。</p> <p>期末試験について</p> <p>期末試験は第15回授業時に実施します。</p> <p>授業の前半でこれまでの総復習を行い、後半の時間（約60分間）で期末試験を実施します。</p> <p>試験問題の出題形式は第14回の授業内で説明します。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>授業内容が理解できなかった場合は、必ずその回のうちに質問して、できるようになっておいてください。</p> <p>分からないままにしておくと、その後の授業が理解できなくなります。</p> <p>自宅学習の方法などを知りたい場合は、随時質問してください。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	코리아語入門 / introductory Korean
時間割コード Course Code	12583
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	風間 千秋
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	風間 千秋 (経済学部)
授業の目標	<p>韓国の言葉と文化を知る。具体的には次のようです。</p> <p>(1-1) 文字の読み書きができる  (1-2) コリア語のしくみを理解する  (1-3) しくみを理解した上で、作文や発音でそれを実践できる  (2) 韓国の文化や社会を知り、自分自身の文化的背景について振り返る</p>
授業の概要	<p>暗記よりも、しくみを理解し実践できること、さらに応用できることを目標にしています。この授業は、文字をすべて覚えなくとも、調べることができれば理解できますが、文字のしくみと作文のルール、文字の一覧表の見方・使い方は理解し、慣れておかなければなりません。</p> <p>第2～10回の課題では、発音変化の実例等を示し、どのような条件下で何が起きているかを自ら見つけ、それを自分の言葉で説明する練習をします。また、その日に何を学んだかを自分の言葉で説明する練習もします。</p> <p>授業概要  (1) 文字のしくみ  (2) 発音変化  (3) 名詞・動詞・形容詞の作文  (4) 韓国の文化・社会への理解を深めながら作文演習</p> <p>授業形態  教室での対面授業です。座席指定。</p>
評価方法	<p>毎回の課題 = 70%  期末試験 (第15回授業で実施) = 30%</p> <p>毎回、授業の最後に課題(小テスト)を実施します。課題は授業終了時に提出、次回授業時に返却します。課題の提出がない場合は欠席となります。</p> <p>授業や課題に積極的に取り組んだか、理解しようと努めたかも評価対象です。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特別欠席以外の理由による欠席は、計4回で失格。  遅刻は2回で欠席1回分とします。</p> <p>授業中に緊急以外でスマートフォン、スマートウォッチ等の操作を行った場合は、退室または失格。授業開始時に着席していない場合は、タブレット認証が済んでいても遅刻とみなします。</p>

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 文字の基礎1</p> <p>第3回 文字の基礎2、発音変化1</p> <p>第4回 文字の基礎3、発音変化2、名詞のていねい形</p> <p>第5回 文字の基礎4</p> <p>第6回 文字の基礎5</p> <p>第7回 韓国の食文化</p> <p>第8回 発音変化3、助詞の使い方</p> <p>第9回 長文作文、疑問形</p> <p>第10回 韓国人の人生行事1、動詞・形容詞のていねい形</p> <p>第11回 韓国人の人生行事2、発音変化4</p> <p>第12回 韓国人の人生行事3、作文演習</p> <p>第13回 韓国の学生生活、作文演習</p> <p>第14回 韓国の年中行事、作文演習</p> <p>第15回 総復習、期末試験</p>
テキスト	<p>テキストはありません。授業はパワーポイントを使って進めます。</p> <p>毎回、その回で使用するプリントを配布します。</p> <p>第2回の授業で配布する文字の一覧表は、各自管理し、毎回持参すること。</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>質問は授業後、もしくはメールで受け付けます。提出物に記入しても構いません。</p> <p>メールアドレス：kazama-c@nue.ac.jp</p>
フィードバックの方法	<p>毎回の課題のフィードバック</p> <p>提出した課題は、次回授業時に返却します。</p> <p>授業のはじめに返却した課題の答え合わせを行います。</p> <p>あわせて、前回の授業内容の復習も行います。</p> <p>期末試験について</p> <p>期末試験は第15回授業時に実施します。</p> <p>授業の前半でこれまでの総復習を行い、後半の時間（約60分間）で期末試験を実施します。</p> <p>試験問題の出題形式は第14回の授業内で説明します。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>授業内容が理解できなかった場合は、必ずその回のうちに質問して、できるようになっておいてください。</p> <p>分からないままにしておくと、その後の授業が理解できなくなります。</p> <p>自宅学習の方法などを知りたい場合は、随時質問してください。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	코리아語入門 / introductory Korean
時間割コード Course Code	12584
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	風間 千秋
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	風間 千秋 (経済学部)
授業の目標	<p>韓国の言葉と文化を知る。具体的には次のようです。</p> <p>(1-1) 文字の読み書きができる  (1-2) コリア語のしくみを理解する  (1-3) しくみを理解した上で、作文や発音でそれを実践できる  (2) 韓国の文化や社会を知り、自分自身の文化的背景について振り返る</p>
授業の概要	<p>暗記よりも、しくみを理解し実践できること、さらに応用できることを目標にしています。この授業は、文字をすべて覚えなくとも、調べることができれば理解できますが、文字のしくみと作文のルール、文字の一覧表の見方・使い方は理解し、慣れておかなければなりません。</p> <p>第2～10回の課題では、発音変化の実例等を示し、どのような条件下で何が起きているかを自ら見つけ、それを自分の言葉で説明する練習をします。また、その日に何を学んだかを自分の言葉で説明する練習もします。</p> <p>授業概要  (1) 文字のしくみ  (2) 発音変化  (3) 名詞・動詞・形容詞の作文  (4) 韓国の文化・社会への理解を深めながら作文演習</p> <p>授業形態  教室での対面授業です。座席指定。</p>
評価方法	<p>毎回の課題 = 70%  期末試験 (第15回授業で実施) = 30%</p> <p>毎回、授業の最後に課題(小テスト)を実施します。課題は授業終了時に提出、次回授業時に返却します。課題の提出がない場合は欠席となります。</p> <p>授業や課題に積極的に取り組んだか、理解しようと努めたかも評価対象です。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特別欠席以外の理由による欠席は、計4回で失格。  遅刻は2回で欠席1回分とします。</p> <p>授業中に緊急以外でスマートフォン、スマートウォッチ等の操作を行った場合は、退室または失格。授業開始時に着席していない場合は、タブレット認証が済んでいても遅刻とみなします。</p>

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 文字の基礎1</p> <p>第3回 文字の基礎2、発音変化1</p> <p>第4回 文字の基礎3、発音変化2、名詞のていねい形</p> <p>第5回 文字の基礎4</p> <p>第6回 文字の基礎5</p> <p>第7回 韓国の食文化</p> <p>第8回 発音変化3、助詞の使い方</p> <p>第9回 長文作文、疑問形</p> <p>第10回 韓国人の人生行事1、動詞・形容詞のていねい形</p> <p>第11回 韓国人の人生行事2、発音変化4</p> <p>第12回 韓国人の人生行事3、作文演習</p> <p>第13回 韓国の学生生活、作文演習</p> <p>第14回 韓国の年中行事、作文演習</p> <p>第15回 総復習、期末試験</p>
テキスト	<p>テキストはありません。授業はパワーポイントを使って進めます。</p> <p>毎回、その回で使用するプリントを配布します。</p> <p>第2回の授業で配布する文字の一覧表は、各自管理し、毎回持参すること。</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>質問は授業後、もしくはメールで受け付けます。提出物に記入しても構いません。</p> <p>メールアドレス：kazama-c@nue.ac.jp</p>
フィードバックの方法	<p>毎回の課題のフィードバック</p> <p>提出した課題は、次回授業時に返却します。</p> <p>授業のはじめに返却した課題の答え合わせを行います。</p> <p>あわせて、前回の授業内容の復習も行います。</p> <p>期末試験について</p> <p>期末試験は第15回授業時に実施します。</p> <p>授業の前半でこれまでの総復習を行い、後半の時間（約60分間）で期末試験を実施します。</p> <p>試験問題の出題形式は第14回の授業内で説明します。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>授業内容が理解できなかった場合は、必ずその回のうちに質問して、できるようになっておいてください。</p> <p>分からないままにしておくと、その後の授業が理解できなくなります。</p> <p>自宅学習の方法などを知りたい場合は、随時質問してください。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	코리아語入門 / introductory Korean
時間割コード Course Code	12585
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	風間 千秋
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	風間 千秋 (経済学部)
授業の目標	<p>韓国の言葉と文化を知る。具体的には次のようです。</p> <p>(1-1) 文字の読み書きができる  (1-2) コリア語のしくみを理解する  (1-3) しくみを理解した上で、作文や発音でそれを実践できる  (2) 韓国の文化や社会を知り、自分自身の文化的背景について振り返る</p>
授業の概要	<p>暗記よりも、しくみを理解し実践できること、さらに応用できることを目標にしています。この授業は、文字をすべて覚えなくとも、調べることができれば理解できますが、文字のしくみと作文のルール、文字の一覧表の見方・使い方は理解し、慣れておかなければなりません。</p> <p>第2～10回の課題では、発音変化の実例等を示し、どのような条件下で何が起きているかを自ら見つけ、それを自分の言葉で説明する練習をします。また、その日に何を学んだかを自分の言葉で説明する練習もします。</p> <p>授業概要  (1) 文字のしくみ  (2) 発音変化  (3) 名詞・動詞・形容詞の作文  (4) 韓国の文化・社会への理解を深めながら作文演習</p> <p>授業形態  教室での対面授業です。座席指定。</p>
評価方法	<p>毎回の課題 = 70%  期末試験 (第15回授業で実施) = 30%</p> <p>毎回、授業の最後に課題(小テスト)を実施します。課題は授業終了時に提出、次回授業時に返却します。課題の提出がない場合は欠席となります。</p> <p>授業や課題に積極的に取り組んだか、理解しようと努めたかも評価対象です。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特別欠席以外の理由による欠席は、計4回で失格。  遅刻は2回で欠席1回分とします。</p> <p>授業中に緊急以外でスマートフォン、スマートウォッチ等の操作を行った場合は、退室または失格。授業開始時に着席していない場合は、タブレット認証が済んでいても遅刻とみなします。</p>

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 文字の基礎1</p> <p>第3回 文字の基礎2、発音変化1</p> <p>第4回 文字の基礎3、発音変化2、名詞のていねい形</p> <p>第5回 文字の基礎4</p> <p>第6回 文字の基礎5</p> <p>第7回 韓国の食文化</p> <p>第8回 発音変化3、助詞の使い方</p> <p>第9回 長文作文、疑問形</p> <p>第10回 韓国人の人生行事1、動詞・形容詞のていねい形</p> <p>第11回 韓国人の人生行事2、発音変化4</p> <p>第12回 韓国人の人生行事3、作文演習</p> <p>第13回 韓国の学生生活、作文演習</p> <p>第14回 韓国の年中行事、作文演習</p> <p>第15回 総復習、期末試験</p>
テキスト	<p>テキストはありません。授業はパワーポイントを使って進めます。</p> <p>毎回、その回で使用するプリントを配布します。</p> <p>第2回の授業で配布する文字の一覧表は、各自管理し、毎回持参すること。</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>質問は授業後、もしくはメールで受け付けます。提出物に記入しても構いません。</p> <p>メールアドレス：kazama-c@nue.ac.jp</p>
フィードバックの方法	<p>毎回の課題のフィードバック</p> <p>提出した課題は、次回授業時に返却します。</p> <p>授業のはじめに返却した課題の答え合わせを行います。</p> <p>あわせて、前回の授業内容の復習も行います。</p> <p>期末試験について</p> <p>期末試験は第15回授業時に実施します。</p> <p>授業の前半でこれまでの総復習を行い、後半の時間（約60分間）で期末試験を実施します。</p> <p>試験問題の出題形式は第14回の授業内で説明します。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>授業内容が理解できなかった場合は、必ずその回のうちに質問して、できるようになっておいてください。</p> <p>分からないままにしておくと、その後の授業が理解できなくなります。</p> <p>自宅学習の方法などを知りたい場合は、随時質問してください。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	코리아語入門 / introductory Korean
時間割コード Course Code	12586
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	風間 千秋
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	風間 千秋 (経済学部)
授業の目標	<p>韓国の言葉と文化を知る。具体的には次のようです。</p> <p>(1-1) 文字の読み書きができる  (1-2) コリア語のしくみを理解する  (1-3) しくみを理解した上で、作文や発音でそれを実践できる  (2) 韓国の文化や社会を知り、自分自身の文化的背景について振り返る</p>
授業の概要	<p>暗記よりも、しくみを理解し実践できること、さらに応用できることを目標にしています。この授業は、文字をすべて覚えなくとも、調べることができれば理解できますが、文字のしくみと作文のルール、文字の一覧表の見方・使い方は理解し、慣れておかなければなりません。</p> <p>第2～10回の課題では、発音変化の実例等を示し、どのような条件下で何が起きているかを自ら見つけ、それを自分の言葉で説明する練習をします。また、その日に何を学んだかを自分の言葉で説明する練習もします。</p> <p>授業概要  (1) 文字のしくみ  (2) 発音変化  (3) 名詞・動詞・形容詞の作文  (4) 韓国の文化・社会への理解を深めながら作文演習</p> <p>授業形態  教室での対面授業です。座席指定。</p>
評価方法	<p>毎回の課題 = 70%  期末試験 (第15回授業で実施) = 30%</p> <p>毎回、授業の最後に課題(小テスト)を実施します。課題は授業終了時に提出、次回授業時に返却します。課題の提出がない場合は欠席となります。</p> <p>授業や課題に積極的に取り組んだか、理解しようと努めたかも評価対象です。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特別欠席以外の理由による欠席は、計4回で失格。  遅刻は2回で欠席1回分とします。</p> <p>授業中に緊急以外でスマートフォン、スマートウォッチ等の操作を行った場合は、退室または失格。授業開始時に着席していない場合は、タブレット認証が済んでいても遅刻とみなします。</p>

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 文字の基礎1</p> <p>第3回 文字の基礎2、発音変化1</p> <p>第4回 文字の基礎3、発音変化2、名詞のていねい形</p> <p>第5回 文字の基礎4</p> <p>第6回 文字の基礎5</p> <p>第7回 韓国の食文化</p> <p>第8回 発音変化3、助詞の使い方</p> <p>第9回 長文作文、疑問形</p> <p>第10回 韓国人の人生行事1、動詞・形容詞のていねい形</p> <p>第11回 韓国人の人生行事2、発音変化4</p> <p>第12回 韓国人の人生行事3、作文演習</p> <p>第13回 韓国の学生生活、作文演習</p> <p>第14回 韓国の年中行事、作文演習</p> <p>第15回 総復習、期末試験</p>
テキスト	<p>テキストはありません。授業はパワーポイントを使って進めます。</p> <p>毎回、その回で使用するプリントを配布します。</p> <p>第2回の授業で配布する文字の一覧表は、各自管理し、毎回持参すること。</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>質問は授業後、もしくはメールで受け付けます。提出物に記入しても構いません。</p> <p>メールアドレス：kazama-c@nue.ac.jp</p>
フィードバックの方法	<p>毎回の課題のフィードバック</p> <p>提出した課題は、次回授業時に返却します。</p> <p>授業のはじめに返却した課題の答え合わせを行います。</p> <p>あわせて、前回の授業内容の復習も行います。</p> <p>期末試験について</p> <p>期末試験は第15回授業時に実施します。</p> <p>授業の前半でこれまでの総復習を行い、後半の時間（約60分間）で期末試験を実施します。</p> <p>試験問題の出題形式は第14回の授業内で説明します。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>授業内容が理解できなかった場合は、必ずその回のうちに質問して、できるようになっておいてください。</p> <p>分からないままにしておくと、その後の授業が理解できなくなります。</p> <p>自宅学習の方法などを知りたい場合は、随時質問してください。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	코리아語入門 / introductory Korean
時間割コード Course Code	12587
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	風間 千秋
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	風間 千秋 (経済学部)
授業の目標	<p>韓国の言葉と文化を知る。具体的には次のようです。</p> <p>(1-1) 文字の読み書きができる  (1-2) コリア語のしくみを理解する  (1-3) しくみを理解した上で、作文や発音でそれを実践できる  (2) 韓国の文化や社会を知り、自分自身の文化的背景について振り返る</p>
授業の概要	<p>暗記よりも、しくみを理解し実践できること、さらに応用できることを目標にしています。この授業は、文字をすべて覚えなくとも、調べることができれば理解できますが、文字のしくみと作文のルール、文字の一覧表の見方・使い方は理解し、慣れておかなければなりません。</p> <p>第2～10回の課題では、発音変化の実例等を示し、どのような条件下で何が起きているかを自ら見つけ、それを自分の言葉で説明する練習をします。また、その日に何を学んだかを自分の言葉で説明する練習もします。</p> <p>授業概要  (1) 文字のしくみ  (2) 発音変化  (3) 名詞・動詞・形容詞の作文  (4) 韓国の文化・社会への理解を深めながら作文演習</p> <p>授業形態  教室での対面授業です。座席指定。</p>
評価方法	<p>毎回の課題 = 70%  期末試験 (第15回授業で実施) = 30%</p> <p>毎回、授業の最後に課題(小テスト)を実施します。課題は授業終了時に提出、次回授業時に返却します。課題の提出がない場合は欠席となります。</p> <p>授業や課題に積極的に取り組んだか、理解しようと努めたかも評価対象です。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特別欠席以外の理由による欠席は、計4回で失格。  遅刻は2回で欠席1回分とします。</p> <p>授業中に緊急以外でスマートフォン、スマートウォッチ等の操作を行った場合は、退室または失格。授業開始時に着席していない場合は、タブレット認証が済んでいても遅刻とみなします。</p>

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 文字の基礎1</p> <p>第3回 文字の基礎2、発音変化1</p> <p>第4回 文字の基礎3、発音変化2、名詞のていねい形</p> <p>第5回 文字の基礎4</p> <p>第6回 文字の基礎5</p> <p>第7回 韓国の食文化</p> <p>第8回 発音変化3、助詞の使い方</p> <p>第9回 長文作文、疑問形</p> <p>第10回 韓国人の人生行事1、動詞・形容詞のていねい形</p> <p>第11回 韓国人の人生行事2、発音変化4</p> <p>第12回 韓国人の人生行事3、作文演習</p> <p>第13回 韓国の学生生活、作文演習</p> <p>第14回 韓国の年中行事、作文演習</p> <p>第15回 総復習、期末試験</p>
テキスト	<p>テキストはありません。授業はパワーポイントを使って進めます。</p> <p>毎回、その回で使用するプリントを配布します。</p> <p>第2回の授業で配布する文字の一覧表は、各自管理し、毎回持参すること。</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>質問は授業後、もしくはメールで受け付けます。提出物に記入しても構いません。</p> <p>メールアドレス：kazama-c@nue.ac.jp</p>
フィードバックの方法	<p>毎回の課題のフィードバック</p> <p>提出した課題は、次回授業時に返却します。</p> <p>授業のはじめに返却した課題の答え合わせを行います。</p> <p>あわせて、前回の授業内容の復習も行います。</p> <p>期末試験について</p> <p>期末試験は第15回授業時に実施します。</p> <p>授業の前半でこれまでの総復習を行い、後半の時間（約60分間）で期末試験を実施します。</p> <p>試験問題の出題形式は第14回の授業内で説明します。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>授業内容が理解できなかった場合は、必ずその回のうちに質問して、できるようになっておいてください。</p> <p>分からないままにしておくと、その後の授業が理解できなくなります。</p> <p>自宅学習の方法などを知りたい場合は、随時質問してください。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	코리아語入門 / introductory Korean
時間割コード Course Code	12588
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	風間 千秋
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	7 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	風間 千秋 (経済学部)
授業の目標	<p>韓国の言葉と文化を知る。具体的には次のようです。</p> <p>(1-1) 文字の読み書きができる  (1-2) コリア語のしくみを理解する  (1-3) しくみを理解した上で、作文や発音でそれを実践できる  (2) 韓国の文化や社会を知り、自分自身の文化的背景について振り返る</p>
授業の概要	<p>暗記よりも、しくみを理解し実践できること、さらに応用できることを目標にしています。この授業は、文字をすべて覚えなくとも、調べることができれば理解できますが、文字のしくみと作文のルール、文字の一覧表の見方・使い方は理解し、慣れておかなければなりません。</p> <p>第2～10回の課題では、発音変化の実例等を示し、どのような条件下で何が起きているかを自ら見つけ、それを自分の言葉で説明する練習をします。また、その日に何を学んだかを自分の言葉で説明する練習もします。</p> <p>授業概要  (1) 文字のしくみ  (2) 発音変化  (3) 名詞・動詞・形容詞の作文  (4) 韓国の文化・社会への理解を深めながら作文演習</p> <p>授業形態  教室での対面授業です。座席指定。</p>
評価方法	<p>毎回の課題 = 70%  期末試験 (第15回授業で実施) = 30%</p> <p>毎回、授業の最後に課題(小テスト)を実施します。課題は授業終了時に提出、次回授業時に返却します。課題の提出がない場合は欠席となります。</p> <p>授業や課題に積極的に取り組んだか、理解しようと努めたかも評価対象です。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特別欠席以外の理由による欠席は、計4回で失格。  遅刻は2回で欠席1回分とします。</p> <p>授業中に緊急以外でスマートフォン、スマートウォッチ等の操作を行った場合は、退室または失格。授業開始時に着席していない場合は、タブレット認証が済んでいても遅刻とみなします。</p>

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 文字の基礎1</p> <p>第3回 文字の基礎2、発音変化1</p> <p>第4回 文字の基礎3、発音変化2、名詞のていねい形</p> <p>第5回 文字の基礎4</p> <p>第6回 文字の基礎5</p> <p>第7回 韓国の食文化</p> <p>第8回 発音変化3、助詞の使い方</p> <p>第9回 長文作文、疑問形</p> <p>第10回 韓国人の人生行事1、動詞・形容詞のていねい形</p> <p>第11回 韓国人の人生行事2、発音変化4</p> <p>第12回 韓国人の人生行事3、作文演習</p> <p>第13回 韓国の学生生活、作文演習</p> <p>第14回 韓国の年中行事、作文演習</p> <p>第15回 総復習、期末試験</p>
テキスト	<p>テキストはありません。授業はパワーポイントを使って進めます。</p> <p>毎回、その回で使用するプリントを配布します。</p> <p>第2回の授業で配布する文字の一覧表は、各自管理し、毎回持参すること。</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>質問は授業後、もしくはメールで受け付けます。提出物に記入しても構いません。</p> <p>メールアドレス：kazama-c@nue.ac.jp</p>
フィードバックの方法	<p>毎回の課題のフィードバック</p> <p>提出した課題は、次回授業時に返却します。</p> <p>授業のはじめに返却した課題の答え合わせを行います。</p> <p>あわせて、前回の授業内容の復習も行います。</p> <p>期末試験について</p> <p>期末試験は第15回授業時に実施します。</p> <p>授業の前半でこれまでの総復習を行い、後半の時間（約60分間）で期末試験を実施します。</p> <p>試験問題の出題形式は第14回の授業内で説明します。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>授業内容が理解できなかった場合は、必ずその回のうちに質問して、できるようになっておいてください。</p> <p>分からないままにしておくと、その後の授業が理解できなくなります。</p> <p>自宅学習の方法などを知りたい場合は、随時質問してください。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	코리아語入門 / introductory Korean
時間割コード Course Code	12589
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	風間 千秋
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	7 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	風間 千秋 (経済学部)
授業の目標	<p>韓国の言葉と文化を知る。具体的には次のようです。</p> <p>(1-1) 文字の読み書きができる  (1-2) コリア語のしくみを理解する  (1-3) しくみを理解した上で、作文や発音でそれを実践できる  (2) 韓国の文化や社会を知り、自分自身の文化的背景について振り返る</p>
授業の概要	<p>暗記よりも、しくみを理解し実践できること、さらに応用できることを目標にしています。この授業は、文字をすべて覚えなくとも、調べることができれば理解できますが、文字のしくみと作文のルール、文字の一覧表の見方・使い方は理解し、慣れておかなければなりません。</p> <p>第2～10回の課題では、発音変化の実例等を示し、どのような条件下で何が起きているかを自ら見つけ、それを自分の言葉で説明する練習をします。また、その日に何を学んだかを自分の言葉で説明する練習もします。</p> <p>授業概要  (1) 文字のしくみ  (2) 発音変化  (3) 名詞・動詞・形容詞の作文  (4) 韓国の文化・社会への理解を深めながら作文演習</p> <p>授業形態  教室での対面授業です。座席指定。</p>
評価方法	<p>毎回の課題 = 70%  期末試験 (第15回授業で実施) = 30%</p> <p>毎回、授業の最後に課題(小テスト)を実施します。課題は授業終了時に提出、次回授業時に返却します。課題の提出がない場合は欠席となります。</p> <p>授業や課題に積極的に取り組んだか、理解しようと努めたかも評価対象です。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特別欠席以外の理由による欠席は、計4回で失格。  遅刻は2回で欠席1回分とします。</p> <p>授業中に緊急以外でスマートフォン、スマートウォッチ等の操作を行った場合は、退室または失格。授業開始時に着席していない場合は、タブレット認証が済んでいても遅刻とみなします。</p>

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 文字の基礎1</p> <p>第3回 文字の基礎2、発音変化1</p> <p>第4回 文字の基礎3、発音変化2、名詞のていねい形</p> <p>第5回 文字の基礎4</p> <p>第6回 文字の基礎5</p> <p>第7回 韓国の食文化</p> <p>第8回 発音変化3、助詞の使い方</p> <p>第9回 長文作文、疑問形</p> <p>第10回 韓国人の人生行事1、動詞・形容詞のていねい形</p> <p>第11回 韓国人の人生行事2、発音変化4</p> <p>第12回 韓国人の人生行事3、作文演習</p> <p>第13回 韓国の学生生活、作文演習</p> <p>第14回 韓国の年中行事、作文演習</p> <p>第15回 総復習、期末試験</p>
テキスト	<p>テキストはありません。授業はパワーポイントを使って進めます。</p> <p>毎回、その回で使用するプリントを配布します。</p> <p>第2回の授業で配布する文字の一覧表は、各自管理し、毎回持参すること。</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>質問は授業後、もしくはメールで受け付けます。提出物に記入しても構いません。</p> <p>メールアドレス：kazama-c@nue.ac.jp</p>
フィードバックの方法	<p>毎回の課題のフィードバック</p> <p>提出した課題は、次回授業時に返却します。</p> <p>授業のはじめに返却した課題の答え合わせを行います。</p> <p>あわせて、前回の授業内容の復習も行います。</p> <p>期末試験について</p> <p>期末試験は第15回授業時に実施します。</p> <p>授業の前半でこれまでの総復習を行い、後半の時間（約60分間）で期末試験を実施します。</p> <p>試験問題の出題形式は第14回の授業内で説明します。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>授業内容が理解できなかった場合は、必ずその回のうちに質問して、できるようになっておいてください。</p> <p>分からないままにしておくと、その後の授業が理解できなくなります。</p> <p>自宅学習の方法などを知りたい場合は、随時質問してください。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	코리아語入門 / introductory Korean
時間割コード Course Code	12590
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	金 恩貞
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	金 恩貞 (経済学部)
授業の目標	韓国で実際使われている実用的な韓国語を身につけるために読む・書く・聞くを総合的な側面から学習する。様々な場面で韓国語で対話ができることを目標とする。
授業の概要	韓国語の文字体系を理解する。読み書き聞き話しを中心に講義を行う。日常生活に必要な単語やフレーズを学習して会話ができるようになるように練習を行う。
評価方法	授業態度50%、期末テスト50%。欠席・遅刻・早退はその回数に応じて減点を行う。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業中に他の人との私語と携帯など電子機器を使用禁止。指摘を受けても改善されない場合失格とする。
授業計画	授業計画の詳細は授業計画詳細情報を参照すること。
テキスト	NewカナタKOREAN初級 1 出版社 : 国書刊行会
参考書	指定テキストを参考にする。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学内電子メールにて対応。
フィードバックの方法	学内電子メールにて対応。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習 : 30分 復習 : 60分
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力

PROGコンピテンシーの要素

1. 親和力
2. 協同力
4. 感情制御力
5. 自信創出力
6. 行動持続力
7. 課題発見力
9. 実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	授業に関するオリエンテーション及び韓国語の文字体系に関する説明	
2	子音と母音 1	子音と母音の体系を理解する	
3	子音と母音 2	子音と母音の体系を理解する	
4	二重母音	二重母音の体系を理解する	
5	バッチム	バッチムの体系を理解する	
6	文字読みの練習	文字体系を理解し、韓国語が読めるように練習を行う	
7	こんにちは 1	は / である / 私 / 私の簡単な挨拶表現を使い自己紹介を行う	
8	こんにちは 2	は / である / 私 / 私の簡単な挨拶表現を使い自己紹介を行う	
9	これなんですか 1	指示代名詞 / 何 / が / の / ではない物事を尋ねたり答えることができる	
10	これなんですか 2	指示代名詞 / 何 / が / の / ではない物事を尋ねたり答えることができる	
11	この人達は誰ですか 1	指示代名詞 / 誰 / です・ます知り合いを紹介することができる	
12	この人達は誰ですか 2	指示代名詞 / 誰 / です・ます知り合いを紹介することができる	
13	山田さん、何をしますか 1	を 目的語と動詞で話すことができる	
14	山田さん、何をしますか 2	を 目的語と動詞で話すことができる	
15	まとめ	まとめを行う。	

開講科目名 Course	코리아語入門 / introductory Korean
時間割コード Course Code	12591
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	金 恩貞
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	金 恩貞 (経済学部)
授業の目標	韓国で実際使われている実用的な韓国語を身につけるために読む・書く・聞くを総合的な側面から学習する。様々な場面で韓国語で対話ができることを目標とする。
授業の概要	韓国語の文字体系を理解する。読み書き聞き話しを中心に講義を行う。日常生活に必要な単語やフレーズを学習して会話ができるようになるように練習を行う。
評価方法	授業態度50%、期末テスト50%。欠席・遅刻・早退はその回数に応じて減点を行う。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業中に他の人との私語と携帯など電子機器を使用禁止。指摘を受けても改善されない場合失格とする。
授業計画	授業計画の詳細は授業計画詳細情報を参照すること。
テキスト	NewカナタKOREAN初級 1 出版社 : 国書刊行会
参考書	テキストを参考にする。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学内電子メールにて対応。
フィードバックの方法	学内電子メールにて対応。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習 : 30分 復習 : 60分
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力

## PROGコンピテンシーの要素

1. 親和力
2. 協同力
4. 感情制御力
5. 自信創出力
6. 行動持続力
7. 課題発見力
9. 実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	授業に関するオリエンテーション及び韓国語の文字体系に関する説明	
2	子音と母音 1	子音と母音の体系を理解する	
3	子音と母音 2	子音と母音の体系を理解する	
4	二重母音	二重母音の体系を理解する	
5	バッチム	バッチムの体系を理解する	
6	文字読みの練習	文字体系を理解し、韓国語が読めるように練習を行う	
7	こんにちは 1	は / である / 私 / 私の簡単な挨拶表現を使い自己紹介を行う	
8	こんにちは 2	は / である / 私 / 私の簡単な挨拶表現を使い自己紹介を行う	
9	これなんですか 1	指示代名詞 / 何 / が / の / ではない物事を尋ねたり答えることができる	
10	これなんですか 2	指示代名詞 / 何 / が / の / ではない物事を尋ねたり答えることができる	
11	この人達は誰ですか 1	指示代名詞 / 誰 / です・ます知り合いを紹介することができる	
12	この人達は誰ですか 2	指示代名詞 / 誰 / です・ます知り合いを紹介することができる	
13	山田さん、何をしますか 1	を 目的語と動詞で話すことができる	
14	山田さん、何をしますか 2	を 目的語と動詞で話すことができる	
15	まとめ	まとめを行う。	



開講科目名 Course	코리아語入門 / introductory Korean
時間割コード Course Code	12592
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	金 恩貞
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	14D講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	金 恩貞 (経済学部)
授業の目標	韓国で実際使われている実用的な韓国語を身につけるために読む・書く・聞くを総合的な側面から学習する。様々な場面で韓国語で対話ができることを目標とする。
授業の概要	韓国語の文字体系を理解する。読み書き聞き話しを中心に講義を行う。日常生活に必要な単語やフレーズを学習して会話ができるようになるように練習を行う。
評価方法	授業態度50%、期末テスト50%。欠席・遅刻・早退はその回数に応じて減点を行う。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業中に他の人との私語と携帯など電子機器を使用禁止。指摘を受けても改善されない場合失格とする。
授業計画	授業計画の詳細は授業計画詳細情報を参照すること。
テキスト	NewカナタKOREAN初級1 出版社 : 国書刊行会
参考書	テキストを参考にする。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学内電子メールにて対応。
フィードバックの方法	学内電子メールにて対応。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習 : 30分 復習 : 60分
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力

## PROGコンピテンシーの要素

1. 親和力
2. 協同力
4. 感情制御力
5. 自信創出力
6. 行動持続力
7. 課題発見力
9. 実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	授業に関するオリエンテーション及び韓国語の文字体系に関する説明	
2	子音と母音 1	子音と母音の体系を理解する	
3	子音と母音 2	子音と母音の体系を理解する	
4	二重母音	二重母音の体系を理解する	
5	バッチム	バッチムの体系を理解する	
6	文字読みの練習	文字体系を理解し、韓国語が読めるように練習を行う	
7	こんにちは 1	は / である / 私 / 私の簡単な挨拶表現を使い自己紹介を行う	
8	こんにちは 2	は / である / 私 / 私の簡単な挨拶表現を使い自己紹介を行う	
9	これがなんですか 1	指示代名詞 / 何 / が / の / ではない物事を尋ねたり答えることができる	
10	これがなんですか 2	指示代名詞 / 何 / が / の / ではない物事を尋ねたり答えることができる	
11	この人達は誰ですか 1	指示代名詞 / 誰 / です・ます知り合いを紹介することができる	
12	この人達は誰ですか 2	指示代名詞 / 誰 / です・ます知り合いを紹介することができる	
13	山田さん、何をしますか 1	を 目的語と動詞で話すことができる	
14	山田さん、何をしますか 2	を 目的語と動詞で話すことができる	
15	まとめ	まとめを行う。	

開講科目名 Course	코리아語入門 / introductory Korean
時間割コード Course Code	12593
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	金 恩貞
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	1 4 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	金 恩貞 (経済学部)
授業の目標	韓国で実際使われている実用的な韓国語を身につけるために読む・書く・聞くを総合的な側面から学習する。様々な場面で韓国語で対話ができることを目標とする。
授業の概要	韓国語の文字体系を理解する。読み書き聞き話しを中心に講義を行う。日常生活に必要な単語やフレーズを学習して会話ができるようになるように練習を行う。
評価方法	授業態度50%、期末テスト50%。欠席・遅刻・早退はその回数に応じて減点を行う。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業中に他の人との私語と携帯など電子機器を使用禁止。指摘を受けても改善されない場合失格とする。
授業計画	授業計画の詳細は授業計画詳細情報を参照すること。
テキスト	NewカナタKOREAN初級 1 出版社 : 国書刊行会
参考書	テキストを参考にする。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学内電子メールにて対応。
フィードバックの方法	学内電子メールにて対応。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習 : 30分 復習 : 60分
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力

PROGコンピテンシーの要素

1. 親和力
2. 協同力
4. 感情制御力
5. 自信創出力
6. 行動持続力
7. 課題発見力
9. 実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	授業に関するオリエンテーション及び韓国語の文字体系に関する説明	
2	子音と母音 1	子音と母音の体系を理解する	
3	子音と母音 2	子音と母音の体系を理解する	
4	二重母音	二重母音の体系を理解する	
5	バッチム	バッチムの体系を理解する	
6	文字読みの練習	文字体系を理解し、韓国語が読めるように練習を行う	
7	こんにちは 1	は / である / 私 / 私の簡単な挨拶表現を使い自己紹介を行う	
8	こんにちは 2	は / である / 私 / 私の簡単な挨拶表現を使い自己紹介を行う	
9	これなんですか 1	指示代名詞 / 何 / が / の / ではない物事を尋ねたり答えることができる	
10	これなんですか 2	指示代名詞 / 何 / が / の / ではない物事を尋ねたり答えることができる	
11	この人達は誰ですか 1	指示代名詞 / 誰 / です・ます知り合いを紹介することができる	
12	この人達は誰ですか 2	指示代名詞 / 誰 / です・ます知り合いを紹介することができる	
13	山田さん、何をしますか 1	を 目的語と動詞で話すことができる	
14	山田さん、何をしますか 2	を 目的語と動詞で話すことができる	
15	まとめ	まとめを行う。	

開講科目名 Course	코리아語初級 / Elementary Korean
時間割コード Course Code	12600
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	風間 千秋
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	風間 千秋 (経済学部)
授業の目標	<p>코리아語を使って、「話す・聞く・表現する」体験をしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字を覚え、自然に発音できるようになりましょう</li> <li>・ペアワークを通して、코리아語でのやりとりに慣れましょう</li> <li>・自分自身のことを韓国語で表現してみましょう</li> </ul>
授業の概要	<p>会話で多用される語尾の活用を理解し、口と耳を慣らしていきます。 実際の会話を想定したやり取りの練習では、定型フレーズに加え、自分自身の答えを코리아語で表現できるように練習していきます。</p> <p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 実際の会話で使用される語尾の活用と表現</li> <li>(2) 質問に対して答える</li> <li>(3) 自分自身のことを表現する</li> </ol> <p>授業形態</p> <p>対面授業です。座席指定。 授業ではペアワークを実施します。</p>
評価方法	<p>毎回の小テスト = 70点 (各回 5点 × 14回) 期末テスト = 30点 (第15回授業時に実施)</p> <p>毎回授業の終わりに、口頭による個別小テストを実施します。 (語尾活用のチェックや、ペアワークを覚えて披露する、など)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特別欠席以外の理由による欠席は、計4回で失格。 遅刻は2回で欠席1回分とします。</p> <p>授業開始時に着席していない場合は、タブレット認証が済んでいても遅刻とみなします。</p>

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、文字の復習</p> <p>第2回 あいさつ・あいづち表現を使つての文字と発音変化の復習</p> <p>第3回 体(会話語)の作り方1：名詞</p> <p>第4回 名詞の否定形</p> <p>第5回 体(会話語)の作り方2：動詞・形容詞・存在詞</p> <p>第6回 動詞・形容詞の否定形</p> <p>第7回 第3～6回のまとめ</p> <p>第8回 存在詞、激音化</p> <p>第9回 数字、「～下さい」の表現</p> <p>第10回 可能・不可能表現</p> <p>第11回 希望・願望表現</p> <p>第12回 体のまとめ</p> <p>第13回 いろいろな表現のまとめ</p> <p>第14回 期末テストの準備</p> <p>第15回 期末テスト</p>
テキスト	<p>テキストはありません。授業はパワーポイントを使って進めます。</p> <p>毎回、その回で使用するプリントを配布します。</p> <p>作文演習の際、単語を調べるために、スマートフォン等の使用を求めることがあります。</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>質問は授業後、もしくはメールで受け付けます。</p> <p>メールアドレス：kazama-c@nue.ac.jp</p>
フィードバックの方法	<p>授業のはじめに、前回の授業内容を復習します。</p> <p>復習の時間を十分に設けることで、既習事項を整理し、知識とスキルの定着を促します。</p> <p>期末試験は第15回授業時に実施します。筆記とスピーキング(ペアワーク)です。</p> <p>第14回の授業でプレテストを行います。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>授業内容が理解できなかった場合は、必ずその回のうちに質問して、できるようになっておいてください。</p> <p>自宅学習の方法などを知りたい場合は、随時質問してください。</p> <p>受講期間中は韓国ドラマや映画をなるべく視聴して、授業で学んだ表現を劇中で探してみましよう。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	코리아語初級 / Elementary Korean
時間割コード Course Code	12601
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	風間 千秋
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	7 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	風間 千秋 (経済学部)
授業の目標	<p>코리아語を使って、「話す・聞く・表現する」体験をしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字を覚え、自然に発音できるようになりましょう</li> <li>・ペアワークを通して、코리아語でのやりとりに慣れましょう</li> <li>・自分自身のことを韓国語で表現してみましょう</li> </ul>
授業の概要	<p>会話で多用される語尾の活用を理解し、口と耳を慣らしていきます。 実際の会話を想定したやり取りの練習では、定型フレーズに加え、自分自身の答えを코리아語で表現できるように練習していきます。</p> <p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 実際の会話で使用される語尾の活用と表現</li> <li>(2) 質問に対して答える</li> <li>(3) 自分自身のことを表現する</li> </ol> <p>授業形態</p> <p>対面授業です。座席指定。 授業ではペアワークを実施します。</p>
評価方法	<p>毎回の小テスト = 70点 (各回 5点 × 14回) 期末テスト = 30点 (第15回授業時に実施)</p> <p>毎回授業の終わりに、口頭による個別小テストを実施します。 (語尾活用のチェックや、ペアワークを覚えて披露する、など)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特別欠席以外の理由による欠席は、計4回で失格。 遅刻は2回で欠席1回分とします。</p> <p>授業開始時に着席していない場合は、タブレット認証が済んでいても遅刻とみなします。</p>

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、文字の復習</p> <p>第2回 あいさつ・あいづち表現を使つての文字と発音変化の復習</p> <p>第3回 体(会話語)の作り方1：名詞</p> <p>第4回 名詞の否定形</p> <p>第5回 体(会話語)の作り方2：動詞・形容詞・存在詞</p> <p>第6回 動詞・形容詞の否定形</p> <p>第7回 第3～6回のまとめ</p> <p>第8回 存在詞、激音化</p> <p>第9回 数字、「～下さい」の表現</p> <p>第10回 可能・不可能表現</p> <p>第11回 希望・願望表現</p> <p>第12回 体のまとめ</p> <p>第13回 いろいろな表現のまとめ</p> <p>第14回 期末テストの準備</p> <p>第15回 期末テスト</p>
テキスト	<p>テキストはありません。授業はパワーポイントを使って進めます。</p> <p>毎回、その回で使用するプリントを配布します。</p> <p>作文演習の際、単語を調べるために、スマートフォン等の使用を求めることがあります。</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>質問は授業後、もしくはメールで受け付けます。</p> <p>メールアドレス：kazama-c@nue.ac.jp</p>
フィードバックの方法	<p>授業のはじめに、前回の授業内容を復習します。</p> <p>復習の時間を十分に設けることで、既習事項を整理し、知識とスキルの定着を促します。</p> <p>期末試験は第15回授業時に実施します。筆記とスピーキング(ペアワーク)です。</p> <p>第14回の授業でプレテストを行います。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>授業内容が理解できなかった場合は、必ずその回のうちに質問して、できるようになっておいてください。</p> <p>自宅学習の方法などを知りたい場合は、随時質問してください。</p> <p>受講期間中は韓国ドラマや映画をなるべく視聴して、授業で学んだ表現を劇中で探してみましよう。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	フランス語入門 / Introduction to French
時間割コード Course Code	12610
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	上西 晃生
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	上西 晃生 (経済学部)
授業の目標	1. フランス語の基本的な日常会話をおこなうことができる。 2. 平易なフランス語表現を聞き取ることができる。 3. 文法の知識と辞書の使用に基づき、フランス語の文章を読むことができる。 4. フランス語で簡単な作文ができる。
授業の概要	フランス語文法の基礎を理解し、日常会話と読み書きの基本的能力を習得する。 フランス語圏の社会・文化への理解と興味を深める。
評価方法	評価法: 授業参加度(課題のパフォーマンス)40%、小テスト10%、定期試験50%で評価する。 評価基準: 授業に継続的に出席し、小テストで合格基準に達した者が、定期試験を受験することができる。 AA: 授業参加度・小テスト・期末テストの合計点が90点(100点満点)以上 A: 授業参加度・小テスト・期末テストの合計点が80点(100点満点)以上 B: 授業参加度・小テスト・期末テストの合計点が70点(100点満点)以上 C: 授業参加度・小テスト・期末テストの合計点が60点(100点満点)以上
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	1. イントロダクション 2. Unité 1 挨拶と自己紹介 3. Unité 1 挨拶と自己紹介 4. Unité 2 ホテルでの会話 5. Unité 2 ホテルでの会話 6. Unité 3 家族を語る 7. Unité 3 家族を語る 8. まとめ(1) 小テスト(口頭) 9. Unité 4 人を形容する 10. Unité 4 人を形容する 11. Unité 5 電話で話す 12. Unité 5 電話で話す 13. Unité 6 道を尋ねる 14. Unité 6 道を尋ねる 15. まとめ(2) 小テスト(口頭) 16. 定期試験

テキスト	<p>書名： 『新・彼女は食いしん坊!』          著者名： 藤田裕二著          出版社： 朝日出版社          出版年： 2013          ISBN： 4255352313</p> <p>書名： 『ケータイ万能フランス語文法』          著者名： 久松健一著          出版社： 駿河台出版社          出版年： 2000          ISBN： 4411004763</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	講義後に受け付ける。もしくはメールにて受け付ける。
フィードバックの方法	対面あるいはメールでの返答。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎回授業前にウェブ教材のビデオ等を見て内容を把握し、予習しておく。</li> <li>2. 授業後にCD・音声データを活用し、発音練習・書き写し等で復習する。</li> <li>3. 定期的に既習事項から小テストをおこなうので、指示された重要事項を重点的に復習する。</li> </ol>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> <li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> <li>14. 海の豊かさを守ろう</li> <li>15. 陸の豊かさも守ろう</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>6. 行動持続力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

開講科目名 Course	フランス語入門 / Introduction to French
時間割コード Course Code	12611
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	上西 晃生
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	上西 晃生 (経済学部)
授業の目標	1. フランス語の基本的な日常会話をおこなうことができる。 2. 平易なフランス語表現を聞き取ることができる。 3. 文法の知識と辞書の使用に基づき、フランス語の文章を読むことができる。 4. フランス語で簡単な作文ができる。
授業の概要	「フランス語I」に引き続き、フランス語の基礎を理解し、日常会話と読み書きの基本的能力を習得する。 フランス語圏の社会・文化への理解と興味を深める。
評価方法	評価法: 授業参加度(課題のパフォーマンス)40%、小テスト10%、定期試験50%で評価する。 評価基準: 授業に継続的に出席し、小テストで合格基準に達した者が、定期試験を受験することができる。 S: 授業参加度・小テスト・期末テストの合計点が90点(100点満点)以上 A: 授業参加度・小テスト・期末テストの合計点が80点(100点満点)以上 B: 授業参加度・小テスト・期末テストの合計点が70点(100点満点)以上 C: 授業参加度・小テスト・期末テストの合計点が60点(100点満点)以上
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	1. イントロダクション 2. Unité 1 挨拶と自己紹介 3. Unité 1 挨拶と自己紹介 4. Unité 2 ホテルでの会話 5. Unité 2 ホテルでの会話 6. Unité 3 家族を語る 7. Unité 3 家族を語る 8. まとめ(1) 小テスト(口頭) 9. Unité 4 人を形容する 10. Unité 4 人を形容する 11. Unité 5 電話で話す 12. Unité 5 電話で話す 13. Unité 6 道を尋ねる 14. Unité 6 道を尋ねる 15. まとめ(2) 小テスト(口頭) 16. 定期試験

テキスト	<p>書名： 『新・彼女は食いしん坊!』          著者名： 藤田裕二著          出版社： 朝日出版社          出版年： 2013          ISBN： 4255352313</p> <p>書名： 『ケータイ万能フランス語文法』          著者名： 久松健一著          出版社： 駿河台出版社          出版年： 2000          ISBN： 4411004763</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	講義後に受け付ける。あるいはメールにて受け付ける。
フィードバックの方法	対面かメールで返答する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎回授業前にウェブ教材のビデオ等を見て内容を把握し、予習しておく。</li> <li>2. 授業後にCD・音声データを活用し、発音練習・書き写し等で復習する。</li> <li>3. 定期的に既習事項から小テストをおこなうので、指示された重要事項を重点的に復習する。</li> </ol>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> <li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> <li>14. 海の豊かさを守ろう</li> <li>15. 陸の豊かさも守ろう</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>6. 行動持続力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

開講科目名 Course	フランス語入門 / Introduction to French
時間割コード Course Code	12612
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	上西 晃生
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	上西 晃生 (経済学部)
授業の目標	1. フランス語の基本的な日常会話をおこなうことができる。 2. 平易なフランス語表現を聞き取ることができる。 3. 文法の知識と辞書の使用に基づき、フランス語の文章を読むことができる。 4. フランス語で簡単な作文ができる。
授業の概要	「フランス語I」に引き続き、フランス語の基礎を理解し、日常会話と読み書きの基本的能力を習得する。 フランス語圏の社会・文化への理解と興味を深める。
評価方法	評価法: 授業参加度(課題のパフォーマンス)40%、小テスト10%、定期試験50%で評価する。 評価基準: 授業に継続的に出席し、小テストで合格基準に達した者が、定期試験を受験することができる。 S: 授業参加度・小テスト・期末テストの合計点が90点(100点満点)以上 A: 授業参加度・小テスト・期末テストの合計点が80点(100点満点)以上 B: 授業参加度・小テスト・期末テストの合計点が70点(100点満点)以上 C: 授業参加度・小テスト・期末テストの合計点が60点(100点満点)以上
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	1. イントロダクション 2. 第7課市場での買い物の会話 3. 第7課食べ物・飲み物の表現 4. 第8課スポーツについて話す 5. 第8課時間・天候の表現 6. 第9課ショッピングの表現 7. 第9課比較の表現 8. まとめ(1) 小テスト(口頭) 9. 第10課人物紹介 10. 第10課目的語の代名詞 11. 第11課過去の行為を語る 12. 第11課過去の行為を語る 13. 第12課未来を語る 14. 第12課未来を語る 15. まとめ(2) 小テスト(口頭) 16. 定期試験

テキスト	<p>書名： 『新・彼女は食いしん坊!』          著者名： 藤田裕二著          出版社： 朝日出版社          出版年： 2013          ISBN： 4255352313</p> <p>書名： 『ケータイ万能フランス語文法』          著者名： 久松健一著          出版社： 駿河台出版社          出版年： 2000          ISBN： 4411004763</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	講義後に受け付ける。あるいはメールにて受け付ける。
フィードバックの方法	対面かメールで返答する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎回授業前にウェブ教材のビデオ等を見て、内容を把握し予習しておく。</li> <li>2. 授業後にCD・音声データを活用し、発音練習・書き写し等で復習する。</li> <li>3. 定期的に既習事項から小テストをおこなうので、指示された重要事項を重点的に復習する。</li> </ol>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> <li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> <li>14. 海の豊かさを守ろう</li> <li>15. 陸の豊かさも守ろう</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>6. 行動持続力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>



開講科目名 Course	フランス語入門 / Introduction to French
時間割コード Course Code	12613
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	上西 晃生
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	上西 晃生 (経済学部)
授業の目標	1. フランス語の基本的な日常会話をおこなうことができる。 2. 平易なフランス語表現を聞き取ることができる。 3. 文法の知識と辞書の使用に基づき、フランス語の文章を読むことができる。 4. フランス語で簡単な作文ができる。
授業の概要	「フランス語I」に引き続き、フランス語の基礎を理解し、日常会話と読み書きの基本的能力を習得する。 フランス語圏の社会・文化への理解と興味を深める。
評価方法	評価法: 授業参加度(課題のパフォーマンス)40%、小テスト10%、定期試験50%で評価する。 評価基準: 授業に継続的に出席し、小テストで合格基準に達した者が、定期試験を受験することができる。 S: 授業参加度・小テスト・期末テストの合計点が90点(100点満点)以上 A: 授業参加度・小テスト・期末テストの合計点が80点(100点満点)以上 B: 授業参加度・小テスト・期末テストの合計点が70点(100点満点)以上 C: 授業参加度・小テスト・期末テストの合計点が60点(100点満点)以上
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	1. イントロダクション 2. 第7課市場での買い物の会話 3. 第7課食べ物・飲み物の表現 4. 第8課スポーツについて話す 5. 第8課時間・天候の表現 6. 第9課ショッピングの表現 7. 第9課比較の表現 8. まとめ(1) 小テスト(口頭) 9. 第10課人物紹介 10. 第10課目的語の代名詞 11. 第11課過去の行為を語る 12. 第11課過去の行為を語る 13. 第12課未来を語る 14. 第12課未来を語る 15. まとめ(2) 小テスト(口頭) 16. 定期試験

テキスト	<p>書名： 『新・彼女は食いしん坊!』          著者名： 藤田裕二著          出版社： 朝日出版社          出版年： 2013          ISBN： 4255352313</p> <p>書名： 『ケータイ万能フランス語文法』          著者名： 久松健一著          出版社： 駿河台出版社          出版年： 2000          ISBN： 4411004763</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	講義後に受け付ける。あるいはメールで受け付ける。
フィードバックの方法	対面かメールで返答する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎回授業前にウェブ教材のビデオ等を見て、内容を把握し予習しておく。</li> <li>2. 授業後にCD・音声データを活用し、発音練習・書き写し等で復習する。</li> <li>3. 定期的に既習事項から小テストをおこなうので、指示された重要事項を重点的に復習する。</li> </ol>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> <li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> <li>14. 海の豊かさを守ろう</li> <li>15. 陸の豊かさも守ろう</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>6. 行動持続力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

開講科目名 Course	ドイツ語入門 / Introduction to German
時間割コード Course Code	12620
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	中村 修
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 修 (経済学部)
授業の目標	ドイツ語のつづりと発音に慣れて、基礎的な文法規則をふまえつつ、簡単な日常会話の表現ができるようになること。 ドイツ語圏の社会と文化について知識と理解を深める。
授業の概要	この授業のテーマは総合的にドイツ語の基礎学力を身につけることです。教科書をもとに、基礎的な文法、会話表現などを総合的に幅広く学んでゆきます。同時に、ドイツ語はどんな言語なのか、その特徴は何か、ということ全員で考えながら、ドイツ語に馴れ親しんでほしいと思います。そして最終的には、自分の意思や自分に関することを簡単なドイツ語で表現できるように頑張ってもらいたいと思います。 さらに、ドイツ語学習を通して、ドイツ語圏の国々での生活、習慣、文化について知識を身につけ、日本との共通性を探ってゆく。 とりわけ、世界のほとんどの国や地域において文化の重要な要素となっているサッカー(フットボール)が、ドイツではどのような発展を辿ってきたか、その歴史と現在についても取り上げてゆく。
評価方法	授業への積極的な参加、とくに有意義な質問や発言、提案などを高く評価します。課題への取り組み20% + 平常点(発音・音読など)20%。そして、小テストおよび定期試験の結果(60%)を総合的に算定して、最終的な評価をする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	大学の規定による正当な理由なくして、3分の1以上欠席した者は失格とする。
授業計画	第1回 ガイダンス ドイツとドイツ語について アルファベットと発音 第2回 発音 かんたんな挨拶表現 第3回 動詞の現在人称変化 平叙文と疑問文 簡単な会話練習 第4回 動詞の現在人称変化の練習と応用 簡単な会話練習 第5回 名詞について 性、格、定冠詞と不定冠詞 複数形について 第6回 様々な目的語をとる動詞 第7回 様々な名詞を使って文章を作る。簡単な会話練習 第8回 冠詞類の説明と応用練習 否定冠詞と所有冠詞 第9回 定冠詞類 作文練習 第10回 人称代名詞の応用 簡単な会話練習 第11回 不規則変化動詞の現在人称変化の練習 簡単な会話練習 作文 命令形 第12回 命令と依頼の表現 簡単な会話練習 第13回 前置詞 第14回 前置詞の応用練習 第15回 前期授業のまとめと総合練習
テキスト	『つながるドイツ語みっとりーべ』中村、中川、大澤著 朝日出版社 ISBN: 978-4-255-25421-0
参考書	『独和辞典』

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	新たに学んだ語句を使い、自身の生活との関連から(題材として)、ドイツ語で文章を作り、学生同士での質疑応答を試みる。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	社会人を対象としたドイツ語授業の实践。 学生や社会人を対象とした合宿形式でのドイツ語授業の実施。 様々な国のドイツ語教員と協力して、旧東ドイツ市民へのインタビューを通してドイツ国民の意識調査などを実施。
質問への対応方法	質問に関しては、いつでも歓迎します。自分が疑問に感じたことは、ほかの受講者にとっても疑問であったり、またはプラスの要素を含んだものが少なくありません。
フィードバックの方法	授業内およびWEB上で行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習：授業で扱う箇所の文法説明を熟読する。単語ひとつのレベルから、文法規則表、例文までしっかりと発音・音読すること。配布された関連資料に目を通しておくこと、あるいは関連動画を視聴しておくこと。(120分) 復習：教科書の練習問題、作文演習、音読に取り組むこと。(120分)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11~17)	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	ドイツ語入門 / Introduction to German
時間割コード Course Code	12621
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	中村 修
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 修 (経済学部)
授業の目標	ドイツ語のつづりと発音に慣れて、基礎的な文法規則をふまえつつ、簡単な日常会話の表現ができるようになること。 ドイツ語圏の社会と文化について知識と理解を深める。
授業の概要	この授業のテーマは総合的にドイツ語の基礎学力を身につけることです。教科書をもとに、基礎的な文法、会話表現などを総合的に幅広く学んでゆきます。同時に、ドイツ語はどんな言語なのか、その特徴は何か、ということ全員で考えながら、ドイツ語に馴れ親しんでほしいと思います。そして最終的には、自分の意思や自分に関することを簡単なドイツ語で表現できるように頑張ってほしいと思います。 さらに、ドイツ語学習を通して、ドイツ語圏の国々での生活、習慣、文化について知識を身につけ、日本との共通性を探ってゆきます。 とりわけ、世界のほとんどの国や地域において文化の重要な要素となっているサッカー(フットボール)が、ドイツではどのような発展を辿ってきたか、その歴史と現在についても取り上げてゆきます。
評価方法	授業への積極的な参加、とくに有意義な質問や発言、提案などを高く評価します。課題への取り組み20% + 平常点(発音・音読など)20%。そして、小テストおよび定期試験の結果(60%)を総合的に算定して、最終的な評価をします。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	大学の規定による正当な理由なくして、3分の1以上欠席した者は失格とします。

授業計画	<p>第1回 ガイダンス ドイツとドイツ語について アルファベットと発音</p> <p>第2回 発音 かんたんな挨拶表現</p> <p>第3回 動詞の現在人称変化 平叙文と疑問文 簡単な会話練習</p> <p>第4回 動詞の現在人称変化の練習と応用 簡単な会話練習</p> <p>第5回 名詞について 性、格、定冠詞と不定冠詞 複数形について</p> <p>第6回 様々な目的語をとる動詞</p> <p>第7回 様々な名詞を使って文章を作る。簡単な会話練習</p> <p>第8回 冠詞類の説明と応用練習 否定冠詞と所有冠詞</p> <p>第9回 定冠詞類 作文練習</p> <p>第10回 人称代名詞の応用 簡単な会話練習</p> <p>第11回 不規則変化動詞の現在人称変化の練習 簡単な会話練習 作文 命令形</p> <p>第12回 命令と依頼の表現 簡単な会話練習</p> <p>第13回 前置詞</p> <p>第14回 前置詞の応用練習</p> <p>第15回 前期授業のまとめと総合練習</p>
テキスト	『つながるドイツ語みっとりーべ』中村、中川、大澤著 朝日出版社 ISBN: 978-4-255-25421-0
参考書	『独和辞典』
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	新たに学んだ語句を使い、自身の生活との関連から(題材として)、ドイツ語で文章を作り、学生同士での質疑応答を試みる。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	<p>社会人を対象としたドイツ語授業の実践。</p> <p>学生や社会人を対象とした合宿形式でのドイツ語授業の実施。</p> <p>様々な国のドイツ語教員と協力して、旧東ドイツ市民へのインタビューを通してドイツ国民の意識調査などを実施。</p>
質問への対応方法	質問に関しては、いつでも歓迎します。自分が疑問に感じたことは、ほかの受講者にとっても疑問であったり、またはプラスの要素を含んだものが少なくありません。
フィードバックの方法	授業内およびWEB上で行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>予習：授業で扱う箇所の文法説明を熟読する。単語ひとつのレベルから、文法規則表、例文までしっかりと発音・音読すること。配布された関連資料に目を通しておくこと、あるいは関連動画を視聴しておくこと。(120分)</p> <p>復習：教科書の練習問題、作文演習、音読に取り組むこと。(120分)</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<p>1. 貧困をなくそう</p> <p>10. 人や国の不平等をなくそう</p> <p>2. 飢餓をゼロに</p> <p>3. すべての人に健康と福祉を</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>5. ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>6. 安全な水とトイレを世界中に</p> <p>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> <p>8. 働きがいも経済成長も</p> <p>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標(11~17)	<p>11. 住み続けられるまちづくりを</p> <p>12. つくる責任つかう責任</p> <p>13. 気候変動に具体的な対策を</p> <p>14. 海の豊かさを守ろう</p> <p>15. 陸の豊かさを守ろう</p> <p>16. 平和と公正をすべての人に</p> <p>17. パートナースhipで目標を達成しよう</p>

PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 情報収集力</li><li>2. 情報分析力</li><li>3. 課題発見力</li><li>4. 構想力</li></ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>4. 感情制御力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>

開講科目名 Course	ドイツ語入門 / Introduction to German
時間割コード Course Code	12622
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	中村 修
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 修 (経済学部)
授業の目標	ドイツ語のつづりと発音に慣れて、基礎的な文法規則をふまえつつ、簡単な日常会話の表現ができるようになること。 ドイツ語圏の社会と文化について知識と理解を深める。
授業の概要	この授業のテーマは総合的にドイツ語の基礎学力を身につけることです。教科書をもとに、前期の授業で学んだことを確認しつつ、基礎的な文法、会話表現などを総合的に幅広く学んでゆきます。同時に、ドイツ語はどんな言語なのか、その特徴は何か、ということ全員で考えながら、ドイツ語に馴れ親しんでほしいと思います。そして最終的には、自分の意思や自分に関することを簡単なドイツ語で表現できるように頑張ってもらいたいと思います。 さらに、ドイツ語学習を通して、ドイツ語圏の国々での生活、習慣、文化について知識を身につけ、日本との共通性を探ってゆきます。 とりわけ、世界のほとんどの国や地域において文化の重要な要素となっているサッカー(フットボール)が、ドイツではどのような発展を辿ってきたか、その歴史と現在についても取り上げてゆきます。
評価方法	授業への積極的な参加、とくに有意義な質問や発言、提案などを高く評価します。課題への取り組み20% + 平常点(発音・音読など)20%。そして、小テストおよび定期試験の結果(60%)を総合的に算定して、最終的な評価をします。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	大学の規定による正当な理由なくして、3分の1以上欠席した者は失格とします。
授業計画	第1回 後期授業についての説明。前期授業の復習。 第2回 分離動詞：文法説明と基礎的な語彙およびその使い方。接続詞。 第3回 再帰表現(1)：文法説明と基礎的な表現およびその使い方。接続詞。 第4回 再帰表現(2)：文法説明と基礎的な表現およびその使い方。 第5回 ドイツ語の過去表現について：過去形と現在完了形についての説明。 第6回 動詞の三基本形について：規則変化動詞と不規則変化動詞。 第7回 過去形を使った表現：seinとhabenを中心に。 第8回 現在完了形を使った表現(1)：教科書編。 第9回 現在完了形を使った表現(2)：応用編。 第10回 現在完了形を使った表現(3)：応用編 分離動詞と再帰表現を交えて。 第11回 受動表現：werden + 過去分詞を使って。 第12回 zu + 不定詞を用いた様々な表現。 第13回 形容詞について 便利な表現を中心に。 第14回 関係代名詞を使った表現。 第15回 後期授業のまとめと総合練習。



テキスト	『つながるドイツ語みっとりーべ』中村、中川、大澤著 朝日出版社 ISBN: 978-4-255-25421-0
参考書	『独和辞典』
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	新たに学んだ語句を使い、自身の生活との関連から(題材として)、ドイツ語で文章を作り、学生同士での質疑応答を試みる。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	社会人を対象としたドイツ語授業の実践。 学生や社会人を対象とした合宿形式でのドイツ語授業の実施。 様々な国のドイツ語教員と協力して、旧東ドイツ市民へのインタビューを通してドイツ国民の意識調査などを実施。
質問への対応方法	質問に関しては、いつでも歓迎します。自分が疑問に感じたことは、ほかの受講者にとっても疑問であったり、またはプラスの要素を含んだものが少なくありません。
フィードバックの方法	授業内およびWEB上で行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習：授業で扱う箇所の文法説明を熟読する。単語ひとつのレベルから、文法規則表、例文までしっかりと発音・音読すること。配布された関連資料に目を通しておくこと、あるいは関連動画を視聴しておくこと。(120分) 復習：教科書の練習問題、作文演習、音読に取り組むこと。(120分)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11~17)	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	ドイツ語入門 / Introduction to German
時間割コード Course Code	12623
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	中村 修
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 修 (経済学部)
授業の目標	ドイツ語のつづりと発音に慣れて、基礎的な文法規則をふまえつつ、簡単な日常会話の表現ができるようになること。 ドイツ語圏の社会と文化について知識と理解を深める。
授業の概要	この授業のテーマは総合的にドイツ語の基礎学力を身につけることです。教科書をもとに、前期の授業で学んだことを確認しつつ、基礎的な文法、会話表現などを総合的に幅広く学んでゆきます。同時に、ドイツ語はどんな言語なのか、その特徴は何か、ということ全員で考えながら、ドイツ語に馴れ親しんでほしいと思います。そして最終的には、自分の意思や自分に関することを簡単なドイツ語で表現できるように頑張ってもらいたいと思います。 さらに、ドイツ語学習を通して、ドイツ語圏の国々での生活、習慣、文化について知識を身につけ、日本との共通性を探ってゆきます。 とりわけ、世界のほとんどの国や地域において文化の重要な要素となっているサッカー(フットボール)が、ドイツではどのような発展を辿ってきたか、その歴史と現在についても取り上げてゆきます。
評価方法	授業への積極的な参加、とくに有意義な質問や発言、提案などを高く評価します。課題への取り組み20% + 平常点(発音・音読など)20%。そして、小テストおよび定期試験の結果(60%)を総合的に算定して、最終的な評価をします。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	大学の規定による正当な理由なくして、3分の1以上欠席した者は失格とします。

授業計画	<p>第1回 後期授業についての説明。前期授業の復習。</p> <p>第2回 分離動詞：文法説明と基礎的な語彙およびその使い方。接続詞。</p> <p>第3回 再帰表現(1)：文法説明と基礎的な表現およびその使い方。接続詞。</p> <p>第4回 再帰表現(2)：文法説明と基礎的な表現およびその使い方。</p> <p>第5回 ドイツ語の過去表現について：過去形と現在完了形についての説明。</p> <p>第6回 動詞の三基本形について：規則変化動詞と不規則変化動詞。</p> <p>第7回 過去形を使った表現：seinとhabenを中心に。</p> <p>第8回 現在完了形を使った表現(1)：教科書編。</p> <p>第9回 現在完了形を使った表現(2)：応用編。</p> <p>第10回 現在完了形を使った表現(3)：応用編 分離動詞と再帰表現を交えて。</p> <p>第11回 受動表現：werden + 過去分詞を使って。</p> <p>第12回 zu + 不定詞を用いた様々な表現。</p> <p>第13回 形容詞について 便利な表現を中心に。</p> <p>第14回 関係代名詞を使った表現。</p> <p>第15回 後期授業のまとめと総合練習。</p>
テキスト	『つながるドイツ語みっとりーべ』中村、中川、大澤著 朝日出版社 ISBN: 978-4-255-25421-0
参考書	『独和辞典』
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	新たに学んだ語句を使い、自身の生活との関連から(題材として)、ドイツ語で文章を作り、学生同士での質疑応答を試みる。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	<p>社会人を対象としたドイツ語授業の実践。</p> <p>学生や社会人を対象とした合宿形式でのドイツ語授業の実施。</p> <p>様々な国のドイツ語教員と協力して、旧東ドイツ市民へのインタビューを通してドイツ国民の意識調査などを実施。</p>
質問への対応方法	質問に関しては、いつでも歓迎します。自分が疑問に感じたことは、ほかの受講者にとっても疑問であったり、またはプラスの要素を含んだものが少なくありません。
フィードバックの方法	授業内およびWEB上で行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>予習：授業で扱う箇所の文法説明を熟読する。単語ひとつのレベルから、文法規則表、例文までしっかりと発音・音読すること。配布された関連資料に目を通しておくこと、あるいは関連動画を視聴しておくこと。(120分)</p> <p>復習：教科書の練習問題、作文演習、音読に取り組むこと。(120分)</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<p>1. 貧困をなくそう</p> <p>10. 人や国の不平等をなくそう</p> <p>2. 飢餓をゼロに</p> <p>3. すべての人に健康と福祉を</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>5. ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>6. 安全な水とトイレを世界中に</p> <p>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> <p>8. 働きがいも経済成長も</p> <p>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標(11~17)	<p>11. 住み続けられるまちづくりを</p> <p>12. つくる責任つかう責任</p> <p>13. 気候変動に具体的な対策を</p> <p>14. 海の豊かさを守ろう</p> <p>15. 陸の豊かさを守ろう</p> <p>16. 平和と公正をすべての人に</p> <p>17. パートナリーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p> <p>4. 構想力</p>

PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>4. 感情制御力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>
----------------	--

開講科目名 Course	生涯スポーツ実習Ⅰ(ゴルフ)
時間割コード Course Code	13000
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	三壁 雄介
科目区分 Course Group	共通科目群 健康とスポーツ
教室 Classroom	体育館
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	三壁 雄介 (法学部)
授業の目標	<p>健康維持のために取り組めるスポーツ実践能力を身につけて、学生生活および生涯の健康生活に役立てることができるようにすることが目標です。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 スポーツを通じた身体活動の実践方法を学ぶことができる。 授業中に取り組んだスポーツ種目の歴史的・文化的背景を学ぶことができます。</p> <p>思考判断の領域 心身の統合を常に考えることができるようになります。</p> <p>関心意欲の領域 自らスポーツに取り組むことができるようになります。 メディアに見るスポーツに、より深い興味を持つことが可能となります。 さまざまなスポーツ技能を高めようと積極的な行動をとれるようになります。</p> <p>態度・志向性の領域 他の人とのコミュニケーションを通して仲間意識が高まります。 豊かな人間性を養うことが可能となります。</p> <p>技能の領域 スポーツへの正しい取り組み方法を身につけることができます。</p> <p>体験探求の領域 スポーツを通して身体活動の楽しさを体験することが可能となります。</p>
授業の概要	<p>この授業では、『ゴルフ』を題材として身体技法および運動技法の理論と実践方法を習得して、スポーツを安全に実施できる能力を身につけることができ、さらには『ゴルフ』の技術を習得するとともに、『ゴルフ』の歴史的・文化的背景およびルール、用語についての理解を得ることになります。これらの授業内容を習得することで、生涯にわたって健康に過ごすための一手段として、安全で長期的に取り組むことができるスポーツ実践方法を身につけることとなります。また、多くの学生と共にスポーツの集団活動を通しての体験によって、心身の調和を図り、人間関係を深めていくことにつながり、ソーシャルスキルを学ぶとても有意義な時間を過ごすことができます。</p>
評価方法	<p>評価：参加姿勢、および運動学習への意欲を重要視します。授業の準備、片づけへの参加も重要です。健康を意識した運動実践能力を高めることをねらいとしていることから、知識についてレポートを課します。</p> <p>以上のような運動学習に関する課題についてきちんと取り組み、レポートなどはしっかりと作成して提出することが必要です。さらに、まとめのために行われたテストについても運動学習を確認する上でとても大切です。評価は、以下のような基準でいたします。</p> <p>参加姿勢 40%</p> <p>レポート 30%</p> <p>実技課題 30%</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>ガイダンス  授業概要説明  ゴルフの歴史と期待される運動効果  スポーツ障害と予防  授業の概要、基本スイング  用具説明、基本スイング構成要素  スイングの構成要素（構え、テイクバック、インパクト、フォロースルー）  スイングの構成要素（構え、テイクバック、インパクト、フォロースルー）  アイアンショット（狙いを定めたアプローチショット）  アイアンショット  アイアンショット（狙いを定めたアプローチショット）  アイアンショット（狙いを定めたアプローチショット）評価テスト  ドライバーショット  ドライバーショット  ドライバーショット  アイアンショット, ドライバーショット  アイアンショット, ドライバーショット</p>
テキスト	特になし
参考書	特になし
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	実技の中で、グループ内で問題点、分析、改善についてのディスカッションの時間をとります。その中でコミュニケーション能力を身につける。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	スポーツ指導の実務にあたっている指導者による授業で構成要素を指導する。
質問への対応方法	・授業後に対応
フィードバックの方法	・メール対応(mikabe@nagoya-ku.ac.jp)
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・翌週返却
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	15. 陸の豊かさを守ろう
PROGリテラシーの要素	3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	4. 感情制御力 6. 行動持続力

開講科目名 Course	生涯スポーツ実習I(フットサル)
時間割コード Course Code	13001
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	三壁 雄介
科目区分 Course Group	共通科目群 健康とスポーツ
教室 Classroom	体育館
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	三壁 雄介 (法学部)
授業の目標	<p>健康維持のために取り組めるスポーツ実践能力を身につけて、学生生活および生涯の健康生活に役立てることができるようにすることが目標です。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 スポーツを通じた身体活動の実践方法を学ぶことができる。 授業中に取り組んだスポーツ種目の歴史的・文化的背景を学ぶことができます。</p> <p>思考判断の領域 心身の統合を常に考えることができるようになります。</p> <p>関心意欲の領域 自らスポーツに取り組むことができるようになります。 メディアに見るスポーツに、より深い興味を持つことが可能となります。 さまざまなスポーツ技能を高めようと積極的な行動をとれるようになります。</p> <p>態度・志向性の領域 他の人とのコミュニケーションを通して仲間意識が高まります。 豊かな人間性を養うことが可能となります。</p> <p>技能の領域 スポーツへの正しい取り組み方法を身につけることができます。</p> <p>体験探求の領域 スポーツを通して身体活動の楽しさを体験することが可能となります。</p>
授業の概要	<p>この授業では、『フットサル』を題材として身体技法および運動技法の理論と実践方法を習得して、スポーツを安全に実施できる能力を身につけることができ、さらには『フットサル』の技術を習得するとともに、『フットサル』の歴史的・文化的背景およびルール、用語についての理解を得ることになります。これらの授業内容を習得することで、生涯にわたって健康に過ごすための一手段として、安全で長期的に取り組むことができるスポーツ実践方法を身につけることになります。また、多くの学生と共にスポーツの集団活動を通しての体験によって、心身の調和を図り、人間関係を深めていくことにつながり、ソーシャルスキルを学ぶとても有意義な時間を過ごすことができます。</p>
評価方法	<p>評価：参加姿勢、および運動学習への意欲を重要視します。授業の準備、片づけへの参加も重要です。健康を意識した運動実践能力を高めることをねらいとしていることから、知識についてレポートを課します。</p> <p>以上のような運動学習に関する課題についてきちんと取り組み、レポートなどはしっかりと作成して提出することが必要です。さらに、まとめのために行われたテストについても運動学習を確認する上でとても大切です。評価は、以下のような基準でいたします。</p> <p>出席・参加姿勢 40%</p> <p>準備・レポート 30%</p> <p>実技課題 30%</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>ガイダンス  授業概要説明  フットサルの歴史と期待される運動効果  スポーツ障害と予防  自己の体力を知る（体力について、からだの動き）  ゲーム  基礎練習（キック、ドリブル・基礎となる技術の構成要素の理解）  基礎練習（ボールタッチ、パス、ドリブル・基礎となる技術の構成要素の理解）  基礎練習（パス&amp;コントロール、シュート、1 v s 1）  基礎練習（パス&amp;コントロール、シュート、2 v s 2）  ゲーム  基礎練習（ボール保持）、ゲーム  基礎練習（シュート）、ゲーム  ゲーム  ゲーム  ゲーム  ゲーム  ゲーム  テスト（ゲーム）</p>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	実技の中で、グループ内で問題点、分析、改善についてのディスカッションの時間をとります。その中でコミュニケーション能力を身につける。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	日頃より、サッカーの指導者として、また、指導者の講習会を開催している担当教員が生涯スポーツのとしてフットサルの楽しみ方を指導する科目である。
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業後に対応</li> <li>・メール対応(mi kabe@nagoya-ku.ac.jp)</li> </ul>
フィードバックの方法	・翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>スポーツを行うにあたり、心身ともに充実した実技を行えるよう日頃より、生活のリズムを整え体調に配慮すること。  競技特性のイメージを取得し実技に臨めるように、映像を見るなどして授業計画にあるテクニックを把握しておくとい。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>3. すべての人に健康と福祉を  5. ジェンダー平等を実現しよう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>15. 陸の豊かさも守ろう  16. 平和と公正をすべての人に</p>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	<p>1. 親和力  2. 協同力</p>



開講科目名 Course	生涯スポーツ実習I
時間割コード Course Code	13002
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	神谷 知里
科目区分 Course Group	共通科目群 健康とスポーツ
教室 Classroom	体育館
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	神谷 知里 (法学部)
授業の目標	<p>多くのスポーツ種目を体験・経験することで、様々な運動実践方法や健康維持のための運動実践能力を身につけて、学生生活および生涯の健康生活に役立てることができるようにします。</p> <p>知識・理解の領域 簡単な運動を通じた身体活動の実践方法を学ぶことができます。 授業中に取り組んだスポーツ種目の歴史的・文化的背景を学ぶことができます。</p> <p>思考判断の領域 心身の統合を常に考え、バランスを保とうと行動するようになります。</p> <p>関心意欲の領域 どのような場所でも自ら身体活動に取り組むことができるようになります。 メディアを通して見るスポーツに、より深い興味を持つことが可能となります。</p> <p>態度・志向性の領域 どのような状況下でも何ができるかという発想力をみにつけることができます。 自分自身に合った活動を見つけ出そうとすることで積極的な行動がとれるようになります。</p>
授業の概要	<p>下記に示したスポーツ種目の中から、3種目を選択して取り組みます。 複数の種目に取り組むことによって、それぞれの種目のルールや用語の理解を深めるとともに、実技実践を通して幅広く基礎的運動技法を習得することができます。また、健康に生活を送ることができるように、生涯にわたっての健康増進法として長期的に取り組むことができるスポーツ実践方法を身につけることが可能となります。 スポーツ活動を通して、講義科目では体験できない豊かな人間関係を習得することができます。</p> <p>《開講予定のスポーツ種目》 1.卓球 2.バドミントン 3.バスケットボール 4.硬式テニス 5.フットサル 6.ゴルフ 7.バレーボール</p>
評価方法	<p>平常点60%：参加姿勢、および運動学習への意欲、授業の準備、片づけへの参加 授業内記録40%：授業内で定期的実施する基礎スキルの達成状況</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>6回以上の「欠席」は失格とします。 (「遅刻・早退」は、0.5回の欠席扱いとします)</p>

授業計画	<p>第1週 ガイダンス（授業説明・種目選択・感染予防）  第2週～第6週 1種目（5週）  第7週～第11週 2種目（5週）  第12週～第15週 3種目（4週）</p> <p>合わせて3種目のスポーツに取り組みます。</p> <p>&lt;卓球：5週分のシラバス&gt;  1回目：基本練習（サーブ・フォアハンド、ショート、ラリー、スマッシュ）  2回目：簡易ゲーム  3回目：シングルスゲーム  4回目：ダブルスゲーム  5回目：シングルスゲーム（リーグ戦）</p> <p>&lt;バドミントン：5週分のシラバス&gt;  1回目：基本練習（クリヤー、ドロップ、スマッシュ、ドライブ、アンダークリアー、ヘアピン）  2回目：簡易ゲーム  3回目：シングルスゲーム  4回目：ダブルスゲーム  5回目：シングルスゲーム（リーグ戦）</p> <p>&lt;バスケットボール：5週分のシラバス&gt;  1回目：基本練習（ドリブル、パス、シュート）  2回目：対人練習（1on1、2on2）  3回目：3 on 3  4回目：5 on 5  5回目：リーグ戦</p> <p>&lt;硬式テニス：5週分のシラバス&gt;  1回目：基本練習（グランドストローク（フォアとバック、サーブ）  2回目：簡易ゲーム  3回目：シングルスゲーム  4回目：ダブルスゲーム  5回目：シングルスゲーム（リーグ戦）</p> <p>&lt;フットサル：5週分のシラバス&gt;  1回目：基本練習（ドリブル、パス、シュート）  2回目：対人練習  3回目：簡易ゲーム  4回目：ゲーム  5回目：リーグ戦</p> <p>&lt;ゴルフ：5週分のシラバス&gt;  1回目：基本練習（スイングづくり）  2回目：クラブの使い分け1（ショートアイアン）  3回目：クラブの使い分け2（ミドルアイアン）  4回目：クラブの使い分け3（ドライバー）  5回目：クラブをランダムに使い分けて目標地点へよせる</p> <p>&lt;バレーボール：5週分のシラバス&gt;  1回目：基本練習1（オーバーパス、アンダーパス、サーブ）  2回目：基本練習2  3回目：簡易ゲーム  4回目：ゲーム（ソフトバレーボール）  5回目：ゲーム（リーグ戦）</p>
テキスト	必要に応じて、資料を配布します。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	

質問への対応方法	質問への対応は、授業内での質疑応答、またはメールにて随時対応します。
フィードバックの方法	種目ごとに、基礎的なスキル練習などを実施、ゲーム形式で練習成果を振り返ります。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	実技を行う時間をできるだけ多く確保するため、基本的な競技規則については予習しておくこと。(0.5-1時間程度) 授業内で行われるあらゆるシーンや状況を想定し、インターネット配信動画などを観てイメージしておくこと。(0.5-1時間程度)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	生涯スポーツ実習I
時間割コード Course Code	13003
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	神谷 知里
科目区分 Course Group	共通科目群 健康とスポーツ
教室 Classroom	体育館
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	神谷 知里 (法学部)
授業の目標	<p>多くのスポーツ種目を体験・経験することで、様々な運動実践方法や健康維持のための運動実践能力を身につけて、学生生活および生涯の健康生活に役立てることができるようにします。</p> <p>知識・理解の領域 簡単な運動を通じた身体活動の実践方法を学ぶことができます。 授業中に取り組んだスポーツ種目の歴史的・文化的背景を学ぶことができます。</p> <p>思考判断の領域 心身の統合を常に考え、バランスを保とうと行動するようになります。</p> <p>関心意欲の領域 どのような場所でも自ら身体活動に取り組むことができるようになります。 メディアを通して見るスポーツに、より深い興味を持つことが可能となります。</p> <p>態度・志向性の領域 どのような状況下でも何ができるかという発想力をみにつけることができます。 自分自身に合った活動を見つけ出そうとすることで積極的な行動がとれるようになります。</p>
授業の概要	<p>下記に示したスポーツ種目の中から、3種目を選択して取り組みます。 複数の種目に取り組むことによって、それぞれの種目のルールや用語の理解を深めるとともに、実技実践を通して幅広く基礎的運動技法を習得することができます。また、健康に生活を送ることができるように、生涯にわたっての健康増進法として長期的に取り組むことができるスポーツ実践方法を身につけることが可能となります。 スポーツ活動を通して、講義科目では体験できない豊かな人間関係を習得することができます。</p> <p>《開講予定のスポーツ種目》 1.卓球 2.バドミントン 3.バスケットボール 4.硬式テニス 5.フットサル 6.ゴルフ 7.バレーボール</p>
評価方法	<p>平常点60%：参加姿勢、および運動学習への意欲、授業の準備、片づけへの参加 授業内記録40%：授業内で定期的実施する基礎スキルの達成状況</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>6回以上の「欠席」は失格とします。 (「遅刻・早退」は、0.5回の欠席扱いとします)</p>

授業計画	<p>第1週 ガイダンス（授業説明・種目選択・感染予防）  第2週～第6週 1種目（5週）  第7週～第11週 2種目（5週）  第12週～第15週 3種目（4週）</p> <p>合わせて3種目のスポーツに取り組みます。</p> <p>&lt;卓球：5週分のシラバス&gt;  1回目：基本練習（サーブ・フォアハンド、ショート、ラリー、スマッシュ）  2回目：簡易ゲーム  3回目：シングルスゲーム  4回目：ダブルスゲーム  5回目：シングルスゲーム（リーグ戦）</p> <p>&lt;バドミントン：5週分のシラバス&gt;  1回目：基本練習（クリヤー、ドロップ、スマッシュ、ドライブ、アンダークリアー、ヘアピン）  2回目：簡易ゲーム  3回目：シングルスゲーム  4回目：ダブルスゲーム  5回目：シングルスゲーム（リーグ戦）</p> <p>&lt;バスケットボール：5週分のシラバス&gt;  1回目：基本練習（ドリブル、パス、シュート）  2回目：対人練習（1on1、2on2）  3回目：3 on 3  4回目：5 on 5  5回目：リーグ戦</p> <p>&lt;硬式テニス：5週分のシラバス&gt;  1回目：基本練習（グランドストローク（フォアとバック、サーブ）  2回目：簡易ゲーム  3回目：シングルスゲーム  4回目：ダブルスゲーム  5回目：シングルスゲーム（リーグ戦）</p> <p>&lt;フットサル：5週分のシラバス&gt;  1回目：基本練習（ドリブル、パス、シュート）  2回目：対人練習  3回目：簡易ゲーム  4回目：ゲーム  5回目：リーグ戦</p> <p>&lt;ゴルフ：5週分のシラバス&gt;  1回目：基本練習（スイングづくり）  2回目：クラブの使い分け1（ショートアイアン）  3回目：クラブの使い分け2（ミドルアイアン）  4回目：クラブの使い分け3（ドライバー）  5回目：クラブをランダムに使い分けて目標地点へよせる</p> <p>&lt;バレーボール：5週分のシラバス&gt;  1回目：基本練習1（オーバーパス、アンダーパス、サーブ）  2回目：基本練習2  3回目：簡易ゲーム  4回目：ゲーム（ソフトバレーボール）  5回目：ゲーム（リーグ戦）</p>
テキスト	必要に応じて、資料を配布します。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	

質問への対応方法	質問への対応は、授業内での質疑応答、またはメールにて随時対応します。
フィードバックの方法	種目ごとに、基礎的なスキル練習などを実施、ゲーム形式で練習成果を振り返ります。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	実技を行う時間をできるだけ多く確保するため、基本的な競技規則については予習しておくこと。(0.5-1時間程度) 授業内で行われるあらゆるシーンや状況を想定し、インターネット配信動画などを観てイメージしておくこと。(0.5-1時間程度)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	生涯スポーツ実習II(テニス・卓球)
時間割コード Course Code	13020
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	三壁 雄介
科目区分 Course Group	共通科目群 健康とスポーツ
教室 Classroom	体育館
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	三壁 雄介 (法学部)
授業の目標	<p>健康維持のために取り組めるスポーツ実践能力を身につけて、学生生活および生涯の健康生活に役立てることができるようにすることが目標です。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 スポーツを通じた身体活動の実践方法を学ぶことができる。 授業中に取り組んだスポーツ種目の歴史的・文化的背景を学ぶことができます。</p> <p>思考判断の領域 心身の統合を常に考えることができるようになります。</p> <p>関心意欲の領域 自らスポーツに取り組むことができるようになります。 メディアに見るスポーツに、より深い興味を持つことが可能となります。 さまざまなスポーツ技能を高めようと積極的な行動をとれるようになります。</p> <p>態度・志向性の領域 他の人とのコミュニケーションを通して仲間意識が高まります。 豊かな人間性を養うことが可能となります。</p> <p>技能の領域 スポーツへの正しい取り組み方法を身につけることができます。</p> <p>体験探求の領域 スポーツを通して身体活動の楽しさを体験することが可能となります。</p>
授業の概要	<p>この授業では、『テニス・卓球』を題材として身体技法および運動技法の理論と実践方法を習得して、スポーツを安全に実施できる能力を身につけることができ、さらには『テニス・卓球』の技術を習得するとともに、『テニス・卓球』の歴史的・文化的背景およびルール、用語についての理解を得ることになります。これらの授業内容を習得することで、生涯にわたって健康に過ごすための一手段として、安全で長期的に取り組むことができるスポーツ実践方法を身につけることとなります。また、多くの学生と共にスポーツの集団活動を通しての体験によって、心身の調和を図り、人間関係を深めていくことにつながり、ソーシャルスキルを学ぶとて有意義な時間を過ごすことができます。</p>

評価方法	<p>評価：参加姿勢、および運動学習への意欲を重要視します。授業の準備、片づけへの参加も重要です。健康を意識した運動実践能力を高めることをねらいとしていることから、知識についてレポートを課します。</p> <p>以上のような運動学習に関する課題についてきちんと取り組み、レポートなどはしっかりと作成して提出することが必要です。さらに、まとめのために行われたテストについても運動学習を確認する上でとても大切です。評価は、以下のような基準でいたします。</p> <p>参加姿勢 30% レポート 30% 実技課題 40%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>第1週目にガイダンス、第2週目から第7週目までに1種目、第8週目から第15週目までに1種目、合わせて2種目のスポーツ種目に取り組みます。</p> <p>ガイダンス 授業概要説明 テニス・卓球の歴史と期待される運動効果 スポーツ障害と予防 テニス 授業の概要説明、ゲーム（シングルス、ダブルス） テニス 基礎練習（グランドストローク） テニス 基礎練習（ボレー） テニス 基礎練習（スマッシュ） テニス ゲーム（シングルス、ダブルス） テニス ゲーム（シングルス、ダブルス） 卓球 授業の概要、基本スイング 卓球 授業の概要説明、ゲーム（シングルス、ダブルス） 卓球 基礎練習（グランドストローク） 卓球 基礎練習（グランドストローク） 卓球 基礎練習（スマッシュ） 卓球 基礎練習（スマッシュ） 卓球 ゲーム（シングルス、ダブルス） 卓球 ゲーム（シングルス、ダブルス）</p>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	実技の中で、グループ内で問題点、分析、改善についてのディスカッションの時間をとります。その中でコミュニケーション能力を身につける。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業後に対応</li> <li>・メール対応(mikabe@nagoya-ku.ac.jp)</li> </ul>
フィードバックの方法	・翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>スポーツを行うにあたり、心身ともに充実した実技を行えるよう日頃より、生活のリズムを整え体調に配慮すること。</p> <p>競技特性のイメージを取得し実技に臨めるように、映像を見るなどして授業計画にあるテクニックを把握しておくことよい。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>3.すべての人に健康と福祉を</p> <p>5.ジェンダー平等を実現しよう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>15.陸の豊かさを守ろう</p> <p>16.平和と公正をすべての人に</p>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	<p>1.親和力</p> <p>2.協同力</p>



開講科目名 Course	生涯スポーツ実習II
時間割コード Course Code	13021
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	三壁 雄介
科目区分 Course Group	共通科目群 健康とスポーツ
教室 Classroom	体育館
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	三壁 雄介 (法学部)
授業の目標	<p>健康維持のために取り組めるスポーツ実践能力を身につけて、学生生活および生涯の健康生活に役立てることができるようにすることが目標です。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 スポーツを通じた身体活動の実践方法を学ぶことができる。 授業中に取り組んだスポーツ種目の歴史的・文化的背景を学ぶことができます。</p> <p>思考判断の領域 心身の統合を常に考えることができるようになります。</p> <p>関心意欲の領域 自らスポーツに取り組むことができるようになります。 メディアに見るスポーツに、より深い興味を持つことが可能となります。 さまざまなスポーツ技能を高めようと積極的な行動をとれるようになります。</p> <p>態度・志向性の領域 他の人とのコミュニケーションを通して仲間意識が高まります。 豊かな人間性を養うことが可能となります。</p> <p>技能の領域 スポーツへの正しい取り組み方法を身につけることができます。</p> <p>体験探求の領域 スポーツを通して身体活動の楽しさを体験することが可能となります。</p>
授業の概要	<p>下記に示したスポーツ種目の中から、2～3種目を選択することになります。複数のスポーツ種目に取り組むことによって、それぞれの種目の運動技法の基礎的能力を学ぶことができます。さらに、実技の実践を通して歴史的・文化的背景およびルール、用語についての理解を得ることができます。また、健康に生活を送ることができるように、生涯にわたっての健康増進法として長期的に取り組むことができるスポーツ実践方法を身につけることが可能となります。そして、何よりも、講義科目では体験できない集団行動に参加することで、豊かな人間関係を習得することができます。</p> <p>《開講予定のスポーツ種目》 1. バレーボール 2. バドミントン 3. バスケットボール</p>
評価方法	<p>評価：出席回数、参加姿勢、および運動学習への意欲を重要視しています。授業の準備、片付けへの参加も重要です。健康を意識した運動実践能力を高めることをねらいとしていることから、知識についてレポートを課します。</p> <p>以上のような運動学習に関する課題についてきちんと取り組み、レポートなどはしっかりと作成して提出する必要があります。さらに、まとめのために行われるテストについても運動学習を確認する上でとても大切です。以下のような基準で致します。</p> <p>参加姿勢 30% レポート 30% 実技課題 40%</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>&lt;バレーボール&gt;</p> <p>1回目：授業の概要説明（オーバーパス、アンダーパス）</p> <p>2回目：基礎練習（サーブ、スパイク）</p> <p>3回目：基本練習（サーブ&amp;レシーブ）</p> <p>4回目：簡易ゲーム（ソフトバレーボールを使用して、ゲーム形式）</p> <p>5回目：ゲーム（使用するボールを選び、ゲームを行う）</p> <p>6回目：ゲーム（運営する）</p> <p>7回目：ゲームとまとめ</p> <p>&lt;バドミントン&gt;</p> <p>1回目：授業の概要説明、ゲーム</p> <p>2回目：基礎練習（クリアー、ドロップ、スマッシュ）</p> <p>3回目：基礎練習（ドライブ、アンダークリアー、ヘアピン）</p> <p>4回目：基礎練習（ブッシュ）</p> <p>5回目：ゲーム（シングルス）</p> <p>6回目：ゲーム（ダブルス）</p> <p>7回目：ゲームまとめ</p> <p>&lt;バスケットボール&gt;</p> <p>1回目：授業の概要、基礎練習、ゲーム</p> <p>2回目：基礎練習（ボールハンドリング、ドリブルワーク、シュートの基本）</p> <p>3回目：基礎練習（パスワーク、1on1、2on1、2on2）、ゲーム</p> <p>4回目：基礎練習（カットイン、ドリブルイン、3on2、3on3）、ゲーム</p> <p>5回目：基礎練習（マンツーマンディフェンス、ゾーンディフェンス）、ゲーム</p> <p>6回目：ゲーム（チーム対抗リーグ戦、競技運営、記録）、5 on 5</p> <p>7回目：ゲーム（チーム対抗リーグ戦、競技運営、記録）、5 on 5</p>
テキスト	特になし
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	実技の中で、グループ内で問題点、分析、改善についてのディスカッションの時間をとります。その中でコミュニケーション能力を身につける。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	日頃より、スポーツ指導者として、また、指導者の講習会を開催している担当教員が生涯スポーツのとしてフットサルの楽しみ方を指導する科目である。
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業後に対応</li> <li>・メール対応(mikabe@nagoya-ku.ac.jp)</li> </ul>
フィードバックの方法	・翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	スポーツを行うにあたり、心身ともに充実した実技を行えるよう日頃より、生活のリズムを整え体調に配慮すること。 競技特性のイメージを取得し実技に臨めるように、映像を見るなどして授業計画にあるテクニックを把握しておくことよい。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 6.行動持続力 9.実践力

開講科目名 Course	生涯スポーツ実習II(バレー・バドミントン)
時間割コード Course Code	13022
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	神谷 知里
科目区分 Course Group	共通科目群 健康とスポーツ
教室 Classroom	体育館
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	神谷 知里 (法学部)
授業の目標	<p>バレーとバドミントンを通して、運動実践方法や健康維持のための運動実践能力を身につけて、学生生活および生涯の健康生活に役立てることができるようになります。</p> <p>ネット型スポーツ(バレーボール・バドミントン)の個人スキルの習得・上達を中心に、ネット型スポーツの理解を深めることを目指します。</p> <p>知識・理解の領域 簡単な運動を通じた身体活動の実践方法を学ぶことができます。 授業中に取り組んだスポーツ種目の歴史的・文化的背景を学ぶことができます。</p> <p>思考判断の領域 心身の統合を常に考え、バランスを保とうと行動するようになります。</p> <p>関心意欲の領域 どのような場所でも自ら身体活動に取り組むことができるようになります。 メディアを通して見るスポーツに、より深い興味を持つことが可能となります。</p> <p>態度・志向性の領域 どのような状況下でも何ができるかという発想力をみにつけることができます。 自分自身に合った活動を見つけ出そうとすることで積極的な行動がとれるようになります。</p>
授業の概要	<p>ネット型スポーツ(バレーボール・バドミントン)を取り組みます。同じネット型スポーツでもコート大きさ、ボールの大きさなどの違いによって、種目それぞれの特徴や楽しみが違います。また、それぞれの種目のルールや用語の理解を深めるとともに、実技実践を通して幅広く基礎的運動技法を習得することができます。また、健康に生活を送ることができるよう、生涯にわたっての健康増進法として長期的に取り組むことができるスポーツ実践方法を身につけることが可能となります。</p> <p>スポーツ活動を通して、講義科目では体験できない豊かな人間関係を習得することができます。</p>
評価方法	<p>平常点60%：参加姿勢、および運動学習への意欲、授業の準備、片づけへの参加</p> <p>授業内記録40%：授業内で定期的実施する基礎スキルの達成状況</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>6回以上の「欠席」は失格とします。 (「遅刻・早退」は、0.5回の欠席扱いとします)</p>

授業計画	<p>第1週 ガイダンス（授業説明・感染予防）  第2週～第8週 バレー  第9週～第15週 バドミントン</p> <p>&lt;バレーボール：7週分のシラバス&gt;  1回目：基本練習（オーバーパス、アンダーパスほか）  2回目：基本練習（サーブ）  3回目：基本練習（スパイク、レシーブ）  4回目：簡易ゲーム（特別ルールでパスを繋ぐ）  5回目：ゲーム1（ルールの理解）  6回目：ゲーム2（実戦）  7回目：ゲーム3（リーグ戦）</p> <p>&lt;バドミントン：7週分のシラバス&gt;  1回目：基本練習（クリーヤー・ドロップ × フォアハンド・バックハンド）  2回目：基本練習（スマッシュ、ドライブ × フォアハンド・バックハンド）  3回目：基本練習（アンダークリアー、ヘアピン × フォアハンド・バックハンド）  4回目：簡易ゲーム（シングルのゲーム）  5回目：ゲーム（シングルのゲーム）  6回目：簡易ゲーム（ダブルスのゲーム）  7回目：ゲーム（ダブルスのゲーム）</p>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問への対応は、授業内での質疑応答、またはメールにて随時対応します。
フィードバックの方法	種目ごとに、基礎的なスキル練習などを実施、実戦的なゲームを通して練習成果を確認します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	実技を行う時間をできるだけ多く確保するため、基本的な競技規則については予習しておくこと。(0.5-1時間程度) 授業内で行われるあらゆるシーンや状況を想定し、インターネット配信動画などを観てイメージしておくこと。(0.5-1時間程度)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	生涯スポーツ実習II(バスケットボール)
時間割コード Course Code	13023
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	神谷 知里
科目区分 Course Group	共通科目群 健康とスポーツ
教室 Classroom	体育館
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	神谷 知里 (法学部)
授業の目標	<p>バスケットボールを通して、運動実践方法や健康維持のための運動実践能力を身につけて、学生生活および生涯の健康生活に役立てることができるようにします。 バスケットボールの個人スキルの習得・上達を中心にバスケットボール(5人制)の理解を深めることを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;  知識・理解の領域  簡単な運動を通じた身体活動の実践方法を学ぶことができます。  バスケットボールの歴史的・文化的背景を学ぶことができます。  技能の領域  バスケットボールの個人スキル・基本スキルの習得を目指します。  態度・志向性の領域  どのような状況下でも何ができるかという発想力をみにつけることができます。  自分自身に合った活動を見つけ出そうとすることで積極的な行動がとれるようになります。  思考判断の領域  心身の統合を常に考え、バランスを保とうと行動するようになります。  関心意欲の領域  どのような場所でも自ら身体活動に取り組むことができるようになります。  メディアを通して見るスポーツに、より深い興味を持つことが可能となります。</p>
授業の概要	<p>この授業では、バスケットボール(5人制)を題材として身体技法および運動技法の理論と実践方法を習得して、スポーツを安全に実施できる能力を身につけることができます。 バスケットボールの個人スキルの習得、上達を目指し、その中でルールや用語についての理解を深めていきます。これらの授業内容を習得することで、生涯にわたって健康に過ごすための一手段として、安全で長期的に取り組むことができるスポーツ実践方法を身につけることになるのです。結果として、多くの学生と共にスポーツの集団活動を通しての体験によって、心身の調和を図り、人間関係を深めていくことにつながります。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照してください。</p>
評価方法	<p>平常点60%：参加姿勢、および運動学習への意欲、授業の準備、片づけへの参加  授業内記録40%：授業内で定期的実施する基礎スキルの達成状況</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>6回以上の「欠席」は失格とします。  (「遅刻・早退」は、0.5回の欠席扱いとします)</p>

授業計画	第1週 ガイダンス（授業説明・感染予防について） 第2週 個人技能（ファンダメンタル）1 パス、ドリブル、シュートの基本技術 第3週 個人技能（ファンダメンタル）2 パス、ドリブル、シュートの応用技術 第4週 対人技能（1 on 1） 第5週 対人技能（2 on 2）パスワーク 第6週 対人技能（2 on 2）オンボールスクリーン 第7週 ミニゲーム（3 on 3） 第8週 対人技能（3 on 3）オフボールスクリーン 第9週 ミニゲーム（3 on 3） 第10週 ミニゲーム（5 on 5） 第11週 リーグ戦1（ルールの確認） 第12週 リーグ戦2 第13週 リーグ戦3 第14週 実技テスト 第15週 まとめ
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問への対応は、授業内での質疑応答、またはメールにて随時対応します。
フィードバックの方法	基礎的なドリブルやシュートなど結果（上達）が数値で分かりやすいような練習メニューなどを定期的実施いたします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	実技を行う時間をできるだけ多く確保するため、基本的な競技規則については予習しておくこと。（0.5-1時間程度） 授業内で行われるあらゆるシーンや状況を想定し、インターネット配信動画などを観てイメージしておくこと。（0.5-1時間程度）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	健康生活と生涯スポーツ
時間割コード Course Code	13040
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	神谷 知里
科目区分 Course Group	共通科目群 健康とスポーツ
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	神谷 知里 (法学部)
授業の目標	<p>運動不足による生活習慣病の実態について知識を深めることによって、生涯にわたって健康について意識した生活をおくることができるようになります。</p> <p>知識・理解の領域 運動不足による生活習慣病の実態について学ぶことができます。 運動やスポーツを実践することによる身体への好影響を学ぶことができます。</p> <p>思考判断の領域 日常生活における健康を阻害するものを自ら選別することが可能となる。</p> <p>関心意欲の領域 日常生活の運動不足解消のため、積極的に運動を取り込もうとするようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 健康に関する意識を高くし、運動を取り入れた生活習慣を得られるようになる。</p> <p>技能の領域 日常生活の中で取り組める運動について、正しい知識を身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>1) “健康に生活できる”とはどのようなことなのかを、しっかり考えてみましょう。</p> <p>2) 自分自身の身体がどのようなつくりになっているかを理解します。</p> <p>3) 身体を形成している骨や筋肉の構成、動き、形成などについて詳しく学びましょう。</p> <p>4) 運動実践やスポーツ実践による身体への影響について学びましょう(長所・短所)。</p> <p>5) 運動、またはスポーツを通じた健康的な生活設計を立てられるようにしましょう。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照してください。</p>
評価方法	<p>授業内評価75%：毎回の授業内で実施する小レポートや課題の評価</p> <p>試験25%：学期末に実施される定期試験</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>6回以上の「欠席」は失格とします。 (「遅刻・早退」は、0.5回の欠席扱いとします)</p>

授業計画	第1週 講義の概要説明 / 健康水準と健康問題 第2週 健康とは / 健康に関する環境づくり 第3週 生活習慣病とその予防 / 食事と健康 第4週 運動・休養・睡眠と健康 第5週 喫煙・飲酒と健康 第6週 薬物乱用と健康 / ドーピング 第7週 感染症とその予防 第8週 応急手当と心肺蘇生法 第9週 生涯にわたる健康づくり 第10週 身体のしくみと働き 第11週 呼吸循環器系の働きとエネルギー供給 第12週 スキルの獲得と獲得過程 第13週 ストレスと心の健康 第14週 心の健康と自己実現 / スポーツと心理 第15週 生涯スポーツの見方・考え方
テキスト	必要に応じて、資料を配布します。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問への対応は、授業内での質疑応答、またはメールにて随時対応します。
フィードバックの方法	毎授業の資料、レポート・小テストについては、google classroomを使用して行い、管理しています。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で、次週に学習予定のテーマ、内容について告知します。 それぞれの身近な話題や事例についてまとめたり、リサーチ、用語を調べるなどをして、各自、事前学習を進めてください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	健康生活と生涯スポーツ
時間割コード Course Code	13041
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	神谷 知里
科目区分 Course Group	共通科目群 健康とスポーツ
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	神谷 知里 (法学部)
授業の目標	<p>運動不足による生活習慣病の実態について知識を深めることによって、生涯にわたって健康について意識した生活をおくることができるようになります。</p> <p>知識・理解の領域 運動不足による生活習慣病の実態について学ぶことができます。 運動やスポーツを実践することによる身体への好影響を学ぶことができます。</p> <p>思考判断の領域 日常生活における健康を阻害するものを自ら選別することが可能となる。</p> <p>関心意欲の領域 日常生活の運動不足解消のため、積極的に運動を取り込もうとするようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 健康に関する意識を高くし、運動を取り入れた生活習慣を得られるようになる。</p> <p>技能の領域 日常生活の中で取り組める運動について、正しい知識を身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>1) “健康に生活できる”とはどのようなことなのかを、しっかり考えてみましょう。</p> <p>2) 自分自身の身体がどのようなつくりになっているかを理解します。</p> <p>3) 身体を形成している骨や筋肉の構成、動き、形成などについて詳しく学びましょう。</p> <p>4) 運動実践やスポーツ実践による身体への影響について学びましょう(長所・短所)。</p> <p>5) 運動、またはスポーツを通じた健康的な生活設計を立てられるようにしましょう。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照してください。</p>
評価方法	<p>授業内評価75%：毎回の授業内で実施する小レポートや課題の評価</p> <p>試験25%：学期末に実施される定期試験</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>6回以上の「欠席」は失格とします。</p> <p>(「遅刻・早退」は、0.5回の欠席扱いとします)</p>

授業計画	第1週 講義の概要説明 / 健康水準と健康問題 第2週 健康とは / 健康に関する環境づくり 第3週 生活習慣病とその予防 / 食事と健康 第4週 運動・休養・睡眠と健康 第5週 喫煙・飲酒と健康 第6週 薬物乱用と健康 / ドーピング 第7週 感染症とその予防 第8週 応急手当と心肺蘇生法 第9週 生涯にわたる健康づくり 第10週 身体のしくみと働き 第11週 呼吸循環器系の働きとエネルギー供給 第12週 スキルの獲得と獲得過程 第13週 ストレスと心の健康 第14週 心の健康と自己実現 / スポーツと心理 第15週 生涯スポーツの見方・考え方
テキスト	必要に応じて、資料を配布します。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問への対応は、授業内での質疑応答、またはメールにて随時対応します。
フィードバックの方法	毎授業の資料、レポート・小テストについては、google classroomを使用して行い、管理しています。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で、次週に学習予定のテーマ、内容について告知します。 それぞれの身近な話題や事例についてまとめたり、リサーチ、用語を調べるなどをして、各自、事前学習を進めてください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	健康生活と生涯スポーツ
時間割コード Course Code	13042
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	神谷 知里
科目区分 Course Group	共通科目群 健康とスポーツ
教室 Classroom	7 2 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	神谷 知里 (法学部)
授業の目標	<p>運動不足による生活習慣病の実態について知識を深めることによって、生涯にわたって健康について意識した生活をおくることができるようになります。</p> <p>知識・理解の領域 運動不足による生活習慣病の実態について学ぶことができます。 運動やスポーツを実践することによる身体への好影響を学ぶことができます。</p> <p>思考判断の領域 日常生活における健康を阻害するものを自ら選別することが可能となる。</p> <p>関心意欲の領域 日常生活の運動不足解消のため、積極的に運動を取り込もうとするようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 健康に関する意識を高くし、運動を取り入れた生活習慣を得られるようになる。</p> <p>技能の領域 日常生活の中で取り組める運動について、正しい知識を身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>1) “健康に生活できる”とはどのようなことなのかを、しっかり考えてみましょう。</p> <p>2) 自分自身の身体がどのようなつくりになっているかを理解します。</p> <p>3) 身体を形成している骨や筋肉の構成、動き、形成などについて詳しく学びましょう。</p> <p>4) 運動実践やスポーツ実践による身体への影響について学びましょう(長所・短所)。</p> <p>5) 運動、またはスポーツを通じた健康的な生活設計を立てられるようにしましょう。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照してください。</p>
評価方法	<p>授業内評価75%：毎回の授業内で実施する小レポートや課題の評価</p> <p>試験25%：学期末に実施される定期試験</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>6回以上の「欠席」は失格とします。</p> <p>(「遅刻・早退」は、0.5回の欠席扱いとします)</p>

授業計画	第1週 講義の概要説明 / 健康水準と健康問題 第2週 健康とは / 健康に関する環境づくり 第3週 生活習慣病とその予防 / 食事と健康 第4週 運動・休養・睡眠と健康 第5週 喫煙・飲酒と健康 第6週 薬物乱用と健康 / ドーピング 第7週 感染症とその予防 第8週 応急手当と心肺蘇生法 第9週 生涯にわたる健康づくり 第10週 身体のしくみと働き 第11週 呼吸循環器系の働きとエネルギー供給 第12週 スキルの獲得と獲得過程 第13週 ストレスと心の健康 第14週 心の健康と自己実現 / スポーツと心理 第15週 生涯スポーツの見方・考え方
テキスト	必要に応じて、資料を配布します。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問への対応は、授業内での質疑応答、またはメールにて随時対応します。
フィードバックの方法	毎授業の資料、レポート・小テストについては、google classroomを使用して行い、管理しています。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で、次週に学習予定のテーマ、内容について告知します。 それぞれの身近な話題や事例についてまとめたり、リサーチ、用語を調べるなどをして、各自、事前学習を進めてください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(FA)動画制作 / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13400
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	小川 哲司
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	情報実習室 A
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小川 哲司 (経営学部)
授業の目標	<p>動画メディアは多くの情報を発信して、人々の印象に残りやすい特性を持つメディアとして、今やビジネスを行う上で無くてはならないものになっている。本授業では動画メディアに注目して、動画コンテンツを編集・制作するプロセスを体験しながら、情報発信における動画メディアの役割や特性などを学んでいく。</p> <p>&lt;学習成果&gt;  思考判断の領域  動画メディアを経営やマーケティングの視点で捉えることができるようになる。  態度・志向性の領域  動画メディアの技術に興味を持ち、経営と技術の関わりを理解できるようになる。  知識・理解の領域  動画メディアの特性と動画制作プロセスを理解することができる。  技能の領域  動画編集方法などが習得できる。  態度・志向性の領域  動画メディアの仕組みやデザインに関心を持ち、動画メディアを通じたコミュニケーションに関心を持つ。  体験探究の領域  作成した動画コンテンツをプレゼンテーションする力を付けることができる。</p>
授業の概要	<p>動画メディアの仕組みや作成方法を学んだ上で、PremiereProを使いながら、動画コンテンツを実際に作成していく。授業の流れとしては、動画メディアの基本的な概要から、動画編集ソフトの操作方法を身に付け、学外取材によるコンテンツ収集などを行いながら、各自で動画コンテンツを実際に作成する。最終回には、作成した動画コンテンツの発表を行う。</p> <p>〔授業形態〕  この授業は対面授業で実施します。  授業内容（シラバス）に関する質問は担当教員の授業後、オフィスアワーの時間にしてください。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業への取り組み姿勢と最終発表の内容で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席の回数が3回以上の場合

授業計画	<p>&lt; 授業計画 &gt;</p> <p>1回目 メディアの役割・概要</p> <p>2回目 動画編集ソフト(premierePro)基本</p> <p>3回目 学外取材</p> <p>4回目 動画編集(カット)</p> <p>5回目 学外取材</p> <p>6回目 画像編集(トランジッション)</p> <p>7回目 画像編集(テロップ・BGM)</p> <p>8回目 学外取材</p> <p>9回目 画像編集演習</p> <p>10回目 動画構成検討</p> <p>11回目 動画制作</p> <p>12回目 動画制作</p> <p>13回目 動画制作</p> <p>14回目 動画制作</p> <p>15回目 発表</p>
テキスト	なし
参考書	今すぐ使えるかんたん Premiere Pro やさしい入門(技術評論社)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	基本的にはメールで回答する。
フィードバックの方法	翌週の授業までに返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、次回テーマに関連する文献調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p> <p>4. 構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(FB)文化遺産 / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13401
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	望月 友恵
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	7 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	望月 友恵 (法学部)
授業の目標	本授業では、「文化遺産」に関する知識の理解を深めるとともに、知識をもとに課題を解決する方法を考え、それを発信できるようになることを目指します。 また、グループワークで議論を深めることで、他者と協調・協働して行動できることを目指します。
授業の概要	名古屋経済大学がある犬山市には、国宝犬山城や名勝木曾川といった歴史遺産、自然遺産（これらを総称して「文化遺産」とよびます）が数多く存在します。こうした地域に存在する「文化遺産」を、観光や教育など様々なまちづくりの側面に活かしていくことが、昨今、強く求められています。 本授業では、犬山市の「文化遺産」について学んだのち、現地見学を行います。現地見学を通して、文化遺産の魅力を体感するとともに、そこに関わる人々の背景を理解します。見学後には受講者間で意見交換・ディスカッションをします。 見学および意見交換をもとに、最後はグループごとに「文化遺産を活かした犬山のまちづくり」の具体的な方法を考え、資料にまとめて発表をします。発表したまちづくりの提案は、授業内だけでなく学外に向けても発信できるようにします。 なお、現地見学に際して、交通費・入館料などの経費がかかる場合があります。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	参加姿勢 70% 最終報告会 30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合 最終報告会を欠席した場合（やむを得ない理由がある場合を除く）
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 現地見学・栗栖地区（名称木曾川や桃太郎神社など） 第3回 現地見学・羽黒地区（羽黒城・小弓鶴酒造など） 第4回 現地見学・犬山東地区（犬山焼の窯元など） 第5回 現地見学・楽田地区（青塚古墳・大縣神社など） 第6回 現地見学・犬山地区（犬山城・犬山祭関連施設など） 第7回 現地見学・犬山城下町 第8回 現地見学・池野・城東地区（入鹿池、日比野製茶など） 第9回 講義 第10回 講義 第11回 グループディスカッション 第12回 報告準備 第13回 報告準備 第14回 報告準備 第15回 報告会 現地見学の内容は変更の場合あり。

テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループ毎で課題を議論し、解決方法をまとめ、授業内で発表する。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	犬山市内でまちづくり活動を行うNPO法人の研究员であり、かつ犬山市文化財保存活用地域計画策定委員会の委員でもある教員が、犬山市の文化遺産について解説し、まちづくりに対する考え方や参画の仕方を指導する科目である。
質問への対応方法	メール対応 (otsuka-t@nagoya-ku.ac.jp)
フィードバックの方法	授業内で対応
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回ともに、HP (「犬山文化遺産ナビ」) 等を利用して、各見学地についての予習・復習を3時間程度必要とする。 授業外に、報告会準備時間を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	11. 住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	2. 協同力 7. 課題発見力 8. 計画立案力



開講科目名 Course	体験型プロジェクト(FC)学習支援(前) / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13402
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	水谷 仁
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	3 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 彩華(経営学部)、水谷 仁(法学部)、人見 浩司(経済学部)
授業の目標	<p>このプロジェクトでは、近隣の小学校で放課後の学習支援を体験することにより、「教育」や「地域貢献」とは何か、また社会的責任を取ることの大切さについて理解を深めることを目標とします。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;  知識・理解の観点  学習支援による「教育」や「地域貢献」とは何かを実践の中で体得し説明することができ  。地域との連携の課題や意義を理解し説明することができる。  思考・判断の観点  児童たちの学習を支援する過程で出会う問題について自主的に考え判断し適切に対応することが  できる。  関心・意欲の観点  児童たちの学習を支援する活動を経験することにより、教育の厳しさや喜びを体で覚え、自ら学  び続ける自覚を高めることができる。  態度の観点  熱意をもって補習授業の学習支援を行うことができる。  児童たちへの学習支援を行うことを通じて、責任を感じ、責任ある行動を取ることができよう  になる。  学習支援の効果的な方法を自ら進んで考えたり調べたりするようになる。  技能・表現の観点  児童たちの学習を補助指導するノウハウが身につく。  「教育」や「地域貢献」などについて理解が深化し、まとめを自らの言葉で作成することができ  る。  体験・探究の観点  教育の現場、地域を深く知ることを通じて自主的に学習することの大切さを再認識し、新たな問  題を探究する力を育ててゆく。</p>
授業の概要	<p>小牧小学校3年生の放課後の補習授業(「学びっ子教室」)への学習支援活動を行います。学生の皆さんは、放課後の「学びっ子教室」に参加し、小牧小3年生の補助教材(算数と国語のドリル)を利用した自学自習の補助・支援を実施します。</p> <p>学校教育または地域貢献(ボランティア活動)に関心のある学生、特に教職を目指す学生は、ぜひこのプロジェクトに参加していただきたいと思います。児童たちの自習を温かく見守り、ともに成長していくことを願っています。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	AA,A,B,C,D,S,X方式で評価します。 出席状況、支援活動に取り組む熱意、レポートなどで総合的に評価します。児童たち・小学校への対外的責任がありますので、出席と取り組みを特に重視します。正当な理由なく欠席したり遅刻したりした場合は失格(X)にすることがあります。特に事前学習に参加しない学生は、後日の小学校での学習支援には参加できません。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・ 正当な理由なく欠席したり遅刻したりした場合 ・ 連絡なく欠席・遅刻があった場合 ・ 事前学習に参加しなかった場合 ・ 学習支援活動に支障をきたす言動があった場合 ・ 学習支援する時の姿勢などに問題があった場合
授業計画	第1週（1～2回）ガイダンス、事前学習（ファシリテーション等） 第2週（3～4回）事前学習（ファシリテーション、学習支援演習等） 第3週（5～6回）小牧小教員による事前指導（小牧小） 第4週（7～8回）「学びっ子教室」の学習支援（小牧小） 第5週（9～10回）「学びっ子教室」の学習支援（小牧小） 第6週（11～12回）「学びっ子教室」の学習支援（小牧小） 第7週（13～14回）「学びっ子教室」の学習支援（小牧小） 第8週（15～16回）「学びっ子教室」の学習支援（小牧小） 第9週（17～18回）「学びっ子教室」の学習支援（小牧小） 第10週（19～20回）「学びっ子教室」の学習支援（小牧小） 第11週（21～22回）「学びっ子教室」の学習支援（小牧小） 第12週（23～24回）「学びっ子教室」の学習支援（小牧小） 第13週（25～26回）「学びっ子教室」の学習支援（小牧小） 第14週（27～28回）振り返り、レポート準備 第15週（29～30回）レポート作成と提出（発表） 感染症の拡大や「学びっ子」教室の日程調整により、授業計画や評価方法が変更となる可能性があります。
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・ 事前学習において、学生同士のグループワークを実施する。 ・ 学習支援において、小牧小学校3年生の放課後補習授業（「学びっ子教室」）の学習を補助・支援し、補助授業終了後に振り返りを実施する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問があれば、簡単なものはその場で、複雑な内容のものは、主としてオフィスアワー等を用いて、授業後に答えます。
フィードバックの方法	授業中に実施します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	120時間の準備学習を必要とします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 6.行動持続力 7.課題発見力 9.実践力

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(FD)自動車産業 / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13403
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	大曾 暢烈
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	70A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	近藤 久雄(法学部)、大曾 暢烈(経営学部)、ウミリデノブ アリシェル(法学部)
授業の目標	<p>1. 自動車産業の歴史について理解すること。 2. 自動車産業について学習することを通じて、企業経営に関する知識を獲得すること。</p> <p><b>【学習成果】</b></p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本のクルマの歴史について説明することができる</li> <li>・クルマの魅力や走ることの楽しさについて説明することができる</li> <li>・トヨタ生産方式の特徴について説明することができる</li> <li>・自動車販売の心得について説明することができる</li> </ul> <p>思考・判断の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車産業の学習を通じて、企業経営の基礎を学び、論理的思考を身につけることができる</li> </ul> <p>関心・意欲の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞・雑誌・インターネットを通じて、クルマや自動車会社に関心を寄せるようになる</li> <li>・新聞・雑誌・インターネットでクルマに関する情報を的確に探することができるようになる</li> </ul> <p>態度の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車産業について学習することを通じて、自律的な学習姿勢を身につけることができる</li> <li>・チームでプレゼン資料を作成することによりチームで働く力を身につけることができる</li> </ul> <p>技能・表現の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら調査し、考え、まとめ、発表する力が身につく</li> </ul> <p>体験・探究の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「予習する 学外で体験する 振り返る」のプロセスを繰り返すことで、体験を自らの生きた知恵にすることができる</li> </ul>

授業の概要	<p>【授業の概要】</p> <p>愛知県は、トヨタ自動車をはじめとして、自動車に関連する産業が盛んな地域です。そうした環境を活かして、本プロジェクトは、自動車産業について学習することに取り組みます。</p> <p>自動車がどのように製造され、販売されるのか、その一連の企業活動について学習します。また、トヨタ自動車の博物館などの見学を通して、日本における自動車産業の生成と発展を学びます。こうした点を学ぶことで、日本の代表的な製造業である自動車産業について理解すること、さらに、自動車産業を通じて、どのように企業経営が行われているのかを学習するきっかけを提供します。</p> <p>具体的に、以下の活動を予定しています（学外での学習に伴い、予定した活動内容を変更する可能性があります）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サーキット体験、部品工場見学、自動車組立工場見学、販売店の訪問または営業社員によるレクチャー、博物館・記念館などの見学、自動車産業に関連したグループワーク（自動車産業への理解、各自動車メーカーの企業経営の理解、ディスカッション）</li> </ul> <p>【講義の進め方】</p> <p>このプロジェクトは、4月～7月の毎週火曜日の午後に実施します。週によって、3時限だけの場合、3～4時限と連続する場合、3～5時限と連続する場合と様々です。学外に出て学ぶ場合は3～5時限となります。学び方は、予習する 学外で体験する 振り返る 予習する・・・というサイクルとなります。また、学外での学習に伴い、授業計画を変更する可能性があります。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>G, S方式で評価します。</p> <p>プロジェクトへの取組姿勢等と提出課題を総合して評価します。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	著しく欠席が多い場合
授業計画	<p>第1週 ガイダンス</p> <p>第2週 自動車に関する映像資料を見る (1)</p> <p>第3週 自動車に関する映像資料を見る (2)、振り返りと次回の準備 (モータースポーツについて)</p> <p>第4週 「見て」、「乗って」、「走って」、クルマの魅力を体感する</p> <p>第5週 振り返りと次回の準備 (産業技術記念館で何を学ぶか)</p> <p>第6週 産業技術記念館でクルマの歴史を学ぶ</p> <p>第7週 振り返りと次回の準備 (部品工場で何を学ぶか)</p> <p>第8週 部品工場でクルマの製造を学ぶ</p> <p>第9週 振り返りと次回の準備 (組立工場で何を学ぶか)</p> <p>第10週 組立工場でクルマの製造を学ぶ</p> <p>第11週 振り返りと次回の準備 (トヨタ博物館で何を学ぶか)</p> <p>第12週 トヨタ博物館でクルマの歴史を学ぶ</p> <p>第13週 グループワーク</p> <p>第14週 グループワーク</p> <p>第15週 プレゼンテーション</p>
テキスト	教科書は用いず、必要に応じてプリントを配布します。
参考書	適宜紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ディスカッションや発表などを実施する予定です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	授業中に講評する
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の講義内容について、予習4時間、復習4時間が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1～10)	<p>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> <p>8. 働きがいも経済成長も</p> <p>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>

SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(FE)企業探索 / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13404
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	松井 義司
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	3 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	松井 義司 (経営学部)
授業の目標	机上の学習やネット検索だけでなく、現実・現場・現物を通して社会の理解を深めましょう。  当プロジェクトでは、様々な業種の地元企業への訪問と取材を行い、それを報告にまとめることで、企業の課題や戦略、そこで働く人達の仕事内容についての理解を深めます。  企業が抱えている課題やそれへの取組について、グループワークや個人での報告作成と発表を行うことで、報告作成やプレゼンスキルの向上と、グループワークの習熟を目指す。
授業の概要	訪問先とテーマ 以下企業への訪問を予定している。(訪問先は若干の変更もあります。) 企業ごとにテーマを決めて訪問し、テーマを中心に深掘した取材を行う。訪問先とテーマについては、訪問前に事前学習を行う。  訪問先の予定 主なテーマ(着目点) ・ブラザーミュージアム 時代に合わせた事業転換の歴史、失敗の活用と組織文化 ・ホンダカーズ東海販売店 ストック型ビジネスモデル、店舗のデジタル化 ・福玉ロジスティクス 物流センターの仕組み、女性従業員を活用した事業拡大 ・矢橋ホールディングス 海外(ベトナム進出)、多文化共生を活用した事業展開 ・宝製作所 中小企業での社員定着の工夫、名経卒業生の入社後の成長  報告 事後学習として、訪問した企業について、グループワークで2回、各自で1回の報告作成と発表を行う。
評価方法	・企業訪問への参加姿勢(5~6社) 40% (企業訪問に参加し、積極的に取材を行う。) ・グループワークの報告(2回) 40% (ブレインストーミングによる報告内容・分担の検討の検討を行い、報告書の作成をパソコン・タブレットでパワーポイントを使って行う。) ・個人の報告(1回) 20% (パソコン・タブレットでパワーポイントを使い報告書の作成と発表を行う。)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	11回以上の欠席。 グループワークによる報告作成に協力しない。

授業計画	30回の授業の内訳は以下の通りである。 (3回目～26回目の授業内容は、企業訪問の都合に合わせて決めて行く。) ・イントロダクション(1・2回目) ・5～6社の訪問を10～12回で実施。 ・1つ目のグループワークと発表を6回で実施。 ・2つ目のグループワークと発表を6回で実施。 ・個人の報告の作成(27・28・29回目) ・各自の報告と総括(30回目)
テキスト	・演習の資料をGoogle Classroomに掲載する。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	企業訪問と、グループワークによるその報告を通した学びを行う。 ・企業訪問と取材 ・グループでのブレインストーミングとディスカッション ・グループワークによる資料のまとめ ・グループ毎のプレゼンテーション形式での発表
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	担当教員は電機メーカーに長年勤務し新興国での市場開発に従事し、販売会社の運営・組織運営や人材育成・販路や物流体制の構築・代金回等に関わって来た。これらを踏まえ、地元企業の様々な仕組・工夫について学生の皆さんと理解を深めて行きたい。
質問への対応方法	・演習中やオフィスアワー中に対応。 ・メール対応も行う。matsui-y@nagoya-ku.ac.jp
フィードバックの方法	・演習中に、又は、翌週の演習中にフィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	企業訪問前の事前調査と、グループワークによる発表準備のために、事前・事後学習が必要。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	3.すべての人に健康と福祉を 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標(11～17)	13.気候変動に具体的な対策を
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(FF)犬山学講座 / 石は語る (前) / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13405
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	足立 守
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	6 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	足立 守 (法学部)、本 秀紀 (法学部)
授業の目標	地球の自然物は動物と植物と鉱物（鉱物の集合体が石）の3つからできていて、互いに密接に関連し、水を介して生態系を作っています。この体験型プロジェクトでは、地球史のタイムカプセルである石（石が風化した土壌も含めて）に着目し、自然（自然物や地形）を五感のすべてを使ってよく観察し、「自然の成り立ち」、「生物の進化」、「ヒトと自然との関わり」を自然の中や本物の自然物が展示されている博物館で学び、「自然に学ぶ（自然から教えてもらう）」というスタンスを身につけることが目標になります。
授業の概要	授業は初回と最終回を除き学外（自然の中）で行ないます。 本物の自然（および自然物）を木曽川・飛騨川・土岐川の河床、犬山城や名古屋城、岩崎山、名古屋大学博物館、名古屋市市政資料館、中部電力東桜会館、日本最古の石博物館、中津川市鉱物博物館、瑞浪市化石博物館、関ヶ原石材（株）ギャラリーなどで観察し、自然の仕組みおよびヒトが石をどのように利用してきたかについて学びます。 飛騨金山・中津川・関ヶ原などの遠い場所での授業は、平日ではなく土日祝日にバスを使って行います。授業では文化遺産学のグループ等との合同授業もあり、観察したことや展示内容を異なったグループの受講生と議論することも含まれています。
評価方法	体験型の授業なので、基本的に全回出席が前提となります。 授業参加・発言等の授業取り組み姿勢、小テスト等の結果に基づいて、評定（AA, A, B, C, S）方式で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	第1回 ガイダンス、本学の建物や石垣の石材 第2回 犬山城下町：犬山城、段丘崖、木ノ下城跡 第3回 木曽川河床の中生代堆積岩 第4・5回 日本最古の石博物館、上麻生礫岩、飛騨金山甌穴群 第6回 岩屋古墳、熊野神社、岩崎山 第7回 名古屋城、愛知県護国神社 第8・9回 名古屋中心部の地形：名古屋市市政資料館、中電東桜会館 第10回 名古屋大学博物館、2008ノーベル賞展示室 第11回 名古屋の水はなぜうまい：鍋屋上野浄水場 第12回 関ヶ原石材ストーンギャラリー、赤坂石灰岩 第13・14回 中津川市鉱物博物館、瑞浪市化石博物館、化石採集 第15回 まとめの授業、岐阜県の天然記念物
テキスト	特になし



参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業で実施する小テストの最後の設問が質問になっているので、原則として質問はそこで受け付けるがメールでも受け付ける。
フィードバックの方法	質問への回答は翌週の授業の時あるいはメールで行なう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習が必要な場合にはメール等で連絡をするので、それに従って各自で下調べを行う。復習については小テストの設問を見て各自で行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(FG)犬山学講座 / 徳川美術館 (前) / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13406
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	四辻 秀紀
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	富岡 仁 (管理栄養学科)、四辻 秀紀 (経営学部)
授業の目標	この地域で育まれてきた歴史や文化をたどりつつ、その本質について知識と理解を深める。
授業の概要	地元の歴史・文化に関心を寄せ、古典や歴史に対する理解度を高めるとともに、その後の日本人の美意識、日本文化の諸相を思考する目を養っていきます。犬山城や名古屋城をはじめとする史跡をめぐり、刀剣や甲冑に触れ、あるいは茶道や香道を実際に体験することで、日本文化に親しみ、知識を身につけます。
評価方法	体験型の授業なので、全回出席が前提となります。授業への参加、提出物、期末課題制作への貢献に基づいてG/S方式で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション  第2回 尾張の歴史と文化 (本学)  第3回 犬山城・白帝文庫見学  第4回 どんでん館・磯部邸見学  第5回 名古屋城の歴史と本丸御殿の機能を知る (本学)  第6回 名古屋城本丸御殿および周辺の見学  第7回 徳川美術館の歴史と収蔵品 (本学)  第8回 徳川美術館の収蔵品について調べる (本学)  第9回 徳川美術館ワークショップ (刀剣・鉄砲に触れ、甲冑を着装する)  第10回 熱田神宮 草薙館見学  第11回 関市刀剣ミュージアム ワークショップ 刀の鍛錬見学・体験  第12回 茶の湯の歴史を学ぶ (本学)  第13回 多治見市 市之倉さかづき美術館見学  第14回 徳川美術館ワークショップ (茶の湯に親しみ香の文化を体験する)  第15回 まとめ</p> <p>体験型の授業なので、全回出席が前提となります。天候や受け入れ先の都合で、カリキュラムを変更一部変更する場合があります。また土曜日・日曜日に見学を実施する場合がありますので承知しておいて下さい。  交通費・名古屋城・草薙館・市之倉さかづき美術館などの入場料、ワークショップ代など施設により実費が必要となります。</p>
テキスト	必要に応じて配布します。
参考書	必要に応じて授業中に紹介します。

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	この科目は、徳川美術館・学芸員の経験を有する教員が、地元の歴史・文化に関心を寄せ、古典や歴史に対する知識と理解度を高める「実務経験のある教員による授業科目」です。
質問への対応方法	随時対応・メール対応。
フィードバックの方法	翌週返却。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習・復習は全体で60時間の学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(FH)犬山学講座 / 名鉄のテーマパーク / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13407
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	伊藤 博司
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	伊藤 博司 (経済学部)
授業の目標	<p>・名古屋鉄道が永年にわたって犬山の地で展開して来た文化・レジャー事業について、その歴史や経緯、各事業が犬山の観光事業として持つ意味などを、わが国の動物園・遊園地・博物館・テーマパークなどの中での犬山の各事業の特質とレジャー産業としての観点から、理解を深めて行きたい。</p> <p>○知識・理解の領域 = 各テーマパークの基盤である人間・文化・歴史・自然などに関し知識を深める。</p> <p>○思考・判断の領域 = テーマパークを通じてレジャーのあり方や、人間の生き方を考察する機会を得る。</p> <p>○関心・意欲の領域 = テーマパークの体験を通じて、ひとり一人の積極的な生き方を思索・表現する。</p> <p>・地元犬山のテーマパークの考察により、地域社会や人々のあり方、地域の発展を考える機会としたい。</p>
授業の概要	<p>・地元で身近に存在するテーマパーク・レジャー施設を体験して、レジャーのあり方を考察し犬山の観光を再発見するとともに、犬山の観光資源の一層の活性化と将来にわたる活用策などを考えて行く。</p> <p>・名鉄の観光開発の歴史、そして第二次世界大戦後の犬山の地におけるモンキーセンター・ラインパーク(現モンキーパーク)・明治村・リトルワールドなどの各施設の開設理由やその特質を体感するとともに、これまでの運営手法を解明し、名古屋鉄道の経営とその企業文化についても考察する。</p> <p>・各施設の現状を理解・分析するとともに、欠点や弱点を見直し、将来に向けての整備方針や改良・改善策などを具体的に提案することに結び付けていきたい。</p>
評価方法	<p>・最終的には提案型の小論文作成を本講座の修了の条件とし、そこに至るまでの授業の進行に合わせて適宜コメントやレポートなどの提出物を求めることとする。最終の小論文と共に、これらの提出物や授業の中での議論などの内容により、総合的に評価を行いたい。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>・正当な理由の無い授業の欠席は、状況によっては失格となる場合もある。とくに主として土曜日を実施予定のテーマパーク現地体験を重視しており、これを欠席した場合には、以後の受講を許さず失格とする場合もあるので、その点を十分に理解した上で受講をしてもらいたい。</p>
授業計画	<p>詳細は「授業計画詳細情報」を参照にすること。</p> <p>なお、学外でのテーマパーク見学体験については、費用の一部を大学が負担するものの、交通費やテーマパーク入場料金・体験に要する費用などで学生が負担する部分もあるので、承知しておいてもらいたい。</p>
テキスト	<p>・テキストはとくに無いが、授業の進行に合わせてプリントや資料を配布する。</p>
参考書	<p>・参考書籍・参考資料などは、授業内で適宜紹介する。</p>

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・ 標記については含まないが、教室における授業では活発な討議を、また現地見学においては自ら体験する姿勢と、積極的な質問を期待している。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	・ 担当教員は会社員としての40数年の勤続の内、名古屋鉄道において約10年を超えるテーマパーク経営担当の経験を有している。これらの経験に基づいて、また各テーマパークの積極的な支援を受けて、この体験型の講座を設定している。
質問への対応方法	・ 質問などには授業内において適宜対応する。
フィードバックの方法	・ コメントなど提出物に関するフィードバックは、授業内で適宜対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・ 予習や準備学習についての詳細は授業内で指示する。 ・ 毎回の授業に関する資料を前週に配布して、授業までに読解しておくことが必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	14.海の豊かさを守ろう 16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	導入とイメージ調査、観光レジャー事業概観など	本講座の全体を説明し、テーマパークのイメージ調査を行い、日本のレジャー産業やテーマパークについてその歴史や特質について概観する。	教室にて：4月9日
2	犬山における観光開発(戦前・戦後)	名鉄犬山線の開通と観光開発のスタートから、戦後の名古屋鉄道による観光開発の流れをたどってその概要と特質を学ぶ。	教室にて：4月16日
3	<学外見学> 犬山城と国宝茶室如庵	<現地見学> 犬山城と木曾川の景観、城下町観光、国宝茶室有楽苑如庵について体感して学ぶ。	学外実習：4月23日 午後
4	私鉄企業の観光開発、企業メセナなど	私鉄経営モデルにおける地域開発・観光開発と小林一三の事跡を学び、併せて企業の文化活動についても学ぶ。	教室にて：5月7日
5	<学外見学> モンキーパークとモンキーセンター	<現地見学> モンキーセンターでその本質を学び動物園を見学、モンキーパークで遊園地で遊戯機を体感してその特質を考察する。	学外実習：5月11日
6	動物園論、遊園地論 明治村の事前学習	日本の動物園、遊園地の歩みと特色を学び前週の見学と対比するとともに、明治村の概要について学ぶ。	教室にて：5月14日
7	<学外見学> 博物館明治村	<現地見学> 合計約6時間にわたって明治村を体感する。まず主要な建物とSL・市電などを実際に乗車して体験する。	学外実習：5月18日 午前
8	<学外見学> 博物館明治村(続き)	<現地見学> さらに、建物内の展示を含めて博物館としての明治村、また飲食お土産などレジャー施設としての明治村を体感する。	学外実習：5月18日 午後
9	明治村のまとめと、リトルワールドの事前学習	明治村見学を基にその本質や特徴について議論して考える。また、リトルワールドの見学に先立ちその概要について学ぶ。	教室にて：5月28日
10	<学外見学> リトルワールド	<現地見学> 屋内博物館展示と企画展を見学し、リトルワールドの特質の内博物館部便を体感する	学外実習：6月1日 午前
11	<学外見学> リトルワールド(続き)	<現地見学> 引き続き屋外展示を見学して、レジャー事業的な要素や民族衣装・民族グルメなどを体感する。	学外実習：6月1日 午後
12	リトルワールドのまとめと、ビーチランドの事前学習	リトルワールドの見学を基にその本質と特徴について議論して考える。また、ビーチランドの見学に先立ちその概要を学ぶ。	教室にて：6月11日
13	<学外実習> 南知多ビーチランド	<現地見学> 水族館としてのビーチランドでイルカなどに触れあい、付属する遊園地「おもちゃ王国」やBBQ施設について体感する。	学外実習：6月15日
14	ビーチランドのまとめと、現代社会におけるレジャー産業について	日本の水族館の歴史や特質について考え、本講座の総括として日本のレジャー産業について学ぶ。	教室にて：6月25日
15	補足説明と、修了小論文指導	これまでの補足説明並びに修了小論文の作成について、個別に指導する。	教室にて：7月2日 90分
16	修了小論文指導	修了小論文のより高度な完成を目指す。(状況により小論文発表会を企画する)	教室にて：7月9日 90分

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(FI)犬山学講座 / モンキーセンター / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13408
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	高野 智
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	7 2 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高野 智 (法学部)
授業の目標	<p>名古屋経済大学と同様、愛知県犬山市にある日本モンキーセンターは、世界でも珍しい霊長類を専門とする博物館としての動物園です。世界各地に生息するおよそ60種の生きたサル類のほか、骨格やはく製などの標本を展示しています。この授業では、日本モンキーセンターを貴重な学びの場として、人間にもっとも近い動物である霊長類について学びます。サルを知ることは、「ヒト」や「ヒト」が作る社会についてより深く知ることにもつながります。生きたサルや標本をじっくり観察して、サルがヒトと似ているところ、違っているところに気づき、動物たちの進化や人類の由来、自然環境の大切さについて理解を深めていきます。また、日本モンキーセンターでの展示・教育活動の舞台裏などを詳しく見ることによって、博物館を通じての学びを深めるミュージアム・リテラシーの獲得を目指します。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;</p> <p>知識・理解の領域 動物たちの進化や人類の由来を知る。</p> <p>思考・判断の領域 動物園、博物館と社会との連携に関して批判的に考える。</p> <p>関心・意欲の領域 博物館を通じての学びへの関心・意欲を深める。</p> <p>態度・志向性の領域 自然環境を大切にできる態度・志向性を身に付ける</p> <p>技能の領域 自分の考えをまとめ、発表する力をつける。</p> <p>体験探究の領域 動物園運営の実際を体験を通じて知る。</p>
授業の概要	<p>1) 本学での講義、2) 日本モンキーセンターでの体験型授業、3) 日本モンキーセンターでの講義・施設見学、4) 日本モンキーセンターと本学での期末課題制作と発表、の4種類の授業からなります。期末課題では、それまでに学んだことを踏まえて、2~4人のグループに分かれて、それぞれのグループが博物館としての日本モンキーセンターと地域との連携のための提案を行います。</p> <p>長期にわたる日本モンキーセンターでの学びが大事となるため、「日本モンキーセンター友の会」(年会費4000円:3割学生負担、7割を大学が負担する予定)への入会が受講条件となります。授業期間中の入園はこれで無料となります。</p>
評価方法	体験型の授業なので、全回出席が前提となります。授業への参加、提出物、期末課題制作への貢献に基づいて評定方式で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回を超えて授業を欠席した場合、また期末課題制作に参加できない場合は失格となります。

授業計画	<p>第1回 ガイダンス（本学）</p> <p>第2回 霊長類学の歴史とモンキーセンター+事前学習（本学）</p> <p>第3・4回 霊長類の多様性（モンキーセンター）</p> <p>第5・6回 霊長類行動観察入門（モンキーセンター）</p> <p>第7回 霊長類学の最前線（1）（モンキーセンター）</p> <p>第8・9回 動物の進化を学ぶ（モンキーセンター）</p> <p>第10回 霊長類学の最前線（2）（モンキーセンター）</p> <p>第11回 環境問題と霊長類（モンキーセンター）</p> <p>第12回 博物館としての動物園（モンキーセンター）</p> <p>第13回 期末課題制作（モンキーセンター）</p> <p>第14回 期末課題制作（本学）</p> <p>第15回 期末課題発表（本学）</p> <p>訪問先の都合などにより変更することがあります。</p>
テキスト	特になし
参考書	公益財団法人日本モンキーセンター編『霊長類図鑑 サルを知ることはヒトを知ること』京都通信社 その他、授業中に適宜指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	日本モンキーセンターにおける体験型授業では、動物や標本の観察にもとづいてディスカッションをおこない、発表の場を設ける。また、期末課題制作では少人数のチームで課題の制作に取り組み、プレゼンテーションをおこなう。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	担当教員は日本モンキーセンターの現役の学芸員でもあり、霊長類学、博物館学の専門家の立場から授業をおこなう。また、本授業で招聘する外部講師も、いずれも各分野の専門家である。
質問への対応方法	授業後ないし授業中に対応する。
フィードバックの方法	体験型授業中のプレゼンテーションの場では、その場でフィードバックをおこなう。また、回収した筆記課題等は翌週に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各授業の内容は期末課題制作に必要となるため、授業後には復習をおこない、知識の定着を図ること。また、各授業の終了時に翌週の授業に向けた調べ学習による予習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	15.陸の豊かさを守ろう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	体験型プロジェクト(FJ)犬山学講座 / 伝統産業 / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13409
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	奥田 沙織
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	7 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岡田 和明(経済学部)、市橋 克哉(法学部)、奥田 沙織(経済学部)、石川 啓雅(経済学部)
授業の目標	名古屋経済大学のある犬山市は尾張・美濃の境界にあたりますが、この地域は中山道(東山道)と木曾川の交差する交通の要衝であり、また木材・粘土・水などの自然資源に恵まれてきたことから、古代から多くの伝統産業(美濃和紙、関の刃物、美濃焼、赤津焼、常滑焼、尾張七宝、岐阜提灯、酒造、尾張漆器など)が育まれてきました。 これらの伝統産業は、現在では日本を代表する伝統産業として世界的にも人気があり、地域の伝統産業の生き残り戦略を考える上で興味深い事例と言えます。そこで、本プランでは、美濃和紙の里会館、多治見市美濃焼ミュージアム、あま市七宝焼アートヴィレッジなどの伝統産業に関する博物館を訪問して、伝統産業の技術・経営手法・課題について学んでいきます。 また、本プランでは、伝統産業の魅力について日本人学生と留学生がグループとなって議論し、日本全国や世界に発信していく方法を考え、実践することをめざします。
授業の概要	1. 初めに尾張・美濃の伝統産業について学んだあと、実際に犬山周辺にある伝統産業の施設を各自の問題意識に基づいて見学し、議論します。 2. 伝統産業の担い手たちと議論します。 3. グループごとに伝統産業の現状と課題について、期末の報告会で報告を行います。
評価方法	本授業では、各自の意見の発信を重視します。そのため、成績評価にあたっては、見学後に提出するレポート、議論への参加状況、報告書の提出、報告会での発表内容によって、総合的に成績評価を行います(合格・不合格(G/S)方式)。定期試験は行いません。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第1回 ガイダンス  第2回 講義（尾張・美濃の伝統産業について）  第3回 講義（七宝焼）  第4回 見学（あま市七宝焼アートヴィレッジ）  第5回 講義（美濃焼）  第6回 見学（多治見市美濃焼ミュージアム）（仮案）  第7回 講義（美濃和紙）  第8回 見学（美濃和紙の里会館）  第9回 講義（酒造業）  第10回 愛知県あるいは犬山市の観光戦略を学ぶために外部講師を招聘し、課外授業を実施する。  第11回 報告準備  第12回 報告準備  第13回 報告準備  第14回 報告会  第15回 まとめ</p> <p>なお、見学先および実地見学日については、変更あり。</p>
テキスト	適宜、資料を配布する。
参考書	授業の中で紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・随時対応を基本とし、 オフィスアワ、授業後、あるいは、メール（アドレス記載）で対応する。
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回実地見学終了後には感想・コメント提出を課している。そのコメントについて、次回の授業において、各自の感想について、こちらからコメントを行う。</li> <li>・最終報告書の提出を課している。その報告書はパソコンを使って作成するため、報告書作成時は情報室において授業を行う。その際に、報告書の内容について指導を行う。</li> </ul>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 尾張・美濃の伝統産業に関する資料をガイダンスで配布する。その資料をもとに、ある程度の予習をし、次回の授業の準備を行う。（15時間）</li> <li>2 実地見学後の感想・コメント作成を課する。（10時間）</li> <li>3 グループごとに伝統産業の現状と課題についての報告書作成（5時間）</li> </ol>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(SA)ワークルール / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13500
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	木村 牧郎
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	1 4 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	木村 牧郎(経済学部)、齋藤 敦(経済学部)、神邊 篤史(経営学部)
授業の目標	少子高齢化が進むなかで「あるべき働き方」に関する議論が盛んになるとともに、就学前の学生に対するワークルール学習の機会を求める声も高まっています。このプランでは、ワークルール検定(日本ワークルール検定協会主催)の初級編の合格を目指し、グループワークや専門家への聴き取り体験などを通じてワークルールを学びます。将来の豊かな職業人生を送るために、ワークルール検定に挑戦してみませんか？
授業の概要	この体験型プランではワークルール検定の合格を目指します。検定は実際の検定試験(11月)を受験してもいいですし、授業のなかで実施する模擬最終試験を受験してもらってもかまいません。授業では受験対策としての過去問学習やグループワークによる出題テーマ別学習、ワークルールの専門家・機関への訪問と聴き取りなどを織り交ぜ、ワークルールに関する知識を深めます。  授業は対面で実施します。 この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。  <学習の成果> 知識・理解の領域 ・実践的なワークルールを知ることができる。 ・雇用者として頼るべきワークルールの専門家・機関を知ることができる。 思考・判断の領域 ・検定問題の出題傾向や苦手問題の解析を通じて事前準備の大切さを実感できる。 関心・意欲 ・練習問題の反復学習により根気よく学ぶ姿勢を実感できる。 ・過去問に繰り返し挑戦することで達成感・充実感を得て、大学生活に手ごたえを感じることができる。 技能の領域 ・検定問題を解くにあたって根拠となるデータや実例を収集できる。 体験・探求の領域 ・グループでの相互学習を通じてわからないことや疑問点を相談し、解決する姿勢を身につけることができる。
評価方法	適宜、ふり返しシートを提出してもらうほか、授業中の参加態度や意欲をみて総合的に判断する。 評価方法はG/S方式による。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第1回 ガイダンス  第2回 アイスブレイク  第3回 過去問挑戦  第4回 ふり返りと感想  第5回 出題テーマ別学習(1)一般知識  第6回 連合HP「ワークルール・クイズ」に挑戦  第7回 弁護士等の専門職によるワークルール学習  第8回 出題テーマ別学習(2)労働契約  第9回 出題テーマ別学習(3)労働条件  第10回 厚生労働省HP「大学生・高校生を対象とした労働条件セミナー」(動画視聴)  第11回 過去問挑戦  第12回 労働関係機関訪問の事前学習(1)労基署  第13&amp;14回 校外学習:労基署訪問  第15回 出題テーマ別学習(4)雇用終了  第16回 労働関係機関訪問の事前学習(2)労働委員会  第17&amp;18回 校外学習:労働委員会訪問  第19&amp;20回 出題テーマ別学習(5)労働組合  第21&amp;22回 校外学習:シンポジウム参加  第23回 過去問挑戦  第24回 ふり返りと感想  第25回 労働関係機関訪問の事前学習(3)労働組合  第26回 聴き取り内容の検討  第27&amp;28回 校外学習:労組訪問  第29回 最終検定(模擬)試験  第30回 総括</p> <p>校外学習は状況に応じて計画を変更する可能性がある。</p>
テキスト	日本ワークルール検定協会編(2021)『ワークルール検定初級テキスト』(第4版)
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	出題テーマ別学習ではグループワークの手法を通じてグループ単位で疑問点の洗い出しやデータ・事例の収集にあたり、調べた結果について報告をする。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質疑応答は担当教員のオフィスアワーもしくはメールにて対応する。
フィードバックの方法	授業中に課された課題は翌週までにはコメントをつけてリプライする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業につき予習と復習を課す。 予習は、テキストの該当箇所についてあらかじめ目を通し、分からない用語等を調べる。復習はテキストの該当箇所について振り返りをし、授業のなかで紹介した関連文献で理解を深める。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(SB)身近な生活とSDGs / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13501
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	白出 博之
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	情報実習室 B
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	白出 博之(法学部)
授業の目標	持続可能な開発目標 (SDGs : Sustainable Development Goals) の全体像と基本的な考え方を把握するとともに、それを構成する17のゴール(目標)と169のターゲットにつき、自らの身近な出来事に目を向けて、具体的に理解することを目標とする。
授業の概要	SDGs は、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である。具体的には17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っている。SDGs は発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、我が国としても積極的に取り組んでいる。 もっとも、グローバル化が進んだ現代では、国境を越えて影響を及ぼす課題に、より一層、国際社会が、そして官・民が団結して取り組む必要がある。 SDGs 達成に向けた道のりは、決して明るいだけのものではないが、だからこそ、私たち一人ひとりができることをしっかりと「ジブンゴト」の課題として認識し、実践していくことが求められ、これがまさに本授業の目指すゴールである。 講義は下記授業計画によって進行する予定であるが、具体的内容・順序については、外部体験・見学先の都合など必要に応じて変更することがある。
評価方法	授業内容の理解を確認・整理するために実施する課題等の提出状況・内容による平常点(70%)および授業最終回に実施するプレゼン報告(30%)の結果によって総合評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第1回 総論：そもそもSDGsとは何か。誰が、どのような目的から定めたものだろうか。SDGsによる17のゴールと169のターゲットを概観し、本プロジェクトの前提となる基礎知識を確認する。</p> <p>第2回 各論：目標1【貧困】「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。」および目標2【飢餓】「飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。」、目標16【平和】「持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。」について理解し、身近な出来事から考察する。</p> <p>第3回 各論：目標3【保健】「あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。」および目標4【教育】「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。」について理解し、身近な出来事から考察する。</p> <p>第4回、第5回 外部講師・外部見学</p> <p>第6回 各論：目標5【ジェンダー】「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児のエンパワメントを行う。」および目標8【経済成長と雇用】「包摂的かつ持続可能な成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する。」について理解し、身近な出来事から考察する。</p> <p>第7回 各論：目標6【水・衛生】「すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。」および目標7【エネルギー】「すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。」について理解し、身近な出来事から考察する。</p> <p>第8回 各論：目標9【インフラ、産業化、イノベーション】「強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。」および目標11【持続可能な都市】「包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する。」について理解し、身近な出来事から考察する。</p> <p>第9回 各論：目標12【持続可能な生産と消費】「持続可能な生産消費形態を確保する。」について理解し、身近な出来事から考察する。</p> <p>第10回、第11回 外部講師・外部見学</p> <p>第12回 各論：目標13【気候変動】「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。」および目標14【海洋資源】「持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。」について理解し、身近な出来事から考察する。</p> <p>第13回 各論：目標15【陸上資源】「陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する。」および目標10【不平等】「各国内及び各国間の不平等を是正する。」について理解し、身近な出来事から考察する。</p> <p>第14回 各論：目標17【実施手段】「持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。」について理解し、身近な出来事から考察する。およびプレゼン資料作成作業。</p> <p>第15回 各論：総まとめとして、受講生各自によるプレゼン報告会を実施する。</p>
テキスト	テキストは指定しません。
参考書	参考文献は各テーマごとに適宜紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	毎回の授業中に実施するワークについて、受講者に発表してもらい、質疑応答、ディスカッションを実施します。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	白出が、弁護士および国際協力機構（JICA）法整備支援プロジェクト専門家・国際協力専門員としての実務経験を活用して、世界的な課題等を指摘し、企業の取組み等を掘り下げる。
質問への対応方法	授業の前後およびオフィスアワーなど随時対応します。
フィードバックの方法	当該授業中または次回の授業冒頭において、受講生全員に口頭説明または関連資料の配布によりフィードバックします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	国連によるSDGsのオリジナル資料（英文）を受講生に事前配布し、予習を促します（予習復習には各2時間程度必要）。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に

PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(SC)学習支援(後) / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13502
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	謝 芸甜
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	3 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	人見 浩司(経済学部)、佐藤 邦彦(経済学部)、謝 芸甜(法学部)
授業の目標	<p>このプロジェクトでは、近隣の小学校で放課後の学習支援を体験することにより、「教育」や「地域貢献」とは何か、また社会的責任を取ることの大切さについて理解を深めることを目標とします。</p> <p>&lt;学習成果&gt;  知識・理解の観点  学習支援による「教育」やボランティア活動による「地域貢献」とは何かを実践の中で体得し説明することができる。  地域との連携の課題や意義を理解し説明することができる。  思考・判断の観点  児童たちの学習を支援する過程で出会う問題について自主的に考え判断し適切に対応することができる。  関心・意欲の観点  児童たちの学習を支援する活動を経験することにより、教育の厳しさや喜びを体で覚え、自ら学び続ける自覚を高めることができる。  態度の観点  熱意をもって補習授業の学習支援を行うことができる。  児童たちへの学習支援を行うことを通じて、責任を感じ、責任ある行動を取ることができるようになる。  学習支援の効果的な方法を自ら進んで考えたり調べたりするようになる。  技能・表現の観点  児童たちの学習を補助指導するノウハウが身につく。  「教育」や「地域貢献」などについて理解が深化し、まとめを自らの言葉で作成することができる。  体験・探究の観点  教育の現場、地域を深く知ることを通じて自主的に学習することの大切さを再認識し、新たな問題を探求する力を育てゆく。</p>



授業の概要	<p>このプロジェクトでは、小牧小学校3年生の放課後の補習授業（「学びっ子教室」）への学習支援活動を行います。学生の皆さんは、放課後の「学びっ子教室」に参加し、小牧小3年生の補助教材（算数と国語のドリル）を利用した自学自習の補助・支援を実施します。</p> <p>学校教育または地域貢献に関心のある学生、特に教職を目指す学生は、ぜひこのプロジェクトに参加していただきたいと思います。児童たちの自習を温かく見守り、ともに成長していくことを願っています。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>AA,A,B,C,D,S,X方式で評価します。</p> <p>出席状況、支援活動に取り組む熱意、レポートなどで総合的に評価します。児童たち・小学校への対外的責任がありますので、出席と取り組みを特に重視します。正当な理由なく欠席したり遅刻したりした場合は失格(X)になることがあります。特に事前学習に参加しない学生は、後日の小学校での学習支援には参加できません。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正当な理由なく欠席したり遅刻したりした場合</li> <li>・連絡なく欠席・遅刻があった場合</li> <li>・事前学習に参加しなかった場合</li> <li>・学習支援活動に支障をきたす言動があった場合</li> <li>・学習支援する時の姿勢などに問題があった場合</li> </ul>
授業計画	<p>第1週（1～2回）ガイダンス、事前学習（ファシリテーション等）</p> <p>第2週（3～4回）事前学習（ファシリテーション、学習支援演習等）</p> <p>第3週（5～6回）小牧小教員による事前指導（小牧小）</p> <p>第4週（7～8回）「学びっ子教室」の学習支援（小牧小）</p> <p>第5週（9～10回）「学びっ子教室」の学習支援（小牧小）</p> <p>第6週（11～12回）「学びっ子教室」の学習支援（小牧小）</p> <p>第7週（13～14回）「学びっ子教室」の学習支援（小牧小）</p> <p>第8週（15～16回）「学びっ子教室」の学習支援（小牧小）</p> <p>第9週（17～18回）「学びっ子教室」の学習支援（小牧小）</p> <p>第10週（19～20回）「学びっ子教室」の学習支援（小牧小）</p> <p>第11週（21～22回）「学びっ子教室」の学習支援（小牧小）</p> <p>第12週（23～24回）「学びっ子教室」の学習支援（小牧小）</p> <p>第13週（25～26回）「学びっ子教室」の学習支援（小牧小）</p> <p>第14週（27～28回）振り返り、レポート準備</p> <p>第15週（29～30回）レポート作成と提出（発表）</p> <p>感染症の拡大や「学びっ子」教室の日程調整により、授業計画や評価方法が変更となる可能性があります。</p>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習において、学生同士のグループワークを実施する。</li> <li>・学習支援において、小牧小学校3年生の放課後補習授業（「学びっ子教室」）の学習を補助・支援し、補助授業終了後に振り返りを実施する。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問があれば、簡単なものはその場で、複雑な内容のものは、主としてオフィスアワー等を用いて、授業後に答えます。
フィードバックの方法	授業中に実施します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	120時間の準備学習を必要とします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(SD)観光と地理 / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13503
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	村山 徹
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	7 2 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	村山 徹 (経済学部)、定森 亮 (経済学部)
授業の目標	<p>地域経済を支える柱の一つとして国内外からの観光客を誘致することが積極的に奨励されていますが、すっかり一般的となった観光そのものについて問い直す機会はあまり多くありません。体験型プロジェクト(K)では、「その場所の「光」を「観る」とはどういったことなのか？」について、「観光客」よりも、むしろ「地域に生活する人々」という観点を出発点にして、犬山市や周辺市町村のさまざまな観光資源でのフィールドワークを通じて再考します。現在多くの来訪者で賑わう観光地ですが、観光が引き起こすさまざまな問題も表面化しています。観光地としての地域の魅力は、誰にとってのもので、その魅力はどこから生まれてくるのか、「観光」とはどうあるべきか？その価値について考えてみましょう。</p> <p>知識・理解・思考・判断の領域 ・観光振興、観光産業、観光公害などについて学び、観光の本質や価値について考えることができる。</p> <p>関心・意欲の観点 ・地域社会に点在する観光資源（ヒト・モノ・コト）に興味を持ち、訪問先で積極的に話を聞くことができる。</p> <p>技能・表現の観点 ・与えられたテーマに関して調べる技能が身につく。 ・関係各位とのコミュニケーション力が身につく。</p>
授業の概要	<p>この体験型プロジェクトでは、犬山市や周辺地域における観光資源について、歴史・文化的背景も交えて調べたうえで、実際にそうした現場を見学・体験する。具体的には以下のような体験を予定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歴史文化遺産について</li> <li>2. 自然アクティビティについて</li> <li>3. 食と農業について</li> <li>4. パブリックイメージについて</li> </ol> <p>スケジュールは変更の可能性あり。基本は火曜日午後フィールドワークするが、数週分の授業を振り替える形で、週末におこなう場合もある。</p>
評価方法	<p>各プロジェクトへの参加態度 + 課題 観光への関心、活動への積極性、議論における知性など、総合的に評価します。</p> <p>質問などは随時対応します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席回数が多い場合には不可とすることがあります。
授業計画	シラバス作成段階では、見学先との調整が完了していませんので、スケジュールは変更になる可能性があります。大まかな内容は以下の通りです。  第1回 ガイダンス 第2回～第3回 犬山城下町のフィールドワーク 第4回～第7回 里山キャンプサイトのフィールドワーク 第8回～第12回 有機野菜生産・加工・販売のフィールドワーク 第13回～第14回 マスコットキャラクターのフィールドワーク 第15回 全体の振り返り
テキスト	なし
参考書	資料などは授業内でプリント配布します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	施設等見学にあたって積極的に行動し、事前学習や事後のまとめにおいて主体的に考えることを望みます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業前後に対応します。
フィードバックの方法	質問があれば授業前後に対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	与えられた課題に対し、自宅で準備することを求めます。  本プロジェクトでは、さまざまな体験を通じて観光の価値について一緒に考え直します。履修するにあたって、少しでも構わないので「観光」に何かしらの興味や自身の考えがあることが望ましいです。 手始めとして、以下のWEBサイトの記事などを読んで「観光地のテーマパーク化」について自分なりに考えてみることをオススメします。  <a href="https://jneia.org/160915-2/?amp=1">https://jneia.org/160915-2/?amp=1</a> （最終アクセス：2023年2月15日）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 7. 課題発見力 8. 計画立案力

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(SE)英語 / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13504
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	吉川 伸一
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	吉川 伸一 (経営学部)
授業の目標	<p>英会話を上達させるには、単に丸暗記だけでは成立しないのかもしれませんが。英文法やボキャブラリーの理解の上に立った音読や暗唱が必要となります。たったの1日では英会話は身に付きません。時間をかけてじっくりと取り組む必要があります。</p> <p>英会話は料理に似ている、と発言する専門家もいます。料理では献立が決まれば、材料を選定し適切な順番で調理します。英会話も同じで、自分が言いたいことが決まれば必要な表現を選定して適切に英単語や英熟語を並べて正しい英文を組み立てます。そしてそれを聴いている相手に渡します。</p> <p>この授業では、英会話番組で実際に使われた英語の文章を音読し、内容を理解してもらいます。特に、過去の英会話に関するテレビ番組及びラジオ番組を重点的に視聴していきます。併せて、人気洋画を字幕なしで視聴することにも挑戦します。</p> <p>この体験を通して以下のような学習効果を期待します。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「英語」がどのような特徴を持った言語なのか理解する。</li> <li>・英単語・英熟語をできるだけたくさん覚える。</li> <li>・英会話のダイアログを暗記する。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・より高度な英文を読破する英語力を身に着ける。</li> <li>・英文の構造を理解する技能を身に着ける。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語を聴くこと・話すことについて自発的に取り組む。</li> <li>・英会話に関するテレビ番組・ラジオ番組を積極的に視聴する。</li> </ul> <p>思考判断の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話す力と聴く力は連動しているというものの理解を深める。</li> <li>・英文の構造理解をして瞬時に口に出すことができるレベルへ展開する。</li> </ul> <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で新たな英文を書いてみる。</li> <li>・大学入試問題レベルの読解力を身に着けるよう努力する。</li> </ul> <p>体験探究の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英会話を自由自在に話すことによって英語圏文化の探究のきっかけとなる。</li> </ul>

授業の概要	<p>ネイティブな外国人（特にアメリカ人）による英会話をたくさん聴いて、思い通り話せることを授業の目的とする。思い通り話せるためには様々な場面での英会話ダイアログを頭の中にしっかりとしみこませることが重要である。</p> <p>我々が母国語を自由自在に操れるのは、常日頃母国語に接する機会があるからである。英語もそのレベルに達するくらい、授業中はできる限りたくさんの英語に触れてもらう。大量の英語を聴くこと、話すことに抵抗を持たずに積極的に参加してほしい。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>参加姿勢 80%</p> <p>レポート 20%</p> <p>参加姿勢では、授業中に「集中して英語を聴いているか」「しっかりと英語を声に出して発音しているか」を重点的にチェックする。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>第1週 講義内容のガイダンス、英語教材をみんなでリスニング、みんなで音読</p> <p>第2週 英語教材をみんなでリスニング、みんなで音読</p> <p>第3週 英語教材をみんなでリスニング、みんなで音読、ラジオ英会話</p> <p>第4週 英語教材をみんなでリスニング、みんなで音読、ラジオ英会話</p> <p>第5週 洋画を字幕なしで視聴する(1)</p> <p>第6週 英語教材をみんなでリスニング、みんなで音読、テレビ英会話</p> <p>第7週 英語教材をみんなでリスニング、みんなで音読、テレビ英会話</p> <p>第8週 英語教材をみんなでリスニング、みんなで音読、ラジオ英会話</p> <p>第9週 英語教材をみんなでリスニング、みんなで音読、ラジオ英会話</p> <p>第10週 洋画を字幕なしで視聴する(2)</p> <p>第11週 英語教材をみんなでリスニング、みんなで音読、テレビ英会話</p> <p>第12週 英語教材をみんなでリスニング、みんなで音読、テレビ英会話</p> <p>第13週 英語教材をみんなでリスニング、みんなで音読、テレビ英会話</p> <p>第14週 洋画を字幕なしで視聴する(3)</p> <p>第15週 全体の振り返り</p>
テキスト	特になし
参考書	授業時間中に、追って指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>1. 授業時間の終わりに受け付ける。</p> <p>2. オフィスアワーの時間に受け付ける。</p> <p>3. メールにて受け付ける。(greatriver-1@nagoya-ku.ac.jp)</p>
フィードバックの方法	次回授業の最初にフィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、次回テーマに関連する英文法調査、英語文献の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	2. 情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	<p>5. 自信創出力</p> <p>6. 行動持続力</p> <p>9. 実践力</p>

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(SF)ブランド / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13505
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	徐 誠敏
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	1 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	徐 誠敏 (経営学部)、李 美善 (経営学部)
授業の目標	<p>本授業では、あらゆる業種の企業(製造業、小売業、サービス業、金融業、建設業など)において、持続的な成長を促すエンジンであるブランドづくりに大いに貢献できるようなブランド・スペシャリストの育成を目標とする。</p> <p><b>【本授業の意義】</b>  本授業では、学生たちの学びの場を単に教室から出て体験をするだけではなく、習得した基本的かつ理論的な知識・ノウハウを中心に、「ブランドづくり」を実際企業の実務家たちとともに携わると同時に、その解決策をチームで見つけ出すところに重点を置く。したがって、本プロジェクトでは、これまでの体験型プロジェクトにはなかった「学生と企業とのマッチングの場」となり、学生と企業の相互理解を促進し下記のようなさまざまな形での相乗効果をもたらすところに大きな意義を持つものとする。</p> <p>学生にとってのメリット：  ・ブランド構築に関する基本的な知識を習得し、毎回グループワークを行うことで、チームワーク力や課題発見・解決能力を高めることができる。  ・実際に企業を訪問し、現場を知ること、普段テキストで学べない現場の声とブランディングに関する実践的な知識・ノウハウが得られる。  ・就職活動を行う際に必要なセルフ・ブランディング(プレゼンテーション能力)に関する基本的な知識・ノウハウが習得できる。</p> <p>企業にとってのメリット  ・本学の学生たちとの交流を通して、理論的かつ客観的な視点からみる企業ブランドづくりのヒントが得られる。  ・本学の学生たちとよい距離感を保ちながら潜在的能力が高い人材を見つけ獲得する機会が得られる。</p>

授業の概要	<p>近年、ブランドという言葉をよく耳にする。また、ブランドが持つ重要性は年々高まってきている。ここでいうブランドとは、「みんなが知っているモノ・ヒット・企業」、「信用できるモノ・ヒット・企業」、「ワクワクさせるモノ・ヒット・企業」を指す。このようなブランドは、企業の持続的発展・成長を実現する上で最も重要な経営資源の一つであるといえる。</p> <p>ブランドが注目されるようになった背景には、企業を取り巻く次のような市場環境の変化要因が挙げられる。(1)情報通信技術(ICT: Information and Communication Technology)の進歩による製品ライフサイクル(Product Life-cycle)の短縮化および消費者の多様なニーズ、(2)経済のグローバル化の一層の進展にともなう国際競争の激化および人材不足、(3)熾烈な低価格競争による企業間の体力消耗戦などである。</p> <p>したがって、上記の問題意識に基づき、本授業では、企業がブランドを構築しブランド価値を高める上で、中心的な役割を果たす「ブランド・スペシャリスト(ブランド専門家)」として兼ね備えるべき基本的・実践的な知識・ノウハウを身につけさせることを目指す。</p> <p>質問への対応方法 随時対応</p> <p>推奨事項 授業への積極的な発言。協力的な姿勢(チームワークを重視する姿勢)。創造的な発想。新しい知識への旺盛な好奇心。</p> <p>注意事項 授業へ100%出席する。授業の進行を阻むような言動は禁じる。 この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>本授業を履修するにあたって、いかなる理由であろうが、100%の出席が絶対条件である。</p> <p>参加姿勢(授業態度・小テスト) 50%</p> <p>グループディスカッション 50%</p> <p>AA,A,B,C,D方式で評価する。 レポートなどは翌週返却</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業へ100%出席する。

授業計画	<p>【第1回】 オリエンテーション(授業の概要および進め方、チーム編成、私たちの心をワクワクさせるブランドとは何かについて共に考える)</p> <p>【第2回】 「ブランド価値の4つの構造」(基本価値、便宜価値、感覚価値、観念価値)とは何か、事例を通して「ブランド価値の4つの構造」について考える</p> <p>【第3回】 強くて、好ましくて、ユニークなブランド構築時に必要な8つのステップ(1)「自社分析(自社の強みと弱み、顧客からも共感を得やすい自社の明確な企業理念など)、顧客分析(メインターゲットとは誰なのか、メインターゲットの購買行動プロセスなど)、競合他社分析(競合他社の強みと弱み)、セグメンテーション(市場細分化)、ターゲティング、ポジショニング)」</p> <p>【第4回】 強くて、好ましくて、ユニークなブランド構築時に必要な8つのステップ(2)「ブランド・アイデンティティ(ブランドらしさ)確立とマーケティングの目標設定、マーケティング・ミックス(製品戦略+価格戦略+流通戦略+販売促進戦略)、ブランド要素(ロゴ、キャッチコピー、キャラクターなど)とブランド体験(メインターゲットがいつ、どのようにブランドに触れるのか、そのストーリーを考える)の設計」</p> <p>【第5回】 強くて、好ましくて、ユニークなブランド構築時に必要な8つのステップの全体的なプロセスを振り返ってみる。</p> <p>【第6回】 成功事例から学ぶ大企業(Apple、スターバックス、サムスン電子、トヨタなど)のブランディング戦略の分析と検証</p> <p>【第7回】 中小企業のブランディングの重要性と基本仕組について学ぶ</p> <p>【第8回】 中小企業のブランディングの実行における妨害要因(ブランド弱者の負の連鎖)</p> <p>【第9回】 中小企業のインターナル・ブランディングの基本的プロセス</p> <p>【第10回】 中小企業のインターナル・ブランディングの成功事例(株式会社中島大祥堂)</p> <p>【第11回】 中小企業のインターナル・ブランディングの成功事例(本多プラス株式会社)</p> <p>【第12回】 中小企業のインターナル・ブランディングの成功事例(ブランド・マネージャー認定協会)</p> <p>【第13回~14回】 プレゼンテーション大会の準備を行う</p> <p>【第15回】 チーム別のプレゼンテーション大会および評価、最優秀チーム表彰式・「ブランド・スペシャリスト修了証書」の授与など</p> <p>本授業では、毎回、学習した内容などについてチームごとに議論し、最終的にプレゼンする。また、協力会社の都合により、上記の日程は変更される場合がある。</p>
テキスト	徐誠敏・李美善(2022)『ブランド弱者の戦略』ミネルヴァ書房。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般財団法人ブランド・マネージャー認定協会[2015]『社員をホンキにさせるブランド構築法』同文館出版。</li> <li>・徐誠敏[2010]『企業ブランド・マネジメント戦略 CEO・企業・製品ブランド間の価値創造リンケージ』創成社。</li> <li>・田中洋編[2014]『ブランド戦略全書』有斐閣。</li> </ul>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ブランディングに関する基本知識を習得したうえで、組織活性化の促進と企業ブランド価値向上に成功した事例に関する考察とプレゼンテーションを通して、組織活性化の促進と企業ブランド価値を高めるための手法・ノウハウなどについて積極的にディスカッションを行う。



実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	10年間にわたり、中小企業のブランディングの仕組みづくりを支援する「ブランド・マネージャー認定協会」のアドバイザーとしてつとめながら、多くの中小企業の経営者と実務家たちから学んだ実践的な知識を講義内容に活かす。
質問への対応方法	授業中または授業後に随時対応。
フィードバックの方法	レポートを次週の講義時にフィードバック。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	準備学習（予習・復習等）60時間の時間の予習復習の時間を必要とする。 ・予習：資料調べ ・復習：講義内容に関するレポート作成
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(SG)犬山学講座 / 文化遺産学・堀部塾 / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13506
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	赤塚 次郎
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	6 5 C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	赤塚 次郎 (法学部)、松本 未希子 (法学部)
授業の目標	犬山城下町などこの地域に残る多様な文化遺産を具体的に学びながら、特色ある地域の街づくりの柱を「文化遺産」と考え、その現場と実態を体験していただきます。 本授業では地域に残るこうした貴重な遺跡や文化遺産を具体的に調査し、特色ある地域の歴史を探り、その意味を理解することの大切さを学びます。また地域の伝承や残されてきた文化財との関係を総合的に理解し、地域の街づくりに活かすさまざまな視点を、主にフィールド調査を通じて学びます。
授業の概要	名古屋経済大学周辺の犬山・小牧市域には数多くの特色ある「文化遺産」が存在し、その多様性は当地域の文化を育んできました。そこでまずは犬山城下町、登録有形文化財「堀部邸」をベース基地として城下町界限及びその周辺の文化遺産の現地調査、城下町文化の体験などを主に行います。授業は、多様な人々との交流を含め、土日・祝日を含めて終日実施する場合があります。
評価方法	G/S
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	文化遺産を「街づくり」に生かす活動をしている「特定非営利活動法人 古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク」の仕事を含め体験していただきます。 1) 犬山市周辺の文化歴史の遺跡等の見学や体験ワークショップ 2) 犬山市城下町にある登録有形文化財「堀部邸」を起点に、犬山城下に残る文化遺産を訪ねるフィールド調査 3) 大学周辺などの歴史と文化を体験するフィールド調査
テキスト	体験に合わせて用意します
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中に、個々に対応
フィードバックの方法	特に重要な場合は、授業内にて周知
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	特に必要な場合は、個々に連絡
使用言語	日本語

SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(SH)犬山学講座 / 石は語る (後) / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13507
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	足立 守
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	7 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	足立 守 (法学部)、市橋 克哉 (法学部)
授業の目標	地球の自然物は動物と植物と鉱物(鉱物の集合体が石)の3つからできていて、互いに密接に関連し、水を介して生態系を作っています。この体験型プロジェクトでは、地球史のタイムカプセルである石(石が風化した土壌も含めて)に着目し、自然(自然物や地形)を五感のすべてを使ってよく観察し、「自然の成り立ち」、「生物の進化」、「ヒトと自然との関わり」を自然の中や本物の自然物が展示されている博物館で学び、「自然に学ぶ(自然から教えてもらう)」というスタンスを身につけることが目標になります。
授業の概要	授業は初回と最終回を除き学外(自然の中)で行ないます。 本物の自然(および自然物)を木曽川・飛騨川・土岐川の河床、犬山城や名古屋城、岩崎山、名古屋大学博物館、名古屋市市政資料館、中部電力東桜会館、日本最古の石博物館、中津川市鉱物博物館、瑞浪市化石博物館、関ヶ原石材(株)ギャラリーなどで観察し、自然の仕組みおよびヒトが石をどのように利用してきたかについて学びます。 飛騨金山・中津川・関ヶ原などの遠い場所での授業は、平日ではなく土日祝日にバスを使って行います。授業では文化遺産学のグループ等との合同授業もあり、観察したことや展示内容を異なったグループの受講生と議論することも含まれています。
評価方法	体験型の授業なので、基本的に全回出席が前提となります。 授業参加・発言等の授業取り組み姿勢、小テスト等の結果に基づいて、評定(AA, A, B, C, S)方式で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 ガイダンス、本学の建物や石垣の石材 第2回 犬山城下町: 犬山城、段丘崖、木ノ下城趾 第3回 木曽川河床の中生代堆積岩 第4・5回 日本最古の石博物館、上麻生礫岩、飛騨金山甌穴群 第6回 岩屋古墳、熊野神社、岩崎山 第7回 名古屋城、愛知県護国神社 第8・9回 名古屋中心部の地形: 名古屋市市政資料館、中電東桜会館 第10回 名古屋大学博物館、2008ノーベル賞展示室 第11回 名古屋の水はなぜうまい: 鍋屋上野浄水場 第12回 関ヶ原石材ストーンギャラリー、赤坂石灰岩 第13・14回 中津川市鉱物博物館、瑞浪市化石博物館、化石採集 第15回 まとめの授業、岐阜県の天然記念物
テキスト	特になし。

参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業で実施する小テストの最後の設問が質問になっているので、原則として質問はそこで受け付けるがメールでも受け付ける。
フィードバックの方法	質問への回答は翌週の授業の時あるいはメールで行なう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習が必要な場合にはメール等で連絡をするので、それに従って各自で下調べを行う。復習については小テストの設問を見て各自で行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(SI)犬山学講座 / 徳川美術館 (後) / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13508
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	四辻 秀紀
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	6 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	富岡 仁 (管理栄養学科)、末岡 仁 (法学部)、四辻 秀紀 (経営学部)、波場 泰昭 (経営学部)
授業の目標	この地域で育まれてきた歴史や文化をたどりつつ、その本質について知識と理解を深める。
授業の概要	地元の歴史・文化に関心を寄せ、古典や歴史に対する理解度を高めるとともに、その後の日本人の美意識、日本文化の諸相を思考する目を養っていきます。犬山城や名古屋城をはじめとする史跡をめぐり、刀剣や甲冑に触れ、あるいは茶道や香道を実際に体験することで、日本文化に親しみ、知識を身につけます。
評価方法	体験型の授業なので、全回出席が前提となります。授業への参加、提出物、期末課題制作への貢献に基づいてG/S方式で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 尾張の歴史と文化 (本学) 第3回 犬山城・白帝文庫見学 第4回 どんでん館・磯部見学 第5回 名古屋城の歴史と本丸御殿の機能を知る (本学) 第6回 名古屋城本丸御殿および周辺の見学 第7回 徳川美術館の歴史と収蔵品 (本学) 第8回 徳川美術館の収蔵品について調べる (本学) 第9回 徳川美術館ワークショップ (刀剣・鉄砲に触れ、甲冑を着装する) 第10回 熱田神宮 草薙館見学 第11回 関市刀剣ミュージアム ワークショップ 刀の鍛錬見学・体験 第12回 茶の湯の歴史を学ぶ (本学) 第13回 多治見市 市之倉さかづき美術館見学 第14回 徳川美術館ワークショップ (茶の湯に親しみ香の文化を体験する) 第15回 まとめ
テキスト	必要に応じて配布します。
参考書	必要に応じて授業中に紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	この科目は、徳川美術館・学芸員の経験を有する教員が、日本の代表的な伝統芸能を取り上げ、これらによって育まれた文化形態の理解を深める「実務経験のある教員による授業科目」です。
質問への対応方法	随時対応・メール対応。
フィードバックの方法	翌週返却。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習・復習は全体で60時間の学習を必要とする
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(SJ)犬山学講座 / 大地をさぐる / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13509
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	高橋 裕平
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	1 3 F 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高橋 裕平 (法学部)
授業の目標	1.知識・理解の領域 ・社会が、地球の恩恵の上になりたっていることを理解できる。 2.技術の能力 ・岩石や鉱物の観察法、水質や放射線量の測定法、地質図の書き方と読み方を習得できる。 3.態度・志向性の領域 ・地質と環境に興味を持つようになり、自然と人間社会の関わりを考えるようになる。
授業の概要	・測量の基本と岩石や鉱物の観察法を学ぶ。 ・地質と環境調査の基本的な技術と原理を習得し、地質・環境図を作成する。 ・各種地質環境情報を社会にどう活かすか議論する。
評価方法	評価ポイントの比重。 ・参加姿勢 40%(調査を積極的行うかどうか) ・レポート 60%(適宜小レポートを課す)
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	特になし。



授業計画	<p>対面授業を原則とする。対面活動禁止の場合は遠隔授業で対応する。</p> <p>第1回 (学内)授業展開の紹介と諸注意 / 歩測測量実習 / 岩石鉱物観察1(入門)</p> <p>第2回 (学内)測量実習(複数点利用) / 岩石鉱物観察2(岩石)</p> <p>第3回 (学内)地形断面 / 地質図学 / 岩石鉱物観察3(鉱物)</p> <p>第4回 (バス)見学会(可児ふれあい公園、亜炭鉱山坑口)-地質の基礎を実際に学ぶ</p> <p>第5回 (学外)地質調査その1(大学周辺から信貴山)-犬山の地質図</p> <p>第6回 (学外)地質調査その2(本宮山周辺)-犬山の地質図</p> <p>第7回 (学内)地質調査その1とその2に基づき地質図作成 / 岩石鉱物観察4(比重)</p> <p>第8回 (学内)環境調査その1 水質調査法と放射能測定法(原理と学内測定)</p> <p>第9回 (学外)環境調査その2 (大学周辺-田県神社)</p> <p>第10回 (バス)見学会(可児川-西可児) 地層の境界</p> <p>第11回 (学内)大学周辺地質調査や地質見学結果に基づき地質環境編集図作成 / 地域振興入門(ジオパーク)</p> <p>第12回 (学外)園芸材料店で岩石観察 / 墓石地質学</p> <p>第13回 (学内)空中写真地形判読 / 岩石鉱物観察5(モード)</p> <p>第14回 (学内)発表会 地域を選びその地質や環境を紹介する / アンケート</p> <p>第15回 (学外)地質環境調査法仕上げ(広見線沿線のモデルコース踏査)</p> <p>予備：天候状況などに合わせ、適宜以下のコースとさしかえる。</p> <p>第00回 (学外)地質調査その3(大学周辺から岩崎山)</p> <p>第00回 (学外)地質調査その4(池之内周辺)と環境調査その3(大山川)</p> <p>第00回 (バス)見学会(鷓沼-善師野-尾張富士) マグマ活動</p> <p>第00回 (学外)地質調査会社訪問</p> <p>第00回 ほかの野外系体験型授業に参加する</p>
テキスト	使用しない。必要に応じてプリントを配布する。
参考書	・もういちど読む数研の高校地学。数研出版，pp. 400。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・測量や地質環境調査では各自が測定や観察を行う。</li> <li>・鉱物実習では各自が鉱物の諸性質を測定する。</li> <li>・地質を利用した地域振興の議論の場を設ける。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	国内外での地質調査や資源調査の経験を伝授する。
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時間内で随時対応する。</li> <li>・必要に応じ、グーグルクラスルームを活用し情報を共有する。</li> </ul>
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通した疑問を翌週の授業で紹介して、どう改良するか説明する。</li> <li>・必要に応じ、グーグルクラスルームを活用し情報を共有する。</li> </ul>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>あらかじめウェブ参考資料を準備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それを予習・復習にあててもらう。</li> <li>・その中の練習問題を復習で解いてもらう。</li> </ul> <p>地域振興課題ではレポート作成を行う。</p> <p>以上からおおむね毎週予習・復習あわせて4時間をあてる。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<p>6.安全な水とトイレを世界中に</p> <p>7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> <p>9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標(11~17)	<p>13.気候変動に具体的な対策を</p> <p>15.陸の豊かさを守ろう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1.情報収集力</p> <p>2.情報分析力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>6.行動持続力</p> <p>9.実践力</p>

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(SK)犬山学講座 / 里山学 / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13510
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	郡 麻里
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	3 4 A多目的室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 真咲(経営学部)、岡田 和明(経済学部)、郡 麻里(経営学部)
授業の目標	<p>名古屋経済大学のある犬山市南部は、尾張丘陵の北端にあたり、八曾山、尾張富士、本宮山、五条川、入鹿池などの自然に恵まれ、農村地帯と接する里山を形成しています。また、この地域は、尾張・美濃の境界にあたり、中山道(東山道)と木曾川の交差する交通の要衝であったことから、歴史の重要な舞台となり、また古代から陶器づくりなど様々な伝統産業が育まれてきました。</p> <p>本プランでは、犬山里山学研究所、今井森林愛護会、東大生態水文学研究所、金城学院里山コンサベーション、岐阜県立森林文化アカデミーなどと連携して、犬山周辺の里山の歴史、生態系、直面する課題などについて学んでいきます。</p> <p>また、本プランでは、名古屋経済大学のキャンパスを里山化するプランを履修者がグループとなって議論し、アイデアをプレゼンします。</p>
授業の概要	<p>1. 初めに里山概念について学んだあと、犬山周辺の里山の歴史、生態系、直面する課題について考えていきます。</p> <p>2. 犬山里山学研究所、今井森林愛護会、東大生態水文学研究所、金城学院里山コンサベーション、岐阜県立森林文化アカデミーなどを訪問し、各組織の活動について講義を受け、議論します。</p> <p>3. 名古屋経済大学のキャンパスを里山化するプランを履修者がグループとなって議論し、アイデアをプレゼンします。</p>
評価方法	本授業では、グループでの議論や各自の意見の発信を重視します。そのため、成績評価にあたっては、見学後に提出するレポート、議論への参加状況、報告会での発表内容によって、総合的に成績評価を行います。定期試験は行いません。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	6回以上欠席した学生は不合格となります。
授業計画	<p>第1週 ガイダンス</p> <p>第2週 講義(犬山周辺の里山)</p> <p>第3週 見学(犬山里山学研究所)</p> <p>第4週 見学(犬山水生生物園)</p> <p>第5週 講義(今井の森林について)</p> <p>第6週 見学(今井森林愛護会での林業体験)</p> <p>第7週 見学(八曾湿地)</p> <p>第8週 見学(名古屋経済大学周辺の里山)</p> <p>第9週 見学(東京大学赤津研究林)</p> <p>第10週 見学(水質調査体験)</p> <p>第11週 講義(金城学院の里山について)</p> <p>第12週 見学(金城学院里山コンサベーション、八竜湿地の保全活動について)</p> <p>第13週 見学(岐阜県立森林文化アカデミー)</p> <p>第14週 報告準備(キャンパス里山化プラン)</p> <p>第15週 報告会</p>

テキスト	適宜、資料を配布する。
参考書	授業の中で紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	見学先では、実際に森林の間伐作業や水質調査などを体験します。 また、名古屋経済大学のキャンパスを里山化するプランを履修者がグループとなって議論し、最終回ではアイデアをプレゼンします。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	担当教員は自然環境や生物多様性の保全とその管理に関する環境省や林野庁などの委託事業や補助事業を実施してきた。その経験を活かし、現在の国の生物多様性保全戦略や気候変動対策・方針について紹介するとともに、各種調査方法を伝授する。
質問への対応方法	・授業後に対応 ・メールで随時対応 (kohri-m@nagoya-ku.ac.jp)
フィードバックの方法	質問に対するフィードバックは、授業のなかで行うとともに、必要に応じてコメントや助言をメールでも行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の授業では、翌週の授業内容に関わる参考文献の該当箇所を指示するので、翌週までに各自で予習します。 その参考文献を読んだ前提で、次回の授業・見学を行いますので、予習は必須です。 また、授業で配布した資料を家で読み、復習します。 これらの予習・復習（計60時間）を行うことが、期末プレゼンの準備につながります。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 15.陸の豊かさを守ろう 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力 7.課題発見力 8.計画立案力

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(SL)簿記 / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13511
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	中村 壽男
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	7 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒鹿 善之(経営学部)、中村 壽男(経営学部)
授業の目標	<p>このプランは成功を体験することを企図するプログラムです。 1年次前期開講「基本簿記」(必修)において修得した複式簿記の基礎技術をベースに、商工会議所簿記検定3級試験にチャレンジし、合格を勝ち取ることを目標とします。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 小規模株式会社の決算書を作成するスキルを習得する。</p> <p>技能の領域 複式簿記の原理原則およびその体系を身につける。</p> <p>態度・志向性の領域 簿記検定合格という成功体験を得ることにより、今後の大学生活を積極的かつ有意義に過ごせる機会を獲得する。</p>
授業の概要	<p>簿記は実践的な性格の強い科目です。とりわけ商工会議所簿記検定3級試験に合格するためには、数多くの多種多様な問題に取り組む必要があります。根気よく演習に取り組めば、必ず成功体験を獲得できるはずです。</p> <p>なお、この授業を選択するにあたり、以下の点に留意されたい。</p> <p>(1) 1年次前期配当「基本簿記」(必修)の内容を理解している。 (2) 商工会議所簿記検定3級試験に合格しようという強い意欲がある。 (3) 簿記検定合格という成功体験を得て、今後の大学生活を充実させたい。 (4) 受検する商工会議所簿記検定試験日は11月17日(日)、受検料は3,300円(税込)となります。</p> <p>また、授業の際には必ず電卓を持参してください。ケタ数が12ケタの電卓が望ましい。</p>
評価方法	商工会議所簿記検定3級試験に合格することにより単位を認定します。なお、ここにいう合格は2024年10月1日より2025年1月末日までの受検による合格に限ります。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第1週 商工会議所簿記検定3級試験の概要（傾向と対策）</p> <p>第2週 取引の仕訳に関する演習（1）商品売買、債権債務など</p> <p>第3週 取引の仕訳に関する演習（2）固定資産、費用収益など</p> <p>第4週 取引の仕訳に関する演習（3）消費税、法人税など</p> <p>第5週 証ひょう類に関する演習 納品書、請求書、領収書など</p> <p>第6週 帳簿に関する演習（1）商品有高帳、売掛金・買掛金元帳など</p> <p>第7週 帳簿に関する演習（2）固定資産台帳、手形記入帳など</p> <p>第8週 試算表に関する演習（1）試算表と掛け明細表</p> <p>第9週 試算表に関する演習（2）試算表と二重仕訳</p> <p>第10週 伝票に関する演習 伝票の推定、仕訳日計表の作成など</p> <p>第11週 決算に関する演習（1）精算表の作成</p> <p>第12週 決算に関する演習（2）決算整理誤残高試算表の作成</p> <p>第13週 決算に関する演習（3）財務諸表の作成</p> <p>第14週 決算に関する演習（4）取引の推定</p> <p>第15週 過去問題に関する演習 総合演習</p> <p>実務経験のある教員による授業 簿記検定試験委員として培った経験より、大学で学ぶ簿記の学習成果を確認するため、商工会議所簿記検定試験3級へのチャレンジを目標とする。</p>
テキスト	『日商簿記検定模擬試験問題集3級商業簿記 2024年度版』実教出版
参考書	商工会議所簿記検定3級に関する問題集など。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	適宜対応します。不明な点や理解困難な点がある場合には、積極的に質問するよう心がけさせたい。
フィードバックの方法	当該回に提供した課題について、復習を目的に、次回詳細な解説を展開していきます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	課題等については事前配信するので、当該回の授業までに取り組むこと（2時間程度）。また、当該回の授業内容について十分理解できるようしっかりと復習（2時間程度）を心がけること。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(SM)解釈とコミュニケーション / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13512
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	清水 裕樹
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	70B 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	清水 裕樹 (法学部)
授業の目標	<p>この授業では、「解釈とコミュニケーション」を題材とする。「解釈」とは言葉の意味を明らかにすること、「コミュニケーション」とは他者(人間とは限らない)と理解しあう(理解しあおうとする)ことと、暫定的に定義する。</p> <p>わたしたちは、日々コミュニケーションをおこなっている。相手の意図が「わかる」前提で生活をし、学生生活を送り、そしてアルバイトの場面などでは「社会人」として同僚や顧客と対応している。しかし、それは「当たり前」のことなのだろうか。この授業では、(1)言語が異なる異文化コミュニケーションとして、主に英語と日本語との翻訳、(2)本学における少なくとも現状の共通語である日本語でのコミュニケーション、(3)応用編として、裁判の場面におけるコミュニケーションを例として、コミュニケーションをより深く理解することを目指す。</p> <p>本授業で獲得を目指すもの。      技能の領域：ことばの解釈に対する意識と能力を高めることができる。      関心・意欲の領域：「他者を理解すること」への自覚を高めることができる。      具体的には、「ことばで伝わるもの」とは何か、また「わたしたちは相互理解が可能であるかどうか」ということを、授業中のコミュニケーションを通じて考えてみたい。      下記に授業計画を示すが、授業参加者の顔ぶれ、とりわけ授業参加者の文化的なバックグラウンドの多様性に応じて、臨機応変に実施内容を考える。</p>
授業の概要	<p>基本的には、教室内、または本学図書館内での調べ物やそれに基づく対話などの実践活動が中心となる。</p> <p>参加者(教員も含む)は、自己の生き様や生まれ育った環境の違いをなるべくさらけ出す方向で授業に参加することが求められる。</p> <p>学外での活動として、名古屋国際センターの見学、徳川美術館の見学、名古屋地方裁判所での裁判傍聴を予定している。</p> <p>学外見学に際しては、交通費が必要となる(後日授業の予算から支払う)。</p>
評価方法	<p>授業への参加姿勢を総合的に評価する。授業で出される課題にどれだけ真剣に向き合ったかが問題となる。</p> <p>本プランは評定方式(AA, A, B, C, S)で評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>やむを得ない裕がある場合を除き、授業への欠席は認めない。特に学外見学には、遅刻せず参加することが求められる。</p> <p>授業の性質上、ほかの参加者の人物に対する否定や中傷は、軽い気持ちでおこなった場合でも失格の対象となりうる。</p>

授業計画	<p>下記の内容での実施を予定している（授業参加者の顔ぶれにより内容は変化しうる）。</p> <p>1週目：アイスブレイク、参加者の自己紹介</p> <p>2週目：異文化コミュニケーションについて翻訳語を通じて考える</p> <p>3週目：名古屋国際センター見学（異文化コミュニケーションの現場に学ぶ）</p> <p>4週目：英和辞典と英英辞典と国語辞典（場合により漢字辞典や中国語辞典）を用いていくつかの英単語の意味を深く考える</p> <p>5週目：英語が原作となっている児童文学を訳してみる（その後プロの翻訳と対照してみる）その1</p> <p>6週目：英語が原作となっている児童文学を訳してみる（その後プロの翻訳と対照してみる）その2</p> <p>7週目：幅広い意味がある（だろう）ことばの理解の違いに気づく（3時間目）。「若者言葉（おじさん言葉）」や「方言」について考える〔4時間目〕</p> <p>8週目：徳川美術館の見学（現在の日常にないものをどのように伝えるかのプロの技に学ぶ）</p> <p>9週目：中締め（これまでの授業の振り返りと、改めての参加者同士の理解の確認）</p> <p>10週目：犯罪と刑事裁判について学ぶ（11週目への予習）</p> <p>11週目：名古屋地方裁判所見学（裁判の現場で何がおこなわれているかを見る）</p> <p>12週目：裁判所でおこなわれていたこと（証拠調べや弁論、判決言い渡し）をコミュニケーションとして考える</p> <p>13週目：裁判所にいた人たち（被告人、法律家、裁判所職員、傍聴人）を考える</p> <p>14週目：裁判を法の解釈として考える</p> <p>15週目：これまでの授業を振り返る</p>
テキスト	大橋理枝、根橋玲子『コミュニケーション学入門』放送大学教育振興会2019年。
参考書	<p>鳥飼玖美子『異文化コミュニケーション学』岩波新書2021年。</p> <p>伊藤良徳『裁判の仕組みが面白いほどわかる本』中経出版2009年。</p> <p>神永暁『おもしろ方言47都道府県まるわかり：小学生のミカタ』小学館2023年。</p> <p>堀尾佳以『若者言葉の研究 SNS時代の言語変化』九州大学出版会2022年。</p> <p>川原繁人『なぜ、おかしな名前はパピペポが多いのか？ 言語学者、小学生の質問に本気で答える』ディスカヴァー・トゥエンティワン2023年。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中は随時質問に応じる。授業時間外は、原則としてメールで対応する。
フィードバックの方法	「コミュニケーション」をテーマとする対面実施の体験型授業であるので、随時参加者間のやり取りは発生する（はずである）。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業中の課題のほか、学外見学の振り返りの作成、そのほか随時「宿題」（例えば大学内外での「お題」集めなど）を出す予定である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力 9. 実践力

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(SN)渋沢栄一 / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13513
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	安部 伸哉
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	安部 伸哉 (経済学部)
授業の目標	<p>この授業は体験型プロジェクト「渋沢栄一に触れてみよう」です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識と理解の領域 渋沢栄一が唱えた「合本主義」について理解する。 渋沢栄一を通して、近代日本の経済について理解する。</li> <li>・技能の領域 テキストの音読を通じて「くずし字」に触れてみる。</li> <li>・態度と志向性の領域 休まず遅刻せずに、授業に積極的に参加する。 予習をする習慣を身につける。</li> </ul>
授業の概要	<p>この授業では、渋沢栄一の考え方や彼が生きた時代について学び、考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト『立会略則』の音読 「渋沢栄一」に「触れる」アプローチとして、彼の著作物を音読します。 テキストの『立会略則』は、株式会社を日本に紹介するために書かれました。 所々、くずし字で書かれていますが、慣れれば大丈夫です。</li> <li>・ポッドキャスト「渋沢栄一から学ぶ経済」の視聴 渋沢栄一を取り上げたラジオを聞き、彼が生きた時代・経済について学びます。</li> <li>・「トヨタ産業技術記念館」等の見学 近代日本のリーディング・インダストリーの1つに紡績産業があります。 この紡績産業の出発点には、渋沢栄一が立ち上げた「大阪紡績会社」があります。 この紡績業に関連して、「トヨタ産業技術記念館」等を見学して、理解を深めます。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への積極性（予習の有無等）（60%）</li> <li>・授業の感想コメント（40%）</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	<p>授業の3分の2以上出席しない場合、失格とする。 やる気が感じられない場合は、出席にカウントしない。</p>



授業計画	<p>第1回 ガイダンス・渋沢栄一の概要</p> <p>第2回 T「通商会社」/P「渋沢欧米漫遊記・フランス編」</p> <p>第3回 T「主意」/P「マルチプレイヤー福地源一郎」</p> <p>第4回 T「制限」/P「産業の向上をめざした内国勸業博覧会」</p> <p>第5回 T「方法」/P「汚職事件を契機に定められた公認会計士の使命」</p> <p>第6回 T「社中諸掛人員」/P「ワイヤーロープの魁，東京製綱」</p> <p>第7回 見学</p> <p>第8回 T「為替会社」/P「非凡な才能の持ち主，田中平八」</p> <p>第9回 T「通例為替」P「三井の大番頭三田村利左衛門」</p> <p>第10回 T「貸附ケ金仕法」/P「日本の科学イノベーションをけん引する理化学研究所」</p> <p>第11回 T「預り金仕法」/P「明治初期に見る，ビジネスリテラシー」</p> <p>第12回 T「通用切手仕法」/P「紡績会社をめぐる職工引き抜き事件」</p> <p>第13回 T「引請貸借仕法」/P「食文化の西洋化とともに確立した日本のビール産業」</p> <p>第14回 T「公債仕法」/P「新旧・田園都市構想」</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>*T=テキスト，P=ポッドキャスト *状況により予定を変更する場合がある。</p>
テキスト	・『立会略則』（配布予定）
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	テキストの音読やポッドキャストの視聴を行い，議論を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	補論の時間を使って質問に対応します。
フィードバックの方法	感想コメントに基づき，次回の授業でフィードバックさせます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習：テキスト『立会略則』を音読して来る。分からない字を調べて来る。 復習：もう一度『立会略則』を音読する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	5.自信創出力 6.行動持続力 8.計画立案力

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(S0)犬山学講座 / カーボンニュートラル / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13514
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	竹内 恒夫
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	3 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	竹内 恒夫 (経済学部)
授業の目標	<p>カーボンニュートラルに向けた地域における取組みを調査し、犬山地域のカーボンニュートラル・ロードマップ作成を試み、犬山市長に提案する。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>気候変動問題の科学的知識の理解を深めることができる。</li> <li>カーボンニュートラルへの取組方法の知識を得ることができる。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域のカーボンニュートラル・ロードマップ作成のスキルを習得することができる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カーボンニュートラル型の社会・経済づくりへの志向が育まれる。</li> </ul> <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境を職業にしたいという意欲が涵養される。</li> </ul>
授業の概要	<p>・いまや「地球沸騰化」(グテーレス国連事務総長)とまで言われるようになった地球温暖化問題について、その原因、影響などを理解し、国際社会や国の取組みを学んだ上で、カーボンニュートラルに向けた地域における取組みや、地域における地球温暖化による影響への適応の取組みについて、犬山市内の関連事業などを現地調査し、犬山地域のカーボンニュートラル・ロードマップ作成(竹内が開発した市町村ごとカーボンニュートラル・シナリオ分析ツールを活用)を試み、犬山市長に提案する。</p> <p>・この授業は、講義、現地調査、ロードマップ作成・政策提案からなる。受講者が多い場合は、講義以外はグループに分かれる。</p>
評価方法	<p>毎回の授業のミニレポート：50%</p> <p>期末試験：50%</p> <p>* 欠席4回以上は失格とする。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>1 9/24オリエンテーション、地球温暖化の原因（講義、2コマ）</p> <p>2 10/1 地球温暖化による影響など（講義、2コマ）</p> <p>3 10/8 世界、日本の地球温暖化対策の経緯と展望（講義、2コマ）</p> <p>4 10/15 日本のエネルギー政策の現状と課題（講義、2コマ）</p> <p>5 10/22 化石燃料利用の歴史的背景と脱化石燃料の取組み手法（講義、2コマ）</p> <p>6 10/29 犬山太陽光発電所合同会社のメガソーラー（現地調査、2コマ）</p> <p>7 11/5 犬山の中小水力発電（現地調査、2コマ）</p> <p>8 11/12 自治体新電力（一宮未来エネルギー株式会社）（現地調査）</p> <p>9 11/19 木材のカスケード利用（名古屋木材倉庫エコワールド犬山）（現地調査、2コマ）</p> <p>10 11/26 飲料水工場（サントリー木曾川工場）（現地調査、2コマ）</p> <p>11 12/3 「エコアクション21」認証企業（モリシマ）（現地調査、2コマ）</p> <p>12 12/10 地球温暖化による犬山地域の社会・自然への影響（愛知県気候変動適応センター（上飯田））（現地調査、2コマ）</p> <p>13 12/17 犬山のカーボンニュートラル・ロードマップ案作成（竹内が開発した市町村ごとカーボンニュートラル・シナリオ分析ツールを活用）（講義/実習、2コマ）</p> <p>14 12/24 同上</p> <p>15 1/7 犬山市環境課・犬山市長に提案（現地調査、2コマ）</p>
テキスト	
参考書	<p>環境白書（2023年度版）</p> <p>竹内恒夫「地域環境戦略としての充足型社会システムへの転換」清水弘文堂書房（単著）</p> <p>田中充編著『地域からはじまるエネルギー政策の実践』ぎょうせい（共著）</p> <p>大西隆・小林光編著『低炭素都市 これからのまちづくり』学芸出版社（共著）</p> <p>甲斐憲次編著『二つの温暖化 - 地球温暖化とヒートアイランド』成山堂書店（共著）</p> <p>竹内恒夫・高村ゆかり・溝口常俊・川田稔編『社会環境学の世界』日本評論社（共編著）</p> <p>地球憲章日本委員会（代表 広中和香子）編著『SDGsの原点「地球憲章」を考える』三省堂書店（共著）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	地球温暖化の原因、地球温暖化による影響などの講義はディスカッションを含む。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	1977年に環境庁（現環境省）に入庁。1990年に初めてのCO2削減目標・行動計画を策定して以降、2002年に京都議定書を批准するまで、主に温暖化対策に従事。2006年に名古屋大学に転職してからは地域の脱炭素のロードマップづくりの研究。
質問への対応方法	授業の中で質問を受ける。
フィードバックの方法	授業の中で受けた質問には、原則的に、その場で回答する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義の予習は、参考書、特に、環境白書を最低1時間読む。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>1. 貧困をなくそう</p> <p>10. 人や国の不平等をなくそう</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11. 住み続けられるまちづくりを</p> <p>12. つくる責任つかう責任</p> <p>13. 気候変動に具体的な対策を</p> <p>16. 平和と公正をすべての人に</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p> <p>4. 構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>7. 課題発見力</p> <p>8. 計画立案力</p> <p>9. 実践力</p>

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(AA)大学祭 / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13600
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	萩原 聡央
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	7 5 C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	萩原 聡央(法学部)、趙 民秀(法学部)
授業の目標	<p>10月12日(土)および13日(日)に行われる大学祭(「名経祭」)を企画・運営し成功させることを目標とします。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 大学祭の意義を理解し、学生が主体となって大きなイベントを運営するためにどのようなことが重要であるかを学ぶことができる。</p> <p>技能・思考・判断の領域 企画を立案し、それを実施するためには、まず現状を分析し課題を明らかにすることが必要になる。次に発見した課題をどうやって解決するかを考える。そのような力が身につく。</p> <p>関心・意欲の領域 物事に積極的に取り組むことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 他のメンバーや教職員と協力することが大切である。その中で相手の考えを理解する、自分の意見をわかりやすく伝えることが求められる。それを通じて柔軟性や協調性を学ぶことができる。</p> <p>体験探究の領域 様々な困難を克服し時間と労力を費やしながら大きなイベントを運営し成功につなげた経験が「やればできる」という大きな自信となる。</p>
授業の概要	<p>大学祭(「名経祭」)の実施にむけて、各段階ごとに、検討会の開催や準備作業などを行っていきます。大まかな手順は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>立案段階 <ul style="list-style-type: none"> <li>テーマ・目的を決める</li> <li>他大学の大学祭を調べる(過去の実施情報など)</li> </ul> </li> <li>企画準備段階 <ul style="list-style-type: none"> <li>実施概要の作成</li> <li>予算書案の作成・成立</li> <li>ポスター・チラシの作成</li> <li>協賛企業のリストアップと提案書作成</li> </ul> </li> <li>企画実施段階 <ul style="list-style-type: none"> <li>大学祭当日の運営</li> </ul> </li> <li>企画評価段階 <ul style="list-style-type: none"> <li>反省会と打ち上げ</li> </ul> </li> </ol> <p>[科目の位置づけ] この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>大学祭(「名経祭」)実施に向けた事前事後の検討会における議論への参加状況(20%)、大学祭準備作業への取り組み状況(30%)および大学祭当日の運営における取り組み状況(50%)を総合的に考慮して評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	原則として、欠席6回以上は失格とする。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス（授業概要の説明）</p> <p>第2回 大学祭（「名経祭」）の概要を知る（大学祭の概要説明）</p> <p>第3回 過去の「名経祭」の実施状況や他大学の大学祭を調べて特徴をまとめる</p> <p>第4回 犬山の城下町を知る（犬山散策）</p> <p>第5回 大学祭のテーマ・目的を決める</p> <p>第6回 大学祭の「目玉」を決める</p> <p>第7回 大学祭における各企画の担当を決める</p> <p>第8回 大学祭の実施概要書を作成する</p> <p>第9回 大学祭の予算書案を作成する</p> <p>第10回 大学祭の協賛企業のリストアップと提案書を作成する</p> <p>第11回 模擬店出店に関する各ゼミへの協力依頼書を作成する</p> <p>第12回 ポスター・チラシを作成する</p> <p>第13回 大学祭運営に係る最終確認（役割分担等の最終確認）</p> <p>第14回 大学祭運営に係る最終確認（準備活動等の最終確認）</p> <p>第15回 大学祭前日における準備活動（10/11（金）3限）</p> <p>第16回 大学祭前日における準備活動（10/11（金）4限）</p> <p>第17回 大学祭前日における準備活動（10/11（金）5限）</p> <p>第18回 大学祭1日目の運営（10/12（土）1限）</p> <p>第19回 大学祭1日目の運営（10/12（土）2限）</p> <p>第20回 大学祭1日目の運営（10/12（土）3限）</p> <p>第21回 大学祭1日目の運営（10/12（土）4限）</p> <p>第22回 大学祭1日目の運営（10/12（土）5限）</p> <p>第23回 大学祭2日目の運営（10/13（日）1限）</p> <p>第24回 大学祭2日目の運営（10/13（日）2限）</p> <p>第25回 大学祭2日目の運営（10/13（日）3限）</p> <p>第26回 大学祭2日目の運営（10/13（日）4限）</p> <p>第27回 大学祭2日目の運営（10/13（日）5限）</p> <p>第28回 大学祭後の運営（大学祭の片付け・機材返却業務等）</p> <p>第29回 大学祭後の運営（大学祭の片付け・機材返却業務等）</p> <p>第30回 まとめと振り返り</p> <p>このプランは、授業時間（火3限・4限）以外でも活動します。具体的には、大学祭前日（10/11（金）3限～5限〔10/11（金）3限～5限は、通常の授業は休講となります〕）および大学祭当日（10/12（土）と10/13（日））においても活動します。</p> <p>犬山城見学などの学外活動も行う予定です。</p>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	大学祭（「名経祭」）の企画・立案、準備作業および当日の運営等において、グループワークを実施します。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	〔質問への対応〕 質問については授業時またはオフィスアワーにおいて対応します。
フィードバックの方法	授業時間内または次回授業で解説します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の授業テーマについて、事前準備を2時間程度、事後学習を2時間程度行うこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに 8. 働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任 17. パートナースhipで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力

PROGコンピテンシーの要素	2. 協同力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力
----------------	--

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(AB)農業 / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13601
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 正之
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	7 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	美濃羽正康(法学部)、早川 結人(法学部)、張 瑞輝(法学部)、佐藤 正之(経済学部)
授業の目標	<p>この学びのプランでは、「農」について考えます。 農家の方や農協の指導の下でコメ作りを体験したり、学内の小さな農地を耕し野菜等の作物栽培実験をしたり、「地域の農」に関するフィールドワークを通じて、「農業」や「食料生産」に係わる経済・社会のしくみを理解し、そのありかたを考えてみましょう。</p> <p>&lt;学習成果&gt;  知識・理解の観点  「農業」や「食料生産」とは何かを、コメ作りの実践の中で体得し説明することができる。  思考・判断の観点  コメ作りを実践する過程や、自然農法の体験・実験で出会う問題について、自主的に考え判断し適切に対応することができる。  関心・意欲の観点  「地域の農」に関わる経験をすることにより、農業の厳しさや喜びを体感し、自ら学び続ける自覚を高めることができる。  食料生産に関する経済・社会のしくみについて関心を持つようになる。  態度の観点  熱意をもって農作業体験を行うことができる。  農業生産の効果的な方法を自ら進んで考えたり調べたりするようになる。  技能・表現の観点  農作業を体感することで、農業の現状の理解に役立てる。  「農業」や「食料生産」などについて理解が深化し、まとめを自らの言葉で作成することができる。</p> <p>プロジェクトメンバー自らが、様々な取り組みを立案し協力して実施することで、社会人基礎力を養成することができる。  体験・探究の観点  農業・食料生産の現場、地域を深く知ることを通じて自主的に学習することの大切さを再認識し、新たな問題を探求する力を育ててゆく。</p> <p>学ぶことは、本来、楽しいことなのです。本学の周りは未知の学びの体験ゾーンです。グループ仲間と助け合って学びを味わう活動をプロジェクトと呼びます。あなたは、この体験型プロジェクトで何を見つけるでしょうか？</p>

授業の概要	<p>このプロジェクトでは、(1)地域のコメ生産者や農協、市役所等の支援を受けながらの大学周辺の水田を活用してのコメ作り、(2)学内農地における自然農法による野菜づくりなどを行います。日頃食べているお米が、どのような作業を通じて生産され、流通過程を経て私たちに届けられているか、興味ありませんか？</p> <p>また、畑を耕し除草し水をやるといった地道な作業を通じて、安全安心な食糧生産の大変さや大切さを学ぶことも重要です。自分たちがつくった農作物を、プログラムを通じて知り合った友人たちと一緒に食べたり、誰かに食べてもらえるように工夫することは素晴らしいことだと思いますか？</p> <p>このような経験を通じて、農業や食料生産の大切さ、大学と地域との連携のあり方について深く学び、大学における社会科学を学びへとつなげていくことができるプログラムです。</p>
評価方法	<p>AA A B C D方式で評価します。</p> <p>評価基準 プロジェクト活動への取組姿勢（60パーセント） 振り返りレポート（20パーセント） 個別報告（20パーセント）</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>地域への対外的責任がありますので、正当な理由なくまたは無断で欠席したり遅刻したりした場合は失格にすることがあります。</p> <p>農作物に関わるプロジェクトのため、繰り返しの作業が多くあります。作業に参加しない者は失格となるため、決められた活動が出来ない人は単位がとれません。</p> <p>全出席回数数の3分の1を越えて欠席した者は失格とする。遅刻は2回で欠席1回として扱う。</p>
授業計画	<p>この授業は対面方式で行います。</p> <p>1年を通しての授業ですが、農業に適した時期を中心に授業を行います。</p> <p>また、授業計画は、気象条件等による農作業時期のずれや地域・施設等の都合により、曜日や時間帯等変更の可能性があり、一応の目安です。必要に応じて適宜スケジュール調整を行います。</p> <p>第1週 全体説明、プログラム概要の学習（ガイダンス） 第2・3週 農業・食料に関する講義／プロジェクト運営会議 第4・5週 農作業 第6週 調査・地域見学 第7・8週 農作業 第9週 調査・地域見学 第10・11週 小まとめ・ワークショップ 第12・13週 農作業 第14週 ワークショップ／プロジェクト運営会議 第15週 中間振り返り、まとめ／プロジェクト運営会議 第16週 農地整備 第17・18週 農作業 第19週 ワークショップ／プロジェクト運営会議 第20・21・22週 農作業 第23・24週 調査・地域見学（47～48回）農作業 第25・26週 ワークショップ／プロジェクト運営会議 第27・28・29週 報告会準備／報告会（収穫祭） 第30週 振り返り、まとめ</p>
テキスト	指定しない
参考書	農山漁村文化協会「ルーラル電子図書館（農業情報提供サイト）」 学内アクセスのみ
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>「農」「農業」「地域」をキーワードに、社会科学への興味や学習意欲へつなげることが目標ですので、皆さんにプロジェクトの運営を担ってまいります。</p> <p>農作業体験だけでなく、収穫物の食べ方や使い方についても、アイデアを出し合いながら考えていきましょう。</p> <p>また、皆さんに地域農業を支える組織や施設の見学、里山散策、専門家からのレクチャーなどの企画をしてもらい実行することで、農業と地域がどのように結びついているのかについても学びを深めていく予定です。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	体験に関する質問は、学習中に随時受け付けます。なお大学のmicrosoftおよびgoogleアカウント利用が必須です。



フィードバックの方法	実際に会社や行政で行われているように、皆さんにプロジェクトの運営を担ってもらい、メンバーとして活躍してくれることを期待しています。リアクションへの教員からリプライはもちろんですが、各メンバーが相互に情報を共有することを推奨します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	皆さんにプロジェクトの運営を担ってもらうためには、授業時間と同等の準備学習、体験と記録、事後学習とリアクションが必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 15.陸の豊かさを守ろう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(AC)日本語パートナー / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13602
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	宮島 良子
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	3 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	金村 久美 (経済学部)、宮島 良子 (経営学部)
授業の目標	<p>・知識・理解の領域 日本語を母語としない人々（外国にかかわりのある子ども、留学生、技能実習生など）への日本語教育について基礎的な知識を持ち、日本語学習者の日本語パートナーとなる。 多様な文化や日本語について知り、日本語の特徴や表現のあり方などについて認識する。 国際交流、異文化理解や多様性に関する基本的な知識を持ち、日本語を学ぶ人々に対する「やさしい日本語」などについての知識を得る。</p> <p>・技能の領域 日本語パートナーとして、多様な情報の受信、選択、分析、発信を基本とするコミュニケーション能力の基礎を身につける。 学修を通じて得た、多様性理解（多文化共生、異文化理解など）の意味を理解し、日本語学習支援の方法を身につける。 日本語パートナーとして活動する際に必要な配慮を理解し、身につけようという気持ちを養う。 日本語パートナーとして、必要な異文化理解能力を身につけ、そのためにどのような働きかけが必要であるかを考え、実施する。 日本語パートナーとして交流活動の実施の際に活用可能な水準のコンピューター運用力を身につける。</p> <p>・態度・志向生の領域 知識や経験を自律的に学修しようとする態度を身につける。 他者との交流や異なる価値観などの受容を通じて、自身の視野を広げ、他者との協働により自己を客観視し、他者を尊重する態度を示す。 地域の文化、世界の文化に触れることにより、多様性を理解し、尊重する姿勢を身につける。</p> <p>・思考判断の領域 日本語や国際理解につながる知識・理解をもとに、寛容性や柔軟性をもち、多角的に思考・判断する。</p> <p>・関心意欲の領域 日本語や地域の文化や他国の文化、マナーについて興味、関心を持ち、社会でともに生きていくためにできることが何かを考える。</p>

授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業の参加者は、日本語を母語としない人々（外国につながる子ども、留学生、技能実習生など）に対して、彼らが日本語を学習する際に日本語パートナーとして協力、活動します。活動体験を通して、多様な人々と知り合い、助け合い、協力し合う中で人間関係を作り、グローバル人材としての基礎を作ります。</li> <li>・学内や地域において日本語パートナーとしての活動に積極的に参加し、交流します。</li> <li>・日本語パートナーとして協力、活動するために必要な日本語教育や国際理解などに関する入門的な知識を学び、日本語学習に励む人々のパートナーとなり、温かい人間関係を築き、良好な関係を作れるということを学びます。</li> </ul> <p>・留学生（日本語を母語としない学生）がこの科目を希望する場合には、本授業の活動を行うために必要な高度な日本語能力を有していること。最低でもJLPTのN1を持っている必要がある。</p> <p>〔この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。〕</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加度の評価：基礎的な知識の修得状況と日本語パートナーとしての活動をどのように行ったかを、学生の活動報告や担当教員の観察をもとに評価する。</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>この科目は通年の科目であるが、原則として特別な配慮を必要としない欠席が半期で5回以上ある場合には失格となる。</p> <p>原則として日本語パートナーとしての活動に参加しない場合には失格となる。</p>
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語教育についての入門的な基礎知識を身につけ、日本語パートナーとして活動する</li> <li>・この授業は通年で行う科目である。通年で30コマ分の授業を実施する。</li> <li>・原則として火曜日3限（場合によっては4限）の時間帯及び日本語科目のある時間帯を利用する。</li> <li>・日本語パートナーとして学外等で活動する場合には、別の曜日時限に行くことがある。</li> <li>・場合によっては夕方～夜間、休日に実施する場合もある。（履修学生との相談の上、決定する）</li> <li>・場所は教室、大学内または大学近隣（楽田駅周辺など）とする。</li> <li>・場所、日時についてはグーグルクラスルームを使って共有するため、必ず確認をすること。</li> </ul> <p>以下、内容の順番は入れ替わる可能性がある。</p> <p>第1回 オリエンテーション&amp;アイスブレイク（コミュニケーションゲームなどを体験する）、やさしい日本語</p> <p>第2回 日本語学習者の背景（留学生、外国に繋がりのある子どもなど）について知る</p> <p>第3回 日本語パートナー活動をする（留学生）</p> <p>第4回 日本語パートナー活動をする（留学生）</p> <p>第5回 日本語教育の教材について知る</p> <p>第6回 日本語学習者が学ぶ日本語の文字について</p> <p>第7回 日本語パートナー活動（子ども）</p> <p>第8回 日本語パートナー活動（子ども）</p> <p>第9回 日本語学習者が学ぶ日本語を知る</p> <p>第10回 日本語学習者が学ぶ日本語を知る</p> <p>第11回 日本語パートナー活動をする（留学生）</p> <p>第12回 日本語パートナー活動をする（留学生）</p> <p>第13回 日本語パートナー活動（子ども）</p> <p>第14回 日本語パートナー活動（子ども）</p> <p>第15回 前半振り返り、後期企画相談</p> <p>第16回 日本語学習者が学ぶ日本語を知る</p> <p>第17回 日本語学習者が学ぶ日本語を知る</p> <p>第18回 日本語パートナー活動（子ども）</p> <p>第19回 日本語パートナー活動（子ども）</p> <p>第20回 日本語学習支援イベント企画を考える</p> <p>第21回 日本語パートナー活動（留学生）</p> <p>第22回 日本語パートナー活動（留学生）</p> <p>第23回 日本語学習支援イベント企画を考える</p> <p>第24回 日本語パートナー活動（留学生）</p> <p>第25回 日本語パートナー活動（留学生）</p> <p>第26回 日本語学習支援イベント企画を考える</p> <p>第27回 日本語パートナー活動（子ども）</p> <p>第28回 日本語パートナー活動（子ども）</p> <p>第29回 日本語パートナー活動（留学生）</p> <p>第30回 年間活動の振り返り</p>
テキスト	なし
参考書	なし

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	日本語パートナーとしての活動準備や振り返りの際にグループに分かれて実施する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業前後の時間やオフィスアワーの時間で対応する。適宜メールやGoogle Classroomのコメントなどでも受け付ける。
フィードバックの方法	授業時間内やGoogle Classroomのコメントを活用して行なう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	事前に調べたり、事後に報告書をまとめたりなど、120時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(AD)広告 / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13603
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	山下 幸裕
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	14D講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山下 幸裕 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 広告会社(業界)の役割を学ぶ。 2. パンフレット作成からスタディスキルの向上を図る。</p> <p>&lt;学習成果&gt;  知識・理解の領域  ・広告(会社)の役割について説明できる。  ・会社経営と広告会社との関係が理解できる。  ・会社経営における広告の重要性が理解できる。</p> <p>技能の領域  ・取材の基本的なスキルが身につく。  ・グループ活動によりコミュニケーションスキルが身につく。  ・パソコンを使って収集した情報をまとめるスキルが身につく。</p> <p>態度・志向性の領域  ・取材を通して様々な業種・業界に興味を持つ。  ・他者と協力して計画を進めることができる。</p>
授業の概要	<p>広告会社は、多種多様な会社と関係を持ち、会社の経営を裏で支えている。本プランでは、広告に携わる実務家の指導を受けて、複数の会社(お店)や施設に取材に行き、その結果から原稿をつくり、パンフレットを作成する。この一連の活動を通して、広告会社・業界について知識を深める。また大学生活に必要なスタディスキルの向上を目指す。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業への参加姿勢によりAA,A,B,C,S方式で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席・遅刻が多い、無断欠席、宿題の未提出、取材に不参加、他の学生に負担をかける、ガイダンス不参加(1回目)といった場合は、失格(S)とします。

授業計画	<p>この体験型プロジェクトは、前期・後期（通年）で30回の授業を実施します。原則として火曜日の3・4限に実施しますが（場合によっては火曜日の3限だけや4限だけに実施することもある）、協力会社や取材先の都合により授業計画を変更する場合があります。その際は皆さんと相談し通常の授業時間（火曜日の3・4限）以外や火曜日以外に活動します。</p> <p>1回目 ガイダンス  2～3回目 広告企業・業界調べ  4～5回目 実務家による広告企業・業界の仕事の講義と演習  6～7回目 広告会社の見学  8回目 実務家による取材に関する講義と演習  9～20回目 取材（事前調査、質問作成、まとめ）  21回目 実務家によるパンフレットの作成（原稿・レイアウト）の講義と演習  22～30回目 パンフレット作成と報告</p> <p>状況に応じて授業計画の順番や内容が変更する場合があります。  犬山城下町のフィールドワークや広告会社が手掛けるイベントの運営に参加する場合があります。</p>
テキスト	
参考書	適宜紹介する
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	取材の準備・実施・まとめやパンフレット作成はグループワークによって実施される。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業終了後もしくはオフィスアワーで対応する。
フィードバックの方法	授業中にフィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	準備学習として、各回、8時間の予習・復習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(AE)犬山学講座 / 犬山創業 / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13604
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	木全 啓
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	6 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	木全 啓 (法学部)
授業の目標	<p>【授業の目標】</p> <p>犬山で、また、尾張・美濃その他ご縁がある地域にて創業をするために必要な本学・知識・ノウハウを学びます。自分が創業・起業をする場合に必要な趣意書を纏めることを目標とします。既に、準備が固まっているケースは、詳細な事業計画の策定にも挑戦します。</p> <p>学ぶことは、元来、楽しいことで、可能性は無限大です。本学犬山の周りは未知の学びが豊富にある体験ゾーンです。グループ仲間と助け合って学びを味わう活動をプロジェクトと呼びます。あなたは、この体験型も含む授業・プロジェクトで何を見つけるのでしょうか？</p> <p>この授業では、本学が所在する犬山市や関連する地域において、特に若者が、新たなビジネスを立ち上げ、持続可能な成長を遂げるための秘訣を探究します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の観点 「新規創業」についての考え方、基礎知識を身につけることができる。 地域と連携した新規創業について知ることができる。</p> <p>思考・判断の観点 地方都市での創業で出会う問題について自主的に考え、解決の道を探ることができる。</p> <p>関心・意欲の観点 創業者や創業支援関係者（自治体、金融機関などを含む）からの話を通じて、創業の厳しさや喜びを肌で知り、自ら学び続ける自覚を高めることができる。</p> <p>態度の観点 「創業」というテーマを主題とすることで、実際の観点から進んで考えたり調べたりするようになる。</p> <p>技能・表現の観点 創業をめぐる種々の疑問に対しリサーチするノウハウが身につく。 「創業」や「地域振興」などについて理解が深化し、まとめを自らの言葉で作成することができる。</p> <p>体験・探究の観点 創業者を実際に知り、また創業を応援する地域を深く知ることを通じて自主的に学習することの大切さを再認識し、新たな問題を探究する力を育てゆく</p>

授業の概要	<p>【授業の概要】</p> <p>どの自治体もそうであるように犬山市もまた、新規創業、つまり新たなビジネスを起こして雇用を創出し、地元経済を活性化してくれる担い手の登場を願っています。しかし誰もが自ら起こした事業を大きく成長させることができるわけではありません。成功する者とそうでない者の違いは何なのか？ 成功するための条件は何なのか？ ほかならぬ犬山で創業を成功させるためには何が必要か？ 答えはあるのでしょうか？</p> <p>この授業では、そうした基礎的な疑問から取り組みます。(1) 様々な文献を通して創業物語を学ぶと同時に、(2) 創業の経験がある実務者からのレクチャーを受け、その上で、(3) 犬山に関連する幹部人材(犬山市長など)からは新規創業に対する期待と取り組みをお話しいただきます。また(4) 犬山で最近創業した事業者や、(5) 近隣で創業した本学卒業生に対する取材をし、これらを通して、「創業のリアル」について学びを深めます。</p> <p>そうした臨場感ある学びを積み重ねた後に、「では自分達がもし犬山や関連の地域で創業しようとするならば、どうするか？ なにが必要か？」というテーマでグループでも討議し、個人、もしくは、チームで、趣意書と事業計画をまとめます。</p>
評価方法	体験型の授業ですので、毎回出席を前提とします。授業への参加、レポート、期末課題制作への貢献に基づいて、G/S方式によって評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 犬山創業と趣意書の講義 + 予習</p> <p>第3回 創業の考え方、志の共有 + 全員発表</p> <p>第4回 復習 + 予習 + グループディスカッション</p> <p>第5回 犬山市の基本情報の共有(犬山市役所)</p> <p>第6回 復習 + 予習 + 取材</p> <p>第7回 地方創生のトップランナーの研究</p> <p>第8回 復習 + 予習 + 熊野学の分析</p> <p>第9回 ブランディング・マーケティング・広報について</p> <p>第10回 復習 + 予習 + 期末課題準備</p> <p>第11回 犬山市内・城下町などのマーケットリサーチ(犬山市内)</p> <p>第12回 復習 + 予習 + グループディスカッション</p> <p>第13回 事業計画について</p> <p>第14回 復習 + 期末課題制作(1) + グループディスカッション</p> <p>第15回 期末課題制作(2) + 発表 (訪問先の都合などにより変更される可能性があります)</p>
テキスト	追って指示する。
参考書	追って指示する
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	実際に創業に際して使用した資料を授業中に使用する
質問への対応方法	対面、電話、オンライン、メール、ライン。
フィードバックの方法	対面、電話、オンライン、メール、ライン。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	合計で30時間程度の予習・復習時間を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11~17)	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力 8.計画立案力 9.実践力



開講科目名 Course	(遠)(留)日本語特別支援 A
時間割コード Course Code	14000
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	渡邊 真
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	渡邊 真(経営学部)
授業の目標	この科目では、日本語能力試験(JLPT)のN1またはN2に合格するための学習を行います。特に、模擬試験、各試験分野の答練と解説をします。 日本で就職を目指す留学生は、JLPTのN1に合格しましょう。N1がないと説明会にも参加できない場合や最低でもN2に合格していることが就職の条件になる場合などがあります。また、N1に合格していることによって、ビザの取得が有利になったり、より条件の良い仕事につける場合もあります。大学生の間にできるだけ早くN1に合格できるようにがんばってください。 N1、N2合格のために、一人で勉強するのはとても大変です。教員からのアドバイスを受けて、自分の苦手な点を見つけて、集中的に勉強してください。クラスメイトと助け合って勉強してください。この科目ではみなさんが合格できるよう支援します。
授業の概要	1) 模擬試験を2回行います。最初の模擬試験で、あなたの苦手な分野を見つけます。最後の模擬試験の点数は、この科目の成績の一部です。単位を取得したい学生は、2回の模擬試験を必ず受けてください。 2) JLPTの分野別、レベル別に課題が出ます。学生は、毎週課題を提出します。毎週の課題の合計点は、この科目の成績の一部です。 3) ホームルームで、毎週の質問に回答するコメントを提出してください。ホームルーム担当の教員が返信やアドバイスをします。コメントの提出をすると、出席になります。コメントの提出をしないと、欠席になります。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	成績評価 提出した課題(復習課題、模擬試験問題含む)の合計点で算出します。 課題の提出と毎回のコメント(質問含む)で出席をつけます。(週1回、15回) その週の学習についてのコメントを提出してください。 課題の提出だけでコメントを提出しない人は、欠席になるので注意しましょう。  期間中に必ず模試を2回受験してください。模試を2回受験しない人は、失格になります。 JLPTの受験
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	模試を2回受験しない人は、失格になります。
授業計画	1週目: 模試(1) 2週目~15週目 各クラスの課題提出、コメント提出、本番直前模試(2)

テキスト	<p>この科目では、クラスで指定する教科書を購入する必要があります。  指定の教科書を買わないと、クラスの課題を提出しても評価の得点に入れることができません。  教科書を指定しますので、2週目以降に間に合うようにすぐに購入してください。</p> <p>N1:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N1（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円  著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著  出版年月日 2021/06/05  ISBN 978-4-7890-1781-7</p> <p>N2:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N2（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円  著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著  出版年月日 2021/09/05  ISBN 978-4-7890-1782-4</p>
参考書	<p>【N1】</p> <p>「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN1」アルク ￥1760  「日本語能力試験N1読解必須パターン」ジェイ・リサーチ出版 ￥1760  「新完全マスター漢字 日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター文法日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「TRY！日本語能力試験N1 文法から伸ばす日本語 改訂版」アスク ￥1980  「日本語総まとめN1漢字「日本語能力試験」対策 英語・ベトナム語訳 ￥1320</p> <p>【N2】</p> <p>「必ずできる！ JLPT「読解」N2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2」アルク ￥1760  「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN2」アルク ￥2200  「新完全マスター文法日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター聴解日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1760  「新完全マスター漢字日本語能力試験N2」 ￥1540  「一発合格！日本語能力試験N2完全攻略テキスト&amp;実践問題集」ナツメ社 ￥1980</p> <p>【N3】</p> <p>「新完全マスター文法日本語能力試験N3」3Aネットワーク ￥1320</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	各クラス担当がGoogleクラスルームなどで質問を受け付けます。 また、日本語科目担当のオフィスアワーなどに対応します。オフィスアワー以外の場合は、できるだけ来室前にEmail(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡してください。
フィードバックの方法	Googleクラスルームなどを利用し返信します。毎回の解説などにも含めます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	問題や復習課題、解説がGoogleクラスルームに投稿されます。そのため、最低でも60時間の準備学習が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	(遠)(留)日本語特別支援 A
時間割コード Course Code	14001
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	渡邊 真
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	渡邊 真(経営学部)
授業の目標	この科目では、日本語能力試験(JLPT)のN1またはN2に合格するための学習を行います。特に、模擬試験、各試験分野の答練と解説をします。 日本で就職を目指す留学生は、JLPTのN1に合格しましょう。N1がないと説明会にも参加できない場合や最低でもN2に合格していることが就職の条件になる場合などがあります。また、N1に合格していることによって、ビザの取得が有利になったり、より条件の良い仕事につける場合もあります。大学生の間にできるだけ早くN1に合格できるようにがんばってください。 N1、N2合格のために、一人で勉強するのはとても大変です。教員からのアドバイスを受けて、自分の苦手な点を見つけて、集中的に勉強してください。クラスメイトと助け合って勉強してください。この科目ではみなさんが合格できるよう支援します。
授業の概要	1) 模擬試験を2回行います。最初の模擬試験で、あなたの苦手な分野を見つけます。最後の模擬試験の点数は、この科目の成績の一部です。単位を取得したい学生は、2回の模擬試験を必ず受けてください。 2) JLPTの分野別、レベル別に課題が出ます。学生は、毎週課題を提出します。毎週の課題の合計点は、この科目の成績の一部です。 3) ホームルームで、毎週の質問に回答するコメントを提出してください。ホームルーム担当の教員が返信やアドバイスをします。コメントの提出をすると、出席になります。コメントの提出をしないと、欠席になります。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	成績評価 提出した課題(復習課題、模擬試験問題含む)の合計点で算出します。 課題の提出と毎回のコメント(質問含む)で出席をつけます。(週1回、15回) その週の学習についてのコメントを提出してください。 課題の提出だけでコメントを提出しない人は、欠席になるので注意しましょう。  期間中に必ず模試を2回受験してください。模試を2回受験しない人は、失格になります。 JLPTの受験
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	模試を2回受験しない人は、失格になります。
授業計画	1週目: 模試(1) 2週目~15週目 各クラスの課題提出、コメント提出、本番直前模試(2)

テキスト	<p>この科目では、クラスで指定する教科書を購入する必要があります。</p> <p>指定の教科書を買わないと、クラスの課題を提出しても評価の得点に入れることができません。教科書を指定しますので、2週目以降に間に合うようにすぐに購入してください。</p> <p>N1:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N1（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円 著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著 出版年月日 2021/06/05 ISBN 978-4-7890-1781-7</p> <p>N2:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N2（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円 著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著 出版年月日 2021/09/05 ISBN 978-4-7890-1782-4</p>
参考書	<p>【N1】</p> <p>「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN1」アルク ￥1760  「日本語能力試験N1読解必須パターン」ジェイ・リサーチ出版 ￥1760  「新完全マスター漢字 日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター文法日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「TRY！日本語能力試験N1 文法から伸ばす日本語 改訂版」アスク ￥1980  「日本語総まとめN1漢字「日本語能力試験」対策 英語・ベトナム語訳 ￥1320</p> <p>【N2】</p> <p>「必ずできる！ JLPT「読解」N2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2」アルク ￥1760  「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN2」アルク ￥2200  「新完全マスター文法日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター聴解日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1760  「新完全マスター漢字日本語能力試験N2」 ￥1540  「一発合格！日本語能力試験N2完全攻略テキスト&amp;実践問題集」ナツメ社 ￥1980</p> <p>【N3】</p> <p>「新完全マスター文法日本語能力試験N3」3Aネットワーク ￥1320</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	各クラス担当がグーグルクラスルームなどで質問を受け付けます。 また、日本語科目担当のオフィスアワーなどに対応します。オフィスアワー以外の場合は、できるだけ来室前にEmail(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡してください。
フィードバックの方法	グーグルクラスルームなどを利用し返信します。毎回の解説などにも含めます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	問題や復習課題、解説がグーグルクラスルームに投稿されます。そのため、最低でも60時間の準備学習が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	(遠)(留)日本語特別支援 A
時間割コード Course Code	14002
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	百々 奈美
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	百々 奈美 (経営学部)
授業の目標	この科目では、日本語能力試験 ( JLPT ) のN1またはN2に合格するための学習を行います。特に、模擬試験、各試験分野の答練と解説をします。 日本で就職を目指す留学生は、JLPTの N1に合格しましょう。N1がないと説明会にも参加できない場合や最低でもN2に合格していることが就職の条件になる場合などがあります。また、N1に合格していることによって、ビザの取得が有利になったり、より条件の良い仕事につける場合もあります。大学生の間にはできるだけ早くN1に合格できるようにがんばってください。 N1、N2合格のために、一人で勉強するのはとても大変です。教員からのアドバイスを受けて、自分の苦手な点を見つけて、集中的に勉強してください。クラスメイトと助け合って勉強してください。この科目ではみなさんが合格できるよう支援します。
授業の概要	1 ) 模擬試験を2回行います。最初の模擬試験で、あなたの苦手な分野を見つけます。最後の模擬試験の点数は、この科目の成績の一部です。単位を取得したい学生は、2回の模擬試験を必ず受けてください。 2 ) JLPTの分野別、レベル別に課題が出ます。学生は、毎週課題を提出します。毎週の課題の合計点は、この科目の成績の一部です。 3 ) ホームルームで、毎週の質問に回答するコメントを提出してください。ホームルーム担当の教員が返信やアドバイスをします。コメントの提出をすると、出席になります。コメントの提出をしないと、欠席になります。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	成績評価 提出した課題 ( 復習課題、模擬試験問題含む ) の合計点で算出します。 課題の提出と毎回のコメント ( 質問含む ) で出席をつけます。 ( 週1回、15回 ) その週の学習についてのコメントを提出してください。 課題の提出だけでコメントを提出しない人は、欠席になるので注意しましょう。  期間中に必ず模試を2回受験してください。模試を2回受験しない人は、失格になります。 JLPTの受験
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	模試を2回受験しない人は、失格になります。
授業計画	1 週目 : 模試 ( 1 ) 2 週目 ~ 15 週目 各クラスの課題提出、コメント提出、本番直前模試 ( 2 )

テキスト	<p>この科目では、クラスで指定する教科書を購入する必要があります。  指定の教科書を買わないと、クラスの課題を提出しても評価の得点に入れることができません。  教科書を指定しますので、2週目以降に間に合うようにすぐに購入してください。</p> <p>N1:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N1（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円  著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著  出版年月日 2021/06/05  ISBN 978-4-7890-1781-7</p> <p>N2:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N2（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円  著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著  出版年月日 2021/09/05  ISBN 978-4-7890-1782-4</p>
参考書	<p>【N1】</p> <p>「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN1」アルク ￥1760  「日本語能力試験N1読解必須パターン」ジェイ・リサーチ出版 ￥1760  「新完全マスター漢字 日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター文法日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「TRY！日本語能力試験N1 文法から伸ばす日本語 改訂版」アスク ￥1980  「日本語総まとめN1漢字「日本語能力試験」対策 英語・ベトナム語訳 ￥1320</p> <p>【N2】</p> <p>「必ずできる！ JLPT「読解」N2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2」アルク ￥1760  「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN2」アルク ￥2200  「新完全マスター文法日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター聴解日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1760  「新完全マスター漢字日本語能力試験N2」 ￥1540  「一発合格！日本語能力試験N2完全攻略テキスト&amp;実践問題集」ナツメ社 ￥1980</p> <p>【N3】</p> <p>「新完全マスター文法日本語能力試験N3」3Aネットワーク ￥1320</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	各クラス担当がグーグルクラスルームなどで質問を受け付けます。 また、日本語科目担当のオフィスアワーなどに対応します。オフィスアワー以外の場合は、できるだけ来室前にEmail(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡してください。
フィードバックの方法	グーグルクラスルームなどを利用し返信します。毎回の解説などにも含めます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	問題や復習課題、解説がグーグルクラスルームに投稿されます。そのため、最低でも60時間の準備学習が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	(遠)(留)日本語特別支援 A
時間割コード Course Code	14003
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	百々 奈美
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	百々 奈美 (経営学部)
授業の目標	この科目では、日本語能力試験 ( JLPT ) のN1またはN2に合格するための学習を行います。特に、模擬試験、各試験分野の答練と解説をします。 日本で就職を目指す留学生は、JLPTの N1に合格しましょう。N1がないと説明会にも参加できない場合や最低でもN2に合格していることが就職の条件になる場合などがあります。また、N1に合格していることによって、ビザの取得が有利になったり、より条件の良い仕事につける場合もあります。大学生の間にできるだけ早くN1に合格できるようにがんばってください。 N1、N2合格のために、一人で勉強するのはとても大変です。教員からのアドバイスを受けて、自分の苦手な点を見つけて、集中的に勉強してください。クラスメイトと助け合って勉強してください。この科目ではみなさんが合格できるよう支援します。
授業の概要	1 ) 模擬試験を2回行います。最初の模擬試験で、あなたの苦手な分野を見つけます。最後の模擬試験の点数は、この科目の成績の一部です。単位を取得したい学生は、2回の模擬試験を必ず受けてください。 2 ) JLPTの分野別、レベル別に課題が出ます。学生は、毎週課題を提出します。毎週の課題の合計点は、この科目の成績の一部です。 3 ) ホームルームで、毎週の質問に回答するコメントを提出してください。ホームルーム担当の教員が返信やアドバイスをします。コメントの提出をすると、出席になります。コメントの提出をしないと、欠席になります。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	成績評価 提出した課題 ( 復習課題、模擬試験問題含む ) の合計点で算出します。 課題の提出と毎回のコメント ( 質問含む ) で出席をつけます。 ( 週1回、15回 ) その週の学習についてのコメントを提出してください。 課題の提出だけでコメントを提出しない人は、欠席になるので注意しましょう。  期間中に必ず模試を2回受験してください。模試を2回受験しない人は、失格になります。 JLPTの受験
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	模試を2回受験しない人は、失格になります。
授業計画	1 週目 : 模試 ( 1 ) 2 週目 ~ 15 週目 各クラスの課題提出、コメント提出、本番直前模試 ( 2 )

テキスト	<p>この科目では、クラスで指定する教科書を購入する必要があります。</p> <p>指定の教科書を買わないと、クラスの課題を提出しても評価の得点に入れることができません。教科書を指定しますので、2週目以降に間に合うようにすぐに購入してください。</p> <p>N1:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N1（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円 著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著 出版年月日 2021/06/05 ISBN 978-4-7890-1781-7</p> <p>N2:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N2（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円 著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著 出版年月日 2021/09/05 ISBN 978-4-7890-1782-4</p>
参考書	<p>【N1】</p> <p>「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN1」アルク ￥1760  「日本語能力試験N1読解必須パターン」ジェイ・リサーチ出版 ￥1760  「新完全マスター漢字 日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター文法日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「TRY！日本語能力試験N1 文法から伸ばす日本語 改訂版」アスク ￥1980  「日本語総まとめN1漢字「日本語能力試験」対策 英語・ベトナム語訳 ￥1320</p> <p>【N2】</p> <p>「必ずできる！ JLPT「読解」N2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2」アルク ￥1760  「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN2」アルク ￥2200  「新完全マスター文法日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター聴解日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1760  「新完全マスター漢字日本語能力試験N2」 ￥1540  「一発合格！日本語能力試験N2完全攻略テキスト&amp;実践問題集」ナツメ社 ￥1980</p> <p>【N3】</p> <p>「新完全マスター文法日本語能力試験N3」3Aネットワーク ￥1320</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	各クラス担当がグーグルクラスルームなどで質問を受け付けます。 また、日本語科目担当のオフィスアワーなどに対応します。オフィスアワー以外の場合は、できるだけ来室前にEmail(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡してください。
フィードバックの方法	グーグルクラスルームなどを利用し返信します。毎回の解説などにも含めます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	問題や復習課題、解説がグーグルクラスルームに投稿されます。そのため、最低でも60時間の準備学習が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力



開講科目名 Course	(遠)(留)日本語特別支援 A
時間割コード Course Code	14004
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	金村 久美
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	金村 久美 (経済学部)
授業の目標	この科目では、日本語能力試験 ( JLPT ) のN1またはN2に合格するための学習を行います。特に、模擬試験、各試験分野の答練と解説をします。 日本で就職を目指す留学生は、JLPTの N1に合格しましょう。N1がないと説明会にも参加できない場合や最低でもN2に合格していることが就職の条件になる場合などがあります。また、N1に合格していることによって、ビザの取得が有利になったり、より条件の良い仕事につける場合もあります。大学生の間にはできるだけ早くN1に合格できるようにがんばってください。 N1、N2合格のために、一人で勉強するのはとても大変です。教員からのアドバイスを受けて、自分の苦手な点を見つけて、集中的に勉強してください。クラスメイトと助け合って勉強してください。この科目ではみなさんが合格できるよう支援します。
授業の概要	1 ) 模擬試験を2回行います。最初の模擬試験で、あなたの苦手な分野を見つけます。最後の模擬試験の点数は、この科目の成績の一部です。単位を取得したい学生は、2回の模擬試験を必ず受けてください。 2 ) JLPTの分野別、レベル別に課題が出ます。学生は、毎週課題を提出します。毎週の課題の合計点は、この科目の成績の一部です。 3 ) ホームルームで、毎週の質問に回答するコメントを提出してください。ホームルーム担当の教員が返信やアドバイスをします。コメントの提出をすると、出席になります。コメントの提出をしないと、欠席になります。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	成績評価 提出した課題 ( 復習課題、模擬試験問題含む ) の合計点で算出します。 課題の提出と毎回のコメント ( 質問含む ) で出席をつけます。 ( 週1回、15回 ) その週の学習についてのコメントを提出してください。 課題の提出だけでコメントを提出しない人は、欠席になるので注意しましょう。  期間中に必ず模試を2回受験してください。模試を2回受験しない人は、失格になります。 JLPTの受験
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	模試を2回受験しない人は、失格になります。
授業計画	1 週目 : 模試 ( 1 ) 2 週目 ~ 15 週目 各クラスの課題提出、コメント提出、本番直前模試 ( 2 )

テキスト	<p>この科目では、クラスで指定する教科書を購入する必要があります。  指定の教科書を買わないと、クラスの課題を提出しても評価の得点に入れることができません。  教科書を指定しますので、2週目以降に間に合うようにすぐに購入してください。</p> <p>N1:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N1（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円  著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著  出版年月日 2021/06/05  ISBN 978-4-7890-1781-7</p> <p>N2:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N2（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円  著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著  出版年月日 2021/09/05  ISBN 978-4-7890-1782-4</p>
参考書	<p>【N1】</p> <p>「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN1」アルク ￥1760  「日本語能力試験N1読解必須パターン」ジェイ・リサーチ出版 ￥1760  「新完全マスター漢字 日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター文法日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「TRY！日本語能力試験N1 文法から伸ばす日本語 改訂版」アスク ￥1980  「日本語総まとめN1漢字「日本語能力試験」対策 英語・ベトナム語訳 ￥1320</p> <p>【N2】</p> <p>「必ずできる！ JLPT「読解」N2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2」アルク ￥1760  「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN2」アルク ￥2200  「新完全マスター文法日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター聴解日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1760  「新完全マスター漢字日本語能力試験N2」 ￥1540  「一発合格！日本語能力試験N2完全攻略テキスト&amp;実践問題集」ナツメ社 ￥1980</p> <p>【N3】</p> <p>「新完全マスター文法日本語能力試験N3」3Aネットワーク ￥1320</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	各クラス担当がGoogleクラスルームなどで質問を受け付けます。 また、日本語科目担当のオフィスアワーなどに対応します。オフィスアワー以外の場合は、できるだけ来室前にEmail(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡してください。
フィードバックの方法	Googleクラスルームなどを利用し返信します。毎回の解説などにも含めます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	問題や復習課題、解説がGoogleクラスルームに投稿されます。そのため、最低でも60時間の準備学習が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	(遠)(留)日本語特別支援 A
時間割コード Course Code	14005
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	宮島 良子
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	宮島 良子 (経営学部)
授業の目標	この科目では、日本語能力試験 ( JLPT ) のN1またはN2に合格するための学習を行います。特に、模擬試験、各試験分野の答練と解説をします。 日本で就職を目指す留学生は、JLPTの N1に合格しましょう。N1がないと説明会にも参加できない場合や最低でもN2に合格していることが就職の条件になる場合などがあります。また、N1に合格していることによって、ビザの取得が有利になったり、より条件の良い仕事につける場合もあります。大学生の間にはできるだけ早くN1に合格できるようにがんばってください。 N1、N2合格のために、一人で勉強するのはとても大変です。教員からのアドバイスを受けて、自分の苦手な点を見つけて、集中的に勉強してください。クラスメイトと助け合って勉強してください。この科目ではみなさんが合格できるよう支援します。
授業の概要	1 ) 模擬試験を2回行います。最初の模擬試験で、あなたの苦手な分野を見つけます。最後の模擬試験の点数は、この科目の成績の一部です。単位を取得したい学生は、2回の模擬試験を必ず受けてください。 2 ) JLPTの分野別、レベル別に課題が出ます。学生は、毎週課題を提出します。毎週の課題の合計点は、この科目の成績の一部です。 3 ) ホームルームで、毎週の質問に回答するコメントを提出してください。ホームルーム担当の教員が返信やアドバイスをします。コメントの提出をすると、出席になります。コメントの提出をしないと、欠席になります。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	成績評価 提出した課題 ( 復習課題、模擬試験問題含む ) の合計点で算出します。 課題の提出と毎回のコメント ( 質問含む ) で出席をつけます。 ( 週1回、15回 ) その週の学習についてのコメントを提出してください。 課題の提出だけでコメントを提出しない人は、欠席になるので注意しましょう。  期間中に必ず模試を2回受験してください。模試を2回受験しない人は、失格になります。 JLPTの受験
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	模試を2回受験しない人は、失格になります。
授業計画	1 週目 : 模試 ( 1 ) 2 週目 ~ 15 週目 各クラスの課題提出、コメント提出、本番直前模試 ( 2 )

テキスト	<p>この科目では、クラスで指定する教科書を購入する必要があります。  指定の教科書を買わないと、クラスの課題を提出しても評価の得点に入れることができません。  教科書を指定しますので、2週目以降に間に合うようにすぐに購入してください。</p> <p>N1:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N1（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円  著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著  出版年月日 2021/06/05  ISBN 978-4-7890-1781-7</p> <p>N2:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N2（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円  著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著  出版年月日 2021/09/05  ISBN 978-4-7890-1782-4</p>
参考書	<p>【N1】</p> <p>「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN1」アルク ￥1760  「日本語能力試験N1読解必須パターン」ジェイ・リサーチ出版 ￥1760  「新完全マスター漢字 日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター文法日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「TRY！日本語能力試験N1 文法から伸ばす日本語 改訂版」アスク ￥1980  「日本語総まとめN1漢字「日本語能力試験」対策 英語・ベトナム語訳 ￥1320</p> <p>【N2】</p> <p>「必ずできる！ JLPT「読解」N2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2」アルク ￥1760  「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN2」アルク ￥2200  「新完全マスター文法日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター聴解日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1760  「新完全マスター漢字日本語能力試験N2」 ￥1540  「一発合格！日本語能力試験N2完全攻略テキスト&amp;実践問題集」ナツメ社 ￥1980</p> <p>【N3】</p> <p>「新完全マスター文法日本語能力試験N3」3Aネットワーク ￥1320</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	各クラス担当がグーグルクラスルームなどで質問を受け付けます。 また、日本語科目担当のオフィスアワーなどに対応します。オフィスアワー以外の場合は、できるだけ来室前にEmail(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡してください。
フィードバックの方法	グーグルクラスルームなどを利用し返信します。毎回の解説などにも含めます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	問題や復習課題、解説がグーグルクラスルームに投稿されます。そのため、最低でも60時間の準備学習が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	(遠)(留)日本語特別支援 A
時間割コード Course Code	14006
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	宮島 良子
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	宮島 良子 (経営学部)
授業の目標	この科目では、日本語能力試験 ( JLPT ) のN1またはN2に合格するための学習を行います。特に、模擬試験、各試験分野の答練と解説をします。 日本で就職を目指す留学生は、JLPTの N1に合格しましょう。N1がないと説明会にも参加できない場合や最低でもN2に合格していることが就職の条件になる場合などがあります。また、N1に合格していることによって、ビザの取得が有利になったり、より条件の良い仕事につける場合もあります。大学生の間にはできるだけ早くN1に合格できるようにがんばってください。 N1、N2合格のために、一人で勉強するのはとても大変です。教員からのアドバイスを受けて、自分の苦手な点を見つけて、集中的に勉強してください。クラスメイトと助け合って勉強してください。この科目ではみなさんが合格できるよう支援します。
授業の概要	1 ) 模擬試験を2回行います。最初の模擬試験で、あなたの苦手な分野を見つけます。最後の模擬試験の点数は、この科目の成績の一部です。単位を取得したい学生は、2回の模擬試験を必ず受けてください。 2 ) JLPTの分野別、レベル別に課題が出ます。学生は、毎週課題を提出します。毎週の課題の合計点は、この科目の成績の一部です。 3 ) ホームルームで、毎週の質問に回答するコメントを提出してください。ホームルーム担当の教員が返信やアドバイスをします。コメントの提出をすると、出席になります。コメントの提出をしないと、欠席になります。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	成績評価 提出した課題 ( 復習課題、模擬試験問題含む ) の合計点で算出します。 課題の提出と毎回のコメント ( 質問含む ) で出席をつけます。 ( 週1回、15回 ) その週の学習についてのコメントを提出してください。 課題の提出だけでコメントを提出しない人は、欠席になるので注意しましょう。  期間中に必ず模試を2回受験してください。模試を2回受験しない人は、失格になります。 JLPTの受験
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	模試を2回受験しない人は、失格になります。
授業計画	1 週目 : 模試 ( 1 ) 2 週目 ~ 15 週目 各クラスの課題提出、コメント提出、本番直前模試 ( 2 )

テキスト	<p>この科目では、クラスで指定する教科書を購入する必要があります。</p> <p>指定の教科書を買わないと、クラスの課題を提出しても評価の得点に入れることができません。教科書を指定しますので、2週目以降に間に合うようにすぐに購入してください。</p> <p>N1:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N1（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円 著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著 出版年月日 2021/06/05 ISBN 978-4-7890-1781-7</p> <p>N2:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N2（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円 著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著 出版年月日 2021/09/05 ISBN 978-4-7890-1782-4</p>
参考書	<p>【N1】</p> <p>「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN1」アルク ￥1760  「日本語能力試験N1読解必須パターン」ジェイ・リサーチ出版 ￥1760  「新完全マスター漢字 日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター文法日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「TRY！日本語能力試験N1 文法から伸ばす日本語 改訂版」アスク ￥1980  「日本語総まとめN1漢字「日本語能力試験」対策 英語・ベトナム語訳 ￥1320</p> <p>【N2】</p> <p>「必ずできる！ JLPT「読解」N2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2」アルク ￥1760  「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN2」アルク ￥2200  「新完全マスター文法日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター聴解日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1760  「新完全マスター漢字日本語能力試験N2」 ￥1540  「一発合格！日本語能力試験N2完全攻略テキスト&amp;実践問題集」ナツメ社 ￥1980</p> <p>【N3】</p> <p>「新完全マスター文法日本語能力試験N3」3Aネットワーク ￥1320</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	各クラス担当がグーグルクラスルームなどで質問を受け付けます。 また、日本語科目担当のオフィスアワーなどに対応します。オフィスアワー以外の場合は、できるだけ来室前にEmail(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡してください。
フィードバックの方法	グーグルクラスルームなどを利用し返信します。毎回の解説などにも含めます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	問題や復習課題、解説がグーグルクラスルームに投稿されます。そのため、最低でも60時間の準備学習が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	(遠)(留)日本語特別支援 A
時間割コード Course Code	14007
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	澤木 美晴
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	澤木 美晴 (経営学部)
授業の目標	この科目では、日本語能力試験 ( JLPT ) のN1またはN2に合格するための学習を行います。特に、模擬試験、各試験分野の答練と解説をします。 日本で就職を目指す留学生は、JLPTの N1に合格しましょう。N1がないと説明会にも参加できない場合や最低でもN2に合格していることが就職の条件になる場合などがあります。また、N1に合格していることによって、ビザの取得が有利になったり、より条件の良い仕事につける場合もあります。大学生の間にできるだけ早くN1に合格できるようにがんばってください。 N1、N2合格のために、一人で勉強するのはとても大変です。教員からのアドバイスを受けて、自分の苦手な点を見つけて、集中的に勉強してください。クラスメイトと助け合って勉強してください。この科目ではみなさんが合格できるよう支援します。
授業の概要	1 ) 模擬試験を2回行います。最初の模擬試験で、あなたの苦手な分野を見つけます。最後の模擬試験の点数は、この科目の成績の一部です。単位を取得したい学生は、2回の模擬試験を必ず受けてください。 2 ) JLPTの分野別、レベル別に課題が出ます。学生は、毎週課題を提出します。毎週の課題の合計点は、この科目の成績の一部です。 3 ) ホームルームで、毎週の質問に回答するコメントを提出してください。ホームルーム担当の教員が返信やアドバイスをします。コメントの提出をすると、出席になります。コメントの提出をしないと、欠席になります。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	成績評価 提出した課題 ( 復習課題、模擬試験問題含む ) の合計点で算出します。 課題の提出と毎回のコメント ( 質問含む ) で出席をつけます。 ( 週1回、15回 ) その週の学習についてのコメントを提出してください。 課題の提出だけでコメントを提出しない人は、欠席になるので注意しましょう。  期間中に必ず模試を2回受験してください。模試を2回受験しない人は、失格になります。 JLPTの受験
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	模試を2回受験しない人は、失格になります。
授業計画	1 週目 : 模試 ( 1 ) 2 週目 ~ 15 週目 各クラスの課題提出、コメント提出、本番直前模試 ( 2 )

テキスト	<p>この科目では、クラスで指定する教科書を購入する必要があります。  指定の教科書を買わないと、クラスの課題を提出しても評価の得点に入れることができません。  教科書を指定しますので、2週目以降に間に合うようにすぐに購入してください。</p> <p>N1:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N1（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円  著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著  出版年月日 2021/06/05  ISBN 978-4-7890-1781-7</p> <p>N2:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N2（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円  著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著  出版年月日 2021/09/05  ISBN 978-4-7890-1782-4</p>
参考書	<p>【N1】</p> <p>「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN1」アルク ￥1760  「日本語能力試験N1読解必須パターン」ジェイ・リサーチ出版 ￥1760  「新完全マスター漢字 日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター文法日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「TRY！日本語能力試験N1 文法から伸ばす日本語 改訂版」アスク ￥1980  「日本語総まとめN1漢字「日本語能力試験」対策 英語・ベトナム語訳 ￥1320</p> <p>【N2】</p> <p>「必ずできる！ JLPT「読解」N2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2」アルク ￥1760  「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN2」アルク ￥2200  「新完全マスター文法日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター聴解日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1760  「新完全マスター漢字日本語能力試験N2」 ￥1540  「一発合格！日本語能力試験N2完全攻略テキスト&amp;実践問題集」ナツメ社 ￥1980</p> <p>【N3】</p> <p>「新完全マスター文法日本語能力試験N3」3Aネットワーク ￥1320</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	各クラス担当がグーグルクラスルームなどで質問を受け付けます。 また、日本語科目担当のオフィスアワーなどに対応します。オフィスアワー以外の場合は、できるだけ来室前にEmail(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡してください。
フィードバックの方法	グーグルクラスルームなどを利用し返信します。毎回の解説などにも含めます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	問題や復習課題、解説がグーグルクラスルームに投稿されます。そのため、最低でも60時間の準備学習が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力



開講科目名 Course	(遠)(留)日本語特別支援 A
時間割コード Course Code	14008
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	アルベケル アンドラーシ ジグモンド
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	アルベケル アンドラーシ ジグモンド (経営学部)
授業の目標	この科目では、日本語能力試験 ( JLPT ) のN1またはN2に合格するための学習を行います。特に、模擬試験、各試験分野の答練と解説をします。 日本で就職を目指す留学生は、JLPTの N1に合格しましょう。N1がないと説明会にも参加できない場合や最低でもN2に合格していることが就職の条件になる場合などがあります。また、N1に合格していることによって、ビザの取得が有利になったり、より条件の良い仕事につける場合もあります。大学生の間にはできるだけ早くN1に合格できるようにがんばってください。 N1、N2合格のために、一人で勉強するのはとても大変です。教員からのアドバイスを受けて、自分の苦手な点を見つけて、集中的に勉強してください。クラスメイトと助け合って勉強してください。この科目ではみなさんが合格できるよう支援します。
授業の概要	1 ) 模擬試験を2回行います。最初の模擬試験で、あなたの苦手な分野を見つけます。最後の模擬試験の点数は、この科目の成績の一部です。単位を取得したい学生は、2回の模擬試験を必ず受けてください。 2 ) JLPTの分野別、レベル別に課題が出ます。学生は、毎週課題を提出します。毎週の課題の合計点は、この科目の成績の一部です。 3 ) ホームルームで、毎週の質問に回答するコメントを提出してください。ホームルーム担当の教員が返信やアドバイスをします。コメントの提出をすると、出席になります。コメントの提出をしないと、欠席になります。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	成績評価 提出した課題 ( 復習課題、模擬試験問題含む ) の合計点で算出します。 課題の提出と毎回のコメント ( 質問含む ) で出席をつけます。 ( 週1回、15回 ) その週の学習についてのコメントを提出してください。 課題の提出だけでコメントを提出しない人は、欠席になるので注意しましょう。  期間中に必ず模試を2回受験してください。模試を2回受験しない人は、失格になります。 JLPTの受験
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	模試を2回受験しない人は、失格になります。
授業計画	1 週目 : 模試 ( 1 ) 2 週目 ~ 15 週目 各クラスの課題提出、コメント提出、本番直前模試 ( 2 )

テキスト	<p>この科目では、クラスで指定する教科書を購入する必要があります。  指定の教科書を買わないと、クラスの課題を提出しても評価の得点に入れることができません。  教科書を指定しますので、2週目以降に間に合うようにすぐに購入してください。</p> <p>N1:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N1（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円  著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著  出版年月日 2021/06/05  ISBN 978-4-7890-1781-7</p> <p>N2:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N2（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円  著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著  出版年月日 2021/09/05  ISBN 978-4-7890-1782-4</p>
参考書	<p>【N1】</p> <p>「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN1」アルク ￥1760  「日本語能力試験N1読解必須パターン」ジェイ・リサーチ出版 ￥1760  「新完全マスター漢字 日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター文法日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「TRY！日本語能力試験N1 文法から伸ばす日本語 改訂版」アスク ￥1980  「日本語総まとめN1漢字「日本語能力試験」対策 英語・ベトナム語訳 ￥1320</p> <p>【N2】</p> <p>「必ずできる！ JLPT「読解」N2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2」アルク ￥1760  「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN2」アルク ￥2200  「新完全マスター文法日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター聴解日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1760  「新完全マスター漢字日本語能力試験N2」 ￥1540  「一発合格！日本語能力試験N2完全攻略テキスト&amp;実践問題集」ナツメ社 ￥1980</p> <p>【N3】</p> <p>「新完全マスター文法日本語能力試験N3」3Aネットワーク ￥1320</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	各クラス担当がグーグルクラスルームなどで質問を受け付けます。 また、日本語科目担当のオフィスアワーなどに対応します。オフィスアワー以外の場合は、できるだけ来室前にEmail(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡してください。
フィードバックの方法	グーグルクラスルームなどを利用し返信します。毎回の解説などにも含めます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	問題や復習課題、解説がグーグルクラスルームに投稿されます。そのため、最低でも60時間の準備学習が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	(遠)(留)日本語特別支援 A
時間割コード Course Code	14009
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	成川 直見
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	成川 直見 (経営学部)
授業の目標	この科目では、日本語能力試験 ( JLPT ) のN1またはN2に合格するための学習を行います。特に、模擬試験、各試験分野の答練と解説をします。 日本で就職を目指す留学生は、JLPTの N1に合格しましょう。N1がないと説明会にも参加できない場合や最低でもN2に合格していることが就職の条件になる場合などがあります。また、N1に合格していることによって、ビザの取得が有利になったり、より条件の良い仕事につける場合もあります。大学生の間にはできるだけ早くN1に合格できるようにがんばってください。 N1、N2合格のために、一人で勉強するのはとても大変です。教員からのアドバイスを受けて、自分の苦手な点を見つけて、集中的に勉強してください。クラスメイトと助け合って勉強してください。この科目ではみなさんが合格できるよう支援します。
授業の概要	1 ) 模擬試験を2回行います。最初の模擬試験で、あなたの苦手な分野を見つけます。最後の模擬試験の点数は、この科目の成績の一部です。単位を取得したい学生は、2回の模擬試験を必ず受けてください。 2 ) JLPTの分野別、レベル別に課題が出ます。学生は、毎週課題を提出します。毎週の課題の合計点は、この科目の成績の一部です。 3 ) ホームルームで、毎週の質問に回答するコメントを提出してください。ホームルーム担当の教員が返信やアドバイスをします。コメントの提出をすると、出席になります。コメントの提出をしないと、欠席になります。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	成績評価 提出した課題 ( 復習課題、模擬試験問題含む ) の合計点で算出します。 課題の提出と毎回のコメント ( 質問含む ) で出席をつけます。 ( 週1回、15回 ) その週の学習についてのコメントを提出してください。 課題の提出だけでコメントを提出しない人は、欠席になるので注意しましょう。  期間中に必ず模試を2回受験してください。模試を2回受験しない人は、失格になります。 JLPTの受験
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	模試を2回受験しない人は、失格になります。
授業計画	1 週目 : 模試 ( 1 ) 2 週目 ~ 15 週目 各クラスの課題提出、コメント提出、本番直前模試 ( 2 )

テキスト	<p>この科目では、クラスで指定する教科書を購入する必要があります。  指定の教科書を買わないと、クラスの課題を提出しても評価の得点に入れることができません。  教科書を指定しますので、2週目以降に間に合うようにすぐに購入してください。</p> <p>N1:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N1（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円  著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著  出版年月日 2021/06/05  ISBN 978-4-7890-1781-7</p> <p>N2:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N2（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円  著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著  出版年月日 2021/09/05  ISBN 978-4-7890-1782-4</p>
参考書	<p>【N1】</p> <p>「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN1」アルク ￥1760  「日本語能力試験N1読解必須パターン」ジェイ・リサーチ出版 ￥1760  「新完全マスター漢字 日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター文法日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「TRY！日本語能力試験N1 文法から伸ばす日本語 改訂版」アスク ￥1980  「日本語総まとめN1漢字「日本語能力試験」対策 英語・ベトナム語訳 ￥1320</p> <p>【N2】</p> <p>「必ずできる！ JLPT「読解」N2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2」アルク ￥1760  「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN2」アルク ￥2200  「新完全マスター文法日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター聴解日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1760  「新完全マスター漢字日本語能力試験N2」 ￥1540  「一発合格！日本語能力試験N2完全攻略テキスト&amp;実践問題集」ナツメ社 ￥1980</p> <p>【N3】</p> <p>「新完全マスター文法日本語能力試験N3」3Aネットワーク ￥1320</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	各クラス担当がGoogleクラスルームなどで質問を受け付けます。 また、日本語科目担当のオフィスアワーなどに対応します。オフィスアワー以外の場合は、できるだけ来室前にEmail(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡してください。
フィードバックの方法	Googleクラスルームなどを利用し返信します。毎回の解説などにも含めます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	問題や復習課題、解説がGoogleクラスルームに投稿されます。そのため、最低でも60時間の準備学習が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	(遠)(留)日本語特別支援 B
時間割コード Course Code	14050
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	他 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	渡邊 真
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	渡邊 真(経営学部)
授業の目標	この科目では、日本語能力試験(JLPT)のN1またはN2に合格するための学習を行います。特に、模擬試験、各試験分野の答練と解説をします。 日本で就職を目指す留学生は、JLPTのN1に合格しましょう。N1がないと説明会にも参加できない場合や最低でもN2に合格していることが就職の条件になる場合などがあります。また、N1に合格していることによって、ビザの取得が有利になったり、より条件の良い仕事につける場合もあります。大学生の間にはできるだけ早くN1に合格できるようにがんばってください。 N1、N2合格のために、一人で勉強するのはとても大変です。教員からのアドバイスを受けて、自分の苦手な点を見つけて、集中的に勉強してください。クラスメイトと助け合って勉強してください。この科目ではみなさんが合格できるよう支援します。
授業の概要	1) 模擬試験を2回行います。最初の模擬試験で、あなたの苦手な分野を見つけます。最後の模擬試験の点数は、この科目の成績の一部です。単位を取得したい学生は、2回の模擬試験を必ず受けてください。 2) JLPTの分野別、レベル別に課題が出ます。学生は、毎週課題を提出します。毎週の課題の合計点は、この科目の成績の一部です。 3) ホームルームで、毎週の質問に回答するコメントを提出してください。ホームルーム担当の教員が返信やアドバイスをします。コメントの提出をすると、出席になります。コメントの提出をしないと、欠席になります。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	成績評価 提出した課題(復習課題、模擬試験問題含む)の合計点で算出します。 課題の提出と毎回のコメント(質問含む)で出席をつけます。(週1回、15回) その週の学習についてのコメントを提出してください。 課題の提出だけでコメントを提出しない人は、欠席になるので注意しましょう。  期間中に必ず模試を2回受験してください。模試を2回受験しない人は、失格になります。 JLPTの受験
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	模試を2回受験しない人は、失格になります。
授業計画	1週目: 模試(1) 2週目~15週目 各クラスの課題提出、コメント提出、本番直前模試(2)

テキスト	<p>この科目では、クラスで指定する教科書を購入する必要があります。</p> <p>指定の教科書を買わないと、クラスの課題を提出しても評価の得点に入れることができません。教科書を指定しますので、2週目以降に間に合うようにすぐに購入してください。</p> <p>N1:全科目攻略！JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N1（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円 著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著 出版年月日 2021/06/05 ISBN 978-4-7890-1781-7</p> <p>N2:全科目攻略！JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N2（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円 著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著 出版年月日 2021/09/05 ISBN 978-4-7890-1782-4</p>
参考書	<p>【N1】</p> <p>「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN1」アルク ￥1760  「日本語能力試験N1読解必須パターン」ジェイ・リサーチ出版 ￥1760  「新完全マスター漢字 日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター文法日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「TRY！日本語能力試験N1 文法から伸ばす日本語 改訂版」アスク ￥1980  「日本語総まとめN1漢字「日本語能力試験」対策 英語・ベトナム語訳 ￥1320</p> <p>【N2】</p> <p>「必ずできる！JLPT「読解」N2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2」アルク ￥1760  「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN2」アルク ￥2200  「新完全マスター文法日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター聴解日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1760  「新完全マスター漢字日本語能力試験N2」 ￥1540  「一発合格！日本語能力試験N2完全攻略テキスト&amp;実践問題集」ナツメ社 ￥1980</p> <p>【N3】</p> <p>「新完全マスター文法日本語能力試験N3」3Aネットワーク ￥1320</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	各クラス担当がグーグルクラスルームなどで質問を受け付けます。また、日本語科目担当のオフィスアワーなどに対応します。オフィスアワー以外の場合は、できるだけ来室前にEmail(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡してください。
フィードバックの方法	グーグルクラスルームなどを利用し返信します。毎回の解説などにも含めます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	問題や復習課題、解説がグーグルクラスルームに投稿されます。そのため、最低でも60時間の準備学習が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	(遠)(留)日本語特別支援 B
時間割コード Course Code	14051
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	他 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	渡邊 真
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	渡邊 真(経営学部)
授業の目標	この科目では、日本語能力試験(JLPT)のN1またはN2に合格するための学習を行います。特に、模擬試験、各試験分野の答練と解説をします。 日本で就職を目指す留学生は、JLPTのN1に合格しましょう。N1がないと説明会にも参加できない場合や最低でもN2に合格していることが就職の条件になる場合などがあります。また、N1に合格していることによって、ビザの取得が有利になったり、より条件の良い仕事につける場合もあります。大学生の間にできるだけ早くN1に合格できるようにがんばってください。 N1、N2合格のために、一人で勉強するのはとても大変です。教員からのアドバイスを受けて、自分の苦手な点を見つけて、集中的に勉強してください。クラスメイトと助け合って勉強してください。この科目ではみなさんが合格できるよう支援します。
授業の概要	1) 模擬試験を2回行います。最初の模擬試験で、あなたの苦手な分野を見つけます。最後の模擬試験の点数は、この科目の成績の一部です。単位を取得したい学生は、2回の模擬試験を必ず受けてください。 2) JLPTの分野別、レベル別に課題が出ます。学生は、毎週課題を提出します。毎週の課題の合計点は、この科目の成績の一部です。 3) ホームルームで、毎週の質問に回答するコメントを提出してください。ホームルーム担当の教員が返信やアドバイスをします。コメントの提出をすると、出席になります。コメントの提出をしないと、欠席になります。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	成績評価 提出した課題(復習課題、模擬試験問題含む)の合計点で算出します。 課題の提出と毎回のコメント(質問含む)で出席をつけます。(週1回、15回) その週の学習についてのコメントを提出してください。 課題の提出だけでコメントを提出しない人は、欠席になるので注意しましょう。  期間中に必ず模試を2回受験してください。模試を2回受験しない人は、失格になります。 JLPTの受験
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	模試を2回受験しない人は、失格になります。
授業計画	1週目: 模試(1) 2週目~15週目 各クラスの課題提出、コメント提出、本番直前模試(2)

テキスト	<p>この科目では、クラスで指定する教科書を購入する必要があります。  指定の教科書を買わないと、クラスの課題を提出しても評価の得点に入れることができません。  教科書を指定しますので、2週目以降に間に合うようにすぐに購入してください。</p> <p>N1:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N1（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円  著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著  出版年月日 2021/06/05  ISBN 978-4-7890-1781-7</p> <p>N2:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N2（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円  著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著  出版年月日 2021/09/05  ISBN 978-4-7890-1782-4</p>
参考書	<p>【N1】</p> <p>「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN1」アルク ￥1760  「日本語能力試験N1読解必須パターン」ジェイ・リサーチ出版 ￥1760  「新完全マスター漢字 日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター文法日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「TRY！日本語能力試験N1 文法から伸ばす日本語 改訂版」アスク ￥1980  「日本語総まとめN1漢字「日本語能力試験」対策 英語・ベトナム語訳 ￥1320</p> <p>【N2】</p> <p>「必ずできる！ JLPT「読解」N2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2」アルク ￥1760  「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN2」アルク ￥2200  「新完全マスター文法日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター聴解日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1760  「新完全マスター漢字日本語能力試験N2」 ￥1540  「一発合格！日本語能力試験N2完全攻略テキスト&amp;実践問題集」ナツメ社 ￥1980</p> <p>【N3】</p> <p>「新完全マスター文法日本語能力試験N3」3Aネットワーク ￥1320</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	各クラス担当がグーグルクラスルームなどで質問を受け付けます。 また、日本語科目担当のオフィスアワーなどに対応します。オフィスアワー以外の場合は、できるだけ来室前にEmail(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡してください。
フィードバックの方法	グーグルクラスルームなどを利用し返信します。毎回の解説などにも含めます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	問題や復習課題、解説がグーグルクラスルームに投稿されます。そのため、最低でも60時間の準備学習が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力



開講科目名 Course	(遠)(留)日本語特別支援 B
時間割コード Course Code	14052
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	他 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	百々 奈美
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	百々 奈美 (経営学部)
授業の目標	この科目では、日本語能力試験 ( JLPT ) のN1またはN2に合格するための学習を行います。特に、模擬試験、各試験分野の答練と解説をします。 日本で就職を目指す留学生は、JLPTの N1に合格しましょう。N1がないと説明会にも参加できない場合や最低でもN2に合格していることが就職の条件になる場合などがあります。また、N1に合格していることによって、ビザの取得が有利になったり、より条件の良い仕事につける場合もあります。大学生の間にできるだけ早くN1に合格できるようにがんばってください。 N1、N2合格のために、一人で勉強するのはとても大変です。教員からのアドバイスを受けて、自分の苦手な点を見つけて、集中的に勉強してください。クラスメイトと助け合って勉強してください。この科目ではみなさんが合格できるよう支援します。
授業の概要	1 ) 模擬試験を2回行います。最初の模擬試験で、あなたの苦手な分野を見つけます。最後の模擬試験の点数は、この科目の成績の一部です。単位を取得したい学生は、2回の模擬試験を必ず受けてください。 2 ) JLPTの分野別、レベル別に課題が出ます。学生は、毎週課題を提出します。毎週の課題の合計点は、この科目の成績の一部です。 3 ) ホームルームで、毎週の質問に回答するコメントを提出してください。ホームルーム担当の教員が返信やアドバイスをします。コメントの提出をすると、出席になります。コメントの提出をしないと、欠席になります。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	成績評価 提出した課題 ( 復習課題、模擬試験問題含む ) の合計点で算出します。 課題の提出と毎回のコメント ( 質問含む ) で出席をつけます。 ( 週1回、15回 ) その週の学習についてのコメントを提出してください。 課題の提出だけでコメントを提出しない人は、欠席になるので注意しましょう。  期間中に必ず模試を2回受験してください。模試を2回受験しない人は、失格になります。 JLPTの受験
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	模試を2回受験しない人は、失格になります。
授業計画	1 週目 : 模試 ( 1 ) 2 週目 ~ 15 週目 各クラスの課題提出、コメント提出、本番直前模試 ( 2 )

テキスト	<p>この科目では、クラスで指定する教科書を購入する必要があります。  指定の教科書を買わないと、クラスの課題を提出しても評価の得点に入れることができません。  教科書を指定しますので、2週目以降に間に合うようにすぐに購入してください。</p> <p>N1:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N1（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円  著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著  出版年月日 2021/06/05  ISBN 978-4-7890-1781-7</p> <p>N2:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N2（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円  著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著  出版年月日 2021/09/05  ISBN 978-4-7890-1782-4</p>
参考書	<p>【N1】</p> <p>「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN1」アルク ￥1760  「日本語能力試験N1読解必須パターン」ジェイ・リサーチ出版 ￥1760  「新完全マスター漢字 日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター文法日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「TRY！日本語能力試験N1 文法から伸ばす日本語 改訂版」アスク ￥1980  「日本語総まとめN1漢字「日本語能力試験」対策 英語・ベトナム語訳 ￥1320</p> <p>【N2】</p> <p>「必ずできる！ JLPT「読解」N2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2」アルク ￥1760  「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN2」アルク ￥2200  「新完全マスター文法日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター聴解日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1760  「新完全マスター漢字日本語能力試験N2」 ￥1540  「一発合格！日本語能力試験N2完全攻略テキスト&amp;実践問題集」ナツメ社 ￥1980</p> <p>【N3】</p> <p>「新完全マスター文法日本語能力試験N3」3Aネットワーク ￥1320</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	各クラス担当がGoogleクラスルームなどで質問を受け付けます。 また、日本語科目担当のオフィスアワーなどに対応します。オフィスアワー以外の場合は、できるだけ来室前にEmail(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡してください。
フィードバックの方法	Googleクラスルームなどを利用し返信します。毎回の解説などにも含めます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	問題や復習課題、解説がGoogleクラスルームに投稿されます。そのため、最低でも60時間の準備学習が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	(遠)(留)日本語特別支援 B
時間割コード Course Code	14053
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	他 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	百々 奈美
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	百々 奈美 (経営学部)
授業の目標	この科目では、日本語能力試験 ( JLPT ) のN1またはN2に合格するための学習を行います。特に、模擬試験、各試験分野の答練と解説をします。 日本で就職を目指す留学生は、JLPTの N1に合格しましょう。N1がないと説明会にも参加できない場合や最低でもN2に合格していることが就職の条件になる場合などがあります。また、N1に合格していることによって、ビザの取得が有利になったり、より条件の良い仕事につける場合もあります。大学生の間にできるだけ早くN1に合格できるようにがんばってください。 N1、N2合格のために、一人で勉強するのはとても大変です。教員からのアドバイスを受けて、自分の苦手な点を見つけて、集中的に勉強してください。クラスメイトと助け合って勉強してください。この科目ではみなさんが合格できるよう支援します。
授業の概要	1 ) 模擬試験を2回行います。最初の模擬試験で、あなたの苦手な分野を見つけます。最後の模擬試験の点数は、この科目の成績の一部です。単位を取得したい学生は、2回の模擬試験を必ず受けてください。 2 ) JLPTの分野別、レベル別に課題が出ます。学生は、毎週課題を提出します。毎週の課題の合計点は、この科目の成績の一部です。 3 ) ホームルームで、毎週の質問に回答するコメントを提出してください。ホームルーム担当の教員が返信やアドバイスをします。コメントの提出をすると、出席になります。コメントの提出をしないと、欠席になります。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	成績評価 提出した課題 ( 復習課題、模擬試験問題含む ) の合計点で算出します。 課題の提出と毎回のコメント ( 質問含む ) で出席をつけます。 ( 週1回、15回 ) その週の学習についてのコメントを提出してください。 課題の提出だけでコメントを提出しない人は、欠席になるので注意しましょう。  期間中に必ず模試を2回受験してください。模試を2回受験しない人は、失格になります。 JLPTの受験
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	模試を2回受験しない人は、失格になります。
授業計画	1 週目 : 模試 ( 1 ) 2 週目 ~ 15 週目 各クラスの課題提出、コメント提出、本番直前模試 ( 2 )

テキスト	<p>この科目では、クラスで指定する教科書を購入する必要があります。  指定の教科書を買わないと、クラスの課題を提出しても評価の得点に入れることができません。  教科書を指定しますので、2週目以降に間に合うようにすぐに購入してください。</p> <p>N1:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N1（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円  著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著  出版年月日 2021/06/05  ISBN 978-4-7890-1781-7</p> <p>N2:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N2（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円  著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著  出版年月日 2021/09/05  ISBN 978-4-7890-1782-4</p>
参考書	<p>【N1】</p> <p>「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN1」アルク ￥1760  「日本語能力試験N1読解必須パターン」ジェイ・リサーチ出版 ￥1760  「新完全マスター漢字 日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター文法日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「TRY！日本語能力試験N1 文法から伸ばす日本語 改訂版」アスク ￥1980  「日本語総まとめN1漢字「日本語能力試験」対策 英語・ベトナム語訳 ￥1320</p> <p>【N2】</p> <p>「必ずできる！ JLPT「読解」N2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2」アルク ￥1760  「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN2」アルク ￥2200  「新完全マスター文法日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター聴解日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1760  「新完全マスター漢字日本語能力試験N2」 ￥1540  「一発合格！日本語能力試験N2完全攻略テキスト&amp;実践問題集」ナツメ社 ￥1980</p> <p>【N3】</p> <p>「新完全マスター文法日本語能力試験N3」3Aネットワーク ￥1320</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	各クラス担当がGoogleクラスルームなどで質問を受け付けます。 また、日本語科目担当のオフィスアワーなどに対応します。オフィスアワー以外の場合は、できるだけ来室前にEmail(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡してください。
フィードバックの方法	Googleクラスルームなどを利用し返信します。毎回の解説などにも含めます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	問題や復習課題、解説がGoogleクラスルームに投稿されます。そのため、最低でも60時間の準備学習が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	(遠)(留)日本語特別支援 B
時間割コード Course Code	14054
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	他 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	金村 久美
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	金村 久美 (経済学部)
授業の目標	この科目では、日本語能力試験 ( JLPT ) のN1またはN2に合格するための学習を行います。特に、模擬試験、各試験分野の答練と解説をします。 日本で就職を目指す留学生は、JLPTの N1に合格しましょう。N1がないと説明会にも参加できない場合や最低でもN2に合格していることが就職の条件になる場合などがあります。また、N1に合格していることによって、ビザの取得が有利になったり、より条件の良い仕事につける場合もあります。大学生の間にはできるだけ早くN1に合格できるようにがんばってください。 N1、N2合格のために、一人で勉強するのはとても大変です。教員からのアドバイスを受けて、自分の苦手な点を見つけて、集中的に勉強してください。クラスメイトと助け合って勉強してください。この科目ではみなさんが合格できるよう支援します。
授業の概要	1 ) 模擬試験を2回行います。最初の模擬試験で、あなたの苦手な分野を見つけます。最後の模擬試験の点数は、この科目の成績の一部です。単位を取得したい学生は、2回の模擬試験を必ず受けてください。 2 ) JLPTの分野別、レベル別に課題が出ます。学生は、毎週課題を提出します。毎週の課題の合計点は、この科目の成績の一部です。 3 ) ホームルームで、毎週の質問に回答するコメントを提出してください。ホームルーム担当の教員が返信やアドバイスをします。コメントの提出をすると、出席になります。コメントの提出をしないと、欠席になります。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	成績評価 提出した課題 ( 復習課題、模擬試験問題含む ) の合計点で算出します。 課題の提出と毎回のコメント ( 質問含む ) で出席をつけます。 ( 週1回、15回 ) その週の学習についてのコメントを提出してください。 課題の提出だけでコメントを提出しない人は、欠席になるので注意しましょう。  期間中に必ず模試を2回受験してください。模試を2回受験しない人は、失格になります。 JLPTの受験
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	模試を2回受験しない人は、失格になります。
授業計画	1 週目 : 模試 ( 1 ) 2 週目 ~ 15 週目 各クラスの課題提出、コメント提出、本番直前模試 ( 2 )

テキスト	<p>この科目では、クラスで指定する教科書を購入する必要があります。  指定の教科書を買わないと、クラスの課題を提出しても評価の得点に入れることができません。  教科書を指定しますので、2週目以降に間に合うようにすぐに購入してください。</p> <p>N1:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N1（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円  著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著  出版年月日 2021/06/05  ISBN 978-4-7890-1781-7</p> <p>N2:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N2（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円  著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著  出版年月日 2021/09/05  ISBN 978-4-7890-1782-4</p>
参考書	<p>【N1】</p> <p>「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN1」アルク ￥1760  「日本語能力試験N1読解必須パターン」ジェイ・リサーチ出版 ￥1760  「新完全マスター漢字 日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター文法日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「TRY！日本語能力試験N1 文法から伸ばす日本語 改訂版」アスク ￥1980  「日本語総まとめN1漢字「日本語能力試験」対策 英語・ベトナム語訳 ￥1320</p> <p>【N2】</p> <p>「必ずできる！ JLPT「読解」N2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2」アルク ￥1760  「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN2」アルク ￥2200  「新完全マスター文法日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター聴解日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1760  「新完全マスター漢字日本語能力試験N2」 ￥1540  「一発合格！日本語能力試験N2完全攻略テキスト&amp;実践問題集」ナツメ社 ￥1980</p> <p>【N3】</p> <p>「新完全マスター文法日本語能力試験N3」3Aネットワーク ￥1320</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	各クラス担当がグーグルクラスルームなどで質問を受け付けます。 また、日本語科目担当のオフィスアワーなどに対応します。オフィスアワー以外の場合は、できるだけ来室前にEmail(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡してください。
フィードバックの方法	グーグルクラスルームなどを利用し返信します。毎回の解説などにも含めます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	問題や復習課題、解説がグーグルクラスルームに投稿されます。そのため、最低でも60時間の準備学習が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	(遠)(留)日本語特別支援 B
時間割コード Course Code	14055
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	他 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	宮島 良子
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	宮島 良子 (経営学部)
授業の目標	この科目では、日本語能力試験 ( JLPT ) のN1またはN2に合格するための学習を行います。特に、模擬試験、各試験分野の答練と解説をします。 日本で就職を目指す留学生は、JLPTの N1に合格しましょう。N1がないと説明会にも参加できない場合や最低でもN2に合格していることが就職の条件になる場合などがあります。また、N1に合格していることによって、ビザの取得が有利になったり、より条件の良い仕事につける場合もあります。大学生の間にできるだけ早くN1に合格できるようにがんばってください。 N1、N2合格のために、一人で勉強するのはとても大変です。教員からのアドバイスを受けて、自分の苦手な点を見つけて、集中的に勉強してください。クラスメイトと助け合って勉強してください。この科目ではみなさんが合格できるよう支援します。
授業の概要	1 ) 模擬試験を2回行います。最初の模擬試験で、あなたの苦手な分野を見つけます。最後の模擬試験の点数は、この科目の成績の一部です。単位を取得したい学生は、2回の模擬試験を必ず受けてください。 2 ) JLPTの分野別、レベル別に課題が出ます。学生は、毎週課題を提出します。毎週の課題の合計点は、この科目の成績の一部です。 3 ) ホームルームで、毎週の質問に回答するコメントを提出してください。ホームルーム担当の教員が返信やアドバイスをします。コメントの提出をすると、出席になります。コメントの提出をしないと、欠席になります。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	成績評価 提出した課題 ( 復習課題、模擬試験問題含む ) の合計点で算出します。 課題の提出と毎回のコメント ( 質問含む ) で出席をつけます。 ( 週1回、15回 ) その週の学習についてのコメントを提出してください。 課題の提出だけでコメントを提出しない人は、欠席になるので注意しましょう。  期間中に必ず模試を2回受験してください。模試を2回受験しない人は、失格になります。 JLPTの受験
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	模試を2回受験しない人は、失格になります。
授業計画	1 週目 : 模試 ( 1 ) 2 週目 ~ 15 週目 各クラスの課題提出、コメント提出、本番直前模試 ( 2 )

テキスト	<p>この科目では、クラスで指定する教科書を購入する必要があります。  指定の教科書を買わないと、クラスの課題を提出しても評価の得点に入れることができません。  教科書を指定しますので、2週目以降に間に合うようにすぐに購入してください。</p> <p>N1:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N1（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円  著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著  出版年月日 2021/06/05  ISBN 978-4-7890-1781-7</p> <p>N2:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N2（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円  著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著  出版年月日 2021/09/05  ISBN 978-4-7890-1782-4</p>
参考書	<p>【N1】</p> <p>「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN1」アルク ￥1760  「日本語能力試験N1読解必須パターン」ジェイ・リサーチ出版 ￥1760  「新完全マスター漢字 日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター文法日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「TRY！日本語能力試験N1 文法から伸ばす日本語 改訂版」アスク ￥1980  「日本語総まとめN1漢字「日本語能力試験」対策 英語・ベトナム語訳 ￥1320</p> <p>【N2】</p> <p>「必ずできる！ JLPT「読解」N2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2」アルク ￥1760  「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN2」アルク ￥2200  「新完全マスター文法日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター聴解日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1760  「新完全マスター漢字日本語能力試験N2」 ￥1540  「一発合格！日本語能力試験N2完全攻略テキスト&amp;実践問題集」ナツメ社 ￥1980</p> <p>【N3】</p> <p>「新完全マスター文法日本語能力試験N3」3Aネットワーク ￥1320</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	各クラス担当がグーグルクラスルームなどで質問を受け付けます。 また、日本語科目担当のオフィスアワーなどに対応します。オフィスアワー以外の場合は、できるだけ来室前にEmail(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡してください。
フィードバックの方法	グーグルクラスルームなどを利用し返信します。毎回の解説などにも含めます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	問題や復習課題、解説がグーグルクラスルームに投稿されます。そのため、最低でも60時間の準備学習が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力



開講科目名 Course	(遠)(留)日本語特別支援 B
時間割コード Course Code	14056
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	他 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	宮島 良子
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	宮島 良子 (経営学部)
授業の目標	この科目では、日本語能力試験 ( JLPT ) のN1またはN2に合格するための学習を行います。特に、模擬試験、各試験分野の答練と解説をします。 日本で就職を目指す留学生は、JLPTの N1に合格しましょう。N1がないと説明会にも参加できない場合や最低でもN2に合格していることが就職の条件になる場合などがあります。また、N1に合格していることによって、ビザの取得が有利になったり、より条件の良い仕事につける場合もあります。大学生の間にできるだけ早くN1に合格できるようにがんばってください。 N1、N2合格のために、一人で勉強するのはとても大変です。教員からのアドバイスを受けて、自分の苦手な点を見つけて、集中的に勉強してください。クラスメイトと助け合って勉強してください。この科目ではみなさんが合格できるよう支援します。
授業の概要	1 ) 模擬試験を2回行います。最初の模擬試験で、あなたの苦手な分野を見つけます。最後の模擬試験の点数は、この科目の成績の一部です。単位を取得したい学生は、2回の模擬試験を必ず受けてください。 2 ) JLPTの分野別、レベル別に課題が出ます。学生は、毎週課題を提出します。毎週の課題の合計点は、この科目の成績の一部です。 3 ) ホームルームで、毎週の質問に回答するコメントを提出してください。ホームルーム担当の教員が返信やアドバイスをします。コメントの提出をすると、出席になります。コメントの提出をしないと、欠席になります。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	成績評価 提出した課題 ( 復習課題、模擬試験問題含む ) の合計点で算出します。 課題の提出と毎回のコメント ( 質問含む ) で出席をつけます。 ( 週1回、15回 ) その週の学習についてのコメントを提出してください。 課題の提出だけでコメントを提出しない人は、欠席になるので注意しましょう。  期間中に必ず模試を2回受験してください。模試を2回受験しない人は、失格になります。 JLPTの受験
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	模試を2回受験しない人は、失格になります。
授業計画	1 週目 : 模試 ( 1 ) 2 週目 ~ 15 週目 各クラスの課題提出、コメント提出、本番直前模試 ( 2 )

テキスト	<p>この科目では、クラスで指定する教科書を購入する必要があります。</p> <p>指定の教科書を買わないと、クラスの課題を提出しても評価の得点に入れることができません。教科書を指定しますので、2週目以降に間に合うようにすぐに購入してください。</p> <p>N1:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N1（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円 著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著 出版年月日 2021/06/05 ISBN 978-4-7890-1781-7</p> <p>N2:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N2（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円 著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著 出版年月日 2021/09/05 ISBN 978-4-7890-1782-4</p>
参考書	<p>【N1】</p> <p>「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN1」アルク ￥1760  「日本語能力試験N1読解必須パターン」ジェイ・リサーチ出版 ￥1760  「新完全マスター漢字 日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター文法日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「TRY！日本語能力試験N1 文法から伸ばす日本語 改訂版」アスク ￥1980  「日本語総まとめN1漢字「日本語能力試験」対策 英語・ベトナム語訳 ￥1320</p> <p>【N2】</p> <p>「必ずできる！ JLPT「読解」N2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2」アルク ￥1760  「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN2」アルク ￥2200  「新完全マスター文法日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター聴解日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1760  「新完全マスター漢字日本語能力試験N2」 ￥1540  「一発合格！日本語能力試験N2完全攻略テキスト&amp;実践問題集」ナツメ社 ￥1980</p> <p>【N3】</p> <p>「新完全マスター文法日本語能力試験N3」3Aネットワーク ￥1320</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	各クラス担当がグーグルクラスルームなどで質問を受け付けます。 また、日本語科目担当のオフィスアワーなどに対応します。オフィスアワー以外の場合は、できるだけ来室前にEmail(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡してください。
フィードバックの方法	グーグルクラスルームなどを利用し返信します。毎回の解説などにも含めます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	問題や復習課題、解説がグーグルクラスルームに投稿されます。そのため、最低でも60時間の準備学習が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	(遠)(留)日本語特別支援 B
時間割コード Course Code	14057
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	他 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	澤木 美晴
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	澤木 美晴 (経営学部)
授業の目標	この科目では、日本語能力試験 ( JLPT ) のN1またはN2に合格するための学習を行います。特に、模擬試験、各試験分野の答練と解説をします。 日本で就職を目指す留学生は、JLPTの N1に合格しましょう。N1がないと説明会にも参加できない場合や最低でもN2に合格していることが就職の条件になる場合などがあります。また、N1に合格していることによって、ビザの取得が有利になったり、より条件の良い仕事につける場合もあります。大学生の間にはできるだけ早くN1に合格できるようにがんばってください。 N1、N2合格のために、一人で勉強するのはとても大変です。教員からのアドバイスを受けて、自分の苦手な点を見つけて、集中的に勉強してください。クラスメイトと助け合って勉強してください。この科目ではみなさんが合格できるよう支援します。
授業の概要	1 ) 模擬試験を2回行います。最初の模擬試験で、あなたの苦手な分野を見つけます。最後の模擬試験の点数は、この科目の成績の一部です。単位を取得したい学生は、2回の模擬試験を必ず受けてください。 2 ) JLPTの分野別、レベル別に課題が出ます。学生は、毎週課題を提出します。毎週の課題の合計点は、この科目の成績の一部です。 3 ) ホームルームで、毎週の質問に回答するコメントを提出してください。ホームルーム担当の教員が返信やアドバイスをします。コメントの提出をすると、出席になります。コメントの提出をしないと、欠席になります。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	成績評価 提出した課題 ( 復習課題、模擬試験問題含む ) の合計点で算出します。 課題の提出と毎回のコメント ( 質問含む ) で出席をつけます。 ( 週1回、15回 ) その週の学習についてのコメントを提出してください。 課題の提出だけでコメントを提出しない人は、欠席になるので注意しましょう。  期間中に必ず模試を2回受験してください。模試を2回受験しない人は、失格になります。 JLPTの受験
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	模試を2回受験しない人は、失格になります。
授業計画	1 週目 : 模試 ( 1 ) 2 週目 ~ 15 週目 各クラスの課題提出、コメント提出、本番直前模試 ( 2 )

テキスト	<p>この科目では、クラスで指定する教科書を購入する必要があります。  指定の教科書を買わないと、クラスの課題を提出しても評価の得点に入れることができません。  教科書を指定しますので、2週目以降に間に合うようにすぐに購入してください。</p> <p>N1:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N1（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円  著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著  出版年月日 2021/06/05  ISBN 978-4-7890-1781-7</p> <p>N2:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N2（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円  著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著  出版年月日 2021/09/05  ISBN 978-4-7890-1782-4</p>
参考書	<p>【N1】</p> <p>「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN1」アルク ￥1760  「日本語能力試験N1読解必須パターン」ジェイ・リサーチ出版 ￥1760  「新完全マスター漢字 日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター文法日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「TRY！日本語能力試験N1 文法から伸ばす日本語 改訂版」アスク ￥1980  「日本語総まとめN1漢字「日本語能力試験」対策 英語・ベトナム語訳 ￥1320</p> <p>【N2】</p> <p>「必ずできる！ JLPT「読解」N2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2」アルク ￥1760  「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN2」アルク ￥2200  「新完全マスター文法日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター聴解日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1760  「新完全マスター漢字日本語能力試験N2」 ￥1540  「一発合格！日本語能力試験N2完全攻略テキスト&amp;実践問題集」ナツメ社 ￥1980</p> <p>【N3】</p> <p>「新完全マスター文法日本語能力試験N3」3Aネットワーク ￥1320</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	各クラス担当がGoogleクラスルームなどで質問を受け付けます。 また、日本語科目担当のオフィスアワーなどに対応します。オフィスアワー以外の場合は、できるだけ来室前にEmail(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡してください。
フィードバックの方法	Googleクラスルームなどを利用し返信します。毎回の解説などにも含めます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	問題や復習課題、解説がGoogleクラスルームに投稿されます。そのため、最低でも60時間の準備学習が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	(遠)(留)日本語特別支援 B
時間割コード Course Code	14058
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	他 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	アルベケル アンドラーシ ジグモンド
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	アルベケル アンドラーシ ジグモンド (経営学部)
授業の目標	この科目では、日本語能力試験 ( JLPT ) のN1またはN2に合格するための学習を行います。特に、模擬試験、各試験分野の答練と解説をします。 日本で就職を目指す留学生は、JLPTの N1に合格しましょう。N1がないと説明会にも参加できない場合や最低でもN2に合格していることが就職の条件になる場合などがあります。また、N1に合格していることによって、ビザの取得が有利になったり、より条件の良い仕事につける場合もあります。大学生の間にはできるだけ早くN1に合格できるようにがんばってください。 N1、N2合格のために、一人で勉強するのはとても大変です。教員からのアドバイスを受けて、自分の苦手な点を見つけて、集中的に勉強してください。クラスメイトと助け合って勉強してください。この科目ではみなさんが合格できるよう支援します。
授業の概要	1 ) 模擬試験を2回行います。最初の模擬試験で、あなたの苦手な分野を見つけます。最後の模擬試験の点数は、この科目の成績の一部です。単位を取得したい学生は、2回の模擬試験を必ず受けてください。 2 ) JLPTの分野別、レベル別に課題が出ます。学生は、毎週課題を提出します。毎週の課題の合計点は、この科目の成績の一部です。 3 ) ホームルームで、毎週の質問に回答するコメントを提出してください。ホームルーム担当の教員が返信やアドバイスをします。コメントの提出をしないと、出席になります。コメントの提出をしないと、欠席になります。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	成績評価 提出した課題 ( 復習課題、模擬試験問題含む ) の合計点で算出します。 課題の提出と毎回のコメント ( 質問含む ) で出席をつけます。 ( 週1回、15回 ) その週の学習についてのコメントを提出してください。 課題の提出だけでコメントを提出しない人は、欠席になるので注意しましょう。  期間中に必ず模試を2回受験してください。模試を2回受験しない人は、失格になります。 JLPTの受験
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	模試を2回受験しない人は、失格になります。
授業計画	1 週目 : 模試 ( 1 ) 2 週目 ~ 15 週目 各クラスの課題提出、コメント提出、本番直前模試 ( 2 )

テキスト	<p>この科目では、クラスで指定する教科書を購入する必要があります。</p> <p>指定の教科書を買わないと、クラスの課題を提出しても評価の得点に入れることができません。教科書を指定しますので、2週目以降に間に合うようにすぐに購入してください。</p> <p>N1:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N1（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円 著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著 出版年月日 2021/06/05 ISBN 978-4-7890-1781-7</p> <p>N2:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N2（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円 著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著 出版年月日 2021/09/05 ISBN 978-4-7890-1782-4</p>
参考書	<p>【N1】</p> <p>「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN1」アルク ￥1760  「日本語能力試験N1読解必須パターン」ジェイ・リサーチ出版 ￥1760  「新完全マスター漢字 日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター文法日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「TRY！日本語能力試験N1 文法から伸ばす日本語 改訂版」アスク ￥1980  「日本語総まとめN1漢字「日本語能力試験」対策 英語・ベトナム語訳 ￥1320</p> <p>【N2】</p> <p>「必ずできる！ JLPT「読解」N2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2」アルク ￥1760  「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN2」アルク ￥2200  「新完全マスター文法日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター聴解日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1760  「新完全マスター漢字日本語能力試験N2」 ￥1540  「一発合格！日本語能力試験N2完全攻略テキスト&amp;実践問題集」ナツメ社 ￥1980</p> <p>【N3】</p> <p>「新完全マスター文法日本語能力試験N3」3Aネットワーク ￥1320</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	各クラス担当がグーグルクラスルームなどで質問を受け付けます。 また、日本語科目担当のオフィスアワーなどに対応します。オフィスアワー以外の場合は、できるだけ来室前にEmail(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡してください。
フィードバックの方法	グーグルクラスルームなどを利用し返信します。毎回の解説などにも含めます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	問題や復習課題、解説がグーグルクラスルームに投稿されます。そのため、最低でも60時間の準備学習が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	(遠)(留)日本語特別支援 B
時間割コード Course Code	14059
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	他 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	成川 直見
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	成川 直見 (経営学部)
授業の目標	この科目では、日本語能力試験 ( JLPT ) のN1またはN2に合格するための学習を行います。特に、模擬試験、各試験分野の答練と解説をします。 日本で就職を目指す留学生は、JLPTの N1に合格しましょう。N1がないと説明会にも参加できない場合や最低でもN2に合格していることが就職の条件になる場合などがあります。また、N1に合格していることによって、ビザの取得が有利になったり、より条件の良い仕事につける場合もあります。大学生の間にはできるだけ早くN1に合格できるようにがんばってください。 N1、N2合格のために、一人で勉強するのはとても大変です。教員からのアドバイスを受けて、自分の苦手な点を見つけて、集中的に勉強してください。クラスメイトと助け合って勉強してください。この科目ではみなさんが合格できるよう支援します。
授業の概要	1 ) 模擬試験を2回行います。最初の模擬試験で、あなたの苦手な分野を見つけます。最後の模擬試験の点数は、この科目の成績の一部です。単位を取得したい学生は、2回の模擬試験を必ず受けてください。 2 ) JLPTの分野別、レベル別に課題が出ます。学生は、毎週課題を提出します。毎週の課題の合計点は、この科目の成績の一部です。 3 ) ホームルームで、毎週の質問に回答するコメントを提出してください。ホームルーム担当の教員が返信やアドバイスをします。コメントの提出をすると、出席になります。コメントの提出をしないと、欠席になります。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	成績評価 提出した課題 ( 復習課題、模擬試験問題含む ) の合計点で算出します。 課題の提出と毎回のコメント ( 質問含む ) で出席をつけます。 ( 週1回、15回 ) その週の学習についてのコメントを提出してください。 課題の提出だけでコメントを提出しない人は、欠席になるので注意しましょう。  期間中に必ず模試を2回受験してください。模試を2回受験しない人は、失格になります。 JLPTの受験
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	模試を2回受験しない人は、失格になります。
授業計画	1 週目 : 模試 ( 1 ) 2 週目 ~ 15 週目 各クラスの課題提出、コメント提出、本番直前模試 ( 2 )

テキスト	<p>この科目では、クラスで指定する教科書を購入する必要があります。</p> <p>指定の教科書を買わないと、クラスの課題を提出しても評価の得点に入れることができません。教科書を指定しますので、2週目以降に間に合うようにすぐに購入してください。</p> <p>N1:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N1（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円 著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著 出版年月日 2021/06/05 ISBN 978-4-7890-1781-7</p> <p>N2:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N2（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円 著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著 出版年月日 2021/09/05 ISBN 978-4-7890-1782-4</p>
参考書	<p>【N1】</p> <p>「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN1」アルク ￥2200  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN1」アルク ￥1760  「日本語能力試験N1読解必須パターン」ジェイ・リサーチ出版 ￥1760  「新完全マスター漢字 日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター文法日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320  「TRY！日本語能力試験N1 文法から伸ばす日本語 改訂版」アスク ￥1980  「日本語総まとめN1漢字「日本語能力試験」対策 英語・ベトナム語訳 ￥1320</p> <p>【N2】</p> <p>「必ずできる！ JLPT「読解」N2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN2」アルク ￥1980  「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2」アルク ￥1760  「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN2」アルク ￥2200  「新完全マスター文法日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1320  「新完全マスター聴解日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1760  「新完全マスター漢字日本語能力試験N2」 ￥1540  「一発合格！日本語能力試験N2完全攻略テキスト&amp;実践問題集」ナツメ社 ￥1980</p> <p>【N3】</p> <p>「新完全マスター文法日本語能力試験N3」3Aネットワーク ￥1320</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	各クラス担当がグーグルクラスルームなどで質問を受け付けます。 また、日本語科目担当のオフィスアワーなどに対応します。オフィスアワー以外の場合は、できるだけ来室前にEmail(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡してください。
フィードバックの方法	グーグルクラスルームなどを利用し返信します。毎回の解説などにも含めます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	問題や復習課題、解説がグーグルクラスルームに投稿されます。そのため、最低でも60時間の準備学習が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力



開講科目名 Course	Q1(留)アカデミック日本語レベル1(月3,木3) / Academic Japanese level1
時間割コード Course Code	14100
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	渡邊 真
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	渡邊 真 (経営学部)
授業の目標	<p>「知識・理解の領域」</p> <p>日本の大学での学習、生活に必要な漢字、語彙(ごい)、文法を復習し、知識を整理する。 日本語で講義を聴く際にどのようにノートを取ればよいのかについて知る。 図書館の利用方法、資料の探し方、読書習慣の重要性や効果について知る。 日本の大学で求められるレポートについて、作文とは何が異なるのか、何をどのように書くことが求められるのか、書くためにはどのような基本ルールがあるのかを理解する。 日本語で数パラグラフの説明文や要約を書く上で必要な、段落構成・接続詞・文末表現などの用法を知る。</p> <p>グループディスカッションやプレゼンテーション(プレゼン)を通して、日本ではどのような発表がよいと評価されるのかを知る。</p> <p>「態度・志向性の領域」</p> <p>人の発表を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。 自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作ることができる。</p> <p>「技能の領域」</p> <p>数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を知り、活用できる。 身近な既知(きち)のテーマであれば、テーマのある3分程度の短い話の要点がつかめる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」</p> <p>自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないときには尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解できる。大学での学習に必要な日本語能力の基礎を固める。</p>

授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の基礎を固める。</p> <p>「大学での学習に必要な日本語能力」レベル1のクラスである。</p> <p>大学での学習に必要な日本語（漢字・語彙・文法など）を理解し、使用できるようになる。特に講義（こうぎ）を聞き、テキストを読んで理解し、筆記試験（ひっきしけん）やレポートなどの文章を書くこと等ができるようになる。</p> <p>数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出すことができる。</p> <p>身近な既知のテーマであれば、テーマに関係のある3分程度の短い話の要点がつかめる。</p> <p>数パラグラフからなる説明文を書く上で必要な、段落構成・接続詞・文末表現などの用法を知っていて、自分でも書くことができる。</p>
評価方法	<p>授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）と提出された課題から算出して評価する。</p> <p>期末試験は実施しません</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特段の配慮が必要ではない4回以上の欠席があった場合には失格となる。</p> <p>欠席する場合は、事情を含め、担当教員にメールなどで連絡をすること。</p> <p>ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要がある。</p>
授業計画	<p>・1回目の授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。</p> <p>・この科目は、「アカデミック日本語レベル2」に接続する。</p> <p>このクラスでは次のことを行う計画である。</p> <p>1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。</p> <p>2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。</p> <p>3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学ぶ。</p> <p>4) 多読を通して読む習慣を形成する。</p> <p>5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート（この授業や授業外における学習状況を記入）</p> <p>活動</p> <p>1. 予習（読解、記述）</p> <p>2. 講義理解・レポート作成のための活動</p> <p>3. 学習管理</p> <p>流れ</p> <p>1. 読解・記述</p> <p>予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。</p> <p>多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。</p> <p>2. レポート作成のルールを知る</p> <p>テーマを決め、レポートの作成に必要なことを学ぶ。レポートの書き方を真似る。</p> <p>3. 協同学習</p> <p>公式の場（ゼミ、面接、観客などがある発表の場など）を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。</p>
テキスト	<p>大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。</p> <p><a href="https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/">https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/</a></p> <p>他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。</p>
参考書	<p>『大学生学びのハンドブック』（基礎演習の参考文献）</p> <p><a href="https://quizlet.com/meikeiacademic">https://quizlet.com/meikeiacademic</a></p> <p>大学生になるための漢字500（名経大入学前教育課題）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>・課題を決め、テーマに関する日本語の文章を探したり、読んだりする。</p> <p>・3人ずつくらいのグループに分かれ、読んだ情報を確認する。</p> <p>・質疑応答を行う。</p> <p>・テーマは、大学生活に関わるもので（「自分の学部について知る」「名古屋経済大学のさまざまなルール」「日本語のEメールの書き方やマナー」「図書館でできること」「授業で学んだこと」「ゼミの仲間」「名経大の先生」「SDG's」など）発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときのとりかかりにする。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>担当教員の授業の前後、適宜グループクラスルームなどで質問すること。</p> <p>そのほか、日本語科目担当（nihongo@nagoya-ku.ac.jp）のオフィスアワーでも対応する。</p>
フィードバックの方法	<p>課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグループクラスルームなどを通じて実施する。</p>

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> <li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li> <li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> <li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 住み続けられるまちづくりを</li> <li>12. つくる責任つかう責任</li> <li>13. 気候変動に具体的な対策を</li> <li>14. 海の豊かさを守ろう</li> <li>15. 陸の豊かさを守ろう</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> <li>17. パートナリーシップで目標を達成しよう</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>3. 統率力</li> <li>4. 感情制御力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>6. 行動持続力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

開講科目名 Course	Q1(留)アカデミック日本語レベル1(月3,木3) / Academic Japanese level1
時間割コード Course Code	14101
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	柴倉 映子
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	柴倉 映子 (経営学部)、立見 洸貴 (経営学部)
授業の目標	<p>「知識・理解の領域」</p> <p>日本の大学での学習、生活に必要な漢字、語彙(ごい)、文法を復習し、知識を整理する。 日本語で講義を聴く際にどのようにノートを取ればよいのかについて知る。 図書館の利用方法、資料の探し方、読書習慣の重要性や効果について知る。 日本の大学で求められるレポートについて、作文とは何が異なるのか、何をどのように書くことが求められるのか、書くためにはどのような基本ルールがあるのかを理解する。 日本語で数パラグラフの説明文や要約を書く上で必要な、段落構成・接続詞・文末表現などの用法を知る。</p> <p>グループディスカッションやプレゼンテーション(プレゼン)を通して、日本ではどのような発表がよいと評価されるのかを知る。</p> <p>「態度・志向性の領域」</p> <p>人の発表を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。 自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作ることができる。</p> <p>「技能の領域」</p> <p>数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を知り、活用できる。 身近な既知(きち)のテーマであれば、テーマのある3分程度の短い話の要点がつかめる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」</p> <p>自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないときには尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解できる。大学での学習に必要な日本語能力の基礎を固める。</p>

授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の基礎を固める。</p> <p>「大学での学習に必要な日本語能力」レベル1のクラスである。</p> <p>大学での学習に必要な日本語（漢字・語彙・文法など）を理解し、使用できるようになる。特に講義（こうぎ）を聞き、テキストを読んで理解し、筆記試験（ひっきしけん）やレポートなどの文章を書くこと等ができるようになる。</p> <p>数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出すことができる。</p> <p>身近な既知のテーマであれば、テーマに関係のある3分程度の短い話の要点がつかめる。</p> <p>数パラグラフからなる説明文を書く上で必要な、段落構成・接続詞・文末表現などの用法を知っていて、自分でも書くことができる。</p>
評価方法	<p>授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）と提出された課題から算出して評価する。</p> <p>期末試験は実施しません</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特段の配慮が必要ではない4回以上の欠席があった場合には失格となる。</p> <p>欠席する場合は、事情を含め、担当教員にメールなどで連絡をすること。</p> <p>ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要がある。</p>
授業計画	<p>・1回目の授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。</p> <p>・この科目は、「アカデミック日本語レベル2」に接続する。</p> <p>このクラスでは次のことを行う計画である。</p> <p>1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。</p> <p>2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。</p> <p>3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学ぶ。</p> <p>4) 多読を通して読む習慣を形成する。</p> <p>5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート（この授業や授業外における学習状況を記入）</p> <p>活動</p> <p>1. 予習（読解、記述）</p> <p>2. 講義理解・レポート作成のための活動</p> <p>3. 学習管理</p> <p>流れ</p> <p>1. 読解・記述</p> <p>予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。</p> <p>多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。</p> <p>2. レポート作成のルールを知る</p> <p>テーマを決め、レポートの作成に必要なことを学ぶ。レポートの書き方を真似る。</p> <p>3. 協同学習</p> <p>公式の場（ゼミ、面接、観客などがある発表の場など）を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。</p>
テキスト	<p>大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。</p> <p><a href="https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/">https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/</a></p> <p>他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。</p>
参考書	<p>『大学生学びのハンドブック』（基礎演習の参考文献）</p> <p><a href="https://quizlet.com/meikeiacademic">https://quizlet.com/meikeiacademic</a></p> <p>大学生になるための漢字500（名経大入学前教育課題）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>・課題を決め、テーマに関する日本語の文章を探したり、読んだりする。</p> <p>・3人ずつくらいのグループに分かれ、読んだ情報を確認する。</p> <p>・質疑応答を行う。</p> <p>・テーマは、大学生活に関わるもので（「自分の学部について知る」「名古屋経済大学のさまざまなルール」「日本語のEメールの書き方やマナー」「図書館でできること」「授業で学んだこと」「ゼミの仲間」「名経大の先生」「SDG's」など）発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときのとりかかりにする。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>担当教員の授業の前後、適宜グループクラスルームなどで質問すること。</p> <p>そのほか、日本語科目担当（nihongo@nagoya-ku.ac.jp）のオフィスアワーでも対応する。</p>
フィードバックの方法	<p>課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグループクラスルームなどを通じて実施する。</p>

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	Q1(留)アカデミック日本語レベル1(月3,木3) / Academic Japanese level1
時間割コード Course Code	14102
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	稲垣 理香
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	稲垣 理香 (経営学部)
授業の目標	<p>「知識・理解の領域」</p> <p>日本の大学での学習、生活に必要な漢字、語彙(ごい)、文法を復習し、知識を整理する。 日本語で講義を聴く際にどのようにノートを取ればよいのかについて知る。 図書館の利用方法、資料の探し方、読書習慣の重要性や効果について知る。 日本の大学で求められるレポートについて、作文とは何が異なるのか、何をどのように書くことが求められるのか、書くためにはどのような基本ルールがあるのかを理解する。 日本語で数パラグラフの説明文や要約を書く上で必要な、段落構成・接続詞・文末表現などの用法を知る。</p> <p>グループディスカッションやプレゼンテーション(プレゼン)を通して、日本ではどのような発表がよいと評価されるのかを知る。</p> <p>「態度・志向性の領域」</p> <p>人の発表を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。 自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作ることができる。</p> <p>「技能の領域」</p> <p>数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を知り、活用できる。 身近な既知(きち)のテーマであれば、テーマのある3分程度の短い話の要点がつかめる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」</p> <p>自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないときには尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解できる。大学での学習に必要な日本語能力の基礎を固める。</p>

授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の基礎を固める。  「大学での学習に必要な日本語能力」レベル1のクラスである。  大学での学習に必要な日本語（漢字・語彙・文法など）を理解し、使用できるようになる。特に講義（こうぎ）を聞き、テキストを読んで理解し、筆記試験（ひっきしけん）やレポートなどの文章を書くこと等ができるようになる。  数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出すことができる。  身近な既知のテーマであれば、テーマに関係のある3分程度の短い話の要点がつかめる。  数パラグラフからなる説明文を書く上で必要な、段落構成・接続詞・文末表現などの用法を知っていて、自分でも書くことができる。</p>
評価方法	<p>授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）と提出された課題から算出して評価する。</p> <p>期末試験は実施しません</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特段の配慮が必要ではない4回以上の欠席があった場合には失格となる。  欠席する場合は、事情を含め、担当教員にメールなどで連絡をすること。  ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要がある。</p>
授業計画	<p>・1回めの授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。  ・この科目は、「アカデミック日本語レベル2」に接続する。  このクラスでは次のことを行う計画である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。</li> <li>2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。</li> <li>3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学ぶ。</li> <li>4) 多読を通して読む習慣を形成する。</li> <li>5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート（この授業や授業外における学習状況を記入）活動</li> </ol> <p>1. 予習（読解、記述）  2. 講義理解・レポート作成のための活動  3. 学習管理</p> <p>流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 読解・記述  予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。  多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。</li> <li>2. レポート作成のルールを知る  テーマを決め、レポートの作成に必要なことを学ぶ。レポートの書き方を真似る。</li> <li>3. 協同学習  公式の場（ゼミ、面接、観客などがある発表の場など）を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。</li> </ol>
テキスト	<p>大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。  <a href="https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/">https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/</a>  他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。</p>
参考書	<p>『大学生学びのハンドブック』（基礎演習の参考文献）  <a href="https://quizlet.com/meikeiacademic">https://quizlet.com/meikeiacademic</a>  大学生になるための漢字500（名経大入学前教育課題）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>・課題を決め、テーマに関する日本語の文章を探したり、読んだりする。  ・3人ずつくらいのグループに分かれ、読んだ情報を確認する。  ・質疑応答を行う。  ・テーマは、大学生活に関わるもので（「自分の学部について知る」「名古屋経済大学のさまざまなルール」「日本語のEメールの書き方やマナー」「図書館でできること」「授業で学んだこと」「ゼミの仲間」「名経大の先生」「SDG's」など）発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときのとりかかりにする。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>担当教員の授業の前後、適宜グループクラスルームなどで質問すること。  そのほか、日本語科目担当（nihongo@nagoya-ku.ac.jp）のオフィスアワーでも対応する。</p>
フィードバックの方法	<p>課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグループクラスルームなどを通じて実施する。</p>



予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	Q1(留)アカデミック日本語レベル1(月4,木4) / Academic Japanese level1
時間割コード Course Code	14103
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4, 木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	渡邊 真
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	渡邊 真 (経営学部)
授業の目標	<p>「知識・理解の領域」</p> <p>日本の大学での学習、生活に必要な漢字、語彙(ごい)、文法を復習し、知識を整理する。 日本語で講義を聴く際にどのようにノートを取ればよいのかについて知る。 図書館の利用方法、資料の探し方、読書習慣の重要性や効果について知る。 日本の大学で求められるレポートについて、作文とは何が異なるのか、何をどのように書くことが求められるのか、書くためにはどのような基本ルールがあるのかを理解する。 日本語で数パラグラフの説明文や要約を書く上で必要な、段落構成・接続詞・文末表現などの用法を知る。</p> <p>グループディスカッションやプレゼンテーション(プレゼン)を通して、日本ではどのような発表がよいと評価されるのかを知る。</p> <p>「態度・志向性の領域」</p> <p>人の発表を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。 自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作ることができる。</p> <p>「技能の領域」</p> <p>数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を知り、活用できる。 身近な既知(きち)のテーマであれば、テーマのある3分程度の短い話の要点がつかめる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」</p> <p>自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないときには尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解できる。大学での学習に必要な日本語能力の基礎を固める。</p>

授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の基礎を固める。  「大学での学習に必要な日本語能力」レベル1のクラスである。  大学での学習に必要な日本語（漢字・語彙・文法など）を理解し、使用できるようになる。特に講義（こうぎ）を聞き、テキストを読んで理解し、筆記試験（ひっきしけん）やレポートなどの文章を書くこと等ができるようになる。  数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出すことができる。  身近な既知のテーマであれば、テーマに関係のある3分程度の短い話の要点がつかめる。  数パラグラフからなる説明文を書く上で必要な、段落構成・接続詞・文末表現などの用法を知っていて、自分でも書くことができる。</p>
評価方法	<p>授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）と提出された課題から算出して評価する。</p> <p>期末試験は実施しません</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特段の配慮が必要ではない4回以上の欠席があった場合には失格となる。  欠席する場合は、事情を含め、担当教員にメールなどで連絡をすること。  ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要がある。</p>
授業計画	<p>・1回めの授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。  ・この科目は、「アカデミック日本語レベル2」に接続する。  このクラスでは次のことを行う計画である。  1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。  2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。  3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学ぶ。  4) 多読を通して読む習慣を形成する。  5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート（この授業や授業外における学習状況を記入）活動</p> <p>1. 予習（読解、記述）  2. 講義理解・レポート作成のための活動  3. 学習管理</p> <p>流れ</p> <p>1. 読解・記述  予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。  多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。</p> <p>2. レポート作成のルールを知る  テーマを決め、レポートの作成に必要なことを学ぶ。レポートの書き方を真似る。  3. 協同学習  公式の場（ゼミ、面接、観客などがある発表の場など）を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。</p>
テキスト	<p>大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。  <a href="https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/">https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/</a>  他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。</p>
参考書	<p>『大学生学びのハンドブック』（基礎演習の参考文献）  <a href="https://quizlet.com/meikeiacademic">https://quizlet.com/meikeiacademic</a>  大学生になるための漢字500（名経大入学前教育課題）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>・課題を決め、テーマに関する日本語の文章を探したり、読んだりする。  ・3人ずつくらいのグループに分かれ、読んだ情報を確認する。  ・質疑応答を行う。  ・テーマは、大学生活に関わるもので（「自分の学部について知る」「名古屋経済大学のさまざまなルール」「日本語のEメールの書き方やマナー」「図書館でできること」「授業で学んだこと」「ゼミの仲間」「名経大の先生」「SDG's」など）発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときのとりかかりにする。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>担当教員の授業の前後、適宜グループクラスルームなどで質問すること。  そのほか、日本語科目担当（nihongo@nagoya-ku.ac.jp）のオフィスアワーでも対応する。</p>
フィードバックの方法	<p>課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグループクラスルームなどを通じて実施する。</p>

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> <li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li> <li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> <li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 住み続けられるまちづくりを</li> <li>12. つくる責任つかう責任</li> <li>13. 気候変動に具体的な対策を</li> <li>14. 海の豊かさを守ろう</li> <li>15. 陸の豊かさを守ろう</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> <li>17. パートナーシップで目標を達成しよう</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>3. 統率力</li> <li>4. 感情制御力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>6. 行動持続力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

開講科目名 Course	Q1(留)アカデミック日本語レベル1(月4,木4) / Academic Japanese level1
時間割コード Course Code	14104
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4, 木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	柴倉 映子
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	柴倉 映子 (経営学部)、立見 洸貴 (経営学部)
授業の目標	<p>「知識・理解の領域」</p> <p>日本の大学での学習、生活に必要な漢字、語彙(ごい)、文法を復習し、知識を整理する。 日本語で講義を聴く際にどのようにノートを取ればよいのかについて知る。 図書館の利用方法、資料の探し方、読書習慣の重要性や効果について知る。 日本の大学で求められるレポートについて、作文とは何が異なるのか、何をどのように書くことが求められるのか、書くためにはどのような基本ルールがあるのかを理解する。 日本語で数パラグラフの説明文や要約を書く上で必要な、段落構成・接続詞・文末表現などの用法を知る。</p> <p>グループディスカッションやプレゼンテーション(プレゼン)を通して、日本ではどのような発表がよいと評価されるのかを知る。</p> <p>「態度・志向性の領域」</p> <p>人の発表を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。 自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作ることができる。</p> <p>「技能の領域」</p> <p>数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を知り、活用できる。 身近な既知(きち)のテーマであれば、テーマのある3分程度の短い話の要点がつかめる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」</p> <p>自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないときには尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解できる。大学での学習に必要な日本語能力の基礎を固める。</p>

授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の基礎を固める。</p> <p>「大学での学習に必要な日本語能力」レベル1のクラスである。</p> <p>大学での学習に必要な日本語（漢字・語彙・文法など）を理解し、使用できるようになる。特に講義（こうぎ）を聞き、テキストを読んで理解し、筆記試験（ひっきしけん）やレポートなどの文章を書くこと等ができるようになる。</p> <p>数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出すことができる。</p> <p>身近な既知のテーマであれば、テーマに関係のある3分程度の短い話の要点がつかめる。</p> <p>数パラグラフからなる説明文を書く上で必要な、段落構成・接続詞・文末表現などの用法を知っていて、自分でも書くことができる。</p>
評価方法	<p>授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）と提出された課題から算出して評価する。</p> <p>期末試験は実施しません</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特段の配慮が必要ではない4回以上の欠席があった場合には失格となる。</p> <p>欠席する場合は、事情を含め、担当教員にメールなどで連絡をすること。</p> <p>ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要がある。</p>
授業計画	<p>・1回目の授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。</p> <p>・この科目は、「アカデミック日本語レベル2」に接続する。</p> <p>このクラスでは次のことを行う計画である。</p> <p>1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。</p> <p>2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。</p> <p>3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学ぶ。</p> <p>4) 多読を通して読む習慣を形成する。</p> <p>5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート（この授業や授業外における学習状況を記入）活動</p> <p>1. 予習（読解、記述）</p> <p>2. 講義理解・レポート作成のための活動</p> <p>3. 学習管理</p> <p>流れ</p> <p>1. 読解・記述</p> <p>予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。</p> <p>多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。</p> <p>2. レポート作成のルールを知る</p> <p>テーマを決め、レポートの作成に必要なことを学ぶ。レポートの書き方を真似る。</p> <p>3. 協同学習</p> <p>公式の場（ゼミ、面接、観客などがある発表の場など）を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。</p>
テキスト	<p>大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。</p> <p><a href="https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/">https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/</a></p> <p>他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。</p>
参考書	<p>『大学生学びのハンドブック』（基礎演習の参考文献）</p> <p><a href="https://quizlet.com/meikeiacademic">https://quizlet.com/meikeiacademic</a></p> <p>大学生になるための漢字500（名経大入学前教育課題）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>・課題を決め、テーマに関する日本語の文章を探したり、読んだりする。</p> <p>・3人ずつくらいのグループに分かれ、読んだ情報を確認する。</p> <p>・質疑応答を行う。</p> <p>・テーマは、大学生活に関わるもので（「自分の学部について知る」「名古屋経済大学のさまざまなルール」「日本語のEメールの書き方やマナー」「図書館でできること」「授業で学んだこと」「ゼミの仲間」「名経大の先生」「SDG's」など）発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときのとりかかりにする。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>担当教員の授業の前後、適宜グループクラスルームなどで質問すること。</p> <p>そのほか、日本語科目担当（nihongo@nagoya-ku.ac.jp）のオフィスアワーでも対応する。</p>
フィードバックの方法	<p>課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグループクラスルームなどを通じて実施する。</p>

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> <li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li> <li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> <li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 住み続けられるまちづくりを</li> <li>12. つくる責任つかう責任</li> <li>13. 気候変動に具体的な対策を</li> <li>14. 海の豊かさを守ろう</li> <li>15. 陸の豊かさを守ろう</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> <li>17. パートナーシップで目標を達成しよう</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>3. 統率力</li> <li>4. 感情制御力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>6. 行動持続力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

開講科目名 Course	Q1(留)アカデミック日本語レベル1(月4,木4) / Academic Japanese level1
時間割コード Course Code	14105
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4, 木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	稲垣 理香
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	稲垣 理香 (経営学部)
授業の目標	<p>「知識・理解の領域」</p> <p>日本の大学での学習、生活に必要な漢字、語彙(ごい)、文法を復習し、知識を整理する。 日本語で講義を聴く際にどのようにノートを取ればよいのかについて知る。 図書館の利用方法、資料の探し方、読書習慣の重要性や効果について知る。 日本の大学で求められるレポートについて、作文とは何が異なるのか、何をどのように書くことが求められるのか、書くためにはどのような基本ルールがあるのかを理解する。 日本語で数パラグラフの説明文や要約を書く上で必要な、段落構成・接続詞・文末表現などの用法を知る。</p> <p>グループディスカッションやプレゼンテーション(プレゼン)を通して、日本ではどのような発表がよいと評価されるのかを知る。</p> <p>「態度・志向性の領域」</p> <p>人の発表を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。 自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作ることができる。</p> <p>「技能の領域」</p> <p>数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を知り、活用できる。 身近な既知(きち)のテーマであれば、テーマのある3分程度の短い話の要点がつかめる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」</p> <p>自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないときには尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解できる。大学での学習に必要な日本語能力の基礎を固める。</p>



授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の基礎を固める。  「大学での学習に必要な日本語能力」レベル1のクラスである。  大学での学習に必要な日本語（漢字・語彙・文法など）を理解し、使用できるようになる。特に講義（こうぎ）を聞き、テキストを読んで理解し、筆記試験（ひっきしけん）やレポートなどの文章を書くこと等ができるようになる。  数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出すことができる。  身近な既知のテーマであれば、テーマに関係のある3分程度の短い話の要点がつかめる。  数パラグラフからなる説明文を書く上で必要な、段落構成・接続詞・文末表現などの用法を知っていて、自分でも書くことができる。</p>
評価方法	<p>授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）と提出された課題から算出して評価する。</p> <p>期末試験は実施しません</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特段の配慮が必要ではない4回以上の欠席があった場合には失格となる。  欠席する場合は、事情を含め、担当教員にメールなどで連絡をすること。  ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要がある。</p>
授業計画	<p>・1回めの授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。  ・この科目は、「アカデミック日本語レベル2」に接続する。  このクラスでは次のことを行う計画である。  1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。  2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。  3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学ぶ。  4) 多読を通して読む習慣を形成する。  5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート（この授業や授業外における学習状況を記入）活動</p> <p>1. 予習（読解、記述）  2. 講義理解・レポート作成のための活動  3. 学習管理</p> <p>流れ  1. 読解・記述  予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。  多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。</p> <p>2. レポート作成のルールを知る  テーマを決め、レポートの作成に必要なことを学ぶ。レポートの書き方を真似る。  3. 協同学習  公式の場（ゼミ、面接、観客などがある発表の場など）を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。</p>
テキスト	<p>大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。  <a href="https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/">https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/</a>  他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。</p>
参考書	<p>『大学生学びのハンドブック』（基礎演習の参考文献）  <a href="https://quizlet.com/meikeiacademic">https://quizlet.com/meikeiacademic</a>  大学生になるための漢字500（名経大入学前教育課題）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>・課題を決め、テーマに関する日本語の文章を探したり、読んだりする。  ・3人ずつくらいのグループに分かれ、読んだ情報を確認する。  ・質疑応答を行う。  ・テーマは、大学生活に関わるもので（「自分の学部について知る」「名古屋経済大学のさまざまなルール」「日本語のEメールの書き方やマナー」「図書館でできること」「授業で学んだこと」「ゼミの仲間」「名経大の先生」「SDG's」など）発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときのとりかかりにする。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>担当教員の授業の前後、適宜Googleクラスルームなどで質問すること。  そのほか、日本語科目担当（nihongo@nagoya-ku.ac.jp）のオフィスアワーでも対応する。</p>
フィードバックの方法	<p>課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やGoogleクラスルームなどを通じて実施する。</p>

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> <li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li> <li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> <li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 住み続けられるまちづくりを</li> <li>12. つくる責任つかう責任</li> <li>13. 気候変動に具体的な対策を</li> <li>14. 海の豊かさを守ろう</li> <li>15. 陸の豊かさを守ろう</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> <li>17. パートナーシップで目標を達成しよう</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>3. 統率力</li> <li>4. 感情制御力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>6. 行動持続力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

開講科目名 Course	Q2(留)アカデミック日本語レベル2(月3,木3) / Academic Japanese level2
時間割コード Course Code	14200
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	渡邊 真
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	渡邊 真 (経営学部)
授業の目標	<p>「知識・理解の領域」</p> <p>日本の大学での学習に必要な漢字、語彙(ごい)、文法を整理し、知識を増やす。 日本語で講義を聴く際にどのように大切なところを理解し、必要に応じてメモが取れるようになる。</p> <p>図書館を活用し、資料の探したり、読書習慣が身に付くようになる。 日本の大学で求められるレポートについて、基本ルールに沿って書くことが意識できるようになる。</p> <p>日本語で数パラグラフの説明文や要約を書く上で必要な、段落構成・接続詞・文末表現などの用法を知る。 グループディスカッションやプレゼンテーション(プレゼン)を通して、日本ではどのような発表がよいと評価されるのかを知る。</p> <p>「態度・志向性の領域」</p> <p>人の発表を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。 自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作ることができる。</p> <p>「技能の領域」</p> <p>数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を身につけ、活用できる。 社会科学分野に関連する既知(きち)のテーマであれば、テーマのある3分程度の短い話の要点がつかめる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」</p> <p>自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないときには尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解し、実践できる。</p>

授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の基礎を固める。  「大学での学習に必要な日本語能力」レベル2のクラスである。  大学での学習に必要な日本語能力、特にレジュメやスライドなどを見ながら講義を聞き、テキストを読んで理解することができるようになる。  筆記試験やコメントシート、レポートなどの文章を書く学習の準備が整う。  読解文中にある、漢字・語彙・文法の意味がとれるようになる。  数パラグラフからなる、主に社会科学分野の数パラグラフからなる説明文・論説文から効率よく必要な情報を取り出すことができる。  未習語彙などが少しあっても、一般的・社会的な内容諺、テーマに関係のある3分程度の短い話の要点がつかめ、重要な語彙などの簡単なメモが取れる。支援を受ければ、段落構成・接続詞・文末表現などをある程度正しく使い、短い説明文を書くことができる。</p>
評価方法	<p>授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）と提出された課題などから算出して評価する。</p> <p>期末試験は実施しません</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特段の配慮が必要ではない4回以上の欠席があった場合には失格となる。  欠席する場合には、事情を含め、担当教員に連絡すること。  ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要がある。</p>
授業計画	<p>・1回目の授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。  ・この科目は、「アカデミック日本語レベル3」に接続する。  このクラスでは次のことを行う計画である。  1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。  2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。  3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学び、書けるようになる。  4) 多読を通して読む習慣を形成する。  5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート（この授業や授業外における学習状況を記入）活動  1. 予習（読解、記述）  2. 講義理解・レポート作成のための活動  3. 学習管理  流れ  1. 読解・記述  予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。  多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。  2. レポート作成のルールを知る  テーマを決め、レポートの作成に必要なことを学ぶ。レポートの書き方を真似る。  3. 協同学習  公式の場（ゼミ、面接、観客などがある発表の場など）を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。</p>
テキスト	<p>大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。  <a href="https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/">https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/</a>  他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。</p>
参考書	<p>『大学生学びのハンドブック』（基礎演習の参考文献）  <a href="https://quizlet.com/meikeiacademic">https://quizlet.com/meikeiacademic</a>  大学生になるための漢字500（名経大入学前教育課題）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>・課題を決め、テーマに関する日本語の文章を探したり、読んだりする。  ・3人ずつくらいのグループに分かれ、読んだ情報を確認する。  ・質疑応答を行う。  ・テーマは、大学生活に関わるもので（「SDG's」「履修中の授業で学んでいること」など）発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときに活用できるようにする。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>担当教員の授業の前後、適宜グーグルクラスルームなどで質問すること。  そのほか、日本語科目担当（nihongo@nagoya-ku.ac.jp）のオフィスアワーでも対応する。</p>
フィードバックの方法	<p>課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグーグルクラスルームなどを通じて実施する。</p>

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	Q2(留)アカデミック日本語レベル2(月3,木3) / Academic Japanese level2
時間割コード Course Code	14201
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	柴倉 映子
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	柴倉 映子 (経営学部)、立見 洸貴 (経営学部)
授業の目標	<p>「知識・理解の領域」</p> <p>日本の大学での学習に必要な漢字、語彙(ごい)、文法を整理し、知識を増やす。 日本語で講義を聴く際にどのように大切なところを理解し、必要に応じてメモが取れるようになる。</p> <p>図書館を活用し、資料の探したり、読書習慣が身に付くようになる。 日本の大学で求められるレポートについて、基本ルールに沿って書くことが意識できるようになる。</p> <p>日本語で数パラグラフの説明文や要約を書く上で必要な、段落構成・接続詞・文末表現などの用法を知る。 グループディスカッションやプレゼンテーション(プレゼン)を通して、日本ではどのような発表がよいと評価されるのかを知る。</p> <p>「態度・志向性の領域」</p> <p>人の発表を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。 自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作ることができる。</p> <p>「技能の領域」</p> <p>数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を身につけ、活用できる。 社会科学分野に関連する既知(きち)のテーマであれば、テーマのある3分程度の短い話の要点がつかめる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」</p> <p>自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないときには尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解し、実践できる。</p>

授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の基礎を固める。  「大学での学習に必要な日本語能力」レベル2のクラスである。  大学での学習に必要な日本語能力、特にレジュメやスライドなどを見ながら講義を聞き、テキストを読んで理解することができるようになる。  筆記試験やコメントシート、レポートなどの文章を書く学習の準備が整う。  読解文中にある、漢字・語彙・文法の意味がとれるようになる。  数パラグラフからなる、主に社会科学分野の数パラグラフからなる説明文・論説文から効率よく必要な情報を取り出すことができる。  未習語彙などが少しあっても、一般的・社会的な内容諺、テーマに関係のある3分程度の短い話の要点がつかめ、重要な語彙などの簡単なメモが取れる。支援を受ければ、段落構成・接続詞・文末表現などをある程度正しく使い、短い説明文を書くことができる。</p>
評価方法	<p>授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）と提出された課題などから算出して評価する。</p> <p>期末試験は実施しません</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特段の配慮が必要ではない4回以上の欠席があった場合には失格となる。  欠席する場合には、事情を含め、担当教員に連絡すること。  ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要がある。</p>
授業計画	<p>・1回目の授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。  ・この科目は、「アカデミック日本語レベル3」に接続する。  このクラスでは次のことを行う計画である。  1) 大学での学習に必要なとなる漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。  2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。  3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学び、書けるようになる。  4) 多読を通して読む習慣を形成する。  5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート（この授業や授業外における学習状況を記入）活動  1. 予習（読解、記述）  2. 講義理解・レポート作成のための活動  3. 学習管理  流れ  1. 読解・記述  予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。  多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。  2. レポート作成のルールを知る  テーマを決め、レポートの作成に必要なことを学ぶ。レポートの書き方を真似る。  3. 協同学習  公式の場（ゼミ、面接、観客などがある発表の場など）を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。</p>
テキスト	<p>大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。  <a href="https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/">https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/</a>  他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。</p>
参考書	<p>『大学生学びのハンドブック』（基礎演習の参考文献）  <a href="https://quizlet.com/meikeiacademic">https://quizlet.com/meikeiacademic</a>  大学生になるための漢字500（名経大入学前教育課題）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>・課題を決め、テーマに関する日本語の文章を探したり、読んだりする。  ・3人ずつくらいのグループに分かれ、読んだ情報を確認する。  ・質疑応答を行う。  ・テーマは、大学生活に関わるもので（「SDG's」「履修中の授業で学んでいること」など）発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときに活用できるようにする。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>担当教員の授業の前後、適宜グーグルクラスルームなどで質問すること。  そのほか、日本語科目担当（nihongo@nagoya-ku.ac.jp）のオフィスアワーでも対応する。</p>
フィードバックの方法	<p>課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグーグルクラスルームなどを通じて実施する。</p>

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11~17)	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力



開講科目名 Course	Q2(留)アカデミック日本語レベル2(月3,木3) / Academic Japanese level2
時間割コード Course Code	14202
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	稲垣 理香
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	稲垣 理香 (経営学部)
授業の目標	<p>「知識・理解の領域」</p> <p>日本の大学での学習に必要な漢字、語彙(ごい)、文法を整理し、知識を増やす。 日本語で講義を聴く際にどのように大切なところを理解し、必要に応じてメモが取れるようになる。</p> <p>図書館を活用し、資料の探したり、読書習慣が身に付くようになる。 日本の大学で求められるレポートについて、基本ルールに沿って書くことが意識できるようになる。</p> <p>日本語で数パラグラフの説明文や要約を書く上で必要な、段落構成・接続詞・文末表現などの用法を知る。 グループディスカッションやプレゼンテーション(プレゼン)を通して、日本ではどのような発表がよいと評価されるのかを知る。</p> <p>「態度・志向性の領域」</p> <p>人の発表を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。 自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作ることができる。</p> <p>「技能の領域」</p> <p>数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を身につけ、活用できる。 社会科学分野に関連する既知(きち)のテーマであれば、テーマのある3分程度の短い話の要点がつかめる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」</p> <p>自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないときには尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解し、実践できる。</p>

授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の基礎を固める。  「大学での学習に必要な日本語能力」レベル2のクラスである。  大学での学習に必要な日本語能力、特にレジュメやスライドなどを見ながら講義を聞き、テキストを読んで理解することができるようになる。  筆記試験やコメントシート、レポートなどの文章を書く学習の準備が整う。  読解文中にある、漢字・語彙・文法の意味がとれるようになる。  数パラグラフからなる、主に社会科学分野の数パラグラフからなる説明文・論説文から効率よく必要な情報を取り出すことができる。  未習語彙などが少しあっても、一般的・社会的な内容諺、テーマに関係のある3分程度の短い話の要点がつかめ、重要な語彙などの簡単なメモが取れる。支援を受ければ、段落構成・接続詞・文末表現などをある程度正しく使い、短い説明文を書くことができる。</p>
評価方法	<p>授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）と提出された課題などから算出して評価する。</p> <p>期末試験は実施しません</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特段の配慮が必要ではない4回以上の欠席があった場合には失格となる。  欠席する場合には、事情を含め、担当教員に連絡すること。  ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要があります。</p>
授業計画	<p>・1回目の授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。  ・この科目は、「アカデミック日本語レベル3」に接続する。  このクラスでは次のことを行う計画である。  1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。  2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。  3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学び、書けるようになる。  4) 多読を通して読む習慣を形成する。  5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート（この授業や授業外における学習状況を記入）活動  1. 予習（読解、記述）  2. 講義理解・レポート作成のための活動  3. 学習管理  流れ  1. 読解・記述  予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。  多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。  2. レポート作成のルールを知る  テーマを決め、レポートの作成に必要なことを学ぶ。レポートの書き方を真似る。  3. 協同学習  公式の場（ゼミ、面接、観客などがある発表の場など）を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。</p>
テキスト	<p>大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。  <a href="https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/">https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/</a>  他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。</p>
参考書	<p>『大学生学びのハンドブック』（基礎演習の参考文献）  <a href="https://quizlet.com/meikeiacademic">https://quizlet.com/meikeiacademic</a>  大学生になるための漢字500（名経大入学前教育課題）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>・課題を決め、テーマに関する日本語の文章を探したり、読んだりする。  ・3人ずつくらいのグループに分かれ、読んだ情報を確認する。  ・質疑応答を行う。  ・テーマは、大学生活に関わるもので（「SDG's」「履修中の授業で学んでいること」など）発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときに活用できるようにする。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>担当教員の授業の前後、適宜グーグルクラスルームなどで質問すること。  そのほか、日本語科目担当（nihongo@nagoya-ku.ac.jp）のオフィスアワーでも対応する。</p>
フィードバックの方法	<p>課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグーグルクラスルームなどを通じて実施する。</p>

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	Q2(留)アカデミック日本語レベル2(月4,木4) / Academic Japanese level2
時間割コード Course Code	14203
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4, 木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	渡邊 真
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	渡邊 真 (経営学部)
授業の目標	<p>「知識・理解の領域」</p> <p>日本の大学での学習に必要な漢字、語彙(ごい)、文法を整理し、知識を増やす。 日本語で講義を聴く際にどのように大切なところを理解し、必要に応じてメモが取れるようになる。</p> <p>図書館を活用し、資料の探したり、読書習慣が身に付くようになる。 日本の大学で求められるレポートについて、基本ルールに沿って書くことが意識できるようになる。</p> <p>日本語で数パラグラフの説明文や要約を書く上で必要な、段落構成・接続詞・文末表現などの用法を知る。 グループディスカッションやプレゼンテーション(プレゼン)を通して、日本ではどのような発表がよいと評価されるのかを知る。</p> <p>「態度・志向性の領域」</p> <p>人の発表を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。 自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作ることができる。</p> <p>「技能の領域」</p> <p>数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を身につけ、活用できる。 社会科学分野に関連する既知(きち)のテーマであれば、テーマのある3分程度の短い話の要点がつかめる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」</p> <p>自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないときには尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解し、実践できる。</p>

授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の基礎を固める。  「大学での学習に必要な日本語能力」レベル2のクラスである。  大学での学習に必要な日本語能力、特にレジュメやスライドなどを見ながら講義を聞き、テキストを読んで理解することができるようになる。  筆記試験やコメントシート、レポートなどの文章を書く学習の準備が整う。  読解文中にある、漢字・語彙・文法の意味がとれるようになる。  数パラグラフからなる、主に社会科学分野の数パラグラフからなる説明文・論説文から効率よく必要な情報を取り出すことができる。  未習語彙などが少しあっても、一般的・社会的な内容諺、テーマに関係のある3分程度の短い話の要点がつかめ、重要な語彙などの簡単なメモが取れる。支援を受ければ、段落構成・接続詞・文末表現などをある程度正しく使い、短い説明文を書くことができる。</p>
評価方法	<p>授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）と提出された課題などから算出して評価する。</p> <p>期末試験は実施しません</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特段の配慮が必要ではない4回以上の欠席があった場合には失格となる。  欠席する場合には、事情を含め、担当教員に連絡すること。  ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要がある。</p>
授業計画	<p>・1回目の授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。  ・この科目は、「アカデミック日本語レベル3」に接続する。  このクラスでは次のことを行う計画である。  1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。  2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。  3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学び、書けるようになる。  4) 多読を通して読む習慣を形成する。  5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート（この授業や授業外における学習状況を記入）活動</p> <p>1. 予習（読解、記述）  2. 講義理解・レポート作成のための活動  3. 学習管理  流れ  1. 読解・記述</p> <p>予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。  多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。</p> <p>2. レポート作成のルールを知る  テーマを決め、レポートの作成に必要なことを学ぶ。レポートの書き方を真似る。  3. 協同学習  公式の場（ゼミ、面接、観客などがある発表の場など）を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。</p>
テキスト	<p>大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。  <a href="https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/">https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/</a>  他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。</p>
参考書	<p>『大学生学びのハンドブック』（基礎演習の参考文献）  <a href="https://quizlet.com/meikeiacademic">https://quizlet.com/meikeiacademic</a>  大学生になるための漢字500（名経大入学前教育課題）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>・課題を決め、テーマに関する日本語の文章を探したり、読んだりする。  ・3人ずつくらいのグループに分かれ、読んだ情報を確認する。  ・質疑応答を行う。  ・テーマは、大学生活に関わるもので（「SDG's」「履修中の授業で学んでいること」など）発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときに活用できるようにする。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>担当教員の授業の前後、適宜グーグルクラスルームなどで質問すること。  そのほか、日本語科目担当（nihongo@nagoya-ku.ac.jp）のオフィスアワーでも対応する。</p>
フィードバックの方法	<p>課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグーグルクラスルームなどを通じて実施する。</p>

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	Q2(留)アカデミック日本語レベル2(月4,木4) / Academic Japanese level2
時間割コード Course Code	14204
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4, 木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	柴倉 映子
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	柴倉 映子 (経営学部)、立見 洸貴 (経営学部)
授業の目標	<p>「知識・理解の領域」</p> <p>日本の大学での学習に必要な漢字、語彙(ごい)、文法を整理し、知識を増やす。 日本語で講義を聴く際にどのように大切なところを理解し、必要に応じてメモが取れるようになる。</p> <p>図書館を活用し、資料の探したり、読書習慣が身に付くようになる。 日本の大学で求められるレポートについて、基本ルールに沿って書くことが意識できるようになる。</p> <p>日本語で数パラグラフの説明文や要約を書く上で必要な、段落構成・接続詞・文末表現などの用法を知る。 グループディスカッションやプレゼンテーション(プレゼン)を通して、日本ではどのような発表がよいと評価されるのかを知る。</p> <p>「態度・志向性の領域」</p> <p>人の発表を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。 自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作ることができる。</p> <p>「技能の領域」</p> <p>数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を身につけ、活用できる。 社会科学分野に関連する既知(きち)のテーマであれば、テーマのある3分程度の短い話の要点がつかめる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」</p> <p>自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないときには尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解し、実践できる。</p>

授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の基礎を固める。  「大学での学習に必要な日本語能力」レベル2のクラスである。  大学での学習に必要な日本語能力、特にレジュメやスライドなどを見ながら講義を聞き、テキストを読んで理解することができるようになる。  筆記試験やコメントシート、レポートなどの文章を書く学習の準備が整う。  読解文中にある、漢字・語彙・文法の意味がとれるようになる。  数パラグラフからなる、主に社会科学分野の数パラグラフからなる説明文・論説文から効率よく必要な情報を取り出すことができる。  未習語彙などが少しあっても、一般的・社会的な内容諺、テーマに関係のある3分程度の短い話の要点がつかめ、重要な語彙などの簡単なメモが取れる。支援を受ければ、段落構成・接続詞・文末表現などある程度正しく使い、短い説明文を書くことができる。</p>
評価方法	<p>授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）と提出された課題などから算出して評価する。</p> <p>期末試験は実施しません</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特段の配慮が必要ではない4回以上の欠席があった場合には失格となる。  欠席する場合には、事情を含め、担当教員に連絡すること。  ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要があります。</p>
授業計画	<p>・1回目の授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。  ・この科目は、「アカデミック日本語レベル3」に接続する。  このクラスでは次のことを行う計画である。  1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。  2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。  3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学び、書けるようになる。  4) 多読を通して読む習慣を形成する。  5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート（この授業や授業外における学習状況を記入）活動</p> <p>1. 予習（読解、記述）  2. 講義理解・レポート作成のための活動  3. 学習管理  流れ  1. 読解・記述</p> <p>予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。  多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。</p> <p>2. レポート作成のルールを知る  テーマを決め、レポートの作成に必要なことを学ぶ。レポートの書き方を真似る。  3. 協同学習  公式の場（ゼミ、面接、観客などがある発表の場など）を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。</p>
テキスト	<p>大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。  <a href="https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/">https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/</a>  他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。</p>
参考書	<p>『大学生学びのハンドブック』（基礎演習の参考文献）  <a href="https://quizlet.com/meikeiacademic">https://quizlet.com/meikeiacademic</a>  大学生になるための漢字500（名経大入学前教育課題）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>・課題を決め、テーマに関する日本語の文章を探したり、読んだりする。  ・3人ずつくらいのグループに分かれ、読んだ情報を確認する。  ・質疑応答を行う。  ・テーマは、大学生活に関わるもので（「SDG's」「履修中の授業で学んでいること」など）発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときに活用できるようにする。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>担当教員の授業の前後、適宜グーグルクラスルームなどで質問すること。  そのほか、日本語科目担当（nihongo@nagoya-ku.ac.jp）のオフィスアワーでも対応する。</p>
フィードバックの方法	<p>課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグーグルクラスルームなどを通じて実施する。</p>



予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	Q2(留)アカデミック日本語レベル2(月4,木4) / Academic Japanese level2
時間割コード Course Code	14205
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4, 木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	稲垣 理香
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	稲垣 理香 (経営学部)
授業の目標	<p>「知識・理解の領域」</p> <p>日本の大学での学習に必要な漢字、語彙(ごい)、文法を整理し、知識を増やす。 日本語で講義を聴く際にどのように大切なところを理解し、必要に応じてメモが取れるようになる。</p> <p>図書館を活用し、資料の探したり、読書習慣が身に付くようになる。 日本の大学で求められるレポートについて、基本ルールに沿って書くことが意識できるようになる。</p> <p>日本語で数パラグラフの説明文や要約を書く上で必要な、段落構成・接続詞・文末表現などの用法を知る。 グループディスカッションやプレゼンテーション(プレゼン)を通して、日本ではどのような発表がよいと評価されるのかを知る。</p> <p>「態度・志向性の領域」</p> <p>人の発表を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。 自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作ることができる。</p> <p>「技能の領域」</p> <p>数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を身につけ、活用できる。 社会科学分野に関連する既知(きち)のテーマであれば、テーマのある3分程度の短い話の要点がつかめる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」</p> <p>自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないときには尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解し、実践できる。</p>

授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の基礎を固める。  「大学での学習に必要な日本語能力」レベル2のクラスである。  大学での学習に必要な日本語能力、特にレジュメやスライドなどを見ながら講義を聞き、テキストを読んで理解することができるようになる。  筆記試験やコメントシート、レポートなどの文章を書く学習の準備が整う。  読解文中にある、漢字・語彙・文法の意味がとれるようになる。  数パラグラフからなる、主に社会科学分野の数パラグラフからなる説明文・論説文から効率よく必要な情報を取り出すことができる。  未習語彙などが少しあっても、一般的・社会的な内容諺、テーマに関係のある3分程度の短い話の要点がつかめ、重要な語彙などの簡単なメモが取れる。支援を受ければ、段落構成・接続詞・文末表現などをある程度正しく使い、短い説明文を書くことができる。</p>
評価方法	<p>授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）と提出された課題などから算出して評価する。</p> <p>期末試験は実施しません</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特段の配慮が必要ではない4回以上の欠席があった場合には失格となる。  欠席する場合には、事情を含め、担当教員に連絡すること。  ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要がある。</p>
授業計画	<p>・1回目の授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。  ・この科目は、「アカデミック日本語レベル3」に接続する。  このクラスでは次のことを行う計画である。  1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。  2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。  3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学び、書けるようになる。  4) 多読を通して読む習慣を形成する。  5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート（この授業や授業外における学習状況を記入）活動</p> <p>1. 予習（読解、記述）  2. 講義理解・レポート作成のための活動  3. 学習管理  流れ  1. 読解・記述</p> <p>予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。  多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。</p> <p>2. レポート作成のルールを知る  テーマを決め、レポートの作成に必要なことを学ぶ。レポートの書き方を真似る。  3. 協同学習  公式の場（ゼミ、面接、観客などがある発表の場など）を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。</p>
テキスト	<p>大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。  <a href="https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/">https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/</a>  他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。</p>
参考書	<p>『大学生学びのハンドブック』（基礎演習の参考文献）  <a href="https://quizlet.com/meikeiacademic">https://quizlet.com/meikeiacademic</a>  大学生になるための漢字500（名経大入学前教育課題）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>・課題を決め、テーマに関する日本語の文章を探したり、読んだりする。  ・3人ずつくらいのグループに分かれ、読んだ情報を確認する。  ・質疑応答を行う。  ・テーマは、大学生活に関わるもので（「SDG's」「履修中の授業で学んでいること」など）発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときに活用できるようにする。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>担当教員の授業の前後、適宜グーグルクラスルームなどで質問すること。  そのほか、日本語科目担当（nihongo@nagoya-ku.ac.jp）のオフィスアワーでも対応する。</p>
フィードバックの方法	<p>課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグーグルクラスルームなどを通じて実施する。</p>

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> <li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li> <li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> <li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 住み続けられるまちづくりを</li> <li>12. つくる責任つかう責任</li> <li>13. 気候変動に具体的な対策を</li> <li>14. 海の豊かさを守ろう</li> <li>15. 陸の豊かさを守ろう</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> <li>17. パートナリーシップで目標を達成しよう</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>3. 統率力</li> <li>4. 感情制御力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>6. 行動持続力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

開講科目名 Course	Q3(留)アカデミック日本語レベル2(月3,木3) / Academic Japanese level2
時間割コード Course Code	14206
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	柴倉 映子
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	70A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	柴倉 映子(経営学部)、澤木 美晴(経営学部)
授業の目標	<p>「知識・理解の領域」</p> <p>日本の大学での学習に必要な漢字、語彙(ごい)、文法を整理し、知識を増やす。 日本語で講義を聴く際にどのように大切なところを理解し、必要に応じてメモが取れるようになる。</p> <p>図書館を活用し、資料の探したり、読書習慣が身に付くようになる。 日本の大学で求められるレポートについて、基本ルールに沿って書くことが意識できるようになる。</p> <p>日本語で数パラグラフの説明文や要約を書く上で必要な、段落構成・接続詞・文末表現などの用法を知る。 グループディスカッションやプレゼンテーション(プレゼン)を通して、日本ではどのような発表がよいと評価されるのかを知る。</p> <p>「態度・志向性の領域」</p> <p>人の発表を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。 自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作ることができる。</p> <p>「技能の領域」</p> <p>数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を身につけ、活用できる。 社会科学分野に関連する既知(きち)のテーマであれば、テーマのある3分程度の短い話の要点がつかめる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」</p> <p>自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないときには尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解し、実践できる。</p>

授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の基礎を固める。  「大学での学習に必要な日本語能力」レベル2のクラスである。  大学での学習に必要な日本語能力、特にレジュメやスライドなどを見ながら講義を聞き、テキストを読んで理解することができるようになる。  筆記試験やコメントシート、レポートなどの文章を書く学習の準備が整う。  読解文中にある、漢字・語彙・文法の意味がとれるようになる。  数パラグラフからなる、主に社会科学分野の数パラグラフからなる説明文・論説文から効率よく必要な情報を取り出すことができる。  未習語彙などが少しあっても、一般的・社会的な内容諺、テーマに関係のある3分程度の短い話の要点がつかめ、重要な語彙などの簡単なメモが取れる。支援を受ければ、段落構成・接続詞・文末表現などをある程度正しく使い、短い説明文を書くことができる。</p>
評価方法	<p>授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）と提出された課題などから算出して評価する。</p> <p>期末試験は実施しません</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特段の配慮が必要ではない5回以上の欠席があった場合には失格となる。  欠席する場合には、事情を含め、担当教員に連絡すること。  ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要があります。</p>
授業計画	<p>・1回目の授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。  ・この科目は、「アカデミック日本語レベル3」に接続する。  このクラスでは次のことを行う計画である。  1) 大学での学習に必要なとなる漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。  2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。  3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学び、書けるようになる。  4) 多読を通して読む習慣を形成する。  5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート（この授業や授業外における学習状況を記入）活動</p> <p>1. 予習（読解、記述）  2. 講義理解・レポート作成のための活動  3. 学習管理  流れ  1. 読解・記述</p> <p>予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。  多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。</p> <p>2. レポート作成のルールを知る  テーマを決め、レポートの作成に必要なことを学ぶ。レポートの書き方を真似る。  3. 協同学習  公式の場（ゼミ、面接、観客などがある発表の場など）を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。</p>
テキスト	<p>大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。  <a href="https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/">https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/</a>  他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。</p>
参考書	<p>『大学生学びのハンドブック』（基礎演習の参考文献）  <a href="https://quizlet.com/meikeiacademic">https://quizlet.com/meikeiacademic</a>  大学生になるための漢字500（名経大入学前教育課題）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>・課題を決め、テーマに関する日本語の文章を探したり、読んだりする。  ・3人ずつくらいのグループに分かれ、読んだ情報を確認する。  ・質疑応答を行う。  ・テーマは、大学生活に関わるもので（「SDG's」「履修中の授業で学んでいること」など）発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときに活用できるようにする。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>担当教員の授業の前後、適宜グーグルクラスルームなどで質問すること。  そのほか、日本語科目担当（nihongo@nagoya-ku.ac.jp）のオフィスアワーでも対応する。</p>
フィードバックの方法	<p>課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグーグルクラスルームなどを通じて実施する。</p>

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11~17)	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	Q3(留)アカデミック日本語レベル3(月3,木3) / Academic Japanese level3
時間割コード Course Code	14300
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	渡邊 真
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	渡邊 真(経営学部)
授業の目標	<p>「態度・志向性の領域」 講義を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。 自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作り、活用することができる。</p> <p>「技能の領域」 数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を身につけ、活用し、まとめられる。 社会科学分野に関連する既知(きち)のテーマであれば、テーマのある話の要点をつかみ、まとめられる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」 自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明し、相手の理解を確認することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないポイントを整理して尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解し、実践し、相手の反応をみて調整しようとするすることができる</p>
授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の学び方を知る。 「大学での学習に必要な日本語能力」レベル3のクラスである。 大学での学習、特に講義を聞き、テキストを読んで理解すること、筆記試験やレポートなどの文章を書くこと、に取り組むための方略を知る。 講義のテキストや資料から、用語など単純な事項の予習ができる。 講義の構造を知り、講義のどの部分に注意を向けて聞けばよいかわかる。 キーワードを理解し、メモが取れる。 大学の各科目で学んでいるテーマに関する、10パラグラフ程度読文章を辞書を引ながら読み、内容に関する質問に答えることができる。 勉強したことをまとめたり記憶したりするための自分なりの方法を試す。 論述形式の試験や、数パラグラフの説明文・論説文の構造及び文法を知っている。</p>



評価方法	授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）や提出された課題などをもとに算出して評価する。  期末試験は実施しません
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特段の配慮が必要ではない5回以上の欠席があった場合には失格となる。 欠席する場合には、事情を含め、担当教員に連絡を入れること。 ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要があります。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1回めの授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。</li> <li>・ この科目は、「アカデミック日本語レベル4」に接続する。</li> </ul> このクラスでは次のことを行う計画である。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。</li> <li>2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。</li> <li>3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学び、書けるようになる。</li> <li>4) 多読を通して読む習慣を形成する。</li> <li>5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート(この授業や授業外における学習状況を記入)</li> </ol> 活動 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習(読解、記述)</li> <li>2. 講義理解・レポート作成のための活動</li> <li>3. 学習管理</li> </ol> 流れ <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 読解・記述</li> </ol> 予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。 多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>2. レポート作成のルールを知る</li> </ol> テーマを決め、レポートの作成に必要なことを学ぶ。レポートの書き方を真似る。 <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 協同学習</li> </ol> 公式の場(ゼミ、面接、観客などがある発表の場など)を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。
テキスト	大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。 <a href="https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/">https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/</a> 他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	『大学生学びのハンドブック』(基礎演習の参考文献) <a href="https://quizlet.com/meikeiacademic">https://quizlet.com/meikeiacademic</a> 大学生になるための漢字500(名経大入学前教育課題)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題を決め、テーマに関する日本語の文章を批判的に読んだりする。</li> <li>・ 3人ずつくらいのグループに分かれ、情報を確認し、整理して意見を述べ合う。</li> <li>・ 質疑応答を行う。</li> <li>・ テーマは、専門分野に関わるもので(「SDG's」「履修中の授業で学んでいること」など)発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときに有効に活用できるようにする。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	担当教員の授業の前後、適宜グループクラスルームなどで質問すること。 日本語科目担当のオフィスアワーでも対応するので、まずはメール(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡をすること。
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグループクラスルームなどを通じて実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標 (1~10)	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 貧困をなくそう</li><li>10. 人や国の不平等をなくそう</li><li>2. 飢餓をゼロに</li><li>3. すべての人に健康と福祉を</li><li>4. 質の高い教育をみんなに</li><li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li><li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li><li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li><li>8. 働きがいも経済成長も</li><li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li></ol>
SDGs 17の目標 (11~17)	<ol style="list-style-type: none"><li>11. 住み続けられるまちづくりを</li><li>12. つくる責任つかう責任</li><li>13. 気候変動に具体的な対策を</li><li>14. 海の豊かさを守ろう</li><li>15. 陸の豊かさを守ろう</li><li>16. 平和と公正をすべての人に</li><li>17. パートナリシップで目標を達成しよう</li></ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 情報収集力</li><li>2. 情報分析力</li><li>3. 課題発見力</li><li>4. 構想力</li></ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>4. 感情制御力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>

開講科目名 Course	Q3(留)アカデミック日本語レベル3(月3,木3) / Academic Japanese level3
時間割コード Course Code	14301
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	アルベケル アンドラーシ ジグモンド
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	アルベケル アンドラーシ ジグモンド (経営学部)
授業の目標	<p>「態度・志向性の領域」 講義を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。 自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作り、活用することができる。</p> <p>「技能の領域」 数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を身につけ、活用し、まとめられる。 社会科学分野に関連する既知(きち)のテーマであれば、テーマのある話の要点をつかみ、まとめられる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」 自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明し、相手の理解を確認することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないポイントを整理して尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解し、実践し、相手の反応をみて調整しようとするすることができる</p>
授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の学び方を知る。 「大学での学習に必要な日本語能力」レベル3のクラスである。 大学での学習、特に講義を聞き、テキストを読んで理解すること、筆記試験やレポートなどの文章を書くこと、に取り組むための方略を知る。 講義のテキストや資料から、用語など単純な事項の予習ができる。 講義の構造を知り、講義のどの部分に注意を向けて聞けばよいかわかる。 キーワードを理解し、メモが取れる。 大学の各科目で学んでいるテーマに関する、10パラグラフ程度読文章を辞書を引ながら読み、内容に関する質問に答えることができる。 勉強したことをまとめたり記憶したりするための自分なりの方法を試す。 論述形式の試験や、数パラグラフの説明文・論説文の構造及び文法を知っている。</p>

評価方法	授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）や提出された課題などをもとに算出して評価する。  期末試験は実施しません
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特段の配慮が必要ではない5回以上の欠席があった場合には失格となる。 欠席する場合には、事情を含め、担当教員に連絡を入れること。 ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要があります。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1回めの授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。</li> <li>・ この科目は、「アカデミック日本語レベル4」に接続する。</li> </ul> このクラスでは次のことを行う計画である。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。</li> <li>2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。</li> <li>3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学び、書けるようになる。</li> <li>4) 多読を通して読む習慣を形成する。</li> <li>5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート(この授業や授業外における学習状況を記入)</li> </ol> 活動 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習(読解、記述)</li> <li>2. 講義理解・レポート作成のための活動</li> <li>3. 学習管理</li> </ol> 流れ <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 読解・記述</li> </ol> 予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。 多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>2. レポート作成のルールを知る</li> </ol> テーマを決め、レポートの作成に必要なことを学ぶ。レポートの書き方を真似る。 <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 協同学習</li> </ol> 公式の場(ゼミ、面接、観客などがある発表の場など)を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。
テキスト	大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。 <a href="https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/">https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/</a> 他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	『大学生学びのハンドブック』(基礎演習の参考文献) <a href="https://quizlet.com/meikeiacademic">https://quizlet.com/meikeiacademic</a> 大学生になるための漢字500(名経大入学前教育課題)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題を決め、テーマに関する日本語の文章を批判的に読んだりする。</li> <li>・ 3人ずつくらいのグループに分かれ、情報を確認し、整理して意見を述べ合う。</li> <li>・ 質疑応答を行う。</li> <li>・ テーマは、専門分野に関わるもので(「SDG's」「履修中の授業で学んでいること」など)発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときに有効に活用できるようにする。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	担当教員の授業の前後、適宜グループクラスルームなどで質問すること。 日本語科目担当のオフィスアワーでも対応するので、まずはメール(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡をすること。
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグループクラスルームなどを通じて実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標 (1~10)	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 貧困をなくそう</li><li>10. 人や国の不平等をなくそう</li><li>2. 飢餓をゼロに</li><li>3. すべての人に健康と福祉を</li><li>4. 質の高い教育をみんなに</li><li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li><li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li><li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li><li>8. 働きがいも経済成長も</li><li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li></ol>
SDGs 17の目標 (11~17)	<ol style="list-style-type: none"><li>11. 住み続けられるまちづくりを</li><li>12. つくる責任つかう責任</li><li>13. 気候変動に具体的な対策を</li><li>14. 海の豊かさを守ろう</li><li>15. 陸の豊かさを守ろう</li><li>16. 平和と公正をすべての人に</li><li>17. パートナリシップで目標を達成しよう</li></ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 情報収集力</li><li>2. 情報分析力</li><li>3. 課題発見力</li><li>4. 構想力</li></ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>4. 感情制御力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>

開講科目名 Course	Q3(留)アカデミック日本語レベル3(月3,木3) / Academic Japanese level3
時間割コード Course Code	14302
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	稲垣 理香
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	稲垣 理香 (経営学部)
授業の目標	<p>「態度・志向性の領域」</p> <p>講義を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。</p> <p>自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作り、活用することができる。</p> <p>「技能の領域」</p> <p>数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を身につけ、活用し、まとめられる。 社会科学分野に関連する既知(きち)のテーマであれば、テーマのある話の要点をつかみ、まとめられる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」</p> <p>自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明し、相手の理解を確認することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないポイントを整理して尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解し、実践し、相手の反応をみて調整しようとするすることができる</p>
授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の学び方を知る。 「大学での学習に必要な日本語能力」レベル3のクラスである。 大学での学習、特に講義を聞き、テキストを読んで理解すること、筆記試験やレポートなどの文章を書くこと、に取り組むための方略を知る。 講義のテキストや資料から、用語など単純な事項の予習ができる。 講義の構造を知り、講義のどの部分に注意を向けて聞けばよいかわかる。 キーワードを理解し、メモが取れる。 大学の各科目で学んでいるテーマに関する、10パラグラフ程度読文章を辞書を引ながら読み、内容に関する質問に答えることができる。 勉強したことをまとめたり記憶したりするための自分なりの方法を試す。 論述形式の試験や、数パラグラフの説明文・論説文の構造及び文法を知っている。</p>

評価方法	授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）や提出された課題などをもとに算出して評価する。  期末試験は実施しません
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特段の配慮が必要ではない5回以上の欠席があった場合には失格となる。 欠席する場合には、事情を含め、担当教員に連絡を入れること。 ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要があります。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1回めの授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。</li> <li>・ この科目は、「アカデミック日本語レベル4」に接続する。</li> </ul> このクラスでは次のことを行う計画である。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。</li> <li>2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。</li> <li>3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学び、書けるようになる。</li> <li>4) 多読を通して読む習慣を形成する。</li> <li>5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート(この授業や授業外における学習状況を記入)</li> </ol> 活動 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習(読解、記述)</li> <li>2. 講義理解・レポート作成のための活動</li> <li>3. 学習管理</li> </ol> 流れ <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 読解・記述</li> </ol> 予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。 多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>2. レポート作成のルールを知る</li> </ol> テーマを決め、レポートの作成に必要なことを学ぶ。レポートの書き方を真似る。 <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 協同学習</li> </ol> 公式の場(ゼミ、面接、観客などがある発表の場など)を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。
テキスト	大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。 <a href="https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/">https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/</a> 他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	『大学生学びのハンドブック』(基礎演習の参考文献) <a href="https://quizlet.com/meikeiacademic">https://quizlet.com/meikeiacademic</a> 大学生になるための漢字500(名経大入学前教育課題)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題を決め、テーマに関する日本語の文章を批判的に読んだりする。</li> <li>・ 3人ずつくらいのグループに分かれ、情報を確認し、整理して意見を述べ合う。</li> <li>・ 質疑応答を行う。</li> <li>・ テーマは、専門分野に関わるもので(「SDG's」「履修中の授業で学んでいること」など)発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときに有効に活用できるようにする。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	担当教員の授業の前後、適宜グループクラスルームなどで質問すること。 日本語科目担当のオフィスアワーでも対応するので、まずはメール(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡をすること。
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグループクラスルームなどを通じて実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標 (1~10)	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 貧困をなくそう</li><li>10. 人や国の不平等をなくそう</li><li>2. 飢餓をゼロに</li><li>3. すべての人に健康と福祉を</li><li>4. 質の高い教育をみんなに</li><li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li><li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li><li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li><li>8. 働きがいも経済成長も</li><li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li></ol>
SDGs 17の目標 (11~17)	<ol style="list-style-type: none"><li>11. 住み続けられるまちづくりを</li><li>12. つくる責任つかう責任</li><li>13. 気候変動に具体的な対策を</li><li>14. 海の豊かさを守ろう</li><li>15. 陸の豊かさを守ろう</li><li>16. 平和と公正をすべての人に</li><li>17. パートナリシップで目標を達成しよう</li></ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 情報収集力</li><li>2. 情報分析力</li><li>3. 課題発見力</li><li>4. 構想力</li></ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>4. 感情制御力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>



開講科目名 Course	Q3(留)アカデミック日本語レベル3(月4,木4) / Academic Japanese level3
時間割コード Course Code	14303
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4, 木 / Thu 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	渡邊 真
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	渡邊 真 (経営学部)
授業の目標	<p>「態度・志向性の領域」 講義を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。 自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作り、活用することができる。</p> <p>「技能の領域」 数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を身につけ、活用し、まとめられる。 社会科学分野に関連する既知(きち)のテーマであれば、テーマのある話の要点をつかみ、まとめられる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」 自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明し、相手の理解を確認することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないポイントを整理して尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解し、実践し、相手の反応をみて調整しようとするすることができる</p>
授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の学び方を知る。 「大学での学習に必要な日本語能力」レベル3のクラスである。 大学での学習、特に講義を聞き、テキストを読んで理解すること、筆記試験やレポートなどの文章を書くこと、に取り組むための方略を知る。 講義のテキストや資料から、用語など単純な事項の予習ができる。 講義の構造を知り、講義のどの部分に注意を向けて聞けばよいかわかる。 キーワードを理解し、メモが取れる。 大学の各科目で学んでいるテーマに関する、10パラグラフ程度読文章を辞書を引ながら読み、内容に関する質問に答えることができる。 勉強したことをまとめたり記憶したりするための自分なりの方法を試す。 論述形式の試験や、数パラグラフの説明文・論説文の構造及び文法を知っている。</p>

評価方法	授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）や提出された課題などをもとに算出して評価する。  期末試験は実施しません
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特段の配慮が必要ではない5回以上の欠席があった場合には失格となる。 欠席する場合には、事情を含め、担当教員に連絡を入れること。 ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要があります。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1回めの授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。</li> <li>・ この科目は、「アカデミック日本語レベル4」に接続する。</li> </ul> このクラスでは次のことを行う計画である。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。</li> <li>2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。</li> <li>3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学び、書けるようになる。</li> <li>4) 多読を通して読む習慣を形成する。</li> <li>5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート(この授業や授業外における学習状況を記入)</li> </ol> 活動 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習(読解、記述)</li> <li>2. 講義理解・レポート作成のための活動</li> <li>3. 学習管理</li> </ol> 流れ <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 読解・記述</li> </ol> 予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。 多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>2. レポート作成のルールを知る</li> </ol> テーマを決め、レポートの作成に必要なことを学ぶ。レポートの書き方を真似る。 <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 協同学習</li> </ol> 公式の場(ゼミ、面接、観客などがある発表の場など)を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。
テキスト	大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。 <a href="https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/">https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/</a> 他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	『大学生学びのハンドブック』(基礎演習の参考文献) <a href="https://quizlet.com/meikeiacademic">https://quizlet.com/meikeiacademic</a> 大学生になるための漢字500(名経大入学前教育課題)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題を決め、テーマに関する日本語の文章を批判的に読んだりする。</li> <li>・ 3人ずつくらいのグループに分かれ、情報を確認し、整理して意見を述べ合う。</li> <li>・ 質疑応答を行う。</li> <li>・ テーマは、専門分野に関わるもので(「SDG's」「履修中の授業で学んでいること」など)発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときに有効に活用できるようにする。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	担当教員の授業の前後、適宜グループクラスルームなどで質問すること。 日本語科目担当のオフィスアワーでも対応するので、まずはメール(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡をすること。
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグループクラスルームなどを通じて実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標 (1~10)	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 貧困をなくそう</li><li>10. 人や国の不平等をなくそう</li><li>2. 飢餓をゼロに</li><li>3. すべての人に健康と福祉を</li><li>4. 質の高い教育をみんなに</li><li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li><li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li><li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li><li>8. 働きがいも経済成長も</li><li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li></ol>
SDGs 17の目標 (11~17)	<ol style="list-style-type: none"><li>11. 住み続けられるまちづくりを</li><li>12. つくる責任つかう責任</li><li>13. 気候変動に具体的な対策を</li><li>14. 海の豊かさを守ろう</li><li>15. 陸の豊かさを守ろう</li><li>16. 平和と公正をすべての人に</li><li>17. パートナースhipで目標を達成しよう</li></ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 情報収集力</li><li>2. 情報分析力</li><li>3. 課題発見力</li><li>4. 構想力</li></ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>4. 感情制御力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>

開講科目名 Course	Q3(留)アカデミック日本語レベル3(月4,木4) / Academic Japanese level3
時間割コード Course Code	14304
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4, 木 / Thu 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	アルベケル アンドラーシ ジグモンド
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	アルベケル アンドラーシ ジグモンド (経営学部)
授業の目標	<p>「態度・志向性の領域」 講義を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。 自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作り、活用することができる。</p> <p>「技能の領域」 数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を身につけ、活用し、まとめられる。 社会科学分野に関連する既知(きち)のテーマであれば、テーマのある話の要点をつかみ、まとめられる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」 自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明し、相手の理解を確認することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないポイントを整理して尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解し、実践し、相手の反応をみて調整しようとするすることができる</p>
授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の学び方を知る。 「大学での学習に必要な日本語能力」レベル3のクラスである。 大学での学習、特に講義を聞き、テキストを読んで理解すること、筆記試験やレポートなどの文章を書くこと、に取り組むための方略を知る。 講義のテキストや資料から、用語など単純な事項の予習ができる。 講義の構造を知り、講義のどの部分に注意を向けて聞けばよいかわかる。 キーワードを理解し、メモが取れる。 大学の各科目で学んでいるテーマに関する、10パラグラフ程度読文章を辞書を引ながら読み、内容に関する質問に答えることができる。 勉強したことをまとめたり記憶したりするための自分なりの方法を試す。 論述形式の試験や、数パラグラフの説明文・論説文の構造及び文法を知っている。</p>

評価方法	授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）や提出された課題などをもとに算出して評価する。  期末試験は実施しません
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特段の配慮が必要ではない5回以上の欠席があった場合には失格となる。 欠席する場合には、事情を含め、担当教員に連絡を入れること。 ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要があります。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1回めの授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。</li> <li>・ この科目は、「アカデミック日本語レベル4」に接続する。</li> </ul> このクラスでは次のことを行う計画である。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。</li> <li>2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。</li> <li>3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学び、書けるようになる。</li> <li>4) 多読を通して読む習慣を形成する。</li> <li>5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート(この授業や授業外における学習状況を記入)</li> </ol> 活動 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習(読解、記述)</li> <li>2. 講義理解・レポート作成のための活動</li> <li>3. 学習管理</li> </ol> 流れ <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 読解・記述</li> </ol> 予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。 多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>2. レポート作成のルールを知る</li> </ol> テーマを決め、レポートの作成に必要なことを学ぶ。レポートの書き方を真似る。 <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 協同学習</li> </ol> 公式の場(ゼミ、面接、観客などがある発表の場など)を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。
テキスト	大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。 <a href="https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/">https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/</a> 他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	『大学生学びのハンドブック』(基礎演習の参考文献) <a href="https://quizlet.com/meikeiacademic">https://quizlet.com/meikeiacademic</a> 大学生になるための漢字500(名経大入学前教育課題)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題を決め、テーマに関する日本語の文章を批判的に読んだりする。</li> <li>・ 3人ずつくらいのグループに分かれ、情報を確認し、整理して意見を述べ合う。</li> <li>・ 質疑応答を行う。</li> <li>・ テーマは、専門分野に関わるもので(「SDG's」「履修中の授業で学んでいること」など)発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときに有効に活用できるようにする。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	担当教員の授業の前後、適宜グループクラスルームなどで質問すること。 日本語科目担当のオフィスアワーでも対応するので、まずはメール(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡をすること。
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグループクラスルームなどを通じて実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標 (1~10)	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 貧困をなくそう</li><li>10. 人や国の不平等をなくそう</li><li>2. 飢餓をゼロに</li><li>3. すべての人に健康と福祉を</li><li>4. 質の高い教育をみんなに</li><li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li><li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li><li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li><li>8. 働きがいも経済成長も</li><li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li></ol>
SDGs 17の目標 (11~17)	<ol style="list-style-type: none"><li>11. 住み続けられるまちづくりを</li><li>12. つくる責任つかう責任</li><li>13. 気候変動に具体的な対策を</li><li>14. 海の豊かさを守ろう</li><li>15. 陸の豊かさを守ろう</li><li>16. 平和と公正をすべての人に</li><li>17. パートナリシップで目標を達成しよう</li></ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 情報収集力</li><li>2. 情報分析力</li><li>3. 課題発見力</li><li>4. 構想力</li></ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>4. 感情制御力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>

開講科目名 Course	Q3(留)アカデミック日本語レベル3(月4,木4) / Academic Japanese level3
時間割コード Course Code	14305
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4, 木 / Thu 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	稲垣 理香
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	稲垣 理香 (経営学部)
授業の目標	<p>「態度・志向性の領域」  講義を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。  自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。  自ら進んでわからないことを調べるようになる。  プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。  大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。  日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。  自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作り、活用することができる。</p> <p>「技能の領域」  数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を身につけ、活用し、まとめられる。  社会科学分野に関連する既知(きち)のテーマであれば、テーマのある話の要点をつかみ、まとめられる。  自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。  受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」  自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明し、相手の理解を確認することができる。  相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないポイントを整理して尋ねることができる。  自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解し、実践し、相手の反応をみて調整しようとするすることができる</p>
授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の学び方を知る。  「大学での学習に必要な日本語能力」レベル3のクラスである。  大学での学習、特に講義を聞き、テキストを読んで理解すること、筆記試験やレポートなどの文章を書くこと、に取り組むための方略を知る。  講義のテキストや資料から、用語など単純な事項の予習ができる。  講義の構造を知り、講義のどの部分に注意を向けて聞けばよいかわかる。  キーワードを理解し、メモが取れる。  大学の各科目で学んでいるテーマに関する、10パラグラフ程度読文章を辞書を引ながら読み、内容に関する質問に答えることができる。  勉強したことをまとめたり記憶したりするための自分なりの方法を試す。  論述形式の試験や、数パラグラフの説明文・論説文の構造及び文法を知っている。</p>

評価方法	授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）や提出された課題などをもとに算出して評価する。  期末試験は実施しません
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特段の配慮が必要ではない5回以上の欠席があった場合には失格となる。 欠席する場合には、事情を含め、担当教員に連絡を入れること。 ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要があります。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1回めの授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。</li> <li>・ この科目は、「アカデミック日本語レベル4」に接続する。</li> </ul> このクラスでは次のことを行う計画である。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。</li> <li>2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。</li> <li>3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学び、書けるようになる。</li> <li>4) 多読を通して読む習慣を形成する。</li> <li>5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート(この授業や授業外における学習状況を記入)</li> </ol> 活動 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習(読解、記述)</li> <li>2. 講義理解・レポート作成のための活動</li> <li>3. 学習管理</li> </ol> 流れ <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 読解・記述</li> </ol> 予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。 多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>2. レポート作成のルールを知る</li> </ol> テーマを決め、レポートの作成に必要なことを学ぶ。レポートの書き方を真似る。 <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 協同学習</li> </ol> 公式の場(ゼミ、面接、観客などがある発表の場など)を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。
テキスト	大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。 <a href="https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/">https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/</a> 他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	『大学生学びのハンドブック』(基礎演習の参考文献) <a href="https://quizlet.com/meikeiacademic">https://quizlet.com/meikeiacademic</a> 大学生になるための漢字500(名経大入学前教育課題)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題を決め、テーマに関する日本語の文章を批判的に読んだりする。</li> <li>・ 3人ずつくらいのグループに分かれ、情報を確認し、整理して意見を述べ合う。</li> <li>・ 質疑応答を行う。</li> <li>・ テーマは、専門分野に関わるもので(「SDG's」「履修中の授業で学んでいること」など)発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときに有効に活用できるようにする。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	担当教員の授業の前後、適宜グループクラスルームなどで質問すること。 日本語科目担当のオフィスアワーでも対応するので、まずはメール(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡をすること。
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグループクラスルームなどを通じて実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語



SDGs 17の目標 (1~10)	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 貧困をなくそう</li><li>10. 人や国の不平等をなくそう</li><li>2. 飢餓をゼロに</li><li>3. すべての人に健康と福祉を</li><li>4. 質の高い教育をみんなに</li><li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li><li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li><li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li><li>8. 働きがいも経済成長も</li><li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li></ol>
SDGs 17の目標 (11~17)	<ol style="list-style-type: none"><li>11. 住み続けられるまちづくりを</li><li>12. つくる責任つかう責任</li><li>13. 気候変動に具体的な対策を</li><li>14. 海の豊かさを守ろう</li><li>15. 陸の豊かさを守ろう</li><li>16. 平和と公正をすべての人に</li><li>17. パートナースhipで目標を達成しよう</li></ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 情報収集力</li><li>2. 情報分析力</li><li>3. 課題発見力</li><li>4. 構想力</li></ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>4. 感情制御力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>

開講科目名 Course	Q4(留)アカデミック日本語レベル3(月3,木3) / Academic Japanese level3
時間割コード Course Code	14306
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	柴倉 映子
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	70A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	柴倉 映子(経営学部)、澤木 美晴(経営学部)
授業の目標	<p>「態度・志向性の領域」  講義を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。  自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。  自ら進んでわからないことを調べるようになる。  プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。  大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。  日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。  自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作り、活用することができる。</p> <p>「技能の領域」  数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を身につけ、活用し、まとめられる。  社会科学分野に関連する既知(きち)のテーマであれば、テーマのある話の要点をつかみ、まとめられる。  自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。  受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」  自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明し、相手の理解を確認することができる。  相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないポイントを整理して尋ねることができる。  自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解し、実践し、相手の反応をみて調整しようとするすることができる</p>
授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の学び方を知る。  「大学での学習に必要な日本語能力」レベル3のクラスである。  大学での学習、特に講義を聞き、テキストを読んで理解すること、筆記試験やレポートなどの文章を書くこと、に取り組むための方略を知る。  講義のテキストや資料から、用語など単純な事項の予習ができる。  講義の構造を知り、講義のどの部分に注意を向けて聞けばよいかわかる。  キーワードを理解し、メモが取れる。  大学の各科目で学んでいるテーマに関する、10パラグラフ程度読文章を辞書を引ながら読み、内容に関する質問に答えることができる。  勉強したことをまとめたり記憶したりするための自分なりの方法を試す。  論述形式の試験や、数パラグラフの説明文・論説文の構造及び文法を知っている。</p>

評価方法	授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）や提出された課題などをもとに算出して評価する。  期末試験は実施しません
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特段の配慮が必要ではない5回以上の欠席があった場合には失格となる。 欠席する場合には、事情を含め、担当教員に連絡を入れること。 ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要があります。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1回めの授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。</li> <li>・ この科目は、「アカデミック日本語レベル4」に接続する。</li> </ul> このクラスでは次のことを行う計画である。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。</li> <li>2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。</li> <li>3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学び、書けるようになる。</li> <li>4) 多読を通して読む習慣を形成する。</li> <li>5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート(この授業や授業外における学習状況を記入)</li> </ol> 活動 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習(読解、記述)</li> <li>2. 講義理解・レポート作成のための活動</li> <li>3. 学習管理</li> </ol> 流れ <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 読解・記述</li> </ol> 予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。 多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>2. レポート作成のルールを知る</li> </ol> テーマを決め、レポートの作成に必要なことを学ぶ。レポートの書き方を真似る。 <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 協同学習</li> </ol> 公式の場(ゼミ、面接、観客などがある発表の場など)を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。
テキスト	大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。 <a href="https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/">https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/</a> 他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	『大学生学びのハンドブック』(基礎演習の参考文献) <a href="https://quizlet.com/meikeiacademic">https://quizlet.com/meikeiacademic</a> 大学生になるための漢字500(名経大入学前教育課題)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題を決め、テーマに関する日本語の文章を批判的に読んだりする。</li> <li>・ 3人ずつくらいのグループに分かれ、情報を確認し、整理して意見を述べ合う。</li> <li>・ 質疑応答を行う。</li> <li>・ テーマは、専門分野に関わるもので(「SDG's」「履修中の授業で学んでいること」など)発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときに有効に活用できるようにする。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	担当教員の授業の前後、適宜グループクラスルームなどで質問すること。 日本語科目担当のオフィスアワーでも対応するので、まずはメール(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡をすること。
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグループクラスルームなどを通じて実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標 (1~10)	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 貧困をなくそう</li><li>10. 人や国の不平等をなくそう</li><li>2. 飢餓をゼロに</li><li>3. すべての人に健康と福祉を</li><li>4. 質の高い教育をみんなに</li><li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li><li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li><li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li><li>8. 働きがいも経済成長も</li><li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li></ol>
SDGs 17の目標 (11~17)	<ol style="list-style-type: none"><li>11. 住み続けられるまちづくりを</li><li>12. つくる責任つかう責任</li><li>13. 気候変動に具体的な対策を</li><li>14. 海の豊かさを守ろう</li><li>15. 陸の豊かさを守ろう</li><li>16. 平和と公正をすべての人に</li><li>17. パートナリシップで目標を達成しよう</li></ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 情報収集力</li><li>2. 情報分析力</li><li>3. 課題発見力</li><li>4. 構想力</li></ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>4. 感情制御力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>

開講科目名 Course	(留)アカデミック日本語レベル3 / Academic Japanese level3
時間割コード Course Code	14350
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	渡邊 真
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	14C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	渡邊 真 (経営学部)
授業の目標	<p>「態度・志向性の領域」 講義を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。 自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作り、活用することができる。</p> <p>「技能の領域」 数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を身につけ、活用し、まとめられる。 社会科学分野に関連する既知(きち)のテーマであれば、テーマのある話の要点をつかみ、まとめられる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」 自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明し、相手の理解を確認することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないポイントを整理して尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解し、実践し、相手の反応をみて調整しようとするすることができる</p>
授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の学び方を知る。 「大学での学習に必要な日本語能力」レベル3のクラスである。 大学での学習、特に講義を聞き、テキストを読んで理解すること、筆記試験やレポートなどの文章を書くこと、に取り組むための方略を知る。 講義のテキストや資料から、用語など単純な事項の予習ができる。 講義の構造を知り、講義のどの部分に注意を向けて聞けばよいかわかる。 キーワードを理解し、メモが取れる。 大学の各科目で学んでいるテーマに関する、10パラグラフ程度読文章を辞書を引ながら読み、内容に関する質問に答えることができる。 勉強したことをまとめたり記憶したりするための自分なりの方法を試す。 論述形式の試験や、数パラグラフの説明文・論説文の構造及び文法を知っている。</p>

評価方法	授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）や提出された課題などをもとに算出して評価する。  期末試験は実施しません
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特段の配慮が必要ではない4回以上の欠席があった場合には失格となる。 欠席する場合には、事情を含め、担当教員に連絡を入れること。 ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要があります。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1回めの授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。</li> <li>・ この科目は、「アカデミック日本語レベル4」に接続する。</li> </ul> このクラスでは次のことを行う計画である。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。</li> <li>2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。</li> <li>3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学び、書けるようになる。</li> <li>4) 多読を通して読む習慣を形成する。</li> <li>5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート(この授業や授業外における学習状況を記入)</li> </ol> 活動 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習(読解、記述)</li> <li>2. 講義理解・レポート作成のための活動</li> <li>3. 学習管理</li> </ol> 流れ <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 読解・記述</li> </ol> 予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。 多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>2. レポート作成のルールを知る</li> </ol> テーマを決め、レポートの作成に必要なことを学ぶ。レポートの書き方を真似る。 <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 協同学習</li> </ol> 公式の場(ゼミ、面接、観客などがある発表の場など)を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。
テキスト	大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。 <a href="https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/">https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/</a> 他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	『大学生学びのハンドブック』(基礎演習の参考文献) <a href="https://quizlet.com/meikeiacademic">https://quizlet.com/meikeiacademic</a> 大学生になるための漢字500(名経大入学前教育課題)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題を決め、テーマに関する日本語の文章を批判的に読んだりする。</li> <li>・ 3人ずつくらいのグループに分かれ、情報を確認し、整理して意見を述べ合う。</li> <li>・ 質疑応答を行う。</li> <li>・ テーマは、専門分野に関わるもので(「SDG's」「履修中の授業で学んでいること」など)発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときに有効に活用できるようにする。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	担当教員の授業の前後、適宜グループクラスルームなどで質問すること。 日本語科目担当のオフィスアワーでも対応するので、まずはメール(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡をすること。
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグループクラスルームなどを通じて実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標 (1~10)	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 貧困をなくそう</li><li>10. 人や国の不平等をなくそう</li><li>2. 飢餓をゼロに</li><li>3. すべての人に健康と福祉を</li><li>4. 質の高い教育をみんなに</li><li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li><li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li><li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li><li>8. 働きがいも経済成長も</li><li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li></ol>
SDGs 17の目標 (11~17)	<ol style="list-style-type: none"><li>11. 住み続けられるまちづくりを</li><li>12. つくる責任つかう責任</li><li>13. 気候変動に具体的な対策を</li><li>14. 海の豊かさを守ろう</li><li>15. 陸の豊かさを守ろう</li><li>16. 平和と公正をすべての人に</li><li>17. パートナースhipで目標を達成しよう</li></ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 情報収集力</li><li>2. 情報分析力</li><li>3. 課題発見力</li><li>4. 構想力</li></ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>4. 感情制御力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>

開講科目名 Course	Q4(留)アカデミック日本語レベル4(月3,木3) / Academic Japanese level4
時間割コード Course Code	14400
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	渡邊 真
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	渡邊 真 (経営学部)
授業の目標	<p>「態度・志向性の領域」 講義を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。 自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作り、活用することができる。</p> <p>「技能の領域」 数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を身につけ、活用し、まとめられる。 社会科学分野に関連する既知(きち)のテーマであれば、テーマのある話の要点をつかみ、まとめられる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」 自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明し、相手の理解を確認することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないポイントを整理して尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解し、実践し、相手の反応をみて調整しようとするすることができる。</p>
授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の学び方を知る。 「大学での学習に必要な日本語能力」レベル4のクラスである。 大学での学習、特に講義を聞き、テキストを読んで理解すること、筆記試験やレポートなどの文章を書くこと、に取り組むための日本語能力と学習方略を、実際に使うことができる。 テキストや資料から用語などの予習をし、内容を予測することができる。 講義の構造を掴みながら聞き、主な内容をメモをもとに文で表すことができる。 大学の各科目で学んでいるテーマに関する、10パラグラフ程度の文章を辞書を引きながら読み、自分の力で論旨をつかむことができる。 勉強したことをまとめたり記憶したりする自分なりの方法を使い、試験に備えることができる。 論述形式の試験や短い説明文・論説文形式のレポートやコメントシートなどの構造及び文法を知っており、モデルがあればそれに沿って書くことができる。</p>



評価方法	授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）や提出された課題をもとに算出する。 期末試験は実施しません
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特段の配慮が必要ではない5回以上の欠席があった場合には失格となる。 欠席する場合には、事情を含め、担当教員に連絡すること。 ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要があります。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1回めの授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。</li> <li>・ この科目は、「アカデミック日本語レベル5」に接続する。</li> </ul> <p>このクラスでは次のことを行う計画である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大学での学習に必要となる漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。</li> <li>2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。</li> <li>3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学び、書けるようになる。</li> <li>4) 多読を通して読む習慣を形成する。</li> <li>5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート(この授業や授業外における学習状況を記入)活動       <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習(読解、記述)</li> <li>2. 講義理解・レポート作成のための活動</li> <li>3. 学習管理</li> </ol> </li> </ol> <p>流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 読解・記述</li> </ol> <p>予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。 多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. テーマを決め、レポート作成のルールに沿って書き、自分でチェックする。</li> <li>3. 協同学習</li> </ol> <p>公式の場(ゼミ、面接、観客などがある発表の場など)を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。</p>
テキスト	履修している各科目で配布される資料(レジュメ、ハンドアウト)などを持参する。 大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。 <a href="https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/">https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/</a> 他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	『大学生学びのハンドブック』(基礎演習の参考文献) <a href="https://quizlet.com/meikeiacademic">https://quizlet.com/meikeiacademic</a> 大学生になるための漢字500(名経大入学前教育課題)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題を決め、テーマに関する日本語の文章を批判的に読んだりする。</li> <li>・ 3人ずつくらいのグループに分かれ、情報を確認し、整理して意見を述べ合う。</li> <li>・ 質疑応答を行う。</li> <li>・ テーマは、専門分野に関わるもので(「SDG's」「履修中の授業で学んでいること」など)発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときに有効に活用できるようにする。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	担当教員の授業の前後、適宜グループクラスルームなどで質問すること。 そのほか、日本語科目担当(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)のオフィスアワーでも対応する。
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグループクラスルームなどを通じて実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標 (1~10)	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 貧困をなくそう</li><li>10. 人や国の不平等をなくそう</li><li>2. 飢餓をゼロに</li><li>3. すべての人に健康と福祉を</li><li>4. 質の高い教育をみんなに</li><li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li><li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li><li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li><li>8. 働きがいも経済成長も</li><li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li></ol>
SDGs 17の目標 (11~17)	<ol style="list-style-type: none"><li>11. 住み続けられるまちづくりを</li><li>12. つくる責任つかう責任</li><li>13. 気候変動に具体的な対策を</li><li>14. 海の豊かさを守ろう</li><li>15. 陸の豊かさを守ろう</li><li>16. 平和と公正をすべての人に</li><li>17. パートナリシップで目標を達成しよう</li></ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 情報収集力</li><li>2. 情報分析力</li><li>3. 課題発見力</li><li>4. 構想力</li></ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>4. 感情制御力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>

開講科目名 Course	Q4(留)アカデミック日本語レベル4(月3,木3) / Academic Japanese level4
時間割コード Course Code	14401
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	アルベケル アンドラーシ ジグモンド
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	アルベケル アンドラーシ ジグモンド (経営学部)
授業の目標	<p>「態度・志向性の領域」 講義を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。 自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作り、活用することができる。</p> <p>「技能の領域」 数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を身につけ、活用し、まとめられる。 社会科学分野に関連する既知(きち)のテーマであれば、テーマのある話の要点をつかみ、まとめられる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」 自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明し、相手の理解を確認することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないポイントを整理して尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解し、実践し、相手の反応をみて調整しようとするすることができる。</p>
授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の学び方を知る。 「大学での学習に必要な日本語能力」レベル4のクラスである。 大学での学習、特に講義を聞き、テキストを読んで理解すること、筆記試験やレポートなどの文章を書くこと、に取り組むための日本語能力と学習方略を、実際に使うことができる。 テキストや資料から用語などの予習をし、内容を予測することができる。 講義の構造を掴みながら聞き、主な内容をメモをもとに文で表すことができる。 大学の各科目で学んでいるテーマに関する、10パラグラフ程度の文章を辞書を引きながら読み、自分の力で論旨をつかむことができる。 勉強したことをまとめたり記憶したりする自分なりの方法を使い、試験に備えることができる。 論述形式の試験や短い説明文・論説文形式のレポートやコメントシートなどの構造及び文法を知っており、モデルがあればそれに沿って書くことができる。</p>

評価方法	授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）や提出された課題をもとに算出する。 期末試験は実施しません
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特段の配慮が必要ではない5回以上の欠席があった場合には失格となる。 欠席する場合には、事情を含め、担当教員に連絡すること。 ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要があります。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1回めの授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。</li> <li>・ この科目は、「アカデミック日本語レベル5」に接続する。</li> </ul> <p>このクラスでは次のことを行う計画である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大学での学習に必要となる漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。</li> <li>2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。</li> <li>3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学び、書けるようになる。</li> <li>4) 多読を通して読む習慣を形成する。</li> <li>5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート(この授業や授業外における学習状況を記入)活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 予習(読解、記述)</li> <li>2. 講義理解・レポート作成のための活動</li> <li>3. 学習管理</li> </ul> </li> </ol> <p>流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 読解・記述</li> </ol> <p>予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。 多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. テーマを決め、レポート作成のルールに沿って書き、自分でチェックする。</li> <li>3. 協同学習</li> </ol> <p>公式の場(ゼミ、面接、観客などがある発表の場など)を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。</p>
テキスト	履修している各科目で配布される資料(レジュメ、ハンドアウト)などを持参する。 大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。 <a href="https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/">https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/</a> 他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	『大学生学びのハンドブック』(基礎演習の参考文献) <a href="https://quizlet.com/meikeiacademic">https://quizlet.com/meikeiacademic</a> 大学生になるための漢字500(名経大入学前教育課題)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題を決め、テーマに関する日本語の文章を批判的に読んだりする。</li> <li>・ 3人ずつくらいのグループに分かれ、情報を確認し、整理して意見を述べ合う。</li> <li>・ 質疑応答を行う。</li> <li>・ テーマは、専門分野に関わるもので(「SDG's」「履修中の授業で学んでいること」など)発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときに有効に活用できるようにする。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	担当教員の授業の前後、適宜グループクラスルームなどで質問すること。 そのほか、日本語科目担当(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)のオフィスアワーでも対応する。
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグループクラスルームなどを通じて実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標 (1~10)	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 貧困をなくそう</li><li>10. 人や国の不平等をなくそう</li><li>2. 飢餓をゼロに</li><li>3. すべての人に健康と福祉を</li><li>4. 質の高い教育をみんなに</li><li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li><li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li><li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li><li>8. 働きがいも経済成長も</li><li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li></ol>
SDGs 17の目標 (11~17)	<ol style="list-style-type: none"><li>11. 住み続けられるまちづくりを</li><li>12. つくる責任つかう責任</li><li>13. 気候変動に具体的な対策を</li><li>14. 海の豊かさを守ろう</li><li>15. 陸の豊かさを守ろう</li><li>16. 平和と公正をすべての人に</li><li>17. パートナースhipで目標を達成しよう</li></ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 情報収集力</li><li>2. 情報分析力</li><li>3. 課題発見力</li><li>4. 構想力</li></ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>4. 感情制御力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>

開講科目名 Course	Q4(留)アカデミック日本語レベル4(月3,木3) / Academic Japanese level4
時間割コード Course Code	14402
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	稲垣 理香
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	稲垣 理香 (経営学部)
授業の目標	<p>「態度・志向性の領域」 講義を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。 自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作り、活用することができる。</p> <p>「技能の領域」 数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を身につけ、活用し、まとめられる。 社会科学分野に関連する既知(きち)のテーマであれば、テーマのある話の要点をつかみ、まとめられる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」 自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明し、相手の理解を確認することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないポイントを整理して尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解し、実践し、相手の反応をみて調整しようとするすることができる。</p>
授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の学び方を知る。 「大学での学習に必要な日本語能力」レベル4のクラスである。 大学での学習、特に講義を聞き、テキストを読んで理解すること、筆記試験やレポートなどの文章を書くこと、に取り組むための日本語能力と学習方略を、実際に使うことができる。 テキストや資料から用語などの予習をし、内容を予測することができる。 講義の構造を掴みながら聞き、主な内容をメモをもとに文で表すことができる。 大学の各科目で学んでいるテーマに関する、10パラグラフ程度の文章を辞書を引きながら読み、自分の力で論旨をつかむことができる。 勉強したことをまとめたり記憶したりする自分なりの方法を使い、試験に備えることができる。 論述形式の試験や短い説明文・論説文形式のレポートやコメントシートなどの構造及び文法を知っており、モデルがあればそれに沿って書くことができる。</p>

評価方法	授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）や提出された課題をもとに算出する。 期末試験は実施しません
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特段の配慮が必要ではない5回以上の欠席があった場合には失格となる。 欠席する場合には、事情を含め、担当教員に連絡すること。 ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要があります。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1回めの授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。</li> <li>・ この科目は、「アカデミック日本語レベル5」に接続する。</li> </ul> <p>このクラスでは次のことを行う計画である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。</li> <li>2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。</li> <li>3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学び、書けるようになる。</li> <li>4) 多読を通して読む習慣を形成する。</li> <li>5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート(この授業や授業外における学習状況を記入)活動       <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習(読解、記述)</li> <li>2. 講義理解・レポート作成のための活動</li> <li>3. 学習管理</li> </ol> </li> </ol> <p>流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 読解・記述</li> </ol> <p>予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。 多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. テーマを決め、レポート作成のルールに沿って書き、自分でチェックする。</li> <li>3. 協同学習</li> </ol> <p>公式の場(ゼミ、面接、観客などがある発表の場など)を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。</p>
テキスト	履修している各科目で配布される資料(レジュメ、ハンドアウト)などを持参する。 大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。 <a href="https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/">https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/</a> 他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	『大学生学びのハンドブック』(基礎演習の参考文献) <a href="https://quizlet.com/meikeiacademic">https://quizlet.com/meikeiacademic</a> 大学生になるための漢字500(名経大入学前教育課題)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題を決め、テーマに関する日本語の文章を批判的に読んだりする。</li> <li>・ 3人ずつくらいのグループに分かれ、情報を確認し、整理して意見を述べ合う。</li> <li>・ 質疑応答を行う。</li> <li>・ テーマは、専門分野に関わるもので(「SDG's」「履修中の授業で学んでいること」など)発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときに有効に活用できるようにする。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	担当教員の授業の前後、適宜グループクラスルームなどで質問すること。 そのほか、日本語科目担当(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)のオフィスアワーでも対応する。
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグループクラスルームなどを通じて実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標 (1~10)	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 貧困をなくそう</li><li>10. 人や国の不平等をなくそう</li><li>2. 飢餓をゼロに</li><li>3. すべての人に健康と福祉を</li><li>4. 質の高い教育をみんなに</li><li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li><li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li><li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li><li>8. 働きがいも経済成長も</li><li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li></ol>
SDGs 17の目標 (11~17)	<ol style="list-style-type: none"><li>11. 住み続けられるまちづくりを</li><li>12. つくる責任つかう責任</li><li>13. 気候変動に具体的な対策を</li><li>14. 海の豊かさを守ろう</li><li>15. 陸の豊かさを守ろう</li><li>16. 平和と公正をすべての人に</li><li>17. パートナリーシップで目標を達成しよう</li></ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 情報収集力</li><li>2. 情報分析力</li><li>3. 課題発見力</li><li>4. 構想力</li></ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>4. 感情制御力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>



開講科目名 Course	Q4(留)アカデミック日本語レベル4(月4,木4) / Academic Japanese level4
時間割コード Course Code	14403
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4, 木 / Thu 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	渡邊 真
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	渡邊 真(経営学部)
授業の目標	<p>「態度・志向性の領域」 講義を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。 自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作り、活用することができる。</p> <p>「技能の領域」 数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を身につけ、活用し、まとめられる。 社会科学分野に関連する既知(きち)のテーマであれば、テーマのある話の要点をつかみ、まとめられる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」 自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明し、相手の理解を確認することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないポイントを整理して尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解し、実践し、相手の反応をみて調整しようとするすることができる。</p>
授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の学び方を知る。 「大学での学習に必要な日本語能力」レベル4のクラスである。 大学での学習、特に講義を聞き、テキストを読んで理解すること、筆記試験やレポートなどの文章を書くこと、に取り組むための日本語能力と学習方略を、実際に使うことができる。 テキストや資料から用語などの予習をし、内容を予測することができる。 講義の構造を掴みながら聞き、主な内容をメモをもとに文で表すことができる。 大学の各科目で学んでいるテーマに関する、10パラグラフ程度の文章を辞書を引きながら読み、自分の力で論旨をつかむことができる。 勉強したことをまとめたり記憶したりする自分なりの方法を使い、試験に備えることができる。 論述形式の試験や短い説明文・論説文形式のレポートやコメントシートなどの構造及び文法を知っており、モデルがあればそれに沿って書くことができる。</p>

評価方法	授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）や提出された課題をもとに算出する。 期末試験は実施しません
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特段の配慮が必要ではない5回以上の欠席があった場合には失格となる。 欠席する場合には、事情を含め、担当教員に連絡すること。 ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要があります。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1回めの授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。</li> <li>・ この科目は、「アカデミック日本語レベル5」に接続する。</li> </ul> <p>このクラスでは次のことを行う計画である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。</li> <li>2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。</li> <li>3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学び、書けるようになる。</li> <li>4) 多読を通して読む習慣を形成する。</li> <li>5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート(この授業や授業外における学習状況を記入)活動       <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習(読解、記述)</li> <li>2. 講義理解・レポート作成のための活動</li> <li>3. 学習管理</li> </ol> </li> </ol> <p>流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 読解・記述</li> </ol> <p>予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。 多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. テーマを決め、レポート作成のルールに沿って書き、自分でチェックする。</li> <li>3. 協同学習</li> </ol> <p>公式の場(ゼミ、面接、観客などがある発表の場など)を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。</p>
テキスト	履修している各科目で配布される資料(レジュメ、ハンドアウト)などを持参する。 大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。 <a href="https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/">https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/</a> 他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	『大学生学びのハンドブック』(基礎演習の参考文献) <a href="https://quizlet.com/meikeiacademic">https://quizlet.com/meikeiacademic</a> 大学生になるための漢字500(名経大入学前教育課題)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題を決め、テーマに関する日本語の文章を批判的に読んだりする。</li> <li>・ 3人ずつくらいのグループに分かれ、情報を確認し、整理して意見を述べ合う。</li> <li>・ 質疑応答を行う。</li> <li>・ テーマは、専門分野に関わるもので(「SDG's」「履修中の授業で学んでいること」など)発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときに有効に活用できるようにする。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	担当教員の授業の前後、適宜グループクラスルームなどで質問すること。 そのほか、日本語科目担当(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)のオフィスアワーでも対応する。
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグループクラスルームなどを通じて実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標 (1~10)	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 貧困をなくそう</li><li>10. 人や国の不平等をなくそう</li><li>2. 飢餓をゼロに</li><li>3. すべての人に健康と福祉を</li><li>4. 質の高い教育をみんなに</li><li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li><li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li><li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li><li>8. 働きがいも経済成長も</li><li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li></ol>
SDGs 17の目標 (11~17)	<ol style="list-style-type: none"><li>11. 住み続けられるまちづくりを</li><li>12. つくる責任つかう責任</li><li>13. 気候変動に具体的な対策を</li><li>14. 海の豊かさを守ろう</li><li>15. 陸の豊かさを守ろう</li><li>16. 平和と公正をすべての人に</li><li>17. パートナリシップで目標を達成しよう</li></ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 情報収集力</li><li>2. 情報分析力</li><li>3. 課題発見力</li><li>4. 構想力</li></ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>4. 感情制御力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>

開講科目名 Course	Q4(留)アカデミック日本語レベル4(月4,木4) / Academic Japanese level4
時間割コード Course Code	14404
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4, 木 / Thu 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	アルベケル アンドラーシ ジグモンド
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	アルベケル アンドラーシ ジグモンド (経営学部)
授業の目標	<p>「態度・志向性の領域」</p> <p>講義を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。</p> <p>自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作り、活用することができる。</p> <p>「技能の領域」</p> <p>数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を身につけ、活用し、まとめられる。 社会科学分野に関連する既知(きち)のテーマであれば、テーマのある話の要点をつかみ、まとめられる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」</p> <p>自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明し、相手の理解を確認することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないポイントを整理して尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解し、実践し、相手の反応をみて調整しようとするすることができる。</p>
授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の学び方を知る。</p> <p>「大学での学習に必要な日本語能力」レベル4のクラスである。</p> <p>大学での学習、特に講義を聞き、テキストを読んで理解すること、筆記試験やレポートなどの文章を書くこと、に取り組むための日本語能力と学習方略を、実際に使うことができる。</p> <p>テキストや資料から用語などの予習をし、内容を予測することができる。</p> <p>講義の構造を掴みながら聞き、主な内容をメモをもとに文で表すことができる。</p> <p>大学の各科目で学んでいるテーマに関する、10パラグラフ程度の文章を辞書を引きながら読み、自分の力で論旨をつかむことができる。</p> <p>勉強したことをまとめたり記憶したりする自分なりの方法を使い、試験に備えることができる。</p> <p>論述形式の試験や短い説明文・論説文形式のレポートやコメントシートなどの構造及び文法を知っており、モデルがあればそれに沿って書くことができる。</p>

評価方法	授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）や提出された課題をもとに算出する。 期末試験は実施しません
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特段の配慮が必要ではない5回以上の欠席があった場合には失格となる。 欠席する場合には、事情を含め、担当教員に連絡すること。 ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要があります。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1回めの授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。</li> <li>・ この科目は、「アカデミック日本語レベル5」に接続する。</li> </ul> <p>このクラスでは次のことを行う計画である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。</li> <li>2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。</li> <li>3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学び、書けるようになる。</li> <li>4) 多読を通して読む習慣を形成する。</li> <li>5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート(この授業や授業外における学習状況を記入)活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 予習(読解、記述)</li> <li>2. 講義理解・レポート作成のための活動</li> <li>3. 学習管理</li> </ul> </li> </ol> <p>流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 読解・記述</li> </ol> <p>予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。 多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. テーマを決め、レポート作成のルールに沿って書き、自分でチェックする。</li> <li>3. 協同学習</li> </ol> <p>公式の場(ゼミ、面接、観客などがある発表の場など)を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。</p>
テキスト	履修している各科目で配布される資料(レジュメ、ハンドアウト)などを持参する。 大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。 <a href="https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/">https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/</a> 他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	『大学生学びのハンドブック』(基礎演習の参考文献) <a href="https://quizlet.com/meikeiacademic">https://quizlet.com/meikeiacademic</a> 大学生になるための漢字500(名経大入学前教育課題)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題を決め、テーマに関する日本語の文章を批判的に読んだりする。</li> <li>・ 3人ずつくらいのグループに分かれ、情報を確認し、整理して意見を述べ合う。</li> <li>・ 質疑応答を行う。</li> <li>・ テーマは、専門分野に関わるもので(「SDG's」「履修中の授業で学んでいること」など)発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときに有効に活用できるようにする。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	担当教員の授業の前後、適宜グループクラスルームなどで質問すること。 そのほか、日本語科目担当(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)のオフィスアワーでも対応する。
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグループクラスルームなどを通じて実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標 (1~10)	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 貧困をなくそう</li><li>10. 人や国の不平等をなくそう</li><li>2. 飢餓をゼロに</li><li>3. すべての人に健康と福祉を</li><li>4. 質の高い教育をみんなに</li><li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li><li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li><li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li><li>8. 働きがいも経済成長も</li><li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li></ol>
SDGs 17の目標 (11~17)	<ol style="list-style-type: none"><li>11. 住み続けられるまちづくりを</li><li>12. つくる責任つかう責任</li><li>13. 気候変動に具体的な対策を</li><li>14. 海の豊かさを守ろう</li><li>15. 陸の豊かさを守ろう</li><li>16. 平和と公正をすべての人に</li><li>17. パートナリシップで目標を達成しよう</li></ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 情報収集力</li><li>2. 情報分析力</li><li>3. 課題発見力</li><li>4. 構想力</li></ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>4. 感情制御力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>

開講科目名 Course	Q4(留)アカデミック日本語レベル4(月4,木4) / Academic Japanese level4
時間割コード Course Code	14405
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4, 木 / Thu 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	稲垣 理香
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	稲垣 理香 (経営学部)
授業の目標	<p>「態度・志向性の領域」 講義を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。 自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作り、活用することができる。</p> <p>「技能の領域」 数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を身につけ、活用し、まとめられる。 社会科学分野に関連する既知(きち)のテーマであれば、テーマのある話の要点をつかみ、まとめられる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」 自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明し、相手の理解を確認することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないポイントを整理して尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解し、実践し、相手の反応をみて調整しようとするすることができる。</p>
授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の学び方を知る。 「大学での学習に必要な日本語能力」レベル4のクラスである。 大学での学習、特に講義を聞き、テキストを読んで理解すること、筆記試験やレポートなどの文章を書くこと、に取り組むための日本語能力と学習方略を、実際に使うことができる。 テキストや資料から用語などの予習をし、内容を予測することができる。 講義の構造を掴みながら聞き、主な内容をメモをもとに文で表すことができる。 大学の各科目で学んでいるテーマに関する、10パラグラフ程度の文章を辞書を引きながら読み、自分の力で論旨をつかむことができる。 勉強したことをまとめたり記憶したりする自分なりの方法を使い、試験に備えることができる。 論述形式の試験や短い説明文・論説文形式のレポートやコメントシートなどの構造及び文法を知っており、モデルがあればそれに沿って書くことができる。</p>

評価方法	授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）や提出された課題をもとに算出する。 期末試験は実施しません
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特段の配慮が必要ではない5回以上の欠席があった場合には失格となる。 欠席する場合には、事情を含め、担当教員に連絡すること。 ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要があります。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1回めの授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。</li> <li>・ この科目は、「アカデミック日本語レベル5」に接続する。</li> </ul> <p>このクラスでは次のことを行う計画である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。</li> <li>2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。</li> <li>3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学び、書けるようになる。</li> <li>4) 多読を通して読む習慣を形成する。</li> <li>5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート(この授業や授業外における学習状況を記入)活動       <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習(読解、記述)</li> <li>2. 講義理解・レポート作成のための活動</li> <li>3. 学習管理</li> </ol> </li> </ol> <p>流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 読解・記述</li> </ol> <p>予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。 多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. テーマを決め、レポート作成のルールに沿って書き、自分でチェックする。</li> <li>3. 協同学習</li> </ol> <p>公式の場(ゼミ、面接、観客などがある発表の場など)を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。</p>
テキスト	履修している各科目で配布される資料(レジュメ、ハンドアウト)などを持参する。 大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。 <a href="https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/">https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/</a> 他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	『大学生学びのハンドブック』(基礎演習の参考文献) <a href="https://quizlet.com/meikeiacademic">https://quizlet.com/meikeiacademic</a> 大学生になるための漢字500(名経大入学前教育課題)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題を決め、テーマに関する日本語の文章を批判的に読んだりする。</li> <li>・ 3人ずつくらいのグループに分かれ、情報を確認し、整理して意見を述べ合う。</li> <li>・ 質疑応答を行う。</li> <li>・ テーマは、専門分野に関わるもので(「SDG's」「履修中の授業で学んでいること」など)発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときに有効に活用できるようにする。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	担当教員の授業の前後、適宜グループクラスルームなどで質問すること。 そのほか、日本語科目担当(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)のオフィスアワーでも対応する。
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグループクラスルームなどを通じて実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語



SDGs 17の目標 (1~10)	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 貧困をなくそう</li><li>10. 人や国の不平等をなくそう</li><li>2. 飢餓をゼロに</li><li>3. すべての人に健康と福祉を</li><li>4. 質の高い教育をみんなに</li><li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li><li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li><li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li><li>8. 働きがいも経済成長も</li><li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li></ol>
SDGs 17の目標 (11~17)	<ol style="list-style-type: none"><li>11. 住み続けられるまちづくりを</li><li>12. つくる責任つかう責任</li><li>13. 気候変動に具体的な対策を</li><li>14. 海の豊かさを守ろう</li><li>15. 陸の豊かさを守ろう</li><li>16. 平和と公正をすべての人に</li><li>17. パートナースhipで目標を達成しよう</li></ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 情報収集力</li><li>2. 情報分析力</li><li>3. 課題発見力</li><li>4. 構想力</li></ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>4. 感情制御力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>

開講科目名 Course	(留)アカデミック日本語レベル4 / Academic Japanese level4
時間割コード Course Code	14450
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	渡邊 真
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	14C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	渡邊 真(経営学部)
授業の目標	<p>「態度・志向性の領域」 講義を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。 自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作り、活用することができる。</p> <p>「技能の領域」 数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を身につけ、活用し、まとめられる。 社会科学分野に関連する既知(きち)のテーマであれば、テーマのある話の要点をつかみ、まとめられる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」 自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明し、相手の理解を確認することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないポイントを整理して尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解し、実践し、相手の反応をみて調整しようとするすることができる。</p>
授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の学び方を知る。 「大学での学習に必要な日本語能力」レベル4のクラスである。 大学での学習、特に講義を聞き、テキストを読んで理解すること、筆記試験やレポートなどの文章を書くこと、に取り組むための日本語能力と学習方略を、実際に使うことができる。 テキストや資料から用語などの予習をし、内容を予測することができる。 講義の構造を掴みながら聞き、主な内容をメモをもとに文で表すことができる。 大学の各科目で学んでいるテーマに関する、10パラグラフ程度の文章を辞書を引きながら読み、自分の力で論旨をつかむことができる。 勉強したことをまとめたり記憶したりする自分なりの方法を使い、試験に備えることができる。 論述形式の試験や短い説明文・論説文形式のレポートやコメントシートなどの構造及び文法を知っており、モデルがあればそれに沿って書くことができる。</p>

評価方法	授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）や提出された課題をもとに算出する。 期末試験は実施しません
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特段の配慮が必要ではない4回以上の欠席があった場合には失格となる。 欠席する場合には、事情を含め、担当教員に連絡すること。 ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要があります。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1回めの授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。</li> <li>・ この科目は、「アカデミック日本語レベル5」に接続する。</li> </ul> <p>このクラスでは次のことを行う計画である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。</li> <li>2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。</li> <li>3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学び、書けるようになる。</li> <li>4) 多読を通して読む習慣を形成する。</li> <li>5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート(この授業や授業外における学習状況を記入)活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 予習(読解、記述)</li> <li>2. 講義理解・レポート作成のための活動</li> <li>3. 学習管理</li> </ul> </li> </ol> <p>流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 読解・記述</li> </ol> <p>予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。 多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. テーマを決め、レポート作成のルールに沿って書き、自分でチェックする。</li> <li>3. 協同学習</li> </ol> <p>公式の場(ゼミ、面接、観客などがある発表の場など)を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。</p>
テキスト	履修している各科目で配布される資料(レジュメ、ハンドアウト)などを持参する。 大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。 <a href="https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/">https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/</a> 他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	『大学生学びのハンドブック』(基礎演習の参考文献) <a href="https://quizlet.com/meikeiacademic">https://quizlet.com/meikeiacademic</a> 大学生になるための漢字500(名経大入学前教育課題)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題を決め、テーマに関する日本語の文章を批判的に読んだりする。</li> <li>・ 3人ずつくらいのグループに分かれ、情報を確認し、整理して意見を述べ合う。</li> <li>・ 質疑応答を行う。</li> <li>・ テーマは、専門分野に関わるもので(「SDG's」「履修中の授業で学んでいること」など)発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときに有効に活用できるようにする。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	担当教員の授業の前後、適宜グループクラスルームなどで質問すること。 そのほか、日本語科目担当(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)のオフィスアワーでも対応する。
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグループクラスルームなどを通じて実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標 (1~10)	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 貧困をなくそう</li><li>10. 人や国の不平等をなくそう</li><li>2. 飢餓をゼロに</li><li>3. すべての人に健康と福祉を</li><li>4. 質の高い教育をみんなに</li><li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li><li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li><li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li><li>8. 働きがいも経済成長も</li><li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li></ol>
SDGs 17の目標 (11~17)	<ol style="list-style-type: none"><li>11. 住み続けられるまちづくりを</li><li>12. つくる責任つかう責任</li><li>13. 気候変動に具体的な対策を</li><li>14. 海の豊かさを守ろう</li><li>15. 陸の豊かさを守ろう</li><li>16. 平和と公正をすべての人に</li><li>17. パートナースhipで目標を達成しよう</li></ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 情報収集力</li><li>2. 情報分析力</li><li>3. 課題発見力</li><li>4. 構想力</li></ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>4. 感情制御力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>

開講科目名 Course	(留)アカデミック日本語レベル4 / Academic Japanese level4
時間割コード Course Code	14451
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	渡邊 真
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	渡邊 真 (経営学部)
授業の目標	<p>「態度・志向性の領域」</p> <p>講義を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。</p> <p>自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作り、活用することができる。</p> <p>「技能の領域」</p> <p>数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を身につけ、活用し、まとめられる。 社会科学分野に関連する既知(きち)のテーマであれば、テーマのある話の要点をつかみ、まとめられる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」</p> <p>自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明し、相手の理解を確認することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないポイントを整理して尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解し、実践し、相手の反応をみて調整しようとするすることができる。</p>
授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の学び方を知る。</p> <p>「大学での学習に必要な日本語能力」レベル4のクラスである。</p> <p>大学での学習、特に講義を聞き、テキストを読んで理解すること、筆記試験やレポートなどの文章を書くこと、に取り組むための日本語能力と学習方略を、実際に使うことができる。 テキストや資料から用語などの予習をし、内容を予測することができる。 講義の構造を掴みながら聞き、主な内容をメモをもとに文で表すことができる。 大学の各科目で学んでいるテーマに関する、10パラグラフ程度の文章を辞書を引きながら読み、自分の力で論旨をつかむことができる。 勉強したことをまとめたり記憶したりする自分なりの方法を使い、試験に備えることができる。 論述形式の試験や短い説明文・論説文形式のレポートやコメントシートなどの構造及び文法を知っており、モデルがあればそれに沿って書くことができる。</p>

評価方法	授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）や提出された課題をもとに算出する。 期末試験は実施しません
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特段の配慮が必要ではない4回以上の欠席があった場合には失格となる。 欠席する場合には、事情を含め、担当教員に連絡すること。 ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要があります。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1回めの授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。</li> <li>・ この科目は、「アカデミック日本語レベル5」に接続する。</li> </ul> <p>このクラスでは次のことを行う計画である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。</li> <li>2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。</li> <li>3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学び、書けるようになる。</li> <li>4) 多読を通して読む習慣を形成する。</li> <li>5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート(この授業や授業外における学習状況を記入)活動       <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習(読解、記述)</li> <li>2. 講義理解・レポート作成のための活動</li> <li>3. 学習管理</li> </ol> </li> </ol> <p>流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 読解・記述</li> </ol> <p>予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。 多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. テーマを決め、レポート作成のルールに沿って書き、自分でチェックする。</li> <li>3. 協同学習</li> </ol> <p>公式の場(ゼミ、面接、観客などがある発表の場など)を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。</p>
テキスト	履修している各科目で配布される資料(レジュメ、ハンドアウト)などを持参する。 大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。 <a href="https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/">https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/</a> 他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	『大学生学びのハンドブック』(基礎演習の参考文献) <a href="https://quizlet.com/meikeiacademic">https://quizlet.com/meikeiacademic</a> 大学生になるための漢字500(名経大入学前教育課題)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題を決め、テーマに関する日本語の文章を批判的に読んだりする。</li> <li>・ 3人ずつくらいのグループに分かれ、情報を確認し、整理して意見を述べ合う。</li> <li>・ 質疑応答を行う。</li> <li>・ テーマは、専門分野に関わるもので(「SDG's」「履修中の授業で学んでいること」など)発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときに有効に活用できるようにする。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	担当教員の授業の前後、適宜グループクラスルームなどで質問すること。 そのほか、日本語科目担当(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)のオフィスアワーでも対応する。
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグループクラスルームなどを通じて実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標 (1~10)	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 貧困をなくそう</li><li>10. 人や国の不平等をなくそう</li><li>2. 飢餓をゼロに</li><li>3. すべての人に健康と福祉を</li><li>4. 質の高い教育をみんなに</li><li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li><li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li><li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li><li>8. 働きがいも経済成長も</li><li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li></ol>
SDGs 17の目標 (11~17)	<ol style="list-style-type: none"><li>11. 住み続けられるまちづくりを</li><li>12. つくる責任つかう責任</li><li>13. 気候変動に具体的な対策を</li><li>14. 海の豊かさを守ろう</li><li>15. 陸の豊かさを守ろう</li><li>16. 平和と公正をすべての人に</li><li>17. パートナリシップで目標を達成しよう</li></ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 情報収集力</li><li>2. 情報分析力</li><li>3. 課題発見力</li><li>4. 構想力</li></ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>4. 感情制御力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>

開講科目名 Course	(留)アカデミック日本語レベル5 / Academic Japanese level5
時間割コード Course Code	14550
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	渡邊 真
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	渡邊 真 (経営学部)
授業の目標	<p>「態度・志向性の領域」</p> <p>講義を聞いて、何が重要であるのかを理解し、もっと知りたいと思い、よい質疑ができるようになる。</p> <p>自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じ、積極的に工夫したり練習したりするようになる。</p> <p>自ら進んでわからないことを調べ、整理するようになる。</p> <p>プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思い、さまざまな練習を積極的に行うようになる。</p> <p>大学で学ぶことの意味や意義について考え、積極的に行動することができるようになる。</p> <p>日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識し、使い分けができるようになる。</p> <p>自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作り、活用し、問題があれば調整することができる。</p> <p>「技能の領域」</p> <p>数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を身につけ、活用し、整理してまとめられる。</p> <p>社会科学分野に関連する既知(きち)のテーマであれば、テーマのある話の要点をつかみ、整理してまとめられる。</p> <p>自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝え、よい印象を与えようと調整することができる。</p> <p>受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡潔に話したりできる。</p> <p>「思考判断」</p> <p>自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明し、相手の理解を確認しながら調整することができる。</p> <p>相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないポイントを整理して尋ねたり反論したりすることができる。</p> <p>自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解し、実践し、相手の反応をみて調整することができる</p>



授業の概要	<p>大学で学ぶ上での日本語能力と学習方略を使いこなし、学びたいことを自在に学べるようになる。「大学での学習に必要な日本語能力」レベル5のクラスである。</p> <p>大学での学習、特に講義を聞き、テキストを読んで理解すること、筆記試験やレポートなどの文章を書くこと、議論に参加すること、に必要な日本語能力と学習方略を活用し、自ら学びたいことを積極的に学ぶことができる。</p> <p>講義やゼミ諺前に予習をし、質問を用意することができる。大学の各科目で学んでいるテーマに関する、10パラグラフ以上諺文章を読み、その中で提示されている概念や、主な主張とその根拠を、口頭また諺文章でまとめることができる。</p> <p>講義を聞きながら、講義の流れを箇条書き形式で表したメモを取ることができる。</p> <p>典型的な質問の形式を知っている。講義を聞いたりテキストを読んだりして、わかったこと・わからないことをはっきりさせた上で、わからないことを質問することができる。</p> <p>読み手の知識や興味に配慮した説明文、事実や根拠に基づいて意見を述べる論説文を、数パラグラフ程度で書くことができる。複数の断片的な情報を要約することができる。文章の一節を簡単に言い換えることができる。</p>
評価方法	<p>評価は、授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）や提出された課題などをもとに算出して評価する。</p> <p>期末試験は実施しません</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特段の配慮が必要ではない4回以上の欠席があった場合には失格となる。</p> <p>欠席の場合には、事情を含め、担当教員に連絡すること。</p> <p>ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要がある。</p>
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 回めの授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。</li> <li>・ この科目は、「アカデミック日本語レベル6」に接続する。</li> </ul> <p>このクラスでは次のことを行う計画である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ この科目を受講する学生は、大学で学ぶために必要な日本語能力のうち、次のことができるように練習する。</li> </ul> <p>予習をし、質問を用意する。</p> <p>テーマに関する、10パラグラフ以上の文章を読む。</p> <p>提示されている概念、主張とその根拠を、口頭または文章でまとめる。</p> <p>話を聞きながら、話の流れを箇条書き形式で表したメモを取ることができる。</p> <p>典型的な質問の形式を知っている。講義を聞いたりテキストを読む。</p> <p>わかったこと・わからないことをはっきりさせた上で、わからないことを質問することができる。</p> <p>読み手の知識や興味に配慮した説明文、事実や根拠に基づいて意見を述べる論説文を、数パラグラフ程度で書く。</p> <p>複数の断片的な情報を要約する。</p> <p>文章の一節を簡単に言い換える。</p>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	課題を決め、それを達成するための話し合いや情報共有、意見交換などを行いながら、進める。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	担当教員の授業の前後やEmail、グーグルクラスルームなどで質問すること。 日本語科目担当のオフィスアワーやEmail (nihongo@nagoya-ku.ac.jp)などでも受け付ける。
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグーグルクラスルームなどを通じて実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> <li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li> <li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> <li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li> </ol>

SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任 13.気候変動に具体的な対策を 14.海の豊かさを守ろう 15.陸の豊かさも守ろう 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	(留)アカデミック日本語レベル5 / Academic Japanese level5
時間割コード Course Code	14551
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	アルベケル アンドラーシ ジグモンド
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	70A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	アルベケル アンドラーシ ジグモンド (経営学部)
授業の目標	<p>「態度・志向性の領域」</p> <p>講義を聞いて、何が重要であるのかを理解し、もっと知りたいと思い、よい質疑ができるようになる。</p> <p>自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じ、積極的に工夫したり練習したりするようになる。</p> <p>自ら進んでわからないことを調べ、整理するようになる。</p> <p>プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思い、さまざまな練習を積極的に行うようになる。</p> <p>大学で学ぶことの意味や意義について考え、積極的に行動することができるようになる。</p> <p>日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識し、使い分けができるようになる。</p> <p>自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作り、活用し、問題があれば調整することができる。</p> <p>「技能の領域」</p> <p>数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を身につけ、活用し、整理してまとめられる。</p> <p>社会科学分野に関連する既知(きち)のテーマであれば、テーマのある話の要点をつかみ、整理してまとめられる。</p> <p>自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝え、よい印象を与えようと調整することができる。</p> <p>受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡潔に話したりできる。</p> <p>「思考判断」</p> <p>自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明し、相手の理解を確認しながら調整することができる。</p> <p>相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないポイントを整理して尋ねたり反論したりすることができる。</p> <p>自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解し、実践し、相手の反応をみて調整することができる</p>

授業の概要	<p>大学で学ぶ上での日本語能力と学習方略を使いこなし、学びたいことを自在に学べるようになる。「大学での学習に必要な日本語能力」レベル5のクラスである。</p> <p>大学での学習、特に講義を聞き、テキストを読んで理解すること、筆記試験やレポートなどの文章を書くこと、議論に参加すること、に必要な日本語能力と学習方略を活用し、自ら学びたいことを積極的に学ぶことができる。</p> <p>講義やゼミ諺前に予習をし、質問を用意することができる。大学の各科目で学んでいるテーマに関する、10パラグラフ以上諺文章を読み、その中で提示されている概念や、主な主張とその根拠を、口頭また諺文章でまとめることができる。</p> <p>講義を聞きながら、講義の流れを箇条書き形式で表したメモを取ることができる。</p> <p>典型的な質問の形式を知っている。講義を聞いたりテキストを読んだりして、わかったこと・わからないことをはっきりさせた上で、わからないことを質問することができる。</p> <p>読み手の知識や興味に配慮した説明文、事実や根拠に基づいて意見を述べる論説文を、数パラグラフ程度で書くことができる。複数の断片的な情報を要約することができる。文章の一節を簡単に言い換えることができる。</p>
評価方法	<p>評価は、授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）や提出された課題などをもとに算出して評価する。</p> <p>期末試験は実施しません</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特段の配慮が必要ではない4回以上の欠席があった場合には失格となる。</p> <p>欠席の場合には、事情を含め、担当教員に連絡すること。</p> <p>ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要がある。</p>
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1回めの授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。</li> <li>・この科目は、「アカデミック日本語レベル6」に接続する。</li> </ul> <p>このクラスでは次のことを行う計画である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目を受講する学生は、大学で学ぶために必要な日本語能力のうち、次のことができるように練習する。</li> </ul> <p>予習をし、質問を用意する。</p> <p>テーマに関する、10パラグラフ以上の文章を読む。</p> <p>提示されている概念、主張とその根拠を、口頭または文章でまとめる。</p> <p>話を聞きながら、話の流れを箇条書き形式で表したメモを取ることができる。</p> <p>典型的な質問の形式を知っている。講義を聞いたりテキストを読む。</p> <p>わかったこと・わからないことをはっきりさせた上で、わからないことを質問することができる。</p> <p>読み手の知識や興味に配慮した説明文、事実や根拠に基づいて意見を述べる論説文を、数パラグラフ程度で書く。</p> <p>複数の断片的な情報を要約する。</p> <p>文章の一節を簡単に言い換える。</p>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	課題を決め、それを達成するための話し合いや情報共有、意見交換などを行いながら、進める。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	担当教員の授業の前後やEmail、グーグルクラスルームなどで質問すること。 日本語科目担当のオフィスアワーやEmail (nihongo@nagoya-ku.ac.jp)などでも受け付ける。
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグーグルクラスルームなどを通じて実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> <li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li> <li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> <li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li> </ol>

SDGs 17の目標 (11~17)	11.住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさも守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	(留)アカデミック日本語レベル6 / Academic Japanese level6
時間割コード Course Code	14650
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	宮島 良子
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	宮島 良子 (経営学部)
授業の目標	<p>「態度・志向性の領域」</p> <p>講義を聞いてもっと知りたいと思い、よく調べた上でよい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じ、より効果的にできるように意識して発表することができるようになる。</p> <p>自ら進んでわからないことを詳しく調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらえる発表ができるようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動し、その振り返りができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識してできるようになる。</p> <p>自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作り、活用しながら進めることができる。</p> <p>「技能の領域」</p> <p>数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を身につけ、効果的に活用し、まとめられる。</p> <p>社会科学分野に関連する既知(きち)のテーマであれば、テーマのある話の要点をつかみ、わかりやすくまとめられる。</p> <p>自分の考えを相手に合わせて伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡潔に明確に話したりできる。</p> <p>「思考判断」</p> <p>自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明し、相手の理解を確認しながら調整することができる。</p> <p>相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないポイントを整理して感じよく尋ねることができる。</p> <p>自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解し、実践し、相手の反応をみて調整することができる。</p>

授業の概要	<p>大学で学ぶ上での日本語能力と学習方略を使いこなし、学びたいことを自在に学べるようになる。「大学での学習に必要な日本語能力」レベル6のクラスである。</p> <p>大学での学習、特に講義を聞いたりテキストや資料を読んで、自分の知識やその分野の背景知識と関連付けながら、重要な点をまとめることができるようになる。その上で、知らないことばや概念を推測し、自分の理解が合っているか確かめたり、質問を用意することができる。テキストを読んで理解すること、筆記試験やレポートなどの文章を書くこと、議論に参加すること、に必要な日本語能力と学習方略を使いこなし、自ら学びたいことを積極的に学ぶことができる。</p> <p>大学の各科目で学んでいるテーマに関する、10パラグラフ以上の文章を読み、その中で提示されている概念や主な主張とその根拠を理解した上で、自分の観点から批判的に意見を述べるができる。</p> <p>現在、勉強している複数の科目・テーマどうしの関連をつかんだ上で、自分の関心がどこにあるかを考えることができる。</p> <p>講義やテキストの内容について、事実を確認したり主張の妥当性を論じるやりとりをクラスメイトとすることができる。</p> <p>読み手の知識や興味に配慮した説明文、事実や根拠に基づいて意見を述べる論説文を、10パラグラフ程度でわかりやすく書くことができる。</p>
評価方法	<p>授業内で実施するテストや提出された課題などをもとに算出して評価する。</p> <p>期末試験は実施しません</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特段の配慮が必要ではない4回以上の欠席があった場合には失格となる。</p> <p>欠席する場合には、事情を含め、担当教員に連絡すること。</p> <p>ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要があります。</p>
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1回めの授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。学生自身も自分の能力を振り返り、このクラスが自分に適しているか考えておくこと。</li> <li>・この科目は、アカデミック日本語レベル7に接続する。</li> </ul> <p>講義を聞いたりテキストや資料を読んで、自分の知識やその分野の背景知識と関連付けながら、重要な点をまとめる。その上で、質問を用意する。</p> <p>知らないことばや概念を推測し、自分の理解が合っているか確かめる。</p> <p>講義を聞きながら、講義の流れを箇条書き形式で表したメモを取る。</p> <p>履修している科目に関連したテーマに関する、10パラグラフ以上の文章を読み、その中で提示されている概念や主な主張とその根拠を理解した上で、自分の観点から批判的に意見を述べる。</p> <p>履修している複数の科目・テーマどうしの関連をつかんだ上で、自分の関心がどこにあるかを考える。</p> <p>講義やテキストの内容について、事実を確認したり主張の妥当性を論じる。</p> <p>読み手の知識や興味に配慮した説明文、事実や根拠に基づいて意見を述べる論説文を、10パラグラフ程度でわかりやすく書く。</p>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	課題やテーマを設定し、それを解決するために資料を探したり、意見を交換しあったりする。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>担当教員の授業の前後、適宜グーグルクラスルームなどで質問すること。</p> <p>そのほか日本語科目担当 (nihongo@nagoya-ku.ac.jp) のオフィスアワーでも対応する。</p>
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグーグルクラスルームなどを通じて実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> <li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li> <li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> <li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li> </ol>

SDGs 17の目標 (11~17)	11.住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさも守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力



開講科目名 Course	(留)アカデミック日本語レベル7 / Academic Japanese level7
時間割コード Course Code	14750
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	宮島 良子
科目区分 Course Group	専門科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	宮島 良子 (経営学部)
授業の目標	<p>「態度・志向性の領域」  講義を聞いてもっと知りたいと思い、よく調べた上でよい質問ができるようになる。  自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じ、より効果的にできるように意識して発表し、問題があれば修正することができるようになる。  自ら進んでわからないことを詳しく調べるようになる。  プレゼン能力を高め、多くの人に興味を持ってもらえる発表ができるようになる。  大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動し、その振り返りを効果的にできるようになる。</p> <p>日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識しなくてもできるようになる。  自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作り、活用しながら調整し進めることができる。</p> <p>「技能の領域」  数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を身につけ、効果的に活用し、整理できる。  社会科学分野に関連する既知(きち)のテーマであれば、テーマのある話の要点をつかみ、わかりやすく整理できる。  自分の考えを相手や目的に合わせて伝えることができる。  受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを簡潔に書いてまとめたり、読んだものを興味を引くように話したりできる。</p> <p>「思考判断」  自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明し、相手の理解を配慮することができる。  相手の主張などに対して、よく聞き、理解し、わからないポイントを整理して感じよく尋ねたり、批判したりすることができる。</p>
授業の概要	<p>大学で学ぶ上での日本語能力と学習方略を使い、専門的に学ぶ能力を身につける。  「大学での学習に必要な日本語能力」レベル7のクラスである。  ・この科目を受講する学生は、大学で学ぶために必要な日本語能力のうち、次のことができるようになる。</p> <p>論文の文体、構成、接続詞の用法、文末表現を知っている。  引用のルールを知っており、剽窃を絶対にしない。  事実と意見、引用と自分の意見の区別をつけることができる。  資料収集の仕方を知っている。  論理の流れをを組み立てることができる。  主張と根拠を区別し、これに沿った章立てを作ることができる。  わかりやすいプレゼンテーションの作り方、発表の仕方を知っている。</p>

評価方法	授業内での小テストや提出された課題などをもとに算出して評価する。 期末試験は実施しません
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特段の配慮が必要ではない4回以上の欠席があった場合には失格となる。 ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動のため出席する必要がある。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1回めの授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。学生自身も自分の能力を振り返り、このクラスが自分に適しているか考えておくこと。</li> <li>・ この科目は、アカデミック日本語レベル8に接続する。</li> <li>・ この科目を受講する学生は、次のことを行う。</li> </ul> ビジネス場面で必要となる文体、論文の文体、構成、接続詞の用法、文末表現を知る。 引用のルールを知り、剽窃を絶対にしない。 事実と意見、引用と自分の意見の区別をつける。 資料収集の仕方を知る。 論理の流れを組み立てる。 主張と根拠を区別し、これに沿った章立てを作る。 わかりやすいプレゼンテーションの作り方、発表の仕方を知る。
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	課題やテーマを設定し、それを解決するために資料を探したり、グループに分かれて意見を交換しあったりする。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	担当教員の授業の前後、適宜グループクラスルームなどで質問すること。 そのほか日本語科目担当 (nihongo@nagoya-ku.ac.jp) のオフィスアワーでも対応する。
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグループクラスルームなどを通じて実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、レポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標 (11~17)	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	(留)アカデミック日本語レベル8 / Academic Japanese level8
時間割コード Course Code	14850
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	宮島 良子
科目区分 Course Group	専門科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	70A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	宮島 良子 (経営学部)
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. レポートや論文に適した表現を適切に用いて文章を書くことができる。</li> <li>2. 読み手や聞き手を考慮した内容・構成でレポートやプレゼンテーションを作成することができる。</li> <li>3. 聞き手に伝わるプレゼンテーションを行うことができる。</li> <li>4. 質疑応答を建設的に行うことができる</li> </ol>
授業の概要	<p>この授業は、「大学での学習に必要な日本語能力」レベル8の授業です。 レベル8の授業では、レベル7をさらに発展させ、日本における就職活動や日本の会社に就職後に求められるような課題・問題解決のためのアイデアについてプレゼンテーションを行います。またその過程で、レポート(報告書)作成/プレゼンテーションに必要な日本語表現や姿勢・態度について考えます。読み手や聞き手のことを考慮しレポートやプレゼン資料を作成できるようにします。グループでの活動を行う際には協働する姿勢が求められます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テーマに沿って、自らの関心に近いテーマを決め、プレゼンを行います。</li> <li>2. PowerPointなどを用い、報告書、レポートや論文の内容を伝えるスライドを作成します。</li> <li>3. 報告書、レポートまたは論文を作成します。</li> <li>4. 毎週の授業の最後にふりかえりを行います。</li> </ol> <p>&lt;質問への対応方法&gt; 教員によって異なります。授業時に確認してください。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>A) 報告書、レポートまたは論文の最終稿</li> <li>B) プレゼンテーション</li> <li>C) 調査の取り組み状況、進捗報告</li> <li>D) 授業参加の姿勢及び貢献度</li> </ol> <p>上記A～Dを総合して評価します。 期末試験は実施しません。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特段の配慮が必要ではない4回以上の欠席があった場合には失格となる。 欠席する場合には、事情を含め、担当教員に連絡すること。 ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要があります。</p>

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション/レポート日本語表現 /グループ決め</li> <li>2. Pain pointの共有と話し合い/レポート日本語表現</li> <li>3. 調査の準備 / その他情報収集</li> <li>4. 調査結果の共有 解決すべき問題点と解決策を考える</li> <li>5. 解決策を考える/準備</li> <li>6. アウトラインの作成 /プレゼンの分析</li> <li>7. インタビュー結果の共有 /プレゼンの分析</li> <li>8. プレゼン準備 /良いプレゼンとはなにか考える</li> <li>9. プレゼン準備</li> <li>10. リハーサル/プレゼンテーション修正</li> <li>11. リハーサル/プレゼンテーション修正</li> <li>12. プレゼンテーション</li> <li>13. プレゼンテーション</li> <li>14. レポート(報告書)作成(個人)</li> <li>15. ふりかえり</li> </ol> <p>履修学生の能力及び話し合いによって変更、調整する可能性があります。</p>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	この授業は、グループでの話し合いをしたり、テーマに基づいて、ディスカッションを行いながらプレゼンの準備を行ったりします。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内、授業前後の時間に対応します。メールでの質問は随時受け付けます。
フィードバックの方法	課題は、コメントを付し返却します。その他授業内でその都度フィードバックを行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各コマにおいては、各課題の準備や予習に1～2時間、各課題の実施や振り返りに1～2時間を想定しています。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> <li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li> <li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> <li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li> </ol>
SDGs 17の目標(11～17)	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 住み続けられるまちづくりを</li> <li>12. つくる責任つかう責任</li> <li>13. 気候変動に具体的な対策を</li> <li>14. 海の豊かさを守ろう</li> <li>15. 陸の豊かさを守ろう</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> <li>17. パートナリーシップで目標を達成しよう</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>3. 統率力</li> <li>4. 感情制御力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>6. 行動持続力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

開講科目名 Course	Q1(留)日本語コミュニケーションレベル1(水3,金3)
時間割コード Course Code	15100
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	澤木 美晴
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	澤木 美晴 (経営学部)
授業の目標	社会的な活動に必要な日本語能力、特に聞く・読む・やりとりする能力の基礎を固める。
授業の概要	「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル1のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>レベル1の評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目を受講する学生は、社会的な活動をするための日本語能力のうち、次のことができるようになる。</li> </ul> <p>案内や駅でのアナウンスなど、短く単純ではっきりした説明が理解できる。    広告、メニュー、時刻表、インターネット上のリスト状の情報などから、予め予測した特定の情報を見つけることができる。    聞き手が助けてくれれば、予測できる状況で短い会話が容易にでき、質問にも答えられる。    招待・提案・謝罪のやりとり、好き嫌いの表現ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・このレベル1は、レベル2に接続する。</li> </ul>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	

PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	Q1(留)日本語コミュニケーションレベル1(水3,金3)
時間割コード Course Code	15101
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	本田 有子
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	本田 有子 (経営学部)
授業の目標	社会的な活動に必要な日本語能力、特に聞く・読む・やりとりする能力の基礎を固める。
授業の概要	「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル1のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>レベル1の評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目を受講する学生は、社会的な活動をするための日本語能力のうち、次のことができるようになる。</li> </ul> <p>案内や駅でのアナウンスなど、短く単純ではっきりした説明が理解できる。    広告、メニュー、時刻表、インターネット上のリスト状の情報などから、予め予測した特定の情報を見つけることができる。    聞き手が助けてくれれば、予測できる状況で短い会話が容易にでき、質問にも答えられる。    招待・提案・謝罪のやりとり、好き嫌いの表現ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・このレベル1は、レベル2に接続する。</li> </ul>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	

PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	Q1(留)日本語コミュニケーションレベル1(水4,金4)
時間割コード Course Code	15102
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4, 金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	澤木 美晴
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	澤木 美晴 (経営学部)
授業の目標	社会的な活動に必要な日本語能力、特に聞く・読む・やりとりする能力の基礎を固める。
授業の概要	「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル1のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>レベル1の評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目を受講する学生は、社会的な活動をするための日本語能力のうち、次のことができるようになる。</li> </ul> <p>案内や駅でのアナウンスなど、短く単純ではっきりした説明が理解できる。    広告、メニュー、時刻表、インターネット上のリスト状の情報などから、予め予測した特定の情報を見つけることができる。    聞き手が助けてくれれば、予測できる状況で短い会話が容易にでき、質問にも答えられる。    招待・提案・謝罪のやりとり、好き嫌いの表現ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・このレベル1は、レベル2に接続する。</li> </ul>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	

PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	Q2(留)日本語コミュニケーションレベル2(水3,金3)
時間割コード Course Code	15200
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	澤木 美晴
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	澤木 美晴 (経営学部)
授業の目標	社会的な活動に必要な日本語能力、特に聞く・読む・やりとりする能力の基礎を固める。
授業の概要	「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル2のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>レベル2の評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この科目を受講する学生は、社会的な活動をするための日本語能力のうち、次のことができるようになる。</li> <li>機器の取扱説明のような、専門的だが単純な指示や説明、ごく身近な話題の短いニュースを聞き取れる。</li> <li>映像があれば、出来事や事故などの短いテレビニュースの要点が分かる。</li> <li>身近な話題の会話に準備なしで加わることができる。</li> <li>身近な話題について意見を表明したり情報交換したりできる。</li> <li>挨拶・別れ・紹介などの社会的関係が作れる。</li> <li>自分の感情の表現や感謝の表現ができる。</li> <li>対面での簡単な対話を始め、続け、終わらせることができる。</li> <li>わからない時に繰り返しや説明を求めることができる。</li> </ul> <p>・この科目は、レベル3に接続する。</p>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	Q2(留)日本語コミュニケーションレベル2(水4,金4)
時間割コード Course Code	15201
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4, 金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	澤木 美晴
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	澤木 美晴 (経営学部)
授業の目標	社会的な活動に必要な日本語能力、特に聞く・読む・やりとりする能力の基礎を固める。
授業の概要	「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル2のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>レベル2の評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この科目を受講する学生は、社会的な活動をするための日本語能力のうち、次のことができるようになる。</li> <li>機器の取扱説明のような、専門的だが単純な指示や説明、ごく身近な話題の短いニュースを聞き取れる。</li> <li>映像があれば、出来事や事故などの短いテレビニュースの要点が分かる。</li> <li>身近な話題の会話に準備なしで加わることができる。</li> <li>身近な話題について意見を表明したり情報交換したりできる。</li> <li>挨拶・別れ・紹介などの社会的関係が作れる。</li> <li>自分の感情の表現や感謝の表現ができる。</li> <li>対面での簡単な対話を始め、続け、終わらせることができる。</li> <li>わからない時に繰り返しや説明を求めることができる。</li> </ul> <p>・この科目は、レベル3に接続する。</p>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	Q2(留)日本語コミュニケーションレベル2(水3,金3)
時間割コード Course Code	15202
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	本田 有子
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	本田 有子 (経営学部)
授業の目標	社会的な活動に必要な日本語能力、特に聞く・読む・やりとりする能力の基礎を固める。
授業の概要	「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル2のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>レベル2の評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この科目を受講する学生は、社会的な活動をするための日本語能力のうち、次のことができるようになる。</li> <li>機器の取扱説明のような、専門的だが単純な指示や説明、ごく身近な話題の短いニュースを聞き取れる。</li> <li>映像があれば、出来事や事故などの短いテレビニュースの要点が分かる。</li> <li>身近な話題の会話に準備なしで加わることができる。</li> <li>身近な話題について意見を表明したり情報交換したりできる。</li> <li>挨拶・別れ・紹介などの社会的関係が作れる。</li> <li>自分の感情の表現や感謝の表現ができる。</li> <li>対面での簡単な対話を始め、続け、終わらせることができる。</li> <li>わからない時に繰り返しや説明を求めることができる。</li> </ul> <p>・この科目は、レベル3に接続する。</p>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力



開講科目名 Course	Q3(留)日本語コミュニケーションレベル2(水3,金3)
時間割コード Course Code	15203
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	成川 直見
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 4 A多目的室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	成川 直見 (経営学部)
授業の目標	社会的な活動に必要な日本語能力、特に聞く・読む・やりとりする能力の基礎を固める。
授業の概要	「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル2のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>レベル2の評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この科目を受講する学生は、社会的な活動をするための日本語能力のうち、次のことができるようになる。</li> <li>機器の取扱説明のような、専門的だが単純な指示や説明、ごく身近な話題の短いニュースを聞き取れる。</li> <li>映像があれば、出来事や事故などの短いテレビニュースの要点が分かる。</li> <li>身近な話題の会話に準備なしで加わることができる。</li> <li>身近な話題について意見を表明したり情報交換したりできる。</li> <li>挨拶・別れ・紹介などの社会的関係が作れる。</li> <li>自分の感情の表現や感謝の表現ができる。</li> <li>対面での簡単な対話を始め、続け、終わらせることができる。</li> <li>わからない時に繰り返しや説明を求めることができる。</li> </ul> <p>・この科目は、レベル3に接続する。</p>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	Q1(留)日本語コミュニケーションレベル3(水3,金3)
時間割コード Course Code	15300
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	神谷 佳那
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	神谷 佳那(経営学部)、成川 直見(経営学部)
授業の目標	社会的な活動に必要な日本語能力、特に聞く・読む・やりとりする能力を養成し、伝えたいことを十分伝えられるようになる。
授業の概要	「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル3のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	次の目標を達成することを目指し学習する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・わからない時に詳しい説明を求めることができる。</li> <li>・コミュニケーションが失敗しても他の方法でやり直すことができる。</li> <li>・パンフレットなどの日常の資料の中から重要な情報を探し出し理解できる。</li> <li>・店・郵便局・銀行などで、例えば品物を返品するなどの、あまり日常では起きない状況に対処することができる。</li> <li>・苦情をいうことができる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目は、後期のレベル4に接続する。</li> </ul>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	

PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	5.自信創出力 9.実践力

開講科目名 Course	Q1(留)日本語コミュニケーションレベル3(水4,金4)
時間割コード Course Code	15301
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4, 金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	神谷 佳那
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	神谷 佳那(経営学部)、成川 直見(経営学部)
授業の目標	社会的な活動に必要な日本語能力、特に聞く・読む・やりとりする能力を養成し、伝えたいことを十分伝えられるようになる。
授業の概要	「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル3のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	次の目標を達成することを目指し学習する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・わからない時に詳しい説明を求めることができる。</li> <li>・コミュニケーションが失敗しても他の方法でやり直すことができる。</li> <li>・パンフレットなどの日常の資料の中から重要な情報を探し出し理解できる。</li> <li>・店・郵便局・銀行などで、例えば品物を返品するなどの、あまり日常では起きない状況に対処することができる。</li> <li>・苦情をいうことができる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目は、後期のレベル4に接続する。</li> </ul>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	

PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	5.自信創出力 9.実践力

開講科目名 Course	Q1(留)日本語コミュニケーションレベル3(水4,金4)
時間割コード Course Code	15302
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4, 金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	本田 有子
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	本田 有子 (経営学部)
授業の目標	社会的な活動に必要な日本語能力、特に聞く・読む・やりとりする能力を養成し、伝えたいことを十分伝えられるようになる。
授業の概要	「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル3のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	次の目標を達成することを目指し学習する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・わからない時に詳しい説明を求めることができる。</li> <li>・コミュニケーションが失敗しても他の方法でやり直すことができる。</li> <li>・パンフレットなどの日常の資料の中から重要な情報を探し出し理解できる。</li> <li>・店・郵便局・銀行などで、例えば品物を返品するなどの、あまり日常では起きない状況に対処することができる。</li> <li>・苦情をいうことができる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目は、後期のレベル4に接続する。</li> </ul>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	

PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	5. 自信創出力 9. 実践力



開講科目名 Course	Q3(留)日本語コミュニケーションレベル3(水3,金3)
時間割コード Course Code	15303
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	澤木 美晴
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	澤木 美晴 (経営学部)
授業の目標	社会的な活動に必要な日本語能力、特に聞く・読む・やりとりする能力を養成し、伝えたいことを十分伝えられるようになる。
授業の概要	「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル3のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	次の目標を達成することを目指し学習する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・わからない時に詳しい説明を求めることができる。</li> <li>・コミュニケーションが失敗しても他の方法でやり直すことができる。</li> <li>・パンフレットなどの日常の資料の中から重要な情報を探し出し理解できる。</li> <li>・店・郵便局・銀行などで、例えば品物を返品するなどの、あまり日常では起きない状況に対処することができる。</li> <li>・苦情をいうことができる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目は、後期のレベル4に接続する。</li> </ul>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	

PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	5.自信創出力 9.実践力

開講科目名 Course	Q3(留)日本語コミュニケーションレベル3(水3,金3)
時間割コード Course Code	15304
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	本田 有子
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	本田 有子 (経営学部)
授業の目標	社会的な活動に必要な日本語能力、特に聞く・読む・やりとりする能力を養成し、伝えたいことを十分伝えられるようになる。
授業の概要	「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル3のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	次の目標を達成することを目指し学習する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・わからない時に詳しい説明を求めることができる。</li> <li>・コミュニケーションが失敗しても他の方法でやり直すことができる。</li> <li>・パンフレットなどの日常の資料の中から重要な情報を探し出し理解できる。</li> <li>・店・郵便局・銀行などで、例えば品物を返品するなどの、あまり日常では起きない状況に対処することができる。</li> <li>・苦情をいうことができる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目は、後期のレベル4に接続する。</li> </ul>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	

PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	5. 自信創出力 9. 実践力

開講科目名 Course	Q3(留)日本語コミュニケーションレベル3(水4,金4)
時間割コード Course Code	15305
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4, 金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	澤木 美晴
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	澤木 美晴 (経営学部)
授業の目標	社会的な活動に必要な日本語能力、特に聞く・読む・やりとりする能力を養成し、伝えたいことを十分伝えられるようになる。
授業の概要	「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル3のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	次の目標を達成することを目指し学習する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・わからない時に詳しい説明を求めることができる。</li> <li>・コミュニケーションが失敗しても他の方法でやり直すことができる。</li> <li>・パンフレットなどの日常の資料の中から重要な情報を探し出し理解できる。</li> <li>・店・郵便局・銀行などで、例えば品物を返品するなどの、あまり日常では起きない状況に対処することができる。</li> <li>・苦情をいうことができる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目は、後期のレベル4に接続する。</li> </ul>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	

PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	5. 自信創出力 9. 実践力

開講科目名 Course	Q4(留)日本語コミュニケーションレベル3(水3,金3)
時間割コード Course Code	15306
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	成川 直見
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 4 A多目的室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	成川 直見 (経営学部)
授業の目標	社会的な活動に必要な日本語能力、特に聞く・読む・やりとりする能力を養成し、伝えたいことを十分伝えられるようになる。
授業の概要	「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル3のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	次の目標を達成することを目指し学習する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・わからない時に詳しい説明を求めることができる。</li> <li>・コミュニケーションが失敗しても他の方法でやり直すことができる。</li> <li>・パンフレットなどの日常の資料の中から重要な情報を探し出し理解できる。</li> <li>・店・郵便局・銀行などで、例えば品物を返品するなどの、あまり日常では起きない状況に対処することができる。</li> <li>・苦情をいうことができる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目は、後期のレベル4に接続する。</li> </ul>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	

PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	5.自信創出力 9.実践力



開講科目名 Course	Q2(留)日本語コミュニケーションレベル4(水3,金3)
時間割コード Course Code	15400
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	神谷 佳那
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	神谷 佳那(経営学部)、成川 直見(経営学部)
授業の目標	社会的な活動に必要な日本語能力、特に聞く・読む・やりとりする能力を養成し、伝えたいことを十分伝えられるようになる。
授業の概要	これは、「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル4のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>レベル4の評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目を受講する学生は、社会的な活動をするための日本語能力のうち、次のことができるようになる。</li> <li>指摘されたら、誤解を招きそうな誤りを修正することができる。</li> <li>聞いたり読んだりする中で出会う知らないことばの意味を文脈からある程度推測できる。</li> <li>標準語で話されていれば、関心のある話題についての短いドキュメンタリー番組などの内容の大半を理解できる。</li> <li>映像でストーリーの大筋が伝えられているような映画やドラマを楽しむことができる。</li> <li>驚き・幸せ・悲しみ・興味・無関心などの感情を表現し、相手の感情に反応することができる。</li> <li>経験、感情や出来事を多少詳細に記した個人的な手紙を書くことができる。</li> <li>日本の明示的な礼儀慣習を認識し、母国との主な違いを意識して、適切に行動できる。</li> </ul> <p>・この科目は、日本語コミュニケーションレベル5に接続する。</p>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	9.実践力

開講科目名 Course	Q2(留)日本語コミュニケーションレベル4(水4,金4)
時間割コード Course Code	15401
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4, 金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	神谷 佳那
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	神谷 佳那(経営学部)、成川 直見(経営学部)
授業の目標	社会的な活動に必要な日本語能力、特に聞く・読む・やりとりする能力を養成し、伝えたいことを十分伝えられるようになる。
授業の概要	これは、「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル4のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>レベル4の評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目を受講する学生は、社会的な活動をするための日本語能力のうち、次のことができるようになる。</li> <li>指摘されたら、誤解を招きそうな誤りを修正することができる。</li> <li>聞いたり読んだりする中で出会う知らないことばの意味を文脈からある程度推測できる。</li> <li>標準語で話されていれば、関心のある話題についての短いドキュメンタリー番組などの内容の大半を理解できる。</li> <li>映像でストーリーの大筋が伝えられているような映画やドラマを楽しむことができる。</li> <li>驚き・幸せ・悲しみ・興味・無関心などの感情を表現し、相手の感情に反応することができる。</li> <li>経験、感情や出来事を多少詳細に記した個人的な手紙を書くことができる。</li> <li>日本の明示的な礼儀慣習を認識し、母国との主な違いを意識して、適切に行動できる。</li> </ul> <p>・この科目は、日本語コミュニケーションレベル5に接続する。</p>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	Q2(留)日本語コミュニケーションレベル4(水4,金4)
時間割コード Course Code	15402
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4, 金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	本田 有子
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	本田 有子 (経営学部)
授業の目標	社会的な活動に必要な日本語能力、特に聞く・読む・やりとりする能力を養成し、伝えたいことを十分伝えられるようになる。
授業の概要	これは、「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル4のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>レベル4の評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目を受講する学生は、社会的な活動をするための日本語能力のうち、次のことができるようになる。</li> <li>指摘されたら、誤解を招きそうな誤りを修正することができる。</li> <li>聞いたり読んだりする中で出会う知らないことばの意味を文脈からある程度推測できる。</li> <li>標準語で話されていれば、関心のある話題についての短いドキュメンタリー番組などの内容の大半を理解できる。</li> <li>映像でストーリーの大筋が伝えられているような映画やドラマを楽しむことができる。</li> <li>驚き・幸せ・悲しみ・興味・無関心などの感情を表現し、相手の感情に反応することができる。</li> <li>経験、感情や出来事を多少詳細に記した個人的な手紙を書くことができる。</li> <li>日本の明示的な礼儀慣習を認識し、母国との主な違いを意識して、適切に行動できる。</li> </ul> <p>・この科目は、日本語コミュニケーションレベル5に接続する。</p>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	Q3(留)日本語コミュニケーションレベル4(水4,金4)
時間割コード Course Code	15403
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4, 金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	成川 直見
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 4 A多目的室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	成川 直見 (経営学部)
授業の目標	社会的な活動に必要な日本語能力、特に聞く・読む・やりとりする能力を養成し、伝えたいことを十分伝えられるようになる。
授業の概要	これは、「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル4のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>レベル4の評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目を受講する学生は、社会的な活動をするための日本語能力のうち、次のことができるようになる。</li> <li>指摘されたら、誤解を招きそうな誤りを修正することができる。</li> <li>聞いたり読んだりする中で出会う知らないことばの意味を文脈からある程度推測できる。</li> <li>標準語で話されていれば、関心のある話題についての短いドキュメンタリー番組などの内容の大半を理解できる。</li> <li>映像でストーリーの大筋が伝えられているような映画やドラマを楽しむことができる。</li> <li>驚き・幸せ・悲しみ・興味・無関心などの感情を表現し、相手の感情に反応することができる。</li> <li>経験、感情や出来事を多少詳細に記した個人的な手紙を書くことができる。</li> <li>日本の明示的な礼儀慣習を認識し、母国との主な違いを意識して、適切に行動できる。</li> </ul> <p>・この科目は、日本語コミュニケーションレベル5に接続する。</p>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力



開講科目名 Course	Q4(留)日本語コミュニケーションレベル4(水3,金3)
時間割コード Course Code	15404
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	澤木 美晴
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	澤木 美晴 (経営学部)
授業の目標	社会的な活動に必要な日本語能力、特に聞く・読む・やりとりする能力を養成し、伝えたいことを十分伝えられるようになる。
授業の概要	これは、「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル4のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>レベル4の評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目を受講する学生は、社会的な活動をするための日本語能力のうち、次のことができるようになる。</li> <li>指摘されたら、誤解を招きそうな誤りを修正することができる。</li> <li>聞いたり読んだりする中で出会う知らないことばの意味を文脈からある程度推測できる。</li> <li>標準語で話されていれば、関心のある話題についての短いドキュメンタリー番組などの内容の大半を理解できる。</li> <li>映像でストーリーの大筋が伝えられているような映画やドラマを楽しむことができる。</li> <li>驚き・幸せ・悲しみ・興味・無関心などの感情を表現し、相手の感情に反応することができる。</li> <li>経験、感情や出来事を多少詳細に記した個人的な手紙を書くことができる。</li> <li>日本の明示的な礼儀慣習を認識し、母国との主な違いを意識して、適切に行動できる。</li> </ul> <p>・この科目は、日本語コミュニケーションレベル5に接続する。</p>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	Q4(留)日本語コミュニケーションレベル4(水4,金4)
時間割コード Course Code	15405
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4, 金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	澤木 美晴
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	澤木 美晴 (経営学部)
授業の目標	社会的な活動に必要な日本語能力、特に聞く・読む・やりとりする能力を養成し、伝えたいことを十分伝えられるようになる。
授業の概要	これは、「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル4のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>レベル4の評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目を受講する学生は、社会的な活動をするための日本語能力のうち、次のことができるようになる。</li> <li>指摘されたら、誤解を招きそうな誤りを修正することができる。</li> <li>聞いたり読んだりする中で出会う知らないことばの意味を文脈からある程度推測できる。</li> <li>標準語で話されていれば、関心のある話題についての短いドキュメンタリー番組などの内容の大半を理解できる。</li> <li>映像でストーリーの大筋が伝えられているような映画やドラマを楽しむことができる。</li> <li>驚き・幸せ・悲しみ・興味・無関心などの感情を表現し、相手の感情に反応することができる。</li> <li>経験、感情や出来事を多少詳細に記した個人的な手紙を書くことができる。</li> <li>日本の明示的な礼儀慣習を認識し、母国との主な違いを意識して、適切に行動できる。</li> </ul> <p>・この科目は、日本語コミュニケーションレベル5に接続する。</p>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	Q4(留)日本語コミュニケーションレベル4(水3,金3)
時間割コード Course Code	15406
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	本田 有子
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	本田 有子 (経営学部)
授業の目標	社会的な活動に必要な日本語能力、特に聞く・読む・やりとりする能力を養成し、伝えたいことを十分伝えられるようになる。
授業の概要	これは、「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル4のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>レベル4の評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目を受講する学生は、社会的な活動をするための日本語能力のうち、次のことができるようになる。</li> <li>指摘されたら、誤解を招きそうな誤りを修正することができる。</li> <li>聞いたり読んだりする中で出会う知らないことばの意味を文脈からある程度推測できる。</li> <li>標準語で話されていれば、関心のある話題についての短いドキュメンタリー番組などの内容の大半を理解できる。</li> <li>映像でストーリーの大筋が伝えられているような映画やドラマを楽しむことができる。</li> <li>驚き・幸せ・悲しみ・興味・無関心などの感情を表現し、相手の感情に反応することができる。</li> <li>経験、感情や出来事を多少詳細に記した個人的な手紙を書くことができる。</li> <li>日本の明示的な礼儀慣習を認識し、母国との主な違いを意識して、適切に行動できる。</li> </ul> <p>・この科目は、日本語コミュニケーションレベル5に接続する。</p>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	Q3(留)日本語コミュニケーションレベル5(水3,金3)
時間割コード Course Code	15500
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	神谷 佳那
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	神谷 佳那 (経営学部)、立見 洸貴 (経営学部)
授業の目標	社会的な活動をするための日本語能力を養成し、伝えたいことを流暢に伝えることを目指す。
授業の概要	「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル5、および総合的活動・学習・生活の調整・学習の動機付けレベル5のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。自らの学習や生活を客観的に評価し調整する能力を身につける。学習や生活を助けあう仲間づくりをする。学習の動機づけを高める。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>レベル5の評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目を受講する学生は、社会的な活動をするための日本語能力のうち、次のことができるようになる。</li> <li>日本人の仕事仲間や友人などの間で話題になるような話題を、メディアを通じて時々受け取れる。新聞やウェブ上の長い記事(時には複数)にざっと目を通し、様々な部分から特定の課題遂行のための情報を集められる。</li> <li>買い物やサービスなどの場面で、問題が起きたことを説明し、自分の立場や譲歩の可能性などの説明をすることができる。</li> <li>ある程度の自信を持って、日常・また非日常的な事柄について情報交換をし、チェックし、確認することができる。</li> <li>言いたいことを全て言えないこともあるが、会話や議論を続けることができる。</li> <li>受け手に与える影響を考慮することができる。</li> <li>あまりスムーズではなくても、対話の発言権をとったり、時間稼ぎをして発言権を保ち続けたり、終わらせたりすることができる。</li> </ul> <p>・この科目は、レベル6に接続する。</p>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。

フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力



開講科目名 Course	Q3(留)日本語コミュニケーションレベル5(水4,金4)
時間割コード Course Code	15501
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4, 金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	神谷 佳那
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	神谷 佳那(経営学部)、立見 洸貴(経営学部)
授業の目標	社会的な活動をするための日本語能力を養成し、伝えたいことを流暢に伝えることを目指す。
授業の概要	「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル5、および総合的活動・学習・生活の調整・学習の動機付けレベル5のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。自らの学習や生活を客観的に評価し調整する能力を身につける。学習や生活を助けあう仲間づくりをする。学習の動機づけを高める。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>レベル5の評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目を受講する学生は、社会的な活動をするための日本語能力のうち、次のことができるようになる。</li> <li>日本人の仕事仲間や友人などの間で話題になるような話題を、メディアを通じて時々受け取れる。新聞やウェブ上の長い記事(時には複数)にざっと目を通し、様々な部分から特定の課題遂行のための情報を集められる。</li> <li>買い物やサービスなどの場面で、問題が起きたことを説明し、自分の立場や譲歩の可能性などの説明をすることができる。</li> <li>ある程度の自信を持って、日常・また非日常的な事柄について情報交換をし、チェックし、確認することができる。</li> <li>言いたいことを全て言えないこともあるが、会話や議論を続けることができる。</li> <li>受け手に与える影響を考慮することができる。</li> <li>あまりスムーズではなくても、対話の発言権をとったり、時間稼ぎをして発言権を保ち続けたり、終わらせたりすることができる。</li> </ul> <p>・この科目は、レベル6に接続する。</p>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。

フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	Q3(留)日本語コミュニケーションレベル5(水4,金4)
時間割コード Course Code	15502
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4, 金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	本田 有子
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	本田 有子 (経営学部)
授業の目標	社会的な活動をするための日本語能力を養成し、伝えたいことを流暢に伝えることを目指す。
授業の概要	「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル5、および総合的活動・学習・生活の調整・学習の動機付けレベル5のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。自らの学習や生活を客観的に評価し調整する能力を身につける。学習や生活を助けあう仲間づくりをする。学習の動機づけを高める。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>レベル5の評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目を受講する学生は、社会的な活動をするための日本語能力のうち、次のことができるようになる。</li> <li>日本人の仕事仲間や友人などの間で話題になるような話題を、メディアを通じて時々受け取れる。新聞やウェブ上の長い記事(時には複数)にざっと目を通し、様々な部分から特定の課題遂行のための情報を集められる。</li> <li>買い物やサービスなどの場面で、問題が起きたことを説明し、自分の立場や譲歩の可能性などの説明をすることができる。</li> <li>ある程度の自信を持って、日常・また非日常的な事柄について情報交換をし、チェックし、確認することができる。</li> <li>言いたいことを全て言えないこともあるが、会話や議論を続けることができる。</li> <li>受け手に与える影響を考慮することができる。</li> <li>あまりスムーズではなくても、対話の発言権をとったり、時間稼ぎをして発言権を保ち続けたり、終わらせたりすることができる。</li> </ul> <p>・この科目は、レベル6に接続する。</p>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。

フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	Q4(留)日本語コミュニケーションレベル5(水4,金4)
時間割コード Course Code	15503
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4, 金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	成川 直見
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 4 A多目的室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	成川 直見 (経営学部)
授業の目標	社会的な活動をするための日本語能力を養成し、伝えたいことを流暢に伝えることを目指す。
授業の概要	「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル5、および総合的活動・学習・生活の調整・学習の動機付けレベル5のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。自らの学習や生活を客観的に評価し調整する能力を身につける。学習や生活を助けあう仲間づくりをする。学習の動機づけを高める。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>レベル5の評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目を受講する学生は、社会的な活動をするための日本語能力のうち、次のことができるようになる。</li> <li>日本人の仕事仲間や友人などの間で話題になるような話題を、メディアを通じて時々受け取れる。新聞やウェブ上の長い記事(時には複数)にざっと目を通し、様々な部分から特定の課題遂行のための情報を集められる。</li> <li>買い物やサービスなどの場面で、問題が起きたことを説明し、自分の立場や譲歩の可能性などの説明をすることができる。</li> <li>ある程度の自信を持って、日常・また非日常的な事柄について情報交換をし、チェックし、確認することができる。</li> <li>言いたいことを全て言えないこともあるが、会話や議論を続けることができる。</li> <li>受け手に与える影響を考慮することができる。</li> <li>あまりスムーズではなくても、対話の発言権をとったり、時間稼ぎをして発言権を保ち続けたり、終わらせたりすることができる。</li> </ul> <p>・この科目は、レベル6に接続する。</p>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。

フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	(留)日本語コミュニケーションⅤ
時間割コード Course Code	15550
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	伊藤 かな
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 2 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	伊藤 かな (経営学部)
授業の目標	社会的な活動をするための日本語能力を養成し、伝えたいことを流暢に伝えることを目指す。
授業の概要	「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル5、および総合的活動・学習・生活の調整・学習の動機付けレベル5のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。自らの学習や生活を客観的に評価し調整する能力を身につける。学習や生活を助けあう仲間づくりをする。学習の動機づけを高める。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>レベル5の評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目を受講する学生は、社会的な活動をするための日本語能力のうち、次のことができるようになる。</li> <li>日本人の仕事仲間や友人などの間で話題になるような話題を、メディアを通じて時々受け取れる。新聞やウェブ上の長い記事(時には複数)にざっと目を通し、様々な部分から特定の課題遂行のための情報を集められる。</li> <li>買い物やサービスなどの場面で、問題が起きたことを説明し、自分の立場や譲歩の可能性などの説明をすることができる。</li> <li>ある程度の自信を持って、日常・また非日常的な事柄について情報交換をし、チェックし、確認することができる。</li> <li>言いたいことを全て言えないこともあるが、会話や議論を続けることができる。</li> <li>受け手に与える影響を考慮することができる。</li> <li>あまりスムーズではなくても、対話の発言権をとったり、時間稼ぎをして発言権を保ち続けたり、終わらせたりすることができる。</li> </ul> <p>・この科目は、レベル6に接続する。</p>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。

フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力



開講科目名 Course	Q4(留)日本語コミュニケーションレベル6(水3,金3)
時間割コード Course Code	15600
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	神谷 佳那
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	神谷 佳那(経営学部)、立見 洸貴(経営学部)
授業の目標	社会的な活動をするための日本語能力を養成し、伝えたいことを流暢に伝えることを目指す。
授業の概要	「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル6、および総合的活動・学習・生活の調整・学習の動機付けレベル6のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。自らの学習や生活を客観的に評価し調整する能力を身につける。学習や生活を助けあう仲間づくりをする。学習の動機づけを高める。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>レベル6の評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目を受講する学生は、社会的な活動をするための日本語能力のうち、次のことができるようになる。</li> </ul> <p>標準語で話されていれば、やや専門的な話題や予測できない内容のテレビ番組や映画などの内容を理解でき、楽しめる。</p> <p>話し手の心情や調子などが聞き取れる。</p> <p>文化や抽象的な話題についての自分の考えを表明できる。</p> <p>他人の見方について簡単なコメントができる。</p> <p>細かい指示をしながらやり方を説明することができる。</p> <p>問い合わせや問題を説明したメッセージを記録できる。</p> <p>間接的表現や言い換えを使うことができる。</p> <p>自分のよくする間違いがわかっている、それに気づくことができる。</p> <p>知らないことばや概念を推測し、自分の理解が合っているか確かめることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目は、日本語コミュニケーションレベル7に接続する。</li> </ul>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。

フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	Q4(留)日本語コミュニケーションレベル6(水4,金4)
時間割コード Course Code	15601
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4, 金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	神谷 佳那
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	神谷 佳那(経営学部)、立見 洸貴(経営学部)
授業の目標	社会的な活動をするための日本語能力を養成し、伝えたいことを流暢に伝えることを目指す。
授業の概要	「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル6、および総合的活動・学習・生活の調整・学習の動機付けレベル6のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。自らの学習や生活を客観的に評価し調整する能力を身につける。学習や生活を助けあう仲間づくりをする。学習の動機づけを高める。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>レベル6の評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目を受講する学生は、社会的な活動をするための日本語能力のうち、次のことができるようになる。</li> </ul> <p>標準語で話されていれば、やや専門的な話題や予測できない内容のテレビ番組や映画などの内容を理解でき、楽しめる。</p> <p>話し手の心情や調子などが聞き取れる。</p> <p>文化や抽象的な話題についての自分の考えを表明できる。</p> <p>他人の見方について簡単なコメントができる。</p> <p>細かい指示をしながらやり方を説明することができる。</p> <p>問い合わせや問題を説明したメッセージを記録できる。</p> <p>間接的表現や言い換えを使うことができる。</p> <p>自分のよくする間違いがわかっている、それに気づくことができる。</p> <p>知らないことばや概念を推測し、自分の理解が合っているか確かめることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目は、日本語コミュニケーションレベル7に接続する。</li> </ul>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。

フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	Q4(留)日本語コミュニケーションレベル6(水4,金4)
時間割コード Course Code	15602
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4, 金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	本田 有子
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	本田 有子 (経営学部)
授業の目標	社会的な活動をするための日本語能力を養成し、伝えたいことを流暢に伝えることを目指す。
授業の概要	「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル6、および総合的活動・学習・生活の調整・学習の動機付けレベル6のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。自らの学習や生活を客観的に評価し調整する能力を身につける。学習や生活を助けあう仲間づくりをする。学習の動機づけを高める。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>レベル6の評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目を受講する学生は、社会的な活動をするための日本語能力のうち、次のことができるようになる。</li> <li>標準語で話されていれば、やや専門的な話題や予測できない内容のテレビ番組や映画などの内容を理解でき、楽しめる。</li> <li>話し手の心情や調子などが聞き取れる。</li> <li>文化や抽象的な話題についての自分の考えを表明できる。</li> <li>他人の見方について簡単なコメントができる。</li> <li>細かい指示をしながらやり方を説明することができる。</li> <li>問い合わせや問題を説明したメッセージを記録できる。</li> <li>間接的表現や言い換えを使うことができる。</li> <li>自分のよくする間違いがわかっている、それに気づくことができる。</li> <li>知らないことばや概念を推測し、自分の理解が合っているか確かめることができる。</li> </ul> <p>・この科目は、日本語コミュニケーションレベル7に接続する。</p>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。

フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	(留)日本語コミュニケーションレベル6
時間割コード Course Code	15650
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	金村 久美
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	14D講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	金村 久美(経済学部)
授業の目標	社会的な活動をするための日本語能力を養成し、伝えたいことを流暢に伝えることを目指す。
授業の概要	「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル6、および総合的活動・学習・生活の調整・学習の動機付けレベル6のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。自らの学習や生活を客観的に評価し調整する能力を身につける。学習や生活を助けあう仲間づくりをする。学習の動機づけを高める。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>レベル6の評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目を受講する学生は、社会的な活動をするための日本語能力のうち、次のことができるようになる。</li> </ul> <p>標準語で話されていれば、やや専門的な話題や予測できない内容のテレビ番組や映画などの内容を理解でき、楽しめる。</p> <p>話し手の心情や調子などが聞き取れる。</p> <p>文化や抽象的な話題についての自分の考えを表明できる。</p> <p>他人の見方について簡単なコメントができる。</p> <p>細かい指示をしながらやり方を説明することができる。</p> <p>問い合わせや問題を説明したメッセージを記録できる。</p> <p>間接的表現や言い換えを使うことができる。</p> <p>自分のよくする間違いがわかっている、それに気づくことができる。</p> <p>知らないことばや概念を推測し、自分の理解が合っているか確かめることができる。</p>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。

フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力



開講科目名 Course	(留)日本語コミュニケーションⅦ
時間割コード Course Code	15750
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	高木 香与呼
科目区分 Course Group	専門科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	1 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高木 香与呼 (経営学部)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動やビジネス場面の会話、やりとりに挑戦し、仕事の際に必要な表現や、コミュニケーションスキルを身に付ける。</li> <li>・自分の話し方や表現の問題に気づいて、自分で修正できるようになる。</li> <li>・モデル会話や他の人が使ったよい表現を取り入れて、よりよい伝え方に改善できるようになる。</li> </ul>
授業の概要	<p>日本での生活・仕事・人間関係維持など、社会人として求められる基礎的な日本語能力及びコミュニケーションスキルを身に付けるために、聞く・読む・やりとりをする活動を行います。特に、ビジネス場面のコミュニケーションを扱います。</p> <p>内容(1)ウォームアップクイズ 授業の冒頭に、BJTビジネス日本語能力テストの問題を参考に作ったビジネス日本語のクイズを行います。</p> <p>内容(2)活動 ロールプレイの活動を予定しています。場面を理解し適切なやりとりを考える「準備」をし、ロールプレイを披露する「実践」を行います。その後、「ふりかえり」で「実践」のビデオを見て、自分の発音・伝え方の問題を理解し改善します。</p> <p>原則対面で行います。 質問は、授業後またはメールで対応します。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照してください。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォームアップクイズ 15%</li> <li>・活動(ロールプレイ、その他) 40%</li> <li>・提出課題 40%</li> <li>・参加態度 5%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席5回以上で失格とします。

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 企業が外国人社員に求めていること</p> <p>第3回 活動1 準備</p> <p>第4回 活動1 ロールプレイ、実践</p> <p>第5回 活動1 ふりかえり・改善</p> <p>第6回 活動2 準備</p> <p>第7回 活動2 ロールプレイ、実践</p> <p>第8回 活動2 ふりかえり・改善</p> <p>第9回 活動3 準備</p> <p>第10回 活動3 ロールプレイ、実践</p> <p>第11回 活動3 ふりかえり、改善</p> <p>第12回 活動4 準備</p> <p>第13回 活動4 ロールプレイ、実践</p> <p>第14回 活動4 ふりかえり</p> <p>第15回 全体のふりかえり、自己評価、目標を立てる</p> <p>学習状況により進度・授業内容を調整・変更することがあります。</p> <p>期末試験は行いません。</p>
テキスト	授業内で指示します。学生は購入の必要はありません。
参考書	村野節子・山辺真理子・向山陽子（2012）「上級レベルロールプレイで学ぶビジネス日本語」スリーエーネットワーク
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	原則、授業内で対応します。Classroomを併用しますので、授業時間以外はClassroomで対応することになります。
フィードバックの方法	録音・録画した画像や音声に対してフィードバックをします。 提出された課題返却時。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	この授業では、授業で実践したロールプレイを自分で見て聞いて書き起こして分析します。この分析が、自身の日本語の成長につながります。1回の授業に対し最低30分以上はかけてください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	2. 協同力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 7. 課題発見力 9. 実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1			
2			
3			
4			

開講科目名 Course	(留)日本語コミュニケーションレベル8
時間割コード Course Code	15850
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	高木 香与呼
科目区分 Course Group	専門科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高木 香与呼 (経営学部)
授業の目標	社会的な活動のための日本語能力を養成し、伝えたいことを自然に伝えることを目指す。
授業の概要	「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル8のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。特に、社会人として振る舞うために必要な日本語能力に重点を置く。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	日本語コミュニケーションレベル8の評価項目 ・この科目を受講する学生は、社会的な活動をするための日本語能力のうち、次のことができるようになる。 複雑な状況をわかりやすく説明することができる。 一貫性があり構造のある、ある程度の長さの説明や語りができる。 相手に負担をかけたり、自分に非があるような状況でも、相手に配慮をし、できる限り悪い印象を与えないで、主張や依頼などの自分の目的をある程度達成することができる。 交通違反の不当な呼出状、アパートでの損害に対する金銭的責任、事故に関する責任のような争いの解決のために交渉の話し合いができる。 補償案件の概観を述べ、満足が得られるような説得力のある言葉遣いができ、こちらの譲歩の限界をはっきり表明することができる。 自分の発音を意識し、伝わりやすい発音、自然な発音となるよう、自分で修正できる。
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	(留)日本事情Ⅰ / Introduction to Japan I
時間割コード Course Code	17000
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	中村 真咲
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 真咲 (経営学部)
授業の目標	1. 国際関係を学ぶ意味を理解する。 2. 日本から見た国際関係の基本的な考え方と論点を理解する。 3. 日本語で読解する力、対話する力、論理的に考える力、考えを表現する力を身につける。
授業の概要	1. 国際関係の基本用語を理解する。 2. 日本から見た国際関係の歴史と論点を理解する。 3. 細かな知識を覚えるのではなく、「なぜそうなったのか」という論理的思考の訓練を日本語で行う。 4. 国際関係に関する自分の考えを他者に日本語で説明できるようになる。
評価方法	授業における学習態度と毎回の課題提出により、総合的に成績評価します。 授業への参加などの学習態度は25点、課題の成果は75点という割合で成績を判定します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合には、失格とします。
授業計画	第1回．イントロダクション 第2回．主権国家と国民国家 第3回．産業革命と帝国主義 第4回．第一次世界大戦と国際連盟 第5回．世界恐慌と第二次世界大戦 第6回．国際協力と国際連合の課題 第7回．冷戦 第8回．東西冷戦の終結 第9回．地域経済統合の模索 第10回．人種・民族問題と地域紛争 第11回．グローバル化と現代資本主義経済 第12回．WTO体制下の自由貿易 第13回．新興国の台頭 第14回．貧困の克服 第15回．地球規模の環境問題
テキスト	授業中に配布する
参考書	初瀬龍平・野田岳人編 『日本で学ぶ国際関係論』 (法律文化社、2007年) 原彬久 『国際関係学講義』 (第五版) (有斐閣、2016年) 細谷雄一 『国際秩序 18世紀ヨーロッパから21世紀アジアへ』 (中央公論新社、2012年)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業時間中および授業終了後に対応する。
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックを次の授業で行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の授業では、翌週の授業内容に関わる資料を配布するので、翌週までに各自で予習します。その資料を読んだ前提で、次回の授業を行いますので、予習は必須です。また、授業で配布した資料を家で読み、復習します。これらの予習・復習（計60時間）を行うことが、本授業では必須です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(留)日本事情Ⅰ / Introduction to Japan I
時間割コード Course Code	17001
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	中村 真咲
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 5 C 演習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 真咲 (経営学部)
授業の目標	1. 国際関係を学ぶ意味を理解する。 2. 日本から見た国際関係の基本的な考え方と論点を理解する。 3. 日本語で読解する力、対話する力、論理的に考える力、考えを表現する力を身につける。
授業の概要	1. 国際関係の基本用語を理解する。 2. 日本から見た国際関係の歴史と論点を理解する。 3. 細かな知識を覚えるのではなく、「なぜそうなったのか」という論理的思考の訓練を日本語で行う。 4. 国際関係に関する自分の考えを他者に日本語で説明できるようになる。
評価方法	授業における学習態度と毎回の課題提出により、総合的に成績評価します。 授業への参加などの学習態度は25点、課題の成果は75点という割合で成績を判定します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合には、失格とします。
授業計画	第1回．イントロダクション 第2回．主権国家と国民国家 第3回．産業革命と帝国主義 第4回．第一次世界大戦と国際連盟 第5回．世界恐慌と第二次世界大戦 第6回．国際協力と国際連合の課題 第7回．冷戦 第8回．東西冷戦の終結 第9回．地域経済統合の模索 第10回．人種・民族問題と地域紛争 第11回．グローバル化と現代資本主義経済 第12回．WTO体制下の自由貿易 第13回．新興国の台頭 第14回．貧困の克服 第15回．地球規模の環境問題
テキスト	授業中に配布する
参考書	初瀬龍平・野田岳人編『日本で学ぶ国際関係論』（法律文化社、2007年） 原彬久『国際関係学講義』（第五版）（有斐閣、2016年） 細谷雄一『国際秩序 18世紀ヨーロッパから21世紀アジアへ』（中央公論新社、2012年）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	



実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業時間中および授業終了後に対応する。
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックを次の授業で行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の授業では、翌週の授業内容に関わる資料を配布するので、翌週までに各自で予習します。その資料を読んだ前提で、次回の授業を行いますので、予習は必須です。また、授業で配布した資料を家で読み、復習します。これらの予習・復習（計60時間）を行うことが、本授業では必須です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(留)日本事情II / Introduction to Japan II
時間割コード Course Code	17100
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	李 彩華
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	6 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 彩華 (経営学部)
授業の目標	<p>本講義の目標は、日本の企業に関する基礎知識の一端を理解することです。とくに経営哲学と企業倫理の視点から企業について理解を深めます。現代日本企業が直面する様々な問題を理解することをめざします。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統的な日本企業の良き哲学 (philosophy) について学習し、理解することができる。</li> <li>・なぜ経営哲学と経営倫理の視点から企業を理解しなければならないかについて、積極的に考えることができる。</li> <li>・現代日本企業の変化について理解し、説明することができる。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代日本の企業が直面する様々な問題について簡単な小論文をまとめることができる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自国の企業事情と比較して考えを深めることができる。</li> </ul>
授業の概要	<p>昨今の日本では、企業による不祥事は様々な形で頻繁 (ひんばん) に起こるようになりました。創業100年や200年以上の老舗 (しにせ) 企業でさえ例外ではなくなりました。企業経営の「哲学」や「倫理観」が問題となっています。なぜ企業のモラルが低下したのか、その背景には何があるのか、この授業では、日本の経営哲学や倫理の良き伝統を踏まえたうえで、現代日本の企業を理解する手がかりを提供したいと思います。同時に自国の企業をめぐる諸問題との比較の視点を養うことができればとも思っています。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	・参加姿勢や授業中の小レポートは50%、期末試験は50%で成績評価をします。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・原則として、欠席回数5回を超えた場合は失格 (X) となる可能性があります。

授業計画	第1回 日本の近代的な企業の始まり（ガイダンスを含む） 第2回 渋沢栄一の功績と経営哲学 第3回 福沢諭吉の経済思想と意義 第4回 経営理念を重視する日本企業の良き伝統 第5回 松下幸之助の経営理念と経営哲学 第6回 「日本的経営」と時代の変化 第7回 成果主義で会社はどう変わるのか 第8回 報連相を重視する日本の企業文化 第9回 ブラック企業の問題と政府の対策 第10回 企業不祥事及びそのリスクマネジメントについて 第11回 企業不祥事の事例分析 第12回 コーポレートガバナンスについて 第13回 求められるコンプライアンス経営 第14回 CSRを重視する新しい経営 第15回 まとめ
テキスト	用いません。
参考書	初級 高巖『なぜ企業は誠実でなければならないのか』、モラルジ-研究所2006年。 中級 小島宏『理念なき会社は滅びる!』、プレジデント社2009年。 上級 R25編集部『「法令遵守」時代のビジネスNG事例集50』、R25新書2007年。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・提出した課題について、授業中で講評し、ポイントについてまとめて、できる限り隣同士で確認してもらいます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・授業の後やメールなどで対応します。
フィードバックの方法	・授業中に講評するといった方法でフィードバックします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・配布した資料および自分のレベルにあった参考書をよく読んで予習・復習してもらいます。一回の講義につき、4時間程度をかけて予習・復習してもらいます。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(留)日本事情II / Introduction to Japan II
時間割コード Course Code	17150
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	李 彩華
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 彩華 (経営学部)
授業の目標	<p>本講義の目標は、日本の企業に関する基礎知識の一端を理解することです。とくに経営哲学と企業倫理の視点から企業について理解を深めます。現代日本企業が直面する様々な問題を理解することをめざします。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統的な日本企業の良き哲学 (philosophy) について学習し、理解することができる。</li> <li>・なぜ経営哲学と経営倫理の視点から企業を理解しなければならないかについて、積極的に考えることができる。</li> <li>・現代日本企業の変化について理解し、説明することができる。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代日本の企業が直面する様々な問題について簡単な小論文をまとめることができる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自国の企業事情と比較して考えを深めることができる。</li> </ul>
授業の概要	<p>昨今の日本では、企業による不祥事は様々な形で頻繁 (ひんばん) に起こるようになりました。創業100年や200年以上の老舗 (しにせ) 企業でさえ例外ではなくなりました。企業経営の「哲学」や「倫理観」が問題となっています。なぜ企業のモラルが低下したのか、その背景には何があるのか、この授業では、日本の経営哲学や倫理の良き伝統を踏まえたうえで、現代日本の企業を理解する手がかりを提供したいと思います。同時に自国の企業をめぐる諸問題との比較の視点を養うことができればとも思っています。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	・参加姿勢や授業中の小レポートは50%、期末試験は50%で成績評価をします。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・原則として、欠席回数5回を超えた場合は失格 (X) となる可能性があります。

授業計画	第1回 日本の近代的な企業の始まり（ガイダンスを含む） 第2回 渋沢栄一の功績と経営哲学 第3回 福沢諭吉の経済思想と意義 第4回 経営理念を重視する日本企業の良き伝統 第5回 松下幸之助の経営理念と経営哲学 第6回 「日本的経営」と時代の変化 第7回 成果主義で会社はどう変わるのか 第8回 報連相を重視する日本の企業文化 第9回 ブラック企業の問題と政府の対策 第10回 企業不祥事及びそのリスクマネジメントについて 第11回 企業不祥事の事例分析 第12回 コーポレートガバナンスについて 第13回 求められるコンプライアンス経営 第14回 CSRを重視する新しい経営 第15回 まとめ
テキスト	用いません。
参考書	初級 高巖『なぜ企業は誠実でなければならないのか』、モラルジ-研究所2006年。 中級 小島宏『理念なき会社は滅びる!』、プレジデント社2009年。 上級 R25編集部『「法令遵守」時代のビジネスNG事例集50』、R25新書2007年。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・提出した課題について、授業中で講評し、ポイントについてまとめて、できる限り隣同士で確認してもらいます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・授業の後やメールなどで対応します。
フィードバックの方法	・授業中に講評するといった方法でフィードバックします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・配布した資料および自分のレベルにあった参考書をよく読んで予習・復習してもらいます。一回の講義につき、4時間程度をかけて予習・復習してもらいます。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(留)日本事情III / Introduction to Japan III
時間割コード Course Code	17200
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	松山 聡史
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	松山 聡史 (経営学部)
授業の目標	日本の歴史について学び、理解し、出身国の歴史と対比できるようになる。 ・知識・理解の領域：日本の制度・社会・文化が、歴史の中でどのように作られたのか、理解する。 ・技能の領域：出身国の歴史について、日本語で説明できるようになる。 ・態度・志向性の領域：出身国と日本との制度・社会・文化の共通点・相違点について、歴史的な観点から関心を持つ。
授業の概要	この授業では、古代から現代までの日本の歴史を学びます。日本の歴史を100年から200年ずつに区切り、それぞれの時代にはどんな制度・社会・文化だったのか、どんな問題があったのか、その問題をどうやって解決しようとしたのか、学びます。 この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること
評価方法	授業後の課題（小テスト・小レポートなど）50% 期末テスト50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 導入・日本の歴史について 第2回 古代（-11世紀）(1) 第3回 古代（-11世紀）(2) 第4回 古代（-11世紀）(3) 第5回 中世（12-13世紀）(1) 第6回 中世（12-13世紀）(2) 第7回 中世（14-16世紀）(1) 第8回 中世（14-16世紀）(2) 第9回 近世（17-18世紀）(1) 第10回 近世（17-18世紀）(2) 第11回 近代（19世紀）(1) 第12回 近代（19世紀）(2) 第13回 近代（20世紀）(1) 第14回 近代（20世紀）(2) 第15回 近代（20世紀）(3) 期末テスト
テキスト	授業の際に配布します（名古屋大学日本法教育研究センター編『日本法を学ぶための日本史・公民』を修正したものを使用します）。
参考書	授業の際に紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業に関する質問は、(1)授業後、(2)リアクションペーパー (3) その他MELOSなどで受け付けます。
フィードバックの方法	課題等に対するフィードバックは、基本的に翌週の授業で行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習：テキストを読んでおいてください(1.5時間くらい)。 復習：テキストをもう一度読み直し、指定された動画を視聴した後、MELOSで課題に答えてください(1.5時間くらい)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	導入・日本の歴史について	(1) 授業の進め方や、成績評価の方法について説明します。 (2) 日本の歴史(なぜ歴史を学ぶのか、時期区分など)について学びます。 ・予習 ありません。 ・復習 課題1に答えてください(1時間くらい)。	
2	古代(-11世紀)(1)	「古代」の歴史を学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題2に答えてください(1時間くらい)。	
3	古代(-11世紀)(2)	「古代」の歴史の続きを学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください。 ・復習 課題3に答えてください(1時間くらい)。	
4	古代(-11世紀)(3)	「古代」の歴史の続きを学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題4に答えてください。	
5	中世(12-13世紀)(1)	「中世」の歴史を学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題5に答えてください(1時間くらい)。	
6	中世(12-13世紀)(2)	「中世」の歴史の続きを学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題6に答えてください(1時間くらい)。	
7	中世(14-16世紀)(1)	「中世」の歴史の続きを学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題7に答えてください。	
8	中世(14-16世紀)(2)	「中世」の歴史の続きを学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題8に答えてください(1時間くらい)。	
9	近世(17-18世紀)(1)	「近世」の歴史を学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題9に答えてください(1時間くらい)。	
10	近世(17-18世紀)(2)	「近世」の歴史の続きを学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題10に答えてください(1時間くらい)。	
11	近代(19世紀)(1)	「近代」の歴史を学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題11に答えてください(1時間くらい)。	
12	近代(19世紀)(2)	「近代」の歴史の続きを学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題12に答えてください(1時間くらい)。	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
13	近代(20世紀)(1)	「近代」の歴史の続きを学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題13に答えてください(1時間くらい)。	
14	近代(20世紀)(2)	「近代」の歴史の続きを学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題14に答えてください(1時間くらい)。	
15	近代(20世紀)(3)	「近代」の歴史の続きを学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題15に答えてください(1時間くらい)。	

開講科目名 Course	(留)日本事情III / Introduction to Japan III
時間割コード Course Code	17250
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	松山 聡史
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	松山 聡史 (経営学部)
授業の目標	日本の歴史について学び、理解し、出身国の歴史と対比できるようになる。 ・知識・理解の領域：日本の制度・社会・文化が、歴史の中でどのように作られたのか、理解する。 ・技能の領域：出身国の歴史について、日本語で説明できるようになる。 ・態度・志向性の領域：出身国と日本との制度・社会・文化の共通点・相違点について、歴史的な観点から関心を持つ。
授業の概要	この授業では、古代から現代までの日本の歴史を学びます。日本の歴史を100年から200年ずつに区切り、それぞれの時代にはどんな制度・社会・文化だったのか、どんな問題があったのか、その問題をどうやって解決しようとしたのか、学びます。 この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること
評価方法	授業後の課題（小テスト・小レポートなど）50% 期末テスト50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 導入・日本の歴史について 第2回 古代（-11世紀）(1) 第3回 古代（-11世紀）(2) 第4回 古代（-11世紀）(3) 第5回 中世（12-13世紀）(1) 第6回 中世（12-13世紀）(2) 第7回 中世（14-16世紀）(1) 第8回 中世（14-16世紀）(2) 第9回 近世（17-18世紀）(1) 第10回 近世（17-18世紀）(2) 第11回 近代（19世紀）(1) 第12回 近代（19世紀）(2) 第13回 近代（20世紀）(1) 第14回 近代（20世紀）(2) 第15回 近代（20世紀）(3) 期末テスト
テキスト	授業の際に配布します（名古屋大学日本法教育研究センター編『日本法を学ぶための日本史・公民』を修正したものを使用します）。
参考書	授業の際に紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業に関する質問は、(1)授業後、(2)リアクションペーパー (3) その他MELOSなどで受け付けます。
フィードバックの方法	課題等に対するフィードバックは、基本的に翌週の授業で行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習：テキストを読んでおいてください(1.5時間くらい)。 復習：テキストをもう一度読み直し、指定された動画を視聴した後、MELOSで課題に答えてください(1.5時間くらい)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	導入・日本の歴史について	(1) 授業の進め方や、成績評価の方法について説明します。(2) 日本の歴史(なぜ歴史を学ぶのか、時期区分など)について学びます。 ・予習 ありません。 ・復習 課題1に答えてください(1時間くらい)。	
2	古代(-11世紀)(1)	「古代」の歴史を学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題2に答えてください(1時間くらい)。	
3	古代(-11世紀)(2)	「古代」の歴史の続きを学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください。 ・復習 課題3に答えてください(1時間くらい)。	
4	古代(-11世紀)(3)	「古代」の歴史の続きを学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題4に答えてください。	
5	中世(12-13世紀)(1)	「中世」の歴史を学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題5に答えてください(1時間くらい)。	
6	中世(12-13世紀)(2)	「中世」の歴史の続きを学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題6に答えてください(1時間くらい)。	
7	中世(14-16世紀)(1)	「中世」の歴史の続きを学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題7に答えてください。	
8	中世(14-16世紀)(2)	「中世」の歴史の続きを学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題8に答えてください(1時間くらい)。	
9	近世(17-18世紀)(1)	「近世」の歴史を学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題9に答えてください(1時間くらい)。	
10	近世(17-18世紀)(2)	「近世」の歴史の続きを学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題10に答えてください(1時間くらい)。	
11	近代(19世紀)(1)	「近代」の歴史を学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題11に答えてください(1時間くらい)。	
12	近代(19世紀)(2)	「近代」の歴史の続きを学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題12に答えてください(1時間くらい)。	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
13	近代(20世紀)(1)	「近代」の歴史の続きを学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題13に答えてください(1時間くらい)。	
14	近代(20世紀)(2)	「近代」の歴史の続きを学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題14に答えてください(1時間くらい)。	
15	近代(20世紀)(3)	「近代」の歴史の続きを学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題15に答えてください(1時間くらい)。	

開講科目名 Course	(留)日本事情IV / Introduction to Japan IV
時間割コード Course Code	17300
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	松山 聡史
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	松山 聡史 (経営学部)
授業の目標	「公民 (citizen / citizen)」として必要な知識 (たとえば、政治についての考え方や、政治制度、法律など) を学び、理解し、出身国の考え方や制度と対比できるようになる。 ・知識・理解の領域：日本での公民として必要な知識を理解する。 ・技能の領域：出身国の考え方や制度について、日本語で説明できるようになる。 ・態度・志向性の領域：出身国と日本との考え方や制度の共通点・相違点について、関心を持つ。
授業の概要	この授業では、「公民 (citizen / citizen)」として必要な知識 (たとえば、政治についての考え方や、政治制度、法律など) を学びます。立憲主義や民主政治といった考え方がどのように生まれたのか、日本国憲法はどのようにつくられ、何を定めているのか、学びます。 この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。
評価方法	授業後の課題 (小テスト・小レポートなど) 50% 期末テスト50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	1回 導入・公民について 2回 民主政治の基本原則(1) 立憲主義とは? 3回 民主政治の基本原則(2) 民主政治の歴史 4回 民主政治の基本原則(3) 啓蒙思想とは? 5回 民主政治の基本原則(4) 議院内閣制と大統領制 6回 民主政治の基本原則(5) 民主主義の課題 7回 日本国憲法(1) 日本国憲法ができるまで(前半) 8回 日本国憲法(2) 日本国憲法ができるまで(後半) 9回 日本国憲法(3) 日本国憲法の基本原則 10回 日本国憲法(4) 自由権 11回 日本国憲法(5) 社会権 12回 日本国憲法(6) 人権保障のための権利と新しい人権 13回 日本国憲法(7) 立法権と行政権 14回 日本国憲法(8) 司法権 15回 日本国憲法(9) 地方自治・憲法改正 期末テスト
テキスト	授業の際に配布します (名古屋大学日本法教育研究センター編『日本法を学ぶための日本史・公民』を修正したものを使用します)。
参考書	授業の際に紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業に関する質問は、(1)授業後、(2)リアクションペーパー (3) その他MELOSなどで受け付けます。
フィードバックの方法	課題等に対するフィードバックは、基本的に翌週の授業で行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習：テキストを読んでおいてください(1.5時間くらい)。 復習：テキストをもう一度読み直し、指定された動画を視聴した後、MELOSで課題に答えてください(1.5時間くらい)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標(11~17)	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	導入・公民について	(1) 授業の進め方や、成績評価の方法について説明します。(2) なぜ公民を学ぶのか、について学びます。 ・予習 ありません。 ・復習 課題1に答えてください(1時間くらい)。	
2	民主政治の基本原則(1)	立憲主義とは何か、を学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題2に答えてください(1時間くらい)。	
3	民主政治の基本原則(2)	民主政治とは何か、を学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題3に答えてください(1時間くらい)。	
4	民主政治の基本原則(3)	立憲主義や民主政治という考え方のもとになった啓蒙思想について学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題4に答えてください(1時間くらい)。	
5	民主政治の基本原則(4)	民主政治の2つの政治体制(議院内閣制と大統領制)を学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題5に答えてください(1時間くらい)。	
6	民主政治の基本原則(5)	19世紀から20世紀の民主主義にどんな問題があったのか、を学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題6に答えてください(1時間くらい)。	
7	日本国憲法(1)	日本国憲法ができる前にどんな問題があったのか、を学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題7に答えてください(1時間くらい)。	
8	日本国憲法(2)	日本国憲法がどのようにつくられたのか、を学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題8に答えてください(1時間くらい)。	
9	日本国憲法(3)	日本国憲法の基本原則である、「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」について学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題9に答えてください(1時間くらい)。	
10	日本国憲法(4)	日本国憲法の重要な原則である、「個人の尊重」と「法の下での平等」について学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題10に答えてください(1時間くらい)。	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
11	日本国憲法(5)	日本国憲法の人権のうち、自由権について学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題11に答えてください(1時間くらい)。	
12	日本国憲法(6)	日本国憲法の人権のうち、社会権について学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題12に答えてください(1時間くらい)。	
13	日本国憲法(7)	日本国憲法の人権のうち、人権保障のための権利や新しい人権と呼ばれる権利について学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題13に答えてください(1時間くらい)。	
14	日本国憲法(8)	日本国憲法の統治機構のうち、立法権と行政権について学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題14に答えてください(1時間くらい)。	
15	日本国憲法(9)	日本国憲法の統治機構のうち、司法権について学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題15に答えてください(1時間くらい)。	

開講科目名 Course	(留)日本事情IV / Introduction to Japan IV
時間割コード Course Code	17350
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	松山 聡史
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	松山 聡史 (経営学部)
授業の目標	「公民 (citizen / citizen)」として必要な知識 (たとえば、政治についての考え方や、政治制度、法律など) を学び、理解し、出身国の考え方や制度と対比できるようになる。 ・知識・理解の領域：日本での公民として必要な知識を理解する。 ・技能の領域：出身国の考え方や制度について、日本語で説明できるようになる。 ・態度・志向性の領域：出身国と日本との考え方や制度の共通点・相違点について、関心を持つ。
授業の概要	この授業では、「公民 (citizen / citizen)」として必要な知識 (たとえば、政治についての考え方や、政治制度、法律など) を学びます。立憲主義や民主政治といった考え方がどのように生まれたのか、日本国憲法はどのようにつくられ、何を定めているのか、学びます。 この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。
評価方法	授業後の課題 (小テスト・小レポートなど) 50% 期末テスト50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	1回 導入・公民について 2回 民主政治の基本原則(1) 立憲主義とは? 3回 民主政治の基本原則(2) 民主政治の歴史 4回 民主政治の基本原則(3) 啓蒙思想とは? 5回 民主政治の基本原則(4) 議院内閣制と大統領制 6回 民主政治の基本原則(5) 民主主義の課題 7回 日本国憲法(1) 日本国憲法ができるまで(前半) 8回 日本国憲法(2) 日本国憲法ができるまで(後半) 9回 日本国憲法(3) 日本国憲法の基本原則 10回 日本国憲法(4) 自由権 11回 日本国憲法(5) 社会権 12回 日本国憲法(6) 人権保障のための権利と新しい人権 13回 日本国憲法(7) 立法権と行政権 14回 日本国憲法(8) 司法権 15回 日本国憲法(9) 地方自治・憲法改正 期末テスト
テキスト	授業の際に配布します (名古屋大学日本法教育研究センター編『日本法を学ぶための日本史・公民』を修正したものを使用します)。
参考書	授業の際に紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業に関する質問は、(1)授業後、(2)リアクションペーパー (3) その他MELOSなどで受け付けます。
フィードバックの方法	課題等に対するフィードバックは、基本的に翌週の授業で行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習：テキストを読んでおいてください(1.5時間くらい)。 復習：テキストをもう一度読み直し、指定された動画を視聴した後、MELOSで課題に答えてください(1.5時間くらい)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標(11~17)	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	導入・公民について	(1) 授業の進め方や、成績評価の方法について説明します。(2) なぜ公民を学ぶのか、について学びます。 ・予習 ありません。 ・復習 課題1に答えてください(1時間くらい)。	
2	民主政治の基本原則(1)	立憲主義とは何か、を学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題2に答えてください(1時間くらい)。	
3	民主政治の基本原則(2)	民主政治とは何か、を学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題3に答えてください(1時間くらい)。	
4	民主政治の基本原則(3)	立憲主義や民主政治という考え方のもとになった啓蒙思想について学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題4に答えてください(1時間くらい)。	
5	民主政治の基本原則(4)	民主政治の2つの政治体制(議院内閣制と大統領制)を学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題5に答えてください(1時間くらい)。	
6	民主政治の基本原則(5)	19世紀から20世紀の民主主義にどんな問題があったのか、を学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題6に答えてください(1時間くらい)。	
7	日本国憲法(1)	日本国憲法ができる前にどんな問題があったのか、を学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題7に答えてください(1時間くらい)。	
8	日本国憲法(2)	日本国憲法がどのようにつくられたのか、を学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題8に答えてください(1時間くらい)。	
9	日本国憲法(3)	日本国憲法の基本原則である、「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」について学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題9に答えてください(1時間くらい)。	
10	日本国憲法(4)	日本国憲法の重要な原則である、「個人の尊重」と「法の下での平等」について学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題10に答えてください(1時間くらい)。	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
11	日本国憲法(5)	日本国憲法の人権のうち、自由権について学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題11に答えてください(1時間くらい)。	
12	日本国憲法(6)	日本国憲法の人権のうち、社会権について学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題12に答えてください(1時間くらい)。	
13	日本国憲法(7)	日本国憲法の人権のうち、人権保障のための権利や新しい人権と呼ばれる権利について学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題13に答えてください(1時間くらい)。	
14	日本国憲法(8)	日本国憲法の統治機構のうち、立法権と行政権について学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題14に答えてください(1時間くらい)。	
15	日本国憲法(9)	日本国憲法の統治機構のうち、司法権について学びます。 ・予習 資料を読んでおいてください(2時間くらい)。 ・復習 課題15に答えてください(1時間くらい)。	

開講科目名 Course	(留)日本事情V / Japanese Culture and Society V
時間割コード Course Code	17400
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	四辻 秀紀
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	四辻 秀紀 (経営学部)
授業の目標	日本人の培ってきた文化事象や形態についての知識を得、理解を深める。
授業の概要	<p>本授業は対面授業で行います。</p> <p>日本人は、春夏秋冬四季に移ろいゆく季節感を愛するとともに、その季節ごとに行われる祭りをはじめとする歳時や年中行事を大切にしてきました。</p> <p>授業では、東アジアの文化的背景を視野に入れつつ、前半には節供や伝統的な祭りや儀礼を取り上げます。後半では日本を代表する伝統芸能を取り上げ、その歴史や魅力を紹介します。</p> <p>VTRやスライドを用いて授業を行い、日本人が培ってきた文化や美意識の伝統を考えていきます。また学外見学会を行う予定です。</p>
評価方法	授業への参加状況 (学習態度) 50%、レポートの結果 50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 概説</li> <li>2 暦の話</li> <li>3 年中行事 五節供 1</li> <li>4 年中行事 五節供 2</li> <li>5 日本の祭り 1</li> <li>6 日本の祭り 2</li> <li>7日本の祭り 3</li> <li>8 雅楽と舞楽</li> <li>9 能と狂言</li> <li>10・11 見学会</li> <li>12 歌舞伎</li> <li>13 茶道・香道・花道の文化</li> <li>14 日本の話芸・落語</li> <li>15 まとめ</li> </ol> <p>土曜日に通常の授業時間2回分を使って、日本の文化を知るための学外見学会を行います。</p>
テキスト	必要に応じて資料を配信します。
参考書	授業の中で随時紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	この科目は、徳川美術館・学芸員の経験を有する教員が、日本の代表的な伝統芸能を取り上げ、これらによって育まれた文化形態の理解を深める「実務経験のある教員による授業科目」です。
質問への対応方法	随時、メール対応。
フィードバックの方法	翌週に返却。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習・復習は全体で60時間の学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力

開講科目名 Course	(留)日本事情V / Japanese Culture and Society V
時間割コード Course Code	17450
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	四辻 秀紀
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	四辻 秀紀 (経営学部)
授業の目標	日本人の培ってきた文化事象や形態についての知識を得、理解を深める。
授業の概要	<p>本授業は対面授業で行います。</p> <p>日本人は、春夏秋冬四季に移ろいゆく季節感を愛するとともに、その季節ごとに行われる祭りをはじめとする歳時や年中行事を大切にしてきました。</p> <p>授業では、東アジアの文化的背景を視野に入れつつ、前半には節供や伝統的な祭りや儀礼を取り上げます。後半では日本を代表する伝統芸能を取り上げ、その歴史や魅力を紹介します。</p> <p>VTRやスライドを用いて授業を行い、日本人が培ってきた文化や美意識の伝統を考えていきます。</p>
評価方法	授業への参加状況 (学習態度) 50%、レポートの結果 50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 概説</li> <li>2 暦の話</li> <li>3 年中行事 五節供 1</li> <li>4 年中行事 五節供 2</li> <li>5 日本の祭り 1</li> <li>6 日本の祭り 2</li> <li>7日本の祭り 3</li> <li>8 雅楽と舞楽</li> <li>9 能と狂言</li> <li>10・11 学外見学会</li> <li>12 歌舞伎</li> <li>13 茶道・「香道・花道</li> <li>14 日本の話芸・落語</li> <li>15 まとめ</li> </ol> <p>土曜日に授業時間2回分をつかって、日本の文化に触れる学外見学会を行います。</p>
テキスト	必要に応じて資料を配信します。
参考書	授業の中で随時紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する



担当教員の実務経験を活かした授業の内容	この科目は、徳川美術館・学芸員の経験を有する教員が、日本の代表的な伝統芸能を取り上げ、これらによって育まれた文化形態の理解を深める「実務経験のある教員による授業科目」です。
質問への対応方法	随時、メール対応。
フィードバックの方法	翌週に返却。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習・復習は全体で60時間の学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力

開講科目名 Course	市民生活と経済(済) / Civil life and Economics
時間割コード Course Code	18001
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	安部 伸哉
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	酒井 愛(経済学部)、ブ ティ ビック リエン(経済学部)、佐藤 正之(経済学部)、村山 徹(経済学部)、木村 牧郎(経済学部)、定森 亮(経済学部)、齋藤 敦(経済学部)、石川 啓雅(経済学部)、谷内 陽一(経済学部)、佐藤 邦彦(経済学部)、安部 伸哉(経済学部)
授業の目標	<p>この講義は、経済学ではどのようなことを学ぶのか、また、経済学と関連する分野にはどのような問題があるのかを理解することを目標とした入門科目です。 本講義によって、経済学の基本的な考え方や、経済あるいは社会的問題への多様な接近方法を修得することができます。</p> <p>知識・理解の領域 経済学および関連分野の基本的な考え方を理解できる。</p> <p>思考判断の領域 様々な経済問題の考察すべき事項を見抜くことができる。</p> <p>関心意欲の領域 今後の経済社会の望ましいあり方について自らの見解を構築できる。</p> <p>態度・志向性の領域 身近な経済の諸問題について自発的に調べることができる。</p> <p>技能の領域 経済的諸問題についての考察結果を自らの言葉で説明できる。</p> <p>体験探究の領域 専門科目への入り口として、関心を持ったことについて、文献や新聞記事等を利用して自分で調べることができるようになる。</p>
授業の概要	<p>本講義では、経済学および関連分野の基本的な知識と考え方を、各分野の専門的知見に基づいて説明します。一見するとバラバラに見える各領域は、高度に複雑化する現代社会を多角的に読み解こうとする経済学の射程の広さを反映するものなのです。経済学がもつ、経済現象への多様なアプローチを学ぶことで、その後の専門科目の勉強のイメージもつかみやすくなるはずです。</p> <p>・この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	各回で出される課題等(各回で詳細は異なる)への取り組みを総合して評価する。課題提出期限を設けるので注意すること(第1回目のガイダンスにおける説明をよく聞くこと)。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席が多いと「失格」となる場合があります。
授業計画	<p>初回(第1回)講義は本科目の全体ガイダンスを行う。 最終回(第15回)講義は本科目の総まとめを行う。 第2回から第14回までは経済学関連の基本知識を経済学部教員のオムニバス形式で講義を行う。 なお、詳細な計画については、初回講義に周知する。</p>
テキスト	テキスト指定はなし。必要に応じて、各回で資料などが配られることもある。

参考書	各講義で指示するが、さしあたって以下のものを挙げておく。 横浜国立大学経済学部テキスト・プロジェクトチーム『ゼロからはじめる経済入門：経済学への招待』、有斐閣、2019年。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後の質問、オフィスアワー、メール等オンラインで対応します。各回の担当教員の指示に従ってください。
フィードバックの方法	全体と共有することで皆の理解を助ける内容の提出課題などは、必要に応じてフィードバックすることもある。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	専門的内容のオムニバスのため、特に各回終了後の復習に時間を使うことを推奨する。（1回あたり2時間程度）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	市民生活と経済(営) / Civil life and Economics
時間割コード Course Code	18002
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	木村 牧郎
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	酒井 愛(経済学部)、プ ティ ビック リエン(経済学部)、佐藤 正之(経済学部)、村山 徹(経済学部)、木村 牧郎(経済学部)、定森 亮(経済学部)、齋藤 敦(経済学部)、石川 啓雅(経済学部)、谷内 陽一(経済学部)、佐藤 邦彦(経済学部)、安部 伸哉(経済学部)
授業の目標	<p>この講義は、経済学ではどのようなことを学ぶのか、また、経済学と関連する分野にはどのような問題があるのかを理解することを目標とした入門科目です。 本講義によって、経済学の基本的な考え方や、経済あるいは社会的問題への多様な接近方法を修得することができます。</p> <p>知識・理解の領域 経済学および関連分野の基本的な考え方を理解できる。</p> <p>思考判断の領域 様々な経済問題の考察すべき事項を見抜くことができる。</p> <p>関心意欲の領域 今後の経済社会の望ましいあり方について自らの見解を構築できる。</p> <p>態度・志向性の領域 身近な経済の諸問題について自発的に調べることができる。</p> <p>技能の領域 経済的諸問題についての考察結果を自らの言葉で説明できる。</p> <p>体験探究の領域 専門科目への入り口として、関心を持ったことについて、文献や新聞記事等を利用して自分で調べることができるようになる。</p>
授業の概要	<p>本講義では、経済学および関連分野の基本的な知識と考え方を、各分野の専門的知見に基づいて説明します。一見するとバラバラに見える各領域は、高度に複雑化する現代社会を多角的に読み解こうとする経済学の射程の広さを反映するものなのです。経済学がもつ、経済現象への多様なアプローチを学ぶことで、その後の専門科目の勉強のイメージもつかみやすくなるはずです。</p> <p>・この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	各回で出される課題等(各回で詳細は異なる)への取り組みを総合して評価する。課題提出期限を設けるので注意すること(第1回目のガイダンスにおける説明をよく聞くこと)。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席が多いと「失格」となる場合があります。
授業計画	<p>初回(第1回)講義は本科目の全体ガイダンスを行う。 最終回(第15回)講義は本科目の総まとめを行う。 第2回から第14回までは経済学関連の基本知識を経済学部教員のオムニバス形式で講義を行う。 なお、詳細な計画については、初回講義に周知する。</p>
テキスト	テキスト指定はなし。必要に応じて、各回で資料などが配られることもある。

参考書	各講義で指示するが、さしあたって以下のものを挙げておく。 横浜国立大学経済学部テキスト・プロジェクトチーム『ゼロからはじめる経済入門：経済学への招待』、有斐閣、2019年。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後の質問、オフィスアワー、メール等オンラインで対応します。各回の担当教員の指示に従ってください。
フィードバックの方法	全体と共有することで皆の理解を助ける内容の提出課題などは、必要に応じてフィードバックすることもある。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	専門的内容のオムニバスのため、特に各回終了後の復習に時間を使うことを推奨する。（1回あたり2時間程度）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	市民生活と経済(法) / Civil life and Economics
時間割コード Course Code	18003
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	村山 徹
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	酒井 愛(経済学部)、プ ティ ビック リエン(経済学部)、佐藤 正之(経済学部)、村山 徹(経済学部)、木村 牧郎(経済学部)、定森 亮(経済学部)、齋藤 敦(経済学部)、石川 啓雅(経済学部)、谷内 陽一(経済学部)、佐藤 邦彦(経済学部)、安部 伸哉(経済学部)
授業の目標	<p>この講義は、経済学ではどのようなことを学ぶのか、また、経済学と関連する分野にはどのような問題があるのかを理解することを目標とした入門科目です。 本講義によって、経済学の基本的な考え方や、経済あるいは社会的問題への多様な接近方法を修得することができます。</p> <p>知識・理解の領域 経済学および関連分野の基本的な考え方を理解できる。</p> <p>思考判断の領域 様々な経済問題の考察すべき事項を見抜くことができる。</p> <p>関心意欲の領域 今後の経済社会の望ましいあり方について自らの見解を構築できる。</p> <p>態度・志向性の領域 身近な経済の諸問題について自発的に調べることができる。</p> <p>技能の領域 経済的諸問題についての考察結果を自らの言葉で説明できる。</p> <p>体験探究の領域 専門科目への入り口として、関心を持ったことについて、文献や新聞記事等を利用して自分で調べることができるようになる。</p>
授業の概要	<p>本講義では、経済学および関連分野の基本的な知識と考え方を、各分野の専門的知見に基づいて説明します。一見するとバラバラに見える各領域は、高度に複雑化する現代社会を多角的に読み解こうとする経済学の射程の広さを反映するものなのです。経済学がもつ、経済現象への多様なアプローチを学ぶことで、その後の専門科目の勉強のイメージもつかみやすくなるはずです。</p> <p>・この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	各回で出される課題等(各回で詳細は異なる)への取り組みを総合して評価する。課題提出期限を設けるので注意すること(第1回目のガイダンスにおける説明をよく聞くこと)。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席が多いと「失格」となる場合があります。
授業計画	<p>初回(第1回)講義は本科目の全体ガイダンスを行う。 最終回(第15回)講義は本科目の総まとめを行う。 第2回から第14回までは経済学関連の基本知識を経済学部教員のオムニバス形式で講義を行う。 なお、詳細な計画については、初回講義に周知する。</p>
テキスト	テキスト指定はなし。必要に応じて、各回で資料などが配られることもある。

参考書	各講義で指示するが、さしあたって以下のものを挙げておく。 横浜国立大学経済学部テキスト・プロジェクトチーム『ゼロからはじめる経済入門：経済学への招待』、有斐閣、2019年。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後の質問、オフィスアワー、メール等オンラインで対応します。各回の担当教員の指示に従ってください。
フィードバックの方法	全体と共有することで皆の理解を助ける内容の提出課題などは、必要に応じてフィードバックすることもある。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	専門的内容のオムニバスのため、特に各回終了後の復習に時間を使うことを推奨する。（1回あたり2時間程度）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	市民生活と経済(再) / Civil life and Economics
時間割コード Course Code	18004
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 5
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	齋藤 敦
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	酒井 愛(経済学部)、プ ティ ビック リエン(経済学部)、佐藤 正之(経済学部)、村山 徹(経済学部)、木村 牧郎(経済学部)、定森 亮(経済学部)、齋藤 敦(経済学部)、石川 啓雅(経済学部)、谷内 陽一(経済学部)、佐藤 邦彦(経済学部)、安部 伸哉(経済学部)
授業の目標	<p>この講義は、経済学ではどのようなことを学ぶのか、また、経済学と関連する分野にはどのような問題があるのかを理解することを目標とした入門科目です。 本講義によって、経済学の基本的な考え方や、経済あるいは社会的問題への多様な接近方法を修得することができます。</p> <p>知識・理解の領域 経済学および関連分野の基本的な考え方を理解できる。</p> <p>思考判断の領域 様々な経済問題の考察すべき事項を見抜くことができる。</p> <p>関心意欲の領域 今後の経済社会の望ましいあり方について自らの見解を構築できる。</p> <p>態度・志向性の領域 身近な経済の諸問題について自発的に調べることができる。</p> <p>技能の領域 経済的諸問題についての考察結果を自らの言葉で説明できる。</p> <p>体験探究の領域 専門科目への入り口として、関心を持ったことについて、文献や新聞記事等を利用して自分で調べることができるようになる。</p>
授業の概要	<p>本講義では、経済学および関連分野の基本的な知識と考え方を、各分野の専門的知見に基づいて説明します。一見するとバラバラに見える各領域は、高度に複雑化する現代社会を多角的に読み解こうとする経済学の射程の広さを反映するものなのです。経済学がもつ、経済現象への多様なアプローチを学ぶことで、その後の専門科目の勉強のイメージもつかみやすくなるはずです。</p> <p>・この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	各回で出される課題等(各回で詳細は異なる)への取り組みを総合して評価する。課題提出期限を設けるので注意すること(第1回目のガイダンスにおける説明をよく聞くこと)。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席が多いと「失格」となる場合があります。
授業計画	<p>初回(第1回)講義は本科目の全体ガイダンスを行う。 最終回(第15回)講義は本科目の総まとめを行う。 第2回から第14回までは経済学関連の基本知識を経済学部教員のオムニバス形式で講義を行う。 詳細については、初回講義に周知する。</p>
テキスト	テキスト指定はなし。必要に応じて、各回で資料などが配られることもある。



参考書	各講義で指示するが、さしあたって以下のものを挙げておく。 横浜国立大学経済学部テキスト・プロジェクトチーム『ゼロからはじめる経済入門：経済学への招待』、有斐閣、2019年。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後の質問、オフィスアワー、メール等オンラインで対応します。各回の担当教員の指示に従ってください。
フィードバックの方法	全体と共有することで皆の理解を助ける内容の提出課題などは、必要に応じてフィードバックすることもある。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	専門的内容のオムニバスのため、特に各回終了後の復習に時間を使うことを推奨する。（1回あたり2時間程度）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	市民生活とビジネス(済) / Civil life and Business
時間割コード Course Code	18101
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	大曾 暢烈
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 美善 (経営学部)、大曾 暢烈 (経営学部)、山下 幸裕 (経営学部)
授業の目標	<p><b>【授業の目標】</b> 本講義の目標は、経営学の様々な専門領域を広く学ぶことを通じて、経営学やビジネスの基礎知識・全体像・専門用語を理解することです。</p> <p><b>【学習成果】</b></p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・経営学の全体像を理解することができる。</li><li>・経営学の主要領域を理解することができる。</li><li>・経営学に関連する用語を理解することができる。</li></ul> <p>思考判断の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・私たちの身近な事象を経営学の視点から考えることができる。</li></ul> <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・経営学の様々な専門領域に関心を持つことができる。</li><li>・現実のビジネスの動向に関心を持つことができる。</li><li>・ビジネスに関わる事象から関連領域 (法律、政治、経済など) について関心を持つことができる。</li></ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・経営学やビジネスに関わる身近な事象を自ら進んで調べることができる。</li></ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・経営学の基本的な知識を用いて、現実のビジネスについて説明することができる。</li><li>・私たちの生活とビジネスの関わりについて自分の言葉で説明することができる。</li></ul>

授業の概要	<p>本講義は、経営学の導入科目です。「企業はどのように経営しているのか?」、「商品はどのように作られ私たちの手元に届くのか?」、「情報技術の発展が企業経営にどのような影響を与えているのか?」、「人をいかにマネジメントしていくのか?」など、経営学をはじめ学ぶ学生が、企業経営の仕組みを理解するために必要となる重要なトピックを説明します。</p> <p>毎回の講義では、経営学の専門領域から1つのトピックを取り上げて講義を行います。「市民生活とビジネス」を受講することによって、2年次以降に受講する経営学の専門科目をより理解することが可能となります。</p> <p>質問がある場合は、講義終了後に、それぞれのトピックを担当した教員が対応します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染拡大により授業形態の変更が必要になった場合は、講義内容や評価方法などを大きく変更する場合があります。</p>
評価方法	期末試験の成績をもとに総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合。
授業計画	<p>第1回 私たちの生活とビジネス</p> <p>第2回 企業経営と経営環境</p> <p>第3回 経営戦略</p> <p>第4回 グローバルマネジメント</p> <p>第5回 日本的経営</p> <p>第6回 企業と社会</p> <p>第7回 経営組織</p> <p>第8回 人的資源管理</p> <p>第9回 アントレプレナーシップ</p> <p>第10回 イノベーション</p> <p>第11回 情報と企業</p> <p>第12回 会計の役割</p> <p>第13回 マーケティング</p> <p>第14回 流通と商業</p> <p>第15回 広告の役割</p>
テキスト	配布するレジユメを使用する。
参考書	<p>井原久光 (2008) 『テキスト経営学 第3版 基礎から最新の理論まで』ミネルヴァ書房。</p> <p>石井淳蔵・廣田章光・清水信年 (2020) 『1からのマーケティング 第4版』碩学舎 (中央経済社)。</p> <p>加護野忠男・吉村典久編著 (2021) 『1からの経営学 第3版』碩学舎 (中央経済社)。</p> <p>片岡信弘・工藤司・石野正彦・五月女健治 (2018) 『インターネットビジネス概論 (第2版)』共立出版。</p> <p>川本淳・野口昌良・浅見裕子・山田純平・荒田映子 (2022) 『はじめて出会う会計学 (第3版)』有斐閣。</p> <p>近能善範・高井文子 (2010) 『コア・テキスト イノベーションマネジメント』新世社。</p> <p>佐久間信夫 編著 (2011) 『経営学概論』創成社。</p> <p>櫻井克彦編著 (2006) 『現代経営学 - 経営学研究の新潮流』税務経理協会。</p> <p>崔容熏・原頼利・東伸一 (2022) 『はじめての流通 (新版)』有斐閣。</p> <p>石崎徹 (2012) 『わかりやすい広告論 (第2版)』八千代出版。</p> <p>八代充史 (2019) 『人的資源管理論 理論と制度 第3版』中央経済社。</p> <p>山田幸三・江島由裕編著 (2017) 『1からのアントレプレナーシップ』碩学舎 (中央経済社)。</p> <p>その他の文献についても随時紹介する。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後に対応する。
フィードバックの方法	授業中に講評する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、予習2時間、復習2時間が必要です。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標 (1~10)	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標 (11~17)	12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	5. 自信創出力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	市民生活とビジネス(営) / Civil life and Business
時間割コード Course Code	18102
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	李 美善
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 美善 (経営学部)、大曾 暢烈 (経営学部)、山下 幸裕 (経営学部)
授業の目標	<p><b>【授業の目標】</b> 本講義の目標は、経営学の様々な専門領域を広く学ぶことを通じて、経営学やビジネスの基礎知識・全体像・専門用語を理解することです。</p> <p><b>【学習成果】</b></p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・経営学の全体像を理解することができる。</li><li>・経営学の主要領域を理解することができる。</li><li>・経営学に関連する用語を理解することができる。</li></ul> <p>思考判断の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・私たちの身近な事象を経営学の視点から考えることができる。</li></ul> <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・経営学の様々な専門領域に関心を持つことができる。</li><li>・現実のビジネスの動向に関心を持つことができる。</li><li>・ビジネスに関わる事象から関連領域 (法律、政治、経済など) について関心を持つことができる。</li></ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・経営学やビジネスに関わる身近な事象を自ら進んで調べることができる。</li></ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・経営学の基本的な知識を用いて、現実のビジネスについて説明することができる。</li><li>・私たちの生活とビジネスの関わりについて自分の言葉で説明することができる。</li></ul>

授業の概要	<p>本講義は、経営学の導入科目です。「企業はどのように経営しているのか?」、「商品はどのように作られ私たちの手元に届くのか?」、「情報技術の発展が企業経営にどのような影響を与えているのか?」、「人をいかにマネジメントしていくのか?」など、経営学をはじめ学ぶ学生が、企業経営の仕組みを理解するために必要となる重要なトピックを説明します。</p> <p>毎回の講義では、経営学の専門領域から1つのトピックを取り上げて講義を行います。「市民生活とビジネス」を受講することによって、2年次以降に受講する経営学の専門科目をより理解することが可能となります。</p> <p>質問がある場合は、講義終了後に、それぞれのトピックを担当した教員が対応します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染拡大により授業形態の変更が必要になった場合は、講義内容や評価方法などを大きく変更する場合があります。</p>
評価方法	期末試験の成績をもとに総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合。
授業計画	<p>第1回 私たちの生活とビジネス</p> <p>第2回 企業経営と経営環境</p> <p>第3回 経営戦略</p> <p>第4回 グローバルマネジメント</p> <p>第5回 日本的経営</p> <p>第6回 企業と社会</p> <p>第7回 経営組織</p> <p>第8回 人的資源管理</p> <p>第9回 アントレプレナーシップ</p> <p>第10回 イノベーション</p> <p>第11回 情報と企業</p> <p>第12回 会計の役割</p> <p>第13回 マーケティング</p> <p>第14回 流通と商業</p> <p>第15回 広告の役割</p>
テキスト	配布するレジユメを使用する。
参考書	<p>井原久光 (2008) 『テキスト経営学 第3版 基礎から最新の理論まで』ミネルヴァ書房。</p> <p>石井淳蔵・廣田章光・清水信年 (2020) 『1からのマーケティング 第4版』碩学舎 (中央経済社)。</p> <p>加護野忠男・吉村典久編著 (2021) 『1からの経営学 第3版』碩学舎 (中央経済社)。</p> <p>片岡信弘・工藤司・石野正彦・五月女健治 (2018) 『インターネットビジネス概論 (第2版)』共立出版。</p> <p>川本淳・野口昌良・浅見裕子・山田純平・荒田映子 (2022) 『はじめて出会う会計学 (第3版)』有斐閣。</p> <p>近能善範・高井文子 (2010) 『コア・テキスト イノベーションマネジメント』新世社。</p> <p>佐久間信夫 編著 (2011) 『経営学概論』創成社。</p> <p>櫻井克彦編著 (2006) 『現代経営学 - 経営学研究の新潮流』税務経理協会。</p> <p>崔容熏・原頼利・東伸一 (2022) 『はじめての流通 (新版)』有斐閣。</p> <p>石崎徹 (2012) 『わかりやすい広告論 (第2版)』八千代出版。</p> <p>八代充史 (2019) 『人的資源管理論 理論と制度 第3版』中央経済社。</p> <p>山田幸三・江島由裕編著 (2017) 『1からのアントレプレナーシップ』碩学舎 (中央経済社)。</p> <p>その他の文献についても随時紹介する。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後に対応する。
フィードバックの方法	授業中に講評する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、予習2時間、復習2時間が必要です。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標 (1~10)	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標 (11~17)	12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	5. 自信創出力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	市民生活とビジネス(法) / Civil life and Business
時間割コード Course Code	18103
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	山下 幸裕
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 美善 (経営学部)、大曾 暢烈 (経営学部)、山下 幸裕 (経営学部)
授業の目標	<p><b>【授業の目標】</b> 本講義の目標は、経営学の様々な専門領域を広く学ぶことを通じて、経営学やビジネスの基礎知識・全体像・専門用語を理解することです。</p> <p><b>【学習成果】</b></p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・経営学の全体像を理解することができる。</li><li>・経営学の主要領域を理解することができる。</li><li>・経営学に関連する用語を理解することができる。</li></ul> <p>思考判断の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・私たちの身近な事象を経営学の視点から考えることができる。</li></ul> <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・経営学の様々な専門領域に関心を持つことができる。</li><li>・現実のビジネスの動向に関心を持つことができる。</li><li>・ビジネスに関わる事象から関連領域 (法律、政治、経済など) について関心を持つことができる。</li></ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・経営学やビジネスに関わる身近な事象を自ら進んで調べることができる。</li></ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・経営学の基本的な知識を用いて、現実のビジネスについて説明することができる。</li><li>・私たちの生活とビジネスの関わりについて自分の言葉で説明することができる。</li></ul>



授業の概要	<p>本講義は、経営学の導入科目です。「企業はどのように経営しているのか?」、「商品はどのように作られ私たちの手元に届くのか?」、「情報技術の発展が企業経営にどのような影響を与えているのか?」、「人をいかにマネジメントしていくのか?」など、経営学をはじめ学ぶ学生が、企業経営の仕組みを理解するために必要となる重要なトピックを説明します。</p> <p>毎回の講義では、経営学の専門領域から1つのトピックを取り上げて講義を行います。「市民生活とビジネス」を受講することによって、2年次以降に受講する経営学の専門科目をより理解することが可能となります。</p> <p>質問がある場合は、講義終了後に、それぞれのトピックを担当した教員が対応します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染拡大により授業形態の変更が必要になった場合は、講義内容や評価方法などを大きく変更する場合があります。</p>
評価方法	期末試験の成績をもとに総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合。
授業計画	<p>第1回 私たちの生活とビジネス</p> <p>第2回 企業経営と経営環境</p> <p>第3回 経営戦略</p> <p>第4回 グローバルマネジメント</p> <p>第5回 日本的経営</p> <p>第6回 企業と社会</p> <p>第7回 経営組織</p> <p>第8回 人的資源管理</p> <p>第9回 アントレプレナーシップ</p> <p>第10回 イノベーション</p> <p>第11回 情報と企業</p> <p>第12回 会計の役割</p> <p>第13回 マーケティング</p> <p>第14回 流通と商業</p> <p>第15回 広告の役割</p>
テキスト	配布するレジユメを使用する。
参考書	<p>井原久光 (2008) 『テキスト経営学 第3版 基礎から最新の理論まで』ミネルヴァ書房。</p> <p>石井淳蔵・廣田章光・清水信年 (2020) 『1からのマーケティング 第4版』碩学舎 (中央経済社)。</p> <p>加護野忠男・吉村典久編著 (2021) 『1からの経営学 第3版』碩学舎 (中央経済社)。</p> <p>片岡信弘・工藤司・石野正彦・五月女健治 (2018) 『インターネットビジネス概論 (第2版)』共立出版。</p> <p>川本淳・野口昌良・浅見裕子・山田純平・荒田映子 (2022) 『はじめて出会う会計学 (第3版)』有斐閣。</p> <p>近能善範・高井文子 (2010) 『コア・テキスト イノベーションマネジメント』新世社。</p> <p>佐久間信夫 編著 (2011) 『経営学概論』創成社。</p> <p>櫻井克彦編著 (2006) 『現代経営学 - 経営学研究の新潮流』税務経理協会。</p> <p>崔容熏・原頼利・東伸一 (2022) 『はじめての流通 (新版)』有斐閣。</p> <p>石崎徹 (2012) 『わかりやすい広告論 (第2版)』八千代出版。</p> <p>八代充史 (2019) 『人的資源管理論 理論と制度 第3版』中央経済社。</p> <p>山田幸三・江島由裕編著 (2017) 『1からのアントレプレナーシップ』碩学舎 (中央経済社)。</p> <p>その他の文献についても随時紹介する。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後に対応する。
フィードバックの方法	授業中に講評する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、予習2時間、復習2時間が必要です。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標 (1~10)	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標 (11~17)	12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	5. 自信創出力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	市民生活とビジネス(再) / Civil life and Business
時間割コード Course Code	18104
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 5
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	李 美善
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	吉川 伸一 (経営学部)、李 美善 (経営学部)、神邊 篤史 (経営学部)
授業の目標	<p><b>【授業の目標】</b> 本講義の目標は、経営学の様々な専門領域を広く学ぶことを通じて、経営学やビジネスの基礎知識・全体像・専門用語を理解することです。</p> <p><b>【学習成果】</b></p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・経営学の全体像を理解することができる。</li><li>・経営学の主要領域を理解することができる。</li><li>・経営学に関連する用語を理解することができる。</li></ul> <p>思考判断の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・私たちの身近な事象を経営学の視点から考えることができる。</li></ul> <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・経営学の様々な専門領域に関心を持つことができる。</li><li>・現実のビジネスの動向に関心を持つことができる。</li><li>・ビジネスに関わる事象から関連領域 (法律、政治、経済など) について関心を持つことができる。</li></ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・経営学やビジネスに関わる身近な事象を自ら進んで調べることができる。</li></ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・経営学の基本的な知識を用いて、現実のビジネスについて説明することができる。</li><li>・私たちの生活とビジネスの関わりについて自分の言葉で説明することができる。</li></ul>

授業の概要	<p>本講義は、経営学の導入科目です。「企業はどのように経営しているのか?」、「商品はどのように作られ私たちの手元に届くのか?」、「情報技術の発展が企業経営にどのような影響を与えているのか?」、「人をいかにマネジメントしていくのか?」など、経営学をはじめ学ぶ学生が、企業経営の仕組みを理解するために必要となる重要なトピックを説明します。</p> <p>毎回の講義では、経営学の専門領域から1つのトピックを取り上げて講義を行います。「市民生活とビジネス」を受講することによって、2年次以降に受講する経営学の専門科目をより理解することが可能となります。</p> <p>質問がある場合は、講義終了後に、それぞれのトピックを担当した教員が対応します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染拡大により授業形態の変更が必要になった場合は、講義内容や評価方法などを大きく変更する場合があります。</p>
評価方法	授業態度および期末試験の成績をもとに総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合。
授業計画	<p>第1回 私たちの生活とビジネス</p> <p>第2回 企業経営と経営環境</p> <p>第3回 経営戦略</p> <p>第4回 グローバルマネジメント</p> <p>第5回 日本的経営</p> <p>第6回 企業と社会</p> <p>第7回 経営組織</p> <p>第8回 人的資源管理</p> <p>第9回アントレプレナーシップ</p> <p>第10回 イノベーション</p> <p>第11回 市民生活と企業の接点</p> <p>第12回 企業と情報・マーケティング</p> <p>第13回 市民生活と銀行</p> <p>第14回 働き方改革</p> <p>第15回 コンプライアンス</p>
テキスト	配布するレジユメを使用する。
参考書	<p>井原久光（2008）『テキスト経営学 第3版 基礎から最新の理論まで』ミネルヴァ書房。</p> <p>石井淳蔵・廣田章光・清水信年（2020）『1からのマーケティング 第4版』碩学舎（中央経済社）。</p> <p>加護野忠男・吉村典久編著（2012）『1からの経営学 第3版』碩学舎（中央経済社）。</p> <p>片岡信弘・工藤司・石野正彦・五月女健治（2016）『インターネットビジネス概論（第2版）』共立出版。</p> <p>川本淳・野口昌良・勝尾裕子・山田純平・荒田映子（2015）『はじめて出会う会計学 新版』有斐閣。</p> <p>近能善範・高井文子（2010）『コア・テキスト イノベーションマネジメント』新世社。</p> <p>佐久間信夫 編著（2011）『経営学概論』創成社。</p> <p>櫻井克彦編著（2006）『現代経営学 - 経営学研究の新潮流』税務経理協会。</p> <p>崔容熏・原頼利・東伸一（2014）『はじめての流通』有斐閣。</p> <p>波田浩之（2018）『（新版）この1冊ですべてわかる 広告の基本』日本実業出版社。</p> <p>八代充史（2019）『人的資源管理論 理論と制度 第3版』中央経済社。</p> <p>山田幸三・江島由裕編著（2017）『1からのアントレプレナーシップ』碩学舎（中央経済社）。</p> <p>徐誠敏・李美善（2022）『ブランド弱者の戦略 - インターナル・ブランディングの理論と実践』ミネルヴァ書房。</p> <p>その他の文献についても随時紹介する。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後に対応する。
フィードバックの方法	授業中に講評する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、予習2時間、復習2時間が必要。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	5. 自信創出力 7. 課題発見力 9. 実践力

開講科目名 Course	市民生活と法(済) / Civil life and Law
時間割コード Course Code	18201
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	佐藤 直史
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 直史(法学部)、松本 未希子(法学部)、趙 民秀(法学部)
授業の目標	<p>この講義は、日常生活と法律の基礎的な関係について、身近な事例から理解することで、今後法律を学習するための基本的な視点(法的な考え方はどういうものか、法解釈はどのように行うのかなど)を提供することを目標とします。</p> <p>〔知識・理解の観点〕 日常生活が多くの法律に関係していることを理解できる。</p> <p>〔思考・診断の観点〕 日常の行動が、どのような法律と関係し、どのような解決が図られるか、その概要を見通すことができる。</p> <p>〔関心・意欲の観点〕 実社会のさまざまな出来事と法律の関係について興味を持つことができる。</p> <p>〔態度の観点〕 現実の紛争の解決方法を自ら調べることができる。</p>
授業の概要	<p>例えば、アルバイトをする、日用品を買う、部屋を借りる、交通事故に遭う、家族を失う等、私たちの生活イベントには、一定のルールが定められています。この「ルール」が法律であり、法律を知ることは、トラブルの回避や解決方法を知ることであります。また、ビジネスやレジャーにも、ルール(法律)が関わってきます。私たちの日常生活や仕事に関係する法律を、3人の教員が各5回ずつ設定されたテーマにそって、わかりやすく解説します。</p> <p>〔この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること〕</p>
評価方法	受講態度〔授業中に実施する小レポート・小テストなど課題への取り組み方から総合的に評価する〕(50%)および期末試験(50%)により評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	6回以上欠席した場合は失格とします(遅刻は2回で欠席1回とみなします。)。なお、特別欠席は欠席回数に含みません。 出席不正等の不正行為を行った者は出席回数にかかわらず失格とします。

<p>授業計画</p>	<p>下記は計画であり、内容や順番が変更になることがあります。</p> <p>佐藤直史担当  1 ガイダンス・法とは何か  2 スポーツと法（1）  3 スポーツと法（2）  4 ビジネスと法  5 SDGsと法  ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝  趙担当  6 身近なニュースと法（1）  7 日常生活と契約  8 日常生活とアクシデント  9 家族と法  10 相続と法  ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝  松本担当  11 身近なニュースと法（2）  12 統治機構と法  13 人権の尊重と法  14 犯罪と法  15 裁判と法</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキストは使用せず、必要に応じてプリント・資料を配布します。</p>
<p>参考書</p>	<p>（六法）  『法学六法2024』（信山社、2023年）  （自主学習のために）  授業で扱ったテーマをより深く学びたい人には、以下の参考書をおすすめします。各自のレベルにあったものを選び、自主学習に役立ててください。  ・入門：潮見佳男ほか『18歳からはじめる民法 第5版』（法律文化社 2023年）  ・初級：池田真朗ほか『法の世界へ 第9版』（有斐閣、2023年）  ・中級：緒方桂子ほか『日本の法 第2版』（日本評論社、2020年）</p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等</p>	<p>含む</p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容</p>	<p>一部の授業において、テーマを定めて議論を行うとともに、 구글フォームを用いた振り返りを行います。また、リアルタイムアンケートツールも活用します。  なお、議論は、感染症対策を充分に行った上で実施する予定ですが、感染症の状況によっては中止する可能性もあります。</p>
<p>実務経験のある担当教員による授業</p>	<p>該当する</p>
<p>担当教員の実務経験を活かした授業の内容</p>	<p>弁護士としての経験を有する教員が法律実務上の経験を活用し、身近な法律について解説を行う授業です。</p>
<p>質問への対応方法</p>	<p>授業時間の前後及びオフィスアワーにおいて対応します。</p>
<p>フィードバックの方法</p>	<p>授業で実施する課題については、実施後または翌週の授業で講評・解説を行います。  期末試験の結果に関しては、評価に関する疑問等申出期間において対応します。</p>
<p>予習・復習等、準備学習の内容及び時間</p>	<p>この授業では、毎回レジュメを配布し、その日に行う授業内容を提示します。このレジュメには黒板に書かれたことや解説内容を記載できるようにしてあるので、授業が終わってから、書き留めたことを整理するようにしてください。1回の授業につき必要な予習・復習は各2時間ずつが目安です。</p>
<p>使用言語</p>	<p>日本語</p>
<p>SDGs 17の目標（1～10）</p>	<p>1. 貧困をなくそう  10. 人や国の不平等をなくそう  2. 飢餓をゼロに  3. すべての人に健康と福祉を  4. 質の高い教育をみんなに  5. ジェンダー平等を実現しよう  6. 安全な水とトイレを世界中に  7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに  8. 働きがいも経済成長も  9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>

SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任 13.気候変動に具体的な対策を 14.海の豊かさを守ろう 15.陸の豊かさも守ろう 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	5.自信創出力 7.課題発見力 9.実践力



開講科目名 Course	市民生活と法(営) / Civil life and Law
時間割コード Course Code	18202
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	松本 未希子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 直史 (法学部)、松本 未希子 (法学部)、趙 民秀 (法学部)
授業の目標	<p>この講義は、日常生活と法律の基礎的な関係について、身近な事例から理解することで、今後法律を学習するための基本的な視点(法的な考え方はどういうものか、法解釈はどのように行うのかなど)を提供することを目標とします。</p> <p>〔知識・理解の観点〕 日常生活が多くの法律に関係していることを理解できる。</p> <p>〔思考・診断の観点〕 日常の行動が、どのような法律と関係し、どのような解決が図られるか、その概要を見通すことができる。</p> <p>〔関心・意欲の観点〕 実社会のさまざまな出来事と法律の関係について興味を持つことができる。</p> <p>〔態度の観点〕 現実の紛争の解決方法を自ら調べることができる。</p>
授業の概要	<p>例えば、アルバイトをする、日用品を買う、部屋を借りる、交通事故に遭う、家族を失う等、私たちの生活イベントには、一定のルールが定められています。この「ルール」が法律であり、法律を知ることは、トラブルの回避や解決方法を知ることであります。また、ビジネスやレジャーにも、ルール(法律)が関わってきます。私たちの日常生活や仕事に関係する法律を、3人の教員が各5回ずつ設定されたテーマにそって、わかりやすく解説します。</p> <p>〔この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること〕</p>
評価方法	受講態度〔授業中に実施する小レポート・小テストなど課題への取り組み方から総合的に評価する〕(50%)および期末試験(50%)により評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	6回以上欠席した場合は失格とします(遅刻は2回で欠席1回とみなします。)。なお、特別欠席は欠席回数に含みません。 出席不正等の不正行為を行った者は出席回数にかかわらず失格とします。

授業計画	<p>下記は計画であり、内容や順番が変更になることがあります。</p> <p>趙担当  1 ガイダンス・法とは何か  2 日常生活と契約  3日常生活とアクシデント  4 家族と法  5 相続と法  =・・・・・=</p> <p>松本担当  6 身近なニュースと法（1）  7 統治機構と法  8人権の尊重と法  9 犯罪と法  10裁判と法  =・・・・・=</p> <p>佐藤直史担当  11身近なニュースと法（2）  12 スポーツと法（1）  13 スポーツと法（2）  14 ビジネスと法  15 SDGsと法</p>
テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント・資料を配布します。
参考書	（六法） 『法学六法2024』（信山社、2023年） （自主学習のために） 授業で扱ったテーマをより深く学びたい人には、以下の参考書をおすすめします。各自のレベルにあったものを選び、自主学習に役立てて下さい。 ・入門：潮見佳男ほか『18歳からはじめる民法 第5版』（法律文化社 2023年） ・初級：池田真朗ほか『法の世界へ 第9版』（有斐閣、2023年） ・中級：緒方桂子ほか『日本の法 第2版』（日本評論社、2020年）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	一部の授業において、テーマを定めて議論を行うとともに、グーグルフォームを用いた振り返りを行います。また、リアルタイムアンケートツールも活用します。 なお、議論は、感染症対策を充分に行った上で実施する予定ですが、感染症の状況によっては中止する可能性もあります。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	弁護士としての経験を有する教員が法律実務上の経験を活用し、身近な法律について解説を行う授業です。
質問への対応方法	授業時間の前後及びオフィスアワーにおいて対応します。
フィードバックの方法	授業で実施する課題については、実施後または翌週の授業で講評・解説を行います。 期末試験の結果に関しては、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	この授業では、毎回レジュメを配布し、その日に行う授業内容を提示します。このレジュメには黒板に書かれたことや解説内容を記載できるようにしてあるので、授業が終わってから、書き留めたことを整理するようにしてください。1回の授業につき必要な予習・復習は各2時間ずつが目安です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう

SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任 13.気候変動に具体的な対策を 14.海の豊かさを守ろう 15.陸の豊かさも守ろう 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	5.自信創出力 7.課題発見力 9.実践力

開講科目名 Course	市民生活と法(法) / Civil life and Law
時間割コード Course Code	18203
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	趙 民秀
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 直史(法学部)、松本 未希子(法学部)、趙 民秀(法学部)
授業の目標	<p>この講義は、日常生活と法律の基礎的な関係について、身近な事例から理解することで、今後法律を学習するための基本的な視点(法的な考え方はどういうものか、法解釈はどのように行うのかなど)を提供することを目標とします。</p> <p>〔知識・理解の観点〕 日常生活が多くの法律に関係していることを理解できる。</p> <p>〔思考・診断の観点〕 日常の行動が、どのような法律と関係し、どのような解決が図られるか、その概要を見通すことができる。</p> <p>〔関心・意欲の観点〕 実社会のさまざまな出来事と法律の関係について興味を持つことができる。</p> <p>〔態度の観点〕 現実の紛争の解決方法を自ら調べることができる。</p>
授業の概要	<p>例えば、アルバイトをする、日用品を買う、部屋を借りる、交通事故に遭う、家族を失う等、私たちの生活イベントには、一定のルールが定められています。この「ルール」が法律であり、法律を知ることは、トラブルの回避や解決方法を知ることであります。また、ビジネスやレジャーにも、ルール(法律)が関わってきます。私たちの日常生活や仕事に関係する法律を、3人の教員が各5回ずつ設定されたテーマにそって、わかりやすく解説します。</p> <p>〔この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること〕</p>
評価方法	受講態度〔授業中に実施する小レポート・小テストなど課題への取り組み方から総合的に評価する〕(50%)および期末試験(50%)により評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	6回以上欠席した場合は失格とします(遅刻は2回で欠席1回とみなします。)。なお、特別欠席は欠席回数に含みません。 出席不正等の不正行為を行った者は出席回数にかかわらず失格とします。

授業計画	<p>下記は計画であり、内容や順番が変更になることがあります。</p> <p>松本担当  1 ガイダンス・法とは何か  2 統治機構と法  3 人権の尊重と法  4 犯罪と法  5 裁判と法  =・=・=・=・=・=・=・=・=・=</p> <p>佐藤直史担当  6 身近なニュースと法（1）  7 スポーツと法（1）  8 スポーツと法（2）  9 ビジネスと法  10 SDGsと法  =・=・=・=・=・=・=・=・=・=</p> <p>趙担当  11 身近なニュースと法（2）  12 日常生活と契約  13 日常生活とアクシデント  14 家族と法  15 相続と法</p>
テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント・資料を配布します。
参考書	<p>（六法）  『法学六法2024』（信山社、2023年）  （自主学習のために）  授業で扱ったテーマをより深く学びたい人には、以下の参考書をおすすめします。各自のレベルにあったものを選び、自主学習に役立ててください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入門：潮見佳男ほか『18歳からはじめる民法 第5版』（法律文化社 2023年）</li> <li>・初級：池田真朗ほか『法の世界へ 第9版』（有斐閣、2023年）</li> <li>・中級：緒方桂子ほか『日本の法 第2版』（日本評論社、2020年）</li> </ul>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>一部の授業において、テーマを定めて議論を行うとともに、グーグルフォームを用いた振り返りを行います。また、リアルタイムアンケートツールも活用します。</p> <p>なお、議論は、感染症対策を充分に行った上で実施する予定ですが、感染症の状況によっては中止する可能性もあります。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	弁護士としての経験を有する教員が法律実務上の経験を活用し、身近な法律について解説を行う授業です。
質問への対応方法	授業時間の前後及びオフィスアワーにおいて対応します。
フィードバックの方法	<p>授業で実施する課題については、実施後または翌週の授業で講評・解説を行います。</p> <p>期末試験の結果に関しては、評価に関する疑問等申出期間において対応します。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>この授業では、毎回レジュメを配布し、その日に行う授業内容を提示します。このレジュメには黒板に書かれたことや解説内容を記載できるようにしてあるので、授業が終わってから、書き留めたことを整理するようにしてください。1回の授業につき必要な予習・復習は各2時間ずつが目安です。</p>
使用言語	日本語

SDGs 17の目標 (1~10)	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標 (11~17)	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさも守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	5. 自信創出力 7. 課題発見力 9. 実践力

開講科目名 Course	市民生活と法（再） / Civil life and Law
時間割コード Course Code	18204
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 5
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	謝 芸甜
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	謝 芸甜 (法学部)
授業の目標	<p>この講義は、日常生活と法律の基礎的な関係について、身近な事例から理解することを目標とします。</p> <p>〔知識・理解の観点〕 日常生活が多くの法律に関係していることを理解できる。</p> <p>〔思考・診断の観点〕 日常のある行動が、どのような法律と関係し、どのような解決が図られるか大まかに見通すことができる。</p> <p>〔関心・意欲の観点〕 実社会のさまざまな出来事と法律の関係について興味を持つことができる。</p> <p>〔態度の観点〕 現実の紛争の解決方法を自ら調べることができる。</p>
授業の概要	<p>例えば、アルバイトをする、日用品を買う、部屋を借りる、交通事故に遭う、家族を失う等、私たちの生活イベントには、一定のルールが定められています。この「ルール」が法律であり、法律を知るとは、トラブルの回避や解決方法を知ることでもあります。日常生活に関係する法律をわかりやすく解説します。</p> <p>〔授業形態〕 この授業は、対面で行います。</p> <p>〔その他〕 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照のこと。</p>
評価方法	毎回実施する課題の結果にもとづいて評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「欠席」6回以上で失格となり、評価を受けることができず単位を修得できません。</li> <li>・授業開始後の入室は「遅刻」となり、「遅刻」2回で1回欠席となります。</li> </ul>

授業計画	<p>授業の進行やレベル等については、受講者の状況に応じて、柔軟に対応していく予定にしていますが、現時点では、以下の通りとなります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス・法とは何か</li> <li>2 犯罪に関する法</li> <li>3 裁判と法（刑事）</li> <li>4 所有に関する法</li> <li>5 契約に関する法</li> <li>6 不法行為に関する法</li> <li>7 家族に関する法（婚姻）</li> <li>8 家族に関する法（親子）</li> <li>9 家族に関する法（相続）</li> <li>10 裁判と法（民事）</li> <li>11 企業と法（株式会社とは）</li> <li>12 企業と法（株式会社の組織）</li> <li>13 企業と法（企業の社会的責任）</li> <li>14 労働問題に関する法</li> <li>15 政治と国民・選挙と法</li> </ol>
テキスト	テキストは使用せず、必要に応じて資料を配布します。
参考書	<p>六法（ポケット六法など）  遠藤研一郎『はじめまして、法学』（ウェッジ、2023年）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業終了後もしくはオフィスアワーにおいて対応する。
フィードバックの方法	フィードバックは、授業中に適宜行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	配布資料および参考図書を用いて、予習復習各2時間を目安とします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	(日)市民生活とキャリア形成P / Civil life and Career-design
時間割コード Course Code	18301
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	水口 美知子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水口 美知子 (法学部)
授業の目標	<p>新たな学びの場である大学はこれまでの学び方、ルール、評価基準とは異なったものになります。そして、その大学生活の先には、多くの学生が卒業後に進む「企業」をはじめとするビジネス社会、就業の場が待っています。その就業の場でのルール、必要な知識、スキル、スタンスなどの社会基準を起点として、いかに学生生活を送るのかを考えることはとても重要なことです。</p> <p>この授業の目標は、その際に必要な基本的能力、スキルを知り、有意義な学生生活を送れるよう、その基礎を学びます。そして、その基礎をもとに、社会に出る際に必要なスキルや能力（コミュニケーション能力、協働力、創造力など）、スタンスを知る、磨く、みなさんの将来の選択肢（業界、企業、職業、職種、働き方など）を知る、考える、広げることにあります。それらを目指し、講義、個人ワークを中心に学び、考え、磨く授業です。2年次以降のジョブトレーニング（インターンシップ）、3年後期以降の就職活動につながる、自身の将来を考えるために重要な考え方を学ぶ機会です。</p> <p>&lt;学習成果&gt;  技能の領域  ・通常の意味疎通に加えて、ジョブトレーニング（インターンシップ）や社会で必要に応じたルール等を理解し、社会人とより円滑なコミュニケーションを行うためのノンバーバルコミュニケーションやメールコミュニケーションが行えるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域  ・社会で働くうえで必要とされる能力や態度を理解し、学生とは異なる属性の他者と協調するために必要なことを理解できる。  ・学生生活を通じて、成長させたい汎用的技能を検討し、自律して成長させるための計画を立てられるようになることを目指す。  ・卒業後の人生について検討を行うことで、キャリア形成に必要な要素を理解し、自分の将来を検討できるレベルを目指す。</p>

<p>授業の概要</p>	<p>各回を通して、講義 個人ワーク ペア(グループ)ワーク共有 小レポートという流れで授業を進めていきます。</p> <p>まずは、新しい情報を皆さんにお伝えし、それを個人で考え、他人と共有し、視野を広げ、改めて個人で考え自分の未来を選択できるように学びます。それを繰り返すことにより、視野を広げ、自身で考え選択するというキャリア選択において重要なプロセスを体験します。</p> <p>また、実際にインターンシップ(就業体験)に参加した先輩の話、世の中の社会人、学生に実施した調査結果を基に、なぜそのキャリアを選択したのか、どんな大人になりたかったのかなど、他人の考え、価値観を知ること、自身の考えを明確にし、文章化することも体験します。結果的に、大学での学びに必要な「レポートの書き方」「学び方」「考え方」などを体験して頂き、そして、社会で必要とされる「コミュニケーション力」「主体性」「創造力・想像力」などを磨いてきます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
<p>評価方法</p>	<p>定期試験期間中には筆記試験を実施しない。          全体で11回以上の出席を評価の前提とする。遅刻、早退は原則として認めない。          授業への参加姿勢(10%)          授業後の小レポートの内容(35%)          学外活動レポートの内容(20%)          最後の授業の回のレポートの内容(35%)</p>
<p>教員の指導に従わない以外の事由による失格基準</p>	<p>1. カードリーダーの出席と毎回のレポートの提出の両方をもって出席とします。          2. 毎回の授業におけるレポートは指定以上の文字数の記載を行ってまいります。</p>
<p>授業計画</p>	<p>基本的には授業計画通り進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ず前の授業でお伝えします。</p> <p>第1回 オリエンテーション(授業の目的・進め方、授業に必要な考え方)          第2回 PROGの結果の配布と解説          第3回 授業に必要なスキルを学ぶ・体験する          第4回 社会で求められる能力、スキル、スタンスを知り、自身を見つめる          第5回 「キャリア」の意味、「キャリアの積み方」について考える          第6回 どんな大人になりたいかについて知る、考える          第7回 大学生活をどう送るべきなのか知る          第8回 ジョブトレーニング(インターンシップ)の理解を深める          第9回 ジョブトレーニング(インターンシップ)体験談          第10回 日本企業で働くについて知る、考える          第11回 人生百年時代の過ごし方を考える          第12回 自分自身の今の志向・夢について考え、まとめる          第13回 学生生活の体験談          第14回 自身の現状(基礎力)を振り返り、学生生活の送り方と目標を考える          第15回 最後の授業の回のレポート「春休みの過ごし方について」</p>
<p>テキスト</p>	<p>教科書は用いず、必要に応じてプリントやデータを配布。</p> <p>授業で配布するプリントなどを整理しやすくするため、A4用紙が収められるクリアファイルを用意しておくとう便利です。</p> <p>また授業で気になったことなどをメモするために、A4サイズのレポート用紙かノートを購入しておいてください。</p>
<p>参考書</p>	<p></p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等</p>	<p>含む</p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容</p>	<p>授業内でペアワーク、もしくは少人数でのグループワークを行い、将来のキャリア形成について考える機会を提供する。</p>
<p>実務経験のある担当教員による授業</p>	<p>該当しない</p>
<p>担当教員の実務経験を活かした授業の内容</p>	<p>企業の採用やインターンシップに関与した経験を持つ教員が、その当該経験を活かしキャリア形成の意義、方法について解説し、その上でキャリア形成を考える授業である。</p>

質問への対応方法	キャリアセンターにて対面で平日9時半から17時までの間で電話連絡を行うか、教員がキャリアセンターに在席している場合はその場で対応。
フィードバックの方法	授業の冒頭に、前週のレポートについて良質な事例を取り上げ、ポイントを解説する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の様子を撮影した動画や本講義で配布したプリントを用いて、2時間復習を行う。 合計:15×2時間=30時間 ジェネリックスキルを伸長させるための活動と振り返りを行う 15時間 学外活動レポートの作成 15時間 総計60時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(日)市民生活とキャリア形成Q / Civil life and Career-design
時間割コード Course Code	18302
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	中村 英泰
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	7 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 英泰 (法学部)
授業の目標	<p>新たな学びの場である大学はこれまでの学び方、ルール、評価基準とは異なったものになります。そして、その大学生活の先には、多くの学生が卒業後に進む「企業」をはじめとするビジネス社会、就業の場が待っています。その就業の場でのルール、必要な知識、スキル、スタンスなどの社会基準を起点として、いかに学生生活を送るのかを考えることはとても重要なことです。</p> <p>この授業の目標は、その際に必要な基本的能力、スキルを知り、有意義な学生生活を送れるよう、その基礎を学びます。そして、その基礎をもとに、社会に出る際に必要なスキルや能力（コミュニケーション能力、協働力、創造力など）、スタンスを知る、磨く、みなさんの将来の選択肢（業界、企業、職業、職種、働き方など）を知る、考える、広げることにあります。それらを目指し、講義、個人ワークを中心に学び、考え、磨く授業です。2年次以降のジョブトレーニング（インターンシップ）、3年後期以降の就職活動につながる、自身の将来を考えるために重要な考え方を学ぶ機会です。</p> <p>&lt;学習成果&gt;  技能の領域  ・通常の意味疎通に加えて、ジョブトレーニング（インターンシップ）や社会で必要に応じたルール等を理解し、社会人とより円滑なコミュニケーションを行うためのノンバーバルコミュニケーションやメールコミュニケーションが行えるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域  ・社会で働くうえで必要とされる能力や態度を理解し、学生とは異なる属性の他者と協調するために必要なことを理解できる。  ・学生生活を通じて、成長させたい汎用的技能を検討し、自律して成長させるための計画を立てられるようになることを目指す。  ・卒業後の人生について検討を行うことで、キャリア形成に必要な要素を理解し、自分の将来を検討できるレベルを目指す。</p>

<p>授業の概要</p>	<p>各回を通して、講義 個人ワーク ペア(グループ)ワーク共有 小レポートという流れで授業を進めていきます。</p> <p>まずは、新しい情報を皆さんにお伝えし、それを個人で考え、他人と共有し、視野を広げ、改めて個人で考え自分の未来を選択できるように学びます。それを繰り返すことにより、視野を広げ、自身で考え選択するというキャリア選択において重要なプロセスを体験します。</p> <p>また、実際にインターンシップ(就業体験)に参加した先輩の話、世の中の社会人、学生に実施した調査結果を基に、なぜそのキャリアを選択したのか、どんな大人になりたかったのかなど、他人の考え、価値観を知ること、自身の考えを明確にし、文章化することも体験します。結果的に、大学での学びに必要な「レポートの書き方」「学び方」「考え方」などを体験して頂き、そして、社会で必要とされる「コミュニケーション力」「主体性」「創造力・想像力」などを磨いてきます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
<p>評価方法</p>	<p>定期試験期間中には筆記試験を実施しない。  全体で11回以上の出席を評価の前提とする。遅刻、早退は原則として認めない。  授業への参加姿勢(10%)  授業後の小レポートの内容(35%)  学外活動レポートの内容(20%)  最後の授業の回のレポートの内容(35%)</p>
<p>教員の指導に従わない以外の事由による失格基準</p>	<p>1.カードリーダーの出席と毎回のレポートの提出の両方をもって出席とします。  2.毎回の授業におけるレポートは指定以上の文字数の記載を行ってまいります。</p>
<p>授業計画</p>	<p>基本的には授業計画通り進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ず前の授業でお伝えします。</p> <p>第1回 オリエンテーション(授業の目的・進め方、授業に必要な考え方)  第2回 PROGの結果の配布と解説  第3回 授業に必要なスキルを学ぶ・体験する  第4回 社会で求められる能力、スキル、スタンスを知り、自身を見つめる  第5回 「キャリア」の意味、「キャリアの積み方」について考える  第6回 どんな大人になりたいかについて知る、考える  第7回 大学生活をどう送るべきなのか知る  第8回 ジョブトレーニング(インターンシップ)の理解を深める  第9回 ジョブトレーニング(インターンシップ)体験談  第10回 日本企業で働くについて知る、考える  第11回 人生百年時代の過ごし方を考える  第12回 自分自身の今の志向・夢について考え、まとめる  第13回 学生生活の体験談  第14回 自身の現状(基礎力)を振り返り、学生生活の送り方と目標を考える  第15回 最後の授業の回のレポート「春休みの過ごし方について」</p>
<p>テキスト</p>	<p>教科書は用いず、必要に応じてプリントやデータを配布。</p> <p>授業で配布するプリントなどを整理しやすくするため、A4用紙が収められるクリアファイルを用意しておく便利です。</p> <p>また授業で気になったことなどをメモするために、A4サイズのレポート用紙かノートを購入しておいてください。  )</p>
<p>参考書</p>	<p></p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等</p>	<p>含む</p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容</p>	<p>授業内でペアワーク、もしくは少人数でのグループワークを行い、将来のキャリア形成について考える機会を提供する。</p>
<p>実務経験のある担当教員による授業</p>	<p>該当しない</p>
<p>担当教員の実務経験を活かした授業の内容</p>	<p>企業の採用やインターンシップに関与した経験を持つ教員が、その当該経験を活かしキャリア形成の意義、方法について解説し、その上でキャリア形成を考える授業である。</p>

質問への対応方法	キャリアセンターにて対面で平日9時半から17時までの間で電話連絡を行うか、教員がキャリアセンターに在席している場合はその場で対応。
フィードバックの方法	授業の冒頭に、前週のレポートについて良質な事例を取り上げ、ポイントを解説する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の様子を撮影した動画や本講義で配布したプリントを用いて、2時間復習を行う。 合計:15×2時間=30時間 ジェネリックスキルを伸長させるための活動と振り返りを行う 15時間 学外活動レポートの作成 15時間 総計60時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(日)市民生活とキャリア形成 R / Civil life and Career-design
時間割コード Course Code	18303
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	倉橋 和世
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	7 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	倉橋 和世 (経営学部)
授業の目標	<p>新たな学びの場である大学はこれまでの学び方、ルール、評価基準とは異なったものになります。そして、その大学生活の先には、多くの学生が卒業後に進む「企業」をはじめとするビジネス社会、就業の場が待っています。</p> <p>その就業の場でのルール、必要な知識、スキル、スタンスなどの社会基準を起点として、いかに学生生活を送るのかを考えることはとても重要なことです。</p> <p>この授業の目標は、その際に必要な基本的能力、スキルを知り、有意義な学生生活を送れるよう、その基礎を学びます。そして、その基礎をもとに、社会に出る際に必要なスキルや能力（コミュニケーション能力、協働力、創造力など）、スタンスを知る、磨く、みなさんの将来の選択肢（業界、企業、職業、職種、働き方など）を知る、考える、広げることにあります。</p> <p>それらを目指し、講義、個人ワークを中心に学び、考え、磨く授業です。</p> <p>2年次以降のジョブトレーニング（インターンシップ）、3年後期以降の就職活動につながる、自身の将来を考えるために重要な考え方を学ぶ機会です。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の意味疎通に加えて、ジョブトレーニング（インターンシップ）や社会で必要に応じたルール等を理解し、社会人とより円滑なコミュニケーションを行うためのノンバーバルコミュニケーションやメールコミュニケーションが行えるようになる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で働くうえで必要とされる能力や態度を理解し、学生とは異なる属性の他者と協調するために必要なことを理解できる。</li> <li>・学生生活を通じて、成長させたい汎用的技能を検討し、自律して成長させるための計画を立てられるようになることを目指す。</li> <li>・卒業後の人生について検討を行うことで、キャリア形成に必要な要素を理解し、自分の将来を検討できるレベルを目指す。</li> </ul>

<p>授業の概要</p>	<p>各回を通して、講義 個人ワーク ペア(グループ)ワーク共有 小レポートという流れで授業を進めていきます。</p> <p>まずは、新しい情報を皆さんにお伝えし、それを個人で考え、他人と共有し、視野を広げ、改めて個人で考え自分の未来を選択できるように学びます。それを繰り返すことにより、視野を広げ、自身で考え選択するというキャリア選択において重要なプロセスを体験します。</p> <p>また、実際にインターンシップ(就業体験)に参加した先輩の話、世の中の社会人、学生に実施した調査結果を基に、なぜそのキャリアを選択したのか、どんな大人になりたかったのかなど、他人の考え、価値観を知ること、自身の考えを明確にし、文章化することも体験します。結果的に、大学での学びに必要な「レポートの書き方」「学び方」「考え方」などを体験して頂き、そして、社会で必要とされる「コミュニケーション力」「主体性」「創造力・想像力」などを磨いてきます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
<p>評価方法</p>	<p>定期試験期間中には筆記試験を実施しない。  全体で11回以上の出席を評価の前提とする。遅刻、早退は原則として認めない。  授業への参加姿勢(10%)  授業後の小レポートの内容(35%)  学外活動レポートの内容(20%)  最後の授業の回のレポートの内容(35%)</p>
<p>教員の指導に従わない以外の事由による失格基準</p>	<p>1.カードリーダーの出席と毎回のレポートの提出の両方をもって出席とします。  2.毎回の授業におけるレポートは指定以上の文字数の記載を行ってまいります。</p>
<p>授業計画</p>	<p>基本的には授業計画通り進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ず前の授業でお伝えします。</p> <p>第1回 オリエンテーション(授業の目的・進め方、授業に必要な考え方)  第2回 PROGの結果の配布と解説  第3回 授業に必要なスキルを学ぶ・体験する  第4回 社会で求められる能力、スキル、スタンスを知り、自身を見つめる  第5回 「キャリア」の意味、「キャリアの積み方」について考える  第6回 どんな大人になりたいかについて知る、考える  第7回 大学生活をどう送るべきなのか知る  第8回 ジョブトレーニング(インターンシップ)の理解を深める  第9回 ジョブトレーニング(インターンシップ)体験談  第10回 日本企業で働くについて知る、考える  第11回 人生百年時代の過ごし方を考える  第12回 自分自身の今の志向・夢について考え、まとめる  第13回 学生生活の体験談  第14回 自身の現状(基礎力)を振り返り、学生生活の送り方と目標を考える  第15回 最後の授業の回のレポート「春休みの過ごし方について」</p>
<p>テキスト</p>	<p>教科書は用いず、必要に応じてプリントやデータを配布。</p> <p>授業で配布するプリントなどを整理しやすくするため、A4用紙が収められるクリアファイルを用意しておくとう便利です。</p> <p>また授業で気になったことなどをメモするために、A4サイズのレポート用紙かノートを購入しておいてください。  )</p>
<p>参考書</p>	<p></p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等</p>	<p>含む</p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容</p>	<p>授業内でペアワーク、もしくは少人数でのグループワークを行い、将来のキャリア形成について考える機会を提供する。</p>
<p>実務経験のある担当教員による授業</p>	<p>該当する</p>
<p>担当教員の实務経験を活かした授業の内容</p>	<p>企業の採用やインターンシップに関与した経験を持つ教員が、その当該経験を活かしキャリア形成の意義、方法について解説し、その上でキャリア形成を考える授業である。</p>



質問への対応方法	キャリアセンターにて対面で平日9時半から17時までの間で電話連絡を行うか、教員がキャリアセンターに在席している場合はその場で対応。
フィードバックの方法	授業の冒頭に、前週のレポートについて良質な事例を取り上げ、ポイントを解説する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の様子を撮影した動画や本講義で配布したプリントを用いて、2時間復習を行う。 合計:15×2時間=30時間 ジェネリックスキルを伸長させるための活動と振り返りを行う 15時間 学外活動レポートの作成 15時間 総計60時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(日)市民生活とキャリア形成S / Civil life and Career-design
時間割コード Course Code	18304
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	大森 富士代
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大森 富士代 (経済学部)
授業の目標	<p>新たな学びの場である大学はこれまでの学び方、ルール、評価基準とは異なったものになります。そして、その大学生活の先には、多くの学生が卒業後に進む「企業」をはじめとするビジネス社会、就業の場が待っています。その就業の場でのルール、必要な知識、スキル、スタンスなどの社会基準を起点として、いかに学生生活を送るのかを考えることはとても重要なことです。</p> <p>この授業の目標は、その際に必要な基本的能力、スキルを知り、有意義な学生生活を送れるよう、その基礎を学びます。そして、その基礎をもとに、社会に出る際に必要なスキルや能力（コミュニケーション能力、協働力、創造力など）、スタンスを知る、磨く、みなさんの将来の選択肢（業界、企業、職業、職種、働き方など）を知る、考える、広げることにあります。それらを目指し、講義、個人ワークを中心に学び、考え、磨く授業です。2年次以降のジョブトレーニング（インターンシップ）、3年後期以降の就職活動につながる、自身の将来を考えるために重要な考え方を学ぶ機会です。</p> <p>&lt;学習成果&gt;  技能の領域  ・通常の意味疎通に加えて、ジョブトレーニング（インターンシップ）や社会で必要に応じたルール等を理解し、社会人とより円滑なコミュニケーションを行うためのノンバーバルコミュニケーションやメールコミュニケーションが行えるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域  ・社会で働くうえで必要とされる能力や態度を理解し、学生とは異なる属性の他者と協調するために必要なことを理解できる。  ・学生生活を通じて、成長させたい汎用的技能を検討し、自律して成長させるための計画を立てられるようになることを目指す。  ・卒業後の人生について検討を行うことで、キャリア形成に必要な要素を理解し、自分の将来を検討できるレベルを目指す。</p>

<p>授業の概要</p>	<p>各回を通して、講義 個人ワーク ペア(グループ)ワーク共有 小レポートという流れで授業を進めていきます。</p> <p>まずは、新しい情報を皆さんにお伝えし、それを個人で考え、他人と共有し、視野を広げ、改めて個人で考え自分の未来を選択できるように学びます。それを繰り返すことにより、視野を広げ、自身で考え選択するというキャリア選択において重要なプロセスを体験します。</p> <p>また、実際にインターンシップ(就業体験)に参加した先輩の話、世の中の社会人、学生に実施した調査結果を基に、なぜそのキャリアを選択したのか、どんな大人になりたかったのかなど、他人の考え、価値観を知ること、自身の考えを明確にし、文章化することも体験します。結果的に、大学での学びに必要な「レポートの書き方」「学び方」「考え方」などを体験して頂き、そして、社会で必要とされる「コミュニケーション力」「主体性」「創造力・想像力」などを磨いてきます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
<p>評価方法</p>	<p>定期試験期間中には筆記試験を実施しない。 全体で11回以上の出席を評価の前提とする。遅刻、早退は原則として認めない。 授業への参加姿勢(10%) 授業後の小レポートの内容(35%) 学外活動レポートの内容(20%) 最後の授業の回のレポートの内容(35%)</p>
<p>教員の指導に従わない以外の事由による失格基準</p>	<p>1.カードリーダーの出席と毎回のレポートの提出の両方をもって出席とします。 2.毎回の授業におけるレポートは指定以上の文字数の記載を行ってまいります。</p>
<p>授業計画</p>	<p>基本的には授業計画通り進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ず前の授業でお伝えします。</p> <p>第1回 オリエンテーション(授業の目的・進め方、授業で必要な考え方) 第2回 PROGの結果の配布と解説 第3回 授業で必要なスキルを学ぶ・体験する 第4回 社会で求められる能力、スキル、スタンスを知り、自身を見つめる 第5回 「キャリア」の意味、「キャリアの積み方」について考える 第6回 どんな大人になりたいかについて知る、考える 第7回 大学生活をどう送るべきなのか知る 第8回 ジョブトレーニング(インターンシップ)の理解を深める 第9回 ジョブトレーニング(インターンシップ)体験談 第10回 日本企業で働くについて知る、考える 第11回 人生百年時代の過ごし方を考える 第12回 自分自身の今の志向・夢について考え、まとめる 第13回 学生生活の体験談 第14回 自身の現状(基礎力)を振り返り、学生生活の送り方と目標を考える 第15回 最後の授業の回のレポート「春休みの過ごし方について」</p>
<p>テキスト</p>	<p>教科書は用いず、必要に応じてプリントやデータを配布。</p> <p>授業で配布するプリントなどを整理しやすくするため、A4用紙が収められるクリアファイルを用意しておくとう便利です。</p> <p>また授業で気になったことなどをメモするために、A4サイズのレポート用紙かノートを購入しておいてください。</p>
<p>参考書</p>	<p></p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等</p>	<p>含む</p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容</p>	<p>授業内でペアワーク、もしくは少人数でのグループワークを行い、将来のキャリア形成について考える機会を提供する。</p>
<p>実務経験のある担当教員による授業</p>	<p>該当する</p>
<p>担当教員の实務経験を活かした授業の内容</p>	<p>企業の採用やインターンシップに関与した経験を持つ教員が、その当該経験を活かしキャリア形成の意義、方法について解説し、その上でキャリア形成を考える授業である。</p>

質問への対応方法	キャリアセンターにて対面で平日9時半から17時までの間で電話連絡を行うか、教員がキャリアセンターに在席している場合はその場で対応。
フィードバックの方法	授業の冒頭に、前週のレポートについて良質な事例を取り上げ、ポイントを解説する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の様子を撮影した動画や本講義で配布したプリントを用いて、2時間復習を行う。 合計:15×2時間=30時間 ジェネリックスキルを伸長させるための活動と振り返りを行う 15時間 学外活動レポートの作成 15時間 総計60時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(日)市民生活とキャリア形成Ⅰ / Civil life and Career-design
時間割コード Course Code	18305
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	筒井 徹也
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	7 2 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	筒井 徹也 (法学部)
授業の目標	<p>新たな学びの場である大学はこれまでの学び方、ルール、評価基準とは異なったものになります。そして、その大学生活の先には、多くの学生が卒業後に進む「企業」をはじめとするビジネス社会、就業の場が待っています。その就業の場でのルール、必要な知識、スキル、スタンスなどの社会基準を起点として、いかに学生生活を送るのかを考えることはとても重要なことです。</p> <p>この授業の目標は、その際に必要な基本的能力、スキルを知り、有意義な学生生活を送れるよう、その基礎を学びます。そして、その基礎をもとに、社会に出る際に必要なスキルや能力（コミュニケーション能力、協働力、創造力など）、スタンスを知る、磨く、みなさんの将来の選択肢（業界、企業、職業、職種、働き方など）を知る、考える、広げることにあります。それらを目指し、講義、個人ワークを中心に学び、考え、磨く授業です。2年次以降のジョブトレーニング（インターンシップ）、3年後期以降の就職活動につながる、自身の将来を考えるために重要な考え方を学ぶ機会です。</p> <p>&lt;学習成果&gt;  技能の領域  ・通常の意味疎通に加えて、インターンシップや社会で必要に応じたルール等を理解し、社会人としてより円滑なコミュニケーションを行うためのノンバーバルコミュニケーションやメールコミュニケーションが行えるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域  ・社会で働くうえで必要とされる能力や態度を理解し、学生とは異なる属性の他者と協調するために必要なことを理解できる。  ・学生生活を通じて、成長させたい汎用的技能を検討し、自律して成長させるための計画を立てられるようになることを目指す。  ・卒業後の人生について検討を行うことで、キャリア形成に必要な要素を理解し、自分の将来を検討できるレベルを目指す。</p>

<p>授業の概要</p>	<p>各回を通して、講義 個人ワーク ペア(グループ)ワーク共有 小レポートという流れで授業を進めていきます。</p> <p>まずは、新しい情報を皆さんにお伝えし、それを個人で考え、他人と共有し、視野を広げ、改めて個人で考え自分の未来を選択できるように学びます。それを繰り返すことにより、視野を広げ、自身で考え選択するというキャリア選択において重要なプロセスを体験します。</p> <p>また、実際にインターンシップ(就業体験)に参加した先輩の話、世の中の社会人、学生に実施した調査結果を基に、なぜそのキャリアを選択したのか、どんな大人になりたかったのかなど、他人の考え、価値観を知ること、自身の考えを明確にし、文章化することも体験します。結果的に、大学での学びに必要な「レポートの書き方」「学び方」「考え方」などを体験して頂き、そして、社会で必要とされる「コミュニケーション力」「主体性」「創造力・想像力」などを磨いていきます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
<p>評価方法</p>	<p>定期試験期間中には筆記試験を実施しない。  全体で11回以上の出席を評価の前提とする。遅刻、早退は原則として認めない。  授業への参加姿勢(10%)  授業後の小レポートの内容(35%)  学外活動レポートの内容(20%)  最後の授業の回のレポートの内容(35%)</p>
<p>教員の指導に従わない以外の事由による失格基準</p>	<p>1.カードリーダーの出席と毎回のレポートの提出の両方をもって出席とします。  2.毎回の授業におけるレポートは指定以上の文字数の記載を行ってまいります。</p>
<p>授業計画</p>	<p>基本的には授業計画通り進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ず前の授業でお伝えします。</p> <p>第1回 オリエンテーション(授業の目的・進め方、授業に必要な考え方)  第2回 PROGの結果の配布と解説  第3回 授業に必要なスキルを学ぶ・体験する  第4回 社会で求められる能力、スキル、スタンスを知り、自身を見つめる  第5回 「キャリア」の意味、「キャリアの積み方」について考える  第6回 どんな大人になりたいかについて知る、考える  第7回 大学生活をどう送るべきなのか知る  第8回 ジョブトレーニング(インターンシップ)の理解を深める  第9回 ジョブトレーニング(インターンシップ)体験談  第10回 日本企業で働くについて知る、考える  第11回 人生百年時代の過ごし方を考える  第12回 自分自身の今の志向・夢について考え、まとめる  第13回 学生生活の体験談  第14回 自身の現状(基礎力)を振り返り、学生生活の送り方と目標を考える  第15回 最後の授業の回のレポート「春休みの過ごし方について」</p>
<p>テキスト</p>	<p>教科書は用いず、必要に応じてプリントやデータを配布。</p> <p>授業で配布するプリントなどを整理しやすくするため、A4用紙が収められるクリアファイルを用意しておくとう便利です。</p> <p>また授業で気になったことなどをメモするために、A4サイズのレポート用紙かノートを購入しておいてください。</p>
<p>参考書</p>	<p></p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等</p>	<p>含む</p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容</p>	<p>授業内でペアワーク、もしくは少人数でのグループワークを行い、将来のキャリア形成について考える機会を提供する。</p>
<p>実務経験のある担当教員による授業</p>	<p>該当しない</p>
<p>担当教員の実務経験を活かした授業の内容</p>	<p>企業の採用やインターンシップに関与した経験を持つ教員が、その当該経験を活かしキャリア形成の意義、方法について解説し、その上でキャリア形成を考える授業である。</p>

質問への対応方法	キャリアセンターにて対面で平日9時半から17時までの間で電話連絡を行うか、教員がキャリアセンターに在席している場合はその場で対応。
フィードバックの方法	授業の冒頭に、前週のレポートについて良質な事例を取り上げ、ポイントを解説する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の様子を撮影した動画や本講義で配布したプリントを用いて、2時間復習を行う。 合計:15×2時間=30時間 ジェネリックスキルを伸長させるための活動と振り返りを行う 15時間 学外活動レポートの作成 15時間 総計60時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(日)市民生活とキャリア形成U / Civil life and Career-design
時間割コード Course Code	18306
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	伊藤 繁生
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	7 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	伊藤 繁生 (経営学部)
授業の目標	<p>新たな学びの場である大学はこれまでの学び方、ルール、評価基準とは異なったものになります。そして、その大学生活の先には、多くの学生が卒業後に進む「企業」をはじめとするビジネス社会、就業の場が待っています。</p> <p>その就業の場でのルール、必要な知識、スキル、スタンスなどの社会基準を起点として、いかに学生生活を送るのかを考えることはとても重要なことです。</p> <p>この授業の目標は、その際に必要な基本的能力、スキルを知り、有意義な学生生活を送れるよう、その基礎を学びます。そして、その基礎をもとに、社会に出る際に必要なスキルや能力（コミュニケーション能力、協働力、創造力など）、スタンスを知る、磨く、みなさんの将来の選択肢（業界、企業、職業、職種、働き方など）を知る、考える、広げることにあります。</p> <p>それらを目指し、講義、個人ワークを中心に学び、考え、磨く授業です。</p> <p>2年次以降のジョブトレーニング（インターンシップ）、3年後期以降の就職活動につながる、自身の将来を考えるために重要な考え方を学ぶ機会です。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の意味疎通に加えて、ジョブトレーニング（インターンシップ）や社会で必要に応じたルール等を理解し、社会人とより円滑なコミュニケーションを行うためのノンバーバルコミュニケーションやメールコミュニケーションが行えるようになる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で働くうえで必要とされる能力や態度を理解し、学生とは異なる属性の他者と協調するために必要なことを理解できる。</li> <li>・学生生活を通じて、成長させたい汎用的技能を検討し、自律して成長させるための計画を立てられるようになることを目指す。</li> <li>・卒業後の人生について検討を行うことで、キャリア形成に必要な要素を理解し、自分の将来を検討できるレベルを目指す。</li> </ul>



<p>授業の概要</p>	<p>各回を通して、講義 個人ワーク ペア(グループ)ワーク共有 小レポートという流れで授業を進めていきます。</p> <p>まずは、新しい情報を皆さんにお伝えし、それを個人で考え、他人と共有し、視野を広げ、改めて個人で考え自分の未来を選択できるように学びます。それを繰り返すことにより、視野を広げ、自身で考え選択するというキャリア選択において重要なプロセスを体験します。</p> <p>また、実際にインターンシップ(就業体験)に参加した先輩の話、世の中の社会人、学生に実施した調査結果を基に、なぜそのキャリアを選択したのか、どんな大人になりたかったのかなど、他人の考え、価値観を知ること、自身の考えを明確にし、文章化することも体験します。結果的に、大学での学びに必要な「レポートの書き方」「学び方」「考え方」などを体験して頂き、そして、社会で必要とされる「コミュニケーション力」「主体性」「創造力・想像力」などを磨いてきます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
<p>評価方法</p>	<p>定期試験期間中には筆記試験を実施しない。  全体で11回以上の出席を評価の前提とする。遅刻、早退は原則として認めない。  授業への参加姿勢(10%)  授業後の小レポートの内容(35%)  学外活動レポートの内容(20%)  最後の授業の回のレポートの内容(35%)</p>
<p>教員の指導に従わない以外の事由による失格基準</p>	<p>1.カードリーダーの出席と毎回のレポートの提出の両方をもって出席とします。  2.毎回の授業におけるレポートは指定以上の文字数の記載を行ってまいります。</p>
<p>授業計画</p>	<p>基本的には授業計画通り進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ず前の授業でお伝えします。</p> <p>第1回 オリエンテーション(授業の目的・進め方、授業に必要な考え方)  第2回 PROGの結果の配布と解説  第3回 授業に必要なスキルを学ぶ・体験する  第4回 社会で求められる能力、スキル、スタンスを知り、自身を見つめる  第5回 「キャリア」の意味、「キャリアの積み方」について考える  第6回 どんな大人になりたいかについて知る、考える  第7回 大学生活をどう送るべきなのか知る  第8回 ジョブトレーニング(インターンシップ)の理解を深める  第9回 ジョブトレーニング(インターンシップ)体験談  第10回 日本企業で働くについて知る、考える  第11回 人生百年時代の過ごし方を考える  第12回 自分自身の今の志向・夢について考え、まとめる  第13回 学生生活の体験談  第14回 自身の現状(基礎力)を振り返り、学生生活の送り方と目標を考える  第15回 最後の授業の回のレポート「春休みの過ごし方について」</p>
<p>テキスト</p>	<p>教科書は用いず、必要に応じてプリントやデータを配布。</p> <p>授業で配布するプリントなどを整理しやすくするため、A4用紙が収められるクリアファイルを用意しておくとう便利です。</p> <p>また授業で気になったことなどをメモするために、A4サイズのレポート用紙かノートを購入しておいてください。</p>
<p>参考書</p>	
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等</p>	<p>含む</p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容</p>	<p>授業内でペアワーク、もしくは少人数でのグループワークを行い、将来のキャリア形成について考える機会を提供する。</p>
<p>実務経験のある担当教員による授業</p>	<p>該当する</p>
<p>担当教員の実務経験を活かした授業の内容</p>	<p>企業の採用やインターンシップに関与した経験を持つ教員が、その当該経験を活かしキャリア形成の意義、方法について解説し、その上でキャリア形成を考える授業である。</p>

質問への対応方法	キャリアセンターにて対面で平日9時半から17時までの間で電話連絡を行うか、教員がキャリアセンターに在席している場合はその場で対応。
フィードバックの方法	授業の冒頭に、前週のレポートについて良質な事例を取り上げ、ポイントを解説する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の様子を撮影した動画や本講義で配布したプリントを用いて、2時間復習を行う。 合計:15×2時間=30時間 ジェネリックスキルを伸長させるための活動と振り返りを行う 15時間 学外活動レポートの作成 15時間 総計60時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(留)市民生活とキャリア形成Ⅴ / Civil life and Career-design
時間割コード Course Code	18307
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	伊藤 繁生
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水口 美知子(法学部)、伊藤 繁生(経営学部)
授業の目標	<p>留学生の皆さんには、卒業後の進路がいくつかあります。1)日本の企業に就職する、2)日本で大学院に進学する、3)母国に帰国するなどです。</p> <p>今はまだ自分の将来がハッキリと考えられないとしても、自分の将来のこと、自分が何をしたいのかを考えることは、大学での生活、日本での生活をどう過ごすのか、何をどれだけ学ぶのか、と大きく関係します。</p> <p>このクラスの目標は4つです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、日本の就職事情、労働事情と日本で働く時に必要なルールを知ること</li> <li>2、日本の雇用条件と母国の労働条件を比較し進路選択の参考とすること</li> <li>3、2年生から履修するジョブトレーニング(インターンシップ)のルールについて学び理解する</li> <li>4、名古屋経済大学で学ぶ目標を作る</li> </ol> <p>そのために日本企業、ビジネス社会での働き方、理想的な態度、ルール、評価基準を伝えます。これらのことを理解してどのような学生生活を送るのかを考えることはとても重要です。また、その際に必要な基本的能力、スキルを知り、意味のある学生生活を送れるように基礎を学ぶ。そして、その基礎をもとに、社会に出る際に必要なスキルや能力(コミュニケーション能力、協働力、創造力など)、スタンスを知る、磨く、みなさんの将来の選択肢(業界、企業、職業、職種、働き方など)を知る、考える、広げる。それを目標にし、講義、個人ワーク、グループワークを通じ学び、考え、磨く授業です。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の意味疎通に加えて、ジョブトレーニング(インターンシップ)や日本社会で必要に応じたルール等を理解し、社会人として円滑なコミュニケーションを行うためのノンバーバルコミュニケーションやメールコミュニケーションが行えるようになる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で働くうえで必要とされる能力や態度を理解し、学生とは異なる属性の他者と協調するために必要なことを理解できる。</li> <li>・学生生活を通じて、成長させたい汎用的技能を検討し、自律して成長させるための計画を立てられるようになることを目指す。</li> <li>・卒業後の人生について検討を行うことで、キャリア形成に必要な要素を理解し、自分の将来を検討できるレベルを目指す。</li> </ul>

授業の概要	<p>各回を通して、 講義 個人ワーク 共有 個人ワーク・小レポート という流れで授業を進めていきます。 まずは、新しい情報を皆さんにお伝えし、それを個人で考え、視野を拡げ、改めて個人で考え選択する。 それを繰り返すことにより、視野を拡げ、自身で考え選択するというキャリア選択において重要なプロセスを体験して頂きます。 また、実際にインターンシップ（就業体験）に参加した先輩の話しや、世の中の社会人、学生に実施した調査結果を基に、なぜそのキャリアを選択したのか、どんな大人になりたかったのかなど、他人の考え、価値観を知ること、自身の考えを明確にし、文章化することも体験して頂きます。 結果的に、大学での学びに必要な「レポートの書き方」「学び方」「考え方」などを体験して頂き、そして、社会で必要とされる「コミュニケーション力」「主体性」「創造力・想像力」などを磨いていきます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>定期試験期間中には筆記試験を実施しない。 全体で11回以上の出席を評価の前提とする。遅刻、早退は原則として認めない。 授業への参加姿勢（10%） 授業後の小レポートの内容（35%） 学外活動レポートの内容（20%） 最後の授業の回のレポートの内容（35%）</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. カードリーダーの出席と毎回のレポートの提出の両方をもって出席とします。 2. 毎回の授業におけるレポートは指定以上の文字数の記載を行ってまいります。</p>
授業計画	<p>基本的には授業計画通り進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ず前の授業でお伝えします。</p> <p>第1回 オリエンテーション（授業の目的・進め方、授業で必要な考え方） 第2回 PROGの結果の解説 第3回 授業に必要なスキルを学ぶ・体験する 第4回 日本企業で求められる（評価される）能力、スキル、態度を知る 第5回 日本企業で活躍する元留学生たちから学ぶ、働き方を知る 第6回 どんな将来を過ごしたいのかを考える 第7回 ジョブトレーニング（インターンシップ）の理解を深める 第8回 ジョブトレーニング（インターンシップ）体験談 第9回 学生生活の体験談 第10回 あなたが取得できる就労ビザについて知る 第11回 日本企業で働くについて知る、考える 第12回 求人票の見方について 第13回 自分自身の今の志向・夢について考え、まとめる 第14回 自身の現状（基礎力）を振り返り、学生生活の送り方、目標を考える" 第15回 期末レポートの共有・提出「ジョブトレーニング（インターンシップ）に向けた準備、春休みの過ごし方について」</p>
テキスト	<p>教科書は用いず、必要に応じてプリントやデータを配布します。</p> <p>授業で配布するプリントなどを整理しやすくするため、A4サイズのファイルを用意してください。また授業で気になったことなどをメモするために、ノートを購入しておいてください。</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内でペアワーク、もしくは少人数でのグループワークを行い、将来のキャリア形成について考える機会を提供する。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	企業の採用やインターンシップに関与した経験を持つ教員が、その当該経験を活かしキャリア形成の意義、方法について解説し、その上でキャリア形成を考える授業である。
質問への対応方法	キャリアセンターにて対面で平日9時半から17時までの間で電話連絡を行うか、教員がキャリアセンターに在席している場合はその場で対応。
フィードバックの方法	授業の冒頭に、前週のレポートについて良質な事例を取り上げ、ポイントを解説する。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の様子を撮影した動画や本講義で配布したプリントを用いて、2時間復習を行う。 合計:15×2時間=30時間 ジェネリックスキルを伸長させるための活動と振り返りを行う 15時間 学外活動レポートの作成 15時間 総計60時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(留)市民生活とキャリア形成W / Civil life and Career-design
時間割コード Course Code	18308
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	中村 英泰
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	7 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 英泰 (法学部)
授業の目標	<p>留学生の皆さんには、卒業後の進路がいくつかあります。1)日本の企業に就職する、2)日本で大学院に進学する、3)母国に帰国するなどです。</p> <p>今はまだ自分の将来がハッキリと考えられないとしても、自分の将来のこと、自分が何をしたいのかを考えることは、大学での生活、日本での生活をどう過ごすのか、何をどれだけ学ぶのか、と大きく関係します。</p> <p>このクラスの目標は4つです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、日本の就職事情、労働事情と日本で働く時に必要なルールを知ること</li> <li>2、日本の雇用条件と母国の労働条件を比較し進路選択の参考とすること</li> <li>3、2年生から履修するジョブトレーニング(インターンシップ)のルールについて学び理解する</li> <li>4、名古屋経済大学で学ぶ目標を作る</li> </ol> <p>そのために日本企業、ビジネス社会での働き方、理想的な態度、ルール、評価基準を伝えます。これらのことを理解してどのような学生生活を送るのかを考えることはとても重要です。また、その際に必要な基本的能力、スキルを知り、意味のある学生生活を送れるように基礎を学ぶ。そして、その基礎をもとに、社会に出る際に必要なスキルや能力(コミュニケーション能力、協働力、創造力など)、スタンスを知る、磨く、みなさんの将来の選択肢(業界、企業、職業、職種、働き方など)を知る、考える、広げる。それを目標にし、講義、個人ワーク、グループワークを通じ学び、考え、磨く授業です。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の意味疎通に加えて、ジョブトレーニング(インターンシップ)や日本社会で必要に応じたルール等を理解し、社会人として円滑なコミュニケーションを行うためのノンバーバルコミュニケーションやメールコミュニケーションが行えるようになる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で働くうえで必要とされる能力や態度を理解し、学生とは異なる属性の他者と協調するために必要なことを理解できる。</li> <li>・学生生活を通じて、成長させたい汎用的技能を検討し、自律して成長させるための計画を立てられるようになることを目指す。</li> <li>・卒業後の人生について検討を行うことで、キャリア形成に必要な要素を理解し、自分の将来を検討できるレベルを目指す。</li> </ul>

授業の概要	<p>各回を通して、 講義 個人ワーク 共有 個人ワーク・小レポート という流れで授業を進めていきます。 まずは、新しい情報を皆さんにお伝えし、それを個人で考え、視野を拡げ、改めて個人で考え選択する。 それを繰り返すことにより、視野を拡げ、自身で考え選択するというキャリア選択において重要なプロセスを体験して頂きます。 また、実際にインターンシップ（就業体験）に参加した先輩の話しや、世の中の社会人、学生に実施した調査結果を基に、なぜそのキャリアを選択したのか、どんな大人になりたかったのかなど、他人の考え、価値観を知ること、自身の考えを明確にし、文章化することも体験して頂きます。 結果的に、大学での学びに必要な「レポートの書き方」「学び方」「考え方」などを体験して頂き、そして、社会で必要とされる「コミュニケーション力」「主体性」「創造力・想像力」などを磨いていきます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>定期試験期間中には筆記試験を実施しない。 全体で11回以上の出席を評価の前提とする。遅刻、早退は原則として認めない。 授業への参加姿勢（10%） 授業後の小レポートの内容（35%） 学外活動レポートの内容（20%） 最後の授業の回のレポートの内容（35%）</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. カードリーダーの出席と毎回のレポートの提出の両方をもって出席とします。 2. 毎回の授業におけるレポートは指定以上の文字数の記載を行ってまいります。</p>
授業計画	<p>基本的には授業計画通り進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ず前の授業でお伝えします。</p> <p>第1回 オリエンテーション（授業の目的・進め方、授業で必要な考え方） 第2回 PROGの結果の解説 第3回 授業に必要なスキルを学ぶ・体験する 第4回 日本企業で求められる（評価される）能力、スキル、態度を知る 第5回 日本企業で活躍する元留学生たちから学ぶ、働き方を知る 第6回 どんな将来を過ごしたいのかを考える 第7回 ジョブトレーニング（インターンシップ）の理解を深める 第8回 ジョブトレーニング（インターンシップ）体験談 第9回 学生生活の体験談 第10回 あなたが取得できる就労ビザについて知る 第11回 日本企業で働くについて知る、考える 第12回 求人票の見方について 第13回 自分自身の今の志向・夢について考え、まとめる 第14回 自身の現状（基礎力）を振り返り、学生生活の送り方、目標を考える" 第15回 期末レポートの共有・提出「ジョブトレーニング（インターンシップ）に向けた準備、春休みの過ごし方について」</p>
テキスト	<p>教科書は用いず、必要に応じてプリントやデータを配布します。</p> <p>授業で配布するプリントなどを整理しやすくするため、A4サイズのファイルを用意してください。また授業で気になったことなどをメモするために、ノートを購入しておいてください。</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内でペアワーク、もしくは少人数でのグループワークを行い、将来のキャリア形成について考える機会を提供する。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	企業の採用やインターンシップに関与した経験を持つ教員が、その当該経験を活かしキャリア形成の意義、方法について解説し、その上でキャリア形成を考える授業である。
質問への対応方法	キャリアセンターにて対面で平日9時半から17時までの間で電話連絡を行うか、教員がキャリアセンターに在席している場合はその場で対応。
フィードバックの方法	授業の冒頭に、前週のレポートについて良質な事例を取り上げ、ポイントを解説する。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の様子を撮影した動画や本講義で配布したプリントを用いて、2時間復習を行う。 合計:15×2時間=30時間 ジェネリックスキルを伸長させるための活動と振り返りを行う 15時間 学外活動レポートの作成 15時間 総計60時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	(留)市民生活とキャリア形成X / Civil life and Career-design
時間割コード Course Code	18309
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	倉橋 和世
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	7 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	倉橋 和世 (経営学部)
授業の目標	<p>留学生の皆さんには、卒業後の進路がいくつかあります。1)日本の企業に就職する、2)日本で大学院に進学する、3)母国に帰国するなどです。</p> <p>今はまだ自分の将来がハッキリと考えられないとしても、自分の将来のこと、自分が何をしたいのかを考えることは、大学での生活、日本での生活をどう過ごすのか、何をどれだけ学ぶのか、と大きく関係します。</p> <p>このクラスの目標は4つです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、日本の就職事情、労働事情と日本で働く時に必要なルールを知ること</li> <li>2、日本の雇用条件と母国の労働条件を比較し進路選択の参考とすること</li> <li>3、2年生から履修するジョブトレーニング(インターンシップ)のルールについて学び理解する</li> <li>4、名古屋経済大学で学ぶ目標を作る</li> </ol> <p>そのために日本企業、ビジネス社会での働き方、理想的な態度、ルール、評価基準を伝えます。これらのことを理解してどのような学生生活を送るのかを考えることはとても重要です。また、その際に必要な基本的能力、スキルを知り、意味のある学生生活を送れるように基礎を学ぶ。そして、その基礎をもとに、社会に出る際に必要なスキルや能力(コミュニケーション能力、協働力、創造力など)、スタンスを知る、磨く、みなさんの将来の選択肢(業界、企業、職業、職種、働き方など)を知る、考える、広げる。それを目標にし、講義、個人ワーク、グループワークを通じ学び、考え、磨く授業です。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の意味疎通に加えて、ジョブトレーニング(インターンシップ)や日本社会で必要に応じたルール等を理解し、社会人として円滑なコミュニケーションを行うためのノンバーバルコミュニケーションやメールコミュニケーションが行えるようになる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で働くうえで必要とされる能力や態度を理解し、学生とは異なる属性の他者と協調するために必要なことを理解できる。</li> <li>・学生生活を通じて、成長させたい汎用的技能を検討し、自律して成長させるための計画を立てられるようになることを目指す。</li> <li>・卒業後の人生について検討を行うことで、キャリア形成に必要な要素を理解し、自分の将来を検討できるレベルを目指す。</li> </ul>

授業の概要	<p>各回を通して、 講義 個人ワーク 共有 個人ワーク・小レポート という流れで授業を進めていきます。 まずは、新しい情報を皆さんにお伝えし、それを個人で考え、視野を拡げ、改めて個人で考え選択する。 それを繰り返すことにより、視野を拡げ、自身で考え選択するというキャリア選択において重要なプロセスを体験して頂きます。 また、実際にインターンシップ（就業体験）に参加した先輩の話しや、世の中の社会人、学生に実施した調査結果を基に、なぜそのキャリアを選択したのか、どんな大人になりたかったのかなど、他人の考え、価値観を知ること、自身の考えを明確にし、文章化することも体験して頂きます。 結果的に、大学での学びに必要な「レポートの書き方」「学び方」「考え方」などを体験して頂き、そして、社会で必要とされる「コミュニケーション力」「主体性」「創造力・想像力」などを磨いていきます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>定期試験期間中には筆記試験を実施しない。 全体で11回以上の出席を評価の前提とする。遅刻、早退は原則として認めない。 授業への参加姿勢（10%） 授業後の小レポートの内容（35%） 学外活動レポートの内容（20%） 最後の授業の回のレポートの内容（35%）</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. カードリーダーの出席と毎回のレポートの提出の両方をもって出席とします。 2. 毎回の授業におけるレポートは指定以上の文字数の記載を行ってまいります。</p>
授業計画	<p>基本的には授業計画通り進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ず前の授業でお伝えします。</p> <p>第1回 オリエンテーション（授業の目的・進め方、授業で必要な考え方） 第2回 PROGの結果の解説 第3回 授業に必要なスキルを学ぶ・体験する 第4回 日本企業で求められる（評価される）能力、スキル、態度を知る 第5回 日本企業で活躍する元留学生たちから学ぶ、働き方を知る 第6回 どんな将来を過ごしたいのかを考える 第7回 ジョブトレーニング（インターンシップ）の理解を深める 第8回 ジョブトレーニング（インターンシップ）体験談 第9回 学生生活の体験談 第10回 あなたが取得できる就労ビザについて知る 第11回 日本企業で働くについて知る、考える 第12回 求人票の見方について 第13回 自分自身の今の志向・夢について考え、まとめる 第14回 自身の現状（基礎力）を振り返り、学生生活の送り方、目標を考える 第15回 期末レポートの共有・提出「ジョブトレーニング（インターンシップ）に向けた準備、春休みの過ごし方について」</p>
テキスト	<p>教科書は用いず、必要に応じてプリントやデータを配布します。</p> <p>授業で配布するプリントなどを整理しやすくするため、A4サイズのファイルを用意してください。また授業で気になったことなどをメモするために、ノートを購入しておいてください。</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内でペアワーク、もしくは少人数でのグループワークを行い、将来のキャリア形成について考える機会を提供する。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	企業の採用やインターンシップに関与した経験を持つ教員が、その当該経験を活かしキャリア形成の意義、方法について解説し、その上でキャリア形成を考える授業である。
質問への対応方法	キャリアセンターにて対面で平日9時半から17時までの間で電話連絡を行うか、教員がキャリアセンターに在席している場合はその場で対応。
フィードバックの方法	授業の冒頭に、前週のレポートについて良質な事例を取り上げ、ポイントを解説する。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の様子を撮影した動画や本講義で配布したプリントを用いて、2時間復習を行う。 合計:15×2時間=30時間 ジェネリックスキルを伸長させるための活動と振り返りを行う 15時間 学外活動レポートの作成 15時間 総計60時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(留)市民生活とキャリア形成Y / Civil life and Career-design
時間割コード Course Code	18310
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	筒井 徹也
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大森 富士代(経済学部)、筒井 徹也(法学部)
授業の目標	<p>留学生の皆さんには、卒業後の進路がいくつかあります。1)日本の企業に就職する、2)日本で大学院に進学する、3)母国に帰国するなどです。</p> <p>今はまだ自分の将来がハッキリと考えられないとしても、自分の将来のこと、自分が何をしたいのかを考えることは、大学での生活、日本での生活をどう過ごすのか、何をどれだけ学ぶのか、と大きく関係します。</p> <p>このクラスの目標は4つです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、日本の就職事情、労働事情と日本で働く時に必要なルールを知ること</li> <li>2、日本の雇用条件と母国の労働条件を比較し進路選択の参考とすること</li> <li>3、2年生から履修するジョブトレーニング(インターンシップ)のルールについて学び理解する</li> <li>4、名古屋経済大学で学ぶ目標を作る</li> </ol> <p>そのために日本企業、ビジネス社会での働き方、理想的な態度、ルール、評価基準を伝えます。これらのことを理解してどのような学生生活を送るのかを考えることはとても重要です。また、その際に必要な基本的能力、スキルを知り、意味のある学生生活を送れるように基礎を学ぶ。そして、その基礎をもとに、社会に出る際に必要なスキルや能力(コミュニケーション能力、協働力、創造力など)、スタンスを知る、磨く、みなさんの将来の選択肢(業界、企業、職業、職種、働き方など)を知る、考える、広げる。それを目標にし、講義、個人ワーク、グループワークを通じ学び、考え、磨く授業です。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の意味疎通に加えて、ジョブトレーニング(インターンシップ)や日本社会で必要に応じたルール等を理解し、社会人として円滑なコミュニケーションを行うためのノンバーバルコミュニケーションやメールコミュニケーションが行えるようになる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で働くうえで必要とされる能力や態度を理解し、学生とは異なる属性の他者と協調するために必要なことを理解できる。</li> <li>・学生生活を通じて、成長させたい汎用的なスキルを振り返り、自律して成長させるための計画を立てられるようになることを目指す。</li> <li>・卒業後の人生について検討を行うことで、キャリア形成に必要な要素を理解し、自分の将来を検討できるレベルを目指す。</li> </ul>

授業の概要	<p>各回を通して、 講義 個人ワーク 共有 個人ワーク・小レポート という流れで授業を進めていきます。 まずは、新しい情報を皆さんにお伝えし、それを個人で考え、視野を拡げ、改めて個人で考え選択する。 それを繰り返すことにより、視野を拡げ、自身で考え選択するというキャリア選択において重要なプロセスを体験して頂きます。 また、実際にインターンシップ（就業体験）に参加した先輩の話しや、世の中の社会人、学生に実施した調査結果を基に、なぜそのキャリアを選択したのか、どんな大人になりたかったのかなど、他人の考え、価値観を知ること、自身の考えを明確にし、文章化することも体験して頂きます。 結果的に、大学での学びに必要な「レポートの書き方」「学び方」「考え方」などを体験して頂き、そして、社会で必要とされる「コミュニケーション力」「主体性」「創造力・想像力」などを磨いていきます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>定期試験期間中には筆記試験を実施しない。 全体で11回以上の出席を評価の前提とする。遅刻、早退は原則として認めない。 授業への参加姿勢（10%） 授業後の小レポートの内容（35%） 学外活動レポートの内容（20%） 最後の授業の回のレポートの内容（35%）</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. カードリーダーの出席と毎回のレポートの提出の両方をもって出席とします。 2. 毎回の授業におけるレポートは指定以上の文字数の記載を行ってまいります。</p>
授業計画	<p>基本的には授業計画通り進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ず前の授業でお伝えします。</p> <p>第1回 オリエンテーション（授業の目的・進め方、授業で必要な考え方） 第2回 PROGの結果の解説 第3回 授業に必要なスキルを学ぶ・体験する 第4回 日本企業で求められる（評価される）能力、スキル、態度を知る 第5回 日本企業で活躍する元留学生たちから学ぶ、働き方を知る 第6回 どんな将来を過ごしたいのかを考える 第7回 ジョブトレーニング（インターンシップ）の理解を深める 第8回 ジョブトレーニング（インターンシップ）体験談 第9回 学生生活の体験談 第10回 あなたが取得できる就労ビザについて知る 第11回 日本企業で働くについて知る、考える 第12回 求人票の見方について 第13回 自分自身の今の志向・夢について考え、まとめる 第14回 自身の現状（基礎力）を振り返り、学生生活の送り方、目標を考える 第15回 期末レポートの共有・提出「ジョブトレーニング（インターンシップ）に向けた準備、春休みの過ごし方について」</p>
テキスト	<p>教科書は用いず、必要に応じてプリントやデータを配布します。</p> <p>授業で配布するプリントなどを整理しやすくするため、A4サイズのファイルを用意してください。また授業で気になったことなどをメモするために、ノートを購入しておいてください。</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内でペアワーク、もしくは少人数でのグループワークを行い、将来のキャリア形成について考える機会を提供する。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	企業の採用やインターンシップに関与した経験を持つ教員が、その当該経験を活かしキャリア形成の意義、方法について解説し、その上でキャリア形成を考える授業である。
質問への対応方法	キャリアセンターにて対面で平日9時半から17時までの間で電話連絡を行うか、教員がキャリアセンターに在席している場合はその場で対応。
フィードバックの方法	授業の冒頭に、前週のレポートについて良質な事例を取り上げ、ポイントを解説する。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の様子を撮影した動画や本講義で配布したプリントを用いて、2時間復習を行う。 合計:15×2時間=30時間 ジェネリックスキルを伸ばさせるための活動と振り返りを行う 15時間 学外活動レポートの作成 15時間 総計60時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	市民生活とキャリア形成(再1) / Civil life and Career-design
時間割コード Course Code	18311
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	水口 美知子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水口 美知子 (法学部)
授業の目標	<p>この授業の目標は、就職する際に必要な基本的能力、スキルを知り、有意義な学生生活を送れるよう、その基礎をあらためて学び、使えるようにすることにあります。</p> <p>そして、その基礎をもとに、社会に出る際に必要なスキルや能力（コミュニケーション能力、協働能力、創造力など）、スタンスを知る、磨く、みなさんの将来の選択肢（業界、企業、職業、職種、働き方など）を知る、考える、広げます。</p> <p>それらを目標に、講義、個人ワーク、ペアワーク等を通じ学び、考え、磨いてもらう授業です。2年以降のインターンシップ、3年後期以降の就職活動につながる、自身の将来を考えるために重要な考え方を知る機会です。</p> <p>このクラスを履修する皆さんは、すでに「市民生活とキャリア形成」の一部、もしくはほとんどの授業を聴講しているかもしれませんが、あらためて残りの大学生活をどう過ごすか？を考える機会としてこの授業を活用してください。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、本学のキャリア教育プログラムの全体像を理解し、有効活用する準備を整える</li> <li>2、2年次以降に設定されているインターンシップ（選択必修）への参加の意味を考え、準備（書類作成、受入れ先選びを含む）を整える</li> <li>3、世の中にある様々な生き方、働き方を知り、卒業後の自分自身のために残り短い学生生活という時間をどう過ごすか向き合い、考え、選択する</li> </ol> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の意味疎通に加えて、インターンシップや社会で必要に応じたルール等を理解し、社会人としてより円滑なコミュニケーションを行うためのノンバーバルコミュニケーションやメールコミュニケーションが行えるようになる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で働くうえで必要とされる能力や態度を理解し、学生とは異なる属性の他者と協調するために必要なことを理解できる。</li> <li>・学生生活を通じて、成長させたい汎用的技能を検討し、自律して成長させるための計画を立てられるようになることを目指す。</li> <li>・卒業後の人生について検討を行うことで、キャリア形成に必要な要素を理解し、自分の将来を検討できるレベルを目指す。</li> </ul>

授業の概要	<p>各回を通して、 講義 個人ワーク ペアワーク・グループワーク等 個人ワーク・小レポート という流れで授業を進めていきます。 まずは、新しい情報を皆さんにお伝えし、それを個人で考え、他人と共有し、視野を広げ、改めて個人で考え選択する。 それを繰り返すことにより、視野を広げ、自身で考え選択するというキャリア選択において重要なプロセスを体験します。 また、実際にインターンシップ（就業体験）に参加した先輩の話しや、世の中の社会人、学生に実施した調査結果を基に、なぜそのキャリアを選択したのか、どんな大人になりたかったのかなど、他人の考え、価値観を知ること、自身の考えを明確にし、文章化することも体験します。 結果的に、大学での学びに必要な「レポートの書き方」「学び方」「考え方」などを体験して頂き、そして、社会で必要とされる「コミュニケーション力」「主体性」「創造力・想像力」などを磨きます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>定期試験期間中には筆記試験を実施しない。 全体で10回以上の出席を評価の前提とする。 遅刻、早退は原則として認めない。 授業への参加姿勢（10%） 授業後の小レポートの内容（35%） 学外活動レポートの内容（15%） 最後の授業の回のレポート等の課題の提出（5%） 最後の授業の回のレポートの内容（35%）</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1.カードリーダーの出席と毎回のレポートの提出の両方をもって出席とします。 2.毎回の授業におけるレポートは指定以上の文字数の記載を行ってまいります。</p>
授業計画	<p>基本的には授業計画に沿って進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ず前の授業でお伝えします。</p> <p>第1回 オリエンテーション（授業の目的・進め方、授業に必要な考え方） 第2回 授業に必要なスキルを学ぶ・体験する 第3回 これまでの評価基準とこれからの評価基準をもう一度考える 第4回 社会で求められる能力、スキル、スタンスを知り、自身を見つめる 第5回 仕事選び、会社選びを間違えるとどうなるのか？ 第6回 “働ければどこでもいい”は本当か？ 第7回 職業選び、企業選びの成功例から学ぶ 第8回 大学生生活、大学生生活のその後について考える 第9回 インターンシップの理解を深める 第10回 日本企業で働くについて知る、考える 第11回 自分自身の今の志向・夢について考え、まとめる 第12回 インターンシップ体験談1 第13回 インターンシップ体験談2 第14回 自身の現状（基礎力）を振り返り、学生生活の送り方、目標を考える 第15回 期末レポートの共有・提出「夏休みの過ごし方について」</p>
テキスト	<p>教科書は用いず、必要に応じてプリントを配布します。</p> <p>授業で配布するプリントなどを整理しやすくするため、また授業で気になったことなどをメモするために、B5サイズのノートを購入しておいてください。期末レポートを書く際に便利です。ノートは方眼タイプ、罫線タイプどちらでも構わないですが、無地はあまりおすすめしません。</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内でペアワーク、もしくは少人数でのグループワークを行い、将来のキャリア形成について考える機会を提供する。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	企業の採用やインターンシップに関与した経験を持つ教員が、その当該経験を活かしキャリア形成の意義、方法について解説し、その上でキャリア形成を考える授業である。
質問への対応方法	キャリアセンターにて対面で平日9時半から17時までの間で電話連絡を行うか、教員がキャリアセンターに在席している場合はその場で対応。



フィードバックの方法	授業の冒頭に、前週のレポートについて良質な事例を取り上げ、ポイントを解説する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	本講義で配布したプリントを用いて、2時間復習を行う。 合計:15×2時間=30時間 ジェネリックスキルや社会人基礎力を伸長させるための活動と振り返りを行う 15時間 学外活動とレポートの作成 15時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	市民生活とキャリア形成(再3) / Civil life and Career-design
時間割コード Course Code	18313
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	倉橋 和世
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	倉橋 和世 (経営学部)
授業の目標	<p>この授業の目標は、就職する際に必要な基本的能力、スキルを知り、有意義な学生生活を送れるよう、その基礎をあらためて学び、使えるようにすることにあります。</p> <p>そして、その基礎をもとに、社会に出る際に必要なスキルや能力（コミュニケーション能力、協働能力、創造力など）、スタンスを知る、磨く、みなさんの将来の選択肢（業界、企業、職業、職種、働き方など）を知る、考える、広げます。</p> <p>それらを目標に、講義、個人ワーク、ペアワーク等を通じ学び、考え、磨いてもらう授業です。2年以降のインターンシップ、3年後期以降の就職活動につながる、自身の将来を考えるために重要な考え方を学ぶ機会です。</p> <p>このクラスを履修する皆さんは、すでに「市民生活とキャリア形成」の一部、もしくはほとんどの授業を聴講しているかもしれませんが、あらためて残りの大学生活をどう過ごすか？を考える機会としてこの授業を活用してください。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、本学のキャリア教育プログラムの全体像を理解し、有効活用する準備を整える</li> <li>2、2年次以降に設定されているインターンシップ（選択必修）への参加の意味を考え、準備（書類作成、受入れ先選びを含む）を整える</li> <li>3、世の中にある様々な生き方、働き方を知り、卒業後の自分自身のために残り短い学生生活という時間をどう過ごすか向き合い、考え、選択する</li> </ol> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の意味疎通に加えて、インターンシップや社会で必要に応じたルール等を理解し、社会人としてより円滑なコミュニケーションを行うためのノンバーバルコミュニケーションやメールコミュニケーションが行えるようになる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で働くうえで必要とされる能力や態度を理解し、学生とは異なる属性の他者と協調するために必要なことを理解できる。</li> <li>・学生生活を通じて、成長させたい汎用的技能を検討し、自律して成長させるための計画を立てられるようになることを目指す。</li> <li>・卒業後の人生について検討を行うことで、キャリア形成に必要な要素を理解し、自分の将来を検討できるレベルを目指す。</li> </ul>

授業の概要	<p>各回を通して、  <b>講義 個人ワーク ペアワーク・グループワーク等 個人ワーク・小レポート</b>          という流れで授業を進めていきます。          まずは、新しい情報を皆さんにお伝えし、それを個人で考え、他人と共有し、視野を広げ、改めて個人で考え選択する。          それを繰り返すことにより、視野を広げ、自身で考え選択するというキャリア選択において重要なプロセスを体験します。          また、実際にインターンシップ（就業体験）に参加した先輩の話しや、世の中の社会人、学生に実施した調査結果を基に、なぜそのキャリアを選択したのか、どんな大人になりたかったのかなど、他人の考え、価値観を知ること、自身の考えを明確にし、文章化することも体験します。          結果的に、大学での学びに必要な「レポートの書き方」「学び方」「考え方」などを体験して頂き、そして、社会で必要とされる「コミュニケーション力」「主体性」「創造力・想像力」などを磨きます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>定期試験期間中には筆記試験を実施しない。          全体で10回以上の出席を評価の前提とする。          遅刻、早退は原則として認めない。          授業への参加姿勢（10%）          授業後の小レポートの内容（35%）          学外活動レポートの内容（15%）          最後の授業の回のレポート等の課題の提出（5%）          最後の授業の回のレポートの内容（35%）</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1.カードリーダーの出席と毎回のレポートの提出の両方をもって出席とします。          2.毎回の授業におけるレポートは指定以上の文字数の記載を行ってまいります。</p>
授業計画	<p>基本的には授業計画通り進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ず前の授業でお伝えします。</p> <p>第1回 オリエンテーション（授業の目的・進め方、授業に必要な考え方）          第2回 授業に必要なスキルを学ぶ・体験する          第3回 これまでの評価基準とこれからの評価基準をもう一度考える          第4回 社会で求められる能力、スキル、スタンスを知り、自身を見つめる          第5回 仕事選び、会社選びを間違えるとどうなるのか？          第6回 “働ければどこでもいい”は本当か？          第7回 職業選び、企業選びの成功例から学ぶ          第8回 大学生生活、大学生生活のその後について考える          第9回 インターンシップの理解を深める          第10回 日本企業で働くについて知る、考える          第11回 自分自身の今の志向・夢について考え、まとめる          第12回 インターンシップ体験談1          第13回 インターンシップ体験談2          第14回 自身の現状（基礎力）を振り返り、学生生活の送り方、目標を考える          第15回 期末レポートの共有・提出「夏休みの過ごし方について」</p>
テキスト	<p>教科書は用いず、必要に応じてプリントを配布します。</p> <p>授業で配布するプリントなどを整理しやすくするため、また授業で気になったことなどをメモするために、B5サイズのノートを購入しておいてください。期末レポートを書く際に便利です。</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内でペアワーク、もしくは少人数でのグループワークを行い、将来のキャリア形成について考える機会を提供する。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	企業の採用やインターンシップに関与した経験を持つ教員が、その当該経験を活かしキャリア形成の意義、方法について解説し、その上でキャリア形成を考える授業である。
質問への対応方法	キャリアセンターにて対面で平日9時半から17時までの間で電話連絡を行うか、教員がキャリアセンターに在席している場合はその場で対応。

フィードバックの方法	授業の冒頭に、前週のレポートについて良質な事例を取り上げ、ポイントを解説する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	本講義で配布したプリントを用いて、2時間復習を行う。 合計:15×2時間=30時間 ジェネリックスキルや社会人基礎力を伸長させるための活動と振り返りを行う 15時間 学外活動とレポートの作成 15時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	市民生活とキャリア形成(再4) / Civil life and Career-design
時間割コード Course Code	18314
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	伊藤 繁生
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	伊藤 繁生 (経営学部)
授業の目標	<p>この授業の目標は、就職する際に必要な基本的能力、スキルを知り、有意義な学生生活を送れるよう、その基礎をあらためて学び、使えるようにすることにあります。</p> <p>そして、その基礎をもとに、社会に出る際に必要なスキルや能力（コミュニケーション能力、協働能力、創造力など）、スタンスを知る、磨く、みなさんの将来の選択肢（業界、企業、職業、職種、働き方など）を知る、考える、広げます。</p> <p>それらを目標に、講義、個人ワーク、ペアワーク等を通じ学び、考え、磨いてもらう授業です。2年以降のインターンシップ、3年後期以降の就職活動につながる、自身の将来を考えるために重要な考え方を学ぶ機会です。</p> <p>このクラスを履修する皆さんは、すでに「市民生活とキャリア形成」の一部、もしくはほとんどの授業を聴講しているかもしれませんが、あらためて残りの大学生活をどう過ごすか？を考える機会としてこの授業を活用してください。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、本学のキャリア教育プログラムの全体像を理解し、有効活用する準備を整える</li> <li>2、2年次以降に設定されているインターンシップ（選択必修）への参加の意味を考え、準備（書類作成、受入れ先選びを含む）を整える</li> <li>3、世の中にある様々な生き方、働き方を知り、卒業後の自分自身のために残り短い学生生活という時間をどう過ごすか向き合い、考え、選択する</li> </ol> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の意味疎通に加えて、インターンシップや社会で必要に応じたルール等を理解し、社会人としてより円滑なコミュニケーションを行うためのノンバーバルコミュニケーションやメールコミュニケーションが行えるようになる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で働くうえで必要とされる能力や態度を理解し、学生とは異なる属性の他者と協調するために必要なことを理解できる。</li> <li>・学生生活を通じて、成長させたい汎用的技能を検討し、自律して成長させるための計画を立てられるようになることを目指す。</li> <li>・卒業後の人生について検討を行うことで、キャリア形成に必要な要素を理解し、自分の将来を検討できるレベルを目指す。</li> </ul>

授業の概要	<p>各回を通して、  <b>講義 個人ワーク ペアワーク・グループワーク等 個人ワーク・小レポート</b>          という流れで授業を進めていきます。          まずは、新しい情報を皆さんにお伝えし、それを個人で考え、他人と共有し、視野を拡げ、改めて個人で考え選択する。          それを繰り返すことにより、視野を拡げ、自身で考え選択するというキャリア選択において重要なプロセスを体験します。          また、実際にインターンシップ（就業体験）に参加した先輩の話しや、世の中の社会人、学生に実施した調査結果を基に、なぜそのキャリアを選択したのか、どんな大人になりたかったのかなど、他人の考え、価値観を知ること、自身の考えを明確にし、文章化することも体験します。          結果的に、大学での学びに必要な「レポートの書き方」「学び方」「考え方」などを体験して頂き、そして、社会で必要とされる「コミュニケーション力」「主体性」「創造力・想像力」などを磨きます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>定期試験期間中には筆記試験を実施しない。          全体で10回以上の出席を評価の前提とする。          遅刻、早退は原則として認めない。          授業への参加姿勢（10%）          授業後の小レポートの内容（35%）          学外活動レポートの内容（15%）          最後の授業の回のレポート等の課題の提出（5%）          最後の授業の回のレポートの内容（35%）</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1.カードリーダーの出席と毎回のレポートの提出の両方をもって出席とします。          2.毎回の授業におけるレポートは指定以上の文字数の記載を行ってまいります。</p>
授業計画	<p>基本的には授業計画通り進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ず前の授業でお伝えします。</p> <p>第1回 オリエンテーション（授業の目的・進め方、授業に必要な考え方）          第2回 授業に必要なスキルを学ぶ・体験する          第3回 これまでの評価基準とこれからの評価基準をもう一度考える          第4回 社会で求められる能力、スキル、スタンスを知り、自身を見つめる          第5回 仕事選び、会社選びを間違えるとどうなるのか？          第6回 “働ければどこでもいい”は本当か？          第7回 職業選び、企業選びの成功例から学ぶ          第8回 大学生生活、大学生生活のその後について考える          第9回 インターンシップの理解を深める          第10回 日本企業で働くについて知る、考える          第11回 自分自身の今の志向・夢について考え、まとめる          第12回 インターンシップ体験談1          第13回 インターンシップ体験談2          第14回 自身の現状（基礎力）を振り返り、学生生活の送り方、目標を考える          第15回 期末レポートの共有・提出「夏休みの過ごし方について」</p>
テキスト	<p>教科書は用いず、必要に応じてプリントを配布します。</p> <p>授業で配布するプリントなどを整理しやすくするため、また授業で気になったことなどをメモするために、B5サイズのノートを購入しておいてください。期末レポートを書く際に便利です。</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内でペアワーク、もしくは少人数でのグループワークを行い、将来のキャリア形成について考える機会を提供する。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	企業の採用やインターンシップに関与した経験を持つ教員が、その当該経験を活かしキャリア形成の意義、方法について解説し、その上でキャリア形成を考える授業である。
質問への対応方法	キャリアセンターにて対面で平日9時半から17時までの間で電話連絡を行うか、教員がキャリアセンターに在席している場合はその場で対応。

フィードバックの方法	授業の冒頭に、前週のレポートについて良質な事例を取り上げ、ポイントを解説する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	本講義で配布したプリントを用いて、2時間復習を行う。 合計:15×2時間=30時間 ジェネリックスキルや社会人基礎力を伸長させるための活動と振り返りを行う 15時間 学外活動とレポートの作成 15時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	国家と法（日本国憲法） / State and Law
時間割コード Course Code	19100
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	萩原 聡央
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	萩原 聡央（法学部）、本 秀紀（法学部）
授業の目標	<p>この授業では、「人権」、「自由」および「国家」など、わたしたちの日常生活のなかで何気なく使われている「個人と国家」・「国家と法」に関連する言葉の意味や内容について理解を深めるとともに、憲法の基本的な考え方や憲法の役割について学び、国家と法（国家と日本国憲法）の関係について理解することを目標とします。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 憲法に関する基本的な知識を身につける。</p> <p>態度・志向性の領域 国家の役割に関心を向けるようになる。</p>
授業の概要	<p>この授業では、大きく4つの柱について学びます。第1の柱として、憲法とは何かについて学ぶとともに、日本国憲法の歴史や考え方について学びます。第2の柱として、基本的人権の考え方や内容を中心に、個人の自由や国家と個人の関係について学びます。第3の柱として、国会・内閣・裁判所の仕組みを含め、国家の機能と役割について学びます。第4の柱として、日本国憲法との関係で、現在および将来的に日本が直面している、あるいは直面するかもしれない問題点や課題について考察します。この4つの柱の学びをとおして、「人権と自由」の意味や「個人と国家」・「国家と法」の内容とその関係について理解することができます。</p> <p>なお、この授業は、2名の教員が前半部分（第1回～第8回）と後半部分（第9回～15回）をそれぞれ担当する、オムニバス方式で行います。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業時に適宜実施する課題・小テスト（60%）および期末試験（40%）の結果により評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	原則として、出席回数が10回に満たない場合（欠席が6回以上の場合）は失格とします。



授業計画	<p>第1回 ガイダンス：憲法とは何か、立憲主義と現代国家、日本国憲法の生い立ち</p> <p>第2回 日本国憲法の考え方：国民主権と象徴天皇制、日本国憲法における平和主義</p> <p>第3回 基本的人権の考え方：基本的人権の原理、人権の歴史・観念・内容</p> <p>第4回 基本的人権の限界：人権と公共の福祉、私人間における人権の保障と限界</p> <p>第5回 幸福追求権および法の下の平等：包括的基本権、法の下の平等の意味</p> <p>第6回 心の自由：精神的自由権</p> <p>第7回 経済活動の自由および身体の自由：経済的自由権、人身の自由</p> <p>第8回 豊かに生きる権利：生存権、教育を受ける権利、労働基本権</p> <p>第9回 国会のしくみと役割：権力分立の考え方、国会の地位・組織・活動・権能</p> <p>第10回 内閣のしくみと役割：行政権と内閣、内閣の組織と権能、議院内閣制</p> <p>第11回 裁判所のしくみと役割：司法権の意味と範囲、裁判所の組織と権能</p> <p>第12回 地方自治のしくみ：地方自治の本旨、条例制定権</p> <p>第13回 住民が地方政治に参加する方法：直接請求制度、住民投票、住民訴訟</p> <p>第14回 国の財政のしくみと憲法を守るしくみ：財政、憲法の保障</p> <p>第15回 わたしたちの未来と憲法</p>
テキスト	授業時にレジュメ・資料を配布します。テキストは指定しません。
参考書	芦部信喜・高橋和之補訂『憲法』（岩波書店、第8版、2023年） 小型の六法（たとえば、『ポケット六法』（有斐閣）など）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業の前後およびオフィスアワーなどにおいて対応します。
フィードバックの方法	授業で実施する課題・小テストについては、次回以降の授業で解説を行います。 成績評価に関しては、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の授業内容について、憲法に関する書籍（たとえば上記参考書）を参考に、予習（2時間）および復習（2時間）をしてください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力

開講科目名 Course	国家と法（日本国憲法） / State and Law
時間割コード Course Code	19110
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	本 秀紀
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	萩原 聡央（法学部）、本 秀紀（法学部）
授業の目標	<p>この授業では、「人権」、「自由」および「国家」など、わたしたちの日常生活のなかで何気なく使われている「個人と国家」・「国家と法」に関連する言葉の意味や内容について理解を深めるとともに、憲法の基本的な考え方や憲法の役割について学び、国家と法（国家と日本国憲法）の関係について理解することを目標とします。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 憲法に関する基本的な知識を身につける。</p> <p>態度・志向性の領域 国家の役割に関心を向けるようになる。</p>
授業の概要	<p>この授業では、大きく4つの柱について学びます。第1の柱として、憲法とは何かについて学ぶとともに、日本国憲法の歴史や考え方について学びます。第2の柱として、基本的人権の考え方や内容を中心に、個人の自由や国家と個人の関係について学びます。第3の柱として、国会・内閣・裁判所の仕組みを含め、国家の機能と役割について学びます。第4の柱として、日本国憲法との関係で、現在および将来的に日本が直面している、あるいは直面するかもしれない問題点や課題について考察します。この4つの柱の学びをとおして、「人権と自由」の意味や「個人と国家」・「国家と法」の内容とその関係について理解することができます。</p> <p>なお、この授業は、2名の教員が前半部分（第1回～第8回）と後半部分（第9回～15回）をそれぞれ担当する、オムニバス方式で行います。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業時に適宜実施する課題・小テスト（60%）および期末試験（40%）の結果により評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	原則として、出席回数が10回に満たない場合（欠席が6回以上の場合）は失格とします。

授業計画	<p>第1回 ガイダンス：憲法とは何か、立憲主義と現代国家、日本国憲法の生い立ち</p> <p>第2回 日本国憲法の考え方：国民主権と象徴天皇制、日本国憲法における平和主義</p> <p>第3回 国会のしくみと役割：権力分立の考え方、国会の地位・組織・活動・権能</p> <p>第4回 内閣のしくみと役割：行政権と内閣、内閣の組織と権能、議院内閣制</p> <p>第5回 裁判所のしくみと役割：司法権の意味と範囲、裁判所の組織と権能</p> <p>第6回 地方自治のしくみ：地方自治の本旨、条例制定権</p> <p>第7回 住民が地方政治に参加する方法：直接請求制度、住民投票、住民訴訟</p> <p>第8回 国の財政のしくみと憲法を守るしくみ：財政、憲法の保障</p> <p>第9回 基本的人権の考え方：基本的人権の原理、人権の歴史・観念・内容</p> <p>第10回 基本的人権の限界：人権と公共の福祉、私人間における人権の保障と限界</p> <p>第11回 幸福追求権および法の下の平等：包括的基本権、法の下の平等の意味</p> <p>第12回 心の自由：精神的自由権</p> <p>第13回 経済活動の自由および身体の自由：経済的自由権、人身の自由</p> <p>第14回 豊かに生きる権利：生存権、教育を受ける権利、労働基本権</p> <p>第15回 わたしたちの未来と憲法</p>
テキスト	授業時にレジュメ・資料を配布します。テキストは指定しません。
参考書	芦部信喜・高橋和之補訂『憲法』（岩波書店、第8版、2023年） 小型の六法（たとえば、『ポケット六法』（有斐閣）など）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業の前後およびオフィスアワーなどにおいて対応します。
フィードバックの方法	授業で実施する課題・小テストについては、次回以降の授業で解説を行います。 成績評価に関しては、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の授業内容について、憲法に関する書籍（たとえば上記参考書）を参考に、予習（2時間）および復習（2時間）をしてください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力

開講科目名 Course	犯罪と法 / Crime and Law
時間割コード Course Code	19120
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	清水 裕樹
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	清水 裕樹 (法学部)
授業の目標	下記指定テキストを用いて、刑事法の基礎について学ぶ。  知識・理解の領域：現代日本の刑事法とそれを支える現実についての知識を得ることができる。 態度・志向性の領域：現代日本における犯罪の状況への理解を踏まえ、犯罪への対策として刑事法にできることとできないことについての限界を理解するとともに、それを克服するための方法について自覚的に考えることができるようになる。
授業の概要	原則として、指定テキストに基づく講義を行う。ただし、テキストの範囲を超える内容に関しては、主に『犯罪白書』のデータに立脚した、実証的なデータに基づいて、問題解決の方策を模索できるような授業を実施する。
評価方法	毎回授業後に出题するgoogleフォームの課題 (60%) + 2回のレポート (40%) によって評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席が6回以上となった場合、または連続して3回以上欠席となった場合、失格とする。 対面式の講義を実施できる場合、授業開始時刻より20分以内に出席確認ができた場合を出席とする。 また、学生証は常時携帯すべきものであることから、学生証を持参し忘れた場合は、欠席とみなす。 オンデマンド形式での授業の場合は、googleフォームへの回答をもって出席を確認する。
授業計画	第1回 授業開始にあたって + テキスト第1章 「刑事法とは 刑事法学とは」 第2回 テキスト第2章 「なぜ人は罪を犯すのか」 第3回 テキスト第3章 「統計からみた犯罪現象」 第4回 テキスト第4章 「刑法は何のためにあるのか」 第5回 テキスト第5章 「刑罰について深く考える」 第6回 テキスト第6章 「刑罰とその種類」 第7回 テキスト第7章 「刑法とその解釈」 第8回 テキスト第10章 「犯罪論の基礎」 第9回 テキスト第11章 「犯罪論 (1) 構成要件」 第10回 テキスト第12章 「犯罪論 (2) 違法性」 第11回 テキスト第13章 「犯罪論 (2) 責任」 第12回 テキスト第14章 「故意と過失」 第13回 テキスト第15章 「未遂犯と共犯」 第14回 テキスト第16章 「どのようにして罰を決めるか」 第15回 テキスト第21章 「犯罪者の処遇」
テキスト	井田良『基礎から学ぶ 刑事法 第6版補訂版』(有斐閣アルマ)2022年  シラバス入力時点以降に、改訂された場合、より新しい版のテキストを使用する。
参考書	特に指定しません。

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業時間外の質問は、メールにて受け付ける。
フィードバックの方法	毎回の課題については、後日解説を付してスコアを返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	初回授業にあたっては、シラバスをよく読む（15分）とともに、各自テキストを読めるだけ読む（75分）こと。 以後は、復習として、当該授業回の内容を再確認する（75分）+ 課題を実施する（45分）とともに、予習として授業プリントの〈次回に向けて〉の部分調べ（60分）+ 次の回に当たるテキストの部分を読む（60分）こと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	犯罪と法 / Crime and Law
時間割コード Course Code	19130
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	清水 裕樹
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	清水 裕樹(法学部)
授業の目標	下記指定テキストを用いて、刑事法の基礎について学ぶ。  知識・理解の領域：現代日本の刑事法とそれを支える現実についての知識を得ることができる。 態度・志向性の領域：現代日本における犯罪の状況への理解を踏まえ、犯罪への対策として刑事法にできることとできないことについての限界を理解するとともに、それを克服するための方法について自覚的に考えることができるようになる。
授業の概要	原則として、指定テキストに基づく講義を行う。ただし、テキストの範囲を超える内容に関しては、主に『犯罪白書』のデータに立脚した、実証的なデータに基づいて、問題解決の方策を模索できるような授業を実施する。
評価方法	毎回授業後に出席するgoogleフォームの課題(60%) + 2回のレポート(40%)によって評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席が6回以上となった場合、または連続して3回以上欠席となった場合、失格とする。 対面式の講義を実施できる場合、授業開始時刻より20分以内に出席確認ができた場合を出席とする。 また、学生証は常時携帯すべきものであることから、学生証を持参し忘れた場合は、欠席とみなす。 オンデマンド形式での授業の場合は、googleフォームへの回答をもって出席を確認する。
授業計画	第1回 授業開始にあたって + テキスト第1章 「刑事法とは 刑事法学とは」 第2回 テキスト第2章 「なぜ人は罪を犯すのか」 第3回 テキスト第3章 「統計からみた犯罪現象」 第4回 テキスト第4章 「刑法は何のためにあるのか」 第5回 テキスト第5章 「刑罰について深く考える」 第6回 テキスト第6章 「刑罰とその種類」 第7回 テキスト第7章 「刑法とその解釈」 第8回 テキスト第10章 「犯罪論の基礎」 第9回 テキスト第11章 「犯罪論(1) 構成要件」 第10回 テキスト第12章 「犯罪論(2) 違法性」 第11回 テキスト第13章 「犯罪論(2) 責任」 第12回 テキスト第14章 「故意と過失」 第13回 テキスト第15章 「未遂犯と共犯」 第14回 テキスト第16章 「どのようにして罰を決めるか」 第15回 テキスト第21章 「犯罪者の処遇」
テキスト	井田良『基礎から学ぶ 刑事法 第6版補訂版』(有斐閣アルマ)2022年  シラバス入力時点以降に、改訂された場合、より新しい版のテキストを使用する。
参考書	

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業時間外の質問は、メールにて受け付ける。
フィードバックの方法	毎回の課題については、後日解説を付してスコアを返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	初回授業にあたっては、シラバスをよく読む（15分）とともに、各自テキストを読めるだけ読む（75分）こと。 以後は、復習として、当該授業回の内容を再確認する（75分）+ 課題を実施する（45分）とともに、予習として授業プリントの＜次回に向けて＞の部分調べ（60分）+ 次の回に当たるテキストの部分を読む（60分）こと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	企業と法 / Enterprise Laws
時間割コード Course Code	19140
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	美濃羽正康
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	美濃羽正康(法学部)、謝 芸甜(法学部)
授業の目標	企業活動を規制する法律の予備的基礎知識を習得する。
授業の概要	<p>今日、我々の日常生活において企業と関わらない日はないといっても過言ではない。例えば、学生諸君がノートを購入する際を考えてみよう。そのノートを作っているメーカーは企業である。そして、そのノートは卸業者の手に渡り、その後、文房具屋さんの店頭にならべられ、今、君が手にしているのである。またノートをメーカーから卸業者へ、さらに文房具屋さんへと運んだのは運送会社という企業である。このように企業は、生産、流通、販売などを通じて経済活動全般を担っている。また、学生諸君の多くは、卒業後には企業に就職することになるであろう。このことは、企業は労働の場であり、家庭生活を経済面で支える重要な要素であることを意味している。近年、経済社会の劇的な発展にともない、企業を取り巻く環境も著しい変化をみせている。企業の社会的役割の重視や製造物責任などといった社会や消費者をも視野に入れた企業活動のあり方が議論されるようになった。</p> <p>そこで、本講義では、企業という組織・活動について学ぶことを主とする部分と、企業と労働者との関係について学ぶ部分とに分けて解説を行う。</p> <p>資料を配付するので、それを参考にしながら学習(復習を含む)を行ってほしい。</p> <p><b>知識・理解の領域</b> できるだけ平易な言葉を用いたわかりやすい解説に心掛け、「企業とはどのようなものであるか」、「企業活動とはどういうことをするのか」、「企業活動を通じてどのような法律関係が発生するのか」などの理解を深めることによって、企業活動を規制する法律の予備的基礎知識を習得することができる。</p> <p><b>思考・判断の領域</b> 企業がどのように運営されているのかを理解し、企業が社会においてどのような存在であるかを認識し、その役割を多方面からとらえることができる。</p> <p><b>関心・意欲の領域</b> 成人の多くにとって「社会」は、まさに「企業」であると言える。多くの卒業生は企業に就職することになる。そのような企業に関心をもち自己の将来に目を向けることができる。</p> <p><b>質問への対応</b> すべて遠隔授業で実施します。質問は、担当教員のメールアドレス(大学HP「法学部」「教員紹介」参照)にて、随時受け付けます。</p>
評価方法	期末試験により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上の欠席で失格とする。



授業計画	<p>*1ブロック（美濃羽担当）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 経済活動と法との関係 企業法の中心的法律である商法や会社法の基本的特色にはどのような事柄があるか理解する。</li> <li>2 企業活動の主体 企業とは何ですか？と聞かれたとき、法的に説明することができるようになる。</li> <li>3 企業活動の拠点 企業は、ビルやその中のオフィス、工場、倉庫など多くの施設で企業活動を行っている。しかし、そのすべてが法律上重要な施設とはいえない。法律上、企業の拠点（営業所）となるのはどのような施設であるかを理解する。</li> <li>4 企業の名称 お店の名前、会社の名前を自由に付けていいと一応法律ではなっているが、かといって全く自由というわけではない。企業の名称についての意義や機能、法的規制について理解する。</li> <li>5 企業情報の開示 企業が自らの情報を世間に公表することはとても重要である。企業はどのような情報を世の中に対して公表しなければならないか？また、そのメリットは何かを理解する。</li> <li>6 企業の取引活動に関する法制度 商法に定められる「商行為」を行えば、誰でも商法が適用されることになっている。では商行為とはどのような行為をいうのかを理解できる。</li> <li>7 企業不祥事 企業が法律に反する行為を行ったり、不正な取引を行いニュースになることが絶えない。とくにバブル経済が崩壊して以降、企業不祥事の発覚が相次いでいる。どのような理由で企業が不祥事をはたらくのか？その背景について理解する。</li> <li>8 まとめ 講義内容のまとめ。</li> </ol> <p>*2ブロック（謝担当）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 企業の設立 会社の設立の手続きなどを解説する。</li> <li>2 企業の資金調達 資金調達方法の概要、及び株式の発行と譲渡などに関する法規制を解説する。</li> <li>3 企業の資金調達 新株予約権の意義と利用方法、発行手続きなどに関する法規制を取り上げる。</li> <li>4 企業の資金調達 社債による資金調達と新株予約権付社債について、その内容や発行に関する基本的な規制を解説する。</li> <li>5 企業の組織再編 会社の基礎的変更、組織変更、合併などに関する法規制を解説する。</li> <li>6 企業の組織再編 会社分割、事業譲渡などに関する法規制を解説する。</li> <li>7 企業の解散と清算 会社の解散と清算手続きなどに関する法規制を取り上げる。</li> </ol>
テキスト	テキストは使用しない。六法は各自用意すること。授業中に適宜必要な資料等は、担当教員から配布する。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業終了後の直接の質問およびEメールで、質問を受け付ける。
フィードバックの方法	講義中の課題については、講義内で解説を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	時間 毎回の授業について、2時間の予習・復習（ノート整理を含む）を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力 4.構想力

PROGコンピテンシーの要素	2. 協同力 3. 統率力 7. 課題発見力 9. 実践力
----------------	--

開講科目名 Course	企業と法 / Enterprise Laws
時間割コード Course Code	19150
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	謝 芸甜
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	美濃羽正康(法学部)、謝 芸甜(法学部)
授業の目標	企業活動を規制する法律の予備的基礎知識を習得する。
授業の概要	<p>今日、我々の日常生活において企業と関わらない日はないといっても過言ではない。例えば、学生諸君がノートを購入する際を考えてみよう。そのノートを作っているメーカーは企業である。そして、そのノートは卸業者の手に渡り、その後、文房具屋さんの店頭にならべられ、今、君が手にしているのである。またノートをメーカーから卸業者へ、さらに文房具屋さんへと運んだのは運送会社という企業である。このように企業は、生産、流通、販売などを通じて経済活動全般を担っている。また、学生諸君の多くは、卒業後には企業に就職することになるであろう。このことは、企業は労働の場であり、家庭生活を経済面で支える重要な要素であることを意味している。近年、経済社会の劇的な発展にともない、企業を取り巻く環境も著しい変化をみせている。企業の社会的役割の重視や製造物責任などといった社会や消費者をも視野に入れた企業活動のあり方が議論されるようになった。</p> <p>そこで、本講義では、企業という組織・活動について学ぶことを主とする部分と、企業と労働者との関係について学ぶ部分とに分けて解説を行う。</p> <p>資料を配付するので、それを参考にしながら学習(復習を含む)を行ってほしい。</p> <p>知識・理解の領域 できるだけ平易な言葉を用いたわかりやすい解説に心掛け、「企業とはどのようなものであるか」、「企業活動とはどういうことをするのか」、「企業活動を通じてどのような法律関係が発生するのか」などの理解を深めることによって、企業活動を規制する法律の予備的基礎知識を習得することができる。</p> <p>思考・判断の領域 企業がどのように運営されているのかを理解し、企業が社会においてどのような存在であるかを認識し、その役割を多方面からとらえることができる。</p> <p>関心・意欲の領域 成人の多くにとって「社会」は、まさに「企業」であると言える。多くの卒業生は企業に就職することになる。そのような企業に関心をもち自己の将来に目を向けることができる。</p> <p>質問への対応 すべて遠隔授業で実施します。質問は、担当教員のメールアドレス(大学HP「法学部」「教員紹介」参照)にて、随時受け付けます。</p>
評価方法	期末試験により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上の欠席で失格とする。

授業計画	<p>*1ブロック（謝担当）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 企業の設立 会社の設立の手続きなどを解説する。</li> <li>2 企業の資金調達 資金調達方法の概要、及び株式の発行と譲渡などに関する法規制を解説する。</li> <li>3 企業の資金調達 新株予約権の意義と利用方法、発行手続きなどに関する法規制を取り上げる。</li> <li>4 企業の資金調達 社債による資金調達と新株予約権付社債について、その内容や発行に関する基本的な規制を解説する。</li> <li>5 企業の組織再編 会社の基礎的変更、組織変更、合併などに関する法規制を解説する。</li> <li>6 企業の組織再編 会社分割、事業譲渡などに関する法規制を解説する。</li> <li>7 企業の解散と清算 会社の解散と清算手続きなどに関する法規制を取り上げる。</li> <li>8 まとめ 講義内容のまとめ。</li> </ol> <p>*2ブロック（美濃羽担当）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 経済活動と法との関係 企業法の中心的法律である商法や会社法の基本的特色にはどのような事柄があるか理解する。</li> <li>2 企業活動の主体 企業とは何ですか？と聞かれたとき、法的に説明できるようになる。</li> <li>3 企業活動の拠点 企業は、ビルやその中のオフィス、工場、倉庫など多くの施設で企業活動を行っている。しかし、そのすべてが法律上重要な施設とはいえない。法律上、企業の拠点（営業所）となるのはどのような施設であるかを理解する。</li> <li>4 企業の名称 お店の名前、会社の名前を自由に付けていいと一応法律ではなっているが、かといって全く自由というわけではない。企業の名称についての意義や機能、法的規制について理解する。</li> <li>5 企業情報の開示 企業が自らの情報を世間に公表することはとても重要である。企業はどのような情報を世の中に対して公表しなければならないか？また、そのメリットは何かを理解する。</li> <li>6 企業の取引活動に関する法制度 商法に定められる「商行為」を行えば、誰でも商法が適用されることになっている。では商行為とはどのような行為をいうのかを理解できる。</li> <li>7 企業不祥事 企業が法律に反する行為を行ったり、不正な取引を行いニュースになることが絶えない。とくにバブル経済が崩壊して以降、企業不祥事の発覚が相次いでいる。どのような理由で企業が不祥事をはたらくのか？その背景について理解する。</li> </ol>
テキスト	テキストは使用しない。六法は各自用意すること。授業中に適宜必要な資料等は、担当教員から配布する。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業終了後の直接の質問およびEメールで、質問を受け付ける。
フィードバックの方法	講義内で解説を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業について、2時間の予習・復習（ノート整理を含む）を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう

PROGリテラシーの要素	3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	2. 協同力 3. 統率力 7. 課題発見力 9. 実践力

開講科目名 Course	裁判と法 / Litigation Process and Law
時間割コード Course Code	19160
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	張 瑞輝
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	張 瑞輝(法学部)、白出 博之(法学部)
授業の目標	<p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 日本の裁判制度の概要を理解・把握することができる。 ある医療過誤事件の展開から民事裁判のしくみを理解・把握することができる。 刑法や刑事訴訟法の概要を理解・把握することができる。 事件発生から裁判まで刑事事件全体を理解・把握することができる。</p> <p>態度・志向性の領域 法律家という専門職業について理解するとともに、その養成制度について知ることで、将来の進路選択における一つの可能性として検討できるようになる。</p> <p>技能の領域 条文および判例を読み解くテクニックが身につく。</p>
授業の概要	<p>&lt;授業の概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>講義の進行に関しては、裁判とは何か、法とは何か、民事裁判のしくみ、刑事裁判のしくみ、などについて、2名の担当教員(張、白出)が交代で担当する。</li> <li>本科目の履修を希望する場合、「市民生活と法」及び「犯罪と法」をあらかじめ履修していることが望ましい。</li> </ul> <p>&lt;科目の位置づけ&gt;</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	・平常点(受講態度、授業中の課題への取り組み)30%、期末試験70%の割合で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>欠席が6回以上となった場合は失格とする。</li> <li>授業開始時刻を過ぎて入室した場合は遅刻になる。</li> <li>遅刻2回で欠席1回と換算する。</li> <li>出席不正等の不正行為を行った者は出席回数にかかわらず失格とする。</li> </ul>

授業計画	<p>=== 第1回から第8回は、張担当 ===</p> <p>第1回 ガイダンス、総論  第2回 裁判とは何か  第3回 法とは何か  第4回 裁判所制度  第5回 法律家の役割  第6回 民事裁判のしくみ(1) 基本構造  第7回 民事裁判のしくみ(2) 手続きの流れ  第8回 裁判をめぐる現代的課題</p> <p>=== 第9回から第15回は、白出担当 ===</p> <p>第9回 条文の構造や使い方  第10回 手続の概要、流れ  第11回 刑事事件の概要（刑法総論の視点から）  第12回 刑事事件の概要（刑法各論の視点から）  第13回 刑事事件の概要（捜査手続の視点から）  第14回 刑事事件の概要（公判手続の視点から）  第15回 刑事事件の概要（事実認定・証拠法の視点から）</p> <p>実務経験のある教員による授業  弁護士として民事事件刑事事件などに携わっている教員が、実務経験を活かして、実務的な観点から、裁判手続の仕組みや法律の構造などについて解説する授業である。</p>
テキスト	プリントを配布する。
参考書	市川正人・酒巻匡・山本和彦『現代の裁判 第8版』（有斐閣、2022年） 山本和彦『よくわかる民事裁判（平凡吉訴訟日記）第4版』（有斐閣、2023年）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	・担当教員のうち、白出が弁護士として、法律実務上の経験を活用し、身近な法律について解説を行う授業である。
質問への対応方法	・オフィスアワー、授業の前後の相談等により随時対応する。
フィードバックの方法	・予習復習等、準備学習の内容については、参考書 市川正人・酒巻匡・山本和彦『現代の裁判 第8版』（有斐閣、2022年）の該当範囲、すなわち参考書の目次と前記授業計画が一致する箇所は予習復習等、準備学習の内容となる。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・予習復習等、準備学習の時間については、各回で少なくとも4時間以上を要する内容となっているため、該当範囲を事前に閲読した上での受講が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	12.つくる責任つかう責任 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	5.自信創出力 7.課題発見力

開講科目名 Course	裁判と法 / Litigation Process and Law
時間割コード Course Code	19170
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	白出 博之
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	張 瑞輝(法学部)、白出 博之(法学部)
授業の目標	<p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 日本の裁判制度の概要を理解・把握することができる。 ある医療過誤事件の展開から民事裁判のしくみを理解・把握することができる。 刑法や刑事訴訟法の概要を理解・把握することができる。 事件発生から裁判まで刑事事件全体を理解・把握することができる。</p> <p>態度・志向性の領域 法律家という専門職業について理解するとともに、その養成制度について知ることで、将来の進路選択における一つの可能性として検討できるようになる。</p> <p>技能の領域 条文および判例を読み解くテクニックが身につく。</p>
授業の概要	<p>&lt;授業の概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>講義の進行に関しては、裁判とは何か、法とは何か、民事裁判や刑事裁判の仕組みなどについて、2名の担当教員(白出、張)が交代で担当する。</li> <li>本科目の履修を希望する場合、「市民生活と法」及び「犯罪と法」をあらかじめ履修していることが望ましい。</li> </ul> <p>&lt;科目の位置づけ&gt;</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	・平常点(受講態度、授業中の課題への取り組み)30%、期末試験70%の割合で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>欠席が6回以上となった場合は失格とする。</li> <li>授業開始時刻を過ぎて入室した場合は遅刻になる。</li> <li>遅刻2回で欠席1回と換算する。</li> <li>出席不正等の不正行為を行った者は出席回数にかかわらず失格とする。</li> </ul>



授業計画	<p>=== 第1回から第8回は、白出担当 ===</p> <p>第1回 ガイダンス、総論  第2回 条文の構造や使い方  第3回 手続の概要、流れ  第4回 刑事事件の概要（刑法総論の視点から）  第5回 刑事事件の概要（刑法各論の視点から）  第6回 刑事事件の概要（捜査手続の視点から）  第7回 刑事事件の概要（公判手続の視点から）  第8回 刑事事件の概要（事実認定・証拠法の視点から）</p> <p>=== 第9回から第15回は、張担当 ===</p> <p>第9回 裁判とは何か  第10回 法とは何か  第11回 裁判所制度  第12回 法律家の役割  第13回 民事裁判のしくみ(1) 基本構造  第14回 民事裁判のしくみ(2) 手続きの流れ  第15回 裁判をめぐる現代的課題</p> <p>実務経験のある教員による授業  弁護士として民事事件刑事事件などに携わっている教員が、実務経験を活かして、実務的な観点から、裁判手続の仕組みや法律の構造などについて解説する科目である。</p>
テキスト	プリントを配布する。
参考書	市川正人・酒巻匡・山本和彦『現代の裁判 第8版』（有斐閣、2022年） 山本和彦『よくわかる民事裁判（平凡吉訴訟日記）第4版』（有斐閣、2023年）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	・担当教員のうち、白出が弁護士として、法律実務上の経験を活用し、身近な法律について解説を行う授業である。
質問への対応方法	・オフィスアワー、授業の前後の相談等により随時対応する。
フィードバックの方法	・予習復習等、準備学習の内容については、参考書 市川正人・酒巻匡・山本和彦『現代の裁判 第8版』（有斐閣、2022年）の該当範囲、すなわち参考書の目次と前記授業計画が一致する箇所は予習復習等、準備学習の内容となる。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・予習復習等、準備学習の時間については、各回で少なくとも4時間以上を要する内容となっているため、該当範囲を事前に閲読した上での受講が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	5.自信創出力 7.課題発見力

開講科目名 Course	国際社会と法 / International Society and Law
時間割コード Course Code	19180
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	ウミリデノブ アリシエル
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	富岡 仁(管理栄養学科)、佐分 晴夫(法学部)、ウミリデノブ アリシエル(法学部)、水谷 仁(法学部)
授業の目標	国際社会にある法秩序について学ぶ。この授業を履修することにより、受講者は以下のような学習成果を得ることができる。(1)国際社会において存在する法制度および政治体制についての基礎的理解を得ることができる。(2)国際社会における法制度と国内社会における法制度の密接な関係を理解することができる。(3)現実の事例を多く取り上げ法制度の働きと政治体制の変動について理解することにより、国際化された現代社会において活躍するのに必要である技能を修得することができる。
授業の概要	私たちの日常生活は国際関係を抜きにしてはあり得ない。身の回りのものを見ても外国製品であふれている。また、仕事や観光などで外国に出かけることもよくあることである。このような国際交流がスムーズに行われるためには法秩序が必要である。この講義では、日常生活に密接に関わる国際法秩序について、具体例を多く取り上げて、わかりやすく説明する。日々の新しい出来事を取り上げることもあるので、シラバスの順序・内容は変更されることがある。  この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。  〔授業形態〕 この授業は対面で実施する。
評価方法	各回の授業後に実施する小テスト(80%)および第6回と13回の課題に関するレポート(20%)の結果により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 グローバリゼーションと国際社会 第2回 国際社会の基本構造:なぜ国際社会に関する法は必要か。 第3回 国際社会の基本構造:国家領域 第4回 ロシアーウクライナ戦争とイスラエルとパレスチナ戦争 第5回 核兵器廃絶をめぐる議論と国際社会 第6回 国際結婚と国境を越えた子どもの不法な連れ去り 第7回 企業が国家と契約を結べる? 第8回 国際紛争はどのように解決されねばならないか 第9回 地球環境を守るにはどうしたらよいか:地球温暖化問題 第10回 世界は食糧危機を乗り越えられるか。 第11回 世界の難民情勢と日本の選択 第12回 出入力国管理・難民認定(1) 第13回 出入力国管理・難民認定(2) 第14回 グローバル化と民主主義 第15回 まとめ・レポートの提出方法

テキスト	指定しない。各回の講義前に講義で使用する資料等について指示するので、参照すること。
参考書	森川他編『国際法で世界がわかる』岩波書店、2016年。 渋谷 淳一， 本田 量久『21世紀国際社会を考える：多層的な世界を読み解く38章』旬報社、2017年。 徳川信治、西村智朗『法と国際社会(第2版)』法律文化、2018年。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・授業前後、およびオフィスアワーで対応。さらに、毎回の授業で行う小テストの中に質問欄を設ける。いただいた質問には次回以降の授業で対応していく。
フィードバックの方法	・翌週返却（小テストの結果を自動通知するとともに、翌週解説）
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎週、授業テーマに関する新聞ニュースまたは自前配布資料の予習（60分）と復習（60分）を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
SDGs 17の目標（11～17）	13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	2. 協同力 7. 課題発見力

開講科目名 Course	国際社会と法 / International Society and Law
時間割コード Course Code	19190
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	富岡 仁
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	富岡 仁 (管理栄養学科)、佐分 晴夫 (法学部)、ウミリデノブ アリシェル (法学部)、水谷 仁 (法学部)
授業の目標	国際社会にある法秩序について学ぶ。この授業を履修することにより、受講者は以下のような学習成果を得ることができる。(1)国際社会において存在する法制度および政治体制についての基礎的理解を得ることができる。(2)国際社会における法制度と国内社会における法制度の密接な関係を理解することができる。(3)現実の事例を多く取り上げ法制度の働きと政治体制の変動について理解することにより、国際化された現代社会において活躍するのに必要である技能を修得することができる。
授業の概要	私たちの日常生活は国際関係を抜きにしてはあり得ない。身の回りのものを見ても外国製品であふれている。また、仕事や観光などで外国に出かけることもよくあることである。このような国際交流がスムーズに行われるためには法秩序が必要である。この講義では、日常生活に密接に関わる国際法秩序について、具体例を多く取り上げて、わかりやすく説明する。日々の新しい出来事を取り上げることもあるので、シラバスの順序・内容は変更されることがある。  この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。  〔授業形態〕 この授業は対面で実施する。
評価方法	各回の授業後に実施する小テスト(80%)および第6回と13回の課題に関するレポート(20%)の結果により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第1回 グローバリゼーションと国際社会</p> <p>第2回 国際社会の基本構造:なぜ国際社会に関する法は必要か。</p> <p>第3回 国際社会の基本構造:国家領域</p> <p>第4回 ロシアーウクライナ戦争とイスラエルとパレスチナ戦争</p> <p>第5回 核兵器廃絶をめぐる議論と国際社会</p> <p>第6回 国際結婚と国境を越えた子どもの不法な連れ去り</p> <p>第7回 企業が国家と契約を結べる?</p> <p>第8回 国際紛争はどのように解決されねばならないか</p> <p>第9回 地球環境を守るにはどうしたらよいか:地球温暖化問題</p> <p>第10回 世界は食糧危機を乗り越えられるか。</p> <p>第11回 世界の難民情勢と日本の選択</p> <p>第12回 出入力国管理・難民認定(1)</p> <p>第13回 出入力国管理・難民認定(2)</p> <p>第14回 グローバル化と民主主義</p> <p>第15回 まとめ・レポートの提出方法</p>
テキスト	指定しない。各回の講義前に講義で使用する資料等について指示するので、参照すること。
参考書	森川他編『国際法で世界がわかる』岩波書店、2016年。 渋谷 淳一、本田 量久『21世紀国際社会を考える:多層的な世界を読み解く38章』旬報社、2017年。 徳川信治、西村智朗『法と国際社会(第2版)』法律文化、2018年。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・授業前後、およびオフィスアワーで対応。さらに、毎回の授業で行う小テストの中に質問欄を設ける。いただいた質問には次回以降の授業で対応していく。
フィードバックの方法	・翌週返却(小テストの結果を自動通知するとともに、翌週解説)
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎週、授業テーマに関する新聞ニュースまたは自前配布資料の予習(60分)と復習(60分)を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<p>1. 貧困をなくそう</p> <p>10. 人や国の不平等をなくそう</p> <p>2. 飢餓をゼロに</p> <p>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>
SDGs 17の目標(11~17)	<p>13. 気候変動に具体的な対策を</p> <p>14. 海の豊かさを守ろう</p> <p>16. 平和と公正をすべての人に</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p> <p>4. 構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	戦後日本経済の動き / The Postwar Japanese Economy
時間割コード Course Code	19200
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	安部 伸哉
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	安部 伸哉 (経済学部)
授業の目標	1) 現代社会が過去からの延長線上に形成されていることを理解する。 2) 現在の特徴や諸問題に対して、経済史の視点から考えて見ようとする。
授業の概要	この講義は、「連続と断絶」という経済史の視点に立ち、1930年代から2000年頃までの約70年間の日本経済の歩みを学びます。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	授業内容の振り返りを目的として、毎回Googleform上で提出する授業の感想コメント(40%)と、5回の確認テスト(60%)によって評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席回数が5回を超えた場合、失格とする。 授業開始後20分までを出席とする。
授業計画	1ガイダンス / 私・父母・祖父母の歴史 2戦時・戦後復興期(1)概要 3戦時・戦後復興期(2)経済統制の展開 4戦時・戦後復興期(3)戦時経済の実態と崩壊 5戦時・戦後復興期(4)占領と経済改革 6戦時・戦後復興期(5)復興と経済政策 7高度成長期(1)概要 8高度成長期(2)高度成長の要因と国際収支の天井 9高度成長期(3)政府の役割 10高度成長期(4)企業・労働・消費・公害 11安定成長期(1)概要 12安定成長期(2)高度成長の終焉と安定成長への転換 13安定成長期(3)「経済大国」日本の実態 14安定成長期(4)バブル経済とその後 15まとめ  *変更になる場合があります。
テキスト	資料をGoogleclassroom上で配布する。
参考書	橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・齊藤直 [2019] 『現代日本経済』第4版, 有斐閣。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内で適宜対応します。
フィードバックの方法	感想コメントに基づき、次回の授業でフィードバックさせます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1) 予習および準備学習：事前に配布資料に目を通しておきましょう。 2) 復習：講義内容を復習しながら、自分の言葉で説明してみましょう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力

開講科目名 Course	戦後日本経済の動き / The Postwar Japanese Economy
時間割コード Course Code	19210
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	安部 伸哉
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	安部 伸哉 (経済学部)
授業の目標	1) 現代社会が過去からの延長線上に形成されていることを理解する。 2) 現在の特徴や諸問題に対して、経済史の視点から考えて見ようとする。
授業の概要	この講義は、「連続と断絶」という経済史の視点に立ち、1930年代から2000年頃までの約70年間の日本経済の歩みを学びます。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	授業内容の振り返りを目的として、毎回Googleform上で提出する授業の感想コメント(40%)と、5回の確認テスト(60%)によって評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席回数が5回を超えた場合、失格とする。 授業開始後20分までを出席とする。
授業計画	1ガイダンス / 私・父母・祖父母の歴史 2戦時・戦後復興期(1)概要 3戦時・戦後復興期(2)経済統制の展開 4戦時・戦後復興期(3)戦時経済の実態と崩壊 5戦時・戦後復興期(4)占領と経済改革 6戦時・戦後復興期(5)復興と経済政策 7高度成長期(1)概要 8高度成長期(2)高度成長の要因と国際収支の天井 9高度成長期(3)政府の役割 10高度成長期(4)企業・労働・消費・公害 11安定成長期(1)概要 12安定成長期(2)高度成長の終焉と安定成長への転換 13安定成長期(3)「経済大国」日本の実態 14安定成長期(4)バブル経済とその後 15まとめ  *変更になる場合があります。
テキスト	資料をGoogleclassroom上で配布する。
参考書	橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・齊藤直 [2019] 『現代日本経済』第4版, 有斐閣。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない



アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内で適宜対応します。
フィードバックの方法	感想コメントに基づき、次回の授業でフィードバックさせます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1) 予習および準備学習：事前に配布資料に目を通しておきましょう。 2) 復習：講義内容を復習しながら、自分の言葉で説明してみましょう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力

開講科目名 Course	地域経済と産業 / Regional economics and industry
時間割コード Course Code	19220
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	村山 徹
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	村山 徹 (経済学部)、石川 啓雅 (経済学部)
授業の目標	<p>本講義では、地域経済論の観点を導入するかたちで地域経済の実態を探るとともに、地域特有の経済活動の基盤の1つとなる地域産業の現状や課題について考える。</p> <p>知識・理解の領域 地域経済とは何かを説明することができる。 地域産業にまつわる現状や課題を認識し、説明することができる。</p> <p>思考判断の領域 グローバル経済下における地域経済の問題点を評価できる。</p> <p>関心意欲の領域 今後の地域経済や産業のあるべき姿について自ら考えをまとめ、意見を述べることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 地域経済・産業をめぐる問題について自ら進んで調べるようになる。</p> <p>技能の領域 身近な地域問題についての考察結果を自らの言葉で分かりやすくレポートできる。</p> <p>体験探究の領域 専門領域科目への入り口として、自らの関心事に関し文献等を利用して調べることができるようになる。</p>
授業の概要	<p>前半では、地域経済の基礎的な知識を学ぶ。また、地域間格差や少子高齢化など、都市と地方が直面する課題について考える。</p> <p>後半では、地域経済活動の基盤の1つである産業について学ぶ。各産業の特徴などについて理解し、産業政策について知る。また、地域産業の特徴に関するアクティブラーニングを授業内におこなう。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>平常点 (40%) + 理解度確認テスト (60%) により評価する。</p> <p>評価の詳細は、第1週ガイダンスで案内します。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	無断欠席 (課題の未提出含む) を繰り返した場合、評価対象とならない「失格」となる場合がある。

授業計画	第1回 講義ガイダンス 第2回 経済活動（経済）と場所 第3回 地域の概念と区分 第4回 経済活動のグローバル化と地域経済 第5回 地域格差を考える 第6回 経済活動の集積・集中と集積の利益 第7回 少子高齢化・人口減少と地域 第8回 理解度確認テスト（1） 第9回 産業分類にみる特徴 第10回 日本産業史（1）戦後復興から高度経済成長期 第11回 日本産業史（2）石油危機の影響から構造転換 第12回 日本・アジアの地域産業の特徴 第13回 産業連関と地域内循環 第14回 第4次産業革命と今後の展開 第15回 理解度確認テスト（2）  学習教材へのアクセスなどはガイダンス時に案内します。
テキスト	使用しない
参考書	竹内淳彦・小田宏信（編著）『日本経済地理読本（第9版）』東洋経済新報社，2014年 岡田知弘・川瀬光義・鈴木 誠・富樫幸一『国際化時代の地域経済学（第4版）』有斐閣アルマ，2016年 富田和暁『地域と産業—経済地理学の基礎 新版』原書房，2006年 ジェイン・ジェイコブズ（中江利忠訳）『都市の原理』鹿島出版会，2011年 枝廣淳子『地元経済を創りなおす—分析・診断・対策』岩波書店（岩波新書），2018年 エンリコ・モレッティ（池村千秋訳）『年収は「住むところ」で決まる 雇用とイノベーションの都市経済学』プレジデント社，2014年
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問は授業終了直後、大学メールなどで受け付ける。連絡方法はガイダンス時に案内する。
フィードバックの方法	特になし
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	配布プリント、参考書などを用いて、各自で週2時間程度の予習・復習することが望ましい。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	地域経済と産業 / Regional economics and industry
時間割コード Course Code	19230
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	村山 徹
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	村山 徹 (経済学部)、石川 啓雅 (経済学部)
授業の目標	<p>本講義では、地域経済論の観点を導入するかたちで地域経済の実態を探るとともに、地域特有の経済活動の基盤の1つとなる地域産業の現状や課題について考える。</p> <p>知識・理解の領域 地域経済とは何かを説明することができる。 地域産業にまつわる現状や課題を認識し、説明することができる。</p> <p>思考判断の領域 グローバル経済下における地域経済の問題点を評価できる。</p> <p>関心意欲の領域 今後の地域経済や産業のあるべき姿について自ら考えをまとめ、意見を述べることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 地域経済・産業をめぐる問題について自ら進んで調べるようになる。</p> <p>技能の領域 身近な地域問題についての考察結果を自らの言葉で分かりやすくレポートできる。</p> <p>体験探究の領域 専門領域科目への入り口として、自らの関心事に関し文献等を利用して調べることができるようになる。</p>
授業の概要	<p>前半では、地域経済の基礎的な知識を学ぶ。また、地域間格差や少子高齢化など、都市と地方が直面する課題について考える。</p> <p>後半では、地域経済活動の基盤の1つである産業について学ぶ。各産業の特徴などについて理解し、産業政策について知る。また、地域産業の特徴に関するアクティブラーニングを授業内におこなう。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>平常点 (40%) + 理解度確認テスト (60%) により評価する。</p> <p>評価の詳細は、第1週ガイダンスで案内します。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	無断欠席 (課題の未提出含む) を繰り返した場合、評価対象とならない「失格」となる場合がある。

授業計画	<p>第1回 講義ガイダンス</p> <p>第2回 経済活動（経済）と場所</p> <p>第3回 地域の概念と区分</p> <p>第4回 経済活動のグローバル化と地域経済</p> <p>第5回 地域格差を考える</p> <p>第6回 経済活動の集積・集中と集積の利益</p> <p>第7回 少子高齢化・人口減少と地域</p> <p>第8回 理解度確認テスト（1）</p> <p>第9回 産業分類にみる特徴</p> <p>第10回 日本産業史（1）戦後復興から高度経済成長期</p> <p>第11回 日本産業史（2）石油危機の影響から構造転換</p> <p>第12回 日本・アジアの地域産業の特徴</p> <p>第13回 産業連関と地域内循環</p> <p>第14回 第4次産業革命と今後の展開</p> <p>第15回 理解度確認テスト（2）</p> <p>学習教材へのアクセスなどはガイダンス時に案内します。</p>
テキスト	使用しない
参考書	<p>竹内淳彦・小田宏信（編著）『日本経済地理読本（第9版）』東洋経済新報社，2014年</p> <p>岡田知弘・川瀬光義・鈴木 誠・富樫幸一『国際化時代の地域経済学（第4版）』有斐閣アルマ，2016年</p> <p>富田和暁『地域と産業—経済地理学の基礎 新版』原書房，2006年</p> <p>ジェイン・ジェイコブズ（中江利忠訳）『都市の原理』鹿島出版会，2011年</p> <p>枝廣淳子『地元経済を創りなおす—分析・診断・対策』岩波書店（岩波新書），2018年</p> <p>エンリコ・モレッティ（池村千秋訳）『年収は「住むところ」で決まる 雇用とイノベーションの都市経済学』プレジデント社，2014年</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問は授業終了直後、大学メールなどで受け付ける。連絡方法はガイダンス時に案内する。
フィードバックの方法	特になし
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	配布プリント、参考書などを用いて、各自で週2時間程度の予習・復習することが望ましい。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>8.働きがいも経済成長も</p> <p>9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	<p>1.情報収集力</p> <p>2.情報分析力</p> <p>3.課題発見力</p>
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	国民経済と政府 / Introduction to Macroeconomics
時間割コード Course Code	19240
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	酒井 愛
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	酒井 愛 (経済学部)
授業の目標	<p>本講義では経済をマクロ的な視点から考察するための基礎理論を学びます。</p> <p>&lt;学習成果&gt;  知識・理解の領域  マクロ経済学の主要な用語や経済指標を理解し、経済に関する記事や書物を正確に読み取れるようになる。  技能の領域  マクロ経済学の基本的な分析ツールを習得し、受講生自身が活用できるようになる。  態度・志向性の領域  現実のマクロ経済の諸問題を論理的に考えることができるようになる。</p>
授業の概要	<p>経済分析の二本の柱の一つである「マクロ経済学」の基礎理論を学びます。マクロ経済学ではミクロ経済学で取り扱う個々の経済主体の行動の結果をいくつかの代表的な変数に集計し、その動きを分析します。</p> <p>代表的な経済指標としてはGDP、失業率、為替レート、物価指数、国際収支、利子率(金利)...などが挙げられます。これらは日々の報道を賑わしているトピックスのキーワードでもあります。例えば、「GDPは何によって決まるのか?」「デフレやインフレはなぜ起こるのか?」「失業率が一定ではなく変動する原因は何か?」「日本の貯蓄率低下が経済に与える影響は?」「プライマリーバランスは均衡しているのか?」などといったものです。マクロ経済学はこのような問いに対する理論的説明を提供してくれます。</p> <p>受講にあたって、経済学に関する予備的な知識の有無は問いませんが、経済に関する日々の報道に注意を払うよう心がけると良いでしょう。</p> <p>「この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。」</p>
評価方法	小レポート (20%) 小テスト (30%) 期末試験 (50%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	【次の行為が発覚した場合には通告なく失格とします。】 6回目の欠席がカウントされた。 小レポート・小テスト等において、不正行為・剽窃行為を行った。 小レポート・小テスト等において、受講生間での記載内容が酷似していることが発覚した。

授業計画	第1回 マクロ経済学とは 第2回 マクロ経済学の主要概念 第3回 貨幣の役割，経済活動とその測定 第4回 国民経済計算とGDP 第5回 財市場分析 第6回 総需要と総供給 第7回 45度線モデル 第8回 財市場の均衡と安定性 第9回 乗数理論 第10回 IS曲線 第11回 投資の理論 第12回 貨幣市場分析 第13回 貨幣需要と貨幣供給 第14回 LM曲線 第15回 IS-LM分析
テキスト	竹内信仁・柳原光芳『スタンダード マクロ経済学』中央経済社
参考書	適宜紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業前後およびオフィスアワーにおいて対応します。
フィードバックの方法	小レポート・小テストについては翌週以降の講義の際に、出題の意図や解答におけるポイントを解説します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	経済理論の基礎を学ぶ講義であり、各講義回はそれまでの学習内容の積み重ねです。しっかりした土台に積み重ねることが肝要です。原則的には2時間の予習と2時間の復習を課しますが、講義の序盤は特に復習に重きを置いた学習形式にすると良いでしょう。そのほか、準備学習として担当者から提示されるテーマやトピックを活用し、自発的に取り組む姿勢を心がけてください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 8. 働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	国民経済と政府 / Introduction to Macroeconomics
時間割コード Course Code	19250
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	酒井 愛
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	酒井 愛 (経済学部)
授業の目標	<p>本講義では経済をマクロ的な視点から考察するための基礎理論を学びます。</p> <p>&lt;学習成果&gt;  知識・理解の領域  マクロ経済学の主要な用語や経済指標を理解し、経済に関する記事や書物を正確に読み取れるようになる。  技能の領域  マクロ経済学の基本的な分析ツールを習得し、受講生自身が活用できるようになる。  態度・志向性の領域  現実のマクロ経済の諸問題を論理的に考えることができるようになる。</p>
授業の概要	<p>経済分析の二本の柱の一つである「マクロ経済学」の基礎理論を学びます。マクロ経済学ではミクロ経済学で取り扱う個々の経済主体の行動の結果をいくつかの代表的な変数に集計し、その動きを分析します。</p> <p>代表的な経済指標としてはGDP、失業率、為替レート、物価指数、国際収支、利子率(金利)...などが挙げられます。これらは日々の報道を賑わしているトピックスのキーワードでもあります。例えば、「GDPは何によって決まるのか?」「デフレやインフレはなぜ起こるのか?」「失業率が一定ではなく変動する原因は何か?」「日本の貯蓄率低下が経済に与える影響は?」「プライマリーバランスは均衡しているのか?」などといったものです。マクロ経済学はこのような問いに対する理論的説明を提供してくれます。</p> <p>受講にあたって、経済学に関する予備的な知識の有無は問いませんが、経済に関する日々の報道に注意を払うよう心がけると良いでしょう。</p> <p>「この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。」</p>
評価方法	小レポート (20%) 小テスト (30%) 期末試験 (50%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	【次の行為が発覚した場合には通告なく失格とします。】 6回目の欠席がカウントされた。 小レポート・小テスト等において、不正行為・剽窃行為を行った。 小レポート・小テスト等において、受講生間での記載内容が酷似していることが発覚した。



授業計画	第1回 マクロ経済学とは 第2回 マクロ経済学の主要概念 第3回 貨幣の役割，経済活動とその測定 第4回 国民経済計算とGDP 第5回 財市場分析 第6回 総需要と総供給 第7回 45度線モデル 第8回 財市場の均衡と安定性 第9回 乗数理論 第10回 IS曲線 第11回 投資の理論 第12回 貨幣市場分析 第13回 貨幣需要と貨幣供給 第14回 LM曲線 第15回 IS-LM分析
テキスト	竹内信仁・柳原光芳『スタンダード マクロ経済学』中央経済社
参考書	適宜紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業前後およびオフィスアワーにおいて対応します。
フィードバックの方法	小レポート・小テストについては翌週以降の講義の際に、出題の意図や解答におけるポイントを解説します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	経済理論の基礎を学ぶ講義であり、各講義回はそれまでの学習内容の積み重ねです。しっかりした土台に積み重ねることが肝要です。原則的には2時間の予習と2時間の復習を課しますが、講義の序盤は特に復習に重きを置いた学習形式にすると良いでしょう。そのほか、準備学習として担当者から提示されるテーマやトピックを活用し、自発的に取り組む姿勢を心がけてください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 8. 働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	市場の経済学 / Introduction to Microeconomics
時間割コード Course Code	19260
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	ブ ティ ビック リエン
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ブ ティ ビック リエン(経済学部)
授業の目標	<p>本講義では、ミクロ経済学の基礎知識を身につけるため、最低限必要な専門用語とその経済学的な意味および演習問題の計算方法について学ぶ。</p> <p>最終的には、本講義の学習を終えて、以下のことを理解して、2年次開講の「ミクロ経済学」講義のステップアップ学修を目指す。</p> <p>ミクロ経済学における専門用語と基本的な考え方を正確に理解して、説明できる。</p> <p>財・サービス市場における価格と取引量の決定の仕組み、および市場効率性(余剰分析)を理解して、説明できる。</p> <p>政府の市場への政策介入に伴った市場効率性の変化を理解して、説明できる。</p>
授業の概要	<p>本講義はミクロ経済学の基本知識を専門用語や図表や演習問題の計算を通じて学ぶ。</p> <p>まず、完全競争市場が仮定される場合に、財・サービス市場における個人・家計と企業の行動の分析を、図表と数値例を通じて学ぶ。個人・家計の行動から彼らの需要パターン(需要側)、企業の行動から彼らの供給パターン(供給側)を導出する。</p> <p>次に、需要側と供給側の出会う市場(いわゆる、完全競争均衡)の分析を行う。</p> <p>最後に、完全競争市場の仮定が満たされない場合に発生する市場の失敗(いわゆる、外部性、公共財、不完全競争、情報の非対称性)についても簡単に導入する。</p> <p>【重要】本講義はグラフによる分析に加えて、数式および計算問題がたくさん出る。そのために、中学・高等学校レベルの数学計算知識が必要である。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>下記のことを総合評価して成績を評価する。</p> <p>1) 中間テスト (30%)</p> <p>2) 期末試験 (70%)</p> <p>なお、詳細な説明は初回講義に行う。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1) 基本的に第1回から毎回ダブル出席をとる。</p> <p>ダブル出席とは授業開始以降15分以内に出席を取るほか、授業の最後に理解チェックシート等を提出する。</p> <p>ダブル出席のある授業回はどちらか出席記録がないと「欠席」になる。</p> <p>2) 欠席回数が全15回中に6回以上(つまり、欠席が6回に達した)学生は「失格」(つまり、期末試験の受験資格が失って、成績が「X」)になる。</p>

授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 数学補足：関数・弾力性 第3回～第5回 需要曲線 第6回～第7回 供給曲線 第8回 市場均衡 第9回 政策評価 第10回 中間テスト 第11回 外部性と課税政策 第12回 不完全競争市場 第13回 情報の非対称性 第14回 公共財 第15回 演習問題と質疑応答
テキスト	田中久稔 [著] (2022) 『ミクロ経済学 超入門』SB クリエイティブ  重要：テキストは必須購入である。本テキストは毎週の講義に使用する他、期末試験の持込許可物にする予定である。
参考書	1) スティーヴン・レヴィット/オースタン・ゲールズピー/チャド・サイヴァーソン [著], 安田洋祐 [監督], 高遠裕子 [訳] (2017) 『レヴィットミクロ経済学 基礎編・発展編』 東洋経済新報社 2) N・グレゴリー・マンキュー [著], 足立英之/石川城太/小川英治/地主敏樹/中馬宏之/柳川隆 [訳] 『マンキュー経済学 I ミクロ編』 東洋経済新報社 3) 大川光/家森信善 [著] (2016) 『ミクロ経済学の基礎』 中央経済社 4) 安藤至大 [著] (2021) 『ミクロ経済学の第一歩』 [新版] 有斐閣ストウディア
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	1) 授業終了後、教室で対応する。 2) オフィスアワーに研究室で対応する。 3) 上記以外の場合は、アポイントを取って、対応する。
フィードバックの方法	1) 授業終了後、教室で対応する。 2) オフィスアワーに研究室で対応する。 3) 上記以外の場合は、アポイントを取って、対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1) 本科目は図表の分析や数式をたくさん使うので、図表・数式の理解や数値の計算が苦手な履修生はかなりの努力を求められる。 2) 本科目は各回授業の前後に密接な関係があるため、復習時間を特に多めに割いて、理解できるまで繰り返しに復習する必要がある。 3) 必要に応じて参考書に挙げたテキスト以外に自分が読みやすいミクロ経済学のテキストを探して、同時に学習するのを強くお勧めする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1～10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11～17)	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	市場の経済学 / Introduction to Microeconomics
時間割コード Course Code	19270
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	ブ ティ ビック リエン
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ブ ティ ビック リエン(経済学部)
授業の目標	<p>本講義では、ミクロ経済学の基礎知識を身につけるため、最低限必要な専門用語とその経済学的な意味および演習問題の計算方法について学ぶ。</p> <p>最終的には、本講義の学習を終えて、以下のことを理解することを目指す。</p> <p>ミクロ経済学における専門用語と基本的な考え方を正確に理解して、説明できる。</p> <p>財・サービス市場における価格と取引量の決定の仕組み、および市場効率性(余剰分析)を理解して、説明できる。</p> <p>政府の市場への政策介入に伴った市場効率性の変化を理解して、説明できる。</p>
授業の概要	<p>本講義はミクロ経済学の基本知識を専門用語や図表や演習問題の計算を通じて学ぶ。</p> <p>まず、完全競争市場が仮定される場合に、財・サービス市場における個人・家計と企業の行動の分析を、図表と数値例を通じて学ぶ。個人・家計の行動から彼らの需要パターン(需要側)、企業の行動から彼らの供給パターン(供給側)を導出する。</p> <p>次に、需要側と供給側の出会う市場(いわゆる、完全競争均衡)の分析を行う。</p> <p>最後に、完全競争市場の仮定が満たされない場合に発生する市場の失敗(いわゆる、外部性、公共財、不完全競争、情報の非対称性)についても簡単に導入する。</p> <p>【重要】本講義はグラフによる分析に加えて、数式および計算問題がたくさん出る。そのために、中学・高等学校レベルの数学計算知識が必要である。</p> <p>本講義は「アジア経済論」科目の学習の際に必要な基礎知識を学ぶ。「アジア経済論」を履修予定の学生は本講義の知識を修得して、成績「A」の取得が望ましい。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>下記のことを総合評価して成績を評価する。</p> <p>1) 中間テスト (30%)</p> <p>2) 期末試験 (70%)</p> <p>なお、詳細な説明は初回講義に行う。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1) 基本的に第1回から毎回ダブル出席をとる。</p> <p>ダブル出席とは授業開始以降15分以内に出席端末で出席を取るほか、授業の最後に理解チェックシート等を提出する。</p> <p>ダブル出席のある授業回はどちらか出席記録がないと「欠席」になる。</p> <p>2) 欠席回数が全15回中に6回以上(つまり、欠席が6回に達した)学生は「失格」(つまり、期末試験の受験資格が失って、成績が「X」)になる。</p>

授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 数学補足：関数・弾力性 第3回～第5回 需要曲線 第6回～第7回 供給曲線 第8回 市場均衡 第9回 政策評価 第10回 中間テスト 第11回 外部性と課税政策 第12回 不完全競争市場 第13回 情報の非対称性 第14回 公共財 第15回 演習問題と質疑応答
テキスト	田中久稔 [著] (2022) 『ミクロ経済学 超入門』SB クリエイティブ  重要：テキストは必須購入である。本テキストは毎週の講義に使用する他、期末試験の持込許可物にする予定である。
参考書	1) スティーヴン・レヴィット/オースタン・ゲールズピー/チャド・サイヴァーソン [著], 安田洋祐 [監督], 高遠裕子 [訳] (2017) 『レヴィットミクロ経済学 基礎編・発展編』 東洋経済新報社 2) N・グレゴリー・マンキュー [著], 足立英之/石川城太/小川英治/地主敏樹/中馬宏之/柳川隆 [訳] 『マンキュー経済学 I ミクロ編』 東洋経済新報社 3) 大川光/家森信善 [著] (2016) 『ミクロ経済学の基礎』 中央経済社 4) 安藤至大 [著] (2021) 『ミクロ経済学の第一歩』 [新版] 有斐閣ストウディア
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	1) 授業終了後、教室で対応する。 2) オフィスアワーに研究室で対応する。 3) 上記以外の場合は、アポイントを取って、対応する。
フィードバックの方法	1) 授業終了後、教室で対応する。 2) オフィスアワーに研究室で対応する。 3) 上記以外の場合は、アポイントを取って、対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1) 本科目は図表の分析や数式をたくさん使うので、図表・数式の理解や数値の計算が苦手な履修生はかなりの努力が求められる。 2) 本科目は各回授業の前後に密接な関係があるため、復習時間を特に多めに割いて、理解できるまで繰り返しに復習する必要がある。 3) 必要に応じて参考書に挙げたテキスト以外に自分が読みやすいミクロ経済学のテキストを探して、同時に学習するのを強くお勧めする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1～10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11～17)	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	情報技術の経営学
時間割コード Course Code	19280
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	吉川 伸一
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	吉川 伸一 (経営学部)
授業の目標	<p>コンピュータを含む情報技術は新しい産業を生むと同時に、経営の在り方を大きく変革している。この授業では、情報技術の基礎となるコンピュータのソフトウェアおよびハードウェアの基礎知識を習得する。現代社会は情報ネットワークの進展を基盤としているので、これに重点をおいて授業する。得た知識を経営学に役立てることを目標とする。また、国内および海外で生じている情報技術の最新のニュースに常に興味を持つようになってもらいたい。</p> <p>〔学習成果〕</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 授業で学んだコンピュータのハードやソフト、およびネットワークを理解し、説明できる。</li></ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ コンピュータを正しく、安全に使うことができる。</li><li>・ インターネットを正しく安全に使い、有益な情報を検索できる。</li></ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 注目を集めている企業のビジネスモデルや情報システムについて自ら進んで調べるようになる。</li><li>・ 調べたことを他人に分かりやすく説明できる。</li></ul> <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 授業で得た基礎知識を基に、コンピュータや情報ネットワークに関連する入門書に興味を持つことができる。</li></ul>

授業の概要	<p>コンピュータを含む情報技術は新しい産業を生むと同時に、経営の在り方を大きく変革している。日常生活の上でも身近になった情報技術の理解を深めることは、高度情報化社会を快適かつ安全に生きていくための必須条件である。むやみに情報技術を過信せず、逆にまた恐れることなく、この分野の進展を見守る目を持ち、かつ追従していく基礎知識を身につけることは極めて重要である。</p> <p>情報技術は、技術革新によって飛躍的に性能が向上し、なお発展し続けている。この授業を受けることで、情報技術に関する基礎知識を習得できる。また、コンピュータや情報ネットワークの現状における多様な技術を学ぶことができる。</p> <p>現代のビジネスは、情報ネットワーク技術の適用抜きでは考えられないので、ほぼ毎回の授業で情報ネットワークの技術的背景や適用例を取り上げる。</p> <p>毎回の授業の終わりに、次回の授業で実施する小レポートの内容を伝えるので、その内容について重点的に復習しておくこと。また、次回の授業で行う内容も伝えるので、それに沿って予習しておくことよ。</p> <p>質問への対応は、授業終了後またはオフィスアワーのときに受け付ける。</p> <p>アクティブ・ラーニングの一つとして、マインドマップを用いた演習を行う。情報技術に関連の深いテーマを取り上げ、それに付随する問題への解答や意見を記述してもらう。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照のこと。</p>
評価方法	<p>講義中心で進める。成績評価のウェイトは以下のとおりである。</p> <p>期末試験（30%） ミニレポート（30%） 通常レポート（30%） 参加姿勢（10%）</p> <p>授業内で行ったミニレポートは採点する。理解度が良好でないとは判断した部分については、次回授業で復習する。</p> <p>通常レポートを1回実施する。</p> <p>アクティブ・ラーニングとして情報ネットワーク図やマインドマップ作成を行うが、これも成績評価の対象となる（小テストとして評価する）。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席回数が13回に満たない場合</li> <li>・連続して3回欠席した場合</li> </ul> <p>特別な事情があって欠席した場合は、考慮する。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、情報技術は小売ビジネスをどのように変えるのか</li> <li>2. 情報ネットワークはなぜ繋がるか？ 技術原理を知ろう。 【実習 QRコードをスマホで読み取って確かめる】</li> <li>3. 情報技術は物流をどのように変えるのか</li> <li>4. 情報技術が変えるインターネット広告</li> <li>5. 電子商取引やインターネット通信販売を支える情報ネットワーク技術</li> <li>6. 情報技術は銀行・証券・金融取引をどのように変えるのか</li> <li>7. IoT: Internet of Thingsとは何か</li> <li>8. IPアドレスとOSI基本参照モデル</li> <li>9. 情報技術が変えるみんなの医療</li> <li>10. 情報セキュリティ</li> <li>11. ビッグデータを経営に活かす</li> <li>12. フィンテックとは何か</li> <li>13. コンビニエンスストアと宅配業者のIT戦略分析</li> <li>14. インターネット通信販売が急成長した理由について整理してみよう。 【実習 マインドマップ作成による理解】</li> <li>15. 全体のまとめと振り返り、期末試験対策</li> </ol>
テキスト	なし
参考書	特になし
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 模造紙とラベルを用いてマインドマップ作成を実施する。</li> <li>・ Slido（スライド）を用いて回答を求めることがある。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 授業終了後に対応</li><li>・ メールで対応（メールアドレスは授業中に提示する）</li></ul>
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 翌週返却または翌週口頭で述べる</li></ul>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、次回テーマに関連する文献調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力



開講科目名 Course	情報技術の経営学
時間割コード Course Code	19290
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	吉川 伸一
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	吉川 伸一 (経営学部)
授業の目標	<p>コンピュータを含む情報技術は新しい産業を生むと同時に、経営の在り方を大きく変革している。この授業では、情報技術の基礎となるコンピュータのソフトウェアおよびハードウェアの基礎知識を習得する。現代社会は情報ネットワークの進展を基盤としているので、これに重点をおいて授業する。得た知識を経営学に役立てることを目標とする。また、国内および海外で生じている情報技術の最新のニュースに常に興味を持つようになってもらいたい。</p> <p>[学習成果]</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 授業で学んだコンピュータのハードやソフト、およびネットワークを理解し、説明できる。</li></ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ コンピュータを正しく、安全に使うことができる。</li><li>・ インターネットを正しく安全に使い、有益な情報を検索できる。</li></ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 注目を集めている企業のビジネスモデルや情報システムについて自ら進んで調べるようになる。</li><li>・ 調べたことを他人に分かりやすく説明できる。</li></ul> <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 授業で得た基礎知識を基に、コンピュータや情報ネットワークに関連する入門書に興味を持つことができる。</li></ul>

<p>授業の概要</p>	<p>コンピュータを含む情報技術は新しい産業を生むと同時に、経営の在り方を大きく変革している。日常生活の上でも身近になった情報技術の理解を深めることは、高度情報化社会を快適かつ安全に生きていくための必須条件である。むやみに情報技術を過信せず、逆にまた恐れることなく、この分野の進展を見守る目を持ち、かつ追従していく基礎知識を身につけることは極めて重要である。</p> <p>情報技術は、技術革新によって飛躍的に性能が向上し、なお発展し続けている。この授業を受けることで、情報技術に関する基礎知識を習得できる。また、コンピュータや情報ネットワークの現状における多様な技術を学ぶことができる。</p> <p>現代のビジネスは、情報ネットワーク技術の適用抜きでは考えられないので、ほぼ毎回の授業で情報ネットワークの技術的背景や適用例を取り上げる。</p> <p>毎回の授業の終わりに、次回の授業で実施する小レポートの内容を伝えるので、その内容について重点的に復習しておくこと。また、次回の授業で行う内容も伝えるので、それに沿って予習しておくことよい。</p> <p>質問への対応は、授業終了後またはオフィスアワーのときに受け付ける。</p> <p>アクティブ・ラーニングの一つとして、マインドマップを用いた演習を行う。情報技術に関連の深いテーマを取り上げ、それに付随する問題への解答や意見を記述してもらう。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照のこと。</p>
<p>評価方法</p>	<p>講義中心で進める。成績評価のウェイトは以下のとおりである。</p> <p>期末試験（30%） ミニレポート（30%） 通常レポート（30%） 参加姿勢（10%）</p> <p>授業内で行った小テストは採点する。理解度が良好でないと判断した部分については、次回授業で復習する。</p> <p>通常レポートを1回実施する。</p> <p>アクティブ・ラーニングとして情報ネットワーク図やマインドマップ作成を行うが、これも成績評価の対象となる（小テストとして評価する）。</p>
<p>教員の指導に従わない以外の事由による失格基準</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席回数が13回に満たない場合</li> <li>・連続して3回欠席した場合</li> </ul> <p>特別な事情があって欠席した場合は、考慮する。</p>
<p>授業計画</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、情報技術は小売ビジネスをどのように変えるのか</li> <li>2. 情報ネットワークはなぜ繋がるか？ 技術原理を知ろう。 【実習 QRコードをスマホで読み取って確かめる】</li> <li>3. 情報技術は物流をどのように変えるのか</li> <li>4. 情報技術が変えるインターネット広告</li> <li>5. 電子商取引やインターネット通信販売を支える情報ネットワーク技術</li> <li>6. 情報技術は銀行・証券・金融取引をどのように変えるのか</li> <li>7. IoT: Internet of Thingsとは何か</li> <li>8. IPアドレスとOSI基本参照モデル</li> <li>9. 情報技術が変えるみんなの医療</li> <li>10. 情報セキュリティ</li> <li>11. ビッグデータを経営に活かす</li> <li>12. フィンテックとは何か</li> <li>13. コンビニエンスストアと宅配業者のIT戦略分析</li> <li>14. インターネット通信販売が急成長した理由について整理してみよう。 【実習 マインドマップ作成による理解】</li> <li>15. 全体のまとめと振り返り、期末試験対策</li> </ol>
<p>テキスト</p>	<p>なし</p>
<p>参考書</p>	<p>特になし</p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等</p>	<p>含む</p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模造紙とラベルを用意して、マインドマップ作成を実施する。</li> <li>・Slido（スライド）を用いて回答を求めることがある。</li> </ul>
<p>実務経験のある担当教員による授業</p>	<p>該当しない</p>

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 授業終了後に対応</li><li>・ メールで対応（メールアドレスは授業中に提示する）</li></ul>
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 翌週返却または翌週口頭で述べる</li></ul>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、次回テーマに関連する文献調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力

開講科目名 Course	人と組織の経営学
時間割コード Course Code	19300
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	大曾 暢烈
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大曾 暢烈 (経営学部)
授業の目標	<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経営管理論の基本的な概念や考え方を理解すること。</li> <li>2. 経営管理論の概念を用いて、現実の経営現象を理解・分析できるようになること。</li> </ol> <p>【学習成果】</p> <p>知識・理解の領域 経営管理論の基本的な知識を理解し、企業経営について説明することができるようになる。</p> <p>技能の領域 経営管理論の基本的な知識を用いて、問題発見、問題解決する力を身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>本講義は、経営管理論の基本的な概念や考え方について学習します。目標を達成するためにいかに企業を管理するのかという点を経営管理論を通じて体系的に学ぶことを目指します。</p> <p>授業の進め方・注意事項については、第1回講義にてアナウンスします。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	期末試験100%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席が多い場合は、失格となります。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 経営管理論とは</p> <p>第3回 マネジメントの誕生(1)</p> <p>第4回 マネジメントの誕生(2)</p> <p>第5回 組織マネジメントの展開</p> <p>第6回 モチベーション(1)</p> <p>第7回 モチベーション(2)</p> <p>第8回 リーダーシップ</p> <p>第9回 組織構造</p> <p>第10回 組織文化</p> <p>第11回 経営組織の環境適応</p> <p>第12回 企業戦略</p> <p>第13回 競争戦略</p> <p>第14回 イノベーション</p> <p>第15回 日本企業における人のマネジメント</p>
テキスト	上野恭裕・馬場大治編著(2016)『経営管理論ベーシック+』中央経済社

参考書	以下の書籍についても、参考にしてください。その他、適宜紹介します。 井原久光（2008）『テキスト経営学 第3版 基礎から最新の理論まで』ミネルヴァ書房 塩次喜代明・高橋伸夫・小林敏男（2009）『経営管理 新版』有斐閣 高橋伸夫 編著（2011）『よくわかる経営管理』ミネルヴァ書房 高松朋史・具承桓（2019）『コア・テキスト 経営管理第2版』新世社 占部都美（1984）『経営管理論 新訂版』白桃書房
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後に対応する。
フィードバックの方法	授業中に行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、予習2時間、復習2時間が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	人と組織の経営学
時間割コード Course Code	19310
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	大曾 暢烈
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大曾 暢烈 (経営学部)
授業の目標	<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経営管理論の基本的な概念や考え方を理解すること。</li> <li>2. 経営管理論の概念を用いて、現実の経営現象を理解・分析できるようになること。</li> </ol> <p>【学習成果】</p> <p>知識・理解の領域 経営管理論の基本的な知識を理解し、企業経営について説明することができるようになる。</p> <p>技能の領域 経営管理論の基本的な知識を用いて、問題発見、問題解決する力を身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>本講義は、経営管理論の基本的な概念や考え方について学習します。目標を達成するためにいかに企業を管理するのかという点を経営管理論を通じて体系的に学ぶことを目指します。</p> <p>授業の進め方・注意事項については、第1回講義にてアナウンスします。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	期末試験100%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席が多い場合は、失格となります。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 経営管理論とは</p> <p>第3回 マネジメントの誕生(1)</p> <p>第4回 マネジメントの誕生(2)</p> <p>第5回 組織マネジメントの展開</p> <p>第6回 モチベーション(1)</p> <p>第7回 モチベーション(2)</p> <p>第8回 リーダーシップ</p> <p>第9回 組織構造</p> <p>第10回 組織文化</p> <p>第11回 経営組織の環境適応</p> <p>第12回 企業戦略</p> <p>第13回 競争戦略</p> <p>第14回 イノベーション</p> <p>第15回 日本企業における人のマネジメント</p>
テキスト	上野恭裕・馬場大治編著(2016)『経営管理論ベーシック+』中央経済社

参考書	以下の書籍についても、参考にしてください。その他、適宜紹介します。 井原久光（2008）『テキスト経営学 第3版 基礎から最新の理論まで』ミネルヴァ書房 塩次喜代明・高橋伸夫・小林敏男（2009）『経営管理 新版』有斐閣 高橋伸夫 編著（2011）『よくわかる経営管理』ミネルヴァ書房 高松朋史・具承桓（2019）『コア・テキスト 経営管理第2版』新世社 占部都美（1984）『経営管理論 新訂版』白桃書房
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後に対応する。
フィードバックの方法	授業中に行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、予習2時間、復習2時間が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	会計と資金の経営学 / Business Administration in accounting and finance
時間割コード Course Code	19320
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 豊和
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 豊和 (経営学部)
授業の目標	<p>会計は、現代の経済社会の中で非常に重要な役割を果たしています。企業は、獲得した利益や、所有している資産などについて、企業と関わりのある様々な人々に情報を提供する必要があります。また、一方で、企業の経営者は今後どうしたらもっと効率よく利益を上げられるかを考えるために、企業の様々な会計情報を分析する必要もあるでしょう。この授業では、まず基本的な会計用語を理解し、財務諸表を読み解く力を養うことを目標とします。</p> <p>学習の成果</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会計学の基本的な論点について理解できる。</li> <li>・ 財務会計の実務上の運用形態について説明できる。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な貸借対照表および損益計算書を作成することができる。</li> </ul> <p>思考判断の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際の企業活動における会計または経理上の問題点を指摘できる。</li> </ul> <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 財務会計およびその関連領域について進んで意見を述べるができる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業実務における財務諸表作成と開示の現状について進んで調査することができる。</li> </ul>
授業の概要	本講義においては、みなさんもよく知っている実在企業（たとえばトヨタ自動車、ソフトバンク、吉野家など）の会計の仕組みや決算書をテキストに用い、企業がどのようにして会計を行い、作成される決算書とはどのようなものかについて、わかりやすく解説していきます。また、それらを読み解くことによって実在企業の財務諸表の基本的な項目の内容を理解する力を養ってもらいます。
評価方法	授業内で毎回行う小テストもしくは小レポートの内容と提出状況（50%）及び期末試験（50%）で成績評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。



授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 会計の役割(1) 第3回 会計の役割(2) 第4回 利益計算の仕組み 第5回 利益計算のルール 第6回 売上高と売上債権 第7回 棚卸資産と売上原価 第8回 固定資産と減価償却 第9回 金融活動の資産と損益 第10回 営業上の負債と他人資本 第11回 資本の充実と剰余金の分配 第12回 財務諸表の作成と報告 第13回 連結財務諸表 第14回 外貨建取引と換算 第15回 まとめ
テキスト	毎回、プリントを配布します。
参考書	初級 桜井久勝『会計学入門(第5版)』日本経済新聞出版社 中級 神戸大学会計学研究室編『会計学基礎論(第6版)』同文館 上級 桜井久勝『財務会計講義(第24版)』中央経済社
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	翌週講評。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習は必要ありませんが、授業を受けたあと、配布したプリントおよび自分のレベルにあった参考書の該当箇所をよく読んで復習をよくしてください。一つの項目につき4時間程度をかけてじっくり振り返ってみてください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	会計と資金の経営学 / Business Administration in accounting and finance
時間割コード Course Code	19330
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 豊和
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 豊和 (経営学部)
授業の目標	<p>会計は、現代の経済社会の中で非常に重要な役割を果たしています。企業は、獲得した利益や、所有している資産などについて、企業と関わりのある様々な人々に情報を提供する必要があります。また、一方で、企業の経営者は今後どうしたらもっと効率よく利益を上げられるかを考えるために、企業の様々な会計情報を分析する必要もあるでしょう。この授業では、まず基本的な会計用語を理解し、財務諸表を読み解く力を養うことを目標とします。</p> <p>学習の成果</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会計学の基本的な論点について理解できる。</li> <li>・ 財務会計の実務上の運用形態について説明できる。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な貸借対照表および損益計算書を作成することができる。</li> </ul> <p>思考判断の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際の企業活動における会計または経理上の問題点を指摘できる。</li> </ul> <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 財務会計およびその関連領域について進んで意見を述べるができる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業実務における財務諸表作成と開示の現状について進んで調査することができる。</li> </ul>
授業の概要	本講義においては、みなさんもよく知っている実在企業（たとえばトヨタ自動車、ソフトバンク、吉野家など）の会計の仕組みや決算書をテキストに用い、企業がどのようにして会計を行い、作成される決算書とはどのようなものかについて、わかりやすく解説していきます。また、それらを読み解くことによって実在企業の財務諸表の基本的な項目の内容を理解する力を養ってもらいます。
評価方法	授業内で毎回行う小テストもしくは小レポートの内容と提出状況（50%）及び期末試験（50%）で成績評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 会計の役割(1) 第3回 会計の役割(2) 第4回 利益計算の仕組み 第5回 利益計算のルール 第6回 売上高と売上債権 第7回 棚卸資産と売上原価 第8回 固定資産と減価償却 第9回 金融活動の資産と損益 第10回 営業上の負債と他人資本 第11回 資本の充実と剰余金の分配 第12回 財務諸表の作成と報告 第13回 連結財務諸表 第14回 外貨建取引と換算 第15回 まとめ
テキスト	毎回、プリントを配布します。
参考書	初級 桜井久勝『会計学入門(第5版)』日本経済新聞出版社 中級 神戸大学会計学研究室編『会計学基礎論(第6版)』同文館 上級 桜井久勝『財務会計講義(第24版)』中央経済社
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	翌週講評。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習は必要ありませんが、授業を受けたあと、配布したプリントおよび自分のレベルにあった参考書の該当箇所をよく読んで復習をよくしてください。一つの項目につき4時間程度をかけてじっくり振り返ってみてください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	商品と流通の経営学 / Business Administration in products and distribution
時間割コード Course Code	19340
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	徐 誠敏
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	徐 誠敏 (経営学部)
授業の目標	<p>本授業では、近年、多様化する商品の生産・流通・消費という経済の仕組み・機能・役割・特性、そしてブランド弱者である中小企業のコーポレート・プロダクトのブランディング戦略や流通戦略、イノベーション戦略に関する基礎的知識を学ぶことで、次のような学習成果の向上を目指します。</p> <p>学習成果</p> <p>(1) 商品の生産・流通・消費に関する問題や課題を発見・分析・解決するのに必要な知識・技能・考え方 ([1] 商品・ブランドの定義・魅力・多様化、[2] 商品開発の重要性と基本的な考え方、[3] 商品企画と情報収集方法、[4] 新商品開発の7つのステップ、[5] 製品イノベーションの重要性と成功事例、[6] 消費者と生産者の側から見る流通、[7] 流通の仕組みとその担い手、[8] 流通構造の変化と取引慣行の変容)に関する基礎的・基本的な知識を身につけることができる。</p> <p>(2) ブランド構築に関する基本的な知識・用語を習得し、課題発見・解決能力を高めることができる。</p> <p>(3) 中小企業の成長に欠かせない商品ブランド戦略と流通戦略に関する理論的・実践的な知識を身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>本授業では、近年多様化する商品の生産・流通・消費という経済の仕組み・機能・役割・特性を明確に理解したうえで、4つの経営資源とブランドとマーケティングの重要性、マーケティングにおける三角関係、イノベーションの定義とその成功事例、中小企業のブランディング戦略に関する課題を発見・分析・解決するための基本的な知識・技能・考え方を学びます。</p>
評価方法	授業の姿勢・態度(25点)、中間レポート(25点)、期末テスト(50点)を総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>第1回 授業の概要と進め方、マーケティング・ブランディング・ブランドの定義とそれらの重要性</p> <p>第2回 4つの経営資源と戦略的視点から見るブランドと従業員・顧客の重要性</p> <p>第3回 企業の目的と企業を取り巻く外部環境(PEST)分析とは何か、韓国企業の成功事例から学ぶもの(1)</p> <p>第4回 企業を取り巻く外部環境(PEST)分析とは何か、日本企業の成功事例から学ぶもの(2)</p> <p>第5回 恋愛とマーケティングにおける三角関係(3C分析)の定義と関係性</p> <p>第6回 「超顧客主義」が生み出す強いブランドづくり：Appleのステイブ・ジョブズの事例</p> <p>第7回 成功事例から学ぶコーポレート・ストーリーの戦略的活用によるブランド価値の持続性(1)</p> <p>第8回 成功事例から学ぶコーポレート・ストーリーの戦略的活用によるブランド価値の持続性(2)</p> <p>第9回 人々に驚きと感動を与える“すごいね”を連発させるイノベーションとは何か、大企業・中小企業の 成功事例(1)</p> <p>第10回 人々に驚きと感動を与える“すごいね”を連発させるイノベーションとは何か、大企業・中小企業の 成功事例(2)</p> <p>第11回 中小企業のブランディング戦略の成功事例(1) (株式会社ワークスマイルラボ (旧社名：株式会社石井事務機センター)</p> <p>第12回 中小規模の私立大学のブランディング成功事例(2) (環太平洋大学の授業で生まれた 産学連携ブランド「IPU Gibier (ジビエ)」)</p> <p>第13回 地域の小さな理容室 (KOTOBUKI) のブランディング戦略の成功事例(3)</p> <p>第14回 中小企業のブランディング戦略の成功事例(3)</p> <p>第14回 これまでのまとめと振り返り(1)</p> <p>第15回 これまでのまとめと振り返り(2)</p>
テキスト	徐誠敏編著(2024)『第一線で活躍する研究者×実践者×コンサルタントが教える『超実践的マーケティング・ブランディングの教科書』ビジネス実用社。
参考書	徐誠敏・李美善(2022)『ブランド弱者の戦略：インターナル・ブランディングの理論と実践』ミネルヴァ書房。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	含まない。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	数年間にわたる中堅・中小企業の経営者たちとのインタビューから得られた知見と一般財団法人ブランド・マネージャー認定協会のアドバイザーとしての経験を活かすことで、マーケティングやブランディングに関する実践的な知識を教える。
質問への対応方法	授業後に対応する。またGmailでも対応する。
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	60時間の時間の予習復習の時間を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1～10)	4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標 (11～17)	12.つくる責任つかう責任 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	商品と流通の経営学 / Business Administration in products and distribution
時間割コード Course Code	19350
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	徐 誠敏
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	徐 誠敏 (経営学部)
授業の目標	<p>本授業では、近年、多様化する商品の生産・流通・消費という経済の仕組み・機能・役割・特性、そしてブランド弱者である中小企業のコーポレート・プロダクトのブランディング戦略や流通戦略、イノベーション戦略について学ぶことで、次のような学習成果の向上を目指します。</p> <p>学習成果</p> <p>(1) 商品の生産・流通・消費に関する問題や課題を発見・分析・解決するのに必要な知識・技能・考え方([1]商品・ブランドの定義・魅力・多様化、[2]商品開発の重要性と基本的な考え方、[3]商品企画と情報収集方法、[4]新商品開発の7つのステップ、[5]製品イノベーションの重要性と成功事例、[6]消費者と生産者の側から見る流通、[7]流通の仕組みとその担い手、[8]流通構造の変化と取引慣行の変容)に関する基礎的・基本的な知識を身につけることができる。</p> <p>(2) ブランド構築に関する基本的な知識・用語を習得し、課題発見・解決能力を高めることができる。</p> <p>(3) 中小企業の成長に欠かせない商品ブランド戦略と流通戦略に関する理論的・実践的な知識を身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>本授業では、近年多様化する商品の生産・流通・消費という経済の仕組み・機能・役割・特性を明確に理解したうえで、4つの経営資源とブランドとマーケティングの重要性、マーケティングにおける三角関係、イノベーションの定義とその成功事例、中小企業のブランディング戦略に関する課題を発見・分析・解決するための基本的な知識・技能・考え方を学びます。</p>
評価方法	授業の姿勢・態度(25点)、中間レポート(25点)、期末テスト(50点)を総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>第1回 授業の概要と進め方、マーケティング・ブランディング・ブランドの定義とそれらの重要性</p> <p>第2回 4つの経営資源と戦略的視点から見るブランドと従業員・顧客の重要性</p> <p>第3回 企業の目的と企業を取り巻く外部環境(PEST)分析とは何か、韓国企業の成功事例から学ぶもの</p> <p>第4回 企業を取り巻く外部環境(PEST)分析とは何か、日本企業の成功事例から学ぶもの</p> <p>第5回 恋愛とマーケティングにおける三角関係、3C分析の定義と関係性</p> <p>第6回 「超顧客主義」が生み出す強いブランドづくり：Appleのステイブ・ジョブズの事例</p> <p>第7回 成功事例から学ぶコーポレート・ストーリーの戦略的活用によるブランド価値の持続性(1)</p> <p>第8回 成功事例から学ぶコーポレート・ストーリーの戦略的活用によるブランド価値の持続性(2)</p> <p>第9回 人々に驚きと感動を与える“すごいね”を連発させるイノベーションとは何か、大企業・中小企業の 成功事例(1)</p> <p>第10回 人々に驚きと感動を与える“すごいね”を連発させるイノベーションとは何か、大企業・中小企業の 成功事例(2)</p> <p>第11回 中小企業のブランディング戦略の成功事例(1) (株式会社ワークスマイルラボ (旧社名：株式会社石井事務機センター)</p> <p>第12回 中小規模の私立大学のブランディング成功事例(2) (環太平洋大学の授業で生まれた産学連携ブランド「IPU Gibier (ジビエ)」)</p> <p>第13回 地域の小さな理容室 (KOTOBUKI) のブランディング戦略の成功事例(3)</p> <p>第14回 これまでのまとめと振り返り(1)</p> <p>第15回 これまでのまとめと振り返り(2)</p>
テキスト	徐誠敏編著(2024)第一線で活躍する研究者×実践者×コンサルタントが教える『超実践的マーケティング・ブランディングの教科書』ビジネス実用社。
参考書	徐誠敏・李美善(2022)『ブランド弱者の戦略：インターナル・ブランディングの理論と実践』ミネルヴァ書房。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	含まない。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	数年間にわたる中堅・中小企業の経営者たちとのインタビューから得られた知見と一般財団法人ブランド・マネージャー認定協会のアドバイザーとしての経験を活かすことで、マーケティングやブランディングに関する実践的な知識を教える。
質問への対応方法	授業後に対応する。またGmailでも対応する。
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	60時間の時間の予習復習の時間を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1～10)	4. 質の高い教育をみんなに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標 (11～17)	12. つくる責任つかう責任 17. パートナリーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	インターンシップI / Internship I
時間割コード Course Code	19710
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	伊藤 繁生
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大黒 光一(経済学部)、伊藤 繁生(経営学部)、筒井 徹也(法学部)
授業の目標	<p>インターンシップ、は通年科目のため、後期からの履修登録は出来ません。とくに、インターンシップの履修登録を削除しないでください</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就業体験を通し、自分自身にとって、そもそも働くとはどんなことか、働くことの意味・意義を考えるきっかけとする。</li> <li>・多様な社会人と触れ合うことで、自分自身の将来を考えるきっかけとする。</li> <li>・企業などの組織で必要なルール、ビジネスマナー、能力、スキルとは何かを知るきっかけとする。</li> <li>・実際に就業体験をすることで、キャリアを考える際の自身の志向や社会人基礎力などの自身の能力レベルを知るきっかけとする。</li> <li>・書類作成、提出など、就職活動を疑似的に体験する。</li> </ul> <p>学習成果 技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内での事前指導やインターンシップ実習の過程を通じて、社会人に必要な報告・連絡・相談ができるようになる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で働くうえで必要な社会の規範やルールを理解できるようになる</li> <li>・自らやるべきことを明確化し、計画を立て実施できるようになる</li> </ul>



<p>授業の概要</p>	<p>インターンシップ（以下、本科目）は合計で10日間以上かつ60時間以上の就業体験への参加、事前ガイダンス、授業への参加、事前事後の必要書類の提出、事後の報告会の参加を以て2単位を認定する。</p> <p>本科目は選択必修科目です（インターンシップ、 、 の中から少なくとも1科目は選択し単位取得することが卒業要件）。</p> <p>ただし、本学規定に記載する例外基準を満たす場合は、担当教員との協議の上、必修科目より除外する場合もある。</p> <p>本科目は履修制限（年間48単位）に含まない。</p> <p>原則として学外の企業、行政団体、社会福祉事業所等の各種団体においてインターンシップ実習を行う。</p> <p>原則として実習先選び、決定は学生自ら行う。（特定の個人が取りまとめ、団体で参加することを認めない）</p> <p>本科目の履修に際しては、労働基準法に定められている法令を遵守すること。</p> <p>実施期間が1日または2日しかない実習は単位修得に必要な日数に加算をしない。</p> <p>授業のある曜日、補講が行われる可能性のある日の実習は認めない。</p> <p>実習先については、キャリアセンターが用意した受入先、愛知中小企業家同友会、三重県経営者協会、岐阜県インターンシップ推進協議会などのインターンシップマッチングサイトの掲載企業、J-NET、リクナビ、マイナビ、自治体、商工会議所、新卒就職情報提供団体・企業などが運営する新卒求人検索NAVIサイトに掲載されている企業に限る。</p> <p>ただし、該当企業の中でも下記条件に当てはまる企業はこの科目の実習先として認めない。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、親類や知人が経営する会社</li> <li>2、事業所として実態が無い（実習先がアパートやマンションの1室、社員を雇用していない、連絡先が携帯電話のみ、自社ドメインのホームページが無い、など）</li> <li>3、実習に指導者、監督者がおらず、実習中の取り組み、態度、結果に対して評価が出来ない</li> <li>4、実習内容がアルバイト等、非正規雇用者と同一で、キャリア教育としての効果が見込めない</li> <li>5、学生受入れそのものが営利事業に結びついているなど学生の不利益につながる可能性がある場合（資格ビジネス など）</li> <li>6、ホームページに新卒採用のページが無い</li> <li>7、国外の事業所で、日本語を話せる指導者、監督者がいない</li> </ol> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照</p>
<p>評価方法</p>	<p>この科目の評価は合格（G）、不合格（S）のみで評価し、その成績はGPAには反映されない。</p> <p>期限までに必要書類の提出がなされない場合、不合格とする。</p> <p>実習先への事前訪問、インターンシップ実習期間中において無断遅刻、無断欠勤、無断早退があった場合は不合格とする。また、実習先機関が期間中、事後に開催する行事においても同様とする。本科目は「市民生活とキャリア形成」の単位を修得済み（修得見込みも含む）の学生に単位を認定する。修得が見込めない場合、単位は認めない。</p> <p>[ 評価の対象となるオンラインインターンシップ ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインインターンシップは単位修得に必要な参加日数に加算されない。ただし、事前にキャリアセンターに申し出て承認されたインターンシップ及び名経枠に該当する企業のオンラインインターンシップは参加日数に加算される。（オンラインインターンシップへの参加の際には、PCでの参加を必要条件とする）</li> <li>・オンラインインターンシップは3日以上複数日で開催されているものに参加すること。ただし、実習日が連続している必要はない。</li> </ul> <p>本科目は2025年2月上旬までにキャリアセンターへの必要書類の提出、報告が完了し、指定された日時のインターンシップ報告会に参加した者のみ評価する。 （学年により必要書類の最終提出期限は異なる）</p>
<p>教員の指導に従わない以外の事由による失格基準</p>	<p>必要な参加日数に加算されない事例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前承認を得ていないオンラインインターンシップ実習への参加</li> <li>・スマートフォンでのオンラインインターンシップ実習への参加</li> <li>・1日または2日だけのインターンシップやオープンカンパニーへの参加</li> <li>・受け入れ決定から一週間以内に受け入れ決定報告書を提出しなかった実習への参加</li> </ul> <p>（受け入れ決定報告書は受け入れ決定から一週間以内に科目担当教員に提出しなければならない）</p>

授業計画	<p>基本的にはシラバス通り授業を進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ずお伝えします。</p> <p>本科目で指定する事前指導の開催日時、場所、そしてインターンシップ報告会の開催日時、場所については、後日決定次第連絡します。</p> <p>そのため大学指定のメールは必ずチェックするようにして下さい。</p> <p>その他、必要に応じて大学が発行したメールアドレス宛に資料やURLを配布することがあります。必ず、大学から発行されたメールの受信を可能にしてください。</p> <p>プライバシー・著作権法の侵害を招く恐れのある以下の行為を行わないよう注意してください。</p> <p>(1)配布された Zoom、動画配信サイトなどのURL、ミーティング ID やパスワードを他人と共有すること。</p> <p>(2)オンラインで行われる授業等の様子を出席者の許可なく写真にとること。それをSNSなどで共有すること。また、担当教員の許可なく、授業の内容を録音・録画し、それを公開すること。</p> <p>(3)配布された資料等を、担当教員の許可なく再配布すること。</p> <p>以上の3項目に反する行為を発見した場合、その時点で失格とします。必ず守ってください。</p>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	企業等各種団体で就業の体験を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	企業の採用やインターンシッププログラム構築等に関与した経験を持つ教員がインターンシップを経験する意義、内容、メリットや社会で働く際に必要な知識、マナーなどに関する講義、指導を実施。その後、学生は企業等各種団体でインターンシップ実習を行う。
質問への対応方法	<p>キャリアセンター(グローバルスクエア1階)にて、基本的には対面で平日(月～金)9～17時まで対応</p> <p>注)各種書類提出日は非常に込み合いますので、相談及び添削指導などある場合は、早めに申し出てください。</p> <p>キャリアセンター開室時間：平日(月～金)9-17時</p> <p>〒484-8504 愛知県犬山市内久保61-1 名古屋経済大学 グローバルスクエア1F</p> <p>電話：0568-67-7254 メール：intern@nue.ac.jp</p>
フィードバックの方法	企業からの意欲・態度・能力に関する定量評価、フィードバックコメントを希望者に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>事前オリエンテーション 1.5時間</p> <p>企業調査 5時間</p> <p>書類作成 6時間</p> <p>事前訪問 2時間</p> <p>インターンシップ 60時間</p> <p>インターンシップ中の日報作成 6時間</p> <p>インターンシップ報告書の作成 8時間</p> <p>インターンシップ成果報告会 1.5時間</p> <p>合計:90時間</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	インターンシップII / InternshipII
時間割コード Course Code	19711
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	伊藤 繁生
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大黒 光一(経済学部)、伊藤 繁生(経営学部)、筒井 徹也(法学部)
授業の目標	<p>インターンシップ、は通年科目のため、後期からの履修登録は出来ません。とくに、インターンシップの履修登録を削除しないでください</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就業体験を通し、自分自身にとって、そもそも働くとはどんなことか、働くことの意味・意義を考えるきっかけとする。</li> <li>・多様な社会人と触れ合うことで、自分自身の将来を考えるきっかけとする。</li> <li>・企業などの組織で必要なルール、ビジネスマナー、能力、スキルとは何かを知るきっかけとする。</li> <li>・実際に就業体験をすることで、キャリアを考える際の自身の志向や社会人基礎力などの自身の能力レベルを知るきっかけとする。</li> <li>・書類作成、提出など、就職活動を疑似的に体験する。</li> </ul> <p>学習成果</p> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内での事前指導やインターンシップ実習の過程を通じて、社会人に必要な報告・連絡・相談ができるようになる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で働くうえで必要な社会の規範やルールを理解できるようになる</li> <li>・自らやるべきことを明確化し、計画を立て実施できるようになる</li> </ul>

<p>授業の概要</p>	<p>インターンシップ（以下、本科目）は合計で10日間以上かつ60時間以上の有償就業体験への参加、事前ガイダンス、授業への参加、事前事後の必要書類の提出、事後の報告会の参加を以て2単位を認定する。</p> <p>有償の定義については担当教員に相談、確認すること</p> <p>本科目は選択必修科目です（インターンシップ、 、 の中から少なくとも1科目は選択し単位取得することが卒業要件）。</p> <p>ただし、本学規定に記載する例外基準を満たす場合は、担当教員との協議の上、必修科目より除外する場合もある。</p> <p>本科目は履修制限（年間48単位）に含まない。</p> <p>原則として学外の企業、行政団体、社会福祉事業所等の各種団体においてインターンシップ実習を行う。</p> <p>原則として実習先選び、決定は学生自ら行う。（特定の個人が取りまとめ、団体で参加することを認めない）</p> <p>本科目の履修に際しては、労働基準法に定められている法令を遵守すること。</p> <p>実施期間が1日または2日しかない実習は単位修得に必要な日数に加算をしない。</p> <p>授業のある曜日、補講が行われる可能性のある日の実習は認めない。</p> <p>実習先については、キャリアセンターが用意した受入先、愛知中小企業家同友会、三重県経営者協会、岐阜県インターンシップ推進協議会などのインターンシップマッチングサイトの掲載企業、J-NET、リクナビ、マイナビ、自治体、商工会議所、新卒就職情報提供団体・企業などが運営する新卒求人検索NAVIサイトに掲載されている企業に限る。</p> <p>ただし、該当企業の中でも下記条件に当てはまる企業はこの科目の実習先として認めない。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、親類や知人が経営する会社</li> <li>2、事業所として実態が無い（実習先がアパートやマンションの1室、社員を雇用していない、連絡先が携帯電話のみ、自社ドメインのホームページが無い、など）</li> <li>3、実習に指導者、監督者がおらず、実習中の取り組み、態度、結果に対して評価が出来ない</li> <li>4、実習内容がアルバイト等、非正規雇用者と同一で、キャリア教育としての効果が見込めない</li> <li>5、学生受入れそのものが営利事業に結びついているなど学生の不利益につながる可能性がある場合（資格ビジネス など）</li> <li>6、ホームページに新卒採用のページが無い</li> <li>7、国外の事業所で、日本語を話せる指導者、監督者がいない</li> </ol> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照</p>
<p>評価方法</p>	<p>この科目の評価は合格（G）、不合格（S）のみで評価し、その成績はGPAには反映されない。期限までに必要書類の提出がなされない場合、不合格とする。</p> <p>実習先への事前訪問、インターンシップ実習期間中において無断遅刻、無断欠勤、無断早退があった場合は不合格とする。また、実習先機関が期間中、事後に開催する行事においても同様とする。本科目は「市民生活とキャリア形成」の単位を修得済み（修得見込みも含む）の学生に単位を認定する。修得が見込めない場合、単位は認めない。</p> <p>[評価の対象となるオンラインインターンシップ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインインターンシップは単位修得に必要な参加日数に加算されない。ただし、事前にキャリアセンターに申し出て承認されたインターンシップ及び名経枠に該当する企業のオンラインインターンシップは参加日数に加算される。（オンラインインターンシップへの参加の際には、PCでの参加を必要条件とする）</li> <li>・オンラインインターンシップは3日以上複数日で開催されているものに参加すること。ただし、実習日が連続している必要はない。</li> </ul> <p>本科目は2025年2月上旬までにキャリアセンターへの必要書類の提出、報告が完了し、指定された日時のインターンシップ報告会に参加した者のみ評価する。 （学年により必要書類の最終提出期限は異なる）</p>
<p>教員の指導に従わない以外の事由による失格基準</p>	<p>必要な参加日数に加算されない事例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前承認を得ていないオンラインインターンシップ実習への参加</li> <li>・スマートフォンでのオンラインインターンシップ実習への参加</li> <li>・1日または2日のみのインターンシップやオープンカンパニーへの参加</li> <li>・受け入れ決定から一週間以内に受け入れ決定報告書を提出しなかった実習への参加 （受け入れ決定報告書は受け入れ決定から一週間以内に科目担当教員に提出しなければならない）</li> </ul>

授業計画	<p>基本的にはシラバス通り授業を進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ずお伝えします。</p> <p>本科目で指定する事前指導の開催日時、場所、そしてインターンシップ報告会の開催日時、場所については、後日決定次第連絡します。</p> <p>そのため大学指定のメールは必ずチェックするようにして下さい。</p> <p>その他、必要に応じて大学が発行したメールアドレス宛に資料やURLを配布することがあります。必ず、大学から発行されたメールの受信を可能にしてください。</p> <p>プライバシー・著作権法の侵害を招く恐れのある以下の行為を行わないよう注意してください。</p> <p>(1)配布された Zoom、動画配信サイトなどのURL、ミーティング ID やパスワードを他人と共有すること。</p> <p>(2)オンラインで行われる授業等の様子を出席者の許可なく写真にとること。それをSNSなどで共有すること。また、担当教員の許可なく、授業の内容を録音・録画し、それを公開すること。</p> <p>(3)配布された資料等を、担当教員の許可なく再配布すること。</p> <p>以上の3項目に反する行為を発見した場合、その時点で失格とします。必ず守ってください。</p>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	企業等各種団体で就業の体験を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	企業の採用やインターンシッププログラム構築等に関与した経験を持つ教員がインターンシップを経験する意義、内容、メリットや社会で働く際に必要な知識、マナーなどに関する講義、指導を実施。その後、学生は企業等各種団体でインターンシップ実習を行う。
質問への対応方法	<p>キャリアセンター(グローバルスクエア1階)にて、基本的には対面で平日(月～金)9～17時まで対応</p> <p>注)各種書類提出日は非常に込み合いますので、相談及び添削指導などある場合は、早めに申し出てください。</p> <p>キャリアセンター開室時間：平日(月～金)9-17時</p> <p>〒484-8504 愛知県犬山市内久保61-1 名古屋経済大学 グローバルスクエア1F</p> <p>電話：0568-67-7254 メール：intern@nue.ac.jp</p>
フィードバックの方法	企業からの意欲・態度・能力に関する定量評価、フィードバックコメントを希望者に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>事前オリエンテーション 1.5時間</p> <p>企業調査 5時間</p> <p>書類作成 6時間</p> <p>事前訪問 2時間</p> <p>インターンシップ 60時間</p> <p>インターンシップ中の日報作成 6時間</p> <p>インターンシップ報告書の作成 8時間</p> <p>インターンシップ成果報告会 1.5時間</p> <p>合計:90時間</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	インターンシップIII / Internship III
時間割コード Course Code	19712
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	伊藤 繁生
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大黒 光一(経済学部)、伊藤 繁生(経営学部)、筒井 徹也(法学部)
授業の目標	<p>インターンシップ、は通年科目のため、後期からの履修登録は出来ません。とくに、インターンシップの履修登録を削除しないでください</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就業体験を通し、自分自身にとって、そもそも働くとはどんなことか、働くことの意味・意義を考えるきっかけとする。</li> <li>・多様な社会人と触れ合うことで、自分自身の将来を考えるきっかけとする。</li> <li>・企業などの組織で必要なルール、ビジネスマナー、能力、スキルとは何かを知るきっかけとする。</li> <li>・実際に就業体験をすることで、キャリアを考える際の自身の志向や社会人基礎力などの自身の能力レベルを知るきっかけとする。</li> <li>・書類作成、提出など、就職活動を疑似的に体験する。</li> </ul> <p>学習成果</p> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内での事前指導やインターンシップ実習の過程を通じて、社会人に必要な報告・連絡・相談ができるようになる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で働くうえで必要な社会の規範やルールを理解できるようになる</li> <li>・自らやるべきことを明確化し、計画を立て実施できるようになる</li> </ul>

<p>授業の概要</p>	<p>インターンシップ（以下、本科目）は合計で5日間以上かつ30時間以上の就業体験への参加、事前ガイダンス、授業への参加、事前事後の必要書類の提出、事後の報告会の参加を以て1単位を認定する。</p> <p>本科目は選択必修科目です（インターンシップ、 、 の中から少なくとも1科目は選択し単位取得することが卒業要件）。</p> <p>ただし、本学規定に記載する例外基準を満たす場合は、担当教員との協議の上、必修科目より除外する場合もある。</p> <p>本科目は履修制限（年間48単位）に含まない。</p> <p>原則として学外の企業、行政団体、社会福祉事業所等の各種団体においてインターンシップ実習を行う。</p> <p>原則として実習先選び、決定は学生自ら行う。（特定の個人が取りまとめ、団体で参加することを認めない）</p> <p>本科目の履修に際しては、労働基準法に定められている法令を遵守すること。</p> <p>実施期間が1日または2日しかない実習は単位修得に必要な日数に加算をしない。</p> <p>授業のある曜日、補講が行われる可能性のある日の実習は認めない。</p> <p>実習先については、キャリアセンターが用意した受入先、愛知中小企業家同友会、三重県経営者協会、岐阜県インターンシップ推進協議会などのインターンシップマッチングサイトの掲載企業、J-NET、リクナビ、マイナビ、自治体、商工会議所、新卒就職情報提供団体・企業などが運営する新卒求人検索NAVIサイトに掲載されている企業に限る。</p> <p>ただし、該当企業の中でも下記条件に当てはまる企業はこの科目の実習先として認めない。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、親類や知人が経営する会社</li> <li>2、事業所として実態が無い（実習先がアパートやマンションの1室、社員を雇用していない、連絡先が携帯電話のみ、自社ドメインのホームページが無い、など）</li> <li>3、実習に指導者、監督者がおらず、実習中の取り組み、態度、結果に対して評価が出来ない</li> <li>4、実習内容がアルバイト等、非正規雇用者と同一で、キャリア教育としての効果が見込めない</li> <li>5、学生受入れそのものが営利事業に結びついているなど学生の不利益につながる可能性がある場合（資格ビジネス など）</li> <li>6、ホームページに新卒採用のページが無い</li> <li>7、国外の事業所で、日本語を話せる指導者、監督者がいない</li> </ol> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照</p>
<p>評価方法</p>	<p>この科目の評価は合格（G）、不合格（S）のみで評価し、その成績はGPAには反映されない。期限までに必要書類の提出がなされない場合、不合格とする。</p> <p>実習先への事前訪問、インターンシップ実習期間中において無断遅刻、無断欠勤、無断早退があった場合は不合格とする。また、実習先機関が期間中、事後に開催する行事においても同様とする。本科目は「市民生活とキャリア形成」の単位を修得済み（修得見込みも含む）の学生に単位を認定する。修得が見込めない場合、単位は認めない。</p> <p>[評価の対象となるオンラインインターンシップ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインインターンシップは単位修得に必要な参加日数に加算されない。ただし、事前にキャリアセンターに申し出て承認されたインターンシップ及び名経枠に該当する企業のオンラインインターンシップは参加日数に加算される。（オンラインインターンシップへの参加の際には、PCでの参加を必要条件とする）</li> <li>・オンラインインターンシップは3日以上複数日で開催されているものに参加すること。ただし、実習日が連続している必要はない。</li> </ul> <p>本科目は2025年2月上旬までにキャリアセンターへの必要書類の提出、報告が完了し、指定された日時のインターンシップ報告会に参加した者のみ評価する。 （学年により必要書類の最終提出期限は異なる）</p>
<p>教員の指導に従わない以外の事由による失格基準</p>	<p>必要な参加日数に加算されない事例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前承認を得ていないオンラインインターンシップ実習への参加</li> <li>・スマートフォンでのオンラインインターンシップ実習への参加</li> <li>・1日または2日のみのインターンシップやオープンカンパニーへの参加</li> <li>・受け入れ決定から一週間以内に受け入れ決定報告書を提出しなかった実習への参加</li> </ul> <p>（受け入れ決定報告書は受け入れ決定から一週間以内に科目担当教員に提出しなければならない）</p>

授業計画	<p>基本的にはシラバス通り授業を進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ずお伝えします。</p> <p>本科目で指定する事前指導の開催日時、場所、そしてインターンシップ報告会の開催日時、場所については、後日決定次第連絡します。</p> <p>そのため大学指定のメールは必ずチェックするようにして下さい。</p> <p>その他、必要に応じて大学が発行したメールアドレス宛に資料やURLを配布することがあります。必ず、大学から発行されたメールの受信を可能にしてください。</p> <p>プライバシー・著作権法の侵害を招く恐れのある以下の行為を行わないよう注意してください。</p> <p>(1)配布された Zoom、動画配信サイトなどのURL、ミーティング ID やパスワードを他人と共有すること。</p> <p>(2)オンラインで行われる授業等の様子を出席者の許可なく写真にとること。それをSNSなどで共有すること。また、担当教員の許可なく、授業の内容を録音・録画し、それを公開すること。</p> <p>(3)配布された資料等を、担当教員の許可なく再配布すること。</p> <p>以上の3項目に反する行為を発見した場合、その時点で失格とします。必ず守ってください。</p>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	企業等各種団体で就業の体験を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	企業の採用やインターンシッププログラム構築等に関与した経験を持つ教員がインターンシップを経験する意義、内容、メリットや社会で働く際に必要な知識、マナーなどに関する講義、指導を実施。その後、学生は企業等各種団体でインターンシップ実習を行う。
質問への対応方法	<p>キャリアセンター(グローバルスクエア1階)にて、基本的には対面で平日(月～金)9～17時まで対応</p> <p>注)各種書類提出日は非常に込み合いますので、相談及び添削指導などある場合は、早めに申し出てください。</p> <p>キャリアセンター開室時間：平日(月～金)9-17時</p> <p>〒484-8504 愛知県犬山市内久保61-1 名古屋経済大学 グローバルスクエア1F</p> <p>電話：0568-67-7254 メール：intern@nue.ac.jp</p>
フィードバックの方法	企業からの意欲・態度・能力に関する定量評価、フィードバックコメントを希望者に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>事前オリエンテーション 1.5時間</p> <p>企業調査 5時間</p> <p>書類作成 6時間</p> <p>事前訪問 2時間</p> <p>インターンシップ 30時間</p> <p>インターンシップ中の日報作成 3時間</p> <p>インターンシップ報告書の作成 4時間</p> <p>インターンシップ成果報告会 1.5時間</p> <p>合計:53時間</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	インターンシップIII(a) / Internship III(a)
時間割コード Course Code	19713
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	大黒 光一
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大黒 光一 (経済学部)
授業の目標	<p>インターンシップ (a)は履修登録に制限があり、ゼミ担当教員およびインターンシップ担当教員の承認が必要となる科目です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就業体験を通し、自分自身にとって、そもそも働くとはどんなことか、働くことの意味・意義を考えるきっかけとする。</li> <li>・多様な社会人と触れ合うことで、自分自身の将来を考えるきっかけとする。</li> <li>・企業などの組織で必要なルール、ビジネスマナー、能力、スキルとは何かを知るきっかけとする。</li> </ul> <p>。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に就業体験をすることで、キャリアを考える際の自身の志向や社会人基礎力などの自身の能力レベルを知るきっかけとする。</li> <li>・書類作成、提出など、就職活動を疑似的に体験する。</li> </ul> <p>学習成果</p> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内での事前指導やインターンシップ実習の過程を通じて、社会人に必要な報告・連絡・相談ができるようになる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で働くうえで必要な社会の規範やルールを理解できるようになる</li> <li>・自らやるべきことを明確化し、計画を立て実施できるようになる</li> </ul>

<p>授業の概要</p>	<p>インターンシップ (a)は履修登録に制限があり、ゼミ担当教員およびインターンシップ担当教員の承認が必要となる科目です。</p> <p>【履修対象となる条件】 その年の前期で卒業できる見込みのある学生</p> <p>【履修までの流れ】 学生とゼミ担当教員が協議の上、前期卒を目指す場合に限り、ゼミ担当教員からインターンシップ担当教員に申請し、履修を認められた学生に限り履修を可能とする。</p> <p>インターンシップ (a)(以下、本科目)は合計で5日間以上の就業体験への参加、事前のガイダンス、授業への参加、事前事後の必要書類の提出、事後のインターンシップ報告会の参加、発表を以て1単位を認定する。 本科目は選択必修科目です。 本科目は履修制限(年間48単位)に含まない。 原則として学外の企業、行政団体、社会福祉事業所等の各種団体においてインターンシップ実習を行う。 原則として実習先選び、決定は学生自ら行う。(特定の個人が取りまとめ、団体で参加することを認めない) 本科目の履修に際しては、労働基準法に定められている法令を遵守すること。 実施期間が1日または2日しかない実習は単位修得に必要な日数に加算をしない。 授業のある曜日、補講が行われる可能性のある日の実習は認めない。 実習先については、キャリアセンターが用意した受入先、愛知中小企業家同友会、三重県経営者協会、岐阜県インターンシップ推進協議会などのインターンシップマッチングサイトの掲載企業、J-NET、リクナビ、マイナビ、自治体、商工会議所、新卒就職情報提供団体・企業などが運営する新卒求人検索NAVIサイトに掲載されている企業に限る。 ただし、該当企業の中でも下記条件に当てはまる企業はこの科目の実習先として認めない。 1、親類や知人が経営する会社 2、事業所として実態が無い(実習先がアパートやマンションの1室、社員を雇用していない、連絡先が携帯電話のみ、自社ドメインのホームページが無い、など) 3、実習に指導者、監督者がおらず、実習中の取り組み、態度、結果に対して評価が出来ないなど、インターンシップの条件を参照すること</p>
<p>評価方法</p>	<p>この科目の評価は合格(G)、不合格(S)のみで評価し、その成績はGPAには反映されない。期限までに必要書類の提出がなされない場合、不合格とする。 実習先への事前訪問、インターンシップ実習期間中において無断遅刻、無断欠勤、無断早退があった場合は不合格とする。また、実習先機関が期間中、事後に開催する行事においても同様とする。本科目は「市民生活とキャリア形成」の単位を修得済み(修得見込みも含む)の学生に単位を認定する。修得が見込めない場合、単位は認めない。 [評価の対象となるオンラインインターンシップ] ・オンラインインターンシップは単位修得に必要な参加日数に加算されない。ただし、事前にキャリアセンターに申し出て承認されたインターンシップ及び名経枠に該当する企業のオンラインインターンシップは参加日数に加算される。(オンラインインターンシップへの参加の際には、PCでの参加を必要条件とする) ・オンラインインターンシップは3日以上複数日で開催されているものに参加すること。ただし、実習日が連続している必要はない。</p> <p>本科目は期限までにキャリアセンターへの必要書類の提出、報告が完了し、指定された日時のインターンシップ報告会に参加した者のみ評価する。 (学年により必要書類の最終提出期限は異なる)</p>
<p>教員の指導に従わない以外の事由による失格基準</p>	<p>必要な参加日数に加算されない事例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前承認を得ていないオンラインインターンシップ実習への参加</li> <li>・スマートフォンでのオンラインインターンシップ実習への参加</li> <li>・1日または2日のみのインターンシップやオープンカンパニーへの参加</li> <li>・受け入れ決定から一週間以内に受け入れ決定報告書を提出しなかった実習への参加</li> </ul> <p>(受け入れ決定報告書は受け入れ決定から一週間以内に科目担当教員に提出しなければならない)</p>

授業計画	<p>基本的にはシラバス通り授業を進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ずお伝えします。</p> <p>本科目で指定する事前指導の開催日時、場所、そしてインターンシップ報告会の開催日時、場所については、後日決定次第連絡します。</p> <p>そのため大学指定のメールは必ずチェックするようにして下さい。</p> <p>その他、必要に応じて大学が発行したメールアドレス宛に資料やURLを配布することがあります。必ず、大学から発行されたメールの受信を可能にしてください。</p> <p>プライバシー・著作権法の侵害を招く恐れのある以下の行為を行わないよう注意してください。</p> <p>(1)配布された Zoom、動画配信サイトなどのURL、ミーティング ID やパスワードを他人と共有すること。</p> <p>(2)オンラインで行われる授業等の様子を出席者の許可なく写真にとること。それをSNSなどで共有すること。また、担当教員の許可なく、授業の内容を録音・録画し、それを公開すること。</p> <p>(3)配布された資料等を、担当教員の許可なく再配布すること。</p> <p>以上の3項目に反する行為を発見した場合、その時点で失格とします。必ず守ってください。</p>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	企業の採用やインターンシッププログラム構築等に関与した経験を持つ教員がインターンシップを経験する意義、内容、メリットや社会で働く際に必要な知識、マナーなどに関する講義、指導を実施。その後、学生は企業等各種団体でインターンシップ実習を行う。
質問への対応方法	<p>キャリアセンター(グローバルスクエア1階)にて、基本的には対面で平日(月～金)9～17時まで対応</p> <p>注)各種書類提出日は非常に込み合いますので、相談及び添削指導などある場合は、早めに申し出てください。</p> <p>キャリアセンター開室時間：平日(月～金)9-17時</p> <p>〒484-8504 愛知県犬山市内久保61-1 名古屋経済大学 グローバルスクエア1F</p> <p>電話：0568-67-7254 メール：intern@nue.ac.jp</p>
フィードバックの方法	企業からの意欲・態度・能力に関する定量評価、フィードバックコメントを希望者に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>事前オリエンテーション 1.5時間</p> <p>企業調査 5時間</p> <p>書類作成 6時間</p> <p>事前訪問 2時間</p> <p>インターンシップ 30時間</p> <p>インターンシップ中の日報作成 3時間</p> <p>インターンシップ報告書の作成 4時間</p> <p>インターンシップ成果報告会 1.5時間</p> <p>合計:53時間</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	キャリア支援講座I(済) / Career design support
時間割コード Course Code	19730
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	伊藤 繁生
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	伊藤 繁生 (経営学部)
授業の目標	<p>キャリア支援講座(以下、本科目)の目標は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 一般的な就職活動で求められる基礎的な考え方、態度、能力を身につける。</li> <li>2) 多様な業界、業種、職種、企業の存在を知り、その調べ方、選び方について知る。</li> <li>3) 働き方、雇用条件について把握する。</li> <li>4) 企業がどんな人物を求めているか、を知る。</li> <li>5) 各種応募書類の作成、面接、グループディスカッションをできるようにする。</li> <li>6) 就職ツールの使い方、マナー、身だしなみについて把握する</li> </ol> <p>以上の6つを実践し、応募企業から評価されるレベルを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の人事担当者の講話を通じて、社会で必要とされるコミュニケーション能力の理解を深めることができるようになる。</li> <li>・履歴書作成を通じて、自分の特徴を理解し、端的に伝えられるようになる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で働くうえで必要な社会の規範やルールを理解したうえで、自分の特徴を伝えられる履歴書を作成できるようになる。</li> </ul>
授業の概要	<p>就職活動に必要な情報、業界研究、書類作成のポイントなどを学びます。</p> <p>講義 個人ワーク グループ共有・ワーク 個人ワーク 小レポートといった活動を通して進めます。</p> <p>まずは新しい情報を皆さんに伝え、それを個人で考え、周囲と共有し視野を上げ、さらに個人で考えます。こうすることで働くことへの興味を高め「自分で未来を選択できる」ように学びます。</p> <p>この繰り返しにより、キャリア選択において重要なプロセスである「視野を上げ、自分で考え選択する」を体験します。</p>

評価方法	<p>合計5回の小レポート未提出で失格となります。 授業開始10分までは入室を認めますが、それ以降は欠席とします。 ただし、公共交通機関発行による遅延証明に日時、本人学生番号、本人氏名が明記されている場合はこの限りではありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎回提出するコメントシートの内容 (25%)</li> <li>・ 授業への参加姿勢 (10%)</li> <li>・ 小レポート、SPI試験、リクナビ、マイナビ等の就職活動関連のイベント参加に伴うレポート提出 (30%)</li> <li>・ 提出課題の仕上がり、内容への評価 (35%)</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. カードリーダーの出席と毎回のレポートの提出の両方をもって出席とします。</li> <li>2. 毎回の授業におけるレポートは指定以上の文字数の記載を行ってまいります。</li> </ol>
授業計画	<p>基本的には授業計画通り進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ず前の授業でお伝えします。</p> <p>第1週 オリエンテーション (授業の目的・進め方、就職活動のスケジュール確認)  第2週 就職活動の流れを知る  第3週 自分の価値観を知り、自分に合う業界・企業を考える1  第4週 自分の価値観を知り、自分に合う業界・企業を考える2  第5週 人事担当者から話を聞く1  第6週 人事担当者から話を聞く2  第7週 PROGの結果を基に、自己PRを作成する  第8週 学生時代に力をいれたことを振り返る  第9週 履歴書作成1  第10週 履歴書作成2  第11週 面接対策講座1  第12週 面接対策講座2  第13週 グループディスカッション対策講座  第14週 先輩の話聞く  第15週 履歴書作成 &amp; 提出</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 必要に応じて紙の資料を配布します。</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内でペアワーク、もしくは少人数でのグループワークを行い、将来のキャリア形成について考える機会を提供する。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	企業の採用やインターンシップ等に関与した経験を持つ教員が就職活動の全体像の説明、単位外でインターンシップを経験する意義、内容、メリット等を解説する。
質問への対応方法	キャリアセンターにて対面で平日9時半から17時まで対応
フィードバックの方法	授業の冒頭に、前週のレポートについて良質な事例を取り上げ、ポイントを解説する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>ナビサイトの使い方を復習する(リクナビ) 2時間  ナビサイトの使い方を復習する(マイナビ) 2時間  授業で習った企業分析の方法を他の企業でも活用し、分析する 7時間  他の学部で登壇した企業の動画を視聴する 8時間  学外で開催される就職活動関連のイベントに参加する 8時間  SPI3を体感する 1時間  授業外で開催されるキャリアセンターのセミナー・相談会に参加する 11時間  インターンシップの情報を収集する 5時間  その他授業の様子を撮影された動画を視聴し、復習を行う 16時間  総計60時間</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	キャリア支援講座Ⅰ(営) / Career design support
時間割コード Course Code	19735
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	倉橋 和世
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	倉橋 和世(経営学部)、筒井 徹也(法学部)
授業の目標	<p>キャリア支援講座(以下、本科目)の目標は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 一般的な就職活動で求められる基礎的な考え方、態度、能力を身につける。</li> <li>2) 多様な業界、業種、職種、企業の存在を知り、その調べ方、選び方について知る。</li> <li>3) 働き方、雇用条件について把握する。</li> <li>4) 企業がどんな人物を求めているか、を知る。</li> <li>5) 各種応募書類の作成、面接、グループディスカッションをできるようにする。</li> <li>6) 就職ツールの使い方、マナー、身だしなみについて把握する</li> </ol> <p>以上の6つを実践し、応募企業から評価されるレベルを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の人事担当者の講話を通じて、社会で必要とされるコミュニケーション能力の理解を深めることができるようになる。</li> <li>・履歴書作成を通じて、自分の特徴を理解し、端的に伝えられるようになる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で働くうえで必要な社会の規範やルールを理解したうえで、自分の特徴を伝えられる履歴書を作成できるようになる。</li> </ul>
授業の概要	<p>就職活動に必要な情報、業界研究、書類作成のポイントなどを学びます。</p> <p>講義 個人ワーク グループ共有・ワーク 個人ワーク 小レポートといった活動を通して進めます。</p> <p>まずは新しい情報を皆さんに伝え、それを個人で考え、周囲と共有し視野を上げ、さらに個人で考えます。こうすることで働くことへの興味を高め「自分で未来を選択できる」ように学びます。この繰り返しにより、キャリア選択において重要なプロセスである「視野を上げ、自分で考え選択する」を体験します。</p>

評価方法	<p>合計5回の小レポート未提出で失格となります。 授業開始10分までは入室を認めますが、それ以降は欠席とします。 ただし、公共交通機関発行による遅延証明に日時、本人学生番号、本人氏名が明記されている場合はこの限りではありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎回提出するコメントシートの内容 (25%)</li> <li>・ 授業への参加姿勢 (10%)</li> <li>・ 小レポート、SPI試験、リクナビ、マイナビ等の就職活動関連のイベント参加に伴うレポート提出 (30%)</li> <li>・ 提出課題の仕上がり、内容への評価 (35%)</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. カードリーダーの出席と毎回のレポートの提出の両方をもって出席とします。</li> <li>2. 毎回の授業におけるレポートは指定以上の文字数の記載を行ってまいります。</li> </ol>
授業計画	<p>基本的には授業計画通り進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ず前の授業でお伝えします。</p> <p>第1週 オリエンテーション (授業の目的・進め方、就職活動のスケジュール確認)  第2週 就職活動の流れを知る  第3週 自分の価値観を知り、自分に合う業界・企業を考える1  第4週 自分の価値観を知り、自分に合う業界・企業を考える2  第5週 人事担当者から話を聞く1  第6週 人事担当者から話を聞く2  第7週 PROGの結果を基に、自己PRを作成する  第8週 学生時代に力をいれたことを振り返る  第9週 履歴書作成1  第10週 履歴書作成2  第11週 面接対策講座1  第12週 面接対策講座2  第13週 グループディスカッション対策講座  第14週 先輩の話聞く  第15週 履歴書作成&amp;提出</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 必要に応じて紙の資料を配布します。</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内でペアワーク、もしくは少人数でのグループワークを行い、将来のキャリア形成について考える機会を提供する。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	企業の採用やインターンシップ等に関与した経験を持つ教員が就職活動の全体像の説明、単位外でインターンシップを経験する意義、内容、メリット等を解説する。
質問への対応方法	キャリアセンターにて対面で平日9時半から17時まで対応
フィードバックの方法	授業の冒頭に、前週のレポートについて良質な事例を取り上げ、ポイントを解説する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>ナビサイトの使い方を復習する(リクナビ) 2時間  ナビサイトの使い方を復習する(マイナビ) 2時間  授業で習った企業分析の方法を他の企業でも活用し、分析する 7時間  他の学部で登壇した企業の動画を視聴する 8時間  学外で開催される就職活動関連のイベントに参加する 8時間  SPI3を体感する 1時間  授業外で開催されるキャリアセンターのセミナー・相談会に参加する 11時間  インターンシップの情報を収集する 5時間  その他授業の様子を撮影された動画を視聴し、復習を行う 16時間  総計60時間</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	キャリア支援講座Ⅰ(法) / Career design support
時間割コード Course Code	19740
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	水口 美知子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水口 美知子(法学部)、筒井 徹也(法学部)
授業の目標	<p>キャリア支援講座(以下、本科目)の目標は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 一般的な就職活動で求められる基礎的な考え方、態度、能力を身につける。</li> <li>2) 多様な業界、業種、職種、企業の存在を知り、その調べ方、選び方について知る。</li> <li>3) 働き方、雇用条件について把握する。</li> <li>4) 企業がどんな人物を求めているか、を知る。</li> <li>5) 各種応募書類の作成、面接、グループディスカッションをできるようにする。</li> <li>6) 就職ツールの使い方、マナー、身だしなみについて把握する</li> </ol> <p>以上の6つを実践し、応募企業から評価されるレベルを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の人事担当者の講話を通じて、社会で必要とされるコミュニケーション能力の理解を深めることができるようになる。</li> <li>・履歴書作成を通じて、自分の特徴を理解し、端的に伝えられるようになる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で働くうえで必要な社会の規範やルールを理解したうえで、自分の特徴を伝えられる履歴書を作成できるようになる。</li> </ul>
授業の概要	<p>就職活動に必要な情報、業界研究、書類作成のポイントなどを学びます。</p> <p>講義 個人ワーク グループ共有・ワーク 個人ワーク 小レポートといった活動を通して進めます。</p> <p>まずは新しい情報を皆さんに伝え、それを個人で考え、周囲と共有し視野を上げ、さらに個人で考えます。こうすることで働くことへの興味を高め「自分で未来を選択できる」ように学びます。この繰り返しにより、キャリア選択において重要なプロセスである「視野を上げ、自分で考え選択する」を体験します。</p>



評価方法	<p>合計5回の小レポート未提出で失格となります。 授業開始10分までは入室を認めますが、それ以降は欠席とします。 ただし、公共交通機関発行による遅延証明に日時、本人学生番号、本人氏名が明記されている場合はこの限りではありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回提出するコメントシートの内容(25%)</li> <li>・授業への参加姿勢(10%)</li> <li>・小レポート、SPI試験、リクナビ、マイナビ等の就職活動関連のイベント参加に伴うレポート提出(30%)</li> <li>・提出課題の仕上がり、内容への評価(35%)</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.カードリーダーの出席と毎回のレポートの提出の両方をもって出席とします。</li> <li>2.毎回の授業におけるレポートは指定以上の文字数の記載を行ってまいります。</li> </ol>
授業計画	<p>基本的には授業計画通り進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ず前の授業でお伝えします。</p> <p>第1週 オリエンテーション(授業の目的・進め方、就職活動のスケジュール確認)  第2週 就職活動の流れを知る  第3週 自分の価値観を知り、自分に合う業界・企業を考える1  第4週 自分の価値観を知り、自分に合う業界・企業を考える2  第5週 人事担当者から話を聞く1  第6週 人事担当者から話を聞く2  第7週 PROGの結果を基に、自己PRを作成する  第8週 学生時代に力をいれたことを振り返る  第9週 履歴書作成1  第10週 履歴書作成2  第11週 面接対策講座1  第12週 面接対策講座2  第13週 グループディスカッション対策講座  第14週 先輩の話聞く  第15週 履歴書作成&amp;提出</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 必要に応じて紙の資料を配布します。</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内でペアワーク、もしくは少人数でのグループワークを行い、将来のキャリア形成について考える機会を提供する。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	企業の採用やインターンシップ等に関与した経験を持つ教員が就職活動の全体像の説明、単位外でインターンシップを経験する意義、内容、メリット等を解説する。
質問への対応方法	キャリアセンターにて対面で平日9時半から17時まで対応
フィードバックの方法	授業の冒頭に、前週のレポートについて良質な事例を取り上げ、ポイントを解説する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>ナビサイトの使い方を復習する(リクナビ) 2時間  ナビサイトの使い方を復習する(マイナビ) 2時間  授業で習った企業分析の方法を他の企業でも活用し、分析する 7時間  他の学部で登壇した企業の動画を視聴する 8時間  学外で開催される就職活動関連のイベントに参加する 8時間  SPI3を体感する 1時間  授業外で開催されるキャリアセンターのセミナー・相談会に参加する 11時間  インターンシップの情報を収集する 5時間  その他授業の様子を撮影された動画を視聴し、復習を行う 16時間  総計60時間</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	キャリア支援講座I(人間) / Career design support
時間割コード Course Code	19745
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	伊藤 繁生
科目区分 Course Group	共通科目群 キャリア
教室 Classroom	6 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水口 美知子(法学部)、伊藤 繁生(経営学部)
授業の目標	<p>キャリア支援講座(以下、本科目)の目標は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 一般的な就職活動で求められる基礎的な考え方、態度、能力を身につける。</li> <li>2) 多様な業界、業種、職種、企業の存在を知り、その調べ方、選び方について知る。</li> <li>3) 働き方、雇用条件について把握する。</li> <li>4) 企業がどんな人物を求めているか、を知る。</li> <li>5) 各種応募書類の作成、面接、グループディスカッションをできるようにする。</li> <li>6) 就職ツールの使い方、マナー、身だしなみについて把握する</li> </ol> <p>以上の6つを実践し、応募企業から評価されるレベルを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の人事担当者の講話を通じて、社会で必要とされるコミュニケーション能力の理解を深めることができるようになる。</li> <li>・履歴書作成を通じて、自分の特徴を理解し、端的に伝えられるようになる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で働くうえで必要な社会の規範やルールを理解したうえで、自分の特徴を伝えられる履歴書を作成できるようになる。</li> </ul>
授業の概要	<p>就職活動に必要な情報、業界研究、書類作成のポイントなどを学びます。</p> <p>講義 個人ワーク グループ共有・ワーク 個人ワーク 小レポートといった活動を通して進めます。</p> <p>まずは新しい情報を皆さんに伝え、それを個人で考え、周囲と共有し視野を上げ、さらに個人で考えます。こうすることで働くことへの興味を高め「自分で未来を選択できる」ように学びます。</p> <p>この繰り返しにより、キャリア選択において重要なプロセスである「視野を上げ、自分で考え選択する」を体験します。</p>

評価方法	<p>合計5回の小レポート未提出で失格となります。 授業開始10分までは入室を認めますが、それ以降は欠席とします。 ただし、公共交通機関発行による遅延証明に日時、本人学生番号、本人氏名が明記されている場合はこの限りではありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回提出するコメントシートの内容(25%)</li> <li>・授業への参加姿勢(10%)</li> <li>・小レポート、SPI試験、リクナビ、マイナビ等の就職活動関連のイベント参加に伴うレポート提出(30%)</li> <li>・提出課題の仕上がり、内容への評価(35%)</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.カードリーダーの出席と毎回のレポートの提出の両方をもって出席とします。</li> <li>2.毎回の授業におけるレポートは指定以上の文字数の記載を行ってまいります。</li> </ol>
授業計画	<p>基本的には授業計画通り進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ず前の授業でお伝えします。</p> <p>第1週 オリエンテーション(授業の目的・進め方、就職活動のスケジュール確認) 第2週 就職活動の流れを知る 第3週 自分の価値観を知り、自分に合う業界・企業を考える1 第4週 自分の価値観を知り、自分に合う業界・企業を考える2 第5週 人事担当者から話を聞く1 第6週 人事担当者から話を聞く2 第7週 PROGの結果を基に、自己PRを作成する 第8週 学生時代に力をいれたことを振り返る 第9週 履歴書作成1 第10週 履歴書作成2 第11週 面接対策講座1 第12週 面接対策講座2 第13週 グループディスカッション対策講座 第14週 先輩の話聞く 第15週 履歴書作成&amp;提出</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 必要に応じて紙の資料を配布します。</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内でペアワーク、もしくは少人数でのグループワークを行い、将来のキャリア形成について考える機会を提供する。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	企業の採用やインターンシップ等に関与した経験を持つ教員が就職活動の全体像の説明、単位外でインターンシップを経験する意義、内容、メリット等を解説する。
質問への対応方法	キャリアセンターにて対面で平日9時半から17時まで対応
フィードバックの方法	授業の冒頭に、前週のレポートについて良質な事例を取り上げ、ポイントを解説する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>ナビサイトの使い方を復習する(リクナビ) 2時間 ナビサイトの使い方を復習する(マイナビ) 2時間 授業で習った企業分析の方法を他の企業でも活用し、分析する 7時間 他の学部で登壇した企業の動画を視聴する 8時間 学外で開催される就職活動関連のイベントに参加する 8時間 SPI3を体感する 1時間 授業外で開催されるキャリアセンターのセミナー・相談会に参加する 11時間 インターンシップの情報を収集する 5時間 その他授業の様子を撮影された動画を視聴し、復習を行う 16時間 総計60時間</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	キャリア支援講座II(SPI対策) / Career design support II
時間割コード Course Code	19760
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	伊藤 繁生
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	伊藤 繁生 (経営学部)、筒井 徹也 (法学部)
授業の目標	<p>多くの企業の就職試験で取り入れているSPI3試験の特徴、出題形式を理解し、就職活動に勝ち抜く力を身に付ける。</p> <p>また、企業がSPI3を選考の際に、どう活用し、その結果、内定にどう結びついているのかなど、本学の4年生の就職活動の現状を含め理解する。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;  技能の領域  ・就職活動においても社会に出てからにおいても必要となる、数学的能力、言語的能力について、基礎的な能力を身につけることを目標とする。  ・社会で必要とされるビジネスルールを知り、新人社会人レベルのメールコミュニケーションができるレベルをめざす。</p> <p>態度・志向性の領域  ・自らやるべきことをスケジュールリングし、計画通りに実行できるようになる。  ・PDCAをまわすことの重要性とその手法を学ぶ。</p>
授業の概要	<p>SPI3試験で出題される非言語、言語について講義する。ペーパーテストタイプ、テストセンタータイプの全出題分野を分かりやすく説明し、どの出題形式でも対応できる力を身に付けさせていく。</p> <p>また、各回の授業の冒頭で、就職活動に関する情報提供、本学の就職活動の現状、SPI3以外で行われる一般常識テストに関する情報提供をし、幅広い就職活動力を身に付けさせていく。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>総合テスト 55点  日常点(参加姿勢、各回のレポートの提出とその内容) 45点 (15×3)</p> <p>総合テストは定期試験で実施予定です。</p>

<p>教員の指導に従わない以外の事由による失格基準</p>	<p>5回のレポート未提出で失格とします。</p> <p>【受講に関する注意事項】</p> <p>テキスト（教科書）を必ず入手すること。入手していない学生の履修は認めません。</p> <p>第2週の授業の際に教科書の所持を確認します。</p> <p>教科書の所持が確認できない場合は失格とすることがあります。</p>
<p>授業計画</p>	<p>履修にあたり、注意事項を下記に記載しています。</p> <p>長文になりますが、必ず最後まで読み、履修するか否か判断してください。</p> <p>【授業の進め方について】</p> <p>基本的には授業計画通り進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。</p> <p>また、非言語（数学）の問題中心に授業を進めますが、言語の解説をする場合があります。</p> <p>履修者の理解度、状況を見て、授業内容に関して変更する可能性もあります。</p> <p>【各週の授業の流れ】</p> <p>必ず教科書を入手し受講すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先週の振り返り課題提示</li> <li>・先週の振り返り課題の解説</li> <li>・今週の講座（解説）</li> </ul> <p>上記を受講した上で、指定のレポートフォームを毎回の授業で提出すること。</p> <p>「学生番号」「氏名」「先週の振り返り課題の回答」「本日の感想や質問（100文字以上厳守）」</p> <p>「先週の振り返り課題の回答を導き出すための計算したメモ」</p> <p>授業の流れについて変更がある場合は、授業内にてお知らせします。</p> <p>【授業の流れ】</p> <p>非言語</p> <p>第 1週 ガイダンス、SPI対策の重要性と企業の導入状況、採用活動の実態</p> <p>第 2週 代金の清算</p> <p>第 3週 損益算、料金の割引、分割払い</p> <p>第 4週 図表の読み取り</p> <p>第 5週 推論</p> <p>第 6週 組合せ</p> <p>第 7週 確率</p> <p>第 8週 速さと距離</p> <p>第 9週 SPIWEBテスト受験（対面では実施しません）</p> <p>第10週 集合</p> <p>第11週 モノの流れと比率</p> <p>第12週 グラフと領域</p> <p>第13週 ブラックボックス</p> <p>第14週 割合、整数の推理</p> <p>第15週 授業のまとめ</p> <p>総合テストは定期試験で実施予定です。</p> <p>【授業形態】</p> <p>本講義は、テキスト（教科書）を使用し実施します。</p> <p>必要に応じて大学が発行したGmailアドレス宛に資料やURLを配布します。必ず、大学から発行されたGmailの受信を可能にしてください。</p> <p>授業で気になったことなどをメモするために、ノートを準備しておいてください。</p> <p>第9週で実施予定のSPIWEBテスト受験は、オンデマンドにて実施予定です。</p> <p>対面での授業は実施しませんので、ご注意ください。詳細についてはメールにて連絡をします。</p>
<p>テキスト</p>	<p>PS5公務員試験セミナー SPI3対策 T E X T 1,650円(税込み)</p>
<p>参考書</p>	<p>授業内で随時指示します</p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等</p>	<p>含まない</p>

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業に関する質問については担当教員宛、訪問、電話、メールにて受け付けます。授業終了後の質問も対応可能な限り対応します。
フィードバックの方法	質問に対する回答は対面、電話、メールにて行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎週の予習2時間、復習およびレポート作成・レポート提出対応2時間程度
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基本簿記(済) / Bookkeeping
時間割コード Course Code	19800
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	中村 壽男
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒鹿 善之(経営学部)、中村 壽男(経営学部)、佐藤 豊和(経営学部)、PSES(他大学)
授業の目標	<p>私たちが買い物をするコンビニや文具店などの小売業は、その商売を継続的にこなうために、手許現金の管理や商品の仕入・販売の管理が不可欠となります。どんなに小さなお店でも日々発生する取引を、すべてしっかりと記録しなければなりません。そのために必要な技術が「簿記」です。</p> <p>この講義では、小規模企業が行っている基本的な取引を、記録・集計するための技術の修得を目標とします。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 小規模株式会社の決算書を作成するスキルを習得する。</p> <p>技能の領域 複式簿記の原理原則およびその体系を身につける。</p> <p>態度・志向性の領域 日商簿記検定3級にチャレンジするための基礎力を養う。</p>
授業の概要	<p>簿記は、実践的な性格の強い科目なので、理論的な理解を深めることに加え、実際の取引を記録・集計を経験してもらうため、演習問題を解答する形式で授業を展開します。演習は、簿記の初心者向けレベル(日本商工会議所簿記検定3級試験レベル)の問題を用いて行います。</p> <p>また毎回課題に取り組むことにより、それぞれの段階ごとに理解度をチェックしていきます。</p> <p>簿記は毎回の授業の積み上げで理解できる科目ですので、積極的に取り組むよう心がけましょう。</p> <p>当該回に学習した内容については、例題や演習問題をこまめに復習する習慣をつけてください。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	期末試験により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	他の授業同様、欠席回数が多い場合は失格になることがある。

授業計画	第1回 オリエンテーション（簿記の目的と基本要素） 第2回 貸借対照表と損益計算書 第3回 簿記一巡の手続き 第4回 簿記上の取引と仕訳 第5回 試算表の作成 第6回 主要な取引を学ぶ（1）現金・預金の取引 第7回 主要な取引を学ぶ（2）収益と費用 第8回 主要な取引を学ぶ（3）商品売買取引 第9回 主要な取引を学ぶ（4）手形取引 第10回 主要な取引を学ぶ（5）債権・債務 第11回 主要な取引を学ぶ（6）有形固定資産 第12回 主要な取引を学ぶ（7）資本金と税金 第13回 決算を学ぶ（1）売上原価の算定 第14回 決算を学ぶ（2）減価償却と貸倒の見積もり 第15回 決算を学ぶ（3）精算表の作成
テキスト	「簿記入門 - 初めて学ぶ複式簿記 - 」中村壽男（名古屋経済大学）
参考書	日本商工会議所簿記検定3級試験対策用の問題集等
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	簿記検定試験委員として培った経験より、大学で学ぶ簿記の学習成果を確認するため、日本商工会議所簿記検定試験へのチャレンジを奨励している。
質問への対応方法	学習内容等の質問については随時対応する。わからないまま放置することのないようされたい。
フィードバックの方法	提供した課題については、翌週に講評する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	当回の課題を配信するので、2時間程度の予習を要す。 また、前回の課題の解答を配信するので、理解度確認のため2時間程度の復習を要す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	基本簿記(営) / Bookkeeping
時間割コード Course Code	19801
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	荒鹿 善之
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒鹿 善之(経営学部)、中村 壽男(経営学部)、佐藤 豊和(経営学部)、PSES(他大学)
授業の目標	<p>私たちが買い物をするコンビニや文具店などの小売業は、その商売を継続的にこなうために、手許現金の管理や商品の仕入・販売の管理が不可欠となります。どんなに小さなお店でも日々発生する取引を、すべてしっかりと記録しなければなりません。そのために必要な技術が「簿記」です。</p> <p>この講義では、小規模企業が行っている基本的な取引を、記録・集計するための技術の修得を目標とします。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 小規模株式会社の決算書を作成するスキルを習得する。</p> <p>技能の領域 複式簿記の原理原則およびその体系を身につける。</p> <p>態度・志向性の領域 日商簿記検定3級にチャレンジするための基礎力を養う。</p>
授業の概要	<p>簿記は、実践的な性格の強い科目なので、理論的な理解を深めることに加え、実際の取引を記録・集計を経験してもらうため、演習問題を解答する形式で授業を展開します。演習は、簿記の初心者向けレベル(日本商工会議所簿記検定3級試験レベル)の問題を用いて行います。</p> <p>また毎回課題に取り組むことにより、それぞれの段階ごとに理解度をチェックしていきます。</p> <p>簿記は毎回の授業の積み上げで理解できる科目ですので、積極的に取り組むよう心がけましょう。</p> <p>当該回に学習した内容については、例題や演習問題をこまめに復習する習慣をつけてください。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	期末試験により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	他の授業同様、欠席回数が多い場合は失格になることがある。

授業計画	第1回 オリエンテーション（簿記の目的と基本要素） 第2回 貸借対照表と損益計算書 第3回 簿記一巡の手続き 第4回 簿記上の取引と仕訳 第5回 試算表の作成 第6回 主要な取引を学ぶ（1）現金・預金の取引 第7回 主要な取引を学ぶ（2）収益と費用 第8回 主要な取引を学ぶ（3）商品売買取引 第9回 主要な取引を学ぶ（4）手形取引 第10回 主要な取引を学ぶ（5）債権・債務 第11回 主要な取引を学ぶ（6）有形固定資産 第12回 主要な取引を学ぶ（7）資本金と税金 第13回 決算を学ぶ（1）売上原価の算定 第14回 決算を学ぶ（2）減価償却と貸倒の見積もり 第15回 決算を学ぶ（3）精算表の作成
テキスト	「簿記入門 - 初めて学ぶ複式簿記 - 」中村壽男（名古屋経済大学）
参考書	日本商工会議所簿記検定3級試験対策用の問題集等
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	簿記検定試験委員として培った経験より、大学で学ぶ簿記の学習成果を確認するため、日本商工会議所簿記検定試験へのチャレンジを奨励している。
質問への対応方法	学習内容等の質問については随時対応する。わからないまま放置することのないようされたい。
フィードバックの方法	提供した課題については、翌週に講評する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	当回の課題を配信するので、2時間程度の予習を要す。 また、前回の課題の解答を配信するので、理解度確認のため2時間程度の復習を要す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基本簿記(法) / Bookkeeping
時間割コード Course Code	19802
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	佐藤 豊和
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒鹿 善之(経営学部)、中村 壽男(経営学部)、佐藤 豊和(経営学部)、PSES(他大学)
授業の目標	<p>私たちが買い物をするコンビニや文房具店などの小売業は、その商売を継続的にこなうために、手許現金の管理や商品の仕入・販売の管理が不可欠となります。どんなに小さなお店でも日々発生する取引を、すべてしっかりと記録しなければなりません。そのために必要な技術が「簿記」です。</p> <p>この講義では、小規模企業が行っている基本的な取引を、記録・集計するための技術の修得を目標とします。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 小規模株式会社の決算書を作成するスキルを習得する。</p> <p>技能の領域 複式簿記の原理原則およびその体系を身につける。</p> <p>態度・志向性の領域 日商簿記検定3級にチャレンジするための基礎力を養う。</p>
授業の概要	<p>簿記は、実践的な性格の強い科目なので、理論的な理解を深めることに加え、実際の取引を記録・集計を経験してもらうため、演習問題を解答する形式で授業を展開します。演習は、簿記の初心者向けレベル(日本商工会議所簿記検定3級試験レベル)の問題を用いて行います。</p> <p>また毎回課題に取り組むことにより、それぞれの段階ごとに理解度をチェックしていきます。</p> <p>簿記は毎回の授業の積み上げで理解できる科目ですので、積極的に取り組むよう心がけましょう。</p> <p>当該回に学習した内容については、例題や演習問題をこまめに復習する習慣をつけてください。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	期末試験により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	他の授業同様、欠席回数が多い場合は失格になることがある。

授業計画	第1回 オリエンテーション（簿記の目的と基本要素） 第2回 貸借対照表と損益計算書 第3回 簿記一巡の手続き 第4回 簿記上の取引と仕訳 第5回 試算表の作成 第6回 主要な取引を学ぶ（1）現金・預金の取引 第7回 主要な取引を学ぶ（2）収益と費用 第8回 主要な取引を学ぶ（3）商品売買取引 第9回 主要な取引を学ぶ（4）手形取引 第10回 主要な取引を学ぶ（5）債権・債務 第11回 主要な取引を学ぶ（6）有形固定資産 第12回 主要な取引を学ぶ（7）資本金と税金 第13回 決算を学ぶ（1）売上原価の算定 第14回 決算を学ぶ（2）減価償却と貸倒の見積もり 第15回 決算を学ぶ（3）精算表の作成
テキスト	「簿記入門 - 初めて学ぶ複式簿記 - 」中村壽男（名古屋経済大学）
参考書	日本商工会議所簿記検定3級試験対策用の問題集等
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	簿記検定試験委員として培った経験より、大学で学ぶ簿記の学習成果を確認するため、日本商工会議所簿記検定試験へのチャレンジを奨励している。
質問への対応方法	学習内容等の質問については随時対応する。わからないまま放置することのないようされたい。
フィードバックの方法	提供した課題については、翌週に講評する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	当回の課題を配信するので、2時間程度の予習を要す。 また、前回の課題の解答を配信するので、理解度確認のため2時間程度の復習を要す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基本簿記(済再) / Bookkeeping
時間割コード Course Code	19803
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	中村 壽男
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒鹿 善之(経営学部)、中村 壽男(経営学部)、佐藤 豊和(経営学部)、PSES(他大学)
授業の目標	<p>私たちが買い物をするコンビニや文具店などの小売業は、その商売を継続的にこなうために、手許現金の管理や商品の仕入・販売の管理が不可欠となります。どんなに小さなお店でも日々発生する取引を、すべてしっかりと記録しなければなりません。そのために必要な技術が「簿記」です。</p> <p>この講義では、小規模企業が行っている基本的な取引を、記録・集計するための技術の修得を目標とします。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 小規模株式会社の決算書を作成するスキルを習得する。</p> <p>技能の領域 複式簿記の原理原則およびその体系を身につける。</p> <p>態度・志向性の領域 日商簿記検定3級にチャレンジするための基礎力を養う。</p>
授業の概要	<p>簿記は、実践的な性格の強い科目なので、理論的な理解を深めることに加え、実際の取引を記録・集計を経験してもらうため、演習問題を解答する形式で授業を展開します。演習は、簿記の初心者向けレベル(日本商工会議所簿記検定3級試験レベル)の問題を用いて行います。</p> <p>また毎回課題に取り組むことにより、それぞれの段階ごとに理解度をチェックしていきます。</p> <p>簿記は毎回の授業の積み上げで理解できる科目ですので、積極的に取り組むよう心がけましょう。</p> <p>当該回に学習した内容については、例題や演習問題をこまめに復習する習慣をつけてください。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	期末試験により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	他の授業同様、欠席回数が多い場合は失格になることがある。

授業計画	第1回 オリエンテーション（簿記の目的と基本要素） 第2回 貸借対照表と損益計算書 第3回 簿記一巡の手続き 第4回 簿記上の取引と仕訳 第5回 試算表の作成 第6回 主要な取引を学ぶ（1）現金・預金の取引 第7回 主要な取引を学ぶ（2）収益と費用 第8回 主要な取引を学ぶ（3）商品売買取引 第9回 主要な取引を学ぶ（4）手形取引 第10回 主要な取引を学ぶ（5）債権・債務 第11回 主要な取引を学ぶ（6）有形固定資産 第12回 主要な取引を学ぶ（7）資本金と税金 第13回 決算を学ぶ（1）売上原価の算定 第14回 決算を学ぶ（2）減価償却と貸倒の見積もり 第15回 決算を学ぶ（3）精算表の作成
テキスト	「簿記入門 - 初めて学ぶ複式簿記 - 」中村壽男（名古屋経済大学）
参考書	日本商工会議所簿記検定3級試験対策用の問題集等
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	簿記検定試験委員として培った経験より、大学で学ぶ簿記の学習成果を確認するため、日本商工会議所簿記検定試験へのチャレンジを奨励している。
質問への対応方法	学習内容等の質問については随時対応する。わからないまま放置することのないようされたい。
フィードバックの方法	提供した課題については、翌週に講評する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	当回の課題を配信するので、2時間程度の予習を要す。 また、前回の課題の解答を配信するので、理解度確認のため2時間程度の復習を要す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基本簿記(営再) / Bookkeeping
時間割コード Course Code	19804
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	荒鹿 善之
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒鹿 善之(経営学部)、中村 壽男(経営学部)、佐藤 豊和(経営学部)、PSES(他大学)
授業の目標	<p>私たちが買い物をするコンビニや文具店などの小売業は、その商売を継続的にこなうために、手許現金の管理や商品の仕入・販売の管理が不可欠となります。どんなに小さなお店でも日々発生する取引を、すべてしっかりと記録しなければなりません。そのために必要な技術が「簿記」です。</p> <p>この講義では、小規模企業が行っている基本的な取引を、記録・集計するための技術の修得を目標とします。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 小規模株式会社の決算書を作成するスキルを習得する。</p> <p>技能の領域 複式簿記の原理原則およびその体系を身につける。</p> <p>態度・志向性の領域 日商簿記検定3級にチャレンジするための基礎力を養う。</p>
授業の概要	<p>簿記は、実践的な性格の強い科目なので、理論的な理解を深めることに加え、実際の取引を記録・集計を経験してもらうため、演習問題を解答する形式で授業を展開します。演習は、簿記の初心者向けレベル(日本商工会議所簿記検定3級試験レベル)の問題を用いて行います。</p> <p>また毎回課題に取り組むことにより、それぞれの段階ごとに理解度をチェックしていきます。</p> <p>簿記は毎回の授業の積み上げで理解できる科目ですので、積極的に取り組むよう心がけましょう。当該回に学習した内容については、例題や演習問題をこまめに復習する習慣をつけてください。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	期末試験により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	他の授業同様、欠席回数が多い場合は失格になることがある。

授業計画	第1回 オリエンテーション（簿記の目的と基本要素） 第2回 貸借対照表と損益計算書 第3回 簿記一巡の手続き 第4回 簿記上の取引と仕訳 第5回 試算表の作成 第6回 主要な取引を学ぶ（1）現金・預金の取引 第7回 主要な取引を学ぶ（2）収益と費用 第8回 主要な取引を学ぶ（3）商品売買取引 第9回 主要な取引を学ぶ（4）手形取引 第10回 主要な取引を学ぶ（5）債権・債務 第11回 主要な取引を学ぶ（6）有形固定資産 第12回 主要な取引を学ぶ（7）資本金と税金 第13回 決算を学ぶ（1）売上原価の算定 第14回 決算を学ぶ（2）減価償却と貸倒の見積もり 第15回 決算を学ぶ（3）精算表の作成
テキスト	「簿記入門 - 初めて学ぶ複式簿記 - 」中村壽男（名古屋経済大学）
参考書	日本商工会議所簿記検定3級試験対策用の問題集等
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	簿記検定試験委員として培った経験より、大学で学ぶ簿記の学習成果を確認するため、日本商工会議所簿記検定試験へのチャレンジを奨励している。
質問への対応方法	学習内容等の質問については随時対応する。わからないまま放置することのないようされたい。
フィードバックの方法	提供した課題については、翌週に講評する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	当回の課題を配信するので、2時間程度の予習を要す。 また、前回の課題の解答を配信するので、理解度確認のため2時間程度の復習を要す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	基本簿記(法再) / Bookkeeping
時間割コード Course Code	19805
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 豊和
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒鹿 善之(経営学部)、中村 壽男(経営学部)、佐藤 豊和(経営学部)、PSES(他大学)
授業の目標	<p>私たちが買い物をするコンビニや文具店などの小売業は、その商売を継続的にこなうために、手許現金の管理や商品の仕入・販売の管理が不可欠となります。どんなに小さなお店でも日々発生する取引を、すべてしっかりと記録しなければなりません。そのために必要な技術が「簿記」です。</p> <p>この講義では、小規模企業が行っている基本的な取引を、記録・集計するための技術の修得を目標とします。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 小規模株式会社の決算書を作成するスキルを習得する。</p> <p>技能の領域 複式簿記の原理原則およびその体系を身につける。</p> <p>態度・志向性の領域 日商簿記検定3級にチャレンジするための基礎力を養う。</p>
授業の概要	<p>簿記は、実践的な性格の強い科目なので、理論的な理解を深めることに加え、実際の取引を記録・集計を経験してもらうため、演習問題を解答する形式で授業を展開します。演習は、簿記の初心者向けレベル(日本商工会議所簿記検定3級試験レベル)の問題を用いて行います。</p> <p>また毎回課題に取り組むことにより、それぞれの段階ごとに理解度をチェックしていきます。</p> <p>簿記は毎回の授業の積み上げで理解できる科目ですので、積極的に取り組むよう心がけましょう。当該回に学習した内容については、例題や演習問題をこまめに復習する習慣をつけてください。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	期末試験により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	他の授業同様、欠席回数が多い場合は失格になることがある。

授業計画	第1回 オリエンテーション（簿記の目的と基本要素） 第2回 貸借対照表と損益計算書 第3回 簿記一巡の手続き 第4回 簿記上の取引と仕訳 第5回 試算表の作成 第6回 主要な取引を学ぶ（1）現金・預金の取引 第7回 主要な取引を学ぶ（2）収益と費用 第8回 主要な取引を学ぶ（3）商品売買取引 第9回 主要な取引を学ぶ（4）手形取引 第10回 主要な取引を学ぶ（5）債権・債務 第11回 主要な取引を学ぶ（6）有形固定資産 第12回 主要な取引を学ぶ（7）資本金と税金 第13回 決算を学ぶ（1）売上原価の算定 第14回 決算を学ぶ（2）減価償却と貸倒の見積もり 第15回 決算を学ぶ（3）精算表の作成
テキスト	「簿記入門 - 初めて学ぶ複式簿記 - 」中村壽男（名古屋経済大学）
参考書	日本商工会議所簿記検定3級試験対策用の問題集等
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	簿記検定試験委員として培った経験より、大学で学ぶ簿記の学習成果を確認するため、日本商工会議所簿記検定試験へのチャレンジを奨励している。
質問への対応方法	学習内容等の質問については随時対応する。わからないまま放置することのないようされたい。
フィードバックの方法	提供した課題については、翌週に講評する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	当回の課題を配信するので、2時間程度の予習を要す。 また、前回の課題の解答を配信するので、理解度確認のため2時間程度の復習を要す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(副)特殊専門講義 (地域創生・観光・文化遺産概論)
時間割コード Course Code	19901
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	中村 真咲
科目区分 Course Group	専門科目群 特殊科目
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 真咲(経営学部)、岡田 和明(経済学部)、佐藤 正之(経済学部)、赤塚 次郎(法学部)、四辻 秀紀(経営学部)、村山 徹(経済学部)、定森 亮(経済学部)、山田 拓郎(大学共通)
授業の目標	(1) 本学の位置する愛知県犬山市および周辺地域は、文化資源・自然資源が豊富な地域であり、これを活用した持続的な地域の発展が求められている。 (2) 本コースでは、地域が直面する課題を地域創生・観光・文化遺産学という視点から、体系的に学んでいくことを目的とする。 (3) これまでの本学の体験型プロジェクトや地域連携の体験を踏まえて、第一線で活躍する自治体・企業・NPO・博物館などの実務家・研究者による講義や現場での学びを通して、地域社会の直面する課題を学んでいく。
授業の概要	(1) 本講義では、地域の地理・歴史・文化・経済・社会等に関する知識を体系的に学び、地域の具体的な事例から社会課題に気が付く経験・能力を身に着ける。 (2) 第一線で活躍する自治体・企業・NPO・博物館などの実務家・研究者による講義や現場での学びを通して、地域の課題を発見し、計画を立てて解決していくプロセスを実践的・体験的に学ぶ。
評価方法	本授業では、グループでの議論や各自の意見の発信を重視します。そのため、成績評価にあたっては、見学後に提出するレポート、議論への参加状況、報告会での発表内容によって、総合的に成績評価を行います。定期試験は行いません。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	(1) 6回以上欠席した学生は失格とする。 (2) 指定された課題を提出しない学生は失格とする。
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 市役所と市長の仕事 第3回 まちづくりと意思決定のしくみ 第4回 地域創生とは何か 第5回 犬山城下町のまちづくり 第6回 歴史まちづくりを考える 第7回 観光とは？(観光を地理学する) 第8回 「持続可能な観光」について考える 第9回 ヨーロッパにおける観光行動とその文化的背景 第10回 犬山市の観光振興と犬山観光の行動特性 第11回 文化遺産とは何か 第12回 文化遺産NPOの活動と役割 第13回 博物館・美術館の活動と役割 第14回 文化財に関わる法制度 第15回 まとめ
テキスト	適宜、資料を配布する。
参考書	授業の中で紹介する。

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	講義および見学先では、積極的に質問し、討論に参加すること。 また、課題を積極的に見出し、その課題解決のプロセスを学んでいくこと。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	本講義を担当する教員は、地域の行政やNPOでの実務経験や研究実績があり、その経験を生かした講義を行う。
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業後に対応</li> <li>・メールで随時対応</li> </ul>
フィードバックの方法	質問に対するフィードバックは、授業のなかで行うとともに、必要に応じてコメントや助言をメールでも行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の授業では、翌週の授業内容に関わる参考文献の該当箇所を指示するので、翌週までに各自で予習する。 その参考文献を読んだ前提で、次回の授業・見学を行うので、予習は必須である。 また、授業で配布した資料を家で読み、復習すること。 これらの予習・復習（計60時間）を行うことが、期末プレゼンの準備につながる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.情報収集力</li> <li>2.情報分析力</li> <li>3.課題発見力</li> <li>4.構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.親和力</li> <li>2.協同力</li> <li>6.行動持続力</li> <li>7.課題発見力</li> <li>8.計画立案力</li> <li>9.実践力</li> </ol>

開講科目名 Course	(副)特殊専門講義 (地域創生・観光・文化遺産ワークショップ)
時間割コード Course Code	19902
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3, 木 / Thu 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	中村 真咲
科目区分 Course Group	専門科目群 特殊科目
教室 Classroom	1 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 真咲(経営学部)、岡田 和明(経済学部)、佐藤 正之(経済学部)、赤塚 次郎(法学部)、四辻 秀紀(経営学部)、村山 徹(経済学部)、山田 拓郎(大学共通)
授業の目標	(1) 本学の位置する愛知県犬山市および周辺地域は、文化資源・自然資源が豊富な地域であり、これを活用した持続的な地域の発展が求められている。 (2) 本講義では、地域が直面する課題を地域創生・観光・文化遺産学という視点から、体系的に学んでいくことを目的とする。 (3) これまでの本学の体験型プロジェクトや地域連携の体験を踏まえて、第一線で活躍する自治体・企業・NPO・博物館などの実務家・研究者による講義や現場での学びを通して、地域社会の直面する課題を学んでいく。
授業の概要	(1) 本講義では、地域の地理・歴史・文化・経済・社会等に関する知識を体系的に学び、地域の具体的な事例から社会課題に気が付く経験・能力を身に付ける。 (2) 第一線で活躍する自治体・企業・NPO・博物館などの実務家・研究者による講義や現場での学びを通して、地域の課題を発見し、計画を立てて解決していくプロセスを実践的・体験的に学ぶ。 (3) 各自の問題意識にもとづき、地域の課題とその解決プロセスの提案を行う。
評価方法	本授業では、グループでの議論や各自の意見の発信を重視します。そのため、成績評価にあたっては、見学後に提出するレポート、議論への参加状況、報告会での発表内容によって、総合的に成績評価を行います。定期試験は行いません。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	(1) 6回以上欠席した学生は失格とする。 (2) 指定された課題を提出しない学生は失格とする。

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 犬山市の市民サービス革命と創生事例</p> <p>第3回 パークPFIから見る官民連携の創生事例</p> <p>第4回 教育と課題解決の創生事例</p> <p>第5回 民間企業による創生事例(1)</p> <p>第6回 民間企業による創生事例(2)</p> <p>第7回 犬山市観光協会から見る観光まちづくり</p> <p>第8回 川と観光まちづくり</p> <p>第9回 交通と観光まちづくり</p> <p>第10回 ジブリパークから見る今後の観光</p> <p>第11回 犬山の文化財と活用</p> <p>第12回 愛知県の文化財と活用</p> <p>第13回 祭とコミュニティ</p> <p>第14回 博物館の役割</p> <p>第15回 まとめ</p>
テキスト	適宜、資料を配布する。
参考書	授業の中で紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	講義および見学先では、積極的に質問し、討論に参加すること。 また、課題を積極的に見出し、その課題解決のプロセスを学んでいくこと。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	本講義を担当する教員は、地域の行政やNPOでの実務経験や研究実績があり、その経験を生かした講義を行う。
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業後に対応</li> <li>・メールで随時対応</li> </ul>
フィードバックの方法	質問に対するフィードバックは、授業のなかで行うとともに、必要に応じてコメントや助言をメールでも行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>各回の授業では、翌週の授業内容に関わる参考文献の該当箇所を指示するので、翌週までに各自で予習する。</p> <p>その参考文献を読んだ前提で、次回の授業・見学を行うので、予習は必須である。</p> <p>また、授業で配布した資料を家で読み、復習すること。</p> <p>これらの予習・復習(計60時間)を行うことが、期末プレゼンの準備につながる。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標(11~17)	<p>11.住み続けられるまちづくりを</p> <p>17.パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1.情報収集力</p> <p>2.情報分析力</p> <p>3.課題発見力</p> <p>4.構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>1.親和力</p> <p>2.協同力</p> <p>6.行動持続力</p> <p>7.課題発見力</p> <p>8.計画立案力</p> <p>9.実践力</p>

開講科目名 Course	(副)特殊専門講義 (環境共生・里山SDGs概論)
時間割コード Course Code	19904
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	郡 麻里
科目区分 Course Group	専門科目群 特殊科目
教室 Classroom	13C 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	足立 守 (法学部)、高橋 裕平 (法学部)、郡 麻里 (経営学部)
授業の目標	<p>人・自然・地域生態系の繋がりや世界の物質・エネルギー循環、地球環境の変遷について、経済と関連付けて学ぶ。</p> <p>とくに、人と生き物の共存、生物多様性の保全、健全な生態系の存続を実現する上での社会的課題や、その解決のための持続可能な発展目標 (SDGs) について、身近な衣食住を事例に講義を通じて学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の消費生活において、実は、だれでも間接的に環境保全に貢献できることを知る。</li> <li>・地域 (流域) の生態系と世界の物質・エネルギーの循環と、経済や社会とをつなげて考えられる様になる。</li> <li>・身の回りのSDGs に気づき、たとえば「#12作る責任、使う責任」などを事例に、身近な資源である水やエネルギー、食糧などの生産工程や調達方法、廃棄物の行方を正確に把握し、改善してみる。</li> <li>・大学や企業、自治体や国の現状の取り組みを評価し、政策の仕組みや問題点について詳しく考察する。</li> </ul>
授業の概要	<p>人類によって引き起こされた気候危機や食料危機、地球環境問題は、もはや脱炭素化だけでは切り抜けられないステージに来ている。自然のめぐみの恩恵を次世代も受けられる様、人類には今、生物多様性の劣化や損失を食い止め、自然を回復軌道に乗せる緊急措置 (ネイチャーポジティブ) が要請されている。そのため、自然に根ざした社会課題の解決 (NbS) の方法を学び、生物多様性の保全、生物多様性の主流化、自然資本と地域資源を有効活用したサーキュラーエコノミーの実現が求められる。</p> <p>本講義では、自然資本の上手な管理活用を地域で促進し、地域の政策に統合していく方法について、各分野の専門家を招きながら伝授する。自然環境や多様な生き物がもたらす自然の資源や仕組みを活用することで、現代社会が抱える多くの課題の解決に貢献し、豊かで魅力ある持続可能な社会の発展に寄与する。</p> <p>「環境共生の探求I、II」「科学と人間社会I、II、III」、「地域調査」「GIS概論」等の受講が前提。</p>
評価方法	<p>数週間ごとに出される課題等の提出物：50%、          期末レポート：40%、          質問やディスカッションへの積極的な参加：10%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	やむをえず欠席等する際は事前に理由を連絡すること。

授業計画	<p>1週 4/11 趣旨説明：地域経済と地球環境問題解決に繋がるSDGs（担当：郡）</p> <p>2週 4/18 地域の希少種の分布パターンと生育地の自然環境との関連性（担当：郡）</p> <p>3週 4/25 愛知岐阜（東海地域）の里山の地質の特徴と天然記念物（担当：足立）</p> <p>4週 5/9 愛知の地質とこの地域の陶磁器産業（瀬戸物）の歴史（担当：足立）</p> <p>5週 5/16 水質の季節変動とイネの生育による栄養塩の吸収の機能と効果（担当：高橋）</p> <p>6週 5/23 ため池の水質を左右する地質と日常を取り巻く放射線について（担当：高橋）</p> <p>7週 5/30 サーキュラーエコノミー・SDGsチャレンジ企業（担当：秦野（竹籐商店））</p> <p>8週 6/6 化学物質を用いた気候変動対策・環境改善技術（担当：高木（名工大））</p> <p>9週 6/13 化学物質を用いた効率的なエネルギー循環（担当：高木（名工大））</p> <p>10週 6/20 TNFDと自然資本（担当：外部：伊藤（住理）又は郡）</p> <p>11週 6/27 ネイチャーポジティブの取り組み（担当：犬山・小牧（環境部）又は郡）</p> <p>12週 7/4 犬山市今井地区の森林資源の活用（ゲスト：今井森林愛護会（担当：谷口））</p> <p>13週 7/11 食品ロスの問題と解決策（担当：郡）</p> <p>14週 7/18 ゴミがエネルギー源に（担当：郡）</p> <p>15週 7/25 まとめ（担当：郡ほか）</p> <p>（敬称略、内容と順番は変更となる可能性があります。）</p>
テキスト	
参考書	<p>人と生態系のダイナミクス 1 農地・草地の歴史と未来。宮下 直、西廣 淳、朝倉書店   (2019/7/16)</p> <p>人と生態系のダイナミクス3 都市生態系の歴史と未来。飯田 晶子、曾我 昌史、土屋 一彬   朝倉書店 (2020/9/28)</p> <p>保全生態学の技法 調査・研究・実践マニュアル。鷲谷 いづみ、西廣 淳 他   東京大学出版会 (2010/3/1)</p> <p>生物多様性のしくみを解く・第六の大量絶滅期の淵から。宮下直   工作舎 (2014/4/10)</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	担当教員は環境省や林野庁など国の委託事業や補助事業を担当した経験があるため、それらを活かし、現在の国の生物多様性保全や気候変動への対策・方針について紹介するとともに、実際の調査・評価の方法についても伝授する。
質問への対応方法	授業の後や電子メール等に対応する。
フィードバックの方法	授業の後や電子メール等に対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回1時間程度予習復習を行うこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>1. 貧困をなくそう</p> <p>2. 飢餓をゼロに</p> <p>3. すべての人に健康と福祉を</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>6. 安全な水とトイレを世界中に</p> <p>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> <p>8. 働きがいも経済成長も</p> <p>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11. 住み続けられるまちづくりを</p> <p>12. つくる責任つかう責任</p> <p>13. 気候変動に具体的な対策を</p> <p>15. 陸の豊かさも守ろう</p> <p>16. 平和と公正をすべての人に</p> <p>17. パートナリシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	<p>2. 協同力</p> <p>7. 課題発見力</p>



開講科目名 Course	(副)特殊専門講義 (環境共生・里山SDGsワークショップ)
時間割コード Course Code	19905
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3, 木 / Thu 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	郡 麻里
科目区分 Course Group	専門科目群 特殊科目
教室 Classroom	13B講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	足立 守(法学部)、高橋 裕平(法学部)、郡 麻里(経営学部)
授業の目標	<p>本ワークショップでは、キャンパスの里山の「自然共生サイト」認定・登録をめざし、計画を立案し、実際に環境省に応募するまでのプロセスを体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在は捨てられている剪定枝や放置竹林など、未利用の地域資源の高付加価値化とその利活用の促進を通して、エネルギーや資源、物質の循環を里山全体の収支として捉え、地域経済と人と自然のつながりを活性化させる方法を実践する。</li> <li>・自然素材を用いた土壌改良剤や堆肥を提供する計画を立案し、地域利用の促進を提案する。</li> <li>・里山での適度な資源利用と管理活動は、地域の自然環境を持続的に保全し、獣害や災害緩和に貢献するとともに、「結果的に」地域固有の貴重な生物の生息場所を創造し、生物多様性の保全に貢献していることを定量的に示す。</li> <li>・自然環境や多様な生き物がもたらす自然の資源や仕組みを活用することで、現代社会が抱える多くの課題の解決に貢献し、豊かで魅力ある持続可能な社会の発展に寄与する事例・モデルとして実践する。</li> </ul>
授業の概要	<p>キャンパス周辺の里山の変遷を把握し、里山の資源利用が結果的に生物多様性を保全してきた事実とその仕組みを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の未利用資源の分布状態を把握し、住民から利用・廃棄状況を聞き取り、有効活用に向けた管理プランを立てる。</li> <li>・ため池や河川堤防の草刈りや果樹や庭木の剪定枝の処理、間伐など、年間を通して必要な自然への働きかけや管理について、マンパワーとして見える化する。自走式のチップパーを取り入れた場合の効率化と地域資源の高付加価値を定量化する。</li> <li>・里山での適度な自然への働きかけや資源利用活動は、結果的に、地域固有の貴重な生き物の生息場所を創造し、生物多様性や自然環境の保全に役立っていることを学ぶ。さらに、獣害対策や災害緩和にも繋がることを、定量的な調査とデータに基づいて学習する。</li> <li>・環境省の「自然共生サイト」に認定されるよう、管理計画を立案し登録申請を行う。継続した環境保全管理指針を策定する。</li> </ul>
評価方法	<p>数週間ごとに出される課題等の提出物：50%、          期末レポート：40%、          質問やディスカッションへの積極的な参加：10%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	やむをえず欠席等する際は事前に理由を連絡すること。

授業計画	<p>第1回2回．オリエンテーション・キャンパスの里山の「自然共生サイト」認定/登録計画の立案</p> <p>第3回4回．キャンパスの里山の変遷/管理履歴を調べる：空中写真判読および地域住民ヒアリング</p> <p>第5回6回．大山川流域の自然環境調査及びマメナシ自生地の保全管理（小牧市企業とのSDGs・CSRコラボ）</p> <p>第7回8回．キャンパスの外来木本の分布・資源量調査および伐採生木を用いた「グリーンウッドワーク」</p> <p>第9回10回．持続的な森林資源利用のための毎木調査・植生調査の実施（今井地区）</p> <p>第11回12回．キャンパス周辺の竹林の資源量把握と整備計画の立案</p> <p>第13回14回．竹林の伐採および自走式チップパーによる竹材・剪定枝の粉碎（高付加価値資源化）</p> <p>第15回16回．無煙炭化器を用いたバイオ炭製造と農地施用による二酸化炭素固定量・機能・効果の推定</p> <p>第17回18回．キャンパス周辺農家への竹チップ・バイオ炭等資源の供給方法と土壌改良案の策定</p> <p>第19回20回．いちむら幼稚園における農地活性化案の作成と活動の実施（サツマイモ畑用）</p> <p>第21回22回．地域の農地利用状況アンケートの実施および獣害対策の考案（カメラトラップ設置）</p> <p>第23回24回．センサーカメラのデータ解析（前週設置カメラ回収）</p> <p>第25回26回．ため池の構造と浚渫頻度と水質の関係の分析と考察</p> <p>第27回28回．犬山キャンパスの「自然共生サイト」認定/登録のための調査/保全管理計画案の発表</p> <p>第29回30回．地域資源の有効活用とサーキュラーエコノミーの実現に向けての提案作成・発表 *内容や順番は変更になる可能性がある。</p>
テキスト	
参考書	<p>人と生態系のダイナミクス 1 農地・草地の歴史と未来。宮下 直、西廣 淳、朝倉書店   (2019/7/16)</p> <p>保全生態学の技法 調査・研究・実践マニュアル。鷲谷 いづみ、西廣 淳 他   東京大学出版会 (2010/3/1)</p> <p>生物多様性のしくみを解く・第六の大量絶滅期の淵から。宮下直   工作舎 (2014/4/10)</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ディスカッションの時間を設ける。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	担当教員は環境省や林野庁など国の委託事業や補助事業を担当した経験がある。現在の国の生物多様性保全や気候変動への対策・方針について紹介し、調査方法を伝授する。
質問への対応方法	授業中や電子メール等で対応する。
フィードバックの方法	授業中や電子メール等で対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習復習を各1時間ほどすることを勧める。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>1. 貧困をなくそう</p> <p>2. 飢餓をゼロに</p> <p>3. すべての人に健康と福祉を</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>6. 安全な水とトイレを世界中に</p> <p>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> <p>8. 働きがいも経済成長も</p> <p>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11. 住み続けられるまちづくりを</p> <p>12. つくる責任つかう責任</p> <p>13. 気候変動に具体的な対策を</p> <p>15. 陸の豊かさを守ろう</p> <p>17. パートナリーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p>

PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>
----------------	--

開講科目名 Course	(副)特殊専門講義 (グローバルコミュニケーション概論)
時間割コード Course Code	19907
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	佐藤 直史
科目区分 Course Group	専門科目群 特殊科目
教室 Classroom	14D講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ウミリデノブ アリシェル(法学部)、佐藤 直史(法学部)、阪倉 章治(経済学部)
授業の目標	<p>この講義は、国際社会・国際経済・国際協力についての基礎的な知識を習得するとともに、国際情勢やアジアの社会・経済・政治・歴史、国際ビジネスの課題などを学ぶことを通じて、受講者が、地球規模課題を多面的・多角的に分析・理解し、様々な国・地域の人々と連携・協調して課題解決に取り組むことのできる主体的なアクターとして、国際的に活躍できる力を身につけることを目標とする。</p> <p>〔知識・理解の観点〕 国際情勢やアジアの社会・経済・政治・歴史、国際ビジネスの課題に関する知識が身に付く。 様々な国・地域の人々と連携・協働するためのスキル・ノウハウを活用する方法が身に付く。</p> <p>〔思考・診断の観点〕 アジアや日本の状況その他の国際情勢を、多角的・多面的に分析・検討することができる。 グローバルな課題に関し、その背景を理解し、将来どのような解決が図られるかについての方向性を見通すことができる。</p> <p>〔関心・意欲の観点〕 国際連携、国際経済、国際協力などの枠組みや実践、国際ビジネスの課題などについて興味・関心を持ち、更なる改善を目指すことができる。</p> <p>〔態度の観点〕 主体的・積極的に問題点を明らかにし、解決や改善に向けた取組みを行おうとする姿勢が身につく。 自分とは異なる意見や考え方を、違うからといって排除・嫌悪するのではなく、どうして違いが生じるのかを理解するように努める態度が身につく。 国際経済、国際ビジネス、国際協力などの分野で活躍する専門家・実務家の講義に参加し、意見交換することを通して、世界の動きを体感し、現場感覚を養うことができる。 ディスカッションやプレゼンテーション、リサーチや文書作成の能力が向上する。</p>

授業の概要	<p>国際的に活躍するに当たって大切なことは何でしょうか。語学力やコミュニケーション力といったスキル・ノウハウが必要なことはもちろんですが、それに加えて、アジアや日本を取り巻く状況、国際的な情勢などを正確に理解し、様々な視点からグローバルな課題を分析・検討することが必要です。そのためには、アジアや日本の近現代の歴史や現在の社会・経済・政治状況についての基礎的な知識を有することは前提となります。そして、その知識をベースにして、現在生じている地球規模課題の背景や本質、影響の広がりなどを学び、課題解決に向けた枠組みや取組みについて、多面的・多角的に、理論面・実践面の双方から、受講生のみなさんが主体的かつ能動的に考えることが重要です。この授業では、受講生のみなさんの積極的な参加や発言に加え、グループ活動を通じて他者と連携・協働する姿勢が求められます。</p> <p>このプロセスを通じて、受講生のみなさんは、社会に出て様々な分野で活躍するための、情報収集・分析力や課題発見力、計画を構想し立案する力、他者と協働しつつグループワークをリードする力、計画を実践するための自己制御力や持続力、そして何よりも自信を創出することができるでしょう。</p> <p>〔この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。〕</p>
評価方法	<p>受講態度〔授業への参加態度、ディスカッションにおける発言、課題やグループワークへの取組み、プレゼンテーションなどから総合的に評価する。〕(100%)により評価します。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>5回以上欠席した場合は失格とします(遅刻は2回で欠席1回とみなします。)。なお、特別欠席は欠席回数に含みません。</p> <p>事前連絡できないやむを得ない事情がある場合を除き、欠席・遅刻する場合は、必ず事前にメール等で連絡してください。</p>
授業計画	<p>下記は計画であり、内容や順番が変更になることがあります。</p> <p>第1回 ガイダンス  第2回 コミュニケーションスキル  第3回 国際ニュースの読み解き方  第4回 アジアの国々の社会・文化・経済・政治・宗教  第5回 国際経済とは  第6回 国際経済の視点からのアジア  第7回 アジア諸国との国際協力  第8回 国際協力の現場で生じる問題  第9回 国際ビジネスにおける現代的課題  第10回 (ゲスト講義) 外国出身研究者  第11回 (ゲスト講義) アジア進出企業の活動  第12回 (ゲスト講義) JICA職員  第13回 グループワーク(興味のあるテーマごとのグループによるプレゼンテーション準備)  第14回 グループワーク(興味のあるテーマごとのグループによるプレゼンテーション)  第15回 まとめ</p>
テキスト	<p>テキストは使用せず、必要に応じてプリント・資料を配布します。</p>
参考書	<p>長沢栄治・後藤絵美(編)『東大塾 現代イスラーム講義』(東京大学出版会・2023)  佐橋 亮『米中対立-アメリカの戦略転換と分断される世界』(中央公論新社・2021)  ルトガー・ブレグマン『Humankind 希望の歴史 上・下 人類が善き未来をつくるための18章』(文藝春秋・2021年)  重田ほか編・著『SDGs時代のグローバル開発協力論 開発援助・パートナーシップの再考』(明石書店・2019年)  日本弁護士連合会国際人権問題委員会編・著『詳説 ビジネスと人権』(現代人文社・2022年)  独立行政法人国際協力機構著『世界を変える日本式「法づくり」:途上国とともに歩む法整備支援』(文藝春秋企画出版部・2018年)  ハンス・ロスリングほか著『FACTFULNESS(ファクトフルネス) 10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣』(日経BP・2019年)  ブレイディみかこ著『他者の靴を履く アナーキック・エンパシーのすすめ』(文藝春秋・2021年)  アビジット・V.パナジー、エステル・デュフロ著『貧乏人の経済学 もういちど貧困問題を根っこから考える』(みすず書房・2012)  マシュー・サイド著『多様性の科学』(ディスカヴァー・トゥエンティワン・2021年)  その他、講師が指示したもの。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	<p>含む</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>授業では、テーマに関連したディスカッションを行うとともに、グループワークやプレゼンテーションを行います。また、グーグルフォームを用いた振り返りを行います。</p>
実務経験のある担当教員による授業	<p>該当する</p>

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	弁護士としての実務経験やアジア諸国における国際協力の経験を豊富に有する教員が実践的な解説を行う授業です。
質問への対応方法	授業時間の前後及びオフィスアワーにおいて対応します。
フィードバックの方法	授業中のディスカッション、意見交換、課題、プレゼンテーションなどについては、授業の中でコメントします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	この授業では、レジュメや資料を使用して授業を進めます。受講生のみなさんは、事前にレジュメや資料に目を通し、ディスカッションや課題の準備をしてきてください。また、授業後には、その回の内容を整理し、振り返りを行ってください。また、グループワークの準備、調査・研究の実施、調査結果・研究成果の報告の準備（レジュメやプレゼンテーション資料の作成を含む。）などを行ってまいります。1回の授業につき必要な時間外学習は授業の前に2時間、授業の後に2時間が目安になります。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> <li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li> <li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> <li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 住み続けられるまちづくりを</li> <li>12. つくる責任つかう責任</li> <li>13. 気候変動に具体的な対策を</li> <li>14. 海の豊かさを守ろう</li> <li>15. 陸の豊かさを守ろう</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> <li>17. パートナーシップで目標を達成しよう</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>3. 統率力</li> <li>4. 感情制御力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>6. 行動持続力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

開講科目名 Course	(副)特殊専門講義 (グローバルコミュニケーションワークショップ)
時間割コード Course Code	19908
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3, 木 / Thu 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	佐藤 直史
科目区分 Course Group	専門科目群 特殊科目
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ウミリデノブ アリシェル(法学部)、佐藤 直史(法学部)、阪倉 章治(経済学部)
授業の目標	<p>この講義は、「特殊専門講義・グローバルコミュニケーション概論」で学んだ、国際社会・国際経済・国際協力についての基礎的な知識や、国際情勢、アジアの社会・経済・政治・歴史、国際ビジネスの課題などの学修の内容を踏まえて、受講者が、地球規模課題に対して、様々な国・地域の人々と連携・協調してどのように課題解決に取り組むのかについて、具体的事例をベースにしたケーススタディやワークショップを通じて、実践的な力を身につけることを目標とする。</p> <p>〔知識・理解の観点〕 国際情勢やアジアの社会・経済・政治・歴史、国際ビジネスの課題に関する知識が身に付く。様々な国・地域の人々と連携・協働するためのスキル・ノウハウを活用する方法が身に付く。</p> <p>〔思考・診断の観点〕 アジアや日本の状況その他の国際情勢を、多角的・多面的に分析・検討することができる。グローバルな課題に関し、その背景を理解し、将来どのような解決が図られるかについての方向性を見通すことができる。</p> <p>〔関心・意欲の観点〕 国際連携、国際経済、国際協力などの枠組みや実践、国際ビジネスの課題などについて興味・関心を持ち、更なる改善を目指すことができる。</p> <p>〔態度の観点〕 主体的・積極的に問題点を明らかにし、解決や改善に向けた取り組みを行おうとする姿勢が身につく。 自分とは異なる意見や考え方を、違うからといって排除・嫌悪するのではなく、どうして違いが生じるのかを理解するように努める態度が身につく。 国際経済、国際ビジネス、国際協力などの分野で活躍する専門家・実務家の講義に参加し、意見交換を通して、世界の動きを体感し、現場感覚を養うことができる。 ディスカッションやプレゼンテーション、リサーチや文書作成の能力が向上する。</p>

授業の概要	<p>この授業では、「特殊専門講義 ・グローバルコミュニケーション概論」において学修した内容を踏まえて、地球規模課題の解決に向けた枠組みや取組みに関する具体的事例を基にしたケーススタディやワークショップを行い、受講生のみなさんが主体的かつ能動的にアイデアを出しあい、実践上の課題を検討し、より良い国際社会の構築に向けたアプローチを考えます。この授業では、受講生のみなさんの積極的な参加や発言に加え、グループ活動を通じて他者と連携・協働する姿勢が求められます。</p> <p>このプロセスを通じて、受講生のみなさんは、社会に出て様々な分野で活躍するための、情報収集・分析力や課題発見力、計画を構想し立案する力、他者と協働しつつグループワークをリードする力、計画を実践するための自己制御力や持続力、そして何よりも自信を創出することができるでしょう。</p> <p>〔この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。〕</p>
評価方法	受講態度〔授業への参加態度、ディスカッションにおける発言、課題やグループワークへの取組み、プレゼンテーションなどから総合的に評価する。〕(100%)により評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上欠席した場合は失格とします(遅刻は2回で欠席1回とみなします。)。なお、特別欠席は欠席回数に含みません。 事前連絡できないやむを得ない事情がある場合を除き、欠席・遅刻する場合は、必ず事前にメール等で連絡してください。
授業計画	<p>下記は計画であり、内容や順番が変更になることがあります。</p> <p>第1回 ガイダンス  第2回 国際経済ケーススタディ・ワークショップ  第3回 国際経済ケーススタディ・ワークショップ  第4回 国際経済ケーススタディ・ワークショップ  第5回 (ゲスト講義)  第6回 国際協力ワークショップ  第7回 国際協力ワークショップ  第8回 国際協力ワークショップ  第9回 (ゲスト講義)  第10回 国際ビジネスワークショップ  第11回 国際ビジネスワークショップ  第12回 国際ビジネスワークショップ  第13回 (ゲスト講義)  第14回 グループワーク(興味のあるテーマごとのプレゼンテーション)  第15回 まとめ</p>
テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント・資料を配布します。
参考書	<p>長沢栄治・後藤絵美(編)『東大塾 現代イスラーム講義』(東京大学出版会・2023)  佐橋 亮『米中対立-アメリカの戦略転換と分断される世界』(中央公論新社・2021)  ルトガー・ブレグマン『Humankind 希望の歴史 上・下 人類が善き未来をつくるための18章』(文藝春秋・2021年)  重田ほか編・著『SDGs時代のグローバル開発協力論 開発援助・パートナーシップの再考』(明石書店・2019年)  日本弁護士連合会国際人権問題委員会編・著『詳説 ビジネスと人権』(現代人文社・2022年)  独立行政法人国際協力機構著『世界を変える日本式「法づくり」:途上国とともに歩む法整備支援』(文藝春秋企画出版部・2018年)  ハンス・ロスリングほか著『FACTFULNESS(ファクトフルネス) 10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣』(日経BP・2019年)  ブレイディみかこ著『他者の靴を履く アナーキック・エンパシーのすすめ』(文藝春秋・2021年)  アビジット・V.パナジー、エステル・デュフロ著『貧乏人の経済学 もういちど貧困問題を根っこから考える』(みすず書房・2012)  マシュー・サイド著『多様性の科学』(ディスカヴァー・トゥエンティワン・2021年)  その他、講師が指示したもの。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業では、ケーススタディやワークショップを行います(グループワークやプレゼンテーションが含まれます。)。また、グループワークを用いた振り返りを行います。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	弁護士としての実務経験やアジア諸国における国際協力の経験を豊富に有する教員が実践的な解説を行う授業です。
質問への対応方法	授業時間の前後及びオフィスアワーにおいて対応します。



フィードバックの方法	授業中のケーススタディやワークショップにおけるディスカッション、意見交換、課題、プレゼンテーションなどについては、授業の中でコメントします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	この授業では、ケーススタディやワークショップを中心に授業を進めます。受講生のみなさんは、事前に課題や資料に目を通し、ケーススタディやワークショップの準備をしてきてください。また、授業後には、その回の内容を整理し、振り返りを行ってください。また、グループワークの準備、調査・研究、調査結果・研究成果の報告の準備（レジメやプレゼンテーション資料の作成を含む。）などを行ってまいります。1回の授業につき必要な時間外学習は授業の前に2時間、授業の後に2時間が目安になります。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> <li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li> <li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> <li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li> </ul>
SDGs 17の目標（11～17）	<ul style="list-style-type: none"> <li>11. 住み続けられるまちづくりを</li> <li>12. つくる責任つかう責任</li> <li>13. 気候変動に具体的な対策を</li> <li>14. 海の豊かさを守ろう</li> <li>15. 陸の豊かさを守ろう</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> <li>17. パートナースHIPで目標を達成しよう</li> </ul>
PROGリテラシーの要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ul>
PROGコンピテンシーの要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>3. 統率力</li> <li>4. 感情制御力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>6. 行動持続力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ul>

開講科目名 Course	ミクロ経済学 / Microeconomics
時間割コード Course Code	20020
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	ブ ティ ビック リエン
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ブ ティ ビック リエン (経済学部)
授業の目標	<p>本講義の目的は以下の3点を挙げる。</p> <p>完全競争市場における消費者と生産者の行動に関するミクロ経済学の知識を図や式の表示を通じて理解して説明できる。</p> <p>ミクロ経済学の観点から見た、市場均衡のもつ「望ましさ」を理解して説明できる。</p> <p>最終的には、講義で得た知識を使って、新聞の経済記事をミクロ経済学の観点から理解できるようになる。</p>
授業の概要	<p>本講義は以下のことを学ぶ。</p> <p>ミクロ経済学の基本モデルである完全競争市場とその下での経済主体の行動を学ぶ。具体的に、完全競争と仮定される財・サービス市場における消費者（個人・家計）の効用最大化の行動、および生産者（企業）の費用最小化と利潤最大化の行動の分析を学ぶ。その上に、消費者と生産者が出会う市場（いわゆる、完全競争均衡）の分析を行う。</p> <p>財・サービスを供給する生産側について、市場参入企業が1社のみとなる独占市場における独占企業の行動を分析する。</p> <p>【重要1】本講義は「市場の経済学」の必修科目で利用された数学知識に加えて、数学の微分の理解が必要となる。しかし、微分の証明などの展開を必要最小限にして、その代わりにグラフによる分析に加えて、数式および数学の計算問題がたくさん出る。</p> <p>【重要2】本講義は「市場の経済学」のステップアップの知識を学ぶ。履修予定の学生には「市場の経済学」の成績「B」以上が望ましい。また、「市場の経済学」の知識を修得していない学生には当該科目の知識の復習を含み、多くの学習時間と努力が求められる。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>下記のことを総合評価して成績を評価する。</p> <p>1) 中間テスト (30%)</p> <p>2) 期末試験 (70%)</p> <p>詳細の説明は初回講義に行う。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1) 基本的に第1回から毎回ダブル出席をとる。 ダブル出席とは授業開始以降15分以内に出席を取るほか、授業の最後に理解チェックシート等を提出する。 ダブル出席のある授業回はどちらか出席記録がないと「欠席」になる。</p> <p>2) 欠席回数が全15回中に6回以上(欠席が6回に達した)学生は「失格」(つまり、期末試験の受験資格が失って、成績が「X」)になる。</p>
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨN</p> <p>第2回 数学補足：微分</p> <p>第3回 消費者の行動 (1)： 限界効用・無差別曲線・限界代替率・予算制約線</p> <p>第4回 消費者の行動 (2)： 消費量の決定，所得・価格変化による消費量の変化</p> <p>第5回 消費者の行動 (3)： 代替効果・所得効果・交差価格効果と需要曲線</p> <p>第6回 消費者の行動 (4)： 消費者の行動の復習</p> <p>第7回 生産者の行動 (1)： 生産関数、生産費用、限界費用</p> <p>第8回 生産者の行動 (2)： 企業の最適選択と供給曲線</p> <p>第9回 生産者の行動 (3)： 長期における企業の生産行動、規模の経済と生産費用</p> <p>第10回 生産者の行動 (4)： 生産者の行動の復習</p> <p>第11回 中間テストの復習</p> <p>第12回 中間テスト</p> <p>第13回 市場均衡と市場の効率性</p> <p>第14回 独占市場と独占企業</p> <p>第15回 演習問題と質疑応答</p>
テキスト	特に指定しません。下記の参考書に基づく講義ノートを配布する。
参考書	<p>1) スティーヴン・レヴィット/オースタン・ゲルズビー/チャド・サイヴァーソン [著]，安田洋祐 [監督]，高遠裕子 [訳] (2017) 『レヴィットミクロ経済学 基礎編・発展編』 東洋経済新報社</p> <p>2) N・グレゴリー・マンキュー [著]，足立英之/石川城太/小川英治/地主敏樹/中馬宏之/柳川隆 [訳] 『マンキュー経済学 I ミクロ編』 東洋経済新報社</p> <p>3) 大川光/家森信善 [著] (2016) 『ミクロ経済学の基礎』 中央経済社</p> <p>4) 安藤至大 [著] (2021) 『ミクロ経済学の第一歩』 [新版] 有斐閣ストウディア</p> <p>5) 田中久稔 [著] (2022) 『ミクロ経済学 超入門』 SB クリエイティブ</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>1) 授業終了後、教室で対応する。</p> <p>2) オフィスアワーに研究室で対応する。</p> <p>3) 上記以外の場合は、アポイントを取って、対応する。</p>
フィードバックの方法	<p>1) 授業終了後、教室で対応する。</p> <p>2) オフィスアワーに研究室で対応する。</p> <p>3) 上記以外の場合は、アポイントを取って、対応する。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>1) 本科目は「市場の経済学」の知識を前提にして進め、図表の分析と数式を「市場の経済学」よりも多く使う予定である。「市場の経済学」の知識を十分に理解されていない履修学生はこれらの知識の自習を含むかなりの努力が求められる。</p> <p>2) 本科目は各回授業の前後に密接な関係があるため、復習時間を特に多めに割いて、理解できるまで繰り返して復習する必要がある。</p> <p>3) 必要に応じて参考書に挙げたテキスト以外に自分が読みやすいミクロ経済学のテキストを探して、同時に学習するのを強くお勧めする。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	マクロ経済学 / Macroeconomics
時間割コード Course Code	20030
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	酒井 愛
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	酒井 愛 (経済学部)
授業の目標	<p>本講義では経済をマクロ的な視点から考察するための基礎理論を学びます。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;</p> <p>知識・理解の領域 マクロ経済学の主要な用語や経済指標を理解し、経済に関する記事や書物を正確に読み取れるようになる。</p> <p>技能の領域 マクロ経済学の基本的な分析ツールを習得し、受講生自身が活用できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 現実のマクロ経済の諸問題を論理的に考えることができるようになる。</p>
授業の概要	<p>経済分析の二本の柱の一つである「マクロ経済学」の基礎理論を学びます。マクロ経済学ではミクロ経済学で取り扱う個々の経済主体の行動の結果をいくつかの代表的な変数に集計し、その動きを分析します。マクロ経済学の入門科目である「国民経済と政府」とミクロ経済学の入門科目である「市場の経済学」で学習した知識をベースに講義は進められます。3年次以降の専門演習における学びに役立つ内容を念頭に置きますので、「国民経済と政府」に比べ、数式的な理解が増えるほか、経済成長にまつわるトピックや財政・金融政策の効果等についてもより詳しく学びます。講義担当者は分かりやすい講義を心がけ、随時質問にも応じますので、積極的に履修して下さい。</p> <p>「この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。」</p>
評価方法	小レポート (20%) 小テスト (30%) 期末試験 (50%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>【次の行為が発覚した場合には通告なく失格とします。】</p> <p>6回目の欠席がカウントされた。</p> <p>小レポート・小テスト等において、不正行為・剽窃行為を行った。</p> <p>小レポート・小テスト等において、受講生間での記載内容が酷似していることが発覚した。</p>

授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 財市場と貨幣市場の同時均衡（図および数式による理解） 第3回 乗数理論とIS-LM分析（再考） 第4回 財政政策とその効果 第5回 金融政策とその効果 第6回 ポリシー・ミックス 第7回 マクロ変数と統計データ 第8回 絶対所得仮説 第9回 ライフサイクル仮説 第10回 消費・貯蓄に関するその他の仮説 第11回 経済成長の源泉 第12回 人的資本 第13回 外生成長モデル 第14回 内生成長モデル 第15回 各種モデルのまとめ
テキスト	指定しません。
参考書	適宜紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メール（ai.sakai@nagoya-ku.ac.jp）にて受け付けます。 学生番号・氏名・科目名などを明記のうえご連絡下さい。
フィードバックの方法	小レポート・小テストについては翌週以降の講義の際に、出題の意図や解答におけるポイントを解説します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	「国民経済と政府」「市場の経済学」で学習した内容をよく確認しておいてください。経済理論の基礎を学ぶ講義であり、各講義回はそれまでの学習内容の積み重ねです。しっかりした土台に積み重ねることが肝要です。原則的には2時間の予習と2時間の復習を課すほか、準備学習として担当者から提示されるテーマやトピックを活用し、自発的に取り組む姿勢を心がけてください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 8. 働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	経済システム論 / Theory of Economic Systems
時間割コード Course Code	20040
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	定森 亮
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	定森 亮 (経済学部)
授業の目標	この講義では、主に19世紀以降、現代に至る「資本主義」の歴史を参考にすることで、21世紀という新しい時代に、私たちの生きる社会をどのように守り、維持し、そして作り上げて行くことができるのかを、国家や企業に限らず、地域、さらには身近な人間関係などの多様な観点から履修生が考えられるようになることを目的とする。
授業の概要	「資本主義」とは、一般的に、各人が自由に競争することで経済を活性化し、国の富を増大させる経済システムとして理解されている。「経済学の父」と呼ばれるアダム・スミスが生きた18世紀後半の時代には、確かに自由な競争が、社会全体の富裕をもたらし、多数の人々の生活水準の向上に貢献したことも事実である。しかし、19世紀になると、同じ競争社会は富の不平等を引き起こす原因ともなり、その対処策として社会主義的発想が提案されることになる。この意味でも、資本主義の歴史は、どこまでを自由な競争に任せ、どこから国家の介入が必要となるかをめぐり論争が繰り返されてきた歴史とも言える。この講義では、この「資本主義」を多様な観点から眺めることで、「より良き社会」を作り上げるのに求められる経済学、あるいは経済活動とは何かを、受講生と共に考えていく。
評価方法	学期中に3、4回程度予定しているコメントカード：30% 学期末試験：70%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>第1回 市場経済とは何か  第2回 貨幣とは何か  第3回 消費とは何か  第4回 恐慌とは何か  第5回 国家介入の必要性をめぐる論争  第6回 19世紀における産業社会の矛盾と社会主義思想の誕生  第7回 20世紀前半の資本主義：世界大恐慌と第二次世界大戦  第8回 20世紀後半の資本主義：1970年代以降の新自由主義  第9回 グローバリゼーションの是非について  第10回 21世紀における経済的格差の拡大  第11回 グローバルな市場で求められる「公正」の理念  第12回 情報技術の発展と消費活動の過熱  第13回 女性の社会的位置  第14回 環境問題と持続的な社会の模索  第15回 グローバリゼーションの時代における民主政治と経済的自由主義の均衡の模索</p> <p>授業内容は、履修者の関心と理解度に応じて変更する場合があります。</p>
テキスト	各回の授業でプリントを配布する予定。
参考書	松原隆一郎『経済思想入門』ちくま学芸文庫、2016。 ハジュン・チャン『ケンブリッジ式経済学 ユーザーズガイド』東洋経済、2015。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	講義中の質問は時宜を見計らって受け付ける。その他、授業内容も含めて質問がある際には授業終了後、もしくはオフィスアワーに受け付ける。
フィードバックの方法	学期中に複数回提出してもらおう予定のコメントカードに関しては、重要と思われるものを選んで授業内で講評を行なう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の講義の後で、内容を400字程度にまとめ、その際に自分が理解した点と疑問点を整理しておくことが役に立つ。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	NPO・NGO論 / A Theory of Civil Society Organizations
時間割コード Course Code	20060
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	森田 実
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	森田 実 (経済学部)
授業の目標	<p>NPO・NGOの基本的な知識を理解する。具体的な事例から、NPO・NGOの役割と市民社会のあり方を考察する。各自が関心をもつ分野におけるNPO・NGOについて理解を深め、自らが活動に参画する機会をもつ。</p> <p>知識・理解の領域 NPO・NGOの概念、歴史や社会的背景の基礎的な知識を習得できる。特に日本におけるNPOの活動状況や関連法制度について理解することができる。</p> <p>技能の領域 日本におけるNPOの活動、関連法制度が抱える課題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理して、その問題を解決できる能力を身に付けることができる。</p> <p>態度・指向性の領域 NPO・NGOに関する諸問題を自分の生活に結びつけて考えることができ、受講後も積極的にNGO・NPOの活動に関与できる。</p>
授業の概要	NPO・NGOの基礎について理解を深める。特に東海地方のNPOの活動事例を学びながら、多様化する社会問題の中でNPO・NGOの存在意義を理解し、関心のある社会活動に積極的に参加できる知識と主体性を身に付ける。
評価方法	レポート (授業期間中に2回: 提出必須) : 40% 期末試験: 60%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義で指示のあった課題に取り組まない者、無断欠席4回以上の者は失格とする。</li> <li>・代理出席などの不正な出席が確認された場合、不正が1回であっても失格とする。</li> <li>・講義開始後20分を越えての入室は認めない。授業態度等で講義の妨げになると判断した場合、退出させることがある。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス: (講義全体の内容、授業の進め方、評価方法の説明)</p> <p>第2回 NPO・NGOとは何か (概念: 参考資料等によりイメージをつかむ)</p> <p>第3回 NPO・NGOの歴史と社会的背景</p> <p>第4回 市民社会の構築とNPO・NGOの関係</p> <p>第5回 日本のNPOの活動分野と活動実績</p> <p>第6回 日本のNPO関連法制度とその運用 (1) ボランティア、行政との関係</p> <p>第7回 日本のNPO関連法制度とその運用 (2) 地域自治組織、コミュニティとの関係</p> <p>第8回 活動事例紹介 (1)</p> <p>第9回 活動事例紹介 (1)</p> <p>第10回 NPOの活動事例 (1) に関するリアクション</p> <p>第11回 活動事例紹介 (2)</p> <p>第12回 活動事例紹介 (3)</p> <p>第13回 NPOの活動事例 (2)、(3) に関するリアクション</p> <p>第14回 NPO・NGOが直面している問題と課題</p> <p>第15回 まとめ (NPO・NGO論の復習と要点の整理)</p>



テキスト	必要に応じて資料（プリント）を配布する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進士五十八（2008年）「ボランティア時代の緑のまちづくり 環境共生都市の実際」、東京農大出版会</li> <li>・山本信次編著（2003年）「森林ボランティア論」、(株)日本林業調査会</li> <li>・その他、必要に応じて授業中に提示する。</li> </ul>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	含まない。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	NPO法人の事務局長として10年以上管理運営に従事している教員が、実務経験を活かしながらNGO・NPOの社会的な存在意義や直面する課題について、研究者としての客観的な視点を交えながら授業を行う科目である。
質問への対応方法	質問は授業後、もしくはメール（morita-m@nagoya-ku.ac.jp）にて対応する。
フィードバックの方法	履修生全員が内容を共有できるように取りまとめて授業中に発表する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際にNPO・NGO活動へ参加することを必須とする。</li> <li>・授業ごとに紹介する文献やウェブサイト、新聞記事等を題材に、各回につき予習（2時間）と復習（2時間）すること。</li> </ul>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 住み続けられるまちづくりを</li> <li>12. つくる責任つかう責任</li> <li>13. 気候変動に具体的な対策を</li> <li>14. 海の豊かさを守ろう</li> <li>15. 陸の豊かさも守ろう</li> <li>17. パートナーシップで目標を達成しよう</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 協同力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

開講科目名 Course	経済政策 / Economic Policy
時間割コード Course Code	20083
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	石川 啓雅
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	石川 啓雅 (経済学部)
授業の目標	<p>本講義では、現代経済(資本主義経済、市場経済)の仕組み及び現実と経済政策の関係について学び、各分野においてどのような政策が行われているのかを知り、これから必要とされる経済政策を考えていく際の前提となる知識と課題を読み解くリテラシー能力の修得を目指す。</p> <p>知識・理解の領域 なぜその政策が必要なのか、どうして出てきたのかについて、経済の仕組みや歴史と関わらせて理解できる。</p> <p>思考判断の領域 経済の理論的な仕組みや歴史的現実から、眼前で起きている問題や課題を整理し、社会や時代が必要としている経済政策の方向性等を考え、表現することができる。</p> <p>技能の領域 経済統計の読み方(リテラシー)を身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>資本主義、市場経済というのが、我々が身をおいている社会だ。この社会は、生存や社会生活に必要なものを「商品」として生産し、取引し、消費する歴史的な経済システムである。商品は「貨幣」(カネ)とセットであり、そうであるがゆえに様々な問題を引き起こす。我々が直面している様々な経済問題は根源的にはこのシステムに起因し、だから経済政策が存在するわけだ。そこで、このことを踏まえて、本講義では、財政、金融、労働、社会保障・福祉等々の様々な経済政策の背景や特徴について学び、現代経済の仕組み・現実と経済政策の関係について理解する。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕 本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>講義期間中のレポート(1回) : 50%</p> <p>定期試験 : 50%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	止むを得ない場合(公認欠席)を除き、5回以上の欠席をした場合、評価を受ける資格を失うものとする。

授業計画	第01回 経済政策論の課題 - 資本主義市場経済と経済政策 - 第02回 現代経済政策の歴史的地位 - 経済政策の歴史 - 第03回 現代日本の経済政策 - 「失われた30年」と経済政策 - 第04回 財政政策 - 財政の役割・機能と現状 - 第05回 金融政策 - 金融の役割・機能と金融政策の課題 - 第06回 労働政策 - 労働力の再生産と資本主義市場経済 - 第07回 社会保障・福祉政策 - 生活のセーフティネットとwell-being - 第08回 対外経済政策 - 貿易政策と対外援助政策を中心にして - 第09回 環境政策 - 地球環境・温暖化問題をめぐって - 第10回 産業政策 - 産業及び産業構造の変容をめぐって - 第11回 食料・農業政策 - 食料問題と農業構造政策 - 第12回 商業・流通政策 - 商業の役割と流通規制緩和をめぐって - 第13回 中小企業政策 - 社会的企業としての中小企業 - 第14回 地域政策 - 地域格差の是正、地域再生をどうするか - 第15回 社会の「変革」と経済政策 - 新しい経済を目指して -
テキスト	講義資料を事前にweb配信する(概ね1週間前。初回は除く)。
参考書	岡田智弘・岩佐和幸編『入門 現代日本の経済政策』(法律文化社、2016) 田代洋一・萩原伸次郎・金沢史男『現代の経済政策(第4版)』(有斐閣ブックス、2011)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	可能な範囲で随時返答・コメントする。
フィードバックの方法	講義期間中のレポート(1回)：実施翌週に返却 定期試験：模範解答を後日配信
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習は事前に配信する資料から理解に必要なと思われる情報を教科書・参考書から抽出してノートを作成する。復習は講義内で議論したこと、わかったことをノートに追記し、各回の要点筆記を行う。各2時間程度の学習が望ましい。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	雇用と労働 / Employment & Labor
時間割コード Course Code	20093
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	木村 牧郎
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	木村 牧郎 (経済学部)
授業の目標	<p>雇用と労働における実態やその背景を理解し、情報化やネットワーク化が進む今後の社会における雇用・労働の変化について具体的なイメージをつかめるようになることを目指す。</p> <p>【知識・理解の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用や労働の実態や近年の政策的変化について具体的な事例に即して理解することができる。</li> <li>・情報化やネットワーク化が進む社会における雇用・労働の変化を理解することができる。</li> </ul> <p>【技能の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用や労働に関する新聞記事などの報道を理解できるようになる。</li> <li>・アルバイト選びや就職活動の際に、希望就職先の働き方について具体的なイメージをもつことができる。</li> </ul> <p>【態度・志向性の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革など、近年の労働政策に対して関心が持てるようになる。</li> <li>・ワークルールへの理解を通じて、今後の職業人生を具体的にイメージできるようになる。</li> </ul>
授業の概要	<p>雇用と労働に関する職場の実態や政策的課題とともに近年の労働市場における変化や動向について学習する。またその背景にある社会的変化、とりわけ情報化やネットワーク化についてどのような関連があるかを学ぶ。こうした学びのなかでは最新の統計や職場の実態に関する報道内容にふれつつ、アジアやヨーロッパなど国際比較の観点も取り入れる。職場には賃金やそれ以外の労働条件、雇用形態などさまざまなワークルールが存在する。こうしたワークルールの存在が今後の職業人生にどのように関わってくるのかを学ぶ。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	毎回の授業内容の振り返りを目的としてe-learning上から提出する課題のスコア(75%)と授業の前半(第7回終了時)と後半(第15回終了時)に同じくe-learning上から提出する「まとめの課題」のスコア(25%)により総合的に評価する。毎回の課題提出をもって出席扱いとする。提出した課題は翌週には正答とスコアをつけてオンライン上で返却する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席が5回を超えた場合には失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。受講者の理解を優先し、講義計画の順序を変更する場合もある。
テキスト	なし レジュメと資料をe-learning上から配信する。
参考書	森岡孝二著『雇用身分社会』岩波新書、2015年 宮本太郎著『共生保障<支え合い>の戦略』岩波新書、2017年 前藤若菜著『物流危機は終わらない?暮らしを支える労働のゆくえ』岩波新書、2018年

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質疑応答はつぎの三通りの方法で行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ e-learningシステムへの書き込みと応答</li> <li>・ 課題学習の感想・質問欄への書き込みと応答</li> <li>・ 担当教員へのメール</li> </ul>
フィードバックの方法	上記の質問への応答は授業期間の翌週までに行う。また、各自の課題学習の成果についても授業期間の翌週までに返却する。課題学習については成績（スコア）表示をして返却し、学習の理解度を可視化する。感想欄への書き込みがあった課題に対してはコメントをつけて返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習は、あらかじめ提示された次回授業テーマに関する新聞記事や報道動画に目を通し、分からない用語等を調べる。復習は課題学習の解き直しをして、授業動画を再視聴する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	授業の目的と目標、授業を受ける心がまえについて説明するとともに、人が働く目的や心がまえについて学ぶ。事前学習としてe-learningのガイダンス資料を熟読する。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しをする。	
2	労働市場の機能と特徴	労働市場とは何か、その特徴と役割、日本における労働市場の規模について解説するとともに、労働政策の必要性や課題について学ぶ。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しを行う。	
3	正社員という働き方	正社員の定義と数、その働き方の特徴について解説するとともに、正社員雇用の原理であるメンバーシップ型雇用の特徴について学ぶ。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しをする。	
4	賃金体系と水準の決め方	正社員の賃金体系である年功型賃金の仕組みや歴史について解説するとともに、近年における成果主義への移行や春闘の意義について学ぶ。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しをする。	
5	労働時間の実態と政策的課題	日本の長時間労働の実態と原因、法律的な根拠について解説するとともに、近年の働き方改革をめぐる政策的課題について学ぶ。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しをする。	
6	雇用形態と格差	非正規雇用の種類や正規雇用との違い、近年における増加の背景について解説するとともに、格差是正に向けた課題について学ぶ。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しをする。	
7	日本型雇用の特徴	コロナ禍で際立った雇用管理における日米間の違いをヒントに日本型雇用の特徴を解説するとともに、その課題と展望について学ぶ。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しをする。	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
8	前半まとめテストと後半授業に向けたガイダンス	情報化・ネットワーク化とは何かについて解説するとともに、今後の進展について学ぶ。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しをする。	
9	産業社会と階層	産業社会におけるシステムの重要性を解説し、システムのなかでの仕事の特徴や就業構造について学ぶ。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しをする。	
10	情報化による影響：物流危機と働き方	ネット通販の拡大と物流危機の関わり、物流業界の働く実態について学ぶ。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しをする。	
11	情報化による影響：アニメ産業の構造と働き方	情報化社会における成長産業としてのアニメ産業に注目し、同産業での働き方を含めた光と影について学ぶ。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しをする。	
12	情報化による影響：テレワークの進展	テレワークの定義と実態、導入に向けた日本的雇用の課題について学ぶ。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しをする。	
13	情報化による影響：シェアリング・エコノミーでの働き方	情報デジタル化のなかで進むシェアリング・エコノミーとそのなかで働き方がどのように変化するかについて学ぶ。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しをする。	
14	新たな働き方へ	正社員雇用を前提とした働き方の限界について解説し、情報化とネットワーク化が進む社会における新たな働き方の意義について学ぶ。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しをする。	
15	まとめ	受講者からの各回の感想をフィードバックし、これまでの授業をふり返るとともに、社会人として働く際に心がけることが何かを学ぶ。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しをする。	

開講科目名 Course	社会政策と社会保障 / Social Policy and Social Protection
時間割コード Course Code	20094
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	木村 牧郎
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	木村 牧郎 (経済学部)
授業の目標	<p>社会政策と社会保障について基礎的な知識を習得し、近年の政策的課題と諸背景について理解できるようになることを目指す。</p> <p>【知識・理解の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会政策や社会保障の基本的な役割や仕組みについて理解できるようになる。</li> <li>・近年の政策的な動向や議論、それらの諸背景について理解できるようになる。</li> </ul> <p>【技能の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会政策や社会保障に関する新聞記事などの報道を理解できるようになる。</li> </ul> <p>【態度・志向性の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働くことと生活することの密接な関係について関心が持てるようになる。</li> <li>・人の生きづらさにふれることで、将来の自分の生き方に向き合うことができるようになる。</li> </ul>
授業の概要	<p>社会政策や社会保障に関わる諸政策が資本主義社会の中でなぜ必要とされるのかを理解したうえで、それらの政策が十分に機能しているかどうか、どのような課題があるのかを学ぶ。最新の統計や新聞記事の報道内容にふれつつ、アジアやヨーロッパなど国際比較の観点も取り入れる。医療、介護、失業など個々のテーマについてどのような生きづらさがあるのかを学び、個人では解決しきれないことを社会的にどのように解決できるのかを学ぶ。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業内容の振り返りを目的として毎回e-learning上から提出する課題のスコア（75%）と第15回授業で課す「まとめの課題」のスコア（25%）により評価する。e-learning上から提出する課題の提出をもって出席扱いとする。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席回数が5回を超えた場合、失格とする。
授業計画	各講義回の予習・復習は授業計画表を参考にすること。なお受講者の理解を優先し、講義計画の順序を変更する場合もある。
テキスト	なし レジュメと資料をGoogle・クラスルームより配布する。
参考書	久本憲夫著『日本の社会政策』ナカニシヤ出版、2019年 棕野美智子・田中耕太郎著『はじめての社会保障』有斐閣アルマ、2017年
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない



アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	NPO職員として精神障害者の生活支援に携わった経験から、実際の障害者が暮らしと就労を両立させるためにどのような課題に直面しているかを解説する。
質問への対応方法	質疑応答はつぎの三通りの方法で行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ e-learningシステムへの書き込みと応答</li> <li>・ 課題学習の感想・質問欄への書き込みと応答</li> <li>・ 担当教員へのメール</li> </ul>
フィードバックの方法	上記の質問への応答は授業期間の翌週までに行う。また、各自の課題学習の成果についても授業期間の翌週までにオンライン上で返却する。e-learning上で提出する課題学習についてはスコア表示をして返却し、学習の理解度を可視化する。この課題に設けられた感想・質問欄への書き込みがある場合には担当教員からコメントをつけて返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習は、あらかじめ提示された次回授業テーマに関する新聞記事や報道動画に目を通し、分からない用語等を調べる。復習は課題学習の解き直しをして、授業動画を再視聴する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	授業の目的や計画、受講に際しての心がまえを説明し、この授業全体のテーマである「生きづらさ」について議論する。事前学習としてe-learningのガイダンス資料を熟読する。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しをする。	
2	日々の暮らしと社会政策・社会保障	社会政策および社会保障とは何かを説明し、これらの制度・仕組みが我々の日常に結びついているかを議論する。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しを行う。	
3	日本人の働き方と家族	メンバーシップ型雇用といわれる正社員の働き方が個々人のライフイベントや家族モデルの形成にどのように関連しているかを議論する。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しを行う。	
4	年功型賃金と社会政策	年功型賃金の正体としての生活給思想の歴史的経緯や実態について説明し、成果主義への移行や春闘の形骸化といった変化がどのような社会政策上の課題を生じさせているかを議論する。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しを行う。	
5	ワーク・ライフ・バランスと社会政策	ワーク・ライフ・バランスが注目される社会的背景と日本における実態について説明し、国際比較の観点から日本の課題について議論する。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しを行う。	
6	失業の実態とセーフティネット	失業に関する統計上の概念やその社会的影響について説明し、雇用保険制度を中心としたセーフティネットの課題について議論する。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しを行う。	
7	貧困と最低賃金、公的扶助	貧困の基本的概念とその対策としての生活保護制度の概要について説明し、最低賃金との関連から日本における最低生活保障の課題について議論する。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しを行う。	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
8	日本の医療政策	医療政策の中心的制度である医療保険制度の概要について説明し、医療保険財源や健康格差といった諸課題について議論する。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しを行う。	
9	老後の暮らしと年金	老後の暮らしを支える年金制度の概要について説明し、高齢化社会における財源的な課題とともに、高齢者就労との関連から今後の課題について議論する。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しを行う。	
10	家族のあり方と介護保険制度	高齢化社会の進行にともなう認知症患者の増加や介護保険制度の概要について説明するとともに、家族形態が多様化するなかで高齢者介護の課題について議論する。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しを行う。	
11	日本の住宅政策	日本の住宅政策の中心である持ち家促進が継続している背景について説明するとともに、家族形態の多様化や就労の不安定化が進むなかで、従来の住宅政策の矛盾や新たな住宅セーフティネットの構築について議論する。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しを行う。	
12	教育と若者の職業移行	日本の教育制度がメンバーシップ型雇用のもとでの新卒一括採用といかに連動しているかを説明するとともに、国際比較の観点からおもに大卒採用の矛盾と課題について議論する。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しを行う。	
13	少子高齢化、ジェンダーと社会政策	少子高齢化の社会的背景や女性就労の現状との関連性について説明し、性別に関わりなく働きやすい社会の構築に向けた課題について議論する。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しを行う。	
14	障害者の雇用と福祉	障害者の生活実態や抱えている生きづらさ、障害者雇用制度の概要について説明するとともに、地域生活を送るうえでの本当の「自立」とは何かについて議論する。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しを行う。	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	まとめ	全15回の授業内容をふり返るとともに、新聞記事に掲載された実例をいくつか取り上げて、この科目の中心的なテーマである生きづらさについて考察を深める。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しを行う。	

開講科目名 Course	財政学 / Theory of Public Finance
時間割コード Course Code	20103
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	齋藤 敦
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	齋藤 敦 (経済学部)
授業の目標	<p>この授業では、有権者として財政の現状を理解し将来の姿について構想する力を身につけることを目指します。</p> <p>財政に関する新聞記事等を読んで、その内容を正確に理解し、自分の意見を的確に表現できるようになることが目標です。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財政に関する基本的な用語や概念を正しく知ることができる。</li> <li>・財政に関わる諸制度の基本的な仕組みや問題を知ることができる。</li> <li>・財政を理解することができる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財政をめぐる諸問題を自分の問題として考えることができるようになる。</li> <li>・制度改正や制度改革の動向に関心を持つようになる。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財政に関する新聞記事等の報道内容のある程度理解できるようになる。</li> <li>・話の要点や自分の考えをまとめ、文章にして説明することができるようになる。</li> </ul>
授業の概要	<p>講義を通じて財政について関心を高め理解を深めます。日本財政を主に取り上げ、制度や実際を知ってもらい問題の所在を理解してもらいます。</p> <p>また、財政学の基礎知識を身につけます。財政学が様々な財政現象をどう理解してきたか、用語や理論を紹介します。</p> <p>この科目の位置づけについては本学HPのナンバリングを参照してください。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本は試験(80%)によって評価しますが、平常点(20%)も加味します。中間小レポート課題を課すこともあります。</li> <li>・基本的な用語や概念を正しく理解できているか、重要論点を把握できているか、これらを他者に伝えるように説明できるか等を評価基準とします。</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業の妨げになる行為を禁止します。授業の妨げになる行為は失格になります。

授業計画	<p>以下のテーマと順序で授業を進める予定にしていますが、受講者の理解状況等に応じて適宜変更していきます。第1回には講義のガイダンス、オリエンテーションも行うので、受講希望者は出席が必要です。</p> <p>第1回 財政とは何か  第2回 国の予算の仕組み  第3回 租税とは何か  第4回 公共支出の役割  第5回 国の予算の主要な経費(1) 公共事業関係費  第6回 国の予算の主要な経費(2) 社会保障関係費  第7回 国の予算の主要な経費(3) 社会保障関係費(その2)  第8回 国の予算の主要な経費(4) 文教・科学技術振興費、その他  第9回 国の予算の主要な経費(5) 国と地方の財政関係  第10回 公債  第11回 財政政策とマクロ経済  第12回 財政政策とマクロ経済(その2)  第13回 財政投融资と公企業  第14回 日本の戦後財政運営のあゆみ  第15回 まとめ～日本財政の課題</p>
テキスト	池上岳彦編(2015)『現代財政を学ぶ』有斐閣ブックス
参考書	植田和弘、諸富徹編(2016)『テキストブック現代財政学』有斐閣ブックス その他、授業の中で適宜提示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	国の予算編成実務の経験がある教員が、予算編成過程における実務上やあるいは政治過程などを通じる特徴などについて、また、それぞれの主要な経費の特性などに応じた特徴的な事柄などについて、できるだけ触れて解説することとします。
質問への対応方法	質問へは主に授業の中で対応します。
フィードバックの方法	コメント等、適宜、授業の中で行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回について、授業プリントを勉強して授業ノートをしっかり仕上げてください。指示された予習等の活動にもよく取り組んでください。 理想的には、目安として授業時間の2倍程度の自学が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう
SDGs 17の目標(11～17)	11. 住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	金融論 / Finance
時間割コード Course Code	20113
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	谷内 陽一
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	谷内 陽一 (経済学部)
授業の目標	金融のしくみを学び、実生活で利用・活用できるようになることを目指す。  <学習成果> 知識・理解の領域 金融の基本的なしくみを正しく理解できる 技能の領域 金融の基本的なしくみを第三者に正しく説明することができる 態度・志向性の領域 金融あるいは金融商品に関する意思決定を独力で行うことができる
授業の概要	現代社会において、金融は企業のビジネスだけでなく個人の生活においても欠かすことのできない社会インフラと化している。本講義では、金融の基本的なしくみを解説するとともに、わが国の金融システムが企業・家計に及ぼす影響等について講義する。 毎回の授業の際に小テスト・小レポートを実施する(10分程度)。小テスト・小レポートを提出しなかった場合は欠席扱いとする。 この科目の位置づけについては、本学HP のナンバリングを参照すること。
評価方法	授業内での小テスト・小レポート： 30% 期末試験： 70% 詳細は第1回授業(オリエンテーション)の際に案内する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	全15回中6回以上の欠席(9回以下の出席)で失格とする。

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：金融論で何を学ぶか</p> <p>第2回 金融機関 銀行（預金取扱機関）</p> <p>第3回 金融機関 保険・証券</p> <p>第4回 金融機関 その他</p> <p>第5回 貨幣とは</p> <p>第6回 金利と金融市場</p> <p>第7回 金融システム</p> <p>第8回 金融政策</p> <p>第9回 ファイナンス理論 リターン・リスク、現在価値・将来価値など</p> <p>第10回 ファイナンス理論 ポートフォリオ理論、共分散、相関係数など</p> <p>第11回 金融商品 債券、株式、デリバティブ</p> <p>第12回 金融商品 預貯金、投資信託、NISA</p> <p>第13回 金融と年金制度</p> <p>第14回 わが国の金融の歴史と直近の動向</p> <p>第15回 本講義のまとめ</p> <p>受講者の理解度合いに応じて授業の順序または内容を変更する場合あり</p>
テキスト	指定なし（講師作成のレジユメを使用する）。
参考書	<p>藤木裕（2022）『入門テキスト 金融の基礎（第2版）』東洋経済新報社</p> <p>家森信善（2022）『金融論（第3版）ベーシック+』中央経済社</p> <p>上記のほか、授業の中でも適宜紹介する。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	年金基金、銀行、生命保険会社にて私的年金（企業年金・個人年金）の制度・財政運営や資産運用等の業務に従事してきた教員が、金融・ファイナンスに関する理論的体系および実務経験に基づく具体的事例を踏まえて、学術・実務両面の視点から幅広く講義する。
質問への対応方法	<p>授業終了後またはメール等により対応する。</p> <p>詳細は第1回授業（オリエンテーション）の際に案内する。</p>
フィードバックの方法	同上
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>予習は義務付けないが、必要に応じて事前に参考書に目を通すと理解がより深まる。</p> <p>復習に代えて、毎回の授業の際に小テスト・小レポートを実施する。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	国際経済論 / International Economics
時間割コード Course Code	20133
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 邦彦
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 邦彦 (経済学部)
授業の目標	<p>本講義では、国際貿易に関する基礎理論を理解し、経済学的な視点や考え方、理論モデルやフレームワークを学ぶことで、世界経済が直面する現象や問題についても、その因果関係を理解できること。</p> <p>さらに、それらの諸問題に対しての解決策を身につけること。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貿易自由化によってもたらせられる利益を理解できる。</li> </ul> <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際貿易に関する専門用語が理解でき、世界経済に対する関心が高まる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際経済の状況や対外経済関係について、経済学的視点で考えることができる。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の経済情勢に関するニュースが理解できる。</li> </ul>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的にスライドを用いた講義形式で進めていく。その際に、理解しやすいよう具体的事例や図解を用いて説明を行う。</li> <li>・履修上の注意：ミクロ・マクロ経済学の基礎知識、及び経済学で用いられる数学の基礎知識を前提として講義を行う。履修者はミクロ経済学及び経済数学に関連する基礎科目を既に履修済みであることが望ましい。</li> <li>・履修者の習熟度の確認のため、小テストを実施する。</li> </ul>
評価方法	小テスト、レポート等 30% 定期試験 70%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	第1回 インTRODクシヨン 第2回 比較優位と分業の利益 第3回 比較優位と国際貿易 第4回 貿易利益 第5回 比較優位の決定要因 第6回 産業間貿易と産業内貿易 第7回 規模の経済と製品差別化 第8回 輸入関税・輸入割当・生産補助金の効果 第9回 保護貿易政策 第10回 世界貿易体制 第11回 サービス貿易の現状 第12回 地域貿易協定 第13回 国際要素移動 1: 多国籍企業の直接投資および M&A 第14回 国際要素移動 2: 労働力の国際移動 第15回 貿易と環境
テキスト	特に指定しないが、下記の参考書に基づくスライドを配布する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石川城太・椋寛・菊地徹『国際経済学をつかむ 第2版』有斐閣、2013年</li> <li>・古沢泰治『国際経済学入門』新世社、2022</li> <li>・浦田秀次郎・小川英治・澤田康幸『はじめて学ぶ国際経済』有斐閣、2011年</li> <li>・山形浩生・守岡桜[訳]『クルーグマン国際経済学 理論と政策 上・貿易編』丸善出版、2017年</li> </ul>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	随時対応。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	準備学習として、記載された参考書の関連する箇所を一読しておくことが望ましい。授業後は、スライドを用いて復習することを強く勧める。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	経済史 / Economic History
時間割コード Course Code	20146
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	安部 伸哉
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	安部 伸哉 (経済学部)
授業の目標	1) 現代社会が過去からの延長線上に形成されていることを理解する。 2) 現在の特徴や諸問題に対して、経済史の視点から考えて見ようとする。
授業の概要	この講義は、「連続と断絶」という経済史の視点に立ち、1600年から1930年代までの約300年間の日本経済の歩みを学びます。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	授業内容の振り返りを目的として、毎回Googleform上で提出する授業の感想コメント(40%)と、第5・8・11・15回で課す予定の小テスト(60%)によって評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席回数が5回を超えた場合、失格とする。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 近世東アジアの国際情勢 第3回 徳川社会の農業生産と市場経済化 第4回 徳川時代の金融・財政政策 第5回 幕末開港と開放経済への転換 第6回 明治政府の財政・金融政策 第7回 明治政府の産業政策 第8回 「大隈財政」と「松方財政」 第9回 企業勃興と日清戦後経営 第10回 日露戦後経営と植民地の動向 第11回 補論 第12回 第一次世界大戦と日本経済 第13回 1920年代の金融・財政政策 第14回 「高橋財政」と大衆消費社会の到来 第15回 補論 * 講義内容は受講生の関心に基づき変更になる可能性があります。
テキスト	資料をGoogleclassroom上で配布する。
参考書	沢井実・谷本雅之 [2016] 『日本経済史 近世から現代まで』, 有斐閣。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	補論の時間を使って質問に対応します。
フィードバックの方法	感想コメントに基づき、次回の授業でフィードバックさせます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1) 予習および準備学習: 事前に配布資料に目を通しておきましょう。 2) 復習: 講義内容を復習しながら、自分の言葉で説明してみましょう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	6. 行動持続力

開講科目名 Course	経済学史 / History of Economic Thought
時間割コード Course Code	20153
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	定森 亮
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	定森 亮 (経済学部)
授業の目標	本講義の目標は、今日の日本の大学において学ばれている社会科学が、いかなる歴史的、文化的背景のなかで生まれ、それがいかなる役割を果たしてきたかを知ると同時に、これからの時代にいかなる役割を果たしうるかを共に考えていくことにある。
授業の概要	日本は、明治期に国家の文明化、つまりは近代化を目的としてヨーロッパの学問を取り入れた。本講義は、現代においてヨーロッパ文明の内容を問うことが、日本の社会の基礎を問うことといかに密接不可分に結び付いているかを受講者がより深く理解できるようになることを目標とする。 この目標を念頭に、本講義では、近代ヨーロッパ文明の基礎が形成された15世紀のイタリア・ルネサンスの時代から18世紀のイギリス、フランスを中心とする啓蒙の時代を経て、20世紀初頭に至る思想家たちを取り扱う。この長い時代を通じて、どのようにして人間、社会、国家に関する認識が精緻なものになり、そこから「経済学」が形成されていったのかを明らかにする。
評価方法	学期中に3、4回程度予定しているコメントカード：30% 学期末試験：70%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第1回 近代ヨーロッパ文明社会のなかの「経済学」 ：社会・歴史・文明とは何か？</p> <p>第2回 ハンナ・アーレント『人間の条件』における近代社会批判 ：20世紀、第二次世界大戦後の観点から</p> <p>第3回 ニッコロ・マキアヴェッリにおける古代共和主義思想の発見 ：16世紀のイタリア・ルネサンスにおける「政策科学」の誕生</p> <p>第4回 ジェイムズ・ハリントンにおける政治権力と富の配分の関係 ：17世紀イギリスでの共和主義思想の伝達</p> <p>第5回 17世紀、イギリス重商主義の「合理性」と植民地支配の拡大 ：トマス・マン、ジョサイア・チャイルド、ウィリアム・ペティ</p> <p>第6回 デイヴィッド・ヒュームの文明社会論と近代的統治機構の確立 ：商業、財政制度、出版印刷の発展</p> <p>第7回 モンテスキューの立憲思想と18世紀における商業の発展</p> <p>第8回 モンテスキューとヒュームにおける世界商業の分析と「人間性」認識の相違</p> <p>第9回 アダム・スミスにおける道徳哲学の一分野としての経済学 ：『道徳感情論』から『国富論』への展開</p> <p>第10回 スミス『国富論』における分業の原理と経済的自由の体系</p> <p>第11回 英仏戦争終結後の穀物法をめぐるリカードとマルサスの論争 ：自由貿易と保護主義</p> <p>第12回 マルクスの資本主義批判と社会運動の組織化</p> <p>第13回 ケインズにおける政府による市場介入の提案の意味 ：大恐慌期における「経済学」再考</p> <p>第14回 ハイエク：中央集権国家批判と自生的秩序の理想</p> <p>第15回 総論 グローバルな時代における資本主義の再検討と公正への問い ：経済格差・環境問題・女性の社会的位置、性的マイノリティ</p>
テキスト	各回の授業でプリントを配布する予定。
参考書	ロバート・L・ハイルブローナー『入門経済思想史 世俗の思想家たち』 八木甫、松原隆一郎ほか訳、ちくま学芸文庫、2001
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	講義中の質問は時宜を見計らって受け付ける。その他、授業内容も含めて質問がある際には授業終了後、もしくはオフィスアワーに受け付ける。
フィードバックの方法	学期中に複数回提出してもらう予定のコメントカードに関しては、重要と思われるものを選んで授業内で講評を行なう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の講義の後で、内容を400字程度にまとめ、その際に自分が理解した点と疑問点を整理しておくことが役に立つ。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>1. 貧困をなくそう</p> <p>10. 人や国の不平等をなくそう</p> <p>2. 飢餓をゼロに</p> <p>3. すべての人に健康と福祉を</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>5. ジェンダー平等を実現しよう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11. 住み続けられるまちづくりを</p> <p>12. つくる責任つかう責任</p> <p>16. 平和と公正をすべての人に</p> <p>17. パートナースhipで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	地域政策 / Regional information
時間割コード Course Code	20180
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	村山 徹
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	村山 徹 (経済学部)
授業の目標	<p>本講義では、公共政策に関する知識・理論を学び、危機管理政策など事例を通じて課題解決の具体的な手法について習熟する。</p> <p>知識・理解の領域 地域の課題解決は誰がどのように行っているのかを知ることができる。また、自身が地域課題解決に果たせる役割などについて考えることができる。</p> <p>技能の領域 課題解決のための政策アイデア具体化の方法を身に付けることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 自身が居住する地域、就学・就業する地域が抱える諸問題について興味を持つことができる。</p>
授業の概要	<p>地域にはさまざまな課題が存在する。経済不況、社会的貧困、工業生産拡大がもたらす環境破壊、異常気象などによる自然災害など多様である。そして、これらの地域課題を解決する手法として「政策」がある。政策の担い手は行政が中心であるが、近年では民間企業、NPO法人、町内会・自治会など多様化している。</p> <p>本講義は、多様化する政策の策定過程や策定方法などを対象とする「公共政策」について講義し、危機管理などを具体的な政策例を通じて考える。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>参加態度 (20%) + 評価テストまたはレポート (80%)</p> <p>理解度確認テストやレポート課題を予定する。評価の詳細については、第1週ガイダンスにて案内する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上の無断欠席は、テスト受験・レポート提出の資格を失うものとする。やむを得ない欠席などの場合は、必ず事前に連絡・相談すること。

授業計画	<p>第1回 ガイダンス、「地域」について考える  第2回 地域政策の変遷  第3回 政策の目的と公共  第4回 政策手段と合理的選択  第5回 行政計画と政策評価  第6回 市町村合併と広域連携  第7回 地方自治とガバナンス  第8回 政策がめざす規範・価値とは？  第9回 分配における公平性  第10回 効率性を見極める  第11回 安全安心と自由  第12回 危機管理政策（1）災害対応と制度構築  第13回 危機管理政策（2）防災情報の共有  第14回 危機管理政策（3）地域防災力と復旧・復興  第15回 まとめ</p> <p>第2回から第7回までは「基礎知識」、第8回から第11回が「理論」、第12回から第14回が「事例」。ただし、講義内容は状況によって変更します。</p>
テキスト	テキストは使用しない。資料等は授業中に配布する。
参考書	秋吉貴雄ほか『公共政策学の基礎』有斐閣ブックス，2010年 宮本健一『公共政策のすすめ』有斐閣，1998年 林宣嗣ほか『地域政策学の経済学』日本評論社，2018年 山崎朗ほか『地域政策』中央経済社，2016年 村山徹『新・災害と安全の情報—日本の災害対応の展開と災害情報の質的転換』晃洋書房，2020年
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	講義内容の理解を促進するために簡単なエクササイズやリアクションペーパーを授業内もしくは宿題として課すことがある。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	市役所付置の自治体シンクタンクでの実務経験を有する教員が、行政の実践を紹介しながら地域課題の解決について解説する科目である。
質問への対応方法	分からないことなどは積み残すことなく、積極的に質問・相談してください。授業内で質問対応などオフィスアワーを紹介します。
フィードバックの方法	特になし
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	週2時間程度の予習復習することが望ましい。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力



開講科目名 Course	アジア経済論 / Asian Economy
時間割コード Course Code	20190
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	ブ ティ ビック リエン
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ブ ティ ビック リエン (経済学部)
授業の目標	本講義は、アジア各国はどのような道筋をたどって経済発展を遂げたかについて開発経済学の基礎知識を学び、理解を深めることを目指す。アジア諸国に興味をもつ履修者は本講義の内容を理解した上に、アジア各国の経済指標データを収集して、理論知識を実証して、卒業論文の研究に展開できればという狙いもある。
授業の概要	<p>アジア諸国は第二次世界大戦後に世界に飛躍的な経済発展を見せた上に、経済学研究者の注目を同時に集めてきた。これらの国々の高い経済成長を促す背後要因として、技術革新、生産性向上、市場拡大、産業構造変化の高度という着実な国内的努力がある上に、海外直接投資、貿易の自由化や政府開発援助などの外的な要因も重要であることを検証された。本講義は、アジア諸国はどのような道筋をたどって経済発展を遂げたかについて、上記の重要な要因を含む開発経済学の理論を学び、理解を深めることを目指す。</p> <p>【重要】本講義はミクロ経済学の知識を前提にして、図表の分析と数式をたくさん使う。図表・数式の理解や数値の計算が苦手な履修生にはかなりの努力が求められる。と同時に、ミクロ経済学の知識を修得していない学生にはこれらの知識の自習を含み、多くの学習時間と努力が求められる。また、履修予定の学生には「市場の経済学」の成績「B」以上が望ましい。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>下記のことを総合評価して成績を評価する。</p> <p>1) 中間テスト (30%) 2) 期末試験 (70%)</p> <p>なお、詳細な説明は初回講義に行う。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1) 基本的に第1回から毎回ダブル出席をとる。 ダブル出席とは授業開始以降15分以内に出席端末等で出席を取るほか、授業の最後に理解チェックシート等を提出する。 ダブル出席のある授業回はどちらか出席記録がないと「欠席」になる。</p> <p>2) 欠席回数が全15回中に6回以上(欠席が6回に達した)学生は「失格」(つまり、期末試験の受験資格が失われ、成績が「X」)になる。</p>

授業計画	<p>第01回： イントロダクション</p> <p>第02回： 予備知識 - ミクロ経済学の基本概念の復習</p> <p>第03回： 貧困のメカニズム</p> <p>第04回： 人口転換 - アジアの人口問題(1)</p> <p>第05回： 人口転換 - アジアの人口問題(2)</p> <p>第06回： 「緑の革命」 - 農業の技術進歩(1)</p> <p>第07回： 「緑の革命」 - 農業の技術進歩(2)</p> <p>第08回： 工業発展(1) - 理論モデル</p> <p>第09回： 工業発展(2) - 工業化の初期条件</p> <p>第10回： 工業発展(3) - 工業化政策</p> <p>第11回： 貿易と海外直接投資</p> <p>第12回： 政府開発援助(ODA)</p> <p>第13回： 社会主義経済から市場経済への体制転換(1) - 中国</p> <p>第14回： 社会主義経済から市場経済への体制転換(2) - ベトナム</p> <p>第15回： 総まとめ・期末試験対策用の質疑応答</p>
テキスト	
参考書	<p>1) 渡辺利夫 (2005) 『開発経済学入門』 東洋経済新報社</p> <p>2) Le Thanh Nghiep (2005) 『ベトナム経済の発展過程』 三恵社</p> <p>3) 大野健一・桜井宏二郎 (1997) 『東アジアの開発経済学』 有斐閣</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>1) 授業終了後、教室で対応する。</p> <p>2) オフィスアワーに研究室で対応する。</p> <p>3) 上記以外の場合は、アポイントを取って、対応する。</p>
フィードバックの方法	<p>1) 授業終了後、教室で対応する。</p> <p>2) オフィスアワーに研究室で対応する。</p> <p>3) 上記以外の場合は、アポイントを取って、対応する。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	本科目は各回授業の前後に密接な関係があるため、復習時間を特に多めに割いて、理解できるまで繰り返して復習する必要がある。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	<p>1. 貧困をなくそう</p> <p>2. 飢餓をゼロに</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p>
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	地方財政論 / Local Government Finance
時間割コード Course Code	20280
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	齋藤 敦
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	齋藤 敦 (経済学部)
授業の目標	<p>この授業では、地方財政を学ぶことを通して、地方自治の担い手としての力を身につけることを目指します。日々の生活や暮しの問題と関連させて地方財政をとらえ、そのあるべき姿や役割を具体的に考えることができるようになることが目標です。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方財政の現状と課題を知ることができる。</li> <li>・地方自治との関連で地方財政をとらえ、地方財政に関わる諸制度の仕組みや問題を知ることができる。</li> <li>・地方財政を理解することができる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方自治体やその財政と自分とのかかわりを知ることができる。</li> <li>・地方財政をめぐる諸問題を自分の問題として考えることができるようになる。</li> <li>・制度改正や制度改革の動向に関心を持つようになる。</li> <li>・かかわりのある自治体の財政に関心を持ち、自ら注意を払うようになる。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方財政に関する報道や地方自治体の広報等の内容をある程度理解できるようになる。</li> <li>・話の要点や自分の考えをまとめ、文章にして説明することができるようになる。</li> </ul>
授業の概要	<p>講義を通じて地方財政について関心を高め理解を深めます。日本の地方財政を主に取り上げ、制度や実際を知ってもらい問題の所在を理解してもらいます。</p> <p>この講義では主に地方自治体の財政を扱いますが、国家財政との関係についても扱います。</p> <p>この科目の位置づけについては本学HPのナンバリングを参照してください。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本は試験(80%)によって評価しますが、平常点(20%)も加味します。中間小レポートを課すこともあります。</li> <li>・基本的な用語や概念を正しく理解できているか、重要論点を把握できているか、これらを他者に伝えるように説明できるか等を評価基準とします。</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業の妨げになる行為を禁止します。授業の妨げになる行為は失格になります。

授業計画	<p>以下のテーマと順序で授業を進める予定にしていますが、受講者の理解状況等に応じて適宜変更していきます。第1回には講義のガイダンス、オリエンテーションも行うので、受講希望者は出席が必要です。</p> <p>第1回 オリエンテーション～日本の地方財政の特徴  第2回 日本の地方自治体と国との役割分担  第3回 地方自治体の経費構造  第4回 地域開発と地方財政  第5回 地域社会と地方財政  第6回 地方自治体の収入構造  第7回 地方税  第8回 地方税(その2)  第9回 地方交付税  第10回 国庫支出金  第11回 地方債  第12回 地方公営企業と第三セクター等  第13回 地方財政の歴史  第14回 地方財政の健全化と地方行財政改革  第15回 まとめ～地方財政の課題</p>
テキスト	沼尾波子、池上岳彦、木村佳弘、高端正幸(2023)『地方財政を学ぶ[新版]』有斐閣ブックス
参考書	神野直彦、小西砂千夫(2020)『日本の地方財政[第2版]』有斐閣。 その他、授業の中で適宜提示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問へは主に授業の中で対応します。
フィードバックの方法	コメント等、適宜、授業の中で行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回について、授業プリントを勉強して授業ノートをしっかり仕上げてください。指示された予習等の活動にもよく取り組んでください。 理想的には、目安として授業時間の2倍程度の自学が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	
SDGs 17の目標(11～17)	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	地域経済論 / Regional Economy
時間割コード Course Code	20290
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	石川 啓雅
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	石川 啓雅 (経済学部)
授業の目標	<p>本講義では、経済活動及び経済(経済活動によって形づくられる)と地域の関係について学び、経済活動や経済の地域性はどのような局面において問題あるいは重要になってくるのかを知り、中央と地方の関係(都市と農村)、地域格差等々の問題を踏まえ、地域を変える主体として生きていくための知識とリテラシーの修得を目指す。</p> <p>知識・理解の領域 経済活動と地域の関係は「労働と土地の関係」を基本にしていることが理解できる。 地域経済が地域の内と外の両面における2つの経済循環から成り立っていることを理解できる。</p> <p>思考判断の領域 地域経済に関わる問題の多面性・多義性を的確に読み解くことができる。 「地域経済の再生」(産業振興等)にとって必要な課題を的確に導出することができる。</p> <p>技能の領域 地域経済に関わる問題の多面性・多義性を的確に読み解くことができる。 「地域経済の再生」(産業振興等)にとって必要な課題を的確に導出することができる。</p>
授業の概要	<p>社会生活に必要な財・サービスを生産・販売する経済活動は、人や組織がお互いに不足するものを補い合う社会的分業を前提に営まれている。その社会的分業は居住する地域内における経済取引を形成し、居住する地域で人が働き、財・サービスと貨幣(おカネ)が地域で循環するひとつの経済システムとなって現れる。しかしながら、今日の経済は地域内で完結するしているわけではなく、地域どうしの経済取引による広域的な関係をつくりあげている。本講義では、この地域経済の複雑かつ相互依存的な側面を明らかにしながら、地域経済に関係する様々な問題を取りあげ、地域再生のヒントを探る。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕 本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>講義期間中のレポート(1回) : 50%</p> <p>定期試験 : 50%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	止むを得ない場合(公認欠席)を除き、5回以上の欠席をした場合、評価を受ける資格を失うものとする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。

テキスト	<p>第01回 地域経済論の射程 経済活動(産業)と地域の関係を経済学的に考える</p> <p>第02回 産業の地域分布にみる経済の姿 産業構造の地域性を考える</p> <p>第03回 地域経済と所得形成(1) - 県民経済計算から地域経済を考える -</p> <p>第04回 地域経済と所得形成(2) - 地域産業連関表から地域経済を考える -</p> <p>第05回 雇用・労働と地域経済 - 労働市場の地域性を考える -</p> <p>第06回 経済のグローバル化と地域経済 経済活動の「脱国境化」を考える</p> <p>第07回 産業立地と地域経済 産業立地をめぐる企業行動と地域経済の関係を考える</p> <p>第08回 経済発展の地域的不均等 経済発展における地域間格差の要因を考える</p> <p>第09回 産業集積 経済活動の地理的集積を考える</p> <p>第10回 地域イノベーション - 先端・知識・文化産業と地域経済 -</p> <p>第11回 農業・農村問題と地域 - 構造政策の論理と農村の現実 -</p> <p>第12回 少子高齢化・人口減少と地域経済 - 労働力・マーケットの縮小をめぐる -</p> <p>第13回 地域工業化と在来産業 - 地域経済における複層的経済発展を考える -</p> <p>第14回 家族・中小企業経営と地域産業 - 生業(なりわい)的経済活動を考える -</p> <p>第15回 地域再生をめぐる 酒造業、農産物直売所、関係人口を手掛かりにして</p>
参考書	<p>岡田知弘・川瀬光義・鈴木誠・富樫幸一『[第4版]国際化時代の地域経済学』(有斐閣、2016)</p> <p>山田浩之・徳岡一幸編『[第3版]地域経済学入門』(有斐閣、2018)</p> <p>枝廣淳子『地元経済を作りなおす - 分析・診断・対策 - 』(岩波新書、2018)</p> <p>加藤光一・大泉英次編『東アジアのグローバル地域経済学』(大月書店、2022)</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	可能な範囲で随時返答・コメントする。
フィードバックの方法	<p>講義期間中のレポート(1回)：実施翌週に返却</p> <p>定期試験：模範解答を後日配信</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習は事前に配信する資料から理解に必要なと思われる情報を参考書等から抽出してノートを作成する。復習は講義内で議論したこと、わかったことをノートに追記し、各回の要点筆記を行う。各2時間程度の学習が望ましい。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	<p>10.人や国の不平等をなくそう</p> <p>3.すべての人に健康と福祉を</p> <p>8.働きがいも経済成長も</p> <p>9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標(11～17)	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	地域調査(火3・火4) / Community Research
時間割コード Course Code	20310
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	郡 麻里
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	3 4 A多目的室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	郡 麻里(経営学部)
授業の目標	地域の自然環境や文化、経済などの特色を再発見し、それらの良い点を活かした地域資源の循環利用と地域経済の活性化について考察する。また、地域社会に持続可能な発展のための改善案を提案する。そのためのデータ収集、整理、分析、発表の方法を習得する。
授業の概要	犬山キャンパス周辺の竹林や水田、雑木林、神社などを対象に、住民がどのように地域資源を利活用し、結果的に生物多様性を保全しているかについて発見する。地域の生き物の生息環境を提供しているその仕組みと環境保全への貢献・地域経済へのプラスの効果について考察し、内外に地域の価値を発信する手法を身に着ける。
評価方法	現地の状況調査を複数回実施する。そのための下準備として、地図の利用方法、課題図の作成手法、アンケート用紙や野帳の作成方法等について事前に学ぶ。さらに、安全なフィールドワークのための事前講習をクラスルームで行う。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	やむをえず欠席等する場合には他教員に事前に連絡すること。事情を説明し、あらかじめ欠席の了承を得ること。 また、フィールドワークにふさわしい服装で参加すること。 直射日光や虫刺さされ予防のために、夏でも長袖、長ズボン、歩きやすい靴、帽子、飲み物を持参することを推奨する。 軍手は支給するが、各自の使い慣れた手袋などがあれば持参すること。
授業計画	第1回・第2回 ガイダンス 第3回・第4回 地域の環境や文化を調べる手法の紹介 第5回・第6回 下準備。必要な情報、資材、機材の収集、調達方法や予算の確認 第7回・第8回 調査計画作成(テーマ選定、目的、手法等の確認)、文献調査 第9回・第10回 調査野帳の作成 第11回・第12回 効率的な調査ルートの選定 第13回・第14回 危険性やあらゆるリスクの洗い出しと対策立案 第15回・第16回 テーマ別環境マップのデザイン、設計 第17回・第18回 現地調査の実施 第19回・第20回 調査結果の点検(記入漏れ等確認)、データ入力 第21回・第22回 現地調査資材・機材の片付け、整理、メンテナンス、補充 第23回・第24回 課題の整理 第25回・第26回 データ解析 第27回・第28回 データのまとめ 第29回・第30回 調査結果報告会 *状況に応じて内容を変更する場合がある。
テキスト	特になし。毎回、参考文献を紹介する。
参考書	

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	担当教員は環境省の自然環境保全基礎調査・植生調査や地理情報システム（GIS）を用いた各種環境マップ作成や希少種の保全計画立案を行った経験があるため、プロ仕様の調査票（野帳）の作成や安全対策など、各種手法について紹介し、伝授する。
質問への対応方法	少人数制のため、常に質問を受け付ける。
フィードバックの方法	直接口頭で回答、または電子メール等で対応する。また、適切な参考資料を紹介する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習復習を各1時間はすること。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	2. 飢餓をゼロに 4. 質の高い教育をみんなに 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさも守ろう 17. パートナースhipで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	2. 協同力 5. 自信創出力 8. 計画立案力 9. 実践力



開講科目名 Course	資格・検定講座V / Certificate examination courseV
時間割コード Course Code	20415
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	山田 篤代
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山田 篤代 (経済学部)
授業の目標	<p>現代社会におけるお金の基礎知識を理解し、今後の人生におけるライフスタイル設計に役立てましょう。</p> <p>知識・理解の領域 ファイナンシャルプランナー資格3級基礎知識を体系的に増やすことを目標とします。</p> <p>思考判断の領域 身近な金融に関する知識について、社会人として役立つ基礎知識を身につけることを目標とします。</p> <p>関心意欲の領域 自分の資産形成において意識的かつ計画的に取り組むことができる知識を学ぶことを目標とします。</p> <p>態度・指向性の領域 金融や税金分野の新聞ニュースについて、実務的な関連性に気付くことができることを目標とします。</p> <p>技能の領域 FP資格試験合格のためのスキルを学ぶことを目標とします。</p> <p>体験探究の領域 金融知識をみにつけ資産形成の基礎を学ぶことを目標とします。</p>
授業の概要	<p>不確実な変化の多い時代においてお金の知識は、社会人になる上で必要な知識として欠かせません。また人生100年時代における個人の価値観や生きがいに応じた生涯の生活設計、すなわちライフプランを立てることが求められています。本講義では、ファイナンシャルプランナー（FP）として、ライフプランニングを立てるために必要となる基礎知識について学び、国家資格であるFP技能士3級試験の資格取得を目指します。ただし講義で触れられるのは基本的な基礎知識になりますので、講義だけで試験対策が十分となるわけではないことに注意してください。あくまでも自学自習が前提となります。また、お金についての基礎的な知識を身につけるための基本学習を行います。社会人として働く前にぜひ知っておきたい知識を身につける講座となります。</p> <p>「この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。」</p>
評価方法	<p>授業内でのレポート、小テスト、確認テストで成績評価します。</p> <p>1回目 レポート5点（5%） 2回目～14回目 講義の振り返りテスト 5点×13回（複数回の実施分を合計して65%） 15回目 確認テスト 30点（30%）</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	【次の行為が発覚した場合には通告なく失格とします。】 6回目の欠席がカウントされた。 小レポート・小テスト等において、不正行為・剽窃行為を行った。 小レポート・小テスト等において、受講生間での記載内容が酷似していることが発覚した。 理由のない、早退と遅刻を繰り返した。
授業計画	FP3級の試験範囲は主に6つの科目に分かれています（日本FP協会のHPなどを参照して下さい）。本講義ではその6つの科目の概要を学びます。詳細は授業計画表に記します。
テキスト	イメージで攻略 わかる！受かる！！FP3級 テキスト&問題集 2024-2025年版（マイナビ出版ライセンスシリーズ） マイナビ出版FP試験対策プロジェクト
参考書	適宜紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	人生において知っておきたい必要なお金についての学びを具体的な事例と共にわかりやすく理解できます。具体的にはライフプランニング作成をはじめ、自分自身の資産形成に役立てる税金はじめ社会ルールにおける金融知識の基礎を学ぶことができます。
質問への対応方法	メール（yamada-atsu@nagoya-ku.ac.jp）にて受け付けます。 学生番号・氏名・科目名などを明記のうえご連絡下さい。
フィードバックの方法	フィードバック方法 小テストについては出題の意図や解答におけるポイントを解説します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	準備学習（予習・復習） この講義はライフプランニングに関する幅広い分野を学習します。専門的な用語も頻出しますので、復習に重きを置くような学習形式をとり、復習の際には講義内で説明した内容を自身で説明できるようになることを目安に取り組むとよいでしょう。復習の具体的な実践方法については講義中に指示します。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	9.実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ファイナンシャルプランナー(FP)について 講義の進め方, 成績評価の説明	FPの社会的役割について 2時間の予習と2時間の復習を課す講義 についての内容	
2	ライフプランニングと資金計画(1) 社会保険	講義で学習したことを講義内に復習する と共に、試験対策として2時間の復習を 課します。 (予習時にはテキスト該当箇所をよく読 み, 事前に疑問点を書き出しておくこ と。予習2時間) テキストに準じての学習としますので、 必ずテキストを持参してください。	
3	ライフプランニングと資金計画(2) 社会保険	講義で学習したことを講義内に復習する と共に、試験対策として2時間の復習を 課します。 (予習時にはテキスト該当箇所をよく読 み, 事前に疑問点を書き出しておくこ と。予習2時間) テキストに準じての学習としますので、 必ずテキストを持参してください。	
4	リスクマネジメント(1) 生命保険	講義で学習したことを講義内に復習する と共に、試験対策として2時間の復習を 課します。 (予習時にはテキスト該当箇所をよく読 み, 事前に疑問点を書き出しておくこ と。予習2時間) テキストに準じての学習としますので、 必ずテキストを持参してください。	
5	リスクマネジメント(2) 損害保険、第3分野の保険	講義で学習したことを講義内に復習する と共に、試験対策として2時間の復習を 課します。 (予習時にはテキスト該当箇所をよく読 み, 事前に疑問点を書き出しておくこ と。予習2時間) テキストに準じての学習としますので、 必ずテキストを持参してください。	
6	金融資産運用(1) 金融・経済の基本事項	講義で学習したことを講義内に復習する と共に、試験対策として2時間の復習を 課します。 (予習時にはテキスト該当箇所をよく読 み, 事前に疑問点を書き出しておくこ と。予習2時間) テキストに準じての学習としますので、 必ずテキストを持参してください。	
7	金融資産運用(2) 金融商品と顧客保護	講義で学習したことを講義内に復習する と共に、試験対策として2時間の復習を 課します。 (予習時にはテキスト該当箇所をよく読 み, 事前に疑問点を書き出しておくこ と。予習2時間) テキストに準じての学習としますので、 必ずテキストを持参してください。	
8	タックスプランニング(1) 所得とは・課税標準とは	講義で学習したことを講義内に復習する と共に、試験対策として2時間の復習を 課します。 (予習時にはテキスト該当箇所をよく読 み, 事前に疑問点を書き出しておくこ と。予習2時間) テキストに準じての学習としますので、 必ずテキストを持参してください。	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
9	タックスプランニング(2) 所得控除と税額控除	講義で学習したことを講義内に復習すると共に、試験対策として2時間の復讐を課します。 (予習時にはテキスト該当箇所をよく読み、事前に疑問点を書き出しておくこと。予習2時間) テキストに準じての学習としますので、必ずテキストを持参してください。	
10	不動産(1) 不動産基本事項	講義で学習したことを講義内に復習すると共に、試験対策として2時間の復讐を課します。 (予習時にはテキスト該当箇所をよく読み、事前に疑問点を書き出しておくこと。予習2時間) テキストに準じての学習としますので、必ずテキストを持参してください。	
11	不動産(2) 不動産と法令・税制	講義で学習したことを講義内に復習すると共に、試験対策として2時間の復讐を課します。 (予習時にはテキスト該当箇所をよく読み、事前に疑問点を書き出しておくこと。予習2時間) テキストに準じての学習としますので、必ずテキストを持参してください。	
12	相続・事業承継(1) 相続税	講義で学習したことを講義内に復習すると共に、試験対策として2時間の復讐を課します。 (予習時にはテキスト該当箇所をよく読み、事前に疑問点を書き出しておくこと。予習2時間) テキストに準じての学習としますので、必ずテキストを持参してください。	
13	相続・事業承継(2) 贈与税・相続財産評価	講義で学習したことを講義内に復習すると共に、試験対策として2時間の復讐を課します。 (予習時にはテキスト該当箇所をよく読み、事前に疑問点を書き出しておくこと。予習2時間) テキストに準じての学習としますので、必ずテキストを持参してください。	
14	FP3級試験対策・実技試験	講義で学習したことを講義内に復習すると共に、試験対策として2時間の復讐を課します。 (予習時にはテキスト該当箇所をよく読み、事前に疑問点を書き出しておくこと。予習2時間) テキストに準じての学習としますので、必ずテキストを持参してください。	
15	総まとめ 重要用語の整理, 最終確認テスト	講義で学習したことを講義内に復習すると共に、試験対策として2時間の復讐を課します。 (予習時にはテキスト該当箇所をよく読み、事前に疑問点を書き出しておくこと。予習2時間) テキストに準じての学習としますので、必ずテキストを持参してください。	

開講科目名 Course	国際金融論 / International Monetary Economics
時間割コード Course Code	20430
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	谷内 陽一
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	谷内 陽一 (経済学部)
授業の目標	<p>国際金融のしくみを学び、実生活で利用・活用できるようになることを目指す。</p> <p>&lt;学習成果&gt;  知識・理解の領域  国際金融の基本的なしくみを正しく理解できる  技能の領域  国際金融の基本的なしくみを第三者に正しく説明することができる  態度・志向性の領域  為替や外貨建て金融商品に関する意思決定を独力で行うことができる</p>
授業の概要	<p>経済の国際化・グローバル化が進展した現代社会においては、国際金融に関する知識は企業だけでなく個人にとっても必須となりつつある。本講義では、国際金融の基本的なしくみを解説するとともに、国際金融システムが企業・家計に及ぼす影響等について講義する。</p> <p>毎回の授業の際に小テスト・小レポートを実施する(10分程度)。小テスト・小レポートを提出しなかった場合は欠席扱いとする。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業内での小テスト・小レポート： 30%</p> <p>期末試験： 70%</p> <p>詳細は第1回授業(オリエンテーション)の際に案内する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	全15回中6回以上の欠席(9回以下の出席)で失格とする。

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション: 国際金融論で何を学ぶか</p> <p>第2回 国際金融取引と国際収支統計</p> <p>第3回 外国為替 円高・円安とは</p> <p>第4回 外国為替 外国為替市場</p> <p>第5回 為替レートの決定理論 購買力平価</p> <p>第6回 為替レートの決定理論 金利平価</p> <p>第7回 為替レートの決定理論 理論と現実</p> <p>第8回 為替介入</p> <p>第9回 国際分散投資 ファイナンス理論のおさらい</p> <p>第10回 国際分散投資 投資対象、金融商品</p> <p>第11回 グローバル金融・財政政策</p> <p>第12回 国際金融規制</p> <p>第13回 国際金融の歴史 固定相場制から変動相場制へ</p> <p>第14回 国際金融の歴史 金融危機と国際金融規制</p> <p>第15回 本講義のまとめ</p> <p>受講者の理解度合いに応じて授業の順序または内容を変更する場合あり</p>
テキスト	指定なし（講師作成のレジメを使用する）。
参考書	橋本優子・小川英治・熊本方雄（2019）『国際金融論をつかむ（新版）』 有斐閣 佐藤綾野・中田勇人『国際金融論15講』新世社 上記のほか、授業の中でも適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	年金基金、銀行、生命保険会社にて私的年金（企業年金・個人年金）の制度・財政運営や資産運用等の業務に従事してきた教員が、金融・ファイナンスに関する理論的体系および実務経験に基づく具体的事例を踏まえて、学術・実務両面の視点から幅広く講義する。
質問への対応方法	授業終了後またはメール等により対応する。 詳細は第1回授業（オリエンテーション）の際に案内する。
フィードバックの方法	同上
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習は義務付けないが、必要に応じて事前に参考書に目を通すと理解がより深まる。 復習に代えて、毎回の授業の際に小テスト・小レポートを実施する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	中小企業論 / Small Business
時間割コード Course Code	20440
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	山口 靖雄
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山口 靖雄 (経済学部)
授業の目標	<p>日本の経済社会にとって不可欠の存在である中小企業の現状と課題を学び、中小企業の内側でどのような活動が行われているのかについて理解できるようになる。</p> <p>併せて日本経済についても理解を深めることができるようになる。</p> <p>【知識・理解の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・日本の経済社会における中小企業の現状について、具体的な事例に即して理解できるようになる。</li></ul> <p>【技能の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・中小企業の視点から経済社会や企業経営を見通す能力を身につけることができるようになる。</li></ul> <p>【態度・志向性の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・中小企業の課題克服、成長発展のために必要なことを積極的に調べ提案できるようになる。</li></ul>
授業の概要	<p>最近の日本の中小企業の経営状況を取り上げ、発展している中小企業や苦闘している中小企業の経営者や社員の活動を理解する。</p> <p>その理解と具体的な事例から学生が将来「働く」様子とその意味を理解できるようになる。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンパリングを参照すること。</p>
評価方法	適宜授業の最後に提出を求めるレポート及び確認テスト(30%)と授業内試験(70%)に加えて、授業受講姿勢を考慮して(無断途中退席等、授業受講態度が著しく不芳である場合は減点の対象となる)総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席が5回を超えた場合には失格となる。

授業計画	<p>第1回：オリエンテーション、中小企業について学ぶ意義</p> <p>第2回：経済・産業における中小企業</p> <p>第3回：中小企業の経営課題</p> <p>第4回：中小企業の経営革新</p> <p>第5回：中小企業の経営者と事業承継</p> <p>第6回：中小企業と経営理念、経営ビジョン</p> <p>第7回：中小企業の経営戦略</p> <p>第8回：経営者講話</p> <p>第9回：中小企業の財務と中小企業金融</p> <p>第10回：中小企業の労務管理</p> <p>第11回：老舗企業と同族会社の特徴</p> <p>第12回：ファミリービジネスと事業承継</p> <p>第13回：技術革新と企業経営、ベンチャー企業の成長と課題</p> <p>第14回：中小企業政策の役割と課題</p> <p>第15回：授業内試験</p> <p>履修者の理解を優先し、授業内容を変更する場合がある。 経営者講話については、諸状況を踏まえて別内容に振り返る場合や、ゲストスピーカーの都合で予定が前後する場合がある。</p>
テキスト	テキストは指定しませんが、適宜、資料やレジメを配布します。
参考書	<p>商工組合中央金庫編『中小企業の経済学』</p> <p>商工総合研究所編『図説 日本の中小企業2023/2024』</p> <p>中小企業庁編『2023年度中小企業白書』（閲覧・ダウンロードURL <a href="https://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/2023/PDF/chusho.html">https://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/2023/PDF/chusho.html</a>）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	中小企業白書で取り上げられている中小企業の経営特色、企業内で社員向けに行われている研修事例、喫緊の課題である事業承継を巡る課題等について、実際の事例をもとに解説する。
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の際に配布するレジメと参考書の関連箇所について、毎回4時間の復習を課す
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>8.働きがいも経済成長も</p> <p>9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	G I S 概論 / Introduction to Geographical Information System
時間割コード Course Code	20570
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 正之
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	情報実習室 A
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 正之 (経済学部)
授業の目標	<p>【情報システムの1つとしてのGISの理解】</p> <p>到達目標：地域社会における情報システムの活用には、広範な知識と技術が求められる。例えばWEBでの公的な統計データの利用や実装されているデータベースの構造、オープンデータを活用する際には、メタファイルの存在やフォーマットや仕様の理解が必要である。</p> <p>このようなデータの活用例として、本論ではGIS（地理情報システム）の視点から、情報システムやデータベースが活用できるようになることを最終目標とする。</p>
授業の概要	<p>授業形態（対面授業）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本講ではデータを活用する例として、GIS（地理情報システム）を使いながら、実装された情報システムやデータベースの利用について理解を深め、様々なデジタルメディアの中で情報を扱うための知識と技能の習得を目指す。</li> <li>・そのためにテーマに沿った様々な情報の扱い方、効果的な表現方法、伝達方法についても同時に扱っていく。具体的にはデジタルデバイスを用いて記録した位置情報をはじめとしたデータ等を如何にコンピュータに取り込み加工するか、あるいは如何にしてコンピュータを用いてデジタルデータを構築するか、さらには制作物の著作権に関するプロセス確認など、情報化社会におけるデジタルデータの取り扱い方も留意していく。</li> </ul>
評価方法	<p>必須 講義のなかでPCを使ったworkが必須である（単に聴講するだけでは単位取得できない）。</p> <p>必須 講義資料の提示およびレポート作成と提出については、学内WEBサービスの利用を予定している。学内webサービスへの接続、電子データでのレポート作成、表計算ソフトウェアの操作習熟、ファイル・データ管理など、PC操作をできるようにしておくこと。</p> <p>必須 各自でデータを保存できるUSBメモリ等を用意すること。</p> <p>・本論のなかで求める課題（中間レポート（30%）、最終レポート（30%））取組みの態度（40%）で評価する。</p> <p>なお本講義に関連する科目としては、情報に関する基礎科目、経済地理学があり、履修しておくことが望ましい。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートの未提出が1回でもある場合は失格とする。無断欠席は3回以上で失格とする。なお、欠席した場合も次の講義で課題を提出すること。</li> <li>・講義開始後25分を越えての入室は認めない。授業態度等で講義の妨げになると判断した場合、退出させることがある。</li> </ul>
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	毎回の講義内容に応じて内容を記載した資料がテキストとなる。

参考書	参考図書：久野 他(2016)「情報科教育法 改訂3版」オーム社。 今木 他(2015)「QGIS入門 第2版」古今書院。 橋本 他(2017)「QGISの基本と防災活用」古今書院。 野間 他(2017)「ジオ・パルNEO第2版」海青社。 「情報科教育法 改訂2版」オーム社(2009)。 その他、参考図書・文献については適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・コンピュータ実習室での講義と演習形式で実施する。csvファイルの編集や、関数によるデータ操作など、特に表計算ソフトウェアの技能を習得が前提である。 必須 PCおよび表計算ソフトウェアの利用に習熟(MOS EXCELなど)している必要がある。 必須 PCを使ったGISソフトウェアを利用するため、インストールや展開、データファイル群の扱いに習熟している必要がある。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	シンクタンクおよびNPOでの業務経験のある教員が、民間から公共まで様々な業務で使われているGISを理解するために、実際にGISソフトウェアの使用方法を学びながら、地域分析を行うことで、GISの技術と概念を習得する演習科目である。
質問への対応方法	・内容について、講義中、講義後に随時質問を受け付ける。疑問点はそのままにせずに質問、相談すること。大学のgoogleアカウント利用が必須。classroomを使用する。
フィードバックの方法	・講義ではリアクションについて補足を行う。それを踏まえたレポート作成を心がけること。 ・課題やレポートの作成と提出については、学内WEBサービスの利用を予定している。 WEBへの接続、電子データでのレポート作成、2次元コード利用、スマートフォン等とPCでのデータ同期をできるようにしておくこと。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・この科目は「地域」をキーワードとした学びを深めるための、基礎的な知識と技能を習得する科目でもあるため、講義と同程度の復習時間が必要である。また、講義日以外(例えば土曜日など)に講義を実施する場合がある。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	11.住み続けられるまちづくりを 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス 本論の流れ	講義全体の内容、授業の進め方、学内WEBサービスの利用、電子データでの講義資料の提示およびレポート作成と提出、GISの導入について	
2	情報科学とGIS GISを学ぶ前に(1)	GISの基礎(学際領域): 様々なデジタルメディアの中のGISについて、なぜ「GIS」を使うのかを講義・演習(概念)	
3	GISの基礎としての空間的思考 GISを学ぶ前に(2)	空間的思考の講義・演習: GISを用いたデータの収集加工、表計算ソフトウェアの取り扱いについて	
4	空間情報とGIS(1) GISの概念や枠組み、GISの歴史	GISの誕生から発展、普及に至る過程についての講義・演習(webGIS)	
5	空間情報とGIS(2) 空間情報、データの規格	地理座標系と投影座標系などについて講義・演習(投影法)	
6	属性テーブルの操作 データの規格やデータ構造とその取り扱い	データの規格やデータ構造などについて演習(データ構造、オープンデータ、国土数値情報)	
7	空間と属性データの結合 データ取得・管理	データ管理、作成方法などについて演習(地理空間情報の取得と作成)	
8	データ作成・管理・分析 オープンデータを用いた施設の分布図作成	レポート作成に向けた演習: 例「目的別の地図作成(地区別人口分布図、地区別高齢化率の算出)」「オープンデータ、国土数値情報の取得と加工)	
9	GISと空間分析:(1) オーバーレイ・バッファ	新たなレイヤデータの作成とオーバーレイ、バッファ作成等の空間データ加工・分析を行う演習	
10	GISと空間分析:(2) 属性検索、空間検索	SQLで実際に空間データ検索を行う演習	
11	GISと空間分析:(3) 空間データの抽出	マージ・ディゾルブ等の空間データ加工・分析を行う演習	
12	GISと空間分析:(4) 空間分割・補間	ポロノイ、内挿、抽出等の空間データ加工・分析を行う演習	
13	GISと空間分析:(5) ラスターデータの取り扱い	レポート作成に向けた演習: GISと空間分析を行ったマップ作成(テーマに沿った様々な情報の扱い方、効果的な表現方法、伝達方法の技能習得)	
14	GISと空間分析: 補足、質疑  「地域の課題に関するマップ」の作成と考察	上記テーマの演習および最終レポート作成に関する補足	
15	これからのGIS 「地理空間情報高度活用社会」実現に向けて	情報化社会の今後、RDM S、WEB、オブジェクト指向など、最新の技術や利用動向、将来展望、GISと関連技術(GPS、リモートセンシング、写真測量など)、制作物に関する著作プロセスの確認、GISの功罪の講義、課題提出	

開講科目名 Course	経済地理学 / Economic Geography
時間割コード Course Code	20580
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 正之
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 正之 (経済学部)
授業の目標	経済地理学の考え方を理解し、その視点から地域の多様な現状を具体的に説明することができる。
授業の概要	<p>経済地理学の研究方法と学問の流れを知る。経済地理学の基本（学問の背景と発展過程そして分化）として、フンボルトやリッターにはじまり、フリードリヒ・ラッツェルの環境決定論、ブラーシュの環境可能論などを理解する。その上で、現代日本の経済・社会システムを、空間的（場所的）な視点でとらえる手法を学ぶ。さらに、空間的な視点で地域を分析・評価するために、地理学的な思考を理解し獲得する。</p> <p>なお、本講義と関連する科目として地理学があり、履修しておくことが望ましい。さらに本講義はGISや地域政策を学ぶ上での知識習得科目に位置づけられるため、上記科目を履修する予定のある者は、履修しておくことが望ましい。</p>
評価方法	講義のなかで求める課題への取り組みの態度（リアクションペーパー（40%）、中間レポート（30%）、最終レポート（30%））で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートの未提出が1回でもある場合は失格とする。無断欠席は3回以上で失格とする。なお、欠席した場合も次の講義で課題を提出すること。</li> <li>・講義開始後25分を越えての入室は認めない。授業態度等で講義の妨げになると判断した場合、退出させることがある。</li> </ul>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 地図・地理・地理学・経済地理学</li> <li>3. 経済地理学の背景と発展過程1 立地論 チューネン「孤立国」ヴェーバー A. 「工業立地論」</li> <li>4. 経済地理学の背景と発展過程2 立地論 クリスタラー 「中心地理論」 レッシュ 「経済立地論」、経済地理学の発展・分化</li> <li>5. 経済地理学と地理空間情報 計量革命：P.ハゲット「立地分析」</li> <li>6. 地理情報システム（GIS）の概念や枠組み：GISの広がり</li> <li>7. 経済地理学と地理空間情報1：産業分野でのGISによる空間分析</li> <li>8. 経済地理学と地理空間情報2：公共部門でのGISによる施設管理・シミュレーション</li> <li>9. 経済地理学と地理空間情報3：空間分析の概念・ジオプロセッシング</li> <li>10. 経済地理学と地理空間情報4：空間分析の概念・補間、分割）</li> <li>11. 地域問題への接近（1970年代～）：立地論批判、地域構造論研究、地理的不均衡発展</li> <li>12. マルクス主義的経済地理学：D.ハーヴェイ、新しい空間経済学</li> <li>13. 地域問題への経済地理学的アプローチ1：地域問題の分析</li> <li>14. 地域問題への経済地理学的アプローチ2：次の経済地理学（国土政策と地域問題）</li> <li>15. 地域問題への経済地理学的アプローチ3：地域計画・地域政策（地域づくりへの参与、経済地理学の今後）</li> </ol>
テキスト	毎回の講義内容に応じて内容を記載した資料がテキストとなる。

参考書	「日本経済地理読本」(2008)。「日本の経済地理学50年」(2014)。「ジオ・パルNEO第2版」(2017)。「ジオ・パルNEO」(2012)。「地理学演習帳」(2010)。「QGIS入門 第2版」(2015)。その他、参考図書・文献については適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	受講者は各自、大学のgooleアカウント利用が必須です。 1. classroomは、講義の計画や内容の確認、受講した際の資料閲覧や課題提出に使用します。 2. ドライブは、講義資料の共有など、自分の資料やレポートを保存に使用します。 3. Gmail、ドキュメントは、各自が提出するレポート作成に使用します。 4. その他、googleformsやMeet(会議アプリ)は必要に応じ使用します。 上記にあたり、ネットワーク環境のあるPCの利用が望ましい。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	内容についての質問は講義後およびオフィスアワーで受け付ける。 大学のgooleアカウント利用が必須。mailとclassroom、その他、会議アプリも必要に応じて使用する。 講義資料および課題の専門用語等については各自検索を推奨するが、課題への回答は検索しても出ない点に注意すること。
フィードバックの方法	大学のgooleアカウント利用が必須。mailとclassroom、その他、会議アプリも必要に応じて使用する。講義ではリアクションについて補足を行う。それを踏まえたレポート作成を心がけること。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義ではリアクションを求めるので、その回答のための復習が講義時間と同等の復習が必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	東海地方の産業 / Industrial structure and location of Tokai region
時間割コード Course Code	20590
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	村山 徹
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	70A講義室, 情報実習室B
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	村山 徹 (経済学部)
授業の目標	<p>都市経済にまつわる学術的背景を踏まえつつ、東海地方の産業について学ぶ。東海地方の産業発展の歴史と今後を支えるイノベティブ産業の動向を踏まえつつ、名古屋大都市圏の産業に関する地域課題について自らの意見が述べられるようになる。</p> <p>知識・理解の領域 日本全国、東海地方の産業構造の変容について理解し、今後の将来展望を考えることができる。</p> <p>技能の領域 産業構造について必要な知識や情報の検索が可能になる。</p> <p>態度・志向性の領域 東海エリアや犬山市について書かれた書籍や新聞記事に関心を持ち、卒業後進路としてこの地域に貢献する人材となることが意識できる。</p>
授業の概要	<p>本講義では、全国、東海地方、名古屋市の産業構造の変化やその地域特性について講義する。地場産業の近代工業化などに注目することで、主に製造業を中心に東海地方の産業発展について習熟する。</p> <p>また、都市の発展と産業の関係、地域経済循環における産業連関、観光などの次世代産業などに注目しつつ、東海地方の事例を通じて今後の可能性を議論する。</p> <p>くわえて、地域特性を主体的に理解できるようになるため、地域経済・産業分析ツールを用いた簡単な情報処理実習もおこなう。</p>
評価方法	<p>参加態度 (10%) + 課題エクササイズ (20%) + テスト・レポート (70%)</p> <p>評価の詳細については、第1週ガイダンスで案内する。予定では中間テスト×1、データ分析レポート×2、期末テスト×1をおこなう。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上の無断欠席は、テスト受験・レポート提出資格を失うものとする。

授業計画	<p>第1回 ガイダンス、都市や地域のイメージ・概念  第2回 産業の定義と役割、分業と脱成長  第3回 日本産業の成長の歴史  第4回 都市の発展と産業の多様性  第5回 都市と産業に関する情報処理実習（1）  第6回 都市と産業に関する情報処理実習（2）  第7回 東海地方の産業の発展（1）土地条件と地場産業  第8回 東海地方の産業の発展（2）戦前工業化と国営企業  第9回 東海地方の産業の発展（3）近代化による産業構造の変化  第10回 東海地方の産業の発展（4）製造業集積を備える大都市圏、岐阜県・三重県の産業振興  第11回 地域経済循環と産業連関  第12回 RESASを用いた産業連関の情報処理実習（1）  第13回 RESASを用いた産業連関の情報処理実習（2）  第14回 次世代産業、クリエイティブ・クラスと地域経済  第15回 まとめ 東海地方の産業の課題と今後</p> <p>印は情報処理教室での実習・解説の予定</p>
テキスト	テキストは使用しない。資料等は授業中に配布する。
参考書	<p>ジェイン・ジェイコブズ（中江利忠訳）『都市の原理』鹿島出版会，2011年  リチャード・フロリダ（井口典夫訳）『クリエイティブ資本論 新たな経済階級の台頭』ダイヤモンド社，2008年  エンリコ・モレッティ（池村千秋訳）『年収は「住むところ」で決まる 雇用とイノベーションの都市経済学』プレジデント社，2014年  林上『名古屋圏の都市地理学』風媒社，2016年  富田和暁『地域と産業—経済地理学の基礎 新版』原書房，2006年  日経ビッグデータ編集部『RESASの教科書』日経BP社，2016年</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	リアクションペーパーなど配布しますので、受講生全員の理解の深化に役立つ質問などあれば、授業を通じてシェアすることもあります。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	市役所付置の自治体シンクタンクでの実務経験を有する教員が、日本や東海地方の地域産業の歴史や学術的背景の解説にくわえて、行政による産業振興の実践についても紹介する科目である。
質問への対応方法	分からないことなどは積み残すことなく、積極的に質問・相談してください。授業内で質問対応などオフィスアワーを紹介します。
フィードバックの方法	特になし
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	週2時間程度の予習復習することが望ましい。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>8.働きがいも経済成長も  9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	<p>1.情報収集力  2.情報分析力  3.課題発見力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>7.課題発見力  8.計画立案力  9.実践力</p>

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	29100
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	佐藤 正之
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	情報実習室 B
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 正之 (経済学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>



教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	外部との調整によりますが、時間外などでの学外活動を実施する場合があります。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	29101
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,4
主担当教員 Main Instructor	村山 徹
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	村山 徹 (経済学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	29102
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	岡田 和明
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岡田 和明 (経済学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。</p> <p>学習および大学生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協働・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>

<p>授業の概要</p>	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。</p> <p>また、自分の生まれたまち、育ったまち、生活しているまちなどに興味を持ち、そのまちの魅力を再発見します。</p> <p>このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
<p>評価方法</p>	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</li> <li>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</li> <li>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</li> </ol> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>
<p>教員の指導に従わない以外の事由による失格基準</p>	<p>失格基準については、第1回目の授業において説明します。</p>
<p>授業計画</p>	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1回目 【各ゼミ】ゼミの進め方 自己紹介等</li> <li>2回目 【各ゼミ】自分のまちを知る（概要、地理、産業、人口など）</li> <li>3回目 【各ゼミ】自分のまちを知る（行財政、歴史・文化など）</li> <li>4回目 【合同ゼミ】（企画1）</li> <li>5回目 【合同ゼミ】（企画2）</li> <li>6回目 【合同ゼミ】（企画3）</li> <li>7回目 【各ゼミ】住民・主権者の役割を考える</li> <li>8回目 【各ゼミ】地方行政について考える（地方議会など）</li> <li>9回目 【各ゼミ】レポートの書き方について</li> <li>10回目 【合同ゼミ】（企画4）</li> <li>11回目 【合同ゼミ】（企画5）</li> <li>12回目 【合同ゼミ】（企画6）</li> <li>13回目 【各ゼミ】まちを支える力、まちの国際化、まちの安心・安全を考える（企画4.5.6を受けて）</li> <li>14回目 【各ゼミ】まちの施策の立案から実施を考える（公務員について考える）</li> <li>15回目 【各ゼミ】まとめ・振り返り</li> </ol> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。</p> <p>また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。</p> <p>そして、各ゼミでは、自分が生まれたまち・育ったまち・生活するまちの基礎的情報を知るとともに、住民（主権者）としての責任や役割を考えます。</p> <p>なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキストは使用しません。</p> <p>授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
<p>参考書</p>	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	後期には、各自が自分のまちへの提案を行うため、前期においても事例研究時に他市町との比較などの意見交換のためグループワークを行います。また、市民活動団体の方とのワークショップ実施に際しては休業日(土日)に振り替えて実施する場合があります。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	長年の地方公務員経験がある教員が自治体の現状や抱える課題の解決に向けた施策を解説し、自分たちのまちづくりや地域再生に向けた手段・方法を考えます。
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習をそれぞれ2時間行うとともに、常に社会情勢や自分の関係するまちへの関心を深めるよう努めてください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標(11~17)	11.住み続けられるまちづくりを 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	29103
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	安部 伸哉
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 4 A多目的室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	安部 伸哉 (経済学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1  2回目 各ゼミ2  3回目 各ゼミ3  4回目 合同ゼミ（企画1）  5回目 合同ゼミ（企画2）  6回目 合同ゼミ（企画3）  7回目 各ゼミ4  8回目 各ゼミ5  9回目 各ゼミ6  10回目 合同ゼミ（企画4）  11回目 合同ゼミ（企画5）  12回目 合同ゼミ（企画6）  13回目 各ゼミ7  14回目 各ゼミ8  15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。  また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。  そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。  授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	29104
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	奥田 沙織
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	奥田 沙織 (経済学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1  2回目 各ゼミ2  3回目 各ゼミ3  4回目 合同ゼミ（企画1）  5回目 合同ゼミ（企画2）  6回目 合同ゼミ（企画3）  7回目 各ゼミ4  8回目 各ゼミ5  9回目 各ゼミ6  10回目 合同ゼミ（企画4）  11回目 合同ゼミ（企画5）  12回目 合同ゼミ（企画6）  13回目 各ゼミ7  14回目 各ゼミ8  15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。  また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。  そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。  授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	29105
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,4
主担当教員 Main Instructor	金村 久美
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	金村 久美 (経済学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1  2回目 各ゼミ2  3回目 各ゼミ3  4回目 合同ゼミ（企画1）  5回目 合同ゼミ（企画2）  6回目 合同ゼミ（企画3）  7回目 各ゼミ4  8回目 各ゼミ5  9回目 各ゼミ6  10回目 合同ゼミ（企画4）  11回目 合同ゼミ（企画5）  12回目 合同ゼミ（企画6）  13回目 各ゼミ7  14回目 各ゼミ8  15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。  また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。  そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。  授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	29106
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	人見 浩司
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	人見 浩司 (経済学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能</p> <p>必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。</p> <p>文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な態度</p> <p>自らを律して行動できる。</p> <p>約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。</p> <p>仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1  2回目 各ゼミ2  3回目 各ゼミ3  4回目 合同ゼミ（企画1）  5回目 合同ゼミ（企画2）  6回目 合同ゼミ（企画3）  7回目 各ゼミ4  8回目 各ゼミ5  9回目 各ゼミ6  10回目 合同ゼミ（企画4）  11回目 合同ゼミ（企画5）  12回目 合同ゼミ（企画6）  13回目 各ゼミ7  14回目 各ゼミ8  15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。  また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。  そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。  授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	29107
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	石川 啓雅
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	石川 啓雅 (経済学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1  2回目 各ゼミ2  3回目 各ゼミ3  4回目 合同ゼミ（企画1）  5回目 合同ゼミ（企画2）  6回目 合同ゼミ（企画3）  7回目 各ゼミ4  8回目 各ゼミ5  9回目 各ゼミ6  10回目 合同ゼミ（企画4）  11回目 合同ゼミ（企画5）  12回目 合同ゼミ（企画6）  13回目 各ゼミ7  14回目 各ゼミ8  15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。  また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。  そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。  授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IB
時間割コード Course Code	29150
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,3
主担当教員 Main Instructor	佐藤 正之
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	情報実習室 B
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 正之 (経済学部)
授業の目標	<p>1. 大学での学び方の基本を理解し身につけること。  2. ゼミの仲間の中で自分が興味を持っているテーマについて発表すること。  3. さまざまな課題にみんなで取り組むことにより、互いの信頼関係を築くこと。  4. 将来社会人として活躍するための基礎力を身につけること。</p> <p>[この授業を通じて達成したい学習成果]  学習ならびに大学生活全般に必要な技能  必要な情報を要領よく収集しそれを整理し活用できる。  文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。  自分の考えをまとめ表現できる。  学習ならびに大学生活全般に必要な態度  自らを律して行動できる。  約束を守ることなど大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。  仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>授業形態 (対面授業を基本とするが、状況によって遠隔となる場合がある)  前期に続き、学生生活で必要となる技能、特に文献検索、統計データ検索と、読んだ本の一部を発表するための資料 (レジュメ) を作るスキルを学びます。  時間外での学外行事に参加予定です。  また他のゼミの学生と力を合わせる「合同ゼミ」などでのグループワークの練習や、学外での行事への参加とレポートの作成などを行います。これは将来の就職活動で必要となる技能ですし、いつもとは違った人たちと出会うチャンスですので、積極的な参加姿勢が必要です。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。  1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。  2. ゼミの仲間の発表をよく聴き、その発表に学び、それについての自分の考えを述べること。  3. 自分の選んだテーマについてレジュメにまとめ、ゼミの仲間の前でわかりやすく説明すること。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	遅刻・欠席回数が多い、課題への取り組み不足、共同作業の無断欠席については、周りに迷惑がかかるため失格とする。

授業計画	<p>第1回 ガイダンス（履修登録確認）</p> <p>第2回 履修登録の最終確認、ゼミ仲間の話を聞く</p> <p>第3回 文献検索実習(1)</p> <p>第4回 学外調査（フィールドワーク準備等）</p> <p>第5回 学外調査（フィールドワーク準備等）</p> <p>第6回 合同ゼミ(企画G)</p> <p>第7回 レジュメの作り方(1)</p> <p>第8回 レジュメの作り方(2)</p> <p>第9回 レジュメの発表と質疑</p> <p>第10回 学外調査（フィールドワーク）</p> <p>第11回 学外調査（フィールドワーク）</p> <p>第1213回 合同ゼミの記録と整理</p> <p>第14回 報告書作成(1)</p> <p>第15回 報告書作成(2)</p> <p>後期のゼミでは、学外調査（フィールドワーク）を実施する予定です。観光動向調査を準備していますが、日程は後期開始時に確認します。なお、企画 Gの合同ゼミで、「新聞活用講座」について学びます。（あくまで予定、進行状況によって変更することがあります）</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。</p> <p>授業に必要な資料をそのつど配布します。</p>
参考書	<p>『大学生 学びのハンドブック4訂版』、世界思想社、1,200円（税別）。</p> <p>その他授業中に指示します。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ゼミのテーマや進捗に沿って、フィールドワーク・巡検を実施する場合があります。また、その場合は、土日など別の時間に振替えることがあります。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	大学のgooleアカウント利用が必須。mailとclassroom、その他、会議アプリも必要に応じて使用する。
フィードバックの方法	大学のgooleアカウント利用が必須。mailとclassroom、その他、会議アプリも必要に応じて使用する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	フィールドワークなどの、通常の講義期間外でのゼミ実施の場合、準備が必要です。また、実施後に研究の補完も必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IB
時間割コード Course Code	29151
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,4
主担当教員 Main Instructor	村山 徹
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	村山 徹 (経済学部)
授業の目標	<p>この演習を通じて、2年生以降の学習、さらにはその先の就業の基礎となるよう、情報収集と整理、情報読解力、そして、自身の考えを説明するための基本的な能力を身に着けることを目標とする。くわえて、本学のある犬山市についても詳しくなる。</p> <p>知識・理解の領域 犬山市やその周辺域において、特定の政策領域に関する知識を身につける。</p> <p>技能の領域 日常的コミュニケーションだけでなく、学習や仕事において必要となる情報活用やプレゼンテーションの方法を習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 自らの考えをまとめ、他者に対して説明することに積極的になる。一方、他者の説明を聞き、尊重することもできる。</p>
授業の概要	<p>授業では、いくつかの地域課題の中から研究テーマを取り上げる。そして、テーマに沿った情報を収集・整理、グループワークや発表などを通じて期末レポートを作成してもらいます。また、就学する犬山市や周辺域の理解に役立つフィールドワークも実施する予定です。(フィールドワークは予定を変更する場合もあり)</p>
評価方法	<p>参加態度(30%) + 課題など(70%)で評価します。 ゼミナールには休まず出席すること。積極的な意見・発言を評価します。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>15分以上の遅刻は欠席扱い、なお、無断欠席の多い場合は「失格」とします。 また、各自の発表回などを欠席した場合、単位は修得できません。</p>

授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 調査テーマの設定</p> <p>第3回 文献資料の種類と収集方法</p> <p>第4回 文献資料の読み方と練習 1 .</p> <p>第5回 文献資料の読み方と練習 2 .</p> <p>第6回 【合同ゼミ ( 企画G )】</p> <p>第7回 プレゼンテーションの仕方 : レジюме、論理構成</p> <p>第8回 プレゼンテーションの準備 1 . -表現力-</p> <p>第9回 プレゼンテーションの準備 2 . -批判力-</p> <p>第10回 プレゼンテーションの準備 3 .</p> <p>第11回 統計データの収集・編集 1 .</p> <p>第12回 統計データの収集・編集 2 .</p> <p>第13回 統計データの収集・編集 3 .</p> <p>第14回 観光フィールドワーク 1 .</p> <p>第15回 観光フィールドワーク 2 .</p> <p>【注記】 後期 15 回のゼミのうち、1 回分を 合同ゼミ ( それぞれの学部・学科単位 ) で実施します。企画 G の合同ゼミで「新聞活用講座」について学びます。</p>
テキスト	テキストは使用しない。資料等は授業中に配布する。
参考書	必要に応じて適宜紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	フィールドワークは通常授業2回分を振り替え、週末に実施の予定。詳細についてはゼミ内で受講生と相談して決定します。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	分からないことは積み残すことなく、積極的に質問・相談してください。質問対応などオフィスアワーについては授業内で紹介します。
フィードバックの方法	特になし
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	プレゼンテーションの準備など、授業外に週2時間程度の学習時間の確保が望ましい。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 ( 1 ~ 10 )	8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標 ( 11 ~ 17 )	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IB
時間割コード Course Code	29152
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	岡田 和明
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岡田 和明 (経済学部)
授業の目標	<p>「自分が生まれたまち」、「自分が育ったまち」、「自分が生活しているまち」など自分と関わりのあるまちの特色、現状、課題などを知り、これからのまちづくり、活性化について自分の考えをまとめ発表する。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・地域における現状と課題を認識することができる。</li><li>・常に変化している社会情勢を理解することの重要性を知ることができる。</li><li>・自分たちが生まれたまち・生活しているまちへの関心を深め、そのまちの将来を考えることができる。</li></ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・行政機関が取りまとめた統計や計画書を読み取ることができる。</li><li>・多様な情報から必要なものを選択・分析し、それをもとに自分の考えをまとめることができる。</li><li>・自分の考えを、的確に相手に伝える。</li><li>・自分の考えをもち、他人と意見交換することができる。</li></ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・地域固有の資産（資源）を発掘し、新たな発想により地域資源を活用する。</li><li>・仲間との意見交換を通じ、自分の考えを深め、物事を多角的に見て考えることの重要性を知ることができる。</li></ul>

授業の概要	<p>自分と関わりがあるまちの将来(まちづくり、活性化)を考え、その考えを自らの言葉で伝える。</p> <p>地方の「まち」では、人口減少・少子高齢化社会の到来と、公共インフラの老朽化などからコンパクトシティを目指す「まち」も出始めてきた。さらに感染拡大対策の一環で地域固有の伝統文化(祭、季節行事など)が中止され将来に向っての継承への課題を残すばかりか、地域のコミュニティー自体の崩壊の危険すらある。</p> <p>他方、AI等の進化に伴い仕事が消滅し、仕事のやり方自体が変わろうとしている中、地域固有の産業や産業構造も変化を見せ始め、これまでの農村型コミュニティー（共同体的な一体意識）に代わり、都市型コミュニティー（個人をベースとした公共意識）が優先する社会変化も見逃せない。</p> <p>このような状況も踏まえ、今まで見向きされなかった地域固有資産（資源）の活用や、新しい発想をもとに、自分たちが生まれた（生活する）「まち」が生き残るためには・・・。「まち」が再生するためには・・・をSDGs（持続可能な発展目標）の視点も踏まえ考える。</p> <p>議論を深めるにあたり、その素材となる情報を収集する手段を知り、必要な情報を得る。それによって得た情報を整理、理解し、テーマについて簡潔にまとめ、自分の意見として発表し、チーム内で意見交換をする中で自らの考えをより高めていく。</p> <p>また、チーム内で報告・意見交換をする中でプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を涵養する。</p> <p>（この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。）</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1．ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</li> <li>2．ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</li> <li>3．授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</li> </ol> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 自分のまちの現状を分析する</p> <p>第3回 自分のまちと他のまちをデータにより基に比較する</p> <p>第4回 自分のまちの課題を抽出する</p> <p>第5回 まちづくり（活性化）を考える視点を知る</p> <p>第6回 【合同ゼミ(企画6)】</p> <p>第7回 地域固有な資源（資産）を考える</p> <p>第8回 まちの将来を考える</p> <p>第9回 まちづくりプランを考える</p> <p>第10回 多様な生き方にやさしいまちを考える</p> <p>第11回 社会情勢の変化を知る手段を考える</p> <p>第12回 先進的な事例を知る</p> <p>第13回 発表準備</p> <p>第14回 発表会</p> <p>第15回 振り返り</p> <p>後期15回のゼミのうち、1回を「合同ゼミ」で実施します。企画6の「新聞活用講座」では、情報収集のコツを知ります。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。</p> <p>授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>受講者それぞれの視点（切り口）でまちづくりを考えることとなるので、まずは自らで必要な資料・参考文献を探すことから始めます。</p> <p>本演習専用のノートを1冊用意し、毎回持参してください。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>最終的には、各自が自分のまちのまちづくりへの提案を行うが、検討段階で他の市町の課題や解決策と比較することで提案の質を高めることも目的にグループワークを取り入れます。また、第7回地域固有な資源（資産）を考える、第8回まちの将来を考える、第9回まちづくりプランを考えるでは、市役所や市民団体の活動拠点を訪ね意見交換を行います。</p> <p>また、地域の現状を知るためフィールドワークとしてアンケート調査を実施することもあります。その際には休業日(土・日)に振り替える場合もあります。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当する

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	長年の地方公務員経験がある教員が、自治体の現状や抱える課題の解決に向けた施策を解説し、自分たちのまちづくりや地域再生に向けた手段・方法を考えます。
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め随時受け付けます。方式は対面・メールに拘らな い。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習をそれぞれ2時間行うとともに、常に社会情勢や自分の関係するまちへの関心を深めるよう努めてください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標(11~17)	11.住み続けられるまちづくりを 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IB
時間割コード Course Code	29153
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	安部 伸哉
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 4 A多目的室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	安部 伸哉 (経済学部)
授業の目標	1) オリジナルモノポリーの作成を通して、地域への理解を深める。 2) 1冊のテキストを参加者全員で読み進めて、何が書かれていたのかを正確に読み取り、どのような意見・感想を持ったかを共有して、理解を深める。 3) 他人の意見を聞きながら、自分の意見を修正したり、気づきを得たりすることができる。
授業の概要	1) 前期に実施したモノポリーのオリジナル版を作成する。 2) テキストの音読を全員で音読する。  * テキストの変更や追加の可能性があります。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	授業への積極性 70% 感想コメント 30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席回数が5回を超えた場合、失格とする。
授業計画	第1回～第5回：ご当地版モノポリーの作成・発表 第6回 合同ゼミ（企画G）「新聞活用講座」 第7回～第15回：テキストの音読  * 状況により計画変更の可能性があります。
テキスト	テキスト 本田由紀 [ 2021 ] 『「日本」ってどんな国？：国際比較データで社会が見えてくる』，筑摩書房。
参考書	特になし。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	音読箇所についての論点・疑問点を中心に、グループディスカッションやディベートを行うことで、理解を深めます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後もしくは次回の授業で対応する。



フィードバックの方法	感想コメントに基づき、次回の授業でフィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1) 必ず音読箇所を読んでくること。 2) その際、意見や疑問を考えながら、または調べながら読むこと。 3) 提示された論点に対して、自分の意見を準備してくること。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力 9.実践力

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IB
時間割コード Course Code	29154
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	奥田 沙織
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	奥田 沙織 (経済学部)
授業の目標	基礎演習 B (奥田担当) では、前期基礎演習 A に引き続き、合同ゼミを1回実施 (ゼミ6回目) し、個別ゼミは14回行う。個別ゼミでは『地球上にある国々をたどろう、点から線、面そして球へ』をテーマに、世界の国々を探索し、点から線、面とつながってゆき、地球規模でみる視野と視点を養う。具体的には、関心のある国を選び、インターネットを使ってその国について検索・調査を進め、他のクラスメートに知らせたいと思う関心あるテーマについてさらに調査を進めて、最終的にプレゼンテーションを行い、相互に調査結果をシェアすることを目指す。可能であれば、各国から外国人研究員および留学生による各国事情の紹介も講義の中に取り入れながら、現地を知り、また、人的な交流を通して、コミュニケーションスキルを伸ばし、また、地球を学ぶ機会を提供する。
授業の概要	個別ゼミでは、授業の目標に沿って、下記についてスキルアップを目指す。特に、パーソナルコンピューター (パソコン) に慣れることを一つの目標とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイント (PPT) の使い方・インターネット上の情報の検索方法を学ぶ。</li> <li>・PPTを使って必要な情報をいかに説得的に伝えるかの訓練をする</li> <li>・目標とするテーマについて、なぜそのテーマを選んだか、その理由から開始し、その国に関する情報と、関心テーマに関して聴衆がイメージが持てるよう、説明をして、テーマの課題を示すトレーニングをする。</li> <li>・積極的に発言をし、他の学生との意見交換ができる環境を築く。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への参加姿勢 60%</li> <li>・パソコンを使ったパワーポイント等による発表の準備と発表内容 40%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>本ゼミでは、個別ゼミ（第1回～4回・7回～9回、12回～15回）、および、合同ゼミ（第5回・6回・10回・11回）で実施する。（各ゼミの内容は以下のとおり）</p> <p><b>個別ゼミ</b></p> <p>第1回： 14回の演習の内容とスケジュールについてガイダンスを行う。</p> <p>第2回～4回： 各ゼミ生は、担当する国を選択し、担当する国とその国に関する興味をもったテーマを探すために、インターネットから必要な情報を探索し、調べる。発見したことをパワーポイント（PPT）にまとめて発表する。同じ国に関心をもつ学生が複数名ある場合は、グループ発表とし、グループによる調査・ディスカッションも可能とする。PPTの作成方法・グーグルearth・グーグルkeepなどのアプリの利用方法も学ぶ。</p> <p>第7回～9回： 他の国の中間報告などから他国との比較し、内容について質疑応答を通じた議論をする</p> <p>第12回・第13回： 議論の結果などを踏まえて、発表内容を深める。</p> <p>第14回・15回： 各調査結果を発表し、日本との比較をしながら、議論する。</p> <p><b>合同ゼミ</b></p> <p>後期15回のゼミのうち、4回分を合同ゼミ（それぞれの学部・学科単位）を下記のとおり実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第5回 合同ゼミ（企画 A）テーマ「大学生を取り巻く危険として－振り込め詐欺・マルチ商法」</li> <li>・第6回 合同ゼミ（企画 B）テーマ「大学生を取り巻く危険として－ブラックバイト」</li> <li>・第10回 合同ゼミ（企画 C）テーマ「ダイバーシティ（多様性）について」</li> <li>・第11回 合同ゼミ（企画 D）テーマ「新聞活用講座について」</li> </ul>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	各自が作成した関心のある国に関するPPTについて、コメントを付す。それを踏まえて担当者は、担当国に関する最終発表の準備をする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	演習の前までに、事前に担当する国の概要をスマホなどで検索し、ある程度の知識を得る（15時間） 発表準備（15時間）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IB
時間割コード Course Code	29155
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	金村 久美
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	金村 久美 (経済学部)
授業の目標	1) 授業内、グループ内で発言ができるようになる。 2) 根拠をふまえて論理的に考えた上で意見を述べるができるようになる。 3) 大学で共に学ぶ仲間を作る。
授業の概要	1) ディベートを行う。入門段階として、準備を必要としないミニディベートのやり方を学び実践する。 2) プレゼンテーションの基本構成とスライド作成・発表のスキルを学ぶ。 3) 傾聴のスキルを学ぶ。  *6回目は合同ゼミ形式で「新聞活用講座」が行われる。
評価方法	1) 毎回授業後に提出するコメントの質を評価し、その評価の平均を学期末の評価とする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	毎回の授業は次のように行う。 1) 読書会の範囲に含まれる語彙についてのプレゼンテーションを行う。 2) 読書会の範囲に関する「質問作り」を行う。 3) 読書会を行う。 その他、学期前半・中盤に懇親会を行う。  ただし、下記の回は合同ゼミとします。 第5回 合同ゼミ(企画A) 第6回 合同ゼミ(企画B) 第10回 合同ゼミ(企画C) 第11回 合同ゼミ(企画D)  後期15回のゼミのうち、4回分を「合同ゼミ」(それぞれの学部・学科単位)で実施します。すなわち、企画Aと企画Bの合同ゼミでは、大学生を取り巻く危険として「振り込め詐欺・マルチ商法」および「ブラックバイト」の各テーマについて学びます。また、企画Cと企画Dの合同ゼミでは、「ダイバーシティ」および「新聞活用講座」の各テーマについて学びます。
テキスト	なし
参考書	なし
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業内で、グループで話し合い、チームとして協力して活動することが求められる。</li> <li>・学生は、1学期に1回以上、プレゼンテーションを作成し実施する必要がある。</li> <li>・ディベートにおいては、主体的に考え、話し、他の人の意見を聞き、ディベートを実践する活動に積極的に参加することが求められる。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	Discordという掲示板アプリを利用し、学生は随時質問を送ることができる。
フィードバックの方法	Discordという掲示板アプリを利用し、教員は毎週フィードバックを返す。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	プレゼンテーションの準備やコメントの作成のため、学生は毎週30分から1時間の予復習が必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>3. 統率力</li> <li>4. 感情制御力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>6. 行動持続力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IB
時間割コード Course Code	29156
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,4
主担当教員 Main Instructor	人見 浩司
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	人見 浩司 (経済学部)
授業の目標	本演習においては地域の課題を研究テーマとし、個人研究とグループ研究により、地域貢献の人材としての基礎を学ぶ。 知識・理解の領域 ・地域の文化・歴史などを学び、地域の課題を理解し、研究テーマを設定できる。 技能の領域 ・グループワークを通し、研究テーマについてディスカッションができる。 ・インターネットなどにより多情報を適切に整理し、活用できる。 ・効果的なプレゼンテーションができる。 態度・志向の領域 ・他社の考えを受容するとともに自分の考えや意見を述べる事ができる。
授業の概要	犬山周辺について個人が分野別に調べた情報を出し合い、分野ごとにグループを作り、課題を設定して、その課題について研究、分析したものをグループ単位でプレゼンテーションを行う。
評価方法	個人研究 (課題レポートとその内容) 30 % グループ研究 (グループワークへの参加態度、ディスカッションの内容等) 40 % プレゼンテーション (プレゼンテーション資料の出来、発表の質) 30 %
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上欠席した場合は失格とする 遅刻早退は3回で欠席1回とする
授業計画	1 年間計画の説明 研究の目的 2 研究の流れを学ぶ 講義形式 3 課題の発表 研究課題の決定 4 グループワークで研究テーマの決定 5 研究テーマ決定に向けてのディスカッション 6 合同ゼミ 企画G 7 研究のまとめ方 講義形式 8 研究のまとめ パワーポイント作成 9 研究のまとめ パワーポイント作成 10 研究のまとめ パワーポイント作成 11 研究のまとめ パワーポイント作成 12 プレゼンテーション準備 13 プレゼンテーション準備 14 プレゼンテーションAグループ 15 プレゼンテーションBグループ  後期15回のゼミのうち、1回分を合同ゼミ(それぞれの学部・学科単位)で実施します。 すなわち、企画Gの合同ゼミでは、「新聞活用講座」のテーマについて学びます。

テキスト	使用しない																																																																				
参考書																																																																					
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む																																																																				
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループで課題の議論をし、発表資料を作成し、プレゼンテーションを行う。																																																																				
実務経験のある担当教員による授業	該当しない																																																																				
担当教員の実務経験を活かした授業の内容																																																																					
質問への対応方法	随時対応																																																																				
フィードバックの方法	翌週返却																																																																				
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>主題</th> <th>学習方法と内容</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>年間計画の説明</td> <td>研究の目的</td> <td>次回までの課題 5 時間</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>研究の流れを学ぶ</td> <td>講義形式</td> <td>次回までの課題 5 時間</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>課題の発表</td> <td>研究課題の決定</td> <td>次回までの課題 5 時間</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>グループワーク</td> <td>研究テーマ決定に向け</td> <td>次回までにグループごとの研究の準備課題 10 時間</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>で研究テーマの決定</td> <td>でのディスカッション</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>テーマ内容について</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>合同ゼミ</td> <td>企画G</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>研究のまとめ方</td> <td>講義形式</td> <td>次回までの課題 5 時間</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>研究のまとめ</td> <td>パワーポイント作成</td> <td>次回までの課題 5 時間</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>研究のまとめ</td> <td>パワーポイント作成</td> <td>次回までの課題 10 時間</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>研究のまとめ</td> <td>パワーポイント作成</td> <td>次回までの課題 5 時間</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>研究のまとめ</td> <td>パワーポイント作成</td> <td>次回までの課題 5 時間</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>プレゼンテーション準備</td> <td></td> <td>次回までの課題 8 時間</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>プレゼンテーション準備</td> <td></td> <td>次回までの課題 8 時間</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>プレゼンテーションAグループ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>プレゼンテーションBグループ</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	回数	主題	学習方法と内容	備考	1	年間計画の説明	研究の目的	次回までの課題 5 時間	2	研究の流れを学ぶ	講義形式	次回までの課題 5 時間	3	課題の発表	研究課題の決定	次回までの課題 5 時間	4	グループワーク	研究テーマ決定に向け	次回までにグループごとの研究の準備課題 10 時間			で研究テーマの決定	でのディスカッション	5	テーマ内容について	ディスカッション		6	合同ゼミ	企画G		7	研究のまとめ方	講義形式	次回までの課題 5 時間	8	研究のまとめ	パワーポイント作成	次回までの課題 5 時間	9	研究のまとめ	パワーポイント作成	次回までの課題 10 時間	10	研究のまとめ	パワーポイント作成	次回までの課題 5 時間	11	研究のまとめ	パワーポイント作成	次回までの課題 5 時間	12	プレゼンテーション準備		次回までの課題 8 時間	13	プレゼンテーション準備		次回までの課題 8 時間	14	プレゼンテーションAグループ			15	プレゼンテーションBグループ		
回数	主題	学習方法と内容	備考																																																																		
1	年間計画の説明	研究の目的	次回までの課題 5 時間																																																																		
2	研究の流れを学ぶ	講義形式	次回までの課題 5 時間																																																																		
3	課題の発表	研究課題の決定	次回までの課題 5 時間																																																																		
4	グループワーク	研究テーマ決定に向け	次回までにグループごとの研究の準備課題 10 時間																																																																		
		で研究テーマの決定	でのディスカッション																																																																		
5	テーマ内容について	ディスカッション																																																																			
6	合同ゼミ	企画G																																																																			
7	研究のまとめ方	講義形式	次回までの課題 5 時間																																																																		
8	研究のまとめ	パワーポイント作成	次回までの課題 5 時間																																																																		
9	研究のまとめ	パワーポイント作成	次回までの課題 10 時間																																																																		
10	研究のまとめ	パワーポイント作成	次回までの課題 5 時間																																																																		
11	研究のまとめ	パワーポイント作成	次回までの課題 5 時間																																																																		
12	プレゼンテーション準備		次回までの課題 8 時間																																																																		
13	プレゼンテーション準備		次回までの課題 8 時間																																																																		
14	プレゼンテーションAグループ																																																																				
15	プレゼンテーションBグループ																																																																				
使用言語	日本語																																																																				
SDGs 17の目標 (1~10)	4. 質の高い教育をみんなに																																																																				
SDGs 17の目標 (11~17)																																																																					
PROGリテラシーの要素																																																																					
PROGコンピテンシーの要素																																																																					

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IB
時間割コード Course Code	29157
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	石川 啓雅
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	石川 啓雅 (経済学部)
授業の目標	<p>本演習(石川担当)では、2年生以降の学修、そして卒業後の就業の基礎となるように、情報収集と整理、情報読解力、そして、自身の考えを説明するための基本的な能力を身に付けることを目標とする。</p> <p>知識・理解の領域 情報を出力するための方法に関する知識を得ることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 自らの考えをまとめ、理由・根拠をもって他者に対して説明するコンピテンシーが身につく。他者の考えを読み取り、他者の意見から建設的なものを取得する感性が養われる。</p> <p>技能の領域 テキストデータを読解・整理し、要点を出力するスキルが養われる。</p>
授業の概要	<p>演習では輪読文献(メンバーが読む本)を決め、文献の内容について、ゼミ生が報告を行う。ゼミ生は演習までに輪読文献について、読書ノートと報告資料(レジュメ)を作成し、報告を行う。演習の時間では、報告に基づき、意見交換や質疑応答を行う。作成物(読書ノートと報告資料)については加筆や再作成(やりなおし)等の修正指示を行う場合がある。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕 本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>読書ノート：25% 報告資料のボリューム：25% 報告資料の内容：25% 参加態度：25% 修正指示への対応を含む</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明する。



授業計画	<p>第01回 ガイダンス(自己紹介、ゼミの目的・進め方、役割分担)</p> <p>第02回 輪読文献の検討・決定、担当パートの振分け、報告順序の決定</p> <p>第03回 読書ノート及び報告レジュメの作り方と報告の作法</p> <p>第04回 ゼミ生による担当パートの内容・論点報告及び感想・批評と意見交換</p> <p>第05回 ゼミ生による担当パートの内容・論点報告及び感想・批評と意見交換</p> <p>第06回 合同ゼミ(企画G)</p> <p>第07回 ゼミ生による担当パートの内容・論点報告及び感想・批評と意見交換</p> <p>第08回 ゼミ生による担当パートの内容・論点報告及び感想・批評と意見交換</p> <p>第09回 ゼミ生による担当パートの内容・論点報告及び感想・批評と意見交換</p> <p>第10回 ゼミ生による担当パートの内容・論点報告及び感想・批評と意見交換</p> <p>第11回 ゼミ生による担当パートの内容・論点報告及び感想・批評と意見交換</p> <p>第12回 ゼミ生による担当パートの内容・論点報告及び感想・批評と意見交換</p> <p>第13回 ゼミ生による担当パートの内容・論点報告及び感想・批評と意見交換</p> <p>第14回 ゼミ生による担当パートの内容・論点報告及び感想・批評と意見交換</p> <p>第15回 ゼミ生による担当パートの内容・論点報告及び感想・批評と意見交換</p> <p>後期15回のゼミのうち、1回分を「合同ゼミ(企画G)」とする。合同ゼミでは、「新聞活用講座」について学ぶ。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しない。</p> <p>授業に必要な資料については、適宜配布する。</p> <p>第01～05回，第07～15回については課題文献と報告者の作成資料がテキストとなる。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』(世界思想社、2021年)</p> <p>上野千鶴子『情報生産者になる』(ちくま新書、2018)</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	可能な範囲で随時返答・コメントする。
フィードバックの方法	作成物(読書ノートと報告資料)をとりまとめ、報告論集とし、フィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	課題文献の読書ノートと報告資料の作成に当たっては、関連文献の探索・読解も含めて2時間以上、報告後の修正指示等への対応として2時間以上の作業を行うこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス(自己紹介、ゼミの目的・進め方、役割分担)		
2	輪読文献の検討・決定、担当パートの振分け、報告順序の決定		
3	読書ノート及び報告レジュメの作り方と報告の作法		
4	読書ノート及び報告レジュメの作り方と報告の作法		
5	合同ゼミ		
6	合同ゼミ		
7	ゼミ生による担当パートの内容・論点報告及び感想・批評と意見交換		
8	ゼミ生による担当パートの内容・論点報告及び感想・批評と意見交換		
9	ゼミ生による担当パートの内容・論点報告及び感想・批評と意見交換		
10	合同ゼミ		
11	合同ゼミ		
12	ゼミ生による担当パートの内容・論点報告及び感想・批評と意見交換		
13	ゼミ生による担当パートの内容・論点報告及び感想・批評と意見交換		
14	ゼミ生による担当パートの内容・論点報告及び感想・批評と意見交換		
15	ゼミ生による担当パートの内容・論点報告及び感想・批評と意見交換		

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	29200
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3
主担当教員 Main Instructor	木村 牧郎
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	木村 牧郎 (経済学部)
授業の目標	<p>『働くこと』がテーマです。疑問に思ったことをみんなと共有し、情報収集・整理します。それを新たな考えや発想にむすびつけ、発表する練習をします。3年生以降の専門科目の学習やその先の職業人生を見すえたコミュニケーション能力や問題発掘能力、問題解決力、情報収集能力を身につけることを目標とします。</p> <p>&lt; 学習の成果 &gt;  知識・理解の領域  ・ワークルールについて理解を深める。  技能の領域  ・疑問に思ったことに対して仮説を立て、筋道を立てて論理的に説明することができる。  ・データや資料を用いて説得力のあるプレゼンができる。  ・将来、報告書の作成などで必要となる文章力を高めることができる。</p> <p>関心意欲の領域  ・「働くこと」に関して真剣に考え、学んだことを就職活動や卒業後の職業人生につなげることができる。  態度・志向性の領域  ・他者とのコミュニケーションに積極的になる。協調性を覚え、他者の意見を尊重できる。</p>
授業の概要	<p>みなさんの身近なテーマである「働くこと」に焦点を当てます。大学在学時のアルバイトであれ大学卒業後の就職であれ、みなさんは「働くことは生活の一部であり、当たり前なもの」と考えるかもしれませんが、地震などの外的要因や身体や心の問題など内的要因によってその当たり前はもろくも崩れます。終身雇用や年功賃金といった日本的といわれる雇用慣行が崩れ労働が劣化するなかで、当たり前と考える「働き方」を見つめてみましょう。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>以下の評価項目にしたがって成績評価をつけます。</p> <p>授業への意欲・関心 (20%)  グループワークへの参加態度 (50%)  グループ報告の成果 (30%)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	毎週の授業に出席すること。とくに報告を担当する授業での欠席は認めません。

授業計画	以下の種類のワークを織り交ぜながら授業を行います。  グループ・ワーク...「働くこと」と「ワークルール」をテーマとしたグループワークをする。グループでの活動を通じて自分に関心のあるテーマの中から疑問に思ったことを「問い」として問題提起し、その裏付けとなる文献や資料、データの収集方法を学ぶ。さらに調べたことを要約し、プレゼン資料として作成し、実際に報告するまでの一連の作業をグループ単位で進める。他者との議論を通じて、コミュニケーション能力や協調性、論理的思考を磨く。 アカデミック・ライティング・ワーク...レポートやレジュメの書き方、分かりやすい文章づくり、プレゼン技法を磨くワークをする。ゼミ生同士で互いの成果を評価し合いながら、リテラシー能力を磨く。
テキスト	特になし。 必要な資料は授業中に配布する
参考書	・追手門学院大学成熟社会研究所編『一人で思う、二人で語る、みんなで考える：実践！ロジコムメソッド』岩波ジュニア新書、2020年 ・桑田てるみ編『学生のレポート・論文作成トレーニング改訂版：スキルを学ぶ21のワーク』実教出版、2015年
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークを通じた学習が多くなります。ゼミ生同士の話し合いを通じてアイデアを出し合ったり、試行錯誤しつつもグループ内で役割分担・共同作業の体制を築いたりしながら、ゼミ生自身で共通の目標に到達するような機会を設けます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	疑問や分からないことがあれば、残さずに質問すること。質問は授業後の時間以外にもオフィス・アワーやメール(kimura.makio@nagoya-ku.ac.jp)でも対応します。
フィードバックの方法	登録したe-learning上のシステムよりふり返り用の課題を提出してもらい、翌週にはコメントをつけて返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・各グループで集まり、授業回ごとのグループ課題に取り組むこと ・個人レポート課題の提出に向けて、準備すること ・グループ発表に向けて、準備すること
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	29201
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	齋藤 敦
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	齋藤 敦 (経済学部)
授業の目標	<p>大学での学び方は、社会に出て仕事をしていく時に活かすことができるものでもあります。1年次には大学での学び方がどのようなものかを知っただろうと思います。この演習では、大学での学びの技法を知るだけでなく実際に行うことができるようになることを目指します。取組みの中で、社会で起きている出来事や、経済や財政等について基本的な事柄を説明できるようになることも目標の一つです。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済分野（経済や財政等）に関する基礎的な知識を持つことができる。</li> <li>・論理的な文章を知ることができる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会、日本社会が抱えている問題に関心を持つようになる。</li> <li>・社会人として必要になる基本的なマナーを知ることができる。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話の要点や自分の考えをまとめ、文章にして説明することができるようになる。</li> <li>・信頼できる情報を集め、適切に活用できるようになる。</li> <li>・自分の関心を洗い出すことができる。</li> </ul>
授業の概要	<p>この基礎演習 II では、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜、大学での学び方をおさらいしながら専門演習に向けて知的技能の基盤づくりを行っていきます。</li> <li>・グループでの活動や個人での活動を通じて学びの技法を身につけていきます。</li> <li>・授業は受講生が主体となって進み、皆に討論や議論の仕方をも身につけてもらう予定です。質問へは主に授業の中で対応します。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・報告発表・提出物（レジュメ・レポート等）の内容、ゼミへのかかわり方・取組み方、毎回の取組み等で総合的に評価します。コメント等、適宜、授業の中で行います。</li> <li>・ゼミは休まず出席し、毎時間取り組む、きちんと連絡に答える、各種の指導をまもることが基本です。</li> <li>・学生同士がお互いから学び合う場でもあるので、学びの場の雰囲気や壊すような自分勝手なことは許されません。</li> <li>・15分以上の遅刻、正当な理由のない早退は欠席とします。</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席や遅刻が多い、無断で欠席する、報告発表の担当や提出物を怠る等、こうしたことは失格や不合格になります。</li> </ul>

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業内容は進行状況、受講生の理解度等に応じて適宜設定していきます。</li> <li>・ 各人が関心や対象を洗い出します。それについて報告発表を行います。</li> <li>・ 経済や財政等に関する資料文献を皆で読んでいき、その中で、まとめ方・読み方、発表の仕方を学んでいく計画です。</li> <li>・ 第1～2回にはガイダンス、オリエンテーション、担当決めを行い、第12～15回には最終の発表・課題提出をしてもらう予定です。</li> <li>・ 課題等の準備をしっかりと行き、指示された活動や改善向上によく取り組んでください。指示された予習等の活動にもよく取り組んでください。</li> </ul>
テキスト	世界思想社編集部編（2024）『大学生学びのハンドブック[6訂版]』世界思想社(3月出版予定)
参考書	<p>適宜紹介しますが、さしあたり次のものをあげておきます。</p> <p>戸田山和久（2022）『論文の教室[最新版]』NHK出版。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問に対する対応は、主として授業中に行います。
フィードバックの方法	コメント等、フィードバックは、授業の中で行いますが、オフィス・アワーでの面談やメールでの対応も行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指定された文献の読み込み、授業時間における質疑応答等の復習、指定された課題の提出、発表の準備などに取り組む必要があります。</li> <li>・ グループワークについては、授業時間外にも作業や学習を進める必要があります。</li> <li>・ 理想的には、目安として授業時間の2倍程度の自学が必要です。</li> </ul>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	29202
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	酒井 愛
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	酒井 愛 (経済学部)
授業の目標	<p>本演習では日本経済の歩みを概観し、日本経済の現状をゼミメンバーとともに考察します。政府の行う政策的な側面に着目しながら、様々なトピックを取り扱い、専門演習における探究活動への橋渡しを行います。日本における今後の政策の在り方について、一人ひとりの学生が関心を持ち、現状理解と課題解決への糸口を自ら考えられるようになることを目指します。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;</p> <p>知識・理解の領域 本演習で学んだ日本経済の現状・課題について、他者に説明し、継続して理解を深めることができる。</p> <p>思考判断の領域 日本の政策、広くマクロ政策に関する課題を見出し、自身の現状での考えをまとめることができる。</p> <p>関心意欲の領域 政策をより身近なものとして捉えるべく、現在実施されている政策について制度・課題のうち、自らの関心に合わせて、理解を深めようと意欲的な学習を行うことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 自身の見解を論理的・整合的に述べようと努力することができ、スキルアップすることができる。</p> <p>技能の領域 読み手・聴き手への配慮を念頭に、簡潔かつ明瞭なレジюмеを作成したうえで、板書による説明を含めた効果的なプレゼン方法を実践できる。</p>
授業の概要	<p>本演習では日本経済の歩みを概観することから始め、輪読・ディスカッションを通じて、日本経済が抱える課題に関する理解を深めます。企業活動、労働、社会保障、財政政策、金融政策、貿易、農業、環境など、様々なトピックを取り扱います。基礎演習IIAおよび基礎演習IIBを通じて、3年次以降の専門演習における探究活動に向けて、自分自身の興味・関心を掘り下げ、長期的に取り組みたいと考えられるテーマを模索します。</p> <p>前期(基礎演習IIA)・後期(基礎演習IIB)ともに、毎週の輪読報告当番をベースに進めていきます。担当者からの報告後、質疑応答のほか、報告箇所に関するディスカッションを行う中で、参加者全員の理解を深めていきます。報告にあたってのレジюме作成や板書・プレゼンテーションは、報告者だけでなく、読み手・聴き手にとっても、社会になる前の準備として、有意義な時間となるはずです。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	<p>参加姿勢：70%（下記項目を目安にして下さい。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告担当者として...十分な事前準備をして報告に臨むほか、質問への適切な対応ができるように心がけて下さい。</li> <li>・良き聴き手として...建設的な提案や理解を深めるための質問ができると良いでしょう。</li> <li>・グループディスカッションに積極的に参加し、お互いを認め・高め合うことが大切です。</li> </ul> <p>レポート：30%（下記項目を目安にして下さい。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輪読報告担当時のレジュメのほか、聴き手としての報告評価シートへの記載内容も評価します。</li> <li>・中間レポートや期末レポートの形式で実施することもありますので、演習内でのアナウンスに従って下さい。 今後の卒業論文執筆を念頭に、レポートの書き方等についても、演習内で適宜指導します。</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>ディスカッションへの積極的な参加の重要性をふまえ、出席回数が12回に満たない場合には失格となり、単位を修得することができません。</p> <p>「報告・連絡・相談」を基本とし、連続して2回無断欠席した場合には失格となり、単位を修得することができません。何事もできる限り、事前に相談するよう心掛けてください。</p>
授業計画	<p>詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。（初回演習時に輪読分担箇所を決めます。）</p> <p>前期に2年生向けインターンシップ（ジョブトレーニング）ガイダンス、後期に2年生向け就職活動ガイダンスを実施予定です。授業計画詳細情報に記載の輪読スケジュールの変更と併せて、詳細はゼミ内で周知します。</p>
テキスト	浅子和美他編『入門・日本経済 [第6版]』有斐閣 ISBN978-4-641-16561-8
参考書	適宜紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	輪読箇所に関する政策実施の是非や政策提言について、グループディスカッションやディベートを交えることで理解を深めます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応します。そのほか、メール（ai.sakai@nagoya-ku.ac.jp）や本演習用のGoogle classroomでも対応しますので、適宜活用して下さい。 Google classroomは資料配信などに利用します。担当者より招待しますので入室して下さい。
フィードバックの方法	提出された課題については添削を行い、返却時にコメントします。輪読報告にあたってのレジュメ・プレゼンテーションに関する事柄については、報告担当者だけでなく受講学生全員のブラッシュアップに寄与するよう、各回において改善のポイントなどをアドバイスします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業計画詳細情報内の備考欄を参照し、各回の予習・復習を行ってください。専門共通基礎 科目の「市場の経済学」・「国民経済と政府」および、選択科目の「ミクロ経済学」・「マクロ経済学」などで学習する内容を適宜復習しておくといいでしょう。とりわけ経済学における応用経済学の分野においては、基礎理論のベースの上に議論がなされますので、輪読・報告にあたっては、必要に応じて、上記分野のテキスト等を振り返りながら知識の定着を図ることが重要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 7.課題発見力



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	イントロダクション	輪読担当箇所の設定	事前にテキストを準備し、各章の概要を確認したうえで参加すること。
2	日本経済の現状と課題(1)	現代経済の仕組み、経済大国としての日本	テキスト2-16ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
3	日本経済の現状と課題(2)	日本経済の成長と循環、少子高齢化、格差	テキスト17-34ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
4	高度成長から低成長へ(1)	経済復興、経済自立	テキスト35-52ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
5	高度成長から低成長へ(2)	構造変化と高度成長、成長鈍化	テキスト53-64ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
6	バブル経済、長期不況から日本再生へ(1)	資産価格高騰とバブル崩壊、景気循環	テキスト65-77ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
7	バブル経済、長期不況から日本再生へ(2)	不良債権と金融システム、構造改革	テキスト78-100ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
8	東日本大震災とアベノミクス(1)	リーマンショック、貿易収支	テキスト101-111ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
9	東日本大震災とアベノミクス(2)	アベノミクスと日本経済の課題	テキスト112-128ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
10	企業活動とグローバル化・IT化(1)	産業構造の変化、日本型企業システムの変化	テキスト129-143ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
11	企業活動とグローバル化・IT化(2)	自動車産業・鉄鋼産業・IT生産産業・ITサービス産業と企業構造	テキスト144-160ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
12	人々の労働と働きやすい社会(1)	日本的雇用慣行、若年者と労働	テキスト161-175ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
13	人々の労働と働きやすい社会(2)	女性と就労、高齢者と就労	テキスト176-194ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
14	社会保障の現状・課題(1)	社会保障概要、給付と負担、公的年金	テキスト195-214ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
15	社会保障の現状・課題(2)	医療保険、介護保険、貧困問題	テキスト215-234ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	29203
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	定森 亮
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70D演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	定森 亮 (経済学部)
授業の目標	<p>今日、国際化の進展によって種々の恩恵がもたらされている一方、国家の機能不全や経済的格差の拡大、環境破壊、移民など数多くの難題が生じてもいる。そうした世界的な状況のなかで市民一人ひとりが守るべき価値がどこにあり、そのために積極的に責任を引き受けて行くためには何をすればよいのか、履修生一人一人が独自の観点から考える力を付けることが目標となる。その際に以下の点を重視する。</p> <p>1) 言葉の一つ一つを正確に使っていくことで、自分自身の考えを少しずつ明瞭にし、さらには発展させていく。</p> <p>2) 相手の言葉の一つ一つにも慎重に耳を傾け、そこから自分が理解できる部分とそうでない部分をより分けることで、相手をより良く理解するための質問の仕方を工夫する。</p> <p>3) 議論をする際には、自分の考えを相手に一方的におしつけるのではなく、むしろ、相手の考えの最良と思われる部分を引き出した上で、自分の考えを伝える技術を身に付ける。</p>
授業の概要	<p>1) 指定の書籍を扱って輪読を行なう。</p> <p>2) 各回で報告者と司会を割り当て、レジュメの作り方、司会進行の仕方を学ぶ。</p> <p>3) 報告した者は、その担当個所に関して1200字程度のレポートを作成する。</p> <p>4) 学期末には履修生全員が、指定されたテーマに関して1200字程度のレポートを作成する。</p>
評価方法	<p>報告・司会 20%</p> <p>議論への参加度 20%</p> <p>2回のレポート 60%。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>齋藤幸平『人新生の資本論』をテキストとして輪読を行なう。</p> <p>第1回の授業で、自己紹介をした後、報告者や司会者の担当を決める。授業の進め方や、レジュメの作り方の注意点なども説明する。</p> <p>第2回と第3回は400字程度の自分で書いた短い文章を、何度も書き直すことを通じて、文章作成技術、ならびに独自の発想の導き出し方を学ぶ。</p> <p>第4回以降から輪読を始める予定。</p>
テキスト	齋藤幸平『人新生の資本論』集英社新書、2020。
参考書	特になし。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	履修生には学期中に1回は、読書会での報告あるいは司会を担当してもらう。毎回の講義では、報告者以外にも積極的に意見や疑問点を提示することが望まれる。また、意見や質問を述べる際に、どのようにすれば他の参加者によりよく自分の考えを理解してもらえるかを常に工夫してもらうことも重要になる。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後、あるいはオフィスアワーにて対応する。
フィードバックの方法	輪読での報告後に提出してもらうレポートは、コメントを加えた上で返却する。そのコメントを参考にした上で、内容を洗練させ、発展させた上で再提出してもらう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習： 該当範囲を丁寧に読み、内容の分からない点、疑問点、自分の考えを簡単にまとめておく。 復習： 授業での議論を通じて明らかになった、他の参加者と自分の考えが共通する点、あるいは異なる点を整理した上で、レポート作成の準備をしておく。また、その他の関連文献を読むことで、問題の焦点を絞り、自分の考えをさらに洗練させていく。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	29204
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	ブ ティ ビック リエン
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	情報実習室 B
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ブ ティ ビック リエン (経済学部)
授業の目標	本ゼミは前期の「基礎演習 IA」には経済データの統計学的な分析手法を習得することを目標とする。 。そのために、第一段階は指定するテキストに沿ってゼミを進めていく。必要に応じて参考テキストを使用することもある。第二段階は、日本と他のアジアの国々（例えば、ゼミ所属留学生の国）の公式統計データを手に入れて、学修した統計分析手法を当てはめて、データ分析を行ってみる。 テキストの購入は必須！
授業の概要	この基礎演習IIAでは、 ・今後の卒業論文作成に向けて、経済データの扱い方等の基礎知識や技能を学ぶ。 ・個人ワークおよびグループワークを通じて学び方を身につける。 ・ゼミは学生が主体となって進み、お互いに学び合う場をつくる予定である。授業のお邪魔は絶対許されない。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	下記要領を基に総合評価を行う。 ・ゼミへの参加態度、発表課題の完成度を重視する。欠席や遅刻が多いと単位はとれない。 ・20分以上の遅刻および正当な理由のない早退は欠席とみなす。 場合によっては期末レポートを課すこともある。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・無断欠席、特に自分の発表日に欠席すると、「失格」になる。 ・2回の遅刻は1回の欠席としてカウントする。 ・2回の早退は1回の欠席としてカウントする。 ・正当な理由のない欠席が4回以上(つまり、4回に達した)の学生は「失格」になる。
授業計画	詳細なゼミの進行計画等は初回ゼミに周知する。
テキスト	1) 岡田朋子 (2023) 『エクセルで学習するデータサイエンスの基礎 統計学演習15講』近代科学社 Digital
参考書	1) 隈田和人等 (2020) 『やさしい経済データ分析入門』オーム社 2) 三好大悟 (著)・堅田洋資 (監修) (2022) 『統計学の基礎から学ぶ Excel データ分析の全知識』インプレス 3) 山本 康平 (2017) 『統計学15講』新世社
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	

質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"><li>・基本的にゼミの時間内に質疑応答をする。</li><li>・ゼミ時間以外にはオフィスアワーやアポイント時間に対応する。</li></ul>
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"><li>・ゼミの時間内にする。</li><li>・ゼミ時間以外にはオフィスアワーやメールの連絡やり取りを通じて対応する。</li></ul>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"><li>・自分の発表の準備時間を十分に割くようにする。</li><li>・同ゼミ生の発表を理解するために、必ずテキストを読んでおく。</li></ul>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	29205
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	安部 伸哉
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 4 A多目的室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	安部 伸哉 (経済学部)
授業の目標	日本経済史・経営史に関連するテキストを読みながら、再度、大学生活における基本的なアカデミックスキル(読む、書く、報告、調査、議論など)を修得します。  <学習成果> 【知識・理解の領域】 日本経済史・経営史の基本的な用語を理解する。 【思考判断の領域】 文章が読めるだけでなく、文脈が理解できる。 【関心意欲の領域】 高い関心を持ち、意欲的に知識を得ようとする。 【態度・志向性の領域】 積極的にディスカッション・グループワークに参加することができる。 【技能の領域】 情報を整理して、説得力のある発表ができる。
授業の概要	再度、文献の調べ方、文献の読み方、レポートの作成、プレゼンの仕方、ディスカッションの作法などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得します。
評価方法	授業への出席を前提として、課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度を評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席回数が5回を超えた場合、失格とする。
授業計画	・自己紹介 / 授業の進め方 ・輪読・ディスカッション ・レポートの第1次草稿報告
テキスト	ゼミ内で指示します。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	テキストを読み、論点を設定して、ディスカッションを行います。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応します。
フィードバックの方法	随時対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	輪読のテキストを読むこと、報告担当者は輪読のレジюмеを作成すること、レポート課題の作成など。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	29206
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	奥田 沙織
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	14D講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	奥田 沙織 (経済学部)
授業の目標	この演習は、21世紀にみる地球上のダイナミックな人の移動に焦点をあて、地球上に起きている不確実な状況と人の移動に視野を向けつつ、遠い国のできごとが自分に影響していることへの認識をもつことを目標とする。具体的には、地球をとりまく最新の問題を最新の英語・日本語の資料を使って、国内外の問題への視点を養い、問題点について日本語あるいは英語を使って議論し、意見発表を行う。資料は、出版あるいはネット配信されているNikkeiやAsahi Weeklyなどの記事から、国内外の最新の時事問題や国際的な問題をとりあげ、読む英語力をつけながら国内外の問題への視点を養い、問題点について日本語で発表できるようにする。また、簡単な英語を使って説明できることを目指す。クラスでは、積極的に発言をし、他の学生との意見交換をすることが求められる。英文資料に慣れるために、インターネット上の翻訳ツールを利用できるスキルも養う。
授業の概要	上述の目標に向けて、具体的には、とりあげたテーマの中で関心をもった内容について、4名くらいのグループで討論し、PPTを使って発表できるよう、授業を進める。この演習では、積極的に英語で意見を発表する意欲をもった学生の参加を期待する。学生からも関心のあるテーマを提案してもらって、提案者を中心とした議論も行いたい。2022年2月24日に始まるロシアによるウクライナ侵攻後のグローバルサウスの登場と国際社会の変容、難民問題、環境破壊による自然災害の発生、各地にみる内戦など、最近の国際的に問題となっている話題をとりあげ、日本がどのようにその問題にかかわっているかについて意見交換をする。履修者には、日常的にスマホでニュースを追いかける習慣が求められる。また、パソコンの持参は必須事項であり、毎回、取り上げたテーマについて、できるだけノートに英語で記述する訓練も行う。最後の発表では、PPTを使って行う。
評価方法	・ 授業への貢献度・参加意欲と姿勢 70% ・ 発表準備と内容 30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	1) 授業ガイダンス 14回のスケジュールを説明し、日本で出版されているAsahi Weekly, 天声人語などの英文記事から抜粋した英文購読資料を配布する。 2) 配布している英文資料の購読を進める(30分)。その後、テーマについての関心度をはかり、その発表をするグループを決定する。 3) ~ 11) まで、第2回と同じように、演習を進める。計、10テーマの購読を終える。 12) ~ 14) まで、3回に分けて、グループごとに、発表の準備を進める。 15) 各グループ発表を行う。その後、意見交換をする。
テキスト	なし。
参考書	なし。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	



実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	各演習の内容について、毎回、簡単な英語によるまとめをレポートで提出し、次回のゼミで各レポートを概括する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業で配布した一定のテーマに関する英文による資料を読解し、資料から分析した問題点を探り出し、演習後には、テーマに関して英語による問題点を抽出し、次回のゼミで口頭発表できるよう、事前準備をする。(40時間) 発表準備(20時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	29207
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	金村 久美
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	金村 久美 (経済学部)
授業の目標	ディベートの訓練を通じて、次の力を身に付けます。 ・論理的に考えること ・根拠を踏まえた主張をすること ・相手の意見を傾聴すること ・客観的に判断すること
授業の概要	本ゼミではディベートを行います。ディベートの訓練を通して、論理的に考え、根拠を持って主張し、相手の意見を傾聴し、客観的に判断する訓練を行います。留学生の参加を歓迎します。
評価方法	この科目では次の点から成績を評価します。 1 出席 (出席数に満たない場合は失格とします。) 2 提出課題 (提出回数と、課題の質によって評価します。) 3 参加態度 (自らの能力を伸ばすために努力をしたか、クラスメイトを助ける行動をしたか、によって参加態度を評価します)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・ 6回以上の欠席は失格です。 ・ 所定の課題を一定数提出しない場合は失格です。
授業計画	次の活動を行います。やさしいものから難しいものへと移行します。 ・ディベートのトレーニング1)ブレインストーミング ・ディベートのトレーニング2)ロジックツリー ・ディベートのトレーニング3)プレゼンテーション ・ディベートのトレーニング4)リサーチ技法 ・ディベートのトレーニング5)ミニディベート ・ディベート実践
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	この授業で、アクティブラーニング、ディスカッションを含みます。 ・学生は、ディベートのトレーニング及び実践の準備のため、ペア、グループでのディスカッションに積極的に参加しなければなりません。 ・授業内でディベートの実戦を行い、これを通じて、論理的に考えること、口頭で発表すること、相手の意見に耳を傾けることを学びます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	

質問への対応方法	授業内での質問には随時対応します。 そのほか、チャットツール（Slackを予定）での質問を随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業内でのフィードバックの他、チャットツール（Slackを予定）で、課題等へのフィードバックを行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	ディベート等の課題の準備のための一定量の予習、及び、コメント提出のための復習が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 9. 実践力

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	29208
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	人見 浩司
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	人見 浩司 (経済学部)
授業の目標	現在の日本の教育の課題について少人数で議論し、新たな教育を模索し、提案する。 知識・理解の領域 ・日本の教育と海外の教育について学び、課題を提案する。 技能の領域 ・グループワークを通して、日本の学校教育についてディスカッションができる。 態度・志向の領域 ・他者の考えを受容するとともに自分の考えや意見を述べるができる。
授業の概要	日本の教育と海外の教育について講義で学ぶとともに実際の授業を見学し、日本の教育の課題についてグループでディスカッションを行い、新たな教育を提案する。
評価方法	個人研究 (課題レポート) 30% グループ研究 (グループワークへの参加態度、ディスカッションの内容) 40% プレゼンテーション (資料の内容、発表の質) 30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特に基準は設けませんが、グループワークへの参加状況が悪い場合は注意し、改善されない場合は失格とする場合もある。
授業計画	1 年間計画の説明等 2 日本の教育 3 海外の教育 4 高等学校の授業見学 5 中学校の授業見学 6 小学校の授業見学 7 , 8 グループワーク 9 , 10 資料作成 11 , 12 発表準備 13 ~ 15 発表、まとめ
テキスト	特になし
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループでディスカッションを行い、発表資料を作成し、プレゼンテーションを行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	翌週返却

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～3 講義のまとめ 次回まで3時間ずつ 4～6 授業見学の感想 次回まで3時間ずつ 7～8 議論のまとめ 次回まで3時間ずつ 9～10 資料作成 次回まで3時間ずつ 11～12 発表準備 次回まで3時間ずつ 13～15 まとめ 次回まで3時間ずつ
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	29209
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	佐藤 邦彦
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 邦彦 (経済学部)
授業の目標	<p>日本や国際社会が直面する様々な問題（政治、経済、社会、文化など）を取り上げ、順番に報告をし、議論を行う。様々なテーマに触れることにより、受講者の知識や関心が広がることを目指す。</p> <p>また、自らの関心テーマについて調べ発表する過程で、「読む」「まとめる」「発表する」といったスキルを学ぶ。</p> <p>&lt; 成果 &gt;</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済学的な視野を広げ、知識や関心が向上をはかる。</li> <li>・世界で何がなぜ問題になっているのか、理解できるようになる。</li> </ul> <p>関心・意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近なまたは世界で起こっている経済事象・時事問題について理解し、関心を持つことができる。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な情報や資料を入手できる。</li> <li>・効果的なプレゼンテーション能力が会得できる。</li> <li>・分かりやすいレジュメを作成できる。</li> </ul>
授業の概要	<p>文献、新聞・雑誌記事などで取り上げられている時事問題や政策課題について、受講者が関心のある事項を取り上げ、そのテーマについて発表・議論を行う。</p> <p>受講者は選択した時事問題や政策課題について、各自で調査・学習した内容をレジュメにまとめた上で、発表する(学生の関心等によって授業の進め方を変更する場合がある)。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミにおける報告・発表の内容、議論への参加状況等によって総合的に評価する。</li> <li>・欠席等は必ず事前に連絡をすること。5回以上の欠席は、失格や不合格になる場合がある。</li> <li>・発表日に無断で休んだ場合は、即「失格」とする。</li> <li>・授業に出ていても、やる気のない態度を見せる受講者は、大幅に減点し、目に余る場合は「失格」とする。</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	初回の授業で、ゼミをどのように進めていくのかについての説明を行う。
テキスト	授業で適宜紹介する。
参考書	

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	随時対応。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	入念な準備を行ったうえで授業に参加し、授業で得た様々なフィードバックを次回以降の授業に活かす。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IIB
時間割コード Course Code	29250
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	木村 牧郎
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	木村 牧郎 (経済学部)
授業の目標	<p>『働くこと』がテーマです。疑問に思ったことをみんなと共有し、情報収集・整理します。それを新たな考えや発想にむすびつけ、発表する練習をします。3年生以降の専門科目の学習やその先の職業人生を見すえたコミュニケーション能力や問題発掘能力、問題解決力、情報収集能力を身につけることを目標とします。</p> <p>&lt; 学習の成果 &gt;</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用や社会保障に関する分野について、近年の政策的課題とその論点について理解を深める。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問に思ったことに対して仮説を立て、筋道を立てて論理的に説明することができる。</li> <li>・データや資料を用いて説得力のあるプレゼンができる。</li> <li>・将来、報告書の作成などで必要となる文章力を高めることができる。</li> </ul> <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「働くこと」に関して真剣に考え、学んだことを就職活動や卒業後の職業人生につなげることができる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者とのコミュニケーションに積極的になる。協調性を覚え、他者の意見を尊重できる。</li> </ul>
授業の概要	<p>みなさんの身近なテーマである「働くこと」に焦点を当てます。大学在学時のアルバイトであれ大学卒業後の就職であれ、みなさんは「働くことは生活の一部であり、当たり前のも」と考えるかもしれませんが、地震などの外的要因や身体や心の問題など内的要因によってその当たり前はもろくも崩れます。終身雇用や年功賃金といった日本的といわれる雇用慣行が崩れ労働が劣化するなかで、当たり前と考える「働き方」を見つめてみましょう。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>以下の評価項目にしたがって成績評価をつけます。</p> <p>授業への意欲・関心 (20%) グループワークへの参加態度 (50%) グループ報告の成果 (30%)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	毎週の授業に出席すること。とくに報告を担当する授業での欠席は認めません。



授業計画	以下の種類のワークを織り交ぜながら授業を行います。  グループ・ワーク...「働くこと」や「ワークルール」をテーマとしたグループワークをする。グループでの活動を通じて自分に関心のあるテーマの中から疑問に思ったことを「問い」として問題提起し、その裏付けとなる文献や資料、データの収集方法を学ぶ。さらに調べたことを要約し、プレゼン資料として作成し、実際に報告するまでの一連の作業をグループ単位で進める。他者との議論を通じて、コミュニケーション能力や協調性、論理的思考を磨く。 アカデミック・ライティング・ワーク...レポートやレジユメの書き方、分かりやすい文章づくり、プレゼン技法を磨くワークをする。ゼミ生同士で互いの成果を評価し合いながら、リテラシー能力を磨く。
テキスト	
参考書	・追手門学院大学成熟社会研究所編『一人で思う、二人で語る、みんなで考える：実践！ロジコムメソッド』岩波ジュニア新書、2020年 ・桑田てるみ編『学生のレポート・論文作成トレーニング改訂版：スキルを学ぶ21のワーク』実教出版、2015年
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークを通じた学習が多くなります。ゼミ生同士の話し合いを通じてアイデアを出し合ったり、試行錯誤しつつもグループ内で役割分担・共同作業の体制を築いたりしながら、ゼミ生自身で共通の目標に到達するような機会を設けます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	疑問やわからないことがあれば、次回に残さずに授業後の時間やオフィスアワー、担当教員へのメール(kimura.makio@nagoya-ku.ac.jp)にて質問できます。
フィードバックの方法	毎回の授業でe-learningを通じた振り返り目的の課題を提出してもらい、翌週までにはコメントをつけて返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・各グループで集まり、授業回ごとのグループ課題に取り組むこと ・個人レポート課題の提出に向けて、準備すること ・グループ発表に向けて、準備すること
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IIB
時間割コード Course Code	29251
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	齋藤 敦
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	齋藤 敦 (経済学部)
授業の目標	<p>大学での学び方は、社会に出て仕事をしていく時に活かすことができるものでもあります。1年次には大学での学び方がどのようなものかを知っただろうと思います。この演習では、大学での学びの技法を知るだけでなく実際に行うことができるようになることを目指します。取組みの中で、社会で起きている出来事や、経済や財政等について基本的な事柄を説明できるようになることも目標の一つです。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済分野（経済や財政等）に関する基礎的な知識を持つことができる。</li> <li>・論理的な文章を知ることができる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会、日本社会が抱えている問題に関心を持つようになる。</li> <li>・社会人として必要になる基本的なマナーを知ることができる。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話の要点や自分の考えをまとめ、文章にして説明することができるようになる。</li> <li>・信頼できる情報を集め、適切に活用できるようになる。</li> <li>・自分の関心を洗い出すことができる。</li> </ul>
授業の概要	<p>この基礎演習 II では、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜、大学での学び方をおさらいしながら専門演習に向けて知的技能の基盤づくりを行っていきます。</li> <li>・グループでの活動や個人での活動を通じて学びの技法を身につけていきます。</li> <li>・授業は受講生が主体となって進み、皆に討論や議論の仕方も身につけてもらう予定です。質問へは主に授業の中で対応します。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・報告発表・提出物（レジュメ・レポート等）の内容、ゼミへのかかわり方・取組み方、毎回の取組み等で総合的に評価します。コメント等、適宜、授業の中で行います。</li> <li>・ゼミは休まず出席し、毎時間取り組む、きちんと連絡に答える、各種の指導をまもることが基本です。</li> <li>・学生同士がお互いから学び合う場でもあるので、学びの場の雰囲気や壊すような自分勝手なことは許されません。</li> <li>・15分以上の遅刻、正当な理由のない早退は欠席とします。</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席や遅刻が多い、無断で欠席する、報告発表の担当や提出物を怠る等、こうしたことは失格、不合格になります。</li> </ul>

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業内容は進行状況、受講生の理解度等に応じて適宜設定していきます。</li> <li>・ 各人が洗い出した関心や対象について調べて報告発表を行う予定です。</li> <li>・ テーマを明らかにし、日常的に各種の媒体を通じて情報を集め、報告発表してもらいます。それを論理的な文章にして提出してもらう予定です。</li> <li>・ 経済や財政等に関する基本的な文献を輪読する計画です。</li> <li>・ 第1～2回にはガイダンス、オリエンテーション、担当決めを行い、第12～15回には最終の発表・課題提出をしてもらう予定です。</li> <li>・ 課題等の準備をしっかり行い、指示された活動や改善向上によく取り組んでください。指示された予習等の活動にもよく取り組んでください。</li> </ul>
テキスト	適宜提示します。
参考書	適宜紹介しますが、さしあたり次のものをあげておきます。 戸田山和久(2022)『論文の教室[最新版]』NHK出版。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問に対しては、主として授業中に対応します。
フィードバックの方法	フィードバックについては、授業の中で行うほか、オフィスアワーでの面談やメールでの対応も行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指定された文献の読み込み、授業時間における質疑応答等の復習、指定された課題の提出、発表の準備などに取り組むことが必要です。</li> <li>・ グループワークについては、授業時間外にも作業や学習を進める必要があります。</li> <li>・ 理想的には、目安として授業時間の2倍程度の自学が必要です。</li> </ul>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	
SDGs 17の目標(11～17)	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IIB
時間割コード Course Code	29252
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	酒井 愛
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	酒井 愛 (経済学部)
授業の目標	<p>本演習では日本経済の歩みを概観し、日本経済の現状をゼミメンバーとともに考察します。政府の行う政策的な側面に着目しながら、様々なトピックを取り扱い、専門演習における探究活動への橋渡しを行います。日本における今後の政策の在り方について、一人ひとりの学生が関心を持ち、現状理解と課題解決への糸口を自ら考えられるようになることを目指します。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;</p> <p>知識・理解の領域 本演習で学んだ日本経済の現状・課題について、他者に説明し、継続して理解を深めることができる。</p> <p>思考判断の領域 日本の政策、広くマクロ政策に関する課題を見出し、自身の現状での考えをまとめることができる。</p> <p>関心意欲の領域 政策をより身近なものとして捉えるべく、現在実施されている政策について制度・課題のうち、自らの関心に合わせて、理解を深めようと意欲的な学習を行うことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 自身の見解を論理的・整合的に述べようと努力することができ、スキルアップすることができる。</p> <p>技能の領域 読み手・聴き手への配慮を念頭に、簡潔かつ明瞭なレジюмеを作成したうえで、板書による説明を含めた効果的なプレゼン方法を実践できる。</p>
授業の概要	<p>本演習では日本経済の歩みを概観することから始め、輪読・ディスカッションを通じて、日本経済が抱える課題に関する理解を深めます。企業活動、労働、社会保障、財政政策、金融政策、貿易、農業、環境など、様々なトピックを取り扱います。基礎演習IIAおよび基礎演習IIBを通じて、3年次以降の専門演習における探究活動に向けて、自分自身の興味・関心を掘り下げ、長期的に取り組みたいと考えられるテーマを模索します。</p> <p>前期(基礎演習IIA)・後期(基礎演習IIB)ともに、毎週の輪読報告当番をベースに進めていきます。担当者からの報告後、質疑応答のほか、報告箇所に関するディスカッションを行う中で、参加者全員の理解を深めていきます。報告にあたってのレジюме作成や板書・プレゼンテーションは、報告者だけでなく、読み手・聴き手にとっても、社会になる前の準備として、有意義な時間となるはずです。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	<p>参加姿勢：70%（下記項目を目安にして下さい。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告担当者として...十分な事前準備をして報告に臨むほか、質問への適切な対応ができるように心がけて下さい。</li> <li>・良き聴き手として...建設的な提案や理解を深めるための質問ができると良いでしょう。</li> <li>・グループディスカッションに積極的に参加し、お互いを認め・高め合うことが大切です。</li> </ul> <p>レポート：30%（下記項目を目安にして下さい。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輪読報告担当時のレジュメのほか、聴き手としての報告評価シートへの記載内容も評価します。</li> <li>・中間レポートや期末レポートの形式で実施することもありますので、演習内でのアナウンスに従って下さい。今後の卒業論文執筆を念頭に、レポートの書き方等についても、演習内で適宜指導します。</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>ディスカッションへの積極的な参加の重要性をふまえ、出席回数が12回に満たない場合には失格となり、単位を修得することができません。</p> <p>「報告・連絡・相談」を基本とし、連続して2回無断欠席した場合には失格となり、単位を修得することができません。何事もできる限り、事前に相談するよう心掛けてください。</p>
授業計画	<p>詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。（初回演習時に輪読分担箇所を決めます。）</p> <p>前期に2年生向けインターンシップ（ジョブトレーニング）ガイダンス、後期に2年生向け就職活動ガイダンスを実施予定です。授業計画詳細情報に記載の輪読スケジュールの変更と併せて、詳細はゼミ内で周知します。</p>
テキスト	<p>浅子和美他編『入門・日本経済 [第6版]』有斐閣 ISBN978-4-641-16561-8</p>
参考書	適宜紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	輪読箇所に関する政策実施の是非や政策提言について、グループディスカッションやディベートを交えることで理解を深めます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>随時対応します。そのほか、メール（ai.sakai@nagoya-ku.ac.jp）や本演習用のGoogle classroomでも対応しますので、適宜活用して下さい。Google classroomは資料配信などに利用します。担当者より招待しますので入室して下さい。</p>
フィードバックの方法	<p>提出された課題については添削を行い、返却時にコメントします。輪読報告にあたってのレジュメ・プレゼンテーションに関する事柄については、報告担当者だけでなく受講学生全員のブラッシュアップに寄与するよう、各回において改善のポイントなどをアドバイスします。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>授業計画詳細情報内の備考欄を参照し、各回の予習・復習を行ってください。専門共通基礎 科目の「市場の経済学」・「国民経済と政府」および、選択科目の「ミクロ経済学」・「マクロ経済学」などで学習する内容を適宜復習しておくといいでしょう。とりわけ経済学における応用経済学の分野においては、基礎理論のベースの上に議論がなされますので、輪読・報告にあたっては、必要に応じて、上記分野のテキスト等を振り返りながら知識の定着を図ることが重要です。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任</p>
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	<p>1.親和力 2.協同力 7.課題発見力</p>

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	政府の経済活動(1)	政府と財政の役割、予算の仕組み	テキスト235-247ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
2	政府の経済活動(2)	財政の中身、財政収支・政府債務	テキスト248-270ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
3	金融システムの進化(1)	日本経済における金融の役割、経済主体の経済活動と金融	テキスト271-292ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
4	金融システムの進化(2)	伝統的・非伝統的な日本銀行の金融政策、ブルーデンス政策	テキスト293-312ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
5	貿易構造と貿易システム(1)	貿易構造の決定要因、産業内貿易、直接投資の経済効果	テキスト313-332ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
6	貿易構造と貿易システム(2)	GATT・WTOと貿易自由化、FTAの経済効果	テキスト333-348ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
7	グローバル化と農政改革(1)	経済のグローバル化と日本経済、日本農業の姿、食料問題と農業問題	テキスト349-366ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
8	グローバル化と農政改革(2)	関税主義と関税の経済効果、食料安全保障、アベノミクスの農業政策	テキスト367-386ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
9	環境問題に対する経済的手段の検討(1)	1970年代以前・以後の公害問題、地球環境問題(酸性雨、海洋プラスチック問題)	テキスト387-396ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
10	環境問題に対する経済的手段の検討(2)	地球環境問題(オゾン層破壊、地球温暖化、生物多様性の喪失)、持続可能な開発	テキスト397-411ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
11	自由選択テーマとプレゼン報告: 第1グループ	自身の関心に沿ったテーマを選択し、根拠を伴った主張を展開 報告内容について、全員で議論	1グループあたり30分程度とします。他者の報告を自身の報告に活かせるよう、振り返りをしっかり行うこと。
12	自由選択テーマとプレゼン報告: 第2グループ	自身の関心に沿ったテーマを選択し、根拠を伴った主張を展開 報告内容について、全員で議論	1グループあたり30分程度とします。他者の報告を自身の報告に活かせるよう、振り返りをしっかり行うこと。
13	自由選択テーマとプレゼン報告: 第3グループ	自身の関心に沿ったテーマを選択し、根拠を伴った主張を展開 報告内容について、全員で議論	1グループあたり30分程度とします。他者の報告を自身の報告に活かせるよう、振り返りをしっかり行うこと。
14	自由選択テーマとプレゼン報告: 第4グループ	自身の関心に沿ったテーマを選択し、根拠を伴った主張を展開 報告内容について、全員で議論	1グループあたり30分程度とします。他者の報告を自身の報告に活かせるよう、振り返りをしっかり行うこと。

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IIB
時間割コード Course Code	29253
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,4
主担当教員 Main Instructor	定森 亮
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70D演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	定森 亮 (経済学部)
授業の目標	<p>今日、国際化の進展によって種々の恩恵がもたらされている一方、国家の機能不全や経済的格差の拡大、環境破壊、移民など数多くの難題が生じてもいる。そうした世界的な状況のなかで市民一人ひとりが守るべき価値がどこにあり、そのために積極的に責任を引き受けて行くためには何をすればよいのか、履修生一人一人が独自の観点から考える力を付けることが目標となる。その際に以下の点を重視する。</p> <p>1) 言葉の一つ一つを正確に使っていくことで、自分自身の考えを少しずつ明瞭にし、さらには発展させていく。</p> <p>2) 相手の言葉の一つ一つにも慎重に耳を傾け、そこから自分が理解できる部分とそうでない部分をより分けることで、相手をより良く理解するための質問の仕方を工夫する。</p> <p>3) 議論をする際には、自分の考えを相手に一方的におしつけるのではなく、むしろ、相手の考えの最良と思われる部分を引き出した上で、自分の考えを伝える技術を身に付ける。</p>
授業の概要	<p>1) 指定の書籍を扱って輪読を行なう。</p> <p>2) 各回で報告者と司会を割り当て、レジュメの作り方、司会進行の仕方を学ぶ。</p> <p>3) 報告した者は、その担当個所に関して1200字程度のレポートを作成する。</p> <p>4) 学期末には履修生全員が、指定されたテーマに関して1200字程度のレポートを作成する。</p>
評価方法	<p>報告・司会 20%</p> <p>議論への参加度 20%</p> <p>2回のレポート 60%。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>指定したテキストを扱って輪読を行なう。</p> <p>第1回の授業で、報告者や司会者の担当を決める。授業の進め方や、レジュメの作り方の注意点なども説明する。</p> <p>第2回と第3回は400字程度の自分で書いた短い文章を、何度も書き直すことを通じて、文章作成技術、ならびに独自の発想の導き出し方を学ぶ。</p> <p>第4回以降から輪読を始める予定。</p>
テキスト	教科書は時期を見計らって指示する。
参考書	特になし。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	履修生には学期中に1回は、読書会での報告あるいは司会を担当してもらう。毎回の講義では、報告者以外にも積極的に意見や疑問点を提示することが望まれる。また、意見や質問を述べる際に、どのようにすれば他の参加者によりよく自分の考えを理解してもらえるかを常に工夫してもらうことも重要になる。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後、あるいはオフィスアワーにて対応する。
フィードバックの方法	輪読での報告後に提出してもらうレポートは、コメントを加えた上で返却する。そのコメントを参考にした上で、内容を洗練させ、発展させた上で再提出してもらう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習： 該当範囲を丁寧に読み、内容の分からない点、疑問点、自分の考えを簡単にまとめておく。 復習： 授業での議論を通じて明らかになった、他の参加者と自分の考えが共通する点、あるいは異なる点を整理した上で、レポート作成の準備をしておく。また、その他の関連文献を読むことで、問題の焦点を絞り、自分の考えをさらに洗練させていく。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IIB
時間割コード Course Code	29254
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	ブ ティ ビック リエン
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	情報実習室B
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ブ ティ ビック リエン(経済学部)
授業の目標	本ゼミは後期の「基礎演習 IB」には現代経済学の1分野であるミクロ経済学の知識、学術文献の読み方・書き方を習得することを目標とする。 そのために、指定するテキストを輪読するパターンでゼミを進めていく。学生一人一人は2つの役割を担うことがある。一つは主要役割として、テキストの担当章節を発表資料に要約して、クラスの前に自分の言葉で説明・発表する。もう一つは副役割として、同ゼミ生が発表の際に、質問やコメント等を担当する。
授業の概要	この基礎演習IIでは、 ・ 専門演習に向けて経済学の基礎知識や技能の準備を行う。 ・ 個人ワークおよびグループワークを通じて学び方を身につける。 ・ ゼミは学生が主体となって進み、お互いに学び合う場をつくる予定である。授業のお邪魔は絶対許されない。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	下記要領を基に総合評価を行う。 ・ ゼミへの参加態度、発表課題の完成度を重視する。欠席や遅刻が多いと単位はとれない。 ・ 20分以上の遅刻および正当な理由のない早退は欠席とみなす。 ・ 期末レポートを指定期間内に提出する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	無断欠席、特に自分の発表日に欠席すると、「失格」になる。 ・ 2回の遅刻は1回の欠席としてカウントする。 ・ 2回の早退は1回の欠席としてカウントする。 ・ 正当な理由のない欠席が4回以上(つまり、4回に達した)の学生は「失格」になる。
授業計画	・ 第1回：ゼミの初回ガイダンス ・ 第2回～第14回：学生の発表および教員の指導 ・ 第15回：総まとめ
テキスト	1) 安藤至大(2021)『ミクロ経済学の第一歩【新版】』有斐閣ストゥディア
参考書	1) スティーヴン・レヴィット、オースタン・グールズビー、チャド・サイヴァーソン(著) / 安田洋輔祐(監訳) / 高遠裕子(訳) (2017)『レヴィットミクロ経済学』【基礎編】と【発展編】東洋経済新報社 2) 河野哲也(2018)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 3) 戸田山和久(著) (2019)『新版 論文の教室 レポートから卒業論文まで』NHK出版 4) 世界思想社編集部(2021)『大学生 学びのハンドブック(5訂版)』世界思想社
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"><li>・基本的にゼミの時間内に質疑応答をする。</li><li>・ゼミ時間以外にはオフィスアワーやアポイント時間に対応する。</li></ul>
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"><li>・ゼミの時間内にする。</li><li>・ゼミ時間以外にはオフィスアワーやメールの連絡やり取りを通じて対応する。</li></ul>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"><li>・自分の発表の準備時間を十分に割くようにする。</li><li>・同ゼミ生の発表を理解するために、必ずテキストを読んでおく。</li></ul>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IIB
時間割コード Course Code	29255
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3
主担当教員 Main Instructor	安部 伸哉
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 4 A多目的室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	安部 伸哉 (経済学部)
授業の目標	基礎演習 Aに引き続き、日本経済史・経営史に関連するテキストを読みながら、再度、大学生活における基本的なアカデミックスキル(読む、書く、報告、調査、議論など)を修得・発展させます。  <学習成果> 【知識・理解の領域】 日本経済史・経営史の基本的な用語を理解する。 【思考判断の領域】 文章が読めるだけでなく、文脈が理解できる。 【関心意欲の領域】 高い関心を持ち、意欲的に知識を得ようとする。 【態度・志向性の領域】 積極的にディスカッションに参加することができる。 【技能の領域】 情報を整理して、説得力のある発表ができる。
授業の概要	基礎演習 Aに引き続き、再度、文献の調べ方、文献の読み方、レポートの作成、プレゼンの仕方、ディスカッションの作法などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得・発展させます。
評価方法	授業への出席を前提として、課題レポート、輪読の準備、発表内容、ディスカッション・グループワークへの参加度を評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席回数が5回を超えた場合、失格とする。
授業計画	・レポートの第2次草稿報告 ・レポート最終版のプレゼン ・課題型グループワーク
テキスト	ゼミ内で指示します。
参考書	ゼミ内で指示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	課題を設定して、グループワークをします。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応します。
フィードバックの方法	随時対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	レポート課題の作成、プレゼン準備など。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IIB
時間割コード Course Code	29256
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	奥田 沙織
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	14D講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	奥田 沙織 (経済学部)
授業の目標	前期に引き続き、21世紀にみる地球上のダイナミックな人の移動に焦点をあて、地球上に刻々と変化する国際社会や災害の発生等、不確実な状況とそれによって発生する大規模な人の移動に視野を向けつつ、遠い国のできごとが自分に影響していることへの認識をもつことを目標とする。具体的には、地球をとりまく最新の問題を最新の英語・日本語の資料を使って、国内外の問題への視点を養い、問題点について日本語あるいは英語を使って議論し、意見発表を行う。資料は、出版あるいはネット配信されているNikkeiやAsahi Weeklyなどの記事から、国内外の最新の時事問題や国際的な問題をとりあげ、読む英語力をつけながら国内外の問題への視点を養い、問題点について日本語で発表できるようにする。また、簡単な英語を使って説明できることを目指す。クラスでは、積極的に発言をし、他の学生との意見交換をすることが求められる。英文資料に慣れるために、インターネット上の翻訳ツールを利用できるスキルも養う。
授業の概要	上述の授業の目標に向けて、前期に引き続き、下記の内容で、行う。具体的には、とりあげたテーマの中で関心をもった内容について、4名くらいのグループで討論し、PPTを使って発表できるように、授業を進める。この演習では、積極的に英語で意見を発表する意欲をもった学生の参加を期待する。学生からも関心のあるテーマを提案してもらって、提案者を中心とした議論も行いたい。前期に引き続き、2022年2月24日に始まるロシアによるウクライナ侵攻後のグローバルサウスの登場と国際社会の変容、難民問題、環境破壊による自然災害の発生、各地にみる内戦など、最近の国際的に問題となっている話題をとりあげ、日本がどのようにその問題にかかわっているかについて意見交換をする。履修者には、日常的にスマホでニュースを追いかける習慣が求められる。また、パソコンの持参は必須事項であり、毎回、取り上げたテーマについて、できるだけノートに英語で記述する訓練も行う。最後の発表では、PPTを使って行う。 この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。
評価方法	・参加姿勢 70% ・発表準備と内容 30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	1) 授業ガイダンス 前期の成果について、ゼミ生からの感想等、述べてもらう。次に、後期の14回のスケジュールを説明し、ネット配信されているニュース記事やAsahi Weeklyなどの英文記事から抜粋した英文購読資料を配布する。翻訳アプリを使って日本語に翻訳するスキルにも慣れてもらう。 2) 配布している英文資料の購読を進める(30分)。残り15分は、意見交換をする。テーマについての関心度をはかり、その発表をするグループを決定する。 3) ~ 11) まで、第2回と同じように、演習を進める。計、10テーマの購読を終える。 12) ~ 14) まで、3回にわかって、グループごとに、発表の準備を進める。 15) 各グループによるPPTを使った発表を行う。
テキスト	なし。

参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	各演習の内容について、毎回、簡単なまとめをレポートで提出してもらい、翌週までに文章校正を行って返却する
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	ゼミで配布した英文購読資料を次回のゼミまでに概要をまとめる。 演習後には、テーマに関するコメントを提出する。(40時間) 発表準備(20時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力 7.課題発見力 9.実践力

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IIB
時間割コード Course Code	29257
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,4
主担当教員 Main Instructor	金村 久美
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	金村 久美 (経済学部)
授業の目標	ディベートの訓練を通じて、次の力を身に付けます。 ・論理的に考えること ・根拠を踏まえた主張をすること ・相手の意見を傾聴すること ・客観的に判断すること
授業の概要	本ゼミではディベートを行います。ディベートの訓練を通して、論理的に考え、根拠を持って主張し、相手の意見を傾聴し、客観的に判断する訓練を行います。留学生の参加を歓迎します。
評価方法	この科目では次の点から成績を評価します。 1 出席 (出席数に満たない場合は失格とします。) 2 提出課題 (提出回数と、課題の質によって評価します。) 3 参加態度 (自らの能力を伸ばすために努力をしたか、クラスメイトを助ける行動をしたか、によって参加態度を評価します)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・ 6回以上の欠席は失格です。 ・ 所定の課題を一定数提出しない場合は失格です。
授業計画	次の活動を行います。やさしいものから難しいものへと移行します。 ・ ディベートのトレーニング1) ディベートゲーム ・ ディベートのトレーニング2) マインドマップ ・ ディベートのトレーニング3) ブレインストーミング ・ ディベートのトレーニング4) ロジックツリー ・ ディベートのトレーニング5) プレゼンテーション ・ ディベートのトレーニング6) リサーチ技法 ・ ディベートのトレーニング7) ミニディベート ・ ディベート実践
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	この授業で、アクティブラーニング、ディスカッションを含みます。 ・学生は、ディベートのトレーニング及び実践の準備のため、ペア、グループでのディスカッションに積極的に参加しなければなりません。 ・授業内でディベートの実戦を行い、これを通じて、論理的に考えること、口頭で発表すること、相手の意見に耳を傾けることを学びます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内での質問には随時対応します。 そのほか、チャットツール（Discordを予定）での質問を随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業内でのフィードバックの他、チャットツール（Discordを予定）で、課題等へのフィードバックを行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	ディベート等の課題の準備のための一定量の予習、及び、コメント提出のための復習が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 9. 実践力



開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IIB
時間割コード Course Code	29258
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	人見 浩司
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	人見 浩司 (経済学部)
授業の目標	前期で模索した新たな教育を授業で実践しながら課題等を洗い出し、新たな教育モデルを作成する。 知識・理解の領域 ・課題を提案し、授業実践をすることができる。 技能の領域 ・授業実践の中で新たな提案ができる。 態度・志向の領域 ・他者の考えを受容するとともに自分の考えや意見を述べるすることができる。
授業の概要	1 前期で模索した教育スタイルを互いに実践する 2 問題点等を洗い出し、議論を進め、改善したものを実践する 3 2を何回か繰り返す 4 ゼミとしての新たな教育モデルの提案を行う
評価方法	個人研究 (課題レポート) 30 % グループ研究 (グループワークへの参加態度、ディスカッションの内容) 40 % 授業実践 (内容、発表の質) 30 %
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特に基準は設けませんが、グループワークへの参加状況が悪い場合は注意し、改善されない場合は失格とする場合がある。
授業計画	1 年間計画の説明等 2 ~ 6 前期の提案をグループごとに実践 7 ~ 8 全体を通してゼミとしての教育モデルをつくる 9 ~ 12 授業実践と改善 13 ~ 14 ゼミとしての教育モデルの完成 15 まとめ
テキスト	特になし
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループでディスカッション、全体での授業実践におけるアクティブラーニングの実施
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	翌週返却

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業内容のまとめと次回の資料作成 3 時間ずつ
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IIB
時間割コード Course Code	29259
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	佐藤 邦彦
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 邦彦 (経済学部)
授業の目標	<p>日本や国際社会が直面する様々な問題 (政治、経済、社会、文化など) を取り上げ、順番に報告をし、議論を行う。様々なテーマに触れることにより、受講者の知識や関心が広がることを目指す。</p> <p>また、自らの関心テーマについて調べ発表する過程で、「読む」「まとめる」「発表する」といったスキルを学ぶ。</p> <p>&lt; 成果 &gt;</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済学的な視野を広げ、知識や関心が向上をはかる。</li> <li>・世界で何がなぜ問題になっているのか、理解できるようになる。</li> </ul> <p>関心・意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近なまたは世界で起こっている経済事象・時事問題について理解し、関心を持つことができる。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な情報や資料を入手できる。</li> <li>・効果的なプレゼンテーション能力が会得できる。</li> <li>・分かりやすいレジュメを作成できる。</li> </ul>
授業の概要	<p>文献、新聞・雑誌記事などで取り上げられている時事問題や政策課題について、受講者が関心のある事項を取り上げ、そのテーマについて発表・議論を行う。</p> <p>受講者は選択した時事問題や政策課題について、各自で調査・学習した内容をレジュメにまとめた上で、発表する (学生の関心等によって授業の進め方を変更する場合がある)。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミにおける報告・発表の内容、議論への参加状況等によって総合的に評価する。</li> <li>・欠席等は必ず事前に連絡をすること。5回以上の欠席は、失格や不合格になる場合がある。</li> <li>・発表日に無断で休んだ場合は、即「失格」とする。</li> <li>・授業に出ていても、やる気のない態度を見せる受講者は、大幅に減点し、目に余る場合は「失格」とする。</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	初回の授業で、ゼミをどのように進めていくのかについての説明を行う。
テキスト	授業で適宜紹介する。
参考書	

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	随時対応。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	入念な準備を行ったうえで授業に参加し、授業で得た様々なフィードバックを次回以降の授業に活かす。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	29301
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	木村 牧郎
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 2 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	木村 牧郎 (経済学部)
授業の目標	<p>私たちが生きている社会で今何が起きているのか。新聞やニュースを理解する力を養うとともに、それらを自分達の問題と捉え、他者と考え話し合います。</p> <p>この演習では人々が抱える「生きづらさ」について探求し、課題の発見と解決に挑みます。これらの学習を通じて今後の皆さんが社会生活を送るうえで必要な「ライフリテラシー」を身につけることが目標です。またその学びのプロセスで必要となるレポートやレジュメ作り、プレゼンテーションのスキルの向上も目指します。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 社会政策や労働に関する知識を増やし理解を高めることができる。</li><li>・ 職業人生を営むうえで必要なライフリテラシーを獲得し、社会人生活のなかで実践できる。</li></ul> <p>思考判断の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 収集した多くの情報のなかで信頼できる情報を選び出す情報リテラシーの力が身につく。</li><li>・ 論拠のある主張ができるようになる。</li></ul> <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 就職活動の準備段階で労働に関する知識を深め討論することで、「働く」ことに関して真剣に考え、学んだことを就職活動や卒業後の職業人生につなげることができる。</li></ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 資料に即して論拠のある見解を述べられる人となることを目指す。</li></ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 収集した多くの情報のなかで信頼できる情報を選び出す情報リテラシーの力が身につく。</li><li>・ 将来、報告書の作成などで必要となる文章力を高めることができる。</li><li>・ 分かりやすいプレゼンテーションを行うことができる。</li></ul> <p>体験探究の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ グループワークやさまざまな体験実習などの学習を通じて、将来的な職業人生や地域生活をイメージすることができる。</li></ul>

授業の概要	<p>この専門演習IAでは、人びとの「生きづらさ」に焦点を当て、社会政策や社会保障の観点から解決策を学びます。ゼミ生自身が将来的に職場や地域生活で直面するであろう問題について実践的に考え、卒業後の職業人生をイメージできるようにすることがねらいです。</p> <p>生きづらさと聞くと、介護が必要な高齢者やさまざまな障害者、貧困家庭で生きる困窮者など特定の人々を思い浮かべるかもしれませんが、もちろんこれらの人々にはその人たちの生きづらさがあるでしょうが、じつは私たちの身近な生活のなかにも潜んでいます。皆さんは一見するとこれまで不自由なく生きてきたと思うかもしれませんが、自分でも気づかないような生きづらさを発見するかもしれません。また、大学を卒業して働き、家族を形成するなかでさまざまな生きづらさに直面することもあります。そんな場合に社会政策や社会保障がどのように人びとの生きづらさの解消につながっているのか、どんな課題を抱えているのか、皆さんとともに考えたいと思います。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	報告（40％）、発言（20％）、レポート（40％）の3点を考慮して評価します。報告担当の回に欠席した場合は、単位を修得できません。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	毎週の授業に出席すること。とくに報告を担当する授業での欠席は認めません。
授業計画	<p>以下の種類のワークを織り交ぜながら授業を行います。</p> <p>輪読...テキストを熟読し、各回の担当者はレジュメをまとめ授業で報告する。輪読を通じて労働や社会保障分野における近年の論点整理をし、理解を深める。また、読解力や批判的精神、データ・資料の収集方法を身につけ、卒論作成に必要な問題を提起する力を磨く。</p> <p>グループ・ワーク...「働くこと」と「生活すること」をテーマとしたグループワークをする。他者との議論を通じて、コミュニケーション能力や協調性、論理的思考を磨く。</p> <p>アカデミック・ライティング・ワーク...レポートやレジュメの書き方、分かりやすい文章づくり、プレゼン技法を磨くワークをする。ゼミ生同士で互いの成果を評価し合いながら、卒論作成・報告に向けて必要な能力を磨く。</p>
テキスト	特になし。
参考書	授業中に適宜指示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークを通じた学習が多くなります。ゼミ生同士の話し合いを通じてアイデアを出し合ったり、試行錯誤しつつもグループ内で役割分担・共同作業の体制を築いたりしながら、ゼミ生自身で共通の目標に到達するような機会を設けます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	疑問やわからないことがあれば、次回に残さずに授業後の時間やオフィスアワー、担当教員へのメール（kimura.makio@nagoya-ku.ac.jp）にて質問できます。
フィードバックの方法	毎回e-learningを通じて授業のふり返りを提出してもらい、翌週にはそれに対してコメントをつけて返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループで集まり、授業回ごとのグループ課題に取り組むこと</li> <li>個人レポート課題の提出に向けて、準備すること</li> <li>グループ発表に向けて、準備すること</li> </ul>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	29302
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	齋藤 敦
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	齋藤 敦 (経済学部)
授業の目標	<p>○この演習のテーマは「公共の経済(財政)」です。</p> <p>私たちの生活そして社会のあり方は、国や地方自治体の活動と密接にかかわり合っています。この演習では、現代社会、日本社会が抱えている問題について認識を深めていきます。関心に応じて財政や公共政策に関する知識や考え方を学びます。その中で、次のことができるようになることを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を適切にみつけ、整理して、自分の考えを導き出す。</li> <li>・自ら確かめる、検証してみようとする態度を備える。</li> <li>・論理的に考え、他者にわかるように伝える。</li> </ul> <p>これらは社会に出て仕事をしていく時にも求められる力です。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財政や公共政策に関する基礎的な知識を持つことができる。</li> <li>・論理的な文章の書き方を知ることができる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会、日本社会が抱えている問題について自ら確かめようとする態度を備える。</li> <li>・社会人として必要になる基本的なマナーを身につけようとする。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の関心を洗い出しテーマを定めることができる。</li> <li>・信頼できる情報を集め、適切に活用できるようになる。</li> <li>・調べたことを文章にまとめ説明することができるようになる。</li> <li>・まとめたことを自分の言葉で伝えることができるようになる。</li> </ul>
授業の概要	<p>この専門演習 I では、主として日本を取り上げ具体的に考える中で、自分たちが生きている社会や経済、財政や公共政策とのかかわりについて関心を高め理解を深めていきます。その過程で、読む、書く、話すという知的技能の定着を図っていきます。</p> <p>そして、卒業論文の作成に向けて段階的な取組みを進めていきます。2年必要で1年目です。</p> <p>受講生には、主体的に取り組み、ゼミ生同士お互いから学び合うことが求められます。積極的に参加しお互いを高め合ってほしいと思います。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・報告発表・提出物(レジュメ・レポート等)の内容、ゼミへのかかわり方・取組み方、毎回の取組み等で総合的に評価します。</li> <li>・ゼミは休まず出席し、毎時間取り組む、きちんと連絡に答える、各種の指導をまもることが基本です。</li> <li>・学生同士がお互いから学び合う場でもあるので、学びの場の雰囲気を壊すような自分勝手なことは許されません。</li> <li>・15分以上の遅刻、正当な理由のない早退は欠席とします。</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席や遅刻が多い、無断で欠席する、報告発表の担当や提出物を怠る等、こうしたことは失格や不合格になります。

授業計画	<p>文献資料の読み方・まとめ方、発表の仕方、議論の仕方を確認します。文献の輪読を行っていく中で、以上の確認を行うとともに、論理的な文章の書き方を学んでいきます。</p> <p>そして、受講生各人が自らの関心がどこにあるのかをみつけだし、論じる対象をはっきりさせていきます。</p> <p>以上を内容とする授業計画は、進行状況、受講生の理解度等に応じて適宜設定していきます。ただし、第1～2回にはガイダンス、オリエンテーション、担当決めを行い、第12～15回には最終の発表・課題提出をしてもらう予定です。</p>
テキスト	井手英策(2018)『幸福の増税論－財政はだれのために』岩波新書
参考書	<p>適宜紹介しますが、さしあたり次のものをあげておきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 石井一成(2011)『大学生のためのレポート・論文の書き方』ナツメ社</li> <li>2. 戸田山和久(2022)『論文の教室[最新版]』NHK出版</li> </ol>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問に対しては、主として授業中に対応します。
フィードバックの方法	フィードバックは、適宜、授業中で行うほか、オフィスアワーでの面談やメールでの対応も行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定された文献の読み込み、授業時間における質疑応答等の復習、指定された課題の提出、発表の準備などに取り組む必要があります。</li> <li>・グループワークについては、授業時間外にも作業や学習を進める必要があります。</li> <li>・理想的には、目安として授業時間の2倍程度の自学が必要です。</li> </ul>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> </ol>
SDGs 17の目標(11～17)	11. 住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	29303
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	酒井 愛
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	酒井 愛 (経済学部)
授業の目標	<p>本演習では財政学・マクロ経済学の観点から、今後の日本における政策の在り方を一人ひとりの学生が自ら考えられるようになることを目指します。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;  知識・理解の領域  本演習で学んだ理論について、他者に説明し、継続して理解を深めることができる。</p> <p>思考判断の領域  日本の政策に関する課題を見出し、アプローチ方法を検討することができる。</p> <p>関心意欲の領域  政策をより身近なものとして捉えるべく、現在実施されている政策について制度・課題等を自ら検討しようとして試みることができる。</p> <p>態度・志向性の領域  自身の見解を論理的・整合的に述べるができる。</p> <p>技能の領域  読み手・聴き手への配慮を念頭に、簡潔かつ明瞭なレジユメを作成したうえで、板書による説明を含めた効果的なプレゼン方法を実践できる。</p>
授業の概要	<p>本演習では公共部門とは何かという問いから始め、公共部門の役割を考えます。その後、公共財・公共選択・外部性といった問題を含め、公共支出の理論を学びます。その後、公共政策、費用・便益分析の基礎を学び、医療、国防・技術、社会保険、福祉・所得再分配、教育などの問題に応用します。専門演習IAおよび専門演習IBを通じて、来たる卒業年次の「卒業論文」執筆に向けて、自分自身の興味・関心を掘り下げ、長期的に取り組みたいと考えられるテーマを模索します。前期（専門演習IA）・後期（専門演習IB）ともに、毎週の輪読報告当番をベースに進めていきます。担当者からの報告後、質疑応答のほか、報告内で提示されていた政策の実施可能性の是非や現実的な実施にあたっての改善点などを含めたディスカッションを行う中で、参加者全員の理解を深めていきます。報告にあたってのレジユメ作成や板書・プレゼンテーションは、報告者だけでなく、読み手・聴き手にとっても、社会になる前の準備として、有意義な時間となるはずで</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	<p>参加姿勢：70%（下記項目を目安にして下さい。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告担当者として...十分な事前準備をして報告に臨むほか、質問への適切な対応ができるように心がけて下さい。</li> <li>・良き聴き手として...建設的な提案や理解を深めるための質問ができると良いでしょう。</li> <li>・グループディスカッションに積極的に参加し、お互いを認め・高め合うことが大切です。</li> </ul> <p>レポート：30%（下記項目を目安にして下さい。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輪読報告担当時のレジュメのほか、聴き手としての報告評価シートへの記載内容も評価します。</li> <li>・中間レポートや期末レポートの形式で実施することもありますので、演習内でのアナウンスに従って下さい。 今後の卒業論文執筆を念頭に、レポートの書き方等についても、演習内で適宜指導します。</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	「報告・連絡・相談」を基本とし、連続して2回無断欠席した場合には失格となり、単位を修得することができません。何事もできる限り、事前に相談するよう心掛けてください。
授業計画	<p>文献および政府関係の統計資料を含め、卒業論文執筆に必要な政策に関する基礎理論をディスカッションを交えながら進めることで理解を深めます。</p> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1．オリエンテーション</li> <li>2．公共部門と民間部門</li> <li>3．政府の役割</li> <li>4．政治過程</li> <li>5．社会的意思決定</li> <li>6．公的関与（公営企業）</li> <li>7．政策評価の手法</li> <li>8．財源調達：租税</li> <li>9．財源調達：公債ほか</li> <li>10．グループワーク（課題1）</li> <li>11．課題1に関するプレゼンテーション</li> <li>12．グループワーク（課題2）</li> <li>13．課題2に関するプレゼンテーション</li> <li>14．日本における今年度予算とその概要</li> <li>15．予算の在り方</li> </ol> <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1．社会保障</li> <li>2．少子高齢化対策</li> <li>3．環境と政策</li> <li>4．産業と政府関与</li> <li>5．労働政策</li> <li>6．教育投資</li> <li>7．政策と経済成長</li> <li>8．卒業論文：執筆に向けた準備・諸注意</li> <li>9．卒業論文：執筆計画の報告・確認</li> <li>10．グループワーク（課題3）</li> <li>11．課題3に関するプレゼンテーション</li> <li>12．グループワーク（課題4）</li> <li>13．課題4に関するプレゼンテーション</li> <li>14．グループワーク（課題5）</li> <li>15．課題5に関するプレゼンテーション</li> </ol> <p>前期 および 後期 とともに、以下の点に留意してください。 ゼミナールメンバーの興味関心・理解度に応じて実施順序を変更する場合があります。 グループワークの課題については時事テーマを含め、担当教員から提示します。</p>
テキスト	受講学生と相談のうえ、決定します。
参考書	適宜紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	輪読箇所に関する政策実施の是非や政策提言について、グループディスカッションやディベートを交えることで理解を深めます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	

質問への対応方法	随時対応します。そのほか、メール (ai.sakai@nagoya-ku.ac.jp) や本演習用のGoogle classroomでも対応しますので、適宜活用して下さい。Google classroomは資料配信などに利用します。担当者より招待しますので入室して下さい。
フィードバックの方法	提出された課題については添削を行い、返却時にコメントします。輪読報告にあたってのレジュメ・プレゼンテーションに関する事柄については、報告担当者だけでなく受講学生全員のブラッシュアップに寄与するよう、各回において改善のポイントなどをアドバイスします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業計画詳細情報内の備考欄を参照し、各回の予習・復習を行ってください。専門共通基礎 科目の「市場の経済学」・「国民経済と政府」および、選択科目の「ミクロ経済学」・「マクロ経済学」などで学習する内容を適宜復習しておくとい良いでしょう。財政学・公共経済学といった応用経済学の分野においては、基礎理論のベースの上に議論がなされますので、輪読・報告にあたっては、必要に応じて、上記分野のテキスト等を振り返りながら知識の定着を図ることが重要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	10. 人や国の不平等をなくそう 4. 質の高い教育をみんなに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標 (11~17)	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 9. 実践力

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	29304
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	定森 亮
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70D演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	定森 亮 (経済学部)
授業の目標	<p>この授業では、履修生が、社会の何に関心をもっているのかを少しずつ明らかにし、その社会に対して、どのように働きかければ、より望ましい環境、組織、人間関係が築けるのかを自分自身で考えらるようになることを目標とする。その際に、ヨーロッパ、アメリカ、日本の地域社会や文化と経済システムの違いに着目し、それらの社会を形作る個人と組織の密接な関係についての理解を深めていく。卒業論文の執筆はその一つの手段になり、前期には、その準備のために次のような点を重視して授業を進めていく。</p> <p>1. 卒業論文を執筆する準備として、論理的文章作成の練習をする。その際に、言葉の一つ一つを正確に使っていくことで、自分自身の考えを少しずつ明瞭にし、さらには発展させていく方法を学ぶ。また、各学生が、卒論の主題を扱うに際して、問題提起、議論展開、結論という道筋に従って議論が展開できるように、卒論の設計図を何度も書き直しながら練り上げてもらう。</p> <p>3. 卒論計画を授業中に報告してもらい、他の学生と議論することを通じて、卒論を通じて何を明らかにしたいのかを精査してもらう。議論をする際には、自分が何を主張するだけでなく、他人の主張の内容をよりよく理解し、その理解を深めていくための質問の仕方を学ぶ。</p>
授業の概要	<p>1) 指定の書籍を扱って輪読を行なう。</p> <p>2) 各回で報告者と司会を割り当て、レジュメの作り方、司会進行、議論の仕方を学ぶ。</p> <p>3) また、前期には卒論で扱いたい対象を少しずつ明確にし、正確にしていく機会を設ける。</p>
評価方法	<p>報告・司会 40%</p> <p>議論への参加度 20%</p> <p>学期末レポート 40%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>1週 ガイダンス</p> <p>2～4週 論理的文章作成の練習</p> <p>5～15週 輪読、ならびに卒論のテーマに関する報告とその内容に関する議論</p>
テキスト	
参考書	参考資料などは必要に応じて授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	卒論に関しては、各学生の主題に応じて、先行研究を調査し、整理すると同時に、それら先行研究との関係で自らの主張の独自性を追求する。

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールや研究室での面談などを通じて対応する。
フィードバックの方法	報告やレポートの内容に関しては、授業内、あるいは研究室などでの面談を通じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	レポートや卒業論文の執筆、卒論に関する先行研究の確認などを、授業時間外で行ってもらう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 8. 働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	29305
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	佐藤 正之
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 正之 (経済学部)
授業の目標	ゼミ生が主体でゼミ運営を行う。各自の研究テーマを継続あるいは決定し、その進捗を把握し議論をする。 <成果> 【知識・理解の領域】地域の問題・政策課題の背景や現状を理解し説明できる。 【思考判断の領域】問題・課題に対して論理的で説得力のある思考ができる。 【関心意欲の領域】ゼミでの議論（意見交換）ができる。 【態度・志向性の領域】他人の考えの認識、考えの違いの理解、相互に助言ができる。 【技能の領域(情報スキル)】信頼できる情報を効率的に収集し、情報発信（デザイン）することができる。
授業の概要	地域の調査（フィールドワーク・巡検）を実施し、地域の研究を行う。 対象とする地域は、長野県の飯田・下伊那地域や愛知県の東三河地域などを予定（人数や予算により変更あり）。  各自が研究するテーマの範囲や分野を発表しながら整理していく（これまでのテーマ例は、地域の交通、商業、街並み、まちづくりなど）。 ゼミの進行や運営は、ゼミ生が主体で行う。研究内容の発表と意見交換、内容の修正を実施ながらゼミの成果として、研究レポートのまとめ、冊子化を行う。上記の内容を、テーマや進捗に合わせて複数回実施する。 「自分の意見」を「論理的に」伝える、自分が主語の説得力のある思考や技術を養う。
評価方法	課題や研究テーマへの主体的な取り組み、共同作業と議論、成果の発表を踏まえて評価する。特に参加姿勢を重視する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	遅刻・欠席回数が多い、課題への取り組み不足、共同作業の無断欠席については、周りに迷惑がかかるため失格とする。
授業計画	各自が研究テーマを設定し、研究計画を作り、それに基づいて実施する。 各自の研究テーマの進捗を把握、議論、研究へ反映させる。 なお、講義期間外でのゼミ実施も考慮すること。
テキスト	使用しない
参考書	山崎, 他 (2021) 『はじめてのまちづくり学』 学芸出版社 梶田, 他 (2007) 『地域調査ことはじめ あるく・みる・かく』 ナカニシヤ出版 吉川, 他 (2011) 『考える 伝える 分かちあう 情報活用力』 noa出版
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	フィールドワークは、実際に地域に出て、調査や研究につなげる実習である。地域調査の考え方や手法を、体験しながら習得する。classroomを、講義の計画や内容の確認、受講した際の資料閲覧や課題提出に使用する。上記にあたり、ネットワーク環境のあるPCの利用が望ましい。

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	シンクタンクおよびNPOでの業務経験のある教員が、民間から公共まで様々な業務を踏まえた地域の調査を行うことで、地域経済の実態を把握する手法を習得する演習科目である。
質問への対応方法	ゼミ中、classroom、メール等で受け付ける。
フィードバックの方法	質問や成果をゼミ内でclassroomに情報を集約し、共有する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	課題やテーマに合わせた、情報収集や整理、集約の時間が、ゼミ時間と同様に必要です。各自の研究テーマを議論するための、準備が必要です。フィールドワークなどの、通常の講義期間外でのゼミを実施するため、夏期、冬期などの通常後期間外の活動が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	29306
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	谷内 陽一
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	13C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	谷内 陽一 (経済学部)
授業の目標	<p>ファイナンシャル・プランニングあるいは年金制度（公的年金・企業年金・個人年金）のしくみを学ぶことを通して、金融・ファイナンス理論の知識と理解を深め、実生活で利用・活用できるようになることを目指す。</p> <p>&lt;学習成果&gt;  知識・理解の領域  金融の基本的なしくみを正しく理解するとともに、他の受講者の発表や意見を踏まえて知識と理解を更に深めることができる  関心意欲の領域  金融・ファイナンスに関する知識を、就職活動あるいは卒業後に有効に活用することができる  態度・志向性の領域  金融あるいは金融商品に関する意思決定を独力で行うことができる  技能の領域  金融の基本的なしくみを、プレゼンテーションやレポートの形で第三者に正しく説明することができる</p>
授業の概要	<p>学術書・専門書の輪読  輪読内容の発表（プレゼンテーション）および討論（ディスカッション）  その他、各種イベントへの参加あるいは学外見学等を行う場合あり  この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること</p>
評価方法	発表内容および参加姿勢等を総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	やむを得ない事情以外の欠席・遅刻が多い場合は、失格とする可能性がある。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション  第2回 合同ゼミ（全学部でPROGテスト実施）  第3回～第15回 輪読</p> <p>詳細は第1回授業（オリエンテーション）の際に受講者の意向も踏まえて決定する  受講者の理解度合いに応じて授業の内容を変更する場合あり</p>
テキスト	必要に応じて適宜指定する。
参考書	必要に応じて適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>輪読担当箇所に係る資料作成および発表（プレゼンテーション）  発表内容に係る討論（ディスカッション）  その他、各種イベントへの参加や学外見学等を行う場合あり</p>



実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	年金基金、銀行、生命保険会社にて私的年金（企業年金・個人年金）の制度・財政運営や資産運用等の業務に従事してきた教員が、金融・ファイナンスに関する理論的体系および実務経験に基づく具体的事例を踏まえて、学術・実務両面の視点から指導する。
質問への対応方法	演習中またはメール等により随時対応する。
フィードバックの方法	同上
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	発表者は、担当箇所の発表に向けて準備すること 司会者は、司会進行だけでなく授業中の議論が活発になるよう準備すること 他の受講者は、テキストの担当箇所を事前に熟読のうえ、議論に参加できるよう準備すること
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	29307
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	ブ ティ ビック リエン
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ブ ティ ビック リエン (経済学部)
授業の目標	卒業論文作成に向かって必要不可欠な知識やスキルは様々ある。本演習は前期の「専門演習 IA」には経済データの統計学的な分析手法を習得することを目標とする。 そのために、第一段階は指定するテキストに沿ってゼミを進めていく。必要に応じて参考テキストを使用することもある。第二段階は、日本と他のアジアの国々（例えば、ゼミ所属留学生の国）の公式統計データを手に入れて、学修した統計分析手法を当てはめて、データ分析を行ってみる。
授業の概要	この専門演習IIは下記の学習内容の取得を目指す。 ・今後の卒業論文作成に向けて、経済データの分析方法等の基礎知識や技能を学ぶ。 ・個人ワークおよびグループワークを通じて学び方を身につける。 ・ゼミは学生が主体となって進み、お互いに学び合う場をつくる予定である。授業のお邪魔は絶対許されない。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	・ゼミへの出席は全15回必須である。 ・ゼミへの参加態度、発表課題の完成度を重視する。遅刻が多く、無断欠席すると単位はとれない。 ・20分以上の遅刻および正当な理由のない早退は欠席とみなす。 ・出席しても発表をきちんと準備していない場合やゼミの活動に貢献が見られない場合は大幅に減点される。 ・期末レポートを課す予定である。 なお、詳細な説明は初回講義に行う。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・無断欠席、特に自分の発表日に欠席すると、「失格」になる。 ・2回の遅刻は1回の欠席としてカウントする。 ・2回の早退は1回の欠席としてカウントする。
授業計画	詳細なゼミの進行計画等は初回ゼミに周知する。
テキスト	1) 岡田朋子 (2023) 『エクセルで学習するデータサイエンスの基礎 統計学演習15講』近代科学社 Digital
参考書	1) 隈田和人等 (2020) 『やさしい経済データ分析入門』オーム社 2) 三好大悟 (著)・堅田洋資 (監修) (2022) 『統計学の基礎から学ぶ Excel データ分析の全知識』インプレス 3) 山本 康平 (2017) 『統計学15講』新世社

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的にゼミの時間内に質疑応答をする。</li> <li>・ゼミ時間以外にはオフィスアワーおよびアポイント時間に対応する。</li> </ul>
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミの時間内にする。</li> <li>・ゼミ時間以外にはオフィスアワーおよびメールの連絡やり取りを通じて対応する。</li> </ul>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の発表担当章の準備時間の他、他のゼミ生の発表担当章も目を通しておくようにする。</li> <li>・ゼミの第15回に実施する総まとめと振り返りの祭、話ができるように学習済みの知識を日頃自覚して復習する。</li> </ul>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	29308
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	村山 徹
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	村山 徹 (経済学部)
授業の目標	<p>グループワークやゼミ旅行などの活動を通じてゼミ生同士の友好を深めながら、食料品アクセス問題を題材に調査研究の手法について一緒に学習します。</p> <p>本ゼミでは、人々の暮らし・働き方に関わる諸問題であれば卒業論文のテーマは広く受け入れます。一部をあげると、人口移動、外国人居住、景観保全、商業施設等の立地、防災・減災といった研究テーマなどです。また、犬山市の主要産業である観光をテーマに、インバウンド獲得やシティプロモーションなどに関連する研究テーマを扱ってもらうも構いません。</p> <p>いずれにしても、4年生になって急に慌てなくて済むように、3年生の時から卒業論文の作成に適宜取り組み始めてもらいます。そのため、専門演習 A (前期) では、ゼミ旅行でのフィールドワークなど通じての地域社会の特徴を理解するための理論と実践について学び、専門演習 B (後期) ではゼミ共同研究と一緒に取り組みながら、自身の研究テーマについて着想してもらい、次年度から本格化する卒論作成に備えます。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワークを通じて、地域社会の特徴をまとめる。</li> <li>・地域のさまざまな問題を調査し、課題解決のための方策について思案する。</li> </ul> <p>関心意欲の領域 / 態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題に関する情報を積極的かつ主体的に入手する態度と技術を学ぶ。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業論文のための論理的な文章を書く。</li> <li>・適切な情報に基づき、独自性ある知見を他者に対して論理的に説明する。</li> </ul>
授業の概要	<p>日本中に多くある地方都市では、郊外への大型モールの進出などの影響によって中心市街地の空洞化が深刻化しています。しかし、交通弱者である高齢者は中心市街地に多く居住しており、日常生活必需品や生鮮食料品の購入が困難になるといった社会問題が生じています。</p> <p>専門演習 A (前期) では、ゼミ生同士の親睦を図るためにも、上記の食料品アクセス問題を題材としたグループワーク等を積極的におこないます。地域のさまざまな課題を把握するために必要となる情報収集の方法や手段についてクラスメイトと共に修得します。</p> <p>前期の学習の総まとめとしてゼミ旅行を計画します。場所は岐阜県高山市など近隣の観光地で、夏季休暇中の9月初旬を予定しています (参加は任意)。ゼミ旅行では地方都市が直面する問題に関する現地調査をおこなう予定です。</p> <p>授業内容に関しては受講生の状況を見て流動的に対応します。また、学外活動には多少の出費を伴うこともあります。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	文献・資料調査、発表などに積極的に取り組む姿勢を評価します。 発表内容（50%）+議論等への貢献（50%）
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	ゼミナールですので、すべての授業回への出席が前提になります。事前連絡のない欠席には厳しく対応します。自身の発表回に無断欠席の場合は「失格」とします。
授業計画	前年度スケジュールを参考としてアップします（変更の可能性あり）。  1週：ゼミ・ガイダンス、自己紹介、学習環境の確認 2～5週：【グループワーク】先行研究を調べ・まとめ・報告する 6～9週：【グループワーク】住みやすい中心市街地の要件とは？ 10週：【座学】論理的思考について、過去の優秀卒論の紹介 11～15週：ゼミ旅行と現地調査に向けた事前学習と準備  そのほかにも、前期ゼミの授業時間中に4年生を招待し、就職面接の対策講座をおこないます。
テキスト	なし
参考書	必要な資料などは、slackやGoogleクラスルーム、ゼミ時間中に適宜配布します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業概要や計画に示すとおり、グループワークや学外活動をおこなうことで「地域に」学んでもらいます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	市役所付置の自治体シンクタンクでの実務経験を有する教員が、行政の実践など紹介しながら地域課題の解決について解説する科目です。将来の就職先に公務員を検討している学生にとって有益な経験や知識を提供します。
質問への対応方法	大学が情報発信する「オフィスアワー」を確認してください。指定日時には個人研究室で質問等を受け付けます。また、本ゼミではslackを活用してメンバー間の連絡が円滑になるよう工夫しています。これらのゼミ連絡ツールでは常時質問を受け付けています。
フィードバックの方法	グループワークなどは、発表終了後のゼミ教員からのフィードバックにくわえて、ゼミ生同士のフィードバックを各自が役立てられるように心がけています。また、卒業論文などに関しては個別面談を設けて、各自の構想が具体化するように支援します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	グループワーク、ゼミ旅行と現地調査のための事前学習、卒論テーマの検討など、ゼミ時間外に作業や学習を進める必要のある取り組みが多くあります。目安としては授業時間の2倍程度の自学の時間が理想です。  専門科目「地域政策」の受講をお勧めします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	29309
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	安部 伸哉
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	安部 伸哉 (経済学部)
授業の目標	<p>・過去の日本の経済・経営の歴史的な流れを掴み、その延長線上に現在の経済・経営があることを理解する。</p> <p>・日本の経済・経営について、自ら情報を集め、整理できるようにする。</p> <p>・設定したテーマについて、論理的な説明ができるようにする。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>【知識・理解の領域】 日本経済史・経営史の基本的な用語を理解し、時代の流れを掴む。</p> <p>【思考判断の領域】 出来事の因果関係を理解して、明確に説明できる。</p> <p>【関心意欲の領域】 高い関心を持ち、意欲的にオリジナリティを発揮できる。</p> <p>【態度・志向性の領域】 計画性を持ち、積極的にグループワークに参加することができる。</p> <p>【技能の領域】 一次資料に遡って、情報・データを収集し、整理して説得力のある発表ができる。</p>
授業の概要	<p>インターゼミやフィールドワーク、輪読を通じて、過去の社会・経済・産業・企業・経営などを学び考える日本経済史・経営史のゼミナールです。</p> <p>【インターゼミ】 他大学との合同ゼミに参加して、研究報告を行い、他地域の大学生と交流を図る予定です（11月頃予定）。今のところ、参加大学は、九州大学鷲崎ゼミ、関西大学西村ゼミ、福岡女学院大学櫻木ゼミ、西南学院大学小野寺ゼミ、鳥取環境大学谷口ゼミ、同志社大学長澤ゼミです。この研究報告会は、10年以上続いているインターゼミであり、教員自身も学生時代に参加しました。安部ゼミでは、日本経済史・経営史に関するテーマを設定して、調査・分析をして、報告をします。過去のあったテーマとしては、「お伊勢参り」や「明治期のコレラ」、「タバコの広告」、「戦前の就活」、「藩札」、「北前船」など様々です。開催地は、福岡・大阪・京都のいずれかです。</p> <p>【フィールドワーク】 安部ゼミでは、「歴史は講義室で起こっているのではない。現場で起きているんだ！」を合言葉として、日本経済史に関する場所を見学します。なお、参加は任意ですので、都合に合わせて参加してください。</p> <p>【輪読】 日本経済史・経営史に関するテキストをゼミ生全員で読み進めていきます。</p>
評価方法	ゼミ活動への積極性や貪欲さを評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席回数が5回を超えた場合、失格とする。

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己紹介 / ゼミの進め方</li> <li>・ 輪読</li> <li>・ インターゼミのテーマ報告, プレ報告</li> </ul>
テキスト	ゼミ内で指示します。
参考書	ゼミ内で指示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	輪読の内容について, ディスカッションを行います。 インターゼミに向けて, グループでテーマを設定して, 調べて, 報告を行います。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応します。
フィードバックの方法	随時対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	必ずテキストを読み, 論点について考えてから参加する。報告者は論点を提示し, 報告レジюмеを作成する。報告の成功や失敗を次回に活かす。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>3. 統率力</li> <li>4. 感情制御力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>6. 行動持続力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group IB
時間割コード Course Code	29351
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	木村 牧郎
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 2 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	木村 牧郎 (経済学部)
授業の目標	<p>私たちが生きている社会で今何が起きているのか。新聞やニュースを理解する力を養うとともに、それらを自分達の問題と捉え、他者と考え話し合います。</p> <p>この演習では人々が抱える「生きづらさ」について探求し、課題の発見と解決に挑みます。これらの学習を通じて皆さんが今後の社会生活を送るうえで必要な「ライフリテラシー」を身につけることが目標です。またその学びのプロセスで必要となるレポートやレジュメ作り、プレゼンテーションのスキルの向上も目指します。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会政策や労働に関する知識を増やし理解を高めることができる。</li> <li>・ 他のゼミ生の報告を聞くことでさらに知識を深めることができる。</li> </ul> <p>思考判断の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 収集した多くの情報のなかで信頼できる情報を選び出す情報リテラシーの力が身につく。</li> <li>・ 論拠のある主張ができるようになる。</li> </ul> <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就職活動の準備段階で労働に関する知識を深め討論することで、「働く」ことに関して真剣に考え、学んだことを就職活動や卒業後の職業人生につなげることができる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料に即して論拠のある見解を述べられる人となることを目指す。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 収集した多くの情報のなかで信頼できる情報を選び出す情報リテラシーの力が身につく。</li> <li>・ 将来、報告書の作成などで必要となる文章力を高めることができる。</li> <li>・ 分かりやすいプレゼンテーションを行うことができる。</li> </ul> <p>体験探究の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (1のみ) ワークルール検定や労働に関する新聞読解などの学習を通じて、将来的な職業人生をイメージすることができる。</li> </ul>



授業の概要	<p>この専門演習IBでは、人びとの「生きづらさ」に焦点を当て、社会政策や社会保障の観点から解決策を学びます。ゼミ生自身が将来的に職場や地域生活で直面するであろう問題について実践的に考え、卒業後の職業人生をイメージできるようにすることがねらいです。また、これらの学びのプロセスで社会政策や社会保障に関する課題や疑問を発見し、適切な情報収集の方法と論理的思考を身につけ、卒業論文作成の土台づくりをします。</p> <p>生きづらさと聞くと、介護が必要な高齢者や自立が困難な障害者、貧困家庭で生きる困窮者など特定の人々を思い浮かべるかもしれませんが、もちろんこれらの人々にはその人たちなりの生きづらさがあるでしょうが、じつは私たちの身近な生活のなかにも潜んでいます。皆さんはこれまで不自由なく生きてきたと思うかもしれませんが、自分でも気づかないような生きづらさを抱えているかもしれませんし、これから大学を卒業して就職し、家族を形成するなかでさまざまな生きづらさに直面することもあります。そんな場合に社会政策や社会保障がどのように人びとの生きづらさを解消につながっているのか、どんな課題を抱えているのか、皆さんとともに考えたいと思います。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	報告（40％）、発言（20％）、レポート（40％）の3点を考慮して評価します。報告担当の回に欠席した場合は、単位を修得できません。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	毎週の授業に出席すること。とくに報告を担当する授業での欠席は認めません。
授業計画	<p>以下の種類のワークを織り交ぜながら授業を行います。</p> <p>輪読...テキストを熟読し、各回の担当者はレジュメをまとめて授業で報告する。輪読を通じて労働や社会保障分野における近年の論点整理をし、理解を深める。また、読解力や批判的精神、データ・資料の収集方法を身につけ、卒論作成に必要な問題を提起する力を磨く。</p> <p>グループ・ワーク...「働くこと」と「生活すること」をテーマとしたグループワークをする。他者との議論を通じて、コミュニケーション能力や協調性、論理的思考を磨く。</p> <p>アカデミック・ライティング・ワーク（1のみ）...レポートやレジュメの書き方、分かりやすい文章づくり、プレゼン技法を磨くワークをする。ゼミ生同士で互いの成果を評価し合いながら、卒論作成・報告に向けて必要な能力を磨く。</p>
テキスト	特になし。ゼミ生と話し合って決める。
参考書	特になし。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークを通じた学習が多くなります。ゼミ生同士の話し合いを通じてアイデアを出し合ったり、試行錯誤しつつもグループ内で役割分担・共同作業の体制を築いたりしながら、ゼミ生自身で共通の目標に到達するような機会を設けます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	疑問やわからないことがあれば、次回に残さずに授業後の時間やオフィスアワー、担当教員へのメール（kimura.makio@nagoya-ku.ac.jp）にて質問できます。
フィードバックの方法	e-learning上で提出するふり返り用の課題について、翌週までにコメントをつけて返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループで集まり、授業回ごとのグループ課題に取り組むこと</li> <li>個人レポート課題の提出に向けて、準備すること</li> <li>グループ発表に向けて、準備すること</li> </ul>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group IB
時間割コード Course Code	29352
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	齋藤 敦
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	齋藤 敦 (経済学部)
授業の目標	<p>○この演習のテーマは「公共の経済(財政)」です。</p> <p>私たちの生活そして社会のあり方は、国や自治体の活動と密接にかかわり合っています。この演習では、現代社会、日本社会が抱えている問題について認識を深めていきます。関心に応じて財政や公共政策に関する知識や考え方を学びます。その中で、次のことができるようになることを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を適切にみつけ、整理して、自分の考えを導き出す。</li> <li>・自ら確かめる、検証してみようとする態度を備える。</li> <li>・論理的に考え、他者にわかるように伝える。</li> </ul> <p>これらは社会に出て仕事をしていく時にも求められる力です。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財政や公共政策に関する基礎的な知識を持つことができる。</li> <li>・論理的な文章の書き方を知ることができる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会、日本社会が抱えている問題について自ら確かめようとする態度を備える。</li> <li>・社会人として必要になる基本的なマナーを身につけようとする。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の関心を洗い出しテーマを定めることができる。</li> <li>・信頼できる情報を集め、適切に活用できるようになる。</li> <li>・調べたことを文章にまとめ説明することができるようになる。</li> <li>・まとめたことを自分の言葉で伝えることができるようになる。</li> </ul>
授業の概要	<p>この専門演習 I では、主として日本を取り上げ具体的に考える中で、自分たちが生きている社会や経済、財政や公共政策とのかかわりについて関心を高め理解を深めていきます。その過程で、読む、書く、話すという知的技能の定着を図っていきます。</p> <p>そして、卒業論文の作成に向けて段階的な取組みを進めていきます。2年必要で1年目です。</p> <p>受講生には、主体的に取り組み、ゼミ生同士お互いから学び合うことが求められます。積極的に参加しお互いを高め合ってほしいと思います。</p>
評価方法	<p>専門演習IAに準じます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・報告発表・提出物(レジュメ・レポート等)の内容、ゼミへのかかわり方・取組み方、毎回の取組み等で総合的に評価します。</li> <li>・ゼミは休まず出席し、毎時間取り組む、きちんと連絡に答える、各種の指導をまもることが基本です。</li> <li>・学生同士がお互いから学び合う場でもあるので、学びの場の雰囲気を壊すような自分勝手なことは許されません。</li> <li>・15分以上の遅刻、正当な理由のない早退は欠席とします。</li> </ul>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席や遅刻が多い、無断で欠席する、報告発表の担当や提出物を怠る等、こうしたことは失格や不合格になります。
授業計画	主に文献の輪読を行う中で、文献資料の読み方・まとめ方、発表の仕方、議論の仕方等を実践していく予定です。 3年生での論文・レポートの作成と報告に向けて、受講生各人が準備を進めていきます。そこでは、対象を定める、問いを立てる、調べる、整理する、議論する、書く、他者にわかるように説明する、といった一連の作業を行います。 以上を内容とする授業計画は、進行状況、受講生の理解度等に応じて適宜設定していきます。ただし、第1～2回にはガイダンス、オリエンテーション、担当決めを行い、第12～15回には最終の発表・課題提出をしてもらう予定です。
テキスト	石井一成(2011)『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』ナツメ社
参考書	適宜紹介しますが、さしあたり次のものをあげておきます。 戸田山和久(2022)『論文の教室[最新版]』NHK出版。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問に対しては、主として授業中に対応します。
フィードバックの方法	フィードバックは、適宜、授業の中で行うほか、オフィスアワーでの面談やメールでの対応も行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・指定された文献の読み込み、授業時間における質疑応答等の復習、指定された課題の提出、発表の準備などに取り組むことが必要です。 ・グループワークについては、授業時間外にも作業や学習を進める必要があります。 ・理想的には、目安として授業時間の2倍程度の自学が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	1. 貧困をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11～17)	11. 住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group IB
時間割コード Course Code	29353
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	酒井 愛
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	酒井 愛 (経済学部)
授業の目標	<p>本演習では財政学・マクロ経済学の観点から、今後の日本における政策の在り方を一人ひとりの学生が自ら考えられるようになることを目指します。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;  知識・理解の領域  本演習で学んだ理論について、他者に説明し、継続して理解を深めることができる。</p> <p>思考判断の領域  日本の政策に関する課題を見出し、アプローチ方法を検討することができる。</p> <p>関心意欲の領域  政策をより身近なものとして捉えるべく、現在実施されている政策について制度・課題等を自ら検討しようとして試みることができる。</p> <p>態度・志向性の領域  自身の見解を論理的・整合的に述べることができる。</p> <p>技能の領域  読み手・聴き手への配慮を念頭に、簡潔かつ明瞭なレジユメを作成したうえで、板書による説明を含めた効果的なプレゼン方法を実践できる。</p>
授業の概要	<p>本演習では公共部門とは何かという問いから始め、公共部門の役割を考えます。その後、公共財・公共選択・外部性といった問題を含め、公共支出の理論を学びます。その後、公共政策、費用・便益分析の基礎を学び、医療、国防・技術、社会保険、福祉・所得再分配、教育などの問題に応用します。専門演習IAおよび専門演習IBを通じて、来たる卒業年次の「卒業論文」執筆に向けて、自分自身の興味・関心を掘り下げ、長期的に取り組みたいと考えられるテーマを模索します。前期（専門演習IA）・後期（専門演習IB）ともに、毎週の輪読報告当番をベースに進めていきます。担当者からの報告後、質疑応答のほか、報告内で提示されていた政策の実施可能性の是非や現実的な実施にあたっての改善点などを含めたディスカッションを行う中で、参加者全員の理解を深めていきます。報告にあたってのレジユメ作成や板書・プレゼンテーションは、報告者だけでなく、読み手・聴き手にとっても、社会になる前の準備として、有意義な時間となるはずで</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	<p>参加姿勢：70%（下記項目を目安にして下さい。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告担当者として...十分な事前準備をして報告に臨むほか、質問への適切な対応ができるように心がけて下さい。</li> <li>・良き聴き手として...建設的な提案や理解を深めるための質問ができると良いでしょう。</li> <li>・グループディスカッションに積極的に参加し、お互いを認め・高め合うことが大切です。</li> </ul> <p>レポート：30%（下記項目を目安にして下さい。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輪読報告担当時のレジユメのほか、聴き手としての報告評価シートへの記載内容も評価します。</li> <li>・中間レポートや期末レポートの形式で実施することもありますので、演習内でのアナウンスに従って下さい。 今後の卒業論文執筆を念頭に、レポートの書き方等についても、演習内で適宜指導します。</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	「報告・連絡・相談」を基本とし、連続して2回無断欠席した場合には失格となり、単位を修得することができません。何事もできる限り、事前に相談するよう心掛けてください。
授業計画	<p>文献および政府関係の統計資料を含め、卒業論文執筆に必要な政策に関する基礎理論をディスカッションを交えながら進めることで理解を深めます。（記載内容のほか、前期にPROGテストを実施予定です。スケジュール調整とともに詳細はゼミ内で周知します。）</p> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1．オリエンテーション</li> <li>2．公共部門と民間部門</li> <li>3．政府の役割</li> <li>4．政治過程</li> <li>5．社会的意思決定</li> <li>6．公的関与（公営企業）</li> <li>7．政策評価の手法</li> <li>8．財源調達：租税</li> <li>9．財源調達：公債ほか</li> <li>10．グループワーク（課題1）</li> <li>11．課題1に関するプレゼンテーション</li> <li>12．グループワーク（課題2）</li> <li>13．課題2に関するプレゼンテーション</li> <li>14．日本における今年度予算とその概要</li> <li>15．予算の在り方</li> </ol> <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1．社会保障</li> <li>2．少子高齢化対策</li> <li>3．環境と政策</li> <li>4．産業と政府関与</li> <li>5．労働政策</li> <li>6．教育投資</li> <li>7．政策と経済成長</li> <li>8．卒業論文：執筆に向けた準備・諸注意</li> <li>9．卒業論文：執筆計画の報告・確認</li> <li>10．グループワーク（課題3）</li> <li>11．課題3に関するプレゼンテーション</li> <li>12．グループワーク（課題4）</li> <li>13．課題4に関するプレゼンテーション</li> <li>14．グループワーク（課題5）</li> <li>15．課題5に関するプレゼンテーション</li> </ol> <p>前期 および 後期 とともに、以下の点に留意してください。 ゼミナールメンバーの興味関心・理解度に応じて実施順序を変更する場合があります。 グループワークの課題については時事テーマを含め、担当教員から提示します。</p>
テキスト	受講学生と相談のうえ、決定します。
参考書	適宜紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	輪読箇所に関する政策実施の是非や政策提言について、グループディスカッションやディベートを交えることで理解を深めます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	

質問への対応方法	随時対応します。そのほか、メール (ai.sakai@nagoya-ku.ac.jp) や本演習用のGoogle classroomでも対応しますので、適宜活用して下さい。Google classroomは資料配信などに利用します。担当者より招待しますので入室して下さい。
フィードバックの方法	提出された課題については添削を行い、返却時にコメントします。輪読報告にあたってのレジュメ・プレゼンテーションに関する事柄については、報告担当者だけでなく受講学生全員のブラッシュアップに寄与するよう、各回において改善のポイントなどをアドバイスします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業計画詳細情報内の備考欄を参照し、各回の予習・復習を行ってください。専門共通基礎 科目の「市場の経済学」・「国民経済と政府」および、選択科目の「ミクロ経済学」・「マクロ経済学」などで学習する内容を適宜復習しておくとい良いでしょう。財政学・公共経済学といった応用経済学の分野においては、基礎理論のベースの上に議論がなされますので、輪読・報告にあたっては、必要に応じて、上記分野のテキスト等を振り返りながら知識の定着を図ることが重要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	10. 人や国の不平等をなくそう 4. 質の高い教育をみんなに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標 (11~17)	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 9. 実践力

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group 1B
時間割コード Course Code	29354
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	定森 亮
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70D演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	定森 亮 (経済学部)
授業の目標	<p>この授業では、履修生が、社会の何に関心をもっているのかを少しずつ明らかにし、その社会に対して、どのように働きかければ、より望ましい環境、組織、人間関係が築けるのかを自分自身で考えらるようになることを目標にする。その際に、ヨーロッパ、アメリカ、日本の地域社会や文化と経済システムの違いに着目し、それらの社会を形作る個人と組織の密接な関係についての理解を深めていく。卒業論文の執筆はその一つの手段になり、後期には、その準備のために次のような点を重視して授業を進めていく。</p> <p>1. 卒業論文を執筆する準備として、論理的な文章作成の練習をする。その際に、言葉の一つ一つを正確に使っていくことで、自分自身の考えを少しずつ明瞭にし、さらには発展させていく方法を学ぶ。また、各学生が、卒論の主題を扱うに際して、問題提起、議論展開、結論という道筋に従って議論が展開できるように、卒論の設計図を何度も書き直しながら練り上げてもらう。</p> <p>2. 卒論計画を授業中に報告してもらい、他の学生と議論することを通じて、卒論を通じて何を明らかにしたいのかを精査してもらう。議論をする際には、自分が何を主張するかだけでなく、他人の主張の内容をよりよく理解し、その理解を深めていくための質問の仕方を学ぶ。</p> <p>3. 履修生自ら、独自の考えを導き出せるようになるために、先行研究の何に関して同意し、そしてどこから異なった考えをもっているかを整理してもらう。</p>
授業の概要	<p>1) 指定の書籍を扱って輪読を行なう。</p> <p>2) 各回で報告者と司会を割り当て、レジュメの作り方、司会進行、議論の仕方を学ぶ。</p> <p>3) 卒論で扱いたい対象を少しずつ明確にし、正確にしていくと同時に、その主題の関連文献を整理してもらう。また、授業内での報告だけではなく、必要に応じて個別の相談にも応じることで、卒業論文の進捗状況を確認していく。</p>
評価方法	<p>数回提出してもらうよていのレポートや卒業論文に関する報告の内容 (70%)、授業内での議論への参加 (30%) を評価対象とする。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>1週 ガイダンス</p> <p>2～10週 輪読、ならびに卒論のテーマに関する報告とその内容に関する議論</p> <p>11～15週 卒論のテーマに関する報告とその内容に関する議論</p>
テキスト	
参考書	<p>参考資料などは必要に応じて授業内で指示する。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各学生の主題に応じて、先行研究を調査し、整理すると同時に、それら先行研究との関係で自らの主張の独自性を追求する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールや研究室での面談などを通じて対応する。
フィードバックの方法	報告やレポートの内容に関しては、授業内、あるいは研究室などでの面談を通じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	レポートや卒業論文の執筆、卒論に関する先行研究の確認などを、授業時間外で行ってもらう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 8. 働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group 1B
時間割コード Course Code	29355
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 正之
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 正之 (経済学部)
授業の目標	ゼミ生が主体でゼミ運営を行う。各自の研究テーマを継続あるいは決定し、その進捗を把握し議論をする。 <成果> 【知識・理解の領域】地域の問題・政策課題の背景や現状を理解し説明できる。 【思考判断の領域】問題・課題に対して論理的で説得力のある思考ができる。 【関心意欲の領域】ゼミでの議論（意見交換）ができる。 【態度・志向性の領域】他人の考えの認識、考えの違いの理解、相互に助言ができる。 【技能の領域(情報スキル)】信頼できる情報を効率的に収集し、情報発信（デザイン）することができる。
授業の概要	各自設定した研究テーマの進捗を把握、議論、研究へ反映させる。 なお、講義期間外でのゼミ実施も考慮すること。地域の調査（フィールドワーク・巡検）を実施し、地域の研究を行う。 対象とする地域は、長野県の飯田・下伊那地域や愛知県の東三河地域などを予定（人数や予算により変更あり）。  研究内容の発表と意見交換、内容の修正を実施ながらゼミの成果として、研究レポートのまとめ、冊子化を行う。
評価方法	毎回の取り組み、演習課題（レポート）を考慮して評価する。 課題や研究テーマへの主体的な取り組み、共同作業と議論、成果の発表を踏まえて評価する。特に参加姿勢を重視する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	遅刻・欠席回数が多い、課題への取り組み不足、共同作業の無断欠席については、周りに迷惑がかかるため失格とする。
授業計画	各自が研究テーマを設定し、研究計画を作り、それに基づいて実施する。 各自の研究テーマの進捗を把握、議論、研究へ反映させる。 なお、講義期間外でのゼミ実施も考慮すること。
テキスト	使用しない
参考書	山崎, 他 (2021) 『はじめてのまちづくり学』 学芸出版社 梶田, 他 (2007) 『地域調査ことはじめ あるく・みる・かく』 ナカニシヤ出版 吉川, 他 (2011) 『考える 伝える 分かちあう 情報活用力』 noa出版
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	フィールドワークは、実際に地域に出て、調査や研究につなげる実習である。地域調査の考え方や手法を、体験しながら習得する。classroomを、講義の計画や内容の確認、受講した際の資料閲覧や課題提出に使用する。上記にあたり、ネットワーク環境のあるPCの利用が望ましい。

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	シンクタンクおよびNPOでの業務経験のある教員が、民間から公共まで様々な業務を踏まえた地域の調査を行うことで、地域経済の実態を把握する手法を習得する演習科目である。
質問への対応方法	ゼミ中、classroom、メール等で受け付ける。
フィードバックの方法	質問や成果をゼミ内でclassroomに情報を集約し、共有する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	課題やテーマに合わせた、情報収集や整理、集約の時間が、ゼミ時間と同様に必要です。各自の研究テーマを議論するための、準備が必要です。フィールドワークなどの、通常の講義期間外でのゼミを実施するため、夏期、冬期などの通常後期間外の活動が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group 1B
時間割コード Course Code	29356
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	谷内 陽一
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	13C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	谷内 陽一 (経済学部)
授業の目標	<p>ファイナンシャル・プランニングあるいは年金制度（公的年金・企業年金・個人年金）のしくみを学ぶことを通して、金融・ファイナンス理論の知識と理解を深め、実生活で利用・活用できるようになることを目指す。</p> <p>&lt;学習成果&gt;  知識・理解の領域  金融の基本的なしくみを正しく理解するとともに、他の受講者の発表や意見を踏まえて知識と理解を更に深めることができる  関心意欲の領域  金融・ファイナンスに関する知識を、就職活動あるいは卒業後に有効に活用することができる  態度・志向性の領域  金融あるいは金融商品に関する意思決定を独力で行うことができる  技能の領域  金融の基本的なしくみを、プレゼンテーションやレポートの形で第三者に正しく説明することができる</p>
授業の概要	<p>学術書・専門書の輪読  輪読内容の発表（プレゼンテーション）および討論（ディスカッション）  その他、各種イベントへの参加あるいは学外見学等を行う場合あり  この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること</p>
評価方法	発表内容および参加姿勢等を総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	やむを得ない事情以外の欠席・遅刻が多い場合は、失格とする可能性がある。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション  第2回～第15回 輪読</p> <p>詳細は第1回授業（オリエンテーション）の際に受講者の意向も踏まえて決定する  受講者の理解度合いに応じて授業の内容を変更する場合あり</p>
テキスト	必要に応じて適宜指定する。
参考書	必要に応じて適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>輪読担当箇所に係る資料作成および発表（プレゼンテーション）  発表内容に係る討論（ディスカッション）  その他、各種イベントへの参加や学外見学等を行う場合あり</p>

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	年金基金、銀行、生命保険会社にて私的年金（企業年金・個人年金）の制度・財政運営や資産運用等の業務に従事してきた教員が、金融・ファイナンスに関する理論的体系および実務経験に基づく具体的事例を踏まえて、学術・実務両面の視点から指導する。
質問への対応方法	演習中またはメール等により随時対応する。
フィードバックの方法	同上
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	発表者は、担当箇所の発表に向けて準備すること 司会者は、司会進行だけでなく授業中の議論が活発になるよう準備すること 他の受講者は、テキストの担当箇所を事前に熟読のうえ、議論に参加できるよう準備すること 次年度の卒業論文の作成に向けて、研究テーマの選定も意識すること
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group IB
時間割コード Course Code	29357
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	ブ ティ ビック リエン
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ブ ティ ビック リエン (経済学部)
授業の目標	卒業論文作成に向かって必要不可欠な知識やスキルは様々ある。本演習は後期の「専門演習 IIB」には専門的な経済学の知識、いわゆる経済発展論の理論知識を理解した上に、前期の「専門演習 IA」で修得済みの経済データ分析手法を実際の公式統計データの応用分析ができることを目指す。その他に、卒業論文の書き方をも学ぶ。 そのために、学生が主導的に発表するパターンでゼミを進めていく。学生一人一人は指定日に発表資料を準備して、クラスの前に自分の言葉で説明・発表する。 そのほかに、適宜に応じて参考文献や統計データを収集する練習を行う。
授業の概要	この専門演習 IBIは下記の学習内容の取得を目指す。 ・卒業論文作成に向けて経済発展論の基礎知識をおさえた上に、データ分析を練習する。 ・卒業論文執筆に向かい、論文の書き方や先行研究の探し方を学ぶ。 ・個人ワークおよびグループワークを通じて学び方を身につける。 ・ゼミは学生が主体となって進み、お互いに学び合う場をつくる予定である。授業のお邪魔は絶対許されない。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	・ゼミへの出席は全15回必須である。 ・ゼミへの参加態度、発表課題の完成度を重視する。遅刻が多く、無断欠席すると単位はとれない。 ・20分以上の遅刻および正当な理由のない早退は欠席とみなす。 ・出席しても発表をきちんと準備していない場合やゼミの活動に貢献が見られない場合は大幅に減点される。 ・期末レポートを課す予定である。 なお、詳細な説明は初回講義に行う。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・無断欠席、特に自分の発表日に欠席すると、「失格」になる。 ・2回の遅刻は1回の欠席としてカウントする。 ・2回の早退は1回の欠席としてカウントする。
授業計画	・第1回：ゼミの初回ガイダンス ・第2回～第14回：テキストの学習および学生の発表 ・第15回：総まとめ
テキスト	ゼミの初回時に決める。

参考書	1) 渡辺利夫 (2005) 『開発経済学入門』東洋経済新報社 2) 黒崎卓・栗田匡相 (2006) 『ストーリーで学ぶ開発経済学 途上国の暮らしを考える』有斐閣 ストウディア 3) 大野健一・桜井宏二郎 (1997) 『東アジアの開発経済学』有斐閣 4) 隈田和人等 (2020) 『やさしい経済データ分析入門』オーム社 5) 山本康平 (2017) 『統計学 15講』新世社 6) 河野哲也 (2018) 『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・基本的にゼミの時間内に質疑応答をする。 ・ゼミ時間以外にはオフィスアワーやアポイント時間に対応する。
フィードバックの方法	・ゼミの時間内にする。 ・ゼミ時間以外にはオフィスアワーやメールの連絡やり取りを通じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・自分の発表の準備時間を十分に割くようにする。 ・発表は学期中に数回を渡ってまとめるので、毎回の教員コメントのメモを取る他、学習進捗報告書の整理時間を取るようにする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group 1B
時間割コード Course Code	29358
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	村山 徹
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	村山 徹 (経済学部)
授業の目標	<p>ゼミ共同研究にまつわる活動を通じて、地域課題に関する自身の研究テーマを見つけることを目標とします。</p> <p>本ゼミでは、人々の暮らし・働き方に関わる諸問題であれば卒業論文のテーマは広く受け入れます。一部をあげると、人口移動、外国人居住、景観保全、商業施設等の立地、防災・減災といった研究テーマなどです。また、犬山市の主要産業である観光をテーマに、インバウンド獲得やシティプロモーションなどに関連する研究テーマを扱ってもらっても構いません。</p> <p>いずれにしても、4年生になって急に慌てなくて済むように、3年生の時から卒業論文の作成に適宜取り組み始めてもらいます。そのため、専門演習 A (前期) では、ゼミ旅行でのフィールドワークなど通じての地域社会の特徴を理解するための理論と実践について学び、専門演習 B (後期) ではゼミ共同研究と一緒に取り組みながら、自身の研究テーマについて着想してもらい、次年度から本格化する卒論作成に備えます。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワークを通じて、地域社会の特徴をまとめる。</li> <li>・地域のさまざまな問題を調査し、課題解決のための方策について思案する。</li> </ul> <p>関心意欲の領域 / 態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題に関する情報を積極的かつ主体的に入手する態度と技術を学ぶ。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業論文のための論理的な文章を書く。</li> <li>・適切な情報に基づき、独自性ある知見を他者に対して論理的に説明する。</li> </ul>
授業の概要	<p>専門演習 B (後期) では、ゼミ旅行の現地調査で得た情報を精査し、学会などでの成果報告に向けたとりまとめ作業をおこないます。研究テーマに基づく先行研究レビューや地域概観などをグループごとに分担し、ゼミの共同研究として完成させます。そのような共同研究の取り組みを通じて、各自の卒論テーマについて考え始めてもらいます。</p> <p>後期ゼミナールの最後には卒業論文の構想を立ててもらい、担当教員やゼミ生からのフィードバックをもとに加筆修正してもらおう予定です。</p> <p>授業内容に関しては受講生の状況を見て流動的に対応します。また、学外活動には多少の出費を伴うこともあります。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>文献・資料調査、発表などに積極的に取り組む姿勢を評価します。</p> <p>発表内容 (70%) + 議論等への貢献 (30%)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>ゼミナールですので、すべての授業回への出席が前提になります。事前連絡のない欠席には厳しく対応します。自身の発表回に無断欠席の場合は「失格」とします。</p>

授業計画	<p>前年度スケジュールを参考としてアップします（変更の可能性あり）。</p> <p>1週： ガイダンス  2～9週： ゼミ共同研究  10週： 学会発表の事前練習  11週： 卒論テーマの着想に関する相談  12～14週： 卒論構想レジュメの作成  15週： 優秀卒論発表会への参加</p> <p>そのほかにも、就活支援の一環として、ゼミでの活動にまつわるガクチカ作成の指導もおこないます。</p>
テキスト	なし
参考書	必要な資料などは、slackやGoogleクラスルーム、ゼミ時間中に適宜配布します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業概要や計画に示すとおり、グループワークや学外活動をおこなうことで「地域に」学んでもらいます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	市役所付置の自治体シンクタンクでの実務経験を有する教員が、行政の実践など紹介しながら地域課題の解決について解説する科目です。将来の就職先に公務員を検討している学生にとって有益な経験と知識を提供します。
質問への対応方法	大学が情報発信する「オフィスアワー」を確認してください。指定日時には個人研究室で質問等を受け付けます。また、本ゼミではslackを活用してメンバー間の連絡が円滑になるよう工夫しています。これらのゼミ連絡ツールでは常時質問を受け付けています。
フィードバックの方法	グループワークなどは、発表終了後のゼミ教員からのフィードバックにくわえて、ゼミ生同士のフィードバックを各自が役立てられるように心がけています。また、卒業論文などに関しては個別面談を設けて、各自の構想が具体化するように支援します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>グループワーク、夏の調査合宿のための事前学習、卒論テーマの検討など、ゼミ時間外に作業や学習を進める必要のある取り組みが多くあります。目安としては授業時間の2倍程度の自学の時間が理想です。</p> <p>専門科目「地域政策」の受講をお勧めします。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力



開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group 1B
時間割コード Course Code	29359
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	安部 伸哉
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	安部 伸哉 (経済学部)
授業の目標	<p>・過去の日本の経済・経営の歴史的な流れを掴み、その延長線上に現在の経済・経営があることを理解する。</p> <p>・日本の経済・経営について、自ら情報を集め、整理できるようにする。</p> <p>・設定したテーマについて、論理的な説明ができるようにする。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>【知識・理解の領域】 日本経済史・経営史の基本的な用語を理解し、時代の流れを掴む。</p> <p>【思考判断の領域】 出来事の因果関係を理解して、明確に説明できる。</p> <p>【関心意欲の領域】 高い関心を持ち、意欲的にオリジナリティを発揮できる。</p> <p>【態度・志向性の領域】 計画性を持ち、積極的にグループワークに参加することができる。</p> <p>【技能の領域】 一次資料に遡って、情報・データを収集し、整理して説得力のある発表ができる。</p>
授業の概要	<p>インターゼミやフィールドワーク、輪読を通じて、過去の社会・経済・産業・企業・経営などを学び考える日本経済史・経営史のゼミナールです。</p> <p>【インターゼミ】 他大学との合同ゼミに参加して、研究報告を行い、他地域の大学生と交流を図る予定です(11月頃予定)。今のところ、参加大学は、九州大学鷲崎ゼミ、関西大学西村ゼミ、福岡女学院大学櫻木ゼミ、西南学院大学小野寺ゼミ、鳥取環境大学谷口ゼミ、同志社大学長澤ゼミです。この研究報告会は、10年以上続いているインターゼミであり、教員自身も学生時代に参加しました。安部ゼミでは、日本経済史・経営史に関するテーマを設定して、調査・分析をして、報告をします。過去のあったテーマとしては、「お伊勢参り」や「明治期のコレラ」、「タバコの広告」、「戦前の就活」、「藩札」、「北前船」など様々です。開催地は、福岡・大阪・京都のいずれかです。</p> <p>【フィールドワーク】 安部ゼミでは、「歴史は講義室で起こっているのではない。現場で起きているんだ!」を合言葉として、日本経済史に関する場所を見学します。なお、参加は任意ですので、都合に合わせて参加してください。</p> <p>【輪読】 日本経済史・経営史に関するテキストをゼミ生全員で読み進めていきます。</p>
評価方法	ゼミ活動への積極性や貪欲さを評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席回数が5回を超えた場合、失格とする。

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己紹介 / ゼミの進め方</li> <li>・ 輪読</li> <li>・ インターゼミのテーマ報告, プレ報告</li> <li>・ 卒業論文のテーマ報告</li> </ul>
テキスト	ゼミ内で指示します。
参考書	ゼミ内で指示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	輪読の内容について、ディスカッションを行います。 インターゼミに向けて、グループでテーマを設定して、調べて、報告を行います。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応します。
フィードバックの方法	随時対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	必ずテキストを読み、論点について考えてから参加する。報告者は論点を提示し、報告レジュメを作成する。報告の成功や失敗を次回に活かす。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>3. 統率力</li> <li>4. 感情制御力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>6. 行動持続力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	29400
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 邦彦
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 邦彦 (経済学部)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の政治・経済に関する事柄が理解できるようにする。</li> <li>・世界の政治・経済を知ること、日本がどのような国が理解できるようにする。</li> <li>・関心のある事柄を、自ら情報を集め、聞き手にうまく伝えるように発表できるようにする。</li> </ul> <p>&lt; 成果 &gt;</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の国々について理解できるようになる。</li> <li>・世界の政治・経済問題に対する理解を深めることができる。</li> </ul> <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界と日本の政治・経済がどのように結びついているのか関心が持てる。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要とする情報やデータを収集し、簡潔に分かりやすく発表する能力が向上する。</li> </ul>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業論文のテーマを意識して、世界の政治・経済に関連するテーマを各ゼミ生が選び、発表・議論を行う。</li> <li>・各ゼミ生のテーマが決定し次第、卒業論文の進捗報告へと移行する。</li> <li>・教員からは、世界の政治・経済を理解するのに必要な基礎的な知識、考え方を伝える。(ゼミ生の関心等によって授業の進め方を変更する場合がある)。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミへの参加態度を最大の評価ポイントとする。</li> <li>・具体的には、報告・発表・議論に取り組む姿勢を最重視する。</li> <li>・発表については、どれだけ丁寧に準備した、が大事な評価ポイントとなる。</li> <li>・プレゼン担当者が無断で休んだ場合は、即「失格」になる。</li> <li>・授業に出ているだけで、やる気のない態度を見せる者は、大幅に減点し、目に余る場合は「失格」とする。</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	授業概要に基づき、初回のゼミで受講生の意向も踏まえて作成する。
テキスト	授業で適宜紹介する。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	随時対応。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	入念な準備を行ったうえで授業に参加し、授業で得た様々なフィードバックを次回以降の授業に活かす。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	29401
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	木村 牧郎
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 2 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	木村 牧郎 (経済学部)
授業の目標	<p>輪読により、読解力を高め、レジュメにまとめ報告するスキルを高めます。また、卒業論文作成のプロセスを通じて資料収集・分析、執筆、報告のスキルを向上させ、卒業論文にまとめあげます。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>論文のテーマに関する知識を増やし理解を高めることができる。</li> <li>他のゼミ生の報告を聞くことで、そのテーマに関する知識を深めることができる。</li> </ul> <p>思考判断の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>収集した多くの情報のなかで、論文の主張を支える信頼できる情報を選び出す情報リテラシーの力が身につく。</li> <li>論拠のある主張ができるようになる。</li> </ul> <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>興味のあるテーマで論文を執筆することにより、そのテーマに関する関心がさらに高まる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料に即して論拠のある見解を述べられる人となることを目指す。</li> <li>他者との議論を通じて意思疎通や協調性の大切さを覚え、異なる意見を尊重する態度を身につける。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>収集した多くの情報のなかで、論文の主張を支える信頼できる情報を選び出す情報リテラシーの力が身につく。</li> <li>将来、報告書の作成などで必要となる、文章力を高めることができる。</li> <li>分かりやすいプレゼンテーションを行うことができる。</li> </ul> <p>体験探究の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調査を行うことで、オリジナルのデータを得る経験をすることができる。</li> </ul>

<p>授業の概要</p>	<p>授業では以下のような取り組みを通じて、卒論作成に必要なスキルを学び、労働や社会保障に関する知識や理解を深めます。自分の興味のあるテーマを見つけ、ゼミ報告やワークを経ながら論文にまとめあげます。</p> <p>&lt;授業での取り組み&gt; 以下のワークを織り交ぜて学習します。</p> <p>輪読...テキストを熟読し、各回の担当者はレジュメをまとめ授業で報告する。輪読を通じて労働や社会保障分野における近年の論点整理をし、理解を深める。また、読解力や批判的精神、データ・資料の収集方法を身につけ、卒論作成に必要な問題を提起する力を磨く。</p> <p>グループ・ワーク...「働くこと」と「生活すること」をテーマとしたグループワークをする。他者との議論を通じて、コミュニケーション能力や協調性、論理的思考を磨く。</p> <p>卒論ワーク...卒論執筆の際に必要な文章作成向けのワークをする。また、卒論のテーマと構成を考え、中間報告会でプレゼンをする。わかりやすい文章作成や論理的な文章展開、プレゼン能力を磨く。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
<p>評価方法</p>	<p>輪読報告（50%）および卒論の中間報告（40%）、質疑応答時やワーク参加時の意欲・関心（10%）を考慮して評価する。</p> <p>毎週の授業に出席すること。とくに報告を担当する授業での欠席は認めない。</p>
<p>教員の指導に従わない以外の事由による失格基準</p>	<p>欠席回数が多い場合には失格とする。15分以上の遅刻は欠席扱いとする。</p>
<p>授業計画</p>	<p>ゼミではおもにグループワークや輪読などを行いつつ、並行して卒業論文執筆に向けた卒論ワークと個人指導を織り交ぜ、以下のスケジュールで進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輪読（5～7月）</li> <li>・卒業論文のテーマ決定（4月）</li> <li>・卒業論文の概要作成（6月）</li> <li>・卒業論文の構成案作成（7月）</li> <li>・卒業論文の中間報告（8月）</li> </ul>
<p>テキスト</p>	<p>ゼミ生と話し合いによって決める。</p>
<p>参考書</p>	<p>ゼミ中に紹介する。</p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等</p>	<p>含まない</p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容</p>	
<p>実務経験のある担当教員による授業</p>	<p>該当しない</p>
<p>担当教員の実務経験を活かした授業の内容</p>	
<p>質問への対応方法</p>	<p>疑問やわからないことがあれば、次回に残さずに授業後の時間やオフィスアワー、担当教員へのメールにて質問できます。</p>
<p>フィードバックの方法</p>	<p>毎回グループ・クラスルームを通じて授業のふり返りを提出してもらい、翌週にはそれに対してコメントをつけて返却します。</p>
<p>予習・復習等、準備学習の内容及び時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループで集まり、授業回ごとのグループ課題に取り組むこと</li> <li>・個人レポート課題の提出に向けて、準備すること</li> <li>・グループ発表に向けて、準備すること</li> </ul>
<p>使用言語</p>	<p>日本語</p>
<p>SDGs 17の目標（1～10）</p>	
<p>SDGs 17の目標（11～17）</p>	
<p>PROGリテラシーの要素</p>	
<p>PROGコンピテンシーの要素</p>	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	29402
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	齋藤 敦
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	齋藤 敦 (経済学部)
授業の目標	<p>卒業論文の作成に携わる中で知的技能を向上させることが目標です。次のことができるようになることを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を適切にみつけ、整理して、自分の考えを導き出す。</li> <li>・自ら確かめる、検証してみようとする態度を備える。</li> <li>・論理的に考え、他者にわかるように伝える。</li> </ul> <p>&lt; 学習成果 &gt;</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財政や公共政策に関してある程度専門的な知識を持つことができる。</li> <li>・論理的な文章を理解し、作成の要領を知ることができる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会、日本社会が抱えている問題について自ら確かめようとする態度を備える。</li> <li>・社会人として必要になる基本的なマナーが身につく習慣となる。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定めたテーマについて深く調べることができる。</li> <li>・信頼できる情報を集め、適切に活用できるようになる。</li> <li>・調べたことや自分の考えを文章にまとめて説得的に述べるができるようになる。</li> <li>・まとめたことを自分の言葉で説得的に伝えることができるようになる。</li> </ul>
授業の概要	<p>3年次の専門演習 I で身につけた知識や技術をもとに、卒業論文を作成します。段階的に2年必要で2年目です。卒業論文のテーマ設定、毎回の授業での報告と討議、中間発表を経て最終的な卒業論文としての完成を目指します。</p> <p>この演習では論文作成のみならず、プレゼンテーション能力の向上も図りたいと考えています。中間発表や最終発表などはパワーポイントを用いて行ってもらう予定です。</p>
評価方法	<p>3年次の専門演習Iにおける評価方法を前提とし、報告発表と討論・提出物(レジュメ・レポート・論文等)等の内容、ゼミへのかかわり方・取組み方等で総合的に評価します。試験を行う場合もあります。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>欠席や遅刻が多かったり、毎回の取組み、担当や課題を怠ると失格や不合格になります。</p>

授業計画	<p>授業中の指導に加え、適宜個別に指導を行い卒業論文をまとめます。以下のスケジュールを目安に進めていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業論文のテーマ設定（4月）</li> <li>・テーマに関する資料文献の収集（4月～完成時まで）</li> <li>・卒業論文の構成の検討（4～5月）</li> <li>・卒業論文の概要の作成（6～7月、レポート・小論文兼）</li> <li>・卒業論文の中間発表（7月）</li> <li>・卒業論文の下書き（9月）</li> <li>・卒業論文の原稿提出（初稿）（10月）</li> <li>・卒業論文の最終原稿提出（11月）</li> <li>・優秀卒業論文表彰式・報告会への参加（1月）</li> </ul>
テキスト	石井一成(2011)『ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方』ナツメ社
参考書	<p>適宜紹介しますが、さしあたり次のものをあげておきます。</p> <p>石井一成（2011）『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』ナツメ社</p> <p>戸田山和久（2022）『[最新版論文]の教室』NHK出版</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問へは主に授業の中で対応します。
フィードバックの方法	コメント等、適宜、主に授業の中で行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	準備をしっかりと行い、指示された活動や改善向上によく取り組んでください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	29403
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	酒井 愛
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	酒井 愛 (経済学部)
授業の目標	<p>本演習では租税理論の理解を通じて、政策実施における資金調達上の課題をふまえた議論ができるようになることを目指します。専門演習Iから継続して、日本における今後の政策の在り方を一人ひとりの学生が検討してきた中で、政策の実施可能性や意図した効果・意図せざる効果についても考察を深め、集大成としての政策提言を目標としています。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;</p> <p>知識・理解の領域 本演習で学んだ理論について、他者に説明し、継続して理解を深めることができる。</p> <p>思考判断の領域 日本の公共政策、広くマクロ政策に関する課題を見出し、アプローチ方法を検討することができる。</p> <p>関心意欲の領域 公共政策をより身近なものとして捉えるべく、現在実施されている政策について制度・課題等を自ら検討しようと試みることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 自身の見解を論理的・整合的に述べることができる。</p> <p>技能の領域 読み手・聴き手への配慮を念頭に、簡潔かつ明瞭なレジюмеを作成したうえで、板書による説明を含めた効果的なプレゼン方法を実践できる。</p>

授業の概要	<p>本演習では租税の基礎を学ぶことから始め、租税にかかわる諸理論の考察を行います。その後、税の帰着、効率性、最適課税、資本課税といった問題を扱います。現実の税制への応用として、個人所得税、法人所得税、節税、税制改革にも触れます。専門演習IIAおよび専門演習IIBを通じて、「卒業論文」完成に向けて、問いから予測、結論までをこれまでの学修内容をふまえ、まとめていきます。</p> <p>前期（専門演習IIA）は毎週の輪読報告当番をベースに進めていきます。後期（専門演習IIB）は各自の関心に応じたテーマ設定に基づき、報告と議論へと徐々にシフトします。担当者からの報告後、質疑応答のほか、報告内で提示されていた政策の実施可能性の是非や現実的な実施にあたっての改善点などを含めたディスカッションを行う中で、参加者全員の理解を深めていきます。報告にあたってのレジュメ作成や板書・プレゼンテーションは、報告者だけでなく、読み手・聴き手にとっても、社会になる前の準備として、有意義な時間となるはずで。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>参加姿勢：70%（下記項目を目安にして下さい。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告担当者として...十分な事前準備をして報告に臨むほか、質問への適切な対応ができるように心がけて下さい。</li> <li>・良き聴き手として...建設的な提案や理解を深めるための質問ができると良いでしょう。</li> <li>・グループディスカッションに積極的に参加し、お互いを認め・高め合うことが大切です。</li> </ul> <p>レポート：30%（下記項目を目安にして下さい。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輪読報告担当時のレジュメのほか、聴き手としての報告評価シートへの記載内容も評価します。</li> <li>・中間レポートや期末レポートの形式で実施することもありますので、演習内でのアナウンスに従って下さい。</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>ディスカッションへの積極的な参加の重要性をふまえ、出席回数が12回に満たない場合には失格となり、単位を修得することができません。</p> <p>「報告・連絡・相談」を基本とし、連続して2回無断欠席した場合には失格となり、単位を修得することができません。何事もできる限り、事前に相談するよう心掛けてください。</p>
授業計画	<p>前期</p> <p>テキスト，文献資料に沿って進めます。テーマ選定を含め，個別相談を併せて実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1：公共支出（概要）</li> <li>2：公共支出（計画評価）</li> <li>3：社会保障制度</li> <li>4：租税帰着</li> <li>5：租税と経済効率</li> <li>6：最適課税</li> <li>7：資本課税</li> <li>8：所得税</li> <li>9：地方財政</li> <li>10：日本における税制</li> <li>11：公債の現状</li> <li>12：社会保障制度</li> <li>13：テーマ学習報告（1グループ）</li> <li>14：テーマ学習報告（2グループ）</li> <li>15：テーマ学習報告（3グループ）</li> </ol> <p>後期</p> <p>各自の関心に沿って，グループ分けを行うほか，文献学習・議論を併せながら，理解を深めます。グループおよび個人での報告においてはゼミ生からの質問・コメントをもとに，議論を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1：個別テーマ近況報告（前半）</li> <li>2：個別テーマ近況報告（後半）</li> <li>3：グループディスカッション（テーマA）</li> <li>4：グループディスカッション（テーマB）</li> <li>5：グループディスカッション（テーマC）</li> <li>6：時事資料を用いた学習</li> <li>7：文献資料による論点掘り下げ</li> <li>8：文献資料による論点掘り下げ</li> <li>9：文献資料による論点掘り下げ</li> <li>10：報告とコメント（相互点検）</li> <li>11：個人選定課題（報告と議論）</li> <li>12：個人選定課題（報告と議論）</li> <li>13：個人選定課題（報告と議論）</li> <li>14：個人選定課題（報告と議論）</li> <li>15：振り返りと最終まとめ</li> </ol>
テキスト	適宜指示します。
参考書	適宜紹介します。

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	輪読箇所に関する政策実施の是非や政策提言について、グループディスカッションやディベートを交えることで理解を深めます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応します。そのほか、メール(ai.sakai@nagoya-ku.ac.jp)や本演習用のGoogle classroomでも対応しますので、適宜活用して下さい。Google classroomは資料配信などに利用します。担当者より招待しますので入室して下さい。
フィードバックの方法	提出された課題については添削を行い、返却時にコメントします。輪読報告にあたってのレジュメ・プレゼンテーションに関する事柄については、報告担当者だけでなく受講学生全員のブラッシュアップに寄与するよう、各回において改善のポイントなどをアドバイスします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業計画詳細情報内の備考欄を参照し、各回の予習・復習を行ってください。専門共通基礎 科目の「市場の経済学」・「国民経済と政府」および、選択科目の「ミクロ経済学」・「マクロ経済学」などで学習する内容を適宜復習しておくといいでしょう。財政学・公共経済学といった応用経済学の分野においては、基礎理論のベースの上に議論がなされますので、輪読・報告にあたっては、必要に応じて、上記分野のテキスト等を振り返りながら知識の定着を図ることが重要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11~17)	11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	29404
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	定森 亮
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70D演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	定森 亮 (経済学部)
授業の目標	<p>1. 卒業論文を執筆する準備として、論理的な文章作成の練習をする。その際に、言葉の一つ一つを正確に使っていくことで、自分自身の考えを少しずつ明瞭にし、さらには発展させていく方法を学ぶ。また、各学生が、卒論の主題を扱うに際して、問題提起、議論展開、結論という道筋に従って議論が展開できるように、卒論の設計図を何度も書き直しながら練り上げてもらう。</p> <p>2. 独自の考えを導き出しもらうために、先行研究の何に関して同意し、そしてどこから異なった考えをもっているかを整理してもらう。</p> <p>3. 卒論計画を授業中に報告してもらい、他の学生と議論することを通じて、卒論を通じて何を明らかにしたいのかを精査してもらう。議論をする際には、自分が何を主張するかどうかだけでなく、他人の主張の内容をよりよく理解するための質問の仕方を学ぶ。</p>
授業の概要	前期には、卒論で扱いたい対象を少しずつ明確にし、正確にしていくと同時に、その主題の関連文献を整理してもらう。また、授業内での報告だけでなく、必要に応じて個別の相談にも応じることで、卒業論文の進捗状況を確認していく。
評価方法	数回提出してもらうよていのレポートや卒業論文に関する報告の内容(70%)、授業内での議論への参加(30%)を評価対象とする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>1週            ガイダンス</p> <p>2～6週       論理的な文章作成の練習</p> <p>7～15週      卒論のテーマに関する報告とその内容に関する議論</p>
テキスト	
参考書	参考資料などは必要に応じて授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各学生の主題に応じて、先行研究を調査し、整理すると同時に、それら先行研究との関係で自らの主張の独自性を追求する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールや研究室での面談などを通じて対応する。
フィードバックの方法	報告やレポートの内容に関しては、授業内、あるいは研究室などでの面談を通じて対応する。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	レポートや卒業論文の執筆、卒論に関する先行研究の確認などを、授業時間外で行ってもらおう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 8. 働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナースhipで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	29405
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 正之
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	情報実習室A
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 正之(経済学部)
授業の目標	ゼミ生が主体でゼミ運営を行う。各自の研究テーマを継続あるいは決定し、その進捗を把握し議論をする。 <成果> 【知識・理解の領域】地域の問題・政策課題の背景や現状を理解し説明できる。 【思考判断の領域】問題・課題に対して論理的で説得力のある思考ができる。 【関心意欲の領域】ゼミでの議論(意見交換)ができる。 【態度・志向性の領域】他人の考えの認識、考えの違いの理解、相互に助言ができる。 【技能の領域(情報スキル)】信頼できる情報を効率的に収集し、情報発信(デザイン)することができる。
授業の概要	各自が研究テーマを設定し、研究計画を作り、それに基づいて実施する。 各自の研究テーマの進捗を把握、議論、研究へ反映させる。 なお、講義期間外でのゼミ実施も考慮すること。
評価方法	毎回の取り組み、演習課題(レポート)を考慮して評価する。 課題や研究テーマへの主体的な取り組み、共同作業と議論、成果の発表を踏まえて評価する。特に参加姿勢を重視する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	遅刻・欠席回数が多い、課題への取り組み不足、共同作業の無断欠席については、周りに迷惑がかかるため失格とする。
授業計画	各自が研究テーマを設定し、研究計画を作り、それに基づいて実施する。 各自の研究テーマの進捗を把握、議論、研究へ反映させる。 なお、講義期間外でのゼミ実施も考慮すること。
テキスト	使用しない
参考書	梶田, 他(2007)『地域調査ことはじめ あるく・みる・かく』ナカニシヤ出版 吉川, 他(2011)『考える 伝える 分かちあう 情報活用力』noa出版
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	1. classroomを、講義の計画や内容の確認、受講した際の資料閲覧や課題提出に使用します。 2. ドライブを、講義資料の共有など、自分の資料やレポートを保存に使用します。 3. Gmail、ドキュメントを、各自が提出するレポート作成に使用します。 4. その他、googleformsや会議アプリを必要に応じ使用します。 上記にあたり、ネットワーク環境のあるPCの利用が望ましい。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	

質問への対応方法	大学のgoogleアカウント利用が必須。mailとclassroom、その他、会議アプリも必要に応じて使用する。
フィードバックの方法	大学のgoogleアカウント利用が必須。mailとclassroom、その他、会議アプリも必要に応じて使用する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各自が、研究テーマを設定して研究計画を作るための、準備が必要です。 各自の研究テーマを議論するための、準備が必要です。 フィールドワークなどの、通常の講義期間外でのゼミ実施の場合、準備が必要です。 また、実施後に研究の補完も必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	29406
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	谷内 陽一
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	13C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	谷内 陽一 (経済学部)
授業の目標	<p>大学生生活の集大成である卒業論文の完成を目指す。</p> <p>&lt;学習成果&gt;  知識・理解の領域  卒業論文のテーマに関する知識および理解を高めることができる  思考判断の領域  先行研究の調査において必要な情報を収集・選別することができる (情報リテラシーの習得)  関心意欲の領域  興味・関心のあるテーマを研究することで当該テーマへの関心を更に高めることができる  態度・志向性の領域  計画性を持って卒業論文の作成に取り組むことができる  技能の領域  研究テーマを適切に調査・分析して卒業論文にまとめ、第三者に正しく説明することができる</p>
授業の概要	<p>受講者が興味・関心のあるテーマについて研究を進め、それを基に卒業論文を作成する。テーマの選定、参考文献の収集、概要作成、中間報告発表、初稿提出等を通して、卒業論文作成のための指導を行う。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	卒業論文の内容および完成度は勿論のこと、中間報告および最終報告における発表・討論内容等を総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究テーマの選定</li> <li>2. 先行研究 (参考文献) の調査・収集</li> <li>3. 卒業論文の構成の検討</li> <li>4. 卒業論文の概要の作成</li> <li>5. 中間発表</li> <li>6. 卒業論文の提出 (初稿)</li> <li>7. 卒業論文の提出 (最終稿)</li> </ol>
テキスト	指定なし。
参考書	必要に応じて適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	



実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	年金基金、銀行、生命保険会社にて私的年金（企業年金・個人年金）の制度・財政運営や資産運用等の業務に従事してきた教員が、金融・ファイナンスに関する理論的体系および実務経験に基づく具体的事例を踏まえて、学術・実務両面の視点から指導する。
質問への対応方法	演習中またはメール等により随時対応する。
フィードバックの方法	同上
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	卒業論文の研究テーマを決めること 研究テーマに関連する先行研究（参考文献）を調査し収集すること 先行研究の主張に対して、自分なりの見解（賛成・反論など）を持つこと 卒業論文で主張する内容について、根拠となるデータや資料を探し出すこと 卒業論文の内容について、明確な結論を導くこと 定められた期限までに卒業論文を完成し提出すること
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	29407
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	ブ ティ ビック リエン
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	情報実習室 B
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ブ ティ ビック リエン (経済学部)
授業の目標	1) 前期ゼミの目標は学生各自が関心のあるテーマについて研究を進め、それをもとに卒業論文を作成することである。そのために、最初は卒業論文作成の準備として論文の書き方について復習する。その後、先行研究のサーベイやプレゼンテーションを通じて、学生が興味をもつテーマを絞り込み、卒業論文の原稿作成に取り組む。 2) 前期末には卒業論文の草稿を完成することも目指す。
授業の概要	下記の学習内容を順序に進める。 1. 卒業論文の作成方法について指導する。 2. 卒業論文のテーマを決定する。 3. 先行研究のサーベイおよび発表を行う。 4. 卒業論文のテーマを絞り込み、草稿を作成する。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	・ゼミへの参加積極性・発表の完成度等の総合評価 (50%) ・卒業論文の初回原稿の提出 (50%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・基本的に全15回のゼミには遅刻 (無断早退) をせずに、出席するのは成績評価の前提である。 ・指導教員の指導に意図的に従わない。
授業計画	ゼミの初回に詳細な進行計画を周知する。
テキスト	
参考書	1) 河野哲也 (2018) 『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・基本的にゼミの時間内に行う。 ・ゼミ時間以外にはアポイントを取って、対応する。
フィードバックの方法	・基本的にゼミの時間内に行う。 ・ゼミ時間以外にはアポイントを取って、実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・ゼミ回数の経過とともに学習内容が重なっていくパターンなので、前回の復習、および翌回の準備指示にその都度に従ってください。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	12. つくる責任つかう責任 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	29408
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	村山 徹
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	村山 徹 (経済学部)
授業の目標	<p>卒業論文の枠組みを再検討、執筆にかかる作業に従事し、期日までに完成させることを目標とします。</p> <p>専門演習 A (前期) では、3年生時に構想した研究テーマをもとに、自身の卒論研究の内容の精緻化に取り組んでもらいます。専門演習 B (後期) では卒論作成の最終段階として、夏季休暇中の作業を取りまとめながら文章を推敲してもらう予定です。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域が抱えるさまざまな問題を調査し、課題解決のための政策について研究する。</li> </ul> <p>関心意欲の領域 / 態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題に関する情報を積極的かつ主体的に入手する態度と技術を学ぶ。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業論文のための論理的な文章を書く。</li> <li>・適切な情報に基づき、独自性ある知見を他者に対して論理的に説明する。</li> </ul>
授業の概要	<p>専門演習 A (前期) では、卒論研究にまつわる地域課題の分析などおこなう。そのために必要となる文献整理や情報処理を具体的内容として予定する。また、適宜、個別相談による卒論指導やゼミ内での進捗報告など実施することで、全員での卒業論文の進捗管理に努める。</p> <p>くわえて、就職活動支援の一環として、ゼミ生同士での模擬面接などおこない、4年生前期までの各自の経験から培った就活のヒントなどを共有できるようにする。</p> <p>授業内容に関しては受講生の状況を見て流動的に対応します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>文献・資料調査、発表などに積極的に取り組む姿勢を評価します。</p> <p>発表内容 (70%) + 議論等への貢献 (30%)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>ゼミナールですので、すべての授業回への出席が前提になります。事前連絡のない欠席には厳しく対応します。自身の発表回に無断欠席の場合は「失格」とします。</p>
授業計画	<p>前年度の講義スケジュールを参考としてください。(変更の可能性あり)</p> <p>1週: ガイダンス 2~3週: 進捗報告会 4~9週: 卒業研究にまつわる作業、個別卒論指導 10~12週: 進捗報告会 13~15週: 個別卒論指導</p>
テキスト	なし

参考書	参考資料などは適宜授業中に指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業概要や計画に示すとおり、グループワークや学外活動をおこない地域から多くを学んでもらいます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	市役所付置の自治体シンクタンクでの実務経験を有する教員が、行政の実践など紹介しながら地域課題の解決について解説する科目です。
質問への対応方法	大学が情報発信する「オフィスアワー」を確認してください。指定日時には個人研究室で質問等を受け付けます。また、本ゼミではslackを活用してメンバー間の連絡が円滑になるよう工夫しています。これらのゼミ連絡ツールでは常時質問を受け付けています。
フィードバックの方法	グループワークなどは、発表終了後のゼミ教員からのフィードバックにくわえて、ゼミ生同士のフィードバックを各自が役立てられるように心がけています。また、卒業論文などに関しては個別面談を設けて、各自の構想が具体化するように支援します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	発表、卒論テーマの検討など、ゼミ時間外に作業や学習を進める必要のある取り組みが多くあります。目安としては授業時間の2倍程度の自学の時間が理想です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group IIB
時間割コード Course Code	29450
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 邦彦
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 邦彦 (経済学部)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の政治・経済に関する事柄が理解できるようにする。</li> <li>・世界の政治・経済を知ること、日本がどのような国が理解できるようにする。</li> <li>・関心のある事柄を、自ら情報を集め、聞き手にうまく伝えるように発表できるようにする。</li> </ul> <p>&lt; 成果 &gt;</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の国々について理解できるようになる。</li> <li>・世界の政治・経済問題に対する理解を深めることができる。</li> </ul> <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界と日本の政治・経済がどのように結びついているのか関心が持てる。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要とする情報やデータを収集し、簡潔に分かりやすく発表する能力が向上する。</li> </ul>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業論文のテーマを意識して、世界の政治・経済に関連するテーマを各ゼミ生が選び、発表・議論を行う。</li> <li>・各ゼミ生のテーマが決定し次第、卒業論文の進捗報告へと移行する。</li> <li>・教員からは、世界の政治・経済を理解するのに必要な基礎的な知識、考え方を伝える。(ゼミ生の関心等によって授業の進め方を変更する場合がある)。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミへの参加態度を最大の評価ポイントとする。</li> <li>・具体的には、報告・発表・議論に取り組む姿勢を最重視する。</li> <li>・発表については、どれだけ丁寧に準備した、が大事な評価ポイントとなる。</li> <li>・プレゼン担当者が無断で休んだ場合は、即「失格」になる。</li> <li>・授業に出ているだけで、やる気のない態度を見せる者は、大幅に減点し、目に余る場合は「失格」とする。</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	授業概要に基づき、初回のゼミで受講生の意向も踏まえて作成する。
テキスト	授業で適宜紹介する。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	随時対応。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	入念な準備を行ったうえで授業に参加し、授業で得た様々なフィードバックを次回以降の授業に活かす。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group IIB
時間割コード Course Code	29451
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	木村 牧郎
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 2 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	木村 牧郎 (経済学部)
授業の目標	<p>卒業論文作成のプロセスを通じて資料収集・分析、執筆、報告のスキルを向上させ、卒業論文にまとめあげます。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>論文のテーマに関する知識を増やし理解を高めることができる。</li> <li>他のゼミ生の報告を聞くことで、そのテーマに関する知識を深めることができる。</li> </ul> <p>思考判断の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>収集した多くの情報のなかで、論文の主張を支える信頼できる情報を選び出す情報リテラシーの力が身につく。</li> <li>論拠のある主張ができるようになる。</li> </ul> <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>興味のあるテーマで論文を執筆することにより、そのテーマに関する関心がさらに高まる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料に即して論拠のある見解を述べるができる。</li> <li>他者との議論を通じて意思疎通や協調性の大切さを覚え、異なる意見を尊重できるようになる。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>収集した多くの情報のなかで、論文の主張を支える信頼できる情報を選び出す情報リテラシーの力が身につく。</li> <li>将来、報告書の作成などで必要となる、文章力を高めることができる。</li> <li>分かりやすいプレゼンテーションを行うことができる。</li> </ul> <p>体験探究の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調査を行うことで、オリジナルのデータを得る経験をすることができる。</li> </ul>



<p>授業の概要</p>	<p>授業では以下のような取り組みを通じて、卒論作成に必要なスキルを学び、労働や社会保障に関する知識や理解を深めます。自分の興味のあるテーマを見つけ、ゼミ報告やワークを経ながら論文にまとめあげます。</p> <p>&lt;授業での取り組み&gt; 授業形態は対面授業です。以下のワークを織り交ぜて学習します。</p> <p>輪読...テキストを熟読し、各回の担当者はレジュメをまとめ授業で報告する。輪読を通じて労働や社会保障分野における近年の論点整理をし、理解を深める。また、読解力や批判的精神、データ・資料の収集方法を身につけ、卒論作成に必要な問題を提起する力を磨く。</p> <p>グループ・ワーク...「働くこと」と「生活すること」をテーマとしたグループワークをする。他者との議論を通じて、コミュニケーション能力や協調性、論理的思考を磨く。</p> <p>卒論ワーク...卒論執筆の際に必要な文章作成向けのワークをする。また、卒論のテーマと構成を考え、中間報告会でプレゼンをする。わかりやすい文章作成や論理的な文章展開、プレゼン能力を磨く。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
<p>評価方法</p>	<p>卒業論文としてまとめ上げるまでの取り組み方について評価する。</p> <p>執筆姿勢 20% 資料収集 20% 卒論報告 40% 論文の内容 20%</p> <p>授業には毎週出席すること。</p>
<p>教員の指導に従わない以外の事由による失格基準</p>	<p>欠席回数が多い場合は失格とする。15分以上の遅刻は欠席扱いとする。</p>
<p>授業計画</p>	<p>ゼミ報告と個人指導を織り交ぜ、以下のスケジュールを進める。</p> <p>卒業論文の中間報告（9～10月） 卒業論文初稿の提出（11月初旬） 卒業論文最終稿の提出（12月中旬）</p>
<p>テキスト</p>	<p>なし</p>
<p>参考書</p>	<p>テーマに沿って個々に紹介します。</p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等</p>	<p>含まない</p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容</p>	
<p>実務経験のある担当教員による授業</p>	<p>該当しない</p>
<p>担当教員の実務経験を活かした授業の内容</p>	
<p>質問への対応方法</p>	<p>疑問やわからないことがあれば、次回に残さずに授業後の時間やオフィスアワー、担当教員へのメールにて質問できます。</p>
<p>フィードバックの方法</p>	<p>毎回グーグル・クラスルームを通じて授業のふり返りを提出してもらい、翌週にはそれに対してコメントをつけて返却します。</p>
<p>予習・復習等、準備学習の内容及び時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループで集まり、授業回ごとのグループ課題に取り組むこと</li> <li>・個人レポート課題の提出に向けて、準備すること</li> <li>・グループ発表に向けて、準備すること</li> </ul>
<p>使用言語</p>	<p>日本語</p>
<p>SDGs 17の目標（1～10）</p>	
<p>SDGs 17の目標（11～17）</p>	
<p>PROGリテラシーの要素</p>	
<p>PROGコンピテンシーの要素</p>	

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group IIB
時間割コード Course Code	29452
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	齋藤 敦
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	齋藤 敦 (経済学部)
授業の目標	<p>卒業論文の作成に携わる中で知的技能を向上させることが目標です。次のことができるようになることを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を適切にみつけ、整理して、自分の考えを導き出す。</li> <li>・自ら確かめる、検証してみようとする態度を備える。</li> <li>・論理的に考え、他者にわかるように伝える。</li> </ul> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財政や公共政策に関して専門的な知識を持つことができる。</li> <li>・論理的な文章を理解し、作成の要領を知ることができる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会、日本社会が抱えている問題について自ら確かめようとする態度を備える。</li> <li>・社会人として必要になる基本的なマナーが身につく習慣となる。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定めたテーマについて深く調べることができる。</li> <li>・信頼できる情報を集め、適切に活用できるようになる。</li> <li>・調べたことや自分の考えを文章にまとめて説得的に述べるができるようになる。</li> <li>・まとめたことを自分の言葉で説得的に伝えることができるようになる。</li> </ul>
授業の概要	<p>3年次の専門演習 I で身につけた知識や技術をもとに、卒業論文を作成します。段階的に2年必要で2年目です。卒業論文のテーマ設定、毎回の授業での報告と討議、中間発表を経て最終的な卒業論文としての完成を目指します。</p> <p>この演習では論文作成のみならず、プレゼンテーション能力の向上も図りたいと考えています。中間発表や最終発表などはパワーポイントを用いて行ってもらう予定です。</p>
評価方法	<p>専門演習IIAに準じます。</p> <p>報告発表と討論・提出物（レジュメ・レポート・論文等）等の内容、ゼミへのかかわり方・取組み方等で総合的に評価します。試験を行う場合もあります。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席や遅刻が多かったり、毎回の取組み、担当や課題を怠ると失格や不合格になります。

授業計画	<p>授業中の指導に加え、適宜個別に指導を行い卒業論文をまとめます。以下のスケジュールを目安に進めていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業論文のテーマ設定（4月）</li> <li>・テーマに関する資料文献の収集（4月～完成時まで）</li> <li>・卒業論文の構成の検討（4～5月）</li> <li>・卒業論文の概要の作成（6～7月、レポート・小論文兼）</li> <li>・卒業論文の中間発表（7月）</li> <li>・卒業論文の下書き（9月）</li> <li>・卒業論文の原稿提出（10月）</li> <li>・卒業論文の最終原稿提出（11月）</li> <li>・優秀卒業論文表彰式・報告会への参加（1月）</li> </ul>
テキスト	適宜提示します。
参考書	<p>適宜紹介しますが、さしあたり次のものをあげておきます。</p> <p>石井一成（2011）『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』ナツメ社</p> <p>戸田山和久（2022）『論文の教室 [最新版]』NHK出版。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問に対しては、主として授業中に対応します。
フィードバックの方法	フィードバックは、適宜、授業の中で行うほか、オフィスアワーでの面談やメールでの対応も行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・準備をしっかりと行い、指示された課題、活動や改善向上によく取り組んでください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group IIB
時間割コード Course Code	29453
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	酒井 愛
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	酒井 愛 (経済学部)
授業の目標	<p>本演習では租税理論の理解を通じて、政策実施における資金調達上の課題をふまえた議論ができるようになることを目指します。専門演習Iから継続して、日本における今後の政策の在り方を一人ひとりの学生が検討してきた中で、政策の実施可能性や意図した効果・意図せざる効果についても考察を深め、集大成としての政策提言を目標としています。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;</p> <p>知識・理解の領域 本演習で学んだ理論について、他者に説明し、継続して理解を深めることができる。</p> <p>思考判断の領域 日本の公共政策、広くマクロ政策に関する課題を見出し、アプローチ方法を検討することができる。</p> <p>関心意欲の領域 公共政策をより身近なものとして捉えるべく、現在実施されている政策について制度・課題等を自ら検討しようと試みることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 自身の見解を論理的・整合的に述べることができる。</p> <p>技能の領域 読み手・聴き手への配慮を念頭に、簡潔かつ明瞭なレジюмеを作成したうえで、板書による説明を含めた効果的なプレゼン方法を実践できる。</p>

授業の概要	<p>本演習では租税の基礎を学ぶことから始め、租税にかかわる諸理論の考察を行います。その後、税の帰着、効率性、最適課税、資本課税といった問題を扱います。現実の税制への応用として、個人所得税、法人所得税、節税、税制改革にも触れます。専門演習IIAおよび専門演習IIBを通じて、「卒業論文」完成に向けて、問いから予測、結論までをこれまでの学修内容をふまえ、まとめていきます。</p> <p>前期（専門演習IIA）は毎週の輪読報告当番をベースに進めていきます。後期（専門演習IIB）は各自の関心に応じたテーマ設定に基づき、報告と議論へと徐々にシフトします。担当者からの報告後、質疑応答のほか、報告内で提示されていた政策の実施可能性の是非や現実的な実施にあたっての改善点などを含めたディスカッションを行う中で、参加者全員の理解を深めていきます。報告にあたってのレジュメ作成や板書・プレゼンテーションは、報告者だけでなく、読み手・聴き手にとっても、社会になる前の準備として、有意義な時間となるはずです。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>参加姿勢：70%（下記項目を目安にして下さい。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告担当者として...十分な事前準備をして報告に臨むほか、質問への適切な対応ができるように心がけて下さい。</li> <li>・良き聴き手として...建設的な提案や理解を深めるための質問ができると良いでしょう。</li> <li>・グループディスカッションに積極的に参加し、お互いを認め・高め合うことが大切です。</li> </ul> <p>レポート：30%（下記項目を目安にして下さい。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輪読報告担当時のレジュメのほか、聴き手としての報告評価シートへの記載内容も評価します。</li> <li>・中間レポートや期末レポートの形式で実施することもありますので、演習内でのアナウンスに従って下さい。</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>ディスカッションへの積極的な参加の重要性をふまえ、出席回数が12回に満たない場合には失格となり、単位を修得することができません。</p> <p>「報告・連絡・相談」を基本とし、連続して2回無断欠席した場合には失格となり、単位を修得することができません。何事もできる限り、事前に相談するよう心掛けてください。</p>
授業計画	<p>前期</p> <p>テキスト，文献資料に沿って進めます。テーマ選定を含め，個別相談を併せて実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1：公共支出（概要）</li> <li>2：公共支出（計画評価）</li> <li>3：社会保障制度</li> <li>4：租税帰着</li> <li>5：租税と経済効率</li> <li>6：最適課税</li> <li>7：資本課税</li> <li>8：所得税</li> <li>9：地方財政</li> <li>10：日本における税制</li> <li>11：公債の現状</li> <li>12：社会保障制度</li> <li>13：テーマ学習報告（1グループ）</li> <li>14：テーマ学習報告（2グループ）</li> <li>15：テーマ学習報告（3グループ）</li> </ol> <p>後期</p> <p>各自の関心に沿って，グループ分けを行うほか，文献学習・議論を併せながら，理解を深めます。グループおよび個人での報告においてはゼミ生からの質問・コメントをもとに，議論を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1：個別テーマ近況報告（前半）</li> <li>2：個別テーマ近況報告（後半）</li> <li>3：グループディスカッション（テーマA）</li> <li>4：グループディスカッション（テーマB）</li> <li>5：グループディスカッション（テーマC）</li> <li>6：時事資料を用いた学習</li> <li>7：文献資料による論点掘り下げ</li> <li>8：文献資料による論点掘り下げ</li> <li>9：文献資料による論点掘り下げ</li> <li>10：報告とコメント（相互点検）</li> <li>11：個人選定課題（報告と議論）</li> <li>12：個人選定課題（報告と議論）</li> <li>13：個人選定課題（報告と議論）</li> <li>14：個人選定課題（報告と議論）</li> <li>15：振り返りと最終まとめ</li> </ol>
テキスト	適宜指示します。
参考書	適宜紹介します。

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	輪読箇所に関する政策実施の是非や政策提言について、グループディスカッションやディベートを交えることで理解を深めます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応します。そのほか、メール(ai.sakai@nagoya-ku.ac.jp)や本演習用のGoogle classroomでも対応しますので、適宜活用して下さい。Google classroomは資料配信などに利用します。担当者より招待しますので入室して下さい。
フィードバックの方法	提出された課題については添削を行い、返却時にコメントします。輪読報告にあたってのレジュメ・プレゼンテーションに関する事柄については、報告担当者だけでなく受講学生全員のブラッシュアップに寄与するよう、各回において改善のポイントなどをアドバイスします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業計画詳細情報内の備考欄を参照し、各回の予習・復習を行ってください。専門共通基礎 科目の「市場の経済学」・「国民経済と政府」および、選択科目の「ミクロ経済学」・「マクロ経済学」などで学習する内容を適宜復習しておくといいでしょう。財政学・公共経済学といった応用経済学の分野においては、基礎理論のベースの上に議論がなされますので、輪読・報告にあたっては、必要に応じて、上記分野のテキスト等を振り返りながら知識の定着を図ることが重要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11~17)	11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group IIB
時間割コード Course Code	29454
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	定森 亮
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70D演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	定森 亮 (経済学部)
授業の目標	1. 前期に学んだ文章作成法、ならびに卒業論文の構想にもとづいて、実際に論文を作成してもらう。 2. 論文の内容に関しては、全員に授業のなかで報告してもらい、教員や他の学生との議論を通じて、その論理一貫性を検証してもらう。 3. 必要に応じて、教員が各学生と面談し、議論の内容を充実させるための方向性を検討する。 4. 先行研究を含む他人の見解と、論文執筆者の考えを混同しないようにするために、文献やインターネット上の情報を参照、あるいは引用する際の方法を確認する。
授業の概要	授業内での報告、ならびにその内容をめぐって参加者全員で議論することを通じて、内容を精査していく。また、授業内での報告だけではなく、必要に応じて個別の相談にも応じることで卒業論文の進捗状況を確認していく。
評価方法	報告やレポートの内容 (70%)、ならびに授業内での議論 (30%) への参加を評価対象にする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	1週 ガイダンス 2～3週 個別面談 4～8週 卒論の執筆状況報告 9～13週 卒論執筆作業 14～15週 最終報告会など
テキスト	
参考書	参考資料などは必要に応じて授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各参加者の卒論のテーマに応じて先行研究を調査し、整理すると同時に、それら先行研究との関係で自らの主張の独自性を追求する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	適宜メールや研究室での指導で対応する。
フィードバックの方法	適宜メールや研究室での指導で対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	卒業論文の執筆、卒論に関する先行研究の確認などを授業時間外で行ってもらう。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 8. 働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group IIB
時間割コード Course Code	29455
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 正之
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	情報実習室A
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 正之 (経済学部)
授業の目標	<p>&lt; 成果 &gt;</p> <p>【知識・理解の領域】各自の研究テーマについて、問題・政策課題の背景や現状を理解し説明できる。</p> <p>【思考判断の領域】各自の研究テーマについて、問題・課題に対して論理的で説得力のある思考ができる。</p> <p>【関心意欲の領域】ゼミでの議論（意見交換）ができる。</p> <p>【態度・志向性の領域】他人の考えの認識、考えの違いの理解、相互に助言ができる。</p> <p>【技能の領域(情報スキル)】各自の研究成果を情報発信（デザイン）することができる。</p>
授業の概要	<p>授業形態（対面授業を基本とするが、状況によって遠隔となる場合がある）</p> <p>ゼミ生が主体でゼミ運営を行う。各自の研究テーマの進捗を把握、議論、研究へ反映させる。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	課題や研究テーマへの主体的な取り組み、共同作業と議論、成果の発表を踏まえて評価する。特に参加姿勢を重視する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	遅刻・欠席回数が多い、課題への取り組み不足、共同作業の無断欠席については、周りに迷惑がかかるため失格とする。
授業計画	<p>演習開始時に、参加者と調整してゼミ運営を行う。</p> <p>各自が研究テーマを設定し、研究計画を作り、それに基づいて実施する。</p> <p>なお、講義期間外でのゼミ実施も考慮すること。</p>
テキスト	使用しない。
参考書	<p>梶田, 他 (2007) 『地域調査ことはじめ あるく・みる・かく』ナカニシヤ出版</p> <p>吉川, 他 (2011) 『考える 伝える 分かちあう 情報活用力』noa出版</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各自が研究テーマを設定し、研究計画を作り、それに基づいて実施する。各自の研究テーマの進捗を把握、議論、研究へ反映させる。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	大学のgooleアカウント利用が必須。mailとclassroom、その他、会議アプリも必要に応じて使用する。
フィードバックの方法	大学のgooleアカウント利用が必須。mailとclassroom、その他、会議アプリも必要に応じて使用する。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各自が、研究テーマを設定して研究計画を作るための、準備が必要です。 各自の、研究テーマを発表し議論するための、準備が必要です。 フィールドワークなどの、通常の講義期間外でのゼミ実施の場合、準備が必要です。 また、実施後に研究の補完も必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group IIB
時間割コード Course Code	29456
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	谷内 陽一
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	13C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	谷内 陽一 (経済学部)
授業の目標	<p>大学生生活の集大成である卒業論文の完成を目指す。</p> <p>&lt;学習成果&gt;  知識・理解の領域  卒業論文のテーマに関する知識および理解を高めることができる  思考判断の領域  先行研究の調査において必要な情報を収集・選別することができる (情報リテラシーの習得)  関心意欲の領域  興味・関心のあるテーマを研究することで当該テーマへの関心を更に高めることができる  態度・志向性の領域  計画性を持って卒業論文の作成に取り組むことができる  技能の領域  研究テーマを適切に調査・分析して卒業論文にまとめ、第三者に正しく説明することができる</p>
授業の概要	<p>受講者が興味・関心のあるテーマについて研究を進め、それを基に卒業論文を作成する。テーマの選定、参考文献の収集、概要作成、中間報告発表、初稿提出等を通して、卒業論文作成のための指導を行う。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンパリングを参照すること。</p>
評価方法	卒業論文の内容および完成度は勿論のこと、中間報告および最終報告における発表・討論内容等を含めて総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究テーマの選定</li> <li>2. 先行研究 (参考文献) の調査・収集</li> <li>3. 卒業論文の構成の検討</li> <li>4. 卒業論文の概要の作成</li> <li>5. 中間発表</li> <li>6. 卒業論文の提出 (初稿)</li> <li>7. 卒業論文の提出 (最終稿)</li> </ol>
テキスト	指定なし。
参考書	必要に応じて適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	年金基金、銀行、生命保険会社にて私的年金（企業年金・個人年金）の制度・財政運営や資産運用等の業務に従事してきた教員が、金融・ファイナンスに関する理論的体系および実務経験に基づく具体的事例を踏まえて、学術・実務両面の視点から指導する。
質問への対応方法	演習中またはメール等により随時対応する。
フィードバックの方法	同上
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	卒業論文の研究テーマを決めること 研究テーマに関連する先行研究（参考文献）を調査し収集すること 先行研究の主張に対して、自分なりの見解（賛成・反論など）を持つこと 卒業論文で主張する内容について、根拠となるデータや資料を探し出すこと 卒業論文の内容について、明確な結論を導くこと 定められた期限までに卒業論文を完成し提出すること
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group IIB
時間割コード Course Code	29457
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	ブ ティ ビック リエン
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	情報実習室B
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ブ ティ ビック リエン(経済学部)
授業の目標	後期ゼミの目標は前期末に提出した卒業論文の草稿を修正して、完成することである。そのために、ゼミで論文内容を報告して、教員のコメントに従い、修正したりして完成する。
授業の概要	下記の学習内容を順序に進める。 1. 卒業論文作成の留意点について復習する。 2. 卒論執筆完成の進捗を報告するとともに相互議論を行う。 3. コメントに伴い、論文を修正する。 4. 卒業論文の完成版を書き上げる。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	・ゼミへの参加積極性(30%) ・発表の完成度等の総合評価(30%) ・卒業論文完成への取り組み(40%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・基本的に全15回のゼミには遅刻(無断早退)をせずに、出席するのは成績評価の前提である。 ・指導教員の指導に意図的に従わない。
授業計画	ゼミの初回に詳細な進行計画を周知する。
テキスト	
参考書	1) 河野哲也(2018)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・基本的にゼミの時間内に行う。 ・ゼミ時間以外にはアポイントを取って、対応する。
フィードバックの方法	・基本的にゼミの時間内に行う。 ・ゼミ時間以外にはアポイントを取って、実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・ゼミ回数の経過とともに学習内容が重なっていくパターンなので、前回の復習、および翌回の準備指示にその都度に従ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4. 質の高い教育をみんなに

SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group IIB
時間割コード Course Code	29458
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	村山 徹
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	村山 徹 (経済学部)
授業の目標	<p>卒業論文の枠組みを再検討、執筆にかかる作業に従事し、期日までに完成させることを目標とします。</p> <p>専門演習 A (前期) では、3年生時に構想した研究テーマをもとに、自身の卒論研究の内容の精緻化に取り組む。専門演習 B (後期) では卒論作成の最終段階として、夏季休暇中の作業を取りまとめながら文章を推敲してもらう。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域が抱えるさまざまな問題を調査し、課題解決のための政策について研究する。</li> </ul> <p>関心意欲の領域 / 態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題に関する情報を積極的かつ主体的に入手する態度と技術を学ぶ。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業論文のための論理的な文章を書く。</li> <li>・適切な情報に基づき、独自性ある知見を他者に対して論理的に説明する。</li> </ul>
授業の概要	<p>専門演習 B (後期) では、卒論研究にまつわる各種作業をすすめます。また、適宜、個別相談による卒論指導やゼミ内での進捗報告など実施することで、全員での卒業論文の進捗管理に努める。</p> <p>授業内容に関しては受講生の状況を見て流動的に対応します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>文献・資料調査、発表などに積極的に取り組む姿勢を評価します。</p> <p>発表内容 (70%) + 議論等への貢献 (30%)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>ゼミナールですので、すべての授業回への出席が前提になります。事前連絡のない欠席には厳しく対応します。自身の発表回に無断欠席の場合は「失格」とします。</p>
授業計画	<p>前年度の講義スケジュールを参考としてください。(変更の可能性あり)</p> <p>1週: ガイダンス 2~3週: 個別面談など 4~6週: 進捗報告 7~13週: 卒業研究にまつわる作業 14~15週: 最終発表会など</p>
テキスト	なし
参考書	参考資料などは適宜授業中に指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業概要や計画に示すとおり、グループワークや学外活動をおこない地域から多くを学んでもらいます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	市役所付置の自治体シンクタンクでの実務経験を有する教員が、行政の実践など紹介しながら地域課題の解決について解説する科目です。
質問への対応方法	大学が情報発信する「オフィスアワー」を確認してください。指定日時には個人研究室で質問等を受け付けます。また、本ゼミではslackを活用してメンバー間の連絡が円滑になるよう工夫しています。これらのゼミ連絡ツールでは常時質問を受け付けています。
フィードバックの方法	グループワークなどは、発表終了後のゼミ教員からのフィードバックにくわえて、ゼミ生同士のフィードバックを各自が役立てられるように心がけています。また、卒業論文などに関しては個別面談を設けて、各自の構想が具体化するように支援します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	発表、卒論テーマの検討など、ゼミ時間外に作業や学習を進める必要のある取り組みが多くあります。目安としては授業時間の2倍程度の自学の時間が理想です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力



開講科目名 Course	卒業論文 / Thesis
時間割コード Course Code	29500
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 邦彦
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 邦彦 (経済学部)
授業の目標	<p>学部における学習の集大成である卒業論文を完成させる。 受講生が関心のあるテーマについて研究を進め、卒業論文をまとめあげること为目标とする。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>論文のテーマに関しての知識を増やし、理解を深めることができる。</li> </ul> <p>思考判断の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文の作成を通じて、構想力、論理力、文章力等を引き上げることができる。</li> </ul> <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>関心のあるテーマで論文を執筆することにより、執筆テーマに関連した分野に対する関心が高まる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>論文で得られた結果に関する考察を深め、結論を導くことができるようになる。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>適した手法を選び、収集した情報を分析できるようになる。</li> </ul> <p>体験探究の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題発見および問題解決の能力を高めることができる。</li> </ul>
授業の概要	<p>受講者は、主体性を持ってテーマを選定する。 選定したテーマに基づき、構成を練り、必要な情報・データを収集し、文章を執筆・推敲し、定められた期限までに卒業論文を完成させる。 教員は、受講生の進捗状況に応じて、アドバイスや指示を適宜与え、最終的な卒業論文としての完成を後押しする。</p>
評価方法	卒業論文の内容・完成度、ゼミにおける報告・発表の内容、議論への参加状況などを総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	毎回担当者が報告を行う。初回の授業で報告スケジュールを決定する。
テキスト	指定しない。
参考書	適宜紹介ないしは配布する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	各自の進捗状況に応じて、その都度講評・助言を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	十分な準備を行ったうえで報告する。 報告後に得た様々なフィードバックを次回以降の報告に活かす。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業論文 / Thesis
時間割コード Course Code	29501
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	木村 牧郎
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	木村 牧郎 (経済学部)
授業の目標	<p>卒業論文作成のプロセスを通じて資料収集・分析、執筆、報告のスキルを向上させ、卒業論文にまとめあげます。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>論文のテーマに関する知識を増やし理解を高めることができる。</li> </ul> <p>思考判断の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>収集した多くの情報のなかで、論文の主張を支える信頼できる情報を選び出す情報リテラシーの力が身につく。</li> <li>論拠のある主張ができるようになる。</li> </ul> <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>興味のあるテーマで論文を執筆することにより、そのテーマに関する関心がさらに高まる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料に即して論拠のある見解を述べられる人となることを目指す。</li> <li>最終ゴールまでの工程を考え、必要な計画と無理のない日程を組むことができる。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>収集した多くの情報のなかで、論文の主張を支える信頼できる情報を選び出す情報リテラシーの力が身につく。</li> <li>将来、報告書の作成などで必要となる、文章力を高めることができる。</li> <li>分かりやすいプレゼンテーションを行うことができる。</li> </ul> <p>体験探究の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調査を行うことで、オリジナルのデータを得る経験をすることができる。</li> </ul>
授業の概要	<p>3年次までに身に付けた知識や技術を活かして卒業論文を作成します。自分の興味のあるテーマを見つけ、ゼミ報告・討議を経ながら論文にまとめあげます。調査を行いオリジナルのデータを用いて執筆します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>卒業論文としてまとめ上げるまでの取り組み方についても評価の対象とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>執筆姿勢 20%</li> <li>卒論報告 20%</li> <li>卒業論文 60%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	ゼミ報告と個人指導を織り交ぜ、以下のスケジュールで進めます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業論文のテーマ決定（4月）</li> <li>・参考文献の渉猟・読み込み（5月）</li> <li>・卒業論文の概要作成（6月）</li> <li>・卒業論文の構成案作成（7月）</li> <li>・卒業論文の執筆（9～10月）</li> <li>・卒業論文初稿の提出（11月初旬）</li> <li>・卒業論文最終稿の提出（12月中旬）</li> </ul>
テキスト	特になし。
参考書	特になし。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	疑問やわからないことがあれば、次回に残さずにオフィスアワーや担当教員へのメールにて質問ができます。
フィードバックの方法	論文作成に関する問い合わせには担当教員のメールによるフィードバックを行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分でテーマを決め、それに関する参考文献を探すこと。</li> <li>・参考文献を読み、それに対する疑問や論点を探すこと。</li> <li>・自分の問題提起や主張の根拠となるデータや資料を探すこと。</li> <li>・問題提起に対する明確な結論を導くこと。</li> </ul>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業論文 / Thesis
時間割コード Course Code	29502
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	齋藤 敦
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	齋藤 敦 (経済学部)
授業の目標	<p>大学生生活の総まとめとして卒業論文を完成させます。学生自らが設定する卒業論文のテーマに対して、参考文献・参考資料を収集し、分析して学術論文の形式でまとめあげることになります。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>論文の書き方を理解して、各自の論文テーマに沿った構成の論文作成を適切にできる。</li> <li>態度・志向性の領域</li> <li>卒業論文のテーマの問題意識を、卒業後においても、継続的に持ち続けて、引き続き自ら関心を持って探求していく姿勢を身に着ける。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各自の卒業論文のテーマに即して課題を適切に見つけ、整理して、自分の考えを導き出すことができる。</li> <li>論文のテーマに応じた信頼できる情報を集め、適切に活用できるようになる。</li> <li>自ら調べたことや自分の考えを論理的な文章にまとめて展開することができるようになる。</li> <li>長い論文の論旨を明確な文章で過不足のない文章表現で適切に記述することができるようになる。</li> <li>論文発表会において、設定された時間内に各自の論文の主旨をわかりやすく発表することができる。</li> </ul>
授業の概要	各自が設定した卒業論文のテーマに基づき、論文の作成に取り組み、論文を完成させます。論文作成の進捗状況に応じて、卒業論文のテーマ設定時の個別面談、中間段階での報告発表と討議、適宜の個別面談による指導助言等を通じて、最終的な卒業論文としての完成を支援します。
評価方法	卒業論文の論文としての完成度、中間段階での報告発表と討論、最終報告会でのプレゼンテーションなどを総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	個別面談への無断欠席に対しては、厳しく対応します。
授業計画	1~30週：卒業論文の作成について、指導を進めていきます。
テキスト	使用しない。
参考書	各自の論文テーマに応じ、適宜、紹介します。 なお、論文の書き方に関する参考文献としては、さしあたり次のものをあげておきます。 石井一成（2011）『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』ナツメ社 戸田山和久（2022）『論文の教室 [最新版]』NHK出版。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問へは主にオフィスアワーの中で対応しますが、空き時間などでも適宜対応します。また、メールでの対応も可能です (sai tou-a@nagoya-ku.ac.jp)。
フィードバックの方法	各自の進捗状況に応じて、論文の内容についてその都度講評・助言を行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	卒業論文のテーマ選定、参考文献・参考資料の収集と分析、原稿執筆、原稿の整理と推敲、完成稿の提出と報告の各段階で、準備に相当の時間をかけることが必須です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1～10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業論文 / Thesis
時間割コード Course Code	29503
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	酒井 愛
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	酒井 愛 (経済学部)
授業の目標	<p>執筆した論文を自分自身で客観的に読み直すことに加え、論文を他のゼミメンバーに読んでもらい、そのコメントを受け止めて再度論文に磨きをかけるというサイクルを繰り返す中で、明瞭かつ論理的な文章で表現できるようになることを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 論文テーマに関する用語や問題点の的確な理解に加え、現状理解と課題把握を適切に行うことができる。</p> <p>思考判断の領域 主張の根拠となる事柄を整理し、経済学的思考方法に則って分析を進めることができる。</p> <p>関心意欲の領域 意欲的な調査を行う中で、選択したテーマに隣接する分野への関心を忘れずに執筆活動を進めることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 他者の意見に耳を傾けながら、計画性を持って積極的に取り組むことができる。</p>
授業の概要	<p>専門演習Iおよび専門演習IIにおける実践内容を踏まえて、執筆作業を計画的に進める必要性を理解することから始めます。各自の興味・関心に沿ったテーマを設定後、卒業論文の核となる「問い」と「答え」を検討する作業に入ります。最終的な「答え」、すなわち主張の根拠となる事柄を文献・資料等から見出します。論理展開に矛盾がないよう、また独りよがりな文章にならないよう、随時ゼミメンバー間で進捗を確認するとともにコメントを出し合い、補足・修正を行います。中間報告の通過が必要ですので、中間報告に至るまでの各ステップでの進捗報告を欠かさず実施して下さい。最終稿を繰り返し手直しすることで論文に磨きがかかりますので、指導中に指示する期日までに最終稿を提出し、最後のブラッシュアップ作業も入念に実施して下さい。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>論文執筆に対する意欲的な姿勢・計画性：25%</li> <li>論文全体を通しての明瞭性・論理性：25%</li> <li>論文テーマに対する着眼点・結論の妥当性：50%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	各ステップでの進捗報告および中間報告は卒業論文完成・提出にあたっての必須項目です。報告の無断欠席は卒業論文の提出・単位修得の対象外となります。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。

テキスト	適宜紹介します。
参考書	適宜紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	報告者の主張について、グループディスカッションやディベートを交えることで理解を深め、卒業論文の質の向上につなげます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応します。メール ( ai.sakai@nagoya-ku.ac.jp ) でも対応しますので、適宜活用して下さい。
フィードバックの方法	提出された原稿については添削を行い、返却時にコメントします。報告にあたり、報告担当者だけでなく受講学生全員のブラッシュアップに寄与するよう、改善のポイントなどをアドバイスします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業計画詳細情報内の備考欄を参照し、各回の予習・復習を行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 ( 1 ~ 10 )	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 4. 質の高い教育をみんなに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標 ( 11 ~ 17 )	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	【前期 1 回目】年間執筆計画の確認	学内スケジュールを確認し、ステップごとの報告日程を策定します。	2時間の予習と2時間の復習を課す。
2	思考マップ報告(第1グループ報告日)	問題意識を明らかにし、卒業論文テーマとしての妥当性を視野に検討します。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第1グループ報告日前の水曜日13時までに思考マップを提出。
3	思考マップ報告(第2グループ報告日)	問題意識を明らかにし、卒業論文テーマとしての妥当性を視野に検討します。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第1グループ報告日前の水曜日13時までに思考マップを提出。
4	問いと答えリスト報告(第1グループ報告日)	卒業論文の核となる問いと答えのリストを複数作成し、議論・検討のうえ、絞りこみを行います。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第1グループ報告日前の水曜日13時までに問いと答えリストを提出。
5	問いと答えリスト報告(第2グループ報告日)	卒業論文の核となる問いと答えのリストを複数作成し、議論・検討のうえ、絞りこみを行います。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第1グループ報告日前の水曜日13時までに問いと答えリストを提出。
6	資料収集状況報告(第1グループ報告日)前半	事前に資料収集状況を情報カードに記すなどして整理しておいてください。報告用レジюмеにまとめたうえで報告とします。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第1グループ報告日前の水曜日13時までに資料収集状況報告を提出。
7	資料収集状況報告(第1グループ報告日)後半	事前に資料収集状況を情報カードに記すなどして整理しておいてください。報告用レジюмеにまとめたうえで報告とします。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第2グループ報告日前の水曜日13時までに資料収集状況報告を提出。
8	資料収集状況報告(第2グループ報告日)前半	事前に資料収集状況を情報カードに記すなどして整理しておいてください。報告用レジюмеにまとめたうえで報告とします。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第2グループ報告日前の水曜日13時までに資料収集状況報告を提出。
9	資料収集状況報告(第2グループ報告日)後半	事前に資料収集状況を情報カードに記すなどして整理しておいてください。報告用レジюмеにまとめたうえで報告とします。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第2グループ報告日前の水曜日13時までに資料収集状況報告を提出。
10	目標規定文・論証方法に関する報告(第1グループ報告日)	自身の主張を文章にした目標規定文を作成し、予定している論証方法を確認・検討します。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第1グループ報告日前の水曜日13時までに報告原稿を提出。
11	目標規定文・論証方法に関する報告(第2グループ報告日)	自身の主張を文章にした目標規定文を作成し、予定している論証方法を確認・検討します。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第1グループ報告日前の水曜日13時までに報告原稿を提出。
12	項目アウトラインへの発展作業	論文の設計図としての項目アウトラインを作成します。	2時間の予習と2時間の復習を課す。
13	序論・本論・結論の展開に関する検討	論文全体としての論理展開を考え、整合性が保たれているか確認します。	2時間の予習と2時間の復習を課す。
14	夏期休暇執筆計画の報告(第1グループ報告日)	項目アウトライン、序論・本論・結論の展開について明記したレジюмеに、夏季休暇中の執筆計画を加え、完成までのスケジュールを確認します。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第1グループ報告日前の水曜日13時までに報告原稿を提出。
15	夏期休暇執筆計画の報告第(2グループ報告日)	項目アウトライン、序論・本論・結論の展開について明記したレジюмеに、夏季休暇中の執筆計画を加え、完成までのスケジュールを確認します。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第1グループ報告日前の水曜日13時までに報告原稿を提出。

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
16	【後期 1 回目】夏期休暇後報告 (第 1 グループ報告日)	夏期休暇中の執筆状況の確認を行います。具体的には完成版アウトラインまでの文章化とします。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第 1 グループ報告日前の水曜日13時までに報告原稿を提出。
17	夏期休暇後報告 (第 2 グループ報告日)	夏期休暇中の執筆状況の確認を行います。具体的には完成版アウトラインまでの文章化とします。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第 1 グループ報告日前の水曜日13時までに報告原稿を提出。
18	中間報告 (第 1 グループ報告日) 前半	最終チェック前に一度、中間報告を実施することとします。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第 1 グループ報告日前の水曜日13時までに報告原稿を提出。
19	中間報告 (第 1 グループ報告日) 後半	最終チェック前に一度、中間報告を実施することとします。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第 1 グループ報告日前の水曜日13時までに報告原稿を提出。
20	中間報告 (第 2 グループ報告日) 前半	最終チェック前に一度、中間報告を実施することとします。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第 2 グループ報告日前の水曜日13時までに報告原稿を提出。
21	中間報告 (第 2 グループ報告日) 前半	最終チェック前に一度、中間報告を実施することとします。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第 2 グループ報告日前の水曜日13時までに報告原稿を提出。
22	原稿点検作業 (第 1 グループ報告日) 前半	ゼミメンバー間で原稿を読み合い、説明の不足・論理展開の不自然さなどを含めた原稿の点検・改善作業を行います。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第 1 グループ報告日前の水曜日13時までに報告原稿を提出。
23	原稿点検作業 (第 1 グループ報告日) 後半	ゼミメンバー間で原稿を読み合い、説明の不足・論理展開の不自然さなどを含めた原稿の点検・改善作業を行います。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第 1 グループ報告日前の水曜日13時までに報告原稿を提出。
24	原稿点検作業 (第 2 グループ報告日) 前半	ゼミメンバー間で原稿を読み合い、説明の不足・論理展開の不自然さなどを含めた原稿の点検・改善作業を行います。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第 2 グループ報告日前の水曜日13時までに報告原稿を提出。
25	原稿点検作業 (第 2 グループ報告日) 後半	ゼミメンバー間で原稿を読み合い、説明の不足・論理展開の不自然さなどを含めた原稿の点検・改善作業を行います。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第 2 グループ報告日前の水曜日13時までに報告原稿を提出。
26	最終添削作業 ( 1 )	添削作業はWord校閲機能を実施して行います。自身で修正できる点はすべて修正したうえで提出してください。提出期日は追って指示します。	2時間の予習と2時間の復習を課す。
27	最終添削作業 ( 2 )	添削作業はWord校閲機能を実施して行います。自身で修正できる点はすべて修正したうえで提出してください。提出期日は追って指示します。	2時間の予習と2時間の復習を課す。
28	最終報告 (第 1 グループ報告日)	完成原稿をふまえ、最終報告を行います。報告用原稿、資料については追って指示します。	2時間の予習と2時間の復習を課す。
29	最終報告 (第 2 グループ報告日)	完成原稿をふまえ、最終報告を行います。報告用原稿、資料については追って指示します。	2時間の予習と2時間の復習を課す。
30	振り返り	執筆内容・計画・残された課題を含め、今後活かせるよう、自身の振り返りを行います。	2時間の予習と2時間の復習を課す。

開講科目名 Course	卒業論文 / Thesis
時間割コード Course Code	29504
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	定森 亮
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	定森 亮 (経済学部)
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自らの関心に応じて未解決の主題を選択し、その問いに答えるべく、できるかぎり厳密な論理に従った議論を展開する。</li> <li>2. 先行研究を含む他人の考えから学びながらも、同時に、それとの対比で自らの発想の独自性を探求する。</li> <li>3. 自らの議論を練り上げる過程で、他の学生と議論し、他人の考えを深く理解することを通じて、自らの視野を広げていく。</li> <li>4. パワーポイントなどを活用したプレゼンテーションの技術を磨く。</li> </ol>
授業の概要	専門演習や他の講義科目で学んだ知見や、文章作成技術を活かして、卒業論文を作成する。担当教員は、論文のテーマの設定、先行研究の収集などに際して助言を与え、参加者がより厳密な論理に従って議論を展開できるように寄り添っていく。
評価方法	卒業論文の内容 (100%) : テーマ設定 + 論理性 + 先行研究の把握 + 独自性
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	1 ~ 30週 : 卒業論文の作成指導
テキスト	なし
参考書	なし
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールや研究室での面談を通じて、質問などを受けつける。
フィードバックの方法	授業内、あるいは個別の面談を通じて、各自の関心が深まるように卒論の完成に向けて支援する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	先行研究の確認や卒論の執筆を、授業時間外に行ってもらおう。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標 (1~10)	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標 (11~17)	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業論文 / Thesis
時間割コード Course Code	29505
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 正之
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 正之 (経済学部)
授業の目標	<p>&lt; 成果 &gt;</p> <p>【知識・理解の領域】研究内容を自らの言葉で説明できる。</p> <p>【思考判断の領域】研究内容について論理的で説得力のある思考ができる。</p> <p>【関心意欲の領域】論文執筆を計画的に実施できる。</p> <p>【態度・志向性の領域】他人の考えを理解し、議論できる。</p> <p>【技能の領域(情報スキル)】研究成果を情報発信(デザイン)することができる。</p>
授業の概要	<p>授業形態(対面授業を基本としますが、状況によって遠隔となる場合もあります)</p> <p>各自が進める研究テーマの進捗管理と論文の完成、発表。</p> <p>研究テーマは自由に設定できるが、オリジナリティを必要とする。</p> <p>なお、論文制作の過程で以下の点が不可欠である。</p> <p>1. テーマの情報収集において、参考にした部分の明示。</p> <p>2. 主述でのオリジナリティ(仮説と考察と結論)の明示。自分の文章であること。</p>
評価方法	<p>1. 計画的な研究テーマ選定</p> <p>2. 事前の文献調査・リサーチ</p> <p>3. 仮説と結論の論理的整合性</p> <p>【1.~3.のオリジナリティ含め総合的に評価する】</p> <p>・当科目は各自が蓄積してきた伎倆を自由に発揮できる場である。大胆な仮説と検証の経過を重視する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	課題への取り組み不足、無断欠席については、周りに迷惑がかかるため失格とする。
授業計画	<p>1. 疑問・問題意識の具体化(テーマ選定・提出)(4~6月)</p> <p>2. 研究手法の検討(文献調査・リサーチ・章立て完成)(6~8月)</p> <p>3. 仮説、論旨、結論の明瞭化(中間発表1,2)(8~10月)</p> <p>4. 卒業論文締め切り(ゼミ内11月末、12月上旬提出)</p> <p>【1.~3.の計画的な実施、論理性、オリジナリティも評価する】</p>
テキスト	使用しない
参考書	参考書 戸田山和久(2012)『論文の教室 レポートから卒論まで』NHK出版
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	

質問への対応方法	大学のgoogleアカウント利用が必須。mailとclassroom、office365、その他、会議アプリも必要に応じて使用する。
フィードバックの方法	大学のgoogleアカウント利用が必須。mailとclassroom、office365、その他、会議アプリも必要に応じて使用する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各自が、研究テーマを設定して研究計画を作るための準備と、それに沿って各自の研究テーマを議論するための準備時間を、講義時間と同量以上確保すること。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業論文 / Thesis
時間割コード Course Code	29506
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	谷内 陽一
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	谷内 陽一 (経済学部)
授業の目標	<p>大学生生活の集大成である卒業論文の完成を目指す。</p> <p>&lt;学習成果&gt;  知識・理解の領域  卒業論文のテーマに関する知識および理解を高めることができる  思考判断の領域  先行研究の調査において必要な情報を収集・選別することができる (情報リテラシーの習得)  関心意欲の領域  興味・関心のあるテーマを研究することで当該テーマへの関心を更に高めることができる  態度・志向性の領域  計画性を持って卒業論文の作成に取り組むことができる  技能の領域  研究テーマを適切に調査・分析して卒業論文にまとめ、第三者に正しく説明することができる</p>
授業の概要	<p>受講者が興味・関心のあるテーマについて研究を進め、それを基に卒業論文を作成する。テーマの選定、参考文献の収集、概要作成、中間報告発表、初稿提出等を通して、卒業論文作成のための指導を行う。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	卒業論文の内容および完成度は勿論のこと、中間報告および最終報告における発表・討論内容等を含めて総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	専門演習 Aおよび Bの中で指導を行う。
テキスト	指定なし。
参考書	指定なし。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	年金基金、銀行、生命保険会社にて私的年金 (企業年金・個人年金) の制度・財政運営や資産運用等の業務に従事してきた教員が、金融・ファイナンスに関する理論的体系および実務経験に基づく具体的事例を踏まえて、学術・実務両面の視点から指導する。
質問への対応方法	演習中またはメール等により随時対応する。

フィードバックの方法	同上
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	卒業論文の研究テーマを決めること 研究テーマに関連する先行研究（参考文献）を調査し収集すること 先行研究の主張に対して、自分なりの見解（賛成・反論など）を持つこと 卒業論文で主張する内容について、根拠となるデータや資料を探し出すこと 卒業論文の内容について、明確な結論を導くこと 定められた期限までに卒業論文を完成し提出すること
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	卒業論文 / Thesis
時間割コード Course Code	29507
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	ブ ティ ビック リエン
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ブ ティ ビック リエン (経済学部)
授業の目標	<p>学生各自が関心のあるテーマについて研究を進め、それをもとに卒業論文を完成する。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の生産活動や個人・家計の消費行動に関する考察を行なう。</li> <li>・発展途上国の経済発展に関する考察を行なう。</li> </ul> <p>思考判断の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・論理的・実証的な思考方法にそって、議論を進める。</li> <li>・問題解決のために解決策を考え、他人を説得できるようになる。</li> </ul> <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参考文献の検索・輪読・理解をできるようになる。</li> <li>・適切な統計データを収集して、活用できるようになる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題と解決策の見出しや解決策への批判的コメントについて自ら調査学習できるようになる。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明瞭かつ簡潔に発表資料を作成する。</li> <li>・人前に分かりやすく説明・発表するとともに、効率よく文章にまとめ、卒業論文の完成に向かう。</li> </ul>
授業の概要	<p>下記の学習内容を順序に進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業論文の作成方法について指導</li> <li>2. 研究テーマの決定</li> <li>3. 先行研究のサーベイと報告</li> <li>4. 卒論作成の進捗報告と相互議論</li> <li>5. 卒業論文の執筆・訂正および完成</li> </ol> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>下記の内容を総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の指導への対応の取り組み (20%)</li> <li>・レポート・定期報告・ディスカッションの内容 (20%)</li> <li>・指定期限内における卒業論文の草稿の提出 (20%)</li> <li>・指定期限内における卒業論文の完成版の提出 (40%)</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・指導教員の指導に意図的に従わない。
授業計画	初回講義に詳細な計画を周知する。
テキスト	
参考書	1) 河野哲也 (2018) 『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・ オフィスアワーに研究室で対応する。 ・ オフィスアワー以外にはアポイントを取って、対応する。
フィードバックの方法	・ オフィスアワーに研究室で対応する。 ・ オフィスアワー以外にはアポイントを取って、対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・ 卒業論文は進捗報告の積み重ねる内容なので、担当教員のコメントや指導の前後をしっかりと従ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業論文 / Thesis
時間割コード Course Code	29508
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	村山 徹
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	村山 徹 (経済学部)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学の学びを結実させる研究課題・テーマを設定できる。</li> <li>・選択した研究課題・テーマについての研究資料を卒業論文の展開に用いることができる。</li> <li>・問題提起から結論にいたるまで、厳密で緻密な展開を卒業論文に示すことができる。</li> <li>・専門演習で示された書式で卒業論文を作成できる。</li> </ul>
授業の概要	<p>専門演習 Aまたは Bを担当する教員が、専門演習とは別に、個人または複数名を対象に卒業論文作成のための指導をおこなう。受講者は、講義科目や演習科目によって獲得した知見を総合し、学部における学習の集大成として卒業論文を完成させる。具体的には、担当教員の指導の下、論文のテーマを設定し、研究資料を収集、活用して、卒業論文を完成させる。</p>
評価方法	卒業論文の内容 (100%) : テーマ設定 + 研究資料 + 論文の展開と書式より評価する
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	個別面談などの無断欠席には厳しく対応する
授業計画	1~30週 : 卒業論文の作成指導
テキスト	なし
参考書	なし
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>大学が情報発信する「オフィスアワー」を確認してください。指定日時には個人研究室で質問等を受け付けます。また、本ゼミではslackを活用してメンバー間の連絡が円滑になるよう工夫しています。これらのゼミ連絡ツールでは常時質問を受け付けています。</p>
フィードバックの方法	卒業論文などに関しては個別面談を設けて、各自の構想が具体化するように支援します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	発表、卒論テーマの検討など、ゼミ時間外に作業や学習を進める必要のある取り組みが多くあります。目安としては授業時間の2倍程度の自学の時間が理想です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	

PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 8.計画立案力

開講科目名 Course	基本経営学
時間割コード Course Code	30000
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	大曾 暢烈
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大曾 暢烈 (経営学部)
授業の目標	<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経営学の基本的な概念や考え方を理解することができるようになること。</li> <li>2. 経営学の概念や考え方をを用いて、現実の経営現象を理解・分析できるようになること。</li> </ol> <p>【学習成果】</p> <p>知識・理解の領域 経営学の基本的な知識を理解し、企業経営について説明することができるようになる。</p> <p>技能の領域 経営学の基本的な知識を用いて、問題発見、問題解決する力を身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>本講義は、経営学の基礎的な知識を学ぶことを目的としています。具体的には、企業経営がどのような仕組みで動いているのかという点を、経営学の様々な概念や考え方、事例を通じて学習します。</p> <p>授業の進め方・注意事項については、第1回講義にて説明します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	期末試験100%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席が多い場合は、失格となります。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 企業経営</p> <p>第3回 企業と社会</p> <p>第4回 コーポレート・ガバナンス</p> <p>第5回 経営理念と戦略(1)</p> <p>第6回 経営理念と戦略(2)</p> <p>第7回 組織形態</p> <p>第8回 組織間関係</p> <p>第9回 生産管理</p> <p>第10回 組織構造と職務設計</p> <p>第11回 モチベーションとリーダーシップ</p> <p>第12回 雇用システム</p> <p>第13回 報酬制度</p> <p>第14回 人材育成制度</p> <p>第15回 国際経営</p>
テキスト	上林憲雄・奥林康司・團泰雄・開本浩矢・森田雅也・竹林明(2018)『経験から学ぶ経営学入門 第2版』有斐閣

参考書	以下の書籍についても、参考にしてください。その他、適宜紹介します。 藤田誠（2015）『経営学入門 ベーシック+』中央経済社 井原久光（2008）『テキスト経営学 第3版 基礎から最新の理論まで』ミネルヴァ書房 伊丹敬之・加護野忠男（2003）『ゼミナール経営学入門 第3版』日本経済新聞出版社 齊藤毅憲編著（2012）『経営学を楽しく学ぶ 第3版』中央経済社 坂下昭宣（2014）『経営学への招待 新装版』白桃書房
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後に対応する。
フィードバックの方法	授業中に行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、予習2時間、復習2時間が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	商業簿記 / commercial bookkeeping
時間割コード Course Code	30010
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	荒鹿 善之
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒鹿 善之 (経営学部)
授業の目標	<p>本講義は、前期の「基本簿記」で学んだ内容を復習することに重点を置く授業です。さらに、決算整理仕訳、および8桁の精算表や財務諸表の作成にも取り組みます。</p> <p>知識・理解の領域 株式会社が営む日々の取引を把握し、ルールに従って正確に記録・集計する方法を理解します。</p> <p>技能の領域 基礎レベルの仕訳問題に取り組みるとともに、精算表や財務諸表の作成方法を学びます。</p> <p>態度・志向性の領域 講義で学んだことを生かし、日商簿記検定合格に向けた学習に進むことを目指します。</p>
授業の概要	<p>簿記は、実践的な性格の強い科目であるため、取引を記録・集計するための問題演習を数多く行い、その基礎的方法を理解します。そして、決算を行う問題にも取り組み、精算表や財務諸表の作成方法についても学習します。</p> <p>簿記は、毎回の授業の積み上げで理解できる科目であるため、必ず出席するよう心がけて下さい。</p>
評価方法	期末テストの結果を重視して評価します。 期末テスト90% 課題10%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	他の授業同様、欠席回数が多い場合は失格になることがあります。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 勘定科目と仕訳のルール</li> <li>2 商品の仕入れと販売</li> <li>3 固定資産の取得</li> <li>4 有価証券の取得と売却</li> <li>5 その他の債権・債務</li> <li>6 現金過不足勘定</li> <li>7 当座預金と当座借越</li> <li>8 資本金について</li> <li>9 金融手形</li> <li>10 決算整理（売上原価の算定・貸し倒れの見積もり）</li> <li>11 決算整理（減価償却・貯蔵品）</li> <li>12 決算整理（収益・費用の見越し・繰り延べ）</li> <li>13 精算表の作成</li> <li>14 財務諸表の作成</li> <li>15 総合演習問題</li> </ol> <p>各回について、予習・復習時間をしっかりと確保して下さい。</p>
テキスト	必要に応じてプリントを配布します。
参考書	『日商簿記検定模擬試験問題集 3級商業簿記』実教出版
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	日商簿記検定試験委員の担当経験がある教員によって行われる授業です。日商簿記検定3級の受験に役立つ資料を配布します。2級の出題範囲に含まれる問題演習にも取り組む場合があります。
質問への対応方法	随時対応します。
フィードバックの方法	レポート、課題などは翌週に返却して解答・解説を行う予定です。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	必要に応じて資料を配付します。配付された資料に事前に目を通し、授業内容の理解度向上に努めます。また、復習については随時課題を課します。理解した内容のアウトプットを行うことで、学習内容の定着を目指します。（予習・復習各2時間）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	簿記の役割		
2	貸借対照表について 貸借対照表の役割と内容		

開講科目名 Course	経営学(木3, 木4)
時間割コード Course Code	30020
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3, 木 / Thu 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	松井 義司
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	松井 義司 (経営学部)
授業の目標	<p>学習の成果</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代表的な経営理論について理解を深める。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の出来事や企業活動を理解するために、理論的視点を用いる習慣を付ける。</li> <li>・企業活動の様々な創意工夫に関心を持つ。</li> </ul> <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必ずしも良好ではない経営環境の中で、企業がどのような工夫や取組みをしているかに関心を持つ。</li> </ul>
授業の概要	<p>この授業では、経営学・経営戦略論の代表的な理論の紹介します。それだけでは判りにくいいため、様々な企業の事業転換や国際化の事例紹介や、地元企業によるセミナーを通して、企業活動と経営理論についての理解を深めて行きます。また、理論は万能薬ではないので、その有効性と限界についても考えて行きます。</p> <p>各企業講話では、事業概要の説明に留まらず、事業の仕組みや取組み、事業環境の変化に伴う事業革新などについても説明して頂く。</p> <p>この講義では特に、経営戦略で6つの代表的な視点の解説を行う。 (計画型、創発型、ポジショニング、資源・組織能力、学習、ゲーム) また、事例紹介を通して6つの視点についての理解を深めて行く。</p>
評価方法	<p>75% : 各講義(30回)での課題</p> <p>25% : 定期試験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義で積極的に質問・コメントを行う学生には加点を行う。</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・30回の授業で毎回出される課題を11回以上未提出の場合。</li> <li>・学期末試験を受験しない場合。</li> </ul>

授業計画	<p>4種類の講義（理論紹介・実務編・企業講話・事例紹介）を通して、企業活動と経営理論についての理解を深めて行く行きます。</p> <p>講義の順番は、ご協力企業の都合により変更されることとがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 インTRODakクシヨン： 講義概要</li> <li>2 インTRODakクシヨン： 6つの視点</li> <li>3 実務編 会社について</li> <li>4 実務編 ラーメン屋を例に経営について説明</li> <li>5 企業講話 出版・印刷</li> <li>6 企業講話 グッズ製作</li> <li>7 理論紹介 ポジショニング・アプローチ</li> <li>8 理論紹介 資源・組織能力のアプローチ</li> <li>9 理論紹介 学習・アプローチ</li> <li>10 理論紹介 ゲーム・アプローチ</li> <li>11 事例紹介 ヤマト宅急便の導入</li> <li>12 企業講話 建設機械販売</li> <li>13 事例紹介 中小酒蔵の事業転換と国際化（1）</li> <li>14 事例紹介 中小酒蔵の事業転換と国際化（2）</li> <li>15 理論紹介 モチベーション</li> <li>16 理論紹介 組織文化</li> <li>17 理論紹介 製品ライフサイクル・戦略ポジション</li> <li>18 企業講話 オフィス・教育機関向け家具製造</li> <li>19 理論紹介 PPM分析</li> <li>20 企業講話 クラウンパッケージ</li> <li>21 事例紹介 ホンダのスーパーカブ導入とアメリカ進出</li> <li>22 理論紹介 ホンダの事例を理論的視点で考察</li> <li>23 事例紹介 抹茶産業の事業転換</li> <li>24 企業講話 スーパーマーケット</li> <li>25 実務編 企業の海外進出</li> <li>26 企業講話 自動車販売</li> <li>27 実務編 日本型雇用慣行の形成と変容（1）</li> <li>28 実務編 日本型雇用慣行の形成と変容（2）</li> <li>29 総括 復習と期末試験の説明</li> <li>30 総括 Q&amp;Aセッション</li> </ol>
テキスト	毎回の講義資料をクラスルームに掲載。
参考書	<p>（入門）『大学4年間の経営学が10時間でざっと学べる』高橋、KADOKAWA、2016年。</p> <p>（上級）『競争戦略論（第2版）』青木・加藤、東洋経済新報社、2012年。</p> <p>（上級）『戦略サファリ 第2版』ミンツバークなど、東洋経済新報社、2013年。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	企業の課題や取組みについて学生からコメントをして貰う。 学生が提出した課題のいくつかについて、翌週に教員が紹介しコメントをする。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	教員は電機メーカーに勤務し、中東・ロシア・インドに駐在するなど主に新興国の市場開発に従事して来た。実務と理論の両方の視点から、学生と企業活動について考えて行きたい。また、様々な地元企業の方々に講話をして頂く授業運営を行う。
質問への対応方法	授業中に（または課題のコメント欄で）質問を受け付け、教員がコメントをする。
フィードバックの方法	課題の解答については、良い回答例・悪い回答例を交えて、翌週の授業で説明を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業では課題があるため、講義資料を見返して学習し、期日までに課題の提出を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	13.気候変動に具体的な対策を
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>2.情報分析力</li> <li>3.課題発見力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>7.課題発見力</li> <li>8.計画立案力</li> </ol>

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			

開講科目名 Course	経営情報論 / Management Informations
時間割コード Course Code	30030
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	小川 哲司
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小川 哲司 (経営学部)
授業の目標	<p>情報通信技術が進展していく中で、企業経営において情報要素を戦略的に取り入れる必要がある現状を踏まえ、最新の情報通信技術の動向やトピックを理解しながら、企業経営やビジネスにおける情報通信技術の活用方法や変革方法を理解することを目標とする。</p> <p>&lt;学習成果&gt; 知識・理解の領域 企業経営における情報の関わり方を理解して、情報通信技術の必要性を説明することができる。 技能の領域 経営やビジネスに求められる情報通信技術の基本的な知識を身に付けて、ケースを分析して考察結果を自らの言葉で分かりやすくレポートできる。 態度・志向性の領域 企業経営と情報通信技術に関わる最新の話題やトピックなどに興味を示し、自分自身で考察しようとする姿勢が醸成される。</p>
授業の概要	<p>情報通信技術の進展により、サービス形態や働き方が大きく変化するなかで、競争力のある経営やビジネスを展開していくためには、情報通信技術の活用は欠かせない状況にある。 この講義では、情報通信技術を経営にどう活用していくのかという視点で、最新の技術や事例などを通じて、企業経営と情報通信技術の関係性について理解する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照のこと。</p>
評価方法	<p>評価方法 毎回の授業内で実施する小テスト (50%) 期末レポート (50%)</p>
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	出席回数が10回に満たない場合

授業計画	第1回 情報社会の特性と変化 第2回 経営情報の役割 第3回 情報通信技術の特性と役割 第4回 情報通信サービスの特徴と動向 第5回 IoTの特性とビジネスへの活用 第6回 ビッグデータの価値と活用 第7回 プラットフォームビジネス 第8回 経営情報システムに関連する技術 第9回 AIの特性とビジネスへの活用 第10回 デジタルトランスフォーメーション 第11回 経営情報システムの課題 第12回 経営情報システムの開発手法 第13回 情報通信技術による働き方の変化 第14回 シェアリングビジネス 第15回 情報通信技術によるビジネスモデルの変化
テキスト	教員が作成する資料を配布して、授業を進める。
参考書	遠山暁・村田潔・古賀広志 『現代経営情報論』有斐閣アルマ
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 情報通信業界にて、システム開発やマーケティングなどの業務経験を有する教員が、経営と情報の関わりについて実践的な観点より解説する科目である。
質問への対応方法	基本的にはメールで回答します。
フィードバックの方法	翌週の授業までに返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、次回テーマに関連する文献調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	情報社会の特性と変化	ICT(情報通信技術)の進展、データ駆動型社会とSociety 5.0などについて確認して、社会で起きている変化を考察する。	応用基礎レベル1-1 応用基礎レベル2-1
2	経営情報の役割	企業における経営情報の役割、必要性について確認する。	
3	情報通信技術の特性と役割	経営情報における情報通信技術の特性と役割を確認する。	
4	情報通信サービスの特徴と動向	情報通信業界の歴史を紐解き、現在の立ち位置を確認する。	
5	IoTの特性とビジネスへの活用	IoTの特性を踏まえ、データサイエンス活用事例(仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替など)を紹介する。	応用基礎レベル1-1
6	ビッグデータの価値と活用	ビッグデータを収集・蓄積して、ビッグデータ活用して価値を創出する事例を確認する。 人の行動ログデータ、機械(IoT)、ソーシャルメディアデータなどを可視化して活用する事例を取り上げる。	応用基礎レベル2-1
7	プラットフォームビジネス	プラットフォームビジネスの概要や課題について確認する。	
8	経営情報システムに関連する技術	クラウドサービス、データベース、仮想化など経営情報システム構築に不可欠な技術を紹介する。	応用基礎レベル2-1
9	AIの特性とビジネスへの活用	AIについての歴史(推論、探索、機械学習、深層学習など)、分類(強いAI/弱いAI)、実現できること(学習、認識、予測・判断など)などを押さえた上で、AI技術の活用領域の広がりを確認する。	応用基礎レベル3-1
10	デジタルトランスフォーメーション	情報システムの課題と、DXの必要性について確認をする。	
11	経営情報システムの課題	各業界における情報システムの特性と課題について確認をする。	
12	経営情報システムの開発手法	情報システムの形態とともに、情報システムの開発手法について確認をする。	
13	情報通信技術による働き方の変化	企業の働き方の変化と、情報通信技術の役割について確認をする。	
14	シェアリングビジネス	シェアリングエコノミーを用いたビジネスについて確認をする。	
15	情報通信技術によるビジネスモデルの変化	情報通信技術によるビジネスモデルの変化や、ビッグデータを活用した新しいビジネスモデルについて解説をする。	応用基礎レベル2-1

開講科目名 Course	マーケティング論
時間割コード Course Code	30040
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	徐 誠敏
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	徐 誠敏 (経営学部)
授業の目標	<p>本授業では、ブランドを構築するためのマーケティングやインターナル・ブランディングに関する基本的なプロセスを確実に習得したうえで、中小企業にその理論と実践(事例)方法を適用して応用可能性を検討し模索することで、次のような学習成果を生み出します。</p> <p>学習成果</p> <p>(1) ブランドを構築するためのマーケティングの基本的枠組みや用語について説明することができる。</p> <p>(2) 現代社会におけるマーケティングの役割や影響、消費生活との関わりについて説明することができる。</p> <p>(3) 売れ続ける仕組みとしてのブランドを構築するためのマーケティングとインターナル・ブランディングの基本的なプロセスに関する理論的・実践的な知識を身につけることができる。</p> <p>(4) 大企業と中小企業のブランディングやインターナル・ブランディング戦略の成功事例のノウハウなどを学ぶことで、ブランドづくりに関する実践的な知識を身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>マーケティングは、現代生活者としてスマートな消費生活を行ううえでも、現代企業としてスマートな競争を行ううえでも欠かせないきわめて重要な要素です。とりわけ、中小企業においてマーケティングやブランディングの果たす役割はますます大きくなってきています。大企業や中小企業のマーケティングやブランディング活動は、市場・消費者の変化に対応・適応する形で、戦略を展開していくところに大きな特徴があります。顧客・消費者の満足や価値を高めるためには、組織外向けのマーケティングやブランディングだけではなく、組織内部向けのブランディング、すなわち、インターナル・ブランディングを戦略的かつ組織的に取り組まなければなりません。それにより、企業はマーケティングやブランディングに強い組織をつくることができます。したがって、本授業では、マーケティングの基本的考え方をおさえた上で、中小企業にも適用可能なマーケティングやブランディング、インターナル・ブランディング戦略を理論的・実践的なアプローチから詳細に解説します。</p>
評価方法	授業の姿勢・態度(25点)、中間レポート(25点)、期末テスト(50点)を総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし



授業計画	<p>第1回 授業の概要と進め方、今日の市場変化におけるマーケティングやブランディングの重要性</p> <p>第2回 一般的なマーケティングと日本マーケティング協会による定義から学ぶもの</p> <p>第3回 事例から学ぶ企業を取り巻く外部のマクロ環境分析 = PEST分析</p> <p>第4回 事例から学ぶ3C分析とSTP(Segmentation、Targeting、Positioning)戦略</p> <p>第5回 事例から学ぶマーケティング・ミックス4P戦略</p> <p>第6回 中小企業のマーケティングやブランディングの重要性</p> <p>第7回 ブランド弱者の負の連鎖</p> <p>第8回 戦略的ブランディングの方法</p> <p>第9回 組織成立の3要素とCEOブランド</p> <p>第10回 インターナル・ブランディングの基本プロセス</p> <p>第11回 ICTの活用とソーシャル・キャピタルの重要性</p> <p>第12回 中小企業のインターナル・ブランディングの成功事例(1)</p> <p>第13回 中小企業のインターナル・ブランディングの成功事例(2)</p> <p>第14回 中小企業のインターナル・ブランディングの成功事例(3)</p> <p>第15回 これまでのまとめ</p>
テキスト	徐誠敏編著(2024)『第一線で活躍する研究者×実践者×コンサルタントが教える『超実践的マーケティング・ブランディングの教科書』ビジネス実用社。
参考書	<p>徐誠敏・李美善(2022)『ブランド弱者の戦略：インターナル・ブランディングの理論と実践』ミネルヴァ書房。</p> <p>小川孔輔(2009)『マーケティング入門』日本経済新聞出版社。</p> <p>徐誠敏(2010)『企業ブランド・マネジメント戦略』創成社。</p> <p>田中洋(2014)『ブランド戦略全書』有斐閣。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	含まない。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	数年間にわたるブランディング・コンサルタントや一般財団法人ブランド・マネージャー認定協会のアドバイザーとしての経験を活かすことで、より実践的なブランディングに関する知識を教える。
質問への対応方法	授業後に対応する。またGmailでも対応する。
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	60時間の時間の予習復習の時間を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>8. 働きがいも経済成長も</p> <p>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標(11~17)	<p>12. つくる責任つかう責任</p> <p>17. パートナースhipで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p> <p>4. 構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>7. 課題発見力</p> <p>8. 計画立案力</p> <p>9. 実践力</p>

開講科目名 Course	マーケティング論
時間割コード Course Code	30041
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	徐 誠敏
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	徐 誠敏 (経営学部)
授業の目標	<p>本授業では、ブランドを構築するためのマーケティングやインターナル・ブランディングに関する基本的なプロセスを確実に習得したうえで、中小企業にその理論と実践(事例)方法を適用して応用可能性を検討し模索することで、次のような学習成果を生み出します。</p> <p>学習成果</p> <p>(1) ブランドを構築するためのマーケティングの基本的枠組みや用語について説明することができる。</p> <p>(2) 現代社会におけるマーケティングの役割や影響、消費生活との関わりについて説明することができる。</p> <p>(3) 売れ続ける仕組みとしてのブランドを構築するためのマーケティングとインターナル・ブランディングの基本的なプロセスに関する理論的・実践的な知識を身につけることができる。</p> <p>(4) 大企業と中小企業のブランディングやインターナル・ブランディング戦略の成功事例のノウハウなどを学ぶことで、ブランドづくりに関する実践的な知識を身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>マーケティングは、現代生活者としてスマートな消費生活を行ううえでも、現代企業としてスマートな競争を行ううえでも欠かせないきわめて重要な要素です。とりわけ、中小企業においてマーケティングやブランディングの果たす役割はますます大きくなってきています。大企業や中小企業のマーケティングやブランディング活動は、市場・消費者の変化に対応・適応する形で、戦略を展開していくところに大きな特徴があります。顧客・消費者の満足や価値を高めるためには、組織外向けのマーケティングやブランディングだけではなく、組織内部向けのブランディング、すなわち、インターナル・ブランディングを戦略的かつ組織的に取り組まなければなりません。それにより、企業はマーケティングやブランディングに強い組織をつくることができます。したがって、本授業では、マーケティングの基本的考え方をおさえた上で、中小企業にも適用可能なマーケティングやブランディング、インターナル・ブランディング戦略を理論的・実践的なアプローチから詳細に解説します。</p>
評価方法	授業の姿勢・態度(25点)、中間レポート(25点)、期末テスト(50点)を総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>第1回 授業の概要と進め方、今日の市場変化におけるマーケティングやブランディングの重要性</p> <p>第2回 一般的なマーケティングと日本マーケティング協会による定義から学ぶもの</p> <p>第3回 事例から学ぶ企業を取り巻く外部のマクロ環境分析 = PEST分析</p> <p>第4回 事例から学ぶ3C分析とSTP(Segmentation、Targeting、Positioning)戦略</p> <p>第5回 事例から学ぶマーケティング・ミックス4P戦略</p> <p>第6回 中小企業のマーケティングやブランディングの重要性</p> <p>第7回 ブランド弱者の負の連鎖</p> <p>第8回 戦略的ブランディングの方法</p> <p>第9回 組織成立の3要素とCEOブランド</p> <p>第10回 インターナル・ブランディングの基本プロセス</p> <p>第11回 ICTの活用とソーシャル・キャピタルの重要性</p> <p>第12回 中小企業のインターナル・ブランディングの成功事例(1)</p> <p>第13回 中小企業のインターナル・ブランディングの成功事例(2)</p> <p>第14回 中小企業のインターナル・ブランディングの成功事例(3)</p> <p>第15回 これまでのまとめ</p>
テキスト	徐誠敏編著(2024)第一線で活躍する研究者×実践者×コンサルタントが教える『超実践的マーケティング・ブランディングの教科書』ビジネス実用社。
参考書	<p>徐誠敏・李美善(2022)『ブランド弱者の戦略：インターナル・ブランディングの理論と実践』ミネルヴァ書房。</p> <p>小川孔輔(2009)『マーケティング入門』日本経済新聞出版社。</p> <p>徐誠敏(2010)『企業ブランド・マネジメント戦略』創成社。</p> <p>田中洋(2014)『ブランド戦略全書』有斐閣。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	含まない。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	数年間にわたるブランディング・コンサルタントや一般財団法人ブランド・マネージャー認定協会のアドバイザーとしての経験を活かすことで、より実践的なブランディングに関する知識を教える。
質問への対応方法	授業後に対応する。またGmailでも対応する。
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	60時間の時間の予習復習の時間を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>8. 働きがいも経済成長も</p> <p>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標(11~17)	<p>12. つくる責任つかう責任</p> <p>17. パートナースhipで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p> <p>4. 構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>7. 課題発見力</p> <p>8. 計画立案力</p> <p>9. 実践力</p>

開講科目名 Course	地域情報論(火3, 火4)
時間割コード Course Code	30080
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	小川 哲司
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小川 哲司 (経営学部)
授業の目標	<p>〔授業の目標〕</p> <p>大学が立地する地区の「地域情報」を実地に調査し、その結果を整理・分析して発表する。この過程でICT (Information and Communication Technology: 情報通信技術) 活用の実態を学ぶ。また、「地域情報」を活用する物流会社や、地域住民に行政サービスを提供する地方公共団体の取材を通して、現場で情報を活用し作成する職業について理解を深める。</p> <p>知識・理解の領域</p> <p>地図を読むことができる          大学周辺の状況を理解する          「地域情報」の配置の実態を理解する</p> <p>思考判断の領域</p> <p>道路のサインと実態との関係を考える          道路のサインの意図を考える</p> <p>関心意欲の領域</p> <p>地域の安全・安心について考える          「地域情報」の活用現場について考える          「地域情報」を作成する職業現場について考える</p> <p>態度・志向性の領域</p> <p>他の地域での地域情報に関心を持つ          GIS (地理情報システム) について自発的に調査・考察する</p> <p>技能の領域</p> <p>「地域情報」のプレゼンテーションを通してプレゼンテーション技能の獲得</p>

授業の概要	<p>〔授業の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートフォンのアプリケーションを使って調査行程の記録、写真撮影などを行っていただきます。</li> <li>・また調査結果をプレゼンテーションしてもらうので、PowerPointの基本的なスキルが必要です。</li> <li>・この講義では地域情報の一般を学んだ後に、「道」を通して地域の情報を考える。特定の地域に限定し、その地域の「道」を様々な視点から実地調査し、そこから見えてくる地域情報を整理・分析していきます。最終的にはデジタルマップ上に落とし込み、「地域情報」として共有化を図ると同時に担当地域の様子をプレゼンテーションします。</li> <li>・また、「地域情報」の活用の現場をいくつかの業種の担当から説明を受ける機会を設けて、実社会における実情を知ることが、あらゆる職業現場で情報を活用し作成する能力が求められる情報社会における今後のキャリア形成上重要なことです。</li> <li>・この授業で調査することになる地域についてあらかじめリサーチしておくこと。また実際の調査でわかったことについてもさらに理解を深めるために自分で調査したり、また授業以外の時間に調査区域をまわって自分にとって担当区域を身近なものにしておくこと。</li> </ul> <p>〔対象者〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目の対象者は教職課程の学生のみ</li> </ul> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	調査に取り組む姿勢、プレゼンテーションの完成度など、総合的に評価する
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>第1回：講義内容の概説</p> <p>第2回：安心・安全の地域情報</p> <p>第3回：実地調査その1 【予備調査】</p> <p>第4回：調査結果のまとめ</p> <p>第5回：実地調査その2 【突合調査】</p> <p>第6回：調査結果のまとめ</p> <p>第7回：実地調査その3 【補足調査】</p> <p>第8回：調査結果のまとめ</p> <p>第9回：交通量調査</p> <p>第10回：交通量調査結果のまとめ</p> <p>第11回：プレゼンテーションの準備 【道情報の特徴確認】</p> <p>第12回：プレゼンテーションの準備 【道情報の問題確認】</p> <p>第13回：第1回目のプレゼンテーションその1 【前半グループ】</p> <p>第14回：第1回目のプレゼンテーションその2 【後半グループ】</p> <p>第15回：物流会社での地域情報の活用事例1 【企業と情報】</p> <p>第16回：物流会社での地域情報の活用事例2 【情報と職業】</p> <p>第17回：活用事例のまとめ</p> <p>第18回：調査項目の検討・追加</p> <p>第19回：地方公共団体での地域情報の活用事例1 【行政情報の意義】</p> <p>第20回：地方公共団体での地域情報の活用事例2 【行政情報の実務】</p> <p>第21回：活用事例のまとめ</p> <p>第22回：調査項目の検討・追加</p> <p>第23回：実地調査その4 【高精度調査】</p> <p>第24回：調査結果のまとめ</p> <p>第25回：プレゼンテーションの準備 【道情報のニーズ確認】</p> <p>第26回：プレゼンテーションの準備 【道情報の方策検討】</p> <p>第27回：プレゼンテーションの準備 【道情報の提案作成】</p> <p>第28回：第2回目のプレゼンテーションその1 【第1グループ】</p> <p>第29回：第2回目のプレゼンテーションその2 【第2グループ】</p> <p>第30回：第2回目のプレゼンテーションその3 【第3グループ】</p>
テキスト	なし。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問へはその都度、または授業後に対応。
フィードバックの方法	プレゼンテーションについては、発表後教員から講評する。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	調査対象地域について、地域の地理的特徴・歴史などについてあらかじめしっかり調べておく必要があり、60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	消費者商品論
時間割コード Course Code	30090
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	徐 誠敏
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	徐 誠敏 (経営学部)
授業の目標	<p>本授業では、最終消費者が消費を目的として家庭に需要とされるような財やサービスである消費者商品を、理論的・実践的なアプローチを通して、次のような学習成果を生み出します。</p> <p>学習成果</p> <p>(1) 消費者起点の商品企画・需要創造活動および消費者ニーズの的確な把握やニーズに対応した商品づくり(商品のコンセプト・デザイン・パッケージ・価格・品質・安全・環境・満足度・商品開発・価値提案など)に関する基本的な知識を身につけることができる。</p> <p>(2) 消費者に対する積極的な企業の情報提供・啓発活動などの成功事例のノウハウを身につけることができる。</p> <p>(3) 消費をめぐる多様な問題と消費生活・消費者問題について説明することができる。</p> <p>(4) 消費者が本当に必要とする商品と消費者に安心して受け入れられるような商品をつくるのに必要な知識・スキルを身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>企業が提供する商品・サービスに価値があるかどうかを決める最終判断を行うのは、あくまでも消費者です。言い換えれば、消費者は企業から提供される商品・サービスのブランド価値を評価し、価格を決定し、最終的な購買への意思決定権や拒否権を握っているといえます。すなわち、市場のパラダイムシフトは、「企業視点」から「消費者視点」へと変わってきています。したがって、本授業では、最終消費者が消費を目的として家庭に需要とされるような財やサービスである消費者商品を、理論的・実践的なアプローチを通して、わかりやすく解説します。</p>
評価方法	授業の姿勢・態度(25点)、中間レポート(25点)、期末テスト(50点)を総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>第1回 授業の概要と進め方、商品の概念</p> <p>第2回 企業の視点から見る3つの目</p> <p>第3回 ブランドの定義とブランドの構成要素</p> <p>第4回 ブランドとステークホルダーとの関係</p> <p>第5回 商品の品質の重要性と知覚品質の定義と構成要素</p> <p>第6回 ブランディングの重要性</p> <p>第7回 マズローの欲求5段階説と事例(1)</p> <p>第8回 マズローの欲求5段階説と事例(2)</p> <p>第9回 マズローの欲求5段階説と事例(3)</p> <p>第10回 小テスト</p> <p>第11回 購買意思決定のプロセスAIDMAとAISAS</p> <p>第12回 消費者の視点から見る購買意思決定のプロセスAIDMAとAISASの事例</p> <p>第13回 コンシューマーインサイト</p> <p>第14回 これまでのまとめ(1)</p> <p>第15回 これまでのまとめ(2)</p>

テキスト	徐誠敏編著(2024)第一線で活躍する研究者×実践者×コンサルタントが教える『超実践的マーケティング・ブランディングの教科書』ビジネス実用社。
参考書	徐誠敏・李美善(2022)『ブランド弱者の戦略：インターナル・ブランディングの理論と実践』ミネルヴァ書房。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	中小企業のマーケティングやブランディング戦略に関する考察とプレゼンテーションを通して、中小企業独自のマーケティングやブランディング戦略の手法・ノウハウなどについて積極的にディスカッションを行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	数年間にわたるブランディング・コンサルタントや一般財団法人ブランド・マネージャー認定協会のアドバイザーとしての経験を活かすことで、より実践的なブランディングに関する知識を教える。
質問への対応方法	授業後に対応する。またGmailでも対応する。
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	60時間の時間の予習復習の時間を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	12.つくる責任つかう責任 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力



開講科目名 Course	国際経済・ビジネス事情
時間割コード Course Code	30100
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	李 美善
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 美善 (経営学部)
授業の目標	<p>国際経済の動向や各国のビジネス事情に関する基本的な知識を学び、日本企業の国際経営について理解することである。なお、日本企業を含む各国の企業経営について、ケーススタディを通じて学ぶことによって、ビジネスに関する基礎知識を理解する事を目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識の領域 授業で学んだ国際経済の動向や各国の事情に関する基本的な知識について、自分が理解したことを説明できる。</li> <li>・技能の領域 日本企業を含む各国の企業経営についてケーススタディを通じて学ぶことによって、経営の知識が身につく。さらに、毎時限、資料及び映像のポイントを探し、ポイントと関連付けて自分の考えを述べる（論述やグループワーク・グループディスカッション）ことを行う。それを繰り返すことによって自分の考えをまとめることができる。</li> <li>・態度・志向性の領域 様々な角度からものを解釈できる人となることを目指す。</li> </ul>
授業の概要	<p>1985年の「円高」以降、経済活動のグローバル化の進展とともに、日本企業のグローバル化も一層進んだ。トヨタやパナソニックなどの大企業だけでなく、大企業の協力企業である多くの中小企業も海外現地生産を展開し、グローバル化を加速させた。他方、2000年代以降、韓国、台湾、中国などに新興企業が急速に台頭した。</p> <p>さらに、2008年のリーマンショック後の世界の経済状況は、日本企業の経営環境を大きく変貌させた。第1は、世界経済における日本・アメリカ・EUなどの先進国の相対的地位低下と中国をはじめ新興国の台頭であり、特に中国は「世界の工場」から「世界の市場」へと変化した。そのため、日本企業にとって中国進出への重要性が増す一方で「中国リスク」といった問題も生まれている。第2は、先進諸国の大企業の地位が相対的に低下し、中国、韓国、台湾企業が躍進した。特にエレクトロニクス産業では、韓国のサムスンやLG、台湾の鴻海（ホンハイ）精密など巨大グローバル企業が出現し、競争する一方で国際的な水平分業により日本の大企業や中小企業との合弁・提携関係を展開し始めた。さらに、日本企業は「チャイナ・プラス・ワン」としてASEANへの投資を加速させている。</p> <p>また、2020年コロナウィルスの感染拡大により、国際情勢の変化にともない企業の経営はさらなる局面を迎えている。</p> <p>本講義では、世界経済の動きを概観し、日本の企業経営に与える影響をみていく。特に、日本と密接な経済関係を持つアジア諸国の文化、経済事情および企業経営に関する基本知識を身につけ、日本企業の今後の望ましい国際経営について理解を深めることとする。</p>
評価方法	<p>試験60%、平常点40% (授業への積極的参加：発言など取り組み姿勢やグループワーク及び発表・提出レポートの質) レポートなどは翌週にフィードバック</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が 13回に満たない場合は失格とする。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 世界経済の動向</li> <li>3. 世界経済の動向とビジネス事情</li> <li>4. アメリカ経済・文化事情</li> <li>5. アメリカのビジネス事情</li> <li>6. 日本経済と日本企業の国際経営</li> <li>7. 日本企業の国際経営にとってのアジア</li> <li>8. 韓国経済・文化とビジネス事情</li> <li>9. 日本企業と韓国企業とのビジネス関係</li> <li>10. 中国経済・文化とビジネス事情</li> <li>11. 日本企業と中国企業とのビジネス関係</li> <li>12. 日本企業のアジアビジネス</li> <li>13. 日・米・欧をめぐるビジネス事情とアジア</li> <li>14. 日本の国際ビジネスの今後</li> <li>15. 総括</li> </ol> <p>* 本講義では各国の文化・ビジネス事情を学び、日本企業の国際経営について考えるが、内容（ケーススタディで考える国など）は受講生の状況に応じて変更する可能性もある。</p>
テキスト	特に指定しない。講義時に必要な資料を提示する。
参考書	<p>吉原英樹（2021）『国際経営 第5版』 有斐閣アルマ。</p> <p>今井齊、宮崎信二、岸川典昭編著（2014）『新版経営から見る現代社会』文真堂出版社。</p> <p>梶浦 雅己（2020）『はじめて学ぶ人のためのグローバル・ビジネス第三版』文真堂出版社。</p> <p>浅川 和宏（2022）『マネジメント・テキスト グローバル経営入門(新装版)』日本経済新聞社。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>本講義では「創造力」、「思考力」、「主体性」、「協調性」、「柔軟性」、「知識」を身につけるため適時に下記のアクティブラーニングを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際経営に関する課題を中心にグループワーク（ブレインストーミングなど）を行う。</li> <li>・ グループ毎で課題を議論し、アイデア・解決方法を提案する。</li> <li>・ グループ毎に発表を行う。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応する。
フィードバックの方法	授業内で課したレポートなどは確認後、随時フィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間必要とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業内容や課題に関連する資料調べおよびレポート作成</li> </ul>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> <li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li> <li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> <li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 住み続けられるまちづくりを</li> <li>12. つくる責任つかう責任</li> <li>13. 気候変動に具体的な対策を</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> <li>17. パートナリシップで目標を達成しよう</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>

PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>4. 感情制御力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>
----------------	--

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	イントロダクション	科目の概要と評価方法等の講義の進め方について説明する。	
2	世界経済の動向	リーマンショック後の世界経済について考える。(先進国と新興国)	
3	世界経済の動向とビジネス事情	世界的経済危機後(とりわけ、コロナショック)の世界経済とビジネス事情について考える。	
4	アメリカ経済・文化事情	世界経済の中心であるアメリカ経済の動向と文化について考える。	
5	アメリカ経済・文化とアメリカビジネス事情(2)	アメリカビジネス事情についてアメリカ企業を事例に考える。	
6	日本経済と日本企業の国際経営	日本経済の動向と日本企業(自動車、エレクトロニクス産業)の海外展開について考察する。	
7	日本企業の国際経営にとってのアジア	日本企業の国際経営にとっての東アジアについて考える。 ・日本企業の海外展開(輸出、海外生産、逆輸入) ・日本企業にとっての東アジアの重要性	
8	韓国経済・文化とビジネス事情	韓国経済と財閥企業の急成長について事例から考える。	
9	日本企業と韓国企業とのビジネス関係	日本企業と韓国企業のビジネス関係(競争と協調)について考える。	
10	中国経済・文化とビジネス事情	・「世界工場」から「世界市場」に変貌した中国について考える。 ・中国企業の台頭について考える。	
11	日本企業と中国企業とのビジネス関係	日本企業と中国企業のビジネス関係(生産拠点、市場)について考える。同時に、「中国リスク」についても考える。	
12	日本企業のアジアビジネス	日本企業にとってのASEANについて考える。	
13	日・米・欧をめぐるビジネス事情とアジア	日・米・欧のアジア展開について考える。	
14	日本の国際ビジネスの今後	今後の日本企業の海外事業展開について展望する。	
15	総括	講義のまとめを行う。	

開講科目名 Course	経営統計論
時間割コード Course Code	30110
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	吉川 伸一
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	吉川 伸一 (経営学部)
授業の目標	<p>経営統計論および経営科学の基礎を習得する。それを土台として、経営統計論のさまざまな分析方法を、現実の経営に関する諸問題と関連付けて理解する。また、現実への応用が重要である。現実の経営活動で未知なる問題に出会ったときにも、現象を的確に捉え、本質を見抜いて柔軟に対処できる能力をつけることを目標とする。</p> <p>〔学習成果〕</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業で学んだ経営科学や企業事例について説明できる。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業の弱点を見つけ出し、改善の方法を提案できる。</li> <li>・ 情報端末から自分にとって有益な情報を素早く検索できる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経営科学の方法論に興味を持ち、概要をおおむね理解することができる。</li> <li>・ 理解した方法論について、他人に分かりやすく説明できる。</li> </ul>
授業の概要	<p>この授業は、今年度は対面授業となる。</p> <p>経営上の諸問題を解決するにあたり、経営統計論は問題の構造を明らかにし、それをモデル化し、そのモデルから導出される解を現実の問題解決に役立てようとするものである。したがって、これらの完全な理解のためには数学的知識が必要なことはいうまでもない。</p> <p>本講義では、まず統計学の初歩を学ぶ。それを礎として、経営統計論のさまざまな分析方法を紹介していく。</p> <p>毎回の授業の終わりに、次回の授業で実施する小レポートの内容を伝えるので、その内容について重点的に復習しておくこと。また、次回の授業で行う内容も伝えるので、それに沿って予習しておくことよ。</p> <p>質問への対応は、授業終了後またはオフィスアワーのときに受け付ける。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照のこと。</p>
評価方法	<p>成績評価のウェイトは以下のとおりとする。</p> <p>ミニレポート (25%)</p> <p>通常レポート (25%)</p> <p>期末試験 (40%)</p> <p>参加姿勢 (10%)</p> <p>授業内で行った小テストは採点する。理解度が良好でないと判断した部分については、次回授業で復習する。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席回数が13回に満たない場合</li> <li>・連続して3回欠席した場合</li> </ul> <p>特別な事情があって欠席した場合は、考慮する。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、統計学の初歩1</li> <li>2. 統計学の初歩2、線形計画法(1)</li> <li>3. 線形計画法(2)</li> <li>4. 線形計画法(3)</li> <li>5. 回帰分析と需要予測(1)</li> <li>6. 回帰分析と需要予測(2)</li> <li>7. 回帰分析と需要予測(3)</li> <li>8. 日程計画法(1)</li> <li>9. 日程計画法(2)、在庫管理(1)</li> <li>10. 在庫管理(2)</li> <li>11. 在庫管理(3)</li> <li>12. 在庫管理(4)</li> <li>13. 在庫管理(5)</li> <li>14. ABC分析</li> <li>15. 経営統計論の総復習とまとめ</li> </ol> <p>詳細については授業計画表を参照。</p>
テキスト	宮川公男監修「経営情報入門」実教出版
参考書	宮川公男他、「経営科学と情報処理」、実教出版
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了後に対応</li> <li>・メールで対応（メールアドレスは授業中に提示する）</li> </ul>
フィードバックの方法	・翌週返却または翌週口頭で述べる
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、次回テーマに関連する文献調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>7. 課題発見力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション 統計学の初歩1 出席のとり方や筆記試験の方法について説明する	筆記用具持参のこと	
2	統計学の初歩2 線形計画法(1)  商品の仕入れ問題, 最大化問題	線形計画法について予習をしておくのが望ましい。	
3	線形計画法(2)  目的関数, 制約条件, 図的解法	前回の授業の復習をしておくのが望ましい。	
4	線形計画法(3)  図的解法の手順, 最小化問題, 解が無い問題	前回の授業の復習をしておくのが望ましい。	
5	回帰分析と需要予測(1)  時系列データとは, 移動平均法, 最小二乗法, 誤差とは	前回の授業の復習をしておくのが望ましい。	
6	回帰分析と需要予測(2)  説明変数及び被説明変数, 単回帰モデル, 重回帰モデル	前回の授業の復習をしておくのが望ましい。	
7	回帰分析と需要予測(3)  単回帰モデルの例, 重回帰モデルの例	前回の授業の復習をしておくのが望ましい。	
8	PERT(1)  PERTとは, 先行作業表, PERT図, 最早開	前回の授業の復習をしておくのが望ましい。	
9	PERT(2) 在庫管理(1)  PERTの問題演習と解答 なぜ在庫必要か	前回の授業の復習をしておくのが望ましい。	
10	在庫管理(2)  各在庫費用, 最適発注量	前回の授業の復習をしておくのが望ましい。	
11	在庫管理(3)  総費用関数と凸性,	前回の授業の復習をしておくのが望ましい。	
12	在庫管理(4)  EOQモデル, 需要が確率的な場合の期待利益・期待機会損失	前回の授業の復習をしておくのが望ましい。	
13	在庫管理(5)  定量発注方式と定期発注方式, ABC分析	前回の授業の復習をしておくのが望ましい。	
14	損益分岐点分析  損益分岐点分析とは	前回の授業の復習をしておくのが望ましい。	
15	経営統計論の総復習とまとめ	初回の授業からの復習をしておくのが望ましい。	

開講科目名 Course	情報システムの理論と実際
時間割コード Course Code	30120
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	小川 哲司
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小川 哲司 (経営学部)
授業の目標	<p>現代社会において、情報システムはガスや電気などと同じように重要なインフラの一部となっている。また、情報は企業経営において人、物、金に次ぐ第4の経営資源とみなされており、それを実現するのが情報システムである。</p> <p>これらの状況を踏まえて、本講義では情報システムの役割や開発方法などを理解して、企業経営における情報システムの位置付けや活用方法を理解することを目標とする。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 情報システムの役割を理解して、情報システムと社会の繋がりを説明できるようになる。</p> <p>技能の領域 情報システムを構成する技術的な知識を習得して、情報システムの開発工程が理解できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 企業経営と情報システムの関係に関心を向けることができ、情報システムに対する考察ができるようになる。</p>
授業の概要	<p>身近な情報システムの事例から社会における情報システムの役割を理解した後、情報システムを構成するサーバ、データベースなどについて解説をする。また情報システムのライフサイクル、開発プロセスなどを学ぶ。</p> <p>さらに情報システムを開発するには、プログラミングが必要であることから、プログラミング実習も取り入れていく。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照のこと。</p> <p>本授業では、コンピュータを用いた演習を含むので、学生はノートPCを持参すること。</p>
評価方法	評価方法 レポート課題 (50%) 期末レポート課題 (50%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合



授業計画	第1回 情報システムの概要と役割 第2回 情報システムの事例 鉄道 第3回 情報システムの歴史 第4回 企業における情報システム (ERP、SCM、CRM) 第5回 情報システムにおけるOSの役割 第6回 情報システムにおけるサーバの役割 第7回 情報システムにおけるネットワークの役割 第8回 情報システムにおけるデータベースの役割 第9回 データベースの実習 第10回 システムインテグレータの役割 第11回 情報システムの開発プロセス 第12回 プログラミング実習 第13回 プログラミング実習 第14回 情報システムとデジタルトランスフォーメーション 第15回 情報システムの最新技術動向
テキスト	教員が作成する資料を配布して、授業を進める。
参考書	魚田 勝臣ほか、「コンピュータ概論 第8版: 情報システム入門」共立出版 小佐野 市男「情報システム超入門」幻冬舎 下田 幸祐, 飯田 哲也 「企画立案からシステム開発まで 本当使えるDXプロジェクトの教科書」日経BP
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	PCを用いた実習を含む
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 情報通信業界にて情報システムの開発経験を有する教員が、情報システムの特長や開発手法について実践的な観点より解説する科目である。
質問への対応方法	基本的にはメールで回答する。
フィードバックの方法	翌週の授業までに返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、次回テーマに関連する文献調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	情報システムの進化と役割	情報通信技術の進展に伴う情報システムの進化を確認する。また情報システムの視点から、ビッグデータの収集と蓄積機能と、その活用事例を見ていく。	応用基礎レベル2-1
2	コンピュータの歴史	機械式コンピュータから現代にいたるまでのコンピュータの歴史を辿りながら、現代のコンピュータの構成や機能を確認する。	
3	コンピュータにおけるOSの役割	コンピュータにおけるOSの役割と種類などについて確認をする。	
4	コンピュータで扱うデータ	コンピュータで扱うデータの特性として、二進数、文字コード、情報量の単位(ビット、バイト)などを確認する。また数値、文章、画像、音声、動画などについても触れる。	応用基礎レベル2-2
5	情報システムにおけるネットワーク	情報システムにおけるネットワークの役割、回線種別、技術などについて解説する。	
6	情報システムの事例：鉄道	企業の情報システムとして、鉄道会社の事例を取り上げて、考察をする。	
7	情報システムの歴史と種類	情報システムの歴史や進化について確認をして、現在の立ち位置について解説をする。	
8	企業における情報システム(ERP、SCM、CRM)	企業における情報システムとして、ERP、SCM、CRMなどを取り上げる。	
9	情報システムにおけるデータベース	情報システムにおけるデータベースの役割などについて解説をする。データの種類(構造化データ、非構造化データ)	応用基礎レベル2-2
10	システムインテグレータの役割	情報システムにおけるシステムインテグレータの役割を確認する。	
11	情報システムの開発プロセス	情報システムの開発プロセスを確認する。	
12	情報システムにおけるプログラミング、実習	VBAを用いたプログラミングの実習を行う。	
13	情報システムにおけるプログラミング、実習	Pythonを用いたプログラミングの実習を行う。	
14	情報システムとデジタルトランスフォーメーション	Amazon社の事例を取り上げて、ビッグデータを収集と蓄積して、ビジネスへの活用事例を解説する。またクラウドサービスの利点や活用方法についても触れる。	応用基礎レベル2-1
15	情報システムの最新技術動向	AIについての歴史(推論、探索、機械学習、深層学習など)、分類(強いAI/弱いAI)、実現できること(学習、認識、予測・判断など)などを押さえた上で、情報システムにおけるAI技術の活用領域の広がりを確認する。	応用基礎レベル3-1

開講科目名 Course	情報システムの世界 / World of Information Systems
時間割コード Course Code	30130
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	吉川 伸一
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	吉川 伸一 (経営学部)
授業の目標	<p><b>【授業の目標】</b> この授業では、我々を取り巻く社会に存在する情報システムや企業及び企業間で使われている情報システムの構造や実態について学ぶ。前者の情報システムでは、どのような情報システムが存在し、我々は生活している上でどのようなサービス・恩恵を受けているかを学ぶ。後者では、情報システムの導入により、ビジネス活動全般がネットワーク化されたシステムで徹底的に効率化されていることを学ぶ。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・情報システムを構築するために必要なコンピュータ及びネットワークの知識を身に着けている。</li><li>・産業社会や企業経営における情報システムの役割や構造が理解できる。</li></ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・情報システムの役割や構造を他人に説明できる。</li><li>・新しい情報システムの設計・開発ができる。</li></ul> <p>態度・志向性の観点</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・注目を集めている企業の情報システムについて自ら進んで調べるようになる。</li></ul> <p>思考・判断の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・企業内の至る所で行われている情報システムの違いや特徴の発見について独自の着眼点を持つことができる。</li></ul> <p>関心・意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・生活する上で身近な情報システム及び企業の情報システムに関心を持つことができる。</li><li>・情報システム関連の記事に関心を持つことができる。</li></ul> <p>体験・探究の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・同じ業界における情報システムでも、経営戦略の違いなどから異なる部分がある事実を体験できる。</li></ul>

授業の概要	<p>今年度はこの授業は対面授業となる。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>情報社会を到来させ、進展させてきたのは、情報資源を開拓するツールとしてのコンピュータの影響が大きい。また、インターネットをはじめとするIT技術を活用することによって企業内及び企業間において情報システムを構築し、瞬時の情報共有や業務の効率化を目指している。さらに、日々続けられる経営活動により企業などの経営活動体では膨大な情報を抱えており、それを効率よく経営に活用するためにデータベース化されている。そのような背景下、産業界ではインターネットビジネスが隆盛してきている。</p> <p>今日は情報社会と言われ、情報化の進展は、産業社会や企業経営に大きな影響を与えている。社会全体における情報化の進展には目を見張るところがある。本講義では、実社会における情報システムの実態や構造について学び、理解することを目的とする。また、今後誕生するであろう新しいビジネスの様相を捉えて、受講者全員が新しい情報システムの設計・開発について基礎的な知識を持つことができるようになることも視野に入れたい。</p> <p>毎回の授業の終わりに、次回の授業で実施する小レポートの内容を伝えるので、その内容について重点的に復習しておくこと。また、次回の授業で行う内容も伝えるので、それに沿って予習しておくことが望ましい。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照のこと。</p>
評価方法	<p>参加姿勢：10%、ミニレポート：30%、通常レポート：30%、期末試験：30%</p> <p>授業内で課したミニレポートを毎回チェックする。理解が不足していると判断した箇所については、次回の授業の最初に復習する。</p> <p>通常レポートを1回実施する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席回数が13回に満たない場合</li> <li>・連続して3回欠席した場合</li> </ul> <p>特別な事情があって欠席した場合は、考慮する。</p>
授業計画	<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ネットワーク全般に関する基礎知識、インターネットの仕組みと役割</li> <li>2. BtoB、BtoC、CtoC（エスクローサービス）、データベースとは何か</li> <li>3. 我々の暮らしを支える情報システム、グーグルクラスルームによるコンビニやスーパーの情報システム（1）</li> <li>4. コンビニやスーパーの情報システム（特にPOSシステム）（2）</li> <li>5. 銀行の情報システム</li> <li>6. 証券取引の情報システム</li> <li>7. 自動車産業における情報システム</li> <li>8. 車載情報システム</li> <li>9. 医療情報システム</li> <li>10. 教育現場における情報システム</li> <li>11. 災害発生時、情報システムはどう動くか</li> <li>12. 経営意思決定・企業戦略立案のための情報システムの例</li> <li>13. 情報システムの進化</li> <li>14. 情報システムの課題、情報システムの今後</li> <li>15. 全体のまとめ・補足と振り返り</li> </ol> <p>定期試験</p>
テキスト	教員が作成したオリジナルの教材を配布し、授業を進める。
参考書	<p>【参考書・参考資料等】</p> <p>川合 慧（監修）、駒谷昇一（編著）：ITテキスト（一般教育シリーズ）情報と社会、オーム社</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・Slido（スライド）を用いて質問を行い、それに対する回答を求めることがある。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了後に対応</li> <li>・メールで対応（メールアドレスは授業中に提示する）</li> </ul>
フィードバックの方法	・翌週返却または翌週口頭で述べる

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、次回テーマに関連する文献調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	人的資源管理論
時間割コード Course Code	30150
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	大曾 暢烈
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大曾 暢烈 (経営学部)
授業の目標	<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"><li>人的資源管理論の基本的な概念や考え方を理解すること。</li><li>人的資源管理論の概念や考え方をを用いて、現実の経営現象を理解・分析できるようになること。</li></ol> <p>【学習成果】</p> <p>知識・理解の領域 人的資源管理（ヒトのマネジメント）の仕組み・全体像を理解することができる。</p> <p>技能の領域 人的資源管理（ヒトのマネジメント）の基本的な知識を用いて、問題発見、問題解決する力を身につけることができる。</p> <p>関心・意欲の領域 人的資源管理（ヒトのマネジメント）に関して、問題意識と洞察を持つことができる</p>
授業の概要	<p>本講義は、「ヒト」のマネジメントについて学習します。不確実な環境の中で、価値を創造し、企業の競争力の源泉となるヒト（人的資源）は、ますます重要な存在となります。そして、ヒトをいかにマネジメントするのかということが、企業経営に大きな影響を与えられていると考えられています。</p> <p>本講義は、ヒトの採用から育成、評価など、人的資源管理の諸活動を体系的に学ぶことを目指します。</p> <p>授業の進め方・注意事項については、第1回講義にて説明します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	期末試験100%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席が多い場合は、失格となります。

授業計画	第1回 オリエンテーション、人的資源管理とは 第2回 人間モデル 第3回 従業員の心理的側面 第4回 組織設計 第5回 採用・異動 第6回 人材育成 第7回 人事評価 第8回 昇進・昇格 第9回 賃金制度 第10回 安全・衛生のマネジメント 第11回 労使関係 第12回 女性労働・高齢者雇用 第13回 非正規雇用 第14回 裁量労働・在宅勤務 第15回 ワーク・ライフ・バランス
テキスト	上林憲雄・厨子直之・森田雅也（2018）『経験から学ぶ人的資源管理 新版』有斐閣
参考書	以下の書籍についても、参考にしてください。その他、適宜紹介します。 今野浩一郎・佐藤博樹（2020）『人事管理入門 第3版』日本経済新聞出版社 奥林康司・上林憲雄・平野光俊 編著（2010）『入門 人的資源管理 第2版』中央経済社 上林憲雄 編著（2015）『人的資源管理 ベーシック+』中央経済社 佐藤博樹・藤村博之・八代充史（2019）『新しい人事労務管理 第6版』有斐閣 関口倫紀・竹内規彦・井口知栄 編著（2016）『国際人的資源管理ベーシック+』中央経済社 開本浩矢 編著（2019）『組織行動論 ベーシック+』中央経済社 平野光俊・江夏幾多郎（2018）『人事管理 人と企業、ともに生きるために』有斐閣 八代充史（2019）『人的資源管理論【理論と制度】第3版』中央経済社
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後に対応する。
フィードバックの方法	授業中に行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、予習2時間、復習2時間が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	流通論 / Principles of Market Distribution
時間割コード Course Code	30160
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	山下 幸裕
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山下 幸裕 (経営学部)
授業の目標	<p>本講義では、商品が生産から販売までの間に、どのような手段で運ばれ、どのような人たちが関与し、どのように消費者に渡るのか、流通論の基礎知識を習得することを目標とします。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の観点 流通の基本的な役割を簡単に説明できる。 流通分野で用いられる専門的な用語の意味を理解し説明できる。</p> <p>思考・判断の観点 業種・業態別に小売業を取り巻く状況を理解し、現状の問題点について自分なりの意見を述べる ことができる。</p> <p>関心・意欲の観点 業績が著しく伸びている業種・業態の流通について関心を持つ。</p> <p>態度の観点 身近にある小売業の流通について自ら進んで調べるようになる。</p> <p>技能・表現の観点 流通に関する専門誌や論文を読解することができる。</p> <p>体験・探究の観点 流通論の基礎を身に付けることで、日頃の買い物の際に、商品がどのような過程を経て、店頭 に並んでいるかをイメージすることができる。</p>
授業の概要	<p>本講義では、生産者と消費者をつなぐ流通の意義を学びます。私たちは、お店で買い物することなしに日々の生活を送ることは非常に困難です。</p> <p>私たちの周りにはたくさんのお店があり、欲しいモノがあればすぐに購入することができます。お腹がすけば、おにぎりやパンをコンビニで買うことができ、新しいスマートフォンが欲しければ、専門店や家電量販店に行けば買えます。しかし、私たちは、どこに行けば欲しいモノが買えるのかは知っていますが、そのモノが "どこから" "どうやって" 来るのかを知っている人は多くないでしょう。</p> <p>流通という仕組みが、どうして誕生したのか、物流手段や情報通信技術の発展、生活様式の変化、グローバル化といった外界の変化にどうやって対応してきたのか、流通論・商業論の基本を学びます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HP のナンバリングを参照すること。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大により授業形態の変更が必要になった場合は、講義内容や評価方法などを大きく変更する場合があります。</p>
評価方法	期末テスト100%で評価します。



教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席が5回を超えた場合は失格となります。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、流通とは</p> <p>第2回 百貨店と総合スーパー</p> <p>第3回 食品スーパーとコンビニエンス・ストア</p> <p>第4回 ディスカウント・ストアとSPA</p> <p>第5回 商店街とショッピングセンター</p> <p>第6回 小売業態とは何か</p> <p>第7回 小売を支えるロジスティクス</p> <p>第8回 インターネット技術と新しい小売業態</p> <p>第9回 小売を支える卸</p> <p>第10回 流通構造とその変容</p> <p>第11回 日本型取引慣行</p> <p>第12回 小売を中心とした取引慣行</p> <p>第13回 売買集中の原理と品揃え形成</p> <p>第14回 商業とまちづくり</p> <p>第15回 製販連携の進展</p> <p>状況に応じて授業計画を変更する場合があります。</p>
テキスト	石原武政・竹村正明・細井謙一「1からの流通論（第2版）」碩学舎
参考書	<p>石原武政・矢作敏行「日本の流通100年」有斐閣</p> <p>原田英生・向山雅夫・渡辺達郎「ベーシック流通と商業〔第3版〕」有斐閣</p> <p>崔相鐵・岸本徹也「1からの流通システム」碩学舎</p> <p>石川和男「基礎からの商業と流通（第3版）」中央経済社</p> <p>佐々木聡「日本的流通の経営史」有斐閣</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	オフィスアワーと講義終了後に対応します。
フィードバックの方法	講義中に実施します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	準備学習として、各回、指定テキストを用いた予習（2時間）と復習（2時間）を必要とします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	流通論 / Principles of Market Distribution
時間割コード Course Code	30161
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	山下 幸裕
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山下 幸裕 (経営学部)
授業の目標	<p>本講義では、商品が生産から販売までの間に、どのような手段で運ばれ、どのような人たちが関与し、どのように消費者に渡るのか、流通論の基礎知識を習得することを目標とします。</p> <p>&lt;学習成果&gt;  知識・理解の観点  流通の基本的な役割を簡単に説明できる。  流通分野で用いられる専門的な用語の意味を理解し説明できる。  思考・判断の観点  業種・業態別に小売業を取り巻く状況を理解し、現状の問題点について自分なりの意見を述べる  ことができる。  関心・意欲の観点  業績が著しく伸びている業種・業態の流通について関心を持つ。  態度の観点  身近にある小売業の流通について自ら進んで調べようになる。  技能・表現の観点  流通に関する専門誌や論文を読解することができる。  体験・探究の観点  流通論の基礎を身に付けることで、日頃の買い物の際に、商品がどのような過程を経て、店頭  に並んでいるかをイメージすることができる。</p>
授業の概要	<p>本講義では、生産者と消費者をつなぐ流通の意義を学びます。私たちは、お店で買い物することなしに日々の生活を送ることは非常に困難です。</p> <p>私たちの周りにはたくさんのお店があり、欲しいモノがあればすぐに購入することができます。お腹がすけば、おにぎりやパンをコンビニで買うことができ、新しいスマートフォンが欲しければ、専門店や家電量販店に行けば買えます。しかし、私たちは、どこに行けば欲しいモノが買えるのかは知っていますが、そのモノが "どこから" "どうやって" 来るのかを知っている人は多くないでしょう。</p> <p>流通という仕組みが、どうして誕生したのか、物流手段や情報通信技術の発展、生活様式の変化、グローバル化といった外界の変化にどうやって対応してきたのか、流通論・商業論の基本を学びます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HP のナンバリングを参照すること。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大により授業形態の変更が必要になった場合は、講義内容や評価方法などを大きく変更する場合があります。</p>
評価方法	期末テスト100%で評価します。

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席が5回を超えた場合は失格となります。
授業計画	第 1 回 ガイダンス、流通とは 第 2 回 百貨店と総合スーパー 第 3 回 食品スーパーとコンビニエンス・ストア 第 4 回 ディスカウント・ストアとSPA 第 5 回 商店街とショッピングセンター 第 6 回 小売業態とは何か 第 7 回 小売を支えるロジスティクス 第 8 回 インターネット技術と新しい小売業態 第 9 回 小売を支える卸 第10回 流通構造とその変容 第11回 日本型取引慣行 第12回 小売を中心とした取引慣行 第13回 売買集中の原理と品揃え形成 第14回 商業とまちづくり 第15回 製販連携の進展 状況に応じて授業計画を変更する場合があります。
テキスト	石原武政・竹村正明・細井謙一「1からの流通論（第2版）」碩学舎
参考書	石原武政・矢作敏行「日本の流通100年」有斐閣 原田英生・向山雅夫・渡辺達郎「ベーシック流通と商業〔第3版〕」有斐閣 崔相鐵・岸本徹也「1からの流通システム」碩学舎 石川和男「基礎からの商業と流通（第3版）」中央経済社 佐々木聡「日本的流通の経営史」有斐閣
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	オフィスアワーと講義終了後に対応します。
フィードバックの方法	講義中に実施します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	準備学習として、各回、指定テキストを用いた予習（2時間）と復習（2時間）を必要とします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	簿記I(株式会社会計)
時間割コード Course Code	30190
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	中村 壽男
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 壽男(経営学部)
授業の目標	<p>個人企業の会計処理と株式会社の会計処理の相違を把握した後、株式会社の設立、日々の会計業務から決算までのプロセスを理解する。そして、決算書(貸借対照表、損益計算書)を作成するスキルを身につけることができるようにする。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 中小株式会社の決算書を作成するスキルを習得する。</p> <p>技能の領域 複式簿記の原理原則およびその体系と応用力を身につける。</p> <p>態度・志向性の領域 日商簿記検定2級の商業簿記分野をカバーするため、同検定にチャレンジすることを目指す。</p>
授業の概要	<p>本講義は、日本商工会議所簿記検定試験2級の商業簿記分野を対象とする。したがって、株式会社の会計処理がその中心となる。株式会社の設立、日々の会計業務から決算までのプロセスを通じて、各種取引の会計処理・記帳関係を学習するが、その際、単に処理・記帳面にとどまらず、それら会計事象の内容・意味合いをあわせて理解することに努める。また、ひとつの会計事象に複数の会計処理方法が認められているような場合には、それぞれの会計処理方法を比較して、どのような会計効果をもたらされるのかを検討することにより、具体的・事例的に講義を展開していく。なお、講義手法としては例題を提供し、株式会社の決算書(貸借対照表や損益計算書など)を作成するスキルを身につけることができるようにする。そのためには、当該回の例題を再度復習するように努めていただきたい。</p> <p>なお、講義内容等の質問については随時対応する。わからないまま放置することのないようされたい。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンパリングを参照すること。</p>
評価方法	Google Formsなどを活用した課題への取り組み(50%)および期末課題(50%)から、総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合および連続して3回欠席した場合には失格とする。

授業計画	<p>第1回：株式会社の設立と純資産  第2回：増資（新株の発行）  第3回：剰余金の処分  第4回：社債の発行と償還  第5回：株式会社の税金  第6回：有価証券取引（決算整理を含む）  第7回：固定資産取引（決算整理を含む）  第8回：外国企業との取引  第9回：その他の決算整理（商品勘定の整理）  第10回：その他の決算整理（債権の種類と貸倒れの見積もり）  第11回：その他の決算整理（収益・費用の見越しと繰り延べ）  第12回：決算（精算表の作成1）  第13回：決算（精算表の作成2）  第14回：帳簿決算と財務諸表の作成  第15回：キャッシュフロー計算書</p> <p>なお、簿記科目の特徴として前回の講義内容の理解なしに、今回の講義内容を理解することが困難となる。そのため予習はもとより、各回の講義後の復習に相応の時間を確保する必要がある。</p>
テキスト	『要説株式会社簿記』（名古屋経済大学）1,000円（税込） 初回に配本する。
参考書	日本商工会議所簿記検定試験2級に関する問題集等
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	簿記検定試験委員として培った経験より、大学で学ぶ簿記の学習成果を確認するため、日本商工会議所簿記検定試験へのチャレンジを奨励している。
質問への対応方法	学習内容等の質問については随時対応する。わからないまま放置することのないようされたい。
フィードバックの方法	提供した課題については、翌週に講評する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	今回の課題を配信するので、2時間程度の予習を要す。 また、前回の課題の解答を配信するので、理解度確認のため2時間程度の復習を要す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	簿記II(製造業会計)
時間割コード Course Code	30200
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	中村 壽男
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 壽男(経営学部)
授業の目標	<p>製造業における経理処理のしくみと製品の製造原価算定の構造(個別原価計算)を理解する。</p> <p>&lt;学習成果&gt;  知識・理解の領域  製造業の経理処理と個別原価計算構造を習得する。  技能の領域  複式簿記の原理原則およびその体系と応用力を身につける。  態度・志向性の領域  日商簿記検定2級の工業簿記分野(個別原価計算まで)をカバーするため、将来同検定にチャレンジすることを目指す。そのためには簿記(製造業会計)を履修後、後期開講科目「原価計算」を履修されたい。</p>
授業の概要	<p>製造業は、原材料を購入し、それを加工し製品を完成させる。ここで重要なのは、生産された製品の原価を測定することである。そこで、複式簿記の原理を利用して、製品が完成するまでのプロセスを体系的に学習し、製品の製造原価算定の構造を修得する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	Google Formsなどを活用した課題への取り組み(50%)および期末課題(50%)から、総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合および連続して3回欠席した場合には失格とする。

授業計画	<p>第1回：製造業と個別原価計算  第2回：製造業の勘定体系  第3回：材料費の計算（1）材料消費高の算出  第4回：材料費の計算（2）予定価格による材料消費高の計算  第5回：労務費の計算（1）賃金消費高の算出  第6回：労務費の計算（2）予定賃率による賃金消費高の計算  第7回：経費の計算 経費の消費高  第8回：製造間接費の配賦（実際配賦）  第9回：製造原価と原価計算表  第10回：製造間接費の配賦（予定配賦）  第11回：製品の完成と販売  第12回：製造原価報告書  第13回：部門費の計算（1）部門別計算のしくみ  第14回：部門費の計算（2）部門別計算の手順  第15回：本社・工場間の取引</p> <p>なお、簿記科目の特徴として、前回の講義内容の理解なしに、今回の講義内容を理解することは困難となる。そのため、予習はもとより、各回の講義後復習に相応の時間を確保する必要がある。</p>
テキスト	『製造業会計入門 工業簿記と個別原価計算』（名古屋経済大学）1,000円（税込）初回に配本する。
参考書	日本商工会議所簿記検定試験2級に関する問題集等
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	簿記検定試験委員として培った経験より、大学で学ぶ簿記の学習成果を確認するため、日本商工会議所簿記検定試験へのチャレンジを奨励している。
質問への対応方法	学習内容等の質問については随時対応する。わからないまま放置することのないようされたい。
フィードバックの方法	提供した課題については、翌週に講評する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	今回の課題を配信するので、2時間程度の予習を要す。 また、前回の課題の解答を配信するので、理解度確認のため2時間程度の復習を要す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	財務会計
時間割コード Course Code	30220
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	荒鹿 善之
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒鹿 善之 (経営学部)
授業の目標	<p>企業が所有する資産の額や抱えている負債の額、および1年間で得た利益の額などの情報を様々な人々に提供する手続きを会計といいます。それらの情報提供は、財務諸表と呼ばれる媒体によって行われます。</p> <p>情報を受け取った人々は、その企業に投資をするかどうか、資金の貸し付けを行うかどうか、また商品売買などの取引を継続するかどうかといった重要な判断をします。したがって、会計は企業外部の多くの人々の意思決定に重要な影響を与える手続きといえます。</p> <p>本講義においては、このような会計の役割を踏まえた上で、財務諸表がどのようにして作成されるのかを学び、基本的な会計ルールの修得を目標とします。</p> <p>学習成果 知識・理解の領域 財務諸表における項目の記載方法と金額の計算方法といった、財務諸表作成のためのルールを修得します。</p> <p>技能の領域 練習問題を解きながら、財務諸表に記載される金額の計算方法を修得します。</p> <p>態度・志向性の領域 日本の会計ルールのみならず、国際的に統一されたルールに関する知識の修得も目指します。</p>
授業の概要	企業が1年間を通じて行った経営活動の成果が、どのようにして財務諸表に記載されるのかについて、基本的なルールを中心に学びます。また、そのようなルールについての理解を深めるために、問題演習にも取り組みます。
評価方法	期末試験の結果を重視して評価します。 期末試験 95% 練習課題 5%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	他の授業同様、欠席回数が多い場合は失格になることがあります。



授業計画	<p>第1回 授業ガイダンス</p> <p>第2回 財務会計の基本的役割</p> <p>第3回 貸借対照表とその内容</p> <p>第4回 資産の基礎概念</p> <p>第5回 負債と純資産の基礎概念</p> <p>第6回 損益計算書の概要</p> <p>第7回 利益の計算と区分表示</p> <p>第8回 連結財務諸表の役割と必要性</p> <p>第9回 連結財務諸表原則について</p> <p>第10回 支配の概念と親会社・子会社</p> <p>第11回 資本連結の基礎</p> <p>第12回 外貨換算の会計処理（外貨建取引の換算）</p> <p>第13回 外貨換算の会計処理（外貨建金銭債権・債務の換算）</p> <p>第14回 会計基準の国際的統一化</p> <p>第15回 国際財務報告基準と日本の会計基準</p> <p>各回について、予習・復習時間をしっかりと確保して下さい。</p>
テキスト	必要に応じてプリントを配布します。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	日商簿記検定試験委員の担当経験がある教員によって行われる授業です。受講生は「基本簿記」やその他の簿記・会計科目の知識を生かしつつ、仕訳の応用問題に取り組む場合があります。
質問への対応方法	随時対応します。
フィードバックの方法	レポート、課題などは翌週に返却して解答・解説を行う予定です。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	必要に応じて資料を配付します。配付された資料に事前に目を通し、授業内容の理解度向上に努めます。また、復習については随時課題を課します。理解した内容のアウトプットを行うことで、学習内容の定着を目指します。（予習・復習各2時間）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	管理会計と財務分析
時間割コード Course Code	30230
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	西村 好文
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	西村 好文 (経営学部)
授業の目標	この講義では管理会計分野の基礎理論を学ぶ。企業経営の現場における管理会計技法を検討することや財務諸表分析に関する基本的な手法を考察する。管理会計に関する様々な問題に対して、自身の発言や自身で問題点を整理することができるようになることを到達目標とする。
授業の概要	本講義では、初学者を対象とする。基本的な管理会計技法への理解を通じて、通説や常識を改めて問い直し、実務における管理会計技法について考えるきっかけを見出すことを目標とする。また、財務諸表分析については、基本的な手法の体系的な理解を目的として、企業財務に関する身近な事例を取り上げる予定である。 そのため、講義では教科書を基に、演習問題の課題を通して、基本的な管理会計技法についての理解を深めていく内容である。
評価方法	レポートを主たる評価基準（80％）として、授業での質問等による参加貢献（20％）を評価の対象とする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 管理会計は経営システムの要 第3回 利益とは何なのか 第4回 勘定合って、銭足らず 第5回 どの組織単位の業績を、何で測るのか 第6回 原価計算がもたらす情報と歪み 第7回 事業部の利益計算はむつかしい 第8回 「つつい」の資産増加を防ぐには 第9回 アメーバ経営と時間当たり採算 第10回 予算管理のウソ・マコト 第11回 投資採算予算の方法と落とし穴 第12回 研究開発管理システムの「最適なゆるさ」とは？ 第13回 財務分析 第14回 財務分析 第15回 会計を武器にする経営：まとめ
テキスト	伊丹敬之・青木康晴『現場が動き出す会計 - 人はなぜ測定されると行動を変えるのか』日本経済新聞出版（2020年）
参考書	櫻井通晴『管理会計〔第七版〕』同文館出版（2019年）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	講義時にコメントペーパーを配付し、集約の上で次回の講義で対応。
フィードバックの方法	フィードバックは必要に応じて、あるいは都度対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	本講義では、予習の時間に比重を置き、関心を持って読み進めていく予習を心掛けてほしい。 なお、演習問題を毎回予定しているので、講義時には電卓を持参すること。必要に応じて、適宜資料を配付する予定である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> <li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li> <li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> <li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 住み続けられるまちづくりを</li> <li>12. つくる責任つかう責任</li> <li>13. 気候変動に具体的な対策を</li> <li>14. 海の豊かさを守ろう</li> <li>15. 陸の豊かさを守ろう</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> <li>17. パートナーシップで目標を達成しよう</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>3. 統率力</li> <li>4. 感情制御力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>6. 行動持続力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

開講科目名 Course	ベンチャービジネス
時間割コード Course Code	30240
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	李 美善
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 美善 (経営学部)
授業の目標	<p>本講義では、経営学の基本的な考え方や枠組みを理解し、ケーススタディを通してベンチャービジネスに関する体系的かつ実践的な知識を習得することを目標とする。</p> <p>知識の領域 授業で学んだ企業経営およびベンチャービジネスに関する基本的な知識について、自分が理解したことを説明できる。</p> <p>技能の領域 企業経営やベンチャービジネスについてケーススタディを通じて学ぶことによって、経営の知識が身につく。さらに、毎時限、グループワーク・グループディスカッションや発表を通して自分の考えを述べることを行う。それを繰り返すことによって自分の考えを論理的に述べることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 様々な角度からものごとを解釈できる人となることを目指す。</p>
授業の概要	<p>急速な技術革新やグローバル化により企業間の競争が激化している今日、企業を取り巻く経営環境は大きく変化している。こうした激しい変化のなかで、企業を持続的に発展させることは容易ではない。その中で、ベンチャービジネスを成功させるための方法をみなさんと一緒に探っていきたい。そこでまず、企業とはなにか、経営とはなにか、経営環境とはなにか、わたしたちの社会や生活にどのように関係しているのかなど基礎知識を学び、さまざまな企業のケースを紹介しながら、高い成果を上げて成功している企業やベンチャー企業の秘策について考えることにする。</p> <p>アクティブラーニング及びディスカッション グループディスカッション・グループワーク及び発表を行う</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること</p>
評価方法	試験50%、平常点50%(授業への積極的参加：発言など取り組み姿勢やグループワーク及び発表・提出レポートの質)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が 13回に満たない場合は失格とする。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 経営とは</li> <li>3. 経営戦略とは</li> <li>4. 経営戦略と外部環境</li> <li>5. 外部環境分析(1)・・・成長戦略</li> <li>6. 外部環境分析(2)・・・競争戦略、市場地位別戦略</li> <li>7. マーケティングの基本</li> <li>8. マーケティング戦略</li> <li>9. 経営環境と内部環境</li> <li>10. ベンチャービジネスの基本</li> <li>11. ベンチャービジネスとイノベーション</li> <li>12. ビジネスアイデアの創出(ブレインストーミング&amp;意見収集)</li> <li>13. ビジネスアイデアの創出(アイデアのまとめ&amp;PPT資料づくり)</li> <li>14. プレゼンテーション大会</li> <li>15. 総括</li> </ol> <p>*内容は受講生の状況に応じて少し変更する可能性もある。</p>
テキスト	特に指定しない。講義時に必要な資料を配布する。
参考書	『1からの経営学(第3版)』加護野忠男 有斐閣 2021 『経営学検定試験公式テキスト1 経営学の基本』経営能力開発センター 中央経済社 2015 『企業論 第4版』三戸 浩、池内 秀己、勝部 伸夫 有斐閣 2018 『ベンチャー起業』実戦教本』大前研一 プレジデント社 2006
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	本講義では「創造力」、「思考力」、「主体性」、「協調性」、「柔軟性」、「知識」を身につけるため適時に下記のアクティブラーニングを行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営に関する課題を中心にグループワーク・グループディスカッションを行う。</li> <li>・グループ毎で課題を議論し、アイデア・解決方法を提案する。</li> <li>・グループ毎に発表を行う。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応する。
フィードバックの方法	授業内で課したレポートなどは確認後、随時フィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、予習2時間、復習2時間が必要である。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容や課題に関連する資料調べおよびレポート作成</li> </ul>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> <li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li> </ol>
SDGs 17の目標(11~17)	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 住み続けられるまちづくりを</li> <li>12. つくる責任つかう責任</li> <li>13. 気候変動に具体的な対策を</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> <li>17. パートナリシップで目標を達成しよう</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>3. 統率力</li> <li>4. 感情制御力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>6. 行動持続力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

開講科目名 Course	地域産業論
時間割コード Course Code	30280
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	徐 誠敏
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	徐 誠敏 (経営学部)
授業の目標	<p>本授業では、各地域の産業の活性化を図るとともに、それぞれの地域ブランド競争力を強化することで、地域経済の活力の回復につながった成功事例の分析を通して、地域産業振興のあり方に関する基本的な考え方や知識を身につけます。またその土台にICT(情報通信技術)の有効活用がある実態を理解することで、情報社会の職業観を育てます。</p> <p>学習成果</p> <p>(1) 地域産業の活性化を図るための基本的な知識・ノウハウを身につけることができる。</p> <p>(2) ブランディングに関する基本的な考え方や用語を身につけることができる。</p> <p>(3) 問題解決能力を高めることができる</p> <p>(4) 地域産業の活性化と情報活用能力の関係が理解できる。</p>
授業の概要	<p>近年、「地域おこし」「地域づくり」「地域産業活性化」「地域ブランドづくり」という言葉をよく耳にするようになりました。その背景には、現在急速に進行しつつある少子高齢化問題、著しい人口減少による地域社会の崩壊などが挙げられます。今まさに、日本の地域は大きな転換期を迎えているといえます。</p> <p>このような厳しい状況の中、地域ブランド・マネジメントの視点で、地域経済や地域産業を見事によみがえらせたさまざまな成功事例をよりおもしろく、よりビジュアルに、わかりやすく解説します。</p> <p>またどの産業分野においても業務の現場では情報活用が不可欠であるので、ICT(情報通信技術)活用事例と人材の活躍に焦点を置いた授業を充実させ、情報社会に相応しい職業観を育てます。</p>
評価方法	授業の出席率や姿勢・態度(25点)、中間レポート(25点)、期末テスト(50点)を総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>第1回 授業の概要と進め方、地域が持つ意味とその重要性</p> <p>第2回 第1次産業の定義とそれに該当する業種、ICT(情報通信技術)活用事例(1)</p> <p>第3回 第2次産業の定義とそれに該当する業種、ICT(情報通信技術)活用事例(2)</p> <p>第4回 第3次産業の定義とそれに該当する業種、ICT(情報通信技術)活用事例(3)</p> <p>第5回 第4次産業の定義とそれに該当する業種、ICT(情報通信技術)活用事例(4)</p> <p>第6回 第5次産業の定義とそれに該当する業種、ICT(情報通信技術)活用事例(5)</p> <p>第7回 第5次産業の定義とそれに該当する業種、ICT(情報通信技術)活用事例(6)</p> <p>第8回 第6次産業の定義とそれに該当する業種、ICT(情報通信技術)活用事例(7)</p> <p>第9回 第6次産業の定義とそれに該当する業種、ICT(情報通信技術)活用事例(8)</p> <p>第10回 地域経済の活性化と地域ブランドの重要性</p> <p>第11回 地域ブランド・地域活性化の取り組みの成功事例紹介(1)</p> <p>第12回 地域ブランド・地域活性化の取り組みの成功事例紹介(2)</p> <p>第13回 地域ブランド・地域活性化の取り組みの成功事例紹介(3)</p> <p>第14回 これまでのまとめ(1)</p> <p>第15回 これまでのまとめ(2)</p>
テキスト	なし
参考書	授業中に随時に紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	地域産業産業論に関する基本知識を習得したうえで、地域活性化の促進と地域ブランド価値向上に成功した事例に関する考察とプレゼンテーションを通して、地域活性化や地域ブランド価値を高めるための手法・ノウハウなどについて積極的にディスカッションを行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後に対応する。またGmailでも対応する。
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	60時間の時間の予習復習の時間を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>8. 働きがいも経済成長も</p> <p>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標(11~17)	<p>11. 住み続けられるまちづくりを</p> <p>12. つくる責任つかう責任</p> <p>17. パートナースhipで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p> <p>4. 構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>1. 親和力</p> <p>2. 協同力</p> <p>5. 自信創出力</p> <p>6. 行動持続力</p> <p>7. 課題発見力</p> <p>8. 計画立案力</p> <p>9. 実践力</p>



開講科目名 Course	地域産業論
時間割コード Course Code	30281
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	徐 誠敏
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	徐 誠敏 (経営学部)
授業の目標	<p>本授業では、各地域の産業の活性化を図るとともに、それぞれの地域ブランド競争力を強化することで、地域経済の活力の回復につながった成功事例の分析を通して、地域産業振興のあり方に関する基本的な考え方や知識を身につけます。またその土台にICT(情報通信技術)の有効活用がある実態を理解することで、情報社会の職業観を育てます。</p> <p>学習成果</p> <p>(1) 地域産業の活性化を図るための基本的な知識・ノウハウを身につけることができる。</p> <p>(2) ブランディングに関する基本的な考え方や用語を身につけることができる。</p> <p>(3) 問題解決能力を高めることができる</p> <p>(4) 地域産業の活性化と情報活用能力の関係が理解できる。</p>
授業の概要	<p>近年、「地域おこし」「地域づくり」「地域産業活性化」「地域ブランドづくり」という言葉をよく耳にするようになりました。その背景には、現在急速に進行しつつある少子高齢化問題、著しい人口減少による地域社会の崩壊などが挙げられます。今まさに、日本の地域は大きな転換期を迎えているといえます。</p> <p>このような厳しい状況の中、地域ブランド・マネジメントの視点で、地域経済や地域産業を見事によみがえらせたさまざまな成功事例をよりおもしろく、よりビジュアルに、わかりやすく解説します。</p> <p>またどの産業分野においても業務の現場では情報活用が不可欠であるので、ICT(情報通信技術)活用事例と人材の活躍に焦点を置いた授業を充実させ、情報社会に相応しい職業観を育てます。</p>
評価方法	授業の出席率や姿勢・態度(25点)、中間レポート(25点)、期末テスト(50点)を総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>第1回 授業の概要と進め方、地域が持つ意味とその重要性</p> <p>第2回 第1次産業の定義とそれに該当する業種、ICT(情報通信技術)活用事例(1)</p> <p>第3回 第2次産業の定義とそれに該当する業種、ICT(情報通信技術)活用事例(2)</p> <p>第4回 第3次産業の定義とそれに該当する業種、ICT(情報通信技術)活用事例(3)</p> <p>第5回 第4次産業の定義とそれに該当する業種、ICT(情報通信技術)活用事例(4)</p> <p>第6回 第5次産業の定義とそれに該当する業種、ICT(情報通信技術)活用事例(5)</p> <p>第7回 第5次産業の定義とそれに該当する業種、ICT(情報通信技術)活用事例(6)</p> <p>第8回 第6次産業の定義とそれに該当する業種、ICT(情報通信技術)活用事例(7)</p> <p>第9回 第6次産業の定義とそれに該当する業種、ICT(情報通信技術)活用事例(8)</p> <p>第10回 地域経済の活性化と地域ブランドの重要性</p> <p>第11回 地域ブランド・地域活性化の取り組みの成功事例紹介(1)</p> <p>第12回 地域ブランド・地域活性化の取り組みの成功事例紹介(2)</p> <p>第13回 地域ブランド・地域活性化の取り組みの成功事例紹介(3)</p> <p>第14回 これまでのまとめ(1)</p> <p>第15回 これまでのまとめ(2)</p>
テキスト	なし
参考書	授業中に随時に紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	地域産業産業論に関する基本知識を習得したうえで、地域活性化の促進と地域ブランド価値向上に成功した事例に関する考察とプレゼンテーションを通して、地域活性化や地域ブランド価値を高めるための手法・ノウハウなどについて積極的にディスカッションを行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後に対応する。またGmailでも対応する。
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	60時間の時間の予習復習の時間を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>8. 働きがいも経済成長も</p> <p>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標(11~17)	<p>11. 住み続けられるまちづくりを</p> <p>12. つくる責任つかう責任</p> <p>17. パートナリシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p> <p>4. 構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>1. 親和力</p> <p>2. 協同力</p> <p>5. 自信創出力</p> <p>6. 行動持続力</p> <p>7. 課題発見力</p> <p>8. 計画立案力</p> <p>9. 実践力</p>

開講科目名 Course	販売管理論 / Sales Management
時間割コード Course Code	30300
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	山下 幸裕
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 4 A 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山下 幸裕 (経営学部)
授業の目標	<p><b>【授業目標】</b>  企業の目的は存続であり、そのための1つの手段として、経済活動による利潤を追求します。例えば、製造業は、製品を生産し販売することで利益を得ます。卸・小売業は、様々な製造業が生産した製品を購入し消費者に販売することで利益を得ます。つまり、企業は製品やサービスを”販売”することで存続が可能となり、企業において販売は極めて重要な経済活動の1つであると言えます。  本講義は、販売を主体とする小売業における販売管理に関する基礎理論を身に付けることを目標とします。販売管理に関する基本理論を身に付けることで、実際の販売業務に携わった際の接客や店舗経営に役立つことが期待できます。</p> <p><b>【学習成果】</b>  <b>知識・理解の観点</b>  小売業における販売の重要性を認識する。  小売業における販売管理の役割を感覚的に理解でき、販売管理に関する基本的用語が説明できる。</p> <p><b>思考・判断の観点</b>  小売店の経営状況を販売管理の観点から評価できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点</b>  小売店の販売管理に関する問題について自ら意見を述べることができる。</p> <p><b>態度の観点</b>  身近にある小売店の販売活動について日頃から関心を持つようになる。</p> <p><b>技能・表現の観点</b>  販売業務に必要な実践的知識が身につく。</p> <p><b>体験・探究の観点</b>  講義を通して実際に経験しないと分からない小売店経営の裏側を間接的に体験することができる。</p>
授業の概要	<p><b>【授業概要】</b>  本講義は、販売管理に関する基礎理論として、1.小売業の種類、2.マーチャンダイジング、3.ストアオペレーション、4.マーケティング、5.販売・経営管理について学びます。この構成は日本商工会議所のリテールマーケティング(販売士)3級に準じており、リテールマーケティング(販売士)3級の受験を推奨します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大により授業形態の変更が必要になった場合は、講義内容や評価方法などを大きく変更する場合があります。</p>

評価方法	期末テスト100%で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席が5回を超えた場合は失格となります。
授業計画	<p>【授業計画】</p> <p>第1回 ガイダンス、小売業とは</p> <p>第2回 小売業の種類(1)：小売業の基本</p> <p>第3回 小売業の種類(2)：形態別小売業の基本</p> <p>第4回 小売業の種類(3)：商業集積の基本</p> <p>第5回 マーチャンダイジング(1)：商品とマーチャンダイジングの基本</p> <p>第6回 マーチャンダイジング(2)：商品・販売・仕入計画等の基本</p> <p>第7回 マーチャンダイジング(3)：価格設定の基本</p> <p>第8回 マーチャンダイジング(4)：在庫管理と情報システム</p> <p>第9回 ストアオペレーション(1)：ストアオペレーションの基本</p> <p>第10回 ストアオペレーション(2)：包装技術・ディスプレイの基本</p> <p>第11回 ストアオペレーション(3)：ディスプレイ・作業割当の基本</p> <p>第12回 マーケティング(1)：顧客管理と商圈</p> <p>第13回 マーケティング(2)：プロモーションと売場づくり</p> <p>第14回 販売・経営管理(1)：販売員の役割と法令知識の基本</p> <p>第15回 販売・経営管理(2)：計数管理と店舗管理の基本</p> <p>状況に応じて授業計画を変更する場合があります。</p>
テキスト	坪井晋也・河田賢一（編著）「販売管理論入門 改訂版」学文社 2021
参考書	日本商工会議所・全国商工会連合会（編）「販売士ハンドブック（基礎編）」株式会社キャリアック 清水信年・坂田隆文（編）「1からのリテール・マネジメント」碩学舎 高嶋克義・高橋郁夫「小売経営論」有斐閣
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	オフィスアワーと講義終了後に対応します。
フィードバックの方法	講義中に実施します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	準備学習として、各回、指定テキストを用いた予習（2時間）と復習（2時間）を必要とします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	生活経営論 / Home Management
時間割コード Course Code	30310
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	中村 壽男
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 壽男 (経営学部)
授業の目標	暮らしの知識・生活設計について考える。なかでもお金の大切さを認識し、諸君の今後の人生において、どのような時期にどのくらいのお金が必要となるかを学ぶことができる。 <学習成果> 知識・理解の領域 新聞で報道されている経済事象等が理解できる知識を身につける。 技能の領域 消費生活をおくる上での留意点を確認する。 態度・志向性の領域 日々新聞を読む習慣を身につけ、経済社会の環境変化に鋭敏に反応できるようにする。
授業の概要	私たちの暮らしやお金を取りまく環境は、近年急速に大きく変化している。少子高齢化にともない日本の人口は今後40年間で約4,000万人もの減少が予測されるため、日本経済に高い成長性を期待できない。それゆえ、私たちの給与や年金収入も低い伸びにとどまることが予想される。厳しい環境のなか、これからの生活設計に最低限必要であろう知識、ノウハウを身につける。 なお、社会生活をおくる上で、現在どのような社会環境であるのか、どのような経済状況であるのかなどを認識するため、事前学習として新聞に目を通す習慣を身につけてほしい。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	Google Formsなどを活用した課題への取り組み (50%) および期末課題 (50%) から、総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合および連続して3回欠席した場合には失格とする。

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション「生活設計を意識しよう」</p> <p>第2回 暮らしの中で必要なお金について考える</p> <p>第3回 ライフプランニングと資金計画（1）教育資金を考える</p> <p>第4回 ライフプランニングと資金計画（2）住宅取得資金を考える</p> <p>第5回 ライフプランニングと資金計画（3）老後資金を考える</p> <p>第6回 社会生活におけるリスクを考える</p> <p>第7回 生活と社会保障</p> <p>第8回 生命保険の活用</p> <p>第9回 損害保険の活用</p> <p>第10回 社会生活と税金（1）生活と所得税</p> <p>第11回 社会生活と税金（2）生活と消費税</p> <p>第12回 金融資産（1）貯蓄を考える</p> <p>第13回 金融資産（2）投資を考える</p> <p>第14回 相続を考える（1）被相続人と相続人</p> <p>第15回 相続を考える（2）相続と税金</p> <p>なお、講義内容は暮らしの経済が中心であるため、予習として日々の新聞に目を通す時間を確保すること。また、なじみのない金融商品や保険商品などについては、講義後復習に努める必要がある。</p>
テキスト	テキストは使用しないが、各回レジュメを提供する。
参考書	日々の新聞に目を通すこと。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	金融広報アドバイザー（愛知県）として働く世代やシニア世代へ「お金」に関する話題を提供してきた経験を活かし、ライフステージ別の生活設計、暮らしにかかる税金などを解説する。
質問への対応方法	学習内容等の質問については随時対応する。わからないまま放置することのないようされたい。
フィードバックの方法	提供した課題については、翌週に講評する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	今回の課題を配信するので、2時間程度の予習を要す。 また、前回の課題の解答を配信するので、理解度確認のため2時間程度の復習を要す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	ガバナンスと監査
時間割コード Course Code	30330
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 豊和
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 彩華 (経営学部)、佐藤 豊和 (経営学部)
授業の目標	<p>近年、企業不祥事が多発しており、企業の倫理観が問われています。企業行動の倫理的是非を判断するためのチェック・システムを監査といい、その意味と手法は多岐に渡っています。この講義では、企業倫理の基礎知識について学習し、ビジネスにおける企業倫理のガバナンスとしての意義を明らかにし、またそれをチェックする監査システムを学ぶことを目標とします。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業倫理の基礎知識、ビジネスにおける企業倫理の意義を深く理解することができる。</li> <li>・企業倫理がなぜ問われるのかについて理解を深めることができる。</li> <li>・監査論の基本的な論点について理解できる。</li> <li>・会計監査の実務上の運用形態について説明できる。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業不祥事の具体例を倫理の視点から分析することができる。</li> <li>・企業倫理と企業経営のガバナンスの相関関係を理解し、説明することができる。</li> <li>・監査実務における具体的な段階と手法を説明することができる。</li> </ul> <p>思考判断の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の監査行動における会計上および業務上の問題点を指摘できる。</li> </ul> <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・監査論およびその関連領域について進んで意見を述べるすることができる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業経営の基本を考える際に、企業倫理によるガバナンスの視点からアプローチする自覚を持つことができる。</li> </ul>
授業の概要	<p>企業倫理とは、企業と社会との間で成立する企業行動に関する「ルール」です。この講義では、さまざまな事例をもってそうした「ルール」を解説します。企業倫理の重要内容であるコンプライアンスやCSR、コーポレート・ガバナンスなどについてわかりやすく解説します。将来、多くが企業で働くことになるであろう皆さんにはぜひ企業の一員である自分という視点から企業経営はいかにあるべきかについて考えを深めてもらいたいと思います。</p> <p>また、企業行動を数値や貨幣額で表現した書類が財務諸表ですが、それを作成するのは企業自身であって、それが正しく信頼できるものかどうかは保証されていません。近年、多発している企業不祥事は企業の独善的な判断から生じていることが多いのです。そこで、財務諸表が信頼できるかどうかを企業から独立した第三者が会計の専門的知識を持って調査し、証明する仕事が必要となり、その仕事を監査といいます。監査に関する基本的な事項を解説し、現代における監査の意義を皆さんに考えてもらいたいと思います。</p>
評価方法	授業内で毎回行う小テストもしくは小レポートの内容と提出状況 (50%) と期末テスト (50%) で成績評価します。

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>第1回 コンプライアンスとガバナンス</p> <p>第2回 経営理念とガバナンス</p> <p>第3回 社是社訓とガバナンス</p> <p>第4回 企業風土とガバナンス</p> <p>第5回 コーポレート・ガバナンスの基本</p> <p>第6回 日本のコーポレート・ガバナンスの実践</p> <p>第7回 CSRの推進とガバナンス</p> <p>第8回 報連相の技術とガバナンス</p> <p>第9回 会計監査とその基本的役割</p> <p>第10回 会計監査の現代的機能</p> <p>第11回 金融商品取引法および会社法に基づく会計監査制度(1)</p> <p>第12回 金融商品取引法および会社法に基づく会計監査制度(2)</p> <p>第13回 職業監査と監査基準ならびに職業倫理</p> <p>第14回 会計監査の具体的手法</p> <p>第15回 会計監査と不正への対応</p>
テキスト	毎回、授業に先立ってプリントを配布します。
参考書	<p>(ガバナンス)</p> <p>初級 浜辺陽一郎『図解コンプライアンス経営』東洋経済新報社2008年。</p> <p>中級 国廣正ほか『なぜ企業不祥事は、なくなるのか』日本経済新聞出版社2009年。</p> <p>上級 清水三七雄『最新 コーポレートガバナンスの基本と実践がよ〜くわかる本』秀和システム2018年</p> <p>(監査)</p> <p>初級・中級 山浦久司『監査論テキスト(第8版)』中央経済社</p> <p>上級 伊豫田 隆俊ほか『ベーシック監査論(9訂版)』中央経済社</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	翌週講評。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習は必要ありませんが、授業を受けたあと、配布したプリントおよび自分のレベルにあった参考書の該当箇所をよく読んで復習をよくしてください。一つの項目につき4時間程度をかけてじっくり振り返ってみてください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	情報通信ネットワーク / Information and Telecommunications Network
時間割コード Course Code	30360
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	小川 哲司
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小川 哲司 (経営学部)
授業の目標	<p>本授業では、情報通信技術が発展した社会において、重要なインフラとしてのネットワークの基礎的な知識を習得し、情報通信技術を活用したビジネスやサービスなどの仕組みが理解できるようになることを目指す。また、ネットワーク技術は日々進化を遂げていることから、日本国内のみならず世界で生じているネットワーク関連の最新動向にも関心を持つようになる。</p> <p>&lt;学習成果&gt;  知識・理解の領域  情報通信ネットワークに関する知識、技術、事例などについて理解して、インターネットの仕組みやネットワークを活用したビジネスの仕組みなどが理解できる。</p> <p>技能の領域  情報通信ネットワークにおける技術や通信プロトコルなどを理解して、データがどのように流れているか理解できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域  授業で得た基礎知識を基に、情報通信ネットワークに関連する入門書に興味を持つことができる。またITパスポートや基本情報技術者試験などの資格取得を目指すようになる。</p>
授業の概要	<p>今日の情報通信社会では、ネットワークは不可欠なものである。LAN、WAN、インターネットなど様々な利用形態によって広く活用されている。</p> <p>本授業では、大きくネットワーク機器、通信プロトコル、セキュリティ技術に主眼を置いて学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワーク機器：ネットワークを構成する機器として、スイッチ、ルータ、ケーブル、無線LAN APなどがあるため、それぞれの役割や仕組みを解説する。またコンソール操作による実習で、機器の設定なども行う。また学内LANを構成する機器の見学も行う。</li> <li>・通信プロトコル：通信を行うためのプロトコルを通じて、データが流れる仕組みを解説する。パケットキャプチャなどの実習も行い、知識の定着を図る。</li> <li>・セキュリティ技術：通信をセキュアに確立するためのセキュリティ技術について、解説をする。ログ解析などの実習を通じて、理解を深める。</li> </ul> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照のこと。</p> <p>本授業では、コンピュータを用いた演習を含むので、学生はノートPCを持参すること。</p>
評価方法	<p>評価方法  レポート課題 (50%)  期末レポート課題 (50%)</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合
授業計画	<p>第1回目 通信の歴史、LAN、WAN、インターネットの概要</p> <p>第2回目 通信方式、通信における信頼性、サーバ・クライアント</p> <p>第3回目 ネットワーク機器（L2SW、ルータなど）、MACアドレス、IPアドレス</p> <p>第4回目 イーサネット、プロキシ、無線LAN</p> <p>第5回目 通信プロトコルの役割、OSI参照モデル</p> <p>第6回目 通信プロトコル 第1、2層の概要・役割</p> <p>第7回目 通信プロトコル 第3層の概要・役割</p> <p>第8回目 通信プロトコル ルータ、ルーティング、DNS、</p> <p>第9回目 通信プロトコル 第4層 の概要・役割</p> <p>第10回目 通信プロトコル 第7層 の概要・役割、HTML実習</p> <p>第11回目 情報セキュリティ、ネットワークのセキュリティ技術</p> <p>第12回目 ネットワーク上の脅威と対策</p> <p>第13回目 ネットワークの暗号化技術</p> <p>第14回目 ネットワークの設計、運用、クラウド化、仮想化</p> <p>第15回目 ネットワークの最新技術動向、災害対策</p>
テキスト	教員が作成する資料を配布して、授業を進める。
参考書	<p>1. 井戸伸彦著、「新しい情報ネットワーク教科書」、オーム社</p> <p>2. 岡田正他著、「ネットワーク社会における情報の活用と技術」、実教出版</p> <p>3. 福永 勇二著「ネットワークがよくわかる教科書」SBクリエイティブ</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	PCを用いた実習を含む
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	<p>実務経験のある教員による授業</p> <p>情報通信業界にてネットワークの設計・構築経験を有する教員が、ネットワークの特性や仕組みなどを技術的な側面より解説する科目である。</p>
質問への対応方法	基本的にはメールで回答する。
フィードバックの方法	翌週の授業までに返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、次回テーマに関連する文献調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p>
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力

開講科目名 Course	マーケティング調査論 / Marketing Research
時間割コード Course Code	30390
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	山下 幸裕
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山下 幸裕 (経営学部)
授業の目標	<p>本講義は、商品企画を通じてマーケティング・リサーチの基本的な知識を習得することを目標とします。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の観点 商品企画やマーケティング活動におけるリサーチ（調査）の重要性を認識する。</p> <p>思考判断の観点 調査手法を選択する際の着眼点がわかる。</p> <p>関心意欲の観点 世の中で実施されている様々な調査について、全て鵜呑みにすることなく、自分なりに検討するようになる。</p> <p>態度の観点 興味深い商品について自ら進んで調べるようになる。</p> <p>技能・表現の観点 商品企画やマーケティング活動の企画を立案することができる。</p> <p>体験・探究の観点 間接的な市場調査の経験を得ることができる。</p>
授業の概要	<p>マーケティング活動にはリサーチ（調査）が不可欠です。マーケティングの成功は、リサーチ（調査）にかかっていると言えます。本講義は、マーケティング・リサーチの技法やデータ解析方法に重点を置くのではなく、身近なヒット商品が誕生した裏側で実施されたリサーチ（調査）から、マーケティング・リサーチの基本的なやり方や考え方を学びます。また、商品企画の考え方や進め方も学べることはもちろんですが、マーケティングの理解を深めることも期待できます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HP のナンバリングを参照すること。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大により授業形態の変更が必要になった場合は、講義内容や評価方法などを大きく変更する場合があります。</p>
評価方法	期末テスト100%で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席が5回を超えた場合は失格となります。

授業計画	第 1 回 ガイダンス、商品企画プロセス 第 2 回 インタビュー法 第 3 回 観察法 第 4 回 リード・ユーザー法 第 5 回 アイデア創出 第 6 回 コンセプト開発 第 7 回 プロトタイピング 第 8 回 市場規模の確認 第 9 回 競合・技術の確認 第10回 顧客ニーズの確認 第11回 販促提案 第12回 価格提案 第13回 チャンネル提案 第14回 企画書作成 第15回 プレゼンテーション 状況に応じて授業計画を変更する場合があります。
テキスト	西川英彦・廣田章光（編著）「1からの商品企画」碩学舎
参考書	谷富夫・芦田哲郎「よくわかる質的社会調査 技法編」ミネルヴァ書房 小川 進「競争的共創論」白桃書房 石井淳蔵・廣田章光・清水信年「1からのマーケティング（第4版）」碩学舎 星野匡「発想法入門（第3版）」日本経済新聞社 奥出直人「デザイン思考の工具箱」早川書房 石井淳蔵「マーケティングを学ぶ」ちくま新書 小田部正明・栗木契・太田一樹「1からのグローバル・マーケティング」碩学舎 嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎「1からの戦略論（第2版）」碩学舎 恩蔵直人・富田健司「1からのマーケティング分析（第2版）」碩学舎 上田隆穂・守口剛「価格・プロモーション戦略」有斐閣 高嶋克義・桑原秀史「現代マーケティング論」有斐閣 星野崇宏・上田雅夫「マーケティング・リサーチ入門」有斐閣 古川一郎・守口 剛・阿部 誠「マーケティング・サイエンス入門」有斐閣 上田雅夫・生田目崇「マーケティング・エンジニアリング入門」有斐閣
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	オフィスアワーと講義終了後に対応します。
フィードバックの方法	講義中に実施します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	準備学習として、各回、指定テキストを用いた予習（2時間）と復習（2時間）を必要とします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	税法会計論
時間割コード Course Code	30410
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 豊和
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 豊和 (経営学部)
授業の目標	<p>税法会計とは、企業の法人税法上の課税所得を計算するための会計をさし、金融商品取引法会計および会社法会計とともに企業会計の一翼を担う会計分野です（税務会計も税法会計とほぼ同義です）。税法会計は、税務当局に対して、課税の公平の観点から、企業の課税所得を明らかにすることを目的とする会計です。この講義では、税法会計の基本的な内容を理解することを目的とします。</p> <p>学習の成果</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・税法会計の基本的な論点について理解できる。</li> <li>・税法会計の実務上の運用形態について説明できる。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な法人税申告書の一部を作成することができる。</li> </ul> <p>思考判断の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の企業活動における税法会計の問題点を指摘できる。</li> </ul> <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・税法会計システムおよびその関連領域について進んで意見を述べることができる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業実務における税法会計の現状について進んで調査することができる。</li> </ul>
授業の概要	<p>本講義では、税法会計の基本的な内容を、主に中小企業で行われている実例を用いてわかりやすく解説します。たとえば、固定資産の減価償却は財務会計の理論と申告実務で行われている税法基準の方法では相違する部分があり、これを解決するような会計処理・税務処理が行われています。学生諸君には実際の取引・会計処理等を見て、これらの相違点がどのように会計情報・税務申告情報に反映されているのか等について考えてもらいます。</p>
評価方法	参加姿勢20%、毎回の小テスト30%、期末テスト50%の割合で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	1 オリエンテーション 2 税法会計の意義・本質 3 課税所得の計算構造 1 確定決算主義・税務調整 4 課税所得の計算構造 2 益金の範囲・損金の範囲 5 益金の会計 1 収益の計上基準・工事の請負 6 益金の会計 2 受取配当等・有価証券の譲渡/評価損益 7 損金の会計 1 売上原価・固定資産の減価償却・ほか 8 損金の会計 2 給与等・寄附金・交際費等・引当金 9 損金の会計 3 準備金・圧縮記帳・使途秘匿金・ほか 10 課税所得・税額の計算 11 申告、納税、申告内容の是正等 12 同族会社課税 13 連結納税制度 14 組織再編税制 15 まとめ
テキスト	毎回、授業に先だってプリントを配布します。
参考書	初級・中級 成道秀雄（監修）坂本雅士（編著）『現代税務会計論（第6版）』中央経済社 上級 鈴木一水『税務会計分析』森山書店
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	翌週講評。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習は必要ありませんが、授業を受けたあと、配布したプリントおよび自分のレベルにあった参考書の該当箇所をよく読んで復習をよくしてください。一つの項目につき4時間程度をかけてじっくり振り返ってみてください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	原価計算論 / Cost Accounting
時間割コード Course Code	30450
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	荒鹿 善之
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒鹿 善之 (経営学部)
授業の目標	<p>製造業において、1つの製品を生産するために費やした金額を製造原価といいます。原価計算とは、この製造原価を計算する手続きです。原価計算を行うことで、製造過程における無駄を発見することが可能になります。また、製品の販売価格と製造原価との差額としての利益を計算することも可能になります。したがって、原価計算は、製造業においては欠かすことのできない重要な手続きといえます。</p> <p>本講義では、このような原価計算に関わる基礎的な用語と、実際に製造現場で用いられている計算方法を学びます。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 原価計算を行う上で必要となる基礎的な専門用語を理解します。</p> <p>技能の領域 製品の種類や生産規模が異なる様々な製造業をイメージしながら、それぞれの特徴に合わせた原価計算の手法を修得します。</p> <p>態度・志向性の領域 「原価計算論」で学んだことを生かし、日本商工会議所主催の原価計算初級試験や簿記検定試験2級の合格に向けた学習に進むことを目指します。</p>
授業の概要	<p>原価計算の役割を理解することから出発し、製造原価を構成する材料費・労務費・経費といった原価要素について学びます。そして、特定の製品を受注生産する製造業で用いられる個別原価計算を学習し、その後、大量生産の現場で用いられる総合原価計算について学びます。その際、基礎的な練習問題を解きながら、それぞれの計算方法を修得します。原価計算は技術的な科目であることから、なるべく多くの練習問題に取り組みます。</p>
評価方法	<p>期末試験90% 練習課題10%</p> <p>期末試験の結果を重視して評価します。授業中に配布した練習問題にしっかりと取り組み、基礎的な原価計算の方法を修得できたかどうかという観点から評価します。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	他の授業同様、欠席回数が多い場合は失格になることがあります。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 企業の経営活動と原価計算</li> <li>2 原価の意味について</li> <li>3 原価要素の分類</li> <li>4 原価計算の種類と原価計算期間</li> <li>5 簡単な例による原価計算</li> <li>6 材料費の分類と計算</li> <li>7 労務費の分類と計算</li> <li>8 経費の分類と計算</li> <li>9 個別原価計算（製造間接費の配賦）</li> <li>10 個別原価計算（部門別個別原価計算）</li> <li>11 総合原価計算（単純総合原価計算）</li> <li>12 総合原価計算（等級別総合原価計算）</li> <li>13 総合原価計算（組別総合原価計算）</li> <li>14 総合原価計算（工程別総合原価計算）</li> <li>15 総合練習問題</li> </ol> <p>各回について、予習・復習時間をしっかりと確保して下さい。</p>
テキスト	必要に応じてプリントを配布します。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	日商簿記検定試験委員の担当経験がある教員によって行われる授業です。受講者は、基礎的な問題に加えて、検定試験で出題される問題にも取り組む場合があります。
質問への対応方法	随時対応します。
フィードバックの方法	レポート、課題などは翌週に返却して解答・解説を行う予定です。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	必要に応じて資料を配付します。配付された資料に事前に目を通し、授業内容の理解度向上に努めます。また、復習については随時課題を課します。理解した内容のアウトプットを行うことで、学習内容の定着を目指します。（予習・復習各2時間）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	マーケティング特論(中小企業のブランディング論)
時間割コード Course Code	30460
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	徐 誠敏
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 2 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	徐 誠敏 (経営学部)
授業の目標	<p>本授業では、中小企業が強いブランドを構築するために必要なブランディング戦略に関する基本的知識を確実に習得したうえで、その理論と実践に対してどのような応用可能性があるのかを検討し模索することで、次のような学習成果を生み出します。</p> <p>学習成果</p> <p>(1) 中小企業にとってなぜブランディングが重要であるのか、市場におけるさまざまな環境要因について論理的に説明することができる。</p> <p>(2) 中小企業が持続的成長を実現していくうえで欠かせないブランディング戦略の基本プロセスに関する基礎知識や用語についてわかりやすく説明することができる。</p> <p>(3) 中小企業の経営活動におけるブランディングの役割や機能についてわかりやすく説明することができる。</p> <p>(4) ブランディングに関する理論的な知識を身につけることができる。</p> <p>(5) 中小企業のブランディングの戦略的取り組みの成功事例から、それぞれのノウハウやスキルなどを学ぶことで、ブランド構築や組織内における理念・ビジョンの浸透型ブランディングに関する実践的な知識を身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>自社ブランドの構築と価値向上は、企業規模の大小を問わず、あらゆる企業にとって、必須かつ喫緊の経営課題です。すなわち、中小企業が持続的成長を実現していくうえで、ブランディングはきわめて重要な戦略的取り組みです。中小企業は、国の雇用創出と輸出実績において重要な役割を果たしており、国の国内総生産の成長率においても大いに貢献しています。とりわけ、日本経済を支えている中小企業は、企業数の99.7%、全従業員数の69.7%という高い割合を占めており、地方圏に立地する企業に限ると、その割合がさらに高まりつつあります。その一方、中小企業を取り巻く外部の環境は激変しています。また、中小企業間の競争も一層激化しています。それゆえ、中小企業は、持続的な競争優位を確保していくうえで、ブランディングは必要不可欠です。最近では、中小企業の経営活動においてブランディングが果たす役割とその重要性はますます大きくなってきています。したがって、本授業では、中小企業のブランディング・プロセスに関する基本的知識を習得した上で、その戦略的取り組みを理論的・実践的なアプローチから詳細に解説します。</p> <p>質問への対応方法 随時対応、授業後に対応。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照する。</p>
評価方法	授業の姿勢・態度(25点)、中間レポート(25点)、期末テスト(50点)を総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>【第1回】オリエンテーション(授業の概要および進め方)</p> <p>【第2回】中小企業とは何か、中小企業の意義・役割の重要性について考える</p> <p>【第3回】重要な概念を整理しそれらについて考える(1)</p> <p>【第4回】重要な概念の整理しそれらについて考える(2)</p> <p>【第5回】なぜ中小企業にとってブランド構築とブランディングが重要であるのかについて考える</p> <p>【第6回】中小企業のブランディング戦略の実行を阻害する要因について考える</p> <p>【第7回】中小企業が実行可能なブランドを構築する8つの基本プロセスについて考える</p> <p>【第8回】中小企業が実行可能なブランドを構築する8つの基本プロセスについて考える</p> <p>【第9回】中小企業が実行可能なブランドを構築する8つの基本プロセスについて考える</p> <p>【第10回】中小企業の先進的なブランディングの取り組み事例から学ぶ(1)一般財団法人「ブランド・マネージャー認定協会」</p> <p>【第11回】中小企業の先進的なブランディングの取り組み事例から学ぶ(2)「株式会社中島大祥堂</p> <p>【第12回】中小企業の先進的なブランディングの取り組み事例から学ぶ(3)「本多プラス株式会社」</p> <p>【第13回】企業変革の推進における戦略的インターナル・ブランディングのプロセス(1)</p> <p>【第14回】企業変革の推進における戦略的インターナル・ブランディングのプロセス(2)</p> <p>【第15回】これまでのまとめ</p> <p>本授業では、可能な限り、毎回、学習した内容などについて議論する。</p>
テキスト	徐誠敏・李美善(2022)『ブランド弱者の戦略：インターナル・ブランディングの理論と実践』ミネルヴァ書房。
参考書	<p>・一般財団法人ブランド・マネージャー認定協会(2015)『社員をホンキにさせるブランド構築法』同文館出版。</p> <p>・徐誠敏(2010)『企業ブランド・マネジメント戦略 CEO・企業・製品ブランド間の価値創造リンケージ』創成社。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	中小企業のマーケティングやブランディング戦略に関する考察とプレゼンテーションを通して、中小企業独自のマーケティングやブランディング戦略の手法・ノウハウなどについて積極的にディスカッションを行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	数年間にわたるブランディング・コンサルタントや一般財団法人ブランド・マネージャー認定協会のアドバイザーとしての経験を活かすことで、より実践的なブランディングに関する知識を教える。
質問への対応方法	授業後に対応する。またGmailでも対応する。
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	60時間の時間の予習復習の時間を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>8. 働きがいも経済成長も</p> <p>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標(11~17)	<p>12. つくる責任つかう責任</p> <p>17. パートナリーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p> <p>4. 構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>1. 親和力</p> <p>2. 協同力</p> <p>5. 自信創出力</p> <p>6. 行動持続力</p> <p>7. 課題発見力</p> <p>8. 計画立案力</p> <p>9. 実践力</p>

開講科目名 Course	情報処理概論 / Introduction to Information Processing
時間割コード Course Code	30480
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	波場 泰昭
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	波場 泰昭 (経営学部)
授業の目標	<p>情報処理能力は、急速に変化する経済情勢において極めて重要な能力であり、あらゆる業界・業種で不可欠な要素となっている。企業や組織が成長するためには、ビッグデータの解析を通じて市場のトレンドや顧客の行動パターンを把握し、データドリブンな戦略を提示して迅速に実施することが鍵となっている。本授業では、情報処理能力を着実に養うための基礎的な知識と技術を身につけることを目標とする。これにより、2年次に開講される必修科目「プログラム入門」、選択科目「情報処理 Ⅰ」や「情報処理特論」などの履修に際して必要となる能力を養成する。</p> <p><b>知識・理解の領域</b> 二進数を基本としたコンピュータで扱うデータ(数値、文章、画像、音声、動画)に親しむと共に、コンピュータを構成するCPUや記憶装置、ネットワークを構成する装置について体系的な理解を深める。また、経営戦略を裏付けるためのデータ整理技法や分析手法に関する知識を獲得する。</p> <p><b>技能の領域</b> ノートPCやスマートフォンを活用して、各端末の仕様や所属するネットワーク環境を把握する技能を身につける。ベン図を用いて論理構造を、フローチャートを用いてアルゴリズム構造を表現する技能を育む。また、情報収集した内容を文章として適切にまとめてパラグラフライティングを行い、それに対応した発表スライドを作成する技能を養う。</p> <p><b>態度・志向性の領域</b> データ駆動型社会において、情報リテラシーを高めることは必須であることを認識する。一つの端末に内蔵されている装置のしくみと、諸端末が連結されて構成されるネットワークのしくみとを両面的に捉える姿勢を育む。所有するノートPCやスマートフォンを活用し、実践的かつ体験的に知識と技能を身につける志向性を養う。</p> <p><b>総合的思考力</b> 知識、技能、態度を総合的に活用し、問題を解決することができる。</p>
授業の概要	<p>上記の到達目標に向けて講義形式の授業を通じて知識を養うことはもとより、ノートPCやスマートフォンを用いて、シミュレーションや動作確認を行うことで実践的かつ体験的に技能を養う。コンピュータを扱うためのデータ表現やアルゴリズムについて、学生自ら情報収集・情報整理し、その内容に関する発表を行う。また、Microsoft Teamsを用いて、授業内外で資格取得に向けた対策を行う。</p> <p>各自、Windowsを搭載したノートPCを持参すること。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>以下の観点から、総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への参加姿勢 50%</li> <li>・ レポート(成果物) 50%</li> </ul>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	無断欠席が3回以上に達した場合
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	キタミ式イラストIT塾 令和06年 基本情報技術者（技術評論社）
参考書	なし
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	参加者が作成した成果物に関する報告をグループ内で行うことで、スキルシェアリングをすると共にプレゼンテーション能力を養う。参加者は毎回ノートPCを持参して、手を動かしながら担当教員との対話を繰り返し、技能を身につける。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業時間内に対応します。また、Microsoft Teamsを用いて随時対応します。
フィードバックの方法	授業時間内に対応します。また、Microsoft Teamsを用いて随時対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに関わる予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。予習ではアプリのセットアップ、復習では成果物の作成を含めて構いません。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	12.つくる責任つかう責任 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 5.自信創出力 9.実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	情報処理能力	
2	データ表現 (1)	二進数と情報量の単位 (ビット、バイト)	応用基礎レベル2-2
3	データ表現 (2)	コンピュータで扱うデータ (数値、文章、画像、音声、動画)	応用基礎レベル2-2
4	データ表現 (3)	構造化データと非構造化データ	応用基礎レベル2-2
5	コンピュータのしくみ (1)	二進数と論理回路	応用基礎レベル2-2
6	コンピュータのしくみ (2)	Central Processing Unit (CPU) とメモリ	
7	コンピュータのしくみ (3)	補助記憶装置	
8	ネットワーク (1)	Open Systems Interconnection (OSI) 基本参照モデル	
9	ネットワーク (2)	Transmission Control Protocol (TCP) / Internet Protocol (IP)	
10	ネットワーク (3)	Uniform Resource Locator (URL)	
11	ネットワーク (4)	配列、木構造 (ツリー)、グラフ	応用基礎レベル2-2
12	経営戦略 (1)	プロジェクト・マネジメント	
13	経営戦略 (2)	システム開発とアルゴリズム	
14	経営戦略 (3)	データ整理技法とグラフ	応用基礎レベル2-2
15	経営戦略 (4)	Quality Control (QC)	

開講科目名 Course	プログラム入門 / Introduction to programming
時間割コード Course Code	30490
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	波場 泰昭
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 2 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	波場 泰昭 (経営学部)
授業の目標	<p>本授業では、プログラミングの基礎となる知識・技術を、実践的に獲得することを到達目標とする。これにより、独自にコードを開発する喜びを体験すると共に、データ駆動型社会に適応できる能力を養う。また、プログラミングに必要な知識・技術に加えて課題発見力や問題解決能力を養うことで、データサイエンスを行うための資質を育む。</p> <p><b>知識・理解の領域</b> コンピュータを動かすソフトウェアの制御構造（順次・分岐・反復）及びアルゴリズムの表現（フローチャート）を理解する。</p> <p><b>技能の領域</b> ライブラリ（パッケージ/モジュール）を読み込み、複合的に利用してプログラムを開発する技能、これに基づいてデータ解析を実践する技能を身につける。また、高等学校の生徒を対象としたプログラミング教育に資する能力を養う。</p> <p><b>態度・志向性の領域</b> 課題発見やデータ解析を行うために、プログラミング技能が必須であることを認識する。必要に応じて使用するライブラリを取捨選択し、過不足のない簡潔で柔軟性のあるコーディングを目指す。デバッグにより、独力でプログラムを完成させる能力を育む。</p> <p><b>総合的思考力</b> 知識、技能、態度を総合的に活用し、問題を解決することができる。</p>
授業の概要	<p>本授業では、人工知能（AI）との親和性を有する豊富なライブラリを提供するプログラミング言語 Pythonを用いて、データ駆動型社会に適応したプログラミング技能の基礎を身につける。プログラム開発環境を構築し、アルゴリズムを実装するためのコーディングとコードを校正するためのデバッグとを繰り返しながら、実践的かつ体験的にプログラミング技能を養う。また、Microsoft Teamsを用いて、授業内外でプログラミング技能の向上を目指す。</p> <p>各自、Windowsを搭載したノートPCを持参すること。 高等学校教諭一種免許（情報）の取得に必要な教職課程科目である。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>以下の観点から、総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への参加姿勢 50%</li> <li>・レポート（成果物）50%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	無断欠席が3回以上に達した場合
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。

テキスト	スラスラ読める Python ふりがなプログラミング (インプレス)
参考書	スッキリわかる Python入門 (インプレス)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	参加者が作成した成果物に関する報告をグループ内で行うことで、スキルシェアリングをすると共にプレゼンテーション能力を養う。参加者は毎回ノートPCを持参して、手を動かしながら担当教員との対話を繰り返し、技能を身につける。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業時間内に対応します。また、Microsoft Teamsを用いて随時対応します。
フィードバックの方法	授業時間内に対応します。また、Microsoft Teamsを用いて随時対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに関わる予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。予習ではアプリのセットアップ、復習では成果物の作成を含めて構いません。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標 (11~17)	12.つくる責任つかう責任 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 5.自信創出力 7.課題発見力 9.実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	Python最新版とVisual Studio Code	
2	プログラム開発環境の構築	Python最新版とVisual Studio Code	
3	プログラミングの第一歩 ( 1 )	木構造 ( ツリー )、構造化と非構造化	応用基礎レベル2-2
4	プログラミングの第一歩 ( 2 )	四則演算、文字型・整数型・浮動小数点型	応用基礎レベル2-7
5	プログラミングの第一歩 ( 3 )	関数と変数	応用基礎レベル2-7
6	ライブラリの活用 ( 1 )	pandasを用いた表形式データの操作	応用基礎レベル2-7
7	ライブラリの活用 ( 2 )	NumPyを用いた多次元配列のベクトル演算	応用基礎レベル2-2 応用基礎レベル2-7
8	ライブラリの活用 ( 3 )	matplotlibを用いたデータのグラフ化	応用基礎レベル2-2 応用基礎レベル2-7
9	ライブラリの活用 ( 4 )	seabornを用いたデータのグラフ化	応用基礎レベル2-2 応用基礎レベル2-7
10	ライブラリの活用 ( 5 )	SciPyを用いたデータフィッティング	応用基礎レベル2-7
11	アルゴリズムの表現 ( フローチャート ) ( 1 )	並び替え ( ソート ) と探索 ( サーチ )	応用基礎レベル1-7
12	アルゴリズムの表現 ( フローチャート ) ( 2 )	順次・分岐・反復	応用基礎レベル1-7
13	アルゴリズムの表現 ( フローチャート ) ( 3 )	if文 ( 分岐 ) の実践	応用基礎レベル1-7
14	アルゴリズムの表現 ( フローチャート ) ( 4 )	for文 ( 反復 ) の実践	応用基礎レベル1-7
15	総括	モジュールの制作	応用基礎レベル2-7



開講科目名 Course	メディア表現 / Media Presentation
時間割コード Course Code	30500
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3
主担当教員 Main Instructor	小川 哲司
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	情報実習室A
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小川 哲司 (経営学部)
授業の目標	<p>高度情報化社会において、情報を記録・伝達・保管するための手段がメディア(媒体)である。近年、ネットワーク上のマルチメディア情報を閲覧することは多くの人にとって日常のことであると同時に、情報機器の急速な発達により、個人端末レベルでマルチメディア情報を簡単に処理することが可能になった。</p> <p>本授業では、デジタルメディアコンテンツ制作を通して、マルチメディアによる伝達効果とその特質を理解し、作品を構成し企画する実践的な能力を得ることを目標とする。特に実習を通じて、情報発信方法や表現方法などを身に付けることを目指す。</p> <p>&lt;学習成果&gt; 知識・理解の領域 メディアの特性を理解して、現代に合った情報表現方法を身に付けることができる。 技能の領域 画像処理技術を身に付けて、多彩な表現方法を身に付けることができる。 態度・志向性の領域 自身でデジタルメディアコンテンツを制作できるようになる。</p>
授業の概要	<p>本授業では、マルチメディア情報のデジタル特性について基本的な知識を身につけた上で、Photoshopを用いた画像編集・処理、PremiereProを用いた動画の編集や処理についての演習を行う。</p> <p>さらに身近なマルチメディアとしてのWebメディアを取り上げ、Webサイトを制作する実習を通じて、メディアの表現方法等を習得して、メディアの特性について理解する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照のこと。</p>
評価方法	<p>評価方法 レポート、課題提出 (70%) 授業への取り組み姿勢 (30%)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が12回に満たない場合

授業計画	第1週 デジタルメディアの特性 第2週 デジタルデータの特徴 第3週 PhotoShop基本操作 第4週 画像の色や明るさ調整 第5週 画像の選択範囲 第6週 画像のレタッチ処理 第7週 Premiere Pro基本操作 第8週 動画のカット編集 第9週 トランジション・エフェクト 第10週 動画のテロップ挿入 第11週 動画へのBGM挿入 第12週 Webメディアの特性 第13週 HTMLの基本構文 第14週 HTMLの基本（表、画像、リンク） 第15週 CSSの基本
テキスト	今すぐ使えるかんたん Photoshop やさしい入門（技術評論社） 今すぐ使えるかんたん Premiere Pro やさしい入門（技術評論社）
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	PCを用いた実習
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	基本的にはメールで回答する。
フィードバックの方法	翌週の授業までに返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、次回テーマに関連する資料調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	プレゼンテーション / Presentation
時間割コード Course Code	30510
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	波場 泰昭
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	波場 泰昭 (経営学部)
授業の目標	<p>人は短い時間の発表によって他者から評価されることが多い。発表の基本は、発表者が聴衆に伝えたいメッセージ(趣旨)を十分に理解し、同時に聴衆に寄り添うことにある。本授業では、発表における趣旨の明確化と資料の最適化に焦点をあて、プレゼンテーションに関わる能力を総合的に高めることを目標とする。メディア・リテラシーや基礎的なコンピュータ活用能力の向上はもとより、人間性(感受性、創造性、独創性、協調性、柔軟性)や問題解決能力(情報収集力、情報分析力、構想力)を総合的に養う。</p> <p><b>知識・理解の領域</b> 発表者として聴衆に伝えるメッセージを明確にし、筋道を立ててそれを伝えることの重要性を理解する。聴衆が有意義な情報を受け取り、発表者の立ち位置や見解を知ることの重要性を理解する。</p> <p><b>技能の領域</b> ある主題や論題に対して、自身の考えを整理する技能を養う。文章をパラグラフ・ライティングする論理構造を発表資料の各スライドに取り入れ、明確な趣旨を伝えるための首尾一貫した発表資料を制作する技能を養う。</p> <p><b>態度・志向性の領域</b> 当該授業の参加者が共同で学習し、議論を行い、チームワークやリーダーシップの側面から行動力を発揮する。他者の意見を傾聴し、それを踏まえて自身の考えを伝える志向性を育む。</p> <p><b>総合的思考力</b> 知識、技能、態度を総合的に活用し、問題を解決することができる。</p>
授業の概要	<p>実践テーマ ~ においてそれぞれ指定されたチームで、構成メンバーの人間性を互いに尊重し、協力してディベートに向けた役割分担と発表資料の作成を行う。ディベート本番では、発表者と聴衆とに分かれる。発表者は、Microsoft PowerPointを用いて、ディベート及び質疑応答を行う。聴衆は、発表の採点を行うだけでなく、他者の発表を第三者として観察し指摘する。この過程において、学生同士が互いに人間性や問題解決能力を育みながら、メディア・リテラシーを活用したプレゼンテーションに関わる総合的な能力を養う。</p> <p>各自、Windowsを搭載したノートPCを持参すること。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>以下の観点から、総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への参加姿勢 50%</li> <li>・ レポート(成果物) 50%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	無断欠席が3回以上に達した場合
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。

テキスト	説得力が劇的アップ 一生使えるプレゼン上手の資料作成入門（インプレス）
参考書	よい資料を作るためのレイアウトのルール 伝わるデザインの基本（技術評論社）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	参加者が作成した成果物に関する報告をグループ内で行うことで、スキルシェアリングをすると共にプレゼンテーション能力を養う。参加者は毎回ノートPCを持参して、手を動かしながら担当教員との対話を繰り返し、技能を身につける。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業時間内に対応します。また、Microsoft Teamsを用いて随時対応します。
フィードバックの方法	授業時間内に対応します。また、Microsoft Teamsを用いて随時対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに関わる予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。予習ではアプリのセットアップ、復習では成果物の作成を含めて構いません。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	12.つくる責任つかう責任 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 9.実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	本授業の目的	
2	メディア・リテラシーの知識、プレゼンテーションの趣旨	概説(1)	
3	メディア・リテラシーの知識、プレゼンテーションの趣旨	概説(2)	
4	メディア・リテラシーの活用、プレゼンテーションの実践	【実践テーマ】準備(1)	
5	メディア・リテラシーの活用、プレゼンテーションの実践	【実践テーマ】準備(2)	
6	メディア・リテラシーの活用、プレゼンテーションの実践	【実践テーマ】本番(1)	
7	メディア・リテラシーの活用、プレゼンテーションの実践	【実践テーマ】本番(2)	総括
8	メディア・リテラシーの活用、プレゼンテーションの実践	【実践テーマ】準備(1)	
9	メディア・リテラシーの活用、プレゼンテーションの実践	【実践テーマ】準備(2)	
10	メディア・リテラシーの活用、プレゼンテーションの実践	【実践テーマ】本番(1)	
11	メディア・リテラシーの活用、プレゼンテーションの実践	【実践テーマ】本番(2)	総括
12	メディア・リテラシーの活用、プレゼンテーションの実践	【実践テーマ】準備(1)	
13	メディア・リテラシーの活用、プレゼンテーションの実践	【実践テーマ】準備(2)	
14	メディア・リテラシーの活用、プレゼンテーションの実践	【実践テーマ】本番(1)	
15	メディア・リテラシーの活用、プレゼンテーションの実践	【実践テーマ】本番(2)	総括

開講科目名 Course	データ解析 / Data Analysis
時間割コード Course Code	30520
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	岡田 朋子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 2 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岡田 朋子 (経営学部)
授業の目標	<p>資格「ビジネス統計スペシャリスト」の「エクセル分析ベーシック」を取得することを目標とする。</p> <p>また、ビジネスの現場で様々なデータを活用するための基本的な知識を取得し、エクセルを使ったデータ分析ができるようになることをめざす。</p> <p>知識・理解の領域 外れ値の検出方法，度数分布表の作成方法，データの標準化や季節調整の仕方などを理解する。</p> <p>技能の領域 初歩的なデータ分析が一通り最低限できる。</p> <p>態度・志向性の領域 「データ分析ができる」，「データ活用ができる」人材が社会に必要であるという認識をもつ。</p> <p>思考判断の領域 根拠の確かな事実にもとづき統計学的に正しく推論することができる能力をもつ。</p> <p>関心意欲の領域 統計学の基礎理論を習得し，自分でデータ解析をおこなう意欲をもつ。</p>
授業の概要	<p>エクセルを使って，統計の基礎の学習からはじめる。 教科書にしたがい無理のない進度で進めていく。</p> <p>受講条件は，教科書と「本学が指定する要件をみたすパソコン」を講義に持参することである。</p> <p>エクセルでグラフを作成したり，平均値，中央値，最頻値，分散や標準偏差などの統計量を求めたりする。 データの標準化，季節調整，ピボットテーブルによるデータの集計，回帰分析，ソルバーを使った最適化を学習し，自分でできるようになるまで繰り返し演習をおこなう。</p> <p>問題演習や課題の作成は授業中に指導，対話しながらおこなう。 受講生の知識や理解度を毎回確認して，それに応じて授業内容を合わせる予定である。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業中にエクセルで作成した課題などを毎回提出し，その評価の合計で総合評価する。

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと
テキスト	エクセルで学習するデータサイエンスの基礎（統計学演習15講） 岡田朋子 著 ISBN：9784764906815（近代科学社）
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	エクセルを使ってグラフを作成したり，データ分析を行ったりなどの実践的な実習をおこなう。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中におこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の内容についての予習や復習をそれぞれ2時間おこなうこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	2. 情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	基本統計量	授業内容の具体的な説明と準備。 (下記の内容はすべてエクセルを使って学習する) 基本統計量について。 代表値とは。	
2	平均値, 中央値, 最頻値, 分散, 標準偏差, 平均偏差とは	平均値, 中央値, 最頻値, 分散, 標準偏差とは。 中央値を求める問題。 最頻値を求める問題。	
3	エクセルでの平均値, 中央値, 最頻値, レンジの求め方	平均値, 中央値, 最頻値, レンジを関数で求める。 代表値の性質の違い。 平均値が必ずしも実態を表していないとされる典型的な例として, 貯蓄額について平均値, 中央値, 最頻値を考察する。 平均値, 中央値, 最頻値がビジネスにおいて何の役に立つかを理解する。	
4	不偏分散, 不偏分散による標準偏差とは	データのばらつきを調べる。 不偏分散とは何か。分散と不偏分散を求める問題。 標準偏差の意味。 標準偏差と不偏分散による標準偏差を求める問題。 標準偏差がビジネスにおいて何の役に立つかを理解する。	
5	度数分布表とは	度数分布表の定義。 データにもとづいて, 階級値, 度数, 相対度数, 累積度数, 累積相対度数を求め, ひとつにまとめて度数分布表をつくる。	
6	ヒストグラムの作成方法	度数分布表を作る問題。 ヒストグラムの作成方法。 度数分布表をもとにしてヒストグラムを作成する問題。	
7	エクセルでの外れ値の検出方法	散布図において近似曲線を使って外れ値を検出する。 折れ線グラフに補助線を引き外れ値を検出する。	
8	データの加工, 標準化とは	データの標準化の定義。 標準化したデータを比較する。 標準化したデータの平均値は0, 標準偏差は1になる理由を考える。 標準化がビジネスのどのような場面で役立つのかを理解する。	
9	標準化の問題	分散, 不偏分散を求める問題。 各データの平均値と標準偏差, 各データから平均値をひいたデータの平均値と標準偏差, その各データを標準偏差でわったデータの平均値と標準偏差を求める問題。	
10	トリム平均とは, 移動平均とは	トリム平均とは何か。 トリム平均を求める問題。 移動平均を用いて時系列データの傾向を読み取る。	
11	季節調整とは	実データを用いて時系列データの季節調整をする。 季節調整の意味を理解する。	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	エクセルでのデータの集計方法, データの可視化, データ分析の進め方, 仮説検証サイクル	クロス集計表を作成する. グループごとに要約する. 変数を原因と結果という視点で区別する. 質的変数と量的変数を区別する. 量的変数と量的変数の関係を折れ線グラフや散布図から確認する. 2軸グラフを作成する. 複数の散布図を比較する.	
13	相関係数とは	散布図のタイプを考える. 相関係数を求める問題. 散布図, 相関係数と回帰直線の関係. 散布図の傾向と相関の大きさを対応づける. 疑似相関について理解する.	
14	最小二乗法, データ分析の進め方, 仮説検証サイクル エクセルでの回帰分析方法, 最適化方法	データ分析の実践. 回帰分析を使って直線関係を具体化する. R-2乗値を使って原因の説明力を検討する. シミュレーションにより原因を動かしたときの結果を検討し, 予測値を求める. ソルバーを使って最適化問題を解く.	
15	まとめ	社会での実例を題材に統計学的手法を活用する実践をおこなう. 今までのまとめ.	

開講科目名 Course	A I ・ データサイエンス / AI ・ Data Science
時間割コード Course Code	30530
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	神邊 篤史
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	神邊 篤史 (経営学部)
授業の目標	<p>データ駆動型社会においてデータサイエンスやAIを日常生活やビジネスで使いこなすための基礎的知識を身に付けることを目標とする。</p> <p>知識・理解の領域 データ駆動型社会におけるAI, データサイエンスの利活用について理解する。</p> <p>技能の領域 実社会におけるAI, データサイエンスの利活用について説明できる。特に, 人間の知的生産活動におけるAI, データサイエンスの新しい応用領域や方法について提案できる。</p> <p>態度・志向性の領域 ビジネスをはじめとするさまざまな領域でAI, データサイエンスの利活用が求められているという認識を持つ。</p> <p>思考判断の領域 社会に受け入れられるように考慮してAI, データサイエンスの利活用方法を提案できる。</p> <p>関心意欲の領域 身の周りでAI, データサイエンスを適用し社会に貢献したいと考える意欲を持つ。</p>
授業の概要	<p>1. AI, データサイエンスに関する基礎知識を説明する。</p> <p>2. AI, データサイエンスの活用例について個人またはグループで調査し, 発表する。また, 発表内容に対し受講者どうしで意見交換を実施する。</p> <p>3. 学生のノートPCを用いて, 簡単なデータ収集, 分析の演習課題に取り組む。</p> <p>なお, 授業には各自のノートPCを持参する必要がある。</p> <p>この科目の位置づけについては, 本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>評価方法 各回で課される課題, プレゼンテーションの内容, 試験によって評価する。授業時間外の質問や授業内での意見表明に対しては別途加点することがある。 評価割合: 課題提出10% (期限までに提出されたかどうかも評価に含む), 提出課題の品質20%, プレゼンテーション20%, 試験50%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	北川、竹村（編）：「応用基礎としてのデータサイエンス」，講談社，2023（ISBN: 978-4-06-530789-2）。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループまたは個人による調査，分析を実施し，その結果を発表する。また，発表内容に対して意見を述べる。さらに，学生のノートPCを用いて簡単なデータ収集，分析演習を実施する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後またはオフィスアワーで対応する。
フィードバックの方法	課題締切後の次の授業において課題の解答を説明する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマについて予習30分，復習90分程度行うこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	AI, データサイエンスを学ぶ意義	授業内容と目的を理解する。 AI, データサイエンスとは何かを説明し, AI, データサイエンスを社会で活用する 目的を考える。	
2	データ駆動型社会とデータサイエンス	データ駆動型社会とはどのようなものか を考える。IoT, Industry 4.0, Society 5.0といった概念を理解する。	
3	データサイエンスの活用事例(1)	仮説検証, 知識発見, 原因究明, 計画策 定, 判断支援, 活動代替といったデー タサイエンスの活用事例について調査する 。	
4	データサイエンスの活用事例(2)	調査したデータサイエンス活用事例につ いて発表する。また, データを活用した 新しいビジネスモデルを提案する。	
5	データサイエンス人材の心得	データの活用により豊かな社会を目指す ために必要な, 規範的思考について説明 する。特に, 個人情報の取り扱い, プラ イバシー保護とデータ利活用の関係につ いて考察する。	
6	情報セキュリティ	様々な情報がデータで入手できる現在, データを保護する情報セキュリティ技術 が不可欠である。情報セキュリティの三 要素である機密性, 完全性, 可用性につ いて理解したうえで, 暗号化技術につ いて概観する。	
7	Webにおけるビッグデータの収集, 蓄積	情報通信技術の進展によりWebにおいて ビッグデータがどのように収集, 蓄積され ているか理解する。特に, ビッグデー タを収集, 蓄積するクラウドサービスにつ いて調査する。	
8	IoT技術によるビッグデータの収集・蓄積	IoT技術によるセンシングによるビッグ データについて理解する。センサーの種類 , センシングの方法, センシングによ って得られたデータの利活用方法につ いて検討する。	
9	ビッグデータの活用事例(1)	人のログデータ, 機械の稼働ログデー タ, ソーシャルメディアデータなどから得 られるビッグデータが社会で有益に活用 されている例を調査する。	
10	ビッグデータの活用事例(2)	調査したビッグデータ活用事例を発表す る。特に, 人間, 企業(組織), 社会全 体にどのようなメリットが生じているか 検討する。	
11	AIの歴史	AIの発展の歴史について, 特化型AIから 汎用AIへの技術の変遷を中心に理解する 。トイロブлем解決のための推論, 探 索しかできなかったAI, 知識工学理論に 基づくエキスパートシステム, ディープ ラーニングをはじめとする複雑な現実問 題を解決する方法といった, テクノロジ ーの移り変わりについて概観する。	
12	AIの応用分野	人間の学習, 認識, 予測・判断, 知識・ 言語, コミュニケーション, 身体・運動 といった知的活動にAI技術が活用されて いる例を概観する。また, 現在, 未来に おけるAI技術の活用領域の広がりにつ いて, 製造, 流通・金融, ヘルスケアなど 観点から検討する。	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
13	AIと社会	AIの知能が人間の知能を超えるシンギュラリティが将来訪れると議論されている。そのような社会においてAIが社会に受け入れられるために考慮すべき論点を検討する。AIの倫理や、プライバシー保護、個人情報の取り扱いについて考察する。	
14	機械学習の概要	機械学習の基本的な枠組みや手法の概要について理解する。回帰、識別、次元圧縮、クラスタリングの考え方について概観し、それぞれの手法がどのような問題解決に活用できるか検討する。	
15	授業のまとめ	これまでの授業の内容を振り返り、今後社会から求められるデータサイエンス、AIの活用先や手法について改めて検討する。	

開講科目名 Course	情報処理特論(木1・木2) / Advanced Topics in Information Processing
時間割コード Course Code	30540
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1, 木 / Thu 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	2,3
主担当教員 Main Instructor	波場 泰昭
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	波場 泰昭 (経営学部)
授業の目標	<p>本授業の到達目標は、プログラミング技能の向上を通じて、Artificial Intelligence (AI) を駆使したデータサイエンスの能力を獲得することである。本授業の前半では、豊富なライブラリを提供するプログラミング言語Pythonを用いて、柔軟なコード開発能力を養う。後半では、AIを用いた画像認識アプリ、及びニューラルネットワークを用いた顔画像分類アプリの制作を行う。これにより、独自にコード開発する喜びを体験すると共に、データ駆動型社会に適応できる能力を養う。</p> <p><b>知識・理解の領域</b> コンピュータを動かすソフトウェアの制御構造（順次・分岐・反復）及びアルゴリズムの表現（フローチャート）を理解する。また、教師あり学習・教師なし学習・強化学習などに応用されるニューラルネットワークの概念を理解する。</p> <p><b>技能の領域</b> ライブラリ（パッケージ/モジュール）を読み込み、複合的に利用してプログラムを開発する技能、これに基づいて機械学習・深層学習を実践する技能を身につける。また、高等学校の生徒を対象としたプログラミング教育に資する能力を養う。</p> <p><b>態度・志向性の領域</b> 課題発見やデータ解析を行うために、プログラミング技能が必須であることを認識する。必要に応じて使用するライブラリを取捨選択し、過不足のない簡潔で柔軟性のあるコーディングを目指す。デバッグにより、独力でプログラムを完成させる能力を育む。</p> <p><b>総合的思考力</b> 知識、技能、態度を総合的に活用し、問題を解決することができる。</p>
授業の概要	<p>本授業では「情報処理概論」や「プログラム入門」で獲得したハードウェア、ソフトウェア、ネットワークに関する知識・技能に立脚して、情報処理能力のさらなる向上を目指す。プログラム開発環境を構築し、アルゴリズムを実装するためのコーディングとコードを校正するためのデバッグとを繰り返しながら、実践的かつ体験的にプログラミング技能を養う。Pythonを用いたプログラミング技能を高め、AIとの親和性を醸成させることで、2年次後期開講科目「AI・データサイエンス」及び3年次開講科目「AI・データサイエンス」で取り上げる広範なデータサイエンスの能力を養成する。</p> <p>各自、Windowsを搭載したノートPCを持参すること。 高等学校教諭一種免許（情報）の取得に必要な教職課程科目である。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>以下の観点から、総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への参加姿勢 50%</li> <li>・ レポート（成果物）50%</li> </ul>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	無断欠席が6回以上に達した場合
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	Python 1年生 体験してわかる！会話でまなべる！プログラミングのしくみ（翔泳社）
参考書	Python 機械学習プログラミング PyTorch & scikit-learn編（インプレス）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	参加者が作成した成果物に関する報告をグループ内で行うことで、スキルシェアリングをすると共にプレゼンテーション能力を養う。参加者は毎回ノートPCを持参して、手を動かしながら担当教員との対話を繰り返し、技能を身につける。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業時間内に対応します。また、Microsoft Teamsを用いて随時対応します。
フィードバックの方法	授業時間内に対応します。また、Microsoft Teamsを用いて随時対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに関わる予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。予習ではアプリのセットアップ、復習では成果物の作成を含めて構いません。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 5. 自信創出力 7. 課題発見力 9. 実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	Python最新版とVisual Studio Code	
2	プログラム開発環境の構築	Python最新版とVisual Studio Code	
3	プログラミング基礎 ( 1 )	文字型・整数型・浮動小数点型	応用基礎レベル2-7
4	プログラミング基礎 ( 2 )	四則演算・論理演算	応用基礎レベル2-7
5	プログラミング基礎 ( 3 )	変数の定義	応用基礎レベル2-7
6	プログラミング基礎 ( 4 )	関数の定義 ( 引数・戻り値 )	応用基礎レベル2-7
7	アルゴリズムの表現 ( フローチャート ) ( 1 )	並び替え ( ソート ) バブルソート・選択ソート・挿入ソート	応用基礎レベル1-7
8	アルゴリズムの表現 ( フローチャート ) ( 2 )	探索 ( サーチ ) リスト探索・木探索・ハッシュ探索	応用基礎レベル1-7
9	アルゴリズムの表現 ( フローチャート ) ( 3 )	順次・分岐・反復	応用基礎レベル1-7
10	アルゴリズムの表現 ( フローチャート ) ( 4 )	if文 ( 分岐 ) とfor文 ( 反復 )	応用基礎レベル1-7
11	Pythonプログラミング演習 ( 1 )	ライブラリの活用	
12	Pythonプログラミング演習 ( 2 )	ライブラリの活用	
13	Pythonプログラミング演習 ( 3 )	GUIを有する画像表示アプリの制作	応用基礎レベル実践
14	Pythonプログラミング演習 ( 4 )	GUIを有する画像表示アプリの制作	応用基礎レベル実践
15	機械学習の基礎と展望 ( 1 )	実世界で進む機械学習の応用と発展	応用基礎レベル3-3
16	機械学習の基礎と展望 ( 2 )	実世界で進む機械学習の応用と発展	応用基礎レベル3-3
17	機械学習の基礎と展望 ( 3 )	教師あり学習・教師なし学習・強化学習	応用基礎レベル3-3
18	機械学習の基礎と展望 ( 4 )	教師あり学習・教師なし学習・強化学習	応用基礎レベル3-3
19	Artificial Intelligenceの活用 ( 1 )	scikit-learnを用いた機械学習の実践	応用基礎レベル3-3 応用基礎レベル実践
20	Artificial Intelligenceの活用 ( 2 )	scikit-learnを用いた機械学習の実践	応用基礎レベル3-3 応用基礎レベル実践
21	Artificial Intelligenceの活用 ( 3 )	scikit-learnを用いた機械学習の実践	応用基礎レベル3-3 応用基礎レベル実践
22	Artificial Intelligenceの活用 ( 4 )	画像認識アプリの制作	応用基礎レベル実践
23	Artificial Intelligenceの活用 ( 5 )	画像認識アプリの制作	応用基礎レベル実践
24	Artificial Intelligenceの活用 ( 6 )	画像認識アプリの制作	応用基礎レベル実践
25	ニューラルネットワークの活用 ( 1 )	PyTorchを用いた深層学習の実践	応用基礎レベル3-3 応用基礎レベル実践
26	ニューラルネットワークの活用 ( 2 )	PyTorchを用いた深層学習の実践	応用基礎レベル3-3 応用基礎レベル実践
27	ニューラルネットワークの活用 ( 3 )	PyTorchを用いた深層学習の実践	応用基礎レベル3-3 応用基礎レベル実践
28	ニューラルネットワークの活用 ( 4 )	顔画像分類アプリの制作	応用基礎レベル実践
29	ニューラルネットワークの活用 ( 5 )	顔画像分類アプリの制作	応用基礎レベル実践
30	ニューラルネットワークの活用 ( 6 )	顔画像分類アプリの制作	応用基礎レベル実践



開講科目名 Course	情報社会と情報倫理 / Information-Oriented Society and Information Ethics
時間割コード Course Code	30550
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	吉川 伸一
科目区分 Course Group	専門科目群 隣接科目
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	吉川 伸一 (経営学部)
授業の目標	<p>情報技術が日々進化していき、我々の生活や企業などのビジネスはより利便性を増している。その一方で、情報倫理の理解と整備が技術の進化に追いついていないような面もある。</p> <p>本講義では、今日のような情報技術に依存している社会を生きていく上で、社会の状況を正しく理解し、情報倫理の在り方を探ることにより、望ましい情報社会づくりに貢献できる能力を身に付けることを目標とする。また、AI（人工知能）の技術進歩によって、ビッグデータから様々な価値を創出することができるようになり、社会に大きな変化をもたらし始めている。AIは身に付けるべき素養と言えるが、AIが社会に受け入れられるために考慮すべき論点についても学ぶ。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報倫理とは何か、ネット社会と言われる現代においてなぜ情報倫理が必要なのかに関する知識を身に付けている。</li> <li>・人が創り出す創作物に関する知的所有権を理解し、著作者と利用者双方の権利を守って活用していくための法や知識を理解している。</li> </ul> <p>技能・表現の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報倫理の役割や内容を他人に説明できる。</li> <li>・情報倫理が定義されることで、守られている社会の秩序を説明できる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人レベルの情報倫理はもとより、企業に求められる情報倫理について自ら進んで調べるようになる。</li> </ul> <p>思考・判断の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業経営における情報倫理の在り方や役割を理解した上で、企業が継続的に競争上優位に立つことができるような戦略を思考することができる。</li> <li>・AIやビッグデータの特徴を理解し、正しい使い方及び人に代わって判断することの危険性について独自の着眼点を持つことができる。</li> <li>・文理融合的な観点から、社会科学領域における社会課題を統計等を用いた分析により、可視化などを通して解決に導くことの重要性を知っている。</li> </ul> <p>関心・意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活する上で知っておくべき情報倫理に関心を持つことができる。</li> <li>・情報倫理関連の記事に関心を持つことができる。</li> </ul> <p>体験・探究の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全かつ安心して暮らせる社会を築いていくために、情報倫理と呼ばれる情報に関するモラルやルールをよく理解し、実践することを体験できる。</li> <li>・AIが社会に受け入れられるために考慮すべき論点について積極的に学ぶ。</li> </ul>

授業の概要	現代社会は情報社会と言われ、情報システムに強く依存している。このシステムなしでは社会は成り立たない状況になっている。授業の前半では、社会における情報の位置づけと情報システムの役割を中心に学ぶ。 授業の後半では、安全かつ安心して暮らせる社会を築くために情報倫理という情報に関するモラルやルールを理解し、実践していくことの重要性を中心に学ぶ。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	参加姿勢を見る（15%） 毎回授業の終わりに小レポートを実施する（30%） 通常レポートを1回実施する（25%） 期末試験を行う（30%） 特別な事情がない限り遅刻や欠席には厳しく対処する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・出席回数が13回に満たない場合 ・連続して3回欠席した場合 特別な事情があって欠席した場合は、考慮する。
授業計画	第1回：情報通信社会とインターネット・進化と変遷 第2回：ネット社会のコミュニケーション 第3回：メディアの変遷 第4回：メディアリテラシー 第5回：情報通信社会とリテラシー、ソーシャルネットワークサービスと情報モラル 第6回：情報技術とセキュリティ 第7回：デジタルデバイスとユニバーサルデザイン 第8回：個人情報の取り扱いとプライバシー保護 第9回：情報倫理とは、デジタル万引き 第10回：肖像権、著作権の正しい考え方、知的所有権とコンテンツ(1) 第11回：知的所有権とコンテンツ(2) 第12回：ビッグデータとAIの倫理、AIの社会的受容性 第13回：企業と情報倫理 第14回：科学技術と情報倫理 第15回：インターネットと犯罪、全体のまとめとふりかえり、期末試験対策
テキスト	教員が作成した紙ベースの教材を毎回配布して授業を進めていく。
参考書	高橋慈子、原田隆史、佐藤翔、岡部晋典 著「改訂3版 情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー」、技術評論社 山住富也 著「ソーシャルネットワーク時代の情報モラルとセキュリティ」、近代科学社Digital
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・Slido（スライド）を用いて質問を行い、それに対する回答を求めることがある。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メール対応（メールアドレスは授業中に提示する）
フィードバックの方法	毎回小レポートを課す。その内容を見て、理解が足りないと判断した部分については次回の授業で復習する。 期末試験については、その成績評価をもってフィードバックとする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、次回テーマに関する文献調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力

PROGコンピテンシーの要素	6. 行動持続力 7. 課題発見力
----------------	----------------------

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	情報通信社会とインターネット・進化と変遷	現代は「情報通信社会」と呼ばれている。情報通信社会の変遷を社会の変化と共に把握しておく。	
2	ネット社会のコミュニケーション	ネットマナーと呼ばれる新しいマナーに気を付けることなど、サービスを上手に使う方法を知っておく。	
3	メディアの変遷	コンピュータやインターネットによって、情報とメディアがどのように変わってきたか、そして今後さらにどのように変化していくのかを一緒に考える。	
4	メディアリテラシー	情報を読み取り、発信し、主体的に行動できる能力、メディア・リテラシーを養う。	
5	情報通信社会とリテラシー、ソーシャルネットワークサービスと情報モラル	インターネットを利用する我々が情報を取り扱うとき、どのような能力(リテラシー)や知識、姿勢が必要なのかを確認しておく。	
6	情報技術とセキュリティ	パソコンやスマートフォンでインターネットを使うならば、セキュリティ対策を行うことは必要不可欠であると捉え、実践していく力を身に着ける。	「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の応用基礎レベル、モデルカリキュラムの2-6に対応
7	デジタルデバイドとユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインの考え方や事例を知って、情報発信にどのように生かせるのかを一緒に学んでいく。	
8	個人情報の取り扱いとプライバシー保護	個人の情報とプライバシーが、情報通信社会の中でどのように変わってきているのか、どう捉えるべきかを理解していく。	「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の応用基礎レベル、モデルカリキュラムの3-2に対応
9	情報倫理とは、デジタル万引き	「倫理」とは現代社会において、どのような意味を持っているのか、なぜ重要視されるのかを知っておく。 なぜデジタル万引きが問題となるのかを一緒に考える。	
10	肖像権、著作権の正しい考え方、知的所有権とコンテンツ(1)	肖像権や著作権について正しい考え方を身に着ける。 人の知的創作活動で形になったものを守るための知的所有権の考え方を一緒に学んでいく。	
11	知的所有権とコンテンツ(2)	著作者及び利用者の権利の両方を守って、活用していくための法律を一緒に学んでいく。	
12	ビッグデータとAIの倫理、AIの社会的受容性	大量のデータすなわち「ビッグデータ」の概要について理解を深める。 また、AIとはそもそもどのような技術なのか、人間に代わって判断することの危険性、そしてこれからどのように活用していくべきかを一緒に学習していく。	「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の応用基礎レベル、モデルカリキュラムの2-1及び3-2に対応

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
13	企業と情報倫理	情報技術が企業の健全性をどのように確保するのか、企業の構成員である従業員や関係者は情報をどのように扱うべきかを一緒に学んでいく。	
14	科学技術と情報倫理	科学技術の進歩と倫理について、どのような知識や視点を持つべきかを一緒に考える。	
15	インターネットと犯罪、全体のまとめとふりかえり	コンピュータ・ネットワークを利用した犯罪として、どのような犯罪があるのかを明らかにする。 現代のネット社会特有の犯罪を防止するために設定されている法律について一緒に学んでいく。	

開講科目名 Course	特殊専門講義（中小企業のブランディング論）/ Special Lecture on Specialized Studies II
時間割コード Course Code	32000
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3
主担当教員 Main Instructor	徐 誠敏
科目区分 Course Group	専門科目群 特殊科目
教室 Classroom	7 2 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	徐 誠敏 (経営学部)
授業の目標	<p>本授業では、中小企業が強いブランドを構築するために必要なブランディング戦略に関する基本的知識を確実に習得したうえで、その理論と実践に対してどのような応用可能性があるのかを検討し模索することで、次のような学習成果を生み出します。</p> <p>学習成果</p> <p>(1) 中小企業にとってなぜブランディングが重要であるのか、市場におけるさまざまな環境要因について論理的に説明することができる。</p> <p>(2) 中小企業が持続的成長を実現していくうえで欠かせないブランディング戦略の基本プロセスに関する基礎知識や用語についてわかりやすく説明することができる。</p> <p>(3) 中小企業の経営活動におけるブランディングの役割や機能についてわかりやすく説明することができる。</p> <p>(4) ブランディングに関する理論的な知識を身につけることができる。</p> <p>(5) 中小企業のブランディングの戦略的取り組みの成功事例から、それぞれのノウハウやスキルなどを学ぶことで、ブランド構築や組織内における理念・ビジョンの浸透型ブランディングに関する実践的な知識を身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>自社ブランドの構築と価値向上は、企業規模の大小を問わず、あらゆる企業にとって、必須かつ喫緊の経営課題です。すなわち、中小企業が持続的成長を実現していくうえで、ブランディングはきわめて重要な戦略的取り組みです。中小企業は、国の雇用創出と輸出実績において重要な役割を果たしており、国の国内総生産の成長率においても大いに貢献しています。とりわけ、日本経済を支えている中小企業は、企業数の99.7%、全従業員数の69.7%という高い割合を占めており、地方圏に立地する企業に限ると、その割合がさらに高まりつつあります。その一方、中小企業を取り巻く外部の環境は激変しています。また、中小企業間の競争も一層激化しています。それゆえ、中小企業は、持続的な競争優位を確保していくうえで、ブランディングは必要不可欠です。最近では、中小企業の経営活動においてブランディングが果たす役割とその重要性はますます大きくなってきています。したがって、本授業では、中小企業のブランディング・プロセスに関する基本的知識を習得した上で、その戦略的取り組みを理論的・実践的なアプローチから詳細に解説します。</p> <p>質問への対応方法 随時対応、授業後に対応。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照する。</p>
評価方法	授業の姿勢・態度(25点)、中間レポート(25点)、期末テスト(50点)を総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>【第1回】オリエンテーション(授業の概要および進め方)</p> <p>【第2回】中小企業とは何か、中小企業の意義・役割の重要性について考える</p> <p>【第3回】重要な概念を整理しそれらについて考える(1)</p> <p>【第4回】重要な概念の整理しそれらについて考える(2)</p> <p>【第5回】なぜ中小企業にとってブランド構築とブランディングが重要であるのかについて考える</p> <p>【第6回】中小企業のブランディング戦略の実行を阻害する要因について考える</p> <p>【第7回】中小企業が実行可能なブランドを構築する8つの基本プロセスについて考える</p> <p>【第8回】中小企業が実行可能なブランドを構築する8つの基本プロセスについて考える</p> <p>【第9回】中小企業が実行可能なブランドを構築する8つの基本プロセスについて考える</p> <p>【第10回】中小企業の先進的なブランディングの取り組み事例から学ぶ(1)一般財団法人「ブランド・マネージャー認定協会」</p> <p>【第11回】中小企業の先進的なブランディングの取り組み事例から学ぶ(2)「株式会社中島大祥堂</p> <p>【第12回】中小企業の先進的なブランディングの取り組み事例から学ぶ(3)「本多プラス株式会社」</p> <p>【第13回】企業変革の推進における戦略的インターナル・ブランディングのプロセス(1)</p> <p>【第14回】企業変革の推進における戦略的インターナル・ブランディングのプロセス(2)</p> <p>【第15回】これまでのまとめ</p> <p>本授業では、可能な限り、毎回、学習した内容などについて議論する。</p>
テキスト	徐誠敏・李美善(2022)『ブランド弱者の戦略：インターナル・ブランディングの理論と実践』ミネルヴァ書房。
参考書	<p>・一般財団法人ブランド・マネージャー認定協会(2015)『社員をホンキにさせるブランド構築法』同文館出版。</p> <p>・徐誠敏(2010)『企業ブランド・マネジメント戦略 CEO・企業・製品ブランド間の価値創造リンケージ』創成社。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	中小企業のマーケティングやブランディング戦略に関する考察とプレゼンテーションを通して、中小企業独自のマーケティングやブランディング戦略の手法・ノウハウなどについて積極的にディスカッションを行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	数年間にわたるブランディング・コンサルタントや一般財団法人ブランド・マネージャー認定協会のアドバイザーとしての経験を活かすことで、より実践的なブランディングに関する知識を教える。
質問への対応方法	授業後に対応する。またGmailでも対応する。
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	60時間の時間の予習復習の時間を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>8. 働きがいも経済成長も</p> <p>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標(11~17)	<p>12. つくる責任つかう責任</p> <p>17. パートナリーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p> <p>4. 構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>1. 親和力</p> <p>2. 協同力</p> <p>5. 自信創出力</p> <p>6. 行動持続力</p> <p>7. 課題発見力</p> <p>8. 計画立案力</p> <p>9. 実践力</p>

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	39100
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	中村 真咲
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70E 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 真咲 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>



教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1  2回目 各ゼミ2  3回目 各ゼミ3  4回目 合同ゼミ（企画1）  5回目 合同ゼミ（企画2）  6回目 合同ゼミ（企画3）  7回目 各ゼミ4  8回目 各ゼミ5  9回目 各ゼミ6  10回目 合同ゼミ（企画4）  11回目 合同ゼミ（企画5）  12回目 合同ゼミ（企画6）  13回目 各ゼミ7  14回目 各ゼミ8  15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。  また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。  そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。  授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	39101
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	山下 幸裕
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山下 幸裕 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1  2回目 各ゼミ2  3回目 各ゼミ3  4回目 合同ゼミ（企画1）  5回目 合同ゼミ（企画2）  6回目 合同ゼミ（企画3）  7回目 各ゼミ4  8回目 各ゼミ5  9回目 各ゼミ6  10回目 合同ゼミ（企画4）  11回目 合同ゼミ（企画5）  12回目 合同ゼミ（企画6）  13回目 各ゼミ7  14回目 各ゼミ8  15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。  また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。  そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。  授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	39102
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	吉川 伸一
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	6 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	吉川 伸一 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんと組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	39103
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	四辻 秀紀
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	四辻 秀紀 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	2. 協同力

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	39104
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	李 彩華
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 4 A 多目的室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 彩華 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>



教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	39105
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	井土 康仁
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	井土 康仁 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能</p> <p>必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。</p> <p>文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な態度</p> <p>自らを律して行動できる。</p> <p>約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。</p> <p>仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1  2回目 各ゼミ2  3回目 各ゼミ3  4回目 合同ゼミ（企画1）  5回目 合同ゼミ（企画2）  6回目 合同ゼミ（企画3）  7回目 各ゼミ4  8回目 各ゼミ5  9回目 各ゼミ6  10回目 合同ゼミ（企画4）  11回目 合同ゼミ（企画5）  12回目 合同ゼミ（企画6）  13回目 各ゼミ7  14回目 各ゼミ8  15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。  また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。  そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。  授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	39106
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	大曾 暢烈
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大曾 暢烈 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1  2回目 各ゼミ2  3回目 各ゼミ3  4回目 合同ゼミ（企画1）  5回目 合同ゼミ（企画2）  6回目 合同ゼミ（企画3）  7回目 各ゼミ4  8回目 各ゼミ5  9回目 各ゼミ6  10回目 合同ゼミ（企画4）  11回目 合同ゼミ（企画5）  12回目 合同ゼミ（企画6）  13回目 各ゼミ7  14回目 各ゼミ8  15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。  また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。  そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。  授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	39107
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	岡田 朋子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70F 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岡田 朋子 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	39108
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	郡 麻里
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	郡 麻里 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語や英語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>



教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 キャンパスの美化の提案1  2回目 各ゼミ2 樹木に名札をつけてみよう1  3回目 各ゼミ3 環境改善の提案1  4回目 合同ゼミ（企画1）  5回目 合同ゼミ（企画2）  6回目 合同ゼミ（企画3）  7回目 各ゼミ4 竹林の整備1  8回目 各ゼミ5 里山の観察1  9回目 各ゼミ6 地域の特色や発見1  10回目 合同ゼミ（企画4）  11回目 合同ゼミ（企画5）  12回目 合同ゼミ（企画6）  13回目 各ゼミ7 オリジナルマップの作成  14回目 各ゼミ8 オリジナルマップのプレゼン  15回目 各ゼミ9 半年の振り返り</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。  また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。  そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。  授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	12.つくる責任つかう責任 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力 7.課題発見力

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	39109
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	波場 泰昭
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	波場 泰昭 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	39110
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	宮島 良子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	宮島 良子 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IB
時間割コード Course Code	39150
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	中村 真咲
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70E 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 真咲 (経営学部)
授業の目標	1. 東海地方の企業の歴史を通して、資本主義とは何か、近代化とは何かについて考えていく 2. 地域の伝統産業をめぐる課題を通して、地域課題の解決について考えていく 3. 地域の文化資源を活かした地域創生について考えていく 4. プレゼンの方法を学ぶ
授業の概要	1. 東海地方の企業の特徴とその歴史的な背景を学ぶ。 2. 資本主義の歴史や社会の近代化について、自分の考えを他者に説明できるようになる。 3. 現在の東海地方が直面する課題を学ぶために、新聞や雑誌の記事を使って情報を収集する方法を学ぶ。 4. 文献やインターネットのツールを使って企業の情報を調べるための方法を学ぶ。 5. 自分の興味のある企業・地域・産業などの歴史と課題について調べ、発表する。
評価方法	定期試験は実施しません。 毎回、授業の出欠、受講態度、研究発表、討論への参加状況、期末報告の内容や受講態度などによって、総合的に評価されます。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回．はじめに 第2回．東海地方の企業と産業（1）盛田グループ 第3回．東海地方の企業と産業（2）ミツカン 第4回．東海地方の企業と産業（3）森村グループ 第5回．東海地方の企業と産業（4）尾北の起業家たち 第6回．合同ゼミ（企画） 第7回．東海地方の企業と産業（5）尾張の養蚕・繊維業 第8回．東海地方の企業と産業（6）美濃焼・瀬戸焼 第9回．東海地方の企業と産業（7）関の刃物・美濃和紙 第10回．文化経営とは何か（1）文化経営の基礎 第11回．文化経営とは何か（2）博物館・美術館と文化経営 第12回．文化経営とは何か（3）文化遺産と文化経営 第13回．文化経営とは何か（4）観光と文化経営 第14回．文化経営とは何か（5）地域創生と文化経営 第15回．発表  後期15回のゼミのうち、1回分を「合同ゼミ」（それぞれの学部・学科単位）で実施し、企画Gの合同ゼミで、「新聞活用講座」について学びます。
テキスト	とくに定めなし

参考書	必要に応じて参考文献をお知らせします。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	自分の興味のある産業・地域・文化施設を選び、その歴史・特徴・課題について調べ、期末に報告し、演習参加者と議論します。そのために、文化や芸術の発展を支えるための行政の制度や仕組み、行政文書の読み方、必要な情報を集める方法、フィールドワークの方法を授業のなかで学びます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	担当教員の犬山市歴史まちづくり協議会委員、犬山市史編纂委員、犬山学研究センター長としての実務経験を活かして、行政文書（歴史的風致維持向上計画、歴史文化基本構想など）を授業のなかで素材として学びます。
質問への対応方法	・授業後に対応 ・メールで随時対応（masaki.n@nagoya-ku.ac.jp）
フィードバックの方法	期末報告に対するフィードバックは、授業のなかで行うとともに、必要に応じてコメントや助言をメールでも行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の演習では、翌週の演習内容に関わる資料を配布するので、翌週までに各自で予習します。その資料を読んだ前提で、次回の演習を行いますので、予習は必須です。また、演習で配布した資料を家で読み、復習します。これらの予習・復習（計60時間）を行うことが、期末報告の準備につながります。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力 9.実践力

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IB
時間割コード Course Code	39151
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	山下 幸裕
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山下 幸裕 (経営学部)
授業の目標	<p>基礎演習IBでは、グループ学習による会社調査を通して大学生に必要なスタディスキル (読む・書く・聴く・話す・調べる・まとめる・発表する) の向上を目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;  知識・理解の領域  調べた会社について自分が理解したことを説明できる。  技能の領域  インターネットで公開されている会社の情報を収集することができる。  調査結果を分かりやすくまとめて発表することができる。  態度・志向性の領域  関心ある会社について自ら調べるようになる。  関心意欲の領域  他者の意見を聴いて自分なりの考えを述べるができる。  体験探究の領域  自分の主張に対して、深く考え、論理的に説明することができる。</p>
授業の概要	<p>基礎演習IBでは、以下のような演習を計画しています。ただし要望や状況に応じて柔軟に変更します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個人で会社 (施設) について調べます。</li> <li>2. 調べた会社 (施設) についてグループで話し合いまとめます。 (場合によっては会社見学や社員の方の講演があります)</li> <li>3. グループでまとめた結果をパワーポイント等で報告します。</li> </ol> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染拡大により授業形態の変更が必要になった場合は、講義内容や評価方法などを大きく変更する場合があります。</p>
評価方法	<p>成績は以下の観点から総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミへの参加姿勢</li> <li>・宿題</li> <li>・報告内容と質疑</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>以下の事由により失格になる場合がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・著しく欠席・遅刻が多い場合 ゼミは毎回の出席を前提に進めます。無断欠席は厳禁です。</li> <li>・教員の連絡に応じない場合</li> <li>・宿題の提出や発表を怠った場合</li> </ul>



授業計画	<p>第1回 ガイダンス：演習内容の確認、前期の振り返りと後期の抱負  第2～5回 会社調べの報告  第6回 合同ゼミ（企画G）  第7～9回 グループワーク  第12～14回 報告資料の作成  第15回 報告会</p> <p>要望や状況に応じて変更することがあります。</p> <p>後期15回のゼミのうち、1回分を「合同ゼミ」（それぞれの学部・学科単位）で実施し、企画Gの合同ゼミで、「新聞活用講座」について学びます。</p>
テキスト	
参考書	授業時に指示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	会社について調べ、グループでまとめ、パワーポイントを使い報告する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業終了後もしくはオフィスアワーにて質問に対応する。
フィードバックの方法	授業中にフィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>準備学習として、各回、4時間の予習・復習を必要とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会社について調べる。</li> <li>・グループワークの準備をする。</li> <li>・授業内容について復習する。</li> </ul>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IB
時間割コード Course Code	39152
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	吉川 伸一
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	6 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	吉川 伸一 (経営学部)
授業の目標	<p>本授業では、基礎演習 IAの内容を踏まえ、4年間の大学生活とその後のキャリアへの指針を得る。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で学んだ専門用語を理解し、説明できる。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータソフトを用いて基礎的なデータ解析ができる。</li> <li>・テーマを見つけて、それに関するマインドマップを作成できる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスを見て、次回の授業内容について予習しておく。</li> <li>・授業で学んだ内容について、積極的に復習しておく。</li> </ul> <p>関心・意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員から与えられたことだけでなく、自分で積極的に新聞や学術雑誌などから、演習で使えるような題材、特集、データなどを探し、教員に提示できる。</li> </ul>
授業の概要	<p>【授業形態】本授業は対面で実施します。学生が主体となり発表するアクティブラーニングを行います。</p> <p>学生生活を送る上で必要なこと（ストレスと向き合う、モラルと規範を守る、図書館を利用する、インターネットを安全に活用する）や、将来を見据えたキャリアデザインについて学習する。また、スライド作成やレジユメの書き方、発表の仕方、他社の発表への評価についても習得する。以上の取り組みを続けることにより、ゼミ生はこれから大学生活およびその後の人生への指針を得る。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業における発表および、出題したテーマへのレポートで評価する。評価は、授業への参加姿勢50%、課題50%とする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業に出席しない。課題を提出しない。

授業計画	<p>&lt; 授業計画 &gt;</p> <p>1回目 各ゼミ 1 2回目 各ゼミ 2 3回目 各ゼミ 3 4回目 各ゼミ 4 5回目 合同ゼミ (企画A) 6回目 合同ゼミ (企画B) 7回目 各ゼミ 5 8回目 各ゼミ 6 9回目 各ゼミ 7 10回目 合同ゼミ (企画C) 11回目 合同ゼミ (企画D) 12回目 各ゼミ 8 13回目 各ゼミ 9 14回目 各ゼミ 10 15回目 各ゼミ 11</p> <p>後期15回のゼミのうち、4回分を 合同ゼミ (それぞれの学部・学科単位) で実施します。 すなわち、企画 A と企画 B の合同ゼミでは、「振り込め詐欺・マルチ商法」および「ブラックバイト」の各テーマについて学びます。 また、企画 C と企画 D の合同ゼミでは、「ダイバーシティ」および「新聞活用講座」の各テーマについて学びます。 そして、各ゼミ 1～4 では、Wordを使ったビジネス文書作成、各ゼミ 5～7 では、PowerPointを使ったプレゼン、各ゼミ 8～11 では、Excelを使った表計算について学習し、課題を作成・提出します。</p>
テキスト	担当教員が資料を投影または配布して授業を進めます。
参考書	必要な資料を適宜紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	スライドを作成して、プレゼンテーションとその相互評価を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて対応します。
フィードバックの方法	メールにて対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1～10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IB
時間割コード Course Code	39153
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	四辻 秀紀
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	四辻 秀紀 (経営学部)
授業の目標	<p>・日々おこる様々な出来事に関心を持ち、新聞や雑誌、ネットなどから情報を収集し、自分独自のデータベースを作成する。特に今後興味を持ちでテーマとしたい事柄を探る。</p> <p>・自分自身で調べることの面白さと大切さを知り、その情報や知識を自分のものとして興味の幅を広げ、纏めることができる力を養う。</p>
授業の概要	<p>・情報を収集し、纏め、発表し人に伝える技術を習得する。</p> <p>・自己を研ぎ、探求する楽しさや面白さを知る。</p> <p>・問題意識を持ち、自己の考えを伝えるために必要な基礎知識を習得する。</p> <p>・グループに分かれて、課題とするテーマを選び、これについて発表する。</p>
評価方法	参加姿勢60% レポート提出40%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合
授業計画	<p>1 イントロダクション</p> <p>2 ~9 毎回ゼミの前週に新聞や雑誌などで取り上げられた記事を資料として、その情報を共有するとともに、要約レポートを作成する。</p> <p>10~14 グループによる発表およびディスカッション。</p> <p>15 まとめ</p>
テキスト	必要に応じて配布する。
参考書	必要に応じ紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループによる発表およびディスカッションをおこなう。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応・メール対応
フィードバックの方法	翌週返却

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回ゼミの前週に新聞や雑誌などで取り上げられた記事を資料として、その情報を共有するとともに、関連事項の収集をおこなう。また授業ご要約レポートを作成する。予習・復習は全体で60時間の学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	1. 貧困をなくそう 2. 飢餓をゼロに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標(11~17)	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IB
時間割コード Course Code	39154
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	李 彩華
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 4 A 多目的室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 彩華 (経営学部)
授業の目標	<p>大学での学び方の基本を理解し身につけることを目標とします。 基礎演習 1 A で学んだことを土台として、読み解く力 (Input)、探究する力 (Question)、表現する力 (Output)、協働する力 (Collaboration) をより一層養えることをめざします。</p> <p>知識・理解の領域 資料を読み解くことはなぜ重要かを理解できる。 自分自身で調べることの大切さを知ることができる。</p> <p>技能の領域 研究を重ねていくノウハウを身につけることができる。 知識を自分のものとしてまとめあげ、表現する基本的スキルを身につけることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 共同作業を通じて協働する力を磨くことができる。</p>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学術新書や雑誌、新聞やネットなどからの記事を題材に読み解きます。</li> <li>・受講者が自らの問題関心に基づいて提案するテーマに関する資料を題材とすることもあります。</li> <li>・読み解く過程で明らかになったキーワードや論点などについて調べたりして深堀を重ねます。</li> <li>・付箋や紙などに重要な観点や自分の考えを書き出したり口頭説明したりして情報共有を図ります。</li> <li>・わかったこと、理解できたこと、自分の思ったことなどをレポートにまとめ、スライドなどを通じて口頭発表 (プレゼンテーション) を行います。</li> </ul> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>課題提出、質疑応答への参加姿勢、期末試験などにより、総合的に成績評価します。</p> <p>参加姿勢50% 期末試験50%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無断欠席は認めません。</li> <li>・やむを得ず欠席となる場合は必ず連絡すること。</li> <li>・欠席4回を超えた場合は失格 (X) となる場合があります。</li> </ul>

授業計画	<p>1回：ガイダンス</p> <p>2～6回：資料を読み解き、ワークに取り組みます。ワークは一人取り組むときもあれば、グループワーク形式で取り組むこともあります。</p> <p>7回：合同ゼミ(企画 G)</p> <p>8～10回：資料を読み解き、ワークに取り組みます。ワークは一人取り組むときもあれば、グループワーク形式で取り組むこともあります。</p> <p>10～14回：グループ毎に分かれ、スライドを作成し口頭発表を行います。</p> <p>15回：振り返り</p> <p>追記 後期15回のゼミのうち、1回分（第7回）を「合同ゼミ」実施します。企画Gの合同ゼミで、「新聞活用講座」について学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。</p> <p>資料を配布します。</p>
参考書	<p>初級『大学生 学びのハンドブック4訂版』、世界思想社、1,200円（税別）。</p> <p>中級 都築学『大学1年生のための伝わるレポートの書き方』有斐閣、2016年、1,400円</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク、口頭発表を行ったりします。</li> <li>・各回の授業内でディスカッションと質疑応答を行います。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	提出物を翌週に返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	調査した資料と自分のレベルに合った参考書をよく読んで予習・復習してもらいます。一回の演習につき、資料調査を含めて4時間程度をかけて準備学習してもらいます。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>5. ジェンダー平等を実現しよう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IB
時間割コード Course Code	39155
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	井土 康仁
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	井土 康仁 (経営学部)
授業の目標	この授業では文学作品を通じて、批評・分析力を養います。具体的には、 1. 読解する力を養う。 2. 批評する力を身につける。 3. 分析する多くの視点を獲得する。 4. 自分の考えをまとめ、発表する方法を学ぶ。 などが目標として掲げられます。
授業の概要	この授業では、小説や映画といった文学作品の理解の仕方から、分析の方法、そこから得られた考えを、文章やプレゼンテーションとしてまとめるやり方を学びます。 授業内で文学作品の批評の仕方を提示するので、学期の最後に自分で選んだ作品について、分析・批評を行います。 インターネットを使った資料の検索方法や、論文の書き方なども学びます。
評価方法	1. ゼミへの参加態度 2. 期末レポート などを考慮し、総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合、失格となることがあります。



授業計画	<p>1回目 インTRODクシヨン</p> <p>2回目 作品分析1</p> <p>3回目 作品分析2</p> <p>4回目 作品分析3</p> <p>5回目 合同ゼミ(企画A)</p> <p>6回目 合同ゼミ(企画B)</p> <p>7回目 批評1</p> <p>8回目 批評2</p> <p>9回目 批評3</p> <p>10回目 合同ゼミ(企画C)</p> <p>11回目 合同ゼミ(企画D)</p> <p>12回目 プレゼンテーションのやり方・論文の書き方</p> <p>13回目 プレゼンテーション1</p> <p>14回目 プレゼンテーション2</p> <p>15回目 まとめ</p> <p>後期15回のゼミのうち、4回分を「合同ゼミ」(それぞれの学部・学科単位)で実施します。すなわち、企画Aと企画Bの合同ゼミでは、大学生を取り巻く危険として「振り込め詐欺・マルチ商法」および「ブラックバイト」の各テーマについて学びます。また、企画Cと企画Dの合同ゼミでは、「ダイバーシティ」および「新聞活用講座」の各テーマについて学びます。</p>
テキスト	特になし。授業内で資料を配布します。
参考書	授業内で提示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションを行います。</li> <li>・それぞれが行ったプレゼンテーションについて、ディスカッションを行います。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミの前後やメール(ido-y@nagoya-ku.ac.jp)で対応します。
フィードバックの方法	授業内でフィードバックし、提出されたレポートに対しても、すみやかにコメントします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業やプレゼン、そしてレポートの準備などに、4時間の予習・復習を必要とします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IB
時間割コード Course Code	39156
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	大曾 暢烈
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大曾 暢烈 (経営学部)
授業の目標	<p>【授業目標】 基礎演習IBでは、調べる、読む、考える、まとめる、発表する、といったスキルを身につけることを目標とします。</p> <p>【学習成果】</p> <p>知識・理解の領域 文献を読み・まとめ、発表し、ディスカッションするという大学生活において必要なスキルを身につけることができる。</p> <p>技能の領域 報告やグループ学習を通して、問題発見力や論理的思考力を身につけることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 報告における質問や議論を通して、自律的な学習姿勢を身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>基礎演習IBでは、文献を読み・まとめ、発表し、ディスカッションするという一連のスタイルで講義を進めます。</p> <p>はじめに、テキストの輪読を行い、その内容を演習時に報告、そしてディスカッションしてもらいます。さらに、数名のグループ単位で課題研究に取り組んでもらいます。雑誌や書籍をもとに、関心のある企業経営に関するテーマを設定し、文献（雑誌や書籍）を収集・調査し、発表・ディスカッション、レポート作成という一連のプロセスに取り組みます。</p> <p>* 上記の授業概要については、状況によって変更する可能性があります。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	演習への参加態度、報告・課題内容で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	著しく欠席が多い場合、課題や発表に対する十分な取り組みがなされない場合

授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 テキストの輪読とディスカッション(1)</p> <p>第3回 テキストの輪読とディスカッション(2)</p> <p>第4回 テキストの輪読とディスカッション(3)</p> <p>第5回 テキストの輪読とディスカッション(4)</p> <p>第6回 合同ゼミ(企画 G)</p> <p>第7回 グループによる課題研究(1) 課題研究の進め方・テーマの設定</p> <p>第8回 グループによる課題研究(2) グループ学習</p> <p>第9回 グループによる課題研究(3) グループ学習</p> <p>第10回 グループによる課題研究(4) グループ学習</p> <p>第11回 グループによる課題研究(5) グループ学習</p> <p>第12回 グループによる課題研究(6) グループ学習</p> <p>第13回 グループによる課題研究(7) グループ学習</p> <p>第14回 グループによる課題研究(8) 報告準備</p> <p>第15回 課題研究の報告</p> <p>後期15回のゼミのうち、1回分を「合同ゼミ」(それぞれの学部・学科単位)で実施し、企画Gの合同ゼミで、「新聞活用講座」について学びます。</p>
テキスト	<p>必要な資料を適宜紹介します。</p> <p>*必要に応じて、購入してもらう可能性があります。</p>
参考書	必要な資料を適宜紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ディスカッションや発表などを実施する予定である。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後に対応する。
フィードバックの方法	授業中に行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、予習2時間、復習2時間が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IB
時間割コード Course Code	39157
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	岡田 朋子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70F 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岡田 朋子 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>各ゼミにおいては、各自が「本学が指定する要件をみたすパソコン」を講義に持参し、それを使って実習をおこなう。</p> <p>パソコンの使い方を覚え、操作に慣れるよう、おもにWordを使用して演習をする。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。

授業計画	<p>後期15回のゼミのうち、14回は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、1回は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。各ゼミではWordを使って実習をおこないます。合同ゼミでは企画Gの「新聞活用講座」について学びます。</p> <p>1回目 文書内を移動する、文書の書式を設定する  2回目 文書を保存する、共有する  3回目 文書を検査する  4回目 文字列や段落を挿入する  5回目 文書にセクションを作成する、設定する  6回目 合同ゼミ（企画G）  7回目 表を作成する、表を変更する  8回目 リストを作成する、変更する  9回目 参照のための要素を作成する、管理する  10回目 参照のための一覧を作成する、管理する  11回目 図やテキストボックスを挿入する、図やテキストボックスを書式設定する  12回目 グラフィック要素にテキストを追加する、グラフィック要素を変更する  13回目 コメントを追加する、管理する  14回目 変更履歴を管理する  15回目 まとめ</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。  授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IB
時間割コード Course Code	39158
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	郡 麻里
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	郡 麻里 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕      学習および大学生活全般に必要な技能      必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。      文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語や英語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。      自分の考えをまとめ、表現できる。      学習および大学生活全般に必要な態度      自らを律して行動できる。      約束を守ることなど、大学や社会の構成員として自分の責任を果たすことができる。      仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、後期に所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次後期のゼミナールは、大学生活や勉強の進捗について振り返ります。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。</p> <p>このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕      この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	成績評価の基準は次の通りです。 1.ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。 2.ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。 3.授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。 出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。  1回目 各ゼミ1 キャンパスの美化の提案2 2回目 各ゼミ2 樹木に名札をつけてみよう2 3回目 各ゼミ3 環境改善の提案2 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 竹林の整備2 8回目 各ゼミ5 里山の観察2 9回目 各ゼミ6 地域の特色や発見2 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 オリジナルマップの作成 14回目 各ゼミ8 オリジナルマップのプレゼン 15回目 各ゼミ9 1年の振り返り  このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。
テキスト	テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。
参考書	世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。 この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	担当教員は環境省や東京都などの行政とともに環境調査や希少種の生育・生息環境の保全活動に携わった経験があるため、特にキャンパスの里山整備事業を授業に取り入れて指導します。
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間、電子メール等も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに

SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任 13.気候変動に具体的な対策を 15.陸の豊かさを守ろう 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力



開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IB
時間割コード Course Code	39159
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	波場 泰昭
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	波場 泰昭 (経営学部)
授業の目標	<p>ビッグデータの普及と人工知能 (AI) の浸透は、私たちの生活のあらゆる側面に影響を与え、経済活動や社会活動の意思決定の基盤となっている。このようなデータ駆動型社会において、情報処理能力を獲得することは、キャリアを築くために必須である。当該ゼミでは、既存のアプリケーションを最大限に活用する能力、及び独自にソフトウェアを開発するために必要なプログラミングの技能を養うことを目標とする。</p> <p><b>知識・理解の領域</b> 画像の制作・編集、ドキュメントの製本・編集を簡便に行うことができる汎用的なアプリケーションに関する知識を習得する。これらの相補的あるいは複合的な利活用により、情報処理能力が向上することを理解する。</p> <p><b>技能の領域</b> 画像の制作・編集を行い、ドキュメントやプレゼンテーション資料として掲載する技能を養う。表計算・数値計算を効率化し、GUIを構築するためのプログラミング技能を養う。</p> <p><b>態度・志向性の領域</b> 当該ゼミの参加者が共同で学習し、議論を行い、チームワークやリーダーシップの側面から行動力を発揮する。常に、キャリア教育の視点に立ち、情報処理能力を自己実現に資する。</p> <p><b>総合的思考力</b> 知識、技能、態度を総合的に活用し、問題を解決することができる。</p>
授業の概要	<p>上記の到達目標に向けて、実践的で拡張性のある機能を知り、それを最大限に活用する技能を身につける。対話形式の授業を通じて知識の定着を図ることはもとより、参加者は大学が指定するスペックのノートPCを用いて持参して、コーディング及び動作確認することで実践的かつ体験的にプログラミングの技能を養う。また、参加者が相互にコミュニケーションを取り共同作業を行うことで、スキルシェアリングをする。</p> <p>各自、Windowsを搭載したノートPCを持参すること。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>以下の観点から、総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への参加姿勢 50%</li> <li>・ レポート (成果物) 50%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	無断欠席が3回以上に達した場合
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	Pythonプログラミング ABC 正確に・美しく・簡潔に! (近代科学社)

参考書	なし
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	参加者が作成した成果物に関する報告をグループ内で行うことで、スキルシェアリングをすると共にプレゼンテーション能力を養う。参加者は毎回ノートPCを持参して、手を動かしながら担当教員との対話を繰り返し、技能を身につける。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業時間内に対応します。また、Microsoft Teamsを用いて随時対応します。
フィードバックの方法	授業時間内に対応します。また、Microsoft Teamsを用いて随時対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに関わる予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。予習ではアプリのセットアップ、復習では成果物の作成を含めて構いません。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標 (11~17)	12.つくる責任つかう責任 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 5.自信創出力 9.実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	データ駆動型社会における情報処理能力	
2	表計算における関数 ( 1 )	Office 365 Excel (オートフィル、VLOOKUP関数)	
3	表計算における関数 ( 2 )	Office 365 Excel (条件分岐、IF関数、COUNTIF関数)	
4	表計算における関数 ( 3 )	Office 365 Excel (データのグラフ化)	
5	プログラム開発環境の構築	Python最新版とVisual Studio Code	
6	合同ゼミ (企画G)	新聞活用講座	
7	プログラミング基礎 ( 1 )	文字型・整数型・浮動小数点型	
8	プログラミング基礎 ( 2 )	四則演算・論理演算、変数の定義	
9	プログラミング基礎 ( 3 )	関数の定義 (引数・戻り値)	
10	ライブラリの活用 ( 1 )	csvを用いたCSV形式データの操作	ライブラリ csv
11	ライブラリの活用 ( 2 )	pandasを用いた表形式データの操作	ライブラリ pandas
12	ライブラリの活用 ( 3 )	matplotlibを用いたデータのグラフ化	ライブラリ matplotlib
13	ライブラリの活用 ( 4 )	seabornを用いたデータのグラフ化	ライブラリ seaborn
14	ライブラリの活用 ( 5 )	turtleを用いた図形の描画	ライブラリ turtle
15	ライブラリの活用 ( 6 )	tkinterを用いたGUIの構築	ライブラリ tkinter

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IB
時間割コード Course Code	39160
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	宮島 良子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	宮島 良子 (経営学部)
授業の目標	<p>自分で考え、調べ、まとめ、発表し、実行に移すことができるようになる。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 経営的な視点を持ち、ビジネスや人生を生き抜く上で必要となる様々な知識を得ることができる。</p> <p>技能の領域 多くの情報の中から、自分の得た知識を簡潔にまとめ、プレゼンテーションして、多くの人に理解してもらうことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 経営学部の学生として経営に興味を持ち、ビジネスを客観的に分析することができ、更に専門的なものを知りたい、学びたいと思うようになる。</p> <p>思考・判断の領域 多角的な視点を持ち、人間の多様性と普遍性を学習と経験を通して学ぶことができる。</p> <p>関心意欲の領域 社会がいかに多くの人々の営みによって形成されているのかを知り、今まで関心が無かった、もしくは薄かったところにも興味を持つようになる。</p>

<p>授業の概要</p>	<p>〔授業形態〕 グループワークや個人作業を実施します。 〔質問への対応〕 質問についてはメール連絡などで随時対応します。面談は予約を入れてください。</p> <p>課題の提出はメールでの提出のほか、グーグルクラスルームやグーグルフォーム等を利用することがあります。</p> <p>ア) まず、情報収集のためにどのようなものがあるのかを調べる。 次に、得た情報の真偽を確かめること、重要度を意識し、整理する。 関連したテーマを決め、特に興味を持ったものについて、更に調べ、まとめて発表する。 質問づくり、ブレインストーミング、パラグラフライティングなどを扱う。 テーマはSDGsなどを中心に扱う。</p> <p>イ) P(計画)D(実行)C(評価)A(改善)サイクルを体感するため、イベントを企画立案、実行、振り返る。</p> <p>ウ) インターンシップに関する事前準備活動を実施する</p> <p>〔この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。〕</p>
<p>評価方法</p>	<p>&lt;成績評価&gt; 授業へのでの活動および課題への取組み(「課題提出」および「質問に対する回答」など)(60%)および前期2回実施する発表(プレゼンテーション)(20%)・レポート作成(20%)などの結果により、総合的に評価します。</p> <p>毎回の授業では、テーマに沿った200字程度の文章を作成します。 授業での活動：4点×15回=60点 発表・レポート・企画の実施など：40点</p>
<p>教員の指導に従わない以外の事由による失格基準</p>	<p>原則として、特段の配慮が必要ではない5回以上の欠席があった場合には失格となります。欠席の際には、担当教員に事情を含め、連絡すること。</p>
<p>授業計画</p>	<p>&lt;1-5回&gt; オリエンテーション、アンゲームという「傾聴」する姿勢を育む活動を行う。 「SDGs」「ビジネス」に関連する特集記事等を複数読んだり、視聴したりして、知識を増やします。 自分の理解と他の人たちの理解を比較したり、意見を交換しながら、思考を深めます。 毎回テーマに沿った250字程度の文章を作成します。 作成した文章をもとに自分の意見を発表し、ゼミの仲間と共有します。 教員が指定するテーマについて調査を行い、パワーポイントにまとめ、発表します。</p> <p>6回: 合同ゼミ(企画 G)</p> <p>&lt;7-15回&gt; イベントの企画、提案 P(計画)D(実行)C(評価)A(改善)を体験するため、 イベント等を企画立案し、プレゼンし、投票し、決定します。 イベントを実施し、振り返り、報告します。</p> <p>なお、模擬店への出店など、模擬ビジネスを通じて実際に損益計算を経験することを推奨します。</p> <p>企画Gの合同ゼミで、「新聞活用講座」について学びます。 ===</p>
<p>テキスト</p>	<p>特になし。必要な資料は配布する。</p>
<p>参考書</p>	<p>適宜、紹介します。 <a href="http://toyokeizai.net/">http://toyokeizai.net/</a> <a href="http://business.nikkeibp.co.jp/">http://business.nikkeibp.co.jp/</a> <a href="https://jp.reuters.com/">https://jp.reuters.com/</a></p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等</p>	<p>含む</p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容</p>	<p>2-4名1組となり、主体的に課題に取り組んだり、討論したりする、アクティブラーニングを実施します。</p>

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、メールなどでも適宜受け付けます。
フィードバックの方法	授業内やオフィスアワーなどを活用して行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業時には話し合い活動やプレゼンテーション、評価活動などを実施しますので、準備として授業外での文献調査、インタビュー調査、アンケート調査、発表資料の作成、レポート作成の活動を求めます。 講義（2単位）週1コマ（30時間）につき、60時間の準備時間が必要となります。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	39200
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	中村 壽男
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 壽男 (経営学部)
授業の目標	<p>会計学の基礎を学び複式簿記の基礎力向上を目標とする。</p> <p>知識・理解の領域 企業の会計制度を理解し、中小会社の日々の経理処理から決算書の作成までのプロセスを概観することにより、将来の企業人としての自覚を獲得できる。</p> <p>技能の領域 日本商工会議所簿記検定試験3級にチャレンジする。</p> <p>態度・志向性の領域 簿記会計学習を通して、大学生としての教養と就業意識を高める。</p> <p>近い将来の就職活動のため、社会人としてのマナー・接遇を身につける。 仲間との協調・協働などのゼミ活動を通じて、共通の目標を達成するために積極的な行動に努める。</p>
授業の概要	<p>簿記学・会計学に強い関心を持ち意欲ある学生の参画を希望する。</p> <p>現行の株式会社会計制度を理解した上で、中小株式会社の経理処理方法から貸借対照表および損益計算書を作成するまで一連の会計手続きを修得し、現行の会計処理の本質について議論する。なお、この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	ゼミ課題への取組度 (50%) ・ゼミの諸活動への取組度 (50%) で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション (ゼミの取り組み内容とその進め方および評価方法の説明)</p> <p>第2回 会計の歴史と簿記技術の発達</p> <p>第3回 企業における会計の役割と利害関係者</p> <p>第4回 会計公準と会計原則</p> <p>第5回 複式簿記の基本原則 (勘定記入法則)</p> <p>第6回 現金預金の管理</p> <p>第7回 棚卸資産の管理</p> <p>第8回 営業取引の債権債務の管理</p> <p>第9回 貸倒引当金の本質を考える</p> <p>第10回 営業外取引の債権債務の管理</p> <p>第11回 有形固定資産の管理</p> <p>第12回 減価償却の本質を考える</p> <p>第13回 企業の収益</p> <p>第14回 企業の費用</p> <p>第15回 中小企業の資本</p> <p>4月上旬に「ジョブトレーニング」ガイダンスとして合同ゼミを予定している。</p>

テキスト	使用しない。毎回レジユメを配付する。
参考書	『日商簿記検定模擬試験問題集商業簿記3級』実教出版、税込880円
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	同一テーマにつきグループ単位で議論し、そのとりまとめをゼミ内で報告し合い、比較・検討する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学習内容等の質問については随時対応する。わからないまま放置することのないようされたい。
フィードバックの方法	ゼミで提供した課題については、翌週に講評する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	事前にGoogle Classroomにより課題の資料を配信するので2時間程度の予習を要す。また理解度確認のため、事後に2時間程度の復習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	39201
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	中村 真咲
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70E 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 真咲 (経営学部)
授業の目標	<p>この演習では、文化経営学の基礎を学び、地域の文化遺産・歴史的町並み・ミュージアム・芸術などを通して、地域を活性化するための方法を考えます。</p> <p>文化経営学とは、文化や芸術の発展を支える制度や仕組み、博物館・美術館などの文化施設の経営・運営、文化に関わる行政や活動を担う組織（市町村、文化施設、企業、NPOなど）、伝統産業の経営などについて学ぶ学問です。</p> <p>この演習を通して、文化を活かした地域活性化の理論と事例を学び、学んだことを社会の具体的な現場で活かしていくことをめざします。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 文化経営学の理論と事例を学び、文化を活かした地域活性化について考える。</p> <p>技能の領域 まとまった量の文章を読み、そのポイントを理解し、要約することができるようになる。また、自分の考えを他の人に報告することができるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 文化・歴史・社会・芸術・行政・地域などを客観的かつ批判的に理解する態度を持つようになる。</p> <p>思考・判断の領域 文化経営学という考え方が現れた歴史的背景や社会の変化を理解し、それに対するさまざまな意見や批判を知り、自分の考えを持つようになる。</p> <p>関心意欲の領域 文化・歴史・社会・芸術・行政・地域への関心が高まる。</p>
授業の概要	<p>(1) 文化経営学に関する基本文献を読み、文化が地域活性化に果たす役割について考えていきます。</p> <p>(2) 文化経営学の実践例として、東海地方における市町村の取り組みや文化施設の活動について知るために、それらの地域の行政文書や各機関の刊行物を読み、議論します。また、これらを通して、文化や芸術の発展を支えるための行政の制度や仕組み、行政文書の読み方、必要な情報を集める方法を学びます。</p> <p>(3) 地域資源を見学して関係者にインタビューするフィールドワークを行います。</p> <p>(4) 自分の興味のある地域や文化施設を選び、その歴史・特徴・課題について調べ、期末に報告し、演習参加者と議論します。</p> <p>(5) 「あいち観光まちづくりアワード」などに参加することを通して、文化経営学について実践的に学びます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>参加姿勢：50%（課題の取り組み姿勢、授業中の発言）</p> <p>期末発表：50%（報告内容、報告の方法など）</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合には、失格とします。
授業計画	<p>第1週 オリエンテーション</p> <p>第2週 合同ゼミ「インターンシップ・ガイダンス」</p> <p>第3週 文化経営学の基礎（1）文化経営学とは何か</p> <p>第4週 文化経営学の基礎（2）文化経営と文化遺産</p> <p>第5週 文化経営学の基礎（3）文化経営と文化政策・文化行政</p> <p>第6週 文化経営学の事例研究（1）犬山市</p> <p>第7週 文化経営学の事例研究（2）名古屋市</p> <p>第8週 文化経営学の事例研究（3）美濃市・関市</p> <p>第9週 文化経営学の事例研究（4）高山市・飛騨市</p> <p>第10週 文化経営学の事例研究（5）徳川美術館</p> <p>第11週 文化経営学の事例研究（6）博物館明治村</p> <p>第12週 文化経営学の事例研究（7）ジオパーク</p> <p>第13週 文化経営学の事例研究（8）NPO古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク</p> <p>第14週 期末報告（1）</p> <p>第15週 期末報告（2）</p>
テキスト	必要に応じて文献のコピーを配布します。
参考書	<p>上野征洋編『文化政策を学ぶ人のために』（世界思想社、2002年）</p> <p>小林真里『文化政策の現在（全3巻）』（東京大学出版会、2018年）</p> <p>佐藤健二『文化資源学講義』（東京大学出版会、2018年）</p> <p>東京大学文化資源学研究室編『文化資源学 - 文化の見つけかたと育てかた』（新曜社、2021年）</p> <p>西村幸夫・本中眞編『世界文化遺産の思想』（東京大学出版会、2017年）</p> <p>その他に必要なに応じて参考文献をお知らせします。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>自分の興味のある地域や文化施設を選び、その歴史・特徴・課題について調べ、期末に報告し、演習参加者と議論します。そのために、文化や芸術の発展を支えるための行政の制度や仕組み、行政文書の読み方、必要な情報を集める方法、フィールドワークの方法を授業のなかで学びます。</p> <p>また、「あいち観光まちづくりアワード」などに参加することを通して、文化経営学について実践的に学びます。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	<p>担当教員の犬山市歴史まちづくり協議会委員、犬山市史編纂委員、犬山学研究センター長としての実務経験を活かして、行政文書（歴史的風致維持向上計画、歴史文化基本構想など）を授業のなかで素材として学びます。</p>
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業後に対応</li> <li>・メールで随時対応（masaki.n@nagoya-ku.ac.jp）</li> </ul>
フィードバックの方法	<p>期末報告に対するフィードバックは、授業のなかで行うとともに、必要に応じてコメントや助言をメールでも行う。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>各回の演習では、翌週の演習内容に関わる資料を配布するので、翌週までに各自で予習します。その資料を読んだ前提で、次回の演習を行いますので、予習は必須です。</p> <p>また、演習で配布した資料を家で読み、復習します。</p> <p>これらの予習・復習（計60時間）を行うことが、期末報告の準備につながります。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>1. 貧困をなくそう</p> <p>10. 人や国の不平等をなくそう</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>8. 働きがいも経済成長も</p> <p>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11. 住み続けられるまちづくりを</p> <p>15. 陸の豊かさを守ろう</p> <p>17. パートナリーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p> <p>4. 構想力</p>

PROGコンピテンシーの要素	2. 協同力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力
----------------	--

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	39202
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	四辻 秀紀
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	四辻 秀紀 (経営学部)
授業の目標	<p>・日々おこる様々な出来事に関心を持ち、新聞や雑誌、ネットなどから情報を収集し、自分独自のデータベースを作成する。特に今後興味を持ちでテーマとしたい事柄を探る。</p> <p>・自分自身で調べることの面白さと大切さを知り、その情報や知識を自分のものとして興味の幅を広げ、纏めることができる力を養う。</p>
授業の概要	<p>・情報を収集し、纏め、発表し人に伝える技術を習得する。</p> <p>・自己を研ぎ、探求する楽しさや面白さを知る。</p> <p>・問題意識を持ち、自己の考えを伝えるために必要な基礎知識を習得する。</p> <p>・グループに分かれて、課題とするテーマを選び、これについて発表する。</p>
評価方法	参加姿勢70% 課題提出30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合
授業計画	<p>1 イントロダクション</p> <p>2 合同ゼミ</p> <p>3 ~10 毎回ゼミの前週に新聞や雑誌などで取り上げられた記事を資料として、その情報を共有するとともに、要約レポートを作成する。また「犬山市文化財地域活用計画」について詳しく説明を行い、その活用の在り方や意義について考える。</p> <p>11~14 グループによる発表およびディスカッション。</p> <p>15 まとめ</p>
テキスト	必要に応じて配布する。
参考書	必要に応じ紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応・メール対応
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回ゼミの前週に新聞や雑誌などで取り上げられた記事を資料として、その情報を共有するとともに、関連事項の収集をおこなう。また授業ご要約レポートを作成する。予習・復習は全体で60時間の学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任 13.気候変動に具体的な対策を
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	39203
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	李 彩華
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 4 A多目的室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 彩華 (経営学部)
授業の目標	<p>この演習では、倫理や理念の視点からビジネス（経営）に関する初歩的な知識について学習します。例えば、企業不祥事の実例分析を通じて、ビジネスをする上で求められる経営理念や企業倫理、リスクマネジメント（risk management）などの基礎知識を理解し、それをレポートにまとめたり、口頭発表したりすることで、他者に説明できることを目標としています。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;</p> <p>知識・理解の観点 企業活動の基礎にまつわるビジネス用語が説明できる。 倫理や理念の視点からとらえた企業活動の基礎用語が説明できる。</p> <p>思考・判断の観点 公開された不祥事の事例を倫理や理念の視点から分析できる。 企業不祥事が多発する時代背景について理解できる。</p> <p>関心・意欲の観点 公開された企業情報（とくに理念や不祥事など）について自らの意見を述べることができる。</p> <p>態度の観点 自ら進んで資料をリサーチするようになる。</p> <p>技能・表現の観点 公開された企業情報を調べる習慣、能力が身につく。 資料を読み解くノウハウが身につく。 調べた資料をレポートにまとめ、プレゼン（口頭発表など）することができる。</p>

授業の概要	<p>前期は主に企業活動の基本という見地から、経営理念と企業倫理、リスクマネジメントの基礎知識について資料に基づいて学びます。理念や倫理の視点からとらえたビジネスの基本について理解を深めます。資料を読み解いたり、企業不祥事の事例を分析したりします。</p> <p>ただし前期のゼミでは、「ジョブトレーニング」ガイダンスを合同ゼミにて1回実施することが予定されています。</p> <p>後期の基礎演習 Bでは、前期で学習した内容を踏まえて、レポートの作成と口頭発表にチャレンジします。順番を決めて初歩的なプレゼンテーションを行います。（これに関しては、後期の第1回目の講義で詳しく案内します）。</p> <p>演習は一方的に講義する授業ではなく、学生を主役とする双方向の「学びの場」として位置付けられています。みんなで資料を読解し、議論や発表を通じて、自ら考えるという実践力を磨いていく「参加型」の授業です。</p> <p>「この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。」</p>
評価方法	<p>課題提出、質疑応答への参加姿勢、期末試験などにより、総合的に成績評価します。</p> <p>参加姿勢70%</p> <p>期末試験30%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無断欠席は認めません。</li> <li>・やむを得ず欠席となる場合は必ず連絡すること。</li> <li>・欠席4回を超えた場合は失格(X)となることがあります。</li> </ul>
授業計画	<p>以下の方式で演習を実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第1週 オリエンテーションを行います。 自己紹介や他己紹介を行い、理解し合うことをはかります。 ゼミメンバーの親睦が深まることをめざします。</li> <li>2. 第2週 インターンシップのガイダンスを行います。</li> <li>3. 第3～13週 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習資料について教員の解説を聞きます。</li> <li>・各自が学習資料を読み込んで課題に取り組みます。</li> <li>・課題は一人取り組むときもあれば、グループワーク形式で取り組むこともあります。</li> <li>・毎回ディスカッションと質疑応答の時間を設けます。</li> <li>・この10週間の期間中にゼミ活動も行います。</li> </ul> </li> <li>4. 第14～15週 <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習の総括をします。</li> <li>・学習成果の確認として期末試験を行います。</li> </ul> </li> </ol>
テキスト	用いません。
参考書	<p>有坂誠人『図解雑学 経営のしくみ』、ナツメ社2001年</p> <p>会社法研究部会『企業不祥事と対応 事例検証』、清文社2009年。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・グループに分けて課題に取り組み、解答について授業内で共有し、ディスカッションをします。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習中に質疑応答の時間を設けます。</li> <li>・次の演習時に回答する対応もします。</li> </ul>
フィードバックの方法	・課題を解説する形でフィードバックします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>【準備学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配布した資料および自分のレベルにあった参考書をよく読んで予習・復習してもらいます。一回の講義につき、4時間程度をかけて予習・復習してもらいます。</li> </ul>
使用言語	日本語

SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	39204
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	井土 康仁
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	井土 康仁 (経営学部)
授業の目標	<p>この演習では、映画を使って英語を学んでいきます。映画は英語を学習する上で、大変貴重な学習教材となり得ます。具体的に使われている場面を視聴しながら、基礎的な文法事項を確認できますし、あるいは高校までの授業ではあまり出会えない表現を知ることが可能です。そういった英語学習教材としての映画の持つポテンシャル活かして、この演習では英語の基礎から応用まで学習していきます。</p> <p>&lt;学習効果&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 英語の基礎を、最新の言語研究から導き出された理論をもとに学ぶことができる。</li> <li>2) さまざまな英語表現を、しっかりとしたコンテキスト内で学習することができる。</li> <li>3) 映画や文学作品の鑑賞法・批評法の基礎を身につける。</li> </ol>
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 映画が作られた背景、あるいはその基となった作品の背景を紹介する。</li> <li>2) 映画を鑑賞し、そこで使われている英語を、視覚と聴覚で確認する。</li> <li>3) それぞれの週でポイントとなる英語表現の解説を行う。</li> </ol>
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) レポート80%</li> <li>2) 授業参加20%</li> </ol> <p>(ただし、授業の進行具合により、変化することがある)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	第1週 オリエンテーション 第2週 合同ゼミ 第3週 基本文型(1) 『プライドと偏見』 第4週 基本文型(2) 『プライドと偏見』 第5週 動詞 『ボーン・アイデンティティー』 第6週 名詞 『ボーン・アイデンティティー』 第7週 形容詞 『ジェーン・エア』 第8週 副詞 『ジェーン・エア』 第9週 比較(1) 『マトリックス』 第10週 比較(2) 『マトリックス』 第11週 否定(1) 『オリバー・ツイスト』 第12週 否定(2) 『オリバー・ツイスト』 第13週 助動詞(1) 『ダーク・ナイト』 第14週 助動詞(2) 『ダーク・ナイト』 第15週 まとめ
テキスト	授業内で配布する。
参考書	授業内で配布する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	この授業では、授業内で取り上げた表現を使ってペア・ワーク等を行います。授業の進行具合により、会話の作成・発表なども行います。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メール等で随時対応します。
フィードバックの方法	授業内で行ったアクティビティに対し、適時講評を行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	その週に取り上げる文法項目に対し、各自予習をしてきてください。その週に取り上げる映画の内容・背景などを調べて来てください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 7.課題発見力

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	39205
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	岡田 朋子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70F 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岡田 朋子 (経営学部)
授業の目標	<p>パソコンをもっと使えるようになることや、データサイエンスを学ぶための基礎知識を習得することを目標とする。</p> <p>また、Wordを使って資料作成ができる、Excelを使って計算、集計、グラフ作成、データ解析ができる、PowerPointでプレゼンテーション用のスライド作成ができることをめざす。</p> <p>知識・理解の領域 基本的な統計量の意味を理解する。</p> <p>技能の領域 パソコン操作に慣れ、表計算ソフトを使いこなせるようにする。</p> <p>態度・志向性の領域 「データ分析ができる」、「データ活用ができる」人材が社会に必要であるという認識をもつ。</p> <p>思考判断の領域 根拠のたしかな事実にもとづき統計学的に正しく推論することができる能力をもつ。</p> <p>関心意欲の領域 社会の「デジタル化」に乗り遅れないようにデータサイエンス、統計学の基礎理論を習得し、自分でデータ解析を行う意欲をもつ。</p>
授業の概要	<p>Word, Excel, PowerPointの基礎的な使い方や、Excelを使った簡単なデータ解析などを個別対応で進めていく。</p> <p>ビジネス統計スペシャリスト, MOS, データサイエンス数学ストラテジストなどの資格取得も視野に入れ、具体的な内容は個人の能力や要望に合わせ、相談しながら決めていく。</p> <p>受講条件は、教科書と「本学が指定する要件をみたまパソコン」を授業に持参することである。</p> <p>問題演習や課題の作成は授業中に指導、対話しながら行う。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	演習での作業の内容、提出された課題の内容などを総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと

テキスト	「エクセルではじめるデータサイエンスの基礎 統計学演習15講」 岡田朋子 著 ISBN : 9784764960565 (近代科学社)
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	パソコンを使って、データ分析などの実習を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中に行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の内容についての予習や復習をそれぞれ2時間行うこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	説明 面談	学生の理解の状況等に応じて、授業内容は変更されることがある  授業内容の具体的な説明と準備 要望についての聞き取り	
2	合同ゼミ	2年生向け「インターンシップ(ジョブトレーニング)」ガイダンス	
3	Excel実習	式の入力と基本操作 統計関数と表の見た目の整え方 論理関数	
4	Excel実習	数え上げの関数と条件付きの統計処理	
5	Excel実習	数値の丸めを行う関数と並べ替え 条件付き書式とグラフ作成	
6	Word実習	文字の入力と修飾 ページレイアウト 段落番号、脚注、Excelグラフの挿入	
7	Word実習	図形と表の挿入 校閲	
8	PowerPoint実習	スライドの作成と特殊効果 コンテンツプレースホルダーの利用	
9	統計学の基礎	代表値 平均値	
10	統計学の基礎	中央値 最頻値	
11	統計学の基礎	トリム平均 レンジ	
12	統計学の基礎	分散 標準偏差	
13	統計学の基礎	データの標準化	
14	統計学の基礎	データの種類 折れ線グラフ、散布図、ピボットテーブル	
15	統計学の基礎	相関係数 近似曲線	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	39206
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	郡 麻里
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	郡 麻里 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 一年生での学び方を振り返り、より良い成績に向けた改善点を見つけること。</p> <p>3. ゼミナールの仲間と議論を深め、さまざまなテーマに取り組むことで、新たな視点と互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 就職活動において自分の強みを発見するための機会を活用し、自己実現の力を身につけること。</p> <p>5. 大学生活においてゼミナールの機会を有効活用し、学ぶ力とコミュニケーション能力を高めること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕          学習および大学生活全般に必要な技能          必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。          文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語や英語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。          自分の考えをまとめ、表現できる。          学習および大学生活全般に必要な態度          自らを律して行動できる、他人への思いやりの精神、          約束を守ることなど、大学や社会の構成員として自分の責任を果たすことができる。          仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって2年目に所属するゼミナール（ゼミ）の授業です。みなさんは、これから1年間このゼミに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この2年次前期のゼミは、みなさんにとって大学生活や勉強の仕方を振り返る機会です。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。</p> <p>このゼミが、みなさんの学生生活の手助けになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕          この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	成績評価の基準は次の通りです。 1.ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。 2.ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えをはっきりと述べられること。 3.授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。 出席が良好であること(毎週出席が基本)を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	前期15回のゼミのうち、1回分は合同ゼミ(学部学科単位)を実施します。  1回目 キャンパスの山菜(3つのタ)の探索 2回目 合同ゼミ(企画1) 3回目 生物季節(フェノロジー)調査 4回目 犬山茶の収穫・製造・販売企画、地域の隠れた資源の発掘 5回目 樹木計測、光環境測定、調査法の紹介 6回目 キャンパスのSDGs探索、通学路の学生目線での安全点検 7回目 地域の特定外来生物「オオキンケイギク」の分布調査 8回目 地域の外来種対策、普及・啓発用のチラシ作り 9回目 特定外来生物「オオキンケイギク」の駆除 10回目 駆除された植物を用いたバイオ炭の製造 11回目 隔離された二酸化炭素量の算出 12回目 米生産農家にインタビュー(スクミリンゴガイによる被害状況) 13回目 オリジナルチラシ(ポスター等)作成 14回目 オリジナルチラシを用いたプレゼン 15回目 前期の振り返り(ディスカッション)  (順番は多少前後する可能性あり)
テキスト	テキストは使用しません。
参考書	世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』(世界思想社、2021年)1,200円(税別)。 この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんが大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	担当教員は環境省や東京都などの行政とともに環境調査や希少種の生育・生息環境の保全活動に携わった経験があるため、特にキャンパスの里山整備事業を授業に取り入れて指導します。また、海外滞在経験を活かした授業も実施可能です。
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間、電子メール等も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに 7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに
SDGs 17の目標(11~17)	11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任 13.気候変動に具体的な対策を 15.陸の豊かさも守ろう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	39207
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	徐 誠敏
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	徐 誠敏 (経営学部)
授業の目標	<p>この演習では、デジタルを中心とした広告・マーケティングに関する情報記事を多角的な視点から読み取り、企業の広告・マーケティング活動に関心を持つと同時に、それらを簡潔に整理しプレゼンすることを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt; 知識・理解の領域 広告・マーケティングの視点から見た企業活動に関する理解が深まる。</p> <p>技能の領域 広告・マーケティングの現状と最新動向を把握し、それらの基本的な知識と実践力を身につけることができる。</p> <p>自分の頭を使って理解した知識・情報などを、聴く側にとって簡潔にわかりやすく文章化すると同時に、見やすくビジュアル化して「魅せる」プレゼンのパフォーマンスができる。</p> <p>態度・志向性の領域 企業のさまざまな広告・マーケティング活動を「企業サイド」と「顧客サイド」両サイドの視点から客観的に把握し、何らかの形で売するための新商品のコンセプトをつくるようになる。</p> <p>思考・判断の領域 さまざまな状況変化に合わせて、迅速かつ柔軟に対応することの重要性に気づく。</p> <p>関心意欲の領域 広告・マーケティングのマインドを身につけることで、あらゆる業種(製造業・小売業・サービス業・販売業・通信業など)の仕事への関心が高まる。</p>



授業の概要	<p>1. マーケティング・マインドを身につけることで、どのようなメリットが得られるのかを知ってもらう。</p> <p>2. マーケター向け専門メディア『マーケジン』に頻繁にアクセスし、さまざまな企業の広告・マーケティング活動の最新事例(記事・レポート)を読み通すことで、企業の広告・マーケティング活動に関心を持つ。</p> <p>3. 自分が興味・関心のある広告・マーケティング関連情報(記事・レポート)を選び、その資料の内容を簡潔にまとめ、プレゼンする。</p> <p>4. インターンシップのガイダンスのために振り替えることがある。</p>
評価方法	<p>授業への参加度・取り組み姿勢 40%(ゼミの出席率は100%が基本です。2回以上欠席したら、成績Aはもらえないです。)、課題の完成度 40%(パワーポイントの作り方、プレゼンの姿勢、質疑応答の態度)、ゼミ生同士の相互理解度 20%(基本的にゼミ生全員の名前を覚えることが大事です。教室に入ったらゼミの先生をはじめ、ゼミ生全員の目を見て笑顔で挨拶することが大事です。)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>1. マーケター向け専門メディア『マーケジン』がオンラインで無料配信する情報(記事・レポート)を収集・分析することで、それが将来どれだけ役に立つのかを知ってもらうと同時に、広告・マーケティングに関する基礎的な知識を身につける。</p> <p>2. マーケター向け専門メディア『マーケジン』がオンライン無料配信情報(記事・レポート)を読み通し、簡潔で聞き手が分かりやすいレジユメを作成する。</p> <p>3. 自分が作成したレジユメをコピーしゼミ生に配布し、口頭でプレゼンした後、ゼミ生全員から感想・コメントをもらい、レジユメの書き方やプレゼンの姿勢などを改善する。</p> <p>4. パワーポイントの基本的な使い方を身につけると同時に、人前でプレゼンする時の最も重要な言語的コミュニケーションおよび非言語的コミュニケーションの重要性について理解した上で、上記の資料を読み通してそれをまとめ、パワーポイントを使ってプレゼンする。</p> <p>【言語的コミュニケーション】 1分かりやすい文章の書き方、2大きな声ではっきり話すこと、3的確な質問力など。</p> <p>【言語的コミュニケーション】 1笑顔で話しながら笑いをとること、2相手と適度な頻度で「アイコンタクト」を取ること、3場の空気を読むこと、4リラックスして身振り手振り(ボディランゲージ)を交えること、5相手のリアクションを見極めることなど。</p> <p>5. 情報室で実際自分がまとめたレジユメの内容をもとに、パワーポイントを使ってプレゼンする。</p> <p>* 前期に1回合同ゼミを実施する予定です。</p>
テキスト	なし
参考書	<p>井庭崇・井庭研究室[2013]『プレゼンテーション・パターン?創造を誘発する表現のヒント』慶應義塾大学出版会。</p> <p>三谷宏治[2015]『[図解]伝わる書き方超入門?伝わる文にどんどん変わる3つのステップ』PHP。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・ 授業後に対応
フィードバックの方法	・ 翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>準備学習(予習・復習等)60時間の時間の予習復習の時間を必要とする。</p> <p>・ 予習: 資料調べ</p> <p>・ 復習: 演習内容に関するレポート作成と発表</p>
使用言語	日本語

SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	12.つくる責任つかう責任 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	39208
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	波場 泰昭
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	14D講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	波場 泰昭 (経営学部)
授業の目標	<p>ビッグデータの普及と人工知能(AI)の浸透は、私たちの生活のあらゆる側面に影響を与え、経済活動や社会活動の意思決定の基盤となっている。このようなデータ駆動型社会において、情報処理能力を獲得することは、キャリアを築くために必須である。当該ゼミでは、既存のアプリケーションを最大限に活用する能力、及び独自にソフトウェアを開発するために必要なプログラミングの技能を養うことを目標とする。</p> <p><b>知識・理解の領域</b> 画像の制作・編集、ドキュメントの製本・編集を簡便に行うことができる汎用的なアプリケーションに関する知識を習得する。これらの相補的あるいは複合的な利活用により、情報処理能力が向上することを理解する。</p> <p><b>技能の領域</b> 画像の制作・編集を行い、ドキュメントやプレゼンテーション資料として掲載する技能を養う。表計算・数値計算を効率化し、GUIを構築するためのプログラミング技能を養う。</p> <p><b>態度・志向性の領域</b> 当該ゼミの参加者が共同で学習し、議論を行い、チームワークやリーダーシップの側面から行動力を発揮する。常に、キャリア教育の視点に立ち、情報処理能力を自己実現に資する。</p> <p><b>総合的思考力</b> 知識、技能、態度を総合的に活用し、問題を解決することができる。</p>
授業の概要	<p>上記の到達目標に向けて、実践的で拡張性のある機能を知り、それを最大限に活用する技能を身につける。対話形式の授業を通じて知識の定着を図ることはもとより、参加者は大学が指定するスペックのノートPCを持参して、コーディング及び動作確認することで実践的かつ体験的にプログラミングの技能を養う。また、参加者が相互にコミュニケーションを取り共同作業を行うことで、スキルシェアリングをする。</p> <p>各自、Windowsを搭載したノートPCを持参すること。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>以下の観点から、総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への参加姿勢 50%</li> <li>・ レポート(成果物) 50%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	無断欠席が3回以上に達した場合
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	なし

参考書	なし
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	参加者が作成した成果物に関する報告をグループ内で行うことで、スキルシェアリングをすると共にプレゼンテーション能力を養う。参加者は毎回ノートPCを持参して、手を動かしながら担当教員との対話を繰り返し、技能を身につける。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業時間内に対応します。また、Microsoft Teamsを用いて随時対応します。
フィードバックの方法	授業時間内に対応します。また、Microsoft Teamsを用いて随時対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに関わる予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。予習ではアプリのセットアップ、復習では成果物の作成を含めて構いません。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11~17)	12.つくる責任つかう責任 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 5.自信創出力 9.実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	データ駆動型社会における情報処理能力	
2	合同ゼミ	ジョブトレーニングガイダンス	
3	ドキュメントの作成 ( 1 )	標準アプリケーション (メモ帳、ペイント、電卓、クロック)	
4	ドキュメントの作成 ( 2 )	Office 365 Word (テキスト、箇条書き、数式エディタ)	Office 365
5	ドキュメントの作成 ( 3 )	Office 365 Word (図形、SmartArt)	Office 365
6	美文書作成 ( 1 )	TeX Live 最新版のインストール	TeX Live
7	美文書作成 ( 2 )	TeXworksの基礎 (プリアンブル、章立て、表紙、目次)	TeX Live
8	美文書作成 ( 3 )	TeXworksの基礎 (参考文献、索引、脚注、傍注)	TeX Live
9	美文書作成 ( 4 )	TeXworksの基礎 (tabular環境、表、equation環境、数式)	TeX Live
10	美文書作成 ( 5 )	TeXworksの基礎 (figure環境、画像、縮尺、レイアウト)	TeX Live
11	画像の制作 ( 1 )	Inkscapeの基礎 (ベクター、座標、直線、曲線、線種)	Inkscape
12	画像の制作 ( 2 )	Inkscapeの基礎 (オブジェクト、RGB、CMY、色、濃淡)	Inkscape
13	画像の制作 ( 3 )	ImageJの基礎 (画像の数値化、色の反転、グレースケール)	ImageJ
14	表計算における関数 ( 1 )	Office 365 Excel (オートフィル、VLOOKUP関数)	Office 365
15	表計算における関数 ( 2 )	Office 365 Excel (条件分岐、IF関数、COUNTIF関数)	Office 365

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	39209
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	宮島 良子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	宮島 良子 (経営学部)
授業の目標	<p>自分で考え、調べ、まとめ、発表し、実行に移すことができるようになる。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 経営的な視点を持ち、ビジネスや人生を生き抜く上で必要となる様々な知識を得ることができる。</p> <p>技能の領域 多くの情報の中から、自分の得た知識を簡潔にまとめ、プレゼンテーションして、多くの人に理解してもらうことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 経営学部の学生として経営に興味を持ち、ビジネスを客観的に分析することができ、更に専門的なものを知りたい、学びたいと思うようになります。</p> <p>思考・判断の領域 多角的な視点を持ち、人間の多様性と普遍性を学習と経験を通して学ぶことができます。</p> <p>関心意欲の領域 社会がいかに多くの人々の営みによって形成されているのかを知り、今まで関心が無かった、もしくは薄かったところにも興味を持つようになります。</p>
授業の概要	<p>〔授業形態〕 対面授業ではありますが、この授業では、情報共有や課題提出の手段として、Googleクラスルームなどをを使う可能性があります。</p> <p>課題の提出はEmail、グーグルクラスルームやグーグルフォーム等を利用します。</p> <p>ア) まず、情報収集のためにどのようなものがあるのかを調べます。 次に、得た情報の真偽を確かめること、重要度を意識し、整理します。 関連したテーマを決め、特に興味を持ったものについて、更に調べ、まとめて発表します。 質問づくり、ブレインストーミング、パラグラフライティングなどを扱います。 テーマはSDGsなどを中心に扱います。</p> <p>イ) P(計画)D(実行)C(評価)A(改善)サイクルを体感するため、イベントを企画立案、実行、振り返ります。</p> <p>ウ) インターンシップに関する事前準備活動を実施します。</p> <p>〔この科目の位置づけについては、本学HPのナンパリングを参照すること。〕</p>

評価方法	<p>&lt;成績評価&gt; 授業への活動および課題への取り組み（「課題提出」および「質問に対する回答」など）（60%）および前期2回実施する発表（プレゼンテーション）（20%）・レポート作成（20%）などの結果により、総合的に評価します。</p> <p>毎回の授業では、テーマに沿った200字程度の文章を作成します。 授業での活動：4点×15回＝60点 発表・レポート・企画の実施など：40点</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特段の配慮が必要ではない4回以上の欠席があった場合には失格となります。
授業計画	<p>&lt;第1週&gt; オリエンテーション &lt;第2週&gt; 合同ゼミ &lt;第3週～第7週&gt; 「SDGs」「ビジネス」「行動経済学」などに関連する特集記事等を複数読んだり、視聴したりして、知識を増やします。自分の理解と他の人たちの理解を比較したり、意見を交換しながら、思考を深めます。 毎回テーマに沿った200字程度の文章を作成します。 関連したテーマについて調べ、まとめ、パワーポイントを作成し、発表します。</p> <p>&lt;第8週&gt; 前半の振り返り &lt;第9週～第13週&gt; イベントの企画、提案、実行 P(計画)D(実行)C(評価)A(改善)を体験するため、学内イベント等を企画立案し、プレゼンし、投票し、実行します。</p> <p>&lt;第14週～第15週&gt; イベントの報告記事作成 イベントの振り返り</p> <p>なお大学祭で模擬店を出店するなど、模擬ビジネスを通じて実際に損益計算を経験することを推奨します。</p>
テキスト	特になし。必要な資料は配布し、また、適宜Google Classroomにアップロードします。
参考書	<p>授業内やGoogle Classroom等で適宜、紹介します。</p> <p>参考URL <a href="http://toyokeizai.net/">http://toyokeizai.net/</a> <a href="http://business.nikkeibp.co.jp/">http://business.nikkeibp.co.jp/</a> <a href="https://jp.reuters.com/">https://jp.reuters.com/</a></p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	2-4名1組となり、主体的に課題に取り組んだり、討論したりする、アクティブラーニングを実施します。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	海外での日本語教育の経験や留学生教育を通じて培った異文化理解などを扱います。
質問への対応方法	<p>授業前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、メールなどでも随時受け付けます。</p> <p>オフィスアワー以外の面談は事前に予約を入れてください。</p>
フィードバックの方法	授業内やオフィスアワー、Google Classroomなどを活用して行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>授業時には話し合い活動やプレゼンテーション、評価活動などを実施しますので、準備として授業外での文献調査、インタビュー調査、アンケート調査、発表資料の作成、レポート作成の活動を求めます。</p> <p>講義（2単位）週1コマ（30時間）につき、60時間の準備時間が必要となります。</p>
使用言語	日本語

SDGs 17の目標 (1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標 (11~17)	11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力



開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	39210
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	李 美善
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 美善 (経営学部)
授業の目標	<p>この演習では、様々な企業のケースから経営学の基礎知識を理解することと、「読む、調べる、考える、書く、発表する」スキルを養うことを目標とする。</p> <p>知識・理解の領域 企業経営が何かを理解し、研究・報告のスキルを実践できる。</p> <p>技能の領域 -読む、調べる：新聞や雑誌記事及び本を活用する技術を学習する。 -考える：ポイントをつかみ、多様な角度から物事を考える力を養う。 -書く：ストーリーの描き方と論理的に述べる技術を学習する。 -発表する：自分自身の考えをまとめ、説明できる力を養う。</p> <p>態度・志向性の領域 様々な角度からものごとを解釈でき、自らと異なる考えを受け入れる態度を養う。</p> <p>思考・判断の領域 論理的思考力や判断力を養う。</p> <p>関心意欲の領域 さまざまな企業のケースをみることで社会・経済・経営の様々な出来事への関心が高まる。</p>
授業の概要	<p>この演習では、積極的に社会・経済・経営の様々な出来事に関心を持ち、なぜそのような問題が起きるのか？ どうしたら問題を解決できるのか？ という思考を訓練する。</p> <p>1. 様々な企業のケーススタディを通じて経営学の基礎知識を学ぶ。 2. 社会・経済・経営の様々な出来事について、新聞や雑誌記事などを用いて発表・議論する。</p>
評価方法	<p>授業への参加姿勢（50%）及び課題の完成度（50%）による評価</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと 2. ゼミの仲間の発表をよく聴き、その発表に学び、それについての自分の考えを述べること 3. 自分が選んだテーマをレポートに仕上げること 4. 自分が選んだテーマについてレジュメ・パワーポイントにまとめ、ゼミの仲間の前でわかりやすく説明すること</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が 13回に満たない場合は失格とする。
授業計画	<p>1. 様々な企業のケースを取り入れ企業経営の基礎知識を学ぶ。 2. 研究を進める：情報（新聞、雑誌記事）を持ち寄って分析 3. 研究報告をまとめる：スライド資料の作り方 プレゼンテーションの方法 報告準備 4. プレゼンテーションとディスカッション：分かりやすく説明することに挑戦する。 *14回ある授業を上記4つの内容に分けて進めていく。 *2回目のゼミは「ジョブトレーニングガイダンス」を行う。</p>
テキスト	なし

参考書	加護野忠男・吉村典久『1からの経営学』碩学舎 『経営学の基本（経営学検定試験公式テキスト）』経営能力開発センター 中央経済社 『日経ビジネス』『日本経済新聞』『日経産業新聞』などの記事を積極的に利用する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	本演習では「プレゼン力」、「思考力」、「知識」を身につけるため下記のアクティブラーニングを行う。 ・世界や企業のさまざまなテーマについて、グループでディベートを行い、賛成・反対の両方からバランスよく考える。 ・グループ毎で異なる課題を議論し、アイデア・解決方法を提案する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応する。
フィードバックの方法	授業内で課したレポートなどは確認後、随時フィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	本演習は下記の内容をこなすため、準備学習（予習・復習等）の時間として60時間以上要する。 ・テーマ設定 ・資料調べ ・企画・提案書づくり（ワードで作成） ・発表資料づくり（パワーポイントで作成） ・ゼミメンバーの発表に対する評価資料づくり（ワードで作成） ・レポート課題（ワードで作成）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 17. パートナースhipで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	39211
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	小川 哲司
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小川 哲司 (経営学部)
授業の目標	<p>この演習では、経営とICTの関わりを理解すると共に、収集した情報を整理してまとめ、プレゼンテーション用の資料を作成して発表できるようにすることを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;  知識・理解の領域  世の中の動向を経営学の視点で見ることができるようになる。また経営に興味を持ち、ビジネスを客観的に分析することができるようになる。</p> <p>技能の領域  ディスカッションを通じて多様な視点や意見があることに気づき、物事を複数の視点から捉えることができるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域  ビジネスの仕組みや構造に関心を持ち、物事の本質を知ろうという意欲を持つようになる。</p>
授業の概要	<p>この演習では、グループワークをベースとして、他人と協業する力、情報を収集する力、要点をまとめる力、プレゼンテーション力などを身に付けていきます。</p> <p>与えられたテーマに対して、グループを構成して、グループ内でディスカッションや役割分担をしながら分析を進め、作成した資料を通じてプレゼンテーションをします。</p> <p>このような取り組みを通じて、物事を深く読み取る力や説明する力を身に付けていきます。</p> <p>授業内容（シラバス）に関する質問は、授業後やオフィスアワーにしてください。  この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業への参加姿勢で評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への取り組み姿勢：50%</li> <li>・ 発表や質問の内容：30%</li> <li>・ グループワークへの参加姿勢：20%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特別な理由がなく、出席回数が12回に満たない場合

授業計画	<p>&lt; 授業計画 &gt;</p> <p>第1回 インTRODクシヨ、各自の自己紹介</p> <p>第2回 インターンシッヅガイダシス</p> <p>第3回 議論の方法、ディスカシヨシの練習</p> <p>第4回 グループワーク：発表・ディスカシヨシ</p> <p>第5回 グループワーク：発表・ディスカシヨシ</p> <p>第6回 グループワーク：発表・ディスカシヨシ</p> <p>第7回 グループワーク：発表・ディスカシヨシ</p> <p>第8回 グループワーク：発表・ディスカシヨシ</p> <p>第9回 グループワーク：発表・ディスカシヨシ</p> <p>第10回 グループワーク：発表・ディスカシヨシ</p> <p>第11回 グループワーク：発表・ディスカシヨシ</p> <p>第12回 グループワーク：発表・ディスカシヨシ</p> <p>第13回 グループワーク：発表・ディスカシヨシ</p> <p>第14回 グループワーク：発表・ディスカシヨシ</p> <p>第15回 前期のまとめ</p>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカシヨシ、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカシヨシ、実習等の内容	問題発見解決型のアクティブラーニングによって授業を進めていきます。グループ毎で毎回異なるテーマについてディスカシヨシをして、授業内で発表します。学生には問題に向けた主体的な参加と、他人との対話が求められます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学生にとって最善の方法で回答します。（随時対応、オフィスアワー、授業後に対応、メール対応など）
フィードバックの方法	翌週の授業までに返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、テーマに関連する文献調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>3. 統率力</li> <li>4. 感情制御力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>6. 行動持続力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	39212
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	神邊 篤史
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	神邊 篤史 (経営学部)
授業の目標	<p>近年の企業活動においては、データに基づき新商品開発や商品改良が計画されることが多い。そこで、その基本的スキルとして、データを分析し、課題の解決や新たな知見を獲得できることを目標とする。また、分析結果を「見せる」方法について修得することを目指す。</p> <p>&lt;学習効果&gt; 知識・理解の領域 商品企画・開発における基本的なデータリテラシーを修得できる。</p> <p>技能の領域 PCによるデータの可視化やデータ分析手法を理解できる。</p> <p>態度・志向性の領域 企画、営業など職種を問わずデータを利活用できる人材が社会で求められている認識を持つ。</p> <p>思考・判断の領域 データの利活用により客観的な視点に基づいて商品の特徴を分析できるようになる。</p> <p>関心意欲の領域 データリテラシースキルが商品企画、開発に有効であることを理解し、自らデータ分析に取り組む意欲を持つ。</p>
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 企業活動におけるデータ利活用の意義を説明する。</li><li>2. 商品企画、開発におけるデータの利活用方法を理解するために、データを定量的、定性的に説明する方法を教授し、PCを用いて演習課題に取り組む。</li><li>3. グループワークとして、商品イメージを例に、質問紙の設計、データの収集・分析、プレゼンテーションに取り組む。</li></ol>
評価方法	受講態度：30%、個別演習課題の内容：50%、プレゼンテーション：20%の割合で総合的に評価する。授業時間外の質問や授業内での意見表明に対しては別途加点することがある。
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	特になし

授業計画	<p>第01回 ガイダンス，データを用いた意思決定の意義</p> <p>第02回 データ駆動型社会における企業活動</p> <p>第03回 データの尺度水準，データの正規性</p> <p>第04回 量的データの代表値</p> <p>第05回 量的データの分布特性の可視化：ヒストグラム，箱ひげ図</p> <p>第06回 2つの量的データ間の関係1：散布図による可視化</p> <p>第07回 2つの量的データ間の関係2：相関係数</p> <p>第08回 量的データの予測：線形回帰</p> <p>第09回 データの説明方法：定性的説明，定量的説明</p> <p>第10回 データの可視化におけるグラフ種類の選択</p> <p>第11回 心理学的測定データ（商品イメージ）の分析1：調査対象の選定</p> <p>第12回 心理学的測定データの分析2：質問紙の設計</p> <p>第13回 心理学的測定データの分析3：データの集計，分析</p> <p>第14回 心理学的測定データの分析4：プレゼンテーション資料の作成</p> <p>第15回 心理学的測定データの分析5：プレゼンテーション</p> <p>なお，前期に1回，合同ゼミを行う予定としている。 また，受講者の理解状況によって実施回の変更が生じる可能性がある。</p>
テキスト	随時資料を提示する。
参考書	竹村，他：「データサイエンス大系 データサイエンス入門（第2版）」，学術図書出版社，2021. 長町（編）：「商品開発と感性」，海文堂出版，2005.
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークによる調査，分析を実施し，その結果を発表する。また，発表内容に対して意見を述べる。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後またはオフィスアワーで対応する。
フィードバックの方法	課題締切後の次の授業において説明する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマについて予習30分，復習90分程度行うこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	12.つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IIB
時間割コード Course Code	39250
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	中村 壽男
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 壽男 (経営学部)
授業の目標	<p>授業の目標 会計学の基礎を学び複式簿記の基礎力向上を目標とする。</p> <p>知識・理解の領域 企業の会計制度を理解し、中小会社の日々の経理処理から決算書の作成までのプロセスを概観することにより、将来の企業人としての自覚を獲得できる。</p> <p>技能の領域 日本商工会議所簿記検定試験3級にチャレンジする。</p> <p>態度・志向性の領域 簿記会計学習を通して、大学生としての教養と就業意識を高める。 近い将来の就職活動のため、社会人としてのマナー・接遇を身につける。 仲間との協調・協働などのゼミ活動を通じて、共通の目標を達成するために積極的な行動に努める。</p>
授業の概要	<p>簿記学・会計学に強い関心を持ち意欲ある学生の参画を希望する。</p> <p>現行の株式会社会計制度を理解した上で、中小株式会社の経理処理方法から貸借対照表および損益計算書を作成するまで一連の会計手続きを修得し、現行の会計処理の本質について議論する。なお、この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	ゼミ課題への取組度 (50%) ・ゼミの諸活動への取組度 (50%) で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	第1回 決算とはなにか、その必要性 第2回 株式会社の企業利益 第3回 決算整理の内容 第4回 商品の棚卸を考える 第5回 商品の棚卸と売上原価の算定 第6回 期間損益計算の本質を考える 第7回 収益・費用の見越し 第8回 収益・費用の繰り延べ 第9回 当期末の処理と翌期首の処理を考える 第10回 試算表の役割を考える 第11回 決算整理前残高試算表と決算整理後残高試算表 第12回 精算表の役割を考える 第13回 帳簿決算と財務諸表 第14回 企業の財務諸表（損益計算書） 第15回 企業の財務諸表（貸借対照表） 12月初旬に「就職活動ガイダンス」として合同ゼミを予定している。
テキスト	使用しない。毎回レジュメを配付する。
参考書	『日商簿記検定模擬試験問題集商業簿記3級』実教出版、税込880円
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	同一テーマにつきグループ単位で議論し、そのとりまとめをゼミ内で報告し合い、比較・検討する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学習内容等の質問については随時対応する。わからないまま放置することのないようされたい。
フィードバックの方法	ゼミで提供した課題については、翌週に講評する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	事前にGoogle Classroomにより課題の資料を配信するので2時間程度の予習を要す。また理解度確認のため、事後に2時間程度の復習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IIB
時間割コード Course Code	39251
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	中村 真咲
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70E 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 真咲 (経営学部)
授業の目標	<p>この演習では、前期に続けて文化経営学の基礎を学び、地域の文化遺産・歴史的町並み・ミュージアム・芸術などを通して、地域を活性化するための方法を考えます。</p> <p>文化経営学とは、文化や芸術の発展を支える制度や仕組み、博物館・美術館などの文化施設の経営・運営、文化に関わる行政や活動を担う組織（市町村、文化施設、企業、NPOなど）、伝統産業の経営などについて学ぶ学問です。</p> <p>この演習を通して、文化を活かした地域活性化の理論と事例を学び、学んだことを社会の具体的な現場で活かしていくことをめざします。</p> <p>後期では、とくに世界遺産などの国際的な文化遺産保護の枠組み、英国ナショナルトラストなどの海外における先進事例を学んでいきます。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 文化経営学の理論と事例を学び、文化を活かした地域活性化について考える。</p> <p>技能の領域 まとまった量の文章を読み、そのポイントを理解し、要約することができるようになる。また、自分の考えを他の人に報告することができるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 文化・歴史・社会・芸術・行政・地域などを客観的かつ批判的に理解する態度を持つようになる。</p> <p>思考・判断の領域 文化経営学という考え方が現れた歴史的背景や社会の変化を理解し、それに対するさまざまな意見や批判を知り、自分の考えを持つようになる。</p> <p>関心意欲の領域 文化・歴史・社会・芸術・行政・地域への関心が高まる。</p>
授業の概要	<p>(1) 文化経営学に関する基本文献を読み、文化が地域活性化に果たす役割について考えていきます。</p> <p>(2) 後期には、文化経営学の実践例として、世界遺産などの国際的な文化遺産保護の枠組み、海外における取り組みや文化施設の活動について知るために関連文献を読み、議論します。また、これらを通して、文化や芸術の発展を支えるための国際的な枠組み、外国の制度、必要な情報を集める方法を学びます。</p> <p>(3) 地域資源を見学して関係者にインタビューするフィールドワークを行います。</p> <p>(4) 自分の興味のある地域や文化施設を選び、その歴史・特徴・課題について調べ、期末に報告し、演習参加者と議論します。</p> <p>(5) 「あいち観光まちづくりアワード」などに参加することを通して、文化経営学について実践的に学びます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	参加姿勢：50%（課題の取り組み姿勢、授業中の発言） 期末発表：50%（報告内容、報告の方法など）
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合には、失格とします。
授業計画	第1週 オリエンテーション 第2週 文化経営学の基礎（1）文化遺産保護の歴史 災害・戦争と文化遺産 第3週 文化経営学の基礎（2）文化遺産保護の歴史 国際テロと文化遺産 第4週 文化経営学の基礎（3）文化を守るための国際的な枠組み 第5週 文化経営学の基礎（4）文化を守るための国際的な枠組み 第6週 文化経営学の事例研究（1）英国ナショナルトラスト 第7週 文化経営学の事例研究（2）英国ナショナルトラスト 第8週 文化経営学の事例研究（3）大英博物館・英国自然史博物館・大英図書館 第9週 文化経営学の事例研究（4）宗教遺産 キリスト教 第10週 文化経営学の事例研究（5）宗教遺産 仏教 第11週 文化経営学の事例研究（6）宗教遺産 イスラム教 第12週 合同ゼミ「就職活動ガイダンス」 第13週 文化経営学の事例研究（7）自然遺産 第14週 期末報告（1） 第15週 期末報告（2）
テキスト	必要に応じて文献のコピーを配布します。
参考書	中村俊介『世界遺産：理想と現実のはざままで』（岩波新書）（岩波書店、2019年） 奈良大学文学部世界遺産を考える会編『世界遺産学を学ぶ人のために』（世界思想社、2000年） 西村幸夫編『世界文化遺産の思想』（東京大学出版会、2017年）  その他に必要なに応じて参考文献をお知らせします。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	自分の興味のある地域や文化施設を選び、その歴史・特徴・課題について調べ、期末に報告し、演習参加者と議論します。そのために、文化や芸術の発展を支えるための行政の制度や仕組み、行政文書の読み方、必要な情報を集める方法、フィールドワークの方法を授業のなかで学びます。また、「あいち観光まちづくりアワード」などに参加することを通して、文化経営学について実践的に学びます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	担当教員がモンゴルの文化遺産保護法制に携わった実務経験や英国・ロシアでの調査経験を活かして、関連文献・情報を授業のなかで素材として学びます。
質問への対応方法	・授業後に対応 ・メールで随時対応（masaki.n@nagoya-ku.ac.jp）
フィードバックの方法	期末報告に対するフィードバックは、授業のなかで行うとともに、必要に応じてコメントや助言をメールでも行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の演習では、翌週の演習内容に関わる資料を配布するので、翌週までに各自で予習します。その資料を読んだ前提で、次回の演習を行いますので、予習は必須です。また、演習で配布した資料を家で読み、復習します。これらの予習・復習（計60時間）を行うことが、期末報告の準備につながります。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力

PROGコンピテンシーの要素	6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力
----------------	--

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IIB
時間割コード Course Code	39252
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	四辻 秀紀
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	四辻 秀紀 (経営学部)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この地域を含めた日本の歴史・文化を知り、自分自身で調べることの大切さと面白さを知り、その情報や知識を自分のものとして纏められる力を養う。</li> <li>・人に情報や知識を伝達する大切さを学ぶ。</li> <li>・近代の実業家たちが蒐集した美術品や設立した美術館を通して、実業家たちが果たした社会的役割を考える。</li> </ul>
授業の概要	<p>本授業は対面授業で行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分を研ぎ、探究する楽しさを知る。</li> <li>・問題意識を持ち、人に自己の考えを伝えるために必要な基本的知識を習得する。またこれらを纏め、発表する技術を身に着ける。</li> <li>・昨今、「文化は経済である」と称されている。このゼミでは、近代日本を代表する経済人たちが抱き、支えてきた様々な文化財に対する思いを通して、今後の文化財の活用法について考えていく。</li> <li>・各回毎に、取り上げる財界人たちの情報を事前に収集しておく。</li> </ul>
評価方法	参加姿勢60% 課題提出40%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合
授業計画	1 概説 2 徳川美術館設立者・徳川義親 3江戸時代以来の名古屋の豪商・岡谷家のコレクション 4三井物産の設立者・益田孝 5電力王・松永安左工門・岐阜出身の製糸家・原富太郎 6鉄道王・根津嘉一郎鉄道王・根津嘉一郎 7～8阪急電車、宝塚歌劇団の創業者・小林一三 9～10中部地域の実業家とそのコレクション・ヤマザキマザック美術館見学 11・13 口頭報告 12合同ゼミ 15まとめ
テキスト	必要に応じて資料配付。
参考書	必要に応じて演習中時に紹介する
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各自が近現代の実業家とそのコレクションについて調べ、授業内で口頭発表し、その内容について討議する。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	学芸員として美術館に38年近く勤めた経験を活かし、近現代の実業家たちが蒐集した美術品や彼らが設立した美術館活動について探求していく。
質問への対応方法	随時対応・メール対応
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	取り上げようとする近現代の実業家について、事前にネット情報のみならず、関連図書や論文等を調べ、纏める。レジュメやパワーポの作成を行う。また他の学生の発表した内容を整理し、問題点や有効性をチェックする。予習・復習は全体で60時間の学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IIB
時間割コード Course Code	39253
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	李 彩華
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 4 A 多目的室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 彩華 (経営学部)
授業の目標	<p>この演習では、倫理や理念の視点からビジネスに関する初歩的な知識について学習します。例えば、企業不祥事の実例分析を通じて、ビジネスをする上で求められる経営理念や企業倫理、リスクマネジメントなどの基礎知識を理解し、それを短いレポートにまとめたり、簡単な口頭発表という形で、人に説明できることを目標として目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の観点 企業活動の基礎にまつわるビジネス用語が説明できる。 倫理や理念の視点からとらえた企業活動の基礎用語が説明できる。</p> <p>思考・判断の観点 公開された不祥事の事例を倫理や理念の視点から分析できる。 企業不祥事が多発する時代背景について理解できる。</p> <p>関心・意欲の観点 公開された企業情報（とくに理念や不祥事など）について自らの意見を述べることができる。</p> <p>態度の観点 自ら進んで資料をリサーチするようになる。</p> <p>技能・表現の観点 公開された企業情報を調べる習慣、能力が身につく。 資料を読み解くノウハウが身につく。 調べた資料をレポートにまとめ、プレゼン（口頭発表など）することができる。</p>
授業の概要	<p>このゼミでは、まず企業活動にまつわる基礎知識について学習します。そのうえで経営理念と企業倫理の視点からとらえたビジネスの基本について理解を深めます。</p> <p>そして後期の基礎演習 Bでは、前期で学習した基礎知識を活かしつつ、実際の企業の経営理念や経営倫理または企業不祥事について、さらには自分の持つ問題関心から決めたテーマについてリサーチします。順番を決めて、リサーチした資料を短いPPTレポートにまとめ、口頭で初歩的なプレゼンを行います。プレゼンと議論を通じて自ら考える力を育成したいと思います。</p> <p>ただし後期のゼミでは、就職活動のガイダンスを合同ゼミにて1回実施することが予定されています。</p> <p>「この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。」</p>
評価方法	<p>参加姿勢とレポート・発表の質等で総合的に評価します。</p> <p>参加姿勢50% レポート・発表50%</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無断欠席は認めません。</li> <li>・やむを得ず欠席となる場合は必ず連絡すること。</li> <li>・欠席4回を超えた場合は失格(X)となることがあります。</li> </ul>
授業計画	<p>以下の計画で演習を実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第1～4週 <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料調査、レポートのまとめ方、発表の仕方について学習します。</li> <li>・発表のテーマ・順番等を確定します。</li> </ul> </li> <li>2. 第5～11週 <ul style="list-style-type: none"> <li>・あらかじめ決めた順番で発表を進めていきます。</li> <li>・一週につき2名で口頭発表を行います。</li> <li>・毎回の発表についてディスカッションと質疑応答を行います。</li> <li>・7週間の期間中にゼミ活動を1回行います。</li> </ul> </li> <li>3. 第12週 就職活動のガイダンスを行います。</li> <li>4. 第13週～15週 ゼミ発表を遂行するとともに、これまでの学習について振り返ります。</li> </ol>
テキスト	追って案内します
参考書	有坂誠人『図解雑学 経営のしくみ』、ナツメ社2001年 会社法研究部会『企業不祥事と対応 事例検証』、清文社2009年。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自が指定したテーマについて順番を決めてゼミ発表を行います。</li> <li>・毎回の発表について授業内でディスカッションと質疑応答を行います。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の演習中で質疑応答の時間を設けます。</li> <li>・次の演習時に対応することもあります。</li> </ul>
フィードバックの方法	・課題を解説する方式でフィードバックします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>【準備学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査した資料と自分のレベルにあった参考書をよく読んで予習・復習してもらいます。一回の講義につき、資料調査も含めて4時間程度をかけて予習・復習してもらいます。</li> </ul>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標(11～17)	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IIB
時間割コード Course Code	39254
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	井土 康仁
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	井土 康仁 (経営学部)
授業の目標	<p>この演習では、映画を使って英語を学んでいきます。映画は英語を学習する上で、大変貴重な学習教材となり得ます。具体的に使われている場面を視聴しながら、基礎的な文法事項を確認できますし、あるいは高校までの授業ではあまり出会えない表現を知ることにも可能です。そういった英語学習教材としての映画の持つポテンシャル活かして、この演習では英語の基礎から応用まで学習していきます。</p> <p>&lt;学習効果&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 英語の基礎を、最新の言語研究から導き出された理論をもとに学ぶことができる。</li> <li>2) さまざまな英語表現を、しっかりとしたコンテキスト内で学習することができる。</li> <li>3) 映画や文学作品の鑑賞法・批評法の基礎を身につける。</li> </ol>
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 映画が作られた背景、あるいはその基となった作品の背景を紹介する。</li> <li>2) 映画を鑑賞し、そこで使われている英語を、視覚と聴覚で確認する。</li> <li>3) それぞれの週でポイントとなる英語表現の解説を行う。</li> </ol>
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) レポート80%</li> <li>2) 授業参加20%</li> </ol> <p>(ただし、授業の進行具合により、変化することがある)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。



授業計画	第1週 オリエンテーション 第2週 前置詞（1） 『ハムレット』 第3週 前置詞（2） 『ハムレット』 第4週 WH修飾（1） 『ロミオ&ジュリエット』 第5週 WH修飾（2） 『ロミオ&ジュリエット』 第6週 動詞～ing形（1） 『ショーシャンクの空に』 第7週 動詞～ing形（2） 『ショーシャンクの空に』 第8週 To不定詞（1） 『スタンド・バイ・ミー』 第9週 To不定詞（2） 『スタンド・バイ・ミー』 第10週 過去分詞形（1） 『ボヘミアン・ラブソディー』 第11週 過去分詞形（2） 『ボヘミアン・ラブソディー』 第12週 疑問文 『グッド・ウィル・ハンティング』 *合同ゼミの可能性あり 第13週 時表現 『バック・トゥ・ザ・ヒューチャー』 *合同ゼミの可能性あり 第14週 接続詞 『バック・トゥ・ザ・ヒューチャー』 第15週 まとめ
テキスト	授業内で配布する。
参考書	授業内で配布する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	この授業では、授業内で取り上げた表現を使ってペア・ワーク等を行います。授業の進行具合により、会話の作成・発表なども行います。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メール等で随時対応します。
フィードバックの方法	授業内で行ったアクティビティに対し、適時講評を行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	その週に取り上げる文法項目に対し、各自予習をしてきてください。その週に取り上げる映画の内容・背景などを調べて来てください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 7.課題発見力

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IIB
時間割コード Course Code	39255
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	岡田 朋子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70F 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岡田 朋子 (経営学部)
授業の目標	<p>パソコンをもっと使えるようになることや、データサイエンスを学ぶための基礎知識を習得することを目標とする。</p> <p>また、Wordを使って資料作成ができる、Excelを使って計算、集計、グラフ作成、データ解析ができる、PowerPointでプレゼンテーション用のスライド作成ができることをめざす。</p> <p>知識・理解の領域 基本的な統計量の意味を理解する。</p> <p>技能の領域 パソコン操作に慣れ、表計算ソフトを使いこなせるようにする。</p> <p>態度・志向性の領域 「データ分析ができる」、「データ活用ができる」人材が社会に必要であるという認識をもつ。</p> <p>思考判断の領域 根拠のたしかな事実にもとづき統計学的に正しく推論することができる能力をもつ。</p> <p>関心意欲の領域 社会の「デジタル化」に乗り遅れないようにデータサイエンス、統計学の基礎理論を習得し、自分でデータ解析を行う意欲をもつ。</p>
授業の概要	<p>Word, Excel, PowerPointの基礎的な使い方や、Excelを使った簡単なデータ解析などを個別対応で進めていく。</p> <p>ビジネス統計スペシャリスト, MOS, データサイエンス数学ストラテジストなどの資格取得も視野に入れ、具体的な内容は個人の能力や要望に合わせ、相談しながら決めていく。</p> <p>受講条件は、「本学が指定する要件をみたすパソコン」を授業に持参することである。</p> <p>問題演習や課題の作成は授業中に指導、対話しながら行う。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	演習での作業の内容、提出された課題の内容などを総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと
テキスト	

参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	パソコンを使って、データ分析などの実習を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中に行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の内容についての予習や復習をそれぞれ2時間行うこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	2. 情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	統計学の基礎	回帰式	
2	統計学の基礎	利益 最適化	
3	統計学の基礎	季節要因 移動平均 季節変動値	
4	統計学の基礎	季節調整	
5	統計学の基礎	度数分布表 ヒストグラム	
6	統計学の基礎	集計	
7	統計学の基礎	外れ値	
8	数学の基礎	数学の力はなぜ必要か考える	
9	数学の基礎	じつは日常で使われているデータ分析について考える	
10	数学の基礎	データサイエンスで求められているスキルについて考える	
11	数学の基礎	機械学習・深層学習の数学的理論の理解はなぜ必要か考える	
12	合同ゼミ	2年生向け就職活動ガイダンス	
13	数学の基礎	人工知能と確率・統計の関係を考える	
14	数学の基礎	機械学習と一般的なプログラムとの違いを考える	
15	数学の基礎	理論を知る理由を考える	

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IIB
時間割コード Course Code	39256
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	郡 麻里
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	郡 麻里 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 一年生での学び方を振り返り、より良い成績に向けた改善点を見つけること。</p> <p>3. ゼミナールの仲間と議論を深め、さまざまなテーマに取り組むことで、新たな視点と互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 就職活動において自分の強みを発見するための機会を活用し、自己実現の力を身につけること。</p> <p>5. 大学生活においてゼミナールの機会を有効活用し、学ぶ力とコミュニケーション能力を高めること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕          学習および大学生活全般に必要な技能          必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。          文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語や英語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。          自分の考えをまとめ、表現できる。          学習および大学生活全般に必要な態度          自らを律して行動できる、他人への思いやりの精神、          約束を守ることなど、大学や社会の構成員として自分の責任を果たすことができる。          仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって2年目に所属するゼミナール（ゼミ）の授業です。みなさんは、これから1年間このゼミに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この2年次後期のゼミは、みなさんにとって大学生活や勉強の仕方を振り返り、3年次に向けて準備する機会です。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。</p> <p>このゼミが、みなさんの学生生活の手助けになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕          この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	成績評価の基準は次の通りです。 1.ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。 2.ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えをはっきりと述べられること。 3.授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。 出席が良好であること(毎週出席が基本)を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	前期15回のゼミのうち、1回分は合同ゼミ(学部学科単位)を実施します。  1回目 秋の七草、獣害ヒアリング(聞き書き調査) 2回目 生物季節(フェノロジー)調査 3回目 地域の特定外来生物の分布調査(タカサゴユリの結実状況) 4回目 キャンパスの栗・ドングリ類の結実量調査 5回目 樹木計測、光環境測定、調査法の紹介 6回目 キャンパスのSDGs探索 7回目 通学路の学生目線での安全点検(街灯の設置提案) 8回目 地域の隠れた資源の発掘(シノブ玉の作成、販売企画) 9回目 外来種対策、普及・啓発用のチラシ作り 10回目 地域の侵略的外来生物の駆除 11回目 駆除された植物を用いたバイオ炭の製造 12回目 合同ゼミ(企画2) 13回目 オリジナルチラシ(ポスター等)作成 14回目 オリジナルチラシを用いたプレゼン 15回目 後期の振り返り(ディスカッション) (順番は多少前後する可能性あり)
テキスト	テキストは使用しません。
参考書	世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』(世界思想社、2021年)1,200円(税別)。 この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんが大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	担当教員は環境省や東京都などの行政とともに環境調査や希少種の生育・生息環境の保全活動に携わった経験があるため、特にキャンパスの里山整備事業を授業に取り入れて指導します。また、海外滞在経験を活かした授業も実施可能です。
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標(11~17)	11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任 13.気候変動に具体的な対策を 15.陸の豊かさも守ろう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IIB
時間割コード Course Code	39257
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	徐 誠敏
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	徐 誠敏 (経営学部)
授業の目標	<p>基本演習IAで身に着けたスタディ・スキルを中心に本格的な研究・報告の準備として、「読む、調べる、考える、書く、発表する」スキルを養うことを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識・理解の領域 研究・報告が何かを理解し、スキルを実践できる。</li> <li>・技能の領域 -読む、調べる：新聞や雑誌記事の切り抜きを活用する技術を学習する。 -考える：ポイントを掴む、多様な角度から物事を考える力を養う。 -書く：ストーリーの描き方と論理的に述べる技術を学習する。 -発表する：自分自身の考えやまとめたものを説明できる力を養う。</li> <li>・態度・志向性の領域 様々な角度からものごとを解釈でき、自らと異なる考えを受け入れる態度を養う。</li> </ul>
授業の概要	<p>演習という科目は、積極的に社会・経済・経営の様々な出来事に感心を持ち、なぜそのような問題が起きるのか？ どうしたら問題を解決できるのか？ という思考を訓練する科目である。そのため、本講義では、みなさんが興味を持っている社会・経済・経営の様々な出来事について、新聞や雑誌記事の切り抜きなどを用いて発表・議論する方法を進めることとする。</p>
評価方法	<p>授業への積極的参加・提出レポート及び出席状況による評価</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席が良好であること（毎週出席が基本です。）</li> <li>2. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと</li> <li>3. ゼミの仲間の発表をよく聴き、その発表に学び、それについての自分の考えを述べること</li> <li>4. 自分の選んだテーマについてレジュメにまとめ、ゼミの仲間の前でわかりやすく説明すること</li> <li>5. 自分の選んだテーマをレポートに仕上げること</li> </ol>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション：演習の目的と課題の確認</li> <li>2. 研究テーマを考える(1)問題発見・問題解決型学習とは何か、グループ分け</li> <li>3. 研究テーマを考える(2)グループ学習の進め方、資料の収集とデータのまとめ方、役割分担の決定</li> <li>4. 研究テーマを考える(3)テーマを決めよう</li> <li>5. 研究を進める(1) 問題解決の方法、レジユメのまとめ方</li> <li>6. 研究を進める(2) 情報を持ち寄って分析しよう</li> <li>7. 研究を進める(3) 情報を持ち寄って分析しよう</li> <li>8. 研究報告をまとめる(1) スライド資料の作り方、</li> <li>9. 研究報告をまとめる(2) プレゼンテーションの方法</li> <li>10. 研究報告をまとめる(3) 報告準備</li> <li>11. プレゼンテーションとディスカッション(1) 分かりやすく説明することに挑戦してみよう</li> <li>12. プレゼンテーションとディスカッション(2) 分かりやすく説明することに挑戦してみよう</li> <li>13. プレゼンテーションとディスカッション(3) 分かりやすく説明することに挑戦してみよう</li> <li>14. レポートのまとめ方</li> <li>15. まとめ：ゼミ活動を振り返って、2年次以降の目標を設定しよう</li> </ol> <p>*後期に1回合同ゼミを実施する予定です。</p>
テキスト	テキストは使用しない。必要な資料はそのつど配布する。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・授業後に対応
フィードバックの方法	・翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>準備学習(予習・復習等)60時間の時間の予習復習の時間を必要とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習：資料調べ</li> <li>・復習：演習内容に関するレポート作成</li> </ul>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<ol style="list-style-type: none"> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> <li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li> </ol>
SDGs 17の目標(11~17)	<ol style="list-style-type: none"> <li>12. つくる責任つかう責任</li> <li>17. パートナリーシップで目標を達成しよう</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IIB
時間割コード Course Code	39258
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	波場 泰昭
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	14D講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	波場 泰昭 (経営学部)
授業の目標	<p>ビッグデータの普及と人工知能(AI)の浸透は、私たちの生活のあらゆる側面に影響を与え、経済活動や社会活動の意思決定の基盤となっている。このようなデータ駆動型社会において、情報処理能力を獲得することは、キャリアを築くために必須である。当該ゼミでは、既存のアプリケーションを最大限に活用する能力、及び独自にソフトウェアを開発するために必要なプログラミングの技能を養うことを目標とする。</p> <p><b>知識・理解の領域</b> 画像の制作・編集、ドキュメントの製本・編集を簡便に行うことができる汎用的なアプリケーションに関する知識を習得する。これらの相補的あるいは複合的な利活用により、情報処理能力が向上することを理解する。</p> <p><b>技能の領域</b> 画像の制作・編集を行い、ドキュメントやプレゼンテーション資料として掲載する技能を養う。表計算・数値計算を効率化し、GUIを構築するためのプログラミング技能を養う。</p> <p><b>態度・志向性の領域</b> 当該ゼミの参加者が共同で学習し、議論を行い、チームワークやリーダーシップの側面から行動力を発揮する。常に、キャリア教育の視点に立ち、情報処理能力を自己実現に資する。</p> <p><b>総合的思考力</b> 知識、技能、態度を総合的に活用し、問題を解決することができる。</p>
授業の概要	<p>上記の到達目標に向けて、実践的で拡張性のある機能を知り、それを最大限に活用する技能を身につける。対話形式の授業を通じて知識の定着を図ることはもとより、参加者は大学が指定するスペックのノートPCを持参して、コーディング及び動作確認することで実践的かつ体験的にプログラミングの技能を養う。また、参加者が相互にコミュニケーションを取り共同作業を行うことで、スキルシェアリングをする。</p> <p>各自、Windowsを搭載したノートPCを持参すること。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>以下の観点から、総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への参加姿勢 50%</li> <li>・ レポート(成果物) 50%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	無断欠席が3回以上に達した場合
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	よい資料を作るためのレイアウトのルール 伝わるデザインの基本 (技術評論社)

参考書	なし
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	参加者が作成した成果物に関する報告をグループ内で行うことで、スキルシェアリングをすると共にプレゼンテーション能力を養う。参加者は毎回ノートPCを持参して、手を動かしながら担当教員との対話を繰り返し、技能を身につける。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業時間内に対応します。また、Microsoft Teamsを用いて随時対応します。
フィードバックの方法	授業時間内に対応します。また、Microsoft Teamsを用いて随時対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに関わる予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。予習ではアプリのセットアップ、復習では成果物の作成を含めて構いません。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標 (11~17)	12.つくる責任つかう責任 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 5.自信創出力 9.実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	発表資料の作成 ( 1 )	Office 365 PowerPoint ( スライドマスター )	Office 365
2	発表資料の作成 ( 2 )	Office 365 PowerPoint ( 主題、表紙、目次、章立て )	Office 365
3	発表資料の作成 ( 3 )	Office 365 PowerPoint ( デザイン、レイアウト、黄金比 )	Office 365
4	発表資料の作成 ( 4 )	Office 365 PowerPoint ( TeXPoint )	Office 365
5	プログラム開発環境の構築	Python最新版とVisual Studio Code	Python
6	プログラミング基礎 ( 1 )	文字型・整数型・浮動小数点型	Python
7	プログラミング基礎 ( 2 )	四則演算・論理演算、変数の定義	Python
8	プログラミング基礎 ( 3 )	関数の定義 ( 引数・戻り値 )	Python
9	アルゴリズムの表現 ( 1 )	探索 ( サーチ ) と 整列 ( ソート )	Python
10	アルゴリズムの表現 ( 2 )	if文を用いた分岐処理	Python
11	アルゴリズムの表現 ( 3 )	for文を用いた反復処理	Python
12	合同ゼミ	就職活動ガイダンス	
13	ライブラリの活用 ( 1 )	csvを用いたCSV形式データの操作	ライブラリ csv
14	ライブラリの活用 ( 2 )	turtleを用いた図形の描画	ライブラリ turtle
15	ライブラリの活用 ( 3 )	tkinterを用いたGUIの構築	ライブラリ tkinter

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IIB
時間割コード Course Code	39259
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	宮島 良子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	宮島 良子 (経営学部)
授業の目標	<p>経営に必要なことは何か、自律的に調べ、取り組むことができると同時に、他の人にも働きかけ、協働するために努力できるようになる。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 経営的な視点を持ち、ビジネスに必要となる様々な知識を得、他の人と共有することができる。</p> <p>技能の領域 多くの情報の中から、自分の得た知識を簡潔にまとめ、プレゼンテーションして、多くの人に理解してもらうために改善を続けることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 経営学部の学生として経営に興味を持ち、ビジネスを客観的に分析することができ、更に専門的なものを知りたい、学びたいと思い、努力できるようになる。</p> <p>思考・判断の領域 多角的な視点を持ち、人間の多様性と普遍性を学習と経験を通して学び、それを人にも伝えることができる。</p> <p>関心意欲の領域 社会がいかに多くの人々の営みによって形成されているのかを知り、今まで関心が無かった、もしくは薄かったところにも興味を持ち、一步を踏み出せるようになる。</p>
授業の概要	<p>ア) まず、情報収集のためにどのようなものがあるのかを調べる。 次に、得た情報の真偽を確かめること、重要度を意識し、整理する。 関連したテーマを決め、特に興味を持ったものについて、更に調べ、まとめて発表する。</p> <p>イ) P(計画)D(実行)C(評価)A(改善)サイクルを体感するため、イベントを企画立案、実行、振り返る。</p> <p>〔この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。〕</p>
評価方法	<p>授業での活動(活動報告書などの提出を含める): 4点×15回=60点 発表・レポート・企画の実施など: 40点 毎回の授業では、テーマに沿った200字程度の文章を作成する。 授業中の受講態度、課題に取り組む姿勢、発表の内容を評価する。それに加え、適宜課題の達成度や企画の進捗状況を総合的に評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特別な配慮などを必要としない欠席が5回以上ある場合には失格とする。

授業計画	<p>&lt;第1週&gt; オリエンテーション</p> <p>&lt;第2週～第7週&gt; 「ビジネス」「SDGs」などをキーワードにアンケート調査やインタビュー調査を行うための準備。調査の実施。報告、発表、報告書の作成。 P(計画)D(実行)C(評価)A(改善)を体験するため、前期で行った学内イベント等を改善し、企画立案し、プレゼンし、投票し、実行する。</p> <p>&lt;第8週&gt; 前半の振り返り</p> <p>&lt;第9週～第11週&gt; 学内イベント準備、実行</p> <p>&lt;第12週&gt; 合同ゼミ</p> <p>&lt;第13週～第15週&gt; アンケート調査結果報告 振り返り</p> <p>また、大学祭に模擬店の出店をし模擬ビジネスを通じて実際に損益計算を行なうことやインターナショナルウィークスなどでのイベントを開催することなどを推奨する。</p>
テキスト	授業時に配布する。また必要に応じて授業後にグーグルクラスルームで共有する。
参考書	適宜、紹介します。 <a href="http://toyokeizai.net/">http://toyokeizai.net/</a> <a href="http://business.nikkeibp.co.jp/">http://business.nikkeibp.co.jp/</a> <a href="https://jp.reuters.com/">https://jp.reuters.com/</a>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内では2-4人で1組になりグループディスカッションや質問作り、PBL(問題解決型学習)などを実施する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	国内外で日本語教育に携わってきた経験を活かし、異文化コミュニケーションを中心とした理解ややさしい日本語などを扱う。
質問への対応方法	授業前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、メールなどでも随時受け付ける。
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックについては翌週の授業内やグーグルクラスルームなどを通じて実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内では話し合い活動やプレゼンテーション、評価活動などを実施するため、その準備として、資料検索、アンケート調査、インタビュー調査、企画準備活動などが求められる。講義(2単位)週1コマ(30時間)であるため、60時間の準備学習が必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	<p>1. 貧困をなくそう</p> <p>10. 人や国の不平等をなくそう</p> <p>3. すべての人に健康と福祉を</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>5. ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>8. 働きがいも経済成長も</p>
SDGs 17の目標(11～17)	<p>11. 住み続けられるまちづくりを</p> <p>12. つくる責任つかう責任</p> <p>16. 平和と公正をすべての人に</p> <p>17. パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p> <p>4. 構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>1. 親和力</p> <p>2. 協同力</p> <p>3. 統率力</p> <p>4. 感情制御力</p> <p>5. 自信創出力</p> <p>6. 行動持続力</p> <p>7. 課題発見力</p> <p>8. 計画立案力</p> <p>9. 実践力</p>

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IIB
時間割コード Course Code	39260
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	李 美善
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 美善 (経営学部)
授業の目標	<p>この演習では、様々な企業のケースから経営学の基礎知識を理解することと、「読む、調べる、考える、書く、発表する」スキルを養うことを目標とする。</p> <p>知識・理解の領域 企業経営が何かを理解し、研究・報告のスキルを実践できる。</p> <p>技能の領域 -読む、調べる：新聞や雑誌記事及び本を活用する技術を学習する。 -考える：ポイントをつかみ、多様な角度から物事を考える力を養う。 -書く：ストーリーの描き方と論理的に述べる技術を学習する。 -発表する：自分自身の考えをまとめ、説明できる力を養う。</p> <p>態度・志向性の領域 様々な角度からものごとを解釈でき、自らと異なる考えを受け入れる態度を養う。</p> <p>思考・判断の領域 論理的思考力や判断力の見解を述べられる人となることを目指す。</p> <p>関心意欲の領域 様々な企業のケースをみることで社会・経済・経営の様々な出来事への関心が高まる。</p>
授業の概要	<p>この演習では、積極的に社会・経済・経営の様々な出来事に関心を持ち、なぜそのような問題が起きるのか？ どうしたら問題を解決できるのか？ という思考を訓練する。</p> <p>1. 様々な企業のケーススタディを通じて経営学の基礎知識を学ぶ。 2. 社会・経済・経営の様々な出来事について、新聞や雑誌記事などを用いて発表・議論する。</p>
評価方法	<p>授業への参加姿勢（50%）及び課題の完成度（50%）による評価</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと 2. ゼミの仲間の発表をよく聴き、その発表に学び、それについての自分の考えを述べること 3. 自分の選んだテーマについてレジюме・パワーポイントにまとめ、ゼミの仲間の前でわかりやすく説明すること</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が 13回に満たない場合は失格とする。
授業計画	<p>【個人テーマの設定・発表・レポート】</p> <p>興味のある企業、あるいは深く研究してみたいと思う企業を選び、その企業について資料を収集し、パワーポイントで発表し、レポートでまとめる。</p> <p>1. 研究を進める：情報（新聞、雑誌記事）を持ち寄って分析 2. 研究報告をまとめる：スライド資料の作り方 プレゼンテーションの方法 報告準備 3. プレゼンテーションとディスカッション：分かりやすく説明することに挑戦する。 4. レポートにまとめる</p> <p>* 14 回ある授業を上記4つの内容に分けて進めていく * 12回目は「就職活動ガイダンス」を行う。</p>
テキスト	なし

参考書	加護野忠男・吉村典久『1からの経営学』碩学舎 『経営学の基本（経営学検定試験公式テキスト）』経営能力開発センター 中央経済社 『日経ビジネス』『日本経済新聞』『日経産業新聞』などの記事を積極的に利用する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	本演習では「プレゼン力」、「思考力」、「知識」を身につけるため下記のアクティブラーニングを行う。 ・世界や企業のさまざまなテーマについて、グループでディベートを行い、賛成・反対の両方からバランスよく考える。 ・グループ毎で異なる課題を議論し、アイデア・解決方法を提案する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応する。
フィードバックの方法	授業内で課したレポートなどは確認後随時フィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	本演習は下記の内容をこなすため、準備学習（予習・復習等）の時間として60時間以上要する。 ・テーマ設定 ・資料調べ ・企画・提案書づくり（ワードで作成） ・発表資料づくり（パワーポイントで作成） ・ゼミメンバーの発表に対する評価資料づくり（ワード作成） ・レポート課題（ワード作成）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさも守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IIB
時間割コード Course Code	39261
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	小川 哲司
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小川 哲司 (経営学部)
授業の目標	<p>この演習では、経営とICTの関わりを理解すると共に、収集した情報を整理してまとめ、プレゼンテーション用の資料を作成して、発表できるようにすることを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;  知識・理解の領域  世の中の動向を経営学の視点で見ることができるようになる。また経営に興味を持ち、ビジネスを客観的に分析することができるようになる。</p> <p>技能の領域  ディスカッションを通じて多様な視点や意見があることに気づき、物事を複数の視点から捉えることができるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域  ビジネスの仕組みや構造に関心を持ち、物事の本質を知ろうという意欲を持つようになる。</p>
授業の概要	<p>この演習では、グループワークをベースとして、他人と協業する力、情報を収集する力、要点をまとめる力、プレゼンテーション力などを身に付けていきます。</p> <p>与えられたテーマに対して、グループを構成して、グループ内でディスカッションや役割分担をしながら分析を進め、作成した資料を通じてプレゼンテーションをします。</p> <p>このような取り組みを通じて、物事を深く読み取る力や説明する力を身に付けていきます。</p> <p>授業内容（シラバス）に関する質問は、授業後やオフィスアワーにしてください。  この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業への参加姿勢で評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み姿勢：50%</li> <li>・発表や質問の内容：30%</li> <li>・グループワークへの参加姿勢：20%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特別な理由がなく、出席回数が12回に満たない場合



授業計画	<p>&lt; 授業計画 &gt;</p> <p>第1回 前期の振り返り</p> <p>第2回 グループワーク：発表・ディスカッション</p> <p>第3回 グループワーク：発表・ディスカッション</p> <p>第4回 グループワーク：発表・ディスカッション</p> <p>第5回 グループワーク：発表・ディスカッション</p> <p>第6回 グループワーク：発表・ディスカッション</p> <p>第7回 グループワーク：発表・ディスカッション</p> <p>第8回 グループワーク：発表・ディスカッション</p> <p>第9回 グループワーク：発表・ディスカッション</p> <p>第10回 グループワーク：発表・ディスカッション</p> <p>第11回 グループワーク：発表・ディスカッション</p> <p>第12回 就職活動ガイダンス</p> <p>第13回 グループワーク：発表・ディスカッション</p> <p>第14回 グループワーク：発表・ディスカッション</p> <p>第15回 後期のまとめ</p>
テキスト	
参考書	授業に必要な資料を都度配布します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	問題発見解決型のアクティブラーニングによって授業を進めていきます。グループ毎で毎回異なるテーマについてディスカッションをして、授業内で発表します。学生には問題に向けた主体的な参加と、他人との対話が求められます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学生にとって最善の方法で回答します。（随時対応、オフィスアワー、授業後に対応、メール対応など）
フィードバックの方法	翌週の授業までに返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、テーマに関連する文献調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>3. 統率力</li> <li>4. 感情制御力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>6. 行動持続力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

開講科目名 Course	基礎演習 B / Introductory Study Group IIB
時間割コード Course Code	39262
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	神邊 篤史
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	神邊 篤史 (経営学部)
授業の目標	<p>近年の企業活動においては、データに基づき新商品開発や商品改良が計画されることが多い。そこで、その基本的スキルとして、データを分析し、課題の解決や新たな知見を獲得できることを目標とする。特に基礎演習 Bでは、基礎演習 Aで学んだデータ分析スキルが商品開発プロセスで活用できることを体験する。</p> <p>&lt;学習効果&gt;  知識・理解の領域  社会人にとって一般的になりつつあるビジネススキルとしてのデータリテラシーを修得することができる。</p> <p>技能の領域  PCによるデータの可視化やデータ分析手法を理解できる。また、分析結果をプレゼンテーションするスキルを修得することができる。</p> <p>態度・志向性の領域  企画、営業など職種を問わずデータを利活用できる人材が社会で求められている認識を持つ。</p> <p>思考・判断の領域  データの利活用により客観的な視点に基づいて商品の特徴を分析できるようになる。また、分析により得られた知識をもとに新規提案することができる。</p> <p>関心意欲の領域  データリテラシースキルが商品企画、開発に有効であることを理解し、自らデータ分析に取り組む意欲を持つ。</p>
授業の概要	<p>1. 消費者に受け入れられる商品がどのようなものか概説する。また、商品開発アプローチの一つとして、消費者の感性にマッチする商品の開発手法の概要を紹介する。</p> <p>2. グループごとにターゲットとなる商品を決め、消費者の感性にマッチする商品の特性をPCを用いて調査、分析する。そして、感性の観点から商品のコンセプト（ニーズ）を分析結果に基づいて決定する。</p> <p>3. 抽出したニーズを具現化する手法を学び、演習により要件定義を決める。</p> <p>4. 中間発表、分析成果・提案発表会において、分析結果および提案事項を発表する。</p>
評価方法	<p>受講態度：30%、演習課題の内容：20%、プレゼンテーション：50%の割合で総合的に評価する。授業時間外の質問や授業内での意見表明に対しては別途加点することがある。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>第01回 ガイダンス，消費者に受け入れられる商品とは</p> <p>第02回 感性をデータ化する方法</p> <p>第03回 分析対象の選定，チームビルディング</p> <p>第04回 感性評価実験のための質問紙設計</p> <p>第05回 感性評価実験</p> <p>第06回 感性評価データの整理，集計</p> <p>第07回 感性データ分析における主成分分析の考え方</p> <p>第08回 主成分分析による感性構造の分析と新しい感性ニーズの発見</p> <p>第09回 中間発表の準備（データ可視化および新しい感性ニーズの根拠説明）</p> <p>第10回 中間発表</p> <p>第11回 中間発表講評，発表内容・資料の修正</p> <p>第12回 KJ法による感性ニーズの具体化手法</p> <p>第13回 感性ニーズに合わせた商品設計の具体化</p> <p>第14回 分析成果・提案発表会プレゼンテーションの準備</p> <p>第15回 分析成果・提案発表会，授業の総括</p> <p>なお，後期に1回，合同ゼミを行う予定としている。 また，受講者の理解状況によって各回の内容を変更する可能性がある。</p>
テキスト	随時資料を提示する。
参考書	長町（編）：「商品開発と感性」，海文堂出版，2005.
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	個人またはグループごとに分析対象の決定，データ収集・分析，提案を行う。また，プレゼンテーション内容に対し意見交換を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	業後またはオフィスアワーで対応する。
フィードバックの方法	課題締切後の次の授業において説明する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回で授業時間内に終わらない作業が発生する見込みであり，授業時間外で週あたり2時間程度を要する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	12.つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	39300
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	荒鹿 善之
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70B 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒鹿 善之 (経営学部)
授業の目標	<p>本演習では、1年次・2年次で学んだ簿記・会計に関する知識をもとに、企業が公表した財務諸表（貸借対照表や損益計算書）を分析するための基礎的手法の習得を目標とします。</p> <p>学習成果 知識・理解の観点 会計の基礎知識を修得し、財務諸表がどのようにして作成されているかを理解します。 財務諸表に記載されている専門用語を理解します。 財務諸表に記載されている情報を活用し、企業を分析するための基礎的な手法を習得します。 思考・判断の観点 財務諸表の分析結果から企業の状態や成績を判断します。</p>
授業の概要	<p>貸借対照表や損益計算書といった財務諸表には、その企業が1年間でどれだけの利益（損失）をあげたか、またどれだけの財産を保有しているか、どれだけの借金を抱えているか・・・といった、経営成績や財政状態に関する情報が詳細に示されています。したがって、財務諸表は企業の業績を知る上で非常に重要な書類であると言えます。</p> <p>そこで、まず前期の専門演習では貸借対照表や損益計算書の見方を学び、後期に行う企業分析につながるような学習をします。</p>
評価方法	課題の提出状況や分析結果の報告状況をもとに評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	他の授業同様、欠席回数が多い場合は失格になることがあります。
授業計画	<p>前期の専門演習では、財務諸表を読み解くための基礎的な知識を習得します。後期の専門演習では、企業が公表した財務諸表の実物を入手し、以下のような点を分析するための手法を学びます。前期はそれに向けた準備のための学習をします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 安全性（債務を返済する力がどの程度あるか？）</li> <li>2. 収益性（利益をあげる力がどの程度あるか？）</li> <li>3. 成長性（将来的に伸びていく力があるか？）</li> </ol> <p>なお、財務諸表の入手については、有価証券報告書の電子開示システムや各企業のホームページを活用します。</p> <p>また、第2週目には3ないし4学部の合同ゼミを開催し、PROGテストを実施する予定です。</p>
テキスト	谷武幸・桜井久勝・北川教央編著『1からの会計（第2版）』千倉書房
参考書	追って指示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	課題について報告を課すことがあります。

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	日商簿記検定試験委員の担当経験がある教員によって行われる授業です。
質問への対応方法	随時対応します。
フィードバックの方法	レポート、課題などは翌週に返却して解答・解説を行う予定です。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	テキストを事前に読んだり、ゼミ終了後にテキストに記載された課題に取り組むと、より一層の学習成果が得られます。（予習・復習各2時間）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	39302
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	佐藤 豊和
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 豊和 (経営学部)
授業の目標	<p>現代の社会経済活動の中心である株式会社の経営につき、主に実証会計学の方法を用いて分析・理解し、自らのこれからの人生に役立つ実戦的な知識を習得し、またそれらを外部にプレゼンテーションできる具体的能力を身につけること。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 授業で学んだ会計などの事例について説明できる。</li></ul> <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 自らが選定した会計のテーマについて説明し、意見を述べることができる。</li></ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 他の者の発表テーマおよび内容について意見を述べるすることができる。</li></ul>

<p>授業の概要</p>	<p>演習テーマ 「実証会計学：会計データを用いた企業・市場・制度の実証分析」</p> <p>会計学における実証分析とは、財務諸表などの会計データを使用して統計学の手法を用いた分析を行い、その結果から客観的な証拠をもって「何か」を明らかにすることです。たとえば、次のような命題が考えられます。</p> <p>「ジャニーズ事務所のタレント起用を自社の広告宣伝から外した企業の株価は、上昇するのか？」</p> <p>「コロナ禍を過ぎた年度の外食産業全体の当期純利益の平均値は、大幅に増加するのか？」</p> <p>「SDGsに対する取組みに積極的な企業は、倒産する確率が低い？」</p> <p>「インボイス制度が導入された翌年の建設業全体の平均当期純利益は前年より増加するのか？」</p> <p>大切なのは「なんとなくそうだった」、とか、「たぶんそうであろう」ではなく、客観的な（誰でも再現可能な）データと統計的分析手法を用いて、数値的に証明しはっきりと結論づけることです。よって、実証会計学も、数理的な方法を用いて、（大量の）データを処理し、新しい知見や洞察を導き出す科学、すなわちデータ・サイエンスの一つです。企業活動などに関する具体的な数値を、統計分析ソフト等を用いて分析し、経営活動の方向性を見出す能力を身につけることは社会に出たときにも強い武器となるでしょう。</p> <p>研究手順は以下のとおりです。最終的な研究成果は卒業論文として発表します。</p> <p>自分が何を明らかにしたいのか研究テーマを考える。</p> <p>その研究テーマを解くにはどういった会計情報（データ）が必要なのかを考える。</p> <p>インターネットで公開されている有価証券報告書などから会計情報を入手する。</p> <p>Excelなどで分析しやすいようにデータを整理、加工する。</p> <p>データをRやpythonなどの統計分析ソフトやExcelの分析機能を使って分析する。</p> <p>分析結果をまとめ、新たに発見した事項を論文として報告する。</p> <p>各自が分析しまとめた研究成果はパワーポイントなどを用いて順次他のゼミ生の前で発表したのち、最終的に卒業研究としてまとめ提出することになります。</p>
<p>評価方法</p>	<p>報告発表の内容（50%）および討論への参加内容（50%）から総合的に評価します。</p>
<p>教員の指導に従わない以外の事由による失格基準</p>	<p>特になし。</p>
<p>授業計画</p>	<p>第1週 オリエンテーション</p> <p>第2週 プログテスト（学年一斉）</p> <p>第3週 テーマの選び方</p> <p>第4週 会計データの分析の仕方</p> <p>第5週 Rなど統計ソフトの使い方</p> <p>第6週 専門的な分野の発表の仕方（先生の手本）</p> <p>第7週 批判と意見を述べる時のルール</p> <p>第8週 各自テーマの発表</p> <p>第9～14週 発表と討論</p> <p>第15週 まとめ</p>
<p>テキスト</p>	<p>各自の研究内容に応じて個別に指示します。</p>
<p>参考書</p>	<p>授業内で指示します。</p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等</p>	<p>含まない</p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容</p>	
<p>実務経験のある担当教員による授業</p>	<p>該当しない</p>
<p>担当教員の实務経験を活かした授業の内容</p>	
<p>質問への対応方法</p>	<p>随時対応。</p>
<p>フィードバックの方法</p>	<p>翌週講評。</p>
<p>予習・復習等、準備学習の内容及び時間</p>	<p>自らの研究テーマ発表につき平均70時間の準備時間を必要とする。</p>
<p>使用言語</p>	<p>日本語</p>
<p>SDGs 17の目標（1～10）</p>	
<p>SDGs 17の目標（11～17）</p>	
<p>PROGリテラシーの要素</p>	





開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	39303
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	中村 壽男
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 壽男 (経営学部)
授業の目標	<p>業種・業態別簿記を学び簿記技術の応用力を高める。</p> <p>知識・理解の領域 一般小売・卸売業のほか製造業、建設業、輸出輸入業、割賦販売業など業種・業態別による会計処理技術を学ぶことにより、業種・業態を理解し就職活動のための視野を広げることができる。</p> <p>技能の領域 積極的に日本商工会議所簿記検定試験の上位グレードにチャレンジする。</p> <p>態度・志向性の領域 多様な簿記技術の修得を通じて、大学生としての教養と就業意識を高める。また、就職活動のため、社会人としてのマナー・接遇を身につける。</p>
授業の概要	一般小売・卸売業のほか製造業、建設業、輸出輸入業、割賦販売業など業種・業態別による会計処理技術を学び簿記技術の応用力を高める。なお、この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	ゼミ課題への取組度 (50%)・ゼミの諸活動への取組度 (50%) で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション (ゼミの取り組み内容とその進め方および評価方法の説明)</p> <p>第2回 製造業の利害調整機能と情報提供機能</p> <p>第3回 原価要素と費目別計算 (材料費を中心に)</p> <p>第4回 原価要素と費目別計算 (労務費・経費を中心に)</p> <p>第5回 製造直接費と製造間接費</p> <p>第6回 製造間接費の部門別計算</p> <p>第7回 個別原価計算: 造船業を例に考える</p> <p>第8回 仕掛品勘定と製造原価報告書の関係</p> <p>第9回 損益計算書と製造原価報告書の関係</p> <p>第10回 貸借対照表と製造原価報告書の関係</p> <p>第11回 総合原価計算: アパレル業を例に考える</p> <p>第12回 総合原価計算: 酒類製造業を例に考える</p> <p>第13回 企業の固定費と変動費</p> <p>第14回 損益分岐点とCVP分析</p> <p>第15回 直接原価計算: 飲食業を例に考える</p> <p>なお、4月上旬に、PROGテストにかかる合同ゼミを実施する予定である。</p>
テキスト	使用しない。毎回レジュメを配付する。
参考書	

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	同一テーマにつきグループ単位で議論し、そのとりまとめをゼミ内で報告し合い、比較・検討する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学習内容等の質問については随時対応する。
フィードバックの方法	ゼミで提供した課題については、翌週に講評する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	事前にGoogle Classroomにより課題の資料を配信するので2時間程度の予習を要す。また理解度確認のため、事後に2時間程度の復習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	39304
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	松井 義司
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 4 A 多目的室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	松井 義司 (経営学部)
授業の目標	<p>社会人基礎力を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークに慣れる</li> <li>・パワーポのプレゼン作成と発表に慣れる</li> <li>・時事問題の理解、記事・資料を読む</li> <li>・企業との接し方に慣れる</li> <li>・企業活動と仕組の理解</li> </ul> <p>資料収集や企業訪問を通して、経営学を理解する</p>
授業の概要	<p>グループで報告の作成と発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ：名古屋城天守閣の再建でエレベーターをどうするか？</li> <li>・歴史建造物の再建 と バリアフリー の両者の立場から検討。</li> <li>・3つのグループに分かれて報告の作成と発表</li> </ul> <p>個人で報告の作成と発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気になる業界の企業2社の比較分析</li> <li>・比較分析を通して各企業の特徴の理解を深める。</li> </ul> <p>「中部魚錠（うおじょう）」との共同企画（希望者のみ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・魚の卸・回転寿司・居酒屋・ペットフード販売を運営する企業と共同で調査と企画活動を行う。</li> </ul> <p>地元企業を訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1社の企業見学を予定している。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加姿勢（企業訪問・企業との活動）40%</li> <li>・グループワークと発表 40%</li> <li>・個人の報告作成・発表 30%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合。
授業計画	<p>1回目（導入）・15回目（まとめ）</p> <p>13回分の内訳：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク（4回）</li> <li>・個人の報告作成（3回）</li> <li>・企業訪問（1回）</li> <li>・合同ゼミ（1回）：2回目にPROGテストを実施。</li> <li>・企業との活動の進捗会（4回）</li> </ul>
テキスト	・演習の資料をグーグルクラスルームに掲載する。

参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	企業訪問や企業との共同企画、グループワークと個人による報告を通じた学びを行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業訪問と取材</li> <li>・企業との共同企画</li> <li>・グループディスカッション</li> <li>・グループワークによる資料のまとめ</li> <li>・グループ毎のプレゼンテーション形式での発表</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	担当教員は電機メーカーに長年勤務し新興国での市場開発に従事し、販売会社の運営・組織運営や人材育成・販路や物流体制の構築・代金回等に関わって来た。これらの実務経験と研究を踏まえ、地元企業の様々な仕組みや工夫への理解を深める演習を行いたい。
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習中やオフィスアワー中に対応。</li> <li>・メール対応も行う。matsui-y@nagoya-ku.ac.jp</li> </ul>
フィードバックの方法	・演習中に、又は、翌週の演習中にフィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	企業訪問前の事前調査と、グループワークによる発表準備のために、事前・事後学習が必要。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ul style="list-style-type: none"> <li>3.すべての人に健康と福祉を</li> <li>5.ジェンダー平等を実現しよう</li> <li>8.働きがいも経済成長も</li> </ul>
SDGs 17の目標（11～17）	13.気候変動に具体的な対策を
PROGリテラシーの要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>1.情報収集力</li> <li>2.情報分析力</li> <li>3.課題発見力</li> <li>4.構想力</li> </ul>
PROGコンピテンシーの要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>2.協同力</li> <li>7.課題発見力</li> <li>9.実践力</li> </ul>

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	39305
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	山下 幸裕
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 2 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山下 幸裕 (経営学部)
授業の目標	<p>専門演習I (前期・後期を通して) では、教科書・論文からマーケティングに関する知識を学び、グループ研究 (PBL) で応用することにより、マーケティングの考え方・手法を身につけます。また、4年生では卒業研究があります。私たちの周りには、たくさん問題 (卒業研究の種) がありますが、それらの問題は漠然としており、簡単にアプローチすることはできません。卒業研究の計画を策定するためには、漠然とした問題をアプローチ (研究) できるように変換する必要があります。そのための能力 (問題解決能力) を身につけることを目指します。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;  知識・理解の領域  マーケティング戦略について説明することができる。  理論的に問題を説明することができる。  技能の領域  マーケティングの手法を用いて問題解決にアプローチできる。  態度・志向性の領域  身の回りにある問題に関心を持つようになる。</p>
授業の概要	<p>専門演習IAでは、特にマーケティング戦略の知識を身につけることを目標とします。そのための演習として、マーケティング関連の教科書や代表的な論文を題材にグループワークを実施します。また、状況に応じて、マーケティング調査の手法も学ぶことがあります。例えば、マーケティングに関わらず社会調査全般で用いられるアンケート調査の基本、商品やサービスの最適な構成要素を発見するコンジョイント分析、エリアマーケティングで用いられるGIS (地理情報システム) などを取り上げます。</p> <p>最後に集大成として、これまで学んだことを活かし、身の回りにある問題や興味・関心事等についてグループで研究してもらいます (後期ゼミ)。</p> <p>要望や状況に応じて変更することがあります。</p>
評価方法	成績はゼミへの参加姿勢 (宿題、レポート、発表の内容も含む) で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>以下の事由により失格になる場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>著しく欠席・遅刻が多い場合 ゼミは毎回の出席を前提に進めます (グループワークが中心)。無断欠席は厳禁です。</li> <li>教員の連絡に応じない場合</li> <li>宿題やレポートの提出、発表を怠った場合</li> </ul>

授業計画	1 回目：演習内容の確認、基礎演習の振り返り 2 回目：PROGテスト 3 ~ 1 4 回目：マーケティング戦略の演習：教科書（テキスト）・論文を題材にグループワーク 3 ~ 5 回目：環境分析 6 ~ 1 0 回目：マーケティング戦略 1 1 ~ 1 4 回目：マーケティングミックス 要望や状況に応じて変更することがあります。
テキスト	池尾恭一「入門・マーケティング戦略（新版）」有斐閣 2022
参考書	授業時に指示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	事前に指定された教科書（テキスト）の範囲を読み、事前に学習した内容に関する課題をグループワークで取り組み結果を発表する（反転学習）。これにより教科書（テキスト）の理解を深め、マーケティング戦略の知識を身につける。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問は授業終了後もしくはオフィスアワーにて対応する。
フィードバックの方法	授業中にフィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・指定テキストを用いて予習・復習する。 ・授業内容について復習する。 各回、4 時間の予習・復習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1~10）	
SDGs 17の目標（11~17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	39306
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	吉川 伸一
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	情報実習室A
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	吉川 伸一 (経営学部)
授業の目標	<p>大学教育においては、文系・理系の学生を問わず教養教育と専門教育の両方が必要である。教養教育では、社会人として最低限身に付けておいてほしい一般常識や数学・英語の基礎、社会人としてのマナーを学ぶ。</p> <p>また、現代は企業を取り巻く環境が短期間で変化する世の中である。変化に適応できる人材を育てることが専門教育の急務である。</p> <p>当ゼミでは、企業などが経営活動を進めていく過程において発生する諸問題を統計学の立場から考察し、問題の本質をつかみとり、自らの力で解決できる能力を身につけることを理想的な目標とする。企業にとって重要な在庫管理の問題にも踏み込み、在庫費用最小化あるいは利益最大化の問題を理解し、自力で解けるようになることも目標とする。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 授業で学んだ専門用語を理解し、説明できる。</p> <p>技能の領域 回帰分析、検定、区間推定、線形計画法などをコンピュータソフトを用いて解析できる。</p> <p>態度・志向性の領域 シラバスを見て、次回の授業内容について予習しておく。また授業で学んだ内容について、積極的に復習しておく。</p> <p>関心・意欲の領域 教員から与えられたことだけでなく、自分で積極的に新聞や学術雑誌などから、演習で使えるような題材、特集、データなどを探し、教員に提示できる。</p>
授業の概要	<p>高度情報化社会といわれる現代において、情報のひとつの形である統計学の理論・実践を学んでいく。本演習の性格上、数学的なことが主になるが、できるだけ分かりやすく解説していく。統計学の基礎を固めた上で、データ分析を行う。ここでいうデータ分析とは、取得したデータを多様な角度から眺め、問題点や課題、成果や成功を発見し、改善と拡大に向けて活動することを表している。ただし、分析することが目的ではなく、表面化した問題点に対して対策と改善策を考案することが重要である。</p> <p>また分析にあたって、在庫管理、販売管理などの知識が必要とされるので、こうした実務イメージを通して、経営の実態を知る能力を学ぶ。</p> <p>毎回の授業に関して予習及び復習を必ず行い、かつ受身で参加するのではなく、積極的に学習してほしい。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HP のナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	<p>前期・後期ともに参加姿勢、3～4回の課題レポート、期末試験で評価する。 具体的に以下のような比重で評価するものとする。</p> <p>参加姿勢 40% レポート 30% 期末試験 30%</p> <p>授業内で行ったレポートは採点し、返却する。理解度が良好でないと判断した部分については、次回授業で復習する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15回の出席のうち、出席回数が12回に満たない場合</li> <li>・特別な理由なしに2回連続で欠席した場合</li> </ul>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス及び履修登録、統計学の基礎(1)</li> <li>2. 合同ゼミナール (PROGテスト)</li> <li>3. 統計学の基礎(2)</li> <li>4. 統計学の基礎(3)</li> <li>5. 企業のデータをExcelで読み解く(営業編(1))</li> <li>6. 企業のデータをExcelで読み解く(営業編(2))</li> <li>7. 優良企業の経営を探る(1)</li> <li>8. 優良企業の経営を探る(2)</li> <li>9. 企業のデータをExcelで読み解く(経理編(1))</li> <li>10. 企業のデータをExcelで読み解く(経理編(2))</li> <li>11. 優良企業の経営を探る(3)</li> <li>12. 優良企業の経営を探る(4)</li> <li>13. 企業のデータをExcelで読み解く(総務編(1))</li> <li>14. 企業のデータをExcelで読み解く(総務編(2))</li> <li>15. 全体のまとめと振り返り</li> </ol>
テキスト	追って指示する。
参考書	渡辺克之著、「営業・経理・総務のためのExcelで会社のデータを読み解く」、ソーテック社
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・2名から3名のグループを作り、グループごとに課題を議論し、解決方法をまとめる。パワーポイントなどを使って発表する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業後に対応する</li> <li>・メールで対応する(メールアドレスは授業中に提示する)</li> </ul>
フィードバックの方法	授業の終りに課したレポートまたは小テストは、採点及び評価をして翌週に返却する。



<p>予習・復習等、準備学習の内容及び時間</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス及び履修登録 前期履修希望科目のシラバスと前期履修登録の手引きをよく読んでくる。2時間の予習と2時間の復習を課す。</li> <li>2. 統計学の基礎(1) 2時間の予習と2時間の復習を課す。</li> <li>3. 統計学の基礎(2) 統計学の資料を読む。2時間の予習と2時間の復習を課す。</li> <li>4. 統計学の基礎(3) 統計学の資料の続きを読む。2時間の予習と2時間の復習を課す。</li> <li>5. 企業のデータをExcelで読み解く(営業編(1)) 用意した営業編(1)の資料を読んで演習を行う。2時間の予習と2時間の復習を課す。</li> <li>6. 企業のデータをExcelで読み解く(営業編(2)) 用意した営業編(1)の資料の続きを読んで演習を行う。2時間の予習と2時間の復習を課す。</li> <li>7. 優良企業の経営を探る(1) コンビニエンスストアの経営を探る。2時間の予習と2時間の復習を課す。</li> <li>8. 優良企業の経営を探る(2) コンビニエンスストアの経営の続きを探る。2時間の予習と2時間の復習を課す。</li> <li>9. 企業のデータをExcelで読み解く(経理編(1)) 用意した経理編の資料を読んで演習を行う。2時間の予習と2時間の復習を課す。</li> <li>10. 企業のデータをExcelで読み解く(経理編(2)) 用意した経理編の資料の続きを読んで演習を行う。2時間の予習と2時間の復習を課す。</li> <li>11. 優良企業の経営(3) ホームセンターの経営を探る。2時間の予習と2時間の復習を課す。</li> <li>12. 優良企業の経営を探る(4) ホームセンターの経営の続きを探る。2時間の予習と2時間の復習を課す。</li> <li>13. 企業のデータをExcelで読み解く(総務編(1)) 用意した総務編の資料を読んで演習を行う。2時間の予習と2時間の復習を課す。</li> <li>14. 企業のデータをExcelで読み解く(総務編(2)) 用意した総務編の資料の続きを読んで演習を行う。2時間の予習と2時間の復習を課す。</li> <li>15. 全体のまとめと振り返り 第1回目から第14回目を振り返る。2時間の予習と2時間の復習を課す。</li> </ol>
<p>使用言語</p>	<p>日本語</p>
<p>SDGs 17の目標(1~10)</p>	<p>4. 質の高い教育をみんなに 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
<p>SDGs 17の目標(11~17)</p>	
<p>PROGリテラシーの要素</p>	<p>1. 情報収集力 2. 情報分析力</p>
<p>PROGコンピテンシーの要素</p>	<p>2. 協同力</p>

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	39307
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	李 美善
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 美善 (経営学部)
授業の目標	<p>さまざまな企業ケースから経営戦略の知識を理解する。ケーススタディを通じて学ぶことによって、体系的かつ実践的な知識を理解するとともに、経営戦略の有効性を判断できるようになる。なお、「読む、調べる、考える、書く、発表する、魅せる」スキルを養うことを目標とする。</p> <p>知識・理解の領域 経営戦略とは何かを理解し、研究・報告のスキルを実践できる。</p> <p>技能の領域 -読む、調べる：新聞や雑誌記事及び本を活用する技術を学習する。 -考える：ポイントを掴む、多様な角度から物事を考える力を養う。 -書く：ストーリーの描き方と論理的に述べる技術を学習する。 -発表する：自分自身の考えをまとめ、説明できる力を養う。 *魅せる：「伝える」発表から「伝わる」発表のスキルを習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 さまざまな角度からものごとを解釈でき、自らと異なる考えを受け入れる態度を養う。</p> <p>思考・判断の領域 競争力が高い企業とそうでない企業を見分け、なぜそうなのか？などを論理的に考える力を養う。</p> <p>関心意欲の領域 企業経営について学ぶことによって、将来の仕事への関心が高まる。</p>
授業の概要	<p>急速な技術革新やグローバル化により企業間の競争が激化している今日、企業を取り巻く経営環境は大きく変化している。こうした激しい変化のなかで、企業を持続・発展させることは容易ではない。その中で、高い成果を上げ成功している企業には、必ず理由がある。本演習では、その理由の一つを経営戦略にあると考え、さまざまな企業のケースを取り入れて経営戦略の知識を身につけ、その知識を発表・議論する方法で進めることとする。発表、議論、グループワークなどゼミ活動を通してみなさんに必要な「コミュニケーション能力」、「柔軟性」、「積極性（チャレンジ精神）」、「協調性」、「誠実性」を習得できる。</p>
評価方法	<p>授業への参加姿勢（50%）及び課題の完成度（50%）による評価</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと</li> <li>2. ゼミの仲間の発表をよく聴き、その発表に学び、それについての自分の考えを述べること</li> <li>3. 自分が選んだテーマをレポートに仕上げること</li> <li>4. 自分が選んだテーマについてレジュメ・パワーポイントにまとめ、ゼミの仲間の前でわかりやすく説明すること</li> </ol>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が 13回に満たない場合は失格とする。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. さまざまな企業のケースを取り入れ経営戦略の基礎知識を学ぶ。</li> <li>2. 研究を進める：情報（新聞、雑誌記事）を持ち寄って分析</li> <li>3. 研究報告をまとめる：スライド資料の作り方 プレゼンテーションの方法 報告準備</li> <li>4. プレゼンテーションとディスカッション：分かりやすく説明することに挑戦する。</li> </ol> <p>* 14回ある授業を上記4つの内容に分けて進めていく * 2回目のゼミはPROGテストを実施する予定である。</p>
テキスト	なし。
参考書	伊丹敬之・西野和美編『ケースブック：経営戦略の論理』 日本経済新聞社 『経営学検定試験公式テキスト2.4』 経営能力開発センター 中央経済社 『日経ビジネス』『日本経済新聞』『日経産業新聞』などの記事を積極的に利用する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	本演習では「プレゼン力」、「思考力」、「知識」を身につけるため下記のアクティブラーニングを行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界のさまざまなテーマ（SDGsなど）について、グループでディベートを行い、賛成・反対の両方からバランスよく考える。</li> <li>・グループ毎で異なる課題を議論し、アイデア・解決方法を提案する。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応する。
フィードバックの方法	授業内で課したレポートなどは確認後、随時フィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	本演習は下記の内容をこなすため、準備学習として各回、予習2時間、復習2時間が必要である。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ設定</li> <li>・資料調べ</li> <li>・企画・提案書づくり（ワードで作成）</li> <li>・発表資料づくり（パワーポイントで作成）</li> <li>・ゼミメンバーの発表に対する評価資料づくり（ワードで作成）</li> <li>・レポート課題（ワードで作成）</li> </ul>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10. 人や国の不平等をなくそう 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>3. 統率力</li> <li>4. 感情制御力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>6. 行動持続力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	39308
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	大曾 暢烈
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	情報実習室 B
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大曾 暢烈 (経営学部)
授業の目標	<p><b>【授業目標】</b> 本演習は、(1)人材マネジメント(人的資源管理論・組織行動論)に関する知識を身につけること、(2)人材マネジメントに関する知識を用いて、企業の具体的な事例(ケース)を分析する能力を修得すること、(3)課題発見・課題解決能力を修得することを目標とします。</p> <p><b>【学習成果】</b></p> <p>知識・理解の領域 ・文献を読み・まとめ、発表し、ディスカッションという一連のプロセスを通じて、企業人として必要なスキルを身につけることができる。 ・人的資源管理論・組織行動論に関する基本的な知識を身につけることができる。</p> <p>技能の領域 ・報告やグループ学習を通して、問題発見力や論理的思考力を身につけることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 ・報告における質問や議論を通して、自律的な学習姿勢を身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>本演習(前期・後期を通じて)は、経営学の中でも、人材マネジメントに関する知識を身につけることを目的としています。具体的に、人的資源管理論・組織行動論などを中心に学びます。専門演習 Aでは、人的資源管理論・組織行動論に関する文献や資料をもとに輪読・発表・ディスカッションという形式で個人ワーク・グループワークに取り組み、基礎的な知識を身につけます。また、数名のグループ単位で、人的資源管理論や組織行動論の知識を用いて、企業の具体的な事例(ケース)を分析してもらいます。</p> <p>* 講義外で、課題を読み、グループで話し合いを行い、発表資料を作成することが必要になります。</p> <p>* 他大学との交流ゼミを行う可能性があります。出席が必須です。</p> <p>* 上記の授業概要については、状況によって変更する可能性があります。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	演習への参加態度、報告・課題内容で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	著しく欠席が多い場合、課題や発表に対する十分な取り組みがなされない場合
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 合同ゼミ 第3回～第7回 人的資源管理論の文献・資料の輪読・発表・ディスカッション 第8回～第12回 組織行動論の文献・資料の輪読・発表・ディスカッション 第13回～第15回 企業の具体的な事例(ケース)の分析・発表・ディスカッション</p> <p>* 上記の授業計画については、状況によって変更する可能性があります。</p>

テキスト	西村孝史・島貫智行・西岡由美編著（2022）『1からの人的資源管理』中央経済社 鈴木竜太・服部泰宏（2019）『組織行動 組織の中の人間行動を探る』有斐閣
参考書	必要な資料を適宜紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ディスカッションや発表などを実施する予定である。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後に対応する。
フィードバックの方法	授業中に行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、予習2時間、復習2時間が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	39309
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	小川 哲司
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小川 哲司 (経営学部)
授業の目標	<p>ICT(Information and Communication Technology : 情報通信技術)は従来の枠組みや概念に変化をもたらし、世の中の仕組みやビジネスの方法を大きく変えるポテンシャルを秘めています。本演習では最新のICT動向を踏まえて、経営とICTの関わりに注目をし、企業の経営戦略、マーケティング、ビジネスモデルなどについて学び、ICTの本質を理解することを目指します。また経営と情報に関するより専門的な知識を扱い、卒業研究のテーマを見つけていきます。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;  知識・理解の領域  経営とICTに関する専門的な知識を習得するとともに、習得した知識がどのようにビジネスに関連するかという実践的な視点を身に付けることができる。</p> <p>技能の領域  プレゼンテーションの発表資料作成と発表ができるようになるとともに、ディスカッションができるようになる。またコンピュータに関する応用力が身に付きます。</p> <p>態度・志向性の領域  情報とビジネスの関係を理解することから、経営全体の専門的な知識を学びたいと思うようになる。また最新の経営情報の動向や技術に興味を持ち、主体的に知識の習得に努めることができる。</p> <p>思考・判断の領域  ディスカッションを通じて多様な視点や意見があることに気づき、物事を複数の視点から捉えることができるようになる。</p> <p>関心意欲の領域  ICTを活用したビジネスの仕組みや構造に関心を持ち、本質を知ろうという意欲を持つようになる。</p>
授業の概要	<p>経営や情報通信技術に関わるテーマやケースなどを、グループワークによるディスカッションを通じて、ゼミ内で報告をします。その過程の中で、情報の整理、資料のまとめ方、発表方法、質疑応答のやり方などを習得していき、専門知識とともに社会で求められる力を付けていきます。ICTを活用したビジネスの最新動向などに関するテーマを積極的に扱っていきます。</p> <p>授業内容(シラバス)に関する質問は、授業後やオフィスパワーにしてください。  この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>主に授業への参加姿勢と課題の内容で評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への取り組み姿勢 : 40%</li> <li>・ 発表や課題の内容 : 30%</li> <li>・ グループワークへの参加姿勢 : 30%</li> </ul>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特別な理由がなく、出席回数が12回に満たない場合
授業計画	<p>&lt; 授業計画 &gt;</p> <p>第1回 イン트로ダクション、各自の自己紹介</p> <p>第2回 PROGテスト</p> <p>第3回 議論の方法、ディスカッションの練習</p> <p>第4回 グループワーク・グループディスカッション</p> <p>第5回 グループワーク・グループディスカッション</p> <p>第6回 グループからの発表・報告</p> <p>第7回 グループワーク・グループディスカッション</p> <p>第8回 グループワーク・グループディスカッション</p> <p>第9回 グループからの発表・報告</p> <p>第10回 グループワーク・グループディスカッション</p> <p>第11回 グループワーク・グループディスカッション</p> <p>第12回 グループからの発表・報告</p> <p>第13回 グループワーク・グループディスカッション</p> <p>第14回 グループワーク・グループディスカッション</p> <p>第15回 グループからの発表・報告</p>
テキスト	
参考書	授業に必要な資料を都度配布します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	問題発見解決型のアクティブラーニングによって授業を進めていきます。グループ毎で毎回異なるテーマについて議論を重ねて、授業内で報告します。学生には問題に向けた主体的な参加と、他人との対話が求められます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学生にとって最善の方法で回答します。(随時対応、オフィスアワー、授業後に対応、メール対応など)
フィードバックの方法	翌週の授業までに返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、テーマに関連する文献調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>3. 統率力</li> <li>4. 感情制御力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>6. 行動持続力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	39310
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	徐 誠敏
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	徐 誠敏 (経営学部)
授業の目標	<p>この演習では、デフレ不況に逆行する数々のヒット商品を次から次へと生み出す大企業・中小企業のブランド・マーケティング戦略の成功事例を通して、顧客に愛され、社員に愛され、社会に信頼される企業における競争力の源泉とは何か、その戦略的な取り組みを理解することを目指します。</p> <p>またこの演習では、中小企業が元気になる事が日本経済の活性化と発展に繋がるということを明確に理解したうえで、中小企業を取り巻く経営環境とブランド・マーケティングに関する基礎的・基本的な知識を習得すると同時に、100年に一度といわれる大不況の中、勝ち残っていく中小企業ならではのユニークなブランド・マーケティング戦略の成功事例のノウハウを学ぶことで、次のような学習成果を生み出します。</p> <p>学習成果</p> <p>(1) 中小企業概念と経営環境などに関する基礎的・基本的な知識を身につけることができる。</p> <p>(2) ブランド構築のための8つのステップ([1]事業目的市場機会の発見:3C分析 [2]市場細分化 [3]見込み顧客の選定 [4]独自性・差別化の発見 [5]ブランド・アイデンティティの構築 [6]マーケティングの目標設定 [7]4P/4Cの情報整理 [8]ブランド要素・ブランド体験の設計)に関する知識・スキルを身につけることができる。</p> <p>(3) 中小企業ならではの強みを活かしたブランド・マーケティング戦略の成功事例のノウハウなどを学ぶことで、ブランドづくりに関する基礎的・基本的な知識を身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>中小企業は、日本経済の発展に欠かせない存在です。しかし、中小企業を取り巻く経営環境は依然として先行きが不透明な状況(1. 世界経済の不安定さ、2. 急激な人口減少による国内市場の縮小、3. 少子・高齢化の進展に伴う国内市場の量的飽和・成熟化)が続いています。このような厳しい状況下にある中小企業に望まれる主なものとして、1. 人材・資金・情報の不足、2. 自社の認知度の低さ、3. 海外市場での販路開拓などのような課題が挙げられます。これらの課題を解決するために、中小企業にとって最も重要な経営戦略の一つが、自社ブランド価値を高めるためのマーケティング戦略です。中小企業だからできるブランド・マーケティング戦略を中長期的観点から行うことで、中小企業は上記の課題を解決し持続的成長を実現することができます。したがって、本授業では、日本経済を根っこから支えている中小企業のブランド・マーケティング戦略について基礎的・基本的な知識を段階的に学習すると同時に、さまざまな事例を用いて学びます。</p>
評価方法	<p>既存の成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>授業への参加度・取り組み姿勢 40%、課題の完成度 40%(パワーポイントの作り方、プレゼンの姿勢、質疑応答の態度)、ゼミ生同士の相互理解度 20%(基本的にゼミ生全員の名前を覚えることが大事です。教室に入ったらゼミの先生をはじめ、ゼミ生全員の目を見て笑顔で挨拶することが大事です。)</p>



教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>ガイダンス(演習の目的や進め方など)          中小企業概念と定義、中小企業を取り巻く経営環境          日本経済における中小企業の位置づけと役割          中小企業の海外進出留意点とグローバル人材の確保と育成          ブランド・マーケティングの重要性          ブランドを構築するための8つのステップの概要</p> <p>* 前期に1回合同ゼミを実施する予定です。</p>
テキスト	徐誠敏・李美善(2022)『ブランド弱者の戦略：インターナル・ブランディングの理論と実践』ミネルヴァ書房。
参考書	<p>徐誠敏[2010]『企業ブランド・マネジメント戦略?CEO・企業・製品間のブランド価値創造』創成社。</p> <p>田中洋編[2014]『ブランド戦略全書』有斐閣。</p> <p>一般財団ブランド法人 ブランド・マネージャー認定協会著[2015]『社員をホンキにさせるブランド構築法』同文館出版。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・ 授業後に対応
フィードバックの方法	・ 翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>準備学習（予習・復習等）60時間の時間の予習復習の時間を必要とする。</p> <p>・ 予習：資料調べ          ・ 復習：演習内容に関するレポート作成と発表</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>4. 質の高い教育をみんなに          8. 働きがいも経済成長も          9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>12. つくる責任つかう責任          17. パートナリーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力          2. 情報分析力          3. 課題発見力          4. 構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>1. 親和力          7. 課題発見力          8. 計画立案力          9. 実践力</p>

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	39311
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	波場 泰昭
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	波場 泰昭 (経営学部)
授業の目標	<p>情報処理能力を獲得することは、データ駆動型社会を構成する全ての業界・業種で必須となる。急速に変化を遂げる経済情勢のなかで企業・組織が成長するためには、ビッグデータの解析を通じて市場のトレンドや顧客の行動パターンを把握して、データドリブンな戦略を提示し迅速に実施することが鍵となっている。しかしながら、単に既存のアプリケーションを利用するだけでは、情報処理やデータ解析が制限される。当該ゼミでは、プログラミングをキャリア教育の一環として位置づけ、独自にアプリケーションを開発する能力を身につけることを目標とする。</p> <p><b>知識・理解の領域</b> 職場や開発環境に依存しないライセンスフリーなプログラミング言語と統合開発環境 (IDE) の有用性・利便性を理解する。ライブラリ (パッケージ/モジュール) やオブジェクト指向に関する知識・理解を深める。</p> <p><b>技能の領域</b> ライセンスフリーなプログラミング言語としてPython、統合開発環境としてVisual Studio Codeを用いて、プログラミングの基礎を身につける。ファイルの入力・出力・保存、データの視覚化、データの定量的評価、及び人工知能 (AI) を駆使した機械学習に関わる技能を養う。</p> <p><b>態度・志向性の領域</b> 当該ゼミの参加者が共同で学習し、議論を行い、チームワークやリーダーシップの側面から行動力を発揮する。常に、キャリア教育の視点に立ち、プログラミング能力を自己実現に資する。</p> <p><b>総合的思考力</b> 知識、技能、態度を総合的に活用し、問題を解決することができる。</p>
授業の概要	<p>上記の到達目標に向けて、プログラミングの基礎を理解し、それに基づき柔軟かつしなやかにコーディングする能力を養成する。対話形式の授業を通じて知識の定着を図ることはもとより、参加者は大学が指定するスペックのノートPCを持参して、コーディング及び動作確認することで実践的かつ体験的にプログラミングの技能を養う。また、参加者が相互にコミュニケーションを取り共同作業を行うことで、スキルシェアリングをする。</p> <p>各自、Windowsを搭載したノートPCを持参すること。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	以下の観点から、総合的に評価します。 ・ 授業への参加姿勢 50% ・ レポート (成果物) 50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	無断欠席が3回以上に達した場合
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。

テキスト	Python 1年生 体験してわかる！会話でまなべる！プログラミングのしくみ（翔泳社）
参考書	なし
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	参加者が作成した成果物に関する報告をグループ内で行うことで、スキルシェアリングをすると共にプレゼンテーション能力を養う。参加者は毎回ノートPCを持参して、手を動かしながら担当教員との対話を繰り返し、技能を身につける。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業時間内に対応します。また、Microsoft Teamsを用いて随時対応します。
フィードバックの方法	授業時間内に対応します。また、Microsoft Teamsを用いて随時対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに関わる予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。予習ではアプリのセットアップ、復習では成果物の作成を含めて構いません。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	12.つくる責任つかう責任 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 5.自信創出力 7.課題発見力 9.実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	Python最新版とVisual Studio Code	
2	合同ゼミ	PROGテスト受験	
3	プログラム開発環境の構築	Python最新版とVisual Studio Code	
4	プログラミング基礎 ( 1 )	文字型・整数型・浮動小数点型	
5	プログラミング基礎 ( 2 )	四則演算・論理演算、変数の定義	
6	プログラミング基礎 ( 3 )	関数の定義 ( 引数・戻り値 )	
7	アルゴリズムの表現 ( 1 )	順次・分岐・反復とフローチャート	
8	アルゴリズムの表現 ( 2 )	if文 ( 分岐 )	
9	アルゴリズムの表現 ( 3 )	for文 ( 反復 )	
10	ライブラリの活用 ( 1 )	turtleを用いた図形の描画	ライブラリ turtle
11	ライブラリの活用 ( 2 )	randomを用いた疑似乱数の生成	ライブラリ random
12	ライブラリの活用 ( 3 )	csvを用いたCSV形式データの操作	ライブラリ csv
13	ライブラリの活用 ( 4 )	tkinterを用いたGUIの構築	ライブラリ tkinter
14	Pythonプログラミング実践 ( 1 )	GUIを有する画像表示アプリの制作	
15	Pythonプログラミング実践 ( 2 )	GUIを有する画像表示アプリの制作	総括

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group IB
時間割コード Course Code	39350
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	荒鹿 善之
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70B 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒鹿 善之 (経営学部)
授業の目標	<p>本演習では、1年次・2年次で学んだ簿記・会計に関する知識をもとに、企業が公表した財務諸表（貸借対照表や損益計算書）を分析するための基礎知識の習得を目標とします。</p> <p>学習成果 知識・理解の観点 会計の基礎知識を習得し、財務諸表がどのようにして作成されているかを理解します。 財務諸表に記載されている専門用語を理解します。 財務諸表に記載されている情報を活用し、企業を分析するための基礎的な手法を習得します。 思考・判断の観点 財務諸表の分析結果から企業の状態や成績を判断します。</p>
授業の概要	<p>貸借対照表や損益計算書といった財務諸表には、その企業が1年間でどれだけの利益（損失）をあげたか、またどれだけの財産を保有しているか、どれだけの借金を抱えているか・・・といった、経営成績や財政状態に関する情報が詳細に示されています。したがって、財務諸表は企業の業績を知る上で非常に重要な書類であると言えます。</p> <p>後期は、前期の専門演習で学んだ貸借対照表や損益計算書の見方をもとに企業分析に取り組みます。</p>
評価方法	課題の提出状況や分析結果の報告状況をもとに評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	他の授業同様、欠席回数が多い場合は失格になることがあります。
授業計画	<p>後期の専門演習では、企業が公表した財務諸表の実物を入手し、前期に習得した知識をもとに以下のような点を分析するための手法を学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 安全性（債務を返済する力がどの程度あるか？）</li> <li>2. 収益性（利益をあげる力がどの程度あるか？）</li> <li>3. 成長性（将来的に伸びていく力があるか？）</li> </ol> <p>なお、財務諸表の入手については、有価証券報告書の電子開示システムや各企業のホームページを活用します。</p>
テキスト	前期に活用したテキストを継続して使用します。
参考書	追って指示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	研究課題について報告を課すことがあります。
実務経験のある担当教員による授業	該当する

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	日商簿記検定試験委員の担当経験がある教員によって行われる授業です。
質問への対応方法	随時対応します。
フィードバックの方法	レポート、課題などは翌週に返却して解答・解説を行う予定です。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	必要に応じて資料を配付します。配付された資料を事前に目を通し、授業内容の理解度向上に努めます。また、復習については随時課題を課します。理解した内容のアウトプットを行うことで、学習内容の定着を目指します。（予習・復習各2時間）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group IB
時間割コード Course Code	39352
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	佐藤 豊和
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 豊和 (経営学部)
授業の目標	<p>現代の社会経済活動の中心である株式会社の経営につき、主に実証会計学の方法を用いて分析・理解し、自らのこれからの人生に役立つ実戦的な知識を習得し、またそれらを外部にプレゼンテーションできる具体的能力を身につけること。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 授業で学んだ会計などの事例について説明できる。</li></ul> <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 自らが選定した会計のテーマについて説明し、意見を述べることができる。</li></ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 他の者の発表テーマおよび内容について意見を述べるすることができる。</li></ul>

<p>授業の概要</p>	<p>演習テーマ 「実証会計学：会計データを用いた企業・市場・制度の実証分析」</p> <p>会計学における実証分析とは、財務諸表などの会計データを使用して統計学の手法を用いた分析を行い、その結果から客観的な証拠をもって「何か」を明らかにすることです。たとえば、次のような命題が考えられます。</p> <p>「ジャニーズ事務所のタレント起用を自社の広告宣伝から外した企業の株価は、上昇するのか？」</p> <p>「コロナ禍を過ぎた年度の外食産業全体の当期純利益の平均値は、大幅に増加するのか？」</p> <p>「SDGsに対する取組みに積極的な企業は、倒産する確率が低い？」</p> <p>「インボイス制度が導入された翌年の建設業全体の平均当期純利益は前年より増加するのか？」</p> <p>大切なのは「なんとなくそうだった」、とか、「たぶんそうであろう」ではなく、客観的な（誰でも再現可能な）データと統計的分析手法を用いて、数値的に証明しはっきりと結論づけることです。よって、実証会計学も、数理的な方法を用いて、（大量の）データを処理し、新しい知見や洞察を導き出す科学、すなわちデータ・サイエンスの一つです。企業活動などに関する具体的な数値を、統計分析ソフト等を用いて分析し、経営活動の方向性を見出す能力を身につけることは社会に出たときにも強い武器となるでしょう。</p> <p>研究手順は以下のとおりです。最終的な研究成果は卒業論文として発表します。</p> <p>自分が何を明らかにしたいのか研究テーマを考える。</p> <p>その研究テーマを解くにはどういった会計情報（データ）が必要なのかを考える。</p> <p>インターネットで公開されている有価証券報告書などから会計情報を入手する。</p> <p>Excelなどで分析しやすいようにデータを整理、加工する。</p> <p>データをRやpythonなどの統計分析ソフトやExcelの分析機能を使って分析する。</p> <p>分析結果をまとめ、新たに発見した事項を論文として報告する。</p> <p>各自が分析しまとめた研究成果はパワーポイントなどを用いて順次他のゼミ生の前で発表したのち、最終的に卒業研究としてまとめ提出することになります。</p>
<p>評価方法</p>	<p>報告発表の内容（50%）および討論への参加内容（50%）から総合的に評価します。</p>
<p>教員の指導に従わない以外の事由による失格基準</p>	<p>特になし。</p>
<p>授業計画</p>	<p>第1週 オリエンテーション 第2週～14週 各自テーマの発表および討論 第15週 まとめ</p>
<p>テキスト</p>	<p>各自の研究内容に応じて個別に指示します。</p>
<p>参考書</p>	<p>授業内で指示します。</p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等</p>	<p>含まない</p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容</p>	
<p>実務経験のある担当教員による授業</p>	<p>該当しない</p>
<p>担当教員の实務経験を活かした授業の内容</p>	
<p>質問への対応方法</p>	<p>随時対応。</p>
<p>フィードバックの方法</p>	<p>翌週講評。</p>
<p>予習・復習等、準備学習の内容及び時間</p>	<p>自らの研究テーマ発表につき平均70時間の準備時間を必要とする。</p>
<p>使用言語</p>	<p>日本語</p>
<p>SDGs 17の目標（1～10）</p>	
<p>SDGs 17の目標（11～17）</p>	
<p>PROGリテラシーの要素</p>	
<p>PROGコンピテンシーの要素</p>	



開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group 1B
時間割コード Course Code	39353
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	中村 壽男
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 壽男 (経営学部)
授業の目標	<p>業種・業態別簿記を学び簿記技術の応用力を高める。</p> <p>知識・理解の領域 一般小売・卸売業のほか製造業、建設業、輸出輸入業、割賦販売業など業種・業態別による会計処理技術を学ぶことにより、業種・業態を理解し就職活動のための視野を広げることができる。</p> <p>技能の領域 積極的に日本商工会議所簿記検定試験の上位グレードにチャレンジする。</p> <p>態度・志向性の領域 多様な簿記技術の修得を通じて、大学生としての教養と就業意識を高める。また、就職活動のため、社会人としてのマナー・接遇を身につける。</p>
授業の概要	一般小売・卸売業のほか製造業、建設業、輸出輸入業、割賦販売業など業種・業態別による会計処理技術を学び簿記技術の応用力を高める。なお、この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	ゼミ課題への取組度 (50%) ・ゼミの諸活動への取組度 (50%) で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>第1回 製造業と建設業との相違</p> <p>第2回 建設仮勘定と建設業会計</p> <p>第3回 建設業特有の勘定科目</p> <p>第4回 建設業の収益計上を考える</p> <p>第5回 建設業の財務諸表</p> <p>第6回 割賦販売業という業態</p> <p>第7回 割賦販売業の収益計上を考える</p> <p>第8回 割賦販売業の経理処理</p> <p>第9回 外国企業との営業取引</p> <p>第10回 外国企業との営業外取引</p> <p>第11回 企業の財テクを考える</p> <p>第12回 外貨建有価証券：売買目的有価証券と満期保有目的有価証券</p> <p>第13回 外貨建有価証券：子会社株式・関連会社株式とその他の有価証券</p> <p>第14回 為替予約を考える</p> <p>第15回 直直差額と直先差額</p>
テキスト	使用しない。毎回レジユメを配付する。
参考書	

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	同一テーマにつきグループ単位で議論し、そのとりまとめをゼミ内で報告し合い、比較・検討する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学習内容等の質問については随時対応する。
フィードバックの方法	ゼミで提供した課題については、翌週に講評する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	事前にGoogle Classroomにより課題の資料を配信するので2時間程度の予習を要す。また理解度確認のため、事後に2時間程度の復習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group IB
時間割コード Course Code	39354
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	松井 義司
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 4 A 多目的室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	松井 義司 (経営学部)
授業の目標	<p>社会人基礎力を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークに慣れる</li> <li>・パワポのプレゼン作成と発表に慣れる</li> <li>・時事問題の理解、記事・資料を読む</li> <li>・企業との接し方に慣れる</li> <li>・企業活動と仕組の理解</li> </ul> <p>資料収集や企業訪問を通して、経営学を理解する</p>
授業の概要	<p>社会人基礎力を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークに慣れる</li> <li>・パワポのプレゼン作成と発表に慣れる</li> <li>・時事問題の理解、記事・資料を読む</li> <li>・企業との接し方に慣れる</li> <li>・企業活動と仕組の理解</li> </ul> <p>資料収集や企業訪問を通して、経営学を理解する</p> <p>グループで報告の作成と発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ：ライドシェアの導入をすべきかどうか？</li> <li>・利便性/人手不足対策 と ユーザーの安全性 の両方の立場から検討。</li> <li>・3つのグループに分かれて報告の作成と発表</li> </ul> <p>「中部魚錠（うおじょう）」との共同企画（希望者のみ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・魚の卸・回転寿司・居酒屋・ペットフード販売を運営する企業と共同で調査と企画活動を行う。</li> </ul> <p>地元企業を訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1社の企業見学を予定している。</li> </ul> <p>卒論テーマの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒論のテーマ・調査対象・利用する資料について案を出して貰う。</li> <li>・15回目の演習までにテーマ決めをすることが望ましい。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加姿勢（企業訪問・企業との活動）40%</li> <li>・グループワークと発表 30%</li> <li>・個人の報告作成・発表 40%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	出席回数が10回に満たない場合。

授業計画	1回目（導入）・15回目（まとめ） 13回分の内訳： ・グループワーク（3回） ・個人の報告作成（3回） ・企業訪問（1回） ・企業との活動の進捗会（2回） ・卒論の検討（4回）
テキスト	・演習の資料をGoogle Classroomに掲載する。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	企業訪問や企業との共同企画、グループワークと個人による報告を通じた学びを行う。 ・企業訪問と取材 ・企業との共同企画 ・グループディスカッション ・グループワークによる資料のまとめ ・グループ毎のプレゼンテーション形式での発表
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	担当教員は電機メーカーに長年勤務し新興国での市場開発に従事し、販売会社の運営・組織運営や人材育成・販路や物流体制の構築・代金回等に関わって来た。これらの実務経験と研究を踏まえ、地元企業の様々な仕組みや工夫への理解を深める演習を行いたい。
質問への対応方法	・演習中やオフィスアワー中に対応。 ・メール対応も行う。matsui-y@nagoya-ku.ac.jp
フィードバックの方法	・演習中に、又は、翌週の演習中にフィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	企業訪問前の事前調査と、グループワークによる発表準備のために、事前・事後学習が必要。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	13.気候変動に具体的な対策を
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group 1B
時間割コード Course Code	39355
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	山下 幸裕
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山下 幸裕 (経営学部)
授業の目標	<p>専門演習I (前期・後期を通して) では、教科書・論文からマーケティングに関する知識を学び、グループ研究 (PBL: プロジェクト学習) で応用することにより、マーケティングの考え方・手法を身につけます。また、4年生では卒業研究があります。私たちの周りには、たくさん問題 (卒業研究の種) がありますが、それらの問題は漠然としており、簡単にアプローチすることはできません。卒業研究の計画を策定するためには、漠然とした問題をアプローチ (研究) できるように変換する必要があります。そのための能力 (問題解決能力) を身につけることを目指します。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;  知識・理解の領域  マーケティング戦略について説明することができる。  理論的に問題を説明することができる。  技能の領域  マーケティングの手法を用いて問題解決にアプローチできる。  態度・志向性の領域  身の回りにある問題に関心を持つようになる。</p>
授業の概要	<p>専門演習1Bでは、前期で学んだマーケティング戦略の知識を活かし、グループ研究をしてもらいます。研究テーマは、企業が実際に抱えている問題、もしくは、身の回りにある問題や興味・関心事についてグループ単位で研究します。まずは、漠然とした問題に対して、どのようにアプローチするかを考えます。次に、その問題に対するマーケティング手法を考え問題に取り組みます。最後に、課題解決案のプレゼンテーション (解答) を実施します。この一連のプロセスにより、マーケティング戦略の知識を知恵に変換するとともに、卒業研究の研究計画の策定に必要な知識を身につけます。</p> <p>要望や状況に応じて変更することがあります。</p>
評価方法	成績はゼミへの参加姿勢 (宿題、レポート、発表の内容も含む) で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>以下の事由により失格になる場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>著しく欠席・遅刻が多い場合 ゼミは毎回の出席を前提に進めます (グループワークが中心)。無断欠席は厳禁です。</li> <li>教員の連絡に応じない場合</li> <li>宿題やレポートの提出、発表を怠った場合</li> </ul>

授業計画	1回目：演習内容の確認、前期の振り返り グループ研究（PBL）1回目 2～3回目：テーマの検討 4～7回目：グループ研究 8回目：研究結果の発表 グループ研究（PBL）2回目 9～10回目：テーマの検討 11～14回目：グループ研究 15回目：研究結果の発表 要望や状況に応じて変更することがあります。 プロジェクト学習は1回の場合もあります。
テキスト	資料を配布します。
参考書	授業時に指示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	与えられた問題に対して、グループで研究して、解決方法を考え、授業内で発表する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問は授業終了後もしくはオフィスアワーにて対応する。
フィードバックの方法	授業中にフィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・グループ研究に関する予習をする。 ・授業内容について復習する。 各回、4時間の予習・復習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group 1B
時間割コード Course Code	39356
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	吉川 伸一
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	情報実習室A
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	吉川 伸一 (経営学部)
授業の目標	<p>大学教育においては、文系・理系の学生を問わず教養教育と専門教育の両方が必要である。教養教育では、社会人として最低限身に付けておいてほしい一般常識や数学・英語の基礎、社会人としてのマナーを学ぶ。</p> <p>また、現代は企業を取り巻く環境が短期間で変化する世の中である。変化に適応できる人材を育てることが専門教育の急務である。</p> <p>当ゼミでは、企業などが経営活動を進めていく過程において発生する諸問題を統計学の立場から考察し、問題の本質をつかみとり、自らの力で解決できる能力を身につけることを理想的な目標とする。企業にとって重要な在庫管理の問題にも踏み込み、在庫費用最小化あるいは利益最大化の問題を理解し、自力で解けるようになることも目標とする。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 授業で学んだ専門用語を理解し、説明できる。</p> <p>技能の領域 回帰分析、検定、区間推定、線形計画法などをコンピュータソフトを用いて解析できる。</p> <p>態度・志向性の領域 シラバスを見て、次回の授業内容について予習しておく。また授業で学んだ内容について、積極的に復習しておく。</p> <p>関心・意欲の領域 教員から与えられたことだけでなく、自分で積極的に新聞や学術雑誌などから、演習で使えるような題材、特集、データなどを探し、教員に提示できる。</p>
授業の概要	<p>高度情報化社会といわれる現代において、情報のひとつの形である統計学の理論・実践を学んでいく。本演習の性格上、数学的なことが主になるが、できるだけ分かりやすく解説していく。統計学の基礎を固めた上で、データ分析を行う。ここでいうデータ分析とは、取得したデータを多様な角度から眺め、問題点や課題、成果や成功を発見し、改善と拡大に向けて活動することを表している。ただし、分析することが目的ではなく、表面化した問題点に対して対策と改善策を考案することが重要である。</p> <p>また分析にあたって、在庫管理、販売管理などの知識が必要とされるので、こうした実務イメージを通して、経営の実態を知る能力を学ぶ。</p> <p>毎回の授業に関して予習及び復習を必ず行い、かつ受身で参加するのではなく、積極的に学習してほしい。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HP のナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	<p>前期・後期ともに参加姿勢、3～4回の課題レポート、期末試験で評価する。          具体的に以下のような比重で評価するものとする。          参加姿勢 40%          レポート 30%          期末試験 30%</p> <p>授業内で行った課題は採点し、返却する。理解度が良好でないとは判断した部分については、次回授業で復習する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15回の出席のうち、出席回数が12回に満たない場合</li> <li>・特別な理由なしに2回連続で欠席した場合</li> </ul>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス及び履修登録、前期の振り返り</li> <li>2. Excelを用いたビジネスデータの収集と加工(1)</li> <li>3. Excelを用いたビジネスデータの収集と加工(2)</li> <li>4. Excelを用いた販売に関するデータ分析(1)</li> <li>5. Excelを用いた販売に関するデータ分析(2)</li> <li>6. 優良企業の経営を探る(7)</li> <li>7. 優良企業の経営を探る(8)</li> <li>8. Excelを用いた売上高の予測(1)</li> <li>9. Excelを用いた売上高の予測(2)</li> <li>10. Excelを用いた売上高の予測(3)</li> <li>11. 優良企業の経営を探る(9)</li> <li>12. 優良企業の経営を探る(10)</li> <li>13. Excelを用いた顧客に関するデータ分析(1)</li> <li>14. Excelを用いた顧客に関するデータ分析(2)</li> <li>15. 全体のまとめと振り返り</li> </ol>
テキスト	追って指示する。
参考書	追って指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・2名から3名のグループを作り、グループごとに課題を議論し、解決方法をまとめる。パワーポイントなどを使って発表する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了後に受け付ける</li> <li>・Gメールで受け付ける（メールアドレスは授業中に提示する）</li> </ul>
フィードバックの方法	授業の終りに課したレポートや小テストは、採点・評価をしてから、翌週に返却する。



予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>1. ガイダンス及び履修登録 後期履修希望科目のシラバスと後期履修登録の手引きをよく読んでくる。2時間の予習と2時間の復習を課す。</p> <p>2. Excelを用いたビジネスデータの収集と加工(1) ビジネスデータの収集と加工の資料を読んで演習を行う。2時間の予習と2時間の復習を課す。</p> <p>3. Excelを用いたビジネスデータの収集と加工(2) ビジネスデータの収集と加工の資料を読んで演習を行う。2時間の予習と2時間の復習を課す。</p> <p>4. Excelを用いた販売に関するデータ分析(1) Excelを用いた販売に関するデータ分析の資料を読んで演習を行う。2時間の予習と2時間の復習を課す。</p> <p>5. Excelを用いた販売に関するデータ分析(2) Excelを用いた販売に関するデータ分析の資料を読んで演習を行う。2時間の予習と2時間の復習を課す。</p> <p>6. 優良企業の経営を探る(7) ネットショッピングの経営を探る。2時間の予習と2時間の復習を課す。</p> <p>7. 優良企業の経営を探る(8) ネットショッピングの経営を探る。2時間の予習と2時間の復習を課す。</p> <p>8. Excelを用いた売上高の予測(1) Excelを用いた売上高の資料を読んで演習を行う。2時間の予習と2時間の復習を課す。</p> <p>9. Excelを用いた売上高の予測(2) Excelを用いた売上高の予測の資料を読んで演習を行う。2時間の予習と2時間の復習を課す。</p> <p>10. Excelを用いた売上高の予測(3) Excelを用いた売上高の予測の資料を読んで演習を行う。2時間の予習と2時間の復習を課す。</p> <p>11. 優良企業の経営を探る(9) 物流業者の経営を探る。2時間の予習と2時間の復習を課す。</p> <p>12. 優良企業の経営を探る(10) 物流業者の経営を探る。2時間の予習と2時間の復習を課す。</p> <p>13. Excelを用いた顧客に関するデータ分析(1) Excelを用いた顧客に関するデータ分析の資料を読んで演習を行う。2時間の予習と2時間の復習を課す。</p> <p>14. Excelを用いた顧客に関するデータ分析(2) Excelを用いた顧客に関するデータ分析の資料を読んで演習を行う。2時間の予習と2時間の復習を課す。</p> <p>15. 第1回目から第14回目を振り返る。2時間の予習と2時間の復習を課す。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4. 質の高い教育をみんなに 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	2. 協同力

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group IB
時間割コード Course Code	39357
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	李 美善
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 美善 (経営学部)
授業の目標	<p>様々な企業ケースから経営戦略の知識を理解する。ケーススタディを通じて学ぶことによって、体系的かつ実践的な知識を理解する事とともに、経営戦略の有効性を判断できるようになる。なお、「読む、調べる、考える、書く、発表する、魅せる」スキルを養うことを目標とする。</p> <p>知識・理解の領域 経営戦略とは何かを理解し、研究・報告のスキルを実践できる。</p> <p>技能の領域 -読む、調べる：新聞や雑誌記事及び本を活用する技術を学習する。 -考える：ポイントを掴む、多様な角度から物事を考える力を養う。 -書く：ストーリーの描き方と論理的に述べる技術を学習する。 -発表する：自分自身の考えをまとめ、説明できる力を養う。 *魅せる：「伝える」発表から「伝わる」発表のスキルを習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 様々な角度からものごとを解釈でき、自らと異なる考えを受け入れる態度を養う。</p> <p>思考・判断の領域 競争力が高い企業とそうでない企業を見分け、なぜそうなのか？などを論理的に考える力を養う。</p> <p>関心意欲の領域 企業経営について学ぶことによって、将来の仕事への関心が高まる。</p>
授業の概要	<p>急速な技術革新やグローバル化により企業間の競争が激化している今日、企業を取り巻く経営環境は大きく変化している。こうした激しい変化のなかで、企業を持続・発展させることは容易ではない。その中で、高い成果を上げ成功している企業には、理由がある。本演習では、その理由の一つを経営戦略にあると考え、様々な企業のケースを取り入れて経営戦略の知識を身につけ、その知識を発表・議論する方法で進めることとする。発表、議論、グループワークなどゼミ活動を通して就職活動に必要な「コミュニケーション能力」、「柔軟性」、「積極性（チャレンジ精神）」、「協調性」、「誠実性」を習得できる。</p>
評価方法	<p>授業への参加姿勢（50%）及び課題の完成度（50%）による評価</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと</li> <li>2. ゼミの仲間の発表をよく聴き、その発表に学び、それについての自分の考えを述べること</li> <li>3. 自分が選んだテーマをレポートに仕上げること</li> <li>4. 自分が選んだテーマについてレジュメ・パワーポイントにまとめ、ゼミの仲間の前でわかりやすく説明すること</li> </ol>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が 13回に満たない場合は失格とする。

授業計画	<p>【テーマの設定・発表・レポート】</p> <p>興味のある企業、あるいは深く研究してみたいと思う企業を選び、その企業について資料を収集し、その企業の戦略についてパワーポイントで発表し、レポートでまとめる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究を進める：情報（新聞、雑誌記事）を持ち寄って分析</li> <li>2. 研究報告をまとめる：スライド資料の作り方 プレゼンテーションの方法 報告準備</li> <li>3. プレゼンテーションとディスカッション：分かりやすく説明することに挑戦してみよう</li> <li>4. レポートにまとめる。</li> </ol> <p>*15回ある授業を上記4つの内容に分けて進めていく。</p>
テキスト	なし
参考書	伊丹敬之・西野和美編『ケースブック：経営戦略の論理』日本経済新聞社 『経営学検定試験公式テキスト2.4』経営能力開発センター 中央経済社 『日経ビジネス』『日本経済新聞』『日経産業新聞』などの記事を積極的に利用する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>本演習では「プレゼン力」、「思考力」、「知識」を身につけるため下記のアクティブラーニングを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界のさまざまなテーマ（SDGsなど）について、グループでディベートを行い、賛成・反対の両方からバランスよく考える。</li> <li>・グループ毎で異なる課題を議論し、アイデア・解決方法を提案する。</li> <li>・グループ毎に異なる業界の企業調査を行い、プレゼンを行う。（プレゼン大会形式）</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応する。
フィードバックの方法	授業内で課したレポートなどは確認後随時フィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>本演習は下記の内容をこなすため、準備学習（予習・復習等）の時間として各回4時間以上要する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ設定</li> <li>・資料調べ</li> <li>・企画・提案書づくり（ワードで作成）</li> <li>・発表資料づくり（パワーポイントで作成）</li> <li>・ゼミメンバーの発表に対する評価資料づくり（ワードで作成）</li> <li>・レポート課題（ワードで作成）</li> </ul>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> <li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 住み続けられるまちづくりを</li> <li>12. つくる責任つかう責任</li> <li>13. 気候変動に具体的な対策を</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> <li>17. パートナリシップで目標を達成しよう</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>3. 統率力</li> <li>4. 感情制御力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>6. 行動持続力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group IB
時間割コード Course Code	39358
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	大曾 暢烈
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	情報実習室 B
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大曾 暢烈 (経営学部)
授業の目標	<p><b>【授業目標】</b> 本演習は、(1)人材マネジメント(人的資源管理論・組織行動論)に関する知識を身につけること、(2)人材マネジメントに関する知識を用いて、企業の具体的な事例(ケース)を分析する能力を修得すること、(3)課題発見・課題解決能力を修得することを目標とします。</p> <p><b>【学習成果】</b> 知識・理解の領域 文献を読み・まとめ、発表し、ディスカッションという一連のプロセスを通じて、企業人として必要なスキルを身につけることができる。 人的資源管理論・組織行動論に関する基本的な知識を身につけることができる。 技能の領域 報告やグループ学習を通して、問題発見力や論理的思考力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 報告における質問や議論を通して、自律的な学習姿勢を身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>本演習(前期・後期を通じて)は、経営学の中でも、人材マネジメントに関する知識を身につけることを目的としています。具体的に、人的資源管理論・組織行動論などを中心に学びます。専門演習 Bでは、グループ研究を実施します。人的資源管理論・組織行動論を用いて、グループメンバーでテーマを決め、研究をします。</p> <p>* 講義外で、課題を読み、グループで話し合いを行い、発表資料を作成することが必要になります。 * 他大学との交流ゼミを行う可能性があります。出席必須です。 * 上記の授業概要については、状況によって変更する可能性があります。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	演習への参加態度、報告・課題内容で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	著しく欠席が多い場合、課題や発表に対する十分な取り組みがなされない場合
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 第2回～第14回 グループ研究 第15回 報告会 * 上記の授業計画については、状況によって変更する可能性があります。</p>
テキスト	<p>必要な資料を適宜紹介します。 * 必要に応じて、購入してもらう可能性があります。</p>
参考書	必要な資料を適宜紹介します。

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ディスカッションや発表などを実施する予定である。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後に対応する。
フィードバックの方法	授業中に行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、予習2時間、復習2時間が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group 1B
時間割コード Course Code	39359
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	小川 哲司
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小川 哲司 (経営学部)
授業の目標	<p>ICT(Information and Communication Technology : 情報通信技術)は従来の枠組みや概念に変化をもたらし、世の中の仕組みやビジネスの方法を大きく変えるポテンシャルを秘めています。本演習では最新のICT動向を踏まえて、経営とICTの関わりに注目をして、企業の経営戦略、マーケティング、ビジネスモデルなどについて学び、ICTとビジネスの関わりを理解することを目指します。</p> <p>また専門的な知識を扱い、卒業研究のテーマを見つけていきます。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;</p> <p>知識・理解の領域 経営とICTに関する専門的な知識を習得するとともに、習得した知識がどのようにビジネスに関連するかという実践的な視点を身に付けることができる。</p> <p>技能の領域 ICTとビジネスの関わりが理解できるようになる。またプレゼンテーションの発表資料作成と発表ができるようになるとともに、ディスカッションができるようになる。またコンピュータに関する応用力が身に付きます。</p> <p>態度・志向性の領域 情報システムの仕組みを理解することから、経営全体の専門的な知識を学びたいと思うようになる。また最新の経営情報の動向や技術に興味を持ち、主体的に知識の習得に努めることができる。</p> <p>思考・判断の領域 ディスカッションを通じて多様な視点や意見があることに気づき、物事を複数の視点から捉えることができるようになる。</p> <p>関心意欲の領域 ICTを活用したビジネスの仕組みや構造に関心を持ち、本質を知ろうという意欲を持つようになる。</p>
授業の概要	<p>経営や情報通信技術に関わるテーマに基づいて、企業を取り上げて分析することで、ゼミ内で報告をします。その過程の中で、情報の整理、資料のまとめ方、発表方法、質疑応答のやり方などを習得していき、専門知識とともに社会で求められる力を付けていきます。</p> <p>学生の目指す専門性に応じたテーマを積極的に扱っていきます。</p> <p>授業内容(シラバス)に関する質問は、授業後やオフィスアワーにしてください。 この科目の位置づけについては、本学 HP のナンパリングを参照すること。</p>

評価方法	主に授業への参加姿勢と課題の内容で評価します。 ・授業への取り組み姿勢：40% ・発表や課題の内容：30% ・グループワークへの参加姿勢：30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特別な理由がなく、出席回数が13回に満たない場合
授業計画	< 授業計画 > 第1回 前期までの振り返り 第2回 グループワーク・グループディスカッション 第3回 グループからの発表・報告 第4回 企業分析、報告 第5回 企業分析、報告 第6回 企業分析、報告 第7回 企業分析、報告 第8回 企業分析、報告 第9回 企業分析、報告 第10回 企業分析、報告 第11回 企業分析、報告 第12回 企業分析、報告 第13回 企業分析、報告 第14回 企業分析、報告 第15回 一年間のまとめ
テキスト	
参考書	授業に必要な資料を都度配布します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	自身が設定した研究テーマに基づいて調査・分析を行った結果を報告をして、教員・学生とディスカッションを通じて研究内容を精査していきます。 学生には主体的な参加姿勢が求められます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学生にとって最善の方法で回答します。（随時対応、オフィスアワー、授業後に対応、メール対応など）
フィードバックの方法	翌週の授業までに返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、テーマに関連する文献調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group IB
時間割コード Course Code	39360
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	徐 誠敏
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	徐 誠敏 (経営学部)
授業の目標	<p>この演習では、デフレ不況に逆行する数々のヒット商品を次から次へと生み出す大企業・中小企業のブランド・マーケティング戦略の成功事例を通して、顧客に愛され、社員に愛され、社会に信頼される企業における競争力の源泉とは何か、その戦略的な取り組みを理解することを目指します。</p> <p>またこの演習では、中小企業が元気になる事が日本経済の活性化と発展に繋がるということを明確に理解したうえで、中小企業を取り巻く経営環境とブランド・マーケティングに関する基本的・実践的な知識を習得すると同時に、100年に一度といわれる大不況の中、勝ち残っていく中小企業ならではのユニークなブランド・マーケティング戦略の成功事例のノウハウを学ぶことで、次のような学習成果を生み出します。</p> <p>学習成果</p> <p>(1) 中小企業概念と経営環境などに関する基礎的・基本的な知識を身につけることができる。</p> <p>(2) ブランド構築のための8つのステップ([1]事業目的市場機会の発見:3C分析 [2]市場細分化 [3]見込み顧客の選定 [4]独自性・差別化の発見 [5]ブランド・アイデンティティの構築 [6]マーケティングの目標設定 [7]4P/4Cの情報整理 [8]ブランド要素・ブランド体験の設計)に関する知識・スキルを身につけることができる。</p> <p>(3) 中小企業ならではの強みを活かしたブランド・マーケティング戦略の成功事例のノウハウなどを学ぶことで、ブランドづくりに関する実践的な知識を身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>中小企業は、日本経済の発展に欠かせない存在です。しかし、中小企業を取り巻く経営環境は依然として先行きが不透明な状況(1. 世界経済の不安定さ、2. 急激な人口減少による国内市場の縮小、3. 少子・高齢化の進展に伴う国内市場の量的飽和・成熟化)が続いています。このような厳しい状況下にある中小企業に望まれる主なものとして、1. 人材・資金・情報の不足、2. 自社の認知度の低さ、3. 海外市場での販路開拓などのような課題が挙げられます。これらの課題を解決するために、中小企業にとって最も重要な経営戦略の一つが、自社ブランド価値を高めるためのマーケティング戦略です。中小企業だからできるブランド・マーケティング戦略を中長期的観点から行うことで、中小企業は上記の課題を解決し持続的成長を実現することができます。したがって、本授業では、日本経済を根っこから支えている中小企業のブランド・マーケティング戦略について基礎的・基本的な知識を段階的に学習すると同時に、さまざまな事例を用いて学びます。</p>
評価方法	<p>授業への参加度・取り組み姿勢 40%、課題の完成度 40%(パワーポイントの作り方、プレゼンの姿勢、質疑応答の態度)、ゼミ生同士の相互理解度 20%(基本的にゼミ生全員の名前を覚えることが大事です。教室に入ったらゼミの先生をはじめ、ゼミ生全員の目を見て笑顔で挨拶することが大事です。)</p>



教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>【前半：第1～7回】</p> <p>ブランド・マーケティング戦略の成功事例1 本多プラス株式会社  ブランド・マーケティング戦略の成功事例2 株式会社エンジニア  ブランド・マーケティング戦略の成功事例3 美容室 りんごの木 セントラル  ブランド・マーケティング戦略の成功事例4 株式会社王宮道頓堀ホテル  ブランド・マーケティング戦略の成功事例5 株式会社Dreams ポップコーンパバ</p> <p>【後半：第8回～第15回】</p> <p>自分が興味を持つ中小企業のケーススタディ&amp;プレゼン、ディスカッション</p>
テキスト	徐誠敏編著(2024)第一線で活躍する研究者×実践者×コンサルタントが教える『超実践的マーケティング・ブランディングの教科書』ビジネス実用社。
参考書	<p>徐誠敏・李美善(2022)『ブランド弱者の戦略：インターナル・ブランディングの理論と実践』ミネルヴァ書房。</p> <p>徐誠敏[2010]『企業ブランド・マネジメント戦略 CEO・企業・製品間のブランド価値創造』創成社。</p> <p>田中洋編[2014]『ブランド戦略全書』有斐閣。</p> <p>一般財団ブランド法人 ブランド・マネージャー認定協会著[2015]『社員をホンキにさせるブランド構築法』同文館出版。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	中小企業のマーケティングやブランディング戦略の成功事例に関する考察とプレゼンテーションを通して、中小企業独自のマーケティングやブランディングの手法・ノウハウなどについてディスカッションを行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	数年間にわたるブランディング・コンサルタントや一般財団法人ブランド・マネージャー認定協会のアドバイザーとしての経験を活かすことで、より実践的なブランディングに関する知識を教える。
質問への対応方法	・授業後に対応
フィードバックの方法	・翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>準備学習（予習・復習等）60時間の時間の予習復習の時間を必要とする。</p> <p>・予習：資料調べ  ・復習：演習内容に関するレポート作成と発表</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>4.質の高い教育をみんなに  8.働きがいも経済成長も  9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>12.つくる責任つかう責任  17.パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1.情報収集力  2.情報分析力  3.課題発見力  4.構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>1.親和力  7.課題発見力  8.計画立案力  9.実践力</p>

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group 1B
時間割コード Course Code	39361
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	波場 泰昭
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	波場 泰昭 (経営学部)
授業の目標	<p>情報処理能力を獲得することは、データ駆動型社会を構成する全ての業界・業種で必須となる。急速に変化を遂げる経済情勢のなかで企業・組織が成長するためには、ビッグデータの解析を通じて市場のトレンドや顧客の行動パターンを把握して、データドリブンな戦略を提示し迅速に実施することが鍵となっている。しかしながら、単に既存のアプリケーションを利用するだけでは、情報処理やデータ解析が制限される。当該ゼミでは、プログラミングをキャリア教育の一環として位置づけ、独自にアプリケーションを開発する能力を身につけることを目標とする。</p> <p><b>知識・理解の領域</b> 職場や開発環境に依存しないライセンスフリーなプログラミング言語と統合開発環境 (IDE) の有用性・利便性を理解する。ライブラリ (パッケージ/モジュール) やオブジェクト指向に関する知識・理解を深める。</p> <p><b>技能の領域</b> ライセンスフリーなプログラミング言語としてPython、統合開発環境としてVisual Studio Codeを用いて、プログラミングの基礎を身につける。ファイルの入力・出力・保存、データの視覚化、データの定量的評価、及び人工知能 (AI) を駆使した機械学習に関わる技能を養う。</p> <p><b>態度・志向性の領域</b> 当該ゼミの参加者が共同で学習し、議論を行い、チームワークやリーダーシップの側面から行動力を発揮する。常に、キャリア教育の視点に立ち、プログラミング能力を自己実現に資する。</p> <p><b>総合的思考力</b> 知識、技能、態度を総合的に活用し、問題を解決することができる。</p>
授業の概要	<p>上記の到達目標に向けて、プログラミングの基礎を理解し、それに基づき柔軟かつしなやかにコーディングする能力を養成する。対話形式の授業を通じて知識の定着を図ることはもとより、参加者は大学が指定するスペックのノートPCを持参して、コーディング及び動作確認することで実践的かつ体験的にプログラミングの技能を養う。また、参加者が相互にコミュニケーションを取り共同作業を行うことで、スキルシェアリングをする。</p> <p>各自、Windowsを搭載したノートPCを持参すること。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	以下の観点から、総合的に評価します。 ・ 授業への参加姿勢 50% ・ レポート (成果物) 50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	無断欠席が3回以上に達した場合
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。

テキスト	なし
参考書	Python 機械学習プログラミング PyTorch & scikit-learn編 (インプレス)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	参加者が作成した成果物に関する報告をグループ内で行うことで、スキルシェアリングをすると共にプレゼンテーション能力を養う。参加者は毎回ノートPCを持参して、手を動かしながら担当教員との対話を繰り返し、技能を身につける。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業時間内に対応します。また、Microsoft Teamsを用いて随時対応します。
フィードバックの方法	授業時間内に対応します。また、Microsoft Teamsを用いて随時対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに関わる予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。予習ではアプリのセットアップ、復習では成果物の作成を含めて構いません。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標 (11~17)	12.つくる責任つかう責任 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 5.自信創出力 7.課題発見力 9.実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ライブラリの活用 ( 1 )	pandasを用いた表形式データの操作	ライブラリ pandas
2	ライブラリの活用 ( 2 )	NumPyを用いた多次元配列の演算	ライブラリ NumPy
3	ライブラリの活用 ( 3 )	matplotlibを用いたデータの視覚化	ライブラリ matplotlib
4	ライブラリの活用 ( 4 )	seabornを用いたデータの視覚化	ライブラリ seaborn
5	ライブラリの活用 ( 5 )	SciPyを用いたデータフィッティング	ライブラリ SciPy
6	ライブラリの活用 ( 6 )	itertoolsを用いたイテレータの操作	ライブラリ itertools
7	機械学習の基礎と展望 ( 1 )	実世界で進む機械学習の応用と発展	
8	機械学習の基礎と展望 ( 2 )	教師あり学習・教師なし学習	
9	機械学習の基礎と展望 ( 3 )	強化学習	
10	人工知能 ( AI ) の活用 ( 1 )	scikit-learnを用いた機械学習の実践	ライブラリ sklearn
11	人工知能 ( AI ) の活用 ( 2 )	scikit-learnを用いた機械学習の実践	ライブラリ sklearn
12	人工知能 ( AI ) の活用 ( 3 )	PyTorchを用いた深層学習の実践	ライブラリ PyTorch
13	人工知能 ( AI ) の活用 ( 4 )	PyTorchを用いた深層学習の実践	ライブラリ PyTorch
14	Pythonプログラミング実践 ( 1 )	画像認識アプリの制作	
15	Pythonプログラミング実践 ( 2 )	画像認識アプリの制作	総括

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	39400
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	荒鹿 善之
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70B 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒鹿 善之 (経営学部)
授業の目標	<p>これまでに学んだ会計学の知識をもとに、企業が実際に作成した財務諸表を教材にして、企業を分析する手法を習得することを目標とします。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の観点 財務諸表に記載されている情報を活用し、企業を分析するための基礎的な手法を習得します。</p> <p>関心・意欲の観点 習得した手法を活用し分析を行うために、興味のある業種・企業を各自で選定します。</p> <p>思考・判断の観点 財務諸表の分析結果から企業の状態や成績を判断します。</p> <p>技能・表現の観点 分析結果から判断したことを正しい日本語で文章にします。</p>
授業の概要	<p>企業が公表した財務諸表の実物を入手し、以下のような点を分析するための演習を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 安全性 (債務を返済する力がどの程度あるか?)</li> <li>2. 収益性 (利益をあげる力がどの程度あるか?)</li> <li>3. 成長性 (将来的に伸びていく力があるか?)</li> </ol> <p>後期は情報処理室にてワードやエクセルなどのソフトウェアを活用し、各自で卒業研究の執筆に取り組みます。前期はそのために必要な情報やデータを収集します。</p>
評価方法	課題やレポートの提出状況、および研究成果の発表内容から総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	追って伝えます。
授業計画	専門演習 A・Bで学んだ、安全性・収益性・成長性に関する専門知識を活用し、企業が公表した財務諸表の分析に取り組みます。まずはモデルとなる企業を3社選択し、計算演習に加えて計算結果の評価も行います。
テキスト	専門演習 で活用したテキストを継続して使用します。
参考書	追って指示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	課題について報告を課すことがあり、報告内容についてディスカッションします。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	日商簿記検定試験委員の担当経験がある教員によって行われる授業です。
質問への対応方法	随時対応します。

フィードバックの方法	レポート、課題などは翌週返却し、解答・解説を行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	必要に応じて資料を配付します。配付された資料に事前に目を通し、授業内容の理解度向上に努めます。また、復習については随時課題を課します。理解した内容のアウトプットを行うことで、学習内容の定着を目指します。（予習・復習各2時間）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	39401
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	神邊 篤史
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 5 C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	神邊 篤史 (経営学部)
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学生生活4年目を迎え、経営学の学びが企業活動の中でどのように生かされているかを発見すること</li> <li>2. 企業をめぐるマスコミやメディアの報道に興味をもつようになること</li> <li>3. これまで大学での学びやアルバイトなどの社会経験を就活にどのように生かすかを戦略的に考える。</li> <li>4. とにかく行動すること。小さな失敗と反省をもとに大きな成功を自ら導くように努力すること。</li> <li>5. 自分の「強み」をあらためて定義すること</li> <li>6. インターンシップを含む就活からそれぞれが得た情報をゼミの仲間と交換し合い、互いに参考にし合うこと。そうすることで協力関係と信頼関係を築くこと</li> <li>7. 卒論については就活における企業研究などの成果を活かし、効率的かつ早期に完成させる。</li> </ol>
授業の概要	<p>就活を優位に導くためにも、企業自体に「興味」を持ち、企業活動の「仕組み」をあらためて習得・整理します。そのうえで実践的な面接スキルなど「基礎的な技能」を身につけます。</p> <p>前項の「基礎的な技能」とは、必要な情報を要領よく収集し、それを分析・整理・活用する力、文章を読む力、ひとの話を聴く力、自分の考えを相手方に「感動」とともに伝える力、をさします(いずれも社会に出ると直ちに求められるスキルです)</p>
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと</li> <li>2. 多様なテーマについて学び、どのテーマに対しても自分の考えを述べるができること</li> <li>3. 就活と卒論の進捗が適切に報告・相談されていること。</li> </ol> <p>以上、出席が良好であること(ゼミは出席が基本です。ただし就活は優先して頂きます)を前提に、上記1から3の基準に沿って総合的に評価します。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミでは、卒論研究と就活の指導、および、ゼミ生間での情報交換を主として行います。</li> <li>・卒論研究の中間発表を適宜行い、卒論完成に生かすことができるように授業を進めます。</li> </ul>
テキスト	特に使用しません。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ゼミの運営のなかで、司会、ディスカッションの進行、成果のとりまとめ、記録などを分担して、学生自らが行う、簡単な「ワークショップ型」のアクティブラーニングを一部に取り入れたいと思います。

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	ゼミでは、教員が企業で多くの新入社員を迎えてきたなかで、彼らから聞いた学生時代の学び、喜び、楽しみ、反省（もっとこういうことをやっておけばよかった）などをみなさんと共有しながらゼミ授業を行いたいと考えています。
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各ゼミにおいて、予習や準備を必要とする課題を扱う場合、前週のゼミの終了時にその旨を連絡します。復習についても、あれば何をどのように復習してもらうかについて、予習と同様、事前に連絡します。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> <li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> <li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li> </ul>
SDGs 17の目標（11～17）	<ul style="list-style-type: none"> <li>11. 住み続けられるまちづくりを</li> <li>12. つくる責任つかう責任</li> <li>13. 気候変動に具体的な対策を</li> <li>14. 海の豊かさを守ろう</li> <li>15. 陸の豊かさを守ろう</li> <li>17. パートナリーシップで目標を達成しよう</li> </ul>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	39402
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 豊和
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	14D講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 豊和 (経営学部)
授業の目標	<p>現代の社会経済活動の中心である株式会社の経営につき、主に会計と税の面から分析・理解し、自らのこれからの人生に役立つ実践的な知識を習得し、またそれらを外部にプレゼンテーションできる具体的能力を身につけること。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で学んだ会計などの事例について説明できる。</li> </ul> <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自らが選定した会計や税務のテーマについて説明し、意見を述べることができる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の者の発表テーマおよび内容について意見を述べるができる。</li> </ul>
授業の概要	<p>みなさんが社会に出て、就職したり、取引したり、モノを買ったり、サービスを受けたりして生活していく中で、株式会社という企業組織を理解することは避けられないでしょう。直接関わりを持つことになるのは、誰でも知っている有名な大企業よりも中小企業のほうが機会が多くなるかもしれません。大きくても小さくても株式会社はすべて同じ組織なのでしょうか。同じような経営活動、投資活動を行っているのでしょうか。これをみなさんと、主に会計と税金を起点としてこの演習で考えていきます。</p> <p>3年生のみなさんには、株式会社の経営とは何なのだろうか、そこで問題になっていることはいったい何なのか、ということをお自分のアタマで考えていってもらいます。また、できれば会社や工場、その他企業に関わるいろいろな場所を見学して、そこに働く様々な人々から実際にインタビューしてもらい、演習の時間に報告してもらいます(こういう勉強の方法をフィールドワークといいいます)。</p> <p>フィールドワークを通じて、みなさんのひとりひとりが疑問に思ったこと、こうしたほうがいいのにな、と思ったことが卒業研究の出発点になります。3年生のうち自分なりの研究テーマを発見しておきましょう。各自の研究テーマに応じて、文献の検索方法と読み方、レポートの書き方、発表の方法などのプレゼンテーションの技法を指導します。</p>
評価方法	報告発表の内容(50%)および討論への参加内容(50%)から総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	第1週 オリエンテーション 第2週 テーマの決め方、発表の仕方 第3週 討論、ディベートの方法 第4週 専門的な分野の発表の仕方（先生の手本） 第5週 批判と意見を述べる時のルール 第6週 各自テーマの発表 第7～14週 発表と討論 第15週 まとめ
テキスト	各自の研究内容に応じて個別に指示します。
参考書	櫻井雅夫『レポート・論文の書き方（上級）改訂版』慶應義塾大学出版会
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	翌週講評。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	自らの研究テーマ発表につき平均70時間の準備時間を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	39403
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	中村 壽男
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 壽男 (経営学部)
授業の目標	<p>社会人・企業人として必要な租税の知識を身につける。</p> <p>知識・理解の領域 所得税、法人税、消費税の税額算定に至るプロセスを修得する。また、こんにちの租税制度について、公平性という視点からの考察を試みる。</p> <p>技能の領域 こんにちの税制の理解を通じ、批判的考察力を醸成することができる。</p> <p>態度・志向性の領域 租税教育を通じて、大学生としての教養と就業意識を高める。また、就職活動のため、社会人としてのマナー・接遇を身につける。</p>
授業の概要	<p>こんにちの社会の主要税目である所得税、法人税、消費税の税額算定に至るプロセスを修得する。なお、この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	ゼミ課題への取組度 (50%) ・ゼミの諸活動への取組度 (50%) で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション (ゼミの取り組み内容とその進め方および評価方法の説明)</p> <p>第2回 租税の意義と課税根拠</p> <p>第3回 日本の租税制度を考える</p> <p>第4回 担税力と公平課税の原則</p> <p>第5回 個人所得に対する課税制度</p> <p>第6回 所得の種類を考える：勤労所得と不労所得</p> <p>第7回 事業所得を考える</p> <p>第8回 給与所得を考える</p> <p>第9回 課税標準の算定</p> <p>第10回 所得控除：人的控除を考える</p> <p>第11回 所得控除：物的控除を考える</p> <p>第12回 課税所得金額の算定</p> <p>第13回 納付税額の算出と税額控除</p> <p>第14回 所得税の申告・納付と経理処理</p> <p>第15回 超過累進税率の是非を考える</p>
テキスト	使用しない。毎回レジュメを配付する。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	同一テーマにつきグループ単位で議論し、そのとりまとめをゼミ内で報告し合い、比較・検討する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学習内容等の質問については随時対応する。
フィードバックの方法	ゼミで提供した課題については、翌週に講評する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	事前にGoogle Classroomにより課題の資料を配信するので2時間程度の予習を要す。また理解度確認のため、事後に2時間程度の復習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	39404
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	松井 義司
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 4 A多目的室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	松井 義司 (経営学部)
授業の目標	<p>大学生生活の集大成として「卒業研究」を完成させる。各自が興味のある研究テーマを設定し、参考文献・参考資料・自身の経験やインタビューなどに基づき、論文を執筆する。</p> <p>知識・理解の領域 論文の書き方を理解し修得する。</p> <p>技能の領域 研究のために必要な資料を効率良く収集できるようにする。 決められた期日までに途中経過の論文を提出する。</p> <p>態度・志向性の領域 毎週、少しずつでも着実に執筆を行うことで完成を目指す。</p>
授業の概要	<p>卒論テーマ： ・各自が自分で研究テーマを設定し、それに基づき卒業研究の作成を行う。 ・テーマ設定の際には、執筆に必要な情報や資料の入手し易さにも留意する。</p> <p>卒論の執筆： 主な節目（前期初回と最終回、2週間に1回など）毎に、少しでも執筆できた部分の原稿を提出し、それに基づき教員と執筆方針を相談しながら、少しずつ書き進めて行き、完成を目指す。</p>
評価方法	<p>20% 前期最初の卒論テーマの提出と報告（1・2回） 60% 2週間に1回（計6回）の執筆した部分の提出・報告（3～12回） 20% 前期最後に6000字程度（A4で4-5枚）の報告（13～15回） 書籍・新聞雑誌・ネット記事だけに頼らず、自身の経験や自身が行ったインタビューなどを本論の一部に執筆する場合は加点とする。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	主な節目での執筆した部分の提出・報告を頻繁に怠る場合。
授業計画	<p>少しずつ執筆を進め、報告時に教員のコメントを参考にしながら加筆・修正を行い、卒論の完成を目指します。</p> <p>1・2回 卒論テーマの提出と報告 3～12回 2週間に1回（計6回）、執筆した部分を必ず提出・報告。 13～15回 本論中心に6000字程度（A4で4～5枚）を執筆・報告。</p>
テキスト	卒論の内容に応じて演習で文献を紹介する。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各種節目（授業計画参照）で各自が執筆した文章を提出・報告し、その都度、教員がコメントをし、それに基づき、次回に提出する文章への加筆や修正を行う。これを繰り返すことで、卒論の完成を目指す。

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	教員は電機メーカーに勤務し、中東・ロシア・インドに駐在するなど主に新興国の市場開発と販売会社の設立や運営に従事して来た。実務経験も踏まえて、卒論執筆の指導を行う。
質問への対応方法	毎回の演習中に質問への対応を行う。
フィードバックの方法	毎回の演習中に執筆した文章へのコメントや参考文献の提案を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各種節目（授業計画参照）までに、各自は卒論の執筆を行う。演習での教員からのコメントに基づき、次回提出に向けた文章の加筆・修正を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	5. ジェンダー平等を実現しよう 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	13. 気候変動に具体的な対策を
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	6. 行動持続力 7. 課題発見力

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	39405
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	吉川 伸一
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	吉川 伸一 (経営学部)
授業の目標	<p>卒業論文の作成を行うための土台を築く。          大学教育においては、文系・理系の学生を問わず教養教育と専門教育の両方が必要である。教養教育では、社会人として最低限身に付けておいてほしい一般常識や数学・英語の基礎、社会人としてのマナーを学ぶ。          また、現代は企業を取り巻く環境が短期間で変化する世の中である。変化に適応できる人材を育てることが専門教育の急務である。          当ゼミでは、企業などが経営活動を進めていく過程において発生する諸問題を統計学の立場から考察し、問題の本質をつかみとり、自らの力で解決できる能力を身につけることを理想的な目標とする。企業にとって重要な在庫管理の問題にも踏み込み、在庫費用最小化あるいは利益最大化の問題を理解し、自力で解けるようになることも目標とする。</p> <p>&lt;学習成果&gt;          知識・理解の領域          授業で学んだ専門用語を理解し、説明できる。          技能の領域          回帰分析、検定、区間推定、線形計画法などをコンピュータソフトを用いて解析できる。          態度・志向性の領域          シラバスを見て、時価の授業内容について予習しておく。また授業で学んだ内容について、積極的に復習しておく。          関心・意欲の領域          教員から与えられたことだけでなく、自分で積極的に新聞や学術雑誌などから、演習で使えるような題材、特集、データなどを探し、教員に提示できる。</p>
授業の概要	<p>専門演習 1 で学んだことについて、より深く学んでいく。          卒業論文を作成する必要があるため、その下地として前期は主に経営あるいは経済の専門書の輪講を行う。          後期は主に卒業論文の仕上げになる。          この科目の位置づけについては、本学HP のナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	出席をとる。レポートを与え、提出してからその内容をチェックする。 具体的に以下のような比重で評価するものとする。 参加姿勢 40% レポート 30% 期末試験 30% 授業内で行った課題は採点し、返却する。理解度が良好でないとは判断した部分については、次回授業で復習する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・出席回数が13回に満たない場合 ・連続して3回欠席した場合
授業計画	1. ガイダンス、3年次の振り返り、経営・経済専門書の輪講(1. サプライチェーン・マネジメント) 2. 経営・経済専門書の輪講(2. サプライチェーン・マネジメント)、卒業論文の書き方について(1) 3. 経営・経済専門書の輪講(3. サプライチェーン・マネジメント)、卒業論文の書き方について(2) 4. 経営・経済専門書の輪講(4. サプライチェーン・マネジメント)、卒業論文の書き方について(3) 5. 経営・経済専門書の輪講(5. サプライチェーン・マネジメント)、卒業論文の書き方について(4) 6. 経営・経済専門書の輪講(6. サプライチェーン・マネジメント)、卒業論文の書き方について(5) 7. 経営・経済専門書の輪講(7. サプライチェーン・マネジメント)、卒業論文の書き方について(6) 8. 経営・経済専門書の輪講(8. サプライチェーン・マネジメント)、卒業論文の書き方について(7) 9. 経営・経済専門書の輪講(9. サプライチェーン・マネジメント)、卒業論文の書き方について(8) 10. 経営・経済専門書の輪講(10. サプライチェーン・マネジメント)、卒業論文の書き方について(9) 11. 経営・経済専門書の輪講(11. サプライチェーン・マネジメント)、卒業論文の書き方について(10) 12. 経営・経済専門書の輪講(12. サプライチェーン・マネジメント)、卒業論文の書き方について(11) 13. 経営・経済専門書の輪講(13. サプライチェーン・マネジメント)、卒業論文の書き方について(12) 14. 経営・経済専門書の輪講(14. サプライチェーン・マネジメント)、卒業論文の書き方について(13) 15. 卒業論文の書き方について(14)、前期のまとめ
テキスト	なし
参考書	追って指示する
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	卒業論文の中間報告を、パワーポイントを使ってゼミ生全員に発表する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・授業終了後に対応 ・メールで対応(メールアドレスは授業中に提示する)
フィードバックの方法	・翌週返却または翌週に口頭で述べる
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、次回テーマに関する文献調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4. 質の高い教育をみんなに 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう



SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	39406
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	李 美善
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 美善 (経営学部)
授業の目標	<p>さまざまな企業ケースから経営戦略の知識を理解する。ケーススタディを通じて学ぶことによって、体系的かつ実践的な知識を理解する事とともに、経営戦略の有効性を判断できるようになる。なお、「読む、調べる、考える、書く、発表する、魅せる」スキルを養うことを目標とする。さらに、大学生活の締めくくりとして自分の専門分野を深く掘り下げ、卒業研究へ繋げることを目標にする。</p> <p>知識・理解の領域 経営戦略とは何かを理解し、研究・報告のスキルを実践できる。</p> <p>技能の領域 -読む、調べる：新聞や雑誌記事及び本を活用する技術を学習する。 -考える：ポイントを掴む、多様な角度から物事を考える力を養う。 -書く：ストーリーの描き方と論理的に述べる技術を学習する。 -発表する：自分自身の考えをまとめ、説明できる力を養う。 *魅せる：「伝える」発表から「伝わる」発表のスキルを習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 さまざまな角度からものごとを解釈でき、自らと異なる考えを受け入れる態度を養う。</p> <p>思考・判断の領域 競争力が高い企業とそうでない企業を見分け、なぜそうなのか？などを論理的に考える力を養う。</p> <p>関心意欲の領域 企業経営について学ぶことによって、将来の仕事への関心が高まる。</p>
授業の概要	急速な技術革新やグローバル化により企業間の競争が激化している今日、企業を取り巻く経営環境は大きく変化している。こうした激しい変化のなかで、企業を持続に発展させることは容易ではない。その中で、高い成果を上げ成功している企業には、必ず理由がある。本演習では、その理由の一つを経営戦略にあると考え、さまざまな企業のケースを取り入れて経営戦略の知識を身につけ、その知識を発表・議論する方法で進めることとする。
評価方法	授業への積極的な参加による評価 100%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が 13回に満たない場合は失格とする。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1．さまざまな企業のケースを取り入れ経営戦略の基礎知識を学ぶ</li> <li>2．研究を進める：情報（新聞、雑誌記事）を持ち寄って分析しよう</li> <li>3．研究報告をまとめ、課題を提出する</li> <li>4．研究報告のフィードバック</li> </ol>
テキスト	

参考書	『日経ビジネス』『日本経済新聞』『日経産業新聞』などの記事を積極的に利用する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	本演習では「プレゼン力」、「思考力」、「知識」を身につけるため下記のアクティブラーニングを行う。 ・さまざまなテーマについて、グループでディベートを行い、賛成・反対の両方からバランスよく考える。 ・グループ毎で異なる課題を議論し、アイデア・解決方法を提案する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応する。
フィードバックの方法	授業内で課したレポートなどは確認後随時フィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	本演習は下記の内容をこなすため、準備学習（予習・復習等）の時間として60時間以上要する。 ・テーマ設定 ・資料調べ ・企画・提案書づくり（ワードで作成） ・発表資料づくり（パワーポイントで作成） ・ゼミメンバーの発表に対する評価資料づくり（ワードで作成） ・レポート課題（ワードで作成）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任 13.気候変動に具体的な対策を 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	39407
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	大曾 暢烈
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	情報実習室 B
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大曾 暢烈 (経営学部)
授業の目標	<p>【授業目標】 卒業研究作成に向けて、各自が取り組む研究テーマに関する知識を蓄積し、現実の企業活動を考察・分析できる力を身につけることを目標とします。</p> <p>【学習成果】 知識・理解の領域 経営学に関する基本的な知識を身につけることができる。 技能の領域 ゼミ報告や研究テーマについて学習することで、問題発見力や論理的思考力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 ゼミ報告を通して、自律的な学習姿勢を身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>本演習（前期・後期を通じて）は、卒業研究作成に向けて各自が取り組む研究テーマに関する基本的な知識（先行研究）について学習し、報告を行います。あわせて卒業研究の指導を行います。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	演習への参加態度、報告・課題内容で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	著しく欠席が多い場合、課題や発表に対する十分な取り組みがなされない場合
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自が関心のある研究テーマの先行研究について学習する。</li> <li>・研究テーマや関連する先行研究について報告を行う。</li> <li>・研究テーマの先行研究の学習を通して、卒業研究の課題や構成について報告を行う。</li> </ul>
テキスト	<p>各自の研究テーマに応じて適宜紹介する。 *必要に応じて、購入してもらおう可能性があります。</p>
参考書	各自の研究テーマに応じて適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後に対応する。
フィードバックの方法	授業中に行う。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、予習2時間、復習2時間が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	39408
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	小川 哲司
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小川 哲司 (経営学部)
授業の目標	<p>卒業論文作成に向けて、主体的に課題や問題を見つけ出して、論理的に分析・解析することができるようになることを目指します。また自身の考えを第三者に説得力を持たせ説明ができるようになることを目指します。</p> <p>卒業論文の作成を通じて、論理的な思考、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力、資料作成能力などを身に付けることを目指し、社会人へ向けての実践力を養う。</p> <p><b>学習成果</b> 知識・理解の観点 自身の研究テーマを経営学の専門知識を通じて深く洞察することで、物事の本質を見極めることができるようになる。</p> <p><b>技能の領域</b> 論文執筆に必要な表現力、文書構成、論理展開などを身に付けることができる。</p> <p><b>態度・志向性の領域</b> ディスカッションを通じて多様な視点や意見があることに気づき、物事を複数の視点から捉えることができるようになる。</p> <p><b>思考・判断の領域</b> 自ら関心のあるテーマを設定して、それに向けて自律的に研究を進めることができるようになる。</p> <p><b>関心意欲の領域</b> 研究テーマに関わる先行研究の調査などを通じて、もっと深く経営学を学ぼうとする意欲が湧くようになる。</p>
授業の概要	<p>卒業論文の執筆に向けた準備を行う。自らの研究テーマに基づき、研究テーマの掘り下げ、先行研究調査、リサーチクエスト設定、研究方法の決定を通じて、論文の骨格を作成して説明できるようにする。</p> <p>授業は、各自が設定した研究テーマに基づいて、調査・分析、プレゼンテーション、メンバー間のディスカッションによって進める。学生が自主的に考えたものを発表して、他者を含めた様々な視点で検討することを通じて専門性を高めるとともに、社会に出てから必要なリテラシーを習得する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	主に授業への参加姿勢と課題の内容で評価します。 ・授業への取り組み姿勢：40% ・発表や課題の内容：30% ・グループワークへの参加姿勢：30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特別な理由がなく、出席回数が13回に満たない場合
授業計画	< 授業計画 > 第1回 卒業研究の進め方 第2回 研究テーマの決定 第3回 論文の書き方、論文の構成 第4回 先行研究の調査方法 第5回 研究・調査の進め方 第6～13回 各自の研究進捗報告、ディスカッション 第14～15回 中間報告会
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	自身が設定した研究テーマに基づいて調査・分析を行った結果を報告をして、教員・学生とディスカッションを通じて研究内容を精査していきます。 学生には主体的な参加姿勢が求められます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学生にとって最善の方法で回答します。（随時対応、オフィスアワー、授業後に対応、メール対応など）
フィードバックの方法	翌週の授業までに返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、テーマに関連する文献調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	39409
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	徐 誠敏
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	徐 誠敏 (経営学部)
授業の目標	<p>この演習では、デフレ不況に逆行する数々のヒット商品を次から次へと生み出す大企業・中小企業のブランド・マーケティング戦略の成功事例を通して、顧客に愛され、社員に愛され、社会に信頼される企業における競争力の源泉とは何か、その戦略的な取り組みを理解することを目指します。</p> <p>またこの演習では、中小企業が元気になる事が日本経済の活性化と発展に繋がるということを明確に理解したうえで、中小企業を取り巻く経営環境とブランド・マーケティングに関する基礎的・基本的な知識を習得すると同時に、100年に一度といわれる大不況の中、勝ち残っていく中小企業ならではのユニークなブランド・マーケティング戦略の成功事例のノウハウを学ぶことで、次のような学習成果を生み出します。</p> <p>学習成果</p> <p>(1) 中小企業概念と経営環境などに関する基礎的・基本的な知識を身につけることができる。</p> <p>(2) ブランド構築のための8つのステップ([1]事業目的市場機会の発見:3C分析 [2]市場細分化 [3]見込み顧客の選定 [4]独自性・差別化の発見 [5]ブランド・アイデンティティの構築 [6]マーケティングの目標設定 [7]4P/4Cの情報整理 [8]ブランド要素・ブランド体験の設計)に関する知識・スキルを身につけることができる。</p> <p>(3) 中小企業ならではの強みを活かしたブランド・マーケティング戦略の成功事例のノウハウなどを学ぶことで、ブランドづくりに関する基礎的・基本的な知識を身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>中小企業は、日本経済の発展に欠かせない存在です。しかし、中小企業を取り巻く経営環境は依然として先行きが不透明な状況(1. 世界経済の不安定さ、2. 急激な人口減少による国内市場の縮小、3. 少子・高齢化の進展に伴う国内市場の量的飽和・成熟化)が続いています。このような厳しい状況下にある中小企業に望まれる主なものとして、1. 人材・資金・情報の不足、2. 自社の認知度の低さ、3. 海外市場での販路開拓などのような課題が挙げられます。これらの課題を解決するために、中小企業にとって最も重要な経営戦略の一つが、自社ブランド価値を高めるためのマーケティング戦略です。中小企業だからできるブランド・マーケティング戦略を中長期的観点から行うことで、中小企業は上記の課題を解決し持続的成長を実現することができます。したがって、本授業では、日本経済を根っこから支えている中小企業のブランド・マーケティング戦略について基礎的・基本的な知識を段階的に学習すると同時に、さまざまな事例を用いて学びます。</p>
評価方法	<p>授業への参加度・取り組み姿勢 40%(ゼミの出席率は100%が基本です。1回以上欠席したら、成績Aはもらえないです。)、課題の完成度 40%(パワーポイントの作り方、プレゼンの姿勢、質疑応答の態度)、ゼミ生同士の相互理解度 20%(基本的にゼミ生全員の名前を覚えることが大事です。教室に入ったらゼミの先生をはじめ、ゼミ生全員の目を見て笑顔で挨拶することが大事です。)</p>



教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	ガイダンス(演習の目的や進め方など) 中小企業概念と定義、中小企業を取り巻く経営環境 日本経済における中小企業の位置づけと役割 中小企業の海外進出留意点とグローバル人材の確保と育成 ブランド・マーケティングの重要性 ブランドを構築するための8つのステップの概要
テキスト	徐誠敏・李美善(2022)『ブランド弱者の戦略：インターナル・ブランディングの理論と実践』ミネルヴァ書房。
参考書	徐誠敏[2010]『企業ブランド・マネジメント戦略 CEO・企業・製品間のブランド価値創造』創成社。  田中洋編[2014]『ブランド戦略全書』有斐閣。  一般財団法人ブランド・マネージャー認定協会著[2015]『社員をホンキにさせるブランド構築法』同文館出版。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	中小企業のマーケティングやブランディング戦略に関する考察とプレゼンテーションを通して、中小企業独自のマーケティングやブランディング戦略の手法・ノウハウなどについて積極的にディスカッションを行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	数年間にわたるブランディング・コンサルタントや一般財団法人ブランド・マネージャー認定協会のアドバイザーとしての経験を活かすことで、より実践的なブランディングに関する知識を教える。
質問への対応方法	・授業後に対応
フィードバックの方法	・翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	準備学習(予習・復習等)60時間の時間の予習復習の時間を必要とする。 ・予習：資料調べ ・復習：演習内容に関するレポート作成と発表
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11~17)	12.つくる責任つかう責任 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	39410
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	山下 幸裕
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	情報実習室A
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山下 幸裕 (経営学部)
授業の目標	<p>専門演習IIの目的は、大学4年間の集大成である「卒業研究」を完成させることです。卒業研究は、「卒業研究のテーマ決定 文献調査 卒業研究計画書作成 卒業研究(情報収集・分析) 報告」という進め方を基本とし、専門演習 Aでは卒業研究計画書の作成することを目標とします。</p> <p>&lt;学習成果&gt;  知識・理解の領域  自分の研究テーマに関する社会背景や先行研究が説明できる。  技能の領域  データベースを使い自分の研究テーマに関連する資料を探ることができる。  態度・志向性の領域  計画を立てて実施する姿勢が身につく。</p>
授業の概要	<p>卒業研究テーマ、関連文献(学術論文、書籍、新聞記事など)、研究計画などを発表してもらいます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	ゼミへの参加態度(宿題や発表の内容も含む)で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>以下の事由により失格になる場合がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>著しく欠席・遅刻が多い場合</li> <li>ゼミは毎回の出席を前提に進めます。無断欠席は厳禁です。</li> <li>教員の連絡に応じない場合</li> <li>宿題の提出や発表を怠った場合</li> </ul>
授業計画	<p>第1週 オリエンテーション  第2週～4週 研究計画書作成と報告  第5週～6週 文献調査と報告  第7週～15週 調査計画作成と報告  状況に応じて授業計画を変更する場合があります。</p>
テキスト	
参考書	各自の卒業研究テーマに応じて個別に指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問は授業終了後もしくはオフィスアワーにて対応する。
フィードバックの方法	授業中にフィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	準備学習（文献調査、発表準備・修正等）として、各回、4時間の予習・復習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group IIB
時間割コード Course Code	39450
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	荒鹿 善之
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	情報実習室 B
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒鹿 善之 (経営学部)
授業の目標	<p>これまでに学んだ会計学の知識をもとに、企業が実際に作成した財務諸表を分析し、卒業研究の執筆に取り組みます。</p> <p>学習成果 知識・理解の観点 財務諸表に記載されている情報を活用し、企業を分析するための基礎的な手法を習得します。 関心・意欲の観点 習得した手法を活用し分析を行うために、興味のある業種・企業を各自で選定します。 思考・判断の観点 財務諸表の分析結果から企業の状態や成績を判断します。 技能・表現の観点 分析結果から判断したことを正しい日本語で文章にします。</p>
授業の概要	<p>情報処理室にてワードやエクセルなどのソフトウェアを活用し、各自で卒業研究の執筆に取り組みます。前期の専門演習で学んだ内容をもとに、企業が実際に公表した財務諸表から以下のような点を分析し、卒業研究を完成させます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 安全性 (債務を返済する力がどの程度あるか?)</li> <li>2. 収益性 (利益をあげる力がどの程度あるか?)</li> <li>3. 成長性 (将来的に伸びていく力があるか?)</li> </ol>
評価方法	分析結果の報告状況をもとに評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	追って伝えます。
授業計画	これまでの学生生活の集大成である卒業研究の執筆に取り組みます。
テキスト	専門演習 で活用したテキストを継続して使用します。
参考書	追って指示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	卒業研究報告会を開催し、各自卒業研究の内容を報告し、ディスカッションする予定です。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	日商簿記検定試験委員の担当経験がある教員によって行われる授業です。
質問への対応方法	随時対応します。
フィードバックの方法	レポート、課題などは翌週返却し、解答・解説を行います。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各自研究内容の発表ができるよう準備をします。他のゼミ生からの意見を自身の研究内容に反映し、卒業研究の完成度を高めます。(予習・復習各2時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group IIB
時間割コード Course Code	39451
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	神邊 篤史
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	神邊 篤史 (経営学部)
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学生生活の最終期を迎え、経営学の学びが企業活動の中でどのように生かされているかを総括する</li> <li>2. 企業をめぐるマスコミやメディアの報道に興味をもつようになること</li> <li>3. これまで大学での学びやアルバイトなどの社会経験を就活や将来にどのように生かすかを戦略的に考える。</li> <li>4. とにかく行動すること。小さな失敗と反省をもとに大きな成功を自ら導くように努力すること。</li> <li>5. 自分の「強み」をあらためて定義すること</li> <li>6. インターンシップを含む就活からそれぞれが得た情報をゼミの仲間と交換し合い、互いに参考にし合うこと。そうすることで協力関係と信頼関係を築くこと</li> <li>7. 卒論については就活における企業研究などの成果を活かし、効率的かつ早期に完成させる。</li> </ol>
授業の概要	<p>就活を優位に導くためにも、企業自体に「興味」を持ち、企業活動の「仕組み」をあらためて習得・整理します。そのうえで実践的な面接スキルなど「基礎的な技能」を身につけます。</p> <p>前項の「基礎的な技能」とは、必要な情報を要領よく収集し、それを分析・整理・活用する力、文章を読む力、ひとの話を聴く力、自分の考えを相手方に「感動」とともに伝える力、をさします (いずれも社会に出ると直ちに求められるスキルです)</p>
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと</li> <li>2. 多様なテーマについて学び、どのテーマに対しても自分の考えを述べるができること</li> <li>3. 就活と卒論の進捗が適切に報告・相談されていること。</li> </ol> <p>以上、出席が良好であること (ゼミは出席が基本です。ただし就活は優先して頂きます) を前提に、上記 1 から 3 の基準に沿って総合的に評価します。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミでは、卒論研究と就活の指導、および、ゼミ生間での情報交換を主として行います。</li> <li>・卒論研究の中間発表を適宜行い、卒論完成に生かすことができるように授業を進めます。</li> </ul>
テキスト	特に使用しません。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ゼミの運営のなかで、司会、ディスカッションの進行、成果のとりまとめ、記録などを分担して、学生自らが行う、簡単な「ワークショップ型」のアクティブラーニングを一部に取り入れたいと思います。

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	ゼミでは、教員が企業で多くの新入社員を迎えてきたなかで、彼らから聞いた学生時代の学び、喜び、楽しみ、反省（もっとこういうことをやっておけばよかった）などをみなさんと共有しながらゼミ授業を行いたいと考えています。
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各ゼミにおいて、予習や準備を必要とする課題を扱う場合、前週のゼミの終了時にその旨を連絡します。復習についても、あれば何をどのように復習してもらうかについて、予習と同様、事前に連絡します。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> <li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> <li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li> </ul>
SDGs 17の目標（11～17）	<ul style="list-style-type: none"> <li>11. 住み続けられるまちづくりを</li> <li>12. つくる責任つかう責任</li> <li>13. 気候変動に具体的な対策を</li> <li>14. 海の豊かさを守ろう</li> <li>15. 陸の豊かさも守ろう</li> <li>17. パートナリーシップで目標を達成しよう</li> </ul>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group IIB
時間割コード Course Code	39452
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 豊和
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 豊和 (経営学部)
授業の目標	3年次に自ら設定したテーマに基づき、研究と理解を深め、それを卒業論文に結実させること。 学習成果 知識・理解の領域 ・授業で学んだ会計などの事例について説明できる。 関心意欲の領域 ・自らが選定した会計や税務のテーマについて説明し、意見を述べることができる。 態度・志向性の領域 ・他の者の発表テーマおよび内容について意見を述べるができる。
授業の概要	みなさんが社会に出て、就職したり、取引したり、モノを買ったり、サービスを受けたりして生活していく中で、株式会社という企業組織体を理解することは避けられないでしょう。直接関わりを持つことになるのは、誰でも知っている有名な大企業よりも中小企業のほうが機会が多くなるかもしれません。では、株式会社とはいったい何なのでしょう。これをみなさんと、主に会計と税金の側面からこの演習で考えていきます。 4年生は、3年生のときに自分で見つけた研究テーマを発表や討論を重ねることでさらに深め、最終的に卒業研究という形でまとめてもらいます。 質問への対応 随時対応します。
評価方法	報告発表の内容 ( 5 0 % ) および討論への参加内容 ( 5 0 % ) から総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1週 オリエンテーション 第2週～12週 個別論文指導 第13、14週 発表 第15週 まとめ
テキスト	各自の研究内容に応じて個別に指示します。
参考書	櫻井雅夫『レポート・論文の書き方(上級)改訂版』慶應義塾大学出版会
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。



フィードバックの方法	翌週講評。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	自らの研究内容に対しておよそ50時間の準備時間が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group IIB
時間割コード Course Code	39453
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	中村 壽男
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 壽男 (経営学部)
授業の目標	<p>社会人・企業人として必要な租税の知識を身につける。</p> <p>知識・理解の領域 所得税、法人税、消費税の税額算定に至るプロセスを修得する。また、こんにちの租税制度について、公平性という視点からの考察を試みる。</p> <p>技能の領域 こんにちの税制の理解を通じ、批判的考察力を醸成することができる。</p> <p>態度・志向性の領域 租税教育を通じて、大学生としての教養と就業意識を高める。また、就職活動のため、社会人としてのマナー・接遇を身につける。</p>
授業の概要	こんにちの社会の主要税目である所得税、法人税、消費税の税額算定に至るプロセスを修得する。なお、この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	ゼミ課題への取組度 (50%) ・ゼミの諸活動への取組度 (50%) で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>第1回 法人税の特徴と所得税との相違</p> <p>第2回 法人税の課税標準</p> <p>第3回 企業利益と課税所得</p> <p>第4回 企業の益金：益金算入額と益金不算入額を考える</p> <p>第5回 企業の損金：損金算入額と損金不算入額を考える</p> <p>第6回 税務調整：決算調整と申告調整</p> <p>第7回 日本の消費税とEU諸国の付加価値税</p> <p>第8回 社会保障と消費税の歴史を考える</p> <p>第9回 流通経路から消費税の転嫁を考える</p> <p>第10回 消費税の納付税額算定</p> <p>第11回 商品等の価格表示と消費税を考える</p> <p>第12回 事業者免税点と簡易課税制度から消費税の益税問題を考える</p> <p>第13回 非正規雇用労働者の増加と消費税</p> <p>第14回 輸出企業と消費税</p> <p>第15回 医療機関と消費税</p>
テキスト	使用しない。毎回レジユメを配付する。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	同一テーマにつきグループ単位で議論し、そのとりまとめをゼミ内で報告し合い、比較・検討する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学習内容等の質問については随時対応する。
フィードバックの方法	ゼミで提供した課題については、翌週に講評する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	事前にGoogle Classroomにより課題の資料を配信するので2時間程度の予習を要す。また理解度確認のため、事後に2時間程度の復習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group IIB
時間割コード Course Code	39454
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	松井 義司
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 4 A多目的室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	松井 義司 (経営学部)
授業の目標	<p>大学生生活の集大成として「卒業研究」を完成させる。各自が興味のある研究テーマを設定し、参考文献・参考資料・自身の経験やインタビューなどに基づき、論文を執筆する。</p> <p>知識・理解の領域 論文の書き方を理解し修得する。</p> <p>技能の領域 研究のために必要な資料を効率良く収集できるようにする。 決められた期日までに途中経過の論文を提出する。</p> <p>態度・志向性の領域 毎週、少しずつでも着実に執筆を行うことで完成を目指す。</p>
授業の概要	<p>卒論テーマ： ・各自が自分で研究テーマを設定し、それに基づき卒業研究の作成を行う。 ・テーマ設定の際には、執筆に必要な情報や資料の入手しやすさにも留意する。</p> <p>卒論の執筆： 主な節目（後期初回と2週間に1回の報告）毎に、少しでも執筆できた部分の原稿を提出し、それに基づき教員と執筆方針を相談しながら、少しずつ書き進めて行き、完成を目指す。</p>
評価方法	<p>10% 後期最初に8000字程度（A4で5-6枚）の報告 60% 2週間に1回（敬6回）の報告と提出 10% 期限（12月上中旬）までに卒論を教務に提出 20% 卒論の執筆内容 書籍・新聞雑誌・ネット記事だけに頼らず、自身の経験や自身が行ったインタビューなどを本論の一部に執筆する場合は加点とする。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	主な節目での執筆した部分の提出・報告を頻繁に怠る場合。
授業計画	<p>1・2回 8000字程度（A4で5～6枚）を執筆・報告。 3～14回 2週間に1回は、執筆した部分を必ず提出・報告。 期日（12月上中旬）までに教務に提出。（15,000字程度） 15～16回 完成した卒論を報告。</p>
テキスト	卒論の内容に応じて演習で文献を紹介する。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各種節目（授業計画参照）で各自が執筆した文章を提出・報告し、その都度、教員がコメントをし、それに基づき、次回に提出する文章への加筆や修正を行う。これを繰り返すことで、卒論の完成を目指す。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	教員は電機メーカーに勤務し、中東・ロシア・インドに駐在するなど主に新興国の市場開発と販売会社の設立や運営に従事して来た。実務経験も踏まえて、卒論執筆の指導を行う。
質問への対応方法	毎回の演習中に質問への対応を行う。
フィードバックの方法	毎回の演習中に執筆した文章へのコメントや参考文献の提案を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各種節目（授業計画参照）までに、各自は卒論の執筆を行う。演習での教員からのコメントに基づき、次回提出に向けた文章の加筆・修正を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	5.ジェンダー平等を実現しよう 7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	13.気候変動に具体的な対策を
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group IIB
時間割コード Course Code	39455
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	吉川 伸一
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	吉川 伸一 (経営学部)
授業の目標	<p>卒業論文の作成を行うための土台を築く。          大学教育においては、文系・理系の学生を問わず教養教育と専門教育の両方が必要である。教養教育では、社会人として最低限身に付けておいてほしい一般常識や数学・英語の基礎、社会人としてのマナーを学ぶ。</p> <p>また、現代は企業を取り巻く環境が短期間で変化する世の中である。変化に適応できる人材を育てることが専門教育の急務である。</p> <p>当ゼミでは、企業などが経営活動を進めていく過程において発生する諸問題を統計学の立場から考察し、問題の本質をつかみとり、自らの力で解決できる能力を身につけることを理想的な目標とする。企業にとって重要な在庫管理の問題にも踏み込み、在庫費用最小化あるいは利益最大化の問題を理解し、自力で解けるようになることも目標とする。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域          授業で学んだ専門用語を理解し、説明できる。学習した統計的手法を説明できる。</p> <p>技能の領域          回帰分析、検定、区間推定、線形計画法などをコンピュータソフトを用いて解析できる。</p> <p>態度・志向性の領域          教員から与えられたことだけでなく、自分で積極的に新聞や学術雑誌などから、演習で使えそうな題材、特集、データなどを探し、教員に提示できる。</p>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門演習1で学んだことについて、より深く学んでいく。</li> <li>・卒業論文を作成する必要があるため、その下地として前期は主に経営あるいは経済の専門書の輪講を行う。</li> <li>・後期は主に卒業論文の仕上げになる。</li> <li>・質問への対応は、授業終了後またはオフィスアワーのときに受け付ける。</li> </ul> <p>この科目の位置づけについては、本学HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>具体的に以下のような比重で評価するものとする。</p> <p>参加姿勢：30%          レポート：30%          期末試験：40%</p> <p>授業内で行ったレポートは採点し、返却する。理解度が良好でないと判断した部分については、次回授業で復習する。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席回数が13回に満たない場合</li> <li>・連続して3回欠席した場合</li> </ul>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前期の振り返り、卒業論文の作成(1)</li> <li>2. セル生産について学ぶ(1)、卒業論文の作成(2)</li> <li>3. セル生産について学ぶ(2)、卒業論文の作成(3)</li> <li>4. セル生産について学ぶ(3)、卒業論文の作成(4)</li> <li>5. セル生産について学ぶ(4)、卒業論文の作成(5)</li> <li>6. セル生産について学ぶ(5)、卒業論文の作成(6)</li> <li>7. セル生産について学ぶ(6)、卒業論文の作成(7)</li> <li>8. セル生産について学ぶ(7)、卒業論文の作成(8)</li> <li>9. セル生産について学ぶ(8)、卒業論文の作成(9)</li> <li>10. セル生産について学ぶ(9)、卒業論文の作成(10)</li> <li>11. セル生産について学ぶ(10)、卒業論文の作成(11)</li> <li>12. セル生産について学ぶ(11)、卒業論文の作成(12)</li> <li>13. セル生産について学ぶ(12)、卒業論文の作成(13)</li> <li>14. セル生産について学ぶ(13)、その他(1)</li> <li>15. セル生産の総復習、その他(2)、全体のまとめ</li> </ol>
テキスト	なし
参考書	追って指示する
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	卒業論文の中間報告・最終報告について、パワーポイントを用いてゼミ生全員の前で発表する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了後に対応</li> <li>・メールで対応（メールアドレスは授業中に提示する）</li> </ul>
フィードバックの方法	・翌週返却または翌週に口頭で述べる
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、次回テーマに関する文献調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>5. 自信創出力</li> <li>6. 行動持続力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group IIB
時間割コード Course Code	39456
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	李 美善
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 美善 (経営学部)
授業の目標	<p>さまざまな企業ケースから経営戦略の知識を理解する。ケーススタディを通じて学ぶことによって、体系的かつ実践的な知識を理解するとともに、経営戦略の有効性を判断できるようになる。なお、「読む、調べる、考える、書く、発表する、魅せる」スキルを養うことを目標とする。</p> <p>知識・理解の領域 経営戦略とは何かを理解し、研究・報告のスキルを実践できる。</p> <p>技能の領域 -読む、調べる：新聞や雑誌記事及び本を活用する技術を学習する。 -考える：ポイントを掴む、多様な角度から物事を考える力を養う。 -書く：ストーリーの描き方と論理的に述べる技術を学習する。 -発表する：自分自身の考えをまとめ、説明できる力を養う。 *魅せる：「伝える」発表から「伝わる」発表のスキルを習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 さまざまな角度からものごとを解釈でき、自らと異なる考えを受け入れる態度を養う。</p> <p>思考・判断の領域 競争力が高い企業とそうでない企業を見分け、なぜそうなのか？などを論理的に考える力を養う。</p> <p>関心意欲の領域 企業経営について学ぶことによって、将来の仕事への関心が高まる。</p>
授業の概要	急速な技術革新やグローバル化により企業間の競争が激化している今日、企業を取り巻く経営環境は大きく変化している。こうした激しい変化のなかで、企業を持続・発展させることは容易ではない。その中で、高い成果を上げ成功している企業には、必ず理由がある。本演習では、その理由の一つを経営戦略にあると考え、さまざまな企業のケースから、テーマを精査して卒業研究へ繋げる。
評価方法	研究への取り組み姿勢および研究結果(パワーポイントを用いたプレゼンテーション)による評価 100%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1．さまざまな企業のケースを取り入れ経営戦略の基礎知識を学ぶ</li> <li>2．研究を進める：情報（新聞、雑誌記事、論文、書籍）を持ち寄って分析しよう</li> <li>3．研究報告をまとめる：スライド資料の作り方 プレゼンテーションの方法 報告準備</li> <li>4．プレゼンテーションとディスカッション：分かりやすく説明することに挑戦してみよう</li> </ol>
テキスト	
参考書	『日経ビジネス』『日本経済新聞』『日経産業新聞』などの記事を積極的に利用する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む



アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	本演習は「プレゼン力」、「思考力」、「知識」を身につけるため下記のアクティブラーニングを行う。 ・さまざまなテーマについて、グループでディベートを行い、賛成・反対の両方からバランスよく考える。 ・グループ毎で異なる課題を議論し、アイデア・解決方法を提案する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応する。
フィードバックの方法	授業内で課したレポートなどは確認後随時フィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	本演習は下記の内容をこなすため、準備学習（予習・復習等）の時間として60時間以上要する。 ・テーマ設定 ・資料調べ ・企画・提案書づくり（ワードで作成） ・発表資料づくり（パワーポイントで作成） ・ゼミメンバーの発表に対する評価資料づくり（ワードで作成） ・レポート課題（ワードで作成）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group IIB
時間割コード Course Code	39457
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	大曾 暢烈
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大曾 暢烈 (経営学部)
授業の目標	<p>【授業目標】 卒業研究作成に向けて、各自が取り組む研究テーマに関する知識を蓄積し、現実の企業活動を考察・分析できる力を身につけることを目標とします。</p> <p>【学習成果】 知識・理解の領域 経営学に関する基本的な知識を身につけることができる。 技能の領域 ゼミ報告や研究テーマについて学習することで、問題発見力や論理的思考力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 ゼミ報告を通して、自律的な学習姿勢を身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>本演習（前期・後期を通じて）は、卒業研究作成に向けて各自が取り組む研究テーマに関する基本的な知識（先行研究）について学習し、報告を行います。あわせて卒業研究の指導を行います。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	演習への参加態度、報告・課題内容で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	著しく欠席が多い場合、課題や発表に対する十分な取り組みがなされない場合
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究テーマに関する先行研究について学習する。</li> <li>研究テーマの先行研究の学習を通して、卒業研究の課題や構成について報告を行う。</li> <li>卒業研究の進捗状況の報告を行う。</li> </ul>
テキスト	<p>各自の研究テーマに応じて適宜紹介する。 * 必要に応じて、購入してもらう可能性があります。</p>
参考書	各自の研究テーマに応じて適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後に対応する。

フィードバックの方法	授業中に行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、予習2時間、復習2時間が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group IIB
時間割コード Course Code	39458
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	小川 哲司
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小川 哲司 (経営学部)
授業の目標	<p>卒業論文作成に向けて、主体的に課題や問題を見つけ出して、論理的に分析・解析することができるようになることを目指します。また自身の考えを第三者に説得力を持たせ説明ができるようにします。</p> <p>卒業論文の作成を通じて、論理的な思考、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力、資料作成能力などを身に付けることを目指し、社会人へ向けての実践力を養う。</p> <p><b>学習成果</b> 知識・理解の観点 自身の研究テーマを経営学の専門知識を通じて深く洞察することで、物事の本質を見極めることができるようになる。</p> <p><b>技能の領域</b> 論文執筆に必要な表現力、文書構成、論理展開などを身に付けることができる。</p> <p><b>態度・志向性の領域</b> ディスカッションを通じて多様な視点や意見があることに気づき、物事を複数の視点から捉えることができるようになる。</p> <p><b>思考・判断の領域</b> 自ら関心のあるテーマを設定して、それに向けて自律的に研究を進めることができるようになる。</p> <p><b>関心意欲の領域</b> 研究テーマに関わる先行研究の調査などを通じて、もっと深く経営学を学ぼうとする意欲が湧くようになる。</p>
授業の概要	<p>卒業論文の執筆に向けた準備を行う。自らの研究テーマに基づき、研究テーマの掘り下げ、先行研究調査、リサーチクエスチョン設定、研究方法の決定を通じて、論文の骨格を作成して説明できるようにする。</p> <p>授業は、各自が設定した研究テーマに基づいて、調査・分析、プレゼンテーション、メンバー間のディスカッションによって進める。学生が自主的に考えたものを発表して、他者を含めた様々な視点で検討することを通じて専門性を高めるとともに、社会に出てから必要なリテラシーを習得する。</p> <p>授業内容（シラバス）に関する質問は、授業後やオフィスアワーにしてください。 この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	主に授業への参加姿勢と課題の内容で評価します。 ・授業への取り組み姿勢：40% ・発表や課題の内容：30% ・グループワークへの参加姿勢：30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特別な理由がなく、出席回数が13回に満たない場合
授業計画	< 授業計画 > 第1～13回 各自の研究進捗報告、論文指導、グループディスカッション 第14～15回 最終報告会
テキスト	
参考書	授業に必要な資料を都度配布します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各学生からの研究進捗報告に基づいて、ディスカッションをしながら授業を進めていきます。学生には主体的な参加と、他人との対話が求められます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学生にとって最善の方法で回答します。（随時対応、オフィスアワー、授業後に対応、メール対応など）
フィードバックの方法	翌週の授業までに返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、テーマに関連する文献調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group IIB
時間割コード Course Code	39459
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	徐 誠敏
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	徐 誠敏 (経営学部)
授業の目標	<p>この演習では、デフレ不況に逆行する数々のヒット商品を次から次へと生み出す大企業・中小企業のブランド・マーケティング戦略の成功事例を通して、顧客に愛され、社員に愛され、社会に信頼される企業における競争力の源泉とは何か、その戦略的な取り組みを理解することを目指します。</p> <p>またこの演習では、中小企業が元気になる事が日本経済の活性化と発展に繋がるということを明確に理解したうえで、中小企業を取り巻く経営環境とブランド・マーケティングに関する基本的・実践的な知識を習得すると同時に、100年に一度といわれる大不況の中、勝ち残っていく中小企業ならではのユニークなブランド・マーケティング戦略の成功事例のノウハウを学ぶことで、次のような学習成果を生み出します。</p> <p>学習成果</p> <p>(1) 中小企業概念と経営環境などに関する基礎的・基本的な知識を身につけることができる。</p> <p>(2) ブランド構築のための8つのステップ([1]事業目的市場機会の発見:3C分析 [2]市場細分化 [3]見込み顧客の選定 [4]独自性・差別化の発見 [5]ブランド・アイデンティティの構築 [6]マーケティングの目標設定 [7]4P/4Cの情報整理 [8]ブランド要素・ブランド体験の設計)に関する知識・スキルを身につけることができる。</p> <p>(3) 中小企業ならではの強みを活かしたブランド・マーケティング戦略の成功事例のノウハウなどを学ぶことで、ブランドづくりに関する実践的な知識を身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>中小企業は、日本経済の発展に欠かせない存在です。しかし、中小企業を取り巻く経営環境は依然として先行きが不透明な状況(1. 世界経済の不安定さ、2. 急激な人口減少による国内市場の縮小、3. 少子・高齢化の進展に伴う国内市場の量的飽和・成熟化)が続いています。このような厳しい状況下にある中小企業に望まれる主なものとして、1. 人材・資金・情報の不足、2. 自社の認知度の低さ、3. 海外市場での販路開拓などのような課題が挙げられます。これらの課題を解決するために、中小企業にとって最も重要な経営戦略の一つが、自社ブランド価値を高めるためのマーケティング戦略です。中小企業だからできるブランド・マーケティング戦略を中長期的観点から行うことで、中小企業は上記の課題を解決し持続的成長を実現することができます。したがって、本授業では、日本経済を根っこから支えている中小企業のブランド・マーケティング戦略について基礎的・基本的な知識を段階的に学習すると同時に、さまざまな事例を用いて学びます。</p>
評価方法	<p>授業への参加度・取り組み姿勢 40%(ゼミの出席率は100%が基本です。1回以上欠席したら、成績Aはもらえないです。)、課題の完成度 40%(パワーポイントの作り方、プレゼンの姿勢、質疑応答の態度)、ゼミ生同士の相互理解度 20%(基本的にゼミ生全員の名前を覚えることが大事です。教室に入ったらゼミの先生をはじめ、ゼミ生全員の目を見て笑顔で挨拶することが大事です。)</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>【前半：第1回～7回】</p> <p>ブランド・マーケティング戦略の成功事例1 本多プラス株式会社  ブランド・マーケティング戦略の成功事例2 株式会社エンジニア  ブランド・マーケティング戦略の成功事例3 美容室 りんごの木 セントラル  ブランド・マーケティング戦略の成功事例4 株式会社王宮道頓堀ホテル  ブランド・マーケティング戦略の成功事例5 株式会社Dreams ポップコーンパバ</p> <p>【後半：第8回～第15回】</p> <p>自分が興味を持つ中小企業のケーススタディ&amp;プレゼン、ディスカッション</p>
テキスト	徐誠敏・李美善(2022)『ブランド弱者の戦略：インターナル・ブランディングの理論と実践』ミネルヴァ書房。
参考書	<p>徐誠敏[2010]『企業ブランド・マネジメント戦略?CEO・企業・製品間のブランド価値創造』創成社。</p> <p>田中洋編[2014]『ブランド戦略全書』有斐閣。</p> <p>一般財団ブランド法人 ブランド・マネージャー認定協会著[2015]『社員をホンキにさせるブランド構築法』同文館出版。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	中小企業のマーケティングやブランディング戦略に関する考察とプレゼンテーションを通して、中小企業独自のマーケティングやブランディング戦略の手法・ノウハウなどについて積極的にディスカッションを行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	数年にわたるブランディング・コンサルタントや一般財団法人ブランド・マネージャー認定協会のアドバイザーとしての経験を活かすことで、より実践的なブランディングに関する知識を教える。
質問への対応方法	・授業後に対応
フィードバックの方法	・翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>準備学習（予習・復習等）60時間の時間の予習復習の時間を必要とする。</p> <p>・予習：資料調べ  ・復習：演習内容に関するレポート作成と発表と発表</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>4.質の高い教育をみんなに  8.働きがいも経済成長も  9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>12.つくる責任つかう責任  17.パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1.情報収集力  2.情報分析力  3.課題発見力  4.構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>1.親和力  2.協同力  4.感情制御力  5.自信創出力  6.行動持続力  7.課題発見力  8.計画立案力  9.実践力</p>

開講科目名 Course	専門演習 B / Advanced Study Group IIB
時間割コード Course Code	39460
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	山下 幸裕
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山下 幸裕 (経営学部)
授業の目標	<p>専門演習IIの目的は、大学4年間の集大成である「卒業研究」を完成させることです。卒業研究は、「卒業研究のテーマ決定 文献調査 卒業研究計画書作成 卒業研究(情報収集・分析) 報告」という進め方を基本とし、専門演習 Bでは卒業研究を完成させることを目標とします。</p> <p>&lt;学習成果&gt;  知識・理解の領域  自分の研究テーマについて先行研究と関連して説明できる。  技能の領域  自分の研究テーマについて情報機器を使いプレゼンできる。  態度・志向性の領域  計画に基づき行動することができる。</p>
授業の概要	<p>卒業研究の進捗状況を報告してもらい個別に指導します。また、全体の卒業研究進捗状況報告会を実施し学生同士で進捗状況の共有を図ります。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	ゼミへの参加態度(宿題や発表の内容も含む)で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>以下の事由により失格になる場合がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>著しく欠席・遅刻が多い場合</li> <li>ゼミは毎回の出席を前提に進めます。無断欠席は厳禁です。</li> <li>教員の連絡に応じない場合</li> <li>宿題の提出や発表を怠った場合</li> </ul>
授業計画	<p>第1週 オリエンテーション  第2週～9週 卒業研究個別指導  第10週 卒業研究進捗報告会  第11週～15週 卒業研究個別指導</p> <p>状況に応じて授業計画を変更する場合があります。</p>
テキスト	
参考書	各自の卒業研究テーマに応じて個別に指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない



担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問は授業終了後もしくはオフィスアワーにて対応する。
フィードバックの方法	授業中にフィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	準備学習（発表準備・修正、データ収集・分析）として、各回、4時間の予習・復習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究 / Graduation Research
時間割コード Course Code	39500
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	荒鹿 善之
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒鹿 善之 (経営学部)
授業の目標	<p>財務諸表を読み解くことによって企業を分析し、その結果、どのようなことが分かったかを正しい日本語で文章にすることを目標とします。</p> <p>学習成果 思考・判断の観点 専門演習で習得した財務諸表の分析手法を活用し、各自で選定した企業の状態や成績を判断します。</p> <p>技能・表現の観点 分析結果から判断したことを正しい日本語で文章にします。 文章を研究成果としてまとめ、「卒業研究」を完成させます。</p>
授業の概要	<p>各自で一つの業種を選択し、その業種に属する企業の財務諸表（貸借対照表や損益計算書）を入手します。そして、入手した財務諸表をもとに次のような点を分析します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 安全性（債務を返済する力がどの程度あるか？）</li> <li>2. 収益性（利益をあげる力がどの程度あるか？）</li> <li>3. 成長性（将来的に伸びていく力があるか？）</li> </ol> <p>このような財務諸表分析の結果を「卒業研究」としてまとめます。業種・企業の選択は、各自で自由に行ってもらって結構です。また、財務諸表の入手方法および分析方法については授業中に指導します。</p>
評価方法	研究成果に基づいて評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	情報処理室において、各自卒業研究の執筆に取り組みます。
テキスト	専門演習 で活用したテキストを継続して使用します。
参考書	追って指示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	卒業研究報告会を開催し、各自卒業研究の内容を報告し、ディスカッションする予定です。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	日商簿記検定試験委員の担当経験がある教員によって行われる授業です。
質問への対応方法	随時対応します。
フィードバックの方法	レポート、課題などは翌週返却して指導します。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各自研究内容の発表ができるよう準備をします。他のゼミ生からの意見を自身の研究内容に反映し、卒業研究の完成度を高めます。(予習・復習各2時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究 / Graduation Research
時間割コード Course Code	39501
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	神邊 篤史
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	神邊 篤史 (経営学部)
授業の目標	経営学部の学生として相応しい卒業研究を完成させる。
授業の概要	専門演習1および専門演習2を通じて作成した卒業研究の総仕上げである。 専門演習1・2で発表後に書いたレポートをまとめ、1つの卒業研究としてまとめ上げる。 提出直前は卒業研究の確認を求める学生が殺到することが予想されるため、コメントを返すのに時間がかかると思われる。余裕をもった執筆を求める。
評価方法	卒業研究の内容および卒業研究発表会での発表(開催した場合のみ)をもとに評価する。  具体的には、 ・正しい日本語で書かれているか ・出所や参考文献、注釈、目次などの形式は整っているか ・選んだテーマについて説得的に自分の考えが書かれているか、またその考えが面白いかで評価する。  卒業研究未提出者および卒業研究発表会にて発表を行わなかった者(開催した場合のみ)には単位を認定しない。  卒業研究発表会は、新型コロナウイルスに関する状況により中止する可能性がある。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	11月～2月頃に卒業研究発表会を行う場合があり、開催された場合は参加が求められる。
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	別途指定した時間に対応する。
フィードバックの方法	卒業研究の提出前確認時にフィードバックを行う。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	日々時間を割いて卒業研究を執筆すること。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ZOOM講義、小レポート 5月14日	オリエンテーション 講義～今どうしてGoogleなのか	
2	ZOOM講義、小レポート	講義～犬山の観光産業の現状と課題	
3	ZOOM講義、調査、レポート 5月28日・6月4日	犬山城下町を調べてみよう ～Googleマップの使い方をリサーチする	
5	ZOOM発表会 6月11日	犬山城下町を調べてわかったこと ～リサーチ結果の発表会	
6	ZOOM講義、小レポート 6月18日	Googleマップはこうして使い！ ～マニュアルを使ってGoogleマップの使い方を学ぶ	
7	ZOOM講義、調査、レポート 6月25日・7月2日	犬山市内の観光資源を探してみよう ～Googleマップを使って犬山市内の観光資源を調べる	
9	ZOOM発表会	ZOOMを使ってリサーチ結果の発表会	
10	ZOOM講義、小レポート 7月16日	Googleマップ活用推進を犬山で実施してみてわかったこと ～2020年活動結果報告	
11	ZOOM講義、調査、レポート 7月23日・30日	犬山観光ツアーを企画してみよう ～Googleマップを使ってオリジナルツアーを考える	
13	ZOOM発表会 8月6日	ZOOMを使ってみなさんが考えた観光ツアーの発表会	
14	レポート	もしあなたが犬山観光協会の担当者だったら、 どうやって犬山の観光を盛り上げるか。 レポートにまとめる	
15	同上	同上	

開講科目名 Course	卒業研究 / Graduation Research
時間割コード Course Code	39502
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 豊和
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 豊和 (経営学部)
授業の目標	各自が選定したテーマに応じて卒業研究を進め、その成果物を作成する。 学習成果 知識・理解の領域 ・自らの卒業研究の内容について口頭で説明できる。
授業の概要	3年次に各自設定した研究テーマについて随時文献の収集をすすめ、タイトルの確定、項目の選定(理論構成)、論文、レポートなどの成果物作成の過程につき個別に指導する。 また進度に応じて、ゼミ全体での発表会を行なう。 質問への対応 随時対応します。
評価方法	指導教員の指導を随時受け、卒業研究要項にしたがって作成され完成させた論文、レポートなどの成果物について評価する(100%)。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	4月 テーマ(タイトル)と理論構成の完成と発表 5月 資料収集と修正(個別指導) 6月 資料収集と修正(個別指導) 7月 タイトルと目次と研究概要(完成版)についての発表会 8月 論文、レポートなどの作成(個別指導) 9月 論文、レポートなどの作成(個別指導) 10月 論文、レポートなどの作成(個別指導) 11月 完成版の発表会(お互いに批評しあう) 12月 最終チェック(個別指導) 1月 卒業研究発表会
テキスト	
参考書	個別に指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。

フィードバックの方法	翌週講評。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	自ら設定した研究テーマの発表に対して準備時間50時間を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	卒業研究 / Graduation Research
時間割コード Course Code	39503
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	中村 壽男
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 壽男 (経営学部)
授業の目標	<p>大学生生活の総まとめとして「卒業研究」を完成させる。学生自らが設定する研究テーマに対して、参考文献・参考資料を収集・分析し学術論文形式でまとめあげることが目標とする。</p> <p>知識・理解の領域 論文の書き方を理解・修得し、各自の研究テーマに沿った構成等が適切にできる。</p> <p>技能の領域 各自の研究テーマに則して、必要となる資料を収集し、論文を書き進めることができる。 研究テーマ報告会および卒業研究報告会において、設定された時間内で各自の研究内容の主旨を発表できる。</p> <p>態度・志向性の領域 研究テーマの内容を、卒業後社会人・企業人としての行動に反映させ、引き続き探求する姿勢を示すことができる。</p> <p>体験探究の領域 未知のことで、じっくり構えて調査・考察すれば多くの知見が得られ、独自の分析結果が得られることを体験できる。</p>
授業の概要	<p>各自が策定した研究テーマをもとに、卒業研究の作成に取り組む。卒業研究作成の進捗状況を勘案し、報告発表をとおして、完成までを支援していく。</p> <p>なお、この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	卒業研究の完成度および最終報告会のプレゼンにより評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：卒業研究完成までの年間スケジュール調整と確認</p> <p>第2回 過年度生の卒業研究の紹介：研究テーマ探索の参考として</p> <p>第3回 過年度生の卒業研究の講評：論旨の整合性の参考として</p> <p>第4回 卒業研究テーマの探索と絞り込み</p> <p>第5回 参考文献・参考資料の収集：図書館の活用を中心に</p> <p>第6回 参考文献・参考資料の収集：インターネットの活用を中心に</p> <p>第7回 研究テーマ報告会（各自のテーマを発表）</p> <p>第8回 研究テーマにかかる先行研究の確認調査</p> <p>第9回～第15回 各自卒業研究1次稿の執筆 この間、進捗状況に応じ、対面およびメールにて個別対応</p> <p>第16回 卒業研究にかかる各自の進捗状況報告と確認</p> <p>第17回～第23回 各自卒業研究完成作業 この間、進捗状況に応じ、対面およびメールにて個別対応</p> <p>第24回～第25回 卒業研究最終稿の整理と提出手続き</p> <p>第26回～第30回 卒業研究報告会（一人あたり報告時間15分・質疑応答10分）各回報告者3名を予定</p>
テキスト	使用しない。
参考書	各自の研究テーマに応じ、適宜指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	卒業研究完成後、各自パワーポイントにて研究内容の報告をおこない、その報告内容にもとづき質疑応答等ディスカッションする。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	オフィスアワーはもちろんのこと、空き時間など随時対応する。メール対応も可（h-nakamura@nagoya-ku.ac.jp）
フィードバックの方法	各自の進捗状況に応じ、研究内容につきその都度講評・助言する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	卒業研究の資料収集、原稿執筆、原稿整理および完成稿の提出と報告の各段階で相当の準備と時間を要す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究 / Graduation Research
時間割コード Course Code	39504
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	松井 義司
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	松井 義司 (経営学部)
授業の目標	<p>大学生生活の集大成として「卒業研究」を完成させる。各自が興味のある研究テーマを設定し、参考文献・参考資料・自身の経験やインタビューなどに基づき、論文を執筆する。</p> <p>知識・理解の領域 論文の書き方を理解し修得する。</p> <p>技能の領域 研究のために必要な資料を効率良く収集できるようにする。 決められた期日までに途中経過の論文を提出する。</p> <p>態度・志向性の領域 毎週、少しずつでも着実に執筆を行うことで完成を目指す。</p>
授業の概要	<p>卒論テーマの設定：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各自が自分で社会や企業についての研究テーマを設定し、それに基づき卒業研究の執筆を行う。</li> <li>テーマ設定の際には、執筆に必要な情報や資料の入手し易さにも留意する。</li> </ul> <p>卒論の執筆：</p> <p>主な節目（前期初回と最終回、2週間に1回、後期初回など）毎に、少しでも執筆できた部分の原稿を提出し、それに基づき教員と執筆方針を相談しながら、少しずつ書き進めて行き、完成を目指す。</p>
評価方法	<p>10% 前期最初の卒論テーマの提出と報告 10% 前期最後に6000字程度（A4で4-5枚）の報告 10% 後期最初に8000字程度（A4で5-6枚）の報告 10% 期限（12月上中旬）までに卒論を教務に提出 60% 卒論の執筆内容</p> <p>執筆の評価項目：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>構成（序論、本論、考察、参考文献）が確りできているか</li> <li>研究目的、本論、考察の論旨が分かり易く書けているか</li> <li>各種資料・情報の出所が明らかになっているか</li> </ul> <p>書籍・新聞雑誌・ネット記事だけに頼らず、自身の経験や自身が行ったインタビューなどを本論の一部に執筆する場合は加点とする。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>以下の場合失格とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主な節目（授業計画参照）に再三にわたり執筆できた部分の原稿を提出しない場合。</li> <li>既存の記事や論文を、引用なしに自身の文章として用いて、卒論を執筆する場合。</li> </ul>

授業計画	<p>前期の予定：</p> <p>1・2回 卒論テーマの提出と報告</p> <p>3～12回 2週間に1回は、執筆した部分を必ず提出・報告。</p> <p>13～15回 本論中心に6000字程度（A4で4～5枚）を執筆・報告。</p> <p>後期の予定：</p> <p>1・2回 8000字程度（A4で5～6枚）を執筆・報告。</p> <p>3～14回 2週間に1回は、執筆した部分を必ず提出・報告。</p> <p>期日（12月上中旬）までに教務に提出。（15,000字程度）</p> <p>15～16回 完成した卒論を報告。</p>
テキスト	卒論の内容に応じて演習で文献を紹介する。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各種節目（授業計画参照）で各自が執筆した文章を提出・報告し、その都度、教員がコメントをし、それに基づき、次回に提出する文章への加筆や修正を行う。これを繰り返すことで、卒論の完成を目指す。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	教員は電機メーカーに勤務し、中東・ロシア・インドに駐在するなど主に新興国の市場開発と販売会社の設立や運営に従事して来た。実務経験も踏まえて、卒論執筆の指導を行う。
質問への対応方法	毎回の演習中に質問への対応を行う。
フィードバックの方法	毎回の演習中に質問への対応を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各種節目（授業計画参照）までに、各自は卒論の執筆を行う。演習での教員からのコメントに基づき、次回提出に向けた文章の加筆・修正を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>5.ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> <p>9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	13.気候変動に具体的な対策を
PROGリテラシーの要素	<p>1.情報収集力</p> <p>2.情報分析力</p>
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	卒業研究 / Graduation Research
時間割コード Course Code	39505
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	吉川 伸一
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	吉川 伸一 (経営学部)
授業の目標	<p>卒業研究の題目を自分で決める。執筆・作成にあたり、必要な資料を自分で探す。担当教員の支持を受けながら論文を仕上げる。</p> <p>大学教育においては、文系・理系の学生を問わず教養教育と専門教育の両方が必要である。教養教育では、社会人として最低限身に付けておいてほしい一般常識や数学・英語の基礎、社会人としてのマナーを学ぶ。</p> <p>また、現代は企業を取り巻く環境が短期間で変化する世の中である。変化に適応できる人材を育てることが専門教育の急務である。</p> <p>当ゼミでは、企業などが経営活動を進めていく過程において発生する諸問題を統計学の立場から考察し、問題の本質をつかみとり、自らの力で解決できる能力を身につけることを理想的な目標とする。企業にとって重要な在庫管理の問題にも踏み込み、在庫費用最小化あるいは利益最大化の問題を理解し、自力で解けるようになることも目標とする。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業で学んだ専門用語を理解し、説明できる。論文を執筆するにあたっての、基本的な事項を知っている。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 回帰分析、検定、区間推定、線形計画法などをコンピュータソフトを用いて解析できる。</li> <li>・ 論文に関連する資料を収集するためのインターネットによる文献検索ができる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員から与えられたことだけでなく、自分で積極的に新聞や学術雑誌などから、演習で使えるような題材、特集、データなどを探し、教員に提示できる。</li> </ul>
授業の概要	<p>前期は卒業研究の進め方に関する基礎を学んでいく。</p> <p>後期は、実際に研究内容の各章の構成を考える。各章ごとに仕上げていく。</p> <p>参考文献の引用の仕方、記入の仕方、章末における参考文献の列挙の仕方も重視して学ぶ。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HP のナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	成績評価のウェイトは以下のとおりである。 参加姿勢：30% 卒業研究に関するレポート：30% 中間報告・発表：40% 授業内で行ったレポートは採点し、返却する。理解度が良好でないと判断した部分については、次回授業で復習する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・出席回数が13回に満たない場合 ・連続して3回欠席した場合
授業計画	主に以下の内容となる。 1．卒業研究の進め方 2．必要となる資料・文献の収集(1) 3．必要となる資料・文献の収集(2) 4．必要となる資料・文献の収集(3) 5．資料・文献の読み方(1) 6．資料・文献の読み方(2) 7．論文とは何かを学ぶ(1) 8．論文とは何かを学ぶ(2) 9．論文とは何かを学ぶ(3) 10．経営上の急所をめぐる文献による問題共有(1) 11．経営上の急所をめぐる文献による問題共有(2) 12．発表による問題共有(1) 13．発表による問題共有(2) 14．論文チェック作業(1) 15．論文チェック作業(2)、全体のまとめ
テキスト	なし
参考書	なし
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・授業終了後に対応 ・メールで対応（メールアドレスは授業中に提示する）
フィードバックの方法	・翌週返却または翌週に口頭で述べる
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、次回テーマに関する文献調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	卒業研究 / Graduation Research
時間割コード Course Code	39506
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	李 美善
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 美善 (経営学部)
授業の目標	<p>自らが設定した卒業研究のテーマに沿って、研究対象となる企業を決定し、フィールドワーク(企業訪問など企業へ直接コンタクトをとる)を通じて企業経営の本質や戦略を解明する。それらをまとめ、大学生生活4年間の締めくくりとして論文を作成する。</p> <p>知識・理解の領域 経営戦略とは何かを理解し、研究・報告のスキルを実践できる。</p> <p>技能の領域 -読む、調べる：新聞や雑誌記事及び本を活用する技術を学習する。 -考える：ポイントを掴む、多様な角度から物事を考える力を養う。 -書く：ストーリーの描き方と論理的に述べる技術を学習する。 -発表する：自分自身の考えをまとめ、説明できる力を養う。 *魅せる：「伝える」発表から「伝わる」発表のスキルを習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 様々な角度からものごとを解釈でき、自らと異なる考えを受け入れる態度を養う。</p> <p>思考・判断の領域 競争力が高い企業とそうでない企業を見分け、なぜそうなのか？などを論理的に考える力を養う。 課題や問題を抽出する能力を養う。</p> <p>関心意欲の領域 企業経営について学ぶことによって、将来の仕事への関心が高まる。</p>
授業の概要	まず、専門演習で習得した経営学の基礎知識および経営戦略の知識を整理する。次に、研究テーマを決定し、先行研究を調べ、卒業研究を作成していく。最後に、専門演習で取り組んだ個人発表、グループワーク、企業調査(インタビュー調査)、プレゼン大会で得た実践的な内容を論理的に組み合わせ卒業研究の執筆につなげる。
評価方法	研究への取り組み姿勢および研究結果(パワーポイントを用いたプレゼンテーションと卒業研究)による評価100%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>卒業研究テーマの確認と設定</li> <li>テーマに関する課題と問題の探究</li> <li>資料収集(文献調査および企業へ直接コンタクトを試みる)</li> <li>研究の進捗状況に関する発表の実施</li> <li>卒業研究の作成</li> <li>卒業研究の提出</li> </ol>
テキスト	

参考書	伊丹敬之・西野和美編『ケースブック：経営戦略の論理』日本経済新聞社 『日経ビジネス』『日本経済新聞』『日経産業新聞』などの記事を積極的に利用する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応する。
フィードバックの方法	授業内で課したレポートや卒業研究などは確認後、随時フィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	本演習は下記の内容をこなすため、準備学習（予習・復習等）の時間として各回4時間以上要する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ テーマ設定</li> <li>・ 資料調べ</li> <li>・ 企画・提案書づくり（ワードで作成）</li> <li>・ 発表資料づくり（パワーポイントで作成）</li> <li>・ ゼミメンバーの発表に対する評価資料づくり（ワードで作成）</li> <li>・ レポート課題（ワードで作成）</li> <li>・ 論文執筆（ワードで作成）</li> </ul>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> <li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li> <li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> <li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 住み続けられるまちづくりを</li> <li>12. つくる責任つかう責任</li> <li>13. 気候変動に具体的な対策を</li> <li>14. 海の豊かさを守ろう</li> <li>15. 陸の豊かさを守ろう</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> <li>17. パートナリーシップで目標を達成しよう</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> </ol>



開講科目名 Course	卒業研究 / Graduation Research
時間割コード Course Code	39507
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	大曾 暢烈
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大曾 暢烈 (経営学部)
授業の目標	<p>【授業目標】 それぞれ興味・関心のある研究テーマをもとに、卒業研究の作成に取り組むことを目標とします。</p> <p>【学習成果】 知識・理解の領域 それぞれの研究テーマに関する知識を身につけることができる。 技能の領域 卒業研究の作成を通して、問題発見力や論理的思考力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 卒業研究の作成を通して、自律的な学習姿勢を身につけることができる。</p>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自設定した研究テーマ・課題をもとに、卒業研究の作成に取り組みます。</li> <li>それぞれが興味・関心のある研究テーマを決定し、関連する先行研究をもとに課題を設定する。</li> <li>進捗状況の報告を行い、ブラッシュアップを図り、卒業研究の作成に取り組みます。</li> </ul> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	卒業研究の内容にて評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	教員の指導に従わない以外の事由による失格基準は特になし。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自の興味・関心をもとに研究テーマに関する先行研究を調査し、研究テーマを決定する。</li> <li>研究テーマに関連する資料等を収集・調査し、卒業研究の課題を設定する</li> <li>卒業研究の構成を決定し、執筆する。</li> </ul>
テキスト	各自の研究テーマに応じて適宜紹介する。 *必要に応じて、購入してもらう可能性があります。
参考書	各自の研究テーマに応じて適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	授業中に行う。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	120時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究 / Graduation Research
時間割コード Course Code	39508
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	小川 哲司
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小川 哲司 (経営学部)
授業の目標	<p>卒業研究は大学での学びの集大成であり、大学教育において最も重要な活動です。各自でテーマを設定して、調査・分析を通じて、自分なりの答えを導き出して、卒業論文を完成させることが本授業の目標になります。</p> <p><b>学習成果</b> 知識・理解の観点 自身の研究テーマを経営学の専門知識を通じて深く洞察することで、物事の本質を見極めることができるようになる。</p> <p><b>技能の領域</b> 論文執筆に必要な表現、文書構成、論理展開などを身に付けることができる。</p> <p><b>態度・志向性の領域</b> ディスカッションを通じて多様な視点や意見があることに気づき、物事を複数の視点から捉えることができるようになる。</p> <p><b>思考・判断の領域</b> 自ら関心のあるテーマを設定して、それに向けて自律的に研究を進めることができるようになる。</p> <p><b>関心意欲の領域</b> 研究テーマに関わる先行研究の調査などを通じて、もっと深く経営学を学ぼうとする意欲が湧く。</p>
授業の概要	<p>卒業論文の執筆に向けた準備を行った後、論文を完成させる。自らの研究テーマに基づき、先行研究の調査、リサーチクエスチョン設定、研究方法の決定、研究テーマの掘り下げなどを通じて論文を完成させる。</p> <p>授業は各自が設定した研究テーマに基づく調査・分析、研究進捗報告、メンバー間のディスカッションによって進める。学生が自主的に考えたものを発表して、他者を含めた様々な視点で検討することを通じて、論文のブラッシュアップを図っていく。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業への参加姿勢で評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み姿勢：50%</li> <li>・発表や論文の内容：50%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特別な理由がなく、出席回数が13回に満たない場合

授業計画	授業では、学生からの研究進捗報告をベースに、全員でディスカッションを行う。  前期 ・先行研究調査、研究テーマの決定 ・研究計画書作成、研究進捗報告 ・中間報告会  後期 ・各自による研究進捗報告 ・論文執筆、論文指導 ・最終報告会
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	自身が設定した研究テーマに基づいて調査・分析を行った結果を報告をして、教員・学生とディスカッションを通じて研究内容を精査していきます。 学生には主体的な参加姿勢が求められます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学生にとって最善の方法で回答します。（随時対応、オフィスアワー、授業後に対応、メール対応など）
フィードバックの方法	翌週の授業までに返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、テーマに関連する文献調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	卒業研究 / Graduation Research
時間割コード Course Code	39509
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	徐 誠敏
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	徐 誠敏 (経営学部)
授業の目標	<p>卒業論文では、激変するグローバル市場環境の中で、「売れ続ける仕組み」を戦略的に構築・強化し、全社的に取り組むことで、持続的な成長を実現している現代企業のブランド・マーケティング戦略の本質をそれぞれの成功事例の考察を通して解明することを目指す。</p> <p>&lt;学習成果&gt;  知識・理解の観点  論文の基本的な書き方を習得し、論理的に自分の主張を展開することができる。  思考・判断の観点  いくつかの先行研究の論文を読み通していく中で、論理的な書き方のコツがわかってくる。  関心・意欲の観点  自分で決めた研究テーマに関する問題意識やその背景などについて論理的に述べるができる。  態度の観点  自分で決めた研究論文の目的を明らかにするための文献サーベイを積極的に行う習慣を身につけることができる。  技能・表現の観点  自分で決めた研究論文で考察した結果を論理的に展開することができる。</p>
授業の概要	<p>まず第1に、自分の興味・関心のある分野と研究対象となる企業を取り巻くマクロ環境(政治的・制度的変化要因、経済的変化要因、社会文化的変化要因、)がどのように変化しているのか、そのトレンドや潜在的なニーズの変化などを分析・考察する。</p> <p>第2に、上記のマクロ環境分析に加え、ミクロ環境(主に3C: 自社、顧客、競合他社)を戦略的な視点から分析することで、研究対象となる企業がどのように市場機会を発見していくのかを分析・考察する。</p> <p>第3に、研究対象となる企業が「誰に対して」「どのような価値を」「どのような流通チャネルを通して提供しているのか」「どのような表現方法でその価値をわかりやすく伝えているのか」を明らかにするための市場細分化(Segmentation)戦略と見込み客の選定(Targeting)戦略、独自性の発見(Positioning)戦略を検証する。</p> <p>第4に、研究対象となる企業自体のアイデンティティや製品・サービスのアイデンティティを確立するためにどのようなグローバルマーケティング戦略やブランド・マーケティング戦略を行うことで、その目標を達成することができたのかを明らかにする。</p>
評価方法	研究姿勢、研究内容などを総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>(1) 卒業論文の現状および研究テーマを設定する</p> <p>(2) 研究テーマの現状報告を実施し、文献サーベイを行う</p> <p>(3) 研究テーマに関する明確な問題意識を設定し、先行研究をレビューする</p> <p>(4) 研究論文のアウトラインを作成し、それに関する報告を実施する</p> <p>(5) これまで取り組んできた成果をもとに論じたものを深く考察することで、卒業論文を完成させる 最終原稿の提出は年末とする</p> <p>(6) 論文の型式を整え、論文を提出する</p>
テキスト	<p>徐誠敏・李美善(2015)「地域専門家制度から見たサムスン電子の「グローバル・マインドセット」の構築戦略?複眼的・多角的な視点による考察を中心に」『経済経営論集』第23巻第1号、11-26頁。</p> <p>徐誠敏・李美善(2016)「サムスン電子の地域専門家制度の普遍的適用可能性に関する研究?韓国企業の先進的取組事例を中心に」『経済経営論集』第23巻第2号、69-81頁。</p> <p>徐誠敏(2016)「不況でも勝ち続ける日本の中小製造企業の「ものづくり競争力」と「市場づくり競争力」のバランス戦略?本多プラスの5つの革新期に着目して」『経済経営論集』第23巻第2号、49-67頁。</p> <p>徐誠敏・李美善(2016)「「ブランド創発型企業 (Brand-Inspired Company)」を構築・強化するための戦略的なインターナル・ブランディングに関する研究」『経済経営論集』第24巻第1号、13-28頁。</p>
参考書	<p>徐誠敏(2010)『企業ブランド・マネジメント戦略?CEO・企業・製品間のブランド価値創造のリンケージ』創成社。</p> <p>田中洋編(2014)『ブランド戦略全書』有斐閣。</p> <p>一般財団法人ブランド・マネージャー認定協会(2015)『社員をホンキにさせるブランド構築法』同文館出版。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・授業後に対応
フィードバックの方法	・翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>準備学習（予習・復習等）60時間の時間の予習復習の時間を必要とする。</p> <p>・予習：資料調べ</p> <p>・復習：演習内容に関するレポート作成と発表</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>8. 働きがいも経済成長も</p> <p>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>12. つくる責任つかう責任</p> <p>17. パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p> <p>4. 構想力</p>

PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>
----------------	--

開講科目名 Course	卒業研究 / Graduation Research
時間割コード Course Code	39510
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	山下 幸裕
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山下 幸裕 (経営学部)
授業の目標	<p>大学4年間の集大成である「卒業研究」を完成させる。自ら設定した研究テーマに対して、データを収集し分析し学術論文形式で結論をまとめます。</p> <p>&lt;学習成果&gt;  知識・理解の領域  研究テーマについて深い知識を獲得することができる。  技能の領域  情報機器を活用して体裁が整った報告書が作成できる。  態度・志向性の領域  自分の意見に対して根拠を持って発言することができる。</p>
授業の概要	<p>研究テーマ、研究(調査)計画、データ収集・分析、学術論文の書き方などを指導します。また、進捗状況を逐次、報告してもらいます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	卒業研究内容
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	教員の指導に従わない以外の事由による失格基準は特になし。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究テーマ決定</li> <li>・文献調査</li> <li>・研究(調査)計画</li> <li>・データの収集と分析</li> <li>・論文執筆</li> <li>・最終報告</li> </ul>
テキスト	
参考書	各自の卒業研究テーマに応じて個別に指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	



質問への対応方法	質問は授業（専門演習）終了後もしくはオフィスアワーにて対応する。
フィードバックの方法	授業（専門演習）中にフィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	120時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究(前期) / Graduation Research
時間割コード Course Code	39511
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	徐 誠敏
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	徐 誠敏(経営学部)
授業の目標	<p>卒業論文では、激変するグローバル市場環境の中で、「売れ続ける仕組み」を戦略的に構築・強化し、全社的に取り組むことで、持続的な成長を実現している現代企業のブランド・マーケティング戦略の本質をそれぞれの成功事例の考察を通して解明することを目指す。</p> <p>&lt;学習成果&gt;  知識・理解の観点  論文の基本的な書き方を習得し、論理的に自分の主張を展開することができる。  思考・判断の観点  いくつかの先行研究の論文を読み通していく中で、論理的な書き方のコツがわかってくる。  関心・意欲の観点  自分で決めた研究テーマに関する問題意識やその背景などについて論理的に述べるができる。  態度の観点  自分で決めた研究論文の目的を明らかにするための文献サーベイを積極的に行う習慣を身につけることができる。  技能・表現の観点  自分で決めた研究論文で考察した結果を論理的に展開することができる。</p>
授業の概要	<p>まず第1に、自分の興味・関心のある分野と研究対象となる企業を取り巻くマクロ環境(政治的・制度的変化要因、経済的変化要因、社会文化的変化要因、)がどのように変化しているのか、そのトレンドや潜在的なニーズの変化などを分析・考察する。</p> <p>第2に、上記のマクロ環境分析に加え、ミクロ環境(主に3C: 自社、顧客、競合他社)を戦略的な視点から分析することで、研究対象となる企業がどのように市場機会を発見していくのかを分析・考察する。</p> <p>第3に、研究対象となる企業が「誰に対して」「どのような価値を」「どのような流通チャネルを通して提供しているのか」「どのような表現方法でその価値をわかりやすく伝えているのか」を明らかにするための市場細分化(Segmentation)戦略と見込み客の選定(Targeting)戦略、独自性の発見(Positioning)戦略を検証する。</p> <p>第4に、研究対象となる企業自体のアイデンティティや製品・サービスのアイデンティティを確立するためにどのようなグローバルマーケティング戦略やブランド・マーケティング戦略を行うことで、その目標を達成することができたのかを明らかにする。</p>
評価方法	研究姿勢、研究内容などを総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>(1) 卒業論文の現状および研究テーマを設定する</p> <p>(2) 研究テーマの現状報告を実施し、文献サーベイを行う</p> <p>(3) 研究テーマに関する明確な問題意識を設定し、先行研究をレビューする</p> <p>(4) 研究論文のアウトラインを作成し、それに関する報告を実施する</p> <p>(5) これまで取り組んできた成果をもとに論じたものを深く考察することで、卒業論文を完成させる 最終原稿の提出は年末とする</p> <p>(6) 論文の型式を整え、論文を提出する</p>
テキスト	<p>徐誠敏・李美善(2015)「地域専門家制度から見たサムスン電子の「グローバル・マインドセット」の構築戦略?複眼的・多角的な視点による考察を中心に」『経済経営論集』第23巻第1号、11-26頁。</p> <p>徐誠敏・李美善(2016)「サムスン電子の地域専門家制度の普遍的適用可能性に関する研究?韓国企業の先進的取組事例を中心に」『経済経営論集』第23巻第2号、69-81頁。</p> <p>徐誠敏(2016)「不況でも勝ち続ける日本の中小製造企業の「ものづくり競争力」と「市場づくり競争力」のバランス戦略?本多プラスの5つの革新期に着目して」『経済経営論集』第23巻第2号、49-67頁。</p> <p>徐誠敏・李美善(2016)「「ブランド創発型企業 (Brand-Inspired Company)」を構築・強化するための戦略的なインターナル・ブランディングに関する研究」『経済経営論集』第24巻第1号、13-28頁。</p>
参考書	<p>徐誠敏(2010)『企業ブランド・マネジメント戦略?CEO・企業・製品間のブランド価値創造のリンケージ』創成社。</p> <p>田中洋編(2014)『ブランド戦略全書』有斐閣。</p> <p>一般財団法人ブランド・マネージャー認定協会(2015)『社員をホンキにさせるブランド構築法』同文館出版。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・授業後に対応
フィードバックの方法	・翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>準備学習(予習・復習等)60時間の時間の予習復習の時間を必要とする。</p> <p>・予習:資料調べ</p> <p>・復習:演習内容に関するレポート作成と発表</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>8.働きがいも経済成長も</p> <p>9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標(11~17)	<p>12.つくる責任つかう責任</p> <p>17.パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1.情報収集力</p> <p>2.情報分析力</p> <p>3.課題発見力</p> <p>4.構想力</p>

PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>
----------------	--

開講科目名 Course	情報と法 / Information Law
時間割コード Course Code	40200
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	萩原 聡央
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	萩原 聡央 (法学部)
授業の目標	<p>〔授業の目標〕 この授業では、「情報の自由」と「情報の保護」の意味や内容について理解を深めるとともに、情報の自由と保護に関する法制度について理解することを目標とします。</p> <p>〔学習成果〕</p> <p>知識・理解の領域 情報および情報法に関する基本的な知識を身につけることができる。</p> <p>技能の領域 「情報法」に係る知識を身に付けることにより、情報に関連して起こりうるさまざまな事象について、法的な解決方策・手法を導くことができるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 情報をめぐるさまざまな事案（プライバシー侵害やインターネット規制など）および情報法制の役割や意義に関心を向けるようになる。</p>
授業の概要	<p>〔授業の概要〕 この講義では、テキストおよび各回における講義資料に基づいて、「情報・通信と憲法の関わり」、「知的財産の法的な保護」、「情報通信の法的な保障」、「サイバースペースにおける表現規制」、「ネット上の名誉毀損・営業妨害」、「ネット上の著作物使用の規制」、「プロバイダの法的責任」、「サイバースペースでの商取引と法」、「電子データの真正性の証明」、「個人情報の保護と利活用」、「商業メールと法規制」、「ネットセキュリティの法制化」、「行政手続のオンライン化」、「民間の電子化に関する法制度」、「行政情報の公開と利活用」の各テーマについて考察します。この授業における学びを通して、情報に関する基本的な知識を身につけることができるとともに、情報法制の役割や意義について理解することができます。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>〔評価方法〕 毎回実施する課題（小テスト）の結果にもとづいて評価します。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>〔教員の指導に従わない以外の事由による失格基準〕 原則として、出席回数（課題の提出回数）が10回に満たない場合は失格とします。</p>

授業計画	〔授業計画〕 第1回 ガイダンス・情報や通信は憲法とどのようにかかわっているだろうか 第2回 知的財産はどのような場合に法的に保護されるのだろうか 第3回 情報通信はどのような法的仕組みで保障されるのだろうか 第4回 サイバースペースにおける表現規制はどのようにされているのだろうか 第5回 ネット上の名誉毀損や営業妨害にはどのような特徴があるのだろうか 第6回 ネット上の著作物やドメイン名の使用はどのような規制があるのだろうか 第7回 プロバイダは法的にどのような義務を負っているのだろうか 第8回 サイバースペースでの商取引にはどんな法律が適用されているのだろうか 第9回 電子データの真正性・完全性はどのように証明されるのだろうか 第10回 個人情報の保護と利活用はどのように保障されているのだろうか 第11回 承諾なく送られた商業メールはどのような法規制があるのだろうか 第12回 ネットのセキュリティはどのように法制化されているのだろうか 第13回 行政手続のオンライン化はどのように法規制されているのだろうか 第14回 民間の電子化に関する法制度はどこまで進んでいるのだろうか 第15回 行政情報の公開と利活用はどのように保障されているのだろうか・まとめ
テキスト	〔テキスト〕 米丸恒治編『18歳からはじめる情報法〔第2版〕』（法律文化社、2022年9月）〔ISBN：978-4-589-04234-7〕
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	〔実務経験を活かした授業の内容〕 自治体の情報公開・個人情報保護審査会委員の経験を持つ教員が、情報の自由な流れの保障と情報の保護のバランスが必要であるとの視点から、行政やメディアを含む企業等における情報の取扱いをめぐる課題を解説する。
質問への対応方法	〔質問への対応方法〕 授業の前後およびオフィスアワーなど、質問には随時対応します。
フィードバックの方法	〔フィードバックの方法〕 授業で実施する課題（小テスト）については、翌週以降の授業で解説を行います。 成績評価に関しては、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	〔予習・復習等、準備学習の内容及び時間〕 テキストに基づいて、各回の授業内容について予習（2時間）および復習（2時間）をしてください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力

開講科目名 Course	外国法 / Foreign Law
時間割コード Course Code	40210
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 直史
科目区分 Course Group	専門科目群 隣接科目
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 直史 (法学部)
授業の目標	<p>アジア各国の法について、その背景（歴史・文化等）を含めた基礎的な知識を習得するとともに、アジア各国の法と日本法を比較的に検討し、日本法（その背景を含む。）の理解を更に深めることを目標とします。加えて、アジア各国の法を学ぶことを通じて、国際社会におけるグローバルな課題を多面的・多角的に分析・理解できる力を身につけ、法を学んだ者が国際社会においてどのような役割を果たせるのかを考える視座を得ることを目標とします。</p> <p>〔知識・理解の観点〕 授業の中で取り上げる外国法の知識・理解に加えて、外国法との比較の中で、現在の日本の法（基本的な法律）に関する知識を習得し、理解を深めます。</p> <p>〔思考・診断の観点〕 現在の日本の法及び授業で取り上げる外国法について、比較の視点及び歴史の視点から考えることのできる力を身につけます。</p> <p>〔関心・意欲の観点〕 現在の日本の法及び授業で取り上げる外国法について、また、歴史や外国の影響を受けながら法が整備されていくプロセスについて、授業を通じて興味を深めます。</p> <p>〔態度の観点〕 歴史や外国の影響を受けながら法が整備されていくプロセスを検討することを通じて、法のあり方や意義をより大きな視点から捉える態度を養います。</p>
授業の概要	<p>アジア各国の法は、それぞれの国の歴史や文化、政治や経済といったさまざまな要因により、非常にバラエティに富んでいます。その一方で、グローバル化が進む現代の国際社会における統一的な枠組みの影響も受けて変容しており、アジア各国の法は、各国固有の要素とグローバル化の要素が入り交じりながら発展を続けています。</p> <p>この授業では、アジア各国の法の基本構造や特徴を踏まえながら、各国において法がどのように発展してきたのか、そのプロセスの中で社会における法の役割がどのように変化してきたのかといった点を検討するとともに、日本法との比較を行いながら各国の法の現状と課題について理解を深めます。</p> <p>〔この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。〕</p>

評価方法	<p>授業への参加度 50%</p> <p>(授業中に行う「リアルタイムアンケート」や毎回の授業の内容に関する「確認テスト」の結果、授業で学んだことや疑問に思ったこと、更に学びを深めたいことに関する「振り返り」の内容などで評価します。)</p> <p>レポート 50%</p> <p>(授業ので取り上げた事例を用いて、各国の法に関する分析、日本法との比較等をまとめてもらいます。)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>第1回 序論・アジア各国法の概観 アジア各国の法はどのような特徴を有しているのか、また、アジア各国の法を学ぶ意義は何かについて、アジア各国の歴史や文化、政治や経済を概観しつつ、全体の見取り図を示す。</p> <p>第2回 アジア各国の法の発展と国際社会からの影響 アジア各国の法は、それぞれの国の歴史や文化、政治や経済といった各国固有の要素と深く結びついている一方、国際社会からの影響も大きく受けて発展している。各国の法の発展のプロセスにおけるさまざまな要素について検討する。</p> <p>第3回 アジア各国の法の発展と日本による法整備支援 日本は法整備支援という形でアジア各国の法の発展に関与している。日本の支援の成果や課題を踏まえ、アジア法の特徴や日本へのフィードバックを検討する。</p> <p>第4回 移行経済国における法の発展 アジアの移行経済国では近年どのような法の発展が見られるかについて、計画経済の下における法の役割と市場経済の下における法の役割の比較をしながら検討する。</p> <p>第5回 各国の事例(ベトナム) ベトナムにおける近年の法の発展について、具体的な法令を例にしながら検討する。</p> <p>第6回 各国の事例(中国) 中国における近年の法の発展について、具体的な法令を例にしながら検討する。</p> <p>第7回 紛争影響国における法の発展 紛争が終結した後の復興のプロセスにおいて、法がどのように整備され、役割を果たしていくかについて、平和構築に関する取組みと関連づけながら検討する。</p> <p>第8回 各国の事例(カンボジア) カンボジアにおける紛争終結後の法の発展について、具体的な法令を例にしながら検討する。</p> <p>第9回 各国の事例(ネパール) ネパールにおける紛争終結後の法の発展について、具体的な法令を例にしながら検討する。</p> <p>第10回 新興国における法の発展 新興国ではビジネス環境整備の一環として法の整備が進められている。法はビジネス環境整備においてどのような役割を果たすのか、急速に経済発展する各国の現状と課題を踏まえて検討する。</p> <p>第11回 各国の事例(インドネシア) インドネシアにおけるビジネスを取り巻く法の発展について、具体的な法令を例にしながら検討する。</p> <p>第12回 各国の事例(ミャンマー) ミャンマーにおけるビジネスを取り巻く法の発展について、具体的な法令を例にしながら検討する。</p> <p>第13回 ESG・SDGs・「ビジネスと人権に関する国連指導原則」とアジアにおける法の発展 ESG・SDGsのメインストリーム化や「ビジネスと人権に関する国連指導原則」は、アジア各国の人権を取り巻く状況をどのように変容しているか、現状を検討する。</p> <p>第14回 ESG・SDGs・「ビジネスと人権に関する国連指導原則」とアジアにおける法の発展 ESG・SDGsのメインストリーム化や「ビジネスと人権に関する国連指導原則」は、アジア各国の人権を取り巻く状況をどのように変容させていくか、その展望を検討する。</p> <p>第15回 レポート出題及びまとめ レポートの出題とまとめを行う。</p> <p>授業計画は必要に応じて変更することがある。</p>
テキスト	授業で適宜配布する資料を用います。
参考書	<p>内田貴『法学の誕生』(筑摩書房、2018年)</p> <p>市橋克哉「非西欧諸国における法治主義?アジア市場経済移行諸国における法治主義?」公法研究80号(2018年)</p> <p>鮎京正訓編『アジア法ガイドブック』(名古屋大学出版会、2009年)</p> <p>独立行政法人国際協力機構『世界を変える日本式「法づくり」:途上国とともに歩む法整備支援』(文藝春秋企画出版部、2018年)</p> <p>松尾弘『発展するアジアの政治・経済・法:法は政治・経済のために何が出来るか』(日本評論社、2016年)</p> <p>その他講師が指示したもの</p>



アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各回の「振り返り」を通じて、学んだことや疑問に残ったことを各自が整理できるようにします。また、具体的な事例に関して、グループでのディスカッションを通じた検討を行います。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	アジア諸国における法整備支援の経験を豊富に有している教員が、具体的な事例を通じて、外国法及び日本法を比較の中でどのように理解するかについて、実践的に学ぶ科目です。
質問への対応方法	授業時間中に質問を受ける時間を設けます。授業中に解消できなかった疑問や授業後に出てきた疑問については、授業の前後などで対応します。
フィードバックの方法	授業で実施する課題や確認テストについては、実施後または翌週の授業で講評・解説を行います。期末レポートの結果に関しては、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業が終わってから授業の内容を復習するとともに、次週の内容について指定された予習を行ってください。1回の授業につき必要な予習・復習は各2時間ずつが目安です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> <li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li> <li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> <li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 住み続けられるまちづくりを</li> <li>12. つくる責任つかう責任</li> <li>13. 気候変動に具体的な対策を</li> <li>14. 海の豊かさを守ろう</li> <li>15. 陸の豊かさも守ろう</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> <li>17. パートナーシップで目標を達成しよう</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

開講科目名 Course	憲法 / Constitutional Law
時間割コード Course Code	40220
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	本 秀紀
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 4 A 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	本 秀紀 (法学部)
授業の目標	<p>この授業では、日本で実際に裁判になった具体的な事件を取り上げながら、憲法の目的である人権保障の実態と国の仕組みを学ぶ。そのことを通じて、憲法の実在意義を理解することを目標とする。</p> <p>&lt;学習成果&gt;  知識・理解の領域  具体的な裁判の学習を通じて、憲法の条文とその解釈を理解することができる。  技能の領域  判例の理解を通じて、憲法の解釈を具体的な事件に適用できるようになる。  態度・志向性の領域  憲法裁判の学習を通じて、日本で現実に起こっている人権問題に関心を向けるようになる。</p>
授業の概要	<p>1年次に「国家と法（日本国憲法）」で学習した憲法の基本的理解を前提にして、この授業では、いわばその応用編として、日本における人権保障の理論と実態を学ぶ。テキストに掲載された24の事件の中から、受講生が興味を持ちそうなものを選び、1回で1つずつ、事件の概要、該当する憲法の条文と解釈、裁判所の判例などを解説する。</p> <p>くわえて、授業時間内に3度、憲法に関するDVD教材を鑑賞することを通じて、日本で実際に起きている人権問題を視覚的に把握し、それについての考えを小レポートにまとめる。これらを通じて受講生は、憲法に関する法的思考と人権感覚を身につけることができる。</p>
評価方法	中間課題（DVDの感想等の小レポート＝30％）と期末試験（70％）の合計で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 ガイダンス：憲法とは何か、立憲主義という考え方 第2回 髪型の自由（1）（ ）内はテキストの事件番号（以下同じ） 第3回 DVD鑑賞（i） 第4回 同性婚の権利（4） 第5回 性同一性障害者の自由（5） 第6回 治療拒否の自由（7） 第7回 マイナンバー法違憲訴訟（10） 第8回 DVD鑑賞（ii） 第9回 夫婦別姓訴訟（13） 第10回 自衛隊イラク派遣差止訴訟（14） 第11回 非嫡出子相続差別違憲訴訟（17） 第12回 剣道受講拒否事件（19） 第13回 DVD鑑賞（iii） 第14回 立川テント村事件（20） 第15回 老齢加算違憲訴訟（23）

テキスト	棟居快行ほか『基本的人権の事件簿 第7版』（有斐閣、2024年）
参考書	長谷部恭男ほか編『憲法判例百選 第7版』（有斐閣、2019年） 樋口陽一ほか『新版 憲法判例を読みなおす 下級審判決からのアプローチ』（日本評論社、2011年） 本秀紀編『憲法講義 第3版』（日本評論社、2022年）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中または授業後に質問を受け付ける。 授業を聞いて分からないのは全く恥ずかしいことではない（分からないことがあるのに放置するのは恥ずかしいことである）ので、ぜひ積極的に質問に来てほしい。
フィードバックの方法	中間課題については、次回以降の授業の中で解説を行う。 期末試験および成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	テキストに基づいて、各回の授業内容について予習（2時間）し、授業レジュメ・資料を活用しながら復習（2時間）をすること。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力

開講科目名 Course	国際法 / International Law
時間割コード Course Code	40230
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	ウミリデノブ アリシエル
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ウミリデノブ アリシエル (法学部)
授業の目標	世界各地でナショナリズムが台頭している中、国際法上の基本問題に関する判例、学説を中心に、国際法の基礎知識を用いて、国際社会における諸問題を法的判断の能力を養うことを到達目標とする。この授業を履修することにより以下のような学習成果を獲得することを目指している。 (1) 現代の国際法の内容についてより深く理解することができる。 (2) 判例や事例を多く見ることにより、国際法の働きについて理解することができる。 (3) 国際法に関係する国内裁判例を見ることにより、国際法の国内的適用の現状を理解することができる。 (4) 国際化された現代社会において必要とされる国際法的思考方法について習得することができる。
授業の概要	21世紀の世界は国際法に対して新しい問題を次々に提供している。途上国だけでなく、先進国においても保護主義的政治家が選挙に選ばれ、戦後発展してきた国際安全保障・国際自由貿易・地域統合といった国際秩序は揺らいでいると見てよい。米国のトランプ大統領によるポピュリスト政権の誕生やイギリスのEU離脱はその一例にすぎない。さらに、新型コロナウイルス感染症 (COVID 19) の世界的な流行により世界経済が大きなダメージを受け、既存の国際枠組みが期待通りに機能していないこともよく指摘されるようになった。それに加え、国連安全保障理事会の常任メンバーとしてロシア連邦のウクライナへの軍事侵攻やパレスチナ問題に対し、国連の機能不全が浮き彫りになっている。 このような現状で、国際法の「果たしている役割」だけでなく、「果たすべき役割」をも考慮に入れて、授業を進める。受講者が「国際社会と法」をすでに履修して国際法についての基礎的理解を習得していることを前提として、学説・判例を通じて問題点を深く検討する。授業の内容を理解できるように、事前に配布された資料を予習する。なお、授業計画は、授業の展開によって若干の変更があり得る。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	期末試験 50%、各回の授業後に実施する小テスト 50%により評価を行う。  学内規則において認められている特別欠席以外の理由で、3回以上欠席する受講生は失格とする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	1 講義ガイダンス 2 国際法の成り立ち（国際法の歴史的展開） 2 国際法の法源－（1）総論 3 国際法の法源－（2）条約法 4 国際法の主体－国家・国際組織 5 領域に関する国際法 6 模擬仲裁 7 海の国際法 9 国際法における私人の地位－国籍・出入国・人権保護 1 1 国際経済秩序（1）世界貿易機関・自由貿易協定 1 2 国際経済秩序（2）国際投資自由化とその保護 1 3 模擬仲裁 1 4 国際紛争解決 1 5 武力紛争法
テキスト	加藤 信行, 植木 俊哉, 森川 幸一, 真山 全, 酒井 啓巨, 立松 美也子 『ビジュアルテキスト国際法』第3版、有斐閣、2022。  判例や条文などの講義資料は配付する。授業の内容を理解できるように適切な学習の目標を設定し、事前に配布された資料を予習してもらう。
参考書	松井芳郎・佐分晴夫他『国際法（第5版）』有斐閣、2007年。小寺・岩沢・森田『講義国際法（第2版）』有斐閣、2010年。浅田正彦編『国際法（第5版）』東信堂、2022年。中谷和弘他『国際法（第4版）』有斐閣アルマ、2021年。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業の進捗に合わせて、模擬事例についてディスカッションする。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・授業前後、およびオフィスアワーで対応
フィードバックの方法	・授業内で実施する小テストは、Google フォームで行い、翌週の授業で解説する。また、期末試験の結果に関しては、評価に関する疑問等申出期間において対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	指定テキストの60分予習と60分復習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 5. ジェンダー平等を実現しよう 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 7. 課題発見力

開講科目名 Course	行政法総論 / Administrative Law (General Theories)
時間割コード Course Code	40240
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	松本 未希子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	松本 未希子 (法学部)
授業の目標	<p>この講義は、行政法の基本的な知識を習得し、私たちの生活や社会の課題について行政法の観点から考察できるようになることを目標とします。</p> <p>知識・理解の領域 行政法の基本的概念・用語・理論・重要判例を理解し、説明できるようになる。</p> <p>技能の領域 私たちの生活や社会の課題と行政法とのつながりに気づけるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 行政のあり方について関心をもてるようになる。</p>
授業の概要	<p>行政法は、私たちの身近に存在しています。</p> <p>例えば、私たちが使う水道水。これについては、水道法という法律が水質や給水のルールを定めています。車を運転する場合は運転免許が必要ですが、これは道路交通法によって定められています。風邪をひいたら病院へ行きますが、そこで診察を行う医師は、医師法によって一定の知識と技能を有することが保障されています。</p> <p>ここに出てきた法律はすべて行政法です。これら以外にも行政法には、教育・医療・保健衛生・まちづくり・環境・租税・社会保障など、さまざまな分野の法が含まれます。</p> <p>この講義では、具体的な事例の考察をしながら、このような多様な法に共通する原理や仕組みについて学んでいきます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	復習課題 40% 期末試験 60%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第1回 行政・行政法・行政法理論（テキスト：序章） ・行政・行政法・行政法理論の関係性について学ぶ。</p> <p>第2回 行政組織法（テキスト：第1章） ・行政主体、行政機関の種類、行政機関相互の関係について学ぶ。 ・国家行政組織と地方自治行政組織について学ぶ。</p> <p>第3回 行政活動の一般的規制原理（1）（テキスト：第2章1） ・法治主義と法律の留保原則について学ぶ。</p> <p>第4回 行政活動の一般的規制原理（2）（テキスト：第2章2） ・信頼保護原則について学ぶ。</p> <p>第5回 行政立法（テキスト：第3章） ・法規命令と行政規則について学ぶ。</p> <p>第6回 行政行為（1）（テキスト：第4章1） ・行政行為の定義や分類について学ぶ。</p> <p>第7回 行政行為（2）（テキスト：第4章2,3） ・行政裁量と行政行為の瑕疵について学ぶ。</p> <p>第8回 行政契約（テキスト：第5章） ・行政契約の特徴や種類について学ぶ。</p> <p>第9回 行政指導（テキスト：第6章） ・行政指導の機能と法的統制について学ぶ。</p> <p>第10回 実効性確保手段（テキスト：第7章） ・行政上の強制執行・行政上の義務違反・即時強制に対する制裁について学ぶ</p> <p>第11回 行政計画（テキスト：補章） ・行政計画の性質とその法的統制について学ぶ。</p> <p>第12回 行政手続（1）（テキスト：第8章1） ・行政手続の意味や機能について学ぶ。 ・行政手続法の内容について学ぶ。</p> <p>第13回 行政手続（2）（テキスト：第8章2） ・行政手続の違法について学ぶ。</p> <p>第14回 行政による情報の収集・管理・利用・開示（1）（テキスト：第9章1） ・行政調査について学ぶ。</p> <p>第15回 行政による情報の収集・管理・利用・開示（2）（テキスト：第9章2, 3） ・情報公制度と個人情報保護制度について学ぶ。</p>
テキスト	野呂充・野口貴公美・飯島淳子・湊二郎著『有斐閣ストウディア 行政法〔第3版〕』（2023年、有斐閣）
参考書	斎藤誠・山本隆司 編『行政判例百選 〔第8版〕』（2022年、有斐閣）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	総務省での勤務経験を有する教員が行政法的な思考方法について指導する。
質問への対応方法	授業中、授業後
フィードバックの方法	授業中、授業後、Google classroom
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	事前学習：教科書や判例百選の該当箇所を読むこと。疑問・わからない点があれば、メモをしておくこと。 事後学習：学んだことを自分なりにノートなどにまとめること。テキストをもう一度読み、「QUESTION」や「CHECK」であげられている問いについて考えてみる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>1. 貧困をなくそう</p> <p>10. 人や国の不平等をなくそう</p> <p>2. 飢餓をゼロに</p> <p>3. すべての人に健康と福祉を</p> <p>5. ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>6. 安全な水とトイレを世界中に</p> <p>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11. 住み続けられるまちづくりを</p> <p>13. 気候変動に具体的な対策を</p> <p>14. 海の豊かさを守ろう</p> <p>15. 陸の豊かさを守ろう</p> <p>16. 平和と公正をすべての人に</p>

PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力



開講科目名 Course	刑法総論 / Criminal law (General part)
時間割コード Course Code	40250
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	清水 裕樹
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	清水 裕樹 (法学部)
授業の目標	<p>&lt; 授業の目標 &gt;</p> <p>刑法総論分野における基本的な事項に関する知識や考え方を身につけるとともに、公務員試験や資格試験を受験する際に、各自が学ぶ必要性に応じて教科書類を用いて自ら必要な理解を得ることができるような、刑法の学び方を身につけることができるようになることを目指す。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;</p> <p>知識・理解の領域 犯罪論の体系に基づいて、犯罪の成立要件をしっかりと説明できる。</p> <p>技能の領域 学習した分野における刑法総論分野の公務員試験の過去問でも、特に難易度の高くないものであれば規定時間内に正解できる。</p> <p>態度・志向性の領域 社会規範全体との関連性において、刑法という社会規範が果たす役割について考えることができる。</p> <p>特に将来の進路として警察官を志望する学生にとって、国家刑罰権発動の謙抑性という性質を理解した上で、自らの行動を律する基本原則とすることができる。</p>
授業の概要	<p>&lt; 授業の概要 &gt;</p> <p>下記テキストに基づき、刑法総論を学ぶ上で特に重要性の高い内容について講義形式で授業を行う。</p> <p>カリキュラム上、この科目は「犯罪と法」と接続する内容を有している。履修を希望する者は、事前に「犯罪と法」の授業の単位を取得していることが望ましい。</p> <p>授業中に複数回小テストを実施する。実施の日程は授業計画表に記載する。</p> <p>受講者数が少数である場合、期末試験に代えてレポートを実施する。いずれの方式によるかは受講者数確定後に周知する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>小テスト (50%)</p> <p>期末試験 (50%)</p> <p>小テスト実施後に問題の解説を行う。</p> <p>出席はタブレットで確認する。授業開始後20分が経過した時点で、出席管理上欠席として取り扱う。なお、学生である以上、学生証を携帯するのは当然である。紛失して再発行中であるなど、特段の理由がない限り、学生証の不携帯は出席管理上欠席とみなす。ただし、その場合であっても授業の受講は単位取得のために当然すべきである。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	正当な理由のない欠席が授業期間を通じて6回以上となった場合、又は3回以上連続した場合には失格とする。

授業計画	<p>初回授業時に、受講上の注意を行う。積極的に学ぶ姿勢があれば、それも評価する。授業時間中に出る課題や、宿題にはしっかりと取り組むこと。</p> <p>授業時には、テキストと六法を必ず持参すること。</p> <p>法解釈学は「条文ありき」の学問であるので、テキストや六法は必ず最新のを準備すること。</p> <p>詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。</p>
テキスト	井田良『入門刑法学 総論 第2版』有斐閣2018年
参考書	松宮・金沢編著『新・コンメンタール刑法【第2版】』日本評論社2021年、前田他編『条解刑法第4版』弘文堂2020年、井田良『入門刑法学 各論 第2版』2018年、山口厚『刑法総論第3版』有斐閣2016年
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業に関する質問がある場合、原則として授業中や授業後の休み時間に対応する。内容が複雑であるなど、対応に時間がかかる質問は、メールにて対応する。
フィードバックの方法	授業期間中の小テスト実施後に、解答例を配布し、解説する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	「授業計画」を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	2. 情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	はじめに	<p>受講上の注意。 「犯罪と法」から「刑法総論」へ。</p> <p>授業後、配布プリントを読み直し、不明な点は各自で調べること(2時間) 次回の授業までに、テキストを入手し、「第1講 刑法を学ぶということ」を読み、理解すること(2時間)。</p>	
2	刑法は何のためにあるのか	<p>応報と犯罪予防。 犯罪と法益保護。</p> <p>授業に先立ち、テキストの「第2講 刑法は何のためにあるのか」をあらかじめ読んでおくこと(2時間)。 授業後、テキストの「第2講」を読み直し、自分の理解を確認すること(2時間)。</p>	
3	刑法の基本原則	<p>罪刑法定主義。 責任主義。</p> <p>授業に先立ち、テキストの「第3講 刑法の基本原則」をあらかじめ読んでおくこと(2時間)。 授業後、テキストの「第3講」を読み直し、自分の理解を確認すること(2時間)。</p> <p>小テスト実施(10%)</p>	
4	犯罪論の基本的な考え方(1)	<p>犯罪論の体系の全体像。</p> <p>授業に先立ち、テキストの「第5講 犯罪論の基本的考え方」の「I はじめに」から「III 犯罪論の概要」をあらかじめ読んでおくこと(1時間)。 授業後、前回の小テストの解説を読み、自分の理解を深めること(1時間)。 授業後、予習で読んだテキストの部分を読み直し、自分の理解を確認すること(2時間)。</p>	
5	犯罪論の基本的な考え方(2)	<p>犯罪の本質。 結果無価値と行為無価値。</p> <p>授業に先立ち、テキストの「第5講 犯罪論の基本的考え方」の「IV 犯罪の本質」以下の部分をあらかじめ読んでおくこと(2時間)。 授業後、予習で読んだテキストの部分を読み直し、自分の理解を確認すること(2時間)。</p>	
6	構成要件該当性(1)	<p>構成要件とは何か。 構成要件の構成要素。</p> <p>授業に先立ち、テキストの「第6講 構成要件をめぐって」をあらかじめ読んでおくこと(2時間)。 授業後、予習で読んだテキストの部分を読み直し、自分の理解を確認すること(2時間)。</p> <p>小テスト(10%)</p>	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
7	構成要件該当性(2)	刑法における因果関係。  授業に先立ち、テキストの「第7講 未遂犯と不能犯」の「I はじめに」と「II 刑法における因果関係」をあらかじめ読んでおくこと(1時間)。 授業後、前回の小テストの解説を読み、自分の理解を深めること(1時間)。 授業後、予習で読んだテキストの部分を読み直し、自分の理解を確認すること(2時間)。	
8	構成要件該当性(3)	未遂犯と不能犯。 故意。  授業に先立ち、テキストの「第7講 未遂犯と不能犯」の「III 未遂犯をめぐる諸問題」以下の部分をあらかじめ読んでおくこと(2時間)。 授業後、予習で読んだテキストの部分を読み直し、自分の理解を確認すること(2時間)。	
9	構成要件該当性(4)	事実の錯誤。  授業に先立ち、テキストの「第8講 故意と錯誤」をあらかじめ読んでおくこと(2時間)。 授業後、予習で読んだテキストの部分を読み直し、自分の理解を確認すること(2時間)。  小テスト(10%)	
10	違法性(1)	正当行為。 被害者の同意。  授業に先立ち、テキストの「第9講 違法性とその阻却」の「I はじめに」から「III 違法性阻却事由の統一的原理」までをあらかじめ読んでおくこと(1時間)。 授業後、前回の小テストの解説を読み、自分の理解を深めること(1時間)。 授業後、予習で読んだテキストの部分を読み直し、自分の理解を確認すること(2時間)。	
11	違法性(2)	緊急行為としての正当防衛と緊急避難。  授業に先立ち、テキストの「第9講 違法性とその阻却」の「IV 違法性阻却事由の概観」以後の部分を読み直し、自分の理解を確認すること(2時間)。 授業後、予習で読んだテキストの部分を読み直し、自分の理解を確認すること(2時間)。	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	有責性(1)	<p>規範的責任論。 責任能力の基礎。</p> <p>授業に先立ち、テキストの「第10講 責任とその阻却」の「I はじめに」から「III 責任要素」の責任能力に関する部分をあらかじめ読んでおくこと(2時間)。 授業後、予習で読んだテキストの部分を読み直し、自分の理解を確認すること(2時間)。</p> <p>小テスト(10%)</p>	
13	有責性(2)	<p>責任無能力者・限定責任能力者に対する制度的な手立て。 違法性の意識の可能性。 適法行為の期待可能性。</p> <p>授業に先立ち、テキストの「第10講 責任とその阻却」の「III 責任要素」の違法性の意識の可能性に関する部分以下をあらかじめ読んでおくこと(1時間)。 授業後、前回の小テストの解説を読み、自分の理解を深めること(1時間)。 授業後、予習で読んだテキストの部分を読み直し、自分の理解を確認すること(2時間)。</p>	
14	正犯と共犯(1)	<p>正犯とは何か。 共犯とは何か。 単独正犯と狭義の共犯。</p> <p>授業に先立ち、テキストの「第11講 正犯と共犯」をあらかじめ読んでおくこと(2時間)。 授業後、予習で読んだテキストの部分を読み直し、自分の理解を確認すること(2時間)。</p>	
15	正犯と共犯(2)	<p>共犯従属性。 共同正犯。</p> <p>授業に先立ち、テキストの「第12講 犯罪論から刑罰論へ」の該当部分をあらかじめ読んでおくこと(2時間)。 授業後、予習で読んだテキストの部分を読み直し、自分の理解を確認すること(2時間)。</p> <p>小テスト(10%)</p>	

開講科目名 Course	租税法 / Tax Law
時間割コード Course Code	40260
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	我妻 純子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	関岡 誠一 (法学部)、我妻 純子 (法学部)
授業の目標	<p>この授業の目標は、所得税法と法人税法の専門知識を習得することです。</p> <p>知識・理解の領域</p> <p>(1)税法の基本原則を理解できるようになる。 (2)所得税法の考え方と基本的な仕組みを理解できるようになる。 (3)法人税法の考え方と基本的な仕組みを理解できるようになる。</p> <p>技能の領域</p> <p>(1)税法の基本的な仕組みとその問題点を説明することができるようになる。 (2)複雑なルールが設けられた理由を学ぶことで、どのような問題があるのかを発見し、問題解決の方法を理解できるようになる。</p>
授業の概要	<p>私たちは、会社から給与を受け取る際に所得税を支払い、コンビニで買い物をすれば消費税を支払います。このように、税は私たちの日常生活と密接に関係しています。また、個人も会社も、経済活動を行う際には必ずと言っていいほど課税が生じますので、税を知らずに取引をすることはできません。</p> <p>この授業では、社会で実際に生じた紛争事案である判例にも言及しながら、所得税や法人税など個人や会社に関わる税法の基本的な仕組みとその問題点を理解することを狙いとしています。</p> <p>授業で使用するレジュメ等は、事前にGoogle Classroomを通じて配布する予定です。授業前にプリントアウトするか、タブレット・パソコン等で閲覧できるように準備してください。</p> <p>また、Google ドキュメントの使用や、Google Formを使った確認テストを授業時間内に行う予定です。</p> <p>スマートフォン等の電子機器も持ってきてください。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	期末試験 (70%) と、毎回行う小テスト (30%) により評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5 回以上欠席した場合は失格とします。

授業計画	<p>第1回 ガイダンス：租税とは何かー租税の意義と種類</p> <p>第2回 租税法の基礎理論：租税法主義と租税公平主義</p> <p>第3回 租税法の基礎理論：税法の解釈と適用</p> <p>第4回 租税法の基礎理論：節税・租税回避・脱税</p> <p>第5回 所得税(1)：所得概念</p> <p>第6回 所得税(2)：収入金額と必要経費</p> <p>第7回 所得税(3)：所得の年度帰属と人的帰属</p> <p>第8回 所得税(4)：所得の分類と意義・税額算出手順</p> <p>第9回 所得税(5)：所得分類（譲渡所得）</p> <p>第10回 所得税(6)：所得分類（給与所得・事業所得・雑所得）</p> <p>第11回 法人税(1)：法人税の特色・所得税との違い</p> <p>第12回 法人税(2)：益金と損金</p> <p>第13回 法人税(3)：別段の定め</p> <p>第14回 法人税(4)・所得税(7)：出資と分配・配当所得と利子所得</p> <p>第15回 まとめ</p>
テキスト	レジュメを配布します。
参考書	<p>浅妻章如・酒井貴子『租税法』（日本評論社、2020年）</p> <p>岡村忠生ほか『租税法（第4版）』（有斐閣、2023年）</p> <p>金子宏『租税法（第24版）』（弘文堂、2021年）</p> <p>谷口勢津夫『税法基本講義（第7版）』（弘文堂、2021年）</p> <p>中里実ほか編著『租税法概説（第4版）』（有斐閣、2021年）</p> <p>佐藤英明『スタンダード所得税法（第4版）』（弘文堂、2024年）</p> <p>渡辺徹也『スタンダード法人税法〔第3版〕』（弘文堂・2023年）</p> <p>租税判例百選〔第7版〕（有斐閣、2021年）</p> <p>金子宏編著『ケースブック租税法（第6版）』（弘文堂、2023年）</p> <p>中里実ほか編『租税判例六法（第6版）』（有斐閣、2023年）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後に対応します。
フィードバックの方法	<p>小テストは、翌週の授業で解説等を行います。</p> <p>期末試験の結果に関しては、評価に関する疑問等申出期間において対応します。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>[予習・復習について]</p> <p>1. 予習：授業で扱われる範囲について、参考書または自分で選んだテキストを読んでください。また、講義資料に目を通しておいてください。（各回2時間程度）</p> <p>2. 復習：講義資料に基づいて、基本的な事項の復習を行ってください。（各回2時間程度）</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう</p> <p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>8.働きがいも経済成長も</p>
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	民法総則 / General Rules of Civil Law
時間割コード Course Code	40270
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	近藤 久雄
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	近藤 久雄 (法学部)
授業の目標	<p>民法は、われわれの日常（市民）生活を規律する最も基本的な法律です。本講義では、その民法の第1編「総則」を学びます。この授業では、市民生活に必要な商品や土地の取引をするうえで必要となる基礎的な約束事を一通り学びます。契約法、物権法の基礎となる法的な知識の習得を目的とします。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 総則分野（市民生活における物の所有や商品の売買など関わる法）の基礎的知識の修得することができる。</p> <p>思考判断の領域 法的なものの見方、考え方（リーガルマインド）を身につけるための基礎作りをします。</p> <p>態度・志向性の領域 法的な生活関係（権利・義務であらわされる世界）とは何かを理解することができます。</p>



<p>授業の概要</p>	<p>授業形態 対面にて授業を行います。</p> <p>概要 われわれの営む私的生活関係は大別すると物の所有・売買・取引を中心とする財産関係と夫婦・親子・相続といった家族関係を中心とする生活関係に分かれます。前者を規律する法を財産法、後者を規律する法を家族法と呼んでいます。</p> <p>総則は、財産法・家族法の通則、すなわち両者に通じる規則を定めています。その内容は人・法人・物・法律行為・期間・時効などです。少しわかりやすく書くと、民法の根底にある考え方（基本原則）、誰が私法上の権利を持つのか（自然人と法人）、子供がした契約は有効か（自然人の能力）、賭け麻雀は有効か（法律行為）、本人の意思と異なる約束はどうなる（意思表示）、人に頼んで交渉をしてもらうと（代理）、人にお金を貸しても、請求しないと権利がなくなる（時効）などです。</p> <p>皆さんは、これから市民生活を営むための法律関係を学ぶのですが、法律関係は、権利・義務関係であらわれます。この権利義務関係は、権利は誰が主張できるのか、誰が義務を負担することができるのかということですが、本講義では、この市民生活を営むための法律関係の基礎となる知識を習得することを目指します。</p> <p>おそらく、ほとんどの人が法を学ぶのは初めてだと思います。初学者が法を学ぶには日常生活と密接な関係にある民法は、比較的入りやすい法だと思いますが、それでも基本的な約束事を理解するのは、やはり骨のおれる作業だと思います。「道（4年）は長い？」あせらず、じっくり取り組んでください。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照して下さい。</p>
<p>評価方法</p>	<p>小テストと課題の提出（合計40%）、授業態度（10%）及び定期試験（50%）で評価します。小テスト、課題の提出には、Google classroomを使用します。</p>
<p>教員の指導に従わない以外の事由による失格基準</p>	<p>15回の講義を6回以上欠席すると、失格になります。 遅刻、早退は、2回で1回の欠席になりますので、注意して下さい。</p>
<p>授業計画</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 民法とは何か 法体系の中の民法 権利と義務 準備学習 2時間</li> <li>2. 自然人の能力(1) 権利能力・行為能力・意思能力 準備学習 2時間</li> <li>3. 自然人の能力(2) 制限行為能力者の保護 準備学習 2時間</li> <li>4. 法人とは何か 法人のルーツ 有限責任という考え方 準備学習 2時間</li> <li>5. 法人の能力 法人はなんでもできるか 準備学習 2時間</li> <li>6. 権利能力なき社団・財団 準備学習 2時間</li> <li>7. 法律行為とは何か 準備学習 2時間</li> <li>8. 法律行為の有効要件 準備学習 2時間</li> <li>9. 意思表示 その1 心裡留保・通謀虚偽表示 準備学習 2時間</li> <li>10. 意思表示 その2 錯誤 準備学習 2時間</li> <li>11. 代理とは 代理権・代理行為 準備学習 2時間</li> <li>12. 無権代理 狭義の無権代理・表見代理 準備学習 2時間</li> <li>13. 条件、期限、期間 準備学習 2時間</li> <li>14. 時効制度(債権) 消滅時効 準備学習 2時間</li> <li>15. 時効制度(所有権) 取得時効 準備学習 2時間</li> </ol>
<p>テキスト</p>	<p>中田 邦博ほか「新プリメール民法1（民法入門・総則 第3版）」法律文化社 民法総則の基本書です。予習・復習で活用して下さい。コラム（WINDOW）が設けられており、これを読むのも楽しいと思います。</p>
<p>参考書</p>	<p>潮見 佳男他編『民法判例百選1 総則・物権 第9版』（別冊ジュリストNo.262）有斐閣 潮見 佳男他編『民法判例百選1 総則・物権 第8版』（別冊ジュリストNo.237）有斐閣 総則部分の代表的な判例の解説書です。講義に出てきた判例はチェックして下さい。 図書館に担当者の選定図書コーナーがありますので、併せて参照して下さい。</p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等</p>	<p>含まない</p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容</p>	
<p>実務経験のある担当教員による授業</p>	<p>該当しない</p>
<p>担当教員の実務経験を活かした授業の内容</p>	
<p>質問への対応方法</p>	<p>質問には随時対応します。また、ゆっくり話をしたい場合には、オフィスアワーを利用して研究室を訪ねて下さい。</p>
<p>フィードバックの方法</p>	<p>小テスト、課題は、Google classroomを使用しますので、解答後は、直ちに評価を確認することが出来ます。</p>

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	教科書の使用が必須です。各回それぞれ2時間の予習、復習を義務づけています。シラバスの項目を参考に事前にテキストを読んで講義に臨んで下さい。また、講義の際に次回までに読んでおいて欲しい箇所を指定しますので、必ず実行して下さい。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	物権法 / Property Law
時間割コード Course Code	40280
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	早川 結人
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川 結人 (法学部)
授業の目標	<p>「到達目標」：民法第二編に規定のある物権について基本的ルールの習得をめざす。物を排他的に支配する権利としての物権という概念およびそのような権利の変動について、具体的なイメージを持つことができるようになる。</p> <p style="text-align: right;">知識・理解の領域</p> <p style="text-align: center;">個々の物権の内容について正確に理解し説明できる。いかなる場合に物権が移転し、そのことを他人に主張できるかを事例ごとに説明できる。</p> <p style="text-align: right;">技能の領域</p> <p style="text-align: center;">実社会において、どのような物権が利用されているかを発見・理解する能力を身につける。</p> <p style="text-align: center;">態度・志向性の領域</p>
授業の概要	<p>人に対する権利である債権と、物に対する権利としての物権との違いを意識しつつ、物権についての基本的な概念や制度について講義形式で授業を進めていきます。</p> <p>講義での疑問点については、授業後やオフィスアワーを活用して可能な限り対応します。皆さんの</p>
評価方法	<p>平常点 (受講態度、授業への参加姿勢) 30%</p> <p style="text-align: right;">期末試験 70%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上の欠席で失格とします。
授業計画	<p>第1回 総論</p> <p>第2回 物権とは</p> <p style="text-align: right;">第3回 物権の一般的効力 (物権的請求権、物権の優先的効力)</p> <p style="text-align: center;">第4回 物権変動総論</p> <p>第5回 不動産物権変動 (1)</p> <p style="text-align: right;">第6回 不動産物権変動 (2)</p> <p style="text-align: center;">第7回 動産物権変動</p> <p style="text-align: right;">第8回 所有権</p> <p style="text-align: center;">第9回 占有権・用益物権</p> <p style="text-align: right;">第10回 担保物権総論</p> <p style="text-align: right;">第11回 抵当権 (1)</p>
テキスト	授業前に講義用プリントを配布いたします。

参考書	<p>講義用プリント以外にも、自分にとって読みやすい参考書を持つことが望ましい。</p> <p>○物権法（担保物権を範囲に含まない）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐久間毅『民法の基礎2 物権〔第3版〕』（有斐閣、2023年4月出版予定）</li> <li>・松岡久和『物権法』（成文堂、2017年）</li> </ul> <p>○担保物権法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道垣内弘人『担保物権法〔第4版〕』（有斐閣、2017年）</li> <li>・松岡久和『担保物権法』（日本評論社、2017年）</li> </ul> <p>○物権・担保物権双方を対象とするもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山野目章夫『民法概論2 物権法』（有斐閣、2022年）</li> <li>・安永正昭『講義 物権・担保物権法〔第4版〕』（有斐閣、2021年）</li> </ul> <p>○判例教材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選 〔第9版〕』（有斐閣、2023年）</li> </ul>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>講義後に可能な限り質問の時間を設ける。</p> <p>それ以外でも随時対応する。</p> <p>個別対応希望の場合は、メールにて事前連絡をすること。</p>
フィードバックの方法	講義中に随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>[予習復習について]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：授業で扱われる範囲について、参考書または自分で選んだテキストを読む。関係する箇所を六法で確認し、条文に目を通す。</li> <li>2. 復習：配布したレジュメを中心に、六法・参考書等を用いて再度確認する。</li> </ol>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	債権総論 / Obligations Law
時間割コード Course Code	40290
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	早川 結人
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川 結人 (法学部)
授業の目標	<p>社会における債権の機能を知り、債権総論分野に規定される各制度の趣旨及び基本原則を理解することができる。</p> <p>学習成果 知識・理解の領域 債権総論の内容が民法典の体系上どのように位置付けられているのかを理解し、この分野における概念や制度の意義・仕組み等についての基礎的な知識を修得する。</p> <p>技能の領域 債権総論に規定される制度の体系的な理解に基づいて、具体的な問題に対して論理的な考察を展開し、表現することができる。</p> <p>態度・志向性の領域 実際の社会で生じる紛争に債権法がどのように関わっているかについて関心を持ち、法的観点から問題の所在を発見することができる。さらに、その解決方法について自分で考察することができる。</p>
授業の概要	<p>民法第3編第1章総則を意味する「債権総論」(民法第399条から第520条まで)に規定される各制度について学ぶ。債権総論は、債権の発生原因に関係なく共通するルールとして、債権の内容・効力・移転・消滅等について定めている。</p> <p>講義では、抽象度の高い債権総論の内容について、具体的な事例を示しながら特に重要となるポイントについて説明する。債権総論に関する基礎的な知識を修得することにより、実際の取引関係において生じる具体的な問題について法的な観点から検討する能力を養う。</p>
評価方法	平常点 (受講態度、授業への参加姿勢) 30% 期末試験 70%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席回数5回以上で失格とする。

授業計画	<p>第1回 ガイダンス、債権総論の位置付け</p> <p>第2回 債権の意義・目的</p> <p>第3回 履行請求権・履行の強制</p> <p>第4回 債務不履行(1)損害賠償の要件</p> <p>第5回 債務不履行(2)損害賠償の効果</p> <p>第6回 責任財産の保全(1)債権者代位権</p> <p>第7回 責任財産の保全(2)詐害行為取消権</p> <p>第8回 責任財産の保全(2)詐害行為取消権その2</p> <p>第9回 多数当事者の債権債務関係序論</p> <p>第10回 保証債務</p> <p>第11回 債権譲渡の要件</p> <p>第12回 債権譲渡の効果・債務引受・契約上</p> <p>第13回 債権の消滅(弁済・代物弁済・供託)</p> <p>第14回 債権の消滅(相殺)</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>[準備学習について]</p> <p>1. 予習: 授業で扱われる範囲について、参考書または自分で選んだテキストを読む。関係する箇所を六法で確認し、条文に目を通す。</p> <p>2. 復習: 配布したレジュメを中心に、六法・参考書等を用いて再度確認する。</p> <p>3. 課題対策: 授業内では、課題の提出を求める。実施する回の前の授業で告知するので、それまでの授業内容を十分に復習しておくこと。</p> <p>本講義で扱う債権総論は、非常に範囲の広い分野です。授業では特に重要なポイントについて解説しますが、その理解のためには、各自十分な予習・復習が必要です。テキストは指定しませんが、後掲の参考書など、自分に合ったものを手元に置いて学習を進めてください。</p>
テキスト	レジュメ・資料を配布する。 六法は毎回必ず用意すること。
参考書	<p>教科書等</p> <p>本授業の範囲をカバーする比較的コンパクトなものとして、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大島和夫ほか『プリメール民法3 債権総論[第3版]』(法律文化社、2014年)</li> <li>・野村豊弘ほか『民法3 債権総論[第3版補訂](有斐閣Sシリーズ)』(有斐閣、2012年)</li> </ul> <p>ただし、2017年の民法改正に注意が必要。民法改正にも対応可能なものとして、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大村敦志『新基本民法 債権編』(有斐閣、2016年)</li> <li>・池田 真朗『スタートライン債権法 第6版』(日本評論社、2017年)</li> <li>・野澤正充『債権総論 第2版 セカンドステージ債権法II』(日本評論社、2017年) など</li> </ul> <p>判例教材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中田裕康ほか編『民法判例百選2 債権[第7版]』(有斐閣、2015年)</li> <li>・田高寛貴ほか『民法3 債権総論 判例30!』(有斐閣、2017年)</li> </ul>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>講義後に可能な限り質問の時間を設ける。</p> <p>それ以外でも随時対応する。</p> <p>個別対応希望の場合は、メールにて事前連絡をすること。</p>
フィードバックの方法	講義中に随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義中に随時指摘する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	債権各論 / Contract, Torts Law
時間割コード Course Code	40300
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	趙 民秀
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	趙 民秀 (法学部)
授業の目標	<p>この授業は、債権の発生原因となる民法第3編債権編における第2章(契約)から第5章(不法行為)までの諸規定を対象としており(いわゆる「債権各論」)、個々の制度における制度趣旨や要件・効果などについての知識を身に付け、論理的思考に基づいて自身の考えを説明することができるようになることを目標とする。</p> <p>学習成果 知識・理解の領域 債権各論分野における基本的な知識(条文・判例・学説を主とする)について体系的に理解し、説明することができる。 技能の領域 債権各論分野の習得した知識に基づいて、具体的な問題に対して論理的な考察を展開し、一定の法的な見解を示すことができる。 態度・志向性の領域 ニュースや日常生活などで接する契約(例えば売買契約や賃貸借契約)や不法行為の事例に関心をもち、その問題に関して法的観点から考察することができる。</p>
授業の概要	<p>この授業では、民法第3編債権編における第2章(契約)から第5章(不法行為)に規定されている「債権各論」と呼ばれる民法分野について学ぶ。特に契約と不法行為が本授業の中心となる。債権各論は、我々の日常生活と密接に関わる事項が多いため、この授業では、初学者でも理解しやすいように、判例を中心とした具体例を多く取り上げ、債権各論分野の規定が実社会においてどのような意義を有するのかについて検討する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>期末試験 70% 平常点(小レポート) 30% [期末試験に関するフィードバック] 期末試験に関する質問は、成績疑義申立期間中に受け付ける。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第1回 ガイダンス、契約法総論(1)契約の成立</p> <p>第2回 契約法総論(2)契約の効力</p> <p>第3回 契約法総論(3)契約の解除</p> <p>第4回 所有権移転型の契約(贈与、売買)</p> <p>第5回 所有権移転型の契約(贈与、売買)</p> <p>第6回 所有権移転型の契約(贈与、売買)</p> <p>第7回 賃借型の契約(消費貸借、使用貸借、賃貸借)</p> <p>第8回 賃借型の契約(消費貸借、使用貸借、賃貸借)</p> <p>第9回 労務提供型の契約(雇用、請負、委任、寄託)</p> <p>第10回 労務提供型の契約(雇用、請負、委任、寄託)、その他の契約</p> <p>第11回 法定債権関係序論</p> <p>第12回 事務管理・不当利得</p> <p>第13回 一般不法行為の要件</p> <p>第14回 一般不法行為の効果</p> <p>第15回 特殊な不法行為</p>
テキスト	<p>青野博之ほか『新プレミアム民法4 債権各論〔第2版〕』(法律文化社,2020年)</p> <p>ISBN : 978-4-589-04064-0</p> <p>最新年度版の小型六法(『ポケット六法』や『デイリー六法』など)は毎回必ず持参すること。</p>
参考書	<p>教科書類</p> <p>山本敬三監修『民法5 契約(有斐閣ストゥディア)』(有斐閣,2022年)</p> <p>山本敬三監修『民法6 事務管理・不当利得・不法行為(有斐閣ストゥディア)』(有斐閣,2022年)</p> <p>藤岡康宏ほか『民法 債権各論〔第5版〕(有斐閣Sシリーズ)』(有斐閣,2023年)</p> <p>判例教材</p> <p>・窪田充見ほか編『民法判例百選2 債権〔第9版〕』(有斐閣,2023年)</p> <p>・中原太郎ほか『民法4債権各論 判例30!(START UP)』(有斐閣,2017年)</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	講義内容や学習方法に関する質問には、授業の前後及びオフィスアワーにおいて対応する。
フィードバックの方法	成績評価に関するフィードバックは、成績疑義申立期間中に行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>[準備学習について]</p> <p>1. 予習：授業で扱われる範囲について、教科書または参考書の該当箇所を読む。また、該当箇所に関係する条文を六法で確認する(各回60分程度)。</p> <p>2. 復習：講義内容に関するレジュメを中心に、教科書や六法などを用いて再度確認する(各回120分程度)。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	<p>2.情報分析力</p> <p>3.課題発見力</p> <p>4.構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力



開講科目名 Course	家族法 / Family Law
時間割コード Course Code	40310
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	近藤 久雄
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	近藤 久雄 (法学部)
授業の目標	<p>市民生活を規律する民法の中で、家族関係を規律する民法第4編「親族」及び第5編「相続」を学びます。夫婦・親子関係、死後の家族の財産がどのように分配されるか等を、家族をめぐる法の基礎を学ぶことを目標とします。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 家族法の基礎的知識の修得をめざします。 法的に夫婦になることの意味を理解することができます。 法的親子関係と生物学的な親子関係がなぜ一致しなことがあるのかを理解することができるようになります。</p> <p>相続の意味（被相続人の意思の尊重、相続人の寄与・貢献、生活保障）を理解することができるようになります。</p> <p>思考判断の領域 家族法を通して法的思考能力（リーガル・マインド）を修得することをめざします。</p> <p>態度・志向性の領域 家族生活におけるトラブルを未然に防ぐこと（予防法学）ができるようになることを期待しています。</p>

<p>授業の概要</p>	<p>授業形態 対面授業にて行います。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況悪化により、遠隔授業（Zoom）に変更する事も考えられます。G-mail、Google classroomにて、逐次、確認して下さい。</p> <p>授業概要 憲法第24条の『個人の尊厳と両性の本質的平等』の精神を具体化した現行家族法は、50年余りを経過しましたが、現在、大きな変化の中にあります。96年2月に公表された「民法改正要項案」では、(1)男女間に区別のある婚姻最低年齢を18歳とする、(2)女性についてのみ適用される再婚禁止期間の短縮、(3)選択的夫婦別氏の導入、(4)離婚原因の明確化（積極的破綻主義を導入し、5年の別居で離婚を認める）、(5)非嫡出子の相続分の同等化など、があげられています。さらに、人工授精子、体外授精子を含めた、子の法的地位の安定のため、家族法の改正が論議されています。</p> <p>改正の前提には、価値観の多様化した社会にあって、家族をめぐる状況が変化してきたことがあげられます。高学歴化、共働きの増加、晩婚化、少子化、高齢化、離婚の社会的承認、生殖医療技術・遺伝子解析技術の発達などが、それです。この前提にたつて、改正論議が行なわれていますが、このような問題は基本的には家族というものがどうあるべきか、ということにかかっているといえます。</p> <p>本講義では、家族の一人一人が個人として尊重され、男女が伝統的な役割分担にとらわれず、対等な立場で生活できる家族社会を作ることと考えてもらえればと思います。</p> <p>講義の進め方 事例問題を中心に講義を進めますので、多少の法的基礎知識を備えている必要があります。夫婦別氏、生殖医療と親子関係などについては現状をビデオで見てもらい法的問題を検討する予定です。関連条文を参照しながら講義をしますから、六法は必ず持参して下さい。</p>
<p>評価方法</p>	<p>受講態度（10%）、小テスト（40%）、課題（50%）により評価します。評価を受けるには授業への3分の2以上の出席が必要です。遅刻は30分までとします。以後も入室は認めますが、出席にはなりません。</p> <p>小テスト、課題の提出には、Google classroomを使用します。</p>
<p>教員の指導に従わない以外の事由による失格基準</p>	<p>15回の講義を6回以上欠席すると、失格になります。 2回の遅刻で1回の欠席となりますので、注意して下さい。</p>
<p>授業計画</p>	<p>第1回 家族法総論：今何が問題となっているのか 家族法の理念 個人の尊厳と両性の本質的平等（憲法24条） 準備学習 3時間</p> <p>第2回 婚姻1：法律婚の保護 準備学習 3時間</p> <p>第3回 婚姻2：非婚カップルの保護 準備学習 3時間</p> <p>第4回 離婚1：破綻主義の考え方 準備学習 3時間</p> <p>第5回 離婚2：家事調停における諸問題 準備学習 3時間</p> <p>第6回 親子関係1：実親子関係 準備学習 3時間</p> <p>第7回 親子関係2：養子親子関係 準備学習 3時間</p> <p>第8回 相続法総論：相続の意義 準備学習 3時間</p> <p>第9回 相続人と相続分 準備学習 3時間</p> <p>第10回 特別受益者の相続分・寄与分 準備学習 3時間</p> <p>第11回 遺産分割、相続の承認・放棄等 準備学習 3時間</p> <p>第12回 遺言：要件、遺贈、「相続させる」旨の遺言等、準備学習 3時間</p> <p>第13回 遺留分 準備学習 3時間</p> <p>第14回 相続法の改正について 準備学習 3時間</p> <p>第15回 まとめ：これからの家族法を考える 準備学習 3時間</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキストは指定しませんが、図書館等で参考書は必ずチェックして下さい。 六法は、必ず持参して下さい（六法の選定は、講義において指示します。）。</p>

参考書	<p>二宮周平『家族法 第5版』(新法学ライブラリ9) 新世社(2018年)  親族と相続に関する基本的な法制度を中心に、判例、戸籍席例などの取り扱い、主要な争点に関する学説をまとめた教科書です。著者の研究者としての主張(家族を個人の幸福追求の場、自己実現を支援する場として捉え直す。勿論他人への配慮を伴ったうえで)がよくあらわれた本です。この点を理解したうえで読んで下さい。</p> <p>窪田充見『家族法-民法を学ぶ 第4版』有斐閣(2019年)  語りかけるような文章で具体例も豊富であり、わかりやすく解説されている。楽しく学べる家族法のテキストです。</p> <p>二宮周平編『新注釈民法(17)親族(1)第2版』有斐閣(2018年)  潮見佳男編『新注釈民法(19)相続(1)第2版』有斐閣(2023年)  現在の判例、学説の到達点を示すコンメンタル(条文解説書)である。詳しく知りたいと思ったら、これを参照して下さい。</p> <p>水野 紀子他編『民法判例百選III親族・相続(第3版)』(別冊ジュリストNo.264)有斐閣(2023年)  家族法の代表的な判例を100件、収録しています。講義に出て来た判例は必ずチェックして下さい。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	家庭裁判所の家事調停委員をつとめる教員が、家族関係をめぐる法的諸問題(夫婦、親子、遺産分割)の解決方法を、理論と実務の視点から解説することによって、単なる法的知識の習得にとどまらず、家族法を実践的に理解することに役立つ内容になっています。
質問への対応方法	質問には随時対応します。また、ゆっくり話をしたい場合には、オフィスアワーを利用して研究室を訪ねて下さい。
フィードバックの方法	小テストは、Google classroomを使用しますので、解答後は、直ちに評価を確認することが出来ます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	事前に資料を配布しますので、内容を把握しておいてください。また、資料に記載されたキーワードについて調べておいてください。学習時間は、予習復習で3時間は確保して下さい。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	知的財産法 / Intellectual Property Law
時間割コード Course Code	40320
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	白出 博之
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	白出 博之 (法学部)
授業の目標	知的財産法とはどのような情報をどのような形で保護するものかという全体像を把握するとともに、知的財産法の基本的な考え方や制度の概要について、民法の基礎理論に遡り、その応用として理解することを目標とする。
授業の概要	知的財産法は財産的情報の保護に関する法であるが、本講義ではその中から著作権法・特許法を中心に講義する。近時、知的財産法の重要性が高まっており、これに対する社会的ニーズや関心も高まっている。身近なところではレポートの作成・インターネットなど毎日の生活にも密接に関係してくる著作権法、製薬や自動車から金融まで幅広い産業に関係する特許法など、知的財産法は現代社会での生活に重要な関わりを持っている。本講義では著作権法・特許法の基本的な理念や考え方について、常に民法の基礎理論・法原則との比較を念頭に置いて説明をするとともに、これからの知的財産法のあり方を一緒に考えていく。講義は授業計画の通り進行する予定であるが、内容が必要に応じて変更することがある。
評価方法	第1に平常点として出席点と授業内容の理解を確認するために実施する振り返り課題 (40%) および第2に期末試験・レポート (60%) の結果により、総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン・民法から知的財産法へ（知的財産法の学習の進め方、資料収集の方法について） 本講義の目的：知的財産権保護に関わる法律および本講義の対象について民法の基礎理論から理解する （配布レジメ1・民法から知的財産法へ：2時間の復習）</p> <p>第2回 著作権法 本講義の目的：著作物性（著作物とは何か）について民法の基礎理論から理解する （配布レジメ・著作物性：2時間の復習）</p> <p>第3回 著作権法 本講義の目的：著作物性（著作物の種類、既存著作物を基礎とした著作物）について民法の基礎理論から理解する （配布レジメ・著作物性：2時間の復習）</p> <p>第4回 著作権法 本講義の目的：著作者・職務著作について民法の基礎理論から理解する （配布レジメ・著作者、職務著作：2時間の復習）</p> <p>第5回 著作権法 本講義の目的：著作権の内容、保護期間等について民法の基礎理論から理解する （配布レジメ・著作権の内容：2時間の復習）</p> <p>第6回 著作権法 本講義の目的：著作権の内容、制限等について民法の基礎理論から理解する （配布レジメ・著作権の内容：2時間の復習）</p> <p>第7回 著作権法 本講義の目的：著作者人格権、公表権、氏名表示権、同一性保持権等について民法の基礎理論から理解する （配布レジメ・著作者人格権：2時間の復習）</p> <p>第8回 特許法 本講義の目的：特許権の客体（発明や特許要件）について民法の基礎理論から理解する （配布レジメ・特許権の客体：2時間の復習）</p> <p>第9回 特許法 本講義の目的：特許権の主体（発明者、職務発明）について民法の基礎理論から理解する （配布レジメ・特許権の主体：2時間の復習）</p> <p>第10回 特許法 本講義の目的：権利取得の手続（出願、審査、審判）について手続法の基礎理論から理解する （配布レジメ・権利取得の手続：2時間の復習）</p> <p>第11回 特許法 本講義の目的：特許権の効力（クレームの解釈、均等論など）について民法の基礎理論から理解する （配布レジメ・特許権の効力：2時間の復習）</p> <p>第12回 特許法</p>
テキスト	<p>テキストは指定しませんが、講義の際には最新の改正を反映した条文を持参すること。手持ちの六法が改正に対応していない場合、e-Gov（法令データ提供システム）や、その他インターネット上で最新の条文を入手することができる。それらをプリントアウトやダウンロードするなどして講義中はいつでも参照できるようにすることが望ましい。</p>

参考書	知的財産法全体を概観するテキスト（これ1冊でも基礎的な知識は十分に学習することができるもの） 愛知靖之・前田健・金子敏哉・青木大也『知的財産法』（有斐閣、2018年） 平嶋竜太・宮脇正晴・蘆立順美『入門知的財産法』（有斐閣、2016年） 各論点に関する論文や判例なども紹介されており、より詳しく学ぶためのテキスト 島並良・上野達弘・横山久芳『特許法入門』（有斐閣、2014年） 島並良・上野達弘・横山久芳『著作権法入門〔第2版〕』（有斐閣、2016年） 具体的な事例と裁判例を学ぶ参考書として 小泉直樹・田村善之 ・駒田泰士・上野達弘編『著作権判例百選〔第6版〕』（有斐閣、2019年） 小泉直樹・田村善之編『特許判例百選〔第5版〕』（有斐閣、2019年）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業中に配布する判例資料等を通じて、受講生の見解・意見等を求めることにより、一方的な座学講義形式にならないよう工夫してきます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	弁護士としての知財関連事件の実務経験を活用し、知財関連事件の判例分析等、具体的なケースを題材とした説明を実施していきます。
質問への対応方法	授業の前後およびオフィスアワーなど随時対応します。
フィードバックの方法	講義後に実施する振り返りシートに関しては、次回講義を目処に具体的な判断・評価を示します。また、成績評価に関しては、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習2時間、復習2時間を目安として準備学習を心がけてください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力

開講科目名 Course	商法 / Commercial Law
時間割コード Course Code	40330
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	美濃羽正康
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	美濃羽正康 (法学部)
授業の目標	<p>この科目は、企業法関連科目の基礎科目にあたり、商法という法律全般にある理念や特質について学びます。特に、商法典中、商法第1編「総則」に現れる個人商人に関する内容を中心として、商人の人的・物的組織などについてどのような制度があり、また法規制がなされているか理解することができます。</p> <p>この科目では、商法典中、商法第1編「総則」に現れる個人商人に関する内容を中心として、商人の人的・物的組織などについて理解することができます。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識・理解の領域 この授業を受けて個人企業の人的・物的組織について理解することができます。</li> <li>・思考判断の領域 商法総則のように商人に特有の法を定めることが現代社会における経済活動とどのような関係を持つのか考えることにつながります。</li> <li>・関心意欲の領域 将来、自分で事業を始める場合、個人商人（自営業者）として活動することもあるかもしれません。起業する場合、個人企業とするのか、法人企業（会社）にするのか、あるいは、その企業の将来構想を考えるにあたって、この授業で学ぶことが役に立つでしょう。また自分が営業を始めたときどのような権利や義務があるのかがわかり、企業法関係の他の法律を学びきっかけになります。</li> <li>・質問への対応 随時受け付けます。またオフィスアワーの時間に法学部学習支援室で対応します。</li> </ul>
授業の概要	<p>この講義は、対面方式で行います。</p> <p>現代社会において、私たちが日常の生活に必要な物資を、生産者から直接買い求めることはほとんどありません。通常、生活必需品は企業を介して買っています。企業の活動なくしては、現代社会での生活は成り立たないと言って良いでしょう。商法は、企業の取引活動を円滑で安全にかつ迅速大量に行うための法分野です。</p> <p>商法は、企業の組織やその運営をめぐる法律関係に加えて、企業活動をどのように導くかという技術的な側面もあって、わかりづらい感じを受けるものと思います。そこで、まず企業の生活関係の特殊性について、民法が対象とする一般社会生活と企業生活の違いを解説します。そのうえで、それを規律する商法はいかなる法であるかを十分理解してもらうために、商法総則の規定内容を解説します。</p> <p>予習・復習について 授業計画に各回の授業内容とそれに対応するテキストの項目を明記しているので、テキストを読んで来るようにしてもらいたい。 各自、授業時の内容はきちんと整理しておくようにする。</p>
評価方法	毎回の課題、定期試験の結果で総合的に評価する。

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席回数 5回以上
授業計画	<p>1. 商法の意義 実質的意義の商法、商法の対象 テキスト P 2</p> <p>2. 商法の地位(1) 民商二法の分離 テキスト P 3 ~ P 7</p> <p>3. 商法の地位(2) 民法との相関関係 テキスト P 3 ~ P 7</p> <p>4. 商法の基本概念 商行為と商人 テキスト P 8 ~ P 13</p> <p>5. 商法の特質 内容上の特色、発展傾向上の特色 テキスト P 14 ~ P 17</p> <p>6. 商法の法源 法源の意義・種類、商慣習法の効力 法規適用の順序、商法の適用範囲 テキスト P 18 ~ P 23</p> <p>7. 商人と営業 商人の概念、商人資格の得喪、 テキスト P 26 ~ P 34</p> <p>8. 商業登記制度 登記手続、登記の効力、不実登記 テキスト P 35 ~ P 45</p> <p>9. 企業の本拠と標識(1) 商号の概念 テキスト P 46 ~ P 48</p> <p>10. 企業の本拠と標識(2) 商号の選定、商号登記の効果 テキスト P 48 ~ P 55</p> <p>11. 企業の譲渡(1) 営業の概念、営業財産、営業譲渡契約 テキスト P 63 ~ P 65</p> <p>12. 企業の譲渡(2) 営業譲渡の効果 テキスト P 66 ~ P 71</p> <p>13. 財産状態の記録 商業帳簿制度 テキスト P 73 ~ P 85</p> <p>14. 商人の補助者(1) 商業使用人 テキスト P 86 ~ P 90</p> <p>15. 商人の補助者(2) 支配人その他の使用人 テキスト P 90 ~ P 96</p>
テキスト	プライマリー商法総則商行為法(第3版)
参考書	現代商法入門 第9版 有斐閣 近藤 光男 / 編
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中またはメールでEメールで受け付ける。
フィードバックの方法	授業中に行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>予習について(約2時間) 毎回授業中に、予習範囲を発表するので、教科書を事前に熟読すること。 特に、教科書内で紹介している判例については、事前に調べておくこと。</p> <p>復習について(約2時間) 配布プリントとノートの整理。 どこまで理解できていて、どこが理解できていないかを確認し、不明点、疑問点を 放置しない。次回の授業時に質問すること。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標(11~17)	12.つくる責任つかう責任 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力



開講科目名 Course	会社法 / Corporation Law
時間割コード Course Code	40340
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	謝 芸甜
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	謝 芸甜 (法学部)
授業の目標	会社、特に株式会社の機関構造とガバナンスに関する具体的な法制度を理解する。 株式会社の実際の運営において、会社法上、どのような問題が生じており、それがどのように解決されるべきかについて、考えることができるようになる。
授業の概要	この講義は、対面（対面授業）で行う予定です。 会社は社会経済活動において非常に重要な役割を担っており、人々の生活に強く関わっています。 この講義では、日本において企業の主要な形態である株式会社を取り上げ、会社法の中から、株式会社の機関構造とコーポレート・ガバナンス(企業統治)について、法制度の基本的な構造、趣旨や目的、具体的な規制などを講義します。また、現実に企業において、どのような問題が起こっているのか、それが法的にどのような意味を持ち、どのように解決すべきであるのかななどを解説していきます。
評価方法	平常点：40% 期末テスト：60%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席回数 5回以上

授業計画	<p>授業の進行やレベル等については、受講者の状況に応じて、柔軟に対応していく予定にしていますが、現時点では、以下の通りとなります。</p> <p>第1回 オリエンテーション この講義の目的・概要と会社法の全体像を概説します。</p> <p>第2回 株式会社の機関構造 株式会社の機関構造と権限分配について解説します。</p> <p>第3回 業務執行機関と業務監査機関 株式会社（指名委員会等設置会社や監査等委員会設置会社を除く）の業務執行機関（取締役や取締役会）と、業務監査機関（取締役会や監査役、監査役会）について解説します。</p> <p>第4回 取締役会と代表取締役 取締役会と代表取締役の職務と権限について説明します。</p> <p>第5回 取締役の忠実義務と善管注意義務 取締役の忠実義務と善管注意義務の関係、善管注意義務の内容などを解説します。</p> <p>第6回 取締役の競業禁止義務 取締役の競業禁止義務について、会社法の規制を説明します。</p> <p>第7回 取締役の利益相反取引・報酬規制 取締役の利益相反取引と報酬について、会社法の規制を説明します。</p> <p>第8回 取締役の会社に対する責任 善管注意義務違反を中心に、取締役の会社に対する責任を検討します。</p> <p>第9回 取締役の第三者に対する責任 取締役の第三者に対する責任について、会社法の規定を解説します。</p> <p>第10回 監査機関・株主代表訴訟 監査役と会計監査人について、職務権限と両者の関係などを解説します。また、株主代表訴訟について説明します。</p> <p>第11回 株主総会の意義・実態 本年の株主総会の状況を中心に、株主総会の意義と実態を解説します。</p> <p>第12回 株主総会の招集・運営 株主総会の招集手続や、株主提案権・取締役等の説明義務などを取り上げます。</p> <p>第13回 株主総会の決議 株主議決権の行使方法、株主総会決議の瑕疵の処理方法について、会社法の規定を解説します。</p> <p>第14回 取締役会の運営・決議 取締役会の議決方法、決議の瑕疵の処理方法などについて、会社法の規定を解説します。</p> <p>第15回 まとめ 全14回の講義をまとめ、株式会社ガバナンスについての知識を整理します。</p>
テキスト	伊藤靖史＝大杉謙一＝田中亘＝松井秀征『会社法〔第5版〕』（有斐閣、2021年）
参考書	会社法と会社法施行規則・会社計算規則の掲載された六法（ポケット六法など）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業終了後もしくはオフィスアワーにおいて対応する。
フィードバックの方法	フィードバックは、授業中に適宜行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習としては、配付するレジュメを参考にして、次回講じられる個所をテキストで学習しておくことが望まれます（90分前後）。 復習としては、配布したレジュメおよび資料の内容とテキストを照らし合わせて、授業内容を復習することが望まれます（90分前後）。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10. 人や国の不平等をなくそう 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力

PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>
----------------	--

開講科目名 Course	労働法 / Labor Law
時間割コード Course Code	40360
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	宮本 雅史
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	宮本 雅史 (法学部)
授業の目標	<p>労働法は、人に雇われて働く（雇用）場面を対象にした法であり、社会人となって働く際にはもちろん、アルバイトにも関係する身近な法です。企業における人事労務管理は、労働法に沿って行われる一方、ブラック企業という言葉に代表されるように、労働法が完全には守られていない現実もあります。そのため、労働法を十分に理解することは、雇う側・雇われる側双方にとって、トラブルの防止・回避及び解決にとって非常に重要です。本講義では、労働基準法・労働契約法等の基礎知識について学び労働法の基本的な考え方を理解するとともに、次の能力を身につけることを目標とします。</p> <p>自らが雇用の場に入ったときに、その雇用の場で機能しているルールを理解できるようになる。 雇用の場における法的な問題に気づき、対処法や改善策を考えられるようになる。</p> <p>知識・理解の領域 雇用に関する基本的な法的ルールとその根底にある労働法の考え方を説明することができる。</p> <p>技能の領域 雇用の場に入ったときに、その場とそこで起こる出来事を法的に分析できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 ルールを守って働くこと・雇うことの重要性を理解し、ルールに沿った行動を取ったり、ルールに沿った行動を適切に他者に求めたりすることができるようになる。</p>
授業の概要	<p>目標達成のため、テキスト（教科書）の内容の解説と事例問題の検討を行います。原則として対面形式で実施し、受講生にも意見を求めることがあります。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンパリングを参照すること。</p>
評価方法	本講義では学習のための教材（課題）を提供し、基本的にはその課題によって評価します（60%）。また、授業内外での質問や意見の表明といった受講の姿勢や、予習の実施も評価の対象とします（40%）。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"><li>・欠席6回以上は失格とします。</li><li>・欠席・遅刻する場合、事前に連絡してください。（やむを得ない事情がある場合は事後連絡も認めます）</li><li>・授業中に行う課題については自分の力で解き、剽窃（いわゆるコピー）やカンニングなどは厳に慎んでください。</li></ul>

授業計画	第 1回 ガイダンス/労働法の役割と学び方 第 2回 労働法をスケッチしてみよう 第 3回 まとめ(1)労働法ってどんな法? 第 4回 働き始める 第 5回 労働契約のルール 第 6回 働くことをやめる(1) 第 7回 働くことをやめる(2) 第 8回 まとめ(2)労働契約にはどんな意味がある? 第 9回 働く時間 第10回 休む時間 第11回 働くことの対価 第12回 安全・快適に働く 第13回 まとめ(3)労働基準法の役割は? 第14回 労使自治と労働者代表制度 第15回 交渉と紛争、そして終息/まとめ(4)労働者と使用者の交渉手段は?
テキスト	浜村・唐津・青野・奥田著『ベーシック労働法 第9版』(有斐閣)
参考書	日本ワーカールール検定協会編『ワーカールール検定 問題集 2024年版』(旬報社) 村中・荒木編『労働判例百選 第10版』(有斐閣) 小畑・緒方・竹内(奥野)『労働法 第3版』(有斐閣) 水町勇一郎『労働法 第10版』(有斐閣)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	企業内弁護士として、企業の人事労務管理や法務の実務、トラブル・課題解決に携わってきた経験を活かした講義を行います。
質問への対応方法	オフィスアワー、ゼミの前後、メールで行います。
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題には模範解答を配布し、授業中に解説を行います。</li> <li>・質問には随時対応します。</li> </ul>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	教科書の指定範囲を事前に読む(60分程度)、事前に配布する予習用の課題を行う(20分程度)、復習用の課題を行う(40分程度)、返却された課題をもとに参考文献を読むなど復習を行う(90分程度)、雇用に関するニュースや新聞記事等を探して読む(30分程度)。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を 5. ジェンダー平等を実現しよう 8. 働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標(11~17)	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 9. 実践力

開講科目名 Course	法哲学 / Philosophy of Law
時間割コード Course Code	40370
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	清水 裕樹
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	清水 裕樹 (法学部)
授業の目標	私たちは動物と共存する世界に生きています。動物(それ以外の生き物)との共存として考えることを考えます。
授業の概要	「生き物」の権利とは何かを考えます。 おそらく、それなりに受講者数があると思いますので、基本的には講義形式で進めます。ただし、課題の内容を工夫し、それに対するコメントを授業中におこなうことなどで、できる限り一方通行の授業にはならないようにするつもりです。
評価方法	毎回の授業に対する課題を出し、コメントを求めます(15回)。課題の出し方については、授業の最初一回で決定します。ほかに、授業期間中にレポートを課します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特に考えたくはありませんが、欠席が10回を超える場合は失格とすることがあります。出席上の不正も失格の対象になります。
授業計画	授業計画は下記のとおりです。 第1回 この授業について、「動物」と「生き物」の定義。 第2回 「法」とは何か。 第3回 「人間」と「動物」との関係性。 第4回 日本法における動物〔1〕法律の中の動物。 第5回 日本法における動物〔2〕裁判の中の動物。 第6回 西洋法の歴史の中の動物 「動物裁判」とは何だったのか。 第7回 「生物多様性」を保全すべきか。 第8回 「生き物の大量絶滅」は必然か。 第9回 「人間」が「生き物」の絶滅させた歴史について。 第10回 「人間」は生き残る必要があるのか。 第11回 「保護されるべき生き物」とは何か。 第12回 「動物の権利」とは何か。 第13回 「動物以外の生き物」の権利。 第14回 「生き物を食べる」ということ。 第15回 改めて「人間と他の生き物との関係性」について。
テキスト	山田敏弘『＜正義＞の生物学』2020年講談社。 ゲイリー・L・フランシオン、井上太一(訳)『動物の権利入門』2018年緑風出版。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールでの対応をいたします。
フィードバックの方法	いただいたコメントに対する、お返事をいたします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	フィードバックとして、課題に対する振り返りをします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	行政救済法 / Administrative Remedy Law
時間割コード Course Code	40380
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	松本 未希子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	松本 未希子 (法学部)
授業の目標	<p>この講義は、誤った行政活動を是正したり、行政活動によって損害を被った私人を救済したりするための法制度について、基本的な知識を習得することを目標とします。</p> <p>知識・理解の領域 行政救済法の基本的概念・用語・理論・重要判例を理解し、説明できるようになる。</p> <p>技能の領域 事案に関連する法令をと特定し、その法令の解釈を導きだすことができるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 新聞やニュースでとりあげられる行政に関する紛争について関心をもつことができるようになる。</p>
授業の概要	<p>この講義では、行政救済法について学習します。</p> <p>行政活動により損害を被ったり、行政活動に不満があったりする場合、私たちはどのような救済が受けられるのでしょうか。行政活動に関する紛争については、行政活動の特殊性に鑑み、私人間の紛争とは異なる救済制度が用意されています。本講義では、それらの救済制度やその背後にある法理論について学習します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	復習課題 40% 期末試験 60%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。



授業計画	<p>第1回 行政訴訟(1)(テキスト:第10章1,)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政訴訟の種類について学ぶ。</li> </ul> <p>第2回 行政訴訟(2)(テキスト:第10章2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取消訴訟の要件のうち 処分性について学ぶ。</li> </ul> <p>第3回 行政訴訟(3)(テキスト:第10章2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取消訴訟の要件のうち 原告適格について学ぶ。</li> </ul> <p>第4回 行政訴訟(4)(テキスト:第10章2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取消訴訟の要件のうち 訴えの客観的利益とその他の要件、本案審理について学ぶ。</li> </ul> <p>第5回 行政訴訟(5)(テキスト:第10章3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取消訴訟以外の抗告訴訟のうち無効等確認訴訟と不作为の違法確認訴訟について学ぶ。</li> </ul> <p>第6回 行政訴訟(6)(テキスト:第10章3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取消訴訟以外の抗告訴訟のうち義務付け訴訟と差止訴訟について学ぶ。</li> </ul> <p>第7回 行政訴訟(7)(テキスト:第10章4,5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・抗告訴訟以外の行政訴訟のうち民衆訴訟と機関訴訟、仮の救済について学ぶ。</li> </ul> <p>第8回 行政上の不服申立て(1)(テキスト:第11章1,2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不服申立ての特色や種類、審査請求の適法要件について学ぶ。</li> </ul> <p>第9回 行政上の不服申立て(2)(テキスト:第11章3,4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・審査請求の方法及び裁決について学ぶ。</li> </ul> <p>第10回 国家賠償法(1)(テキスト:第12章1,2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国家賠償法が存在理由と守備範囲について説明する。</li> </ul> <p>第11回 国家賠償法(2)(テキスト:第12章2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公権力の行使の故意・過失と違法性について学ぶ。</li> </ul> <p>第12回 国家賠償法(4)(テキスト:第12章3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公の営造物の設置・管理の瑕疵による損害の賠償責任の性質や適用範囲について学ぶ。</li> </ul> <p>第13回 国家賠償法(5)(テキスト:第12章3,4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公の営造物の設置または管理の瑕疵について学ぶ。</li> </ul> <p>第14回 損失補償(1)(テキスト:第13章1,2,3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・損失補償と国家賠償との違いや損失補償の要否の基準について学ぶ。</li> </ul> <p>第15回 損失補償(2)(テキスト:第13章4,5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・損失補償の内容と残された課題について学ぶ。</li> </ul>
テキスト	野呂充・野口貴公美・飯島淳子・湊二郎著『有斐閣ストウディア 行政法〔第3版〕』(2023年、有斐閣)
参考書	斎藤誠・山本隆司 編『行政判例百選〔第8版〕』(2022年、有斐閣)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	総務省での勤務経験を有する教員が行政法の基本的事項について説明する。
質問への対応方法	授業中、授業後
フィードバックの方法	授業中、授業後、Google classroom
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>事前学習:教科書や判例百選の該当箇所を読むこと。疑問・わからない点があれば、メモをしておくこと。</p> <p>事後学習:学んだことを自分なりにノートなどにまとめること。テキストをもう一度読み、「QUESTION」や「CHECK」であげられている問いについて考えてみる。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> <li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li> <li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li> </ol>
SDGs 17の目標(11~17)	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 住み続けられるまちづくりを</li> <li>12. つくる責任つかう責任</li> <li>13. 気候変動に具体的な対策を</li> <li>14. 海の豊かさを守ろう</li> <li>15. 陸の豊かさを守ろう</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> </ol>

PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	刑法各論 / Criminal law(Specific offences)
時間割コード Course Code	40390
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	清水 裕樹
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	清水 裕樹 (法学部)
授業の目標	<p>&lt; 授業の目標 &gt;</p> <p>下記テキストを用い、刑法第二編「罪」の部分に含まれる犯罪類型のうち、特に重要なものと考えられる犯罪類型について、それぞれの基本的な内容と他の犯罪類型との相違について説明できることを目指す。また、授業では取り扱えなかった犯罪類型についても、自分で調べ、同様に基本的な内容について説明できるようになる力を養うことも目標としている。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;</p> <p>知識・理解の領域 授業で取り扱った犯罪類型のそれぞれについて、その基本的な内容と他の犯罪類型との相違について説明できる。</p> <p>技能の領域 刑法第2編の条文や、特別刑法の犯罪類型に関する条文を、教科書やコンメンタールを参考にして自ら解釈することができる。</p> <p>態度・志向性の領域 刑法による法益保護のあり方を、法システム全体、さらには法以外の社会規範との関連性の中で考えることができる。</p>
授業の概要	<p>&lt; 注意 &gt;</p> <p>本科目を履修するにあたっては、犯罪と法および刑法総論の単位を習得していることを強く希望する。また、授業前及び授業終了後にしっかりとテキストの関連するページを読んで、その内容を積極的に理解しようという姿勢が必要となるだろう。</p> <p>&lt; 授業について &gt;</p> <p>下記テキストの内容に沿って、刑法各論の中でも特に重要であると考えられる罪の部分について講義形式で授業を行う。授業回数が限られているので、重要性の高い論点を重点的に取り扱う。全15回の授業であるため、取り上げることができない重要な論点が他にもあるが、これらについてはテキストの該当部分をしっかりと読むことで自ら身につけて欲しい。受講者は、この授業へとしっかりと取り組むことで、その能力を十分に身につけることができるだろう。</p> <p>授業への理解度と学習習慣の確認を目的として、授業の区切りごとに小テストを複数回実施する。実施予定の日程については、授業計画票を参照のこと。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	小テスト50%（授業時間中に実施） 期末試験50% 出席はタブレットで確認する。授業開始後20分が経過した時点で、出席管理上欠席として取り扱う。 学生証不携帯の場合、特段の理由のない限り出席管理上欠席として処理する。その場合でも、当然授業は受けるべきであるとともに、小テストを受験した場合には採点の対象とする。 特別欠席は、所定の届の提出があった場合に限り認める。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	正当な理由のない欠席が6回以上、または連続して欠席3回以上となった場合失格とする。
授業計画	下記テキストの内容を踏まえて授業を行う。 初回授業時に受講上の注意を行うが、積極的な学ぶ姿勢が必要となる。 授業時には必ず六法及びテキストを持参すること。 法解釈学は「条文ありき」の学問であるので、六法やテキストは、必ず最新のものを準備すること。 この授業では、教科書出版後に行われた法改正の内容を踏まえ、現に施行されている内容に基づいて講義を行う。予習復習などに際しては、適宜最新の条文やテキストも参照すること。  詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	井田良『入門刑法学 各論 第2版』有斐閣2018年
参考書	伊東・松宮編著『新・コンメンタール刑法【第2版】』日本評論社2021年、前田他編『条解刑法第4版』弘文堂2020年、井田良『入門刑法学 総論』有斐閣2013年 その他、必要に応じて紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内容に対して質問がある場合、原則として授業時間中、又は授業後に受け付ける。質問の性質上、短時間での対応が不可能である場合などには、メールにより随時質問を受け付ける。
フィードバックの方法	授業期間中に実施した小テストについて、原則として次回授業時に回答を配布し、解説する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	「授業計画」を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	刑法総論から刑法各論へ	刑法総論の内容の簡単な振り返り 刑法総論と刑法各論の違い  授業終了後に、授業内容の振り返りを行うこと(2時間)	
2	刑法による生命の保護(1)	はじめに 生命保護のための処罰規定の概観  授業開始時までに、テキストの該当部分を読んでおくこと(2時間) 授業終了後に、授業内容の振り返りを行うこと(2時間)	
3	刑法による生命の保護(2)	人の始期と終期  授業開始時までに、テキストの該当部分を読んでおくこと(2時間) 授業終了後に、授業内容の振り返りを行うこと(2時間)	
4	刑法による身体の保護(1)	はじめに 傷害の概念  授業開始時までに、テキストの該当部分を読んでおくこと(2時間) 授業終了後に、授業内容の振り返りを行うこと(2時間)	
5	刑法による身体の保護(2)	暴行罪・傷害罪・傷害致死罪 過失傷害罪  授業開始時までに、テキストの該当部分を読んでおくこと(2時間) 授業終了後に、授業内容の振り返りを行うこと(2時間)	
6	自由とその保護(1)	はじめに 脅迫罪と逮捕・監禁罪 小テスト実施(10%)  授業開始時までに、テキストの該当部分を読んでおくこと(2時間) 授業終了後に、授業内容の振り返りを行うこと(2時間)	
7	自由とその保護(2)	性的な自由に対する罪  授業開始時までに、テキストの該当部分を読んでおくこと(2時間) 授業終了後に、授業内容の振り返りを行うこと(2時間) 授業終了後に、小テストの解説を読み返して理解すること(30分)	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
8	財産犯総論(1)	はじめに 現行刑法による財産の保護 小テスト実施(10%)  授業開始時までに、テキストの該当部分 を読んでおくこと(2時間) 授業終了後に、授業内容の振り返りを行 うこと(2時間)	
9	財産犯総論(2)	財産犯の保護法益 不法領得の意思  授業開始時までに、テキストの該当部分 を読んでおくこと(2時間) 授業終了後に、小テストの解説を読み返 して理解すること(30分) 授業終了後に、授業内容の振り返りを行 うこと(2時間)	
10	財産犯各論(1)	はじめに 器物損壊罪、窃盗罪と強盗罪  授業開始時までに、テキストの該当部分 を読んでおくこと(2時間) 授業終了後に、授業内容の振り返りを行 うこと(2時間)	
11	財産犯各論(2)	詐欺罪と恐喝罪  授業開始時までに、テキストの該当部分 を読んでおくこと(2時間) 授業終了後に、授業内容の振り返りを行 うこと(2時間)	
12	財産犯各論(3)	横領罪  小テスト実施(10%)  授業開始時までに、テキストの該当部分 を読んでおくこと(2時間) 授業終了後に、授業内容の振り返りを行 うこと(2時間)	
13	社会的法益に対する罪(1)	超個人的な法益を保護すること 放火罪  授業開始時までに、テキストの該当部分 を読んでおくこと(2時間) 授業終了後に、小テストの解説を読み返 して理解すること(30分) 授業終了後に、授業内容の振り返りを行 うこと(2時間)	
14	社会的法益に対する罪(2)	賭博罪、富くじ罪  小テスト実施(10%)  授業開始時までに、テキストの該当部分 を読んでおくこと(2時間) 授業終了後に、授業内容の振り返りを行 うこと(2時間)	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	国家的法益に対する罪	汚職の罪  小テスト実施(10%)  授業開始時までに、テキストの該当部分 を読んでおくこと(2時間) 授業終了後に、小テストの解説を読み返 して理解すること(30分) 授業終了後に、授業内容の振り返りを行 うこと(2時間)	

開講科目名 Course	刑事訴訟法 / Criminal procedure
時間割コード Course Code	40400
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	遠山 圭一
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	遠山 圭一 (法学部)
授業の目標	<p>この授業では、刑事訴訟法の内容や構造を習得し、具体的事例や実務上の問題点の検討を通じて、事案分析能力や論理的思考力を習得することを目的とします。</p> <p>論理的思考力（物事を論理立てて考えていく力）は、法学のみならず、日常生活、資格取得、仕事上においても重要なスキルであり、論理的思考力を鍛えることで社会で活躍できる能力を習得します。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;</p> <p>知識・理解の領域 手続の流れに沿って刑事訴訟法の基本概念と基本構造を把握することができる。</p> <p>技能の領域 法を解釈・適用し、事案を解決するための論理的技能を習得することができる。</p> <p>態度・志向性の領域 社会で起きるさまざまな法的問題について解決の方向性を示すことができるようになる。 また、刑事手続上の当事者や関係者となった場合（裁判員など）に与えられた役割を果たすことができるようになる。</p>
授業の概要	<p>&lt; 授業概要 &gt;</p> <p>授業の進行は配布するプリントに沿って行います。 授業時に六法を持参することが望ましい。 授業の進行に応じて数回課題を行う予定です。</p> <p>&lt; 科目の位置づけ &gt;</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業態度、課題への取り組み（40%）、期末試験又は期末レポート（60%）の割合で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席が5回以上となった場合、失格となります。 2回の遅刻で1回の欠席となりますので注意してください。



授業計画	<p>授業の進行に応じて、授業期間内に数回課題を行う予定です。 以下の予定は変更する場合があります。</p> <p>&lt; 授業計画 &gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 総論</li> <li>3 捜査の端緒</li> <li>4 捜査に関する一般規範、逮捕・勾留</li> <li>5 逮捕・勾留、逮捕・勾留に関する諸問題</li> <li>6 捜索・押収・検証等</li> <li>7 供述を得るための捜査、被疑者の防御</li> <li>8 公訴提起</li> <li>9 公判手続の流れ</li> <li>10 審判の対象</li> <li>11 証明と認定</li> <li>12 伝聞証拠の証拠能力</li> <li>13 自白の証拠能力と証明力、違法収集証拠の証拠能力</li> <li>14 裁判</li> <li>15 まとめ</li> </ol>
テキスト	必要に応じてプリントを配布します。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	弁護士として、民事事件刑事事件に携わっている教員が、捜査段階や公判段階における弁護活動等の実務経験を活かして、実務的な観点から、刑事訴訟法の基本的知識や諸問題について解説する科目である。
質問への対応方法	授業前後やメールにて対応します。 メールアドレス：tooyama-k@nagoya-ku.ac.jp
フィードバックの方法	授業内で実施する演習問題などは、授業内に評価を示します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の内容に応じて、適宜、予習・復習時間を示します。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力

開講科目名 Course	民事訴訟法 / Civil Procedure
時間割コード Course Code	40410
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	張 瑞輝
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	張 瑞輝 (法学部)
授業の目標	<p>実体法上の法律関係を的確に把握していることを前提として、その実体に適合する手続の流れと選択を為し得るように、手続の流れに沿って民事訴訟法の基本概念と基本構造を習得することを授業目標とする。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 手続の流れに沿って民事訴訟法の基本概念と基本構造を把握することができる。 制度の趣旨や学説の解釈についてその要点をしっかりと理解することができる。</p> <p>態度・思考性の領域 法改正の課題と動向について自ら進んで調べるようになる。</p> <p>技能の領域 民事訴訟法の基本判例を読み解くテクニックが身につく。 通説の通説たる所以や判例の意義を正しく理解することができるようになる。</p>
授業の概要	<p>&lt;授業の概要&gt;</p> <p>本講義の進行に関しては、配布資料であるレジュメに沿って、民事訴訟法の個々の条文の構造と解釈ならびに学説上の議論状況の解説・分析を時間的に可能な範囲内で手続全体について行う。</p> <p>&lt;科目の位置づけ&gt;</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	・平常点 (受講態度、授業中の課題への取り組み) 40%、期末試験60%の割合で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1条【欠席制限について】 欠席が5回を超えた場合は、失格とする。</p> <p>2条【大学規則に基づく正当な事由について】 大学規則に基づく正当な事由を証明するために、書面にて関係書類を提出し、立証責任を負わなければならない。</p>

授業計画	<p>第1部 総論</p> <p>第1回 民事訴訟法の世界への扉</p> <p>第2部 訴訟の主体</p> <p>第2回 裁判所</p> <p>第3回 当事者</p> <p>第3部 訴え</p> <p>第4回 訴え</p> <p>第5回 訴訟要件</p> <p>第6回 訴訟物</p> <p>第4部 訴訟の審理</p> <p>第7回 審理における当事者の弁論活動と裁判所の役割</p> <p>第8回 口頭弁論とその準備</p> <p>第9回 証拠</p> <p>第5部 訴訟の終了</p> <p>第10回 当事者の訴訟行為による訴訟の終了</p> <p>第11回 裁判所の終局判決による訴訟の終了</p> <p>第6部 上訴・再審</p> <p>第12回 上訴・再審</p> <p>第7部 複雑な訴訟形態</p> <p>第13回 請求の客観的複数</p> <p>第14回 請求の主観的複数</p> <p>第8部 特別の手續</p> <p>第15回 略式訴訟手續</p>
テキスト	プリントを配布する。
参考書	<p>===初級===</p> <p>和田吉弘『コンパクト版 基礎からわかる民事訴訟法 第2版』（商事法務、2023年）</p> <p>長谷部由紀子『基本判例から民事訴訟法を学ぶ』（有斐閣、2022年）</p> <p>伊藤眞『民事訴訟法への招待』（有斐閣、2022年）</p> <p>高橋宏志『民事訴訟法概論』（有斐閣、2016年）</p> <p>===中級・上級===</p> <p>三木浩一・笠井正俊・垣内秀介・菱田雄郷『民事訴訟法（LEGAL QUEST） 第4版』（有斐閣、2023年）</p> <p>和田吉弘『基礎からわかる民事訴訟法 第2版』（商事法務、2022年）</p> <p>===判例・争点===</p> <p>高田裕成・畑瑞穂・垣内秀介（編）『民事訴訟法判例百選 第6版』（有斐閣、2023年）</p> <p>伊藤眞・山本和彦（編）『民事訴訟法の争点』（有斐閣、2009年）</p> <p>===演習・司法試験===</p> <p>越山和弘『Basic Study 民事訴訟法 第2版』（法律文化社、2023年）</p> <p>越山和弘『ロジカル演習 民事訴訟法』（弘文堂、2022年）</p> <p>勅使川原和彦『読解 民事訴訟法』（有斐閣、2015年）</p> <p>杉山悦子『民事訴訟法重要問題とその解法』（日本評論社、2014年）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・オフィスアワー等。相談により随時対応する。
フィードバックの方法	<p>・当該授業は、対面方式でありながらも、Google Classroomを併用する予定である。第1回の授業の際にGoogle Classroomへ参加方法また必要な情報を提示する。</p> <p>・授業のフィードバックは、原則として、Google Classroomの諸機能（添削、返却、等）を利用して行う。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>・予習復習等、準備学習の内容は、前記テキストと参考書の該当範囲のほか、Google Classroomを利用して配布する予定である。</p> <p>・予習復習等、準備学習の時間は、各回で少なくとも4時間以上を要する内容となっているため、該当範囲を事前に閲読した上での受講が必要となる。</p>
使用言語	日本語

SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	5.自信創出力 7.課題発見力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	第1回 民事訴訟法の世界への扉		第1部 総論
2	第2回 裁判所	(裁判権、管轄、移送、除斥・忌避・回避)	第2部 訴訟の主体
3	第3回 当事者	(当事者の概念と確定、当事者能力、訴訟能力、訴訟上の代理)	
4	第4回 訴え	(概念と種類、訴えの提起)	第3部 訴え
5	第5回 訴訟要件	(訴えの利益、当事者適格〔第三者の訴訟担当〕)	
6	第6回 訴訟物		
7	第7回 審理における当事者の弁論活動と裁判所の役割	(処分権主義、弁論主義、職権進行主義)	第4部 訴訟の審理
8	第8回 口頭弁論とその準備	(口頭弁論に関する諸原則等)	
9	第9回 証拠	(証拠、証拠の評価、証明責任)	
10	第10回 当事者の訴訟行為による訴訟の終了	(訴えの取下げ、請求の放棄・認諾、訴訟上の和解)	第5部 訴訟の終了
11	第11回 裁判所の終局判決による訴訟の終了	(終局判決、既判力の客観的範囲、主観的範囲、時的限界)	
12	第12回 上訴・再審		第6部 上訴・再審
13	第13回 請求の客観的複数	(訴えの併合、訴えの変更、反訴、中間確認の訴え)	第7部 複雑な訴訟形態
14	第14回 請求の主観的複数	(共同訴訟、訴訟参加〔補助参加、独立当事者参加〕)	
15	第15回 略式訴訟手続	(手形・小切手訴訟、少額訴訟手続、督促手続等)	第8部 特別の手続

開講科目名 Course	資格・検定講座 I (宅建対策) / Certificate examination course I
時間割コード Course Code	41000
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	福島 崇弘
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 2 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	福島 崇弘 (法学部)
授業の目標	本講義は、法律の基礎及び実例 (法律の使い方) と宅地建物取引士試験合格について必要な能力を身につける。 〔知識・理解の観点〕 各法律の立法の目的、内容について丁寧に説明することで、宅建試験合格に達する力を身につけることができる。 〔思考・診断の観点〕 宅建業法を学ぶことで、不動産取引に関する問題点に気づくことができる。 〔関心・意欲の観点〕 不動産取引に必要な資格の取得ができる。 〔態度の観点〕 現実の不動産取引に関係する制度から、就職について考えるようになる。
授業の概要	宅建資格は、不動産取引業に必須の国家資格であり、法学部の学生が最初に目指す資格といわれている。しかし、学生にとっては理解しにくいものである。本講義は、立法趣旨、イメージ、実例を挙げ、単なる暗記にならない、深い知識を習得することができる。
評価方法	受講状況 (30%) と課題の結果 (70%) により評価する。 指定教材を講義に持参しない場合には、欠席などの取り扱いとします 期末試験あり
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	1. ガイダンス、法律の学習方法 2. 民法基礎 (意思表示) 3. 民法基礎 (制限行為能力者、時効) 4. 民法基礎 (代理) 5. 民法基礎 (債務不履行、危険負担) 6. 民法基礎 (担保責任) 7. 民法基礎 (相続) 8. 民法基礎 (物権変動) 9. 民法基礎 (担保物権) 10. 民法基礎 (保証) 11. 民法基礎 (共有) 12. 民法基礎 (区分所有法、不動産登記法) 13. 民法基礎 (賃貸借) 14. 民法基礎 (借地借家法) 15. 民法基礎 (借地借家法)

テキスト	テキストは「2024 LEC どこでも宅建とらの巻」、「出る順宅建 ×1000肢問題集」、「LEC 出た順ワーク問」を使用します。大切な教材ですので必ず購入してください。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールでの質問に回答をいたします。
フィードバックの方法	メールでの質問に回答をいたします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	必ず「〇×1問1答問題集」については該当箇所を3回解き復習すること 予習については不要です
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	資格・検定講座II(宅建対策) / Certificate examination course II
時間割コード Course Code	41010
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	福島 崇弘
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 2 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	福島 崇弘 (法学部)
授業の目標	<p>本講義は、法律の基礎及び実例(法律の使い方)と宅地建物取引士試験合格について必要な能力を身につける。</p> <p>〔知識・理解の観点〕 各法律の立法の目的、内容について丁寧に説明することで、宅建試験合格に達する力を身につけることができる。</p> <p>〔思考・診断の観点〕 宅建業法、その他の関連法令を学ぶことで、不動産取引に関する問題点に気づくことができる。</p> <p>〔関心・意欲の観点〕 不動産取引に必要な資格の取得ができる。</p> <p>〔態度の観点〕 現実の不動産取引に関係する制度から、就職について考えるようになる。</p>
授業の概要	宅建資格は、不動産取引業に必須の国家資格であり、法学部の学生が最初に目指す資格といわれている。しかし、学生にとっては理解しにくいものである。本講義は、立法趣旨、イメージ、実例を挙げ、単なる暗記にならない、深い知識を習得することができる。
評価方法	受講状況(30%)と課題の結果(70%)により評価する。 指定教材を講義に持参しない場合には、欠席などの取り扱いとします 期末試験あり
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。



授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宅建業法基礎（免許、事務所）</li> <li>2. 宅建業法基礎（宅地建物取引士）</li> <li>3. 宅建業法基礎（保証金）</li> <li>4. 宅建業法基礎（媒介、代理、広告規制）</li> <li>5. 宅建業法基礎（重要事項説明）</li> <li>6. 宅建業法基礎（37条書面）</li> <li>7. 宅建業法基礎（自ら売主制限）</li> <li>8. 宅建業法基礎（報酬額、監督、罰則）</li> <li>9. 宅建業法実践（免許、事務所）</li> <li>10. 宅建業法実践（宅地建物取引士）</li> <li>11. 宅建業法実践（保証金）</li> <li>12. 宅建業法実践（媒介、広告規制）</li> <li>13. 宅建業法実践（重要事項説明）</li> <li>14. 宅建業法実践（37条書面）</li> <li>15. 宅建業法実践（自ら売主制限、報酬額）</li> </ol>
テキスト	テキストは「2024 LEC どこでも宅建とらの巻」、「出る順宅建 ×1000肢問題集」、「LEC 出た順ワーク問」を使用します。大切な教材ですので必ず購入してください。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールでの対応いたします
フィードバックの方法	メールでの対応いたします
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	必ず「○×1問1答問題集」については該当箇所を3回解き復習すること 予習については不要です
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	資格・検定講座III(宅建対策) / Certificate examination course III
時間割コード Course Code	41020
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	福島 崇弘
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	福島 崇弘 (法学部)
授業の目標	本講義は、法律の基礎及び実例(法律の使い方)と宅地建物取引士試験合格について必要な能力を身につける。 〔知識・理解の観点〕 各法律の立法の目的、内容について丁寧に説明することで、宅建試験合格に達する力を身につけることができる。 〔思考・診断の観点〕 宅建業法を学ぶことで、不動産取引に関する問題点に気づくことができる。 〔関心・意欲の観点〕 不動産取引に必要な資格の取得ができる。 〔態度の観点〕 現実の不動産取引に関係する制度から、就職について考えるようになる。
授業の概要	宅建資格は、不動産取引業に必須の国家資格であり、法学部の学生が最初に目指す資格といわれている。しかし、学生にとっては理解しにくいものである。本講義は、立法趣旨、イメージ、実例を挙げ、単なる暗記にならない、深い知識を習得することができる。
評価方法	受講状況(30%)と講義ごとの課題の結果(70%)により評価する。 指定教材を講義に持参しない者は欠席等の取り扱いとします 期末試験あり
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、法律の学習方法</li> <li>2. 法令上の制限実践（都市計画法）</li> <li>3. 法令上の制限実践（都市計画法）</li> <li>4. 法令上の制限実践（都市計画法）</li> <li>5. 法令上の制限実践（建築基準法）</li> <li>6. 法令上の制限実践（建築基準法）</li> <li>7. 法令上の制限実践（建築基準法）</li> <li>8. 法令上の制限実践（農地法）</li> <li>9. 法令上の制限実践（国土利用法）</li> <li>10. 法令上の制限実践（宅地造成法）</li> <li>11. 法令上の制限実践（土地区画整理法）</li> <li>12. 法令上の制限実践（その他の制限、税金）</li> <li>13. 法令上の制限実践（価格認定）</li> <li>14. 法令上の制限実践（5問免除分野）</li> <li>15. 法令上の制限基礎（5問免除分野）</li> </ol> <p>テキストは2020どこでも宅建 とらの巻の1冊、出る順宅建 × 1000肢問題集を使用します。大切な教材ですので?のテキストは必ず購入してください。別途LEC 出る順宅建ウォーク問題集などの過去問題集があるので、そちらも必ず使用し各自復習すること。</p>
テキスト	テキストは2020 LEC どこでも宅建とらの巻2023年度 出る順宅建 × 1000肢問題集2023年度を使用します。大切な教材ですので?のテキストは必ず購入してください。
参考書	テキストは「2023 LEC どこでも宅建とらの巻」、「出る順宅建 × 1000肢問題集」、「LEC 出た順ウォーク問」を使用します。大切な教材ですので必ず購入してください。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールでの対応いたします
フィードバックの方法	メールでの対応いたします
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	必ず「〇×1問1答問題集」については該当箇所を3回解き復習すること 予習については不要です
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	資格・検定講座IV(宅建対策) / Certificate examination course IV
時間割コード Course Code	41030
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	福島 崇弘
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	福島 崇弘 (法学部)
授業の目標	<p>本講義は、法律の基礎及び実例(法律の使い方)と宅地建物取引士試験合格について必要な能力を身につける。</p> <p>〔知識・理解の観点〕 各法律の立法の目的、内容について丁寧に説明することで、宅建試験合格に達する力を身につけることができる。</p> <p>〔思考・診断の観点〕 宅建業法、その他の関連法令を学ぶことで、不動産取引に関する問題点に気づくことができる。</p> <p>〔関心・意欲の観点〕 不動産取引に必要な資格の取得ができる。</p> <p>〔態度の観点〕 現実の不動産取引に関係する制度から、就職について考えるようになる。</p>
授業の概要	宅建資格は、不動産取引業に必須の国家資格であり、法学部の学生が最初に目指す資格といわれている。しかし、学生にとっては理解しにくいものである。本講義は、立法趣旨、イメージ、実例を挙げ、単なる暗記にならない、深い知識を習得することができる。
評価方法	受講状況(30%)と講義ごとの課題の結果(70%)により評価する。 指定教材を持参しない場合には、欠席等の取り扱いとします 期末試験あり
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宅建業法実践（免許、事務所、宅地建物取引士）</li> <li>2. 宅建業法実践(保証金、媒介代理、広告)</li> <li>3. 宅建業法実践(重要事項、37条書面)</li> <li>4. 宅建業法実践(業務上規制、自ら売主制限)</li> <li>5. 宅建業法実践(報酬、監督処分、罰則)</li> <li>6. 宅建業法</li> <li>7. 宅建業法まとめ</li> <li>8. 民法実践（意思表示、制限行為能力者、時効）</li> <li>9. 民法実践（代理、債務不履行、危険負担、担保責任）</li> <li>10. 民法実践（相続、物権変動、担保物権）</li> <li>11. 民法実践（保証、共有、区分所有法、不動産登記法）</li> <li>12. 民法実践（賃貸借、借地借家法）</li> <li>13. 民法実践（賃貸借、借地借家法）</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
テキスト	テキストは どこでも宅建 とらの巻テキスト2023年度;、出る順宅建 ×1000肢問題集2023年度を使用します。大切な教材ですので?のテキストは必ずご持参してください。
参考書	テキストは「2023 LEC どこでも宅建とらの巻」、「出る順宅建 ×1000肢問題集」、「LEC出た順ワーク問」を使用します。大切な教材ですので必ず購入してください。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールでの対応いたします
フィードバックの方法	メールでの対応いたします
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	必ず「○×1問1答問題集」については該当箇所を3回解き復習すること 予習については不要です
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	特殊専門講義 (中国法) / Special Lecture on Specialized Studies II
時間割コード Course Code	42000
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	白出 博之
科目区分 Course Group	専門科目群 特殊科目
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	白出 博之 (法学部)
授業の目標	この授業では1949年の新中国成立以降における中国法制度の全体像を把握するとともに、中国法における基本的考え方や関連する制度の概要について日本法の関連制度と比較しながら理解することを目標とする。 今年度は中国の司法制度、民商法制度に重点を置く。
授業の概要	本講義では、第1に、中国法の基本的枠組み、すなわち、現代中国における国家制度、中国の法律体系、司法制度について概説する。具体的には、まず中国の実体法のうち 憲法及び立法法、行政法、次に手続法のうち 民事訴訟法、 行政訴訟法、 刑事訴訟法を比較しながら、その要点を紹介していく。 本講義では、上述の各制度及び諸法の基本的理念や考え方について、常に日本法の基礎理論との比較を念頭に置いた説明を行い、「中国の特色のある法治」のあり方を学生諸君とともに考えていく。 講義は授業計画の通り進行する予定であるが、具体的内容や順序については必要に応じて変更することがある。
評価方法	第1に平常点については出席点と授業内容の理解を確認するために実施する振り返り課題 (40%) および第2に期末試験・レポート (60%) の結果により、総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン・現代中国法の歴史等（中国法の学習の進め方、資料収集の方法について） 本講義の目的：中国の法制度及び本講義の対象について理解する （配布レジメ・現代中国法の歴史等：2時間の予習・復習）</p> <p>第2回 中国の憲法関連制度 本講義の目的：中国憲法の概要について日本国憲法と対比して理解する （配布レジメ・中国の憲法関連制度：2時間の予習・復習）</p> <p>第3回 中国の憲法関連制度 本講義の目的：中国憲法、立法法の概要について日本国憲法と対比して理解する理解する （配布レジメ・中国の憲法、立法法：2時間の予習・復習）</p> <p>第4回 中国の憲法関連制度 本講義の目的：中国憲法、行政法の概要について日本国憲法と対比して理解する理解する （配布レジメ・中国の憲法、行政法：2時間の予習・復習）</p> <p>第5回 中国法律制度概説 本講義の目的：現代中国の国家制度、中国的特色のある法律体系、司法制度について理解する （配布レジメ・中国法律制度概説：2時間の予習・復習）</p> <p>第6回 中国の司法制度 総論 本講義の目的：中国の司法制度（民事訴訟法、行政訴訟法、刑事訴訟法）につき日本法と対比して理解する （配布レジメ・中国の裁判制度（民事訴訟法：2時間の予習・復習）</p> <p>第7回 中国の司法制度 各論 本講義の目的：中国の司法制度 各論（民事訴訟法）につき日本法と対比して理解する （配布レジメ・中国の裁判制度（民事訴訟法：2時間の予習・復習）</p> <p>第8回 中国の司法制度 各論 本講義の目的：中国の司法制度（行政訴訟法）につき日本法と対比して理解する （配布レジメ・中国の裁判制度（行政訴訟法：2時間の予習・復習）</p> <p>第9回 中国の司法制度 各論 本講義の目的：中国の司法制度（刑事訴訟法）につき日本法と対比して理解する （配布レジメ・中国の裁判制度（刑事訴訟法：2時間の予習・復習）</p> <p>第10回 中国の民商法関連制度 本講義の目的：中国民法典の概要（総則編）につき日本民法と対比して理解する （配布レジメ・中国民法典の概要1：2時間の予習・復習）</p> <p>第11回 中国の民商法制度 本講義の目的：中国民法典の概要（物権編）につき日本民法と対比して理解する （配布レジメ・中国民法典の概要2：2時間の予習・復習）</p> <p>第12回 中国の民商法制度 本講義の目的：中国民法典の概要（契約編）につき日本民法と対比して理解する （配布レジメ・中国民法典の概要3：2時間の予習・復習）</p> <p>第13回 中国の民商法制度 本講義の目的：中国民法典の概要（人格権、権利侵害責任編）につき日本法と対比して理解する （配布レジメ・中国民法典の概要4：2時間の予習・復習）</p> <p>第14回 中国の民商法制度 本講義の目的：中国の商事法の（会社法、証券法）につき日本法と対比して理解する （配布レジメ・中国の商事法：2時間の予習・復習）</p> <p>第15回 総括 本講義の目的：これまでの講義を振り返っての補充・総括を行う （配布レジメ・中国法まとめ：2時間の予習・復習）</p>
テキスト	テキストは指定しません（各自の興味関心の強い分野については配布レジメの引用文献および後掲の参考書を参照してください）。
参考書	高見澤磨、鈴木賢、宇田川幸則、坂口一成『現代中国法入門・第8版』（有斐閣、2019）。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業中に配布する資料等を通じて、受講生の見解・意見等を求めることにより、一方的な座学講義形式にならないよう工夫してきます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	JICA長期派遣専門家・弁護士としての中国法制度整備支援の実務経験を活用し、中国法の案例分析等、具体的なケースを題材とした説明を実施していきます。
質問への対応方法	授業の前後およびオフィスアワーなど随時対応します。
フィードバックの方法	講義後に実施するに振り返りシートについては、次回講義において具体的な回答等を示します。また、成績評価に関しては、評価に関する疑問等申出期間において対応します。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習2時間、復習2時間を目安として準備・学習を心がけてください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力



開講科目名 Course	演習 A / SeminarIA
時間割コード Course Code	49100
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	謝 芸甜
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 2 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	謝 芸甜 (法学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 ゼミオリエンテーション、履修登録の確認、他己紹介  2回目 各ゼミ2 ビデオ鑑賞1  3回目 各ゼミ3 ビデオ鑑賞2  4回目 合同ゼミ（企画1）「理事長講話」  5回目 合同ゼミ（企画2）「大学生のメンタルヘルス」  6回目 合同ゼミ（企画3）「PROGテスト」  7回目 各ゼミ4 グループ学習1（データ調査、分析）  8回目 各ゼミ5 グループ学習2（データ調査、分析）  9回目 各ゼミ6 グループ学習3（データ調査、分析）  10回目 合同ゼミ（企画4）「国際交流案内」  11回目 合同ゼミ（企画5）「地域連携・犬山学」  12回目 合同ゼミ（企画6）「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」  13回目 各ゼミ7 プレゼンテーション1  14回目 各ゼミ8 プレゼンテーション2  15回目 各ゼミ9 「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。</p> <p>授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	14.海の豊かさを守ろう 15.陸の豊かさを守ろう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIA
時間割コード Course Code	49101
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	ウミリデノブ アリシエル
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70F 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ウミリデノブ アリシエル (法学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1  2回目 各ゼミ2  3回目 各ゼミ3  4回目 合同ゼミ（企画1）  5回目 合同ゼミ（企画2）  6回目 合同ゼミ（企画3）  7回目 各ゼミ4  8回目 各ゼミ5  9回目 各ゼミ6  10回目 合同ゼミ（企画4）  11回目 合同ゼミ（企画5）  12回目 合同ゼミ（企画6）  13回目 各ゼミ7  14回目 各ゼミ8  15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。  また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。  そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。  授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIA
時間割コード Course Code	49102
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	宮本 雅史
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	宮本 雅史 (法学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIA
時間割コード Course Code	49103
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	水谷 仁
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水谷 仁 (法学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	演習 A / SeminarIA
時間割コード Course Code	49104
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	高橋 勝也
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70E 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高橋 勝也 (法学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIA
時間割コード Course Code	49105
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	福島 崇弘
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 5 C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	福島 崇弘 (法学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1  2回目 各ゼミ2  3回目 各ゼミ3  4回目 合同ゼミ（企画1）  5回目 合同ゼミ（企画2）  6回目 合同ゼミ（企画3）  7回目 各ゼミ4  8回目 各ゼミ5  9回目 各ゼミ6  10回目 合同ゼミ（企画4）  11回目 合同ゼミ（企画5）  12回目 合同ゼミ（企画6）  13回目 各ゼミ7  14回目 各ゼミ8  15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。  また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。  そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。  授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIA
時間割コード Course Code	49106
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	近藤 久雄
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	近藤 久雄 (法学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1（法学部へようこそ：履修登録確認、自己紹介）  2回目 各ゼミ2  3回目 各ゼミ3  4回目 合同ゼミ（企画1）  5回目 合同ゼミ（企画2）  6回目 合同ゼミ（企画3）  7回目 各ゼミ4  8回目 各ゼミ5  9回目 各ゼミ6  10回目 合同ゼミ（企画4）  11回目 合同ゼミ（企画5）  12回目 合同ゼミ（企画6）  13回目 各ゼミ7  14回目 各ゼミ8  15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。  また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。  そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。  授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	14.海の豊かさを守ろう 15.陸の豊かさを守ろう
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力 6.行動持続力

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIA
時間割コード Course Code	49107
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	松本 未希子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	松本 未希子 (法学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1  2回目 各ゼミ2  3回目 各ゼミ3  4回目 合同ゼミ（企画1）  5回目 合同ゼミ（企画2）  6回目 合同ゼミ（企画3）  7回目 各ゼミ4  8回目 各ゼミ5  9回目 各ゼミ6  10回目 合同ゼミ（企画4）  11回目 合同ゼミ（企画5）  12回目 合同ゼミ（企画6）  13回目 各ゼミ7  14回目 各ゼミ8  15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。  また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。  そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。  授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	演習 A / SeminarIA
時間割コード Course Code	49108
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	趙 民秀
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	趙 民秀 (法学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1  2回目 各ゼミ2  3回目 各ゼミ3  4回目 合同ゼミ（企画1）  5回目 合同ゼミ（企画2）  6回目 合同ゼミ（企画3）  7回目 各ゼミ4  8回目 各ゼミ5  9回目 各ゼミ6  10回目 合同ゼミ（企画4）  11回目 合同ゼミ（企画5）  12回目 合同ゼミ（企画6）  13回目 各ゼミ7  14回目 各ゼミ8  15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。  また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。  そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。  授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIA
時間割コード Course Code	49109
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	我妻 純子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	我妻 純子 (法学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1  2回目 各ゼミ2  3回目 各ゼミ3  4回目 合同ゼミ（企画1）  5回目 合同ゼミ（企画2）  6回目 合同ゼミ（企画3）  7回目 各ゼミ4  8回目 各ゼミ5  9回目 各ゼミ6  10回目 合同ゼミ（企画4）  11回目 合同ゼミ（企画5）  12回目 合同ゼミ（企画6）  13回目 各ゼミ7  14回目 各ゼミ8  15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。  また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。  そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。  授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A (再) / SeminarIA
時間割コード Course Code	49110
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3
主担当教員 Main Instructor	萩原 聡央
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	萩原 聡央 (法学部)
授業の目標	<p>この授業では、わたしたちの暮らしと法に関わる具体的事例（諸問題）について検討を行いながら、法の学びに関する基礎的な知識や理解を深めるとともに、資料・文献を読む力、レジュメ（報告内容の要約）を作成して報告する力、質疑応答に関する力など、大学での学びに必要な力を修得することを目標とします。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 「わたしたちの暮らしと法の関係」や「法とは何か」について理解し、法に関する基本的な知識を身につける。</p> <p>態度・志向性の領域 日常生活における法の役割や重要性について関心を向けるようになる。</p>
授業の概要	<p>この授業では、「契約と消費者トラブル」、「犯罪と私たちの生活」などのテーマに係る具体的事例について検討しながら、「読み・書き・話す（報告し、受講者の間で議論して考える）」といった取り組みを行います。これらの取り組みを通して、法に関する基礎的な知識の修得を図ります。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業における議論への取り組み状況（30%）および報告内容（30%）ならびにレポート課題（40%）の結果により評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	原則として、出席回数が12回に満たない場合は失格とします。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス・大学生の法的立場を考える</p> <p>第2回 契約と消費者トラブル</p> <p>第3回 学生生活</p> <p>第4回 働くことを考える</p> <p>第5回 就職活動と法律</p> <p>第6回 労働者の権利</p> <p>第7回 結婚</p> <p>第8回 子どもの権利・子育て</p> <p>第9回 生活設計</p> <p>第10回 犯罪と私たちの生活</p> <p>第11回 交通事故</p> <p>第12回 公的医療保険・介護保険制度</p> <p>第13回 年金・相続</p> <p>第14回 民主主義とそのための仕組み</p> <p>第15回 市民社会と国際平和・まとめ</p>
テキスト	テキストは使用せず、毎回授業時に資料を配布します。

参考書	細川幸一『新版 大学生が知っておきたい生活のなかの法律』（慶應義塾大学出版会）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	この授業は、学生による報告を中心として行うため、しっかり準備をした報告と、積極的な討論を期待します。具体的には、報告者の希望も考慮しながら、各回のテーマについて、次のような形式で15回の授業を進めます。 すなわち、（１）受講者の中で報告者を決める、（２）報告者は、事例の紹介、議論すべき論点や問題点の指摘を行う、（３）報告者の報告および論点の指摘を前提として、受講者の中で議論する、（４）基本的な論点について、授業担当教員が説明を加える、こととします。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業の前後およびオフィスアワーなど随時対応します。
フィードバックの方法	授業内で実施する議論・報告およびレポートに関しては、授業時に具体的な判断・評価を示します。また、成績評価に関しては、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマについて、関連する資料などを通して、毎回2時間の予習と2時間の復習を行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	演習 B / SeminarIB
時間割コード Course Code	49150
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	謝 芸甜
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	謝 芸甜 (法学部)
授業の目標	この授業は、会社法の基礎知識の理解だけでなく、高いプレゼンテーション力の習得も目標とする。
授業の概要	本演習では、前期の演習にて習得した知識を活用し、プレゼンテーション形式を通して、「読み・書き・話す」といった一連の取組みを行います。これらの取組みを通して、会社法に関する基礎的な知識の習熟を目指します。 〔この科目の位置づけ〕 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	成績評価の基準は次の通りです。 1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。 2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。 3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。 出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	第1回 オリエンテーション（前期の内容の確認） 第2回 グループ研究テーマ選定 第3回 グループ研究（プレゼンテーション準備） 第4回 グループ研究（プレゼンテーション準備） 第5回 グループ研究（プレゼンテーション準備） 第6回 合同ゼミ 「新聞活用講座」 第7回 グループ研究（プレゼンテーション準備） 第8回 グループ研究（プレゼンテーション準備） 第9回 グループ研究（プレゼンテーション準備） 第10回 グループ研究（プレゼンテーション準備） 第11回 グループ研究（プレゼンテーション準備） 第12回 グループ研究（プレゼンテーション内容の最終確認） 第13回 グループ研究（プレゼンテーションの練習） 第14回 プレゼンテーション・討論 第15回 プレゼンテーション・討論
テキスト	教科書は使用しません。適宜、資料等を配布します。

参考書	世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。 この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ90分行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力



開講科目名 Course	演習 B / SeminarIB
時間割コード Course Code	49151
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	ウミリデノブ アリシエル
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70F 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ウミリデノブ アリシエル (法学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次後期のゼミナールでは、皆さんが関心を持つ問題を中心に、文書構成の考え方と論理的な文書の書き方について主体的に勉強します。</p> <p>このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	成績評価の基準は次の通りです。 1.ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。 2.ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。 3.授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。 出席が良好であること(毎週出席が基本です)を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	第1回 後期ガイダンス 第2~第5回 個人報告準備 第6回 合同ゼミ(企画G) 第7回~第9回 個人報告 第10回 学外活動 第11回~第15回 個人報告orグループ報告  後期15回のゼミのうち、1回分を「合同ゼミ」(それぞれの学部・学科単位)で実施し、企画Gの合同ゼミで、「新聞活用講座」について学びます。
テキスト	テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。
参考書	世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』(世界思想社、2021年)1,200円(税別)。 この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 B / SeminarIB
時間割コード Course Code	49152
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	宮本 雅史
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	宮本 雅史 (法学部)
授業の目標	<p>このゼミでは、「自分の意見を他者に伝える」・「他者の意見に対して自分の意見を述べる」というコミュニケーションをスムーズに行うための、「書く・話す」といった基礎的な力の習得・向上を目指します。また、その前提として、「自分の意見を持つ」ための能力習得も目標とします。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料や文献の集め方がわかるようになる。</li> <li>・社会にある様々な問題を知る。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者に自分の考えを伝えるための、資料作成や話し方のスキルが身に着く。</li> <li>・文章を正確に読むことができるようになる。</li> <li>・わかりやすい文章を書くことができるようになる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の意見を尊重し、建設的な議論を行う姿勢が身に着く。</li> <li>・期日を守って活動するなど、自己管理の能力を伸ばすことができる。</li> </ul>
授業の概要	<p>目標達成のため、資料を読んで自分の意見を検討し、検討内容の報告を行なって他の受講生の意見を聞く、という活動を行います。この活動を通じて、資料収集の方法や読解力、報告を表現するための資料を作成する力、質問に対応する力など、大学生活及び社会に出た後も必要となる能力を身に付けていきます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	全体的な取組みの姿勢、資料も含んだ報告の内容、他の人の報告への質問などを総合的に考慮して評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>欠席 6 回以上は失格とします。</p> <p>欠席・遅刻する場合、事前に連絡してください。</p> <p>(やむを得ない事情がある場合は事後連絡も認めます)</p>

授業計画	<p>第1回 ガイダンス  第2回 資料・文献の収集方法について  第3回 資料を読んでみよう(1)  第4回 資料を読んでみよう(2)  第5回 記事の内容をまとめてみよう  第6回 合同ゼミ(企画G)  第7回 自分の意見を考えてみよう(1)  第8回 自分の意見を考えてみよう(2)  第9回 自分の意見を表現してみよう(1)  第10回 自分の意見を表現してみよう(2)  第11回 報告と質疑応答(1)  第12回 報告と質疑応答(2)  第13回 報告と質疑応答(3)  第14回 報告の振り返り  第15回 1年間の振り返り</p> <p>後期15回のゼミのうち、1回分を「合同ゼミ」(それぞれの学部・学科単位)で実施し、企画Gの合同ゼミで、「新聞活用講座」について学びます。</p>
テキスト	指定しません。
参考書	適宜示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	自らの関心に沿って報告をまとめ、また、他のゼミ生の報告に対して意見を述べるといったディスカッションを行います。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	オフィスアワー、ゼミの前後、メールで行います。
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告準備に対するアドバイス、報告についてのレビューはその都度行います。</li> <li>・受講生から出た要望などについては、適宜、フィードバックを行います。</li> </ul>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	事前に配布する資料や指定する文献を読む(予習・復習それぞれ毎回30分程度)、報告内容の検討(合計10時間程度)、資料作成等報告準備(合計20時間程度)、他の受講生の報告の振り返り(合計15時間程度)。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	5.自信創出力 6.行動持続力

開講科目名 Course	演習 B / SeminarIB
時間割コード Course Code	49153
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	水谷 仁
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水谷 仁 (法学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>第1回 後期ガイダンス  第2回 個人報告準備  第3回 個人報告準備  第4回 個人報告  第5回 個人報告  第6回 合同ゼミ(企画G)  第7回 個人報告  第8回 個人報告  第9回 グループ報告準備  第10回 グループ報告準備  第11回 グループ報告準備  第12回 グループ報告  第13回 グループ報告  第14回 グループ報告  第15回 まとめ</p> <p>後期15回のゼミのうち、1回分を「合同ゼミ」(それぞれの学部・学科単位)で実施し、企画Gの合同ゼミで「新聞活用講座」について学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。  授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』(世界思想社、2021年)1,200円(税別)。  この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 B / SeminarIB
時間割コード Course Code	49154
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	高橋 勝也
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70E 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高橋 勝也 (法学部)
授業の目標	法とビジネスの意義及び役割について考察し、自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する。現代社会の諸問題を解決しようとする姿勢や態度を育成する。
授業の概要	【対面授業】 1. 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、職業選択に関する知識と技能を身に付ける。 2. 法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて論拠をもって表現する。
評価方法	レポート50% プレゼンテーション50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回~第5回: ビジネス研究 第6回 合同ゼミ(企画B) 第7回~第9回: 企業研究プレゼン 第10回~第15回: ビジネスと資産形成研究
テキスト	
参考書	特になし
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	毎時間、質問対応の時間を設定する。 オフィスアワー以外の時間帯でも、研究室にて受け付ける。
フィードバックの方法	毎時間、15分間程度フィードバックの時間を設定して、リアクションペーパーの提出により担当教員が状況を把握する。 次の時間の対面による指導の他、メール、グーグルクラスルームを活用してフィードバックを行う。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	現代社会における諸課題を把握しておく必要があるため、マスコミュニケーションツールを活用して、ニュースに触れておく。(予習:合計30時間) 現代社会における諸課題と向き合い、解決に向けて方策について検討し、プレゼンテーションを行う。(復習&授業準備:合計30時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	8.計画立案力 9.実践力



開講科目名 Course	演習 B / SeminarIB
時間割コード Course Code	49155
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	福島 崇弘
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 5 C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	福島 崇弘 (法学部)
授業の目標	民法を中心とした法的知識を学び、各種資格試験にも対応できる法律知識を得る
授業の概要	対面講義となります。 民法を基本とし、前週に出された課題(様々な事例)に対する法的解決方法を検討する。 この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。
評価方法	成績評価の基準は次の通りです。 1.ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。 2.ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。 3.授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。 出席が良好であること(毎週出席が基本です)を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	1回目 個別ゼミ(基礎民法及び事例) 2回目 個別ゼミ(基礎民法及び事例) 3回目 個別ゼミ(基礎民法及び事例) 4回目 個別ゼミ(基礎民法及び事例) 5回目 個別ゼミ(基礎民法及び事例) 6回目 合同ゼミ(企画G) 7回目 個別ゼミ(基礎民法及び事例) 8回目 個別ゼミ(基礎民法及び事例) 9回目 個別ゼミ(基礎民法及び事例) 10回目 個別ゼミ(基礎民法及び事例) 11回目 個別ゼミ(基礎民法及び事例) 12回目 個別ゼミ(基礎民法及び事例) 13回目 個別ゼミ(基礎民法及び事例) 14回目 個別ゼミ(基礎民法及び事例) 15回目 個別ゼミ(基礎民法及び事例)  後期15回のゼミのうち、1回分を合同ゼミ(それぞれの学部・学科単位)で実施します。 すなわち、企画Gの合同ゼミでは、「新聞活用講座」のテーマについて学びます。 14回分は各ゼミ(それぞれのゼミナール単位)で実施し、1回分は合同ゼミ(それぞれの学部学科単位)で実施します。
テキスト	テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。

参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間、オフィスアワーの時間内に対応します。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習は必要ありませんが、復習は必ず行うこと また、参考問題集をゼミ内でお伝えしますので、そちらの復習をお願い致します。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 B / SeminarIB
時間割コード Course Code	49156
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	近藤 久雄
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	近藤 久雄 (法学部)
授業の目標	<p>前期に学んだスキルをもとにして、それぞれが関心を持った時事問題 (SDGsを取り上げています) について、資料収集、まとめ、報告、討論という一連の流れを学びます。これらを通じて、社会科学という世界で必要な学習のスキルを修得することを目的とします。</p> <p>知識・理解の領域 図書館の利用、データ・ベースの使用法を学ぶことで、情報収集の基礎を身につけることができます。</p> <p>思考判断の領域 何が問題なのか、問題を発見し、その問題を解決する方法を学ぶことで自説の主張だけでなく、客観的な判断ができるようになることを目指します。</p> <p>態度・志向性の領域 収集した資料の保存、分類、引用の方法を学ぶことで社会科学の基礎としての他人の見解を尊重する姿勢を身につけることができます。</p> <p>問題解決のプロセス (資料収集、まとめ、報告、討論) を通して、社会人として必要な問題解決能力を身につけることを目指します。</p>

授業の概要	<p>授業形態 対面にて授業を行います。</p> <p>授業概要</p> <p>1. SDGs（持続可能な開発目標）について学ぶ 近年注目されているSDGsに関するトピックの資料を読み、関心をもったテーマについて関連資料を収集し、内容のまとめと報告してもらいます。報告には、プレゼンテーションソフト（パワーポイント、グーグルスライド）を使用します。 報告にあたっては、「発表コンテスト」として皆さんの前で発表してもらいます。誰の報告が優れていたか、どのような点が参考になったのかを基準に皆さんに選んでいただき、優秀者を表彰したいと思います。同じようにSDGsをテーマとして報告するゼミがあれば、合同ゼミ発表コンテストを実施したいと思っています。お楽しみに</p> <p>2. レポート作成方法を体験しながら学ぶ 報告したテーマに基づいて、レポート作成します。法学部には卒業論文はありませんが、4年生には卒業レポートの作成が義務付けられています。まずは、1年生でレポートの基礎として、表現形式の決まり、資料収集の方法、レポートの構成要素、段落内の文章構成、引用方法、参考文献の付け方などを学びます。作成したレポートは、Google Classroomに提出してもらいます。</p> <p>最後にゼミナールは、「厳しく」かつ「楽しく」なければならぬと考えています。出席することはもちろん、時間を守ることを求めます。特に、さまざまな理由で報告日に欠席することは、厳に謹んで下さい。 ゼミ活動には、懇親会（BBQ等）、大学祭、スポーツ大会・旅行、ボランティア等への参加も含まれます。皆さんには、積極的な活動を期待します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照して下さい。</p>
評価方法	演習への取り組み、報告、提出物等により総合的に判断します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席が5回を超えると失格になります。遅刻や早退については2回で1回の欠席となりますので、注意して下さい。
授業計画	<p>前期からの継続</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学祭参加準備 1 ゼミ活動の展示または模擬店を開催</li> <li>2. 大学祭参加準備 2</li> <li>3. 大学祭参加準備 3</li> <li>4. 大学祭参加 第1日 展示・模擬店</li> <li>5. 大学祭参加 第2日 展示・模擬店</li> <li>6. 合同ゼミ 新聞活用講座(外部講師:鈴木宏征氏〔中日新聞社〕)</li> <li>7. 大学祭振り返り</li> <li>8. 個別テーマに基づくレポート作成</li> <li>9. 個別テーマに基づくレポート作成</li> <li>10. 個別テーマに基づくレポート作成</li> <li>11. スポーツ大会</li> <li>12. 報告・討論</li> <li>13. 報告・討論</li> <li>14. 報告・討論</li> <li>15. 1年間を振り返って（打ち上げ）</li> </ol>
テキスト	教科書は使用しません。適宜、資料等を配布します。
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	SDGsを实践する人、団体を訪ね、レクチャーを受け、実際に体験する事も考えています。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業終了後やオフィスアワーのほか、随時対応します。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	14.海の豊かさを守ろう 15.陸の豊かさも守ろう 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力 7.課題発見力 8.計画立案力

開講科目名 Course	演習 B / SeminarIB
時間割コード Course Code	49157
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	松本 未希子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	松本 未希子 (法学部)
授業の目標	<p>この演習は、大学での学習や社会で働くにあたって必要な基本的スキルを身につけることを目標とします。</p> <p>知識・理解の領域 必要な資料を調べ、ルールに則って引用や参照ができるようになる。</p> <p>技能の領域 word, excel, power point等のツールを使いこなせるようになる。 相手にわかりやすく論理的に組み立てて説明できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 社会の問題に関心をもてるようになる。 大学で学ぶ意味について考え、自分の目標を持てるようになる。 相手の考えを尊重しながら、自分の考えを伝えることができるようになる。</p>
授業の概要	<p>この演習では、グループや個人でテーマを設定し、それについて報告や討論を行います。そのような作業を通して、資料の調べ方、報告や討論の仕方、グループワークの仕方などを学ぶとともに、物事を探究する力を養います。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業態度 40%</p> <p>課題 60%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上の欠席で失格とします。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 第2回～第5回 報告準備 第6回 合同ゼミ(企画G) 第7回～第14回 報告と討論 第15回 まとめ</p> <p>後期15回のゼミのうち、1回分を「合同ゼミ」(それぞれの学部・学科単位)で実施し、企画Gの合同ゼミで、「新聞活用講座」について学びます。</p>
テキスト	
参考書	

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループや個人でテーマを決めて研究・報告を行い、互いに質問をしたりコメントをしたりします。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中・授業後
フィードバックの方法	授業中・授業後・Google classroom
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	事前学習 事後学習
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1			
2			
3			
4			
5			
6	合同ゼミ (企画G)		
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			



開講科目名 Course	演習 B / SeminarIB
時間割コード Course Code	49158
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	趙 民秀
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	趙 民秀 (法学部)
授業の目標	<p>この授業は、大学での学びに必要な情報収集力、読解力、文章力、自己発信力などといった基礎的なスキルを身に着けることを目標とする。</p> <p><b>学習成果</b>  <b>知識・理解の領域</b>          大学での学びに必要な基礎的な知識を身に着けることができる。          文献や他者の意見などを正確に理解することができる。</p> <p><b>技能の領域</b>          必要な情報を適切に収集することができる。          情報の正確性や信頼性などについて判断することができる。          収集した情報をレジюме・レポート・報告に整理することができる。          根拠に基づいて自己の意見を表明し、議論をすることができる。</p> <p><b>態度・志向性の領域</b>          積極的にディスカッションに参加し、意見をまとめることができる。          ディスカッションやグループワークなどにおいて、他者の意見を聞き、議論を行うための円滑なコミュニケーション能力を養うことができる。</p>
授業の概要	<p>この授業では、大学で学ぶ上で必須となる情報収集力、読解力、文章力、自己発信力などの基礎的なスキルを演習形式で学ぶ。これらのスキルは、単に大学での学びに役立つというだけでなく、例えば情報を精査するスキルや、説得的なプレゼンテーションを行うスキルなど、今後社会に出た際にも役立つと考えられる。</p> <p>具体的には、まず文献の検索・収集方法について学んだ後に、情報をレジюмеにまとめる演習を行う。次の段階として、収集した情報をレポートや発表(プレゼンテーション)形式にする演習、そして最後に自己の意見を表明するスピーチ演習を行う。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業への参加姿勢 50% レポート及び発表課題 50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席回数5回以上で失格とする。

授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 文献の検索や収集方法について(1)</p> <p>第3回 文献の検索や収集方法について(2)</p> <p>第4回 整理・要約の方法(1)</p> <p>第5回 整理・要約の方法(2)</p> <p>第6回 合同ゼミ(企画G)</p> <p>第7回 レポート作成について(1)</p> <p>第8回 レポート作成について(2)</p> <p>第9回 発表演習(1)</p> <p>第10回 発表演習(2)</p> <p>第11回 発表演習(3)</p> <p>第12回 ディスカッション演習(1)</p> <p>第13回 ディスカッション演習(2)</p> <p>第14回 スピーチ演習(1)</p> <p>第15回 スピーチ演習(2)</p> <p>後期15回のゼミのうち、1回分を「合同ゼミ」(それぞれの学部・学科単位)で実施し、企画Gの合同ゼミで、「新聞活用講座」について学ぶ。</p>
テキスト	テキストは指定しない。適宜、資料等を配布する。
参考書	参考書は初回時に提示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内において、適宜問いかけを行うので、グループ毎に議論を行い、その内容を発表する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業の前後及びオフィスアワーにおいて対応する。
フィードバックの方法	成績評価に関するフィードバックは、成績疑義申立期間中に行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で適宜指示を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	<p>1.情報収集力</p> <p>2.情報分析力</p> <p>3.課題発見力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>2.協同力</p> <p>7.課題発見力</p> <p>9.実践力</p>

開講科目名 Course	演習 B / SeminarIB
時間割コード Course Code	49159
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	我妻 純子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	我妻 純子 (法学部)
授業の目標	<p>この授業では、情報を収集する力、その情報を理解する力、さらに批判的に考える方法、自己の考えを表現する力など、大学生活において必要な力の修得を目標とします。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 図書館の利用、データ・ベースの使用方法を学ぶことで、情報収集の基礎を身につけることができます。</p> <p>技能の領域 何が問題なのか、問題を発見し、その問題を解決する方法を学びます。具体的には、読む（聞く）、考える、表現する（文書にまとめる、報告する）ことができるようになります。また、他人と討論を行うことができます。</p> <p>態度・志向性の領域 問題解決のプロセス（資料収集、まとめ、報告、討論）を通して、社会人として必要な問題解決能力を身につけることを目指します。</p>
授業の概要	<p>最初に、社会で問題となっているさまざまなテーマをいくつか紹介します。これらをきっかけに、皆さんが関心を持った問題について、「何が問題か」探ることからはじめます。</p> <p>次に、資料収集を始めます。図書館に出かけ、どこに何があるのか分かるようになって欲しいと思っています。そしてデータ・ベースを使用して効率的な資料収集方法も学ぶ予定です。そして資料収集、まとめ、報告、討論という手法を学びます。</p> <p>後半では、それぞれがパワーポイントを使用して、自分のテーマについて報告してもらいます。また、グループごとに議論を行う活動もしてもらう予定です。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	報告内容、質疑応答における積極性、レポートの内容を総合的に判断して評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 第2回～第5回 資料作成準備 第6回 合同ゼミ（企画G） 第7回～第11回 報告・質疑応答 第12回～第14回 グループディスカッション 第15回 全体のまとめ</p> <p>後期15回のゼミのうち、1回分を「合同ゼミ」（それぞれの学部・学科単位）で実施し、企画Gの合同ゼミで、「新聞活用講座」について学びます。</p>
テキスト	特に指定しない。

参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ペアやグループになって異なる課題を議論し、ゼミ内で発表します。教員からの問いかけや質疑応答など対話的活動も行う予定です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	ゼミの時間内に行う
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回、予習および復習で概ね4時間程度の自己学習を想定しています。自己学習にあたって、報告者は自身の報告の準備を行うだけでなく、想定される質問に備えて準備をしてください。報告者以外の学生は、事前に配布されるレジュメや資料に目を通し、当日の質疑応答において活発に議論できるように準備してください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 B (再) / SeminarIB
時間割コード Course Code	49160
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3
主担当教員 Main Instructor	萩原 聡央
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	萩原 聡央 (法学部)
授業の目標	<p>この授業では、基本的人権に関わる具体的事例 (諸問題) について検討を行いながら、憲法の学びに関する基礎的な知識や理解を深めるとともに、資料・文献を読む力、レジュメ (報告内容の要約) を作成して報告する力、質疑応答に関する力など、大学での学びに必要な力を修得することを目標とします。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 わたしたちの暮らしと憲法の間にはじめ「憲法とは何か」、「基本的人権とは何か」について理解し、憲法に関する基礎的な知識を身につける。</p> <p>態度・志向性の領域 日常生活における憲法の役割や重要性について関心を向けるようになる。</p>
授業の概要	<p>この授業では、「日本にいる外国人の権利」、「良心をもつ自由」などの具体的なテーマについて検討しながら、「読み・書き・話す (報告し、受講者の間で議論して考える)」といった取り組みを行います。これらの取り組みを通して、憲法に関する基礎的な知識の修得を図ります。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業における議論への取り組み状況 (30%) および報告内容 (30%) ならびにレポート課題 (40%) の結果により評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	原則として、出席回数が12回に満たない場合は失格とします。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス・憲法とは何か</p> <p>第2回 人権の尊重と法</p> <p>第3回 日本国憲法の定める人権の特徴</p> <p>第4回 国際化のなかの日本人、日本にいる外国人の権利</p> <p>第5回 良心をもつ自由、貫く自由</p> <p>第6回 表現の自由と書かれない自由</p> <p>第7回 知る権利とマス・メディアの自由</p> <p>第8回 営業の自由と消費者の権利</p> <p>第9回 働く人の権利</p> <p>第10回 困った時の権利、差別されている人たちへの配慮</p> <p>第11回 人身の自由と刑事手続上の諸権利</p> <p>第12回 家庭と女性・子どもの権利</p> <p>第13回 公務員の権利と義務</p> <p>第14回 生徒の権利と先生の権利</p> <p>第15回 学問の自由と大学の自治・まとめ</p>
テキスト	テキストは使用せず、毎回授業時に資料を配布します。

参考書	中富公一編『憲法のちから』（法律文化社）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	この授業は、学生による報告を中心として行うため、しっかり準備をした報告と、積極的な討論を期待します。具体的には、報告者の希望も考慮しながら、各回のテーマについて、次のような形式で15回の授業を進めます。 すなわち、（１）受講者の中で報告者を決める、（２）報告者は、事例の紹介、議論すべき論点や問題点の指摘を行う、（３）報告者の報告および論点の指摘を前提として、受講者の中で議論する、（４）基本的な論点について、授業担当教員が説明を加える、こととします。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業の前後およびオフィスアワーなど随時対応します。
フィードバックの方法	授業内で実施する議論・報告およびレポートに関しては、授業時に具体的な判断・評価を示します。また、成績評価に関しては、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマについて、関連する資料などを通して、毎回2時間の予習と2時間の復習を行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIIA
時間割コード Course Code	49200
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	謝 芸甜
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 2 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	謝 芸甜 (法学部)
授業の目標	この授業は、会社法の基礎知識の理解だけでなく、高いプレゼンテーション力の習得も目標とする。
授業の概要	本演習はプレゼンテーション形式を通して、「読み・書き・話す」といった一連の取組みを行います。これらの取組みを通して、会社法に関する基礎的な知識の習熟を目指します。 〔この科目の位置づけ〕 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	成績評価の基準は次の通りです。 1．ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。 2．ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。 3．授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。 出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	前期からの継続 第1回 オリエンテーション（今学期の予定） 第2回 合同ゼミ インターンシップ ガイダンス 第3回 プレゼンテーションのテーマ選定 第4回 プレゼンテーション準備 第5回 プレゼンテーション準備 第6回 プレゼンテーション準備 第7回 プレゼンテーション・討論 第8回 プレゼンテーション・討論 第9回 プレゼンテーション・討論 第10回 プレゼンテーション・討論 第11回 プレゼンテーション・討論 第12回 プレゼンテーション・討論 第13回 プレゼンテーション・討論 第14回 プレゼンテーション・討論 第15回 振り返りレポート
テキスト	教科書は使用しません。適宜、資料等を配布します。
参考書	

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各プレゼンテーションの課題を議論し、授業内で意見を交換する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ60分行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	12.つくる責任つかう責任 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力 3.統率力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力



開講科目名 Course	演習 A / SeminarIIA
時間割コード Course Code	49201
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	白出 博之
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70D演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	白出 博之(法学部)
授業の目標	ゼミの目標 この演習では、民法に関するニュース、文献・裁判例等の読解を通して、資料・文献を読む力、レジュメ(報告内容の要約)を作成して報告する力、質疑応答に関する力など、大学法学部での学習に必要となる基礎力の修得を目標にします。
授業の概要	目指す学習成果 知識・理解の領域 「わたしたちの暮らしと民法の関係」や「民法とは何か」について、具体的には民法総則、債権編に関わる分野の裁判例を素材として理解し、民法に関する基本的知識を身につける。 態度・志向性の領域 日常生活における民法(具体的には民法総則・債権編)の作用・役割や重要性について関心を向けるようになる。そのうえで法律上の論点に関する自分の考えについて、結論、理由付けを論理的に表現できるようになる。 具体的には「民法判例百選」等を教材として、社会生活の中で発生している民事紛争に関する裁判例について検討しながら、「読み・書き・話す(報告し、受講者の中で議論して考える)」といった取り組みを行います。これらの取り組みを通して、民事法に関する基礎的知識だけでなく各種資格試験等においてアウトプットする能力の修得を目指します。 前期は主に民法総則をテーマとします。
評価方法	第1に、平常点として、毎回のテーマについて、自己の見解をわかりやすく発表する「アウトプット力」、および他のメンバーの発言内容をよく聞き、理解に努めるための「質問力」を養うために、毎回、最低2回の発言を必須とします(70点)。 第2に、課題レポート又は小テスト(30点)。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>前期の演習では、主に民法総則に関する判例を毎回一つずつ報告してもらい、意見交換を実施します。</p> <p>第1回 ガイダンス（演習の進め方、資料収集の方法について） （参考書・一般条項：2時間の予習と2時間の復習）</p> <p>第2回 合同ゼミ インターンシップ（ジョブトレーニング）ガイダンス</p> <p>第3回 権利の主体・人（1） （参考書・人：2時間の予習と2時間の復習）</p> <p>第4回 権利の主体・法人 （参考書・法人：2時間の予習と2時間の復習）</p> <p>第5回 1回～4回の復習と応用</p> <p>第6回 1回～4回の復習と応用</p> <p>第7回 権利の客体・物 （参考書・物：2時間の予習と2時間の復習）</p> <p>第8回 法律行為（1） （参考書・法律行為：2時間の予習と2時間の復習）</p> <p>第9回 法律行為（2） （参考書・法律行為：2時間の予習と2時間の復習）</p> <p>第10回 前回までの復習と応用</p> <p>第11回 前回までの復習と応用</p> <p>第12回 法律行為（3） （参考書・法律行為：2時間の予習と2時間の復習）</p> <p>第13回 無効・取消 （参考書・無効・取消：2時間の予習と2時間の復習）</p> <p>第14回 代理 （参考書・代理：2時間の予習と2時間の復習）</p> <p>第15回 時効と民法総則のまとめ （参考書・時効：2時間の予習と2時間の復習）</p>
テキスト	潮見佳男、道垣内弘人編『民法判例百選 総則・物権〔第8版〕』（有斐閣，2018年）
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	発表担当者の報告内容に対して、他のメンバーとの質疑応答をし、報告者の見解に対する賛否について理由付けを明確に行うようなディスカッションを実施します。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	弁護士として裁判実務、および我が国のODA事業である法整備支援の長期専門家として立法支援業務等の実務経験をこの演習の内容に活用します。
質問への対応方法	講義時間中に適宜回答するほか、オフィスアワー、メール等で対応します。
フィードバックの方法	課題・小テストについてはGoogleフォームで直ちに採点および解説をフィードバックします。レポートについては、全員の提出内容について総評・コメントを実施します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	まず発表担当者は、報告用のレジメ資料を作成、配布するための準備作業が必要です。また発表担当者以外のメンバーは、当該分野の復習のために最低1時間を確保してください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	5.自信創出力

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIIA
時間割コード Course Code	49202
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	張 瑞輝
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	情報実習室 B
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	張 瑞輝 (法学部)
授業の目標	<p>模擬裁判の実演および判例報告によって通常民事訴訟第一審の流れを実践的に習得することを授業目標とする。</p> <p>知識・理解の領域 不法行為法の構成要件、民事訴訟法の基本構造および医事法の諸課題に関する知識を把握し理解することができる。</p> <p>態度・志向性の領域 グループ学習参加時の心構えを訓練することができる。</p> <p>法を身近な存在として体験し、紛争解決における法の役割を自発的に思考する動機付けとなることができる。</p> <p>技能の領域 法学文献のリサーチ方法、読み方、要約の実践方法を技能として習得することができる。</p> <p>判例とその読み方、判例研究のテクニックが身につくことができる。</p>
授業の概要	<p>前期では、医療過誤事件を素材に、受講生を s 役 (裁判官)・x 役 (原告)・y 役 (被告) にグループ分けし、模擬裁判のことを念頭に置きながら、それぞれの役割 (民事訴訟における裁判所と当事者の役割) の体験を通して、通常民事訴訟第一審の流れを実践的に学習する。</p> <p>後期では、模擬法廷の実演等を通して疑問・関心をもった問題意識から発足し、医事法判例百選 (必要に応じて民事訴訟法判例百選、民法判例百選 債権も選択肢) から一つの判例を選び、判例報告を行う。</p>
評価方法	授業における取り組み状況や報告内容などを総合的に考慮して評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>(1) 無断欠席について 事前の連絡のない欠席が 2 回を超えた場合は、失格とする。</p> <p>(2) 報告日の欠席について 報告者は報告日に欠席した場合、大学規則に基づく正当な事由がない限り、失格とする。</p> <p>(3) 正当な事由の証明について 大学規則に基づく正当な事由を証明するために、書面にて関係書類を提出し、立証責任を負わなければならない。</p>

授業計画	<p>第01回 ガイダンス（演習の進め方について）</p> <p>第02回 合同ゼミ（インターンシップガイダンス）</p> <p>第03回 模擬法廷・弁護士に会う</p> <p>第04回 council of war</p> <p>第05回 模擬法廷・訴訟の提起</p> <p>第06回 council of war</p> <p>第07回 模擬法廷・弁論の開始</p> <p>第08回 争点の整理</p> <p>第09回 証拠（人証）の申出と証拠調べの策定</p> <p>第10回 本人尋問と証人尋問</p> <p>第11回 鑑定と最終弁論</p> <p>第12回 和解期日</p> <p>第13回 判決の言渡し</p> <p>第14回 控訴の提起</p> <p>第15回 まとめ</p>
テキスト	<p>福永有利ほか『アクチュアル民事の訴訟 補訂版』（有斐閣、2016年）</p> <p>和田吉弘『コンパクト版 基礎からわかる民事訴訟法 第2版』（商事法務、2023年）</p> <p>潮見佳男『基本講義 債権各論 不法行為法 第4版』（新世社、2021年）</p>
参考書	<p>山本和彦『よくわかる民事裁判---平凡吉訴訟日記 第4版』（有斐閣、2023年）</p> <p>中野貞一郎『民事裁判入門 第3版補訂版』（有斐閣、2012年）</p> <p>小林秀之『判例講義 民事訴訟法』（弘文堂、2019年）</p> <p>中野次雄ほか『判例とその読み方』（有斐閣、2009年）</p> <p>窪田充見ほか『民法判例百選 第9版』（有斐閣、2023年）</p> <p>甲斐克則ほか『医事法判例百選 第3版』（有斐閣、2022年）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	オフィスアワー等。相談により随時対応する。
フィードバックの方法	<p>当該授業は、対面方式でありながら、Google Classroomを使用する予定である。第1回の授業の際にGoogle Classroomへ参加方法また必要な情報を提示する。</p> <p>授業のフィードバックは、原則として、Google Classroomの諸機能（添削、返却、等）を利用して行う。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>予習復習等、準備学習の内容は、前記テキストと参考書の該当範囲のほか、Google Classroomを利用して配布する予定である。</p> <p>予習復習等、準備学習の時間は、各回で少なくとも4時間以上を要する内容となっているため、該当範囲を事前に閲読した上での受講が必要となる。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう</p> <p>4.質の高い教育をみんなに</p>
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	<p>1.情報収集力</p> <p>2.情報分析力</p> <p>3.課題発見力</p> <p>4.構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>4.感情制御力</p> <p>5.自信創出力</p> <p>7.課題発見力</p>

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIIA
時間割コード Course Code	49203
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	早川 結人
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70B 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川 結人 (法学部)
授業の目標	法学分野の専門文献を読みこなすために必要な能力・技術 文献に基づき法的な質疑を行うための能力・技術 の両方を獲得する。
授業の概要	このゼミでは、民法（あるいはもう少し広く民事法）に関する基本書・判例の講読・精読を全員で行う。 具体的には、毎週ごとに、テキストの該当部分を事前提示に従って予習、ゼミ中はそれを分担して音読しつつ、必要な範囲で学生同士の質疑や教員からの質問・解説を加える。
評価方法	ゼミへの出席状況および講読への参加の積極性を基準に総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上の欠席で、失格とする。
授業計画	初回にガイダンス・自己紹介。 2回目に合同ゼミ（インターンシップ）を実施する。 3回目から14回目までかけて、必要な文献を通読する。 最終回にまとめの講義を行う。
テキスト	
参考書	特になし。 必要があれば随時、指摘。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問については、ゼミ内で随時対応。 また、メールによる連絡についても随時対応する。
フィードバックの方法	ゼミ内で随時行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	該当範囲について、事前にテキストの一読を予習範囲とする。 範囲については、ゼミ内で随時指摘する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	



開講科目名 Course	演習 A / SeminarIIA
時間割コード Course Code	49204
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	美濃羽正康
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	6 5 C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	美濃羽正康 (法学部)
授業の目標	<p>演習IIAでは、法的思考の基礎を学ぶ。法律学を学習するための基本ツールの使い方や読み方を学習した後に、グループで法律問題についてテーマを選択して発表形式で、身につけた学習方法を駆使して体験的に学んでいく。後期には、一人で法律問題について報告できること、報告者以外の者としては討論に参加できるようになることを到達目標とする。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 法律学の学習方法の基礎を学び、法的ものの考え方を理解することができる。</p> <p>思考判断の領域 問題発見の仕方、思考方法、問題解決の方法を学び、法的思考力の基礎を身につけることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 自ら課題や問題点を発見し、資料等を収集分析する態度を身につけ、論理的に思考し、説明や提案できることを目指す。</p>
授業の概要	グループで法律問題についてテーマを選択して発表形式で、身につけた学習方法を駆使して体験的に学んでいく。後期の演習IIIBにおいて一人で法律問題について報告できること、報告者以外の者としては討論に参加できるようになることを到達目標とする。
評価方法	ゼミでの学習態度、発表内容、課題提出等で総合評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上の欠席で失格とする。

授業計画	1回 ガイダンス・履修指導 2回 合同ゼミ；インターンシップガイダンス 3回 教科書の読み方・法律用語入門 4回 条文を読む。 5回 法律文献検索と文献メモの作り方 6回 判例百選を読む。 7回 判例評釈を読む。 7回 判例を読む 8回 グループ報告の仕方 9回 グループ報告 10回 グループ報告 11回 グループ報告 12回 グループ報告 13回 グループ報告 14回 法学レポートの書き方 15回 レポート作成と提出
テキスト	なし
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループ報告と討論を実践的に学ぶ。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ中やオフィスアワー、メール等に対応する。
フィードバックの方法	ゼミ中やオフィスアワー、メール等に対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回、1時間の復習と1時間の予習課題を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力



開講科目名 Course	演習 A / SeminarIIA
時間割コード Course Code	49205
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	水谷 仁
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水谷 仁 (法学部)
授業の目標	<p>私たちは生きていくうえで、政治と何かしらの形で関係をもたざるをえません。この授業では、そんな政治について自分なりの問題意識や考えを見つけ出し、それを他者に理解してもらいつつ、意見交換を通して、政治についての他者の問題意識や考えを理解していけるようになることを目標とします。</p> <p>知識・理解の領域 私たちの身の回りにある政治の問題を理解することを目標とする。</p> <p>技能の領域 法学部の学習に必要な読解方法、調査方法、表現方法などを身につける。また、大学におけるゼミとしてふさわしい考察を行い、他の人の意見を聞いて質問を行ったり議論したりすることを目標にする。</p> <p>態度・志向性の領域 文化的の発展や産業の発達のために政治はどのようにあるべきかを自発的に考えられることを目標とする。</p>
授業の概要	<p>各自が興味・関心をもった政治に関するトピックについて、専門書や学術論文を取り上げて全員で意見交換を行います。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照してください。</p>
評価方法	各自の報告や質疑応答・意見交換への参加など、演習への参加態度を中心に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業中に複数回注意を受けた場合や、正当な理由のない欠席が6回以上となった場合は、失格の対象となります。

授業計画	<p>演習参加者が選んだテーマについての報告と質疑応答・意見交換を中心に進めます。ただし、現実の政治情勢の変化に応じて、専門的な知識の内容や進行速度は変更することがあります。</p> <p>第1回 ガイダンス（自己紹介、演習の進め方の説明、報告日程の調整）  第2回 2年生向けインターンシップガイダンス（合同ゼミ）  第3回 個人報告準備、個人面談  第4回 個人報告準備、個人面談  第5回 個人報告準備、個人面談  第6回 個人報告  第7回 個人報告  第8回 個人報告  第9回 個人報告  第10回 個人報告  第11回 グループディスカッション準備、個人報告予備  第12回 グループディスカッション準備  第13回 グループディスカッション準備  第14回 グループディスカッション  第15回 まとめ</p>
テキスト	必要に応じて配布します。
参考書	佐々木毅『政治学講義』（東京大学出版会、2005年） 久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝『政治学』（有斐閣、2010年） 永井史男・水島治郎・品田裕編『政治学入門』（ミネルヴァ書房、2019年） 田村哲樹・近藤康史・堀江孝司『政治学』（勁草書房、2020年） 杉田敦『政治的思考』（岩波書店、2013年） 新川敏光・大西裕・大矢根聡・田村哲樹『政治学』（有斐閣、2017年） 吉野篤編『政治学〔第2版〕』（弘文堂、2018年）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	個人報告やグループディスカッションを行うことで、主体的な学習と学習内容のアウトプットを促進します。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問は授業中や授業後、オフィスアワーに受け付けます。
フィードバックの方法	次回の授業時に、質問やコメントを匿名で他の学生にも紹介し、解説を行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習と2時間の復習を行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 4.感情制御力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIIA
時間割コード Course Code	49206
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	高橋 勝也
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70E 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高橋 勝也 (法学部)
授業の目標	法と規範の意義及び役割について考察し、自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する。現代社会の諸問題を解決しようとする姿勢や態度を育成する。
授業の概要	1. 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、法と規範の意義及び役割に関する知識と技能を身に付ける。 2. 法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて論拠をもって表現する。
評価方法	レポート 50% プレゼンテーション 50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：インターンシップガイダンス（合同ゼミ） 第3回～第14回：他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動 第15回：まとめ
テキスト	
参考書	特になし
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	議論とプレゼンテーションを多く取り入れます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	毎時間、質問対応の時間を設定する。 オフィスアワー以外の時間帯でも、研究室にて受け付ける。
フィードバックの方法	毎時間、15分間程度フィードバックの時間を設定して、リアクションペーパーの提出により担当教員が状況を把握する。 次の時間の対面による指導の他、メール、グーグルクラスルームを活用してフィードバックを行う。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	現代社会における諸課題を把握しておく必要があるため、マスコミュニケーションツールを活用して、ニュースに触れておく。(予習:合計30時間) 現代社会における諸課題と向き合い、解決に向けて方策について検討し、プレゼンテーションを行う。(復習&授業準備:合計30時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIIA
時間割コード Course Code	49207
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	福島 崇弘
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 5 C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	福島 崇弘 (法学部)
授業の目標	民法を中心とした法的知識を学び、各種資格試験にも対応できる法律知識を得る
授業の概要	民法を基本とし、前週に出された課題(様々な事例)に対する法的解決方法を検討する。 必要な範囲で学生同士の質疑や教員からの質問・解説を加える。
評価方法	授業態度50% 課題50% ゼミへの出席状況および講読への参加の積極性を基準に総合的に評価する。 期末試験は実施しません。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	以下の予定は、学生の状況や要望により変更する場合があります。 第1回 ガイダンス 第2回 インターシップガイダンス(合同ゼミ) 第3回~第14回 検討・討論・報告 第15回 まとめ
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	演習中に受け付ける また、メールにて回答する
フィードバックの方法	演習中に受け付ける また、メールにて回答する
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の内容に応じて、適宜、予習・復習時間を示します。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A (再) / SeminarIIA
時間割コード Course Code	49208
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 直史
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 直史 (法学部)
授業の目標	<p>演習の目標は、SDGsを法の視点から踏み込んで考え、法学部で学んだことをグローバルレベル及びローカルレベルのそれぞれの社会でどのように活用できるかについての視点を得ることです。グローバル化が進む国際社会では、これまでのルールが見直されるとともに、新しいルールが生まれています。SDGsもその一つです。これらルールの見直しや新しいルールの形成は、私たちの日々の生活や身近なルールとも結びついています。この演習では、現代の国際社会の新しい潮流などから、「法」の多様性を考え、「法」を多角的に分析します。これらの検討を通じて、みなさんが、2年次までに学んだ法の基本的な原理や基礎理論を前提として、グローバルな社会、ローカルな社会、そしてグローバルとローカルが交錯し影響し合う社会で、法学部で学んだことをどのように活用するかについて実践的な視座を得ることを目指します。</p> <p>加えて、2年次までに学んだ内容を踏まえて、資料収集やリサーチの方法、レポート・レジユメの作成方法など、社会において必要となる能力を更に向上させることも目標とします。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p><b>知識・理解の領域</b> 国際社会のルールや身近なルールの検討を通じて、法を学ぶに当たって重要となる基本的な原理や基礎理論を理解するとともに、法学部で学んでいることの意味、法の学び方、法学部で学んだことの活用の方法を理解する。</p> <p><b>技能の領域</b> 具体的な事例（題材）の問題点を明らかにし、その問題の背景は何か、解決に向けて誰のどのような利益を考慮しなければならないのか、課題に対する短期的な対応及び中長期的な展望は何か、といった分析ができるようになる。 ディスカッションやプレゼンテーション、リサーチや文書作成の能力が向上する。</p> <p><b>態度・志向性の領域</b> 主体的・積極的に問題点を明らかにし、解決や改善に向けた取組みを行おうとする姿勢が身につく。 自分とは異なる意見や考え方を、違うからといって排除・嫌悪するのではなく、どうして違いが生じるのかを理解するように努める態度が身につく。</p>

授業の概要	<p>演習IIを受講するみなさんは、法を学び始めてから日が浅く、法の学び方や学んだ内容の活用の方法について、更に理解を進める必要があります。</p> <p>そこで、この演習では、法やルールの細かい内容についての知識を得ることに重点を置くのではなく、アジア諸国の法や国際社会のルールを題材にしつつ、法やルールの役割・機能、法やルールと国際社会・地域社会との関係、法やルールの現在と未来などについて、多面的・多角的な視点から検討することに焦点を当てます。</p> <p>この検討のプロセスを通じて、みなさんは、さまざまな分野に共通する法の基本的な原理や基礎理論を理解するとともに、法とは何か、法の役割や機能は何か、法学部で何を学んでいるのか、法学部で学んだことをどのように活用すればよいのか（活用できるのか）について、視点を得ることができるようになるでしょう。</p> <p>なお、法学部で学んだことの活用の方法を理解することは、みなさんが社会に出る準備（就職活動を含む）を行うに際して、また、社会に出てからさまざまな活動を行うに際して、大いに役に立つでしょう。みなさんが法学部で学んでいる意味を、演習を通じて再確認しましょう。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	ゼミでの取り組みの態度（40%）、グループディスカッションやプレゼンテーション（30%）、討論における発言（30%）で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席5回以上は失格とします（遅刻は2回で欠席1回とみなします。）。 なお、欠席・遅刻とも、やむを得ない理由がある場合を除き、必ず事前に連絡してください。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回から第5回 法やルールの役割・機能 法やルールは社会においてどのような役割・機能を果たしているのだろうか。SDGsなどの国際社会の新しいルールや身近なルールを題材に考えよう。 法を学ぶために必要なスキルやノウハウ、法学部で学んだことの活用の方法などについても随時検討します。以下の各回でも同様です。</p> <p>第6回から第8回 法やルールが社会で機能するための条件 法やルールが社会で機能するためには条件のようなものがあるのだろうか。SDGsなどの国際社会の新しいルールや身近なルールを題材に考えよう。</p> <p>第9回から第11回 法やルールと文化などとの関係 法やルールと、文化、歴史、慣習、風土、既存の制度、人々の考え方などはどのような関係にあるのだろうか。SDGsなどの国際社会の新しいルールや身近なルールを題材に考えよう。</p> <p>第12回から第14回 グローバル社会における国際的なルールとローカルなルール 国際的なルールとローカルなルールはどのように影響し合うのだろうか。SDGsなどの国際社会の新しいルールや身近なルールを題材に考えよう。</p> <p>第15回 振り返り</p> <p>なお、上記は予定であり、進行状況により変更する場合があります。</p>
テキスト	なし。
参考書	授業のトピックに合わせて指示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各回において、具体的な事例の検討をした上で、グループディスカッション、ディスカッションの内容のプレゼンテーション及び全体討論を行います。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	弁護士実務経験に加え、アジア諸国における法整備支援の経験を豊富に有している教員が、学生のみなさんが法学部で学び、身につけたことを社会でどのように活用するかについて、実践的に学ぶ科目である。
質問への対応方法	授業終了後やオフィスアワーのほか、随時対応します。
フィードバックの方法	授業中のディスカッション、プレゼンテーション、意見交換などについては、授業の中でコメントします。レポート等については翌週又は翌々週に返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマについて1時間の復習を行い、次回のテーマについて1時間の予習を行います。具体的な内容は授業の中で指示します。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標 (1~10)	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 貧困をなくそう</li><li>10. 人や国の不平等をなくそう</li><li>2. 飢餓をゼロに</li><li>3. すべての人に健康と福祉を</li><li>4. 質の高い教育をみんなに</li><li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li><li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li><li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li><li>8. 働きがいも経済成長も</li><li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li></ol>
SDGs 17の目標 (11~17)	<ol style="list-style-type: none"><li>11. 住み続けられるまちづくりを</li><li>12. つくる責任つかう責任</li><li>13. 気候変動に具体的な対策を</li><li>14. 海の豊かさを守ろう</li><li>15. 陸の豊かさを守ろう</li><li>16. 平和と公正をすべての人に</li><li>17. パートナースhipで目標を達成しよう</li></ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 情報収集力</li><li>2. 情報分析力</li><li>3. 課題発見力</li><li>4. 構想力</li></ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>4. 感情制御力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>



開講科目名 Course	演習 B / Seminar IIB
時間割コード Course Code	49250
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	謝 芸甜
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	謝 芸甜 (法学部)
授業の目標	この授業は、会社法の基礎知識の理解だけでなく、高いプレゼンテーション力の習得も目標とする。
授業の概要	本演習はプレゼンテーション形式を通して、「読み・書き・話す」といった一連の取組みを行います。これらの取組みを通して、会社法に関する基礎的な知識の習熟を目指します。 〔この科目の位置づけ〕 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	成績評価の基準は次の通りです。 1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。 2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。 3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。 出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	第1回 オリエンテーション（今学期の予定） 第2回 プレゼンテーションのテーマ選定 第3回 プレゼンテーション準備 第4回 プレゼンテーション準備 第5回 プレゼンテーション準備 第6回 プレゼンテーション準備 第7回 プレゼンテーション・討論 第8回 プレゼンテーション・討論 第9回 プレゼンテーション・討論 第10回 プレゼンテーション・討論 第11回 プレゼンテーション・討論 第12回 プレゼンテーション・討論 第13回 合同ゼミ 就職活動ガイダンス 第14回 プレゼンテーション・討論 第15回 振り返りレポート
テキスト	教科書は使用しません。適宜、資料等を配布します。
参考書	

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各プレゼンテーションの課題を議論し、授業内で意見を交換する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ60分行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	12.つくる責任つかう責任 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力 3.統率力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	演習 B / Seminar IIB
時間割コード Course Code	49251
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	白出 博之
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70D演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	白出 博之(法学部)
授業の目標	ゼミの目標 この演習では、民法に関する文献・裁判例等の読解を通して、資料・文献を読む力、レジュメ(報告内容の要約)を作成して報告する力、質疑応答に関する力など、大学法学部での学びに必要な基礎力の修得を目標にします。
授業の概要	目指す学習成果 知識・理解の領域 「わたしたちの暮らしと民法の関係」や「民法とは何か」について、具体的には民法総則、債権編に関わる分野の裁判例を素材として理解し、民法に関する基本的知識を身につける。 態度・志向性の領域 日常生活における民法(具体的には民法総則・債権編)の作用・役割や重要性について関心を向けるようになる。そのうえで法律上の論点に関する自分の考えについて、結論、理由付けを論理的に表現できるようになる。 具体的には「民法判例百選」等を教材として、社会生活の中で発生している民事紛争に関する裁判例について検討しながら、「読み・書き・話す(報告し、受講者の中で議論して考える)」といった取り組みを行います。これらの取り組みを通して、民事法に関する基礎的知識だけでなく各種資格試験等においてアウトプットする能力の修得を目指します。 後期は主に債権総論をテーマとします。
評価方法	第1に、平常点として、毎回のテーマについて、自己の見解をわかりやすく発表する「アウトプット力」、および他のメンバーの発言内容をよく聞き、理解に努めるための「質問力」を養うために、毎回、最低2回の発言を必須とします(70点)。 第2に、課題レポート又は小テスト(30点)。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>後期の演習では、主に債権総論に関する判例を毎回一つずつ報告してもらい、意見交換を実施します。</p> <p>第1回 ガイダンス（演習の進め方、資料収集の方法について）債権の目的（1）</p> <p>第2回 債権の目的（2）</p> <p>第3回 債権の効力（1）</p> <p>第4回 債権の効力（2）</p> <p>第5回 債権の効力（3）</p> <p>第6回 債権の効力（4）</p> <p>第7回 債権の効力（5）</p> <p>第8回 責任財産の維持（1）</p> <p>第9回 責任財産の維持（2）</p> <p>第10回 責任財産の維持（3）</p> <p>第11回 多数当事者の債権債務関係（1）</p> <p>第12回 多数当事者の債権債務関係（2）</p> <p>第13回 合同ゼミ 2年生向け就職活動ガイダンス</p> <p>第14回 債権譲渡・債務引き受</p> <p>第15回 債権の消滅（1）全体のまとめ</p>
テキスト	窪田充見、森田宏樹編『民法判例百選 債権〔第8版〕』（有斐閣、2018年）
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	発表担当者の報告内容に対して、他のメンバーとの質疑応答をし、報告者の見解に対する賛否について理由付けを明確に行うようなディスカッションを実施します。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	弁護士として裁判実務、および我が国のODA事業である法整備支援の長期専門家として立法支援業務等の実務経験をこの演習の内容に活用します。
質問への対応方法	講義時間中に適宜回答するほか、オフィスアワー、メール等で対応します。
フィードバックの方法	課題・小テストについてはGoogleフォームで直ちに採点および解説をフィードバックします。レポートについては、全員の提出内容について総評・コメントを実施します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	まず発表担当者は、報告用のレジメ資料を作成、配布するための準備作業が必要です。また発表担当者以外のメンバーは、当該分野の復習のために最低1時間を確保してください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう</p> <p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>5.ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	5.自信創出力

開講科目名 Course	演習 B / Seminar IIB
時間割コード Course Code	49252
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	張 瑞輝
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	張 瑞輝 (法学部)
授業の目標	<p>模擬裁判の実演および判例報告によって通常民事訴訟第一審の流れを実践的に習得することを授業目標とする。</p> <p>知識・理解の領域 不法行為法の構成要件、民事訴訟法の基本構造および医事法の諸課題に関する知識を把握し理解することができる。</p> <p>態度・志向性の領域 グループ学習参加時の心構えを訓練することができる。 法を身近な存在として体験し、紛争解決における法の役割を自発的に思考する動機付けとなること ができる。</p> <p>技能の領域 法学文献のリサーチ方法、読み方、要約の実践方法を技能として習得することができる。 判例とその読み方、判例研究のテクニックが身につくこと ができる。</p>
授業の概要	<p>前期では、医療過誤事件を素材に、受講生をs役(裁判官)・x役(原告)・y役(被告)にグループ分けし、模擬裁判のことを念頭に置きながら、それぞれの役割(民事訴訟における裁判所と当事者の役割)の体験を通して、通常民事訴訟第一審の流れを実践的に学習する。</p> <p>後期では、模擬法廷の実演等を通して疑問・関心をもった問題意識から発足し、医事法判例百選(必要に応じて民事訴訟法判例百選、民法判例百選 債権も選択肢)から一つの判例を選び、判例報告を行う。</p>
評価方法	授業における取り組み状況や報告内容などを総合的に考慮して評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>(1) 無断欠席について 事前の連絡のない欠席が2回を超えた場合は、失格とする。</p> <p>(2) 報告日の欠席について 報告者は報告日に欠席した場合、大学規則に基づく正当な事由がない限り、失格とする。</p> <p>(3) 正当な事由の証明について 大学規則に基づく正当な事由を証明するために、書面にて関係書類を提出し、立証責任を負わなければならない。</p>

授業計画	<p>第01回 ガイダンス（演習の進め方について）</p> <p>第02回 模擬法廷・弁護士に会う</p> <p>第03回 council of war</p> <p>第04回 模擬法廷・訴訟の提起</p> <p>第05回 council of war</p> <p>第06回 模擬法廷・弁論の開始</p> <p>第07回 争点の整理</p> <p>第08回 証拠（人証）の申出と証拠調べの策定</p> <p>第09回 本人尋問と証人尋問</p> <p>第10回 鑑定と最終弁論</p> <p>第11回 和解期日</p> <p>第12回 判決の言渡し</p> <p>第13回 合同ゼミ（就職ガイダンス）</p> <p>第14回 控訴の提起</p> <p>第15回 まとめ</p>
テキスト	<p>福永有利ほか『アクチュアル民事の訴訟 補訂版』（有斐閣、2016年）</p> <p>和田吉弘『コンパクト版 基礎からわかる民事訴訟法 第2版』（商事法務、2023年）</p> <p>潮見佳男『基本講義 債権各論 不法行為法 第4版』（新世社、2021年）</p>
参考書	<p>山本和彦『よくわかる民事裁判---平凡吉訴訟日記 第4版』（有斐閣、2023年）</p> <p>中野貞一郎『民事裁判入門 第3版補訂版』（有斐閣、2012年）</p> <p>小林秀之『判例講義 民事訴訟法』（弘文堂、2019年）</p> <p>中野次雄ほか『判例とその読み方』（有斐閣、2009年）</p> <p>窪田充見ほか『民法判例百選 第9版』（有斐閣、2023年）</p> <p>甲斐克則ほか『医事法判例百選 第3版』（有斐閣、2022年）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	オフィスアワー等。相談により随時対応する。
フィードバックの方法	<p>当該授業は、対面方式でありながら、Google Classroomを使用する予定である。第1回の授業の際にGoogle Classroomへ参加方法また必要な情報を提示する。</p> <p>授業のフィードバックは、原則として、Google Classroomの諸機能（添削、返却、等）を利用して行う。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>予習復習等、準備学習の内容は、前記テキストと参考書の該当範囲のほか、Google Classroomを利用して配布する予定である。</p> <p>予習復習等、準備学習の時間は、各回で少なくとも4時間以上を要する内容となっているため、該当範囲を事前に閲読した上での受講が必要となる。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう</p> <p>4.質の高い教育をみんなに</p>
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	<p>1.情報収集力</p> <p>2.情報分析力</p> <p>3.課題発見力</p> <p>4.構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>4.感情制御力</p> <p>5.自信創出力</p> <p>7.課題発見力</p>

開講科目名 Course	演習 B / Seminar IIB
時間割コード Course Code	49253
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	早川 結人
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70B 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川 結人 (法学部)
授業の目標	法学分野の専門文献を読みこなすために必要な能力・技術 文献に基づき法的な質疑を行うための能力・技術 の両方を獲得する。
授業の概要	このゼミでは、民法(あるいはもう少し広く民事法)に関する基本書・判例の講読・精読を全員で行う。 具体的には、毎週ごとに、テキストの該当部分を事前提示に従って予習、ゼミ中はそれを分担して音読しつつ、必要な範囲で学生同士の質疑や教員からの質問・解説を加える。
評価方法	ゼミへの出席状況および講読への参加の積極性を基準に総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上の欠席で、失格とする。
授業計画	初回到ガイダンス・自己紹介。 2回目から14回目までかけて、必要な文献を通読する。 ただし、13回目は合同ゼミ(就活ガイダンス)を実施する。 最終回にまとめの講義を行う。
テキスト	
参考書	特になし。 必要があれば随時、指摘。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問については、ゼミ内で随時対応。 また、メールによる連絡についても随時対応する。
フィードバックの方法	ゼミ内で随時行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	該当範囲について、事前にテキストの一読を予習範囲とする。 範囲については、ゼミ内で随時指摘する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	





開講科目名 Course	演習 B / Seminar IIB
時間割コード Course Code	49254
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	美濃羽正康
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	6 5 C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	美濃羽正康 (法学部)
授業の目標	<p>演習IIBでは、演習IIAで学んだ法的思考の基礎を用いて、報告者については一人で法律問題について報告できること、報告者以外の者としては討論に参加できるようになることを到達目標とする。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 法律学の学習方法の基礎を学び、法的ものの考え方を理解することができる。</p> <p>思考判断の領域 問題発見の仕方、思考方法、問題解決の方法を学び、法的思考力の基礎を身につけることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 自ら課題や問題点を発見し、資料等を収集分析する態度を身につけ、論理的に思考し、説明や提案できることを目指す。</p>
授業の概要	<p>各自、関心のある法的な問題を選び、これに関する資料収集を行い、分析する方法が身につくように、実践を通じて学習する。条文や法的な文章、判例の読み方を学び、読解力を身につける。</p> <p>ゼミでの報告は、演習での学習の中核であり、醍醐味でもある。ゼミ生全員がゼミ報告に積極的に参加して欲しい。</p>
評価方法	演習への取り組み、報告等により総合的に判断する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	3分の2以上の出席が必要である。したがって6回欠席すると失格とする。
授業計画	<p>1回 ガイダンス・履修指導</p> <p>2回 ゼミ報告とは</p> <p>3回 報告テーマ選定</p> <p>4回 報告原稿とレジュメ</p> <p>5回 報告を聴いてみよう (模擬報告)</p> <p>6回 ゼミ討論を体験</p> <p>7回 レジュメ・チェック</p> <p>8回 報告と討論</p> <p>9回 報告と討論</p> <p>10回 報告と討論</p> <p>11回 報告と討論</p> <p>12回 報告と討論</p> <p>13回 合同ゼミ; 就職活動ガイダンス</p> <p>14回 報告と討論</p> <p>15回 まとめと総評</p>

テキスト	特に指定はしない。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各自、発表テーマについて、調べ、まとめ、発表するという体験を通じて法学の学びの基本を身につける。 討論を通じて、様々な視点や価値観に触れることで、多角的諸侯を身につける。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	演習中、演習後、オフィスアワーなどで対応するほか、メールでの質問にも応じる。
フィードバックの方法	演習中、演習後、オフィスアワーなどで対応するほか、個人面談等の機会に行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	15回の演習時間のほか、毎週、1時間の予習・1時間の復習を要する課題に取り組む。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	演習 B / Seminar IIB
時間割コード Course Code	49255
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	水谷 仁
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水谷 仁 (法学部)
授業の目標	<p>私たちは生きていくうえで、政治と何かしらの形で関係をもたざるをえません。この授業では、そんな政治について自分なりの問題意識や考えを見つけ出し、それを他者に理解してもらいつつ、意見交換を通して、政治についての他者の問題意識や考えを理解していけるようになることを目標とします。</p> <p>知識・理解の領域 私たちの身の回りにある政治の問題を理解することを目標とする。</p> <p>技能の領域 法学部の学習に必要な読解方法、調査方法、表現方法などを身につける。また、大学におけるゼミとしてふさわしい考察を行い、他の人の意見を聞いて質問を行ったり議論したりすることを目標にする。</p> <p>態度・志向性の領域 文化的の発展や産業の発達のために政治はどのようにあるべきかを自発的に考えられることを目標とする。</p>
授業の概要	<p>各自が興味・関心をもった政治に関するトピックについて、専門書や学術論文を取り上げて全員で意見交換を行います。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照してください。</p>
評価方法	各自の報告や質疑応答・意見交換への参加など、演習への参加態度を中心に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業中に複数回注意を受けた場合や、正当な理由のない欠席が6回以上となった場合は、失格の対象となります。

授業計画	<p>演習参加者が選んだテーマについての報告と質疑応答・意見交換を中心に進めます。ただし、現実の政治情勢の変化に応じて、専門的な知識の内容や進行速度は変更することがあります。</p> <p>第1回 ガイダンス（報告日程の調整）  第2回 個人報告準備、個人面談  第3回 個人報告準備、個人面談  第4回 個人報告準備、個人面談  第5回 個人報告  第6回 個人報告  第7回 個人報告  第8回 個人報告  第9回 個人報告  第10回 グループディスカッション準備、個人報告予備  第11回 グループディスカッション準備、個人報告予備  第12回 グループディスカッション準備  第13回 2年生向け就職活動ガイダンス（合同ゼミ）  第14回 グループディスカッション  第15回 まとめ</p>
テキスト	必要に応じて配布します。
参考書	佐々木毅『政治学講義』（東京大学出版会、2005年） 久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝『政治学』（有斐閣、2010年） 永井史男・水島治郎・品田裕編『政治学入門』（ミネルヴァ書房、2019年） 田村哲樹・近藤康史・堀江孝司『政治学』（勤草書房、2020年） 杉田敦『政治的思考』（岩波書店、2013年） 新川敏光・大西裕・大矢根聡・田村哲樹『政治学』（有斐閣、2017年） 吉野篤編『政治学〔第2版〕』（弘文堂、2018年）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	個人報告やグループディスカッションを行うことで、主体的な学習と学習内容のアウトプットを促進します。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問は授業中や授業後、オフィスアワーに受け付けます。
フィードバックの方法	報告・質疑応答終了後や次回の授業時に、教員から解説を行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習と2時間の復習を行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 4.感情制御力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	演習 B / Seminar IIB
時間割コード Course Code	49256
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	高橋 勝也
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70E 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高橋 勝也 (法学部)
授業の目標	法とビジネスの意義及び役割について考察し、自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する。現代社会の諸問題を解決しようとする姿勢や態度を育成する。
授業の概要	1. 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、職業選択に関する知識と技能を身に付ける。 2. 法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて論拠をもって表現する。
評価方法	レポート 50% プレゼンテーション 50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回~第12回: ビジネス研究と資産形成研究 第13回 合同ゼミ(就職ガイダンス) 第14回~第15回: ビジネスと資産形成研究のまとめ
テキスト	
参考書	特になし
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	毎時間、質問対応の時間を設定する。 オフィスアワー以外の時間帯でも、研究室にて受け付ける。
フィードバックの方法	毎時間、15分間程度フィードバックの時間を設定して、リアクションペーパーの提出により担当教員が状況を把握する。 次の時間の対面による指導の他、メール、グーグルクラスルームを活用してフィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	現代社会における諸課題を把握しておく必要があるため、マスコミュニケーションツールを活用して、ニュースに触れておく。(予習: 合計30時間) 現代社会における諸課題と向き合い、解決に向けて方策について検討し、プレゼンテーションを行う。(復習&授業準備: 合計30時間)

使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標 (11~17)	16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	演習 B / Seminar IIB
時間割コード Course Code	49257
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	福島 崇弘
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 5 C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	福島 崇弘 (法学部)
授業の目標	民法を中心とした法的知識を学び、各種資格試験にも対応できる法律知識を得る
授業の概要	対面講義となります。 民法を基本とし、前週に出された課題(様々な事例)に対する法的解決方法を検討する。 必要な範囲で学生同士の質疑や教員からの質問・解説を加える。
評価方法	授業態度50% 課題50% ゼミへの出席状況および講読への参加の積極性を基準に総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	以下の予定は、学生の状況や要望により変更する場合があります。 第1回 ガイダンス 第2回～第12回 検討・討論・報告 第13回 就職活動ガイダンス(合同ゼミ) 第14回 検討・討論・報告 第15回 まとめ
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	演習中に受け付ける。またメールにて受付もします
フィードバックの方法	演習中に受け付ける。またメールにて受付もします
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の内容に応じて、適宜、予習・復習時間を示します。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 B (再) / SeminarIIB
時間割コード Course Code	49258
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 直史
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 直史 (法学部)
授業の目標	<p>演習の目標は、SDGsを法の視点から踏み込んで考え、法学部で学んだことをグローバルレベル及びローカルレベルのそれぞれの社会でどのように活用できるかについての視点を得ることです。グローバル化が進む国際社会では、これまでのルールが見直されるとともに、新しいルールが生まれています。SDGsもその一つです。これらルールの見直しや新しいルールの形成は、私たちの日々の生活とも結びついています。この演習では、身近なルールに加え、現代の国際社会の新しい潮流などから、「法」の多様性を考え、「法」を多角的に分析します。これらの検討を通じて、みなさんが、3年次前期までに学んだ法の基本的な原理や基礎理論を前提として、グローバルな社会、ローカルな社会、そしてグローバルとローカルが交錯し影響し合う社会で、法学部で学んだことをどのように活用するかについて実践的な視座を得ることを目指します。</p> <p>加えて、3年次前期までに学んだ内容を踏まえて、資料収集やリサーチの方法、レポート・レジユムの作成方法など、社会において必要となる能力を更に向上させることも目標とします。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;</p> <p><b>知識・理解の領域</b> 国際社会のルールや身近なルールの検討を通じて、法を学ぶに当たって重要となる基本的な原理や基礎理論を理解するとともに、法学部で学んでいることの意味、法の学び方、法学部で学んだことの活用の方法を理解する。</p> <p><b>技能の領域</b> 具体的な事例（題材）の問題点を明らかにし、その問題の背景は何か、解決に向けて誰のどのような利益を考慮しなければならないのか、課題に対する短期的な対応及び中長期的な展望は何か、といった分析ができるようになる。 ディスカッションやプレゼンテーション、リサーチや文書作成の能力が向上する。</p> <p><b>態度・志向性の領域</b> 主体的・積極的に問題点を明らかにし、解決や改善に向けた取組みを行おうとする姿勢が身につく。 自分とは異なる意見や考え方を、違うからといって排除・嫌悪するのではなく、どうして違いが生じるのかを理解するように努める態度が身につく。</p>



授業の概要	<p>後期の演習は、前期の演習の中で検討した論点の中から、ゼミ生の関心に応じてテーマを設定します。担当するテーマについてみなさんそれぞれ（ペア又はグループ）がレジユメの作成及び報告を行い、全員で議論を行います。その後、必要に応じて教員がコメント・解説を加えます。また、SDGsに関するテーマを設定してディベートも行います。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	ゼミでの取り組みの態度（30%）、レジユメや報告の内容（40%）、討論における発言（30%）で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席5回以上は失格とします（遅刻は2回で欠席1回とみなします。）。 なお、欠席・遅刻とも、やむを得ない理由がある場合を除き、必ず事前に連絡してください。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 第2回 前期の内容の確認・グループ研究テーマ選定 第3回から第4回 グループ研究（プレゼンテーション準備） 第5回から第9回 プレゼンテーション及び討論 第10回から第11回 ディベート準備 第12回から第14回 ディベート及び討論 第15回 振り返り</p> <p>上記は予定であり、進行状況により変更する場合があります。</p>
テキスト	なし。
参考書	授業のトピックに合わせて指示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ペア又はグループによるディスカッション、リサーチ、プレゼンテーション準備及びプレゼンテーションを行います。各ペア又はグループのプレゼンテーションについて討論を行います。また、ディベートの準備及びディベートを行います。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	弁護士実務経験に加え、アジア諸国における法整備支援の経験を豊富に有している教員が、学生のみなさんが法学部で学び、身につけたことを社会でどのように活用するかについて、実践的に学ぶ科目である。
質問への対応方法	授業終了後やオフィスアワーのほか、随時対応します。
フィードバックの方法	授業中のディスカッション、プレゼンテーション、意見交換、ディベートなどについては、授業の中でコメントします。レポート等については翌週又は翌々週に返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	ペア又はグループの発表のための準備（レジユメやプレゼンテーション資料の作成を含む。）、ディベートの準備等のために、毎回2時間程度の時間外学習を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> <li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li> <li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> <li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 住み続けられるまちづくりを</li> <li>12. つくる責任つかう責任</li> <li>13. 気候変動に具体的な対策を</li> <li>14. 海の豊かさを守ろう</li> <li>15. 陸の豊かさを守ろう</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> <li>17. パートナリーシップで目標を達成しよう</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>

PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>4. 感情制御力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>
----------------	--

開講科目名 Course	演習 A / Seminar IIIA
時間割コード Course Code	49300
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	佐藤 直史
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 直史 (法学部)
授業の目標	<p>演習の目標は、SDGsを法の視点から踏み込んで考え、法学部で学んだことをグローバルレベル及びローカルレベルのそれぞれの社会でどのように活用できるかについての視点を得ることです。グローバル化が進む国際社会では、これまでのルールが見直されるとともに、新しいルールが生まれています。SDGsもその一つです。これらルールの見直しや新しいルールの形成は、私たちの日々の生活や身近なルールとも結びついています。この演習では、現代の国際社会の新しい潮流などから、「法」の多様性を考え、「法」を多角的に分析します。これらの検討を通じて、みなさんが、2年次までに学んだ法の基本的な原理や基礎理論を前提として、グローバルな社会、ローカルな社会、そしてグローバルとローカルが交錯し影響し合う社会で、法学部で学んだことをどのように活用するかについて実践的な視座を得ることを目指します。</p> <p>加えて、2年次までに学んだ内容を踏まえて、資料収集やリサーチの方法、レポート・レジユメの作成方法、プレゼンテーションやディスカッションの方法など、社会において必要となる能力を更に向上させることも目標とします。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;</p> <p><b>知識・理解の領域</b> 国際社会のルールや身近なルールを検討を通じて、法を学ぶに当たって重要となる基本的な原理や基礎理論を理解するとともに、法学部で学んでいることの意味、法の学び方、法学部で学んだことの活用する方法を理解する。</p> <p><b>技能の領域</b> 具体的な事例（題材）の問題点を明らかにし、その問題の背景は何か、解決に向けて誰のどのような利益を考慮しなければならないのか、課題に対する短期的な対応及び中長期的な展望は何か、といった分析ができるようになる。 ディスカッションやプレゼンテーション、リサーチや文書作成の能力が向上する。</p> <p><b>態度・志向性の領域</b> 主体的・積極的に問題点を明らかにし、解決や改善に向けた取組みを行おうとする姿勢が身につく。 自分とは異なる意見や考え方を、違うからといって排除・嫌悪するのではなく、どうして違いが生じるのかを理解するように努める態度が身につく。</p>

<p>授業の概要</p>	<p>演習IIIを受講するみなさんは、2年次までの学びを踏まえて、さまざまな法についての理解や法とグローバルな社会/ローカルな社会との関係についての理解、そして学んだ内容の活用の方法についての理解を更に進める必要があります。そこで、この演習では、SDGsなどの国際社会のルール、そして身近なルールを題材に、法やルールの役割・機能、法やルールと国際社会・地域社会との関係、法やルールの現在と未来などについて、多面的・多角的な視点から検討します。この検討のプロセスを通じて、みなさんは、さまざまな分野に共通する法の基本的な原理や基礎理論の理解を更に掘り下げることができるとともに、法の役割や機能は何か、法学部で何を学んでいるのか、法学部で学んだことをどのように活用すればよいのか(活用できるのか)について、視座を得ることができるようになるでしょう。</p> <p>なお、法学部で学んだことの活用の方法を理解することは、みなさんが社会に出る準備(就職活動を含む)を行うに際して、また、社会に出てからさまざまな活動を行うに際して、大いに役に立つでしょう。みなさんが法学部で学んでいる意味を、演習を通じて再確認しましょう。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
<p>評価方法</p>	<p>ゼミでの取り組みの態度(40%)、グループディスカッションやプレゼンテーション(30%)、全体討論における発言(30%)で評価します。</p>
<p>教員の指導に従わない以外の事由による失格基準</p>	<p>欠席5回以上は失格とします(遅刻は2回で欠席1回とみなします。)。なお、欠席・遅刻とも、やむを得ない理由がある場合を除き、必ず事前に連絡してください。</p>
<p>授業計画</p>	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 合同ゼミ(PROGテスト)</p> <p>第3回から第5回 法やルールと社会 法やルールは社会においてどのような役割・機能を果たしているのだろうか。SDGsなどの国際社会の新しいルールや身近なルールを題材に考えよう。また、新しい技術や社会の変化は、法やルールにどのような影響を与えるのだろうか。「AIと法」といった新しい問題の検討を通じて、法やルールの将来を考えよう。 法を学ぶために必要なスキルやノウハウ、法学部で学んだことの活用の方法などについても随時検討します。以下の各回でも同様です。</p> <p>第6回 法やルールと文化などとの関係 法やルールと、文化、歴史、慣習、風土、既存の制度、人々の考え方などはどのような関係にあるのだろうか。SDGsなどの国際社会の新しいルールや身近なルールを題材に考えよう。</p> <p>第7回 グローバル社会における国際的なルールとローカルなルール 国際的なルールとローカルなルールはどのように影響し合うのだろうか。SDGsなどの国際社会の新しいルールや身近なルールを題材に考えよう。</p> <p>第8回から第11回 グループ研究及びプレゼンテーション 演習で扱ったテーマ・トピックの中から関心のあるトピックを選んで、同じトピックを選んだグループメンバーと一緒に、更に問題を掘り下げて研究し、その成果を発表しよう。</p> <p>第12回から第14回 ディベート 演習で扱ったテーマ・トピックの中から、意見が分かれるテーマを設定して、グループに分かれてディベートを行ってみよう。ディベートを通じて、問題に対して多角的な視点から検討することの重要性を学ぼう。</p> <p>上記は予定であり、進行状況により変更する場合があります。</p>
<p>テキスト</p>	<p>なし。</p>
<p>参考書</p>	<p>授業のテーマ・トピックに合わせて指示します。</p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等</p>	<p>含む</p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容</p>	<p>具体的な事例の検討をした上で、グループディスカッション、プレゼンテーション、ディベート及び全体討論を行います。</p>
<p>実務経験のある担当教員による授業</p>	<p>該当する</p>
<p>担当教員の实務経験を活かした授業の内容</p>	<p>弁護士実務経験に加え、アジア諸国における法整備支援の経験を豊富に有している教員が、学生のみなさんが法学部で学び、身につけたことを社会でどのように活用するかについて、実践的に学ぶ科目です。</p>
<p>質問への対応方法</p>	<p>授業終了後やオフィスアワーのほか、随時対応します。</p>

フィードバックの方法	授業中のディスカッション、プレゼンテーション、ディベート、意見交換などについては、授業の中でコメントします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマについて1時間の復習を行い、次回のテーマについて1時間の予習を行います。具体的な内容は授業の中で指示します。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> <li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li> <li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> <li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 住み続けられるまちづくりを</li> <li>12. つくる責任つかう責任</li> <li>13. 気候変動に具体的な対策を</li> <li>14. 海の豊かさを守ろう</li> <li>15. 陸の豊かさを守ろう</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> <li>17. パートナーシップで目標を達成しよう</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>3. 統率力</li> <li>4. 感情制御力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> </ol>

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIIIA
時間割コード Course Code	49301
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	謝 芸甜
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 2 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	謝 芸甜 (法学部)
授業の目標	この授業は、会社法の基礎知識の理解だけでなく、高いプレゼンテーション力の習得も目標とする。
授業の概要	本演習はプレゼンテーション形式を通して、「読み・書き・話す」といった一連の取組みを行います。これらの取組みを通して、会社法に関する基礎的な知識の会得を目指します。 〔この科目の位置づけ〕 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	成績評価の基準は次の通りです。 1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。 2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。 3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。 出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	第1回 オリエンテーション（今学期の予定） 第2回 合同ゼミ PROGテスト受験 第3回 プレゼンテーションのテーマ選定 第4回 プレゼンテーション準備 第5回 プレゼンテーション準備 第6回 プレゼンテーション準備 第7回 プレゼンテーション・討論 第8回 プレゼンテーション・討論 第9回 プレゼンテーション・討論 第10回 プレゼンテーション・討論 第11回 プレゼンテーション・討論 第12回 プレゼンテーション・討論 第13回 プレゼンテーション・討論 第14回 プレゼンテーション・討論 第15回 振り返りレポート
テキスト	教科書は使用しません。適宜、資料等を配布します。
参考書	

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各プレゼンテーションの課題を議論し、授業内で意見を交換する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ60分行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	12.つくる責任つかう責任 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力 3.統率力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIIIA
時間割コード Course Code	49302
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	白出 博之
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70D演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	白出 博之(法学部)
授業の目標	ゼミの目標 この演習では、民法に関するニュース、文献・裁判例等の読解を通して、資料・文献を読む力、レジュメ(報告内容の要約)を作成して報告する力、質疑応答に関する力など、大学法学部での学びに必要となる基礎力及び応用力の修得を目標にします。
授業の概要	目指す学習成果 知識・理解の領域 「わたしたちの暮らしと民法の関係」や「民法とは何か」について、具体的には債権編、物権編に関わる分野の裁判例を素材として理解し、民法に関する基本的知識を身につける。 態度・志向性の領域 日常生活における民法(具体的には債権編、物権編)の作用・役割や重要性について関心を向けるようになる。そのうえで法律上の論点に関する自分の考えについて、結論、理由付けを論理的に表現できるようになる。 具体的には「民法判例百選」等を教材として、社会生活の中で発生している民事紛争に関する裁判例について検討しながら、「読み・書き・話す(報告し、受講者の中で議論して考える)」といった取り組みを行います。これらの取り組みを通して、民事法に関する基礎的知識だけでなく各種資格試験等においてアウトプットする能力の修得を目指します。 前期は主に物権編をテーマとします。
評価方法	第1に、平常点として、毎回のテーマについて、自己の見解をわかりやすく発表する「アウトプット力」、および他のメンバーの発言内容をよく聞き、理解に努めるための「質問力」を養うために、毎回、最低2回の発言を必須とします(70点)。 第2に、課題レポート又は小テスト(30点)。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。



授業計画	前期の演習では、主に物権編に関する判例を毎回一つずつ報告してもらい、意見交換を実施します。 第1回 ガイダンス（演習の進め方、資料収集の方法について）物権総則（1） 第2回 合同ゼミ PROGテスト受験 第3回 物権変動（1） 第4回 物権変動（2） 第5回 物権変動（3） 第6回 物権変動（4） 第7回 物権変動（5） 第8回 物権各論（1） 第9回 物権各論（2） 第10回 物権各論（3） 第11回 担保物権・抵当権（1） 第12回 担保物権・抵当権（2） 第13回 担保物権・非典型担保 第14回 担保物権・質権 第15回 担保物権・留置権他
テキスト	潮見佳男、道垣内弘人編『民法判例百選 総則・物権〔第8版〕』（有斐閣，2018年）
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	発表担当者の報告内容に対して、他のメンバーとの質疑応答をし、報告者の見解に対する賛否について理由付けを明確に行うようなディスカッションを実施します。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	弁護士として裁判実務、および我が国のODA事業である法整備支援の長期専門家として立法支援業務等の実務経験をこの演習の内容に活用します。
質問への対応方法	講義時間中に適宜回答するほか、オフィスアワー、メール等で対応します。
フィードバックの方法	課題・小テストについてはGoogleフォームで直ちに採点および解説をフィードバックします。レポートについては、全員の提出内容について総評・コメントを実施します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	まず発表担当者は、報告用のレジメ資料を作成、配布するための準備作業が必要です。また発表担当者以外のメンバーは、当該分野の復習のために最低1時間を確保してください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	5.自信創出力

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIIIA
時間割コード Course Code	49303
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	張 瑞輝
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	張 瑞輝 (法学部)
授業の目標	<p>民事訴訟法における基礎的かつ重要な問題を体系的に学習することを授業目標とする。</p> <p>知識・理解の領域 民事訴訟法の基本概念と基本構造をおさらい、理解をさらに深めることができる。民事訴訟法の重要問題についてその難点を直撃し、その解法を把握できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 学説の生成過程と判例の変遷を自ら進んで整理するようになる。</p> <p>技能の領域 民事訴訟法学の学問としての思考様式を解明する能力が鍛えられる。ディベートを行う際に、基本的な攻撃および防御の技法が身につくことができる。</p>
授業の概要	<p>第一部 報告の部 報告者が、テーマ・確認事項・参考文献を手がかりに、45分程度の報告を行う。報告後、報告に関する質疑応答、基本知識の確認を行う。演習事例を参加者全員で検討する。</p> <p>第二部 裁判例ディベートの部 以下の要領で裁判例ディベートを1~2回程度で実施する。 (1) 事例の説明 (2) Xチームの第1プレゼンテーション・8分 作戦タイム1分 Yチームの尋問・8分 (3) Yチームの第1プレゼンテーション・8分 作戦タイム1分 Xチームの尋問・8分 (4) Xチームの第2プレゼンテーション・6分 Yチームの尋問・6分 (5) Yチームの第2プレゼンテーション・6分 Xチームの尋問・6分 (6) 勝負の判定</p>
評価方法	授業における取り組み状況や報告内容などを総合的に考慮して評価する。

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>(1) 無断欠席について 事前の連絡のない欠席が2回を超えた場合は、失格とする。</p> <p>(2) 報告日の欠席について 報告者は報告日に欠席した場合、大学規則に基づく正当な事由がない限り、失格とする。</p> <p>(3) 正当な事由の証明について 大学規則に基づく正当な事由を証明するために、書面にて関係書類を提出し、立証責任を負わなければならない。</p>
授業計画	<p>第01回 ガイダンス（演習の進め方について）</p> <p>第02回 合同ゼミ（PROGテスト受験）</p> <p>第03回 報告編の準備期日 pre報告1&amp;FB 第1審</p> <p>第04回 報告編の準備期日 pre報告2&amp;FB 控訴審</p> <p>第05回 報告編の準備期日 pre報告3&amp;FB 上告審&amp;差戻審</p> <p>第06回 報告編の準備期日 pre報告4&amp;FB 学説</p> <p>第07回 報告編の準備期日 pre報告5&amp;FB 実務</p> <p>第08回 報告編の準備期日 pre報告6&amp;FB 私見・小括</p> <p>第09回 報告編の本報告 第1回期日</p> <p>第10回 報告編の本報告 第2回期日</p> <p>第11回 報告編の本報告 第3回期日</p> <p>第12回 報告編の本報告 第4回期日</p> <p>第13回 裁判例ディベート編 作戦会議期日</p> <p>第14回 裁判例ディベート編 実施期日</p> <p>第15回 まとめ</p>
テキスト	<p>高田裕成ほか『民事訴訟法判例百選 第6版』（有斐閣、2023年）</p> <p>越山和宏『Basic Study 民事訴訟法 第2版』（法律文化社、2023年）</p> <p>越山和宏『ロジカル演習 民事訴訟法』（弘文堂、2022年）</p> <p>小林秀之『判例講義・民事訴訟法』（弘文堂、2019年）</p> <p>潮見佳男『基本講義 債権各論 不法行為法 第4版』（新世社、2021年）</p>
参考書	<p>伊藤眞ほか『民事訴訟法の争点』（有斐閣、2009年）</p> <p>三木浩一ほか『民事訴訟法 第4版』（有斐閣、2023年）</p> <p>和田吉弘『基礎からわかる民事訴訟法 第2版』（商事法務、2022年）</p> <p>吉村良一『不法行為法 第6版』（有斐閣、2022年）</p> <p>窪田充見『不法行為法 第2版』（有斐閣、2018年）</p> <p>窪田充見ほか『民法判例百選 第9版』（有斐閣、2023年）</p> <p>甲斐克則ほか『医事法判例百選 第3版』（有斐閣、2022年）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	オフィスアワー等。相談により随時対応する。
フィードバックの方法	<p>当該授業は、対面方式でありながら、Google Classroomを使用する予定である。第1回の授業の際にGoogle Classroomへ参加方法また必要な情報を提示する。</p> <p>授業のフィードバックは、原則として、Google Classroomの諸機能（添削、返却、等）を利用して行う。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>予習復習等、準備学習の内容は、前記テキストと参考書の該当範囲のほか、Google Classroomを利用して配布する予定である。</p> <p>予習復習等、準備学習の時間は、各回で少なくとも4時間以上を要する内容となっているため、該当範囲を事前に関連した上での受講が必要となる。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に

PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	演習 A / Seminar IIIA
時間割コード Course Code	49304
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	早川 結人
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70B 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川 結人 (法学部)
授業の目標	<p>事例問題を用いて、民法(主に財産法)の重要論点を検討することにより、民法の知識を確認・定着させ、応用力を身につける。また、報告・討論を通じて、資料収集の仕方やレポート・レジユメの作成方法等、社会において必要となる能力を身につけることを目標とする。</p> <p>知識・理解の領域 判例・学説の検討を通して、民法の知識を身につける。社会における民法の意義及び機能について理解を深める。</p> <p>技能の領域 ・判例を読み、民法の重要論点を整理することができる。その成果をレジユメや発表資料にまとめることができる。 ・研究成果を発表することができる。また、他の人の報告を聞き、議論することができる。</p> <p>態度・志向性の領域 ・周囲と相談・協力して課題に取り組むことができる。 ・他者の意見を聞くことによって、自分の考えを深めることができる。 ・社会における諸問題に関心を持つ。</p>
授業の概要	民法(主に財産法)の重要論点について、事例問題を用いて学ぶ。いくつかの事例問題について、担当者を割り振り、各回の担当者は、レジユメを作成し、報告を行う。報告を受けて、参加者全員で議論を行う。その後、教員がコメント・解説を加える。
評価方法	授業への参加姿勢(報告内容及び討論における発言等)、報告レポートなどによって総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上の欠席で失格とする。
授業計画	<p>第1回：ガイダンス 第2回：合同ゼミ (PROGテスト) 第3回：民法の基礎知識の確認・報告の方法について 第4回～第14回：報告・討論 第15回：まとめ</p>
テキスト	特に指定しない。

参考書	○判例教材 潮見佳男ほか編『民法判例百選1 総則・物権[第8版]』(有斐閣、2018年) 中田裕康ほか編『民法判例百選2 債権[第8版]』(有斐閣、2018年) 原田昌和ほか『民法1総則 判例30!』(有斐閣、2017年) 水津太郎ほか『民法2物権 判例30!』(有斐閣、2017年) 田高寛貴ほか『民法3債権総論 判例30!』(有斐閣、2017年) 中原太郎 ほか『民法4債権各論 判例30!』(有斐閣、2017年)  その他、初回授業で紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業終了後やオフィスアワーのほか、随時対応する。
フィードバックの方法	ゼミ内で随時、行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回ごとに3時間の予習・復習が求められる。 特に、担当回においては報告および質疑応答をするため、そのための予習・レジュメ作成が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIIIA
時間割コード Course Code	49305
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	美濃羽正康
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	6 5 C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	美濃羽正康 (法学部)
授業の目標	<p>商法・会社法を中心に企業法の基礎知識を報告・討論を通じて身につける。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 企業法をめぐる諸問題について、自ら、問題点を見つけ出し、調べることで、より深い知識を身につけることができる。</p> <p>関心意欲の領域 自分で報告テーマを選定し調べ、報告することで自分の意見を述べるようになる。 ゼミの仲間との討論を通じて、他の者の視点や価値判断に触れることで関心や学習意欲がさらに増すようになる。</p> <p>技能の領域 資料収集や調査のテクニックが身につく。 レジュメの作成を通じて、要約して説明する能力が向上する。 プレゼンテーション能力を身につけることができる。 議論の仕方を身につけることで、傾聴力、対話力、説得力などを身につけることができる。 ・就職活動対策として、SPI問題集に全員で取り組む。</p>
授業の概要	<p>対面授業で実施します。</p> <p>本演習では、商法および会社法をめぐる諸問題について、全員で質疑、討論をする。 企業法の分野では、会社法の施行や金融商品取引法の全面施行といった、諸制度が大きく様変わりをしている。新しい局面を迎えた会社法を中心として企業法の基礎知識を身につける。その上で、会社法の基本的な問題を素材に用いて自分で考える力を養うことを主眼とする。</p>
評価方法	<p>ゼミ報告 50%</p> <p>ゼミ報告のための予習成果物の事前提出 20%</p> <p>ゼミ討論での発言 10%</p> <p>レポート等課題提出 20%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上欠席した場合は失格とする。

授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 合同ゼミ PROGテスト</p> <p>第3回 全員で考える(1)会社の本質</p> <p>第4回 判例を読もう(1)第3回に関連する判例</p> <p>第5回 全員で考える(2)会社の権利能力</p> <p>第6回 判例を読もう(2)第5回に関連する判例</p> <p>第7回 全員で考える(3)株式会社は誰のものか</p> <p>第8回 全員で考える(4)日本の株式会社の実態</p> <p>第9回 グループワーク(1)業務執行機関をめぐる問題</p> <p>第10回 グループ討議(1)9回を題材に</p> <p>第11回 グループワーク(2)監査機関をめぐる問題</p> <p>第12回 グループ討議(2)11回を題材に</p> <p>第13回 個人報告に向けて</p> <p>第14回 10分報告会(全員)</p> <p>第15回 演習IIIBに向けて</p> <p>夏休み中の個人課題と報告の順番発表等</p>
テキスト	<p>テキストは使用しない。</p> <p>教材、資料等は、適宜指示する。</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ゼミ報告に基づいて、異なる考え方(解決案)についてグループで議論し、妥当であると考えられる考えを発表する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	演習中に受け付けるとともに、メール(t10n0283@nagoya-ku.ac.jp)でも対応する。
フィードバックの方法	提出物の返却時や、ゼミ中に講評を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>予習について</p> <p>報告者は、報告予定日の1週間前までに、報告用のレジюмеを作成、ゼミ性の人数分をコピーし、配布しておくこと(2時間)。</p> <p>報告者以外の者は、報告者から配布されたレジюмеを基に、議論に参加できるように予習をしてゼミに臨むこと。(1時間)</p> <p>復習について</p> <p>報告や議論等に対する講評に基づき、簡単なレポートを作成し、提出する。(1時間)</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>8.働きがいも経済成長も</p> <p>9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	<p>1.情報収集力</p> <p>2.情報分析力</p> <p>3.課題発見力</p> <p>4.構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>5.自信創出力</p> <p>7.課題発見力</p>



開講科目名 Course	演習 A / Seminar IIIA
時間割コード Course Code	49306
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	ウミリデノブ アリシエル
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70F 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ウミリデノブ アリシエル (法学部)
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際経済法の考え方や基礎知識を身につける。</li> <li>2. 国際経済問題を見る眼を養うことができる。</li> </ol> 加えて、この演習では、 <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 国際経済法を学ぶうえで必要となる基礎的な知識</li> <li>4. 文献を読み、その内容を正確に把握する能力</li> <li>5. レジューメ・レポートを作成する能力の修得を目標とする。</li> </ol>
授業の概要	<p>本ゼミでは、国際法の最近発展している新分野ー国際経済法の最先端の問題点を検討する。特に、国際経済活動に対する広法的規制、その中でも国際貿易と国際投資規制の法的枠組みの基礎知識を身につけ、自分の意見をまとめて発表する。</p> <p>参加者の関心を考慮し、国際貿易法グループ、国際投資法グループ及び国際通貨・金融というグループに分けて、それぞれのグループに報告をしてもらう。</p> <p>(1) 国際経済に関して関心を持っている学生の参加を勧める。  (2) 英語ができる学生を歓迎する。  (3) 勇気持って、海外に行ってみたい学生をもっと歓迎する。</p>
評価方法	授業への参加態度・報告への準備等を総合的に評価して成績を決定する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・特になし。
授業計画	<p>報告者が論点を整理した上で報告を行い、参加者との討論を行った後、担当教員からコメントを行う。</p> <p>第1回 ガイダンス  第2回 合同ゼミ (PROGテスト)  第3回 国際経済法の基礎に関するレクチャー (1)  第4回 国際経済法の基礎に関するレクチャー (2)  第5回 報告者・報告内容等の確定・情報検索の方法  第6回 国際経済活動の問題の研究 (貿易)  第7回 国際経済活動の問題の研究 (貿易)  第8回 国際経済活動の問題の研究 (貿易)  第9回 国際経済活動の問題の研究 (投資)  第10回 国際経済活動の問題の研究 (投資)  第11回 国際経済活動の問題の研究 (投資)  第12回 国際経済活動の問題の研究 (通貨・金融)  第13回 国際経済活動の問題の研究 (通貨・金融)  第14回 国際経済活動の問題の研究 (経済制裁)  第15回 まとめ</p>
テキスト	

参考書	・小林友彦ほか『WTO・FTA法入門：グローバル経済のルールを学ぶ』第2版、(法律文化社、2020年) ・経済産業省通商政策編『2023年版不公正貿易報告書』 その他の資料はゼミで適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループ毎で国際経済法の現代的課題を議論し、解決方法をまとめ、授業内で発表する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・オフィスアワーで対応
フィードバックの方法	・翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・毎週、日本経済新聞(特に、国際経済法に関連するニュース)から60分予習と60分復習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	1. 貧困をなくそう
SDGs 17の目標(11~17)	12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 7. 課題発見力 9. 実践力

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIIIA
時間割コード Course Code	49308
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	清水 裕樹
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	6 3 E 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	清水 裕樹 (法学部)
授業の目標	同じテキストを参加者みんなで読むことを通じて、ものごとを考える習慣を身に着けられるようになることを目指します。
授業の概要	法には常に従わなければならないのか? クローン人間を作成してはいけないのか? などなど、法哲学者が執筆した、具体的な問題に関するテキストを分担して読み、できる限り学生同士の対話を通じて学びを深めたいと考えております。
評価方法	授業への参加姿勢を総合的に評価します。 報告担当の回に無断で欠席した場合は、不合格となります。 また、教員ではなく学生が少しでも考える習慣を身に着けることを目標とする授業ですので、授業中にどのような発言をするかが大切です。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	報告担当者でなくても、原則として出席することは義務です。何か事情があって欠席する場合は、事前の連絡を求めます。特段の事情なく、無断欠席を複数回した場合は失格の対象となります。
授業計画	PROGテスト受検や、キャリア関係の行事などは、大学側の日程に従って参加します。 本演習独自のプログラムとしては、まず「輪読」という授業スタイルについて説明し、レジュメの作り方について学びます。 続いて、指定テキストを分担して読むことを実施します。テキストが予想よりも早く読み終わった場合、参考書も使用する予定です。
テキスト	住吉雅美『あぶない法哲学 常識に衝突く思考のレッスン』講談社現代新書2020年。
参考書	瀧川博英(編)『問いかける法哲学』法律文化社2016年。 佐藤岳詩『メタ倫理学入門』勁草書房2017年。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	テキストで取り上げられている問題について、報告者による報告をもとに、参加者みんなで議論し、理解を深めることを目指します。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中随時対応します。授業時間外は、原則としてメールで質問を受け付けます。
フィードバックの方法	授業中にコメントします。また、特に必要があれば、メール等で意見の共有などをおこないます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	報告者は、報告の準備や予想される質問への対応をお願いします。 報告者以外も、ふだんからテキストを読み、考えることが必要です。本学に限りませんが、学生さんからの質問は低調な傾向があります。場合により追加でのレポート提出やメール等でのコメントを求める場合もあります。その際にはきちんと対応してください。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	9.実践力

開講科目名 Course	演習 A / Seminar IIIA
時間割コード Course Code	49309
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	遠山 圭一
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	遠山 圭一 (法学部)
授業の目標	<p>この演習では、個別具体的な事案についての検討、意見交換を通じて、社会人としての基礎力を身に付けることとともに、社会で生じる様々な問題を解決するための問題解決能力や法的思考力を修得することを目標とします。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 民法や刑法等を学習することで資格試験や公務員試験に必要な法律知識を習得できる。 身近な法律問題を解決する思考を習得できる。</p> <p>技能の領域 問題点を発見・整理し、資料を作成することができる。 他人の意見を聞き、自分の意見を発表することができる。 常に物事を深く考える習慣を身に付けることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 分析力、対話力などを身に付けることができる。</p>
授業の概要	<p>民事・刑事問わず、各自が興味を持った事案や裁判例等についての検討・意見交換という形で演習を行います。</p> <p>民事事件については、当事者が求める請求やその要件、事実関係や証拠構造等、刑事事件については、検察官が主張する犯罪事実や証拠構造、弁護人の防御活動等を意識した検討や意見交換を行います。また、裁判官がどのような思考で結論を出すのかなど、結論に至る思考過程も意識した検討や意見交換を行います。</p> <p>その他、適宜、就職活動の準備のための取り組みも行います。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照してください。</p>
評価方法	報告内容、意見交換への参加などを総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>以下の予定は、学生の状況や要望により変更する場合があります。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 合同ゼミ (PROGテスト受験) 第3回～第14回 検討・報告 第15回 まとめ</p>
テキスト	必要に応じて資料を配布します。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	この演習は、民事・刑事問わず、各自が興味を持った事案や裁判例等について、個人やグループで調査検討を行い解決方法を発表したり、特定の役割（例えば、裁判官、検察官、弁護士など）を前提とした考え方や解決方法を検討するなど、学生による報告や意見交換などを中心に行います。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	弁護士として、民事事件・刑事事件などに携わっている教員が、個別具体的な事案の検討を通じて、情報収集能力、事案分析能力、文書作成能力、論理的思考力、問題解決能力などの向上を目的とした実践的な教育を行う科目である。
質問への対応方法	授業前後やメールにて対応します。 メールアドレス：tooyama-k@nagoya-ku.ac.jp
フィードバックの方法	授業内でコメントします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の内容に応じて、適宜、予習・復習時間を示します。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / Seminar IIIA
時間割コード Course Code	49310
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	萩原 聡央
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 5 C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	萩原 聡央 (法学部)
授業の目標	この授業では、行政活動との関わりにおいて現実に起こり得る個別具体的な事例を取り上げ、行政法をめぐる諸問題について、学説や裁判例の検討を行いながら、行政法に関する基礎的な理解を深めることを目標とします。 <学習成果> 知識・理解の領域 「わたしたちの暮らしと行政法の関係」や「行政法とは何か」について理解し、行政法に関する基礎的な知識を身につける。 態度・志向性の領域 わたしたちの日常生活における行政法の役割や重要性について関心を向けるようになる。
授業の概要	この演習では、行政活動との関わりにおいて問題となった個別具体的な事例の検討を通して、行政法に関する原理・原則について学ぶとともに、行政法的な思考の訓練を行います。 これらの取組みを通して、行政法に関する基礎的な知識や行政法的思考の修得を図ります。 〔この科目の位置づけ〕 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	授業における議論への取組み状況（30%）、報告内容（30%）およびレポート（40%）の結果により評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	原則として、出席回数が12回に満たない場合は失格とします。
授業計画	第1回 ガイダンス（テキスト「はしがき」・「使い方」） 第2回 3年次合同ゼミ（PROGテストの実施） 第3回 法律による行政の原理（テキスト01） 第4回 行政上の法律関係（1）民法の適用（テキスト02） 第5回 行政上の法律関係（2）安全配慮義務・時効（テキスト03） 第6回 行政上の法律関係（3）行政法規違反の法律行為の効力（テキスト04） 第7回 法の一般原則（1）信義則と租税法律主義（テキスト05） 第8回 法の一般原則（2）行政権の濫用（テキスト06） 第9回 行政行為（1）公定力・不可変更力（テキスト07） 第10回 行政行為（2）行政行為の不可争力と違法性の承継（テキスト08） 第11回 行政行為（3）行政行為の瑕疵（テキスト09） 第12回 行政行為（4）取消しと撤回（テキスト10） 第13回 行政裁量（1）政治的判断（テキスト11） 第14回 行政裁量（2）専門的・技術的判断（テキスト12） 第15回 行政裁量（3）判断過程審査（テキスト13）・前期のまとめ
テキスト	大橋真由美・北島周作・野口貴公美 『START UP 行政法判例50』（有斐閣）

参考書	・斎藤誠・山本隆司編『(別冊ジュリスト260号)行政判例百選〔第8版〕』(有斐閣) ・斎藤誠・山本隆司編『(別冊ジュリスト261号)行政判例百選〔第8版〕』(有斐閣)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	この演習は学生による報告を中心として行うため、しっかり準備をした報告と、積極的な討論を期待します。具体的には、報告者の希望も考慮しながら、各回のテーマについて、次のような形式で15回の授業を進めます。 すなわち、(1)受講者の中で報告者を決める、(2)報告者は、事例の紹介、それに関係する裁判例・学説の紹介、議論すべき論点や問題点の指摘を行う、(3)報告者の報告および論点の指摘を前提として、受講者間で議論する、(4)基本的な論点について、演習担当教員が説明を加える、こととします。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業の前後およびオフィスアワーなど随時対応します。
フィードバックの方法	授業内で実施する議論・報告およびレポートに関しては、授業時に具体的な判断・評価を示します。また、成績評価に関しては、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回におけるテキストの該当箇所について、毎回2時間の予習と2時間の復習を行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	12.つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1		ガイダンス、前期における報告内容および報告者の決定	
2		報告・討論	
3		報告・討論	
4		報告・討論	
5		報告・討論	
6		報告・討論	
7		報告・討論	
8		報告・討論	
9		報告・討論	
10		報告・討論	
11		報告・討論	
12		報告・討論	
13		報告・討論	
14		報告・討論	
15		前期のまとめ	

開講科目名 Course	演習 B / SeminarIIIB
時間割コード Course Code	49350
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	佐藤 直史
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 直史 (法学部)
授業の目標	<p>演習の目標は、SDGsを法の視点から踏み込んで考え、法学部で学んだことをグローバルレベル及びローカルレベルのそれぞれの社会でどのように活用できるかについての視点を得ることです。グローバル化が進む国際社会では、これまでのルールが見直されるとともに、新しいルールが生まれています。SDGsもその一つです。これらルールの見直しや新しいルールの形成は、私たちの日々の生活とも結びついています。この演習では、身近なルールに加え、現代の国際社会の新しい潮流などから、「法」の多様性を考え、「法」を多角的に分析します。これらの検討を通じて、みなさんが、3年次前期までに学んだ法の基本的な原理や基礎理論を前提として、グローバルな社会、ローカルな社会、そしてグローバルとローカルが交錯し影響し合う社会で、法学部で学んだことをどのように活用するかについて実践的な視座を得ることを目指します。</p> <p>加えて、3年次前期までに学んだ内容を踏まえて、資料収集やリサーチの方法、レポート・レジユメの作成方法、プレゼンテーションやディスカッションの方法など、社会において必要となる能力を更に向上させることも目標とします。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;</p> <p><b>知識・理解の領域</b> 国際社会のルールや身近なルールの検討を通じて、法を学ぶに当たって重要となる基本的な原理や基礎理論を理解するとともに、法学部で学んでいることの意味、法の学び方、法学部で学んだことの活用する方法を理解する。</p> <p><b>技能の領域</b> 具体的な事例（題材）の問題点を明らかにし、その問題の背景は何か、解決に向けて誰のどのような利益を考慮しなければならないのか、課題に対する短期的な対応及び中長期的な展望は何か、といった分析ができるようになる。 ディスカッションやプレゼンテーション、リサーチや文書作成の能力が向上する。</p> <p><b>態度・志向性の領域</b> 主体的・積極的に問題点を明らかにし、解決や改善に向けた取組みを行おうとする姿勢が身につく。 自分とは異なる意見や考え方を、違うからといって排除・嫌悪するのではなく、どうして違いが生じるのかを理解するように努める態度が身につく。</p>

授業の概要	<p>後期の演習は、前期の演習の中で検討したテーマ・トピックの中から、ゼミ生のみなさんの関心に応じて新たな課題を設定します。担当する新しい課題について、ゼミ生のみなさんは、前期で実施したグループ研究の教訓を踏まえて、更に掘り下げた研究発表を行います。研究発表については、教員とゼミ生のみなさん全員とで意見交換を行います。また、前期よりも更に複雑な課題についてのディベートも行います。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	ゼミでの取り組みの態度（40%）、レジュメや報告の内容（30%）、全体討論における発言（30%）で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席5回以上は失格とします（遅刻は2回で欠席1回とみなします。）。 なお、欠席・遅刻とも、やむを得ない理由がある場合を除き、必ず事前に連絡してください。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 第2回 前期の内容の確認・グループ研究テーマ選定 第3回から第4回 グループ研究（プレゼンテーション準備） 第5回から第9回 プレゼンテーション及び全体討論 第10回から第11回 ディベート準備 第12回から第14回 ディベート及び全体討論 第15回 振り返り</p> <p>上記は予定であり、進行状況により変更する場合があります。</p>
テキスト	なし。
参考書	授業のトピックに合わせて指示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループによるディスカッション、リサーチ、プレゼンテーション準備及びプレゼンテーションを行います。グループのプレゼンテーションについて全体討論を行います。また、ディベートの準備及びディベートを行い、ディベートのテーマに関する全体討論も行います。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	弁護士実務経験に加え、アジア諸国における法整備支援の経験を豊富に有している教員が、学生のみなさんが法学部で学び、身につけたことを社会でどのように活用するかについて、実践的に学ぶ科目です。
質問への対応方法	授業終了後やオフィスアワーのほか、随時対応します。
フィードバックの方法	授業中のディスカッション、プレゼンテーション、意見交換、ディベートなどについては、授業の中でコメントします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	グループ発表のための準備（レジュメやプレゼンテーション資料の作成を含む。）、ディベートの準備等のために、毎回2時間程度の時間外学習を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> <li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li> <li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> <li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 住み続けられるまちづくりを</li> <li>12. つくる責任つかう責任</li> <li>13. 気候変動に具体的な対策を</li> <li>14. 海の豊かさを守ろう</li> <li>15. 陸の豊かさを守ろう</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> <li>17. パートナリーシップで目標を達成しよう</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>

PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>4. 感情制御力</li><li>5. 自信創出力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li></ol>
----------------	--

開講科目名 Course	演習 B / SeminarIIIB
時間割コード Course Code	49351
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	謝 芸甜
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 2 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	謝 芸甜 (法学部)
授業の目標	この授業は、会社法の基礎知識の理解だけでなく、高いプレゼンテーション力の習得も目標とする。
授業の概要	本演習はプレゼンテーション形式を通して、「読み・書き・話す」といった一連の取組みを行います。これらの取組みを通して、会社法に関する基礎的な知識の会得を目指します。 〔この科目の位置づけ〕 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	成績評価の基準は次の通りです。 1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。 2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。 3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。 出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	第1回 オリエンテーション（今学期の予定） 第2回 プレゼンテーションのテーマ選定 第3回 プレゼンテーション準備 第4回 プレゼンテーション準備 第5回 プレゼンテーション準備 第6回 プレゼンテーション準備 第7回 プレゼンテーション・討論 第8回 プレゼンテーション・討論 第9回 プレゼンテーション・討論 第10回 プレゼンテーション・討論 第11回 プレゼンテーション・討論 第12回 プレゼンテーション・討論 第13回 プレゼンテーション・討論 第14回 プレゼンテーション・討論 第15回 振り返りレポート
テキスト	教科書は使用しません。適宜、資料等を配布します。
参考書	

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各プレゼンテーションの課題を議論し、授業内で意見を交換する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ60分行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	12.つくる責任つかう責任 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力 3.統率力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	演習 B / SeminarIIIB
時間割コード Course Code	49352
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	白出 博之
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70D演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	白出 博之(法学部)
授業の目標	ゼミの目標 この演習では、民法に関するニュース、文献・裁判例等の読解を通して、資料・文献を読む力、レジュメ(報告内容の要約)を作成して報告する力、質疑応答に関する力など、大学法学部での学習に必要となる基礎力及び応用力の修得を目標にします。
授業の概要	目指す学習成果 知識・理解の領域 「わたしたちの暮らしと民法の関係」や「民法とは何か」について、具体的には債権編、物権編に関わる分野の裁判例を素材として理解し、民法に関する基本的知識を身につける。 態度・志向性の領域 日常生活における民法(具体的には債権編、物権編)の作用・役割や重要性について関心を向けるようになる。そのうえで法律上の論点に関する自分の考えについて、結論、理由付けを論理的に表現できるようになる。 具体的には「民法判例百選」等を教材として、社会生活の中で発生している民事紛争に関する裁判例について検討しながら、「読み・書き・話す(報告し、受講者の中で議論して考える)」といった取組みを行います。これらの取組みを通して、民事法に関する基礎的知識だけでなく各種資格試験等においてアウトプットする能力の修得を目指します。
評価方法	第1に、平常点として、毎回のテーマについて、自己の見解をわかりやすく発表する「アウトプット力」、および他のメンバーの発言内容をよく聞き、理解に努めるための「質問力」を養うために、毎回、最低2回の発言を必須とします(70点)。 第2に、課題レポート又は小テスト(30点)。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	主に債権各論に関する判例を毎回一つずつ報告してもらい、意見交換を実施します。 第1回 契約総論（1） 第2回 契約総論（2） 第3回 契約総論（3） 第4回 契約総論（4） 第5回 契約各論・売買（1） 第6回 契約各論・売買（2） 第7回 契約各論・売買（3） 第8回 契約各論・売買（4） 第9回 契約各論・賃貸借（1） 第10回 契約各論・賃貸借（2） 第11回 契約各論・その他の契約（1） 第12回 契約各論・その他の契約（2） 第13回 不当利得・事務管理 第14回 不法行為（1） 第15回 不法行為（2）
テキスト	窪田充見、森田宏樹編『民法判例百選 債権〔第8版〕』（有斐閣，2018年）
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	発表担当者の報告内容に対して、他のメンバーとの質疑応答をし、報告者の見解に対する賛否について理由付けを明確に行うようなディスカッションを実施します。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	弁護士として裁判実務、および我が国のODA事業である法整備支援の長期専門家として立法支援業務等の実務経験をこの演習の内容に活用します。
質問への対応方法	講義時間中に適宜回答するほか、オフィスアワー、メール等で対応します。
フィードバックの方法	課題・小テストについてはGoogleフォームで直ちに採点および解説をフィードバックします。レポートについては、全員の提出内容について総評・コメントを実施します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	まず発表担当者は、報告用のレジメ資料を作成、配布するための準備作業が必要です。また発表担当者以外のメンバーは、当該分野の復習のために最低1時間を確保してください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	5.自信創出力



開講科目名 Course	演習 B / SeminarIIIB
時間割コード Course Code	49353
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	張 瑞輝
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	張 瑞輝 (法学部)
授業の目標	<p>民事訴訟法における基礎的かつ重要な問題を体系的に学習することを授業目標とする。</p> <p>知識・理解の領域 民事訴訟法の基本概念と基本構造をおさらい、理解をさらに深めることができる。民事訴訟法の重要問題についてその難点を直撃し、その解法を把握できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 学説の生成過程と判例の変遷を自ら進んで整理するようになる。</p> <p>技能の領域 民事訴訟法学の学問としての思考様式を解明する能力が鍛えられる。ディベートを行う際に、基本的な攻撃および防御の技法が身につくことができる。</p>
授業の概要	<p>第一部 報告の部 報告者が、テーマ・確認事項・参考文献を手がかりに、45分程度の報告を行う。報告後、報告に関する質疑応答、基本知識の確認を行う。演習事例を参加者全員で検討する。</p> <p>第二部 裁判例ディベートの部 以下の要領で裁判例ディベートを1~2回程度で実施する。 (1) 事例の説明 (2) Xチームの第1プレゼンテーション・8分 作戦タイム1分 Yチームの尋問・8分 (3) Yチームの第1プレゼンテーション・8分 作戦タイム1分 Xチームの尋問・8分 (4) Xチームの第2プレゼンテーション・6分 Yチームの尋問・6分 (5) Yチームの第2プレゼンテーション・6分 Xチームの尋問・6分 (6) 勝負の判定</p>
評価方法	授業における取り組み状況や報告内容などを総合的に考慮して評価する。

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>(1) 無断欠席について 事前の連絡のない欠席が2回を超えた場合は、失格とする。</p> <p>(2) 報告日の欠席について 報告者は報告日に欠席した場合、大学規則に基づく正当な事由がない限り、失格とする。</p> <p>(3) 正当な事由の証明について 大学規則に基づく正当な事由を証明するために、書面にて関係書類を提出し、立証責任を負わなければならない。</p>
授業計画	<p>第01回 ガイダンス（演習の進め方について）</p> <p>第02回 報告編の準備期日 pre報告1&amp;FB 第1審</p> <p>第03回 報告編の準備期日 pre報告2&amp;FB 控訴審</p> <p>第04回 報告編の準備期日 pre報告3&amp;FB 上告審&amp;差戻審</p> <p>第05回 報告編の準備期日 pre報告4&amp;FB 学説</p> <p>第06回 報告編の準備期日 pre報告5&amp;FB 実務</p> <p>第07回 報告編の準備期日 pre報告6&amp;FB 私見・小括</p> <p>第08回 報告編の本報告 第1回期日</p> <p>第09回 報告編の本報告 第2回期日</p> <p>第10回 報告編の本報告 第3回期日</p> <p>第11回 報告編の本報告 第4回期日</p> <p>第12回 報告編の本報告 第5回期日</p> <p>第13回 裁判例ディベート編 作戦会議期日</p> <p>第14回 裁判例ディベート編 実施期日</p> <p>第15回 まとめ</p>
テキスト	<p>高田裕成ほか『民事訴訟法判例百選 第6版』（有斐閣、2023年）</p> <p>越山和宏『Basic Study 民事訴訟法 第2版』（法律文化社、2023年）</p> <p>越山和宏『ロジカル演習 民事訴訟法』（弘文堂、2022年）</p> <p>小林秀之『判例講義・民事訴訟法』（弘文堂、2019年）</p> <p>潮見佳男『基本講義 債権各論 不法行為法 第4版』（新世社、2021年）</p>
参考書	<p>伊藤眞ほか『民事訴訟法の争点』（有斐閣、2009年）</p> <p>三木浩一ほか『民事訴訟法 第4版』（有斐閣、2023年）</p> <p>和田吉弘『基礎からわかる民事訴訟法 第2版』（商事法務、2022年）</p> <p>吉村良一『不法行為法 第6版』（有斐閣、2022年）</p> <p>窪田充見『不法行為法 第2版』（有斐閣、2018年）</p> <p>窪田充見ほか『民法判例百選 第9版』（有斐閣、2023年）</p> <p>甲斐克則ほか『医事法判例百選 第3版』（有斐閣、2022年）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	オフィスアワー等。相談により随時対応する。
フィードバックの方法	<p>当該授業は、対面方式でありながら、Google Classroomを使用する予定である。第1回の授業の際にGoogle Classroomへ参加方法また必要な情報を提示する。</p> <p>授業のフィードバックは、原則として、Google Classroomの諸機能（添削、返却、等）を利用して行う。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>予習復習等、準備学習の内容は、前記テキストと参考書の該当範囲のほか、Google Classroomを利用して配布する予定である。</p> <p>予習復習等、準備学習の時間は、各回で少なくとも4時間以上を要する内容となっているため、該当範囲を事前に関連した上での受講が必要となる。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に

PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	演習 B / SeminarIIIB
時間割コード Course Code	49354
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	早川 結人
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70B 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川 結人 (法学部)
授業の目標	<p>事例問題を用いて、民法(主に財産法)の重要論点を検討することにより、民法の知識を確認・定着させ、応用力を身につける。また、報告・討論を通じて、資料収集の仕方やレポート・レジユメの作成方法等、社会において必要となる能力を身につけることを目標とする。</p> <p>知識・理解の領域 判例・学説の検討を通して、民法の知識を身につける。社会における民法の意義及び機能について理解を深める。</p> <p>技能の領域 ・判例を読み、民法の重要論点を整理することができる。その成果をレジユメや発表資料にまとめることができる。 ・研究成果を発表することができる。また、他の人の報告を聞き、議論することができる。</p> <p>態度・志向性の領域 ・周囲と相談・協力して課題に取り組むことができる。 ・他者の意見を聞くことによって、自分の考えを深めることができる。 ・社会における諸問題に関心を持つ。</p>
授業の概要	民法(主に財産法)の重要論点について、事例問題を用いて学ぶ。いくつかの事例問題について、担当者を割り振り、各回の担当者は、レジユメを作成し、報告を行う。報告を受けて、参加者全員で議論を行う。その後、教員がコメント・解説を加える。
評価方法	授業への参加姿勢(報告内容及び討論における発言等)、報告レポートなどによって総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上の欠席で失格とする。
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回～第14回：報告・討論 第15回：まとめ
テキスト	特に指定しない。
参考書	<p>○判例教材 潮見佳男ほか編『民法判例百選1 総則・物権[第8版]』(有斐閣、2018年) 中田裕康ほか編『民法判例百選2 債権[第8版]』(有斐閣、2018年) 原田昌和ほか『民法1総則 判例30!』(有斐閣、2017年) 水津太郎ほか『民法2物権 判例30!』(有斐閣、2017年) 田高寛貴ほか『民法3債権総論 判例30!』(有斐閣、2017年) 中原太郎 ほか『民法4債権各論 判例30!』(有斐閣、2017年)</p> <p>その他、初回授業で紹介する。</p>

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業終了後やオフィスアワーのほか、随時対応する。
フィードバックの方法	ゼミ内で随時、行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回ごとに3時間の予習・復習が求められる。 特に、担当回においては報告および質疑応答をするため、そのための予習・レジュメ作成が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 B / SeminarIIIB
時間割コード Course Code	49355
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	美濃羽正康
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	6 5 C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	美濃羽正康 (法学部)
授業の目標	<p>商法・会社法を中心に企業法の基礎知識を報告・討論を通じて身につける。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 企業法をめぐる諸問題について、自ら、問題点を見つけ出し、調べることで、より深い知識を身につけることができる。</p> <p>関心意欲の領域 自分で報告テーマを選定し調べ、報告することで自分の意見を述べるようになる。 ゼミの仲間との討論を通じて、他の者の視点や価値判断に触れることで関心や学習意欲がさらに増すようになる。</p> <p>技能の領域 資料収集や調査のテクニックが身につく。 レジュメの作成を通じて、要約して説明する能力が向上する。 プレゼンテーション能力を身につけることができる。 議論の仕方を身につけることで、傾聴力、対話力、説得力などを身につけることができる。 ・就職活動対策として、SPI問題集に全員で取り組む。</p>
授業の概要	<p>対面授業で実施する。</p> <p>本演習では、商法および会社法をめぐる諸問題について、演習IIIAにおいて決めた順番で報告してもらい、全員で質疑、討論を行う。</p> <p>企業法の分野では、会社法の施行や金融商品取引法の全面施行といった、諸制度が大きく様変わりしている。新しい局面を迎えた会社法を中心として企業法の基礎知識を身につけるため、ゼミ生全員で学習する。</p> <p>また、ゼミでは、適宜、就職活動の準備のための取り組みも行う。</p>
評価方法	<p>ゼミ報告 50%</p> <p>ゼミ報告のための予習成果物の事前提出 20%</p> <p>ゼミ討論への参加 10%</p> <p>レポート等課題提出 20%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上欠席した場合、失格とする。

授業計画	第1回 後期ガイダンス 第2階 報告と議論 SPI 第3回 報告と議論 SPI 第4回 報告と議論 SPI 第5回 報告と議論 SPI 第6回 報告と議論 SPI 第7回 報告と議論 SPI 第8回 報告と議論 SPI 第9回 報告と議論 SPI 第10回 報告と議論 SPI 第11回 エントリーシートの書き方 第12回 エントリーシート指導1 第13回 エントリーシート指導2 第14回 期末試験に向けて 第15回 SPI 模擬テスト
テキスト	使用しない。 教材、参考資料は、適宜指示する。 六法を必ず持参すること。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ゼミ報告に基づいて、異なる考え方(解決案)についてグループで議論し、妥当であると考えた考えを発表する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	演習中に受け付けるとともに、メール(t10n0283@nagoya-ku.ac.jp)及びgoogle classroomでも対応する。
フィードバックの方法	提出物の返却時や、ゼミ中に講評を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習について 報告者は、報告予定日の1週間前までに、報告用のレジユメを作成、ゼミ性の人数分をコピーし、配布しておくこと(2時間)。 報告者以外の者は、報告者から配布されたレジユメを基に、議論に参加できるように予習をしてゼミに臨むこと。(1時間) 復習について 報告や議論等に対する講評に基づき、簡単なレポートを作成し、提出する。(1時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4. 質の高い教育をみんなに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	5. 自信創出力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	演習 B / SeminarIIIB
時間割コード Course Code	49356
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	ウミリデノブ アリシエル
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70F 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ウミリデノブ アリシエル (法学部)
授業の目標	1. 国際経済法の考え方や基礎知識を身につける。 2. 国際経済問題を見る眼を養うことができる。  加えて、この演習では、 3. 国際経済法上の具体的な事例を理解することを目標とする。
授業の概要	本ゼミでは、国際法の最近発展している新分野－国際経済法の最先端の問題点を検討する。特に、国際経済活動に対する広法的規制、その中でも国際貿易と国際投資活動を伴う法的問題を具体的な事例を使って、勉強する。 参加者の関心を考慮し、国際貿易法グループ、国際投資法グループ及び国際通貨・金融というグループに分けて、それぞれのグループに報告をしてもらう。
評価方法	授業への参加態度・報告への準備等を総合的に評価して成績を決定する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	報告者が論点を整理した上で報告を行い、参加者との討論を行った後、担当教員の方からコメントを行う。  第1回 ガイダンス・グループ分け 第2回 国際経済法の基礎に関するレクチャー(1) 第3回 国際経済法の基礎に関するレクチャー(2) 第4回 国際経済法の基礎に関するレクチャー(3) 第5回 事例研究 第6回 事例研究 第7回 事例研究 第8回 事例研究 第9回 事例研究 第10回 事例研究 第11回 事例研究 第12回 ディベート準備 第13回 ディベート 第14回 ディベートの総括 第15回 まとめ
テキスト	



参考書	・小林友彦ほか『WTO・FTA法入門：グローバル経済のルールを学ぶ』第2版（法律文化社、2020年） ・経済産業省通商政策編『2023年版不公正貿易報告書』 その他の資料はゼミで適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループ毎で国際経済法の現代的課題を議論し、解決方法をまとめ、授業内で発表する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・オフィスアワーで対応
フィードバックの方法	・翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎週、日本経済新聞（特に、国際経済法に関するニュース）から60分予習と60分復習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 7. 課題発見力 9. 実践力

開講科目名 Course	演習 B / SeminarIIIB
時間割コード Course Code	49358
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	清水 裕樹
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	6 3 E 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	清水 裕樹 (法学部)
授業の目標	同じテキストを参加者みんなで読むことを通じて、ものごとを考える習慣を身に着けられるようになることを目指します。
授業の概要	法には常に従わなければならないのか? クローン人間を作成してはいけないのか? などなど、法哲学者が執筆した、具体的な問題に関するテキストを分担して読み、できる限り学生同士の対話を通じて学びを深めたいと考えております。
評価方法	授業への参加姿勢を総合的に評価します。 報告担当の回に無断で欠席した場合は、不合格となります。 また、教員ではなく学生が少しでも考える習慣を身に着けることを目標とする授業ですので、授業中にどのような発言をするかが大切です。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	報告担当者でなくても、原則として出席することは義務です。何か事情があって欠席する場合は、事前の連絡を求めます。特段の事情なく、無断欠席を複数回した場合は失格の対象となります。
授業計画	キャリア関係の行事などは、大学側の日程に従って参加します。 本演習独自のプログラムとしては、まず「輪読」という授業スタイルについて説明し、レジュメの作り方について学びます。 続いて、指定テキストを分担して読むことを実施します。テキストが予想よりも早く読み終わった場合、参考書も使用する予定です。 4年生の後期末には、卒業レポートを予定しております。そのテーマ選定も徐々にはじめてゆきます。
テキスト	住吉雅美『あぶない法哲学 常識に楯突く思考のレッスン』講談社現代新書2020年。
参考書	瀧川博英(編)『問いかける法哲学』法律文化社2016年。 佐藤岳詩『メタ倫理学入門』勁草書房2017年。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	テキストで取り上げられている問題について、報告者による報告をもとに、参加者みんなで議論し、理解を深めることを目指します。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中随時対応します。授業時間外は、原則としてメールで質問を受け付けます。
フィードバックの方法	授業中にコメントします。また、特に必要があれば、メール等で意見の共有などをおこないます。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	報告者は、報告の準備や予想される質問への対応をお願いします。 報告者以外も、ふだんからテキストを読み、考えることが必要です。本学に限りませんが、学生さんからの質問は低調な傾向があります。場合により追加でのレポート提出やメール等でのコメントを求める場合もあります。その際にはきちんと対応してください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	9. 実践力

開講科目名 Course	演習 B / SeminarIIIB
時間割コード Course Code	49359
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	遠山 圭一
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	遠山 圭一 (法学部)
授業の目標	<p>この演習では、個別具体的な事案についての検討や意見交換を通じて、社会人としての基礎力を身に付けることとともに、社会で生じる様々な問題を解決するための問題解決能力や法的思考力を修得することを目標とします。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 民法や刑法等を学習することで資格試験や公務員試験に必要な法律知識を習得できる。 身近な法律問題を解決する思考を習得できる。</p> <p>技能の領域 問題点を発見・整理し、資料を作成することができる。 他人の意見を聞き、自分の意見を発表することができる。 常に物事を深く考える習慣を身に付けることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 分析力、対話力などを身に付けることができる。</p>
授業の概要	<p>民事・刑事問わず、各自が興味を持った事案や裁判例等についての検討・意見交換という形で演習を行います。</p> <p>民事事件については、当事者が求める請求やその要件、事実関係や証拠構造等、刑事事件については、検察官が主張する犯罪事実や証拠構造、弁護人の防御活動等を意識した検討や意見交換を行います。また、裁判官がどのような思考で結論を出すのかなど、結論に至る思考過程も意識した検討や意見交換を行います。</p> <p>その他、適宜、就職活動の準備のための取り組みも行います。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照してください。</p>
評価方法	報告内容、意見交換への参加などを総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>以下の予定は、学生の状況や要望により変更する場合があります。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回～第14回 準備・報告・意見交換 第15回 まとめ</p>
テキスト	必要に応じて資料を配布します。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	この演習は、民事・刑事問わず、各自が興味を持った事案や裁判例等について、個人やグループで調査検討を行い解決方法を発表したり、特定の役割（例えば、裁判官、検察官、弁護士など）を前提とした考え方や解決方法を検討するなど、学生による報告や意見交換などを中心に行います。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	弁護士として、民事事件・刑事事件などに携わっている教員が、個別具体的な事案の検討を通じて、情報収集能力、事案分析能力、文書作成能力、論理的思考力、問題解決能力などの向上を目的とした実践的な教育を行う科目である。
質問への対応方法	授業前後やメールにて対応します。 メールアドレス：tooyama-k@nagoya-ku.ac.jp
フィードバックの方法	授業内に評価を示します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の内容に応じて、適宜、予習・復習時間を示します。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 B / SeminarIIIB
時間割コード Course Code	49360
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	萩原 聡央
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 5 C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	萩原 聡央 (法学部)
授業の目標	この授業では、行政活動との関わりにおいて現実に起こり得る個別具体的な事例を取り上げ、行政法をめぐる諸問題について、学説や裁判例の検討を行いながら、行政法に関する基礎的な理解を深めることを目標とします。 <学習成果> 知識・理解の領域 「わたしたちの暮らしと行政法の関係」や「行政法とは何か」について理解し、行政法に関する基礎的な知識を身につける。 態度・志向性の領域 わたしたちの日常生活における行政法の役割や重要性について関心を向けるようになる。
授業の概要	この演習では、行政活動との関わりにおいて問題となった個別具体的な事例の検討を通して、行政法に関する原理・原則について学ぶとともに、行政法的な思考の訓練を行います。 これらの取組みを通して、行政法に関する基礎的な知識や行政法的思考の修得を図ります。 〔この科目の位置づけ〕 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	授業における議論への取組み状況(30%)、報告内容(30%)およびレポート(40%)の結果により評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	原則として、出席回数が12回に満たない場合は失格とします。
授業計画	第1回 ガイダンス・行政立法(1)法規命令(テキスト14) 第2回 行政立法(2)行政規則(テキスト15) 第3回 行政計画(テキスト16) 第4回 行政契約(テキスト17) 第5回 行政指導(テキスト18) 第6回 行政調査(テキスト19) 第7回 行政上の義務履行確保(1)行政代執行(テキスト20) 第8回 行政上の義務履行確保(2)司法的執行の可否(テキスト21) 第9回 行政手続(1)行政手続の意義(テキスト22) 第10回 行政手続(2)理由の提示(テキスト23) 第11回 行政訴訟と民事訴訟(テキスト24) 第12回 行政訴訟と行政不服審査の関係(テキスト25) 第13回 処分性(1)行政指導(テキスト26) 第14回 処分性(2)行政計画の決定(テキスト27) 第15回 処分性(3)条例の制定行為・後期のまとめ(テキスト28)
テキスト	大橋真由美・北島周作・野口貴公美『START UP 行政法判例50』(有斐閣)

参考書	・斎藤誠・山本隆司編『(別冊ジュリスト260号)行政判例百選〔第8版〕』(有斐閣) ・斎藤誠・山本隆司編『(別冊ジュリスト261号)行政判例百選〔第8版〕』(有斐閣)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	この演習は学生による報告を中心として行うため、しっかり準備をした報告と、積極的な討論を期待します。具体的には、報告者の希望も考慮しながら、各回のテーマについて、次のような形式で15回の授業を進めます。 すなわち、(1)受講者の間で報告者を決める、(2)報告者は、事例の紹介、それに関係する裁判例・学説の紹介、議論すべき論点や問題点の指摘を行う、(3)報告者の報告および論点の指摘を前提として、受講者の間で議論する、(4)基本的な論点について、演習担当教員が説明を加える、こととします。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業の前後およびオフィスアワーなど随時対応します。
フィードバックの方法	授業内で実施する議論・報告およびレポートに関しては、授業時に具体的な判断・評価を示します。また、成績評価に関しては、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回におけるテキストの該当箇所について、毎回2時間の予習と2時間の復習を行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	12.つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1		ガイダンス、前期における報告内容および報告者の決定	
2		報告・討論	
3		報告・討論	
4		報告・討論	
5		報告・討論	
6		報告・討論	
7		報告・討論	
8		報告・討論	
9		報告・討論	
10		報告・討論	
11		報告・討論	
12		報告・討論	
13		報告・討論	
14		報告・討論	
15		前期のまとめ	



開講科目名 Course	演習 A / SeminarIVA
時間割コード Course Code	49400
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 直史
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 直史 (法学部)
授業の目標	<p>演習の目標は、SDGsを法の視点から踏み込んで考え、法学部で学んだことをグローバルレベル及びローカルレベルのそれぞれの社会でどのように活用できるかについての視点を得ることです。</p> <p>グローバル化が進む国際社会では、これまでのルールが見直されるとともに、新しいルールが生まれています。SDGsもその一つです。これらルールの見直しや新しいルールの形成は、私たちの日々の生活や身近なルールとも結びついています。この演習では、現代の国際社会を取り巻くさまざまな法的問題を通じて、「法」の多様性を考え、「法」を多角的に分析します。これらの検討を通じて、みなさんが、3年次までに学んだ法の基本的な原理や基礎理論を前提として、グローバルな社会、ローカルな社会、そしてグローバルとローカルが交錯し影響し合う社会で、法学部で学んだことをどのように活用するかについて実践的な視座を得ることを目指します。</p> <p>加えて、3年次までに学んだ内容を踏まえて、資料収集やリサーチの方法、レポート・レジュメの作成方法など、社会において必要となる能力を更に向上させることも目標とします。</p> <p>〔知識・理解の観点〕 国際社会のルールや身近なルールの検討を通じて、法を学ぶに当たって重要となる基本的な原理や基礎理論を理解するとともに、法学部で学んでいることの意味、法の学び方、法学部で学んだことの活用の方法を理解する。</p> <p>〔思考・診断の観点〕 具体的な事例（題材）の問題点を明らかにし、その問題の背景は何か、解決に向けて誰のどのような利益を考慮しなければならないのか、課題に対する短期的な対応及び中長期的な展望は何か、といった分析ができるようになる。</p> <p>〔関心・意欲の観点〕 現代社会の課題について、法的な観点から興味を深め、具体的な問題を自分事として捉える力を身につける。</p> <p>〔態度の観点〕 主体的・積極的に問題点を明らかにし、解決や改善に向けた取組みを行おうとする姿勢が身につく。 自分とは異なる意見や考え方を、違うからといって排除・嫌悪するのではなく、どうして違いが生じるのかを理解するように努める態度が身につく。 ディスカッションやプレゼンテーション、リサーチや文書作成の能力が向上する。</p>

授業の概要	<p>演習Ⅳを受講するみなさんは、3年次までの学びを踏まえて、さまざまな法についての理解や法とグローバルな社会 / ローカルな社会との関係についての理解、そして学んだ内容の活用の方法についての理解を更に進める必要があります。そこで、この演習では、法やルールと国際社会・地域社会との関係、法やルールの現在と未来などについて、多面的・多角的な視点から検討します。この検討のプロセスを通じて、みなさんは、さまざまな分野に共通する法の基本的な原理や基礎理論の理解を更に掘り下げることができるとともに、法の役割や機能は何か、法学部で何を学んでいるのか、法学部で学んだことを卒業後どのように活用すればよいのか（活用できるのか）について、視座を得ることができるようになるでしょう。</p> <p>なお、法学部で学んだことの活用の方法を理解することは、みなさんが社会に出る準備（就職活動を含む）を行うに際して、また、社会に出てからさまざまな活動を行うに際して、大いに役に立つでしょう。みなさんが法学部で学んでいる意味を、演習を通じて再確認しましょう。</p> <p>〔この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。〕</p>
評価方法	ゼミでの取り組みの態度（40%）、グループディスカッションやプレゼンテーション（30%）、全体討論における発言（30%）で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席5回以上は失格とします（遅刻は2回で欠席1回とみなします。）。特別欠席は欠席回数に含まれません。 なお、欠席・遅刻とも、連絡ができないやむを得ない理由がある場合を除き、必ず事前に連絡してください。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回から第3回 グループ研究の準備 SDGsなどの国際社会の新しいルールなどを題材に、グループ研究の準備を行います。</p> <p>第4回から第9回 グループ研究の実施 SDGsなどの国際社会の新しいルールなどを題材に、グループ研究を行います。</p> <p>第10回から第14回 グループ研究の発表 グループ研究の成果を、グループごとにプレゼンテーションします。</p> <p>第15回 振り返り</p> <p>なお、上記は予定であり、進行状況により変更する場合があります。</p>
テキスト	なし。
参考書	授業のトピックに合わせて指示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ペア又はグループによるディスカッション、リサーチ、プレゼンテーション準備及びプレゼンテーションを行います。ペア又はグループのプレゼンテーションについて全体討論を行います。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	弁護士実務経験に加え、アジア諸国における法整備支援の経験を豊富に有している教員が、学生のみなさんが法学部で学び、身につけたことを社会でどのように活用するかについて、実践的に学ぶ科目です。
質問への対応方法	授業終了後やオフィスアワーのほか、随時対応します。
フィードバックの方法	授業中のディスカッション、プレゼンテーション、意見交換などについては、授業の中でコメントします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	グループ研究の準備、研究の実施、研究成果の報告の準備（レジュメやプレゼンテーション資料の作成を含む。）などのために、各回4時間程度の時間外学習を行います。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標 (1~10)	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 貧困をなくそう</li><li>10. 人や国の不平等をなくそう</li><li>2. 飢餓をゼロに</li><li>3. すべての人に健康と福祉を</li><li>4. 質の高い教育をみんなに</li><li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li><li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li><li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li><li>8. 働きがいも経済成長も</li><li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li></ol>
SDGs 17の目標 (11~17)	<ol style="list-style-type: none"><li>11. 住み続けられるまちづくりを</li><li>12. つくる責任つかう責任</li><li>13. 気候変動に具体的な対策を</li><li>14. 海の豊かさを守ろう</li><li>15. 陸の豊かさを守ろう</li><li>16. 平和と公正をすべての人に</li><li>17. パートナリシップで目標を達成しよう</li></ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 情報収集力</li><li>2. 情報分析力</li><li>3. 課題発見力</li><li>4. 構想力</li></ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>4. 感情制御力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>

開講科目名 Course	演習 A / Seminar IVA
時間割コード Course Code	49401
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	白出 博之
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70D演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	白出 博之(法学部)
授業の目標	ゼミの目標 この演習では、民事法(民法・商法・民事訴訟法を含む)に関する文献・裁判例等の読解を通して、資料・文献を読む力、レジюме(報告内容の要約)を作成して報告する力、質疑応答に関する力など、大学法学部での学びに必要な応用力の修得を目標にします。
授業の概要	目指す学習成果 知識・理解の領域 「わたしたちの暮らしと民事法の関係」や「民事法とは何か」について、関連分野の裁判例を素材として理解し、民事法に関する基本的知識を身につける。 態度・志向性の領域 日常生活における民事法の作用・役割や重要性について関心を向けるようになる。そのうえで法律上の論点に関する自分の考えについて、結論、理由付けを論理的に表現できるようになる。 具体的には「判例百選」等を教材として、社会生活の中で発生している民事紛争に関する裁判例について検討しながら、「読み・書き・話す(報告し、受講者の間で議論して考える)」といった取り組みを行います。これらの取り組みを通して、民事法に関する基礎的知識だけでなく各種資格試験等においてアウトプットする能力の修得を目指します。
評価方法	第1に、平常点として、毎回のテーマについて、自己の見解をわかりやすく発表する「アウトプット力」、および他のメンバーの発言内容をよく聞き、理解に努めるための「質問力」を養うために、毎回、最低2回の発言を必須とします(60点)。 第2に、課題レポート又は小テスト(40点)。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	前期の演習では、主に民法債権編に関する判例を報告してもらい、意見交換を実施します。
テキスト	指定なし。
参考書	民法判例百選、(有斐閣)ほか
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容 発表担当者の報告内容に対して、他のメンバーとの質疑応答をし、報告者の見解に対する賛否について理由付けを明確に行うようなディスカッションを実施します。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	弁護士として裁判実務、および我が国のODA事業である法整備支援の長期専門家として立法支援業務等の実務経験をこの演習の内容に活用します。
質問への対応方法	授業の前後およびオフィスアワーで随時対応します。

フィードバックの方法	毎回の講義後に行う振り返りシートについて、原則として次回講義においてコメントします。成績評価については、本学所定の期間に対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	まず発表担当者は、報告用のレジメ資料を作成、配布するために相応する準備作業が必要です。また発表担当者以外のメンバーは、当該分野の復習のために最低1時間を確保してください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	12.つくる責任つかう責任 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	5.自信創出力 7.課題発見力 9.実践力

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIVA
時間割コード Course Code	49402
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	張 瑞輝
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	張 瑞輝 (法学部)
授業の目標	<p>民事訴訟法における基礎的かつ重要な問題を体系的に学習することを授業目標とする。</p> <p>知識・理解の領域 民事訴訟法の基本概念と基本構造をおさらい、理解をさらに深めることができる。民事訴訟法の重要問題についてその難点を直撃し、その解法を把握できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 学説の生成過程と判例の変遷を自ら進んで整理するようになる。</p> <p>技能の領域 民事訴訟法学の学問としての思考様式を解明する能力が鍛えられる。ディベートを行う際に、基本的な攻撃および防御の技法が身につくことができる。</p>
授業の概要	<p>第一部 報告編 報告者が、テーマ・確認事項・参考文献を手がかりに、45分程度の報告を行う。報告後、報告に関する質疑応答、基本知識の確認を行う。演習事例を参加者全員で検討する。</p> <p>第二部 裁判例ディベート編 以下の要領で裁判例ディベートを1~2回程度で実施する。 (1) 事例の説明 (2) Xチームの第1プレゼンテーション・8分 作戦タイム1分 Yチームの尋問・8分 (3) Yチームの第1プレゼンテーション・8分 作戦タイム1分 Xチームの尋問・8分 (4) Xチームの第2プレゼンテーション・6分 Yチームの尋問・6分 (5) Yチームの第2プレゼンテーション・6分 Xチームの尋問・6分 (6) 勝負の判定</p>
評価方法	授業における取り組み状況や報告内容などを総合的に考慮して評価する。

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>(1) 無断欠席について 事前の連絡のない欠席が2回を超えた場合は、失格とする。</p> <p>(2) 報告日の欠席について 報告者は報告日に欠席した場合、大学規則に基づく正当な事由がない限り、失格とする。</p> <p>(3) 正当な事由の証明について 大学規則に基づく正当な事由を証明するために、書面にて関係書類を提出し、立証責任を負わなければならない。</p>
授業計画	<p>第01回 ガイダンス（演習の進め方について）</p> <p>第02回 報告編の準備期日 pre報告1&amp;FB 第1審</p> <p>第03回 報告編の準備期日 pre報告2&amp;FB 控訴審</p> <p>第04回 報告編の準備期日 pre報告3&amp;FB 上告審&amp;差戻審</p> <p>第05回 報告編の準備期日 pre報告4&amp;FB 学説</p> <p>第06回 報告編の準備期日 pre報告5&amp;FB 実務</p> <p>第07回 報告編の準備期日 pre報告6&amp;FB 私見・小括</p> <p>第08回 報告編の本報告 第1回期日</p> <p>第09回 報告編の本報告 第2回期日</p> <p>第10回 報告編の本報告 第3回期日</p> <p>第11回 報告編の本報告 第4回期日</p> <p>第12回 報告編の本報告 第5回期日</p> <p>第13回 裁判例ディベート編 作戦会議期日</p> <p>第14回 裁判例ディベート編 実施期日</p> <p>第15回 まとめ</p>
テキスト	<p>高田裕成・畑瑞穂・垣内秀介（編）『民事訴訟法判例百選 第6版』（有斐閣、2023年）</p> <p>小林秀之『判例講義・民事訴訟法』（弘文堂、2019年）</p> <p>三木浩一ほか『民事訴訟法 第4版』（有斐閣、2023年）</p> <p>潮見佳男『基本講義・債権各論2・不法行為法 第3版』（新世社、2017年）</p>
参考書	<p>伊藤眞・山本和彦（編）『民事訴訟法の争点』（有斐閣、2009年）</p> <p>越山和弘『ロジカル演習 民事訴訟法』（弘文堂、2022年）</p> <p>吉村良一『不法行為法 第6版』（有斐閣、2022年）</p> <p>窪田充見『不法行為法 第2版』（有斐閣、2018年）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	オフィスアワー等。相談により随時対応する。
フィードバックの方法	<p>当該授業は、対面方式でありながらも、Google Classroomを使用する予定である。第1回の授業の際にGoogle Classroomへ参加方法また必要な情報を提示する。</p> <p>授業のフィードバックは、原則として、Google Classroomの諸機能（添削、返却、等）を利用して行う。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>予習復習等、準備学習の内容は、前記テキストと参考書の該当範囲のほか、Google Classroomを利用して配布する予定である。</p> <p>予習復習等、準備学習の時間は、各回で少なくとも4時間以上を要する内容となっているため、該当範囲を事前に閲読した上での受講が必要となる。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p> <p>4. 構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>5. 自信創出力</p> <p>7. 課題発見力</p>

開講科目名 Course	演習 A / Seminar IVA
時間割コード Course Code	49403
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	早川 結人
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70B 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川 結人 (法学部)
授業の目標	<p>事例問題を用いて、民法(主に財産法)の重要論点を検討することにより、民法の知識を確認・定着させ、応用力を身につける。また、報告・討論を通じて、資料収集の仕方やレポート・レジユメの作成方法等、社会において必要となる能力を身につけることを目標とする。</p> <p>知識・理解の領域 判例・学説の検討を通して、民法の知識を身につける。社会における民法の意義及び機能について理解を深める。</p> <p>技能の領域 ・判例を読み、民法の重要論点を整理することができる。その成果をレジユメや発表資料にまとめることができる。 ・研究成果を発表することができる。また、他の人の報告を聞き、議論することができる。</p> <p>態度・志向性の領域 ・周囲と相談・協力して課題に取り組むことができる。 ・他者の意見を聞くことによって、自分の考えを深めることができる。 ・社会における諸問題に関心を持つ。</p>
授業の概要	民法(主に財産法)の重要論点について、事例問題を用いて学ぶ。いくつかの事例問題について、担当者を割り振り、各回の担当者は、レジユメを作成し、報告を行う。報告を受けて、参加者全員で議論を行う。その後、教員がコメント・解説を加える。
評価方法	授業への参加姿勢(報告内容及び討論における発言等)、報告レポートなどによって総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上の欠席で失格とする。
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：民法の基礎知識の確認・報告の方法について 第3回～第14回：報告・討論 第15回：まとめ
テキスト	特に指定しない。



参考書	○判例教材 潮見佳男ほか編『民法判例百選1 総則・物権[第8版]』(有斐閣、2018年) 中田裕康ほか編『民法判例百選2 債権[第8版]』(有斐閣、2018年) 原田昌和ほか『民法1総則 判例30!』(有斐閣、2017年) 水津太郎ほか『民法2物権 判例30!』(有斐閣、2017年) 田高寛貴ほか『民法3債権総論 判例30!』(有斐閣、2017年) 中原太郎 ほか『民法4債権各論 判例30!』(有斐閣、2017年)  その他、初回授業で紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業終了後やオフィスアワーのほか、随時対応する。
フィードバックの方法	ゼミ内で随時、行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回ごとに3時間の予習・復習が求められる。 特に、担当回においては報告および質疑応答をするため、そのための予習・レジュメ作成が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIVA
時間割コード Course Code	49404
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	美濃羽正康
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	6 5 C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	美濃羽正康 (法学部)
授業の目標	<p>企業法に関する知識を深める。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 企業法をめぐる諸問題について、自ら、問題点を見つけ出し、調べることで、より深い知識を身につけることができる。</p> <p>関心意欲の領域 自分で報告テーマを選定し調べ、報告することで自分の意見を述べるようになる。 ゼミの仲間との討論を通じて、他の者の視点や価値判断に触れることで関心や学習意欲がさらに増すようになる。</p> <p>技能の領域 資料収集や調査のテクニックが身につく。 レジュメの作成を通じて、要約して説明する能力が向上する。 プレゼンテーション能力を身につけることができる。 議論の仕方を身につけることで、傾聴力、対話力、説得力などを身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>本演習では、企業を取り巻く様々な問題について、3年次の演習IIIで学んだ企業法に関する基礎的な知識を活かし、より多角的な視点から問題点を見つめ学んでいくことで、知識を深めていきます(前期15回、後期15回)。まず、3年次の各自のテーマについておさらいをしたうえで、改正新会社法について学んでいく予定です。ゼミ生には、周到な報告の準備、それに基づく報告と積極的な討論への参加を要求します。また、最終的には、各自のテーマで卒業レポートを作成、提出してもらいます。</p> <p>予習について 報告者は、報告予定日の1週間前までに、報告用のレジュメを作成、ゼミ性の人数分をコピーし、配布しておくこと。 報告者以外の者は、報告者から配布されたレジュメを基に、議論に参加できるように予習をしてゼミに臨むこと。</p>
評価方法	ゼミ報告およびゼミ中の学習態度、提出レポートで総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上の欠席 ゼミ報告担当日の無断欠席

授業計画	1回 ガイダンス・履修指導 2回 ゼミ報告テーマ選定 SPI 3回 エントリーシートチェック SPI 4回 SPI・模擬面接 5回 SPI・模擬面接 6回 レジюмеチェック SPI 7回 ゼミ報告 SPI 8回 ゼミ報告 9回 ゼミ報告 10回 就活報告会 11回 ゼミ報告 12回 ゼミ報告 13回 ゼミ報告 14回 ゼミ報告 15回 ゼミ報告
テキスト	使用しない
参考書	適宜し紹介する
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ゼミ報告に基づいて、異なる考え方(解決案)についてグループで議論し、妥当であると考えた考えを発表する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	演習中に受け付けるとともに、メール(t10n0283@nagoya-ku.ac.jp)及びgoogle classroomでも対応する。
フィードバックの方法	ゼミ中に行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習について 報告者は、報告予定日の1週間前までに、報告用のレジюмеを作成、ゼミ性の人数分をコピーし、配布しておくこと(2時間)。 報告者以外の者は、報告者から配布されたレジюмеを基に、議論に参加できるように予習をしてゼミに臨むこと。(1時間) 復習について 報告や議論等に対する講評に基づき、簡単なレポートを作成し、提出する。(1時間) 卒業レポートを作成の準備をする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4. 質の高い教育をみんなに 8. 働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標(11~17)	16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIVA
時間割コード Course Code	49405
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	ウミリデノブ アリシエル
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70F 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ウミリデノブ アリシエル (法学部)
授業の目標	1. 国際経済法の考え方や基礎知識を身につける。 2. 国際経済問題を見る眼を養うことができる。  加えて、この演習では、 3. 国際経済法上の具体的な事例を理解することを目標とする。
授業の概要	本ゼミでは、国際法の最近発展している新分野ー国際経済法の最先端の問題点を検討する。特に、国際経済活動に対する広法的規制、その中でも国際貿易と国際投資活動を伴う法的問題を具体的な事例を使って、勉強する。 参加者の関心を考慮し、国際貿易法グループ、国際投資法グループ及び国際通貨・金融というグループに分けて、それぞれのグループに報告をしてもらう。  (就職活動) キャリアセンターと連携して、適宜就職活動をサポートします。  (その他) 以上のほか、ゼミ生の希望を聞き、適宜対応します。
評価方法	授業への参加態度・報告への準備等を総合的に評価して成績を決定する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	報告者が論点を整理した上で報告を行い、参加者との討論した後、担当教員の方からコメントを行う。  第1回 係り決め、グループ分け 第2回 ~ グループ報告 第14回 第15回 振り返り ( * ゼミ内容により変更することがあります )
テキスト	小林友彦ほか『WTO・FTA法入門：グローバル経済のルールを学ぶ[第2版]』(法律文化社、2020年)
参考書	柳赫秀 編『講義 国際経済法』(東信堂、2018年) 松下満雄・中川淳司・清水章雄(編)『ケースブックWTO法』(有斐閣、2009年) 経済産業省通商政策編『2023年版不公正貿易報告書』

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIVA
時間割コード Course Code	49406
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	宮崎 清幸
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	宮崎 清幸 (法学部)
授業の目標	<p>この演習では、3年生の時に学習したテーマを基にさらに充実させた内容のレポート作成能力と報告能力を習得することを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>知識・理解の領域 裁判例・新聞報道などを通して現代社会の問題点を理解する。そして、その問題点が生じている法制度はどうなっているかについて理解を深めることを目指す。</li> <li>技能の領域 実際に図書館に行ったり、データベースを利用して必要な資料収集を行う。また、他人の意見を聞き、その意見を理解したうえで、質問をする、また、自分の意見が述べられるようになることを目指す。</li> <li>態度・志向性の領域 社会の問題を自分とのかかわりの中で考える素地を養うことを目指す。</li> </ul>
授業の概要	3年生の時に学習した内容を基に、年度末に卒業研究の提出をする。 前期では、レポートを作成し、途中経過の発表を行う。発表後、ゼミ生全員で意見交換をする。
評価方法	出席状況、ゼミへの参加状況を総合して評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 第2回 個別面談 第3回～第14回 中間発表 第15回 まとめ</p> <p>なお、進捗状況等により変更する場合がある。</p>
テキスト	特に指定しない
参考書	適宜紹介する
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	課税実務に従事した経験を活かし、広い視野に立った物事の判断を身に付けることができる。
質問への対応方法	適宜受け付ける。
フィードバックの方法	授業中および個別に対応する必要がある場合は、メールで対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回、予習2時間、復習2時間程度の自己学習を想定している。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIVA
時間割コード Course Code	49407
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	清水 裕樹
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	6 3 E 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	清水 裕樹 (法学部)
授業の目標	<p>後期に卒業レポートを書けるように、学術的なテキストを読む習慣をもち、論理的に物を考え、他の演習参加者たちと議論ができるようになることを目指します。</p> <p>態度・指向性の領域：普段からテキストを読む習慣をもち、疑問に思ったことは調べ、理解したことや調べたことをわかりやすく伝達できるようになることを目指します。</p>
授業の概要	<p>2022年度に続いて、テキストの残る部分を輪読します。特にテキストの最後の部分は難解なので、各自の理解をしっかりと確認しながら進める予定です。</p> <p>就職活動など進路決定に向けての動きは、各人でそれぞれですので、出席状況をみながら授業の進め方（担当部分の分量など）を考えます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HP のナンバリングを参照してください。</p>
評価方法	<p>十分に出席できている学生に関しては、授業中にしっかりと参加してくれているかどうかをもとに判断します。</p> <p>就職活動や体調不良等で、十分に出席できていない学生には、別途追加の課題も出します。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>演習ですので、真にやむを得ない場合以外は出席するのが当然であると考えております。やむを得ず遅刻や欠席をする場合は、できる限り早い時点でメールでの連絡を求めます。</p> <p>無断での遅刻や欠席は、その事情や回数を考慮して失格の対象となります。</p>
授業計画	<p>下記「テキスト」欄にあるテキストを参加者みなさんで読んでいきます。</p> <p>4年次であり、全員が毎回出席できないことも予想されますので、あらかじめ担当者を決めるというよりは、出席者に発言を求めながら読んでいくという形式を考えております。</p> <p>とはいえ、受講態度が消極的である場合には、随時課題を出すなども考えております。</p>
テキスト	小坂井敏晶『人が人を裁くということ』（岩波新書）2011年
参考書	必要に応じて指示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>毎回テキストの指定した範囲を読み、各自考えたことや調べたことについて発言を求め、それに基づいて議論ができることを目指します。</p> <p>議論にならなかった回については、参加者各自に調査と調査結果の提出を求めます。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>授業時間中には、当然対応します。</p> <p>授業時間外については、メールで対応します。</p>
フィードバックの方法	対面実施の演習ですので、原則としてその場で口頭にて発言に対する評価をおこないます。



予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回について、少なくとも4時間の予習（指定テキスト読み、わからない語句の調査、考えたことや調べたことの整理など）・復習（授業中の発言の振り返り、テキストの内容に対する理解の整理など）を求めます。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIVA
時間割コード Course Code	49408
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	遠山 圭一
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	遠山 圭一 (法学部)
授業の目標	<p>この演習では、3年次までに学んだ内容を前提として、様々な紛争に関して検討・議論し、その成果を発表することを通じて、社会人としての基礎力を身に付けることとともに、法的知識や法的解決の手法を修得することを目標とします。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 民法や刑法等を学習することで資格試験や公務員試験に必要な法律知識を習得できる。 身近な法律問題を解決する思考を習得できる。</p> <p>技能の領域 問題点を発見・整理し、資料を作成することができる。 他人の意見を聞き、自分の意見を発表することができる。 常に物事を深く考える習慣を身に付けることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 分析力、対話力などを身に付けることができる。</p>
授業の概要	<p>民事事件・刑事事件問わず、様々な紛争について検討・議論する形で演習を行います。</p> <p>民事事件であれば、当事者がどのような請求をするのか、請求が認められるための要件は何か、要件に該当する事実は何か、証拠は何か、刑事事件であれば、検察官はどのように犯罪を立証するのか、弁護人はどのような防御活動を行うのか、裁判官はどういった思考で結論を出すのかなど、結論に至る思考過程を意識して、個別具体的な事例の検討・議論を行います。</p> <p>その他、適宜、就職活動の準備のための取り組みも行います。</p>
評価方法	受講態度、報告内容などを総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>以下の予定は、学生の状況や希望により変更する場合があります。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回～第14回 検討・報告・討論 第15回 まとめ</p>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	この演習は、グループ毎に調査検討を行い、解決方法をまとめて発表したり、特定の役割（例えば、裁判官、検察官、弁護人など）を前提とした解決方法を検討するなど、学生による議論や報告などを中心に行います。
実務経験のある担当教員による授業	該当する

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	弁護士として、民事事件・刑事事件などに携わっている教員が、個別具体的な事例の検討を通じて、事案分析能力、問題解決能力、論理的思考力などの向上を目的とした実践的な教育を行う科目である。
質問への対応方法	授業前後やメールにて対応します。 メールアドレス：tooyama-k@nagoya-ku.ac.jp
フィードバックの方法	授業内で実施する議論・報告およびレポートなどは、授業内に評価を示します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業で取り扱う内容によって予習・復習時間が異なるため、適宜、予習・復習時間を示します。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIVA
時間割コード Course Code	49409
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	萩原 聡央
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 5 C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	萩原 聡央 (法学部)
授業の目標	この授業では、行政活動との関わりにおいて現実に起こり得る個別具体的な事例を取り上げ、行政法をめぐる諸問題について、学説や裁判例の検討を行いながら、行政法に関する基礎的な理解を深めることを目標とします。 <学習成果> 知識・理解の領域 「わたしたちの暮らしと行政法の関係」や「行政法とは何か」について理解し、行政法に関する基礎的な知識を身につける。 態度・志向性の領域 わたしたちの日常生活における行政法の役割や重要性について関心を向けるようになる。
授業の概要	この演習では、行政活動との関わりにおいて問題となった個別具体的な事例の検討を通して、行政法に関する原理・原則について学ぶとともに、行政法的な思考の訓練を行います。 これらの取組みを通して、行政法に関する基礎的な知識や行政法的思考の修得を図ります。 〔この科目の位置づけ〕 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	授業における議論への取組み状況（30%）、報告内容（30%）およびレポート（40%）の結果により評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	原則として、出席回数が12回に満たない場合は失格とします。
授業計画	第1回 ガイダンス（演習の進め方・報告者の決定などを含む） 第2回 原告適格（1）「法律上の利益を有する者」の意義（テキスト29） 第3回 原告適格（2）周辺住民（テキスト30） 第4回 原告適格（3）競業者・既存業者（テキスト31） 第5回 狭義の訴えの利益（1）訴えの利益の否定例（テキスト32） 第6回 狭義の訴えの利益（2）訴えの利益の肯定例（テキスト33） 第7回 取消訴訟の審理（1）主張制限（テキスト34） 第8回 取消訴訟の審理（2）理由の追加・差替え（テキスト35） 第9回 その他の抗告訴訟（1）無効等確認訴訟（テキスト36） 第10回 その他の抗告訴訟（2）申請型義務付け訴訟（テキスト37） 第11回 その他の抗告訴訟（3）非申請型義務付け訴訟（テキスト38） 第12回 その他の抗告訴訟（4）差止訴訟（テキスト39） 第13回 仮の救済（テキスト40） 第14回 当事者訴訟（テキスト41） 第15回 国家賠償法1条（1）公権力の行使（テキスト42）・前期のまとめ
テキスト	大橋真由美・北島周作・野口貴公美『START UP 行政法判例50』（有斐閣）

参考書	・斎藤誠・山本隆司編『(別冊ジュリスト260号)行政判例百選〔第8版〕』(有斐閣) ・斎藤誠・山本隆司編『(別冊ジュリスト261号)行政判例百選〔第8版〕』(有斐閣)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	この演習は学生による報告を中心として行うため、しっかり準備をした報告と、積極的な討論を期待します。具体的には、報告者の希望も考慮しながら、各回のテーマについて、次のような形式で15回の授業を進めます。 すなわち、(1)受講者の中で報告者を決める、(2)報告者は、事例の紹介、それに関係する裁判例・学説の紹介、議論すべき論点や問題点の指摘を行う、(3)報告者の報告および論点の指摘を前提として、受講者の中で議論する、(4)基本的な論点について、演習担当教員が説明を加える、こととします。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業の前後およびオフィスアワーなど随時対応します。
フィードバックの方法	授業内で実施する議論・報告およびレポートに関しては、授業時に具体的な判断・評価を示します。また、成績評価に関しては、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回におけるテキストの該当箇所について、毎回2時間の予習と2時間の復習を行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	12.つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1		ガイダンス、前期における報告内容および報告者の決定	
2		報告・討論	
3		報告・討論	
4		報告・討論	
5		報告・討論	
6		報告・討論	
7		報告・討論	
8		報告・討論	
9		報告・討論	
10		報告・討論	
11		報告・討論	
12		報告・討論	
13		報告・討論	
14		報告・討論	
15		前期のまとめ	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIVA
時間割コード Course Code	49410
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	水谷 仁
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水谷 仁 (法学部)
授業の目標	<p>私たちは生きていくうえで、政治と何かしらの形で関係をもたざるをえません。この授業では、そんな政治について自分なりの問題意識や考えを見つけ出し、それを他者に理解してもらいつつ、意見交換を通して、政治についての他者の問題意識や考えを理解していけるようになることを目標とします。</p> <p>知識・理解の領域 私たちの身の回りにある政治の問題を理解することを目標とする。</p> <p>技能の領域 法学部の学習に必要な読解方法、調査方法、表現方法などを身につける。また、大学におけるゼミとしてふさわしい考察を行い、他の人の意見を聞いて質問を行ったり議論したりすることを目標にする。</p> <p>態度・志向性の領域 文化的の発展や産業の発達のために政治はどのようにあるべきかを自発的に考えられることを目標とする。</p>
授業の概要	<p>各自が興味・関心をもった政治に関するトピックについて、専門書や学術論文を取り上げて全員で意見交換を行います。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照してください。</p>
評価方法	各自の考察や意見交換への参加など、演習への参加態度を中心に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>演習参加者が選んだテーマについての考察と意見交換を中心に進めます。 ただし、現実の政治情勢の変化に応じて、専門的な知識の内容や進行速度は柔軟に変更することがあります。 また、他のゼミとの合同ゼミを行う可能性もあります。</p> <p>第1回 ガイダンス（報告日程の調整） 第2回 個人報告準備 第3回 個人報告準備 第4回 個人報告 第5回 個人報告 第6回 個人報告 第7回 個人報告 第8回 グループディスカッション 準備、個人報告予備 第9回 グループディスカッション 準備 第10回 グループディスカッション 準備 第11回 グループディスカッション 第12回 グループディスカッション 準備 第13回 グループディスカッション 準備 第14回 グループディスカッション 準備 第15回 グループディスカッション</p>
テキスト	必要に応じて配布します。
参考書	<p>佐々木毅『政治学講義』（東京大学出版会、2005年） 久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝『政治学』（有斐閣、2010年） 永井史男・水島治郎・品田裕編『政治学入門』（ミネルヴァ書房、2019年） 田村哲樹・近藤康史・堀江孝司『政治学』（勤草書房、2020年） 杉田敦『政治的思考』（岩波書店、2013年） 新川敏光・大西裕・大矢根聡・田村哲樹『政治学』（有斐閣、2017年） 吉野篤編『政治学〔第2版〕』（弘文堂、2018年）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問は授業中や授業後、オフィスアワーに受け付けます。
フィードバックの方法	次回の授業時に、質問やコメントを匿名で他の学生にも紹介し、解説を行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習と2時間の復習を行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力</p>



開講科目名 Course	演習 A / SeminarIVA
時間割コード Course Code	49411
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	宮本 雅史
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	宮本 雅史 (法学部)
授業の目標	<p>これまで行ってきたワークルールの基礎及び使い方についての学びを発展させ、雇用の場で発生するトラブルや人事管理上の課題を法的に整理し解決策を考える力を身に着けます。具体的には、次の2つを目標とします。</p> <p><b>雇用に関する事例を法的に分析する手法の基礎を身に着ける</b> 雇用の場におけるトラブルや課題には、上司と部下のような上下関係を考慮しなければならない、登場人物が多くなりがちなど、雇用関係に由来する特徴があります。事例の分析もそれらの特徴に沿って行う必要があり、さまざまな事例を検討することで、着目すべきポイントを見付けられるようになることを目指します。</p> <p><b>雇用に関するトラブル・課題に対して法的な解決を導く手法の基礎を身に着ける</b> トラブルや課題を法的に解決する際の基本は、「誰にどのような権利があるか」、「誰がどのような義務を負っているか」を検討することです。雇用の場では、上で挙げた特徴や関連法令の多さなどから、この基本が見えにくい面があります。事例の実際の解決、とりわけ裁判所の判断を丁寧に追うことで、法的な解決策を検討するための基本的な順序や考え方の習得を目指します。</p> <p><b>知識・理解の領域</b> 雇用の場におけるトラブル・課題を知り、その解決を検討することを通じ、ワークルールに関する知識や活用方法を深く理解することができる。</p> <p><b>技能の領域</b> 事例に登場する様々な人の多様な立場や利益などに目を配ることで、他者を理解するスキルが身に着く。また、自分の考えを報告すること及び他のゼミ生・教員との議論を通じ、論理的に意見を組み立てる力、意見を正確に表現する力、問題に対して結論を出す力が身に着く。</p> <p><b>態度・志向性の領域</b> 報告の準備や資料の作成から、自ら主体的に学ぶ力やチームワークを身に着ける。</p>

<p>授業の概要</p>	<p>本ゼミでは、これまで学んできた労働法の知識の応用として、実際のトラブル・課題に知識を当てはめる力を身に付けていきます。そこで、トラブル・課題が法的紛争として顕在化した存在である、実際の裁判例を素材として進めていきます。具体的には、次の2つの活動を原則として対面形式で行います。</p> <p>裁判例の紹介とその裁判例についての見解の報告 報告に対する質疑応答</p> <p>この活動は、労働紛争の実態を知るとともに、法的なものの見方や考え方の養成にもつながります。特に、法の重要な機能のひとつである「異なる利益を持つ者の間の利害調整」がうまく働いているかどうか、「自分ならこう感じる・こう考える」という視点と「でも、別の考え方や意見もあるかもしれない」という視点とを行き来しながら、考えられるようになることが重要です。このような思考は、様々な立場の人が様々な考えを持って活動している雇用という場に「社会人」として参加する際、「法学を学んだ者の強み」として生きてくるものです。自分の考えを伝えること、他者と議論することを通じて、知識を実践する感覚を養いましょう。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
<p>評価方法</p>	<p>全体的な取組みの姿勢（35%）、資料も含んだ報告の内容（35%）、他の報告への質問（30%）で評価します。</p>
<p>教員の指導に従わない以外の事由による失格基準</p>	<p>欠席6回以上は失格とします。 欠席・遅刻する場合、事前に連絡してください。 (やむを得ない事情がある場合は事後連絡も認めます)</p>
<p>授業計画</p>	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回～第4回 前準備 裁判例の扱い方の基礎を学んだり、興味のあるテーマを選定したりしつつ、報告する裁判例を探します。</p> <p>第5回～第9回 裁判例の検討 複数人のチームを作り、それぞれのチームが報告する裁判例を決定する。その後、チームごとに文献の調査や資料の作成などを行う。</p> <p>第10回～第14回 裁判例の報告と議論 チームごとに検討内容を報告し、その報告に対する質疑応答など議論を行う。</p> <p>第15回 まとめと振り返り</p> <p>予定であり、進行状況や受講生の興味関心などによって変更する場合があります。</p>
<p>テキスト</p>	<p>指定しません。</p>
<p>参考書</p>	<p>受講生の興味関心や選択した裁判例等に応じて適宜案内します。</p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等</p>	<p>含む</p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容</p>	<p>報告準備での検討やチームでの議論、受講生による報告、全体ディスカッションを行います。</p>
<p>実務経験のある担当教員による授業</p>	<p>該当する</p>
<p>担当教員の实務経験を活かした授業の内容</p>	<p>企業内弁護士として、企業の人事労務管理や法務の実務、トラブル・課題解決に携わってきた経験を活かして、受講生のみなさんにアドバイスや解説を行います。</p>
<p>質問への対応方法</p>	<p>オフィスアワー、ゼミの前後、メールで行います。</p>
<p>フィードバックの方法</p>	<p>・報告準備に対するアドバイス、報告についてのレビューはその都度行います。 ・受講生から出た要望などについては、適宜、フィードバックを行います。</p>
<p>予習・復習等、準備学習の内容及び時間</p>	<p>授業の進行状況にあわせて、適宜次の予習・復習を行なってください。</p> <p>ゼミ内で示した参考文献を使った予習・復習（合計で90程度）、自らが選択した裁判例の精読（60分程度）、他の受講生が選択した裁判例を読み質問を考える（90分程度）、報告を聞いた後の復習（30分程度）。</p>
<p>使用言語</p>	<p>日本語</p>
<p>SDGs 17の目標（1～10）</p>	<p>1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 8. 働きがいも経済成長も</p>

SDGs 17の目標 (11~17)	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 8.計画立案力

開講科目名 Course	演習 B / SeminarIVB
時間割コード Course Code	49450
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 直史
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 直史 (法学部)
授業の目標	<p>演習の目標は、SDGsを法の視点から踏み込んで考え、法学部で学んだことをグローバルレベル及びローカルレベルのそれぞれの社会でどのように活用できるかについての視点を得ることです。</p> <p>グローバル化が進む国際社会では、これまでのルールが見直されるとともに、新しいルールが生まれています。SDGsもその一つです。これらルールの見直しや新しいルールの形成は、私たちの日々の生活や身近なルールとも結びついています。この演習では、現代の国際社会を取り巻くさまざまな法的問題を通じて、「法」の多様性を考え、「法」を多角的に分析します。これらの検討を通じて、みなさんが、4年次前期までに学んだ法の基本的な原理や基礎理論を前提として、グローバルな社会、ローカルな社会、そしてグローバルとローカルが交錯し影響し合う社会で、法学部で学んだことをどのように活用するかについて実践的な視座を得ることを目指します。</p> <p>加えて、4年次前期までに学んだ内容を踏まえて、資料収集やリサーチの方法、レポート・レジユムの作成方法など、社会において必要となる能力を更に向上させることも目標とします。</p> <p>〔知識・理解の観点〕 国際社会のルールや身近なルールを検討を通じて、法を学ぶに当たって重要となる基本的な原理や基礎理論を理解するとともに、法学部で学んでいることの意味、法の学び方、法学部で学んだことの活用の方法を理解する。</p> <p>〔思考・診断の観点〕 具体的な事例（題材）の問題点を明らかにし、その問題の背景は何か、解決に向けて誰のどのような利益を考慮しなければならないのか、課題に対する短期的な対応及び中長期的な展望は何か、といった分析ができるようになる。</p> <p>〔関心・意欲の観点〕 現代社会の課題について、法的な観点から興味を深め、具体的な問題を自分事として捉える力を身につける。</p> <p>〔態度の観点〕 主体的・積極的に問題点を明らかにし、解決や改善に向けた取組みを行おうとする姿勢が身につく。 自分とは異なる意見や考え方を、違うからといって排除・嫌悪するのではなく、どうして違いが生じるのかを理解するように努める態度が身につく。 ディスカッションやプレゼンテーション、リサーチや文書作成の能力が向上する。</p>

授業の概要	<p>後期の演習は、ゼミ生のみなさんが、「SDGsを法の視点から考える」という基本方針に基づいてテーマを設定し、卒業レポートの作成を行います。作成のプロセスにおいて、アウトラインの報告及び全体討論を行い、他のゼミ生からのインプットを受けて、卒業レポートをより良いものにしていきます。教員からも適宜コメントを加えます。</p> <p>〔この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。〕</p>
評価方法	ゼミでの取り組みの態度（40%）、グループディスカッションやプレゼンテーション（30%）、全体討論における発言（30%）で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>欠席5回以上は失格とします（遅刻は2回で欠席1回とみなします。）。特別欠席は欠席回数に含みません。</p> <p>なお、欠席・遅刻とも、連絡ができないやむを得ない理由がある場合を除き、必ず事前に連絡してください。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回から第4回 卒業レポート作成の準備 各自が個別に作成する卒業レポートのテーマを設定し、卒業レポート作成の準備を行います。</p> <p>第5回から第11回 卒業レポートの作成及びアウトラインのプレゼンテーション 各自が個別に作成する卒業レポートの作成を進めながら、アウトラインに関するプレゼンテーションを行います。また、プレゼンテーションに対する他のゼミ生からのフィードバックを得て、レポートの完成に向けた作業を行います。</p> <p>第12回から第14回 卒業レポートのプレゼンテーション 卒業レポートのプレゼンテーションを行います。</p> <p>第15回 振り返り</p> <p>なお、上記は予定であり、進行状況により変更する場合があります。</p>
テキスト	なし。
参考書	授業のトピック（各自のレポートのテーマ）に合わせて指示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	卒業レポートの作成のためのリサーチ、プレゼンテーション準備及びプレゼンテーションを行います。他の学生のプレゼンテーションについて全体討論を行います。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	弁護士実務経験に加え、アジア諸国における法整備支援の経験を豊富に有している教員が、学生のみなさんが法学部で学び、身につけたことを社会でどのように活用するかについて、実践的に学ぶ科目です。
質問への対応方法	授業終了後やオフィスアワーのほか、随時対応します。
フィードバックの方法	卒業レポートに関するプレゼンテーション、意見交換などについては、授業の中でコメントします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	卒業レポートの作成のために、各回4時間程度の時間外学習を行います。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> <li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li> <li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> <li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li> </ol>

SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさも守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	演習 B / Seminar IVB
時間割コード Course Code	49451
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	白出 博之
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70D演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	白出 博之(法学部)
授業の目標	ゼミの目標 この演習では、民事法(民法、商法、民事訴訟法)に関する文献・裁判例等の読解を通して、資料・文献を読む力、レジュメ(報告内容の要約)を作成して報告する力、質疑応答に関する力など、大学法学部での学びに必要な応用力の修得を目標にします。
授業の概要	目指す学習成果 知識・理解の領域 「わたしたちの暮らしと民事法の関係」や「民事法とは何か」について、関連分野の裁判例を素材として理解し、民事法に関する基本的知識を身につける。 態度・志向性の領域 日常生活における民事法の作用・役割や重要性について関心を向けるようになる。そのうえで法律上の論点に関する自分の考えについて、結論、理由付けを論理的に表現できるようになる。 具体的には「判例百選」等を教材として、社会生活の中で発生している民事紛争に関する裁判例について検討しながら、「読み・書き・話す(報告し、受講者の間で議論して考える)」といった取り組みを行います。これらの取り組みを通して、民事法に関する基礎的知識だけでなく各種資格試験等においてアウトプットする能力の修得を目指します。
評価方法	第1に、平常点として、毎回のテーマについて、自己の見解をわかりやすく発表する「アウトプット力」、および他のメンバーの発言内容をよく聞き、理解に努めるための「質問力」を養うために、毎回、最低2回の発言を必須とします(60点)。 第2に、課題レポート又は小テスト(40点)。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	後期の演習では、民事法全体に関する判例を報告してもらい、意見交換を実施します。
テキスト	テキストは指定しない。
参考書	「民法判例百選」、(有斐閣)等
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容 発表担当者の報告内容に対して、他のメンバーとの質疑応答をし、報告者の見解に対する賛否について理由付けを明確に行うようなディスカッションを実施します。
実務経験のある担当教員による授業	該当する

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	弁護士として裁判実務、および我が国のODA事業である法整備支援の長期専門家として立法支援業務等の実務経験をこの演習の内容に活用します。
質問への対応方法	講義の前後およびオフィスアワーにおいて対応します。
フィードバックの方法	毎回の講義後に行う振り返りシートについては、原則として次回の演習でコメントします。成績評価については、本学所定の期間内に対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	まず発表担当者は、報告用のレジメ資料を作成、配布するために相応する準備作業が必要です。また発表担当者以外のメンバーは、当該分野の復習のために最低1時間を確保してください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	12.つくる責任つかう責任 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	5.自信創出力 7.課題発見力 9.実践力



開講科目名 Course	演習 B / Seminar IVB
時間割コード Course Code	49452
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	張 瑞輝
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	張 瑞輝 (法学部)
授業の目標	<p>民事訴訟法における基礎的かつ重要な問題を体系的に学習することを授業目標とする。</p> <p>知識・理解の領域 民事訴訟法の基本概念と基本構造をおさらい、理解をさらに深めることができる。民事訴訟法の重要問題についてその難点を直撃し、その解法を把握できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 学説の生成過程と判例の変遷を自ら進んで整理するようになる。</p> <p>技能の領域 民事訴訟法学の学問としての思考様式を解明する能力が鍛えられる。ディベートを行う際に、基本的な攻撃および防御の技法が身につくことができる。</p>
授業の概要	<p>第一部 報告編 報告者が、テーマ・確認事項・参考文献を手がかりに、45分程度の報告を行う。報告後、報告に関する質疑応答、基本知識の確認を行う。演習事例を参加者全員で検討する。</p> <p>第二部 裁判例ディベート編 以下の要領で裁判例ディベートを1~2回程度で実施する。 (1) 事例の説明 (2) Xチームの第1プレゼンテーション・8分 作戦タイム1分 Yチームの尋問・8分 (3) Yチームの第1プレゼンテーション・8分 作戦タイム1分 Xチームの尋問・8分 (4) Xチームの第2プレゼンテーション・6分 Yチームの尋問・6分 (5) Yチームの第2プレゼンテーション・6分 Xチームの尋問・6分 (6) 勝負の判定</p>
評価方法	授業における取り組み状況や報告内容などを総合的に考慮して評価する。

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>(1) 無断欠席について 事前の連絡のない欠席が2回を超えた場合は、失格とする。</p> <p>(2) 報告日の欠席について 報告者は報告日に欠席した場合、大学規則に基づく正当な事由がない限り、失格とする。</p> <p>(3) 正当な事由の証明について 大学規則に基づく正当な事由を証明するために、書面にて関係書類を提出し、立証責任を負わなければならない。</p>
授業計画	<p>第01回 ガイダンス（演習の進め方について）</p> <p>第02回 報告編の準備期日 pre報告1&amp;FB 第1審</p> <p>第03回 報告編の準備期日 pre報告2&amp;FB 控訴審</p> <p>第04回 報告編の準備期日 pre報告3&amp;FB 上告審&amp;差戻審</p> <p>第05回 報告編の準備期日 pre報告4&amp;FB 学説</p> <p>第06回 報告編の準備期日 pre報告5&amp;FB 実務</p> <p>第07回 報告編の準備期日 pre報告6&amp;FB 私見・小括</p> <p>第08回 報告編の本報告 第1回期日</p> <p>第09回 報告編の本報告 第2回期日</p> <p>第10回 報告編の本報告 第3回期日</p> <p>第11回 報告編の本報告 第4回期日</p> <p>第12回 報告編の本報告 第5回期日</p> <p>第13回 裁判例ディベート編 作戦会議期日</p> <p>第14回 裁判例ディベート編 実施期日</p> <p>第15回 まとめ</p>
テキスト	<p>高田裕成・畑瑞穂・垣内秀介（編）『民事訴訟法判例百選 第6版』（有斐閣、2023年）</p> <p>小林秀之『判例講義・民事訴訟法』（弘文堂、2019年）</p> <p>三木浩一ほか『民事訴訟法 第4版』（有斐閣、2023年）</p> <p>潮見佳男『基本講義・債権各論2・不法行為法 第3版』（新世社、2017年）</p>
参考書	<p>伊藤眞・山本和彦（編）『民事訴訟法の争点』（有斐閣、2009年）</p> <p>越山和弘『ロジカル演習 民事訴訟法』（弘文堂、2022年）</p> <p>吉村良一『不法行為法 第6版』（有斐閣、2022年）</p> <p>窪田充見『不法行為法 第2版』（有斐閣、2018年）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	オフィスアワー等。相談により随時対応する。
フィードバックの方法	<p>当該授業は、対面方式でありながらも、Google Classroomを使用する予定である。第1回の授業の際にGoogle Classroomへ参加方法また必要な情報を提示する。</p> <p>授業のフィードバックは、原則として、Google Classroomの諸機能（添削、返却、等）を利用して行う。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>予習復習等、準備学習の内容は、前記テキストと参考書の該当範囲のほか、Google Classroomを利用して配布する予定である。</p> <p>予習復習等、準備学習の時間は、各回で少なくとも4時間以上を要する内容となっているため、該当範囲を事前に閲読した上での受講が必要となる。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p> <p>4. 構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>5. 自信創出力</p> <p>7. 課題発見力</p>

開講科目名 Course	演習 B / Seminar IVB
時間割コード Course Code	49453
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	早川 結人
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70B 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川 結人 (法学部)
授業の目標	<p>事例問題を用いて、民法(主に財産法)の重要論点を検討することにより、民法の知識を確認・定着させ、応用力を身につける。また、報告・討論を通じて、資料収集の仕方やレポート・レジユメの作成方法等、社会において必要となる能力を身につけることを目標とする。</p> <p>知識・理解の領域 判例・学説の検討を通して、民法の知識を身につける。社会における民法の意義及び機能について理解を深める。</p> <p>技能の領域 ・判例を読み、民法の重要論点を整理することができる。その成果をレジユメや発表資料にまとめることができる。 ・研究成果を発表することができる。また、他の人の報告を聞き、議論することができる。</p> <p>態度・志向性の領域 ・周囲と相談・協力して課題に取り組むことができる。 ・他者の意見を聞くことによって、自分の考えを深めることができる。 ・社会における諸問題に関心を持つ。</p>
授業の概要	民法(主に財産法)の重要論点について、事例問題を用いて学ぶ。いくつかの事例問題について、担当者を割り振り、各回の担当者は、レジユメを作成し、報告を行う。報告を受けて、参加者全員で議論を行う。その後、教員がコメント・解説を加える。
評価方法	授業への参加姿勢(報告内容及び討論における発言等)、報告レポートなどによって総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上の欠席で失格とする。
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回～第14回：報告・討論 第15回：まとめ
テキスト	特に指定しない。
参考書	<p>○判例教材 潮見佳男ほか編『民法判例百選1 総則・物権[第8版]』(有斐閣、2018年) 中田裕康ほか編『民法判例百選2 債権[第8版]』(有斐閣、2018年) 原田昌和ほか『民法1総則 判例30!』(有斐閣、2017年) 水津太郎ほか『民法2物権 判例30!』(有斐閣、2017年) 田高寛貴ほか『民法3債権総論 判例30!』(有斐閣、2017年) 中原太郎 ほか『民法4債権各論 判例30!』(有斐閣、2017年)</p> <p>その他、初回授業で紹介する。</p>

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業終了後やオフィスアワーのほか、随時対応する。
フィードバックの方法	ゼミ内で随時、行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回ごとに3時間の予習・復習が求められる。 特に、担当回においては報告および質疑応答をするため、そのための予習・レジュメ作成が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 B / SeminarIVB
時間割コード Course Code	49454
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	美濃羽正康
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	6 5 C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	美濃羽正康 (法学部)
授業の目標	<p>企業法に関する知識を深める。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 企業法をめぐる諸問題について、自ら、問題点を見つけ出し、調べることで、より深い知識を身につけることができる。</p> <p>関心意欲の領域 自分で報告テーマを選定し調べ、報告することで自分の意見を述べるようになる。 ゼミの仲間との討論を通じて、他の者の視点や価値判断に触れることで関心や学習意欲がさらに増すようになる。</p> <p>技能の領域 資料収集や調査のテクニックが身につく。 レジュメの作成を通じて、要約して説明する能力が向上する。 プレゼンテーション能力を身につけることができる。 議論の仕方を身につけることで、傾聴力、対話力、説得力などを身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>対面授業で実施する。</p> <p>本演習では、企業を取り巻く様々な問題について、3年次の演習IIIで学んだ企業法に関する基礎的な知識を活かし、より多角的な視点から問題点を見つめ学んでいくことで、知識を深めていく(前期15回、後期15回)。まず、3年次の各自のテーマについておさらいをしたうえで、会社法について学んでいく予定です。ゼミ生には、周到的な報告の準備、それに基づく報告と積極的な討論への参加を要求する。また、最終的には、各自のテーマで卒業レポートを作成、提出してもらう。</p>
評価方法	ゼミ報告 50% 卒業レポート提出 50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上欠席した場合、失格とする。

授業計画	1回 ガイダンス 履修指導 2回 就活報告会 3回 ゼミ報告 4回 ゼミ報告 5回 ゼミ報告 6回 ゼミ報告 7回 ゼミ報告 8回 ゼミ報告 9回 ゼミ報告 10回 ゼミ報告 11回 ゼミ報告 12回 ゼミ報告 13回 ゼミ報告 14回 ゼミ報告 15回 まとめ・卒業レポート提出。
テキスト	使用しない。 教材、参考資料は、適宜指示する。 六法を必ず持参すること。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ゼミ報告に基づいて、異なる考え方(解決案)についてグループで議論し、妥当であると考えた考えを発表する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	演習中に受け付けるとともに、メール(t10n0283@nagoya-ku.ac.jp)及びgoogle classroomでも対応する。
フィードバックの方法	提出物の返却時や、ゼミ中に講評を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習について 報告者は、報告予定日の1週間前までに、報告用のレジюмеを作成、ゼミ性の人数分をコピーし、配布しておくこと(2時間)。 報告者以外の者は、報告者から配布されたレジюмеを基に、議論に参加できるように予習をしてゼミに臨むこと。(1時間) 復習について 報告や議論等に対する講評に基づき、簡単なレポートを作成し、提出する。(1時間) 卒業レポートを作成する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	演習 B / SeminarIVB
時間割コード Course Code	49455
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	ウミリデノブ アリシエル
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70F 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ウミリデノブ アリシエル (法学部)
授業の目標	1. 国際経済法の考え方や基礎知識を身につける。 2. 国際経済問題を見る眼を養うことができる。  加えて、この演習では、 3. 国際経済法上の具体的な事例を理解することを目標とする。
授業の概要	本ゼミでは、国際法の最近発展している新分野ー国際経済法の最先端の問題点を検討する。特に、国際経済活動に対する広法的規制、その中でも国際貿易と国際投資活動を伴う法的問題を具体的な事例を使って、勉強する。 参加者の関心を考慮し、国際貿易法グループ、国際投資法グループ及び国際通貨・金融というグループに分けて、それぞれのグループに報告をしてもらう。  (就職活動) キャリアセンターと連携して、適宜就職活動をサポートします。  (その他) 以上のほか、ゼミ生の希望を聞き、適宜対応します。
評価方法	授業への参加態度・報告への準備等を総合的に評価して成績を決定する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	報告者が論点を整理した上で報告を行い、参加者との討論を行った後、担当教員の方からコメントを行う。  報告者が論点を整理した上で報告を行い、参加者との討論した後、担当教員の方からコメントを行う。 第1回 係り決め、グループ分け 第2回 ～ グループ報告 第14回 第15回 振り返り ( * ゼミ内容により変更することがあります )
テキスト	小林友彦ほか『WTO・FTA法入門：グローバル経済のルールを学ぶ[第2版]』(法律文化社、2020年)
参考書	柳赫秀 編『講義 国際経済法』(東信堂、2018年) 松下満雄・中川淳司・清水章雄(編)『ケースブックWTO法』(有斐閣、2009年) 経済産業省通商政策編『2024年版 不正貿易報告書』

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力



開講科目名 Course	演習 B / Seminar IVB
時間割コード Course Code	49456
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	宮崎 清幸
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	宮崎 清幸 (法学部)
授業の目標	<p>この演習では、3年生の時に学習したテーマを基にさらに充実させた内容のレポート作成能力と報告能力を習得することを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識・理解の領域 裁判例・新聞報道などを通して現代社会の問題点を理解する。そして、その問題点が生じている法制度はどうなっているかについて理解を深めることを目指す。</li> <li>・技能の領域 実際に図書館に行ったり、データベースを利用して必要な資料収集を行う。また、他人の意見を聞き、その意見を理解したうえで、質問をする、また、自分の意見が述べられるようになることを目指す。</li> <li>・態度・志向性の領域 社会の問題を自分とのかかわりの中で考える素地を養うことを目指す。</li> </ul>
授業の概要	3年生の時に学習した内容を基に、年度末に卒業研究の提出をする。 後期では、レポートを作成し、途中経過の発表を行う。発表後、ゼミ生全員で意見交換をする。
評価方法	出席状況、ゼミへの参加状況を総合して評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 第2回 個別面談 第3回～第14回 中間発表および卒業レポートの発表 第15回 まとめ</p>
テキスト	特に指定しない
参考書	適宜紹介する
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	課税実務に従事した経験を活かし、広い視野に立った物事の判断を身に付けることができる。
質問への対応方法	適宜受け付ける
フィードバックの方法	授業中および個別に対応する必要がある場合は、メールで対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回予習2時間、復習2時間程度の自己学習を想定している。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力

開講科目名 Course	演習 B / SeminarIVB
時間割コード Course Code	49457
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	清水 裕樹
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	6 3 E 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	清水 裕樹 (法学部)
授業の目標	<p>授業最終回までに卒業レポートを完成させるために、それぞれの参加者の進み具合に応じて、課題の発見、問題意識の言語化、参考文献の見つけ方、参考文献の読み方、レポートの書き方(形式面・内容面)、レポートの完成を目指します。</p> <p>技能の領域:「卒業レポート」の名にふさわしい成果物を完成させることができる。</p> <p>態度・指向性の領域:押し付けられるのではなく、各自の問題関心に基づいてレポートを作成することができる。</p>
授業の概要	<p>この授業は法学部4年生の演習であるので、少なくとも何らかの意味で法と関わる主題で研究レポート(先輩たちの多くは「卒論」という意識を持っているようです)が書けるように指導をおこないます。</p> <p>「レポートとは何か?」、「レポートの形式的な要件」、「参考文献の調べ方」、「テーマを見つけるためのヒント」などは、全員に共通する問題ですので、全員に対して同じように指導します。</p> <p>具体的なテーマを決定する作業や、具体的なテーマが決まってからの作業などは、個別対応が多くなるかと考えております。他の授業との兼ね合いや、就職活動などもある場合があるうかとも思いますので、全員集まることを求める回を後期のはじめに設定し、それ以外は必要に応じて各自の作業を教室外で進めることも認めます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照してください。</p>
評価方法	<p>所定の集合授業回での参加状況(発言・受講態度等)30%</p> <p>個別的な課題への取り組み20%</p> <p>卒業レポートの出来栄50%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>「授業の概要」にあるように、全員集まることを求める授業回があります。そのような場は無断で遅刻や欠席をすることは、失格の対象となります。</p> <p>当然ですが、卒業レポートを期限までに完成させられなかった場合も、失格の対象となります。</p>
授業計画	<p>授業期間のはじめに、レポート作成の基本について取り扱います。この時点で各人がどのような問題関心を持っているかも、お互いに発表し合います。</p> <p>その後は、各自が必要に応じてレポート作成作業を進めます。</p> <p>授業終盤、レポート完成が近づいた頃に、みんなで集まり、それぞれの問題関心と出来具合について報告会をします。</p> <p>最後の授業回には、全員がレポートを提出できている状態となるようにします。</p>
テキスト	特に指定しません。
参考書	本学図書館にあるレポートの書き方の本などを授業中に紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各自tがこれまでの生活体験や学習経験を活かして、卒業レポートのテーマを発見し、卒業レポートを執筆します。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中は随時口頭で対応します。 授業時間外は、原則メールにて対応します。
フィードバックの方法	授業中に口頭でおこないます。 作成中の原稿等については、メール添付での提出を求め、原則メールにて添削結果をお知らせします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	この授業では、最終成果としての卒業レポート完成を目指します。 そのためには各自のペースで準備作業・執筆作業・推敲作業などがあるかと思いますが、トータルで60時間以上は費やすことを目指してください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 B / Seminar IVB
時間割コード Course Code	49458
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	遠山 圭一
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	遠山 圭一 (法学部)
授業の目標	<p>この演習では、4年次前期までに学んだ内容を前提として、様々な紛争に関して検討・議論し、その成果を発表することを通じて、社会人としての基礎力を身に付けることとともに、法的知識や法的解決の手法を修得することを目標とします。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 各自が興味を持ったテーマについて深く理解できるようになる。 身近な法律問題を解決する思考を習得できる。</p> <p>技能の領域 問題点を発見・整理し、資料を作成することができる。 他人の意見を聞き、自分の意見を発表することができる。 常に物事を深く考える習慣を身に付けることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 分析力、対話力などを身に付けることができる。</p>
授業の概要	<p>各自が興味を持ったテーマについて、文献や資料を収集し、レポートの形式にまとめることを目標とします。</p> <p>授業時間内に進捗状況の報告を行い、他の学生や教員からの意見を踏まえて、レポートの完成度を上げていきます。</p> <p>その他、適宜、就職に向けた取り組みも行います。</p>
評価方法	報告内容及び授業態度などを総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>以下の予定は、学生の状況や希望により変更する場合があります。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回～第14回 検討・報告・討論 第15回 まとめ</p>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	この演習は、各自が興味を持ったテーマについて、調査検討を行い、解決方法をまとめて発表したりするなど、学生による議論や報告などを中心に行います。
実務経験のある担当教員による授業	該当する

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	弁護士として、民事事件・刑事事件などに携わっている教員が、個別具体的な事例の検討を通じて、事案分析能力、問題解決能力、論理的思考力などの向上を目的とした実践的な教育を行う科目である。
質問への対応方法	授業前後やメールにて対応します。 メールアドレス：tooyama-k@nagoya-ku.ac.jp
フィードバックの方法	授業内で実施する議論・報告およびレポートなどは、授業内に評価を示します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業で取り扱う内容によって予習・復習時間が異なるため、適宜、予習・復習時間を示します。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	演習 B / SeminarIVB
時間割コード Course Code	49459
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	萩原 聡央
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 5 C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	萩原 聡央 (法学部)
授業の目標	この授業では、行政活動との関わりにおいて現実に起こり得る個別具体的な事例を取り上げ、行政法をめぐる諸問題について、学説や裁判例の検討を行いながら、行政法に関する基礎的な理解を深めることを目標とします。 <学習成果> 知識・理解の領域 「わたしたちの暮らしと行政法の関係」や「行政法とは何か」について理解し、行政法に関する基礎的な知識を身につける。 態度・志向性の領域 わたしたちの日常生活における行政法の役割や重要性について関心を向けるようになる。
授業の概要	この演習では、行政活動との関わりにおいて問題となった個別具体的な事例の検討を通して、行政法に関する原理・原則について学ぶとともに、行政法的な思考の訓練を行います。 これらの取組みを通して、行政法に関する基礎的な知識や行政法的思考の修得を図ります。 〔この科目の位置づけ〕 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	授業における議論への取組み状況（30%）、報告内容（30%）およびレポート（40%）の結果により評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	原則として、出席回数が12回に満たない場合は失格とします。
授業計画	第1回 ガイダンス・国家賠償法1条(2)違法性(テキスト43) 第2回 国家賠償法1条(3)不作為の違法性(テキスト44) 第3回 国家賠償法2条(1)道路(テキスト45) 第4回 国家賠償法2条(2)河川(テキスト46) 第5回 国家賠償法2条(3)その他(テキスト47) 第6回 国家賠償法3条(テキスト48) 第7回 損失補償(テキスト49) 第8回 国家補償の谷間(テキスト50) 第9回 ゼミ論文報告(1) 第10回 ゼミ論文報告(2) 第11回 ゼミ論文報告(3) 第12回 ゼミ論文報告(4) 第13回 ゼミ論文報告(5) 第14回 ゼミ論文報告(6) 第15回 ゼミ論文報告(7)・後期のまとめ
テキスト	大橋真由美・北島周作・野口貴公美『START UP 行政法判例50』（有斐閣）

参考書	・斎藤誠・山本隆司編『(別冊ジュリスト260号)行政判例百選〔第8版〕』(有斐閣) ・斎藤誠・山本隆司編『(別冊ジュリスト261号)行政判例百選〔第8版〕』(有斐閣)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	この演習は学生による報告を中心として行うため、しっかり準備をした報告と、積極的な討論を期待します。具体的には、報告者の希望も考慮しながら、各回のテーマについて、次のような形式で15回の授業を進めます。 すなわち、(1)受講者の間で報告者を決める、(2)報告者は、事例の紹介、それに関係する裁判例・学説の紹介、議論すべき論点や問題点の指摘を行う、(3)報告者の報告および論点の指摘を前提として、受講者の間で議論する、(4)基本的な論点について、演習担当教員が説明を加える、こととします。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業の前後およびオフィスアワーなど随時対応します。
フィードバックの方法	授業内で実施する議論・報告およびレポートに関しては、授業時に具体的な判断・評価を示します。また、成績評価に関しては、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回におけるテキストの該当箇所について、毎回2時間の予習と2時間の復習を行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	12.つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1		ガイダンス、前期における報告内容および報告者の決定	
2		報告・討論	
3		報告・討論	
4		報告・討論	
5		報告・討論	
6		報告・討論	
7		報告・討論	
8		報告・討論	
9		報告・討論	
10		報告・討論	
11		報告・討論	
12		報告・討論	
13		報告・討論	
14		報告・討論	
15		前期のまとめ	

開講科目名 Course	演習 B / SeminarIVB
時間割コード Course Code	49460
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	水谷 仁
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水谷 仁 (法学部)
授業の目標	<p>私たちは生きていくうえで、政治と何かしらの形で関係をもたざるをえません。この授業では、そんな政治について自分なりの問題意識や考えを見つけ出し、それを他者に理解してもらいつつ、意見交換を通して、政治についての他者の問題意識や考えを理解していけるようになることを目標とします。</p> <p>知識・理解の領域 私たちの身の回りにある政治の問題を理解することを目標とする。</p> <p>技能の領域 法学部の学習に必要な読解方法、調査方法、表現方法などを身につける。また、大学におけるゼミとしてふさわしい考察を行い、他の人の意見を聞いて質問を行ったり議論したりすることを目標にする。</p> <p>態度・志向性の領域 文化的の発展や産業の発達のために政治はどのようにあるべきかを自発的に考えられることを目標とする。</p>
授業の概要	<p>各自が興味・関心をもった政治に関するトピックについて、専門書や学術論文を取り上げて全員で意見交換を行います。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照してください。</p>
評価方法	各自の考察や意見交換への参加など、演習への参加態度を中心に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>演習参加者が選んだテーマについての考察と意見交換を中心に進めます。 ただし、現実の政治情勢の変化に応じて、専門的な知識の内容や進行速度は柔軟に変更することがあります。 また、他のゼミとの合同ゼミを行う可能性もあります。</p> <p>第1回 ガイダンス（報告日程の調整） 第2回 個人報告準備 第3回 個人報告準備 第4回 個人報告準備 第5回 個人報告 第6回 個人報告 第7回 個人報告 第8回 個人報告 第9回 個人報告 第10回 個人報告 第11回 グループディスカッション準備 第12回 グループディスカッション準備 第13回 グループディスカッション準備 第14回 グループディスカッション 第15回 まとめ</p>
テキスト	必要に応じて配布します。
参考書	<p>佐々木毅『政治学講義』（東京大学出版会、2005年） 久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝『政治学』（有斐閣、2010年） 永井史男・水島治郎・品田裕編『政治学入門』（ミネルヴァ書房、2019年） 田村哲樹・近藤康史・堀江孝司『政治学』（勤草書房、2020年） 杉田敦『政治的思考』（岩波書店、2013年） 新川敏光・大西裕・大矢根聡・田村哲樹『政治学』（有斐閣、2017年） 吉野篤編『政治学〔第2版〕』（弘文堂、2018年）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問は授業中や授業後、オフィスアワーに受け付けます。
フィードバックの方法	次回の授業時に、質問やコメントを匿名で他の学生にも紹介し、解説を行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習と2時間の復習を行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに</p>
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	<p>1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>1.親和力 2.協同力 4.感情制御力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力</p>

開講科目名 Course	演習 B / SeminarIVB
時間割コード Course Code	49461
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	宮本 雅史
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	宮本 雅史 (法学部)
授業の目標	<p>4年次前期までの学びに、受講生それぞれの「経験」を反映させたレポートの作成を目標とします。受講生の皆さんは、これまで、講義や演習を通じ、ワークルールに関する知識や考え方、実際の紛争や課題がどのように解決されているかなどを学んできたと思います。また、学校生活でも私生活でも、「雇用」や「仕事」について様々な経験をしてきたと思います。この両者を結びつけて、「自分が疑問に思ったこと、違和感を感じたこと」に今の自分なりの答えを出すことを目指します。基本的には4年次前期のゼミで目標とした次の2つの発展・応用であり、本ゼミでも目標とします。</p> <p>雇用に関する事例を法的に分析する手法の基礎を身に着ける 雇用に関するトラブル・課題に対して法的な解決を導く手法の基礎を身に着ける</p> <p>知識・理解の領域 法的なレポートの書き方や意義を理解する。</p> <p>技能の領域 長い文章（字数の多い文章）のまとめ方や質の高め方など、文章力を身に着ける。</p> <p>態度・志向性の領域 自ら問題を設定する主体性やそれを他者に理解してもらうための協調性を身に着ける。</p>
授業の概要	<p>経験は、自らの価値観や考え方を形作る重要な要素のひとつであり、雇用や仕事に関する疑問の基礎となるものです。そのため、本ゼミではまず、自分のこれまでの経験を振り返ってもらい、疑問を抽出します。その上で、4年次前期までの学びを総動員し、疑問を法的な問題として構成する方法を考えます。ただ、経験に基づく疑問や意見は、同じ経験をしていない他者には理解し難い部分があることも否めません。経験をもとにした自分の考えを他者に伝える際には工夫が必要であり、レポート作成を通じてその工夫を学び考えます。具体的には、次の活動を行います。</p> <p>雇用や仕事に関する経験の振り返り レポートのテーマ設定 レポート作成にあたって必要となる資料の調査 レポート作成・中間報告</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンパリングを参照すること。</p>

評価方法	全体的な取組みの姿勢（20%）、他の人の報告への質問（20%）、レポート（60%）で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	受講生全体で行う回を全て欠席した場合、失格とすることがあります。 また、すべての回において、遅刻・欠席する場合には事前に連絡してください。 （やむを得ない事情がある場合は事後連絡も認めます）
授業計画	<p>第1回・第2回 レポートの書き方 法的なレポートの意義や形式的なルール、資料の集め方など、レポート作成について学びます。</p> <p>第3回 経験の振り返り 例えば、インターンシップやアルバイト、就職活動、これまで受けてきた講義・演習での学びなどを時系列に沿って整理していきます。</p> <p>第4回・第5回 レポートのテーマ設定</p> <p>第6回・第7回 資料収集・調査</p> <p>第8回～第10回 レポート作成1</p> <p>第11回・第12回 中間報告 他の受講生から意見をもらいます。</p> <p>第13回～第15回 レポート作成2</p> <p>第1回・第2回、第11回・第12回は全体で行いますが、その他の回は個別に作業等を進めていただくこととなります。受講生が個々で行う作業等については教員も個別にアドバイスなどを行います。また、全体で集まる回以外は、事前連絡によって、授業時間以外で作業等を行うことを認めます。</p> <p>予定であり、進行状況や受講生の興味関心などによって変更する場合があります。</p>
テキスト	指定しません。
参考書	受講生個人の興味関心やテーマ設定などによって適宜提示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	他の受講生に向けた中間報告、質疑応答を行います。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	企業内弁護士として、企業の人事労務管理や法務の実務、トラブル・課題解決に携わってきた経験を活かして、受講生のみなさんにアドバイスや解説を行います。
質問への対応方法	オフィスアワー、ゼミの前後、メールで行います。
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート作成についてのアドバイス、中間報告についてのレビューはその都度行います。</li> <li>・受講生から出た要望などについては、適宜、フィードバックを行います。</li> <li>・提出されたレポートは、コメントを付して返却します。</li> </ul>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業時間以外の作業でレポートを完成させることは難しいので、各自の進行状況にあわせて授業時間外でも作業を進めてください。授業外での作業時間としては、毎週4時間（全体で60時間）以上を確保してください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> <li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>

PROGコンピテンシーの要素	4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力
----------------	--

開講科目名 Course	エデュケア入門
時間割コード Course Code	50000
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	塚本 敏浩
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基礎科目
教室 Classroom	30A講義室, 31B講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	家接 哲次(教育保育学科)、関谷 みのぶ(教育保育学科)、楯 誠(教育保育学科)、多川 則子(教育保育学科)、飯田 幸恵(教育保育学科)、田中 秀佳(教育保育学科)、秋田 郁(教育保育学科)、日比野 博(教育保育学科)、塚本 敏浩(教育保育学科)、長江 美津子(教育保育学科)、加藤 昇(教育保育学科)、前原 宏一(教育保育学科)、小島 千枝(教育保育学科)、東岡 博(教育保育学科)、早川 健太郎(教育保育学科)
授業の目標	潜在的な能力を引き出すこと(エデュース)と、それを妨げるさまざまな要因をとりのぞくこと(ケア)を統一した「教育福祉」(エデュケア)の視点を習得する。
授業の概要	教育保育学科全教員が、各々の専門分野の視点から「教育福祉(エデュケア)」に関する問題について着目し、講義・演習を通して、受講生が主体的に考え、討議する機会を設ける。 なお、授業時の持ち物、準備物等については各回の授業計画を参考にすること。また、適宜、担当回、内容変更等の連絡をすることがある。 質問への対応は随時担当者が行う。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	授業の参加姿勢(50%)および、各回の授業時における課題・レポート等(50%)により総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回の授業のうち6回以上欠席した場合、失格とする。

## 授業計画

第1回：4月10日(水)【塚本・飯田】：「オリエンテーション(授業と評価の方法)」「教育・保育思想」について

第2回：4月17日(水)【田中】：教育学入門：身近な問題から教育を考える  
 ・なぜ教育学を学ばねばならないのか  
 ・教育学とはどのような学問か  
 ・教育の専門家、福祉の専門家としての教師・保育士という仕事  
 ・君たちは大学生としてどう生きるか

第3回：4月24日(水)【小島】：「言葉の獲得と発達」について  
 乳幼児の言葉の獲得や発達には、周りの大人の愛情や環境が深くかかわっていることを学ぶ中で、教育と保育について考える。

1. 発語まで
2. 指さしと三項関係
3. 内言と外言

第4回：5月8日(水)【楯】：「特別な支援を必要とする子どもの教育・保育」についてその基本となる事柄を講義する。

1. 特別な支援を必要とする子どもとは
2. 障害の捉え方
3. インクルージョンという考え方など

第5回：5月15日(水)【秋田】：「子どもの表現活動における音楽のあり方」について、理論と実践についての講義を行う。

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領、学習指導要領(音楽科)を持参のこと。

6回：5月22日(水)【日比野】：幼児期の保育内容と小学校の「生活科」及び「理科」の学習内容の連続性について講義をする。

1. 幼児期保育内容と小学校の「生活科」及び「理科」の学習内容の相違点から連続性について考える。
2. 幼児期と小学校「生活科」及び「理科」の見方・考え方について理解する。
3. 理科的な見方・考え方を動画と理科実験を通して考える。

第7回：5月29日(水)【前原】：子どもたちの心と体の健やかな成長を育むための「家庭・学校・地域」の連携の在り方と現状の課題について探り合う。

第8回：6月5日(水)【家接】：「自己理解のための心理学」  
 まず、心理テストを通して自己理解を深めます。その後、心の健康について解説します。

第9回：6月12日(水)【関谷】：「子どもの貧困」について

1. 子どもの貧困の実態
2. 貧困化の理由
3. 貧困がもたらす多様な問題

を中心に講義する。同時に、保育・教育の役割について考える。

第10回：6月19日(水)【長江】：「保育」とは

1. 「養護と教育が一体的に展開する保育」について理解する
2. 「子ども主体の保育と教育」の重要性を理解する。
3. 養護と教育が一体的に展開する保育者の援助や関わり方を理解する。

第11回：6月26日(水)【加藤】：「子どもの権利条約」と主権者教育

ア. 「子どもの権利条約」の発効と意義、歴史  
 イ. 「子どもの権利条約」の日本の現状(学校現場の実態、貧困など)  
 ウ. 「国語」(5年生)における意見表明の授業実践  
 エ. 意見表明が政治や社会に果たす役割

第12回：7月3日(水)【東岡】

：小学校教育現場における教育福祉について

第13回：7月10日(水)【塚本】：「造形活動における指導や援助」

以下の事例を挙げ、実践を通して講義する。

1. 幼児の表現形式獲得のための手立て
2. 適切な援助をするための造形原理の理解
3. 保育者が幼児の造形表現を理解すること)



	<p>第14回：7月17日(水)【早川】：「体格から考える子どもの健康」 子どもの発達課題にもとづく基本的な視点を獲得することを目指して、次の内容について学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼少期の肥満と痩せ課題</li> <li>2. BMIとアディポシティーリバウンド</li> <li>3. 体格と健康</li> </ol> <p>第15回：7月24日(水)【多川】：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. エデュケアの実践 <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育 (Early Childhood Care and Education) の基盤となる「愛着」と、その後の人間形成・関係形成について</li> <li>・子どもの発達、成長、学びの連続性・循環性について</li> </ul> </li> <li>2. 人間生活科学部教育保育学科の教育目標について</li> </ol>
テキスト	特になし
参考書	各担当教員作成のレジюме・資料等を適宜使用する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問には随時対応する。
フィードバックの方法	授業、メール等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	必要に応じて事前事後学習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1～10)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> </ol>
SDGs 17の目標 (11～17)	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 住み続けられるまちづくりを</li> <li>12. つくる責任つかう責任</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> <li>17. パートナーシップで目標を達成しよう</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>3. 統率力</li> <li>4. 感情制御力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>6. 行動持続力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

開講科目名 Course	発達心理学II
時間割コード Course Code	50012
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	楯 誠
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	楯 誠 (教育保育学科)
授業の目標	<p>保育を実践するにあたり、その対象となる乳幼児の発達や学習を理解することは不可欠である。乳幼児の理解は対象となる子どもの行動の観察・記録から始まり、その内面の推測と心理学的な知見との対応を通して深まっていく。本授業では、乳幼児理解の意義や方法について解説する。また乳幼児の具体的なつまずきの事例を通して、その発達と学習をとらえる視点の獲得を目指す。</p> <p>【知識・理解の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期の子どものさまざまな領域の発達、行動特徴が分かる。</li> <li>・各領域の発達の関連性が分かる。</li> <li>・発達の評価の仕方が分かる。</li> </ul> <p>【態度・志向性の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学外実習等で観察する子どもの行動特徴と、学習内容を関連付けようとする態度が身につく。</li> </ul>
授業の概要	<p>この授業では、乳幼児理解の方法として代表的な観察・記録の仕方（エピソード記録やポートフォリオ、発達のチェックリストも含む）を紹介・説明を行う。また、愛着関係、運動と生活習慣、認知と言語、自己と仲間関係の発達とそのつまずきに関する事例を示して、乳幼児の姿と心理学的知見をすり合わせる学習を行う。加えて、乳幼児の発達や学習に大きく関与する保護者に関する基礎的な情報を解説する。</p> <p>授業は、基本的に板書によって行い、プリント配布等で補足する。</p> <p>授業内容の質問については、随時受け付ける。</p> <p>この授業は対面形式で行われるが、新型コロナウイルス感染症の流行状況によっては、一部遠隔授業形式になる可能性がある。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>評価方法</p> <p>期末試験（持ち込み不可）を実施する（100%）。状況によっては、レポートを課すこともある。出席は期末試験受験資格の有無の判断に使用する。</p> <p>20分以上の遅刻は原則、欠席と見なす（遅刻者は20分以内に申し出ること）。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>私語や大きな音を立てての途中退室は授業妨害と見なす。複数回の警告を受けた者は、失格とする。</p> <p>欠席が6回以上の者は原則失格とする。</p>
授業計画	「詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。」
テキスト	設定しない。
参考書	授業内で適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内容の質問に関しては、主に授業後に対応するが、別の時間でも受け付ける。
フィードバックの方法	期末試験の得点や誤答箇所のフィードバックは、希望者に個別にて行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	「詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。」
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス 保育実践における乳幼児理解の意義	キーワード 発達段階と発達課題、発達の原理 講義内容について、2時間の復習を課す。	
2	乳幼児理解のための基本姿勢 安全基地としての保育者、環境としての保育者	キーワード 安全基地 (SecureBase)、環境との相互作用、応答的環境 これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。また授業内容について、1時間の復習を課す。	
3	乳幼児理解のための方法(1) 記録を取る意義、一般的な記録とエピソード記録	キーワード PDCAサイクル 反省的实践省察 これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。また授業内容について、1時間の復習を課す。	
4	乳幼児理解のための方法(2) ポートフォリオ、発達のチェックリスト	キーワード ポートフォリオとドキュメンテーション 発達検査 スクリーニング検査 これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。また授業内容について、1時間の復習を課す。	
5	乳幼児の発達(1) (愛着関係の発達)	キーワード: 愛着、内的作業モデル、社会的参照、共同注視 これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。また授業内容について、1時間の復習を課す。	
6	乳幼児の発達(2) (愛着関係の発達におけるつまずき)	キーワード: 愛着の個人差、愛着障害、児童虐待 これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。また授業内容について、1時間の復習を課す。	
7	乳幼児の発達(3) (運動と生活習慣の発達)	キーワード: 運動発達のマイルストーン、粗大運動と微細運動、基本的な生活習慣 これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。また授業内容について、1時間の復習を課す。	
8	乳幼児の発達(4) (運動と生活習慣の発達におけるつまずき)	キーワード: トイレトレーニング、偏食、就寝時間の遅れ これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。また授業内容について、1時間の復習を課す。	
9	乳幼児の発達(5) (認知と言語の発達)	キーワード: ピアジェの認知発達理論、内言と外言、言語の行動調整機能 これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。また授業内容について、1時間の復習を課す。	
10	乳幼児の発達(6) (認知と言語の発達におけるつまずき)	キーワード: ワーキングメモリ、実行機能、知的能力障害 これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。また授業内容について、1時間の復習を課す。	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
11	乳幼児の発達(7) (自己と仲間関係の発達)	キーワード:自己意識、自己制御、共感性、心の理論 これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。 また授業内容について、1時間の復習を課す。	
12	乳幼児の発達(8) (自己と仲間関係の発達におけるつまづき)	キーワード:社会的スキル(訓練)、自閉症スペクトラム これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。 また授業内容について、1時間の復習を課す。	
13	保護者の心理と支援(1) (子育て環境の現状)	キーワード 大阪レポートと兵庫レポート NICHHDレポート これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。 また授業内容について、1時間の復習を課す。	
14	保護者の心理と支援(2) (家庭への働きかけの基本的な視点)	キーワード 育児ストレス ソーシャルサポート カウンセリング これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。 また授業内容について、1時間の復習を課す。	
15	子どもと保育を取り巻く現代的な課題 (少子化、ICT化、小学校との接続の問題)	キーワード 少子化 教育保育におけるICT活用のメリットと課題 小1プロブレム これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。 また授業内容について、1時間の復習を課す。	

開講科目名 Course	生涯発達心理学
時間割コード Course Code	50020
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	家接 哲次
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	家接 哲次 (教育保育学科)
授業の目標	人は生まれてから死ぬまで心理的に発達し続けると考えるのが、生涯発達心理学の立場である。理論的には各発達段階で我々は「発達課題」に直面し、それを解決することによって「発達」とされている。しかし現実には、前進と停滞の連続が一般的であり、この両面を踏まえて本講では、生涯を通して続く心の発達の過程を生物、社会的な観点から踏まえて学んでいく。 【知識・理解の領域】 ・生涯にわたる発達についての知識を獲得する 【態度・志向性の領域】 ・各発達段階における課題に対処する際、心理学の知識を駆使できる
授業の概要	1. 授業の進め方 1) 様々な発達心理学の概念を解説する 2) 心理テスト等で理解を深める 3) 日常生活での応用を理解する 2. 予習復習 1) 予習: シラバスをみて、その日のキーワードについて調べてくる 2) 復習: 習った内容を深めるため、図書館等で関連の文献を探し、それを読む * 質問には随時対応する。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	レポートで下記の点について評価する(100%) 1) 生涯発達心理学について関心をもち、正しく理解ができている (関心・理解) 2) 理解したことを正確に表現できる (表現) 3) 日常生活で適切に応用する準備ができている (応用・表現)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席数が多い場合(6回以上)は失格となることがある。

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 運動機能の発達</li> <li>3. 情動の発達</li> <li>4. 社会性の発達</li> <li>5. こどばの発達</li> <li>6. 認知、思考の発達</li> <li>7. 知能の発達と測定</li> <li>8. 性格</li> <li>9. 自己意識の発達</li> <li>10. 自我同一性</li> <li>11. 人との出会い</li> <li>12. 人と人の関わり方</li> <li>13. 集団</li> <li>14. 中年期以降の発達</li> <li>15. まとめ</li> </ul>
テキスト	なし
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業の中で基本的に対応するが、授業前後でも対応可能である。
フィードバックの方法	必要に応じて、口頭またはメール等でフィードバックを実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業中に提示する参考図書を読むこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	2. 情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス	授業方針、生涯発達心理学の位置づけ 心理テスト：自尊感情尺度	
2	運動機能の発達	離巢性・就業性、二次的離巢性、生理的 早産、原始反射(ルーティング反射・把握反射、パピンスキー反射など) *運動機能の発達	
3	情動の発達	情動・感情・気分、一次的情動、気質 (easy type, difficult type, slow to warm-up type) *情動の発達 心理テスト：信頼感尺度	
4	社会性の発達	自発的微笑・社会的微笑、愛着、愛着行動(発信行動、定位行動、能動的身体接触行動)、愛着の段階、愛着のタイプ(安定型、回避型、アンビバレント型) *社会性の発達 心理テスト：個人志向・社会志向性尺度	
5	ことばの発達	喃語、初語、一語文、統語、集団内独語、内言・外言 *言葉の発達 心理テスト：発話傾向尺度	
6	認知、思考の発達	ピアジェの認知・思考の発達段階(感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期)シエマ、同化、アニミズム、実念論、人工論、自己中心性 *認知、思考の発達	
7	知能の発達	知能、知能検査、IQとEQ 心理テスト：模擬知能検査	
8	性格	類型論と特性論、性格検査(質問紙法、作業検査法、投影法) ステレオタイプ、健康な人格 心理テスト：TAT、内田クレペリン作業検査など	
9	自己意識の発達	自我・自己、自己意識、私的・公的自己意識、自己注目、理想・現実自己 自己注目と精神的健康、対人恐怖症 心理テスト：自己意識尺度	
10	自我同一性	発達課題(乳児期、早期児童期、遊戯期、学齢期、青年期、初期成人期、成人期、成熟期)自我同一性、モラトリアム、同一性拡散 心理テスト：自我同一性尺度	
11	人と人の関わり方	攻撃性、攻撃のタイプ、攻撃行動の起因、敵意帰属バイアス 援助、向社会的行動&自己中心的援助行動、援助行動に与える影響 心理テスト：共感尺度、向社会的行動尺度	
12	人との出会い	親和欲求、自己呈示、ステレオタイプ、ハロー効果、ピグマリオン効果 心理テスト：恋愛タイプ尺度	
13	集団	集団凝集性、規範、社会的促進・抑制・手抜き、集団思考、リーダーシップ	
14	中年期以降の発達	親密さ」対「孤立」「生殖性」対「停滞」「完全性」対「絶望・嫌悪」	
15	まとめ		



開講科目名 Course	子育て支援論 / Studies of Child Care Support
時間割コード Course Code	50031
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	堀 美鈴
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	堀 美鈴 (教育保育学科)
授業の目標	<p>子どもを取り巻く環境が大きく変化していく中で、子どもたちの利益を保証するために、子育てを社会全体で支援していくことがより必要となってきている。そこで本科目では、家庭を取り巻く社会状況について理解し、家庭支援の必要性を知る。また、教育機関等との連携や様々な子育て支援ネットワークについて学び理解を深める。</p> <p>【知識理解の領域】子育て支援に援用されるソーシャルワークについて学び、特性と展開を具体的に理解する。また、子育て支援ネットワークについて理解する。</p> <p>【技能の領域】保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法および技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。</p> <p>【態度・指向性の領域】物事を多面的に見ることができる</p>
授業の概要	<p>(対面授業)</p> <p>近年社会の変化に伴い、核家族化も進む中で、親だけでは子育てが難しくなってきたといわれている。その状況を理解し子どもの人権を守る「子育て支援」の支援性について理解する。また、具体的に保育者がどのように関わっていくのか、個々の家族に教育的な支援が行われるかを、教科書やビデオ、実践例を通して学ぶ。</p> <p>また、地域の子育て支援について調べ、発表することで深い学びを得る。</p>
評価方法	<p>授業中の意欲・発表 (40%) 提出物(30%) 小テスト (30%)</p> <p>総合的に評価</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	半数以上の欠席P9

授業計画	<p>第1回：社会の変化と家族機能の変化について（子育て問題の歴史的、社会的背景を探る） テキスト P2～P9 予習1時間を課す</p> <p>第2回：子育て支援の必要性について（子育てをめぐる情勢の変化から） テキスト P11～P26 復習1時間予習1時間を課す</p> <p>第3回：児童福祉法と諸制度について（児童福祉法と社会的支援サービスの整備） テキスト P44～P50 復習1時間予習1時間を課す</p> <p>第4回：発達への理解（1）（胎生期から青年期までの発達） 保育所保育指針発達について 復習1時間予習1時間を課す</p> <p>第5回：発達への理解（2）（発達に応じた援助） 保育所保育指針 復習1時間予習1時間を課す</p> <p>第6回：子育て支援施策の現状（1）（母子保健サービスによる子育て支援） テキスト P30～P43 復習1時間予習1時間を課す</p> <p>第7回：子育て支援施策の現状（2）（子育て支援センター、ファミリー・サポート・センターによる子育て支援） テキスト P52～P58 復習1時間予習1時間を課す</p> <p>第8回：子育て支援施策の現状（3）（保育園・幼稚園・児童館等による子育て支援） テキスト P44～P50 復習1時間予習1時間を課す</p> <p>第9回：子育て支援におけるソーシャルワーク テキスト P68～P75 復習1時間予習1時間を課す</p> <p>第10回：ソーシャルワークにおける過程 テキスト P97～P103 復習1時間予習1時間を課す</p> <p>第11回：児童虐待とその影響 テキスト配布（児童虐待について） 復習1時間予習1時間を課す</p> <p>第12回：保育園・幼稚園での実際 テキスト P127～P138 復習1時間予習1時間を課す</p> <p>第13回：児童福祉施設における子育て支援 テキスト152～164 復習1時間予習1時間を課す</p> <p>第14回：地域の子育て支援について 地域の子育て支援について調べ発表する 予習2時間を課す</p> <p>第15回：地域の子育て支援について 地域の子育て支援について調べ発表する 予習2時間を課す 実務経験のある教員による授業 保育園、子育て支援センター・ファミリー・サポート・センター・母子生活支援施設・虐待担当等での現場経験をいかし、例を挙げながら、様々な子育て支援について学生の理解を深めるよう指導する。</p>
テキスト	<p>子ども家庭福祉専門職による子育て支援 ミネルヴァ書房 才村純・芝野松次郎・新川康弘・宮野安治編著</p>
参考書	適宜紹介
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	<p>保育園、子育て支援センター・ファミリー・サポート・センター・母子生活支援施設・虐待担当等での現場経験をいかし、例を挙げながら、様々な子育て支援について学生の理解を深めるよう指導する。</p>
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・随時対応</li> <li>・メール対応（アドレス記載）</li> </ul>
フィードバックの方法	課したレポート等コメントを書き翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業計画詳細情報に記載
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>5. ジェンダー平等を実現しよう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11. 住み続けられるまちづくりを</p> <p>16. 平和と公正をすべての人に</p> <p>17. パートナリシップで目標を達成しよう</p>

PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	子育て支援の構造 子育て支援の歴史	子育ての歴史から子育て支援がなぜ必要なのか、(テキストP2~9) 子育ての変化について具体的なものの歴史を各々が調べ、そこから子育ての流れを見ていく。  1時間の予習と1時間の復習を課す(テキストP11~17)	
2	社会の変化と家族機能の変化 社会の変化と子育ての流れ	環境を巡る子育て状況の課題及び子育て支援の必要性について理解する(テキストP11~17) 前回調べたものを発表し、子育ての歴史について理解する。  レポート課題	
3	子育て支援に関する制度・施策の展開 制度の子育て支援に関する制度・施策の展開について	少子化の進行と子育て支援について理解する(テキストP53~57)  1時間の予習と1時間の復習を課す(テキストP58~65)	
4	「保育園保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における子育て支援 「保育園保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における子育て支援について	「保育園保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における子育ての取扱いについて理解する(テキストP58~P65)  1時間の予習と1時間の復習を課す(テキストP68~P75)	
5	子育て支援におけるソーシャルワーク 子育て支援におけるソーシャルワークについて	保育者に期待されるソーシャルワークについて学ぶ(テキストP68~P75)  レポート課題	
6	ソーシャルワークの原則 ソーシャルワークの原則・過程について	ソーシャルワークという対人援助活動を成り立たせる根本的な原則及び過程について学ぶ(テキストP83~P110)  1時間の予習と1時間の復習を課す(テキストP120~P122)	
7	保育者が行う子育て支援の実際 環境を通じた子育て支援について	保育の場の環境実践に注目し保護者主体の子育て支援がどのように機能するのか、事例を見ながら具体的に検討する(テキストP120~P122)  レポート課題	
8	保育者が行う子育て支援の実際 保護者理解(実践)について	保護者と顔を合わせる機会での子育て支援をどのように考えるのか、重要性について理解を深める)(P127~P138) 保育相談支援を実際に展開していくための方法や技術が身に付けられるように具体的な実践事例に即しながら体系的に学ぶ(P111~P117)  レポート課題	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
9	保育者の行う子育て支援の実際 保護者理解(連絡ノート・クラス便り等) について	連絡ノートやクラス便りの重要な役割について理解に実践事例を通して学ぶ ( P 140 ~ P 145 )  1時間の予習と1時間の復習を課す ( P 111 ~ P 117 )	
10	子どもたちの姿からの支援 いじめ・不登校	身近な事例を子育て支援の観点から考える。  1時間の予習と1時間の復習を課す	
11	子育て支援ネットワークについて 保育を支えるネットワーク	家庭・地域・関係機関との連携及びネットワークについて学ぶ。 自分の地域の子育て支援について調べ、発表する。  レポート課題	
12	子育て支援の実施体制 児童虐待の現状と実際	児童虐待の現状と実際から、発生予防策と児童養護について学ぶ( P 30 ~ P 43 )  レポート課題	
13	海外に学ぶ子育て支障 フィンランド・スウェーデンの子育て支援を学ぶ	子育て支援の先進国であるあるフィンランド・スウェーデンの子育て支援を日本と比較しながら学ぶ。(海外の子育て事情について P 130 )  1時間の予習と1時間の復習を課す ( P 152 ~ P 157 )	
14	児童福祉施設における子育て支援 母子生活支援施設・乳児院・児童養護施設における子育て支援について	保護者や子どもが様々な生活課題を抱えながら生活している母子生活支援施設・乳児院・児童養護施設における子育て支援について理解する( P 152 ~ P 157 )  1時間の予習と1時間の復習を課す	
15	家庭や地域とつながる子育て支援について	これまでの授業の振り返り レポート課題	

開講科目名 Course	発達心理学 I
時間割コード Course Code	50041
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	多川 則子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基礎科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	多川 則子 (教育保育学科)
授業の目標	<p><b>教育目標</b>          発達とは子どもが大人になることだけを意味するものではなく、生まれてから死ぬまでの一生の間に起こる様々な変化を指します。その中でも乳幼児期は最も変化の大きな時期と言えます。          この授業では、子どもたちの発達や変化が、いつ頃？何が？どのように？起こるのかについて学びます。そして、重要なのは、子どもたちの発達に人との情緒的な交流が必要不可欠であることへの理解を深めることです。さらに、児童期以降の発達についても基本的な事項を理解します。これらの学びや理解と共に、生涯発達の視点を踏まえた子どもに対する支援の在り方について考えることを目指します。</p> <p><b>学習成果</b>  <b>知識・理解の領域</b>          ・乳幼児期の発達に関する心理学的な知識を習得する。          ・児童期以降の発達に関する基本的な知識を習得する。          ・情緒的な交流を通して発達するとはどういうことかを説明できる。          ・講義内容を整理しまとめる力、疑問点を見出す力がつく。  <b>技能の領域</b>          ・発達心理学の基礎的な知見を、実際の子どもの姿に当てはめて考えられる。  <b>態度・志向性の領域</b>          ・子どもの発達に寄与する援助の在り方について、自分の考えを表明できる。</p>
授業の概要	1. 基本的に講義形式で行う。適宜、グループワーク、発表など行う。 2. 一部、反転授業で実施する。 この科目の位置づけについては、本学HP のナンバリングを参照すること。
評価方法	小テストや課題(4割)、期末試験(持ち込み不可の筆記試験)(6割)により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席回数が3分の1を超えた場合は失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	『新・育ちあう乳幼児心理学：保育実践とともに未来へ』心理科学研究会編 有斐閣 2019年

参考書	『0歳~6歳 子どもの発達と保育の本 第2版 (Gakken保育Books)』 河原 紀子 (監修) 学研プラス 2018年 『続・発達がわかれば子どもが見える 保育のプロが教える妊娠から4歳までの子育て術』 乳幼児保育研究会 ぎょうせい 2013年 加藤繁美 (監修) 子どもとつくる保育・年齢別シリーズ ひとなる書房『子どもとつくる0歳児保育 心も体も気持ちいい』 2011年他 『学びを支える保育環境づくり~幼稚園・保育園・認定こども園の環境構成~』 高山静子著 小学館 2017年 『アタッチメントに基づく評価と支援』 北川 恵・工藤 晋平 (編著) 誠信書房 2017年 『新版 認知科学で探る 心の成長と発達 (別冊日経サイエンス259)』 鈴木光太郎 (編) 日経サイエンス 2023年
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループ単位のディスカッションを入れる場合がある。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応 メール対応: tagawa@nagoya-ku.ac.jp
フィードバックの方法	小テストや課題などは、後日の授業内にて振り返りを実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・予習として、教科書の該当の章やシラバスにあげた参考書を読む(各回1時間程)。 ・復習として、授業内容に関連する書籍やシラバスにあげた参考書を読んでまとめる(各回2~3時間程)。 ・反転授業の課題を実施する(2時間程)。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	子どもの発達を見る視点	
2	0歳児(1)	子どもの姿 感覚器官の発達 原始反射 運動機能の発達	
3	0歳児(2)	前言語的コミュニケーション 0歳児の人との関わり(自我の発達)	
4	1,2歳児(1)	子どもの姿 身体運動・手指操作の発達	
5	1,2歳児(2)	1歳児の認知とコミュニケーション(表象能力の芽生え、初語)	
6	1,2歳児(3)	2歳児の認知とコミュニケーション(表象機能の発達) 対人関係と自我の発達	
7	アタッチメント:情緒的絆	アタッチメントの学術的意味 アタッチメントの個人差 安心感の輪	
8	3,4歳児(1)	子どもの姿 身体運動・手指操作の発達	
9	3,4歳児(2)	3,4歳児の認知とコミュニケーション(感覚運動期・前操作期)	
10	5歳児(1)	子どもの姿 身体運動・手指操作の発達	
11	5歳児(2)	5歳児の認知とコミュニケーション(具体的操作期) 小学校への移行期	
12	児童期の発達	児童期の認知とコミュニケーション(形式的操作期) 社会性の発達	
13	青年期(思春期)の発達	第二次性徴と不安 アイデンティティ	
14	成人期・老年期の発達	夫婦関係の成立と子育て 中年期の危機と課題 老化と課題	
15	子育てを取り巻く問題		



開講科目名 Course	発達臨床学演習(通)
時間割コード Course Code	50045
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	楯 誠
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	楯 誠 (教育保育学科)
授業の目標	<p>近年、子どもたちの心理的、行動的な問題が頻繁に取り上げられるようになり、発達の早期からの適切な指導や援助の必要性が指摘されている。本授業では、見学・観察を通して心理面や行動面に何らかの問題を抱える子ども（特に障害のある子ども）の実際、およびそれらの子どもに対する臨床的な働きかけの具体例を理解することを目標とする。また、臨床的な働きかけに一部参加することで、臨床実践力の基礎づくりを試みる。</p> <p>【知識・理解の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な事例に接することで、概論的な知識と実際の子どもの姿を対応させて、より深い理解につなげることができる。</li> <li>発達障害児に対する個別指導の内容の一端を知ることができる。</li> </ul> <p>【技能の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個別指導における、指示の出し方、課題提示の仕方、評価の仕方の一部を体験を通して獲得することができる。</li> </ul> <p>【態度・志向性の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個別指導に部分的に関わり、子どものストレートな反応を得ることで、学習への意欲が高まる。</li> </ul>
授業の概要	<p>この授業では、本学発達臨床センターに通所する幼児期・児童期の臨床事例について解説を行うとともに、実際の臨床活動の見学・観察を実施する。また、スーパーバイザー立会いのもと、臨床実践の一部に参加する。</p> <p>大学外の幼児・児童、保護者等と接する機会が多いため、健康管理に十分に留意すること。発達臨床センターの活動参加が授業内容の中心となるため、正規時間外の活動が課されることがある(こちらが主となる可能性もある)。これに対応できる学生の履修を求める。</p>
評価方法	<p>授業時の取り組み(70%)と指導実践の成果(30%)から評価する。活動に関する課題(レポート、記録、指導計画案)を課すこともある(これらは、取り組み、成果の双方に含まれるものとする)。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>相手がある活動のため、遅刻や欠席は厳禁とする。</p> <p>止むを得ない理由で欠席があった場合でも、出席回数が全授業の3分の2に満たない場合は、原則単位は認定しない。</p>

授業計画	<p>第1回：前期ガイダンス（授業の内容と発達臨床センターの説明）</p> <p>第2回：臨床活動の意義と注意事項について</p> <p>第3回：臨床活動の流れと基本的な働きかけの方法</p> <p>第4回：子どもの発達および困難性の評価の実際</p> <p>第5回：観察のポイントと記録の仕方</p> <p>第6回：事例（1）（例：一般的な発達の遅れを主訴とする事例）の概要および指導プログラムの説明</p> <p>第7回：事例（1）の観察・記録の実践</p> <p>第8回：事例（1）の観察・記録の振り返り、質疑応答、記録の確認</p> <p>第9回：事例（2）（例：言語表出の遅れを主訴とする事例）の概要および指導プログラムの説明</p> <p>第10回：事例（2）の観察・記録の実践</p> <p>第11回：事例（2）の観察・記録の振り返り、質疑応答、記録の確認</p> <p>第12回：事例（3）（例：数概念の理解の困難性を主訴とする事例）の概要および指導プログラムの説明</p> <p>第13回：事例（3）の観察・記録の実践</p> <p>第14回：事例（3）の観察・記録の振り返り、質疑応答、記録の確認</p> <p>第15回：前期（事例の観察・記録の活動）全体の振り返り</p> <p>第16回：後期ガイダンス（参加する臨床事例の選択）</p> <p>第17回：指導プログラム立案の概要</p> <p>第18回：事例に対する部分指導プログラム（1）（例：模倣スキルの指導プログラム）の立案</p> <p>第19回：部分指導プログラム（1）の実践</p> <p>第20回：部分指導プログラム（1）実践の振り返りとスーパーバイズ</p> <p>第21回：事例に対する部分指導プログラム（2）（例：色・形の分類学習の指導プログラム）の立案</p> <p>第22回：部分指導プログラム（2）の実践</p> <p>第23回：部分指導プログラム（2）実践の振り返りとスーパーバイズ</p> <p>第24回：事例に対する部分指導プログラム（3）（例：絵カードによる音声弁別学習の指導プログラム）の立案</p> <p>第25回：部分指導プログラム（3）の実践</p> <p>第26回：部分指導プログラム（3）実践の振り返りとスーパーバイズ</p> <p>第27回：事例に対する部分指導プログラム（4）（例：音声による要求表出スキルの指導プログラム）の立案</p> <p>第28回：部分指導プログラム（4）の実践</p> <p>第29回：部分指導プログラム（4）実践の振り返りとスーパーバイズ</p> <p>第30回：後期（指導プログラムの立案と臨床実践への部分参加）全体の振り返り</p> <p>各回につき、1時間の実践準備（予習）と、1時間の実践の振り返り（復習）を課す。</p>
テキスト	別途指示する。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	発達の困難性のある幼児に対する個別指導の、見学・記録・一部参加、それらを踏まえてのディスカッション、教材や指導プログラムの立案を実施する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問については、実践終了後随時受け付ける。
フィードバックの方法	評価についての質問は、希望する学生に個別に受け付ける。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回につき、1時間の実践準備（予習）と、1時間の実践の振り返り（復習）を課す。内容については、各回ごとに指示する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	教育の方法・技術 / Teaching Methods and Techniques
時間割コード Course Code	50055
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3
主担当教員 Main Instructor	伊藤 達也
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基礎科目
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	伊藤 達也 (教育保育学科)
授業の目標	<p>教育の方法・教育の技術、情報機器や教材の活用、教育評価の種類と方法に関する基礎的な知識、技能を身に付ける。また、教育活動の基本となる用語や概念の意味を理解し教育現場で活用・応用できることを目標とする。</p> <p>知識理解 教育活動の基本となる用語や指導方法を理解する。  技能 情報機器の活用方法や教材・教具の利用方法や教育評価の種類や方法を知り自らシミュレーションして実践的応用をすることができる。  態度 指向性 日常の中で起きている教育問題について関心を持ち、自らがどのように感じて対応できるかを常に考えることができる。</p>
授業の概要	<p>教育課程の意義と役割  学習指導要領の変遷と新学習指導要領の具体的内容  各教科・各領域における授業づくり  学習指導案の研究と実習  教育・学習評価の意味とその働きと活用方法を修得する  メディアの教育的活用とICTの活用方法  パフォーマンス課題の設定とルーブリック（評価基準）を作成</p>
評価方法	<p>小テスト（40％）2回実施予定  課題（指導案作成・パフォーマンス課題とルーブリックの作成（40％）  教育問題に関する時事問題課題と教材作成（20％）を総合的に評価します。  課題の提出については、期限を遅れないように提出してください。 期限に遅れた提出物は評価できません。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業に11回以上参加していない場合（特別欠席は除く）

授業計画	<p>第1回 教育方法と授業づくり 概要 講義のガイダンス</p> <p>第2回 各領域における授業づくり 概要 各教科における授業づくりの特徴</p> <p>第3回 各領域における授業づくり 概要 道徳・総合的な時間について</p> <p>第4回 授業づくりの基礎理論 概要 授業を構成する要素</p> <p>第5回 授業デザイン 概要 学習形態の工夫(一斉授業・個に応じた指導・協同学習・探求的な学習)</p> <p>第6回 授業デザイン 概要 学習指導案の内容と形式</p> <p>第7回 学習指導案の作成 概要 各教科、領域の指導案や幼・保の日案の作成 (実習)</p> <p>第8回 指導案検討会 概要 各指導案を同じ教科・領域のグループによる検討会と相互評価</p> <p>第9回 学習場面に応じたICT活用の意義と活用 概要 学校教育におけるICTの活用を支える環境整備・外部人材・情報セキュリティの重要性を理解する</p> <p>第10回 情報リテラシーの意味とメディアの活用方法 概要 情報活用能力と情報モラルの理解</p> <p>第11回 メディアの教育的活用 概要 NIEの取り組み例 新聞を活用した教材作り(実習) NIE (Newspaper in Education)</p> <p>第12回 学びを生かすための評価のあり方 概要 教育評価の種類と機能(診断的評価・形成期評価・総括的評価)</p> <p>第13回 学びを生かすための評価のあり方 概要 京都大学大学院教育学研究科の評価方法の研究と活用法</p> <p>第14回 「真正のの評価」論と授業づくり (パフォーマンス課題とルーブリック) 概要 パフォーマンス課題 の設定とルーブリックの作成 (実習)</p> <p>第15回 作成したパフォーマンス課題とルーブリックのモデレーション(グループ 活動と相互評価) 概要 第14回の講義で作成したパフォーマンス課題とルーブリックをグループ内で議論し相互評価しあう。</p>
テキスト	<p>講義時に配布するワークシートや配布プリント</p> <p>Q&amp;Aでよくわかる見方・考え方を育てるパフォーマンス評価 西岡加名恵・石井英真 編著 明治図書 2000円 + 税</p>
参考書	<p>最新教育動向2023～2024 明治図書 2000円 新しい教育評価 有斐閣コンパクト 2000円 パフォーマンス評価にどう取り組むか 日本標準ブックレットNo11 700円 保育方法・指導法の研究 ミネルバ書房 2400円 (幼・保育園履修者用) よく分かる授業論 ミネルバ書房 2600円 文部科学省 最新版 学習指導要領(幼・小・中・高) 栄養は除く 各自の各教科の教科書(幼保栄養は除く) その他 適宜示します。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各教科、領域の指導案や幼・保の日案の作成とグループ活動 新聞を活用した教材作り パフォーマンス課題の設定とルーブリックの作成とグループ活動と相互評価
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後に個別で対応します。
フィードバックの方法	原則 翌週に返却いたします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義で配布したプリントやワークシートを使って、一講座につき一時間の復習を必要とします。小テストの準備として3時間程度の復習が必要です。評価についての講義は、テキストを使って毎時間2時間程度の予習が必要です。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力 7.課題発見力 8.計画立案力

開講科目名 Course	道徳の理論と指導法（小）
時間割コード Course Code	50057
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	水野 達彦
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水野 達彦 (教育保育学科)
授業の目標	道徳教育の歴史や普遍的な理念を踏まえるとともに、教科化を受け、今日的な課題について、多面的にとらえられるようにする。また、児童生徒の道徳性の発達と道徳教育の授業理論をもとにした、学習指導案の作成と模擬授業の実践を通して、教育現場における道徳科の指導の在り方を体感的に学ばせる。
授業の概要	道徳教育の推進に必要な不可欠な知識、教養については、講義形式でわかりやすく教授する。その上で、アクティブラーニングを積極的に取り入れ、身につけた知識や教養を、具体的実践につなげる汎用的能力の育成を図る。その際、グループディスカッションや模擬授業を取り入れるとともに、自己評価・他者評価を重視する。さらに、「道徳教育に関する課題意識と解決方法について、学修前（第2時）と学修後（第15時）の自らの変容を確認することにより、メタ認知の有効性を体感させる。
評価方法	出席状況・授業への取り組み状況（見とり及びふり返りカードの記載内容）30%、課題小レポート（2回課す）30%、最終筆記試験40%を、総合的に判断し評価する。特に、演習や模擬授業に対する積極性と取り組みの妥当性に重きを置く。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス 道徳とは・道徳教育とは（AL 私の受けてきた道徳教育）</li> <li>2 道徳教育に関する課題意識と解決方法（AL いじめ問題をどう取り上げるか）</li> <li>3 道徳教育の歴史（AL いのちの教育の進め方）</li> <li>4 子ども心の成長と道徳性の発達（AL 情報モラルをどう学ばせるか）</li> <li>5 道徳科の目標と指導計画（AL 「問題解決型」の授業とは）</li> <li>6 道徳教育の授業理論（AL 「モラルジレンマ」の授業とは）</li> <li>7 「考え、議論する道徳」とは（AL 授業ビデオの視聴）</li> <li>8 教材の収集と開発（AL 授業ビデオの分析）</li> <li>9 多様な考えを表出させる発問の工夫（AL 発問を考える）</li> <li>10 道徳科の評価（AL 発問を吟味する）</li> <li>11 読み物教材を用いた授業の在り方（AL 指導案の作成）</li> <li>12 視聴覚教材を用いた授業の在り方（AL 指導案の検討）</li> <li>13 授業実践例（低学年）の分析（AL 模擬授業）</li> <li>14 授業実践例（高学年）の分析（AL 模擬授業）</li> <li>15 道徳教育に関する課題意識と解決方法の見直し（AL 学びのふり返り） 定期試験</li> </ol>
テキスト	小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「特別の教科 道徳編」（文部科学省） 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説「特別の教科 道徳編」（文部科学省）
参考書	なし。必要なものは授業者が用意する。

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業計画にALで記載した内容（毎回実施）
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	毎時間、授業の終了前に受け付ける。また、メールでの質問にも答える。
フィードバックの方法	毎回実施する「学びのふり返しカード」及び課題小レポートには、必ず朱筆を入れ、フィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト及び授業者が配布した参考書や資料を読み込み、毎回の授業の予習を行わせる。（15時間）</li> <li>・毎回の授業について復習を義務づけるとともに、毎回次の授業に関わる課題を提示し、それに答えるよう にさせる。（合計30時間）</li> <li>・教材の読み込み・発問の吟味等、指導案の作成準備（10時間）</li> <li>・模擬授業の準備（5時間）</li> </ul>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>2.情報分析力</li> <li>3.課題発見力</li> <li>4.構想力</li> </ul>
PROGコンピテンシーの要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>7.課題発見力</li> <li>8.計画立案力</li> <li>9.実践力</li> </ul>

開講科目名 Course	教育の方法と技術 / Teaching Methods and Techniques
時間割コード Course Code	50060
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	伊藤 達也
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基礎科目
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	伊藤 達也 (教育保育学科)
授業の目標	<p>教育の方法・教育の技術、情報機器や教材の活用、教育評価の種類と方法に関する基礎的な知識、技能を身に付ける。また、教育活動の基本となる用語や概念の意味を理解し教育現場で活用・応用できることを目標とする。</p> <p>知識理解 教育活動の基本となる用語や指導方法を理解する。  技能 情報機器の活用方法や教材・教具の利用方法や教育評価の種類や方法を知り自らシミュレーションして実践的応用をすることができる。  態度 指向性 日常の中で起きている教育問題について関心を持ち、自らがどのように感じて対応できるかを常に考えることができる。</p>
授業の概要	<p>教育課程の意義と役割  学習指導要領の変遷と新学習指導要領の具体的内容  各教科・各領域における授業づくり  学習指導案の研究と実習  教育・学習評価の意味とその働きと活用方法を修得する  メディアの教育的活用とICTの活用方法  パフォーマンス課題の設定とルーブリック（評価基準）を作成</p>
評価方法	<p>小テスト（40％）2回実施予定  課題（指導案作成・パフォーマンス課題とルーブリックの作成（40％）  教育問題に関する時事問題課題と教材作成（20％）を総合的に評価します。  課題の提出については、期限を遅れないように提出してください。 期限に遅れた提出物は評価できません。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業に11回以上参加していない場合（特別欠席は除く）



授業計画	<p>概要 講義のガイダンス</p> <p>第2回 各領域における授業づくり 概要 各教科における授業づくりの特徴</p> <p>第3回 各領域における授業づくり 概要 道徳・総合的な時間について</p> <p>第4回 授業づくりの基礎理論 概要 授業を構成する要素</p> <p>第5回 授業デザイン 概要 学習形態の工夫(一斉授業・個に応じた指導・協同学習・探求的な学習)</p> <p>第6回 授業デザイン 概要 学習指導案の内容と形式</p> <p>第7回 学習指導案の作成 概要 各教科、領域の指導案や幼・保の日案の作成 (実習)</p> <p>第8回 指導案検討会 概要 各指導案を同じ教科・領域のグループによる検討会と相互評価</p> <p>第9回 学習場面に応じたICT活用の意義と活用 概要 学校教育におけるICTの活用を支える環境整備・外部人材・情報セキュリティの重要性を理解する</p> <p>第10回 情報リテラシーの意味とメディアの活用方法 概要 情報活用能力と情報モラルの理解</p> <p>第11回 メディアの教育的活用 概要 NIEの取り組み例 新聞を活用した教材作り(実習) NIE (Newspaper In Education)</p> <p>第12回 学びを生かすための評価のあり方 概要 教育評価の種類と機能(診断的評価・形成期評価・総括的評価)</p> <p>第13回 学びを生かすための評価のあり方 概要 京都大学大学院教育学研究科の評価方法の研究と活用法</p> <p>第14回 「真正のの評価」論と授業づくり (パフォーマンス課題とルーブリック) 概要 パフォーマンス課題 の設定とルーブリックの作成 (実習)</p> <p>第15回 作成したパフォーマンス課題とルーブリックのモデレーション(グループ 活動と相互評価) 概要 第14回の講義で作成したパフォーマンス課題とルーブリックをグループ内で議論し相互評価しあう。</p>
テキスト	<p>講義時に配布するワークシートや配布プリント</p> <p>Q&amp;Aでよくわかる見方・考え方を育てるパフォーマンス評価 西岡加名恵・石井英真 編著 明治図書 2000円 + 税</p>
参考書	<p>最新教育動向2023～2024 明治図書 2000円</p> <p>新しい教育評価 有斐閣コンパクト 2000円</p> <p>パフォーマンス評価にどう取り組むか 日本標準ブックレットNo11 700円</p> <p>保育方法・指導法の研究 ミネルバ書房 2400円 (幼・保育園履修者用)</p> <p>よく分かる授業論 ミネルバ書房 2600円</p> <p>文部科学省 最新版 学習指導要領(幼・小・中・高) 栄養は除く 各自の各教科の教科書(幼保栄養は除く)</p> <p>その他 適宜示します。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>各教科、領域の指導案や幼・保の日案の作成とグループ活動</p> <p>新聞を活用した教材作り</p> <p>パフォーマンス課題の設定とルーブリックの作成とグループ活動と相互評価</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後に個別で対応します。
フィードバックの方法	原則翌週に返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>講義で配布したプリントやワークシートを使って、一講座につき一時間の復習を必要とします。</p> <p>小テストの準備として3時間程度の復習が必要です。</p> <p>評価についての講義は、テキストを使って毎時間2時間程度の予習が必要です。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11～17)	

PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力 7.課題発見力 8.計画立案力

開講科目名 Course	情報通信技術の活用
時間割コード Course Code	50065
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	村山 聡江
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	村山 聡江 (経営学部)
授業の目標	<p>教育現場におけるICT（情報通信技術）に関する知識を身につけ、その活用の意義や理論について理解する。 またICTツールを利用した演習を行うことで、実践的なスキルを身につける。</p> <p>知識・理解の領域 ICT教育の歴史や現在行われている取り組み、求められている役割について理解できる 技能の領域 教育現場でのICTツールの選択や活用ができる 態度・志向性の領域 ICT教育の目的と今後目指すべき姿が理解できる</p>
授業の概要	<p>教育におけるICT（情報通信技術）の活用について、情報機器やデジタル教材、最先端技術を使用した教育方法についての解説・事例紹介・演習を通して学ぶ。また1人1台の情報端末の活用を踏まえた児童生徒の情報活用能力の育成について、事例の紹介などを通して解説し、学生自身が体験的に学習する機会を設けることで、理解を深める。 デジタル教材を利用した模擬授業や、個別最適化・協働的な学びのためのICTツールの利用、保護者や地域連携、校務の効率化につながるICT利用の演習を多く行い、実践的なスキルを身につける。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>・授業における課題の取り組み姿勢・提出と期末試験により総合的に行う ・各回の授業時の課題（60%）、期末試験（40%）</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	2 / 3 以上の出席が無い場合（欠席は2回まで）。
授業計画	<p>第1回：ガイダンス 現代社会およびこれからの学校におけるICTの役割について 第2回：教育におけるICTの歴史と最先端技術 第3回：対話的・協働的な学びを深めるICTの活用 第4回：ICTによる学びの保証と遠隔授業 第5回：特別支援・幼児教育におけるICT活用 第6回：プログラミング教育がめざすこと 第7回：生徒児童によるICT活用と校務の効率化 第8回：情報モラル・情報セキュリティの重要性と、今後求められるICT教育</p>
テキスト	

参考書	幼稚園教育要領 小学校学習指導要領 小学校学習指導要領解説 中学校学習指導要領 中学校学習指導要領解説 高等学校学習指導要領 高等学校学習指導要領解説 その他、授業に必要な資料は、都度授業中に指示する
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ICTを活用した模擬授業の実施、感想の共有を行う。 簡単なプログラミングや、アンケートフォーム作成、QRコードの作成などの実習を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	小・中・高校生へのプログラミング教育や、VR作成及び生成AIのワークショップ、教育系アプリ開発の経験のある教員が、ICTを利用した教育の意義と効果を解説する科目である。
質問への対応方法	・授業後に対応 ・Google Classroomで対応 ・メール対応 (murayama-t@nagoya-ku.ac.jp)
フィードバックの方法	授業時またはClassroom上で対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、次回テーマに関連する文献やインターネットを利用した調査、授業後の振り返りや課題作成（授業でやりきれなかったもの）など、4時間の予習復習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	2. 協同力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	教育原理（幼・小）/Principles of Education
時間割コード Course Code	50081
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	飯田 幸恵
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基礎科目
教室 Classroom	3 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	飯田 幸恵 (教育保育学科)
授業の目標	<p>教育の理念・歴史・思想等についての知識を身につけるとともに、教育の意義・内容・方法について考え、実際に指導に生かしていく力を身につける。</p> <p>知識・理解の領域 教育の理念・歴史・思想等についての知識を身につける。</p> <p>技能の領域 教育の内容・方法について理解を深め、実際に指導に生かしていく力を身につける。</p> <p>態度・志向性の領域 教育の意義・教育の現状と課題などについて考えることができるようにする。</p>
授業の概要	教育の理念・歴史・思想等に関する知識について学び、教育の内容・方法について理解を深め、教育の現状と課題について考える。
評価方法	各回の課題提出・課題評価、授業への取り組みなど、総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	全授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、失格となる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要・課題説明</li> <li>2. 教育の理念・目的と意義</li> <li>3. 子ども観の変遷</li> <li>4. 西洋教育史・教育思想 古代・中世</li> <li>5. 西洋教育史・教育思想 近世・近代</li> <li>6. 西洋教育史・教育思想 現代</li> <li>7. 日本教育史・教育思想 古代・中世</li> <li>8. 日本教育史・教育思想 近世・近代</li> <li>9. 日本教育史・教育思想 現代</li> <li>10. 子どもの権利と教育</li> <li>11. 教育の内容・方法</li> <li>12. 教育課程</li> <li>13. 教育の制度と法</li> <li>14. 教育の現状と課題</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
テキスト	なし
参考書	適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業終了後に対応する。
フィードバックの方法	次回の授業時にフィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回授業の予習・復習を行うこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	保育原理
時間割コード Course Code	50085
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	飯田 幸恵
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基礎科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	飯田 幸恵 (教育保育学科)
授業の目標	<p>保育の目的・歴史・思想等についての知識を身につけるとともに、保育の意義・内容・方法について考え、実践に生かしていく力を身につける。</p> <p>知識・理解の領域 保育の目的・歴史・思想等についての知識を身につける。</p> <p>技能の領域 保育の内容・方法について理解を深め、実際に指導に生かしていく力を身につける。</p> <p>態度・志向性の領域 保育の意義・保育の現状と課題などについて考えることができるようにする。</p>
授業の概要	保育の目的・内容・方法や保育の歴史・思想・制度などに関する知識、子どもの健康や保育所の安全管理などについて学び、保育の現状や課題について考える。
評価方法	各回の課題提出・課題評価・授業態度など、総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	全授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、失格となる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1．授業概要・課題説明</li> <li>2．保育の目的</li> <li>3．子ども理解の方法</li> <li>4．保育の内容</li> <li>5．保育の方法</li> <li>6．保育の計画・実践</li> <li>7．保育の環境</li> <li>8．子どもの健康</li> <li>9．保育所における安全管理</li> <li>10．保育者の役割と仕事</li> <li>11．保育の歴史・思想</li> <li>12．幼保一元化と認定こども園</li> <li>13．現代の子育て支援と保育制度</li> <li>14．保育の現状と課題</li> <li>15．まとめ</li> </ol>
テキスト	なし
参考書	適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業終了後に対応する。
フィードバックの方法	次回の授業時にフィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回授業の予習・復習を行うこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	現代教育の課題
時間割コード Course Code	50102
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	飯田 幸恵
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	飯田 幸恵 (教育保育学科)
授業の目標	現代の子どもを取り巻く環境や現代の教育課題等について学び、現代における教育の意義や役割を考える。
授業の概要	現代の子どもを取り巻く環境の変化・子どもの生活や遊びの変化等について学び、地域・家庭・学校との連携等について考える。また、教育の現状と課題について学び考える。
評価方法	各回の課題提出・課題評価・授業態度など、総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	全授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、失格となる。
授業計画	第1回：授業概要・課題説明 第2回：子どもを取り巻く環境の変化 第3回：地域・家庭環境の変化 第4回：現代の子育て環境の変化 第5回：地域・家庭・学校との連携 第6回：子どもたちの生活の変化 第7回：子どもたちの遊びの変化 第8回：情報化社会と実体験の減少 第9回：社会教育と生涯学習 第10回：児童虐待 第11回：発達障がいを持つ子どもへの支援 第12回：不登校 第13回：いじめ 第14回：教育の現状と課題 第15回：まとめ
テキスト	なし
参考書	適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業終了後に対応する。

フィードバックの方法	次回の授業時にフィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回授業の予習・復習を行うこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	地域福祉概論 / Studies of Community Welfare
時間割コード Course Code	50110
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	関谷 みのぶ
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	関谷 みのぶ (教育保育学科)
授業の目標	地域福祉の歴史・理論の概要を学習して、特に地域における子育て支援の現状を理解する。
授業の概要	地域福祉は幅広い概念であることから、学生の身の回りでおこっている現実の生活課題をテーマとする。制度や方策、具体的な取り組み内容や担い手について、可能な限り、学生自身が生活している地域の現状調査をふまえながら考えていく。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンパリングを参照すること。
評価方法	授業への参加姿勢 (予習の内容、発言の内容、グループワークにおける気づき・振り返りシートの内容) 50% 授業課題30% 期末レポート20%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：私たちの暮らしと地域福祉 第3回：地域福祉の源流 第4回：社会福祉協議会 制度と活動内容 第5回：地域課題の探究 (調べ学習) 第6回：地域課題の探究 (発表) 第7回：地域課題の探究 (意見交流・振り返り) 第8回：ソーシャルワークとコミュニティソーシャルワーカー 第9回：ソーシャルワーカーの倫理綱領 第10回：地域づくりと主体形成 第11回：事例をとおして地域の課題を解決する (例えば、子育て支援に関わる事例) 第12回：事例をとおして地域の課題を解決する (例えば、防災に関わる事例) 第13回：よりよい地域づくりについて考える (調べる) 第14回：よりよい地域づくりについて考える (発表) 第15回：よりよい地域づくりについて考える (意見交流・振り返り)・まとめ
テキスト	特になし
参考書	加山 弾・熊田 博喜・中島 修・山本 美香「ストーリーで学ぶ地域福祉」有斐閣 (2020) 西上ありさ「ケアする人のためのプロジェクトデザイン：地域で「何かしたい!」と思ったら読む本」医学書院 (2021)  その他、授業で適宜紹介する
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	調査、報告
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業やメール等、随時対応する
フィードバックの方法	授業内で課した課題についての評価に関する質問は随時対応する。期末テストの評価や誤答箇所に関する質問は、希望者に対して個別に対応する。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習：各回の授業内容に関する事前学習を行って授業に臨むこと（各回45分程度、ただし、調査については、事前学習4時間程度） 復習：各回の授業後に出される振り返り課題（各回30分程度）、調査レポート作成（2時間程度）、課題レポート作成（1時間程度）、期末レポート作成（5時間程度）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	社会福祉
時間割コード Course Code	50141
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	関谷 みのぶ
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基礎科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	関谷 みのぶ (教育保育学科)
授業の目標	<p>・教育の目標 老若男女、健常者・障がいをもつ人問わず、全ての人が生活の主体者としてよりよく生きることがどのようなことかを考える。また、「福祉」について、学生各自が自ら考え続けるための多様な観点、柔軟な思考を身につける。その前提として、生活を支える制度の意義や理念、実施体制、などについて学ぶ。</p> <p>知識の領域 ・福祉の理念を理解し、現場での実践と関連づけることができる。 ・私たちの生活を支えるための社会サービスについて列挙し、具体的に説明できる。</p> <p>態度・習慣の領域 ・社会でおこっている事象について、生活者の一人として興味・関心を持つ。</p> <p>技能の領域 ・理解した内容を的確に表現する。 ・これからの福祉社会のあり方について、社会を構成する市民の一人として構想できる。</p>
授業の概要	<p>・社会福祉全般に関する基本的な理解のために、社会福祉の理念、歴史、制度・実施体系等について講義する。「福祉」とは何か、「社会福祉」とは何か、ということについて考えられることをねらいとするため、まず、社会福祉の理念について理解する。そして、現行のシステムについて、総論と、各対象別分野としての各論について理解するなかで、現代社会において求められる福祉サービスについて考える。また、実践の具体的なあり方や考え方について知る。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業中の課題（10％）と期末テスト（90％）により総合的に評価する。</p> <p>1．生活を支える福祉制度・サービスに興味・関心を持てたかどうか。（興味・関心） 2．社会福祉の理念や制度について理解したかどうか。（知識の獲得）</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	
参考書	與那嶺司・渡辺 裕一・永野 咲「基礎ゼミ 社会福祉学」世界思想社（2023）

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	事例検討、自ら課題を設定する調べ学習
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業時だけでなく、メール等で随時対応する。
フィードバックの方法	授業内で課した課題についての評価に関する質問は随時対応する。期末テストの評価や誤答箇所に関する質問は、希望者に対して個別に対応する。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世の中の社会福祉にかかわるニュースなどについて、新聞やwebサイトなどに日常的に触れること。（毎日10分）</li> <li>・事前学習（15分）</li> <li>・レポート課題（6時間）</li> <li>・期末テスト勉強につながる復習（復習1時間＋テスト前およそ6時間）</li> </ul>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>3. 課題発見力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>7. 課題発見力</li> </ol>

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	現代社会と社会福祉 社会福祉の理念・概念	ガイダンスと社会福祉の概念を中心とした総論	
2	現代社会と社会福祉 現代社会の生活問題と社会福祉の対象・ニーズ	社会福祉の対象者について	
3	社会福祉の歴史の変遷 社会福祉の歴史の変遷	日本と諸外国の社会福祉の歴史の変遷について	
4	社会福祉のしくみ 社会福祉の制度と法体系	社会福祉の制度と法体系について	
5	社会福祉のしくみ 社会福祉の主体・機関	社会福祉を構成する機関や主体について	
6	社会福祉のしくみ 社会福祉の専門職	社会福祉を担う専門職と専門職倫理について	
7	社会福祉における相談援助 相談援助の理論と意義	相談援助の理論と意義について	
8	社会福祉における相談援助 相談援助の対象と方法	相談援助の対象とプロセス、方法と技術について	
9	生活保障としての社会保障制度 社会保険の役割	社会保険の概要、年金保険制度について	
10	生活保障としての社会保障制度 社会保険の役割	医療保険、労災保険、雇用保険、介護保険について	
11	生活保障としての社会保障制度 公的扶助の役割	生活保護について	
12	利用者保護 情報提供と権利擁護	社会福祉における利用者の保護に関する仕組みについて	
13	社会福祉の動向と課題 子育て支援	少子高齢社会における子育て支援について	
14	社会福祉の動向と課題 共生社会	共生社会の実現と障害者施策について	
15	社会福祉の動向と課題・まとめ 地域福祉・まとめ	在宅福祉や地域福祉の推進について、今後の社会福祉のあり方について	

開講科目名 Course	子ども家庭福祉
時間割コード Course Code	50144
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	関谷 みのぶ
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基礎科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	関谷 みのぶ (教育保育学科)
授業の目標	<p>・教育の目標 子どもの福祉を実現するために必要な基礎的知識を修得する。その際、子どもの育ちには社会や家庭の変容が密接に関係していること、今日の子どもの問題は複雑多様化していることを踏まえ、理念や歴史、制度などについて理解する。</p> <p>知識の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの幸せを実現するための理念を理解し、児童家庭福祉の現場での実践と関連づけることができる。</li> <li>・子どもの育ちを支えるための社会サービスについて列挙し、具体的に説明できる。</li> </ul> <p>態度・習慣の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを取り巻く環境について興味・関心を持つ。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理解した内容を的確に表現する。</li> <li>・理解した理念が実践できる。</li> </ul>
授業の概要	<p>子ども福祉に関する基本的な理解のために、理念、歴史、制度・実施体系等について講義した後、子どもや家庭を取り巻く環境に関する現状と課題について講義する。その際、身近な問題を手がかりに理解が深められるよう、関連する新聞記事やビデオ等の教材を必要に応じ活用する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業中の課題（10％）と期末テスト（90％）により総合的に評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1．子どもを取り巻く事象について、各自が関心を持ったことが課題や振り返りシートに記されているかどうか。（興味・関心・表現）</li> <li>2．子ども福祉の理念や社会サービスなど授業で得た知識が正確に理解できているかどうか。また、それらを的確に表現できているかどうか。（理解・表現）</li> </ol>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	原則、授業出席10回に満たない場合は失格とする。なお、2回の遅刻あるいは早退で1回の欠席とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	<p>「保育福祉小六法」2024年版 「株」みらい 「子ども家庭福祉入門」芝野松次郎ほか編著、ミネルヴァ書房（2020年）</p>



参考書	「コミックで発信 保育に活かす 子どもの権利条約」全国私立保育連盟、エイデル研究所（2023） 「子ども家庭福祉」垣内国光・岩田美香・板倉香子・新藤こずえ編、生活書院（2020）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	レポート作成課題における調べ学習等
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後やオフィスアワー、メールを中心に随時対応する。
フィードバックの方法	授業中の課題についての判断・評価に関する質問は適宜対応する。期末試験の評価や誤答箇所については、希望者に対して個別に対応する。なお、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の予習や復習内容、目安必要時間については、授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	授業オリエンテーション 子ども家庭福祉の扱い/福祉とは  復習2時間(福祉とは何か、子ども家庭福祉とは何か、ノートに要点をまとめる)	
2	子どもの人権 1 子ども観の変遷	・古代、中世の子ども観 ・子ども観に変化をもたらした人  復習2時間(子ども観に変化をもたらした人について調べ、子ども観の理解を深める)	
3	子どもの人権 2 子どもの権利の動向	・ジュネーブ宣言 ・子どもの権利条約の制定過程 ・子どもの権利条約  復習3時間(子どもの権利条約の理解を深めるためのワークシート課題に取り組む)	
4	子どもの人権 3 日本における子どもの権利の動向	・古代からの子ども観 ・児童福祉法 ・児童憲章 ・子どもの権利条約批准後の課題  復習(次回、「子どもの人権」単元の復習テストを実施する)	
5	子ども家庭福祉と現代社会 1 少子高齢化社会	・復習テスト(振り返りも含む) ・少子高齢化社会  復習(実施した復習テストの振り返り) 予習復習について(第6回~第8回) 毎日で20分程度(新聞やニュース等で扱われる子どもやその家庭に関する事柄についてノートに概要と気づきを記入する)	
6	子ども家庭福祉と現代社会 2 家庭・子ども・地域の状況	・家庭の状況の変化 ・子ども自身の変化 ・地域社会の変化  復習1時間(子どもを取り巻く環境の変化について自分の言葉で説明できるように復習する)	
7	子ども家庭福祉と現代社会 3 子育てをめぐる問題	理念と実態の乖離を考えるワーク  復習2時間(ワークを振り返り、現代社会に必要なサポートを考え、ワークシートにまとめる)	
8	子ども家庭福祉の法体系、行財政・機関	・児童福祉行政、機関と実施の仕組み ・少子化対策から続く子ども・子育て支援施策  復習2時間(現在の日本政府の子ども・子育て施策の方向性についてまとめる)	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
9	子ども家庭福祉の施設	児童福祉施設の種類と各施設の役割について知る。  復習2時間(児童福祉法の該当箇所をノートに転記する)	
10	子ども家庭福祉の制度	・子育て支援・次世代育成支援 ・保育施策 ・母子保健  復習2時間(穴埋めワークプリントに取り組む)	
11	子ども家庭をめぐる現代の課題1 子ども虐待	子どもへの虐待問題についてアウトラインを知る。  復習3時間(子ども家庭をめぐる現代の課題について、テーマを定め、簡単なレポートを作成する)	
12	子ども家庭をめぐる現代の課題2 子どもの貧困	子どもの貧困についてアウトラインを知る。  復習3時間(子ども家庭をめぐる現代の課題について、テーマを定め、簡単なレポートを作成する【継続課題】)	
13	児童福祉サービスを担う専門職1  専門職と連携	保育士を中心に、児童福祉にかかわる専門職種について知るとともに、保育士の専門性について知る。  復習2時間: 専門職に求められることについてノートにまとめる	
14	児童福祉サービスを担う専門職2 専門性	保育士の専門性について考える  復習2時間(ワークを振り返り、現代社会に必要なサポートを考え、ワークシートにまとめる)	
15	今後の子ども家庭福祉の方向性 まとめ	これまでの授業を振り返り、自らの進路と照らし合わせ、子どもの幸せ、子どもの育ちを支えること、子育てを支えることとはどのようなことか考える。	

開講科目名 Course	教育心理学
時間割コード Course Code	50200
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	楯 誠
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基礎科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	楯 誠 (教育保育学科)
授業の目標	<p>子どもの心身の発達は、子どもと環境との相互作用によって進んでいく。教育は、環境からの働きかけの最たるものといえる。本授業では、子どもの心身の発達についての基礎的な知識の獲得を目標の一つとする。また、学習の心理的過程を理解するとともに、これらが子どもの心身の発達にもたらす影響の理解をもう一つの目標とする。基礎的な知識の獲得とともに、これらを通して、学生が子どもの発達に対する教育の意義の一端を知ることや、自らの発達や学習の過程の振り返りにつなげることを試みる。</p> <p>【知識・理解の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育心理学に関する専門用語の意味が分かる。</li> <li>・子どもの発達の概要がわかる。</li> <li>・学習に関する基礎的な理論が説明できる。およびその背景となる研究の概要が分かる。</li> </ul> <p>【態度・志向性の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの日々の生活を、教育心理学の知見を対応させて考える態度が身につく。</li> <li>・教育心理学の知見をベースに子どもたちの諸活動をとらえる態度が身につく。</li> </ul>
授業の概要	<p>この授業では発達の各段階における子どもの心身の特徴を解説する。また、代表的な学習の理論や記憶や動機づけといった学習の心理的過程について主に説明する。</p> <p>この授業は対面形式で行われるが、社会情勢によっては、一部遠隔授業形式になる可能性がある。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>持ち込み不可の期末試験による(100%)。</p> <p>出席は、期末試験受験資格の有無を判定する際に使用する。</p> <p>20分以上の遅刻は原則、欠席と見なす(遅刻者は20分以内に申し出ること)。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>私語や大きな音を立てての途中退室は授業妨害と見なす。複数回の警告を受けた者は、失格とする。</p> <p>欠席が6回以上の者は原則失格とする。</p>
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	実践につながる教育心理学 北樹出版

参考書	保育に生かす教育心理学 みらい
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内容の質問に関しては、主に授業後に対応するが、別の時間でも受け付ける。
フィードバックの方法	期末試験の得点や誤答箇所のフィードバックは、希望者に個別にて行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	イントロダクション 教育心理学とは何か?	キーワード:教育心理学の研究法(実験法、観察法、調査法等)、発達の定義の変遷、発達段階の定義と発達課題(ハヴィガーストとエリクソン)。これらのキーワードについて参考文献、Web上の資料を参考に2時間の予習を課す。また講義内容について、2時間の復習を課す。	
2	発達段階からみた子どもの特徴(1)乳児期と幼児期	キーワード:原始反射、初語、感覚運動期、愛着、前操作期、反抗期 これらのキーワードについて参考文献、Web上の資料を参考に2時間の予習を課す。また講義内容について、2時間の復習を課す。	
3	発達段階からみた子どもの特徴(2)児童期と青年期	キーワード:具体的操作期、保存、一次的事物と二次的事物、ギャング集団、形式的操作期、心理的離乳、自我同一性 これらのキーワードについて参考文献、Web上の資料を参考に2時間の予習を課す。また講義内容について、2時間の復習を課す。	
4	発達に關与する要因	キーワード:遺伝説、環境説、輻輳接、相互作用説  これらのキーワードについて参考文献、Web上の資料を参考に2時間の予習を課す。また講義内容について、2時間の復習を課す。	
5	発達と教育の關係	キーワード:遺伝説、環境説から見た教育、発達の最近接領域、レディネス  これらのキーワードについて参考文献、Web上の資料を参考に2時間の予習を課す。また講義内容について、2時間の復習を課す。	
6	学習の理論(1)行動説からみた学習	キーワード:レスポナント条件づけ、試行錯誤学習、オペラント条件づけ、強化随伴性  これらのキーワードについて参考文献、Web上の資料を参考に2時間の予習を課す。また講義内容について、2時間の復習を課す。	
7	学習の理論(2)認知説からみた学習	キーワード:洞察学習、潜在学習、観察学習、代理強化  これらのキーワードについて参考文献、Web上の資料を参考に2時間の予習を課す。また講義内容について、2時間の復習を課す。	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
8	記憶のメカニズム(1)短期記憶	キーワード: 符合化?貯蔵?検索、短期記憶とワーキングメモリ、チャンキングとリハーサル これらのキーワードについて参考文献、Web上の資料を参考に2時間の予習を課す。また講義内容について、2時間の復習を課す。	
9	記憶のメカニズム(2)長期記憶	キーワード: エピソード記憶と意味記憶、忘却とは、集中学習と分散学習 これらのキーワードについて参考文献、Web上の資料を参考に2時間の予習を課す。また講義内容について、2時間の復習を課す。	
10	学習の動機づけ(1)動機づけの種類	キーワード: 生理的動機と社会的動機、達成動機と関連要因(原因帰属、期待?価値、自己効力感 これらのキーワードについて参考文献、Web上の資料を参考に2時間の予習を課す。また講義内容について、2時間の復習を課す。	
11	学習の動機づけ(2)学習と動機の関係	キーワード: 内発的動機づけと外発的動機づけ、自己決定感、学習性無力感 これらのキーワードについて参考文献、Web上の資料を参考に2時間の予習を課す。また講義内容について、2時間の復習を課す。	
12	学習の方略	キーワード: 学習方略、メタ認知、学習観、自己調整学習 これらのキーワードについて参考文献、Web上の資料を参考に2時間の予習を課す。また講義内容について、2時間の復習を課す。	
13	発達や教育の評価	キーワード: 測定と評価、診断的評価・形成的評価・総括的評価、知能検査 これらのキーワードについて参考文献、Web上の資料を参考に2時間の予習を課す。また講義内容について、2時間の復習を課す。	
14	パーソナリティと適応(1)代表的なパーソナリティ理論の検査法	キーワード: 類型論、特性論、力動論、質問紙法、作業検査法、投影法 これらのキーワードについて参考文献、Web上の資料を参考に2時間の予習を課す。また講義内容について、2時間の復習を課す。	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	パーソナリティと適応(2) 適応とストレス	キーワード: 適応と不適応、ストレス ーとストレス反応、反社会的行動と非社会的行動  これらのキーワードについて参考文献、Web上の資料を参考に2時間の予習を課す。また講義内容について、2時間の復習を課す。	



開講科目名 Course	子どもの保健
時間割コード Course Code	50232
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	長谷川 明子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	長谷川 明子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>・教育目標</p> <p>2018年の保育士養成課程の改定を受けて、乳児、及び幼児期の集団保育における保健の問題を社会情勢の変化とともに学び、関心を持つ。さらに子どもの発育段階ごとの保健問題を理解し、子どもだけでなく、家族を支援する視点をもつようにする。</p> <p>・学習成果</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。</li> <li>2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。</li> <li>3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。</li> <li>4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。</li> </ol>
授業の概要	<p>1. 講義の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 子どもの罹りやすい代表的な病気についてできるだけ具体的に提示する。</li> <li>2) 流行中の感染症など、報道記事などをもとに解説する。</li> <li>3) 時間内に、小テストを実施して講義の理解度を確認する。状況に応じて、小テストの結果は、評価の補足指標とする。</li> </ol> <p>2. 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの心身の健康と保健の意義 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的</li> <li>(2) 健康の概念と健康指標</li> <li>(3) 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題</li> <li>(4) 地域における保健活動と子ども虐待防止</li> </ol> </li> <li>2. 子どもの身体的発育・発達と保健 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 身体発育及び運動機能の発達と保健</li> <li>(2) 生理機能の発達と保健</li> </ol> </li> <li>3. 子どもの心身の健康状態とその把握 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 健康状態の観察</li> <li>(2) 心身の不調等の早期発見</li> <li>(3) 発育・発達の把握と健康診断</li> <li>(4) 保護者との情報共有</li> </ol> </li> <li>4. 子どもの疾病の予防及び適切な対応 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 主な疾病の特徴</li> <li>(2) 子どもの疾病の予防と適切な対応</li> </ol> </li> </ol>

評価方法	<p>1. 期末試験の結果と講義への取り組み（出席参加や授業取り組み姿勢等）をもって総合的に評価する。</p> <p>なお、講義時間内に実施する小テストの結果により、加点する場合もある。</p> <p>2. 社会情勢等により、大学側が期末試験を実施しない（できない）場合は、講義への取り組み（出席参加や授業取り組み姿勢等）、小テストの結果で評価する。</p> <p>3. 小テスト及び期末試験の内容は以下の観点から出題する。</p> <p>1) 講義内容を正しく理解できる（理解）。</p> <p>2) 理解した講義内容を正確に表現できる（表現）。</p> <p>3) 子どもの保健に関する社会的事象についての意見表明ができる（分析・表現）。</p> <p>4) 子どもの症状や怪我に対する適切な処置方法が説明できる。（判断・応用・表現）。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	他人に迷惑をかける授業態度であると教員が判断した場合 欠席回数（特別欠席は除く）が5回以上の場合
授業計画	<p>対面事業で実施 授業計画表を参照</p> <p>講義時間内に小テスト（2回程度）実施予定</p>
テキスト	<p>「子どもの保健テキスト」（最新）</p> <p>編著者 小林美由紀                      編集協力者 森脇浩一</p> <p>発行所 株式会社 「診断と治療社」</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループ毎で課題に取り組む。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>随時対応 授業後に対応</p>
フィードバックの方法	小テストや授業中の質問等により、内容の理解を確認して今後の授業に反映させる。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業に対して、授業計画詳細情報にある内容をテキストで確認する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p>
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	子どもの心身の健康と保健の意義と目的	<対面授業> 年齢による区分 成熟度による区分 法律における子どもの定義 健康の概念と健康指標 手洗い(実演)	
2	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題	<対面授業> 子どもたちを取り巻く現状、 健康に育つための課題 地域における保健活動。 手洗い(実演)	
3	子どもの身体発育と発達と保健	<対面授業> 生前の発育 出生後の身体各部の臓器・器官の発育 発育に影響を及ぼす要因と条件 知覚、認知、ことば、情緒、社会性の発達 手洗い(実演)	
4	子どもの生理機能の発達と保健	<対面授業> 循環機能 呼吸機能 消化機能 排泄機能 免疫機能 等 手洗い(実演)	
5	地域における保健活動、子どもの虐待防止	<対面授業> 保健活動の社会資源 心の発達に及ぼす要因虐待の現状と分析、 子どもに与える影響 虐待予防と支援—保育士に求められること 手洗い(実演)	
6	子どもの健康状態の観察と体調不良時の早期発見	<対面授業> 健康状態の確認項目・把握方法 体調不良時の症状 手洗い(実演)	
7	子どもの疾病と予防及び適切な対応	<対面授業> 感染症の基礎知識 関係する法律 等 予防接種 ウイルス性の感染症 手洗い(実演)	
8	子どもの疾病と予防及び適切な対応	<対面授業> ウイルス性、細菌性、その他の感染症 手洗い(実演)	
9	子どもの疾病と予防及び適切な対応	<対面授業> 先天性の疾患 手洗い(実演)	
10	子どもの疾病と予防及び適切な対応	<対面授業> アレルギー疾患 手洗い(実演)	
11	子どもの疾病と予防及び適切な対応	<対面授業> 慢性疾患 消化器の病気 手洗い(実演)	
12	子どもの疾病と予防及び適切な対応	<対面授業> 慢性疾患 循環器、血液、呼吸器の病気 手洗い(実演)	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
13	子どもの疾病と予防及び適切な対応	<対面授業> 慢性疾患 泌尿器の病気、川崎病、てんかん、けいれん 等 手洗い(実演)	
14	子どもの疾病と予防及び適切な対応	<対面授業> 内分泌、代謝異常の病気、脳性麻痺  手洗い(実演)	
15	総まとめ	<対面授業> 運動器、眼、耳等の病気 保護者との情報共有 母子保健行政関係(健康診断 等)	

開講科目名 Course	子どもの健康と安全
時間割コード Course Code	50234
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	長谷川 明子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	長谷川 明子 (教育保育学科)
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育保健的観点を踏まえた保育環境および援助について理解する。</li> <li>2. 保育における健康および安全の管理について、具体的に理解する。</li> <li>3. 子どもの体調不良などに対する適切な対応について、具体的に理解する。</li> <li>4. 子どもがよくかかる感染症の対策について、具体的に理解する。</li> <li>5. 保育で必要な保健的対応の基本的な適切な対応について、具体的に理解する。</li> <li>6. 子どもの健康および安全の管理の実施体制等について、具体的に理解する。</li> </ol>
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の進め方 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 子どもの罹りやすい代表的な病気や対応方法についてできるだけ具体的に提示する。</li> <li>2) 疾病および対処方法を報道記事などをもとに解説する。</li> <li>3) 時間内に、小テストを実施して講義の理解度を確認する。状況に応じて、小テストの結果は、評価の補足指標とする。</li> </ol> </li> <li>1. 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの健康と保育環境</li> <li>(2) 子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理</li> </ol> </li> <li>2. 保育における健康及び安全の管理 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 衛生管理</li> <li>(2) 事故防止及び安全対策</li> <li>(3) 危機管理と災害への備え</li> </ol> </li> <li>3. 子どもの体調不良などに対する適切な対応 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 体調不良や傷害が発生した場合の対応と応急処置</li> <li>(2) 救急処置および肺蘇生法</li> </ol> </li> <li>4. 感染症の対策 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 感染症の集団発生の予防</li> <li>(2) 感染症発生時と罹患後の対応</li> </ol> </li> <li>5. 保育で必要な保健的対応 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育における保健的対応の基本的な考え方</li> <li>(2) 3歳未満児への対応</li> <li>(3) 個別的な配慮を要する子どもへの対応</li> <li>(4) 障害をもつ子どもへの対応</li> </ol> </li> <li>6. 健康および安全の管理の実施体制 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育における保健活動の計画および評価</li> <li>(2) 保健における職員間の連携・協働と関係機関との連携</li> <li>(3) 母子保健・地域保健における自治体との連携</li> <li>(4) 家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携</li> </ol> </li> </ol>

評価方法	<p>1. 期末試験の結果と講義への取り組み（出席参加や授業取り組み姿勢等）をもって総合的に評価する。</p> <p>なお、講義時間内に実施する小テストの結果により、加点する場合もある。</p> <p>2. 社会情勢等により、大学側が期末試験を実施しない（できない）場合は、講義への取り組み（出席参加や授業取り組み姿勢等）、小テストの結果で評価する。</p> <p>3. 小テスト及び期末試験の内容は以下の観点から出題する。</p> <p>1) 講義内容を正しく理解できる（理解）。</p> <p>2) 理解した講義内容を正確に表現できる（表現）。</p> <p>3) 子どもの保健に関する社会的事象についての意見表明ができる（分析・表現）。</p> <p>4) 子どもの症状や怪我に対する適切な処置方法が説明できる。（判断・応用・表現）。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>欠席回数（特別欠席を除く）が5回以上の場合</p> <p>授業中に他人に迷惑をかける行為があったと教員が判断した場合</p>
授業計画	<p>対面授業で実施</p> <p>授業計画表を参照</p> <p>講義時間内に小テスト（2回程度）実施予定</p> <p>講義中に自分の母子健康手帳を利用</p>
テキスト	<p>「子どもの健康と安全 演習ノート」（最新）</p> <p>編著者 小林美由紀</p> <p>発行所 診断と治療社</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループ毎で課題を議論する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>随時対応</p> <p>授業後に対応</p>
フィードバックの方法	小テストや授業時間に質問等を実施し、授業内容を理解の程度を確認して、今後の授業内容に反映させる。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎授業ごとに授業計画詳細情報に記載されている内容をテキストで確認する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p>
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	子どもの健康と保育環境	< 対面事業 > ・子どもの健康を守るための保健的観点を踏まえた保育環境 ・子どもの保健・体調変化の際の個別対応の基本 ・健康診査 ・集団全体の健康および安全管理	
2	衛生管理 事故防止 安全対策	< 対面事業 > ・施設環境 ・屋内外の衛生管理 ・事故の特徴と事故防止の重要性 ・事故防止のための具体的方法と安全対策	
3	危機管理と災害への備え	< 対面事業 > ・保育における危機管理 ・保育における災害への備え ・安全教育	
4	体調不良や傷害が発生した場合の対応と応急処置	< 対面事業 > ・体調不良時の対応 ・傷害時の応急処置	
5	救急処置および心肺蘇生法	< 対面事業 > ・救急処置 ・子どもの心肺蘇生法	
6	子どもがよくかかる感染症	< 対面事業 > ・集団発生の予防 ・子どもがよくかかる感染症の症状と対応	
7	子どもがよくかかる感染症	< 対面事業 > ・子どもがよくかかる感染症の症状と対応 ・感染症の流行予防のための対策	
8	感染症発生時の罹患後の対応	< 対面事業 > ・出席停止期間の基準 ・感染症罹患後の対応 ・保護者および他職種	
9	保育における保健的対応の基本的な考え方	< 対面事業 > ・保育活動における保健的な視点 ・食事における保健的対応 ・排泄における保健的対応	
10	保育における保健的対応の基本的な考え方	< 対面事業 > ・睡眠時における保健的対応 ・外出時における保健的対応 ・保育行事における保健的対応	
11	3歳未満時への対応	< 対面事業 > ・乳児の抱き方 ・おんぶの仕 ・食事の与え方 ・口腔内の衛生	
12	3歳未満時への対応	< 対面事業 > ・衣服の着せ方 ・排泄のさせ方 ・保清・沐浴・入浴のさせ方 ・寝かせ方 等	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
13	個別的な配慮を要する子どもへの対応	<対面事業> ・慢性疾患や障害をもつ子どもの保育 ・医療費などの援助 ・低出生体重児で生まれた子どもの養護 ・アレルギー疾患をもつ子どもの養護 等	
14	障害をもつ子どもへの対応	<対面事業> ・子どもの在宅医療支援 ・医療的、肢体不自由児、呼吸、嚥下障害児 等への養護	
15	健康および安全の管理の 実施体制	<対面事業> ・保育における保健活動の計画および評価 ・保健活動における職員間の連携・協働 と関係機関との連携	



開講科目名 Course	子どもの健康と安全
時間割コード Course Code	50235
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	長谷川 明子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	長谷川 明子 (教育保育学科)
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育保健的観点を踏まえた保育環境および援助について理解する。</li> <li>2. 保育における健康および安全の管理について、具体的に理解する。</li> <li>3. 子どもの体調不良などに対する適切な対応について、具体的に理解する。</li> <li>4. 子どもがよくかかる感染症の対策について、具体的に理解する。</li> <li>5. 保育で必要な保健的対応の基本的な適切な対応について、具体的に理解する。</li> <li>6. 子どもの健康および安全の管理の実施体制等について、具体的に理解する。</li> </ol>
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の進め方 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 子どもの罹りやすい代表的な病気や対応方法についてできるだけ具体的に提示する。</li> <li>2) 疾病および対処方法を報道記事などをもとに解説する。</li> <li>3) 時間内に、小テストを実施して講義の理解度を確認する。状況に応じて、小テストの結果は、評価の補足指標とする。</li> </ol> </li> <li>1. 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの健康と保育環境</li> <li>(2) 子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理</li> </ol> </li> <li>2. 保育における健康及び安全の管理 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 衛生管理</li> <li>(2) 事故防止及び安全対策</li> <li>(3) 危機管理と災害への備え</li> </ol> </li> <li>3. 子どもの体調不良などに対する適切な対応 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 体調不良や傷害が発生した場合の対応と応急処置</li> <li>(2) 救急処置および肺蘇生法</li> </ol> </li> <li>4. 感染症の対策 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 感染症の集団発生の予防</li> <li>(2) 感染症発生時と罹患後の対応</li> </ol> </li> <li>5. 保育で必要な保健的対応 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育における保健的対応の基本的な考え方</li> <li>(2) 3歳未満児への対応</li> <li>(3) 個別的な配慮を要する子どもへの対応</li> <li>(4) 障害をもつ子どもへの対応</li> </ol> </li> <li>6. 健康および安全の管理の実施体制 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育における保健活動の計画および評価</li> <li>(2) 保健における職員間の連携・協働と関係機関との連携</li> <li>(3) 母子保健・地域保健における自治体との連携</li> <li>(4) 家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携</li> </ol> </li> </ol>

評価方法	<p>1. 期末試験の結果と講義への取り組み（出席参加や授業取り組み姿勢等）をもって総合的に評価する。</p> <p>なお、講義時間内に実施する小テストの結果により、加点する場合もある。</p> <p>2. 社会情勢等により、大学側が期末試験を実施しない（できない）場合は、講義への取り組み（出席参加や授業取り組み姿勢等）、小テストの結果で評価する。</p> <p>3. 小テスト及び期末試験の内容は以下の観点から出題する。</p> <p>1) 講義内容を正しく理解できる（理解）。</p> <p>2) 理解した講義内容を正確に表現できる（表現）。</p> <p>3) 子どもの保健に関する社会的事象についての意見表明ができる（分析・表現）。</p> <p>4) 子どもの症状や怪我に対する適切な処置方法が説明できる。（判断・応用・表現）。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>欠席回数（特別欠席を除く）が5回以上の場合</p> <p>授業中に他人に迷惑をかける行為があったと教員が判断した場合</p>
授業計画	<p>対面授業で実施</p> <p>授業計画表を参照</p> <p>講義時間内に小テスト（2回程度）実施予定</p> <p>講義中に自分の母子健康手帳を利用</p>
テキスト	<p>「子どもの健康と安全 演習ノート」（最新）</p> <p>編著者 小林美由紀</p> <p>発行所 診断と治療社</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループ毎で課題を議論する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>随時対応</p> <p>授業後に対応</p>
フィードバックの方法	小テストや授業時間に質問等を実施し、授業内容を理解の程度を確認して、今後の授業内容に反映させる。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎授業ごとに授業計画詳細情報に記載されている内容をテキストで確認する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p>
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	子どもの健康と保育環境	< 対面事業 > ・子どもの健康を守るための保健的観点を踏まえた保育環境 ・子どもの保健・体調変化の際の個別対応の基本 ・健康診査 ・集団全体の健康および安全管理	
2	衛生管理 事故防止 安全対策	< 対面事業 > ・施設環境 ・屋内外の衛生管理 ・事故の特徴と事故防止の重要性 ・事故防止のための具体的方法と安全対策	
3	危機管理と災害への備え	< 対面事業 > ・保育における危機管理 ・保育における災害への備え ・安全教育	
4	体調不良や傷害が発生した場合の対応と応急処置	< 対面事業 > ・体調不良時の対応 ・傷害時の応急処置	
5	救急処置および心肺蘇生法	< 対面事業 > ・救急処置 ・子どもの心肺蘇生法	
6	子どもがよくかかる感染症	< 対面事業 > ・集団発生の予防 ・子どもがよくかかる感染症の症状と対応	
7	子どもがよくかかる感染症	< 対面事業 > ・子どもがよくかかる感染症の症状と対応 ・感染症の流行予防のための対策	
8	感染症発生時の罹患後の対応	< 対面事業 > ・出席停止期間の基準 ・感染症罹患後の対応 ・保護者および他職種	
9	保育における保健的対応の基本的な考え方	< 対面事業 > ・保育活動における保健的な視点 ・食事における保健的対応 ・排泄における保健的対応	
10	保育における保健的対応の基本的な考え方	< 対面事業 > ・睡眠時における保健的対応 ・外出時における保健的対応 ・保育行事における保健的対応	
11	3歳未満時への対応	< 対面事業 > ・乳児の抱き方 ・おんぶの仕 ・食事の与え方 ・口腔内の衛生	
12	3歳未満時への対応	< 対面事業 > ・衣服の着せ方 ・排泄のさせ方 ・保清・沐浴・入浴のさせ方 ・寝かせ方 等	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
13	個別的な配慮を要する子どもへの対応	<対面事業> ・慢性疾患や障害をもつ子どもの保育 ・医療費などの援助 ・低出生体重児で生まれた子どもの養護 ・アレルギー疾患をもつ子どもの養護 等	
14	障害をもつ子どもへの対応	<対面事業> ・子どもの在宅医療支援 ・医療的、肢体不自由児、呼吸、嚥下障害児 等への養護	
15	健康および安全の管理の 実施体制	<対面事業> ・保育における保健活動の計画および評価 ・保健活動における職員間の連携・協働 と関係機関との連携	

開講科目名 Course	保育の計画と評価
時間割コード Course Code	50236
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	小島 千枝
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基礎科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小島 千枝 (教育保育学科)
授業の目標	<p>1、保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。</p> <p>2、全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。</p> <p>3、子どもの理解に基づく保育の過程について、その全体像を捉え、理解する。</p> <p>知識の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムの基礎理論を理解し、指導計画の作成と関連づけることができる。</li> </ul> <p>態度・習慣の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の過程（計画、実践、評価、改善）を理解し、保育に必要な知識、技術の習得に興味・関心を持つ。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達を踏まえた指導計画を作成する。</li> </ul>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の計画と評価に関する基本的な理解のために、カリキュラムの考え方、全体像等について理解する。その後、年齢の発達、子どもの見方について講義を聞き、各年齢に即した指導計画の作成をする。その際、発達の理解が深められるよう、関連するビデオ等の教材を必要に応じ視聴する。</li> <li>・質問への対応</li> </ul> <p>授業後や課題添削を通じて適宜対応する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>課題提出（70%）と小テスト（30%）により総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムの基本的な考え方が理解できているかどうか。</li> <li>・指導計画に記載すべき事項が記載されているか、年齢に合った指導計画が作成できているかどうか（理解、表現）</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・出席回数が10回に満たない場合は、失格とする。
授業計画	指導計画表を参照
テキスト	就学前教育の計画を学ぶ 松村和子著 みなみ書房
参考書	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	保育、教育の現場で作成する指導計画について、計画の意義や考え方、実際に計画が立案できるよう指導する科目である。40年間にわたり、保育所に勤務してきた経験を生かして、実践的な指導を行う。
質問への対応方法	オフィスアワーで対応
フィードバックの方法	翌週、課題によっては翌々週に返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	指導計画を参照
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション オリエンテーション 保育カリキュラム	授業の進め方、評価について理解する。 保育カリキュラムとは何か、なぜ必要かについて学ぶ。	テキスト p 27 ~ 35 1時間の予習と1時間の復讐を課す
2	保育の計画と評価の基本 カリキュラムの基礎理論	教科的カリキュラム及び保育におけるカリキュラムを理解する。 保育制度、保育の目的、環境の考え方を理解する。  課題：保育所、幼稚園と小学校の学びの違いについて考える。	テキスト p 7 ~ 18 1時間の予習と1時間の復讐を課す
3	保育の計画と評価の基本 保育における計画と評価の意義、保育の質の向上	P D C A サイクルの考え方、主体的学び、養護と教育の一体的な展開、子ども理解について学ぶ。  課題：養護について調べ、自分の考え方をまとめる。	テキスト p 7 ~ 18 1時間の予習と1時間の復讐を課す
4	保育の計画 教育課程・全体的な計画と指導計画	平成29年の3つの改定の社会的背景とその内容を理解する。 教育課程・全体的な計画と指導計画との関係性を理解する。  課題：全体的な計画と指導計画の関連性についてまとめる。	テキスト p 19 ~ 22 1時間の予習と1時間の復讐を課す
5	保育の計画 幼稚園の理解	保育所と幼稚園の違いについて理解する。 幼稚園の基本、教育課程と指導計画の関連性について学ぶ  小テスト：幼稚園について	テキスト p 37 ~ 66 1時間の予習と1時間の復讐を課す
6	保育の計画 保育所の理解	保育所の基本、全体的な計画と保育の実際について学ぶ。  小テスト：保育所について	テキスト p 67 ~ 100 1時間の予習と1時間の復讐を課す
7	保育の計画 指導計画の作成の基本	指導計画の形式、作成手順や方法を学ぶ。 その1	テキスト p 101 ~ 135 1時間の予習と1時間の復讐を課す
8	保育の計画 指導計画作成の基本	指導計画の形式、作成手順や方法を学ぶ。 その2	テキスト p 101 ~ 135 1時間の予習と1時間の復讐を課す
9	保育の計画 指導計画の作成 幼稚園	幼稚園の部分指導計画を作成する。  課題：幼稚園の部分指導計画を作成する。	テキスト p 167 ~ 168 1時間の予習と1時間の復讐を課す
10	保育の計画 指導計画の作成 保育所	保育所の部分指導計画を作成する。  課題：保育所の部分指導計画を作成する	テキスト p 171 ~ 176 1時間の予習と1時間の復讐を課す
11	保育の計画 指導計画の作成 乳児	乳児の各年齢の特徴を理解する。 乳児の指導計画を作成する。  課題：乳児の部分指導計画を作成する。	テキスト p 137 ~ 144 1時間の予習と1時間の復讐を課す
12	保育の計画 指導計画の作成 幼児	幼児の各年齢の特徴を理解する。  課題：幼稚園の全日の指導計画を作成する。	テキスト p 145 ~ 152 1時間の予習と1時間の復讐を課す

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
13	保育の計画 指導計画の作成	保育所の一日を理解し、デイリープログラムについて学ぶ。  課題：保育所の全日の指導計画を作成する	テキスト p 137 ~ 144 1時間の予習と1時間の復讐を課す
14	保育の評価 保育の記録、省察	評価の考え方、評価の実際について学ぶ。 P D C A サイクルと改善の取り組みについて理解する。	テキスト p 153 ~ 159 1時間の予習と1時間の復讐を課す
15	保育の評価 まとめ 要録及び小学校との連携	生活と発達連続性を踏まえた要録の考え方を理解する。	テキスト p 160 ~ 165 1時間の予習と1時間の復讐を課す



開講科目名 Course	保育者論
時間割コード Course Code	50240
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	長江 美津子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基礎科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	長江 美津子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>保育者という仕事に関して、様々な角度から考えたり理解を深めたりしながら、保育者像を明確にする。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者の役割と倫理について理解する。</li> <li>・保育士の制度的な位置づけを理解する。</li> <li>・保育士の専門性について考察し、理解する。</li> <li>・保育者の連携・協働について理解する。</li> <li>・保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを観る目を深めたり、様々な出来事に臨機応変に対応したりする力の基礎を身につける。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「子どもは可能性を持っている。それを最大限に引き出す手伝いをするのが、保育者の役割。」といった、ものの見方・考え方ができることを目指す。</li> <li>・保育者の専門性向上のカギは「同僚性」である。本授業においても課題等に対して、各自目的意識を持ち様々な角度から考えたり、他者の考えを聞いたり認めたりする態度を養う中で、協働的な関係を構築する。</li> </ul>
授業の概要	<p>保育者は小さな子どもと一緒に遊んだり、世話をしたりすることが仕事だと漠然と捉えている人が多いようです。</p> <p>しかし、実際は子ども達が人間形成の基礎を培う大切な時期に、ともに過ごす専門家としてどうあるべきか等、質が問われる重要な仕事です。本授業では、保育者の役割や倫理、制度的な位置づけ、保育士の専門性、保育者の連携・協働、保育者の資質向上とキャリア形成といった内容から、保育者やその仕事に対する理解を深めていく。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業参加姿勢 (30%) 提出課題 (30%) 小テスト (40%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回の授業の内、6回以上の欠席は失格。

授業計画	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス 保育士の制度的位置付け</li> <li>2. 保育者の役割と倫理</li> <li>3. 保育者の一日の様子から保育者の役割を理解する</li> <li>4. 子ども理解と保育者の役割</li> <li>5. 子どもと一緒に心と体を動かす仕事（保育者の役割）</li> <li>6. 子どもと一緒に心と体を動かす仕事（保育所の場合）</li> <li>7. 豊かな文化や自然との出会いをつなぐ仕事 児童文化財をとおして</li> <li>8. 豊かな文化や自然との出会いをつなぐ仕事 自然や行事をとおして</li> <li>9. 保護者や家庭と一緒に歩む仕事</li> <li>10. 現代の子育て事情</li> <li>11. 多様な社会の中でできる支援について</li> <li>12. 学び合う保育者</li> <li>13. 保育者の成長</li> <li>14. 保育者の専門性</li> <li>15. まとめ 確認テスト</li> </ol>
テキスト	<p>保育者論 汐見稔幸・大豆生田啓友編 ミネルヴァ書房</p>
参考書	適宜紹介
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	課題等を自ら調べたりグループで意見交換をしたりしながら、保育の見方・考え方を深めていく。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	<p>実務経験のある教員による授業 保育士、幼稚園教諭の経験がある教員が、保育現場での様子を子ども、保護者、保育者など様々な視点から考えたり、具体的な事例を交えたりしながら指導する科目である。</p>
質問への対応方法	授業内容に関する質問は随時対応または、授業後に対応。
フィードバックの方法	授業、メール等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>基本的な予習・復習として教科書を熟読して授業に参加したり、授業後に再度読み理解を深める。</p> <p>授業内で配布した資料に関しても同様である。 毎回、調べる、検討する、作る等の保育に関する課題を出します。その際、安易にSNSなどを頼り調べるだけでなく必ず文献等を使って調べることも条件とする。これらの時間を準備学習の時間（60時間）とする。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>8. 計画立案力</li> </ol>

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス 保育士等の制度的位置 付け  保育者になるために必要な免許や資格	・ 保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園の制度及び現状の比較一覧 ・ 保育士養成課程(教科目、履修単位数) ・ 児童福祉法における保育士の定義	
2	保育者の役割と倫理 保育の現状	・ テキストP13～19 ・ 1時間の予習と2時間(課題を含む)の復習を課す  課題1: 鯉のぼりの泳ぐ姿を見た経験から、あなたはどんなことを感じましたか? 課題2: 倉橋惣三「こころもち」の意味を考える	
3	保育者の一日の様子 保育者の役割を理解する	・ テキストP21～47 ・ 1時間の予習と2時間(課題を含む)の復習を課す  課題3: 養護と教育を考える「朝の受け入れ場面」	
4	保育者の専門性 子どもを知ること分かること	・ テキストP50～68 ・ 1時間の予習と2時間(課題を含む)の復習を課す  課題4: 子ども理解と保育者の役割を考える	
5	保育者の専門性 子どもの遊びを支える保育者の5つの役割  遊びを支える5つの役割	・ テキストP69～80を読んで授業に参加。 ・ 1時間の予習と2時間(課題を含む)の復習を課す  課題5: 子どもと一緒に心と体を動かす仕事について考える	
6	保育者の専門性 子どもと一緒に心と体を動かす仕事(保育所の場合) 子どもを読み解くということ	・ テキストP81～93 ・ 1時間の予習と2時間(課題を含む)の復習を課す  課題6: Exercise 4～6	
7	豊かな文化や自然との出会いをつなぐ仕事 児童文化財をとおして	・ テキストP95～111 ・ 1時間の予習と2時間の復習を課す(課題を含む) 課題7: 私のおすすめ絵本 課題8: 伝統行事の由来「ひなまつり」「子どもの日」「七夕」	
8	豊かな文化や自然との出会いをつなぐ仕事 自然や行事をとおして 子どもと豊かに生活する	・ テキストP111～122 ・ 1時間の予習と2時間の復習を課す(課題を含む) 課題9: 現代の家庭を取り巻く諸問題について調べる	
9	保護者や家庭と一緒に歩む仕事 なぜ保護者支援が必要なのか	・ テキストP125～134 ・ 1時間の予習と2時間(課題含む)の復習を課す 課題10: 子育てのパートナーとして、出来る事を考える	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
10	現代の子育て事情 子育て支援を考える	・テキストP135～146 ・1時間の予習と2時間の(課題含)の復習を課す 課題11: 事例を通して子育て支援を考える「虐待」	
11	多様な社会の中でできる支援 特別な保育ニーズ 気になる子ども 多文化共生	・テキストP148～154 ・1時間の予習と2時間(課題含)の復習を課す 課題12: 事例を通して子育て支援を考える「発達障がい」	
12	学び合う保育者 職場の同僚性「語り合い」・「学び合う」 保育者の専門性とは	・テキストP154～178 ・1時間の予習と2時間(課題含)の復習を課す 課題13: 倉橋惣三の「子どもらが帰った後」から保育者の成長と省察を関連付けて考える 課題14: 「なぜ同僚性が保育者の専門性の一つに含まれるのか」	
13	保育者の成長 資質向上に関する組織的取組	・テキストP179～188 ・1時間の予習と2時間(課題含)の復習を課す 課題15: 保育者としての引き出し	
14	保育者の専門性について 保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義	・テキストP189～201 ・1時間の予習と2時間(課題含)の復習を課す 課題16: 世界的に有名な保育の思想家や保育について調べる 「モンテッソーリ, M」「レッジョ・エミリア」「シュタイナー, R」「コダーイ, Z」	
15	まとめ 確認テスト	・1時間の予習と2時間(課題含)の復習を課す 課題17: 課題9「現代の家庭を取り巻く諸問題について調べる」で、調べた事や資料を使って、保育新聞を完成させる。	

開講科目名 Course	保育内容総論II(1組)
時間割コード Course Code	50388
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	長江 美津子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	長江 美津子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>現代社会の中で今を生き、未来を担っていく子ども達にとって、乳幼児期にどんな力を育ていく事が大切なのかを知り、園生活を通して必要な経験や保育内容、保育方法が説明できるようになることを目指す。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び歴史の変遷等を踏まえ、保育の基本的な考え方や子どもの発達や実態に繋げて理解する。</li> <li>・保育の多様な展開について具体的に理解する。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習における実践経験や事例検討を活用して、子どもの発達や内面理解、環境構成の力量を高める。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題等に対して、各自目的意識を持ち積極的にグループディスカッションに参加し、保育の遣り甲斐と奥深さに触れ、自身の考えを相手に分かるように伝えたり他者の考えを聞いたり認めたりする態度を養い、協働的な関係を構築する。</li> </ul>
授業の概要	<p>保育所保育指針・幼稚園教育要領等に示されている内容について、その基本的な考え方と諸事項を総論的に学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の全体構造と保育内容</li> <li>・保育の基本を踏まえた保育内容の展開について。</li> <li>・保育の内容の歴史の変遷とその社会的背景。</li> <li>・家庭や地域との連携をふまえた保育。</li> <li>・保育の多様な展開（特別な配慮を要する子ども、多文化共生）。</li> </ul> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	グループ討論や発表など授業参加姿勢態度（30%）提出課題（30%）小テスト（40%）
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回の授業の内、6回以上の欠席は失格

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス 保育の全般構造と保育内容の理解</li> <li>2. 保育の基本的な考え方(1) 養護と教育の一体性、子どもの主体性の尊重</li> <li>3. 保育の基本的な考え方(2) 遊びや生活を中心とした園生活、環境を通して行う保育</li> <li>4. 保育内容の歴史の変遷(1) 戦前の保育内容</li> <li>5. 保育内容の歴史の変遷(2) 戦後の保育内容</li> <li>6. 多様な保育ニーズ(1) 子育て支援</li> <li>7. 多様な保育ニーズ(2) 長時間保育</li> <li>8. 多様な保育ニーズ(3) 特別な配慮を要する子どもの保育</li> <li>9. 多様な保育ニーズ(4) 多文化共生の保育</li> <li>10. 地域に開かれた保育所・幼稚園等を創造する保育内容</li> <li>11. 小学校との連携 円滑な接続のために</li> <li>12. 諸外国の保育所・幼稚園の保育内容</li> <li>13. これからの保育内容(1) 安全(災害への備え)に関する保育内容</li> <li>14. これからの保育内容(2) 乳幼児期の食育を進める保育内容</li> <li>15. まとめ 保育内容の質の向上を目指して</li> </ol>
テキスト	<p>子どもと共に学びあう 演習・保育内容総論 株式会社みらい</p>
参考書	<p>幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	基本的に子どもの発達や現状等保育内容に関することを、グループで調べたり話し合ったりすることを重視し、その後発表や教員による講評といった形で進めます
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	<p>実務経験のある教員による授業 保育士、幼稚園教諭の経験がある教員が、保育現場での様子を子ども、保護者、保育者など様々な視点から考えたり、具体的な事例を交えたりしながら指導する科目である。</p>
質問への対応方法	授業内容に関する質問は随時対応または、授業後に対応。
フィードバックの方法	本授業はアクティブラーニングや学生間のディスカッションを重視して進めるが、重要な点や不足部分は教員が補い、再度課題として再検討を行っていく。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	課題に関して調べたり、検討したりする時間も必要となってくる。安易にSNSなどを頼り調べるだけでなく必ず文献等を使って調べることも条件とする。授業時だけでなく、書物を探す、グループで検討する、発表用資料を作成するなどの時間が必要となる。これらの時間を準備学習の時間(60時間)とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<ol style="list-style-type: none"> <li>10.人や国の不平等をなくそう</li> <li>3.すべての人に健康と福祉を</li> <li>4.質の高い教育をみんなに</li> </ol>
SDGs 17の目標(11~17)	<ol style="list-style-type: none"> <li>11.住み続けられるまちづくりを</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.情報収集力</li> <li>3.課題発見力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.親和力</li> <li>2.協同力</li> <li>9.実践力</li> </ol>

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス 保育の全般構造と保育内容の理解	準備学習として、計画に基づいた章を必ず読んで理解をしておくことと、演習課題の プリントは検討の上、翌授業に持参のこと。 ・授業内としてこれまでの保育内容(保育内容総論1)の振り返りを行う。 ・復習として第1章～第2章を読んでおき更に理解を深める。	
2	保育の基本的な考え方(1) 養護と教育の一体性、子どもの主体性の尊重	・保育内容の振り返りとして保育内容の重要ポイントを抑える。 ・第3章～第5章を読んで、授業に参加する。	
3	保育の基本的な考え方(2) 遊びや生活を中心とした園生活、環境を通して行う保育	・保育内容の振り返りとして保育内容の重要ポイントを抑える。 ・保育内容の振り返り 第6章～第12章を読んで、授業に参加。	
4	保育内容の歴史の変遷(1) 戦前の保育内容	・第13章を読んで、授業に参加する。 ・明治前期・後期、大正期の保育内容について理解する。	
5	保育内容の歴史の変遷(2) 戦後の保育内容	・昭和期・平成期の保育内容について理解する。	
6	多様な保育ニーズ(1) 子育て支援	・第14章を読んで、授業に参加する。 ・子育ての現状と課題。 ・保育所・幼稚園に求められる子育て支援。 ・子育て支援の実践事例と考察。	
7	多様な保育ニーズ(2) 長時間保育	・延長保育・長時間保育の保育内容を理解する。 ・様々な保育ニーズを知る(病児・病後児保育、預かり保育・地域子育て支援センター)。 ・異年齢児保育の実践事例と考察。	
8	多様な保育ニーズ(3) 特別な配慮を要する子どもの保育	・「気になる子ども」について理解を深める。 ・特別な配慮を要する子どもの保育の実践事例と考察。	
9	多様な保育ニーズ(4) ・多文化共生の保育の必要性	・多文化共生の保育の現状を知る。 ・多文化共生の実践事例と考察。	
10	地域に開かれた保育所・幼稚園等を創造する保育内容 乳幼児の発達と、地域社会との関わり	・子どもの育ちの変化と地域の教育力の低下。 ・地域の自然環境を保育に生かす保育内容。 ・地域の人的教育力を生かす保育内容。	
11	小学校との連携 小学校教育との円滑な接続	・就学前教育と初等教育の接続の意義を理解する。 ・幼児期と児童期における「学び」の特徴を理解する。	
12	諸外国の保育所・幼稚園の保育内容(1) 日本の保育の特徴と主要な国々のカリキュラムの概観	・保育をめぐる世界の動向。 ・4つの主要なカリキュラム。	
13	諸外国の保育所・幼稚園の保育内容(2) 主要な国々のカリキュラムの概観	・保育をめぐる世界の動向。 ・4つの主要なカリキュラム。	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
14	これからの保育内容(乳幼児期の食育を進める保育内容)	・食育が人間形成にかかわる意義を理解する。 ・「食を営む力」の基礎を培う保育所・幼稚園等での食育について理解する。	
15	保育内容の質の向上を目指してこれからの保育と課題 確認テスト	・第15章を読んで、授業に参加する。 ・これまでの授業を振り返るとともに、保育課題について検討を行う。	



開講科目名 Course	保育内容総論II(2組)
時間割コード Course Code	50389
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	長江 美津子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	長江 美津子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>現代社会の中で今を生き、未来を担っていく子ども達にとって、乳幼児期にどんな力を育ていく事が大切なのかを知り、園生活を通して必要な経験や保育内容、保育方法が説明できるようになることを目指す。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び歴史の変遷等を踏まえ、保育の基本的な考え方や子どもの発達や実態に繋げて理解する。</li> <li>・保育の多様な展開について具体的に理解する。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習における実践経験や事例検討を活用して、子どもの発達や内面理解、環境構成の力量を高める。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題等に対して、各自目的意識を持ち積極的にグループディスカッションに参加し、保育の遣り甲斐と奥深さに触れ、自身の考えを相手に分かるように伝えたり他者の考えを聞いたり認めたりする態度を養い、協働的な関係を構築する。</li> </ul>
授業の概要	<p>保育所保育指針・幼稚園教育要領等に示されている内容について、その基本的な考え方と諸事項を総論的に学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の全体構造と保育内容</li> <li>・保育の基本を踏まえた保育内容の展開について。</li> <li>・保育の内容の歴史の変遷とその社会的背景。</li> <li>・家庭や地域との連携をふまえた保育。</li> <li>・保育の多様な展開（特別な配慮を要する子ども、多文化共生）。</li> </ul> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	グループ討論や発表など授業参加姿勢態度（30%）提出課題（30%）小テスト（40%）
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回の授業の内、6回以上の欠席は失格。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス 保育の全般構造と保育内容の理解</li> <li>2. 保育の基本的な考え方(1) 養護と教育の一体性、子どもの主体性の尊重</li> <li>3. 保育の基本的な考え方(2) 遊びや生活を中心とした園生活、環境を通して行う保育</li> <li>4. 保育内容の歴史の変遷(1) 戦前の保育内容</li> <li>5. 保育内容の歴史の変遷(2) 戦後の保育内容</li> <li>6. 多様な保育ニーズ(1) 子育て支援</li> <li>7. 多様な保育ニーズ(2) 長時間保育</li> <li>8. 多様な保育ニーズ(3) 特別な配慮を要する子どもの保育</li> <li>9. 多様な保育ニーズ(4) 多文化共生の保育</li> <li>10. 地域に開かれた保育所・幼稚園等を創造する保育内容</li> <li>11. 小学校との連携 円滑な接続のために</li> <li>12. 諸外国の保育所・幼稚園の保育内容</li> <li>13. これからの保育内容(1) 安全(災害への備え)に関する保育内容</li> <li>14. これからの保育内容(2) 乳幼児期の食育を進める保育内容</li> <li>15. まとめ 保育内容の質の向上を目指して</li> </ol>
テキスト	<p>子どもと共に学びあう 演習 保育内容総論 第2版 井上孝之 他 出版社 みらい</p>
参考書	<p>幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	基本的に子どもの発達や現状等保育内容に関する内容を、グループで調べたり話し合ったりすることを重視し、その後発表や教員による講評といった形で進めます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	<p>実務経験のある教員による授業 保育士、幼稚園教諭の経験がある教員が、保育現場での様子を子ども、保護者、保育者など様々な視点から考えたり、具体的な事例を交えたりしながら指導する科目である。</p>
質問への対応方法	授業内容に関する質問は随時対応または、授業後に対応。
フィードバックの方法	本授業はアクティブラーニングや学生間のディスカッションを重視して進めるが、重要な点や不足部分は教員が補い、再度課題として再検討を行っていく。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	課題に関して調べたり、検討したりする時間も必要となってくる。安易にSNSなどを頼り調べるだけではなく必ず文献等を使って調べることも条件とする。授業時だけでなく、書物を探す、グループで検討する、発表用資料を作成するなどの時間が必要となる。これらの時間を準備学習の時間(60時間)とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<ol style="list-style-type: none"> <li>10.人や国の不平等をなくそう</li> <li>3.すべての人に健康と福祉を</li> <li>4.質の高い教育をみんなに</li> </ol>
SDGs 17の目標(11~17)	<ol style="list-style-type: none"> <li>11.住み続けられるまちづくりを</li> <li>16.平和と公正をすべての人に</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.情報収集力</li> <li>4.構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.親和力</li> <li>2.協同力</li> <li>8.計画立案力</li> <li>9.実践力</li> </ol>

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス 保育の全般構造	準備学習として、計画に基づいた章を必ず読んで理解をしておくことと、演習課題のプリントは検討の上、翌授業に持参	
2	保育の基本的な考え方(1) 養護と教育の一体性、子どもの主体性の尊重	保育内容の振り返りとして保育内容の重要ポイントを抑える。 ・第3章～第5章を読んで、授業に参加する。	
3	保育の基本的な考え方(2) 遊びや生活を中心とした園生活、環境を通して行う保育	・保育内容の振り返りとして保育内容の重要ポイントを抑える。 ・保育内容の振り返り 第6章～第12章を読んで、授業に参加。	
4	保育内容の歴史の変遷(1) 戦前の保育内容	・第13章を読んで、授業に参加する。 ・明治前期・後期、大正期の保育内容について理解する。	
5	保育内容の歴史の変遷(2) 戦後の保育内容	・昭和期・平成期の保育内容について理解する。	
6	多様な保育ニーズ(1) 子育て支援	・第14章を読んで、授業に参加する。 ・子育て支援の実践事例と考察。	
7	多様な保育ニーズ(2) 長時間保育	・延長保育・長時間保育の保育内容を理解する。 ・様々な保育ニーズを知る(病児・病後児保育、預かり保育・地域子育て支援センター)。 ・異年齢児保育の実践事例と考察。	
8	多様な保育ニーズ(3) 特別な配慮を要する子どもの保育	・「気になる子ども」について理解を深める。 ・特別な配慮を要する子どもの保育の実践事例と考察。	
9	多様な保育ニーズ(4) ・多文化共生の保育の必要性	・多文化共生の保育の現状を知る。 ・多文化共生の実践事例と考察。	
10	地域に開かれた保育所・幼稚園等を創造する保育内容 乳幼児の発達と、地域社会との関わり	・子どもの育ちの変化と地域の教育力の低下。 ・地域の自然環境を保育に生かす保育内容。 ・地域の人的教育力を生かす保育内容。	
11	小学校との連携 小学校教育との円滑な接続	・就学前教育と初等教育の接続の意義を理解する。 ・幼児期と児童期における「学び」の特徴を理解する。	
12	諸外国の保育所・幼稚園の保育内容(1) 日本の保育の特徴と主要な国々のカリキュラムの概観	・保育をめぐる世界の動向。 ・4つの主要なカリキュラム。	
13	外国の保育所・幼稚園の保育内容(2) 主要な国々のカリキュラムの概観	・保育をめぐる世界の動向。 ・4つの主要なカリキュラム。	
14	乳幼児期の食育を進める保育内容	・食育が人間形成にかかわる意義を理解する。 ・「食を営む力」の基礎を培う保育所・幼稚園等での食育について理解する。	
15	これからの保育と課題 確認テスト	・第15章を読んで、授業に参加する。 ・これまでの授業を振り返るとともに、保育課題について検討を行う。	

開講科目名 Course	健康指導法 / Methods of Early Childhood Education (Health)
時間割コード Course Code	50423
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 5
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	早川 健太郎
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室, 体育館
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川 健太郎 (教育保育学科)
授業の目標	領域「健康」の保育内容と方法を学ぶ。はじめに「健康」という言葉の概念について考え、乳幼児期の身体的発育発達について概観し、次に運動能力について学んでいく。そして領域「健康」のねらいと内容を踏まえた指導計画の作成と実施ができるようになることを目標とする。
授業の概要	事前学習を用いた講義とディスカッションを中心に行なう。また講義内で調査や検索を実施し、Teamsを用いて収集してデータを用いてディスカッションをする。さらに指導計画に沿った模擬授業を行う。
評価方法	事前学習 25% ディスカッション25% 模擬授業 25% 指導計画 25%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	グループディスカッションに不参加の場合
授業計画	第1回 ガイダンス 領域「健康」の目指すもの 第2回 領域「健康」のねらいと内容 第3回 身につけていく内容と指導上の留意点・現代の問題点 第4回 情報機器の活用 第5回 保育構想の重要性 第6回 評価の考え方 第7回 中間まとめ 第8回 指導案作成 第9回 保育者の視点 第10回 指導案の検証と改善 第11回 模擬授業 (A班) 観察と評価 第12回 模擬授業 (B班) 観察と評価 第13回 模擬授業 (C班) 観察と評価 第14回 模擬授業 (D班) 観察と評価 第15回 まとめ
テキスト	デジタル社会の子どもの育ちを支える 保育内容 健康 田口喜久恵 編著 北大路書房
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	模擬授業後にディスカッションを行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	

質問への対応方法	メールにて随時受け付ける ( hayakawa-k@nagoya-ku.ac.jp ) 必要であれば授業ご対応する。
フィードバックの方法	レポート等は次週フィードバックする。 発表等はその場にてフィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習 次回行う内容をシラバスにて確認し、該当するテキスト箇所を熟読する。(60分) 次週行う内容に関しインターネットを用いて事前にイメージを持つておくこと。(30分) 予習 授業で取り組んだ内容をレポートとしてまとめておくこと。(90分)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	8.計画立案力

開講科目名 Course	子どもと人間関係 / Children's Relationship
時間割コード Course Code	50500
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	多川 則子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	多川 則子 (教育保育学科)
授業の目標	<p><b>教育目標</b>  人とかかわる力とはどのような力なのでしょうか、人とかかわる力を育むとはどういうことなのでしょうか。領域(保育内容)「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う」ことを目的としています。その具体的な意味について、深く理解することを目指します。</p> <p>そのためには、子どもの人間関係の育ちに影響を与えている社会的な要因について理解し、幼児教育や保育において保障すべき保育内容に関する知識を身に付けることが必要です。特に、領域(保育内容)「人間関係」の指導の基盤となる基礎理論として、関係発達論的視点について学び、子どもの人とかかわる力は、他者との関係や集団との関係の中で育っていくことを学びます。</p> <p>また、幼児期の終わりまでに育みたい資質能力を理解し、「人間関係」の背景となる専門知識、特に発達を踏まえた保育者の支援について考えていきます。</p> <p><b>学習成果</b>  <b>知識・理解の領域</b>  ・領域(保育内容)としての「人間関係」の具体的な意味を説明できる。  ・子どもの人とかかわる力がどのように育つのかについて説明できる。  ・「人間関係」について他領域を含めた一体的な理解ができる。  ・講義内容を整理しまとめる力、疑問点を見出す力がつく。</p> <p><b>技能の領域</b>  ・人とかかわる力を育むというねらいを、発達を踏まえ実践の中に取り込んでいく具体的な方法について提案できる。  ・子ども主体、環境を通した保育などの理念を踏まえた具体的な支援の方法を考えられる。</p> <p><b>態度・志向性の領域</b>  ・子どもの成長発達を支えるための援助を模索し探求し続ける姿勢をもつ。</p>
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>領域(保育内容)「人間関係」にかかわるワーク、講義、模擬保育を実施する。</li> <li>ワークでは、まず、個人のシンキングタイムを取り、各自の気づきや感想をまとめ、グループワークにより共有する。続いて、全体に向けた発表や教員による解説を行う場合もある。</li> <li>各自の気づき感想、グループメンバーや他の受講生の意見、本時の気づき感想等を毎回記入する。適時提出を求める。</li> </ol> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	・評価は、ほぼ毎回の気づき感想、課題、小テスト等(75%)、最終課題(25%)とする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席回数が3分の1を超えた場合は失格とする。

授業計画	<p>第1回：「人間関係」とは</p> <p>第2回：3歳未満児における人間関係の発達1：アタッチメントの形成</p> <p>第3回：3歳未満児における人間関係の発達2：身近な大人との関係を基盤として育つ</p> <p>第4回：3歳未満児における人間関係の発達3：現代の特徴と課題</p> <p>第5回：遊びや生活を通じた人間関係の発達1：理論的な理解</p> <p>第6回：遊びや生活を通じた人間関係の発達2：実践を通じた理解</p> <p>第7回：自立心の育ち1：「イヤ」「ジブンデ」から始まる育ち</p> <p>第8回：自立心の育ち2：育ちを支えるためには</p> <p>第9回：協同性の育ち1：遊びの中での目標の共有と達成感</p> <p>第10回：協同性の育ち2：育ちを支えるためには</p> <p>第11回：道徳性・規範意識の芽生えと育ち1：いざこざの重要性</p> <p>第12回：道徳性・規範意識の芽生えと育ち1：育ちを支えるためには</p> <p>第13回：人間関係の広がり</p> <p>第14回：幼児期に育みたい資質・能力と人間関係</p> <p>第15回：学童期以降の育ちへ</p>
テキスト	<p>『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』 チャイルド本社 2017年、</p> <p>『保育所保育指針解説 平成30年3月』 厚生労働省 フレーベル館 2018年</p> <p>他科目で購入済みであれば、購入の必要はありません。</p>
参考書	<p>『領域 人間関係（体験する・調べる・考える）』 田宮 縁 萌文書林 2013年</p> <p>『社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」』 無藤 隆・古賀 松香（編著） 北大路書房 2016年</p> <p>『きのうのつづき：「環境」にかける保育の日々』 あんず幼稚園（編集）、宮原 洋一（写真） 新評論 2012年</p> <p>『0・1・2歳の「保育」（見守る保育2子ども同士の関係から育つ力）』 藤森 平司 世界文化社 2012年</p> <p>『日本版保育ドキュメンテーションのすすめ』 大豆生田 啓友・おおえだ けいこ（著） 小学館 2020年</p> <p>『心を育てる保育環境：思いと環境をつなぐ保育の空間デザイン』 佐藤将之著 小学館 2020年</p> <p>『入門 アタッチメント理論：臨床・実践への架け橋』 遠藤利彦 日本評論社 2021年</p> <p>『ICTを使って保育を豊かに：ワクワクが広がる&amp;広がる28の実践』 秋田喜代美・宮田まり子・野澤祥子 中央法規出版 2022年</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループ単位のディスカッション、全体に向けた発表、模擬保育など。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>随時対応</p> <p>メール対応：tagawa@nagoya-ku.ac.jp</p>
フィードバックの方法	課題提出後の回にて、振り返りを実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習として、授業内容に関する発達心理学を復習する（各回1時間程）。</li> <li>・復習として、授業内容に関連する実習での経験などを振り返る、シラバスにあげた参考書、授業内容に関連する書籍、web資料等を読んでまとめる（各回2時間程）。</li> <li>・特別課題と最終課題を実施する（6時間程）。</li> </ul>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>5. ジェンダー平等を実現しよう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	<p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>1. 親和力</p> <p>2. 協同力</p> <p>4. 感情制御力</p> <p>7. 課題発見力</p>

開講科目名 Course	子どもと環境 / Environment for Children
時間割コード Course Code	50550
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	笹瀬 ひと美
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	笹瀬 ひと美 (教育保育学科)
授業の目標	<p>・乳幼児期における環境の各要素についての知識を身につけ、子どもの発達過程に応じた環境との関わり方について理解し、説明できるようになる。</p> <p>・領域「環境」のねらいと内容を読み取り正しく理解し、身近な環境を遊びや生活の場面に取り入れることができるようになる。</p> <p>・様々な活動を体験することで子どもの遊び環境を理解し、構成することができるようになる。</p> <p>知識・理解の領域</p> <p>・保育現場における幼児と環境との関係性について理解することができる。</p> <p>・幼児と自然との関わり等、地域と社会との関わりについて、具体的な事例を取り上げ、理解を深めることができる。</p> <p>体験探究の領域</p> <p>・自然の中で遊ぶ楽しさがわかる。</p> <p>・伝承遊びを知ることができる。</p> <p>技能の領域</p> <p>・自然の不思議さ・面白さを子どもと分かち合うことができる。</p> <p>・伝承遊び・自然材料を用いた遊びを現場で活用できる。</p>
授業の概要	<p>保育内容「環境」のねらいに示されるように、幼児が身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心を持ち、発見を楽しんだり考えたりし、それを生活の中に取り入れることは幼児期において非常に重要である。</p> <p>本授業では、幼児と環境との関わりが実際の保育の現場で、どのように展開されるかについて理解する。そのために、幼児と自然との関わり等、地域と社会との関わりについて、具体的な事例を取り上げ、理解を深めていく。自然材を用いた遊びを提案し、より現実に即した高度な保育技術の習得を目指す。</p>
評価方法	<p>1.参加姿勢・態度 20%</p> <p>2.授業レポート20%</p> <p>3.製作品 30点</p> <p>4.定期試験 30%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>・5回欠席した場合</p> <p>・遅刻は2回までとする</p>



授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 子どもにとっての「環境」とは 発達にふさわしい環境の構成</p> <p>第3回 幼稚園教諭、小学校学習指導要領の概要 幼稚園教諭、小学校教諭と領域「環境」</p> <p>第4回 保育環境の構成（1） 自然環境を生かした活動</p> <p>第5回 保育環境の構成（2） 遊びのきっかけとなる環境の構成</p> <p>第6回 自然の事象に関心を持つ 二十四節気と七十二候とは何か</p> <p>第7回 生き物や植物、自然の事象に関心を持つ（1） 生き物の飼育の仕方～掲示物作成～</p> <p>第8回 生き物や植物、自然の事象に関心を持つ（2） 植物とのかかわり～植物栽培の基本～</p> <p>第9回 日本の行事の由来を知る 月ごとの行事を理解し興味関心を持つ</p> <p>第10回 季節の行事を体験する 行事について理解を深める</p> <p>第11回 伝承あそびとは 伝承遊びを体験する（コマ、けん玉など）</p> <p>第12回 幼児期の発達の特性からくる危険とは 子どもを守る安全な環境を理解する</p> <p>第13回 環境を通した活動の実際を知る（1） 保育、教育の現場における実践例から学ぶ</p> <p>第14回 環境を通した活動の実際を知る（2） 保育、教育の現場における実践例から学ぶ</p> <p>第15回 授業のまとめ、全体の振り返り</p>
テキスト	<p>新時代の保育双書 保育内容「環境」 (株)みらい ISBN 978-4-86015-447-9 C3337</p> <p>子どもの図鑑 自然とくらしと遊びを楽しむ12ヵ月 合同出版 ISBN 978-4-7726-1005-6 NDC376</p>
参考書	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ毎で異なる課題を議論し、解決方法をまとめ、授業内で発表する。</li> <li>・グループ毎に分かれて、遊びの体験をし、それぞれが授業内で発表する。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	<p>保育者として30年以上子ども達と関わってきた経験を活かし、保育環境の重要性を伝え事例等を取り入れながら実践の現場で活かせる授業にし「保育の楽しさ」を伝えます。 しっかり学んで子どもの気持ちがわかる保育者を目指しましょう。</p>
質問への対応方法	授業後に対応する。
フィードバックの方法	<p>製作物等は、修正箇所があれば伝える。翌週返却</p> <p>毎回授業の初めに振り返りをする。または、自然に関心を持たせる自然物を持参する。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品をつくる時に、自分で参考となる本を事前に調べてわからない点があれば質問に来る（個別対応）</li> <li>・作品を製作</li> <li>・レポート課題の製作</li> </ul> <p>全15回につき60時間</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>3.すべての人に健康と福祉を</p> <p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>13.気候変動に具体的な対策を</p> <p>15.陸の豊かさを守ろう</p> <p>16.平和と公正をすべての人に</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1.情報収集力</p> <p>2.情報分析力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>4.感情制御力</p> <p>5.自信創出力</p> <p>9.実践力</p>

開講科目名 Course	子どもと健康(1組)
時間割コード Course Code	50720
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	早川 健太郎
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川 健太郎 (教育保育学科)
授業の目標	領域「健康」の指導に関するねらいと内容を理解するとともに、「健康」のねらいと内容に関わる具体的な場面を想定した保育を構想するための知識を身に付ける。また「健康」に関する具体的な保育場面における子どもの動きや環境を体験することで実践的な知識を身に付ける。
授業の概要	領域「健康」のねらい及び内容を視聴覚教材等の活用やグループディスカッションをとおして、学んでいく。また、「運動遊び」や「生活習慣」等の体験等を通して、具体的な保育の方法や構想の在り方、評価方法の知識を身に付ける。
評価方法	定期試験 (50%)、指導計画 (20%)、振り返り小レポート (30%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	小レポートが未提出の場合 グループディスカッションに不参加の場合
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 領域「健康」のとらえ方と目指すもの 第3回 幼稚園教育要領および保育所保育指針における「健康」 第4回 からだの発達と健康 第5回 社会性の発達と健康 第6回 こどもの生活習慣の現状と課題 第7回 基本的な生活習慣の理解と形成 第8回 幼児の身体活動の現状と課題 第9回 幼児期における運動遊びの効果 第10回 幼児期に身につけたい基本的動作 第11回 運動遊びの指導上の留意点 第12回 幼児期のけがや事故の現状 第13回 応急処置 第14回 幼児の疾病とその対応策および衛生管理 第15回 ちょっとした工夫で広がる運動あそび
テキスト	「デジタル社会の子どもの育ちを支える 保育内容 健康」田口喜久恵 (編著) 北大路書房
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループディスカッション 課題に対してグループで調べ発表する
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて随時受け付ける ( hayakawa-k@nagoya-ku.ac.jp ) 必要であれば授業ご対応する。
フィードバックの方法	レポート等は次週フィードバックする。 発表等はその場にてフィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習 次回行う内容をシラバスにて確認し、該当するテキスト箇所を熟読する。(60分) 次週行う内容に関しインターネットを用いて事前にイメージを持っておくこと。(30分) 予習 授業で取り組んだ内容をレポートとしてまとめておくこと。(90分)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力

開講科目名 Course	子どもと健康(2組)
時間割コード Course Code	50721
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	早川 健太郎
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川 健太郎 (教育保育学科)
授業の目標	領域「健康」の指導に関するねらいと内容を理解するとともに、「健康」のねらいと内容に関わる具体的な場面を想定した保育を構想するための知識を身に付ける。また「健康」に関する具体的な保育場面における子どもの動きや環境を体験することで実践的な知識を身に付ける。
授業の概要	領域「健康」のねらい及び内容を視聴覚教材等の活用やグループディスカッションをとおして、学んでいく。また、「運動遊び」や「生活習慣」等の体験等を通して、具体的な保育の方法や構想の在り方、評価方法の知識を身に付ける。
評価方法	定期試験 (50%)、指導計画 (20%)、振り返り小レポート (30%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	小レポートが未提出の場合 グループディスカッションに不参加の場合
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 領域「健康」のとらえ方と目指すもの 第3回 幼稚園教育要領および保育所保育指針における「健康」 第4回 からだの発達と健康 第5回 社会性の発達と健康 第6回 こどもの生活習慣の現状と課題 第7回 基本的な生活習慣の理解と形成 第8回 幼児の身体活動の現状と課題 第9回 幼児期における運動遊びの効果 第10回 幼児期に身につけたい基本的動作 第11回 運動遊びの指導上の留意点 第12回 幼児期のけがや事故の現状 第13回 応急処置 第14回 幼児の疾病とその対応策および衛生管理 第15回 ちょっとした工夫で広がる運動あそび
テキスト	「デジタル社会の子どもの育ちを支える 保育内容 健康」田口喜久恵 (編著) 北大路書房
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループディスカッション 課題に対してグループで調べ発表する
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて随時受け付ける ( hayakawa-k@nagoya-ku.ac.jp ) 必要であれば授業ご対応する。
フィードバックの方法	レポート等は次週フィードバックする。 発表等はその場にてフィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習 次回行う内容をシラバスにて確認し、該当するテキスト箇所を熟読する。(60分) 次週行う内容に関しインターネットを用いて事前にイメージを持っておくこと。(30分) 予習 授業で取り組んだ内容をレポートとしてまとめておくこと。(90分)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力

開講科目名 Course	幼児体育(1組) / Physical Education for Children
時間割コード Course Code	50724
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	早川 健太郎
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川 健太郎 (教育保育学科)
授業の目標	領域「健康」の指導に関するねらいと内容を理解するとともに、「健康」のねらいと内容に関わる具体的な場面を想定した保育を構想するための知識を身に付ける。また「健康」に関する具体的な保育場面における子どもの動きや環境を体験することで実践的な知識を身に付ける。
授業の概要	領域「健康」のねらい及び内容を視聴覚教材等の活用やグループディスカッションをとおして、学んでいく。また、「運動遊び」や「生活習慣」等の体験等を通して、具体的な保育の方法や構想の在り方、評価方法の知識を身に付ける。
評価方法	定期試験 (50%)、指導計画 (20%)、振り返り小レポート (30%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	小レポートが未提出の場合 グループディスカッションに不参加の場合
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 領域「健康」のとらえ方と目指すもの 第3回 幼稚園教育要領および保育所保育指針における「健康」 第4回 からだの発達と健康 第5回 社会性の発達と健康 第6回 こどもの生活習慣の現状と課題 第7回 基本的生活習慣の理解と形成 第8回 幼児の身体活動の現状と課題 第9回 幼児期における運動遊びの効果 第10回 幼児期に身につけたい基本的動作 第11回 運動遊びの指導上の留意点 第12回 幼児期のけがや事故の現状 第13回 応急処置 第14回 幼児の疾病とその対応策および衛生管理 第15回 ちょっとした工夫で広がる運動あそび
テキスト	「デジタル社会の子どもの育ちを支える 保育内容 健康」田口喜久恵 (編著) 北大路書房
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループディスカッション 課題に対してグループで調べ発表する
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	

質問への対応方法	メールにて随時受け付ける ( hayakawa-k@nagoya-ku.ac.jp ) 必要であれば授業ご対応する。
フィードバックの方法	レポート等は次週フィードバックする。 発表等はその場にてフィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習 次回行う内容をシラバスにて確認し、該当するテキスト箇所を熟読する。(60分) 次週行う内容に関しインターネットを用いて事前にイメージを持つておくこと。(30分) 予習 授業で取り組んだ内容をレポートとしてまとめておくこと。(90分)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力

開講科目名 Course	幼児体育(2組) / Physical Education for Children
時間割コード Course Code	50725
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	早川 健太郎
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川 健太郎 (教育保育学科)
授業の目標	領域「健康」の指導に関するねらいと内容を理解するとともに、「健康」のねらいと内容に関わる具体的な場面を想定した保育を構想するための知識を身に付ける。また「健康」に関する具体的な保育場面における子どもの動きや環境を体験することで実践的な知識を身に付ける。
授業の概要	領域「健康」のねらい及び内容を視聴覚教材等の活用やグループディスカッションをとおして、学んでいく。また、「運動遊び」や「生活習慣」等の体験等を通して、具体的な保育の方法や構想の在り方、評価方法の知識を身に付ける。
評価方法	定期試験 (50%)、指導計画 (20%)、振り返り小レポート (30%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	小レポートが未提出の場合 グループディスカッションに不参加の場合
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 領域「健康」のとらえ方と目指すもの 第3回 幼稚園教育要領および保育所保育指針における「健康」 第4回 からだの発達と健康 第5回 社会性の発達と健康 第6回 こどもの生活習慣の現状と課題 第7回 基本的生活習慣の理解と形成 第8回 幼児の身体活動の現状と課題 第9回 幼児期における運動遊びの効果 第10回 幼児期に身につけたい基本的動作 第11回 運動遊びの指導上の留意点 第12回 幼児期のけがや事故の現状 第13回 応急処置 第14回 幼児の疾病とその対応策および衛生管理 第15回 ちょっとした工夫で広がる運動あそび
テキスト	「デジタル社会の子どもの育ちを支える 保育内容 健康」田口喜久恵 (編著) 北大路書房
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループディスカッション 課題に対してグループで調べ発表する
実務経験のある担当教員による授業	該当しない



担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて随時受け付ける ( hayakawa-k@nagoya-ku.ac.jp ) 必要であれば授業ご対応する。
フィードバックの方法	レポート等は次週フィードバックする。 発表等はその場にてフィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習 次回行う内容をシラバスにて確認し、該当するテキスト箇所を熟読する。(60分) 次週行う内容に関しインターネットを用いて事前にイメージを持っておくこと。(30分) 予習 授業で取り組んだ内容をレポートとしてまとめておくこと。(90分)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力

開講科目名 Course	子どもと音楽A(1組 秋田)
時間割コード Course Code	50730
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	秋田 郁
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 2 E レッスン室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	秋田 郁 (教育保育学科)
授業の目標	<p>子どもの発達過程を理解し、子どもの生活と遊びに必要な音楽の習得を目指す。また、自然や生活の中にあふれる音に親しむことで、豊かな感性を育む表現活動に必要な知識及び技能の習得を目指す。</p> <p>知識・理解の領域 読譜（楽譜を読むこと）に必要な楽典の知識を身に付け、幼児教育現場で必要な音楽能力について、理解する。 園生活に必要な生活のうた、季節のうたを知る。</p> <p>技能の領域 教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、ソルフェージュ、ピアノ演奏の方法、子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌い等の技術を習得する。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 保育者として、子どもと音楽的な関わりができるようにする。</p>
授業の概要	教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、音楽の基礎知識、楽譜の読み方、ピアノ演奏の方法、発声方法、季節・行事や生活に関わる子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌いを行う。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。
評価方法	授業への参加10% 課題30% テスト60% により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回授業のうち、6回以上欠席した場合、失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	「改訂 幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社 「標準バイエルピアノ教則本」

参考書	「小学校教諭のための歌唱共通教材ピアノ伴奏集」大海由佳・古谷和子・長谷川恭子 学研プラス 「保育者のためのピアノの基礎」井口太・笠井かほる 朝日出版社 「こどものうた200」小林美実・編 チャイルド本社 「保育の四季 歌のカレンダー」伊藤嘉子・小川宜子・妹尾美智子・長柄孝彦・早川史郎編 エー・ティ・エヌ
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学生自身が弾き歌い演奏を行い個人レッスンを受けるセクションと、一斉授業にて読譜、声楽などを学ぶセクションに分かれており、いずれもアクティブラーニングの要素を含んでいる。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 保育士研修や子育て応援講座の講師、また演奏家としての経験がある教員が、保育者として音楽をどのように活かすかの指導を行っている科目である。
質問への対応方法	質問には随時音楽練習室にて随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	9.実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	講義とピアノレッスンの受講方法、マナー、評価方法、担当教員の紹介と発表 バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を復習する。4時間の復習を課す。	
2	音価について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を予習する。	
3	付点のリズム ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル44番、「おかえりのうた」を予習する。	
4	音部記号について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名の早読み) バイエル66番、「さようならのうた」を予習する。	
5	音名と階名について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名早読み) バイエル74番、「チューリップ」を予習する。	
6	拍子について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル78番、「とんぼのねがね」を予習する。	
7	中間確認(楽譜の読み方) ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 楽譜の読み方チェック バイエル88番、「たなばたさま」を予習する。	
8	中間確認(弾き歌い) ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル89番、「どんぐりころころ」を予習する。	
9	こどものうたについて ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル90番、「ぶんぶんぶん」を予習する。	
10	発声体操 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「めだかのがっこう」を予習する。 保育動画作成	
11	発声練習 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「おもいでアルバム」を予習する。 保育動画作成	
12	こどものうた1 ピアノレッスン	コードによる弾き歌い 2時間の予習と2時間復習を課す。 「あわてんぼうのサンタクロース」を予習する。 保育動画作成	
13	こどものうた2 ピアノレッスン	伴奏付け 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習する。 保育動画作成	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
14	こどものうた3 ピアノレッスン	こどもの歌の音域について 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習 する。 保育動画作成	
15	こどものうた4 ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 4時間の予習を課す。 弾き歌いテストリハーサルの予習をする 。 保育動画発表	

開講科目名 Course	子どもと音楽A(1組 岡本)
時間割コード Course Code	50731
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	岡本 加奈子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 2 B レッスン室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岡本 加奈子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>子どもの発達過程を理解し、子どもの生活と遊びに必要な音楽の習得を目指す。また、自然や生活の中にあふれる音に親しむことで、豊かな感性を育む表現活動に必要な知識及び技能の習得を目指す。</p> <p>知識・理解の領域 読譜（楽譜を読むこと）に必要な楽典の知識を身に付け、幼児教育現場で必要な音楽能力について、理解する。 園生活に必要な生活のうた、季節のうたを知る。</p> <p>技能の領域 教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、ソルフェージュ、ピアノ演奏の方法、子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌い等の技術を習得する。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 保育者として、子どもと音楽的な関わりができるようにする。</p>
授業の概要	教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、音楽の基礎知識、楽譜の読み方、ピアノ演奏の方法、発声方法、季節・行事や生活に関わる子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌いを行う。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。
評価方法	授業への参加10% 課題30% テスト60% により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回授業のうち、6回以上欠席した場合、失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	「改訂 幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社 「標準バイエルピアノ教則本」

参考書	「小学校教諭のための歌唱共通教材ピアノ伴奏集」大海由佳・古谷和子・長谷川恭子 学研プラス 「保育者のためのピアノの基礎」井口太・笠井かほる 朝日出版社 「こどものうた200」小林美実・編 チャイルド本社 「保育の四季 歌のカレンダー」伊藤嘉子・小川宜子・妹尾美智子・長柄孝彦・早川史郎編 エー・ティ・エヌ
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学生自身が弾き歌い演奏を行い個人レッスンを受けるセクションと、一斉授業にて読譜、声楽などを学ぶセクションに分かれており、いずれもアクティブラーニングの要素を含んでいる。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 保育士研修や子育て応援講座の講師、また演奏家としての経験がある教員が、保育者として音楽をどのように活かすかの指導を行っている科目である。
質問への対応方法	質問には随時音楽練習室にて随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	講義とピアノレッスンの受講方法、マナー、評価方法、担当教員の紹介と発表 バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を復習する。4時間の復習を課す。	
2	音価について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を予習する。	
3	付点のリズム ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル44番、「おかえりのうた」を予習する。	
4	音部記号について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名の早読み) バイエル66番、「さようならのうた」を予習する。	
5	音名と階名について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名早読み) バイエル74番、「チューリップ」を予習する。	
6	拍子について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル78番、「とんぼのねがね」を予習する。	
7	中間確認(楽譜の読み方) ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 楽譜の読み方チェック バイエル88番、「たなばたさま」を予習する。	
8	中間確認(弾き歌い) ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル89番、「どんぐりころころ」を予習する。	
9	こどものうたについて ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル90番、「ぶんぶんぶん」を予習する。	
10	発声体操 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「めだかのがっこう」を予習する。 保育動画作成	
11	発声練習 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「おもいでアルバム」を予習する。 保育動画作成	
12	こどものうた1 ピアノレッスン	コードによる弾き歌い 2時間の予習と2時間復習を課す。 「あわてんぼうのサンタクロース」を予習する。 保育動画作成	
13	こどものうた2 ピアノレッスン	伴奏付け 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習する。 保育動画作成	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
14	こどものうた3 ピアノレッスン	こどもの歌の音域について 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習する。 保育動画作成	
15	こどものうた4 ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 4時間の予習を課す。 弾き歌いテストリハーサルの予習をする。 保育動画発表	

開講科目名 Course	子どもと音楽A(1組 菊池)
時間割コード Course Code	50732
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	菊池 僚子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 2 A レッスン室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	菊池 僚子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>子どもの発達過程を理解し、子どもの生活と遊びに必要な音楽の習得を目指す。また、自然や生活の中にあふれる音に親しむことで、豊かな感性を育む表現活動に必要な知識及び技能の習得を目指す。</p> <p>知識・理解の領域 読譜（楽譜を読むこと）に必要な楽典の知識を身に付け、幼児教育現場で必要な音楽能力について、理解する。 園生活に必要な生活のうた、季節のうたを知る。</p> <p>技能の領域 教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、ソルフェージュ、ピアノ演奏の方法、子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌い等の技術を習得する。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 保育者として、子どもと音楽的な関わりができるようにする。</p>
授業の概要	教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、音楽の基礎知識、楽譜の読み方、ピアノ演奏の方法、発声方法、季節・行事や生活に関わる子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌いを行う。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。
評価方法	授業への参加10% 課題30% テスト60% により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回授業のうち、6回以上欠席した場合、失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	「改訂 幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社 「標準バイエルピアノ教則本」

参考書	「小学校教諭のための歌唱共通教材ピアノ伴奏集」大海由佳・古谷和子・長谷川恭子 学研プラス 「保育者のためのピアノの基礎」井口太・笠井かほる 朝日出版社 「こどものうた200」小林美実・編 チャイルド本社 「保育の四季 歌のカレンダー」伊藤嘉子・小川宜子・妹尾美智子・長柄孝彦・早川史郎編 エー・ティ・エヌ
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学生自身が弾き歌い演奏を行い個人レッスンを受けるセクションと、一斉授業にて読譜、声楽などを学ぶセクションに分かれており、いずれもアクティブラーニングの要素を含んでいる。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 保育士研修や子育て応援講座の講師、また演奏家としての経験がある教員が、保育者として音楽をどのように活かすかの指導を行っている科目である。
質問への対応方法	質問には随時音楽練習室にて随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	講義とピアノレッスンの受講方法、マナー、評価方法、担当教員の紹介と発表 バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を復習する。4時間の復習を課す。	
2	音価について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を予習する。	
3	付点のリズム ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル44番、「おかえりのうた」を予習する。	
4	音部記号について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名の早読み) バイエル66番、「さようならのうた」を予習する。	
5	音名と階名について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名早読み) バイエル74番、「チューリップ」を予習する。	
6	拍子について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル78番、「とんぼのねがね」を予習する。	
7	中間確認(楽譜の読み方) ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 楽譜の読み方チェック バイエル88番、「たなばたさま」を予習する。	
8	中間確認(弾き歌い) ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル89番、「どんぐりころころ」を予習する。	
9	こどものうたについて ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル90番、「ぶんぶんぶん」を予習する。	
10	発声体操 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「めだかのがっこう」を予習する。 保育動画作成	
11	発声練習 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「おもいでアルバム」を予習する。 保育動画作成	
12	こどものうた1 ピアノレッスン	コードによる弾き歌い 2時間の予習と2時間復習を課す。 「あわてんぼうのサンタクロース」を予習する。 保育動画作成	
13	こどものうた2 ピアノレッスン	伴奏付け 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習する。 保育動画作成	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
14	こどものうた3 ピアノレッスン	こどもの歌の音域について 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習する。 保育動画作成	
15	こどものうた4 ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 4時間の予習を課す。 弾き歌いテストリハーサルの予習をする。 保育動画発表	

開講科目名 Course	子どもと音楽A(1組 近藤)
時間割コード Course Code	50733
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	近藤 加奈子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 2 D レッスン室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	近藤 加奈子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>子どもの発達過程を理解し、子どもの生活と遊びに必要な音楽の習得を目指す。また、自然や生活の中にあふれる音に親しむことで、豊かな感性を育む表現活動に必要な知識及び技能の習得を目指す。</p> <p>知識・理解の領域 読譜（楽譜を読むこと）に必要な楽典の知識を身に付け、幼児教育現場で必要な音楽能力について、理解する。 園生活に必要な生活のうた、季節のうたを知る。</p> <p>技能の領域 教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、ソルフェージュ、ピアノ演奏の方法、子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌い等の技術を習得する。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 保育者として、子どもと音楽的な関わりができるようにする。</p>
授業の概要	教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、音楽の基礎知識、楽譜の読み方、ピアノ演奏の方法、発声方法、季節・行事や生活に関わる子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌いを行う。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。
評価方法	授業への参加10% 課題30% テスト60% により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回授業のうち、6回以上欠席した場合、失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	「改訂 幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社 「標準バイエルピアノ教則本」

参考書	「小学校教諭のための歌唱共通教材ピアノ伴奏集」大海由佳・古谷和子・長谷川恭子 学研プラス 「保育者のためのピアノの基礎」井口太・笠井かほる 朝日出版社 「こどものうた200」小林美実・編 チャイルド本社 「保育の四季 歌のカレンダー」伊藤嘉子・小川宜子・妹尾美智子・長柄孝彦・早川史郎編 エー・ティ・エヌ
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学生自身が弾き歌い演奏を行い個人レッスンを受けるセクションと、一斉授業にて読譜、声楽などを学ぶセクションに分かれており、いずれもアクティブラーニングの要素を含んでいる。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 保育士研修や子育て応援講座の講師、また演奏家としての経験がある教員が、保育者として音楽をどのように活かすかの指導を行っている科目である。
質問への対応方法	質問には随時音楽練習室にて随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	講義とピアノレッスンの受講方法、マナー、評価方法、担当教員の紹介と発表 バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を復習する。4時間の復習を課す。	
2	音価について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を予習する。	
3	付点のリズム ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル44番、「おかえりのうた」を予習する。	
4	音部記号について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名の早読み) バイエル66番、「さようならのうた」を予習する。	
5	音名と階名について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名早読み) バイエル74番、「チューリップ」を予習する。	
6	拍子について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル78番、「とんぼのねがね」を予習する。	
7	中間確認(楽譜の読み方) ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 楽譜の読み方チェック バイエル88番、「たなばたさま」を予習する。	
8	中間確認(弾き歌い) ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル89番、「どんぐりころころ」を予習する。	
9	こどものうたについて ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル90番、「ぶんぶんぶん」を予習する。	
10	発声体操 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「めだかのがっこう」を予習する。 保育動画作成	
11	発声練習 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「おもいでアルバム」を予習する。 保育動画作成	
12	こどものうた1 ピアノレッスン	コードによる弾き歌い 2時間の予習と2時間復習を課す。 「あわてんぼうのサンタクロース」を予習する。 保育動画作成	
13	こどものうた2 ピアノレッスン	伴奏付け 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習する。 保育動画作成	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
14	こどものうた3 ピアノレッスン	こどもの歌の音域について 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習 する。 保育動画作成	
15	こどものうた4 ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 4時間の予習を課す。 弾き歌いテストリハーサルの予習をする 。 保育動画発表	

開講科目名 Course	子どもと音楽A(1組 高橋)
時間割コード Course Code	50734
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	高橋 恵理
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 2 C レッスン室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高橋 恵理 (教育保育学科)
授業の目標	<p>子どもの発達過程を理解し、子どもの生活と遊びに必要な音楽の習得を目指す。また、自然や生活の中にあふれる音に親しむことで、豊かな感性を育む表現活動に必要な知識及び技能の習得を目指す。</p> <p>知識・理解の領域 読譜（楽譜を読むこと）に必要な楽典の知識を身に付け、幼児教育現場で必要な音楽能力について、理解する。 園生活に必要な生活のうた、季節のうたを知る。</p> <p>技能の領域 教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、ソルフェージュ、ピアノ演奏の方法、子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌い等の技術を習得する。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 保育者として、子どもと音楽的な関わりができるようにする。</p>
授業の概要	教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、音楽の基礎知識、楽譜の読み方、ピアノ演奏の方法、発声方法、季節・行事や生活に関わる子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌いを行う。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。
評価方法	授業への参加10% 課題30% テスト60% により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回授業のうち、6回以上欠席した場合、失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	「改訂 幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社 「標準バイエルピアノ教則本」

参考書	「小学校教諭のための歌唱共通教材ピアノ伴奏集」大海由佳・古谷和子・長谷川恭子 学研プラス 「保育者のためのピアノの基礎」井口太・笠井かほる 朝日出版社 「こどものうた200」小林美実・編 チャイルド本社 「保育の四季 歌のカレンダー」伊藤嘉子・小川宜子・妹尾美智子・長柄孝彦・早川史郎編 エー・ティ・エヌ
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学生自身が弾き歌い演奏を行い個人レッスンを受けるセクションと、一斉授業にて読譜、声楽などを学ぶセクションに分かれており、いずれもアクティブラーニングの要素を含んでいる。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 保育士研修や子育て応援講座の講師、また演奏家としての経験がある教員が、保育者として音楽をどのように活かすかの指導を行っている科目である。
質問への対応方法	質問には随時音楽練習室にて随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	講義とピアノレッスンの受講方法、マナー、評価方法、担当教員の紹介と発表 バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を復習する。4時間の復習を課す。	
2	音価について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を予習する。	
3	付点のリズム ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル44番、「おかえりのうた」を予習する。	
4	音部記号について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名の早読み) バイエル66番、「さようならのうた」を予習する。	
5	音名と階名について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名早読み) バイエル74番、「チューリップ」を予習する。	
6	拍子について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル78番、「とんぼのねがね」を予習する。	
7	中間確認(楽譜の読み方) ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 楽譜の読み方チェック バイエル88番、「たなばたさま」を予習する。	
8	中間確認(弾き歌い) ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル89番、「どんぐりころころ」を予習する。	
9	こどものうたについて ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル90番、「ぶんぶんぶん」を予習する。	
10	発声体操 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「めだかのがっこう」を予習する。 保育動画作成	
11	発声練習 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「おもいでアルバム」を予習する。 保育動画作成	
12	こどものうた1 ピアノレッスン	コードによる弾き歌い 2時間の予習と2時間復習を課す。 「あわてんぼうのサンタクロース」を予習する。 保育動画作成	
13	こどものうた2 ピアノレッスン	伴奏付け 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習する。 保育動画作成	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
14	こどものうた3 ピアノレッスン	こどもの歌の音域について 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習 する。 保育動画作成	
15	こどものうた4 ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 4時間の予習を課す。 弾き歌いテストリハーサルの予習をする 。 保育動画発表	

開講科目名 Course	子どもと音楽A(2組 秋田)
時間割コード Course Code	50735
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	秋田 郁
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 2 E レッスン室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	秋田 郁 (教育保育学科)
授業の目標	<p>子どもの発達過程を理解し、子どもの生活と遊びに必要な音楽の習得を目指す。また、自然や生活の中にあふれる音に親しむことで、豊かな感性を育む表現活動に必要な知識及び技能の習得を目指す。</p> <p>知識・理解の領域 読譜（楽譜を読むこと）に必要な楽典の知識を身に付け、幼児教育現場で必要な音楽能力について、理解する。 園生活に必要な生活のうた、季節のうたを知る。</p> <p>技能の領域 教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、ソルフェージュ、ピアノ演奏の方法、子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌い等の技術を習得する。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 保育者として、子どもと音楽的な関わりができるようにする。</p>
授業の概要	教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、音楽の基礎知識、楽譜の読み方、ピアノ演奏の方法、発声方法、季節・行事や生活に関わる子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌いを行う。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。
評価方法	授業への参加10% 課題30% テスト60% により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回授業のうち、6回以上欠席した場合、失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	「改訂 幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社 「標準バイエルピアノ教則本」

参考書	「小学校教諭のための歌唱共通教材ピアノ伴奏集」大海由佳・古谷和子・長谷川恭子 学研プラス 「保育者のためのピアノの基礎」井口太・笠井かほる 朝日出版社 「こどものうた200」小林美実・編 チャイルド本社 「保育の四季 歌のカレンダー」伊藤嘉子・小川宜子・妹尾美智子・長柄孝彦・早川史郎編 エー・ティ・エヌ
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学生自身が弾き歌い演奏を行い個人レッスンを受けるセクションと、一斉授業にて読譜、声楽などを学ぶセクションに分かれており、いずれもアクティブラーニングの要素を含んでいる。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 保育士研修や子育て応援講座の講師、また演奏家としての経験がある教員が、保育者として音楽をどのように活かすかの指導を行っている科目である。
質問への対応方法	質問には随時音楽練習室にて随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	講義とピアノレッスンの受講方法、マナー、評価方法、担当教員の紹介と発表 バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を復習する。4時間の復習を課す。	
2	音価について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を予習する。	
3	付点のリズム ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル44番、「おかえりのうた」を予習する。	
4	音部記号について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名の早読み) バイエル66番、「さようならのうた」を予習する。	
5	音名と階名について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名早読み) バイエル74番、「チューリップ」を予習する。	
6	拍子について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル78番、「とんぼのねがね」を予習する。	
7	中間確認(楽譜の読み方) ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 楽譜の読み方チェック バイエル88番、「たなばたさま」を予習する。	
8	中間確認(弾き歌い) ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル89番、「どんぐりころころ」を予習する。	
9	こどものうたについて ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル90番、「ぶんぶんぶん」を予習する。	
10	発声体操 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「めだかのがっこう」を予習する。 保育動画作成	
11	発声練習 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「おもいでアルバム」を予習する。 保育動画作成	
12	こどものうた1 ピアノレッスン	コードによる弾き歌い 2時間の予習と2時間復習を課す。 「あわてんぼうのサンタクロース」を予習する。 保育動画作成	
13	こどものうた2 ピアノレッスン	伴奏付け 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習する。 保育動画作成	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
14	こどものうた3 ピアノレッスン	こどもの歌の音域について 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習 する。 保育動画作成	
15	こどものうた4 ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 4時間の予習を課す。 弾き歌いテストリハーサルの予習をする 。 保育動画発表	

開講科目名 Course	子どもと音楽A(2組 岡本)
時間割コード Course Code	50736
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	岡本 加奈子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 2 B レッスン室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岡本 加奈子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>子どもの発達過程を理解し、子どもの生活と遊びに必要な音楽の習得を目指す。また、自然や生活の中にあふれる音に親しむことで、豊かな感性を育む表現活動に必要な知識及び技能の習得を目指す。</p> <p>知識・理解の領域 読譜（楽譜を読むこと）に必要な楽典の知識を身に付け、幼児教育現場で必要な音楽能力について、理解する。 園生活に必要な生活のうた、季節のうたを知る。</p> <p>技能の領域 教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、ソルフェージュ、ピアノ演奏の方法、子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌い等の技術を習得する。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 保育者として、子どもと音楽的な関わりができるようにする。</p>
授業の概要	教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、音楽の基礎知識、楽譜の読み方、ピアノ演奏の方法、発声方法、季節・行事や生活に関わる子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌いを行う。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。
評価方法	授業への参加10% 課題30% テスト60% により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回授業のうち、6回以上欠席した場合、失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	「改訂 幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社 「標準バイエルピアノ教則本」

参考書	「小学校教諭のための歌唱共通教材ピアノ伴奏集」大海由佳・古谷和子・長谷川恭子 学研プラス 「保育者のためのピアノの基礎」井口太・笠井かほる 朝日出版社 「こどものうた200」小林美実・編 チャイルド本社 「保育の四季 歌のカレンダー」伊藤嘉子・小川宜子・妹尾美智子・長柄孝彦・早川史郎編 エー・ティ・エヌ
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学生自身が弾き歌い演奏を行い個人レッスンを受けるセクションと、一斉授業にて読譜、声楽などを学ぶセクションに分かれており、いずれもアクティブラーニングの要素を含んでいる。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 保育士研修や子育て応援講座の講師、また演奏家としての経験がある教員が、保育者として音楽をどのように活かすかの指導を行っている科目である。
質問への対応方法	質問には随時音楽練習室にて随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	講義とピアノレッスンの受講方法、マナー、評価方法、担当教員の紹介と発表 バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を復習する。4時間の復習を課す。	
2	音価について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を予習する。	
3	付点のリズム ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル44番、「おかえりのうた」を予習する。	
4	音部記号について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名の早読み) バイエル66番、「さようならのうた」を予習する。	
5	音名と階名について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名早読み) バイエル74番、「チューリップ」を予習する。	
6	拍子について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル78番、「とんぼのねがね」を予習する。	
7	中間確認(楽譜の読み方) ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 楽譜の読み方チェック バイエル88番、「たなばたさま」を予習する。	
8	中間確認(弾き歌い) ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル89番、「どんぐりころころ」を予習する。	
9	こどものうたについて ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル90番、「ぶんぶんぶん」を予習する。	
10	発声体操 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「めだかのがっこう」を予習する。 保育動画作成	
11	発声練習 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「おもいでアルバム」を予習する。 保育動画作成	
12	こどものうた1 ピアノレッスン	コードによる弾き歌い 2時間の予習と2時間復習を課す。 「あわてんぼうのサンタクロース」を予習する。 保育動画作成	
13	こどものうた2 ピアノレッスン	伴奏付け 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習する。 保育動画作成	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
14	こどものうた3 ピアノレッスン	こどもの歌の音域について 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習 する。 保育動画作成	
15	こどものうた4 ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 4時間の予習を課す。 弾き歌いテストリハーサルの予習をする 。 保育動画発表	

開講科目名 Course	子どもと音楽A(2組 菊池)
時間割コード Course Code	50737
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	菊池 僚子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 2 A レッスン室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	菊池 僚子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>子どもの発達過程を理解し、子どもの生活と遊びに必要な音楽の習得を目指す。また、自然や生活の中にあふれる音に親しむことで、豊かな感性を育む表現活動に必要な知識及び技能の習得を目指す。</p> <p>知識・理解の領域 読譜（楽譜を読むこと）に必要な楽典の知識を身に付け、幼児教育現場で必要な音楽能力について、理解する。 園生活に必要な生活のうた、季節のうたを知る。</p> <p>技能の領域 教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、ソルフェージュ、ピアノ演奏の方法、子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌い等の技術を習得する。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 保育者として、子どもと音楽的な関わりができるようにする。</p>
授業の概要	教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、音楽の基礎知識、楽譜の読み方、ピアノ演奏の方法、発声方法、季節・行事や生活に関わる子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌いを行う。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。
評価方法	授業への参加10% 課題30% テスト60% により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回授業のうち、6回以上欠席した場合、失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	「改訂 幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社 「標準バイエルピアノ教則本」

参考書	「小学校教諭のための歌唱共通教材ピアノ伴奏集」大海由佳・古谷和子・長谷川恭子 学研プラス 「保育者のためのピアノの基礎」井口太・笠井かほる 朝日出版社 「こどものうた200」小林美実・編 チャイルド本社 「保育の四季 歌のカレンダー」伊藤嘉子・小川宜子・妹尾美智子・長柄孝彦・早川史郎編 エー・ティ・エヌ
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学生自身が弾き歌い演奏を行い個人レッスンを受けるセクションと、一斉授業にて読譜、声楽などを学ぶセクションに分かれており、いずれもアクティブラーニングの要素を含んでいる。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 保育士研修や子育て応援講座の講師、また演奏家としての経験がある教員が、保育者として音楽をどのように活かすかの指導を行っている科目である。
質問への対応方法	質問には随時音楽練習室にて随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	講義とピアノレッスンの受講方法、マナー、評価方法、担当教員の紹介と発表 バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を復習する。4時間の復習を課す。	
2	音価について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を予習する。	
3	付点のリズム ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル44番、「おかえりのうた」を予習する。	
4	音部記号について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名の早読み) バイエル66番、「さようならのうた」を予習する。	
5	音名と階名について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名早読み) バイエル74番、「チューリップ」を予習する。	
6	拍子について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル78番、「とんぼのねがね」を予習する。	
7	中間確認(楽譜の読み方) ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 楽譜の読み方チェック バイエル88番、「たなばたさま」を予習する。	
8	中間確認(弾き歌い) ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル89番、「どんぐりころころ」を予習する。	
9	こどものうたについて ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル90番、「ぶんぶんぶん」を予習する。	
10	発声体操 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「めだかのがっこう」を予習する。 保育動画作成	
11	発声練習 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「おもいでアルバム」を予習する。 保育動画作成	
12	こどものうた1 ピアノレッスン	コードによる弾き歌い 2時間の予習と2時間復習を課す。 「あわてんぼうのサンタクロース」を予習する。 保育動画作成	
13	こどものうた2 ピアノレッスン	伴奏付け 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習する。 保育動画作成	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
14	こどものうた3 ピアノレッスン	こどもの歌の音域について 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習 する。 保育動画作成	
15	こどものうた4 ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 4時間の予習を課す。 弾き歌いテストリハーサルの予習をする 。 保育動画発表	

開講科目名 Course	子どもと音楽A(2組 近藤)
時間割コード Course Code	50738
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	近藤 加奈子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 2 D レッスン室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	近藤 加奈子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>子どもの発達過程を理解し、子どもの生活と遊びに必要な音楽の習得を目指す。また、自然や生活の中にあふれる音に親しむことで、豊かな感性を育む表現活動に必要な知識及び技能の習得を目指す。</p> <p>知識・理解の領域 読譜（楽譜を読むこと）に必要な楽典の知識を身に付け、幼児教育現場で必要な音楽能力について、理解する。 園生活に必要な生活のうた、季節のうたを知る。</p> <p>技能の領域 教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、ソルフェージュ、ピアノ演奏の方法、子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌い等の技術を習得する。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 保育者として、子どもと音楽的な関わりができるようにする。</p>
授業の概要	教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、音楽の基礎知識、楽譜の読み方、ピアノ演奏の方法、発声方法、季節・行事や生活に関わる子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌いを行う。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。
評価方法	授業への参加10% 課題30% テスト60% により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回授業のうち、6回以上欠席した場合、失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	「改訂 幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社 「標準バイエルピアノ教則本」

参考書	「小学校教諭のための歌唱共通教材ピアノ伴奏集」大海由佳・古谷和子・長谷川恭子 学研プラス 「保育者のためのピアノの基礎」井口太・笠井かほる 朝日出版社 「こどものうた200」小林美実・編 チャイルド本社 「保育の四季 歌のカレンダー」伊藤嘉子・小川宜子・妹尾美智子・長柄孝彦・早川史郎編 エー・ティ・エヌ
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学生自身が弾き歌い演奏を行い個人レッスンを受けるセクションと、一斉授業にて読譜、声楽などを学ぶセクションに分かれており、いずれもアクティブラーニングの要素を含んでいる。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 保育士研修や子育て応援講座の講師、また演奏家としての経験がある教員が、保育者として音楽をどのように活かすかの指導を行っている科目である。
質問への対応方法	質問には随時音楽練習室にて随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	講義とピアノレッスンの受講方法、マナー、評価方法、担当教員の紹介と発表 バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を復習する。4時間の復習を課す。	
2	音価について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を予習する。	
3	付点のリズム ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル44番、「おかえりのうた」を予習する。	
4	音部記号について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名の早読み) バイエル66番、「さようならのうた」を予習する。	
5	音名と階名について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名早読み) バイエル74番、「チューリップ」を予習する。	
6	拍子について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル78番、「とんぼのねがね」を予習する。	
7	中間確認(楽譜の読み方) ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 楽譜の読み方チェック バイエル88番、「たなばたさま」を予習する。	
8	中間確認(弾き歌い) ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル89番、「どんぐりころころ」を予習する。	
9	こどものうたについて ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル90番、「ぶんぶんぶん」を予習する。	
10	発声体操 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「めだかのがっこう」を予習する。 保育動画作成	
11	発声練習 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「おもいでアルバム」を予習する。 保育動画作成	
12	こどものうた1 ピアノレッスン	コードによる弾き歌い 2時間の予習と2時間復習を課す。 「あわてんぼうのサンタクロース」を予習する。 保育動画作成	
13	こどものうた2 ピアノレッスン	伴奏付け 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習する。 保育動画作成	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
14	こどものうた3 ピアノレッスン	こどもの歌の音域について 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習 する。 保育動画作成	
15	こどものうた4 ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 4時間の予習を課す。 弾き歌いテストリハーサルの予習をする 。 保育動画発表	

開講科目名 Course	子どもと音楽A(2組 高橋)
時間割コード Course Code	50739
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	高橋 恵理
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 2 C レッスン室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高橋 恵理 (教育保育学科)
授業の目標	<p>子どもの発達過程を理解し、子どもの生活と遊びに必要な音楽の習得を目指す。また、自然や生活の中にあふれる音に親しむことで、豊かな感性を育む表現活動に必要な知識及び技能の習得を目指す。</p> <p>知識・理解の領域 読譜（楽譜を読むこと）に必要な楽典の知識を身に付け、幼児教育現場で必要な音楽能力について、理解する。 園生活に必要な生活のうた、季節のうたを知る。</p> <p>技能の領域 教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、ソルフェージュ、ピアノ演奏の方法、子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌い等の技術を習得する。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 保育者として、子どもと音楽的な関わりができるようにする。</p>
授業の概要	教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、音楽の基礎知識、楽譜の読み方、ピアノ演奏の方法、発声方法、季節・行事や生活に関わる子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌いを行う。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。
評価方法	授業への参加10% 課題30% テスト60% により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回授業のうち、6回以上欠席した場合、失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	「改訂 幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社 「標準バイエルピアノ教則本」

参考書	「小学校教諭のための歌唱共通教材ピアノ伴奏集」大海由佳・古谷和子・長谷川恭子 学研プラス 「保育者のためのピアノの基礎」井口太・笠井かほる 朝日出版社 「こどものうた200」小林美実・編 チャイルド本社 「保育の四季 歌のカレンダー」伊藤嘉子・小川宜子・妹尾美智子・長柄孝彦・早川史郎編 エー・ティ・エヌ
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学生自身が弾き歌い演奏を行い個人レッスンを受けるセクションと、一斉授業にて読譜、声楽などを学ぶセクションに分かれており、いずれもアクティブラーニングの要素を含んでいる。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 保育士研修や子育て応援講座の講師、また演奏家としての経験がある教員が、保育者として音楽をどのように活かすかの指導を行っている科目である。
質問への対応方法	質問には随時音楽練習室にて随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	講義とピアノレッスンの受講方法、マナー、評価方法、担当教員の紹介と発表 バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を復習する。4時間の復習を課す。	
2	音価について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を予習する。	
3	付点のリズム ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル44番、「おかえりのうた」を予習する。	
4	音部記号について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名の早読み) バイエル66番、「さようならのうた」を予習する。	
5	音名と階名について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名早読み) バイエル74番、「チューリップ」を予習する。	
6	拍子について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル78番、「とんぼのねがね」を予習する。	
7	中間確認(楽譜の読み方) ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 楽譜の読み方チェック バイエル88番、「たなばたさま」を予習する。	
8	中間確認(弾き歌い) ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル89番、「どんぐりころころ」を予習する。	
9	こどものうたについて ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル90番、「ぶんぶんぶん」を予習する。	
10	発声体操 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「めだかのがっこう」を予習する。 保育動画作成	
11	発声練習 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「おもいでアルバム」を予習する。 保育動画作成	
12	こどものうた1 ピアノレッスン	コードによる弾き歌い 2時間の予習と2時間復習を課す。 「あわてんぼうのサンタクロース」を予習する。 保育動画作成	
13	こどものうた2 ピアノレッスン	伴奏付け 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習する。 保育動画作成	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
14	こどものうた3 ピアノレッスン	こどもの歌の音域について 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習 する。 保育動画作成	
15	こどものうた4 ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 4時間の予習を課す。 弾き歌いテストリハーサルの予習をする 。 保育動画発表	

開講科目名 Course	音楽演習 IA
時間割コード Course Code	50740
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	秋田 郁
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	秋田 郁 (教育保育学科)
授業の目標	<p>子どもの発達過程を理解し、子どもの生活と遊びに必要な音楽の習得を目指す。また、自然や生活の中にあふれる音に親しむことで、豊かな感性を育む表現活動に必要な知識及び技能の習得を目指す。</p> <p>知識・理解の領域 読譜（楽譜を読むこと）に必要な楽典の知識を身に付け、幼児教育現場で必要な音楽能力について、理解する。 園生活に必要な生活のうた、季節のうたを知る。</p> <p>技能の領域 教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、ソルフェージュ、ピアノ演奏の方法、子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌い等の技術を習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 保育者として、子どもと音楽的な関わりができるようにする。</p>
授業の概要	教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、音楽の基礎知識、楽譜の読み方、ピアノ演奏の方法、発声方法、季節・行事や生活に関わる子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌いを行う。
評価方法	授業への参加10% 課題30% テスト60% により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回授業のうち、6回以上欠席した場合、失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	「改訂 幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社 「標準バイエルピアノ教則本」
参考書	「小学校教諭のための歌唱共通教材ピアノ伴奏集」大海由佳・古谷和子・長谷川恭子 学研プラス 「保育者のためのピアノの基礎」井口太・笠井かほる 朝日出版社 「こどものうた200」小林美実・編 チャイルド本社 「保育の四季 歌のカレンダー」伊藤嘉子・小川宜子・妹尾美智子・長柄孝彦・早川史郎編 エー・ティ・エヌ

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学生自身が弾き歌い演奏を行い個人レッスンを受けるセクションと、一斉授業にて読譜、声楽などを学ぶセクションに分かれており、いずれもアクティブラーニングの要素を含んでいる。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 保育士研修や子育て応援講座の講師、また演奏家としての経験がある教員が、保育者として音楽をどのように活かすかの指導を行っている科目である。
質問への対応方法	質問には随時音楽棟にて随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	講義とピアノレッスンの受講方法、マナー、評価方法、担当教員の紹介と発表 バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を復習する。4時間の復習を課す。	
2	音価について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を予習する。	
3	付点のリズム ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル44番、「おかえりのうた」を予習する。	
4	音部記号について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名の早読み) バイエル66番、「さようならのうた」を予習する。	
5	音名と階名について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名早読み) バイエル74番、「チューリップ」を予習する。	
6	拍子について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル78番、「とんぼのねがね」を予習する。	
7	中間確認(楽譜の読み方) ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 楽譜の読み方チェック バイエル88番、「たなばたさま」を予習する。	
8	中間確認(弾き歌い) ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル89番、「どんぐりころころ」を予習する。	
9	こどものうたについて ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル90番、「ぶんぶんぶん」を予習する。	
10	発声体操 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「めだかのがっこう」を予習する。	
11	発声練習 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「おもいでアルバム」を予習する。	
12	こどものうた1 ピアノレッスン	コードによる弾き歌い 2時間の予習と2時間復習を課す。 「あわてんぼうのサンタクロース」を予習する。	
13	こどものうた2 ピアノレッスン	伴奏付け 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習する。	
14	こどものうた3 ピアノレッスン	こどもの歌の音域について 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習する。	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	こどものうた4 ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 4時間の予習を課す。 弾き歌いテストリハーサルの予習をする。 。	

開講科目名 Course	音楽演習 IA
時間割コード Course Code	50741
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	秋田 郁
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	秋田 郁 (教育保育学科)
授業の目標	<p>子どもの発達過程を理解し、子どもの生活と遊びに必要な音楽の習得を目指す。また、自然や生活の中にあふれる音に親しむことで、豊かな感性を育む表現活動に必要な知識及び技能の習得を目指す。</p> <p>知識・理解の領域 読譜（楽譜を読むこと）に必要な楽典の知識を身に付け、幼児教育現場で必要な音楽能力について、理解する。 園生活で必要な生活のうた、季節のうたを知る。</p> <p>技能の領域 教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、ソルフェージュ、ピアノ演奏の方法、子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌い等の技術を習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 保育者として、子どもと音楽的な関わりができるようにする。</p>
授業の概要	教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、音楽の基礎知識、楽譜の読み方、ピアノ演奏の方法、発声方法、季節・行事や生活に関わる子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌いを行う。
評価方法	<p>授業への参加10%</p> <p>課題30%</p> <p>テスト60%</p> <p>により評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回授業のうち、6回以上欠席した場合、失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	<p>「改訂 幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社</p> <p>「標準バイエルピアノ教則本」</p>
参考書	<p>「小学校教諭のための歌唱共通教材ピアノ伴奏集」大海由佳・古谷和子・長谷川恭子 学研プラス</p> <p>「保育者のためのピアノの基礎」井口太・笠井かほる 朝日出版社</p> <p>「こどものうた200」小林美実・編 チャイルド本社</p> <p>「保育の四季 歌のカレンダー」伊藤嘉子・小川宜子・妹尾美智子・長柄孝彦・早川史郎編 エー・ティ・エヌ</p>

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学生自身が弾き歌い演奏を行い個人レッスンを受けるセクションと、一斉授業にて読譜、声楽などを学ぶセクションに分かれており、いずれもアクティブラーニングの要素を含んでいる。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 保育士研修や子育て応援講座の講師、また演奏家としての経験がある教員が、保育者として音楽をどのように活かすかの指導を行っている科目である。
質問への対応方法	質問には随時音楽棟にて随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	講義とピアノレッスンの受講方法、マナー、評価方法、担当教員の紹介と発表 バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を復習する。4時間の復習を課す。	
2	音価について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を予習する。	
3	付点のリズム ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル44番、「おかえりのうた」を予習する。	
4	音部記号について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名の早読み) バイエル66番、「さようならのうた」を予習する。	
5	音名と階名について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名早読み) バイエル74番、「チューリップ」を予習する。	
6	拍子について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル78番、「とんぼのねがね」を予習する。	
7	中間確認(楽譜の読み方) ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 楽譜の読み方チェック バイエル88番、「たなばたさま」を予習する。	
8	中間確認(弾き歌い) ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル89番、「どんぐりころころ」を予習する。	
9	こどものうたについて ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル90番、「ぶんぶんぶん」を予習する。	
10	発声体操 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「めだかのがっこう」を予習する。	
11	発声練習 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「おもいでアルバム」を予習する。	
12	こどものうた1 ピアノレッスン	コードによる弾き歌い 2時間の予習と2時間復習を課す。 「あわてんぼうのサンタクロース」を予習する。	
13	こどものうた2 ピアノレッスン	伴奏付け 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習する。	
14	こどものうた3 ピアノレッスン	こどもの歌の音域について 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習する。	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	こどものうた4 ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 4時間の予習を課す。 弾き歌いテストリハーサルの予習をする。 。	

開講科目名 Course	音楽演習II / Music Practice II
時間割コード Course Code	50770
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	秋田 郁
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 2 E レッスン室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	秋田 郁 (教育保育学科)
授業の目標	子どもの育ちを音楽で支えるために必要なピアノ演奏技術を修得する。また、生活の歌だけでなく、発表会・運動会・卒園式といった行事に必要な曲、季節の曲の演奏法及び技術を学ぶ。子どもの育ちを音楽で支えるために必要なピアノ演奏技術を修得する。また、生活の歌だけでなく、発表会・運動会・卒園式といった行事に必要な曲、季節の曲の演奏法及び技術を学ぶ。
授業の概要	ピアノの個人レッスンにより、保育に必要な音楽技術・技能を学ぶ。また、伴奏が複雑な曲や、就職試験によく課される季節の歌も多く取り入れ、弾き歌いの技術を学ぶ。
評価方法	授業への参加、課題、発表により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回の授業のうち、6回以上の欠席で失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	適宜指定する。
参考書	『歌のカレンダール』伊藤嘉子・小川宣子・妹尾美智子・長柄孝彦・早川史郎 編 エー・ティー・エヌ 1,800円+税 『保育のためのマーチ・スキップ・ギャロップ・ワルツ・リズム集』 茂田すすむ編著 全音楽譜出版社 2,500円+税
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	毎回の授業で学生が主体的に選曲、練習、発表を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	音楽練習室にて随時対応する。
フィードバックの方法	研究室、メール等で随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	17.パートナーシップで目標を達成しよう

PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	春の歌・マーチを学ぶ	「かめの遠足」等 毎日30分以上の予習復習を課す。	
2	夏の歌・マーチを学ぶ	「南の島のハメハメハ大王」等 毎日30分以上の予習復習を課す。	
3	秋の歌・かけあしの曲を学ぶ1	「まっかな秋」等 毎日30分以上の予習復習を課す。	
4	秋の歌・かけあしの曲を学ぶ2	「きのこ」等 毎日30分以上の予習復習を課す。	
5	冬の歌・スキップの曲を学ぶ	「たきび」等 毎日30分以上の予習復習を課す。	
6	楽器のピアノ伴奏・スキップの曲を学ぶ	「おもちゃのチャチャチャ」等 毎日30分以上の予習復習を課す。	
7	コードによる伴奏・ワルツを学ぶ1	「せかいじゅうのこどもたちが」等 毎日30分以上の予習復習を課す。	
8	コードによる伴奏・ワルツを学ぶ2	「ハッピーチルドレン」等 毎日30分以上の予習復習を課す。	
9	映画の音楽・揺れる曲を学ぶ	「星に願いを」等 毎日30分以上の予習復習を課す。	
10	映画の音楽・動物の動きの曲を学ぶ	「小さな世界」等 毎日30分以上の予習復習を課す。	
11	短調の曲を学ぶ	「うれしいひなまつり」等 毎日30分以上の予習復習を課す。	
12	卒園式の曲・体操の曲を学ぶ1	「1ねんせいになったら」等 毎日30分以上の予習復習を課す。	
13	卒園式の曲・体操の曲を学ぶ2	「ドキドキドン！一年生」等 毎日30分以上の予習復習を課す。	
14	卒園式の曲・わらべうたを学ぶ	「おもいでアルバム」等 毎日30分以上の予習復習を課す。	
15	ふりかえり		

開講科目名 Course	保育実習(保育所)
時間割コード Course Code	50860
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3
主担当教員 Main Instructor	楯 誠
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	楯 誠(教育保育学科)、長江 美津子(教育保育学科)
授業の目標	<p>実際の保育所における体験を通じて、児童福祉施設としての保育所の社会的機能を理解する。また、実習を通して乳幼児の理解を深め、保育士という職務に対する認識を深める。実習において、学内で学んだ知識・技能を実践し、その結果から、これからさらに学習していくべき自分の課題を見つけることも、この実習科目の大きな目標である。</p> <p>この実習を通して、保育所における子どもの生活や、保育士の役割を知ることができる。また、保育に参加することで、これまで身に着けた保育技能を実践する機会が得られるとともに、自らの課題を体験することができる。</p> <p>【知識・理解の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所という場所の機能、およびその現状がおおまかに分かる。</li> <li>・保育所で生活する子どもの姿がおおまかに分かる。</li> <li>・保育所で働く保育士の職務がおおまかに分かる。</li> </ul> <p>【技能の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育環境の整備に主体的に関与することができるようになる。</li> <li>・子どもの発達に応じた保育内容の基礎的事項を記録することができるようになる。</li> <li>・保育士の指示に従って、保育内容の一部を実践できるようになる。</li> </ul> <p>【態度・志向性の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職としての保育士の職務について、積極的に学ぶ姿勢が身につく。</li> </ul>
授業の概要	<p>2週間の期間で、「見学・観察」「参加」「部分」「指導」の各段階の実習を行う。この中には、毎日の「日誌」の記載のほか、「部分案」「日案」の立案など、実習の展開にあわせて取り組まなければならない課題が含まれている。</p> <p>このほか、実習に関する留意事項は、「保育実習指導1」の時間に行うオリエンテーションで詳しく説明する。</p> <p>。この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>実習園が記載した「評価表」(80%)をもとにして、各種提出物(実習日誌、反省会記録など)(20%)を考慮に入れて総合的に判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習指導1の授業で配布された「実習のてびき」に記載された不合格基準に抵触した場合は、単位は認定されない。</li> </ul>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習園に提出した「誓約書」に反する振る舞いをした場合は、途中で実習を打ち切り失格となる。</li> <li>・実習先職員の指導に従わない場合は、失格となる。</li> <li>・遅刻や無断欠勤をしたり、実習態度が不適切と教員や実習先職員が判断した場合には、途中で実習を打ち切り失格とする。</li> </ul>
授業計画	保育所における、「見学・観察」「参加」「部分」「指導」の各段階の実習を行う。
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	保育所での学外実習となる。保育所における保育の観察、参加を行う。また、一部活動の主体担当者として保育士に代わって行う「部分実習」、一日の保育を主体担当者として行う「指導実習」が主な内容となる。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	実習に関する質問(ガイダンス)は、保育実習指導1で受け付ける。実習内容そのものの質問は、各実習園にて尋ねることとする。
フィードバックの方法	実習の結果のフィードバックは保育実習指導1の事後指導を通して行われる。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	保育所実習は1日8時間の保育所内での実習と、最低1時間以上の準備学習(日誌や指導案、教材作成など)が必要となる。2週間の実習では、合計して最低90時間以上の学習を行うことになる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> </ul>
SDGs 17の目標(11~17)	<ul style="list-style-type: none"> <li>12. つくる責任つかう責任</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> <li>17. パートナーシップで目標を達成しよう</li> </ul>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	保育実習(施設) / Practicum in Day Care
時間割コード Course Code	50879
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	関谷 みのぶ
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	関谷 みのぶ(教育保育学科)
授業の目標	<p>1. 児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。</p> <p>2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。</p> <p>3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。</p> <p>4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。</p> <p>5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。</p> <p>具体的には、</p> <p>(1) 実習施設の機能と役割について理解する。</p> <p>(2) 個々の発達特性・障がい特性を知り、それに応じた具体的な支援方法を学ぶ。</p> <p>(3) 地域との連携や家庭への支援方法などの実態を学ぶ。</p> <p>(4) 施設保育士の役割を理解し、職業倫理について学ぶ。</p> <p>ことを目標とする。</p>
授業の概要	<p>この授業科目は、児童福祉施設等の実践現場で行う実習科目である。</p> <p>また、保育士資格取得にかかわる保育士課程の必修科目であり、「保育実習指導1」と連動している。</p> <p>実習の内容は以下の通りである。</p> <p>1. 施設の役割と機能</p> <p>(1) 施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり</p> <p>(2) 施設の役割と機能</p> <p>2. 子どもの理解</p> <p>(1) 子どもの観察とその記録</p> <p>(2) 個々の状態に応じた援助や関わり</p> <p>3. 施設における子どもの生活と環境</p> <p>(1) 計画に基づく活動や援助</p> <p>(2) 子どもの心身の状態に応じた生活と対応</p> <p>(3) 子どもの活動と環境</p> <p>(4) 健康管理、安全対策の理解</p> <p>4. 計画と記録</p> <p>(1) 支援計画の理解と活用</p> <p>(2) 記録に基づく省察・自己評価</p> <p>5. 専門職としての保育士の役割と倫理</p> <p>(1) 保育士の業務内容</p> <p>(2) 職員間の役割分担や連携</p> <p>(3) 保育士の役割と職業倫理</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	1.実習登録手続きに関する状況、2.事前の書類（細菌検査・オリエンテーション報告書など）提出の状況、3.実習中の状況（訪問指導時の状況も含む）、4.実習への参加状況、5.実習先からの実習評価、6.実習日誌提出、事後に必要な書類提出（お礼状・欠席届など）の状況、7.実習日誌の記述内容をもとに総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・実習園に提出した「誓約書」に反する振る舞いをした場合 ・実習先職員の指導に従わない場合 ・遅刻や無断欠勤をしたり、実習態度が不適切と教員や実習先職員が判断した場合を失格、実習中止とする。
授業計画	実習期間及び、その前後において以下のことを行う。 1．現地オリエンテーションの実施及び、必要な準備 2．現地実習 3．お礼状の送付 4．日誌の受け取り
テキスト	使用しない
参考書	「保育実習指導」の時間に紹介する
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	保育所を除く児童福祉施設等における学外実習
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メール等で適宜対応する
フィードバックの方法	訪問指導やメール等で適宜対応する。 実習施設からの評価については、対面にて個別指導を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	実習に伴う実習ノートの記入、適宜必要な時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	9.実践力



開講科目名 Course	保育実習II
時間割コード Course Code	50880
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	楯 誠
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	楯 誠(教育保育学科)、長江 美津子(教育保育学科)
授業の目標	<p>この実習科目は、保育士資格取得のための選択必修科目としての保育所実習(2単位)である。したがって、資格必修の「保育実習(保育所)」を終了した後に、さらに発展的に課題の解決に取り組む実習科目である。</p> <p>「保育実習(保育所)」の経験をふまえ、乳幼児の理解、保育士の職務に対する理解をよりいっそう深めることが目標である。特に、子育て支援に関わる保育士の職務と実際を学ぶ。</p> <p>この実習を通して、保育実習(保育所)を通して得た知識や技能のの確認と発展をすることができる。また、保育実習(保育所)における課題に対するこれまでの学習の成果を明らかにすることができる。</p> <p><b>【知識・理解の領域】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所の機能について、特に地域・子育て支援との関連を理解することができる。</li> <li>・保育所で生活する子どもの個性をとらえ、それぞれのニーズを理解することができる。</li> <li>・保育者の職務を、保育所機能や子どものニーズと関連付けで理解することができる。</li> </ul> <p><b>【技能の領域】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達段階やニーズに応じた適切な働きかけがとれるようになる。</li> <li>・保育士の指導の下、指導案を立案、実践、振り返りを行うことができるようになる。</li> </ul> <p><b>【態度・志向性の領域】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習(保育所)の課題を、解決に向けて取り組む姿勢が身につく。</li> <li>・保育者としての新たな課題を見出し、さらなる学習につなげていく態度が身につく。</li> </ul>
授業の概要	<p>2週間の期間で、「見学・観察」「参加」「部分」「指導」の各段階の実習を行うが、「保育実習(保育所)」と比べて、「部分」「指導」の各段階を多く取り入れて行う。必修の実習と同じように、この中には、毎日の「日誌」の記載のほかに、「部分案」「日案」など、実習の展開にあわせて取り組まなければならない課題が含まれている。</p> <p>事前訪問の際の指導にしたいが、各実習園における服務規程を守って、指導担当者の助言のもとに意欲的に実習に臨まなければならない。</p> <p>このほか、実習に関することは、「保育実習指導2」の時間に行うオリエンテーションで詳しく説明する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>実習園が記載した「評価表」(80%)をもとにして、各種提出物(実習日誌など)(20%)を考慮に入れて総合的に判断する。</p> <p>保育実習指導1および2の授業で配布された「実習のてびき」に記載された不合格基準に抵触した場合は、単位は認定されない。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習園に提出した「誓約書」に反する振る舞いをした場合は、途中で実習を打ち切り失格となる。</li> <li>・実習先職員の指導に従わない場合は、途中で実習を打ち切り失格となる。</li> <li>・遅刻や無断欠勤をしたり、実習態度が不適切と教員や実習先職員が判断した場合には、途中で実習を打ち切り失格とする。</li> </ul>
授業計画	保育所における、「見学・観察」「参加」「部分」「指導」の各段階の実習を行う。保育実習(保育所)と比較して、よりレベルの高い態度、理解、実践、反省が求められる。
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	保育所での学外実習となる。保育所における保育の観察、参加を行う。また、一部活動の主体担当者として保育士に代わって行う「部分実習」、一日の保育を主体担当者として行う「指導実習」が主な内容となる。保育実習2では、保育実習(保育所)と比べて「部分実習」「指導実習」の占める割合が増加する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	実習に関する質問(ガイダンス)は、保育実習指導2で受け付ける。実習内容そのものの質問は、各実習園にて尋ねることとする。
フィードバックの方法	保育実習指導2における事後指導において、結果のフィードバックは行われる。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	保育所実習は1日8時間の保育所内での実習と、最低1時間以上の準備学習(日誌や指導案、教材作成など)が必要となる。2週間の実習では、合計して最低90時間以上の学習を行うことになる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> </ul>
SDGs 17の目標(11~17)	<ul style="list-style-type: none"> <li>12. つくる責任つかう責任</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> <li>17. パートナースhipで目標を達成しよう</li> </ul>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	保育実習指導 I (年)24前-25前
時間割コード Course Code	50902
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	年度またがり / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3
主担当教員 Main Instructor	楯 誠
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	関谷 みのぶ(教育保育学科)、楯 誠(教育保育学科)、長江 美津子(教育保育学科)
授業の目標	<p>この授業は「保育実習(保育所)」および「保育実習(施設)」を履修する学生への事前事後指導を行うものである。この授業を通して、保育実習を行うにあたっての実習生としての姿勢・態度、実習参加における基本的な視点、日誌や指導案の書き方(形式)の基礎を身に着けることができる。また、実習後の反省会や個別指導を通して保育士としての自己の課題を明確にしていけるようにする。</p> <p>【知識・理解の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所をはじめとする様々な児童福祉施設の意義や活動(保育)内容、そこでの保育士の役割を知ることができる。</li> <li>・実習日誌の基本的な形式を理解するとともに、具体的な内容表現などを知ることができる。また、指導案における「ねらい」の基本的な意味を知り、実際の活動とのつながりを理解できるようになる。</li> </ul> <p>【技能の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下級生への保育技能の指導を通して、自らの技能向上につなげていくことができる。</li> <li>・保育内容関連の担当の指導により、保育技能のチェックができる。</li> </ul> <p>【態度・指向性の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・留意事項の確認を通して、実習生としての基本的な心構えを身に着けることができる。</li> <li>・実習後の振り返り、施設からの評価によって自らの保育士として課題に気づくことができる。</li> </ul>
授業の概要	<p>1 学外実習(保育所といわゆる施設)4単位を取得するための事前のオリエンテーションを行ない、保育実習の意義と目的、実習の際の留意事項、実習日誌・指導案の書き方などを理解する。なお、施設実習については、オリエンテーションの中で実習施設を選択・決定する。また、現職の保育士や施設職員を招いて講演会(特別講義)を開催し、日頃の疑問などについて意見交換を行う。</p> <p>2 保育内容関連の担当による保育技能のブラッシュアップを行う。また、下級生への保育技能の指導を行い、自己の保育技能の確認を行う。</p> <p>3 実習終了後に全体反省会もしくはゼミ別反省会を開いて、実習の成果と課題を共有するとともに、個別指導を通して個人的な評価・反省を行い、選択必修の実習に向けての新たな目標設定をおこなう。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	授業への参加態度（50％）、課題の提出（50％）などを総合的に勘案して評価する。 また、この科目は保育実習（保育所）および保育実習（施設）と連動したもののため、2つの実習科目両方の単位認定が認められたのちに、単位認定される。 出席確認後、授業開始時刻より20分以内の授業参加は遅刻とする（1限の場合は、9時50分まで）。それ以降の参加は欠席とする。遅刻した学生は、当日の主担当以外の教員に時間内に申し出ること。 2回の遅刻をもって1回の欠席とする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	学外実習では出欠（遅刻を含む）の有無、および期限内での課題提出についてきわめて厳格であるため、この授業においても、それに準じて厳格に出欠を取ること、課題提出の期限の遵守を基本方針とする。 ・保育実習（保育所）の事前事後指導で4回以上の欠席があった場合、失格とする。 ・保育実習（施設）の事前事後指導で4回以上の欠席があった場合、失格とする。 ・課題について期限までに提出がない場合は失格とする。

## 授業計画

第1回～第15回は2年次前期、第16回～第30回は3年次前期に開講する。  
また、事後の指導については、学外実習の時期、事後指導に要する書類の準備に応じて別途設定する場合もある。

第1回 保育実習の概要、授業オリエンテーション  
すべての回において、事前に配布された資料の予習に1時間程度、授業後に、ガイダンス事項の確認・振り返りに1時間程度の学習を課す。その他、別途課される課題や学外実習のための資料収集、制作、立案に2～4時間程度を課す。

第2回 保育実習(保育所)の基本的留意事項(実習の目的、内容、心構え)について

第3回 保育所の概要と保育士の役割1(乳児の保育について)  
乳幼児の発達についての復習ワークシート課題を課す。

第4回 保育所の概要と保育士の役割2(障害児の保育について)  
障害児保育に関する復習ワークシート課題を課す。

第5回 保育所の概要と保育士の役割3(一日の生活、食と栄養の場面から)  
実習時の観察の視点に着目した復習ワークシートを課す。

第6回 事前の手続きガイダンス(事前訪問、提出書類、訪問教員、特別欠席届など)、実習目標設定について  
実習目標設定に関する課題を課す。

第7回  
・実習中(出勤簿、欠席など)事後(日誌、お礼状など)の手続きガイダンス、評価について  
・実習目標設定に関する課題についてのフィードバック、改善について  
実習目標の改善に関する課題を課す。

第8回 保育実習(保育所)における実習日誌の扱いとその形式、内容について  
実習日誌に関する課題(資料の確認、書き写しなど)を課す。

第9回 保育実習(保育所)における指導案の形式と内容について  
指導案に関する課題(資料の確認、書き写し、参考となる指導案の収集など)を課す。  
部分指導案作成を課す。

第10回-11回 保育技能のブラッシュアップ  
(手遊び、絵本の読み聞かせ、紙芝居といった保育技能を発表し、グループ内での批評、フィードバックの実施)  
これらの保育技能の調査、事前習得のための学習を課す。また、フィードバックをもとにした振り返りを課す。

第12回 実習における不測の事態への対応のガイダンス(事故、自然災害等)、保育実習(保育所)直前の確認

第13回 保育実習(保育所)ゼミ別反省会  
事後指導のための「自己反省シート」作成のために2時間、実習日誌および指導案の実習園からの指導箇所を確認・抽出のためのワークシート作成のために2時間の授業外の学習を課す。

第14回  
・保育実習(保育所)振り返り  
・「保育実習(施設)」および「保育実習?・?」履修に向けてのガイダンス

第15回 保育実習(保育所)個別事後指導

第16回 保育実習(施設)ガイダンス、施設配分

第17回 保育実習(施設)の基本的留意事項(実習の目的、内容、心構え)について

第18回 保育実習(施設)の事前・実習中・事後の手続き、実習目標設定について  
実習目標設定に関する課題を課す。

第19回 乳児院の概要と保育士の役割  
予習: 児童福祉法、児童福祉施設に関する設備及び運営に関する基準の復習を課す。  
復習: 乳児院で勤務する保育士の役割についての振り返りを課す。

第20回 児童養護施設の概要と保育士の役割  
予習: 児童福祉法、児童福祉施設に関する設備及び運営に関する基準の復習を課す。  
復習: 児童福祉施設で勤務する保育士の役割についての振り返りを課す。

第21回 障害児・者施設の概要と保育士の役割  
予習: 児童福祉法、児童福祉施設に関する設備及び運営に関する基準の復習を課す。  
復習: 障害児・者施設で勤務する保育士の役割についての振り返りを課す。

第22回 その他の児童福祉施設(保育所を除く)の概要と保育士の役割  
予習: 児童福祉法、児童福祉施設に関する設備及び運営に関する基準の復習を課す。  
復習: 各自の実習課題に関する振り返りを課す。

第23回 保育実習(施設)における実習日誌の扱いとその形式、内容  
日誌の書き方について、振り返りを課す。

第24回 施設実習に向けて施設別ワーク(実習施設の理解を深める)

第25回 施設実習に向けて先輩による講演  
先輩講師による講演の感想と目標の再設定のため課題を課す。

第26回 施設実習に向けて施設別ワーク、課題の明確化  
各自の実習課題の完成(書類記入)を課す。

第27回 保育実習(施設)直前の確認

	<p>第28回 保育実習（施設）施設別反省会 事後指導のための「自己反省シート」「エピソード記録」作成を課す。 第29回 保育実習（施設）振り返り、「保育実習?・?」に向けてのガイダンス 第30回 保育実習（施設）個別事後指導</p>
テキスト	
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『保育福祉小六法2022年版』みらい</li> <li>・愛知県保育実習連絡協議会「福祉施設実習」編集委員会編『保育士をめざす人の福祉施設実習』（第2版）、みらい、1,900円</li> <li>・新川泰弘・渡邊慶一・山川宏和 編著『施設実習必携ハンドブッカーおさえたいポイントと使える専門用語解説』、晃洋書房（価格未定）</li> </ul>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	模擬保育や事例検討を行う
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	保育士経験のある教員が担当者に含まれる
質問への対応方法	授業内容の質問に関しては、主に授業後に対応するが、別の時間でも受け付ける。
フィードバックの方法	確認課題（書き写し等）については、特に返却はしない。自己反省シートについては、事後指導にてフィードバックする（再回収も行う）。施設実習に関するワークシートについては、実習前までに返却をする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業計画を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	9.実践力

開講科目名 Course	保育実習指導 I (通)
時間割コード Course Code	50903
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	関谷 みのぶ
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	関谷 みのぶ (教育保育学科)、楯 誠 (教育保育学科)、長江 美津子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>この授業は「保育実習(保育所)」および「保育実習(施設)」を履修する学生への事前事後指導を行うものである。この授業を通して、保育実習を行うにあたっての実習生としての姿勢・態度、実習参加における基本的な視点、日誌や指導案の書き方(形式)の基礎を身に付けることができる。また、実習後の反省会や個別指導を通して保育士としての自己の課題を明確にしていけるようにする。</p> <p>【知識・理解の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所をはじめとする様々な児童福祉施設の意義や活動(保育)内容、そこでの保育士の役割を知ることができる。</li> <li>・実習日誌の基本的な形式を理解するとともに、具体的な内容表現などを知ることができる。また、指導案における「ねらい」の基本的な意味を知り、実際の活動とのつながりを理解できるようになる。</li> </ul> <p>【技能の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下級生への保育技能の指導を通して、自らの技能向上につなげていくことができる。</li> <li>・保育内容関連の担当の指導により、保育技能のチェックができる。</li> </ul> <p>【態度・指向性の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・留意事項の確認を通して、実習生としての基本的な心構えを身に付けることができる。</li> <li>・実習後の振り返り、施設からの評価によって自らの保育士として課題に気づくことができる。</li> </ul>
授業の概要	<p>1 学外実習(保育所といわゆる施設)4単位を取得するための事前のオリエンテーションを行ない、保育実習の意義と目的、実習の際の留意事項、実習日誌・指導案の書き方などを理解する。なお、施設実習については、オリエンテーションの中で実習施設を選択・決定する。また、現職の保育士や施設職員を招いて講演会(特別講義)を開催し、日頃の疑問などについて意見交換を行う。</p> <p>2 保育内容関連の担当による保育技能のブラッシュアップを行う。また、下級生への保育技能の指導を行い、自己の保育技能の確認を行う。</p> <p>3 実習終了後に全体反省会もしくはゼミ別反省会を開いて、実習の成果と課題を共有するとともに、個別指導を通して個人的な評価・反省を行い、選択必修の実習に向けての新たな目標設定をおこなう。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	授業への参加態度（50％）、課題の提出（50％）などを総合的に勘案して評価する。 また、この科目は保育実習（保育所）および保育実習（施設）と連動したもののため、2つの実習科目両方の単位認定が認められたのちに、単位認定される。 出席確認後、授業開始時刻より20分以内の授業参加は遅刻とする（1限の場合は、9時50分まで）。それ以降の参加は欠席とする。遅刻した学生は、当日の主担当以外の教員に時間内に申し出ること。 2回の遅刻をもって1回の欠席とする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	学外実習では出欠（遅刻を含む）の有無、および期限内での課題提出についてきわめて厳格であるため、この授業においても、それに準じて厳格に出欠を取ること、課題提出の期限の遵守を基本方針とする。 ・保育実習（保育所）の事前事後指導で4回以上の欠席があった場合、失格とする。 ・保育実習（施設）の事前事後指導で4回以上の欠席があった場合、失格とする。 ・課題について期限までに提出がない場合は失格とする。



## 授業計画

事後の指導については、学外実習の時期、事後指導に要する書類の準備に応じて別途設定する場合があります。

## 第1回 保育実習の概要、授業オリエンテーション

すべての回において、事前に配布された資料の予習に1時間程度、授業後に、ガイダンス事項の確認・振り返りに1時間程度の学習を課す。その他、別途課される課題や学外実習のための資料収集、制作、立案に2～4時間程度を課す。

第2回 保育実習(保育所)の基本的留意事項(実習の目的、内容、心構え)について

第3回 保育所の概要と保育士の役割1(乳児の保育について)

乳幼児の発達についての復習ワークシート課題を課す。

第4回 保育所の概要と保育士の役割2(障害児の保育について)

障害児保育に関する復習ワークシート課題を課す。

第5回 保育所の概要と保育士の役割3(一日の生活、食と栄養の場面から)

実習時の観察の視点に着目した復習ワークシートを課す。

第6回 事前の手続きガイダンス(事前訪問、提出書類、訪問教員、特別欠席届など)、実習目標設定について

実習目標設定に関する課題を課す。

第7回

・実習中(出勤簿、欠席など)事後(日誌、お礼状など)の手続きガイダンス、評価について

・実習目標設定に関する課題についてのフィードバック、改善について

実習目標の改善に関する課題を課す。

第8回 保育実習(保育所)における実習日誌の扱いとその形式、内容について

実習日誌に関する課題(資料の確認、書き写しなど)を課す。

第9回 保育実習(保育所)における指導案の形式と内容について

指導案に関する課題(資料の確認、書き写し、参考となる指導案の収集など)を課す。

部分指導案作成を課す。

第10回-11回 保育技能のブラッシュアップ

(手遊び、絵本の読み聞かせ、紙芝居といった保育技能を発表し、グループ内での批評、フィードバックの実施)

これらの保育技能の調査、事前習得のための学習を課す。また、フィードバックをもとにした振り返りを課す。

第12回 実習における不測の事態への対応のガイダンス(事故、自然災害等)、保育実習(保育所)直前の確認

第13回 保育実習(保育所)ゼミ別反省会

事後指導のための「自己反省シート」作成のために2時間、実習日誌および指導案の実習園からの指導箇所の確認・抽出のためのワークシート作成のために2時間の授業外の学習を課す。

第14回

・保育実習(保育所)振り返り

・「保育実習(施設)」および「保育実習?・?」履修に向けてのガイダンス

第15回 保育実習(保育所)個別事後指導

第16回 保育実習(施設)ガイダンス、施設配分

第17回 保育実習(施設)の基本的留意事項(実習の目的、内容、心構え)について

第18回 保育実習(施設)の事前・実習中・事後の手続き、実習目標設定について

実習目標設定に関する課題を課す。

第19回 乳児院の概要と保育士の役割

予習: 児童福祉法、児童福祉施設に関する設備及び運営に関する基準の復習を課す。

復習: 乳児院で勤務する保育士の役割についての振り返りを課す。

第20回 児童養護施設の概要と保育士の役割

予習: 児童福祉法、児童福祉施設に関する設備及び運営に関する基準の復習を課す。

復習: 児童福祉施設で勤務する保育士の役割についての振り返りを課す。

第21回 障害児・者施設の概要と保育士の役割

予習: 児童福祉法、児童福祉施設に関する設備及び運営に関する基準の復習を課す。

復習: 障害児・者施設で勤務する保育士の役割についての振り返りを課す。

第22回 その他の児童福祉施設(保育所を除く)の概要と保育士の役割

予習: 児童福祉法、児童福祉施設に関する設備及び運営に関する基準の復習を課す。

復習: 各自の実習課題に関する振り返りを課す。

第23回 保育実習(施設)における実習日誌の扱いとその形式、内容

日誌の書き方について、振り返りを課す。

第24回 施設実習に向けて施設別ワーク(実習施設の理解を深める)

第25回 施設実習に向けて先輩による講演

先輩講師による講演の感想と目標の再設定のため課題を課す。

第26回 施設実習に向けて施設別ワーク、課題の明確化

各自の実習課題の完成(書類記入)を課す。

第27回 保育実習(施設)直前の確認

第28回 保育実習(施設)施設別反省会

	事後指導のための「自己反省シート」「エピソード記録」作成を課す。 第29回 保育実習（施設）振り返り、「保育実習?・?」に向けてのガイダンス 第30回 保育実習（施設）個別事後指導
テキスト	
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『保育福祉小六法2023年版』みらい</li> <li>・愛知県保育実習連絡協議会「福祉施設実習」編集委員会編『保育士をめざす人の福祉施設実習』（第2版）、みらい、1,900円</li> <li>・新川泰弘・渡邊慶一・山川宏和 編著『施設実習必携ハンドブッカーおさえたいポイントと使える専門用語解説』、晃洋書房（価格未定）</li> </ul>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	模擬保育や事例検討を行う
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	保育士経験のある教員が担当者に含まれる
質問への対応方法	授業内容の質問に関しては、主に授業後に対応するが、別の時間でも受け付ける。
フィードバックの方法	確認課題（書き写し等）については、特に返却はしない。自己反省シートについては、事後指導にてフィードバックする（再回収も行う）。施設実習に関するワークシートについては、実習前までに返却をする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業計画を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	9.実践力

開講科目名 Course	保育実習指導II
時間割コード Course Code	50905
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	楯 誠
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	関谷 みのぶ(教育保育学科)、楯 誠(教育保育学科)、堀 美鈴(教育保育学科)、長江 美津子(教育保育学科)
授業の目標	<p>この授業は「保育実習II」を履修する学生への事前事後指導を行うものである。この授業を通して、学生が「保育実習(保育所)」を通して得た知見や反省を元に、より意識の高い保育所での保育実践を行えるようになる。また、「保育実習II」を通して新たに獲得した視点や問題意識を整理するとともに、学生間で共有し、保育士という進路について深く考察できるようにしていく。</p> <p>【知識・理解の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事例の検討、ディスカッションを通して、保育活動に対するより深い知識を得るとともに、様々な視点を学生間で共有できる。</li> </ul> <p>【技能の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指導案作成の技能の向上と、保育内容のレパトリーを増やすことができる。</li> </ul> <p>【態度・志向性の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育実習(保育所)の振り返りと自らの課題の明確化を通して、保育実習IIに向けての学習意欲が高まる。</li> <li>保育実習IIの反省を踏まえ、自らの学習方法や学習内容の妥当性を検証する態度が身につく。</li> <li>保育実習IIの経験を踏まえ、保育者としての進路について深く考察する姿勢が身につく。</li> </ul>
授業の概要	<p>授業の概要 1. 学外実習を実施するための事前のオリエンテーションを行ない、実習の意義と目的、実習の際の留意事項、実習日誌・指導案の書き方などの確認を行う。また、保育技能のさらなる向上を目指したワークショップを行う。保育実習IIが最後の学外実習となる学生も多いため、保育実習(保育所)以上の問題意識や目標をもった実習を行えるように指導していく。</p> <p>2. 実習終了後に実習反省会(グループディスカッション)を行い、資格取得までにさらに研鑽すべき課題を明らかにする。全体反省会もしくはゼミ別反省会を開いて、実習の成果と課題を共有するとともに、個別指導を通して個人的な評価・反省を行う。</p> <p>3. 模擬保育を実施し、グループでの保育の計画及び実践、振り返りを行う。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業への参加態度(50%)、課題の提出(50%)などを総合的に勘案して評価する。課題は総じて、後の授業回の資料となるとため、該当する回で返却・使用される(また、再回収する場合もある)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出席確認後、授業開始時刻より20分以内の授業参加は遅刻とする(1限の場合は、9時50分まで)。</li> <li>それ以降の参加は欠席とする。遅刻した学生は、当日の主担当以外の教員に時間内に申し出ること。</li> <li>2回の遅刻をもって1回の欠席とする。</li> </ul>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>学外実習では出欠（遅刻を含む）の有無についてきわめて厳格であるため、この授業においても、それに準じて厳格に出欠を取ることを基本方針とする。</p> <p>従って、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習前の欠席が3回以上となった場合は、失格とする。</li> <li>・実習後の欠席が3回以上となった場合は、失格とする。</li> <li>・課題について、期日までの提出がない場合は失格とする。</li> </ul>
授業計画	<p>1回 保育実習（保育所）の振り返り 自己の課題の明確化、実習目標の設定</p> <p>2回 保育技能ワークショップ（1） ペープサート ペープサートを作成し、それをういた実践を行う。 事前に配布された資料の予習（事前準備）を1時間、授業内容の復習および課題のための学習を2時間課す。</p> <p>3回 保育技能ワークショップ（2） 製作遊び 製作遊びの実践を行う。 事前に配布された資料の予習（事前準備）を1時間、授業内容の復習および課題のための学習を2時間課す。</p> <p>4回 保育技能ワークショップ（3） 室内遊び 室内遊びの実践を行う。 事前に配布された資料の予習（事前準備）を1時間、授業内容の復習および課題のための学習を2時間課す。</p> <p>5回 保育技能ワークショップ（4） 室外遊び 室外遊びの実践を行う。 事前に配布された資料の予習（事前準備）を1時間、授業内容の復習および課題のための学習を2時間課す。</p> <p>6回 保育技能ワークショップ（5） 指導案作成 指導案作成の実践を行う。 事前に配布された資料の予習（事前準備）を1時間、授業内容の復習および課題のための学習を2時間課す。</p> <p>7回 実習前オリエンテーション 実習前の事務手続き、必要書類、不測の事態への確認を行う。 事前に配布された資料の予習2時間を課す。</p> <p>8回 グループ別反省会 グループ別反省会を実施する。 事後指導に必要となる「自己反省シート」作成のため、授業後2時間の学習を課す。</p> <p>9回 事例検討 実習で体験したエピソードをもとに、事例検討を個別およびグループで行う。 事例検討用エピソード」作成のために、事前に2時間の学習を課す。</p> <p>10回 模擬保育準備（1）テーマ決定 小グループに分かれ、それぞれのテーマ（クリスマス会、お正月遊び）にそった指導案作成、教材準備、保育実践のリハーサルを行う。 それぞれの時間について、授業外の学習時間として3時間を課す。</p> <p>11回 模擬保育準備（2）教材準備 小グループに分かれ、それぞれのテーマ（クリスマス会、お正月遊び）にそった指導案作成、教材準備、保育実践のリハーサルを行う。 それぞれの時間について、授業外の学習時間として3時間を課す。</p> <p>12回 模擬保育準備（3）実践リハーサル 小グループに分かれ、それぞれのテーマ（クリスマス会、お正月遊び）にそった指導案作成、教材準備、保育実践のリハーサルを行う。 それぞれの時間について、授業外の学習時間として3時間を課す。</p> <p>13回 模擬保育（1）クリスマス会 模擬保育を小グループごとに行う。</p> <p>14回 模擬保育（2）お正月遊び会 模擬保育を小グループごとに行う。</p> <p>15回 保育実習IIの全体総括、まとめ 保育実習 および保育実習指導 の全体のまとめを行う。</p> <p>なお、これ以外に実習事後指導を個別指導で実施する。</p>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	模擬保育や事例検討を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	保育士経験のある教員が担当者に含まれる。
質問への対応方法	授業内容の質問に関しては、主に授業後に対応するが、別の時間でも受け付ける。
フィードバックの方法	希望する学生に個別に対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>1. 貧困をなくそう</p> <p>10. 人や国の不平等をなくそう</p> <p>3. すべての人に健康と福祉を</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>8. 働きがいも経済成長も</p>

SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	9.実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	保育実習(保育所)の振り返り	自己の課題の明確化、実習目標の設定	
2	保育技能ワークショップ(1) ペーパーサート	ペーパーサートを作成し、それをを用いた実践を行う。 事前に配布された資料の予習(事前準備)を1時間、授業内容の復習および課題のための学習を2時間課す。	
3	保育技能ワークショップ(2) 製作遊び	製作遊びの実践を行う。 事前に配布された資料の予習(事前準備)を1時間、授業内容の復習および課題のための学習を2時間課す。	
4	保育技能ワークショップ(3) 室内遊び	室内遊びの実践を行う。 事前に配布された資料の予習(事前準備)を1時間、授業内容の復習および課題のための学習を2時間課す。	
5	保育技能ワークショップ(4) 室外遊び	室外遊びの実践を行う。 事前に配布された資料の予習(事前準備)を1時間、授業内容の復習および課題のための学習を2時間課す。	
6	保育技能ワークショップ(5) 指導案作成	指導案作成の実践を行う。 事前に配布された資料の予習(事前準備)を1時間、授業内容の復習および課題のための学習を2時間課す。	
7	実習前オリエンテーション	実習前の事務手続き、必要書類、不測の事態への確認を行う。 事前に配布された資料の予習2時間を課す。	
8	グループ別反省会	グループ別反省会を実施する。 事後指導に必要となる「自己反省シート」作成のため、授業後2時間の学習を課す。	
9	事例検討	実習で体験したエピソードをもとに、事例検討を個別およびグループで行う。 事例検討用エピソード」作成のために、事前に2時間の学習を課す。	
10	模擬保育準備(1) テーマ決定	小グループに分かれ、それぞれのテーマ(クリスマス会、お正月遊び)にそった指導案作成、教材準備、保育実践のリハーサルを行う。 それぞれの時間について、授業外の学習時間として3時間を課す。	
11	模擬保育準備(2) 教材準備	小グループに分かれ、それぞれのテーマ(クリスマス会、お正月遊び)にそった指導案作成、教材準備、保育実践のリハーサルを行う。 それぞれの時間について、授業外の学習時間として3時間を課す。	
12	模擬保育準備(3) 実践リハーサル	小グループに分かれ、それぞれのテーマ(クリスマス会、お正月遊び)にそった指導案作成、教材準備、保育実践のリハーサルを行う。 それぞれの時間について、授業外の学習時間として3時間を課す。	
13	模擬保育(1) クリスマス会	模擬保育を小グループごとに行う。	
14	模擬保育(2) お正月遊び会	模擬保育を小グループごとに行う。	
15	保育実習IIの全体総括、まとめ	保育実習 および保育実習指導 の全体のまとめを行う。	

開講科目名 Course	実習基礎I
時間割コード Course Code	50909
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	多川 則子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	多川 則子 (教育保育学科)、東岡 博 (教育保育学科)、早川 健太郎 (教育保育学科)
授業の目標	<p>本科目の単位修得がすべての本実習に出るための基礎要件となる。6月初旬に、保育者(幼稚園教諭・保育士)か小学校教諭のいずれを目指すかの進路選択を行う。</p> <p>保育者・小学校教員の仕事や対象となる子どもについて知り、進路選択に従って、一人ひとりが保育者・小学校教員になるという自覚を持ち、将来へのビジョンを形成する。同時に、自分自身がどのような資質・能力を持つべきかに気づき、それらの獲得に向けた学びを進める。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者・小学校教員のそれぞれの仕事について概要を知る。仕事内容、先生の様子、対象となる子どもの様子について知る。(特に進路選択前)</li> <li>・就学前の保育と小学校教育の共通の要素(基盤になる部分) に気づく。子どもの発達年齢を考えることの重要性、子どもの成長や発達は連続的であること、本学科の教育理念であるエデュケアの考えの重要性、子どもの意欲・関心を引き出すことの重要性等。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの育ちを支援することのすばらしさやおもしろさを実感する。</li> <li>・現場の見学や体験を通して、マナーや学びの姿勢を身につける。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者・小学校教員として必要な資質・能力に気づき、それらの獲得に向けた学びを進める。</li> </ul>
授業の概要	<p>進路選択までは、保育者・小学校教員の仕事について概要を理解するためのプログラムを中心に実施する。進路選択後は、それぞれの保育・教育現場の見学や体験、実践的なプログラムを通して、保育者・小学校教員に必要な資質・能力の獲得や実践力育成につなげる。同時に、保育者・教育者として、あるいは、実習生としての学び続ける姿勢やマナーを学ぶ。</p> <p>なお、保育・教育現場の見学や体験は原則、授業時間外に実施し、夏休みに実施する場合もある(事前ガイダンスは実習基礎にて行う)。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HP のナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	<p>単位修得の要件</p> <p>1テーマ毎にある一般課題（毎回必ずあるわけではない）をすべて合格すること。</p> <p>2学期末に出す最終課題に合格すること。最後の授業で指示する。</p> <p>3授業への出席が10回以上あること。メロス上の出欠記録の「○」が10回以上あることとする。</p> <p>なお、保育・教育関連施設での見学や体験が実施された場合は、原則、それらに参加し、課題に合格することも含まれる。</p> <p>課題評価の観点</p> <p>1)自主的・意欲的に学習に取り組んでいるかどうか</p> <p>2)学習の目的を理解し、取り組んでいるかどうか</p> <p>3)保育者・教育者の役割について理解したうえで適切な自己評価ができているかどうか。</p> <p>成績標語について G(合格)/S(不合格)での評価となる。</p> <p>本科目では、授業外に実施する保育・教育に関する施設の見学や体験を含め、すべての課題をクリアすることが単位修得の要件である。不備がある場合は課題の再提出や補充課題等を課す場合もある。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	保育者・教育者としての適格性を欠く態度や行動が見られた場合は失格とする。
授業計画	<p>第1回 前期オリエンテーション</p> <p>第2回 仕事DVD（児童養護施設の動画含む）</p> <p>授業時間外 『附属幼稚園体験』</p> <p>第3回 幼稚園体験振り返り</p> <p>第4回 小学校の先生のビデオ講話</p> <p>第5回 現職保育士のお話</p> <p>第6回 コース選択調査ガイダンス</p> <p>第7回 自己紹介課題 ガイダンス</p> <p>第8回 自己紹介課題 発表</p> <p>第9回 絵本講話と実践練習</p> <p>第10回 保育所体験ガイダンス1</p> <p>第11回 保育所体験ガイダンス2、実習服装チェック・名札発表</p> <p>授業時間外 『保育所体験』</p> <p>第12回 保育所体験振り返り1</p> <p>第13回 保育所体験振り返り2（日誌風課題）</p> <p>第14回 手作りおもちゃ発表会</p> <p>第15回 期末課題、授業評価アンケート</p> <p>授業時間外 『小学校見学（希望学生）』</p>
テキスト	
参考書	「学びつづける保育者を目指す実習の本 保育所・施設・幼稚園」久富陽子編著 萌文書林 2014年 「よくわかるNew保育・教育実習テキスト 改訂第3版」無藤 隆（監修）診断と治療社 2017年
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループ単位のディスカッション、グループ毎（全体）に発表。 保育現場・小学校現場への見学や体験実習。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	現場と連携した授業内容（現場への見学、現場での体験実習、講話など）
質問への対応方法	<p>随時対応</p> <p>メール対応</p> <p>多川則子 tagawa@nagoya-ku.ac.jp</p> <p>早川健太郎 hayakawa-k@nagoya-ku.ac.jp</p> <p>東岡博 higashioka-h@nagoya-ku.ac.jp</p>
フィードバックの方法	適宜、各課題の振り返りを実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>幼稚園、保育所、小学校への見学や体験実習(8時間)</p> <p>見学や体験の準備と課題実施(15時間)</p> <p>一般課題と最終課題の実施(22時間)、授業の復習(15時間)</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力



PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>
----------------	---

開講科目名 Course	実習基礎 / Basics for Practicum
時間割コード Course Code	50910
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	多川 則子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	多川 則子 (教育保育学科)、東岡 博 (教育保育学科)、早川 健太郎 (教育保育学科)
授業の目標	<p>本科目の単位修得がすべての本実習に出るための基礎要件となる。6月初旬に、保育者(幼稚園教諭・保育士)か小学校教諭のいずれを目指すかの進路選択を行う。</p> <p>保育者・小学校教員の仕事や対象となる子どもについて知り、進路選択に従って、一人ひとりが保育者・小学校教員になるという自覚を持ち、将来へのビジョンを形成する。同時に、自分自身がどのような資質・能力を持つべきかに気づき、それらの獲得に向けた学びを進める。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者・小学校教員のそれぞれの仕事について概要を知る。仕事内容、先生の様子、対象となる子どもの様子について知る。(特に進路選択前)</li> <li>・就学前の保育と小学校教育の共通の要素(基盤になる部分) に気づく。子どもの発達年齢を考えることの重要性、子どもの成長や発達は連続的であること、本学科の教育理念であるエデュケアの考えの重要性、子どもの意欲・関心を引き出すことの重要性等。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの育ちを支援することのすばらしさやおもしろさを実感する。</li> <li>・現場の見学や体験を通して、マナーや学びの姿勢を身につける。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者・小学校教員として必要な資質・能力に気づき、それらの獲得に向けた学びを進める。</li> </ul>
授業の概要	<p>進路選択までは、保育者・小学校教員の仕事について概要を理解するためのプログラムを中心に実施する。進路選択後は、それぞれの保育・教育現場の見学や体験、実践的なプログラムを通して、保育者・小学校教員に必要な資質・能力の獲得や実践力育成につなげる。同時に、保育者・教育者として、あるいは、実習生としての学び続ける姿勢やマナーを学ぶ。</p> <p>なお、保育・教育現場の見学や体験は原則、授業時間外に実施し、夏休みに実施する場合もある(事前ガイダンスは実習基礎にて行う)。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HP のナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	<p>単位修得の要件</p> <p>1テーマ毎にある一般課題（毎回必ずあるわけではない）をすべて合格すること。</p> <p>2学期末に出す最終課題に合格すること。最後の授業で指示する。</p> <p>3授業への出席が10回以上あること。メロス上の出欠記録の「○」が10回以上あることとする。</p> <p>なお、保育・教育関連施設での見学や体験が実施された場合は、原則、それらに参加し、課題に合格することも含まれる。</p> <p>課題評価の観点</p> <p>1) 自主的・意欲的に学習に取り組んでいるかどうか</p> <p>2) 学習の目的を理解し、取り組んでいるかどうか</p> <p>3) 保育者・教育者の役割について理解したうえで適切な自己評価ができているかどうか。</p> <p>成績標語について G（合格）/S（不合格）での評価となる。</p> <p>本科目では、授業外に実施する保育・教育に関する施設の見学や体験を含め、すべての課題をクリアすることが単位修得の要件である。不備がある場合は課題の再提出や補充課題等を課す場合もある。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	保育者・教育者としての適格性を欠く態度や行動が見られた場合は失格とする。
授業計画	<p>第1回 前期オリエンテーション</p> <p>第2回 仕事DVD（児童養護施設の動画含む）</p> <p>授業時間外 『附属幼稚園体験』</p> <p>第3回 幼稚園体験振り返り</p> <p>第4回 小学校の先生のビデオ講話</p> <p>第5回 現職保育士のお話</p> <p>第6回 コース選択調査ガイダンス</p> <p>第7回 自己紹介課題 ガイダンス</p> <p>第8回 自己紹介課題 発表</p> <p>第9回 絵本講話と実践練習</p> <p>第10回 保育所体験ガイダンス1</p> <p>第11回 保育所体験ガイダンス2、実習服装チェック・名札発表</p> <p>授業時間外 『保育所体験』</p> <p>第12回 保育所体験振り返り1</p> <p>第13回 保育所体験振り返り2（日誌風課題）</p> <p>第14回 手作りおもちゃ発表会</p> <p>第15回 期末課題、授業評価アンケート</p> <p>授業時間外 『小学校見学（希望学生）』</p>
テキスト	
参考書	「学びつづける保育者を目指す実習の本 保育所・施設・幼稚園」久富陽子編著 萌文書林 2014年 「よくわかるNew保育・教育実習テキスト 改訂第3版」無藤 隆（監修）診断と治療社 2017年
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループ単位のディスカッション、グループ毎（全体）に発表。 保育現場・小学校現場への見学や体験実習。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	現場と連携した授業内容（現場への見学、現場での体験実習、講話など）
質問への対応方法	<p>随時対応</p> <p>メール対応</p> <p>多川則子 tagawa@nagoya-ku.ac.jp</p> <p>早川健太郎 hayakawa-k@nagoya-ku.ac.jp</p> <p>東岡博 higashioka-h@nagoya-ku.ac.jp</p>
フィードバックの方法	適宜、各課題の振り返りを実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>幼稚園、保育所、小学校への見学や体験実習(8時間)</p> <p>見学や体験の準備と課題実施(15時間)</p> <p>一般課題と最終課題の実施(22時間)、授業の復習(15時間)</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力

PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>
----------------	---

開講科目名 Course	実習基礎II
時間割コード Course Code	50911
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	早川 健太郎
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	多川 則子 (教育保育学科)、東岡 博 (教育保育学科)、早川 健太郎 (教育保育学科)
授業の目標	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>本科目と実習基礎 (前期)の単位修得がすべての本実習に出るための基礎要件となる。進路選択に従って、現場体験や見学を通して、保育者・小学校教員の仕事や対象となる子どもについての理解を深める。また、自分自身が持つべき資質・能力の獲得に向けた学びを進める。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者・小学校教員の仕事や、対象となる子どもについての理解を深める。</li> <li>・就学前の保育と小学校教育の共通の要素(基盤になる部分)に気づく。子どもの発達年齢を考慮することの重要性、子どもの成長や発達連続的であること、本学科の教育理念であるエデュケアの考えの重要性、子どもの意欲・関心を引き出すことの重要性等。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの育ちを支援することのすばらしさやおもしろさを実感する。</li> <li>・現場の見学や体験を通して、マナーや学びの姿勢を身につける。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者・小学校教員として必要な資質・能力の獲得に向けた学びを進める。</li> <li>・保育者・小学校教員としての引き出し作り、実践力育成につなげる。</li> </ul>
授業の概要	<p>進路選択に従って、それぞれの保育・教育現場の見学や体験を実施する。そして、対象となる仕事について、対象となる子どもについて、さらに理解を深める。同時に、保育者・教育者として、あるいは、実習生としての学び続ける姿勢やマナーを学ぶ。実践的なプログラムを通して、保育者・小学校教員に必要な資質・能力の獲得や実践力育成につなげる。なお、保育・教育現場の見学や体験は夏休みに実施する場合もある(事前ガイダンスは実習基礎にて行う)。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>単位修得の要件</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) テーマ毎にある一般課題(毎回必ずあるわけではない)をすべて合格すること。</li> <li>2) 学期末に出す最終課題に合格すること。最後の授業で指示する。</li> <li>3) 授業への出席が10回以上あること。メロス上の出欠記録の「○」が10回以上あることとする。なお、保育・教育関連施設での見学や体験が実施された場合は、原則、それらに参加し、課題に合格することも含まれる。</li> </ol> <p>課題評価の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自主的・意欲的に学習に取り組んでいるかどうか</li> <li>2) 学習の目的を理解し、取り組んでいるかどうか</li> <li>3) 保育者・教育者の役割について理解したうえで適切な自己評価ができているかどうか。</li> </ol> <p>成績標語について G(合格)/S(不合格)での評価となる。</p> <p>本科目では、授業外に実施する保育・教育に関する施設の見学や体験を含め、すべての課題をクリアすることが単位修得の要件である。不備がある場合は課題の再提出や補充課題等を課す場合もある。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	保育者・教育者としての適格性を欠く態度や行動が見られた場合は失格とする。 (なお、評価方法に記載の単位修得の要件も参照のこと)
授業計画	第1回 後期オリエンテーション 第2回 保育所体験ガイダンス1 第3回 実習服装チェック・名札発表 第4回 保育所体験ガイダンス2 第5回 保育所体験(半日) 第6回 保育所体験(半日) 第7回 保育所体験振り返り1 第8回 保育所体験振り返り2 第9回 スタンツ1 第10回 スタンツ2 第11回 スタンツ3 第12回 スタンツ4 第13回 スタンツ発表1 第14回 スタンツ発表2 第15回 スタンツ振り返り・期末課題・授業評価アンケート 見学体験実習は授業時間外に行う。
テキスト	
参考書	「学びつづける保育者を目指す実習の本 保育所・施設・幼稚園」久富陽子編著 萌文書林 2014年 「よくわかるNew保育・教育実習テキスト 改訂第3版」無藤 隆(監修) 診断と治療社 2017年
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループ単位のディスカッション、グループ毎(全体)に発表。 保育現場・小学校現場への見学や体験実習。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	現場と連携した授業内容(現場への見学、現場での体験実習、講話など)
質問への対応方法	随時対応 メール対応 多川則子 tagawa@nagoya-ku.ac.jp 東岡博 higashioka-h@nagoya-ku.ac.jp (もう1名の担当教員メールアドレスは授業時に提示する)
フィードバックの方法	適宜、各課題の振り返りを実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	幼稚園、保育所、小学校への見学や体験実習(3時間) 見学や体験の準備と課題実施(7時間) 一般課題と最終課題の実施(35時間)、授業の復習(15時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 5.自信創出力 6.行動持続力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	幼稚園研修 / Field Study at Kindergarten
時間割コード Course Code	50920
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	秋田 郁
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	秋田 郁 (教育保育学科)、小島 千枝 (教育保育学科)
授業の目標	<p>大学で学習した知識、技能、態度に基づいて、大学では得られない知識、技能、態度を、実習園で観察実習を行うことにより学習する。</p> <p>知識・理解の領域 幼稚園の役割や保育者の責務を理解する。 保育者に求められる実践的な知識を習得する。 園生活の一日の流れ、子どもの発達とそれに対する保育者の指導や支援を理解する。</p> <p>技能の領域 保育者の職務内容、役割、子どもへの援助の方法を学ぶ。 実習園で補助的に保育を実践する。</p> <p>態度・志向性の領域 保育者としての資質や態度を身につける。</p>
授業の概要	<p>(1) 1週間(5日間)、9:30~12:40の時間帯に幼稚園での教育活動を体験する。その際、絵本の読み聞かせや手遊びなどの技能実習も行う。</p> <p>(2) 日誌は大学に提出し、大学教員の指導を受ける。</p> <p>(3) 評価も大学が行う。学生が実習を行う上で問題があれば、幼稚園と連絡協議を行う。</p> <p>(4) 出席を確認するため、出勤簿に捺印をする。欠席をした場合は補充活動を行う。</p>
評価方法	事前指導に3/1以上出席し、体験活動は5日間すべて出席をする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	事前指導に3/1以上出席し、体験活動は5日間すべて出席をして、合格となる。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園教諭の職務内容・幼稚園実習の意義と実習の段階</li> <li>2. 日誌の形式と書き方</li> <li>3. 年少児の発達と遊び</li> <li>4. 年中児の発達と遊び</li> <li>5. 年長児の発達と遊び</li> <li>6. 保育技能の基礎（手遊び）</li> <li>7. 保育技能の基礎（絵本）</li> <li>8. 保育技能の基礎（運動遊び）</li> <li>9. 日誌の書き方</li> <li>10. 振り返りお礼状の書き方・自己評価</li> <li>11. お礼状の書き方・自己評価</li> <li>12. 反省会</li> <li>13. 事後指導（エピソード記録）</li> <li>14. 事後指導</li> <li>15. 事後指導</li> </ol>
テキスト	適宜配布する。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	実習に必要な模擬保育、指導案作成と実践などを行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	各回の授業内容に応じて、実務経験のある教員による実践指導が行われる。
質問への対応方法	質問には担当教員が随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	課題に応じて事前事後学習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 住み続けられるまちづくりを</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> <li>17. パートナリーシップで目標を達成しよう</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>3. 統率力</li> <li>4. 感情制御力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>6. 行動持続力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>



開講科目名 Course	幼稚園教育実習I / Kindergarten Teaching Practice
時間割コード Course Code	50930
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	秋田 郁
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	秋田 郁(教育保育学科)、小島 千枝(教育保育学科)
授業の目標	<p>学外の教育実習協力幼稚園において、教育実習を実地体験する。 大学で学習した知識、技能、態度に基づいて、大学では得られない知識、技能、態度を、実習園で集中的に学習する。</p> <p>知識・理解の領域 幼稚園の役割や保育者の責務を理解する。 保育者に求められる実践的な知識を習得する。 園生活の一日の流れ、子どもの発達とそれに対する保育者の指導や支援を理解する。</p> <p>技能の領域 保育者に求められる実践的な技術を習得する。 実習園で部分的または補助的に保育を実践する。</p> <p>態度・志向性の領域 保育者としての資質や態度を身につける。 (以上愛知県私立幼稚園連名・愛知県保育実習連絡協議会「幼稚園教育実習要項」参照)</p>
授業の概要	<p>それぞれの実習園の指導に従い、見学・観察、参加、部分、指導実習を体験する。 主に見学・観察、参加、部分実習を体験する。 この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>実習園の服務規定に服する。 評価については、実習園の評価表、出席などを考慮しながら、総合的に判断する。 幼稚園教職課程履修費の納入をもって履修登録となる。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	幼稚園での教育実習(見学・観察、参加、部分、指導実習)を行う。
テキスト	なし。
参考書	なし。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学外の幼稚園にて実習を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	幼稚園現場にて園長、主任、教諭らより直接実務を見て学び、学生自らも幼児教育の実践を行う。
質問への対応方法	質問には随時対応する。
フィードバックの方法	メール、電話等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	課題に応じて事前事後学習を課す。毎日の実習日誌は必須である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	幼稚園教育実習II
時間割コード Course Code	50940
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	秋田 郁
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	秋田 郁(教育保育学科)、小島 千枝(教育保育学科)
授業の目標	<p>学外の教育実習協力幼稚園において、教育実習を実地体験する。          大学で学習した知識、技能、態度に基づいて、大学では得られない知識、技能、態度を、実習園で集中的に学習する。</p> <p>知識・理解の領域          幼稚園の役割や保育者の責務を理解する。          保育者に求められる実践的な知識と技術を習得する。          園生活の一日の流れを理解した上で、保育者としての役割を理解する。</p> <p>技能の領域          園生活の流れに則って、教育活動・保育実践を行う。</p> <p>態度・志向性の領域          保育者としての資質や態度を身につける。</p> <p>(以上、愛知県私立幼稚園連名・愛知県保育実習連絡協議会「幼稚園教育実習要項」参照)</p>
授業の概要	それぞれの実習園の指導に従い、見学・観察、参加、部分、指導実習をさらに体験する。 この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。
評価方法	実習園の服務規定に服する。 評価については、実習園の評価表、出席などを考慮しながら、総合的に判断する。 幼稚園教職課程履修費の納入をもって履修登録となる。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	幼稚園での教育実習(見学・観察、参加、部分、指導実習)を行う。
テキスト	なし。
参考書	なし。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学外の幼稚園について実習を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	幼稚園現場にて園長、主任、教諭らより直接実務を見て学び、学生自らも幼児教育の実践を行う。
質問への対応方法	質問には随時対応する。

フィードバックの方法	メール、電話等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	課題に応じて事前事後学習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	幼稚園教育実習II
時間割コード Course Code	50941
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	秋田 郁
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	秋田 郁(教育保育学科)、小島 千枝(教育保育学科)
授業の目標	<p>学外の教育実習協力幼稚園において、教育実習を実地体験する。          大学で学習した知識、技能、態度に基づいて、大学では得られない知識、技能、態度を、実習園で集中的に学習する。</p> <p>知識・理解の領域          幼稚園の役割や保育者の責務を理解する。          保育者に求められる実践的な知識と技術を習得する。          園生活の一日の流れを理解した上で、保育者としての役割を理解する。</p> <p>技能の領域          園生活の流れに則って、教育活動・保育実践を行う。</p> <p>態度・志向性の領域          保育者としての資質や態度を身につける。</p> <p>(以上、愛知県私立幼稚園連名・愛知県保育実習連絡協議会「幼稚園教育実習要項」参照)</p>
授業の概要	それぞれの実習園の指導に従い、見学・観察、参加、部分、指導実習をさらに体験する。 この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。
評価方法	実習園の服務規定に服する。 評価については、実習園の評価表、出席などを考慮しながら、総合的に判断する。 幼稚園教職課程履修費の納入をもって履修登録となる。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	幼稚園での教育実習(見学・観察、参加、部分、指導実習)を行う。
テキスト	なし。
参考書	なし。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学外の幼稚園について実習を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	幼稚園現場にて園長、主任、教諭らより直接実務を見て学び、学生自らも幼児教育の実践を行う。
質問への対応方法	質問には随時対応する。

フィードバックの方法	メール、電話等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	課題に応じて事前事後学習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	教職実践演習（幼・小）
時間割コード Course Code	50950
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	関谷 みのぶ
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	関谷 みのぶ(教育保育学科)、長江 美津子(教育保育学科)
授業の目標	到達目標は、教員として最小限必要な知識、技術、態度を身に付けることである。教員に必要なことは、教職の意義や教員の果たす役割を理解し、子どもの実態を把握し、教科等が指導でき、学級経営を円滑に進めたり、遊びを通じた総合的指導を行えることである。
授業の概要	「履修カルテ」を参照し、補完的な指導を行うとともに、教員として必要な知識、技術、態度を身に付ける。教員としての使命感や責任観を理解し、職務内容を確認する。教員の対人関係能力を育成するため、ロールプレイングなどを通して、子どもとの関係、保護者との関係のあり方を学ぶ。子どもの発達課題を理解する。学級経営の意義を理解し、学級経営案を作成する。学校現場を現地調査し、学校の実態を知る。模擬授業を通して教科等の指導力を高める。地域交流イベントに参加し、幼児・児童を対象としたブースの運営を行う。 模擬授業や模擬保育、その振り返りにおいてもICT機器を活用し、また、最終回にはICT機器を用い4年間に学びを振り返り、発表する。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	グループ討論や学外での体験学習への参加の程度、学級経営案の作成、模擬授業、事例検討などの平常点(60%)、小レポート(40%)と配分し、教員として最小限の資質が身についたかどうかを評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回授業のうち、6回以上の欠席で失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	なし
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ロールプレイング、学校現場を現地調査し、学校の実態を知る、模擬授業を通して教科等の指導力を高める、幼児・児童を対象とした事例検討を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 各回の授業内容に応じて、実務経験のある教員による実践指導が行われる。
質問への対応方法	メール、研究室等で適宜対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	課題に応じて事前事後学習を課す。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標 (1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力 6.行動持続力 9.実践力



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	授業の概要を説明し、これまでの学修の振り返りについてグループ討論を行う。また「履修カルテ」を参照し、個別に補完的な指導を行う。	
2	教員の資質や役割、職務	教員の使命感や責任感、教員の役割、職務内容、子どもに対する教育的愛情等についてグループ討論を行う。また、「履修カルテ」を参照し、個別に補完的な指導を行う。	
3	社会性、対人関係能力	社会性や対人関係能力の育成をするため、子どもとの人間関係について、ロールプレイングを行う。	
4	子ども理解と学級経営	幼児・児童理解や学級経営についての講義及びグループ討論を行う。	
5	学級経営案	学級経営案の作成、学級経営案の意義を理解し、取り上げる項目(学級の教育目標、学級経営の方針、学級の実態等)をグループで討論する。	
6	学級経営案の具体例	学級経営案の作成。各自で項目を決め、内容を検討する。	
7	学校現場の現地調査	附属市邨幼稚園で子どもとかかわったり、保育活動を参観する。または犬山市の小学校で授業を参観し、授業について理解を深める。また小牧市の学習チューターとして、小牧市内の小学校で児童の学習や生活の支援を行う。	
8	学校現場の現地調査	附属市邨幼稚園で子どもとかかわったり、保育活動を参観する。または小牧市の小学校で授業を参観し、授業について理解を深める。また小牧市の学習チューターとして、小牧市内の小学校で児童の学習や生活の支援を行う。	
9	現地調査の振り返り	主に小牧市の経験を踏まえ、社会性、対人関係能力、子ども理解、学級経営についてのグループ討論を行う。	
10	指導力と指導計画	教科等の指導力について学習し、学習指導案作成の留意点を理解する。または、保育の指導力について学習し、日指導計画案の留意点を理解する。	
11	模擬授業・模擬保育	模擬授業では、各自で教科・単元等を決めて、模擬授業を実施する。 模擬保育では、各自で主活動を設定して、模擬保育を実施する。	
12	模擬授業・模擬保育	模擬授業では、各自で教科・単元等を決めて、模擬授業を実施する。 模擬保育では、各自で主活動を設定して、模擬保育を実施する。	
13	模擬授業	道徳、特別活動、総合的な学習の時間等の模擬授業を実施する。	
14	指導力の振り返り	教科等の指導力についてのグループ討論を行う。 保育の指導力についてのグループ討論を行う。	
15	まとめ	教員としての資質能力を確認し、授業全体のまとめをする。	

開講科目名 Course	教職実践演習（幼・小）
時間割コード Course Code	50951
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	前原 宏一
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	日比野 博（教育保育学科）、塚本 敏浩（教育保育学科）、前原 宏一（教育保育学科）
授業の目標	到達目標は、教員として最小限必要な知識、技術、態度を身に付けることである。教員に必要なことは、教職の意義や教員の果たす役割を理解し、子どもの実態を把握し、教科等が指導でき、学級経営を円滑に進めたり、遊びを通じた総合的指導を行えることである。
授業の概要	「履修カルテ」を参照し、補完的な指導を行うとともに、教員として必要な知識、技術、態度を身に付ける。教員としての使命感や責任観を理解し、職務内容を確認する。教員の対人関係能力を育成するため、ロールプレイングなどを通して、子どもとの関係、保護者との関係のあり方を学ぶ。子どもの発達課題を理解する。学級経営の意義を理解し、学級経営案を作成する。学校現場を現地調査し、学校の実態を知る。模擬授業を通して教科等の指導力を高める。地域交流イベントに参加し、幼児・児童を対象としたブースの運営を行う。 模擬授業や模擬保育、その振り返りにおいてもICT機器を活用し、また、最終回にはICT機器を用い4年間に学びを振り返り、発表する。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	グループ討論や学外での体験学習への参加の程度、学級経営案の作成、模擬授業などの平常点（60%）、小レポート（40%）と配分し、教員として最小限の資質が身についたかどうかを評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回授業のうち、6回以上の欠席で失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	なし
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ロールプレイング、学校現場を現地調査し、学校の実態を知る、模擬授業を通して教科等の指導力を高める、幼児・児童を対象とした事例検討を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 各回の授業内容に応じて、実務経験のある教員による実践指導が行われる。
質問への対応方法	メール、研究室等で適宜対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	課題に応じて事前事後学習を課す。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力 6.行動持続力 9.実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	授業の概要を説明し、これまでの学修の振り返りについてグループ討論を行う。また「履修カルテ」を参照し、個別に補完的な指導を行う。	
2	教員の資質や役割、職務	教員の使命感や責任感、教員の役割、職務内容、子どもに対する教育的愛情等についてグループ討論を行う。また、「履修カルテ」を参照し、個別に補完的な指導を行う。	
3	社会性、対人関係能力	社会性や対人関係能力の育成をするため、子どもとの人間関係について、ロールプレイングを行う。	
4	子ども理解と学級経営	幼児・児童理解や学級経営についての講義及びグループ討論を行う。	
5	学級経営案	学級経営案の作成、学級経営案の意義を理解し、取り上げる項目(学級の教育目標、学級経営の方針、学級の実態等)をグループで討論する。	
6	学級経営案の具体例	学級経営案の作成。各自で項目を決め、内容を検討する。	
7	学校現場の現地調査	附属市邨幼稚園で子どもとかかわったり、保育活動を参観する。または犬山市の小学校で授業を参観し、授業について理解を深める。また小牧市の学習チューターとして、小牧市内の小学校で児童の学習や生活の支援を行う。	
8	学校現場の現地調査	附属市邨幼稚園で子どもとかかわったり、保育活動を参観する。または小牧市の小学校で授業を参観し、授業について理解を深める。また小牧市の学習チューターとして、小牧市内の小学校で児童の学習や生活の支援を行う。	
9	現地調査の振り返り	主に小牧市の経験を踏まえ、社会性、対人関係能力、子ども理解、学級経営についてのグループ討論を行う。	
10	指導力と指導計画	教科等の指導力について学習し、学習指導案作成の留意点を理解する。または、保育の指導力について学習し、日指導計画案の留意点を理解する。	
11	模擬授業・模擬保育	模擬授業では、各自で教科・単元等を決めて、模擬授業を実施する。 模擬保育では、各自で主活動を設定して、模擬保育を実施する。	
12	模擬授業・模擬保育	模擬授業では、各自で教科・単元等を決めて、模擬授業を実施する。 模擬保育では、各自で主活動を設定して、模擬保育を実施する。	
13	模擬授業	道徳、特別活動、総合的な学習の時間等の模擬授業を実施する。	
14	指導力の振り返り	教科等の指導力についてのグループ討論を行う。 保育の指導力についてのグループ討論を行う。	
15	まとめ	教員としての資質能力を確認し、授業全体のまとめをする。	

開講科目名 Course	教育相談（幼・小） / School Counseling
時間割コード Course Code	51041
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	多川 則子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	多川 則子 (教育保育学科)
授業の目標	<p><b>教育目標</b> 子ども（幼児や児童）を取り巻く環境は複雑化し、絶えず変化をしています。そのことにより子どもは辛さや困難を抱えることが少なくありません。そこで、この授業では、子どもたちの抱える困難を理解し、子どもたちの育ちや学びを支援するために保育者や教育者が知っておくべき知識やスキルについて理解を深めます。また、子どもを支えるためには、他の教職員との連携や、園や学校内外の他職種他機関の連携も重要であることを理解します。</p> <p><b>学習成果</b> 知識・理解の領域 ・幼児期や児童期に抱えやすい心理的な問題や課題に関する心理学的な知識を習得する。 ・教育相談の意義を説明できる。 ・様々な意見を整理しまとめる力、疑問点を見出す力がつく。 技能の領域 ・保育者や教育者として必要なカウンセリングスキルを知る。 ・子どもが置かれた環境を想像し、あらゆる角度から子どもの気持ちを推測する。 態度・志向性の領域 ・様々な価値観や考え方に触れ、子どもの支援に関して柔軟で多様な態度をもつ。 ・子どもの成長発達を支えるための援助を模索し探求し続ける姿勢をもつ。</p>
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児期や児童期の心理学的な問題にかかわるワークを行ったり、資料（事例、動画など）を提示したり、講義を行ったりする。まず、個人のシンキングタイムを取り、各自の気づきや感想をまとめる。</li> <li>2. 各自の気づきや感想を、グループワークにより共有する。全体に向けた発表により受講生全員での共有を行う。</li> <li>3. 各自の気づき感想、グループメンバーや他の受講生の意見、本時の気づき感想等を毎回記入する。適時提出を求める。 この科目の位置づけについては、本学HP のナンバリングを参照すること。</li> </ol>
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 適宜提出を求める気づき感想の用紙、特別課題、最終課題のすべてを実施し、提出することが、単位修得の要件である。</li> <li>2. 毎回の授業に出席しワーク等を実施することが重要なため、欠席した場合は、欠席の理由にかかわらず、その日の内容に相当する補充課題を課す。補充課題をすべて提出しなければ、単位修得は不可とする。</li> <li>3. 気づき感想の用紙と特別課題(8割)、最終課題(2割)により評価する。</li> </ol>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席回数が3分の1を超えた場合は失格とする。

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：この授業で大切にしていること</p> <p>第2回 幼児期から思春期まで：自我の発達</p> <p>第3回 保育・教育者に求められるカウンセリングスキル</p> <p>第4回 園や学校における教育相談1：支援とは</p> <p>第5回 園や学校における教育相談2：教育相談の三つの機能</p> <p>第6回 エピソード記録1：乳幼児のアタッチメントに関わるエピソードを読む1</p> <p>第7回 エピソード記録2：乳幼児のアタッチメントに関わるエピソードを読む2</p> <p>第8回 発達障害・特別支援教育</p> <p>第9回 エピソード記録3：書く</p> <p>第10回 エピソード記録4：検討ワークと発表</p> <p>第11回 思春期の心理的問題</p> <p>第12回 保育・教育テーマに関する探究活動1：調べ学習</p> <p>第13回 保育・教育テーマに関する探究活動2：検討ワーク</p> <p>第14回 保育・教育テーマに関する探究活動3：発表</p> <p>第15回 まとめ：他職種、他機関との連携</p>
テキスト	指定しない。
参考書	<p>『赤ちゃんの発達とアタッチメント』遠藤俊彦（著） ひとなる書房 2017年</p> <p>『ロールプレイで学ぶ 教育相談ワークブック：子どもの育ちを支える』 向後礼子・山本智子（著） ミネルヴァ書房 2014年</p> <p>『教師のための教育相談の技術』 吉田圭吾（著） 金子書房 2007年</p> <p>『エピソード記述を読む』 鯨岡峻 東京大学出版会 2012年</p> <p>『インクルーシブ教育を通常学級で実践するってどういうこと？』 青山 新吾・岩瀬 直樹著 学事出版 2019年</p> <p>『グローバル化とインクルーシブ教育』 安藤 正紀（編著） 北大路書房 2020年</p> <p>『生徒指導提要（改訂版） 全文と解説』 「月刊生徒指導」編集部 学事出版 2023年</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループ単位のディスカッション、全体に向けた発表など。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>随時対応</p> <p>メール対応：tagawa@nagoya-ku.ac.jp</p>
フィードバックの方法	課題提出後の回にて、振り返りを実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習として、シラバスにあげた参考書等を読む（各回1時間程）。</li> <li>・復習として、授業内容に関連する実習での経験や個人の体験などを振り返る、授業内容に関連する書籍やweb資料を探してまとめる（各回2時間程）。</li> <li>・特別課題と最終課題を実施する（6時間程）。</li> </ul>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>3.すべての人に健康と福祉を</p> <p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>5.ジェンダー平等を実現しよう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	<p>2.情報分析力</p> <p>3.課題発見力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>1.親和力</p> <p>2.協同力</p> <p>4.感情制御力</p> <p>7.課題発見力</p>

開講科目名 Course	生徒・進路指導論
時間割コード Course Code	51046
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	飯田 勝巳
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	飯田 勝巳 (管理栄養学科)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒指導は、個性の伸長を図りながら、主体的に社会の中で有意義に活動できる人間を育てることであることを理解し、自身の歩みと重ね合わせながらこれからの将来のあり方を考えることができる。</li> <li>・ 児童が抱える今日的な課題と生徒指導の意義を知り、生徒理解や集団指導、個別指導の役割とその指導の方法や授業の在り方について実践を通して理解する。</li> <li>・ 個別の課題を抱える生徒の特徴とともに学校の生徒指導体制や関係機関との連携協力体制の構築が重要であることを理解し、グループワークを通して多様に考えることができる。</li> <li>・ キャリア教育(進路指導)の必要性や意義を知り、キャリア教育(進路指導)で育つべき「基礎的・汎用的能力」について指導事例を通して理解する。</li> </ul>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒指導の意義を知り、生徒指導の4つの機能を生かした教科や特別活動等の授業を体験する。</li> <li>・ 今日の課題となっている「いじめ、不登校への対応」「発達障害の生徒への理解と対応」「校則と懲戒、体罰」等の問題について、それぞれの事例をもとにグループワークやディスカッションを通し協議する。</li> <li>・ 教育相談の教育的意義や人間関係構築を支援する方法について演習を通して学習する。</li> <li>・ キャリア教育(進路指導)の意義や育つべき能力について理解し、ガイダンスやキャリア・カウンセリングの方法を考える。</li> <li>・ 教師として教育理念や指導力向上の重要性を知り、学年集会等での指導講話の立案・実践をし、相互に評価し合う。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への参加姿勢 20%</li> <li>・ (毎回授業時に配布する)学習プリントの書き込み度 30%(欠席は減点要素になる)、</li> <li>・ 課題に対する内容(グループワークでの積極性、対話を通じた関わり合い、コミュニケーション力) 20%</li> <li>・ 指導講話原稿 10% ・ 授業の振り返りプリント 10% ・ 記述テスト 10%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 欠席回数が5回以上ある場合</li> <li>・ 遅刻が多い場合</li> </ul>

授業計画	<p>第1回 生徒指導の意義と課題、及び オリエンテーション</p> <p>第2回 教科における生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導と教科・道徳の関わり、授業の中での協同的な学びについて考える。</li> </ul> <p>第3回 生徒指導と生徒理解1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導の基本は生徒理解であることを知り、自主性と自律性を育む「ほめる・叱る」の方法について考える。</li> </ul> <p>第4回 生徒指導と生徒理解2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個を生かすためのより効果的な「ほめる言葉」をグループワークを通して作成する。</li> </ul> <p>第5回 教育相談1 教育相談と個別指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談に用いるカウンセリング技法を知り、教育相談での個別指導の方法を理解する。</li> </ul> <p>第6回 教育相談2 人間関係を構築する生徒指導の手法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ソーシャルスキルトレーニングやアンガーマネジメント等を通し人間関係の構築を演習する。</li> </ul> <p>第7回 個別の課題を抱える児童生徒への指導1 ケーススタディ「いじめ、不登校」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いじめの事例をもとに生徒や保護者への対応、校内の協力体制、関係機関との連携について考える。</li> </ul> <p>第8回 個別の課題を抱える児童生徒への指導2 ケーススタディ「発達障害の生徒」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発達障害のある生徒の事例をもとに生徒や保護者への対応、校内の協力体制、関係機関との連携について考える。</li> </ul> <p>第9回 生徒指導に関する法制度 校則と懲戒、体罰</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校則や懲戒、体罰について法的根拠やその内容を理解し、体罰と生徒指導について考える。</li> </ul> <p>第10回 生徒指導と進路指導1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育(進路指導)の意義を理解し、キャリア教育(進路指導)で育つべき「基礎的・汎用的能力」の育成について考える。</li> </ul> <p>第11回 生徒指導と進路指導2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育(進路指導)を進める上での、ガイダンスとキャリア・カウンセリングの在り方や方法を理解する。</li> </ul> <p>第12回 生徒指導と集団指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>集団指導の教育的意義を理解し、集団での合意形成(コンセンサス)と目的達成の在り方について考える。</li> </ul> <p>第13回 生徒指導と教師の指導力1(1分間スピーチの作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日常の集団指導として、S T(学級)での教師講話を通し、生活の中での課題への対応の在り方を考える。</li> </ul> <p>第14回 生徒指導と教師の指導力2(指導講話の作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全校集会や学年集会での指導講話を通し、児童生徒の意識を高める発表の在り方を考え、それぞれの良い点を相互評価する。</li> </ul> <p>第15回 生徒指導・進路指導の振り返りと評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業の内容を振り返りまとめのテスト</li> </ul>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>文部科学省(編)「生徒指導提要」東洋館出版社 令和4年12月版</li> </ul>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループで与えられた課題を議論・発表し、それをもとに全体で論議し個々の考えを深める。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	翌週返却



予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1回 生徒指導の意義と課題 テキストP.12、P.13 2回 教科における生徒指導 テキストP.18、P.46、P.51 3回 生徒指導と生徒理解1 テキストP.23 4回 生徒指導と生徒理解2 子を生かす褒める言葉を50個考えてくる 5回 教育相談1 テキストP.26、P.80 6回 教育相談2 テキストP.82 7回 個別の課題を抱える児童生徒への指導(いじめ、不登校) テキストP.120、P.122 8回 個別の課題を抱える児童生徒への指導(発達障害の生徒) テキストP.271 9回 生徒指導に関する法制度 テキストP.101～P.104 10回 生徒指導と進路指導1 テキストP.15 11回 生徒指導と進路指導2 テキストP.15 12回 生徒指導と集団指導 テキストP.25 13回 生徒指導と教師の指導力1 1分間スピーチを考えてくる 14回 生徒指導と教師の指導力2 生徒指導講話を考えてくる 15回 これまでの生徒指導に関わる学習の総復習
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	10.人や国の不平等をなくそう 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標(11～17)	12.つくる責任つかう責任 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 4.感情制御力 7.課題発見力

開講科目名 Course	特別活動・総合的な学習の時間の指導法
時間割コード Course Code	51050
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	鎌倉 博
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	鎌倉 博 (教育保育学科)
授業の目標	<p>学校教育活動には、教科教育と教科外教育の2つがあります。本講座は、教科書等の資料を活用し、年間学習指導計画に基づいて系統的に教育活動を展開する教科教育とは別の、教科外としての「特別活動」及び「総合的な学習の時間」についての認識を深め、その指導法について学んでいきます。</p> <p>。知識・理解の領域 「特別活動とは」「総合的な学習の時間とは」そもそもどのような意義をもつ教育活動であるのかが理解できるようになる。</p> <p>技能の領域 児童・生徒の視点に立って特別活動及び総合的な学習の時間を展開できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 児童・生徒の視点に立って特別活動及び総合的な学習の時間を展開しようとする指導性が発揮できるようになる。</p> <p>思考判断の領域 児童・生徒の視点に立って特別活動や総合的な学習の時間を展開していくための題材を見出すことができるようになる。</p> <p>関心意欲の領域 児童・生徒の視点に立った多様な特別活動や総合的な学習の時間の実践事例に自ら触れていこうとする意欲が持てるようになる。</p> <p>体験探求の領域 児童・生徒の視点に立った多様な特別活動や総合的な学習の時間の実践事例に自ら触れていくことで、よりよい教育活動を展開するイメージを深めていくことができるようになる。</p>
授業の概要	<p>現代社会・地域・学校生活における課題や自己の生き方について考え深めながら、児童・生徒達が主体的に問題解決・自己実現していけるような資質を育ていける特別活動や総合的な学習の時間とはどのような教育活動であるのかを、学習指導要領の理解とともに具体的な実践に触れたりディスカッションしたりして理解を深め、その指導がイメージできるようにしていきます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>テスト2回 70%</p> <p>指導法研究レポート 20%</p> <p>調査体験 10%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特別欠席を除く欠席は3回以内とする

授業計画	<p>第1回：教科外教育 / 「総合的な学習の時間」とは</p> <p>第2回：地域探究する総合的な学習の時間</p> <p>第3回：環境問題を考える総合的な学習の時間【調査レポート作成の指示あり】</p> <p>第4回：修学旅行と絡めた総合的な学習の時間</p> <p>第5回：国際理解を深める総合的な学習の時間</p> <p>第6回：障がい理解を深める総合的な学習の時間</p> <p>第7回：生き方や進路を深める題材での総合的な学習の時間</p> <p>第8回：総合的な学習の時間の指導計画</p> <p>第9回：【テスト】【題材研究レポート作成の指示あり】 / 「特別活動」とは</p> <p>第10回：児童生徒の視点での学級活動（日常の学級経営）</p> <p>第11回：児童生徒の視点での学級活動（いじめ・学級内トラブルの対応）</p> <p>第12回：児童生徒の視点での学校行事</p> <p>第13回：児童生徒の視点での児童会・生徒会活動</p> <p>第14回：児童生徒の視点でのクラブ活動・部活動</p> <p>第15回：【テスト】</p> <p>教育実習の参加等で授業順や内容を一部変更する場合がある</p>
テキスト	<p>小学校、中学校（以上平成29年告示）、高等学校（平成30年告示）のいずれかの学習指導要領 鎌倉博『きらめく小学生 自由な教育の中で育つ子どもたち』（合同出版）</p> <p>23年間勤めてきた私立小学校では、1980年代から総合学習（現「総合的な学習の時間」）に取り組んでいました。その実践として「地域活性化」「河川環境改善」「沖縄学習」「障がい者理解」を題材に探究学習を推進してきました。中学・高校でも取り組めると評されている、授業者自身の実践記録集です。</p>
参考書	<p>毎時配布する「配布資料とclassroomにアップする「補講用画面」</p> <p>各学校学習指導要領「特別活動編」「総合的な学習の時間編」の解説書</p> <p>文部科学省『生徒指導提要』（令和4年発行）</p> <p>中日新聞朝刊 投書欄「次世代から」</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>総合的な学習の時間の講義の中で提起する「調査活動」、及び教員が実際に行う「題材研究」（レポートにまとめる）を実践してもらいます。また、特別活動では、学級・学校で起こり得る問題にどのように対処するかで、児童・生徒の視点で考える「グループ・ディスカッション」を行います。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	<p>33年間小学校教員を務め、実際に特別活動及び総合学習（現「総合的な学習の時間」）を展開し指導してきました。本属校でも「総合的な学習の時間の指導法」の授業を担当しています。</p>
質問への対応方法	<p>授業時に随時質問できます。遠慮なく質問してください。</p> <p>授業外で急ぎ質問や相談がしたくなった場合には、メールも活用できるようにします。</p> <p>アドレスは t20n6138@nagoya-ku.ac.jp です。</p>
フィードバックの方法	<p>テスト、調査レポート、指導法研究レポートは授業内で返却し、全体講評もします。</p>

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>第1回 学習指導要領を読んで「総合的な学習（探究）の時間」の理解を深める。（2時間）</p> <p>第2回 『きらめく小学生』のpp.83 - 124を読んで、地域を題材にした探究学習の内容と展開の理解を深める。（4時間）</p> <p>第3回 『きらめく小学生』のpp.124 - 155を読んで、河川の水質を題材にした探究学習の内容と展開の理解を深める。また、自身の町を例にして「調査レポート」を作成する。（4時間）</p> <p>第4回 『きらめく小学生』のpp.169 - 190を読んで、沖縄を例にして修学旅行に絡めた探究学習の内容と展開の理解を深める。（4時間）</p> <p>第5回 配布資料を読んで、関わり合いを通して国際理解を深める探究学習の内容と展開の理解を深める。（4時間）</p> <p>第6回 『きらめく小学生』のpp.191 - 236を読んで、障がい者の生活や願いに着目する探究学習の内容と展開の理解を深める。（4時間）</p> <p>第7回 『きらめく小学生』のpp.51 - 81を読んで、進路と生き方、自分の心と体等を題材にした探究学習の内容と展開の理解を深める。また、児童生徒の学習指導にふさわしい多様な性の捉え方、及び性と生の教育に関わる正しい知識を学ぶ。（4時間）</p> <p>第8回 テスト に備えて総復習する。（6時間）</p> <p>第9回 学習指導要領を読んで「特別活動」及び教科外の評定の仕方の理解を深める。（2時間）</p> <p>第10回 配布資料を読んで、楽しく好ましい人間関係を築く学級づくりのあり方の理解を深める。また、『きらめく小学生』にある題材を元にして「指導法レポート」をまとめる。（6時間）</p> <p>第11回 学級内で起こり得る様々なトラブルをどのように捉え、どのように対処したらよいかを、『生徒指導提要』及び配布資料を読んで理解を深める。（4時間）</p> <p>第12回 配布資料を読んで、好ましい学校行事のあり方の理解を深める。（4時間）</p> <p>第13回 配布資料を読んで、児童会・生徒会活動のあり方と、そのための指導法の理解を深める。また、中日新聞の投書欄「次世代から」を読んで、児童生徒の日々の願いを掴む。（4時間）</p> <p>第14回 配布資料を読んで、好ましいクラブ活動・部活動のあり方の理解を深める。また、テストに備えて総復習する。（4時間）</p> <p>第15回 教科外教育である「総合的な学習の時間」「特別活動」の果たしている役割と、具体的な実践を振り返る。（4時間）</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう</p> <p>3.すべての人に健康と福祉を</p> <p>5.ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>6.安全な水とトイレを世界中に</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11.住み続けられるまちづくりを</p> <p>13.気候変動に具体的な対策を</p> <p>14.海の豊かさを守ろう</p> <p>16.平和と公正をすべての人に</p> <p>17.パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1.情報収集力</p> <p>2.情報分析力</p> <p>3.課題発見力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>7.課題発見力</p> <p>9.実践力</p>

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	教科外教育 / 「総合的な学習の時間」とは	学習指導要領上の「総合的な学習(探究)の時間」の位置づけ、学習目標、内容を学ぶ。	学習指導要領を解説して、「総合的な学習の時間」の左記の理解を深める。
2	地域探究する総合的な学習の時間	地域を題材にした探究学習の内容と展開を学ぶ。	画像で補いながら『きらめく小学生』のpp.83 - 124を解説し、左記の理解を深める。
3	環境問題を考える総合的な学習の時間	河川の水質を題材にした探究学習の内容と展開を学ぶ。	画像で補いながら『きらめく小学生』のpp.83 - 124を解説し、左記の理解を深める。また、自身の町を例にして「調査レポート」を提出できるようにする。
4	修学旅行に絡めた総合的な学習の時間	沖縄を例にして修学旅行に絡めた探究学習の内容と展開を学ぶ。	画像で補いながら『きらめく小学生』のpp.169 - 190を解説し、左記の理解を深める。
5	国際問題を考える総合的な学習の時間	障がい者の生活や願いに着目する探究学習の内容と展開を学ぶ。	画像で補いながら『きらめく小学生』のpp.191 - 236を解説し、左記の理解を深める。
6	障がい理解を深める総合的な学習の時間	障がい者の生活や願いに着目する探究学習の内容と展開を学ぶ。	画像で補いながら『きらめく小学生』のpp.191 - 236を解説し、左記の理解を深める。
7	生き方や進路を深める総合的な学習の時間	進路と生き方、自分の心と体等を題材にした探究学習の内容と展開を学ぶ。	画像で補いながら『きらめく小学生』のpp.51 - 81を解説し、左記の理解を深める。
8	総合的な学習の時間の指導計画	名芸大生が作成した「指導計画面案」を参考にして、指導計画面案の書き方を学ぶ。	「総合的な学習の時間の指導計画面案」のつくりを解説し、各自が作成できるようにする。
9	「特別活動」とは	学習指導要領上の「特別活動」の位置づけ、学習目標、内容及び教科外の評定の仕方を学ぶ。	学習指導要領を解説して、「特別活動」の左記の理解を深める。
10	児童生徒の視点での学級活動(日常の学級づくり)	児童生徒の意見を取り入れながら、楽しく好ましい人間関係を築く学級づくりのあり方を学び考え深める。	配布資料を解説し、グループディスカッションで討議することで、左記の理解を深める。
11	児童生徒の視点での児童・生徒会活動(いじめ・学級内トラブルでの対応)	学級内で起こり得る様々なトラブルに対してどのように指導するとよいのかを学び考え深める。	『生徒指導提要』及び配布資料を解説し、グループディスカッションで討議することで、左記の理解を深める。
12	児童生徒の視点での学校行事	好ましい学校行事のあり方を学び考え深める。	配布資料を解説し、グループディスカッションで討議することで、左記の理解を深める。
13	児童生徒の視点での児童会・生徒会活動	児童生徒主体の活動としての児童会・生徒会のあり方と、そのための指導法を学び考え深める。	配布資料及び中日新聞の投書欄「次世代から」を解説し、グループディスカッションで討議することで、左記の理解を深める。

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
14	児童生徒の視点でのクラブ活動・部活動	好ましいクラブ活動・部活動のあり方を学び考え深める。	配布資料を解説し、グループディスカッションで討議することで、左記の理解を深める。
15	本時の総復習	教科外教育である「総合的な学習の時間」「特別活動」の果たしている役割と、具体的な実践を振り返る。	「総合的な学習の時間」「特別活動」の総まとめをして、全体としての理解を深める。

開講科目名 Course	乳児保育I
時間割コード Course Code	51191
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	小島 千枝
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小島 千枝 (教育保育学科)
授業の目標	<p>1、乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割について理解する。2、保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。3、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。4、乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。5、子どもの最善の利益となる乳児保育をめざすことができるようにする。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 乳児保育の役割を理解し、意義・目的が説明できる。</p> <p>技能の領域 乳児の発達を理解し、必要な保育の知識を学び実践につなげていくことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 人間形成の基礎となる乳児期の子育てについて理解し、社会としての子育て支援の必要性を自分なりに考えていくことができる。</p>
授業の概要	<p>・乳児保育に関する基本的な理解のために、意義・目的、歴史、制度、連携、課題について講義する。</p> <p>・乳児の発達、生活や遊びなどの環境、保育士の援助・配慮に関して、各年齢ごとに講義する。その際、理解が深められるよう、関連するビデオ等の教材を必要に応じ活用する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業中の課題（50％）と小テスト（50％）により総合的に評価する。</p> <p>1．乳児保育の現状と課題、各年齢の発達の特徴について、各自が関心を持ったことが課題や振り返りシートに記されているかどうか。（興味・関心・表現）</p> <p>2．乳児保育の意義・目的、役割など授業で得た知識が正確に理解できているかどうか。また、それらを的確に表現できているかどうか。（理解・表現）</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・出席回数が10回に満たない場合は、失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	はじめて学ぶ乳児保育 第三版 志村聡子 編著 同文書院
参考書	保育所保育指針
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	乳児の発達を知り、乳児期の子育ての大切さを理解し、子どもの最善の利益となる乳児保育を目指す科目である。40年間にわたり、保育所に勤務してきた経験を活かして、実践的な指導を行う。
質問への対応方法	オフィスアワーで対応
フィードバックの方法	翌週に返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション 授業の進め方 乳児保育とは	授業の進め方、評価について理解する。 乳児保育の基本について理解する。	テキスト p2~5 1時間の予習と1時間の復 讐を課す 課題：愛着関係について 調べる
2	社会における乳児保育 乳児保育の歴史と役割	乳児保育の歴史と役割について学ぶ。	テキスト p27~35 1時間の予習と1時間の復 讐を課す 課題：乳児保育に関する 新聞記事、報道について レポートする。
3	社会における乳児保育 乳児保育の現状と課題	乳児保育の現状と課題について考える。 子ども・子育て支援法による変化と保育 の場について学ぶ。	テキスト p27~35 1時間の予習と1時間の復 讐を課す
4	乳児保育の意義 子どもにとっての乳児保育	「子どもの最善の利益」から考える。 養護と教育について考える。	テキスト p27~35 1時間の予習と1時間の復 讐を課す
5	乳児保育の意義 保育所保育指針の改定	3つの資質・能力の考え方 3つの視点、5領域の考え方を学ぶ	テキスト p27~35 1時間の予習と1時間の復 讐を課す 課題：3つの資質・能力 についてレポートする。
6	0歳児の発達と保育 妊娠から出産 新生児期	妊娠から、出産、新生児期の発達、発育 、遊び、生活、保育について理解する。	テキスト p27~35 1時間の予習と1時間の復 讐を課す 課題：子どもの可能性に ついて考える。
7	0歳児の発達と保育 6か月まで	6か月までの発達、発育、遊び、生活、保 育について理解する。	テキスト p27~35 1時間の予習と1時間の復 讐を課す 課題：自分の出生、乳児 期について調べる。
8	0歳児の発達と保育 1歳まで	1歳までの発達、発育、遊び、生活、保育 について理解する。  小テスト：0歳児について	テキスト p27~35 1時間の予習と1時間の復 讐を課す
9	1歳児の発達と保育 1歳児の特徴と発達	1歳児の発達、発育、遊び、生活などに ついて理解する。	テキスト p27~35 1時間の予習と1時間の復 讐を課す 課題：質的転換期につ いてまとめる
10	1歳児の発達と保育 1歳児の保育	1歳児の環境、保育の配慮、保育士の援助 について理解する。  小テスト：1歳児について	テキスト p27~35 1時間の予習と1時間の復 讐を課す
11	2歳児の発達と保育 2歳児の特徴と発達	2歳児の発達、発育、遊び、生活などに ついて理解する。	テキスト p27~35 1時間の予習と1時間の復 讐を課す 課題：自我について考え を述べる
12	2歳児の発達と保育 2歳児の保育	2歳児の環境、保育の配慮、保育士の援 助について理解する。  小テスト：2歳児について	テキスト p27~35 1時間の予習と1時間の復 讐を課す

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
13	健康・安全管理 健康・安全管理	乳児の健康、安全についての知識を学び、健康面、安全面への配慮について理解する。	テキスト p 27 ~ 35 1時間の予習と1時間の復讐を課す 課題：乳児の事故について調べる
14	連携と協力 連携と協力	職員、保護者、地域の諸機関との連携、協力の必要性について学ぶ。	テキスト p 27 ~ 35 1時間の予習と1時間の復讐を課す 課題：自分の地域の関係機関について調べる。
15	今後の課題 まとめ 今後の課題 まとめ	乳児保育対策と保育の質について学ぶ  小テスト：乳児保育全般	テキスト p 27 ~ 35 1時間の予習と1時間の復讐を課す

開講科目名 Course	乳児保育II(1組)
時間割コード Course Code	51192
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	小島 千枝
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小島 千枝 (教育保育学科)
授業の目標	<p>1、3歳未満児の発育・発達のプロセスや特性を踏まえた援助やかかわりの基本的な考え方について理解する。</p> <p>2、養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。</p> <p>3、乳児保育における配慮の実践について、具体的に理解する。</p> <p>4、上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。</p> <p>知識の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども主体の保育の理念を理解し、乳児保育の現場での実践と関連づけることができる。</li> <li>子どもの育ちを支えるための環境、援助、配慮などについて、具体的に説明できる。</li> </ul> <p>態度・習慣の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>乳児保育や関連する社会事象について興味・関心を持つ。</li> <li>乳児の理解に積極的に取り組む。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理解した内容を的確に実践する。</li> <li>保育の協働性を理解し、チームワークを身に付ける。</li> </ul>
授業の概要	<p>・乳児保育に関する基本的な理解のために、乳児の成育、発達、特徴について学ぶ。知識を保育に生かすための具体的な方法・技術について、実際の保育場面に照らし合わせながら実践して身に付ける。その際、理解が深められるよう、関連するビデオ等の教材を必要に応じて視聴する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業中の態度(40%)、課題提出(40%)、実技試験(20%)により総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・出席回数が10回に満たない場合は、失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	はじめて学ぶ乳児保育 志村聡子 編著 同文書院
参考書	保育所保育指針
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の保育に即した演習を行う。</li> <li>・グループワークによる学び合いの中で、多様な考え方やチームワークの大切さを学ぶ。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	乳児の発達を知り、乳児期の子育ての大切さを理解し、子どもの最善の利益となる乳児保育を目指す科目である。40年間にわたり、保育所に勤務してきた経験を活かして、実践的な指導を行う。
質問への対応方法	オフィスアワーで対応

フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"><li>・授業内での実技指導。</li><li>・課題は、翌週に返却</li></ul>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション 乳児保育の基本 授業説明 乳児保育とは	授業の進め方、評価について理解する。 乳児保育?での学びを振り返り、子ども主体の保育の考え方、養護と教育の一体性、保育者の存在の重要性について理解する。	課題：乳児保育における保育者のあり方についてレポートする  テキスト p 27 ~ 33 1時間の予習と1時間の復讐を課す
2	乳児保育の基本 乳児保育の一日  保育者との関わり	0歳児、1歳児、2歳児の発達の特徴を理解し、デイリープログラムに沿って、一日の生活を学ぶ。  愛着、受容的・応答的な関わり、信頼関係について、事例を通して学ぶ。	テキスト p 96 ~ 107 1時間の予習と1時間の復讐を課す
3	0歳児の発達と生活・遊びの実際 0歳児の発達	0歳児の成育や発達を復習する。 情緒の安定を図る、健康や安全を守る、環境の変化に対応するなど、0歳児の配慮について、具体的に学ぶ。	テキスト p 130 ~ 133 1時間の予習と1時間の復讐を課す
4	0歳児の発達と生活・遊びの実際 生活や遊び、その援助の方法、 1	生活、遊びの援助の実際について学ぶ。  各自で繰り返し実践する。	テキスト p 134 ~ 139 1時間の予習と1時間の復讐を課す
5	0歳児の発達と生活・遊びの実際 生活や遊び、その援助の方法、 2	生活、遊びの援助の実際について学ぶ。  各自で繰り返し実践する。	テキスト p 140 ~ 147 1時間の予習と1時間の復讐を課す
6	0歳児の発達と生活・遊びの実際 生活や遊び、その援助の方法、 3	生活、遊びの援助の実際について学ぶ。  各自で繰り返し実践する。	課題：0歳児の教材を製作する  テキスト p 148 ~ 157 1時間の予習と1時間の復讐を課す
7	1歳児の発達と生活・遊びの実際 1歳児の発達	1歳児の成育や発達を復習する。 情緒の安定を図る、健康や安全を守る、環境の変化に対応する、集団での生活に対応するなど、1歳児の配慮について、具体的に学ぶ。	テキスト p 158 ~ 161 1時間の予習と1時間の復讐を課す
8	1歳児の発達と生活・遊びの実際 生活や遊び、その援助の方法、 1	生活、遊びの援助の実際について学ぶ。  各自で繰り返し実践する。	テキスト p 74 ~ 81 1時間の予習と1時間の復讐を課す
9	1歳児の発達と生活・遊びの実際 生活や遊び、その援助の方法、 2	生活、遊びの援助の実際について学ぶ。  各自で繰り返し実践する。	テキスト p 162 ~ 165 1時間の予習と1時間の復讐を課す
10	1歳児の発達と生活・遊びの実際 生活や遊び、その援助の方法、 3	生活、遊びの援助の実際について学ぶ。  各自で繰り返し実践する。	課題：1歳児の教材を製作する  テキスト p 166 ~ 173 1時間の予習と1時間の復讐を課す
11	2歳児の発達と生活・遊びの実際 2歳児の発達	2歳児の成育や発達を復習する。 情緒の安定を図る、健康や安全を守る、環境の変化、移行に対応する、集団での生活に対応するなど、2歳児の配慮について、具体的に学ぶ。	テキスト p 174 ~ 181 1時間の予習と1時間の復讐を課す
12	2歳児の発達と生活・遊びの実際 生活や遊び、その援助の方法、 1	生活、遊びの援助の実際について学ぶ。  各自で繰り返し実践する。	テキスト p 182 ~ 193 1時間の予習と1時間の復讐を課す

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
13	2歳児の発達と生活・遊びの実際 生活や遊び、その援助の方法、 2	生活、遊びの援助の実際について学ぶ。 各自で繰り返し実践する。	課題：2歳児の教材を製作する生活、遊びの援助の実際について学ぶ。  テキスト p 194 ~ 198 1時間の予習と1時間の復讐を課す
14	計画の実際 生全体的な計画と指導計画	長期的な指導計画と短期的な指導計画、個別計画とクラスの計画について学ぶ。	課題：個別指導計画を作成する。  テキスト p 54 ~ 63 1時間の予習と1時間の復讐を課す
15	保育の連携、保護者との連携	保育者間、保護者、地域の関係機関など、様々な連携について実例から学ぶ。	テキスト p 118 ~ 129 1時間の予習と1時間の復讐を課す

開講科目名 Course	乳児保育II(2組)
時間割コード Course Code	51193
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	小島 千枝
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小島 千枝 (教育保育学科)
授業の目標	<p>1、3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助やかかわりの基本的な考え方について理解する。</p> <p>2、養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。</p> <p>3、乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。</p> <p>4、上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。</p> <p>知識の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども主体の保育の理念を理解し、乳児保育の現場での実践と関連づけることができる。</li> <li>・子どもの育ちを支えるための環境、援助、配慮などについて、具体的に説明できる。</li> </ul> <p>態度・習慣の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児保育や関連する社会事象について興味・関心を持つ。</li> <li>・乳児の理解に積極的に取り組む。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理解した内容を的確に実践する。</li> <li>・保育の協働性を理解し、チームワークを身に着ける。</li> </ul>
授業の概要	<p>・乳児保育に関する基本的な理解のために、乳児の成育、発達、特徴について学ぶ。知識を保育に生かすための具体的方法・技術について、実際の保育場面に照らし合わせながら実践して身に着ける。その際、理解が深められるよう、関連するビデオ等の教材を必要に応じ視聴する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業中の態度(40%)、課題提出(40%)、実技試験(20%)により総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・出席回数が10回に満たない場合は、失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	はじめて学ぶ乳児保育 志村聡子 編著 同文書院
参考書	保育所保育指針
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の保育に即した演習を行う。</li> <li>・グループワークによる学び合いの中で、多様な考え方やチームワークの大切さを学ぶ。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	乳児の発達を知り、乳児期の子育ての大切さを理解し、子どもの最善の利益となる乳児保育を目指す科目である。40年間にわたり、保育所に勤務してきた経験を活かして、実践的な指導を行う。
質問への対応方法	オフィスアワーで対応

フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"><li>・授業内での実技指導。</li><li>・課題は、翌週に返却</li></ul>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ul style="list-style-type: none"><li>3. すべての人に健康と福祉を</li><li>4. 質の高い教育をみんなに</li><li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li></ul>
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション 乳児保育の基本 授業説明 乳児保育とは	授業の進め方、評価について理解する。 乳児保育?での学びを振り返り、子ども主体の保育の考え方、養護と教育の一体性、保育者の存在の重要性について理解する。	課題：乳児保育における保育者のあり方についてレポートする  テキスト p 27 ~ 33 1時間の予習と1時間の復讐を課す
2	乳児保育の基本 乳児保育の一日  保育者との関わり	0歳児、1歳児、2歳児の発達の特徴を理解し、デイリープログラムに沿って、一日の生活を学ぶ。  愛着、受容的・応答的な関わり、信頼関係について、事例を通して学ぶ。	テキスト p 96 ~ 107 1時間の予習と1時間の復讐を課す
3	0歳児の発達と生活・遊びの実際 0歳児の発達	0歳児の成育や発達を復習する。 情緒の安定を図る、健康や安全を守る、環境の変化に対応するなど、0歳児の配慮について、具体的に学ぶ。	テキスト p 130 ~ 133 1時間の予習と1時間の復讐を課す
4	0歳児の発達と生活・遊びの実際 生活や遊び、その援助の方法、 1	生活、遊びの援助の実際について学ぶ。  各自で繰り返し実践する。	テキスト p 134 ~ 139 1時間の予習と1時間の復讐を課す
5	0歳児の発達と生活・遊びの実際 生活や遊び、その援助の方法、 2	生活、遊びの援助の実際について学ぶ。  各自で繰り返し実践する。	テキスト p 140 ~ 147 1時間の予習と1時間の復讐を課す
6	0歳児の発達と生活・遊びの実際 生活や遊び、その援助の方法、 3	生活、遊びの援助の実際について学ぶ。  各自で繰り返し実践する。	課題：0歳児の教材を製作する  テキスト p 148 ~ 157 1時間の予習と1時間の復讐を課す
7	1歳児の発達と生活・遊びの実際 1歳児の発達	1歳児の成育や発達を復習する。 情緒の安定を図る、健康や安全を守る、環境の変化に対応する、集団での生活に対応するなど、1歳児の配慮について、具体的に学ぶ。	テキスト p 158 ~ 161 1時間の予習と1時間の復讐を課す
8	1歳児の発達と生活・遊びの実際 生活や遊び、その援助の方法、 1	生活、遊びの援助の実際について学ぶ。  各自で繰り返し実践する。	テキスト p 74 ~ 81 1時間の予習と1時間の復讐を課す
9	1歳児の発達と生活・遊びの実際 生活や遊び、その援助の方法、 2	生活、遊びの援助の実際について学ぶ。  各自で繰り返し実践する。	テキスト p 162 ~ 165 1時間の予習と1時間の復讐を課す
10	1歳児の発達と生活・遊びの実際 生活や遊び、その援助の方法、 3	生活、遊びの援助の実際について学ぶ。  各自で繰り返し実践する。	課題：1歳児の教材を製作する  テキスト p 166 ~ 173 1時間の予習と1時間の復讐を課す
11	2歳児の発達と生活・遊びの実際 2歳児の発達	2歳児の成育や発達を復習する。 情緒の安定を図る、健康や安全を守る、環境の変化、移行に対応する、集団での生活に対応するなど、2歳児の配慮について、具体的に学ぶ。	テキスト p 174 ~ 181 1時間の予習と1時間の復讐を課す
12	2歳児の発達と生活・遊びの実際 生活や遊び、その援助の方法、 1	生活、遊びの援助の実際について学ぶ。  各自で繰り返し実践する。	テキスト p 182 ~ 193 1時間の予習と1時間の復讐を課す

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
13	2歳児の発達と生活・遊びの実際 生活や遊び、その援助の方法、 2	生活、遊びの援助の実際について学ぶ。 各自で繰り返し実践する。	課題：2歳児の教材を製作する生活、遊びの援助の実際について学ぶ。  テキスト p 194 ~ 198 1時間の予習と1時間の復讐を課す
14	計画の実際 生全体的な計画と指導計画	長期的な指導計画と短期的な指導計画、個別計画とクラスの計画について学ぶ。	課題：個別指導計画を作成する。  テキスト p 54 ~ 63 1時間の予習と1時間の復讐を課す
15	保育の連携、保護者との連携	保育者間、保護者、地域の関係機関など、様々な連携について実例から学ぶ。	テキスト p 118 ~ 129 1時間の予習と1時間の復讐を課す

開講科目名 Course	音楽表現指導法(1組) / Methods of Teaching Music
時間割コード Course Code	51268
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	秋田 郁
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	秋田 郁 (教育保育学科)
授業の目標	知識・理解の領域 子どもの発達を理解し、発達段階に応じた多様な音楽表現方法を知る。 技能の領域 音楽(音)を教育・保育活動に活かす力を養う。 生活の中のさまざまなものや出来事を、自分なりに音楽(音)に表現する方法を修得する。 態度・志向性の領域 保育者として子どもと関わる際に、どのように音楽表現活動を展開するか、自らの保育観を持つ。
授業の概要	【対面授業】 子どもが豊かな感性や表現する力を養い、創造性豊かに活動するため、感じたことや考えたことを表現する活動について考察・実践する。 子どもの発達、様々な表現活動と音楽表現とのつながりを考えながら、音楽の知識技能を学ぶ。そのため、グループまたは、個人による発表・課題提出の機会を多く作り、対話的、主体的で深い学びにつながるよう配慮する。事前事後学習にしっかりと取り組むことが必須となる。
評価方法	授業への参加姿勢10% 課題50% 発表40% により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回の授業のうち、6回以上の欠席で失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	「一人一人を大切に作るユニバーサルデザインの音楽表現」星山麻木編著 板野和彦著 崩文書林 2,500円+税
参考書	「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」内閣府 『子どもの表現を見る、育てる 音楽と造形の視点から』今川恭子、志民一成、宇佐美明子著 文化書房博文社 2,160円
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	保育実技に必要な実技を、グループまたは個人で実践をする。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問には随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	課題に応じて事前事後学習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	領域「表現」について、評価方法、弾き歌いについて 4時間の復習を課す。(写譜)	
2	リズムについて	音価、拍子、リズム打ち、付点のリズムについて 2時間の予習と2時間復習を課す。	
3	音楽表現と身体表現1	リトミックについて(歩く・走る・スキップ)について 2時間の予習と2時間復習を課す。	
4	音楽表現と身体表現2	リトミックについて(ジャンプ・揺れる・転がる)について 2時間の予習と2時間復習を課す。	
5	音楽表現と言葉表現1	絵本の中のオノマトペ(絵本の選出)について 4時間の予習を課す。(絵本を選出し、グループ発表の準備をする。)	
6	音楽表現と言葉表現2	絵本の中のオノマトペ(楽器による表現)について 4時間の予習を課す。	
7	手遊びうた	0~2歳児対象手遊びうたについて 2時間の予習と2時間復習を課す。(手遊び歌を調べ、楽譜と図を描く。)	
8	手遊びうた	3~6歳児対象手遊びうたについて 2時間の予習と2時間復習を課す。	
9	音楽表現と造形表現1	ペープサート、パネルシアターについて 4時間の予習を課す。(パネルシアターの作成)	
10	音楽表現と造形表現2	歌詞カード製作について 4時間の予習を課す。	
11	器楽合奏 1	ハンドベル演奏について 2時間の予習と2時間復習を課す。	
12	器楽合奏 2	さまざまな楽器について 2時間の予習と2時間復習を課す。	
13	模擬保育 1	指導案作成、発表1班 2時間の予習と2時間復習を課す。(指導案立案と発表のための練習)	
14	模擬保育 2	指導案作成、発表2班 2時間の予習と2時間復習を課す。(指導案立案と発表のための練習)	
15	模擬保育 3	指導案作成、発表3班 まとめ 2時間の予習と2時間復習を課す。(指導案立案と発表のための練習)	

開講科目名 Course	音楽表現指導法(2組) / Methods of Teaching Music
時間割コード Course Code	51269
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	秋田 郁
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	秋田 郁 (教育保育学科)
授業の目標	知識・理解の領域 子どもの発達を理解し、発達段階に応じた多様な音楽表現方法を知る。 技能の領域 音楽(音)を教育・保育活動に活かす力を養う。 生活の中のさまざまなものや出来事を、自分なりに音楽(音)に表現する方法を修得する。 態度・志向性の領域 保育者として子どもと関わる際に、どのように音楽表現活動を展開するか、自らの保育観を持つ。
授業の概要	【対面授業】 子どもが豊かな感性や表現する力を養い、創造性豊かに活動するため、感じたことや考えたことを表現する活動について考察・実践する。 子どもの発達、様々な表現活動と音楽表現とのつながりを考えながら、音楽の知識技能を学ぶ。そのため、グループまたは、個人による発表・課題提出の機会を多く作り、対話的、主体的で深い学びにつながるよう配慮する。事前事後学習にしっかりと取り組むことが必須となる。
評価方法	授業への参加姿勢10% 課題50% 発表40% により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回の授業のうち、6回以上の欠席で失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	「一人一人を大切に作るユニバーサルデザインの音楽表現」星山麻木編著 板野和彦著 崩文書林 2,500円+税
参考書	「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」内閣府 『子どもの表現を見る、育てる 音楽と造形の視点から』今川恭子、志民一成、宇佐美明子著 文化書房博文社 2,160円
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	保育実技に必要な実技を、グループまたは個人で実践をする。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問には随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	課題に応じて事前事後学習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	領域「表現」について、評価方法、弾き歌いについて 4時間の復習を課す。(写譜)	
2	リズムについて	音価、拍子、リズム打ち、付点のリズムについて 2時間の予習と2時間復習を課す。	
3	音楽表現と身体表現1	リトミックについて(歩く・走る・スキップ)について 2時間の予習と2時間復習を課す。	
4	音楽表現と身体表現2	リトミックについて(ジャンプ・揺れる・転がる)について 2時間の予習と2時間復習を課す。	
5	音楽表現と言葉表現1	絵本の中のオノマトペ(絵本の選出)について 4時間の予習を課す。(絵本を選出し、グループ発表の準備をする。)	
6	音楽表現と言葉表現2	絵本の中のオノマトペ(楽器による表現)について 4時間の予習を課す。	
7	手遊びうた	0~2歳児対象手遊びうたについて 2時間の予習と2時間復習を課す。(手遊び歌を調べ、楽譜と図を描く。)	
8	手遊びうた	3~6歳児対象手遊びうたについて 2時間の予習と2時間復習を課す。	
9	音楽表現と造形表現1	ペープサート、パネルシアターについて 4時間の予習を課す。(パネルシアターの作成)	
10	音楽表現と造形表現2	歌詞カード製作について 4時間の予習を課す。	
11	器楽合奏 1	ハンドベル演奏について 2時間の予習と2時間復習を課す。	
12	器楽合奏 2	さまざまな楽器について 2時間の予習と2時間復習を課す。	
13	模擬保育 1	指導案作成、発表1班 2時間の予習と2時間復習を課す。(指導案立案と発表のための練習)	
14	模擬保育 2	指導案作成、発表2班 2時間の予習と2時間復習を課す。(指導案立案と発表のための練習)	
15	模擬保育 3	指導案作成、発表3班 まとめ 2時間の予習と2時間復習を課す。(指導案立案と発表のための練習)	



開講科目名 Course	造形表現指導法(1組) / Methods of Early Childhood Education through Art
時間割コード Course Code	51278
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	塚本 敏浩
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	30A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	塚本 敏浩 (教育保育学科)
授業の目標	幼稚園教育要領に示されたねらい及び内容について理解し、活動展開に必要な基礎的な知識や技能、実際の活動や指導ができる実践力を身につけることを目的とする。そのために、幼稚園教育要領(特に領域「表現」)の基本理念や歴史的変遷を把握し、評価の方法や教材の適切な活用方法についての理解を深める。また、指導案作成や模擬保育実践を通して、造形表現の活動づくりの特性について知る。
授業の概要	幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい・内容・育成すべき資質・能力を理解し、その指導法及び活動設計を行う方法を身につけるために、具体的事例を交え、テキストを中心に講義する。 なお、質問への対応は随時行う。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	課題及び課題への取り組みと探求の姿勢... 60%、小レポート及び授業への参加・発表と鑑賞態度... 40%以上の内容から総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 授業の概要説明と進め方、幼稚園教育要領「表現」のねらい及び改訂の基本的な方向性 第2回 幼稚園教育要領「表現」のねらいのねらい及び内容(各領域との関連と全体構造) 第3回 領域「表現」で育成すべき資質・能力、指導課程の編成と小学校間接続、カリキュラムマネジメントに向けた取り組み 第4回 領域「表現」における評価の具体、児童の発達(実態)を踏まえた「表現」指導の在り方 第5回 領域「表現」の特性とそれを踏まえたICTの具体的な活用方法、情報機器を活用した題材例 第6回 指導計画の作成と内容の取り扱い、指導上の配慮事項と指導案作成の実際 第7回 教材・題材の具体と指導の実際1...フロッタージュ、ドリッピング、パチック・にじみ・ぼかし等 第8回 教材・題材の具体と指導の実際2...マーブリング・デカルコマニー・スパッタリング、コラージュ等 第9回 教材・題材の具体と指導の実際3...色の三原色の理論と演習、色遊び、混色、重色による作品づくり 第10回 教材・題材の具体と指導の実際4...鉛筆・クレヨン・パスによる演習(材料の特性理解と扱い方) 第11回 教材・題材の具体と指導の実際5...油粘土・紙粘土による演習 第12回 指導案作成の実際と活動設計、模擬保育(年少グループ)及び事後検討会 第13回 指導案作成の実際と活動設計、模擬保育(年中グループ)及び事後検討会 第14回 指導案作成の実際と活動設計、模擬保育(年長グループ)及び事後検討会 第15回 最新の領域「表現」研究の動向、造形表現活動の展望及び発展的内容

テキスト	『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形素材』樋口一成（著）萌文書林
参考書	担当教員作成のレジュメ・資料等を適宜使用する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実際の教育及び保育現場における喫緊の課題や実践的な指導方法・教材について適宜扱い、指導、教授する。
質問への対応方法	随時対応する（研究室訪問やメール等）
フィードバックの方法	課題については随時返却し、個別指導する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	第1～15各回ともに、シラバスに記載された内容について、事前の配布資料を参考に学習の見通しと疑問点を整理しする等の予習を1時間行うこと、また、本時の配布資料及び講義内容を参考に学習内容をノートにまとめ、感想や意見を書き留める等の復習を1時間行うこと。（実技の学習課題については、製作活動を復習時間に含めてもよい。）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	造形表現指導法(2組) / Methods of Early Childhood Education through Art
時間割コード Course Code	51279
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	塚本 敏浩
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	30A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	塚本 敏浩 (教育保育学科)
授業の目標	幼稚園教育要領に示されたねらい及び内容について理解し、活動展開に必要な基礎的な知識や技能、実際の活動や指導ができる実践力を身につけることを目的とする。そのために、幼稚園教育要領(特に領域「表現」)の基本理念や歴史的変遷を把握し、評価の方法や教材の適切な活用方法についての理解を深める。また、指導案作成や模擬保育実践を通して、造形表現の活動づくりの特性について知る。
授業の概要	幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい・内容・育成すべき資質・能力を理解し、その指導法及び活動設計を行う方法を身につけるために、具体的事例を交え、テキストを中心に講義する。 なお、質問への対応は随時行う。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	課題及び課題への取り組みと探求の姿勢...60%、小レポート及び授業への参加・発表と鑑賞態度...40%以上の内容から総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 授業の概要説明と進め方、幼稚園教育要領「表現」のねらい及び改訂の基本的な方向性 第2回 幼稚園教育要領「表現」のねらいのねらい及び内容(各領域との関連と全体構造) 第3回 領域「表現」で育成すべき資質・能力、指導課程の編成と小学校間接続、カリキュラムマネジメントに向けた取り組み 第4回 領域「表現」における評価の具体、児童の発達(実態)を踏まえた「表現」指導の在り方 第5回 領域「表現」の特性とそれを踏まえたICTの具体的な活用方法、情報機器を活用した題材例 第6回 指導計画の作成と内容の取り扱い、指導上の配慮事項と指導案作成の実際 第7回 教材・題材の具体と指導の実際1...フロッタージュ、ドリッピング、パチック・にじみ・ぼかし等 第8回 教材・題材の具体と指導の実際2...マッピング・デカルコマニー・スパッタリング、コラージュ等 第9回 教材・題材の具体と指導の実際3...色の三原色の理論と演習、色遊び、混色、重色による作品づくり 第10回 教材・題材の具体と指導の実際4...鉛筆・クレヨン・パスによる演習(材料の特性理解と扱い方) 第11回 教材・題材の具体と指導の実際5...油粘土・紙粘土による演習 第12回 指導案作成の実際と活動設計、模擬保育(年少グループ)及び事後検討会 第13回 指導案作成の実際と活動設計、模擬保育(年中グループ)及び事後検討会 第14回 指導案作成の実際と活動設計、模擬保育(年長グループ)及び事後検討会 第15回 最新の領域「表現」研究の動向、造形表現活動の展望及び発展的内容
テキスト	『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形素材』樋口一成(著)萌文書林

参考書	担当教員作成のレジюме・資料等を適宜使用する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実際の教育及び保育現場における喫緊の課題や実践的な指導方法・教材について適宜扱い、指導、教授する。
質問への対応方法	随時対応する（研究室訪問やメール等）
フィードバックの方法	課題については随時返却し、個別指導する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	第1～15各回ともに、シラバスに記載された内容について、事前の配布資料を参考に学習の見通しと疑問点を整理しする等の予習を1時間行うこと、また、本時の配布資料及び講義内容を参考に学習内容をノートにまとめ、感想や意見を書き留める等の復習を1時間行うこと。（実技の学習課題については、製作活動を復習時間に含めてもよい。）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	レクリエーション理論
時間割コード Course Code	51440
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	早川 健太郎
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川 健太郎 (教育保育学科)
授業の目標	<p>この授業は、レクリエーション・インストラクター資格取得に必要な理論科目である。したがって、レクリエーション支援等に関する基礎理論について学習する。レクリエーション・インストラクター資格の取得を目指して、教育分野・福祉分野で活躍しようとする強い意思のある者のみ履修を認める。</p> <p>具体的な授業の目標は次の通りである。</p> <p>レクリエーション概論</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レクリエーションの主旨（目的）と手段を理解する。</li> <li>・レクリエーション支援の目的と方法を理解する。</li> <li>・レクリエーション・インストラクターの役割を理解する。</li> </ul> <p>楽しさと心の元気づくりの理論</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レクリエーション活動がもたらす楽しさを理解する。</li> <li>・対象者によって異なる心の元気づくりの課題を理解する。</li> <li>・地域のきずなづくりにレクリエーション支援が貢献できることを理解する。</li> </ul> <p>レクリエーション支援理論</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホスピタリティの根拠として、信頼関係が築かれる心理的な仕組みを理解する。</li> <li>・アイスブレーキングの根拠として、良好な集団が形成される仕組みを理解する。</li> <li>・自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法の根拠として、動機づけの心理的な仕組みを理解する。</li> </ul> <p>レクリエーション支援のプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レクリエーション支援のプログラムを実施する上でのリスクマネジメントの視点と方法を理解する。</li> <li>・レクリエーション支援のプログラム立案の視点と方法を理解する。</li> </ul>
授業の概要	<p>近年、生涯教育や生涯スポーツの必要性が求められ、レクリエーションやレジャーの重要性が拡大していくと同時に、幅広い年齢層に対するレクリエーション支援者の養成も必要となっている。そこで本科目は、レクリエーション支援者として理解すべきレクリエーションに関する基本概念、レクリエーション支援論や事業論などを学習する。グループワークや、学生が自ら課題を発見し解決を図るなど、主体的で能動的な学習・アクティブラーニングを通して学習を進めていく。</p>
評価方法	<p>学習の姿勢・受講態度等 25%</p> <p>小テスト等 35%</p> <p>最終レポート等 40%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	レポートが連続で未提出の場合

授業計画	<p>レクリエーション概論</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>レクリエーションという言葉の主旨（目的、および心の元気づくりの手段としてのレクリエーション活動）</li> <li>レクリエーション支援の目的と方法</li> <li>レクリエーション・インストラクターの役割 楽しさと心の健康作りの理論</li> <li>レクリエーション活動の楽しさを感じる心の仕組み、および心の仕組みを根拠にした支援</li> <li>楽しさが心の元気をもたらす生理的な仕組み、および社会的な仕組み</li> <li>ライフステージと心の元気づくり</li> <li>地域のきずなづくりとレクリエーション レクリエーション支援理論</li> <li>レクリエーション支援におけるコミュニケーション（気持ちをひとつにするための意思疎通）</li> <li>対象者と支援者の信頼関係、および信頼関係づくりの方法</li> <li>良好な集団、およびレクリエーション活動をとおした良好な集団づくり</li> <li>集団内のコミュニケーションの促進</li> <li>自主的、主体的にレクリエーション活動を楽しむ力</li> <li>やる気の変化とやる気が生じる心の仕組み</li> <li>成功体験を支え合う対象者のかかわりあい レクリエーション支援のプログラム</li> <li>リスクマネジメントの方法</li> <li>プログラムの立案方法</li> </ol>
テキスト	「楽しさをとおした心の元気づくり-レクリエーション支援の基本の理論と方法」（財）日本レクリエーション協会
参考書	授業中に、適宜指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて随時受け付ける（hayakawa-k@nagoya-ku.ac.jp） 必要であれば授業ご対応する。
フィードバックの方法	レポート等は次週フィードバックする。 発表等はその場にてフィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>予習 次回行う内容をシラバスにて確認し、該当するテキスト箇所を熟読する。（60分） 次週行う内容に関しインターネットを用いて事前にイメージを持っておくこと。（30分）</p> <p>予習 授業で取り組んだ内容をレポートとしてまとめておくこと。（90分）</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	レクリエーション実技 A / Practice of Recreation A
時間割コード Course Code	51470
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	高柳 竜一
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	体育館
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高柳 竜一 (教育保育学科)
授業の目標	<p>子どもは遊び(レクリエーション)を通して、社会性を身につけたり、達成感や自己肯定感を味わい成長していくと言える。また遊び(レクリエーション)を介して異年齢児や多世代との交流を促すことができるとも言える。その意味で幼稚園教諭や小学校教諭を目指す学生がレクリエーション支援の方法や理論を学ぶ意義は大きい。</p> <p>子どもと教員・保育者、親子、子ども同士、多世代との交流を促すレクリエーションを学ぶ。特にコミュニケーションワークや身近な生活素材を活かしたレクリエーションを学習して、良好な集団づくりに役立つレクリエーションの実践支援能力(1.レクリエーション支援の方法の理解、2.レクリエーション活動そのものの理解と技術の習得、3.レクリエーション支援の実施)を身につける。</p> <p>本科目は、(公財)日本レクリエーション協会の公認指導者:レクリエーション・インストラクター資格取得に必要な実技科目である。</p>
授業の概要	<p>対面授業にて行う。子どもは遊び(レクリエーション)を通して、社会性を身に付けたり、達成感や自己肯定感を味わい成長していくと言える。また遊び(レクリエーション)を介して異年齢児や多世代との交流を促すことができるとも言える。その意味で幼稚園教諭や小学校教諭を目指す学生がレクリエーション支援の方法や理論を対面授業で学ぶ意義は大きい。</p> <p>レクリエーション・インストラクターに必要な活動領域から、コミュニケーションワーク(アイスブレーキング、ホスピタリティ)をベースに、主に「身近な生活素材」を活かした様々な遊びを体験学習し、その支援能力を習得する。支援実践発表会では、レクリエーション支援者役と対象者役に分かれて、活動現場を想定したレクリエーション支援を実施・評価・改善する。</p> <p>&lt; 1 &gt; 信頼関係づくりの方法  &lt; 2 &gt; 良好な集団づくりの方法  &lt; 3 &gt; 自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法  &lt; 4 &gt; モデル・プログラムの習得  &lt; 5 &gt; レクリエーション活動の習得  &lt; 6 &gt; プログラムの実施と評価及び改善  質問等には随時対応する。</p>
評価方法	出席状況などの参加姿勢や実技に取り組む姿勢など受講態度を総合的に評価(60%)、毎回のミニレポート(40%)。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>対面授業により以下のように進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. アイスブレイキング</li> <li>3. ホスピタリティ</li> <li>4. 生活をより豊かにするアクティビティ 幼稚園や小学校で使える手遊び・指遊び・歌遊び・伝承遊び・季節感を育む遊び・手作り遊び用具など</li> <li>5. 支援実践発表会</li> <li>6. 総まとめ</li> </ol> <p>【学習内容】</p> <p>レクリエーション支援の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アイスブレイキング・モデル</li> <li>2. アイスブレイキングの効果を高める支援技術</li> <li>3. 集団がまとまる仕組みを活かすプログラム</li> <li>4. あたたくもてなすという意識と配慮</li> <li>5. 対象者の気持ちを受け止めていることを伝える技術</li> <li>6. 対象者との意思疎通を促進する技術</li> <li>7. ひとつの活動の中で複数回の成功体験を楽しむための目標設定の方法（ハードル設定）</li> <li>8. 段階的に成功体験をやすくするアレンジの基本と応用</li> <li>9. 対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術の活用方法（CSSプロセス）</li> <li>10. 目標設定と言葉や表情の活用方法の一体的な実施</li> </ol> <p>レクリエーション活動の習得</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>11. レクリエーション支援のためのゲーム（子ども同士や子どもと多世代との交流ゲーム）</li> <li>12. レクリエーション支援のための歌（子どもや親子が親しめる歌遊び）</li> <li>13. レクリエーション支援のための音楽にあわせた身体活動（子どもが楽しめるリズム遊び）</li> <li>14. レクリエーション支援のための様々な活動（子どもたちの好奇心をくすぐるレクリエーション）</li> </ol> <p>レクリエーション支援の実施</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>15. プログラムの実施と評価及び改善</li> </ol>
テキスト	使用せず・毎回資料配布。
参考書	<p>楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の基本の理論と方法～（公財）日本レクリエーション協会刊</p> <p>そのほか授業内で適宜紹介する。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ミニレポートの内容や質問については翌週の授業で振り返る。
フィードバックの方法	ミニレポートの内容や質問については翌週の授業で振り返る。



予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>各回の予習と復習をそれぞれ2時間行うこと。</p> <p>1回 予習：自らの生活構造・余暇生活を振り返る。復習：自らの生活構造・余暇生活を改めて文章化・図式化してみる。/2回 予習：アイスブレーキングについて資料や情報を集めまとめる。復習：学習内容を振り返り記録としてまとめる。/3回 予習：アイスブレーキングに使えるゲームについて資料や情報を集めまとめる。復習：学習内容を振り返り記録としてまとめる。/4回 予習：ホスピタリティについて資料や情報を集め、まとめる。復習：学習内容を振り返り、記録としてまとめる。/5回 予習：ホスピタリティマインドやスキルを高めるゲームについて資料や情報を集めまとめる。復習：学習内容を振り返り記録としてまとめる。/6回 予習：じゃんけんの歴史や現状について資料や情報を集めまとめる。復習：学習内容を振り返り記録としてまとめる。/7回 予習：体力づくりに使えるようなレクリエーションの資料や情報を集めまとめる。復習：学習内容を振り返り記録としてまとめる。/8回 予習：昔あそびや伝承あそびに関する資料や情報を集めまとめる。復習：学習内容を振り返り記録としてまとめる。/9回 予習：マジックに関する資料や情報を集めまとめる。復習：学習内容を振り返り、記録としてまとめる。/10回 予習：身近で簡単に手に入る素材は何かを考えまとめる。復習：学習内容を振り返り記録としてまとめる。/11回 予習：新聞紙（紙）の持つ特性やレクへの利用方法を考えまとめる。復習：学習内容を振り返り記録としてまとめる。/12回 予習：どのような場面で歌遊びやリズム遊びが活用できるかを考えまとめる。復習：学習内容を振り返り記録としてまとめる。/13回 予習：これまで学んだレクリエーションのアレンジや組み合わせを考え、まとめる。復習：学習内容を振り返り、記録としてまとめる。/14回 予習：支援内容のアイデアを出し、プログラムをつくる。復習：他のメンバーの支援内容のアイデアを記録し、まとめる。/15回 予習：支援内容のアイデアを出し、プログラムをつくる。復習：他のメンバーの支援内容のアイデアを記録し、まとめる。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	レクリエーション実技 B / Practice of Recreation B
時間割コード Course Code	51473
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	高柳 竜一
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	体育館
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高柳 竜一 (教育保育学科)
授業の目標	<p>子どもは遊び(レクリエーション)を通して、社会性を身につけたり、達成感や自己肯定感を味わい成長していくと言える。また遊び(レクリエーション)を介して異年齢児や多世代との交流を促すことができるとも言える。その意味で幼稚園教諭や小学校教諭を目指す学生がレクリエーション支援の方法や理論を学ぶ意義は大きい。</p> <p>子どもと教員・保育者、親子、子ども同士、多世代との交流を促し、良好な集団づくりに役立つレクリエーション支援の方法や理論を学ぶ。特にニュースポーツやアウトドアアクティビティ、交流ゲームを学習して、子ども心身の健康づくりに役立つレクリエーションの実践支援能力(1.レクリエーション支援の方法の理解、2.レクリエーション活動そのものの理解と技術の習得、3.レクリエーション支援の実施)を身につける。</p> <p>本科目は、(公財)日本レクリエーション協会の公認指導者:レクリエーション・インストラクター資格取得に必要な実技科目である。</p>
授業の概要	<p>対面授業にて行う。子どもは遊び(レクリエーション)を通して、社会性を身に付けたり、達成感や自己肯定感を味わい成長していくと言える。また遊び(レクリエーション)を介して異年齢児や多世代との交流を促すことができるとも言える。その意味で幼稚園教諭や小学校教諭を目指す学生がレクリエーション支援の方法や理論を対面授業で学ぶ意義は大きい。</p> <p>レクリエーション・インストラクターに必要な活動領域から、ニュースポーツやアウトドアアクティビティ、交流ゲームを体験学習し、その支援能力を習得する。創作スポーツ発表会では、各自が創作したスポーツをレクリエーション支援者役と対象者役に分かれて、レクリエーション支援の実施・評価・改善をおこなう。</p> <p>&lt; 1 &gt; 信頼関係づくりの方法 &lt; 2 &gt; 良好な集団づくりの方法 &lt; 3 &gt; 自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法 &lt; 4 &gt; モデル・プログラムの習得 &lt; 5 &gt; レクリエーション活動の習得 &lt; 6 &gt; プログラムの実施と評価及び改善</p>
評価方法	出席状況などの参加姿勢や実技に取り組む姿勢など受講態度を総合評価(60%)、毎回のミニレポート(40%)。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	対面授業にて以下のように進める。 1. オリエンテーション 2. ニュースポーツとは 3. アウトドアアクティビティとは 4. 各種のニュースポーツやレクリエーションに挑戦する ラダーゲッター・ニチレクボール・フライングディスク他 5. 創作スポーツ発表会 6. 総まとめ
テキスト	使用せず・毎回資料配布。
参考書	楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の基本の理論と方法～（公財）日本レクリエーション協会刊 そのほか授業内で適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ミニレポートの内容や質問については翌週の授業で振り返る。
フィードバックの方法	ミニレポートの内容や質問については翌週の授業で振り返る。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の予習と復習をそれぞれ2時間行うこと。 1回 予習：自らの生活構造・余暇生活を振り返る。復習：自らの生活構造・余暇生活を改めて文章化・図式化してみる。 / 2回 予習：ニュースポーツやアウトドアアクティビティ、子どもたちが交流する際に使えるレクリエーションについて資料や情報を集めまとめる。復習：学習内容を振り返り記録としてまとめる。 / 3回 予習：ニチレクボールについて資料や情報を集めまとめる。復習：学習内容を振り返り記録としてまとめる。 / 4回 予習：フライングディスクについて資料や情報を集めまとめる。復習：学習内容を振り返り記録としてまとめる。 / 5回 予習：チャレンジ・ザ・ゲームについて資料や情報を集めまとめる。復習：学習内容を振り返り記録としてまとめる。 / 6回 予習：ドッジボールについて資料や情報を集めまとめる。復習：学習内容を振り返り記録としてまとめる。 / 7回 予習：ネイチャーレクリエーションや自然体験について資料や情報を集めまとめる。復習：学習内容を振り返り記録としてまとめる。 / 8回 予習：ラダーゲッターについて資料や情報を集めまとめる。復習：学習内容を振り返り記録としてまとめる。 / 9回 予習：カローリングについて資料や情報を集めまとめる。復習：学習内容を振り返り記録としてまとめる。 / 10回 予習：キンボールスポーツについて資料や情報を集めまとめる。復習：学習内容を振り返り記録としてまとめる。 / 11回 予習：ユニバーサルホッケーについて資料や情報を集めまとめる。復習：学習内容を振り返り記録としてまとめる。 / 12回と13回 予習：個々で支援内容のアイデアを出し、ニュースポーツを創作するための準備をおこなう。復習：他のメンバーの支援内容のアイデアを記録しまとめる。 / 14回と15回 予習：創作したニュースポーツをプレゼンテーションする準備をおこなう。復習：他のメンバーの支援内容のアイデアを記録しまとめる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	国語(書写を含む。)
時間割コード Course Code	51500
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	加藤 昇
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	加藤 昇(教育保育学科)
授業の目標	学習指導要領を理解するとともに、人間認識を深めるための文学の授業、自然や社会に対する認識を深めるための説明文の授業について学びます。
授業の概要	講義中心ですが、演習も取り入れます。教材を例に「読み手主体を創造する授業」、「文学の授業でどんな力を育てるか」など、文学作品の授業理論を学びます。また、思考力と科学的認識の発達をめざす説明文の授業についても実践例をもとに授業理論を学びます。さらに、言語論理教育の観点から情報教育についても考えます。
評価方法	毎回のレポート提出(50%)とまとめのテスト(50%)により総合的に判定します。出席はして当然ですので、「出席点」という制度はありません。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、小学校における国語科教育の実態と課題 読み手主体を創造する授業</li> <li>2、学習指導要領にみる国語科授業</li> <li>3、国語科の果たす役割(全教科に責任を負う教科)</li> <li>4、学習指導要領における文学の授業のあり方</li> <li>5、学習指導要領における説明文の授業のあり方</li> <li>6、言語事項をどのように扱うか</li> <li>7、文学の授業における指導案の作成の留意点</li> <li>8、文学の指導案の作成をする</li> <li>9、説明文の授業における指導案の作成の留意点</li> <li>10、説明文の指導案の作成をする</li> <li>11、言語論理教育について学ぶ(三段論法)</li> <li>12、言語論理教育について学ぶ(文末表現、連体修飾語、コトバの魔術)</li> <li>13、「言葉と事実」(教育出版)で言葉の持つ意味について考える</li> <li>14、メディアリテラシー教育として、私たちを取り巻く様々な情報について考える</li> <li>15、授業のまとめと確認テスト</li> </ol>
テキスト	文部科学省『小学校学習指導要領解説「国語編」』
参考書	授業中に指示する
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	本授業では、学習指導要領の変遷、現行学習指導要領の説明などをする中で、具体的に指導法と関わらせる。その際、模擬授業を体験する。また、言語論理教育では、様々な課題をみんなで考えながら正解を導く。

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	長年の小学校の現場で実践研究してきた国語の指導法について、理論的なことも交えて解説する。さらに、その指導法をもとに学生たちが模擬授業を行うことで実践力量を高める。
質問への対応方法	・随時対応 ・オフィスアワーで対応 ・授業後に対応
フィードバックの方法	毎時間の最後に書く感想に朱を入れる。さらにその中で優れたものをピックアップして次の授業で紹介する。そのことが前時の想起となり、本時につながる。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、小学校における国語科教育の実態と課題 読み手主体を創造する授業 4時間の復習を課す</li> <li>2、学習指導要領にみる国語科授業 2時間の予習と2時間の復習を課す</li> <li>3、国語科の果たす役割（全教科に責任を負う教科） 2時間の予習と2時間の復習を課す</li> <li>4、学習指導要領における文学の授業のあり方 2時間の予習と2時間の復習を課す</li> <li>5、学習指導要領における説明文の授業のあり方 2時間の予習と2時間の復習を課す</li> <li>6、言語事項をどのように扱うか 2時間の予習と2時間の復習を課す</li> <li>7、文学の授業における指導案の作成の留意点 2時間の予習と2時間の復習を課す</li> <li>8、文学の指導案の作成をする 2時間の予習と2時間の復習を課す</li> <li>9、説明文の授業における指導案の作成の留意点 2時間の予習と2時間の復習を課す</li> <li>10、説明文の指導案の作成をする 2時間の予習と2時間の復習を課す</li> <li>11、言語論理教育について学ぶ（三段論法） 2時間の予習と2時間の復習を課す</li> <li>12、言語論理教育について学ぶ」（文末表現、連体修飾語、コトバの魔術） 2時間の予習と2時間の復習を課す</li> <li>13、「言葉と事実」（教育出版）で言葉の持つ意味について考える 2時間の予習と2時間の復習を課す</li> <li>14、メディアリテラシー教育として、私たちを取り巻く様々な情報について考える 2時間の予習と2時間の復習を課す</li> <li>15、授業のまとめと確認テスト 4時間の復習を課す</li> </ol>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	4.感情制御力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	社会
時間割コード Course Code	51505
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	前原 宏一
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	前原 宏一 (教育保育学科)
授業の目標	<p>・小学校社会科の指導の基本となる目標及び内容を理解するとともに、各指導のポイントを把握することをめざす。また、小学校の教育課程における社会科の教科としての役割や性格を理解し、社会科を学ぶ意味を考えることができるようにする。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域</p> <p>・社会科の指導は、学習指導要領に示された目標・内容等に則って進める必要があることを、現学習指導要領の第2節社会を読み解きながら理解することができる。</p> <p>技能の領域</p> <p>・社会科の様々な分野・単元の指導ポイントを、現学習指導要領をもとに指摘することができる。</p> <p>態度・志向性の領域</p> <p>・我が国の国土の学習や歴史学習の意味を考え、現在の社会問題及び国際問題について意欲的に追究し、自らの意見を述べることができる。</p>
授業の概要	<p>・現小学校学習指導要領をもとに、社会科全体の目標や各学年・各単元の目標と内容についての理解を深める。また、各学年間の関連についても把握し合う。小学校での社会科における具体的な内容を取り上げ、学習することの意味やねらいについて理解するとともに、社会科の楽しさを体感できる活動を積極的に取り入れて展開する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>・課題に対する4人グループや全体での追究の様子 30%</p> <p>・確認テストや毎回のふり返し用紙への記述 30%</p> <p>・まとめテストやレポート 40%</p> <p>を基本とし、総合的に評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>・欠席回数が5回以上の場合</p> <p>・連続して3回欠席した場合</p>

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス、現学習指導要領の社会科改定ポイントの把握</li> <li>2 社会科の学年別目標と内容区分の確認と把握</li> <li>3 地理的分野の社会的事象追究1(自然と生活)</li> <li>4 地理的分野の社会的事象追究2(自然と第1次産業)</li> <li>5 地理的分野の社会的事象追究3(第2次産業の発達)</li> <li>6 地理的分野の社会的事象追究4(第3次産業の役割)</li> <li>7 歴史的分野の社会的事象追究1(奈良時代までの歩みと歴史的背景)</li> <li>8 歴史的分野の社会的事象追究2(貴族時代と歴史的背景)</li> <li>9 歴史的分野の社会的事象追究3(武士時代と歴史的背景)</li> <li>10 歴史的分野の社会的事象追究4(明治維新と歴史的背景)</li> <li>11 歴史的分野の社会的事象追究5(戦後の歩みと歴史的背景)</li> <li>12 公民的分野の社会的事象追究1(日本国憲法の考え方)</li> <li>13 公民的分野の社会的事象追究2(日本国憲法の3つの柱)</li> <li>14 公民的分野の社会的事象追究3(日本と他国のつながり)</li> <li>15 授業全体のまとめとふり返し</li> </ol>
テキスト	なし
参考書	・参考書及び参考資料等は、授業の中で適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>・毎回、課題に対する「自分の考え」を立てさせた後、4人グループを基本とするグループでの「学び合い」の時間を確保した上で、クラス全体での情報共有(話し合い活動)の時間へ進むこととする。</p> <p>なお、4人グループについては、固定せず随時グループ編成をし直すこととする。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	・38年間の小学校・中学校(社会科)の教職経験を活かした指導を重ね、地理的分野・歴史的分野・政治経済的分野の様々な社会事象について、考えを上げ合ったり深め合ったりする。
質問への対応方法	・授業中や授業後に随時対応すると共に、オフィスアワーでも対応する。
フィードバックの方法	<p>・各回提出させる「ふり返しシート」は、コメントを書き加えて翌週に返却する。</p> <p>・小テストは、採点后に模範解答と共に翌週に返却し、各自でふり返る資料とする。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>毎回、前時内容についての2時間の復習と授業計画表に基づく次時内容に関する2時間の予習を課すこととする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス、現学習指導要領の社会科改定ポイントの把握</li> <li>2 社会科の学年別目標と内容区分の確認と把握</li> <li>3 地理的分野の社会的事象追究1(自然と生活)</li> <li>4 地理的分野の社会的事象追究2(自然と第1次産業)</li> <li>5 地理的分野の社会的事象追究3(第2次産業の発達)</li> <li>6 地理的分野の社会的事象追究4(第3次産業の役割)</li> <li>7 歴史的分野の社会的事象追究1(奈良時代までの歩みと歴史的背景)</li> <li>8 歴史的分野の社会的事象追究2(貴族時代と歴史的背景)</li> <li>9 歴史的分野の社会的事象追究3(武士時代と歴史的背景)</li> <li>10 歴史的分野の社会的事象追究4(明治維新と歴史的背景)</li> <li>11 歴史的分野の社会的事象追究5(戦後の歩みと歴史的背景)</li> <li>12 公民的分野の社会的事象追究1(日本国憲法の考え方)</li> <li>13 公民的分野の社会的事象追究2(日本国憲法の3つの柱)</li> <li>14 公民的分野の社会的事象追究3(日本と他国のつながり)</li> <li>15 授業全体のまとめとふり返し</li> </ol>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> </ol>
SDGs 17の目標(11~17)	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 住み続けられるまちづくりを</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>7. 課題発見力</li> </ol>

開講科目名 Course	音楽
時間割コード Course Code	51600
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	秋田 郁
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	秋田 郁 (教育保育学科)
授業の目標	<p>知識・理解の領域 楽典や音楽史を知る事によって音楽をより深く理解する。 幼稚園・小学校における音楽教育の実践方法を修学する。</p> <p>技能の領域 楽譜が深く読めるようになる。 楽曲分析ができる。 様々な楽譜を使った音楽の表現ができる。 楽譜に頼らない音楽表現ができる。</p> <p>態度・志向性の領域 音楽を形作っている要素について興味をもって、分析する。</p>
授業の概要	<p>小学校・幼稚園における音楽教育の実践研究を行う。楽譜に頼らない表現方法の模索、様々な楽譜を使った音楽の表現を学ぶ。 また楽典や音楽史を理解し、楽譜の読み方、楽曲分析などを行う。</p>
評価方法	授業への参加及び課題、試験により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回の授業のうち、6回欠席した場合は失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	「音楽理論ワークブック」熊谷周子・諸田明子著 ドレミ楽譜出版社1200円＋消費税
参考書	DVD資料「小学校音楽映像資料 楽しく実践できる音楽づくり授業ガイド」低学年・中学年・高学年 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター・制作 学事出版
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	鑑賞、器楽、歌唱、音楽作りなどの活動や、サウンドエデュケーション、ポディーインストルメント等のグループ活動を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問にはメール、研究室にて対面で随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語



SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション 楽典習熟度チェック	4時間の復習を課す。 過去のテスト課題を復習する。	
2	音楽史、楽典	2時間の予習と2時間の復習を課す。 音名について予習する。	
3	ボディーパーカッションについて、楽典	2時間の予習と2時間の復習を課す。 音価について予習する。	
4	手話による歌唱、楽典	2時間の予習と2時間の復習を課す。 拍子について予習する。	
5	サウンドエデュケーションとは、楽典	2時間の予習と2時間の復習を課す。 演奏記号について予習する。	
6	サウンドエデュケーション実施、楽典	2時間の予習と2時間の復習を課す。 強弱記号・速度記号について予習する。	
7	日本伝統音楽とは、楽典	2時間の予習と2時間の復習を課す。 音程(1・2・3・8度)について予習する。	
8	日本伝統音楽(和楽器の演奏)、楽典	2時間の予習と2時間の復習を課す。 音程(4・5・6・7度)について予習する。	
9	声のアンサンブルづくり、楽典	2時間の予習と2時間の復習を課す。 音程(8度以上)について予習する。	
10	合奏(ハンドベル)、楽典	2時間の予習と2時間の復習を課す。 音階(長音階)について予習する。	
11	合奏(リコーダー)、楽典	2時間の予習と2時間の復習を課す。 音階(短音階)について予習する。	
12	合唱、楽典	2時間の予習と2時間の復習を課す。 音階(5音音階・その他の音階)について予習する。	
13	さまざまな楽譜	2時間の予習と2時間の復習を課す。 コードについて予習する。	
14	鑑賞曲について	2時間の予習と2時間の復習を課す。 和音(主要3和音)について予習する。	
15	まとめ	2時間の予習と2時間の復習を課す。 楽式について予習する。	

開講科目名 Course	生活
時間割コード Course Code	51602
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	日比野 博
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	日比野 博 (教育保育学科)
授業の目標	<p>新しい生活科の指導の基本となる目標・内容を理解するとともに、各指導のポイントを把握し、生活科への理解を深めることができる。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域  幼児の体験と小学校1・2年「生活」のもつ意味・意義を理解することができる。</p> <p>態度・志向性の領域  生活で扱う内容の理解と体験に、興味・関心を持って積極的に関わることができる。</p> <p>技能の領域  教師が児童に援助・指導できる「生活」の技能を身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>小学校指導要領の解説をもとに、生活科の目標・内容の理解を図る。また、生活科における指導計画の特性や学習指導の特性を理解し、年間計画を地域や児童にあったものにするための工夫を図る。</p> <p>子どもたちが体験する活動を取り入れる。  アクティブラーニング的な内容を取り入れ、学生同士の話し合い活動を多く取り入れる。</p> <p>なお、この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。  質問などは、随時受け付ける。</p>
評価方法	<p>受講態度と授業内レポート (30%)  発表・体験活動記録, (30%)  課題・確認問題 (40%)</p> <p>授業内レポートは、原則的に次週に返却する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席6回以上の場合

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 学習指導要領の改訂と生活科</li> <li>3 生活科の目標</li> <li>4 生活科の内容（具体的な視点）</li> <li>5 生活科の内容（内容の階層性）</li> <li>6 指導計画の作成と内容の取扱い</li> <li>7 指導計画と学習指導</li> <li>8 年間指導計画の作成</li> <li>9 単元計画（1年生）の作成</li> <li>10 自己紹介・友達づくりカード作成(実習)</li> <li>11 発表・振り返り・評価の仕方</li> <li>12 単元計画（2年生）の作成</li> <li>13 季節見つけ(実習)</li> <li>14 発表・評価の仕方</li> <li>15 まとめと確認問題</li> </ol>
テキスト	小学校学習指導要領解説 生活編 平成29年7月 文部科学省
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体やグループごとで課題を設定し、議論や発表、研究協議等を通して生活科教育についてを深めていく。</li> <li>・ 随時、話し合い深めていく活動を取り入れ、実践的な活動を進めていく。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小中学校の現場経験を踏まえた指導を生かし、現場に即した助言や指導をしていく。</li> <li>・ 時には、現役の講師による実習や研修、模擬授業を行うことも考えている。</li> </ul>
質問への対応方法	授業中・授業後、オフィスアワーなどを通して、随時対応していく。
フィードバックの方法	レポートや活動記録等は翌週に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 学習指導要領の改訂と生活科 新学習指導要領と旧級学習指導要領の比較(予習) 2～3時間</li> <li>3 生活科の目標 テキストP17・18についての復習と2時間程度の予習(野菜の育て方について)を課す</li> <li>4 生活科の内容（具体的な視点） 1時間程度の復習を課す テキストP26～28についての予習を課す (3～4時間)</li> <li>5 生活科の内容（内容の階層性） 1時間程度の復習を課す</li> <li>6 指導計画の作成と内容の取扱い 1時間程度の復習を課す P52～58までの予習を課す</li> <li>7 指導計画と学習指導 1時間程度の復習を課す</li> <li>8 年間指導計画の作成 テキストP78～86まで2時間程度の予習を課す</li> <li>9 単元計画（1年生）の作成 テキストP87～93までの2時間程度の予習を課す</li> <li>10 自己紹介・友達づくりカード作成(実習) 記録の取り方について</li> <li>11 発表・振り返り・評価の仕方</li> <li>12 単元計画（2年生）の作成 2時間程度の実習準備と予習を課す</li> <li>13 季節見つけ(実習) 1時間程度の振り返りのレポート（復習）を課す</li> <li>14 発表・評価の仕方 テキストP92・93の2時間程度の予習を課す 1時間の復習を課す</li> <li>15 まとめと確認問題</li> </ol>
使用言語	日本語

SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	理科 / science
時間割コード Course Code	51604
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	日比野 博
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 2 C 理化学実験室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	日比野 博 (教育保育学科)
授業の目標	<p>新しい小学校理科の指導の基本となる目標・内容を理解するとともに、各指導のポイントを把握することができる。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 小学校理科での指導内容に絞って、自然界の事物現象を理解することができる。</p> <p>態度・志向性の領域 指導内容を十分に把握でき、自信を持って理科に取り組むことができるようになる。</p> <p>技能の領域 事物現象を正確に理解し、ポイントを押さえた指導技能や理科における薬品や教材を使用したり、説明したりすることができる。</p>
授業の概要	<p>【対面授業】</p> <p>新学習指導要領の解説をもとに、理科全体の目標理解をはじめとして、各学年・各単元の目標と内容の理解を図る。また、新しい内容区分や学年間の関連の理解や教材・薬品の使い方にも触れる。</p> <p>また、ディスカッションやアクティブラーニング的な内容を取り入れ、学生相互の話し合い活動を多く取り入れて授業を進めていく。</p> <p>質問がある場合は、随時対応する。</p> <p>なお、この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業内レポート (30%)            実験レポート (15%)            発表・発言・課題発表 (15%)            確認問題 (40%)</p> <p>授業内のレポートは、原則として翌週返却する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席 6 回以上

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 学習指導要領の改訂と理科</li> <li>3 理科の内容区分と学年配分, 学習指導や改善</li> <li>4 理科の目標</li> <li>5 3年単元(A・B区分)と内容の取扱い (教材の扱い方・薬品を含む)</li> <li>6 4年単元(A・B区分)と内容の取扱い (教材の扱い方・薬品を含む)</li> <li>7~8 5年単元(A区分)と内容の取扱い (教材の扱い方・薬品を含む)</li> <li>9 5年単元(B区分)と内容の取扱い (教材の扱い方・薬品を含む)</li> <li>10 プログラミン教育について</li> <li>11~12 6年単元(A区分)と内容の取扱い (教材の扱い方・薬品を含む)</li> <li>13 6年単元(B区分)と内容の取扱い (教材の扱い方・薬品を含む)</li> <li>14 評価の仕方</li> <li>15 授業の進め方, 確認問題</li> </ol>
テキスト	小学校学習指導要領解説・理科編(平成29年7月 文部科学省)
参考書	授業の中で紹介(理科教科書)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体やグループごとで課題を設定し, 議論や発表, 研究協議等を通して小学校教育・指導法を深めていく。</li> <li>・ 随時, 話し合い深めていく活動を取り入れ, 実践的な活動を進めていく。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小中学校の現場経験を踏まえた指導を生かし, 現場に即した助言や指導をしていく。</li> <li>・ 時には, 現役の講師による実習や研修を行うことも考えている。</li> </ul>
質問への対応方法	授業中・授業後, オフィスアワーなどを通して, 随時対応していく。
フィードバックの方法	学習指導案やレポート等は翌週に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 学習指導要領の改訂と理科 新学習指導との比較調べ(予習) 2~3時間</li> <li>3 理科の内容区分と学年配分, 学習指導や改善 1~2時間の復習とテキストP22~26で 1時間の予習を課す</li> <li>4 理科の目標 1~2時間の復習とテキストP20~21で 1時間の予習を課す</li> <li>5 3年単元(A・B区分)と内容の取扱い (教材の扱い方・薬品を含む) 新学習指導頭領になって変更点など(予習) 1~2時間</li> <li>6 4年単元(A・B区分)と内容の取扱い (教材の扱い方・薬品を含む) 新学習指導頭領になって変更点など(予習) 1~2時間</li> <li>7~8 5年単元(A区分)と内容の取扱い (教材の扱い方・薬品を含む) 新学習指導頭領になって変更点など(予習) 1~2時間</li> <li>9 5年単元(B区分)と内容の取扱い (教材の扱い方・薬品を含む) 新学習指導頭領になって変更点など(予習) 1~2時間</li> <li>10 プログラミン教育について</li> <li>11~12 6年単元(A区分)と内容の取扱い (教材の扱い方・薬品を含む) 実験内容の予習を1~2時間課す</li> <li>13 6年単元(B区分)と内容の取扱い (教材の扱い方・薬品を含む) 実験内容の予習を1~2時間課す</li> <li>14 評価の仕方 1~2時間の予習と1~2時間の復習を課す</li> <li>15 授業の進め方, 確認問題</li> </ol>

使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	13.気候変動に具体的な対策を 14.海の豊かさを守ろう 15.陸の豊かさも守ろう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	算数 / Arithmetic
時間割コード Course Code	51606
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	東岡 博
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	東岡 博 (教育保育学科)
授業の目標	<p>&lt; 授業の目標 &gt;  小学校算数科の背景となる数学の理論的裏付けに関する理解を深める。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;  知識・理解の領域  小学校学習指導要領に示された目標・内容等をもとに、指導を進める上で必要となる数学の理論的裏付けについて理解することができる。</p> <p>技能の領域  学習指導要領のねらいを理解した上で、教科書の内容と照らし合わせながら、指導のポイントを指摘することができる。</p> <p>態度・志向性の領域  日常生活において数学的活動につながる事象を見つけ、積極的に学習内容に結びつけることができる。</p>
授業の概要	<p>【対面授業】</p> <p>小学校学習指導要領をもとに、目標や各学年の目標や内容を理解するとともに、小学校6年間の概観と指導の流れをつかむ。数学用語の指導のみにとどまらず、背景にある概念の取得を支援する指導の大切さを理解する。</p> <p>また、これまでに学習してきた数学を基に、小学校算数科の4領域に関連した演習も一部取り入れることで、自らの判断力・表現力を磨くとともに、算数科の背景にある数学の理論的裏付けについて理解を深める。</p> <p>なお、本授業は、小学校教育実習及び小学校免許取得に必須である。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業での取組の様子、ふり返り、小テスト、レポート等も含め総合的に評価する。</li> <li>・ ふり返り用紙や小テスト等、提出したものについては翌週に返却する。</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 欠席回数が3分の1を超えた場合は失格とする。</li> </ul>

授業計画	<p>第1回：新学習指導要領の改訂と要点</p> <p>第2回：新学習指導要領が求める算数教育 主体的・対話的で深い学び 数学的活動の重視</p> <p>第3回：新学習指導要領における算数科の目標と内容</p> <p>第4回：各領域の目標及び内容構成の考え方と概観</p> <p>第5回：「A数と計算」の指導内容 数の概念 10進法と2進法 整数の加減乗除</p> <p>第6回：「A数と計算」の指導内容 小数・分数の概念と加減乗除</p> <p>第7回：「A数と計算」の指導内容 概数と概算</p> <p>第8回：「B図形」の指導内容 平面図形における概念と定義 三角形と四角形</p> <p>第9回：「B図形」の指導内容 立体図形における概念と定義 球 直方体と立方体 角柱と円柱</p> <p>第10回：「B図形」の指導内容 面積・体積・角の大きさについて 論証</p> <p>第11回：「C測定」の指導内容 量の概念と分類 測定の指導について</p> <p>第12回：「C変化と関係」の指導内容 割合の概念とその指導 関数の概念とその指導</p> <p>第13回：「Dデータの活用」の指導内容 表やグラフ 測定量</p> <p>第14回：「Dデータの活用」の指導内容 データを活用した問題解決について</p> <p>第15回：講義のまとめとふり返り</p> <p>期末テスト</p>
テキスト	・小学校学習指導要領解説 算数編（文部科学省）
参考書	・参考資料については、適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・講義内容や数学的活動において、互いに学び合うことができる課題については積極的に取り入れていく。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	<p>実務経験のある教員による授業</p> <p>教育現場において児童に算数を指導した経験を生かし、数学的活動を重視した内容を積極的に取り入れ、講義と演習を行っている。</p>
質問への対応方法	・授業時およびオフィスアワーで随時対応する。
フィードバックの方法	・毎回、講義の終わりに振り返りを行うとともに、小テストやレポートは翌週に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・毎回、前時の内容について2時間の復習を課する。また、指導計画に基づく次時の内容に関する2時間の予習を課する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	教職論
時間割コード Course Code	51680
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	前原 宏一
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基礎科目
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	前原 宏一 (教育保育学科)
授業の目標	<p>・急激に変化し続ける現代社会において、教職の重要性が一層高まってきていることを把握すると共に教職の意義、教員の役割や職務内容について理解を広げ合ったり深め合ったりすることにより、教職に対する興味関心を高め、それに向かおうとする意欲を育成する。</p> <p>重点テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職のもつ意義と責任ある教職員としての立場について</li> <li>・学び合う子どもたちの育成をめざして、教職員の果たすべき役割について</li> <li>・教職員の職務内容と教育公務員に課せられる服務義務について</li> <li>・チーム学校、チーム家庭・学校・地域の一員としての自覚と同僚性について</li> </ul>
授業の概要	<p>・4人グループでの話し合い(学び合い)活動を取り入れながら、教職に関する各テーマについて追究し合い、学び合う子どもたちと協働的な教職員集団づくりをめざす活動の必要性や配慮すべき留意事項について探究し合う。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4人グループや全体での討議の様子 30%</li> <li>・各テーマに対する見方や考え方の広がりや深まりを記述するふり返し用紙 30%</li> <li>・確認テストと小レポート 40%</li> </ul> <p>を基本とし、教職の意義及び教師の役割などの学びについて総合的に評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席回数が5回以上の場合</li> <li>・連続して3回欠席した場合</li> </ul>
授業計画	<p>毎回実施する前時の確認テストに向けての2時間の復習と授業計画表に基づく次時テーマに関する2時間の予習を課すこととする。</p> <p>第1回：現学習指導要領の基本的な考え方や改訂のポイント</p> <p>第2回：子どもたちを取り巻く課題</p> <p>第3回：教職のもつ意義や教職員としての使命</p> <p>第4回：子どもたちの「生きる力」の育成</p> <p>第5回：子どもたちの「学ぼうとする力」の育成</p> <p>第6回：子どもたちの「学び合おうとする力」の育成</p> <p>第7回：あるべき教師としての考え方や立ち位置</p> <p>第8回：よりよい学級集団づくり(学級経営)</p> <p>第9回：教員の職務内容と開かれた学校づくり</p> <p>第10回：教職員の不祥事撲滅(根絶)に向けた学校の取組</p> <p>第11回：教職員の職務内容と果たすべき服務義務</p> <p>第12回：教職員研修の権利と義務</p> <p>第13回：チーム学校として取り組む意義とその有効性</p> <p>第14回：チーム家庭・学校・地域の意義とその重要性</p> <p>第15回：これまでのまとめとふり返し</p> <p>詳細については授業計画表を参照。</p>
テキスト	なし

参考書	・参考書・参考資料等については、授業の中で適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・本時の課題に対する「自分の考え」を立てさせた後、4人グループを基本とするグループでの「学び合い」の時間を毎回確保した上で、クラス全体での情報共有（話し合い活動）の時間へ進むこととする。 なお、4人グループについては、固定せず随時グループ編成をし直すこととする。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	・38年間の小・中学校での教職経験を活かし、教職に関する各テーマについて追究し合い、学び合う子どもたちの育成と協働的な教職員集団づくりをめざす活動の必要性や配慮すべき留意事項について探究し合う。
質問への対応方法	質問等への対応 ・授業時及びオフィスアワーで随時対応する。
フィードバックの方法	・毎回のふり返りプリント及び確認テストについては、翌週に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回実施する前時の確認テストに向けての2時間の復習と授業計画表に基づく次時テーマに関する2時間の予習を課す。 第1回：現学習指導要領の基本的な考え方や改訂のポイント 第2回：子どもたちを取り巻く課題 第3回：教職のもつ意義や教職員としての使命 第4回：子どもたちの「生きる力」の育成 第5回：子どもたちの「学ぼうとする力」の育成 第6回：子どもたちの「学び合おうとする力」の育成 第7回：あるべき教師としての考え方や立ち位置 第8回：よりよい学級集団づくり（学級経営） 第9回：教員の職務内容と開かれた学校づくり 第10回：教職員の果たすべき服務義務 第11回：教職員の不祥事撲滅（根絶）に向けた学校の取組 第12回：教職員研修の権利と義務 第13回：チーム学校として取り組む意義とその有効性 第14回：チーム家庭・学校・地域の意義とその重要性 第15回：これまでのまとめとふり返り
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 7. 課題発見力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	教育を取り巻く現状と課題 現学習指導要領の趣旨や考え方	・道徳の教科化や小学校への外国語教育の導入などが盛り込まれた現学習指導要領を資料として活用し、その基本的な考え方や改訂のポイントについて探り合うと共に、生涯にわたって学び続けることの意義について考え合う。	
2	子どもたちを取り巻く現状と課題	・子どもたちを取り巻く課題について、いじめ・不登校などの資料をもとに現状を探り、それに立ち向かう教師としての対応策や責務について考え合う。また、小1プロブレムや中1ギャップの問題、保護者のネグレクト(育児放棄)や家庭及び地域の教育力の低下などについても現状を把握し合う。	
3	教職のもつ意義と教職員の使命	・山積する教育課題(多くの場合、子どもたちに責任はない)を踏まえた上で、教職のもつ意義や教職員としての使命について、互いに考えを深め合う。	
4	生きる力の育成に向けて 生きる力の育成	・子どもたちの「生きる力」を育成する教育活動を推進するため、教師の果たすべき役割や子どもたちへの指導・支援のあり方について探り合う。	
5	学ぼうとする力の育成	・子どもたち一人ひとりの「生きる力」を育むことにつながる「学ぼうとする力」をどう育てていけばよいか、教師としての姿勢や方策について事例をもとに探り合う。	
6	学び合おうとする力の育成	・子どもたちの「学ぼうとする力」をさらに「学び合おうとする力」へと深化させていくためにはどうすればよいか、教師としての姿勢や方策について事例をもとに探り合う。	
7	教師としての考え方や立ち位置	・子どもたちの話す力や聞く力を育成するための1分間スピーチ「先生、あのね」の教育実践を例に取り上げ、その意義と問題点について探り合う。「先生、あのね」と「みんな、あのね」との違いを比較しながら、あるべき教師としての考え方や立ち位置について探り合う。	
8	学びの基盤となる学級集団づくり	・互いに「学び合おうとする子どもたちの良好な人間関係」を構築するため、その基盤となる学級集団づくり(学級経営)をどう進めていけばよいか、様々な実践例をもとにして、その方策について探り合う。	
9	教職員の職務内容及び義務と研修 教職員の職務内容と開かれた学校づくり	・教員の1日の仕事(スケジュール)や学校年間計画を参考資料として、教員の職務内容を総合的に理解すると共に、開かれた学校(内に開かれた学校と外に開かれた学校)づくりに向けての取組とその意義についても探り合う。	
10	不祥事の根絶に向けた学校現場の取組	・事例をもとに教職員の不祥事について把握すると共に、学校教育への信頼を大きく損ねる結果につながることを確認し合う。また、不祥事の撲滅(根絶)に向けて学校として取り組むべき課題についても探り合う。	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
11	教職員の職務内容と服務義務	・法に定められている教職員の職務内容及び教育公務員に課せられる服務義務について、資料をもとに理解を深め合うと共に、教職のもつ責任も重さについても考えを深め合う。	
12	教職員研修の意義	・力量向上をめざす教職員研修の権利と義務について理解し合うと共に、研修における同僚性の重要性や学び合う教職員集団づくりについても考えを深め合う。	
13	チーム学校としての考え方 チーム学校の考え方の意義と有効性	・チーム学校として取り組む意義とその有効性について考え合うと共に、その一員として教師一人ひとりがどう考え、どう活動していくべきかを探り合う。	
14	チーム家庭・学校・地域の意義と重要性	・子どもたちの健やかな心と体の成長のため、家庭・学校・地域がチームとして連携し合うことの重要性を理解し合うと共に、家庭・学校・地域のそれぞれが果たすべき主な役割についても探り合う。	
15	まとめとふり返り 教職論のまとめとふり返り	・これまでの授業のまとめを行うと共に「自分の学び」をふり返り、小レポートにまとめる。	

開講科目名 Course	教育制度論
時間割コード Course Code	51700
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	田中 秀佳
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基礎科目
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	田中 秀佳 (教育保育学科)
授業の目標	教育に関する法制度の基本的な知識を習得し、社会状況とそれに対応した教育政策の基礎的理解を身につけ、特に学校・家庭・地域の連携や学校安全への対応等、近年重要となっている学校経営の基本的事項について理解する。
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育法・教育制度に関する基礎的な知識を獲得する。</li> <li>・教育制度をめぐる現代教育改革の特徴と社会的背景を理解する。</li> <li>・教育動向およびそれを取り巻く社会状況を幅広い視野をもって把握し、教育に関する諸問題の現象と本質を構造的に理解する。</li> <li>・学校と家庭・地域および三者の連携について、事例を踏まえて理解する。</li> <li>・学校事故、災害の状況・事例を学び、学校保健安全法の内容を把握し、危機管理の重要性、学校安全の意義を理解する。</li> </ul>
評価方法	各講義内容ごとの小テストおよび小レポートを課す。内容は、(1)教育行政の原理、(2)教育行政の法制度、(3)現代教育改革における教育行政システムの特徴、(4)教育問題の検討である(評価比率40%)。また、最終課題として、授業内容に関する内容確認テストおよびレポートを課す(評価比率60%)。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>第1回：オリエンテーション、教育実践の基盤となる教育の法と制度の意義と役割について法制度の事例を用いて理解する。</p> <p>第2回：学校教育の制度とは何か? 「普通」の学校とフリースクール：学校とは何か、自分自身の学校経験、現在の大学での学びを振り返りつつ、一条校とは異なる「学校」での学びの事例をとおして、学校および学校制度のあり方を逆説的に考える。</p> <p>第3回：戦後日本の教育政策・法制度の変遷：戦後日本の教育政策と教育問題の変遷に関する年表を配布した上で戦後教育の変遷に関する映像を視聴する。その際、戦後政治、教育政策の重要なキーワードが多数出てくるため、メモを取りながら視聴し、自宅学習として各キーワードについて語句調べを次回講義までにおこなう。</p> <p>第4回：教育制度の変遷（戦後-70年代）とその特徴：前回視聴した映像を、各自が調べてきたキーワードを確認しつつ、講師が要点ごとに解説をしながら改めて視聴する。（1）戦後教育がどのような特徴を持って始まり、（2）様々な社会状況の中で教育課程行政がどのように展開されてきたのか、理解をする。</p> <p>第5回：教育制度の変遷（80年代-現代）とその特徴：引き続き、各自が調べてきたキーワードを確認しつつ、講師が要点ごとに解説をしながら改めて視聴する。（1）様々な社会状況の中で教育課程行政がどのように展開され、（2）教育制度と教育課程に関する近年の教育施策がどのような社会状況を踏まえて改正され現在に至っているのか、改革動向を理解する。</p> <p>第6回：公教育制度の原理と構造1：行政とは何か、その機能と役割を理解する。</p> <p>第7回：公教育制度の原理と構造2：戦後教育制度の法体系・関係法規を理解する。</p> <p>第8回：公教育制度の原理と構造3：教育行政の基本原則と改革動向を理解する。</p> <p>第9回：諸外国の教育・子育て制度1：北欧諸国（ノルウェイ）の幼児教育、義務教育および高等教育システムについて、法制度原理と改革動向に焦点化し学ぶ。</p> <p>第10回：諸外国の教育・子育て制度2：北欧諸国（フィンランド）の幼児教育、義務教育システムについて、法制度原理と改革動向に焦点化し学ぶ。</p> <p>第11回：学校・家庭・地域の連携と学校経営1：学校の家庭・地域との協働およびコンフリクトの事例について、グループ・ディスカッションにより、受講者間および受講者講師間での意見交換をおこない、授業・教育課程・学校経営のあり方を検討する。</p> <p>第12回：学校・家庭・地域の連携と学校経営2：前回に引き続き、受講者・講師間で意見交換をおこない、授業・教育課程・学校経営のあり方を理解する。</p> <p>第13回：学校安全への対応1：学校の内外での多様な事故について、何をどのように考えるのか、予防と対応、指導者が配慮すべき点とは何か、具体的事例・裁判例を検討する。</p> <p>第14回：学校安全への対応2：学校内外で起こる事故を、どのように防ぐのか、考え方と配慮すべき点を理解する。</p> <p>第15回：まとめ、法と制度その意義...教師として、教育の内容と方法だけではなく、その基盤となる法制度の理解および保護者や地域との協働など学校の経営的視点が重要であることを改めて確認する。</p>
テキスト	なし
参考書	添田久美子ほか『事例で学ぶ学校の安全と事故防止』（ミネルヴァ書房、2015年）。その他授業内において適宜指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	テーマによりグループディスカッションを実施する（1, 2回程度）。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接またはメールにより対応する。
フィードバックの方法	授業時またはクラスルーム上で対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	日常的に新聞に目を通すことを求める。毎日ニュースに触れること、その中で少なくとも教育・保育・福祉の話題について自らの考えを深めることを必須とする。その習慣をつけることが、本講の内容理解の前提となる。その他、授業時に指示する予習・復習等を求める。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>1. 貧困をなくそう</p> <p>10. 人や国の不平等をなくそう</p> <p>3. すべての人に健康と福祉を</p> <p>5. ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>8. 働きがいも経済成長も</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11. 住み続けられるまちづくりを</p> <p>16. 平和と公正をすべての人に</p> <p>17. パートナリシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	





開講科目名 Course	教育課程論（幼・小）
時間割コード Course Code	51711
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	田中 秀佳
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基礎科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	田中 秀佳 (教育保育学科)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"><li>・教育課程の意味、役割について理解を深める</li><li>・幼稚園教育要領・学習指導要領の内容を知る</li><li>・現代教育改革の動向を知る</li><li>・現代の教育問題を分析する視点を獲得する</li><li>・子どもにとって適切な授業計画を検討・立案するとともにカリキュラム・マネジメントの意義を理解する</li></ul>
授業の概要	<b>【対面授業】</b> 教育課程とは、学校においていつ・どこで・誰が・何を・どのように教育内容を考え、実施するのかに関する全体計画のことであり、学校運営の中心的な位置にあるものといえる。本講では、学校教育における教育課程の機能、意義、また教育課程編成の原理と方法を理解し、具体的な授業を計画するだけでなく、子ども・保護者・地域の実態を踏まえておこなわれる教科・学年・学校の各レベルにおけるカリキュラム・マネジメントの理論と実際を学ぶ。
評価方法	授業内の課題（15%）、小レポート（25%）、最終試験（60%）によって評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>第1回：教育課程論で何を学ぶか：教育課程とは何か。単なるカリキュラムの配列や時間割、学習指導要領の内容という意味ではなく、学校経営や教育条件整備への視点が含まれること、またそれらは教師が教育活動を行う上で必要なものであることを理解する。</p> <p>第2回：学校の「学び」を問う「普通」の学校とフリースクール：学校とは何か、自分自身の学校経験、現在の大学での学びを振り返りつつ、また一条校とは異なる「学校」での学びをとおして、自らが目指している教師という職業、学校という場所のあり方を逆説的に考える。</p> <p>第3回：学習指導要領とは何か1...戦後日本の教育政策と学習指導要領の変遷（戦後改革から80年代）：教育制度論で学習した内容を復習し、戦後教育がどのような特徴を持って始まり、様々な社会状況の中で教育課程行政がどのように展開されてきたのかを理解する。</p> <p>第4回：学習指導要領とは何か2...学習指導要領の変遷（90年代-現在）と現行学習指導要領の特徴：今日の教育課程のキーワードである「生きる力」が提起された背景と、現行学習指導要領がどのような社会状況を踏まえて改訂され現在に至っているのかを理解する。</p> <p>第5回：学習指導要領とは何か3...学習指導要領の特徴：学習指導要領の性質（最低基準性、大綱的基準、法的拘束性）や項目など、教育課程の国家的基準としての学習指導要領の基本的事項を学習する。また学習指導要領に関連する諸法令（教基法、学教法、学教法施規等）の内容を確認する。</p> <p>第6回：現行学習指導要領の特徴...現行学習指導要領の特徴と教育改革の動向：各自の学習指導要領、レジュメおよび資料を用いて、前回改訂からの変更点や重視されている観点を確認し、現行学習指導要領および教育改革の特徴を学習する。</p> <p>第7回：次期学習指導要領の特徴...次期学習指導要領の特徴と教育改革の動向：現代教育改革の特徴を確認し、改訂された学習指導要領の動向を解説する。その中で特に重要となってくるキーワード（アクティブ・ラーニング、社会に開かれた教育課程、カリキュラム・マネジメント等）について、各自が内容を事前に調べておいた上で、各キーワードの理解を深める。</p> <p>第8回：次期幼稚園教育要領の特徴...次期幼稚園教育要領の特徴：現代教育改革の特徴を確認し、改訂された学習指導要領の動向を解説する。その中で特に重要となってくるキーワード（カリキュラム・マネジメント、PDCAサイクル、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿等）について、各自が内容を事前に調べておいた上で、各キーワードの理解を深める。</p> <p>第9回：教育課程の役割と意義...教育課程は、諸法令に即し、国家的基準としての学習指導要領に依拠しながらも各学校が編成し、各教員が子どもの実態に応じた教育内容を作成していくものである。教育課程を考える前提として、そもそも学校とはどういう場所か、教員の役割とは何かについて、教育現場における様々な教育問題と、自らのこれまでの学校教育での学び、そして現在の大学での学びを素材にグループディスカッションをおこない、上記について確認、共有する。</p> <p>第10回：教育課程の編成原理：教育課程の原理と意義：学校で何を、いつ、どのような順序で教え、学ぶのか、という教育課程のあり方について、教育の目的・目標、学習指導要領、そして地域・子どもの実態に即した編成原理、学習方法について学ぶ。</p> <p>第11回：教育課程の経営と評価：教育課程の運営と管理といった、カリキュラム・マネジメントや教育評価について学習する。</p> <p>第12回：教育課程の検討と作成1 カリキュラムの検討：具体的なカリキュラム、指導案の事例をもとに、その編成原理や方法を学び、特徴や課題をグループごとに検討し発表する。</p> <p>第13回：教育課程の検討と作成2：具体的なケースを想定してカリキュラムを検討し、授業案を作成する。</p> <p>第14回：教育課程の検討と作成3：具体的なケースを想定してカリキュラムをグループごとに検討する。</p> <p>第15回：本講のまとめ...社会背景に伴う教育課程の変遷、教育課程の編成原理と意味、教育課程を経営する（カリキュラム・マネジメント）意義について改めて確認する。</p> <p>定期試験</p>
テキスト	幼稚園教育要領、小学校学習指導要領（2017年3月告示、文部科学省）
参考書	幼稚園教育要領解説、小学校学習指導要領解説総則編（2017年3月、文部科学省）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	テーマによりグループディスカッションを実施する（1, 2回程度）。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接またはメールにより対応する。
フィードバックの方法	授業時またはクラスルーム上で対応する。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	日常的に新聞に目を通すことを求める。毎日ニュースに触れること、その中で少なくとも教育・保育・福祉の話題について自らの考えを深めることを必須とする。その習慣をつけることが、本講の内容理解の前提となる。その他、授業時に指示する予習・復習等を求める。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17. パートナリーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	保育相談支援
時間割コード Course Code	51715
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	堀 美鈴
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	堀 美鈴 (教育保育学科)
授業の目標	<p>保育者の専門性を生かした保護者支援について、その定義や基本となる支援の原理について理解を深める。また、保護者支援の技術力を高める。</p> <p>学習効果</p> <p>知識・理解の領域・・・保育者の専門性を生かした保護者支援の定義や原理を理解できる。</p> <p>技能の領域・・・様々な事例の検討を通し、保護者支援の技術力を高める。</p> <p>態度・志向性の領域・・・保育の場におけるカウンセリングマインドの精神や態度に心がける。</p>
授業の概要	<p>保育相談支援は「子どもの最善の利益」を尽くすという原則のもと、子どもとその保護者を繋ぐ大切な保育者の役割の一つである。講義の前半は主に保護者支援の理論と方法について学ぶ。後半は現代の多くの保護者が抱える問題や不安等に関する事例を使った演習をとおり、保護者と向き合う際の傾聴・共感・受容等の態度を学ぶ。</p>
評価方法	<p>授業中の意欲・態度 (30%) / 提出物 (40%) / 小テスト (30%)</p> <p>総合的に評価</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が半数に満たない場合

授業計画	<p>1. 現代の子育てをめぐる課題と相談支援における保育者の役割 テキスト14～22 1時間の予習と1時間の復習を課す</p> <p>2. 保育相談支援の方法 テキスト26～41 1時間の予習と1時間の復習を課す</p> <p>3. 保護者との関係づくり テキスト46～53 1時間の予習と1時間の復習を課す</p> <p>4. 保育の環境構成を生かした支援 テキスト58～67 1時間の予習と1時間の復習を課す</p> <p>5. 地域の資源の活用と関係諸機関との連携 テキスト70～78 1時間の予習と1時間の復習を課す</p> <p>6. 地域子育て支援における保育相談支援の実際 テキスト84～96 1時間の予習と1時間の復習を課す</p> <p>7. 1～6までの振り返り、確認 1時間の予習と1時間の復習を課す</p> <p>8. 養育力向上を目指した支援の実際 テキスト102～109 1時間の予習と1時間の復習を課す</p> <p>9. 保護者同士の関係を改善するための支援の実際 テキスト116～125 1時間の予習と1時間の復習を課す</p> <p>10. 苦情対応から始まる支援の実際 テキスト130～139 1時間の予習と1時間の復習を課す</p> <p>11. 障がいのある子どもを持つ保護者への支援の実際 テキスト142～151 1時間の予習と1時間の復習を課す</p> <p>12. 要保護児童の家庭に対する支援の実際 テキスト158～166 1時間の予習と1時間の復習を課す</p> <p>13. 乳児院・母子生活支援施設等における支援の実際 テキスト170～185 1時間の予習と1時間の復習を課す</p> <p>14. これからの保育者の役割と課題 どのような課題があるのかレポートにまとめる 1時間の予習と1時間の復習を課す</p> <p>15. まとめ 一つのテーマについてレポートにまとめる。2時間の復習を課す</p> <p>実務経験のある教員による授業 保育園、子育て支援センター・ファミリー・サポート・センター・母子生活支援施設・虐待担当等での現場経験をいかし、例を挙げながら、様々な子育て支援について学生の理解を深めるよう指導する。</p>
テキスト	<p>実践・保育相談支援 青木紀久代編著 (株)みらい</p>
参考書	適宜紹介
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	<p>実務経験のある教員による授業 保育園、幼稚園、子育て支援センター・ファミリー・サポート・センター・母子生活支援施設・虐待担当等での現場経験をいかし、例を挙げながら、様々な子育て支援について学生の理解を深めるよう指導する。</p>
質問への対応方法	<p>・随時対応 ・メール対応（アドレス記載）</p>
フィードバックの方法	課したレポートについてはコメントを書き翌週返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業計画詳細情報に記載
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	

PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力 3.統率力 7.課題発見力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	保育相談支援とは 保育相談支援の定義	内容：保育相談支援の定義、また基本について知る(テキストP14~P17) 課題：具体的な相談内容について  1時間の予習と1時間の復習を課す	
2	保育相談支援とは 保育相談支援の構造	内容：保育相談支援の構造の特性と種類について知る(テキストP18~P22) 課題：事例に対する対応  1時間の予習と1時間の復習を課す	
3	保育相談支援の方法 保育者が行う保育相談支援	内容：在園児と地域の子育て家庭への支援(テキストP26~P32)  1時間の予習と1時間の復習を課す	
4	保育相談支援の方法 保護者支援の流れ・方法	内容：保護者支援の流れ・方法を学び演習課題を行う  レポート課題を課す(事例より)	
5	保護者との関係づくり 保護者との信頼関係を気づくために	内容：信頼される保育者になるためにどうしたらよいかを学ぶ(テキストP46~P55)  1時間の予習と1時間の復習を課す	
6	保育の環境構成を生かした支援 子ども・保護者を中心とした環境構成	内容：保護者支援における保育の環境構成の意義と課題を知る(テキストP58~P68)  1時間の予習と1時間の復習を課す	
7	地域の資源の活用と関係諸機関との連携 地域の資源・関係機関	内容：地域の資源・関係機関について知る  レポート課題を課す(関係機関を調べる)	
8	地域の資源の活用と関係諸機関との連携 地域の資源・関係機関との連携	内容：グループワーク及び発表  地域の資源・関係機関について(自分が調べた関係機関・連携について)	
9	地域子育て支援における保育相談支援の実際 保育所・認定こども園・幼稚園における子育て支援	内容：地域の子育て支援の拠点としての機能、特徴を知る(テキストP84~P96)  1時間の予習と1時間の復習を課す	
10	地域子育て支援における保育相談支援の実際 保育所・認定こども園・幼稚園における子育て支援(実践事例)	内容：保育所・認定こども園・幼稚園における子育て支援(実践事例)  具体的な事例についてグループワーク及び発表、解説。	
11	養育力向上を目指した支援の実際 保護者の養育力の支援の基本	内容：多様な養育困難に対応する保育相談援助(テキストP102~P112)  1時間の予習と1時間の復習を課す	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	苦情対応について 保育所における苦情の現状	内容：苦情の実際と対応について学ぶ(テキストP130～P139) 実践事例から考える  1時間の予習と1時間の復習を課す	
13	要保護児童の家庭に対する支援の実際 要保護児童の家庭に対する支援の実際	内容：虐待が疑われるとき、支援の実際について学ぶ  レポート課題を課す(虐待について)(クラスルームにて返信)	
14	乳児院・母子生活支援施設等における支援の実際 社会的養護の実際	内容：乳児院・母子生活支援施設における支援の実際  レポート課題を課す(社会資源について)	
15	まとめ	振り返り、要点を確認する。	

開講科目名 Course	保育リーダーシップ論 / Research of Child Care and Development for Nursery Teachers
時間割コード Course Code	51720
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	長江 美津子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	長江 美津子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>リーダー的立場の保育者は、保育の質の向上を図るスーパーパイザーとして人材育成、園全体の環境整備及び安全対策、保護者支援の窓口、さらに地域の子育て支援の普及など多くの業務をこなしていかなければならない。</p> <p>近年は職員集団は縦社会ではなく、職員や保育者が個性を發揮させながらもみんなで協力して保育を作り出していける協同組織をつくり、園文化をより一層生き生きとしたものにしていくことが望ましいという考え方に変わってきている。園文化を生き生きとしたものにしていくには、保育のリーダー的立場にあるものの保育に対する考え方や向き合い方、人材育成など幅広い面での意識の高さが大きく影響する。</p> <p>以上のことから、授業では保育における諸課題をとおして「一人ひとりがしっかり考える協同組織」をつくっていくための自覚や意識の向上を体験を通じた活動を中心に図り、その志向性を養っていく。</p>
授業の概要	<p>社会の変化に伴い、子どもを取り巻く環境も大きく変わってきている。これまで大人から子ども、子どもから子どもへと家庭や地域の中で自然の流れの中で継承されてきた文化や遊びの継承が難しくなっており、その役割が教育や保育の場で担っていく役割へと変わってきている。</p> <p>本授業では、失われてきている自然との触れ合い、伝承文化や年中行事、環境の変化に伴う幼児の運動能力の低下と伝承遊び（鬼ごっこ）などの保育課題を体験することで継承の必要性、重要性を理解すると共に、これからの幼児教育の在り方を考えていく。</p> <p>進めかたは、体験活動を中心に進めるが、事前知識として学生自ら調べる、グループで意見交換や発表をする、リーダーとなり調べたことを他学生に教授するなどの流れの中で行っていく。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	グループ討論や発表など授業参加姿勢態度（40％）提出課題（30％）小テスト（30％）
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回の授業のうち、6回以上の欠席で失格とする。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育現場の現状と課題</li> <li>2. 「保育の環境づくり(自然と触れ合う)」たけのこについて調べる</li> <li>3. 「保育の環境づくり(自然と触れ合う)」たけのこ掘り体験</li> <li>4. 「保育の環境づくり(自然と触れ合う)」森の探検隊・森の福笑い体験</li> <li>5. 「保育の環境づくり(自然と触れ合う)」草花あそび</li> <li>6. 「保育の環境づくり(自然と触れ合う)」草花あそびの振り返り</li> <li>7. 乳幼児の運動能力の低下について考える 鬼ごっこ</li> <li>8. 乳幼児の運動能力の低下について考える 鬼ごっこ</li> <li>9. 伝承文化や行事の継承 春の行事と伝承遊び</li> <li>10. 伝承文化や行事の継承 夏の行事と伝承遊び</li> <li>11. 伝承文化や行事の継承 秋の行事と伝承遊び</li> <li>12. 伝承文化や行事の継承 冬の行事と伝承遊び</li> <li>13. 伝承文化や行事の継承の意義</li> <li>14. 組織における望ましい文化 保育者間の協働と同僚性 子どもの主体性と資質能力を育む保育環境</li> <li>15. まとめ 「保育者の専門性と保育の質 リーダーの役割とスキル</li> </ol>
テキスト	なし
参考書	随時紹介
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業課題に対する下調べ、意見交換、体験、振り返りなどのサイクルの中で、教員と学生、学生と学生の中でのやり取りを通し、学びを深めていく。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員の授業 幼稚園や保育所での勤務経験を活かした教員が各回の内容に応じて実践指導を行っていく。
質問への対応方法	メール、授業後等に対応
フィードバックの方法	次の授業で全体に向けてフィードバックを行ったり、個別対応をおこなったりするなど、内容に応じて行っていく。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	課題に関して調べたり、検討したりする時間も必要となってくる。安易にSNSなどを頼り調べるだけではなく必ず文献等を使って調べることも条件とする。授業時だけでなく、書物を探す、グループで検討する、発表用資料を作成するなどの時間が必要となる。これらの時間を準備学習の時間(60時間)とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 7.課題発見力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス 保育現場の現状と課題	竹の子掘りに関する事前下調べを行う(予習2時間)	
2	自然との触れ合いを通して 竹の子掘りについて	グループ討議のまとめ(予・復習3時間)	
3	自然との触れ合いを通して 竹の子掘り体験	竹の子掘りの準備(予習1時間) 体験を通じた学びをレポートにまとめる(復習2時間)	
4	自然との触れ合いを通して 森の探検隊他	ネイチャーゲーム、森の福笑いなど、体験を通じた学びをレポートにまとめる。 森の福笑いの写真整理(予・復習3時間)	
5	自然との触れ合いを通して 草花遊び	草花の名前や遊び方を調べてまとめる(予・復習3時間)	
6	自然との触れ合いを通して 自然体験のまとめ	グループで調べたことを整理し、発表が出来るようにまとめる(予・復習3時間)	
7	鬼ごっこ 鬼ごっこの歴史と遊び	様々な鬼ごっこについて調べる(予習1時間) 鬼ごっこの遊び方をまとめる(復習2時間)	
8	鬼ごっこ 鬼ごっことその意義	鬼ごっこの遊び方を教えることができるようにしておく(予習1時間) 鬼ごっこの遊び方を表にまとめる(復習2時間)	
9	伝承文化・行事を知る 春の行事と遊び	春の行事について調べ授業に参加(復習1時間) 授業のまとめ(復習2時間)	
10	伝承文化・行事を知る 夏の行事と遊び	夏の行事について調べ授業に参加(復習1時間) 授業のまとめ(復習2時間)	
11	伝承文化・行事を知る 秋の行事と遊び	秋の行事について調べ授業に参加(復習1時間) 授業のまとめ(復習2時間)	
12	伝承文化・行事を知る 冬の行事と遊び	冬の行事について調べ授業に参加(復習1時間) 授業のまとめ(復習2時間)	
13	伝承文化・行事を知る 継承の意義	園行事について調べ授業に参加(復習1時間) 授業のまとめ(復習2時間)	
14	保育者間の協働性と同僚性 保育環境を考える	保育者の協働性、同僚性について事前に考えまとめておく(予習1時間) 受講のまとめレポート(復習2時間)	
15	まとめ 保育者の専門性と質の向上	15回の授業を受けて、まとめる(復習3時間)	

開講科目名 Course	教科教育法（体育）
時間割コード Course Code	51721
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	早川 健太郎
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室, 体育館
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川 健太郎 (教育保育学科)
授業の目標	小学校における「体育」指導の概要を理解する。また各領域の基本的な指導法を学び、基礎的指導技術を身につける。これらを用いて、体育科の教材研究を行い、学習指導案の作成ができるようになることを目標とする。
授業の概要	学習指導要領に示された内容と指導方法について学習と実技から学ぶ。最後は指導案の作成し模擬授業を行う。さらに振り返りを行い改善する視点を持つことができるようになる。
評価方法	レポート 25% 指導案 25% 模擬授業 50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	レポートが連続で未提出の場合 授業への不参加が連続している場合
授業計画	1. ガイダンス 2. 体育科の目標・内容 3. 子どもの実態を視野に入れた授業設計 4. 学習指導案の理解と作成方法 5. PCによる教材研究と活用方法 6. 評価方法の考え方 7. 体づくり運動系の各学年の指導と指導上の留意点 8. 器械運動系・陸上運動系の各学年の指導と指導上の留意点 9. 水泳運動系・ボール運動系の各学年の指導と指導上の留意点 10. 表現運動系の各学年の指導と指導上の留意点 11. 保健の各学年の指導と指導上の留意点 12. 指導計画の作成 13. 模擬授業 体づくり運動系・器械運動系・陸上運動系 14. 模擬授業 水泳運動系・ボール運動系 15. 模擬授業 表現運動系・保健
テキスト	小学校学習指導要領解説 体育編 文部科学省 フレーベル館
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワーク 各テーマごとにグループで議論し、内容を深める。 模擬授業に向けてグループで授業準備等を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて随時受け付ける ( hayakawa-k@nagoya-ku.ac.jp ) 必要であれば授業ご対応する。
フィードバックの方法	レポート等は次週フィードバックする。 発表等はその場にてフィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習 次回の内容について、テキスト部分を熟読すること。(60分) インターネット等を用いて指導案に作成に向け調べておくこと(30分) 復習 講義で行った内容についてまとめておくこと(90分)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力

開講科目名 Course	教科教育法（家庭）
時間割コード Course Code	51731
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	光松 佐和子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	光松 佐和子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>小学校家庭科の目標を踏まえ、学習指導に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を理解し、家庭科の授業づくりに関する実践的指導力の向上を目指す。</p> <p>小学校家庭科の特質を踏まえ、教育内容について理解し、家庭科の授業に関する教材について研究する。さらに 家庭科における問題解決的な学習の進め方に基づく学習指導案を作成し、模擬授業を行うことで、授業展開に関する指導技術を身に付ける。</p> <p>知識・理解の領域 家庭科の学習指導に必要な基本的な知識及び技能を理解できる。</p> <p>技能の領域 授業に関する教材について研究し、問題解決的な授業を行うための学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。</p>
授業の概要	<p>授業では、小学校家庭科の学習が子どもの成長に対し寄与できることが何かを追究する。</p> <p>また、子どもの生活実態や生活課題に根ざした教材の開発や学習指導の在り方の検討とともに、学習指導計画を立てる際に必要な基礎的基本的な内容の理解、技術の習得、学習指導案の作成を目指す。受講生が小学校家庭科の学習指導場面を想起できるように、教育実践事例、教育研究の蓄積等から授業を進める。また、近年の家庭や生活全般にかかわる問題点や教育現場が抱える課題について考え、子どもたちとの関わりの楽しさや厳しさについて学ぶ。</p>
評価方法	<p>1. 授業中の参加姿勢 20%</p> <p>2. 授業中に課すプリント 20%</p> <p>3. 指導案の立案 30%</p> <p>4. 模擬授業の実施 30%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合

授業計画	<p>第1回：小学校学習指導要領「家庭科」の指導の概要について 子どもの生活実態に根ざした家庭科の意義・必要性とは</p> <p>第2回：小学校学習指導要領「家庭科」の目標について</p> <p>第3回：小学校学習指導要領「家庭科」の内容分析と理解 「家族・家庭生活」</p> <p>第4回：小学校学習指導要領「家庭科」の内容分析と理解 「衣食住の生活」</p> <p>第5回：小学校学習指導要領「家庭科」の内容分析と理解 「消費生活・環境」</p> <p>第6回：問題解決的な指導法の事例研究</p> <p>第7回：年間指導計画と題材構成の工夫</p> <p>第8回：食生活に関する指導法 (1)バランスのとれた日常の食事について</p> <p>第9回：食生活に関する指導法 (2)調理の基礎について</p> <p>第10回：身近な消費生活と環境への配慮を重視した指導法</p> <p>第11回：衣生活に関する指導案の作成 「快適な衣服と住まい」の指導案作成</p> <p>第12回：衣生活に関する模擬授業の実際 「快適な衣服と住まい」の模擬授業の実際</p> <p>第13回：衣生活に関する模擬授業の反省と考察 「快適な衣服と住まい」の模擬授業の振り返り</p> <p>第14回：指導の工夫と模擬授業</p> <p>第15回：家族や生活環境を取り巻く現代的課題について 少子高齢化社会における家庭科の果たす役割について考察</p>
テキスト	<p>「新編 新しい家庭 5.6年」東京書籍</p> <p>「小学校学習指導要領 家庭編」文部科学省 平成29年度改訂版</p>
参考書	<p>「小学校新学習指導要領 ポイントと授業づくり 家庭」金子佳代子・藤原孝子 東洋館出版社</p> <p>「カラーワイド 家庭科 資料&amp;食品成分表」一橋出版</p> <p>「小学校家庭科授業づくり」筒井恭子 明治図書</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「家族の問題」、「衣食住に関わる問題」などのテーマについて自分の意見を述べ、他の学生とディスカッションをして解決策を探る。</li> <li>・指導案を立案し、模擬授業を行う。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・質問は随時対応
フィードバックの方法	・授業内で課したレポート、毎回授業最後に実施する振り返りシートは翌週返却し、復習をする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義（2単位）週1コマ（30時間）の場合、60時間の準備学習を必要とするため、授業計画詳細情報を参照すること。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>1. 貧困をなくそう</p> <p>10. 人や国の不平等をなくそう</p> <p>2. 飢餓をゼロに</p> <p>3. すべての人に健康と福祉を</p> <p>5. ジェンダー平等を実現しよう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11. 住み続けられるまちづくりを</p> <p>12. つくる責任つかう責任</p> <p>16. 平和と公正をすべての人に</p>
PROGリテラシーの要素	<p>3. 課題発見力</p> <p>4. 構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>2. 協同力</p> <p>3. 統率力</p> <p>7. 課題発見力</p> <p>8. 計画立案力</p> <p>9. 実践力</p>



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション 小学校学習指導要領「家庭科」 指導の概要について	子どもの生活実態に根ざした家庭科の意義・必要性とは 「小学校学習指導要領解説 家庭編 第1章総説」 (P1~P11) 2時間の復習を課す	
2	小学校学習指導要領「家庭科」 目標について	子どもを取り巻く環境見られる課題と求められる教育の対応とは 「小学校学習指導要領解説 家庭編 第2章目標」 (P12~P16) 2時間の復習を課す	
3	小学校学習指導要領「家庭科」 内容分析と理解	「家族・家庭生活」 「小学校学習指導要領解説 家庭編 第2章内容構成および内容」 (P17~P19) 内容構成の考え方について1時間の予習を課す (P20~P31) 内容「A家族・家庭生活」について3時間の復習を課す	
4	小学校学習指導要領「家庭科」 内容分析と理解	「衣食住の生活」 「小学校学習指導要領解説 家庭編 第2章内容」 (P32~P33) 衣食住の生活の目的について1時間の予習を課す (P34~P48) 食生活の内容について3時間の復習を課す	
5	小学校学習指導要領「家庭科」 内容分析と理解	「消費生活・環境」 「小学校学習指導要領解説 家庭編 第2章内容」 (P64~P70) 家庭における消費のあり方について3時間の復習を課す	
6	事例研究 問題解決的な指導法	具体例を取り上げて観察し学び取る 配布プリントについて、3時間の復習を課す	
7	年間指導計画と題材構成の工夫 2年間の学習計画	小学校5年生と6年生の2年間の学びについてプランを立てる 年次配当の内容を示した配布プリントについて、2時間の復習を課す	
8	内容別指導法 食生活に関する指導法	(1)バランスのとれた日常の食事について 「小学校学習指導要領解説 家庭編 第2章目標および内容」 「新しい家庭」(P92~P95)を読み、家族が喜ぶ食事について調理計画を立てる(3時間の復習)	
9	内容別指導法 食生活に関する指導法	(2)調理の基礎について 「小学校学習指導要領解説 家庭編 第2章目標および内容」 (P81~P83) 調理実習の行う際の注意事項について2時間の予習を課す	
10	内容別指導法 身近な消費生活に関する指導法	消費生活と環境への配慮について 「小学校学習指導要領解説 家庭編 第2章内容」「新しい家庭」(P36~P43)を読み、 お金の使い方を見つめ、買い物の方について考える(2時間の復習)	
11	指導法の作成 衣生活に関する指導案の作成	「快適な衣服と住まい」の指導案作成 「小学校学習指導要領解説 家庭編 第3章指導計画と内容の取扱い」 指導案を作成のため3時間の復習を課す	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	模擬授業の実際 衣生活に関する模擬授業	「快適な衣服と住まい」の模擬授業の実際 「小学校学習指導要領解説 家庭編 第3章指導計画と内容の取扱い」 2時間の復習を課す	
13	模擬授業の振り返り 衣生活に関する模擬授業の反省と考察	「快適な衣服と住まい」の模擬授業の振り返り 「小学校学習指導要領解説 家庭編 第3章指導計画と内容の取扱い」 模擬授業立案のため5時間の復習を課す	
14	指導の工夫と模擬授業 模擬授業の工夫	具体例を観察し考察する 「小学校学習指導要領解説 家庭編 第3章指導計画と内容の取扱い」 模擬授業の振り返りのため2時間の復習を課す	
15	家庭科における今後の課題 家族や生活環境を取り巻く現代的課題について	少子高齢化社会における家庭科の果たす役割について議論し、発表する 「小学校学習指導要領解説 家庭編」 発表後の振り返りのため2時間の復習を課す	

開講科目名 Course	教科教育法（国語（書写を含む。））
時間割コード Course Code	51741
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	加藤 昇
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	加藤 昇（教育保育学科）
授業の目標	国語科の授業について理論と実践方法を学びます。小学校の国語教師としての地力を高めることをねらいとします。
授業の概要	演習形式。一読総合法とはどのような読みをめざすのかを学びます。教材をもとに教材分析の仕方、指導目標、指導計画などの立て方などについて具体的に学びます。さらに模擬授業をすることでそれらを検証し、改善点を考えることでよりよい授業の在り方を探ります。
評価方法	毎回のレポート提出（50％）とまとめのテスト（50％）により総合的に判定します。出席はして当然ですので、「出席点」という制度はありません。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、一読総合法の読みと授業展開 4時間の復習を課す</li> <li>2、どのように教材化し指導計画を立てるか(文学の実践例紹介)「ちいちゃんのかげおくり」の教材化の視点と全体の指導目標 2時間の予習と2時間の復習を課す</li> <li>3、どのように教材化し指導計画を立てるか(文学の実践例紹介)「ちいちゃんのかげおくりの」の本時の指導計画について考える 2時間の予習と2時間の復習を課す</li> <li>4、文学作品の教材分析の仕方「ちいちゃんのかげおくり」を使って実践する 2時間の予習と2時間の復習を課す</li> <li>5、模擬授業(文学)「ちいちゃんのかげおくりの」の終結部分 2時間の予習と2時間の復習を課す</li> <li>6、どのように教材化し指導計画を立てるか(説明文の実践例紹介) 題材研究の重要性について「たんぼぼ」(東京書籍)を使って行う 2時間の予習と2時間の復習を課す</li> <li>7、どのように教材化し指導計画を立てるか(説明文の実践例紹介) 題材研究から教材分析をする「たんぼぼ」(東京書籍)を使って 2時間の予習と2時間の復習を課す</li> <li>8、説明文の題材研究と教材分析の仕方「イースター島にはなぜ森林がないのか」(教育出版)を使って 2時間の予習と2時間の復習を課す</li> <li>9、模擬授業(説明文)「イースター島にはなぜ森林がないのか」の終結部分 2時間の予習と2時間の復習を課す</li> <li>10、一読総合法の授業の基礎理論 2時間の予習と2時間の復習を課す</li> <li>11、一読総合法の授業と学習活動の組み立て方 2時間の予習と2時間の復習を課す</li> <li>12、「ヒロシマのうた」の終結部分の模擬授業 2時間の予習と2時間の復習を課す</li> <li>13、話し合い活動における教師の果たす役割 2時間の予習と2時間の復習を課す</li> <li>14、一読総合法と学級作り 2時間の予習と2時間の復習を課す</li> <li>15、授業のまとめと確認テスト 4時間の復習を課す</li> </ol>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学生による模擬授業を取り入れ、授業について相互批判によって実践力量を高める。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	小学校の現場で、国語教育の研究実践を積んできた。多くの文学作品、説明文教材についての教材分析、全体の指導目標、全体の授業計画、本時の目標などについて研究してきた。それらを伝えるとともに、その重要性について説いていきたい。
質問への対応方法	質問は随時受け入れ、それを全体で共有して、課題解決にあたりたい。
フィードバックの方法	各自にファイルを持たせ振り返ることで、自身のこれまでの考えと新しく学んだことをつなげていきたい。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	模擬授業を行う上においての事前準備をする。 また、参考文献の読了、資料のまとめなどを課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	

PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	教科教育法（社会）
時間割コード Course Code	51751
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	前原 宏一
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	前原 宏一（教育保育学科）
授業の目標	<p>・小学校教員免許状取得の必修科目であることを踏まえつつ、充実した小学校教育実習に向けて、学びを広げ深めることができる。</p> <p>・現小学校社会科学習指導要領の目標や内容などを理解し、社会科の授業において課題を追究・解決する活動をどう展開するか実践も通して学び合い、社会科の授業を指導できる基本的な資質を身につけることができる。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域</p> <p>・社会科の授業を進める上で、社会事象についての基本的な理解を深めるとともに社会的背景についても把握することができる。</p> <p>技能の領域</p> <p>・単元構成や授業展開を踏まえた上で、資料(導入資料・追究資料等)づくりや模擬授業の実践に取り組むことができる。</p> <p>思考判断の領域</p> <p>・子どもたちによる課題追究活動や学び合い活動を活かした授業展開を工夫しながら、学習指導案に表すことができる。</p> <p>態度・志向性の領域</p> <p>・社会科の授業をする上で、教材や資料をより効果的に活用するための工夫を意欲的に提案できる。</p>
授業の概要	<p>・4人グループでの話し合い(学び合い)活動を基本とし、小学校社会科における指導内容を理解して、学年の目標及び内容に合った指導方法の研究を進める。また、学習指導案の作成や模擬授業、研究協議の体験を通して、実践的な指導法についてのイメージづくりをする。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>・4人グループや全体での討議の様子 30%</p> <p>・毎回のふり返し用紙への記述 30%</p> <p>・学習指導案づくり及び模擬授業への取組、小レポート 40%</p> <p>を基本とし、社会科の指導法に関する資質向上について総合的に評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>・欠席回数が5回以上の場合</p> <p>・連続して3回欠席した場合</p>

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス、現学習指導要領小学校社会科の改定ポイント</li> <li>2 第3学年の目標や学習内容、指導上の留意点</li> <li>3 第3学年の学習指導案例の検討と「導入段階」の工夫</li> <li>4 第4学年の目標や学習内容、指導上の留意点</li> <li>5 第4学年の学習指導案例の検討と「めあてづくり」の工夫</li> <li>6 第5学年の目標や学習内容、指導上の留意点</li> <li>7 第5学年の学習指導案例の検討と「追究活動」の工夫</li> <li>8 第6学年の目標や学習内容、指導上の留意点</li> <li>9 第6学年の学習指導案例の検討と「評価のあり方や方法」</li> <li>10 各自の学習指導案づくりと4人グループでの検討</li> <li>11 最終学習指導案づくりに向けての検討（4人グループ）</li> <li>12 模擬授業の実践1と授業についての研究協議1</li> <li>13 模擬授業の実践2と授業についての研究協議2</li> <li>14 模擬授業の実践3と授業についての研究協議3</li> <li>15 模擬授業の実践4と授業についての研究協議4、授業全体のまとめとふり返り</li> </ol>
テキスト	なし
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校社会科学学習指導要領及び解説〔文部科学省〕</li> <li>・その他参考書及び参考資料等は、授業の中で適宜紹介する。</li> </ul>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、課題に対する「自分の考え」を立てさせた後、4人グループを基本とするグループでの「学び合い」の時間を確保した上で、クラス全体での情報共有（話し合い活動）の時間へ進むこととする。なお、4人グループについては、固定せず随時グループ編成をし直すこととする。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・38年間の小・中学校での教職経験を活かし、「資料づくり」「導入の方法（めあての提示も含む）」「子どもたちが思考・判断する時間の確保」等についての指導を通して「互いに学び合う授業」づくりについて探究し合う。</li> </ul>
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中や授業後に随時対応すると共に、オフィスアワーでも対応する。</li> </ul>
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回のふり返り・小レポートは、翌週に返却する。</li> <li>・それぞれの学習指導案は、4人グループ分を印刷し、グループでの追究協議の資料とする。</li> <li>・模擬授業の学習指導案については、模擬授業後に資料として全員に配布する。</li> </ul>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>毎回、前時内容についての2時間の復習と授業計画表に基づく次時内容に関する2時間の予習を課すこととする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス、新学習指導要領小学校社会科の改定ポイント</li> <li>2 第3学年の目標や学習内容、指導上の留意点</li> <li>3 第3学年の学習指導案例の検討と「導入段階」の工夫</li> <li>4 第4学年の目標や学習内容、指導上の留意点</li> <li>5 第4学年の学習指導案例の検討と「めあてづくり」の工夫</li> <li>6 第5学年の目標や学習内容、指導上の留意点</li> <li>7 第5学年の学習指導案例の検討と「追究活動」の工夫</li> <li>8 第6学年の目標や学習内容、指導上の留意点</li> <li>9 第6学年の学習指導案例の検討と「評価のあり方や方法」</li> <li>10 各自の学習指導案づくりと4人グループでの検討</li> <li>11 最終学習指導案づくりに向けての検討（4人グループ）</li> <li>12 模擬授業の実践1と授業についての研究協議1</li> <li>13 模擬授業の実践2と授業についての研究協議2</li> <li>14 模擬授業の実践3と授業についての研究協議3</li> <li>15 模擬授業の実践4と授業についての研究協議4、授業全体のまとめとふり返り</li> </ol>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 住み続けられるまちづくりを</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

開講科目名 Course	教科教育法（図画工作）
時間割コード Course Code	51761
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	塚本 敏浩
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	30A講義室, 31A講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	塚本 敏浩 (教育保育学科)
授業の目標	小学校学習指導要領に示された目標及び内容について理解し、授業展開に必要な基礎的な知識や技能、実際の授業が展開できる実践力（授業設計の能力）を身につけることを目的とする。そのために、小学校学習指導要領（図画工作編）の基本理念や図画工作科の歴史の変遷を把握し、学習評価の方法や教材の適切な活用方法についての理解を深める。また、学習指導案作成や模擬授業実践を通して、図画工作科の授業づくりの特性について知る。
授業の概要	学習指導要領に示された図画工作科の教育目標・内容・育成すべき資質・能力を理解し、その指導法及び授業設計を行う方法を身につけるために、具体的事例を交え、テキストを中心に講義する。なお、質問への対応は随時行う。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	課題への取り組みと探究姿勢... 30%、レポート及び指導案作成と模擬授業への参加・発表... 40%、 授業内での筆記テストの結果... 30% 以上の内容から総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。



授業計画	<p>第1回 授業の概要説明と進め方、小学校学習指導要領「図画工作編」の概要及び改訂の基本的な方向性</p> <p>第2回 小学校学習指導要領「図画工作編」の目標及び内容（教科・学年の目標、内容の構成・各領域及び共通事項）</p> <p>第3回 図画工作で育成すべき資質・能力、教育課程の編成と学校間接続、カリキュラムマネジメントに向けた取り組み</p> <p>第4回 図画工作における教育課程の実施と学習評価の具体、児童の発達（実態）を踏まえた図画工作指導の在り方</p> <p>第5回 図画工作科の特性とそれを踏まえたICTの具体的活用方法、情報機器を活用した題材例</p> <p>第6回 指導計画の作成と内容の取り扱い、指導上の配慮事項と学習指導案作成の実際</p> <p>第7回 教材・題材の具体と指導の実際1、A：表現・「造形遊び」の活動内容とその理解</p> <p>第8回 教材・題材の具体と指導の実際2、A：表現・「絵に表す」活動内容とその理解</p> <p>第9回 教材・題材の具体と指導の実際3、A：表現・「立体に表す」活動内容とその理解</p> <p>第10回 教材・題材の具体と指導の実際4、A：表現・「工作に表す」活動内容とその理解</p> <p>第11回 教材・題材の具体と指導の実際5、B：鑑賞の活動内容とその理解、「共通事項」の指導内容</p> <p>第12回 指導案作成の実際と授業設計、模擬授業（低学年グループ）及び事後検討会</p> <p>第13回 指導案作成の実際と授業設計、模擬授業（中学年グループ）及び事後検討会</p> <p>第14回 指導案作成の実際と授業設計、模擬授業（高学年グループ）及び事後検討会</p> <p>第15回 最新の図画工作科研究の動向、図画工作学習の展望及び発展的内容</p> <p>【実務経験のある教員による授業】 小中学校教育現場での経験がある教員が、小学校で実践されている教科指導法や指導案作成のノウハウについて解説し、理論と実践の往還を重視し、指導する科目である。</p>
テキスト	『小学校学習指導要領解説 図画工作編』文部科学省（平成29年6月）
参考書	担当教員作成のレジュメ・資料等と適宜使用する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実際の教育及び保育現場における喫緊の課題や実践的な指導方法・教材について適宜扱い、指導、教授する。
質問への対応方法	随時対応する（研究室訪問やメール等）
フィードバックの方法	課題については随時返却し、個別指導する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	第1～15各回ともに、シラバスに記載された内容について、事前の配布資料を参考に学習の見通しと疑問点を整理しする等の予習を1時間行うこと、また、本時の配布資料及び講義内容を参考に学習内容をノートにまとめ、感想や意見を書き留める等の復習を1時間行うこと。（実技の学習課題については、製作活動を復習時間に含めてもよい。）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	教科教育法（算数）
時間割コード Course Code	51771
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	東岡 博
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	東岡 博（教育保育学科）
授業の目標	<p>&lt; 授業の目標 &gt; 算数科のねらいを大切にした授業づくりのための基本的な資質を身につける。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt; 知識・理解の領域 算数科の背景となる数学の理論的裏付けを大切にし、教材研究に努めることができる。</p> <p>技能の領域 単元構成やねらいに沿った導入の在り方、学び合いの授業展開について考えることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 子どもの声をつなぐことで課題解決に導かせるよう授業展開を工夫し、学習指導案に表そうとすることができる。</p>
授業の概要	<p>4人グループやペアでの活動を取り入れた学び合いの授業について理解を深め、小学校算数科の目標やねらいを網羅した指導方法の研究に努める。</p> <p>効率的な教材研究に取り組み、ねらいと評価を意識した課題の研究に努める。また、模擬授業と研究協議を併せて取り組み、ふり返りを生かした模擬授業の工夫に努める。</p> <p>なお、本授業は、小学校教育実習及び小学校免許取得に関して必須である。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	・ 授業での取組の様子、指導案づくりや模擬授業、ふり返りやレポートの内容等を通して総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・ 欠席回数が3分の1を超えた場合は失格とする。

授業計画	<p>第1回：学習指導要領改訂の経緯と基本方針</p> <p>第2回：算数科改訂の趣旨と要点 算数科の目標と内容</p> <p>第3回：算数科の「主体的・対話的で深い学び」について 教材研究の進め方、学習指導案の見方、作成方法について</p> <p>第4回：主体的・対話的で深い学びの数学的活動 模擬授業の意義と研究協議の進め方</p> <p>第5回：新学習指導要領における数学的活動の具体例の提示 単元構成の見方・考え方 模擬授業と研究協議の実際</p> <p>第6回：「A数と計算」領域の指導と内容 整数と計算指導：教材研究，学習指導案作成，模擬授業</p> <p>第7回：「A数と計算」領域の指導と内容 整数と計算指導：教材研究，学習指導案作成，模擬授業</p> <p>第8回：「A数と計算」領域の指導と内容 小数と計算：教材研究，学習指導案作成，模擬授業</p> <p>第9回：「A数と計算」領域の指導と内容 分数と計算：教材研究，学習指導案作成，模擬授業</p> <p>第10回：「B図形」領域の指導と内容：教材研究，学習指導案作成，模擬授業</p> <p>第11回：「B図形」領域の指導と内容：教材研究，学習指導案作成，模擬授業</p> <p>第12回：「C測定」領域の指導と内容：教材研究，学習指導案作成，模擬授業，</p> <p>第13回：「C変化と関係」領域の指導と内容：教材研究，学習指導案作成，模擬授業</p> <p>第14回：「Dデータの活用」領域の指導と内容：教材研究，学習指導案作成，模擬授業</p> <p>第15回：講義のまとめとふり返り</p> <p>期末テスト</p>
テキスト	・必要な資料を適宜配布する。
参考書	・授業において、適宜伝える。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・模擬授業の実践と研究協議の実施など互いに学び合うことができる課題については、積極的に取り入れていく。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 教育現場において児童に算数等を指導した経験や、研究主任として授業づくりの中心として研鑽してきたことを、系統立てて指導する科目である。
質問への対応方法	・授業時およびオフィスアワーで、随時対応する。
フィードバックの方法	・随時、授業の終わりにふり返りを行うとともに、学習指導案やレポートは、翌週に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・毎回、前時の内容についての2時間の復習と授業計画に基づく次時の内容に関する2時間の予習を課する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	教科教育法（理科）
時間割コード Course Code	51781
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	日比野 博
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 2 C 理化学実験室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	日比野 博（教育保育学科）
授業の目標	<p>小学校指導要領のねらいを基礎におき、理科教育の目標や内容、及び教材研究や授業設計の方法等について理解することができる。</p> <p>理科学習において、子供が関心や意欲をもって関わっていくことができる活動につながる授業設計について、考え工夫することが出来るようになる。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 学年ごとの学習内容と指導法や安全な対策を、より詳しく理解することができる。</p> <p>態度・志向性の領域 理科の教科に自信を持ち、意欲的に児童の学習活動に関わることができる。</p> <p>技能の領域 授業で使用する教材・教具、ICTの扱いに慣れ、効果的にかつ余裕をもって指示・指導に当たることができる。</p>
授業の概要	<p>【対面授業】</p> <p>小学校理科における指導内容を理解し、理科教育の目標、内容、学習指導、評価など基本的事項は概説するとともに、個人やグループによる演習や発表などを通して授業に在り方について考えていく。</p> <p>また、学年の目標および単元に合わせた指導方法の研究を進めていく。そして、単元構想の検討とアクティブラーニングを取り入れた授業・指導案づくりを進める。ICTの効果的な活用についても検討する。</p> <p>ああ、この科目の位置づけについては、本学HPを参照すること。</p> <p>質問などにおいては、随時対応する。</p>
評価方法	<p>授業態度と授業内レポート（30%）</p> <p>模擬授業、小レポート・発表（30%）</p> <p>課題と指導案（40%）</p> <p>授業内で提出したレポートは、原則として次週に返却する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上の欠席

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス，理科教育の変遷等について</li> <li>2 理科指導の在り方，指導案の書き方について</li> <li>3 安全な理科指導の在り方，効果的なICT活用について</li> <li>4 A区分「物質・エネルギー」の単元研究と授業展開の検討</li> <li>5 B区分「生命・地球」の単元研究と授業展開の検討</li> <li>6 理科における観察・実験の意義と問題解決学習との関連について</li> <li>7 A区分の学習指導案の作成</li> <li>8 模擬授業</li> <li>9 授業の振り返りと指導案の検討</li> <li>10 B区分の指導案の作成・検討について</li> <li>11 模擬授業</li> <li>12 授業の振り返りと指導案の検討</li> <li>13 模擬授業構成やICT機器を活用した指導，プログラミング教育に関する指導について</li> <li>14 学習指導案の作成</li> <li>15 模擬授業・学習指導案の検討とまとめ</li> </ol>
テキスト	小学校学習指導要領解説・理科編（平成29年7月 文部科学省）
参考書	授業の中で紹介する(理科教科書)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導案作成や模擬授業の振り返りを全体やグループごとで議論や発表，研究協議等を通して小学校教育・指導法を深めていく。</li> <li>・ 随時，話し合い深めていく活動を取り入れ，実践的な活動を進めていく。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小中学校の現場経験を踏まえた指導を生かし，現場に即した助言や指導をしていく。</li> <li>・ 時には，現役の講師による実習や研修を行うことも考えている。</li> </ul>
質問への対応方法	授業中・授業後，オフィスアワーなどを通して，随時対応していく。
フィードバックの方法	学習指導案やレポート等は翌週に返却する。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス，理科教育の変遷等について テキストP1～8までの予習を課す</li> <li>2 理科指導の在り方，指導案の書き方について 指導案について1～2時間ぐらいの復習を課す</li> <li>3 安全な理科指導の在り方，効果的なICT活用について P31～38，P47～51までの予習を1～2時間課す</li> <li>4 A区分「物質・エネルギー」の単元研究と授業展開の検討 指導案についての復習について1～2時間ぐらいの復習とテキストP39～44，P52～60，P63～66，P77～83まで2時間の予習を課す</li> <li>5 B区分「生命・地球」の単元研究と授業展開の検討 指導案についての復習について1～2時間ぐらいの復習とP67～74，P84～103まで2時間の予習を課す</li> <li>6 理科における観察・実験の意義と問題解決学習との関連について</li> <li>7 A区分の学習指導案の作成 指導案の予習について3～4時間ぐらいの学習を課す</li> <li>8 模擬授業</li> <li>9 授業の振り返りと指導案の検討 指導案の検討について3～4時間ぐらいの学習を課す</li> <li>10 B区分の指導案の作成・検討について</li> <li>11 模擬授業</li> <li>12 授業の振り返りと指導案の検討 指導案の検討について3～4時間ぐらいの学習を課す</li> <li>13 模授業構成やICT機器を活用した指導，プログラミング教育に関する指導について</li> <li>14 学習指導案の作成 指導案の予習について3～4時間ぐらいの学習を課す</li> <li>15 模擬授業・学習指導案の検討とまとめ</li> </ol>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11～17)	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	教科教育法（生活）
時間割コード Course Code	51791
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	日比野 博
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	日比野 博 (教育保育学科)
授業の目標	<p>新しい生活科の指導の基本となる目標・内容を理解するとともに、具体的な指導方法を考案・体験し、生活科での実践に生かすことができる。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 生活科の指導に必要な、基本的な知識や特異性を知ることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 児童の多様な活動に対応するため、即行動できる態度や行動能力を身につけることができる。</p> <p>技能の領域 場面や状況によって異なる対応を求められる能力や技能を身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>小学校指導要領の解説をもとに、生活科の目標・内容の理解を図る。また、生活科における指導計画の特性や学習指導の特性を理解し、家庭・地域や児童にあったものにするための具体的な活動や体験（秋見つけ、身近なものを使った物作りなど）を通して、効果的な指導方法の考案を図る。</p> <p>なお、この科目の位置づけについては、本学HPのナンパリングを参照すること 質問等については随時対応する。</p>
評価方法	<p>受講態度と授業内レポート（30%） 授業参観レポート・模擬授業（30%）、 課題・指導案作成（40%） 授業内レポートについては、原則として次週に返却をする。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席5回以上

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス、理科教育の変遷等について</li> <li>2 生活科指導の在り方，指導案の作成について</li> <li>3 内容構成の視点と学習活動の研究について</li> <li>4 生活科の活動の展開について</li> <li>5 作品作り</li> <li>6 反省と展開の課題について</li> <li>7 「身近な物を使った物作り」の指導案を作成し，授業内容や進め方についてに検討する</li> <li>8 模擬授業</li> <li>9 模擬授業を参観を行った指導について，別の展開を考える</li> <li>10 「自分にできること」の指導案を作成する</li> <li>11 模擬授業</li> <li>12 授業内容や進め方などについて振り返りをする</li> <li>13 ICT機器を活用した効果的な指導について</li> <li>14 学習指導案の作成</li> <li>15 学習指導案の検討とまとめ</li> </ol>
テキスト	小学校学習指導要領解説・生活編（平成29年7月 文部科学省）
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導案作成や模擬授業の振り返りを全体やグループごとで，議論や発表，研究協議等を通して小学校教育・指導法を深めていく。</li> <li>・ 随時，話し合い深めていく活動を取り入れ，実践的な活動を進めていく</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小中学校の現場経験を踏まえた指導を生かし，現場に即した助言や指導をしていく。</li> <li>・ 時には，現役の講師による実習や研修を行うことも考えている。</li> </ul>
質問への対応方法	授業中・授業後，オフィスアワーなどを通して，随時対応していく。
フィードバックの方法	学習指導案やレポート等は翌週に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス、理科教育の変遷等について</li> <li>2 生活科指導の在り方，指導案の作成について 指導案について1～2時間ぐらいの復習を課す</li> <li>3 内容構成の視点と学習活動の研究について 活動の展開についての予習を1～2時間課す</li> <li>4 生活科の活動の展開について 展開の振り返りについて，1～2時間ぐらい復習と作品作りの準備について2時間の予習を課す</li> <li>5 作品作り</li> <li>6 反省と展開の課題について 復習について1～2時間ぐらいと2時間の予習を課す</li> <li>7 「身近な物を使った物作り」の指導案を作成し，授業内容や進め方についてに検討する 指導案の予習について4～5時間ぐらいの学習を課す</li> <li>8 模擬授業 授業の振り返るについて2時間ぐらいの復習を課す</li> <li>9 模擬授業を参観を行った指導について，別の展開を考える 復習について2時間の復習と1時間の予習を課す</li> <li>10 「自分にできること」の指導案を作成する</li> <li>11 模擬授業 授業の振り返るについて2時間ぐらいの復習を課す</li> <li>12 授業内容や進め方などについて振り返りをする 1時間ぐらいの復習と2時間の予習を課す</li> <li>13 ICT機器を活用した効果的な指導について 指導案の予習について3～4時間ぐらいの学習を課す</li> <li>14 学習指導案の作成</li> <li>15 学習指導案の検討とまとめ</li> </ol>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう



PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	教科教育法（音楽）
時間割コード Course Code	51841
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	秋田 郁
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	秋田 郁 (教育保育学科)
授業の目標	<p>知識・理解の領域 学習指導要領の内容を学習し、小学校教育における音楽科の意義を理解する。</p> <p>技能の領域 小学校における音楽科の指導方法を学び、模擬授業を行い、実践力を身に付ける。</p> <p>態度・志向性の領域 模擬授業を行う際には、事前に積極的に教科書・指導書等の資料を調べ、学年の特徴を考慮しながら立案する。</p>
授業の概要	学習指導要領をはじめとする小学校音楽科教育に関する様々な法令、小学校における音楽科の指導方法を学ぶ。また、模擬授業を通して実践を行う。
評価方法	授業への参加20%、課題80%により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回授業のうち、6回以上欠席した場合、失格とする。
授業計画	小学校における音楽の授業の展開方法を、学習指導要領を基に解説し、学生自身も模擬授業を通して実践に備えることを指導する科目である。
テキスト	「新版 教員養成課程 小学校音楽科教育法 2022年改訂版」有本真紀・阪井恵・津田正之 編著 教育芸術社 1,800円+税
参考書	『小学生の音楽 1～6』教育芸術社 『小学生の音楽 1～6』指導書 教育芸術社 『小学音楽 音楽のおくりもの1～6』教育出版株式会社 『小学音楽 音楽のおくりもの1～6』指導書教育出版株式会社 文部科学省『小学校学習指導要領解説音楽編』教育芸術社 小学校教員養成課程用 『最新 初等科音楽教育法』初等科音楽教育研究会編 音楽之友社
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	受講者全員が模擬授業を実践する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問には随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	課題に応じて事前事後学習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	予習復習を課す。 テキストp.6-9を予習する。	
2	学習指導要領について	予習復習を課す。 テキストp.10を予習する。	
3	音楽科教育の目標	予習復習を課す。 テキストp.11-5を予習する。	
4	歌唱について	予習復習を課す。 テキストp.16-23を予習する。	
5	器楽について	予習復習を課す。 テキストp.24-39を予習する。	
6	音楽づくりについて	予習復習を課す。 テキストp.40-47を予習する。	
7	鑑賞について	予習復習を課す。 テキストp.48-55を予習する。	
8	共通事項について	予習復習を課す。 テキストp.56-59を予習する。	
9	学習指導計画の作成	予習復習を課す。 テキストp.60-67、p.74-85を予習する。	
10	特別な配慮を必要とする児童への指導について、模擬授業	予習復習を課す。 テキストp.72-73を予習する。	
11	主体的・対話的で深い学びについて、模擬授業	予習復習を課す。 テキストp.86-89を予習する。	
12	評価について、模擬授業	予習復習を課す。 テキストp.90-97を予習する。	
13	幼保小・小中連携について、模擬授業	予習復習を課す。 テキストp.68-71を予習する。	
14	教材について、模擬授業	予習復習を課す。 テキストp.98-103を予習する。	
15	まとめ	予習復習を課す。 予習レポート課題「なぜ小学校に音楽の授業が必要か」を書く。	

開講科目名 Course	教科教育法（外国語）
時間割コード Course Code	51844
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	黒川 敦子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	黒川 敦子 (教育保育学科)
授業の目標	小学校において、外国語活動（中学年）、外国語科（高学年）を指導するために必要とされる基本的な知識、理論を学ぶとともに、実践的な指導方法及び指導技術を身につける。
授業の概要	学生が大学卒業後、小学校において外国語活動・外国語科を円滑に指導することができるように、当該科目の歴史的背景・成り立ち、様々な学習法、評価法、指導法（模擬授業を行うことを含む）を、毎回効果的な授業展開ができるよう工夫しながら、教授する。学習指導案（略案）を作成し、模擬授業を行う。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	試験及びレポート（20%）、指導案作成と模擬授業（50%）、授業に取り組む姿勢（30%）
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席が4回を超えると失格となり、単位は与えられません。 遅刻（または早退）2回で欠席1回になります。 指導案作成、模擬授業の実践は単位取得のために必須となります。

授業計画	<p>第1回：小学校学習指導要領について【教科書第1部Unit1,第2部Unit1参照】</p> <p>第2回：授業で使用する教材の構成、特徴、またそれを生かした有効な活用法について【教科書第1部Unit10,第3部Unit10参照】</p> <p>第3回：指導環境（児童・学校）の多様性に対応できるような基礎的な事柄を学ぶ重要性について【教科書第1部Unit3,第3部Unit5参照】</p> <p>第4回：児童の第二言語習得のための基本的な理論を理解し、指導に生かすことについて【教科書第2部Unit6,第3部Unit2参照】</p> <p>第5回：リスニングスキルの向上のプロセスについて学び、どのようにそれを指導に生かすかについて【教科書第3部Unit7,第1部Unit4参照】</p> <p>第6回：様々な場面におけるコミュニケーションの機能（使い分け）について【教科書第1部Unit5,第2部Unit15参照】</p> <p>第7回：日本語と比較しつつ、音声から入り文字へ抵抗なく移行することができるような指導法について【教科書第2部Unit3参照】</p> <p>第8回：児童に語りかけ発話を引き出すことができるスピーキングスキル、また児童との英語による意思の疎通を図ることができるコミュニケーションスキルを身につける方法について【教科書第1部Unit8,第3部Unit12参照】</p> <p>第9回：文字への移行をスムーズにおこない、リーディング・ライティングスキルを磨く方法について【教科書第3部Unit13,第1部Unit9参照】</p> <p>第10回：教材研究の仕方や授業で教えるトピックや教材を選定する方法について【教科書第1部Unit10,第3部Unit10参照】</p> <p>第11回：学習到達目標に基づいた学習指導案の立案について【教科書第1部Unit11,12参照】</p> <p>第12回：ALTとの関わり方や、ICTの活用方法について。指導案作成。【教科書第1部Unit13,14第3部Unit6参照】</p> <p>第13回：模擬授業とディスカッション（1）</p> <p>第14回：模擬授業とディスカッション（2）</p> <p>第15回：様々な環境における学習状況の評価方法について【教科書第1部Unit15,第3部Unit8参照】</p>
テキスト	『小学校英語始める教科書 改訂版 外国語科・外国語活動指導者養成のために一コアカリキュラムに沿って』 監修：吉田研作 著者：小川隆夫・東仁美 発行：mpi松香フォニックス ISBN/ISSN 978-4896437829
参考書	『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』文部科学省 『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』文部科学省 『Let's Try! 1』文部科学省 『Let's Try! 2』文部科学省 『New horizon elementary 5』東京書籍 『New horizon elementary 6』東京書籍 『Picture dictionary』東京書籍
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	テキストの輪読を行う。一人につきテキスト一章分を要約し、内容について考えたことを全体で議論する。 英語での活動内容を考え、発表し、全体でディスカッションを行う。 模擬授業をチームティーチングで行い、それに対して相互評価を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	公立小学校で英語指導経験がある教員が、小学校外国語科・外国語活動における指導方法を、現場の経験をふまえながら、理論と実践を教える科目である。
質問への対応方法	随時対応 メール対応：t20n6161@nagoya-ku.ac.jp
フィードバックの方法	提出物は教員が添削し、翌週に返却する。 模擬授業等発表に関しては学生同士の相互評価、教員も合わせてフィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習 2 時間、復習 2 時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	外国語(英語)
時間割コード Course Code	51846
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	黒川 敦子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	黒川 敦子 (教育保育学科)
授業の目標	小学校における外国語活動・外国語(英語)の授業を行うための総合的な英語運用力、また英語文化、第二言語習得理論などについての知識を身につける。
授業の概要	小学校における外国語活動・外国語の授業を行うことができる英語運用力を高め、児童に英語を効果的に教授することができる様々な方法を習得する。
評価方法	授業への積極的な取組(10%)、発表×3(60%)、小テスト(30%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席が4回を超えると失格となり、単位は与えられません。 遅刻(又は早退)2回で欠席1回となります。
授業計画	<p>[予習]毎回の授業時に実施する英語力を高めるためのテストの勉強を行う(2時間)。  [復習]授業で学んだ事項の最重要部分を復習する(2時間)。  第1回: クラスルームイングリッシュ(教室英語)について学ぶ【教科書第1部Unit8参照】  第2回: 授業実践に必要な読む力と書く力を身につける(習得すべき語彙・熟語の小テスト)【教科書第2部Unit12,14参照】  第3回: 授業実践に必要な読む力と書く力を身につける(習得すべき英語表現の小テスト)【教科書第2部Unit12,14参照】  第4回: 正しい発音を習得するのに必要となる英語音声学の基本について学ぶ【教科書第2部Unit2参照】  第5回: 授業実践に必要な聞く力と話す力を身につける(習得すべき会話文の暗記とロールプレイングの小テスト)【教科書第2部Unit11,13参照】  第6回: 授業実践に必要な聞く力と話す力を身につける(テーマに沿った英語でのオーラルプレゼンテーションとその聞き取り)【教科書第2部Unit11,13参照】  第7回: 英語の基本的事項(発音、語彙、文法、文の構造)について復習し、学びを深める【教科書第2部Unit3,4,5参照】  第8回: 第二言語習得に関する基礎的な知識(代表的な理論や学習者の要因など)を身につける【教科書第2部Unit6参照】  第9回: 異文化理解の意義やその現状と課題、異文化理解における英語の位置づけなど、異文化理解に関する基本的な知識を学ぶ【教科書第2部Unit9参照】  第10回: 小学校における実際の外国語(活動)の授業と授業づくりについて学ぶ。  第11回: 英語コミュニケーション力を高める方法について学ぶ  第12回: マザーグースその他の児童向けの歌や手遊びの練習をし、歌詞を通して英語文化について学ぶ【教科書第2部Unit8参照】  第13回: 授業実践に必要な知識を得る  第14回: 写真や絵カード、マグネット付きのアルファベットなどの教材を使用した模擬講義を考察してみる【教科書第3部Unit9-12参照】  第15回: ペアまたはグループで模擬講義の発表・ふりかえりを行う</p>

テキスト	『小学校英語始める教科書 改訂版 外国語科・外国語活動指導者養成のためにーコアカリキュラムに沿って』 監修：吉田研作 著者：小川隆夫・東仁美 発行：mpi松香フォニックス ISBN/ISSN 978-4896437829
参考書	『小学校学習指導要領』（文部科学省） 『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』文部科学省 『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』文部科学省 『Let's Try! 1』文部科学省 『Let's Try! 2』文部科学省 『New horizon elementary 5』東京書籍 『New horizon elementary 6』東京書籍 『Picture dictionary』東京書籍
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	英語での活動内容をペア又はグループで考え、発表し、相互評価を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	公立小学校で英語指導経験のある教員が、小学校外国語科・外国語活動における指導方法を、現場の経験をふまえながら、英語運用能力、理論と実践の基礎を教える科目である。
質問への対応方法	メール対応：t20n6161@nagoya-ku.ac.jp
フィードバックの方法	発表に関しては学生同士の相互評価、教員も合わせてフィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	[予習]毎回の授業時に実施する英語力を高めるためのテストの勉強を行う(2時間)。 [復習]授業で学んだ事項の最重要部分を復習する(2時間)。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	子どもと造形(1組)
時間割コード Course Code	51880
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	塚本 敏浩
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	30A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	塚本 敏浩 (教育保育学科)
授業の目標	将来の保育士・幼稚園教諭・小学校教諭として必要な造形活動及び図画工作の意義を理解し、活動及び学習を展開するために必要な造形表現の基礎的な知識や技能を習得し、教材や教具・用具についての理解を深め、造形活動に積極的に関われる態度を身に付ける。
授業の概要	自然物や身の回りにあるものを描くことを通して、基本的な描画用具などの扱い方を学習する。色彩の理論を、色光の科学的理解を通して、絵の具の混色や様々なメディアに見られる色彩について理解し、作品制作に応用できるようにする。 凸版画の制作を通して、形と色の変化の楽しさを感じ取る。また、様々な造形活動を通して、素材のよさや性質に気付く。 なお、質問への対応は随時行う。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	課題及び課題への取り組みと探求の姿勢...60%、小レポート及び授業への参加・発表と鑑賞態度...40% 以上の内容から総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第 1 回 授業の概要説明と進め方（造形活動・図画工作・美術とは何か）</p> <p>第 2 回 造形教育の目的と内容、材料・用具の具体と取り扱いの基本（クレヨン・パス・鉛筆・絵の具・ペン等の描画材）</p> <p>第 3 回 教材づくりの基礎・モダンテクニック（1）...フロッタージュ、ドリッピング、パチック・にじみ・ぼかし等</p> <p>第 4 回 教材づくりの基礎・モダンテクニック（2）...マーブリング・デカルコマニー・スパッタリング、コラージュ等</p> <p>第 5 回 光と色について?（色の三原色の理論と演習、色遊び、混色、重色による作品づくり）</p> <p>第 6 回 光と色について?（光の三原色の理論と演習、様々な配色 [カラースキーム] による作品づくり）</p> <p>第 7 回 見ることと描くこと：素描?...鉛筆・クレヨン・パスによる演習（材料の特性理解と扱い方も含む）</p> <p>第 8 回 見ることと描くこと：素描?...水彩絵の具による演習（材料の特性理解と扱い方も含む）</p> <p>第 9 回 見ることと写し取ること：版画?...コラージュ版画による作品づくり</p> <p>第10回 見ることと写し取ること：版画?...紙版画・凸版画による作品づくり</p> <p>第11回 見ることと写し取ること：版画?...木版画による作品づくり</p> <p>第12回 見ることと写し取ること：版画?...その他の版画・凹版画・平版画による作品づくり</p> <p>第13回 立体に形づくること?...油粘土による演習</p> <p>第14回 立体に形づくること?...紙粘土による演習</p> <p>第15回 造形活動と図画工作における指導と支援、作品づくりの振り返りとまとめ</p>
テキスト	『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形素材』樋口一成（著）萌文書林
参考書	担当教員作成のレジュメ・資料等を適宜使用する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実際の教育及び保育現場における喫緊の課題や実践的な指導方法・教材について適宜扱い、指導、教授する。
質問への対応方法	随時対応する（研究室訪問やメール等）
フィードバックの方法	課題については随時返却し、個別指導する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	第 1～15各回ともに、シラバスに記載された内容について、事前の配布資料を参考に学習の見通しと疑問点を整理しする等の予習を 1 時間行うこと、また、本時の配布資料及び講義内容を参考に学習内容をノートにまとめ、感想や意見を書き留める等の復習を 1 時間行うこと。（実技の学習課題については、製作活動を復習時間に含めてもよい。）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	子どもと造形(2組)
時間割コード Course Code	51881
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	塚本 敏浩
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	30A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	塚本 敏浩 (教育保育学科)
授業の目標	将来の保育士・幼稚園教諭・小学校教諭として必要な造形活動及び図画工作の意義を理解し、活動及び学習を展開するために必要な造形表現の基礎的な知識や技能を習得し、教材や教具・用具についての理解を深め、造形活動に積極的に関われる態度を身に付ける。
授業の概要	自然物や身の回りにあるものを描くことを通して、基本的な描画用具などの扱い方を学習する。色彩の理論を、色光の科学的理解を通して、絵の具の混色や様々なメディアに見られる色彩について理解し、作品制作に応用できるようにする。 凸版画の制作を通して、形と色の変化の楽しさを感じ取る。また、様々な造形活動を通して、素材のよさや性質に気付く。 なお、質問への対応は随時行う。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	課題及び課題への取り組みと探求の姿勢... 60%、小レポート及び授業への参加・発表と鑑賞態度... 40% 以上の内容から総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第 1 回 授業の概要説明と進め方（造形活動・図画工作・美術とは何か）</p> <p>第 2 回 造形教育の目的と内容、材料・用具の具体と取り扱いの基本（クレヨン・パス・鉛筆・絵の具・ペン等の描画材）</p> <p>第 3 回 教材づくりの基礎・モダンテクニック（1）...フロッタージュ、ドリッピング、パチック・にじみ・ぼかし等</p> <p>第 4 回 教材づくりの基礎・モダンテクニック（2）...マーブリング・デカルコマニー・スパッタリング、コラージュ等</p> <p>第 5 回 光と色について?（色の三原色の理論と演習、色遊び、混色、重色による作品づくり）</p> <p>第 6 回 光と色について?（光の三原色の理論と演習、様々な配色 [カラースキーム] による作品づくり）</p> <p>第 7 回 見ることと描くこと：素描?...鉛筆・クレヨン・パスによる演習（材料の特性理解と扱い方も含む）</p> <p>第 8 回 見ることと描くこと：素描?...水彩絵の具による演習（材料の特性理解と扱い方も含む）</p> <p>第 9 回 見ることと写し取ること：版画?...コラージュ版画による作品づくり</p> <p>第10回 見ることと写し取ること：版画?...紙版画・凸版画による作品づくり</p> <p>第11回 見ることと写し取ること：版画?...木版画による作品づくり</p> <p>第12回 見ることと写し取ること：版画?...その他の版画・凹版画・平版画による作品づくり</p> <p>第13回 立体に形づくること?...油粘土による演習</p> <p>第14回 立体に形づくること?...紙粘土による演習</p> <p>第15回 造形活動と図画工作における指導と支援、作品づくりの振り返りとまとめ</p>
テキスト	『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形素材』樋口一成（著）萌文書林
参考書	担当教員作成のレジュメ・資料等を適宜使用する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実際の教育及び保育現場における喫緊の課題や実践的な指導方法・教材について適宜扱い、指導、教授する。
質問への対応方法	随時対応する（研究室訪問やメール等）
フィードバックの方法	課題については随時返却し、個別指導する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	第 1～15各回ともに、シラバスに記載された内容について、事前の配布資料を参考に学習の見通しと疑問点を整理しする等の予習を 1 時間行うこと、また、本時の配布資料及び講義内容を参考に学習内容をノートにまとめ、感想や意見を書き留める等の復習を 1 時間行うこと。（実技の学習課題については、製作活動を復習時間に含めてもよい。）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	造形演習(1組) / Arts and Crafts
時間割コード Course Code	51888
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	塚本 敏浩
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	30A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	塚本 敏浩 (教育保育学科)
授業の目標	将来の保育士・幼稚園教諭・小学校教諭として必要な造形活動及び図画工作の意義を理解し、活動及び学習を展開するために必要な造形表現の基礎的な知識や技能を習得し、教材や教具・用具についての理解を深め、造形活動に積極的に関われる態度を身に付ける。
授業の概要	自然物や身の回りにあるものを描くことを通して、基本的な描画用具などの扱い方を学習する。色彩の理論を、色光の科学的理解を通して、絵の具の混色や様々なメディアに見られる色彩について理解し、作品制作に応用できるようにする。 凸版画の制作を通して、形と色の変化の楽しさを感じ取る。また、様々な造形活動を通して、素材のよさや性質に気付く。 なお、質問への対応は随時行う。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	課題及び課題への取り組みと探求の姿勢... 60%、小レポート及び授業への参加・発表と鑑賞態度... 40% 以上の内容から総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第 1 回 授業の概要説明と進め方（造形活動・図画工作・美術とは何か）</p> <p>第 2 回 造形教育の目的と内容、材料・用具の具体と取り扱いの基本（クレヨン・パス・鉛筆・絵の具・ペン等の描画材）</p> <p>第 3 回 教材づくりの基礎・モダンテクニック（1）...フロッタージュ、ドリッピング、パチック・にじみ・ぼかし等</p> <p>第 4 回 教材づくりの基礎・モダンテクニック（2）...マーブリング・デカルコマニー・スパッタリング、コラージュ等</p> <p>第 5 回 光と色について?（色の三原色の理論と演習、色遊び、混色、重色による作品づくり）</p> <p>第 6 回 光と色について?（光の三原色の理論と演習、様々な配色 [カラースキーム] による作品づくり）</p> <p>第 7 回 見ることと描くこと：素描?...鉛筆・クレヨン・パスによる演習（材料の特性理解と扱い方も含む）</p> <p>第 8 回 見ることと描くこと：素描?...水彩絵の具による演習（材料の特性理解と扱い方も含む）</p> <p>第 9 回 見ることと写し取ること：版画?...コラージュ版画による作品づくり</p> <p>第10回 見ることと写し取ること：版画?...紙版画・凸版画による作品づくり</p> <p>第11回 見ることと写し取ること：版画?...木版画による作品づくり</p> <p>第12回 見ることと写し取ること：版画?...その他の版画・凹版画・平版画による作品づくり</p> <p>第13回 立体に形づくること?...油粘土による演習</p> <p>第14回 立体に形づくること?...紙粘土による演習</p> <p>第15回 造形活動と図画工作における指導と支援、作品づくりの振り返りとまとめ</p>
テキスト	『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形素材』樋口一成（著）萌文書林
参考書	担当教員作成のレジュメ・資料等を適宜使用する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実際の教育及び保育現場における喫緊の課題や実践的な指導方法・教材について適宜扱い、指導、教授する。
質問への対応方法	随時対応する（研究室訪問やメール等）
フィードバックの方法	課題については随時返却し、個別指導する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	第 1～15各回ともに、シラバスに記載された内容について、事前の配布資料を参考に学習の見通しと疑問点を整理しする等の予習を 1 時間行うこと、また、本時の配布資料及び講義内容を参考に学習内容をノートにまとめ、感想や意見を書き留める等の復習を 1 時間行うこと。（実技の学習課題については、製作活動を復習時間に含めてもよい。）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	造形演習(2組) / Arts and Crafts
時間割コード Course Code	51889
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	塚本 敏浩
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	30A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	塚本 敏浩 (教育保育学科)
授業の目標	将来の保育士・幼稚園教諭・小学校教諭として必要な造形活動及び図画工作の意義を理解し、活動及び学習を展開するために必要な造形表現の基礎的な知識や技能を習得し、教材や教具・用具についての理解を深め、造形活動に積極的に関われる態度を身に付ける。
授業の概要	自然物や身の回りにあるものを描くことを通して、基本的な描画用具などの扱い方を学習する。色彩の理論を、色光の科学的理解を通して、絵の具の混色や様々なメディアに見られる色彩について理解し、作品制作に応用できるようにする。 凸版画の制作を通して、形と色の変化の楽しさを感じ取る。また、様々な造形活動を通して、素材のよさや性質に気付く。 なお、質問への対応は随時行う。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	課題及び課題への取り組みと探求の姿勢...60%、小レポート及び授業への参加・発表と鑑賞態度...40% 以上の内容から総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第 1 回 授業の概要説明と進め方（造形活動・図画工作・美術とは何か）</p> <p>第 2 回 造形教育の目的と内容、材料・用具の具体と取り扱いの基本（クレヨン・パス・鉛筆・絵の具・ペン等の描画材）</p> <p>第 3 回 教材づくりの基礎・モダンテクニック（1）...フロッタージュ、ドリッピング、パチック・にじみ・ぼかし等</p> <p>第 4 回 教材づくりの基礎・モダンテクニック（2）...マーブリング・デカルコマニー・スパッタリング、コラージュ等</p> <p>第 5 回 光と色について?（色の三原色の理論と演習、色遊び、混色、重色による作品づくり）</p> <p>第 6 回 光と色について?（光の三原色の理論と演習、様々な配色 [カラースキーム] による作品づくり）</p> <p>第 7 回 見ることと描くこと：素描?...鉛筆・クレヨン・パスによる演習（材料の特性理解と扱い方も含む）</p> <p>第 8 回 見ることと描くこと：素描?...水彩絵の具による演習（材料の特性理解と扱い方も含む）</p> <p>第 9 回 見ることと写し取ること：版画?...コラージュ版画による作品づくり</p> <p>第10回 見ることと写し取ること：版画?...紙版画・凸版画による作品づくり</p> <p>第11回 見ることと写し取ること：版画?...木版画による作品づくり</p> <p>第12回 見ることと写し取ること：版画?...その他の版画・凹版画・平版画による作品づくり</p> <p>第13回 立体に形づくること?...油粘土による演習</p> <p>第14回 立体に形づくること?...紙粘土による演習</p> <p>第15回 造形活動と図画工作における指導と支援、作品づくりの振り返りとまとめ</p>
テキスト	『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形素材』樋口一成（著）萌文書林
参考書	担当教員作成のレジュメ・資料等を適宜使用する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実際の教育及び保育現場における喫緊の課題や実践的な指導方法・教材について適宜扱い、指導、教授する。
質問への対応方法	随時対応する（研究室訪問やメール等）
フィードバックの方法	課題については随時返却し、個別指導する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	第 1～15各回ともに、シラバスに記載された内容について、事前の配布資料を参考に学習の見通しと疑問点を整理しする等の予習を 1 時間行うこと、また、本時の配布資料及び講義内容を参考に学習内容をノートにまとめ、感想や意見を書き留める等の復習を 1 時間行うこと。（実技の学習課題については、製作活動を復習時間に含めてもよい。）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	図画工作
時間割コード Course Code	51900
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	塚本 敏浩
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 0 A 講義室, 3 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	塚本 敏浩 (教育保育学科)
授業の目標	<p>・造形教育・図画工作教育に関する教育内容全般 (理論・実技) について理解を深め、技能を習得する。</p> <p>・造形教育・図画工作教育の理論的、実践的研究の主題・テーマについて構想・設定し、個々のテーマに沿って研究・探究する。</p> <p>以上の活動を通して、造形教育・図画工作教育についての総合的実践能力を獲得し、教育展開のための技術・技能を身に付ける。</p>
授業の概要	<p>小学校図画工作科の教科としての意義・内容を理解し、その指導及び評価方法について総合的・実践的な学習を深める。</p> <p>(造形教育・図画工作教育の概要・歴史・内容、幼保における「表現領域」と小学校における各学年の指導内容の理解とその接続、指導の実際と課題及び実技に関する演習、教材・教具についての理解と技能の習得、図画工作の実践的活動等)</p> <p>なお、質問への対応は随時行う。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>課題及び課題への取り組みと探求の姿勢... 6 0 %、小レポート及び授業への参加・発表と鑑賞態度... 4 0 %</p> <p>以上の内容から総合的に評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第1回 授業の概要説明と進め方、美術・図画工作教育の歴史と内容（存在意義と社会的役割）</p> <p>第2回 幼保における造形活動「表現領域」の題材とその実践1（自作色紙によるおもちゃ作り）、小学校との接続理解</p> <p>第3回 幼保における造形活動「表現領域」の題材とその実践2（包装紙による飾り作り）、小学校との接続理解</p> <p>第4回 幼保における造形活動「表現領域」の題材とその実践3（廃紙の利用による自由作品）、小学校との接続理解</p> <p>第5回 小学校における各学年の題材とその実践1（低学年編：教科書題材1・2上下から選択して取り組む）</p> <p>第6回 小学校における各学年の題材とその実践2（中学年編：教科書題材3・4上下から選択して取り組む）</p> <p>第7回 小学校における各学年の題材とその実践3（高学年編：教科書題材5・6上下から選択して取り組む）</p> <p>第8回 領域・内容別に見る教材1（「造形遊び」の実践：砂・土・粘土による遊び、紙・ローラ一絵、箱・材料ならべ等）</p> <p>第9回 領域・内容別に見る教材2（「絵に表す」の実践：生活画、お話の絵、想像の絵等）</p> <p>第10回 領域・内容別に見る教材3（「立体に表す」の実践：箱、粘土、木材、石等による表現）</p> <p>第11回 領域・内容別に見る教材4（「工作に表す」の実践：身近な素材・材料によるおもちゃ、紙コップ、紙皿等）</p> <p>第12回 領域・内容別に見る教材5（「鑑賞（美術作品と単独鑑賞）」の実践：不思議な絵、アートカード等の使用</p> <p>第13回 領域・内容別に見る教材6（「鑑賞（児童作品と相互鑑賞）」の実践：お気に入り作品と鑑賞の視点の理解</p> <p>第14回 理論的、実践的研究主題の設定と研究・探求1（アクティブラーニングの視点と問題課題設定）</p> <p>第15回 理論的、実践的研究主題の設定と研究・探求2（発表と共有、事例検討と振り返り）</p> <p>【実務経験のある教員による授業】</p> <p>小中学校教育現場での経験がある教員が、小学校で実践されている教科内容やその目的及び構成について解説し、理論と実践の往還を重視し、指導する科目である。</p>
テキスト	『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版（平成29年6月）
参考書	担当教員作成のレジюме・資料等と適宜使用する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実際の教育及び保育現場における喫緊の課題や実践的な指導方法・教材について適宜扱い、指導、教授する。
質問への対応方法	随時対応する（研究室訪問やメール等）
フィードバックの方法	課題については随時返却し、個別指導する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	第1～15各回ともに、シラバスに記載された内容について、事前の配布資料を参考に学習の見通しと疑問点を整理しする等の予習を1時間行うこと、また、本時の配布資料及び講義内容を参考に学習内容をノートにまとめ、感想や意見を書き留める等の復習を1時間行うこと。（実技の学習課題については、製作活動を復習時間に含めてもよい。）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	体育 / Physical Education of Schoolchild
時間割コード Course Code	51920
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	早川 健太郎
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室, 体育館
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川 健太郎 (教育保育学科)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学習指導要領に示されている小学校体育科の目標と内容を理解できる。</li> <li>・運動の特性と子どもの現状を踏まえた教材研究をすることができる。</li> <li>・各学年に対応した指導計画を作成することができる。</li> </ul> <p>&lt;授業のテーマ&gt; 小学校学習指導要領に示されている小学校体育科の目標と内容についての理解を深め、小学校における体育授業の在り方について追究する。その上で、運動の特性と子どもの現状を踏まえた教材研究、各学年に対応した指導計画を作成することができることを目標とする。</p>
授業の概要	小学校学習指導要領の小学校体育について、その目標と内容について明らかにするとともに、運動の特性と子どもの現状を踏まえた教材研究、学年に対応した指導計画や指導案の作成について学習します。また、教材研究や指導計画作成の実際や模擬授業を通じて、体育授業での効果的な学習指導法についても学習します。さらに、児童期の体力や健康などの心と身体の今日的課題である子どもの現状も明らかにします。
評価方法	振り返りレポート (50%) 指導計画 (30%) グループワーク (20%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	レポートが連続で未提出の場合 グループワークに不参加の場合

授業計画	<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：小学校学習指導要領の小学校体育の目標と内容について</p> <p>第3回：児童期の体力と運動機能の発達について</p> <p>第4回：体づくり運動系 ねらい及び内容、指導の留意点について、各学年の指導</p> <p>第5回：器械運動系 ねらい及び内容、指導の留意点について、各学年の指導</p> <p>第6回：陸上運動系 ねらい及び内容、指導の留意点について、各学年の指導</p> <p>第7回：ボール運動系 ねらい及び内容、指導の留意点について、各学年の指導</p> <p>第8回：表現運動系 ねらい及び内容、指導の留意点について、各学年の指導</p> <p>第9回：水泳運動系 ねらい及び内容、指導の留意点について、各学年の指導</p> <p>第10回：保健 ねらい及び内容、指導の留意点について、各学年の指導</p> <p>第11回：指導計画の作成と内容の取り扱いについて 指導計画の作成のポイントと配慮事項について 内容の取り扱い（情報機器の活用も含む）について</p> <p>第12回：模擬授業（1）体づくり運動系・器械運動系・陸上競技系 指導案の作成について 情報機器の活用（DVDやタブレット等の利用）について 模擬授業の質疑応答及び講評について</p> <p>第13回：模擬授業（2）水泳運動系・ボール運動系 指導案の作成について 情報機器の活用（DVDやタブレット等の利用）について 模擬授業の質疑応答及び講評について</p> <p>第14回：模擬授業（3）表現運動系・保健 指導案の作成について 情報機器の活用（DVDやタブレット等の利用）について 模擬授業の質疑応答及び講評について</p> <p>第15回：授業のまとめ</p>
テキスト	文部科学省「小学校学習指導要領解説体育編」東洋館出版社
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて随時受け付ける（hayakawa-k@nagoya-ku.ac.jp） 必要であれば授業ご対応する。
フィードバックの方法	レポート等は次週フィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習 次回の内容について、テキスト部分を熟読すること。（60分） インターネット等を用いて指導案に作成に向け調べておくこと（30分） 復習 講義で行った内容についてまとめておくこと（90分）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力

開講科目名 Course	言葉指導法 / Methods of Early Childhood Education/Language
時間割コード Course Code	51942
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	加藤 昇
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	加藤 昇 (教育保育学科)
授業の目標	幼児教育の五領域の一つが「言葉」である。乳児期や幼児期の言葉の発達について学び、発達段階における言葉の果たす役割、保育内容と「言葉」の関わりなどについて理解する。
授業の概要	演習形式。実際に子どもなって様々な体験をすることで子どもの思いや感じ方をとらえる。保育士や教諭という指導者の立場で身につけておきたい「ことば」に関する活動を実践する。そして前述の実践を幼児教育の理論と結びつけて理解する。 本授業は対面授業で行います。
評価方法	毎回のレポート提出 (60%) とまとめのテスト (40%) により総合的に判定します。出席はして当然ですので、「出席点」という制度はありません。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、保育の基本と保育内容「言葉」</li> <li>2、乳児期の言葉の発達</li> <li>3、幼児期の言葉の発達</li> <li>4、自分の考えや思いを伝える言葉の学習と「からだほぐし」</li> <li>5、「からだほぐし」と演劇体験</li> <li>6、体験ことば</li> <li>7、保育内容「言葉」と保育実践(保育所)「ことばあそびうた、だじゃれ」</li> <li>8、保育内容「言葉」と保育実践(幼稚園)と、「しりとりあそび」</li> <li>9、発達障害のある子どもに対する「言葉」の支援</li> <li>10、発達障害のある子どもに対する「言葉」の支援</li> <li>11、絵本、紙芝居の読み聞かせ</li> <li>12、ぬいぐるみを使ってお話作り</li> <li>13、文字遊び(表示作り)</li> <li>14、歌遊び(童謡、その他)</li> <li>15、まとめと確認テスト</li> </ol>
テキスト	
参考書	幼稚園教育要領
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	体験言葉、言葉遊び、劇遊び、ごっこ遊びなど、実践的な活動を取り入れる。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	乳幼児のことばの発達について、長年小学校勤務で学んだ子どもことばの発達と関わらせて指導する。
質問への対応方法	・随時対応 ・オフィスアワーで対応 ・授業後に対応
フィードバックの方法	毎時間の最後に書く感想に朱を入れる。さらにその中で優れたものをピックアップして次の授業で紹介する。そのことが前時の想起となり、本時につながる。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1、保育の基本と保育内容「言葉」 4時間の復習を課す 2、乳児期の言葉の発達 2時間の予習と2時間の復習を課す 3、幼児期の言葉の発達 2時間の予習と2時間の復習を課す 4、自分の考えや思いを伝える言葉の学習と「からだほぐし」 2時間の予習と2時間の復習を課す 5、「からだほぐし」と演劇体験 2時間の予習と2時間の復習を課す 6、体験ことば 2時間の予習と2時間の復習を課す 7、保育内容「言葉」と保育実践（保育所）「ことばあそびうた、だじゃれ」 2時間の予習と2時間の復習を課す 8、保育内容「言葉」と保育実践（幼稚園）と、「しりとりあそび」 2時間の予習と2時間の復習を課す 9、発達障害のある子どもに対する「言葉」の支援 2時間の予習と2時間の復習を課す 10、発達障害のある子どもに対する「言葉」の支援 2時間の予習と2時間の復習を課す 11、絵本、紙芝居の読み聞かせ 2時間の予習と2時間の復習を課す 12、ぬいぐるみを使ってお話作り 2時間の予習と2時間の復習を課す 13、文字遊び（表示作り） 2時間の予習と2時間の復習を課す 14、歌遊び（童謡、その他） 2時間の予習と2時間の復習を課す 15、まとめと確認テスト 4時間の復習を課す
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 4.感情制御力 6.行動持続力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	子どもと言葉(1組)
時間割コード Course Code	51950
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	加藤 昇
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	加藤 昇 (教育保育学科)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された保育の基本を踏まえ、「言葉」の領域のねらい及び内容を理解する。</li> <li>・ 領域「言葉」に関する理論(言葉の意義や乳幼児の言葉の発達の過程)を理解する。</li> <li>・ 領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。</li> <li>・ 「乳児期における言葉の発達の基礎理論について学び、言葉の機能、体験の省察と表現手段としての言葉の機能について理解を深める。</li> <li>・ 言葉を育て、想像する楽しさを広げる。</li> <li>・ 領域「言葉」に関して、子どもが経験し獲得する内容と小学校の教科とのつながりを理解する。</li> </ul>
授業の概要	<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳幼児期における言葉の発達の基礎理論では、ICTの利活用を試みる。</li> <li>・ 子どもの言葉の発達と保育・教育の役割について事例をもとに説明する。</li> <li>・ 絵本や紙芝居、言葉遊びなどの教材研究が果たす役割について理解するとともに、実演練習等のアクティブラーニングを通して実践力を身につけられるようにする。</li> <li>・ 子どもの言葉と学びの関係について、担当者の小学校教諭の経験を活かし、絵本や紙芝居などの教材研究を中心にグループワークや発表を通して授業を行う。</li> </ul>
評価方法	毎回のレポート提出(50%)とまとめのテスト(50%)により総合的に判定します。出席はして当然ですので、「出席点」という制度はありません。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>第1回：オリエンテーション 領域「言葉」の確認</p> <p>第2回：「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「言葉」</p> <p>第3回：乳幼児の言葉の発達（3歳未満児）について概説する。</p> <p>第4回：親や保育者との関係性と言葉の発達</p> <p>第5回：乳幼児の言葉の発達（3歳以上児）について概説する。</p> <p>第6回：幼児の生活や遊びの中にある言葉</p> <p>第7回：自分の考えや思いを伝えるための言葉</p> <p>第8回：体験と言葉</p> <p>第9回：話し言葉による表現</p> <p>第10回：書き言葉による表現</p> <p>第11回：乳幼児期の言葉の発達に応じた指導と援助</p> <p>第12回：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「言葉による伝えあい」と小学校との接続</p> <p>第13回：言葉遊びや紙芝居や絵本の読み聞かせが言葉の発達に与える影響について</p> <p>第14回：保育現場において必要な言葉に関する援助や配慮（言葉の障がいや異文化理解）</p> <p>第15回：まとめ</p>
テキスト	「幼稚園指導要領」フレーベル館
参考書	適宜印刷
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義による知識から実際の幼児の行動などについて、学外の生活の中で見つめてくることを課題にする。</li> <li>・DVDを鑑賞して、幼児の発達についてグループで考えさせる。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	あらゆる質問について、学生間で共有して学びに繋げる。
フィードバックの方法	毎時間の感想を書かせ振り返ることで、自身の認識の変化に気づかせる。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各時間の感想レポートを書く。</li> <li>・講義内容に関係する資料を収集してくる。</li> </ul>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>5.ジェンダー平等を実現しよう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	<p>1.情報収集力</p> <p>3.課題発見力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>4.感情制御力</p> <p>7.課題発見力</p> <p>9.実践力</p>



開講科目名 Course	子どもと言葉(2組)
時間割コード Course Code	51951
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	加藤 昇
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	加藤 昇 (教育保育学科)
授業の目標	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された保育の基本を踏まえ、「言葉」の領域のねらい及び内容を理解する。</li> <li>・ 領域「言葉」に関する理論(言葉の意義や乳幼児の言葉の発達の過程)を理解する。</li> <li>・ 領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。</li> <li>・ 「乳児期における言葉の発達の基礎理論について学び、言葉の機能、体験の省察と表現手段としての言葉の機能について理解を深める。</li> <li>・ 言葉を育て、想像する楽しさを広げる。</li> <li>・ 領域「言葉」に関して、子どもが経験し獲得する内容と小学校の教科とのつながりを理解する。</li> </ul>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳幼児期における言葉の発達の基礎理論では、ICTの利活用を試みる。</li> <li>・ 子どもの言葉の発達と保育・教育の役割について事例をもとに説明する。</li> <li>・ 絵本や紙芝居、言葉遊びなどの教材研究が果たす役割について理解するとともに、実演練習等のアクティブラーニングを通して実践力を身につけられるようにする。</li> <li>・ 子どもの言葉と学びの関係について、担当者の小学校教諭の経験を活かし、絵本や紙芝居などの教材研究を中心にグループワークや発表を通して授業を行う。</li> </ul>
評価方法	毎回のレポート提出(50%)とまとめのテスト(50%)により総合的に判定します。出席はして当然ですので、「出席点」という制度はありません。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>第1回：オリエンテーション 領域「言葉」の確認</p> <p>第2回：「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「言葉」</p> <p>第3回：乳幼児の言葉の発達（3歳未満児）について概説する。</p> <p>第4回：親や保育者との関係性と言葉の発達</p> <p>第5回：乳幼児の言葉の発達（3歳以上児）について概説する。</p> <p>第6回：幼児の生活や遊びの中にある言葉</p> <p>第7回：自分の考えや思いを伝えるための言葉</p> <p>第8回：体験と言葉</p> <p>第9回：話し言葉による表現</p> <p>第10回：書き言葉による表現</p> <p>第11回：乳幼児期の言葉の発達に応じた指導と援助</p> <p>第12回：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「言葉による伝えあい」と小学校との接続</p> <p>第13回：言葉遊びや紙芝居や絵本の読み聞かせが言葉の発達に与える影響について</p> <p>第14回：保育現場において必要な言葉に関する援助や配慮（言葉の障がいや異文化理解）</p> <p>第15回：まとめ</p>
テキスト	「幼稚園指導要領」フレーベル館
参考書	適宜印刷
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義による知識から実際の幼児の行動などについて、学外の生活の中で見つめてくることを課題にする。</li> <li>・DVDを鑑賞して、幼児の発達についてグループで考えさせる。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	あらゆる質問について、学生間で共有して学びに繋げる。
フィードバックの方法	毎時間の感想を書かせ振り返ることで、自身の認識の変化に気づかせる。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各時間の感想レポートを書く。</li> <li>・講義内容に関係する資料を収集してくる。</li> </ul>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>5.ジェンダー平等を実現しよう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	<p>1.情報収集力</p> <p>3.課題発見力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>4.感情制御力</p> <p>7.課題発見力</p> <p>9.実践力</p>

開講科目名 Course	子どものことばと文学(1組)
時間割コード Course Code	51955
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	加藤 昇
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	加藤 昇 (教育保育学科)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された保育の基本を踏まえ、「言葉」の領域のねらい及び内容を理解する。</li> <li>・ 領域「言葉」に関する理論(言葉の意義や乳幼児の言葉の発達の過程)を理解する。</li> <li>・ 領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。</li> <li>・ 「乳児期における言葉の発達の基礎理論について学び、言葉の機能、体験の省察と表現手段としての言葉の機能について理解を深める。</li> <li>・ 言葉を育て、想像する楽しさを広げる。</li> <li>・ 領域「言葉」に関して、子どもが経験し獲得する内容と小学校の教科とのつながりを理解する。</li> </ul>
授業の概要	<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳幼児期における言葉の発達の基礎理論では、ICTの利活用を試みる。</li> <li>・ 子どもの言葉の発達と保育・教育の役割について事例をもとに説明する。</li> <li>・ 絵本や紙芝居、言葉遊びなどの教材研究が果たす役割について理解するとともに、実演練習等のアクティブラーニングを通して実践力を身につけられるようにする。</li> <li>・ 子どもの言葉と学びの関係について、担当者の小学校教諭の経験を活かし、絵本や紙芝居などの教材研究を中心にグループワークや発表を通して授業を行う。</li> </ul>
評価方法	毎回のレポート提出(50%)とまとめのテスト(50%)により総合的に判定します。出席はして当然ですので、「出席点」という制度はありません。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>第1回：オリエンテーション 領域「言葉」の確認</p> <p>第2回：「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「言葉」</p> <p>第3回：乳幼児の言葉の発達（3歳未満児）について概説する。</p> <p>第4回：親や保育者との関係性と言葉の発達</p> <p>第5回：乳幼児の言葉の発達（3歳以上児）について概説する。</p> <p>第6回：幼児の生活や遊びの中にある言葉</p> <p>第7回：自分の考えや思いを伝えるための言葉</p> <p>第8回：体験と言葉</p> <p>第9回：話し言葉による表現</p> <p>第10回：書き言葉による表現</p> <p>第11回：乳幼児期の言葉の発達に応じた指導と援助</p> <p>第12回：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「言葉による伝えあい」と小学校との接続</p> <p>第13回：言葉遊びや紙芝居や絵本の読み聞かせが言葉の発達に与える影響について</p> <p>第14回：保育現場において必要な言葉に関する援助や配慮（言葉の障がいや異文化理解）</p> <p>第15回：まとめ</p>
テキスト	「幼稚園指導要領」フレーベル館
参考書	適宜印刷
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義による知識から実際の幼児の行動などについて、学外の生活の中で見つめてくることを課題にする。</li> <li>・DVDを鑑賞して、幼児の発達についてグループで考えさせる。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	あらゆる質問について、学生間で共有して学びに繋げる。
フィードバックの方法	毎時間の感想を書かせ振り返ることで、自身の認識の変化に気づかせる。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各時間の感想レポートを書く。</li> <li>・講義内容に関係する資料を収集してくる。</li> </ul>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>5.ジェンダー平等を実現しよう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	<p>1.情報収集力</p> <p>3.課題発見力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>4.感情制御力</p> <p>7.課題発見力</p> <p>9.実践力</p>

開講科目名 Course	子どものことばと文学(2組)
時間割コード Course Code	51956
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	加藤 昇
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	加藤 昇 (教育保育学科)
授業の目標	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された保育の基本を踏まえ、「言葉」の領域のねらい及び内容を理解する。</li> <li>・ 領域「言葉」に関する理論(言葉の意義や乳幼児の言葉の発達の過程)を理解する。</li> <li>・ 領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。</li> <li>・ 「乳児期における言葉の発達の基礎理論について学び、言葉の機能、体験の省察と表現手段としての言葉の機能について理解を深める。</li> <li>・ 言葉を育て、想像する楽しさを広げる。</li> <li>・ 領域「言葉」に関して、子どもが経験し獲得する内容と小学校の教科とのつながりを理解する。</li> </ul>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳幼児期における言葉の発達の基礎理論では、ICTの利活用を試みる。</li> <li>・ 子どもの言葉の発達と保育・教育の役割について事例をもとに説明する。</li> <li>・ 絵本や紙芝居、言葉遊びなどの教材研究が果たす役割について理解するとともに、実演練習等のアクティブラーニングを通して実践力を身につけられるようにする。</li> <li>・ 子どもの言葉と学びの関係について、担当者の小学校教諭の経験を活かし、絵本や紙芝居などの教材研究を中心にグループワークや発表を通して授業を行う。</li> </ul>
評価方法	毎回のレポート提出(50%)とまとめのテスト(50%)により総合的に判定します。出席はして当然ですので、「出席点」という制度はありません。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>第1回：オリエンテーション 領域「言葉」の確認</p> <p>第2回：「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「言葉」</p> <p>第3回：乳幼児の言葉の発達（3歳未満児）について概説する。</p> <p>第4回：親や保育者との関係性と言葉の発達</p> <p>第5回：乳幼児の言葉の発達（3歳以上児）について概説する。</p> <p>第6回：幼児の生活や遊びの中にある言葉</p> <p>第7回：自分の考えや思いを伝えるための言葉</p> <p>第8回：体験と言葉</p> <p>第9回：話し言葉による表現</p> <p>第10回：書き言葉による表現</p> <p>第11回：乳幼児期の言葉の発達に応じた指導と援助</p> <p>第12回：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「言葉による伝えあい」と小学校との接続</p> <p>第13回：言葉遊びや紙芝居や絵本の読み聞かせが言葉の発達に与える影響について</p> <p>第14回：保育現場において必要な言葉に関する援助や配慮（言葉の障がいや異文化理解）</p> <p>第15回：まとめ</p>
テキスト	「幼稚園指導要領」フレーベル館
参考書	適宜印刷
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義による知識から実際の幼児の行動などについて、学外の生活の中で見つめてくることを課題にする。</li> <li>・DVDを鑑賞して、幼児の発達についてグループで考えさせる。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	あらゆる質問について、学生間で共有して学びに繋げる。
フィードバックの方法	毎時間の感想を書かせ振り返ることで、自身の認識の変化に気づかせる。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各時間の感想レポートを書く。</li> <li>・講義内容に関係する資料を収集してくる。</li> </ul>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>5.ジェンダー平等を実現しよう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	<p>1.情報収集力</p> <p>3.課題発見力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>4.感情制御力</p> <p>7.課題発見力</p> <p>9.実践力</p>

開講科目名 Course	家庭
時間割コード Course Code	51970
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	光松 佐和子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	光松 佐和子(教育保育学科)、原 順子(教育保育学科)
授業の目標	<p>衣食住に関する文化や人間の基礎単位である家族を取り巻く社会問題について考える。家庭・家族が大きく変貌し、子育てや家庭教育をめぐる多くの問題が生じている。そのため、生活をどのようにとらえればよいのか、また社会生活や家族に関してどのような課題があり、どのように解決していけばよいのかについて答えを出すことは難しい。そこで現在および将来の家庭生活に関心を持ち、自分の問題としてとらえ、主体的にかかわることができるような問題を積極的に解決する能力を身につけることが必要である。</p> <p>&lt; 学習成果 &gt;  知識・理解の領域  具体的な衣食住に関する現状を知り、現代の家庭がかかえる問題について理解することができる。  態度・志向性の領域  ・家族を取り巻く社会生活に関する問題・課題について考え、分析することができる。  ・主体的に生活を創造する生活者として、これからの家庭生活および社会生活に求められるものは何か、意見を述べるができる。  技能の領域  基本的な家庭生活に必要な技術(調理・衣服製作)を習得することができる。</p>
授業の概要	<p>家庭科教育の役割や意義について理解し、諸問題について具体的に検討し、考察していく。現代の家族をめぐるさまざまな問題やそれにかかわる社会政策のあり方などを総合的に学習する。健康で快適な衣生活を営むために、衣服の働き、材料、構成、着用、管理、リサイクルなどについて総合的に学び、理解する。歴史・風土・経済環境を背景に、家庭や地域社会における住生活様式、住宅問題を総合的にとらえ、住生活環境の改善にあたり、必要とされる基礎的知識・技能について学習する。</p> <p>また、食生活について栄養、食品、調理など多方面から学び、食べることの意義等を理解するとともに、基礎的な調理方法や技術を習得する。  さらに、周辺分野の学習と家庭科教育との関係や、生活の中に起こる様々な問題を解決する方法について意見を出し合いながら統合的に学習する。</p>
評価方法	1. 授業に出席し、講義を聴く。 2. 衣生活・住生活領域に関する作品製作及びレポート 70% 3. 食生活領域に関するレポート、および試験 30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合

授業計画	<p>第1回：小学校家庭科の目標と内容</p> <p>第2回：家庭生活と家族</p> <p>第3回：衣に関する生活課題</p> <p>第4回：衣に関する生活課題</p> <p>第5回：実習(1)衣生活に関連した技能の習得</p> <p>第6回：実習(1)衣生活に関連した技能の習得</p> <p>第7回：実習(1)衣生活に関連した技能の習得</p> <p>第8回：住に関する生活課題</p> <p>第9回：住に関する生活課題</p> <p>第10回：実習(2)住生活に関連した技能の習得</p> <p>第11回：食に関する生活課題(食生活と健康)</p> <p>第12回：食に関する生活課題(栄養)</p> <p>第13回：食に関する生活課題(食事計画)</p> <p>第14回：実習(3)食生活に関連した技能の習得(実技)</p> <p>第15回：実習(3)食生活に関連した技能の習得(理論と総合)</p> <p>授業時間内に食物領域の試験あり</p>
テキスト	特になし。必要に応じてプリント配布。
参考書	小学校学習指導要領解説 家庭編、文部科学省 新しい家庭 5・6 東京書籍
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	「消費行動」、「食品ロス」、「少子化」など家庭科に関わるテーマについてディスカッションを行う。 また、衣食住生活に関わる実習を含む。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問がある場合は随時対応する。
フィードバックの方法	授業内で課したレポートや小テストは翌週返却し、復習をする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義(2単位)週1コマ(30時間)の場合、60時間の準備学習を必要とするため、授業計画詳細情報を参照すること。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> </ol>
SDGs 17の目標(11~17)	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 住み続けられるまちづくりを</li> <li>12. つくる責任つかう責任</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>6. 行動持続力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	小学校家庭科の目標と内容 学習指導要領	家庭科の特徴、家庭科の役割 「小学校学習指導要領解説 家庭編」 (P1～P11) 2時間の復習を課す	
2	家庭生活と家族  自分の成長と家族	家族の役割、地域とのかかわり 「小学校学習指導要領解説 家庭編」 (P12～19) 2時間の予習および (P20～P31) 2時間の復習を課す	
3	衣に関する生活課題 快適な衣服	衣服の働き、快適な着方の工夫 「小学校学習指導要領解説 家庭編」 (P32～P48)を読み、3時間の予習 および(P49～P63) 2時間の復習を課す	
4	衣に関する生活課題  快適な衣服	日常着の手入れ 「小学校学習指導要領解説 家庭編」 洗濯方法について調べておく。(1時間 の予習) 家庭において洗濯、乾燥、収納まで衣服 の管理を行う。(2時間の復習)	
5	衣生活に関連した技能の習得  生活に役立つものの製作	エコバッグの製作(作業工程の理解、印付 け、裁断) 材料及び製作工程について計画を立て、 必要な材料を揃えておく。(1時間の予習 ) 製作の進捗状況に合わせて2時間の復習を 課す。	
6	衣生活に関連した技能の習得  生活に役立つものの製作	エコバッグの製作(しつけ、各パーツの 完成) 製作の進捗状況に合わせて4時間の復習を 課す。	
7	衣生活に関連した技能の習得  生活に役立つものの製作	エコバッグの製作(各パーツをミシンで 縫い合わせ、仕上げる) 製作の進捗状況に合わせて4時間の復習を 課す。	
8	住に関する生活課題 快適な住まい	住まい方への関心、整理整頓 「小学校学習指導要領解説 家庭編」 (P58～P62)を読み、 住宅の構造について理解し、家庭におけ る住まいの工夫について考える。(4時間 の復習)	
9	住に関する生活課題 快適な住まい	季節の変化に合わせた住まい方 「小学校学習指導要領解説 家庭編」 (P62～P63)を読み、 季節に合わせた住まいの工夫について考 える。(4時間の復習)	
10	住生活に関連した技能の習得  環境の測定	室内外の温度、湿度、気流の測定 自宅の温湿度について調べ、部屋ごとの 結果を表にまとめる。(4時間の復習)	
11	食に関する生活課題  日常の食事と調理の基礎	食事の役割と日常生活の大切さ 「小学校学習指導要領解説 家庭編」 (P34～P41) 2時間の予習および (P42～P43) 2時間の復習を課す。	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	食に関する生活課題 日常の食事と調理の基礎	栄養を考えた食事 「小学校学習指導要領解説 家庭編」 (P42~P43)の調理の方法を調理実習の 工程に合わせて手順を作成する。(2時間 の復習)	
13	食に関する生活課題 日常の食事と調理の基礎	調理の基礎, 栄養価計算 「小学校学習指導要領解説 家庭編」 栄養価計算用のプリント課題を行う。(2 時間の復習)	
14	食生活に関連した技能の習得 調理実習	材料の洗い方、切り方、味の付け方、盛 り付け、配膳および後片付け 技能習得のため、材料の特徴を考え、準 備計画を立案したうえで、家庭で調理を 行う。 (4時間の復習)	
15	食生活に関連した技能の習得 調理実習	材料の洗い方、切り方、味の付け方、盛 り付け、配膳および後片付け 一食分の献立作成の方法について、主菜 、副菜、などの組み合わせを考えて、 自宅にて調理を行う。(4時間の復習)	授業時間内に食物領域の 試験あり

開講科目名 Course	幼稚園教育実習(事前事後指導)
時間割コード Course Code	51981
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	秋田 郁
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	3 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	秋田 郁(教育保育学科)、小島 千枝(教育保育学科)
授業の目標	幼稚園教育実習1および2の事前事後指導である。 知識・理解の領域 幼稚園教育の目標、内容、方法を学習する。 幼稚園教諭として、子どもの発達を理解する。 幼稚園教諭として、子どもの遊びの意義を理解する。 技能の領域 幼稚園教諭として、日誌、指導案を作成できるようにする。 幼稚園教諭として、保育実践を立案し、展開できるようにする。 態度・志向性の領域 幼稚園教諭としての心構えを学習する。
授業の概要	幼稚園教諭の職務内容を理解する。幼稚園教諭として、子どもの発達に対応し、毎日の主な活動を選択して配列する。日案や指導案を作成する。導入、展開、まとめに区分し主な活動を設定する。保育技術を習熟し、子どもに指導できるようにする。特別講義として、幼稚園教諭の講義を聴く。以上の学習活動を通して、自己の課題を明確にし、取り組み、自身の保育観・教育観を形成する。  また、日誌と指導案等を手書きとパソコンで作成し、どちらの書式にも対応でき、編集できるようにする。
評価方法	授業への参加度、レポート、課題を総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回の授業のうち、6回以上の欠席で失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	幼稚園教育要領 文部科学省
参考書	無藤隆(監修)『幼稚園教育要領ハンドブック 2017年告示版』Gakken 林幸範・石橋裕子(編著)『最新 保育園・幼稚園の実習完全マニュアル』成美堂出版 阿部恵・鈴木みゆき(編著)『教育・保育実習安心ガイド』ひかりのくに 出雲美枝子著『実習おまかせBOOK』ひかりのくに
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	実習に必要な模擬保育、指導案作成と実践などを行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 各回の授業内容に応じて、実務経験のある教員による実践指導が行われる。

質問への対応方法	質問には担当教員が随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	課題に応じて事前事後学習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	幼稚園教諭の職務内容・幼稚園実習の意義と実習の段階	実習の意義について、復習する。	
2	日誌の形式と書き方	事後学習「日誌の記入」授業翌日に提出	
3	幼児の発達段階について	3.4.5歳児の発達段階についてのレポートを課す。	
4	幼稚園教育要領について	幼稚園教育要領のについてのプリント課題を課す。	
5	指導案の形式と書き方 指導案に記入する項目について	事後学習「部分実習指導案の作成」翌週に提出	
6	保育技能の基礎(造形領域)	翌週までに園児に渡すメダルを作成する	
7	保育技能の基礎(ことば領域)	翌週までに年齢に合った絵本を選出し、読み聞かせの練習をする。	
8	子どものうた弾き歌いコンサート	ピアノによる弾き歌い課題を予習する。	
9	幼児の年齢に応じた遊びについて	年齢に応じた遊びを調べ(予習)、グループ別に発表する。	
10	幼稚園教育実習直前指導	事後学習「幼稚園実習1の目標の設定」「日誌の概要欄記入」	
11	お礼状の書き方・自己評価	事後学習「お礼状を書き、郵送する。」	
12	事後指導(エピソード記録)	幼稚園実習で体験したエピソードを記入しておく。	
13	事後指導1 グループ別反省会	次回の実習に向けての目標設定をしておく。	
14	事後指導2 全体発表会	次回の実習に向けての目標設定をしておく。	
15	外部講師による講演 「幼稚園教育実習1を終えて」 幼稚園教諭による講演	講演を振り返り、今後の職業選択に活かす。 復習を課す。	

開講科目名 Course	小学校教育実習(事前事後指導)(通)
時間割コード Course Code	51985
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	前原 宏一
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	日比野 博(教育保育学科)、塚本 敏浩(教育保育学科)、前原 宏一(教育保育学科)、東岡 博(教育保育学科)
授業の目標	<p>・小学校教育実習(事前事後指導)は、小学校における教育実習の事前・事後指導である。互いに学び合う活動を通して、小学校での教育実習を円滑かつ有意義に行うため、教員として必要な知識、技術、態度を修得し合うことができる。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教員として必要な知識や小学校現場の状況を理解することができる。</li> <li>・教育実習に必要な知識や心構えを理解することができる。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を行う上で必要な学習指導案を作成することができる。</li> <li>・模擬授業の実践を通して、教師や仲間から指導・助言・評価を受けながら、授業力を高めることができる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら進んで学習に取り組み、小学校実習に向けての準備を進めることができる。</li> </ul>
授業の概要	<p>・小学校教育実習についての理解を深め、教育実習の目的や内容に習熟する。具体的には、教育実習に関する事前の心構えや教育実習中の心得を理解する。また、教科書を手掛かりにして、学習指導案を作成して授業実践をしたり、小学校での仕事内容を系統的に理解したりする。</p> <p>・実習前に現職の教師を講師として招き、実習生に対する思いや教科指導等についての特別講義を予定している。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>・学び合う活動や全体討議の様子、毎回のふり返りプリントへの記述、学習指導案作成及び模擬授業への取組などをもとに総合的に評価する。</p> <p>授業には必ず出席すること。遅刻・欠席の多い場合は、教育実習を許可しない。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育実習とは（ガイダンス、心構え、実習の種類）</li> <li>2 教育実習に向けて（内容、教育実習までの流れ）</li> <li>3 教育実習に向けて（事前打ち合わせ）</li> <li>4 実習中の心得・その1</li> <li>5 実習中の心得・その2</li> <li>6 現職教員による講話1（小学校現場の現状と課題）</li> <li>7 現職教員による講話2（教育実習に向かう姿勢）</li> <li>8 実習中の心得・その3</li> <li>9 現職教員による模範授業1</li> <li>10 現職教員による模範授業2</li> <li>11 実習中の心得・その4</li> <li>12 実習中の心得・その5</li> <li>13 実習前模擬授業・その1</li> <li>14 実習前模擬授業・その2</li> <li>15 授業指導技術の基本</li> <li>16 授業指導技術の基本</li> <li>17 実習直前の心構え</li> <li>18 教育実習のふり返し</li> <li>19 教育実習のふり返し、お礼状、模擬授業の計画・準備</li> <li>20 模擬授業の実践と協議・その1</li> <li>21 模擬授業の実践と協議・その2</li> <li>22 模擬授業の実践と協議・その3</li> <li>23 模擬授業の実践と協議・その4</li> <li>24 模擬授業の実践と協議・その5</li> <li>25 模擬授業の実践と協議・その6</li> <li>26 模擬授業の実践と協議・その7</li> <li>27 模擬授業の実践と協議・その8</li> <li>28 教員採用選考試験に向けて・その1（教職教養）</li> <li>29 教員採用選考試験に向けて・その2（教科）</li> <li>30 事前事後指導のまとめとふり返し</li> </ol>
テキスト	「教育実習完璧(パーフェクト)ガイド」 小学館
参考書	・テキスト以外の参考書及び参考資料等は、授業の中で適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習に向けての各テーマに対して「自分の考え」を立てさせた後、4人グループでの「学び合い」の時間を確保した上で、クラス全体での情報共有（話し合い活動）の時間をとることとする。</li> <li>・教育実習後の授業では、実習時に実施した授業を仲間を対象にして互いに模擬授業を行い、その後、研究協議も実施する。</li> <li>・なお、4人グループについては、固定せず随時グループ編成をし直すこととする。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	小・中学校現場での教職経験を活かして指導・助言を適宜行うと共に、テキストに掲載されていない学校現場の現状や課題についても必要に応じて資料提供する。
質問への対応方法	・授業中や授業後に随時対応すると共に、オフィスアワーでも対応する。
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートやふり返しプリントは、次回の授業で返却する。</li> <li>・模擬授業者への事後指導・助言については、オフィスアワーの時間を使って個別に実施する。</li> </ul>

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>・毎回、前時学習内容の復習 2 時間と授業計画表に基づく次時テーマに関する予習 2 時間を課すこととする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育実習とは（ガイダンス、心構え、実習の種類）</li> <li>2 教育実習に向けて（内容、教育実習までの流れ）</li> <li>3 教育実習に向けて（事前打ち合わせ）</li> <li>4 実習中の心得・その 1</li> <li>5 実習中の心得・その 2</li> <li>6 現職教員による講話 1（小学校現場の現状と課題）</li> <li>7 現職教員による講話 2（教育実習に向かう姿勢）</li> <li>8 実習中の心得・その 3</li> <li>9 現職教員による模範授業 1</li> <li>10 現職教員による模範授業 2</li> <li>11 実習中の心得・その 4</li> <li>12 実習中の心得・その 5</li> <li>13 実習前模擬授業・その 1</li> <li>14 実習前模擬授業・その 2</li> <li>15 授業指導技術の基本</li> <li>16 授業指導技術の基本</li> <li>17 実習直前の心構え</li> <li>18 教育実習のふり返し</li> <li>19 教育実習のふり返し、お礼状、模擬授業の計画・準備</li> <li>20 模擬授業の実践と協議・その 1</li> <li>21 模擬授業の実践と協議・その 2</li> <li>22 模擬授業の実践と協議・その 3</li> <li>23 模擬授業の実践と協議・その 4</li> <li>24 模擬授業の実践と協議・その 5</li> <li>25 模擬授業の実践と協議・その 6</li> <li>26 教員採用選考試験に向けて・その 1</li> <li>27 教員採用選考試験に向けて・その 2</li> <li>28 教員採用選考試験に向けて・その 3</li> <li>29 教員採用選考試験に向けて・その 4</li> <li>30 事前事後指導のまとめとふり返し</li> </ol>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	小学校教育実習I
時間割コード Course Code	51990
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	前原 宏一
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	日比野 博(教育保育学科)、塚本 敏浩(教育保育学科)、前原 宏一(教育保育学科)、東岡 博(教育保育学科)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学外の教育実習協力校において、教育実習を実地体験する。</li> <li>・大学で学んだ知識、技能、態度を活かしながら、実習校で大学では得られない知識、技能、態度を集中的に習得する。</li> <li>・自己の学びを広げたり深めたりする貴重な体験の機会とする。</li> </ul>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの実習校での指導に従い、教科や特別の教科：道徳、総合的な学習の時間、特別活動等の観察、参加、授業実習を体験する。 質問等への対応</li> <li>・オフィスアワーで随時対応する。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習校の服務規定に服する。</li> <li>遅刻や欠席は、一切認められない。</li> <li>実習校への通学の際、自動車やバイクの使用は禁止する。</li> <li>評価については、実習校での評価や出席などを考慮しながら、総合的に判断する。</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	小学校での教育実習(観察、参加、授業実習)
テキスト	なし
参考書	なし
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学外の教育実習協力校において、教育実習を実地体験する。</li> <li>・大学で学んだ知識、技能、態度を活かしながら、実習校で大学では得られない知識、技能、態度を集中的に習得する。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	教育実習の前後や実習中に小学校現場の実務経験を活かした助言や指導を行う。
質問への対応方法	必要に応じて、教育実習の前後や実習中においても、随時、対応出来るような体制を整えておく。
フィードバックの方法	実習後に、実習の振り返りをさせながら、個々の面談や模擬授業を通して、できるだけストラテジー型フィードバックを行う。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	教育実習に必要とされること、大切なことなど、教育実習事前事後指導と関連付けながら滞りなく指導と復習・予習をさせる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力 8.計画立案力

開講科目名 Course	小学校教育実習II
時間割コード Course Code	51995
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	前原 宏一
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	日比野 博(教育保育学科)、塚本 敏浩(教育保育学科)、前原 宏一(教育保育学科)、東岡 博(教育保育学科)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学外の教育実習協力校において、教育実習を実地体験する。</li> <li>・大学で学んだ知識、技能、態度を活かしながら、実習校で大学では得られない知識、技能、態度を集中的に習得する。</li> <li>・自己の学びを広げたり深めたりする貴重な体験の機会とする。</li> </ul>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの実習校での指導に従い、教科や特別の教科：道徳、総合的な学習の時間、特別活動等の観察、参加、指導実習を体験する。 質問等への対応</li> <li>・オフィスアワーで随時対応する。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習校の服務規定に服する。</li> <li>遅刻や欠席は、一切認められない。</li> <li>実習校への通学の際、自動車やバイクの使用は禁止する。</li> <li>評価については、実習校での評価や出席などを考慮しながら、総合的に判断する。</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	小学校での教育実習(観察、参加、指導実習)
テキスト	なし
参考書	なし
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学外の教育実習協力校において、教育実習を実地体験する。</li> <li>・大学で学んだ知識、技能、態度を活かしながら、実習校で大学では得られない知識、技能、態度を集中的に習得する。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	教育実習の前後や実習中に小学校現場の実務経験を活かした助言や指導を行う。
質問への対応方法	必要に応じて、教育実習の前後や実習中においても随時出来るような体制を整えておく。
フィードバックの方法	実習後に、実習の振り返りをさせながら、個々の面談や模擬授業を通して、できるだけストラテジー型フィードバックを行う。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	教育実習に必要とされること、大切なことなど、教育実習事前事後指導と関連付けながら滞りなく指導と復習・予習をさせる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力 8.計画立案力

開講科目名 Course	介護等体験実習 / Practice in Care Service
時間割コード Course Code	51998
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 5
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	田中 秀佳
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	田中 秀佳(教育保育学科)、高橋 勝也(法学部)
授業の目標	・介護等の体験を行うことによって、教員の資質向上を図る。 ・社会福祉施設等における介護等体験を通して、社会福祉施設等の役割を知り、施設職員の仕事を理解する。
授業の概要	介護等体験実習では、社会福祉施設等の障害者や高齢者等と生活をともにし、社会福祉施設等の社会的役割や職員の職務内容を理解する。介護等体験の内容は、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験であり、高齢者や障害者の話相手、散歩の付き添い等の交流体験、掃除や洗濯など、施設の職員に必要とされる業務の補助を含む幅広いものである。実習生が実際に行う実習内容は、それぞれの社会福祉施設等の状況に応じて異なるので、社会福祉施設等の指示に従う。 実習を行う施設は、盲学校、聾学校、養護学校、保育所を除く社会福祉施設、その他の施設である。実習期間は、7日以上である。 介護等体験実習を行う者は、事前指導及び事後指導を必ず受けなくてはならない。
評価方法	実習機関の評価、出席を考慮して、総合的に判断する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	事前指導の注意事項、禁止事項に抵触した場合、介護等体験は辞退、中止により失格、または実施後に失格の判定をおこなう。
授業計画	介護等体験実習は後期に予定されている。 そのため、オリエンテーションとして初回講義を年度当初に実施した後、7月に事前指導、9月に直前指導、そして実習後に事後指導をおこなう予定である。
テキスト	全国特別支援学校長会編著『介護等体験ガイドブック 新フィリア』（ジアース教育新社、2020年4月）
参考書	現代教師養成研究会『教師をめざす人の介護等体験ハンドブック（四訂版）』（大修館書店、2014年12月） その他、授業時に指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学外活動に関しては授業時に資料を配布の上、詳細な説明を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験に基づき学校現場の現状、課題、学外活動に必要な事項を教授する。
質問への対応方法	直接またはメールにより随時対応する。
フィードバックの方法	授業時またはクラスルームを通じて実施する。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、事前指導時に指示する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション 授業スケジュールの確認、介護等体験実習の概要について。	【留意点1】 本授業は教員になることに強い意欲を有している者を対象とした科目である。教員を志望しない者の受講は原則として出来ないので注意して欲しい。	
2	介護等体験の意義1 介護等体験の意義を学習する。	【留意点2】 講義全体を通して、(1)他者の人生に関わる仕事、他者の人生をより良いものにする仕事の意義と重大さを理解すること、(2)教育施設・福祉施設の意義と職務を理解すること、(3)自らが教員を目指すにあたって、教員という職業に必要な資質とは何かを考え、自らの教員像を具体化していくこと、(4)実習に必要な知識や心構えを身につけることを目指す。	
3	介護等体験の意義2 介護等体験の意義を学習する。		
4	社会福祉施設等の概要1 盲学校、聾学校、養護学校、社会福祉施設等の概要を学習する。		
5	社会福祉施設等の概要2 盲学校、聾学校、養護学校、社会福祉施設等の概要を学習する。		
6	施設職員の職務1 社会福祉施設等の職員の職務を理解する		
7	施設職員の職務2 社会福祉施設等の職員の職務を理解する		
8	実習生の心構え等1 実習生としての心構えや態度を学習する		
9	実習生の心構え等2 実習生としての心構えや態度を学習する		
10	実習生の心構え等3 実習生としての心構えや態度を学習する		
11	ビデオ視聴 ビデオを視聴することによって、社会福祉施設等の実際を学習する。		
12	実習直前指導1 実習に際しての注意事項を伝達し、必要		
13	実習直前指導2 実習に際しての注意事項を伝達し、必要		
14	実習反省会1 実習終了後、反省会を開き、よかった点や悪かった点を話し合う。		
15	実習反省会2 実習終了後、反省会を開き、よかった点や悪かった点を話し合う。		

開講科目名 Course	社会的養護 I
時間割コード Course Code	52054
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	金井 恵史
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基礎科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	金井 恵史 (教育保育学科)
授業の目標	耳慣れない、見慣れない「社会的養護」の概念について学び、子どもから大人への成長を遂げたみなさんとともに「養護」についても掘り下げ、保育士という専門職にとって必要な社会的養護の理念ならびに法制度に関する基礎知識を学ぶ。
授業の概要	社会的養護の基本理念である、「子どもの権利擁護」「子どものアドボカシー（代弁）」を紹介し、理解し、実践のしていく中で体罰など不適切な養育（マルトリートメント）をしない、させない援助者となる。 知識の領域 ・社会的養護に関わる法制度、行政施策についての学び、里親制度や里親支援制度、児童福祉施設についての学び、実践にどのように活かしていくかの知識を習得する。 技能の領域 ・保育士として特に、社会的養護に関わる専門職としての自己覚知とセルフマネジメント能力の必要性を知り、実践に備える。 態度・指向性の領域 ・児童虐待や児童の貧困問題といった社会生活上、避けて通ることの出来ない諸問題に対して、どのように対応していくかを専門職としてできる援助について考察できるようになる。 この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。
評価方法	講義中の課題（30%）と期末テスト（70%）により総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	講義中の私語、指示以外のスマホ等の操作については失格とすることがあります。
授業計画	1 オリエンテーション 保育士が学ぶ社会的養護 2 現代の子ども養育環境について 社会の諸問題から養育環境について学ぶ 3 社会的養護とは 保育士としてに関わる社会的養護について 4 社会的養護の法制度について こども基本法、児童福祉法ほか法制度について 5 子どもの権利擁護とアドボカシー 権利主体としての子どもと取り巻く養育環境と意見表明について 6 社会的養護の担い手1ー児童相談所 児童相談所の機能と働きについて 7 社会的養護の担い手2ー里親 里親制度について知るとともに、実践について学ぶ 8 社会的養護の担い手3ー児童福祉施設 乳児院・母子生活支援施設について 9 社会的養護の担い手4ー児童福祉施設 児童養護施設について 10 社会的養護の担い手5ー児童福祉施設 児童自立支援施設・心理治療施設について 11 社会的養護の担い手6ー児童福祉施設 自立援助ホーム・児童家庭支援センターについて 12 専門職としての意識 社会的養護にあたる専門職としての学び 13 ソーシャルスキル 対人関係のスキルとしてのソーシャルスキルを学ぶ 14 行動の原理と表現 様々な養育環境における子どもの人格形成について学ぶ 15 まとめー社会的養護の担い手として 個人としてだけでなく、チームとして協働していくために必要な実践を学ぶ



テキスト	テキストは特に定めませんが以下の書籍を参考書籍とします。 ミネルヴァ書房 実践に活かす社会的養護I 小川恭子・坂本 健 編著 中央法規出版 ひとめでわかる 保育者のための子ども家庭福祉データブック2024
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	実践者による講演、ロールプレイによる実戦訓練等を行います。コミュニケーション能力に関して心配があるときは事前に確認が必要となる
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	児童養護施設職員である教員が、自身の実践してきた社会的養護について解説し、実践に必要なスキルを説明し、習得を目指す科目です。
質問への対応方法	授業内で課した課題についての評価に関する質問は随時対応します。期末テストの評価や誤答箇所に関する質問は、希望者に対して個別に対応します。
フィードバックの方法	原則として翌週までに回答を返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	日頃からメディアの報道に目と耳を向け、社会状況に対するの関心を高めて下さい。 また講義内で自身の養育歴、育成歴についてのレポートを課題としますので、下調べ、調査をじっくり行って下さい。 なお、レポート作成にあたって心配や問題がある時は教員にご相談下さい。 また保育士として必要な学力を身につけていることを前提に講義をすすめていきますので、心配や問題がある時は教員にご相談下さい。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	保育士が学ぶ社会的養護	
2	現代の子ども養育環境について	社会の諸問題から養育環境について学ぶ	
3	社会的養護とは	保育士としてに関わる社会的養護について	
4	社会的養護の法制度について	こども基本法、児童福祉法ほか法制度について	
5	子どもの権利擁護とアドボカシー	権利主体としての子どもと取り巻く養育環境と意見表明について	
6	社会的養護の担い手1-児童相談所	児童相談所の機能と働きについて	
7	社会的養護の担い手2-里親	里親制度について知るとともに、実践について学ぶ	
8	社会的養護の担い手3-児童福祉施設	乳児院・母子生活支援施設について	
9	社会的養護の担い手4-児童福祉施設	児童養護施設について	
10	社会的養護の担い手5-児童福祉施設	児童自立支援施設・心理治療施設について	
11	社会的養護の担い手6-児童福祉施設	自立援助ホーム・児童家庭支援センターについて	
12	専門職としての意識	社会的養護にあたる専門職としての学び	
13	ソーシャルスキル	対人関係のスキルとしてのソーシャルスキルを学ぶ	
14	行動の原理と表現	様々な養育環境における子どもの人格形成について学ぶ	
15	まとめ-社会的養護の担い手として	個人としてだけでなく、チームとして協働していくために必要な実践を学ぶ	

開講科目名 Course	社会的養護II
時間割コード Course Code	52056
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	金井 恵史
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	金井 恵史 (教育保育学科)
授業の目標	社会的養護の基本理念である、「子どもの権利擁護」「子どものアドボカシー(代弁)」の理解のもとに、また、不適切な養育(マルトリートメント)を防ぎ、体罰などによる養育をしないための養育スキルを紹介するとともにスキルの習得を目指します。
授業の概要	知識の領域 ・社会的養護に関わる法制度、行政施策についての学び、里親制度や里親支援制度、児童福祉施設についての学び、実践にどのように活かしていくかの知識を習得する。 技能の領域 ・保育士として特に、社会的養護に関わる専門職としての自己覚知とセルフマネジメント能力を習得する。 態度・指向性の領域 ・児童虐待や児童の貧困問題といった社会生活上、避けて通ることの出来ない諸問題に対して、一人が対応するには限界があり、さまざまな関係機関と連携をしながら、「子どもの健全な養育」の担い手としての実践者となる。 この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。
評価方法	講義中の課題(30%)と期末テスト(70%)により総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	講義中の私語、指示以外のスマホ等の操作については失格とすることがあります。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	
参考書	テキストは特に定めませんが以下の書籍を参考書籍とします。 ミネルヴァ書房 実践に活かす社会的養護II 小川恭子・坂本 健 編著
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	講義の中で、ロールプレイ、ディスカッションなどさまざまなアクティビティを通して、授業課題についての理解を深めます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	児童養護施設職員である教員が、自身の実践している社会的養護について解説し、実践に必要なスキルを説明し、習得を目指す科目です。
質問への対応方法	授業内で課した課題についての評価に質問は随時対応します。期末テストの評価や誤答箇所に関する質問は、希望者に対して対応します。
フィードバックの方法	翌週の講義で返答する。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	日頃からメディアの報道に目と耳を向け、社会状況に対する関心を高めて下さい。 また講義内で自身の養育歴、育成歴についてのレポートを課題としますので、下調べ、調査をじっくり行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	社会的養護の実践者として	主に児童養護施設で実践してきた経験からこれからの社会的養護についての展望を学ぶ	
2	児童養護施設における支援1-インテーク(入所時支援)	児童養護施設における入所時の支援について	
3	児童養護施設における支援2-リビングケア1	入所中の養育について	
4	児童養護施設における支援3-リビングケア2	よい関係とトランスについて	
5	児童養護施設における支援4-リビングケア3	専門職としてのケアの実践について学ぶ -ロールプレイ	
6	児童養護施設における支援5-リビングケア4	専門職としてのケアの実践について学ぶ -効果的なほめ方	
7	児童養護施設における支援6-リビングケア5	専門職としてのケアの実践について学ぶ -前もって教える	
8	児童養護施設における支援7-リビングケア6	専門職としてのケアの実践について学ぶ -問題行動を正す	
9	9 児童養護施設における支援7-リビングケア	専門職としてのケアの実践について学ぶ -退所児のケア	
10	児童養護施設における支援8-アフターケア	専門職としてのケアの実践について学ぶ -アフターケア	
11	社会的養護に活かす実践1	里親支援についての学び-リクルート、トレーニング、マッチング	
12	社会的養護に活かす実践2	里親支援についての学び-アテンディング	
13	新しい家族観 1	激変するこどもの養育環境について学び、実践力を培う	
14	新しい家族観 2	専門職に期待される性教育について学び、実践力を身につける	
15	まとめ	世代を繋ぐ、子育てについて学ぶ	

開講科目名 Course	障害児保育 I
時間割コード Course Code	52069
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	楯 誠
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	楯 誠 (教育保育学科)
授業の目標	<p>近年の教育や保育に求められる大きな社会的要請の1つとして、特別の支援を必要とする子ども、特に障害のある子どもへの働きかけが挙げられる。適切にその子どもたちに働きかけ、心身の発達を促していくためには、(1)子どもたちが示すさまざまな困難性(障害に起因するものや、環境との相互作用によるものも含む)を理解すること、(2)具体的な支援の仕方を知ること、(3)その子どもを支える教育的なシステムについて把握することが必要不可欠である。本授業は特に幼児期の障害のある子どもを想定し、(1)の目標の達成を目指さずものである(なお、(2)、(3)については、「障害児保育2」で扱う)</p> <p>【知識・理解の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のとらえ方の国際的な枠組みが分かる。</li> <li>・代表的な子どもの障害の概要が理解できる。</li> </ul> <p>【態度・志向性の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際的な枠組みから、障害のある子どもの抱える困難さや可能性をとらえようとする態度が身につく。</li> <li>・障害の種類や特徴に関する知識を基礎に、障害のある子どもへの適切な働きかけを考える態度が身につく。</li> </ul>
授業の概要	<p>障害児保育の対象となる子どもについての理解を深め、より適切な保育を行うことができるように学習する。本授業は障害児保育2と連動している科目である。この授業では主に特別支援教育や障害者福祉に関わる基礎的な概念、代表的な子どもの障害(主として発達障害を取り上げる)の特性やその背景にある生理的、心理的特徴について取り上げ、解説を行う。</p> <p>講義内容の質問については、随時受け付ける。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>評価方法</p> <p>持ち込み不可の期末試験による(100%)。</p> <p>出席は、期末試験受験資格の有無を判定する際に使用する。</p> <p>20分以上の遅刻は原則、欠席と見なす(遅刻者は20分以内に申し出ること)。</p> <p>学習状況に応じて、授業期間中にレポートを課すことがある。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>私語や大きな音を立てての途中退室は授業妨害と見なす。複数回の警告を受けた者は、失格とする。</p> <p>欠席が6回以上の者は原則失格とする。</p>
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。

テキスト	新・障害のある子どもの保育<第3版> 伊藤健次 編 みらい
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内容の質問に関しては、主に授業後に対応するが、別の時間でも受け付ける。
フィードバックの方法	期末試験の得点や誤答箇所のフィードバックは、希望者に個別に行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス 障害とは何か(1) WHOの障害モデル「国際障害分類(ICIDH)」について	テキスト(p11-13)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。この部分は極めて難解なため、「ICFの理解と活用(上田敏、萌文社)」を参考図書として挙げる。予習として、書籍やWeb上の資料を参照し、障害者基本法総則部分の確認を加える。	
2	障害と何か(2) WHOの障害モデル「国際性機能分類(ICF)」について、障害モデルと保育の関連	テキスト(p13-16)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。この部分は極めて難解なため、「ICFの理解と活用(上田敏、萌文社)」を参考図書として挙げる。	
3	障害児保育における重要概念	テキスト(p16-18、21-22、32)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。特に予習として、フルインクルージョンとパーシャルインクルージョンのキーワードの確認を課す。	
4	障害児保育の形態 分類保育と統合保育、障害児保育の場とその現状	テキスト(p19-25)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。	
5	障害の発生機序(1) 遺伝子と染色体の要因	テキスト(p51-55)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。また、予習として「フェニルケトン尿症」「ダウン症」の概要をおさえること。	
6	障害の発生機序(2) 胎生期と周産期、出生後の要因	テキスト(p42-44、55-58)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。また、予習として「先天性風疹症候群」「脳室周囲白質軟化症(PVL)」の概要をおさえること。	
7	知的障害とは何か(1) その定義と分類、一般的な特性	テキスト(p58-65)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。	
8	知的障害とは何か(2) その生理的・心理的特徴(認知・学習面を中心に)	テキスト(p65-70)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。	
9	自閉症スペクトラム(ASD)とは何か(1) その歴史と定義の変遷、分類	テキスト(p70-72)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。また、カナーとアスペルガー、ウィングの関係性を予習として調べる。	
10	自閉症スペクトラム(ASD)とは何か(2) 一般的な特性および生理的・心理的特徴	テキスト(p73-77)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。	
11	注意欠如・多動症(ADHD)とは何か(1) その定義と一般的な特徴	テキスト(p77-80)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。文科省HPより「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」に予習として目を通しておくこと。	
12	注意欠如・多動症(ADHD)とは何か(2) その生理的・心理的特徴	前回の授業で配布された資料を基に予習(2時間)および授業内容の復習(2時間)を課す。	
13	限局性学習症(SLD)と発達性共著運動症(DCD) その定義と一般的な特徴	テキスト(p80-82)の予習(2時間)および、講義内容の復習(2時間)を課す。	
14	その他の子どもの障害の定義と一般的特性(1) 肢体不自由(脳性まひを中心に)	テキスト(p87-92)の予習(2時間)および、講義内容の復習(2時間)を課す。	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	その他の子どもの障害の定義と一般的特性(2) てんかん	テキスト(p97-100)の予習(2時間)および、講義内容の復習(2時間)を課す。	

開講科目名 Course	障害児保育 I
時間割コード Course Code	52070
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	楯 誠
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	楯 誠 (教育保育学科)
授業の目標	<p>近年の教育や保育に求められる大きな社会的要請の1つとして、特別の支援を必要とする子ども、特に障害のある子どもへの働きかけが挙げられる。適切にその子どもたちに働きかけ、心身の発達を促していくためには、(1)子どもたちが示すさまざまな困難性(障害に起因するものや、環境との相互作用によるものも含む)を理解すること、(2)具体的な支援の仕方を知ること、(3)その子どもを支える教育的なシステムについて把握することが必要不可欠である。本授業は特に幼児期の障害のある子どもを想定し、(1)の目標の達成を目指さずものである(なお、(2)、(3)については、「障害児保育2」で扱う)</p> <p>【知識・理解の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のとらえ方の国際的な枠組みが分かる。</li> <li>・障害、特に発達障害の発生機序が理解できる。</li> <li>・代表的な子どもの障害の概要が理解できる。</li> </ul> <p>【態度・志向性の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際的な枠組みから、障害のある子どもの抱える困難さや可能性をとらえようとする態度が身につく。</li> <li>・障害の特徴や原因に関する知識を基礎に、障害のある子どもへの適切な働きかけを考える態度が身につく。</li> </ul>
授業の概要	<p>障害児保育の対象となる子どもについての理解を深め、より適切な保育を行うことができるように学習する。本授業は障害児保育2と連動している科目である。この授業では主に特別支援教育や障害者福祉に関わる基礎的な概念、障害が生じるメカニズム、代表的な子どもの障害(主として発達障害を取り上げる)の特性やその背景にある生理的、心理的特徴について取り上げ、解説を行う。</p> <p>講義内容の質問については、随時受け付ける。</p> <p>この授業は対面形式で行われるが、新型コロナウイルス感染症の流行状況によっては、一部遠隔授業形式になる可能性がある。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>評価方法</p> <p>持ち込み不可の期末試験による(100%)。</p> <p>出席は、期末試験受験資格の有無を判定する際に使用する。</p> <p>20分以上の遅刻は原則、欠席と見なす。</p> <p>学習状況に応じて、授業期間中にレポートを課すことがある。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	私語や大きな音を立てての途中退室は授業妨害と見なす。複数回の警告を受けた者は、失格とする。 出席が全授業回数の3分の2以上に満たない者は原則失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	新・障害のある子どもの保育<第3版> 伊藤健次 編 みらい
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内容の質問に関しては、主に授業後に対応するが、別の時間でも受け付ける。
フィードバックの方法	期末試験の得点や誤答箇所のフィードバックは、希望者に個別にて行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス 障害とは何か(1) WHOの障害モデル「国際障害分類(ICIDH)」について	テキスト(p11-13)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。この部分は極めて難解なため、「ICFの理解と活用(上田敏、萌文社)」を参考図書として挙げる。予習として、書籍やWeb上の資料を参照し、障害者基本法総則部分の確認を加える。	
2	障害と何か(2) WHOの障害モデル「国際性機能分類(ICF)」について、障害モデルと保育の関連	テキスト(p13-16)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。この部分は極めて難解なため、「ICFの理解と活用(上田敏、萌文社)」を参考図書として挙げる。	
3	障害児保育における重要概念	テキスト(p16-18、21-22、32)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。特に予習として、フルインクルージョンとパーシャルインクルージョンのキーワードの確認を課す。	
4	障害児保育の形態 分類保育と統合保育、障害児保育の場とその現状	テキスト(p19-25)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。	
5	障害の発生機序(1) 遺伝子と染色体の要因	テキスト(p51-55)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。また、予習として「フェニルケトン尿症」「ダウン症」の概要をおさえること。	
6	障害の発生機序(2) 胎生期と周産期、出生後の要因	テキスト(p42-44、55-58)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。また、予習として「先天性風疹症候群」「脳室周囲白質軟化症(PVL)」の概要をおさえること。	
7	知的障害とは何か(1) その定義と分類、一般的な特性	テキスト(p58-65)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。	
8	知的障害とは何か(2) その生理的・心理的特徴(認知・学習面を中心に)	テキスト(p65-70)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。	
9	自閉症スペクトラム(ASD)とは何か(1) その歴史と定義の変遷、分類	テキスト(p70-72)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。また、カナーとアスペルガー、ウィングの関係性を予習として調べる。	
10	自閉症スペクトラム(ASD)とは何か(2) 一般的な特性および生理的・心理的特徴	テキスト(p73-77)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。	
11	注意欠如・多動症(ADHD)とは何か(1) その定義と一般的な特徴	テキスト(p77-80)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。文科省HPより「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」に予習として目を通しておくこと。	
12	注意欠如・多動症(ADHD)とは何か(2) その生理的・心理的特徴	前回の授業で配布された資料を基に予習(2時間)および授業内容の復習(2時間)を課す。	
13	限局性学習症(SLD)と発達性共著運動症(DCD) その定義と一般的な特徴	テキスト(p80-82)の予習(2時間)および、講義内容の復習(2時間)を課す。	
14	その他の子どもの障害の定義と一般的特性(1) 視覚障害と聴覚障害	テキスト(p93-97)の予習(2時間)および、講義内容の復習(2時間)を課す。	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	その他の子どもの障害の定義と一般的特性(2) 肢体不自由(脳性まひを中心に)	テキスト(p87-92)の予習(2時間)および、講義内容の復習(2時間)を課す。	

開講科目名 Course	障害児保育II
時間割コード Course Code	52071
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	楯 誠
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	楯 誠 (教育保育学科)
授業の目標	<p>近年の教育や保育に求められる大きな社会的要請の1つとして、特別な支援を必要とする子ども、特に障害のある子どもへの働きかけが挙げられる。適切にその子どもたちに働きかけ、心身の発達を促していくためには、(1)子どもたちが示すさまざまな困難性(障害に起因するものや、環境との相互作用によるものも含む)を理解すること、(2)具体的な支援の仕方を知ること、(3)その子どもたちを支える教育的なシステムについて把握することが必要不可欠である。本授業では特に幼児期の障害のある子どもを想定し、(2)、(3)の目標を達成することを目指す。(1)については、「障害児保育1」で扱う。</p> <p>【知識・理解の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のある子どもへの働きかけに関わる基礎的な理論の概要が分かる。</li> <li>・障害のある子どもの保護者の心理状態に関わる諸理論が分かる。</li> </ul> <p>【技能の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働きかけの基礎理論(行動のABC)をベースに、子どもの行動の分析、解釈の一部が行える。</li> <li>・生活習慣に関する目標設定の仕方的一端が身につく。</li> <li>・発達検査の結果処理、解釈、保育への活用の一連の流れを体験できる。</li> </ul> <p>【態度・志向性の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な理論の枠組み(行動のABC)から、子どものさまざまな行動をの理解しようとする態度が身につく。</li> <li>・保護者の心理を理解しようとする態度が身につく。</li> </ul>
授業の概要	<p>障害児保育の対象となる子どもについての理解を深め、より適切な保育を行うことができるように学習する。本授業は障害児保育?と連動している科目である。この授業では主に学習理論に基づく障害のある子どもへ働きかけ(生活習慣技能の習得、集団参加、行動問題への働きかけ)、保護者の心理の理解、母子保健や学校教育との連携を解説するとともに、演習形式による実践的な活動(発達検査の実施と結果の解釈)を行う。</p> <p>この授業は対面形式で行われるが、新型コロナウイルス感染症の流行状況によっては、一部遠隔授業形式になる可能性がある。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>評価方法</p> <p>基本的に学期末の試験(持ち込み不可)によってのみ評価する(100%)。出席は、期末試験受験資格の検討の際の判断材料とする(出席点はない)学習状況に応じて、授業期間中にレポートを課すことがある。20分以上の遅刻は原則、欠席と見なす(遅刻者は20分以内に申し出ること)。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	私語や大きな音を立てての途中退室は授業妨害と見なす。複数回の警告を受けた者は、失格とする。 欠席が6回以上の者は原則失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	新・障害のある子どもの保育<第3版> 伊藤健次 編 みらい
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内容の質問に関しては、主に授業後に対応するが、別の時間でも受け付ける。
フィードバックの方法	期末試験の得点や誤答箇所のフィードバックは、希望者に個別にて行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス 障害のある子どもへの働きかけの基礎理論(1) 行動のABCと強化	テキスト(p120-130)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。	
2	障害のある子どもへの働きかけの基礎理論(2) 先行事象のコントロール(構造化)	テキスト(p127-130)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。また、予習としてこれまでの実習で目にした構造化の例を書き出すこと。	
3	基本的な生活習慣習得に関する支援(1) ラポール形成の重要性、課題分析とモデルステップ	テキスト(p133-139)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。	
4	基本的な生活習慣習得に関する支援(2) プロンプト、チェイニング、無誤学習	テキスト(p133-139、146)および前回配布資料の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。	
5	集団参加に関する支援	テキスト(p140-145)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。	
6	行動問題に関する支援(1) 働きかけの原則、機能的アセスメント	事前配布をした資料の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。	
7	行動問題に関する支援(2) 先行事象の調整と、結果事象の調整	事前配布をした資料の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。	
8	アセスメントの実践(1) 発達検査(乳幼児発達スケール)の概要と実施方法、結果の処理	テキスト(p240-244)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。この回は、次回の内容と完全に連動しているため(発達検査の結果処理等のワークを行う)、欠席しないこと。	
9	アセスメントの実践(2) 発達検査(乳幼児発達スケール)の結果解釈と保育への利用	テキスト(p245-253)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。この回は、前回の内容と完全に連動しているため、欠席しないこと。	
10	個別の指導計画と個別の教育支援計画 その概要と指導案との関連性	テキスト(p147-160)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。	
11	保護者へのアプローチ(1) 障害の受容(段階説と慢性的悲哀、螺旋形モデル)	テキスト(p199-204)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。	
12	保護者へのアプローチ(2) 保護者支援、保護者の背景の理解、発達障害と虐待の関係	テキスト(p210-25)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。また、予習としてWEB上の資料を参照し、ペアレントプログラムの概要を把握しておくこと	
13	障害児保育と他の領域とのつながり(1) 母子保健制度とのつながり	テキスト(p218-228)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。	
14	障害児保育と他の領域とのつながり(2) 学校教育とのつながり 就学に向けて	テキスト(p228-234)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。	
15	障害児保育と他の領域とのつながり(3) 地域とのつながり 地域支援機関とつなげる	テキスト(p234-239)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。	



開講科目名 Course	特別支援教育論
時間割コード Course Code	52090
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	志村 美和
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	志村 美和 (管理栄養学科)
授業の目標	特別支援教育の歴史的背景を知り、現在の特別支援教育にどんなねらいがあるのかを理解する。保育者、教員となる上で指導的立場だけでなく、共に学び、育ち合う気持ちを意識できるようになる。 個に応じた教育的ニーズとは何かを考えることができる。
授業の概要	「特殊教育」から「特別支援教育」に変換された歴史的背景を知り、障害がある幼児児童生徒や特別なニーズがある幼児児童生徒の現状を担当者の実践から学ぶ。 保育者、教員は人と関わる仕事です。授業では「人間関係づくり」をテーマとし、自己理解と他者理解を目的としたグループワークを多く取り入れます。
評価方法	やむを得ない欠席以外は必ず出席してください。 毎回授業の振り返りコメントを書いて提出してもらいます。 試験は、レポート試験です。担当者がタイトルを3つ用意しますので、その中から自分が興味を持った内容について1000字～1500字程度書いてください。また詳細は授業中に提示します。 ・授業への意欲・関心 20% ・振り返りレポート 30% ・学期末テスト(課題レポート) 50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回以上であること。 欠席が6回になった場合、補講課題を有する。

## 授業計画

## 第1回

## オリエンテーション

- (1) 授業のルールについて
- (2) 初めまして。どうぞよろしく。構成的グループエンカウンターを用いて。
- (3) 担当者の「障害児との出会い、育ち合い、学びあい」

## 第2回

## 特別支援教育とは

- (1) 「特殊教育」から「特別支援教育」へ
- (2) 「統合保育」から「インクルーシブ保育へ」
- (3) 保育・学校現場の現在

## 第3回

## 障害種別について

- (1) 視覚障害について
- (2) 聴覚障害について

## 第4回

## 障害種別について

- (1) 知的障害について
- (2) 身体障害について
- (3) 重複障害について

## 第5回

## 発達障害について

- (1) 気になる子について
- (2) 多様な子どもたち

## 第6回

## LD疑似体験プログラム

- (1) 読む
- (2) 書く
- (3) 計算する

## 第7回

## LD疑似体験プログラム

- (1) 聞く
- (2) 話す
- (3) 不器用さ

## 第8回

## 特別支援教育支援員とは

- (1) 支援員の視点と支援
- (2) 多職種連携

## 第9回

## 出生からライフステージに沿った支援

- (1) 出生と家族の願い
- (2) 集団生活の始まり
- (3) 個々の発達の違い

## 第10回

## 就学移行期から入学（学校生活の始まり）

- (1) 就学移行期の保護者の選択（教育支援委員会）
- (2) 特別支援学校と特別支援学級
- (3) 通常学級（通級指導教室）

## 第11回

## 個別の教育支援計画と個別の指導計画

- (1) 個別の教育支援計画と個別の指導計画の目的
- (2) 特別支援教育コーディネーターの役割

## 第12回

## 個別の教育支援計画と個別の指導計画

- (1) 校内委員会・ケース会議
- (2) アセスメントの重要性
- (3) 特別なニーズがある子

## 第13回

## 障害者権利条約について

- (1) 障害者施策を支える条約
- (2) 「私たち抜きに私たちのことを決めないで」の考え

## 第14回

## 障害者差別解消法について

- (1) 合理的配慮とは
- (2) 当たり前平等（公平）であるということ

## 第15回

## 特別支援教育から生涯学習化へ

	(1) 学校卒業後の学び (2) 共生社会について考える
テキスト	使用しない。毎回資料を用意する。
参考書	「教師になるための特別支援教育」田中良三、湯浅恭正、藤本文朗共編著 培風館 2020.4 「通常学級の発達障害児の「学び」を、どう保障するか～学校・家庭・福祉のトライアングル・プロジェクト～」田中裕一著 小学館 2022.2 えほん「障害者権利条約」藤井克徳、里圭 株式会社汐文社 2015 「特別支援学級」と「通級による指導」ハンドブック 田中裕一 東洋館出版社 2019 教員をめざすための特別支援教育入門 大塚玲編著 萌文書林 2015
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	毎回構成的グループエンカウンターを取り入れる。 エピソードを読んでグループでディスカッションする。 疑似体験プログラムを通して自ら体験することから学ぶ。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	担当教員は、現在の幼保連携型認定こども園で勤務している。現場での実践を授業に取り入れる。 また、こども園だけでなく、行政から委嘱されている様々な役職から現代の学校教育についての現状や障害福祉、障害者の生涯学習等について学生と考える。
質問への対応方法	授業後に質問は受け付ける。メールでも可。
フィードバックの方法	毎回授業後に振り返りレポートを提出してもらい、次週の授業で、コメントを記入し、返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業の予習30分、振り返り30分を要する。毎回の授業資料(プリント)は授業後の事後学習の分も配布する。 第1回 「特別支援教育」のイメージを考えてくる。30分 授業後は資料を確認する。 第2回、第3回、第4回は、文科省のHP等で「特別支援教育」「障害種別」について調べてくる。30分 授業後は資料を確認する。 第5回は、「発達障害」について、HPや新聞、書物などで様々な事例について調べてくる。 第6回、7回は、学習障害についてインターネットで検索してくる。30分 授業後は資料を確認する。 第8回は、「特別支援教育支援員」について調べてくる。 第9回は、地域の発達支援センターや児童発達支援施設について調べてくる。30分 授業後は資料を確認する。 第10回は、自分の在住地域の就学相談について調べてくる。 授業後は資料を確認する。 第11回、12回は、愛知県の個別の指導計画、個別の教育支援計画について検索する。30分 授業後は資料を確認する。 第13回、14回は新聞、ニュース、本等で現代の教育現場のニュースを調べてくる。30分 授業後は資料を確認する。 第15回は、「特別な支援」について自分の考えをまとめてくる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標(11~17)	12.つくる責任つかう責任 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	栄養演習
時間割コード Course Code	53010
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	早川麻理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基礎科目
教室 Classroom	13A講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川麻理子(管理栄養学科)、山田 貴史(管理栄養学科)、朱宮 哲明(管理栄養学科)
授業の目標	<p>この授業では、早期体験授業(early exposure)として位置づけており、持続可能な食料供給システムにおける管理栄養士の使命を理解し、より健康的な生産・製造・販売のフードサプライチェーンとは何かを探究し、地域社会のニーズに応えられる食と健康の提案ができる、理論的思考力(Logical Thinking)を身に付けます。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 持続可能な食料供給システムにおける管理栄養士の使命が説明できる</p> <p>思考判断の領域 健康的な食生活が選択できる</p> <p>関心意欲の領域 食の安全性に関心を持ち、意欲的に取り組む</p> <p>態度・志向性の領域 管理栄養士として働くことに誇りと責任を持ち、コミュニケーション能力を高める</p> <p>技能の領域 ヘルスケアを6次産業化するリーダーとしての実務スキルが身につく</p> <p>体験探究の領域 食と健康の社会課題を解決するためのプロモーションを探究する</p>
授業の概要	持続可能な食料供給システムにおける社会課題を見つけ、それを解決するための食品開発を試み、生産・製造・販売のフードサプライチェーンを通じて、管理栄養士が地域社会の中で経済的自立を実現するために必要な知識とスキルを学びます。
評価方法	以下の方法で総合的に評価します。 ・参加姿勢 40% ・課題レポート 60%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が、2/3に満たない場合

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 持続可能な食料供給システムにおける管理栄養士の使命と役割（早川）</li> <li>2. 発着想：社会課題の抽出：WHY, WHO, WHAT, HOW（早川）</li> <li>3. 販売計画・グループディスカッション（早川）</li> <li>4. 販売準備（朱宮・早川）</li> <li>5. フィールドリサーチ：販売体験（朱宮・早川）</li> <li>6. フィールドリサーチ：販売体験（山岡・早川）</li> <li>7. グループ発表会</li> <li>8. マーケティング戦略</li> <li>9. コミュニケーション設計</li> <li>10. 販売計画</li> <li>11. 販売準備（朱宮・早川）</li> <li>12. 販売体験（朱宮・早川）</li> <li>13. 販売体験（山岡・早川）</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. ヘルスケアの6次産業化に関わる商材開発の発表会（山田・早川）</li> </ol>
テキスト	『ヘルスケアビジネスの図本』ヘルスケアの事業構想50のチェックポイント、西根英一著
参考書	随時紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	発表したプレゼンテーションに対し、意見を述べ、ディスカッションすることで、新しいアイデアや課題解決能力を身につけます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務家教員の実社会での経験を活かし、消費者（患者）のニーズ合った栄養ケアマネジメントの情報提供や商材開発・販売の方法をよりリアルに伝え、実装できる機会を経験できるエキサイティングな授業です。
質問への対応方法	随時対応します。
フィードバックの方法	随時対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	課題や準備で、60時間（4h×15回）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>5. ジェンダー平等を実現しよう</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 住み続けられるまちづくりを</li> <li>12. つくる責任つかう責任</li> <li>13. 気候変動に具体的な対策を</li> <li>14. 海の豊かさを守ろう</li> <li>15. 陸の豊かさを守ろう</li> <li>17. パートナリシップで目標を達成しよう</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	持続可能な食料供給システムにおける管理栄養士の使命と役割(早川)	管理栄養士は、生産、製造、販売のすべてのフードサプライチェーンのヘルスケアに関わり、ヒトの健康と地球の環境の問題に取り組む使命があることを述べ、社会課題について向き合う機会を作ります。	社会課題について、考えておきましょう。
2	発着想:社会課題の抽出:WHY, WHO, WHAT, HOW(早川)	商材を開発するうえで、大切なことは、何を解決したいのか、また消費者(患者)にニーズに応えることです。それを的確に伝え、理解してもらえる方法を学びます。WHY, WHO, WHAT, HOWのボンチ絵を作成します。	社会課題を解決するための商材を考え、WHY, WHO, WHAT, HOWを復習しましょう。
3	販売計画・グループディスカッション(早川)	4~5人のグループをつくり、各アイデアを発表し合い、商材を1つに絞り、販売計画を立て、消費者アンケートを作成します。	グループで決めた商材のチラシを作成しましょう。
4	販売準備(朱宮・早川)	販売体験用の商材を作成し、準備します。	看板や机・椅子など販売の設営をしましょう。
5	フィールドリサーチ:販売体験(朱宮・早川)	プレ販売体験を通じて、フィールドリサーチを行います。	アンケート調査を実施し、結果を精査し、予測した社会課題の検証を行い、パワーポイントを作成しておきます。
6	フィールドリサーチ:販売体験(山岡・早川)	プレ販売体験を通じて、フィールドリサーチを行います。	紙を入れて、6~8枚のパワーポイントと発表原稿を900~1,000文字を作成し、発表の練習をしましょう。
7	グループ発表会(早川)	各グループの発表時間は、5分間+質疑応答2分+移動1分=8分とし、Formsで、全学生の感想を収集します。	マーケティング戦略について、復習しましょう。
8	マーケティング戦略(早川)	マーケティング戦略のブランディング(商材開発)、イシューイング(世論形成)、ターゲティング(顧客開拓)、マーケティング(市場創造)について解説し、各グループでプレ販売を行った商材の改善を行います。	コミュニケーション設計について復習しましょう。
9	コミュニケーション設計(早川)	コミュニケーション設計のプロモーション(広告)、キャンペーン(広報)の方法について解説し、各グループでプレ販売を行った商材で考えてみます。	表紙を入れて、6~8枚のパワーポイントにまとめ、準備しておきましょう。
10	販売計画(早川)	販売計画のビジネスモデル、実行プラン、収支計画を立てます。	看板や机・椅子など販売の設営をしましょう。
11	販売準備(朱宮・早川)	販売体験用の商材を作成し、準備します。	表紙を入れて、6~8枚のパワーポイントを修正し、発表の練習をしておきましょう。
12	販売体験(朱宮・早川)	販売体験を通じて、持続可能な食料供給システムの栄養教育を実践します。	表紙を入れて、6~8枚のパワーポイントを修正し、発表の練習をしておきましょう。
13	販売体験(山岡・早川)	販売体験を通じて、持続可能な食料供給システムの栄養教育を実践します。	表紙を入れて、6~8枚のパワーポイントを修正し、発表の練習をしておきましょう。

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
14	まとめ(早川)	まとめとして、持続可能な食料供給システムにおける管理栄養士の使命を理解し、より健康的な生産・製造・販売のフードサプライチェーンとは何かを確認し、ヘルスケアの6次産業化に関わる商材開発の発表準備を行います。	発表原稿を900~1,000文字で作成し、発表の準備をしましょう。
15	ヘルスケアの6次産業化に関わる商材開発の発表会(山田・早川)	各グループの発表時間5分間+質疑応答2分+移動1分=8分 Formsで、全学生の感想を収集します。	本授業の振り返りをし、将来、管理栄養士としてどのように活躍したいのかを考えてみましょう。

開講科目名 Course	総合演習(通) / General exercises
時間割コード Course Code	53012
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	早川麻理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川麻理子(管理栄養学科)、夏目 有紀枝(管理栄養学科)、庄司 吏香(管理栄養学科)、朱宮 哲明(管理栄養学科)、松尾 貴子(管理栄養学科)
授業の目標	<p>管理栄養士としての素養を身につけ、実りある臨地実習を行うために必要な知識・技能を修得し、基本的な栄養業務が実践できるようになることを目標とします。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 集団給食、栄養指導、栄養管理ができる</p> <p>思考判断の領域 気配りや思いやりの気持ちを持つことでコミュニケーション能力を高める</p> <p>関心意欲の領域 実際の現場に必要な管理栄養士の知識・技能を理解し、不足している知識・技能を向上させる</p> <p>態度・志向性の領域 管理栄養士として働くことに誇りと責任を持ち、自ら進んで学習が深められる</p> <p>技能の領域 給食管理、栄養教育、臨床栄養および公衆栄養の横断的なスキルを身につける</p> <p>体験探究の領域 臨地実習を体験することで、管理栄養士としての将来に生かす</p>
授業の概要	<p>これまでに学んだ知識・技能を基に、臨地実習の各施設(病院・学校・事業所・福祉施設・保健所等)での管理栄養士の使命と役割、栄養業務について学びます。また、管理栄養士に必要な健康の維持増進、疾病の予防、疾病の治療・重症化予防における知識・技能を用いて、給食管理、栄養教育、臨床栄養、公衆栄養の各分野で活躍できる実践力を身につけます。</p>
評価方法	<p>以下の方法で総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加姿勢 40%</li> <li>・課題・提出物 40%</li> <li>・報告発表等 20%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が、2/3に満たない場合



授業計画	<p>第1回 臨地実習についてのガイダンス：臨地実習の流れ、注意事項、各施設の説明（早川）</p> <p>第2回 プロフィール票、実習のノートの書き方や礼状の書き方等について（早川）</p> <p>第3回 先輩の体験談報告会：病院・保健センター・学校（庄司）</p> <p>第4回 先輩の体験談報告会：福祉・事業所（夏目）</p> <p>第5回 給食管理（病院、福祉施設）の役割とマネジメントについて（朱宮）</p> <p>第6回 給食管理（学校）の役割とマネジメントについて</p> <p>第7回 給食管理（事業所）の役割とマネジメントについて（庄司）</p> <p>第8回 公衆栄養（保健センター）の役割とマネジメントについて（松尾）</p> <p>第9回 臨床栄養（病院）の役割とマネジメントについて（早川）</p> <p>第10回 実習施設の割当て、各施設の指導事項（全教員）</p> <p>第11回 嚥下調整食について（庄司）</p> <p>第12回 静脈・経腸栄養・栄養アセスメントについて（夏目）</p> <p>第13回 HACCPに基づく衛生管理とは（朱宮）</p> <p>第14回 事前・事後指導（全教員）</p> <p>第15回 事前・事後指導（全教員）</p> <p>第16回 ガイダンス（各教員からの臨地実習の注意点や反省点等）</p> <p>第17回 事前・事後指導（全教員）</p> <p>第18回 事前・事後指導（全教員）</p> <p>第19回 事前・事後指導（全教員）</p> <p>第20回 報告会1（朱宮）</p> <p>第21回 報告会2（朱宮）</p> <p>第22回 事前・事後指導（全教員）</p> <p>第23回 報告会3（松尾）</p> <p>第24回 報告会4（夏目）</p> <p>第25回 事前・事後指導（全教員）</p> <p>第26回 報告会5（庄司）</p> <p>第27回 報告会6（庄司）</p> <p>第28回 事前・事後指導（全教員）</p> <p>第29回 報告会7（早川）</p> <p>第30回 報告会8（早川）</p>
テキスト	2024年版 管理栄養士・栄養士必携、公益社団法人 日本栄養士会（編集）
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各施設で行った臨地実習の報告をプレゼンテーションし、発表者に対して意見や疑問を述べ、活発なディスカッションを行うことで理解を深め、学習意欲を高めます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	管理栄養士の実務経験がある教員が、臨地実習を円滑に受けるための基礎知識や技術について、専門的知識および技術への統合につなげるための教育内容を組み込んでいます。
質問への対応方法	随時対応します。
フィードバックの方法	随時対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	〔予習〕学習内容の資料を読んでおきましょう。（2h×15回 30時間） 〔復習〕配布されたプリントの内容をまとめ、課題に取り組みましょう。（2h×15回 30時間）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17. パートナースHIPで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 4. 感情制御力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	栄養管理学入門（オムニバス） / General Nutritional Management
時間割コード Course Code	53014
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	朱宮 哲明
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基礎科目
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川麻理子（管理栄養学科）、山田 貴史（管理栄養学科）、朱宮 哲明（管理栄養学科）、山岡由理子（管理栄養学科）
授業の目標	<p>管理栄養士には、栄養バランスを考えた食事の提供や食生活についてのアドバイスをすることで、人々の健康を保持・増進する役割があります。この授業では、食の専門家として各栄養素のはたらきを理解し、食品の機能を活かした献立作りができる汎用的能力を身に付けます。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 食の指導に関わる管理栄養士の使命が説明できる 思考判断の領域 健康的な食生活が選択できる 関心意欲の領域 食の安全性に関心を持ち、意欲的に取り組む 態度・志向性の領域 管理栄養士として働くことに誇りと責任を持つ 技能の領域 食品の機能を活かした献立作りの実務スキルを身に付ける 立案した献立を基に教育ツールが作成でき、プレゼンテーションができるようになる</p>
授業の概要	食の専門家として管理栄養士に必要な基本的スキルを学び、食品の機能を活かした献立作成を習練し、献立作成能力を高める。また、栄養教育としてのツールを作り、それらを用いプレゼンテーションすることで伝える力を身に付ける。
評価方法	<p>以下の方法で総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加姿勢 40%</li> <li>・課題レポート、発表 60%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	特になし。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 管理栄養士とは・食の専門家としての意義。</li> <li>2. これからの管理栄養士像について。</li> <li>3. 各栄養素のはたらき。</li> <li>4. 体の構造とはたらき。</li> <li>5. 食品成分表の見方・使い方。</li> <li>6. 食品成分表の活用法、日本人の食事摂取基準（2020年版）の使い方。</li> <li>7. 栄養計算の基礎・献立作成ソフトの実用。</li> <li>8. 食材の切り方・食材の旬と適した調理法および料理。</li> <li>9. 献立立案までの基礎計画。</li> <li>10～11. 食品の機能を生かした献立作り。</li> <li>12～13. 栄養教育ツール（ポップ、フライヤー、リーフレット）の作り方</li> <li>14. 発表会</li> <li>15. ディスカッション</li> </ol>
テキスト	めざせ！栄養士・管理栄養士 まずはここから・ナビゲーション（第一出版）
参考書	日本人の食事摂取基準 2020年版（第一出版） 八訂食品成分表（女子栄養大学出版部） 調理のためのベーシックデータ（女子栄養大学出版部）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	教員の指示に従い、各自で献立作成や栄養計算などを実施します。 教員の指示に従い、テーマについてディスカッションを行う場合もあります。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	病院や福祉施設にて栄養管理や給食管理の経験を持つ教員が、献立作成の基礎や食事管理のコツなどについて、わかりやすく指導する科目です。
質問への対応方法	随時対応します。
フィードバックの方法	参考資料を配布。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習と復習を課すものとします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	食品機能学 / Functional Food Science
時間割コード Course Code	53016
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	太田 和徳
科目区分 Course Group	専門科目群 専門関連科目
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 和徳 (管理栄養学科)
授業の目標	食品学の講義内容を踏まえ、食品の三次機能に注目し、その機能(作用)の分類とそれぞれの食品に含まれる機能性成分とその働きについて理解することを目的とする。
授業の概要	食品には、生命活動維持に不可欠な栄養素以外にも疾病予防や健康増進といった生体調節作用を示す機能性成分が含まれている。本講義では、これらを作用別に分類し、どの食品にどのような機能性成分が含まれているのか、どのように作用しているのかについて学習する。また特定保健用食品の制度と取扱いをはじめ、その科学的根拠(エビデンス)に基づいた機能について検討する。質問には随時対応する。 本授業は原則として対面で実施する。
評価方法	授業態度:20% 試験:80% 上記の他、レポート・確認テスト等を総合的に評価する。 レポートの内容については翌講義時に解説をおこなう。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回欠席で失格
授業計画	第1回 機能性の科学 第2回 機能性食品とは 第3回 抗酸化機能-1(ビタミン類) 第4回 抗酸化機能-2(カロテノイド・ポリフェノール) 第5回 消化吸収への効果-1(ミネラル) 第6回 消化吸収への効果-2(ビタミン) 第7回 プレバイオティクスとプロバイオティクス 第8回 歯の健康維持作用 第9回 脂質関連代謝機能 第10回 血圧・血糖抑制作用 第11回 免疫機能への影響 第12回 食品アレルギーの影響 第13回 神経系に及ぼす影響 第14回 運動機能への影響 第15回 総括
テキスト	改訂 食品機能学(建帛社) ISBN: 978-4-7679-0579-2
参考書	講義中に適宜参照する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	レポート等は次回授業時に返却・解説
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、予習復習に1時間ずつ求める
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	スポーツ栄養学
時間割コード Course Code	53019
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	加茂 友季子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門関連科目
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	加茂 友季子 (管理栄養学科)
授業の目標	<p>スポーツ選手の栄養補給について、目的とするスポーツに合った栄養補給方法を学ぶことができます。</p> <p>知識・理解の領域 一般人とスポーツ選手の食事の違いについて説明ができる。 スポーツ時の体内の状態について理解ができる。</p> <p>思考判断の領域 スポーツ選手の食事に関する個人差の開きが分かる。 運動時の食事・栄養素摂取のタイミングが分かる。</p> <p>関心意欲の領域 スポーツ観戦やスポーツ選手の食生活に関心を持ち、自ら意見を述べるができる。</p> <p>態度・志向性の領域 実際にスポーツ栄養に取り組んでいる競技団体などを調べるようになる。 自らスポーツに取り組んだ時にスポーツ栄養を取り入れた結果を体験し観察できるようになる。</p> <p>技能の領域 スポーツ選手の心理状況を察しながら食事の質・量をだまかに判断ができるようになる。</p> <p>体験探究の領域 スポーツ現場でのスポーツ栄養マネジメントの考え方を間接体験し、現場で役立つことができる。</p>
授業の概要	運動に関係する栄養素の理解、どのような栄養素をどんな食事(栄養剤)で、どの程度の量を摂るべきか、スタミナを付けたい、筋力をアップさせたいなどスポーツに関わる管理栄養士が備えるべき知識を修得することができます。
評価方法	受講状況、課題提出、最終試験を総合的に判断します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 スポーツ・運動と栄養の基本</li> <li>2 スポーツ・運動における栄養素の働き</li> <li>3 スポーツ・運動における栄養素の働き</li> <li>4 スポーツ・運動と食事摂取のタイミング、内容、量について</li> <li>5 熱中症と水分補給について</li> <li>6 身体組成について</li> <li>7 ウェイトコントロールと食事</li> <li>8 様々な状況における栄養管理（試合時、合宿時、オフ期など）</li> <li>9 様々な状況における栄養管理（実践）</li> <li>10 アスリートに多い疾患に対する栄養管理</li> <li>11 アスリートに多い疾患に対する栄養管理</li> <li>12 ジュニア・シニア障がい者アスリートの栄養管理/媒体づくり</li> <li>13 媒体づくり・発表</li> <li>14 サプリメントとドーピング/中食・外食などの活用</li> <li>15 種目別の栄養管理と献立</li> </ol>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループまたは個人で課題を実施後、発表を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	googleフォームで行う小テストは、後日メールで返却。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	基本的には、講義中に行った小テストの復習を行う。 その他課題：第12講～第13項 媒体づくり
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	健康管理論(2組)
時間割コード Course Code	53120
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	太田 貴久
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 貴久 (管理栄養学科)
授業の目標	1.健康とはどういう状態かが説明できる。 2.現代の健康問題について説明できる。 3.管理栄養士において食および嗜好品と健康との関係が説明できる。 4.自分の健康管理方法を発表できる。
授業の概要	現代科学における健康との関連を管理栄養士の視点からみてどのような役割をしているかを考察しながら疾病予防を学ぶ。 授業の質問に関しては随時対応する。
評価方法	・筆記試験：50% (授業で学習した内容の理解度を確認する。) ・確認テスト、成果発表：40% (各週毎に授業の内容を確認し、課題をまとめて発表する。) ・参加姿勢：10% (学習意欲及び傾聴力を確認する。)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 健康の基本概念や定義、予防医学の特徴 第2回 国民健康づくり対策 第3回 健康日本21、生活習慣病の概念 第4回 人口静態統計、人口動態統計 第5回 人口動態統計、疾病統計 第6回 運動政策 第7回 歯科保健 第8回 地球環境の成り立ち、国際的な環境政策 第9回 医療保険制度 第10回 介護保険制度 第11回 産業保健 第12回 学校保健 第13回 循環器疾患、高血圧 第14回 肥満、脂質異常症 第15回 総まとめ、演習
テキスト	カレント 社会・環境と健康 改訂公衆衛生学 (建帛社)
参考書	健康・栄養科学シリーズ 社会・環境と健康 (南江堂)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	新聞やテレビなどで報道される「社会・健康と環境」に関するニュースや記事に関心を持ち、保健・福祉・医療・介護に関する情報を収集して、自分なりの考えをまとめて授業に臨む。その上で授業を集中して受講し、グループディスカッションの際には意見や質問など、学習した知識を基に、自らの意見を述べるようにする。



実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内においては適時質問は受け付ける。 また、授業後は研究室にて受け付ける。
フィードバックの方法	毎回資料のプリントを配りその内容について説明する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	シラバスを見て次回のところを教科書で事前に調べておく（予習）。 配られたプリントを見て教科書と照らし合わせる（復習）。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	13.気候変動に具体的な対策を
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	健康管理論(1組)
時間割コード Course Code	53121
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	太田 貴久
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 貴久 (管理栄養学科)
授業の目標	1.健康とはどういう状態かが説明できる。 2.現代の健康問題について説明できる。 3.管理栄養士において食および嗜好品と健康との関係が説明できる。 4.自分の健康管理方法を発表できる。
授業の概要	現代科学における健康との関連を管理栄養士の視点からみてどのような役割をしているかを考察しながら疾病予防を学ぶ。 授業の質問に関しては随時対応する。
評価方法	・筆記試験：50% (授業で学習した内容の理解度を確認する。) ・確認テスト、成果発表：40% (各週毎に授業の内容を確認し、課題をまとめて発表する。) ・参加姿勢：10% (学習意欲及び傾聴力を確認する。)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 健康の基本概念や定義、予防医学の特徴 第2回 国民健康づくり対策 第3回 健康日本21、生活習慣病の概念 第4回 人口静態統計、人口動態統計 第5回 人口動態統計、疾病統計 第6回 運動政策 第7回 歯科保健 第8回 地球環境の成り立ち、国際的な環境政策 第9回 医療保険制度 第10回 介護保険制度 第11回 産業保健 第12回 学校保健 第13回 循環器疾患、高血圧 第14回 肥満、脂質異常症 第15回 総まとめ、演習
テキスト	カレント 社会・環境と健康 改訂公衆衛生学 (建帛社)
参考書	健康・栄養科学シリーズ 社会・環境と健康 (南江堂)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	新聞やテレビなどで報道される「社会・健康と環境」に関するニュースや記事に関心を持ち、保健・福祉・医療・介護に関する情報を収集して、自分なりの考えをまとめて授業に臨む。その上で授業を集中して受講し、グループディスカッションの際には意見や質問など、学習した知識を基に、自らの意見を述べるようにする。

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内においては適時質問は受け付ける。 また、授業後は研究室にて受け付ける。
フィードバックの方法	毎回資料のプリントを配りその内容について説明する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	シラバスを見て次回のところを教科書で事前に調べておく（予習）。 配られたプリントを見て教科書と照らし合わせる（復習）。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	13.気候変動に具体的な対策を
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	公衆衛生学I(1組) / Public Health I
時間割コード Course Code	53155
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	太田 貴久
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 貴久 (管理栄養学科)
授業の目標	1. 基本的な健康管理の概念と健康管理におけるライフスタイルを具体的に説明できるようにする。 2. 人間集団における健康および疾病状況を疫学的な観点から理解し基礎的な能力を身につける。 3. 社会的な健康問題に対して、問題解決を見据えた習慣を身につける。
授業の概要	公衆衛生学は疾病の予防、生活の質(QOL)の向上および人間集団における健康というものをどのように維持・増進できるかを考え、それを実践するための必要な知識や技能を学ぶ。単に寿命を延ばすのではなく、健康寿命の延長をさせるにはどうしたらよいか、また健康の維持とは、単に病気にならないという視点ではなく、有意義に生きがいのある人生を全うしていくかということに常に念頭に入れて学習する。 授業に関する質問は随時対応する。
評価方法	・筆記試験：50% (授業で学習した内容の理解度を確認する。) ・確認テスト、成果発表：40% (各週毎に授業の内容を確認し、課題をまとめて発表する。) ・参加姿勢：10% (学習意欲及び傾聴力を確認する。)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 健康の基本概念や定義、予防医学の特徴 第2回 公衆衛生の歴史、感染症対策 第3回 保健統計(1) 第4回 保健統計(2) 第5回 疫学の定義、罹患率と有病率の違い 第6回 疫学的方法の種類(1) 第7回 疫学的方法の種類(2) 第8回 生活習慣と健康(1) 第9回 生活習慣と健康(2) 第10回 生活習慣と健康(3) 第11回 主要な生活習慣病(1) 第12回 主要な生活習慣病(2) 第13回 環境と健康(1) 第14回 環境と健康(2) 第15回 総まとめ、演習 詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	カレント 社会・環境と健康 改訂公衆衛生学 (建帛社)
参考書	健康・栄養科学シリーズ 社会・環境と健康 (南江堂) 国民衛生の動向、国民福祉の動向、厚生労働白書などの各年度版
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	新聞やテレビなどで報道される「社会・健康と環境」に関するニュースや記事に関心を持ち、保健・福祉・医療・介護に関する情報を収集して、自分なりの考えをまとめて授業に臨む。その上で授業を集中して受講し、グループディスカッションの際には意見や質問など、学習した知識を基に、自らの意見を述べるができるようにする。 主体的に予習や復習をし、公衆衛生に必要な多くの知識を理解して得られた情報を整理する。授業内容に疑問点を見つけた時は、自己学習など積極的に行動して解決する。授業の際に質問してディスカッションを行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中での質問は適時受ける。 また、授業後の質問は研究室にて受け付ける。
フィードバックの方法	毎回資料のプリントを配りその内容について説明する。 毎回復習のための確認テストと成果発表を授業内で行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習に関してはシラバスの授業計画を見て教科書の次のテーマの箇所を読んでおくこと。 復習に関しては授業ノートや授業プリント、確認テストを見直し、復習の勉強をしておくこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	健康の基本概念や定義、予防医学の特徴 健康の基本概念や定義を学ぶ。 予防医学の特徴を学ぶ。	WHOの健康の定義が説明できる。 一次予防・二次予防・三次予防について 特徴が説明できる。	
2	公衆衛生の歴史、感染症対策 公衆衛生の歴史について学ぶ。 予防接種や感染症対策について学ぶ。	公衆衛生における代表的な出来事が説明 できる。 予防接種や感染症対策について分類して 説明できる。	
3	保健統計(1) 人口静態統計と人口動態統計について学 ぶ。	人口静態統計と人口動態統計の方法、基 本的なデータについて説明できる。	
4	保健統計(2) 平均余命について学ぶ。 様々な疾病統計について学ぶ。	平均余命の意味が説明できる。 各疾病統計の要点が説明できる。	
5	疫学の定義、罹患率と有病率の違い 疫学の基本的な考え方を学ぶ。 罹患率と有病率について学ぶ。	疫学の定義が説明でき、罹患率と有病率 の違いが説明できる。	
6	疫学的方法の種類(1) 記述疫学と分析疫学について学ぶ。	記述疫学と分析疫学について説明できる 。	
7	疫学的方法の種類(2) 分析疫学とスクリーニングについて学ぶ 。	分析疫学について説明できる。 スクリーニングに出てくる敏感度、特異 度について説明できる。	
8	生活習慣と健康(1) 飲酒について学ぶ。	アルコールの生理的・精神的・社会的な 健康影響および最新医学における情報が 説明できる。	
9	生活習慣と健康(2) 喫煙について学ぶ。	喫煙の生理的・精神的・社会的な健康影 響および最新医学における情報が説明で きる。	
10	生活習慣と健康(3) 運動政策について学ぶ。 悪性新生物について学ぶ。	健康日本21(第3次)における運動政策を 説明できる。 運動の予防医学的な利点が説明できる。 科学的根拠に基づくがん予防について説 明できる。	
11	主要な生活習慣病(1) 循環器疾患について学ぶ。	循環器疾患における診断上重要な検査値 、合併症等が説明でき、科学的根拠に基 づく予防方法が説明できる。	
12	主要な生活習慣病(2) 脂質異常症と肥満について学ぶ。	脂質異常症の基準値が説明でき、科学的 根拠に基づく予防方法が説明できる。	
13	環境と健康(1) 上水道の基本的な仕組みについて学ぶ。	水道水が供給されるまでの基本的な仕組 みについて説明できる。 上水道に関する規制や注意点について説 明できる。	
14	環境と健康(2) 下水道の基本的な仕組みについて学ぶ。	下水が浄化される基本的な仕組みについ て説明できる。 下水道に関する規制や水環境に関する注 意点について説明できる。	
15	総まとめ、演習 これまでの講義を通して学んだ知識の総 まとめを行う。	単元ごとに学んだ知識を活かし、課題に 対して効果的な対策を考案することがで きる。	

開講科目名 Course	公衆衛生学I(2組) / Public Health I
時間割コード Course Code	53156
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	太田 貴久
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 4 C 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 貴久 (管理栄養学科)
授業の目標	1. 基本的な健康管理の概念と健康管理におけるライフスタイルを具体的に説明できるようにする。 2. 人間集団における健康および疾病状況を疫学的な観点から理解し基礎的な能力を身につける。 3. 社会的な健康問題に対して、問題解決を見据えた習慣を身につける。
授業の概要	公衆衛生学は疾病の予防、生活の質(QOL)の向上および人間集団における健康というものをどのように維持・増進できるかを考え、それを実践するための必要な知識や技能を学ぶ。単に寿命を延ばすのではなく、健康寿命の延長をさせるにはどうしたらよいか、また健康の維持とは、単に病気にならないという視点ではなく、有意義に生きがいのある人生を全うしていくかということを常に念頭に入れて学習する。 授業に関する質問は随時対応する。
評価方法	・筆記試験：50% (授業で学習した内容の理解度を確認する。) ・確認テスト、成果発表：40% (各週毎に授業の内容を確認し、課題をまとめて発表する。) ・参加姿勢：10% (学習意欲及び傾聴力を確認する。)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 健康の基本概念や定義、予防医学の特徴 第2回 公衆衛生の歴史、感染症対策 第3回 保健統計(1) 第4回 保健統計(2) 第5回 疫学の定義、罹患率と有病率の違い 第6回 疫学的方法の種類(1) 第7回 疫学的方法の種類(2) 第8回 生活習慣と健康(1) 第9回 生活習慣と健康(2) 第10回 生活習慣と健康(3) 第11回 主要な生活習慣病(1) 第12回 主要な生活習慣病(2) 第13回 環境と健康(1) 第14回 環境と健康(2) 第15回 総まとめ、演習 詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	カレント 社会・環境と健康 改訂公衆衛生学 (建帛社)
参考書	健康・栄養科学シリーズ 社会・環境と健康 (南江堂) 国民衛生の動向、国民福祉の動向、厚生労働白書などの各年度版
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	新聞やテレビなどで報道される「社会・健康と環境」に関するニュースや記事に関心を持ち、保健・福祉・医療・介護に関する情報を収集して、自分なりの考えをまとめて授業に臨む。その上で授業を集中して受講し、グループディスカッションの際には意見や質問など、学習した知識を基に、自らの意見を述べるができるようにする。 主体的に予習や復習をし、公衆衛生に必要な多くの知識を理解して得られた情報を整理する。授業内容に疑問点を見つけた時は、自己学習など積極的に行動して解決する。授業の際に質問してディスカッションを行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中での質問は適時受ける。 また、授業後の質問は研究室にて受け付ける。
フィードバックの方法	毎回資料のプリントを配りその内容について説明する。 毎回復習のための確認テストと成果発表を授業内で行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習に関してはシラバスの授業計画を見て教科書の次のテーマの箇所を読んでおくこと。 復習に関しては授業ノートや授業プリント、確認テストを見直し、復習の勉強をしておくこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	健康の基本概念や定義、予防医学の特徴 健康の基本概念や定義を学ぶ。 予防医学の特徴を学ぶ。	WHOの健康の定義が説明できる。 一次予防・二次予防・三次予防について特徴が説明できる。	
2	公衆衛生の歴史、感染症対策 公衆衛生の歴史について学ぶ。 予防接種や感染症対策について学ぶ。	公衆衛生における代表的な出来事が説明できる。 予防接種や感染症対策について分類して説明できる。	
3	保健統計(1) 人口静態統計と人口動態統計について学ぶ。	人口静態統計と人口動態統計の方法、基本的なデータについて説明できる。	
4	保健統計(2) 平均余命について学ぶ。 様々な疾病統計について学ぶ。	平均余命の意味が説明できる。 各疾病統計の要点が説明できる。	
5	疫学の定義、罹患率と有病率の違い 疫学の基本的な考え方を学ぶ。 罹患率と有病率について学ぶ。	疫学の定義が説明でき、罹患率と有病率の違いが説明できる。	
6	疫学的方法の種類(1) 記述疫学と分析疫学について学ぶ。	記述疫学と分析疫学について説明できる。	
7	疫学的方法の種類(2) 分析疫学とスクリーニングについて学ぶ。	分析疫学について説明できる。 スクリーニングに出てくる敏感度、特異度について説明できる。	
8	生活習慣と健康(1) 飲酒について学ぶ。	アルコールの生理的・精神的・社会的な健康影響および最新医学における情報が説明できる。	
9	生活習慣と健康(2) 喫煙について学ぶ。	喫煙の生理的・精神的・社会的な健康影響および最新医学における情報が説明できる。	
10	生活習慣と健康(3) 運動政策について学ぶ。 悪性新生物について学ぶ。	健康日本21(第3次)における運動政策を説明できる。 運動の予防医学的な利点が説明できる。 科学的根拠に基づくがん予防について説明できる。	
11	主要な生活習慣病(1) 循環器疾患について学ぶ。	循環器疾患における診断上重要な検査値、合併症等が説明でき、科学的根拠に基づく予防方法が説明できる。	
12	主要な生活習慣病(2) 脂質異常症と肥満について学ぶ。	脂質異常症の基準値が説明でき、科学的根拠に基づく予防方法が説明できる。	
13	環境と健康(1) 上水道の基本的な仕組みについて学ぶ。	水道水が供給されるまでの基本的な仕組みについて説明できる。 上水道に関する規制や注意点について説明できる。	
14	環境と健康(2) 下水道の基本的な仕組みについて学ぶ。	下水が浄化される基本的な仕組みについて説明できる。 下水道に関する規制や水環境に関する注意点について説明できる。	
15	総まとめ、演習 これまでの講義を通して学んだ知識の総まとめを行う。	単元ごとに学んだ知識を活かし、課題に対して効果的な対策を考案することができる。	

開講科目名 Course	公衆衛生学II(1組) / Public Health II
時間割コード Course Code	53157
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	太田 貴久
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 貴久 (管理栄養学科)
授業の目標	1. 作業・労働環境における衛生的諸問題に関する問題を挙げ解決できる。 2. 健康福祉施設に関する問題を取り上げ解決する。 3. 学校教育現場の衛生的諸問題に関する問題を取り上げ解決する。 4. 医療費・社会保障費等を理解する。
授業の概要	公衆衛生学では、産業保健、学校保健、地域保健等の関連する法律および社会保障制度や国民医療費等の各種制度について管理栄養士に必要な知識を学ぶ。 授業に関連する質問は随時対応する。
評価方法	・ 筆記試験：50% (授業で学習した内容の理解度を確認する。) ・ 確認テスト、成果発表：40% (各週毎に授業の内容を確認し、課題をまとめて発表する。) ・ 参加姿勢：10% (学習意欲及び傾聴力を確認する。)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 歯科保健行動 第3回 社会保障制度の仕組み(1) 第4回 社会保障制度の仕組み(2) 第5回 社会保障制度の仕組み(3) 第6回 社会保障制度の仕組み(4) 第7回 社会保障制度の仕組み(5) 第8回 社会保障制度の仕組み(6) 第9回 地域保健と健康 第10回 母子保健と健康 第11回 産業保健と健康 第12回 障害者福祉と健康 第13回 学校保健と健康 第14回 大気汚染と廃棄物 第15回 総まとめ、演習 詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	カレント 社会・環境と健康 改訂公衆衛生学 (建帛社)
参考書	健康・栄養科学シリーズ 社会・環境と健康 (南江堂) 国民衛生の動向、国民福祉の動向、厚生労働白書などの各年度版
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	新聞やテレビなどで報道される「社会・健康と環境」に関するニュースや記事に関心を持ち、保健・福祉・医療・介護に関する情報を収集して、自分なりの考えをまとめて授業に臨む。その上で授業を集中して受講し、グループディスカッションの際には意見や質問など、学習した知識を基に、自らの意見を述べるができるようにする。 主体的に予習や復習をし、公衆衛生に必要な多くの知識を理解して得られた情報を整理する。授業内容に疑問点を見つけた時は、自己学習など積極的に行動して解決する。授業の際に質問してディスカッションを行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内での質問には適時受け付ける。 授業後の質問に関しては研究室にて受ける。
フィードバックの方法	毎回資料のプリントを配りその内容について説明する。 毎回復習のための確認テストと成果発表を授業内で行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習に関してはシラバスの授業計画を見て教科書の次のテーマの箇所を読んでおくこと。 復習に関しては授業ノートや授業プリント、確認テストを見直し、復習の勉強をしておくこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション 健康日本21第3次について学ぶ。 WHOなどの国際機関について学ぶ。	健康日本21第3次の目標について説明できる。 WHOなどの国際機関の役割について説明できる。	
2	歯科保健行為・うつ病 さまざまな歯科保健行為について学ぶ。 うつ病の現状と対策について学ぶ。	歯の働きについて説明でき、実際の歯科予防対策について説明できる。 うつ病の現状と対策について説明できる。	
3	日本の社会保障制度の仕組み(1) 日本の社会保障制度について学ぶ。	日本国憲法第25条から、社会保障の理念と制度について説明できる。	
4	日本の社会保障制度の仕組み(2) 介護保険制度について学ぶ。	介護保険制度の仕組みとその利用方法、介護事業の概要について説明できる。	
5	日本の社会保障制度の仕組み(3) 介護保険制度と後期高齢者医療制度について学ぶ。	介護保険制度の仕組みとその利用方法、介護事業の概要について説明できる。 後期高齢者医療制度の内容と問題点について説明できる。	
6	日本の社会保障制度の仕組み(4) 医療保険制度について学ぶ。	医療保険制度の仕組みや、国民健康保険と被用者保険の違いについて説明できる。	
7	日本の社会保障制度の仕組み(5) 国民医療費について学ぶ。	国民医療費の概要や分類について説明できる。	
8	日本の社会保障制度の仕組み(6) 医療法・医療計画について学ぶ。	医療法や医療計画の概要について説明できる。	
9	地域保健と健康 地域保健法について学ぶ。	地域保健を支える組織、保健所と地域保健センターの違いについて説明できる。 地域保健従事者について説明できる。	
10	母子保健と健康 母子保健法について学ぶ。	母子保健事業、母子健康手帳、乳幼児健診について説明できる。	
11	産業保健と健康 労働安全衛生法について学ぶ。	産業保健の目的と制度について説明できる。 労働災害、業務上疾病について説明できる。	
12	障害者福祉と健康 障害者総合支援法について学ぶ。 精神保健福祉法について学ぶ。	障害者総合支援法のサービスの内容について説明できる。 精神疾患の種類や疫学、精神保健対策について説明できる。	
13	学校保健と健康 学校保健安全法について学ぶ。	学校保健の概要、児童・生徒の健康、学校保健従事者の役割とその働きが説明できる。	
14	大気汚染と廃棄物 大気汚染の原因と対策について学ぶ。 産業廃棄物について学ぶ。	大気汚染の原因と対策について説明できる。 産業廃棄物の種類や処分方法について説明できる。	
15	総まとめ、演習 これまでの講義を通して学んだ知識の総まとめを行う。	单元ごとに学んだ知識を活かし、課題に対して効果的な対策を考案することができる。	

開講科目名 Course	公衆衛生学II(2組) / Public Health II
時間割コード Course Code	53158
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 5
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	太田 貴久
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 貴久 (管理栄養学科)
授業の目標	1. 作業・労働環境における衛生的諸問題に関する問題を挙げ解決できる。 2. 健康福祉施設に関する問題を取り上げ解決する。 3. 学校教育現場の衛生的諸問題に関する問題を取り上げ解決する。 4. 医療費・社会保障費等を理解する。
授業の概要	公衆衛生学では、産業保健、学校保健、地域保健等の関連する法律および社会保障制度や国民医療費等の各種制度について管理栄養士に必要な知識を学ぶ。 授業に関連する質問は随時対応する。
評価方法	・筆記試験：50% (授業で学習した内容の理解度を確認する。) ・確認テスト、成果発表：40% (各週毎に授業の内容を確認し、課題をまとめて発表する。) ・参加姿勢：10% (学習意欲及び傾聴力を確認する。)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 歯科保健行動 第3回 社会保障制度の仕組み(1) 第4回 社会保障制度の仕組み(2) 第5回 社会保障制度の仕組み(3) 第6回 社会保障制度の仕組み(4) 第7回 社会保障制度の仕組み(5) 第8回 社会保障制度の仕組み(6) 第9回 地域保健と健康 第10回 母子保健と健康 第11回 産業保健と健康 第12回 障害者福祉と健康 第13回 学校保健と健康 第14回 大気汚染と廃棄物 第15回 総まとめ、演習 詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	カレント 社会・環境と健康 改訂公衆衛生学 (建帛社)
参考書	健康・栄養科学シリーズ 社会・環境と健康 (南江堂) 国民衛生の動向、国民福祉の動向、厚生労働白書などの各年度版
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	新聞やテレビなどで報道される「社会・健康と環境」に関するニュースや記事に関心を持ち、保健・福祉・医療・介護に関する情報を収集して、自分なりの考えをまとめて授業に臨む。その上で授業を集中して受講し、グループディスカッションの際には意見や質問など、学習した知識を基に、自らの意見を述べるができるようにする。 主体的に予習や復習をし、公衆衛生に必要な多くの知識を理解して得られた情報を整理する。授業内容に疑問点を見つけた時は、自己学習など積極的に行動して解決する。授業の際に質問してディスカッションを行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内での質問には適時受け付ける。 授業後の質問に関しては研究室にて受ける。
フィードバックの方法	毎回資料のプリントを配りその内容について説明する。 毎回復習のための確認テストと成果発表を授業内で行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習に関してはシラバスの授業計画を見て教科書の次のテーマの箇所を読んでおくこと。 復習に関しては授業ノートや授業プリント、確認テストを見直し、復習の勉強をしておくこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション 健康日本21第3次について学ぶ。 WHOなどの国際機関について学ぶ。	健康日本21第3次の目標について説明できる。 WHOなどの国際機関の役割について説明できる。	
2	歯科保健行為・うつ病 さまざまな歯科保健行為について学ぶ。 うつ病の現状と対策について学ぶ。	歯の働きについて説明でき、実際の歯科予防対策について説明できる。 うつ病の現状と対策について説明できる。	
3	日本の社会保障制度の仕組み(1) 日本の社会保障制度について学ぶ。	日本国憲法第25条から、社会保障の理念と制度について説明できる。	
4	日本の社会保障制度の仕組み(2) 介護保険制度について学ぶ。	介護保険制度の仕組みとその利用方法、介護事業の概要について説明できる。	
5	日本の社会保障制度の仕組み(3) 介護保険制度と後期高齢者医療制度について学ぶ。	介護保険制度の仕組みとその利用方法、介護事業の概要について説明できる。 後期高齢者医療制度の内容と問題点について説明できる。	
6	日本の社会保障制度の仕組み(4) 医療保険制度について学ぶ。	医療保険制度の仕組みや、国民健康保険と被用者保険の違いについて説明できる。	
7	日本の社会保障制度の仕組み(5) 国民医療費について学ぶ。	国民医療費の概要や分類について説明できる。	
8	日本の社会保障制度の仕組み(6) 医療法・医療計画について学ぶ。	医療法や医療計画の概要について説明できる。	
9	地域保健と健康 地域保健法について学ぶ。	地域保健を支える組織、保健所と地域保健センターの違いについて説明できる。 地域保健従事者について説明できる。	
10	母子保健と健康 母子保健法について学ぶ。	母子保健事業、母子健康手帳、乳幼児健診について説明できる。	
11	産業保健と健康 労働安全衛生法について学ぶ。	産業保健の目的と制度について説明できる。 労働災害、業務上疾病について説明できる。	
12	障害者福祉と健康 障害者総合支援法について学ぶ。 精神保健福祉法について学ぶ。	障害者総合支援法のサービスの内容について説明できる。 精神疾患の種類や疫学、精神保健対策について説明できる。	
13	学校保健と健康 学校保健安全法について学ぶ。	学校保健の概要、児童・生徒の健康、学校保健従事者の役割とその働きが説明できる。	
14	大気汚染と廃棄物 大気汚染の原因と対策について学ぶ。 産業廃棄物について学ぶ。	大気汚染の原因と対策について説明できる。 産業廃棄物の種類や処分方法について説明できる。	
15	総まとめ、演習 これまでの講義を通して学んだ知識の総まとめを行う。	单元ごとに学んだ知識を活かし、課題に対して効果的な対策を考案することができる。	

開講科目名 Course	公衆衛生学実習(1組)
時間割コード Course Code	53160
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1, 金 / Fri 2, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	太田 貴久
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	情報実習室 B
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 貴久 (管理栄養学科)
授業の目標	1. 簡単な統計処理をエクセル等で解析できる。 2. 論文に掲載されている統計方法が説明できる。 3. 管理栄養士という職業が、個人の健康を支援することのみならず、社会・環境に関連していることを説明できる。
授業の概要	1. 基礎統計学演習。 管理栄養士に必要とされる統計処理を身につける。 2. 保健統計及び疫学演習。 人口統計データなどを読み解き、グラフ等で表現する方法を学ぶ。 3. 臨床疫学演習。 参考論文を読み、その論文の統計処理を学び批判的吟味を行う。
評価方法	・ 課題、レポート提出：70% (授業で学習した内容に関する課題やレポートを出題する。パソコンを使い統計の理解度を確認する。) ・ 成果発表：20% (与えられた課題をグループで発表する。) ・ 参加姿勢：10% (学習意欲及び傾聴力を確認する。)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 データの特徴 第3回 データの表現 第4回 統計ソフトの使い方 第5回 相関と回帰 第6回 推定と検定 第7回 2群の平均値の比較 第8回 クロス集計表の解析 第9回 多群における平均値の比較 第10回 多変量の統計処理 第11回 検査法の比較 第12回 論文の検索方法 第13回 論文の批判的吟味 第14回 解析および発表(1) 第15回 解析および発表(2) 詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	
参考書	栄養科学シリーズNEXT基礎統計学 管理栄養士・栄養士のための統計処理入門



アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内での質問には適時受け付ける。 授業後の質問に関しては研究室にて受ける。
フィードバックの方法	管理栄養士に必要とされる統計処理が身につけられているか確認するため、授業内でパソコンを使った統計処理の課題を課して理解度の確認と解説を行う。 またデータを各班に配布し、そのデータを使って提示したテーマについて解析して発表を行い、討論をする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習に関してはシラパスの授業計画を見て公衆衛生学の教科書や参考書の次のテーマの箇所を読んでおくこと。 復習に関しては授業で学習した内容に関する課題やレポートを出題するので、自宅で勉強をすること。パソコンを使った統計処理の問題を出題するので、自宅で解析すること。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス 生体機能検査・ストレス検査実習	唾液によるストレス検査および血圧測定などを行い、基礎データを集める。	
2	データの特徴 データの種類・代表値について学ぶ。	データの種類・記述・代表値等について理解し、度数分布の作成ができる。	
3	データの表現 パラメトリックとノンパラメトリックの違いを学ぶ。	パラメトリックとノンパラメトリックの違いを説明できる。	
4	統計ソフトの使い方 統計ソフトの種類と基本的な使い方を学ぶ。	統計ソフト(EZR)の基本的な使い方が説明でき、自分のパソコンにインソールができる。	
5	相関と回帰 相関係数及び回帰分析の結果について学ぶ。	単相関における相関係数および回帰分析の結果を説明することができる。	
6	推定と検定 推定と検定の違いについて学ぶ。	推定とは何か、検定とは何か、またその違いを説明できる。	
7	2群の平均値の比較 基本的な2群の平均値を比較する統計手法を学ぶ。	基本的な2群の平均値を比較できる検定方法を理解し、与えられた例題で応用できる。	
8	クロス集計表の解析 質的データにおける基本的な統計手法を学ぶ。	質的データの統計処理方法を理解し、与えられた例題で応用できる。	
9	多群における平均値の比較 3群以上の平均値を比較する統計手法を学ぶ。	基本的な3群以上の平均値を比較する統計手法である分散分析を理解し、与えられた例題で応用できる。	
10	多変量の統計処理 重回帰分析を学ぶ。	重回帰分析を学び、説明できる。	
11	検査法の比較 感度と特異度について学ぶ。例題を用いて解析する。	スクリーニング検査における精度を表す感度と特異度が計算できる。今まで学んだ基本的な統計学の知識を用いて例題が解ける。	
12	論文の検索方法 論文(参考文献)の検索方法を学ぶ。	興味を持った参考文献や論文がインターネットを使って検索できる。	
13	論文の批判的吟味 疫学研究論文における批判的吟味の方法を学ぶ。	疫学的な論文を読んで様々な統計手法を理解し、論文の批判的吟味を行い発表できる。	
14	解析および発表(1) グループによる課題を解析する。	与えられた実際のデータを使い、今までに習得した統計方法および疫学方法を利用し、グループで解析できる。	
15	解析および発表(2) グループによる解析した課題を発表する。	与えられた実際のデータを使い、今までに習得した統計方法および疫学方法を利用し、グループで解析した結果を発表できる。	

開講科目名 Course	公衆衛生学実習(2組)
時間割コード Course Code	53161
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1, 金 / Fri 2, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	太田 貴久
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	情報実習室 B
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 貴久 (管理栄養学科)
授業の目標	1. 簡単な統計処理をエクセル等で解析できる。 2. 論文に掲載されている統計方法が説明できる。 3. 管理栄養士という職業が、個人の健康を支援することのみならず、社会・環境に関連していることを説明できる。
授業の概要	1. 基礎統計学演習。 管理栄養士に必要とされる統計処理を身につける。 2. 保健統計及び疫学演習。 人口統計データなどを読み解き、グラフ等で表現する方法を学ぶ。 3. 臨床疫学演習。 参考論文を読み、その論文の統計処理を学び批判的吟味を行う。
評価方法	・ 課題、レポート提出：70% (授業で学習した内容に関する課題やレポートを出題する。パソコンを使い統計の理解度を確認する。) ・ 成果発表：20% (与えられた課題をグループで発表する。) ・ 参加姿勢：10% (学習意欲及び傾聴力を確認する。)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 データの特徴 第3回 データの表現 第4回 統計ソフトの使い方 第5回 相関と回帰 第6回 推定と検定 第7回 2群の平均値の比較 第8回 クロス集計表の解析 第9回 多群における平均値の比較 第10回 多変量の統計処理 第11回 検査法の比較 第12回 論文の検索方法 第13回 論文の批判的吟味 第14回 解析および発表(1) 第15回 解析および発表(2) 詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	
参考書	栄養科学シリーズNEXT基礎統計学 管理栄養士・栄養士のための統計処理入門

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内での質問には適時受け付ける。 授業後の質問に関しては研究室にて受ける。
フィードバックの方法	管理栄養士に必要とされる統計処理が身につけられているか確認するため、授業内でパソコンを使った統計処理の課題を課して理解度の確認と解説を行う。 またデータを各班に配布し、そのデータを使って提示したテーマについて解析して発表を行い、討論をする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習に関してはシラプスの授業計画を見て公衆衛生学の教科書や参考書の次のテーマの箇所を読んでおくこと。 復習に関しては授業で学習した内容に関する課題やレポートを出題するので、自宅で勉強をすること。パソコンを使った統計処理の問題を出題するので、自宅で解析すること。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス 生体機能検査・ストレス検査実習	唾液によるストレス検査および血圧測定などを行い、基礎データを集める。	
2	データの特徴 データの種類・代表値について学ぶ。	データの種類・記述・代表値等について理解し、度数分布の作成ができる。	
3	データの表現 パラメトリックとノンパラメトリックの違いを学ぶ。	パラメトリックとノンパラメトリックの違いを説明できる。	
4	統計ソフトの使い方 統計ソフトの種類と基本的な使い方を学ぶ。	統計ソフト(EZR)の基本的な使い方が説明でき、自分のパソコンにインソールができる。	
5	相関と回帰 相関係数及び回帰分析の結果について学ぶ。	単相関における相関係数および回帰分析の結果を説明することができる。	
6	推定と検定 推定と検定の違いについて学ぶ。	推定とは何か、検定とは何か、またその違いを説明できる。	
7	2群の平均値の比較 基本的な2群の平均値を比較する統計手法を学ぶ。	基本的な2群の平均値を比較できる検定方法を理解し、与えられた例題で応用できる。	
8	クロス集計表の解析 質的データにおける基本的な統計手法を学ぶ。	質的データの統計処理方法を理解し、与えられた例題で応用できる。	
9	多群における平均値の比較 3群以上の平均値を比較する統計手法を学ぶ。	基本的な3群以上の平均値を比較する統計手法である分散分析を理解し、与えられた例題で応用できる。	
10	多変量の統計処理 重回帰分析を学ぶ。	重回帰分析を学び、説明できる。	
11	検査法の比較 感度と特異度について学ぶ。例題を用いて解析する。	スクリーニング検査における精度を表す感度と特異度が計算できる。今まで学んだ基本的な統計学の知識を用いて例題が解ける。	
12	論文の検索方法 論文(参考文献)の検索方法を学ぶ。	興味を持った参考文献や論文がインターネットを使って検索できる。	
13	論文の批判的吟味 疫学研究論文における批判的吟味の方法を学ぶ。	疫学的な論文を読んで様々な統計手法を理解し、論文の批判的吟味を行い発表できる。	
14	解析および発表(1) グループによる課題を解析する。	与えられた実際のデータを使い、今までに習得した統計方法および疫学方法を利用し、グループで解析できる。	
15	解析および発表(2) グループによる解析した課題を発表する。	与えられた実際のデータを使い、今までに習得した統計方法および疫学方法を利用し、グループで解析した結果を発表できる。	

開講科目名 Course	化学
時間割コード Course Code	53280
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	山田 貴史
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基礎科目
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山田 貴史 (管理栄養学科)
授業の目標	三大栄養素である糖質・脂質・タンパク質は炭素と水素原子を中心とした共有結合化合物である有機化合物である。その特性や生体内での代謝を化学反応として捉えることは栄養学を学ぶ上でもっとも効果的な方法のひとつである。本科目では、その基礎となる化学について学修し、化学の基本的な考え方を身につけた視点で健康と栄養を考える力を育成する。
授業の概要	糖質・脂質・タンパク質はどのようにしてエネルギーを内包しているのか、またどのようにしてその“かたち”にあるのか、原子のレベルから解説し、学修する。分子の性質と反応性について、化学平衡、酸・塩基、酸化・還元の見え方とともに学修することで、生化学を理解するために必要な理解を深める。
評価方法	授業態度および期末試験によって評価を行う。授業態度に問題がなければ、定期試験の結果を100点満点として評価を行う。定期試験は、随時行う小テストおよび期末試験の合計点を100点として評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 ガイダンス・化学と栄養について 第2回 元素と原子 第3回 電子配置と周期性 第4回 化合物と結合 第4回 化学式と化学反応式 第5回 水の性質とイオン 第6回 浸透圧・半透膜 第7回 電解質と電離度 第8回 酸・塩基 第8回 溶液の濃度計算(1) 第9回 溶液の濃度計算(2) 第10回 溶液の濃度計算まとめ 第11回 糖質の化学構造 第12回 糖質の化学構造 第13回 脂質の化学構造 第14回 たんぱく質の化学構造 第15回 生体内の化学物質まとめ
テキスト	栄養科学イラストレイテッド基礎化学 羊土社
参考書	

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問については、随時対応するので、分からない箇所があった場合は必ず質問に来ること。
フィードバックの方法	講義内で実施する小テストを返却し、期末試験の準備教材とする。期末試験の内容についても、試験後に随時解説をする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	原子や分子など、高校で学ぶ化学の基礎知識を予習しておくこと。復習は、講義内容を中心に教科書を熟読し、理解できない箇所は教員に質問し知識を深めること。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力

開講科目名 Course	病態学I(1組) / Human Diseases and Pathophysiology I
時間割コード Course Code	53385
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	荒川 和幸
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒川 和幸 (管理栄養学科)
授業の目標	特に内科系の主要疾患、中でも栄養・代謝に関係の深い臓器別に成因・症状・診断・治療について概説を行う。管理栄養学のなかで臨床栄養、すなわち有病者に対する栄養管理の重要性は年々高まっており、それに対応しうるだけの基礎的な医学知識の習得が本講義の目標である。
授業の概要	まず診断のための検査と診察について解説し その後は臓器別に疾患について解説を行う。 頻出重要疾患を中心に、国家試験対策を見据えて、各疾病の要点を概説する
評価方法	試験の成績に、出席やレポート等を加味して行う。
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	特になし。
授業計画	テキストに従って講義を進めていきます。
テキスト	テキスト(病態学IIと通年で使用) 栄養科学イラストレイテッド 臨床医学 疾病の成り立ち 第3版:羊土社 田中明 ほか編
参考書	
アクティブラーニング、ディスカ ッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカ ッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授 業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授 業の内容	
質問への対応方法	授業後等適宜
フィードバックの方法	適宜問題演習と解説を行います。
予習・復習等、準備学習の内容及 び時間	テキストの予習、復習
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	第1章診断のための身体診察と検査	身体診察と検査について	状況により変更の可能性 あります。
2	第1章診断のための身体診察と検査	身体診察と検査について	
3	第2章疾患の治療	疾患の治療について	
4	問題演習と解説		
5	第3章栄養・代謝系疾患	栄養代謝性系疾患について	
6	第3章栄養・代謝系疾患	栄養代謝性系疾患について	
7	第4章内分泌系疾患	内分泌系疾患について	
8	問題演習と解説		
9	第5章消化管疾患	消化管疾患について	
10	第5章消化管疾患	消化管疾患について	
11	第6章肝胆膵疾患	肝胆膵疾患	
12	問題演習と解説		
13	第7章循環器疾患	循環器膝下について	
14	第8章腎・尿路系疾患	腎・尿路系疾患について	
15	問題演習と解説		

開講科目名 Course	病態学I(2組) / Human Diseases and Pathophysiology I
時間割コード Course Code	53386
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 5
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	荒川 和幸
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒川 和幸 (管理栄養学科)
授業の目標	特に内科系の主要疾患、中でも栄養・代謝に関係の深い臓器別に成因・症状・診断・治療について概説を行う。管理栄養学のなかで臨床栄養、すなわち有病者に対する栄養管理の重要性は年々高まっており、それに対応しうるだけの基礎的な医学知識の習得が本講義の目標である。
授業の概要	まず診断のための検査と診察について解説し その後は臓器別に疾患について解説を行う。 頻出重要疾患を中心に、国家試験対策を見据えて、各疾病の要点を概説する
評価方法	試験の成績に、出席やレポート等を加味して行う。
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	特になし。
授業計画	テキストに従って講義を進めていきます。
テキスト	テキスト(病態学IIと通年で使用) 栄養科学イラストレイテッド 臨床医学 疾病の成り立ち 第3版:羊土社 田中明 ほか編
参考書	
アクティブラーニング、ディスカ ッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカ ッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授 業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授 業の内容	
質問への対応方法	授業後等適宜
フィードバックの方法	適宜問題演習と解説を行います。
予習・復習等、準備学習の内容及 び時間	テキストの予習、復習
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	第1章診断のための身体診察と検査	身体診察と検査について	状況により変更の可能性 あります。
2	第1章診断のための身体診察と検査	身体診察と検査について	
3	第2章疾患の治療	疾患の治療について	
4	問題演習と解説		
5	第3章栄養・代謝系疾患	栄養代謝性系疾患について	
6	第3章栄養・代謝系疾患	栄養代謝性系疾患について	
7	第4章内分泌系疾患	内分泌系疾患について	
8	問題演習と解説		
9	第5章消化管疾患	消化管疾患について	
10	第5章消化管疾患	消化管疾患について	
11	第6章肝胆膵疾患	肝胆膵疾患	
12	問題演習と解説		
13	第7章循環器疾患	循環器膝下について	
14	第8章腎・尿路系疾患	腎・尿路系疾患について	
15	問題演習と解説		

開講科目名 Course	病態学II(1組) / Human Diseases and Pathophysiology II
時間割コード Course Code	53390
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	荒川 和幸
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒川 和幸 (管理栄養学科)
授業の目標	特に内科系の主要疾患、中でも栄養・代謝に関係の深い臓器別に成因・症状・診断・治療について概説を行う。管理栄養学のなかで臨床栄養、すなわち有病者に対する栄養管理の重要性は年々高まっており、それに対応しうるだけの基礎的な医学知識の習得が本講義の目標である。
授業の概要	病態学 に引き続いて臓器別に疾患について解説を行う。頻出重要疾患を中心に、国家試験対策を見据えて、各疾患の要点を概説する
評価方法	試験の成績に、出席やレポート等を加味して行う。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	テキストに従って講義を進めていきます。
テキスト	テキスト(病態学IIと通年で使用) 栄養科学イラストレイテッド 臨床医学 疾病の成り立ち 第3版:羊土社 田中明 ほか編
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後等適宜
フィードバックの方法	適宜問題演習と解説を行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	テキストの予習と復習。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	第9章神経・精神系疾患	神経・精神系疾患について	状況により変更の可能性 あります。
2	第9章神経・精神系疾患	神経・精神系疾患について	
3	第10章呼吸器系疾患	呼吸器系疾患について	
4	第10章呼吸器系疾患	呼吸器系疾患について	
5	第11章血液・造血器系疾患	血液・造血器系疾患について	
6	第11章血液・造血器系疾患	血液・造血器系疾患について	
7	問題演習と解説		
8	第12章運動器(骨格系)疾患	運動器(骨格系)疾患について	
9	第13章皮膚系疾患	皮膚系疾患について	
10	第14章免疫・アレルギー系疾患	免疫・アレルギー系疾患について	
11	第14章免疫・アレルギー系疾患	免疫・アレルギー系疾患について	
12	第15章婦人科疾患	婦人科疾患について	
13	第16章加齢・疾患に伴う変化	加齢・疾患に伴う変化について	
14	感染症について	感染症について	
15	問題演習と解説		

開講科目名 Course	病態学II(2組) / Human Diseases and Pathophysiology II
時間割コード Course Code	53391
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	荒川 和幸
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒川 和幸 (管理栄養学科)
授業の目標	特に内科系の主要疾患、中でも栄養・代謝に関係の深い臓器別に成因・症状・診断・治療について概説を行う。管理栄養学のなかで臨床栄養、すなわち有病者に対する栄養管理の重要性は年々高まっており、それに対応しうるだけの基礎的な医学知識の習得が本講義の目標である。
授業の概要	病態学 に引き続いて臓器別に疾患について解説を行う。頻出重要疾患を中心に、国家試験対策を見据えて、各疾病の要点を概説する
評価方法	試験の成績に、出席やレポート等を加味して行う。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	テキストに従って講義を進めていきます。
テキスト	テキスト(病態学IIと通年で使用) 栄養科学イラストレイテッド 臨床医学 疾病の成り立ち 第3版:羊土社 田中明 ほか編
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後等適宜
フィードバックの方法	適宜問題演習と解説を行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	テキストの予習と復習。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	第9章神経・精神系疾患	神経・精神系疾患について	状況により変更の可能性 あります。
2	第9章神経・精神系疾患	神経・精神系疾患について	
3	第10章呼吸器系疾患	呼吸器系疾患について	
4	第10章呼吸器系疾患	呼吸器系疾患について	
5	第11章血液・造血器系疾患	血液・造血器系疾患について	
6	第11章血液・造血器系疾患	血液・造血器系疾患について	
7	問題演習と解説		
8	第12章運動器(骨格系)疾患	運動器(骨格系)疾患について	
9	第13章皮膚系疾患	皮膚系疾患について	
10	第14章免疫・アレルギー系疾患	免疫・アレルギー系疾患について	
11	第14章免疫・アレルギー系疾患	免疫・アレルギー系疾患について	
12	第15章婦人科疾患	婦人科疾患について	
13	第16章加齢・疾患に伴う変化	加齢・疾患に伴う変化について	
14	感染症について	感染症について	
15	問題演習と解説		

開講科目名 Course	食品学I (1組)
時間割コード Course Code	53400
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	太田 和徳
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 和徳 (管理栄養学科)
授業の目標	管理栄養士としての実務基盤となる食品に関する知識 (分類、食品成分の構造・変化) の修得を目標とする。
授業の概要	食と健康のプロフェッショナルである管理栄養士は、肥満・糖尿病といった生活習慣病など、現代社会の抱える栄養上の諸問題への柔軟な対応も職責の一環である。その基礎となるべき食品学の基本知識を食品成分表の使い方と併せて修得する。 質問は随時対応する。 本授業は原則対面で実施する。
評価方法	授業態度:10% 定期試験 (2回):90% 上記の他、レポート等を総合的に評価する。 レポートの内容は翌講義時に解説をおこなう。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回分の欠席で失格とする。
授業計画	第1回 ガイダンス (授業の進め方、レポートについて) 第2回 人間と食品 第3回 食品成分表 (1) 第4回 食品成分表 (2) 及び食品成分の化学 (水分) 第5回 食品成分の化学:一次機能 (たんぱく質、炭水化物) 第6回 食品成分の化学:一次機能 (脂質) 第7回 食品成分の化学:一次機能 (灰分と無機質、ビタミン) 第8回 嗜好成分の化学:二次機能 (色素成分) 第9回 嗜好成分の化学:二次機能 (呈味成分、香気成分) 第10回 食品成分の反応 (褐変、光による成分変化、酵素による変化) 第11回 食品の物性 第12回 有毒成分と食中毒 第13回 三次機能と食品表示 第14回 食品表示 第15回 総括
テキスト	「食べ物と健康 食品学総論」光生館 ISBN:978-4-332-04062-0 「食品成分表」(女子栄養大学出版部)
参考書	講義中に適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない



アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応する。
フィードバックの方法	授業内で実施する小テストならびにミニレポートについては、次回に返却し適宜解説をおこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義内容に該当する教科書部分ならびに配布資料を参考に予習復習を各1時間ずつ求める。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	食品学I (2組)
時間割コード Course Code	53401
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	太田 和徳
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 和徳 (管理栄養学科)
授業の目標	管理栄養士としての実務基盤となる食品に関する知識 (分類、食品成分の構造・変化) の修得を目標とする。
授業の概要	食と健康のプロフェッショナルである管理栄養士は、肥満・糖尿病といった生活習慣病など、現代社会の抱える栄養上の諸問題への柔軟な対応も職責の一環である。その基礎となるべき食品学の基本知識を食品成分表の使い方と併せて修得する。 質問は随時対応する。 本授業は原則対面で実施する。
評価方法	授業態度:10% 定期試験 (2回):90% 上記の他、レポート等を総合的に評価する。 レポートの内容は翌講義時に解説をおこなう。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回分の欠席で失格とする。
授業計画	第1回 ガイダンス (授業の進め方、レポートについて) 第2回 人間と食品 第3回 食品成分表 (1) 第4回 食品成分表 (2) 及び食品成分の化学 (水分) 第5回 食品成分の化学:一次機能 (たんぱく質、炭水化物) 第6回 食品成分の化学:一次機能 (脂質) 第7回 食品成分の化学:一次機能 (灰分と無機質、ビタミン) 第8回 嗜好成分の化学:二次機能 (色素成分) 第9回 嗜好成分の化学:二次機能 (呈味成分、香気成分) 第10回 食品成分の反応 (褐変、光による成分変化、酵素による変化) 第11回 食品の物性 第12回 有毒成分と食中毒 第13回 三次機能と食品表示 第14回 食品表示 第15回 総括
テキスト	「食べ物と健康 食品学総論」光生館 ISBN:978-4-332-04062-0 「食品成分表」(女子栄養大学出版部)
参考書	講義中に適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応する。
フィードバックの方法	授業内で実施する小テストならびにミニレポートについては、次回に返却し適宜解説をおこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義内容に該当する教科書部分ならびに配布資料を参考に予習復習を各1時間ずつ求める。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	食品学II(1組)
時間割コード Course Code	53420
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	太田 和徳
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 和徳 (管理栄養学科)
授業の目標	食品学Iで修得した内容から、食品個別の具体的な特徴や用途、機能性に焦点を当て、食品そのものを理解し、応用へ繋げることを目標とする。
授業の概要	大きく「植物性食品」と「動物性食品」について、加工法・保存法についての知識を修得する。全体を通じて、個々の食品の特性を生かした加工法とその原理を種別とともに理解する。 質問は随時対応する。 本授業は原則として対面で実施する。
評価方法	授業態度:10% 試験(2回):90% 上記の他、レポート等の講義内課題から総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回分欠席で失格
授業計画	第1回 ガイダンス・植物性食品(穀類) 第2回 植物性食品(イモ類、マメ類、種実類) 第3回 植物性食品(野菜類、果実類) 第4回 植物性食品(キノコ類、海藻類) 第5回 動物性食品(食肉類) 第6回 香辛料 第7回 前半部分の総括 第8回 動物性食品(乳類、卵類) 第9回 動物性食品(魚介類) 第10回 食物油脂 第11回 甘味料 第12回 調味料 第13回 嗜好飲料とアルコール飲料 第14回 微生物利用食品とバイオ食品 第15回 総括
テキスト	「食べ物と健康 食品学各論・食品加工学」光生館 ISBN:978-4-332-04063-7
参考書	講義中に適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	適宜対応
フィードバックの方法	レポート、小テストは次回時返却・解説
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、予習復習をそれぞれ1時間ずつ求める。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	食品学II(2組)
時間割コード Course Code	53421
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	太田 和徳
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 和徳 (管理栄養学科)
授業の目標	食品学Iで修得した内容から、食品個別の具体的な特徴や用途、機能性に焦点を当て、食品そのものを理解し、応用へ繋げることを目標とする。
授業の概要	大きく「植物性食品」と「動物性食品」について、加工法・保存法についての知識を修得する。全体を通じて、個々の食品の特性を生かした加工法とその原理を種別とともに理解する。 質問は随時対応する。 本授業は原則として対面で実施する。
評価方法	授業態度:10% 試験(2回):90% 上記の他、レポート等の講義内課題から総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回分欠席で失格
授業計画	第1回 ガイダンス・植物性食品(穀類) 第2回 植物性食品(イモ類、マメ類、種実類) 第3回 植物性食品(野菜類、果実類) 第4回 植物性食品(キノコ類、海藻類) 第5回 動物性食品(食肉類) 第6回 香辛料 第7回 前半部分の総括 第8回 動物性食品(乳類、卵類) 第9回 動物性食品(魚介類) 第10回 食物油脂 第11回 甘味料 第12回 調味料 第13回 嗜好飲料とアルコール飲料 第14回 微生物利用食品とバイオ食品 第15回 総括
テキスト	「食べ物と健康 食品学各論・食品加工学」光生館 ISBN:978-4-332-04063-7
参考書	講義中に適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	適宜対応
フィードバックの方法	レポート、小テストは次回時返却・解説
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、予習復習をそれぞれ1時間ずつ求める。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	運動生理学(1組)
時間割コード Course Code	53430
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 5
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	寺前 洋生
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	寺前 洋生 (管理栄養学科)
授業の目標	わたしたちが栄養を取り入れて生きていく上で、昔は、狩猟・採取生活で身体運動を必要にしていたのに比べて、現代社会では、少ない運動量で食べることが可能になっている。その弊害として、生活習慣病などの健康問題が生じている。「食」の専門家として栄養士・管理栄養士が役割を果たすために、「身体運動」に関する知識と理解が不可欠な時代となっている。この授業では、身体運動の視点から、人体の構造的・機能的変化とその仕組みを理解し、健康増進に効果的な運動の実践的知識を身に付けることを目標としている。
授業の概要	運動することは、心身の健康増進に非常に効果的であると考えられる。管理栄養士は、栄養指導で健康増進に寄与するだけでなく、運動の効果についての実践的な知識も要求されるようになってきた。この授業では、健康増進のための運動の意義、スポーツと栄養素のかかわり、運動時のエネルギー代謝の変化、運動処方および運動療法について学んでいく。 質問については、講義後に随時受け付ける。 なお、本授業は対面で実施する。
評価方法	授業態度10%、課題・レポート50%、授業内に実施する小テストが40%と総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が授業回の2/3に満たない場合
授業計画	1. はじめに 運動生理学と栄養学のかかわり 2. 運動と健康：運動処方 3. エネルギー消費量(1)：基礎代謝 4. エネルギー消費量(2)：基礎代謝とMets 5. 運動と循環系と呼吸 6. 運動とエネルギー源 7. エネルギー消費量 8. 身体組成と体格 (1) 9. 身体組成と体格 (2) 10. 身体活動と健康(1) 11. 身体活動と健康(2) 12. 身体活動と健康(3) 13. 運動処方の作成(1) 14. 運動処方の作成(2) 15. 授業のまとめ
テキスト	栄養科学イラストレイテッド 運動生理学 麻美直美・川中健太郎 編 羊土社



参考書	やさしい運動生理学 改訂第2版 杉 晴夫 (著) 南江堂
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内で小テスト，課題演習を行う。 運動処方を作成を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学生への質問に対して，授業中は随時対応する。時間外においては、オフィスアワー、メールなどで対応する。
フィードバックの方法	提出された課題レポートの返却時、必要に応じてアドバイする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習：授業範囲の内容を事前調査する。(1.5時間) 復習：授業内容や考察をまとめる。(1.5時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1～10)	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標 (11～17)	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	運動生理学(2組)
時間割コード Course Code	53431
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	寺前 洋生
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	寺前 洋生 (管理栄養学科)
授業の目標	わたしたちが栄養を取り入れて生きていく上で、昔は、狩猟・採取生活で身体運動を必要にしていたのに比べて、現代社会では、少ない運動量で食べることが可能になっている。その弊害として、生活習慣病などの健康問題が生じている。「食」の専門家として栄養士・管理栄養士が役割を果たすために、「身体運動」に関する知識と理解が不可欠な時代となっている。この授業では、身体運動の視点から、人体の構造的・機能的変化とその仕組みを理解し、健康増進に効果的な運動の実践的知識を身に付けることを目標としている。
授業の概要	運動することは、心身の健康増進に非常に効果的であると考えられる。管理栄養士は、栄養指導で健康増進に寄与するだけでなく、運動の効果についての実践的な知識も要求されるようになってきた。この授業では、健康増進のための運動の意義、スポーツと栄養素のかかわり、運動時のエネルギー代謝の変化、運動処方および運動療法について学んでいく。 質問については、講義後に随時受け付ける。 なお、本授業は対面で実施する。
評価方法	授業態度10%、課題・レポート50%、授業内に実施する小テストが40%と総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が授業回の2/3に満たない場合
授業計画	1. はじめに 運動生理学と栄養学のかかわり 2. 運動と健康：運動処方 3. エネルギー消費量(1)：基礎代謝 4. エネルギー消費量(2)：基礎代謝とMets 5. 運動と循環系と呼吸 6. 運動とエネルギー源 7. エネルギー消費量 8. 身体組成と体格 (1) 9. 身体組成と体格 (2) 10. 身体活動と健康(1) 11. 身体活動と健康(2) 12. 身体活動と健康(3) 13. 運動処方の作成(1) 14. 運動処方の作成(2) 15. 授業のまとめ
テキスト	栄養科学イラストレイテッド 運動生理学 麻美直美・川中健太郎 編 羊土社

参考書	やさしい運動生理学 改訂第2版 杉 晴夫 (著) 南江堂
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内で小テスト，課題演習を行う。 運動処方を作成を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学生への質問に対して，授業中は随時対応する。時間外においては、オフィスアワー、メールなどで対応する。
フィードバックの方法	提出された課題レポートの返却時、必要に応じてアドバイする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習：授業範囲の内容を事前調査する。(1.5時間) 復習：授業内容や考察をまとめる。(1.5時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	食品学実験I(1組)
時間割コード Course Code	53440
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1, 木 / Thu 2, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	太田 和徳
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 2 C 理化学実験室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 和徳 (管理栄養学科)
授業の目標	食品に含まれる水分、ミネラル、タンパク質、脂質など食品成分表に記載された食品成分の基礎的分析法の理解を目標とする。
授業の概要	食品科学を学ぶ上での基礎となる食品分析法の原理及び実験器具の取り扱いを修得する。 質問は随時対応する。 本授業は原則対面で実施する。
評価方法	授業態度:30% レポート:70% 上記の他、実験内課題等を総合的に評価する。 レポートの内容は次回実験時に解説をおこなう。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	3回分の欠席で失格とする。
授業計画	第1回 ガイダンス (実験の基礎知識、レポートの書き方等) 第2回 pHの測定 第3回 食品成分分析 (水分・粗灰分) 第4回 食品成分分析 (褐変・水硬度) 第5回 粗タンパク質の定量、食品のレオロジー 第6回 タンパク質・アミノ酸・糖の定性反応 第7回 デンプン・グルテンの分離、糊化とヨウ素デンプン反応 第8回 食肉色素の反応、発酵食品の成分解析
テキスト	食品学総論実験 (同文書院) ISBN:978-4-8103-1345-1
参考書	実験中に適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	実験で得られた結果についてグループ単位で考察の機会を設ける。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応する。
フィードバックの方法	実験レポートは採点の上、次回時に返却し適宜解説をおこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	実験内容に該当する教科書記述を参考に予習復習を1時間ずつ求める。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	食品学実験I(2組)
時間割コード Course Code	53441
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1, 木 / Thu 2, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	太田 和徳
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 2 C 理化学実験室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 和徳 (管理栄養学科)
授業の目標	食品に含まれる水分、ミネラル、タンパク質、脂質など食品成分表に記載された食品成分の基礎的分析法の理解を目標とする。
授業の概要	食品科学を学ぶ上での基礎となる食品分析法の原理及び実験器具の取り扱いを修得する。 質問は随時対応する。 本授業は原則対面で実施する。
評価方法	授業態度:30% レポート:70% 上記の他、実験内課題等を総合的に評価する。 レポートの内容は次回実験時に解説をおこなう。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	3回分の欠席で失格とする。
授業計画	第1回 ガイダンス (実験の基礎知識、レポートの書き方等) 第2回 pHの測定 第3回 食品成分分析 (水分・粗灰分) 第4回 食品成分分析 (褐変・水硬度) 第5回 粗タンパク質の定量、食品のレオロジー 第6回 タンパク質・アミノ酸・糖の定性反応 第7回 デンプン・グルテンの分離、糊化とヨウ素デンプン反応 第8回 食肉色素の反応、発酵食品の成分解析
テキスト	食品学総論実験 (同文書院) ISBN:978-4-8103-1345-1
参考書	実験中に適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	実験で得られた結果についてグループ単位で考察の機会を設ける。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応する。
フィードバックの方法	実験レポートは採点の上、次回時に返却し適宜解説をおこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	実験内容に該当する教科書記述を参考に予習復習を1時間ずつ求める。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	食品学実験II(1組)
時間割コード Course Code	53460
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1, 木 / Thu 2, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	太田 和徳
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 1 C 調理科学実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 和徳 (管理栄養学科)
授業の目標	食品加工は味を良くするだけでなく、栄養価を高め保存性を持たせる目的もある。本実験は、食品学講義で学んだ食品の特性に基づき、実際に食材に加工を施して得られた効果を検証し理解を深めることを目標とする。
授業の概要	食品加工の工程を学び、食材の持つ特徴や可能性についてディスカッションを行う。 質問は随時対応する。 本実験は原則として対面で実施する。
評価方法	授業態度:30% レポート:70% 上記の他、実験内課題等を総合的に評価する。 レポートの内容は次回実験時に解説をおこなう。
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	3回分欠席で失格
授業計画	第1回 発酵食品の特性(味噌)ガイダンスならびに実習の注意点を含む 第2回 大豆の特性(豆腐) 第3回 小麦粉と油脂の特性(クッキー) 第4回 食品の保存性・砂糖の特性(ジャム) 第5回 小麦粉の特性1(パン) 第6回 小麦粉の特性2(うどん・中華麺) 第7回 小麦粉の特性3(蕎麦) 第8回 難消化性多糖の特性(蒟蒻)・食品の保蔵(燻煙)・嗜好飲料の特徴
テキスト	プリントを配布する。
参考書	実験中に適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	教員およびグループでのディスカッションを踏まえレポート作成をおこなう。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	レポートは原則として次回時に返却



予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、予習復習それぞれに3時間を求める。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	食品学実験II(2組)
時間割コード Course Code	53461
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1, 木 / Thu 2, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	太田 和徳
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 1 C 調理科学実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 和徳 (管理栄養学科)
授業の目標	食品加工は味を良くするだけでなく、栄養価を高め保存性を持たせる目的もある。本実験は、食品学講義で学んだ食品の特性に基づき、実際に食材に加工を施して得られた効果を検証し理解を深めることを目標とする。
授業の概要	食品加工の工程を学び、食材の持つ特徴や可能性についてディスカッションを行う。 質問は随時対応する。 本実験は原則として対面で実施する。
評価方法	授業態度:30% レポート:70% 上記の他、実験内課題等を総合的に評価する。 レポートの内容は次回実験時に解説をおこなう。
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	3回分欠席で失格
授業計画	第1回 発酵食品の特性(味噌)ガイダンスならびに実習の注意点を含む 第2回 大豆の特性(豆腐) 第3回 小麦粉と油脂の特性(クッキー) 第4回 食品の保存性・砂糖の特性(ジャム) 第5回 小麦粉の特性1(パン) 第6回 小麦粉の特性2(うどん・中華麺) 第7回 小麦粉の特性3(蕎麦) 第8回 難消化性多糖の特性(蒟蒻)・食品の保蔵(燻煙)・嗜好飲料の特徴
テキスト	プリントを配布する。
参考書	実験中に適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	教員およびグループでのディスカッションを踏まえレポート作成をおこなう。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	レポートは原則として次回時に返却

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、予習復習それぞれに3時間を求める。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	食品衛生学I(1組) / Food Hygiene I
時間割コード Course Code	53490
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	前田 真男
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 4 C 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	前田 真男 (管理栄養学科)
授業の目標	管理栄養士に求められる食品衛生に関する基礎知識・関連法規を学ぶ。
授業の概要	食品と微生物、食中毒、感染症、有害物質による汚染、食品添加物、HACCP、食品衛生関連法規などについて概説する。
評価方法	期末テストの結果で評価するが、授業内で提出する課題レポートもあわせて総合評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	6回以上欠席で失格
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照。
テキスト	栄養科学イラストレイテッド 「食品衛生学」 第3版 羊土社 ISBN978-4-7581-1372-4
参考書	栄養科学シリーズ NEXT 「食品衛生学」 講談社 ISBN978-4-06-155389-7  Visual 栄養学テキスト 「食べ物と健康 III 食品衛生学 食品の安全と衛生管理」 中山書店 ISBN978-4-521-74290-8  Nブックス 新訂 「食品衛生学」 建帛社 ISBN978-4-7679-0646-1
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	適宜対応
フィードバックの方法	課題レポートは次回返却し、次の授業でそのレポートについて解説する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、予習復習をそれぞれ1時間ずつ。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標 (11~17)	

PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	第1回	ガイダンス・受講上の注意	
2	第2回	食品衛生と法規	
3	第3回	食品の変質	
4	第4回	食品と微生物、食中毒の分類	
5	第5回	細菌性食中毒 その1	
6	第6回	細菌性食中毒 その2、ウイルス性食中毒	
7	第7回	寄生虫	
8	第8回	人畜共通感染症、化学物質による食中毒、動物性自然毒	
9	第9回	植物性自然毒、食中毒の原因調査および統計的手法	
10	第10回	食品中の汚染物質	
11	第11回	食品添加物	
12	第12回	農薬、動物用医薬品の種類と用途	
13	第13回	器具および容器包装について、遺伝子組み換え食品とゲノム編集食品	
14	第14回	食品衛生管理	
15	第15回	食品表示制度	

開講科目名 Course	食品衛生学I(2組) / Food Hygiene I
時間割コード Course Code	53491
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	前田 真男
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 4 C 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	前田 真男 (管理栄養学科)
授業の目標	管理栄養士に求められる食品衛生に関する基礎知識・関連法規を学ぶ。
授業の概要	食品と微生物、食中毒、感染症、有害物質による汚染、食品添加物、HACCP、食品衛生関連法規などについて概説する。
評価方法	期末テストの結果で評価するが、授業内で提出する課題レポートもあわせて総合評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	6回以上欠席で失格
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照。
テキスト	栄養科学イラストレイテッド 「食品衛生学」 第3版 羊土社 ISBN978-4-7581-1372-4
参考書	栄養科学シリーズ NEXT 「食品衛生学」 講談社 ISBN978-4-06-155389-7  Visual 栄養学テキスト 「食べ物と健康 III 食品衛生学 食品の安全と衛生管理」 中山書店 ISBN978-4-521-74290-8  Nブックス 新訂 「食品衛生学」 建帛社 ISBN978-4-7679-0646-1
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	適宜対応
フィードバックの方法	課題レポートは次回返却し、次の授業でそのレポートについて解説する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、予習復習をそれぞれ1時間ずつ。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	





## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	第1回	ガイダンス・受講上の注意	
2	第2回	食品衛生と法規	
3	第3回	食品の変質	
4	第4回	食品と微生物、食中毒の分類	
5	第5回	細菌性食中毒 その1	
6	第6回	細菌性食中毒 その2、ウイルス性食中毒	
7	第7回	寄生虫	
8	第8回	人畜共通感染症、化学物質による食中毒、動物性自然毒	
9	第9回	植物性自然毒、食中毒の原因調査および統計的手法	
10	第10回	食品中の汚染物質	
11	第11回	食品添加物	
12	第12回	農薬、動物用医薬品の種類と用途	
13	第13回	器具および容器包装について、遺伝子組み換え食品とゲノム編集食品	
14	第14回	食品衛生管理	
15	第15回	食品表示制度	

開講科目名 Course	食品衛生学実習I(1組)
時間割コード Course Code	53500
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1, 火 / Tue 2, 火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	前田 真男
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 2 B 生理学実験室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	前田 真男 (管理栄養学科)
授業の目標	食品衛生学の授業で学んだ知識や管理栄養士として必要な検査技法を、実験を通じて学び理解を深める。
授業の概要	微生物試験 (グローブジュース法、拭き取り検査等) の実験を中心にを行い、衛生管理手法を理解する。 また、理化学試験 (牛乳の鮮度試験、合成樹脂製容器のホルムアルデヒド溶出試験)、食品添加物試験 (比色法による亜硝酸ナトリウムの定量試験) の実験手法を学び、食品の鮮度や食品添加物の実態を理解する。
評価方法	授業態度、レポートを総合して評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	3回分欠席で失格
授業計画	授業計画詳細情報を参照。
テキスト	建帛社 Nボックス実験シリーズ 三訂 食品学衛生実験 ISBN978-4-7679-0692-8  プリントも配布する。
参考書	食品衛生学の講義で使用する教科書。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	実習内での対応、および、実習外での対面やメールでの対応を随時行う。
フィードバックの方法	レポートを、成績評価後に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習として、食品衛生学で学んだ内容を復習すること。 復習は、実習内で配布した資料を見直すこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	第1回	ガイダンス - 手洗い - 微生物検査用の培地の作成	
2	第2回	グローブジュース法	
3	第3回	グローブジュース法でえられた試料を使ったグラム染色法	
4	第4回	牛乳の鮮度試験 合成樹脂製容器のホルムアルデヒド溶出試験	
5	第5回	衛生管理手法 拭きとり検査(スワブ法)、スタンプ法	
6	第6回	拭きとり検査の試料を使ったグラム染色法	
7	第7回	比色法による亜硝酸ナトリウムの定量試験	
8	第8回	発表	

開講科目名 Course	食品衛生学実習I(2組)
時間割コード Course Code	53501
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1, 火 / Tue 2, 火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	前田 真男
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 2 B 生理学実験室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	前田 真男 (管理栄養学科)
授業の目標	食品衛生学の授業で学んだ知識や管理栄養士として必要な検査技法を、実験を通じて学び理解を深める。
授業の概要	微生物試験 (グローブジュース法、拭き取り検査等) の実験を中心にを行い、衛生管理手法を理解する。 また、理化学試験 (牛乳の鮮度試験、合成樹脂製容器のホルムアルデヒド溶出試験)、食品添加物試験 (比色法による亜硝酸ナトリウムの定量試験) の実験手法を学び、食品の鮮度や食品添加物の実態を理解する。
評価方法	授業態度、レポートを総合して評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	3回分欠席で失格
授業計画	授業計画詳細情報を参照。
テキスト	建帛社 Nボックス実験シリーズ 三訂 食品学衛生実験 ISBN978-4-7679-0692-8  プリントを配布する。
参考書	食品衛生学の講義で使用する教科書。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	実習内での対応、および、実習外での対面やメールでの対応を随時行う。
フィードバックの方法	レポートを、成績評価後に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習として、食品衛生学で学んだ内容を復習すること。 復習は、実習内で配布した資料を見直すこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標 (11~17)	

PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	第1回	第1回 ガイダンス - 手洗い - 微生物検査用の培地の作成	
2	第2回	第2回 グローブジュース法	
3	第3回	第3回 グローブジュース法でえられた試料を使ったグラム染色法	
4	第4回	第4回 牛乳の鮮度試験 合成樹脂製容器のホルムアルデヒド溶出試験	
5	第5回	第5回 衛生管理手法 拭きとり検査(スワブ法)、スタンプ法	
6	第6回	第6回 拭きとり検査の試料を使ったグラム染色法	
7	第7回	第7回 比色法による亜硝酸ナトリウムの定量試験	
8	第8回	発表	

開講科目名 Course	調理学(1組)
時間割コード Course Code	53520
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	庄司 吏香
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	庄司 吏香 (管理栄養学科)
授業の目標	食材の栄養、調理に関する栄養学的・機能的な知識を理解する。食事設計を適切に実施し、健康増進に役立つ献立作成ができる。調理操作による食材の栄養・嗜好成分、物性などの変化および組織・物性の変化、素材の選び方、美味しさについて学習することを目標とする。
授業の概要	調理には食品の栄養性の向上や安全性への注意の他に、おいしさが求められる。本授業では、食品が調理過程で起こる成分変化について栄養学的、食品学的な観点から食品の性質や成分、調理操作などについて科学的に学習する。
評価方法	授業への取り組み(10%)、小テストの評価(15%)、レポートの評価(5%)、定期試験(70%)を総合的に評価する。授業の最初に小テストを実施し、前回授業の理解度を評価するとともに解説、質疑応答を行う。授業で学んだ基本的な知識が身についているかを確認する。課題の締め切りは翌日とし、次週返却する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>第1回 授業内容のオリエンテーション、調理と嗜好性 おいしさの要因</p> <p>第2回 調理と嗜好性 五感と五基本味</p> <p>第3回 食品の種類と特徴(資料:日本食品標準成分表)</p> <p>第4回 調理操作 非加熱調理操作</p> <p>第5回 調理操作 非加熱調理操作</p> <p>第6回 調理操作 加熱操作</p> <p>第7回 調理操作 調味操作</p> <p>第8回 植物性食品の調理性(米、小麦、雑穀、デンプン)</p> <p>第9回 植物性食品の調理性(いも、豆、種実類)</p> <p>第10回 植物性食品の調理性(野菜、果実類)</p> <p>第11回 植物性食品の調理性(きのこ、海藻、ゲル化剤)</p> <p>第12回 献立作成 動物性食品の調理性(卵、乳類)</p> <p>第13回 動物性食品の調理性(肉、魚介類)</p> <p>第14回 献立作成</p> <p>第15回 献立作成</p> <p>授業時間に相当する予習と復習の時間を持ち、日頃から調理や料理に関する情報に関心を持つ。日常的に調理経験を積んでおくこと。</p>
テキスト	食べ物と健康 調理学 山崎英恵編集 津田謹輔、伏木亨、本田佳子監修 中山書店 調理のためのベーシックデータ 第5版 松本仲子 女子栄養大学出版部
参考書	NEW調理と理論 同文書院
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない



アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	病院において管理栄養士経験がある教員が、対象者の特性を理解し、適した食材、調理法を選択し、対象者に適した献立を作成できる内容とする。見た目、味、テクスチャーにおいて対象者に満足してもらえる調理法を教育内容に組込んでいる。
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	随時対応。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	〔予習〕次回学習する章のテキストを読み要点を把握する。(2h×15回 30時間) 〔復習〕授業中に行う確認問題の誤文訂正を行い、次週の小テストに備える。(2h×15回 30時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	8. 計画立案力

開講科目名 Course	調理学(2組)
時間割コード Course Code	53521
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	庄司 吏香
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	13C 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	庄司 吏香 (管理栄養学科)
授業の目標	食材の栄養、調理に関する栄養学的・機能的な知識を理解する。食事設計を適切に実施し、健康増進に役立つ献立作成ができる。調理操作による食材の栄養・嗜好成分、物性などの変化および組織・物性の変化、素材の選び方、美味しさについて学習することを目標とする。
授業の概要	調理には食品の栄養性の向上や安全性への注意の他に、おいしさが求められる。本授業では、食品が調理過程で起こる成分変化について栄養学的、食品学的な観点から食品の性質や成分、調理操作などについて科学的に学習する。
評価方法	授業への取り組み(10%)、小テストの評価(15%)、レポートの評価(5%)、定期試験(70%)を総合的に評価する。授業の最初に小テストを実施し、前回授業の理解度を評価するとともに解説、質疑応答を行う。授業で学んだ基本的な知識が身についているかを確認する。課題の締め切りは翌日とし、次週返却する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>第1回 授業内容のオリエンテーション、調理と嗜好性 おいしさの要因</p> <p>第2回 調理と嗜好性 五感と五基本味</p> <p>第3回 食品の種類と特徴(資料:日本食品標準成分表)</p> <p>第4回 調理操作 非加熱調理操作</p> <p>第5回 調理操作 非加熱調理操作</p> <p>第6回 調理操作 加熱操作</p> <p>第7回 調理操作 調味操作</p> <p>第8回 植物性食品の調理性(米、小麦、雑穀、デンプン)</p> <p>第9回 植物性食品の調理性(いも、豆、種実類)</p> <p>第10回 植物性食品の調理性(野菜、果実類)</p> <p>第11回 植物性食品の調理性(きのこ、海藻、ゲル化剤)</p> <p>第12回 献立作成 動物性食品の調理性(卵、乳類)</p> <p>第13回 動物性食品の調理性(肉、魚介類)</p> <p>第14回 献立作成</p> <p>第15回 献立作成</p> <p>授業時間に相当する予習と復習の時間をもち、日頃から調理や料理に関する情報に関心を持つ。日常的に調理経験を積んでおくこと。</p>
テキスト	食べ物と健康 調理学 山崎英恵編集 津田謹輔、伏木亨、本田佳子監修 中山書店 調理のためのベーシックデータ 第5版 松本仲子 女子栄養大学出版部
参考書	NEW調理と理論 同文書院
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	病院において管理栄養士経験がある教員が、対象者の特性を理解し、適した食材、調理法を選択し、対象者に適した献立を作成できる内容とする。見た目、味、テクスチャーにおいて対象者に満足してもらえる調理法を教育内容に組込んでいる。
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	随時対応。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	〔予習〕次回学習する章のテキストを読み要点を把握する。(2h×15回 30時間) 〔復習〕授業中に行う確認問題の誤文訂正を行い、次週の小テストに備える。(2h×15回 30時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	8. 計画立案力

開講科目名 Course	調理科学実験(1組)
時間割コード Course Code	53530
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1, 金 / Fri 2, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	庄司 吏香
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 1 C 調理科学実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	庄司 吏香 (管理栄養学科)
授業の目標	調理のプロセス(食品を食べ物にする過程)における様々な現象について、それぞれの理論を科学的に理解し、法則性を広く応用・展開できることを目標とする。調理科学の理論の理解と習得、実験レポートの作成技術の習得を目指す。
授業の概要	身近な食品を材料にし、実験を通して食べ物を調理するコツを科学的に検証し、レポートを作成する。
評価方法	授業への取り組み(30%)、実験レポート(70%)から総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 授業内容のオリエンテーション、計量・計測に関する実験、計量器の使用法 第2回 米の調理特性に関する実験 第3回 小麦粉の調理特性に関する実験 第4回 卵の調理特性・凝固性に関する実験 第5回 油の乳化性・砂糖の調理特性に関する実験 第6回 寒天・ゼラチン・乳の調理特性に関する実験 第7回 果物・野菜の調理特性に関する実験 第8回 官能評価・だし汁に関する実験、まとめ
テキスト	調理科学実験 大羽和子・川端晶子編著 学建書院
参考書	調理学 木戸詔子、池田ひろ編 化学同人 調理のためのベーシックデータ 松本仲子 女子栄養大学出版社 NEW調理と理論 同文書院
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	病院において管理栄養士経験がある教員が、対象者の特性を理解し、適した食材、調理法を選択し、対象者に適した献立を作成できる内容とする。見た目、味、テクスチャーにおいて対象者に満足してもらえる調理法を教育内容に組込んでいる。
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	随時対応。 実験レポートは翌週までに提出し、翌々週に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	〔予習〕「調理学」の教科書等で理論の復習を行い授業に臨む。 〔復習〕実験レポートの作成を行う。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力 8.計画立案力

開講科目名 Course	調理科学実験(2組)
時間割コード Course Code	53531
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1, 金 / Fri 2, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	庄司 吏香
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 1 C 調理科学実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	庄司 吏香 (管理栄養学科)
授業の目標	調理のプロセス(食品を食べ物にする過程)における様々な現象について、それぞれの理論を科学的に理解し、法則性を広く応用・展開できることを目標とする。調理科学の理論の理解と習得、実験レポートの作成技術の習得を目指す。
授業の概要	身近な食品を材料にし、実験を通して食べ物を調理するコツを科学的に検証し、レポートを作成する。
評価方法	授業への取り組み(30%)、実験レポート(70%)から総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 授業内容のオリエンテーション、計量・計測に関する実験、計量器の使用法 第2回 米の調理特性に関する実験 第3回 小麦粉の調理特性に関する実験 第4回 卵の調理特性・凝固性に関する実験 第5回 油の乳化性・砂糖の調理特性に関する実験 第6回 寒天・ゼラチン・乳の調理特性に関する実験 第7回 果物・野菜の調理特性に関する実験 第8回 官能評価・だし汁に関する実験、まとめ
テキスト	調理科学実験 大羽和子・川端晶子編著 学建書院
参考書	調理学 木戸詔子、池田ひろ編 化学同人 調理のためのベーシックデータ 松本仲子 女子栄養大学出版社 NEW調理と理論 同文書院
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	病院において管理栄養士経験がある教員が、対象者の特性を理解し、適した食材、調理法を選択し、対象者に適した献立を作成できる内容とする。見た目、味、テクスチャーにおいて対象者に満足してもらえる調理法を教育内容に組込んでいる。
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	随時対応。 実験レポートは翌週までに提出し、翌々週に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	〔予習〕「調理学」の教科書等で理論の復習を行い授業に臨む。 〔復習〕実験レポートの作成を行う。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	12.つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力

開講科目名 Course	基礎栄養学実習(1組)
時間割コード Course Code	53600
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2, 火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	山田 貴史
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 2 A 栄養化学実験室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山田 貴史 (管理栄養学科)
授業の目標	栄養は、生体が生命するための活動を指し、栄養素はその活動を維持するために必要な因子を指す。これは、生体が生命活動を営む上で、健康を維持する、あるいは疾患を予防するために重要な要素である。そこで、基礎栄養学実習では、栄養素の摂取状況が生体に及ぼす影響を観察し、栄養の摂取から消化・吸収・代謝・排出という栄養の一連の流れを理解することを目的とする。また、基本的な生化学、栄養学実験の器具の使用や測定機器の操作ができるようになる事を目的とする。
授業の概要	基礎栄養学実習では、タンパク質条件の異なる食事を動物実験に与えた時の、食餌の摂食や体重変化に及ぼす影響を観察する。次に、血液や臓器を採取し、生体内のタンパク質代謝に関する成分を分析する。また、尿中のタンパク質成分を測定し、タンパク質の排出についても観察する。最終的に、タンパク質栄養の違いが、生体に及ぼす影響を総合的に評価考察する。実習内容の質問は随時対応します。
評価方法	実習態度、レポートを総合して評価する。 実習の態度（取り組む姿勢、実験操作への参加、ディスカッションへの参加、服装）70点程度、レポートの内容（各実験での操作方法や試薬作成についてあるいは実験メモの記述）30点程度 レポートは、成績評価後に返却する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	グループ内で実験作業に全く取り組まないなど、著しく実験に参加しなかった場合



授業計画	<p>第1回.基礎栄養学実験についての計画や内容、評価方法や服装などの説明。学習の内容説明（動物実験について）</p> <p>第2回.実験動物飼育の準備および説明</p> <p>第3回.実験飼料の作成および給餌</p> <p>第4回.解剖準備、生体成分測定のための器具の確認・準備</p> <p>第5回.実験動物の解剖・臓器の観察・採取</p> <p>第6回.血中タンパク質濃度の測定</p> <p>第7回.血中窒素濃度・尿中窒素濃度の測定</p> <p>第8回.総括 実験結果の統合・図表作成および考察の作成</p> <p>予習復習について  予習：配布プリント内容を事前に確認し、実習を円滑に行えるように準備を行う事が望ましい。  復習：実習内容・結果を翌実習までに配布プリントに記入する事が望ましい。</p>
テキスト	プリントを配布する
参考書	基礎栄養学で使用する教科書
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	実験やレポートに対する質問には随時対応する
フィードバックの方法	最終講義日に解説を行い、レポート作成の指導を行う。レポートは採点后に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	実習に用いる手順書を事前に配布するため、資料を読み予習内容を所定の書類に要約する。実験後は、実験データを配布プリントにまとめ、必要に応じて論文等を検索し考察をまとめる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任 15. 陸の豊かさを守ろう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	基礎栄養学実習(2組)
時間割コード Course Code	53601
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2, 火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	山田 貴史
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 2 A 栄養化学実験室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山田 貴史 (管理栄養学科)
授業の目標	栄養は、生体が生命するための活動を指し、栄養素はその活動を維持するために必要な因子を指す。これは、生体が生命活動を営む上で、健康を維持する、あるいは疾患を予防するために重要な要素である。そこで、基礎栄養学実習では、栄養素の摂取状況が生体に及ぼす影響を観察し、栄養の摂取から消化・吸収・代謝・排出という栄養の一連の流れを理解することを目的とする。また、基本的な生化学、栄養学実験の器具の使用や測定機器の操作ができるようになる事を目的とする。
授業の概要	基礎栄養学実習では、タンパク質条件の異なる食事を動物実験に与えた時の、食餌の摂食や体重変化に及ぼす影響を観察する。次に、血液や臓器を採取し、生体内のタンパク質代謝に関する成分を分析する。また、尿中のタンパク質成分を測定し、タンパク質の排出についても観察する。最終的に、タンパク質栄養の違いが、生体に及ぼす影響を総合的に評価考察する。実習内容の質問は随時対応します。
評価方法	実習態度、レポートを総合して評価する。 実習の態度（取り組む姿勢、実験操作への参加、ディスカッションへの参加、服装）70点程度、レポートの内容（各実験での操作方法や試薬作成についてあるいは実験メモの記述）30点程度 レポートは、成績評価後に返却する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	グループ内で実験作業に全く取り組まないなど、著しく実験に参加しなかった場合

授業計画	<p>第1回.基礎栄養学実験についての計画や内容、評価方法や服装などの説明。学習の内容説明（動物実験について）</p> <p>第2回.実験動物飼育の準備および説明</p> <p>第3回.実験飼料の作成および給餌</p> <p>第4回.解剖準備、生体成分測定のための器具の確認・準備</p> <p>第5回.実験動物の解剖・臓器の観察・採取</p> <p>第6回.血中タンパク質濃度の測定</p> <p>第7回.血中窒素濃度・尿中窒素濃度の測定</p> <p>第8回.総括 実験結果の統合・図表作成および考察の作成</p> <p>予習復習について  予習：配布プリント内容を事前に確認し、実習を円滑に行えるように準備を行う事が望ましい。  復習：実習内容・結果を翌実習までに配布プリントに記入する事が望ましい。</p>
テキスト	プリントを配布する
参考書	基礎栄養学で使用する教科書
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	実験やレポートに対する質問には随時対応する
フィードバックの方法	最終講義日に解説を行い、レポート作成の指導を行う。レポートは採点后に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	実習に用いる手順書を事前に配布するため、資料を読み予習内容を所定の書類に要約する。実験後は、実験データを配布プリントにまとめ、必要に応じて論文等を検索し考察をまとめる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任 15. 陸の豊かさを守ろう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	基礎栄養学I(2組) / Basic Nutrition I
時間割コード Course Code	53603
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	山田 貴史
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山田 貴史 (管理栄養学科)
授業の目標	私たちが健康に生きてゆくためには、多種多様な食物の摂取により、必要な栄養素を過不足なく体内に取り入れることが重要です。取り込まれた栄養素は、体温の維持や運動のためのエネルギーに変換されたり、成長・発達のための体成分等に変えて利用されています。基礎栄養学では、これらの栄養素の消化吸収の仕組み、栄養素の働きを中心に学び、栄養素の摂取と健康の維持・増進、疾病の予防・治療との関連性の基礎を理解することを目標とします。
授業の概要	生化学および生理学で学んだ学習内容を基に、栄養素の体内への消化吸収および栄養素の動きと働きを中心に学ぶ事で、栄養の意味や体内での循環の仕組みを学ぶ。また、体内での栄養素循環に関係する器官と栄養素の関係について理解する。特に、三大栄養素(糖・脂質・タンパク質)と水の栄養素としての役割について学習する。
評価方法	学習態度、期末テストを総合して評価するが、学習態度に特段の問題がない限り、定期テストの結果を100点換算して評価する。定期テストは、随時行う小テストおよび期末テストの点数を合計する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、基礎栄養学について</li> <li>2. 糖質の種類とその特徴・構造</li> <li>3. 糖質の消化と吸収</li> <li>4. 糖質の体内動態と代謝(1)</li> <li>5. 糖質の体内動態と代謝(2)</li> <li>6. 脂質の種類とその特徴・構造</li> <li>7. 脂質の消化と吸収</li> <li>8. 脂質の体内動態と代謝(1)</li> <li>9. 脂質の体内動態と代謝(2)</li> <li>10. タンパク質の消化と吸収</li> <li>11. タンパクの体内動態と代謝</li> <li>12. タンパクの栄養評価法</li> <li>13. 食後・空腹時の栄養</li> <li>14. 水(電解質)の栄・構造養(水分の出納)</li> <li>15. 水(電解質)の栄養(腎臓の機能と脱水・浮腫)</li> </ol> <p>予習復習については、テキストおよび講義内容のノートを併用して行う事が望ましい。</p>
テキスト	栄養科学ファウンデーションシリーズ 生化学・基礎栄養学 池田彩子他 朝倉書店

参考書	カラー図解見て分かる生化学 川村越他 メディカルサイエンスインターナショナル
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	講義内外で、対面およびメールなどで適宜対応する。
フィードバックの方法	期末テストの結果は原則返却しないが、結果の開示や解答についての説明は、随時個別に受け付ける。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	準備学習については、生化学および解剖学の知識を必要とするため、これらの科目で学んだ内容を確認すること。 予習については、使用するテキストに目を通しておき、復習については、講義で説明した内容をノートに板書し、講義内容に沿って再度テキストを読み込むこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	15. 陸の豊かさを守ろう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	基礎栄養学I(1組) / Basic Nutrition I
時間割コード Course Code	53604
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	山田 貴史
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山田 貴史 (管理栄養学科)
授業の目標	私たちが健康に生きてゆくためには、多種多様な食物の摂取により、必要な栄養素を過不足なく体内に取り入れることが重要です。取り込まれた栄養素は、体温の維持や運動のためのエネルギーに変換されたり、成長・発達のための体成分等に変えて利用されています。基礎栄養学では、これらの栄養素の消化吸収の仕組み、栄養素の働きを中心に学び、栄養素の摂取と健康の維持・増進、疾病の予防・治療との関連性の基礎を理解することを目標とします。
授業の概要	生化学および生理学で学んだ学習内容を基に、栄養素の体内への消化吸収および栄養素の動きと働きを中心に学ぶ事で、栄養の意味や体内での循環の仕組みを学ぶ。また、体内での栄養素循環に関係する器官と栄養素の関係について理解する。特に、三大栄養素(糖・脂質・タンパク質)と水の栄養素としての役割について学習する。
評価方法	学習態度、期末テストを総合して評価するが、学習態度に特段の問題がない限り、定期テストの結果を100点換算して評価する。定期テストは、随時行う小テストおよび期末テストの点数を合計する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、基礎栄養学について</li> <li>2. 糖質の種類とその特徴・構造</li> <li>3. 糖質の消化と吸収</li> <li>4. 糖質の体内動態と代謝(1)</li> <li>5. 糖質の体内動態と代謝(2)</li> <li>6. 脂質の種類とその特徴・構造</li> <li>7. 脂質の消化と吸収</li> <li>8. 脂質の体内動態と代謝(1)</li> <li>9. 脂質の体内動態と代謝(2)</li> <li>10. タンパク質の消化と吸収</li> <li>11. タンパクの体内動態と代謝</li> <li>12. タンパクの栄養評価法</li> <li>13. 食後・空腹時の栄養</li> <li>14. 水(電解質)の栄・構造養(水分の出納)</li> <li>15. 水(電解質)の栄養(腎臓の機能と脱水・浮腫)</li> </ol> <p>予習復習については、テキストおよび講義内容のノートを併用して行う事が望ましい。</p>
テキスト	栄養科学ファウンデーションシリーズ 生化学・基礎栄養学 池田彩子他 朝倉書店

参考書	カラー図解見て分かる生化学 川村越他 メディカルサイエンスインターナショナル
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	講義内外で、対面およびメールなどで適宜対応する。
フィードバックの方法	期末テストの結果は原則返却しないが、結果の開示や解答についての説明は、随時個別に受け付ける。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	準備学習については、生化学および解剖学の知識を必要とするため、これらの科目で学んだ内容を確認すること。 予習については、使用するテキストに目を通しておき、復習については、講義で説明した内容をノートに板書し、講義内容に沿って再度テキストを読み込むこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	15. 陸の豊かさを守ろう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	基礎栄養学II(1組) / Basic Nutrition II
時間割コード Course Code	53605
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 5
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	山田 貴史
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 4 C 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山田 貴史 (管理栄養学科)
授業の目標	栄養の定義について理解を深め、栄養素の吸収・代謝の機構と生理的役割をスムーズに理解する。ヒトの栄養状態の判定方法、エネルギー代謝、栄養素の分子生物学的役割などを学習し、栄養素が生体で利用される過程を理解し、栄養と健康との関わりについて説明できるようになることを目標とする。
授業の概要	基礎栄養学Iでは、基礎栄養学の基礎固めを目的として学習を進めた。基礎栄養学IIでは、ビタミンと無機質（ミネラル）に関する栄養学的機能や疾患を学ぶとともに、基礎栄養学Iで学んだ三大栄養素の栄養・水の栄養との関連性を学習する。 さらに、栄養と遺伝子との関連性や生活習慣との関連性の学習および、ひとの日常活動におけるエネルギー代謝の基礎や測定方法を学ぶことで、応用栄養学や臨床栄養学との関連性を理解する。
評価方法	学習態度、期末テストの結果を総合して評価するが、学習態度に特段の問題がない限り、定期テスト結果を100点換算して評価する。定期テストは、随時行う小テストと期末テストの合計とする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1．ビタミンの栄養（水溶性ビタミンと脂溶性ビタミン）</li> <li>2．ビタミンの栄養（脂溶性ビタミンの生理機能と疾患との関連）（1）</li> <li>3．ビタミンの栄養（脂溶性ビタミンの生理機能と疾患との関連）（2）</li> <li>4．ビタミンの栄養（水溶性ビタミンの生理機能と疾患との関連）（1）</li> <li>5．ビタミンの栄養（水溶性ビタミンの生理機能と疾患との関連）（2）</li> <li>6．無機質（ミネラル）の栄養（多量ミネラルと微量ミネラル）</li> <li>7．無機質（ミネラル）の栄養（多量ミネラルの生理機能と疾患との関連）（1）</li> <li>8．無機質（ミネラル）の栄養（多量ミネラルの生理機能と疾患との関連）（2）</li> <li>9．無機質（ミネラル）の栄養（微量ミネラルの生理機能と疾患との関連）（1）</li> <li>10．無機質（ミネラル）の栄養（微量ミネラルの生理機能と疾患との関連）（2）</li> <li>11．栄養と遺伝子の関係（核酸の栄養と代謝）</li> <li>12．栄養と遺伝子の関係（栄養素と遺伝疾患）</li> <li>13．エネルギー代謝（エネルギーの概念）</li> <li>14．エネルギー代謝（1日のエネルギー消費）</li> <li>15．総合学習</li> </ol> <p>予習復習については、テキストおよび講義内容のノートを併用して行う事が望ましい。</p>
テキスト	栄養科学ファウンデーションシリーズ 生化学・基礎栄養学 池田彩子他 朝倉書店



参考書	カラー図解見て分かる生化学 川村越他 メディカルサイエンスインターナショナル
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	講義内で対応および、講義時間外での対面およびメールなどで適宜対応する。
フィードバックの方法	期末テストの結果は原則返却しないが、結果の開示や解答についての説明は、随時個別に受け付ける。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	準備学習については、生化学、解剖学および基礎栄養学Ⅰの知識を必要とするため、これらの科目で学んだ内容を確認すること。 予習については、使用するテキストに目を通しておき、復習については、講義で説明した内容をノートに板書し、講義内容に沿って再度テキストを読み込むこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさも守ろう 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	基礎栄養学II(2組) / Basic Nutrition II
時間割コード Course Code	53606
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	山田 貴史
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山田 貴史 (管理栄養学科)
授業の目標	栄養の定義について理解を深め、栄養素の吸収・代謝の機構と生理的役割をスムーズに理解する。ヒトの栄養状態の判定方法、エネルギー代謝、栄養素の分子生物学的役割などを学習し、栄養素が生体で利用される過程を理解し、栄養と健康との関わりについて説明できるようになることを目標とする。
授業の概要	基礎栄養学Iでは、基礎栄養学の基礎固めを目的として学習を進めた。基礎栄養学IIでは、ビタミンと無機質（ミネラル）に関する栄養学的機能や疾患を学ぶとともに、基礎栄養学Iで学んだ三大栄養素の栄養・水の栄養との関連性を学習する。 さらに、栄養と遺伝子との関連性や生活習慣との関連性の学習および、ひとの日常活動におけるエネルギー代謝の基礎や測定方法を学ぶことで、応用栄養学や臨床栄養学との関連性を理解する。
評価方法	学習態度、期末テストの結果を総合して評価するが、学習態度に特段の問題がない限り、定期テスト結果を100点換算して評価する。定期テストは、随時行う小テストと期末テストの合計とする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1．ビタミンの栄養（水溶性ビタミンと脂溶性ビタミン）</li> <li>2．ビタミンの栄養（脂溶性ビタミンの生理機能と疾患との関連）（1）</li> <li>3．ビタミンの栄養（脂溶性ビタミンの生理機能と疾患との関連）（2）</li> <li>4．ビタミンの栄養（水溶性ビタミンの生理機能と疾患との関連）（1）</li> <li>5．ビタミンの栄養（水溶性ビタミンの生理機能と疾患との関連）（2）</li> <li>6．無機質（ミネラル）の栄養（多量ミネラルと微量ミネラル）</li> <li>7．無機質（ミネラル）の栄養（多量ミネラルの生理機能と疾患との関連）（1）</li> <li>8．無機質（ミネラル）の栄養（多量ミネラルの生理機能と疾患との関連）（2）</li> <li>9．無機質（ミネラル）の栄養（微量ミネラルの生理機能と疾患との関連）（1）</li> <li>10．無機質（ミネラル）の栄養（微量ミネラルの生理機能と疾患との関連）（2）</li> <li>11．栄養と遺伝子の関係（核酸の栄養と代謝）</li> <li>12．栄養と遺伝子の関係（栄養素と遺伝疾患）</li> <li>13．エネルギー代謝（エネルギーの概念）</li> <li>14．エネルギー代謝（1日のエネルギー消費）</li> <li>15．総合学習</li> </ol> <p>予習復習については、テキストおよび講義内容のノートを併用して行う事が望ましい。</p>
テキスト	栄養科学ファウンデーションシリーズ 生化学・基礎栄養学 池田彩子他 朝倉書店

参考書	カラー図解見て分かる生化学 川村越他 メディカルサイエンスインターナショナル
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	講義内で対応および、講義時間外での対面およびメールなどで適宜対応する。
フィードバックの方法	期末テストの結果は原則返却しないが、結果の開示や解答についての説明は、随時個別に受け付ける。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	準備学習については、生化学、解剖学および基礎栄養学Ⅰの知識を必要とするため、これらの科目で学んだ内容を確認すること。 予習については、使用するテキストに目を通しておき、復習については、講義で説明した内容をノートに板書し、講義内容に沿って再度テキストを読み込むこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさも守ろう 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	応用栄養学I(1組)
時間割コード Course Code	53620
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 5
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	夏目 有紀枝
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	夏目 有紀枝(管理栄養学科)
授業の目標	この科目では、妊娠期、乳児期、幼児期、学童期、青年期に至る成長・発達過程や成人期から老年期に至るまでの各ライフステージの生理的特性および栄養ケアマネジメントの基本を学び、対象者に合わせた効果的な栄養管理を実践できるようになることを目指します。また、日本人の食事摂取基準についての基礎的知識を学び、他の授業における献立の作成に活かすことができます。
授業の概要	各ライフステージの生理的特性および生理的变化を理解し、それぞれの年代に適した栄養摂取方法やマネジメントの基本を学習します。なぜ栄養ケアマネジメントが必要であるのか、成長・発達・加齢に伴う変化に即した対応が求められるのか、その意義を知り、対象者としてしっかり向かい合っている確かな栄養管理を行うための知識を習得します。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	中間テスト(30%、授業時間内に実施)および期末テスト(70%)により評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合。
授業計画	第01回：オリエンテーション、栄養ケア・マネジメント(概念) 第02回：栄養ケア・マネジメント(栄養アセスメント) 第03回：食事摂取基準の基礎的理解(意義と策定の基礎理論) 第04回：成長、発達、加齢 第05回：妊娠期、授乳期(生理的特徴) 第06回：妊娠期、授乳期(栄養アセスメントと栄養ケア) 第07回：新生児期、乳児期(生理的特徴) 第08回：新生児期、乳児期(栄養アセスメントと栄養ケア) 第09回：中間テスト、幼児期(生理的特徴) 第10回：幼児期(栄養アセスメントと栄養ケア) 第11回：学童期、思春期(生理的特徴、栄養アセスメント) 第12回：学童期、思春期(栄養ケア、摂食障害) 第13回：成人期(生理的特徴、栄養アセスメントと栄養ケア) 第14回：成人期(生活習慣病) 第15回：総括・補足
テキスト	栄養科学イラストレイテッド応用栄養学(羊土社) 必ず最新版を購入してください。

参考書	栄養アセスメントに役立つ臨床検査値の読み方考え方ケーススタディ第2版演習問題付き（医歯薬出版） 日本人の食事摂取基準2020年版（第一出版）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問は、授業後やメールなど、随時対応します。
フィードバックの方法	随時対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	2時間の予習と2時間の復習を課すものとします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			

開講科目名 Course	応用栄養学I(2組)
時間割コード Course Code	53621
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	夏目 有紀枝
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	夏目 有紀枝(管理栄養学科)
授業の目標	この科目では、妊娠期、乳児期、幼児期、学童期、青年期に至る成長・発達過程や成人期から老年期に至るまでの各ライフステージの生理的特性および栄養ケアマネジメントの基本を学び、対象者に合わせた効果的な栄養管理を実践できるようになることを目指します。また、日本人の食事摂取基準についての基礎的知識を学び、他の授業における献立の作成に活かすことができます。
授業の概要	各ライフステージの生理的特性および生理的变化を理解し、それぞれの年代に適した栄養摂取方法やマネジメントの基本を学習します。なぜ栄養ケアマネジメントが必要であるのか、成長・発達・加齢に伴う変化に即した対応が求められるのか、その意義を知り、対象者としてしっかり向かい合っている確かな栄養管理を行うための知識を習得します。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	中間テスト(30%、授業時間内に実施)および期末テスト(70%)により評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合。
授業計画	第01回：オリエンテーション、栄養ケア・マネジメント(概念) 第02回：栄養ケア・マネジメント(栄養アセスメント) 第03回：食事摂取基準の基礎的理解(意義と策定の基礎理論) 第04回：成長、発達、加齢 第05回：妊娠期、授乳期(生理的特徴) 第06回：妊娠期、授乳期(栄養アセスメントと栄養ケア) 第07回：新生児期、乳児期(生理的特徴) 第08回：新生児期、乳児期(栄養アセスメントと栄養ケア) 第09回：中間テスト、幼児期(生理的特徴) 第10回：幼児期(栄養アセスメントと栄養ケア) 第11回：学童期、思春期(生理的特徴、栄養アセスメント) 第12回：学童期、思春期(栄養ケア、摂食障害) 第13回：成人期(生理的特徴、栄養アセスメントと栄養ケア) 第14回：成人期(生活習慣病) 第15回：総括・補足
テキスト	栄養科学イラストレイテッド応用栄養学(羊土社) 必ず最新版を購入してください。

参考書	栄養アセスメントに役立つ臨床検査値の読み方考え方ケーススタディ第2版演習問題付き（医歯薬出版） 日本人の食事摂取基準2020年版（第一出版）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問は、授業後やメールなど、随時対応します。
フィードバックの方法	随時対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	2時間の予習と2時間の復習を課すものとします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			

開講科目名 Course	応用栄養学II(1組)
時間割コード Course Code	53640
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	夏目 有紀枝
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	夏目 有紀枝 (管理栄養学科)
授業の目標	乳幼児から高齢者までの各ライフステージにおける生理特性と食事摂取基準策定の基本的考え方を学び、対象者に合わせた効果的な栄養マネジメントを実践できるようになることを目指します。また、生活活動やスポーツ、ストレスおよび特殊環境下の生理機能の変化と身体状況に応じた栄養ケアを理解し、幅広い視野で栄養管理を捉えられるようになることを目標とします。
授業の概要	この授業では、食事摂取基準の基礎はもちろん策定の根拠まで深く理解し、各ライフスタイルに応じて食事摂取基準を活用した栄養マネジメントの基本を学ぶことができます。また、生活習慣を構成する生体リズム、生活活動や運動、ストレスと栄養について総合的に理解することにより、個々人に応じた栄養マネジメントが可能になります。さらに、低圧・高圧などの特殊な環境下における栄養現象についても学ぶことができます。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	中間テスト (30%、授業時間内に実施) および期末テスト (70%) により評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合
授業計画	第01回：高齢期（生理的特徴） 第02回：高齢期（栄養アセスメントと栄養ケア） 第03回：運動・スポーツと栄養（健康のための運動、運動時の生理的特徴とエネルギー代謝） 第04回：運動・スポーツと栄養（運動と栄養ケア） 第05回：環境と栄養（ストレスと栄養ケア、特殊環境と栄養ケア） 第06回：環境と栄養（特殊環境と栄養ケア） 第07回：中間テスト、食事摂取基準の特徴 第08回：食事摂取基準活用の基礎理論 第09回：食事摂取基準の基礎的理解（エネルギー、たんぱく質） 第10回：食事摂取基準の基礎的理解（脂質、炭水化物） 第11回：食事摂取基準の基礎的理解（脂溶性ビタミン） 第12回：食事摂取基準の基礎的理解（水溶性ビタミン） 第13回：食事摂取基準の基礎的理解（ミネラル） 第14回：食事摂取基準の基礎的理解（ミネラル）、食事摂取基準の改定ポイント 第15回：ライフステージ別食事摂取基準（妊婦・授乳婦、乳児・小児、高齢者）
テキスト	栄養科学イラストレイテッド応用栄養学（羊土社）

参考書	日本人の食事摂取基準2020年版（第一出版） 日本人の食事摂取基準2020年版の実践・運用（第一出版）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問は、授業後やメールなど、随時対応します。
フィードバックの方法	随時対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に2時間の予習と2時間の復習を課すものとします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	応用栄養学II(2組)
時間割コード Course Code	53641
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	夏目 有紀枝
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	夏目 有紀枝 (管理栄養学科)
授業の目標	乳幼児から高齢者までの各ライフステージにおける生理特性と食事摂取基準策定の基本的考え方を学び、対象者に合わせた効果的な栄養マネジメントを実践できるようになることを目指します。また、生活活動やスポーツ、ストレスおよび特殊環境下の生理機能の変化と身体状況に応じた栄養ケアを理解し、幅広い視野で栄養管理を捉えられるようになることを目標とします。
授業の概要	この授業では、食事摂取基準の基礎はもちろん策定の根拠まで深く理解し、各ライフスタイルに応じて食事摂取基準を活用した栄養マネジメントの基本を学ぶことができます。また、生活習慣を構成する生体リズム、生活活動や運動、ストレスと栄養について総合的に理解することにより、個々人に応じた栄養マネジメントが可能になります。さらに、低圧・高圧などの特殊な環境下における栄養現象についても学ぶことができます。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	中間テスト (30%、授業時間内に実施) および期末テスト (70%) により評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合
授業計画	第01回：高齢期（生理的特徴） 第02回：高齢期（栄養アセスメントと栄養ケア） 第03回：運動・スポーツと栄養（健康のための運動、運動時の生理的特徴とエネルギー代謝） 第04回：運動・スポーツと栄養（運動と栄養ケア） 第05回：環境と栄養（ストレスと栄養ケア、特殊環境と栄養ケア） 第06回：環境と栄養（特殊環境と栄養ケア） 第07回：中間テスト、食事摂取基準の特徴 第08回：食事摂取基準活用の基礎理論 第09回：食事摂取基準の基礎的理解（エネルギー、たんぱく質） 第10回：食事摂取基準の基礎的理解（脂質、炭水化物） 第11回：食事摂取基準の基礎的理解（脂溶性ビタミン） 第12回：食事摂取基準の基礎的理解（水溶性ビタミン） 第13回：食事摂取基準の基礎的理解（ミネラル） 第14回：食事摂取基準の基礎的理解（ミネラル）、食事摂取基準の改定ポイント 第15回：ライフステージ別食事摂取基準（妊婦・授乳婦、乳児・小児、高齢者）
テキスト	栄養科学イラストレイテッド応用栄養学（羊土社）

参考書	日本人の食事摂取基準2020年版（第一出版） 日本人の食事摂取基準2020年版の実践・運用（第一出版）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問は、授業後やメールなど、随時対応します。
フィードバックの方法	随時対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に2時間の予習と2時間の復習を課すものとします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	応用栄養学演習(1組)
時間割コード Course Code	53660
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1, 金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	夏目 有紀枝
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	情報実習室A
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	夏目 有紀枝(管理栄養学科)
授業の目標	応用栄養学IおよびIIで学んできた知識を基に、各ライフステージの具体的事例を取り上げた演習を行うことにより、栄養ケアマネジメントの実践的で確実な知識と技能を高めることができます。栄養管理が人々の健康をサポートできることを体感し、管理栄養士への意欲を持って演習に取り組むことを期待します。
授業の概要	身体計測のテクニックを学び、得られたデータのアセスメントについて理解を深めていきます。また、各ライフステージの症例(事例)から栄養学的問題点を読み取り、自らの考えによって栄養ケア計画を立案します。対象者に具体的な支援を行い、栄養ケアの評価とフィードバックができることを目指します。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	演習レポート内容(80%)、演習に取り組む姿勢(20%)を総合して評価します。 自由課題レポート提出により加点します。 欠席、遅刻、レポート提出遅延により減点します。 私語などの授業態度により減点する場合があります。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合
授業計画	第01回：オリエンテーション、献立作成 第02回：栄養ケアマネジメントの演習(妊娠期、授乳期) 第03回：栄養ケアマネジメントの演習(乳児期) 第04回：栄養ケアマネジメントの演習(成人期) 第05回：身体計測、栄養アセスメント 第06回：栄養ケアマネジメントの演習(幼児期、学童期) 第07回：栄養ケアマネジメントの演習(高齢期) 第08回：福祉施設の栄養ケアマネジメント
テキスト	栄養科学イラストレイテッド 応用栄養学(羊土社)
参考書	八訂 日本食品成分表(女子栄養大学出版部) 日本人の食事摂取基準 2020年版(第一出版) 栄養アセスメントに役立つ臨床検査値の読み方考え方ケーススタディ 第2版演習問題付き(医歯薬出版) 改訂6版 臨床栄養ディクショナリー(メディカ出版) "超"実践! 高齢者の栄養ケアー病院・高齢者施設でいかせる(メディカ出版)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応します。
フィードバックの方法	期末に返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各授業の前後に1時間の予習と3時間の演習レポート作成および自習（自由課題レポート作成）を課すものとします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	応用栄養学演習(2組)
時間割コード Course Code	53661
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1, 金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	夏目 有紀枝
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	情報実習室A
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	夏目 有紀枝(管理栄養学科)
授業の目標	応用栄養学IおよびIIで学んできた知識を基に、各ライフステージの具体的事例を取り上げた演習を行うことにより、栄養ケアマネジメントの実践的で確実な知識と技能を高めることができます。栄養管理が人々の健康をサポートできることを体感し、管理栄養士への意欲を持って演習に取り組むことを期待します。
授業の概要	身体計測のテクニックを学び、得られたデータのアセスメントについて理解を深めていきます。また、各ライフステージの症例(事例)から栄養学的問題点を読み取り、自らの考えによって栄養ケア計画を立案します。対象者に具体的な支援を行い、栄養ケアの評価とフィードバックができることを目指します。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	演習レポート内容(80%)、演習に取り組む姿勢(20%)を総合して評価します。 自由課題レポート提出により加点します。 欠席、遅刻、レポート提出遅延により減点します。 私語などの授業態度により減点する場合があります。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合
授業計画	第01回：オリエンテーション、献立作成 第02回：栄養ケアマネジメントの演習(妊娠期、授乳期) 第03回：栄養ケアマネジメントの演習(乳児期) 第04回：栄養ケアマネジメントの演習(成人期) 第05回：身体計測、栄養アセスメント 第06回：栄養ケアマネジメントの演習(幼児期、学童期) 第07回：栄養ケアマネジメントの演習(高齢期) 第08回：福祉施設の栄養ケアマネジメント
テキスト	栄養科学イラストレイテッド 応用栄養学(羊土社)
参考書	八訂 日本食品成分表(女子栄養大学出版部) 日本人の食事摂取基準 2020年版(第一出版) 栄養アセスメントに役立つ臨床検査値の読み方考え方ケーススタディ 第2版演習問題付き(医歯薬出版) 改訂6版 臨床栄養ディクショナリー(メディカ出版) "超"実践! 高齢者の栄養ケアー病院・高齢者施設でいかせる(メディカ出版)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	



実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応します。
フィードバックの方法	期末に返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各授業の前後に1時間の予習と3時間の演習レポート作成および自習（自由課題レポート作成）を課すものとします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	応用栄養学実習(1組)
時間割コード Course Code	53680
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1, 火 / Tue 2, 火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	夏目 有紀枝
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 1 D調理・食品加工実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	夏目 有紀枝(管理栄養学科)
授業の目標	各ライフステージにおける身体特性および栄養特性に応じた栄養管理の考え方をもち、それぞれのステージに適した調理実習と献立作成を行います。実習を通じてより具体的に食事摂取基準の概要を理解し、栄養マネジメント能力を高めることを目指します。
授業の概要	ライフステージに合わせた調理上の工夫を習得していきます。離乳食、アレルギー児や咀嚼・嚥下障害のある高齢者の食事など、様々な対象者に対応できる実践力を養い、さらに、食事摂取基準や栄養素バランス、食品構成比率などを考慮した献立を作成する力を身につけていきます。実習後に、実習内容をレポートでまとめ、実習に関連した自習(テーマ自由)を行います。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	実習姿勢(20%)、実習レポートおよび献立作成(80%)を総合して評価します。 遅刻、欠席、レポート提出遅延により減点します。 私語などの授業態度により減点する場合があります。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合
授業計画	第01回：オリエンテーション、献立作成 第02回：調理実習(乳児期の調乳・離乳食) 第03回：調理実習(幼児期) 第04回：調理実習(学童期、アレルギー対応) 第05回：調理実習(妊娠期) 第06回：調理実習(成人期、減塩食) 第07回：調理実習(高齢期、咀嚼障害対応) 第08回：調理実習(介護食、嚥下障害対応)
テキスト	栄養科学イラストレイテッド 応用栄養学(羊土社)
参考書	八訂日本食品成分表(女子栄養大学出版部) 日本人の食事摂取基準 2020年版(第一出版) 調理のためのベーシックデータ(女子栄養大学出版部) 家庭のおかずのカロリーガイド(女子栄養大学出版部)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループごとに役割分担をして調理実習を行い、試食後に各ライフステージ向けの食事の特徴を考察します。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応します。
フィードバックの方法	期末に返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各授業の前後に1時間の予習と3時間の復習（レポート作成、自由課題）を課すものとします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	応用栄養学実習(2組)
時間割コード Course Code	53681
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1, 火 / Tue 2, 火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	夏目 有紀枝
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 1 D調理・食品加工実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	夏目 有紀枝(管理栄養学科)
授業の目標	各ライフステージにおける身体特性および栄養特性に応じた栄養管理の考え方をもち、それぞれのステージに適した調理実習と献立作成を行います。実習を通じてより具体的に食事摂取基準の概要を理解し、栄養マネジメント能力を高めることを目指します。
授業の概要	ライフステージに合わせた調理上の工夫を習得していきます。離乳食、アレルギー児や咀嚼・嚥下障害のある高齢者の食事など、様々な対象者に対応できる実践力を養い、さらに、食事摂取基準や栄養素バランス、食品構成比率などを考慮した献立を作成する力を身につけていきます。実習後に、実習内容をレポートでまとめ、実習に関連した自習(テーマ自由)を行います。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	実習姿勢(20%)、実習レポートおよび献立作成(80%)を総合して評価します。 遅刻、欠席、レポート提出遅延により減点します。 私語などの授業態度により減点する場合があります。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合
授業計画	第01回：オリエンテーション、献立作成 第02回：調理実習(乳児期の調乳・離乳食) 第03回：調理実習(幼児期) 第04回：調理実習(学童期、アレルギー対応) 第05回：調理実習(妊娠期) 第06回：調理実習(成人期、減塩食) 第07回：調理実習(高齢期、咀嚼障害対応) 第08回：調理実習(介護食、嚥下障害対応)
テキスト	栄養科学イラストレイテッド 応用栄養学(羊土社)
参考書	八訂日本食品成分表(女子栄養大学出版部) 日本人の食事摂取基準 2020年版(第一出版) 調理のためのベーシックデータ(女子栄養大学出版部) 家庭のおかずのカロリーガイド(女子栄養大学出版部)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループごとに役割分担をして調理実習を行い、試食後に各ライフステージ向けの食事の特徴を考察します。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応します。
フィードバックの方法	期末に返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各授業の前後に1時間の予習と3時間の復習（レポート作成、自由課題）を課すものとします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	栄養教育論I(1組)
時間割コード Course Code	53710
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	山岡 由理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 2 D 栄養教育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山岡 由理子 (管理栄養学科)
授業の目標	<p>栄養教育に必要な理論と技法を身につける            栄養教育の定義、および栄養教育を実施するうえで習得すべき基礎理論と進め方を理解する            &lt;学習成果&gt;            知識・理解の領域            栄養教育の定義、健康教育および生活習慣との関連を説明することができる            技能の領域            行動科学の栄養教育への活用の重要性が分かる            栄養教育を実施するには、目的や必要性に応じて科学的な情報の取捨選択ができる視点をもつことができる            態度・志向性の領域            栄養教育の重要性について自らの意見を述べるができる</p>
授業の概要	<p>栄養教育の意義と歴史について理解し、栄養教育の理論と方法、健康・栄養状態、食行動、食環境の評価法、栄養情報の収集と活用、健康づくり対策の展開を学ぶ            この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること</p>
評価方法	<p>参加姿勢 20%            定期テスト 80%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が 10回に満たない場合

授業計画	<p>1 栄養教育の概説、オリエンテーション</p> <p>2 栄養教育の概念</p> <p>3 行動科学の理論とモデル 行動科学の定義と栄養教育に必要な理由</p> <p>4 行動科学の理論とモデル 刺激-反応理論、生態学的モデル、ヘルスピリーフモデル</p> <p>5 行動科学の理論とモデル トランスセオレティカルモデル、計画的行動理論、社会的認知理論、ソーシャルサポート</p> <p>6 行動科学の理論とモデル コミュニティオーガニゼーション、イノベーション普及理論、ヘルスリテラシー</p> <p>7 栄養カウンセリング</p> <p>8 行動変容技法と概念</p> <p>9 組織づくり・地域づくりへの展開</p> <p>10 栄養教育と食環境づくりとの関連</p> <p>11 栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル</p> <p>12 栄養教育のアセスメント</p> <p>13 栄養教育の目標設定、計画立案</p> <p>14 栄養教育プログラムの実施、評価</p> <p>15 栄養教育のまとめ</p> <p>詳細は授業計画詳細情報を参照のこと</p>
テキスト	笠原賀子・斎藤トシ子編『栄養科学シリーズNEXT 「栄養教育論 第4版」』講談社、2022年 ISBN : 978-4-06-155398-9
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	管理栄養士としてクリニック、在宅、老健入所・通所において栄養管理・栄養指導の実務経験を有する教員が、栄養教育の実践的な教育を行う科目である
質問への対応方法	授業後に対応
フィードバックの方法	次回授業時
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義2単位の場合、60時間の準備学習を必要とする
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	2.飢餓をゼロに 3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	栄養教育の概説、オリエンテーション	栄養教育を学ぶ意義を説明する	テキストp.2-13 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
2	栄養教育の概念	栄養教育の定義と目的、栄養教育の役割を学ぶ	テキストp.2-13 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
3	行動科学の理論とモデル	行動科学の定義と栄養教育に行動科学が必要な理由を学ぶ	テキストp.64-83 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
4	行動科学の理論とモデル	個人・個人間の行動変容の理論とモデル(刺激-反応理論、生態学的モデル、ヘルスブリーフモデル)を学ぶ	テキストp.64-83 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
5	行動科学の理論とモデル	個人・個人間の行動変容の理論とモデル(トランスセオレティカルモデル、計画的行動理論、社会的認知理論、ソーシャルサポート)を学ぶ	テキストp.64-83 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
6	行動科学の理論とモデル	個人・個人間の行動変容の理論とモデル(コミュニティオーガニゼーション、イノベーション普及理論、ヘルスリテラシー)を学ぶ	テキストp.64-83 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
7	栄養カウンセリング	カウンセリングの基本的技法を学ぶ	テキストp.84-92 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
8	行動変容技法と概念	行動変容技法(刺激統制、反応妨害・拮抗、行動置換、オペラント強化、認知再構成、意思決定バランス 目標宣言、行動契約、セルフモニタリング、自己効力感(セルフ・エフィカシー)、ストレスマネジメント、ソーシャルスキルトレーニング、ナッジ)を学ぶ	テキストp.72-76 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
9	組織づくり・地域づくりへの展開	集団・組織・地域にかかわる理論や概念を学ぶ	テキストp.77-83 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
10	栄養教育と食環境づくりとの関連	食環境整備が食行動の変容に必要であることを学ぶ	テキストp.65-6977-83 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
11	栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル	栄養教育マネジメントで活用する理論・モデル(プリシード・プロシードモデル、ソーシャルマーケティング)、栄養教育マネジメントサイクル(PDCA)について学ぶ	テキストp.47-49、79 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
12	栄養教育のアセスメント	アセスメントの種類とアセスメント方法を学ぶ	テキストp.49-51 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
13	栄養教育の目標設定、計画立案	目標の種類と目標設定の方法及び、計画立案、学修形態と教材の種類、選択方法を学ぶ	テキストp.57、94-104 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
14	栄養教育プログラムの実施、評価	栄養教育プログラムの実施、評価の種類と方法を学ぶ	テキストp.62-63 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	栄養教育のまとめ	授業の振り返りをする	テキストp.2-111 事前学修として授業範囲 に関連する教科書や書物 を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に 示した重要ポイントを中心 に授業内容をまとめて おく(2時間)

開講科目名 Course	栄養教育論I(2組)
時間割コード Course Code	53711
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	山岡 由理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 2 D 栄養教育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山岡 由理子 (管理栄養学科)
授業の目標	<p>栄養教育に必要な理論と技法を身につける          栄養教育の定義、および栄養教育を実施するうえで習得すべき基礎理論と進め方を理解する          &lt;学習成果&gt;          知識・理解の領域          栄養教育の定義、健康教育および生活習慣との関連を説明することができる          技能の領域          行動科学の栄養教育への活用の重要性が分かる          栄養教育を実施するには、目的や必要性に応じて科学的な情報の取捨選択ができる視点をもつことができる          態度・志向性の領域          栄養教育の重要性について自らの意見を述べるができる</p>
授業の概要	<p>栄養教育の意義と歴史について理解し、栄養教育の理論と方法、健康・栄養状態、食行動、食環境の評価法、栄養情報の収集と活用、健康づくり対策の展開を学ぶ          この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること</p>
評価方法	<p>参加姿勢 20%          定期テスト 80%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が 10回に満たない場合

授業計画	<p>1 栄養教育の概説、オリエンテーション</p> <p>2 栄養教育の概念</p> <p>3 行動科学の理論とモデル 行動科学の定義と栄養教育に必要な理由</p> <p>4 行動科学の理論とモデル 刺激-反応理論、生態学的モデル、ヘルスピリーフモデル</p> <p>5 行動科学の理論とモデル トランスセオレティカルモデル、計画的行動理論、社会的認知理論、ソーシャルサポート</p> <p>6 行動科学の理論とモデル コミュニティオーガニゼーション、イノベーション普及理論、ヘルスリテラシー</p> <p>7 栄養カウンセリング</p> <p>8 行動変容技法と概念</p> <p>9 組織づくり・地域づくりへの展開</p> <p>10 栄養教育と食環境づくりとの関連</p> <p>11 栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル</p> <p>12 栄養教育のアセスメント</p> <p>13 栄養教育の目標設定、計画立案</p> <p>14 栄養教育プログラムの実施、評価</p> <p>15 栄養教育のまとめ</p> <p>詳細は授業計画詳細情報を参照のこと</p>
テキスト	笠原賀子・斎藤トシ子編『栄養科学シリーズNEXT 「栄養教育論 第4版」』講談社、2022年 ISBN : 978-4-06-155398-9
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	管理栄養士としてクリニック、在宅、老健入所・通所において栄養管理・栄養指導の実務経験を有する教員が、栄養教育の実践的な教育を行う科目である
質問への対応方法	授業後に対応
フィードバックの方法	次回授業時
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義2単位の場合、60時間の準備学習を必要とする
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	2.飢餓をゼロに 3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	栄養教育の概説、オリエンテーション	栄養教育を学ぶ意義を説明する	テキストp.2-13 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
2	栄養教育の概念	栄養教育の定義と目的、栄養教育の役割を学ぶ	テキストp.2-13 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
3	行動科学の理論とモデル	行動科学の定義と栄養教育に行動科学が必要な理由を学ぶ	テキストp.64-83 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
4	行動科学の理論とモデル	個人・個人間の行動変容の理論とモデル(刺激-反応理論、生態学的モデル、ヘルスブリーフモデル)を学ぶ	テキストp.64-83 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
5	行動科学の理論とモデル	個人・個人間の行動変容の理論とモデル(トランスセオレティカルモデル、計画的行動理論、社会的認知理論、ソーシャルサポート)を学ぶ	テキストp.64-83 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
6	行動科学の理論とモデル	個人・個人間の行動変容の理論とモデル(コミュニティオーガニゼーション、イノベーション普及理論、ヘルスリテラシー)を学ぶ	テキストp.64-83 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
7	栄養カウンセリング	カウンセリングの基本的技法を学ぶ	テキストp.84-92 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
8	行動変容技法と概念	行動変容技法(刺激統制、反応妨害・拮抗、行動置換、オペラント強化、認知再構成、意思決定バランス 目標宣言、行動契約、セルフモニタリング、自己効力感(セルフ・エフィカシー)、ストレスマネジメント、ソーシャルスキルトレーニング、ナッジ)を学ぶ	テキストp.72-76 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
9	組織づくり・地域づくりへの展開	集団・組織・地域にかかわる理論や概念を学ぶ	テキストp.77-83 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
10	栄養教育と食環境づくりとの関連	食環境整備が食行動の変容に必要であることを学ぶ	テキストp.65-6977-83 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
11	栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル	栄養教育マネジメントで活用する理論・モデル(プリシード・プロシードモデル、ソーシャルマーケティング)、栄養教育マネジメントサイクル(PDCA)について学ぶ	テキストp.47-49、79 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
12	栄養教育のアセスメント	アセスメントの種類とアセスメント方法を学ぶ	テキストp.49-51 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
13	栄養教育の目標設定、計画立案	目標の種類と目標設定の方法及び、計画立案、学修形態と教材の種類、選択方法を学ぶ	テキストp.57、94-104 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
14	栄養教育プログラムの実施、評価	栄養教育プログラムの実施、評価の種類と方法を学ぶ	テキストp.62-63 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	栄養教育のまとめ	授業の振り返りをする	テキストp.2-111 事前学修として授業範囲 に関連する教科書や書物 を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に 示した重要ポイントを中心 に授業内容をまとめて おく(2時間)

開講科目名 Course	栄養教育論II(1組)
時間割コード Course Code	53715
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	山岡 由理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 2 D 栄養教育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山岡 由理子 (管理栄養学科)
授業の目標	多様な場(セッティング)におけるライフステージ別の栄養教育の場と方法について説明できるようになることを目指す <学習成果> 知識・理解の領域 栄養教育における学習者の発達段階やライフスタイルなどの特徴を説明することができる 技能の領域 発達段階に応じた栄養教育のポイントを踏まえ、栄養教育に応用する視点をもつことができる 態度・志向性の領域 QOLを高めるための栄養教育にかかわる環境づくりや支援体制について自分の意見をのべることができる
授業の概要	各ライフステージの特徴や背景などを理解し、栄養・健康課題を学び知る。各ライフステージの対象に適したアセスメント内容や教材学習形態を学ぶ。行動変容技法やマネジメントサイクルに基づき、多様な場における栄養教育を実践できるようになる この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること
評価方法	参加姿勢 20% 定期テスト 80%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が 10 回に満たない場合
授業計画	1 理論や技法を応用した栄養課養育の展開の概説、オリエンテーション 2 妊娠期の栄養教育の特徴 3 授乳期の栄養教育の特徴 4 乳児期の栄養教育の特徴 5 幼児期の栄養教育の特徴 6 学童期の栄養教育の特徴 7 思春期の栄養教育の特徴 8 成人期の栄養教育の特徴 9 傷病者の栄養教育の特徴 10 障がい者の栄養教育の特徴 11 災害時・非常時の栄養教育 12 高齢期の栄養教育 自立している高齢者 13 高齢期の栄養教育 要介護高齢者 14 栄養と環境に配慮した栄養教育の展開 15 多様な場におけるライフステージ別の栄養教育の展開のまとめ 詳細は授業計画詳細情報を参照のこと



テキスト	笠原賀子・斎藤トシ子編『栄養科学シリーズNEXT 「栄養教育論 第4版」』講談社、2022年 ISBN : 978-4-06-155398-9
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	管理栄養士としてクリニック、在宅、老健入所・通所において栄養管理・栄養指導の実務経験を有する教員が、栄養教育の実践的な教育を行う科目である
質問への対応方法	授業後に対応
フィードバックの方法	次回授業時
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義2単位の場合、60時間の準備学習を必要とする
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	理論や技法を応用した栄養課養育の展開の概説、オリエンテーション	本科目の説明と授業の進め方を確認する	事前学修として栄養教育論Iで学んだことを事前に確認しておく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
2	妊娠期の栄養教育の特徴	妊婦を対象とした栄養教育の場と方法について学ぶ	テキストp.114-118 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
3	授乳期の栄養教育の特徴	授乳婦を対象とした栄養教育の場と方法について学ぶ	テキストp.118-122 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
4	乳児期の栄養教育の特徴	新生児・乳児を対象とした栄養教育の場と方法について学ぶ	テキストp.123-125 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
5	幼児期の栄養教育の特徴	保育所・認定こども園・幼稚園における栄養教育の展開について学ぶ	テキストp.126-130 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
6	学童期の栄養教育の特徴	小学校における栄養教育の展開について学ぶ	テキストp.131-138 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
7	思春期の栄養教育の特徴	中学校・高等学校における栄養教育の展開について学ぶ	テキストp.139-145 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
8	成人期の栄養教育の特徴	地域職域における栄養教育の展開について学ぶ。(肥満・痩せ)	テキストp.146-153 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
9	傷病者の栄養教育の特徴	地域職域における栄養教育の展開について学ぶ。(糖尿病)	テキストp.163-167 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
10	障がい者の栄養教育の特徴	地域職域における栄養教育の展開について学ぶ。(ノーマライゼーションと栄養教育)	テキストp.167-171 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
11	災害時・非常時の栄養教育	地域職域における災害時・非常時の栄養教育及び外国人に対する栄養教育の展開について学ぶ	テキストp.153-155、172 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
12	高齢期の栄養教育 自立高齢者	高齢者、福祉施設や在宅介護の場における栄養教育の展開について学ぶ。(自立高齢者)	テキストp.156-159 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
13	高齢期の栄養教育 要介護高齢者	高齢者、福祉施設や在宅介護の場における栄養教育の展開について学ぶ。(要介護高齢者)	テキストp.159-162 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
14	栄養と環境に配慮した栄養教育の展開	地球の食を考える。持続可能な食生活について学ぶ。(食品ロス・世界の栄養不足)	事前学修として授業範囲に関連する書物や新聞等を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	多様な場におけるライフステージ別の栄養教育の展開のまとめ	多様な場におけるライフステージ別の栄養教育を振り返る	事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)

開講科目名 Course	栄養教育論II(2組)
時間割コード Course Code	53716
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	山岡 由理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 2 D 栄養教育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山岡 由理子 (管理栄養学科)
授業の目標	多様な場(セッティング)におけるライフステージ別の栄養教育の場と方法について説明できるようになることを目指す <学習成果> 知識・理解の領域 栄養教育における学習者の発達段階やライフスタイルなどの特徴を説明することができる 技能の領域 発達段階に応じた栄養教育のポイントを踏まえ、栄養教育に応用する視点をもつことができる 態度・志向性の領域 QOLを高めるための栄養教育にかかわる環境づくりや支援体制について自分の意見をのべることができる
授業の概要	各ライフステージの特徴や背景などを理解し、栄養・健康課題を学び知る。各ライフステージの対象に適したアセスメント内容や教材学習形態を学ぶ。行動変容技法やマネジメントサイクルに基づき、多様な場における栄養教育を実践できるようになる この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること
評価方法	参加姿勢 20% 定期テスト 80%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が 10 回に満たない場合
授業計画	1 理論や技法を応用した栄養課養育の展開の概説、オリエンテーション 2 妊娠期の栄養教育の特徴 3 授乳期の栄養教育の特徴 4 乳児期の栄養教育の特徴 5 幼児期の栄養教育の特徴 6 学童期の栄養教育の特徴 7 思春期の栄養教育の特徴 8 成人期の栄養教育の特徴 9 傷病者の栄養教育の特徴 10 障がい者の栄養教育の特徴 11 災害時・非常時の栄養教育 12 高齢期の栄養教育 自立している高齢者 13 高齢期の栄養教育 要介護高齢者 14 栄養と環境に配慮した栄養教育の展開 15 多様な場におけるライフステージ別の栄養教育の展開のまとめ 詳細は授業計画詳細情報を参照のこと

テキスト	笠原賀子・斎藤トシ子編『栄養科学シリーズNEXT 「栄養教育論 第4版」』講談社、2022年 ISBN : 978-4-06-155398-9
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	管理栄養士としてクリニック、在宅、老健入所・通所において栄養管理・栄養指導の実務経験を有する教員が、栄養教育の実践的な教育を行う科目である
質問への対応方法	授業後に対応
フィードバックの方法	次回授業時
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義2単位の場合、60時間の準備学習を必要とする
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	理論や技法を応用した栄養課養育の展開の概説、オリエンテーション	本科目の説明と授業の進め方を確認する	事前学修として栄養教育論Iで学んだことを事前に確認しておく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
2	妊娠期の栄養教育の特徴	妊婦を対象とした栄養教育の場と方法について学ぶ	テキストp.114-118 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
3	授乳期の栄養教育の特徴	授乳婦を対象とした栄養教育の場と方法について学ぶ	テキストp.118-122 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
4	乳児期の栄養教育の特徴	新生児・乳児を対象とした栄養教育の場と方法について学ぶ	テキストp.123-125 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
5	幼児期の栄養教育の特徴	保育所・認定こども園・幼稚園における栄養教育の展開について学ぶ	テキストp.126-130 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
6	学童期の栄養教育の特徴	小学校における栄養教育の展開について学ぶ	テキストp.131-138 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
7	思春期の栄養教育の特徴	中学校・高等学校における栄養教育の展開について学ぶ	テキストp.139-145 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
8	成人期の栄養教育の特徴	地域職域における栄養教育の展開について学ぶ。(肥満・痩せ)	テキストp.146-153 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
9	傷病者の栄養教育の特徴	地域職域における栄養教育の展開について学ぶ。(糖尿病)	テキストp.163-167 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
10	障がい者の栄養教育の特徴	地域職域における栄養教育の展開について学ぶ。(ノーマライゼーションと栄養教育)	テキストp.167-171 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
11	災害時・非常時の栄養教育	地域職域における災害時・非常時の栄養教育及び外国人に対する栄養教育の展開について学ぶ	テキストp.153-155、172 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
12	高齢期の栄養教育 自立高齢者	高齢者、福祉施設や在宅介護の場における栄養教育の展開について学ぶ。(自立高齢者)	テキストp.156-159 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
13	高齢期の栄養教育 要介護高齢者	高齢者、福祉施設や在宅介護の場における栄養教育の展開について学ぶ。(要介護高齢者)	テキストp.159-162 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
14	栄養と環境に配慮した栄養教育の展開	地球の食を考える。持続可能な食生活について学ぶ。(食品ロス・世界の栄養不足)	事前学修として授業範囲に関連する書物や新聞等を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	多様な場におけるライフステージ別の栄養教育の展開のまとめ	多様な場におけるライフステージ別の栄養教育を振り返る	事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)

開講科目名 Course	栄養教育論実習I(1組)
時間割コード Course Code	53770
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1, 木 / Thu 2, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	山岡 由理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 2 D 栄養教育実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山岡 由理子 (管理栄養学科)
授業の目標	この実習では、栄養教育における対象者に応じた栄養アセスメント、教材・媒体について知識を深め、教材を作成、討論を経験しスキルの習得を目指す <学習成果> 知識・理解の領域 栄養アセスメントから得た情報や問題点を抽出して、栄養指導計画へと発展させていくことができる 技能の領域 栄養教育をすすめるための集団討議の方法、効果的なリーフレット作成に必要な技術が分かる 態度・志向性の領域 授業に積極的に取り組み、管理栄養士としての資質を高める
授業の概要	栄養教育プログラム（計画の立案、指導媒体の作成、発表、評価）の一連の流れを学ぶ この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること
評価方法	参加姿勢 30% 実習課題 70%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が2/3に満たない場合
授業計画	1 栄養教育の方法、オリエンテーション 2 情報収集の方法、教育媒体の種類 3 栄養教育計画の立案、指導案の作成 4 指導案の作成、媒体作成 5 媒体作成 6 媒体作成、リハーサル 7 模擬栄養指導と評価：前半（媒体を活用したプレゼンテーション） 8 模擬栄養指導と評価：後半（媒体を活用したプレゼンテーション）
テキスト	指定しない
参考書	笠原賀子・斎藤トシ子編『栄養科学シリーズNEXT 「栄養教育論 第4版」』講談社、2022年 ISBN：978-4-06-155398-9
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	栄養教育の立案、指導案を作成し、伝える方法を考え、適した媒体を作成する。作成した媒体を用いてプレゼンテーションを実施する
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	管理栄養士としてクリニック、在宅、老健入所・通所において栄養管理・栄養指導の実務経験を有する教員が、栄養教育の実践的な教育を行う科目である

質問への対応方法	授業後に対応
フィードバックの方法	次回授業時
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	実習1単位の場合、15時間の準備学習を必要とする
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	栄養教育の方法、オリエンテーション	本科目の説明と授業の進め方を確認する	事前学修として栄養教育論で学んだことを事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
2	情報収集の方法、教育媒体の種類	栄養教育に必要な情報収集と適した媒体の種類を学ぶ	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
3	栄養教育計画の立案、指導案の作成	栄養教育計画の立案及び指導案の作成ができるようになる	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
4	指導案の作成、媒体作成	栄養教育計画の立案及び指導案の作成ができるようになる	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
5	媒体作成	栄養教育に適した媒体を作成する	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
6	媒体作成、リハーサル	栄養教育に適した媒体を作成する。プレゼンテーションの練習をする	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
7	模擬栄養指導と評価：前半(媒体を活用したプレゼンテーション)	プレゼンテーションを実施し、評価する	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
8	模擬栄養指導と評価：後半(媒体を活用したプレゼンテーション)	プレゼンテーションを実施し、評価する	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)

開講科目名 Course	栄養教育論実習I(2組)
時間割コード Course Code	53771
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1, 木 / Thu 2, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	山岡 由理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 2 D 栄養教育実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山岡 由理子 (管理栄養学科)
授業の目標	この実習では、栄養教育における対象者に応じた栄養アセスメント、教材・媒体について知識を深め、教材を作成、討論を経験しスキルの習得を目指す <学習成果> 知識・理解の領域 栄養アセスメントから得た情報や問題点を抽出して、栄養指導計画へと発展させていくことができる 技能の領域 栄養教育をすすめるための集団討議の方法、効果的なリーフレット作成に必要な技術が分かる 態度・志向性の領域 授業に積極的に取り組み、管理栄養士としての資質を高める
授業の概要	栄養教育プログラム（計画の立案、指導媒体の作成、発表、評価）の一連の流れを学ぶ この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること
評価方法	参加姿勢 30% 実習課題 70%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が2/3に満たない場合
授業計画	1 栄養教育の方法、オリエンテーション 2 情報収集の方法、教育媒体の種類 3 栄養教育計画の立案、指導案の作成 4 指導案の作成、媒体作成 5 媒体作成 6 媒体作成、リハーサル 7 模擬栄養指導と評価：前半（媒体を活用したプレゼンテーション） 8 模擬栄養指導と評価：後半（媒体を活用したプレゼンテーション）
テキスト	指定しない
参考書	笠原賀子・斎藤トシ子編『栄養科学シリーズNEXT 「栄養教育論 第4版」』講談社、2022年 ISBN：978-4-06-155398-9
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	栄養教育の立案、指導案を作成し、伝える方法を考え、適した媒体を作成する。作成した媒体を用いてプレゼンテーションを実施する
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	管理栄養士としてクリニック、在宅、老健入所・通所において栄養管理・栄養指導の実務経験を有する教員が、栄養教育の実践的な教育を行う科目である

質問への対応方法	授業後に対応
フィードバックの方法	次回授業時
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	実習1単位の場合、15時間の準備学習を必要とする
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	栄養教育の方法、オリエンテーション	本科目の説明と授業の進め方を確認する	事前学修として栄養教育論で学んだことを事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
2	情報収集の方法、教育媒体の種類	栄養教育に必要な情報収集と適した媒体の種類を学ぶ	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
3	栄養教育計画の立案、指導案の作成	栄養教育計画の立案及び指導案の作成ができるようになる	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
4	指導案の作成、媒体作成	栄養教育計画の立案及び指導案の作成ができるようになる	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
5	媒体作成	栄養教育に適した媒体を作成する	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
6	媒体作成、リハーサル	栄養教育に適した媒体を作成する。プレゼンテーションの練習をする	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
7	模擬栄養指導と評価：前半(媒体を活用したプレゼンテーション)	プレゼンテーションを実施し、評価する	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
8	模擬栄養指導と評価：後半(媒体を活用したプレゼンテーション)	プレゼンテーションを実施し、評価する	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)

開講科目名 Course	栄養教育論実習II(1組)
時間割コード Course Code	53775
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1, 木 / Thu 2, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	山岡 由理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 2 D 栄養教育実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山岡 由理子 (管理栄養学科)
授業の目標	現場での栄養教育を想定し、集団に応じた情報源、媒体、学習方法、学習形態について、スキルを使って模擬栄養教育を行うことで管理栄養士の心構えを理解する <学習成果> 知識・理解の領域 栄養教育のイメージを描き、マネジメントサイクルに沿った栄養教育を提案できる 技能の領域 模擬栄養教育の体験を行動変容の視点から考察できる 態度・志向性の領域 模擬栄養教育の企画に自ら取り組める
授業の概要	集団を対象にした栄養教育プログラムの立案をグループごとに実施する。食生活と健康づくり対策を踏まえた栄養指導計画の作成、指導媒体の作成及び評価法を検討・企画する。最後に企画した栄養教育実施計画に基づき指導媒体を活用して模擬授業を実施し、評価をする この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること
評価方法	参加姿勢 30% 実習課題 70%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が2/3に満たない場合
授業計画	1 栄養教育の方法、オリエンテーション 2 情報収集の方法、教育媒体の種類 3 栄養教育計画の立案、指導案の作成 4 指導案の作成、媒体作成 5 媒体作成 6 媒体作成、リハーサル 7 模擬栄養指導と評価：前半（媒体を活用したプレゼンテーション） 8 模擬栄養指導と評価：後半（媒体を活用したプレゼンテーション）
テキスト	笠原賀子・斎藤トシ子編『栄養科学シリーズNEXT 「栄養教育論 第4版」』講談社、2022年 ISBN：978-4-06-155398-9)
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ライフステージにおける健康課題の解決に向けて、グループ活動をする。グループ毎に異なる健康課題について、情報収集・プログラム計画を作成する。指導案を作成し栄養教育を授業内で実践発表する
実務経験のある担当教員による授業	該当する



担当教員の実務経験を活かした授業の内容	管理栄養士としてクリニック、在宅、老健入所・通所において栄養管理・栄養指導の実務経験を有する教員が、栄養教育の実践的な教育を行う科目である
質問への対応方法	授業後に対応
フィードバックの方法	次回授業時
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	実習1単位の場合、15時間の準備学習を必要とする
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	栄養教育の方法、オリエンテーション	本科目の説明と授業の進め方を確認する	事前学修として栄養教育論で学んだことを事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
2	情報収集の方法、教育媒体の種類	栄養教育に必要な情報収集と適した媒体の種類を学ぶ	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
3	栄養教育計画の立案、指導案の作成	栄養教育計画の立案及び指導案の作成ができるようになる	前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
4	指導案の作成、媒体作成	栄養教育計画の立案及び指導案の作成ができるようになる	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
5	媒体作成	栄養教育に適した媒体を作成する	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
6	媒体作成、リハーサル	栄養教育に適した媒体を作成する。プレゼンテーションの練習をする	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
7	模擬栄養指導と評価：前半(媒体を活用したプレゼンテーション)	プレゼンテーションを実施し、評価する	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
8	模擬栄養指導と評価：後半(媒体を活用したプレゼンテーション)	プレゼンテーションを実施し、評価する	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)

開講科目名 Course	栄養教育論実習II(2組)
時間割コード Course Code	53776
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1, 木 / Thu 2, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	山岡 由理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 2 D 栄養教育実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山岡 由理子 (管理栄養学科)
授業の目標	現場での栄養教育を想定し、集団に応じた情報源、媒体、学習方法、学習形態について、スキルを使って模擬栄養教育を行うことで管理栄養士の心構えを理解する <学習成果> 知識・理解の領域 栄養教育のイメージを描き、マネジメントサイクルに沿った栄養教育を提案できる 技能の領域 模擬栄養教育の体験を行動変容の視点から考察できる 態度・志向性の領域 模擬栄養教育の企画に自ら取り組める
授業の概要	集団を対象にした栄養教育プログラムの立案をグループごとに実施する。食生活と健康づくり対策を踏まえた栄養指導計画の作成、指導媒体の作成及び評価法を検討・企画する。最後に企画した栄養教育実施計画に基づき指導媒体を活用して模擬授業を実施し、評価をする この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること
評価方法	参加姿勢 30% 実習課題 70%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が2/3に満たない場合
授業計画	1 栄養教育の方法、オリエンテーション 2 情報収集の方法、教育媒体の種類 3 栄養教育計画の立案、指導案の作成 4 指導案の作成、媒体作成 5 媒体作成 6 媒体作成、リハーサル 7 模擬栄養指導と評価：前半（媒体を活用したプレゼンテーション） 8 模擬栄養指導と評価：後半（媒体を活用したプレゼンテーション）
テキスト	指定しない
参考書	笠原賀子・斎藤トシ子編『栄養科学シリーズNEXT 「栄養教育論 第4版」』講談社、2022年 ISBN : 978-4-06-155398-9)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ライフステージにおける健康課題の解決に向けて、グループ活動をする。グループ毎に異なる健康課題について、情報収集・プログラム計画を作成する。指導案を作成し栄養教育を授業内で実践発表する
実務経験のある担当教員による授業	該当する

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	管理栄養士としてクリニック、在宅、老健入所・通所において栄養管理・栄養指導の実務経験を有する教員が、栄養教育の実践的な教育を行う科目である
質問への対応方法	授業後に対応
フィードバックの方法	次回授業時
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	実習1単位の場合、15時間の準備学習を必要とする
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	栄養教育の方法、オリエンテーション	本科目の説明と授業の進め方を確認する	事前学修として栄養教育論で学んだことを事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
2	情報収集の方法、教育媒体の種類	栄養教育に必要な情報収集と適した媒体の種類を学ぶ	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
3	栄養教育計画の立案、指導案の作成	栄養教育計画の立案及び指導案の作成ができるようになる	前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
4	指導案の作成、媒体作成	栄養教育計画の立案及び指導案の作成ができるようになる	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
5	媒体作成	栄養教育に適した媒体を作成する	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
6	媒体作成、リハーサル	栄養教育に適した媒体を作成する。プレゼンテーションの練習をする	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
7	模擬栄養指導と評価：前半(媒体を活用したプレゼンテーション)	プレゼンテーションを実施し、評価する	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
8	模擬栄養指導と評価：後半(媒体を活用したプレゼンテーション)	プレゼンテーションを実施し、評価する	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)

開講科目名 Course	栄養教育論演習(1組)
時間割コード Course Code	53785
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2, 火 / Tue 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	山岡 由理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 2 D 栄養教育実習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山岡 由理子 (管理栄養学科)
授業の目標	この演習では、栄養教育カウンセリングのためのスキルや心構えを習得することを目指す <学習成果> 知識・理解の領域 カウンセリングの基本を理解し、栄養教育でどのように使うか説明することができる 技能の領域 傾聴を基本した観点から栄養カウンセリングを評価できる 態度・志向性の領域 栄養カウンセリングにおける管理栄養士として姿について自ら意見を述べるができる
授業の概要	食行動の変容のためには、行動科学の理解とカウンセリングの活用が必要である。栄養カウンセリングのスキルや心がまえを習得するために、ペア及びグループワークを中心に傾聴を基本とした栄養カウンセリングを総合的に学ぶ この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること
評価方法	参加姿勢 30% 演習課題 70%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が 10回に満たない場合
授業計画	1 栄養カウンセリングの概要、オリエンテーション 2 栄養カウンセリングの基本的技法（傾聴・受容・要約・開かれた質問）：演習 3 行動変容の準備性に応じた栄養カウンセリング：演習 4 ライフステージ別栄養カウンセリング：演習準備 5 ライフステージ別栄養カウンセリング：演習 6 臨床の場における栄養カウンセリング：初回面接 7 臨床の場における栄養カウンセリング：退院前面接 8 電話や電子メールによる支援
テキスト	赤松利恵、永井成美著『栄養カウンセリング論』化学同人、2021年 ISBN：978-4-7598-1614-3
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	カウンセリング技法の演習は、グループワーク学習とする
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	管理栄養士としてクリニック、在宅、老健入所・通所において栄養カウンセリングの実務経験を有する教員が、栄養カウンセリングの実践的な教育を行う科目である
質問への対応方法	授業後に対応

フィードバックの方法	次回授業時
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	演習 2 単位の場合、60時間の準備学習を必要とする
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	栄養カウンセリングの概要、オリエンテーション	本科目の説明と授業の進め方を確認する	事前学修として栄養教育論で学んだことを事前に確認しておく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
2	栄養カウンセリングの基本的技法(傾聴・受容・要約・開かれた質問):演習	栄養カウンセリングの基本的技法(傾聴・受容・要約・開かれた質問)を用いた模擬演習を通してスキルを習得する	テキストp.10-16 事前学修として授業範囲の教科書を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
3	行動変容の準備性に応じた栄養カウンセリング:演習	行動変容の準備性に応じた対応を学ぶ	テキストp.45-53 事前学修として授業範囲の教科書を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
4	ライフステージ別栄養カウンセリング:演習準備	ライフステージ別の事例から、グループごとにカウンセリング計画を立てる	テキストp.56-76 事前学修として授業範囲の教科書を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
5	ライフステージ別栄養カウンセリング:演習	グループごとに模擬カウンセリングを発表する	テキストp.56-76 事前学修として授業範囲の教科書を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
6	臨床における栄養カウンセリング:初回面接	グループごとに「入院患者への初回面接」のロールプレイングをする	テキストp.77-94 事前学修として授業範囲の教科書を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
7	臨床における栄養カウンセリング:退院前面接	グループごとに「退院患者への退院前面接」のロールプレイングをする	テキストp.77-94 事前学修として授業範囲の教科書を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
8	電話や電子メールによる支援	電話や電子メールを用いた栄養カウンセリングを学ぶ	テキストp.107-121 事前学修として授業範囲の教科書を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)

開講科目名 Course	栄養教育論演習(2組)
時間割コード Course Code	53786
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2, 火 / Tue 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	山岡 由理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 2 D 栄養教育実習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山岡 由理子 (管理栄養学科)
授業の目標	この演習では、栄養教育カウンセリングのためのスキルや心構えを習得することを目指す <学習成果> 知識・理解の領域 カウンセリングの基本を理解し、栄養教育でどのように使うか説明することができる 技能の領域 傾聴を基本した観点から栄養カウンセリングを評価できる 態度・志向性の領域 栄養カウンセリングにおける管理栄養士として姿について自ら意見を述べるができる
授業の概要	食行動の変容のためには、行動科学の理解とカウンセリングの活用が必要である。栄養カウンセリングのスキルや心がまえを習得するために、ペア及びグループワークを中心に傾聴を基本とした栄養カウンセリングを総合的に学ぶ この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること
評価方法	参加姿勢 30% 演習課題 70%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が 10回に満たない場合
授業計画	1 栄養カウンセリングの概要、オリエンテーション 2 栄養カウンセリングの基本的技法(傾聴・受容・要約・開かれた質問): 演習 3 行動変容の準備性に応じた栄養カウンセリング: 演習 4 ライフステージ別栄養カウンセリング: 演習準備 5 ライフステージ別栄養カウンセリング: 演習 6 臨床の場における栄養カウンセリング: 初回面接 7 臨床の場における栄養カウンセリング: 退院前面接 8 電話や電子メールによる支援
テキスト	赤松利恵・永井成美著『栄養カウンセリング論』化学同人 ISBN: 978-4-7598-1614-3
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	カウンセリング技法の演習は、グループワーク学習とする
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	管理栄養士としてクリニック、在宅、老健入所・通所において栄養カウンセリングの実務経験を有する教員が、栄養カウンセリングの実践的な教育を行う科目である

質問への対応方法	授業後に対応
フィードバックの方法	次回授業時
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	演習 2 単位の場合、60時間の準備学習を必要とする
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	栄養カウンセリングの概要、オリエンテーション	本科目の説明と授業の進め方を確認する	事前学修として栄養教育論で学んだことを事前に確認しておく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
2	栄養カウンセリングの基本的技法(傾聴・受容・要約・開かれた質問):演習	栄養カウンセリングの基本的技法(傾聴・受容・要約・開かれた質問)を用いた模擬演習を通してスキルを習得する	テキストp.10-16 事前学修として授業範囲の教科書を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
3	行動変容の準備性に応じた栄養カウンセリング:演習	行動変容の準備性に応じた対応を学ぶ	テキストp.45-53 事前学修として授業範囲の教科書を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
4	ライフステージ別栄養カウンセリング:演習準備	ライフステージ別の事例から、グループごとにカウンセリング計画を立てる	テキストp.56-76 事前学修として授業範囲の教科書を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
5	ライフステージ別栄養カウンセリング:演習	グループごとに模擬カウンセリングを発表する	テキストp.56-76 事前学修として授業範囲の教科書を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
6	臨床における栄養カウンセリング:初回面接	グループごとに「入院患者への初回面接」のロールプレイングをする	テキストp.77-94 事前学修として授業範囲の教科書を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
7	臨床における栄養カウンセリング:退院前面接	グループごとに「退院患者への退院前面接」のロールプレイングをする	テキストp.77-94 事前学修として授業範囲の教科書を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
8	電話や電子メールによる支援	電話や電子メールを用いた栄養カウンセリングを学ぶ	テキストp.107-121 事前学修として授業範囲の教科書を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)

開講科目名 Course	臨床栄養学I(2組)
時間割コード Course Code	53800
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 5
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	夏目 有紀枝
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	夏目 有紀枝 (管理栄養学科)
授業の目標	臨床栄養学は人体の構造、機能および疾病を理解した上で、傷病者への栄養食事療法の対応について明らかにする学問です。この授業では、低下した生体防御機能を回復させ、残存機能を向上させることによって、疾病回復を図るための臨床栄養学的対応について理解を深めるための基本的な知識の習得を目標とします。栄養管理によって人々の健康をサポートできることを実感し、管理栄養士への意欲を高めることも期待します。
授業の概要	臨床栄養ケアの基礎、栄養アセスメント、栄養ケアプラン、診療報酬や介護報酬について学びます。多職種のスタッフで支え合う臨床現場において、管理栄養士が求められる役割についても理解を深めることを目指します。また、バイタルサインの解釈、病的な症状、栄養補給法、食物と薬物の相互作用など、現場で、あるいは臨地実習の準備としても役立つ知識を習得していきます。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	中間テスト (30%、授業時間内に実施) および期末テスト (70%) により評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合
授業計画	第01回：臨床栄養学の基礎 第02回：チーム医療、在宅医療 (NST、クリニカルパス、医療保険制度) 第03回：チーム医療、在宅医療 (医療倫理、福祉・介護と在宅医療) 第04回：栄養ケアマネジメントの概要 第05回：栄養アセスメント (栄養スクリーニング、フィジカルアセスメント) 第06回：栄養アセスメント (臨床検査) 第07回：栄養アセスメント (身体計測、食生活状況の把握、栄養アセスメント) 第08回：栄養ケア計画のプロセス 第09回：中間テスト、食事療法、栄養補給の方法 (栄養補給の選択) 第10回：食事療法、栄養補給の方法 (経口・経腸栄養補給) 第11回：食事療法、栄養補給の方法 (経腸栄養・経静脈栄養補給) 第12回：食事療法、栄養補給の方法 (経静脈栄養補給) 第13回：薬と栄養・食物の相互作用 第14回：薬と栄養・食物の相互作用 第15回：栄養ケアの記録
テキスト	栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学基礎編 (羊土社)

参考書	栄養アセスメントに役立つ臨床検査値の読み方考え方ケーススタディ 第2版演習問題付き（医歯薬出版） 改定6版 臨床栄養ディクショナリー（メディカ出版） 糖尿病食事療法のための食品交換表（文光堂） エッセンシャル臨床栄養学（医歯薬出版）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	クリニックで外来栄養指導経験を有する教員が、栄養アセスメント指標の見方や、糖尿病、高血圧など生活習慣病の具体的な食事改善方法を指導する科目です。
質問への対応方法	質問は、授業後やメールなど、随時対応します。
フィードバックの方法	随時対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各授業の前後に2時間の予習と2時間の復習を課すものとします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	臨床栄養学I(1組)
時間割コード Course Code	53801
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	夏目 有紀枝
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 4 C 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	夏目 有紀枝(管理栄養学科)
授業の目標	臨床栄養学は人体の構造、機能および疾病を理解した上で、傷病者への栄養食事療法の対応について明らかにする学問です。この授業では、低下した生体防御機能を回復させ、残存機能を向上させることによって、疾病回復を図るための臨床栄養学的対応について理解を深めるための基本的な知識の習得を目標とします。栄養管理によって人々の健康をサポートできることを実感し、管理栄養士への意欲を高めることも期待します。
授業の概要	臨床栄養ケアの基礎、栄養アセスメント、栄養ケアプラン、診療報酬や介護報酬について学びます。多職種のスタッフで支え合う臨床現場において、管理栄養士が求められる役割についても理解を深めることを目指します。また、バイタルサインの解釈、病的な症状、栄養補給法、食物と薬物の相互作用など、現場で、あるいは臨地実習の準備としても役立つ知識を習得していきます。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	中間テスト(30%、授業時間内に実施)および期末テスト(70%)により評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合
授業計画	第01回：臨床栄養学の基礎 第02回：チーム医療、在宅医療(NST、クリニカルパス、医療保険制度) 第03回：チーム医療、在宅医療(医療倫理、福祉・介護と在宅医療) 第04回：栄養ケアマネジメントの概要 第05回：栄養アセスメント(栄養スクリーニング、フィジカルアセスメント) 第06回：栄養アセスメント(臨床検査) 第07回：栄養アセスメント(身体計測、食生活状況の把握、栄養アセスメント) 第08回：栄養ケア計画のプロセス 第09回：中間テスト、食事療法、栄養補給の方法(栄養補給の選択) 第10回：食事療法、栄養補給の方法(経口・経腸栄養補給) 第11回：食事療法、栄養補給の方法(経腸栄養・経静脈栄養補給) 第12回：食事療法、栄養補給の方法(経静脈栄養補給) 第13回：薬と栄養・食物の相互作用 第14回：薬と栄養・食物の相互作用 第15回：栄養ケアの記録
テキスト	栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学基礎編(羊土社)



参考書	栄養アセスメントに役立つ臨床検査値の読み方考え方ケーススタディ 第2版演習問題付き（医歯薬出版） 改定6版 臨床栄養ディクショナリー（メディカ出版） 糖尿病食事療法のための食品交換表（文光堂） エッセンシャル臨床栄養学（医歯薬出版）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	クリニックで外来栄養指導経験を有する教員が、栄養アセスメント指標の見方や、糖尿病、高血圧など生活習慣病の具体的な食事改善方法を指導する科目です。
質問への対応方法	質問は、授業後やメールなど、随時対応します。
フィードバックの方法	随時対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各授業の前後に2時間の予習と2時間の復習を課すものとします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	臨床栄養学II(1組)
時間割コード Course Code	53820
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	早川麻理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川麻理子 (管理栄養学科)
授業の目標	<p>栄養治療の意義を理解し、慢性期疾患における各病態の具体的な栄養治療法を修得することを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 生活習慣病の病態と治療指針が説明できる</p> <p>思考判断の領域 生活習慣病における食生活のリスクが判断できる</p> <p>関心意欲の領域 自身が健康的な食生活を実践し、家族や知人の食生活改善を支援する</p> <p>態度・志向性の領域 管理栄養士として働くことに誇りと責任を持ち、自ら進んで学習が深められるようになる</p> <p>技能の領域 栄養カウンセリング技法、栄養カルテの記録方法、栄養アセスメント、栄養診断、栄養処方、栄養治療計画など、慢性期疾患における栄養治療法のスキルが身につく</p> <p>体験探究の領域 食生活を変えることで生活習慣病が改善できることを日々の実生活の中で体験する</p>
授業の概要	<p>メタボリック症候群をはじめとする非感染性疾患 (noncommunicable diseases, NCD) の各疾患における原因や病態を理解し、各疾患に対する栄養診断、栄養治療法の知識について学習します。</p> <p>質問は授業後に対応します。</p>
評価方法	<p>以下の方法で総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加姿勢 20%</li> <li>・確認テスト 30%</li> <li>・定期テスト 50%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が 10 回に満たない場合

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 栄養治療の意義とNutrition Care Process (NCP)</li> <li>3. 栄養カウンセリング技法</li> <li>4. 栄養アセスメントと栄養診断</li> <li>5. SOAP記録法とPES記録法</li> <li>6. 栄養介入と栄養治療計画</li> <li>7. メタボリック症候群の栄養治療法（確認テスト1）</li> <li>8. 肥満症の栄養治療法</li> <li>9. 脂質異常症、高血圧症および動脈硬化症の栄養治療法</li> <li>10. 脂肪肝、肝硬変、慢性膵炎、胆のう炎の栄養治療法</li> <li>11. 糖尿病の栄養治療法（確認テスト2）</li> <li>12. 糖尿病の合併症と治療薬</li> <li>13. 腎臓病、高尿酸血症の栄養治療法</li> <li>14. 胃腸疾患の栄養治療</li> <li>15. 食物アレルギー、先天性代謝異常症の栄養治療法（確認テスト3）</li> </ol> <p>詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。</p>
テキスト	新・臨床栄養学 第2版（栄養科学シリーズNEXT）/講談社
参考書	美味しいダイエット革命 / 垂井日之出印刷所
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	病院やクリニックで栄養指導や入院栄養管理の経験を有し、管理栄養士や医師に対して指導的立場の教員が、高度肥満症や脂肪肝、糖尿病、慢性腎臓病など、慢性疾患に対する病態と効果的な栄養治療法の実践を具体的な事例に基づいて解説する科目です。
質問への対応方法	授業後、その他の時間帯はメール等で対応します（m-hayakawa@nagoya-ku.ac.jp）
フィードバックの方法	次回の授業開始時に返却および解説を行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義（2単位）週1コマ（30時間）にて、60時間の準備学習を必要とします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> <li>12. つくる責任つかう責任</li> <li>14. 海の豊かさを守ろう</li> <li>15. 陸の豊かさを守ろう</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	本科目の説明と進め方、医療現場で働く管理栄養士の心得について確認する	予習として1時間、医療現場で働く管理栄養士の役割について事前に確認しておく。
2	栄養治療の意義とNutrition Care Process (NCP)	食生活と疾病の関連性についてエビデンスを基に解説し、Nutrition Care Process (NCP)のステップを説明	予習として2時間、どのような食生活によってどのように健康が損なわれるのかを考えておく。
3	栄養カウンセリング技法	栄養カウンセリングにおけるコミュニケーションスキルとカウンセリングの手順について説明する	予習として2時間、コミュニケーションスキルについて調べておくといよい。
4	栄養アセスメントと栄養診断	どのような方法で栄養アセスメントに必要なデータを手にするのか、それをSOAPで記録する方法を述べる	復習として2時間、栄養アセスメントに必要なデータの基準値を覚え、SOAPを理解しておく。
5	SOAP記録法とPES記録法	栄養アセスメントから得られたデータから栄養問題を特定する方法とその記録方法(PES)について解説する	復習として2時間、PESで栄養診断が書けるようにしておく。
6	栄養介入と栄養治療計画	栄養診断を基に栄養処方を行う栄養治療計画の進め方と書き方、モニタリング、アウトカム評価について解説する	復習として3時間、栄養アセスメント、栄養診断について実践できるようにしておく。
7	メタボリック症候群の栄養治療法(確認テスト1)	第1回～第6回までの確認テスト。メタボリック症候群の原因、病態、治療方法、栄養問題、食生活の改善方法について解説する。	復習として2時間、第1～6回までの講義について振り返り確認テストの準備をする。予習として2時間、メタボリック症候群について調べておく。
8	肥満症の栄養治療法	肥満症の原因、病態、治療方法、栄養問題、食生活の改善方法について解説する。	予習として2時間、病態学で学んだ肥満症の診断基準と治療方法について学習しておく。
9	脂質異常症、高血圧症および動脈硬化症の栄養治療法	脂質異常症、高血圧症の原因、病態、治療方法、栄養問題、食生活の改善方法について解説する。	予習として2時間、病態学で学んだ脂質異常症、高血圧症の診断基準と治療方法について学習しておく。
10	脂肪肝、肝硬変、慢性膵炎、胆のう炎の栄養治療法	脂肪肝、肝硬変、慢性膵炎、胆のう炎の原因、病態、治療方法、栄養問題、食生活の改善方法について解説する。	復習として2時間、第7～10回までの講義について振り返り確認テストの準備をする。予習として2時間、病態学で学んだ脂肪肝、肝硬変、慢性膵炎、胆のう炎の診断基準と治療方法について学習しておく。
11	糖尿病の栄養治療法(確認テスト2)	糖尿病の原因、病態、治療方法、栄養問題、食生活の改善方法について解説する。	予習として2時間、病態学で学んだ糖尿病の診断基準と治療方法について学習しておく。
12	糖尿病の合併症と対策	糖尿病の合併症(細小血管症、大血管症、感染症)、シックデイ、ケトアシドーシスとその対策について解説する。	予習として2時間、病態学で学んだ糖尿病合併症について学習しておく。
13	腎臓病、高尿酸血症の栄養治療法	腎臓病、高尿酸血症の原因、病態、治療方法、栄養問題、食生活の改善方法について解説する。	予習として2時間、病態学で学んだ胃腸疾患の診断基準と治療方法について学習しておく。

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
14	胃腸疾患の栄養治療法	胃腸疾患の原因、病態、治療方法、栄養問題、食生活の改善方法について解説する。	予習として2時間、病態学で学んだ食物アレルギー、先天性代謝異常症の診断基準と治療方法について学習しておく。
15	食物アレルギー、先天性代謝異常症の栄養治療法(確認テスト3)	食物アレルギー、先天性代謝異常症の原因、病態、治療方法、栄養問題、食事療法について解説する。	復習として2時間、第11~14回までの講義について振り返り確認テストの準備をする。予習として2時間、病態学で学んだ老年症候群の診断基準と治療方法について学習しておく。

開講科目名 Course	臨床栄養学II(2組)
時間割コード Course Code	53821
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	早川麻理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 4 C 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川麻理子(管理栄養学科)
授業の目標	<p>栄養治療の意義を理解し、慢性期疾患における各病態の具体的な栄養治療法を修得することを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 生活習慣病の病態と治療指針が説明できる</p> <p>思考判断の領域 生活習慣病における食生活のリスクが判断できる</p> <p>関心意欲の領域 自身が健康的な食生活を実践し、家族や知人の食生活改善を支援する</p> <p>態度・志向性の領域 管理栄養士として働くことに誇りと責任を持ち、自ら進んで学習が深められるようになる</p> <p>技能の領域 栄養カウンセリング技法、栄養カルテの記録方法、栄養アセスメント、栄養診断、栄養処方、栄養治療計画など、慢性期疾患における栄養治療法のスキルが身につく</p> <p>体験探究の領域 食生活を変えることで生活習慣病が改善できることを日々の実生活の中で体験する</p>
授業の概要	<p>メタボリック症候群をはじめとする非感染性疾患(noncommunicable diseases, NCD)の各疾患における原因や病態を理解し、各疾患に対する栄養診断、栄養治療法の知識について学習します。</p> <p>質問は授業後に対応します。</p>
評価方法	<p>以下の方法で総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加姿勢 20%</li> <li>・確認テスト 30%</li> <li>・定期テスト 50%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が 10 回に満たない場合

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 栄養治療の意義とNutrition Care Process (NCP)</li> <li>3. 栄養カウンセリング技法</li> <li>4. 栄養アセスメントと栄養診断</li> <li>5. SOAP記録法とPES記録法</li> <li>6. 栄養介入と栄養治療計画</li> <li>7. メタボリック症候群の栄養治療法（確認テスト1）</li> <li>8. 肥満症の栄養治療法</li> <li>9. 脂質異常症、高血圧症および動脈硬化症の栄養治療法</li> <li>10. 脂肪肝、肝硬変、慢性膵炎、胆のう炎の栄養治療法</li> <li>11. 糖尿病の栄養治療法（確認テスト2）</li> <li>12. 糖尿病の合併症と治療薬</li> <li>13. 腎臓病、高尿酸血症の栄養治療法</li> <li>14. 胃腸疾患の栄養治療</li> <li>15. 食物アレルギー、先天性代謝異常症の栄養治療法（確認テスト3）</li> </ol> <p>詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。</p>
テキスト	新・臨床栄養学 第2版（栄養科学シリーズNEXT）/講談社
参考書	美味しいダイエット革命 / 垂井日之出印刷所
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	病院やクリニックで栄養指導や入院栄養管理の経験を有し、管理栄養士や医師に対して指導的立場の教員が、高度肥満症や脂肪肝、糖尿病、慢性腎臓病など、慢性疾患に対する病態と効果的な栄養治療法の実際を具体的な事例に基づいて解説する科目です。
質問への対応方法	授業後、その他の時間帯はメール等で対応します（m-hayakawa@nagoya-ku.ac.jp）
フィードバックの方法	次回の授業開始時に返却および解説を行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義（2単位）週1コマ（30時間）にて、60時間の準備学習を必要とします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> <li>12. つくる責任つかう責任</li> <li>14. 海の豊かさを守ろう</li> <li>15. 陸の豊かさを守ろう</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	本科目の説明と進め方、医療現場で働く管理栄養士の心得について確認する	予習として1時間、医療現場で働く管理栄養士の役割について事前に確認しておく。
2	栄養治療の意義とNutrition Care Process (NCP)	食生活と疾病の関連性についてエビデンスを基に解説し、Nutrition Care Process (NCP)のステップを説明	予習として2時間、どのような食生活によってどのように健康が損なわれるのかを考えておく。
3	栄養カウンセリング技法	栄養カウンセリングにおけるコミュニケーションスキルとカウンセリングの手順について説明する	予習として2時間、コミュニケーションスキルについて調べておくといよい。
4	栄養アセスメントと栄養診断	どのような方法で栄養アセスメントに必要なデータを手にするのか、それをSOAPで記録する方法を述べる	復習として2時間、栄養アセスメントに必要なデータの基準値を覚え、SOAPを理解しておく。
5	SOAP記録法とPES記録法	栄養アセスメントから得られたデータから栄養問題を特定する方法とその記録方法(PES)について解説する	復習として2時間、PESで栄養診断が書けるようにしておく。
6	栄養介入と栄養治療計画	栄養診断を基に栄養処方を行う栄養治療計画の進め方と書き方、モニタリング、アウトカム評価について解説する	復習として3時間、栄養アセスメント、栄養診断について実践できるようにしておく。
7	メタボリック症候群の栄養治療法(確認テスト1)	第1回～第6回までの確認テスト。メタボリック症候群の原因、病態、治療方法、栄養問題、食生活の改善方法について解説する。	復習として2時間、第1～6回までの講義について振り返り確認テストの準備をする。予習として2時間、メタボリック症候群について調べておく。
8	肥満症の栄養治療法	肥満症の原因、病態、治療方法、栄養問題、食生活の改善方法について解説する。	予習として2時間、病態学で学んだ肥満症の診断基準と治療方法について学習しておく。
9	脂質異常症、高血圧症および動脈硬化症の栄養治療法	脂質異常症、高血圧症の原因、病態、治療方法、栄養問題、食生活の改善方法について解説する。	予習として2時間、病態学で学んだ脂質異常症、高血圧症の診断基準と治療方法について学習しておく。
10	脂肪肝、肝硬変、慢性膵炎、胆のう炎の栄養治療法	脂肪肝、肝硬変、慢性膵炎、胆のう炎の原因、病態、治療方法、栄養問題、食生活の改善方法について解説する。	復習として2時間、第7～10回までの講義について振り返り確認テストの準備をする。予習として2時間、病態学で学んだ脂肪肝、肝硬変、慢性膵炎、胆のう炎の診断基準と治療方法について学習しておく。
11	糖尿病の栄養治療法(確認テスト2)	糖尿病の原因、病態、治療方法、栄養問題、食生活の改善方法について解説する。	予習として2時間、病態学で学んだ糖尿病の診断基準と治療方法について学習しておく。
12	糖尿病の合併症と対策	糖尿病の合併症(細小血管症、大血管症、感染症)、シックデイ、ケトアシドーシスとその対策について解説する。	予習として2時間、病態学で学んだ糖尿病合併症について学習しておく。
13	腎臓病、高尿酸血症の栄養治療法	腎臓病、高尿酸血症の原因、病態、治療方法、栄養問題、食生活の改善方法について解説する。	予習として2時間、病態学で学んだ胃腸疾患の診断基準と治療方法について学習しておく。



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
14	胃腸疾患の栄養治療法	胃腸疾患の原因、病態、治療方法、栄養問題、食生活の改善方法について解説する。	予習として2時間、病態学で学んだ食物アレルギー、先天性代謝異常症の診断基準と治療方法について学習しておく。
15	食物アレルギー、先天性代謝異常症の栄養治療法(確認テスト3)	食物アレルギー、先天性代謝異常症の原因、病態、治療方法、栄養問題、食事療法について解説する。	復習として2時間、第11~14回までの講義について振り返り確認テストの準備をする。予習として2時間、病態学で学んだ老年症候群の診断基準と治療方法について学習しておく。

開講科目名 Course	臨床栄養学III(1組)
時間割コード Course Code	53840
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	早川麻理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川麻理子 (管理栄養学科)
授業の目標	<p>チーム医療の意義を理解し、人工栄養法（経腸栄養法，静脈栄養法）の適応と急性期や終末期などの特殊病態下における適切な栄養管理ができるようになることを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 急性期疾患の病態と栄養補給法（経口、経腸、静脈）が説明できる</p> <p>思考判断の領域 急性期疾患における栄養管理のリスクが判断できる</p> <p>関心意欲の領域 チーム医療における管理栄養士の役割について関心が深まる</p> <p>態度・志向性の領域 医療に携わる管理栄養士としての責任感が高まり意欲的に取り組む</p> <p>技能の領域 経腸栄養法や静脈栄養法など、特殊な病態下にある急性期疾患に対する栄養治療法のスキルが身につく</p> <p>体験探究の領域 具体的な事例を通じて疑似的に栄養管理を行うことで体験する</p>
授業の概要	<p>周術期やクリティカルケアを中心とした急性期疾患、がんの化学療法・放射線療法など、各疾患に対応した栄養管理方法を学び、それらに対する栄養診断、治療食、経腸栄養法、静脈栄養法の適応の知識について学びます。</p> <p>質問は授業後に対応します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>以下の方法で総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加姿勢 20%</li> <li>・確認テスト 30%</li> <li>・定期テスト 50%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が 10 回に満たない場合

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 入院栄養管理について</li> <li>3. 摂食嚥下機能評価と嚥下訓練食</li> <li>4. 経腸栄養法</li> <li>5. 静脈栄養法</li> <li>6. 胃がん周術期の栄養管理（確認テスト1）</li> <li>7. 大腸がん周術期の栄養管理</li> <li>8. 肝胆膵の周術期の栄養管理</li> <li>9. （確認テスト1）まとめと解説</li> <li>10. 化学療法・放射線療法の栄養管理</li> <li>11. 褥瘡患者の栄養管理</li> <li>12. 呼吸器疾患、肺がんの周術期の栄養管理</li> <li>13. クリティカルケアの栄養管理</li> <li>14. 終末期医療の栄養管理</li> <li>15. （確認テスト2）まとめと解説</li> </ol> <p>詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。</p>
テキスト	随時必要な資料を配布します
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	急性期病院で入院栄養管理を経験しチーム医療を実践してきた教員が、嚥下障害や周術期、クリティカルケア、終末期医療に対する栄養管理の実際を具体的な事例に基づいて解説する科目です。
質問への対応方法	授業後、その他の時間帯はメール等で対応します（m-hayakawa@nagoya-ku.ac.jp）
フィードバックの方法	次回の授業開始時に返却および解説を行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義（2単位）週1コマ（30時間）にて、60時間の準備学習を必要とします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	本科目の説明と進め方、チーム医療のメンバーとして働く管理栄養士の心得について確認する	予習として1時間、チーム医療で働く管理栄養士の役割について事前に確認しておく。
2	入院栄養管理について	チーム医療における医療保険制度と栄養管理の流れについて説明	予習として2時間、どのようなチーム医療があるのか内容と保険診療を調べておく。
3	摂食嚥下機能評価と嚥下調整食	摂食嚥下障害の原因、病態、治療方法、栄養管理、摂食嚥下機能評価と嚥下調整食について説明する。	予習として3時間、解剖生理学で学んだ正常な摂食嚥下機能について再確認しておく。
4	経腸栄養法	経腸栄養法の適応と禁忌、リスクについて述べ、事例に沿って治療計画、モニタリング等の説明を行う	予習として2時間、基礎栄養学で学んだ消化管機能、臨床栄養学で学んだ経腸栄養法を再確認しておく。
5	静脈栄養法	静脈栄養法の適応と禁忌、リスクについて述べ、事例に沿って治療計画、モニタリング等の説明を行う	予習として2時間、基礎栄養学で学んだ血液循環および栄養代謝、臨床栄養学で学んだ静脈栄養法を再確認しておく。
6	胃がん周術期の栄養管理(確認テスト1)	胃がんの原因、病態、治療方法、栄養問題、栄養管理について解説する。	予習として2時間、病態学で学んだ胃がんの診断基準と治療方法について調べておく。
7	大腸がん周術期の栄養管理	大腸がんの原因、病態、治療方法、栄養問題、栄養管理について解説する。	予習として2時間、病態学で学んだ大腸がんの疾患の診断基準と治療方法について調べておく。
8	肝胆膵の疾患の周術期の栄養管理	肝胆膵の疾患の原因、病態、治療方法、栄養問題、栄養管理について解説する	予習として2時間、病態学で学んだ肝胆膵の疾患の診断基準と治療方法について調べておく。
9	(確認テスト1)まとめと解説	第1～8回までの確認テスト。まとめと解説を行う。	復習として2時間、第1～8回までの講義について振り返り確認テストの準備をする。
10	化学療法・放射線療法の栄養管理	化学療法・放射線療法の栄養問題、栄養管理について解説する	予習として2時間、病態学で学んだ化学療法・放射線療法について調べておく。
11	褥瘡患者の栄養管理	褥瘡の原因、病態、治療方法、栄養問題、栄養管理について解説する	予習として2時間、褥瘡について調べておく。
12	呼吸器疾患、肺がんの周術期の栄養管理	呼吸器疾患、肺がんの原因、病態、治療方法、栄養問題、栄養管理について解説する	予習として2時間、病態学で学んだ呼吸器疾患の病態について調べておく。
13	クリティカルケアの栄養管理	クリティカルケアの原因、病態、治療方法、栄養問題、栄養管理について解説する	予習として2時間、クリティカルケアについて調べておく。
14	終末期医療の栄養管理	終末期患者の病態、治療方法、栄養問題、栄養管理について解説する。	予習として2時間、終末期医療について調べておく。
15	(確認テスト2)まとめと解説	第1～14回までの確認テスト。まとめと解説を行う。	復習として2時間、第12～14回までの講義について振り返り確認テストの準備をする。

開講科目名 Course	臨床栄養学III(2組)
時間割コード Course Code	53841
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	早川麻理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川麻理子(管理栄養学科)
授業の目標	<p>チーム医療の意義を理解し、人工栄養法(経腸栄養法, 静脈栄養法)の適応と急性期や終末期などの特殊病態下における適切な栄養管理ができるようになることを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 急性期疾患の病態と栄養補給法(経口, 経腸, 静脈)が説明できる</p> <p>思考判断の領域 急性期疾患における栄養管理のリスクが判断できる</p> <p>関心意欲の領域 チーム医療における管理栄養士の役割について関心が深まる</p> <p>態度・志向性の領域 医療に携わる管理栄養士としての責任感が高まり意欲的に取り組む</p> <p>技能の領域 経腸栄養法や静脈栄養法など、特殊な病態下にある急性期疾患に対する栄養治療法のスキルが身につく</p> <p>体験探究の領域 具体的な事例を通じて疑似的に栄養管理を行うことで体験する</p>
授業の概要	<p>周術期やクリティカルケアを中心とした急性期疾患、がんの化学療法・放射線療法など、各疾患に対応した栄養管理方法を学び、それらに対する栄養診断、治療食、経腸栄養法、静脈栄養法の適応の知識について学びます。</p> <p>質問は授業後に対応します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>以下の方法で総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加姿勢 20%</li> <li>・確認テスト 30%</li> <li>・定期テスト 50%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が 10 回に満たない場合

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 入院栄養管理について</li> <li>3. 摂食嚥下機能評価と嚥下訓練食</li> <li>4. 経腸栄養法</li> <li>5. 静脈栄養法</li> <li>6. 胃がん周術期の栄養管理（確認テスト1）</li> <li>7. 大腸がん周術期の栄養管理</li> <li>8. 肝胆膵の周術期の栄養管理</li> <li>9. （確認テスト1）まとめと解説</li> <li>10. 化学療法・放射線療法の栄養管理</li> <li>11. 褥瘡患者の栄養管理</li> <li>12. 呼吸器疾患、肺がんの周術期の栄養管理</li> <li>13. クリティカルケアの栄養管理</li> <li>14. 終末期医療の栄養管理</li> <li>15. （確認テスト2）まとめと解説</li> </ol> <p>詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。</p>
テキスト	随時必要な資料を配布します
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	急性期病院で入院栄養管理を経験しチーム医療を実践してきた教員が、嚥下障害や周術期、クリティカルケア、終末期医療に対する栄養管理の実際を具体的な事例に基づいて解説する科目です。
質問への対応方法	授業後、その他の時間帯はメール等で対応します（m-hayakawa@nagoya-ku.ac.jp）
フィードバックの方法	次回の授業開始時に返却および解説を行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義（2単位）週1コマ（30時間）にて、60時間の準備学習を必要とする
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	本科目の説明と進め方、チーム医療のメンバーとして働く管理栄養士の心得について確認する	予習として1時間、チーム医療で働く管理栄養士の役割について事前に確認しておく。
2	入院栄養管理について	チーム医療における医療保険制度と栄養管理の流れについて説明	予習として2時間、どのようなチーム医療があるのか内容と保険診療を調べておく。
3	摂食嚥下機能評価と嚥下調整食	摂食嚥下障害の原因、病態、治療方法、栄養管理、摂食嚥下機能評価と嚥下調整食について説明する。	予習として3時間、解剖生理学で学んだ正常な摂食嚥下機能について再確認しておく。
4	経腸栄養法	経腸栄養法の適応と禁忌、リスクについて述べ、事例に沿って治療計画、モニタリング等の説明を行う	予習として2時間、基礎栄養学で学んだ消化管機能、臨床栄養学で学んだ経腸栄養法を再確認しておく。
5	静脈栄養法	静脈栄養法の適応と禁忌、リスクについて述べ、事例に沿って治療計画、モニタリング等の説明を行う	予習として2時間、基礎栄養学で学んだ血液循環および栄養代謝、臨床栄養学で学んだ静脈栄養法を再確認しておく。
6	胃がん周術期の栄養管理(確認テスト1)	胃がんの原因、病態、治療方法、栄養問題、栄養管理について解説する。	予習として2時間、病態学で学んだ胃がんの診断基準と治療方法について調べておく。
7	大腸がん周術期の栄養管理	大腸がんの原因、病態、治療方法、栄養問題、栄養管理について解説する。	予習として2時間、病態学で学んだ大腸がんの疾患の診断基準と治療方法について調べておく。
8	肝胆膵の疾患の周術期の栄養管理	肝胆膵の疾患の原因、病態、治療方法、栄養問題、栄養管理について解説する	予習として2時間、病態学で学んだ肝胆膵の疾患の診断基準と治療方法について調べておく。
9	(確認テスト1)まとめと解説	第1～8回までの確認テスト。まとめと解説を行う。	復習として2時間、第1～8回までの講義について振り返り確認テストの準備をする。
10	化学療法・放射線療法の栄養管理	化学療法・放射線療法の栄養問題、栄養管理について解説する	予習として2時間、病態学で学んだ化学療法・放射線療法について調べておく。
11	褥瘡患者の栄養管理	褥瘡の原因、病態、治療方法、栄養問題、栄養管理について解説する	予習として2時間、褥瘡について調べておく。
12	呼吸器疾患、肺がんの周術期の栄養管理	呼吸器疾患、肺がんの原因、病態、治療方法、栄養問題、栄養管理について解説する	予習として2時間、病態学で学んだ呼吸器疾患の病態について調べておく。
13	クリティカルケアの栄養管理	クリティカルケアの原因、病態、治療方法、栄養問題、栄養管理について解説する	予習として2時間、クリティカルケアについて調べておく。
14	終末期医療の栄養管理	終末期患者の病態、治療方法、栄養問題、栄養管理について解説する。	予習として2時間、終末期医療について調べておく。
15	(確認テスト2)まとめと解説	第1～14回までの確認テスト。まとめと解説を行う。	復習として2時間、第12～14回までの講義について振り返り確認テストの準備をする。

開講科目名 Course	臨床栄養学演習(1組)
時間割コード Course Code	53860
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1, 火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	早川麻理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	10D臨床栄養実習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川麻理子(管理栄養学科)
授業の目標	<p>栄養指導や保健指導に関わる管理栄養士として、集団指導の企画やプレゼンテーションが実践できるようになることを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 高度肥満症、糖尿病、高血圧症、高コレステロール血症の病態と食事の関連性についてプレゼンテーションができる</p> <p>思考判断の領域 対象者の理解度が判断できる</p> <p>関心意欲の領域 実際に地域社会の中で食生活改善のために関わりを持つ</p> <p>態度・志向性の領域 管理栄養士として働くことに誇りと責任を持ち、自ら進んで学習が深められるようになる</p> <p>技能の領域 多数の患者を対象とした集団指導の企画、運営、プレゼンテーション等のスキルが身につく</p> <p>体験探究の領域 模擬患者として学生を対象に実際に集団指導を運営することで体験する</p>
授業の概要	<p>生活習慣病患者に対する集団栄養指導が実践できるようになるために、提示した疾患の集団栄養指導の計画書、予算書、スライド、配布資料等を作成し、さらにグループごとで模擬集団指導の運営の準備を行い、実際に体験することによって学びます。</p> <p>質問は授業後に対応します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>以下の方法で総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加姿勢 20%</li> <li>・確認テスト 30%</li> <li>・課題レポート 50%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合



授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 集団栄養指導計画書の作成(個人)</li> <li>3. 集団栄養指導を運営するための企画書、予算書の作成(個人)</li> <li>4. 集団栄養指導で用いる資料の作成(個人)</li> <li>5. 集団栄養指導の運営方法の検討(グループワーク)</li> <li>6. 集団栄養指導運営のための資料作り(グループワーク)</li> <li>7. 高度肥満症患者の模擬集団栄養指導(食事)</li> <li>8. 高度肥満症患者の模擬集団栄養指導(間食)</li> <li>9. 2型糖尿病の模擬集団栄養指導(食事)</li> <li>10. 2型糖尿病の模擬集団栄養指導(間食)</li> <li>11. 高血圧症の模擬集団栄養指導(食事)</li> <li>12. 高血圧症の模擬集団栄養指導(間食)</li> <li>13. 高LDLコレステロール血症の模擬集団栄養指導(食事)</li> <li>14. 高LDLコレステロール血症の模擬集団栄養指導(間食)</li> <li>15. 確認テスト、まとめ</li> </ol> <p>詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。</p>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	自身のテーマで作成した模擬集団栄養指導案をグループ内で発表し合うことで知識を深め、ディスカッションすることにより能動的思考力、協働力を高めます。また、健康経営における管理栄養士の役割を理解し、マネジメント能力を養います。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	病院やクリニックで集団指導の経験を有する教員が、高度肥満症、糖尿病、高血圧症、慢性腎臓病に対する集団指導を実際に運営できるように実践する科目です。
質問への対応方法	授業後、その他の時間帯はメール等で対応します(m-hayakawa@nagoya-ku.ac.jp)
フィードバックの方法	次回の授業開始時に返却を行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義(2単位)週1コマ(30時間)にて、60時間の準備学習を必要とします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<ol style="list-style-type: none"> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> </ol>
SDGs 17の目標(11~17)	17. パートナースhipで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>3. 統率力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	集団栄養指導の必要性和運営方法について解説する。	予習として1時間、集団栄養指導について事前に確認しておく。
2	集団栄養指導計画書の作成(個人)	高度肥満症、糖尿病、高血圧症、高LDLコレステロール血症の中からテーマ選び、集団栄養指導の運営に必要な計画書を作成する。	予習として3時間、各疾患の病態、薬物療法、運動療法、食事療法を確認しておく。
3	集団栄養指導を運営するための予算書の作成(個人)	集団栄養指導に必要な食材や文房具等を挙げて予算書を作成し、準備すべきことを具体化する。	予習として2時間、自分が選んだテーマで用いるレシピの食材や文房具の値段を調べておく。
4	集団栄養指導で用いる資料の作成(個人)	集団栄養指導で使用するプレゼンテーションのスライドおよび配布資料、受講アンケートを作成する。	予習として2時間、パワーポイントの使い方を確認し、予めプレゼンテーションの流れを決めておく、
5	集団栄養指導の運営方法を検討(グループワーク)	個人で作成した集団栄養指導計画をグループ内で発表し合い、グループとしての模擬集団栄養指導のテーマを決め、運営方法を検討し、計画書と予算書を作成する。	復習として1時間、配布資料および受講アンケートを見直して加筆修正し仕上げる。予習として1時間、グループ内での発表の練習をする。
6	集団栄養指導運営のための資料作り(グループワーク)	グループで決めたテーマのプレゼンテーションのスライドおよび配布資料、受講アンケートを作成する。	復習として2時間、グループのテーマについて発表のシミュレーションを行う。
7	高度肥満症の模擬集団栄養指導(食事)	高度肥満症の食事を担当するグループが60分間の模擬集団指導を行った後に、30分間全体で検討会を行う。	担当するグループは予習として2時間準備をし、受講する学生は予習として2時間調べ質問を考慮しておく。
8	高度肥満症の模擬集団栄養指導(間食)	高度肥満症の間食を担当するグループが60分間の模擬集団指導を行った後に、30分間全体で検討会を行う。	担当するグループは予習として2時間準備をし、受講する学生は予習として2時間調べ質問を考慮しておく。
9	糖尿病の模擬集団栄養指導(食事)	糖尿病の食事を担当するグループが60分間の模擬集団指導を行った後に、30分間全体で検討会を行う。	担当するグループは予習として2時間準備をし、受講する学生は予習として2時間調べ質問を考慮しておく。
10	糖尿病の模擬集団栄養指導(間食)	糖尿病の間食を担当するグループが60分間の模擬集団指導を行った後に、30分間全体で検討会を行う。	担当するグループは予習として2時間準備をし、受講する学生は予習として2時間調べ質問を考慮しておく。
11	高血圧症の模擬集団栄養指導(食事)	高血圧症の食事を担当するグループが60分間の模擬集団指導を行った後に、30分間全体で検討会を行う。	担当するグループは予習として2時間準備をし、受講する学生は予習として2時間調べ質問を考慮しておく。
12	高血圧症の模擬集団栄養指導(間食)	高血圧症の間食を担当するグループが60分間の模擬集団指導を行った後に、30分間全体で検討会を行う。	担当するグループは予習として2時間準備をし、受講する学生は予習として2時間調べ質問を考慮しておく。

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
13	高LDLコレステロール血症の模擬集団栄養指導(食事)	高LDLコレステロール血症の食事を担当するグループが60分間の模擬集団指導を行った後に、30分間全体で検討会を行う。	担当するグループは予習として2時間準備をし、受講する学生は予習として2時間調べ質問を考慮しておく。
14	高LDLコレステロール血症の模擬集団栄養指導(間食)	高LDLコレステロール血症の間食を担当するグループが60分間の模擬集団指導を行った後に、30分間全体で検討会を行う。	担当するグループは予習として2時間準備をし、受講する学生は予習として2時間調べ質問を考慮しておく、授業終了時に模擬集団栄養指導の計画書、予算書、スライド、配布資料、受講アンケートを提出する。
15	確認テスト、まとめ	各疾患に関する確認テストを30分間行った後に、60分間その解説を行う。	予習として3時間、各疾患の病態、栄養アセスメント、薬物療法、食事療法について再確認しておく。

開講科目名 Course	臨床栄養学演習(2組)
時間割コード Course Code	53861
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1, 火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	早川麻理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	10D臨床栄養実習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川麻理子(管理栄養学科)
授業の目標	<p>栄養指導や保健指導に関わる管理栄養士として、集団指導の企画やプレゼンテーションが実践できるようになることを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 高度肥満症、糖尿病、高血圧症、高コレステロール血症の病態と食事の関連性についてプレゼンテーションができる</p> <p>思考判断の領域 対象者の理解度が判断できる</p> <p>関心意欲の領域 実際に地域社会の中で食生活改善のために関わりを持つ</p> <p>態度・志向性の領域 管理栄養士として働くことに誇りと責任を持ち、自ら進んで学習が深められるようになる</p> <p>技能の領域 多数の患者を対象とした集団指導の企画、運営、プレゼンテーション等のスキルが身につく</p> <p>体験探究の領域 模擬患者として学生を対象に実際に集団指導を運営することで体験する</p>
授業の概要	<p>生活習慣病患者に対する集団栄養指導が実践できるようになるために、提示した疾患の集団栄養指導の計画書、予算書、スライド、配布資料等を作成し、さらにグループごとで模擬集団指導の運営の準備を行い、実際に体験することによって学びます。</p> <p>質問は授業後に対応します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>以下の方法で総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加姿勢 20%</li> <li>・確認テスト 30%</li> <li>・課題レポート 50%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 集団栄養指導計画書の作成(個人)</li> <li>3. 集団栄養指導を運営するための企画書、予算書の作成(個人)</li> <li>4. 集団栄養指導で用いる資料の作成(個人)</li> <li>5. 集団栄養指導の運営方法の検討(グループワーク)</li> <li>6. 集団栄養指導運営のための資料作り(グループワーク)</li> <li>7. 高度肥満症患者の模擬集団栄養指導(食事)</li> <li>8. 高度肥満症患者の模擬集団栄養指導(間食)</li> <li>9. 2型糖尿病の模擬集団栄養指導(食事)</li> <li>10. 2型糖尿病の模擬集団栄養指導(間食)</li> <li>11. 高血圧症の模擬集団栄養指導(食事)</li> <li>12. 高血圧症の模擬集団栄養指導(間食)</li> <li>13. 高LDLコレステロール血症の模擬集団栄養指導(食事)</li> <li>14. 高LDLコレステロール血症の模擬集団栄養指導(間食)</li> <li>15. 確認テスト、まとめ</li> </ol> <p>詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。</p>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	自身のテーマで作成した模擬集団栄養指導案をグループ内で発表し合うことで知識を深め、ディスカッションすることにより能動的思考力、協働力を高めます。また、健康経営における管理栄養士の役割を理解し、マネジメント能力を養います。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	病院やクリニックで集団指導の経験を有する教員が、高度肥満症、糖尿病、高血圧症、慢性腎臓病に対する集団指導を実際に運営できるように実践する科目です。
質問への対応方法	授業後、その他の時間帯はメール等で対応します(m-hayakawa@nagoya-ku.ac.jp)
フィードバックの方法	今回の授業開始時に返却を行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義(2単位)週1コマ(30時間)にて、60時間の準備学習を必要とします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<ol style="list-style-type: none"> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> </ol>
SDGs 17の目標(11~17)	17. パートナースhipで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>3. 統率力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	集団栄養指導の必要性和運営方法について解説する。	予習として1時間、集団栄養指導について事前に確認しておく。
2	集団栄養指導計画書の作成(個人)	高度肥満症、糖尿病、高血圧症、高LDLコレステロール血症の中からテーマ選び、集団栄養指導の運営に必要な計画書を作成する。	予習として3時間、各疾患の病態、薬物療法、運動療法、食事療法を確認しておく。
3	集団栄養指導を運営するための予算書の作成(個人)	集団栄養指導に必要な食材や文房具等を挙げて予算書を作成し、準備すべきことを具体化する。	予習として2時間、自分が選んだテーマで用いるレシピの食材や文房具の値段を調べておく。
4	集団栄養指導で用いる資料の作成(個人)	集団栄養指導で使用するプレゼンテーションのスライドおよび配布資料、受講アンケートを作成する。	予習として2時間、パワーポイントの使い方を確認し、予めプレゼンテーションの流れを決めておく。
5	集団栄養指導の運営方法を検討(グループワーク)	個人で作成した集団栄養指導計画をグループ内で発表し合い、グループとしての模擬集団栄養指導のテーマを決め、運営方法を検討し、計画書と予算書を作成する。	復習として1時間、配布資料および受講アンケートを見直して加筆修正し仕上げる。予習として1時間、グループ内での発表の練習をする。
6	集団栄養指導運営のための資料作り(グループワーク)	グループで決めたテーマのプレゼンテーションのスライドおよび配布資料、受講アンケートを作成する。	復習として2時間、グループのテーマについて発表のシミュレーションを行う。
7	高度肥満症の模擬集団栄養指導(食事)	高度肥満症の食事を担当するグループが60分間の模擬集団指導を行った後に、30分間全体で検討会を行う。	担当するグループは予習として2時間準備をし、受講する学生は予習として2時間調べ質問を考慮しておく。
8	高度肥満症の模擬集団栄養指導(間食)	高度肥満症の間食を担当するグループが60分間の模擬集団指導を行った後に、30分間全体で検討会を行う。	担当するグループは予習として2時間準備をし、受講する学生は予習として2時間調べ質問を考慮しておく。
9	糖尿病の模擬集団栄養指導(食事)	糖尿病の食事を担当するグループが60分間の模擬集団指導を行った後に、30分間全体で検討会を行う。	担当するグループは予習として2時間準備をし、受講する学生は予習として2時間調べ質問を考慮しておく。
10	糖尿病の模擬集団栄養指導(間食)	糖尿病の間食を担当するグループが60分間の模擬集団指導を行った後に、30分間全体で検討会を行う。	担当するグループは予習として2時間準備をし、受講する学生は予習として2時間調べ質問を考慮しておく。
11	高血圧症の模擬集団栄養指導(食事)	高血圧症の食事を担当するグループが60分間の模擬集団指導を行った後に、30分間全体で検討会を行う。	担当するグループは予習として2時間準備をし、受講する学生は予習として2時間調べ質問を考慮しておく。
12	高血圧症の模擬集団栄養指導(間食)	高血圧症の間食を担当するグループが60分間の模擬集団指導を行った後に、30分間全体で検討会を行う。	担当するグループは予習として2時間準備をし、受講する学生は予習として2時間調べ質問を考慮しておく。

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
13	高LDLコレステロール血症の模擬集団栄養指導(食事)	高LDLコレステロール血症の食事を担当するグループが60分間の模擬集団指導を行った後に、30分間全体で検討会を行う。	担当するグループは予習として2時間準備をし、受講する学生は予習として2時間調べ質問を考慮しておく。
14	高LDLコレステロール血症の模擬集団栄養指導(間食)	高LDLコレステロール血症の間食を担当するグループが60分間の模擬集団指導を行った後に、30分間全体で検討会を行う。	担当するグループは予習として2時間準備をし、受講する学生は予習として2時間調べ質問を考慮しておく、授業終了時に模擬集団栄養指導の計画書、予算書、スライド、配布資料、受講アンケートを提出する。
15	確認テスト、まとめ	各疾患に関する確認テストを30分間行った後に、60分間その解説を行う。	予習として3時間、各疾患の病態、栄養アセスメント、薬物療法、食事療法について再確認しておく。

開講科目名 Course	臨床栄養学実習I(1組)
時間割コード Course Code	53880
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1, 金 / Fri 2, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	早川麻理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	10D臨床栄養実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川麻理子(管理栄養学科)
授業の目標	<p>管理栄養士として、慢性期疾患に対する実践的な個人栄養指導ができるようになることを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 高度肥満症、非アルコール性脂肪肝炎、脂質異常症、高血圧症、2型糖尿病、慢性腎臓病、肝硬変の病態と食事の関連性について説明できる</p> <p>思考判断の領域 対象者の関心度、知識レベルに合わせたコミュニケーションができる</p> <p>関心意欲の領域 自身が健康的な食生活を実践し、家族や知人の食生活改善を支援する</p> <p>態度・志向性の領域 管理栄養士として働くことに誇りと責任を持ち、自ら進んで学習が深められるようになる</p> <p>技能の領域 栄養カウンセリング技法、栄養カルテの記録方法、栄養アセスメント、栄養診断、栄養処方、栄養治療計画など、慢性期疾患における栄養治療法の実務スキルが身につく</p> <p>体験探究の領域 実習の中で得た食生活改善方法を自らの実生活の中で体験する</p>
授業の概要	<p>提示した各症例に対して栄養アセスメントを行い、その栄養診断に基づいた栄養治療計画(栄養処方)を立案し、1日分の献立および栄養指導媒体を作成します。さらにグループ内でディスカッションして知識を深め、作成した献立を実際に調理し、実践力を身に付けます。</p> <p>質問は授業後に対応します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>以下の方法で総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加姿勢 40%</li> <li>・課題レポート 60%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が16回に満たない場合



授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 栄養カウンセリング技法、栄養診断の手順、栄養記録の書き方</li> <li>3. 栄養アセスメント技法（食生活調査）</li> <li>4～6. 栄養アセスメント技法（各種計測）</li> <li>7. 高度肥満症患者の栄養アセスメントと栄養診断</li> <li>8～9. 高度肥満症患者の栄養治療計画（目標栄養素量の算定、低カロリーの献立作成、教育媒体の作成）</li> <li>10. 2型糖尿病患者の栄養アセスメントと栄養診断</li> <li>11～12. 2型糖尿病患者の栄養治療計画目標栄養素量の算定、低糖質の献立作成、教育媒体の作成</li> <li>13～14. 2型糖尿病と高度肥満症を併存した患者の病態調理実習、報告会</li> <li>15. 慢性腎臓病患者の栄養アセスメントと栄養診断</li> <li>16～18. 慢性腎臓病患者の栄養治療計画（目標栄養素量の算定、低たんぱく食の献立作成、教育媒体の作成）</li> <li>19～21. 慢性腎臓病患者の病態調理実習、報告会</li> <li>22～24. グループ発表会</li> </ol> <p>詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。</p>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	症例を通じて、実際の個人栄養指導の手順、コミュニケーション、栄養アセスメント栄養治療計画の立案を実践し、的確な栄養記録が書けるようになるよう実習を行います。またグループや全体でディスカッションすることにより自身の課題に気づき、さらに知識や技能を高めるために、積極的に参加し意見を述べていただきます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	病院やクリニックで個人栄養指導の経験を有する教員が、高度肥満症、2型糖尿病、慢性腎臓病、肝硬変の患者の症例を通じて、個人栄養指導を実践できるようにする科目です。
質問への対応方法	授業後、その他の時間帯はメール等で対応します（m-hayakawa@nagoya-ku.ac.jp）
フィードバックの方法	次回の授業開始時以降に返却を行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	実習（1単位）隔週3コマ（48時間）にて、96時間の準備学習を必要とします・
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	17. パートナリーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	本科目の内容と進め方を説明し、グループ分け、リーダー(主・副)を決める。各自の患者役を決め、シナリオを作成する。	予習として1時間、病態学で学んだ生活習慣病について確認しておく。
2	栄養カウンセリング技法、栄養診断の手順、栄養記録の書き方	コミュニケーションスキルと栄養カウンセリングの手順について説明し、学生同士ペアで栄養カウンセリングの問診を行い、SOAPで栄養診断をPESで記載し、栄養治療計画(Mx, Rx, Ex)を書く。	予習として2時間、栄養教育論で学んだコミュニケーションスキル、カウンセリング技法、栄養記録の書き方について見ておく。
3	栄養アセスメント技法(食生活調査)	自身の食生活調査を実施し、その結果から学生同士ペアで栄養カウンセリングを実践する。	予習として、自身の日頃の食生活を2週間記録する。
4	栄養アセスメント技法(各種計測)	身長、体重、体組成、身体計測、血圧、骨密度、肺機能、ヘモグロビン濃度、ヘモグロビンA1c、脂質などを測定する。	予習として2時間、各種測定項目と基準値について調べておく。
5	栄養アセスメント技法(各種計測)	同上	同上
6	栄養アセスメント技法(各種計測)	同上	同上
7	高度肥満症患者の栄養アセスメントと栄養診断	高度肥満症の症例の栄養アセスメントを行って栄養診断を行う。	予習として2時間、病態学で学んだ高度肥満症の病態と合併症の関連性を確認しておく。
8	高度肥満症患者の栄養治療計画(目標栄養素量の算定、低カロリーの献立作成、教育媒体の作成)	高度肥満症の症例の栄養診断から、栄養治療計画を立案する。	予習として2時間、高度肥満症に関わる食生活の原因について調べておく。
9	高度肥満症患者の栄養治療計画(目標栄養素量の算定、低カロリーの献立作成、教育媒体の作成)	同上	復習として3時間、高度肥満症患者の献立作成、教育媒体を仕上げる。
10	2型糖尿病患者の栄養アセスメントと栄養診断	2型糖尿病の症例の栄養アセスメントを行って栄養診断を行う。	予習として2時間、病態学で学んだ糖尿病の病態と合併症を確認しておく。
11	2型糖尿病患者の栄養治療計画目標栄養素量の算定、低糖質の献立作成、教育媒体の作成)	2型糖尿病の症例の栄養診断から、栄養治療計画を立案する。	予習として2時間、2型糖尿病の食事について調べておく。
12	2型糖尿病患者の栄養治療計画目標栄養素量の算定、低糖質の献立作成、教育媒体の作成)	同上	復習として3時間、2型糖尿病の献立作成、教育媒体を仕上げる。
13	2型糖尿病と高度肥満症を併存した患者の病態調理実習	2型糖尿病と高度肥満症を併存した患者の昼食分の献立を用いて調理実習を行う。	予習として2時間、2型糖尿病と高度肥満症を併存した患者の献立、調理手順を確認し、シミュレーションしておく。
14	2型糖尿病と高度肥満症を併存した患者の病態調理実習	同上	同上
15	2型糖尿病と高度肥満症を併存した患者の病態調理実習、報告会	同上	同上
16	慢性腎臓病患者の栄養アセスメントと栄養診断	慢性腎臓病の合併症についてまとめ、グループディスカッションを行って発表し、全体で検討する。	予習として2時間、病態学で学んだ慢性腎臓病の病態と合併症を確認しておく。
17	慢性腎臓病患者の栄養治療計画(目標栄養素量の算定、低たんぱく食の献立作成、教育媒体の作成)	慢性腎臓病の症例の栄養アセスメントを行って栄養診断を行う。	予習として2時間、慢性腎臓病の食事について調べておく。
18	慢性腎臓病患者の栄養治療計画(目標栄養素量の算定、低たんぱく食の献立作成、教育媒体の作成)	慢性腎臓病の症例の栄養診断から、栄養治療計画を立案する。	復習として3時間、慢性腎臓病の献立作成、教育媒体を仕上げる。

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
19	慢性腎臓病患者の病態調理実習	肝硬変の合併症についてまとめ、グループディスカッションを行って発表し、全体で検討する。	予習として2時間、慢性腎臓病患者の献立、調理手順を確認し、シュミレーションしておく。
20	慢性腎臓病患者の病態調理実習	肝硬変の症例の栄養アセスメントを行って栄養診断を行う。	同上
21	慢性腎臓病患者の病態調理実習、報告会	肝硬変の症例の栄養診断から、栄養治療計画を立案する。	同上
22	グループ発表会	グループで立てた献立を用いて、疾患ごとに患者の栄養士指導をプレゼンテーションする。	予習として2時間、各自、グループ発表会の準備をしておく。
23	グループ発表会	同上	同上
24	グループ発表会	同上	同上

開講科目名 Course	臨床栄養学実習I(2組)
時間割コード Course Code	53881
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1, 金 / Fri 2, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	早川麻理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	10D臨床栄養実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川麻理子(管理栄養学科)
授業の目標	<p>管理栄養士として、慢性期疾患に対する実践的な個人栄養指導ができるようになることを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 高度肥満症、非アルコール性脂肪肝炎、脂質異常症、高血圧症、2型糖尿病、慢性腎臓病、肝硬変の病態と食事の関連性について説明できる</p> <p>思考判断の領域 対象者の関心度、知識レベルに合わせたコミュニケーションができる</p> <p>関心意欲の領域 自身が健康的な食生活を実践し、家族や知人の食生活改善を支援する</p> <p>態度・志向性の領域 管理栄養士として働くことに誇りと責任を持ち、自ら進んで学習が深められるようになる</p> <p>技能の領域 栄養カウンセリング技法、栄養カルテの記録方法、栄養アセスメント、栄養診断、栄養処方、栄養治療計画など、慢性期疾患における栄養治療法の実務スキルが身につく</p> <p>体験探究の領域 実習の中で得た食生活改善方法を自らの実生活の中で体験する</p>
授業の概要	<p>提示した各症例に対して栄養アセスメントを行い、その栄養診断に基づいた栄養治療計画(栄養処方)を立案し、1日分の献立および栄養指導媒体を作成します。さらにグループ内でディスカッションして知識を深め、作成した献立を実際に調理し、実践力を身に付けます。</p> <p>質問は授業後に対応します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>以下の方法で総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加姿勢 40%</li> <li>・課題レポート 60%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が16回に満たない場合

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 栄養カウンセリング技法、栄養診断の手順、栄養記録の書き方</li> <li>3. 栄養アセスメント技法（食生活調査）</li> <li>4～6. 栄養アセスメント技法（各種計測）</li> <li>7. 高度肥満症患者の栄養アセスメントと栄養診断</li> <li>8～9. 高度肥満症患者の栄養治療計画（目標栄養素量の算定、低カロリーの献立作成、教育媒体の作成）</li> <li>10. 2型糖尿病患者の栄養アセスメントと栄養診断</li> <li>11～12. 2型糖尿病患者の栄養治療計画目標栄養素量の算定、低糖質の献立作成、教育媒体の作成</li> <li>13～14. 2型糖尿病と高度肥満症を併存した患者の病態調理実習、報告会</li> <li>15. 慢性腎臓病患者の栄養アセスメントと栄養診断</li> <li>16～18. 慢性腎臓病患者の栄養治療計画（目標栄養素量の算定、低たんぱく食の献立作成、教育媒体の作成）</li> <li>19～21. 慢性腎臓病患者の病態調理実習、報告会</li> <li>22～24. グループ発表会</li> </ol> <p>詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。</p>
テキスト	随時、必要な資料を配布します。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	症例を通じて、実際の個人栄養指導の手順、コミュニケーション、栄養アセスメント栄養治療計画の立案を実践し、的確な栄養記録が書けるようになるよう実習を行います。またグループや全体でディスカッションすることにより自身の課題に気づき、さらに知識や技能を高めるために、積極的に参加し意見を述べていただきます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	病院やクリニックで個人栄養指導の経験を有する教員が、高度肥満症、2型糖尿病、慢性腎臓病、肝硬変の患者の症例を通じて、個人栄養指導を実践できるようにする科目です。
質問への対応方法	授業後、その他の時間帯はメール等で対応します（m-hayakawa@nagoya-ku.ac.jp）
フィードバックの方法	次回の授業開始時以降に返却を行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	実習（1単位）隔週3コマ（48時間）にて、96時間の準備学習を必要とします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	本科目の内容と進め方を説明し、グループ分け、リーダー(主・副)を決める。各自の患者役を決め、シナリオを作成する。	予習として1時間、病態学で学んだ生活習慣病について確認しておく。
2	栄養カウンセリング技法、栄養診断の手順、栄養記録の書き方	コミュニケーションスキルと栄養カウンセリングの手順について説明し、学生同士ペアで栄養カウンセリングの問診を行い、SOAPで栄養診断をPESで記載し、栄養治療計画(Mx, Rx, Ex)を書く。	予習として2時間、栄養教育論で学んだコミュニケーションスキル、カウンセリング技法、栄養記録の書き方について見ておく。
3	栄養アセスメント技法(食生活調査)	自身の食生活調査を実施し、その結果から学生同士ペアで栄養カウンセリングを実践する。	予習として、自身の日頃の食生活を2週間記録する。
4	栄養アセスメント技法(各種計測)	身長、体重、体組成、身体計測、血圧、骨密度、肺機能、ヘモグロビン濃度、ヘモグロビンA1c、脂質などを測定する。	予習として2時間、各種測定項目と基準値について調べておく。
5	栄養アセスメント技法(各種計測)	同上	同上
6	栄養アセスメント技法(各種計測)	同上	同上
7	高度肥満症患者の栄養アセスメントと栄養診断	高度肥満症の症例の栄養アセスメントを行って栄養診断を行う。	予習として2時間、病態学で学んだ高度肥満症の病態と合併症の関連性を確認しておく。
8	高度肥満症患者の栄養治療計画(目標栄養素量の算定、低カロリーの献立作成、教育媒体の作成)	高度肥満症の症例の栄養診断から、栄養治療計画を立案する。	予習として2時間、高度肥満症に関わる食生活の原因について調べておく。
9	高度肥満症患者の栄養治療計画(目標栄養素量の算定、低カロリーの献立作成、教育媒体の作成)	同上	復習として3時間、高度肥満症患者の献立作成、教育媒体を仕上げる。
10	2型糖尿病患者の栄養アセスメントと栄養診断	2型糖尿病の症例の栄養アセスメントを行って栄養診断を行う。	予習として2時間、病態学で学んだ糖尿病の病態と合併症を確認しておく。
11	2型糖尿病患者の栄養治療計画目標栄養素量の算定、低糖質の献立作成、教育媒体の作成)	2型糖尿病の症例の栄養診断から、栄養治療計画を立案する。	予習として2時間、2型糖尿病の食事について調べておく。
12	2型糖尿病患者の栄養治療計画目標栄養素量の算定、低糖質の献立作成、教育媒体の作成)	同上	復習として3時間、2型糖尿病の献立作成、教育媒体を仕上げる。
13	2型糖尿病と高度肥満症を併存した患者の病態調理実習	2型糖尿病と高度肥満症を併存した患者の昼食分の献立を用いて調理実習を行う。	予習として2時間、2型糖尿病と高度肥満症を併存した患者の献立、調理手順を確認し、シミュレーションしておく。
14	2型糖尿病と高度肥満症を併存した患者の病態調理実習	同上	同上
15	2型糖尿病と高度肥満症を併存した患者の病態調理実習、報告会	同上	同上
16	慢性腎臓病患者の栄養アセスメントと栄養診断	慢性腎臓病の合併症についてまとめ、グループディスカッションを行って発表し、全体で検討する。	予習として2時間、病態学で学んだ慢性腎臓病の病態と合併症を確認しておく。
17	慢性腎臓病患者の栄養治療計画(目標栄養素量の算定、低たんぱく食の献立作成、教育媒体の作成)	慢性腎臓病の症例の栄養アセスメントを行って栄養診断を行う。	予習として2時間、慢性腎臓病の食事について調べておく。
18	慢性腎臓病患者の栄養治療計画(目標栄養素量の算定、低たんぱく食の献立作成、教育媒体の作成)	慢性腎臓病の症例の栄養診断から、栄養治療計画を立案する。	復習として3時間、慢性腎臓病の献立作成、教育媒体を仕上げる。

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
19	慢性腎臓病患者の病態調理実習	肝硬変の合併症についてまとめ、グループディスカッションを行って発表し、全体で検討する。	予習として2時間、慢性腎臓病患者の献立、調理手順を確認し、シュミレーションしておく。
20	慢性腎臓病患者の病態調理実習	肝硬変の症例の栄養アセスメントを行って栄養診断を行う。	同上
21	慢性腎臓病患者の病態調理実習、報告会	肝硬変の症例の栄養診断から、栄養治療計画を立案する。	同上
22	グループ発表会	グループで立てた献立を用いて、疾患ごとに患者の栄養士指導をプレゼンテーションする。	予習として2時間、各自、グループ発表会の準備をしておく。
23	グループ発表会	同上	同上
24	グループ発表会	同上	同上

開講科目名 Course	臨床栄養学実習II(1組)
時間割コード Course Code	53900
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1, 金 / Fri 2, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	早川麻理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	10D臨床栄養実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川麻理子(管理栄養学科)
授業の目標	<p>管理栄養士として、嚥下障害や周術期など特殊な病態下の実践的な栄養管理ができるようになることを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 嚥下障害、胃がん、大腸がんなどの周術期の病態および栄養補給方法が説明できる 思考判断の領域 患者の病態に合わせた栄養補給法の選択ができる 関心意欲の領域 臨地実習 を踏まえて、さらに必要な知識とスキルを向上させる 態度・志向性の領域 管理栄養士として働くことに誇りと責任を持ち、自ら進んで学習が深められるようになる 技能の領域 入院栄養管理における栄養カルテの記録方法、栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養診断、栄養処方、栄養治療計画など、急性期疾患における栄養治療法の実務スキルが身につく 体験探究の領域 実習の中で得たスキルを臨地実習 の病院実習で体験する</p>
授業の概要	<p>提示した各症例に対して栄養スクリーニング、栄養アセスメントを行い、その栄養診断に基づいた栄養治療計画(栄養処方)を立案し、1日分の献立作成および栄養指導媒体を作成します。さらにグループ内でディスカッションして知識を深め、作成した献立を実際に調理し、実践力を身に付けます。</p> <p>質問は授業後に対応します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>以下の方法で総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加姿勢 40%</li> <li>・課題レポート 60%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が 16回に満たない場合



授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 嚥下障害患者の栄養評価（栄養スクリーニング、栄養アセスメント）</li> <li>3. 嚥下障害患者の栄養治療計画（経腸栄養法のプランニング）</li> <li>4～6. 嚥下障害患者の栄養治療計画（嚥下訓練食の献立作成、教育媒体の作成）</li> <li>7～9. 嚥下障害患者の嚥下調整食の病態調理、報告会</li> <li>10. 胃がん術後症例の栄養評価（栄養スクリーニング、栄養アセスメント）</li> <li>11～12. 胃がん術後症例の栄養治療計画（目標栄養素量の算定、少量頻回食の献立作成、教育媒体作成）</li> <li>13～15. 胃がん術後症例の少量頻回食の病態調理実習、報告会</li> <li>16. 大腸術後症例の栄養評価（栄養スクリーニング、栄養アセスメント）</li> <li>17～18. 大腸術後症例の栄養治療計画（目標栄養素量の算定、少量頻回食の献立作成、教育媒体作成）</li> <li>19～21. 大腸術後症例の低脂肪・低残渣食の病態調理実習、報告会</li> <li>22～24. グループ発表会</li> </ol> <p>詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。</p>
テキスト	随時、必要な資料を配布します
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	急性期疾患の症例を通じて、実際の入院栄養管理の手順、栄養スクリーニング、栄養アセスメント、経腸栄養法および静脈栄養法を踏まえた栄養治療計画を立案し、的確な栄養治療が実践できるよう実習を行います。またグループや全体でディスカッションすることにより自身の課題に気づき、さらに知識や技能を高めるために、積極的に参加し意見を述べていただきます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	急性期病院で入院栄養管理を経験しチーム医療を実践してきた教員が、嚥下障害や周術期などの患者に対する適切な栄養管理の実際を、静脈栄養法、経腸栄養法を併用しながら具体的な事例に基づいて実践する実習科目です。
質問への対応方法	授業後、その他の時間帯はメール等で対応します（m-hayakawa@nagoya-ku.ac.jp）
フィードバックの方法	次回の授業開始時以降に返却を行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	実習（1単位）隔週3コマ（48時間）により、96時間の準備学習を必要とします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>3. 統率力</li> <li>4. 感情制御力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	本科目の内容と進め方を説明し、グループ分け、リーダー(主・副)を決める。栄養補給方法について説明する。	
2	嚥下障害患者の栄養評価(栄養スクリーニング、栄養アセスメント)	の栄養スクリーニングと栄養アセスメントを行って栄養嚥下障害患者の栄養評価を行い、グループディスカッションの後に発表し、全体討論を行う。	嚥下障害の病態と嚥下調整食、トロミ剤について調べておく。
3	嚥下障害患者の栄養治療計画(経腸栄養法のプランニング)	嚥下障害患者の栄養診断を基に適切な経腸栄養剤を選び、投与量、投与スケジュールを立てる。	経腸栄養剤について調べておく。
4	嚥下障害患者の栄養治療計画(目標栄養素量の算定、嚥下調整食の献立作成、教育媒体の作成)	嚥下障害を伴った脳梗塞後遺症の症例に対し、経口へ移行するための嚥下訓練食1食分の献立を作成し、さらにグループで話し合い、病態調理実習の献立を決める。 嚥下障害の病態と嚥下訓練食の注意点など、患者や家族に説明するためのリーフレットを作成する。	献立および教育媒体を完成できるように準備する。
5	嚥下障害患者の栄養治療計画(目標栄養素量の算定、嚥下調整食の献立作成、教育媒体の作成)	同上	同上
6	嚥下障害患者の栄養治療計画(目標栄養素量の算定、嚥下調整食の献立作成、教育媒体の作成)	同上	同上
7	嚥下障害患者の嚥下調整食の病態調理报告会	グループごとに立てた嚥下調整食1食分の献立を用いて調理実習を行う。	嚥下調整食の献立を確認し、調理のシュミレーションを行っておく
8	嚥下障害患者の嚥下調整食の病態調理	同上	同上
9	嚥下障害患者の嚥下調整食の病態調理、报告会	同上 作った献立の良かった点、改善点について、グループごとで発表する。	同上
10	胃がん術後症例の栄養評価(栄養スクリーニング、栄養アセスメント)	胃がん術後症例の栄養スクリーニングと栄養アセスメントを行って栄養診断を行い、グループディスカッションの後に発表し、全体討論を行う。	胃がんの病態について復習しておく
11	胃がん術後症例の栄養治療計画(目標栄養素量の算定、少量頻回食の献立作成、教育媒体作成)	胃がん術後症例に対し、少量頻回食1日分の献立を作成し、さらにグループで話し合い、病態調理実習の献立を決める。	必要栄養量の計算、参考になるレシピを探しておく
12	胃がん術後症例の栄養治療計画(目標栄養素量の算定、少量頻回食の献立作成、教育媒体作成)	早期ダンピング症候群を伴った胃がん術後症例の食生活の注意点について、患者や家族に説明するためのリーフレットを作成する。	同上
13	胃がんの術後少量頻回食の病態調理実習	胃がんの術後少量頻回食の献立を用いて病態調理実習を行う。	胃がんの術後食の献立を確認し、調理のシュミレーションを行っておく
14	胃がんの術後少量頻回食の病態調理実習	同上	同上
15	胃がんの術後少量頻回食の病態調理実習、报告会	同上 作った献立の良かった点、改善点について、グループごとで発表する。	同上
16	大腸がん術後症例の栄養評価(栄養スクリーニング、栄養アセスメント)	大腸がん症例の栄養スクリーニングと栄養アセスメントを行って栄養診断を行い、グループディスカッションの後に発表し、全体討論を行う。	大腸がんの病態について復習しておく
17	大腸がん術後症例の栄養治療計画(目標栄養素量の算定、少量頻回食の献立作成、教育媒体作成)	大腸がん術後症例に対し、低脂肪・低残渣食1日分の献立を作成し、さらにグループで話し合い、病態調理実習の献立を決める。	必要栄養量の計算、参考になるレシピを探しておく

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
18	大腸がん術後症例の栄養治療計画(目標栄養素量の算定、少量頻回食の献立作成、教育媒体作成)	潰瘍性大腸炎の症例の食生活の注意点について、患者や家族に説明するためのリーフレットを作成する。	同上
19	大腸術後症例の低脂肪・低残渣食の病態調理実習	大腸がんの術後症例の低脂肪・低残渣食の献立を用いて病態調理実習を行う。	大腸がん術後食の献立を確認し、調理のシュミレーションを行っておく
20	大腸術後症例の低脂肪・低残渣食の病態調理実習	同上	同上
21	大腸術後症例の低脂肪・低残渣食の病態調理実習、報告会	同上 作った献立の良かった点、改善点について、グループごとで発表する。	同上
22	グループ発表会	グループごとに立てた献立を用いて、患者の栄養指導をプレゼンテーションする。	グループ発表会の準備をする。
23	グループ発表会	同上	同上
24	グループ発表会	同上	

開講科目名 Course	臨床栄養学実習II(2組)
時間割コード Course Code	53901
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1, 金 / Fri 2, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	早川麻理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	10D臨床栄養実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川麻理子(管理栄養学科)
授業の目標	<p>管理栄養士として、嚥下障害や周術期など特殊な病態下の実践的な栄養管理ができるようになることを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 嚥下障害、胃がん、大腸がんなどの周術期の病態および栄養補給方法が説明できる 思考判断の領域 患者の病態に合わせた栄養補給法の選択ができる 関心意欲の領域 臨地実習 を踏まえて、さらに必要な知識とスキルを向上させる 態度・志向性の領域 管理栄養士として働くことに誇りと責任を持ち、自ら進んで学習が深められるようになる 技能の領域 入院栄養管理における栄養カルテの記録方法、栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養診断、栄養処方、栄養治療計画など、急性期疾患における栄養治療法の実務スキルが身につく 体験探究の領域 実習の中で得たスキルを臨地実習 の病院実習で体験する</p>
授業の概要	<p>提示した各症例に対して栄養スクリーニング、栄養アセスメントを行い、その栄養診断に基づいた栄養治療計画(栄養処方)を立案し、1日分の献立作成および栄養指導媒体を作成します。さらにグループ内でディスカッションして知識を深め、作成した献立を実際に調理し、実践力を身に付けます。</p> <p>質問は授業後に対応します。 この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>以下の方法で総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加姿勢 40%</li> <li>・課題レポート 60%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が 16回に満たない場合

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 嚥下障害患者の栄養評価（栄養スクリーニング、栄養アセスメント）</li> <li>3. 嚥下障害患者の栄養治療計画（経腸栄養法のプランニング）</li> <li>4～6. 嚥下障害患者の栄養治療計画（嚥下訓練食の献立作成、教育媒体の作成）</li> <li>7～9. 嚥下障害患者の嚥下調整食の病態調理、報告会</li> <li>10. 胃がん術後症例の栄養評価（栄養スクリーニング、栄養アセスメント）</li> <li>11～12. 胃がん術後症例の栄養治療計画（目標栄養素量の算定、少量頻回食の献立作成、教育媒体作成）</li> <li>13～15. 胃がん術後症例の少量頻回食の病態調理実習、報告会</li> <li>16. 大腸術後症例の栄養評価（栄養スクリーニング、栄養アセスメント）</li> <li>17～18. 大腸術後症例の栄養治療計画（目標栄養素量の算定、少量頻回食の献立作成、教育媒体作成）</li> <li>19～21. 大腸術後症例の低脂肪・低残渣食の病態調理実習、報告会</li> <li>22～24. グループ発表会</li> </ol> <p>詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。</p>
テキスト	随時、必要な資料を配布します
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	急性期疾患の症例を通じて、実際の入院栄養管理の手順、栄養スクリーニング、栄養アセスメント、経腸栄養法および静脈栄養法を踏まえた栄養治療計画を立案し、的確な栄養治療が実践できるよう実習を行います。またグループや全体でディスカッションすることにより自身の課題に気づき、さらに知識や技能を高めるために、積極的に参加し意見を述べていただきます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	急性期病院で入院栄養管理を経験しチーム医療を実践してきた教員が、嚥下障害や周術期などの患者に対する適切な栄養管理の実際を、静脈栄養法、経腸栄養法を併用しながら具体的な事例に基づいて実践する実習科目です。
質問への対応方法	授業後、その他の時間帯はメール等で対応します（m-hayakawa@nagoya-ku.ac.jp）
フィードバックの方法	次回の授業開始時に返却を行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	実習（1単位）隔週3コマ（48時間）により、96時間の準備学習を必要とします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>3. 統率力</li> <li>4. 感情制御力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	本科目の内容と進め方を説明し、グループ分け、リーダー(主・副)を決める。栄養補給方法について説明する。	
2	嚥下障害患者の栄養評価(栄養スクリーニング、栄養アセスメント)	の栄養スクリーニングと栄養アセスメントを行って栄養嚥下障害患者の栄養評価を行い、グループディスカッションの後に発表し、全体討論を行う。	嚥下障害の病態と嚥下調整食、トロミ剤について調べておく。
3	嚥下障害患者の栄養治療計画(経腸栄養法のプランニング)	嚥下障害患者の栄養診断を基に適切な経腸栄養剤を選び、投与量、投与スケジュールを立てる。	経腸栄養剤について調べておく。
4	嚥下障害患者の栄養治療計画(目標栄養素量の算定、嚥下調整食の献立作成、教育媒体の作成)	嚥下障害を伴った脳梗塞後遺症の症例に対し、経口へ移行するための嚥下訓練食1食分の献立を作成し、さらにグループで話し合い、病態調理実習の献立を決める。 嚥下障害の病態と嚥下訓練食の注意点など、患者や家族に説明するためのリーフレットを作成する。	献立および教育媒体を完成できるように準備する。
5	嚥下障害患者の栄養治療計画(目標栄養素量の算定、嚥下調整食の献立作成、教育媒体の作成)	同上	同上
6	嚥下障害患者の栄養治療計画(目標栄養素量の算定、嚥下調整食の献立作成、教育媒体の作成)	同上	同上
7	嚥下障害患者の嚥下調整食の病態調理报告会	グループごとに立てた嚥下調整食1食分の献立を用いて調理実習を行う。	嚥下調整食の献立を確認し、調理のシュミレーションを行っておく
8	嚥下障害患者の嚥下調整食の病態調理	同上	同上
9	嚥下障害患者の嚥下調整食の病態調理、报告会	同上 作った献立の良かった点、改善点について、グループごとで発表する。	同上
10	胃がん術後症例の栄養評価(栄養スクリーニング、栄養アセスメント)	胃がん術後症例の栄養スクリーニングと栄養アセスメントを行って栄養診断を行い、グループディスカッションの後に発表し、全体討論を行う。	胃がんの病態について復習しておく
11	胃がん術後症例の栄養治療計画(目標栄養素量の算定、少量頻回食の献立作成、教育媒体作成)	胃がん術後症例に対し、少量頻回食1日分の献立を作成し、さらにグループで話し合い、病態調理実習の献立を決める。	必要栄養量の計算、参考になるレシピを探しておく
12	胃がん術後症例の栄養治療計画(目標栄養素量の算定、少量頻回食の献立作成、教育媒体作成)	早期ダンピング症候群を伴った胃がん術後症例の食生活の注意点について、患者や家族に説明するためのリーフレットを作成する。	同上
13	胃がんの術後少量頻回食の病態調理実習	胃がんの術後少量頻回食の献立を用いて病態調理実習を行う。	胃がんの術後食の献立を確認し、調理のシュミレーションを行っておく
14	胃がんの術後少量頻回食の病態調理実習	同上	同上
15	胃がんの術後少量頻回食の病態調理実習、报告会	同上 作った献立の良かった点、改善点について、グループごとで発表する。	同上
16	大腸がん術後症例の栄養評価(栄養スクリーニング、栄養アセスメント)	大腸がん症例の栄養スクリーニングと栄養アセスメントを行って栄養診断を行い、グループディスカッションの後に発表し、全体討論を行う。	大腸がんの病態について復習しておく
17	大腸がん術後症例の栄養治療計画(目標栄養素量の算定、少量頻回食の献立作成、教育媒体作成)	大腸がん術後症例に対し、低脂肪・低残渣食1日分の献立を作成し、さらにグループで話し合い、病態調理実習の献立を決める。	必要栄養量の計算、参考になるレシピを探しておく

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
18	大腸がん術後症例の栄養治療計画(目標栄養素量の算定、少量頻回食の献立作成、教育媒体作成)	潰瘍性大腸炎の症例の食生活の注意点について、患者や家族に説明するためのリーフレットを作成する。	同上
19	大腸術後症例の低脂肪・低残渣食の病態調理実習	大腸がんの術後症例の低脂肪・低残渣食の献立を用いて病態調理実習を行う。	大腸がん術後食の献立を確認し、調理のシュミレーションを行っておく
20	大腸術後症例の低脂肪・低残渣食の病態調理実習	同上	同上
21	大腸術後症例の低脂肪・低残渣食の病態調理実習、報告会	同上 作った献立の良かった点、改善点について、グループごとで発表する。	同上
22	グループ発表会	グループごとに立てた献立を用いて、患者の栄養指導をプレゼンテーションする。	グループ発表会の準備をする。
23	グループ発表会	同上	同上
24	グループ発表会	同上	

開講科目名 Course	公衆栄養学I(1組)
時間割コード Course Code	53935
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	松尾 貴子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	松尾 貴子 (管理栄養学科)
授業の目標	<p>知識・理解の領域 地域、職域といった集団の健康栄養問題とそれらを取り巻く環境要因に関する情報を収集・分析する理論・手法を学習し、公衆栄養学の内容を理解することができる。</p> <p>技能の領域 人集団の健康問題に栄養学的因子がどのようにかかわるのかを明らかにし、得られた知見を健康問題への解決へ役立てるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 地域や集団における健康・栄養問題を把握し、公衆栄養プログラムを計画・実施・評価するための知識と技能を修得することが出来る。</p>
授業の概要	公衆栄養活動のありかた、わが国の健康・栄養問題の現状、食事摂取基準および公衆栄養マネジメント・アセスメントなどについて概説した後、公衆栄養プログラムに基づくplan・do・seeについて具体的な展開を学ぶ。授業の中で、膨大な行政の指針・統計情報の中から目的とするものを的確に入手し、理解・学習する技術も同時に取得する。
評価方法	受講状況20%、課題提出状況30%、期末試験50%の成績を総合して評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業回数の2/3以上の出席がない場合。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1．公衆栄養の概念</li> <li>2．健康日本2 1と地方計画I</li> <li>3．健康日本2 1と地方計画II</li> <li>4．諸外国の栄養状況と施策I</li> <li>5．諸外国の栄養状況と施策II</li> <li>6．食生活と健康I</li> <li>7．食生活と健康II</li> <li>8．公衆栄養行政と施策I</li> <li>9．公衆栄養行政と施策II</li> <li>10．日本人の食事摂取基準I (一部栄養疫学を含む)</li> <li>11．日本人の食事摂取基準II</li> <li>12．公衆栄養活動の基本I</li> <li>13．公衆栄養活動の基本II</li> <li>14．公衆栄養活動の実践</li> <li>15．公衆栄養学 のまとめ</li> </ol>
テキスト	管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 (医歯薬出版株式会社)



参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	保健所等の公衆栄養業務に携わった経験を活かして、具体的かつ実践的な講義をする。
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	提出物等は随時返却。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各授業前には、授業で学習するテキストの該当ページを読んでおくこと。(2時間) 授業後には、配布した資料・ワークシート・テキスト該当ページを使用して復習を行うこと(2時間) 詳細については、各授業で指示する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	公衆栄養の概念 公衆栄養の意義やその沿革について学ぶ。	テキスト使用。	
2	健康日本21と地方計画1 健康日本21の背景と健康増進法などについて学ぶ。	テキスト使用。	
3	健康日本21と地方計画II 健康日本21の目標設定及び地方計画や環境整備などについて学ぶ。	テキスト使用。	
4	諸外国の栄養状況と施策I 諸外国の健康・栄養問題の現状と課題などについて学ぶ。	テキスト使用。	
5	諸外国の栄養状況と施策II 諸外国の健康・栄養施策などについて学ぶ。	テキスト使用。	
6	食生活と健康I わが国の健康・栄養問題及び国民栄養問題の現状と課題について学ぶ。	テキスト使用。	
7	食生活と健康II 食料をめぐる現状と課題について学ぶ。	テキスト使用。	
8	公衆栄養行政と施策I 公衆栄養行政施策の概略及び公衆栄養関係法規について学ぶ。	テキスト使用。	
9	公衆栄養行政と施策II 公衆栄養活動と公衆栄養活動施策について学ぶ。	テキスト使用。	
10	日本人の食事摂取基準I 日本人の食事摂取基準の目的やその活用について学ぶ。一部栄養疫学を学ぶ。	テキスト使用。	
11	日本人の食事摂取基準II エネルギー・蛋白質・脂質やビタミンその他の食事摂取基準について学ぶ。	テキスト使用。	
12	公衆栄養活動の基本I コミュニティオーガニゼーションや公衆栄養アセスメントなどについて学ぶ。	テキスト使用。	
13	公衆栄養活動の基本II 公衆栄養プログラムの計画・目標設定・実施・評価などについて学ぶ。	テキスト使用。	
14	公衆栄養活動の実践 公衆栄養活動の進め方の基本について学ぶ。	テキスト使用。	
15	公衆栄養学のまとめ		

開講科目名 Course	公衆栄養学I(2組)
時間割コード Course Code	53936
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	松尾 貴子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	松尾 貴子 (管理栄養学科)
授業の目標	<p>知識・理解の領域 地域、職域といった集団の健康栄養問題とそれらを取り巻く環境要因に関する情報を収集・分析する理論・手法を学習し、公衆栄養学の内容を理解することができる。</p> <p>技能の領域 人集団の健康問題に栄養学的因子がどのようにかかわるのかを明らかにし、得られた知見を健康問題への解決へ役立てるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 地域や集団における健康・栄養問題を把握し、公衆栄養プログラムを計画・実施・評価するための知識と技能を修得することが出来る。</p>
授業の概要	公衆栄養活動のありかた、わが国の健康・栄養問題の現状、食事摂取基準および公衆栄養マネジメント・アセスメントなどについて概説した後、公衆栄養プログラムに基づくplan・do・seeについて具体的な展開を学ぶ。授業の中で、膨大な行政の指針・統計情報の中から目的とするものを的確に入手し、理解・学習する技術も同時に取得する。
評価方法	受講状況20%、課題提出状況30%、期末試験50%の成績を総合して評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業回数の2/3以上の出席がない場合。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1．公衆栄養の概念</li> <li>2．健康日本2 1と地方計画I</li> <li>3．健康日本2 1と地方計画II</li> <li>4．諸外国の栄養状況と施策I</li> <li>5．諸外国の栄養状況と施策II</li> <li>6．食生活と健康I</li> <li>7．食生活と健康II</li> <li>8．公衆栄養行政と施策I</li> <li>9．公衆栄養行政と施策II</li> <li>10．日本人の食事摂取基準I (一部栄養疫学を含む)</li> <li>11．日本人の食事摂取基準II</li> <li>12．公衆栄養活動の基本I</li> <li>13．公衆栄養活動の基本II</li> <li>14．公衆栄養活動の実践</li> <li>15．公衆栄養学 のまとめ</li> </ol>
テキスト	管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 (医歯薬出版株式会社)

参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	保健所等の公衆栄養業務に携わった経験を活かして、具体的かつ実践的な講義をする。
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	提出物等は随時返却。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各授業前には、授業で学習するテキストの該当ページを読んでおくこと。(2時間) 授業後には、配布した資料・ワークシート・テキスト該当ページを使用して復習を行うこと(2時間) 詳細については、各授業で指示する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	公衆栄養の概念 公衆栄養の意義やその沿革について学ぶ。	テキスト使用。	
2	健康日本21と地方計画1 健康日本21の背景と健康増進法などについて学ぶ。	テキスト使用。	
3	健康日本21と地方計画II 健康日本21の目標設定及び地方計画や環境整備などについて学ぶ。	テキスト使用。	
4	諸外国の栄養状況と施策I 諸外国の健康・栄養問題の現状と課題などについて学ぶ。	テキスト使用。	
5	諸外国の栄養状況と施策II 諸外国の健康・栄養施策などについて学ぶ。	テキスト使用。	
6	食生活と健康I わが国の健康・栄養問題及び国民栄養問題の現状と課題について学ぶ。	テキスト使用。	
7	食生活と健康II 食料をめぐる現状と課題について学ぶ。	テキスト使用。	
8	公衆栄養行政と施策I 公衆栄養行政施策の概略及び公衆栄養関係法規について学ぶ。	テキスト使用。	
9	公衆栄養行政と施策II 公衆栄養活動と公衆栄養活動施策について学ぶ。	テキスト使用。	
10	日本人の食事摂取基準I 日本人の食事摂取基準の目的やその活用について学ぶ。一部栄養疫学を学ぶ。	テキスト使用。	
11	日本人の食事摂取基準II エネルギー・蛋白質・脂質やビタミンその他の食事摂取基準について学ぶ。	テキスト使用。	
12	公衆栄養活動の基本I コミュニティオーガニゼーションや公衆栄養アセスメントなどについて学ぶ。	テキスト使用。	
13	公衆栄養活動の基本II 公衆栄養プログラムの計画・目標設定・実施・評価などについて学ぶ。	テキスト使用。	
14	公衆栄養活動の実践 公衆栄養活動の進め方の基本について学ぶ。	テキスト使用。	
15	公衆栄養学のまとめ		

開講科目名 Course	公衆栄養学II(1組)
時間割コード Course Code	53940
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	松尾 貴子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	松尾 貴子 (管理栄養学科)
授業の目標	<p>知識・理解の領域 地域、職域といった集団の健康栄養問題とそれらを取り巻く環境要因に関する情報を収集・分析する理論・手法を学習し、栄養疫学の内容を理解することができる。</p> <p>技能の領域 分析結果を総合的に評価・判定する能力を養い、栄養疫学研究について説明できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 わが国および諸外国において実施されている公衆栄養プログラムの習得を目指す。</p>
授業の概要	「公衆栄養学」での学びをさらに技術的に発展させ、保健・医療・福祉・介護の各分野におけるEBNの考え方を理解し、集団特性に対し適切な栄養関連サービスを提供できるプログラムの作成・実施・評価の総合的マネジメントについて学ぶ。疫学手法を理解・学習する技術も同時に取得する。
評価方法	受講状況20%、課題提出状況30%、期末試験50%の成績を総合して評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業回数の3分の2以上の出席がない場合。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 栄養疫学の概要</p> <p>第3回 暴露情報としての食事摂取状況</p> <p>第4回 個人内変動と個人間変動</p> <p>第5回 日常的、平均的な食事摂取量</p> <p>第6回 食事摂取量の測定方法 1</p> <p>第7回 食事摂取量の測定方法 2</p> <p>第8回 食事摂取量の測定方法 3</p> <p>第9回 食物摂取量と生物化学的指標・身体測定法</p> <p>第10回 栄養素密度法と残渣法</p> <p>第11回 疾病頻度と曝露効果の測定</p> <p>第12回 特定健診・特定保健指導</p> <p>第13回 公衆栄養マネジメントとアセスメント</p> <p>第14回 公衆栄養プログラムの計画・実施・評価</p> <p>第15回 本授業のまとめ</p>
テキスト	管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 第10巻 公衆栄養学 日本栄養改善学会監修 医歯薬出版株式会社

参考書	食事調査マニュアル 著者：伊藤ちぐさ他 南江堂 データ栄養学のすすめ 著者：佐々木敏夫 女子栄養大学出版部 栄養データはこう読む！ 著者：佐々木敏夫 女子栄養大学出版部
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	保健所等の公衆栄養業務に携わった経験を活かして、具体的かつ実践的な講義をする。
質問への対応方法	オフィスアワーで対応する。
フィードバックの方法	提出物等は回収し、内容を確認後に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各授業前には、授業で学習するテキストの該当ページを読んでおくこと。（2時間） 授業後には、配布した資料・ワークシート・テキスト該当ページを使用して復習を行うこと（2時間） 詳細については、各授業で指示する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	栄養疫学 栄養疫学の意義やその沿革について学ぶ。	筆記用具を持参のこと。	
2	食品と栄養素の暴露 栄養の暴露について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
3	個人内変動と個人内変動 食事の個人内変動と個人内変動について	前回の授業内容を復習のこと。	
4	日常的、平均的な食事摂取量 日常的、平均的な食事摂取量の疑念について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
5	食事摂取量の測定法 秤量法について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
6	食事摂取量の測定法 24時間食事思い出し法について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
7	食事摂取量の測定法 食物記録法について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
8	食事摂取量の測定法 食物摂取頻度調査法について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
9	食物摂取量と生化学的指標 食物摂取量を反映する生化学的指標について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
10	食物摂取量と身体計測値 食物摂取量を反映する身体計測値について	前回の授業内容を復習のこと。	
11	栄養素密度 栄養素密度の概念について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
12	栄養と残渣法 栄養と残渣法の概念について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
13	栄養と多変量解析 栄養と多変量解析の概念について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
14	疾病頻度、暴露効果の測定 栄養疫学で扱う暴露指標について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
15	まとめ 授業のまとめを行う。	本授業関連の管理栄養士国試対策等ポイント学習を行う。	



開講科目名 Course	公衆栄養学II(2組)
時間割コード Course Code	53941
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	松尾 貴子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	松尾 貴子 (管理栄養学科)
授業の目標	<p>知識・理解の領域 地域、職場といった集団の健康栄養問題とそれらを取り巻く環境要因に関する情報を収集・分析する理論・手法を学習し、栄養疫学の内容を理解することができる。</p> <p>技能の領域 分析結果を総合的に評価・判定する能力を養い、栄養疫学研究について説明できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 わが国および諸外国において実施されている公衆栄養プログラムの習得を目指す。</p>
授業の概要	「公衆栄養学」での学びをさらに技術的に発展させ、保健・医療・福祉・介護の各分野におけるEBNの考え方を理解し、集団特性に対し適切な栄養関連サービスを提供できるプログラムの作成・実施・評価の総合的マネジメントについて学ぶ。疫学手法を理解・学習する技術も同時に取得する。
評価方法	受講状況20%、課題提出状況30%、期末試験50%の成績を総合して評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業回数の3分の2以上の出席がない場合。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 栄養疫学の概要</p> <p>第3回 暴露情報としての食事摂取状況</p> <p>第4回 個人内変動と個人間変動</p> <p>第5回 日常的、平均的な食事摂取量</p> <p>第6回 食事摂取量の測定方法 1</p> <p>第7回 食事摂取量の測定方法 2</p> <p>第8回 食事摂取量の測定方法 3</p> <p>第9回 食物摂取量と生物化学的指標・身体測定法</p> <p>第10回 栄養素密度法と残渣法</p> <p>第11回 疾病頻度と曝露効果の測定</p> <p>第12回 特定健診・特定保健指導</p> <p>第13回 公衆栄養マネジメントとアセスメント</p> <p>第14回 公衆栄養プログラムの計画・実施・評価</p> <p>第15回 本授業のまとめ</p>
テキスト	管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 第10巻 公衆栄養学 日本栄養改善学会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	<p>食事調査マニュアル 著者：伊藤ちぐさ他 南江堂</p> <p>データ栄養学のすすめ 著者：佐々木敏夫 女子栄養大学出版部</p> <p>栄養データはこう読む！ 著者：佐々木敏夫 女子栄養大学出版部</p>

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	保健所等の公衆栄養業務に携わった経験を活かして、具体的かつ実践的な講義をする。
質問への対応方法	オフィスアワーで対応する
フィードバックの方法	提出物等は回収し、内容を確認後に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各授業前には、授業で学習するテキストの該当ページを読んでおくこと。(2時間) 授業後には、配布した資料・ワークシート・テキスト該当ページを使用して復習を行うこと(2時間) 詳細については、各授業で指示する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	栄養疫学 栄養疫学の意義やその沿革について学ぶ。	筆記用具を持参のこと。	
2	食品と栄養素の暴露 栄養の暴露について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
3	個人内変動と個人内変動 食事の個人内変動と個人内変動について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
4	日常的、平均的な食事摂取量 日常的、平均的な食事摂取量の疑念について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
5	食事摂取量の測定法 秤量法について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
6	食事摂取量の測定法 24時間食事思い出し法について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
7	食事摂取量の測定法 食物記録法について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
8	食事摂取量の測定法 食物摂取頻度調査法について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
9	食物摂取量と生化学的指標 食物摂取量を反映する生化学的指標について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
10	食物摂取量と身体計測値 食物摂取量を反映する身体計測値について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
11	栄養素密度 栄養素密度の概念について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
12	栄養と残渣法 栄養と残渣法の概念について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
13	栄養と多変量解析 栄養と多変量解析の概念について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
14	疾病頻度、暴露効果の測定 栄養疫学で扱う暴露指標について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
15	まとめ 授業のまとめを行う。	本授業関連の管理栄養士国試対策等ポイント学習を行う。	

開講科目名 Course	公衆栄養学実習(1組)
時間割コード Course Code	53942
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1, 木 / Thu 2, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	松尾 貴子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	情報実習室 B
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	松尾 貴子 (管理栄養学科)
授業の目標	公衆栄養学マネジメント、食事調査や統計解析など栄養疫学に関する事項について理解し実践できるようにする。
授業の概要	公衆栄養学Iおよび公衆栄養学IIの授業を踏まえて、公衆栄養プログラムの策定や栄養調査などを体験し、公衆栄養活動の総合的なマネジメントについての理解を深める。
評価方法	受講状況20%、課題提出状況30%、試験50%の成績を総合して評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業回数の3分の2以上の出席がない場合。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 地域社会診断 第3回 インターネットを使用した情報収集 第4回 食事調査法 第5回 栄養状態の判定と評価 第6回 栄養疫学演習 第7回 まとめ 第8回 課題
テキスト	公衆栄養学ワークブック (株式会社 みらい)
参考書	食事調査マニュアル 著者：伊藤ちぐさ他 南江堂 データ栄養学のすすめ 著者：佐々木敏夫 女子栄養大学出版部 栄養データはこう読む！ 著者：佐々木敏夫 女子栄養大学出版部
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	保健所等の公衆栄養業務に携わった経験を活かして、具体的かつ実践的な講義をする。
質問への対応方法	随時対応する。
フィードバックの方法	提出物等は随時返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各授業前には、授業で学習するテキストの該当ページを読んでおくこと。(2時間) 授業後には、配布した資料・ワークシート・テキスト該当ページを使用して復習を行うこと(2時間) 詳細については、各授業で指示する。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	地域診断のすすめ方 実習についての説明をしてから、地域における栄養行政の実態の把握と分析をす	第1回から3回まで集中して本演習を行う。	
2	公衆栄養プログラムの実際 公衆栄養プログラムの計画策定と実施および評価など公衆栄養マネジメントをす	第4回から9回まで集中して本演習を行う。	
3	インタ-ネットを利用した情報検索 食物摂取と疾病発症リスクに関する学術論文を検索し、その関連性をまとめる。	第10回から12回まで集中して本演習を行う。	
4	インタ-ネットを利用した情報検索 地域の食生活に関する情報検索をして、栄養問題をまとめる。	第13回から15回まで集中して本演習を行う。	
5	栄養疫学演習 栄養関連のいろいろな事象について、その頻度と分布およびそれらに影響を与える要因を明らかにする。	第16回から18回まで集中して本演習を行う。	
6	栄養状態の判定と評価 身体計測などによって得られた情報にもとづいて、栄養状態の判定と評価をする	第19回から21回まで集中して本演習を行う。	
7	公衆栄養施策 自分の住んでいる都道府県の健康増進計	第22回から24回まで集中して本演習を行う。	

開講科目名 Course	公衆栄養学実習(2組)
時間割コード Course Code	53943
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1, 木 / Thu 2, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	松尾 貴子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	情報実習室 B
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	松尾 貴子 (管理栄養学科)
授業の目標	公衆栄養学マネジメント、食事調査や統計解析など栄養疫学に関する事項について理解し実践できるようにする。
授業の概要	公衆栄養学Iおよび公衆栄養学IIの授業を踏まえて、公衆栄養プログラムの策定や栄養調査などを体験し、公衆栄養活動の総合的なマネジメントについての理解を深める。
評価方法	受講状況20%、課題提出状況30%、試験50%の成績を総合して評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業回数の3分の2以上の出席がない場合。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 地域社会診断 第3回 インターネットを使用した情報収集 第4回 食事調査法 第5回 栄養状態の判定と評価 第6回 栄養疫学演習 第7回 まとめ 第8回 課題
テキスト	公衆栄養学ワークブック (株式会社 みらい)
参考書	食事調査マニュアル 著者:伊藤ちぐさ他 南江堂 データ栄養学のすすめ 著者:佐々木敏夫 女子栄養大学出版部 栄養データはこう読む! 著者:佐々木敏夫 女子栄養大学出版部
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	保健所等の公衆栄養業務に携わった経験を活かして、具体的かつ実践的な講義をする。
質問への対応方法	随時対応する。
フィードバックの方法	提出物等は随時返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各授業前には、授業で学習するテキストの該当ページを読んでおくこと。(2時間) 授業後には、配布した資料・ワークシート・テキスト該当ページを使用して復習を行うこと(2時間) 詳細については、各授業で指示する。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	地域診断のすすめ方 実習についての説明をしてから、地域における栄養行政の実態の把握と分析をす	第1回から3回まで集中して本演習を行う。	
2	公衆栄養プログラムの実際 公衆栄養プログラムの計画策定と実施および評価など公衆栄養マネジメントをす	第4回から9回まで集中して本演習を行う。	
3	インタ-ネットを利用した情報検索 食物摂取と疾病発症リスクに関する学術論文を検索し、その関連性をまとめる。	第10回から12回まで集中して本演習を行う。	
4	インタ-ネットを利用した情報検索 地域の食生活に関する情報検索をして、栄養問題をまとめる。	第13回から15回まで集中して本演習を行う。	
5	栄養疫学演習 栄養関連のいろいろな事象について、その頻度と分布およびそれらに影響を与える要因を明らかにする。	第16回から18回まで集中して本演習を行う。	
6	栄養状態の判定と評価 身体計測などによって得られた情報にもとづいて、栄養状態の判定と評価をする	第19回から21回まで集中して本演習を行う。	
7	公衆栄養施策 自分の住んでいる都道府県の健康増進計	第22回から24回まで集中して本演習を行う。	

開講科目名 Course	給食経営管理論I(1組)
時間割コード Course Code	53980
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	朱宮 哲明
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	朱宮 哲明(管理栄養学科)
授業の目標	給食経営管理とは、給食施設において給食運営や関連資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面等のマネジメントを行い、その運営をシステム化し動かしていくことである。本講義では、給食経営管理を実践するための基本的な考え方や理論、方法について基礎知識を習得することを目標とする。 (1) 特定給食施設の定義、目的、特徴と関連法規を理解し、給食システムについて説明することができる。 (2) 給食経営管理における組織運営を理解し、マーケティング手法を説明できる。 (3) 給食経営における品質管理を理解し、献立計画の立案ができる。
授業の概要	(1) 特定給食施設の定義、目的、特徴および法的根拠を理解し、給食管理業務、給食システム、関連法規の内容を習得する。 (2) 給食経営管理、組織の仕組み、マーケティング手法を学び、給食運営能力を習得する。 (3) 栄養・食事管理を理解し、食事計画を立案、実施、評価、改善のPDCAサイクルを習得する。
評価方法	小テスト、試験(60%)、提出物・ノート(20%)、授業態度(20%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 オリエンテーション、給食の概念(1) 給食の概要、給食システム 第2回 給食の概念(2) 給食施設の特徴と関連法規 第3回 給食の概念(3) 各種施設における給食の意義 第4回 給食経営管理の概念(1) 給食経営と献立 第5回 給食経営管理の概念(2) 給食とマーケティング 第6回 給食経営管理の概念(3) 給食経営と組織 第7回 給食経営管理の概念(4) アクティブラーニング(給食やマーケティングについて発表) 第8回 栄養・食事管理(1) 栄養・食事のアセスメント 第9回 栄養・食事管理(2) 食事の計画 第10回 栄養・食事管理(3) 食事計画の実施、評価、改善 第11回 特定給食施設の各論(1) 医療施設 第12回 特定給食施設の各論(2) 高齢者・介護福祉施設 第13回 特定給食施設の各論(3) 児童福祉施設、障害者福祉施設、学校 第14回 特定給食施設の各論(4) 事業所、自衛隊・矯正施設、給食サービス事業者 第15回 まとめ
テキスト	「給食経営管理論(第3版)」片山直美、原正美編著(株式会社 みらい)

参考書	「日本人の食事摂取基準（2020年版）」伊藤貞嘉、佐々木敏監修（第一出版） 「給食経営管理用語辞典」日本給食経営管理学会監修（第一出版）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	給食運営の実際やマーケティングについてディスカッションや発表を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実際に施設で実施されている給食管理の事例を示し、実践的な給食経営管理について学ぶ。
質問への対応方法	講義前後を含め随時対応。
フィードバックの方法	小テストや配布資料を使用。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	教科書、配布資料での予習・復習、提出物の作成等。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	給食経営管理論I(2組)
時間割コード Course Code	53981
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	朱宮 哲明
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	朱宮 哲明(管理栄養学科)
授業の目標	給食経営管理とは、給食施設において給食運営や関連資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面等のマネジメントを行い、その運営をシステム化し動かしていくことである。本講義では、給食経営管理を実践するための基本的な考え方や理論、方法について基礎知識を習得することを目標とする。 (1) 特定給食施設の定義、目的、特徴と関連法規を理解し、給食システムについて説明することができる。 (2) 給食経営管理における組織運営を理解し、マーケティング手法を説明できる。 (3) 給食経営における品質管理を理解し、献立計画の立案ができる。
授業の概要	(1) 特定給食施設の定義、目的、特徴および法的根拠を理解し、給食管理業務、給食システム、関連法規の内容を習得する。 (2) 給食経営管理、組織の仕組み、マーケティング手法を学び、給食運営能力を習得する。 (3) 栄養・食事管理を理解し、食事計画を立案、実施、評価、改善のPDCAサイクルを習得する。
評価方法	小テスト、試験(60%)、提出物・ノート(20%)、授業態度(20%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 オリエンテーション、給食の概念(1) 給食の概要、給食システム 第2回 給食の概念(2) 給食施設の特徴と関連法規 第3回 給食の概念(3) 各種施設における給食の意義 第4回 給食経営管理の概念(1) 給食経営と献立 第5回 給食経営管理の概念(2) 給食とマーケティング 第6回 給食経営管理の概念(3) 給食経営と組織 第7回 給食経営管理の概念(4) アクティブラーニング(給食やマーケティングについて発表) 第8回 栄養・食事管理(1) 栄養・食事のアセスメント 第9回 栄養・食事管理(2) 食事の計画 第10回 栄養・食事管理(3) 食事計画の実施、評価、改善 第11回 特定給食施設の各論(1) 医療施設 第12回 特定給食施設の各論(2) 高齢者・介護福祉施設 第13回 特定給食施設の各論(3) 児童福祉施設、障害者福祉施設、学校 第14回 特定給食施設の各論(4) 事業所、自衛隊・矯正施設、給食サービス事業者 第15回 まとめ
テキスト	「給食経営管理論(第3版)」片山直美、原正美編著(株式会社 みらい)

参考書	「日本人の食事摂取基準（2020年版）」伊藤貞嘉、佐々木敏監修（第一出版） 「給食経営管理用語辞典」日本給食経営管理学会監修（第一出版）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	給食運営の実際やマーケティングについてディスカッションや発表を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実際に施設で実施されている給食管理の事例を示し、実践的な給食経営管理について学ぶ。
質問への対応方法	講義前後を含め随時対応。
フィードバックの方法	小テストや配布資料を使用。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	教科書、配布資料での予習・復習、提出物の作成等。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	給食経営管理論II(1組)
時間割コード Course Code	54005
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	朱宮 哲明
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	朱宮 哲明 (管理栄養学科)
授業の目標	<p>給食経営管理とは、給食施設において給食運営や関連資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面等のマネジメントを行い、その運営をシステム化し動かしていくことである。本講義では、給食経営管理を実践するための基本的な考え方や理論、方法について基礎知識を習得することを目標とする。</p> <p>(1) 給食利用者が満足する品質の高い食事を提供するための品質管理の基本的な考え方について理解できる。</p> <p>(2) 特定多数の利用者に安全・安心な食事を提供するための衛生管理体制や衛生手法の実際について理解できる。</p> <p>(3) 衛生的で効率的な給食を提供するための施設・設備の運用方法及び保守管理について理解できる。</p>
授業の概要	<p>(1) 食材料の品質、量、費用の管理と大量調理における調理工程・作業工程管理、提供管理方法について習得する。</p> <p>(2) 給食の安全管理・衛生管理の意義と目的について関係法規を基に理解を深める。また、給食管理における危機管理体制について習得する。</p> <p>(3) 給食の施設・設備は給食施設の種類により法的規制が設けられている。それらの法規の内容を理解し、実践に活用できる知識を習得する。</p>
評価方法	テスト、試験(60%)、提出物・ノート(20%)、授業態度(20%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、給食経営における品質管理（1） 給食経営における品質と品質管理の意義、給食の品質基準と献立の標準化</p> <p>第2回 給食経営における品質管理（2） 調理工程と調理作業の標準化、品質管理とPDCAサイクル</p> <p>第3回 給食経営における品質管理（3） 給食の原価構成、給食における収入と原価管理、費用分析</p> <p>第4回 給食経営における品質管理（4） 食材管理の概要、購買計画と方法、食材の保管・在庫管理、食材管理の評価</p> <p>第5回 給食経営における品質管理（5） 給食のオペレーションシステム、生産計画と人員配置</p> <p>第6回 給食経営における品質管理（6） 大量調理の調理特性、廃棄物処理、配膳・配食の精度</p> <p>第7回 給食の安全衛生（1） 安全・衛生の意義と目的、給食と食中毒・感染症</p> <p>第8回 給食の安全衛生（2） 施設・設備の保守、危機管理対策</p> <p>第9回 給食の安全衛生（3） 給食におけるHACCPシステムの運用</p> <p>第10回 給食の安全衛生（4） 大量調理衛生管理マニュアル</p> <p>第11回 給食の安全衛生（5） 事故・災害、災害時のための貯蔵と献立</p> <p>第12回 給食の施設・設備（1） 施設・設備の基準と関連法規、給食施設の概要、大量調理機器の種類と機能</p> <p>第13回 給食の施設・設備（2） 作業区域と設備のレイアウト、図面の見方</p> <p>第14回 給食の施設・設備（3） 食事環境の設計と設備</p> <p>第15回 給食の人事管理 人事、給食業務従事者の教育・訓練、人事考課</p>
テキスト	「給食経営管理論（第3版）」片山直美、原正美編著（株式会社 みらい）
参考書	「ガイドラインでみる給食施設等の衛生管理－管理栄養士・栄養士・調理師の対応－」調所勝弘編集（新日本法規） 「給食経営管理用語辞典」日本給食経営管理学会監修（第一出版）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	危機管理において災害時に備えた献立をグループで作成し、発表を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	特定給食施設で運用されている衛生管理、品質管理について実際に使用されている資料を参考に活用法を学ぶ。
質問への対応方法	講義前後を含め随時対応。
フィードバックの方法	小テストや配布資料を使用。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	教科書、配布資料での予習・復習、提出物の作成等。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	給食経営管理論II(2組)
時間割コード Course Code	54006
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	朱宮 哲明
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	朱宮 哲明 (管理栄養学科)
授業の目標	<p>給食経営管理とは、給食施設において給食運営や関連資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面等のマネジメントを行い、その運営をシステム化し動かしていくことである。本講義では、給食経営管理を実践するための基本的な考え方や理論、方法について基礎知識を習得することを目標とする。</p> <p>(1) 給食利用者が満足する品質の高い食事を提供するための品質管理の基本的な考え方について理解できる。</p> <p>(2) 特定多数の利用者に安全・安心な食事を提供するための衛生管理体制や衛生手法の実際について理解できる。</p> <p>(3) 衛生的で効率的な給食を提供するための施設・設備の運用方法及び保守管理について理解できる。</p>
授業の概要	<p>(1) 食材料の品質、量、費用の管理と大量調理における調理工程・作業工程管理、提供管理方法について習得する。</p> <p>(2) 給食の安全管理・衛生管理の意義と目的について関係法規を基に理解を深める。また、給食管理における危機管理体制について習得する。</p> <p>(3) 給食の施設・設備は給食施設の種類により法的規制が設けられている。それらの法規の内容を理解し、実践に活用できる知識を習得する。</p>
評価方法	テスト、試験(60%)、提出物・ノート(20%)、授業態度(20%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。



授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、給食経営における品質管理（1） 給食経営における品質と品質管理の意義、給食の品質基準と献立の標準化</p> <p>第2回 給食経営における品質管理（2） 調理工程と調理作業の標準化、品質管理とPDCAサイクル</p> <p>第3回 給食経営における品質管理（3） 給食の原価構成、給食における収入と原価管理、費用分析</p> <p>第4回 給食経営における品質管理（4） 食材管理の概要、購買計画と方法、食材の保管・在庫管理、食材管理の評価</p> <p>第5回 給食経営における品質管理（5） 給食のオペレーションシステム、生産計画と人員配置</p> <p>第6回 給食経営における品質管理（6） 大量調理の調理特性、廃棄物処理、配膳・配食の精度</p> <p>第7回 給食の安全衛生（1） 安全・衛生の意義と目的、給食と食中毒・感染症</p> <p>第8回 給食の安全衛生（2） 施設・設備の保守、危機管理対策</p> <p>第9回 給食の安全衛生（3） 給食におけるHACCPシステムの運用</p> <p>第10回 給食の安全衛生（4） 大量調理衛生管理マニュアル</p> <p>第11回 給食の安全衛生（5） 事故・災害、災害時のための貯蔵と献立</p> <p>第12回 給食の施設・設備（1） 施設・設備の基準と関連法規、給食施設の概要、大量調理機器の種類と機能</p> <p>第13回 給食の施設・設備（2） 作業区域と設備のレイアウト、図面の見方</p> <p>第14回 給食の施設・設備（3） 食事環境の設計と設備</p> <p>第15回 給食の人事管理 人事、給食業務従事者の教育・訓練、人事考課</p>
テキスト	「給食経営管理論（第3版）」片山直美、原正美編著（株式会社 みらい）
参考書	「ガイドラインでみる給食施設等の衛生管理－管理栄養士・栄養士・調理師の対応－」調所勝弘編集（新日本法規） 「給食経営管理用語辞典」日本給食経営管理学会監修（第一出版）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	危機管理において災害時に備えた献立をグループで作成し、発表を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	特定給食施設で運用されている衛生管理、品質管理について実際に使用されている資料を参考に活用法を学ぶ。
質問への対応方法	講義前後を含め随時対応。
フィードバックの方法	小テストや配布資料を使用。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	教科書、配布資料での予習・復習、提出物の作成等。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	給食経営管理論実習(1組)
時間割コード Course Code	54020
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1, 木 / Thu 2, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	朱宮 哲明
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	10A 給食経営管理実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	朱宮 哲明(管理栄養学科)
授業の目標	<p>栄養調理学実習で学んだ食品の知識や調理の基礎技術を活用し、大量調理の手法や技術を習得する。また、品質管理、衛生管理のポイント、帳票類の作成等の給食管理について理解することを目的とする。</p> <p>(1) 特定給食施設における給食管理、給食経営の基本について理解することができる。</p> <p>(2) 管理栄養士として、リーダーシップおよびコミュニケーションを取りながら行動することができる。</p> <p>(3) 大量調理実習を通し、調理業務全体を衛生的かつ安全および効率的に遂行することができる。</p>
授業の概要	給食経営管理論に基づき大量調理の基本を理解し、利用者の栄養・食事管理項目を計画、実施、評価、改善というPDCAサイクルに沿った運営に基づき、衛生的かつ安全に調理作業を行い、効率的に機能できる技術と実践を習得する。
評価方法	実習態度(行動力、積極性、協調性)70%、課題提出30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、献立作成</p> <p>第2回 作業工程表、発注書作成</p> <p>第3回 大量調理実習 1</p> <p>第4回 大量調理実習 2</p> <p>第5回 大量調理実習 3</p> <p>第6回 大量調理実習 4</p> <p>第7回 まとめ</p> <p>第8回 発表</p>
テキスト	「はじめての大量調理」殿塚婦美子、山本五十六著(学健書院)
参考書	<p>「調理のためのベーシックデータ第6版」女子栄養大学出版部(女子栄養大学出版部)</p> <p>「日本食品成分表2022 八訂」医歯薬出版(医歯薬出版)</p> <p>「日本人の栄養摂取基準2020年度版」伊藤貞嘉、佐々木敏監修(第一出版)</p> <p>「給食経営管理論実習」石田裕美編著(建帛社)</p> <p>「トレーニングガイドPDCAによる給食マネジメント実習第2版」松月弘恵、韓順子、亀山良子編著(医歯薬出版)</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	作成した献立や調べてきた食材の特徴についてグループディスカッションを行い、効率的な作業手順を計画し調理実習を実施する。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	長年、特定給食施設にて経験を積んだ教員より大量調理の基本を習得し、作成した献立の栄養価・原価計算や効率的な調理作業工程など実践的な給食経営管理について学ぶ。
質問への対応方法	講義前後を含め随時対応
フィードバックの方法	参考資料を配布
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	教科書、配布資料での予習・復習、提出物の作成等。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	給食経営管理論実習(2組)
時間割コード Course Code	54021
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1, 木 / Thu 2, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	朱宮 哲明
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	10A 給食経営管理実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	朱宮 哲明(管理栄養学科)
授業の目標	<p>栄養調理学実習で学んだ食品の知識や調理の基礎技術を活用し、大量調理の手法や技術を習得する。また、品質管理、衛生管理のポイント、帳票類の作成等の給食管理について理解することを目的とする。</p> <p>(1) 特定給食施設における給食管理、給食経営の基本について理解することができる。</p> <p>(2) 管理栄養士として、リーダーシップおよびコミュニケーションを取りながら行動することができる。</p> <p>(3) 大量調理実習を通し、調理業務全体を衛生的かつ安全および効率的に遂行することができる。</p>
授業の概要	給食経営管理論に基づき大量調理の基本を理解し、利用者の栄養・食事管理項目を計画、実施、評価、改善というPDCAサイクルに沿った運営に基づき、衛生的かつ安全に調理作業を行い、効率的に機能できる技術と実践を習得する。
評価方法	実習態度(行動力、積極性、協調性)70%、課題提出30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、献立作成</p> <p>第2回 作業工程表、発注書作成</p> <p>第3回 大量調理実習 1</p> <p>第4回 大量調理実習 2</p> <p>第5回 大量調理実習 3</p> <p>第6回 大量調理実習 4</p> <p>第7回 まとめ</p> <p>第8回 発表</p>
テキスト	「はじめての大量調理」殿塚婦美子、山本五十六著(学健書院)
参考書	<p>「調理のためのベーシックデータ第6版」女子栄養大学出版部(女子栄養大学出版部)</p> <p>「日本食品成分表2022 八訂」医歯薬出版(医歯薬出版)</p> <p>「日本人の栄養摂取基準2020年度版」伊藤貞嘉、佐々木敏監修(第一出版)</p> <p>「給食経営管理論実習」石田裕美編著(建帛社)</p> <p>「トレーニングガイドPDCAによる給食マネジメント実習第2版」松月弘恵、韓順子、亀山良子編著(医歯薬出版)</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	作成した献立や調べてきた食材の特徴についてグループディスカッションを行い、効率的な作業手順を計画し調理実習を実施する。

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	長年、特定給食施設にて経験を積んだ教員より大量調理の基本を習得し、作成した献立の栄養価・原価計算や効率的な調理作業工程など実践的な給食経営管理について学ぶ。
質問への対応方法	講義前後を含め随時対応
フィードバックの方法	参考資料を配布
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	教科書、配布資料での予習・復習、提出物の作成等。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	臨地実習Ⅰ(年)24前-25後
時間割コード Course Code	54045
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	年度またがり / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	早川麻理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川麻理子(管理栄養学科)、夏目 有紀枝(管理栄養学科)、庄司 吏香(管理栄養学科)、朱宮 哲明(管理栄養学科)、松尾 貴子(管理栄養学科)
授業の目標	臨地実習は、実際の現場で体験することにより、実践活動での課題発見、解決を通して適切なフードマネジメントに必要とされる専門的知識及び技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識及び技能を修得するための科目です。 臨地実習 では、「給食の運営」を含む「給食経営管理論」2単位として、事業所、学校、福祉施設等の特定給食施設で実際に業務を体験し、管理栄養士としての技術を体得することを目的としています。
授業の概要	各特定給食施設の給食の意義・目的やその特質および管理栄養士の役割と実践的な業務を学びます。栄養評価、給食システム、生産管理、工程管理、食材管理、品質管理、原価管理、衛生管理、施設設備管理、帳票類管理、人事労務管理と人材教育、危機管理等を理解できるようにします。また、給食における多職種連携や地域連携の実践を学び、給食資源の具体的な活用法を知り、総合的な経営管理のマネジメントができるようにします。 さらに、喫食者の基本的権利・個人情報保護等の重要性についても理解を深め、遵守します。
評価方法	事前・事後指導および提出物、実習先管理栄養士の評価などを含め、総合的に評価します。 実習時間 45時間 ×2回
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	すべての日数を出席しなかった場合
授業計画	3年次～4年次の間に、管理栄養士の勤務経験のある教員の指導の下で病院・学校・事業所・福祉施設等の実習を1週間×2回行います。 臨地実習に伴う事前事後指導を行います。
テキスト	臨地・校外実習 加藤昌彦、續順子、塚原丘美 健帛社
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員から学外実習の指導を受け、実際に働いている現場の管理栄養士から実践的な指導を受けます。
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	随時対応
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	実習施設からの事前・実習中・事後課題及び心構えなどに対する事前準備に20時間×各2施設、ノート作成及び報告会資料作成10時間×各2施設

使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	9.実践力

開講科目名 Course	臨地実習II(年)24前-25後
時間割コード Course Code	54065
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	年度またがり / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	早川麻理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川麻理子(管理栄養学科)、夏目 有紀枝(管理栄養学科)、庄司 吏香(管理栄養学科)、朱宮 哲明(管理栄養学科)、松尾 貴子(管理栄養学科)
授業の目標	臨地実習は、実際の現場で体験することにより、実践活動での課題発見、解決を通して適切な栄養ケアマネジメントに必要とされる専門的知識及び技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識及び技能を修得するための科目です。 臨地実習 では、「臨床栄養学」2単位として、実際の医療現場で栄養管理を体験することで、学内で学んだ臨床栄養学の知識や技能をさらに深め、管理栄養士の責務および傷病者に対する栄養管理の実務を修得することが目標です。
授業の概要	医療施設における栄養ケアプロセスの意義・目的やその特性および管理栄養士の役割と実践的な業務を学びます。栄養スクリーニング、栄養評価、栄養診断、栄養管理、栄養教育など、傷病者に対する臨床栄養管理業務を理解し、常に問題意識を持ち、現場で生じる課題に取り組むことで、管理栄養士として必要なスキルを修得します。 また、医療チームの一員としてコミュニケーション能力を高め、臨床現場での総合的な栄養管理ができるようにします。 さらに、守秘義務、個人情報保護などについて、医療倫理を踏まえた全人的な管理栄養士としての素養を身につけ、遵守します。
評価方法	事前・事後指導および提出物、実習先管理栄養士の評価などを含め、総合的に評価します。 実習時間 90時間
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	すべての日数を出席しなかった場合
授業計画	3年次～4年次の間に、医療現場で勤務する管理栄養士の指導の下に、臨床栄養管理の実務を2週間行います。 また、学内において臨地実習に伴う事前事後指導を行います。
テキスト	臨地・校外実習 加藤昌彦、續順子、塚原丘美 健帛社
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	臨床栄養管理経験を持つ教員が、医療保険制度、他職種とのチーム医療、栄養食事指導、入院栄養管理等の事前教育を行い、実際の医療現場の実習を通して管理栄養士の責務を学びます。
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	随時対応。



予習・復習等、準備学習の内容及び時間	〔予習〕学習内容のテキストの項目を読んでおく。(2h×15回 30時間) 〔復習〕講義内で配布されるプリントおよびテキストの内容をまとめる。(2h×15回 30時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	9.実践力

開講科目名 Course	バイオテクノロジー概論
時間割コード Course Code	54100
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	寺前 洋生
科目区分 Course Group	専門科目群 専門関連科目
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	寺前 洋生 (管理栄養学科)
授業の目標	バイオテクノロジーに関係する情報技術の基本原則をWebツールの操作を通して理解し、進歩の著しいバイオテクノロジーの遷移の理解に必要な情報検索能力を身につける。
授業の概要	バイオテクノロジーは、みそ・しょうゆ・酒などの発酵食品にはじまり現代の遺伝子組み換え食品に至る食と密接なかかわりのある科学技術である。本講義では、バイオテクノロジーを理解するうえで必要な分子細胞生物学の再新展開を理解するために必要なWebツールの利用方法や細胞機能・物質代謝に関連するゲノム情報を分子細胞生物学の視点から解説し、バイオテクノロジーを理解する基本技能を演習する。
評価方法	授業内で行う課題・レポート(80%)と学修態度(20%)で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・出席回数が授業回の2/3に満たない場合
授業計画	第1回．授業ガイダンスと授業の概要 第2回．生命の設計図「ゲノム」 第3回．バイオ情報の基礎 (1) 第4回．バイオ情報の基礎 (2) 第5回．バイオ情報の基礎 (3) 第6回．バイオ情報の基礎 (4) 第7回．バイオ分子の情報 (1) 第8回．バイオ分子の情報 (2) 第9回．バイオ分子の情報 (3) 第10回．バイオ文献情報 (1) 第11回．バイオ文献情報 (2) 第12回．バイオ文献情報 (3) 第13回．バイオ文献情報 (4) 第14回．ゲノム情報の解析 (1) 第15回．ゲノム情報の解析 (2)
テキスト	生命科学データベース・ウェブツール 図解と動画で使い方がわかる! 研究がはかどる定番18選 坊農秀雅 (編集), 小野浩雅 (編集) メディカルサイエンスインターナショナル ISBN-13 : 978-4815701437

参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Dr. Bonoの生命科学データ解析 第2版 坊農秀雅 (著) メディカルサイエンスインターナショナル、ISBN-13 : 978-4815730116</li> <li>・ デジタル細胞生物学 三浦耕太 (翻訳), 塚田祐基 (翻訳) メディカルサイエンスインターナショナル、ISBN-13 : 978-4815730123</li> </ul>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内でWebツールを用いた演習作業を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学生への質問に対して、授業中は随時対応する。時間外においては、オフィスアワー、メールなどで対応する。
フィードバックの方法	授業内で、必要に応じてアドバイする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習：授業範囲の内容を事前調査する。(1.5時間) 復習：授業内容や考察をまとめる。(1.5時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	6. 行動持続力 7. 課題発見力

開講科目名 Course	微生物学
時間割コード Course Code	54110
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 5
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3
主担当教員 Main Instructor	前田 真男
科目区分 Course Group	専門科目群 専門関連科目
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	前田 真男 (管理栄養学科)
授業の目標	管理栄養士として必要な微生物学・免疫学に関する基礎知識を学ぶ。
授業の概要	微生物の種類に関する基礎知識、感染症、食品に利用される微生物、食品衛生に関わる微生物、免疫に関する基礎知識などについて学ぶ。
評価方法	期末テストの結果で評価するが、授業内で提出する課題レポートもあわせて総合評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	6回以上欠席で失格
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照。
テキスト	栄養化学イラストレイテッド 「微生物学」 改訂 第2版 羊土社 ISBN978-4-7581-1373-1
参考書	建帛社 新版改訂 微生物と免疫 ISBN978-4-7679-0685-0  Nブックス 新版 微生物学 ISBN978-4-7679-0386-6
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	適宜対応
フィードバックの方法	課題レポートは次回返却し、次の授業でそのレポートについて解説する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、予習復習をそれぞれ1時間ずつ。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	第1回	ガイダンス・微生物の特徴と分類・微生物学の歴史	
2	第2回	細菌学総論	
3	第3回	ウイルス学総論	
4	第4回	真菌学/原虫学総論	
5	第5回	生活に身近な微生物－微生物の活用	
6	第6回	生活に身近な微生物－腸内細菌叢とプロバイオティクス－カビの害	
7	第7回	細菌と感染症 - 1	
8	第8回	細菌と感染症 - 2	
9	第9回	ウイルスと感染症	
10	第10回	原虫・蠕虫・真菌と感染症	
11	第11回	感染－発症と予防	
12	第12回	免疫学総論	
13	第13回	アレルギーと自己免疫疾患	
14	第14回	輸血と移植免疫、栄養と免疫、運動と免疫	
15	第15回	感染と生体防御、感染症と原因微生物	

開講科目名 Course	食品官能検査・鑑別論
時間割コード Course Code	54190
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	谷口 いつか
科目区分 Course Group	専門科目群 専門関連科目
教室 Classroom	1 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	谷口 いつか (管理栄養学科)
授業の目標	<p>フードスペシャリストとして、消費者の立場に立ち食品を選択するための知識を深め、品質を的確に評価する能力を身に付ける事ができるようになる。</p> <p>以下を具体的な到達目標とする。</p> <p>1) 各食品の成分および取り扱い方法を理解し、説明できるようになる。</p> <p>2) 食品を適切に保存し管理するために自ら進んで調べる事ができる。</p> <p>3) 化学的・物理的評価法および嗜好に直結する官能的評価法を学び、食品の品質を見抜く事が出来るようにする。</p>
授業の概要	<p>フードスペシャリストは、食の本質が「おいしさ」「楽しさ」「おもてなし」にある事を学び、食に関する幅広い知識と技術を身に付けた食の専門家である。</p> <p>本科目では、食品のおいしさの保持および評価を行うために、食品の表示鑑別や品質管理の基礎に加え、官能評価，化学的評価，物理的評価などの食品の評価方法について学ぶ。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業態度(10%)，レポート(40%)，8回目の授業内でのテスト(50%)を総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション，食品の品質とは</p> <p>第2回 官能評価</p> <p>第3回 化学的評価法</p> <p>第4回 物理的評価法</p> <p>第5回～7回 個別食品の鑑別</p> <p>第8回 まとめ</p> <p>詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。</p>
テキスト	四訂 食品の官能評価・鑑別演習，日本フードスペシャリスト協会，建帛社，2024年，978-4-7679-0753-6
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問は、授業後に対応する。
フィードバックの方法	レポートは第8回目に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照すること。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	食品の品質とは 食品の特性と品質	フードスペシャリストにおける食の本質を確認する。さらに、テキスト p1からp2。1時間の予習および1時間の復習を課す。	
2	官能評価について、演習 官能評価の概要、官能評価の基本と実施法	テキスト p4からp30。1時間の予習および1時間の復習を課す。	
3	化学的評価法 食品成分と品質、化学的品質評価	テキスト p32からp58。1時間の予習および1時間の復習を課す。	
4	物理的評価法 レオロジーとテクスチャー、物理的性質の評価方法	テキスト p60からp85。1時間の予習および1時間の復習を課す。	
5	個別食品の鑑別(1) 米、小麦、イモ類、豆類、果実類	テキスト p88からp133。1時間の予習および1時間の復習を課す。	
6	個別食品の鑑別(2) 海藻類、魚介類、肉類、卵	テキスト p134からp167。1時間の予習および1時間の復習を課す。	
7	個別食品の鑑別(3) 乳・乳製品、菓子類、酒類、茶類、醸造食品	テキスト p168からp214。1時間の予習および1時間の復習を課す。	
8	まとめ	第1回から第7回の講義内容の確認する。1時間の予習および1時間の復習を課す。	



開講科目名 Course	栄養調理学実習(1組)
時間割コード Course Code	54210
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1, 金 / Fri 2, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	朱宮 哲明
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 2 D 栄養教育実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	朱宮 哲明(管理栄養学科)
授業の目標	<p>豊かな食生活と健康を創造することができる管理栄養士を目指し、日本料理、西洋料理、中国料理を中心とした基礎調理を実践する中で、調理の目的と方法や種類、加熱の仕方と調理器具の特徴、食品の特徴、調理による栄養の変化など、調理の知識の習得と調理技術の向上、衛生的で安全な調理ができるようになることを目標とする。</p> <p>(1) 料理において頻出する食材の切り方を習得する。  (2) 食品重量の概量、料理に適する分量を把握できる。  (3) 料理の栄養価を把握できる。  (4) 焼く、煮る、揚げる、蒸すなど調理の基本を身につける。  (5) 献立を作る一連の作業手順を習得し、献立を作成できる。</p>
授業の概要	<p>豊かで健康的な食生活の創造を実践できることを目指し、食品の知識や調理の基礎を学び、食品の特性を活かした料理に仕上げられる力を身につける。献立作成の手順については、地域性や対象者を考え「給与栄養目標量」の決定と「加重平均栄養成分表」の作成から「食品構成」の作成を経て献立を作る一連の作業手順を習得する。</p>
評価方法	実習態度(行動力、積極性、協調性)70%、課題提出30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、献立作成  第2回 班ごとに献立決定及び発注書作成  第3回 各班で作成した献立の試作 1 (和食)  第4回 各班で作成した献立の試作 2 (洋食)  第5回 各班で作成した献立の試作 3 (中華)  第6回 各班で作成した献立の試作 4 (和食)  第7回 各班で作成した献立の試作 5 (洋食・中華)  第8回 まとめ</p>
テキスト	「献立作成の基本と実践」(第2版)藤原政嘉、河原和枝、赤尾正 編(講談社)

参考書	「料理のためのベーシックデータ第6版」女子栄養大学出版部（女子栄養大学出版部） 「日本食品成分表2022 八訂」医歯薬出版（医歯薬出版） 「日本人の栄養摂取基準2020年度版」伊藤貞嘉、佐々木敏監修（第一出版） 「食事コーディネートのための主食・主菜・副菜料理成分表 第4版」釘谷順子、足立己幸編著（群羊社） 「調理場における 食品衛生&調理技術マニュアル」文部科学省 著作権所有（学健書院）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	作成した献立や調べてきた食材の特徴についてグループディスカッションを行い、効率的な作業手順を計画し調理実習を実施する。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	長年、特定給食施設にて経験を積んだ教員より調理の基本を習得し、作成した献立の栄養価・原価計算や効率的な調理作業工程など実践的な給食経営管理について学ぶ。
質問への対応方法	講義前後を含め、随時対応
フィードバックの方法	参考資料を配布
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	教科書、配布資料での予習・復習・提出物の作成等。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	栄養調理学実習(2組)
時間割コード Course Code	54211
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1, 金 / Fri 2, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	朱宮 哲明
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 2 D 栄養教育実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	朱宮 哲明 (管理栄養学科)
授業の目標	<p>豊かな食生活と健康を創造することができる管理栄養士を目指し、日本料理、西洋料理、中国料理を中心とした基礎調理を実践する中で、調理の目的と方法や種類、加熱の仕方と調理器具の特徴、食品の特徴、調理による栄養の変化など、調理の知識の習得と調理技術の向上、衛生的で安全な調理ができるようになることを目標とする。</p> <p>(1) 料理において頻出する食材の切り方を習得する。  (2) 食品重量の概量、料理に適する分量を把握できる。  (3) 料理の栄養価を把握できる。  (4) 焼く、煮る、揚げる、蒸すなど調理の基本を身につける。  (5) 献立を作る一連の作業手順を習得し、献立を作成できる。</p>
授業の概要	<p>豊かで健康的な食生活の創造を実践できることを目指し、食品の知識や調理の基礎を学び、食品の特性を活かした料理に仕上げられる力を身につける。献立作成の手順については、地域性や対象者を考え「給与栄養目標量」の決定と「加重平均栄養成分表」の作成から「食品構成」の作成を経て献立を作る一連の作業手順を習得する。</p>
評価方法	実習態度(行動力、積極性、協調性)70%、課題提出30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、献立作成  第2回 班ごとに献立決定及び発注書作成  第3回 各班で作成した献立の試作 1 (和食)  第4回 各班で作成した献立の試作 2 (洋食)  第5回 各班で作成した献立の試作 3 (中華)  第6回 各班で作成した献立の試作 4 (和食)  第7回 各班で作成した献立の試作 5 (洋食・中華)  第8回 まとめ</p>
テキスト	「献立作成の基本と実践」(第2版)藤原政嘉、河原和枝、赤尾正 編(講談社)

参考書	「料理のためのベーシックデータ第6版」女子栄養大学出版部（女子栄養大学出版部） 「日本食品成分表2022 八訂」医歯薬出版（医歯薬出版） 「日本人の栄養摂取基準2020年度版」伊藤貞嘉、佐々木敏監修（第一出版） 「食事コーディネートのための主食・主菜・副菜料理成分表 第4版」釘谷順子、足立己幸編著（群羊社） 「調理場における 食品衛生&調理技術マニュアル」文部科学省 著作権所有（学健書院）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	作成した献立や調べてきた食材の特徴についてグループディスカッションを行い、効率的な作業手順を計画し調理実習を実施する。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	長年、特定給食施設にて経験を積んだ教員より調理の基本を習得し、作成した献立の栄養価・原価計算や効率的な調理作業工程など実践的な給食経営管理について学ぶ。
質問への対応方法	講義前後を含め、随時対応
フィードバックの方法	参考資料を配布
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	教科書、配布資料での予習・復習・提出物の作成等。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	12.つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	フードスペシャリスト論
時間割コード Course Code	54220
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	庄司 吏香
科目区分 Course Group	専門科目群 専門関連科目
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	庄司 吏香 (管理栄養学科)
授業の目標	フードスペシャリストの資格取得に必要な関連知識を身につけることができる。資格検定試験の合格を目指して幅広い知識と情報を理解することを目標とする。フードスペシャリストという専門職に必要な知識、教養の習得を目指す。
授業の概要	フードスペシャリストの意義とその概要、活用を知るための科目である。フードスペシャリストとは、食に関する高度な専門知識・技術を身につけ、食べ物や食生活について、流通・販売者と消費者に品質、安全性、機能性、栄養と健康などの的確な情報を提供し、レストランや食堂などで快適な飲食ができるよう食空間をコーディネートし、「食」に関する消費者の苦情処理ができる専門職に与えられる資格である。この授業では、フードスペシャリストに関わる基本的な知識を学ぶ。フードスペシャリストとしての教養を高めるため、食文化への興味と理解を深めるアクティブラーニング(グループ学習、プレゼンテーション)を取り入れる。
評価方法	授業への取り組み(10%)、課題(40%)、レポート(50%)を総合的に評価する。課題の詳細は授業内で説明する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、フードスペシャリストとは</p> <p>第2回 おいしさの追求</p> <p>第3回 人類と食物</p> <p>第4回 日本の食</p> <p>第5回 世界の食</p> <p>第6回 世界の食文化に関するグループ学習(基礎編)</p> <p>第7回 世界の食文化に関するグループ学習(応用編)</p> <p>第8回 世界の食文化に関するグループ学習(発表)</p> <p>第9回 現代日本の食生活</p> <p>第10回 食品産業の役割</p> <p>第11回 食品の品質規格と表示</p> <p>第12回 食の情報とその活用</p> <p>第13回 フードスペシャリストの役割と展望(基礎編)</p> <p>第14回 フードスペシャリストの役割と展望(応用編)</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>授業時間に相当する予習と復習の時間を持ち、日頃から調理や料理に関する情報に心掛けて接する機会を作る。また、日常的に調理する習慣を付けること。</p>
テキスト	四訂フードスペシャリスト論 (公社)フードスペシャリスト協会編
参考書	フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集 (公社)日本フードスペシャリスト協会編

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	随時対応
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習は教科書の次回授業で取り扱う該当箇所を熟読する(2h×15回 30時間)。 復習は教科書と配布資料で理解を深めること(2h×15回 30時間)。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	8. 計画立案力

開講科目名 Course	フードコーディネート論
時間割コード Course Code	54260
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	伊藤 幸枝
科目区分 Course Group	専門科目群 専門関連科目
教室 Classroom	13D講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	伊藤 幸枝 (管理栄養学科)
授業の目標	フードスペシャリスト資格認定試験合格を目指し、知識の理解と習得を目標とする。「食」に関する総合的な知識を身につけ、豊かで安全かつ、バランスのとれた「食」を提案できる力をもつ「食」の専門職であるフードコーディネーターとしての知識、センス、技術の習得も目指す。
授業の概要	フードコーディネートの基本とされるホスピタリティやアメニティについて学ぶとともに、もてなしの心について考える。食文化、食空間、食事のマナー、マネジメントなど食に関する知識や技術を幅広く習得できる。フードスペシャリストによるコーディネートが出来るように期待する。
評価方法	授業への取り組み (20%)、小テスト (10%)、課題 (20%)、定期試験 (50%) を総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>第1回 フードコーディネートの基本理念と日本の食事の歴史 (江戸時代まで)</p> <p>第2回 日本の食事の歴史 (現代まで) と特別な日の食事、外国の食事 (中国料理)</p> <p>第3回 外国の食事 (西洋料理)</p> <p>第4回 食卓のコーディネート (日本)</p> <p>第5回 食卓のコーディネート (中国)</p> <p>第6回 食卓のコーディネート (西洋)</p> <p>第7回 食卓のサービスとマナー</p> <p>第8回 メニュープランニング (メニューについて)</p> <p>第9回 メニュープランニング (メニュー様式)</p> <p>第10回 食空間のコーディネートの基礎 (モジュールとカラー)</p> <p>第11回 食空間のコーディネート (照明と設備)</p> <p>第12回 フードサービスマネジメント (基本と起業)</p> <p>第13回 フードサービスマネジメント (収支計画)、演習問題の解説</p> <p>第14回 食企画の実践コーディネート</p> <p>第15回 フードコーディネート関連媒体の鑑賞、定期試験対策 第2回～第14回、過去問題による小テストを実施する。</p>
テキスト	三訂フードコーディネート論 (公社) 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	フードコーディネーター、フードスタイリストとしての実務経験による過去の食企画の資料を配布して講義を行う。コーディネートで実際に使用している食器・食具などテーブルウェアを持参して、学生に目で見て、手に取ってもらいセンスを磨くよう指導する。
質問への対応方法	授業後に対応
フィードバックの方法	随時対応
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	【予習】テキストを読み要点を把握する。(30時間) 【復習】配布したプリントの内容とテキストを確認しながら補足記入する。(30時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	8. 計画立案力



開講科目名 Course	フードシステム論
時間割コード Course Code	54280
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	三浦 聡
科目区分 Course Group	専門科目群 専門関連科目
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	三浦 聡 (管理栄養学科)
授業の目標	フードシステムとは、消費者に提供される食料の流れを消費者から生産者の方向に辿った時、関係する全ての経済主体の動きを総合的にシステムとして捉えたものである。具体的事例を通してその本質を見極め、食料問題への理解を深めるとともに、フードシステムを社会経済学的に理解する力を養う。
授業の概要	食料の生産・加工・流通・消費・廃棄の実態と問題について、具体的な事例を題材としながら学ぶ。また、世界の食料事情やグローバル化下のわが国食料政策についても説明する。 授業形態：対面授業
評価方法	以下の試験及び課題の達成度と取り組み姿勢（提出状況・受講態度など）により総合的に評価する。 1. 期末試験の成績（50%） 2. 不定期で実施する演習課題（40%） 3. 受講態度等（10%）
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	1. フードシステムとは？ 2. 食生活の成熟 家族の変化と食生活 3. 食料消費パターンの変化 4. 食品小売業の構造 5. 外食・中食、コンビニの成長 6. 食品流通業の革新 7. 生鮮食料品の流通と卸売市場 8. 食品工業の特徴 9. 食品工業の二極分化とCM 10. 農水産業の実態と課題 11. 日本と諸外国の食料生産の違い(1) 12. 日本と諸外国の食料生産の違い(2) 13. 世界の人口と食料 飢餓と飽食 14. 政府の役割 食料の安全保障 15. これからの食の在り方
テキスト	パワーポイントのスライド等を教材として配布し講義を進める。
参考書	時子山ひろみ・荏開津典夫・中嶋康博『フードシステムの経済学』医歯薬出版株式会社、生源寺眞一『新版農業がわかると、社会のしくみがわかる』家の光協会、清水みゆき『食料経済』オーム社ほか
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中の質問には随時対応します。授業後はメール等で質問を受け付けます。
フィードバックの方法	質問等への回答は、NUCTあるいは次回授業において行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の予習及び復習については、授業計画に従って前後2時間程度を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
SDGs 17の目標（11～17）	13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさも守ろう 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力

開講科目名 Course	生物学
時間割コード Course Code	54330
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	山田 貴史
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基礎科目
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山田 貴史 (管理栄養学科)
授業の目標	これから栄養学、食品学等の専門科目を学習していくが、これらの専門科目では、ヒトはもとより微生物から菌類、植物、動物が対象になる。これらの生物は細胞から成り立っており、食べ物を食べ、エネルギーの変換して生活をしている。こうした観点に立って、専門科目を学ぶ上で必要な生物学のもっとも基本的な内容を学ぶことを目標とする。
授業の概要	1. すべての生物は細胞からできており、細胞は生命の基本単位であること 2. 細胞は食べ物を素材にして、エネルギーをつくり、また自分自身をつくること 3. ヒトも他の生物と同じようなしくみのなかで生命活動を営んでいること 4. ヒトと他の生物は相互に影響を与え合うことを学ぶ。
評価方法	授業態度および期末試験によって評価を行う。授業態度に問題がなければ、定期試験を100点満点として評価する。定期テストは、随時行う小テストと期末テストを合計して評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 ガイダンス・生物学とは 第2回 細胞：生命の基本単位 第3回 染色体と遺伝子 第4回 核酸 (DNA、RNA) 第5回 細胞分裂 第6回 栄養 (糖質) 第7回 栄養 (脂質) 第8回 栄養 (たんぱく質) 第9回 たんぱく質の生合成 第10回 たんぱく質の構造と種類 第11回 組織と臓器 (組織) 第12回 組織と臓器 (組織と臓器) 第13回 組織と臓器 (血液の流れ) (1) 第14回 組織と臓器 (血液の流れ) (2) 第15回 組織と臓器 (呼吸・血中成分の調整) 第15回 組織と臓器 (栄養素の吸収)
テキスト	ビジュアル コア生物学 Eric.J.Simon 著、八杉貞雄 監訳 東京化学同人
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問については、随時対応するので、分からない箇所があった場合は必ず質問に来ること。
フィードバックの方法	講義内で実施する小テストを返却し、期末試験の準備教材とする。また、期末試験の内容についても、期末テスト実施後に質問があれば随時説明する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	細胞の構造や細胞増殖など、高校で学ぶ生物学の基礎知識を予習しておくこと。復習は、講義内容を中心に教科書を熟読し、理解できない箇所は教員に質問し知識を深めること。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力

開講科目名 Course	解剖生理学I(1組)
時間割コード Course Code	54340
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	荒川 和幸
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒川 和幸 (管理栄養学科)
授業の目標	人体の成り立ちを、発生学的な視点から経過を踏まえて概観する。構造的な成り立ちの理解を通じて、生理学的に正常な機能とはどういったものかを理解する。 暗記に偏らず、順序立てて理解することが重要である。 本講義から管理栄養士国家試験で求められる、医学の基本的事項について理解することを目標としたい。
授業の概要	まずは全ての基本となる細胞の構造を理解する。人体発育の過程において細胞がいかに分化し、正常な構造や機能を獲得していくのかを理解する。発生学的見地を概説するため、この機会に併せて生殖についても講義を行う。 その上で、解剖生理学I(前期)では、主に消化器系、循環器系、呼吸器系、血液系などについて講義を行う。これらの領域は特に栄養士にとって、確実に理解が必要な範疇にあるため、学びを怠らないようにしたい。
評価方法	試験に加えて出席やレポート等
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	教科書に沿って講義を進めていきます。
テキスト	テキスト(解剖生理学IIと通年で使用) 主テキスト: 管理栄養士のためのイラスト解剖生理学: 講談社 開道貴信 編集
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後等適宜
フィードバックの方法	適宜問題演習と解説を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	テキストの予習と復習、問題演習の復習。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	

PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	解剖生理学I(2組)
時間割コード Course Code	54341
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	荒川 和幸
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	13C 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒川 和幸 (管理栄養学科)
授業の目標	<p>人体の成り立ちを、発生学的な視点から経過を踏まえて概観する。構造的な成り立ちの理解を通じて、生理学的に正常な機能とはどういったものかを理解する。</p> <p>暗記に偏らず、順序立てて理解することが重要である。</p> <p>本講義から管理栄養士国家試験で求められる、医学の基本的事項について理解することを目標としたい。</p>
授業の概要	<p>まずは全ての基本となる細胞の構造を理解する。人体発育の過程において細胞がいかに分化し、正常な構造や機能を獲得していくのかを理解する。発生学的見地を概説するため、この機会に併せて生殖についても講義を行う。</p> <p>その上で、解剖生理学I(前期)では、主に消化器系、循環器系、呼吸器系、血液系などについて講義を行う。これらの領域は特に栄養士にとって、確実に理解が必要な範疇にあるため、学びを怠らないようにしたい。</p>
評価方法	試験に加えて出席やレポート等
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	教科書に沿って講義を進めていきます。
テキスト	<p>テキスト(解剖生理学IIと通年で使用)</p> <p>主テキスト: 管理栄養士のためのイラスト解剖生理学: 講談社 開道貴信 編集</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後等適宜
フィードバックの方法	適宜問題演習と解説を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	テキストの予習と復習、問題演習の復習。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	

PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	解剖生理学II(1組)
時間割コード Course Code	54350
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	荒川 和幸
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒川 和幸 (管理栄養学科)
授業の目標	人体の成り立ちを、発生学的な視点から経過を踏まえて概観する。構造的な成り立ちの理解を通じて、生理学的に正常な機能とはどういったものかを理解する。 暗記に偏らず、順序立てて理解することが重要である。 本講義から管理栄養士国家試験で求められる、医学の基本的事項について理解することを目標としたい。
授業の概要	解剖生理学 (後期)では、主に内分泌系、神経系などについて講義を行う。これらの領域は特に栄養士にとって、確実に理解が必要な範疇にあるため、学びを怠らないようにしたい。
評価方法	試験に加えて出席やレポート等。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	教科書に沿って講義を進めていきます。
テキスト	テキスト (解剖生理学 1 と通年で使用) 管理栄養士のためのイラスト解剖生理学: 講談社 開道貴信 編集
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後等適宜。
フィードバックの方法	適宜問題演習と解説を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	テキストの予習と復習、問題演習の復習。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	解剖生理学II(2組)
時間割コード Course Code	54351
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	荒川 和幸
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒川 和幸 (管理栄養学科)
授業の目標	人体の成り立ちを、発生学的な視点から経過を踏まえて概観する。構造的な成り立ちの理解を通じて、生理学的に正常な機能とはどういったものかを理解する。 暗記に偏らず、順序立てて理解することが重要である。 本講義から管理栄養士国家試験で求められる、医学の基本的事項について理解することを目標としたい。
授業の概要	解剖生理学 (後期)では、主に内分泌系、神経系などについて講義を行う。これらの領域は特に栄養士にとって、確実に理解が必要な範疇にあるため、学びを怠らないようにしたい。
評価方法	試験に加えて出席やレポート等。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	教科書に沿って講義を進めていきます。
テキスト	テキスト (解剖生理学 1 と通年で使用) 管理栄養士のためのイラスト解剖生理学: 講談社 開道貴信 編集
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後等適宜。
フィードバックの方法	適宜問題演習と解説を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	テキストの予習と復習、問題演習の復習。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	解剖生理学実習(1組)
時間割コード Course Code	54360
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1, 金 / Fri 2, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	荒川 和幸
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 2 B生理学実験室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒川 和幸(管理栄養学科)
授業の目標	解剖生理学講義で学習した器官の構造や機能について、生体及び標本の観察、実験手技等を通して理解を深めることを目標とする。
授業の概要	生命活動の基盤は細胞レベルでのシグナル伝達にある。本実習では、細胞単体の構造と機能から、無数の細胞が形成する組織・器官に至るまで、解剖生理学講義で学んだ内容を実際に剖検・考察することで生体全体の機能の繋がりを理解する。
評価方法	実習態度、レポート、試験等を総合的に判断する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 ガイダンス 人体のオリエンテーション 第2回 外皮系、骨格 第3回 骨格 第4回 筋 第5回 循環器 第6回 呼吸器 第7回 消化器 第8回 腎尿路 (変更もありうる)
テキスト	カラスケッチ解剖学(第4版) (廣川書店)
参考書	解剖生理学講義のテキスト。カラスケッチ生理学(廣川書店)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中等随時
フィードバックの方法	授業中に随時レポート等
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	実習項目について参考書での予習

使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	解剖生理学実習(2組)
時間割コード Course Code	54361
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1, 金 / Fri 2, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	荒川 和幸
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 2 B生理学実験室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒川 和幸 (管理栄養学科)
授業の目標	解剖生理学講義で学習した器官の構造や機能について、生体及び標本の観察、実験手技等を通して理解を深めることを目標とする。
授業の概要	生命活動の基盤は細胞レベルでのシグナル伝達にある。本実習では、細胞単体の構造と機能から、無数の細胞が形成する組織・器官に至るまで、解剖生理学講義で学んだ内容を実際に剖検・考察することで生体全体の機能の繋がりを理解する。
評価方法	実習態度、レポート、試験等を総合的に判断する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 ガイダンス、人体のオリエンテーション 第2回 外皮系、骨格 第3回 筋 第4回 神経 第5回 循環器 第6回 呼吸器 第7回 消化器 第8回 腎尿路 (変更もありうる)
テキスト	カラースケッチ解剖学(第4版) (廣川書店)
参考書	解剖生理学講義のテキスト。カラースケッチ生理学(廣川書店)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中等随時
フィードバックの方法	授業中に随時レポート等
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	実習項目について参考書での予習
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	

SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	生化学I(1組) / Biochemistry I
時間割コード Course Code	54380
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	寺前 洋生
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	寺前 洋生 (管理栄養学科)
授業の目標	細胞の構造と機能、組織、臓器、人体の構造と機能を化学的な切り口で学び、生命活動の化学反応を説明できるようになる。
授業の概要	すべての生物は細胞からできており、細胞は生命の基本単位であり、細胞の活動は、化学反応で記述されることを学ぶ。特に、細胞は食べ物を素材にして、エネルギーをつくり、また自分自身をつくる化学反応を中心に学ぶ。
評価方法	定期テスト(40%)、授業内の課題(40%)、学修態度(20%)で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が授業回の2/3に満たない場合
授業計画	第1回 授業ガイダンス(授業概要・受講上の注意等)、生化学とはどのような学問か 第2回 代謝とエネルギーの生産 (1) 第3回 代謝とエネルギーの生産 (2) 第4回 代謝とエネルギーの生産 (3) 第5回 アミノ酸、タンパク質、酵素 (1) 第6回 アミノ酸、タンパク質、酵素 (2) 第7回 核酸とタンパク質の合成 (1) 第8回 核酸とタンパク質の合成 (2) 第9回 脂質 (1) 第10回 脂質 (2) 第11回 炭水化物 (1) 第12回 炭水化物 (2) 第13回 炭水化物、脂質、タンパク質の代謝 (1) 第14回 炭水化物、脂質、タンパク質の代謝 (2) 第15回 炭水化物、脂質、タンパク質の代謝 (3)
テキスト	スミス基礎生化学、J. G. Smith (著), 村田 滋 (翻訳)、東京化学同人、ISBN-13 : 978-4807920150

参考書	<p>レーニンジャーの新生化学 上 生化学と分子生物学の基本原理、廣川書店；第7版、ISBN-13 : 978-4567244084</p> <p>レーニンジャーの新生化学 下 生化学と分子生物学の基本原理、廣川書店；第7版、ISBN-13 : 978-4567244091</p> <p>ペインズ・ドミニチャク生化学 原書4版、John Baynes (著, 編集), Marek Dominiczak (著, 編集), 丸善出版, ISBN-13 : 978-4621301692</p> <p>ポルハルト・ショアー現代有機化学(第8版)上 K.P.C.Vollhardt, N.E.Schore (著) 978-4759820294</p> <p>ポルハルト・ショアー現代有機化学(第8版)下 K.P.C.Vollhardt, N.E.Schore (著) 978-4759820300</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内で問題演習，課題演習を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学生への質問に対して，授業中は随時対応する。時間外においては、オフィスアワー、メールなどで対応する。
フィードバックの方法	授業内で、必要に応じてアドバイする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習：授業範囲の内容を事前調査する。(1.5時間) 復習：授業内容や考察をまとめる。(1.5時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力



開講科目名 Course	生化学I(2組) / Biochemistry I
時間割コード Course Code	54381
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	寺前 洋生
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	寺前 洋生 (管理栄養学科)
授業の目標	細胞の構造と機能、組織、臓器、人体の構造と機能を化学的な切り口で学び、生命活動の化学反応を説明できるようになる。
授業の概要	すべての生物は細胞からできており、細胞は生命の基本単位であり、細胞の活動は、化学反応で記述されることを学ぶ。特に、細胞は食べ物を素材にして、エネルギーをつくり、また自分自身をつくる化学反応を中心に学ぶ。
評価方法	定期テスト(40%)、授業内の課題(40%)、学修態度(20%)で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が授業回の2/3に満たない場合
授業計画	第1回 授業ガイダンス(授業概要・受講上の注意等)、生化学とはどのような学問か 第2回 代謝とエネルギーの生産 (1) 第3回 代謝とエネルギーの生産 (2) 第4回 代謝とエネルギーの生産 (3) 第5回 アミノ酸、タンパク質、酵素 (1) 第6回 アミノ酸、タンパク質、酵素 (2) 第7回 核酸とタンパク質の合成 (1) 第8回 核酸とタンパク質の合成 (2) 第9回 脂質 (1) 第10回 脂質 (2) 第11回 炭水化物 (1) 第12回 炭水化物 (2) 第13回 炭水化物、脂質、タンパク質の代謝 (1) 第14回 炭水化物、脂質、タンパク質の代謝 (2) 第15回 炭水化物、脂質、タンパク質の代謝 (3)
テキスト	スミス基礎生化学、 J. G. Smith (著), 村田 滋 (翻訳)、東京化学同人、ISBN-13 : 978-4807920150

参考書	<p>レーニンジャーの新生化学 上 生化学と分子生物学の基本原理、廣川書店；第7版、ISBN-13 : 978-4567244084</p> <p>レーニンジャーの新生化学 下 生化学と分子生物学の基本原理、廣川書店；第7版、ISBN-13 : 978-4567244091</p> <p>ペインズ・ドミニチャク生化学 原書4版、John Baynes (著, 編集), Marek Dominiczak (著, 編集), 丸善出版, ISBN-13 : 978-4621301692</p> <p>ポルハルト・ショアー現代有機化学(第8版)上 K.P.C.Vollhardt, N.E.Schore (著) 978-4759820294</p> <p>ポルハルト・ショアー現代有機化学(第8版)下 K.P.C.Vollhardt, N.E.Schore (著) 978-4759820300</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内で問題演習，課題演習を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学生への質問に対して，授業中は随時対応する。時間外においては、オフィスアワー、メールなどで対応する。
フィードバックの方法	授業内で、必要に応じてアドバイする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>予習：授業範囲の内容を事前調査する。(1.5時間)</p> <p>復習：授業内容や考察をまとめる。(1.5時間)</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	<p>1.情報収集力</p> <p>2.情報分析力</p> <p>3.課題発見力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>6.行動持続力</p> <p>7.課題発見力</p> <p>8.計画立案力</p>

開講科目名 Course	生化学II(1組) / Biochemistry II
時間割コード Course Code	54385
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	前田 真男
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	前田 真男 (管理栄養学科)
授業の目標	生化学 I で学んだ生体構成物質の知識に基づいて、三大栄養素の生体内での代謝経路について学ぶ。
授業の概要	三大栄養素である糖質、タンパク質、脂質の代謝とその調節機構、酵素反応と補酵素、ならびに遺伝子の構造と機能、遺伝子発現調節機構について学ぶ。
評価方法	期末テストの結果で評価するが、授業内で提出する課題レポートもあわせて総合評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	6回以上欠席で失格。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照。
テキスト	東京教学社 イラスト 生化学入門-栄養素の旅- ISBN978-4-8082-3060-9
参考書	建帛社 Nブックス 生化学の基礎 ISBN978-4-7679-0643-0  東京化学同人 スミス 基礎生化学 ISBN978-4-8079-2015-0
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	適宜対応
フィードバックの方法	課題レポートは次回返却し、次の授業でそのレポートについて解説する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、予習復習をそれぞれ1時間ずつ。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	第1回	ガイダンス・栄養素の消化・吸収	
2	第2回	エネルギーの消費と供給	
3	第3回	生体のエネルギー・ATP ATPの役割 生体内の酸化と還元	
4	第4回	糖質の代謝 I 解糖系 - 酸素を必要としないATP合成経路	
5	第5回	糖質の代謝 II クエン酸回路 (TCAサイクル) と電子伝達系・酸化的リン酸化によるATP合成	
6	第6回	糖質の代謝 III ペントースリン酸回路、グルクロン酸経路、血糖の維持	
7	第7回	脂質の代謝 I 脂肪酸の合成と脂肪酸の酸化、ケトン体の合成	
8	第8回	脂質の代謝 II 不飽和脂肪酸の代謝とエイコサノイドの代謝	
9	第9回	生体内での脂質の運搬機序 血漿リポタンパク質の種類と働き、コレステロール	
10	第10回	タンパク質・アミノ酸の代謝 I 必須アミノ酸と非必須アミノ酸 タンパク質の構造	
11	第11回	タンパク質・アミノ酸の代謝 II アミノ酸の分解経路	
12	第12回	タンパク質・アミノ酸の代謝 III アミノ酸の利用	
13	第13回	核酸・遺伝子の構造と働き	
14	第14回	酵素の性質と働き	
15	第15回	ビタミンの種類と働き - 水・無機質の働き - ホルモンの種類と働き	

開講科目名 Course	生化学II(2組) / Biochemistry II
時間割コード Course Code	54386
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	前田 真男
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	前田 真男 (管理栄養学科)
授業の目標	生化学 I で学んだ生体構成物質の知識に基づいて、三大栄養素の生体内での代謝経路について学ぶ。
授業の概要	三大栄養素である糖質、タンパク質、脂質の代謝とその調節機構、酵素反応と補酵素、ならびに遺伝子の構造と機能、遺伝子発現調節機構について学ぶ。
評価方法	期末テストの結果で評価するが、授業内で提出する課題レポートもあわせて総合評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	6回以上欠席で失格
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照。
テキスト	東京教学社 イラスト 生化学入門-栄養素の旅- ISBN978-4-8082-3060-9
参考書	建帛社 Nブックス 生化学の基礎 ISBN978-4-7679-0643-0  東京化学同人 スミス 基礎生化学 ISBN978-4-8079-2015-0
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	適宜対応
フィードバックの方法	課題レポートは次回返却し、次の授業でそのレポートについて解説する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、予習復習をそれぞれ1時間ずつ。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	第1回	ガイダンス・栄養素の消化・吸収	
2	第2回	エネルギーの消費と供給	
3	第3回	生体のエネルギー・ATP ATPの役割 生体内の酸化と還元	
4	第4回	糖質の代謝 I 解糖系 酸素を必要としないATP合成経路	
5	第5回	糖質の代謝 II クエン酸回路(TCAサイクル)と電子伝達系・酸化的リン酸化によるATP合成	
6	第6回	糖質の代謝 III ペントリースリン酸回路、グルクロン酸経路、血糖の維持	
7	第7回	脂質の代謝 I 脂肪酸の合成と脂肪酸の酸化、ケトン体の合成	
8	第8回	脂質の代謝 II 不飽和脂肪酸の代謝とエイコサノイドの代謝	
9	第9回	生体内での脂質の運搬機序 血漿リポタンパク質の種類と働き、コレステロール	
10	第10回	タンパク質・アミノ酸の代謝 I 必須アミノ酸と非必須アミノ酸 タンパク質の構造	
11	第11回	タンパク質・アミノ酸の代謝 II アミノ酸の分解経路	
12	第12回	タンパク質・アミノ酸の代謝 III アミノ酸の利用	
13	第13回	核酸・遺伝子の構造と働き	
14	第14回	酵素の性質と働き	
15	第15回	ビタミンの種類と働き 水・無機質の働き ホルモンの種類と働き	

開講科目名 Course	生化学実験I(1組) / Practice in Biochemistry I
時間割コード Course Code	54390
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1, 木 / Thu 2, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	寺前 洋生
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 2 A 栄養化学実験室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	寺前 洋生 (管理栄養学科)
授業の目標	人体を構成する生体物質の化学特性と生体内での役割について、実験を通じて理解を深める。また、食品分析に必要な基礎的技術を習得するとともに、考察力・伝える力を醸成する。
授業の概要	酸と塩基、糖質・タンパク質の性質、糖質の代謝について、実験を通じて学修する。生化学Iおよび化学において学修する項目について、理解の深化を図る。特にレポート作成については、質問を積極的にして完成させることを求める。質問については随時受け付けることとする。  授業は対面でおこなう。
評価方法	実験毎のレポート課題(70%)および毎回の実習時における質疑応答(30%)に基づいて評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・出席回数が授業回の2/3に満たない場合
授業計画	1回目 授業ガイダンス・安全講習 2回目 酸と塩基・レポートの書き方 3回目 中和滴定 4回目 糖の定性反応 5回目 糖質実験 I 6回目 糖質実験 II 7回目 タンパク質・アミノ酸の定性反応 8回目 実験内容のまとめと発表
テキスト	イラスト栄養生化学実験 相原英孝、竹中晃子、田村明、長谷川昇 著 東京教学社
参考書	生化学実験 (栄養科学イラストレイテッド) 鈴木敏和 (著), 杉浦千佳子 (著), 高野 栞 (著) 羊土社
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	実験を行い、測定結果をまとめて、レポート作成する過程とまとめた内容を発表形式で行う。

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学生への質問に対して、授業中は随時対応する。時間外においては、オフィスアワー、メールなどで対応する。
フィードバックの方法	提出されたレポートの返却時、必要に応じてアドバイする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習・復習 予習：授業内容範囲の教科書内容を事前確認する。(3時間) 復習：実験測定結果や考察をまとめて、レポート提出する。(6時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	12.つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力



開講科目名 Course	生化学実験I(2組) / Practice in Biochemistry I
時間割コード Course Code	54391
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1, 木 / Thu 2, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	寺前 洋生
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 2 A 栄養化学実験室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	寺前 洋生 (管理栄養学科)
授業の目標	人体を構成する生体物質の化学特性と生体内での役割について、実験を通じて理解を深める。また、食品分析に必要な基礎的技術を習得するとともに、考察力・伝える力を醸成する。
授業の概要	酸と塩基、糖質・タンパク質の性質、糖質の代謝について、実験を通じて学修する。生化学Iおよび化学において学修する項目について、理解の深化を図る。特にレポート作成については、質問を積極的にして完成させることを求める。質問については随時受け付けることとする。  授業は対面でおこなう。
評価方法	実験毎のレポート課題(70%)および毎回の実習時における質疑応答(30%)に基づいて評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・出席回数が授業回の2/3に満たない場合
授業計画	1回目 授業ガイダンス・安全講習 2回目 酸と塩基・レポートの書き方 3回目 中和滴定 4回目 糖の定性反応 5回目 糖質実験 I 6回目 糖質実験 II 7回目 タンパク質・アミノ酸の定性反応 8回目 実験内容のまとめと発表
テキスト	イラスト栄養生化学実験 相原英孝、竹中晃子、田村明、長谷川昇 著 東京教学社
参考書	生化学実験 (栄養科学イラストレイテッド) 鈴木敏和 (著), 杉浦千佳子 (著), 高野 栞 (著) 羊土社
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	実験を行い、測定結果をまとめて、レポート作成する過程とまとめた内容を発表形式で行う。

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学生への質問に対して、授業中は随時対応する。時間外においては、オフィスアワー、メールなどで対応する。
フィードバックの方法	提出されたレポートの返却時、必要に応じてアドバイする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習・復習 予習：授業内容範囲の教科書内容を事前確認する。(3時間) 復習：実験測定結果や考察をまとめて、レポート提出する。(6時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	12.つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力

開講科目名 Course	生化学実験II(1組) / Practice in Biochemistry II
時間割コード Course Code	54393
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1, 木 / Thu 2, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	前田 真男
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 2 A 栄養化学実験室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	前田 真男 (管理栄養学科)
授業の目標	生化学実験の基本操作を学び、生化学の授業で学んだ知識を実際の実験によって確認し、理解を深める。
授業の概要	前半では、生化学実験を行う上で必要な実験器具の操作法、溶液の濃度計算手法に習熟し、吸光度測定の原理、検量線の使い方を理解する。後半では、生態で実際に起こっている酵素反応の性質を、実験で確認し理解を深める。また、食品の成分について、酵素反応と検量線を用いて実際に測定する。本授業は対面授業で行います。
評価方法	授業態度、レポートを総合して評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	3回分欠席で失格
授業計画	授業計画詳細情報を参照。
テキスト	プリントを配布する。
参考書	生化学の講義で使用する教科書。  栄養科学イラストレイテッド 「生化学実験」 羊土社 ISBN978-4-7581-1368-7  イラスト 栄養生化学実験 東京教学社 ISBN978-4-8082-6077-4  Nブックス 実験シリーズ 「生化学実験」 建帛社 ISBN978-4-7679-0380-4
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	実習内での対応、および実習外での対面やメールでの対応を随時行う。
フィードバックの方法	レポートを、成績評価後に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習として、生化学で学んだ内容を復習すること。 復習は、実習内で配布した資料を見直すこと。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	第1回	ガイダンス・ピペット操作やメスシリンダーの目盛りの読み方・液体試料の作成	
2	第2回	食酢の中和滴定と緩衝液の性質	
3	第3回	合成着色量の比色定量	
4	第4回	酵素活性の実験 I (酵素活性のpH、温度による変化)	
5	第5回	酵素活性の実験 II (補酵素と酵素反応)	
6	第6回	GOD-POD法とインペルターゼを利用した清涼飲料水に含まれる糖の定量	
7	第7回	清涼飲料水および果物のビタミンCの定量	
8	第8回	実験内容のまとめと発表	

開講科目名 Course	生化学実験II(2組) / Practice in Biochemistry II
時間割コード Course Code	54394
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1, 木 / Thu 2, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	前田 真男
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 2 A 栄養化学実験室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	前田 真男 (管理栄養学科)
授業の目標	生化学実験の基本操作を学び、生化学の授業で学んだ知識を実際の実験によって確認し、理解を深める。
授業の概要	前半では、生化学実験を行う上で必要な実験器具の操作法、溶液の濃度計算手法に習熟し、吸光度測定の方法、検量線の使い方を理解する。後半では、生体で実際に起こっている酵素反応の性質を、実験で確認し理解を深める。また、食品中の成分について、酵素反応と検量線を用いて実際に測定する。本授業は対面授業で行います。
評価方法	授業態度、レポートを総合して評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	3回分欠席で失格
授業計画	授業計画詳細情報を参照。
テキスト	プリントを配布する。
参考書	生化学の講義で使用する教科書。  栄養科学イラストレイテッド 「生化学実験」 羊土社 ISBN978-4-7581-1368-7  イラスト 栄養生化学実験 東京教学社 ISBN978-4-8082-6077-4  Nブックス 実験シリーズ 「生化学実験」 建帛社 ISBN978-4-7679-0380-4
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	実習内での対応、および、実習外での対面やメールでの対応を随時行う。
フィードバックの方法	レポートを、成績評価後に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習として、生化学で学んだ内容を復習すること。 復習は、実習内で配布した資料を見直すこと。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	第1回	ガイダンス・ピペット操作やメスシリンダーの目盛りの読み方・液体試料の作成	
2	第2回	食酢の中和滴定と緩衝液の性質	
3	第3回	合成着色量の比色定量	
4	第4回	酵素活性の実験 I (酵素活性のpH、温度による変化)	
5	第5回	酵素活性の実験 II (補酵素と酵素反応)	
6	第6回	GOD-POD法とインペルターゼを利用した清涼飲料水に含まれる糖の定量	
7	第7回	清涼飲料水および果物中のビタミンCの定量	
8	第8回	実験内容のまとめと発表	



開講科目名 Course	調理学実習(2組) / Cookery Science Practicum
時間割コード Course Code	54410
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1, 金 / Fri 2, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	庄司 吏香
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 1 D調理・食品加工実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	庄司 吏香 (管理栄養学科)
授業の目標	調理科学の理論に基づき、基礎的な技術を習得することを目標とする。実習ノートの作成を行うことで、調理科学の理論に基づいた調理技術の習得が出来る。
授業の概要	日本料理、中国料理、西洋料理の基本的な調理法や、食品素材の調理性と扱い方、食品の目安量や常用量、調味割合、調理設備・器具の取り扱い方を実習する。調理の基本的な手順や、栄養価の算出方法を学ぶ。実習回ごとに実習ノートの作成を行い、授業の振り返りと、次回実習の予備知識の習得を行う。
評価方法	授業への取り組み(30%)、実技テスト(20%)、実習ノート(50%)から総合的に評価する。実技テストは授業で示した包丁の使い方、調理手順ができていかなどを確認する。実習ノートは、デモンストレーションでの調理手順の記載、研究課題の記載内容、調理中の反省点・改善点の記載などを評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 オリエンテーション、栄養価計算の方法(食塩相当量の計算の方法、廃棄率を見込んだ発注量の計算方法) 第2回 日本料理(焼き物)(白飯、味噌汁、焼き物、酢の物、果物) 第3回 日本料理(蒸し物)(炊き込み飯、蒸し物、和え物、デザート) 第4回 日本料理(煮物)(白飯、清汁、煮魚、煮物、酢の物、デザート) 第5回 中国料理(炒め物)(炒飯、スープ、炒め煮、酢の物、デザート) 第6回 中国料理(揚げ物)(白飯、スープ、揚げ物、和え物) 第7回 西洋料理(焼き物)(パン、スープ、焼き物、サラダ) 第8回 西洋料理(麺料理)(パスタ、サラダ、スープ、デザート)、まとめ、実技テスト
テキスト	流れと要点がわかる調理学実習 香西みどり・綾部園子編著 光生館 調理実習ノート 付献立作成表 基本調理研究会 アイ・ケイコーポレーション 調理のためのベーシックデータ 第5版 女子栄養大学出版社
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	病院において管理栄養士経験がある教員が、対象者の特性を理解し、適した食材、調理法を選択し、対象者に適した献立を作成できる内容とする。見た目、味、テクスチャーにおいて対象者に満足してもらえる調理法を教育内容に組んでいる。

質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	随時対応。 実習ノートは翌週までに提出し、翌々週に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	〔予習〕配布資料に目を通し、調理手順を実習ノートに記載する。 〔復習〕実習ノートを完成させる。栄養価計算を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力

開講科目名 Course	調理学実習(1組) / Cookery Science Practicum
時間割コード Course Code	54411
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1, 金 / Fri 2, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	庄司 吏香
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 1 D調理・食品加工実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	庄司 吏香 (管理栄養学科)
授業の目標	調理科学の理論に基づき、基礎的な技術を習得することを目標とする。実習ノートの作成を行うことで、調理科学の理論に基づいた調理技術の習得が出来る。
授業の概要	日本料理、中国料理、西洋料理の基本的な調理法や、食品素材の調理性と扱い方、食品の目安量や常用量、調味割合、調理設備・器具の取り扱い方を実習する。調理の基本的な手順や、栄養価の算出方法を学ぶ。実習ごとに実習ノートの作成を行い、授業の振り返りと、次回実習の予備知識の習得を行う。
評価方法	授業への取り組み(30%)、実技テスト(20%)、実習ノート(50%)から総合的に評価する。実技テストは授業で示した包丁の使い方、調理手順ができていかなどを確認する。実習ノートは、デモンストレーションでの調理手順の記載、研究課題の記載内容、調理中の反省点・改善点の記載などを評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 オリエンテーション、栄養価計算の方法(食塩相当量の計算の方法、廃棄率を見込んだ発注量の計算方法) 第2回 日本料理(焼き物)(白飯、味噌汁、焼き物、酢の物、果物) 第3回 日本料理(蒸し物)(炊き込み飯、蒸し物、和え物、デザート) 第4回 日本料理(煮物)(白飯、清汁、煮魚、煮物、酢の物、デザート) 第5回 中国料理(炒め物)(炒飯、スープ、炒め煮、酢の物、デザート) 第6回 中国料理(揚げ物)(白飯、スープ、揚げ物、和え物) 第7回 西洋料理(焼き物)(パン、スープ、焼き物、サラダ) 第8回 西洋料理(麺料理)(パスタ、サラダ、スープ、デザート)、まとめ、実技テスト
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	病院において管理栄養士経験がある教員が、対象者の特性を理解し、適した食材、調理法を選択し、対象者に適した献立を作成できる内容とする。見た目、味、テクスチャーにおいて対象者に満足してもらえる調理法を教育内容に組んでいる。
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	随時対応。 実習ノートは翌週までに提出し、翌々週に返却する。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	〔予習〕配布資料に目を通し、調理手順を実習ノートに記載する。 〔復習〕実習ノートを完成させる。栄養価計算を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力

開講科目名 Course	基礎演習 I (通) / Introductory Study Group I
時間割コード Course Code	59001
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	関谷 みのぶ
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 L 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	関谷 みのぶ (教育保育学科)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能</p> <p>必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。</p> <p>文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な態度</p> <p>自らを律して行動できる。</p> <p>約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。</p> <p>仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは学びあうところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに考え合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生活や学びの取組について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び合い、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミ単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（学科単位）を実施します。後期は、15回のゼミのうち、1回分を合同ゼミ（学科単位）で実施します。</p> <p>〔前期〕</p> <p>1回目 各ゼミ1：履修登録等に向けてのオリエンテーション  2回目 各ゼミ2：自己紹介・今後の目標や夢について  3回目 各ゼミ3：学び合うことの意義や大切さについて  4回目 合同ゼミ（企画1）大学生のメンタルヘルスについて  5回目 合同ゼミ（企画2）本学の建学の精神について  6回目 合同ゼミ（企画3）PROGテストの実施  7回目 各ゼミ4：レポート（卒業研究）の書き方 について  8回目 各ゼミ5：レポート（卒業研究）の書き方 について  9回目 各ゼミ6：個人面接とレポート作成練習</p> <p>10回目 合同ゼミ（企画4）大学生を取り巻く危険（薬物・カルト）について  11回目 合同ゼミ（企画5）国際交流についての案内・紹介  12回目 合同ゼミ（企画6）地域連携・犬山学について  13回目 各ゼミ7：期末試験の不正防止について  14回目 各ゼミ8：PROGテスト解説について  15回目 各ゼミ9：前期の活動の振り返りと後期に向けて</p> <p>〔後期〕</p> <p>16回目 各ゼミ10：後期の履修登録確認と後期の目標について  17回目 各ゼミ11：子どもたちの保育・教育の意義と役割について  18回目 各ゼミ12：子どもたちを取り巻く現状と課題について  19回目 各ゼミ13：めざす保育士像や教師像について  20回目 各ゼミ14：保育教育に関するテーマについての話し合い  21回目 各ゼミ15：保育教育に関するテーマについての話し合い  22回目 合同ゼミ（企画7）新聞活用講座  23回目 各ゼミ16：個人面接とレポート作成作成  24回目 各ゼミ17：個人面接とレポート作成作成  25回目 各ゼミ18：保育教育に関するテーマについての話し合い  26回目 各ゼミ19：保育教育に関するテーマについての話し合い  27回目 各ゼミ20：保育教育に関するテーマについての話し合い  28回目 各ゼミ21：レクリエーションに向けての計画・準備  29回目 各ゼミ22：レクリエーションの実施  30回目 各ゼミ23：1年間の活動の振り返りと2年次に向けて</p> <p>前期の企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。  また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（薬物・カルト）など」のテーマについて学びます。  後期の企画7の合同ゼミでは、「新聞活用講座」の中で新聞等の活用法について学びます。</p> <p>そして、各ゼミ1～23では基本的に、それぞれのゼミごとに授業を実施します。なお、前期各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。また、「PROGテスト解説」も行います。</p>
テキスト	世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ゼミ単位での活動の折には、保育・教育に関する現代的課題をテーマとして設定し、それに対する自分の考えを立てさせた後、4人グループを基本とするグループでの「学び合い活動」の時間をとる。その上で全体で情報を共有し合う活動へと進むこととする。 なお、4人グループについては、固定せず随時グループ編成をし直す。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	2. 協同力 7. 課題発見力

開講科目名 Course	基礎演習 I (通) / Introductory Study Group I
時間割コード Course Code	59002
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	田中 秀佳
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 F 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	田中 秀佳 (教育保育学科)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>



教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 合同オリエンテーション、個別面談  2回目 各ゼミ2：オリエンテーション、アイスブレイク、個別面談  3回目 各ゼミ3：ノートのとり方  4回目 合同ゼミ（企画1）  5回目 合同ゼミ（企画2）  6回目 合同ゼミ（企画3）  7回目 各ゼミ4：テキストの読み方1  8回目 各ゼミ5：テキストの読み方2  9回目 各ゼミ6：大学図書館の使い方  10回目 合同ゼミ（企画4）  11回目 合同ゼミ（企画5）  12回目 合同ゼミ（企画6）  13回目 各ゼミ7：資料の探し方  14回目 各ゼミ8：レポートの書き方  15回目 合同ゼミ+各ゼミ：履修カルテについて、前期のまとめ、後期へ向けて</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。  また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。  そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p> <p>第16回：オリエンテーション、個別面談  第17回：ゼミ発表の仕方1  第18回：ゼミ発表の仕方2  第19回：発表内容検討  第20回：発表準備1  第21回：発表準備2  第22回：ゼミ発表1  第23回：ゼミ発表2  第24回：レクリエーションを構想する：運動会を企画する  第25回：レクリエーションを構想する：種目の内容検討・プログラム作成  第26回：レクリエーションを準備する：運動会の準備  第27回：レクリエーション：運動会1  第28回：レクリエーション：運動会2  第29回：レクリエーションの振り返り  第30回：合同ゼミ+各ゼミ：初年次の振り返り・学期末テストに向けて、2年生に向けて</p> <p>後期については内容、各回コマ数、実施時期の変更の可能性があるため、授業内において適宜指示します。</p>
テキスト	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、これから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報によって構成されています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られる内容となっています。</p>
参考書	授業に必要な資料については、適宜配布します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ゼミは、参加者の主体的な活動によって初めて授業が成立します。各回において主体的な態度、積極的な発言およびその前提として事前の準備、事後の復習が求められます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	学校現場において実務経験のある教員が担当者として含まれているほか、実務経験者を講師として招聘する授業がある。
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。

フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行う必要があります。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 6.行動持続力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	基礎演習 I (通) / Introductory Study Group I
時間割コード Course Code	59003
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	前原 宏一
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 F 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	前原 宏一 (教育保育学科)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは学びあうところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに考え合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生活や学びの取組について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び合い、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミ単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（学科単位）を実施します。後期は、15回のゼミのうち、1回分を合同ゼミ（学科単位）で実施します。</p> <p>〔前期〕</p> <p>1回目 各ゼミ1：履修登録等に向けてのオリエンテーション  2回目 各ゼミ2：自己紹介・今後の目標や夢について  3回目 各ゼミ3：学び合うことの意義や大切さについて  4回目 合同ゼミ（企画1）大学生のメンタルヘルスについて  5回目 合同ゼミ（企画2）本学の建学の精神について  6回目 合同ゼミ（企画3）PROGテストの実施  7回目 各ゼミ4：レポート（卒業研究）の書き方 について  8回目 各ゼミ5：レポート（卒業研究）の書き方 について  9回目 各ゼミ6：個人面接とレポート作成練習</p> <p>10回目 合同ゼミ（企画4）大学生を取り巻く危険（薬物・カルト）について  11回目 合同ゼミ（企画5）国際交流についての案内・紹介  12回目 合同ゼミ（企画6）地域連携・犬山学について  13回目 各ゼミ7：期末試験の不正防止について  14回目 各ゼミ8：PROGテスト解説について  15回目 各ゼミ9：前期の活動の振り返りと後期に向けて</p> <p>〔後期〕</p> <p>16回目 各ゼミ10：後期の履修登録確認と後期の目標について  17回目 各ゼミ11：子どもたちの保育・教育の意義と役割について  18回目 各ゼミ12：子どもたちを取り巻く現状と課題について  19回目 各ゼミ13：めざす保育士像や教師像について  20回目 各ゼミ14：保育教育に関するテーマについての話し合い  21回目 各ゼミ15：保育教育に関するテーマについての話し合い  22回目 合同ゼミ（企画7）新聞活用講座  23回目 各ゼミ16：個人面接とレポート作成作成  24回目 各ゼミ17：個人面接とレポート作成作成  25回目 各ゼミ18：保育教育に関するテーマについての話し合い  26回目 各ゼミ19：保育教育に関するテーマについての話し合い  27回目 各ゼミ20：保育教育に関するテーマについての話し合い  28回目 各ゼミ21：レクリエーションに向けての計画・準備  29回目 各ゼミ22：レクリエーションの実施  30回目 各ゼミ23：1年間の活動の振り返りと2年次に向けて</p> <p>前期の企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。  また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（薬物・カルト）など」のテーマについて学びます。  後期の企画7の合同ゼミでは、「新聞活用講座」の中で新聞等の活用法について学びます。</p> <p>そして、各ゼミ1～23では基本的に、それぞれのゼミごとに授業を実施します。なお、前期各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。また、「PROGテスト解説」も行います。</p>
テキスト	世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ゼミ単位での活動の折には、保育・教育に関する現代的課題をテーマとして設定し、それに対する自分の考えを立てさせた後、4人グループを基本とするグループでの「学び合い活動」の時間をとる。その上で全体で情報を共有し合う活動へと進むこととする。 なお、4人グループについては、固定せず随時グループ編成をし直す。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	2. 協同力 7. 課題発見力

開講科目名 Course	基礎演習 I (通) / Introductory Study Group I
時間割コード Course Code	59004
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	加藤 昇
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	加藤 昇 (教育保育学科)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは学びあうところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに考え合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生活や学びの取組について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び合い、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミ単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（学科単位）を実施します。後期は、15回のゼミのうち、1回分を合同ゼミ（学科単位）で実施します。</p> <p>〔前期〕</p> <p>1回目 各ゼミ1：履修登録等に向けてのオリエンテーション  2回目 各ゼミ2：自己紹介・今後の目標や夢について  3回目 各ゼミ3：学び合うことの意義や大切さについて  4回目 合同ゼミ（企画1）大学生のメンタルヘルスについて  5回目 合同ゼミ（企画2）本学の建学の精神について  6回目 合同ゼミ（企画3）PROGテストの実施  7回目 各ゼミ4：レポート（卒業研究）の書き方 について  8回目 各ゼミ5：レポート（卒業研究）の書き方 について  9回目 各ゼミ6：個人面接とレポート作成練習</p> <p>10回目 合同ゼミ（企画4）大学生を取り巻く危険（薬物・カルト）について  11回目 合同ゼミ（企画5）国際交流についての案内・紹介  12回目 合同ゼミ（企画6）地域連携・犬山学について  13回目 各ゼミ7：期末試験の不正防止について  14回目 各ゼミ8：PROGテスト解説について  15回目 各ゼミ9：前期の活動の振り返りと後期に向けて</p> <p>〔後期〕</p> <p>16回目 各ゼミ10：後期の履修登録確認と後期の目標について  17回目 各ゼミ11：子どもたちの保育・教育の意義と役割について  18回目 各ゼミ12：子どもたちを取り巻く現状と課題について  19回目 各ゼミ13：めざす保育士像や教師像について  20回目 各ゼミ14：保育教育に関するテーマについての話し合い  21回目 各ゼミ15：保育教育に関するテーマについての話し合い  22回目 合同ゼミ（企画7）新聞活用講座  23回目 各ゼミ16：個人面接とレポート作成作成  24回目 各ゼミ17：個人面接とレポート作成作成  25回目 各ゼミ18：保育教育に関するテーマについての話し合い  26回目 各ゼミ19：保育教育に関するテーマについての話し合い  27回目 各ゼミ20：保育教育に関するテーマについての話し合い  28回目 各ゼミ21：レクリエーションに向けての計画・準備  29回目 各ゼミ22：レクリエーションの実施  30回目 各ゼミ23：1年間の活動の振り返りと2年次に向けて</p> <p>前期の企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。  また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（薬物・カルト）など」のテーマについて学びます。  後期の企画7の合同ゼミでは、「新聞活用講座」の中で新聞等の活用法について学びます。</p> <p>そして、各ゼミ1～23では基本的に、それぞれのゼミごとに授業を実施します。なお、前期各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。また、「PROGテスト解説」も行います。</p>
テキスト	世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ゼミ単位での活動の折には、保育・教育に関する現代的課題をテーマとして設定し、それに対する自分の考えを立てさせた後、4人グループを基本とするグループでの「学び合い活動」の時間をとる。その上で全体で情報を共有し合う活動へと進むこととする。 なお、4人グループについては、固定せず随時グループ編成をし直す。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	2. 協同力 7. 課題発見力



開講科目名 Course	基礎演習II(通) / Introductory Study Group I
時間割コード Course Code	59100
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	飯田 幸恵
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	14E 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	飯田 幸恵 (教育保育学科)
授業の目標	<p>1年次基礎演習Iに引き続き、教育保育職を目指す学生にとって必要な基本的知識と技能の習得を目指す。また、教育保育職についての理解を深め、自分の進路を方向付ける。</p> <p>知識・理解の領域 基礎演習Iでの学び、他の授業で得た知識、実践や実習を通しての学びを踏まえ、教育保育職についてのより深い理解につなげる。 専門知識の理解と共に、人間的・社会的な視野を広げること、社会人として教養・見識を深める。</p> <p>技能の領域 これまで学んだ教育保育にかかわる基礎的な技能のレベルアップを図る。 大学生として自ら学ぶスキルのレベルアップを図り、専門演習の学習へつなげる。</p> <p>態度・志向性の領域 保育職(幼稚園、保育所、施設)・小学校教員など、自分のキャリアビジョンについて考える。 また、それに向けてやるべきことや自らの課題を見つけ、取り組むことができる。 ゼミ活動、全体活動を通し、自らの行動をコントロールすること、他者と協働的に活動することを体験し、その意義を知る。</p>
授業の概要	この授業は、各ゼミで行うゼミ活動と、2年生全体で行う全体活動がある。いずれの活動も、授業目標を達成するために、様々な学習活動を行う。そのため、授業時間外での学習、準備等が必須である。
評価方法	授業への参加姿勢、課題への取り組みの姿勢、課題や提出物により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	全授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、失格となる。
授業計画	この授業は、各ゼミで行うゼミ活動と、2年生全体で行う全体活動がある。いずれの活動も、授業目標を達成するために、様々な学習活動を行う。
テキスト	指定しない
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	アクティブラーニング
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	

質問への対応方法	授業終了後に対応する。
フィードバックの方法	次回の授業時にフィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回授業の予習・復習を行うこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション 全体活動	授業の説明、担当教員の紹介、ゼミメンバー顔合わせ	
2	ゼミで計画した内容 ゼミ活動	1組は竹林整備の体験、2組は伝承遊びの体験 これらの体験に関するレポートを作成する(2時間の復習)	
3	ゼミで計画した内容 ゼミ活動	1組は伝承遊びの体験、2組は竹林整備の体験 これらの体験に関するレポートを作成する(2時間の復習)	
4	ゼミで計画した内容 ゼミ活動	自己分析を行い、自身のキャリアビジョンについて考える 自分にはどのような仕事に向いているか、ワークシートに記入し確認しておく(2時間の復習)	
5	ゼミで計画した内容 ゼミ活動	10月に開催される大学祭で、子ども向け企画についての紹介・説明 これまでの大学祭の企画について説明 ゼミでどのような企画を行うのか話し合い、結果をまとめておく(2時間の復習)	
6	ゼミで計画した内容 ゼミ活動	(活動例) 個人面談、絵本の読み聞かせの練習 絵本の読み聞かせを行うため、事前に図書館や絵本ライブラリーで絵本を選び、読み聞かせの練習をしておく(3時間の予習)	
7	ゼミで計画した内容	(活動例) 親睦会	
8	ゼミで計画した内容 ゼミ活動	(活動例) 実習の日誌 指導案の書き方 実習に向けて指導案を作成する(4時間の復習)	
9	ゼミで計画した内容 ゼミ活動	(活動例) 実習の反省会 学外実習中においてどのようなことを学んだか、ワークシートに記入しておく(2時間の復習)	
10	ゼミで計画した内容 ゼミ活動	(活動例) 課題設定 教育・保育に関わる現代的課題についてトピックを取り上げディスカッションを行う ニュースを見たり、新聞を読んだりして、自分が関心のあるテーマを選んでおく(2時間の予習)	
11	ゼミで計画した内容 ゼミ活動	(活動例) 話し合い・討論会 効果的なプレゼン方法について調べておく。(2時間の予習) ゼミメンバーが選んだテーマについて、自分でも資料を読んでおく(2時間の復習) レポート作成のための資料を収集しておく。	
12	ゼミで計画した内容 ゼミ活動	(活動例) レポート作成 レポートを完成できるように書き進めておく(3時間の復習)	
13	ゼミで計画した内容 ゼミ活動	(活動例) 計画立案 大学祭の企画について意見交換を行う。 どのような企画が実行可能か調べておく(2時間の予習)	
14	ゼミで計画した内容 ゼミ活動	(活動例) 準備・練習(1) 企画の準備をする(2時間の復習)	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	ゼミで計画した内容 ゼミ活動	(活動例) 準備・練習(2) 企画の準備をする(2時間の復習)	

開講科目名 Course	基礎演習II(通) / Introductory Study Group I
時間割コード Course Code	59101
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	加藤 昇
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	加藤 昇 (教育保育学科)
授業の目標	<p>1年次基礎演習Iに引き続き、教育保育職を目指す学生にとって必要な基本的知識と技能の習得を目指す。また、教育保育職についての理解を深め、自分の進路を方向付ける。</p> <p>知識・理解の領域 基礎演習Iでの学び、他の授業で得た知識、実践や実習を通しての学びを踏まえ、教育保育職についてのより深い理解につなげる。 専門知識の理解と共に、人間的・社会的な視野を広げること、社会人として教養・見識を深める。</p> <p>技能の領域 これまで学んだ教育保育にかかわる基礎的な技能のレベルアップを図る。 大学生として自ら学ぶスキルのレベルアップを図り、専門演習?の学習へつなげる。</p> <p>態度・志向性の領域 保育職(幼稚園、保育所、施設)・小学校教員など、自分のキャリアビジョンについて考える。 また、それに向けてやるべきことや自らの課題を見つけ、取り組むことができる。 ゼミ活動、全体活動を通し、自らの行動をコントロールすること、他者と協働的に活動することを体験し、その意義を知る。</p>
授業の概要	<p>この授業は、各ゼミで行うゼミ活動と、2年生全体で行う全体活動がある。いずれの活動も、上述の授業目標を達成するために、様々な学習活動や体験活動を行う。そのため、授業時間外での学習、準備等が必須である。</p> <p>ゼミ活動 担当教員と相談しながら、学生自ら主体的に様々な学習活動、体験活動を計画し、学びを深める。</p> <p>前年度の活動例 ・実習関係の活動(教材作り、日誌指導案の書き方、反省会など) ・課題・レポート作り(書き方、プレゼン、小論文作成など) ・話し合いや討論会など ・大学祭や地域のお祭りへの参加 ・親睦会などのレクリエーション ・個人面談</p> <p>全体活動 学年全体での、実践的な学び、キャリアビジョン形成、ゼミ活動の共有のためのプログラムを展開する。なお、大学祭での子ども向け企画にゼミ毎の参加を推奨する。積極的に参加してほしい。</p> <p>本授業に関する質問へは随時対応するので、ゼミ教員または他の担当教員へ申し出てほしい。 本授業は対面授業で行います。</p>
評価方法	授業への参加姿勢、課題への取り組みの姿勢、課題や提出物により評価する。

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>1回 全体の年間計画についての話</p> <p>2～3回 個人面談</p> <p>4回～10回 学級作り、朝の会、清掃、給食、帰りの会、教師の1日の仕事などについて話をし、その意義について考えさせる。</p> <p>11回～14回 文学教材の模擬授業</p> <p>15回 前期の反省会</p> <p>16回、17回 個人面談</p> <p>18回～28回 文学作品、説明文の模擬授業</p> <p>29回、30回 一年の反省会</p>
テキスト	指定しない
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	小学校の学級経営、及び授業実践など多方面にわたって、授業に取り入れる。
質問への対応方法	・個人及び全体を問わず、随時受け入れ全体で共有して問題解決にあたる。
フィードバックの方法	・個人ファイルを作成し、授業及び個人で振り返りができるようにする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・模擬授業の準備、参考文献の学習など、授業に合わせて課題を提示する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	<p>1. 貧困をなくそう</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>5. ジェンダー平等を実現しよう</p>
SDGs 17の目標(11～17)	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p> <p>4. 構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>2. 協同力</p> <p>7. 課題発見力</p> <p>8. 計画立案力</p> <p>9. 実践力</p>

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション 各ゼミ	授業の説明、担当教員の紹介、ゼミメンバー顔合わせ、オリエンテーションテキスト「子どもはみんな問題児」予習・・・指定されたページまで読む。	
2	教育者としての教養 各ゼミ	テキスト「子どもはみんな問題児」ディスカッション  予習・・・指定されたページまで読む。	
3	教育者としての教養 各ゼミ	(テキスト「子どもはみんな問題児」ディスカッション  予習「教育とはなにか」第1章を読む。	
4	教育者としての教養 各ゼミ	教育とはなにか第1章 レポーターによる報告とディスカッション  予習「教育とはなにか」第2章を読む。	
5	教育者としての教養 各ゼミ	教育とはなにか第2章 レポーターによる報告とディスカッション  予習「教育とはなにか」第3章を読む。	
6	教育者としての教養 各ゼミ	教育とはなにか第3章 レポーターによる報告とディスカッション  予習「教育とはなにか」第4章を読む。	
7	教育者としての教養 各ゼミ	教育とはなにか第4章 レポーターによる報告とディスカッション  予習「教育とはなにか」第5章を読む。	
8	教育者としての教養 各ゼミ	教育とはなにか第5章 レポーターによる報告とディスカッション  予習「教育とはなにか」第6章を読む。	
9	教育者としての教養 各ゼミ	教育とはなにか第6章 レポーターによる報告とディスカッション  予習「教育とはなにか」第7章を読む。	
10	教育者としての教養 各ゼミ	教育とはなにか第7章 レポーターによる報告とディスカッション  予習「教育とはなにか」第8章を読む。	
11	教育者としての教養 各ゼミ	教育とはなにか第8章 レポーターによる報告とディスカッション  予習「教育とはなにか」第9章を読む。	
12	教育者としての教養 各ゼミ	教育とはなにか第9章 レポーターによる報告とディスカッション  予習「教育とはなにか」第10章を読む。	
13	教育者としての教養 各ゼミ	教育とはなにか第10章 レポーターによる報告とディスカッション	
14	教育者としての教養 各ゼミ	「教育者としての教養」について、学んだことをまとめる。	
15	教育者としての教養 各ゼミ	「どのような教育者になりたいか」を考え、まとめる。	

開講科目名 Course	基礎演習II(通) / Introductory Study Group I
時間割コード Course Code	59102
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	多川 則子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	13H演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	多川 則子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>1年次基礎演習Iに引き続き、教育保育職を目指す学生にとって必要な基本的知識と技能の習得を目指す。また、教育保育職についての理解を深め、自分の進路を方向付ける。</p> <p>知識・理解の領域 基礎演習1での学び、他の授業で得た知識、実践や実習を通しての学びを踏まえ、教育保育職についてのより深い理解につなげる。 専門知識の理解と共に、人間的・社会的な視野を広げること、社会人として教養・見識を深める。</p> <p>技能の領域 これまで学んだ教育保育にかかわる基礎的な技能のレベルアップを図る。 大学生として自ら学ぶスキルのレベルアップを図り、専門演習1の学習へつなげる。</p> <p>態度・志向性の領域 保育職(幼稚園、保育所、施設)・小学校教員など、自分のキャリアビジョンについて考える。 また、それに向けてやるべきことや自らの課題を見つけ、取り組むことができる。 ゼミ活動、全体活動を通し、自らの行動をコントロールすること、他者と協働的に活動することを体験し、その意義を知る。</p>
授業の概要	<p>この授業は、各ゼミで行うゼミ活動と、2年生全体で行う全体活動がある。いずれの活動も、上述の授業目標を達成するために、様々な学習活動や体験活動を行う。そのため、授業時間外での学習、準備等が必須である。</p> <p>ゼミ活動 担当教員と相談しながら、学生自ら主体的に様々な学習活動、体験活動を計画し、学びを深める。</p> <p>前年度の活動例 ・実習関係の活動(教材作り、日誌指導案の書き方、反省会など) ・課題・レポート作り(書き方、プレゼン、SDGs調べ学習など) ・話し合いや討論会など ・大学祭や地域のお祭りへの参加 ・親睦会などのレクリエーション ・個人面談</p> <p>全体活動 学年全体での、実践的な学び、キャリアビジョン形成、ゼミ活動の共有のためのプログラムを展開する。なお、大学祭での子ども向け企画にゼミ毎の参加を推奨する。積極的に参加してほしい。</p> <p>本授業に関する質問へは随時対応するので、ゼミ教員または他の担当教員へ申し出てほしい。</p>
評価方法	授業への参加姿勢、課題への取り組みの姿勢、課題や提出物により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席回数が3分の1を超えた場合は失格とする。



授業計画	ゼミ活動 担当教員と相談しながら、学生自ら主体的に様々な学習活動、体験活動を計画し、学びを深める。 。前年度の活動例 ・実習関係の活動（教材作り、日誌指導案の書き方、反省会など） ・課題・レポート作り（書き方、プレゼン、SDGs調べ学習など） ・話し合いや討論会など ・大学祭や地域のお祭りへの参加 ・親睦会などのレクリエーション ・個人面談 全体活動 学年全体での、実践的な学び、キャリアビジョン形成、ゼミ活動の共有のためのプログラムを展開する。なお、大学祭での子ども向け企画にゼミ毎の参加を推奨する。積極的に参加してほしい。
テキスト	指定しない
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループ単位のディスカッション、グループ毎（全体）に発表、学外での体験活動など。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応 メール対応：tagawa@nagoya-ku.ac.jp
フィードバックの方法	随時対応
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	レジメ作成、体験活動の準備等（30時間程）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 7. 課題発見力

開講科目名 Course	基礎演習II(通) / Introductory Study Group I
時間割コード Course Code	59103
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	長江 美津子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 F 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	長江 美津子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>1年次基礎演習1に引き続き、教育保育職を目指す学生にとって必要な基本的知識と技能の習得を目指す。また、教育保育職についての理解を深め、自分の進路を方向付ける。</p> <p>知識・理解の領域 基礎演習1での学び、他の授業で得た知識、実践や実習を通しての学びを踏まえ、教育保育職についてのより深い理解につなげる。 専門知識の理解と共に、人間的・社会的な視野を広げること、社会人として教養・見識を深める。</p> <p>技能の領域 これまで学んだ教育保育にかかわる基礎的な技能のレベルアップを図る。 大学生として自ら学ぶスキルのレベルアップを図り、専門演習?の学習へつなげる。</p> <p>態度・志向性の領域 保育職(幼稚園、保育所、施設)・小学校教員など、自分のキャリアビジョンについて考える。 また、それに向けてやるべきことや自らの課題を見つけ、取り組むことができる。 ゼミ活動、全体活動を通し、自らの行動をコントロールすること、他者と協働的に活動することを体験し、その意義を知る。</p>
授業の概要	<p>この授業は、各ゼミで行うゼミ活動と、2年生全体で行う全体活動がある。いずれの活動も、上述の授業目標を達成するために、様々な学習活動や体験活動を行う。そのため、授業時間外での学習、準備等が必須である。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業への参加姿勢、課題への取組みの姿勢、課題や提出物により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	通年授業の内、12回以上の欠席は失格。

授業計画	<p>ゼミ活動 担当教員と相談しながら、学生自ら主体的に様々な学習活動、体験活動を計画し、学びを深める。</p> <p>前年度の活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習関係の活動（教材作り、日誌指導案の書き方、反省会など）</li> <li>・課題・レポート作り（書き方、プレゼン、小論文作成など）</li> <li>・話し合いや討論会など</li> <li>・大学祭や地域のお祭りへの参加</li> <li>・親睦会などのレクリエーション</li> <li>・個人面談</li> </ul> <p>全体活動 学年全体での、実践的な学び、キャリアビジョン形成、ゼミ活動の共有のためのプログラムを展開する。なお、学外での子ども向け企画にゼミ毎の参加を推奨する。積極的に参加してほしい。</p>
テキスト	指定しない
参考書	随時紹介
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>保育者に必要な保育実技や資質能力等を実践をとおして身に付けていくことを中心に行っていく。例えば、子育て支援や保育施設での活動等。従って、その内容や進め方等、学生間の話し合いや教員とのやり取りを交わしながら進めていくことになる。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	<p>教員の幼稚園や保育所勤務経験を活かし、保育現場に生かせる遊びや保育技術を教授する。また、積極的に保育や子育て支援の場に出かけ体験から保育者として必要な資質が養われるようにする。</p>
質問への対応方法	本授業に関する質問へは随時対応
フィードバックの方法	<p>ゼミで進めている内容について、学生全員が共通理解を図りながら同じゼミ目標に向かい進めて行けるように、毎回確認作業を行う。方法は、授業内またはクラスルーム等を通して行う。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>本授業は、各ゼミで行うゼミ活動と、2年生全体で行う全体活動がある。いずれの活動も、授業目標を達成するために、様々な学習活動や体験活動を行う。そのため、授業時間外での学習、準備等が必須となる。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>3.すべての人に健康と福祉を</p> <p>4.質の高い教育をみんなに</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11.住み続けられるまちづくりを</p> <p>16.平和と公正をすべての人に</p> <p>17.パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	<p>1.親和力</p> <p>2.協同力</p> <p>8.計画立案力</p> <p>9.実践力</p>

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	授業の説明、担当教員の紹介、ゼミメンバー顔合わせ	
2	地域ボランティア活動 遊びコーナー話し合い	準備・発表練習(1)(2時間の復習)	
3	地域ボランティア活動 遊びコーナー準備	準備・発表練習(2)(2時間の復習)	
4	地域ボランティア活動 遊びコーナー準備	準備・発表練習(3)(2時間の復習)	
5	地域ボランティア活 遊びコーナー準備	準備・発表練習(4)(2時間の復習)	
6	児童文化財 作成	児童文化財作成の続きや発表練習(2時間の復習)	
7	児童文化財 作成	児童文化財作成の続きや発表練習(2時間の復習)	
8	児童文化財 発表	児童文化財を完成させたり発表練習【2時間の復習)をしたりする	
9	児童文化財 発表	児童文化財の発表を振り返り自己表を行う どのような企画が実行可能か調べておく (2時間の予習)	
10	地域ボランティア活動 参加準備	準備・練習(1) 企画の準備をする(2時間の復習)	
11	地域ボランティア活動 参加準備	準備・練習(2) 企画の準備をする(2時間の復習)	
12	地域ボランティア活動 参加準備	準備・練習(3) 企画の準備をする(2時間の復習)	
13	地域ボランティア活動 参加準備	準備・練習(4) 企画の準備をする(2時間の復習)	
14	地域ボランティア活動 参加準備	準備・練習(5) 企画の準備をする(2時間の復習)	
15	前期の振り返り 地域ボランティア活動 参加	ボランティア活動参加の反省会及び片付け	

開講科目名 Course	専門演習 I (通) / Advanced Study Group I
時間割コード Course Code	59200
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	秋田 郁
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	秋田 郁 (教育保育学科)
授業の目標	<p>知識・理解の領域 様々な音楽教育法を理解する。</p> <p>技能の領域 自ら興味を持ったテーマについて、資料収集し、まとめ、プレゼンテーションする力を培う。 様々な音楽教育法を実践するための技術を身につける。</p> <p>態度・志向性の領域 自ら進んで子ども向けのイベント企画したり、子どもと関わったりする。また、子どものための教材開発を行う。</p>
授業の概要	<p>【対面授業】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.音楽教育分野の文献購読を行い、理解したことをレジュメにまとめ、ゼミ内で発表する。</li> <li>2.ゼミ内で意見交換を行う。</li> <li>3.実践を通して各教育法の特徴をつかむ。</li> <li>4.子どもと関わりながら、実践する。</li> <li>5.子どもが興味をもって音楽を学べるような教材開発を行う。</li> </ol>
評価方法	授業・イベントへの参加、課題により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業への参加（授業回数の2/3以上の参加が求められる。）
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2.3. カール・オルフ</li> <li>4.5. コダーイ・ゾルタン</li> <li>6.7. エミール＝ジャック・ダルクローズ</li> <li>8.9. ルドルフ・シュタイナー</li> <li>10.11. マリー・シェーファー</li> <li>12.13 伊沢修二</li> <li>14.15 ローヴェル・メーソン</li> <li>16.17 ルーサー・ホワイトティング・メーソン</li> <li>18.19 鈴木鎮一</li> <li>20. まとめ</li> <li>21.22. 研究テーマ設定</li> <li>23.24. 資料収集</li> <li>25.26. 発表準備</li> <li>27.28. 発表</li> <li>29.30. 発表とまとめ</li> </ol>
テキスト	適宜紹介する。

参考書	適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・各自が卒論のテーマとして興味のあることについて調べ、発表をし、討議を行う。 ・子どもの音楽技術技能・知識習得のための教材を開発し、ゼミ内外で発表実践する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	適宜、研究室、メール等にて対応する。 また、研究室隣のピアノ練習室や音楽室等を適宜解放し、授業時間外にも練習・研究が出来る環境を整える。
フィードバックの方法	適宜個人面談を行い、それぞれの課題発見、課題解決に向けてアドバイスを行う。また、ゼミ全体でのフィードバックも半期に一度程度行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	発表のための資料収集、他のゼミ生の発表の振り返り、教材作成等、適宜行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	12.つくる責任つかう責任 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	専門演習 I (通) / Advanced Study Group I
時間割コード Course Code	59201
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	飯田 幸恵
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	情報実習室 A, 情報実習室 B
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	飯田 幸恵 (教育保育学科)
授業の目標	1. 文献講読を行い、教育学・保育学の基礎知識を習得する。 2. 各自の関心に合わせてテーマ設定、資料収集、発表原稿作成、発表ができるようにする。 3. 課題意識を持ち、考察を行う姿勢を身につける。
授業の概要	前期は、教育学・保育学の文献を講読し、自らの関心に合ったテーマの設定を行い、研究計画を作成する。 後期は、自ら設定したテーマに沿って資料収集、発表原稿作成、発表を行い、全体で検討を行う。
評価方法	授業への取り組み・課題等から総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	全授業回数数の3分の1を超えて欠席した場合は、失格となる。

授業計画	1. 授業の説明 2. 教育学の文献講読（教育思想） 3. 教育学の文献講読（教育思想） 4. 教育学の文献講読（教育思想） 5. 教育学の文献講読（教育思想） 6. 保育学の文献講読（保育思想） 7. 保育学の文献講読（保育思想） 8. 保育学の文献講読（保育思想） 9. 保育学の文献講読（保育思想） 10. 子どもの遊び・創造活動・絵本等に関する文献講読 11. 子どもの遊び・創造活動・絵本等に関する文献講読 12. 子どもの遊び・創造活動・絵本等に関する文献講読 13. 子どもの遊び・創造活動・絵本等に関する文献講読 14. テーマの設定と研究計画作成 15. テーマの設定と研究計画作成 16. 資料収集 17. 資料収集 18. 資料収集 19. 資料収集 20. 資料収集 21. 発表原稿作成 22. 発表原稿作成 23. 発表原稿作成 24. 発表原稿作成 25. 発表原稿作成 26. 発表・検討会 27. 発表・検討会 28. 発表・検討会 29. 発表・検討会 30. まとめ
テキスト	授業時に指示する。
参考書	適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	アクティブラーニング
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業終了後に対応する。
フィードバックの方法	次回の授業時にフィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回授業の予習・復習を行うこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	専門演習 I (通) / Advanced Study Group I
時間割コード Course Code	59202
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	小島 千枝
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 H 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小島 千枝 (教育保育学科)
授業の目標	大学4年間の学習成果として卒業論文を完成させる。
授業の概要	詳細については専門演習IIのシラバスと同様であるが、論文の内容的検討に加えて、「論文」とは何か、論文の作成に関する作法、校正のルールについても学修する。
評価方法	卒業論文の内容によって評価をおこなう。分量については、12,000字を目安とする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	論文の提出がない時には失格となる。
授業計画	・専門科目IIのシラバスを参照
テキスト	
参考書	適宜指示・紹介をするが、論文の書き方については、 ・斉藤孝 『学術論文の技法』(日本エディタースクール出版部,2005年) など、参考となる文献が多く出版されているので、各自1冊は目を通すことが望ましい。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	保育、教育の現場で40年間にわたり勤務してきた経験を生かして、実践的な指導を行う。
質問への対応方法	オフィスアワーで対応
フィードバックの方法	アドバイス、添削等は随時行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	必要な調べを随時課題としていく。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	1. 貧困をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標(11~17)	

PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	4.感情制御力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	専門演習 I (通) / Advanced Study Group I
時間割コード Course Code	59203
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	関谷 みのぶ
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 L 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	関谷 みのぶ (教育保育学科)
授業の目標	<p>子どもの幸せを第一に考えて実践できる保育者・教育者、または、地域を構成する一員となることを目標に演習をすすめる。</p> <p>以下3点を本授業の目標に設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもを取り巻く環境について、多角的に分析し、課題を発見する力を養う。</li> <li>2. 学んだ成果から子どもの育ちを支えることのできる実践力を養う。</li> <li>3. 4年次の専門演習で深めてみたい受講者各自の研究テーマを発見する。</li> </ol>
授業の概要	<p>子どもを取り巻く環境について、調査報告書や統計資料などから現状を把握し、課題発見にむけての意見交換を行う。</p> <p>同時に、実践活動も実施しながら、実践での学びを題材に、子どもの最善の利益の保障に関する理念や実態の理解をより深める。</p> <p>いずれの活動も学生相互、学生と教員の学び合いを大切に、意見交流を中心に進める。</p> <p>なお、学外で実施する実践活動については、状況により実施の有無を判断する。</p> <p>授業へは、授業外での事前の準備を要することもある。事後もその日の演習内容を振り返るとともに、次の準備活動へつなげる事が必要となる。</p> <p>質問へは、その都度対応する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	演習や授業課題への取り組む姿勢 (80%)、提出物の成果など (20%) から総合的に判断する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第1回オリエンテーション</p> <p>第2～7回保育者・教育者（社会人）に必要な専門的力について考える(1)</p> <p>第8～11回設定したテーマの資料読解、及び、意見交換</p> <p>第12～14回保育者・教育者（社会人）に必要な専門的力について考える(2)</p> <p>第15回前期のまとめ</p> <p>第16回夏休みの振り返り、後期の活動のオリエンテーション</p> <p>第17～19回オレンジリボン運動（児童虐待防止啓発活動）への参加：資料分析、発表による学び合い、啓発活動への参加</p> <p>第20～21回各自のキャリア形成につなげる研究テーマ設定</p> <p>第22～24回設定したテーマに沿った資料収集、実践、プレゼンテーションの準備</p> <p>第25～26回プレゼンテーションを中心とした学び合い</p> <p>第27回プレゼンテーションの振り返り、改善</p> <p>第28～29回プレゼンテーションを中心とした学び合い</p> <p>第30回1年間のまとめ、次年度に向けて</p> <p>学外における保育実践への参加可能状況によって、上記授業計画を変更する場合もある。</p> <p>【学外保育実践（予定）】</p> <p>夏休み：小牧情報ウィークにてあそび場の提供</p> <p>春休み：小牧市保育園にて虫歯予防普及活動</p>
テキスト	適宜指示する。
参考書	適宜指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員が準備した課題について、自らの力で、あるいは、受講学生同士が協力して正答を導く。</li> <li>・教員が準備した課題について、受講学生自らが調べ、発表の準備をし、討議を通して学び合う。</li> <li>・各自が設定したテーマについて、受講学生が発表の準備をし、討議を討議を通して学び合う。</li> <li>・教員あるいは各自が設定したテーマについて、学んだことを多様な方法で表現する（表現方法も受講学生間で検討する）。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内外問わず、適宜対応する。
フィードバックの方法	各回の授業や活動の区切りなど、適切なタイミングで、口頭・提出物へのコメント記載、メールなどを用いて行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業で扱うテーマについて、また、各自が設定したテーマについて、事前の調べ学習、発表に向けての準備、発表後の振り返りのために少なくとも1時間は要する。その他、学外活動を実施する際は、授業時間外に準備を行うこともある。ゼミの時間を有効に使用するためにも、各自が事前の学習を行っておくこと、事後には各自が振り返りをあらかじめ行っておくことが求められる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p>
SDGs 17の目標（11～17）	17. パートナースhipで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>4. 構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>2. 協同力</p> <p>8. 計画立案力</p> <p>9. 実践力</p>

開講科目名 Course	専門演習 I (通) / Advanced Study Group I
時間割コード Course Code	59204
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	多川 則子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 3 H 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	多川 則子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>子どもとかかわる体験活動(学外)などの実践を通して、保育者・教育者としての力量を身に付ける。また、卒論に向けて、興味を持ったテーマについて調べ、レジメやレポートにまとめるなどのスキルの獲得を目指す。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発達段階毎の子どもの姿を捉える。</li> <li>学術的な先行知見のまとめ方を知る。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの育ちを支援することのすばらしさやおもしろさを実感する。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもへ関わる、接する、声をかける、経験をする。</li> <li>学術的な知見の調べ方、引用の仕方を知る。</li> </ul>
授業の概要	<p>4年生ゼミ生と合同で活動を行う。</p> <p>1) 地域の体験活動への参加: 小牧市ジュニアセミナー(7月予定)を含め、いくつかの活動へ参加予定。計画立案、準備活動、振り返りの一連の活動を行う。</p> <p>2) 研究課題: 体験に絡めたテーマを設定したり、各自で関心のあるテーマを選ぶなどする。文献を探し、レジメやレポートにまとめる、発表するを繰り返し実施する。</p> <p>3) 4年生の卒論経過報告、中間発表会、卒論発表会等に参加する。</p> <p>4) 実習の報告会を適宜実施する。</p>
評価方法	出席状況、授業・課題への取り組む姿勢、最終レポートなどにより総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席過多の場合。
授業計画	<p>前期</p> <p>第1回 オリエンテーション・活動計画</p> <p>第2回～14回</p> <p>子どもとかかわる体験活動_学習・企画・準備・実践・振り返り(7回)</p> <p>研究課題_文献学習・資料作成・発表(5回)</p> <p>実習振り返り(1回)</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>後期</p> <p>第1回 オリエンテーション・活動計画</p> <p>第2回～14回</p> <p>子どもとかかわる体験活動_学習・企画・準備・実践・振り返り(7回)</p> <p>研究課題_文献学習・資料作成・発表(5回)</p> <p>実習振り返り(1回)</p> <p>第15回 まとめ</p>

テキスト	指定しない。
参考書	『造形あそび- “体験”が感性を育む (これからの保育シリーズ6)』 深谷ベルタ 風鳴舎 2018年 『子どもの発達と描画活動の指導 描く楽しさを子どもたちに』 田中義和 ひとなる書房 2011年 『幼・保・小 で役立つ絵本から広がる表現教育のアイデア-子供の感性を豊かに育むために-』 山野てるひ・岡林典子・水戸部修治 一藝社 2018年 『造形表現・図画工作・美術 描く つくる 育つ 78の技法』伊東知之 福村出版 2023年 『何をつくるか決めない造形遊び そざい探究LABO』 桐嶋 歩 メイト 2021年
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループによるディスカッション、造形活動、実践および準備活動等。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応する。メール対応可。
フィードバックの方法	活動後は、随時振り返りのディスカッションを行う。また、個別面談にて伝達する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	学外での実践日は授業外の時間となり、実践準備活動では授業外作業もある(合計16時間程)。また、発表時には文献研究やレジメやレポート作成が宿題となる(合計14時間程)。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力 9.実践力

開講科目名 Course	専門演習 I (通) / Advanced Study Group I
時間割コード Course Code	59206
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	田中 秀佳
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 F 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	田中 秀佳 (教育保育学科)
授業の目標	1 教育・保育・福祉の実践的内容ではなく、それらを枠付け、保障 するための行政・制度に焦点を当て、テキストをもとに、当該分野の行政・制度の特徴と課題を学び取る。 2 行政・制度の面からみた教育・保育・福祉の諸課題について、それらを理解し、分析する力を身につける。 3 演習を通じて、論理的な思考と表現 (文献をはじめとする様々な 情報を読み取ること、それらをまとめること、まとめた内容を他 者に伝え、説明すること、自らの考えを持ち、他者の考えを理解 し、議論すること) を修得する。
授業の概要	本授業は対面授業で行います。 前半は、テキストを参考文献や行政資料を用いて読み取り、各自が要約と論点提示をおこない、参加者によって検討をおこなう。 後半は、各自の関心に基づいて、教育・保育・福祉分野の課題を検討する。 また、教育・保育の現場や地域を知る目的から、いずれかの日程において学外の施設や機関でのフィールド・ワークを実施する予定である。
評価方法	ゼミでの活動状況 (報告にあたっての準備状況、レジュメ・報告の内容、ディスカッションへの参加程度等) により総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	活動の際に各自に求められる課題をおこなわない場合、あるいは参加の程度が著しく不十分な場合、失格となる。
授業計画	1 オリエンテーション 2から14 文献の講読、報告、議論およびそれらのための資料収集 15 まとめ 16 テーマ設定 17から25 検討課題に関する文献・資料収集、報告レジュメ作成、中間報告 26から29 報告・質疑 30 まとめ
テキスト	ゼミ内で検討の上、指示をする。
参考書	適宜、指示・紹介をする。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	毎回、設定したテーマについてディスカッションを実施することを基本とする。また前提として、事前および事後の主体的な時間外学習が必須となる。また、学生の関心に応じて、学外の教育・保育・福祉に関する機関等への見学やフィールドワークをおこなう場合がある。

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	現職の教育委員によって行われる授業であり、現在の教育現場・教育行政の知見や状況を直接的に反映させた、実践的・実地的な教育内容を提供する。
質問への対応方法	授業時、授業開始時、授業終了時、およびオフィス・アワーにおいて直接対応するほか、メール等ICTを用いて随時対応する。
フィードバックの方法	授業時、各回において過去の学習内容やディスカッションの内容を振り返ったり、再度学習素材とすることがあるほか、メール等ICTを用いてフィードバックをおこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回、設定したテーマについてディスカッションを実施することを基本とする。また前提として、事前および事後の主体的な時間外学習が必須となる。また日常的に新聞を読む習慣をつけておくことをゼミ参加の前提とする。単位数に応じた課外学習が必須となることは言うまでもない。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 8. 働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 7. 課題発見力 8. 計画立案力



開講科目名 Course	専門演習 I (通) / Advanced Study Group I
時間割コード Course Code	59208
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	塚本 敏浩
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	30A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	塚本 敏浩 (教育保育学科)
授業の目標	<p>1. 美術・図画工作科教育に関する教育法全般 (理論・実技) について理解を深め、技能を習得する。</p> <p>2. 美術・図画工作科教育の理論的、実践的研究の主題・テーマについて構想・設定し、個々のテーマに沿って研究・探究する。</p> <p>3. 以上の活動を通して、美術・図画工作科教育についての総合的実践能力を獲得し、社会展開のための技術・技能を身に付ける。</p>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術・図画工作科教育の概要</li> <li>・美術・図画工作科教育の歴史と内容</li> <li>・幼保における「表現領域」小学校における各学年の指導内容の理解</li> <li>・指導の実際と課題及び実技に関する演習</li> <li>・教材・教具についての理解と技能の習得</li> <li>・美術・図画工作科の実践的活動</li> </ul> <p>なお、質問への対応は随時行う。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	出席状況・参加態度・レポート・課題等から総合的に判断する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>1. ガイダンス、オリエンテーション</p> <p>2～3. 美術・図画工作科教育の概要</p> <p>4～5. 美術・図画工作科教育歴史と内容</p> <p>6～8. 幼稚園・保育所における造形活動「表現領域」の理解</p> <p>9～11. 小学校における各学年の指導内容の理解 (低学年)</p> <p>12～14. 小学校における各学年の指導内容の理解 (中学年)</p> <p>15～17. 小学校における各学年の指導内容の理解 (高学年)</p> <p>18～20. 指導の実際と課題及び実技に関する演習</p> <p>21～23. 教材・教具についての理解と技能の習得</p> <p>24～26. 美術・図画工作科の実践的活動</p> <p>27～30. 理論的、実践的研究の主題・テーマについて、構想・設定・探究</p>
テキスト	適宜、授業内にて紹介する。
参考書	適宜、授業内にて紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実際の教育及び保育現場における喫緊の課題や実践的な指導方法・教材について適宜扱い、指導、教授する。
質問への対応方法	随時対応する（研究室訪問やメール等）
フィードバックの方法	課題については随時返却し、個別指導する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>1．ガイダンス、オリエンテーション</p> <p>2～3．美術・図画工作科教育の概要……各回、配布資料を参考に、予習1時間・復習1時間行うこと</p> <p>4～5．美術・図画工作科教育歴史と内容……各回、配布資料を参考に、予習1時間・復習1時間行うこと</p> <p>6～8．幼稚園・保育所における造形活動「表現領域」の理解……各回、配布資料を参考に、予習1時間・復習1時間行うこと</p> <p>9～11．小学校における各学年の指導内容の理解（低学年）……各回、配布資料を参考に、予習1時間・復習1時間行うこと</p> <p>12～14．小学校における各学年の指導内容の理解（中学年）……各回、配布資料を参考に、予習1時間・復習1時間行うこと</p> <p>15～17．小学校における各学年の指導内容の理解（高学年）……各回、配布資料を参考に、予習1時間・復習1時間行うこと</p> <p>18～20．指導の実際と課題及び実技に関する演習……各回、配布資料を参考に、予習1時間・復習1時間行うこと</p> <p>21～23．教材・教具についての理解と技能の習得……各回、配布資料を参考に、予習1時間・復習1時間行うこと</p> <p>24～26．美術・図画工作科の実践的活動……各回、配布資料を参考に、予習1時間・復習1時間行うこと</p> <p>27～30．理論的、実践的研究の主題・テーマについて、構想・設定・探究……各回、配布資料を参考に、予習1時間・復習1時間行うこと</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 I (通) / Advanced Study Group I
時間割コード Course Code	59209
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	早川 健太郎
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 3 F 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川 健太郎 (教育保育学科)
授業の目標	この授業では、「子どもの身体発育と健康」などについて探求していくなかで、学生自身の研究テーマの設定や研究手法を検討し、卒業論文を構想していくことが目標となる。 具体的には、子どもの体力や健康に関連する論文の検索の仕方や読み方、研究方法の立て方、簡単な統計手法による研究結果の内容を理解し、卒業論文作成の基礎ができるように案る。
授業の概要	子どもの健康に関して知識を深め、どのような課題があるのかを正確に認識した上で、問題を探求していく。具体的には以下のような学習を行う。 先行研究と教育保育現場における子どもの健康についての課題の探求 先行研究と学会参加から研究の視点や研究の方法を学び、データ処理やレポート作成の仕方 自分の研究テーマの設定 なお、学習は教員からの一方的な指導ではなく、学生同士の議論を中心に進めていきたい。能動的、積極的な参加を期待する。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	課題の遂行状況や取り組みの姿勢 50% 受講態度 20% レポート等 30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	課題が連続で未提出の場合 ディスカッションとイベントに不参加の場合
授業計画	授業の具体的な内容は次の通りである。  1．子どもの心身の健康に関する先行研究について(1-10回) ・先行研究の紹介 ・先行研究の読み方と検索の仕方について ・先行研究から読み解く子どもの心身の健康指導の在り方について 2．実験・調査について(11-20回) ・イベント等参加 ・実験・調査を行うための準備の仕方と注意事項について ・実験・調査を実施について ・実験・調査結果のデータ処理について ・レポートの作成について ・発表の仕方について 3．卒業論文のテーマ課題設定について(21-30回) ・学会参加 ・テーマの探し方 ・テーマの明確化
テキスト	適宜紹介する。

参考書	適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	含まない
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	該当しない
質問への対応方法	メールにて随時受け付ける（hayakawa-k@nagoya-ku.ac.jp） 必要であれば授業ご対応する。
フィードバックの方法	その場にてフィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習 毎回の課題に対してインターネット等を使用し情報を収集する。（90分）  予習 行った内容を整理しまとめておくこと（90分）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	専門演習 I (通) / Advanced Study Group I
時間割コード Course Code	59210
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	東岡 博
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 G 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	東岡 博 (教育保育学科)
授業の目標	<p>【目標】</p> <p>小学校教員として必要な資質・能力等を身につけ、小学校教員を目指す意欲を高め合う。授業づくりについての理解を深め、児童への指導・支援のあり方について学び合う。</p> <p>[重点努力目標]</p> <p>小学校教員の職務や現場の状況・課題についての把握に積極的に努め、小学校教員を目指す意欲を高めることができる。</p> <p>主体的・対話的で深い学びの授業について探求し、授業づくりに生かすことができる。実際の教育現場を知るために、学習支援ボランティアに積極的に参加することができる。</p>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教員に求められる資質・能力についての把握</li> <li>・小学校教員の職務や現場の状況・課題についての把握</li> <li>・課題を生かした教材研究及び教具の研究</li> <li>・授業のねらいを踏まえた学習指導案づくりや指導法の研究</li> <li>・研究内容の発表と研究協議</li> <li>・小学校教育実習に向けての心構えと準備</li> </ul> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	探究活動や学び合いの様子、学習指導案づくりや模擬授業、レポートの内容等を通して総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席過多の場合、失格とする。
授業計画	<p>教師の果たすべき役割と求められる資質・能力について</p> <p>小学校学習指導要領の内容と改訂ポイントについて</p> <p>～ 教育現場の取り組みや課題の把握と検討</p> <p>～ 授業づくりに向けての基礎的な知識理解と工夫について</p> <p>～ 教材研究 (課題・導入の工夫)</p> <p>～ 主体的・対話的で深い学びのある授業展開の工夫について</p> <p>～ 学習指導案づくり</p> <p>～ 模擬授業の実践と研究協議の実施</p> <p>～ 評価の観点と評価方法について</p> <p>～ 研究内容のまとめと発表</p> <p>適宜、小学校教育実習の準備を取り入れる。</p>
テキスト	なし
参考書	・参考書および参考資料については、演習の中で適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・模擬授業の実践と研究協議の実施など互いに学び合うことができる課題については、積極的に取り入れていく。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	・この授業では教育現場において、児童に算数等を指導した経験や、研究主任として授業づくりの中心として研究発表をした経験を生かし、探究活動を支えていく。
質問への対応方法	・授業時およびオフィスアワーで随時対応する。
フィードバックの方法	・随時、講義の終わりにふり返しを行うとともに、学習指導案やレポートは、翌週に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・毎回、前時の内容についての2時間の復習と授業計画に基づく次時の内容に関する2時間の予習を課する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 I (通) / Advanced Study Group I
時間割コード Course Code	59211
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	日比野 博
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 E 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	日比野 博 (教育保育学科)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校教育の理解を深めることにより、自信を持って児童に指導やかかわりをもつ方法を学び合う。</li> <li>・ 教員として必要な知識、技量等を身につけるための学習を進めるとともに、小学校教員の仕事の概要を把握し教諭を目指す意欲を高める。</li> </ul> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 小学校の授業の組み立て方が理解できる。</p> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業のねらいに則した授業展開や学習指導案の作成ができる。</li> <li>・ 指導のねらいに則した模擬授業ができる。</li> <li>・ 授業を行うために必要な教材・教具等の準備ができる。</li> </ul> <p>関心意欲の領域 分かる授業・楽しい授業をするための工夫をすることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 将来、小学校教員をめざす意欲を持つことができる。</p> <p>体験探求の領域 より教育現場を知るために、学習チューター等の教育ボランティアへの参加意欲を持つことができる。</p>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校教員の仕事や活動の概要把握</li> <li>・ 小学校教育の基礎分野の演習や授業づくり・指導法の研究</li> <li>・ 学習指導案作成や採用試験に向けての取組</li> <li>・ 教材の開発や活用についての研究</li> <li>・ 研究内容の発表・検討、研究協議</li> </ul> <p>質問等への対応 授業時およびオフィスアワーで随時対応する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること</p>
評価方法	参加姿勢・意欲、学習指導案作成、発表・研究協議、討論・レポート内容などを、総合的に判断する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	1～2 ガイダンス，小学校の学習指導要領の内容確認と把握，PROGテスト 3～6 教員の仕事や現場での活動や課題の情報把握と検討 7～9 授業を目指すにあたっての基礎知識・心構えの習得 10～12 授業づくりについて研究やICTの活用法研究 13～16 授業を行うための教材研究・教材教具の工夫 17～22 指導案作成，模擬授業および研究協議，評価方法についての検討 23～27 教師として必要な知識，教職教養などの確認 28～30 研究内容のまとめ，発表
テキスト	
参考書	小学校学習指導要領
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゼミ全体やグループごとで課題を設定し，議論や発表，研究協議等を通して小学校教育・指導法を深めていく。</li> <li>随時，話し合い深めていく活動を取り入れ，実践的な活動を進めていく。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校の現場経験を踏まえた指導を生かし，現場に即した助言や指導をしていく。</li> <li>時には，現役の講師による実習や研修を行うことも考えている。</li> </ul>
質問への対応方法	授業中・授業後，オフィスアワーなどを通して，随時対応していく。
フィードバックの方法	学習指導案やレポート等は翌週に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2 ガイダンス，小学校の学習指導要領の内容確認と把握 学習指導要領の予習と復習に計4時間課す 3～6 教員の仕事や現場での活動や課題の情報把握と検討 教員の仕事や様々な課題についての把握について6時間とまとめに2時間課す。 7～9 授業を目指すにあたっての基礎知識・心構えの習得 授業をするために必要なことについての予習に4時間とそのまとめに2時間を課す。 10～12 授業づくりについて研究やICTの活用法研究 ICTの活用事例や問題点の予習に4時間，そのまとめに2時間課す。 13～16 授業を行うための教材研究・教材教具の工夫 与えられた課題の指導案の教材研究に6時間，振り返りに2時間課す。 17～22 指導案作成，模擬授業および研究協議，評価方法についての検討 指導案作成に9時間，研究協議のまとめに3時間課す。 23～27 教師として必要な知識，教職教養などの確認 過去問等の復讐に5時間，振り返りに2時間課す。 28～30 研究内容のまとめ，発表 これまでのまとめに4時間，発表後のまとめに2時間課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	専門演習II(通) / Advanced Study Group II
時間割コード Course Code	59300
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	秋田 郁
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	秋田 郁 (教育保育学科)
授業の目標	専門演習Iにおいて各自で設定した音楽と教育・保育に関わるテーマを研究をし、卒業論文を作成する。
授業の概要	音楽と教育・保育に関わる研究を計画する。その計画を元に文献購読・調査などを実施し、卒業論文を作成する。
評価方法	授業への積極的参加, 研究発表の内容, 研究の進捗状況などから評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回授業のうち、6回以上欠席した場合、失格とする。
授業計画	ディスカッション形式で行う。発表者は、自らのテーマ, 研究方法, 得られたデータ等を発表する。研究に対する感想, 疑問, 問題点について討論し, 発表者にフィードバックすることで, 研究のさらなる進行につなげていく。  前期 1 3回 テーマに即した参考文献購読 4 10回 論文に必要な情報の取捨選択 11 15回 研究計画の立案  後期 1 7回 アウトラインを作成し、収集した情報に自己分析を加える。 8 15回 論文執筆
テキスト	なし
参考書	石井一成 『ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方』 株式会社ナツメ社1,100円+税 白井利明・高橋一郎 『よくわかる卒論の書き方』 ミネルヴァ書房2,500円+税
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	随時、卒論テーマについてレジюме作成し、発表を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	

質問への対応方法	質問には随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	課題に応じて事前事後学習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	専門演習II(通) / Advanced Study Group II
時間割コード Course Code	59301
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	飯田 幸恵
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	情報実習室A, 情報実習室B
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	飯田 幸恵 (教育保育学科)
授業の目標	1. 文献講読を行い、教育学・保育学の専門知識を習得する。 2. 各自の関心に合わせてテーマ設定、資料収集、論文作成、発表ができるようにする。 3. 課題意識を持ち、考察を行う姿勢を身につける。
授業の概要	まず、自らの関心に合ったテーマの設定を行い、研究計画を作成する。次に、自ら設定したテーマに沿って資料収集、文献講読、論文作成を行う。さらに、論文の発表を行い、全体で検討を行う。
評価方法	授業への取り組み・論文内容等から総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	全授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、失格となる。

授業計画	1. 授業の説明 2. テーマの設定と研究計画作成 3. テーマの設定と研究計画作成 4. 資料収集・文献講読 5. 資料収集・文献講読 6. 資料収集・文献講読 7. 資料収集・文献講読 8. 資料収集・文献講読 9. 資料収集・文献講読 10. 卒業論文作成 11. 卒業論文作成 12. 卒業論文作成 13. 卒業論文作成 14. 卒業論文作成 15. 中間発表会 16. 卒業論文作成 17. 卒業論文作成 18. 卒業論文作成 19. 卒業論文作成 20. 卒業論文作成 21. 卒業論文作成 22. 卒業論文作成 23. 卒業論文作成 24. 卒業論文作成 25. 卒業論文作成 26. 発表・検討会 27. 発表・検討会 28. 発表・検討会 29. 発表・検討会 30. まとめ
テキスト	授業時に指示する。
参考書	適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	アクティブラーニング
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業終了後に対応する。
フィードバックの方法	次回の授業時にフィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回授業の予習・復習を行うこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習II(通) / Advanced Study Group II
時間割コード Course Code	59302
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	家接 哲次
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 J 演習室, 3 0 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	家接 哲次(教育保育学科)、塚本 敏浩(教育保育学科)
授業の目標	<p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>論文の書き方を理解し、各自の論文テーマに沿った構成等が適切にできる。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各自の論文テーマに則して、必要となる資料を収集し、論文を書き進めることができる。</li> <li>アンケート調査などを通じ、結果と考察を記述することができる。</li> <li>ゼミ内の報告会において、設定された時間内で各自の論文の主旨を発表できる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒論テーマの内容を、各自の今後の仕事等で生かしたり、引き続き探求する姿勢を示すことができる。</li> </ul>
授業の概要	<p>研究テーマの設定、先行研究のレビューおよび問題点の同定、研究方法、データ分析、結果と考察の記載など研究の一連の流れを理解しながら、一つの論文を仕上げていく。</p> <p>*質問には随時対応する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業の参加態度、研究報告内容などで、総合的に評価する
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席数が多い場合は失格となることがある。
授業計画	<p>1 : ガイダンス</p> <p>2 ~ 6 : 先行研究のレビューおよび問題点の同定</p> <p>7 ~ 9 : 研究計画の作成</p> <p>1 0 ~ 1 5 : データ収集</p> <p>1 6 ~ 2 0 : データ分析</p> <p>2 1 ~ 2 5 : 結果と考察</p> <p>2 6 ~ 2 9 : 論文作成</p> <p>3 0 : 発表会</p>
テキスト	随時紹介する
参考書	随時紹介する
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業の中で基本的に対応するが、授業前後でも対応可能である。

フィードバックの方法	必要に応じて、口頭またはメール等でフィードバックを実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業中に提示する参考図書を読むこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習II(通) / Advanced Study Group II
時間割コード Course Code	59303
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	小島 千枝
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 H演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小島 千枝 (教育保育学科)
授業の目標	<p>保育分野に関するテーマを各自で見つけ、文献や実態調査に基づいた研究を実施する。自らが設定したテーマについて研究を実施し、その成果を論文としてまとめることができるようになる。</p> <p>具体的には、以下の4点を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 興味・関心のあるテーマについて、資料収集ができる。</li> <li>2. 興味・関心のあるテーマにアプローチする具体的研究手法がわかると同時に、必要な技能が身につく。</li> <li>3. 興味・関心のあるテーマについて先行研究や実態調査からその成果と課題がわかる。</li> <li>4. 研究したことを論文にまとめることができる。</li> </ol>
授業の概要	<p>興味・関心のあるテーマの選定とともに、研究計画を立てる。個々に立てた研究計画をもとに卒業論文を作成する。</p> <p>その過程で、資料収集の方法、調査方法、論文作成の作法を身に付ける。</p> <p>前半は、ゼミ内の意見交換を中心に進める。したがって、発表者は、自らの研究の進捗状況を報告し、他のゼミメンバーの助言にを基に、改善を含めた上で、さらに研究を進めていく。</p> <p>授業へは、授業外での事前の準備を要する。事後もその日の演習内容を振り返るとともに、次の準備活動へつなげる事が必要となる。</p> <p>質問へは、その都度対応する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業への積極的な参加を前提に、資料収集や研究に必要な知識技能の獲得状況、発表の内容などから総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>研究テーマや研究計画が作成されたのちには、基本的にディスカッション形式で行う。発表者は、自らのテーマ、研究方法、得られたデータ等を発表する。聞き手は発表を元に研究に対する感想、疑問、問題点について討論し、発表者にフィードバックすることで、研究のさらなる進行につなげていく。</p> <p>第1回ガイダンス（卒論とは何か）、テーマ設定  第2・3回テーマ設定と研究計画の作成  第4回テーマ設定（ゼミ内発表）  第5回先行研究・資料収集の方法について  第6回資料収集  第7回資料収集（進捗状況報告会）  第8～10回テーマトピック 問いの設定へ  第11～13回序論執筆  第14回序論発表  第15回研究計画の見直し</p> <p>第16回進捗状況報告  第17～22回論文執筆  第23回論文8割完成  第24～27回論文執筆  第28回論文完成  第29回報告会  第30回1年間の振り返りとまとめ</p>
テキスト	なし
参考書	適宜指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ゼミ内では、常に意見交換を行い互いを高め合う。多様な意見や考え方について深く学び、他者とのコミュニケーションの必要性や仕方も同時に学ぶ。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	保育、教育の現場で40年間にわたり勤務してきた経験を生かして、実践的な指導を行う。犬山市とのパイプを活用し、必要な情報収集、現場の意見集約やアンケート等の実施の橋渡しをする。
質問への対応方法	オフィスアワーで対応
フィードバックの方法	アドバイス、添削等は随時行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	必要な調べを随時課題としていく。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	専門演習II(通) / Advanced Study Group II
時間割コード Course Code	59304
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	関谷 みのぶ
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 L 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	関谷 みのぶ (教育保育学科)
授業の目標	<p>社会福祉分野に関するテーマを各自で見つけ、文献や実態調査に基づいた研究を実施する。自らが設定したテーマについて研究を実施し、その成果を論文としてまとめることができるようになる。具体的には、以下の4点を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 興味・関心のあるテーマについて、資料収集ができる。</li> <li>2. 興味・関心のあるテーマにアプローチする具体的研究手法がわかると同時に、必要な技能が身につく。</li> <li>3. 興味・関心のあるテーマについて先行研究や実態調査からその成果と課題がわかる。</li> <li>4. 研究したことを論文にまとめることができる。</li> </ol>
授業の概要	<p>興味・関心のあるテーマの選定とともに、研究計画を立てる。個々に立てた研究計画をもとに卒業論文を作成する。</p> <p>その過程で、資料収集の方法、調査方法、論文作成の作法を身に付ける。</p> <p>前半は、ゼミ内の意見交換を中心に進める。したがって、発表者は、自らの研究の進捗状況を報告し、他のゼミメンバーの助言にを基に、改善を含めた上で、さらに研究を進めていく。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業への積極的な参加を前提に、資料収集や研究に必要な知識技能の獲得状況 (30%)、発表の内容 (30%)、発言などの学び合う姿勢 (40%) から総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>研究テーマや研究計画が作成されたのちには、基本的にディスカッション形式で行う。発表者は、自らのテーマ、研究方法、得られたデータ等を発表する。聞き手は発表を元に研究に対する感想、疑問、問題点について討論し、発表者にフィードバックすることで、研究のさらなる進行につなげていく。</p> <p>第1回ガイダンス（卒論とは何か）、テーマ設定  第2・3回テーマ設定と研究計画の作成  第4回テーマ設定（ゼミ内発表）  第5回先行研究・資料収集の方法について  第6回資料収集  第7回資料収集（進捗状況報告会）  第8～10回テーマトピック問いの設定へ  第11～13回序論執筆（授業時に進捗状況を報告し、助言する）  第14回序論発表  第15回研究計画の見直し</p> <p>第16回進捗状況報告（夏季休暇の間の進捗状況を報告・アドバイスし合う）  第17～22回論文執筆（執筆そのものについては、各自課外で進めること）  第23回論文執筆（論文8割完成、報告会）  第24～27回論文執筆（執筆そのものについては、各自課外で進めること）  第28回論文完成（報告会に向けての準備）  第29回報告会  第30回1年間の振り返りとまとめ</p>
テキスト	なし
参考書	適宜指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	論文作成に必要なレジюме作成、資料検索、発表、討論などの実施
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問へは、その都度対応する。
フィードバックの方法	授業時やその他、必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業へは、授業外での事前の準備を要する。事後もその日の演習内容を振り返るとともに、次の準備活動へつなげる事が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力 8.計画立案力

開講科目名 Course	専門演習II(通) / Advanced Study Group II
時間割コード Course Code	59305
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	多川 則子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	13H演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	多川 則子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>専門演習1での学びを基に、一人ひとりの研究課題を見つける。研究課題について調べる、まとめる、プレゼンを繰り返し、卒論へとつなげる。子どもとかわる体験活動(学外)や大学祭などの実践を通して、保育者・教育者としての力量を身に付ける。</p> <p>知識・理解の領域 ・学術的な先行知見をまとめることができる。</p> <p>技能の領域 ・学術的な知見を検索し、適切な引用で論文に記述できる。 ・子どもへ関わる、接する、声をかける、経験をする。</p> <p>態度・志向性の領域 ・自分なりの問いに対し、先行知見を探究することの面白さを知る ・子どもの育ちを支援することのすばらしさやおもしろさを実感する。</p>
授業の概要	<p>専門演習1で行ってきたことを踏まえ、卒論へ向けて、どのように準備していくかを考える。研究課題について調べたら、適宜、プレゼン・発表や経過報告を行い、学び合いながらすすめていく。卒論中間発表会、卒論発表会を行う。</p> <p>また、地域のイベント、大学祭、子育て支援活動などの実践活動にも可能な範囲で参加していきたい。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	出席状況、授業・課題への取り組む姿勢、課題内容などにより総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席過多の場合。
授業計画	<p>前期</p> <p>第1回 オリエンテーション・活動計画1</p> <p>第2回 活動計画2</p> <p>第3回～14回 研究課題__調べる・資料作成・プレゼン・研究計画 実践活動、大学祭 レクリエーション</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>後期</p> <p>第1回～14回 研究課題__経過報告・調査・分析報告・卒論執筆 実践活動 レクリエーション</p> <p>第15回 まとめ</p>

テキスト	指定しない。
参考書	随時紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループによるディスカッション、造形活動、実践および準備活動等。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応する。メール対応可。 tagawa@nagoya-ku.ac.jp
フィードバックの方法	活動後は、随時振り返りのディスカッションを行う。また、個別面談にて伝達する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	学外での実践日は授業外の時間となり、実践準備活動では授業外作業もある（合計16時間程）。また、発表時には文献研究やレジメやレポート作成が宿題となる（合計14時間程）。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力

開講科目名 Course	専門演習II(通) / Advanced Study Group II
時間割コード Course Code	59306
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	田中 秀佳
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 F 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	田中 秀佳 (教育保育学科)
授業の目標	<p>大学での4年間の学習の成果としての卒業論文の完成に向け、以下のことを獲得することを目指す。</p> <p>1 教育・保育・福祉の実践的内容ではなく、それらを枠付け、保障 するための行政・制度に焦点を当て、テキストをもとに、当該分野の行政・制度の特徴と課題を学び取る。</p> <p>2 行政・制度の面からみた教育・保育・福祉の諸課題について、それらを理解し、分析する力を身につける。</p> <p>3 演習を通じて、論理的な思考と表現 (文献をはじめとする様々な 情報を読み取ること、それらをまとめること、まとめた内容を他 者に伝え、説明すること、自らの考えを持ち、他者の考えを理解 し、議論すること) を修得する。</p>
授業の概要	<p>前半は、卒業論文執筆に必要な文献や行政資料を各自が用意し、読み取り、要約および論点提示をおこない、参加者によって検討をおこなう。</p> <p>夏季休暇期間には、卒業論文の中間発表会を実施する。</p> <p>後半は、作成段階の卒業論文を個別的・集団的に検討する。</p>
評価方法	ゼミへの参加の程度により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>1 オリエンテーション</p> <p>2から15 卒業論文のテーマ、問題意識および課題設定の検討、卒業論文作成に必要な文献の講読、報告、議論およびそれらのための資料収集</p> <p>16から30 卒業論文の個別的・集団的検討</p>
テキスト	
参考書	適宜、指示・紹介をする。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	毎回ディスカッションを実施することを基本とする。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接またはメールにより対応する。

フィードバックの方法	授業時またはクラスルーム上で対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	日常的に新聞に目を通すことを求める。毎日ニュースに触れること、その中で少なくとも教育・保育・福祉の話題について自らの考えを深めることを必須とする。その習慣をつけることが、本講の内容理解の前提となる。その他、授業時に指示する予習・復習等を求める。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習II(通) / Advanced Study Group II
時間割コード Course Code	59307
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	塚本 敏浩
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	30A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	塚本 敏浩 (教育保育学科)
授業の目標	<p>・各々が設定したテーマ・課題について追究し、卒業研究・卒業論文に結実させること。  ・保育士・幼稚園・小学校教員採用試験、就職活動に向けて、必要な社会的素養を身に付け、卒業に向けた学修を発展的に進めること。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域  ・論文の書き方(制作の方法)を理解し、各自の論文(制作)テーマに沿った構成等が適切にできる。</p> <p>技能の領域  ・各自の論文(制作)テーマに則して、必要となる資料を収集し、論文を書き進める(制作)ことができる。  ・アンケート調査などを通じ、結果と考察を記述することができる。(制作に反映させることができる。)</p> <p>・ゼミ内の報告会(発表会)において、設定された時間内で各自の論文(制作)の主旨を発表できる。</p> <p>態度・志向性の領域  ・卒論(制作)テーマの内容を、各自の今後の仕事等で生かしたり、引き続き探求する姿勢を示すことができる。</p>
授業の概要	<p>・3年次に蓄積してきたものを基礎として卒業論文(制作)のテーマを決定し、前期は論文の書き方(制作の方法)に関する基礎を学ぶ。  ・後期は、各自の論文(制作)テーマに基づき、各章(各作品)の構成を考え、各章(各制作工程)ごとに仕上げていく。  なお、質問への対応は随時行う。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>探究姿勢・態度と報告会・発表会の内容で総合的に判断する  各課題への探究の姿勢・態度・・・40%  発表及び報告内容・・・60%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>1 ・ガイダンス・オリエンテーション  2～14 ・教員・保育採用試験、就職試験に向けての学習等準備  ・各自の卒業論文(卒業制作)の研究内容に応じて個別に指導  15～28 ・各自の研究内容の進捗状況に応じて個別に指導  29・30 ・卒業論文(卒業制作)報告会及び発表会</p>
テキスト	担当教員作成のレジュメ・資料等と適宜使用する。

参考書	各自の論文（制作）テーマに応じて個別に案内する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	実際の教育及び保育現場における喫緊の課題や実践的な指導方法・教材について適宜扱い、指導、教授する。
質問への対応方法	随時対応する（研究室訪問やメール等）
フィードバックの方法	課題については随時返却し、個別指導する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	第1～15各回ともに、シラバスに記載された内容について、事前の配布資料を参考に学習の見通しと疑問点を整理しする等の予習を1時間行うこと、また、本時の配布資料及び授業内容を参考にノートにまとめ、感想や意見を書き留める等の復習を1時間行うこと。（実技の学習課題については、製作活動を復習時間に含めてもよい。）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	専門演習II(通) / Advanced Study Group II
時間割コード Course Code	59308
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	早川 健太郎
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 3 F 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川 健太郎 (教育保育学科)
授業の目標	知識・理解の領域 論文の書き方を理解し、構成等ができる 技能の領域 各自のテーマに則って、データ収集と解析ができる ゼミ内発表において、簡単なプレゼンができる 態度・思考の領域 卒論テーマ内容から、仕事等で活かすことができる
授業の概要	3年次から行ってきた卒論のテーマを進め、論文を仕上げていく。
評価方法	卒論への取り組み、内容、発表などで総合的に判断する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席が多い場合は失格とする
授業計画	第1回 : ガイダンス 第 2-10回 : データ収集と解析 第11-15回 : 結果と考察 第16-30回 : 論文作成と発表資料作成
テキスト	適宜指示する
参考書	適宜指示する
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応する
フィードバックの方法	随時対応する
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	参考文献を読むこと
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	



開講科目名 Course	専門演習II(通) / Advanced Study Group II
時間割コード Course Code	59309
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	東岡 博
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 G演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	東岡 博 (教育保育学科)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教員をはじめ一社会人としての資質や力量の向上に努め合うことができる。</li> <li>・教員採用選考試験に向けて、必要な学びを深め合うことができる。</li> <li>・自らが設定したテーマに基づいて研究を深め、卒業研究としてまとめることができる。</li> </ul> <p>&lt;学習の成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教員としての知識や指導法について理解することができる。</li> <li>・論文の書き方を把握し、自分のテーマに沿った論文を仕上げることができる。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・対話的で深め合う授業づくりを工夫することができる。</li> <li>・テーマに則して書き上げた論文について、主旨を分かりやすく発表することができる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いに学び合う活動を通して、積極的に自分の見方を広げたり、考えを深めたりすることができる。</li> </ul>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教員の仕事や活動の把握</li> <li>・小学校実習に向けての心構えと準備</li> <li>・教員採用選考試験に向けての心構えと準備</li> <li>・数学的活動(導入・展開)の工夫</li> <li>・授業づくり(課題提示・授業展開)の工夫</li> <li>・卒業研究についての報告会と意見交換</li> </ul> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学び合う活動や探求活動の様子 50%</li> <li>・ふり返りシートや研究の内容 50%</li> </ul> <p>を基本とし、総合的に評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>1～4 小学校教員の仕事の把握と実習準備</p> <p>5～8 小学校実習に向けての事前研修</p> <p>9～12 小学校教員採用選考試験に向けての対策と準備</p> <p>13～16 卒業研究についての意見交換</p> <p>17～20 数学的活動(導入・展開)の工夫</p> <p>21～25 授業づくり(課題提示・授業展開)の工夫</p> <p>26～29 卒業研究の報告会と意見交換</p> <p>30 まとめとふり返り</p>
テキスト	なし
参考書	・参考書及び参考資料等は、演習の中で適宜紹介する。

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・毎回、教育現場の現状・取組・課題に関するテーマを設定し「自分の考え」を持たせ、互いの考えや思いについて「意見交換し合う」時間を確保して、視野を広げ合ったり考えを深め合ったりする。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	・小・中学校での教職経験を活かし、小学校教員免許状の取得や小学校教員をめざす学生たちに、教育現場の現状・取組・課題についての資料を提示して検討・考察し合わせる。
質問への対応方法	・授業時及びオフィスアワーで随時対応する。
フィードバックの方法	・テーマについての話し合いの概要をまとめ、翌週の授業で資料として配布する。 ・ふり返りシートは、コメントを書き加えて翌週返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>毎回、前時学習内容の復習2時間と授業計画表に基づく次時テーマに関する予習2時間を課すこととする。</p> <p>1～4 小学校教員の仕事の把握と実習準備  5～8 小学校実習に向けての事前研修  9～12 小学校教員採用選考試験に向けての対策と準備  13～16 卒業研究についての意見交換  17～20 数学的活動（導入・展開）の工夫  21～25 授業づくり（課題提示・授業展開）の工夫  26～29 卒業研究の報告会と意見交換  30 まとめとふり返り</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習II(通) / Advanced Study Group II
時間割コード Course Code	59310
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	日比野 博
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 E 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	日比野 博 (教育保育学科)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら設定したテーマに基づき研究を深め、それを卒業論文に結実させること。</li> <li>・採用試験対策として、必要な学習を進める。</li> </ul> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 論文の書き方を理解し、各自の論文テーマに沿った構成等が適切にできる。</p> <p>技能の領域 ・各自の論文テーマに則して、必要となる資料を収集し論文を書き進めることができる。 ・ゼミ内の報告会において、設定された時間内で各自の論文の主旨を要領よく発表できる。</p> <p>態度・志向性の領域 卒論テーマの内容を各自の今後の仕事等で生かしたり、引き続き探求する姿勢を示すことができる。</p>
授業の概要	<p>卒論テーマを決定し、前期は論文の書き方に関する基礎を学んでいく。後期は、各自の論文テーマに基づき各章の構成を考え各章ごとに仕上げていく。 質問などは、随時対応する。</p>
評価方法	<p>出席回数態度と報告会の内容で総合的に判断する</p> <p>レポート、発表・・・40%</p> <p>参加姿勢・・・40%</p> <p>報告内容・・・20%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>1            ガイダンス</p> <p>2～14       採用試験に向けての学習等準備               各自の卒論の研究内容に応じて個別に指導</p> <p>15～28      各自の論文の進捗状況に応じて個別に指導</p> <p>29・30      卒業論文報告会</p>
テキスト	
参考書	各自の論文テーマに応じて個別に案内する

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	研究テーマにそって、お互いに何をどのように調べ、研究していくかを話し合いながら進めていく。 時には、お互いの中間発表を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	研究の進め方について、教員の実践を交えながら説明し、 学生のテーマに合った研究内容をアドバイスする。
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	研究の進み具合によって、随時フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各個人に合わせ計画をしていく。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59400
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	秋田 郁
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	秋田 郁 (教育保育学科)
授業の目標	専門演習2において各自で設定した音楽と教育・保育に関わるテーマを研究をし、卒業論文を作成する。
授業の概要	【対面授業】 音楽と教育・保育に関わる文献を購読、調査などを実施し、卒業論文を作成する。また、自己の教育保育における音楽観を確立し、卒業後も研鑽できる力を培う。
評価方法	卒業論文の内容を審査する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	卒業論文が提出されない場合は、失格となる。
授業計画	計画的に卒業論文執筆活動を行う。
テキスト	なし。
参考書	石井一成『ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方』株式会社ナツメ社1,100円+税 白井利明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房2,500円+税
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問には随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	課題に応じて事前事後学習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	17. パートナリーシップで目標を達成しよう

PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力



開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59401
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	飯田 幸恵
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	飯田 幸恵 (教育保育学科)
授業の目標	自らの関心に合ったテーマの設定を行い、卒業論文を作成する。
授業の概要	自ら設定したテーマに沿って資料収集、文献講読を行い、卒業論文を作成する。
評価方法	卒業論文の内容により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	特になし。
授業計画	自ら設定したテーマに沿って資料収集、文献講読を行い、卒業論文を作成する。
テキスト	なし
参考書	適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカ ッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカ ッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授 業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授 業の内容	
質問への対応方法	専門演習 の授業終了後やメール等、随時対応する。
フィードバックの方法	随時フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及 び時間	資料収集、文献講読、卒業論文の作成。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1～10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59402
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	家接 哲次
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	家接 哲次(教育保育学科)、塚本 敏浩(教育保育学科)
授業の目標	大学4年間の学びの集大成および就職への橋渡しとしての卒業論文を完成させる。
授業の概要	詳細は専門演習IIと同様であるが、専門的な論文作成の手順やルールについて学ぶ。
評価方法	卒業論文の内容および研究に取り組む姿勢によって評価をおこなう。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席数が多い場合は失格となることがある。
授業計画	卒業論文は各自がそれぞれ異なったトピックで作成を進めるため、個別指導で実施する。
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業の中で基本的に対応するが、授業前後でも対応可能である。
フィードバックの方法	必要に応じて、口頭またはメール等でフィードバックを実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業中に提示する参考文献(論文も含む)を読むこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	12.つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59403
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	小島 千枝
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小島 千枝(教育保育学科)
授業の目標	大学4年間の学習成果として卒業論文を完成させる。
授業の概要	詳細については専門演習IIのシラバスと同様であるが、論文の内容的検討に加えて、「論文」とは何か、論文の作成に関する作法、校正のルールについても学修する。
評価方法	卒業論文の内容によって評価をおこなう。分量については、12,000字を目安とする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	論文の提出がない時には失格となる。
授業計画	・専門科目IIのシラバスを参照
テキスト	
参考書	適宜指示・紹介をするが、論文の書き方については、 ・斉藤孝 『学術論文の技法』(日本エディタースクール出版部,2005年)など、参考となる文献が多く出版されているので、各自1冊は目を通すことが望ましい。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	保育、教育の現場で40年間にわたり勤務してきた経験を生かして、実践的な指導を行う。
質問への対応方法	オフィスアワーで対応
フィードバックの方法	アドバイス、添削等は随時行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	必要な調べを随時課題としていく。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	1. 貧困をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	



開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59404
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	関谷 みのぶ
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	関谷 みのぶ(教育保育学科)
授業の目標	大学4年間の学習成果として卒業論文を完成させる。
授業の概要	<p>本科目は、専門演習IIのシラバスと連動している。論文の内容的検討に加えて、「論文」とは何か、論文の作成に関する作法、校正のルールについても学修する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	卒業論文の内容によって評価をおこなう。分量については、12,000字を目安とする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	原則、各自で時間を確保し、作成を行う。専門演習IIにおいても連動して指導を行うが、専門演習では、互いの学び合いの時間が中心となる。卒論指導にあたっては、個別に執筆指導計画を作成する。
テキスト	
参考書	適宜指示・紹介をするが、論文の書き方については、 ・斉藤孝 『学術論文の技法』(日本エディタースクール出版部,2005年)など、参考となる文献が多く出版されているので、各自1冊は目を通すことが望ましい。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	論文執筆に必要な主体的な学習
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	論文作成に関して、「専門演習2」の授業外においても、メール添削も含め随時対応する。
フィードバックの方法	必要に応じて適宜対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	卒論作成に必要な時間要する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	

PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力 8. 計画立案力

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59405
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	多川 則子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	多川 則子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>専門演習1での学びを基に、一人ひとりの研究課題を見つける。研究課題について調べる、まとめる、プレゼンを繰り返すことで、課題について探究を深める。各自の課題について、現状や問題点の把握、既存の考え方を知る、独自の視点を持つなどを目的とする。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学術的な先行知見をまとめることができる。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学術的な知見を検索し、適切な引用で論文に記述できる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりの問いに対し、先行知見を探究することの面白さを知る</li> </ul>
授業の概要	<p>まず、興味のあることからすすめ、研究課題の設定、卒論の手法の検討を行う(調査・実験・文献研究など)。研究計画を立て、研究を行う。</p> <p>適宜、プレゼン・発表や経過報告を行い、学び合いながらすすめていく。中間発表会、卒論発表会を行う。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>取り組みの姿勢、卒業論文の内容を基に評価する。</p> <p>中間発表会、卒論発表会への参加を必須とする。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席過多の場合。
授業計画	<p>前期</p> <p>興味あるテーマの設定 調べる・資料作成・プレゼン 研究課題を見つける 調べる・資料作成・プレゼン 研究計画としてまとめる</p> <p>後期</p> <p>研究課題について文献研究もしくは調査研究を行う 経過報告・分析報告 中間発表会 卒論執筆・提出 卒論発表会</p>
テキスト	指定しない。
参考書	随時紹介する。

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループによるディスカッション、発表等。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応する。メール対応可。 tagawa@nagoya-ku.ac.jp
フィードバックの方法	随時振り返りのディスカッションを行う。また、個別面談にて伝達する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	文献検索、文献内容をまとめる、レジメ・レポート作成、卒論執筆（60時間程）。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力



開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59406
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	田中 秀佳
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	田中 秀佳 (教育保育学科)
授業の目標	大学での4年間の学習の成果としての卒業論文の完成に向け、以下のことを獲得することを目指す。詳細は専門演習IIのシラバスを参照。
授業の概要	詳細については専門演習IIのシラバスと同様であるが、論文の内容的検討に加えて、「論文」とは何か、論文の作成に関する作法、校正のルールについても学修する。
評価方法	卒業論文の質的、量的妥当性によって評価をおこなう。分量については、原稿用紙50枚分とする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	・専門科目IIのシラバスを参照
テキスト	
参考書	適宜指示・紹介をするが、論文作成の手法については、例えば、 ・斉藤孝 『学術論文の技法』(日本エディタースクール出版部,2005年) ・戸田山和久 『新版 論文の教室-レポートから卒論まで』(NHK出版,2012年) など、参考となる文献が多数出版されているので、各自で最低1冊は入手すること。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ディスカッションをおこなうことを基本とする。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接またはメールにより対応する。
フィードバックの方法	授業時またはクラスルーム上で対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	自らのテーマおよび教育・保育・福祉の話題について日常的に考えを深めることを必須とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	



開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59407
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	塚本 敏浩
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	塚本 敏浩 (教育保育学科)
授業の目標	<p>各自の研究テーマを明確にし、まとまりのある論文(制作)を仕上げることができる。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>知識・理解の領域</li> <li>論文(制作)の形式を把握し、分かりやすい文章(制作)にまとめることができる。</li> <li>態度・志向性の領域</li> <li>一貫した研究テーマで論文作成(制作)に当たることができる。</li> <li>技能の領域</li> <li>研究テーマについての考察結果を、分かりやすく論文(制作)にまとめることができる。</li> </ul>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文(または卒業制作・卒業関連論文)テーマの検討・決定</li> <li>論文(制作)テーマに沿って、資料収集・検討</li> <li>論文(制作)内容の検討・協議</li> <li>論文の作成(制作)</li> <li>論文(制作)の内容検討・修正</li> <li>論文(制作)完成・提出</li> </ul> <p>なお、質問への対応は随時行う。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	各回での検討参加の評価、論文作成(制作)への取り組み・論文(制作)内容・論文(制作)発表等、総合的に評価
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>1～3 ・論文(制作)テーマの検討</p> <p>4～6 ・論文(制作)テーマの決定</p> <p>7～12 ・論文(制作)資料の収集・論文作成行程(制作工程)の構築</p> <p>13～16 ・論文(制作)内容検討・編集</p> <p>17～22 ・論文作成(制作)</p> <p>23～26 ・論文(制作)検討・点検・修正</p> <p>27～29 ・論文(制作)完成・提出</p> <p>30 ・まとめ・反省会(発表会)</p>
テキスト	担当教員作成のレジюме・資料等と適宜使用する。
参考書	授業内で適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実際の教育及び保育現場における喫緊の課題や実践的な指導方法・教材について適宜扱い、指導、教授する。
質問への対応方法	随時対応する（研究室訪問やメール等）
フィードバックの方法	課題については随時返却し、個別指導する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	第1～15各回ともに、シラバスに記載された内容について、事前の配布資料を参考に学習の見通しと疑問点を整理しする等の予習を1時間行うこと、また、本時の配布資料及び授業内容を参考にノートにまとめ、感想や意見を書き留める等の復習を1時間行うこと。（実技の学習課題については、製作活動を復習時間に含めてもよい。）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59408
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	早川 健太郎
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川 健太郎 (教育保育学科)
授業の目標	これまでの学習成果を、卒業論文としてまとめる
授業の概要	専門演習 と連動して、卒業論文の書き方について習得する。
評価方法	卒業論文の内容によって評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席が多い場合は失格とする。
授業計画	各自で率先して時間を作り、論文作成を行う。専門演習 と連動して、執筆が中心となる。
テキスト	適宜指示する
参考書	適宜指示する
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メール等も含め、随時対応する
フィードバックの方法	適宜対応する
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	参考文献を読む
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59409
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	東岡 博
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	東岡 博 (教育保育学科)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動につながる研究テーマを明確にし、まとまりのある卒業研究を仕上げることができる。</li> </ul> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>知識・理解の領域</li> <li>・卒業研究の形式を把握し、正確で分かりやすい文章でまとめることができる。</li> <li>技能の領域</li> <li>・教育に関わるテーマに関する資料収集に努め、分析・考察した結果を分かりやすくまとめることができる。</li> <li>態度・志向性の領域</li> <li>・広く教育に関心を持ち続けるとともに、一貫した研究テーマで作成に取り組むことができる。</li> </ul>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業研究テーマの検討・決定</li> <li>・研究テーマに沿った資料収集及び分析・考察</li> <li>・論述構成についての検討</li> <li>・卒業研究の作成</li> <li>・卒業研究の内容検討・校正</li> <li>・卒業研究の完成・提出</li> </ul> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	・研究テーマに対する追究活動の様子・研究内容・研究発表等を総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	1～3 研究テーマの検討 4～6 研究テーマの決定 7～12 資料収集及び分析・考察 13～16 構成についての検討 17～22 卒業研究の執筆 23～26 研究内容の検討・校正 27～29 卒業研究の完成・提出 30 まとめとふり返し
テキスト	なし
参考書	・参考文献及び参考資料等は、授業の中で適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・授業時及びオフィスアワーで随時対応する。
フィードバックの方法	・研究テーマや資料収集・分析・考察、研究文の構成について、随時指導をする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>毎回、授業内容に関する2時間の準備と次時の内容に関する2時間の追究活動を課すこととする。</p> <p>1～3 研究テーマの検討  4～6 研究テーマの決定  7～12 資料収集及び分析・考察  13～16 構成についての検討  17～22 卒業研究の執筆  23～26 研究内容の検討・校正  27～29 卒業研究の完成・提出  30 まとめとふり返し</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59410
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	日比野 博
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	日比野 博 (教育保育学科)
授業の目標	<p>教育活動につながる研究テーマを明確にし,まとまりのある論文を仕上げることができる。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 論文の形式を把握し,分かりやすい文章でまとめることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 教育に携わる気持ちを持ち続け,一貫した研究テーマで論文作成に当たることができる。</p> <p>技能の領域 教育に関わる課題についての考察結果を分かりやすくまとめ発表する。</p>
授業の概要	<p>以下の内容を個別に指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文テーマの検討・決定</li> <li>論文テーマに沿って,資料収集・検討</li> <li>論文内容の検討・協議</li> <li>論文の作成</li> <li>論文の内容検討・修正</li> <li>論文完成・提出</li> </ul>
評価方法	各回での検討参加の評価、論文作成への取り組み・論文内容・論文発表等、総合的に評価
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	特になし
授業計画	<p>1～3 論文テーマの検討</p> <p>4～6 論文テーマの決定</p> <p>7～12 論文資料の収集・論文構築</p> <p>13～16 論文内容検討・編集</p> <p>17～22 論文作成</p> <p>23～26 論文検討・点検・修正</p> <p>27～29 論文完成・提出</p> <p>30 まとめ・反省会</p>
テキスト	
参考書	授業の中で,適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカ ッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカ ッション、実習等の内容	



実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	教員の現場における研究や実践について、学生の研究に沿った話や助言を行う。
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	各個人の進み具合に応じて、随時対応
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各個人の進み具合に応じて、随時対応し、必要なアドバイスをする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 I A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	59500
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	太田 和徳
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 和徳(管理栄養学科)、荒川 和幸(管理栄養学科)、前田 真男(管理栄養学科)、太田 貴久(管理栄養学科)、寺前 洋生(管理栄養学科)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール(通常「ゼミ」と呼んでいます)の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること(毎週出席が基本です)を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 I B / Introductory Study Group IB
時間割コード Course Code	59551
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	太田 和徳
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 和徳(管理栄養学科)、荒川 和幸(管理栄養学科)、前田 真男(管理栄養学科)、太田 貴久(管理栄養学科)、寺前 洋生(管理栄養学科)
授業の目標	大学での学修を円滑に進め、管理栄養士国家試験を通過点として社会で活躍するための、学修基礎力を育成する。
授業の概要	管理栄養学科1年次は、社会人基礎力の育成を目的として基礎演習IA・基礎演習IBを週1回通年開講科目として設置している
評価方法	社会人基礎力の習得及び自らの学修について、その姿勢を評価する(50%)。 適宜実施課題レポートの提出については、その達成度を評価する(50%)。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回：ガイダンス 第2～6回：管理栄養学科プログラム 第7回：合同ゼミ(企画G) 第8～14回：管理栄養学科プログラム 第15回：総括  後期15回のゼミのうち、1回分を合同ゼミ(それぞれの学部・学科単位)で実施します。 企画Gの合同ゼミでは、「新聞活用講座」について学びます。
テキスト	授業毎に資料を配布
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内では適時対応する。 また、授業後においては研究室等において対応する。
フィードバックの方法	課題等について特に良かったと思われる課題を最後に発表する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予定表を見て次の項目について調べておく(予習)。 授業中に取ったメモを頼りに課題を作成する(復讐)。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習IIA / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	59600
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	夏目 有紀枝
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	13A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	夏目 有紀枝(管理栄養学科)、庄司 史香(管理栄養学科)、朱宮 哲明(管理栄養学科)、松尾 貴子(管理栄養学科)
授業の目標	管理栄養士としての使命感をもって職務を遂行できる実践力(態度)を身に付けていきます。管理栄養士の資質として重要である、他人の話に耳を傾け自身の考えをわかりやすく相手に伝える力を身に付けることを目指します。 実社会で管理栄養士として働いている方の話、安全で豊かな食生活を支える仕事に従事している方の話を幅広く聞くことで、将来への展望を描き、管理栄養士へのモチベーションを高めることを目標とします。
授業の概要	1.管理栄養士としての実践力を高める取組み 管理栄養士が社会で活躍している場面や職務内容を学ぶことを通じて使命感や責任感をもたせる。 2.学生指導 学生生活および学習態度等に対する指導助言を行う。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	参加態度、課題提出
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席日数が授業日数の2/3に満たない場合
授業計画	1.授業ガイダンス 2.個別面談による学生指導 3.自分の考えを整理して発表 4.様々な業種の管理栄養士の講話 5.課題レポート
テキスト	随時、資料を配布します。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	病院や行政機関などで管理栄養士としての実経験を持つ教員、行政や地域の企業など幅広い分野で活躍されている管理栄養士の講師が自身の経験を伝えながら、実社会での管理栄養士の役割を知った学生が将来への意欲を高められるよう指導していきます。
質問への対応方法	授業後に随時対応します。
フィードバックの方法	随時返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理栄養士の職務（事前学習）</li> <li>・管理栄養士として活躍できる職場（事前学習）</li> <li>・自己管理能力を高める方法（事前学習）</li> </ul>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p>
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習IIB / Introductory Study Group IIB
時間割コード Course Code	59651
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	夏目 有紀枝
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 3 A 講義室, 1 3 F 演習室, 1 3 G 演習室, 1 3 H 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	夏目 有紀枝(管理栄養学科)、庄司 史香(管理栄養学科)、朱宮 哲明(管理栄養学科)、松尾 貴子(管理栄養学科)
授業の目標	管理栄養士として役割を果たすことが社会や組織への貢献につながることを学んでいきます。周囲の人と協力しながら、栄養に関するテーマを決めてアクションを起こし、新たに学ぶことの面白さを体感し、情報発信していく難しさや意義深さに気づくことを目指します。実社会で管理栄養士として働いている方の話、安全で豊かな食生活を支える仕事に従事している方の話を幅広く聞くことで、将来への展望を描き、管理栄養士へのモチベーションを高めることを目標とします。
授業の概要	1. 社会や組織などに貢献する必要性を認識する取組み 地域にて様々な分野で活躍している人の話を聞くことにより、管理栄養士としての社会貢献の在り方を学習する。 2. . 学生指導 学生生活および学習態度等に対する指導助言を行う。 3. ゼミナール活動 テーマに沿った実習や研究活動を行い、その成果を発表する。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	参加態度、課題提出
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席日数が授業日数の2/3に満たない場合
授業計画	1. 授業ガイダンス 2. 個別面談による学生指導 3. グループに分かれてゼミナール活動 4. 報告会、プレゼンテーション 5. 様々な業種の管理栄養士の講話 6. 課題レポート
テキスト	随時、資料を配布します。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む



アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループ毎で異なる健康課題解決に向けて、ディスカッション及び実践活動し、授業内で発表する。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	病院や行政機関などで管理栄養士としての実経験を持つ教員、行政や地域の企業など幅広い分野で活躍されている管理栄養士の講師が自身の経験を伝えながら、実社会での管理栄養士の役割を知った学生が将来への意欲を高められるよう指導していきます。
質問への対応方法	授業後に随時対応します。
フィードバックの方法	随時返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康課題の情報収集（事前学習）</li> <li>・実践活動（準備）</li> <li>・活動のまとめ（準備）</li> </ul>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p>
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 I A (通) / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	59700
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	荒川 和幸
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 E 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒川 和幸 (管理栄養学科)
授業の目標	これまでに学習したことや、管理栄養士試験の問題演習や、公務員試験等で必要な一般教養的なことについて、問題演習や解説等を適宜行っていく。
授業の概要	既習事項の問題演習や、公務員試験等で必要な一般教養的なことについて、問題演習や解説等を適宜行っていく
評価方法	出席や授業態度
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	問題演習と解答解説など。
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業時や授業後等適宜
フィードバックの方法	問題演習などで
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	復習を欠かさずに。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 I A (通) / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	59701
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	太田 和徳
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 和徳 (管理栄養学科)
授業の目標	専門知識はもとより発信力や課題解決力の養成にも重点をおく。
授業の概要	食品化学ならびに食品加工学、製造学、機能学に関する知識と技術を学ぶ。 本演習は原則として対面で実施する。
評価方法	自己学習必須。コミュニケーション力を重視。教員との対話を通じて積極的に課題に取り組む学生のみ評価対象とする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上の欠席で失格。 教員からの各種連絡に対し、1回でも応じないことがあれば失格。 その他、演習内での取り組みに対して非協力的な態度が見られた場合も即刻失格。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2～3回 個別面談 第4～7回 食品化学分野における学術調査と地域連携活動 第8～14回 食品加工・製造学分野における学術調査と地域連携活動 第15回 総括
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	調査内容に関して、教員とのディスカッションおよび発表を実施する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	レポート等の次回に解説を実施。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回予習復習で1時間ずつの予備学習を求める。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1～10)	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11～17)	
PROGリテラシーの要素	



開講科目名 Course	専門演習 I A (通) / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	59702
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	太田 貴久
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 3 H演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 貴久 (管理栄養学科)
授業の目標	基礎的な統計学および論文の読み方等の勉強会を行い、基本的な統計処理ができるようにする。その後、各自もしくは各グループにてテーマを絞り研究を遂行して行き、4年生になった時に学会及び学内等で発表することを最終目的とする。
授業の概要	基本的な統計処理を学び、データ収集及び解析ができるようにする。また、卒業研究に必要な参考文献を自ら探し出し、その論文の批判的吟味ができるようになり、4年生に向けて卒業論文を作成していく準備をする。
評価方法	レポート提出 (進捗状況等)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な統計学演習</li> <li>・ 参考論文の批判的吟味</li> <li>・ データ収集及び解析</li> <li>・ 発表準備</li> </ul>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内での質問には適時対応する。 また、授業後の質問に対しては研究室にて受ける。
フィードバックの方法	4年時に学会発表もしくは学内にて発表をする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	模擬データを使い統計解析を行う (復習)。 公衆衛生学や公衆衛生学実習で使用した教科書や授業プリントを読んでおく (予習)。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	17. パートナリーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力



開講科目名 Course	専門演習 I A (通) / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	59703
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	朱宮 哲明
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 3 F 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	朱宮 哲明 (管理栄養学科)
授業の目標	<p>栄養や食に関する基礎知識の定着、調理技術の向上を図るとともに、管理栄養士になるための学習意欲を高める。特に調理において最も大切である食品衛生管理や大量調理における手法（クックサーブ、クックチル、ニュークックチル、真空調理など）についての知識・技術を習得し、主体的・積極的にコミュニケーションを取りながら行動できる実践力を身につけることをテーマとする。</p> <p>学習成果</p> <p>意欲関心の領域 興味・関心がある栄養や食に関する課題や問題点を取り上げ、調査・研究を深めることができる。 態度・志向性の領域 様々な学内外のイベントに主体的・自主的に取り組むことができる。</p> <p>技能の領域 学んだことを活用した食育活動を計画、実践、評価し、その内容をまとめ、他者に報告すると共に改善を図ることができる。</p> <p>体験研究の領域 学外で地域連携を図った食育推進活動を通じて新たな課題発見とその解決策を考え努力することができる。</p>
授業の概要	管理栄養士に必要とされる幅広い知識やコミュニケーション能力を身に付けることを目的として、学外でのイベントに積極的に参加し、食を通じて交流を図ると共に管理栄養士に必要な専門知識と技術を体得する。
評価方法	演習への出席状況、ゼミ活動に取り組む態度等を総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	地域や様々な団体と連携した食育活動を計画、実施する。 最後に、各自の研究活動の報告と、実践を通じて学んだ管理栄養士としての役割を発表する。
テキスト	必要に応じて指示する。
参考書	必要に応じて指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	長年、特定給食施設にて経験を積んだ教員より実践的な給食経営管理について学ぶ。
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	参考資料を配布
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	教科書、配布資料での予習・復習・提出物の作成等。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	2. 協同力



## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション		
2	研究計画発表		
3	防災給食について		
4	防災食の考案・試作		
5	防災食の考案・試作		
6	防災食の提案		
7	地域連携食育活動計画		
8	地域連携食育活動		
9	地域連携食育活動		
10	地域連携食育活動		
11	教育現場での食育活動計画		
12	教育現場での食育活動		
13	教育現場での食育活動		
14	研究のまとめ		
15	研究発表会		

開講科目名 Course	専門演習 I A (通) / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	59704
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	庄司 吏香
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 I 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	庄司 吏香 (管理栄養学科)
授業の目標	管理栄養士は食材や分量を正確にデータ化する目測精度の能力が必要とされる。このデータ化には、経験によりデータ化の精度に大きな格差が認められる。この格差解消に向けた教育プログラムの構築を目的に、目測精度のデータ化能力の実態調査およびその能力の評価を行うことを目標とする。
授業の概要	写真法による食事調査では、管理栄養士は食材や分量を正確にデータ化する能力が必要とされる。しかしこのデータ化には、経験によりデータ化の精度に大きな格差が認められると言われている。卒業後即戦力となりうる質の高い管理栄養士の養成には、この格差解消に向けた教育プログラムが必須であると考えられており、この目測力の向上に向けた研究を実施する。
評価方法	授業への取り組み (20%)、調査結果 (35%)、発表内容 (45%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	1、2回 オリエンテーション、調査方法の検討 3、4回 関連文献の検索と講読 5から10回 調査方法の設計 11から15回 調査 16から20回 データの収集と分析 21から25回 考察 26から30回 まとめと発表
テキスト	必要に応じて資料を配布する。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	病院において管理栄養士経験がある教員が、対象者の特性を理解し、適した食材を正確にデータ化できる能力が身につくように、目測精度の向上に向けた教育内容に取り組んでいる。
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	随時対応。 その都度アドバイスをを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	〔予習〕次週のシラバスを確認し、該当する項目について調べておく。 〔復習〕疑問に思ったこと等、関連論文を検索し課題を解決する。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	8.計画立案力

開講科目名 Course	専門演習 I A (通) / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	59705
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	夏目 有紀枝
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	夏目 有紀枝 (管理栄養学科)
授業の目標	管理栄養士は、様々な年代の人を対象にして栄養管理を行います。この授業では、各ライフステージの特徴を考えた栄養管理を軸として、食事・運動・休養の習慣が健康に与える影響を考察し、その改善策を検討する力を高めることを目指します。科学的根拠のある情報の選び方、論文の読み方を学び、時代に即した栄養管理を主体的に実施できる管理栄養士になることを目標とします。国家試験対策の勉強はもちろん、教養と人間力向上につながる勉強にも取り組んでいきます。
授業の概要	卒業研究を意識した演習を行います。論文の検索方法や解釈の仕方、統計の方法、発表の工夫などを学んだ上で、各自の研究テーマに取り組みます。わかりやすくプレゼンテーションするスキルも習得していきます。また、授業計画の内容は変更する場合があります。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	出席率、授業への取り組み、発表の内容などを総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が全授業数の3分の2回に満たない場合
授業計画	第01回：オリエンテーション 第02回：ディスカッション 第03回：ディスカッション 第04-05回：関心のあるテーマを決めて情報収集、発表 第06-07回：関心のあるテーマについてのゼミナール 第08-10回：栄養に関するトピックス 第11-12回：文献の検索方法 第13-14回：論文の読み方 第15回：総括
テキスト	必要に応じて指示します。
参考書	必要に応じて紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問や相談には随時対応します。
フィードバックの方法	随時返却します。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1時間の予習と1時間の復習を課します。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 I A (通) / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	59706
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	早川麻理子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	10D臨床栄養実習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川麻理子 (管理栄養学科)
授業の目標	<p>この演習では、未病や生活習慣病の予防および改善を目的とした楽しい自然療法とは何かを調査することで、地域や医療分野で活躍できる管理栄養士のコミュニケーションスキルと豊かな発想力を身につけることを目指します。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 体組成と食事・運動との関連性が説明できる</p> <p>思考判断の領域 健康的な食事がどうかの判断ができ、ポイントが述べられる</p> <p>関心意欲の領域 健康食品の市場を調査し、自ら意見を述べられる</p> <p>態度・志向性の領域 エビデンスに基づいた考え方ができる</p> <p>技能の領域 webで検索ができ、調査結果をまとめ、簡潔に伝えることができる</p> <p>体験探究の領域 健康食に対する実社会の動向を捉えることで、新しい発想を生み出す体験をする</p>
授業の概要	エビデンスに基づいた美味しく体に良い食事やデザート、ボディメイクに効果的な食事と運動、香りを医療に用いたアロマセラピーの活用など、患者さんが実社会で楽しんで取り組んでいる自然療法について、多様性や異文化も視野に入れた調査を行います。
評価方法	<p>参加姿勢および成果で評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加姿勢 50%</li> <li>・レポート 20%</li> <li>・発表 30%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	出席回数が 10回に満たない場合

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、エビデンスの検索の仕方</li> <li>2. 課題を検索しリサーチするテーマを決定、個人面談</li> <li>3. Web検索、論文検索</li> <li>4. リサーチ項目と方法を決定</li> <li>5. リサーチ実施</li> <li>6. リサーチ結果を2枚のスライドにまとめて発表</li> <li>7. テーマの絞り込み</li> <li>8～9. 自然農法の農園や食品加工の体験</li> <li>10～11. 美味しい健康食品の企画</li> <li>12～13. 美味しい健康食品の試作</li> <li>14. 模擬販売</li> <li>15. 報告会</li> </ol>
テキスト	随時、資料を配布します
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	どんな些細なことでも自由に発言でき、他人のアイデアに敬意を示しながらも自分のアイデアを発展させていく、そんなポジティブシンキングを身にけるトレーニングをします。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	病院やクリニックで、給食管理、栄養管理、栄養指導、在宅栄養指導の経験を有する教員が治療のために必要な食事であったとしても美味しく楽しくなければ食事としては意味が成さないことを痛感しこれまでの経験を生かしながら学生の皆さんと知恵を出し合います
質問への対応方法	随時、またはメールで対応します (m-hayakawa@nagoya-ku.ac.jp)
フィードバックの方法	その都度、返却を行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	演習(2単位)週1コマ(30時間)にて、60時間の準備学習を必要とします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> </ol>
SDGs 17の目標(11～17)	<ol style="list-style-type: none"> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>6. 行動持続力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

開講科目名 Course	専門演習 I A (通) / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	59707
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	前田 真男
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 C 理化学実験室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	前田 真男 (管理栄養学科)
授業の目標	管理栄養士に必要な内科疾患の基礎知識や食生活・栄養と健康に関して各自が興味のあることを見つけ、関連する最新の知識や研究方法を習得する方法を学ぶ。空き時間を利用して、管理栄養士の国試対策も行う。
授業の概要	内科疾患に関する基礎知識や食生活・栄養と健康に関する知識について学ぶ。 受講生自らが内科疾患と食生活、栄養と健康に関係する研究テーマを決定する。研究テーマに関する最新の研究について、PCで文献検索する手法を学ぶ。PCによる文献検索で集めた文献の内容を熟読し、自分の研究テーマに使用するデータを分析する。空き時間に、国家試験の問題演習や解答解説なども行う。
評価方法	出席率、授業への取り組み、授業態度などを総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	6回以上欠席で失格。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オリエンテーション</li> <li>・ 研究テーマの決定</li> <li>・ PCで文献検索する手法を学ぶ。</li> <li>・ PCによる文献検索により情報収集する (研究テーマに関連する文献の収集)。</li> <li>・ 得られた文献を熟読してデータや情報の解析を行い、卒業論文に備える。</li> <li>・ 空き時間を利用した国家試験の問題演習や解答解説など。</li> </ul>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	随時対応。



予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習：授業範囲の内容を事前に調べておく（1時間）。 復習：疑問に思ったこと等、関連論文で調べる（1時間）。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 I A (通) / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	59708
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	山岡 由理子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 D 栄養教育実習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山岡 由理子 (管理栄養学科)
授業の目標	<p>食・栄養教育に関連する研究分野において管理栄養士業務に必要な栄養教育ツール・媒体等を知る。自分の興味が湧く研究テーマを設定し、研究を進めながら、基本的な研究方法を習得する</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 健康・栄養教育の実践が理解できる 思考判断の領域 多様な栄養教育の場における伝え方や適したツール選定ができる 関心意欲の領域 管理栄養士業務に必要とされる栄養教育ツールの提案ができる 態度・志向性の領域 研究活動において他者と協調し、積極的に関与できる 技能の領域 研究を通して、問題を発見できる力、問題解決力を身につける 体験探究の領域 研究を通して、管理栄養士として学び続ける大切さを知る</p>
授業の概要	<p>以下を参考に自分が興味を持ってできる研究テーマを、教員と相談し決定する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低糖質のおやつ</li> <li>・嚥下調整食に使用できる市販食品</li> <li>・管理栄養士業務に役立つツール作成</li> <li>・栄養教育のICT活用</li> </ul> <p>各自の研究テーマに沿ってスケジュールをたて、実施する。</p>
評価方法	研究に取り組む姿勢 100%
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	特になし

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 研究の紹介</li> <li>3 論文検索の方法</li> <li>4 研究テーマの選択</li> <li>5 研究テーマの決定</li> <li>6 研究の対象と方法の決定</li> <li>7 研究テーマに沿った情報の収集</li> <li>8 各自のテーマに沿った研究の実施</li> <li>9 各自のテーマに沿った研究の実施</li> <li>10各自のテーマに沿った研究の実施</li> <li>11各自のテーマに沿った研究の実施</li> <li>12各自のテーマに沿った研究の実施</li> <li>13各自のテーマに沿った研究の実施</li> <li>14各自のテーマに沿った研究の実施</li> <li>15研究成果のまとめ</li> </ul>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ICT（情報通信技術）を効果的に利用して情報収集をする。グループディスカッション、プレゼンテーションを実施する
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	クリニックや介護老人保健施設で、栄養管理、栄養指導、在宅栄養指導の経験を有する教員がこれまでの経験を活かしながらある管理栄養士が、現場における栄養教育の在り方やその課題を解説する。
質問への対応方法	授業時間内は、随時。時間外はメールなどで対応する
フィードバックの方法	授業時間内
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	研究の進行状況に合わせて
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ul style="list-style-type: none"> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> </ul>
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 I A (通) / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	59709
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	山田 貴史
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 A 栄養化学実験室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山田 貴史 (管理栄養学科)
授業の目標	栄養学・食品学に関連する研究についての知識収集および研究、地域色産業・食育のアプローチ方法を研究し、収集した情報をまとめ、発表する能力を習得する事を目的とする。
授業の概要	次の4点のいずれかについての活動を行う。活動は 1. 栄養学の基礎研究 (実験動物を用いた機能性食品の機能解析) 2. 栄養学の応用研究 (ヒトを対象とした官能検査試験) 3. 地域の食品産業に対する管理栄養学的なアプローチの考案 4. 管理栄養士として必要な知識の復習  上記の点について、 授業では、教員の実施する文献紹介および研究報告などを聴講し、まず、研究の趣旨を理解する。また、研究活動や地域との連携活動に参加し、研究に必要な知識や技術を身につける。可能であれば、活動内容をまとめる。 授業の性質から、所定の講義時間外に活動を実施する場合がある。 加えて、管理栄養士として必要な知識の復習を行い、試験等を行う事で知識の定着度を確認する。
評価方法	1. 取り組む姿勢 50% 2. 活動の達成度 50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	毎週実施する打ち合わせ (教員の文献紹介および研究に必要な知識の講義や解説) を行い、各テーマグループごとに研究活動を実施する。 初回講義はガイダンスを実施する。
テキスト	適宜配布する
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	対面やメールなど、随時対応する。
フィードバックの方法	定期的な研究打ち合わせや発表に対しての指導を行う。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	教員と定期的に打ち合わせを行い、その中で適宜指示をする。また、自分の関心のある研究テーマに関連する科学論文（和文・英文）を探し、読むことが予習・復習・準備学習として望ましい。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> <li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 住み続けられるまちづくりを</li> <li>12. つくる責任つかう責任</li> <li>14. 海の豊かさを守ろう</li> <li>15. 陸の豊かさを守ろう</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>3. 統率力</li> <li>4. 感情制御力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>6. 行動持続力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

開講科目名 Course	専門演習 I B (通) / Advanced Study Group IB
時間割コード Course Code	59751
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	山田 貴史
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山田 貴史 (管理栄養学科)、太田 貴久 (管理栄養学科)
授業の目標	2年次までに学習した管理栄養領域の基礎科目の復習を行うとともに、臨床科目や応用科目との関連性について学ぶ事を目的とする。
授業の概要	管理栄養学科3年次では、学修基礎力と実践力の強化を目的として、専門演習IA・専門演習IBを設置している。 専門演習IBでは、前期に、主に2年次までに学んだ科目の復習を行うとともに、それぞれの科目との関連性あるいは、3年次で学ぶ科目との関連性について学習する。
評価方法	定期テストの成績により、評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	2年次までに学んだ管理栄養領域における科目についての復習講義を行う。特に栄養学に関連する内容を中心に講義を進める。講義内で定期的に講義内容についての小テストおよび期末テストを実施する。小テストの結果から必要に応じて、課題や補講を実施する。 初回講義はガイダンスを実施する。
テキスト	講義内に適宜配布する。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学習内容の質問や学習方法についての質問は、講義時間外に個別に対応します。
フィードバックの方法	定期試験の試験問題と同様の内容を含む課題資料を配付する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義内容は、基礎栄養学を中心とした内容となるため、1,2年次に学習した生化学I、生化学II、基礎栄養学I、基礎栄養学IIおよび解剖生理学I、解剖生理学IIで使用したテキストの内容を準備、予習すること。復習については、講義内で配布した資料に沿って、適宜上記テキストを利用した復習をすること。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 6. 安全な水とトイレを世界中に
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	専門演習IIA(通) / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	59800
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	荒川 和幸
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 E 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒川 和幸 (管理栄養学科)
授業の目標	3年時より進めてきた卒業論文や国試に向けての問題演習等
授業の概要	卒業論文を進めること、適宜問題演習や解説を行っていくこと。
評価方法	出席態度や卒業論文
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	特になし
授業計画	卒業論文についての指導等や問題演習などを適宜行っていく。
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカ ッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカ ッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授 業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授 業の内容	
質問への対応方法	授業中や授業後等適宜
フィードバックの方法	適宜、卒論や国試対策の進捗状況を確認していく。
予習・復習等、準備学習の内容及 び時間	授業において指示されたことや学習したことを適宜確認していく。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	専門演習IIA(通) / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	59801
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	太田 和徳
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	13A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 和徳(管理栄養学科)
授業の目標	論文作成に際し、課題解決力と多角的視点で事象を観察する力を養う。
授業の概要	食品化学ならびに食品加工学、製造学、機能学に関する知識と技術を学ぶ。 また卒業研究の準備的指導や確認を含むものとする。 本演習は原則として対面で実施する。
評価方法	自己学習必須。コミュニケーション力を重視。教員との対話を通じて積極的に課題に取り組む学生のみ評価対象とする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上の欠席で失格。 教員からの各種連絡に応じない場合も即刻失格。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2～7回 文献調査・研究 第8～14回 調査内容に関する教員とのディスカッション 第15回 総括
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各テーマに応じた定期発表会を実施
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	課題に関しては即日回答。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	論文作成に各回3時間の予習復習を求める。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習IIA(通) / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	59802
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	太田 貴久
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 3 H演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 貴久(管理栄養学科)
授業の目標	専門演習 Aでは、卒業研究につながる基礎的な統計学の勉強を行い、基本的な統計処理ができるようにする。また、様々な研究の種類が理解できるように多くの論文を読み、授業内で各々発表をして、卒業研究に応用できるようにする。
授業の概要	Excelや統計ソフト(EZRやSPSS)を使いこなせるように繰り返し基本的な統計処理を行う。また、様々な論文を読み抄読会を行う。
評価方法	レポート提出(進捗状況等)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な統計学演習</li> <li>・参考論文の批判的吟味</li> <li>・データ収集及び解析</li> <li>・授業内における抄読会での発表</li> <li>・発表準備</li> </ul>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内での質問には適時対応する。 また、授業後の質問に対しては研究室にて受ける。
フィードバックの方法	4年次に学会発表もしくは学内にて発表をする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	研究により収集したデータを使い統計解析を行う(復習)。 公衆衛生学や公衆衛生学実習で使用した教科書や授業プリントを読んでおく(予習)。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに

SDGs 17の目標 (11~17)	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	専門演習IIA(通) / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	59803
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	朱宮 哲明
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 3 F 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	朱宮 哲明(管理栄養学科)
授業の目標	<p>栄養や食に関する基礎知識の定着、調理技術の向上を図るとともに、管理栄養士になるための学習意欲を高める。特に調理において最も大切である食品衛生管理や大量調理における手法(クックサーブ、クックチル、ニュークックチル、真空調理など)についての知識・技術を習得し、主体的・積極的にコミュニケーションを取りながら行動できる実践力を身につけることをテーマとする。</p> <p>学習成果</p> <p>意欲関心の領域 興味・関心がある栄養や食に関する課題や問題点を取り上げ、調査・研究を深めることができる。 態度・志向性の領域 様々な学内外のイベントに主体的・自主的に取り組むことができる。 技能の領域 学んだことを活用した食育活動を計画、実践、評価し、その内容をまとめ、他者に報告すると共に改善を図ることができる。 体験研究の領域 学外で地域連携を図った食育推進活動を通じて新たな課題発見とその解決策を考え努力することができる。</p>
授業の概要	管理栄養士に必要とされる幅広い知識やコミュニケーション能力を身に付けることを目的として、学外でのイベントに積極的に参加し、食を通じて交流を図ると共に管理栄養士に必要な専門知識と技術を体得する。
評価方法	演習への出席状況、ゼミ活動に取り組む態度等を総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	地域や様々な団体と連携した食育活動を計画、実施する。 最後に、各自の研究活動の報告と、実践を通じて学んだ管理栄養士としての役割を発表する。
テキスト	必要に応じて指示する。
参考書	必要に応じて指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	長年、特定給食施設にて経験を積んだ教員より実践的な給食経営管理について学ぶ。
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	参考資料を配布。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	教科書、配布資料での予習・復習・提出物の作成等。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	2. 協同力

開講科目名 Course	専門演習IIA(通) / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	59804
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	庄司 吏香
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 I 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	庄司 吏香(管理栄養学科)
授業の目標	写真法による食事調査では、管理栄養士は食材や分量を正確にデータ化する目測精度の能力が必要とされる。このデータ化には、経験によりデータ化の精度に大きな格差が認められる。卒業後即戦力となり得る質の高い管理栄養士の養成には、この格差解消に向けた教育プログラムの構築を目的に、目測精度のデータ化能力の実態調査およびその能力の評価を行うことを目標とする。
授業の概要	・ 関連文献の検索と講読 ・ 調査紙によるアンケートを行う
評価方法	授業への取り組み(20%)、調査結果(35%)、発表内容(45%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	1、2回 オリエンテーション、調査方法の検討 3、4回 関連文献の検索と講読 5から10回 調査方法の設計 11から15回 調査 16から20回 データの収集と分析 21から25回 考察 26から30回 まとめと発表
テキスト	研究テーマにあわせて、必要な書籍や資料を紹介する。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	病院において管理栄養士経験がある教員が、対象者の特性を理解し、適した食材を正確にデータ化できる能力が身につくように、目測精度の向上に向けた教育内容に取り組んでいる。
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	随時対応。 その都度アドバイスをを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習) 次週のシラバスを確認し、該当する項目について調べておく。 〔復習〕 疑問に思ったこと等、関連論文を検索し課題を解決する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	17.パートナーシップで目標を達成しよう

PROGリテラシーの要素	2. 情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	8. 計画立案力

開講科目名 Course	専門演習IIA(通) / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	59805
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	夏目 有紀枝
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	夏目 有紀枝(管理栄養学科)
授業の目標	管理栄養士は、様々な年代の人を対象にして栄養管理を行います。この授業では、各ライフステージの特徴を考えた栄養管理を軸として、食事・運動・休養の習慣が健康に与える影響を考察し、その改善策を検討する力を高めることを目指します。科学的根拠のある情報の選び方、論文の読み方を学び、時代に即した栄養管理を主体的に実施できる管理栄養士になることを目標とします。国家試験対策の勉強はもちろん、教養と人間力向上につながる勉強にも取り組んでいきます。
授業の概要	卒業研究を意識した演習を行います。論文の検索方法や解釈の仕方、統計の方法、発表の工夫などを学んだ上で、各自の研究テーマに取り組みます。わかりやすくプレゼンテーションするスキルも習得していきます。また、授業計画の内容は変更する場合があります。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	出席率、授業への取り組み、発表の内容などを総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合
授業計画	第01回：オリエンテーション 第02回：ディスカッション 第03回：ディスカッション 第04-05回：関心のあるテーマの発表 第06回：文献検索方法、論文の読み方 第07回：研究テーマ確認 第08回：情報収集、研究方法の検討 第09-10回：研究実施 第11-14回：結果のまとめ、発表準備 第15回：発表、ディスカッション
テキスト	必要に応じて指示します。
参考書	必要に応じて紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問や相談には随時対応します。



フィードバックの方法	随時対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1時間の予習と1時間の復習を課します。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習IIA(通) / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	59806
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	早川麻理子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	10D臨床栄養実習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川麻理子(管理栄養学科)
授業の目標	<p>研究活動を通じて、医療分野で活躍できる管理栄養士の素養を身につけ、学習意欲を高めます。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域          体組成と食事・運動との関連性が説明できる</p> <p>思考判断の領域          的確な栄養診断ができる</p> <p>関心意欲の領域          食事調査を基に自らの意見が述べられる</p> <p>態度・志向性の領域          エビデンスを作ることができる</p> <p>技能の領域          検索した論文を要約し、自身のアイデアが述べられる</p> <p>体験探究の領域          研究を通して、商品開発の疑似体験をする</p>
授業の概要	<p>美味しく体に良い食事やデザートの開発、ボディメイクに効果的な食事と運動、香りを医療に用いたアロマセラピーの活用など、実際に患者さんが楽しんで取り組める自然療法について研究開発を行います。</p> <p>この研究を通して、管理栄養士としてのやりがいを感じ、さらに科学的な視野を広げるために、自ら意欲的に進化させ能動的な学習習慣を身につけます。</p>
評価方法	<p>参加姿勢および成果で評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加姿勢 50%</li> <li>・レポート 20%</li> <li>・発表 30%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、論文の書き方</li> <li>2. 研究テーマの決定、個人面談</li> <li>3. 関係論文の検索とまとめ</li> <li>4. 抄読会</li> <li>5. 研究背景、抄読会</li> <li>6. 対象と方法の検討、抄読会</li> <li>7. 倫理的配慮について</li> <li>8～9. 研究データの収集</li> <li>10～11. 研究データの分析、グラフ化</li> <li>12～13. 研究の考察</li> <li>14. 発表と修正</li> <li>15. 最終報告会</li> </ol>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	研究テーマについて調べた論文を要約して発表する抄読会を重ね、活発なディスカッションをすることで、先行研究を熟読し、研究の再現性を確認し、新規性を探り、新しいアイデアを発想できる思考力を身につけます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	病院やクリニックで、給食管理、栄養管理、栄養指導、在宅栄養指導の経験を有する教員が、食事療法のエビデンスが乏しいことに課題を感じ、学生の皆さんと食べ方、食材、調理・加工でエビデンスをつくる科目です。
質問への対応方法	随時、またはメール等で対応します（m-hayakawa@nagoya-ku.ac.jp）
フィードバックの方法	その都度、返却を行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	演習（2単位）週1コマ（30時間）の場合、60時間の準備学習を必要とします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> <li>12. つくる責任つかう責任</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>6. 行動持続力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

開講科目名 Course	専門演習IIA(通) / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	59807
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	前田 真男
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 C 理化学実験室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	前田 真男 (管理栄養学科)
授業の目標	3年生の時から収集してきた研究テーマの文献やデータを解析して卒業論文にまとめる。空き時間を利用して、管理栄養士の国試対策も行う。
授業の概要	3年生の時から収集してきた研究テーマに関する文献について内容を精査し、文献中のデータを解析して卒業論文にまとめる。空き時間に、国家試験の問題演習や解答解説なども行う。
評価方法	出席と授業態度、卒業論文を総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	6回以上欠席で失格。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・研究テーマについての情報収集 (研究テーマに関する文献の収集など)</li> <li>・得られたデータや情報の解析</li> <li>・解析結果の検討</li> <li>・発表</li> <li>・卒業論文にまとめる。</li> </ul>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	随時対応。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習：授業範囲の内容を事前に調べておく (1時間)。 復習：疑問に思ったこと等、関連論文で調べる (1時間)。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標 (11~17)	

PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習IIA(通) / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	59808
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	山岡 由理子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 D 栄養教育実習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山岡 由理子 (管理栄養学科)
授業の目標	食・栄養教育に関連する研究分野において管理栄養士業務に必要な栄養教育ツール・媒体等を知る。 自分の興味が湧く研究テーマを設定し、研究を進めながら、基本的な研究方法を習得する <学習成果> 知識・理解の領域 健康・栄養教育の実践が理解できる 思考判断の領域 多様な栄養教育の場における伝え方や適したツール選定ができる 関心意欲の領域 管理栄養士業務に必要とされる栄養教育ツールの提案ができる 態度・志向性の領域 研究活動において他者と協調し、積極的に関与できる 技能の領域 研究を通して、問題を発見できる力、問題解決力を身につける 体験探究の領域 研究を通して、管理栄養士として学び続ける大切さを知る
授業の概要	以下を参考に自分が興味を持ってできる研究テーマを、教員と相談し決定する ・低糖質のおやつ ・嚥下調整食に使用できる市販食品 ・管理栄養士業務に役立つツール作成 ・栄養教育のICT活用 各自の研究テーマに沿ってスケジュールをたて、実施する。最終的に、スライドを作成し発表をする
評価方法	研究に取り組む姿勢 50% 課題発表 50%
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	特になし

授業計画	<p>1 オリエンテーション 2 研究の紹介  3 論文検索の方法 4 研究テーマの選択 5 研究テーマの決定  6 研究の対象と方法の決定  7 研究テーマに沿った情報の収集</p> <p>8 各自のテーマに沿った研究の実施 9 各自のテーマに沿った研究の実施  10 各自のテーマに沿った研究の実施  11 各自のテーマに沿った研究の実施  12 研究成果発表の準備  13 研究成果発表の準備  14 研究成果発表の練習  15 研究成果の発表</p>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ICT（情報通信技術）を効果的に利用して情報収集をする。グループディスカッション、プレゼンテーションを実施する
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	クリニックや介護老人保健施設で、栄養管理、栄養指導、在宅栄養指導の経験を有する教員がこれまでの経験を活かしながらかある管理栄養士が、現場における栄養教育の在り方やその課題を解説する。
質問への対応方法	授業時間内は、随時。時間外はメールなどで対応する
フィードバックの方法	授業時間内
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	研究の進行状況に合わせて
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>2. 飢餓をゼロに  3. すべての人に健康と福祉を  4. 質の高い教育をみんなに</p>
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習IIA(通) / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	59809
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	山田 貴史
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 A 栄養化学実験室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山田 貴史 (管理栄養学科)
授業の目標	栄養学・食品学に関連する研究についての知識および研究方法や、最新の食品栄養学分野の情報収集や実験を実施する。収集した情報や実験結果をまとめ、発表する能力を習得する事を目的とする。または、地域コミュニティと関わり、管理栄養士としての地域と連携した活動について学習、実践を行う事を目的とする。
授業の概要	次の4点のいずれかについての活動を行う。 1. 栄養学の基礎研究 (実験動物を用いた機能性食品の機能解析) 2. 栄養学の応用研究 (ヒトを対象とした官能検査試験) 3. 地域の食品産業に対する管理栄養学的なアプローチの考案 4. 管理栄養士として必要な知識の復習  上記の点について、 文献紹介、研究報告あるいは試験を実施する。また、研究活動やゼミでの教育活動に参加し、研究や地域コミュニティとの関わりに必要な知識や技術を身につける。また、参加した活動内容をまとめて報告する。 授業の性質から、所定の時間外に活動を実施する場合がある。
評価方法	1. 取り組む姿勢 50% 2. 活動の達成度 20% 3. 活動発表 30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	毎週実施する打ち合わせ (教員の文献紹介および研究に必要な知識の講義や解説) を行い、研究活動を実施する。 初回講義はガイダンスを実施する。
テキスト	適宜配布する
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	対面やメールなど、随時対応する。
フィードバックの方法	定期的な研究打ち合わせや発表に対しての指導を行う。



予習・復習等、準備学習の内容及び時間	教員と定期的に打ち合わせを行い、その中で適宜指示をする。また、自分の関心のある研究テーマに関連する科学論文（和文・英文）を探し、読むことが予習・復習・準備学習として望ましい。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> <li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li> </ol>
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 住み続けられるまちづくりを</li> <li>12. つくる責任つかう責任</li> <li>13. 気候変動に具体的な対策を</li> <li>14. 海の豊かさを守ろう</li> <li>15. 陸の豊かさを守ろう</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> <li>17. パートナーシップで目標を達成しよう</li> </ol>
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>3. 統率力</li> <li>4. 感情制御力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>6. 行動持続力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

開講科目名 Course	専門演習II B (通) / Advanced Study Group II B
時間割コード Course Code	59851
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	山田 貴史
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山田 貴史 (管理栄養学科)
授業の目標	これまでに学習してきた科目を再度理解するとともに、それぞれの科目の関連性を学ぶ。これにより、管理栄養士としての専門的・実践的な知識を身につけることを目的とする。
授業の概要	管理栄養学科4年次では、学修基礎力の再確認と実践力の強化を目的として、専門演習IIA・専門演習IIBを設置している。 専門演習IIBでは、複数教員の講義により、これまで学んできた科目の再確認を行うとともに、それぞれの科目のつながりについて総合的な学習を行う。また、適宜補講を行う場合がある。
評価方法	前期、後期それぞれにおいて定期的を実施する試験の得点および、課題により評価を行う。また、補講内容も評価対象になる場合がある。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	管理栄養領域における科目についての復習講義を行い、定期的に講義内容についての試験を実施する。前期では人体の機能と構造および疾病の成り立ち(生化学を中心とする)、基礎栄養学に関する科目に関する講義を行うとともに、管理栄養領域のすべての科目について理解度を確認する定期テストを行う。後期には臨床領域や栄養指導に関する科目について主に学習する。初回講義では、ガイダンスを行う。定期テストの結果を踏まえ、個別に課題や補講を行う場合がある。
テキスト	適宜指定する。
参考書	適宜提示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学習内容の質問や学習方法についての質問は、講義時間外に個別に対応します。
フィードバックの方法	定期試験の試験問題と同様の内容を含む課題資料を配付する。 定期試験の結果について開示するとともに、学習のサポート資料を配付する。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義内容は、管理栄養領域の内容を広範に含むため、これまでの講義で使用したテキストの内容について準備、予習すること。復習については、講義の内容や講義内で配布した資料に沿って、適宜上記テキストを利用した復習をすること。前期は特に、人体の機能と構造および疾患の成り立ち（生化学、解剖生理学）、基礎栄養学分野について、後期は人体の機能と構造および疾患の成り立ち（病態学）、臨床栄養学に加え、食べ物と健康、社会・環境と健康、講習栄養学領域を中心に学習を進めることが望ましい。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困をなくそう</li> <li>10. 人や国の不平等をなくそう</li> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>6. 安全な水とトイレを世界中に</li> <li>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</li> </ul>
SDGs 17の目標（11～17）	<ul style="list-style-type: none"> <li>11. 住み続けられるまちづくりを</li> <li>12. つくる責任つかう責任</li> <li>14. 海の豊かさを守ろう</li> <li>15. 陸の豊かさを守ろう</li> <li>16. 平和と公正をすべての人に</li> </ul>
PROGリテラシーの要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ul>
PROGコンピテンシーの要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>4. 感情制御力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>6. 行動持続力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ul>

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59900
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	荒川 和幸
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒川 和幸 (管理栄養学科)
授業の目標	各自のテーマに沿って、調査、解析、論文作成を行っていく。
授業の概要	計画に応じて、文献検索、解析、調理などを行う。
評価方法	研究に取り組む姿勢、内容などを総合的に評価。
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	特になし。
授業計画	教員と打ち合わせの上適宜研究を実施。
テキスト	特になし。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカ ッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカ ッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授 業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授 業の内容	
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	適宜、質疑等を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及 び時間	必要に応じ指示。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59901
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	太田 和徳
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 和徳 (管理栄養学科)
授業の目標	論文作成に必要な文献読解力を身に付けるとともに、研究の動向や世間のニーズに敏感に反応でき、かつ、そこから展開するビジネスモデルの提案が可能な文理融合型の思考を養うことを目標とする。
授業の概要	多くの時間を教員との対話・議論に要する(原則対面での実施とする)。 学生個別に論文テーマに沿った指導を行う。
評価方法	文献読解力、自己学習能力、コミュニケーション力必須。教員と積極的に議論し、論文あるいは課題の作成に取り組む学生のみ評価対象とする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	教員の連絡に対し、1回でも応じない場合は即刻失格。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2～7回 文献調査・研究 第8～14回 調査に基づくディスカッション 第15回 総括
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	教員および他ゼミ生とのディスカッションを実施
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	即日回答
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	研究活動及び論文作成に各回3時間の予習復習を求める
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	



開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59902
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	太田 貴久
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 貴久(管理栄養学科)
授業の目標	基礎的な統計学および論文の読み方等の勉強会を行い基本的な統計処理ができるようにする。その後、各自もしくは各グループにてテーマを絞り研究を遂行して行き、日本栄養改善学会学術総会や栄養改善学会東海支部会、もしくは東海公衆衛生学会等にて発表することを最終目的とする。
授業の概要	基本的な統計処理を学び、データ収集及び解析ができるようにする。 また、卒業研究に必要な参考文献を自ら探し出し、その論文の批判的吟味ができるようになり、卒業論文を作成していく。
評価方法	レポート提出(進捗状況等)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な統計学演習</li> <li>・論文の批判的吟味</li> <li>・データ収集の方法</li> <li>・データ解析</li> <li>・学会発表準備</li> <li>・論文作成</li> </ul>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	卒業研究に関する質問は適時研究室にて受ける。
フィードバックの方法	4年次に学会発表もしくは学内にて発表をする。 学内での掲示をする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	テーマに関連した参考文献を読んでおく(予習)。 読んだ参考文献の批判的吟味を行う(復習)。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力





開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59903
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	朱宮 哲明
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	朱宮 哲明(管理栄養学科)
授業の目標	<p>栄養や食に関する基礎知識の定着、調理技術の向上を図るとともに、管理栄養士になるための学習意欲を高める。特に調理において最も大切である食品衛生管理や大量調理における手法(クックサーブ、クックチル、ニュークックチル、真空調理など)についての知識・技術を習得し、主体的・積極的にコミュニケーションを取りながら行動できる実践力を身につけることをテーマとする。研究テーマに沿った研究の実施、結果の分析、考察、発表ができる能力の習得を目指す。</p> <p>学習成果</p> <p>意欲関心の領域 興味・関心がある栄養や食に関する課題や問題点を取り上げ、調査・研究を深めることができる。 態度・志向性の領域 様々な学内外のイベントに主体的・自主的に取り組むことが出来る。 技能の領域 学んだことを活用した食育活動を計画、実践、評価し、その内容をまとめ、他者に報告すると共に改善を図ることができる。 体験研究の領域 学外で地域連携を図った食育推進活動を通じて新たな課題発見とその解決策を考え努力することができる。</p>
授業の概要	<p>以下を参考に教員と相談の上、研究テーマを決定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食品添加物や残留農薬の健康に影響する摂取許容量(ADI)について調べる。</li> <li>2. 無農薬・低農薬野菜や無添加食材について調べ、調理に活用する。</li> <li>3. ATPふき取り検査や手洗いチェッカーを用いた衛生管理の実施。</li> </ol> <p>研究に関連する文献検索、抄読会、研究の実施、結果の分析、報告会で発表し、その成果を論文にまとめる。</p>
評価方法	<p>研究に取り組む姿勢 50%</p> <p>論文の内容 50%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究テーマの決定</li> <li>・関係論文検索から研究背景を書く</li> <li>・研究の対象と方法を決定</li> <li>・研究の実施</li> <li>・結果の分析</li> <li>・発表とディスカッション</li> <li>・論文を作成して提出</li> </ul>
テキスト	

参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	長年、特定給食施設にて経験を積んだ教員より実践的な給食経営管理について学ぶ。
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	参考資料を配布。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	教科書、配布資料での予習・復習・提出物の作成等。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	2. 協同力

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59904
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	庄司 吏香
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	庄司 吏香 (管理栄養学科)
授業の目標	卒業研究では、学生それぞれが興味を持っているテーマについて、研究計画から情報収集、データ分析、まとめ、プレゼンテーションまでの総合的な研究能力を身につけることを目標とする。
授業の概要	管理栄養学科で学んだ4年間での学修の集大成とし、学生が望むテーマに沿ってグループで研究を行う。これまで修得した基礎・専門知識を基に研究計画を立て、データ収集・分析・科学的に解析し発表能力を高めるための適切な指導を行う。論理的な文章で研究論文としてまとめる。
評価方法	授業(研究)への取り組みを特に重視する。 卒業論文、発表等を総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	特になし。

授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 教員による研究課題のテーマ説明 第3回 情報収集の方法 第4回 情報収集(練習) 第5回 情報収集(実践) 第6回 研究テーマに関連する論文購読(基礎) 第7回 研究テーマに関連する論文購読(応用) 第8回 論文作成に関する演習(基礎) 第9回 論文作成に関する演習(応用) 第10回 研究活動の計画 第11回 研究活動(アンケートの作成) 第12回 研究活動(アンケートの作成) 第13回 研究活動(写真法による目測食品の選定) 第14回 研究活動(写真法による目測食品の選定) 第15回 研究活動(現場調査及び写真法食品の撮影、重量計測の実施) 第16回 研究活動(大学生へのアンケートの実施) 第17回 研究活動(大学生へのアンケートの実施) 第18回 研究活動(アンケートの集計) 第19回 研究活動(アンケートの集計) 第20回 研究活動(アンケートの集計) 第21回 中間発表(準備) 第22回 中間発表(発表) 第23回 中間発表(研究活動の評価) 第24回 中間発表(研究活動の再計画) 第25回 研究活動(再計画の実施) 第26回 研究活動(再計画の評価) 第27回 論文作成 第28回 論文提出 第29回 研究発表 第30回 まとめ
テキスト	必要に応じて指示する。関連する論文は図書館やインターネットを活用し検索する。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	病院において管理栄養士経験がある教員が、対象者の特性を理解し、正確にデータ化できる能力が身につくように、目測精度の向上に向けた教育内容に取り組んでいる。
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	随時対応。 研究データ、集計、統計解析、論文執筆等、その都度アドバイスを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	〔予習〕関連する論文を図書館等で検索し知識や理解を深める。 〔復習〕研究上生じた疑問点は、関連する論文を図書館等で調べ課題を解決する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	9.実践力

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59905
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	夏目 有紀枝
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	夏目 有紀枝(管理栄養学科)
授業の目標	食事の摂り方(欠食、間食など)、身体活動を含めた運動習慣、生活習慣(シフトワーカー、食後すぐ寝るなど)が健康に与える影響を、ライフステージの身体的特徴を考慮した上で検討していく研究の基礎的手法を習得します。身近な問題に関心を持ち、広い視野で現状を把握でき、文献・報告を検討し、目的を持って研究・調査し、考察できる力を育むことを目標とします。研究を通じて、必要な情報を見極め、探究していけるような主体性のある管理栄養士、社会人を目指します。
授業の概要	担当教員の主な研究テーマは、「ライフステージにおける食習慣および運動習慣が健康にもたらす効果」ですが、学生は各自で関心のある研究テーマを決め、必要な情報を収集し、研究デザインを構築し、研究に取り組みます。収集した情報を分析して結論を導き出し、文献を引用して質の高い考察を目指します。自らの研究をわかりやすくプレゼンテーションするスキルも習得していきます。また、授業計画の内容は変更する場合があります。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	研究に取り組む姿勢、発表の内容などを総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第01回：オリエンテーション 第02-04回：研究テーマの指導および文献調査 第05-09回：調査の実施と結果のまとめ 第10-13回：卒業論文の作成と指導 第14回：発表、ディスカッション 第15回：総括
テキスト	必要に応じて指示します。
参考書	必要に応じて紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問や相談には、随時対応します。
フィードバックの方法	随時対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	2時間の予習と2時間の復習を必要とします。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59906
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	早川麻理子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川麻理子(管理栄養学科)
授業の目標	健康増進や疾病の予防や治療に関連する研究分野においての情報収集および基本的な研究方法を習得し、 研究テーマに沿った実験の実施、結果の分析、考察、発表ができる能力の習得を目指します。 <学習成果> 知識・理解の領域 体組成と食事・運動との関連性が説明できる 思考判断の領域 的確な栄養診断ができる 関心意欲の領域 食事調査を基に自らの意見が述べられる 態度・志向性の領域 エビデンスを作ることができる 技能の領域 検索した論文を要約し、自身のアイデアが述べられる 体験探究の領域 研究を通して、商品開発の疑似体験をする
授業の概要	以下を参考に教員と相談の上、研究テーマを決定します。 1．美味しく体に良い食事やデザートの開発 2．ボディメイクに効果的な食事と運動 3．香りを医療に用いたアロマセラピーの活用 研究に関連する文献検索、抄読会、研究の実施、結果の分析、報告会で発表し、その成果を論文にまとめて提出します。 なお、研究日程は、教員と打ち合わせ、年間を通して適切に実施します。
評価方法	研究に取り組む姿勢 50% 論文の内容 50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	・研究テーマの決定 ・関係論文検索から研究背景を書く ・研究の対象と方法を決定 ・研究の実施 ・結果の分析 ・発表とディスカッション ・論文を作成して提出
テキスト	

参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	研究の実施、発表、活発なディスカッションを行うことで、簡潔にまとめられる理論的思考（ロジカルシンキング）を身につけ、伝えるプレゼンテーション能力を向上させます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	病院やクリニックで、給食管理、栄養管理、栄養指導、在宅栄養指導の経験を有する教員が、食事療法にエビデンスが乏しいことを課題とし、これまでの経験を生かしながら学生の皆さんとエビデンスをつくっていく科目です。
質問への対応方法	その都度、またはメール等で対応します（m-hayakawa@nagoya-ku.ac.jp）
フィードバックの方法	その都度、返却を行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	研究の進行状況に合わせて、必要な内容および学習時間をお伝えします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力



開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59907
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	前田 真男
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	前田 真男 (管理栄養学科)
授業の目標	内科疾患と食生活、栄養と健康に関する最新の知識や基礎研究等についての知識を習得するとともに情報の収集の仕方を学び、研究テーマについて結果をまとめて論文にする能力を習得する。空き時間を利用して、管理栄養士の国試対策も行う。
授業の概要	内科疾患と食生活、栄養と健康について、自分の興味のある研究テーマを見つける。ゼミの研究テーマに関する最新の研究についてPCで文献検索を行い、収集した文献からデータを集める。得られたデータを分析して論文にまとめる。 空き時間に、国家試験の問題演習や解答解説なども行っていく。
評価方法	研究に取り組む姿勢 50% 卒業論文の内容 50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究テーマの決定</li> <li>・情報収集 (研究テーマに関する文献の収集など)</li> <li>・得られたデータや情報の解析</li> <li>・解析結果の検討</li> <li>・論文作成</li> </ul>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	定期的な打ち合わせや発表などに対して指導を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	定期的な打ち合わせを行い、その中で適宜指示する。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標 (1~10)	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59908
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	山岡 由理子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山岡 由理子 (管理栄養学科)
授業の目標	<p>食・栄養教育に関連する研究分野において管理栄養士業務に必要な栄養教育ツール・媒体等を知る。自分の興味が湧く研究テーマを設定し、研究を進めながら、基本的な研究方法を習得し、発表・論文にまとめることができるようになる</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域 健康・栄養教育の実践が理解できる</p> <p>思考判断の領域 多様な栄養教育の場における伝え方や適したツール選定ができる</p> <p>関心意欲の領域 管理栄養士業務に必要とされる栄養教育ツールの提案ができる</p> <p>態度・志向性の領域 研究活動において他者と協調し、積極的に関与できる</p> <p>技能の領域 研究を通して、問題を発見できる力、問題解決力を身につける</p> <p>体験探究の領域 研究を通して、管理栄養士として学び続ける大切さを知る</p>
授業の概要	<p>以下を参考に自分が興味を持ってできる研究テーマを、教員と相談し決定する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低糖質のおやつ</li> <li>・嚥下調整食に使用できる市販食品</li> <li>・管理栄養士業務に役立つツール作成</li> <li>・栄養教育のICT活用</li> </ul> <p>各自の研究テーマに沿ってスケジュールをたて、実施する。最終的に、研究発表および論文にまとめる</p>
評価方法	<p>研究に取り組む姿勢 50%</p> <p>論文の内容 50%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 論文検索の方法</li> <li>・ 研究テーマの決定</li> <li>・ 研究の対象と方法を決定</li> <li>・ 研究の実施</li> <li>・ 発表の練習</li> <li>・ 発表</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 論文作成</li> </ul>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ICT（情報通信技術）を効果的に利用して情報収集をする。グループディスカッション、プレゼンテーションを実施する
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	クリニックや介護老人保健施設で、栄養管理、栄養指導、在宅栄養指導の経験を有する教員がこれまでの経験を活かしながらある管理栄養士が、現場における栄養教育の在り方やその課題を解説する。
質問への対応方法	クリニックや介護老人保健施設で、栄養管理、栄養指導、在宅栄養指導の経験を有する教員がこれまでの経験を活かしながらある管理栄養士が、現場における栄養教育の在り方やその課題を解説する。
フィードバックの方法	授業時間内
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	研究の進行状況に合わせて
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ul style="list-style-type: none"> <li>2. 飢餓をゼロに</li> <li>3. すべての人に健康と福祉を</li> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> </ul>
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59909
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	山田 貴史
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山田 貴史 (管理栄養学科)
授業の目標	栄養学・食品学に関連する研究についての知識および研究方法の基礎を習得するとともに、最新の食品栄養学分野の情報の収集を実施する。 ゼミの研究テーマに沿った実験を実施し、結果についてまとめ、発表する能力を習得する事を目的とする。
授業の概要	次の3点のいずれかについての活動を行う。 1. 栄養学の基礎研究 (実験動物を用いた機能性食品の機能解析) 2. 栄養学の応用研究 (ヒトを対象とした官能検査試験) 3. 地域の食品産業に対する管理栄養学的なアプローチの考案  上記の点について、 研究に関連する文献検索、研究の実施、報告会での発表を行う。 研究は、教員との打ち合わせの上、年間を通し適切に実施する。 研究テーマの詳細については、教員と相談の上で決定する。
評価方法	1. 研究に取り組む姿勢 50% 2. 卒業論文の内容 25% 3. 研究発表 25%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	定期的な研究のや発表が著しく実施できないときは失格とする場合がある。
授業計画	教員と打ち合わせの上適宜研究を実施する。 初回講義では、ガイダンスを行う。
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	対面やメールなど、随時対応する。
フィードバックの方法	定期的な研究打ち合わせや発表に対しての指導を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	教員と定期的に打ち合わせを行い、その中で適宜指示をする。また、自分の研究に関連する科学論文 (和文・英文) を探し、読むことが予習・復習・準備学習として望ましい。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさも守ろう 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	(教)教育原理(中・高・栄養) / Principles of Education
時間割コード Course Code	60001
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	飯田 幸恵
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	飯田 幸恵(教育保育学科)
授業の目標	教育の理念・歴史・思想等についての知識を身につけるとともに、教育の意義・内容・方法について考え、実際に指導に生かしていく力を身につける。 知識・理解の領域 教育の理念・歴史・思想等についての知識を身につける。 技能の領域 教育の内容・方法について理解を深め、実際に指導に生かしていく力を身につける。 態度・志向性の領域 教育の意義・教育の現状と課題などについて考えることができるようにする。
授業の概要	教育の理念・歴史・思想等に関する知識について学び、教育の内容・方法について理解を深め、教育の現状と課題について考える。
評価方法	各回の課題提出・課題評価、授業への取り組みなど、総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	全授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、失格となる。
授業計画	1. 授業概要・課題説明 2. 教育の理念・目的と意義 3. 子ども観の変遷 4. 西洋教育史・教育思想 古代・中世 5. 西洋教育史・教育思想 近世・近代 6. 西洋教育史・教育思想 現代 7. 日本教育史・教育思想 古代・中世 8. 日本教育史・教育思想 近世・近代 9. 日本教育史・教育思想 現代 10. 子どもの権利と教育 11. 教育の内容・方法 12. 教育課程 13. 教育の制度と法 14. 教育の現状と課題 15. まとめ
テキスト	なし
参考書	適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業終了後に対応する。
フィードバックの方法	次回の授業時にフィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回授業の予習・復習を行うこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	(教)教師論 / Pedagogical Theory
時間割コード Course Code	60002
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 5
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	高橋 勝也
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	3 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高橋 勝也 (法学部)
授業の目標	よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる教師像を理解する。
授業の概要	急激に変化し続ける現代社会において、教職の重要性が一層高まってきていることを把握すると共に教職の意義、教員の役割や職務内容について理解を広げ合ったり深め合ったりすることにより、教職に対する興味関心を高め、それに向かおうとする意欲を育成する。 重点テーマ 教職のもつ意義と責任ある教職員としての立場について 教職員の職務内容と教育公務員に課せられる服務義務について チーム学校、チーム家庭・学校・地域の一員としての自覚について
評価方法	4人グループや全体での討議の様子、各テーマに対する見方や考え方の広がりや深まり(高まり)を 記述させるふり返り用紙などの平常点(60%)、小レポート(40%)をもとにして、総合的に教職の意義及び教師の役割などの学びについて評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	第1回：教職と私～教師として、自らの適性を知ろう～ 第2回：今日の教育課題～現場には、どんな教育課題があるのか～ 第3回：いじめを考察する～生徒とどう、向き合うか～ 第4回：不登校を考察する～生徒とどう、向き合うか～ 第5回：望ましい学級経営～協同をどのように育めばよいか～ 第6回：体罰と生徒指導～なぜ、体罰はゆるされないのか～ 第7回：愛される教師～子供が好きになる先生とは～ 第8回：教師の仕事～一日、どのように過ごしているか～ 第9回：ADHDを考察する～生徒とどう、向き合うか～ 第10回：進路面談を考察する～生徒とどう、向き合うか～ 第11回：教職員の服務事故～どうすれば、信用失墜行為を防げるか～ 第12回：教職員研修とキャリアステージ～教育管理職を目指すべきか～ 第13回：チーム学校としての取組～保護者、地域社会を含めた一丸～ 第14回：開かれた学校のために 第15回：まとめと振り返り 実務経験のある教員による授業 学校教育において教育現場での活動の経験を有する教員が、学習指導、生活指導、進路指導等の専門性を活用して、教員としての資質の基礎・基本を獲得する科目である。
テキスト	なし

参考書	小学校・中学校学習指導要領（文部科学省）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	議論やプレゼンテーションを多く、取り入れます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	担当教員は中学校・高等学校で25年間の経験があります。模範授業を中心とした実践的な指導を行っています。
質問への対応方法	毎時間、質問対応の時間を設定する。 オフィスアワー以外の時間帯でも、研究室にて受け付ける。
フィードバックの方法	毎時間、15分程度フィードバックの時間を設定して、リアクションペーパーの提出により担当教員が状況を把握する。 次の時間の対面による指導の他、メール、グーグルクラスルームを活用してフィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	現代の学校教育での課題などを把握しておく。（予習：合計30時間） 自らの考える教師像を毎時間比較しながら検討し、まとめる。（復習&授業準備：合計30時間）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 6.行動持続力 7.課題発見力 9.実践力

開講科目名 Course	(教)教育と社会 / Education and Society
時間割コード Course Code	60003
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 5
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	大谷 尚
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	7 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大谷 尚 (教育保育学科)
授業の目標	<p>社会と学校との関わりについての知識を習得し、子どもの生活の変化を含む社会状況の国内的・国際的な変化との間で生じる現在の学校の問題とその克服の事例について理解するとともに、近年の教育政策の動向について理解する。また、学校と地域との連携、学校安全への対応についても、事例を通して理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校をめぐる社会の状況の変化を理解し説明できる。</li> <li>・社会の状況の変化に対する学校の対応を理解し説明できる。</li> <li>・上記について残された問題と課題について理解し説明できる</li> </ul>
授業の概要	<p>子どもの生活の変化を含む社会状況の国内的・国際的な変化との間で生じる現在の学校の問題と課題を各回のトピックとする。授業者は各回のトピックに応じた具体的な事例を紹介する。その際、映像資料などを用いるように努める。受講者はそれに関連する自身の高校までの体験等について、受講者同士少人数で、または隣席の受講者と情報交換し、その問題や課題を検討した上で、それを他の受講者全体に紹介する。これらを通して、各回のトピックについての理解を得、それを深める。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参加（発言や討論）つまり授業という「学習協同体」の学習目標の達成への貢献度、課題提出、期末試験により総合的に行う（授業とは受講者と授業者とで構成する「学習協同体」である。受講者と授業者の全員に、この学習協同体の学習目標達成に貢献する責任があり、その責任を積極的に果たす姿勢が求められる。その意志の無い者は受講してはならない。）</li> <li>・出席と授業という学習協同体への貢献度（学習態度・姿勢（毎回の課題を含む））を60%、期末試験を40%とする。</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全授業回数数の3分の1を超えて欠席した場合（合計6回欠席した場合）は失格となる。</li> <li>・出席不正（教室に居ないのに居ると見せかけることや、トイレに行くと言って教室を出て帰って来ないなど）を行った受講者はその時点で失格とする。</li> </ul>

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーションとイントロダクション：今のパソコンは受講者が生まれた頃のパソコンと比べて何倍高性能なのか？ 他に比べるものがないほどの情報技術の急速な発展について理解する。</li> <li>2. USBメモリー1個に新聞何日分が入るのか？ 文字情報の記録の仕組みを理解する。</li> <li>3. 音声や音楽はスマホの中でデータとしてどのように記録されているのか？ 音声情報の記録の仕組みを理解する。</li> <li>4. ケータイ・スマホは若者に何を与え若者から何を奪うのか？ 若者の暮らしへの携帯情報端末の影響を考える。</li> <li>5. コンパガチャはどうして違法とされたのか？ ソーシャルゲームの原理的・社会的問題を検討し理解する。</li> <li>6. 仮想通貨のお金を現金でやりとりできるのか？ ゲームマネーのリアルマネートレードの問題を考える。</li> <li>7. インターネットは人権にとって敵か味方か？ インターネットによる人権侵害と人権擁護について考える。</li> <li>8. ネットで誰かを誹謗中傷した者はどう特定されるのか？ 投稿者の特定のためのプロバイダ責任制限法の意義を理解する。</li> <li>9. 企業はなぜ就活生の裏アカ特定をしようとするのか？ ネット上の多重人格的行為の危険性について理解する。</li> <li>10. カーシェアはどんな仕組みで借りられ何をもたらすのか？ 非対面でのカーシェアを可能にするIIOT(Internet of Thingsの時代)を理解する。</li> <li>11. 最新の情報テクノロジーは今後の社会をどう変えるか？ スーパーコンピュータ、ビッグデータ、AI、量子コンピュータなどが社会に与える影響を理解する。</li> <li>12. Society 5.0の時代における Society 4.0までの古いメディアの意義は何か？ Society 4.0までのメディアの意義を考える。</li> <li>13. ペルーのボラ族の伝統的通信手段である「マンガワレ」という太鼓がスマホより優れている点は何か？ 「非」情報メディアに固有の機能を考える。</li> <li>14. 中国チベット自治区の巡回映画隊は何を運んでいるのか？ 人と社会にとっての「非」情報メディアと人がそれを運ぶの意義を考える。</li> <li>15. 情報化は社会をどう変えていくのか？ 授業全体を振り返り受講者が全体から得たものを確認する。</li> </ol>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業者の発問に対する受講者の発言や受講者同士の対話・話し合いとその発表に基づく討論を行う。</li> <li>・ 従って、積極的に発言する意志の無い者は受講しないこと。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	・ 2010-2012の3年度に渡る名古屋大学教育学部附属中・高等学校長としての実務経験を、本授業の学校教育に関する内容に反映させる。
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 随時対応</li> <li>・ メール対応</li> </ul>
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎回の課題に対するフィードバックは授業のなかで行う。</li> <li>・ 必要に応じてコメントや助言をメールでも行う。</li> </ul>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・ 準備学習として、シラバスに示された各回のトピックについて図書、雑誌、インターネット等で調べ、予備知識と疑問を持って授業に参加すること。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	17. パートナースhipで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力

開講科目名 Course	(教)教育・青年心理学 / Educational and Adolescent Psychology
時間割コード Course Code	60005
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 5
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	家接 哲次
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	家接 哲次 (教育保育学科)
授業の目標	乳幼児から青年期にかけての心身の発達について理解する。そのうえで、子どもたちの学びを支援するために必要な基礎知識について理解する。 知識・理解の領域】 ・教育心理学についての基本的な知識を獲得する 【態度・志向性の領域】 ・心理学の知識を教育・保育の現場で活用できる
授業の概要	子どもの発達および支援に関する心理学の基本的事項(運動機能、情動、社会性、認知、学習、教育評価、発達障害、カウンセリング)について、できるだけ具体的に提示する。 * 予習復習について 1) 予習: シラバスをみて、その日のキーワードについて調べてくる 2) 復習: 習った内容を深めるため、図書館等で関連の文献を探し、それを読む * 質問には随時対応する。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	レポートで下記の点について評価する 1) 教育心理学について関心をもち、正しく理解ができている (関心・理解) 2) 理解したことを正確に表現できる (表現) 3) 教育・保育現場で適切な対処ができる準備ができている (応用・表現)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席数が多い場合(6回以上)は失格となることもある。

授業計画	第1回 オリエンテーション、教育心理学とは 第2回 乳幼児から児童期までの発達（キーワード：離巢性、就巢性、二次的離巢性、生理的早産、反射） 第3回 乳幼児から児童期までの発達（キーワード：情動、感情、気分、一次的情動、気質） 第4回 乳幼児から児童期までの発達（キーワード：自発的微笑、社会的微笑、愛着、社会性） 第5回 乳幼児から児童期までの発達（キーワード：喃語、初語、一語文、統語、集団内独語） 第6回 青年期の発達（キーワード：発達課題、自我同一性） 第7回 学習（キーワード：条件づけ、動機づけ、原因帰属） 第8回 パーソナリティとアセスメント（キーワード：類型論、特性論、心理尺度） 第9回 発達障害1（キーワード：知能検査、精神遅滞） 第10回 発達障害2（キーワード：学習障害） 第11回 発達障害3（キーワード：注意欠陥・多動性障害） 第12回 発達障害4（キーワード：アスペルガー症候群） 第13回 心の問題（キーワード：うつ、パニック障害） 第14回 学校カウンセリング（キーワード：傾聴） 第15回 まとめ
テキスト	なし
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業の中で基本的に対応するが、授業前後でも対応可能である。
フィードバックの方法	必要に応じて、口頭またはメール等でフィードバックを実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業中に提示する参考図書を読むこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	2. 情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(教)特別支援教育論(中・高・栄養) / Theory of Special Education
時間割コード Course Code	60006
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 5
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	志村 美和
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	志村 美和(管理栄養学科)
授業の目標	特別支援教育の歴史的背景を知り、現在の特別支援教育にどんなねらいがあるのかを理解する。教員となる上で指導的立場だけでなく、共に学び、育ち合う気持ちを意識できるようになる。個に応じた教育的ニーズとは何かを考えることができる。
授業の概要	「特殊教育」から「特別支援教育」に変換された歴史的背景を知り、障害がある幼児児童生徒や特別なニーズがある幼児児童生徒の現状を担当者の実践から学ぶ。教員は人と関わる仕事です。授業では「人間関係づくり」をテーマとし、自己理解と他者理解を目的としたグループワークを多く取り入れます。
評価方法	やむを得ない欠席以外は必ず出席してください。 毎回授業の振り返りコメントを書いて提出してもらいます。 試験は、レポート試験です。担当者がタイトルを3つ用意しますので、その中から自分が興味を持った内容について1000字～1500字程度書いてください。また詳細は授業中に提示します。 ・授業に対する意欲・関心 20% ・振り返りレポート 30% ・学期末テスト(課題レポート) 50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	10回以上の授業の出席をすること 6回の欠席の場合、補講課題有

## 授業計画

## 第1回

## オリエンテーション

- (1) 授業のルールについて
- (2) 初めまして。どうぞよろしく。構成的グループエンカウンターを用いて。
- (3) 担当者の「障害児との出会い、育ち合い、学びあい」

## 第2回

## 特別支援教育とは

- (1) 「特殊教育」から「特別支援教育」へ
- (2) 「統合保育」から「インクルーシブ保育へ」
- (3) 保育・学校現場の現在

## 第3回

## 障害種別について

- (1) 視覚障害について
- (2) 聴覚障害について

## 第4回

## 障害種別について

- (1) 知的障害について
- (2) 身体障害について
- (3) 病弱、重複障害について

## 第5回

## 障害種別について

- (1) 発達障害について
- (2) 気になる子について

## 第6回

## LD疑似体験プログラム

- (1) 読む
- (2) 書く
- (3) 計算する

## 第7回

## LD疑似体験プログラム

- (1) 聞く
- (2) 話す
- (3) 不器用さ

## 第8回

## 特別支援教育支援員とは

- (1) 支援員の視点と支援
- (2) 多職種連携

## 第9回

## 出生からライフステージに沿った支援

- (1) 出生と家族の願い
- (2) 集団生活の始まり
- (3) 個々の発達の違い

## 第10回

## 就学移行期から入学（学校生活の始まり）

- (1) 保護者の悩みと選択（教育支援委員会）
- (2) 特別支援学校と特別支援学級
- (3) 通常学級（通級指導教室）

## 第11回

## 個別の教育支援計画と個別の指導計画

- (1) 個別の教育支援計画と個別の指導計画の目的
- (2) 特別支援教育コーディネーター

## 第12回

## 個別の教育支援計画と個別の指導計画

- (1) アセスメントの重要性
- (2) 校内委員会とケース会議

## 第13回

## 障害者権利条約とは

- (1) 障害者施策を支える法
- (2) 「私たち抜きに私たちのことを決めないで」の考え

## 第14回

## 障害者差別解消法とは

- (1) 合理的配慮とは
- (2) 学校における合理的配慮の提供

## 第15回

## 特別支援教育から生涯学習化へ

- (1) 学校卒業後の学びの支援



	(2) 共生社会を考える
テキスト	使用しない、毎回資料を用意する
参考書	「教師になるための特別支援教育」田中良三、湯浅恭正、藤本文朗共編著 培風館 2020.4 「通常学級の発達障害児の「学び」をどう保障するか～学校、家庭、福祉のトライアングル・プロジェクト～」田中裕一著 小学館 2022.2 えほん「障害者権利条約」藤井克徳・里圭 株式会社汐文社 2015 「教員を目指すための特別支援教育入門」大塚玲編著 萌文書林 2015 「特別支援学級」と「通級による指導」ハンドブック 田中裕一 東洋館出版社
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	毎回授業の初めに構成的グループエンカウンターを取り入れます。 エピソードを読んでグループでディスカッションするワークを多く取り入れます。 疑似体験やロールプレイで体験を通して学びます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	担当者のフィールドは乳幼児期及び学齢期なので、生まれてからのライフステージごとの発達、支援について実践現場での話を授業に取り入れます。 市の委嘱委員経験から学校と地域、障害者の学校卒業後の生涯学習についても解説します。
質問への対応方法	授業後に受け付けます。
フィードバックの方法	毎回授業後に振り返りレポートを提出してもらいますのでコメントを書いて次週の授業で返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業の予習30分、振り返り30分を要する。毎回の授業資料（プリント）は授業後の事後学習の分も配布する。 第1回 「特別支援教育」のイメージを考えてくる。30分 授業後は資料を確認する。 第2回、第3回、第4回は、文科省のHP等で「特別支援教育」「障害種別」について調べてくる。30分 授業後は資料を確認する。 第5回は、「発達障害」について、HPや新聞、書物などで様々な事例について調べてくる。 第6回、7回は、学習障害についてインターネットで検索してくる。30分 授業後は資料を確認する。 第8回は、「特別支援教育支援員」について調べてくる。 第9回は、地域の発達支援センターや児童発達支援施設について調べてくる。30分 授業後は資料を確認する。 第10回は、自分の在住地域の就学相談について調べてくる。 授業後は資料を確認する。 第11回、12回は、愛知県の個別の指導計画、個別の教育支援計画について検索する。30分 授業後は資料を確認する。 第13回、14回は新聞、ニュース、本等で現代の教育現場のニュースを調べてくる。30分 授業後は資料を確認する。 第15回は、「特別な支援」について自分の考えをまとめてくる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	12.つくる責任つかう責任 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	(教)教育課程論(中・高・栄養) / A Theory of Curriculum
時間割コード Course Code	60007
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	田中 秀佳
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	13D講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	田中 秀佳(教育保育学科)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の意味、役割について理解を深める</li> <li>・学習指導要領の内容を知る</li> <li>・現代教育改革の動向を知る</li> <li>・現代の教育問題を分析する視点を獲得する</li> <li>・子どもにとって適切な授業計画を検討・立案するとともにカリキュラム・マネジメントの意義を理解する</li> </ul>
授業の概要	<p>教育課程とは、学校においていつ・どこで・誰が・何を・どのように教育内容を考え、実施するのかに関する全体計画のことであり、学校運営の中心的な位置にあるものといえる。本講では、学校教育における教育課程の機能、意義、また教育課程編成の原理と方法を理解し、具体的な授業を計画するだけでなく、子ども・保護者・地域の実態を踏まえておこなわれる教科・学年・学校の各レベルにおけるカリキュラム・マネジメントの理論と実際を学ぶ。</p> <p>本授業は対面授業で行います。</p>
評価方法	授業内の課題(15%)、小レポート(25%)、最終試験(60%)によって評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第1回：教育課程論で何を学ぶか：教育課程とは何か。単なるカリキュラムの配列や時間割、学習指導要領の内容という意味ではなく、学校経営や教育条件整備への視点が含まれること、またそれらは教師が教育活動を行う上で必要なものであることを理解する。</p> <p>第2回：学校の「学び」を問う「普通」の学校とフリースクール：学校とは何か、自分自身の学校経験、現在の大学での学びを振り返りつつ、また一条校とは異なる「学校」での学びをとおして、自らが目指している教師という職業、学校という場所のあり方を逆説的に考える。</p> <p>第3回：学習指導要領とは何か1...戦後日本の教育政策と学習指導要領の変遷：戦後日本の教育政策と教育問題の変遷に関する年表を配布した上で戦後教育の変遷に関する映像を視聴する。その際、戦後政治、教育政策の重要なキーワードが多数出てくるため、メモを取りながら視聴し、自宅学習として各キーワードについて語句調べを次回講義までにおこなう。</p> <p>第4回：学習指導要領とは何か2...学習指導要領の変遷（戦後-70年代）と現行学習指導要領の特徴：前回視聴した映像を、各自が調べてきたキーワードを確認しつつ、講師が要点ごとに解説をしながら改めて視聴する。（1）戦後教育がどのような特徴を持って始まり、（2）様々な社会状況の中で教育課程行政がどのように展開され、（3）現行学習指導要領がどのような社会状況を踏まえて改訂され現在に至っているのか、理解をする。</p> <p>第5回：学習指導要領とは何か3...学習指導要領の変遷（80年代-現代）と現行学習指導要領の特徴：引き続き、各自が調べてきたキーワードを確認しつつ、講師が要点ごとに解説をしながら改めて視聴する。（1）戦後教育がどのような特徴を持って始まり、（2）様々な社会状況の中で教育課程行政がどのように展開され、（3）現行学習指導要領がどのような社会状況を踏まえて改訂され現在に至っているのか、理解をする。</p> <p>第6回：学習指導要領とは何か4...学習指導要領の特徴：学習指導要領の性質（最低基準性、大綱的基準、法的拘束性）や項目など、教育課程の国家的基準としての学習指導要領の基本的事項を学習する。また学習指導要領に関連する諸法令（教基法、学教法、学教法施規等）の内容を確認する。</p> <p>第7回：現行学習指導要領の特徴...現行学習指導要領の特徴と教育改革の動向：各自の学習指導要領、レジュメおよび資料を用いて、前回改訂からの変更点や重視されている観点を確認し、現行学習指導要領および教育改革の特徴を学習する。</p> <p>第8回：次期学習指導要領の特徴...次期学習指導要領の特徴と教育改革の動向：現代教育改革の特徴を確認し、改訂学習指導要領の動向を解説する。その中で特に重要となってくるキーワード（アクティブ・ラーニング、社会に開かれた教育課程、カリキュラム・マネジメント等）について、各自が内容を事前に調べておいた上で、各キーワードの理解を深める。</p> <p>第9回：教育課程の役割と意義...教育課程は、諸法令に即し、国家的基準としての学習指導要領に依拠しながらも各学校が編成し、各教員が子どもの実態に応じた教育内容を作成していくものである。教育課程を考える前提として、そもそも学校とはどういう場所か、教員の役割とは何かについて、教育現場における様々な教育問題と、自らのこれまでの学校教育での学び、そして現在の大学での学びを素材にグループ・ディスカッションをおこない、上記について確認、共有する。</p> <p>第10回：教育課程の編成原理：教育課程の原理と意義：学校で何を、いつ、どのような順序で教え、学ぶのか、という教育課程のあり方について、教育の目的・目標、学習指導要領、そして地域・子どもの実態に即した編成原理、学習方法について学ぶ。</p> <p>第11回：教育課程の経営と評価：教育課程の運営と管理といった、カリキュラム・マネジメントや教育評価について学習する。</p> <p>第12回：教育課程の検討と作成1 カリキュラムの検討：具体的なカリキュラム、指導案の事例をもとに、その編成原理や方法を学び、特徴や課題をグループごとに検討し発表する。</p> <p>第13回：教育課程の検討と作成2 授業案の作成：具体的なケースを想定してカリキュラムを検討し、授業案を作成する。</p> <p>第14回：教育課程の検討と作成3 授業案の検討：具体的なケースを想定してカリキュラムを検討し、グループごとに授業案を検討する。</p> <p>第15回：本講のまとめ...社会背景に伴う教育課程の変遷、教育課程の編成原理と意味、教育課程を経営する（カリキュラム・マネジメント）意義について改めて確認する。</p>
テキスト	<p>管理栄養学科受講者：小学校学習指導要領          法学部受講者：中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領(2017年3月告示、文部科学省)          経済・経営学部受講者：高等学校学習指導要領(2017年3月告示、文部科学省)</p>
参考書	<p>小学校学習指導要領解説総則編、中学校学習指導要領解説総則編、高等学校学習指導要領解説総則編(2017年3月、文部科学省)</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	<p>含む</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>テーマによりグループディスカッションをおこなう（1，2回程度）。</p>
実務経験のある担当教員による授業	<p>該当しない</p>
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>直接またはメールにより対応する。</p>

フィードバックの方法	授業時またはクラスルーム上で対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	日常的に新聞に目を通すことを求める。毎日ニュースに触れること、その中で少なくとも教育・保育・福祉の話題について自らの考えを深めることを必須とする。その習慣をつけることが、本講の内容理解の前提となる。その他、授業時に指示する予習・復習等を求める。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17. パートナースhipで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(教)道徳の理論と指導法 / The Study of Moral Education
時間割コード Course Code	60008
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	水野 達彦
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水野 達彦 (教育保育学科)
授業の目標	道徳教育の歴史や普遍的な理念を踏まえるとともに、教科科を受け、今日的な課題について、多面的にとらえられるようにする。また、児童生徒の道徳性の発達と道徳教育の授業理論をもとにした、学習指導案の作成と模擬授業の実践を通して、教育現場における道徳の時間の指導の在り方を体感的に学ばせる。
授業の概要	道徳教育の推進に必要な不可欠な知識、教養については、講義形式でわかりやすく教授する。その上で、アクティブラーニングを積極的に取り入れ、身につけた知識や教養を、具体的実践につなげる汎用的能力の育成を図る。その際、グループディスカッションや模擬授業を積極的に取り入れるとともに、自己評価・他者評価活動を重視する。さらに、「道徳教育に関する課題意識と解決方法」について、学修前（第2時）と学修後（第15時）の自らの変容を確認することにより、メタ認知の有効性を体感させる。
評価方法	出席状況・授業への取り組み状況（見とり及び振り返りカードの記載内容）30%、課題小レポート（2回課す）30%、最終筆記試験40%を、総合的に判断し評価する。特に、演習や模擬授業に対する積極性と取り組みの妥当性に重きを置く。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション、道徳教育とは（AL私にとっての道徳教育）</li> <li>2 学校教育における道徳的課題と解決方法（ALいじめ問題をどう取り上げるか）</li> <li>3 道徳教育の歴史（ALいのちの教育をどう進めるか）</li> <li>4 子ども心の成長と道徳性の発達（AL情報モラルをどう学ばせるか）</li> <li>5 中学校新学習指導要領における「特別の教科 道徳」と高等学校新学習指導要領における「道徳教育」のねらいと指導計画（AL問題解決型の授業とは）</li> <li>6 道徳教育の授業理論（ALモラルジレンマの授業とは）</li> <li>7 「考え、議論する道徳」とは（AL授業ビデオの視聴）</li> <li>8 教材の収集と開発（AL授業ビデオの分析）</li> <li>9 多様な考えを表出させる発問の工夫（AL発問を考える）</li> <li>10 道徳教育における評価（AL発問を吟味する）</li> <li>11 読み物教材を用いた授業の在り方（AL指導案の作成）</li> <li>12 視聴覚教材を用いた授業の在り方（AL指導案の検討）</li> <li>13 授業実践例（中1）分析（AL模擬授業）</li> <li>14 授業実践例（中3）分析（AL模擬授業）</li> <li>15 道徳的課題と解決方法の見直し（AL学びの成果のふり返し）</li> </ol> <p>定期試験 *（AL）は、アクティブラーニング（主体的で深い学修を意識した授業）を意味する。</p>
テキスト	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説「特別の教科 道徳編」（文部科学省） 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「特別の教科 道徳編」（文部科学省）
参考書	なし。必要なものは授業者が用意する。

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業計画にALで記載した内容（毎回実施）
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	毎時間、授業の終了時に受け付ける。また、メールでの質問にも答える。
フィードバックの方法	毎回実施する「学びのふり返しカード」及び課題小レポートには、必ず朱筆を入れ、フィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト及び授業者が配布した参考書や資料を読み込み、毎回の授業の予習を行わせる。（合計15時間）</li> <li>・毎回の授業について復習を義務づけるとともに、毎回次の授業に関わる課題を提示し、それに答えさせる。（合計30時間）</li> <li>・教材の読み込み・発問の吟味等、指導案の作成準備（10時間）</li> <li>・模擬授業の準備（5時間）</li> </ul>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>2.情報分析力</li> <li>3.課題発見力</li> <li>4.構想力</li> </ul>
PROGコンピテンシーの要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>7.課題発見力</li> <li>8.計画立案力</li> <li>9.実践力</li> </ul>

開講科目名 Course	(教)道徳の理論と指導法(栄養) / The Study of Moral Education
時間割コード Course Code	60009
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	水野 達彦
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水野 達彦(教育保育学科)
授業の目標	道徳教育の歴史や普遍的な理念を踏まえるとともに、教科化を受け、今日的な課題について、多面的にとらえられるようにする。また、児童生徒の道徳性の発達と道徳教育の授業理論をもとにした、学習指導案の作成と模擬授業の実践を通して、教育現場における道徳科の指導の在り方を体感的に学ばせる。
授業の概要	道徳教育の推進に必要な不可欠な知識、教養については、講義形式でわかりやすく教授する。その上で、アクティブラーニングを積極的に取り入れ、身につけた知識や教養を、具体的実践につなげる汎用的能力の育成を図る。その際、グループディスカッションや模擬授業を取り入れるとともに、自己評価・他者評価を重視する。さらに、「道徳教育に関する課題意識と解決方法について、学修前(第2時)と学修後(第15時)の自らの変容を確認することにより、メタ認知の有効性を体感させる。
評価方法	出席状況・授業への取り組み状況(見とり及びふり返りカードの記載内容)30%、課題小レポート(2回課す)30%、最終筆記試験40%を、総合的に判断し評価する。特に、演習や模擬授業に対する積極性と取り組みの妥当性に重きを置く。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	1 ガイダンス 道徳とは・道徳教育とは(AL 私の受けてきた道徳教育) 2 道徳教育に関する課題意識と解決方法(AL いじめ問題をどう取り上げるか) 3 道徳教育の歴史(AL いのちの教育の進め方) 4 子ども心の成長と道徳性の発達(AL 情報モラルをどう学ばせるか) 5 道徳科の目標と指導計画(AL 「問題解決型」の授業とは) 6 道徳教育の授業理論(AL 「モラルジレンマ」の授業とは) 7 「考え、議論する道徳」とは(AL 授業ビデオの視聴) 8 教材の収集と開発(AL 授業ビデオの分析) 9 多様な考えを表出させる発問の工夫(AL 発問を考える) 10 道徳科の評価(AL 発問を吟味する) 11 読み物教材を用いた授業の在り方(AL 指導案の作成) 12 視聴覚教材を用いた授業の在り方(AL 指導案の検討) 13 授業実践例(低学年)の分析(AL 模擬授業) 14 授業実践例(高学年)の分析(AL 模擬授業) 15 道徳教育に関する課題意識と解決方法の見直し(AL 学びのふり返り) 定期試験
テキスト	小学校学習指導要領(平成29年告示)解説「特別の教科 道徳編」(文部科学省) 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説「特別の教科 道徳編」(文部科学省)
参考書	なし。必要なものは授業者が用意する。

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業計画にALで記載した内容（毎回実施）
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	毎時間、授業の終了前に受け付ける。また、メールでの質問にも答える。
フィードバックの方法	毎回実施する「学びのふり返しカード」及び課題小レポートには、必ず朱筆を入れ、フィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト及び授業者が配布した参考書や資料を読み込み、毎回の授業の予習を行わせる。（15時間）</li> <li>・毎回の授業について復習を義務づけるとともに、毎回次の授業に関わる課題を提示し、それに答えるよう にさせる。（合計30時間）</li> <li>・教材の読み込み・発問の吟味等、指導案の作成準備（10時間）</li> <li>・模擬授業の準備（5時間）</li> </ul>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>2.情報分析力</li> <li>3.課題発見力</li> <li>4.構想力</li> </ul>
PROGコンピテンシーの要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>7.課題発見力</li> <li>8.計画立案力</li> <li>9.実践力</li> </ul>



開講科目名 Course	(教)特別活動・総合的な学習の時間の指導法 / Instructional Method of Special Activities and the Period for Integrated Studies
時間割コード Course Code	60010
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	鎌倉 博
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	鎌倉 博 (教育保育学科)
授業の目標	<p>学校教育活動には、教科教育と教科外教育の2つがあります。本講座は、教科書等の資料を活用し、年間学習指導計画に基づいて系統的に教育活動を展開する教科教育とは別の、教科外としての「特別活動」及び「総合的な学習の時間」についての認識を深め、その指導法について学んでいきます。</p> <p>。知識・理解の領域 「特別活動とは」「総合的な学習の時間とは」そもそもどのような意義をもつ教育活動であるのかが理解できるようになる。</p> <p>技能の領域 児童・生徒の視点に立って特別活動及び総合的な学習の時間を展開できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 児童・生徒の視点に立って特別活動及び総合的な学習の時間を展開しようとする指導性が発揮できるようになる。</p> <p>思考判断の領域 児童・生徒の視点に立って特別活動や総合的な学習の時間を展開していくための題材を見出すことができるようになる。</p> <p>関心意欲の領域 児童・生徒の視点に立った多様な特別活動や総合的な学習の時間の実践事例に自ら触れていこうとする意欲が持てるようになる。</p> <p>体験探求の領域 児童・生徒の視点に立った多様な特別活動や総合的な学習の時間の実践事例に自ら触れていくことで、よりよい教育活動を展開するイメージを深めていくことができるようになる。</p>
授業の概要	<p>現代社会・地域・学校生活における課題や自己の生き方について考え深めながら、児童・生徒達が主体的に問題解決・自己実現していけるような資質を育ていける特別活動や総合的な学習の時間とはどのような教育活動であるのかを、学習指導要領の理解とともに具体的な実践に触れたりディスカッションしたりして理解を深め、その指導がイメージできるようにしていきます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>テスト2回 70%</p> <p>指導法研究レポート 20%</p> <p>調査体験 10%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特別欠席を除く欠席は3回以内とする

授業計画	<p>第1回：教科外教育 / 「総合的な学習の時間」とは</p> <p>第2回：地域探究する総合的な学習の時間</p> <p>第3回：環境問題を考える総合的な学習の時間【調査レポート作成の指示あり】</p> <p>第4回：修学旅行と絡めた総合的な学習の時間</p> <p>第5回：国際理解を深める総合的な学習の時間</p> <p>第6回：障がい理解を深める総合的な学習の時間</p> <p>第7回：生き方や進路を深める題材での総合的な学習の時間</p> <p>第8回：総合的な学習の時間の指導計画</p> <p>第9回：【テスト】【題材研究レポート作成の指示あり】 / 「特別活動」とは</p> <p>第10回：児童生徒の視点での学級活動（日常の学級経営）</p> <p>第11回：児童生徒の視点での学級活動（いじめ・学級内トラブルの対応）</p> <p>第12回：児童生徒の視点での学校行事</p> <p>第13回：児童生徒の視点での児童会・生徒会活動</p> <p>第14回：児童生徒の視点でのクラブ活動・部活動</p> <p>第15回：【テスト】</p> <p>教育実習の参加等で授業順や内容を一部変更する場合がある</p>
テキスト	<p>小学校、中学校（以上平成29年告示）、高等学校（平成30年告示）のいずれかの学習指導要領 鎌倉博『きらめく小学生 自由な教育の中で育つ子どもたち』（合同出版）</p> <p>23年間勤めてきた私立小学校では、1980年代から総合学習（現「総合的な学習の時間」）に取り組んでいました。その実践として「地域活性化」「河川環境改善」「沖縄学習」「障がい者理解」を題材に探究学習を推進してきました。中学・高校でも取り組めると評されている、授業者自身の実践記録集です。</p>
参考書	<p>毎時配布する」配布資料とclassroomにアップする「補講用画面」</p> <p>各学校学習指導要領「特別活動編」「総合的な学習の時間編」の解説書</p> <p>文部科学省『生徒指導提要』（令和4年発行）</p> <p>中日新聞朝刊 投書欄「次世代から」</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>総合的な学習の時間の講義の中で提起する「調査活動」、及び教員が実際に行う「題材研究」（レポートにまとめる）を実践してもらいます。また、特別活動では、学級・学校で起こり得る問題にどのように対処するかで、児童・生徒の視点で考える「グループ・ディスカッション」を行います。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	<p>33年間小学校教員を務め、実際に特別活動及び総合学習（現「総合的な学習の時間」）を展開し指導してきました。本属校でも「総合的な学習の時間の指導法」の授業を担当しています。</p>
質問への対応方法	<p>授業時に随時質問できます。遠慮なく質問してください。</p> <p>授業外で急ぎ質問や相談がしたくなった場合には、メールも活用できるようにします。</p> <p>アドレスは t20n6138@nagoya-ku.ac.jp です。</p>
フィードバックの方法	<p>テスト、調査レポート、指導法研究レポートは授業内で返却し、全体講評もします。</p>

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>第1回 学習指導要領を読んで「総合的な学習（探究）の時間」の理解を深める。（2時間）</p> <p>第2回 『きらめく小学生』のpp.83 - 124を読んで、地域を題材にした探究学習の内容と展開の理解を深める。（4時間）</p> <p>第3回 『きらめく小学生』のpp.83 - 124を読んで、河川の水質を題材にした探究学習の内容と展開の理解を深める。また、自身の町を例にして「調査レポート」を作成する。（4時間）</p> <p>第4回 『きらめく小学生』のpp.169 - 190を読んで、沖縄を例にして修学旅行に絡めた探究学習の内容と展開の理解を深める。（4時間）</p> <p>第5回 配布資料を読んで、関わり合いを通して国際理解を深める探究学習の内容と展開の理解を深める。（4時間）</p> <p>第6回 『きらめく小学生』のpp.191 - 236を読んで、障がい者の生活や願いに着目する探究学習の内容と展開の理解を深める。（4時間）</p> <p>第7回 『きらめく小学生』のpp.51 - 81を読んで、進路と生き方、自分の心と体等を題材にした探究学習の内容と展開の理解を深める。また、児童生徒の学習指導にふさわしい多様な性の捉え方、及び性と生の教育に関わる正しい知識を学ぶ。（4時間）</p> <p>第8回 テスト に備えて総復習する。（6時間）</p> <p>第9回 学習指導要領を読んで「特別活動」及び教科外の評定の仕方の理解を深める。（2時間）</p> <p>第10回 配布資料を読んで、楽しく好ましい人間関係を築く学級づくりのあり方の理解を深める。また、『きらめく小学生』にある題材を元にして「指導法レポート」をまとめる。（6時間）</p> <p>第11回 学級内で起こり得る様々なトラブルをどのように捉え、どのように対処したらよいかを、『生徒指導提要』及び配布資料を読んで理解を深める。（4時間）</p> <p>第12回 配布資料を読んで、好ましい学校行事のあり方の理解を深める。（4時間）</p> <p>第13回 配布資料を読んで、児童会・生徒会活動のあり方と、そのための指導法の理解を深める。また、中日新聞の投書欄「次世代から」を読んで、児童生徒の日々の願いを掴む。（4時間）</p> <p>第14回 配布資料を読んで、好ましいクラブ活動・部活動のあり方の理解を深める。また、テストに備えて総復習する。（4時間）</p> <p>第15回 教科外教育である「総合的な学習の時間」「特別活動」の果たしている役割と、具体的な実践を振り返る。（4時間）</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう</p> <p>3.すべての人に健康と福祉を</p> <p>5.ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>6.安全な水とトイレを世界中に</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11.住み続けられるまちづくりを</p> <p>13.気候変動に具体的な対策を</p> <p>14.海の豊かさを守ろう</p> <p>16.平和と公正をすべての人に</p> <p>17.パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1.情報収集力</p> <p>2.情報分析力</p> <p>3.課題発見力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>7.課題発見力</p> <p>9.実践力</p>

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	教科外教育 / 「総合的な学習の時間」とは	学習指導要領上の「総合的な学習(探究)の時間」の位置づけ、学習目標、内容を学ぶ。	学習指導要領を解説して、「総合的な学習の時間」の左記の理解を深める。
2	地域探究する総合的な学習の時間	地域を題材にした探究学習の内容と展開を学ぶ。	画像で補いながら『きらめく小学生』のpp.83 - 124を解説し、左記の理解を深める。
3	環境問題を考える総合的な学習の時間	河川の水質を題材にした探究学習の内容と展開を学ぶ。	画像で補いながら『きらめく小学生』のpp.124 - 155を解説し、左記の理解を深める。また、自身の町を例にして「調査レポート」を提出できるようにする。
4	修学旅行に絡めた総合的な学習の時間	沖縄を例にして修学旅行に絡めた探究学習の内容と展開を学ぶ。	画像で補いながら『きらめく小学生』のpp.169 - 190を解説し、左記の理解を深める。
5	国際問題を考える総合的な学習の時間	関わり合いを通して国際理解を深める探究学習の内容と展開を学ぶ。	画像で補いながら配布資料を解説し、左記の理解を深める。
6	障がい理解を深める総合的な学習の時間	障がい者の生活や願いに着目する探究学習の内容と展開を学ぶ。	画像で補いながら『きらめく小学生』のpp.191 - 236を解説し、左記の理解を深める。
7	生き方や進路を深める総合的な学習の時間	進路と生き方、自分の心と体等を題材にした探究学習の内容と展開を学ぶ。	画像で補いながら『きらめく小学生』のpp.51 - 81を解説し、左記の理解を深める。
8	総合的な学習の時間の指導計画	名芸大生が作成した「指導計画案」を参考にして、指導計画案の書き方を学ぶ。	「総合的な学習の時間の指導計画案」のつくりを解説し、各自が作成できるようにする。
9	「特別活動」とは	学習指導要領上の「特別活動」の位置づけ、学習目標、内容及び教科外の評定の仕方を学ぶ。	学習指導要領を解説して、「特別活動」の左記の理解を深める。
10	児童生徒の視点での学級活動(日常の学級づくり)	児童生徒の意見を取り入れながら、楽しく好ましい人間関係を築く学級づくりのあり方を学び考え深める。	配布資料を解説し、グループディスカッションで討議することで、左記の理解を深める。
11	児童生徒の視点での学級活動・学級内トラブルでの対応)	学級内で起こり得る様々なトラブルに対してどのように指導するとよいのかを学び考え深める。	『生徒指導提要』及び配布資料を解説し、グループディスカッションで討議することで、左記の理解を深める。
12	児童生徒の視点での学校行事	好ましい学校行事のあり方を学び考え深める。	配布資料を解説し、グループディスカッションで討議することで、左記の理解を深める。
13	児童生徒の視点での児童会・生徒会活動	児童生徒主体の活動としての児童会・生徒会のあり方と、そのための指導法を学び考え深める。	配布資料及び中日新聞の投書欄「次世代から」を解説し、グループディスカッションで討議することで、左記の理解を深める。
14	児童生徒の視点でのクラブ活動・部活動	好ましいクラブ活動・部活動のあり方を学び考え深める。	配布資料を解説し、グループディスカッションで討議することで、左記の理解を深める。

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	本時の総復習	教科外教育である「総合的な学習の時間」「特別活動」の果たしている役割と、具体的な実践を振り返る。	「総合的な学習の時間」「特別活動」の総まとめをして、全体としての理解を深める。

開講科目名 Course	(教)教育の方法・技術 / Teaching Methods and Techniques
時間割コード Course Code	60012
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	伊藤 達也
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	伊藤 達也 (教育保育学科)
授業の目標	<p>教育の方法・教育の技術、情報機器や教材の活用、教育評価の種類と方法に関する基礎的な知識、技能を身に付ける。また、教育活動の基本となる用語や概念の意味を理解し教育現場で活用・応用できることを目標とする。</p> <p>知識理解 教育活動の基本となる用語や指導方法を理解する。  技能 情報機器の活用方法や教材・教具の利用方法や教育評価の種類や方法を知り自らシミュレーションして実践的応用をすることができる。  態度 指向性 日常の中で起きている教育問題について関心を持ち、自らがどのように感じて対応できるかを常に考えることができる。</p>
授業の概要	<p>教育課程の意義と役割  学習指導要領の変遷と新学習指導要領の具体的内容  各教科・各領域における授業づくり  学習指導案の研究と実習  教育・学習評価の意味とその働きと活用方法を修得する  メディアの教育的活用とICTの活用方法  パフォーマンス課題の設定とルーブリック（評価基準）を作成</p>
評価方法	<p>小テスト（40％）2回実施予定  課題（指導案作成・パフォーマンス課題とルーブリックの作成（40％）  教育問題に関する時事問題課題と教材作成（20％）を総合的に評価します。  課題の提出については、期限を遅れないように提出してください。 期限に遅れた提出物は評価できません。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業に11回以上参加していない場合（特別欠席は除く）

授業計画	<p>第1回 教育方法と授業づくり 概要 講義のガイダンス</p> <p>第2回 各領域における授業づくり 概要 各教科における授業づくりの特徴</p> <p>第3回 各領域における授業づくり 概要 道徳・総合的な時間について</p> <p>第4回 授業づくりの基礎理論 概要 授業を構成する要素</p> <p>第5回 授業デザイン 概要 学習形態の工夫(一斉授業・個に応じた指導・協同学習・探求的な学習)</p> <p>第6回 授業デザイン 概要 学習指導案の内容と形式</p> <p>第7回 学習指導案の作成 概要 各教科、領域の指導案や幼・保の日案の作成 (実習)</p> <p>第8回 指導案検討会 概要 各指導案を同じ教科・領域のグループによる検討会と相互評価</p> <p>第9回 学習場面に応じたICT活用の意義と活用 概要 学校教育におけるICTの活用を支える環境整備・外部人材・情報セキュリティの重要性を理解する</p> <p>第10回 情報リテラシーの意味とメディアの活用方法 概要 情報活用能力と情報モラルの理解</p> <p>第11回 メディアの教育的活用 概要 NIEの取り組み例 新聞を活用した教材作り(実習) NIE (Newspaper in Education)</p> <p>第12回 学びを生かすための評価のあり方 概要 教育評価の種類と機能(診断的評価・形成期評価・総括的評価)</p> <p>第13回 学びを生かすための評価のあり方 概要 京都大学大学院教育学研究科の評価方法の研究と活用法</p> <p>第14回 「真正のの評価」論と授業づくり (パフォーマンス課題とルーブリック) 概要 パフォーマンス課題 の設定とルーブリックの作成 (実習)</p> <p>第15回 作成したパフォーマンス課題とルーブリックのモデレーション(グループ 活動と相互評価) 概要 第14回の講義で作成したパフォーマンス課題とルーブリックをグループ内で議論し相互評価しあう。</p>
テキスト	<p>講義時に配布するワークシートや配布プリント</p> <p>Q&amp;Aでよくわかる見方・考え方を育てるパフォーマンス評価 西岡加名恵・石井英真 編著 明治図書 2000円 +税</p>
参考書	<p>最新教育動向2023～2024 明治図書 2000円</p> <p>新しい教育評価 有斐閣コンパクト 2000円</p> <p>パフォーマンス評価にどう取り組むか 日本標準ブックレットNo11 700円</p> <p>保育方法・指導法の研究 ミネルバ書房 2400円 (幼・保育園履修者用)</p> <p>よく分かる授業論 ミネルバ書房 2600円</p> <p>文部科学省 最新版 学習指導要領(幼・小・中・高) 栄養は除く 各自の各教科の教科書(幼保栄養は除く)</p> <p>その他 適宜示します。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>各教科、領域の指導案や幼・保の日案の作成とグループ活動</p> <p>新聞を活用した教材作り</p> <p>パフォーマンス課題の設定とルーブリックの作成とグループ活動と相互評価</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後に個別で対応します。
フィードバックの方法	原則 翌週に返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>講義で配布したプリントやワークシートを使って、一講座につき一時間の復習を必要とします。</p> <p>小テストの準備として3時間程度の復習が必要です。</p> <p>評価についての講義は、テキストを使って毎時間2時間程度の予習が必要です。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	1. 貧困をなくそう
SDGs 17の目標(11～17)	

PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力 7.課題発見力 8.計画立案力



開講科目名 Course	(教)教育の方法と技術 / Teaching Methods and Techniques
時間割コード Course Code	60013
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3
主担当教員 Main Instructor	伊藤 達也
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	伊藤 達也 (教育保育学科)
授業の目標	<p>教育の方法・教育の技術、情報機器や教材の活用、教育評価の種類と方法に関する基礎的な知識、技能を身に付ける。また、教育活動の基本となる用語や概念の意味を理解し教育現場で活用・応用できることを目標とする。</p> <p>知識理解 教育活動の基本となる用語や指導方法を理解する。  技能 情報機器の活用方法や教材・教具の利用方法や教育評価の種類や方法を知り自らシミュレーションして実践的応用をすることができる。  態度 指向性 日常の中で起きている教育問題について関心を持ち、自らがどのように感じて対応できるかを常に考えることができる。</p>
授業の概要	<p>教育課程の意義と役割  学習指導要領の変遷と新学習指導要領の具体的内容  各教科・各領域における授業づくり  学習指導案の研究と実習  教育・学習評価の意味とその働きと活用方法を修得する  メディアの教育的活用とICTの活用方法  パフォーマンス課題の設定とルーブリック（評価基準）を作成</p>
評価方法	<p>小テスト（40％）2回実施予定  課題（指導案作成・パフォーマンス課題とルーブリックの作成（40％）  教育問題に関する時事問題課題と教材作成（20％）を総合的に評価します。  課題の提出については、期限を遅れないように提出してください。 期限に遅れた提出物は評価できません。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業に11回以上参加していない場合（特別欠席は除く）

授業計画	<p>第1回 教育方法と授業づくり 概要 講義のガイダンス</p> <p>第2回 各領域における授業づくり 概要 各教科における授業づくりの特徴</p> <p>第3回 各領域における授業づくり 概要 道徳・総合的な時間について</p> <p>第4回 授業づくりの基礎理論 概要 授業を構成する要素</p> <p>第5回 授業デザイン 概要 学習形態の工夫(一斉授業・個に応じた指導・協同学習・探求的な学習)</p> <p>第6回 授業デザイン 概要 学習指導案の内容と形式</p> <p>第7回 学習指導案の作成 概要 各教科、領域の指導案や幼・保の日案の作成 (実習)</p> <p>第8回 指導案検討会 概要 各指導案を同じ教科・領域のグループによる検討会と相互評価</p> <p>第9回 学習場面に応じたICT活用の意義と活用 概要 学校教育におけるICTの活用を支える環境整備・外部人材・情報セキュリティの重要性を理解する</p> <p>第10回 情報リテラシーの意味とメディアの活用方法 概要 情報活用能力と情報モラルの理解</p> <p>第11回 メディアの教育的活用 概要 NIEの取り組み例 新聞を活用した教材作り(実習) NIE (Newspaper in Education)</p> <p>第12回 学びを生かすための評価のあり方 概要 教育評価の種類と機能(診断的評価・形成期評価・総括的評価)</p> <p>第13回 学びを生かすための評価のあり方 概要 京都大学大学院教育学研究科の評価方法の研究と活用法</p> <p>第14回 「真正のの評価」論と授業づくり (パフォーマンス課題とルーブリック) 概要 パフォーマンス課題 の設定とルーブリックの作成 (実習)</p> <p>第15回 作成したパフォーマンス課題とルーブリックのモデレーション(グループ 活動と相互評価) 概要 第14回の講義で作成したパフォーマンス課題とルーブリックをグループ内で議論し相互評価しあう。</p>
テキスト	<p>講義時に配布するワークシートや配布プリント</p> <p>Q&amp;Aでよくわかる見方・考え方を育てるパフォーマンス評価 西岡加名恵・石井英真 編著 明治図書 2000円 +税</p>
参考書	<p>最新教育動向2023～2024 明治図書 2000円 新しい教育評価 有斐閣コンパクト 2000円 パフォーマンス評価にどう取り組むか 日本標準ブックレットNo11 700円 保育方法・指導法の研究 ミネルバ書房 2400円 (幼・保育園履修者用) よく分かる授業論 ミネルバ書房 2600円 文部科学省 最新版 学習指導要領(幼・小・中・高) 栄養は除く 各自の各教科の教科書(幼保栄養は除く) その他 適宜示します。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各教科、領域の指導案や幼・保の日案の作成とグループ活動 新聞を活用した教材作り パフォーマンス課題の設定とルーブリックの作成とグループ活動と相互評価
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後に個別で対応します。
フィードバックの方法	原則翌週に返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義で配布したプリントやワークシートを使って、一講座につき一時間の復習を必要とします。 小テストの準備として3時間程度の復習が必要です。 評価についての講義は、テキストを使って毎時間2時間程度の予習が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11～17)	

PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力 7.課題発見力 8.計画立案力

開講科目名 Course	(教)情報通信技術の活用
時間割コード Course Code	60014
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3
主担当教員 Main Instructor	村山 聡江
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	3 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	村山 聡江 (経営学部)
授業の目標	<p>教育現場におけるICT（情報通信技術）に関する知識を身につけ、その活用の意義や理論について理解する。 またICTツールを利用した演習を行うことで、実践的なスキルを身につける。</p> <p>知識・理解の領域 ICT教育の歴史や現在行われている取り組み、求められている役割について理解できる 技能の領域 教育現場でのICTツールの選択や活用ができる 態度・志向性の領域 ICT教育の目的と今後目指すべき姿が理解できる</p>
授業の概要	<p>教育におけるICT（情報通信技術）の活用について、情報機器やデジタル教材、最先端技術を使用した教育方法についての解説・事例紹介・演習を通して学ぶ。また1人1台の情報端末の活用を踏まえた児童生徒の情報活用能力の育成について、事例の紹介などを通して解説し、学生自身が体験的に学習する機会を設けることで、理解を深める。 デジタル教材を利用した模擬授業や、個別最適化・協働的な学びのためのICTツールの利用、保護者や地域連携、校務の効率化につながるICT利用の演習を多く行い、実践的なスキルを身につける。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>・授業における課題の取り組み姿勢・提出と期末試験により総合的に行う ・各回の授業時の課題（60%）、期末試験（40%）</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	2 / 3 以上の出席が無い場合（欠席は2回まで）。
授業計画	<p>第1回：ガイダンス 現代社会およびこれからの学校におけるICTの役割について 第2回：教育におけるICTの歴史と最先端技術 第3回：対話的・協働的な学びを深めるICTの活用 第4回：ICTによる学びの保証と遠隔授業 第5回：特別支援・幼児教育におけるICT活用 第6回：プログラミング教育がめざすこと 第7回：生徒児童によるICT活用と校務の効率化 第8回：情報モラル・情報セキュリティの重要性と、今後求められるICT教育</p>
テキスト	

参考書	幼稚園教育要領 小学校学習指導要領 小学校学習指導要領解説 中学校学習指導要領 中学校学習指導要領解説 高等学校学習指導要領 高等学校学習指導要領解説 その他、授業に必要な資料は、都度授業中に指示する
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ICTを活用した模擬授業の実施、感想の共有を行う。 簡単なプログラミングや、アンケートフォーム作成、QRコードの作成などの実習を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	小・中・高校生へのプログラミング教育や、VR作成及び生成AIのワークショップ、教育系アプリ開発の経験のある教員が、ICTを利用した教育の意義と効果を解説する科目である。
質問への対応方法	・授業後に対応 ・Google Classroomで対応 ・メール対応 (murayama-t@nagoya-ku.ac.jp)
フィードバックの方法	授業時またはClassroom上で対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、次回テーマに関連する文献やインターネットを利用した調査、授業後の振り返りや課題作成（授業でやりきれなかったもの）など、4時間の予習復習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	2. 協同力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	(教)生徒指導・進路指導(中・高) / Guidance and Counseling
時間割コード Course Code	60015
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	飯田 勝巳
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	1 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	飯田 勝巳(管理栄養学科)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒指導は、個性の伸長を図りながら、主体的に社会の中で有意義に活動できる人間を育てることであることを理解し、自身の歩みと重ね合わせながらこれからの将来のあり方を考えることができる。</li> <li>・ 児童が抱える今日的な課題と生徒指導の意義を知り、生徒理解や集団指導、個別指導の役割とその指導の方法や授業の在り方について実践を通して理解する。</li> <li>・ 個別の課題を抱える生徒の特徴とともに学校の生徒指導体制や関係機関との連携協力体制の構築が重要であることを理解し、グループワークを通して多様に考えることができる。</li> <li>・ キャリア教育(進路指導)の必要性や意義を知り、キャリア教育(進路指導)で育つべき「基礎的・汎用的能力」について指導事例を通して理解する。</li> </ul>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒指導の意義を知り、生徒指導の4つの機能を生かした教科や特別活動等の授業を体験する。</li> <li>・ 今日の課題となっている「いじめ、不登校への対応」「発達障害の生徒への理解と対応」「校則と懲戒、体罰」等の問題について、それぞれの事例をもとにグループワークやディスカッションを通し協議する。</li> <li>・ 教育相談の教育的意義や人間関係構築を支援する方法について演習を通して学習する。</li> <li>・ キャリア教育(進路指導)の意義や育つべき能力について理解し、ガイダンスやキャリア・カウンセリングの方法を考える。</li> <li>・ 教師として教育理念や指導力向上の重要性を知り、学年集会等での指導講話の立案・実践をし、相互に評価し合う。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への参加姿勢 20%</li> <li>・ (毎回授業時に配布する)学習プリントの書き込み度 30%(欠席は減点要素になる)、</li> <li>・ 課題に対する内容(グループワークでの積極性、対話を通じた関わり合い、コミュニケーション力) 20%</li> <li>・ 指導講話原稿 10% ・ 授業の振り返りプリント 10% ・ 記述テスト 10%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 欠席回数が5回以上ある場合</li> <li>・ 遅刻が多い場合</li> </ul>

授業計画	<p>第1回 生徒指導の意義と課題、及び オリエンテーション</p> <p>第2回 教科における生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導と教科・道徳の関わり、授業の中での協同的な学びについて考える。</li> </ul> <p>第3回 生徒指導と生徒理解1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導の基本は生徒理解であることを知り、自主性と自律性を育む「ほめる・叱る」の方法について考える。</li> </ul> <p>第4回 生徒指導と生徒理解2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個を生かすためのより効果的な「ほめる言葉」をグループワークを通して作成する。</li> </ul> <p>第5回 教育相談1 教育相談と個別指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談に用いるカウンセリング技法を知り、教育相談での個別指導の方法を理解する。</li> </ul> <p>第6回 教育相談2 人間関係を構築する生徒指導の手法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ソーシャルスキルトレーニングやアンガーマネジメント等を通し人間関係の構築を演習する。</li> </ul> <p>第7回 個別の課題を抱える児童生徒への指導1 ケーススタディ「いじめ、不登校」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いじめの事例をもとに生徒や保護者への対応、校内の協力体制、関係機関との連携について考える。</li> </ul> <p>第8回 個別の課題を抱える児童生徒への指導2 ケーススタディ「発達障害の生徒」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発達障害のある生徒の事例をもとに生徒や保護者への対応、校内の協力体制、関係機関との連携について考える。</li> </ul> <p>第9回 生徒指導に関する法制度 校則と懲戒、体罰</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校則や懲戒、体罰について法的根拠やその内容を理解し、体罰と生徒指導について考える。</li> </ul> <p>第10回 生徒指導と進路指導1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育(進路指導)の意義を理解し、キャリア教育(進路指導)で育つべき「基礎的・汎用的能力」の育成について考える。</li> </ul> <p>第11回 生徒指導と進路指導2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育(進路指導)を進める上での、ガイダンスとキャリア・カウンセリングの在り方や方法を理解する。</li> </ul> <p>第12回 生徒指導と集団指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>集団指導の教育的意義を理解し、集団での合意形成(コンセンサス)と目的達成の在り方について考える。</li> </ul> <p>第13回 生徒指導と教師の指導力1(1分間スピーチの作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日常の集団指導として、ST(学級)での教師講話を通し、生活の中での課題への対応の在り方を考える。</li> </ul> <p>第14回 生徒指導と教師の指導力2(指導講話の作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全校集会や学年集会での指導講話を通し、児童生徒の意識を高める発表の在り方を考え、それぞれの良い点を相互評価する。</li> </ul> <p>第15回 生徒指導・進路指導の振り返りと評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業の内容を振り返りまとめのテスト</li> </ul>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>文部科学省(編)「生徒指導提要」東洋館出版社 令和4年12月版</li> </ul>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループで与えられた課題を議論・発表し、それをもとに全体で論議し個々の考えを深める。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	翌週返却

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1回 生徒指導の意義と課題 テキストP.12、P.13 2回 教科における生徒指導 テキストP.18、P.46、P.51 3回 生徒指導と生徒理解1 テキストP.23 4回 生徒指導と生徒理解2 子を生かす褒める言葉を50個考えてくる 5回 教育相談1 テキストP.26、P.80 6回 教育相談2 テキストP.82 7回 個別の課題を抱える児童生徒への指導（いじめ、不登校）テキストP.120、P.122 8回 個別の課題を抱える児童生徒への指導（発達障害の生徒）テキストP.271 9回 生徒指導に関する法制度 テキストP.101～P.104 10回 生徒指導と進路指導1 テキストP.15 11回 生徒指導と進路指導2 テキストP.15 12回 生徒指導と集団指導 テキストP.25 13回 生徒指導と教師の指導力1 1分間スピーチを考えてくる 14回 生徒指導と教師の指導力2 生徒指導講話を考えてくる 15回 これまでの生徒指導に関わる学習の総復習
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	12.つくる責任つかう責任 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 4.感情制御力 7.課題発見力



開講科目名 Course	(教)生徒指導(栄養)
時間割コード Course Code	60016
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 5
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	飯田 勝巳
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	13C 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	飯田 勝巳(管理栄養学科)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒指導は、個性の伸長を図りながら、主体的に社会の中で有意義に活動できる人間を育てることであることを理解し、自身の歩みと重ね合わせながらこれからの将来のあり方を考えることができる。</li> <li>・ 児童が抱える今日的な課題と生徒指導の意義を知り、生徒理解や集団指導、個別指導の役割とその指導の方法や授業の在り方について実践を通して理解する。</li> <li>・ 個別の課題を抱える生徒の特徴とともに学校の生徒指導体制や関係機関との連携協力体制の構築が重要であることを理解し、グループワークを通して多様に考えることができる。</li> </ul>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒指導の意義を知り、生徒指導の4つの機能を生かした教科や特別活動等の授業を体験する。</li> <li>・ 今日的課題となっている「いじめ、不登校への対応」「発達障害の生徒への理解と対応」「校則と懲戒、体罰」等の問題について、それぞれの事例をもとにグループワークやディスカッションを通し協議する。</li> <li>・ 教育相談の教育的意義や人間関係構築を支援する方法について演習を通して学習する。</li> <li>・ 教師として教育理念や指導力向上の重要性を知り、学年集会等での指導講話の立案・実践をし、相互に評価し合う。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への参加姿勢 20%</li> <li>・ (毎回授業時に配布する)学習プリントの書き込み度 30%(欠席は減点要素になる)、</li> <li>・ 課題に対する内容(グループワークでの積極性、対話を通じた関わり合い、及び提出物) 20%</li> <li>・ 指導講話原稿 10% ・ 授業の振り返りプリント 10% ・ 記述テスト 10%</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 欠席回数が5回以上ある場合</li> <li>・ 遅刻が多い場合</li> </ul>

授業計画	<p>第1回 生徒指導の意義と課題、及び オリエンテーション</p> <p>第2回 教科における生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒指導と教科・道徳の関わり、授業の中での協同的な学びについて考える。</li> </ul> <p>第3回 生徒指導と生徒理解1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒指導の基本は生徒理解であることを知り、自主性と自律性を育む「ほめる・叱る」の方法について考える。</li> </ul> <p>第4回 生徒指導と生徒理解2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個を生かすためのより効果的な「ほめる言葉」をグループワークを通して作成する。</li> </ul> <p>第5回 教育相談1 教育相談と個別指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育相談に用いるカウンセリング技法を知り、教育相談での個別指導の方法を理解する。</li> </ul> <p>第6回 教育相談2 人間関係を構築する生徒指導の手法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ソーシャルスキルトレーニングやアンガーマネジメント等を通し人間関係の構築を演習する。</li> </ul> <p>第7回 個別の課題を抱える児童生徒への指導1 ケーススタディ「いじめ、不登校」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いじめの事例をもとに生徒や保護者への対応、校内の協力体制、関係機関との連携について考える。</li> </ul> <p>第8回 個別の課題を抱える児童生徒への指導2 ケーススタディ「発達障害の生徒」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発達障害のある生徒の事例をもとに生徒や保護者への対応、校内の協力体制、関係機関との連携について考える。</li> </ul> <p>第9回 生徒指導に関する法制度 校則と懲戒、体罰</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校則や懲戒、体罰について法的根拠やその内容を理解し、体罰と生徒指導について考える。</li> </ul> <p>第10回 個別の課題を抱える児童生徒への指導3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童虐待の定義や内容について理解し、生徒や保護者への対応、校内の協力体制、関係機関との連携について考える</li> </ul> <p>第11回 個別の課題を抱える児童生徒への指導4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報モラル教育について理解し、ネット上で起きる問題への対処方法や指導体制の在り方について考える。</li> </ul> <p>第12回 生徒指導と集団指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団指導の教育的意義を理解し、集団での合意形成（コンセンサス）と目的達成の在り方について考える。</li> </ul> <p>第13回 生徒指導と教師の指導力1（1分間スピーチの作成）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常の集団指導として、S T(学級)での教師講話を通し、生活の中での課題への対応の在り方を考える。</li> </ul> <p>第14回 生徒指導と教師の指導力2（指導講話の作成）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全校集会や学年集会での指導講話を通し、児童生徒の意識を高める発表の在り方を考え、それぞれの良い点を相互評価する。</li> </ul> <p>第15回 生徒指導・進路指導の振り返りと評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業の内容を振り返りまとめのテスト</li> </ul>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文部科学省(編)「生徒指導提要」東洋館出版社 令和4年12月版</li> </ul>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループで与えられた課題を議論・発表し、それをもとに全体で論議し個々の考えを深める。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	翌週返却

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1回 生徒指導の意義と課題 テキストP.12、P.13 2回 教科における生徒指導 テキストP.18、P.46、P.51 3回 生徒指導と生徒理解1 テキストP.23 4回 生徒指導と生徒理解2 子を生かす褒める言葉を50個考えてくる 5回 教育相談1 テキストP.26、P.80 6回 教育相談2 テキストP.82 7回 個別の課題を抱える児童生徒への指導（いじめ、不登校）テキストP.120、P.122 8回 個別の課題を抱える児童生徒への指導（発達障害の生徒）テキストP.271 9回 生徒指導に関する法制度 テキストP.101～P.104 10回 個別の課題を抱える児童生徒への指導3 テキストP.249 11回 個別の課題を抱える児童生徒への指導4 テキストP.172～P.173 12回 生徒指導と集団指導 テキストP.25 13回 生徒指導と教師の指導力1 1分間スピーチを考えてくる 14回 生徒指導と教師の指導力2 生徒指導講話を考えてくる 15回 これまでの生徒指導に関わる学習の総復習
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	12.つくる責任つかう責任 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 4.感情制御力 7.課題発見力

開講科目名 Course	(教)教育相談(中・高・栄養) / School Counseling
時間割コード Course Code	60017
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	多川 則子
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	13A講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	多川 則子(教育保育学科)
授業の目標	<p><b>教育目標</b> 子ども(児童や生徒)を取り巻く環境は複雑化し、絶えず変化をしています。そのことにより子どもは辛さや困難を抱えることが少なくありません。そこで、この授業では、子どもたちの抱える困難を理解し、子どもたちの育ちや学びを支援するために教育者が知っておくべき知識やスキルについて理解を深めます。また、子どもを支えるためには、他の教職員との連携や、学校内外の他職種他機関の連携も重要であることを理解します。</p> <p><b>学習成果</b> 知識・理解の領域 ・児童期や青年期に抱えやすい心理的な問題や課題に関する心理学的な知識を習得する。 ・教育相談の意義を説明できる。 ・様々な意見を整理しまとめる力、疑問点を見出す力がつく。</p> <p>技能の領域 ・教育者として必要なカウンセリングスキルを知る。 ・子どもが置かれた環境を想像し、あらゆる角度から子どもの気持ちを推測する。</p> <p>態度・志向性の領域 ・様々な価値観や考え方に触れ、子どもの支援に関して柔軟で多様な態度をもつ。 ・子どもの成長発達を支えるための援助を模索し探求し続ける姿勢をもつ。</p>
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童期や青年期の心理学的な問題にかかわるワークを行ったり、資料(事例、動画など)を提示したり、講義を行ったりする。まず、個人のシンキングタイムを取り、各自の気づきや感想をまとめる。</li> <li>2. 各自の気づきや感想を、グループワークにより共有する。全体に向けた発表により受講生全員での共有を行う。</li> <li>3. 各自の気づき感想、グループメンバーや他の受講生の意見、本時の気づき感想等を毎回記入する。適時提出を求める。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</li> </ol>
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 適宜提出を求める気づき感想の用紙、特別課題、最終課題のすべてを実施し、提出することが、単位修得の要件である。</li> <li>2. 毎回の授業に出席しワーク等を実施することが重要なため、欠席した場合は、欠席の理由にかかわらず、その日の内容に相当する補充課題を課す。補充課題をすべて提出しなければ、単位修得は不可とする。</li> <li>3. 気づき感想の用紙と特別課題(8割)、最終課題(2割)により評価する。</li> </ol>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席回数が3分の1を超えた場合は失格とする。

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：この授業で大切にしていること</p> <p>第2回 思春期の心理的問題 1：思春期の発達と不登校</p> <p>第3回 教育者に求められるカウンセリングスキル</p> <p>第4回 学校における教育相談 1：支援とは</p> <p>第5回 学校における教育相談 2：教育相談の三つの機能</p> <p>第6回 思春期の心理的問題 2：いじめ</p> <p>第7回 思春期の心理的問題 3：中学校の事例</p> <p>第8回 教育テーマに関する探究活動 1：発達障害・特別支援教育</p> <p>第9回 教育テーマに関する探究活動 1：調べ学習</p> <p>第10回 教育テーマに関する探究活動 2：検討ワーク</p> <p>第11回 教育テーマに関する探究活動 3：発表</p> <p>第12回 エピソード記録 1：エピソードを読む</p> <p>第13回 エピソード記録 2：検討ワークと発表</p> <p>第14回 子育てを取り巻く問題、他職種他機関との連携</p> <p>第15回 まとめ</p>
テキスト	指定しない。
参考書	<p>『ロールプレイで学ぶ 教育相談ワークブック：子どもの育ちを支える』 向後礼子・山本智子(著) ミネルヴァ書房 2014年</p> <p>『教師のための教育相談の技術』 吉田圭吾(著) 金子書房 2007年</p> <p>『あの子どもたちが変わった驚きの授業：授業崩壊を立て直すファシリテーション』 木原雅子 ミネルヴァ書房 2019年</p> <p>『体験型ワークで学ぶ教育相談』 小野田正利ら(編著) 大阪大学出版会 2015年</p> <p>『インクルーシブ教育を通常学級で実践するってどういうこと?』 青山 新吾・岩瀬 直樹著 学事出版 2019年</p> <p>『グローバル化とインクルーシブ教育』 安藤 正紀(編著) 北大路書房 2020年</p> <p>『生徒指導提要(改訂版) 全文と解説』 「月刊生徒指導」編集部 学事出版 2023年</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループ単位のディスカッション、全体に向けた発表など。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>随時対応</p> <p>メール対応：tagawa@nagoya-ku.ac.jp</p>
フィードバックの方法	課題提出後の回にて、振り返りを実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習として、シラバスにあげた参考書等を読む(各回1時間程)。</li> <li>・復習として、授業内容に関連する実習での経験や個人の体験などを振り返る、授業内容に関連する書籍やweb資料を探してまとめる(各回2時間程)。</li> <li>・特別課題と最終課題を実施する(6時間程)。</li> </ul>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<p>3.すべての人に健康と福祉を</p> <p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>5.ジェンダー平等を実現しよう</p>
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	<p>2.情報分析力</p> <p>3.課題発見力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>1.親和力</p> <p>2.協同力</p> <p>4.感情制御力</p> <p>7.課題発見力</p>

開講科目名 Course	(教)教育実習 (高一免用)(年)24後-25前 / Student Teaching I
時間割コード Course Code	60020
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 5
開講区分 semester offered	年度またがり / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	高橋 勝也
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高橋 勝也 (法学部)
授業の目標	実践的な指導によって、学習目標を実現する授業が展開できるようにする。
授業の概要	1 教育現場の実態を理解する。 2 生徒の実態を理解する。 3 3週間の教育実習期間で行うべきことを理解する。
評価方法	取り組み状況や提出課題などを総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	特になし

授業計画	<p>第1回：オリエンテーション  第2回：学校組織と校務分掌  第3回：学校現場の実態  第4回：教育委員会、管理職の対応  第5回：学年団との連携  第6回：保護者の対応  第7回：基本的生活習慣と生徒指導  第8回：問題行動への対応  第9回：不登校への対応  第10回：教育実習成功のヒント  第11回：実習生としての心構え  第12回：授業観察の視点  第13回：授業観察の視点  第14回：板書と板書計画  第15回：板書と板書計画  第16回：板書と板書計画  第17回：実習経験者の体験報告と整理  第18回：実習経験者の体験報告と整理  第19回：実習経験者の体験報告と整理  第20回：授業における「問い」の立て方  第21回：授業における「問い」の立て方  第22回：授業における「問い」の立て方  第23回：授業における「問い」の立て方  第24回：教育機器の活用  第25回：教育機器の活用  第26回：教育機器の活用  第27回：外部人材の活用  第28回：外部人材の活用  第29回：外部人材の活用  第30回：まとめ</p> <p>実務経験のある教員による授業  学校教育において教育現場での活動の経験を有する教員が、学習指導、生活指導、進路指導等の専門性を活用して、教員としての資質を獲得できるよう教育実習に向けて指導する科目である。</p>
テキスト	なし
参考書	なし
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	模範授業を多く、取り入れます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	担当教員は中学校・高等学校で25年間の経験があります。模範授業を中心とした実践的な指導を行っています。
質問への対応方法	毎時間、質問対応の時間を設定する。 オフィスアワー以外の時間帯でも、研究室にて受け付ける。
フィードバックの方法	毎時間、15分間程度フィードバックの時間を設定して、リアクションペーパーの提出により担当教員が状況を把握する。 次の時間の対面による指導の他、メール、グーグルクラスルームを活用してフィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	模範授業を実践できるように、学習指導案を作成する。（予習：合計30時間） 実施した模範授業の反省を生かして、学習指導案を作成する。（復習&授業準備：合計30時間）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力

## PROGコンピテンシーの要素

1. 親和力
2. 協同力
3. 統率力
4. 感情制御力
5. 自信創出力
6. 行動持続力
7. 課題発見力
8. 計画立案力
9. 実践力



開講科目名 Course	(教)教育実習Ⅰ(中一免用)(年)24後-25前 / Student Teaching I
時間割コード Course Code	60021
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 5
開講区分 semester offered	年度またがり / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3
主担当教員 Main Instructor	高橋 勝也
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高橋 勝也 (法学部)
授業の目標	実践的な指導によって、学習目標を実現する授業が展開できるようにする。
授業の概要	1 教育現場の実態を理解する。 2 生徒の実態を理解する。 3 3週間の教育実習期間で行うべきことを理解する。
評価方法	取り組み状況や提出課題などを総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：学校組織と校務分掌</p> <p>第3回：学校現場の実態</p> <p>第4回：教育委員会、管理職の対応</p> <p>第5回：学年団との連携</p> <p>第6回：保護者の対応</p> <p>第7回：基本的な生活習慣と生徒指導</p> <p>第8回：問題行動への対応</p> <p>第9回：不登校への対応</p> <p>第10回：教育実習成功のヒント</p> <p>第11回：実習生としての心構え</p> <p>第12回：授業観察の視点</p> <p>第13回：授業観察の視点</p> <p>第14回：板書と板書計画</p> <p>第15回：板書と板書計画</p> <p>第16回：板書と板書計画</p> <p>第17回：実習経験者の体験報告と整理</p> <p>第18回：実習経験者の体験報告と整理</p> <p>第19回：実習経験者の体験報告と整理</p> <p>第20回：授業における「問い」の立て方</p> <p>第21回：授業における「問い」の立て方</p> <p>第22回：授業における「問い」の立て方</p> <p>第23回：授業における「問い」の立て方</p> <p>第24回：教育機器の活用</p> <p>第25回：教育機器の活用</p> <p>第26回：教育機器の活用</p> <p>第27回：外部人材の活用</p> <p>第28回：外部人材の活用</p> <p>第29回：外部人材の活用</p> <p>第30回：まとめ</p>
テキスト	なし
参考書	なし
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	模範授業を多く、取り入れます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	担当教員は中学校・高等学校で25年間の経験があります。模範授業を中心とした実践的な指導を行っていきます。
質問への対応方法	毎時間、質問対応の時間を設定する。 オフィスアワー以外の時間帯でも、研究室にて受け付ける。
フィードバックの方法	毎時間、15分程度フィードバックの時間を設定して、リアクションペーパーの提出により担当教員が状況を把握する。 次の時間の対面による指導の他、メール、グーグルクラスルームを活用してフィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	模範授業を実践できるように、学習指導案を作成する。（予習：合計30時間） 実施した模範授業の反省を生かして、学習指導案を作成する。（復習&授業準備：合計30時間）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親和力</li> <li>2. 協同力</li> <li>3. 統率力</li> <li>4. 感情制御力</li> <li>5. 自信創出力</li> <li>6. 行動持続力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

開講科目名 Course	(教)教育実習II / Student Teaching II
時間割コード Course Code	60022
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	高橋 勝也
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高橋 勝也 (法学部)
授業の目標	中学校又は高校において教育実習を実地体験することにより、大学で学習した知識、技能、態度にもとづいて、大学では得られない知識、技能、態度を、実習校で集中的に習得する。
授業の概要	それぞれの実習校の指導に従い、観察、参加、実習を体験する。教科の指導はもちろん、教科以外の活動にも、積極的に参加することが求められる。機会があれば、学校経営や学級経営にも取り組む。 < 質問への対応 > 随時対応します。
評価方法	実習校の評価表、取り組みなどを考慮しながら、総合的に判断します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	< 授業のテーマ > 教育実習 < 授業内容 > 中学校又は高校での教育実習、観察実習、参加実習、指導実習
テキスト	なし
参考書	なし
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	中学校・高等学校での実習を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	担当教員は中学校・高等学校で25年間の経験があります。実践的な指導を行っていきます。
質問への対応方法	毎時間、質問対応の時間を設定する。 オフィスアワー以外の時間帯でも、研究室にて受け付ける。
フィードバックの方法	実習校への訪問によって、丁寧に指導します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	事前での指導 (予習: 合計30時間) 事後での指導 (復習 & 授業準備: 合計30時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標 (11~17)	17.パートナーシップで目標を達成しよう

PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 情報収集力</li><li>2. 情報分析力</li><li>3. 課題発見力</li><li>4. 構想力</li></ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>4. 感情制御力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>

開講科目名 Course	(教)教育実習III / Student Teaching III
時間割コード Course Code	60023
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	高橋 勝也
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高橋 勝也 (法学部)
授業の目標	中学校又は高校において教育実習を実地体験することにより、大学で学習した知識、技能、態度にもとづいて、大学では得られない知識、技能、態度を、実習校で集中的に習得する。
授業の概要	それぞれの実習校の指導に従い、観察、参加、実習を体験する。教科の指導はもちろん、教科以外の活動にも、積極的に参加することが求められる。機会があれば、学校経営や学級経営にも取り組む。 < 質問への対応 > 随時対応します。
評価方法	実習校の評価表、取り組みなどを考慮しながら、総合的に判断します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	< 授業のテーマ > 教育実習 < 授業内容 > 中学校又は高校での教育実習、観察実習、参加実習、指導実習
テキスト	なし
参考書	なし
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	中学校・高等学校での実習を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	担当教員は中学校・高等学校で25年間の経験があります。実践的な指導を行っていきます。
質問への対応方法	毎時間、質問対応の時間を設定する。 オフィスアワー以外の時間帯でも、研究室にて受け付ける。
フィードバックの方法	実習校への訪問によって、丁寧に指導します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	事前での指導 (予習: 合計30時間) 事後での指導 (復習 & 授業準備: 合計30時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標 (11~17)	17.パートナーシップで目標を達成しよう

PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 情報収集力</li><li>2. 情報分析力</li><li>3. 課題発見力</li><li>4. 構想力</li></ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 親和力</li><li>2. 協同力</li><li>3. 統率力</li><li>4. 感情制御力</li><li>5. 自信創出力</li><li>6. 行動持続力</li><li>7. 課題発見力</li><li>8. 計画立案力</li><li>9. 実践力</li></ol>

開講科目名 Course	(教)教職実践演習(中・高) / Practical Seminar for Teaching Profession
時間割コード Course Code	60024
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	田中 秀佳
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	飯田 幸恵(教育保育学科)、田中 秀佳(教育保育学科)、高橋 勝也(法学部)
授業の目標	授業の到達目標は、教員として最小限必要な知識、技術、態度を身に付けることである。教員に必要なことは、教職の意義や教員の果たす役割を理解し、子どもの実態を把握し、教科等が指導でき、学級経営を円滑に進められることである。
授業の概要	授業では、「履修カルテ」を参照し、個別に補完的な指導を行うとともに、教員として必要な知識、技術、態度を身に付ける。教員としての使命感や責任感を理解し、職務内容を確認する。教員の対人関係能力を育成するため、ロールプレイングを通して、子どもとの人間関係のあり方について学ぶ。保護者との人間関係についても学ぶ。子どもの発達課題を理解する。学級経営の意義を理解し、学級経営案を作成する。学校現場を現地調査し、学校の実態を知る。模擬授業を通して、教科等の指導力を高める。
評価方法	グループ討論や学校での調査、見学の参加の程度、学級経営案の作成、模擬授業などの平常点(60%)、小レポート(40%)で評価し、教員として最小限の資質が身に付いたかどうかを判定する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	実習と同様に遅刻、欠席は原則として認めない。

授業計画	<p>第1回授業の概要を説明し、これまでの学修の振り返りについてのグループ討論を行うとともに、「履修カルテ」を参照し、個別に補完的な指導を行う。</p> <p>第2回教員の使命感や責任感、教員の役割、職務内容、子どもに対する教育的愛情等についてのグループ討論を行うとともに、「履修カルテ」を参照し、個別に補完的な指導を行う。</p> <p>第3回社会性や対人関係能力の育成するため、子どもとの人間関係に関して、ロールプレイングを行う。</p> <p>第4回児童・生徒理解や学級経営についての講義とグループ討論を行う。</p> <p>第5回学級経営案の作成・学級経営案の意義を理解し、取り上げる項目(学級の教育目標、学級経営の方針、学級の実態など)をグループで討論する。</p> <p>第6回学級経営案の作成・各自で項目を決めて、内容を考える。</p> <p>第7回学校現場の現地調査・本学附属の中学校・高等学校で授業参観をする。また、生徒の授業や生活の支援をする。</p> <p>第8回学校現場の現地調査・授業参観をして、授業についての理解を深める。</p> <p>第9回学校現場の現地調査・授業参観の経験から、社会性、対人関係能力、児童・生徒理解、学級経営についてのグループ討論を行う。</p> <p>第10回教科等の指導力について講義し、学習指導案作成の留意点を説明する。</p> <p>第11回模擬授業・各自で教科・科目を決めて、模擬授業を実施し、学習指導案に沿って授業を進められたかを確認する。</p> <p>第12回模擬授業・各自で教科・科目を決めて、模擬授業を実施し、生徒の学習能力や発達の程度に対応した授業ができたかを確認する。</p> <p>第13回模擬授業・道徳、特別活動、総合的な学習の時間の模擬授業を実施する。</p> <p>第14回教科等の指導力についてのグループ討論を行う。</p> <p>第15回教員としての資質能力を確認し、授業全体のまとめをする。</p>
テキスト	なし
参考書	授業時に指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	全ての回において、ディスカッション、プレゼンテーションなどの実施を基本とする。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	学校現場の経験に基づいた指導をおこなう。
質問への対応方法	直接またはメールにより対応する。
フィードバックの方法	授業時またはメールで対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに応じた予習・復習、準備学習が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>5. ジェンダー平等を実現しよう</p>
SDGs 17の目標(11~17)	17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	



開講科目名 Course	(教)教職実践演習(栄養)
時間割コード Course Code	60025
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	河原 佳子
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	13D講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	河原 佳子(管理栄養学科)
授業の目標	<p>教員として必要な実践的知識、指導技術・態度の習得を目標とします。</p> <p>栄養教諭は、学校給食の管理や指導、食育に関わる児童生徒への指導などを計画的に進めるための専門的知識や、資質・能力を身に付ける必要があります。本演習では、教諭としての資質・能力を高めるために児童生徒との関わり方や授業づくりについて学び、学校における食育の実践力向上を目指します。</p>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 栄養教諭としての学校内での活躍の場面を考え、教員としての資質・能力を高めるために、演習を中心に授業を進めます。</li> <li>○ 模擬授業を通して、指導案作成における留意点、発問の流れと児童・生徒の学習の進め方、板書や教材の作成の仕方、ICTの活用を工夫した授業の進め方など、アクティブラーニングを展開する具体的な授業づくりについて学びます。</li> <li>○ 学校給食や教科指導など通して学校の食育指導を担い、学校における栄養教諭としての役割や責任を理解できるようにします。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</li> </ul>
評価方法	本授業は対面で行います。演習への取組の姿勢、模擬授業などの実践の様子、提出レポートの内容などを通して総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	課題となる提出レポートが提出されない場合

授業計画	<p>第1回：授業ガイダンス（履修カルテ、栄養教諭教育実習を振り返る） グループ討議により栄養教諭の職務内容・役割・教員の使命などを確認する。</p> <p>第2回：児童生徒との人間関係づくり 構成的グループエンカウンターやピアサポートなどを通じた児童生徒との人間関係の構築、児童生徒の成長・発達段階、家庭生活の様子などについて理解を深める。</p> <p>第3回：学校における特別支援を要する児童生徒への対応 学校での授業や生活、給食を実施していく中で特別支援を要する児童生徒に対してどのような対応が必要であるか、事例をもとにしてグループ討議の中から理解を深める。</p> <p>第4回：学校給食とアレルギーのある児童生徒への対応 学校給食や行事などにかかわるアレルギー対応について、事例をもとに十分に理解を進める。</p> <p>第5回：食の指導における全体計画の作成 学校における食の指導についての意義を理解して、教育目標・食に関する指導目標・児童生徒の実態・地域の特性などを踏まえて作成する。</p> <p>第6回：授業における学習指導の進め方 アクティブラーニングが展開される授業とは。発問、板書計画、教材の工夫などについて学び、 どんな授業が創造できるかを追究する。</p> <p>第7回：学習指導案1 学習指導要領や教育課程を踏まえて、教科における指導内容と食育との関係を理解する。指導と評価を関連付けた指導案作成に取り組む。</p> <p>第8回：学習指導案2 対象学年や指導教科との関連を理解して、指導案を作成する。</p> <p>第9回：学習指導案3 教材や資料、ICT機器の効果的な活用を考えて、児童生徒がアクティブな学びを創造できる指導について工夫し、より理解を深められる指導技術を考える。</p> <p>第10回：模擬授業1 模擬授業を行い、授業についての研究協議をグループ討議として行う。</p> <p>第11回：模擬授業2 模擬授業を行い、授業についての研究協議をグループ討議として行う。</p> <p>第12回：模擬授業3 模擬授業を行い、授業についての研究協議をグループ討議として行う。</p> <p>第13回：学校における食に関わる指導 SDGsとの関連や地域の特性を生かして、食育についてどのような発信ができるか可能性を探る。</p> <p>第14回：食育と保健指導 学習指導として、教科との連携、総合的な学習やキャリア学習などとの関わりのほか、食育と保健指導との連携について模索する。</p> <p>第15回：全体のまとめ・振り返り</p>
テキスト	授業に応じて、適宜プリントを配付します。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>「含む」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思考ツールなどを活用して考えを整理し、グループで討議して授業で発表し合う。</li> <li>・指導案作成時に、授業づくりの工夫について主体的・協働的に学び合い、自身の学びを深める活動をする。</li> <li>・模擬授業を行い、課題について討議し、その解決方法をまとめて理解を深める。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問への対応方法 ・授業後など、随時対応
フィードバックの方法	フィードバックの方法 ・授業内で提出したレポートについては、翌週に返却

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>1 授業ガイダンス【予習】栄養教諭教育実習を振り返り、学んだことをまとめておく。2時間</p> <p>2 児童生徒との人間関係づくり【復習】構成的グループエンカウンターやピアサポートを活用した食育指導に関わる一提案を考える。4時間</p> <p>3 学校における特別支援を要する児童生徒への対応【復習】特別支援を要する児童生徒との関わりについて、不安なことを挙げ、また課題を解決するための方法を考える。4時間</p> <p>4 学校給食とアレルギーのある児童生徒への対応【復習】アレルギーのある児童生徒への対応について、実習校の様子を踏まえて、対応のためのフローチャートを作成し、具体的な対応策を考える。4時間</p> <p>5 食の指導における全体計画の作成【復習】食の指導における全体計画を完成させる。6時間</p> <p>6 授業における学習指導の進め方【復習】授業づくりへの準備として、実践したい指導内容に合わせて、教科や単元などを準備しておく。4時間</p> <p>7 学習指導案1【復習】指導案作成 指導案の単元・目標・評価について 4時間</p> <p>8 学習指導案2【復習】指導案作成 学習内容、発問の流れ、授業の展開について 6時間</p> <p>9 学習指導案3【復習】指導案作成 主体的・協働的な学びによる深まりを考えた教材・教具の工夫と作成を進める。4時間</p> <p>10 模擬授業1【復習】研究協議から学んだことをレポートにまとめる。4時間</p> <p>11 模擬授業2【復習】研究協議から学んだことをレポートにまとめる。4時間</p> <p>12 模擬授業3【復習】研究協議から学んだことをレポートにまとめる。4時間</p> <p>13 学校における食に関わる指導【復習】SDGsと食育の関わりを考えて、総合的な学習の中で取り組む課題を考える。6時間</p> <p>14 食育と保健指導【復習】保健と栄養に関する連携によって児童生徒の健康を考える指導を工夫する。4時間</p> <p>15 全体のまとめ・振り返り【復習・ふりかえり】どんな栄養教諭になりたいか。そのためにどんな手立てを取り、食育の担い手として活躍していきたいかを授業を振り返ってまとめる。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<p>1. 貧困をなくそう</p> <p>2. 飢餓をゼロに</p> <p>3. すべての人に健康と福祉を</p>
SDGs 17の目標(11~17)	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p> <p>4. 構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>1. 親和力</p> <p>2. 協同力</p> <p>3. 統率力</p> <p>4. 感情制御力</p> <p>5. 自信創出力</p> <p>6. 行動持続力</p> <p>7. 課題発見力</p> <p>8. 計画立案力</p> <p>9. 実践力</p>

開講科目名 Course	(教)社会科教育法Ⅰ / Social Studies Education Ⅰ
時間割コード Course Code	60030
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	高橋 勝也
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高橋 勝也 (法学部)
授業の目標	中学校社会科における教育目標を理解し、それを実現する教育者としての資質・能力を育成する。 学習指導要領に示された学習内容については着実に理解し、その内容を踏まえた実践的な授業設計 を実行できるようにする。
授業の概要	1 学習指導要領を基に、社会科教員が行うべき授業を考察する。 2 学習目標、指導目標を確実なものとする学習指導案を作成する。 3 模範授業を参観することで、これからあるべき生徒の主体的な学びを考察する。 4 生徒の学び意欲を高める授業における「問い」のあり方について、追究する。
評価方法	模擬授業 (40%) 学習指導案 (40%) プレゼンテーション能力 (20%)
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	特になし
授業計画	第1回：これまでの授業とこれからの授業～社会科の授業において～ 第2回：学習指導要領 社会編の変遷 第3回：社会科と道徳の授業の違い 第4回：社会科における知識注入的授業と主体的な学び～ICTを活用して～ 第5回：学習指導案の書き方～学習目標と指導目標～ 第6回：学習指導案の書き方～授業の実際～ 第7回：担当教員による模範授業～政治とは、何だろう？～ 第8回：担当教員による模範授業～経済とは、何だろう？～ 第9回：担当教員による模範授業～平等権について、考えよう～ 第10回：担当教員による模範授業～租税について、考えよう～ 第11回：模擬授業～政治学習の実際～ 第12回：模擬授業～経済学習の実際～ 第13回：模擬授業～地理学習の実際～ 第14回：模擬授業～歴史学習の実際～ 第15回：教育実習に向けて～教材研究のあり方～ 実務経験のある教員による授業 学校教育において教育現場での活動の経験を有する教員が、社会科指導法について実践的な指導を行 い、授業力の向上を実現する科目である。
テキスト	授業で説明します。
参考書	中学校学習指導要領解説 社会編 (文部科学省) 新しいみんなの公民 (教科用図書 育鵬社)

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	模範授業を多く、取り入れます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	担当教員は中学校・高等学校で25年間の経験があります。模範授業を中心とした実践的な指導を行っています。
質問への対応方法	毎時間、質問対応の時間を設定する。 オフィスアワー以外の時間帯でも、研究室にて受け付ける。
フィードバックの方法	毎時間、15分程度フィードバックの時間を設定して、リアクションペーパーの提出により担当教員が状況を把握する。 次の時間の対面による指導の他、メール、グーグルクラスルームを活用してフィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	模範授業を実践できるように、現代社会における諸課題を把握しておく。(予習：合計30時間) 地理的分野、歴史的分野、公民的分野の学習指導案を作成する。(復習&授業準備：合計30時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	1. 貧困をなくそう 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標(11~17)	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	(教)社会科教育法II / Social Studies Education II
時間割コード Course Code	60031
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	高橋 勝也
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高橋 勝也 (法学部)
授業の目標	中学校社会科における教育目標を理解し、それを実現する教育者としての資質・能力を育成する。 学習指導要領に示された学習内容については着実に理解し、その内容を踏まえた実践的な授業設計 を実行できるようにする。
授業の概要	1 学習指導要領を基に、社会科教員が行うべき授業を考察する。 2 観点別評価に基づく、多角的に評価する望ましい試験問題を作成する。 3 ICT教材を活用することで、これからあるべき生徒の主体的な学びを考察する。 4 模擬授業を実施することで、自らの授業の成果と課題を整理する。
評価方法	模擬授業 (40%) 学習指導案 (40%) プレゼンテーション能力 (20%)
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	特になし
授業計画	第1回：中学生から始める主権者教育 第2回：表現力を高める授業のあり方～議論を通じて～ 第3回：観点別評価に基づく試験問題の作成～興味・関心・態度の観点に着目して～ 第4回：観点別評価に基づく試験問題の作成～技能の観点に着目して～ 第5回：観点別評価に基づく試験問題の作成～思考・判断の観点に着目して～ 第6回：ICT教材の活用例～金融教育～ 第7回：ICT教材の活用例～経済教育～ 第8回：ICT教材の活用例～国際理解教育～ 第9回：外部人材を活用する実践例～法教育～ 第10回：外部人材を活用する実践例～金融教育～ 第11回：外部人材を活用する実践例～経済教育～ 第12回：模擬授業～地理的分野～ 第13回：模擬授業～歴史的分野～ 第14回：模擬授業～公民的分野～ 第15回：社会科におけるオリンピック・パラリンピック教育 実務経験のある教員による授業 学校教育において教育現場での活動の経験を有する教員が、社会科指導法について実践的な指導を を行い、授業力の向上を実現する科目である。
テキスト	授業で説明します。
参考書	中学校学習指導要領解説 社会編 (文部科学省) 新しいみんなの公民 (教科用図書 育鵬社)
アクティブラーニング、ディスカ ッション、実習等	含む

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	模範授業を多く、取り入れます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	担当教員は中学校・高等学校で25年間の経験があります。模範授業を中心とした実践的な指導を行っています。
質問への対応方法	毎時間、質問対応の時間を設定する。 オフィスアワー以外の時間帯でも、研究室にて受け付ける。
フィードバックの方法	毎時間、15分程度フィードバックの時間を設定して、リアクションペーパーの提出により担当教員が状況を把握する。 次の時間の対面による指導の他、メール、グーグルクラスルームを活用してフィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	模範授業を実践できるように、現代社会における諸課題を把握しておく。(予習：合計30時間) 地理的分野、歴史的分野、公民的分野の学習指導案を作成する。(復習&授業準備：合計30時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	1. 貧困をなくそう 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標(11~17)	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	(教)社会科・公民科教育法Ⅰ / Social and Civil Studies Education I
時間割コード Course Code	60032
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	高橋 勝也
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高橋 勝也 (法学部)
授業の目標	高等学校公民科における教育目標を理解し、それを実現する教育者としての資質・能力を育成する。学習指導要領に示された学習内容については着実に理解し、その内容を踏まえた実践的な授業設計を実行できるようにする。
授業の概要	1 学習指導要領を基に、公民科教員が行うべき授業を考察する。 2 表現力を高める授業のあり方～議論を通じて～ 3 法と倫理に関する模範授業を参観することで、これからあるべき生徒の主体的な学びを考察する。 4 模擬授業を実施することで、自らの授業の成果と課題を整理する。
評価方法	模擬授業 (40%) 学習指導案 (40%) プレゼンテーション能力 (20%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回：これまでの授業とこれからの授業～公民科において～ 第2回：学習指導要領 公民編の変遷 第3回：学習指導要領解説 公民編の読み方 第4回：学習指導案の書き方～学習目標と指導目標～ 第5回：学習指導案の書き方～授業の実際～ 第6回：公民科教科書の分析 第7回：外部人材を活用する実践例～法教育～ 第8回：担当教員による模範授業～環境倫理について、考えよう～ 第9回：担当教員による模範授業～生命倫理について、考えよう～ 第10回：担当教員による模範授業～情報倫理について、考えよう～ 第11回：担当教員による模範授業～法(ルール)について、考えよう～ 第12回：模擬授業～法教育～ 第13回：模擬授業～倫理教育～ 第14回：模擬授業～政治教育～ 第15回：模擬授業～経済教育～ 実務経験のある教員による授業 学校教育において教育現場での活動の経験を有する教員が、社会科指導法、公民科指導法について実践的な指導を行い、授業力の向上を実現する科目である。
テキスト	授業で説明します。
参考書	高等学校学習指導要領解説 公民編 (文部科学省) 高等学校現代社会 一人ひとりが考える自分・社会・世界 (教科用図書 清水書院)



アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	模範授業を多く、取り入れます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	担当教員は中学校・高等学校で25年間の経験があります。模範授業を中心とした実践的な指導を行っています。
質問への対応方法	毎時間、質問対応の時間を設定する。 オフィスアワー以外の時間帯でも、研究室にて受け付ける。
フィードバックの方法	毎時間、15分程度フィードバックの時間を設定して、リアクションペーパーの提出により担当教員が状況を把握する。 次の時間の対面による指導の他、メール、グーグルクラスルームを活用してフィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	模範授業を実践できるように、現代社会における諸課題を把握しておく。（予習：合計30時間） 公共、政治・経済、倫理の学習指導案を作成する。（復習&授業準備：合計30時間）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	(教)社会科・公民科教育法II / Social and Civil Studies Education II
時間割コード Course Code	60033
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	高橋 勝也
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高橋 勝也 (法学部)
授業の目標	高等学校公民科における教育目標を理解し、それを実現する教育者としての資質・能力を育成する。学習指導要領に示された学習内容については着実に理解し、その内容を踏まえた実践的な授業設計を実行できるようにする。
授業の概要	1 新科目「公共」の設置目的を理解し、科目における教育目標の実現を可能とする授業を考察する。 2 新科目「公共」の設置目的を理解し、科目における教育目標の実現を可能とする授業を考察する。 3 政治・経済に関する模範授業を参観することで、これからあるべき生徒の主体的な学びを考察する。 4 ICT教材を活用することで、これからあるべき生徒の主体的な学びを考察する。
評価方法	模擬授業 (40%) 学習指導案 (40%) プレゼンテーション能力 (20%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	第1回：公民科新科目「公共」で求められるもの 第2回：表現力を高める授業のあり方～議論を通じて～ 第3回：新科目「公共」の構成～政治的主体となる私たち～ 第4回：新科目「公共」の構成～経済的主体となる私たち～ 第5回：新科目「公共」の構成～法的主体となる私たち～ 第6回：新科目「公共」の構成～様々な情報の発信・受信主体となる私たち～ 第7回：担当教員による模範授業～主権者教育：多数決～ 第8回：担当教員による模範授業～主権者教育：意思決定と合意形成～ 第9回：担当教員による模範授業～金融経済教育～ 第10回：ICT教材の活用例～金融教育～ 第11回：ICT教材の活用例～経済教育～ 第12回：模擬授業～金融教育～ 第13回：模擬授業～経済教育～ 第14回：模擬授業～オリンピック・パラリンピック教育～ 第15回：教育実習に向けて～教材研究のあり方～ 実務経験のある教員による授業 学校教育において教育現場での活動の経験を有する教員が、社会科指導法、公民科指導法について実践的な指導を行い、授業力の向上を実現する科目である。
テキスト	授業で説明します。

参考書	高等学校学習指導要領解説 公民編（文部科学省） 高等学校現代社会 一人ひとりが考える自分・社会・世界（教科用図書 清水書院）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	模範授業を多く、取り入れます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	担当教員は中学校・高等学校で25年間の経験があります。模範授業を中心とした実践的な指導を行っていきます。
質問への対応方法	毎時間、質問対応の時間を設定する。 オフィスアワー以外の時間帯でも、研究室にて受け付ける。
フィードバックの方法	毎時間、15分程度フィードバックの時間を設定して、リアクションペーパーの提出により担当教員が状況を把握する。 次の時間の対面による指導の他、メール、グーグルクラスルームを活用してフィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	模範授業を実践できるように、現代社会における諸課題を把握しておく。（予習：合計30時間） 公共、政治・経済、倫理の学習指導案を作成する。（復習&授業準備：合計30時間）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	(教)商業科教育法Ⅰ / Business Education I
時間割コード Course Code	60034
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	杉原 誠志
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	杉原 誠志 (経営学部)
授業の目標	<p>商業教育の理念と概要を理解し、作成した学習指導案から授業指導力を身に付けることができる。商業科の各分野の学習指導ができるように、各分野の各科目についての内容を理解する。このことにより、次年度の教育実習と、商業科教員としての教科指導力を身に付けるための準備ができる。</p> <p>授業内での発表や意見交換により、「相手に解りやすく説明する話法」と発表に対して「自分の意見や考えを述べる力」を身に付けることができる。この授業から指導者になるために必要な人間性を高めることを目標とする。商業科教員としての学びを教育課程編成の基礎から習得し、商業科の学習指導案を作成できるようになる。教科教育法 (商業)の基礎となる科目である。</p>
授業の概要	<p>商業教育に関して、テキストと配付プリントから 商業教育の意義と必要性 商業教育の歩み 高等学校学習指導要領と商業教育 商業科の教育課程 商業科の学習指導 商業科の各分野の学習指導 指導計画 (学習指導案等) の作成 学習評価の理念と実際、この8項目の学習を通して、商業科教員になるための基礎知識と基礎技能を習得する。『ビジネス基礎』の教科書から「ビジネスとは何か」を考える時間から、自らの答えを導き出すことができるようになる。レポートや課題については指示された内容で、E-mailにて提出をする。『やぶつばき』『市邨先生語集』から訓話を選び、発表もしくはディスカッションも行う。</p>
評価方法	授業参加姿勢20%、レポート30%、小テスト50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・21世紀の商業教育を創造する『商業科教育論』 日本商業教育学会編 実教出版 ISBN978-4-407-34457-8</li> <li>・『ビジネス基礎』 実教出版 令和2年12月25日検定済 ISBN978-4-407-20497-1</li> </ul>
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 解説 商業編』 実教出版 令和元年9月30日 初版第2刷発行</li> <li>・『やぶつばき』 市邨学園 令和5年2月1日</li> <li>・『市邨先生語集』 市立名古屋商業学校 名古屋女子商業学校 名古屋第二女子商業学校 大正15年12月1日 再発行</li> </ul>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画を各自が自宅で視聴して、授業の中にディスカッションをする</li> <li>・『やぶつばき』『市邨先生語集』より「訓話」を決めてディスカッションをする</li> <li>・各自の発表後にもディスカッションをする</li> <li>・学習内容「商業科の学習指導」にあるブレインストーミングを1回授業で実施する</li> </ul>

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オフィスアワーで対応</li> <li>・ 授業時及び授業前と授業後に対応</li> <li>・ メール対応</li> </ul>
フィードバックの方法	基本的には翌週返却するが 当日返却するもの 返却しないレポート等もある。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>【毎回の授業後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 授業内容の「まとめとキーワードの整理」をしておく(1時間)</li> <li>(2) 次回の授業内容を指示しますので、予習をしておく(1時間~2時間)</li> </ul> <p>【第7回・第9回・第11回指導案作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(3) 「学習指導案を作成」(3時間×3回)</li> </ul> <p>【第2回・第4回・第6回・第8回・第10回・第12回】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(4) 『やぶつばき』『市邨先生語集』の指定訓話についての学習(1時間×6回)</li> </ul>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>4. 質の高い教育をみんなに</li> <li>8. 働きがいも経済成長も</li> </ul>
SDGs 17の目標(11~17)	11. 住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>3. 課題発見力</li> </ul>
PROGコンピテンシーの要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>2. 協同力</li> <li>5. 自信創出力</li> </ul>

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション 講義方針等の学習環境の整備	・テキスト等の使用方法の確認 ・授業を受けるにあたって ・評価の方法(テストと提出物) ・「市邨芳樹翁」と商業教育	『やぶつばき』配付
2	商業教育の意義と必要性 「商業教育」とは (歴史からも学ぶ)	テキスト ・「コンテンツベース」と 「コンピテンシーベース」 ・その他その他キーワードを理解する ICTを活用して情報を収集する	『市邨芳樹翁訓話』
3	学習指導要領と商業教育 法的な位置付けと理念	テキスト ・時代の変化と商業科の改善 ・商業科の構造 ・商業科の学習指導 ICTを活用して情報を収集する	テーマを決めて ディスカッション
4	商業科の教育課程の編成と実施 教育課程の意義	テキスト ・専門性の深化 ・カリキュラム・マネジメント ・文部科学省検定教科用図書等の使用義務 ICTを活用して情報を収集する	『市邨芳樹翁訓話』
5	基礎的科目「ビジネス基礎」 商業教育の目指す資質・能力	テキスト ・商業の基礎的な知識と技能 ・唯一絶対の答えがないことの多い経済社会 ・身近な社会問題を理解 ICTを活用して情報を収集する	テーマを決めて ブレインストーミング
6	マーケティング分野 マーケティングを中心にした流通	テキスト ・マーケティングに必要な情報の収集 ・製品政策 価格政策 チャネル政策 プロモーション政策 ・商品開発と流通 ICTを活用して情報を収集する	『市邨芳樹翁訓話』
7	マネジメント分野 マネジメントの役割と知識	テキスト ・経営資源のマネジメント ・企業の秩序と責任 ・経済のグローバル化と日本 ICTを活用して情報を収集する	「学習指導案」課題指示
8	会計分野 「簿記」「会計」「原価計算」 の意味と意義	テキスト ・「簿記」の知識と「会計」の意義 ・「原価計算」の意義 ・「財務会計」「管理会計」 ・財務諸表 ICTを活用して情報を収集する	『市邨芳樹翁訓話』

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
9	ビジネス情報分野 情報の収集と分析、ビジネス文書とプレゼンテーション	テキスト ・企業活動と情報処理 ・情報通信ネットワーク ・ビジネス文書の作成とプレゼンテーション ICTを活用して情報を収集する	「学習指導案」課題指示
10	総合的な科目 「課題研究」「総合実践」	テキスト ・二つの科目の教科商業での位置づけ ・「課題研究」の目標と指導項目 ・「総合実践」の目標と指導項目 ICTを活用して情報を収集する	『市邨芳樹翁訓話』
11	指導計画の理念と作成 学習指導計画を中心として 各指導計画を理解	テキスト ・年間指導計 ・単位時間計画(学習指導計画) ・学習形態と指導方法の設定 ・板書計画の作成方法 ICTを活用して情報を収集する	「学習指導案」課題指示
12	学習評価の理念と実際 評価の 対象と目的	テキスト ・評価の留意点 ・評価の観点 知識及び技能 思考力、判断力 表現力等 学びに向かう力 ・評価の方法 ICTを活用して情報を収集する	『市邨芳樹翁訓話』
13	魅力ある商業教育 これからの商業教育	テキスト ・これまでの商業教育 ・「生きる力」を育む商業教育 ・商業高校の存在意義 ICTを活用して情報を収集する	レポート提出(商業教育)
14	「商業科教育法」のまとめ 「前期のまとめ」と 「ディスカッション:30分」	・提出済み「学習指導案」について ・第1回～第13回の授業について 「ディスカッション:30分」 ・「尾張富士の石上祭」(市邨先生語集より) ・第15回「小テスト」の確認と予告 ICTを活用して情報を収集する	提出物(学習ノート等)の確認
15	【前期小テスト】 総復習と前期を振り返る 後期授業について	・【小テスト】第1回～第14回の内容で ・教育実習で授業を行う心構え ・後期授業に向けて準備の指示	・提出物(学習ノート等) を小テスト中に評価する ・「商業科教育法」の準備とし、後期に備える

開講科目名 Course	(教)商業科教育法II / Business Education II
時間割コード Course Code	60035
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	杉原 誠志
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	杉原 誠志 (経営学部)
授業の目標	「商業科教育法」で学んだ知識をさらに深め [ 模擬研究授業の実践 ] 「学習指導案作成のスキルアップ」を通して、商業科の教員としての知識や技能を身に付けることができるようになる。自分の知識や技能を高めるだけでなく、講座内でのディスカッションや討論により、「自分の考えや意見」を他の学生に伝えられることができるようになる。 「商業科教育法」で学んだ各分野の学習指導ができるように、各分野の各科目についての教科内容をより深く理解することも目指す。商業科教員として教壇に立ったときに必要な知識・技能に加えて、人間性を高めることも目標とする。
授業の概要	授業では [ 模擬研究授業の実践 ] [ 学習指導案の作成スキルアップ ] などを通して、その振り返りから、授業設計 指導内容 指導方法について、講座内で相互に検討し改善点を探る。このことにより、これらの技能が高められ、特に [ 模擬研究授業の実践 ] から主体的・対話的深い学びとなるアクティブラーニングを実践する。 [ 模擬研究授業の実践 ] をするにあたり、「教材研究」「板書計画」についての学習からも、教員として授業をするための総合的な技能を高める。
評価方法	授業参加姿勢20%、レポート30%、小テスト50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと
テキスト	前期「商業科教育法」と同じテキスト（新規購入の必要はありません） ・21世紀の商業教育を創造する『商業科教育論』 日本商業教育学会編 実教出版 ISBN978-4-407-34457-8 ・『ビジネス基礎』 実教出版 令和2年12月25日検定済 ISBN978-4-407-20497-1
参考書	・『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 商業編』 実教出版 令和元年9月30日 初版第2刷発行 ・『やぶつばき』 市邨学園 令和5年2月1日 ・『市邨先生語集』 市立名古屋商業学校 名古屋女子商業学校 名古屋第二女子商業学校 大正15年12月1日 再発行
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む



アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【模擬授業】（Aパターン10分）（Bパターン20分）を実施する。 （Aパターン10分）を終え、ディスカッションをする。 （Bパターン20分）を終え、文書（文字）による改善のための意見発表をする。</li> <li>・『やぶつばき』『市邨先生語集』の「訓話」から、訓話について 訓話の内容 自分の考えを発表する。</li> <li>・第14回までに各自が、商業に関する書物『例：論語と算盤』等を読み内容を発表する。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オフィスアワーで対応</li> <li>・ 授業時及び授業前と授業後に対応</li> <li>・ メール対応</li> </ul>
フィードバックの方法	基本的には翌週返却するが、当日返却するものや返却しないレポート等もある。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 授業内容のまとめとコメント等を整理する（1時間）</li> <li>(2) 「学習指導案」の作成やレポートの作成（1時間～2時間）</li> <li>(3) 「学習指導案を作成」（3時間×4回） 第7回・第9回・第11回指導案作成</li> <li>(4) 『やぶつばき』『市邨先生語集』の指定された訓話についての学習（1時間×6回） 第2回・第3回・第5回・第8回・第11回・第12回</li> </ul>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力 5.自信創出力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション 「商業科教育法」の講義方針等	・授業を受けるにあたって(評価と提出物) ・「授業研究」と「模擬授業」 ・「模擬授業」の計画と方法 ・「市邨芳樹翁」から 教育理念 商業教育 商業道徳 道徳教育を学ぶ	「学習指導案の提出方法」と「ディスカッション」の方法を示す
2	【授業研究】「ビジネス基礎」 模擬授業の準備	・『ビジネス基礎』の教科書 ・レジュメのキーワード ・渋澤栄一と市邨芳樹翁 I C Tを活用して情報を収集する	・市邨イズムを学ぶ 『市邨先生語集』と『やぶつばき』から
3	【模擬授業】「ビジネス基礎」 模擬授業の実践(A)	・「ビジネス基礎」から全員が同じ単元で 模擬授業を実施 ・学習指導案の作成 ・授業についてディスカッション I C Tを活用して情報を収集する	・学習指導計画は事前にメールに添付して提出 ・市邨イズムを学ぶ 『市邨先生語集』と『やぶつばき』から
4	【模擬授業】「ビジネス基礎」 模擬授業の実践(B)	・『ビジネス基礎』から全員が同じ単元で 模擬授業を実施 ・学習指導案の作成 I C Tを活用して情報を収集する	・学習指導計画は事前にメールに添付して提出 ・模擬授業のコメントをメールに添付して提出 ・第5回「観光ビジネス」 授業用プリント配付
5	【授業研究】「観光ビジネス」 新しい科目「観光ビジネス」 の模擬授業の準備	・「観光ビジネス」について理解 ・「観光」という言葉の意味 ・文部科学省検定済ではない教科書の使用 I C Tを活用して情報を収集する	・市邨イズムを学ぶ 『市邨先生語集』と『やぶつばき』から
6	【模擬授業】「ビジネス基礎以外から各自の選択科目」 模擬授業の実践(A)	・「ビジネス基礎以外から各自が選択した科目と単元」で実施 ・学習指導案の作成 ・授業についてディスカッション I C Tを活用して情報を収集する	・学習指導計画は事前にメールに添付して提出
7	【模擬授業】「ビジネス基礎以外から各自の選択科目」 模擬授業の実践(B)	・「ビジネス基礎以外から各自が選択した科目と単元」で実施 ・学習指導案の作成 I C Tを活用して情報を収集する	・学習指導計画は事前にメールに添付して提出 ・模擬授業のコメントをメールに添付して提出
8	【授業研究】 「簿記」 授業用スライドの作成例 (PPT)	・PPTの作成例 ・PPTによる授業の展開例 ・「簿記」について理解を深める I C Tを活用して情報を収集する	・市邨イズムを学ぶ 『市邨先生語集』と『やぶつばき』から

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
9	【模擬授業】「ビジネス基礎以外から各自の選択科目」 模擬授業の実践(A)	・「ビジネス基礎以外から各自が選択した科目と単元」で実施 ・学習指導案の作成 ・模擬授業の実践 ・授業についてディスカッション ICTを活用して情報を収集する	・学習指導計画は事前にメールに添付して提出 『市邨先生語集』と『やぶつばき』から
10	【模擬授業】「ビジネス基礎以外から各自の選択科目」 模擬授業の実践(B)	・「ビジネス基礎以外から各自が選択した科目と単元」で実施 ・学習指導案の作成 ・模擬授業の実践 ICTを活用して情報を収集する	・学習指導計画は事前にメールに添付して提出 ・模擬授業のコメントをメールに添付して提出
11	【授業研究】 「旧：ビジネス情報」 教材研究の一例	・教材研究の方法の一例 ・ストーリー展開の一例 ・「旧ビジネス情報」について理解 ICTを活用して情報を収集する	・市邨イズムを学ぶ 『市邨先生語集』と『やぶつばき』から
12	【模擬授業】「ビジネス基礎以外から各自の選択科目」 模擬授業の実践(A)	・「ビジネス基礎以外から各自が選択した科目と単元」で実施 ・学習指導案の作成 ・授業についてディスカッション ICTを活用して情報を収集する	・学習指導計画は事前にメールに添付して提出 ・市邨イズムを学ぶ 『市邨先生語集』と『やぶつばき』から
13	【模擬授業】「ビジネス基礎以外から各自の選択科目」 模擬授業の実践(B)	・「ビジネス基礎以外から各自が選択した科目と単元」で実施 ・学習指導案の作成 ・模擬授業の実践 ICTを活用して情報を収集する	・学習指導計画は事前にメールに添付して提出 ・模擬授業のコメントをメールに添付して提出
14	商業の理念と歴史 (書物から感じる商業)	・各自の発表(書物の概略) ・ディスカッション(発表から感じたこと) ・発表から何を学べたか ・商業史(石田梅岩・鈴木正三・アンヴェルス 高等商業学校) ・次回小テスト・提出物の確認 ICTを活用して情報を収集する	『やぶつばき』 『市邨先生語集』の整理
15	「後期小テスト」と「まとめ」	・「小テスト：60分間」 ・まとめ ・教員としての心構え	「商業科教育法」「商業科教育法」の授業から教育実習を行う準備とする。

開講科目名 Course	(教)情報科教育法Ⅰ
時間割コード Course Code	60036
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	吉川 伸一
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	情報実習室A
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	吉川 伸一 (経営学部)
授業の目標	<p>専門教育における情報科教育の目標は、「情報の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における情報の意義や役割を理解させるとともに、高度情報通信社会の諸課題を主体的、合理的に解決し、社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。」である。</p> <p>本講義では、情報科教育の目的と内容を理解するとともに、上で掲げた目標を「教師と生徒」が具体的に達成するための課題と方法について研鑽する。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の各分野に関する基礎的な知識を身に着けている。現代社会における情報の意義や役割を理解している。</li> </ul> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度情報通信社会の諸課題を主体的、合理的に解決できる。</li> <li>・情報技術に関連する資料を提示でき、わかりやすく説明できる。</li> </ul> <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を身に着ける。最先端の情報技術を専門書やインターネットなどから収集し、理解に努める。</li> </ul>
授業の概要	<p>まず、本講義は今年度は対面授業を行う。</p> <p>本講義では、情報科の学習指導要領を教材に用いる。</p> <p>普通教育では「情報化の進展に＜主体的に対応できる＞能力と態度」の育成を目標としていた。専門教育ではさらに一歩進んで「＜高度情報通信社会の諸課題＞を＜主体的、合理的に解決＞し、社会の発展を図る＜創造的な能力＞と＜実践的な態度＞」の育成を目標としている点に注意されたい。</p> <p>ここでは明らかに社会の課題をも自らの課題として引き受けることの出来る高度の専門能力と意欲を持つ人間の育成が求められている。そのためには＜各分野の基礎知識・基礎技術の習得＞は最低限必要なマナーとなる。そこで本講義では、これらの内容を適切に教えることの出来る人物の育成を目指す。</p> <p>とくに、情報科の理念やもくろみを基礎から理解することに力を入れる。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>当科目の目指す学習成果は、上記のように明記された学習指導要領に沿った授業はどのようにすれば構成できるか、受講者が自ら考えて実践する体験の蓄積である。</p> <p>授業内容（シラバス）に関する質問は担当教員のオフィスアワーの時間にしてください。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照のこと。</p>
評価方法	参加姿勢(10%)、模擬授業(30%)、ミニレポート(30%)、期末試験(30%)で評価を行う。毎回必ず出席すること。やむを得ず欠席となる場合は、メールにて必ず連絡すること。

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席回数が13回に満たない場合</li> <li>・連続して3回欠席した場合</li> </ul> <p>特別な事情があって欠席した場合は、考慮する。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「情報産業と社会（教育上の留意点）」 【一般的な考察と理解】</li> <li>2. 「課題研究(1)（情報に関する課題の設定）」 【一般的な考察と理解】</li> <li>3. 「課題研究(2)（問題分析と解決方策の検討）」 【一般的な考察と理解】</li> <li>4. 「情報実習」教師役・生徒役に分かれての模擬授業と教授法をめぐる討論 【一般的な考察と理解】</li> <li>5. 「情報と表現（教育上の留意点）」 【一般的な考察と理解】</li> <li>6. 「アルゴリズム（教育上の留意点）」 【一般的な考察と理解】</li> <li>7. 「情報システムの開発（教育上の留意点）」 【一般的な考察と理解】</li> <li>8. 「ネットワークシステム（教育上の留意点）」 【一般的な考察と理解】</li> <li>9. 「モデル化とシミュレーション（教育上の留意点）」 【一般的な考察と理解】</li> <li>10. 「コンピュータデザイン（教育上の留意点）」 【一般的な考察と理解】</li> <li>11. 「図形と画像の処理（教育上の留意点）」 【一般的な考察と理解】</li> <li>12. 「マルチメディア処理（教育上の留意点）」 【一般的な考察と理解】</li> <li>13. 専門教育「情報」における指導計画の作成と内容の取扱い</li> <li>14. 模擬授業</li> <li>15. 全体のまとめと振り返り</li> </ol>
テキスト	実教出版 社情303 高校社会と情報 ISBN：978-4-407-20226-7
参考書	文部科学省 『高等学校学習指導要領解説（情報編）』 PDF版を文部科学省サイトから入手して使います。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了後に対応</li> <li>・メールで対応（メールアドレスは授業中に提示する）</li> </ul>
フィードバックの方法	・翌週返却または翌週口頭で述べる。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、次回テーマに関する文献調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>6. 行動持続力</li> <li>7. 課題発見力</li> <li>8. 計画立案力</li> <li>9. 実践力</li> </ol>

開講科目名 Course	(教)情報科教育法II
時間割コード Course Code	60037
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	小川 哲司
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小川 哲司 (経営学部)
授業の目標	情報教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付けることを目標とする。 本講義では、情報科教育の目的と内容を理解するとともに、模擬授業を行いながら情報科目の教育方法を習得する。学習指導要領の改訂に伴い、「情報」科目の内容理解と共に、学習指導要領に沿った学習指導ができるようになることを目指す。
授業の概要	本講義では、学生による模擬授業を行った後、教員・学生との討議を通じて、教育技法の共有や習得をしながら上達を目指すものである。特に、学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解、基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付けることを重点的に行う。  <学習成果> 知識・理解の領域 学習指導要領に沿った授業はどのようにすれば構成できるかについて、受講者が自ら考えて実践できるようになる。 技能の領域 教育技法を習得して、授業設計ができるようになる。 態度・志向性の領域 情報科教育の目的と内容を理解できるようになる。  この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照のこと。
評価方法	授業への取り組み姿勢 (50%) 模擬授業 (50%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が12回に満たない場合

授業計画	第1回 「情報」学習指導要領の輪読 第2回 「情報やメディアの特性」模擬授業および教育技法上達に向けた討論 第3回 「情報セキュリティ」模擬授業および教育技法上達に向けた討論 第4回 「情報に関する法規，情報モラル」模擬授業および教育技法上達に向けた討論 第5回 「情報社会におけるコミュニケーション」模擬授業および教育技法上達に向けた討論 第6回 「情報技術の発展」模擬授業および教育技法上達に向けた討論 第7回 「デジタル化」模擬授業および教育技法上達に向けた討論 第8回 「コミュニケーションを成立させるもの」模擬授業および教育技法上達に向けた討論 第9回 「メディアとコミュニケーション」模擬授業および教育技法上達に向けた討論 第10回 「情報デザイン」模擬授業および教育技法上達に向けた討論 第11回 「コンピュータの仕組み・外部機器」模擬授業および教育技法上達に向けた討論 第12回 「基本的プログラム」模擬授業および教育技法上達に向けた討論 第13回 「アルゴリズムの比較」模擬授業および教育技法上達に向けた討論 第14回 「情報通信ネットワーク」模擬授業および教育技法上達に向けた討論 第15回 「データ分析」模擬授業および教育技法上達に向けた討論
テキスト	実教出版 「高校教科書 最新情報 I」
参考書	文部科学省 『高等学校学習指導要領解説（情報編）』
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学生による模擬授業を中心に進める
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	基本的にはメールで回答する。
フィードバックの方法	翌週の授業までに返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、次回テーマに関連する文献調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 5. 自信創出力 8. 計画立案力

開講科目名 Course	(教)介護等体験実習 / Practice in Care Service
時間割コード Course Code	60040
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 5
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	田中 秀佳
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	田中 秀佳(教育保育学科)、高橋 勝也(法学部)
授業の目標	・介護等の体験を行うことによって、教員の資質向上を図る。 ・社会福祉施設等における介護等体験を通して、社会福祉施設等の役割を知り、施設職員の仕事を理解する。
授業の概要	介護等体験実習では、社会福祉施設等の障害者や高齢者等と生活をともにし、社会福祉施設等の社会的役割や職員の職務内容を理解する。介護等体験の内容は、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験であり、高齢者や障害者の話相手、散歩の付き添い等の交流体験、掃除や洗濯など、施設の職員に必要とされる業務の補助を含む幅広いものである。実習生が実際に行う実習内容は、それぞれの社会福祉施設等の状況に応じて異なるので、社会福祉施設等の指示に従う。 実習を行う施設は、盲学校、聾学校、養護学校、保育所を除く社会福祉施設、その他の施設である。実習期間は、7日以上である。 介護等体験実習を行う者は、事前指導及び事後指導を必ず受けなくてはならない。
評価方法	実習機関の評価、出席を考慮して、総合的に判断する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	事前指導の注意事項、禁止事項に抵触した場合、介護等体験は辞退、中止により失格、または実施後に失格の判定をおこなう。
授業計画	介護等体験実習は後期に予定されている。 そのため、オリエンテーションとして初回講義を年度当初に実施した後、7月に事前指導、9月に直前指導、そして実習後に事後指導をおこなう予定である。
テキスト	全国特別支援学校長会編著『介護等体験ガイドブック 新フィリア』（ジアース教育新社、2020年4月）
参考書	現代教師養成研究会『教師をめざす人の介護等体験ハンドブック（四訂版）』（大修館書店、2014年12月） その他、授業時に指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学外活動に関しては授業時に資料を配布の上、詳細な説明を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験に基づき学校現場の現状、課題、学外活動に必要な事項を教授する。
質問への対応方法	直接またはメールにより随時対応する。
フィードバックの方法	授業時またはクラスルームを通じて実施する。



予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、事前指導時に指示する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション 授業スケジュールの確認、介護等体験実習の概要について。	【留意点1】 本授業は教員になることに強い意欲を有している者を対象とした科目である。教員を志望しない者の受講は原則として出来ないので注意して欲しい。	
2	介護等体験の意義1 介護等体験の意義を学習する。	【留意点2】 講義全体を通して、(1)他者の人生に関わる仕事、他者の人生をより良いものにする仕事の意義と重大さを理解すること、(2)教育施設・福祉施設の意義と職務を理解すること、(3)自らが教員を目指すにあたって、教員という職業に必要な資質とは何かを考え、自らの教員像を具体化していくこと、(4)実習に必要な知識や心構えを身につけることを目指す。	
3	介護等体験の意義2 介護等体験の意義を学習する。		
4	社会福祉施設等の概要1 盲学校、聾学校、養護学校、社会福祉施設等の概要を学習する。		
5	社会福祉施設等の概要2 盲学校、聾学校、養護学校、社会福祉施設等の概要を学習する。		
6	施設職員の職務1 社会福祉施設等の職員の職務を理解する		
7	施設職員の職務2 社会福祉施設等の職員の職務を理解する		
8	実習生の心構え等1 実習生としての心構えや態度を学習する		
9	実習生の心構え等2 実習生としての心構えや態度を学習する		
10	実習生の心構え等3 実習生としての心構えや態度を学習する		
11	ビデオ視聴 ビデオを視聴することによって、社会福祉施設等の実際を学習する。		
12	実習直前指導1 実習に際しての注意事項を伝達し、必要		
13	実習直前指導2 実習に際しての注意事項を伝達し、必要		
14	実習反省会1 実習終了後、反省会を開き、よかった点や悪かった点を話し合う。		
15	実習反省会2 実習終了後、反省会を開き、よかった点や悪かった点を話し合う。		

開講科目名 Course	(教)現代教育の課題 / Current Educational issues
時間割コード Course Code	60041
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 5
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	大谷 尚
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	3 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大谷 尚 (教育保育学科)
授業の目標	<p>いつの時代にも社会はつねに変化してきたが、現在の社会は、ポスト産業化と高度情報化、国際化、少子化と超高齢化、価値多元化、大衆化、人々の孤立化など、いくつもの面で、しかも大変急速に変化しつづけている。学校教育や家庭教育は、一部ではそれに対応してきているが、反面、それらに全く対応できず、問題を抱え込んでしまっている面もある。この授業では、現代の社会の変化への教育の対応と非対応との事例を取り上げ、現代社会と教育との関わりを理解する。それによって現代社会が教育に突きつけている問題と課題とを理解し、それを教育がどのように解決していけるのかを検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の特性や変化の方向性について理解し説明できる。</li> <li>・社会の変化が教育（学校教育・家庭教育）にもたらす影響について理解し説明できる。</li> <li>・社会の変化への教育（学校教育・家庭教育）の対応と非対応の事例について理解し説明できる。</li> <li>・上記について今後予測される問題と課題について考え、説明できる。</li> </ul>
授業の概要	<p>教育（この授業ではとくに学校教育と家庭教育）を取り巻く社会状況の変化について理解する。旧来の学校とは異なる学校のあり方について理解する。情報テクノロジーが子どもの生活にもたらすものとそれへの対応の事例について理解する。情報テクノロジーが異なるセクターにあった人々の距離を縮める事例や、学習障害児の学習を支援する事例について、また将来の教育に与える可能性のある影響について理解する。ジェンダー（社会的な性）に関する考え方の変化・発展と学校教育への影響の事例について理解する。教員の働き方改革の問題と課題について理解する。授業者は各回のトピックに応じた具体的な事例を紹介する。その際、映像資料などを用いるように努める。受講者はそれに関連する自身の高校までの体験等について、受講者同士少人数で、または隣席の受講者と情報交換し、その問題や課題を検討した上で、それを他の受講者全体に紹介する。これらを通して、各回のトピックについての理解を得、それを深める。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参加（発言や討論）つまり授業という「学習協同体」の学習目標の達成への貢献度、課題提出、期末試験により総合的に行う（授業とは受講者と授業者とで構成する「学習協同体」である。受講者と授業者の全員に、この学習協同体の学習目標達成に貢献する責任があり、その責任を積極的に果たす姿勢が求められる。その意志の無い者は受講してはならない。）</li> <li>・出席と授業という学習協同体への貢献度（学習態度・姿勢（毎回の課題を含む））を60%、期末試験を40%とする。</li> </ul>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全授業回数数の3分の1を超えて欠席した場合（合計6回欠席した場合）は失格となる。</li> <li>・出席不正（教室に居ないのに居ると見せかけることや、トイレに行くと言って教室を出て帰って来ないなど）を行った受講者はその時点で失格とする。</li> </ul>

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーションとイントロダクション 今日の学校にはどのような課題が突きつけられているのだろうか？ 学校を取り巻くさまざまな現代的課題について考える。</li> <li>2. 学校はあたらしいかたちを取れるのか？ その1 フリースクールについて理解する。</li> <li>3. 学校はあたらしいかたちを取れるのか？ その2 ホームスクールについて理解する。</li> <li>4. 13歳の息子へのクリスマスプレゼントに添えられていたものとは何か？ 「グレゴリーのiPhone 契約書」を通してパーソナルコミュニケーションメディアが子どもにもたらすものについて考える。</li> <li>5. ICTは高齢者と若者の間の距離を埋められるか？ サイバー・シニアという実践からICTを用いた高齢者と若者の交流について考える。</li> <li>6. ICTは学校教育をどう変えるのか？ 学習障害児のためのタブレット利用の可能性について理解する。</li> <li>7. 量子コンピュータは教育を変えるか？ 成長の「最適化」の可能性と不可能性について考える。</li> <li>8. 女子が制服としてズボン（スラックス）を選択できる学校はなぜ増えているのか？ 学校における多様性への対応について考える。</li> <li>9. 性はいくつあると教えるべきなのか？ トランスジェンダリズムと教育について理解する。</li> <li>10. 子どもをむしばむものは何か？ 児童に対する性的虐待と性的搾取に対する教育の対応について理解する。</li> <li>11. 「教育して望ましい子に育てる」より「デザインして望ましい子を産む」時代が来るか？ ゲノム編集とデザイナーズ・ベビーの問題をとおして生殖医療が教育を脅かす可能性について考える。</li> <li>12. 医学部不正入試はなぜ起きたのか？ 医学部で組織的になされていた不正入試を通して何が教育での差別を作り出すのかを考える。</li> <li>13. 都立高校の男女別定員の廃止とは何か？ これまで当たり前だった教育の仕組みが差別とみなされる事例について理解する。</li> <li>14. 時として「公営ブラック企業」とさえ呼ばれることのある公立学校の教員勤務の問題はどのように克服すべきか？ 教員の勤務実態と働き方改革を考える。</li> <li>15. 学校は今後どのような課題に直面するだろうか？ 学校を取り巻くさまざまな現代的課題についてのまとめとふりかえり。</li> </ol>
テキスト	
参考書	・必要に応じて授業内で紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業者の発問に対する受講者の発言や受講者同士の対話・話し合いとその発表に基づく討論を行う。</li> <li>・従って、積極的に発言する意志の無い者は受講しないこと。</li> </ul>
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	・2010-2012の3年度に渡る名古屋大学教育学部附属中・高等学校長としての実務経験を、本授業の学校教育に関する内容に反映させる。
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・随時対応</li> <li>・メール対応</li> </ul>
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の課題に対するフィードバックは授業のなかで行う。</li> <li>・必要に応じてコメントや助言をメールでも行う。</li> </ul>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・準備学習として、シラバスに示された各回のトピックについて図書、雑誌、インターネット等で調べ、予備知識と疑問を持って授業に参加すること。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集力</li> <li>2. 情報分析力</li> <li>3. 課題発見力</li> <li>4. 構想力</li> </ol>
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力

開講科目名 Course	(教)職業指導
時間割コード Course Code	60050
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	大黒 光一
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	70F 演習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大黒 光一 (経済学部)
授業の目標	商業科、情報科の教員として進路指導・職業指導をおこなう際に必要なキャリア、職業に関する基礎知識を身につけると共に、指導スキルの基礎を学ぶ
授業の概要	<p>本科目では、職業指導からキャリア教育に至るまで、進路指導は歴史的にどのように展開してきたのかをテキストを土台に学ぶ。</p> <p>また同時に、実際の商業高校教員は何に留意して職務に取り組んでいるのか、教える立場にあってどんなことを学んでいるのかを実際に使用されているアセスメントテストや事例を通して学ぶ。</p> <p>就職指導やキャリア教育に関する現状の取り組み、課題点について、自身で調べ、履修学生と共有し、お互いに意見を出し合う。</p> <p>以上のプロセスの中で、より実践的かつ学生にとって有益な就職指導やキャリア教育の知識を修得することを最終目的とします。</p>
評価方法	<p>合計4回の欠席で失格となります。</p> <p>定期試験期間中には筆記試験を実施しません。</p> <p>毎回の授業レポートの提出 (90%)</p> <p>アセスメントテストの受験 (10%)</p> <p>全体で12回以上の出席を評価の前提とします。遅刻、早退は原則として認めません。</p> <p>毎授業後に必ず授業内にて指定された方法で期限までにレポートを提出すること。</p> <p>レポートを含めた提出物の提出期限を厳守すること。</p> <p>提出期限を過ぎた提出については未提出とみなします。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	レポートの未提出4回で失格とします。

授業計画	<p>基本的には授業計画通り進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ず前の授業でお伝えします。 職業を知るためのアセスメントテストを自身で受検して頂きます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス 授業の進め方（なぜ教員を目指すのか・職業とは）</li> <li>2. キャリア教育、職業（就職）指導の目的とその必要性（キャリア教育・就職指導は必要か）</li> <li>3. 職業（就職）指導・キャリア教育の歴史と展開（日米比較）</li> <li>4. アセスメントテスト受検</li> <li>5. 職業（就職）指導に必要な統計情報</li> <li>6. アセスメント結果の見方と職業指導において必要な職業に関する基礎知識</li> <li>7. 高校での就職指導に関する調査（実例・問題点）</li> <li>8. 高校での就職指導に関する調査結果の発表</li> <li>9. 高校でのキャリア教育に関する調査（実例・問題点）</li> <li>10. 高校でのキャリア教育に関する調査の発表</li> <li>11. 進路指導・キャリア教育をサポートする組織と運営</li> <li>12. 進路指導に必要な法令、慣習など</li> <li>13. 進路指導に必要なスキル、スタンスなど</li> <li>14. 実際の進路指導のケース事例を学ぶ</li> <li>15. アセスメントテストの活用、教員組織・担任の役割（理想とする就職指導）</li> </ol> <p>授業で気になったことなどをメモするために、ノートを準備しておいてください。</p>
テキスト	<p>学事出版 望月由紀 著 学生・教員・研究者に役立つ進路指導・キャリア教育論 ISBN978-4-7619-2689-2 C3037 定価2420円(2200円+税10%)</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	毎回の授業内で履修学生全員でのディスカッションの時間を必ず設けます。積極的な自身の意見、感想の発言を心がけて下さい。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問については基本授業内にて受け付けます。
フィードバックの方法	質問への回答についても基本授業内に行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎週の授業の最後にレポートの課題を提示します。毎週のレポートは次の回の授業までに取り組み、提出していただきます。目安時間毎週4時間（計60時間）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力 8. 計画立案力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス 授業の進め方	自身が高校生だった時を振り返り職業指導、進路指導の教員がどんなことを生徒たちに提供していたのか、を振り返る。	
2	職業指導・キャリア教育の目的とその必要性	テキストを使用します。購入しておくこと。 商業科、情報科などで職業指導を担当する教員の役割、生徒との接し方、学ぶべきことなどを知る。 本科目が目指すところ、現在、求められる役割を実社会と生徒たちの様子から逆算的に知り、高校教員として必要かつ、重要な取り組みであると知る	
3	職業指導・キャリア教育の歴史と展開(日米の比較) テキストを用いて学ぶ		
4	職業指導・キャリア教育・進路指導に必要な統計情報 テキスト・配布資料を用いて学ぶ		
5	職業指導において必要な職業に関する基礎知識 アセスメントテストおよびその結果を用いて学ぶ		
6	高校への取材、調査 実在する高等学校の進路指導担当教員を訪問し、取材を行う。	・取材先との日時の調整などは事前に学生が行う。 ・予め、聞きたいこと、知りたいこと、疑問点などは各自で整理、ダブリ、モレが無いように受講生間で調整を行うこと。 ・欲しい資料などがある場合は、予め取材先と調整のうえ入手すること。	
7	取材、調査のまとめ 職業指導・キャリア教育と保護者の理解 取材内容を整理し、模造紙に発表内容をまと	・模造紙、マーカー等は教員が準備する	
8	職業指導・キャリア教育をサポートする組織と運営	とりわけ、愛知県内の私立、公立高校と協力体制を築いている団体の存在とその役割、機能、どのような人材が働いているのかについて学ぶ。	
9	職業指導・キャリア教育の実践1 テキストを用いて学ぶ		
10	サポート組織への取材、調査 高校生向けのキャリア教育に力を入れる組織、団体を取材する。	・取材先との日時の調整などは事前に学生が行う。 ・予め、聞きたいこと、知りたいこと、疑問点などは各自で整理、ダブリ、モレが無いように受講生間で調整を行うこと。 ・欲しい資料などがある場合は、予め取材先と調整のうえ入手すること。	
11	取材、調査のまとめ 職業指導・キャリア教育の実践2 取材内容を整理し、模造紙に発表内容をまとめる。	・模造紙、マーカー等は教員が準備する	
12	公的部門との連携について	・取材先との日時の調整などは事前に学生が行う。 ・予め、聞きたいこと、知りたいこと、疑問点などは各自で整理、ダブリ、モレが無いように受講生間で調整を行うこと。 ・欲しい資料などがある場合は、予め取材先と調整のうえ入手すること。	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
13	アセスメントの活用 教員組織・担任の役割 自己理解のためのツールを試す	・アセスメントを実際に体験し、そのテストが何を明らかにすることを目的としているのかを知る。	
14	4つの能力 4つの能力を養うための具体的方法やプログラムを考える		
15	提案の発表、フィードバック、レポート パワーポイント、模造紙など媒体は自由です。	詳細は履修者が確定したら決めますが、取材内容によって発表の善し悪しが決まります。 しっかりと準備してください。 このクラスを通じての体験、学び、履修者どうしのやり取りからの気づきなどが何であったのか、教員という職業に対してどんな認識になったか、などを発表する。 プレゼンが上手にできることも評価しますが、より大切なのは中身です。  パワーポイントを使用する場合は4ページまでとします。模造紙は1枚。	



開講科目名 Course	(教)メディア表現 / Media Presentation
時間割コード Course Code	60051
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	小川 哲司
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	情報実習室A
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小川 哲司 (経営学部)
授業の目標	<p>高度情報化社会において、情報を記録・伝達・保管するための手段がメディア(媒体)である。近年、ネットワーク上のマルチメディア情報を閲覧することは多くの人にとって日常のことであると同時に、情報機器の急速な発達により、個人端末レベルでマルチメディア情報を簡単に処理することが可能になった。</p> <p>本授業では、デジタルメディアコンテンツ制作を通して、マルチメディアによる伝達効果とその特質を理解し、作品を構成し企画する実践的な能力を得ることを目標とする。特に実習を通じて、情報発信方法や表現方法などを身に付けることを目指す。</p> <p>&lt;学習成果&gt; 知識・理解の領域 メディアの特性を理解して、現代に合った情報表現方法を身に付けることができる。 技能の領域 画像処理技術を身に付けて、多彩な表現方法を身に付けることができる。 態度・志向性の領域 自身でデジタルメディアコンテンツを制作できるようになる。</p>
授業の概要	<p>本授業では、マルチメディア情報のデジタル特性について基本的な知識を身につけた上で、Photoshopを用いた画像編集・処理、PremiereProを用いた動画の編集や処理についての演習を行う。</p> <p>さらに身近なマルチメディアとしてのWebメディアを取り上げ、Webサイトを制作する実習を通じて、メディアの表現方法等を習得して、メディアの特性について理解する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照のこと。</p>
評価方法	<p>評価方法 レポート、課題提出 (70%) 授業への取り組み姿勢 (30%)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が12回に満たない場合

授業計画	第1週 デジタルメディアの特性 第2週 デジタルデータの特徴 第3週 PhotoShop基本操作 第4週 画像の色や明るさ調整 第5週 画像の選択範囲 第6週 画像のレタッチ処理 第7週 Premiere Pro基本操作 第8週 動画のカット編集 第9週 トランジション・エフェクト 第10週 動画のテロップ挿入 第11週 動画へのBGM挿入 第12週 Webメディアの特性 第13週 HTMLの基本構文 第14週 HTMLの基本（表、画像、リンク） 第15週 CSSの基本
テキスト	今すぐ使えるかんたん Photoshop やさしい入門（技術評論社） 今すぐ使えるかんたん Premiere Pro やさしい入門（技術評論社）
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	PCを用いた実習
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	基本的にはメールで回答する。
フィードバックの方法	翌週の授業までに返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、次回テーマに関連する資料調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	(教)情報処理特論(木1, 木2)
時間割コード Course Code	60054
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1, 木 / Thu 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	波場 泰昭
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	6 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	波場 泰昭 (経営学部)
授業の目標	<p>本授業の到達目標は、プログラミング技能の向上を通じて、Artificial Intelligence (AI) を駆使したデータサイエンスの能力を獲得することである。本授業の前半では、豊富なライブラリを提供するプログラミング言語Pythonを用いて、柔軟なコード開発能力を養う。後半では、AIを用いた画像認識アプリ、及びニューラルネットワークを用いた顔画像分類アプリの制作を行う。これにより、独自にコード開発する喜びを体験すると共に、データ駆動型社会に適応できる能力を養う。</p> <p><b>知識・理解の領域</b> コンピュータを動かすソフトウェアの制御構造（順次・分岐・反復）及びアルゴリズムの表現（フローチャート）を理解する。また、教師あり学習・教師なし学習・強化学習などに応用されるニューラルネットワークの概念を理解する。</p> <p><b>技能の領域</b> ライブラリ（パッケージ/モジュール）を読み込み、複合的に利用してプログラムを開発する技能、これに基づいて機械学習・深層学習を実践する技能を身につける。また、高等学校の生徒を対象としたプログラミング教育に資する能力を養う。</p> <p><b>態度・志向性の領域</b> 課題発見やデータ解析を行うために、プログラミング技能が必須であることを認識する。必要に応じて使用するライブラリを取捨選択し、過不足のない簡潔で柔軟性のあるコーディングを目指す。デバッグにより、独力でプログラムを完成させる能力を育む。</p> <p><b>総合的思考力</b> 知識、技能、態度を総合的に活用し、問題を解決することができる。</p>
授業の概要	<p>本授業では「情報処理概論」や「プログラム入門」で獲得したハードウェア、ソフトウェア、ネットワークに関する知識・技能に立脚して、情報処理能力のさらなる向上を目指す。プログラム開発環境を構築し、アルゴリズムを実装するためのコーディングとコードを校正するためのデバッグとを繰り返しながら、実践的かつ体験的にプログラミング技能を養う。Pythonを用いたプログラミング技能を高め、AIとの親和性を醸成させることで、2年次後期開講科目「AI・データサイエンス」及び3年次開講科目「AI・データサイエンス」で取り上げる広範なデータサイエンスの能力を養成する。</p> <p>各自、Windowsを搭載したノートPCを持参すること。 高等学校教諭一種免許（情報）の取得に必要な教職課程科目である。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>以下の観点から、総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への参加姿勢 50%</li> <li>・ レポート（成果物）50%</li> </ul>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	無断欠席が6回以上に達した場合
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	Python 1年生 体験してわかる！会話でまなべる！プログラミングのしくみ（翔泳社）
参考書	Python 機械学習プログラミング PyTorch & scikit-learn編（インプレス）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	参加者が作成した成果物に関する報告をグループ内で行うことで、スキルシェアリングをすると共にプレゼンテーション能力を養う。参加者は毎回ノートPCを持参して、手を動かしながら担当教員との対話を繰り返し、技能を身につける。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業時間内に対応します。また、Microsoft Teamsを用いて随時対応します。
フィードバックの方法	授業時間内に対応します。また、Microsoft Teamsを用いて随時対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに関わる予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。予習ではアプリのセットアップ、復習では成果物の作成を含めて構いません。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任 17. パートナリーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 5. 自信創出力 7. 課題発見力 9. 実践力

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	Python最新版とVisual Studio Code	
2	プログラム開発環境の構築	Python最新版とVisual Studio Code	
3	プログラミング基礎(1)	文字型・整数型・浮動小数点型	応用基礎レベル2-7
4	プログラミング基礎(2)	四則演算・論理演算	応用基礎レベル2-7
5	プログラミング基礎(3)	変数の定義	応用基礎レベル2-7
6	プログラミング基礎(4)	関数の定義(引数・戻り値)	応用基礎レベル2-7
7	アルゴリズムの表現(フローチャート)(1)	並び替え(ソート) バブルソート・選択ソート・挿入ソート	応用基礎レベル1-7
8	アルゴリズムの表現(フローチャート)(2)	探索(サーチ) リスト探索・木探索・ハッシュ探索	応用基礎レベル1-7
9	アルゴリズムの表現(フローチャート)(3)	順次・分岐・反復	応用基礎レベル1-7
10	アルゴリズムの表現(フローチャート)(4)	if文(分岐)とfor文(反復)	応用基礎レベル1-7
11	Pythonプログラミング演習(1)	ライブラリの活用	
12	Pythonプログラミング演習(2)	ライブラリの活用	
13	Pythonプログラミング演習(3)	GUIを有する画像表示アプリの制作	応用基礎レベル実践
14	Pythonプログラミング演習(4)	GUIを有する画像表示アプリの制作	応用基礎レベル実践
15	機械学習の基礎と展望(1)	実世界で進む機械学習の応用と発展	応用基礎レベル3-3
16	機械学習の基礎と展望(2)	実世界で進む機械学習の応用と発展	応用基礎レベル3-3
17	機械学習の基礎と展望(3)	教師あり学習・教師なし学習・強化学習	応用基礎レベル3-3
18	機械学習の基礎と展望(4)	教師あり学習・教師なし学習・強化学習	応用基礎レベル3-3
19	Artificial Intelligenceの活用(1)	scikit-learnを用いた機械学習の実践	応用基礎レベル3-3 応用基礎レベル実践
20	Artificial Intelligenceの活用(2)	scikit-learnを用いた機械学習の実践	応用基礎レベル3-3 応用基礎レベル実践
21	Artificial Intelligenceの活用(3)	scikit-learnを用いた機械学習の実践	応用基礎レベル3-3 応用基礎レベル実践
22	Artificial Intelligenceの活用(4)	画像認識アプリの制作	応用基礎レベル実践
23	Artificial Intelligenceの活用(5)	画像認識アプリの制作	応用基礎レベル実践
24	Artificial Intelligenceの活用(6)	画像認識アプリの制作	応用基礎レベル実践
25	ニューラルネットワークの活用(1)	PyTorchを用いた深層学習の実践	応用基礎レベル3-3 応用基礎レベル実践
26	ニューラルネットワークの活用(2)	PyTorchを用いた深層学習の実践	応用基礎レベル3-3 応用基礎レベル実践
27	ニューラルネットワークの活用(3)	PyTorchを用いた深層学習の実践	応用基礎レベル3-3 応用基礎レベル実践
28	ニューラルネットワークの活用(4)	顔画像分類アプリの制作	応用基礎レベル実践
29	ニューラルネットワークの活用(5)	顔画像分類アプリの制作	応用基礎レベル実践
30	ニューラルネットワークの活用(6)	顔画像分類アプリの制作	応用基礎レベル実践

開講科目名 Course	(教)情報社会のキャリア形成 / Career Formation in the Information Society
時間割コード Course Code	60056
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	大黒 光一
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	6 3 E 演習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大黒 光一 (経済学部)
授業の目標	本講義は職業教育を担う教職志望学生に対し、社会が求めるITリテラシー、パソコンリテラシーの重要性を知り、その学習方法について習得することを目的とする。 併せてVUCAの時代と言われている現代社会で、指導する高校生にどんなスキルや能力が必要とされ、それはどんな社会変化からなのか、そしてその先の将来、どんなスキルや能力が必要となるのかを知る、そして知ることの重要についても学ぶ。 結果、教職志望学生が向かう教育場面において、この科目を受講する高校生が十分な学習意欲を持ったままパソコンリテラシーを身につけられるよう促す能力を養っていく。
授業の概要	「ITスキル」=「パソコンスキル」の重要性を社会ニーズと結び付け、高校生に対して社会において活躍するためにパソコンスキルの習得が重要であることを伝え、必要スキルを身に付ける方法とそのためのも動機付けの授業方法を受講学生に習得してもらう。さらに教職志望学生は、この学生の授業を学んだ高校生が将来社会に出てからも活躍できる職業人となるよう、適切なパソコンリテラシーを学習させることの意義とそのためのも方法論を習得する。 主には社会で必要とされるパソコンスキルと職業の結びつきを知ること、そのために必要なタイピング能力、ワード、エクセル、パワーポイントの活用能力と社会での活用場面を知ること、実際にそのツールを使っての実践場面の経験(プレゼンテーション、統計処理など)をし、その教え方を考え、習得するものである。
評価方法	各回の小レポート45%、最終の「パソコンリテラシーの指導方法」のプレゼンテーション55% 加えて、授業態度を考慮し総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回のレポート未提出で失格とします。

授業計画	<p>基本的には授業計画通り進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ず前の授業でお伝えします。</p> <p>第1回：授業オリエンテーションとパソコン使用時の注意事項についてのディスカッションおよび解説  第2回：社会で必要とされるITスキルとその理由（ディスカッションおよび次回に向けての調査方法の解説）  第3回：社会で必要とされるITスキルとその理由についてのディスカッションおよび解説  第4回：社会で必要とされるパソコンスキルについてのディスカッションおよび解説  第5回：社会で使われているキー入力方法を知り、タイピングを実践する  第6回：タイピングスピードアップの習得方法を学び、その指導法のポイントを考える  第7回：メール使用時の社会ルールを知り、その上で求められる職業観を学ぶ  第8回：WEB検索の方法を学び、職業、企業検索方法について考える  第9回：パワーポイントの社会での活用場面を知り、プレゼンテーションについて学ぶ  第10回：テーマを決め、パワーポイントを使ったプレゼンテーションを実践する  第11回：プレゼンテーションを磨き、再度実践する  第12回：エクセルの社会での活用場面を知り、エクセルについて学ぶ  第13回：エクセルを使用した統計処理、表、グラフの作成を学ぶ  第14回：パソコンリテラシーの指導方法について考え、プレゼンテーションを行う  第15回：パソコンリテラシーの指導方法についてのプレゼンテーション</p> <p>授業で気になったことなどをメモするために、ノートを準備しておいてください。</p>
テキスト	適宜、授業内で資料を配布
参考書	文科系のためのコンピュータリテラシー?Microsoft Officeによる (Information & Computing) 単行本 #8211; 2015/1/1 草薙 信照 (著), #8206; 植松 康祐 (著)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	毎回の授業内で履修学生全員でのディスカッションの時間を必ず設けます。積極的な自身の意見、感想の発言を心がけて下さい。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問に関しては基本授業内で受け付けます。
フィードバックの方法	質問への回答についても基本授業内に行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎週授業の終わりにレポートの課題を伝えます。その課題に毎週取り組んで、翌週の授業までに提出してください。 目安時間毎週4時間（計60時間）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力 8. 計画立案力

開講科目名 Course	(教)栄養教諭実習Ⅰ(年)24後-25前 / Practice in Teaching I ( Nutrition Teacher )
時間割コード Course Code	60502
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4, 木 / Thu 5
開講区分 semester offered	年度またがり / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	山岡 由理子
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	1 2 D 栄養教育実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山岡 由理子 (管理栄養学科)
授業の目標	<p>栄養教諭に必要な技能、態度を理解し、栄養教諭実習を円滑に進めるための指導案作成、授業づくりなどから栄養教諭の心構えを理解します。</p> <p>知識・理解の領域 栄養教諭の果たす役割について説明できる</p> <p>技能の領域 発達段階に応じた栄養教諭が行う授業づくりの視点がもてる</p> <p>態度・志向性の領域 栄養教諭の専門性を活かした授業づくりに自ら取り組める。</p>
授業の概要	<p>この科目は、3年後期から4年前期まで行われる。担当者による講義や学外講師による特別講義を通じて、栄養教諭実習についての理解を深め、実習の目的や内容に習熟するとともに、指導案や実習日誌の書き方について学ぶ。実習終了後には、全体反省会や個別指導を通じて実習の成果を検証するとともにこれからの課題を確かめる。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	参加姿勢50%、課題・発表50-%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。



授業計画	<p>1オリエンテーション  2学習指導案について（指導案の意義、授業構想）  3～8指導案づくり  9、講演会  10～11教材づくり  12～14模擬授業  15 授業参観</p> <p>16オリエンテーション1 教育実習の意義・実習内容  17～18オリエンテーション2 校務分掌、学習指導、児童生徒理解  19～20、オリエンテーション3 実習直前の指導および留意事項の確認  21実習反省会1 実習アンケートの実施、学生自身による自己評価  22実習反省会2 学生全員による反省会と討論  23個別指導1 評価表に基づき個別の課題を確認してゆく。  24～29、個別指導2 評価表に基づいて個別の課題を確認する。  30、実習反省会3</p>
テキスト	指定しない
参考書	金田雅代編著 「栄養教諭論 理論と実際」建ばく社 食に関する指導の手引き－第二次改訂版－（文部科学省）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	食に関する指導については、指導案を作成し、授業内で模擬授業をする。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・授業後に対応
フィードバックの方法	随時返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1回 学習指導案の作成方法 予習と復習 2回 学習指導案作成 準備 3回 教材作成 準備
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション1	栄養教諭実習の意義と目的を十分理解する。「栄養教諭実習1」の概要を説明する。筆記具を持参すること。また、この科目の受講するにあたって必要なものを指示する。	
2	学習指導案の意義	学習指導案の意義について講義	
3	学習指導案作成	学習指導案の様式・書き方の説明	
4	学習指導案作成	題材の設定	
5	学習指導案作成	願う子どもの姿・題材(教材観)の作成	
6	学習指導案作成	目標・食に関する指導の観点の考え方	
7	学習指導案作成	学習過程の検討	
8	学習指導案作成	評価・板書計画の作成	
9	講演会 特別講師による授業者の心得を学ぶ	特別講師より、授業の進め方、子どもへの支援方法を学ぶ	
10	教材作成	学習指導の沿った教材検討・作成	
11	教材作成	同上	
12	模擬授業	模擬授業の実践	
13	模擬授業	同上	
14	模擬授業	同上	
15	授業参観	実践を踏まえ、授業を参観する	

開講科目名 Course	(教)栄養教諭実習II / Practice in TeachingII ( Nutrition Teacher )
時間割コード Course Code	60504
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	山岡 由理子
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山岡 由理子 (管理栄養学科)
授業の目標	栄養教諭実習では、学外において協力いただいた実習校にて教育実習を行う。 教育実習は、観察・参加・授業を通して、教育の理論と実際を習得しようとするものである。これまで学修してきた成果を実践的な体験の中で、主体的に再構築し教育の現場に適応させることを目標とする。
授業の概要	実習校の指導において、学校経営、学級経営の原理と方法、児童生徒を理解するための適切な方法、生徒指導や学習指導の原理と方法を具体的に理解し、指導上必要な技能と態度を習得する。また、栄養教諭として行う食に関する指導を具体的に理解し技能と方法を習得する。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	評価については、実習校の評価等を考慮しながら、総合的に判断する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	教育実習校において、観察、参加・全体実習、研究授業、教材研究などを行う。
テキスト	後日指示します。
参考書	食に関する指導の手引きー第二次改訂版ー (文部科学省) 金田雅代編著 「栄養教諭論 理論と実際」建ぱく社
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・随時対応
フィードバックの方法	・随時返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	教育実習 準備 学習指導案作成 準備 実習のまとめ 復習
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション1	栄養教諭実習の意義と目的を十分理解する。「栄養教諭実習1」の概要を説明する。筆記具を持参すること。また、この科目の受講するにあたって必要なものを指示する。	
2	学習指導案の意義	学習指導案の意義について講義	
3	学習指導案作成	学習指導案の様式・書き方の説明	
4	学習指導案作成	題材の設定	
5	学習指導案作成	願う子どもの姿・題材(教材観)の作成	
6	学習指導案作成	目標・食に関する指導の観点の考え方	
7	学習指導案作成	学習過程の検討	
8	学習指導案作成	評価・板書計画の作成	
9	講演会 特別講師による授業者の心得を学ぶ	特別講師より、授業の進め方、子どもへの支援方法を学ぶ	
10	教材作成	学習指導の沿った教材検討・作成	
11	教材作成	同上	
12	模擬授業	模擬授業の実践	
13	模擬授業	同上	
14	模擬授業	同上	
15	授業参観	実践を踏まえ、授業を参観する	

開講科目名 Course	(教)栄養教諭論Ⅰ / Theory of Nutrition TeacherⅠ
時間割コード Course Code	60506
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	山岡 由理子
科目区分 Course Group	栄養に係る教育に関する科目
教室 Classroom	1 2 D 栄養教育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山岡 由理子 (管理栄養学科)
授業の目標	<p>学校における食育の意義と具体的な取り組み方法を理解することが目標です。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域          栄養教諭の果たす役割を説明することができる          学校における児童生徒の食に関する問題が説明できる</p> <p>技能領域          食に関する指導を栄養教諭としての専門性の観点から必要性を見いだせる          児童生徒の食に関する指導の進め方を管理栄養士の視点から評価できる</p> <p>態度・志向性の領域          学校における食育活動について自ら進んで調べるようになる。</p>
授業の概要	<p>栄養教諭の役割、学校教育の仕組み、学校給食の教育的意義を学びます。特に学校給食については、学校給食の指導、栄養管理、衛生管理等の知識を習得し、学校給食における献立の教材化を献立作成から教材のためプレゼンテーションまでをグループ学習にて学びます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	参加姿勢50%、課題レポート50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 学校教育の仕組み、栄養教諭の職務</li> <li>3. 学習指導要領における食に関する指導の位置づけ</li> <li>4. 学校給食の教育的意義と役割</li> <li>5. 学校給食管理 (栄養管理)</li> <li>6. 学校給食管理 (衛生管理)</li> <li>7. 学校給食における献立の教材化(1)</li> <li>8. 学校給食における献立の教材化(2)</li> <li>9. 学校給食における献立の教材化(3)</li> <li>10. 学校給食における献立の教材化(4)</li> <li>11. プレゼンテーション作成</li> <li>12. プレゼンテーション</li> <li>13. 献立の教材化 (食育だより)</li> <li>14. 献立の教材化 (食育だより)</li> <li>15. 食育だより発表、まとめ</li> </ol>
テキスト	特に指定しない。その都度資料配布します。

参考書	学習指導要領（文部科学省） 食に関する指導の手引き－第二次改訂版－（文部科学省）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	献立の教材化では、地域の学校給食を具体的作成し、授業内で発表する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・授業後に対応
フィードバックの方法	・随時返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1回 学習指導要領における食に関する指導 予習5時間と復習5時間を課す。 2回 食に関する指導の手引 予習5時間と復習5時間を課す。 3回 学校給食の栄養管理、衛生管理 予習5時間と復習5時間を課す。 4回 学校給食の教材化 準備5時間・予習5時間と復習5時間を課す。 5回 献立の教材化 準備5時間・予習5時間と復習5時間を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション 授業計画とねらい	栄養教諭制度の理解および授業の大切さについて講義	
2	学校教育の仕組み・栄養教諭の職務 学校教育の仕組み 栄養教諭の位置づけ・職務	学校教育の仕組み・栄養教諭の職務について講義	
3	食に関する指導の位置づけ 学習指導要領における食に関する指導の	学習指導要領から食に関する指導の位置づけを考える	
4	学校給食の教育的意義と役割 学校給食の教育的意義と役割	学校給食の教育的意義と役割を調べ発表	
5	学校給食管理 1	栄養管理の考え方を資料から学ぶ	
6	学校給食管理 2	衛生管理の考え方を資料から学ぶ	
7	学校給食における献立の教材化 1 学校給食の献立作成	献立のねらい	
8	学校給食における献立の教材化 2 学校給食の献立作成	コンセプトをもとに献立作成	
9	学校給食における献立の教材化 3 調理実習による検証	考案した献立を調理実習し検証	
10	学校給食における献立の教材化 4 提案献立の決定	提案する献立を決定	
11	プレゼンテーション作成 献立を提案するためのプレゼンテーショ	プレゼンテーションを作成	
12	プレゼンテーション	提案献立をプレゼンテーションにて発表	
13	献立の教材化 1 (食育だより) 資料作成	食育だよりのテーマを決定	
14	献立の教材化 2 (食育だより) 資料作成	各自のテーマごとに食育だよりを作成	
15	食育だよりの発表および授業評価 レポート, 授業評価	レポート, 授業評価	



開講科目名 Course	(教)栄養教諭論II / Theory of Nutrition Teacher II
時間割コード Course Code	60508
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 5
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	山岡 由理子
科目区分 Course Group	栄養に係る教育に関する科目
教室 Classroom	1 2 D 栄養教育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山岡 由理子 (管理栄養学科)
授業の目標	<p>学校における食育の意義と具体的な取り組み方法を理解することが目標です。</p> <p>&lt;学習成果&gt;</p> <p>知識・理解の領域          栄養教諭の果たす役割を説明することができる          学校における児童生徒の食に関する問題が説明できる</p> <p>技能の領域          食に関する指導を栄養教諭としての専門性の観点から必要性を見いだせる          児童生徒の食に関する指導の進め方を管理栄養士の視点から評価できる</p> <p>態度・志向性の領域          学校における食育活動について自ら進んで調べるようになる。</p>
授業の概要	<p>給食の時間ならびに家庭科等の各教科を通して行う観点から、食に関する指導方法について学びます。食に関する指導資料の作成、指導案の作成、模擬給食時間の指導の実践実習を行います。食生活と生活習慣病予防への個別的ならびに集団栄養教育の方法、食物アレルギー、食指導における地域との連携にも言及します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	参加姿勢50%，課題・発表50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.オリエンテーション</li> <li>2.食に関する指導の進め方（各教科における食に関する指導）</li> <li>3.食に関する指導の進め方（全体計画）</li> <li>4.食に関する指導の進め方（学校給食）</li> <li>5.個別指導</li> <li>6.学校・家庭・地域の連携</li> <li>7.給食時間における指導の進め方（1）</li> <li>8.指導案の作成（1）</li> <li>9.指導案の作成（2）</li> <li>10.教材作成</li> <li>11.模擬栄養教育</li> <li>12.模擬栄養教育</li> <li>13.衛生管理（作業工程、作業動線）</li> <li>14.アレルギー対応</li> <li>15.食に関する指導のまとめ、授業評価</li> </ol>

テキスト	特に指定しない。その都度資料配布します。
参考書	食に関する指導の手引き－第二次改訂版－（文部科学省） 衛生管理＆調理技術マニュアル 学校給食調理従事者研修マニュアル 学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	給食の時間における指導については、指導案を作成し、授業内に模擬授業をする。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・授業後に対応
フィードバックの方法	随時返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1回 食に関する指導の進め方 予習5時間と復習5時間を課す。 2回 個別指導・地域連携について 予習5時間と復習5時間を課す。 3回 給食時間の指導案 予習5時間と復習5時間を課す。 4回 教材作成 準備5時間・予習5時間と復習5時間を課す。 5回 授業づくり 準備5時間・予習5時間と復習5時間を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

## 授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	栄養教諭の役割と意義について講義	
2	食に関する指導の進め方1 各教科における食に関する指導	食に関する各教科との関連	
3	食に関する指導の進め方2	全体計画の意味と意義	
4	食に関する指導の進め方3	学校給食の位置づけ	
5	個別指導	栄養教諭が行う個別指導	
6	学校・家庭・地域の連携 地産地消	地産地消・行事食を取り入れた献立作成	
7	給食時間における指導の進め方 給食時間における食に関する指導	給食時間の指導の概要	
8	指導案の作成1 指導案の作成	題材を決めて、具指導書の書き方について	
9	指導案の作成2 指導案の作成	形式、内容の見本配布体的に各自が作成する	
10	教材作成	指導案に合わせた教材の作成	
11	模擬授業1	指導案に従って授業をする	
12	模擬授業2 模擬授業	教材研究や模擬授業から気づいたことを話し合い今後に結びつける	
13	衛生管理	作業工程・作業動線の作成方法を学ぶ	
14	アレルギー対応 アレルギー対応のあり方	栄養管理計画を立案し、指導パンフレットを作成する	
15	食に関する指導のまとめ、授業評価 レポート、授業評価	レポート、授業評価	